# 八千代市白幡前遺跡

—萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ—

## 本　文　編

1991

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
財団法人　千葉県文化財センター

# 序　文

北総台地の南西部に位置する八千代市は、東京に近接する地理的条件から、東京のベッドタウンとして早くから注目されていました。一方、市内を流れる新川をはじめとする中小河川の流域は自然環境に恵まれており、開析された台地上には数多くの遺跡が所在しています。

近年の首都圏における人口増加に対応するため、大規模な宅地造成事業が各地で実施されているところですが、住宅・都市整備公団は、八千代市萱田地区において約100ヘクタールに及ぶ土地区画整理事業を計画しました。

そこで、千葉県教育委員会では、昭和50年に事業予定地内の埋蔵文化財分布調査を実施し、その成果をもとに埋蔵文化財の取扱いについて、住宅・都市整備公団及び関係機関と協議を重ねてきました。その結果、出来るかぎり公園や緑地として遺跡の現状保存を図る一方、現状保存が困難な遺跡についてはやむを得ず充分な記録保存の処置を講ずることで協議が整いました。発掘調査については、千葉県教育委員会から財団法人千葉県文化財センターが調査機関としての指定を受け、昭和52年度から調査を開始しました。その成果は、既に4冊の報告書として刊行したところです。

この度、第5冊目として昭和54年度から63年度の数次にわたって調査を実施した白幡前遺跡の発掘成果を報告することとなりました。白幡前遺跡は先土器時代から平安時代までの遺構・遺物が検出され、それぞれに興味深い資料があります。なかでも、奈良・平安時代の多数の竪穴住居跡・掘立柱建物跡とともに、奈良三彩陶器・瓦塔・和同開珎・墨書土器など多くの遺物が出土しており、当地域の歴史を理解するうえで大変貴重な資料と言えます。この報告書が、学術資料としてはもとより、教育資料として広く活用されるとともに、埋蔵文化財の保護・普及のために役立つことを願ってやみません。

終わりに、発掘調査から報告書の刊行まで御指導、御協力いただいた千葉県教育委員会、住宅・都市整備公団、八千代市教育委員会、地元関係諸機関各位にお礼申し上げるとともに、寒暑をいとわず調査に協力された調査補助員の皆様に心から謝意を表します。

平成3年3月11日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　岩　瀬　良　三

# 凡　例

1　本書は、八千代市都市計画事業萱田地区特定土地区画整理事業の実施に伴い事前調査した八千代市白幡前遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査の実施は、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部の依頼により、文化庁及び千葉県教育委員会の指導を受けて、財団法人千葉県文化財センターが行った。

3　発掘調査は、昭和54年8月1日から昭和63年9月26日までのあいだ数次にわたり実施した。

4　整理作業は、昭和60年4月1日から平成2年8月31日まで行った。

5　白幡前遺跡の遺跡コードは、行政管理庁指定統計コード八千代市(221)、財団法人千葉県文化財センター遺跡コード(003)を使用し、221-003とした。

6　本書は、「八千代市権現後遺跡」・「八千代市北海道遺跡」・「八千代市ヲサル山遺跡」・「八千代市井戸向遺跡」に続く萱田地区埋蔵文化財調査報告書の第5冊に当たるものである。

7　発掘作業・整理作業の担当者は序章　第3節　調査の経過に記した。

8　本書の作成及び原稿の執筆は調査部長堀部昭夫、部長補佐西山太郎、阪田正一、班長上野純司の指導のもとに大野康男が行ったが、第2部については田村隆の協力を得た。

9　墨書土器の判読は、国立歴史民俗博物館平川南氏に御教示をいただいた。墨書土器の写真は、赤外線モニターの画像をカメラで直接撮影したものと、コダック赤外線フィルム、赤外線ストロボ及び赤外線フィルターを使用して撮影したものがある。赤外線モニターの撮影は国立歴史民俗博物館平川南氏の御協力を得た。

10　動物遺存体の分析同定は、奈良国立文化財研究所松井章氏に依頼し、さらに玉稿をいただいた。

11　発掘調査から報告書刊行にいたるまで千葉県教育委員会をはじめ、住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部、同千葉北部開発事務所、八千代市教育委員会、地元関係諸機関各位に御指導・御協力をいただいた。

12　本書に掲載した実測図の縮尺は以下のとおりである。

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 遺構 | 建物群全体図 | 1/200 | 遺物 | 先土器時代石器 | 1/2 |
| | 先土器遺物分布図 | 1/80 | | 土器類 | 1/4 |
| | 竪穴住居跡 | 1/80 | | 鉄製品等 | 1/2 |
| | カマド | 1/40 | | 文字資料抜萃 | 1/2 |
| | 掘立柱建物跡 | 1/100 | | | |
| | 土壙 | 1/40 | | | |

13　本書に使用したスクリーントーンは以下のとおりである。

遺構　　遺物

竪穴住居　炉　　黒色処理

掘立柱建物　柱痕跡　　転用硯摩滅部分

14　本書に使用した方位は座標北である。

15　遺構番号は先土器時代石器ブロックを除いて調査時の番号をそのまま使用した。先土器時代石器ブロックについては番号対照表を添付した。

なお、遺構の種類により次のアルファベットを冠した。

S　先土器時代石器ブロック

D　竪穴住居跡

H　掘立柱建物跡

P　土壙

M　溝状遺構

# 目　次

序　文
凡　例
第１部……1
　第１章　はじめに……3
　　第１節　調査に至る経過……3
　　第２節　遺跡の位置と環境……4
　　第３節　調査の経過……6
第２部　先土器時代……25
　第１章　概　要……27
　第２章　土層と文化層……31
　　第１節　土　層……31
　　第２節　文化層……31
　第３章　石器群の内容……33
　　第１節　第１文化層……33
　　第２節　第２文化層……37
　　第３節　第３文化層……123
　　第４節　第４文化層……125
　　第５節　第５文化層……154
　　第６節　第６文化層……166
　　第７節　その他の遺物……168
　第４章　総括と展望……169
　　第１節　各文化層の石器群……169
　　第２節　第４文化層石器群と石器群の構造理解……173
　　第３節　第２文化層の意味するもの……178
第３部　弥生時代……193
　第１章　弥生時代の概観……195
　第２章　遺構と遺物……197
　　第１節　１群の遺構と遺物……197
　　第２節　２群の遺構と遺物……198
　　第３節　３群の遺構と遺物……201

第４部　古墳時代 ……221
第１章　古墳時代の概観 ……223
第２章　遺構と遺物 ……225
第１節　１群の遺構と遺物 ……225
第２節　２群の遺構と遺物 ……228
第３節　３群の遺構と遺物 ……230
第５部　歴史時代 ……241
第１章　奈良・平安時代の概観 ……243
第１節　集落の概観 ……243
第２節　土器の器形分類 ……244
第２章　遺構と遺物 ……253
第１節　１群Ａグループの遺構と遺物 ……253
第２節　１群Ｂグループの遺構と遺物 ……279
第３節　２群Ａグループの遺構と遺物 ……322
第４節　２群Ｂグループの遺構と遺物 ……350
第５節　２群Ｃグループの遺構と遺物 ……370
第６節　２群Ｄグループの遺構と遺物 ……400
第７節　２群Ｅグループの遺構と遺物 ……415
第８節　２群Ｆグループの遺構と遺物 ……434
第９節　３群の遺構と遺物 ……456
第３章　古代集落としての白幡前遺跡 ……484
第１節　集落の構成と時期的変遷 ……484
第２節　竪穴住居の構造と時期的変遷 ……489
第３節　掘立柱建物の検討 ……490
第４節　墨書土器の検討 ……492
第４章　白幡前遺跡出土の動物遺存体 ……511
第１節　出土遺物の概要 ……511
第２節　土坑Ｐ168出土の動物遺存体……512
第３節　溝M021出土の動物遺存体……514
第４節　考察 ……516

# 挿図目次


第 1 部

第 1 図　白幡前遺跡と周辺地形……5
第 2 図　昭和54年度調査範囲……6
第 3 図　昭和56年度調査範囲……7
第 4 図　昭和57年度調査範囲……8
第 5 図　昭和58～60年度調査範囲……9
第 6 図　昭和61～63年度調査範囲……10

第 2 部

第 7 図　先土器時代確認調査状況図……28
第 8 図　先土器時代ブロック配置図……29
第 9 図　S 5 地点出土遺物実測図……33
第 10 図　S 22地点遺物分布状況……34
第 11 図　S 22地点出土礫の重量別分布状況及び出土遺物実測図……35
第 12 図　S 27地点出土遺物実測図……35
第 13 図　S 28地点出土遺物実測図……36
第 14 図　S 31地点出土遺物実測図……36
第 15 図　S 2 地点遺物分布状況……39
第 16 図　S 2 地点出土礫の重量別分布状況…41
第 17 図　S 2 地点出土遺物実測図……44
第 18 図　P 011実測図 ……46
第 19 図　S 3 地点遺物分布状況……47
第 20 図　S 3 地点出土遺物実測図……47
第 21 図　S 11地点遺物分布状況……48
第 22 図　S 11地点出土礫の重量別分布状況…49
第 23 図　S 12地点遺物分布状況……50
第 24 図　S 12地点出土礫の重量別分布状況…51
第 25 図　S 12地点出土遺物実測図……51
第 26 図　S 13地点遺物分布状況……52
第 27 図　S 13地点出土遺物実測図……53
第 28 図　S 18地点出土遺物実測図……54
第 29 図　S 18地点遺物分布状況……55
第 30 図　S 18地点出土礫の重量別分布状況…56
第 31 図　S 21地点遺物分布状況……57
第 32 図　S 21地点消費型母岩の分布範囲……60
第 33 図　S 21地点出土礫の重量別分布状況…61
第 34 図　S 21地点出土遺物実測図 1 ……62
第 35 図　S 21地点出土遺物実測図 2 ……63
第 36 図　S 21地点出土遺物実測図 3 ……64
第 37 図　S 26地点遺物分布状況……65
第 38 図　S 26地点出土遺物実測図 1 ……66
第 39 図　S 26地点出土遺物実測図 2 ……67
第 40 図　S 29地点遺物分布状況……69
第 41 図　S 29地点剝片計測値……71
第 42 図　S 29地点主要接合資料の分布状況…75
第 43 図　S 29地点出土礫の重量別分布状況…77
第 44 図　S 29地点出土遺物実測図 1 ……78
第 45 図　S 29地点出土遺物実測図 2 ……79
第 46 図　S 29地点出土遺物実測図 3 ……80
第 47 図　S 29地点出土遺物実測図 4 ……81
第 48 図　S 29地点出土遺物実測図 5 ……82
第 49 図　S 29地点出土遺物実測図 6 ……83
第 50 図　S 29地点出土遺物実測図 7 ……84
第 51 図　S 29地点出土遺物実測図 8 ……85
第 52 図　S 29地点出土遺物実測図 9 ……86
第 53 図　S 29地点出土遺物実測図10……87
第 54 図　S 30地点遺物分布状況……89
第 55 図　S 30地点出土礫の重量別分布状況…91
第 56 図　S 30地点剝片計測値……92
第 57 図　S 30地点出土遺物実測図 1 ……95
第 58 図　S 30地点出土遺物実測図 2 ……96
第 59 図　S 30地点出土遺物実測図 3 ……97
第 60 図　S 30地点出土遺物実測図 4 ……98
第 61 図　S 30地点出土遺物実測図 5 ……99
第 62 図　S 32地点遺物分布状況 ……101
第 63 図　S 32地点出土遺物実測図 ……104
第 64 図　S 33地点遺物分布状況 ……105
第 65 図　S 33地点出土礫の重量別分布状況 106
第 66 図　S 34地点遺物分布状況 ……107
第 67 図　S 34地点出土遺物実測図 ……108
第 68 図　S 35地点遺物分布状況 ……108
第 69 図　S 36地点遺物分布状況 ……110
第 70 図　S 37地点遺物分布状況 ……111
第 71 図　S 37地点遺物実測図(4)・剝片計測値

……112
第 72 図　S 37地点出土礫の重量別分布状況 113
第 73 図　S 37地点出土遺物実測図 1 ……114
第 74 図　S 37地点出土遺物実測図 2 ……115
第 75 図　S 37地点出土遺物実測図 3 ……116
第 76 図　S 46地点遺物分布状況 ……118
第 77 図　S 46地点出土礫の重量別分布状況 119
第 78 図　S 46地点出土遺物実測図 ……119
第 79 図　S 60地点遺物分布状況 ……120
第 80 図　S 60地点出土遺物実測図 1 ……121
第 81 図　S 60地点出土遺物実測図 2 ……122
第 82 図　S 47地点出土遺物実測図 ……123
第 83 図　S 47地点遺物分布状況 ……124
第 84 図　S 51地点出土遺物実測図 ……125
第 85 図　S 16地点出土遺物実測図 ……125
第 86 図　S 25地点遺物分布状況 ……127
第 87 図　S 25地点剝片計測値 ……129
第 88 図　S 25地点出土遺物実測図 1 ……130
第 89 図　S 25地点出土遺物実測図 2 ……131
第 90 図　S 25地点出土遺物実測図 3 ……132
第 91 図　S 25地点出土遺物実測図 4 ……133
第 92 図　S 38地点遺物分布状況 ……135
第 93 図　S 38地点出土遺物実測図 ……136
第 94 図　S 39地点遺物分布状況 ……137
第 95 図　S 39地点出土遺物実測図 ……140
第 96 図　S 40地点剝片計測値 ……141
第 97 図　S 40地点遺物分布状況 ……142
第 98 図　S 40地点出土遺物実測図 ……143
第 99 図　S 41地点遺物分布状況 ……144
第 100 図　S 41地点剝片計測値 ……145
第 101 図　S 41地点出土遺物実測図 1 ……146
第 102 図　S 41地点出土遺物実測図 2 ……147
第 103 図　S 42地点剝片計測値 ……148
第 104 図　S 42地点遺物分布状況 ……150
第 105 図　S 42地点出土遺物実測図 ……151
第 106 図　S 43地点遺物分布状況 ……152
第 107 図　S 43地点出土遺物実測図 ……153
第 108 図　S 44地点遺物分布状況 ……154
第 109 図　S 44地点出土遺物実測図 ……154
第 110 図　S 20地点遺物分布状況 ……155
第 111 図　S 23地点遺物分布状況 ……159
第 112 図　S 20地点遺物実測図 ……162
第 113 図　S 23地点出土遺物実測図 1 ……163
第 114 図　S 23地点出土遺物実測図 2 ……164
第 115 図　S 45地点遺物分布状況 ……165
第 116 図　S 45地点出土遺物実測図 ……166
第 117 図　S 49地点出土遺物実測図 ……166
第 118 図　S 52地点出土遺物実測図 ……167
第 119 図　S 2 地点採集遺物実測図 ……167
第 120 図　S 50地点採集遺物実測図 ……167
第 121 図　S 27-37区出土遺物実測図……167
第 122 図　萱田地区先土器時代遺物集中地点の分布 ……179
第 123 図　Ⅳ・Ⅴ層石器群における形態分化 184
第 124 図　北海道・権現後・白幡前・井戸向遺跡遺物集中地点の比較 ……185
第 125 図　各文化層石器群出土地点の量的変遷 ……186
第 126 図　特徴器種の時間的変遷 ……186
第 127 図　萱田地区石器群の多様度の比較 …187
第 128 図　各文化層石器群使用石材の数量的変化 ……189

## 第 3 部

第 129 図　弥生時代遺構配置図 ……196
第 130 図　弥生時代 2 群全体図 ……199
第 131 図　弥生時代 3 群全体図 ……202
第 132 図　竪穴住居の規模 ……203
第 133 図　D169及び出土遺物実測図……206
第 134 図　D117実測図……207
第 135 図　D130・D135実測図 ……208
第 136 図　D197実測図……209
第 137 図　D092・D093実測図 ……210
第 138 図　D095・D097実測図 ……211
第 139 図　D098実測図……212
第 140 図　D099実測図……213
第 141 図　D127・D225実測図 ……214
第 142 図　D229・D230実測図 ……215
第 143 図　D231・D232実測図 ……216

第 144 図　弥生時代 2 群出土遺物実測図 ……217
第 145 図　弥生時代 3 群出土遺物実測図 1 …218
第 146 図　弥生時代 3 群出土遺物実測図 2 …219
第 4 部
第 147 図　古墳時代遺構配置図 ……224
第 148 図　古墳時代 1 群全体図 ……225
第 149 図　古墳時代 2 群全体図 ……229
第 150 図　D172実測図……232
第 151 図　D184実測図……233
第 152 図　古墳時代 1 群出土遺物実測図 1 …234
第 153 図　古墳時代 1 群出土遺物実測図 2 …235
第 154 図　古墳時代 1 群出土遺物実測図 3 …236
第 155 図　D266実測図 ……237
第 156 図　D269・D274実測図……238
第 157 図　古墳時代 2 群出土遺物実測図 ……239
第 158 図　古墳時代 3 群出土遺物実測図 ……240
第 5 部
第 159 図　歴史時代土器の器形分類図 1 ……246
第 160 図　歴史時代土器の器形分類図 2 ……248
第 161 図　歴史時代土器の器形分類図 3 ……250
第 162 図　竪穴住居分類図 ……252
第 163 図　歴史時代 1 群Ａグループ全体図 …253
第 164 図　1 群Ａグループ建物比較 ……255
第 165 図　歴史時代 1 群Ａ遺物の出土量図 …258
第 166 図　歴史時代 1 群Ｂグループ全体図 1　280
第 167 図　歴史時代 1 群Ｂグループ全体図 2　281
第 168 図　歴史時代 1 群Ｂグループ全体図 3　282
第 169 図　1 群Ｂグループ建物比較 ……283
第 170 図　歴史時代 1 群Ｂ遺物の出土量図 …289
第 171 図　歴史時代2群Ａグループ全体図 1 …323
第 172 図　歴史時代2群Ａグループ全体図 2 …324
第 173 図　2 群Ａグループ建物比較 ……325
第 174 図　歴史時代 2 群Ａ遺物の出土量図 …331
第 175 図　歴史時代 2 群Ｂグループ全体図 1　352
第 176 図　歴史時代 2 群Ｂグループ全体図 2　353
第 177 図　2 群Ｂグループ建物比較 ……354
第 178 図　歴史時代 2 群Ｂ遺物の出土量図 …357
第 179 図　歴史時代 2 群Ｃグループ全体図 1　372
第 180 図　歴史時代 2 群Ｃグループ全体図 2　373
第 181 図　2 群Ｃグループ建物比較 ……374
第 182 図　歴史時代 2 群Ｃ遺物の出土量図 …377
第 183 図　歴史時代 2 群Ｄグループ全体図 …401
第 184 図　2 群Ｄグループ建物比較 ……402
第 185 図　歴史時代 2 群Ｄ遺物の出土量図 …404
第 186 図　歴史時代 2 群Ｅグループ全体図 …416
第 187 図　2 群Ｅグループ建物比較 ……417
第 188 図　歴史時代 2 群Ｅ遺物の出土量図 …420
第 189 図　歴史時代 2 群Ｆグループ全体図 1　435
第 190 図　歴史時代 2 群Ｆグループ全体図 2　436
第 191 図　歴史時代 2 群Ｆグループ全体図 3　437
第 192 図　2 群Ｆグループ建物比較 ……438
第 193 図　歴史時代 2 群Ｆ遺物の出土量図 …441
第 194 図　歴史時代 3 群全体図 1 ……458
第 195 図　歴史時代 3 群全体図 2 ……459
第 196 図　歴史時代 3 群全体図 3 ……460
第 197 図　3 群建物比較 ……461
第 198 図　歴史時代 3 群遺物の出土量図 ……465
第 199 図　竪穴住居消長図 ……487
第 200 図　竪穴住居種別・時期別消長図 ……489
第 201 図　墨書土器分布図 1 ……495
第 202 図　墨書土器分布図 2 ……497
第 203 図　墨書土器分布図 3 ……499
第 204 図　墨書「豊」実測図 ……500
第 205 図　「生」の字体と「立」 ……501
第 206 図　P168ウマの遺存体出土状況……513
第 207 図　ウマの臼歯の年齢変化 ……515

付 図 1　白幡前遺跡構配置図
付 図 2　奈良・平安時代集落の構成

# 表 目 次


―――― 第 1 部 ――――

第 1 表　先土器時代ブロック一覧……13
第 2 表　竪穴住居跡一覧……13
第 3 表　掘立柱建物跡一覧……17
第 4 表　土壙一覧……19

―――― 第 2 部 ――――

第 5 表　白幡前遺跡文化層一覧……32
第 6 表　S22地点石器組成表……33
第 7 表　S57地点石器組成表……37
第 8 表　S 2 a 地点石器組成表……38
第 9 表　S 2 b 地点石器組成表……38
第 10 表　S 2 c 地点石器組成表……38
第 11 表　S 2 e 地点石器組成表……38
第 12 表　S 2 地点各集中地点の母岩別分布状況（石器）……43
第 13 表　S 2 地点各集中地点の母岩別分布状況（礫）……43
第 14 表　S 3 地点石器組成表……47
第 15 表　S11地点石器組成表……49
第 16 表　S12地点石器組成表……51
第 17 表　S13地点石器組成表……54
第 18 表　S18地点石器組成表……56
第 19 表　S21地点石器組成表……59
第 20 表　S26地点石器組成表……68
第 21 表　S29地点石器組成表……68
第 22 表　S29地点クラスター別資料内訳……73
第 23 表　S29地点礫の母岩別分布状況……74
第 24 表　S30地点石器組成表……88
第 25 表　S30地点クラスター別資料内訳……92
第 26 表　S30地点クラスター別母岩分布 1（石器）……93
第 27 表　S30地点クラスター別母岩分布 2（礫）……94
第 28 表　S32地点石器組成表……103
第 29 表　S33地点石器組成表……106
第 30 表　S34地点石器組成表……106
第 31 表　S35地点石器組成表……109
第 32 表　S36地点石器組成表……109
第 33 表　S37地点礫群別母岩分布状況……109
第 34 表　S37地点石器組成表……113
第 35 表　S46地点石器組成表……117
第 36 表　S60地点石器組成表……117
第 37 表　S47地点石器組成表……123
第 38 表　S15地点石器組成表……125
第 39 表　S16地点石器組成表……126
第 40 表　S25 a 地点石器組成表……129
第 41 表　S25 b 地点石器組成表……134
第 42 表　S25 c 地点石器組成表……134
第 43 表　S25地点ブロック外石器組成表……134
第 44 表　S38 a 地点石器組成表……136
第 45 表　S38 b 地点石器組成表……136
第 46 表　S39地点石器組成表……139
第 47 表　S40地点石器組成表……141
第 48 表　S41 a 地点石器組成表……145
第 49 表　S41 b 地点石器組成表……145
第 50 表　S42 a 地点石器組成表……149
第 51 表　S42 b 地点石器組成表……149
第 52 表　S42 c 地点石器組成表……149
第 53 表　S42 d 地点石器組成表……149
第 54 表　S43地点石器組成表……153
第 55 表　S44地点石器組成表……153
第 56 表　S20・S23地点（クラスターa～c）石器組成表……156
第 57 表　S20地点クラスターa石器組成表 157
第 58 表　S23地点クラスターb石器組成表 157
第 59 表　S23地点クラスターc石器組成表 157
第 60 表　S45地点石器組成表……166
第 61 表　S49地点石器組成表……166
第 62 表　第 2 黒色帯上部石器群の組成と多様度……174
第 63 表　萱田地区各遺跡文化層の対応関係 180
第 64 表　白幡前遺跡第 2 文化層一覧……180
第 65 表　権現後遺跡第 2 文化層一覧……181
第 66 表　北海道遺跡第 2 文化層一覧……181

第 67 表　井戸向遺跡Ⅳ・Ⅴ層石器群一覧 …182
第 68 表　井戸向遺跡文化層一覧 ……182
第 69 表　権現後遺跡文化層一覧 ……182
第 70 表　北海道遺跡文化層一覧 ……182
第 71 表　各遺跡石器群の文化層別多様度の比較 ……187

第　3　部

第 72 表　弥生時代 1 群竪穴住居一覧 ……197
第 73 表　D169出土遺物一覧……197
第 74 表　弥生時代 2 群竪穴住居一覧 ……200
第 75 表　弥生時代 2 群出土遺物一覧 ……200
第 76 表　弥生時代 3 群竪穴住居一覧 ……204
第 77 表　弥生時代 3 群出土遺物一覧 ……205

第　4　部

第 78 表　古墳時代 1 群竪穴住居一覧 ……227
第 79 表　D172出土遺物一覧……227
第 80 表　D184出土遺物一覧……227
第 81 表　古墳時代 2 群竪穴住居一覧 ……230
第 82 表　D266出土遺物一覧……230
第 83 表　D269出土遺物一覧……230
第 84 表　古墳時代 3 群竪穴住居一覧 ……231
第 85 表　D274出土遺物一覧……240

第　5　部

第 86 表　歴史時代 1 群A竪穴住居一覧 ……257
第 87 表　歴史時代 1 群A掘立柱建物一覧 …258
第 88 表　歴史時代 1 群A土壙一覧 ……258
第 89 表　D001出土遺物一覧……265
第 90 表　D171出土遺物一覧……265
第 91 表　D172A出土遺物一覧……265
第 92 表　D172B出土遺物一覧……265
第 93 表　D172C出土遺物一覧……267
第 94 表　D172不明出土遺物一覧……267
第 95 表　D176出土遺物一覧……267
第 96 表　D177出土遺物一覧……268
第 97 表　D178出土遺物一覧……268
第 98 表　D179出土遺物一覧……268
第 99 表　D180出土遺物一覧……269
第 100 表　D181A出土遺物一覧……271
第 101 表　D181B出土遺物一覧……271
第 102 表　D181C出土遺物一覧……271
第 103 表　D185出土遺物一覧……272
第 104 表　D186出土遺物一覧……274
第 105 表　D238出土遺物一覧……274
第 106 表　D239出土遺物一覧……274
第 107 表　D240出土遺物一覧……274
第 108 表　D241出土遺物一覧……275
第 109 表　D242出土遺物一覧……275
第 110 表　H076出土遺物一覧……275
第 111 表　P001出土遺物一覧……275
第 112 表　P002出土遺物一覧……275
第 113 表　P168出土遺物一覧……275
第 114 表　1 群A出土文字資料一覧 ……276
第 115 表　1 群B竪穴住居一覧 ……286
第 116 表　1 群B掘立柱建物一覧 ……287
第 117 表　1 群B土壙一覧 ……288
第 118 表　D144出土遺物一覧……300
第 119 表　D145出土遺物一覧……301
第 120 表　D146出土遺物一覧……301
第 121 表　D147出土遺物一覧……302
第 122 表　D148出土遺物一覧……302
第 123 表　D149出土遺物一覧……302
第 124 表　D150出土遺物一覧……302
第 125 表　D151出土遺物一覧……302
第 126 表　D152出土遺物一覧……303
第 127 表　D153出土遺物一覧……303
第 128 表　D154出土遺物一覧……303
第 129 表　D155出土遺物一覧……303
第 130 表　D156出土遺物一覧……303
第 131 表　D157出土遺物一覧……303
第 132 表　D158出土遺物一覧……304
第 133 表　D159出土遺物一覧……304
第 134 表　D160出土遺物一覧……304
第 135 表　D161出土遺物一覧……304
第 136 表　D162出土遺物一覧……304
第 137 表　D163出土遺物一覧……305
第 138 表　D164出土遺物一覧……305
第 139 表　D165出土遺物一覧……307
第 140 表　D166出土遺物一覧……310

第 141 表　D168出土遺物一覧……310
第 142 表　D170出土遺物一覧……310
第 143 表　D173出土遺物一覧……311
第 144 表　D174出土遺物一覧……311
第 145 表　D175出土遺物一覧……311
第 146 表　D183出土遺物一覧……312
第 147 表　D187出土遺物一覧……312
第 148 表　D188出土遺物一覧……312
第 149 表　D189出土遺物一覧……313
第 150 表　D192A出土遺物一覧……313
第 151 表　D193出土遺物一覧……313
第 152 表　D194出土遺物一覧……314
第 153 表　D195出土遺物一覧……314
第 154 表　D196出土遺物一覧……314
第 155 表　D199出土遺物一覧……314
第 156 表　D209出土遺物一覧……315
第 157 表　D211出土遺物一覧……315
第 158 表　D214出土遺物一覧……315
第 159 表　D215出土遺物一覧……315
第 160 表　D216出土遺物一覧……315
第 161 表　D219出土遺物一覧……315
第 162 表　D256出土遺物一覧……315
第 163 表　D264出土遺物一覧……316
第 164 表　D267出土遺物一覧……316
第 165 表　D268出土遺物一覧……316
第 166 表　D287出土遺物一覧……316
第 167 表　H084出土遺物一覧……317
第 168 表　P038出土遺物一覧……317
第 169 表　P042出土遺物一覧……317
第 170 表　P043出土遺物一覧……318
第 171 表　P129出土遺物一覧……318
第 172 表　P138出土遺物一覧……318
第 173 表　1群B出土文字資料一覧……319
第 174 表　2群A竪穴住居一覧……329
第 175 表　2群A掘立柱建物一覧……330
第 176 表　2群A土壙一覧……331
第 177 表　D047出土遺物一覧……341
第 178 表　D118出土遺物一覧……341
第 179 表　D119出土遺物一覧……341
第 180 表　D120出土遺物一覧……341
第 181 表　D122出土遺物一覧……342
第 182 表　D123出土遺物一覧……342
第 183 表　D124出土遺物一覧……342
第 184 表　D126出土遺物一覧……342
第 185 表　D128出土遺物一覧……343
第 186 表　D131出土遺物一覧……343
第 187 表　D132出土遺物一覧……343
第 188 表　D133出土遺物一覧……343
第 189 表　D134出土遺物一覧……344
第 190 表　D136出土遺物一覧……344
第 191 表　D138出土遺物一覧……344
第 192 表　D139出土遺物一覧……344
第 193 表　D140出土遺物一覧……344
第 194 表　D141出土遺物一覧……345
第 195 表　D142出土遺物一覧……345
第 196 表　D143出土遺物一覧……345
第 197 表　D190出土遺物一覧……346
第 198 表　D210出土遺物一覧……346
第 199 表　D212出土遺物一覧……346
第 200 表　D258出土遺物一覧……346
第 201 表　D259出土遺物一覧……346
第 202 表　D260出土遺物一覧……347
第 203 表　D261出土遺物一覧……347
第 204 表　D262出土遺物一覧……347
第 205 表　D263出土遺物一覧……347
第 206 表　H066出土遺物一覧……348
第 207 表　P133出土遺物一覧……348
第 208 表　P135出土遺物一覧……348
第 209 表　M021出土遺物一覧……348
第 210 表　M034出土遺物一覧……348
第 211 表　2群A出土文字資料一覧……348
第 212 表　2群B竪穴住居一覧……355
第 213 表　2群B掘立柱建物一覧……356
第 214 表　D039出土遺物一覧……362
第 215 表　D040出土遺物一覧……362
第 216 表　D041出土遺物一覧……362
第 217 表　D042出土遺物一覧……362
第 218 表　D043出土遺物一覧……362

第 219 表　D224出土遺物一覧……363
第 220 表　D044出土遺物一覧……363
第 221 表　D045出土遺物一覧……363
第 222 表　D046出土遺物一覧……363
第 223 表　D048出土遺物一覧……364
第 224 表　D049出土遺物一覧……364
第 225 表　D050出土遺物一覧……364
第 226 表　D051出土遺物一覧……364
第 227 表　D052出土遺物一覧……364
第 228 表　D054出土遺物一覧……365
第 229 表　D055出土遺物一覧……365
第 230 表　D057出土遺物一覧……366
第 231 表　D058出土遺物一覧……366
第 232 表　D062出土遺物一覧……367
第 233 表　D108出土遺物一覧……367
第 234 表　D109出土遺物一覧……367
第 235 表　D110出土遺物一覧……367
第 236 表　D111出土遺物一覧……368
第 237 表　D112出土遺物一覧……368
第 238 表　D114出土遺物一覧……368
第 239 表　D115出土遺物一覧……368
第 240 表　D116出土遺物一覧……368
第 241 表　D125出土遺物一覧……369
第 242 表　D191出土遺物一覧……369
第 243 表　D198出土遺物一覧……369
第 244 表　2 群B出土文字資料一覧 ……369
第 245 表　2 群C竪穴住居一覧 ……375
第 246 表　2 群C掘立柱建物一覧 ……376
第 247 表　2 群C土壙一覧 ……376
第 248 表　D021出土遺物一覧……385
第 249 表　D022出土遺物一覧……385
第 250 表　D023出土遺物一覧……386
第 251 表　D024出土遺物一覧……387
第 252 表　D027出土遺物一覧……388
第 253 表　D028出土遺物一覧……388
第 254 表　D029出土遺物一覧……388
第 255 表　D030出土遺物一覧……388
第 256 表　D031出土遺物一覧……389
第 257 表　D032出土遺物一覧……389
第 258 表　D033出土遺物一覧……390
第 259 表　D034出土遺物一覧……390
第 260 表　D035出土遺物一覧……390
第 261 表　D036出土遺物一覧……390
第 262 表　D037出土遺物一覧……391
第 263 表　D038出土遺物一覧……391
第 264 表　D053出土遺物一覧……391
第 265 表　D067出土遺物一覧……392
第 266 表　D201出土遺物一覧……393
第 267 表　D202出土遺物一覧……393
第 268 表　D203出土遺物一覧……393
第 269 表　D204出土遺物一覧……393
第 270 表　D205出土遺物一覧……394
第 271 表　D206出土遺物一覧……394
第 272 表　D207出土遺物一覧……394
第 273 表　D208出土遺物一覧……395
第 274 表　D218出土遺物一覧……395
第 275 表　D272出土遺物一覧……395
第 276 表　D273出土遺物一覧……395
第 277 表　D275出土遺物一覧……396
第 278 表　D276出土遺物一覧……396
第 279 表　D277出土遺物一覧……396
第 280 表　D278出土遺物一覧……396
第 281 表　D279出土遺物一覧……396
第 282 表　D280出土遺物一覧……397
第 283 表　D281出土遺物一覧……397
第 284 表　D283出土遺物一覧……397
第 285 表　D285出土遺物一覧……397
第 286 表　P012出土遺物一覧……397
第 287 表　P015出土遺物一覧……397
第 288 表　2 群C出土文字資料一覧 ……398
第 289 表　2 群D竪穴住居一覧 ……403
第 290 表　2 群D掘立柱建物一覧 ……404
第 291 表　2 群D土壙一覧 ……404
第 292 表　D061出土遺物一覧……408
第 293 表　D068出土遺物一覧……409
第 294 表　D069出土遺物一覧……409
第 295 表　D070出土遺物一覧……409
第 296 表　D075出土遺物一覧……410

第297表　D243出土遺物一覧……410
第298表　D244出土遺物一覧……410
第299表　D245出土遺物一覧……410
第300表　D246出土遺物一覧……411
第301表　D247出土遺物一覧……411
第302表　D248出土遺物一覧……411
第303表　D249出土遺物一覧……412
第304表　D250出土遺物一覧……412
第305表　D251出土遺物一覧……413
第306表　D253出土遺物一覧……413
第307表　D254出土遺物一覧……413
第308表　D255出土遺物一覧……414
第309表　2群D出土文字資料一覧 ……414
第310表　2群E竪穴住居一覧 ……419
第311表　2群E掘立柱建物一覧 ……419
第312表　2群E土壙一覧 ……419
第313表　D010出土遺物一覧……426
第314表　D025出土遺物一覧……426
第315表　D026出土遺物一覧……427
第316表　D072出土遺物一覧……427
第317表　D073出土遺物一覧……427
第318表　D074出土遺物一覧……428
第319表　D076出土遺物一覧……428
第320表　D077出土遺物一覧……429
第321表　D078出土遺物一覧……429
第322表　D079出土遺物一覧……429
第323表　D080出土遺物一覧……429
第324表　D081出土遺物一覧……430
第325表　D082出土遺物一覧……430
第326表　D083出土遺物一覧……431
第327表　D084出土遺物一覧……431
第328表　D085出土遺物一覧……431
第329表　D086出土遺物一覧……431
第330表　D087出土遺物一覧……431
第331表　D088出土遺物一覧……431
第332表　D089出土遺物一覧……432
第333表　D090出土遺物一覧……432
第334表　D091出土遺物一覧……432
第335表　H023B出土遺物一覧……433
第336表　H033出土遺物一覧……433
第337表　H035出土遺物一覧……433
第338表　P016出土遺物一覧……433
第339表　2群E出土文字資料一覧 ……433
第340表　2群F竪穴住居一覧 ……440
第341表　2群F掘立柱建物一覧 ……440
第342表　2群F土壙一覧 ……440
第343表　D002出土遺物一覧……447
第344表　D003出土遺物一覧……447
第345表　D004出土遺物一覧……449
第346表　D005出土遺物一覧……449
第347表　D006出土遺物一覧……449
第348表　D007出土遺物一覧……449
第349表　D008出土遺物一覧……449
第350表　D009出土遺物一覧……450
第351表　D011A出土遺物一覧 ……450
第352表　D011B出土遺物一覧 ……451
第353表　D012出土遺物一覧……451
第354表　D013A出土遺物一覧 ……452
第355表　D013B出土遺物一覧 ……452
第356表　D014出土遺物一覧……452
第357表　D015出土遺物一覧……453
第358表　D016出土遺物一覧……453
第359表　D017出土遺物一覧……453
第360表　D018出土遺物一覧……454
第361表　D019出土遺物一覧……454
第362表　D020出土遺物一覧……455
第363表　H001出土遺物一覧……455
第364表　H006出土遺物一覧……455
第365表　P004出土遺物一覧……455
第366表　2群F出土文字資料一覧 ……455
第367表　3群竪穴住居一覧 ……463
第368表　3群掘立柱建物一覧 ……463
第369表　3群土壙一覧 ……464
第370表　D059出土遺物一覧……471
第371表　D060出土遺物一覧……472
第372表　D063出土遺物一覧……472
第373表　D064出土遺物一覧……472
第374表　D065出土遺物一覧……472

第 375 表　D066出土遺物一覧……473
第 376 表　D094出土遺物一覧……473
第 377 表　D096出土遺物一覧……473
第 378 表　D100出土遺物一覧……474
第 379 表　D101出土遺物一覧……474
第 380 表　D102出土遺物一覧……474
第 381 表　D103出土遺物一覧……476
第 382 表　D104出土遺物一覧……476
第 383 表　D105出土遺物一覧……477
第 384 表　D106出土遺物一覧……477
第 385 表　D107出土遺物一覧……477
第 386 表　D221出土遺物一覧……477
第 387 表　D226出土遺物一覧……477
第 388 表　D227出土遺物一覧……478
第 389 表　D233出土遺物一覧……478
第 390 表　D234出土遺物一覧……479
第 391 表　D235出土遺物一覧……480
第 392 表　D236出土遺物一覧……480
第 393 表　D237出土遺物一覧……481
第 394 表　D270出土遺物一覧……481
第 395 表　D271出土遺物一覧……481
第 396 表　H025出土遺物一覧……481
第 397 表　H028出土遺物一覧……481
第 398 表　H038出土遺物一覧……481
第 399 表　H048出土遺物一覧……481
第 400 表　H059出土遺物一覧……481
第 401 表　H123出土遺物一覧……482
第 402 表　P031出土遺物一覧……482
第 403 表　3 群出土文字資料一覧 ……482
第 404 表　萱田地区出土文字資料一覧 ……506
第 405 表　白幡前遺跡出土文字資料時期別
消長表 ……509

# 図版目次


巻頭1　1．白幡前遺跡全景
巻頭2　1．歴史時代2群Aグループ全景
　　2．人面墨書土器
　　3．奈良三彩

―――― 遺　跡　全　景 ――――

図版1　1．白幡前遺跡全景
図版2　1．白幡前遺跡北側部分
図版3　1．白幡前遺跡南側部分

―――― 先　土　器　時　代 ――――

図版4　1．S22地点遺物分布状況
　　2．S22地点出土遺物
　　3．S 5地点出土遺物
　　4．S27地点出土遺物
　　5．S28地点出土遺物
　　6．S31地点出土遺物
図版5　1．S 2地点遺物分布状況
　　2．S 2地点炉跡（P011）
　　3．S 2地点炉跡断面
図版6　1．S 2地点出土遺物
　　2．S 3地点出土遺物
　　3．S11地点遺物分布状況
図版7　1．S12地点遺物分布状況
　　2．S13地点遺物分布状況
　　3．S13地点出土遺物
図版8　1．S18地点遺物分布状況
　　2．S18地点出土遺物
　　3．S21地点遺物分布状況
　　4．S21地点出土遺物
図版9　1．S21地点出土遺物
　　2．S26地点遺物分布状況
図版10　1．S26地点出土遺物
　　2．S29地点遺物分布状況
　　3．S29地点出土遺物
図版11　1．S29地点出土遺物
図版12　1．S29地点出土遺物
　　2．S30地点遺物分布状況
　　3．S30地点出土遺物
図版13　1．S30地点出土遺物
図版14　1．S32地点遺物分布状況
　　2．S32地点出土遺物
　　3．S33地点遺物分布状況
　　4．S34地点遺物分布状況
図版15　1．S34地点出土遺物
　　2．S37地点遺物分布状況
　　3．S37地点出土遺物
図版16　1．S46地点遺物分布状況
　　2．S60地点遺物分布状況
　　3．S60地点出土遺物
図版17　1．S47地点遺物分布状況
　　2．S47地点出土遺物
　　3．S16地点出土遺物
　　4．S25地点遺物分布状況
図版18　1．S25地点出土遺物
　　2．S38地点遺物分布状況
　　3．S38地点出土遺物
図版19　1．S39地点遺物分布状況
　　2．S39地点出土遺物
　　3．S40地点遺物分布状況
図版20　1．S40地点出土遺物
　　2．S41地点遺物分布状況
　　3．S41地点出土遺物
図版21　1．S42地点遺物分布状況
　　2．S42地点出土遺物
　　3．S43地点遺物分布状況
　　4．S20地点遺物分布状況
図版22　1．S20地点出土遺物
　　2．S23地点遺物分布状況
　　3．S23地点出土遺物
図版23　1．S49地点遺物分布状況
　　2．S49地点出土遺物
　　3．S52地点遺物分布状況
　　4．S 2地点出土遺物

―――― 弥　生　時　代 ――――

図版24　1．D092全景

2．D093全景
3．D095全景
図版25　1．D097全景
2．D098・D099全景
3．D117全景
図版26　1．D130全景
2．D135全景
3．D169全景
図版27　1．D197全景
2．D225全景
3．D229全景
図版28　1．D230全景
2．D231全景
3．D232全景
図版29　1．弥生時代1・2群出土土器
図版30　1．弥生時代3群出土遺物
―――― 古　墳　時　代 ――――
図版31　1．D172全景
2．D184全景
3．D184遺物出土状況
図版32　1．D266全景
2．D269全景
3．D274全景
図版33　1．D274遺物出土状況
2．D274遺物出土状況
3．D274遺物出土状況
図版34　1．古墳時代1群出土土器
図版35　1．古墳時代1・2群出土土器
図版36　1．古墳時代2・3群出土土器
―――― 歴　史　時　代 ――――
図版37　1．歴史時代1群Aグループ全景
2．D171全景
3．D172全景
図版38　1．D176全景
2．D178全景
3．D179全景
図版39　1．D180全景
2．D181全景
3．D185全景
図版40　1．D238全景
2．D240全景
3．D240遺物出土状況
図版41　1．H078・H079全景
2．P168全景
3．P168動物遺存体
図版42　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版43　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版44　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版45　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版46　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版47　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版48　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版49　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版50　1．歴史時代1群Aグループ出土鉄製品
図版51　1．歴史時代1群Aグループ出土鉄・銅製品
図版52　1．歴史時代1群Aグループ出土文字資料
図版53　1．歴史時代1群Aグループ出土文字資料
図版54　1．歴史時代1群Bグループ全景
図版55　1．D144全景
2．D146全景
3．D147全景
図版56　1．D148全景
2．D150全景
3．D157全景
図版57　1．D153全景
2．D156全景
3．D157・D158全景
図版58　1．D159遺物出土状況
2．D161全景
3．D162全景
図版59　1．D164全景
2．D165全景
3．D166全景
図版60　1．D167・D168全景
2．D170全景

3．D173全景
図版61　1．D174全景
2．D174遺物出土状況
3．D183・D187全景
図版62　1．D188全景
2．D188遺物出土状況
3．D194全景
図版63　1．D195全景
2．D196全景
3．D209全景
図版64　1．D214全景
2．D256全景
3．D264全景
図版65　1．H080全景
2．H082・H083全景
3．H092・H093全景
図版66　1．H094～H098全景
2．H099全景
3．H108～H110全景
図版67　1．H115・H116・H119全景
2．H145～H150全景
3．P038全景
図版68　1．P138全景
2．P138貝層検出状況
3．P138貝層断面
図版69　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版70　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版71　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版72　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版73　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版74　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版75　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版76　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版77　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版78　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版79　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版80　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版81　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版82　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版83　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版84　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版85　1．歴史時代1群Bグループ出土紡錘具・土製品・砥石・瓦塔
図版86　1．歴史時代1群Bグループ出土鉄製品
図版87　1．歴史時代1群Bグループ出土鉄・銅製品
図版88　1．歴史時代1群Bグループ出土鉄製品
図版89　1．歴史時代1群Bグループ出土文字資料
図版90　1．歴史時代1群Bグループ出土文字資料
図版91　1．歴史時代1群Bグループ出土文字資料
図版92　1．歴史時代2群Aグループ全景
図版93　1．D118全景
2．D119全景
3．D119遺物出土状況
図版94　1．D121全景
2．D124全景
3．D124遺物出土状況
図版95　1．D126全景
2．D131全景
3．D132全景
図版96　1．D134全景
2．D136全景
3．D137・D138全景
図版97　1．D139全景
2．D140全景
3．D141全景
図版98　1．D210全景
2．D217全景
3．D258全景
図版99　1．D259全景
2．D259遺物出土状況
3．D260全景
図版100　1．H061～H065全景
2．H061～H065全景
3．H066全景

図版101 1．H067～H069全景
2．H085全景
3．H086全景
図版102 1．歴史時代２群Ａグループ出土土器
図版103 1．歴史時代２群Ａグループ出土土器
図版104 1．歴史時代２群Ａグループ出土土器
図版105 1．歴史時代２群Ａグループ出土土器
図版106 1．歴史時代２群Ａグループ出土土器
図版107 1．歴史時代２群Ａグループ出土土器
図版108 1．歴史時代２群Ａグループ出土瓦塔
図版109 1．歴史時代２群Ａグループ出土瓦塔
図版110 1．歴史時代２群Ａグループ出土瓦塔・鉄製品・和同開珎
図版111 1．歴史時代２群Ａグループ出土文字資料
図版112 1．歴史時代２群Ａグループ出土文字資料
図版113 1．D039全景
2．D040全景
3．D043全景
図版114 1．D044全景
2．D046全景
3．D048全景
図版115 1．D049全景
2．D050全景
3．D051全景
図版116 1．D054全景
2．D055全景
3．D057全景
図版117 1．D058全景
2．D108全景
3．D110全景
図版118 1．D115全景
2．D125全景
3．H017全景
図版119 1．H018全景
2．H019全景
3．H074全景
図版120 1．歴史時代２群Ｂグループ出土土器
図版121 1．歴史時代２群Ｂグループ出土土器
図版122 1．歴史時代２群Ｂグループ出土土器
図版123 1．歴史時代２群Ｂグループ出土土器
図版124 1．歴史時代２群Ｂグループ出土土器
図版125 1．歴史時代２群Ｂグループ出土土器・紡錘具・鉄製品・文字資料
図版126 1．D021全景
2．D022全景
3．D023全景
図版127 1．D024全景
2．D027全景
3．D028遺物出土状況
図版128 1．D030全景
2．D031全景
3．D034全景
図版129 1．D035全景
2．D036全景
3．D067全景
図版130 1．D067貝層堆積状況
2．D203全景
3．D204全景
図版131 1．D205全景
2．D206全景
3．D208全景
図版132 1．D273全景
2．D275全景
3．D276全景
図版133 1．D277・D278全景
2．D279全景
3．D280全景
図版134 1．D285全景
2．H008～H010全景
3．H011全景
図版135 1．H015全景
2．H020全景
3．H021全景
図版136 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版137 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版138 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器

図版139 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版140 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版141 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版142 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版143 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版144 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器・鉄製品
図版145 1．歴史時代２群Ｃグループ出土鉄製品
図版146 1．歴史時代２群Ｃグループ出土文字資料
図版147 1．歴史時代２群Ｃグループ出土文字資料
図版148 1．Ｄ061全景
2．Ｄ068全景
3．Ｄ070全景
図版149 1．Ｄ075全景
2．Ｄ243全景
3．Ｄ245全景
図版150 1．Ｄ246全景
2．Ｄ247全景
3．Ｄ248全景
図版151 1．Ｄ249全景
2．Ｄ251全景
3．Ｄ252全景
図版152 1．Ｄ253全景
2．Ｄ254全景
3．Ｈ131・Ｈ132全景
図版153 1．Ｈ133・Ｈ134全景
2．Ｈ137全景
3．Ｐ019全景
図版154 1．歴史時代２群Ｄグループ出土土器
図版155 1．歴史時代２群Ｄグループ出土土器
図版156 1．歴史時代２群Ｄグループ出土土器
図版157 1．歴史時代２群Ｄグループ出土土器
図版158 1．歴史時代２群Ｄグループ出土土器
図版159 1．歴史時代２群Ｄグループ出土鉄製品
図版160 1．歴史時代２群Ｄグループ出土文字資料
図版161 1．歴史時代２群Ｅグループ全景
図版162 1．Ｄ010全景
2．Ｄ025全景
3．Ｄ026全景
図版163 1．Ｄ072全景
2．Ｄ074全景
3．Ｄ076全景
図版164 1．Ｄ078全景
2．Ｄ079全景
3．Ｄ080全景
図版165 1．Ｄ081全景
2．Ｄ082全景
3．Ｄ083全景
図版166 1．Ｄ084全景
2．Ｄ085全景
3．Ｄ086全景
図版167 1．Ｄ087全景
2．Ｄ088全景
3．Ｄ089全景
図版168 1．Ｄ090全景
2．Ｄ091全景
3．Ｈ023全景
図版169 1．Ｈ033全景
2．Ｈ035全景
3．Ｈ051・Ｈ052全景
図版170 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器
図版171 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器
図版172 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器
図版173 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器
図版174 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器
図版175 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器・紡錘具
図版176 1．歴史時代２群Ｅグループ出土鉄・銅製品
図版177 1．歴史時代２群Ｅグループ出土文字資料
図版178 1．歴史時代２群Ｆグループ全景
2．Ｄ002全景
図版179 1．Ｄ003全景
2．Ｄ003遺物出土状況

3．D004全景
図版180 1．D005全景
2．D007全景
3．D008全景
図版181 1．D009全景
2．D011A・B全景
3．D012全景
図版182 1．D012遺物出土状況
2．D013全景
3．D015全景
図版183 1．D016全景
2．D017全景
3．D017遺物出土状況
図版184 1．D018全景
2．D020全景
3．H001・H002全景
図版185 1．H003全景
2．H004・H005全景
3．H006全景
図版186 1．H013全景
2．H014全景
3．P004全景
図版187 1．歴史時代2群Fグループ出土土器
図版188 1．歴史時代2群Fグループ出土土器
図版189 1．歴史時代2群Fグループ出土土器
図版190 1．歴史時代2群Fグループ出土土器
図版191 1．歴史時代2群Fグループ出土土器
図版192 1．歴史時代2群Fグループ出土鉄製品
図版193 1．歴史時代2群Fグループ出土文字資料
図版194 1．歴史時代3群全景
図版195 1．D059全景
2．D060全景
3．D063全景
図版196 1．D066全景
2．D101全景
3．D102全景
図版197 1．D103全景
2．D105全景
3．D227全景
図版198 1．D233全景
2．D234全景
3．D235全景
図版199 1．D236全景
2．D270全景
3．H028全景
図版200 1．H029全景
2．H030全景
3．H031全景
図版201 1．H032全景
2．H037・H038全景
3．H040全景
図版202 1．H043全景
2．H126全景
3．H142全景
図版203 1．H143全景
2．H144全景
3．P031全景
図版204 1．歴史時代3群出土土器
図版205 1．歴史時代3群出土土器
図版206 1．歴史時代3群出土土器
図版207 1．歴史時代3群出土土器
図版208 1．歴史時代3群出土土器
図版209 1．歴史時代3群出土土器
図版210 1．歴史時代3群出土土器
図版211 1．歴史時代3群出土紡錘具・鉄製品
図版212 1．歴史時代3群出土鉄製品
図版213 1．歴史時代3群出土文字資料
図版214 1．歴史時代3群出土文字資料

# 歴史時代図面編目次


PL.1　D001・D171実測図
PL.2　D172A実測図
PL.3　D172B・D172C実測図
PL.4　D176・D177実測図
PL.5　D178・D179A・B実測図
PL.6　D180・D181A実測図
PL.7　D181B・D181C実測図
PL.8　D185実測図
PL.9　D186・D238実測図
PL.10　D239・D240実測図
PL.11　D241・D242実測図
PL.12　H075・H076実測図
PL.13　H078・H079・H103・H104実測図
PL.14　H105・H106・H107実測図
PL.15　P001・P002・P168実測図
PL.16　歴史時代1群A遺物実測図1
PL.17　歴史時代1群A遺物実測図2
PL.18　歴史時代1群A遺物実測図3
PL.19　歴史時代1群A遺物実測図4
PL.20　歴史時代1群A遺物実測図5
PL.21　歴史時代1群A遺物実測図6
PL.22　歴史時代1群A遺物実測図7
PL.23　歴史時代1群A遺物実測図8
PL.24　歴史時代1群A遺物実測図9
PL.25　歴史時代1群A遺物実測図10
PL.26　歴史時代1群A遺物実測図11
PL.27　歴史時代1群A遺物実測図12
PL.28　歴史時代1群A遺物実測図13
PL.29　歴史時代1群A遺物実測図14
PL.30　歴史時代1群A遺物実測図15
PL.31　歴史時代1群A遺物実測図16
PL.32　歴史時代1群A遺物実測図17
PL.33　歴史時代1群A遺物実測図18
PL.34　歴史時代1群A遺物実測図19
PL.35　歴史時代1群A遺物実測図20
PL.36　歴史時代1群A鉄製品実測図1
PL.37　歴史時代1群A鉄製品実測図2
PL.38　歴史時代1群A文字資料抜萃1
PL.39　歴史時代1群A文字資料抜萃2
PL.40　D144・D145実測図
PL.41　D146・D147実測図
PL.42　D148・D149実測図
PL.43　D150・D151実測図
PL.44　D152・D153実測図
PL.45　D154・D155実測図
PL.46　D156・D157実測図
PL.47　D158・D159実測図
PL.48　D160・D161実測図
PL.49　D162・D163実測図
PL.50　D164実測図
PL.51　D165実測図
PL.52　D166・D167実測図
PL.53　D168・D170実測図
PL.54　D173・D174実測図
PL.55　D175A・B・D182実測図
PL.56　D183・D187実測図
PL.57　D188・D189実測図
PL.58　D192・D193実測図
PL.59　D194・D195実測図
PL.60　D196・D199実測図
PL.61　D200・D209・D211実測図
PL.62　D214・D215・D216実測図
PL.63　D219・D222・D256・D257実測図
PL.64　D264・D267実測図
PL.65　D268・D287実測図
PL.66　H081・H084実測図
PL.67　H080・H082・H083実測図
PL.68　H092・H093・H099実測図
PL.69　H094～H098実測図
PL.70　H108・H109・H110実測図
PL.71　H111・H112・H113実測図
PL.72　H114・H117・H118実測図
PL.73　H115・H116・H119・H120実測図
PL.74　H145～H150実測図

ＰＬ.75　Ｈ145～Ｈ150土層断面図
ＰＬ.76　Ｐ038・Ｐ042実測図
ＰＬ.77　Ｐ043・Ｐ129・Ｐ138実測図
ＰＬ.78　歴史時代１群Ｂ遺物実測図１
ＰＬ.79　歴史時代１群Ｂ遺物実測図２
ＰＬ.80　歴史時代１群Ｂ遺物実測図３
ＰＬ.81　歴史時代１群Ｂ遺物実測図４
ＰＬ.82　歴史時代１群Ｂ遺物実測図５
ＰＬ.83　歴史時代１群Ｂ遺物実測図６
ＰＬ.84　歴史時代１群Ｂ遺物実測図７
ＰＬ.85　歴史時代１群Ｂ遺物実測図８
ＰＬ.86　歴史時代１群Ｂ遺物実測図９
ＰＬ.87　歴史時代１群Ｂ遺物実測図10
ＰＬ.88　歴史時代１群Ｂ遺物実測図11
ＰＬ.89　歴史時代１群Ｂ遺物実測図12
ＰＬ.90　歴史時代１群Ｂ遺物実測図13
ＰＬ.91　歴史時代１群Ｂ遺物実測図14
ＰＬ.92　歴史時代１群Ｂ遺物実測図15
ＰＬ.93　歴史時代１群Ｂ遺物実測図16
ＰＬ.94　歴史時代１群Ｂ遺物実測図17
ＰＬ.95　歴史時代１群Ｂ遺物実測図18
ＰＬ.96　歴史時代１群Ｂ遺物実測図19
ＰＬ.97　歴史時代１群Ｂ遺物実測図20
ＰＬ.98　歴史時代１群Ｂ遺物実測図21
ＰＬ.99　歴史時代１群Ｂ遺物実測図22
ＰＬ.100　歴史時代１群Ｂ遺物実測図23
ＰＬ.101　歴史時代１群Ｂ遺物実測図24
ＰＬ.102　歴史時代１群Ｂ遺物実測図25
ＰＬ.103　歴史時代１群Ｂ遺物実測図26
ＰＬ.104　歴史時代１群Ｂ遺物実測図27
ＰＬ.105　歴史時代１群Ｂ遺物実測図28
ＰＬ.106　歴史時代１群Ｂ遺物実測図29
ＰＬ.107　歴史時代１群Ｂ遺物実測図30
ＰＬ.108　歴史時代１群Ｂ遺物実測図31
ＰＬ.109　歴史時代１群Ｂ遺物実測図32
ＰＬ.110　歴史時代１群Ｂ遺物実測図33
ＰＬ.111　歴史時代１群Ｂ遺物実測図34
ＰＬ.112　歴史時代１群Ｂ遺物実測図35
ＰＬ.113　歴史時代１群Ｂ遺物実測図36
ＰＬ.114　歴史時代１群Ｂ遺物実測図37
ＰＬ.115　歴史時代１群Ｂ鉄製品実測図１
ＰＬ.116　歴史時代１群Ｂ鉄製品実測図２
ＰＬ.117　歴史時代１群Ｂ鉄製品実測図３
ＰＬ.118　歴史時代１群Ｂ鉄製品実測図４
ＰＬ.119　瓦塔実測図１
ＰＬ.120　瓦塔実測図２
ＰＬ.121　瓦塔実測図及び瓦塔出土位置図
ＰＬ.122　歴史時代１群Ｂ文字資料抜萃１
ＰＬ.123　歴史時代１群Ｂ文字資料抜萃２
ＰＬ.124　Ｄ047・Ｄ118・Ｄ119実測図
ＰＬ.125　Ｄ120・Ｄ121実測図
ＰＬ.126　Ｄ122・Ｄ123実測図
ＰＬ.127　Ｄ124・Ｄ126実測図
ＰＬ.128　Ｄ128・Ｄ129実測図
ＰＬ.129　Ｄ131・Ｄ132実測図
ＰＬ.130　Ｄ133・Ｄ134実測図
ＰＬ.131　Ｄ136・Ｄ137・Ｄ138実測図
ＰＬ.132　Ｄ139・Ｄ140Ａ・Ｂ実測図
ＰＬ.133　Ｄ141・Ｄ142実測図
ＰＬ.134　Ｄ143・Ｄ190・Ｄ210実測図
ＰＬ.135　Ｄ212・Ｄ217・Ｄ258実測図
ＰＬ.136　Ｄ259・Ｄ260・Ｄ261実測図
ＰＬ.137　Ｄ262・Ｄ263実測図
ＰＬ.138　Ｈ060・Ｈ061・Ｈ062実測図
ＰＬ.139　Ｈ063・Ｈ064・Ｈ065・Ｈ066実測図
ＰＬ.140　Ｈ067・Ｈ068・Ｈ069実測図
ＰＬ.141　Ｈ085・Ｈ086実測図
ＰＬ.142　Ｈ087・Ｈ088・Ｈ089・Ｈ100実測図
ＰＬ.143　Ｈ101・Ｈ138Ａ・Ｂ実測図
ＰＬ.144　Ｐ133・Ｐ135実測図
ＰＬ.145　歴史時代２群Ａ遺物実測図１
ＰＬ.146　歴史時代２群Ａ遺物実測図２
ＰＬ.147　歴史時代２群Ａ遺物実測図３
ＰＬ.148　歴史時代２群Ａ遺物実測図４
ＰＬ.149　歴史時代２群Ａ遺物実測図５
ＰＬ.150　歴史時代２群Ａ遺物実測図６
ＰＬ.151　歴史時代２群Ａ遺物実測図７
ＰＬ.152　歴史時代２群Ａ遺物実測図８

ＰＬ.153　歴史時代２群Ａ遺物実測図９
ＰＬ.154　歴史時代２群Ａ遺物実測図10
ＰＬ.155　歴史時代２群Ａ遺物実測図11
ＰＬ.156　歴史時代２群Ａ遺物実測図12
ＰＬ.157　歴史時代２群Ａ遺物実測図13
ＰＬ.158　歴史時代２群Ａ遺物実測図14
ＰＬ.159　歴史時代２群Ａ遺物実測図15
ＰＬ.160　歴史時代２群Ａ遺物実測図16・鉄製品実測図
ＰＬ.161　瓦塔出土位置図
ＰＬ.162　瓦塔実測図１
ＰＬ.163　瓦塔実測図２
ＰＬ.164　瓦塔実測図３
ＰＬ.165　瓦塔実測図４
ＰＬ.166　瓦塔実測図５
ＰＬ.167　瓦塔実測図６
ＰＬ.168　瓦塔実測図７
ＰＬ.169　歴史時代２群Ａ文字資料抜萃
ＰＬ.170　Ｄ039・Ｄ040実測図
ＰＬ.171　Ｄ041・Ｄ042実測図
ＰＬ.172　Ｄ043・Ｄ224実測図
ＰＬ.173　Ｄ044・Ｄ045実測図
ＰＬ.174　Ｄ046・Ｄ048実測図
ＰＬ.175　Ｄ049・Ｄ050実測図
ＰＬ.176　Ｄ051・Ｄ052実測図
ＰＬ.177　Ｄ054・Ｄ055実測図
ＰＬ.178　Ｄ057・Ｄ058実測図
ＰＬ.179　Ｄ062・Ｄ108実測図
ＰＬ.180　Ｄ109・Ｄ110実測図
ＰＬ.181　Ｄ111・Ｄ112・Ｄ114実測図
ＰＬ.182　Ｄ115・Ｄ116実測図
ＰＬ.183　Ｄ125・Ｄ191・Ｄ198実測図
ＰＬ.184　Ｈ017・Ｈ018実測図
ＰＬ.185　Ｈ019・Ｈ022・Ｈ074実測図
ＰＬ.186　Ｈ102Ａ・Ｂ実測図
ＰＬ.187　歴史時代２群Ｂ遺物実測図１
ＰＬ.188　歴史時代２群Ｂ遺物実測図２
ＰＬ.189　歴史時代２群Ｂ遺物実測図３
ＰＬ.190　歴史時代２群Ｂ遺物実測図４
ＰＬ.191　歴史時代２群Ｂ遺物実測図５
ＰＬ.192　歴史時代２群Ｂ遺物実測図６
ＰＬ.193　歴史時代２群Ｂ遺物実測図７
ＰＬ.194　歴史時代２群Ｂ遺物実測図８
ＰＬ.195　歴史時代２群Ｂ遺物実測図９
ＰＬ.196　歴史時代２群Ｂ遺物実測図10
ＰＬ.197　歴史時代２群Ｂ遺物実測図11
ＰＬ.198　歴史時代２群Ｂ遺物実測図12
ＰＬ.199　歴史時代２群Ｂ遺物実測図13
ＰＬ.200　歴史時代２群Ｂ遺物実測図14
ＰＬ.201　歴史時代２群Ｂ遺物実測図15
ＰＬ.202　歴史時代２群Ｂ遺物実測図16・鉄製品実測図
ＰＬ.203　歴史時代２群Ｂ文字資料抜萃
ＰＬ.204　Ｄ021・Ｄ022実測図
ＰＬ.205　Ｄ023・Ｄ024実測図
ＰＬ.206　Ｄ027・Ｄ028実測図
ＰＬ.207　Ｄ029・Ｄ030実測図
ＰＬ.208　Ｄ031・Ｄ032実測図
ＰＬ.209　Ｄ033・Ｄ034・Ｄ035実測図
ＰＬ.210　Ｄ036・Ｄ037実測図
ＰＬ.211　Ｄ038・Ｄ053実測図
ＰＬ.212　Ｄ067・Ｄ201実測図
ＰＬ.213　Ｄ202・Ｄ203・Ｄ204実測図
ＰＬ.214　Ｄ205・Ｄ206実測図
ＰＬ.215　Ｄ207・Ｄ208実測図
ＰＬ.216　Ｄ218・Ｄ272実測図
ＰＬ.217　Ｄ273・Ｄ275実測図
ＰＬ.218　Ｄ276・Ｄ277・Ｄ278実測図
ＰＬ.219　Ｄ279・Ｄ280実測図
ＰＬ.220　Ｄ281・Ｄ282・Ｄ283・Ｄ284実測図
ＰＬ.221　Ｄ285・Ｈ008実測図
ＰＬ.222　Ｈ009・Ｈ010・Ｈ011実測図
ＰＬ.223　Ｈ015・Ｈ016・Ｈ020実測図
ＰＬ.224　Ｈ021・Ｈ071実測図
ＰＬ.225　Ｈ072・Ｈ073実測図
ＰＬ.226　Ｐ012・Ｐ015実測図
ＰＬ.227　歴史時代２群Ｃ遺物実測図１
ＰＬ.228　歴史時代２群Ｃ遺物実測図２

ＰＬ.229　歴史時代２群Ｃ遺物実測図３
ＰＬ.230　歴史時代２群Ｃ遺物実測図４
ＰＬ.231　歴史時代２群Ｃ遺物実測図５
ＰＬ.232　歴史時代２群Ｃ遺物実測図６
ＰＬ.233　歴史時代２群Ｃ遺物実測図７
ＰＬ.234　歴史時代２群Ｃ遺物実測図８
ＰＬ.235　歴史時代２群Ｃ遺物実測図９
ＰＬ.236　歴史時代２群Ｃ遺物実測図10
ＰＬ.237　歴史時代２群Ｃ遺物実測図11
ＰＬ.238　歴史時代２群Ｃ遺物実測図12
ＰＬ.239　歴史時代２群Ｃ遺物実測図13
ＰＬ.240　歴史時代２群Ｃ遺物実測図14
ＰＬ.241　歴史時代２群Ｃ遺物実測図15
ＰＬ.242　歴史時代２群Ｃ遺物実測図16
ＰＬ.243　歴史時代２群Ｃ遺物実測図17
ＰＬ.244　歴史時代２群Ｃ遺物実測図18
ＰＬ.245　歴史時代２群Ｃ遺物実測図19
ＰＬ.246　歴史時代２群Ｃ遺物実測図20
ＰＬ.247　歴史時代２群Ｃ遺物実測図21
ＰＬ.248　歴史時代２群Ｃ遺物実測図22
ＰＬ.249　歴史時代２群Ｃ遺物実測図23
ＰＬ.250　歴史時代２群Ｃ鉄製品実測図１
ＰＬ.251　歴史時代２群Ｃ鉄製品実測図２
ＰＬ.252　歴史時代２群Ｃ文字資料抜萃１
ＰＬ.253　歴史時代２群Ｃ文字資料抜萃２
ＰＬ.254　Ｄ061・Ｄ068実測図
ＰＬ.255　Ｄ069・Ｄ070実測図
ＰＬ.256　Ｄ075・Ｄ243実測図
ＰＬ.257　Ｄ244・Ｄ245実測図
ＰＬ.258　Ｄ246・Ｄ247実測図
ＰＬ.259　Ｄ248・Ｄ249実測図
ＰＬ.260　Ｄ250・Ｄ251実測図
ＰＬ.261　Ｄ252・Ｄ253実測図
ＰＬ.262　Ｄ254・Ｄ255実測図
ＰＬ.263　Ｈ130・Ｈ131・Ｈ132実測図
ＰＬ.264　Ｈ133・Ｈ134・Ｈ135実測図
ＰＬ.265　Ｈ136・Ｈ137・Ｐ019実測図
ＰＬ.266　歴史時代２群Ｄ遺物実測図１
ＰＬ.267　歴史時代２群Ｄ遺物実測図２
ＰＬ.268　歴史時代２群Ｄ遺物実測図３
ＰＬ.269　歴史時代２群Ｄ遺物実測図４
ＰＬ.270　歴史時代２群Ｄ遺物実測図５
ＰＬ.271　歴史時代２群Ｄ遺物実測図６
ＰＬ.272　歴史時代２群Ｄ遺物実測図７
ＰＬ.273　歴史時代２群Ｄ遺物実測図８
ＰＬ.274　歴史時代２群Ｄ遺物実測図９
ＰＬ.275　歴史時代２群Ｄ鉄製品実測図
ＰＬ.276　歴史時代２群Ｄ文字資料抜萃
ＰＬ.277　Ｄ010・Ｄ025実測図
ＰＬ.278　Ｄ026・Ｄ072実測図
ＰＬ.279　Ｄ073・Ｄ074実測図
ＰＬ.280　Ｄ076・Ｄ077実測図
ＰＬ.281　Ｄ078・Ｄ079実測図
ＰＬ.282　Ｄ080・Ｄ081実測図
ＰＬ.283　Ｄ082・Ｄ083実測図
ＰＬ.284　Ｄ084・Ｄ085実測図
ＰＬ.285　Ｄ086・Ｄ087実測図
ＰＬ.286　Ｄ088・Ｄ089実測図
ＰＬ.287　Ｄ090・Ｄ091実測図
ＰＬ.288　Ｈ023Ａ・Ｂ・Ｈ033Ａ・Ｂ実測図
ＰＬ.289　Ｈ034・Ｈ035実測図
ＰＬ.290　Ｈ051～Ｈ054実測図
ＰＬ.291　Ｈ055・Ｈ127・Ｈ128・Ｐ016実測図
ＰＬ.292　歴史時代２群Ｅ遺物実測図１
ＰＬ.293　歴史時代２群Ｅ遺物実測図２
ＰＬ.294　歴史時代２群Ｅ遺物実測図３
ＰＬ.295　歴史時代２群Ｅ遺物実測図４
ＰＬ.296　歴史時代２群Ｅ遺物実測図５
ＰＬ.297　歴史時代２群Ｅ遺物実測図６
ＰＬ.298　歴史時代２群Ｅ遺物実測図７
ＰＬ.299　歴史時代２群Ｅ遺物実測図８
ＰＬ.300　歴史時代２群Ｅ遺物実測図９
ＰＬ.301　歴史時代２群Ｅ遺物実測図10
ＰＬ.302　歴史時代２群Ｅ遺物実測図11
ＰＬ.303　歴史時代２群Ｅ遺物実測図12
ＰＬ.304　歴史時代２群Ｅ遺物実測図13
ＰＬ.305　歴史時代２群Ｅ遺物実測図14
ＰＬ.306　歴史時代２群Ｅ鉄製品実測図

ＰＬ.307　歴史時代２群Ｅ文字資料抜萃
ＰＬ.308　Ｄ002・Ｄ003実測図
ＰＬ.309　Ｄ004・Ｄ005実測図
ＰＬ.310　Ｄ006・Ｄ007実測図
ＰＬ.311　Ｄ008・Ｄ009実測図
ＰＬ.312　Ｄ011Ａ・Ｄ011Ｂ実測図
ＰＬ.313　Ｄ012・Ｄ013Ａ・Ｄ013Ｂ実測図
ＰＬ.314　Ｄ014・Ｄ015実測図
ＰＬ.315　Ｄ016・Ｄ017実測図
ＰＬ.316　Ｄ018・Ｄ019Ａ実測図
ＰＬ.317　Ｄ019Ｂ・Ｄ020実測図
ＰＬ.318　Ｈ001・Ｈ002・Ｈ003実測図
ＰＬ.319　Ｈ004・Ｈ005・Ｈ006実測図
ＰＬ.320　Ｈ007・Ｈ012実測図
ＰＬ.321　Ｈ013・Ｈ014実測図
ＰＬ.322　Ｈ140・Ｐ004実測図
ＰＬ.323　歴史時代２群Ｆ遺物実測図１
ＰＬ.324　歴史時代２群Ｆ遺物実測図２
ＰＬ.325　歴史時代２群Ｆ遺物実測図３
ＰＬ.326　歴史時代２群Ｆ遺物実測図４
ＰＬ.327　歴史時代２群Ｆ遺物実測図５
ＰＬ.328　歴史時代２群Ｆ遺物実測図６
ＰＬ.329　歴史時代２群Ｆ遺物実測図７
ＰＬ.330　歴史時代２群Ｆ遺物実測図８
ＰＬ.331　歴史時代２群Ｆ遺物実測図９
ＰＬ.332　歴史時代２群Ｆ遺物実測図10
ＰＬ.333　歴史時代２群Ｆ遺物実測図11
ＰＬ.334　歴史時代２群Ｆ遺物実測図12
ＰＬ.335　歴史時代２群Ｆ遺物実測図13
ＰＬ.336　歴史時代２群Ｆ遺物実測図14
ＰＬ.337　歴史時代２群Ｆ遺物実測図15
ＰＬ.338　歴史時代２群Ｆ鉄製品実測図１
ＰＬ.339　歴史時代２群Ｆ鉄製品実測図２・文字資料抜萃
ＰＬ.340　Ｄ059・Ｄ060実測図
ＰＬ.341　Ｄ063・Ｄ064・Ｄ065実測図
ＰＬ.342　Ｄ066・Ｄ071・Ｄ094実測図
ＰＬ.343　Ｄ096・Ｄ100実測図
ＰＬ.344　Ｄ101・Ｄ102実測図
ＰＬ.345　Ｄ103・Ｄ104実測図
ＰＬ.346　Ｄ105・Ｄ106実測図
ＰＬ,347　Ｄ107・Ｄ221実測図
ＰＬ.348　Ｄ226・Ｄ227実測図
ＰＬ.349　Ｄ233実測図
ＰＬ.350　Ｄ234実測図
ＰＬ.351　Ｄ235・Ｄ236実測図
ＰＬ.352　Ｄ228・Ｄ237実測図
ＰＬ.353　Ｄ270・Ｄ271実測図
ＰＬ.354　Ｈ024・Ｈ025実測図
ＰＬ.355　Ｈ026・Ｈ027・Ｈ028実測図
ＰＬ.356　Ｈ029・Ｈ030実測図
ＰＬ.357　Ｈ031・Ｈ032実測図
ＰＬ.358　Ｈ036・Ｈ037・Ｈ038実測図
ＰＬ.359　Ｈ039・Ｈ040・Ｈ041・Ｈ042実測図
ＰＬ.360　Ｈ043・Ｈ044・Ｈ045実測図
ＰＬ.361　Ｈ046・Ｈ047・Ｈ048実測図
ＰＬ.362　Ｈ049・Ｈ050実測図
ＰＬ.363　Ｈ056・Ｈ057実測図
ＰＬ.364　Ｈ058・Ｈ059・Ｈ121実測図
ＰＬ.365　Ｈ122・Ｈ123・Ｈ124・Ｈ125実測図
ＰＬ.366　Ｈ126・Ｈ139実測図
ＰＬ.367　Ｈ141・Ｈ142実測図
ＰＬ.368　Ｈ143・Ｈ144・Ｐ031実測図
ＰＬ.369　歴史時代３群遺物実測図１
ＰＬ.370　歴史時代３群遺物実測図２
ＰＬ.371　歴史時代３群遺物実測図３
ＰＬ.372　歴史時代３群遺物実測図４
ＰＬ.373　歴史時代３群遺物実測図５
ＰＬ.374　歴史時代３群遺物実測図６
ＰＬ.375　歴史時代３群遺物実測図７
ＰＬ.376　歴史時代３群遺物実測図８
ＰＬ.377　歴史時代３群遺物実測図９
ＰＬ.378　歴史時代３群遺物実測図10
ＰＬ.379　歴史時代３群遺物実測図11
ＰＬ.380　歴史時代３群遺物実測図12
ＰＬ.381　歴史時代３群遺物実測図13
ＰＬ.382　歴史時代３群遺物実測図14
ＰＬ.383　歴史時代３群遺物実測図15

ＰＬ.384　歴史時代３群遺物実測図16
ＰＬ.385　歴史時代３群遺物実測図17
ＰＬ.386　歴史時代３群鉄製品実測図１
ＰＬ.387　歴史時代３群鉄製品実測図２
ＰＬ.388　歴史時代３群文字資料抜萃１
ＰＬ.389　歴史時代３群文字資料抜萃２

# 第　1　部

# 第１章　はじめに

## 第１節　調査に至る経過

住宅・都市整備公団は、首都圏における急激な人口増加に対応する施策の一環として、千葉県八千代市萱田地区において土地区画整理事業を施行することを諸法に基づき立案した。首都圏都市開発本部は事業地内に所在するであろう埋蔵文化財について八千代市教育委員会との協議を経て、昭和50年２月に千葉県教育委員会に埋蔵文化財の所在の有無について照会をした。

このため、千葉県教育委員会は、首都圏都市開発本部に遺跡の分布調査を事前に実施するように指示し、併せて分布調査機関として財団法人千葉県文化財センターを指定した。分布調査の結果、歴史時代の遺物を中心に先土器時代からの多様な遺物の散布が観察でき、事業地内に20箇所の遺跡と塚１基を確認した。

その後、昭和51年11月に首都圏都市開発本部から埋蔵文化財包蔵地の取扱いについての照会が県教育委員会にあった。県教育委員会では、先の分布調査の成果に基づいて、公園・緑地等により現状保存の措置が講じられるよう回答した。その後、遺跡の取扱いについて再三協議を重ねた結果、極力現状保存を図る一方、現状保存が困難な遺跡について十分な記録保存の措置を講ずることに決定した。

埋蔵文化財の発掘調査は、昭和52年度から着手し、昭和53年度後半にいたって用地の問題も解決する方向に向い、事業当初に計画した萱田地区全体の遺構確認調査を広範囲にわたって実施できる運びとなった。現在13年が経過し、一部用地上の問題が解決せず調査が未着手となっている部分があるものの、全体的には調査対象地域のほとんどの調査が完了している。

白幡前遺跡については、昭和54年度に坊山遺跡と併せて220,000㎡の確認調査を実施し、すでに確認調査が終了している権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡と同様に、確認調査を実施した範囲のほとんどの部分で遺構の存在が確認できた。この成果を基に、千葉県教育委員会、住宅・都市整備公団、財団法人千葉県文化財センターの三者によって現地踏査、ならびに協議が行なわれた。この結果、94,026㎡の本調査範囲が決定し、昭和54年度に緊急の工事を要する1,500㎡を、そして昭和56・57年度の２箇年で80,386㎡の調査が終了した。残された12,140㎡は用地問題の解決を待って、引き続き昭和58年度以降順次調査を進め、昭和63年度に白幡前遺跡のすべての調査が終了した。

## 第2節　遺跡の位置と環境

白幡前遺跡は千葉県八千代市萱田字白幡前・庚塚・堂ノ後・池の台に所在する。この地区は萱田地区の南端に位置し、現在は八千代市総合運動場・八千代市市民会館等の公共施設に近い利便の良い土地である。

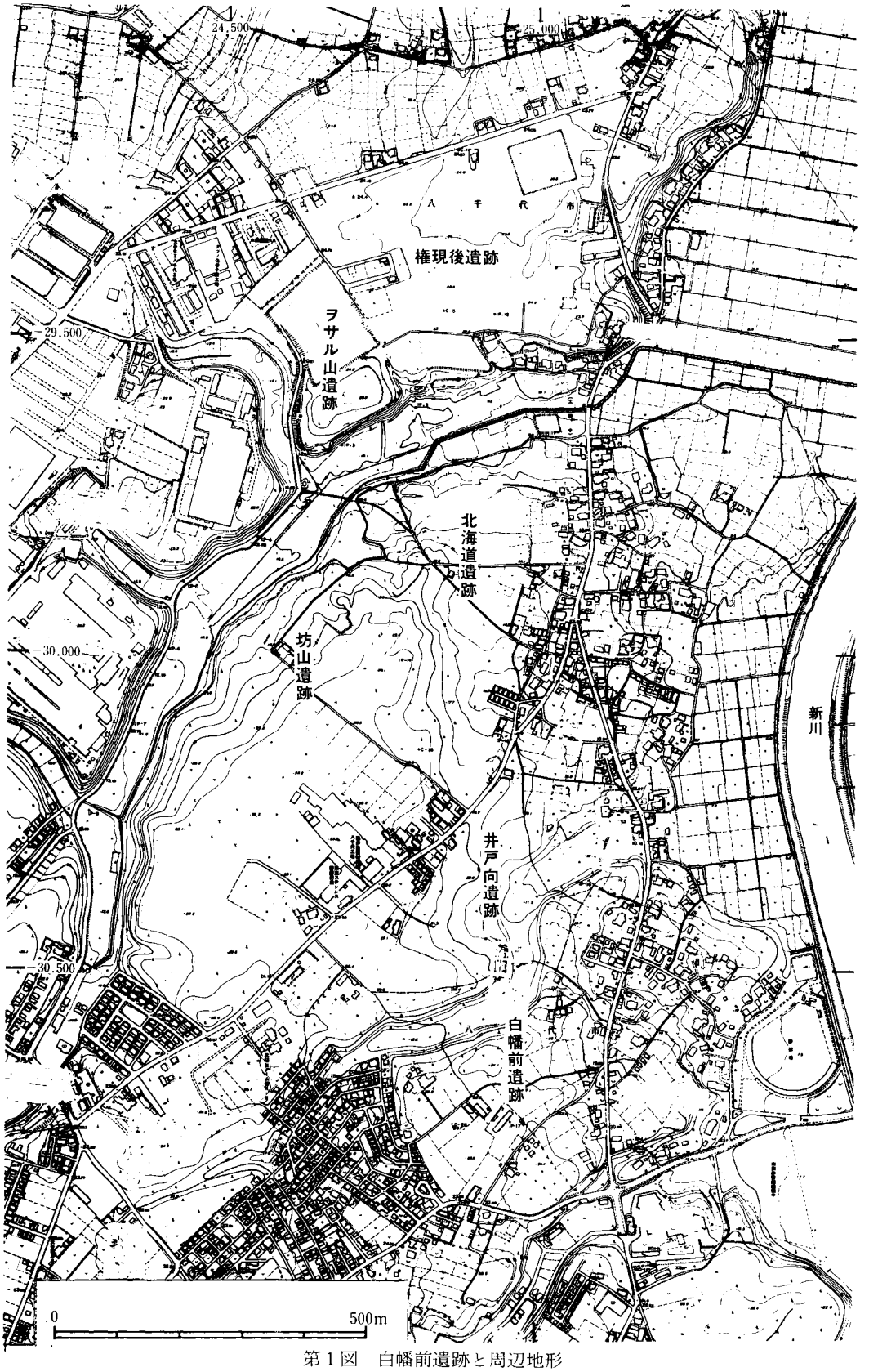
遺跡は、印旛沼へ流れる新川（旧平戸川）[1]左岸の標高15～25mの台地上に立地している。新川は、印旛沼に流入する河川の中では比較的大きいもので、新川に向かってさらにいくつもの小支谷が台地を開析している。新川を挟んだ対岸には村上遺跡群が立地し、『和名抄』に見える村神郷との関係が考えられている[2]。白幡前遺跡は直接新川に臨んでいるが、北側は寺谷津で井戸向遺跡と画され、南側も池谷津を挟んで川崎山遺跡と接している。台地はこのように南北を小支谷に挟まれ、新川に向かってほぼ東西方向に伸びているが、新川に面する部分には段丘中位面・下位面が発達し[3]、白幡前遺跡も台地上から段丘中位面にかかって営まれている。このような状況は、権現後遺跡では見られないものの、北海道遺跡・井戸向遺跡でも同様の地形を呈し、特に北海道遺跡では段丘中位面がかなりよく発達している。白幡前遺跡での段丘中位面は、U20からW22にかけてほぼ南北方向に走っており、台地最高所との比高は約10mを測る。寺谷津を隔てた井戸向遺跡・北海道遺跡にもほぼ延長線上に段丘中位面が続いている。また、台地上と新川の沖積層面との比高は約15mを測り、段丘中位面からは7m前後しかない。しかし、白幡前遺跡において段丘中位面の大部分と低位面は現在の萱田集落となっており、また、事業地外で未調査のためこの部分の遺構の在り方は確認できていない。白幡前遺跡北端の遺構分布の状況から段丘中位面を含む未調査部分においても、相当数の遺構の存在は想像できる。すなわち、白幡前遺跡の調査範囲は遺構の存在が予想できる部分の半分程度ということになる。本調査対象地の面積は94,026m²で、先土器時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の遺構・遺物が検出された。遺構の広がりは、弥生時代以降は段丘面と台地上とに極端な差は認められないが、先土器時代のブロックのうち第2黒色帯より下位に位置するブロックは段丘中位面には発見されていない。

---

1）現在の新川は、印旛沼の水位調整のため印旛沼から花見川を経て東京湾に注いでいるが、本来は印旛沼に注いでいたものである。

2）阪田正一　「八千代市権現後遺跡出土の墨書人面土器について」　1983
　天野　努　「下総国印旛郡村神郷とその故地」　1986

3）段丘中位面・下位面は、千葉第1段丘・千葉第2段丘と呼ばれるもので、下総台地の一部で見ることができる。



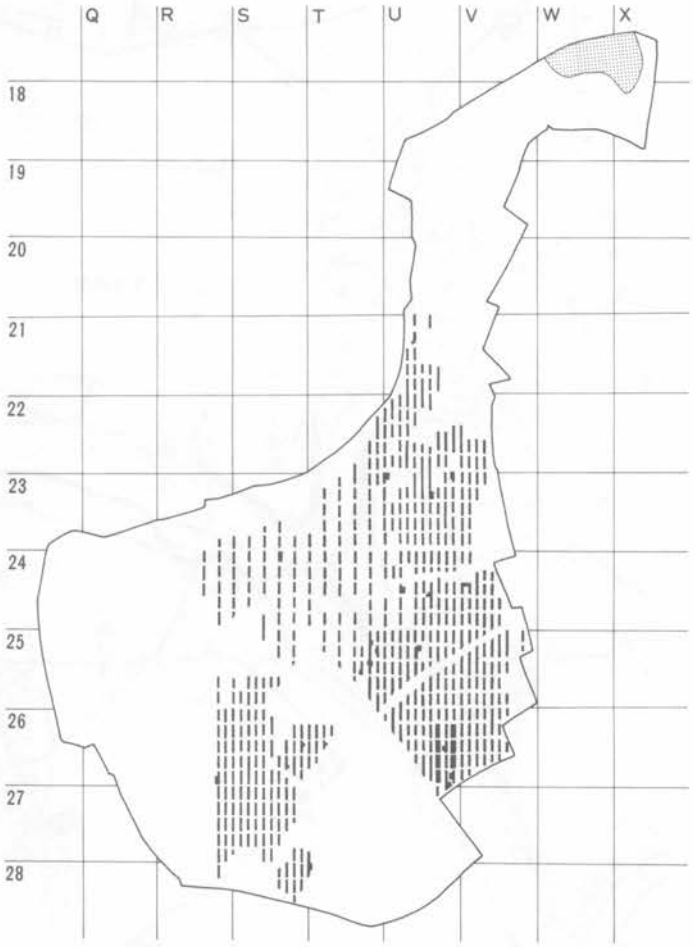

第１図　白幡前遺跡と周辺地形

# 第3節　調査の経過

## 1　調査経過の概略

### (1)　昭和54年度事業（第2図）

昭和54年度の白幡前遺跡の調査は、用地問題が解決した部分の確認調査が主体である。確認調査の対象面積は86,000㎡に及び、昭和54年8月1日に着手した。また、確認調査と共に、緊急に工事の必要がある、遺跡北端の1,500㎡について本調査を実施した。確認調査は遺構分布の比較的希薄な地域を密に実施し、遺構の存在が十分予想できる地域ではトレンチの間隔を広くした。本調査範囲は標高約15mの台地縁辺に当り、竪穴住居跡1軒と先土器時代石器ブロックを検出した。



第2図　昭和54年度調査範囲

昭和54年度の担当職員は下記のとおりである。なお、○印は直接現場担当者、◎印は直接整理担当者である。

調査部長　白石竹雄
部長補佐　山田友治
班　　長　沼沢　豊
調査研究員　加藤修司　関口達彦
萩野谷　悟　○橋本勝雄
丸山浩司

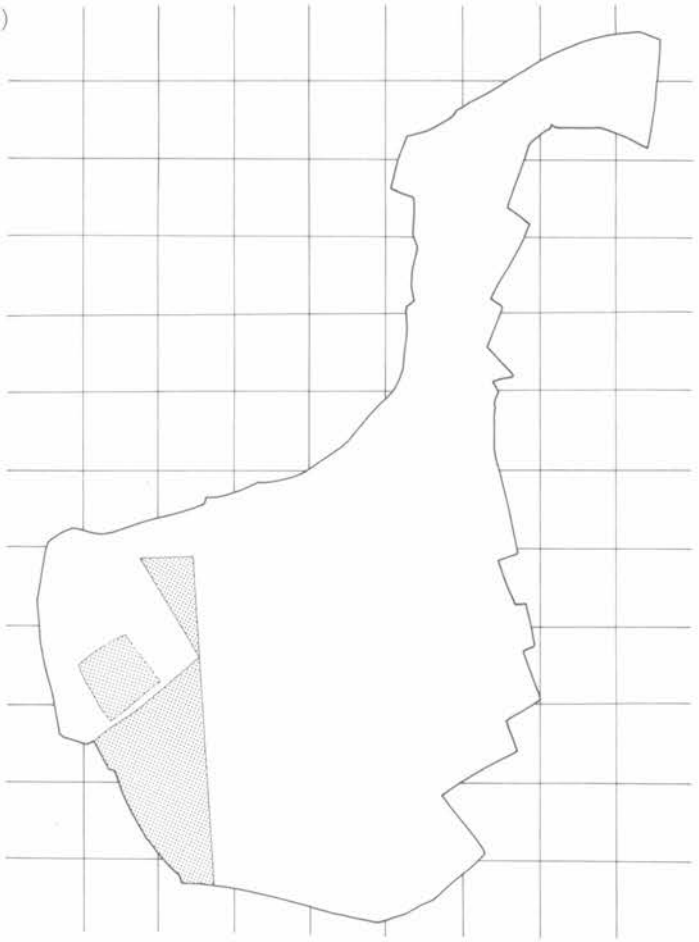
確認調査風景

### (2) 昭和56年度事業（第３図）

昭和56年度の調査は、遺跡西端の萱田字庚塚について16,200m²の上層本調査、下層確認調査、下層本調査を実施した。調査は昭和56年10月16日に開始し、昭和57年２月８日に終了した。上層本調査によって検出した遺構は竪穴住居跡28軒、掘立柱建物跡14棟である。下層については11箇所の石器ブロックが検出できた。

昭和56年度の担当職員は下記のとおりである。

調査部長　白石竹雄
部長補佐　中山吉秀
班　　長　阪田正一
調査研究員　○萩野谷 悟
　橋本勝雄　今泉　潔
　沢野　弘
　○藤岡孝司
　○水野郁子（現倉内）



第３図　昭和56年度調査範囲

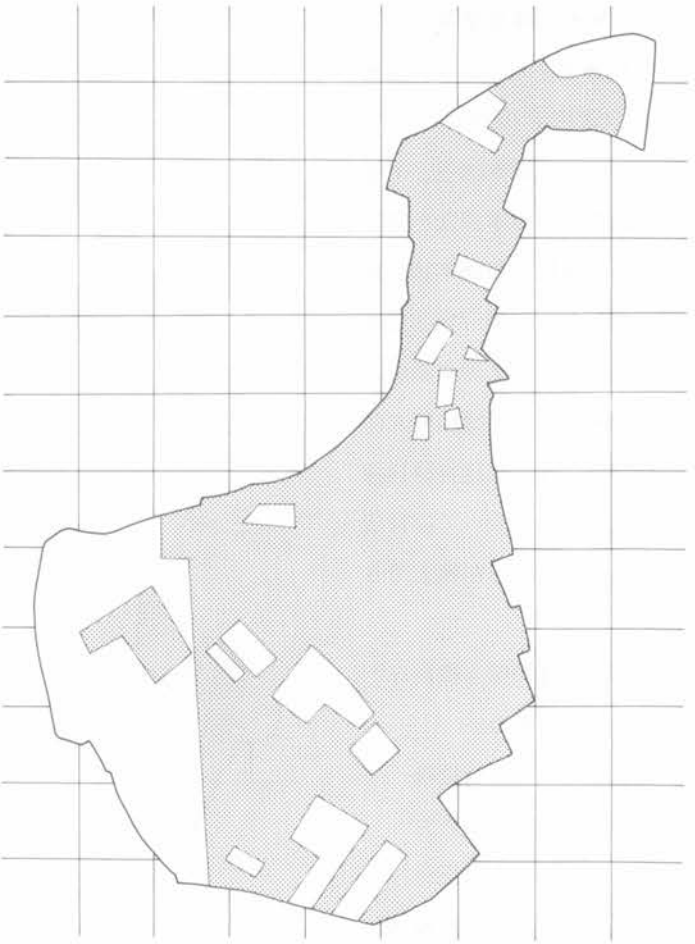
遺構調査風景

### (3) 昭和57年度事業（第４図）

昭和57年度の調査は、遺跡のほぼ全域に及ぶ範囲の本調査を通年にわたって実施した。調査面積は64,186m²で、期間は昭和57年４月１日から昭和58年３月29日に及んだ。これにより、白幡前遺跡の大部分の調査が終了することとなるが、用地問題が解決していない12,140m²について昭和58年度以降調査を継続することとなる。なお、昭和57年度は調査と並行して、出土した遺物の水洗・注記を行った。

昭和57年度の担当職員は下記のとおりである。

調査部長　白石竹雄
部長補佐　天野　努
班　　長　阪田正一
調査研究員　加藤修司
　橋本勝雄
　○金丸　誠
　○藤岡孝司
　○水野郁子（現倉内）
　○宮城孝之



第４図　昭和57年度調査範囲

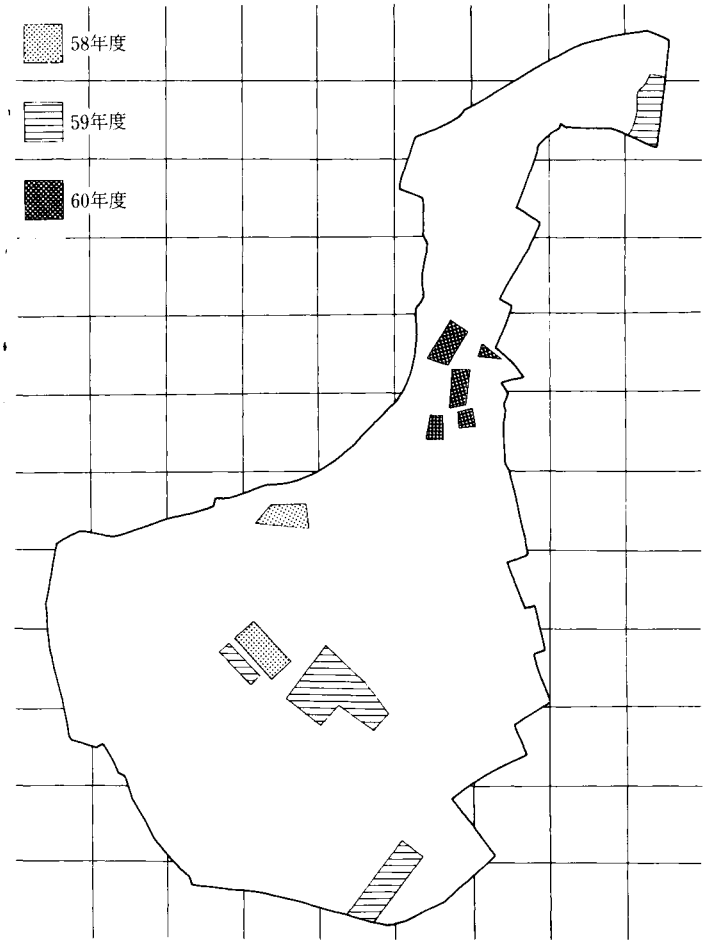
見学会風景

### (4) 昭和58年度事業（第５図）

昭和58年度の調査は、用地問題が解決した第２地点について調査を行った。昭和58年４月１日から５月６日まで萱田字白幡前2,206の900㎡を、11月25日から12月８日まで萱田字白幡前2161-4の700㎡の調査を行った。調査の結果、竪穴住居跡１軒、先土器時代石器ブロック３箇所を検出した。

昭和58年度の担当職員は下記のとおりである。

調査部長　　白石竹雄
部長補佐　　根本　弘
班　　長　　阪田正一
調査研究員　○橋本勝雄
　○金丸　誠（～58.9.30）
　○藤岡孝司



第５図　昭和58～60年度調査範囲

### (5) 昭和59年度事業（第５図）

昭和59年度の調査は、用地問題が解決した４地点について調査を行った。昭和59年４月13日から７月25日まで萱田字池の台2248-9の白幡前遺跡第４地点について1,000㎡の調査を行い、先土器時代石器ブロック２箇所、竪穴住居跡８軒、掘立柱建物跡５棟を検出した。続いて９月25日から11月10日まで萱田字堂ノ後1705-1において1,000㎡の調査を行い、先土器時代石器ブロック１箇所、竪穴住居跡５軒を検出した。続いて12月17日から昭和60年１月23日まで萱田字白幡前2161-5の300㎡を調査し、掘立柱建物跡３棟、先土器時代石器ブロック１箇所を検出した。続いて、昭和60年３月４日から３月30日まで萱田字白幡前2159において1,800㎡の調査を行い、竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡８棟を検出した。なお、整理作業は当年度調査によって出土した遺物の水洗・注記を行った。

昭和59年度の担当職員は下記のとおりである。

調査部長　　鈴木道之助
部長補佐　　岡川宏道

班　　長　　阪田正一

調査研究員　○奥田正彦　○藤岡孝司

**(6)　昭和60年度事業**（第５図）

昭和60年度の調査は、用地問題が解決した白幡前遺跡第11地点について1,300㎡の上層本調査、並びに下層確認調査を行った。ただし、継続した調査は不可能で、昭和60年４月１日から５月28日までに700㎡、６月24日から７月18日までに200㎡、10月15日から11月19日までに400㎡の調査を行った。調査の結果、竪穴住居跡14軒、掘立柱建物跡１棟を検出した。整理作業は昭和58年度調査分までの図面・写真整理、遺物の復元の一部を行った。

昭和60年度の担当職員は下記のとおりである。

調査部長　　鈴木道之助

部長補佐　　岡川宏道

班　　長　　矢戸三男

主任調査研究員　○◎奥田正彦

○◎田村　隆（60.10.1～）

調査研究員　藤岡孝司

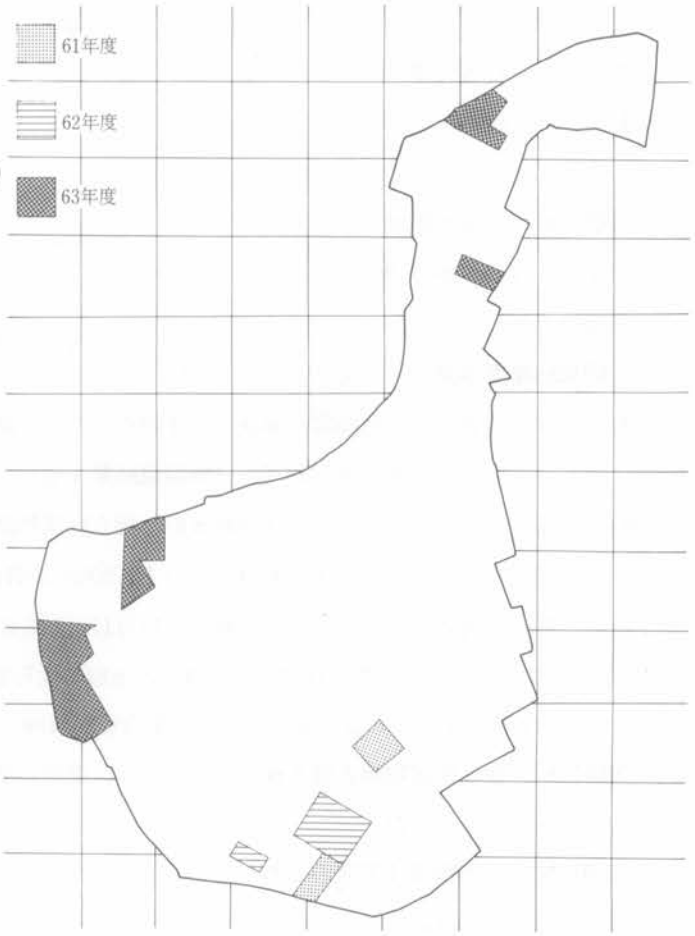
**(7)　昭和61年度事業**（第６図）

昭和61年度の調査は、用地問題が解決した白幡前遺跡第13地点・第14地点の２地点の調査を行った。第14地点は昭和61年４月15日から５月23日まで300㎡の調査を行い、掘立柱建物跡１棟を検出した。第13地点は６月５日から７月11日まで700㎡の調査を行った。整理作業は昭和58年度調査分までの遺物実測の一部、トレースの一部を行った。

昭和61年度の担当職員は下記のとおりである。

調査部長　　鈴木道之助

部長補佐　　岡川宏道




第６図　昭和61～63年度調査範囲

班　　長　　矢戸三男

主任調査研究員　○◎奥田正彦　○◎田村　隆（～61.9.30）

### (8) 昭和62年度事業（第6図）

昭和62年度の調査は、用地問題が解決した白幡前遺跡第14地点・第15地点1,300㎡の調査を行った。ただし、継続して調査を実施することは不可能で、昭和62年5月12日から7月21日、10月12日から11月5日の2回に分けた調査となった。調査の結果、竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡5棟を検出した。整理作業は遺物実測、トレース、未整理分の水洗・注記を行った。

昭和62年度の担当職員は下記のとおりである。

調査部長　　堀部昭夫

部長補佐　　古内　茂

班　　長　　小宮　孟

調査研究員　○◎大野康男

### (9) 昭和63年度事業（第6図）

昭和63年度の調査は、用地問題が解決した白幡前遺跡第7地点・第9地点・第10地点・第12地点の調査を行った。このうち第7・第12地点は対象面積2,090㎡で、昭和63年5月9日から8月3日まで行い、竪穴住居跡14軒、先土器時代石器ブロック1箇所を検出した。また、第9・第10地点は対象面積750㎡で、昭和63年8月29日から9月26日まで行い、竪穴住居跡2軒、掘立柱建物跡8棟を検出した。今年度をもって白幡前遺跡の調査をすべて終了した。整理作業は遺物実測、トレースを終了させた。

昭和63年度の担当職員は下記のとおりである。

調査部長　　堀部昭夫

部長補佐　　古内　茂

班　　長　　大原正義

主任調査研究員　○◎大野康男

### (10) 平成元年度事業

平成元年度は、前年度で白幡前遺跡の調査がすべて終了したため、報告書刊行に向けて遺物の写真撮影、挿図・図版の作成、原稿執筆の一部を行った。ただし、萱田地区全体で井戸向遺跡の調査が僅かに残されており、約3箇月を発掘調査にあてた。

平成元年度の担当職員は下記のとおりである。

調査部長　　堀部昭夫

部長補佐　　西山太郎

班　　長　　上野純司

主任技師　　○◎大野康男

### (11) 平成2年度事業

平成2年度は、原稿執筆を終了させ、報告書の刊行を行った。なお、井戸向遺跡の一部が未調査であったため、これに約3箇月を費やした。また、白幡前遺跡の原稿執筆が終了したため、坊山遺跡の整理作業を開始した。

平成2年度の担当職員は下記のとおりである。

調査部長　　堀部昭夫

部長補佐　　阪田正一

班　　長　　上野純司

主任技師　　○◎大野康男

## 2　調査の方法

白幡前遺跡の調査は昭和54年度に確認・本調査に着手し、昭和63年度に全ての調査が終了した。上層本調査面積は94,026㎡、下層本調査面積は4,100㎡となった。調査は公共座標系第IX系に基づくグリッドを設定し、大グリッドは50m方眼とした。この大グリッドは萱田地区の北海道遺跡以南をカバーするもので、グリッドの名称はX軸に数字を、Y軸にアルファベットを当てた。各グリッドはさらに5m方眼の小グリッドに分割し、小グリッドは00～99とした。確認調査は対象面積に対し、上層10%、下層4%の割合で実施した。確認調査の結果、上層は全面本調査範囲となり、下層は遺物を検出したグリッドを中心に拡張し、合計4,100㎡の本調査を行った。遺構調査は重機を使用した表土除去後、順次精査に取り掛かり、各遺構は十字もしくは半截して土層断面の観察を行った。カマドの調査は住居床面検出後に、住居内側から土層断面の観察を行いながら、徐々に平面図を作成していく方法を執った。

また、遺構から出土した遺物は原則としてすべて遺物出土状況図に記録した。遺構番号は調査順に番号を付け、さらにアルファベットによって遺構の種類に分け、通し番号となっている。ただし、先土器時代石器ブロックは昭和54年度調査のブロックと昭和56年度以降に調査したブロックに一部番号が重複するなどの問題があったため番号を付け替えたブロックがある。新旧の遺構番号については、番号対照表で示したとおりである。

第1表　先土器時代ブロック一覧

| 地点名 | 文化層 | 旧番号 | 地点名 | 文化層 | 旧番号 | 地点名 | 文化層 | 旧番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| S 1 | 1 | | S 21 | 2 | | S 41 | 4 | |
| S 2 | 2 | | S 22 | 1 | | S 42 | 4 | |
| S 3 | 3 | | S 23 | 5 | | S 43 | 4 | |
| S 4 | 1 | | S 24 | | | S 44 | 4 | |
| S 5 | 1 | | S 25 | 4 | | S 45 | 6 | |
| S 6 | 欠　番 | | S 26 | 2 | | S 46 | 2 | |
| S 7 | 欠　番 | | S 27 | 1 | | S 47 | 3 | |
| S 8 | | | S 28 | 1 | | S 48 | 6 | |
| S 9 | 1 | | S 29 | 2 | | S 49 | 6 | |
| S 10 | 2 | | S 30 | 2 | | S 50 | | S 11 |
| S 11 | 2 | | S 31 | 1 | | S 51 | 3 | S 12 |
| S 12 | 2 | | S 32 | 2 | | S 52 | 6 | S 13 |
| S 13 | 2 | | S 33 | 2 | | S 53 | 2 | S 14 |
| S 14 | 2 | | S 34 | 2 | | S 54 | 欠　番 | |
| S 15 | 4 | | S 35 | 2 | | S 55 | 2 | S 16 |
| S 16 | 4 | | S 36 | 2 | | S 56 | 2 | S 17 |
| S 17 | 1 | | S 37 | 2 | | S 57 | 1 | S 18 |
| S 18 | 2 | | S 38 | 4 | | S 58 | | S 12 |
| S 19 | 4 | | S 39 | 4 | | S 59 | 欠　番 | |
| S 20 | 5 | | S 40 | 4 | | S 60 | 2 | |

第2表　竪穴住居跡一覧

| 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D001 | 歴　史 | 1 A | D012 | 歴　史 | 2 F | D022 | 歴　史 | 2 C |
| D002 | 歴　史 | 2 F | D013A | 歴　史 | 2 F | D023 | 歴　史 | 2 C |
| D003 | 歴　史 | 2 F | D013B | 歴　史 | 2 F | D024 | 歴　史 | 2 C |
| D004 | 歴　史 | 2 F | D014 | 歴　史 | 2 F | D025A | 歴　史 | 2 E |
| D005 | 歴　史 | 2 F | D015 | 歴　史 | 2 F | D025B | 歴　史 | 2 E |
| D006 | 歴　史 | 2 F | D016 | 歴　史 | 2 F | D026 | 歴　史 | 2 E |
| D007 | 歴　史 | 2 F | D017 | 歴　史 | 2 F | D027 | 歴　史 | 2 C |
| D008 | 歴　史 | 2 F | D018 | 歴　史 | 2 F | D028 | 歴　史 | 2 C |
| D009 | 歴　史 | 2 F | D019A | 歴　史 | 2 F | D029 | 歴　史 | 2 C |
| D010 | 歴　史 | 2 E | D019B | 歴　史 | 2 F | D030 | 歴　史 | 2 C |
| D011A | 歴　史 | 2 F | D020 | 歴　史 | 2 F | D031 | 歴　史 | 2 C |
| D011B | 歴　史 | 2 F | D021 | 歴　史 | 2 C | D032 | 歴　史 | 2 C |

| 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D033 | 歴　史 | 2 C | D065 | 歴　史 | 3 | D098 | 弥　生 | 3 |
| D034 | 歴　史 | 2 C | D066 | 歴　史 | 3 | D099 | 弥　生 | 3 |
| D035 | 歴　史 | 2 C | D067 | 歴　史 | 2 C | D100 | 歴　史 | 3 |
| D036 | 歴　史 | 2 C | D068 | 歴　史 | 2 D | D101 | 歴　史 | 3 |
| D037 | 歴　史 | 2 C | D069 | 歴　史 | 2 D | D102 | 歴　史 | 3 |
| D038 | 歴　史 | 2 C | D070 | 歴　史 | 2 D | D103 | 歴　史 | 3 |
| D039 | 歴　史 | 2 B | D071 | 歴　史 | 3 | D104 | 歴　史 | 3 |
| D040 | 歴　史 | 2 B | D072 | 歴　史 | 2 E | D105 | 歴　史 | 3 |
| D041 | 歴　史 | 2 B | D073 | 歴　史 | 2 E | D106 | 歴　史 | 3 |
| D042 | 歴　史 | 2 B | D074 | 歴　史 | 2 E | D107 | 歴　史 | 3 |
| D043 | 歴　史 | 2 B | D075 | 歴　史 | 2 D | D108 | 歴　史 | 2 B |
| D044 | 歴　史 | 2 B | D076 | 歴　史 | 2 E | D109 | 歴　史 | 2 B |
| D045 | 歴　史 | 2 B | D077 | 歴　史 | 2 E | D110 | 歴　史 | 2 B |
| D046 | 歴　史 | 2 B | D078 | 歴　史 | 2 E | D111 | 歴　史 | 2 B |
| D047 | 歴　史 | 2 A | D079 | 歴　史 | 2 E | D112 | 歴　史 | 2 B |
| D048 | 歴　史 | 2 B | D080 | 歴　史 | 2 E | D113 | 欠　番 | |
| D049 | 歴　史 | 2 B | D081 | 歴　史 | 2 E | D114 | 歴　史 | 2 B |
| D050 | 歴　史 | 2 B | D082 | 歴　史 | 2 E | D115 | 歴　史 | 2 B |
| D051 | 歴　史 | 2 B | D083 | 歴　史 | 2 E | D116 | 歴　史 | 2 B |
| D052 | 歴　史 | 2 B | D084 | 歴　史 | 2 E | D117 | 弥　生 | 2 |
| D053 | 歴　史 | 2 C | D085 | 歴　史 | 2 E | D118 | 歴　史 | 2 A |
| D054 | 歴　史 | 2 B | D086 | 歴　史 | 2 E | D119 | 歴　史 | 2 A |
| D055 | 歴　史 | 2 B | D087 | 歴　史 | 2 E | D120 | 歴　史 | 2 A |
| D056 | 欠　番 | | D088 | 歴　史 | 2 E | D121 | 歴　史 | 2 A |
| D057 | 歴　史 | 2 B | D089 | 歴　史 | 2 E | D122 | 歴　史 | 2 A |
| D058 | 歴　史 | 2 B | D090 | 歴　史 | 2 E | D123 | 歴　史 | 2 A |
| D059A | 歴　史 | 3 | D091 | 歴　史 | 2 E | D124 | 歴　史 | 2 A |
| D059B | 歴　史 | 3 | D092 | 弥　生 | 3 | D125 | 歴　史 | 2 B |
| D060 | 歴　史 | 3 | D093 | 弥　生 | 3 | D126 | 歴　史 | 2 A |
| D061 | 歴　史 | 2 D | D094 | 歴　史 | 3 | D127 | 弥　生 | 3 |
| D062 | 歴　史 | 2 B | D095 | 弥　生 | 3 | D128 | 歴　史 | 2 A |
| D063 | 歴　史 | 3 | D096 | 歴　史 | 3 | D129 | 歴　史 | 2 A |
| D064 | 歴　史 | 3 | D097 | 弥　生 | 3 | D130 | 弥　生 | 2 |

| 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D131 | 歴　史 | 2 A | D160 | 歴　史 | 1 B | D185 | 歴　史 | 1 A |
| D132 | 歴　史 | 2 A | D161 | 歴　史 | 1 B | D186 | 歴　史 | 1 A |
| D133 | 歴　史 | 2 A | D162 | 歴　史 | 1 B | D187 | 歴　史 | 1 B |
| D134 | 歴　史 | 2 A | D163 | 歴　史 | 1 B | D188 | 歴　史 | 1 B |
| D135 | 弥　生 | 2 | D164 | 歴　史 | 1 B | D189 | 歴　史 | 1 B |
| D136 | 歴　史 | 2 A | D165 | 歴　史 | 1 B | D190 | 歴　史 | 2 A |
| D137 | 歴　史 | 2 A | D166 | 歴　史 | 1 B | D191 | 歴　史 | 2 B |
| D138 | 歴　史 | 2 A | D167 | 歴　史 | 1 B | D192A | 歴　史 | 1 B |
| D139 | 歴　史 | 2 A | D168 | 歴　史 | 1 B | D193 | 歴　史 | 1 B |
| D140A | 歴　史 | 2 A | D169 | 弥　生 | 1 | D194 | 歴　史 | 1 B |
| D140B | 歴　史 | 2 A | D170 | 歴　史 | 1 B | D195 | 歴　史 | 1 B |
| D141 | 歴　史 | 2 A | D171 | 歴　史 | 1 A | D196 | 歴　史 | 1 B |
| D142A | 歴　史 | 2 A | D172A | 歴　史 | 1 A | D197 | 弥　生 | 2 |
| D142B | 歴　史 | 2 A | D172B | 歴　史 | 1 A | D198 | 歴　史 | 2 B |
| D142C | 歴　史 | 2 A | D172C | 歴　史 | 1 A | D199A | 歴　史 | 1 B |
| D143A | 歴　史 | 2 A | D172D | 古　墳 | 1 | D199B | 歴　史 | 1 B |
| D143B | 歴　史 | 2 A | D172E | 古　墳 | 1 | D200 | 歴　史 | 1 B |
| D144 | 歴　史 | 1 B | D173 | 歴　史 | 1 B | D201 | 歴　史 | 2 C |
| D145 | 歴　史 | 1 B | D174 | 歴　史 | 1 B | D202 | 歴　史 | 2 C |
| D146 | 歴　史 | 1 B | D175A | 歴　史 | 1 B | D203 | 歴　史 | 2 C |
| D147 | 歴　史 | 1 B | D175B | 歴　史 | 1 B | D204A | 歴　史 | 2 C |
| D148 | 歴　史 | 1 B | D176 | 歴　史 | 1 A | D204B | 歴　史 | 2 C |
| D149 | 歴　史 | 1 B | D177 | 歴　史 | 1 A | D204C | 歴　史 | 2 C |
| D150 | 歴　史 | 1 B | D178 | 歴　史 | 1 A | D205 | 歴　史 | 2 C |
| D151 | 歴　史 | 1 B | D179A | 歴　史 | 1 A | D206 | 歴　史 | 2 C |
| D152 | 歴　史 | 1 B | D179B | 歴　史 | 1 A | D207A | 歴　史 | 2 C |
| D153 | 歴　史 | 1 B | D180 | 歴　史 | 1 A | D207B | 歴　史 | 2 C |
| D154 | 歴　史 | 1 B | D181A | 歴　史 | 1 A | D208 | 歴　史 | 2 C |
| D155 | 歴　史 | 1 B | D181B | 歴　史 | 1 A | D209 | 歴　史 | 1 B |
| D156 | 歴　史 | 1 B | D181C | 歴　史 | 1 A | D210 | 歴　史 | 2 A |
| D157 | 歴　史 | 1 B | D182 | 歴　史 | 1 B | D211 | 歴　史 | 1 B |
| D158 | 歴　史 | 1 B | D183 | 歴　史 | 1 B | D212 | 歴　史 | 2 A |
| D159 | 歴　史 | 1 B | D184 | 古　墳 | 1 | D213 | 欠　番 | |

| 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D214 | 歴　史 | 1 B | D239 | 歴　史 | 1 A | D264 | 歴　史 | 1 B |
| D215 | 歴　史 | 1 B | D240 | 歴　史 | 1 A | D265 | 欠　番 | |
| D216 | 歴　史 | 1 B | D241 | 歴　史 | 1 A | D266 | 古　墳 | 2 |
| D217 | 歴　史 | 2 A | D242 | 歴　史 | 1 A | D267 | 歴　史 | 1 B |
| D218 | 歴　史 | 2 C | D243 | 歴　史 | 2 D | D268 | 歴　史 | 1 B |
| D219 | 歴　史 | 1 B | D244 | 歴　史 | 2 D | D269 | 古　墳 | 2 |
| D220 | 欠　番 | | D245 | 歴　史 | 2 D | D270 | 歴　史 | 3 |
| D221 | 歴　史 | 3 | D246 | 歴　史 | 2 D | D271 | 歴　史 | 3 |
| D222 | 歴　史 | 1 B | D247 | 歴　史 | 2 D | D272 | 歴　史 | 2 C |
| D223 | 欠　番 | | D248 | 歴　史 | 2 D | D273 | 歴　史 | 2 C |
| D224 | 歴　史 | 2 B | D249 | 歴　史 | 2 D | D274 | 古　墳 | 3 |
| D225 | 弥　生 | 3 | D250 | 歴　史 | 2 D | D275 | 歴　史 | 2 C |
| D226 | 歴　史 | 3 | D251 | 歴　史 | 2 D | D276 | 歴　史 | 2 C |
| D227 | 歴　史 | 3 | D252 | 歴　史 | 2 D | D277 | 歴　史 | 2 C |
| D228 | 歴　史 | 3 | D253 | 歴　史 | 2 D | D278 | 歴　史 | 2 C |
| D229 | 弥　生 | 3 | D254 | 歴　史 | 2 D | D279 | 歴　史 | 2 C |
| D230 | 弥　生 | 3 | D255 | 歴　史 | 2 D | D280 | 歴　史 | 2 C |
| D231 | 弥　生 | 3 | D256 | 歴　史 | 1 B | D281 | 歴　史 | 2 C |
| D232 | 弥　生 | 3 | D257 | 歴　史 | 1 B | D282 | 歴　史 | 2 C |
| D233 | 歴　史 | 3 | D258 | 歴　史 | 2 A | D283 | 歴　史 | 2 C |
| D234 | 歴　史 | 3 | D259 | 歴　史 | 2 A | D284 | 歴　史 | 2 C |
| D235 | 歴　史 | 3 | D260 | 歴　史 | 2 A | D285 | 歴　史 | 2 C |
| D236 | 歴　史 | 3 | D261 | 歴　史 | 2 A | D286 | 欠　番 | |
| D237 | 歴　史 | 3 | D262 | 歴　史 | 2 A | D287 | 歴　史 | 1 B |
| D238 | 歴　史 | 1 A | D263 | 歴　史 | 2 A | | | |

## 第3表　掘立柱建物跡一覧

| 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H001 | 歴　史 | 2 F | H032 | 歴　史 | 3 | H063 | 歴　史 | 2 A |
| H002 | 歴　史 | 2 F | H033A | 歴　史 | 2 E | H064 | 歴　史 | 2 A |
| H003 | 歴　史 | 2 F | H033B | 歴　史 | 2 E | H065 | 歴　史 | 2 A |
| H004 | 歴　史 | 2 F | H034 | 歴　史 | 2 E | H066 | 歴　史 | 2 A |
| H005 | 歴　史 | 2 F | H035 | 歴　史 | 2 E | H067 | 歴　史 | 2 A |
| H006 | 歴　史 | 2 F | H036 | 歴　史 | 3 | H068 | 歴　史 | 2 A |
| H007 | 歴　史 | 2 F | H037 | 歴　史 | 3 | H069 | 歴　史 | 2 A |
| H008 | 歴　史 | 2 C | H038 | 歴　史 | 3 | H070 | 欠　番 | |
| H009 | 歴　史 | 2 C | H039 | 歴　史 | 3 | H071 | 歴　史 | 2 C |
| H010 | 歴　史 | 2 C | H040 | 歴　史 | 3 | H072 | 歴　史 | 2 C |
| H011 | 歴　史 | 2 C | H041 | 歴　史 | 3 | H073 | 歴　史 | 2 C |
| H012 | 歴　史 | 2 F | H042 | 歴　史 | 3 | H074 | 歴　史 | 2 B |
| H013 | 歴　史 | 2 F | H043 | 歴　史 | 3 | H075 | 歴　史 | 1 A |
| H014 | 歴　史 | 2 F | H044 | 歴　史 | 3 | H076 | 歴　史 | 1 A |
| H015 | 歴　史 | 2 C | H045 | 歴　史 | 3 | H077 | 欠　番 | |
| H016 | 歴　史 | 2 C | H046 | 歴　史 | 3 | H078 | 歴　史 | 1 A |
| H017 | 歴　史 | 2 B | H047 | 歴　史 | 3 | H079 | 歴　史 | 1 A |
| H018 | 歴　史 | 2 B | H048 | 歴　史 | 3 | H080 | 歴　史 | 1 B |
| H019 | 歴　史 | 2 B | H049 | 歴　史 | 3 | H081 | 歴　史 | 1 B |
| H020 | 歴　史 | 2 C | H050 | 歴　史 | 3 | H082 | 歴　史 | 1 B |
| H021 | 歴　史 | 2 C | H051 | 歴　史 | 2 E | H083 | 歴　史 | 1 B |
| H022 | 歴　史 | 2 B | H052 | 歴　史 | 2 E | H084 | 歴　史 | 1 B |
| H023A | 歴　史 | 2 E | H053 | 歴　史 | 2 E | H085 | 歴　史 | 2 A |
| H023B | 歴　史 | 2 E | H054 | 歴　史 | 2 E | H086 | 歴　史 | 2 A |
| H024 | 歴　史 | 3 | H055 | 歴　史 | 2 E | H087 | 歴　史 | 2 A |
| H025 | 歴　史 | 3 | H056 | 歴　史 | 3 | H088 | 歴　史 | 2 A |
| H026 | 歴　史 | 3 | H057 | 歴　史 | 3 | H089 | 歴　史 | 2 A |
| H027 | 歴　史 | 3 | H058 | 歴　史 | 3 | H090 | 欠　番 | |
| H028 | 歴　史 | 3 | H059 | 歴　史 | 3 | H091 | 欠　番 | |
| H029 | 歴　史 | 3 | H060 | 歴　史 | 2 A | H092 | 歴　史 | 1 B |
| H030 | 歴　史 | 3 | H061 | 歴　史 | 2 A | H093 | 歴　史 | 1 B |
| H031 | 歴　史 | 3 | H062 | 歴　史 | 2 A | H094 | 歴　史 | 1 B |

| 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 | 遺　構 | 時　代 | 群 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H095 | 歴　史 | 1 B | H114 | 歴　史 | 1 B | H134 | 歴　史 | 2 D |
| H096 | 歴　史 | 1 B | H115 | 歴　史 | 1 B | H135 | 歴　史 | 2 D |
| H097 | 歴　史 | 1 B | H116 | 歴　史 | 1 B | H136 | 歴　史 | 2 D |
| H098 | 歴　史 | 1 B | H117 | 歴　史 | 1 B | H137 | 歴　史 | 2 D |
| H099 | 歴　史 | 1 B | H118 | 歴　史 | 1 B | H138A | 歴　史 | 2 A |
| H100 | 歴　史 | 2 A | H119 | 歴　史 | 1 B | H138B | 歴　史 | 2 A |
| H101 | 歴　史 | 2 A | H120 | 歴　史 | 1 B | H139 | 歴　史 | 3 |
| H102A | 歴　史 | 2 B | H121 | 歴　史 | 3 | H140 | 歴　史 | 2 F |
| H102B | 歴　史 | 2 B | H122 | 歴　史 | 3 | H141 | 歴　史 | 3 |
| H103 | 歴　史 | 1 A | H123 | 歴　史 | 3 | H142 | 歴　史 | 3 |
| H104 | 歴　史 | 1 A | H124 | 歴　史 | 3 | H143 | 歴　史 | 3 |
| H105 | 歴　史 | 1 A | H125 | 歴　史 | 3 | H144 | 歴　史 | 3 |
| H106 | 歴　史 | 1 A | H126 | 歴　史 | 3 | H145 | 歴　史 | 1 B |
| H107 | 歴　史 | 1 A | H127 | 歴　史 | 2 E | H146 | 歴　史 | 1 B |
| H108 | 歴　史 | 1 B | H128 | 歴　史 | 2 E | H147A | 歴　史 | 1 B |
| H109 | 歴　史 | 1 B | H129 | 欠　番 | | H147B | 歴　史 | 1 B |
| H110 | 歴　史 | 1 B | H130 | 歴　史 | 2 D | H148 | 歴　史 | 1 B |
| H111 | 歴　史 | 1 B | H131 | 歴　史 | 2 D | H149 | 歴　史 | 1 B |
| H112 | 歴　史 | 1 B | H132 | 歴　史 | 2 D | H150 | 歴　史 | 1 B |
| H113 | 歴　史 | 1 B | H133 | 歴　史 | 2 D | H151 | 欠　番 | |

第4表　土壙一覧

| 番　号 | 位　置 | 平面形 | 種　類 | 規　模 | 深さ | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| P001 | V17－60 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.0 | 0.4 | 歴史時代1群Aに掲載 |
| P002 | W18－04 | 方　形 | 土　壙 | 2.1×1.5 | 1.2 | 歴史時代1群Aに掲載 |
| P003 | R25－83 | 方　形 | 陥　穴 | 2.8×1.8 | 2.8 | 遺物なし |
| P004 | R27－96 | 円　形 | ピット | 直径1.0 | 0.3 | 歴史時代1群Aに掲載 |
| P005 | R27－31 | 円　形 | ピット | 直径1.1 | 0.2 | 遺物なし |
| P006 | R27－05 | 方　形 | 土　壙 | 2.1×1.7 | 1.3 | 遺物なし |
| P007A | R26－94 | 方　形 | 陥　穴 | 2.5×1.1 | 1.1 | 遺物なし |
| P007B | R26－94 | 方　形 | 陥　穴 | 2.3×0.7 | 1.2 | 遺物なし |
| P008 | R26－28 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.2 | 遺物なし |
| P009 | R24－65 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.5 | 縄文土器片あり |
| P010 | R24－64 | 円　形 | ピット | 直径0.5 | 0.6 | 遺物なし |
| P011 | Q26－00 | 略円形 | 炉 | 直径0.9 | 0.5 | 先土器時代に掲載 |
| P012 | R24－86 | 略方形 | 土　壙 | 1.9×1.1 | 0.5 | 歴史時代2群Cに掲載 |
| P013 | R24－87 | 方　形 | ピット | 1.6×0.9 | 0.1 | 遺物なし |
| P014 | R24－86 | 方　形 | ピット | 1.2×0.9 | 0.1 | 歴史時代土師器の破片出土 |
| P015 | S24－70 | 方　形 | 土　壙 | 1.8×1.1 | 0.8 | 歴史時代2群Cに掲載 |
| P016 | R24－89 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.5 | 0.4 | 歴史時代2群Eに掲載 |
| P017 | S23－85 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.2 | 0.7 | 遺物なし |
| P018 | S26－21 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.5 | 歴史時代土師器あり |
| P019 | T25－48 | 円　形 | 井戸？ | 直径2.8 | 2.4 | 歴史時代2群Dに掲載 |
| P020 | 欠　番 | | | | | |
| P021 | 欠　番 | | | | | |
| P022 | 欠　番 | | | | | |
| P023 | 欠　番 | | | | | |
| P024 | 欠　番 | | | | | |
| P025 | U28－34 | | | | | H024として調査 |
| P026 | U28－43 | | | | | H024として調査 |
| P027 | U28－33 | | | | | H024として調査 |
| P028 | U28－44 | | | | | H024として調査 |
| P029 | U28－34 | | | | | H024として調査 |
| P030 | U28－34 | | | | | H024として調査 |
| P031 | U27－45 | 円　形 | 土　壙 | 直径2.1 | 1.1 | 歴史時代3群に掲載 |
| P032A | S25－91 | 方　形 | 土　壙 | 2.7×1.5 | 0.4 | 歴史時代土師器あり |
| P032B | S25－91 | 略円形 | 土　壙 | 直径1.5 | 0.3 | |
| P033 | R25－97 | 方　形 | 陥　穴 | 2.3×1.7 | 2.5 | 遺物なし |
| P034 | V24－01 | 方　形 | 陥　穴 | 2.6×1.9 | 2.4 | 石鏃2点出土 |
| P035 | S25－80 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.1 | 0.7 | ロクロ土師器皿が出土 |
| P036 | R24－89 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.2 | 0.5 | 歴史時代土師器あり |

| 番　号 | 位　置 | 平面形 | 種　類 | 規　模 | 深さ | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| P037 | S26－34 | 方　形 | 土　壙 | 1.4×0.7 | 0.4 | |
| P038 | U18－94 | 円　形 | 井戸？ | 直径2.6 | 2.1 | 歴史時代１群Ｂに掲載 |
| P039 | 欠　番 | | | | | |
| P040 | V19－24 | 方　形 | 土　壙 | 2.1×1.2 | 0.6 | 歴史時代土師器あり |
| P041 | V19－52 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.6 | 0.4 | 歴史時代土師器あり |
| P042 | V18－81 | 方　形 | 土　壙 | 2.6×1.4 | 0.9 | 歴史時代１群Ｂに掲載 |
| P043 | V19－10 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.3 | 0.2 | 歴史時代１群Ｂに掲載 |
| P044 | V19－20 | 方　形 | 土　壙 | 1.8×1.4 | 0.4 | |
| P045 | V19－21 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.5 | 0.1 | |
| P046 | V19－21 | 略円形 | 土　壙 | 1.9×1.7 | 0.3 | 歴史時代土師器あり |
| P047 | V19－40 | 方　形 | 土　壙 | 1.7×0.9 | 0.2 | 歴史時代土師器あり |
| P048 | V19－50 | 略円形 | 土　壙 | 1.6×1.3 | 0.1 | |
| P049 | U19－66 | 方　形 | 土　壙 | 1.6×1.0 | 0.3 | |
| P050 | U19－79 | 略円形 | 土　壙 | 直径1.6 | 0.3 | 歴史時代須恵器あり |
| P051 | 欠　番 | | | | | |
| P052A | U26－72 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.0 | 0.8 | 歴史時代土師器、須恵器あり |
| P052B | S24－76 | 略方形 | 陥　穴 | 2.7×0.5 | 1.1 | |
| P053 | T24－11 | 略円形 | 土　壙 | 直径1.8 | 0.4 | |
| P054 | R24－05 | 略方形 | 陥　穴 | 2.0×1.9 | 1.4 | 縄文中期阿玉台式土器あり |
| P055 | 欠　番 | | | | | |
| P056 | S24－06 | 方　形 | 土　壙 | 1.6×1.3 | 0.6 | |
| P057 | V18－90 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.2 | |
| P058 | V18－90 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.5 | |
| P059 | V18－09 | 略円形 | ピット | 0.8×0.7 | 0.4 | |
| P060 | V19－11 | | | | | H080として調査 |
| P061 | V19－01 | | | | | H080として調査 |
| P062 | V18－92 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.4 | |
| P063 | V18－91 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.5 | 歴史時代土師器あり |
| P064 | V18－81 | 略方形 | ピット | 1.1×0.7 | 0.5 | 歴史時代土師器あり |
| P065 | V18－82 | | | | | H145として調査 |
| P066 | V18－81 | | | | | H083として調査 |
| P067 | V18－81 | | | | | H145として調査 |
| P068 | V18－71 | | | | | H146として調査 |
| P069 | V18－70 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.3 | |
| P070 | V18－80 | 円　形 | ピット | 直径0.6 | 0.4 | |
| P071 | V18－80 | | | | | H083として調査 |
| P072 | V18－80 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.4 | 歴史時代土師器あり |
| P073 | V18－80 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.5 | 歴史時代土師器あり |
| P074 | V18－81 | | | | | H083として調査 |

| 番　号 | 位　置 | 平面形 | 種　類 | 規　模 | 深さ | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| P075 | V18－81 | | | | | H146として調査 |
| P076 | V19－11 | | | | | H080として調査 |
| P077 | V19－11 | | | | | H080として調査 |
| P078 | V19－10 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.3 | |
| P079 | V19－03 | | | | | H093として調査 |
| P080 | V19－03 | | | | | H094として調査 |
| P081 | V18－93 | | | | | H095として調査 |
| P082 | V18－94 | | | | | H094・095として調査 |
| P083 | V18－94 | | | | | H097として調査 |
| P084 | V18－94 | | | | | H097として調査 |
| P085 | V18－94 | | | | | H096・097として調査 |
| P086 | V19－04 | 略円形 | ピット | 直径0.9 | 0.3 | |
| P087 | V19－05 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.6 | 歴史時代土師器あり |
| P088 | V18－95 | | | | | H096として調査 |
| P089 | V18－95 | | | | | H097として調査 |
| P090 | V18－94 | | | | | H096・098として調査 |
| P091 | W18－22 | | | | | H103として調査 |
| P092 | W18－32 | | | | | H103・104として調査 |
| P093 | W18－22 | | | | | H103として調査 |
| P094 | W18－25 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.4 | 歴史時代土師器あり |
| P095 | W18－35 | 略円形 | ピット | 直径1.0 | 0.4 | 歴史時代土師器あり |
| P096 | W18－35 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.2 | 歴史時代土師器あり |
| P097 | V18－80 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.3 | |
| P098 | V18－95 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.6 | |
| P099 | V18－95 | | | | | H098として調査 |
| P100 | V18－95 | | | | | H098として調査 |
| P101 | V18－96 | | | | | H120として調査 |
| P102 | V18－86 | | | | | H120として調査 |
| P103 | V18－86 | | | | | H120として調査 |
| P104 | V18－85 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.5 | 歴史時代土師器あり |
| P105 | V18－94 | | | | | H098として調査 |
| P106 | V19－12 | | | | | H099として調査 |
| P107 | W18－47 | | | | | H105として調査 |
| P108 | W18－47 | | | | | H106として調査 |
| P109 | W18－47 | | | | | H105として調査 |
| P110 | W18－47 | | | | | H106として調査 |
| P111 | W18－57 | | | | | H105として調査 |
| P112 | W18－47 | | | | | H105として調査 |
| P113 | W18－47 | | | | | H106として調査 |

| 番　号 | 位　置 | 平面形 | 種　類 | 規　模 | 深さ | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| P114 | W18－47 | | | | | H106として調査 |
| P115 | V18－81 | | | | | H145として調査 |
| P116 | V18－71 | | | | | H083として調査 |
| P117 | 欠　番 | | | | | |
| P118 | V18－70 | 略円形 | ピット | 0.9×0.7 | 0.2 | |
| P119 | V18－80 | 円　形 | ピット | 直径0.6 | 0.2 | |
| P120 | W18－47 | | | | | H106として調査 |
| P121 | W18－37 | | | | | H105として調査 |
| P122 | W18－37 | | | | | H107として調査 |
| P123 | W18－47 | | | | | H107として調査 |
| P124 | W18－46 | | | | | H105として調査 |
| P125 | W18－36 | | | | | H107として調査 |
| P126 | W18－36 | | | | | H104として調査 |
| P127 | W18－33 | | | | | H104として調査 |
| P128 | W18－55 | 円　形 | ピット | 1.4×1.0 | 0.2 | 2基重複 |
| P129 | V18－86 | 円　形 | | 直径1.4 | 0.9 | 歴史時代1群Bに掲載 |
| P130 | V18－85 | | | | | H098として調査 |
| P131 | V18－95 | | | | | H098として調査 |
| P132 | Q24－77 | 円　形 | 陥　穴 | 直径0.8 | 1.1 | |
| P133 | U22－90 | 円　形 | | 直径1.0 | 0.5 | 歴史時代2群Aに掲載 |
| P134 | U22－32 | 方　形 | 土　壙 | 1.5×1.1 | 0.3 | 歴史時代土師器あり |
| P135 | U22－33 | 方　形 | | 1.5×1.1 | 0.3 | 歴史時代2群Aに掲載 |
| P136 | 欠　番 | | | | | |
| P137 | U23－51 | 円　形 | | 直径4.0 | 1.8 | 歴史時代2群Aに掲載 |
| P138 | U21－93 | 円　形 | | 直径3.4 | 2.3 | 歴史時代1群Bに掲載 |
| P139 | U21－85 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.2 | 0.2 | 貝が堆積 |
| P140 | V19－37 | 円　形 | 陥　穴 | 直径2.0 | 2.2 | |
| P141 | V19－03 | 方　形 | 土　壙 | 1.4×1.1 | 0.8 | 歴史時代土師器あり |
| P142 | V18－85 | | | | | H098として調査 |
| P143 | V20－50 | 円　形 | ピット | 直径0.2 | 0.7 | |
| P144 | W18－32 | 方　形 | 炉　穴 | 2.1×1.1 | 0.8 | |
| P145 | W18－13 | 円　形 | 柱　穴 | 直径0.8 | 0.6 | |
| P146 | S24－40 | 方　形 | 陥　穴 | 2.3×1.8 | 2.8 | |
| P147 | U21－94 | 方　形 | 土　壙 | 1.2×1.1 | 0.6 | 歴史時代土師器あり |
| P148 | 欠　番 | | | | | |
| P149 | 欠　番 | | | | | |
| P150 | 欠　番 | | | | | |
| P151 | W18－35 | 方　形 | | 不明×1.7 | 0.4 | 歴史時代1群Aに掲載 |
| P152 | W18－15 | 円　形 | | 直径1.0 | 0.3 | 歴史時代1群Aに掲載 |

| 番　号 | 位　置 | 平面形 | 種　類 | 規　模 | 深さ | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| P153 | W18－25 | 円　形 | ピット | 直径1.0 | 0.4 | |
| P154 | W18－25 | 円　形 | ピット | 直径1.0 | 1.5 | |
| P155 | W18－25 | 円　形 | ピット | 直径0.5 | 0.3 | |
| P156 | W18－25 | 方　形 | 土　壙 | 1.6×1.1 | 0.2 | 歴史時代土師器あり |
| P157 | W18－35 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.4 | |
| P158 | W18－35 | 略円形 | ピット | 1.2×0.9 | 0.4 | 歴史時代土師器あり |
| P159 | W18－35 | 円　形 | ピット | 直径0.5 | 0.4 | |
| P160 | W18－36 | 方　形 | 土　壙 | 1.3×1.2 | 0.3 | 歴史時代１群Ａに掲載 |
| P161 | U19－86 | 略円形 | 陥　穴 | 1.6×0.9 | 2.3 | |
| P162 | V18－55 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.3 | 歴史時代土師器、須恵器あり |
| P163 | T28－49 | 略円形 | 陥　穴 | 2.6×2.0 | 2.4 | |
| P164 | V23－96 | 略円形 | 陥　穴 | 2.1×1.6 | 2.3 | |
| P165 | V18－56 | 方　形 | 土　壙 | 2.4×1.2 | 0.2 | 歴史時代土師器あり |
| P166 | V18－66 | 方　形 | 土　壙 | 2.8×1.7 | 0.2 | 歴史時代土師器あり |
| P167 | V18－66 | 方　形 | 土　壙 | 不明×2.4 | 0.2 | |
| P168 | V18－27 | 円　形 | 土　壙 | 1.3×1.2 | 2.3 | 歴史時代１群Ａに掲載 |
| P169 | V18－47 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.5 | |
| P170 | V18－47 | 略円形 | ピット | 1.2×0.7 | 0.4 | |
| P171 | V18－67 | 円　形 | ピット | 直径0.5 | 0.2 | |
| P172 | V18－77 | 円　形 | ピット | 直径1.0 | 0.4 | |
| P173 | V18－76 | 円　形 | ピット | 直径0.3 | 0.3 | |
| P174 | V18－76 | | | | | H118として調査 |
| P175 | V18－86 | | | | | H118として調査 |
| P176 | V18－86 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.4 | |
| P177 | 欠　番 | | | | | |
| P178 | 欠　番 | | | | | |
| P179 | V18－75 | | | | | H116・119として調査 |
| P180 | S23－79 | 略円形 | 陥　穴 | 1.5×1.3 | 2.6 | |
| P181 | S23－57 | 略円形 | 陥　穴 | 1.4×1.0 | 2.2 | |
| P182 | S25－46 | 方　形 | 陥　穴 | 2.4×1.3 | 2.1 | |
| P183 | X18－31 | 方　形 | 土　壙 | 3.4×1.5 | 0.4 | |
| P184 | X18－61 | 円　形 | 炉　穴 | 直径1.6 | 0.3 | |
| P185 | X18－34 | 円　形 | 土　壙 | 直径2.0 | 1.1 | |
| P186 | 欠　番 | | | | | |
| P187 | R25－37 | 円　形 | 陥　穴 | 直径1.8 | 2.4 | |
| P188 | U21－79 | 略円形 | 土　壙 | 2.4×1.7 | 0.7 | |
| P189 | T28－21 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.2 | 0.4 | |
| P190 | T28－12 | | ピット群 | | | |
| P191 | T26－67 | 略円形 | 陥　穴 | 3.5×2.1 | 1.8 | |

| 番　号 | 位　置 | 平面形 | 種　類 | 規　模 | 深さ | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| P192 | 欠　番 | | | | | |
| P193 | 欠　番 | | | | | |
| P194 | 欠　番 | | | | | |
| P195 | U28－41 | 方　形 | 陥　穴 | 2.1×1.3 | 1.5 | |
| P196 | T27－53 | 円　形 | 土　壙 | 直径1.2 | 0.2 | |
| P197 | T27－74 | 方　形 | 土　壙 | 2.2×1.8 | 0.8 | |
| P198 | Q24－58 | 方　形 | 陥　穴 | 2.3×1.1 | 2.1 | |
| P199 | V18－72 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.4 | |
| P200 | V18－61 | 略円形 | ピット | 直径0.9 | 0.5 | |
| P201 | V18－62 | 方　形 | ピット | 1.0×0.7 | 0.4 | |
| P202 | V18－72 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.2 | |
| P203 | V18－72 | 略円形 | ピット | 直径0.7 | 0.5 | |
| P204 | V18－73 | 円　形 | ピット | 直径0.4 | 0.2 | |
| P205 | V18－73 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.5 | |
| P206 | V18－74 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.3 | |
| P207 | V18－64 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.6 | |
| P208 | V18－64 | 円　形 | ピット | 直径1.0 | 0.2 | |
| P209 | V18－64 | 略円形 | ピット | 直径1.6 | 0.5 | |
| P210 | V18－54 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.4 | |
| P211 | V18－54 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.6 | |
| P212 | V18－63 | 円　形 | ピット | 直径1.2 | 0.4 | |
| P213 | V18－63 | 略円形 | ピット | 直径1.1 | 0.3 | 2基あり |
| P214 | V18－53 | 円　形 | ピット | 直径1.3 | 0.2 | |
| P215 | V18－53 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.4 | |
| P216 | V18－62 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.4 | |
| P217 | V18－62 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.4 | |
| P218 | V18－62 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.2 | |
| P219 | V18－52 | 円　形 | ピット | 直径0.6 | 0.4 | |
| P220 | V18－52 | | | | | H150として調査 |
| P221 | V18－52 | | | | | H150として調査 |
| P222 | V18－53 | 円　形 | ピット | 直径0.6 | 0.2 | |
| P223 | V18－53 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.3 | |
| P224 | V18－53 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.2 | |
| P225 | 欠　番 | | | | | |
| P226 | V18－64 | 円　形 | ピット | 直径0.8 | 0.7 | |
| P227 | V18－73 | 円　形 | ピット | 直径0.7 | 0.4 | |
| P228 | V18－73 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.3 | |
| P229 | V18－54 | 円　形 | ピット | 直径0.9 | 0.2 | |
| P230 | V20－12 | 方　形 | 土　壙 | 2.0×0.9 | 1.0 | |

# 第２部　先土器時代

# 第1章　概　　要

白幡前遺跡は両側を谷に浸食された南北に細長い台地上にあり、先土器時代の遺物もこの谷沿いに多く分布している。また、これらの谷とは別に、遺跡のほぼ中央には東北方に開口する浅い谷状の窪みがあり、往時は小谷であったとみられるが、かつての谷頭付近にも遺物集中地点が多く検出された。ただし、この古い谷はその西側が宅地化による地形の改変が著しく、旧態を留めていない。

遺物は立川ローム層のほぼ全層準から出土している。遺物出土地点は萱田地区の調査の慣例に従って集中地点ごとに頭にSを付し、これに順次集中地点番号を付して登録された。この記録上では61箇所の遺物出土地点があるが、整理作業の進捗に伴って統廃合が実施された結果、最終的には53箇所の地点が抽出されるに到った(第1表を参照せよ)。今回はこれらの全地点について報告を行う。第8図に確認調査段階の遺物出土状況を、また、第7図に文化層毎の遺物集中地点の分布状況を示した。

白幡前遺跡の石器群に関しては、次章以下で詳細を述べたいが、初めにその概要を瞥見しておきたい。

(1)　石器群は、III層、IV・V層、VI層、IXa層上部、IXa層下部・IXb層上面、IXc・X層から出土している。

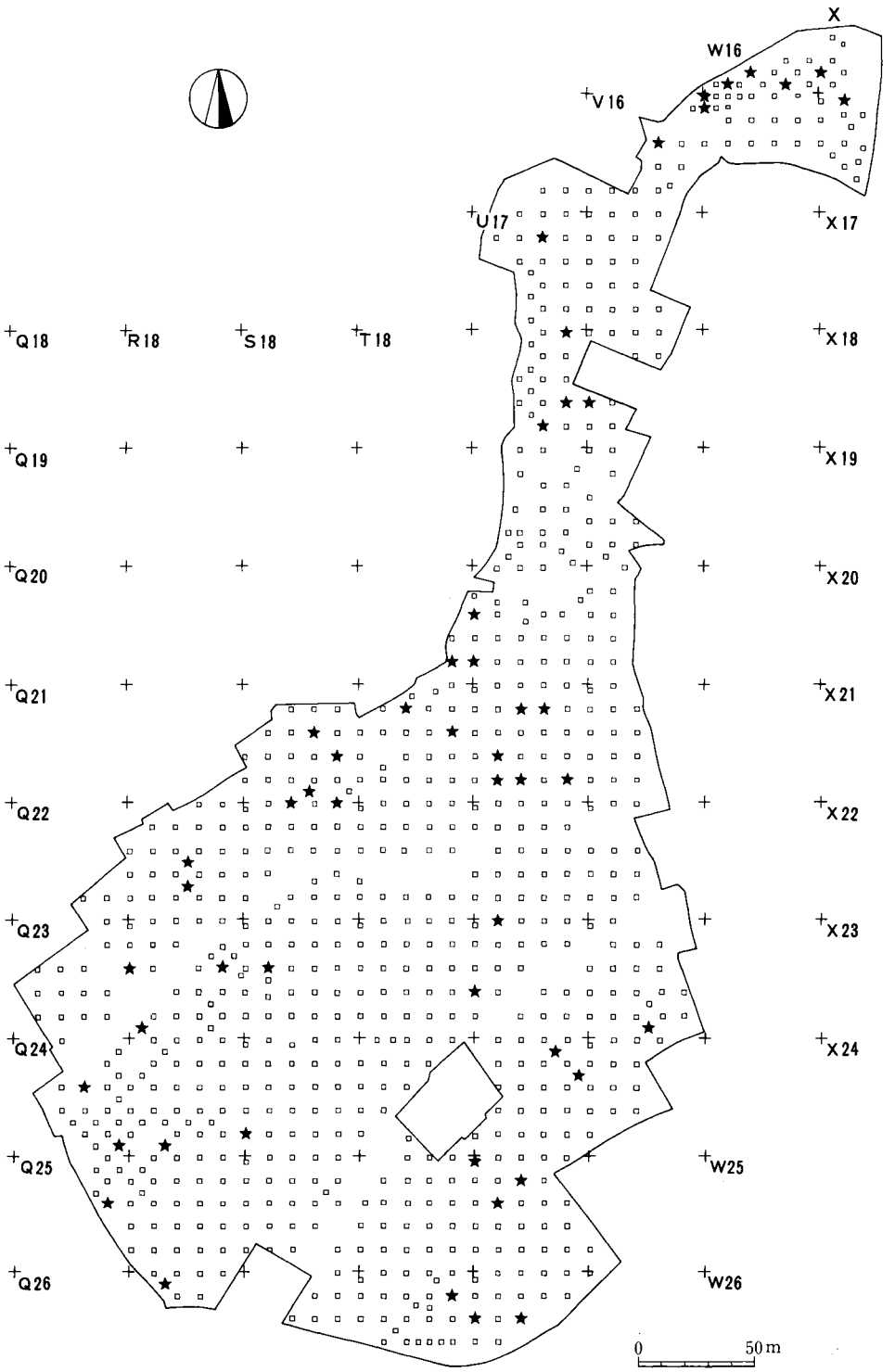
(2)　しかし、特に顕著な集中の看取されたのは、IV・V層とIXa層上部であり、それ以外の土層からの纏まった石器群の検出は認められなかった。

(3)　IV・V層からは多数の礫の群集が検出された。また、石器集中地点には大小の格差が大きく、様々な行動の軌跡が複合している状況が浮上した。

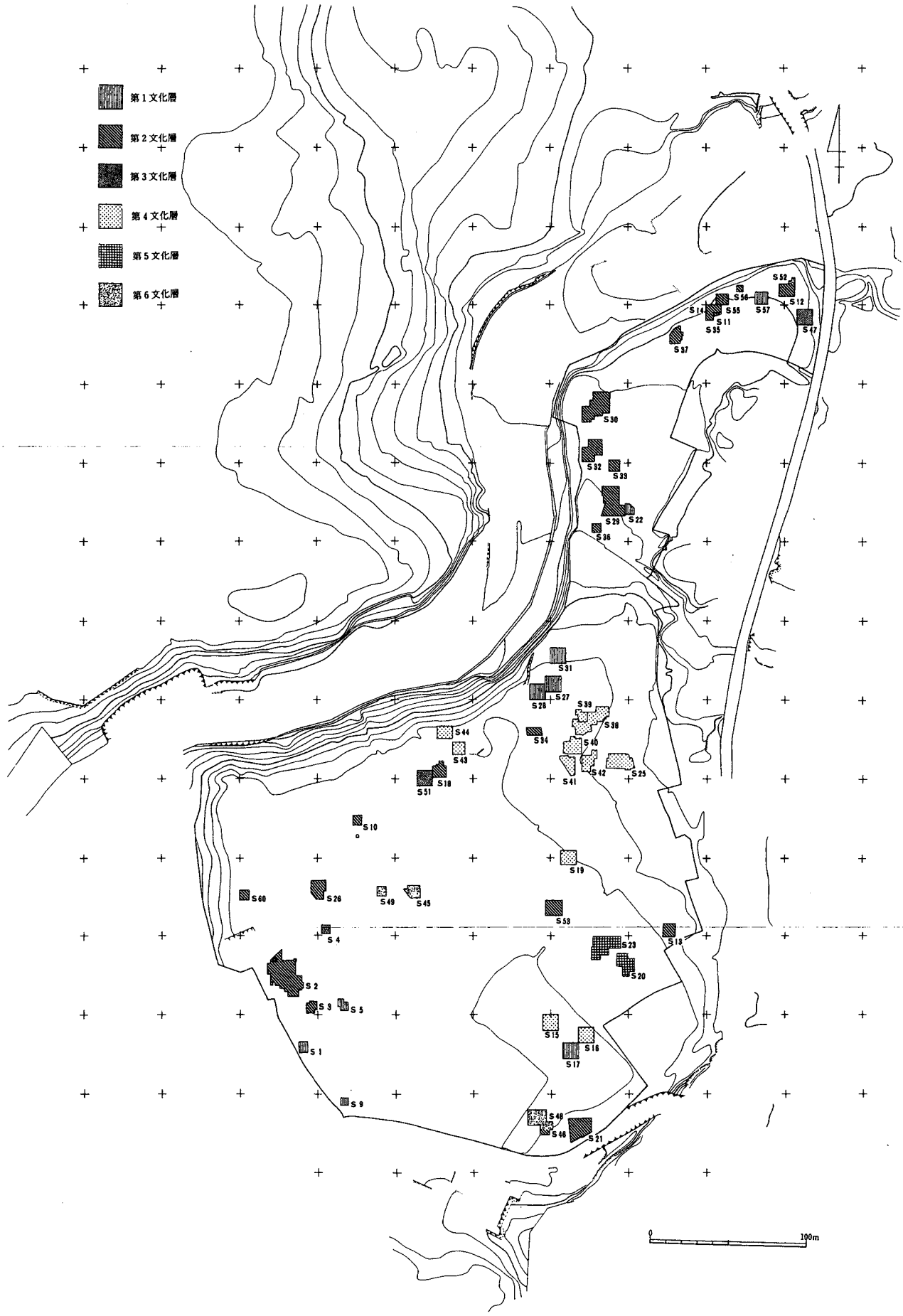
(4)　IXa層の石器群は萱田地区においては、すでに資料の検出が報じられていたが、最も纏まった資料である。本石器群の検出によって、従来の編年網の欠を補い、より詳細な石器群の変遷過程が明らかにされることになった。

(5)　各文化層に帰属する遺物集中地点は台地縁辺部に点在している。しかし、それは無秩序に散在するのではなく、いくつかの集中地点が群在するといった状況が観察され、ある時間的帯域の内部で、近接した空間内に、継起的に石器群が廃棄されたことが推察された。

(6)　明確な遺構としては礫群と炉跡が検出された。礫群は第2文化層に帰属するものが多く、多量の礫が集中する地点もある。炉跡も第2文化層検出で、貴重な一例とみられる。




第７図　先土器時代確認調査状況図




第8図　先土器時代ブロック配置図

# 第2章　土層と文化層

## 第1節　土　　層

萱田地区の立川ローム層の基本的分層方針に関しては、既に井戸向遺跡報文において触れたが、その後、若干の呼称法の変更を行っている。しかし、基本的には井戸向遺跡の分層結果に従って、以下の如く層準認識と、その呼称法を統一したい。

III層　黄褐色の軟質ローム層。下半は黄色味が強く、塊状のハードロームを含み、ハードローム層の膨軟化した部分と理解されている。上部は色調が幾分淡く、粘質である。前者をIIIa層、後者をIIIb層とする場合がある。

IV層　褐色の硬質ローム層。スコリア質で上部が波状帯となる。層厚は薄い。

V層　淡暗褐色硬質ローム層。スコリア質でIV層との色調の微妙な場合が多い。第1黒色帯に相当する。IV層との境界の不明瞭な場合には、IV・V層と一括表示したい。

VI層　明黄褐色硬質ローム層。姶良Tn火山灰を含む層準に相当する。

VII層　褐色の硬質ローム層。スコリア質で、黄褐色のロームブロックが上部から貫入している状態が観察される。第2黒色帯上部明色部。

IXa層　淡暗褐色ローム層。スコリア質で、若干粘質。第2黒色帯下部暗色帯上部層に相当する。

IXb層　明褐色ローム層。第2黒色帯下部暗色部の間層帯である。

IXc層　濃暗褐色ローム層。第2黒色帯下部暗色部である。色調は非常に暗く、多量の有色スコリアの混入が観察される。

Xa層　立川ローム層最下層の上半である。有色スコリアを含む黄褐色のローム層でしまりがあり、また粘性を帯びる。

Xb層　立川ローム層最下層下半である。褐色を呈し、スコリアの混入は白色の細かいものを除くと稀で、下部の武蔵野ローム層との境界は波状帯となる。

## 第2節　文　化　層

大別して6枚の文化層を設定した。ただし、第1・第2・第6の各文化層に関しては、その内部で更に細別される可能性が高いが、ここでは便宜的に一括記載する。

第1文化層　III層を産出層準としている。S5・S9・S22・S27・S28・S31・S57の7地点が本文化層に帰属する。単独出土、あるいは小規模な集中地点が多い。

**第5表　白幡前遺跡文化層一覧（総数3316点）**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 礫 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第1文化層 | | 2 | | | 1 | | | 13 | 7 | 1 | | | | 30 |
| 第2文化層 | 41 | | 20 | | 3 | | 24 | 569 | 612 | 56 | | 1 | 6 | 1,175 |
| 第3文化層 | 4 | | | | | | | 14 | 35 | | | | | |
| 第4文化層 | | | | | 12 | | 1 | 188 | 256 | 9 | 1 | | | |
| 第5文化層 | 4 | | 2 | | | | 6 | 113 | 101 | | 1 | | | |
| 第6文化層 | 1 | | | | | | | 6 | 1 | | | | | |
| 合計 | 50 | 2 | 22 | | 16 | | 31 | 903 | 1,012 | 66 | 2 | 1 | 6 | 1,205 |

注　ナイフ形石器には台形石器、角錐状石器を含める。

第2文化層　Ⅳ層からⅤ層を産出層準としている。18箇所の地点からなり、大規模な集中と、小規模なものとが併存している。本遺跡の核心的な文化層である。帰属地点は、S2・S3・S11・S12・S13・S18・S21・S26・S29・S30・S32・S33・S34・S35・S36・S37・S46・S61である。

第3文化層　Ⅵ層を産出層準とする。S47・S51の2地点がある。

第4文化層　Ⅸa層検出の石器群を包括している。S15・S16・S25・S38・S39・S40・S41・S42・S43・S44の11地点があり、該期の比較的充実した資料を提供している。

第5文化層　Ⅸa層下部・Ⅸb層上面を産出層準としている。S20・S23の両地点のみであるが重要な一括資料が得られた。

第6文化層　Ⅸc層以下の石器群を一括したが、何れも小規模・小範囲なものである。S45・S48・S49・S52の4地点がこれに含まれる。

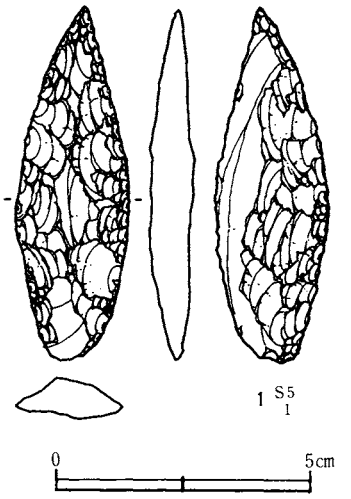
# 第３章　石器群の内容

## 第１節　第１文化層

**１・１Ｓ５地点**（第９図）　小型石槍がIII層から単独で検出された。石槍は良質の珪質頁岩製で、横長剥片を素材としている。二次調整は素材剥片の背面と腹面の一部に観察される。

**１・２Ｓ９地点**　III層上部から小型の安山岩製剥片が単独で出土した。

**１・３Ｓ22地点**（第10・11図、第６表）　III層下部を産出層準としており、本文化層としては下位に位置づけられる。14点の石器と30点の礫とから構成される。礫は径約1.2mの小範囲に集中しており、小規模ながら礫群と認められる。礫群の構成礫は総数30点、13個体分（チャート２、流紋岩５、砂岩５、石英斑岩１）ある。何れも焼成礫であるが、非常に小型のものばかりで、６cm×３cm程度のものを選択的に使用している。

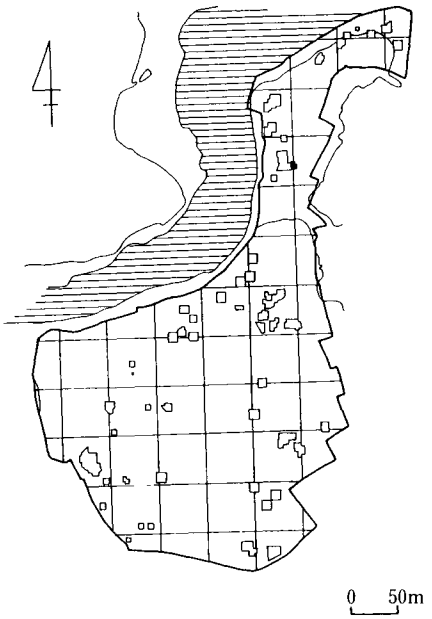


第９図　Ｓ５地点出土遺物実測図

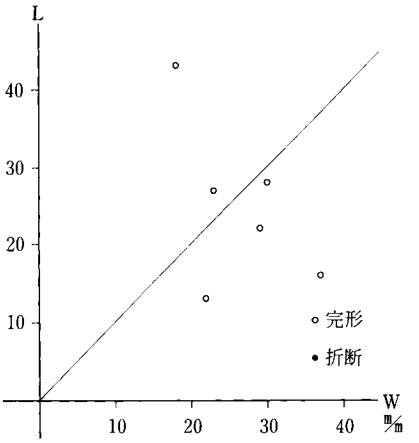
石器類としては剥片・削片が多いが、粗製の石槍（１）と石核（２）が１点ずつある。石槍は安山岩製で、剥片周縁に簡略な調整が施されている。調整は半両面加工で全周せず、一部に未加工の刃部が残されているなど、ナイフ形石器との親縁性が指摘されるが、剥離は所謂平坦剥離であることから小型石槍とする。石核は打点移動の頻繁な一般的なもの。

**第６表　Ｓ22地点石器組成表**

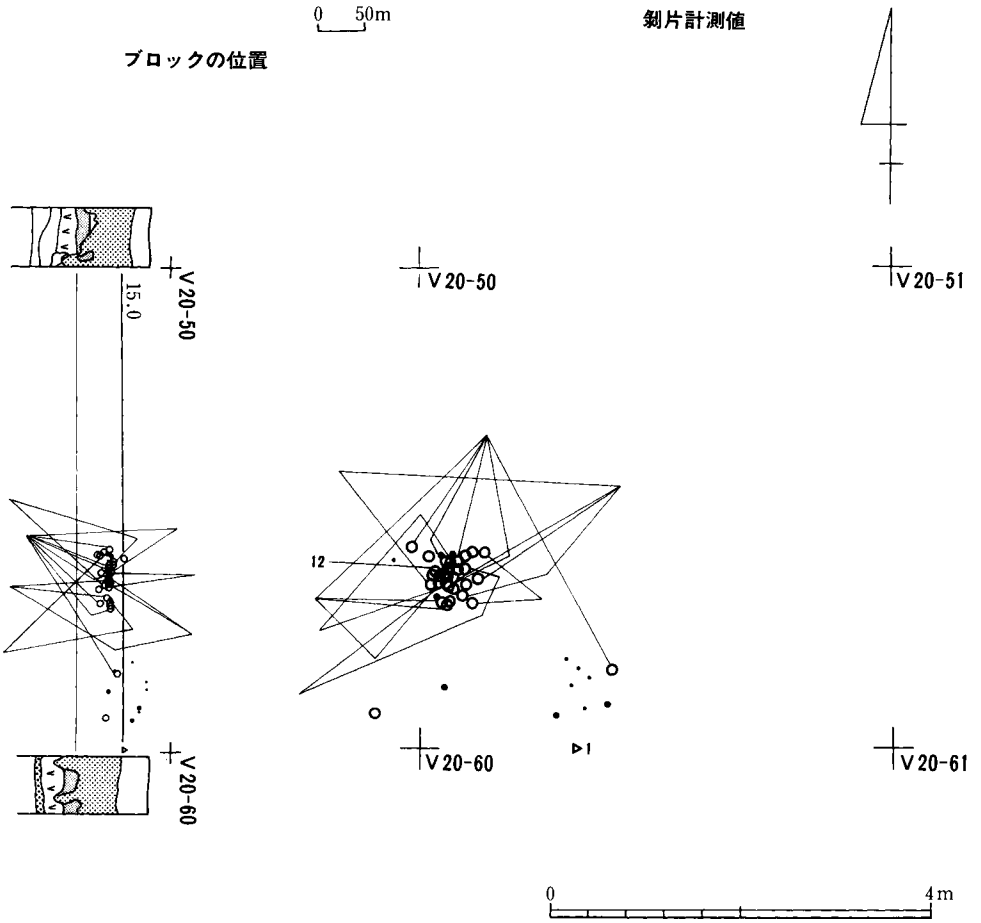
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩a | | | | | | | | 4 | 1 | 1 | | | | 6 |
| 安山岩b | | 1 | | | | | | | 2 | | | | | 3 |
| 頁岩a | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| チャートa | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートb | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートc | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 合計 | | 1 | | | | | | 6 | 6 | 1 | | | | 14 |



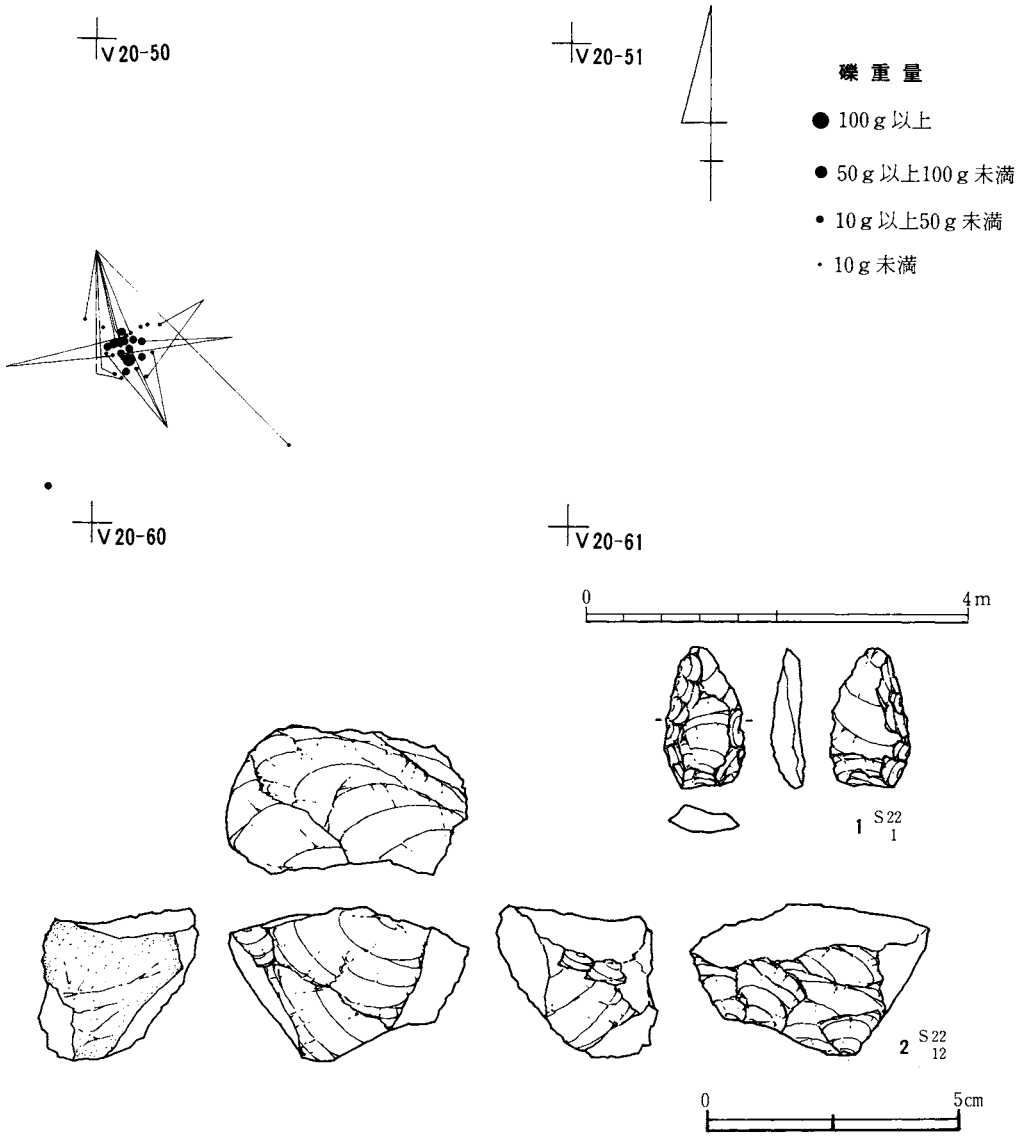

ブロックの位置



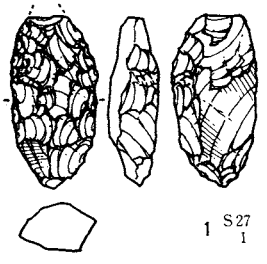

剝片計測値

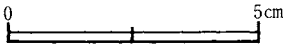



第10図　S22地点遺物分布状況




第11図　S22地点出土礫の重量別分布状況及び出土遺物実測図

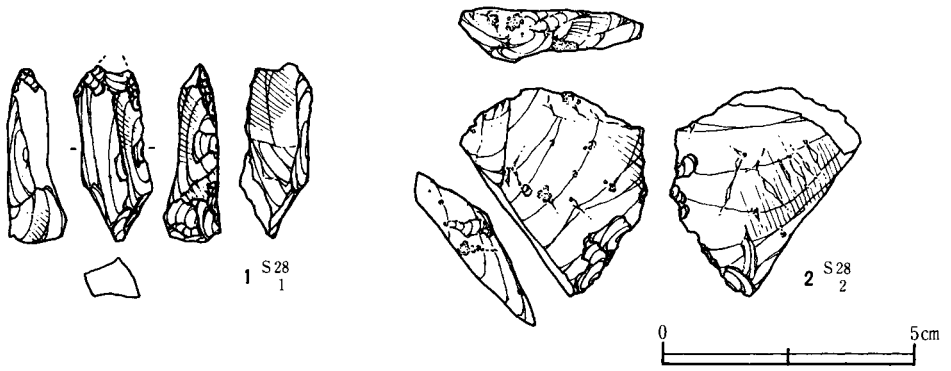



第12図　S27地点出土遺物実測図

**1・4 S27地点**（第12図）　II層下部からIII層にかけて黒曜石製の小型石槍と削片が1点ずつ出土した。両者の母岩は異なる。石槍は良質の黒曜石の剝片（石核の可能性も否定できない）を素材とし、半両面調整によって仕上げられているが、側縁に旧石核の一部を大きく残している。

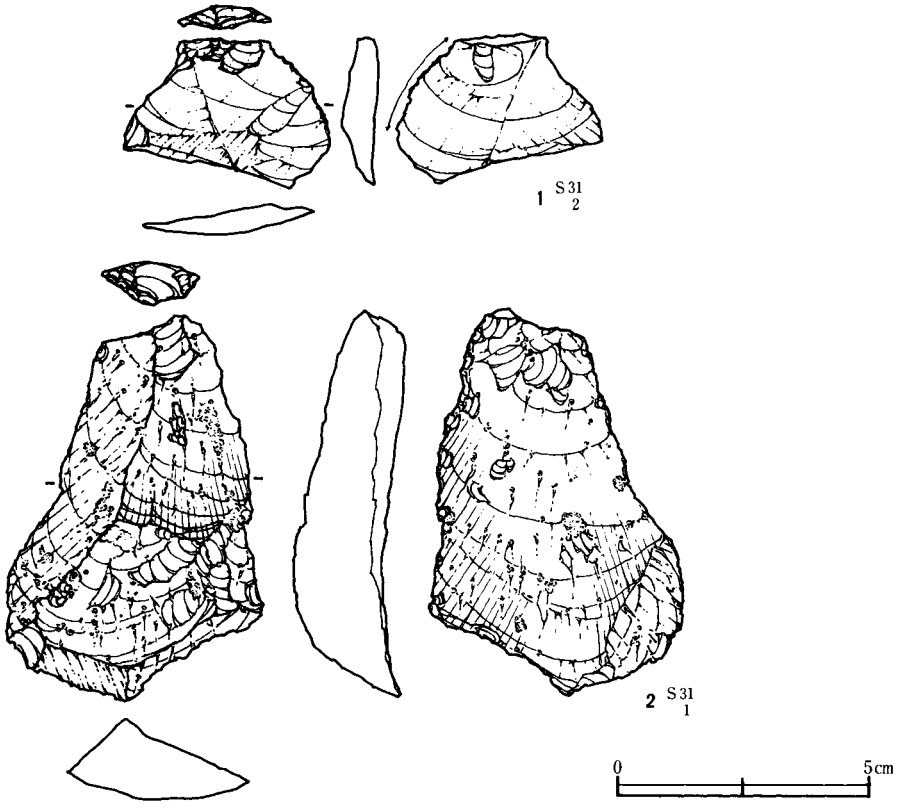
**1・5 S28地点**（第13図）　III層上部から2点の資料が出土した。1は黒曜石製の細部加工のある剝片。ナイフ形石器




第13図　S28地点出土遺物実測図

であるかもしれない。2は大型の剝片の破片化したもので使用痕が看取される。やはり黒曜石製であるが、1とは別な母岩。

**1・6 S31地点**（第14図）　III層上部から剝片2点が出土した。1はチャート製、2は粗悪な黒曜石製である。両例ともに使用痕が認められる。




第14図　S31地点出土遺物実測図

**第7表　S57地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 |
| 玉髄a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | 1 | | | 2 | | | | | | 3 |

**1・7 S57地点**（第7表）　III層上部から楔形石器1点、使用痕のある剝片1点、剝片1点が検出された。

## 第2節　第2文化層

**2・1 S2地点**（第15・16・17図、第8～13表）　南北20m、東西12mという広い範囲内に6箇所の集中地点が近接して検出された。また、そのうちの一地点からは確実に炉と認められる遺構が検出されている。産出層準はIV層下部と推定される。各集中地点を2a、2b、2c、2d、2e、2fとした。それぞれの集中地点は石器と礫の重複分布によって形成されている。両者の構成は、

| | 石　　器 | 礫 |
|---|---|---|
| 2a | 3( 1.40%) | 4( 6.45%) |
| 2b | 172(80.00%) | 19(30.65%) |
| 2c | 8( 3.74%) | 8(12.50%) |
| 2d | 0( 0.00%) | 10(16.13%) |
| 2e | 31(14.49%) | 11(17.74%) |
| 2f | 0( 0.00%) | 10(16.13%) |

であり、特に石器類は集中地点間の差異が大きい。また、各集中地点の石器組成は第8～11表のとおりである。

i　各地点の概要

(1)　2a集中地点　小範囲に少量の資料が散布する。剝片2点は小型のもの、石核（5）は剝片腹面を打面とするやはり小型のもので、側縁に使用痕があり、使用痕付きの石核とでも称すべきもの。礫には安山岩2個体2点、安山岩個体不明砕片2点がある。個体別の判明する2点も小片である。炉跡が1基伴っている。

(2)　2b集中地点　径2mの範囲に多量の剝片が集中する。それらの大半は黒色頁岩aとした同一個体であり、この母岩を対象とする剝片剝離地点と考えられる。6・7にそれらのうち典型的なものを掲げたが、剝片尾部に石核底面を付着した背の低いものが目立ち、厚さの薄い

### 第8表　S2a地点石器組成表

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩c | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 安山岩d | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 珪化凝灰岩a | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | 2 | | 1 | | | | 3 |

### 第9表　S2b地点石器組成表

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩b | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 安山岩c | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 黒色頁岩a | | | | | | | | 34 | 134 | | | | | 169 |
| 合計 | | | | | | | | 35 | 136 | | | | | 172 |

### 第10表　S2c地点石器組成表

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩b | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | 2 |
| 黒色頁岩a | | | | | | | | 5 | 1 | | | | | 6 |
| 合計 | 1 | | | | | | | 6 | 1 | | | | | 8 |

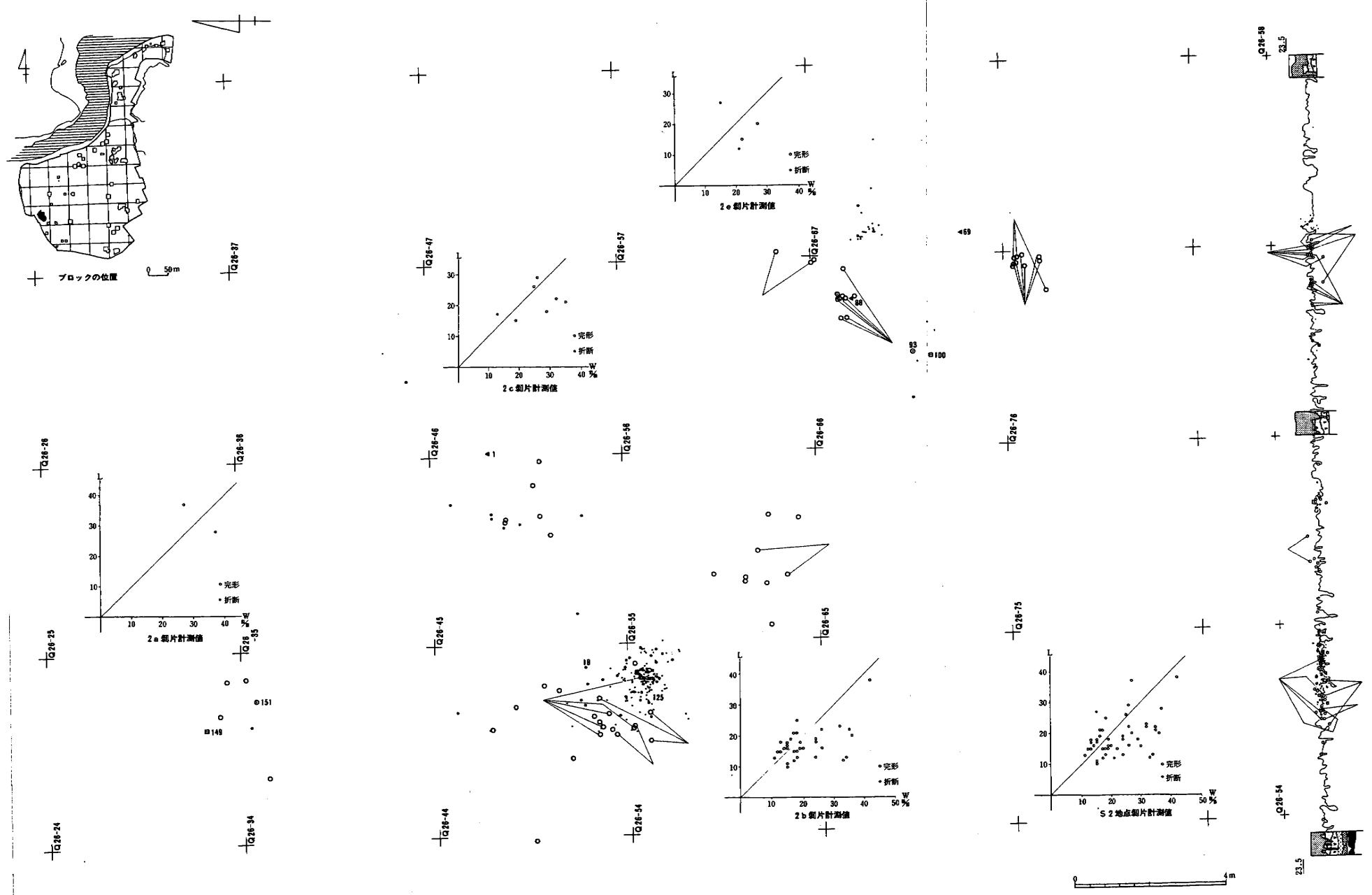
### 第11表　S2e地点石器組成表

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 黒曜石b | 1 | | | | | | | 1 | 2 | | | | | 4 |
| 安山岩a | 1 | | | | | | | 2 | 20 | | | | | 23 |
| 安山岩b | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 安山岩d | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| チャートa | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 合計 | 2 | | | | | | | 4 | 23 | 2 | | | | 31 |

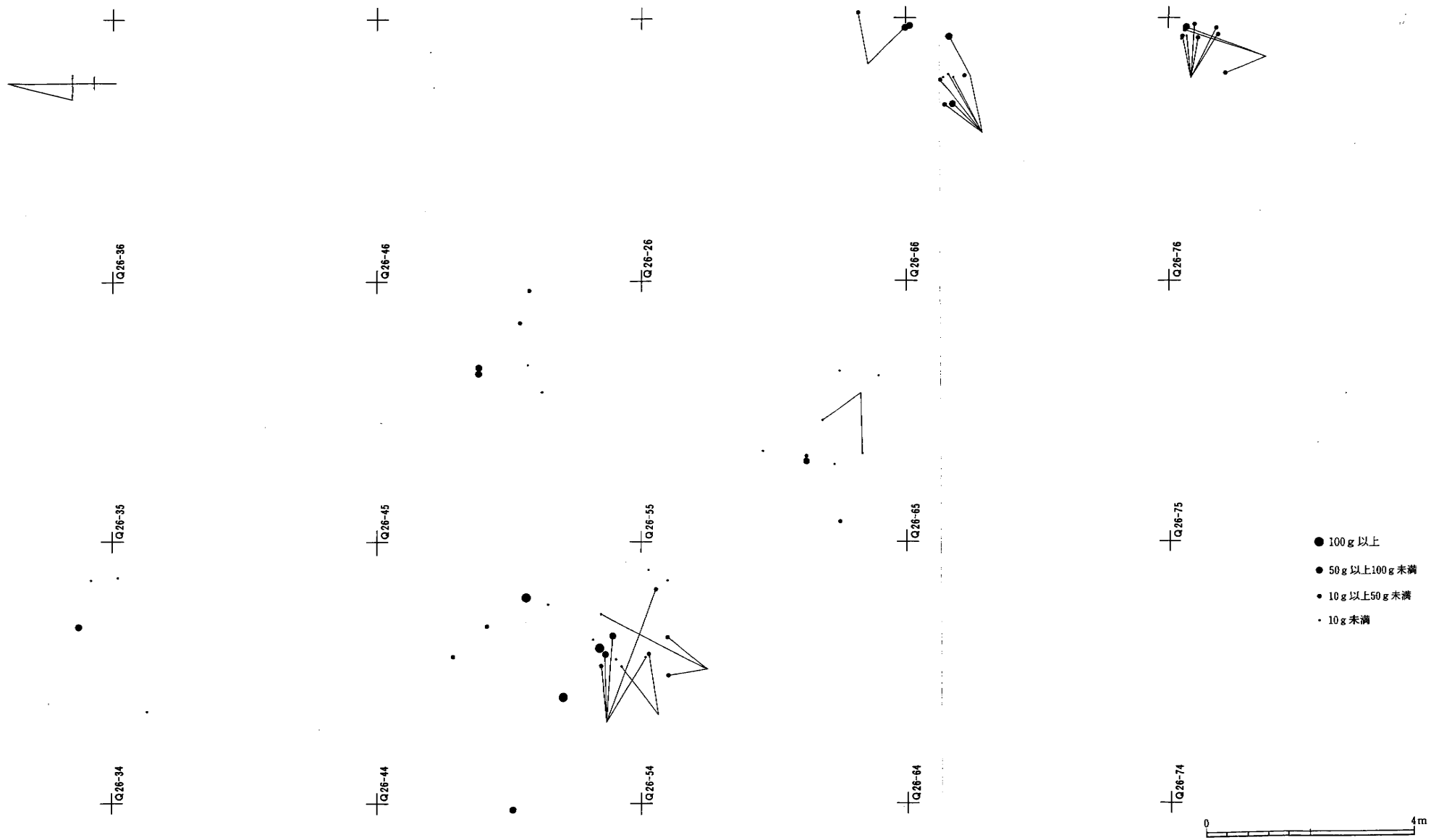
円礫を分割した素材の木口面から、連続的に横長の剝片を生産した過程が復元される。他に安山岩の小剝片が3点ある。

礫は安山岩4点3個体、流紋岩9点4個体、石英粗面岩5点1個体、砂岩1点1個体から構成されている。何れも被焼成。安山岩のうち小型の2点が完形礫（175.3g、127.3g）である他は何れも破砕状態の小破片である。分布は剝片の集中地点の北側に散在する。

(3)　2c集中地点　南北約3m、東西2.5mの範囲内に少量の資料が散布する。石器には剝片類が多いが、ナイフ形石器が1点ある（1）。礫片の分布も散漫で、流紋岩4個体8点の小破片のみ。




第15図　S2地点遺物分布状況




第16図　S 2 地点出土礫の重量別分布状況

**第12表　S 2 地点各集中地点の母岩別分布状況(石器)**

| | a | b | c | d | e | f |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石 a | | | | | 1 | |
| 黒曜石 b | | | | | 1 | |
| 安山岩 a | | | | | 23 | |
| 安山岩 b | | 1 | 2 | | 1 | |
| 安山岩 c | 1 | 2 | | | | |
| 安山岩 d | | | | | 1 | |
| 珪化凝灰岩 a | 1 | | | | | |
| チャート a | | | | | 1 | |
| 黒色頁岩 a | | 169 | 6 | | | |

母岩不明のものは除く

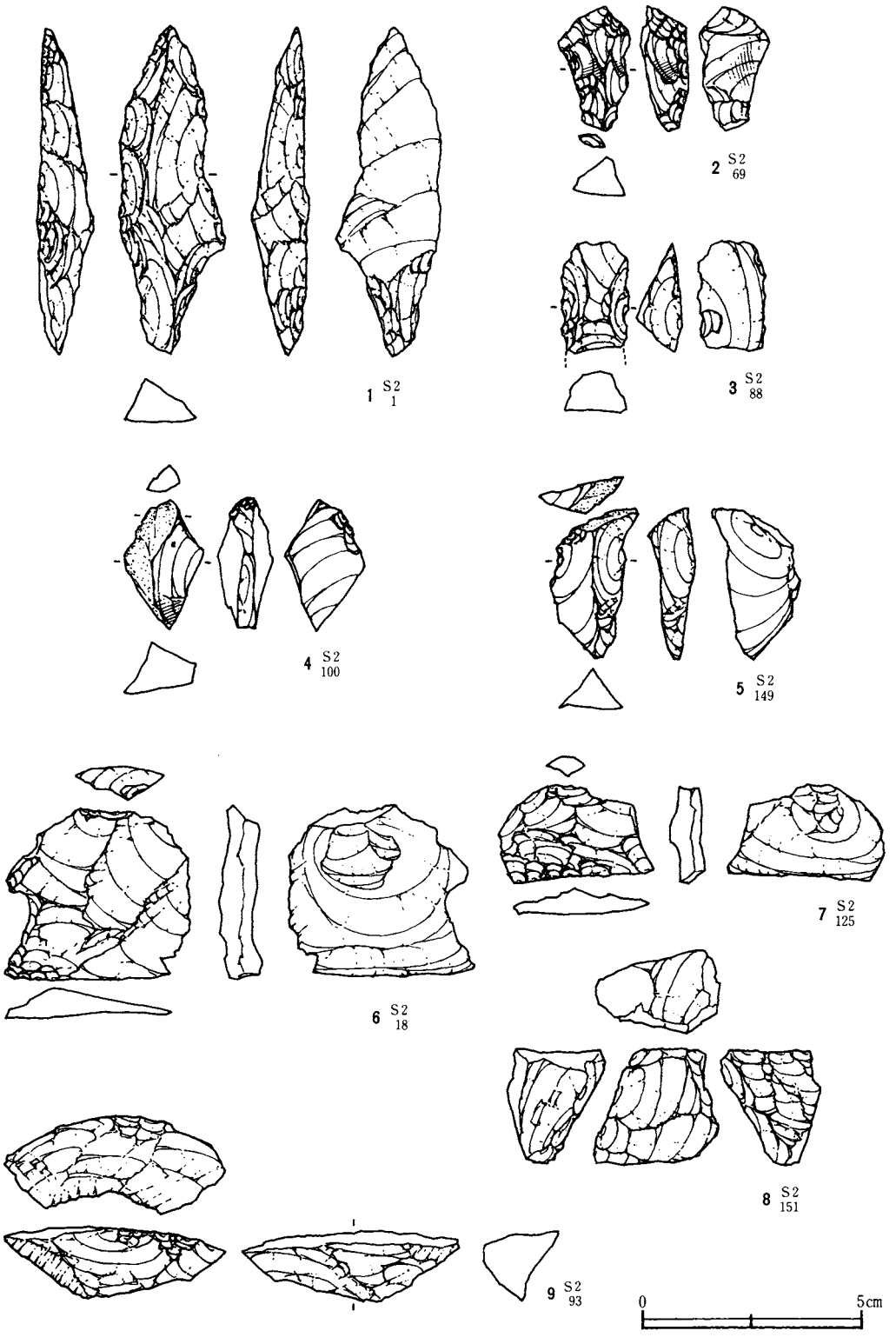
**第 13 表　S 2 地点各集中地点の母岩別分布状況(礫)**

| | a | b | c | d | e | f |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩 a | | 1 | | | | |
| 安山岩 b | | 1 | | | | |
| 安山岩 c | 1 | | | | | |
| 安山岩 d | | 1 | | | | |
| 流紋岩 a | | 1 | | | | |
| 流紋岩 b | | 1 | | | | |
| 流紋岩 c | | 3 | 1 | 2 | | |
| 流紋岩 d | | | 2 | | | |
| 流紋岩 e | | 3 | | 3 | 1 | |
| 流紋岩 f | | | 3 | | 4 | 3 |
| 流紋岩 g | | | 1 | | | |
| 流紋岩 h | | | 1 | 1 | 6 | 6 |
| 流紋岩 i | | | 1 | | | |
| 石英粗面岩 a | | | 5 | | | |
| 砂岩 a | | | | 1 | | |
| 砂岩 b | | 1 | | | | |

母岩不明のものは除く

(4)　2 d 集中地点　石器類を含まず、礫片のみから構成されている。礫片は流紋岩 4 個体 8 点、砂岩 1 個体 1 点、安山岩 1 個体 1 点という内訳となるが、何れも砕片化しており、その集中度も低い。細片 2 点が接合する。

(5)　2 e 集中地点　南北約 5 m、東西約 7 mの範囲を占めている。このすぐ南側に 2 f 集中地点が位置し、両者の区分は便宜的なものである。31点の石器類と11点の礫片から構成される。石器類にはナイフ形石器 2 点（2・3）が含まれるが、剥片類が卓越している（4）。石核も 2 点あるが(9)、それから落とされた剥片はみあたらない。集中地点の東側には安山岩 a の剥片・砕片が集中しており、限定的ではあれ、母岩の消費が想定される。




第17図　S 2 地点出土遺物実測図

礫片は11点あるが、流紋岩3個体に纏められる。そのうち2個体の破砕片から2組の接合資料が得られているが、全て被熱によって砕片化しており、接合後も1/3以下の遺存状況である。なお、礫片の分布は集中地点の西側に点在する状況である。

(6) 2f集中地点　径1mの範囲内に10点の礫片が集中していた。礫片は流紋岩2個体分であり、それぞれが全て接合する。しかし、何れも被熱により赤化した破砕片であり、接合後も原礫のごく一部分が復旧するにすぎない。

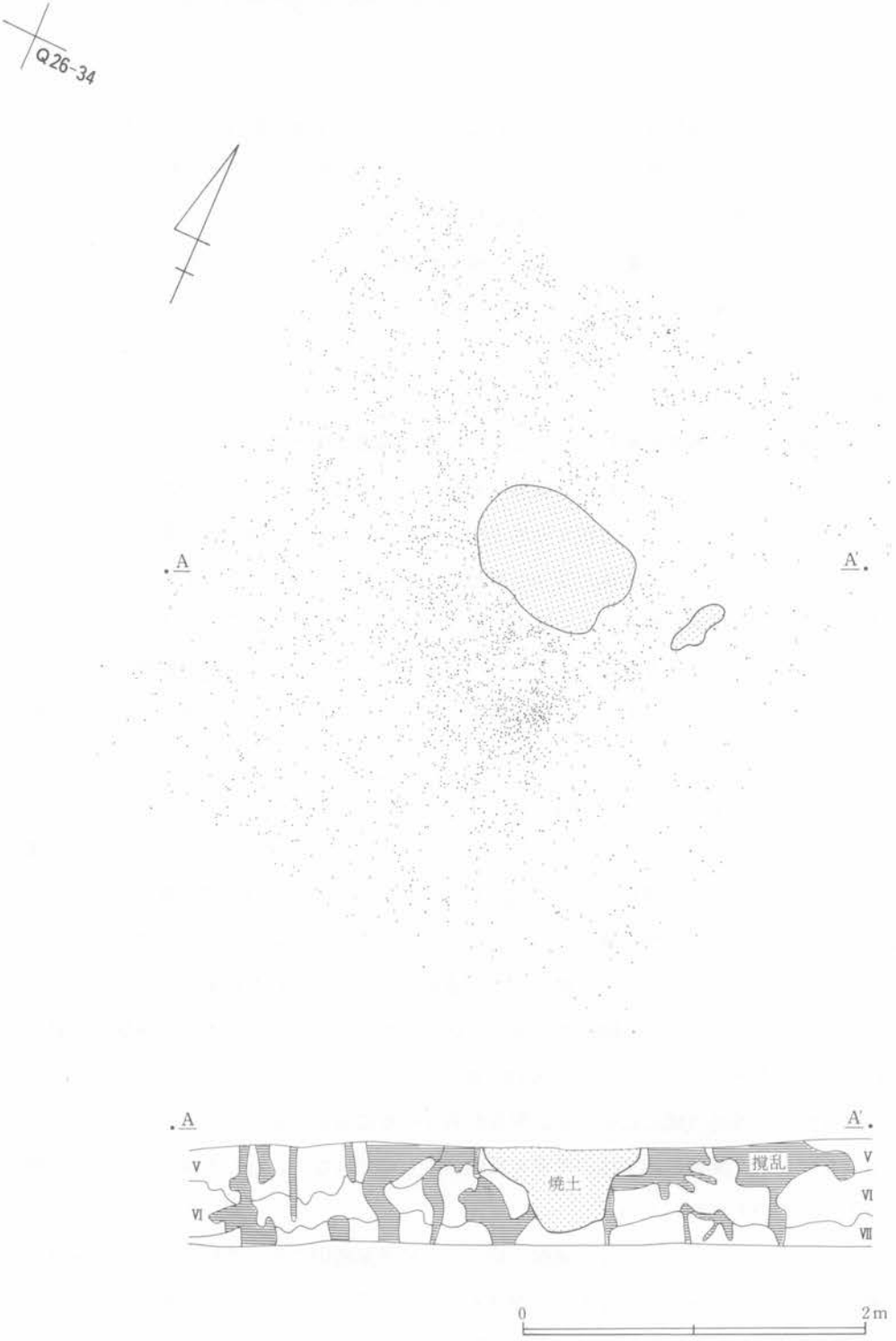
ii 各地点の相互関係

(1) 石器の母岩分布　各集中地点間には直接的な接合関係は摘出できなかったが、肉眼的に同一と判定される資料がある。これらの資料の分布状況は第12表に示した。複数の地点にまたがっているものもあるが、何れも近接する地点間に分布している。2個体の消費型母岩（安山岩a、黒色頁岩a）に関しても同様の傾向が窺われるが、黒色頁岩aは2b集中地点での剝片生産の成果の一部が近接する場所（2c集中地点）に移動した可能性が高い。2c集中地点に遺存していた資料は砕片1点を除くと中型の剝片であり、うち1点に使用痕が観察される。2b集中地点において製作された剝片の一部が選択され近接する場所でのある種の行動に供された可能性が指摘されよう。

(2) 礫の母岩分布　第13表に地点別母岩分布状況を示した。16母岩のうち4母岩が地点を変えて分布している。とくに、3地点以上にまたがるものが目立つ。既にiで述べたように、礫片は何れも砕片化しており、礫群としての機能を担いうるものではないので、礫群の移動に伴い廃棄されたものである可能性が高い。この前提に立つとすれば、同一母岩の破片が数地点に分散するという現象は、石器とは別に礫も点々と遺跡間・内を移動した結果と考えることができる。おそらくこの過程は、ある時間的帯域に、居住空間内において反復された多様な行動の変換されたものと理解したいが、その具体的内容はどのようなものであったのだろう。

以上の結果から、各地点間には何らかの関係がありそうに見えるが、それは一部で主張されているようなブロック間の形成主体の差異を反映するものではなく、むしろ様々な行動の累積過程に起因するものと判断したい。

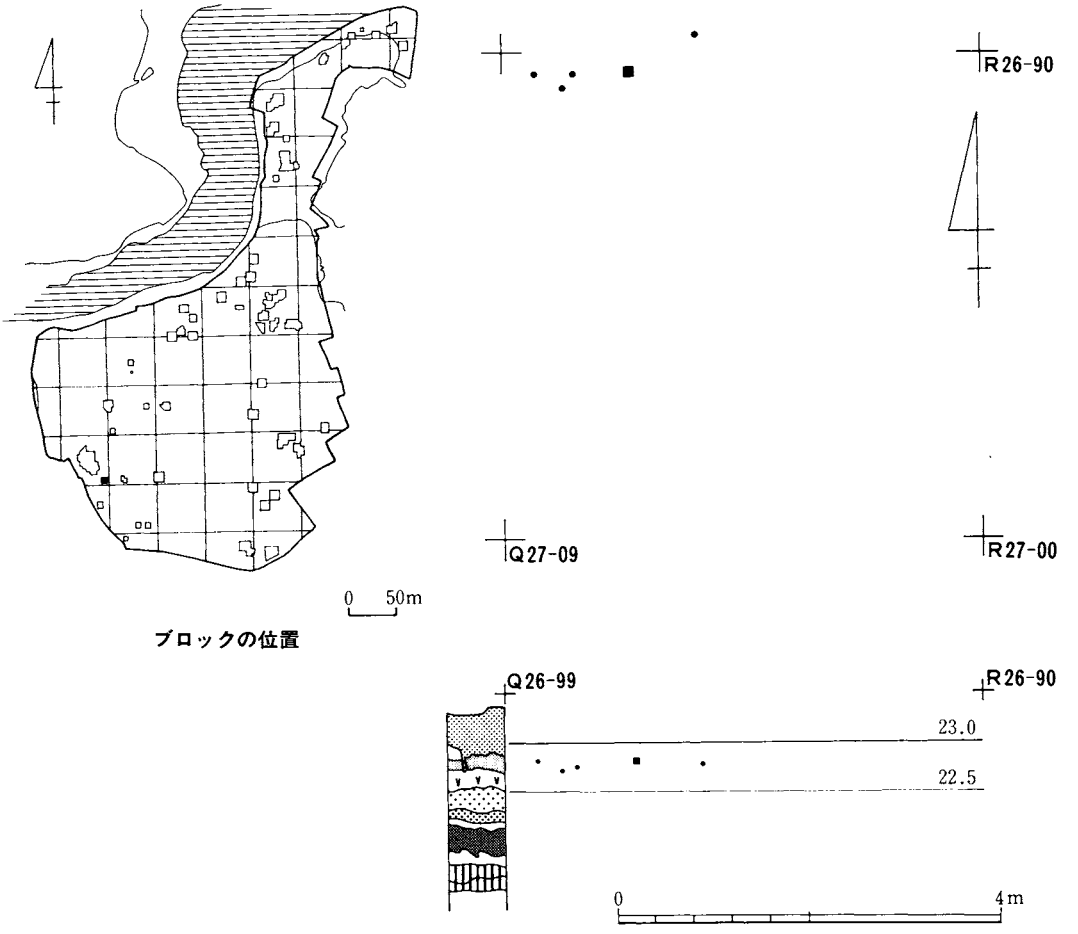
iii炉　跡（P001）　クラスターaの南側に接して、V層掘削中において焼土の分布が確認された。確認段階では、焼土の分布は大小2箇所あり、その周辺には大量の炭化物片が集中的に散布していた。これらの焼土のうち、東側に位置する小型のものは、0.32m×0.05mの長円形のプランをもつが、焼土の堆積は薄く、炉としての根拠はいささか不十分であり、炉と断定することはできない。一方、西側の大型のものは、長軸0.9m、短軸0.6mの隅丸方形、あるいは楕円形の平面形態を持ち、その掘込みも0.5mと深く、VI層を僅かに掘抜いている。掘方は二段になっており、検出面から0.2mほど掘窪め、さらにその中央部分を底面が皿状になるように垂直に掘り下げている。この掘方内には焼土化したハードロームが充満していた。炉内及びその周辺



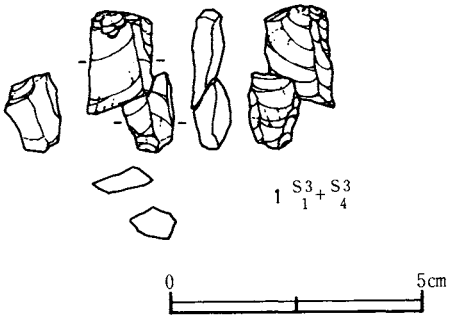

第18図　P011実測図（ドットは炭化物粒）

には炭化物片が大量に存在したが、なかには大型炭化材も混入していた。明確な炉と認定したい。

**2・2S3地点**（第19・20図、第14表）　第2地点南側に近接する小規模な集中地点である。




第19図　S 3 地点遺物分布状況

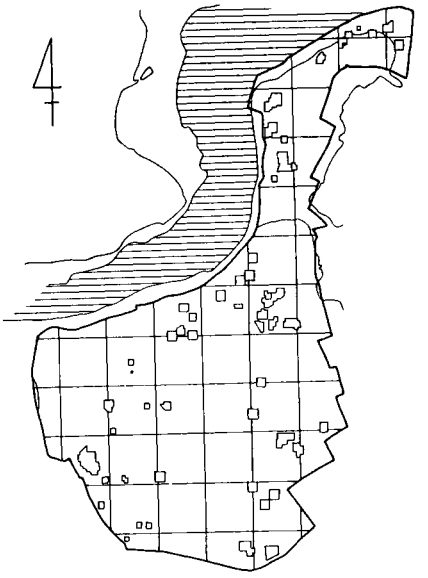



第20図　S 3 地点出土遺物実測図

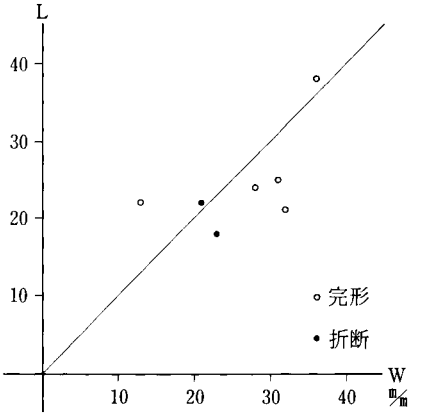
分布範囲も狭い。産出層準はⅣ層下部～Ⅴ層である。珪質頁岩製の楔形石器とそれに接合する剥片、粘板岩質ホルンフェルスの剥片 3 点から構成されている。

**第14表　S 3 地点石器組成表**

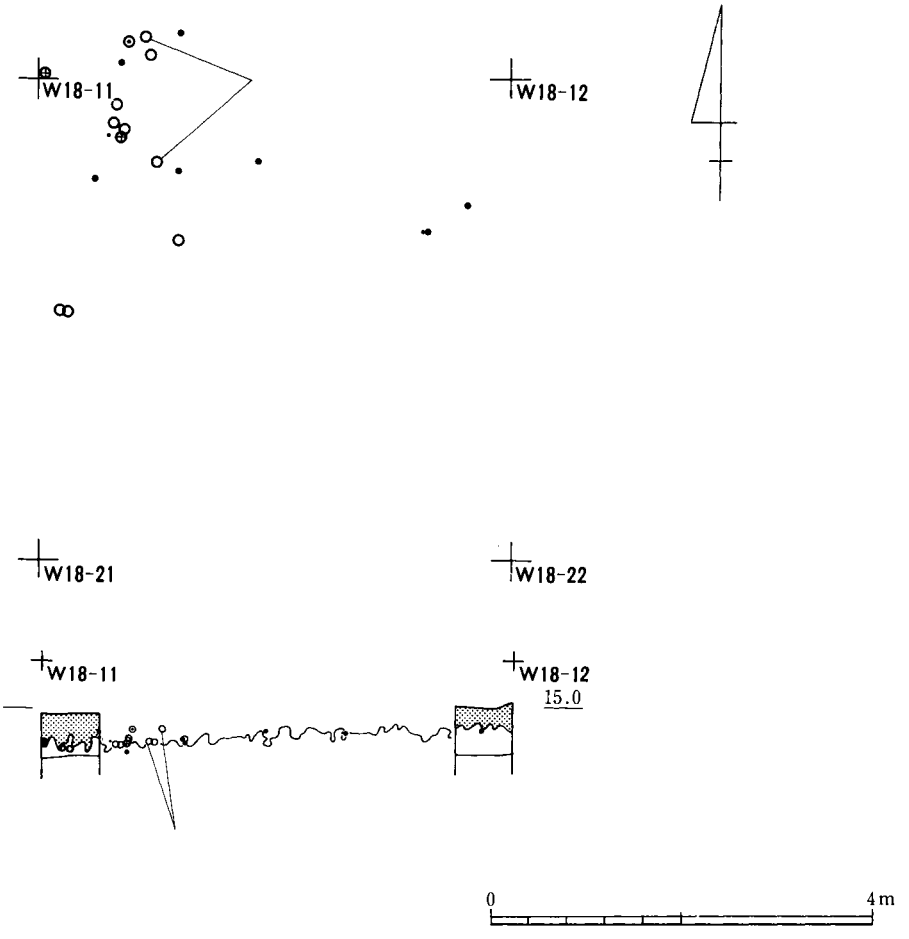
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 珪質頁岩a | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| ホルンフェルスb | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| 合計 | | | | | 1 | | | 4 | | | | | | 5 |



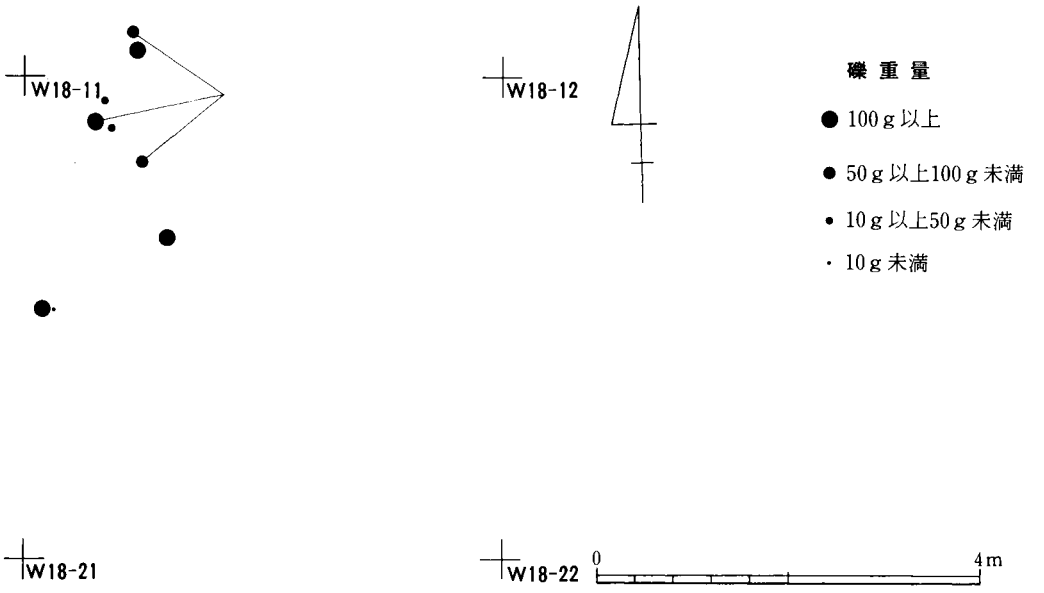

ブロックの位置




剝片計測値




第21図　S11地点遺物分布状況



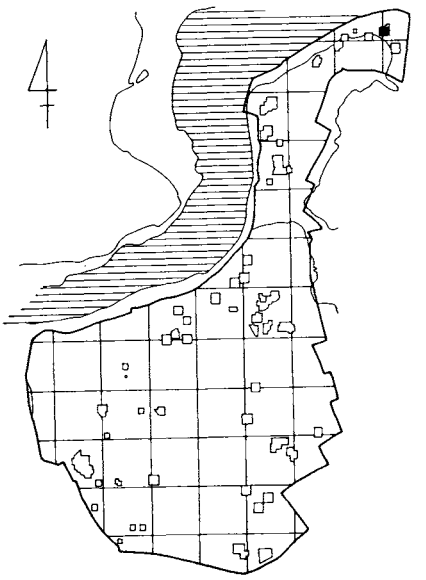

第22図　S11地点出土礫の重量別分布状況

**2・3 S11地点**（第21・22図、第15表）　石器12点と礫片10点から構成される。これらの産出層準はハードローム層上面である。礫片は南北3m、東西1.2mの範囲内にあまり集中せずに散布しており、安山岩5個体、砂岩1個体からなる。全て被焼成の破砕礫であり、原礫の1/2を遺存するものはない。石器類の分布は礫の分布と大体重複しているが、一部東側にも広がっている。比較的小型の剥片が卓越しているが、不定型の削器、側縁に細かい剥離のある剥片の断片がそれぞれ1点ずつ含まれている。

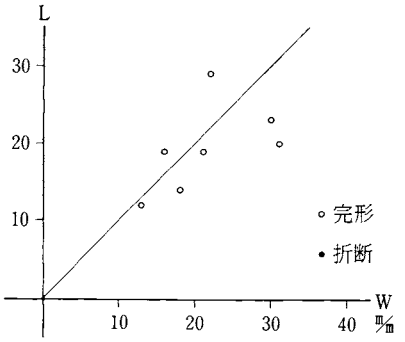
**第15表　S11地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 黒曜石b | | | | | | | 1 | 2 | 2 | | | | | 5 |
| 安山岩a | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 安山岩b | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 安山岩c | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 安山岩d | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 流紋岩a | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 合計 | | | 1 | | | | 1 | 6 | 3 | 1 | | | | 12 |

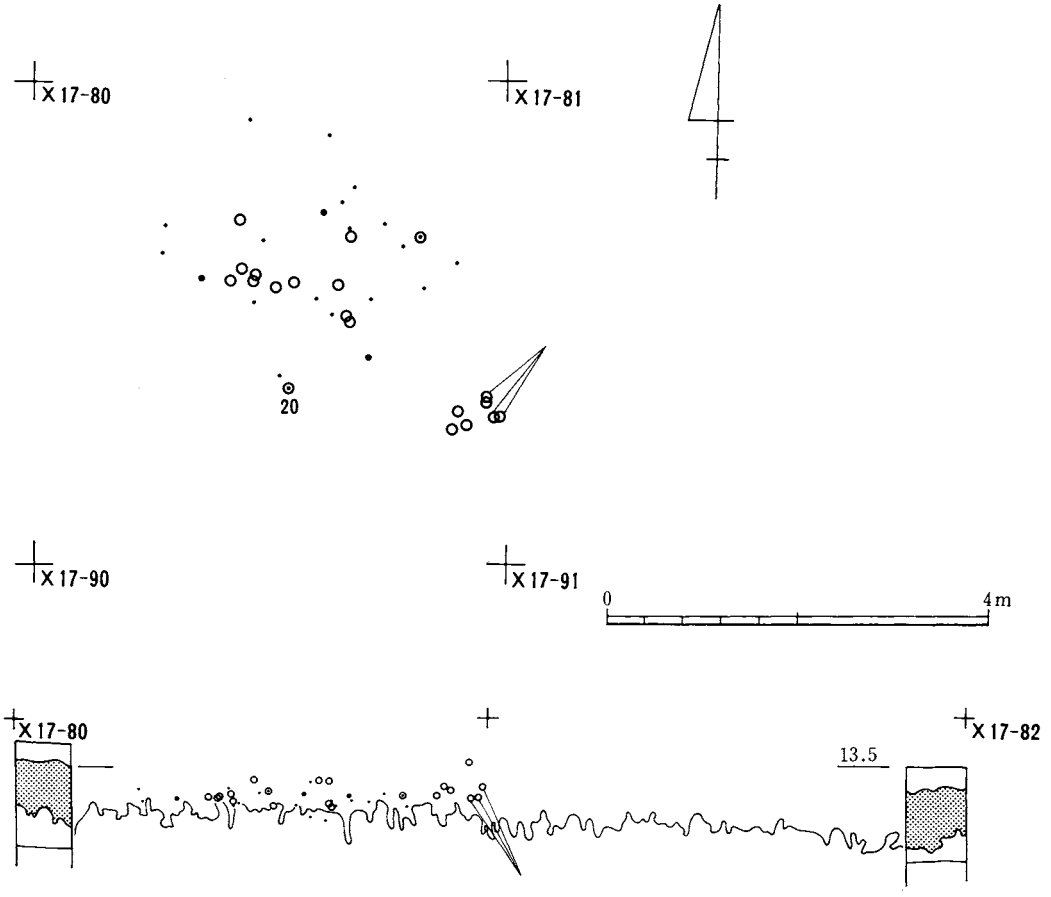
**2・4 S12地点**（第23・24・25図、第16表）　調査区北端にある。ハードローム層上面を産出層準とする礫片を含む集中地点である。内容は石器23点、礫片17点。石器は剥片類主体で特に細かい削片が多く、剥片生産というよりもむしろ、石器の再生、補修を主とした行動を想起させるものがある。ただし、砂岩bに関しては石核、剥片、削片があり、限定的な剥離作業が



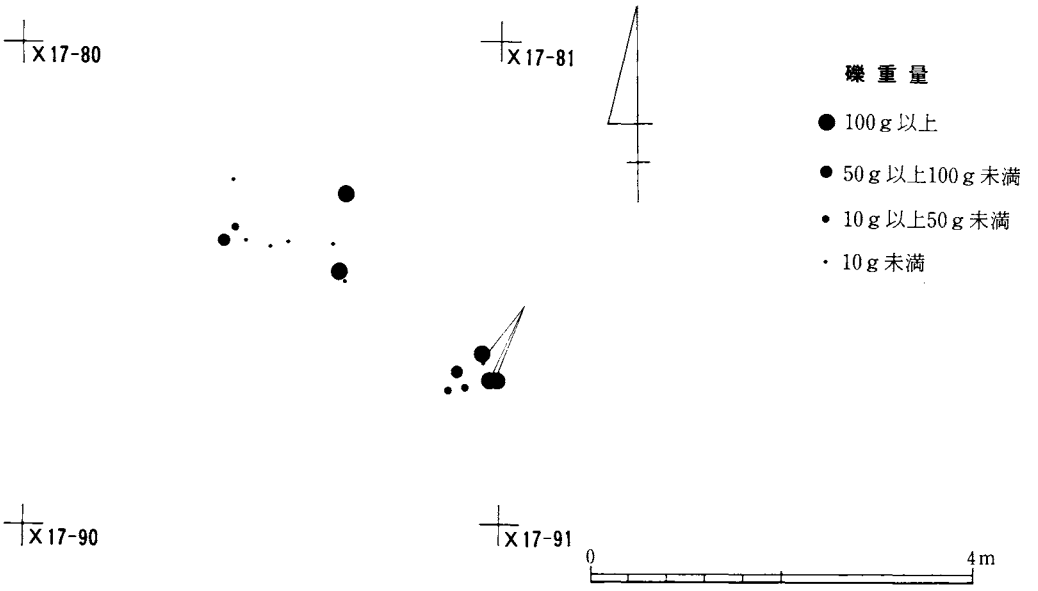

ブロックの位置



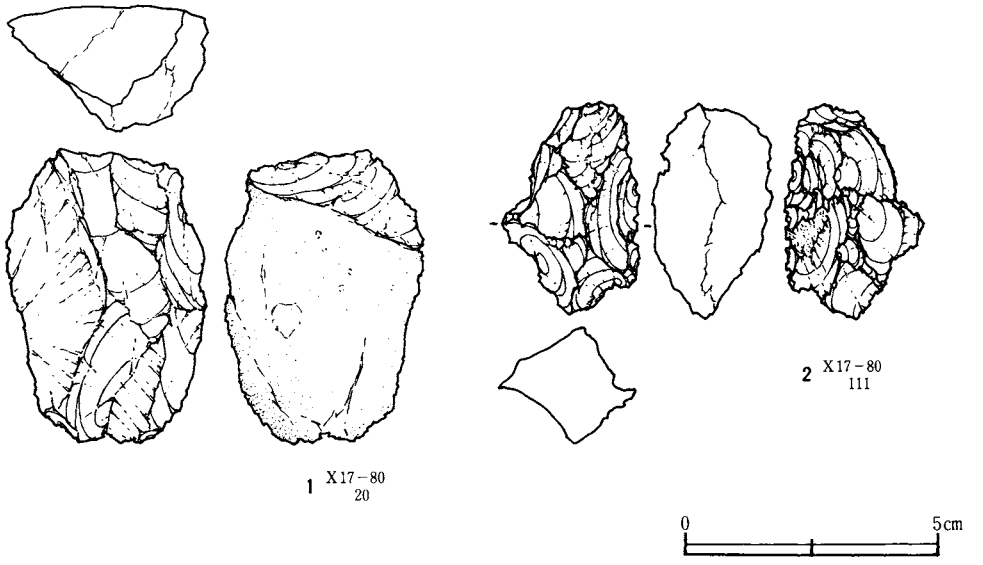

剝片計測値




第23図　S 12地点遺物分布状況



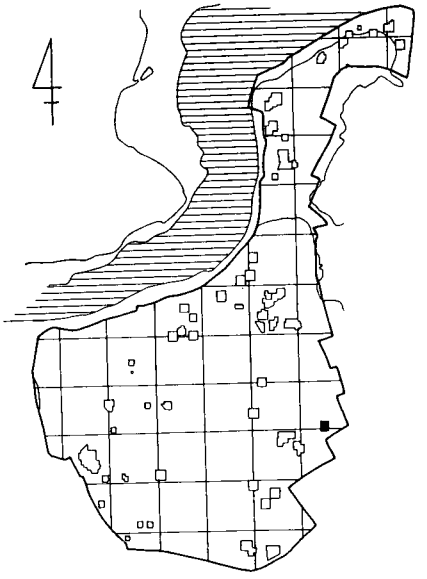

第24図　S12地点出土礫の重量別分布状況



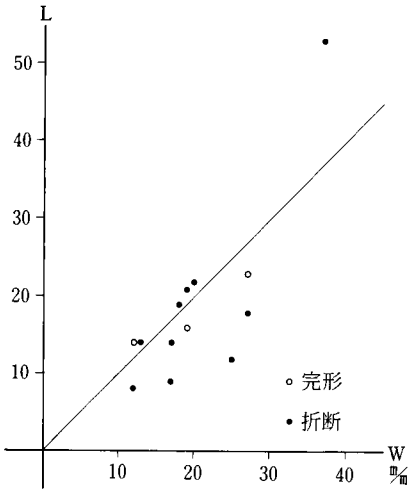

第25図　S12地点出土遺物実測図

**第16表　S12地点石器組成表**

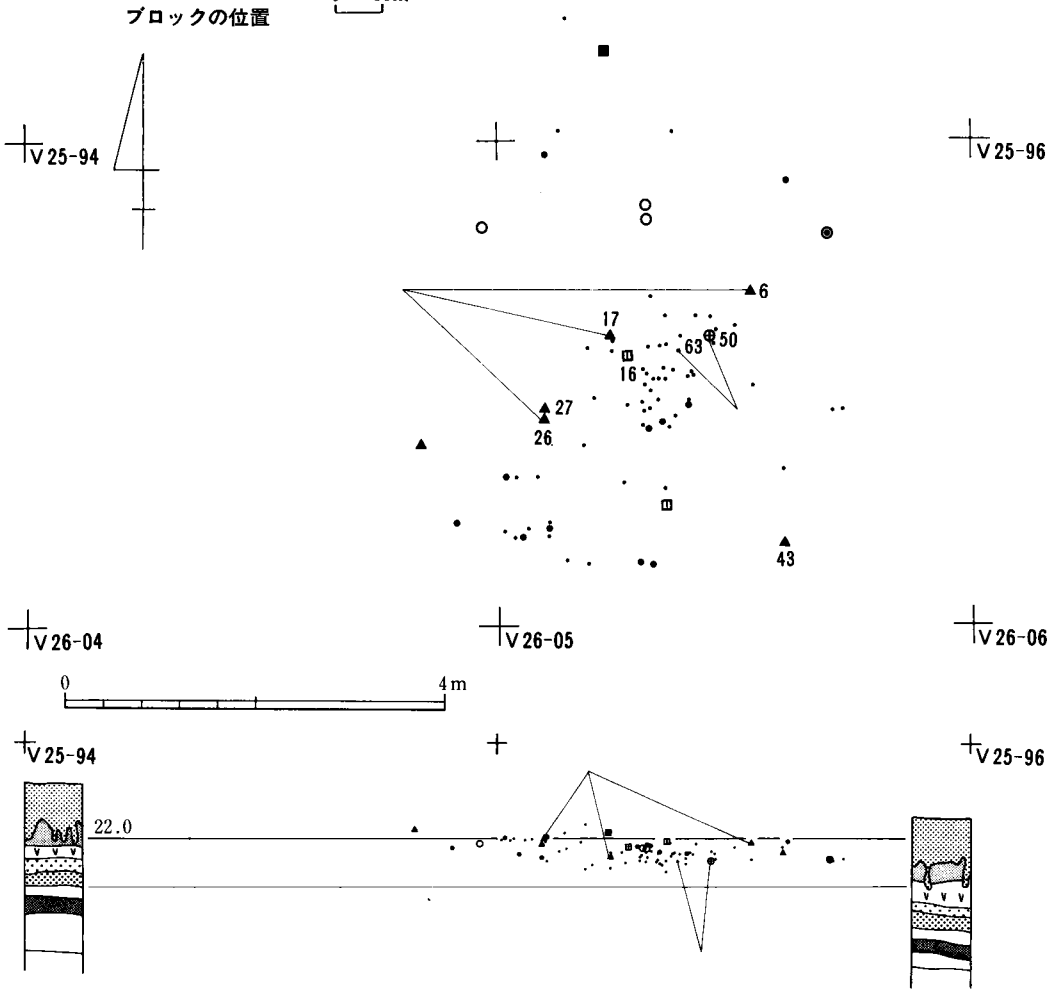
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩a | | | | | | | | | 9 | | | | | 9 |
| 安山岩b | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| チャートa | | | | | | | | | 3 | | | | | 3 |
| 玉髄a | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | 2 |
| 砂岩a | | | | | | | | | 3 | | | | | 3 |
| 砂岩b | | | | | | | | 2 | 2 | 1 | | | | 5 |
| 合計 | | | | | | | | 3 | 18 | 2 | | | | 23 |




ブロックの位置




剝片計測値



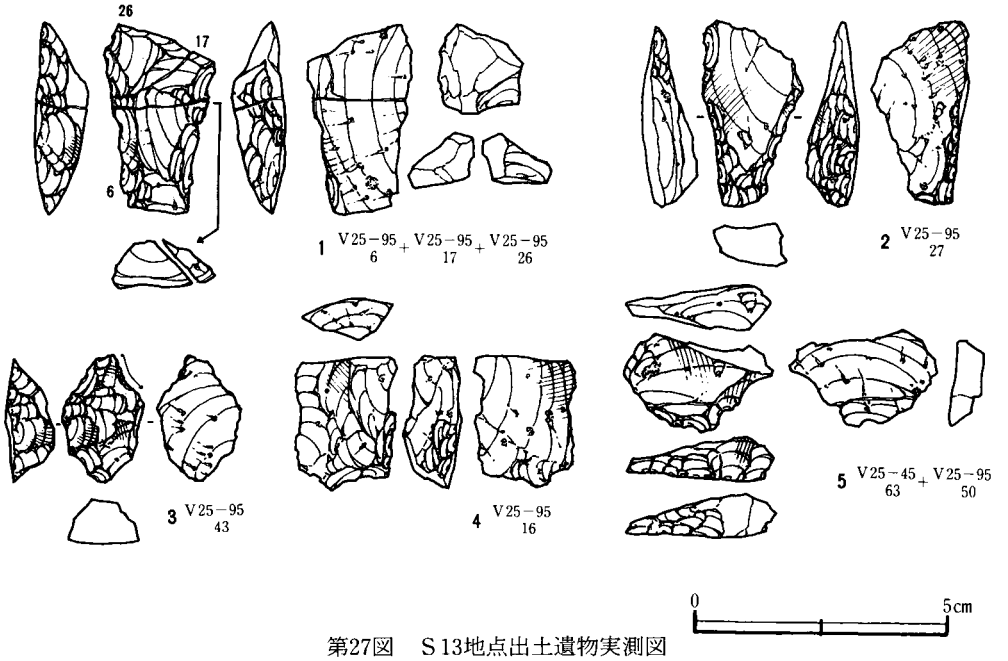

第26図　S13地点遺物分布状況

想定される。17点の礫は砂岩1個体、安山岩1個体、流紋岩2個体に還元される。これらの内、砂岩は砕片1点の検出であるが、流紋岩には完形の非焼成礫1個体があり、その他2個体も完全に原礫の状態には戻らないものの、3/4以上の遺存状態である。なお、何れの個体も焼成度は弱く、あるいは遺存率と焼成度との間に相関関係があるのかもしれない。

**2・5 S13地点**（第26・27図、第17表）　南北5.8m、東西4.4mの範囲を分布域とすることができるが、中心部分の密度が濃い。産出層準はハードローム層の上部であるが、この直下にVI層が位置し、明確な層準の確定は不可能であった。77点の石器と3点の礫片とから構成されている。

石器は全て黒曜石製で、肉眼的に2種に分類された。両母岩共に不純物を多量に混入しているが、色調と光沢に明らかな差が認められた。また、両者ともに類似した組成を示しており、破損したナイフ形石器を伴うこと、削片の量が卓越すること、少量の剥片はあるものの石核を欠落することなどから石器の生産、再生等に関連する行動を背景に想定することができる。ただし、この地点における剥片剥離を直接に示唆する内容は留めていない。おそらく、剥片剥離が行われたにしても、それは極めて限定的なものであったにちがいなく、むしろ、ブランクとしての剥片自体の搬入も疑われる。

3点の礫片は何れも遺存度1/4以下の破砕片である。礫種としては安山岩2個体、砂岩1個体であり、各個体が1点ずつの破片を残したことになる。全て火熱による赤変が観察される。また、破片の形態から本来は相当大型の母岩であったことが想定される。3点ともに集中地点の




第27図　S13地点出土遺物実測図

外縁に近い位置に分布していた。

なお、黒曜石２種の推定原産地は畑宿である。

**第17表　Ｓ13地点石器組成表**

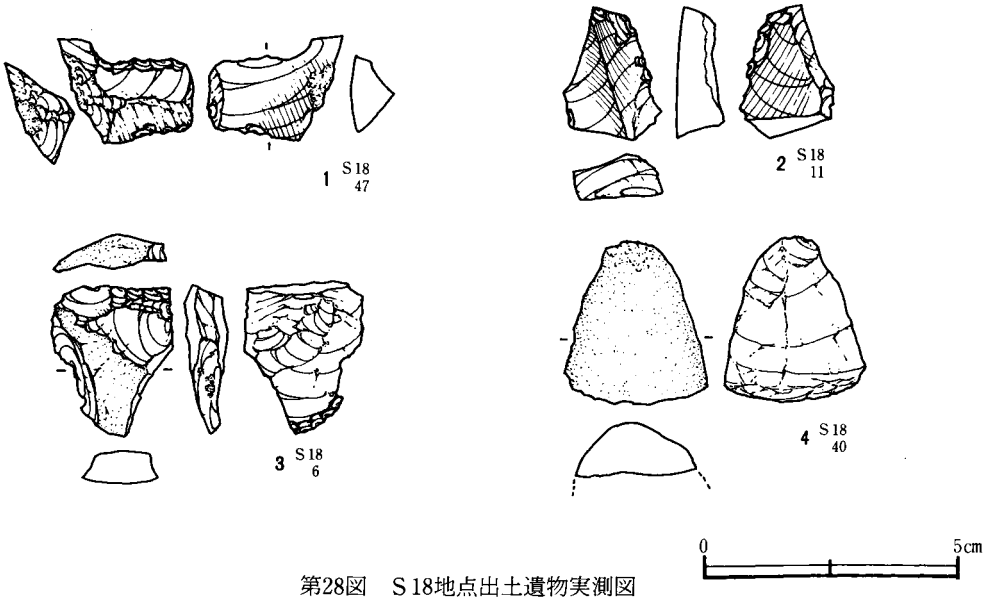
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石ａ | 5(3) | | | | | | 1 | 7 | 31 | 1 | | | | 45 |
| 黒曜石ｂ | 1 | | | | | | 1 | 5 | 25 | | | | | 32 |
| 合計 | 6(4) | | | | | | 2 | 12 | 56 | 1 | | | | 77 |

（　）内は実個体数を示す。

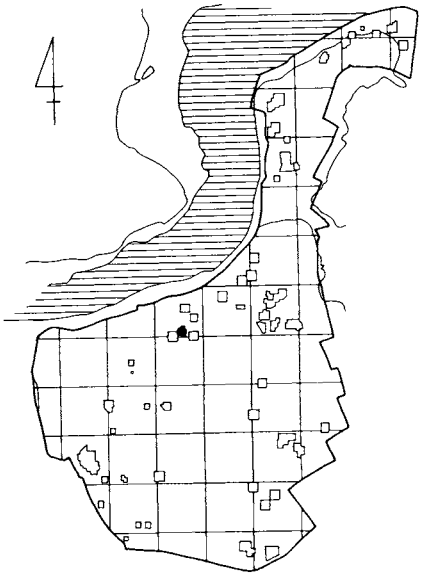
**２・６ Ｓ18地点**（第28・29・30図、第18表）　南北８ｍ、東西５ｍという比較的広い範囲内に、23点の石器と51点の礫片が分布している。産出層準は大体ハードローム層の上部付近と記録されている。集中地点北側にやや分布密度の高い所が観察されるが、石器・礫ともにその散布は疎な状況といえる。

23点の石器の内容を見ると、その大半が剝片（２～３）であり、他に石核、石槌破片（４）各１点があるにすぎない。このうち黒曜石ｂが９点あり、接合資料も含まれるが、削片は少量であり、かつ、接合するものも剝片の分割例であり、しかも９点のうち最低５点に使用痕が確認される（１・２）ところから、別な地点で生産された剝片の一部が選択的に将来されたものと考えられよう。これ以外にも本地点において生産されたと見做している資料は存在しない。

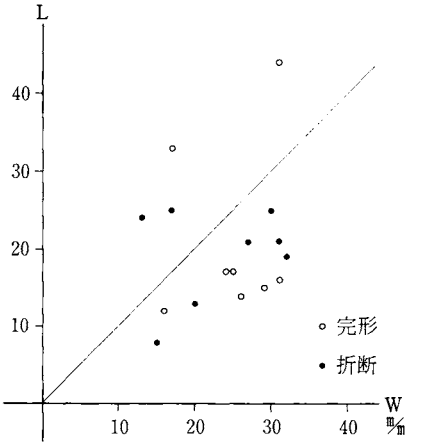
礫には流紋岩３個体・ホルンフェルス１個体、砂岩８個体、計12個体が識別された。砂岩の小型のものに完形例が１点あるほかは何れも破砕した小破片である。３組の接合資料があるが、



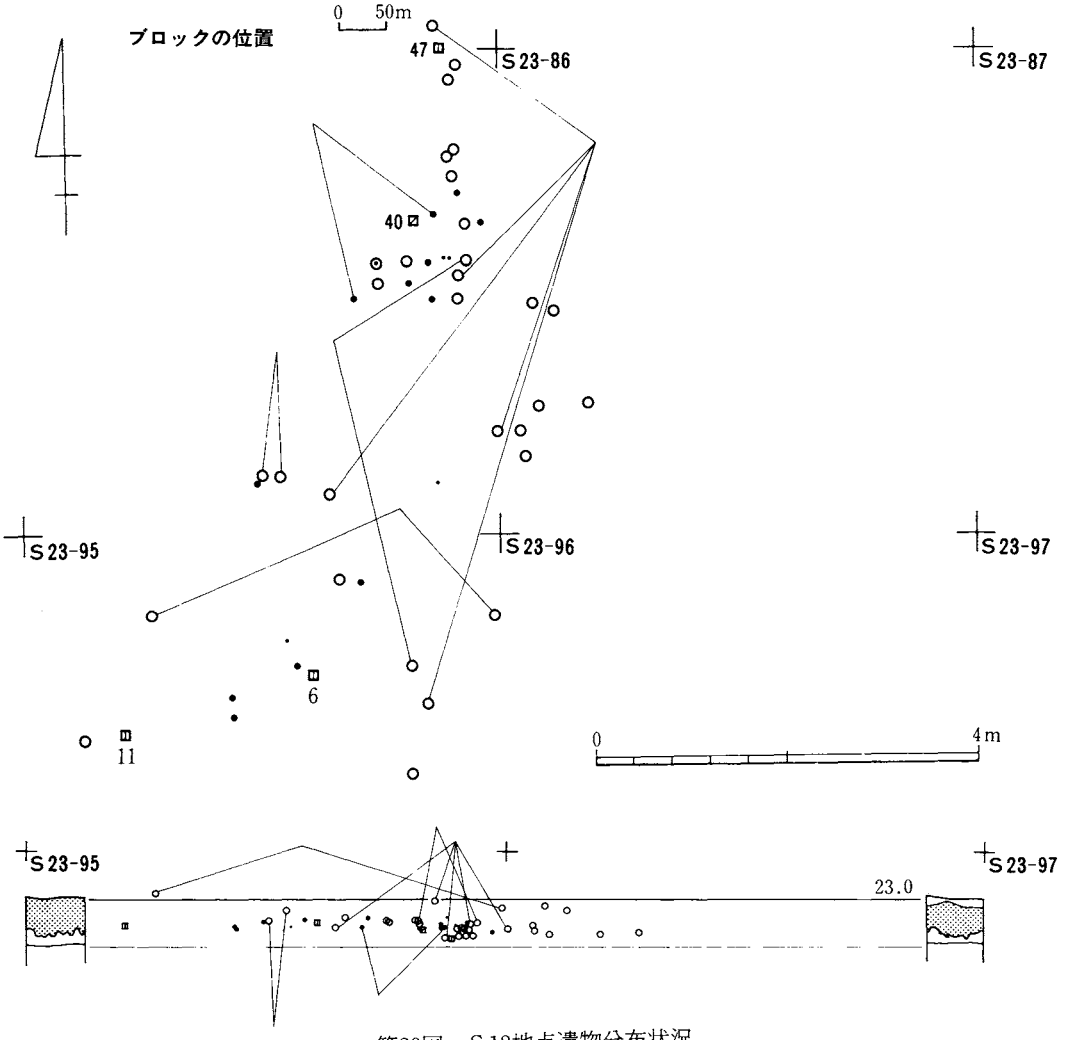

第28図　Ｓ18地点出土遺物実測図



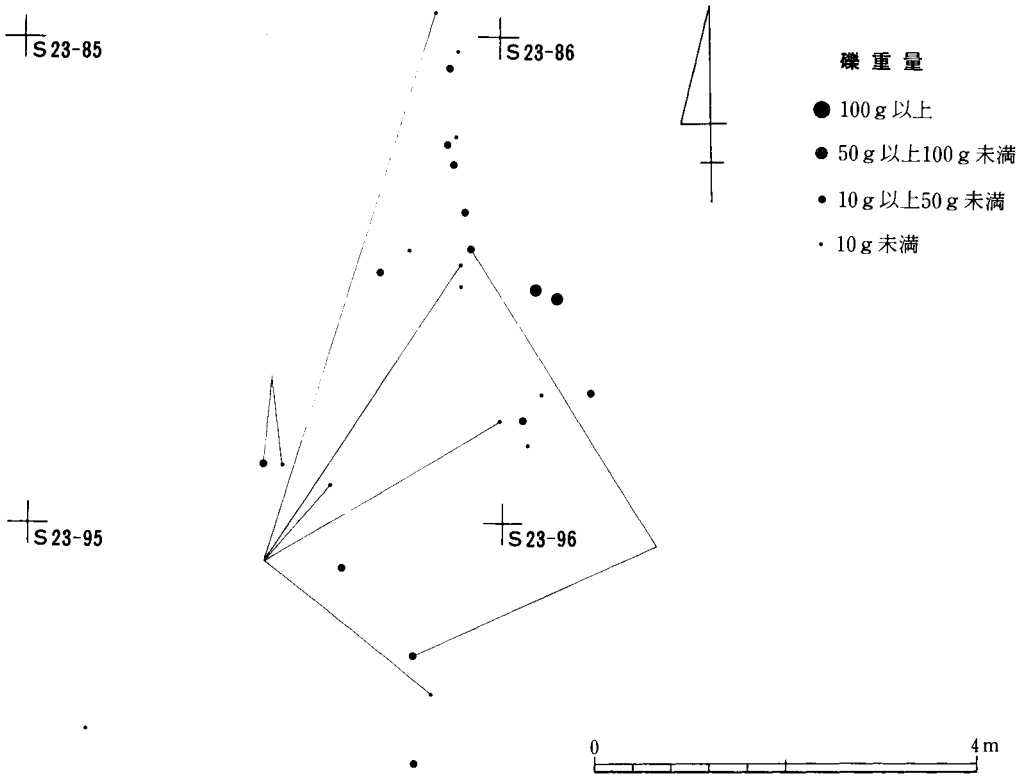
ブロックの位置




剝片計測値




第29図　S18地点遺物分布状況




第30図　S18地点出土礫の重量分布状況

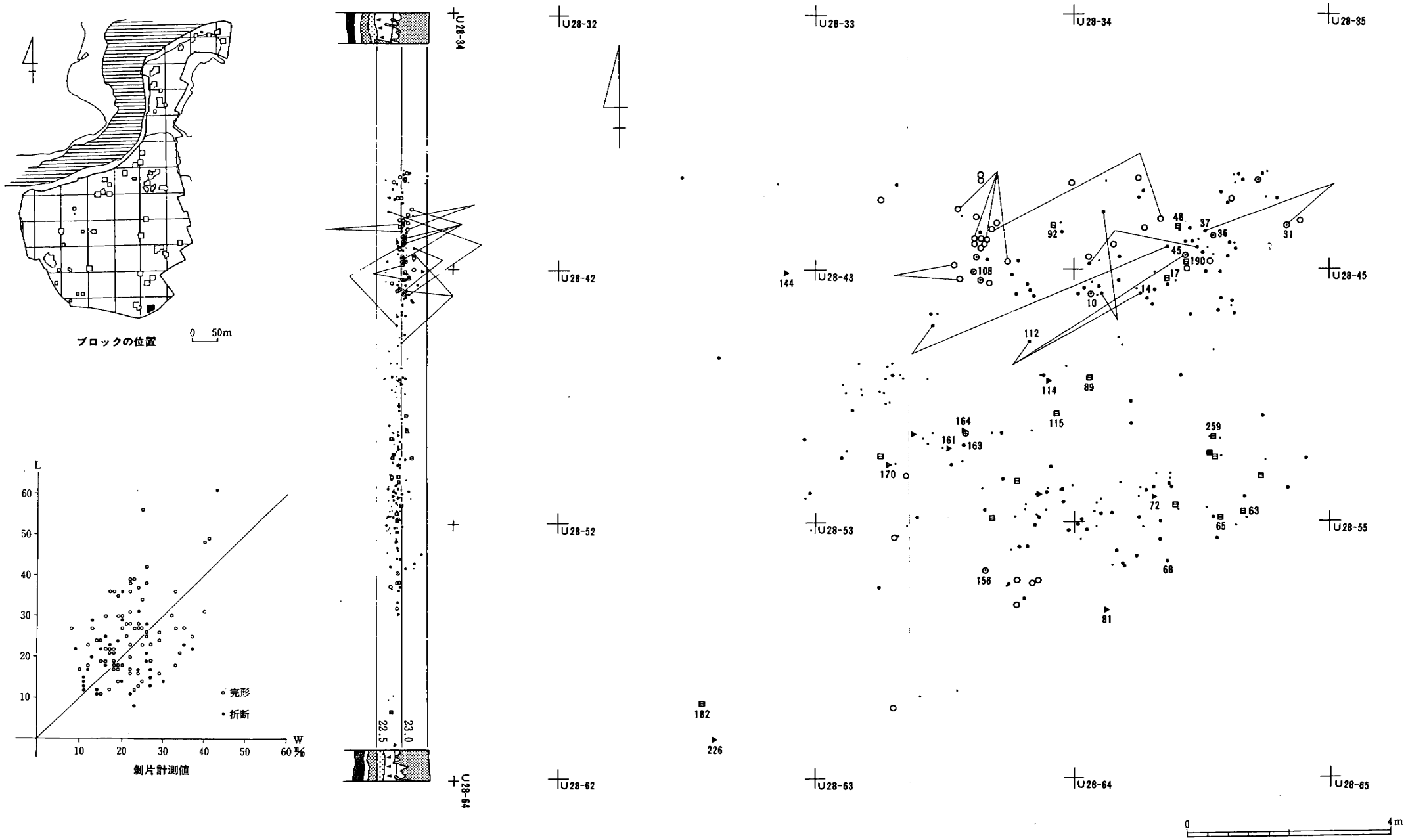
全て細かい砕片の接合するもので、その分布は極めて飛散的である。

**第18表　S18地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | 3 | 1 | | | | | 4 |
| 黒曜石b | | | | | | | 1 | 7 | 1 | | | | | 9 |
| 安山岩a | | | | | | | | 4 | | | | | | 4 |
| 流紋岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 流紋岩b | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | 2 |
| チャートa | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | 2 |
| チャートb | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | 1 | 17 | 3 | 1 | | | 1 | 23 |

**2・7 S21地点**（第31～36図、第19表）　U28・29区を中心とする径約20mという広い範囲に遺物が分布している。産出層準はハードローム層の上部でⅥ層には及んでいない。ただし、本地点周辺ではハードローム層の層厚が薄く、正確な産出層準の決定は困難である。

i 平面的分布状況とその意味　第31図より、本地点の遺物分布域は径20m程の円形をしているが、その中央部分にはごく少量の遺物しか散布していない。このため、見方によっては一種




第31図　S21地点遺物分布状況

の環状あるいは馬蹄形分布ともとれるが、いくつかの集中地点の複合が南北２群の集中域を構成していると理解したい。このような分布型の要因としては所謂「ブロック」の複合したものとみる立場が一般的であろうが、実際は第32図によく示されているように、数種の石材が僅かに地点を変えながら反復消費されていることが挙げられる。また、北側の集中域西側には小規模な礫の集中が存在する。

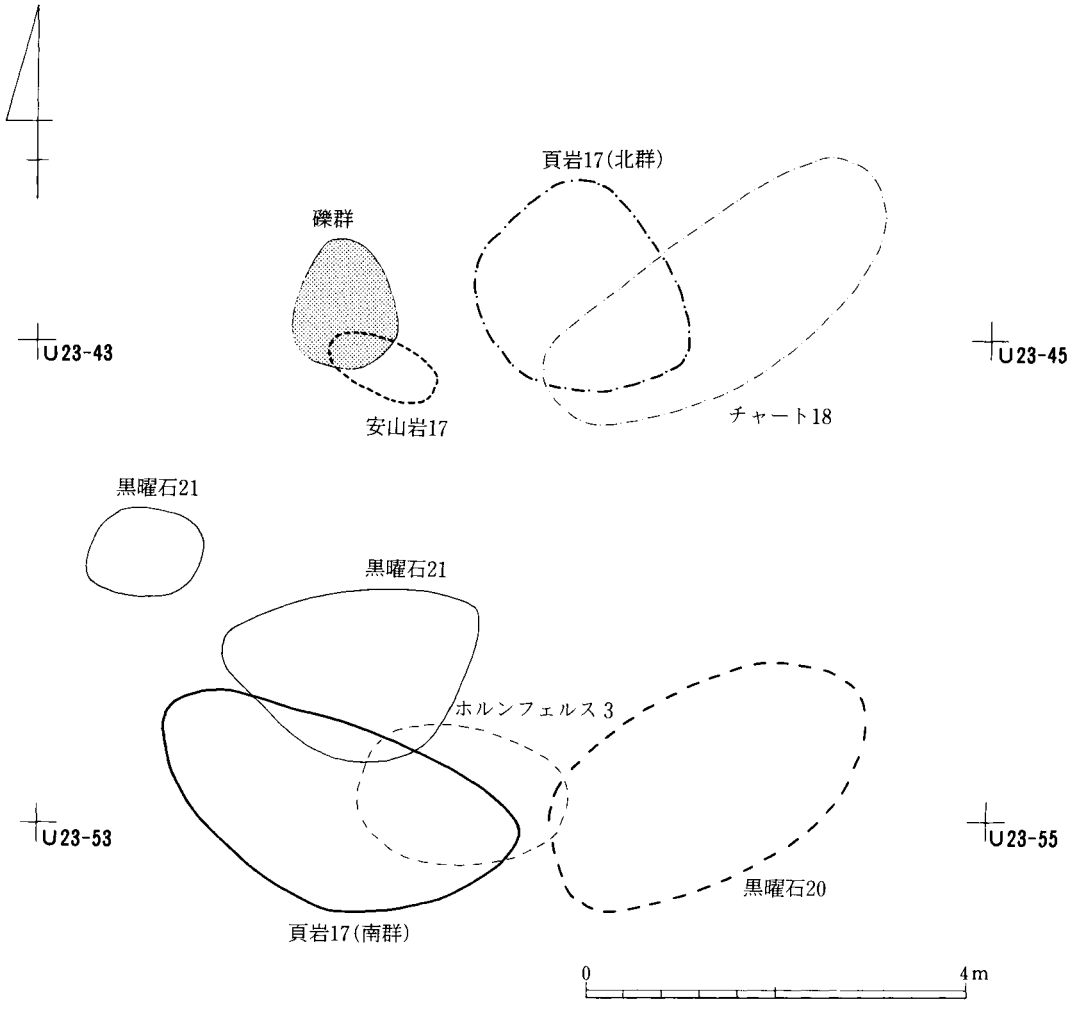
ii 出土遺物　第19表に本地点の石器組成を示した。総数228点の資料があり、これは28種の母岩に還元された。ナイフ形石器は破損品、未製品を含めて10点程ある（１～7、10、11)が、二次加工の著明なものとしては他に端削器が１点あるにすぎず(12)、全体としては剝片を主体としており、刃器(15～21)を主体とする石器構成をとるものと考えられよう。石核(13、22～24、接合資料25・26）をみると、本文化層に頻出する各種のものが含まれている。他に図示していないが楔形石器１点を追加したい。

**第19表　S 21地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 黒曜石b | | | | | 1 | | 1 | 17 | 19 | | | | | 38 |
| 黒曜石c | 5 | | | | | | 2 | 3 | 34 | | | | | 44 |
| 安山岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 安山岩b | | | | | | | | 3 | | 1 | | | | 4 |
| 安山岩c | | | | | | | 1 | 2 | 3 | | | | | 6 |
| 安山岩d | 3 | | | | | | 2 | 8 | 10 | 1 | | | | 24 |
| 流紋岩e | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | 1 | 14 | 9 | | | | | 24 |
| 珪質頁岩a | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 珪質頁岩b | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | 2 |
| 珪質頁岩c | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 |
| 珪質頁岩d | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 珪質頁岩e | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 珪質頁岩f | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| チャートa | | | | | | | | 2 | | 1 | | | | 3 |
| チャートb | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| チャートb | | | | | | | | 6 | | | | | | 6 |
| チャートc | 1 | | | | | | | 2 | 1 | | | | | 4 |
| チャートd | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートe | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| チャートf | | | | | | | | 3 | | 1 | | | | 4 |
| チャートg | | | | | | | | 4 | 3 | | | | | 7 |
| チャートh | 1 | | | | | | 1 | 16 | 4 | 4 | | | | 26 |
| チャートi | | | | | | | | 3 | | | | | | 3 |
| チャート不明 | | | | | | | | 4 | 11 | | | | | 15 |
| 砂岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 砂岩b | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| 砂岩c | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | 10 | | 1 | | 1 | | 10 | 102 | 95 | 9 | | | | 228 |

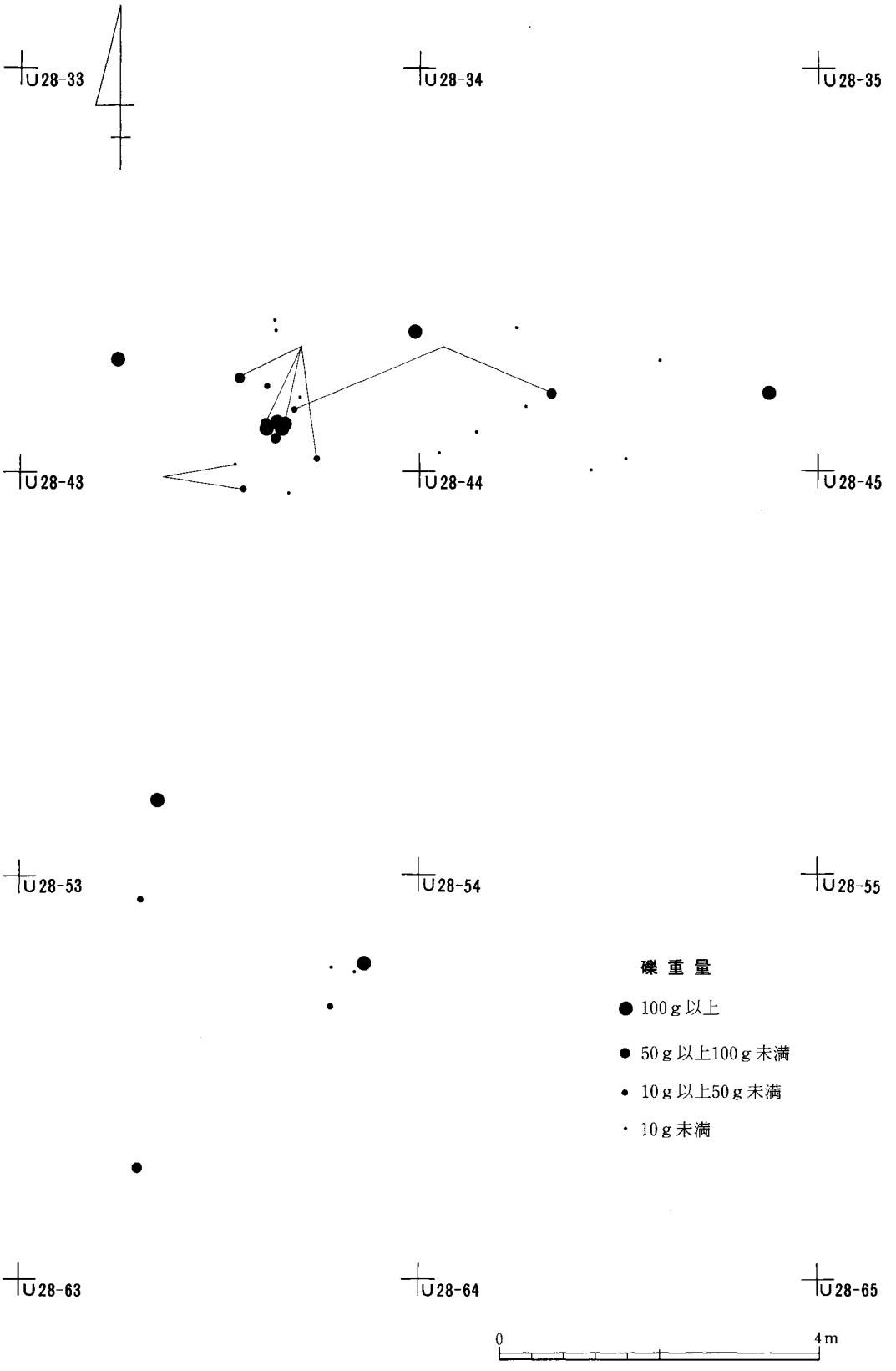
28種の母岩のうち20点以上の資料を含むものは黒曜石b・c、安山岩d、ホルンフェルスa、チャートhの5種で、残りの23種は数点の資料しか含んでいない。そして、これらの消費型母岩によって複合的集中域が形成されていることは先に述べたとおりである。また、黒曜石cと安山岩dの二者に関しては、剝片剝離から、ナイフ形石器の製作に到る過程をその内部に含んでいる。礫には、安山岩1種、流紋岩5種、チャート5種、砂岩1種、計12母岩37点の資料がある。流紋岩に小型完形礫1個体、4点接合後約2/3に復旧したもの1個体がある他は、小破片が多い。

黒曜石の原産地は、黒曜石bが和田峠、黒曜石cが畑宿である。

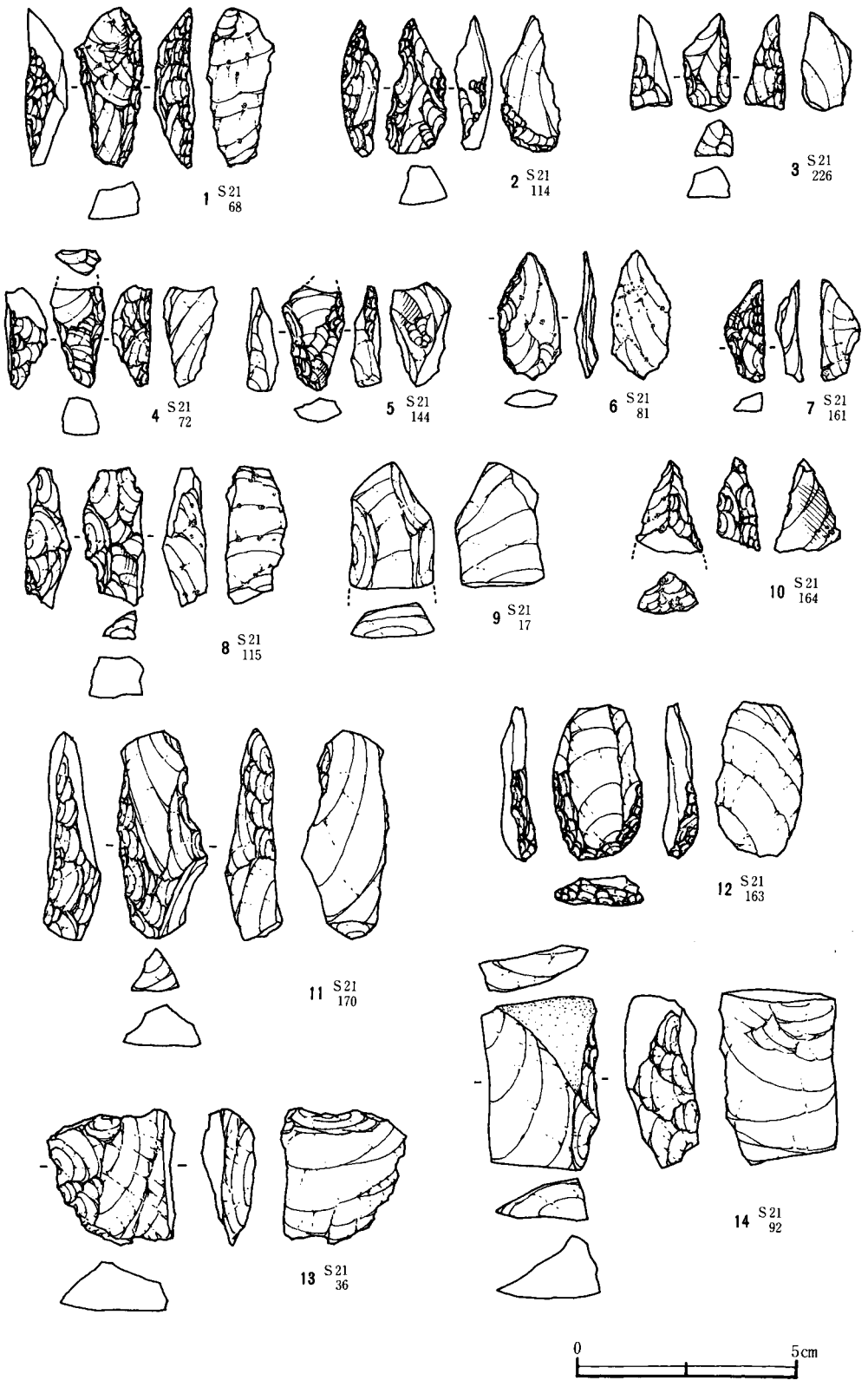



第32図　S21地点消費型母岩の分布範囲

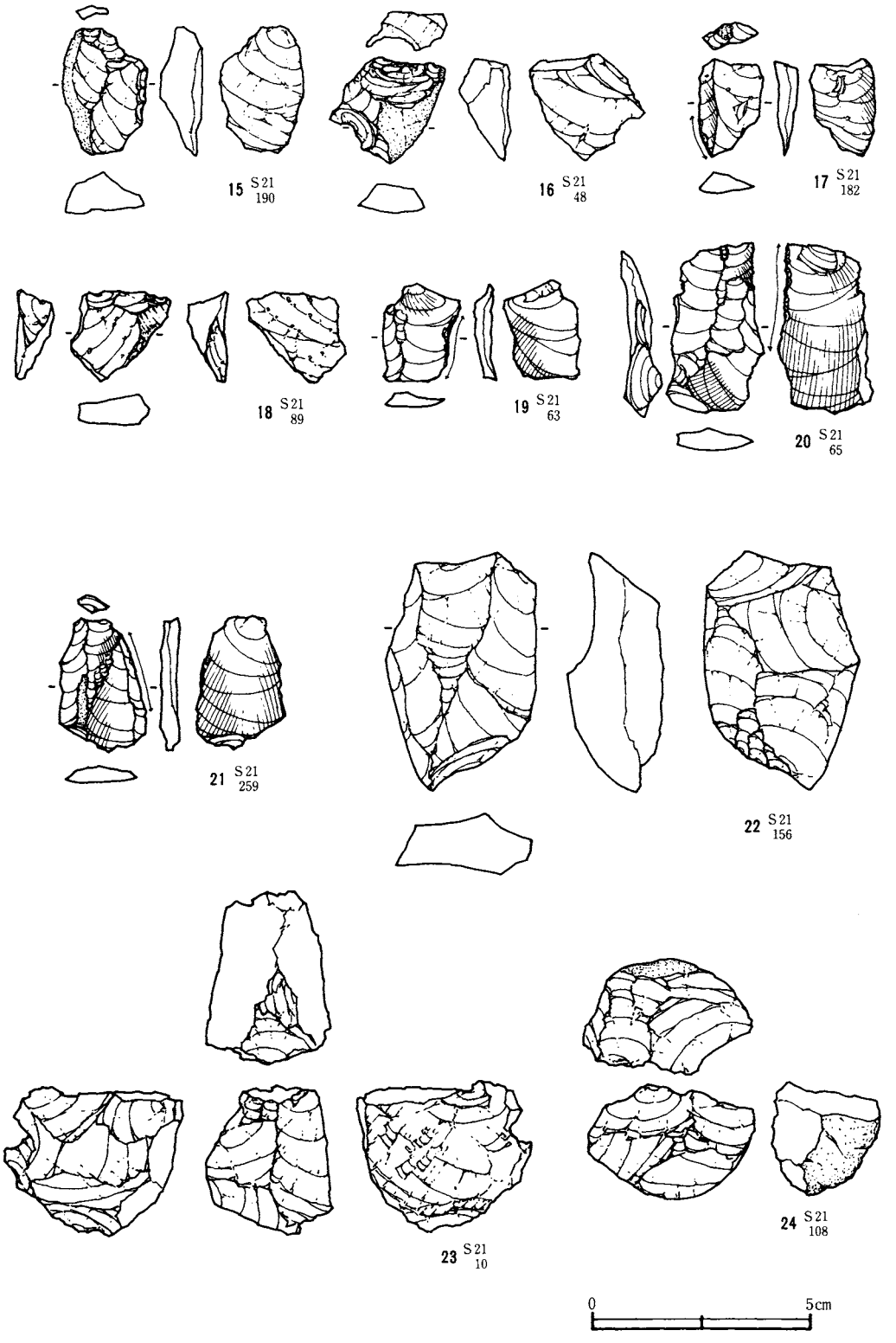
**2・8 S26地点**（第37・38・39図、第20表）　R25－40ポイント周辺の小規模な集中である。径1.6m程の狭い範囲内に大半の資料が集中しているが、その外縁にも少量の散布が確認されて



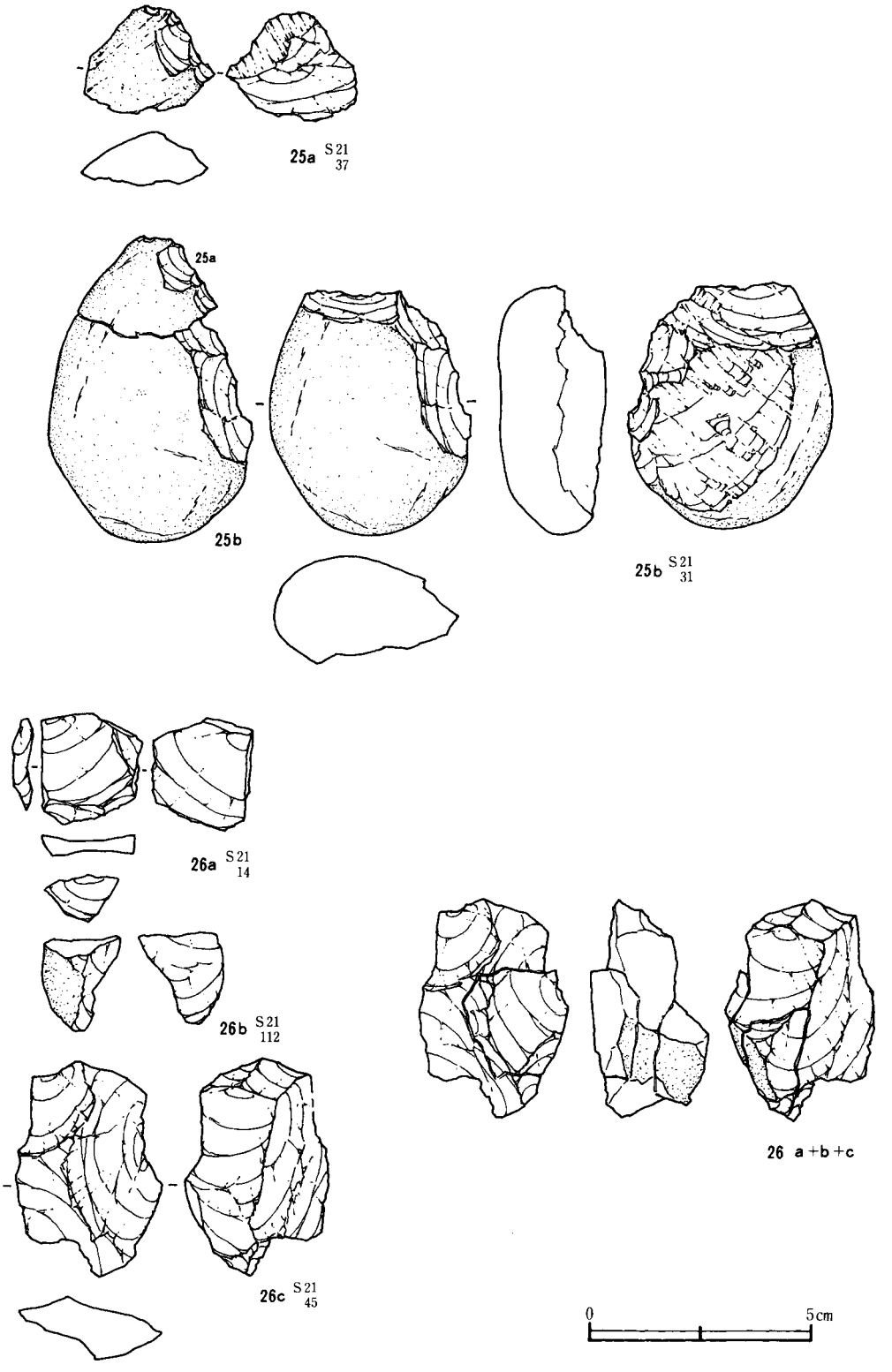

第33図　S21地点出土礫の重量別分布状況



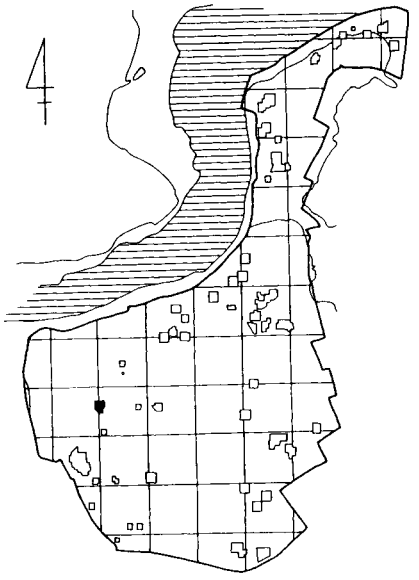

第34図　S21地点出土遺物実測図　1

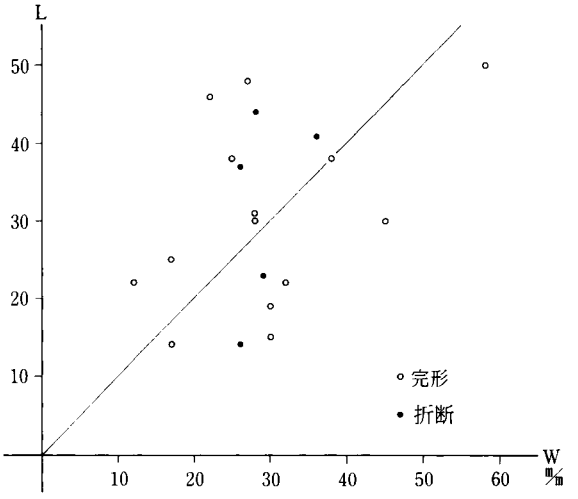



第35図　S21地点出土遺物実測図　2

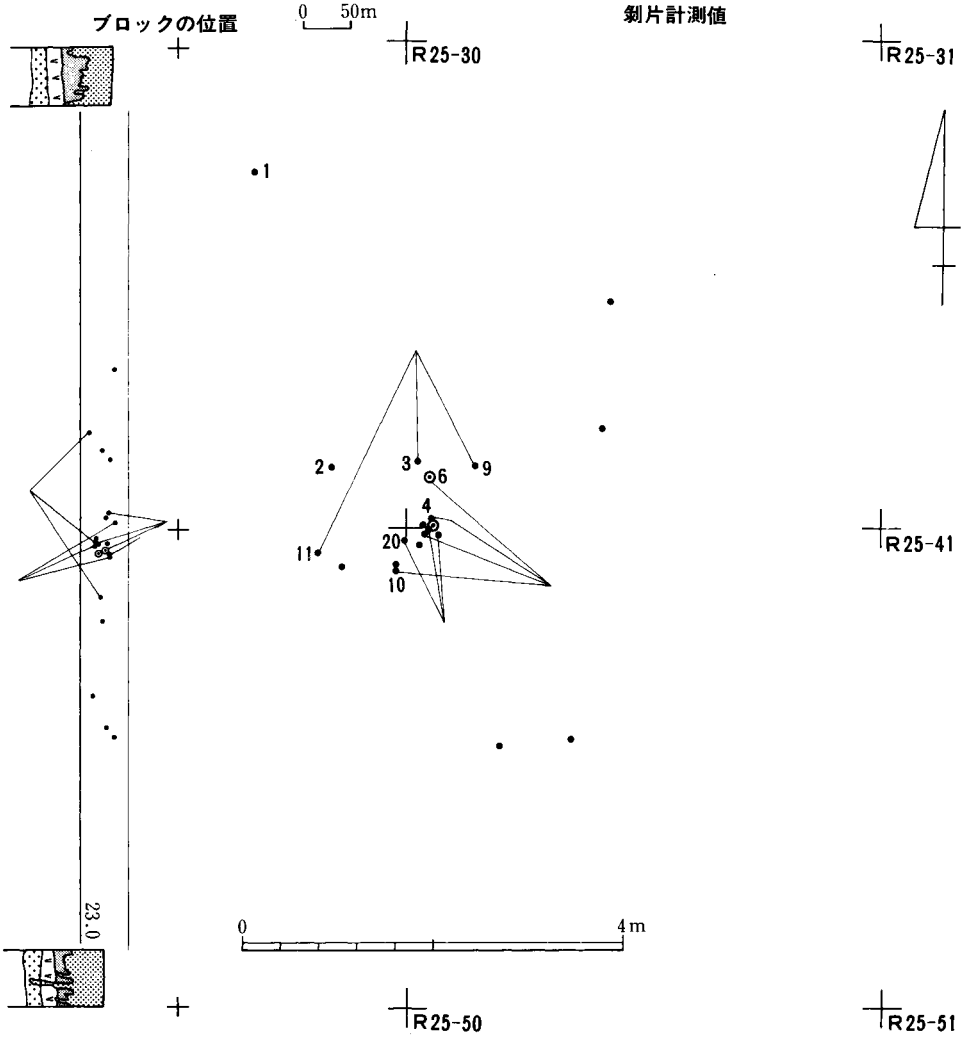



第36図　S21地点出土遺物実測図　3

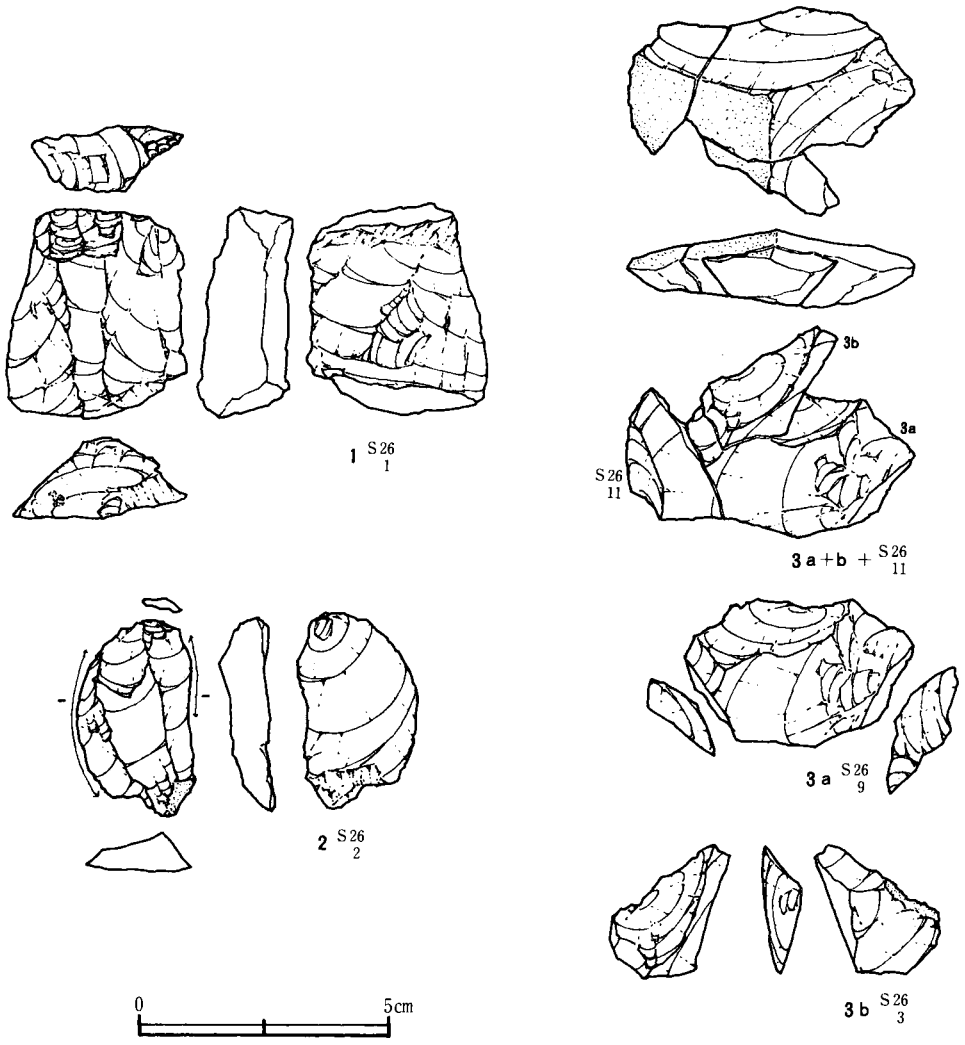



剝片計測値




第37図　S 26地点遺物分布状況



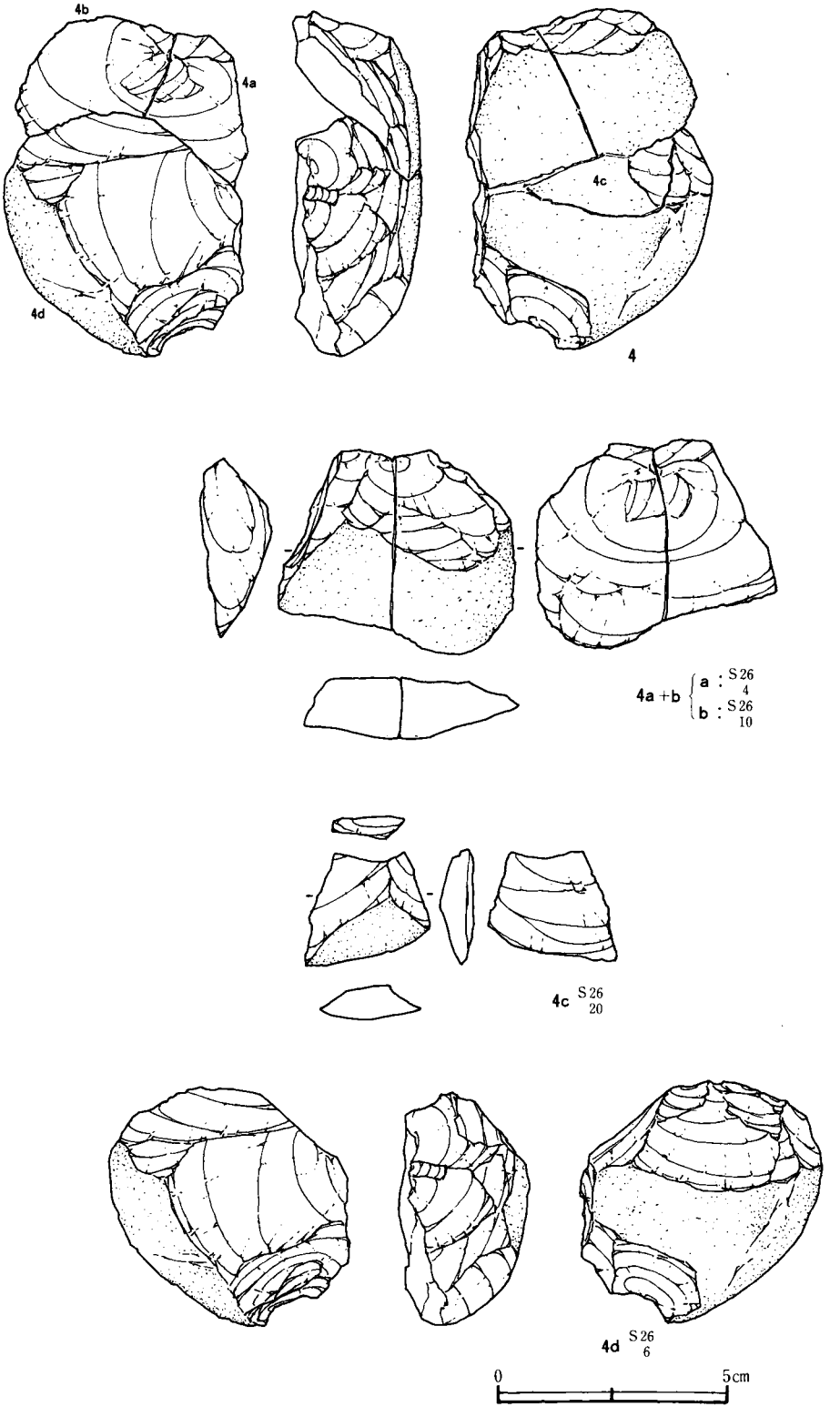

第38図　S26地点出土遺物実測図 1

いる。総数21点の資料から構成されるが、石核2点の他は全て剝片である。母岩は3種で、比較的単純な内容を示している。

安山岩a　剝片14点、石核2点からなる。石核には剝片が接合する（1・2）。1は原礫面を大きく留める分割礫を素材とする打面・作業面交代型の典型的なもの。2では剝片素材の盤状横打石核に小型の剝片が接合している。これ以外に剝片の分断されたもの3点の接合例がある。遺存した資料によるかぎり、コア・ブランクとしての剝片・分割礫の搬入と、限定的な母岩消費の過程が示唆されよう。

珪化凝灰岩a　分厚い大型剝片（3）と、小型不整形の剝片2点がある。3は単一打面から連続的に縦長の剝片が生産されており、あるいは粗製の石刃の頭部破片であるかもしれない。

玉髄a　乳白色の石材で剝片2点のみの検出であった(4)。図示したものには使用痕が顕著




第39図　S26地点出土遺物実測図 2

に観察される。以上の2石材は何れも剥片の地点内搬入によるものである。

**第20表　S26地点石器組成表**

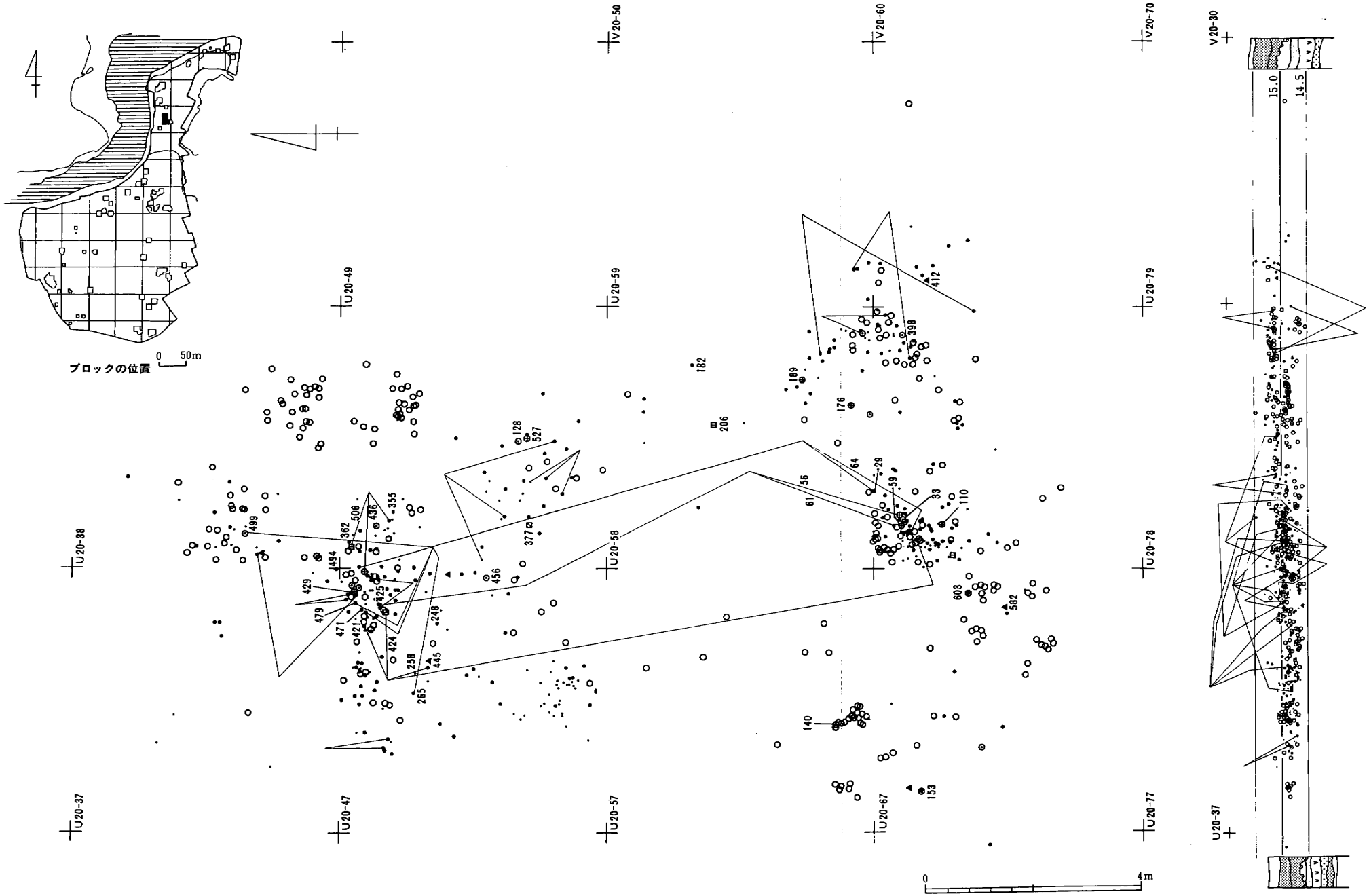
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩a | | | | | | | | 14 | | 2 | | | | 16 |
| 珪化凝灰岩a | | | | | | | | 3 | | | | | | 3 |
| 玉髄a | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| 合計 | | | | | | | | 19 | | 2 | | | | 21 |

**2・9 S29地点**（第40～53図、第21・22・23表）　東西10m、南北20mという広い範囲にわたり、遺物の散布が認められる。第40図より明らかなように分布域は大きく北側の一群と、南側の一群とに分かれているが、両群の内部においてもなお顕著な分布の疎密があり、いくつかのクラスター、すなわち複数からなる遺存資料の平面的な纏まりのうち最小単位と仮に認定しうるものの重複・複合が指摘される。ここでは便宜的に北側の一群をN群、南側をS群とする。N群にはa～e 5箇所のクラスターを、S群にはf～h 3箇所のクラスターを識別した（第40図)。各クラスターの資料構成は第22表のとおりである。なお、遺物の産出層準はソフトローム層下部～ハードローム層上部であり、大体一時期のものと判定されるが、ローム層の堆積状況、とくにVI層より上部のハードローム層の遺存状態が不良のため正確な産出層準を知りえない。

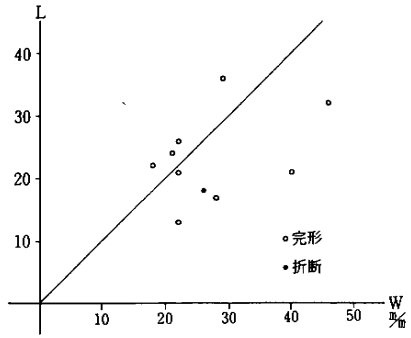
i クラスターとその特徴　N群を構成するクラスターは、これを5単位に識別したが、大雑把にみて、(1) 礫の集中するもの（a・b、bは更に2つのサブロクラスターに分離される－$b_1/b_2$)と、(2) 石器と礫の分布の重複するもの（c)、(3) 石器主体のもの（d）の3者に分類することができる。S群も同様にして、(1) 礫の集中するもの（f)、(2) 石器と礫の分

**第21表　S29地点石器組成表**

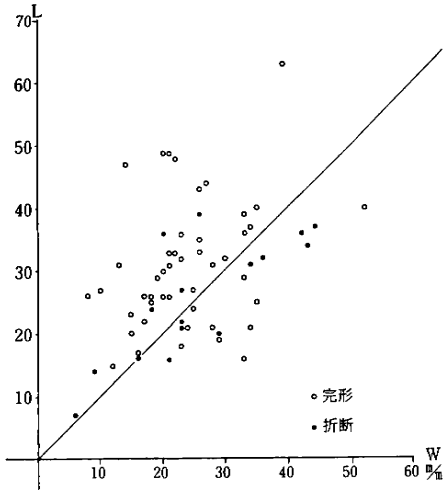
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | 16 | 26 | | | | | 42 |
| 安山岩x | 5 | | 7 | | | | | 170 | 87 | 9 | | | | 278 |
| 流紋岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 流紋岩b | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 流紋岩c | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| チャートa | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| チャートb | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| チャートc | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 珪質頁岩a | | | | | | | 1 | 1 | 3 | | | | | 5 |
| 砂岩a | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| メノウa | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| メノウb | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | 2 |
| メノウc | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | 5 | | 8 | | | | 2 | 193 | 118 | 10 | | | 1 | 337 |



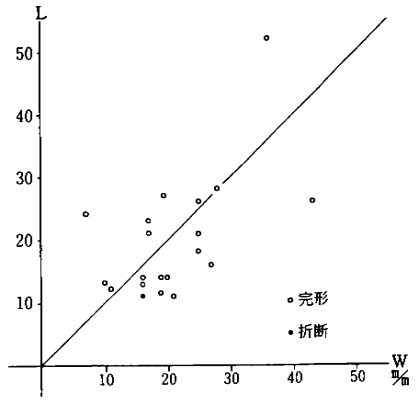

第40図　S 29地点遺物分布状況



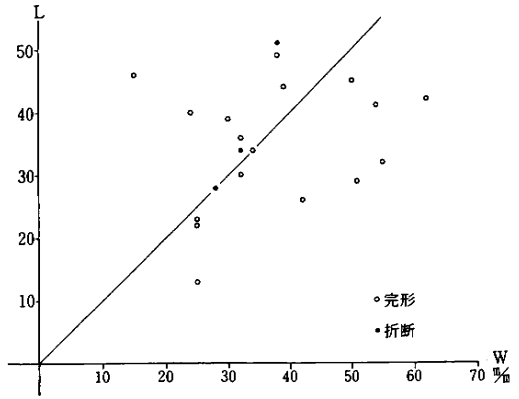

S29a剝片計測値



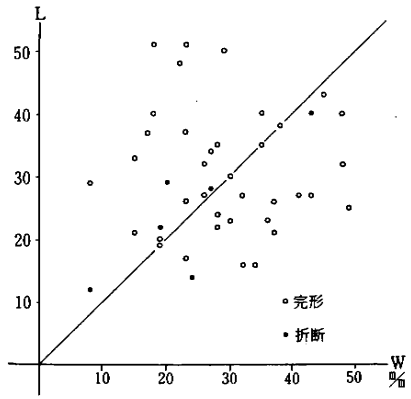

S29c剝片計測値



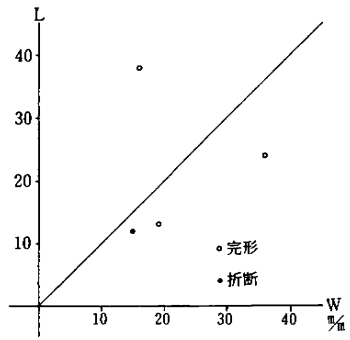

S29d剝片計測値



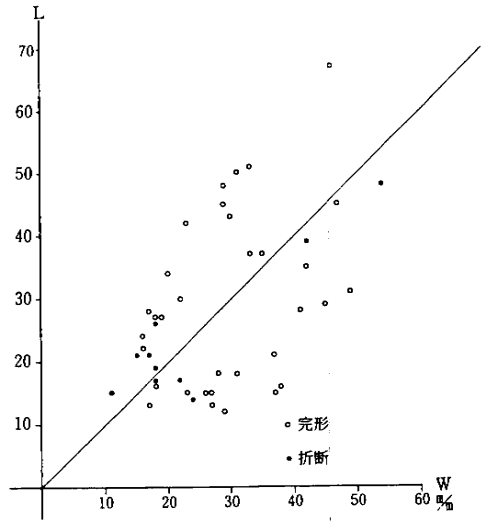

S29e剝片計測値



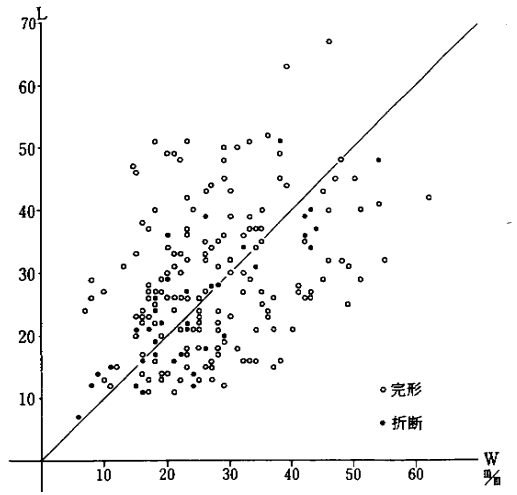

S29f剝片計測値




S29g剝片計測値




S29h剝片計測値




S29 剝片計測値

第41図　S29地点剝片計測値

第22表　S29地点クラスター別資料内訳

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| クラスターa | 1 | | | | | | 10 | 10 | 1 | | | | 14 | 44 |
| クラスターb | | | | | | | | | | | | | 48 | 48 |
| クラスターc | 2 | | 2 | | | | 65 | 37 | 2 | | | | 32 | 140 |
| クラスターd | | | | | | | 19 | 30 | 1 | | | | 11 | 61 |
| クラスターe | | | 1 | | | | 22 | 7 | 1 | | | 1 | 6 | 38 |
| クラスターf | | | 1 | | | | 6 | 2 | 1 | | | | 33 | 43 |
| クラスターg | 1 | | 2 | | | | 46 | 30 | 3 | | | | 66 | 148 |
| クラスターh | 1 | | 2 | | | | 27 | 2 | 1 | | | | 33 | 66 |
| 合計 | 5 | | 8 | | | | 195 | 118 | 10 | | | 1 | 237 | 588 |

（注）剝片には剝片Rを含む

布の重複するもの（g・h）と分類される。

石器の分布とクラスターとの関連性に関しては、細部加工の顕著なものが広範囲に散在し、特定のクラスターへの偏在的な分布の認められないこと、クラスターdが特定石材(黒曜石a)の消費地点であること、それ以外の剝片類はいくつかの礫の集中地点（クラスターc・g・h等）の近傍に集中する傾向が高いこと等が指摘される。

ii石器群の特徴　本地点の検出資料内訳は第21表に示した。また、主要資料については第44図～第53図に掲載した。

ナイフ形石器　大きく尖頭器状のものと（1a・3）と台形状のもの（2）とに分けることができる。1aは別の剝片と接合し、同一打面から連続的に剝離された縦長剝片を素材としている。一方、3では横長に近い幅広剝片を大きく変形することによって尖頭器状の形状を確保している。刃部の剝離は損傷であろう。2は所謂切出型石器である。図示していない2点は何れも破片であり、全体の形状を窺うことはできない。

削器　8点あるが（6～10、18a・b）、定型的な端削器を含んでいない。比較的大振りな剝片の側縁に鋸歯状の刃部を作出するものが一般的であり、盤状石核との判別の微妙なものばかりで、器種の認定に問題が残る。今後、従来石屑として一括処理されてきた小型の剝片に対する十分な注意が要請される。この事情は4・5等の角錐状石器類似の小型盤状石核に対しても同様であり、この種の石器が石核から出自した蓋然性が指摘されるばかりでなく、石器群の全体的体系に大きな影響を及ぼすことにもなろう。

剝片と石核　剝片生産技術に関しては接合資料（15～19）によってその大要を知ることができるが、何れも本地域の一般的な技法群を逸脱するものではない。解説は略する。

iii石器群の母岩構成と接合関係　本ブロックの石器群には安山岩が多く用いられており、それは全資料の82.49%(278/337)に達する。これ以外には黒曜石aが12.46%(42/337)と比較的多いが、その他の11母岩は全て5点以下となっている。このように安山岩が卓越している状況は、

第23表　S 29 地点礫の母岩別分布状況

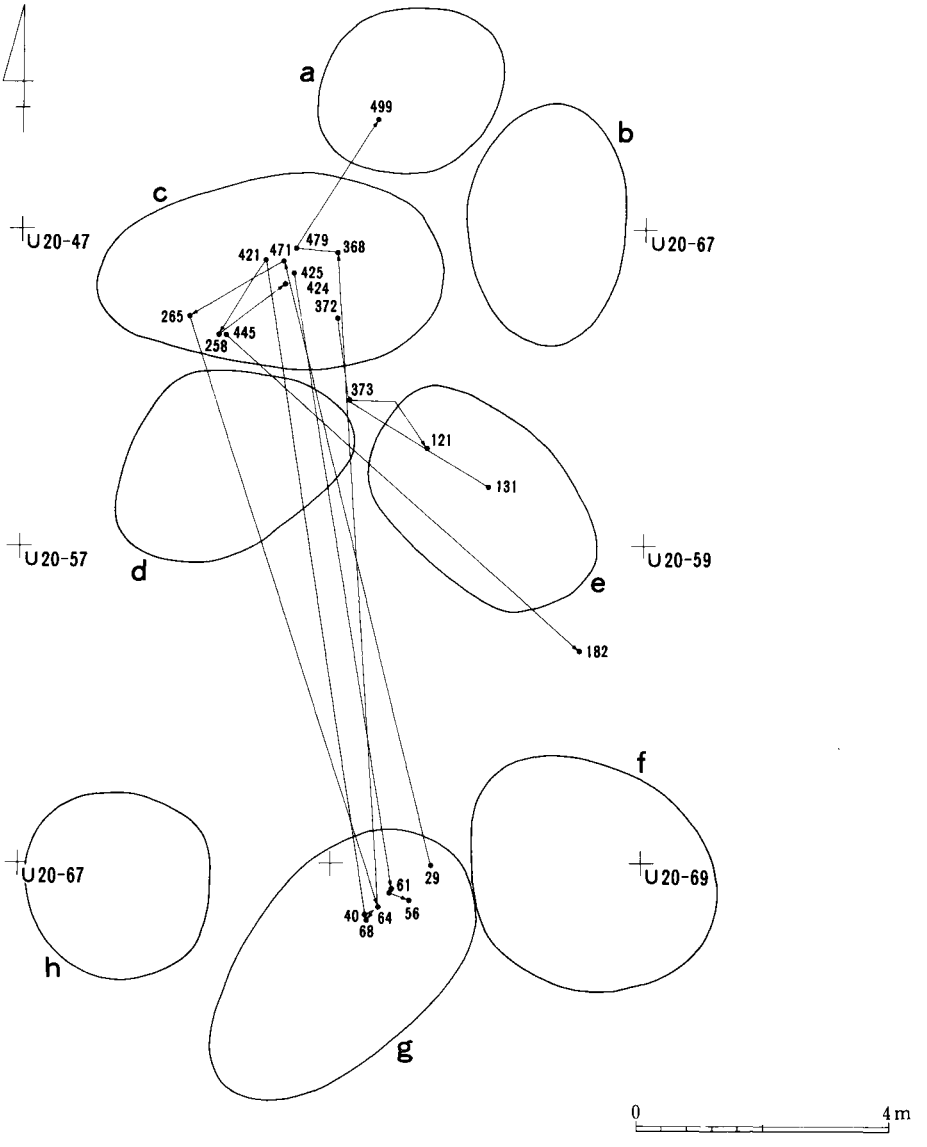
| | a | b | c | d | e | f | g | h |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩a | 1 | | | | | | | |
| 安山岩b | 4 | | 5 | 6 | 1 | | 8 | 3 |
| 安山岩c | 3 | 5 | 3 | 1 | | | 1 | 17 |
| 安山岩d | | 2 | 1 | | | | 5 | |
| 安山岩e | | | 1 | | | | | |
| 安山岩f | | | 1 | | | | 5 | |
| 安山岩g | | | | 1 | | | | |
| 安山岩h | | | | 1 | | | | |
| 安山岩i | | | | | 1 | | | |
| 安山岩J | | | | | | | 1 | |
| 安山岩k | | | | | | | 1 | |
| 安山岩l | | | | | | | 1 | |
| 安山岩m | | | | | | | 7 | 1 |
| 安山岩n | | | | | | | | 1 |
| 安山岩o | | | | | | | | 1 |
| 安山岩p | | | | | | | | 1 |
| 安山岩q | | | | | | | | 1 |
| 安山岩r | | | | | | | | 1 |
| 流紋岩a | 2 | | | | | | | |
| 流紋岩b | | 1 | | | | | | |
| 流紋岩c | | 13 | | | | | | 2 |
| 流紋岩d | | | 1 | | | | | |
| 流紋岩e | | | 1 | | | | | |
| 流紋岩f | | | 1 | | | | | |
| 流紋岩g | | | 1 | 4 | | | | |
| 流紋岩h | | | 2 | | | 1 | | 1 |
| 流紋岩i | | | 3 | | | 4 | | 1 |
| 流紋岩J | | | | | | 1 | | |
| 流紋岩k | | | | | | 1 | | |
| 流紋岩l | | | | | | 1 | | |
| 流紋岩m | | | | | | 1 | | |
| 流紋岩n | | | | | | 1 | | |
| 流紋岩o | | | | | | 1 | | |
| 流紋岩p | | | | | | 4 | | |
| 流紋岩q | | | | | | 10 | | |
| 流紋岩r | | | | | | | | |
| 流紋岩s | | | | | | | 3 | |
| 流紋岩t | | | | | | | | 3 |
| 流紋岩u | | | | | | | | 2 |
| 流紋岩v | | | | | | | | 1 |
| 流紋岩w | | | | | | | | 1 |
| 流紋岩X | | | | | | | | 1 |
| 流紋岩Y | | | | | | | | 1 |
| チャートa | 3 | 1 | 1 | | 1 | | 1 | |
| チャートb | | | | 1 | | | | |
| チャートc | | | | | | | | 1 |
| 砂岩a | 1 | 4 | 1 | | | | | 7 |
| 砂岩b | | | 1 | | | | | |
| 砂岩c | | | | | | 1 | | |
| 砂岩d | | | | | | 1 | | |
| 砂岩e | | | | | | 2 | | |

母岩不明は除外

個々の資料の母岩への還元を著しく困難なものとしており、従って第21表では安山岩を一括して便宜的に安山岩xと表示している。しかしながら、安山岩のうちごく一部のものについては母岩の分離が可能であった。黒曜石aについてはクラスターdに集中しており、ここを消費地点と推定した。

ここで、特に注意したいのは安山岩の分布状況で、母岩の識別が可能であった少量の資料からは以下の特徴が指摘される。

(1) N・S両群の内部で完結する分布を示すものもあるが（Xb・Xf・Xg)、両群にまたがっているものが目立つ（Xa・Xc・Xd・Xe・Xh・Xi・Xj等)。各母岩のクラスター毎の分布




第42図　S29地点主要接合資料の分布状況

状況は以下のとおりである。

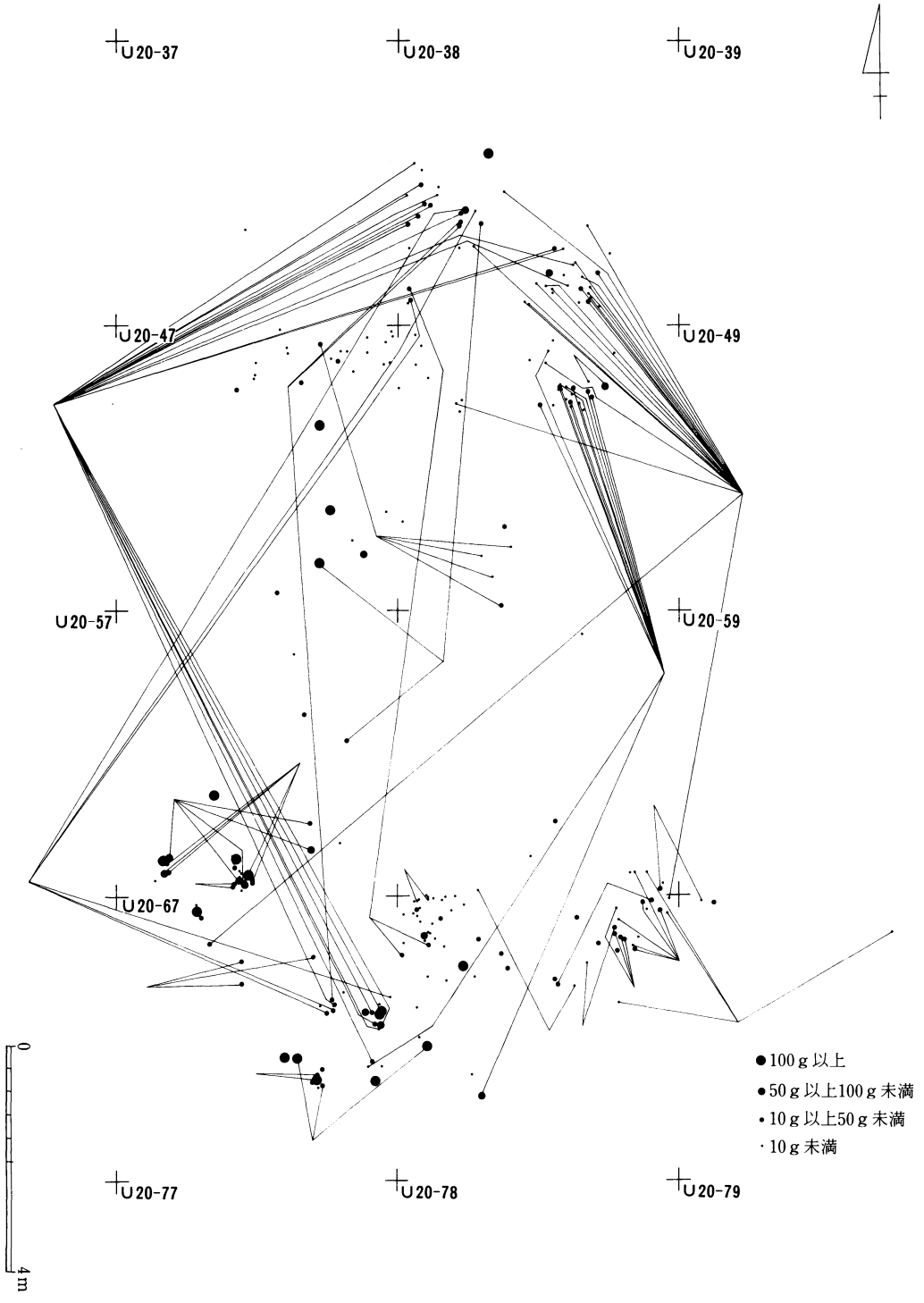
| | a | b | c | d | e | f | g | h |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Xa | − | − | + | + | + | + | + | − |
| Xb | − | − | − | − | − | + | + | − |
| Xc | − | − | + | + | − | − | + | − |
| Xd | + | − | + | − | − | − | − | + |
| Xe | − | − | + | − | + | − | + | + |
| Xf | + | − | + | − | + | − | − | − |
| Xg | − | − | + | − | + | − | − | − |
| Xh | + | − | + | − | − | − | + | − |
| Xi | − | − | + | − | − | − | + | + |
| Xj | − | − | + | − | − | − | + | − |

この表からクラスターｃとｇを中心とする分布状況が知られる。

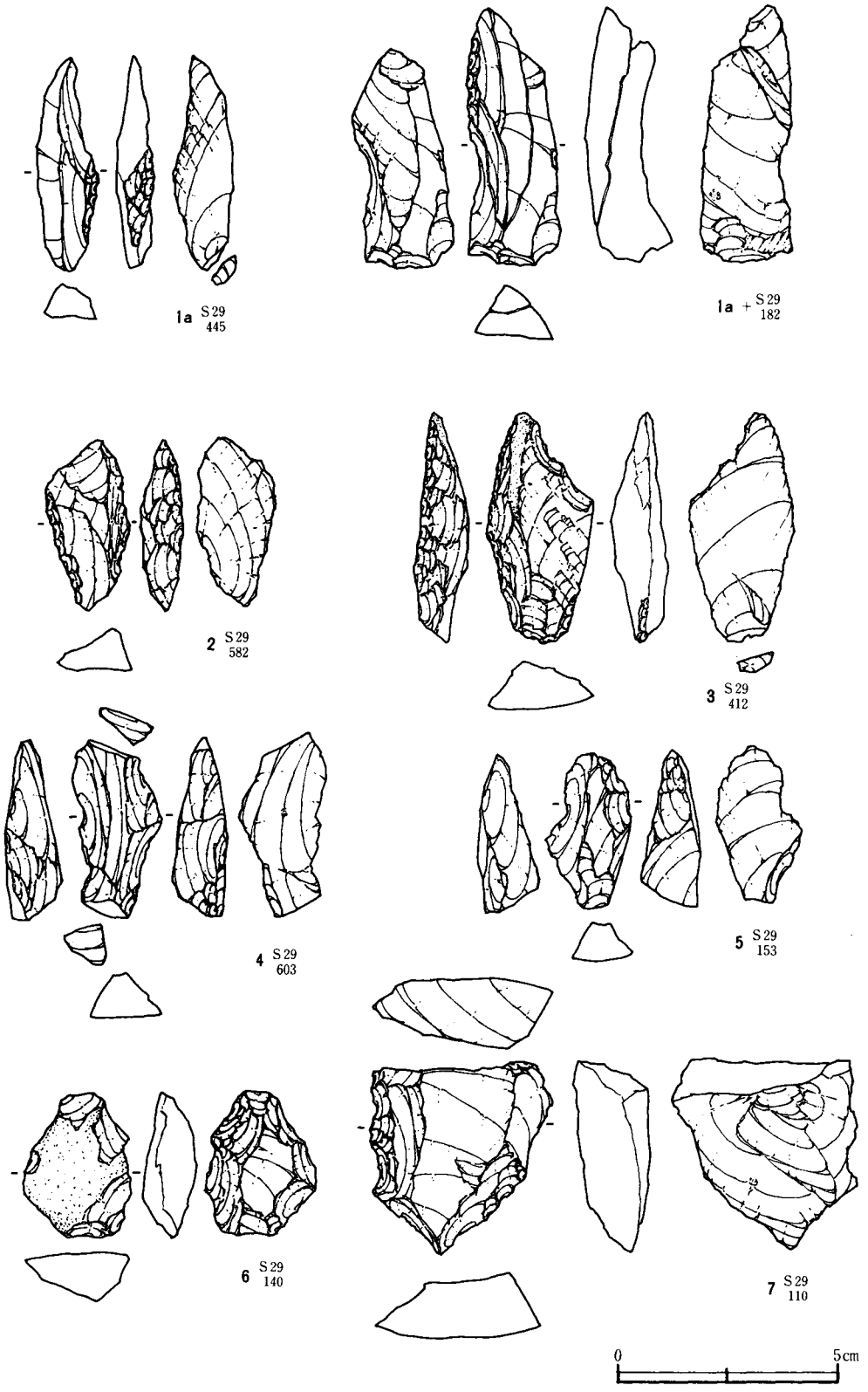
(2) 次に、各母岩に含まれる接合資料を観察すると、Xh・Xi・Xj その他母岩識別不明のもの１の合計４母岩にＮ・Ｓ両群にまたがる接合資料が知られている。また、Xe・Xf・Xg には近接クラスター間の接合関係が認められた。これを次に示す。

| | a | b | c | d | e | f | g | h |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Xe | | | | | | | + | + |
| Xf | | | + | | | + | | |
| Xg | | | + | | + | | | |
| Xh | + | ← | + | ← | | → | + | |
| Xi | | | + | | ← | | + | |
| Xj | | | + | | → | | + | |

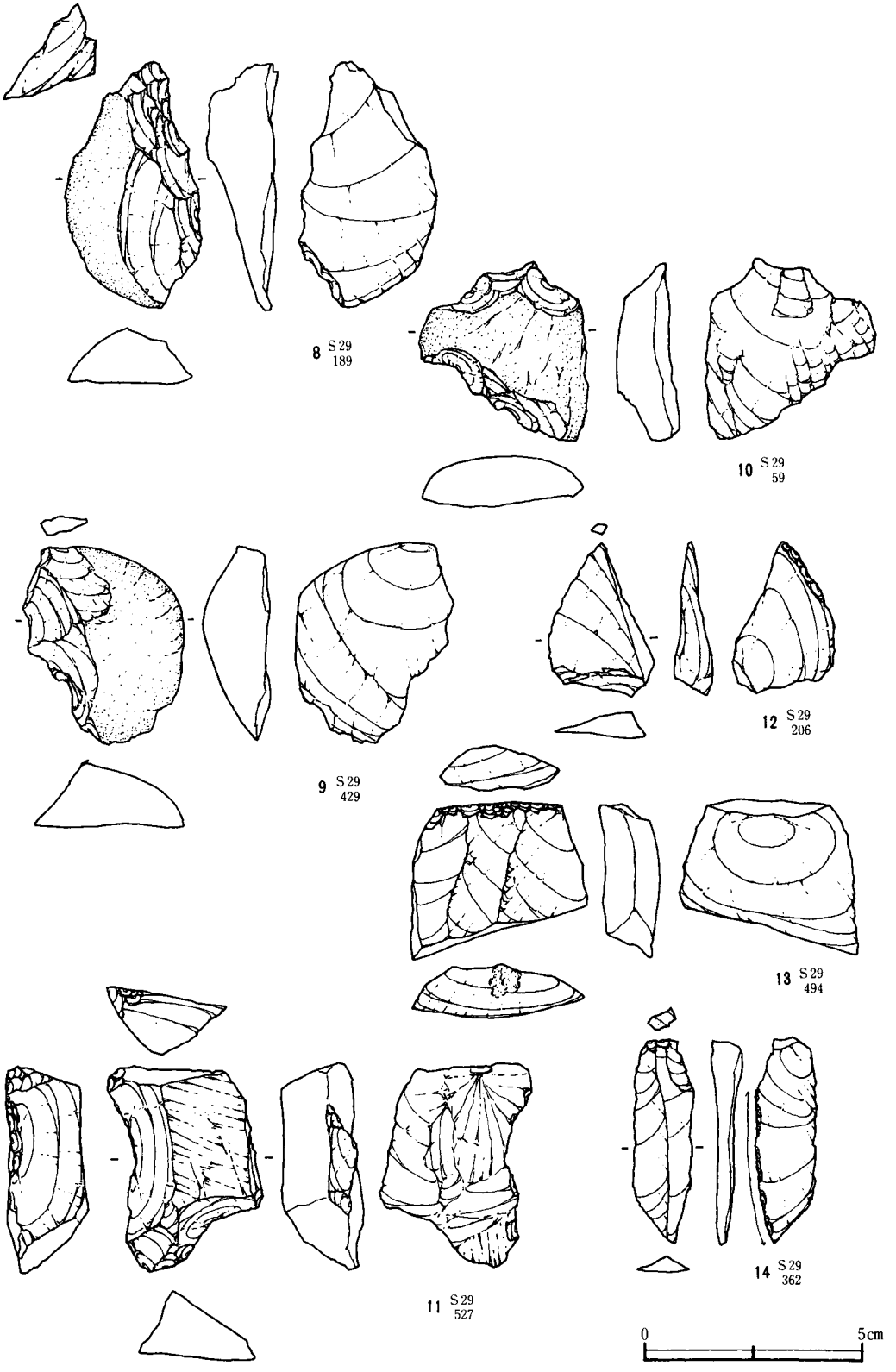
この表では、剝離工程上の先後関係の明らかなものに関しては矢標を付した。一見して明らかなように、クラスターｃとｇの間で頻繁な接合関係が抽出されるが、一方から他方へという単純な移動関係を想定することは困難である。しかし、クラスターｃが安山岩の主要母岩を保有し、かつ接合資料をも多く含むことから、ある段階において、このクラスター及びその周辺が安山岩の複数母岩を対象とする石材消費地点として機能していた可能性は考慮されてよいで



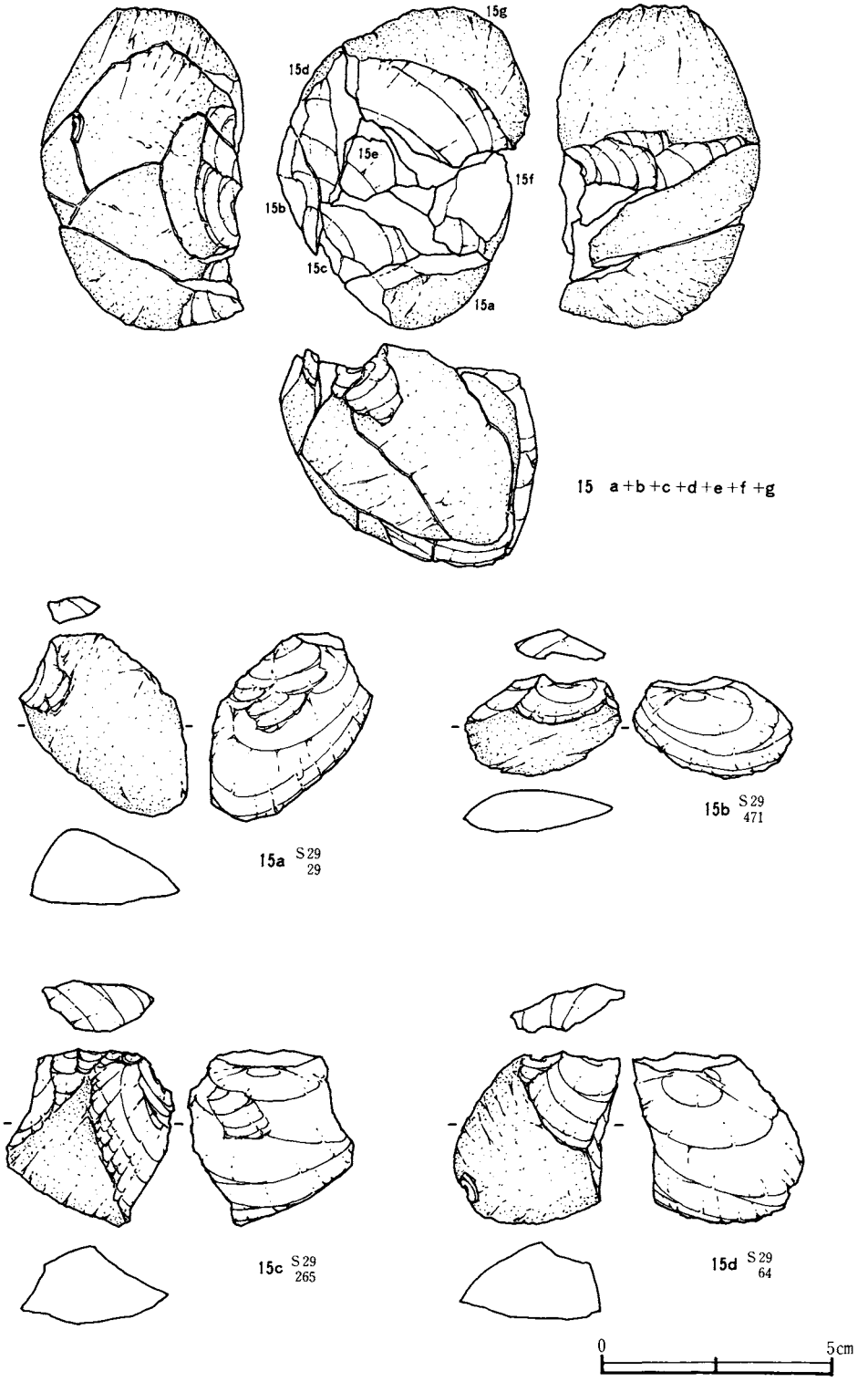

第43図　S29地点出土礫の重量別分布状況



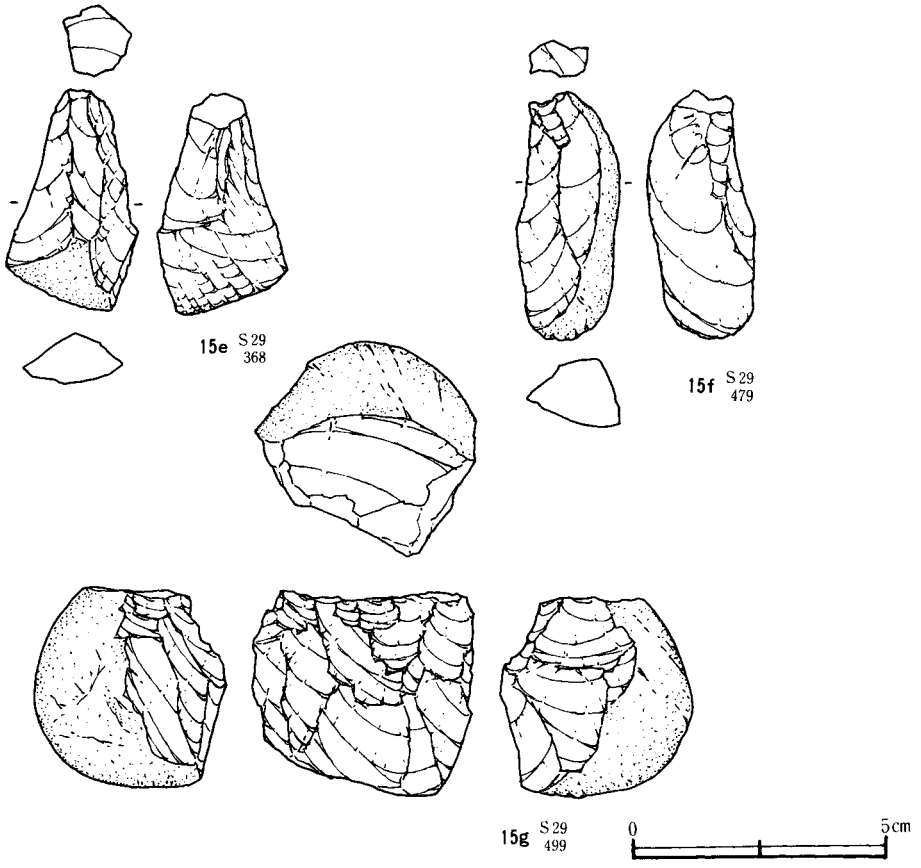

第44図　S29地点出土遺物実測図　1




第45図　S29地点出土遺物実測図　2




第46図　S29地点出土遺物実測図 3



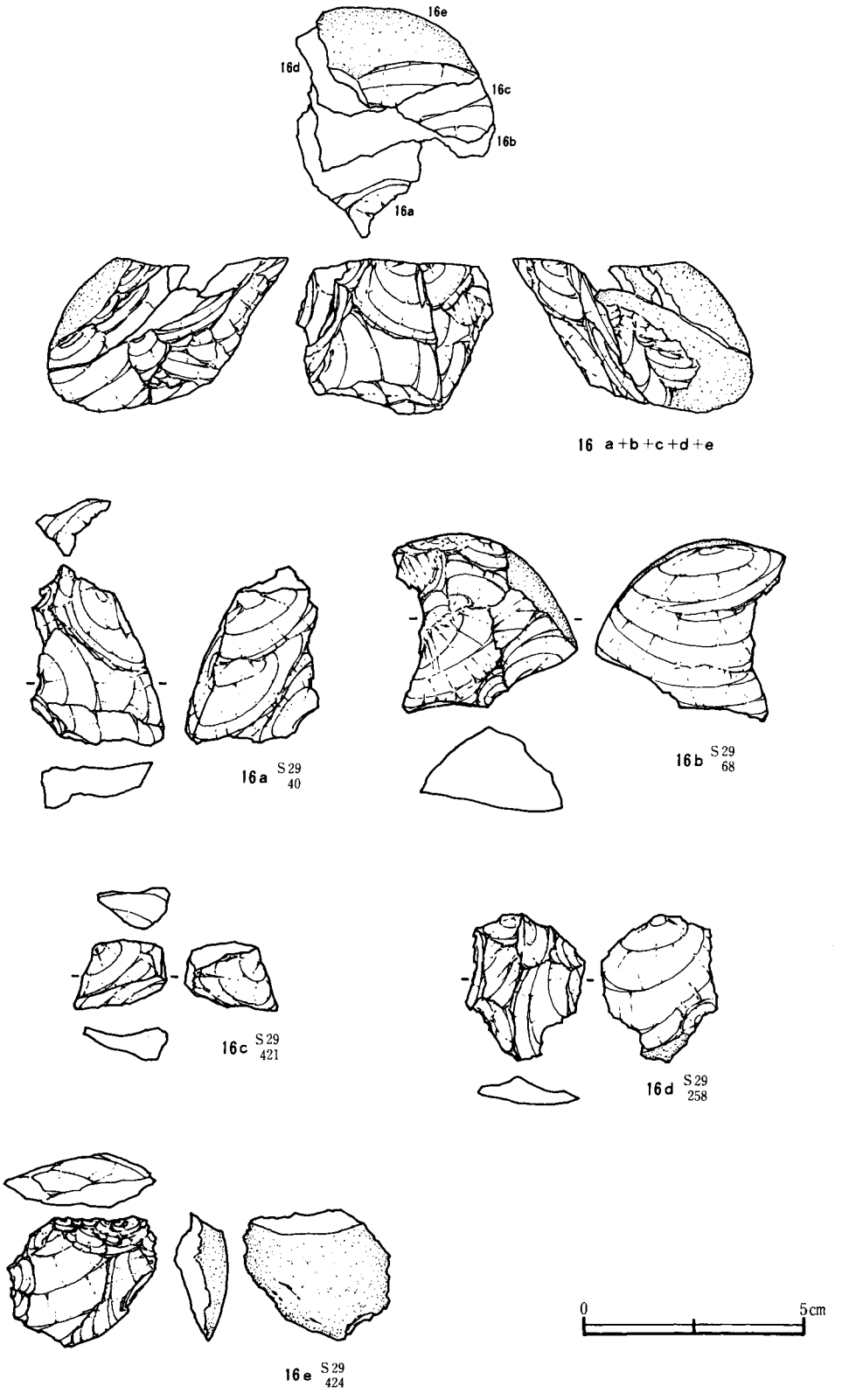

第47図　S29地点出土遺物実測図　4

あろう。また、S群ではクラスターgがこれと近似的な内容を示しており、限定的ながら同様の性格規定が可能であろう。

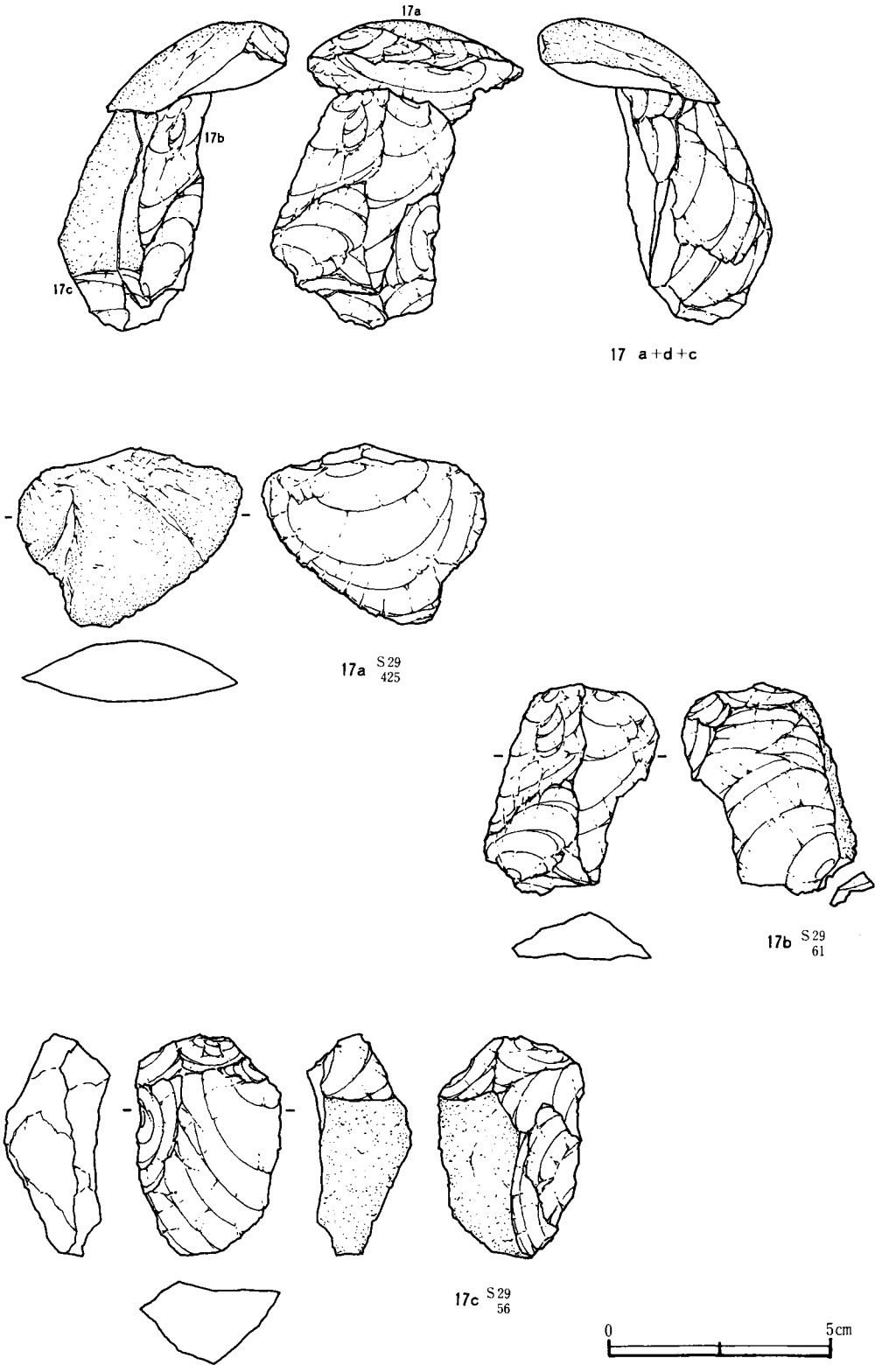
iv礫の分布とその特徴　第23表に各母岩のクラスター別の分布状況を示した。この表から各クラスターには特定の母岩が集中するという一般的傾向は窺えるが、クラスターを超えて分布する母岩が存在すること、しかも、それが決して少数ではないことが読み取られよう。このような現象の要因として、先ず母岩識別段階でのエラーが考えられるが、第42図に提示した各母岩の接合状況より明らかなように、多数の接合線が交錯しており、叙上の識別に大きな誤りのないことを示している。このような状況から、以下の特徴が抽出される。

(1)　母岩の破損に伴う飛散範囲を接合線によって辿ると、それは始めに想定したクラスターの範囲を超える場合が一般的であり、このことが、近接するクラスター間に同一母岩が分布する最大の要因であるとみられる。微細な礫片が企図的に搬出・入の対象とならないことを前提とすれば、その飛散の要因は、①礫の使用地点の移動に伴う廃棄地点の複合・重複、②礫片廃棄後の変換過程（transform n/c）という二様の可能性を想定することができる。

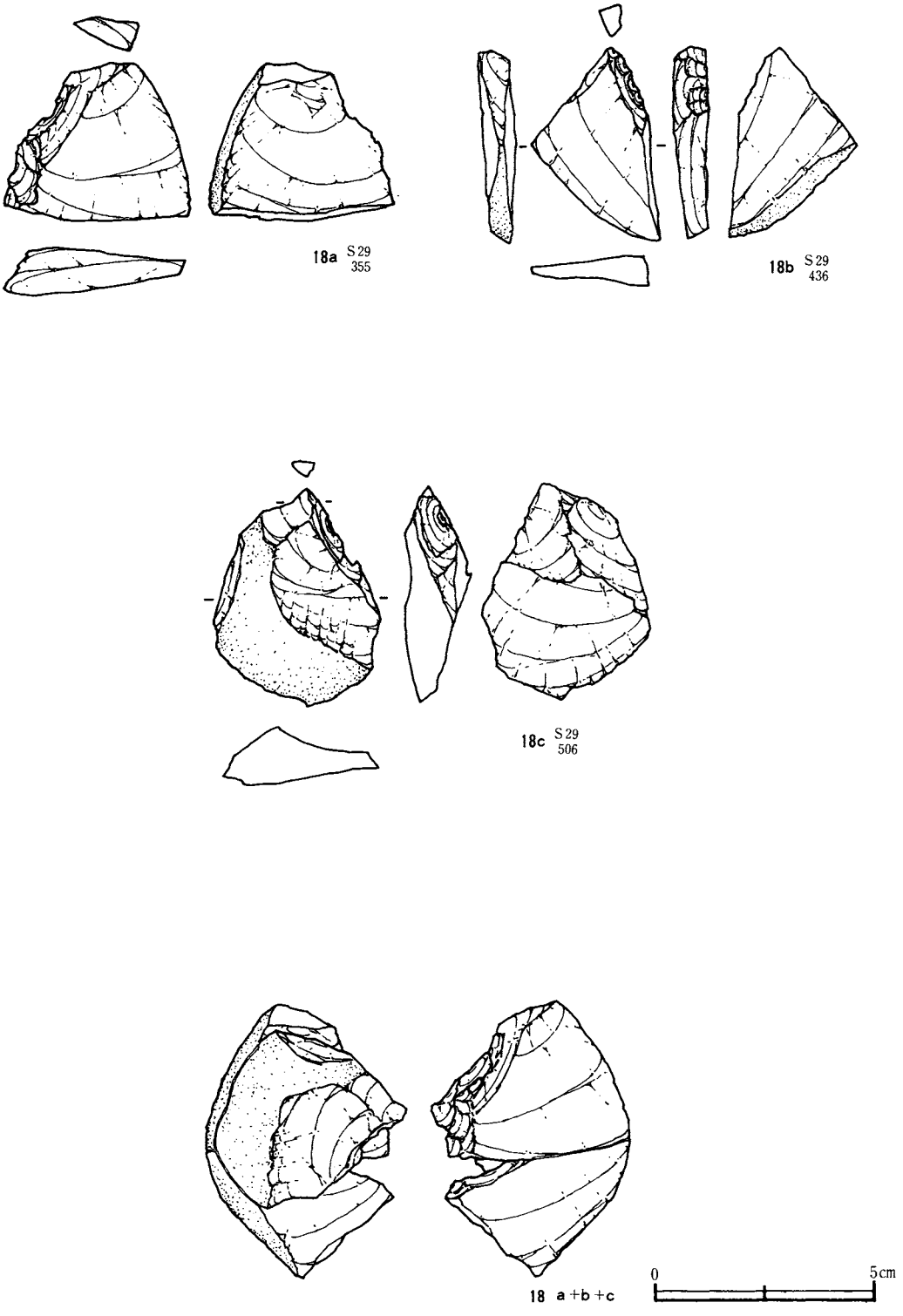
(2)　N群とS群に帰属する礫の重量別分布、並びに接合状況を第43図に示した。この図より、



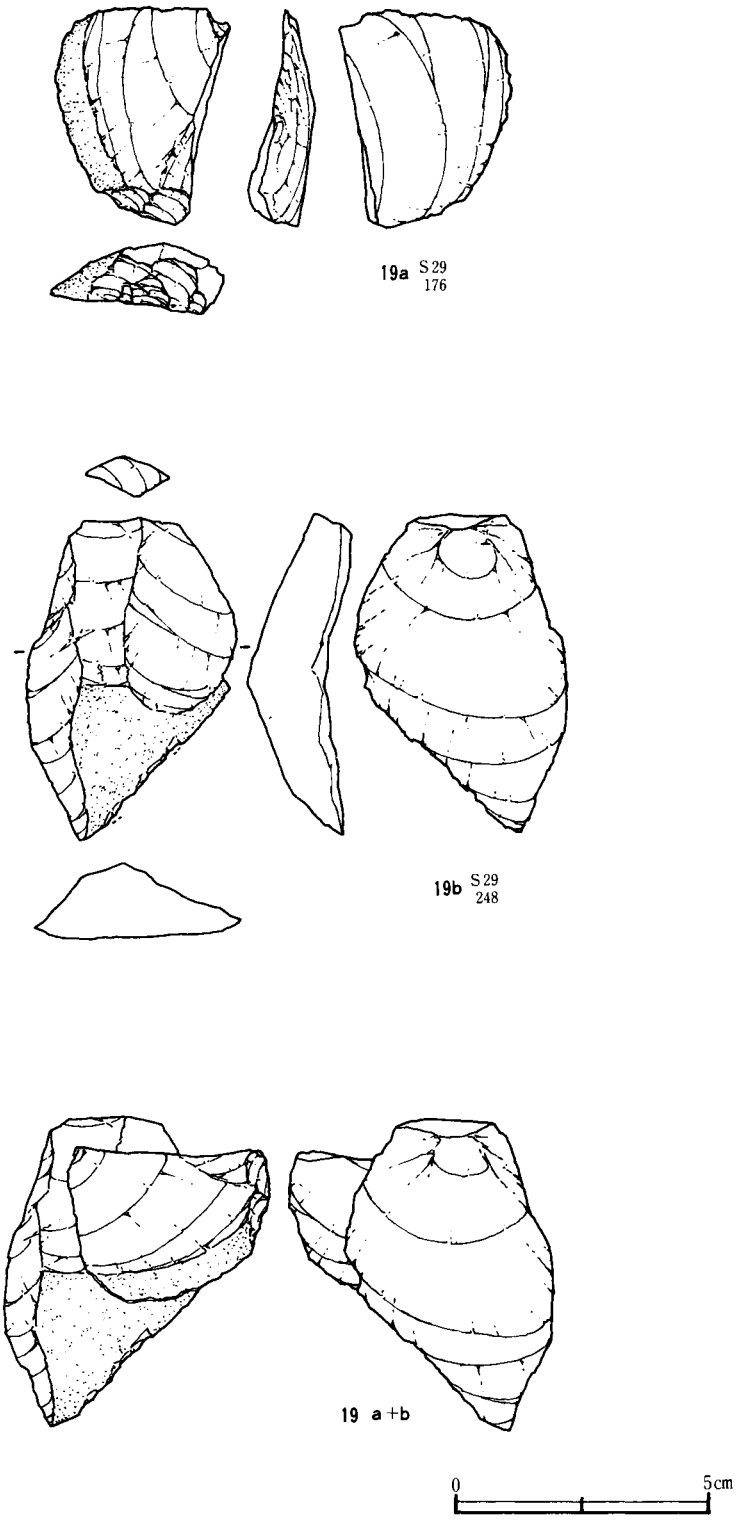

第48図　S29地点出土遺物実測図　5



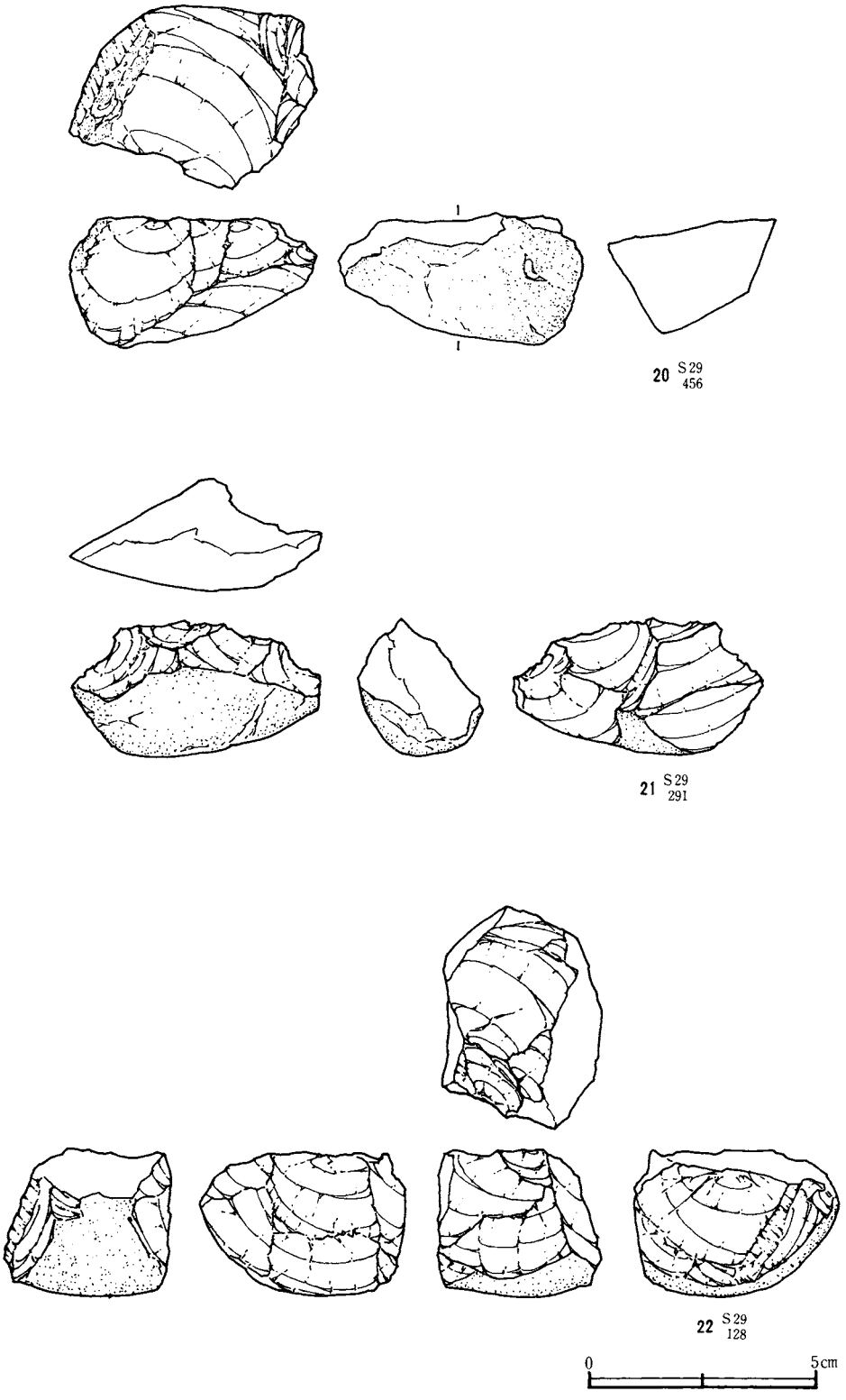

第49図　S29地点出土遺物実測図 6



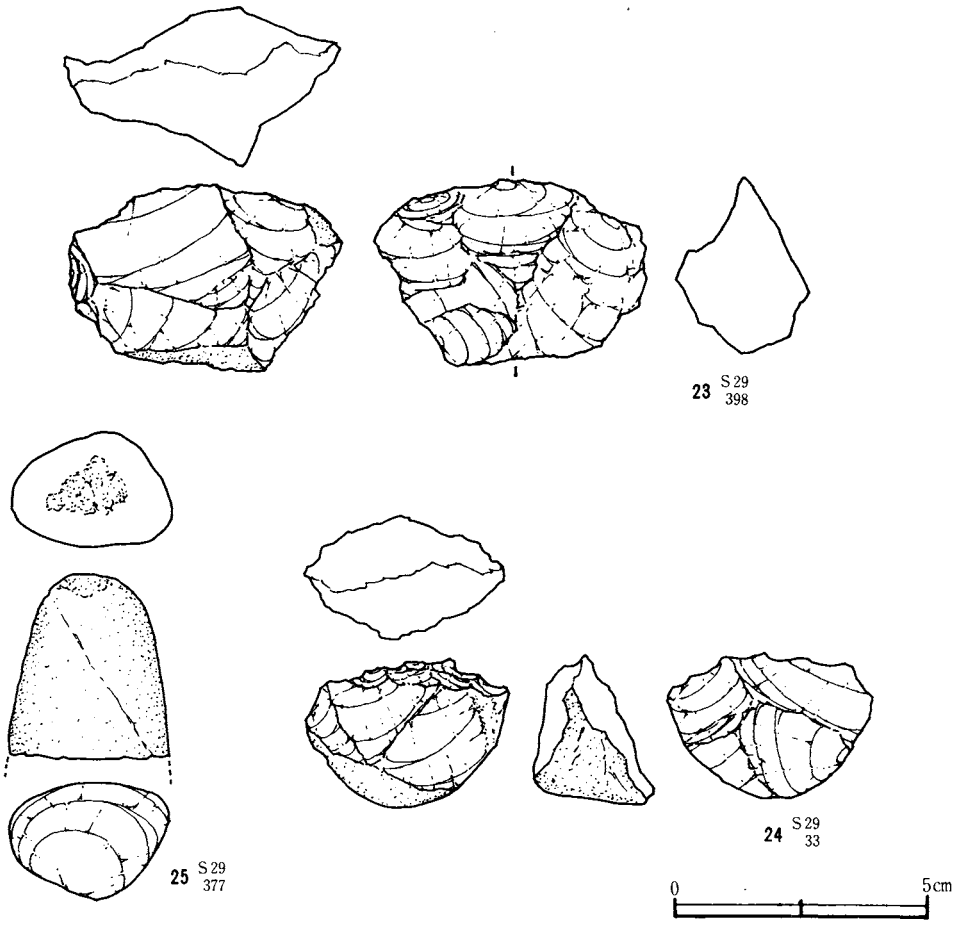

第50図　S29地点出土遺物実測図 7




第51図　S29地点出土遺物実測図 8




第52図　S29地点出土遺物実測図　9




第53図　S29地点出土遺物実測図 10

N群には破砕した小片が多く分布し、かつそれらの破砕片のうち相当量のものがS群と接合する状況が読み取られる。これは前項で指摘した①の可能性を示唆するばかりか、比較的大型の礫片がS群に偏在していることを考慮すると、礫の使用地点が大きくN群からS群に移動した過程を反映するものとみられよう。

(3)　一方、各群内に遺存する同一母岩の飛散状況は、各クラスターに収斂する傾向は看取されるものの、その外縁に位置するものの一部は明らかに個別クラスターの範囲を逸脱し、間クラスター的な分布状況を示している。これは、②のパターンを示すものと理解されよう。

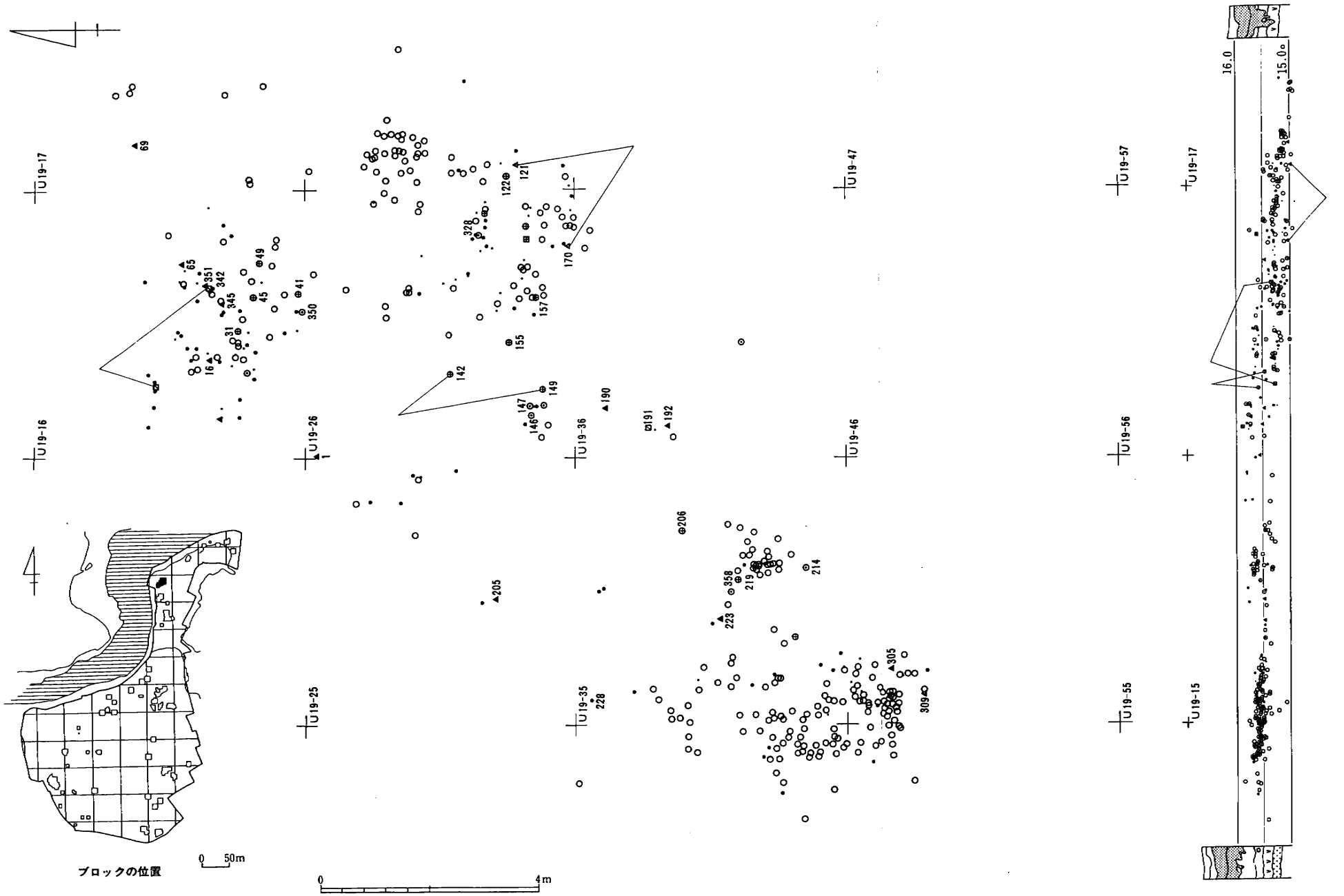
v まとめ　本地点は8ヵ所の見かけ上のクラスターから構成されていたが、これらのクラスターは大きく南北2群に分離された。これは単に見かけ上の分離にとどまらず、礫の分布・接合状況からも妥当性をもった分離であることが判明した。しかし、安山岩製の石器類の遺存状況を検討するかぎり、両群に格別の時間差を設定することは困難であり、継起的な形成過程が想定される。この場合、一集団あるいは、複数集団の異所同時居住を想定するよりもむしろ、

比較的規模の大きな同一集団による前後2時期にわたる占地が、極めて近接した時間内に、あるいは連続的に反復して行われた可能性がより高いように考えられる。

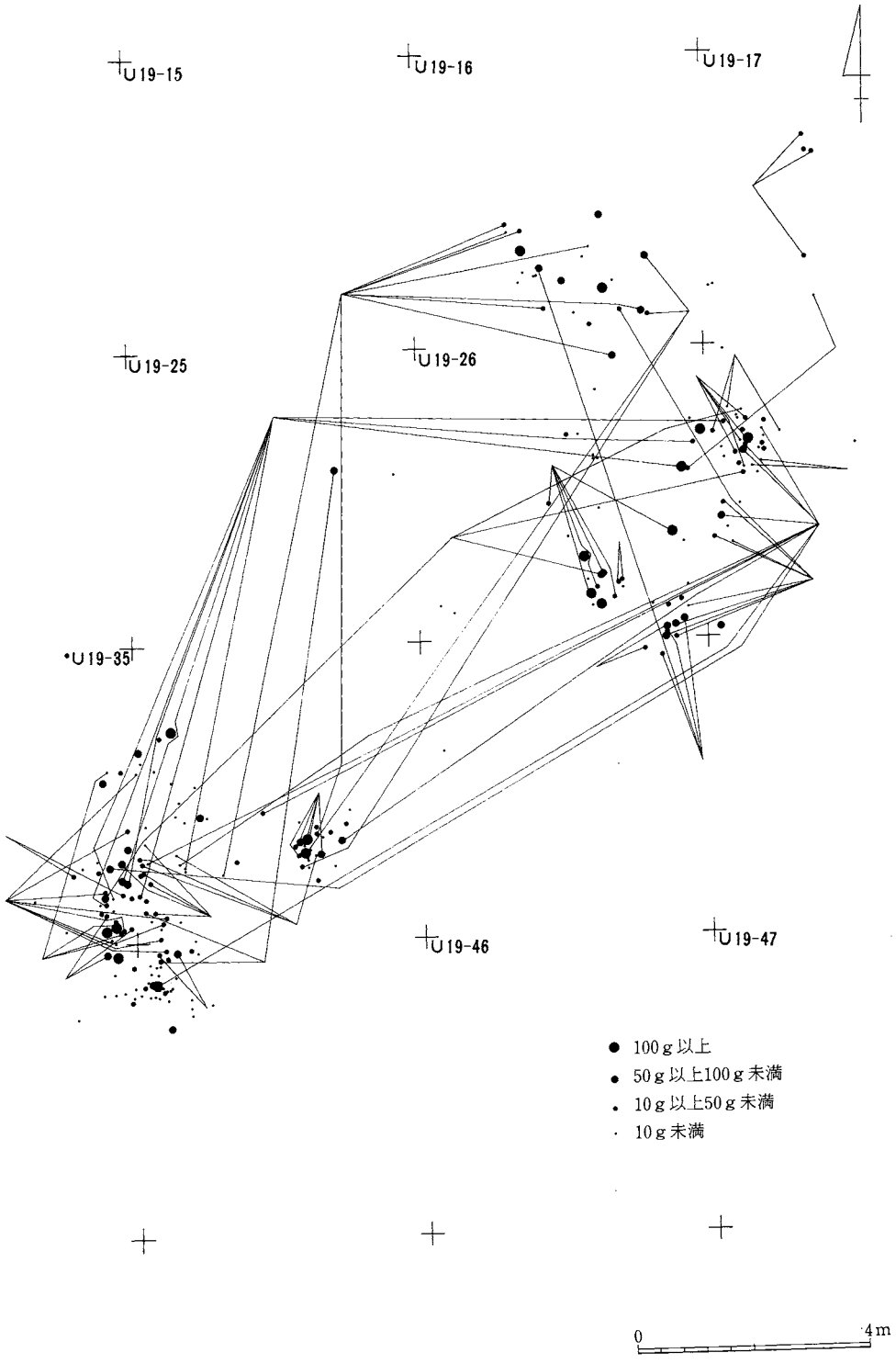
**2・10 S30地点**（第54～61図、第24～27表）　S29地点の北側約50mの台地平坦面上に位置するが、西側はすぐに谷に落ちる斜面となる。遺物の分布範囲は南北約15m、東西も約15m程で、S29地点と同様に比較的広い範囲に多くの遺物が散乱していた。分布図の上から3箇所の集中地点、すなわちクラスターが識別され、これらをクラスターa・b・cと呼んだ（第54図）。このうち、クラスターa・bは相互に接しており、クラスター（a・b）・cという南北2群の構成を示すものとも理解可能である。遺物の産出層準はV層、第1黒色帯であり、S29地点と

**第24表　S30地点石器組成表**

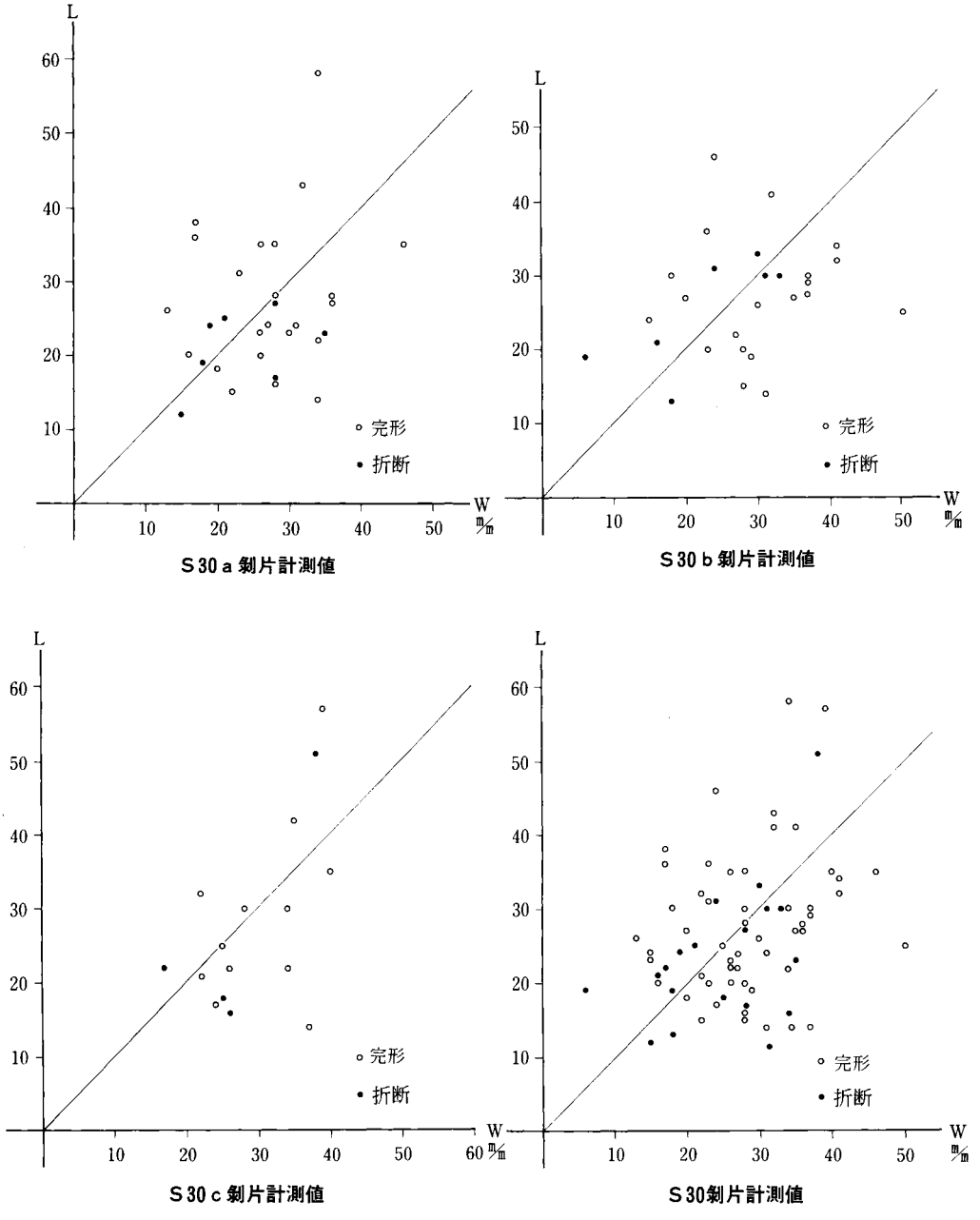
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 黒曜石b | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| 黒曜石c | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | 2 |
| 黒曜石d | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 |
| 安山岩a | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 安山岩b | | | 1 | | | | | 3 | 1 | | | | | 5 |
| 安山岩c | 2 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 安山岩d | 2 | | | | | | | 4 | | | | | | 6 |
| 安山岩e | | | 1 | | | | | 3 | | 1 | | | | 5 |
| 安山岩f | 1 | | | | | | 2 | 2 | 3 | | | | | 8 |
| 安山岩g | 2 | | | | | | | | 1 | | | | | 3 |
| 安山岩h | | | 2 | | | | 1 | 3 | 2 | | | | | 8 |
| 安山岩i | 1 | | | | | | 2 | 8 | 5 | | | | | 16 |
| 安山岩j | 2 | | 2 | | | | | 11 | 13 | 1 | | | | 29 |
| 安山岩k | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 安山岩l | | | | | | | | 3 | 2 | | | | | 5 |
| 安山岩不明 | | | | | | | | 1 | 3 | | | | | 4 |
| 流紋岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 珪化凝灰岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 珪化凝灰岩b | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 珪質頁岩a | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 珪質頁岩b | | | | | | | | | | 3 | | | | 3 |
| 珪質頁岩c | | | | | | | 1 | 13 | 4 | 2 | | | | 20 |
| チャートa | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 |
| チャートb | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 |
| チャートc | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 砂岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 砂岩b | | | | | | | | 4 | | | | | | 4 |
| 砂岩c | | | | | | | | 3 | 2 | | | | | 5 |
| 砂岩d | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 石英a | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 合計 | 12 | | 7 | | | | 6 | 67 | 41 | 11 | | | 3 | 147 |




第54図　S30地点遺物分布状況




第55図　S30地点出土礫の重量別分布状況




第56図　S30地点剥片計測値

**第25表　S30地点クラスター別資料内訳**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 礫 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| クラスターa | 5 | | 2 | | | | 29 | 14 | 2 | | | 2 | 35 | 89 |
| クラスターb | 3 | | 2 | | | | 24 | 19 | 6 | | | | 81 | 135 |
| クラスターc | 4 | | 3 | | | | 20 | 8 | 3 | | | 1 | 150 | 189 |

第26表　S 30地点クラスター別母岩分布1（石器）

| | クラスターa | クラスターb | クラスターc |
|---|---|---|---|
| 黒曜石a | 1 | 1 | |
| 黒曜石b | | 1 | |
| 黒曜石c | | 1 | 1 |
| 黒曜石d | | | 2 |
| 安山岩a | | 1 | |
| 安山岩b | 1 | 3 | 1 |
| 安山岩c | | 1 | 1 |
| 安山岩d | 2 | 2 | 2 |
| 安山岩e | 3 | 2 | |
| 安山岩f | 2 | 5 | 1 |
| 安山岩g | 2 | 1 | 1 |
| 安山岩h | | 10 | 7 |
| 安山岩i | 6 | 7 | |
| 安山岩j | 15 | | 7 |
| 安山岩k | | | 1 |
| 安山岩l | 4 | | 1 |
| 流紋岩a | 1 | | |
| 珪化凝灰岩a | | 1 | |
| 珪化凝灰岩b | | | 2 |
| 珪質頁岩a | | | 1 |
| 珪質頁岩b | | 3 | |
| 珪質頁岩c | 12 | 5 | 3 |
| チャートa | | 1 | |
| チャートb | | 1 | 1 |
| チャートc | | | 1 |
| ホルンフェルスa | | | 2 |
| 砂岩a | | | 1 |
| 砂岩b | 3 | | 1 |
| 砂岩c | | 5 | |
| 砂岩d | 2 | | |
| 石英a | 1 | | |

母岩不明資料は除外

は明らかな層準差が指摘され、本文化層中でも、その古い部分を構成する地点と評価されよう。

i クラスターとその特徴　第25表にクラスター別の遺物組成を示した。各クラスターは少量のナイフ形石器と削器、相対的多数の剥片、即ち刃器類を保有し、また礫を相当量含んでいることが窺われ、比較的均等な内容をもつクラスターが併存している状況と言えよう。

ii 石器群の特徴　総数413点の資料が検出されたが、それらの内訳は、石器類が147点、礫が266点であり、6割強が礫によって占められている。したがって、各クラスターの遺物の散布状況は礫の集中部に重複するように石器類が点在する状態であり、石器類のみの集中分布域は形

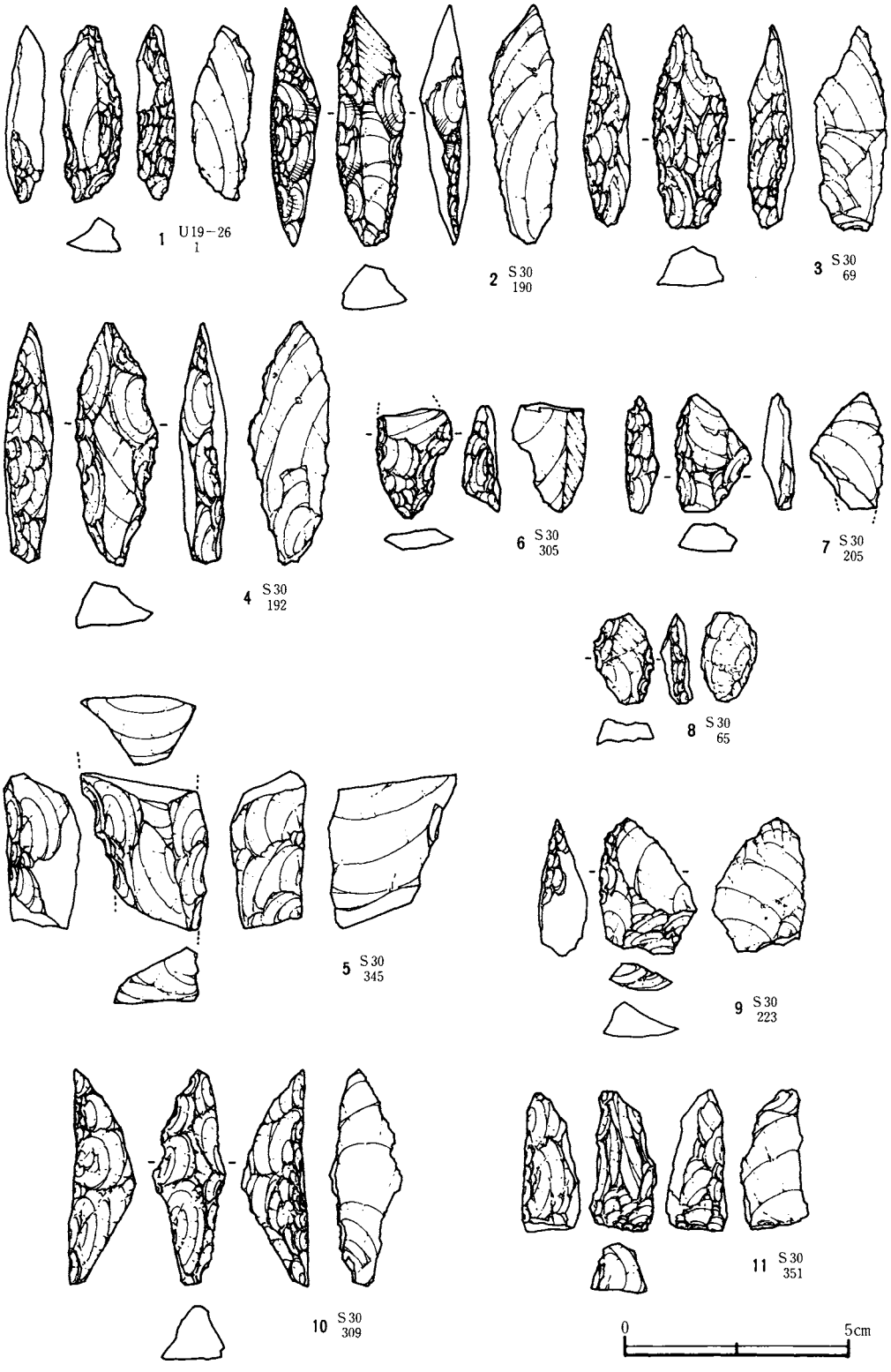
第27表　S 30地点クラスター別母岩分布2（礫）

| | クラスターa | クラスターb | クラスターc |
|---|---|---|---|
| 安山岩a | 1 | 6 | 2 |
| 安山岩b | 1 | | |
| 安山岩c | 3 | | |
| 安山岩d | 1 | 2 | 25 |
| 安山岩e | | 2 | |
| 安山岩f | | 1 | 10 |
| 安山岩g | | | 3 |
| 安山岩h | | | 1 |
| 安山岩i | | | 1 |
| 流紋岩a | 3 | 9 | 10 |
| 流紋岩b | 1 | 5 | 2 |
| 流紋岩c | 9 | 3 | 2 |
| 流紋岩d | 1 | 5 | |
| 流紋岩e | 1 | 4 | |
| 流紋岩f | 2 | 7 | |
| 流紋岩g | 2 | | 2 |
| 流紋岩h | | 4 | 7 |
| 流紋岩i | | 1 | 2 |
| 流紋岩j | | 3 | 16 |
| 流紋岩k | | 7 | |
| 流紋岩l | | 1 | |
| 流紋岩m | | | 2 |
| 流紋岩n | | | 4 |
| 流紋岩o | | | 1 |
| 流紋岩P | | | 9 |
| 流紋岩q | | | 1 |
| 流紋岩r | | | 2 |
| 砂岩a | 1 | | |
| 砂岩b | 2 | | |
| 砂岩c | | | 2 |
| 砂岩d | | | 4 |
| 砂岩e | | | 1 |
| 砂岩f | | 1 | |
| 砂岩g | | | 1 |
| 砂岩h | | | 1 |
| 砂岩i | | | 7 |

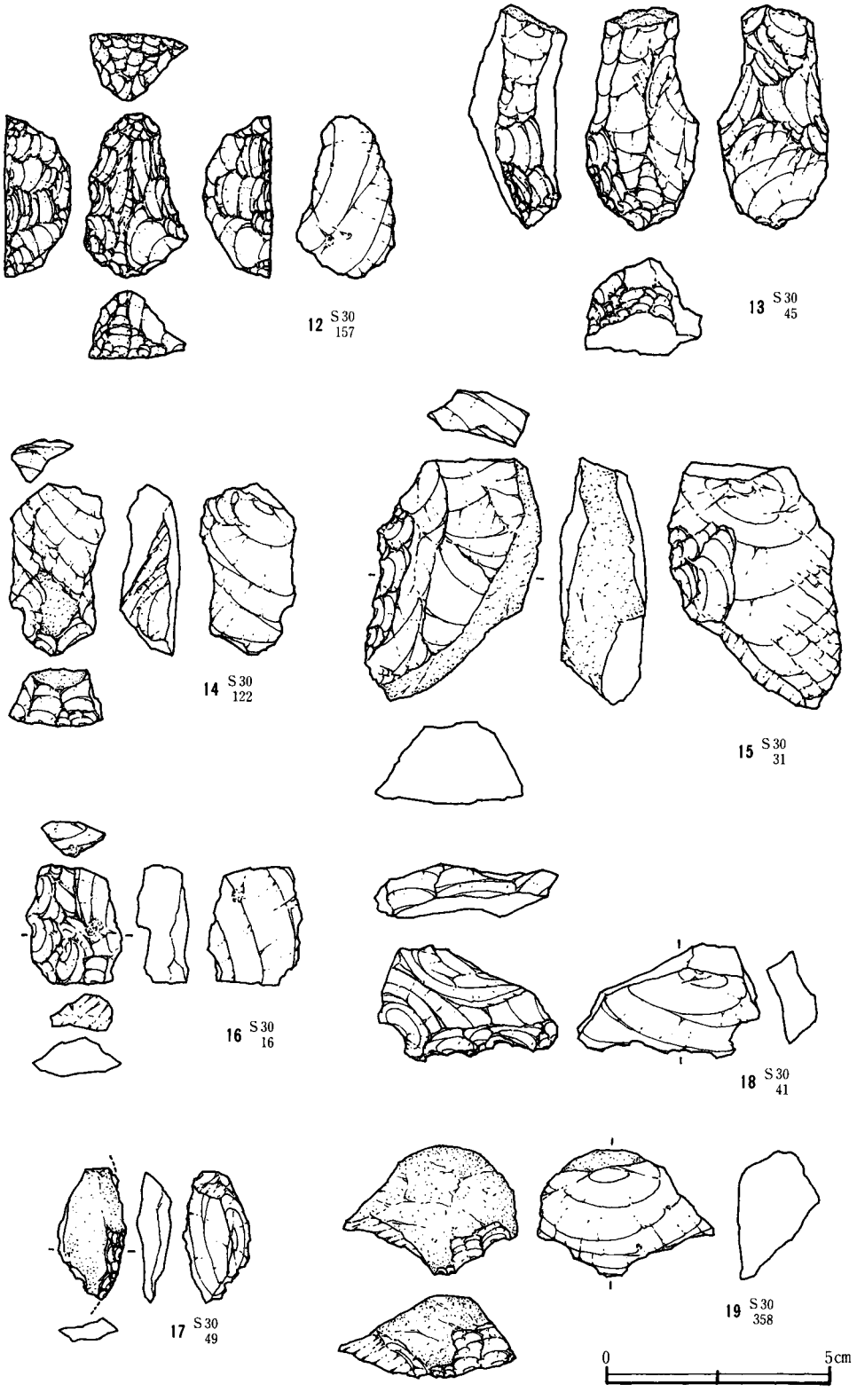
母岩不明資料は除外

成されていない。石器類の細かい内訳は第24表に譲るが、ナイフ形石器（角錐状石器を含む）・削器・刃器という基本的な構成が抽出される。

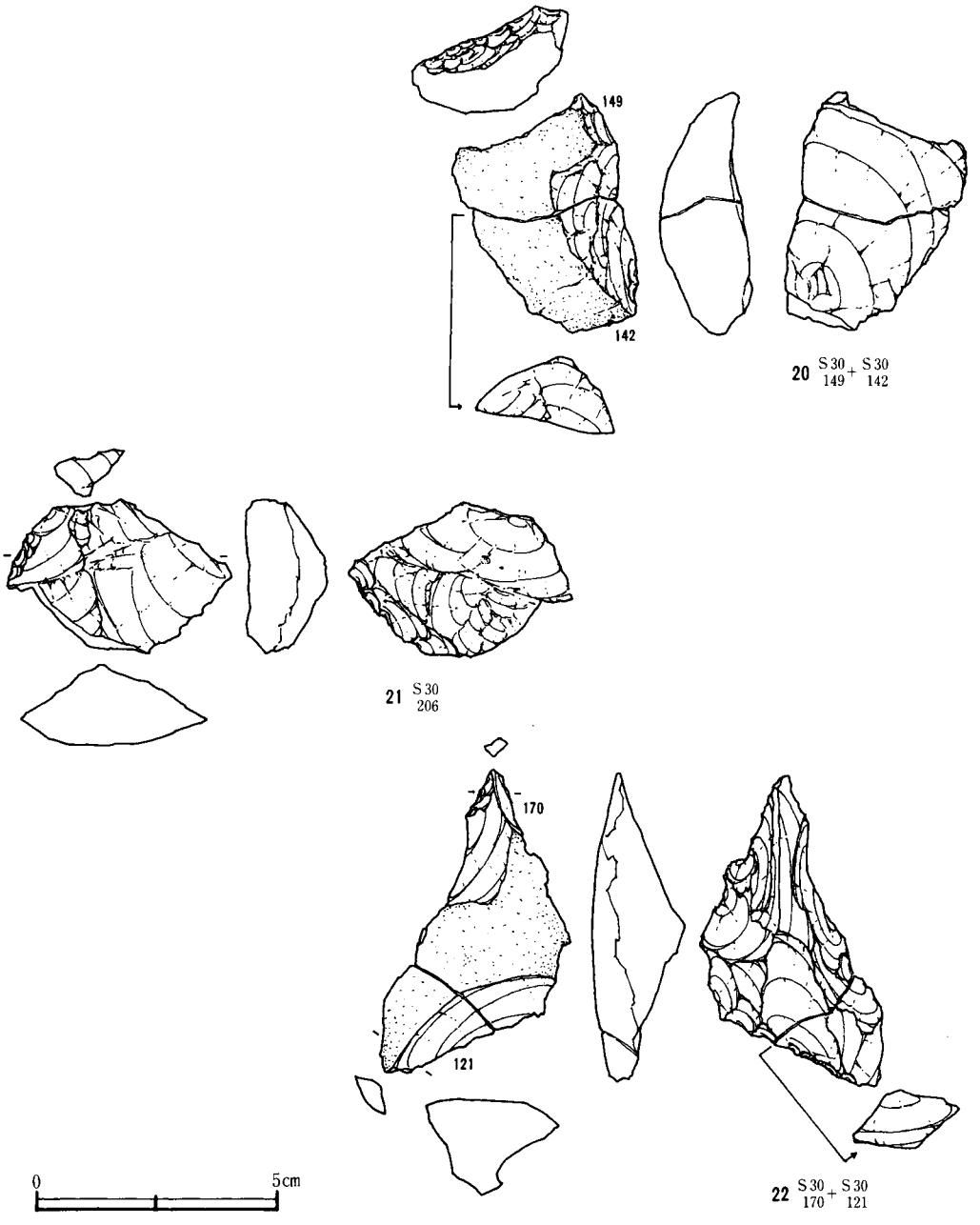
ナイフ形石器　二側縁加工の尖頭器を基本としている。1～4に基準的な資料を纏めた。何れも、（1）横打剝片を素材とすること、（2）細部加工が素材剝片底辺と打面側に施されると




第57図　S30地点出土遺物実測図 1



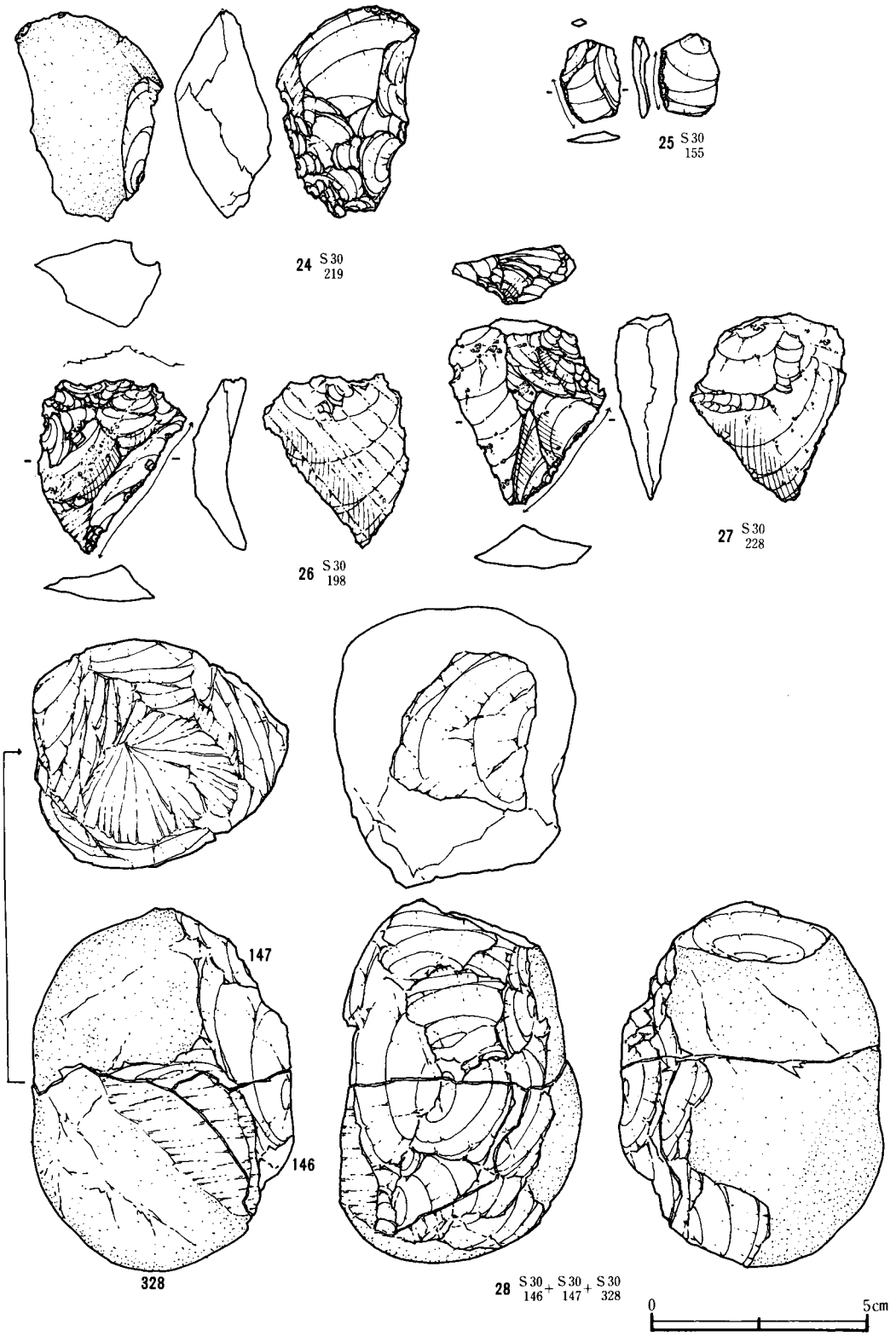

第58図　S30地点出土遺物実測図 2



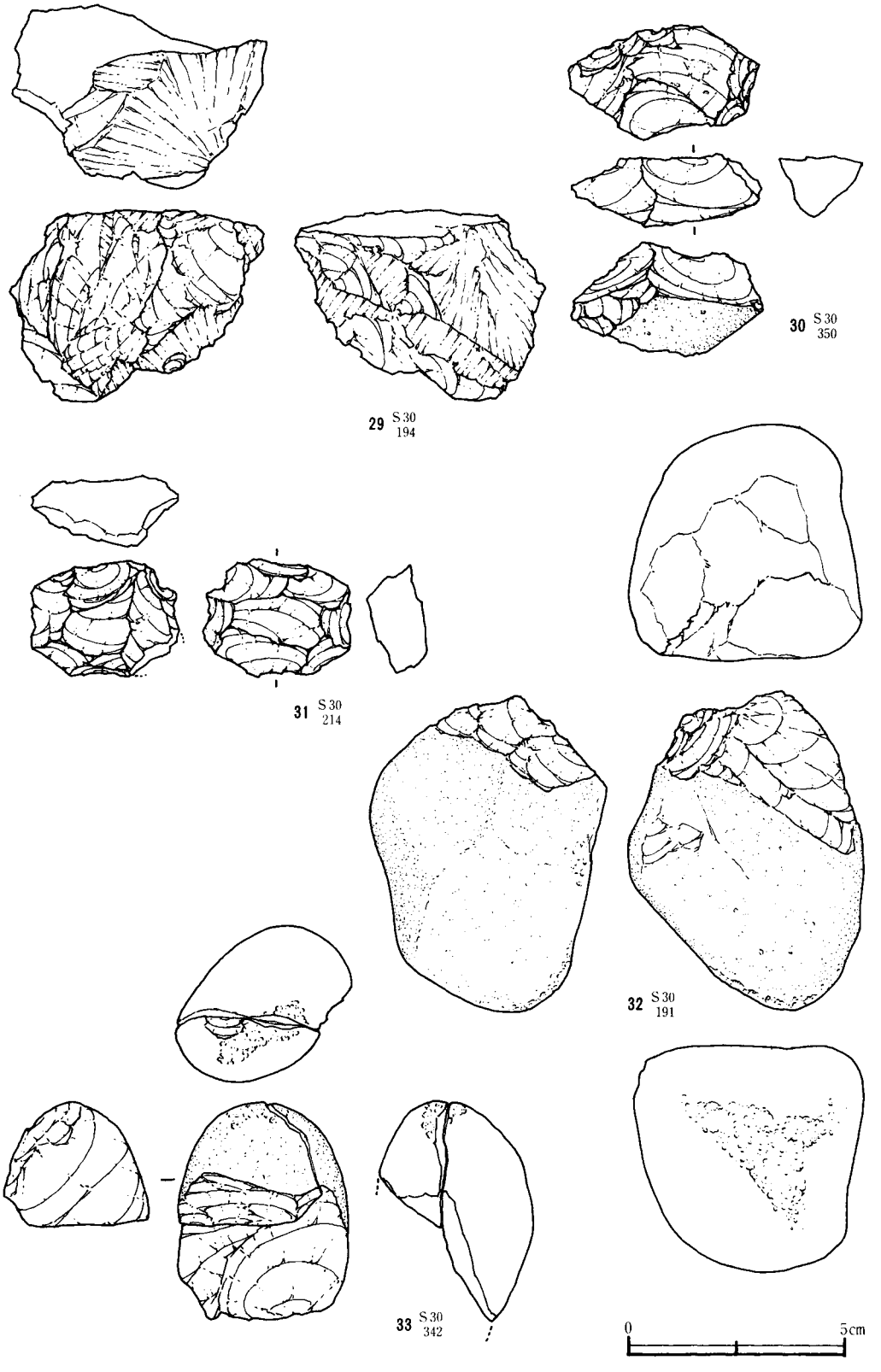

第59図　S30地点出土遺物実測図 3

いう共通点が指摘される。これら以外には6～8等に示した粗製のものがある。5は大型のものの破片であろう。また、2と4は大きさ・プロフィール・細部加工の手法等が極めて近似しており、あるいは同一工人の作かと疑われる。2が黒曜石c製でクラスターb検出、3は安山岩gを素材としクラスターcの検出であった。

角錐状石器　10・11の2点がある。何れも、分厚い剝片の腹面から粗い調整剝離が加えられ




第60図　S30地点出土遺物実測図 4




第61図　S30地点出土遺物実測図 5

ており、その横断面は三角形に近い。11はおそらく破損品の再生されたものであろう。折れ面からの細かい二次加工が看取される。

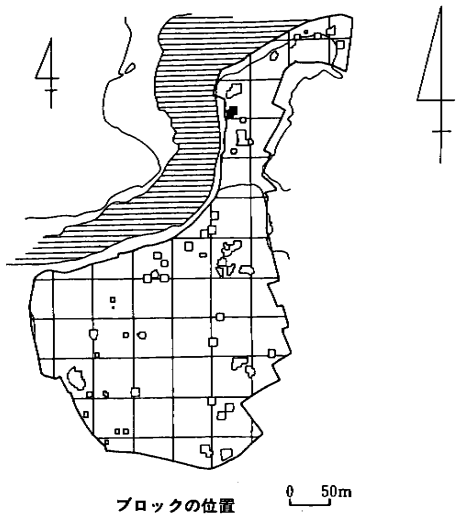
削器　7点あるが、細部加工痕ある剝片或いは石核との分離の困難な場合があり(17〜21等)、刃部形態の安定したもののみを削器とした。端削器（12〜14)と側削器（9・15・16）とに二分される。端削器には全縁加工の典型的なものがある（12)。

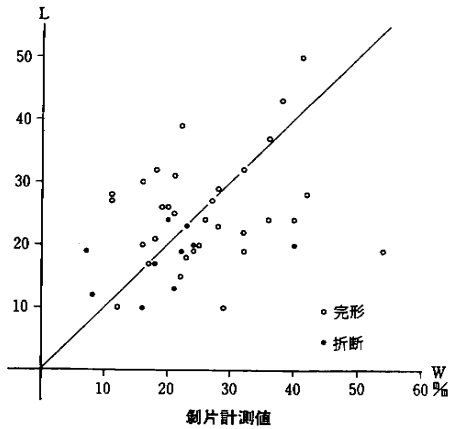
剝片と石核　10点以上の資料を含む消費型母岩は3個体あるにすぎず、また接合資料も極めて乏しい。このため剝片生産の実体を窺いうる資料がない。石核には、大別して盤状のもの(22・24等)と多打面の賽子状のもの(30・31等)があり、それらに対応する横長剝片が卓越する。32は石槌として機能しているが、その石質（安山岩k）から原石として搬入されたものとみられる。また、28は3点のブロック状の破片の接合したものであるが、やはり、原石の状態に近く、選択された原石は一般に成人の拳大かそれよりも若干大きめのものであったことが知られる。

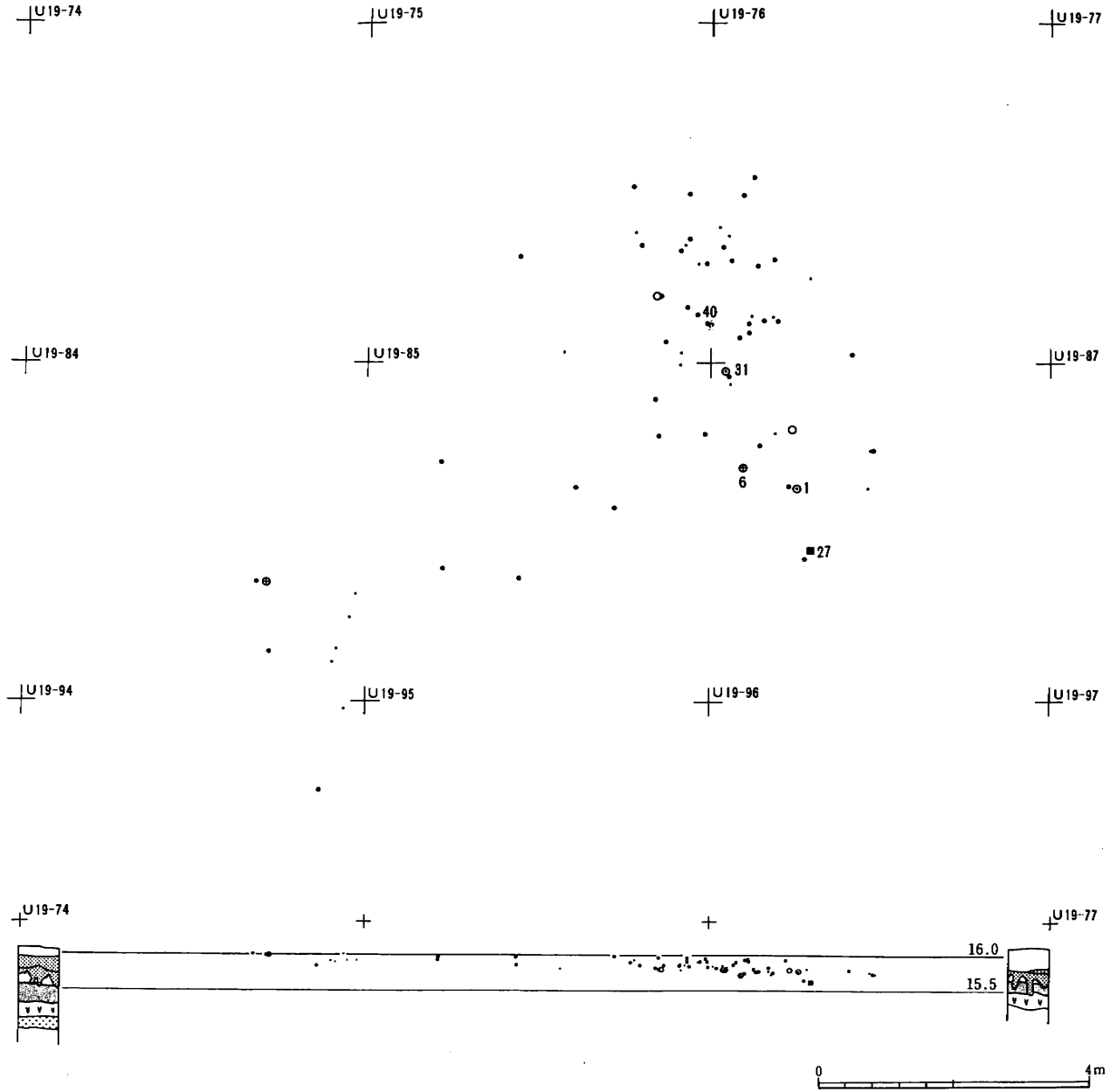
iii石器群の母岩構成とその特徴　本地点の石器群を構成する母岩は、黒曜石4種、黒色緻密質安山岩12種、流紋岩1種、珪化凝灰岩2種、珪質頁岩3種、チャート3種、ホルンフェルス1種、砂岩4種、石英1種、合計31母岩に達する。しかし、各母岩の保有個体数が10点を超えるものは僅かに3母岩を数えるにすぎず、その大半はたかだか数点の個体をもつにすぎない。換言すれば、本地点内での母岩消費が極めて限定的なものであったと言うことができる。安山岩の占有率の高さは本地域の同一段階の遺跡における一般的傾向と一致する。

また、第26表からよく窺われるとおり、単独クラスター内で完結する母岩は15母岩と約半数にすぎず、多くの母岩が間クラスター的な分布状況を示している。接合資料が僅少であることもあり、これを母岩識別段階でのエラーと考えることもできるが、後に触れるように、この傾向は、礫の分布状況ともよく調和しており、本来的に各クラスターに諸種の母岩が分布していたものと想定したい。さらに、クラスター設定段階において、相互に近接するクラスター間で資料が恣意的に振り分けられる可能性を排除できないこと、また、廃棄後のさまざまな要因による遺物の移動等を考慮しても、なお、この状況の全てを解釈することはできないので、同一の母岩に帰属する資料が各所に点在する事実を否定することは困難であるようにみえる。

iv礫の分布とその特徴　礫は各クラスターに含まれるが、クラスターa・bではやや散漫な分布状況を呈しているのに対して、クラスターcでは集中度が高く、また量的にも卓越した分布状況が看取される。礫の母岩別分布状況は第27表に掲げた。全般的な母岩の分布はS29地点のクラスター間の分布と一致する特徴を示している。砂岩のように全てクラスター内で分布の完結する場合もあるが、流紋岩に顕著なようにクラスター間にまたがって分布するものも多い。この関係は第55図に明らかなように、明確な接合関係によって検証された。また、この図の示すところによれば、クラスターa・bとクラスターcとの間に特に頻繁な接合関係が読み取られる。




第62図　S 32地点遺物分布状況

ｖまとめ　本地点は、その石器と礫の分布状況の示すところによれば、礫群を中心とする遺物分布を大きな特徴としていた。これは先述したＳ29地点他においても同様の傾向が指摘されており、種々の行動が礫群を一つの焦点として遂行されていた状況をよく示すものと理解可能である。換言すれば、集落内での諸作業の一部、特に石器を製作あるいは再生・使用する作業空間と礫群との相関的な関係を抽出することができよう。

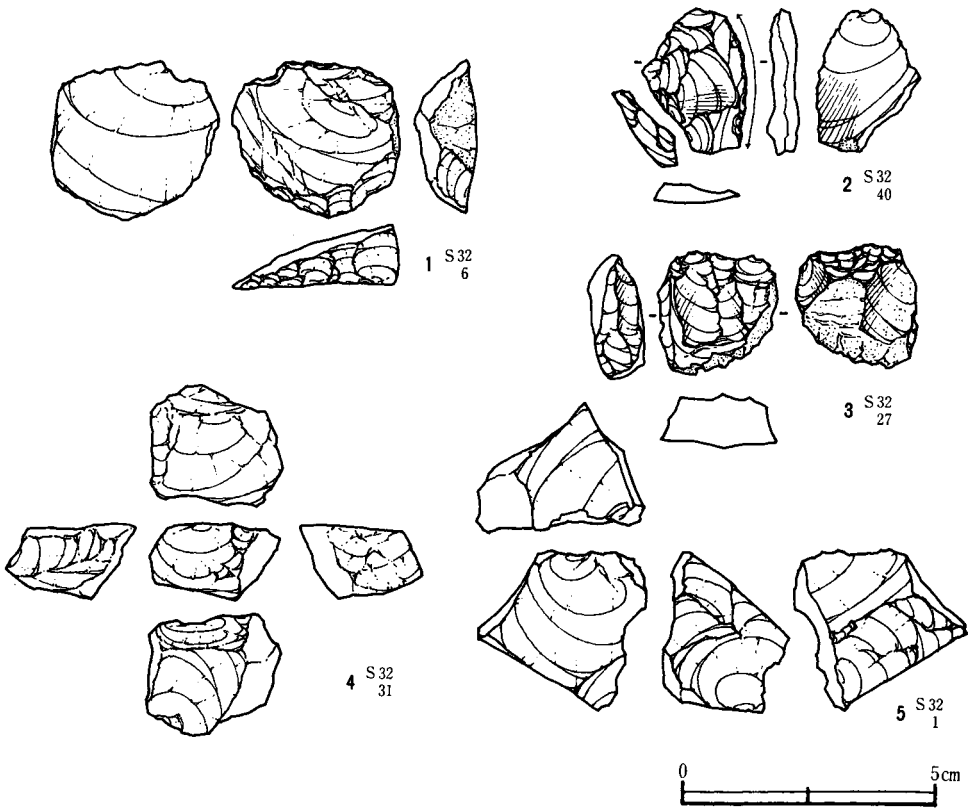
石器類は各クラスター間にあまり大きな組成差を持たずに分布している。また、その母岩もクラスター間に共通するものが多くある。この傾向は礫においても同様で、クラスター間での頻繁な接合関係が確認された。クラスターの形成順序に関しては、礫の集中度を参考にしてある程度の推測を行ったが、叙上の一般的傾向から、本地点の形成が同一集団による継起的居住によるものであることを導き得た。

**２・11Ｓ32地点**（第62・63図、第28表）　Ｓ29地点とＳ30地点とのほぼ中間に位置している。分布は長軸約５ｍ、短軸約３ｍの楕円形の範囲で、特に北側半分の密度が濃い。産出層準はソフトローム層下部～ハードローム層上部である。

遺物総数は69点で、石器67点、礫２点とから構成されている。礫は砂岩の同一個体の小片２点であり、石器類の卓越した地点と言えよう。石器の内訳は第28表に示した。削器２点の他は剥片類が多く、刃器主体の構成と評価される。削器としたものは剥片の一端に弧上の刃部を作出したもので、端削器の仲間とみられる（１）。図示していないが、同種の小型のものがもう一点ある。２は黒曜石の使用痕付き剥片である。３は楔形石器と分類されているが、両極的な石核であろう。やはり黒曜石製。４・５も石核で、４は盤状のもの、５は賽子状の多面体石核。

**第28表　Ｓ32地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石ａ | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 黒曜石ｂ | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| 黒曜石ｃ | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 黒曜石ｄ | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 安山岩ａ | | | 1 | | | | | 4 | | | | | | 5 |
| 安山岩ｂ | | | 1 | | | | | 7 | 2 | | | | | 10 |
| 安山岩ｃ | | | | | | | | 14 | 11 | | | | | 25 |
| 安山岩ｄ | | | | | | | | 4 | 5 | | | | | 9 |
| 安山岩ｅ | | | | | | | | 5 | | | | | | 5 |
| 流紋岩ａ | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 流紋岩ｂ | | | | | | | | 4 | | 1 | | | | 5 |
| 頁岩ａ | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートａ | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| チャートｂ | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 合計 | | | 2 | | 1 | | | 41 | 21 | 2 | | | | 67 |



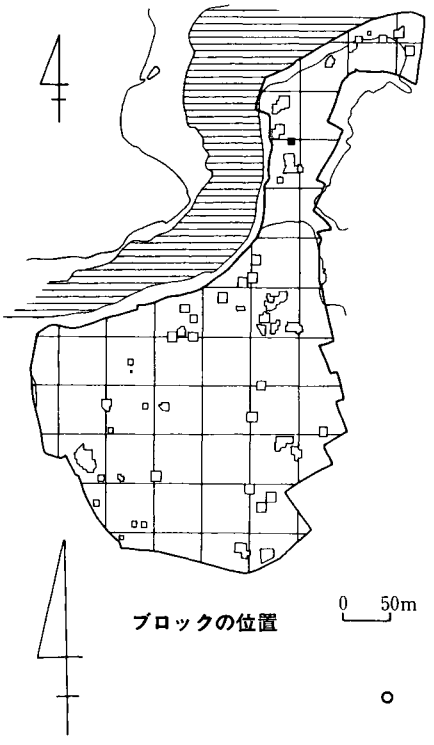

第63図　S32地点出土遺物実測図

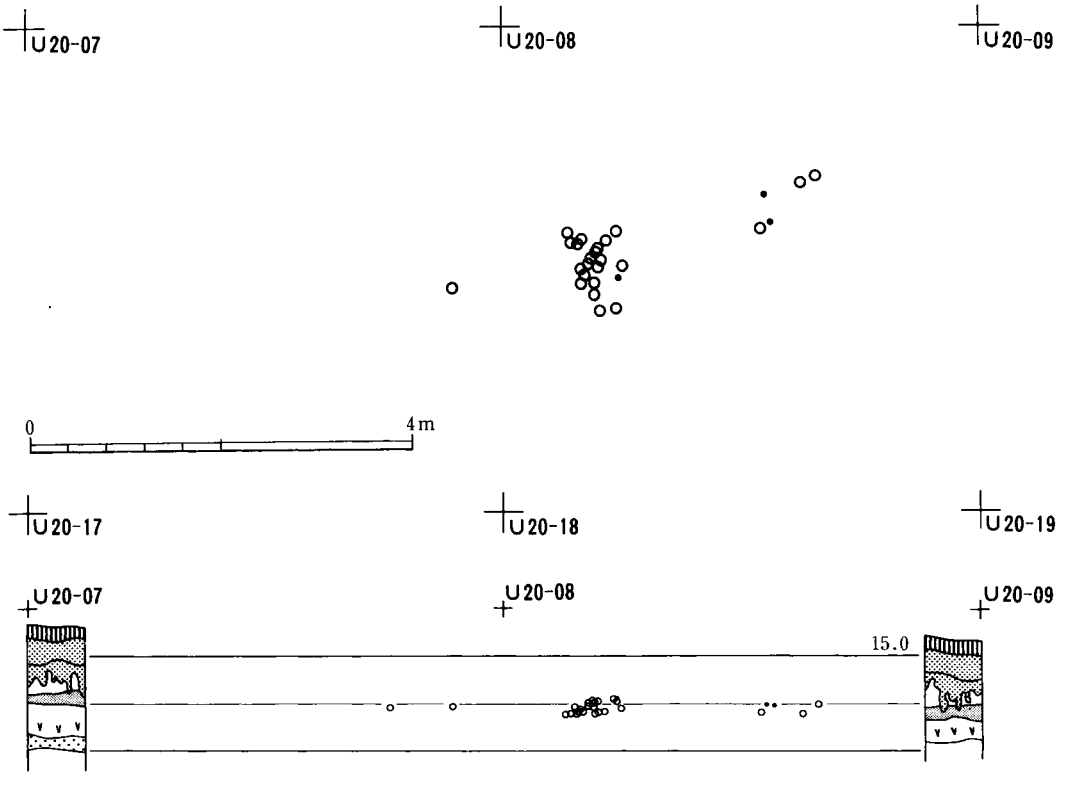
共に流紋岩製であるが、4から落とされた剝片が4点ある。5は同一母岩の資料を欠いている。

石器類は14種の母岩に還元しえたが、これらのうち、地点内消費母岩として明確なものは安山岩の1個体のみであり、他に安山岩と流紋岩に極めて限定的な消費過程を想定させるものが少量ある。なお、近接地点との共有母岩に関しては十分な検討を経ているが、その結果は否定的なものであった。

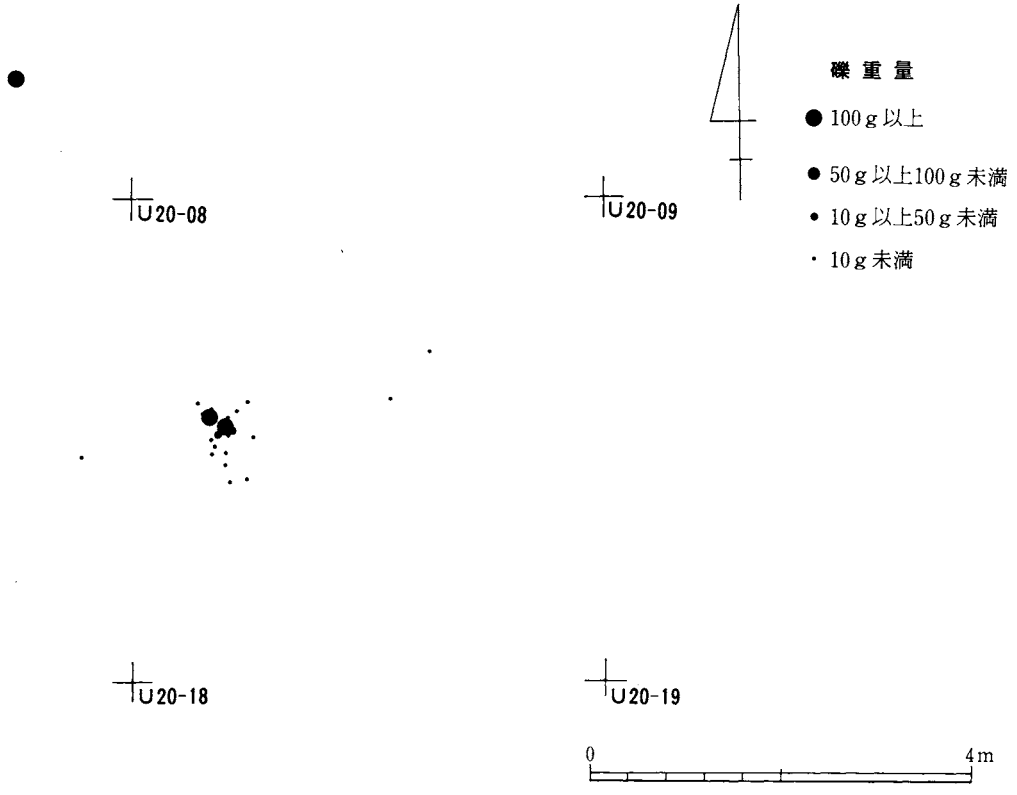
**2・12S33地点**（第64・65図、第29表）　S32の南東に近接して存在する。狭い範囲内に少量の剝片と礫が集中的に分布していた。産出層準はソフトローム層下部～ハードローム層上部でS32地点と大体同一の層準で、両者の位置関係からも何らかの関係が想定できそうであるため、両地点間での遺物の比較と接合を試みた。その結果、本地点の安山岩とS32地点の安山岩cとが酷似した外観を呈していたが、直接的な接合関係は認められず、その可能性のみの摘出にとどまった。

剝片は安山岩の同一個体で、何れも小型不整形のものである。礫には安山岩4個体4点と流紋岩1個体20点、合計24点の資料群から構成されていた。安山岩の3個体は小型（小児拳大）




第64図　S 33地点遺物分布状況




第65図　S33地点出土礫の重量別分布状況

の完形礫で、そのうち1個体に原礫面の赤変が観察される。それ以外は全て砕片化している。

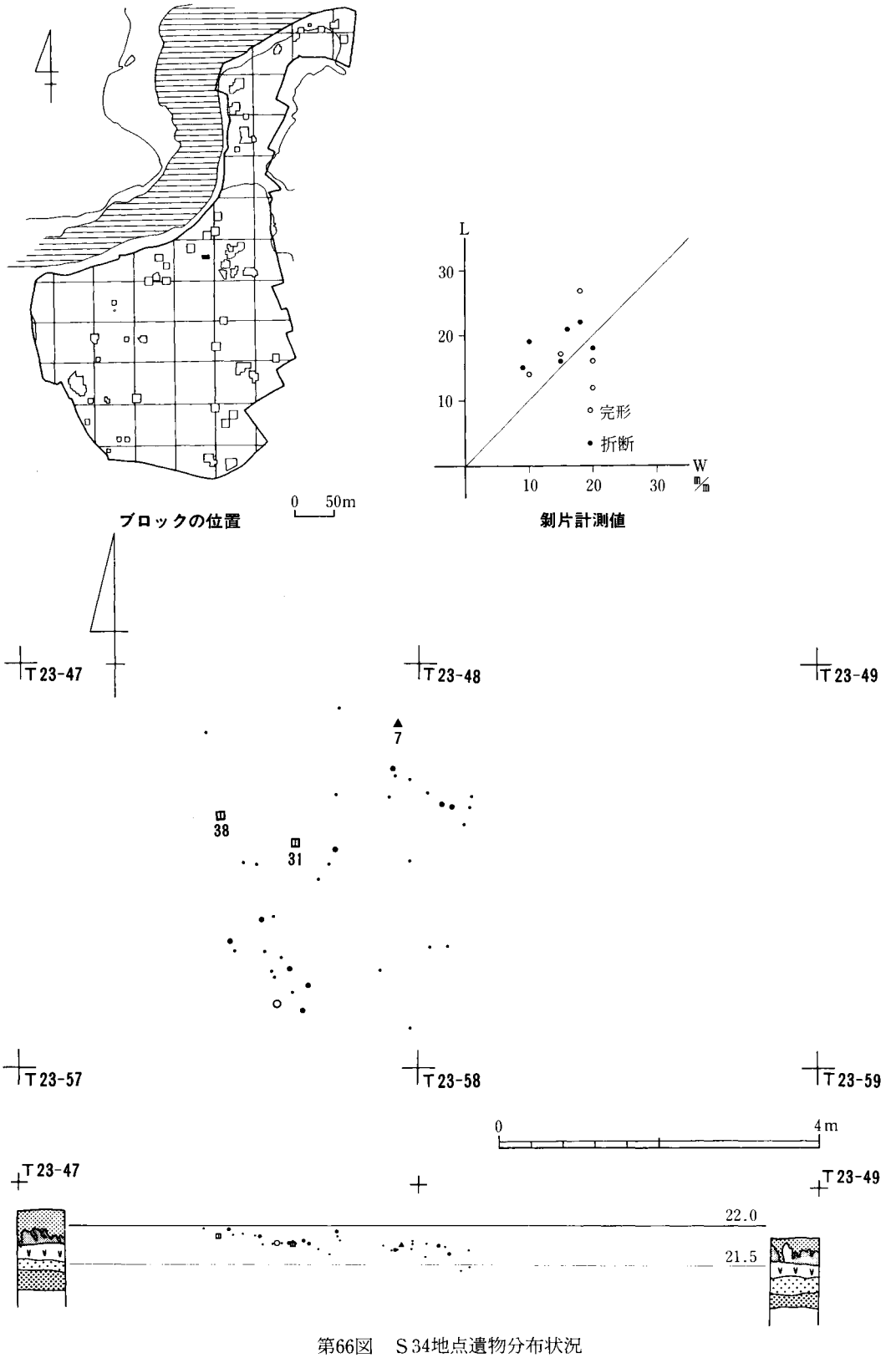
**第29表　S33地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩a | | | | | | | | 3 | | | | | | 3 |
| 合計 | | | | | | | | 3 | | | | | | 3 |

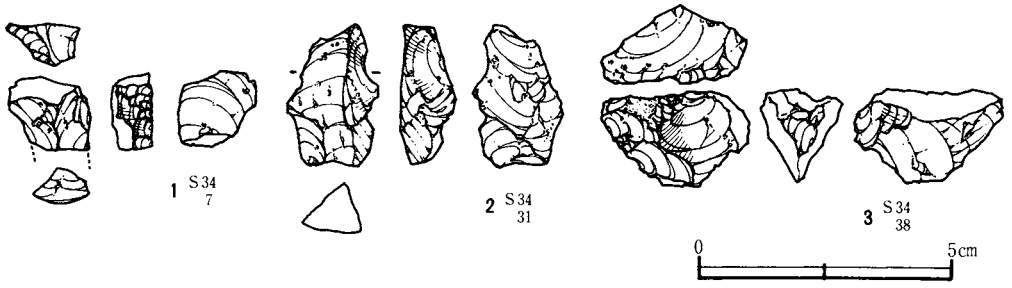
**2・13S34地点**（第66・67図、第30表）　直径4m程の略円形の範囲内に39点の遺物が集中している。資料の内訳は石器類38点、礫の破砕片1点で、石器の卓越する地点である。しかも、

**第30表　S34地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | 1 | | | | | | 1 | 8 | 26 | 2 | | | | 38 |
| 合計 | 1 | | | | | | 1 | 8 | 26 | 2 | | | | 38 |

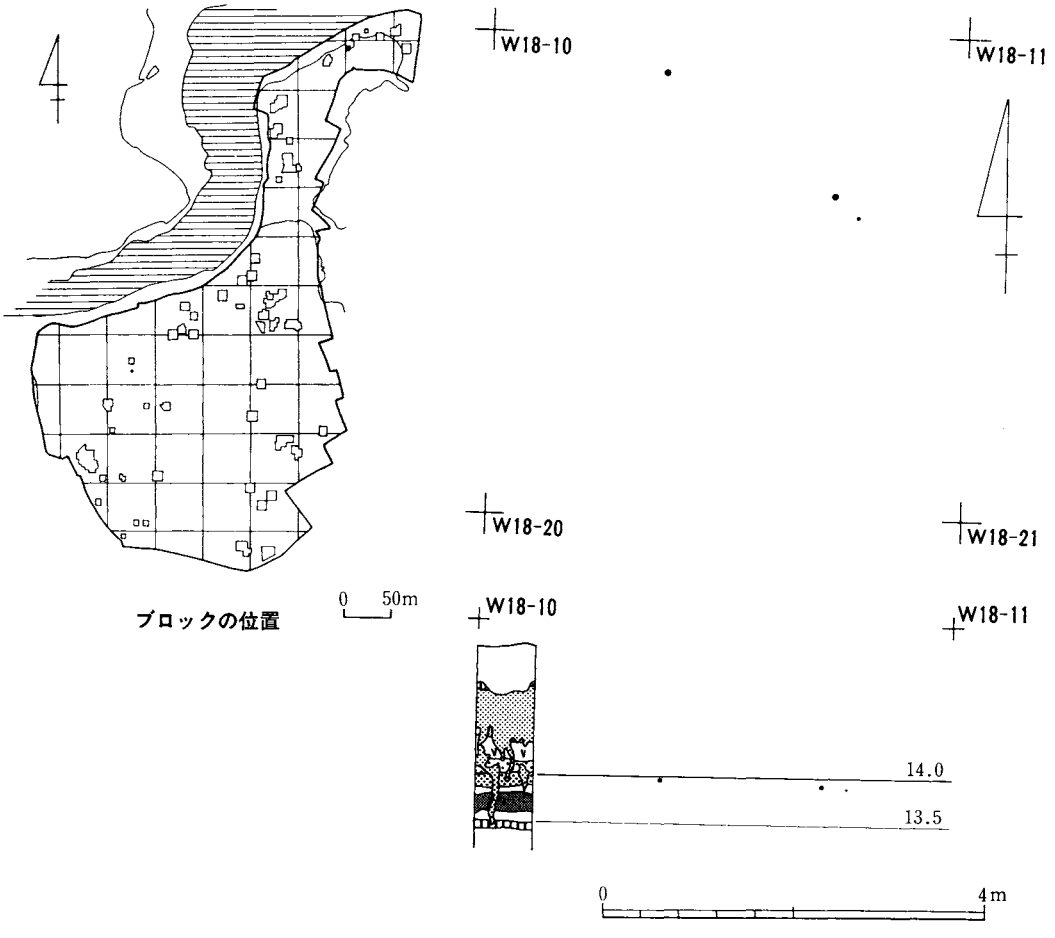



第66図　S34地点遺物分布状況




第67図　S34地点出土遺物実測図

石器類の全ては黒曜石の同一母岩であり、石核（2・3）・剝片・ナイフ形石器破損品（1）等が含まれているところから、極めて短期間内に一過的な剝片生産と石器の製作が遂行された地点とみられる。




第68図　S35地点遺物分布状況

**2・14 S 35地点**（第68図、第31表）　S 11・14地点の南側に接して剝片 3 点が出土しており、これを仮にS 35地点と呼称した。しかし、黒曜石はレベルが高く、その帰属が問題である。安山岩 2 点に関してはV層～VI層上部の検出である。ともに小型不整形。

**第31表　S 35地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石 a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 安山岩 a | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 合計 | | | | | | | | 2 | 1 | | | | | 3 |

**2・15 S 36地点**（第69図、第32表）　S 29地点の南側に近接して剝片 3 点が検出されている。産出層準はV層～VI層上部で、やや深い。剝片は何れも不定形で小型のものである。

**第32表　S 36地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石 a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 粘板岩 a | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| 合計 | | | | | | | | 3 | | | | | | 3 |

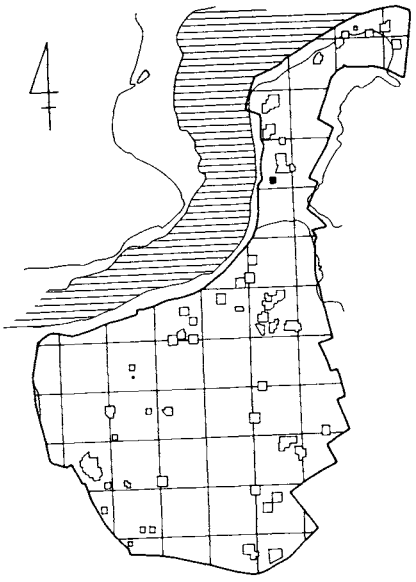
**第 33 表　S 37 地点礫群別母岩分布状況**

| | 礫群 a | | 礫群 b |
|---|---|---|---|
| 安山岩 a | 7 | | |
| 安山岩 b | 1 | | |
| 安山岩 c | | | 1 |
| 安山岩 d | | | 2 |
| 安山岩 e | | | 1 |
| 安山岩 f | | | 3 |
| 安山岩 g | | | 23 |
| 流紋岩 a | 1 | ←→ | 7 |
| 流紋岩 b | 10 | | |
| 流紋岩 c | 8 | | |
| 流紋岩 d | 1 | | |
| 流紋岩 e | | | 2 |
| 流紋岩 f | | | 12 |
| 流紋岩 g | | | 1 |
| 流紋岩 h | | | 2 |
| 砂岩 a | 4 | | |
| 砂岩 b | | | 2 |
| 砂岩 c | | | 2 |

矢標は接合関係を示す

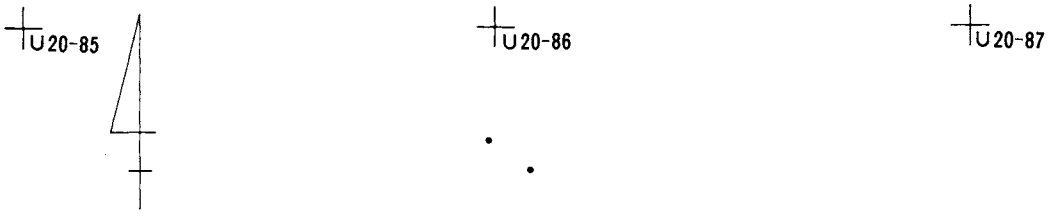
**2・16 S 37地点**（第70～75図、第33・34表）　V 18－36・46区を中心とする南北約 6 m、東西約 4 mの範囲内に140点の資料が分布している。第70図の分布状況から明らかなように、南北に礫の集中部があり、両者の中間に石器が散布する。北側の礫の集中を礫群 a ：南側のそれを礫群 b と呼称する。遺物の産出層準はIV層下部～V層と記録されている。

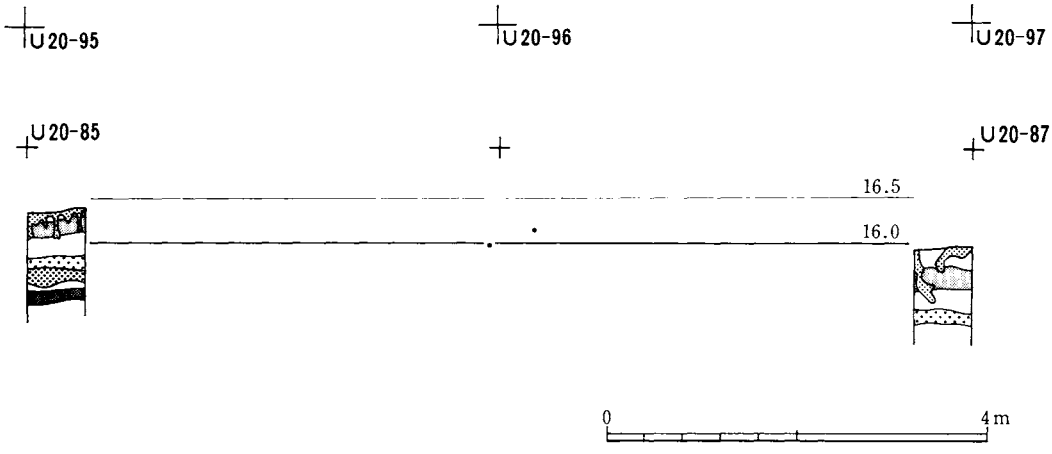
i 礫群　2 箇所の礫群を構成する礫の母岩別内訳を第34表に示した。この表より両者間には殆ど共通する母岩が存在しない。また、接合例も僅かに 1 例を数えるにすぎず、相互に独立した礫群と考えることができる。また、礫群 a が集中度の高い纏まり方をしているのに対して、礫群 b はやや散漫な分布をしている。しかし、構成礫の重量分布に大きな差は認められない。このような状況は、両礫群の形成がある時間差をもつ



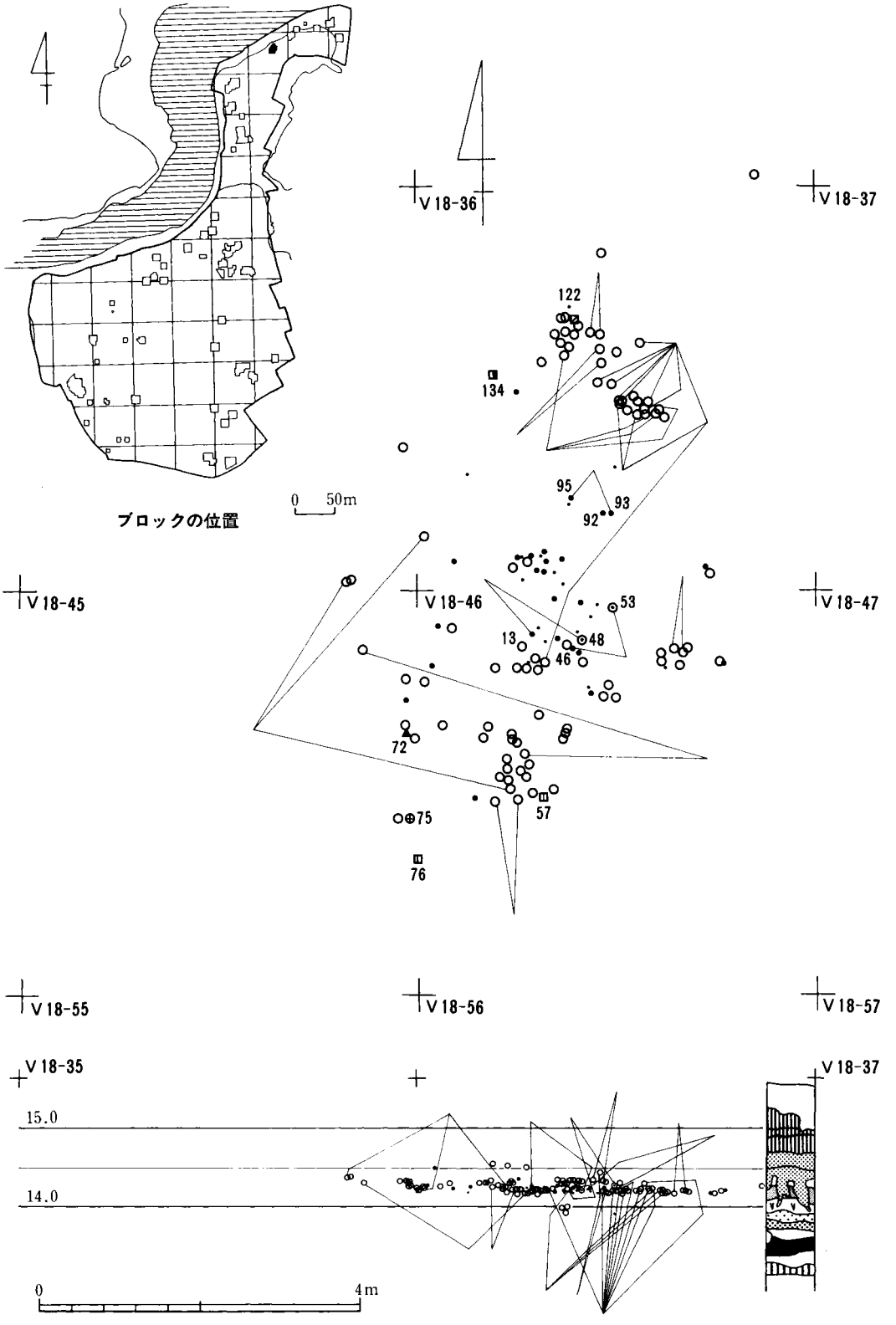
ブロックの位置

0　50m

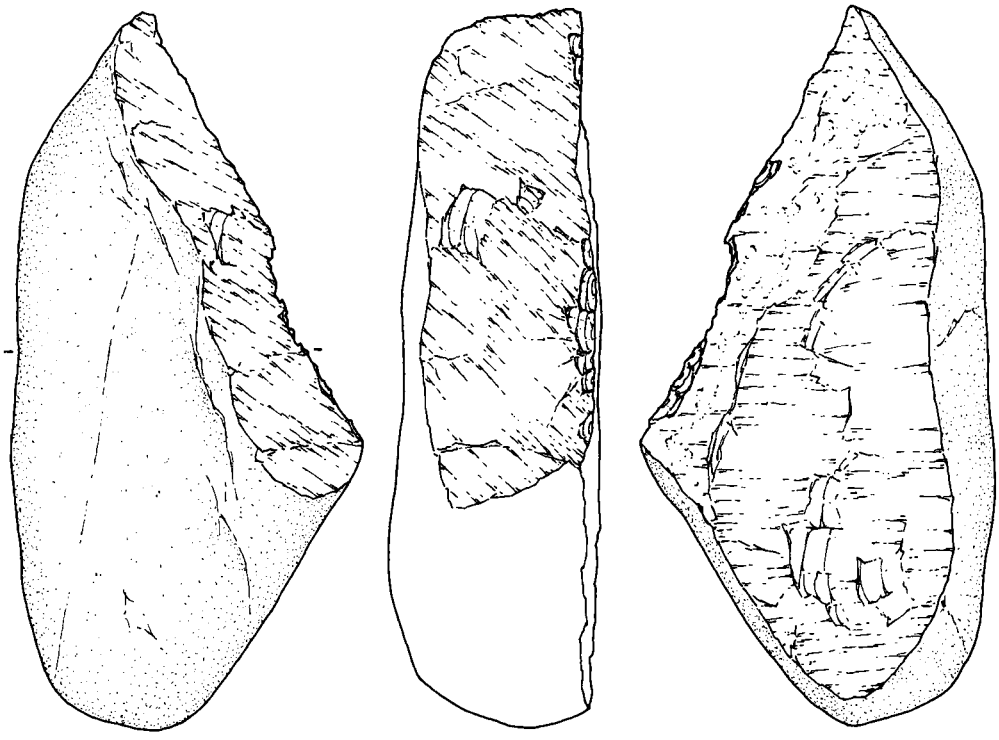


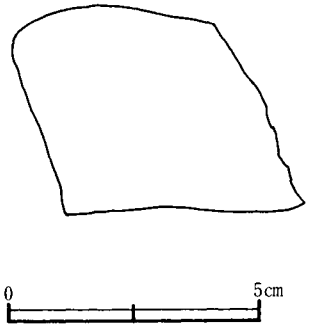




第69図　S36地点遺物分布状況

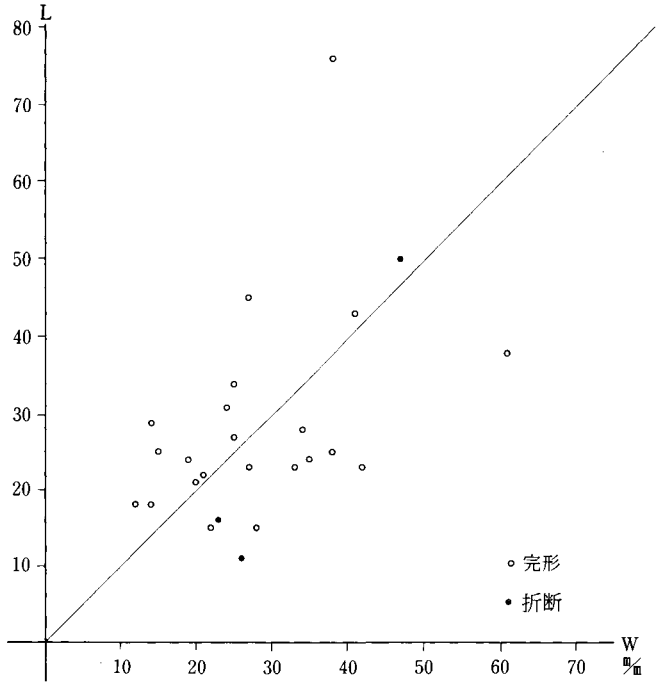



第70図　S37地点遺物分布状況

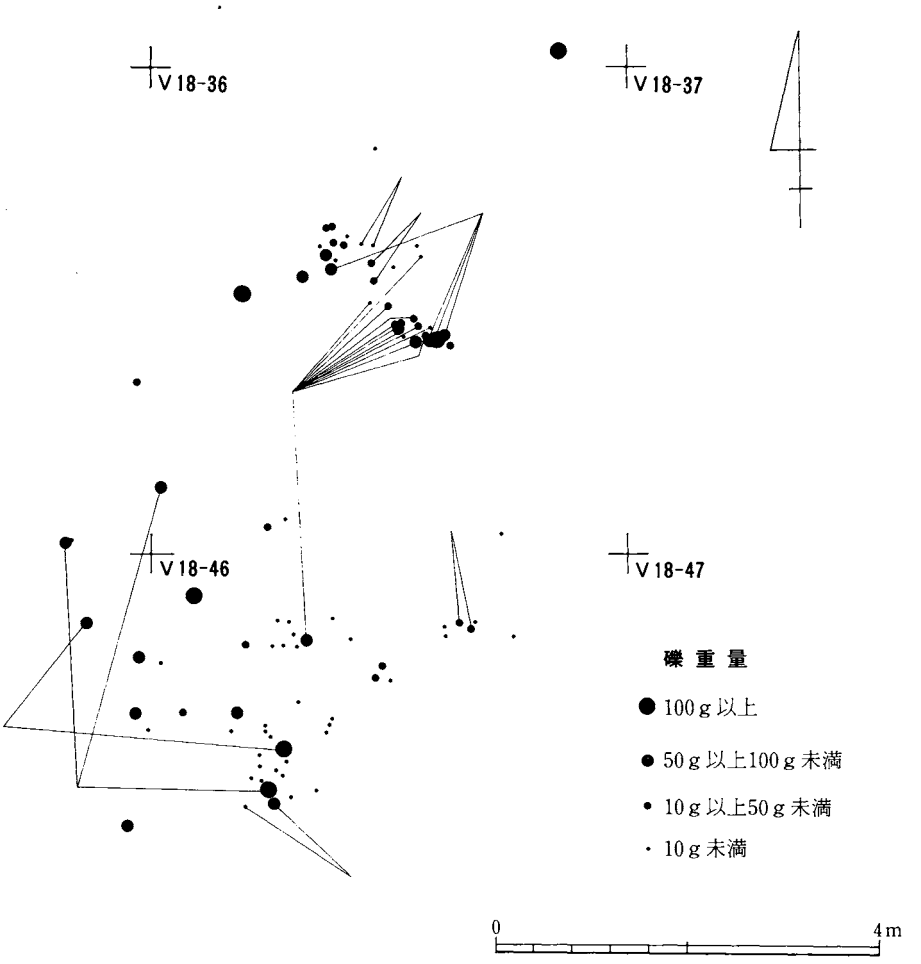





11 S49 1



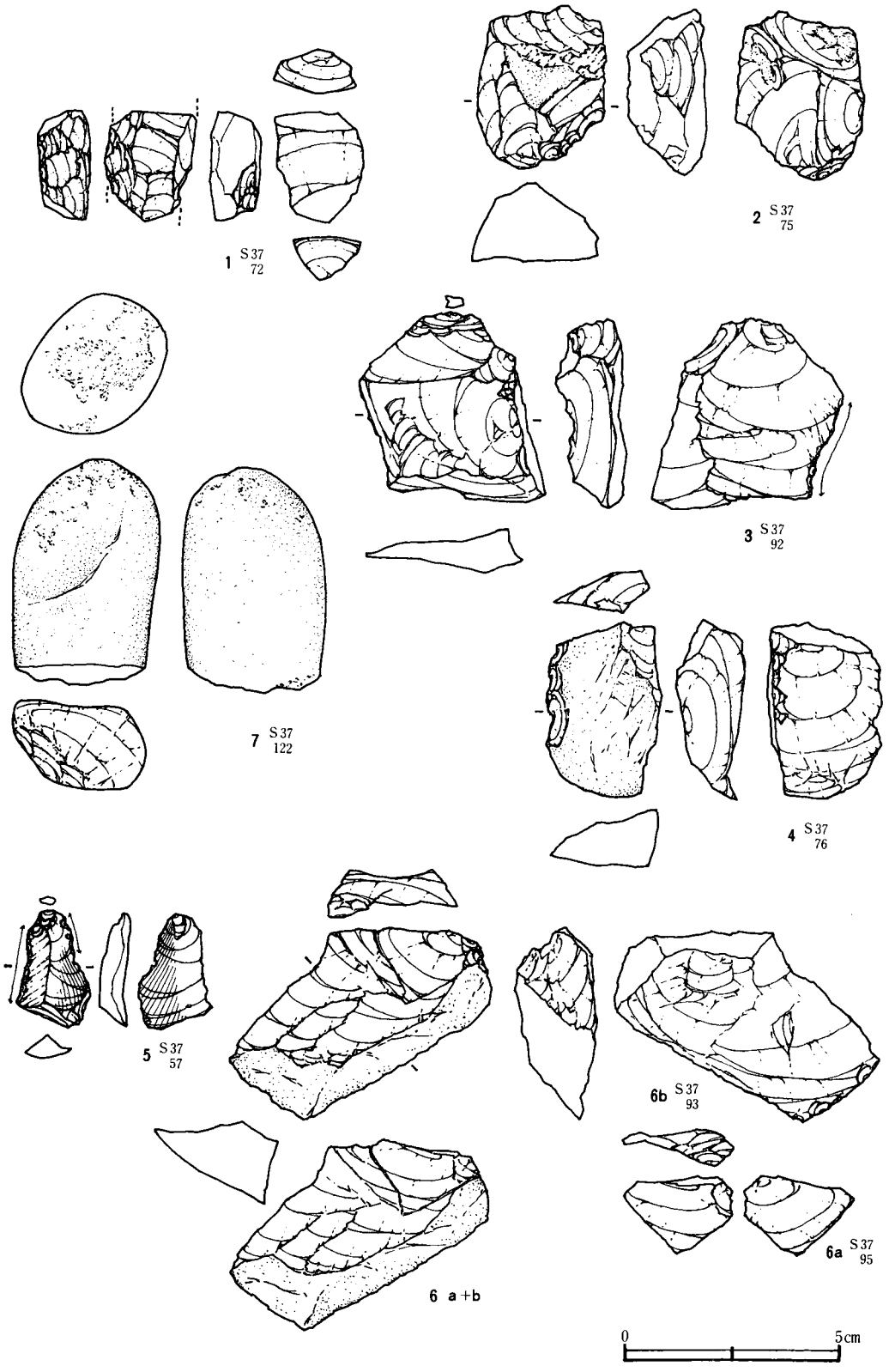

第71図　S37地点遺物実測図(4)・剝片計測値



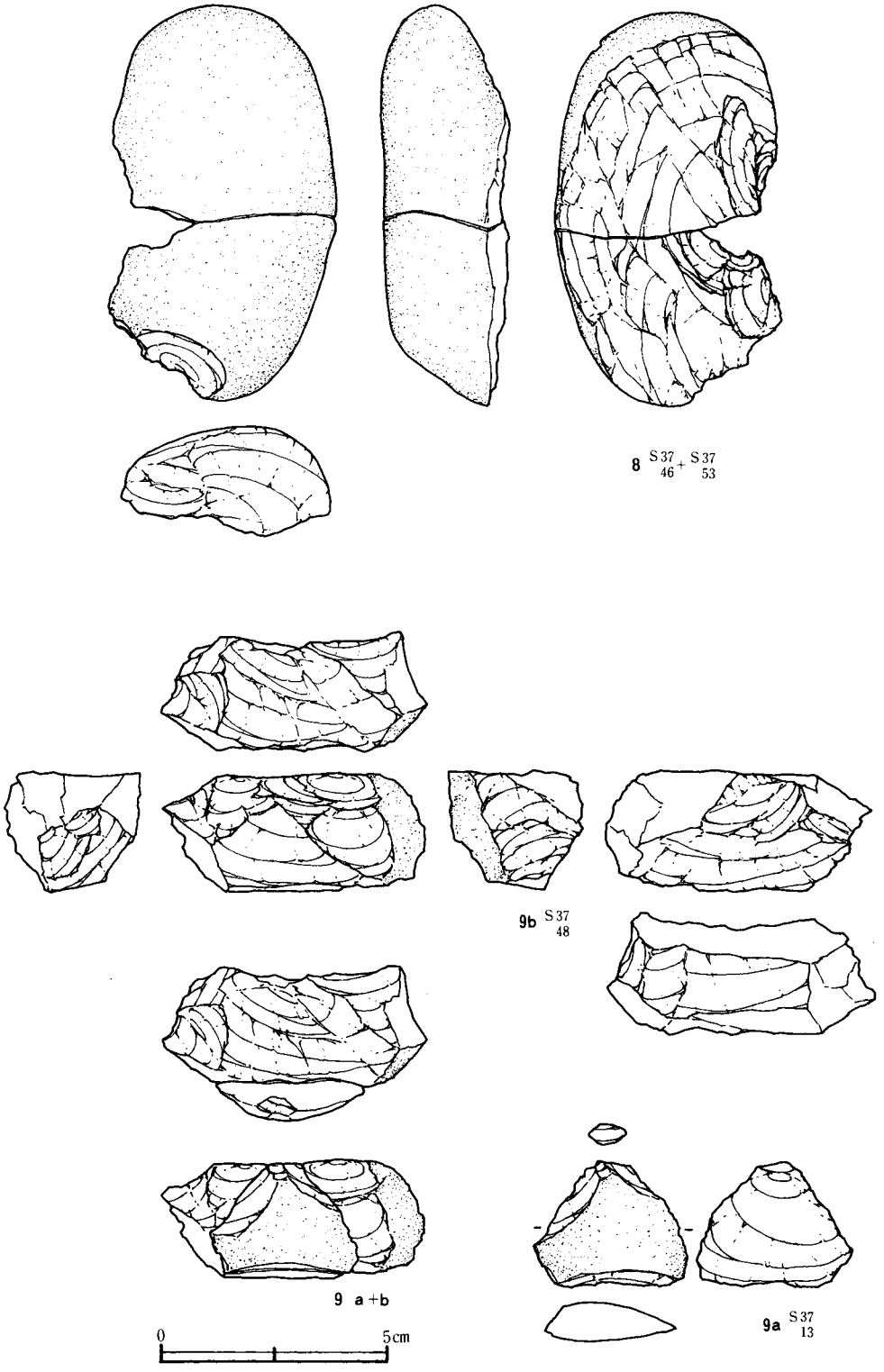

第72図　S37地点出土礫の重量別分布状況

**第34表　S37地点石器組成表**

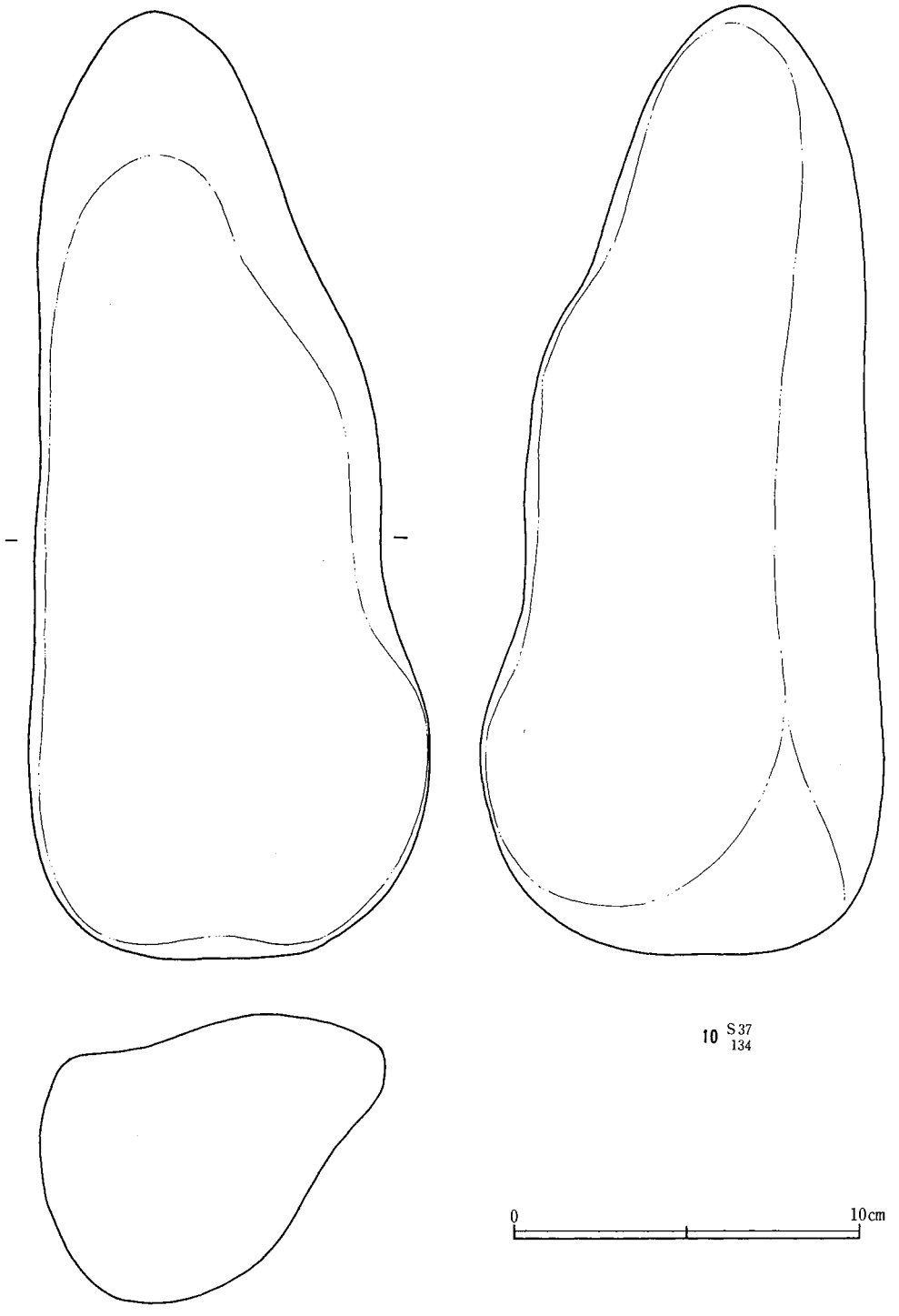
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 黒曜石b | | | | | | | | 2 | 7 | | | | | 9 |
| 安山岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 安山岩b | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 安山岩c | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 安山岩d | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 安山岩e | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 安山岩f | | | | | | | 1 | 7 | 3 | | | | | 11 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | 2 |
| ホルンフェルスb | | | | | | | | 5 | 4 | 1 | | | | 10 |
| 玉髄a | | | 1 | | | | | 3 | | | | | | 4 |
| 砂岩a | | | | | | | | 3 | 2 | | | | | 5 |
| 砂岩b | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 砂岩c | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 流紋岩a | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 |
| 合計 | 1 | | 1 | | | | 1 | 26 | 17 | 2 | | 1 | 2 | 51 |




第73図　S37地点出土遺物実測図 1




第74図　S37地点出土遺物実測図 2




第75図　S 37地点出土遺物実測図　3

ものであることを示唆するようにも考えられるが、殆ど同時に、しかも比較的短期間に複数の礫群が並行的に機能した場合にも同様の廃棄状況は生じうるであろう。

ii石器　石器総数は48点。ナイフ形石器破片が1例（1）、削器1例（2）があるが、剝片類の占める比率が高い。他に打割器、石槌、石砧各1点がある。詳細な内訳は第33表に提示した。特筆されるのは非常に大型の石砧（10）で、礫群aに近接して出土した。流紋岩の自然礫を利用しており、礫表には特に敲打痕や磨痕を留めないが、非焼成で、一般の礫群構成礫の大きさをはるかに逸脱しているので、作業・工作あるいは調理等に用いられた石砧とみて間違いないであろう。269mm×116mm×82mm、重量2950g。

**2・17 S46地点**（第76・77・78図、第35表）　径2m程の小範囲に17点の剝片・削片と18点の破砕礫片が散布している。礫片は流紋岩の同一母岩で、受熱の結果細かく破砕している。石器類の大半は黒曜石の同一母岩の小破片で、他に安山岩の剝片が1点ある。

**第35表　S46地点石器組成表**

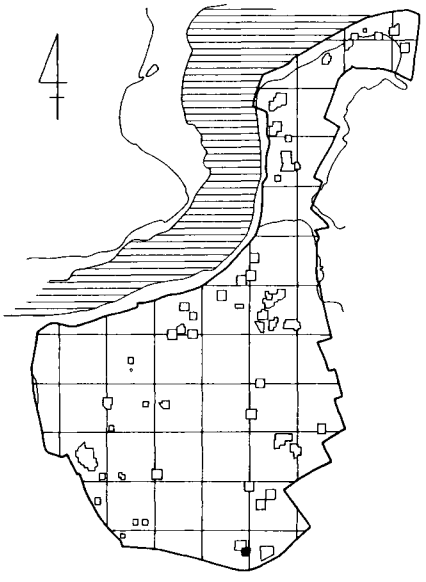
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | 4 | 12 | | | | | 16 |
| 安山岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | 5 | 12 | | | | | 17 |

**2・18 S60地点**（第79～81図、第36表）　南北約5m、東西約4mの範囲内に石器25点、礫片7点、計32点の資料が分布している。遺物の分布状況をみると、西側に礫片の集中箇所があり、それに東接してナイフ形石器・角錐状石器が散布するエリアが形成されている。産出層準はハードローム層上部であるが、この地点ではローム層のソフト化が顕著であり、それはV層にも及んでいたという記録がある。

石器組成は第36表に示した。1～3が切出形石器、4は小型の角錐状石器。5～8に剝片、8に石核、9・10は接合資料である。2例の石核をみると、8では最終的には一端から連続的

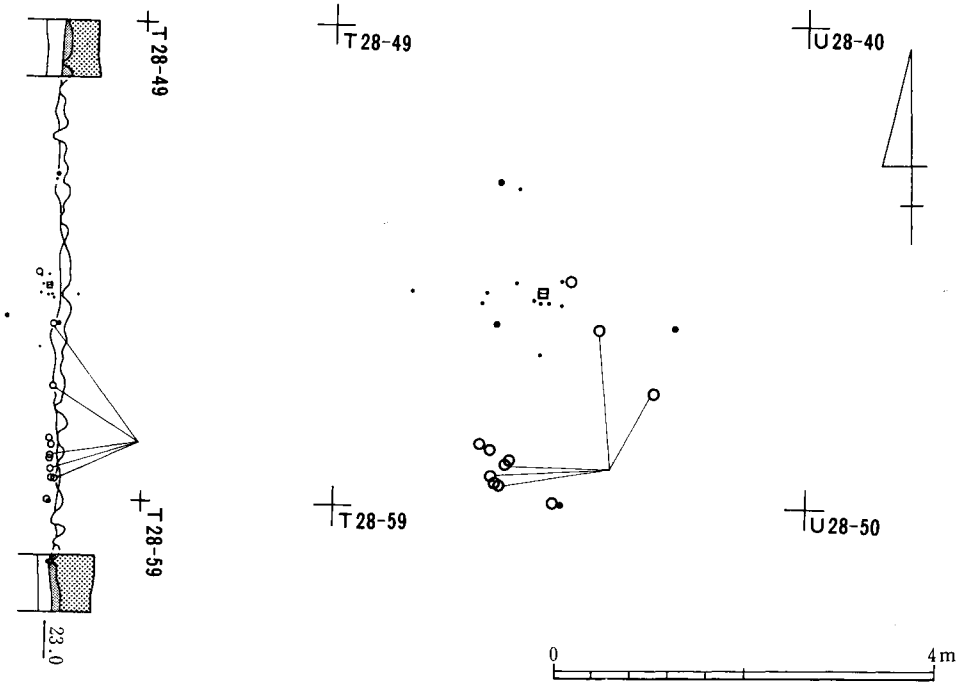
**第36表　S60地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安割岩a | | | | | | | | 6 | 4 | 1 | | | | 11 |
| 流紋岩a | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 流紋岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 珪質頁岩a | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | 2 |
| 黒色頁岩a | | | | | | | | 5 | 3 | | | | | 8 |
| チャートa | 2 | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 合計 | 4 | | | | | | | 12 | 7 | 2 | | | | 25 |

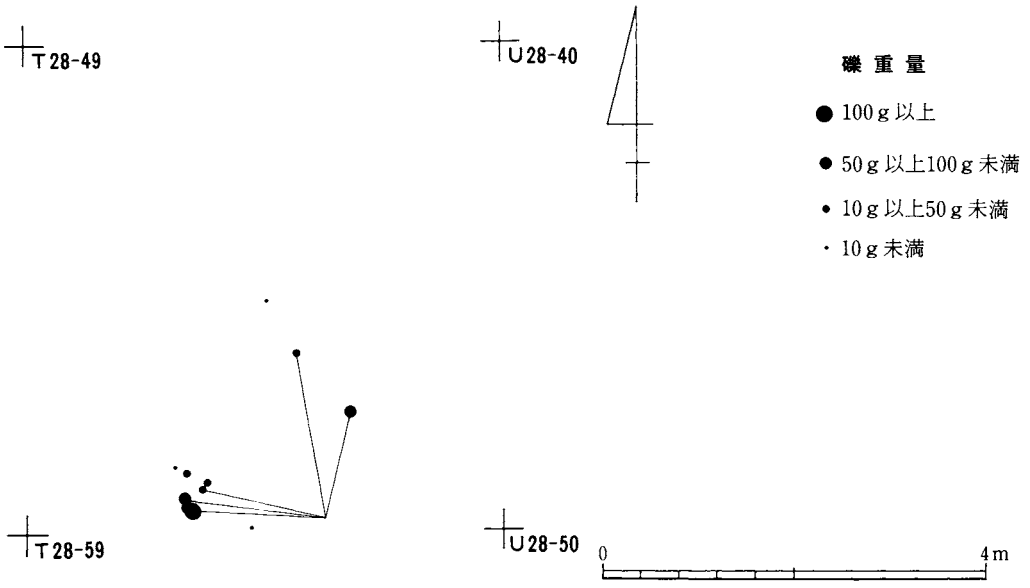


ブロックの位置

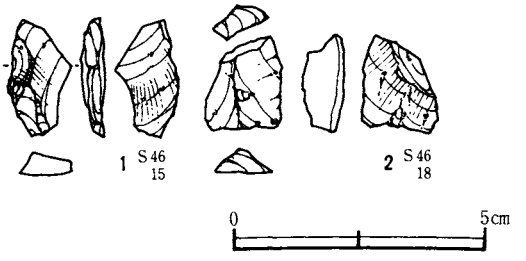
0　50m




第76図　S46地点遺物分布状況



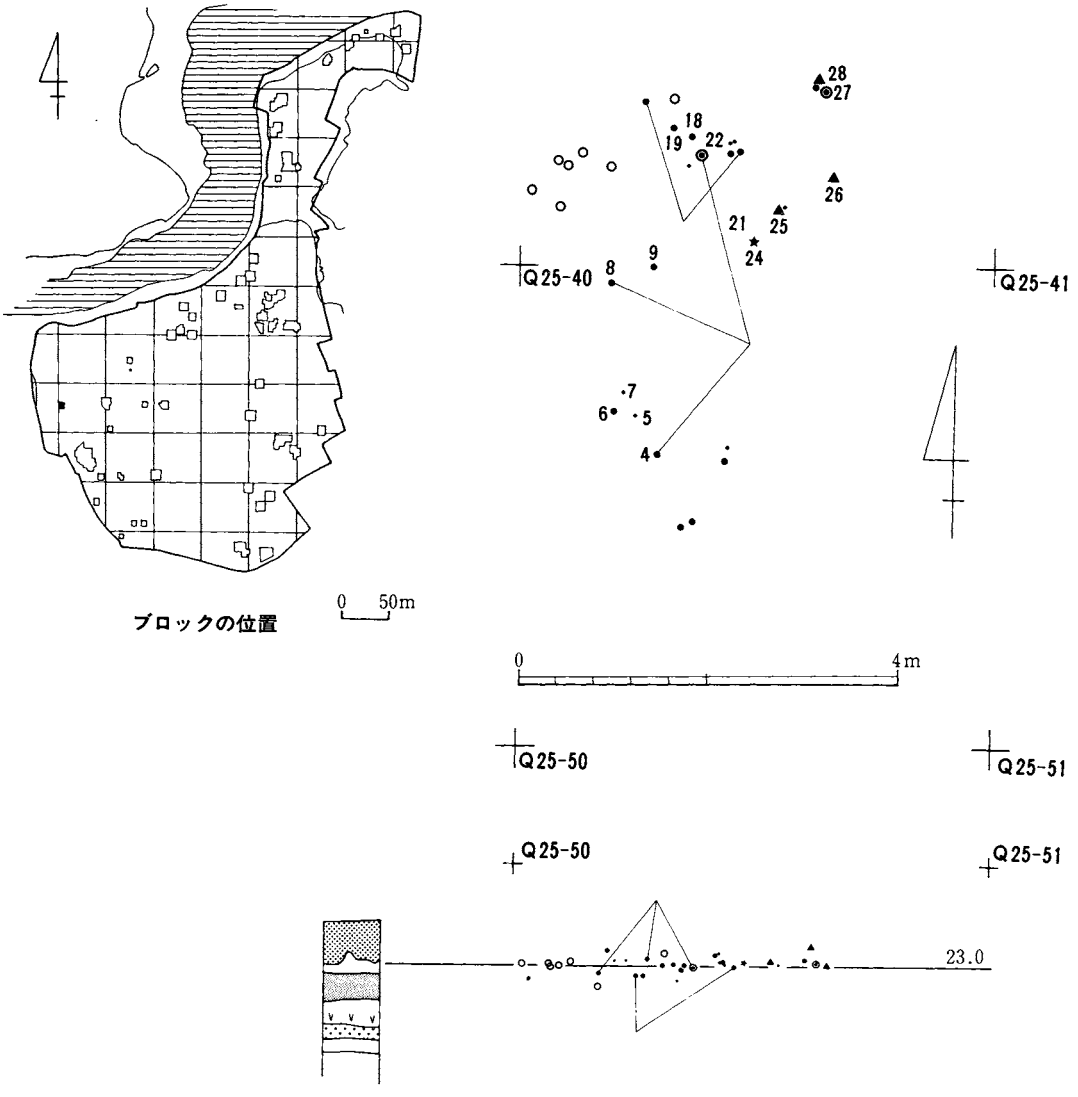

第77図　S46地点出土礫の重量別分布状況




第78図　S46地点出土遺物実測図

に小型の貝殻状剝片を剝離していが、基本的には両例ともに打面と作業面の交代するもので、該期に多出するものである。この種の石核から得られるであろう貝殻状横打剝片を素材として切出形石器が製作されている。角錐状石器は片面打製の精製品であるが、S30地点の類品に近い。

さて、本遺跡におけるナイフ形石器の出土状況を振り返ってみたい。第2文化層には18箇所の遺物集中地点を識別したが、これらのうち、角錐状石器を含むナイフ形石器が検出されているのは8地点あるにすぎない。すなわち、S2地点3点、S13地点6点、S21地点10点、S29地点5点、S30地点12点、S34地点1点、S37地点1点、S60地点4点がその全てとなる。これは、少なくとも本遺跡においては、決してナイフ形石器の検出が一般的でないことを示唆している。また、ナイフ形石器の分布状況には、その帰属地点の性格と何らかの関連性があるよ




第79図　S60地点遺物分布状況

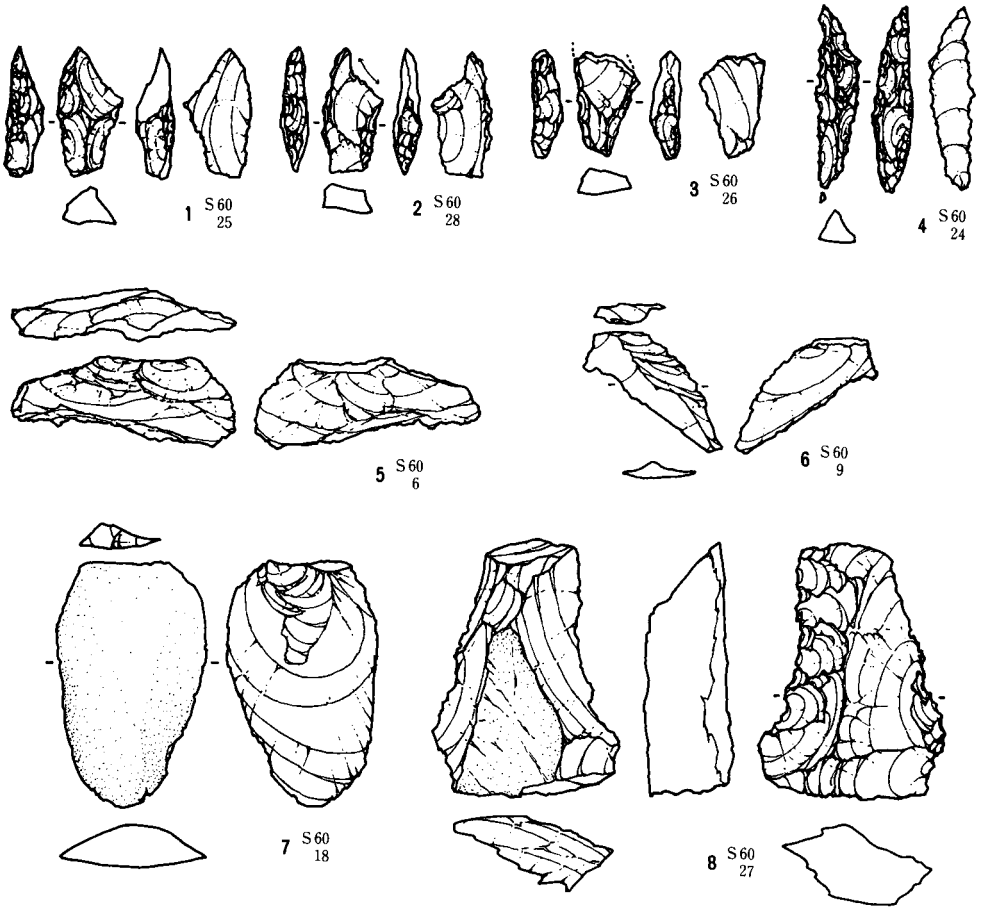
うに見られる。そこで、さきに抽出した各地点の状況を瞥見してみると、

(1)　石器総数25点以上の比較的石器総数の多い地点であること。

(2)　礫群の伴う場合が多いこと。(礫群の伴わないのは、S13とS34、S61の3地点であり、逆に礫群を保持しながらナイフ形石器を遺存していないのは、S18、S33両地点を挙げうるに過ぎない。)

(3)　8地点中複数の地点内クラスターの認めうるものは5地点を数える。このことは、地点内に複数のクラスターの識別される地点には、例外なく角錐状石器、あるいはナイフ形石器が分布していることを物語っている。

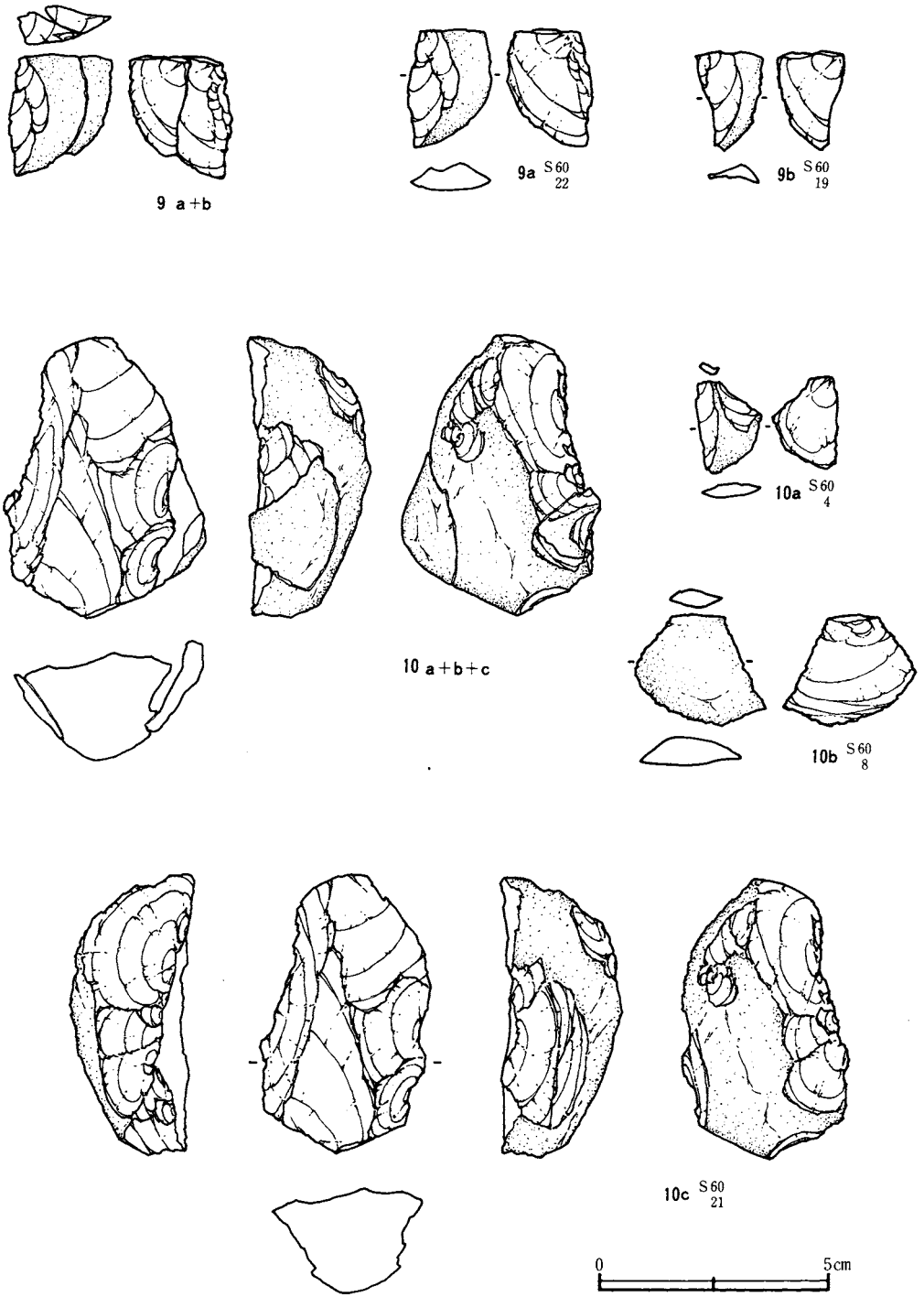
等の特徴が浮上してくる。この傾向を端的に述べれば、ナイフ形石器は相対的に資料数の多




第80図　S60地点出土遺物実測図 1　0　5cm

く、かつ礫群を保有する地点に特徴的に遺存することの多い器種と規定することもできるかもしれない。ところで、一地点における資料数の多寡は一般に居住集団の人口と居住期間の長短によって決定されるという。勿論、小集団・短期間の場合においても、集中的な母岩の消費が行われた場合や、異なった居住集団による反復居住などによっても同様の効果が想定されるであろうが、ここでは一般的な場合に限定して考察しておきたい。すると、ナイフ形石器という特定器種が占める特異な位相として、それが複数の集団が長期的に居住した地点で保持され、機能し、廃棄されたものである点を指摘したとしても、あながち的は外していないというべきであろう。

以上のような事実を確認する時、ナイフ形石器なるものの性格に関して、いくらかの再考の契機が与えられることになるのかもしれない。その形態・型式、あるいは共存石器群との関連性等、考察すべき点は多々認められるようである。



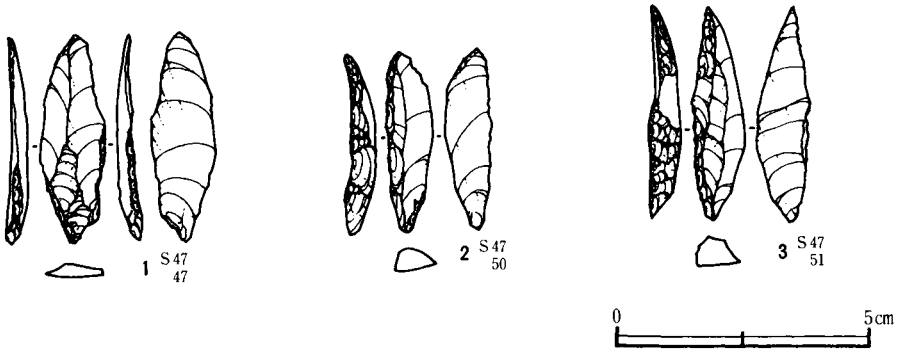

第81図　S60地点出土遺物実測図 2

## 第3節　第3文化層

**3・1 S47地点**（第82・83図、第37表）　径1.5mほどの狭い範囲に49点の剝片・削片が集中し、その東側に接してナイフ形石器が3点出土した。第82図では若干遺物が高めに投影されているが、遺物の産出層準はVI層と記録されている。

この地点の大きな特徴は、非常に良質な珪質頁岩の単一母岩しか分布していないことで、遺存した資料によるかぎり、（1）石核の調整と石刃の生産、（2）その石刃を素材とするナイフ形石器の製作という一連の工程が行われた地点と想定される。また、石核の遺存しないこと、廃棄資料が決して多くないこと等より、比較的限定的な母岩消費しか行われていないことが窺われる。

第83図にナイフ形石器を示した。いずれも石刃素材で、打面と基部を一致させている。素材の珪質頁岩は暗灰～濃茶褐色を呈する硝子質のもので、われわれがチョコレート頁岩と呼んでいる石材で、女川層起源のものと推定される。細部加工は、基部（1）、片側縁部（2・3）に看取され、2では更に補助的な小剝離が基部側に施されている。萱田地区では北海道遺跡第40ブロックのナイフがこれに比較される。

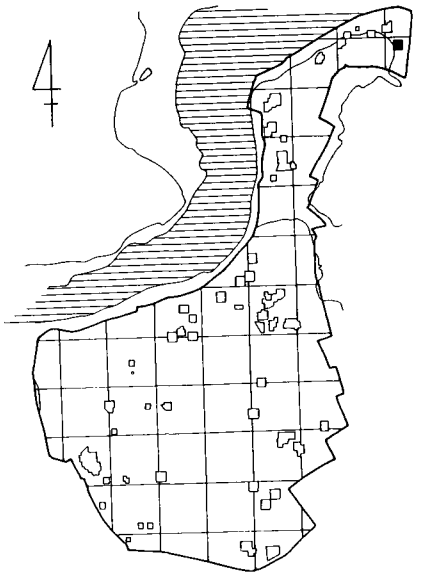



第82図　S47地点出土遺物実測図

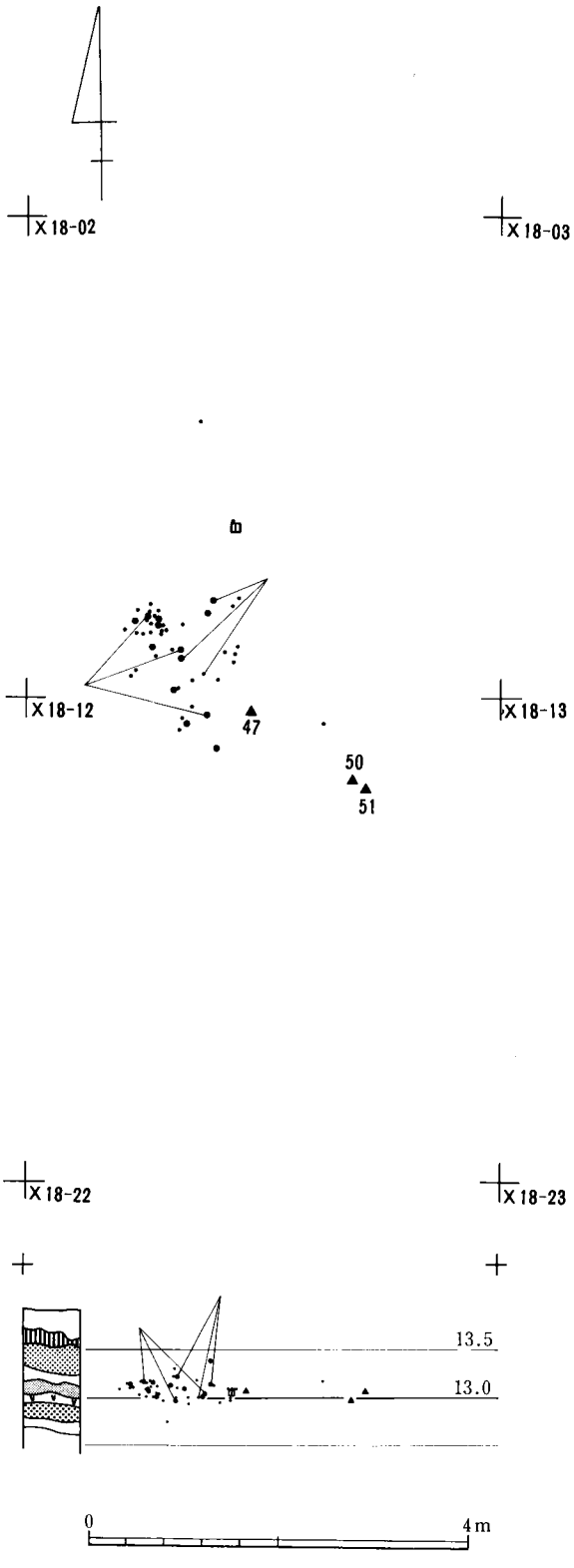
**第37表　S47地点石器組成表**

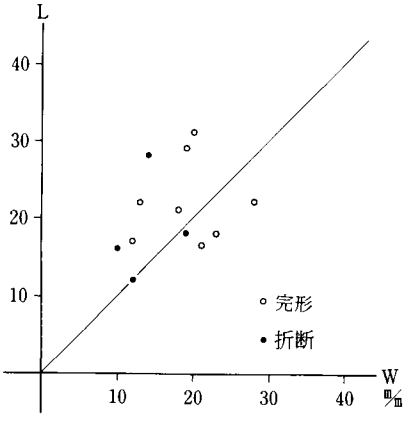
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 珪質頁岩 | 3 | | | | | | | 13 | 35 | | | | | 52 |
| 合計 | 3 | | | | | | | 14 | 35 | | | | | 52 |

**3・2 S51地点**（第84図）ナイフ形石器の単独出土地点である。産出層準はVI層。暗灰色のチャート製で、横長の小剝片の打面部と底辺に細部加工が認められる。底辺側のものは精緻な



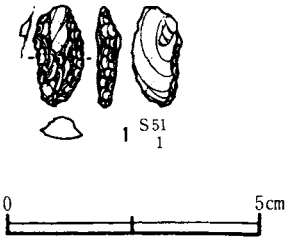

ブロックの位置




剝片計測値

第83図　S 47地点遺物分布状況




第84図　S51地点出土遺物実測図

ブランティングであるが、打面部側のものは一種の背面加工で、角度の浅い小剝離痕が併存している。S47地点の諸例と比較されたい。

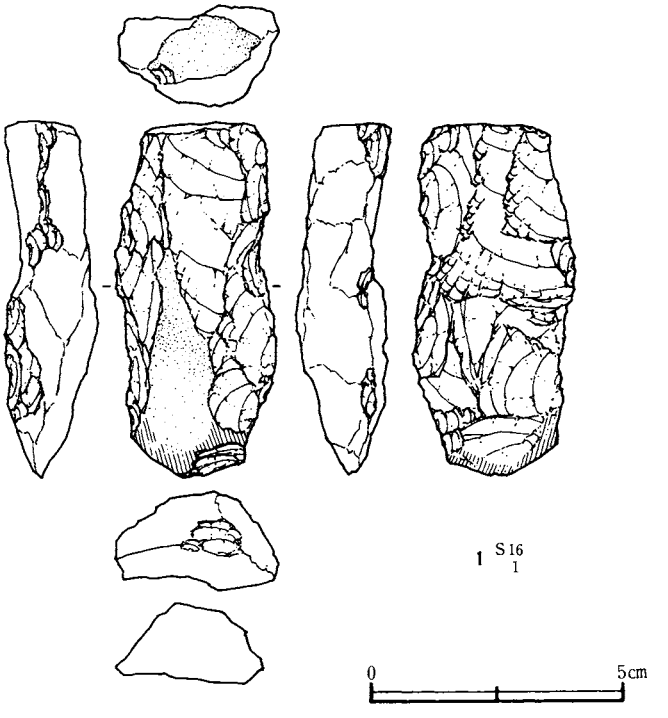
## 第4節　第4文化層

**4・1 S15地点**（第38表）黒色頁岩製の剝片が単独で出土している。

**第38表　S15地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 頁岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |

**4・2 S16地点**（第85図、第39表）ホルンフェルス製の局部磨製石斧が単独で出土している。この種のホルンフェルスは粘板岩起源のもので、暗い灰色を基調とし、茶褐色の小型の斑紋が多数認められる。本地域ではこの層準の石器群に多出する。石斧は分厚い剝片素材のもので、基部に旧打面とみられる原礫面が大きく残置されている。また、背面の縦長の剝離痕は、この打面から剝離されており、素材剝片作出に先行する剝離に由来しよう。従って、一個の石核から生産される一連の剝片群のうちから、特に大型・部厚なものを素材として選択していることが窺われる。石鏃は短冊




第85図　S16地点出土遺物実測図

状のプロフィールをしているが、二次加工は、剝片腹面側では打面部、両側縁部からの角度の浅い剝離であるのに対して、背面側では両側縁より急角度の調整剝離となり、ほぼ台形状の横断面が得られている。背面刃部よりでは大きく自然面が扇状に残されるが、研磨はこの面に入念に施され、腹面下端の研磨面と合っすることによって、鋭利な刃部が研ぎ出されることになる。図で研磨の方向を示しておいたが、表面では長軸にたいして右傾する、裏面では左傾する細密線状痕が観察される。また、背面刃部片側の剝離痕は破損によるものとみられる。

**第39表　S16地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ホルンフェルスa | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |

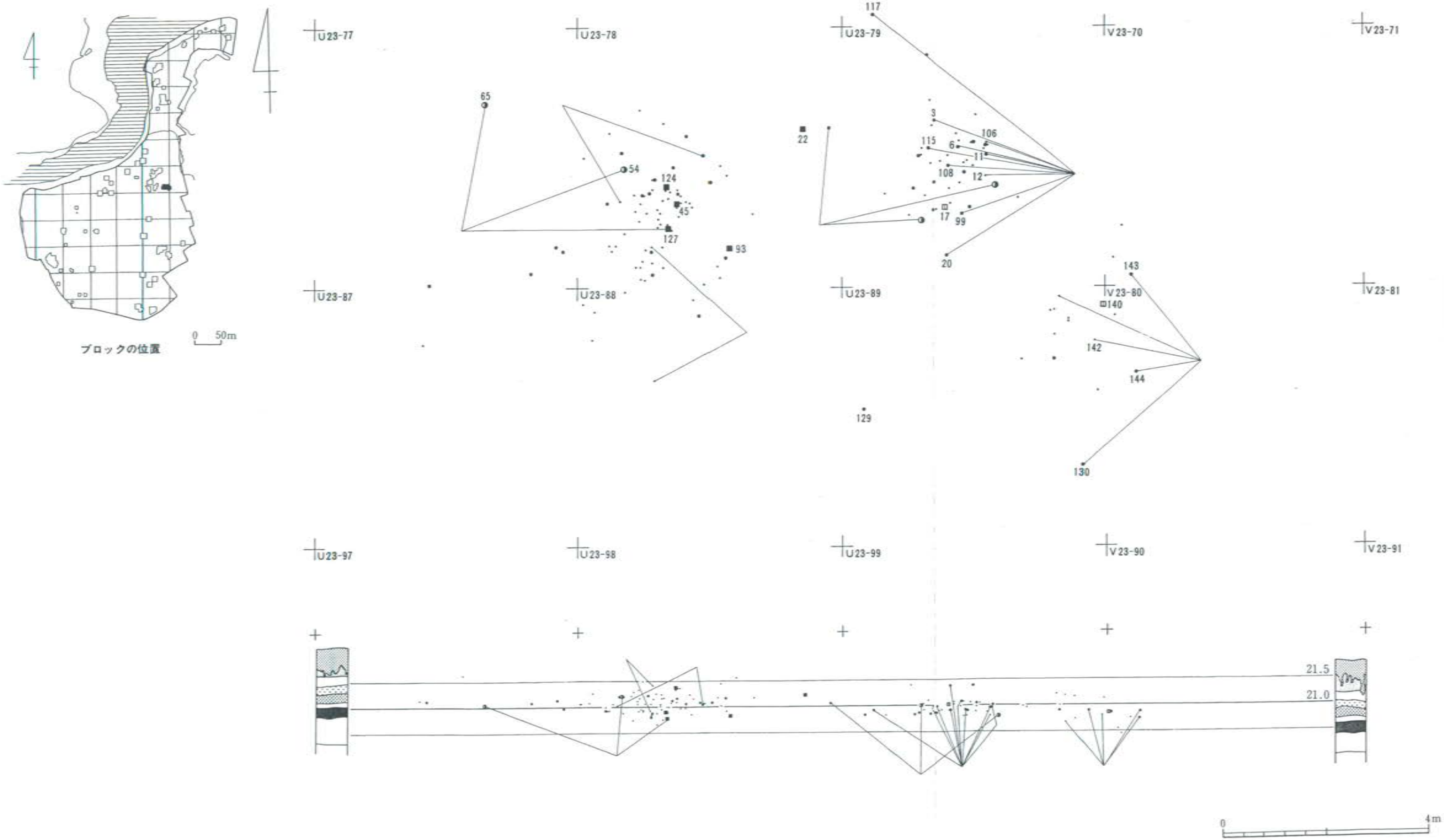
**4・3 S19地点**　チャート製の剝片が単独で出土している。

**4・4 S25地点**（第86～91図、第40～43表）　3箇所のクラスターが識別される。これらを西から東にa、b、cとする。なお、遺物産出層準は第2黒色帯の上部であるが、この地点周辺では土層が細かく細分されており、これに従うとIXa層を包含層と認定しうる。

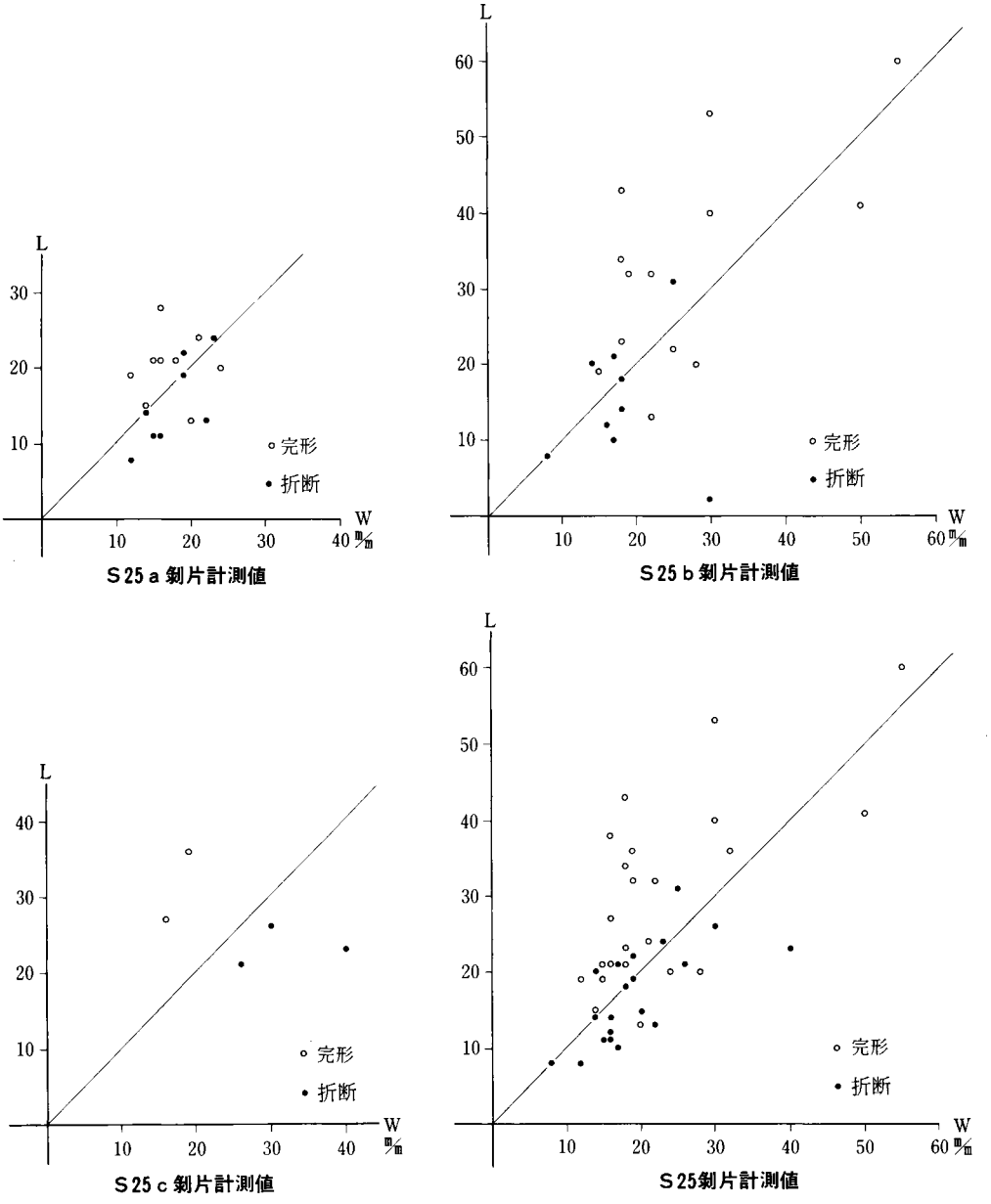
i 各クラスターの概要　初めにクラスター毎に、その状況を概観したい。

クラスターa　径約3mの略円形の分布域を形成している。遺物の総数は89点。その内訳は第40表のとおりである。黒曜石aが85点、95%以上を占め、更に、多量の削片を主体としていることから、このクラスターは黒曜石aの消費による廃棄地点であることが想定される。他に流紋岩aとホルンフェルスaを少量ずつ含んでいるが、前者は単独で存在する楔形石器の消耗過程に起因し、後者は隣接するクラスターbの遺物の混入とみられる。

黒曜石aは漆黒色を呈し、多量の流紋岩質の浮石片を含有する、極めて粗悪な石材であり、加撃に伴って細かく破砕してしまうため、企図的な剝片生産は困難であるが、黒曜石特有の縁辺の鋭利さが、剝片形状の画一性に優先するため選択されたものであろう。この石材の推定原産地は機器中性子放射化分析により、栃木県高原山産のものと判定されている。さて、この種の石材の剝離手法はどのようなものであったのだろう。遺存する資料によると、まず、（I）角礫状の原石を（おそらく石砧上に）固定し、ランダムに加撃することによって不定形な板状剝片をうる。次に（II）この板状剝片をもう一度立位に固定し、これもランダムに加撃することによって、比較的薄手の矩形をした剝片を多量に生産する、という両極剝離手法が盛んに用いられている。1に（II）の過程を示す接合資料を掲げた。むろん、この種の剝離手法においては作出される剝片に規格性は期待されないから、剝離された多量の剝片のなかから目的に適応するものが選択的に摘出されることになろう。これを過程（III）とする。ただし、このクラス



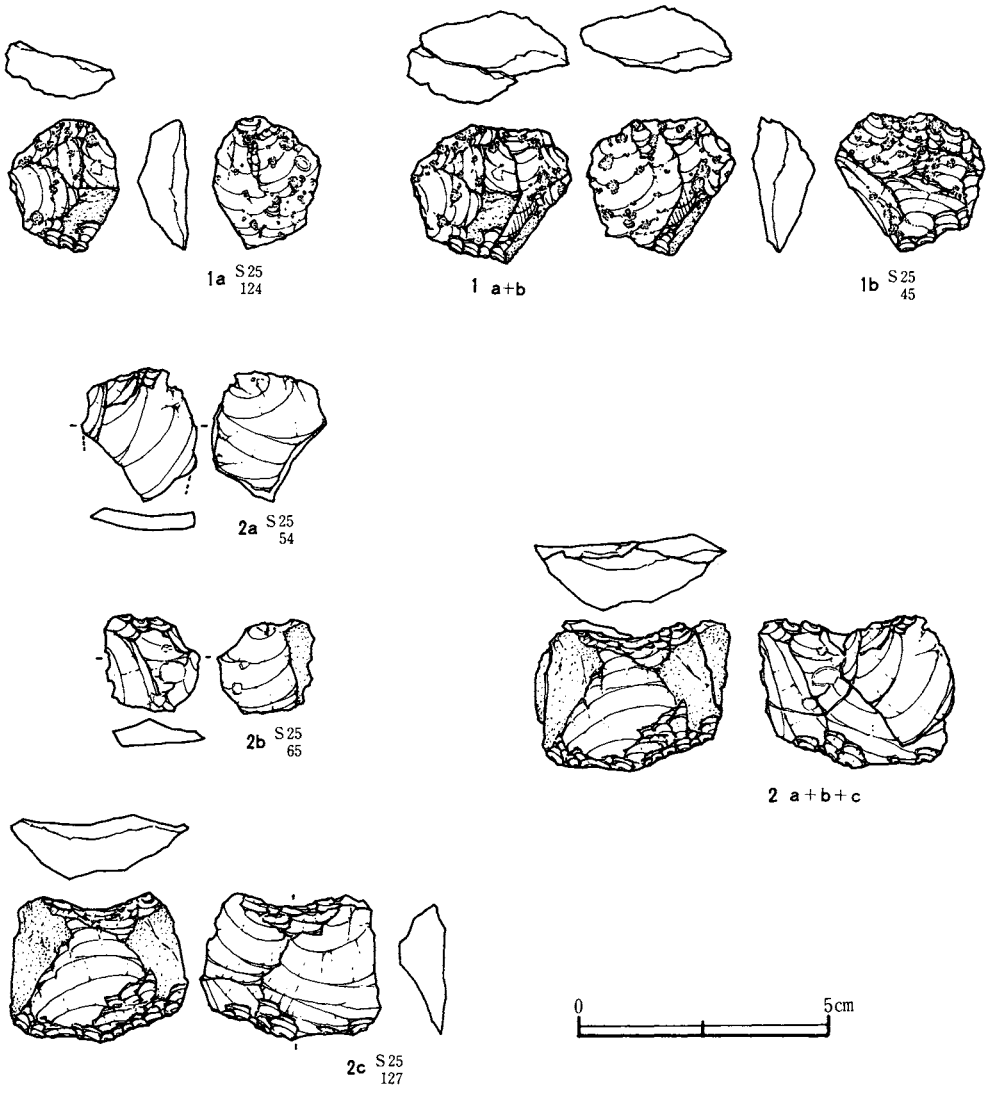

第86図　S25地点遺物分布状況




第87図　S25地点剥片計測値

**第40表　S25a地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | 3 | | | 15 | 67 | | | | | 85 |
| 流紋岩a | | | | | 1 | | | | 2 | | | | | 3 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | 4 | | | 16 | 69 | | | | | 89 |

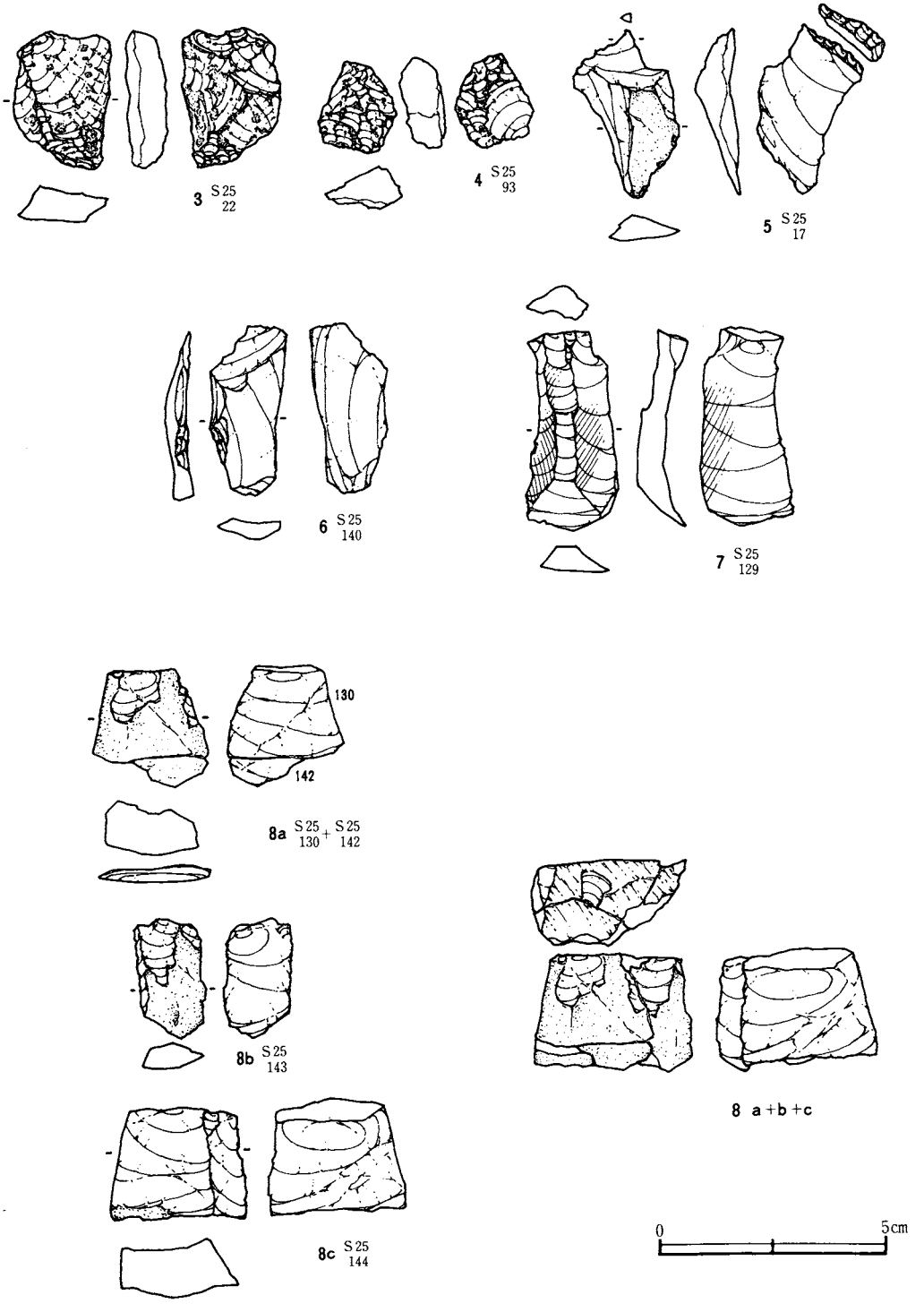



第88図　S25地点出土遺物実測図 1

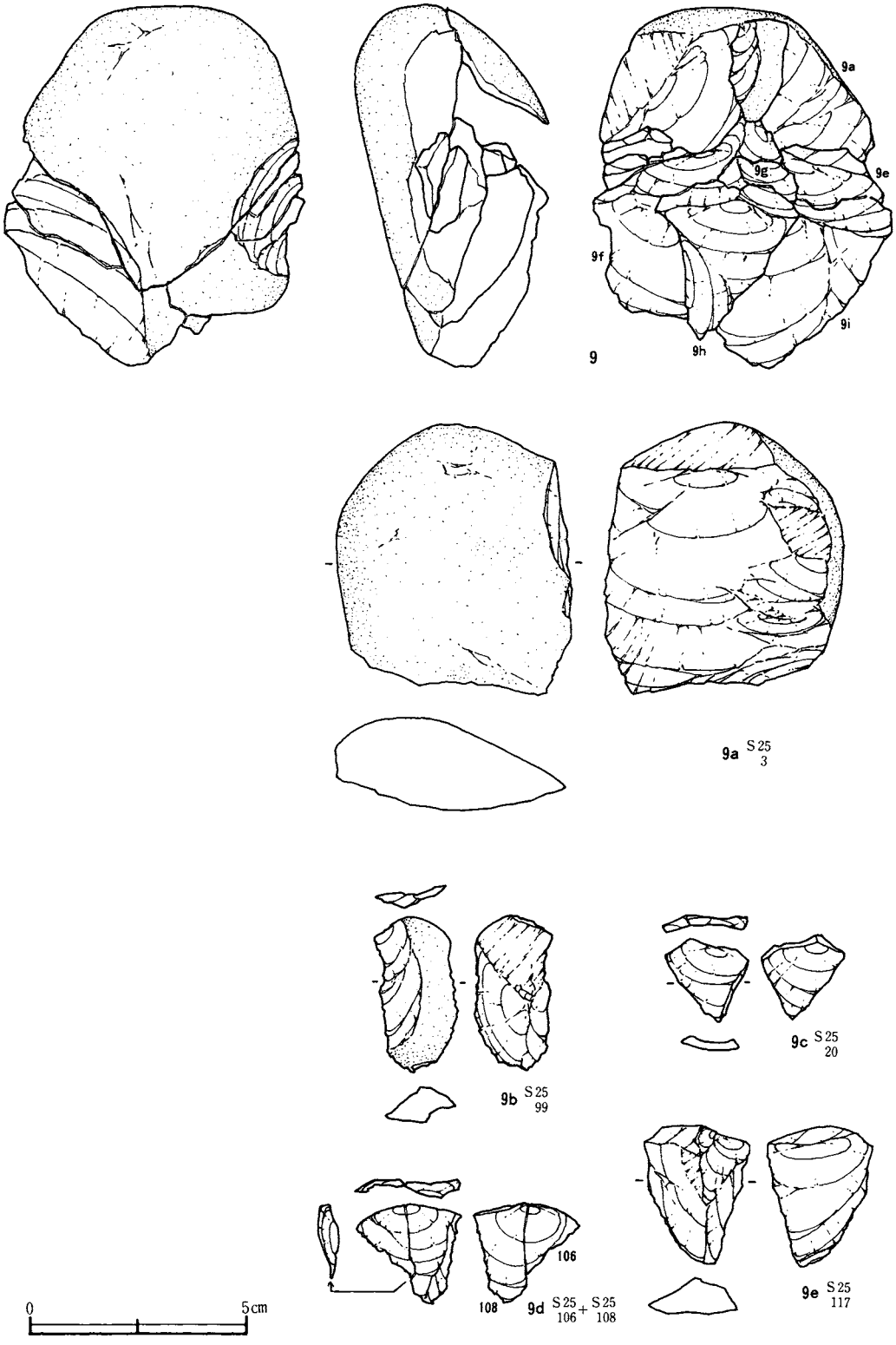
ターからは（III）を直接に指示しうるような使用痕つきの剝片は得られていない。

クラスターb　クラスターaの2m東側に位置する径約2mの分布範囲である。44点の資料があるが、ホルンフェルスaが17点、38.6%を占め、この石材を対象とする母岩消費地点と考えられる。これ以外には、泥岩aが11点、25.0%で、やはり、限定的な母岩消費の対象として指定しうる。これ以外は少量の黒曜石とチャートがあるにすぎない（第41表）。これらのうち、黒曜石aに関してはクラスターaの遺物の混入であろう。

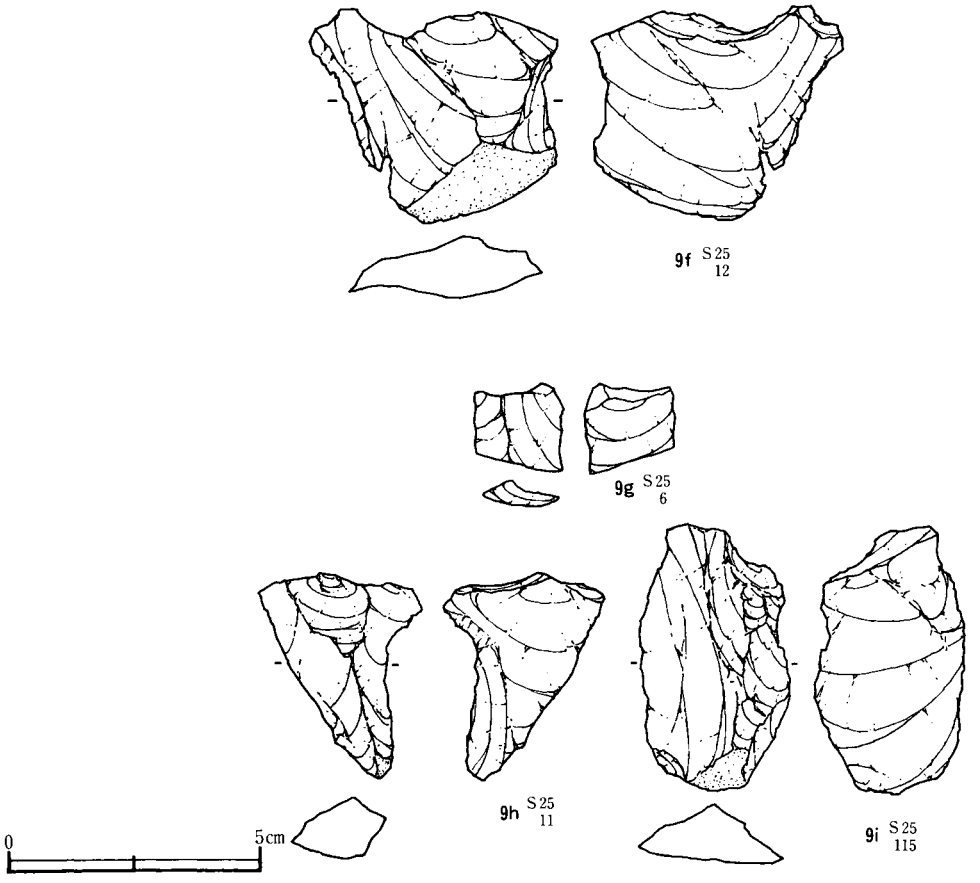
ホルンフェルスaには比較的多くの接合資料が含まれる（7）。この例から明らかなように、本石材に対しては両極剝離は適用されておらず、作業面と打面の交代を伴う一般的な剝離手法が採用されている。泥岩aにも接合資料があるが、その詳細は不明である。




第89図　S25地点出土遺物実測図 2




第90図　S25地点出土遺物実測図　3




第91図　S25地点出土遺物実測図 4

クラスターc　クラスターbの南東2mにある。17点と少量の石器しか含んでいない。その組成は第42表に示した。泥岩aがやや纏まっているが、少量の資料しか保有しない母岩が多い。泥岩aの接合資料は6で、極めて限定的な母岩消費の状態が窺われる。また、隣接するクラスターbとは共通する石材があり、大体同時に形成されたものとみられる。全般的に削片の数が多いので、限定的な剝片生産以外にも、あるいは、搬入された剝片類、例えば、クラスターbで生産されたホルンフェルスaの剝片等を対象とする刃付けや再生といった行動に関連するかとも考えられるが、明確な根拠はなにも提示できない。

ii石器群の特徴　各クラスターの石器群の特徴としては、何れも剝片を主体としており、細部加工の介在する石器を殆ど含んでいないことが指摘される。剝片生産技術に関しては、以下の分類に従う。

mode 1　磯山型の石刃生産技法　5が典型的な資料であるが、石刃単体での搬入である。

mode 2　諸種の一般的剝片剝離手法

2 a　接合資料7による。打面－作業面交代型のもの。

2 b　両極石核・両極剝片の生産・消費過程。接合資料8・9を標準資料とする。

**第41表　S25b地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | 1 | 11 | 17 | | | | | 29 |
| 泥岩a | | | | | | | | 4 | 7 | | | | | 11 |
| チャートa | | | | | | | | 2 | 1 | | | | | 3 |
| 合計 | | | | | | | 1 | 17 | 26 | | | | | 44 |

**第42表　S25c地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩a | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | | 5 | | | | | 5 |
| 泥岩a | | | | | | | 1 | 4 | 5 | | | | | 10 |
| 砂岩a | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | 1 | 4 | 12 | | | | | 17 |

**第43表　S25地点ブロック外石器組成表**

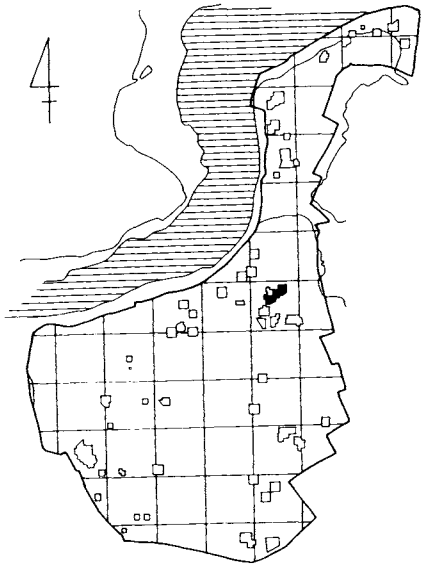
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石b | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |

以上の手法による多量の剝片がある。剝片の一部は選択的に刃器として用いられているが、少量のものに細部加工が看取される。3は剝片の打面部を截断するもの。4は横打剝片のやはり打面部を截断しているが、前者の截断がブランティングに近い手法によるものであるのに対して、後者では浅い剝離によって打面を除去している。なお、4は一種の台形石器ともみられるが、剝片R（細部加工ある剝片）と分類した。

**4・5 S38地点**（第92・93図、第44・45表）　東西に2箇所の遺物集中地点があり、西側のものをクラスターa、東をクラスターbとする。産出層準はⅨa層である。

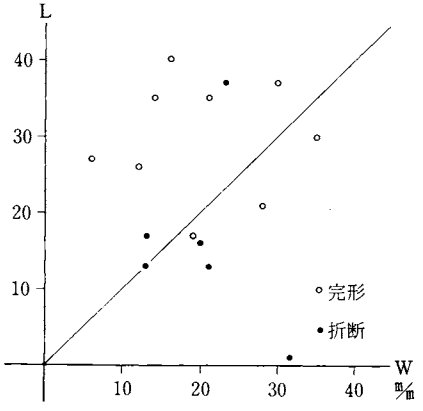
クラスターa　遺物の分布は南北約5m、東西約2mであるが、中央の径約1.5mの部分の遺物密度が濃い。総数29点の資料を含むが、これらは7種の母岩に還元された。7母岩中、安山岩2種の個体数が多く、両母岩を対象とする限定的な母岩消費が行われたものとみられる。すなわち、安山岩aでは原礫面を大きく留める剝片の存在から、比較的初期段階の剝離工程が、また、安山岩bではmode 2 bによる消費過程が（1・2）それぞれ想定される。残余のものに関しては、極少量の剝片類が遺存するにすぎないので、その詳細は不明である。

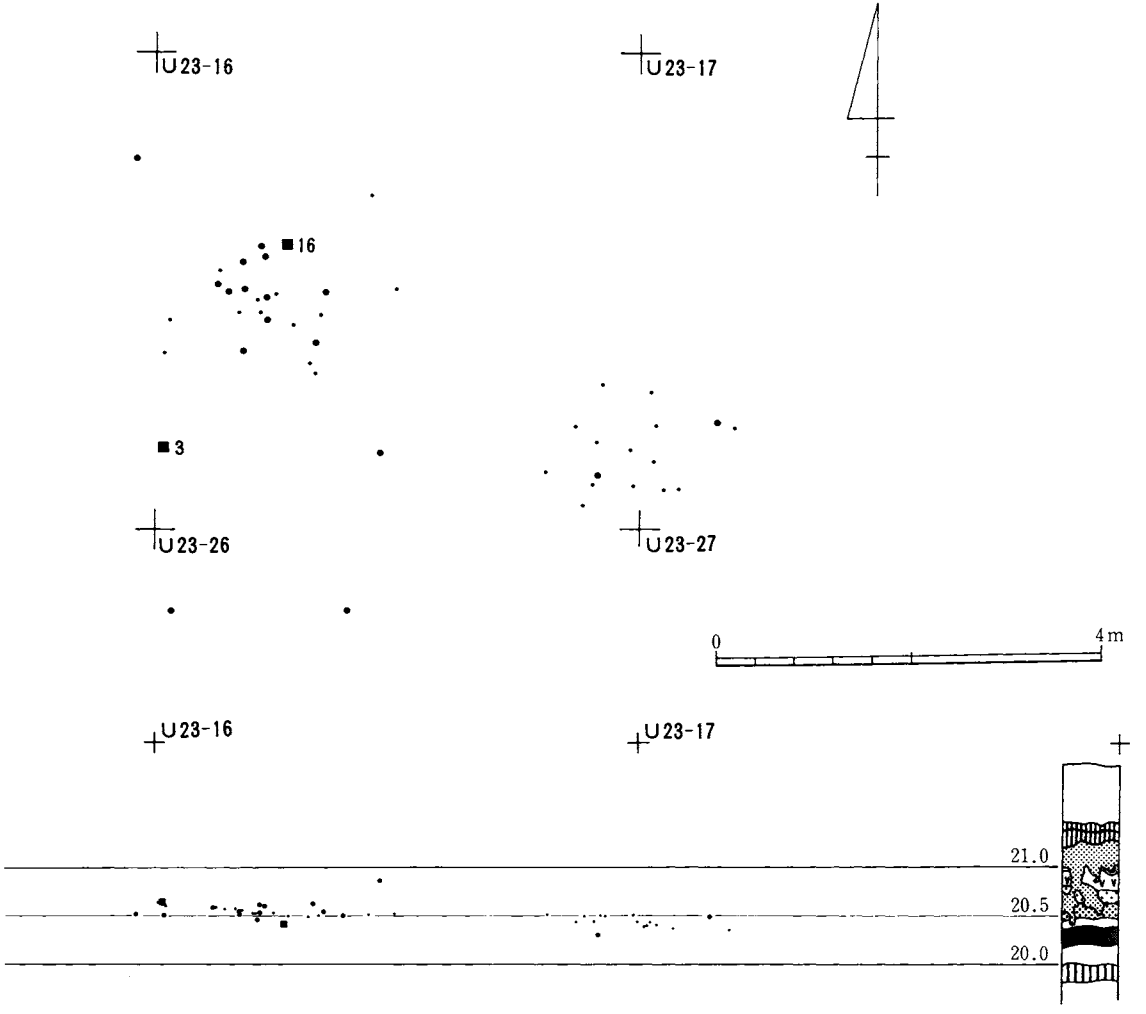
クラスターb　径約1.8mの小範囲に16点の資料が分布している。剝片類のみによって構成さ



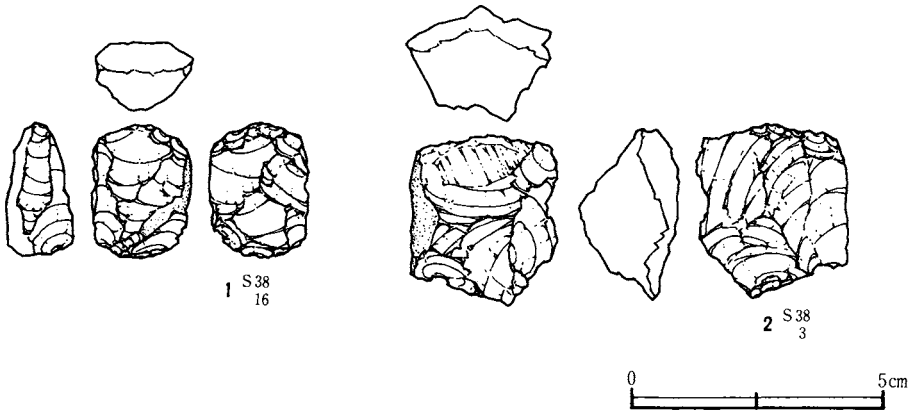
ブロックの位置

0 50m




第92図　S38地点遺物分布状況




第93図　S38地点出土遺物実測図

れているが、何れもたいへん小型のもので、企図的に生産されたものとは考えられない。おそらく、限定的な母岩消費にともなって生じたwasteであろう。

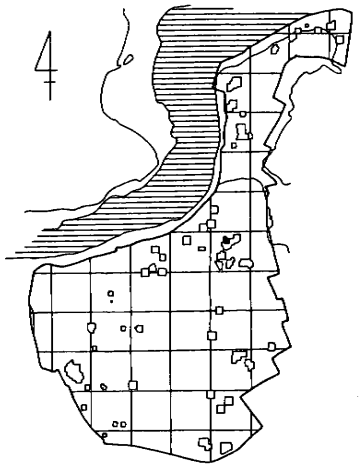
**第44表　S38a地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 安山岩a | | | | | | | | 4 | 9 | | | | | 13 |
| 流紋岩a | | | | | 2 | | | 5 | 3 | | | | | 10 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| チャートa | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| チャートb | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートc | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | 2 | | | 13 | 14 | | | | | 29 |

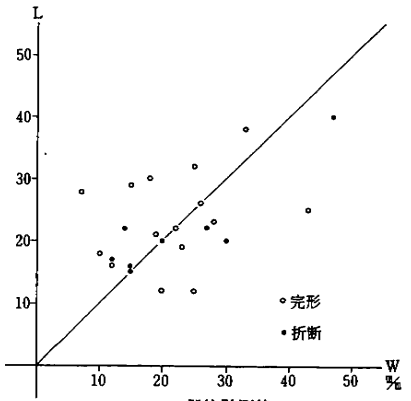
**第45表　S38b地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ホルンフェルスa | | | | | | | | 1 | 3 | | | | | 4 |
| チャートa | | | | | | | | 4 | | | | | | 4 |
| チャートb | | | | | | | | 4 | | | | | | 4 |
| チャートc | | | | | | | | 1 | 3 | | | | | 4 |
| 合計 | | | | | | | | 10 | 6 | | | | | 16 |

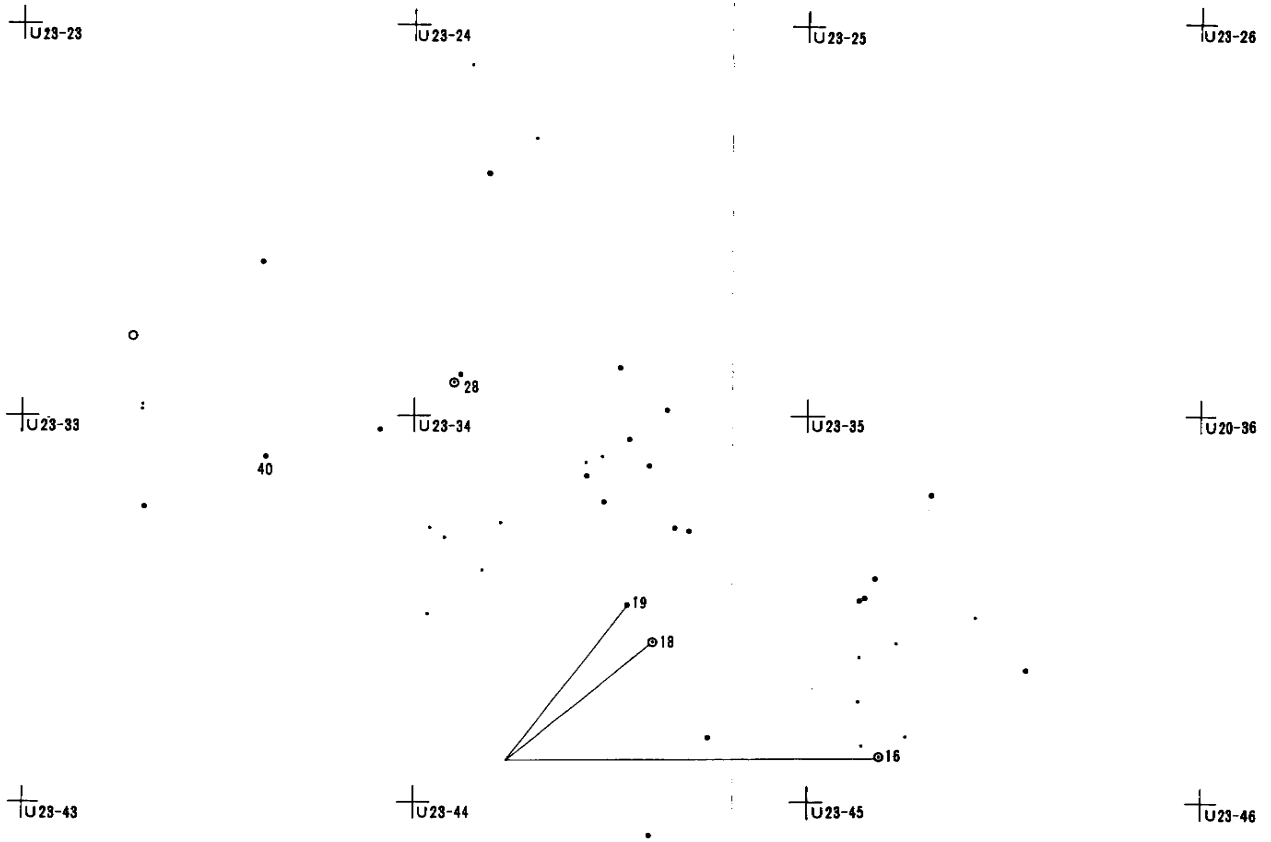
**4・6 S39地点**（第94・95図、第46表）東西約12m、南北約10mという広範囲に遺物の散布が確認されているが、遺物は総数で46点あるにすぎず、比較的散漫な分布状況である。細かく観察すると何箇所かのクラスターが識別されるようにもみられるが、ここでは一括しておく。産出層準はIXa層である。

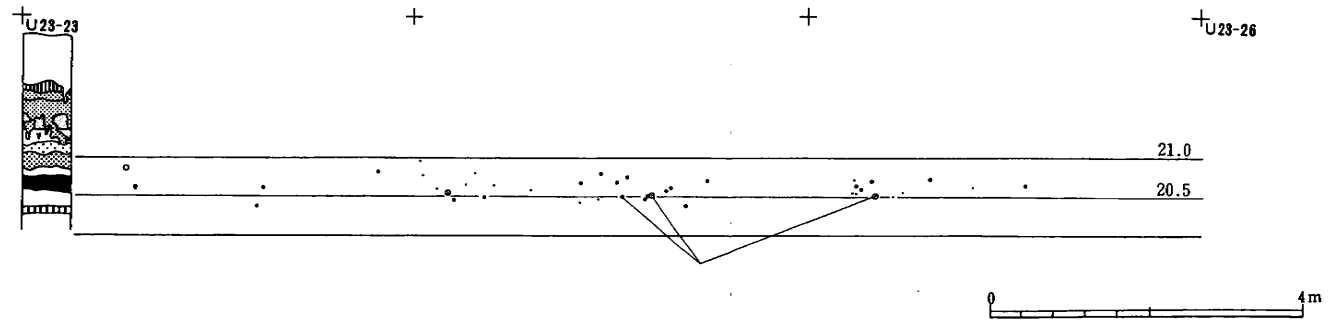



ブロックの位置




剝片計測値




第94図　S39地点遺物分布状況

第46表に遺物の一覧を掲げた。この表から明らかなように、剝片類を主体とした組成を示している。また、識別しえた11母岩は、何れも少数の個体を保有するにすぎず、母岩消費が極めて限定的であったことを示唆している。各母岩ともにその散布する範囲が広いので、最終的廃棄以降の諸種の変換過程が想定される。第95図に検出資料の一部を掲げた。1はmode 1によるホルンフェルスaの大型石刃の分割資料。もともとの石刃の状況はよく分らないが、大型・粗製のものである。頭部側2点には背面右側縁に剝離痕が連続し、小型貝殻状の剝片を落としているので、石核に転化されていることが知られる。2は砂岩の礫片様のもので、上下に剝離痕があることから、楔形石器の仲間とも分類可能である。3は流紋岩の石核で、いろいろな方向からの剝離痕が観察される。1と3の資料を基礎として、

mode 2 c盤状横打石核からの連続的剝片生産過程

2 d回転系多打面型石核によるもの

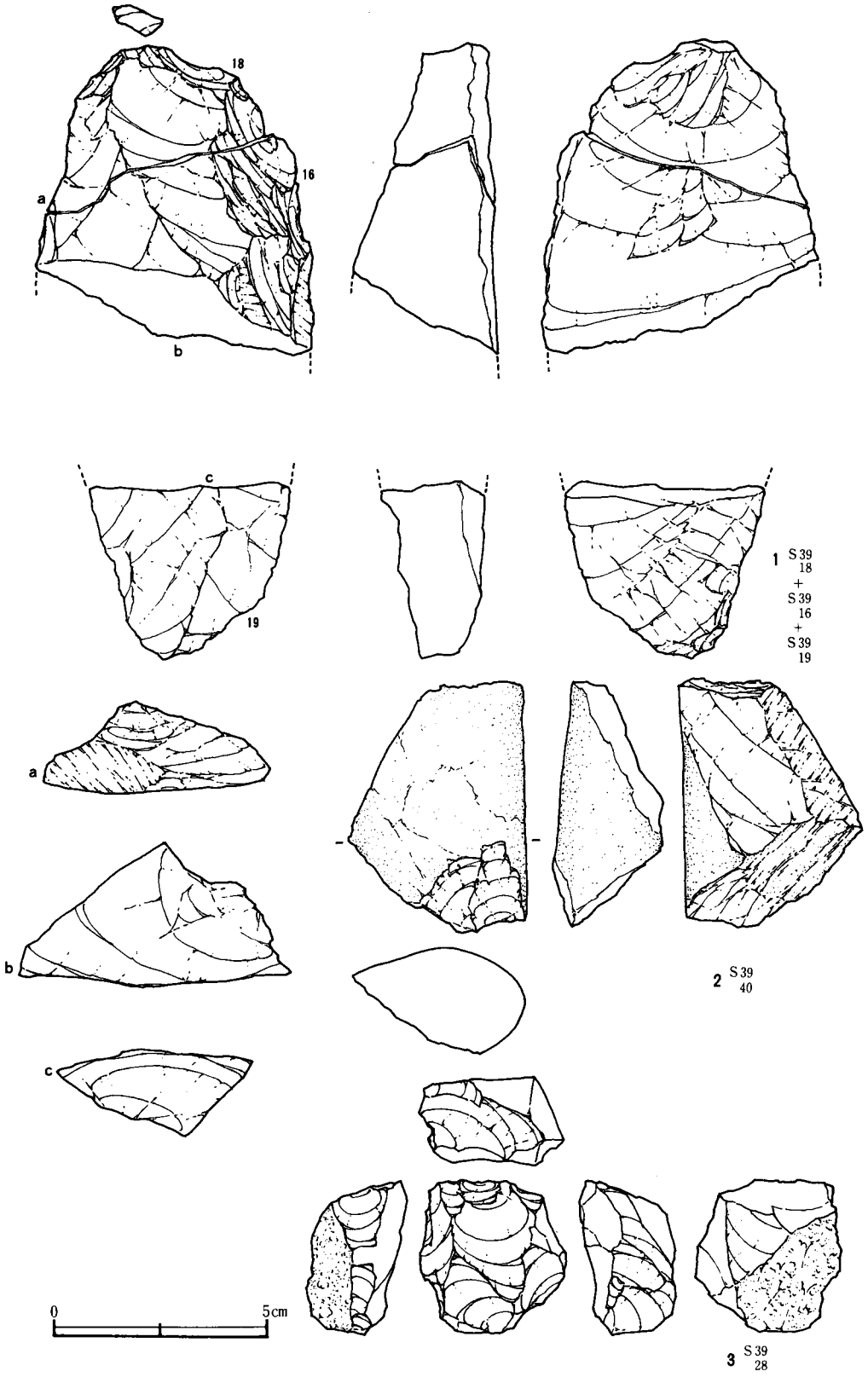
という2種の類型が追加される。なお、黒曜石a・細粒凝灰岩a・チャートaの3者には何れも mode 2 bの過程に組み込まれる特徴が看取される。

**第46表　S39地点石器組成表**

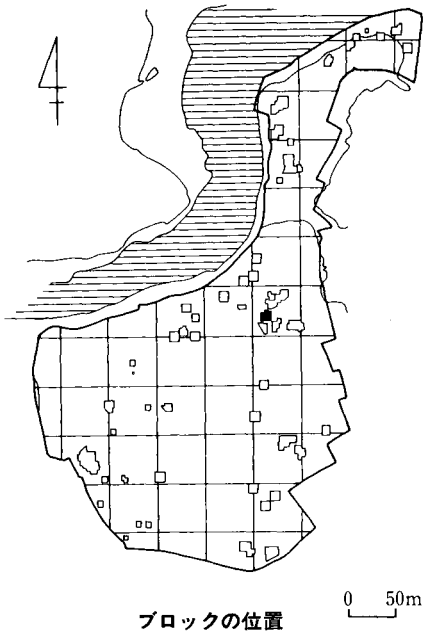
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | 6 | 6 | | | | | 12 |
| 流紋岩a | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | 1 | 2 | 2 | | | | 5 |
| ホルンフェルスb | | | | | | | | 5 | 4 | | | | | 9 |
| 細粒凝灰岩a | | | | | | | | 1 | 4 | | | | | 5 |
| 頁岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 頁岩b | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 頁岩c | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートa | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートb | | | | | | | | 4 | 4 | | | | | 8 |
| 砂岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | 22 | 20 | 3 | | | | 45 |

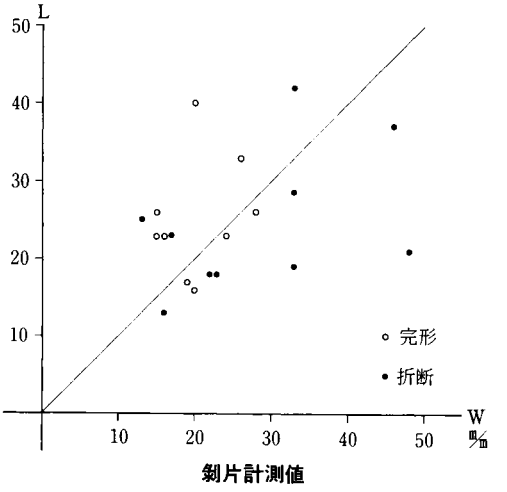
**4・7 S40地点**（第96～98図、第47表）　S39地点の南側に近接して存在する。分布範囲は南北約8.5m、東西約7mであり、比較的広い面積にわたるが、遺物総数は65点であり、やや散漫な印象を拭いがたい。分布状況を瞥見すると、U23-63ポイントの北東部と南西部とに比較的分布密度の濃いエリアが識別される。前者は黒曜石aの、後者はチャートeの消費地点である。なお、産出層準はIXa層である。

石器組成は第47表に示した。本地点もやはり剝片類の卓越と少量の石核の存在によって特徴付けられる。それらの一部を第98図に示した。1はチャートの石核。側縁部に小剝離痕が連続する。5も同種石材の石核。縦横に入り組んだ節理面のため良好な剝片の剝離が困難な様子が




第95図　S 39地点出土遺物実測図



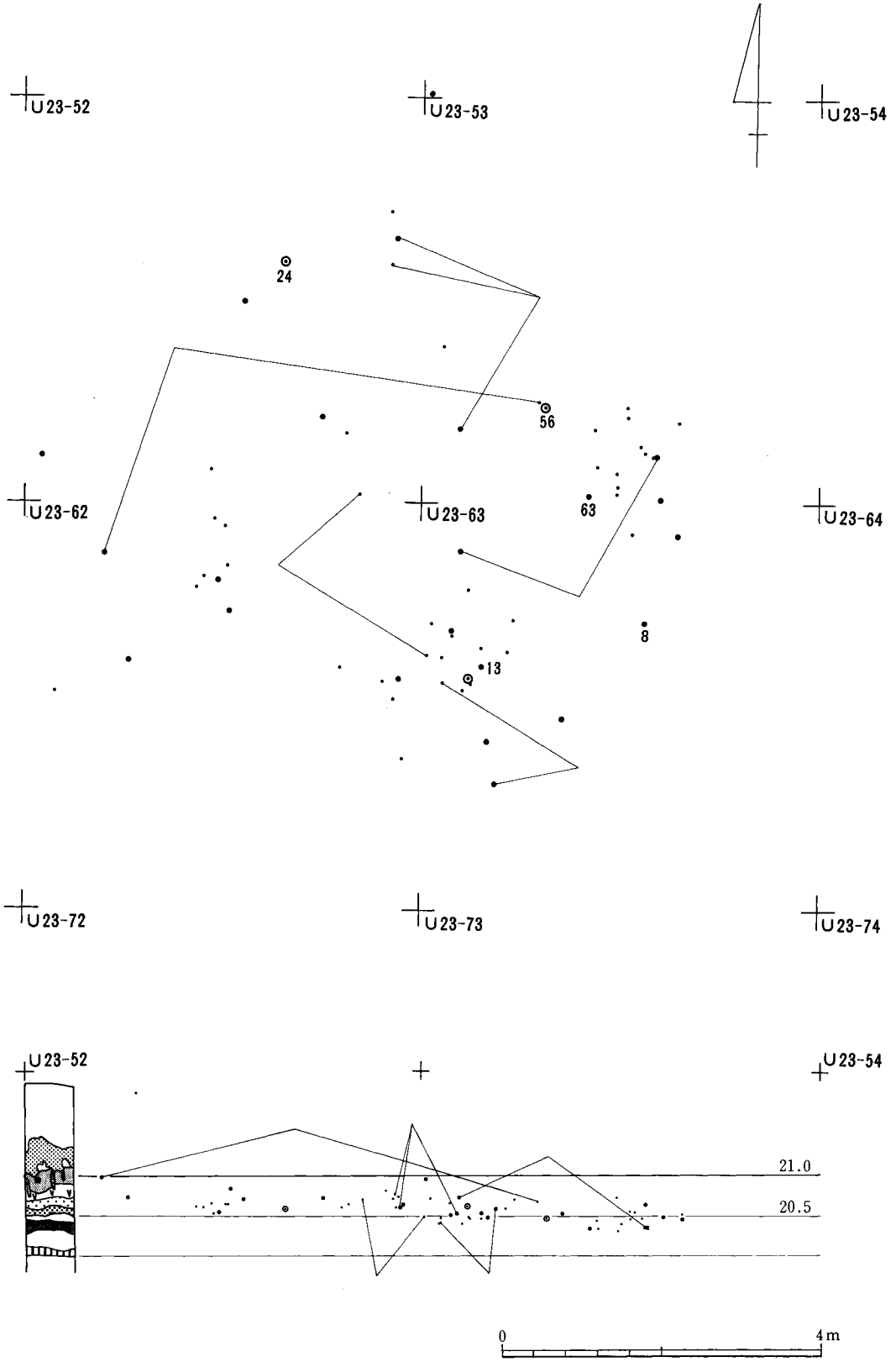

第96図　S40地点剝片計測値

**第47表　S40地点石器組成表**

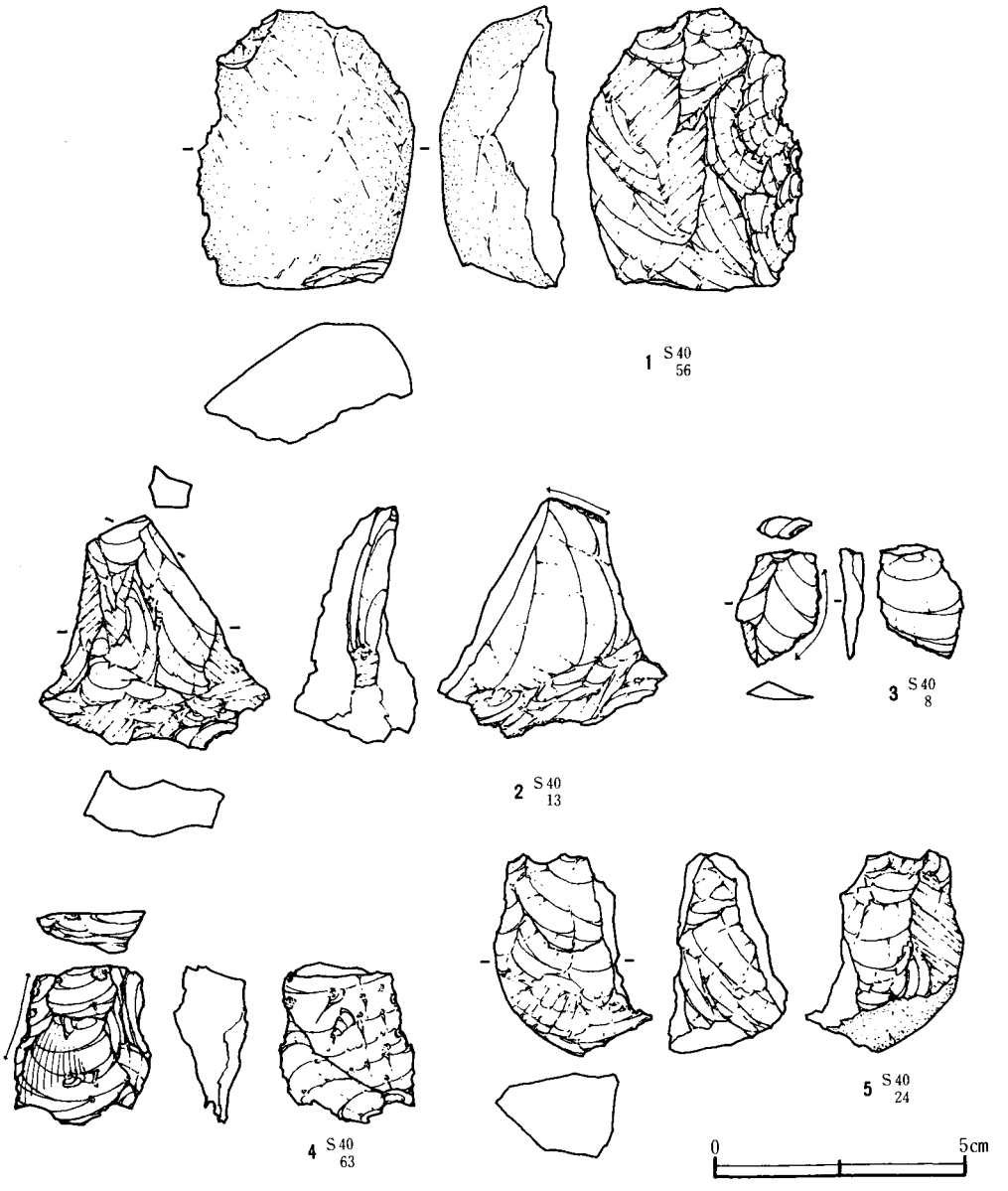
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | | 6 | 16 | | | | | 22 |
| 安山岩a | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| ホルンフェルスb | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | 3 |
| 玉髄a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 頁岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートa | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートb | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートc | | | | | | | | 4 | 2 | 1 | | | | 7 |
| チャートd | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | 2 |
| チャートe | | | | | | | | 5 | 18 | 1 | | | | 24 |
| チャートf | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | 21 | 41 | 3 | | | | 65 |

窺われる。2～4は剝片。何れも使用痕付のものである。2はチャート、3は玉髄、4は黒曜石製である。

使用石材としては黒曜石とチャートが目立つ。黒曜石は本文化層に帰属する他の地点のものと比較すると良質であるが、やはり漆黒色を呈し、かつ多量の夾雑物の混入が観察される。チャートは青灰色系の色調を呈するものが多く、均質性に欠け、不整な破砕状況を帰結する場合が多々見受けられる。なお、消費母岩の内容を観察すると、黒曜石aはmode 2 bによるもので




第97図　S 40地点遺物分布状況

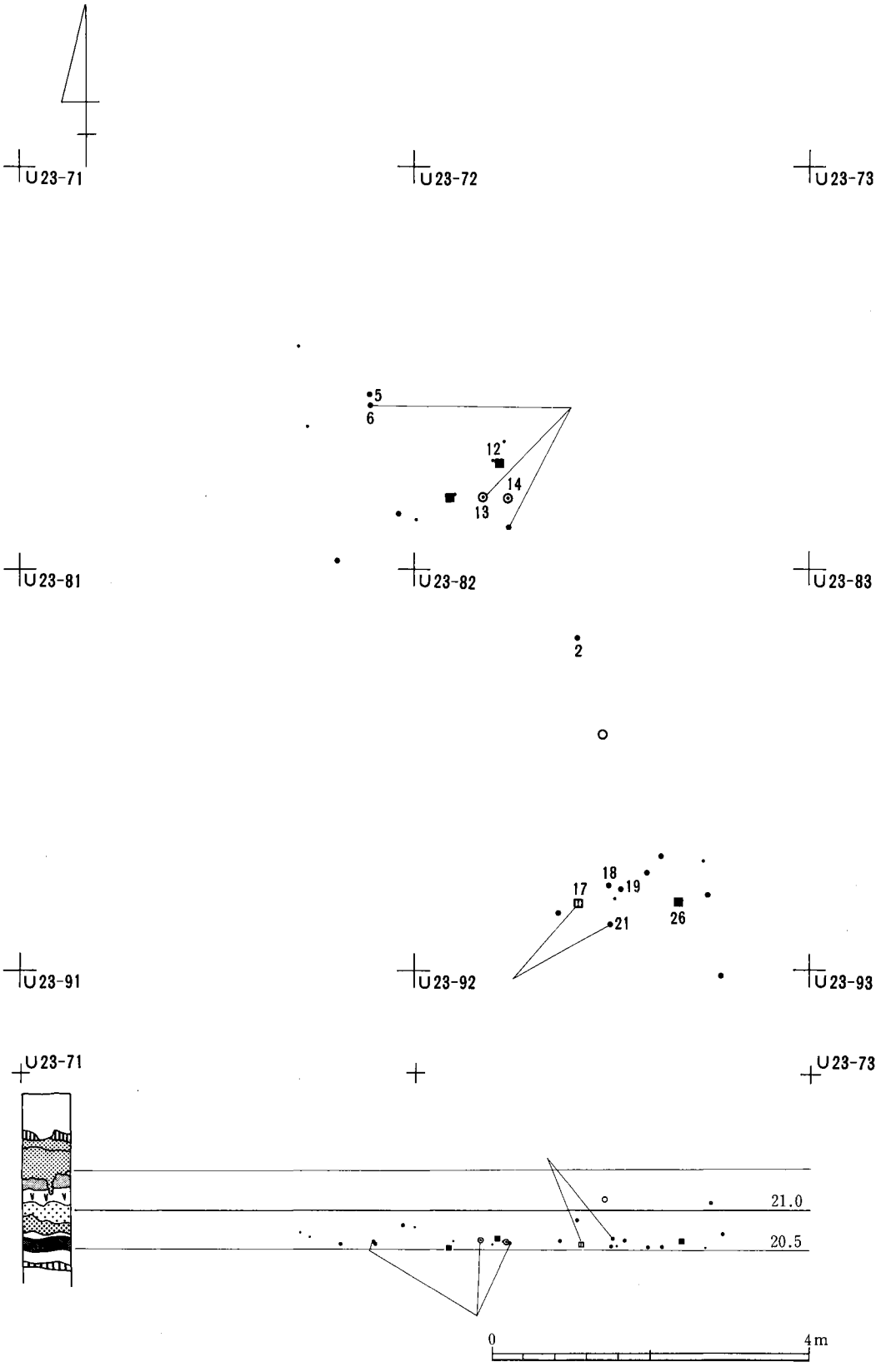



第98図　S40地点出土遺物実測図

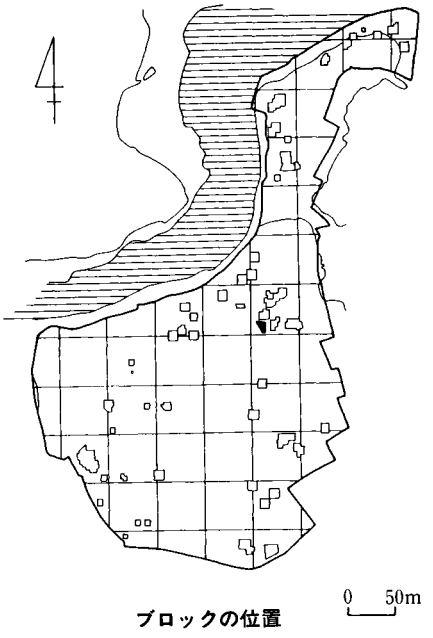
あるが、チャートeは不定型な破片が多く、その詳細はよく分からない。何れも、母岩の消費過程の極一部分を保有しているにすぎず、限定的消費によるものである。

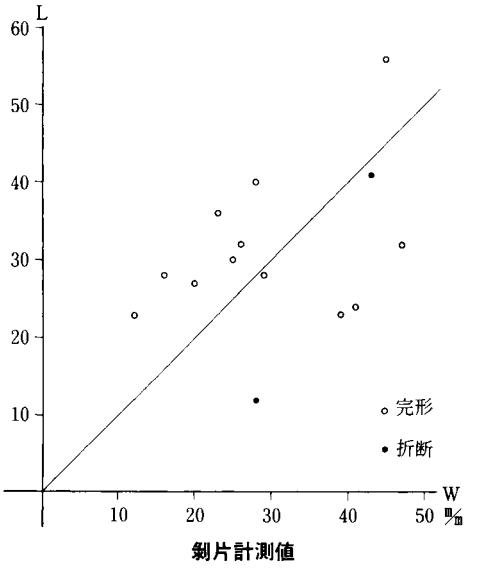
**4・8 S41地点**（第99～102図、第48・49表）　S40地点の南側に近接している。南北2箇所のクラスターから構成されている。北側のものをクラスターa、南側を同bとする。産出層準は何れもⅨa層である。

クラスターa　南北約5m、東西約2.5mの範囲に遺物が分布している。遺物総数は18点であ




第99図　S41地点遺物分布状況



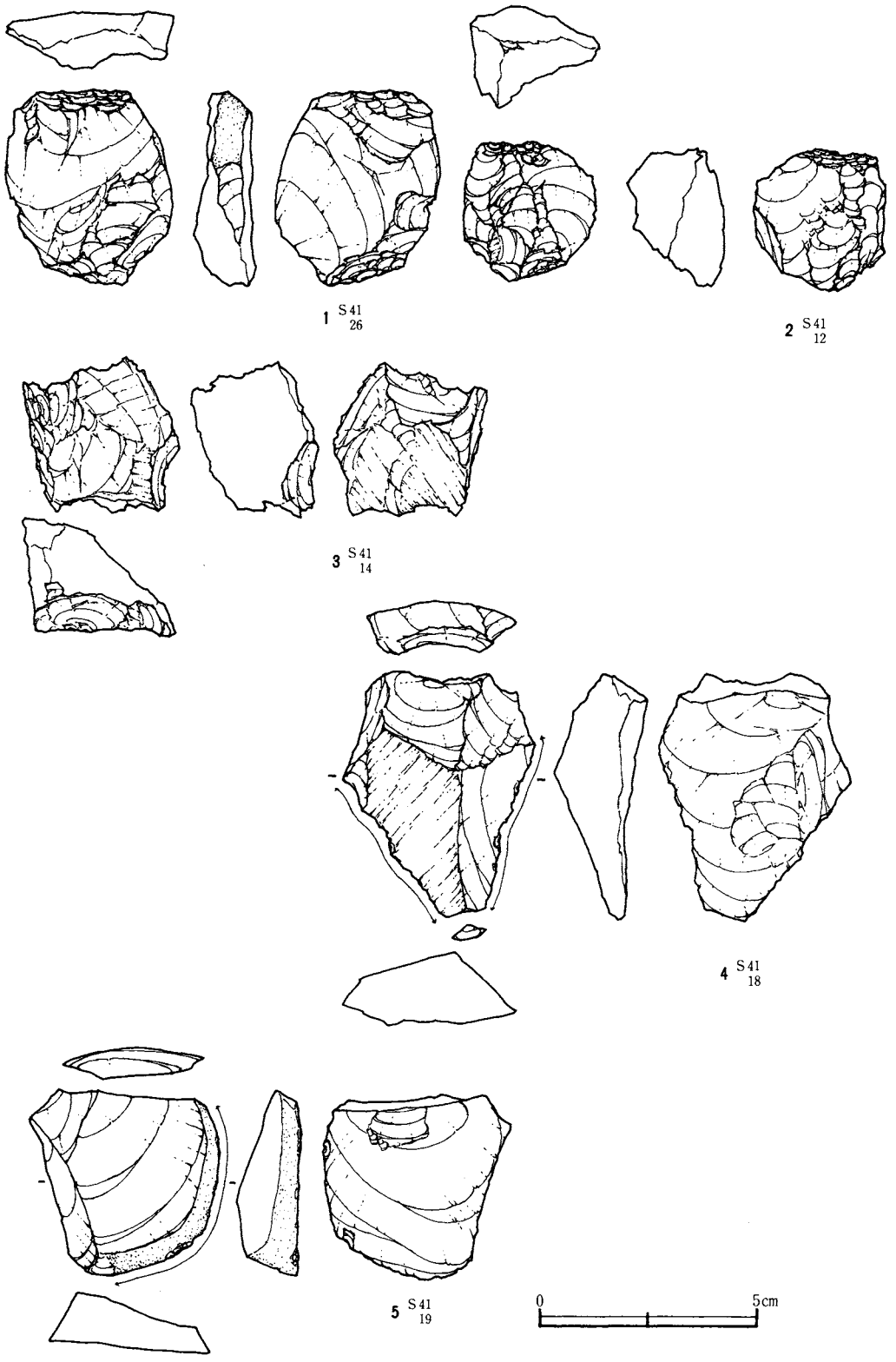

第100図　S41地点剥片計測値

**第48表　S41a地点石器組成表**

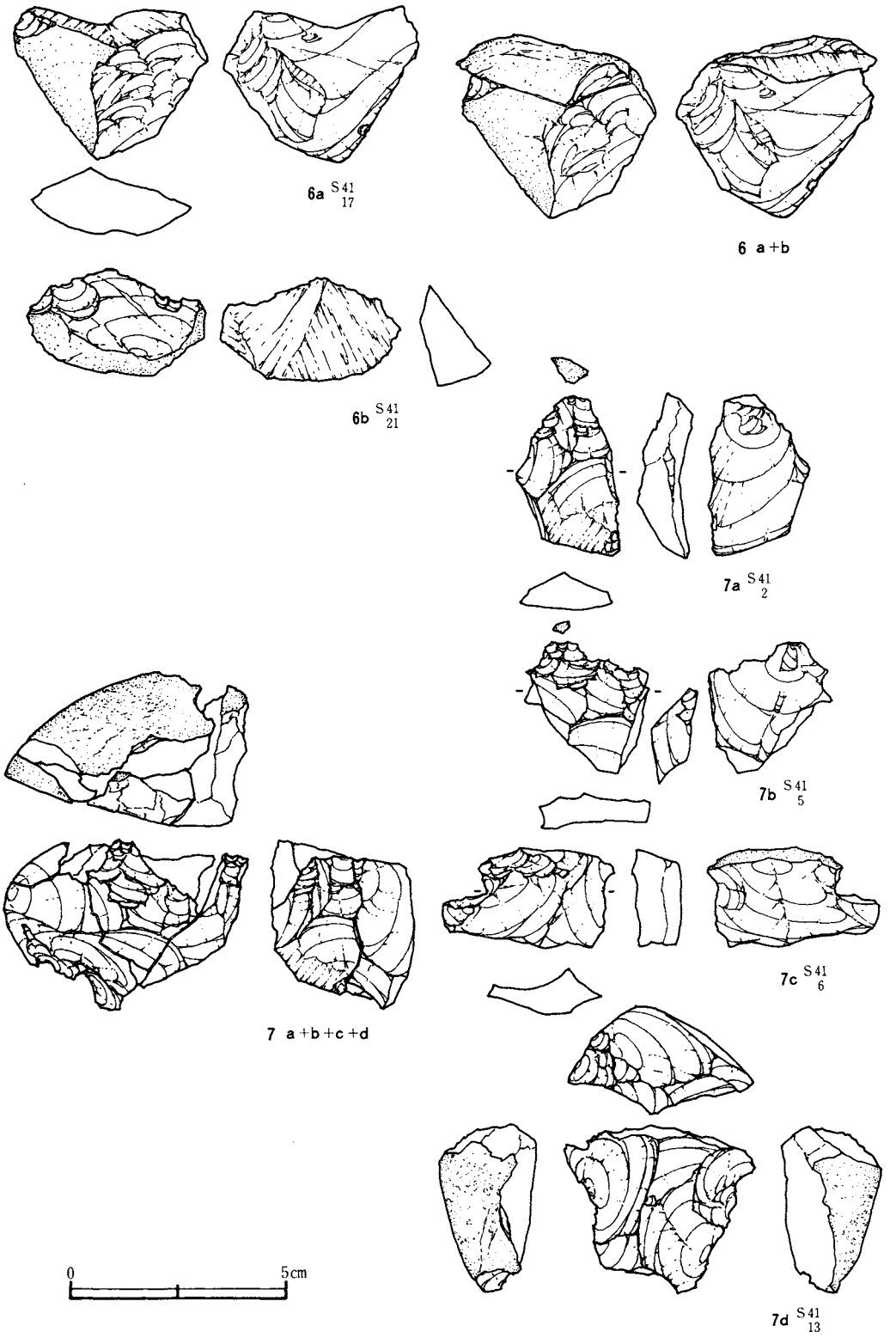
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 流紋岩a | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| チャートa | | | | | | | | 3 | 3 | 1 | | | | 7 |
| チャートb | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートc | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| チャートd | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| チャートe | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 粘板岩a | | | | | | | | 2 | 2 | | | | | 4 |
| 粘板岩b | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | 2 | | | 6 | 8 | 2 | | | | 18 |

**第49表　S41b地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 安山岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| ホルンフェルスa | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートa | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャートb | | | | | | | | 5 | | | | | | 5 |
| チャートc | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 頁岩a | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 2 |
| 粘板岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | 1 | | | 10 | 1 | | | | | 12 |



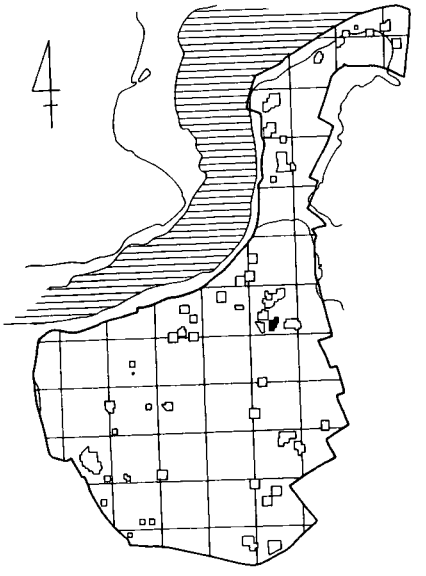

第101図　S41地点出土遺物実測図 1

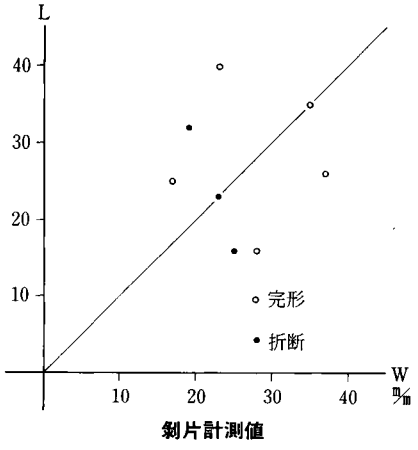



第102図　S41地点出土遺物実測図　2

り、その密度は低い。楔形石器が2点（2）あるが、剝片類が卓越する。2の楔形石器は両極石核である。石器類は9種類の母岩に還元されたが、このうちチャートaに接合するものが5点（石核1点、剝片3点、砕片1点）ある（7）。石核は分厚い礫面付の剝片を素材としており、礫面を打面として求心的な剝離が反復されており、亀甲状の求心剝離による剝片生産過程の存在を示唆しているが、側面にも旧剝離痕が数枚残されているので、mode 2 dによるものとしたい。この接合資料で注意されるのは、S40地点の資料と接合することである（S40地点チャートf）。この資料は破砕片であり、企図的な搬出の可能性は低く、もしかすると、これらの接合資料を構成している剝片のうち、少なくともその一部はS40地点で生産されたものかもしれない。また、この母岩の石核の原礫面には多数の小潰痕・線状スクラッチが集中的に観察されるので、石核への転化以前には石砧として機能していたことが窺われる。

クラスターb　東西約2m、南北約1.5mという小範囲に、12点の資料が集中している。組成はクラスターaに近く、黒色頁岩製の楔形石器1点（1）以外は剝片類によって占められている。ただし、この資料は両クラスターの中間にあるばかりか、1と同一母岩の剝片（5）はクラスターaに帰属しているので、本クラスターからは分離したほうがよいかもしれない。1を除外すると、両クラスター間には共通する母岩は存在しないことになる。4のホルンフェルス製の使用痕付の剝片はS25地点7の接合資料を想起させる。6はチャートの接合資料。打面作出剝片に使用痕が顕著である。また、これらの石器以外に、砂岩の礫片3点が近接して出土した。被熱による赤変が観察される。




第103図　S42地点剝片計測値

**4・9 S42地点**（第103・104・105図、第50～53表）　S41地点の西側に隣接する。4箇所の小規模なクラスターを含む。これらを第104図のようにクラスターa～dとする。遺物の産出層準はⅨa層である。

クラスターa　U23-76ポイントの西側から3点の資料が検出された。内訳は剝片2点（3）と削片1点。

クラスターb　U23-74区の中央南側に位置する。南北2.2m、東西1.2mの範囲内に7点の資料が点在している。楔形石器1点、剝片4点、削片2点という内容であるが、楔形石器に剝片2点が接合し、角柱状の両極石核からの剝片の生産が行われた可能性が指摘される。この石材

**第50表　S42a地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| チャートb | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| チャートd | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | 2 | 1 | | | | | 3 |

**第51表　S42b地点石器組成表**

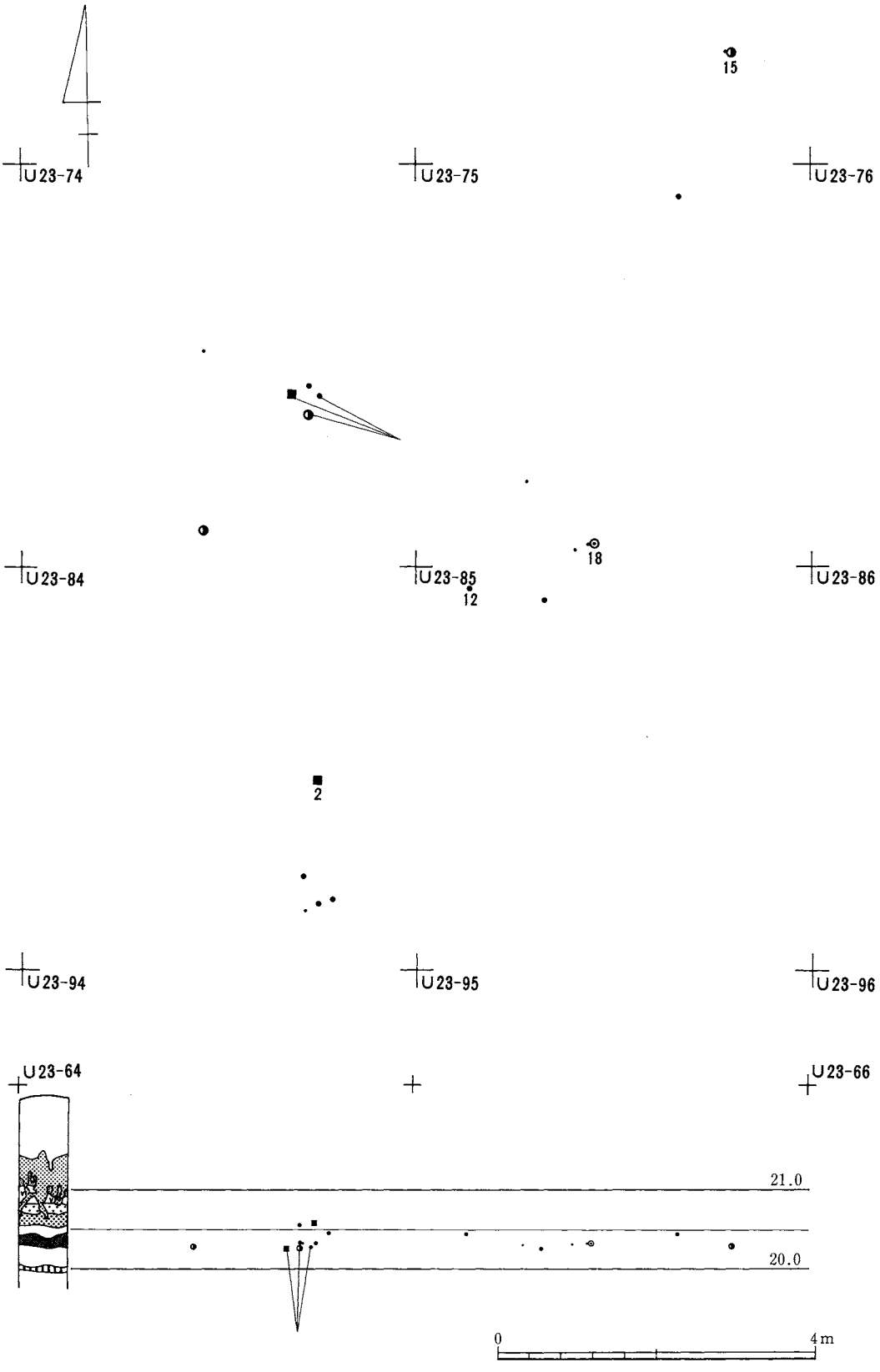
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| チャートd | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 泥岩a | | | | | 1 | | | 2 | 1 | | | | | 4 |
| 粘板岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 粘板岩b | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | 1 | | | 4 | 2 | | | | | 7 |

**第52表　S42c地点石器組成表**

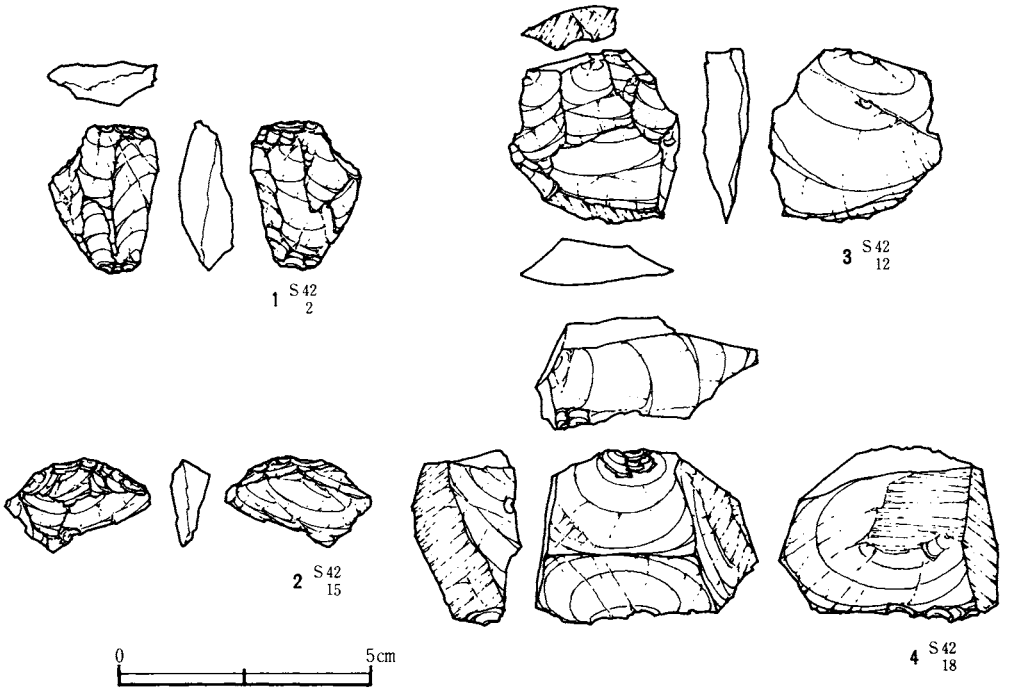
| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| チャートc | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| チャートd | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | 3 |
| 泥岩a | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | 2 | 3 | 1 | | | | 6 |

**第53表　S42d地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| チャートa | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| チャートc | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| チャートd | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 頁岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 粘板岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | 1 | | | 3 | 1 | | | | | 5 |




第104図　S 42地点遺物分布状況




第105図　S42地点出土遺物実測図

は第51表では泥岩としているが、黒色頁岩に近いものである。

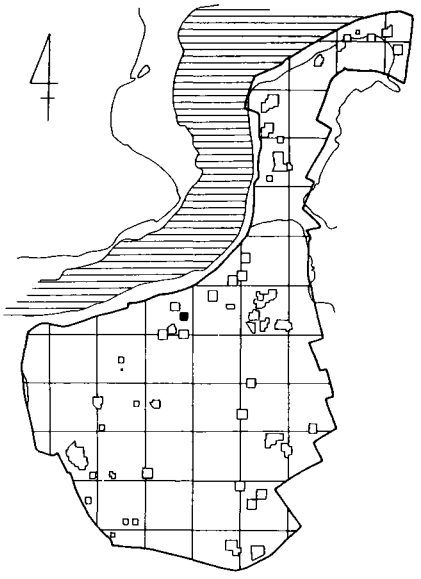
クラスターc　U23-85ポイント東側にある、径約1.5mの集中で、6点の資料を含む。内訳は、剝片類（2）と石核（4）である。図示していない剝片は何れも小型のもの。

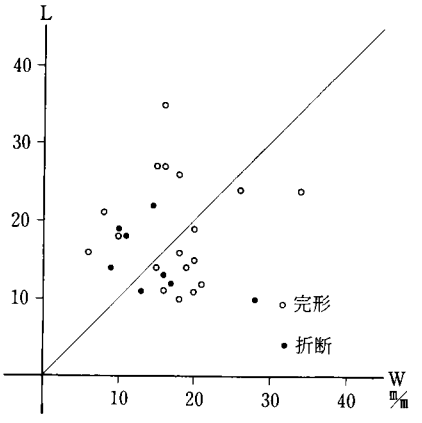
クラスターd　U23-84区南東に位置する。長軸約1.7m、短軸約0.5mの小範囲で、5点の遺物を含んでいる。内容をみると、楔形石器1点（1）以外は小型の剝片と削片が占めている。頁岩としたものは流紋岩となる可能性もある。

各クラスターの母岩別分布状況を観察すると、共通するものが間クラスター的に分布していることが判明する。また、各クラスターの規模・内容も近似しており、比較的短期間に継起的に形成されたものとみられる。

**4・10S43地点**（第106・107図、第54表）　東側斜面部よりの平坦面に位置している。遺物の平面的分布状況は、S23-6ポイントのすぐ東側に径約2m程の剝片・削片の密集する部分があり、この西側に剝片類の疎らな分布が確認される。産出層準はIXa層であり、これまで報告してきた諸地点と同一層準と判定される。

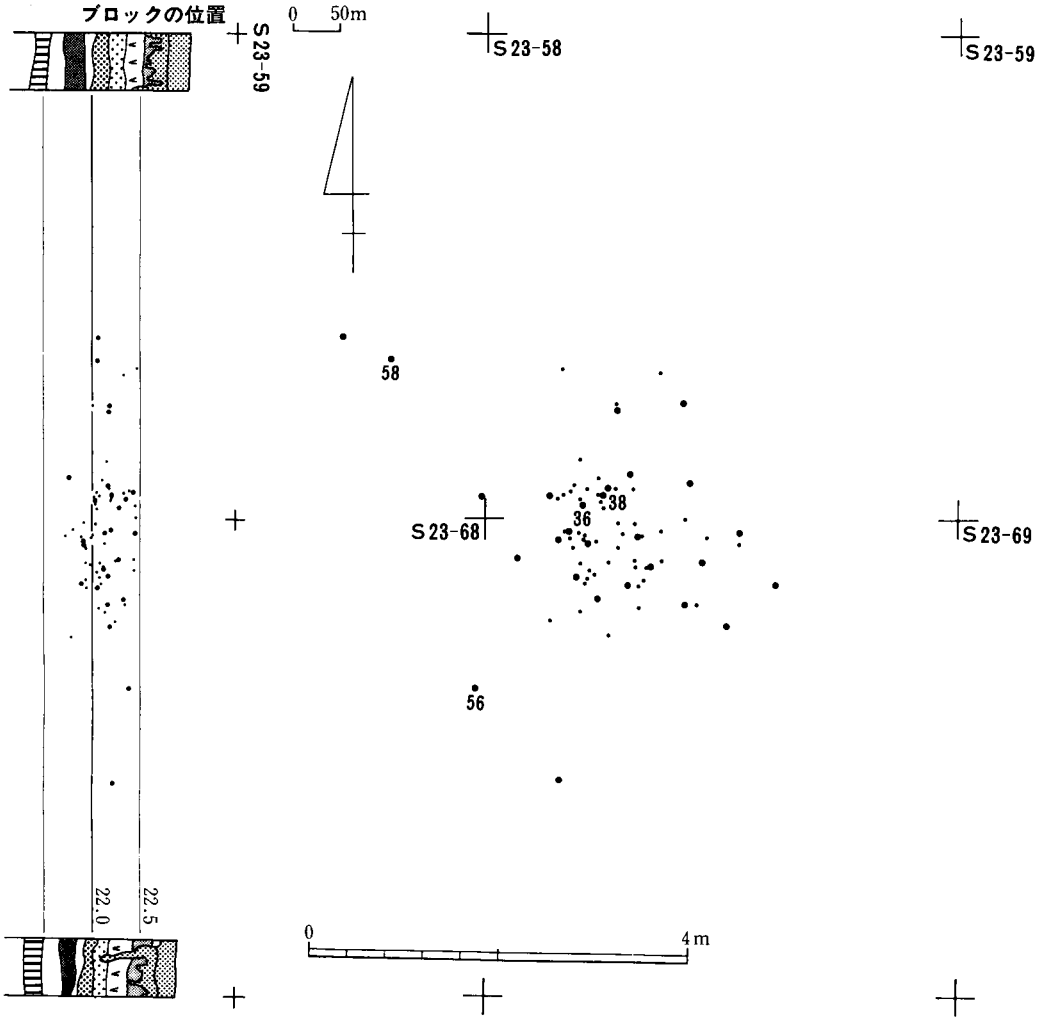
石器組成は第54表のとおりである。遺物総数80点であり、そのうち75点を黒曜石aが占めている。この黒曜石は、漆黒色を呈し、かつ多量の流紋岩質の浮石片を含有する粗悪な角礫であり、本文化層に最も一般的なものである。本石材の剝片と削片は前記の集中部を構成している



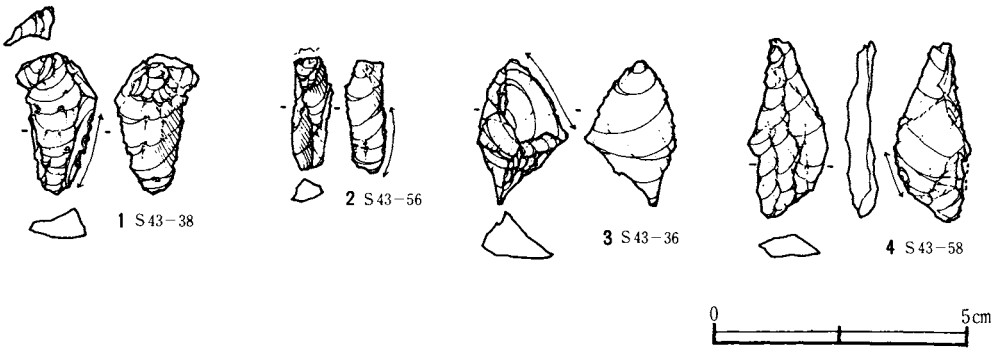



剝片計測値

ブロックの位置




第106図　S43地点遺物分布状況




第107図　S43地点出土遺物実測図

ので、このエリアを消費地点と推定してよいであろう。剝片は一般に破砕状態を呈しており、その剝離過程を推定することは困難であるが、剝片中に両極剝離特有の外観をもつものが認められるので、mode 2 b による剝片剝離工程の存在は考慮する必要がある。

第107図に使用痕付の剝片を示した。これらは何れも黒曜石 a 以外の母岩であり、また、その全てが単独資料であることに注意したい。1・2は黒曜石製で、小石刃様のもの。2は線状打面をもち、おそらく両極剝片であろう。3は玉髄製。4はチャート製で、これも両極剝片である蓋然性が高い。このように、いずれも小型の剝片であるが、これらが企図的に搬入され、かつ刃器として機能しているという事実は重要である。

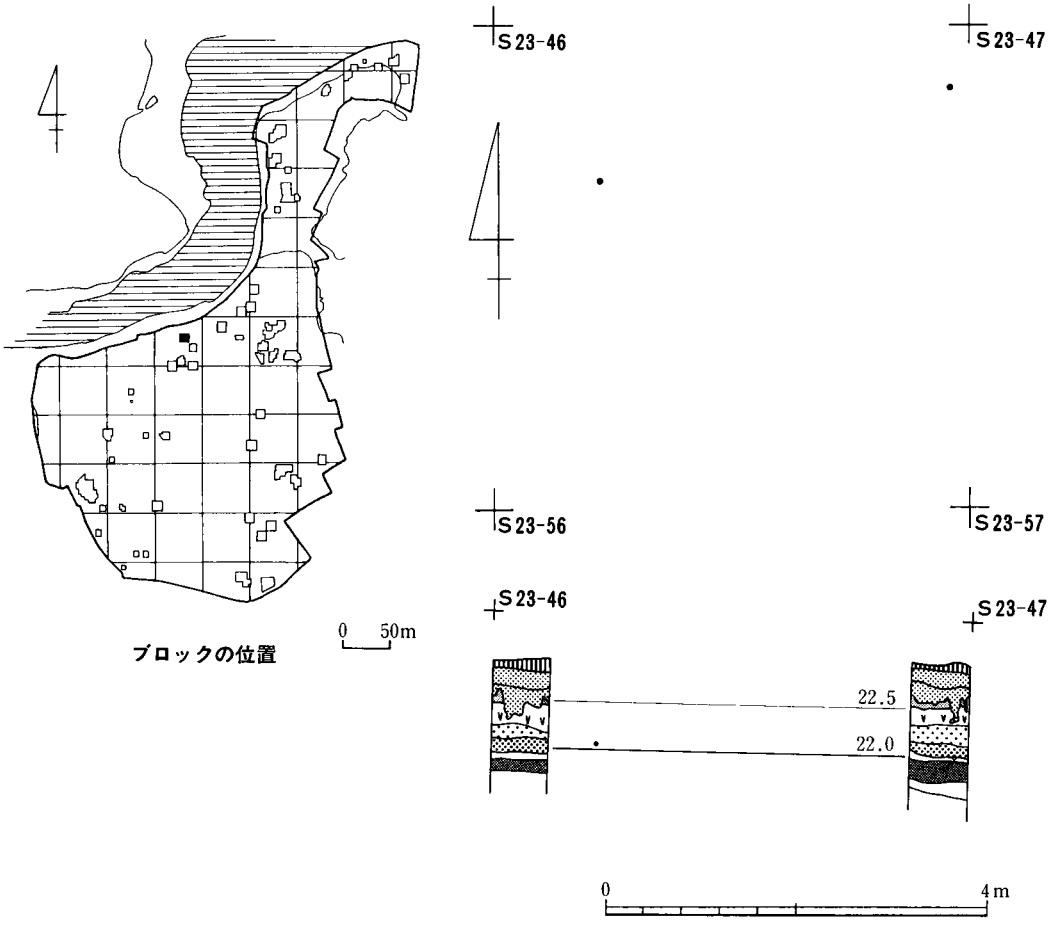
**第54表　S43地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石 a | | | | | | | | 23 | 52 | | | | | 75 |
| 黒曜石 b | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 黒曜石 c | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| ホルンフェルス a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| チャート a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 玉髄 a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 合計 | | | | | | | | 28 | 52 | | | | | 80 |

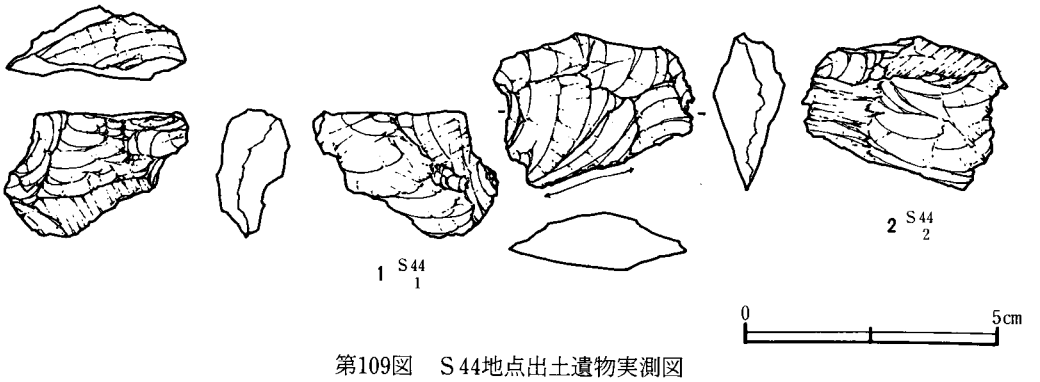
**4・11 S44地点**（第108・109図、第55表）　S43地点の西側に接しており、これを別地点とする根拠に乏しいが、一応一項目を設けた。チャート製の横長剝片が2点近接して出土している。これらは同一母岩とみられるが、1点はⅥ層から、もう1点はⅨa層から検出されている。両例とも使用痕付の剝片である。

**第55表　S44地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| チャート a | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| 合計 | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |



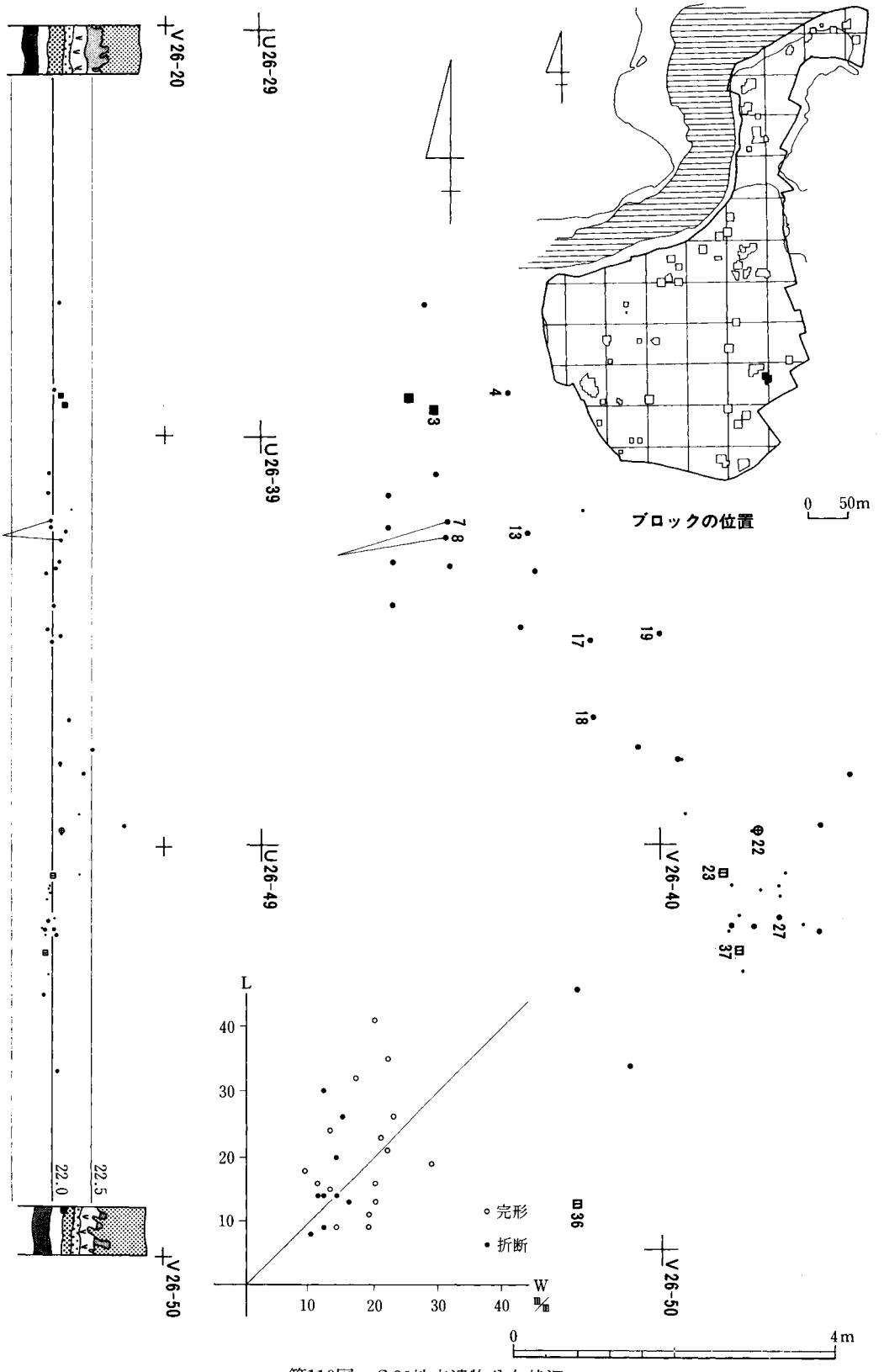

第108図　S44地点遺物分布状況




第109図　S44地点出土遺物実測図

## 第5節　第5文化層

**5・1 S20地点**（第110・111図、第56・57表）　第5文化層には、近接して存在する第20地点と、第23地点にまたがって、大きくみて3箇所の遺物集中地点があるが、これらは後でみる




第110図　S 20地点遺物分布状況

第56表　S 20・S 23地点（クラスターa～c）石器組成表

| | 台形石器 | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | 1 | | 1 | | | | 1 | 30 | 20 | | | | | 53 |
| 黒曜石b | 3(2) | | 1 | | | | 3 | 65 | 55 | | | | | 127 |
| 黒曜石c | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | 2 |
| 黒曜石d | | | | | | | | 3 | 3 | | | | | 6 |
| 黒曜石e | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | 2 |
| 黒曜石不明 | | | | | | | | 7 | 22 | | | | | 29 |
| 珪化凝灰岩a | | | | | | | | 5 | | | | | | 5 |
| 砂岩a | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 | | | 3 |
| 合計 | 4(3) | | 2 | | | | 6 | 113 | 101 | | 1 | | | 227 |

ように密接な関連性をもつものであり、地点単位での観察によっては全体的な関係を摑みがたいので、下記の如く、一連のクラスター番号を与えておきたい。また、表に示した母岩表示も第5文化層全体に対して母岩識別を行い、これに一連の表示を与えたものであり、従って、各クラスター共通のものであることを付記しておく。

第20地点　　クラスターa

第23地点　　クラスターb

　　クラスターc

これらの遺物産出層準はⅨa層下部、Ⅸb層の上面である。従って、第4文化層とは僅かのレベル差をもち、連続的に石器群の推移を観察することが可能となった。

クラスターaの石器群

i 分布状況　分布範囲はU26-29区から40区に及ぶ細長いもので、その長軸は9mに及ぶ。この狭長な分布域の北側と南側にやや分布密度の濃い部分があり、中央は希薄である。また、僅かに外縁部にも飛散しているものがある。母岩単位の分布状況では特に偏在性は認められず、各種の母岩が入り交じるように散布している。また、細部加工の顕著な石器が少ないため、格別の器種別の偏在性も指摘することができないが、局部磨製石斧刃部破片のある南側集中域には第111図2・3・5・6等の遺物が近接して分布しており、あるいは切る・裂く等の行動を反映するものとも解釈されようか。

ii 石器群の内容　第57表に石器・母岩組成一覧を提示した。局部磨製石斧と台形石器を特徴的に保有する石器群である。これにともなって、簡略な加工痕を持つ剝片、使用痕付の剝片が比較的多くある。また、母岩消費に随伴する削片は比較的少量であり、クラスター内における剝片生産の痕跡は乏しい。従って、剝片剝離過程の詳細を窺うには制約が大きいが、

(1)明確な石刃生産過程を示唆する資料を含んでいない。

(2)剝片の背面構成をみると、単一打面からの連続的剝離過程を示すものが多いが、これに伴って、同一母岩のものに、複打面の存在を示唆するものがあるので、打面の転移を伴う過程の

## 第57表　S 20地点クラスターa石器組成表

| | 台形石器 | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | | | | | 1 | 15 | 6 | | | | | 22 |
| 黒曜石b | 1 | | 1 | | | | 1 | 6 | 7 | | | | | 16 |
| 黒曜石c | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | 2 |
| 黒曜石d | | | | | | | | 3 | 2 | | | | | 5 |
| 珪化凝灰岩a | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| 砂岩a | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 合計 | 1 | | 1 | | | | 3 | 26 | 15 | | 1 | | | 47 |

## 第58表　S 23地点クラスターb石器組成表

| | 台形石器 | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | 1 | | | | | | | 2 | 3 | | | | | 6 |
| 黒曜石b | 3(2) | | | | | | 1 | 55 | 46 | | | | | 105 |
| 黒曜石d | | | | | | | | | | | | | | |
| 黒曜石e | | | | | | | | | | | | | | |
| 黒曜石不明 | | | | | | | | 5 | 21 | | | | | 26 |
| 珪化凝灰岩a | | | | | | | | 4 | | | | | | 4 |
| 砂岩a | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 合計 | 4(3) | | | | | | 1 | 66 | 71 | | | | | 142 |

（　）内は接合後の資料数を市す。

## 第59表　S 23地点クラスターc石器組成表

| | 台形石器 | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剥片R | 剥片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | | | 1 | | | | | 13 | 11 | | | | | 25 |
| 黒曜石b | | | | | | | | 4 | 2 | | | | | 6 |
| 黒曜石d | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 黒曜石e | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 黒曜石不明 | | | | | | | | 2 | 1 | | | | | 3 |
| 珪化凝灰岩a | | | | | | | | | | | | | | |
| 砂岩a | | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 合計 | | | 1 | | | | 1 | 19 | 15 | | 1 | | | 37 |

存在が想定される。

(3)これ以外に、両極剥離手法によるとみられるものが少量ある。

細部加工のある石器としては、台形石器（1）、側削器（3）、端部に樋状剥離痕のある特殊な尖頭端削器とでも称すべきもの（5・6）、尾部に樋状剥離痕のある彫器様の石器（4）がある。台形石器は素材剥片を横位に截断し、折れ面と剥片尾部側を中心に細部加工が施されているが、尾部側の剥離がブランティングであるのに対して、折れ面側（背面）と剥片側面（腹面）に残された旧石核の一部のそれは、折れ面及び側面を打面とする垂直加撃となっている。また、折れ面に対応する腹面尾部側にはエッジの潰れと平坦な小剥離痕が看取されるので、折れ面か

らの加撃が一種の両極的な手法（匝撃剝離）によるものであることを窺わせる。刃部はほぼ水平で微細な刃こぼれが観察される。石斧（14）は刃部の小破片で、使用時のハジケであろう。表裏に入念な研磨痕が認められる。

iii母岩の特徴　黒曜石４種、珪化凝灰岩と砂岩各１種、計６種の母岩を識別した。

黒曜石ａ　薄い飴色を呈する透明な基質に濃灰黒色の部分が細かい網目状に広がる。光沢に富む。小型の浮石片が少量混入する。比較的小型の剝片が多い。剝片のうち使用痕付のものは５例ある。資料中には両極剝離による削片が目立つ。12はその典型的なものである。図の２、６、７、８、11、12が本母岩に属する。機器中性子放射化分析により、和田峠産のものと判定されている。

黒曜石ｂ　黒みが強いが、部分的に灰褐色の細かい斑紋がみられる。透明感はないが、局部的ながら僅かに光りを透過する。光沢は鈍い。細かい夾雑物がやや多い。剝片２例に使用痕が観察される。図の１、３が本母岩に帰属する。本母岩は機器中性子放射化分析によって、栃木県高原山産のものと判定されている。

黒曜石ｃ　透明な基質に薄墨を流したように黒色の網が入る。不純物の混入は認められない。また微光沢を放つ。非常に良質な石材である。10の剝片が唯一の例品。

黒曜石ｄ　漆黒で全く透明感がない。光沢は鈍く、不純物の混入はない。図の４、９、12が本母岩に属する。

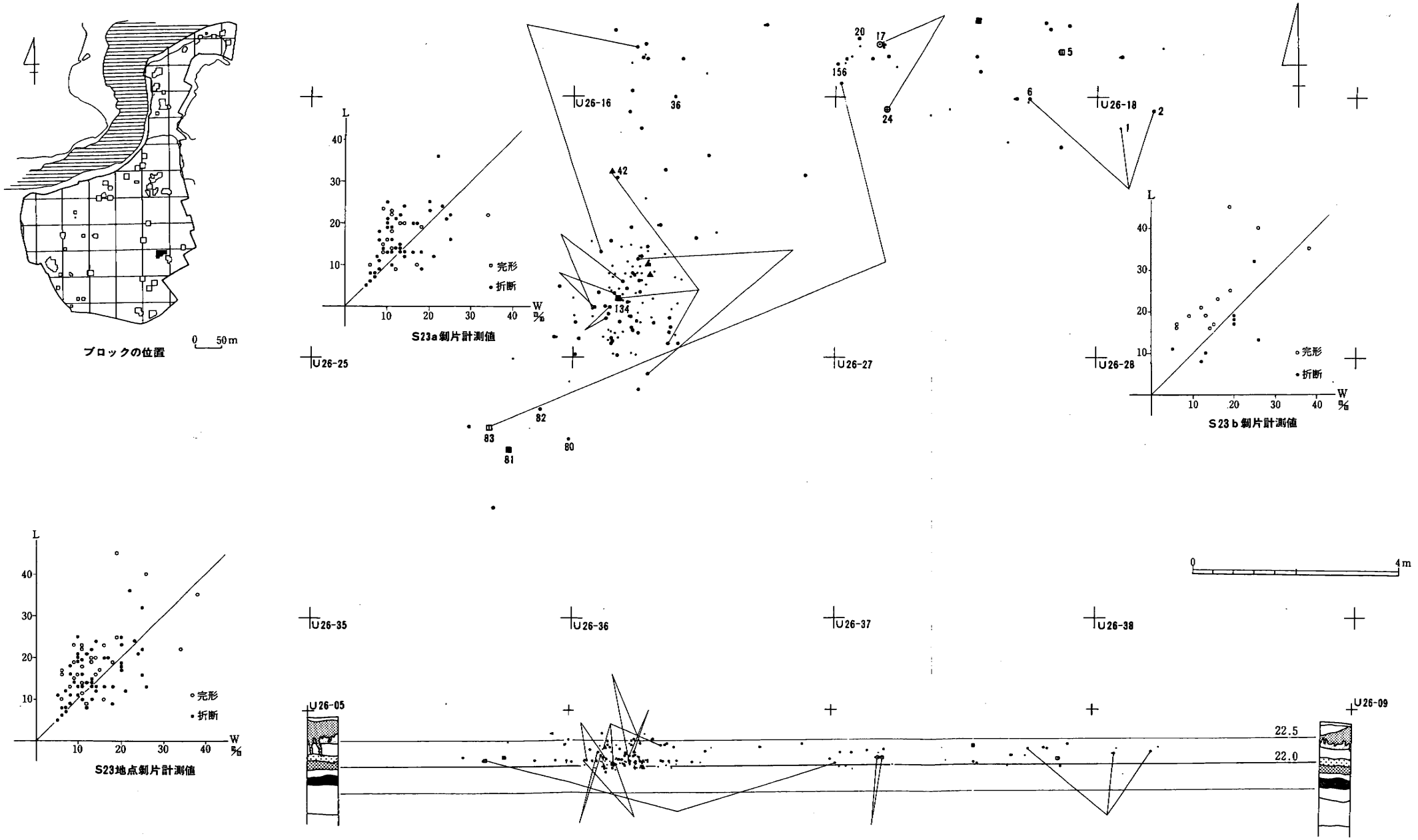
珪化凝灰岩ａ　赤褐色の玉髄質の石材で、鉄石英、あるいは俗に赤玉と呼ばれるものであろう。剝片あるいは石核の断片が１例ある（14）。

砂岩ａ　暗緑色の細粒・緻密な石材。局部磨製石斧の素材として頻出する（15）。

**５・２Ｓ23地点**（第112～114図　第58・59表）

クラスターｂの石器群

ｉ分布状況　U26-16ポイント周辺からU26-26ポイント周辺に及ぶ短軸２ｍ、長軸9.6ｍ位の南北に長い範囲内に、142点の遺物が集中している。とくに、U26-26ポイントの北東側には径約２ｍの遺物密集地点があり、遺物の約80％がこのエリアに包括されている。この部分の遺物の殆どは黒曜石ｂの剝片と削片であり、この石材を対象とする母岩消費地点と判断したい。比較的大きめの剝片には角礫原礫面を留めるものが多い。また、きわめて興味深いことに、母岩消費地点に遺留していた剝片類の大半は小型不整形のものであるのに対して、その周辺、並びにクラスターａ・ｃの資料中には相対的に大型のものが卓越しており、明らかに選択的な剝片の搬出が想定される。このことは、クラスター間の接合関係によっても検証される。すなわち、クラスターｂの剝片とクラスターａの剝片(16)、クラスターｂの剝片とクラスターｃの剝片との接合関係が確認される。もう一点注意したのは、３に示した接合資料で、台形石器の製作過程を如実に示しているが、これは集中部分からの検出資料であるので、この地点が、単なる剝




第111図　S23地点遺物分布状況

片剥離の場ではなく、台形石器の製作空間としても機能していた可能性の高いことである。黒曜石ａ以外の石材は何れも個体数が小さく、クラスター外縁部に点在している。また、石斧の刃部破片は剥片集中部の南側に接して検出された。

ii石器群の内容　クラスター内に剥片生産地点が位置するため、剥片と削片の量が多いが、石器群の基本的内容はクラスターａと一致している。

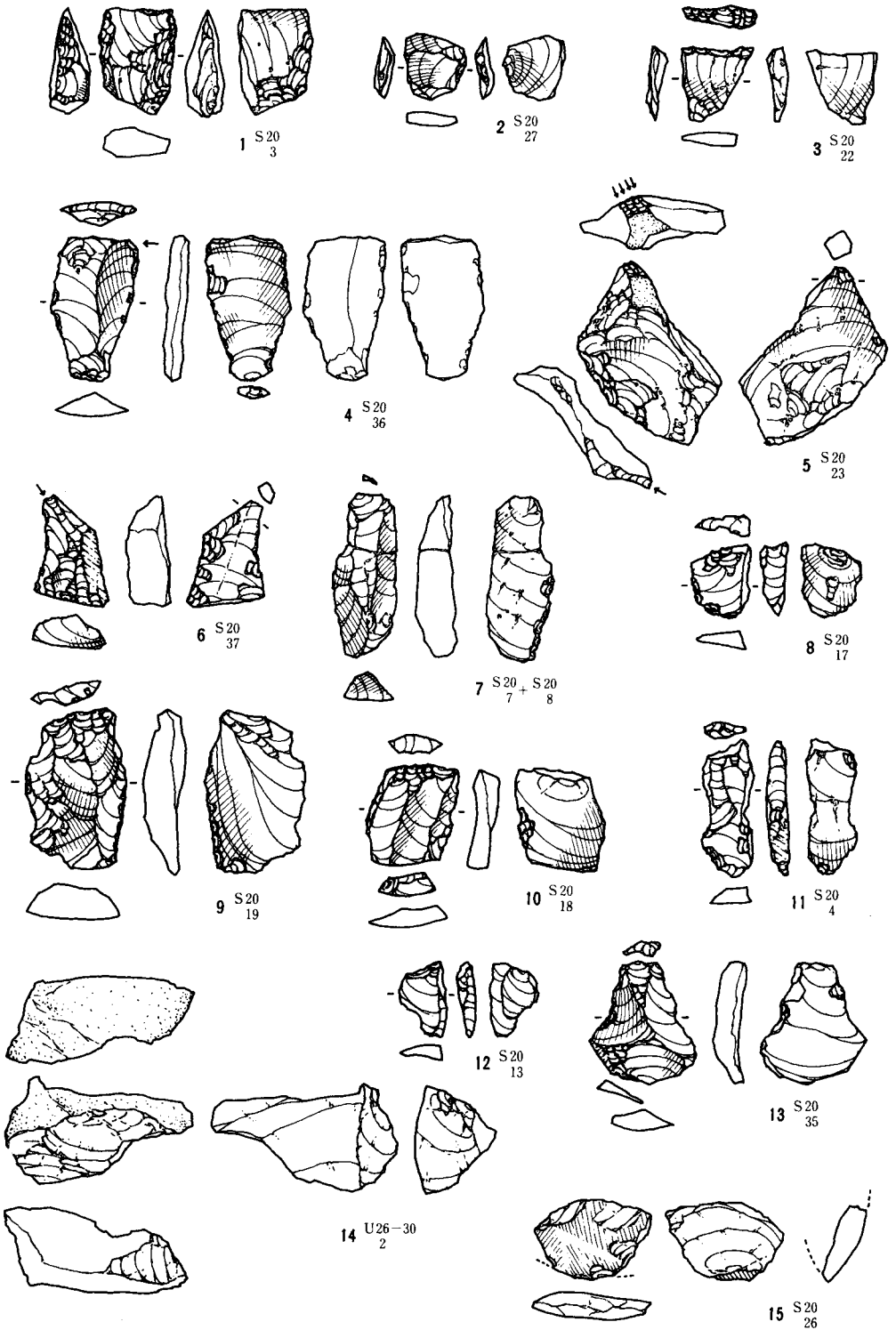
台形石器は２・４の２例がある。２は中央部で切損しているが、これに接合する剥片があり、やや幅広の剥片を横位に截断し、その尾部側の剥片を素材として台形石器を製作している状況が明らかにされる。細部加工は素材剥片の末端部をブランティングによって成形し、さらに切断面にも細かい調整が加えられている。この截断手法はクラスターａの台形石器にも看取されたことに注意したい。そして、４の例でもやはり、截断された剥片尾部が利用されている。６は側削器様の剥離痕のある剥片。８は使用痕付の剥片の例。９は局部磨製石斧の刃部破片である。一面に大きく研磨面が観察されるが、少しずつ方向を変えながら刃部の研ぎ出しが進行していく様子がよく分かる。剥片生産技法に関しては、特に黒曜石ｂについて観察したが、背面構成の一定しない傾向が明らかに認められ、一種の求心的な剥離の進展が想定されるが、なお詳細は不明である。

iii母岩の特徴　クラスターｂに認められた石材は全てクラスターａに存在するが、黒曜石ｃ・ｄを欠いている。

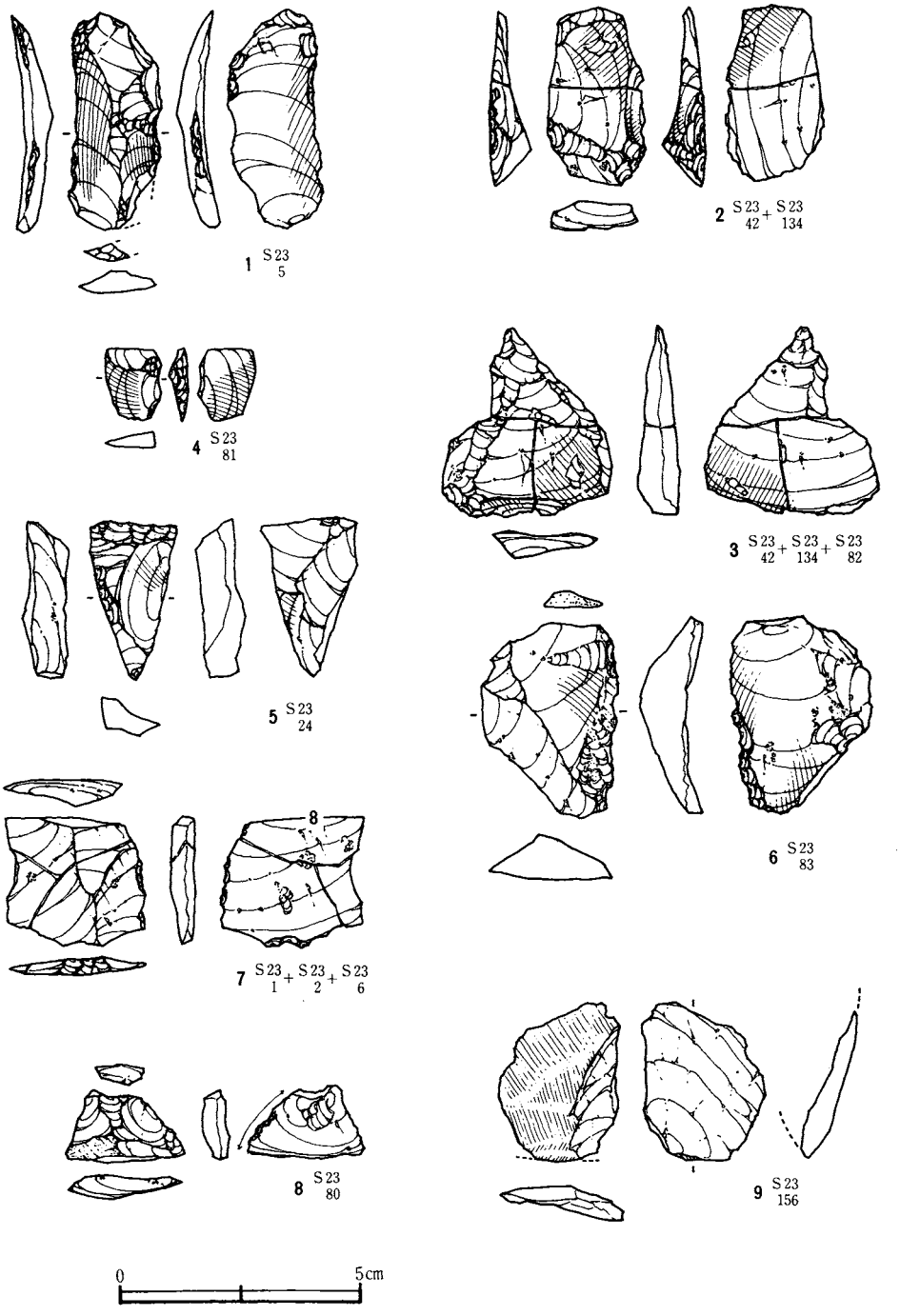
クラスターｃの石器群

ｉ分布状況　U26-17ポイント周辺からU26-18ポイント周辺に及ぶ東西約6.5m、幅約２ｍの帯状を呈する分布域を形成している。ここに含まれる資料数は37点と少量であり、クラスターｂの1/4にすぎないが、クラスターｂの資料数から消費母岩である黒曜石ｂの資料数を控除すると大体同規模になろう。クラスター内における器種別分布は、石器群の大半が剥片類であるということから、特に際立った偏在性は指摘されないが、クラスター西側にやや剥片の集中する部分が認められ、石斧破片も含まれていた。母岩分布も同様で、本クラスターに卓越する黒曜石ａは各所に点在する状況となっている。

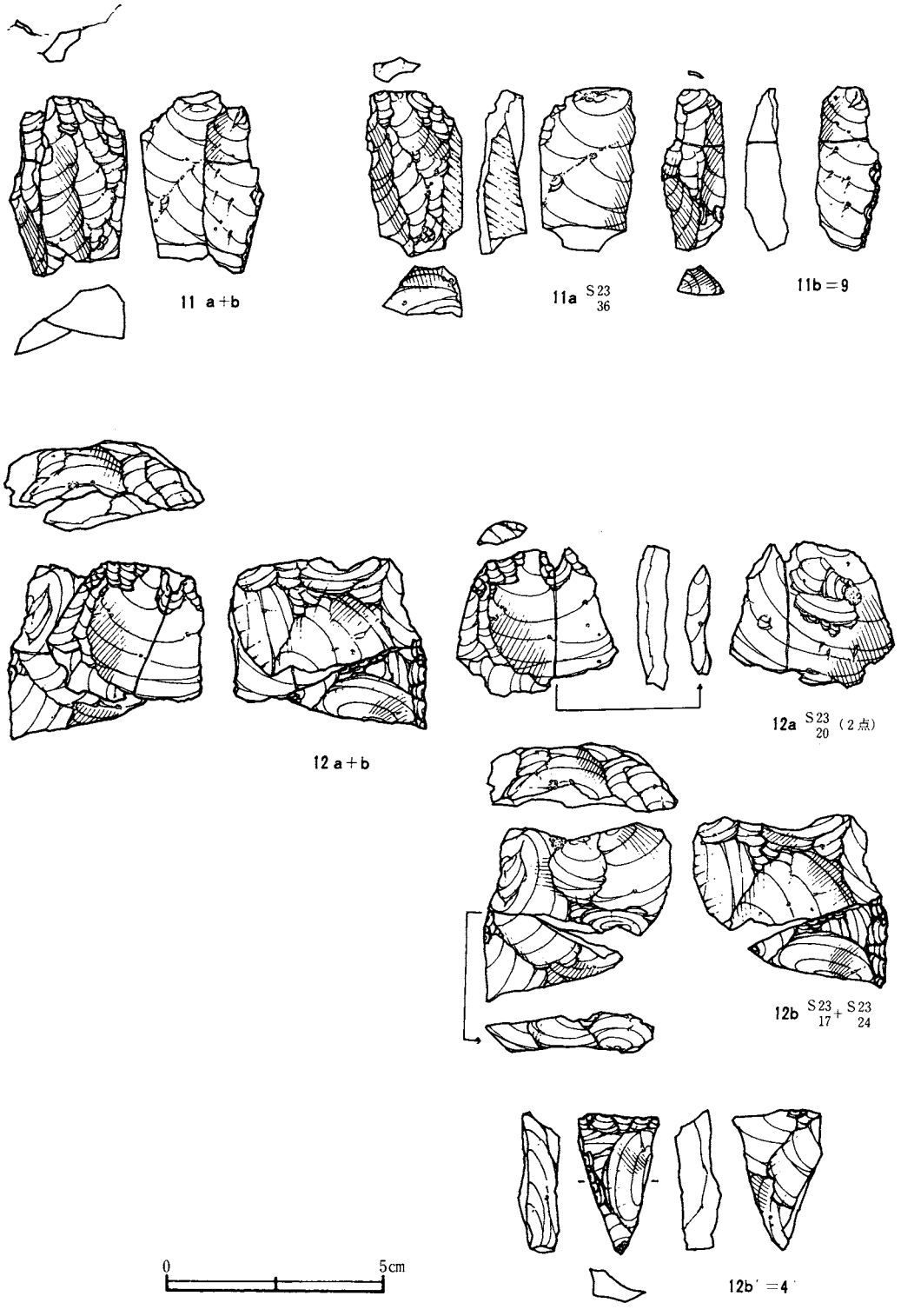
ii石器群の内容　図示した資料中、本クラスターに帰属するのは、１、５、７、10a、11である。１は縦長の剥片に細かい調整痕が観察されるもの。５は剥片の断片であるが、側縁に急傾斜な剥離が連続的に加えられている。７は比較的大型の剥片の分割例である。下部の三角形をした破片の一部に細部加工かとみられる小剥離痕があり、台形石器と関連する資料とも考えられよう。10と11は接合資料。10は黒曜石ｂで、縦長剥片２枚が接合している。この資料のみからは平坦打面からの連続的な縦長剥片の生産過程を想定することもできるが、これ以外の資料による限り、打面は角礫のいくつかの平坦面を移動しており、多面体状の石核の存在が予測される。11は黒曜石ａの接合資料。大型剥片、あるいは分割された角礫を素材とし、その周囲に



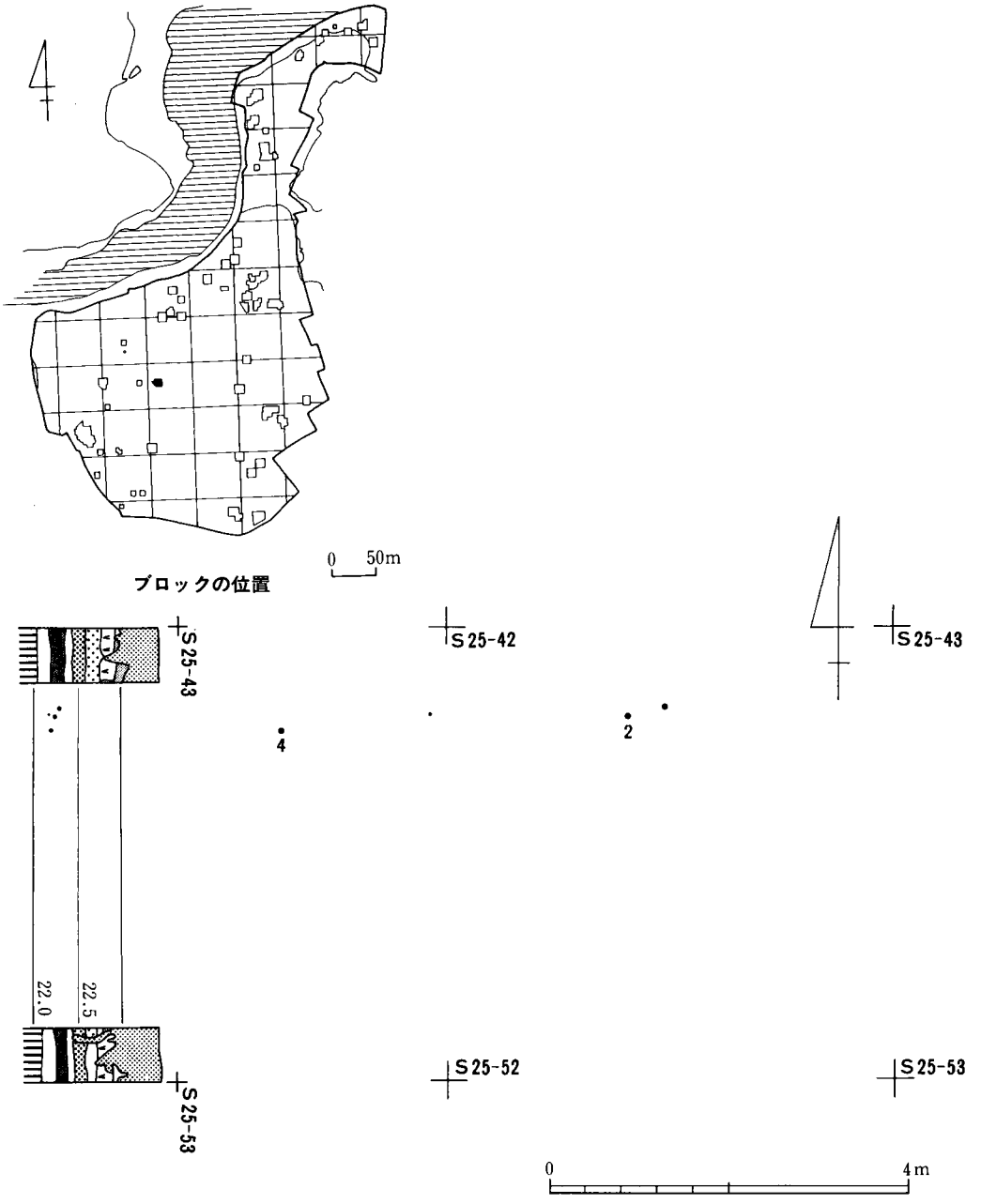

第112図　S20地点出土遺物実測図




第113図　S23地点出土遺物実測図　1




第114図　S23地点出土遺物実測図 2




第115図　S45地点遺物分布状況

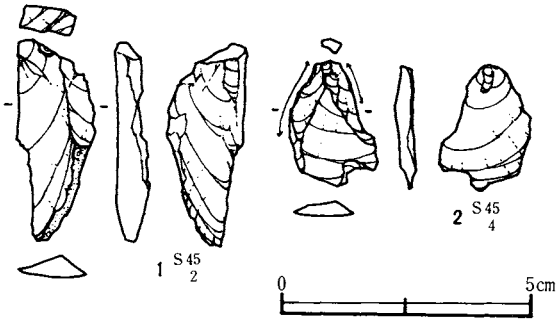
打点を廻すことによって、比較的横長の剝片を生産する手法が想定されよう。

iii母岩の特徴　クラスターbとの共通母岩が大半ではあるが、黒曜石に別母岩がある。

黒曜石e　透明度の高い明灰色をしている。僅かに色調に濃淡があり、夾雑物を含んでいない。1が単体で搬入されている。

## 第6節　第6文化層

**6・1 S45地点**（第115・116図、第60表）　IXc層から剝片3点と削片1点が検出された。1は珪質頁岩の剝片。2は流紋岩の使用痕付剝片。

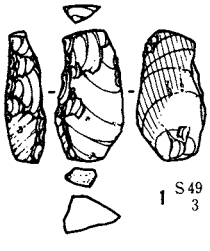



第116図　S45地点出土遺物実測図

**第60表　S45地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 頁岩a | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 |
| 流紋岩a | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | 2 |
| 合計 | | | | | | | | 3 | 1 | | | | | 4 |

**6・2 S48地点**　X層からチャートの破砕片状の剝片が1点出土した。

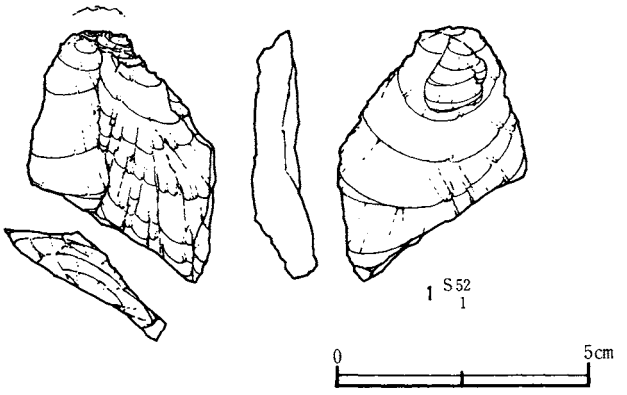



第117図　S49地点出土遺物実測図

**6・3 S49地点**（第117図、第61表）　IX層下部よりナイフ形石器1点（1）が検出された。ナイフ形石器は縦長剝片を素材とし、片側縁に細かい細部調整が認められる。

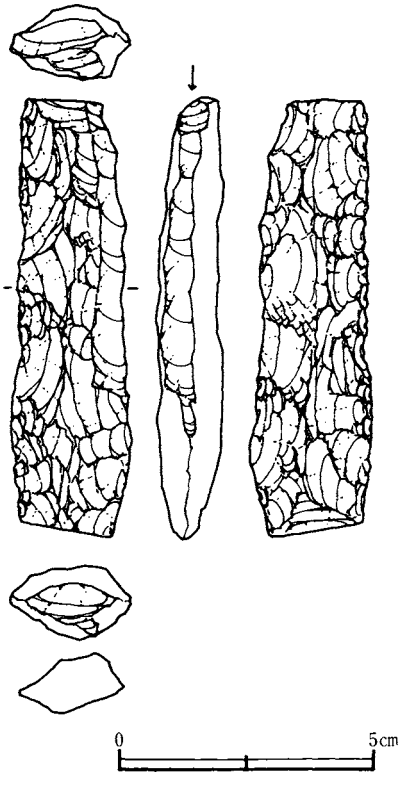
**第61表　S49地点石器組成表**

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 黒曜石a | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 合計 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 |

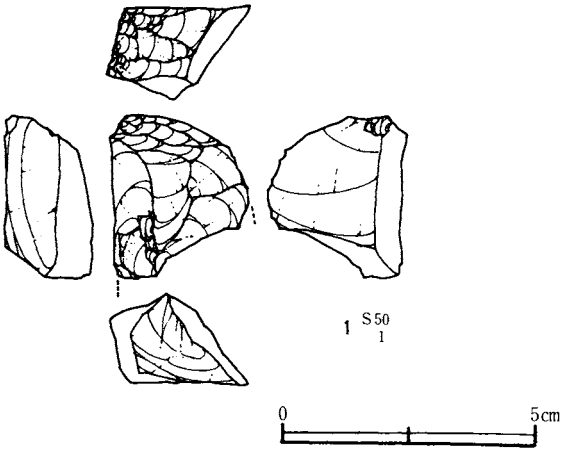



第118図　S52地点出土遺物実測図

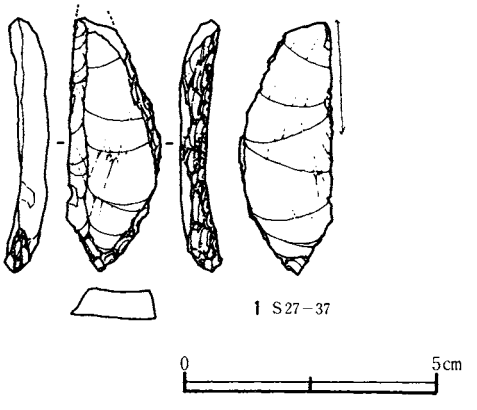
**6・4 S52地点**（第118図）　X層より、安山岩製の剝片が2点出土している。図示したものは大型のほうで、もう一点は尾部の小型破片である。




第119図　S 2 地点採集遺物実測図




第120図　S50地点採集遺物実測図




第121図　S27－37区出土遺物実測図

## 第７節　その他の遺物

明確な産出層準の記録のないものや、原位置を遊離しているとみられる遺物を纏めた。

**Ｓ２地点採集**（第119図）　淡黄褐色のパティナに被覆された黒色頁岩製の植刃。両面打製の石槍を横割りにしたもので、胴部に相当する。83mm×22mm×12.5mm。比較的粗雑な成形であるが、ほぼ左右対称の形状をしている。断面形態は分厚い凸レンズ状をしている。一方の側縁部に１条の樋状剝離痕がある。この器種には、同種の剝離痕が時折観察される。シャフトへの嵌挿に際して行われる微調整の一種ともみられるが、器体長軸に平行する圧力によってしばしば同種の剝離痕が偶発的に生ずることが確認されており、なお将来的な検討が要請される。

**Ｓ50地点採集の石核**（第120図）　非常に良質な珪質頁岩（チョコレート頁岩）を素材とする石核である。剝片素材で、船体状をしている。半欠しているが、剝片剝離作業面は完存している。打面は非調整の平坦打面で、石核長軸と直行して数状の細長い剝離面が並走している。細石核の一種かともみられるが、それらの剝離痕はやや不整であり、一般の石核であろう。

**Ｓ27-37区出土のナイフ形石器**（第121図）　珪化した緑色凝灰岩を素材としている。石刃状の縦長剝片の一側縁に精緻なブランティングが連続する。形態は背部の彎曲する半月形で片側縁には直線的な刃部が保持されている。基部は尖り、刃部側にも僅かに細部加工が及んでいる。産出層準は不詳であるが、その形態はやや古そうな印象を与える。

# 第4章　総括と展望

## 第1節　各文化層の石器群

1・1第1文化層　ソフトローム層（Ⅲ層）を産出層準としている。本文化層としては7箇所の遺物集中地点の存在を報告した。これらの集中地点は大別して、

(1)　小規模な礫群（S22地点）

(2)　少量、もしくは単独に近い状態で遺物の分布するもの

という、両者がある。（2）で注意されるのは、検出遺物には所謂wasteは少なく、石槍とか刃器である場合が殆どであることであろう。同様の出土状況は他の遺跡においても、時期を超えてしばしば確認されるところであり、集中地点以外（off site）での行動を復元する上で極めて有効な情報を含む資料としての積極的評価が必要である。

ビンフォードは土俗考古学的視点から、狩猟・採集民の保有する食糧調達・管理システムを大きく、collecting systemとforaging systemに分類し、両者の機制とsettlement patternの異同を提示したが(Binford 1980)、off siteにおける零細な遺物分布は、これら何れの開発戦略に従うにせよ、このような過程における多様な行動に起因する、遺跡（廃棄地点）の階層性を如実に物語るものと考えられる。また、オコーネルは世界各地の土俗民の集落内の廃棄形態を比較検討し、生活様式や居住の季節的変化、あるいは占拠期間、集団規模等の変数に従って廃棄形態に諸種の差異が生ずることを指摘している(O'Connelle 1987)。将来、単独、あるいは零細な集中地点の内容を詳細に検討することによって、その時間的・空間的変化を明らかにし、一般的居住地点との異同を抽出しうるならば、先史集団の狩猟・採集戦略、あるいはsite formationの理解に一歩を進めることも可能となろう。

1・2第2文化層　Ⅳ・Ⅴ層（ハードローム層上部）を産出層準としている。この文化層には総計18箇所の遺物集中地点が含まれている。その分布も広範囲にわたるが、井戸向遺跡対岸部によく観察されるように、比較的近接して集中地点が検出される場合が多い。産出層準を基準にして便宜的に文化層を設定したが、Ⅳ層とⅤ層との区分が必ずしも明確ではなく、またその層厚が極端に薄いこともあり、同一層内に包含されている場合であっても、文化層内部での時間的幅は当然想定しなければならない。

総数1332点の石器と1175点の礫が検出された。石器群の特徴としては、

(1)　いろいろな器種が相当量含まれた複合的な構成が明確であること。

(2)　一器種の内部にも多様な形態的分化が観察されること。

(3) 剝片剝離技術は多様な一般的剝片剝離手法であり、画一化が計られていないこと。

(4) したがって、剝片生産の企図性は二義的であり、むしろ生産された剝片の選択過程が重要な因子であること。

(5) これに関連して、石材には比較的入手の容易なものが多用され、厳格な選択規制は存在しないこと。

(6) 一方、(5)とは一見矛盾するが、多量の黒曜石の搬入が看取される。すなわち、石材選択における両極性を著しい特徴として指摘可能であること。

等を挙げることができる。礫に関しては、礫群の形成が特筆されるが、これは南関東の一般的趨勢に従うものであり、諸地域間に共通する文化的・生態適応的属性としての認識が必要であり、広域的な情報網の確立を裏付けるものと評価されよう。

集中地点の分布については、

(1) 各集中地点間には、その分布範囲と資料数に大きなひらきが認められること。

(2) 両者には、正の相関関係（相関係数 r ＝0.70）が確認され、また、集中地点間に階層性が抽出されること。

(3) 階層性については便宜的にその資料数を基準として（rank a：100点以上、rank b：100点未満30点以上、rank c：30点未満）、

| | 集中地点 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| rank a | 2 | 21 | 29 | 30 | | | | | | |
| rank b | 13 | 32 | 34 | 37 | | | | | | |
| rank c | 3 | 5 | 11 | 12 | 18 | 26 | 35 | 36 | 46 | 61 |

と分類することも可能である。

(4) 各 rank と礫群・地点内複数分布の関係は以下のとおりである。

| | 礫群 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| rank a | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | | | | | | |
| rank b | － | － | ＋ | － | | | | | | |
| rank c | ＋ | － | － | － | － | － | － | － | ＋ | － |

| | 地点内複数分布 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| rank a | ＋ | ＋ | ＋ | ＋ | | | | | | |
| rank b | － | － | ＋ | － | | | | | | |
| rank c | － | ＋ | － | － | － | － | － | － | － | － |

(5) この表から、rank a が礫群を伴うこと、同時に、近接するいくつもの小規模な遺物集中地点から構成される複合的な集中地点であることが明確であること。
等の特質が抽出されることになる。

1・3第3文化層　VI層を産出層準としている。小規模な集中地点1箇所と、単独出土地点1箇所、計2箇所の集中地点からなる。石器群の様相は第2文化層とは全く異なっており、石刃技法を基盤としている。この段階の集中地点としては、権現後遺跡第4文化層の諸ブロックが近接しているが、同様の様相が指摘されている。この段階の石器群の一般的特徴としては、

(1) 石刃とナイフ形石器という単純な構成を基本とし、これに少量の石刃製彫器・削器が加わること。
(2) ナイフ形石器の調整技術には細かい変化を指摘することも可能であるが、本質的には石刃の最小限の変形による尖頭器の製作に収斂すること。
(3) したがって、石刃の生産が石器製作技術の根底的な規定要因となること。
(4) これに関連して、石材の選択には十分の吟味がなされ、信州系黒曜石と東北系珪質頁岩が専ら選択されていること。

等を列挙しうるが、これらの諸項目は何れも第2文化層の様相の対極に位置づけられる。また、石器集中地点の様相は、権現後遺跡第4文化層に典型的な地点内の集合的複数分布を特徴とするものと、本遺跡のような離散的小規模分布とに二分され、後者の出現頻度が高い。

1・4第4文化層　IXa 層を産出層準としている。20箇所の分布地点を確認した。これらの集中地点のうち、18箇所は比較的近接して分布している。この分布域は台地の内側に位置しているが、現在の等高線の状況から埋積の進んだ古い谷の谷頭部に相当するものと判断される。他の2地点は遺跡東側の谷に近接して併存している。この層準の石器群としては比較的纏まった資料が得られ、北海道遺跡第3文化層の前段階の様相を知る上で重要な石器群である。

石器群の特徴としては以下の諸点が列挙される。

(1) 剝片類を主体としており、定型化された器種を殆ど含んでいない。
(2) 多量の楔形石器を含んでいる。
(3) 剝片剝離技術は、第2文化層と基本的に一致する一般的手法を基盤としている。
(4) したがって、剝片生産の企図性は二義的であり、むしろ生産された剝片の選択性が重要な因子である。
(5) これに関連して、石材には比較的入手の容易なものが多用され、厳格な選択基準は存在しないこと。
(6) 第2文化層と同様に黒曜石が多く搬入されているが、その大半は栃木県高原山産のもの

であり、（5）の範疇内で理解可能である。

これらの特徴は、本遺跡以外の第2黒色帯上部を産出層準とする諸遺跡においても確認されている（復山谷、芋窪、新山等）。

集中地点の特徴としては下記の4点を指摘しておきたい。

(1) 多量の剝片・砕片を主体とする剝片剝離地点（S25a、S43地点）。

(2) 少量の剝片、すなわち刃器類の疎らな分布域（S25b、S25c、S38、S39、S40、S41、S42地点）。

(3) 単独、もしくは数点の資料からなる地点（S15、S16、S19、S44地点）。

(4) 以上3者が比較的近接して存在し、比較的広域に亘る集中地点群を形成している。

1・5第5文化層　IXa層下部～IXb層上面を産出層準としている。2地点を報告したが、3箇所の遺物集中地点からなる。石器群は

(1) 限定された器種が少量ずつ含まれていること。

(2) 各器種には大きな形態的分化が確認されないこと。

(3) 剝片剝離技術は、第2・第4文化層と基本的に一致し、諸種の一般的手法を基盤としている。

(4) したがって、剝片生産の企図性は二義的であり、むしろ生産された剝片の選択性が重要な因子であること。これに連動して、截断手法が多用されていること。

(5) しかし、石材としては良質の信州系黒曜石の使用が認められる。

(6) したがって、ここには第3文化層に顕著であった石材と器種との厳密な対応関係は未だ存在しないこと。

と規定することが可能である。なお、本文化層と台形石器と局部磨製石斧を共通要素として保有している権現後遺跡第6文化層とは、IXb層を介在して明確な先後関係のあることが確認された。両者の台形石器の大きな差異に注意したい。

分布地点の特徴としては、

(1) 各集中地点は剝片類を主体とし、これに少量の細部加工のある石器が加わるが、その間には著しい器種的な偏りは観察されない。また、各集中地点間には共通する母岩が多く認められること。

(2) 集中的な母岩消費はこれらのうち1地点でのみ行われ、そこで生産された剝片は各地点で供用されていること。

(3) 局部磨製石斧の使用に伴って生じたとみられる破片が各地点に分布しているので、同一の石斧が場所を変えて使用された可能性があること。

(4) 以上から、各集中地点は同一集団による一連の作業が異所的に展開された結果と判断さ

れる可能性の高いこと。

という4点を指摘しておきたい。

1・6第6文化層　第2黒色帯最下部の集中地点を纏めたが、何れも、小規模・小範囲の集中地点であり、先に第1文化層の項目でも指摘しておいたが、off siteの機能を考察する上で重要な意義をもつものと評価される。

## 第2節　第4文化層石器群と石器群の構造的理解

2・1問題の所在　下総台地第2黒色帯上部（IX層上部）に包含される石器群に関しては、従来報告されていた資料数が多くないこともあり、その性格に関してはいろいろ分からないことがあった。ところが、近年に到り、佐倉市南志津地区や千葉市荒久遺跡の該期の資料が相次いで報告され、漸くその詳細を具体的資料に立脚して討論することができるようになった。既に瞥見したように、今回報告した白幡前遺跡においても、該当する層準より纏まった資料を検出することができ、これを第4文化層と総称した。しかしながら、ここに見出される石器群の様相が従来の一般的理解の埒内にあるものとは言え、その様相の本質的理解は単一遺跡の検討範囲を逸脱しており、いくつかの大きな制約、就中、厳密な時間的配慮の困難性、はあるものの、近隣の諸遺跡との比較検討を不可避の課題としている。

従来の知見によれば、当該期の石器群の特徴としては、

(1)　諸種の一般的剝片剝離技術に立脚し、石刃を稀に客体的に含むこと。

(2)　小型の尖頭器、すなわち剝片製小型ナイフを少量ながら特徴的に保有すること。

(3)　楔形石器とそれに由来する小剝片の出現頻度が前後の時期に比較して高率であること。

(4)　これら二者以外には殆ど定型的な石器が認められないこと。

(5)　同様に台形石器の明確な伴出例も確認されないこと。

という5点が抽出されてきた。また、これに基づいた段階設定も試みたこともある。前節で指摘したように、白幡前遺跡第4文化層石器群の実体もこの規定を決して逸脱するものではなく、ある抽象度を設定する時、これらの規定はなお有効な指標たりうるものと判断される。しかしながら、ほんとうに問題なのは、単純に示準化石を選択し、段階と様相を設定し、周辺地域との異同を論じるという文化史学的な狭隘な視点を、これらの特徴を巡る遺跡間の諸変異を如何に解釈しうるかという新たな地平に転位せしめる方法と理論の提示にあろう。

石器群間に認められる諸変異（inter assemblage variation）に関しては、ムステリアン論争がよく知られており、わが国でも詳細な紹介と論評がある（藤本1976、赤澤1976）。この論争の背景を、ヨーロッパ先史学の重厚な伝統と、既に1930年代にはその骨格を確立していたアメリ

**第62表　第2黒色帯上部石器群の組成と多様度**

| | ナイフ形石器 | 楔形石器 | 削器・石錐他 | 剥片R・U | 剥片 | 石核 | その他 | 総計 | 集中箇所 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 遠山天ノ作遺跡 | 3[1] | 129 | 1 | − | 910[2] | 4 | 25 | 1,082 | >4[3] |
| 芋窪遺跡 | 0[4] | 48[5] | 0 | >34 | n.d. | n.d. | n.d. | 1,055 | 11 |
| 大林遺跡第41ブロック | 1 | 27 | 4 | 42 | 405 | 19 | 7 | 505 | 16 |
| 新山遺跡[6] | 1 | 12 | 5 | 39 | 311 | 13 | 5 | 393 | >7[7] |
| 復山谷遺跡E区IX層 | 3 | 1 | 3 | 26 | 284 | 4 | 10 | 331 | 6 |
| 荒久遺跡第3ブロック | 10 | 9 | 5 | 30 | 114 | 9 | 1 | 233 | 5 |
| 白幡前遺跡第4文化層 | − | 12 | − | 9 | 435 | 9 | 1 | 566 | 11 |
| 権現後遺跡第10ブロック | 2 | − | 2 | − | 54 | 2 | − | 65 | 1 |
| 権現後遺跡第24ブロック | 2 | 1 | 1 | 2 | 143 | 1 | 1 | 152 | 1 |
| 井戸向遺跡S7ブロック | 1[8] | 14 | 4 | 5 | 140 | 2 | 1 | 167 | 4 |

注1　不確実なものを含むが、報告書に従う。
2　このうち904点が楔形石器から得られる剥片。
3　路線内のみの調査であるため全容は不明。
4　不確実なものを除外する。
5　筆者カウント。
6　現在印刷中。
7　一部分のみの調査であるため全容は不明。
8　不確実なものを除外する。

カ人類学を出自母体とする機能的思考との鬩ぎ合いであった、と評価することも可能である。翻って、わが国の先史学を育んだ学問的環境を一瞥する時、それは大正末、昭和初年には既に方法的確立をみたといわれる縄紋土器の型式学的研究によく象徴されるように、極めて堅牢な方法的基盤に立脚したものであったことが想起される。岩宿以降、現在に到る石器研究の系譜が、いくつかの特筆すべき成果を派生しつつも、この基盤の一部に連なるものであるであることは別に詳しく論じる必要があるが、かの論争に20年余の遅れをとりながら、現実的資料に立脚して、漸く別な系譜との接点が模索され始めていることは事実であろう。

本論においては、近年の石器群研究におけるパラダイムの転換点が、石器群の構造・構成における諸変異が人間的行動における形態・本質・空間的配置と密接に関連し、「石器群の示す諸変異の『要因』とは個々の行動の変化に対応し、それらは社会的、物質的環境と分かちがたく結びついている」(Binford and Binford 1966) にもかかわらず、結果としての石器群と、原因としての行動との間に横たわるバイアスの構造(Ammerman and Feldman 1974, Schiffer 1976, Yellen 1977, Binford 1978他) を巡るものであった点に注目し、そこにおけるバイアスの構造を理論的に考察するための基本的視座を模索したい。このような視点はわが国においても既に、渡辺仁の学風を継承する安斎により世界先史学的立場から多角的に検討されており(安斎1990)、筆者らもこの業績に負うところが極めて大きいが、本論とも言える、特定の地域を対象とする具体的検討は、漸くその端緒に着いた段階であり、本小論はその序章の一部を形成していることを明記しておきたい。

2・2資料の検討　今回の予備的な考察の素材としては、下総台地で調査された遺跡から比較的その内容の明確な報告例を抽出したが、土層区分基準が必ずしも一致していないこともあり、産出層準による詳細な先後関係は確定されていない。しかし、その大枠において、北海道遺跡第3文化層を典型とするⅦ層石器群に先行する段階にあると認識している。遺跡としては9遺跡あり、合計10単位の石器群が選択されているが、この石器群の変異範囲内に他の大部分の遺跡も包括しうるものと理解している。

第66表に各石器群の内容を示した。まずはじめに、石器群の分類に関する問題点を挙げておきたい。ここでナイフ形石器としたものは、筆者らが剝片製小型ナイフと呼んでいるものであり、この段階に一般的なものである。特徴としては、①一般的剝片を素材としていること、②細かいブランティングによる素材剝片の変形を細部加工技術としていること、③二側縁加工の尖頭器を基本形態とし、若干のバラエティーが認められること、④3cm前後の小型のものが多いこと、が指摘される。削器と石錐等に関しては、特に定型的なものは認めらず、剝片Rとの境界は常に不分明であり、ここでは報告書の分類に従った。将来的には、現在の分類方法を棄却して、素材の使い方、加工部分の形態、刃部の角度、加工剝離の形態と技術等に基づいた全く別な分類基準の確立が必要である。

楔形石器には両極剝片・両極石核を一括したが、非常に問題が多い石器であり、未だよく理解できないところが多い。細かい形態分類も必要であるが、根本的な問題はその機能が如何なるものであったのか、という点につきる。一般的には、曽根型コアとウエッヂとに二分されるが、両者は連続的であるばかりか、具体的に機能差が検証された事例は少ない。また、その機能の時間的な変遷に関しても明らかではない。ここでは、暫定的な試案であるが、何れも第2黒色帯を遺物産出層準としている、千葉県佐倉市大林、芋窪、大堀遺跡等の多量の資料を詳細に観察した結果に基づき、以下のような理解に従いたい。

(1) 両極技法によって多量の両極剝片が生産されること。また、同時に楔形石器が産み出される。これを生産過程と見るか、それとも消費過程と認識するかは、その石器群のおかれたコンテクストによるので、先験的な判断は不可能であること。

(2) 両極剝片は、属性選択過程を媒介として刃器に転化すること、また、別な石器を製作するためのブランクにも転化されること。

(3) 次に、両極剝離は剝片の細部加工技術として活用される。これはとくに匝撃調整と呼称し、一般的な調整技術と区別されること。

(4) 機能に関しては今後の課題としたいが、ウエッヂとしてよりも、刃器・削器として機能したものが多いのではないかと考えられる。特に、小型の両極剝片の一部が別な軸に嵌挿された複合成器であった可能性は高い。従って、仮に叙上の仮定が成立しうるとすれば、石器群の構成は全く別な基準に従って認識されねばならないことになる。

(5) 以上の内容から、楔形石器という廃棄形態に基づく考察では不十分であり、両極技法という一つの剝片剝離手法の多角的・多重的応用過程が重要であるばかりか、現在の石器分類体系自体の根本的な見直しが必要であること。

なお、機能に関しては、白幡前遺跡各文化層石器群の器種別出現頻度（第125図）から明らかなように、あたかもナイフ形石器の消長と負の相関が存在するような結果が得られているので、両者の機能に一部オーバーラップするところがあるように考えることができるかもしれない。その場合においても、石器群の複合性という概念の導入は不可避であり、一見単純に見える石器群の構成が、じつは複雑な装備の一部としての複合的な機能を加担するものであった可能性を派生するであろう。これに関しては将来の帰納的分析に期待したい。

剝片R・Uについては石器群間の格差が大きいが、これには認定段階の問題のほかに、使用石材の性状による制約が大きく影響しているので、画一的な比較は困難であろう。例えば、安山岩や頁岩の一部などでは分厚い風化面の存在が使用痕観察の大きな制約になっている。最後に、その他としたものには敲石・石砧・石斧・礫等を一括した。

次に、以上の分類上の問題点に留意しながら各石器群の状況を観察したい。先ず注意されるのは、ナイフ形石器や削器・石錐等は各石器群に少量ずつ含まれ、あまり大きな格差を持たないのに対して、楔形石器に関しては著しい偏在性が認められることであろう。これを基準として、次のように石器群を分類しよう。

| | 特　　徴 | 遺　　跡 |
|---|---|---|
| A群 | 石器群の4％以上を楔形石器が占めるもの | 遠山天ノ作　芋窪　大林　井戸向 |
| B群 | 石器群の2％以上、4％未満の楔形石器を含むもの | 新山　荒久　白幡前 |
| C群 | 石器群の1％未満の楔形石器しか含まないもの | 復山谷　権現後 |

A群には遠山天ノ作遺跡や芋窪遺跡のように1000点以上の資料を含み、かつそれらの大部分が楔形石器とそれに関連する資料によって占められているものがある。井戸向遺跡は資料数は多くないが、構成としてはこれに近い。また、大林遺跡は遺跡内消費母岩に楔形石器が多く含まれており、搬入資料にはこれが少数であるという特徴が指摘される。以上より、

$A_1$遠山天ノ作遺跡　芋窪遺跡

$A_2$大林遺跡　井戸向遺跡

という2群に細分される。

B群では荒久遺跡が各種の石器を多く含み、この段階の石器群の全体像を知る上で重要な位置を占めているが、良質な黒曜石の供給がその大きな与件となっていることに注意したい。新山・白幡前両遺跡は刃器主体の構成となっており、大林遺跡に近似している。

C群では特に、各石器群が剝片製小型ナイフを複数保有していることに注意したい。

従って、以上の内容から、

| | 両極技法 | 一般的剝片剝離 |
|---|---|---|
| $A_1$ | *CCC* | *R* |
| $A_2B$ | *C* | *C* |
| C | *R* | *CCC* |

*C*：common　*R*：rare

という3群に再構成される。

2・3考察　前項で抽出されたグループ間の変化に関しては、これが第2黒色帯上部という限定的な時間帯域におけるinter assemblage variationであるという理解が必要であり、各々が相補性を保ちながら周期的に形成されたものと解釈したい。すなわち、石器群は剝片モード内部での推移構造を示している。

この中で最も理解しすいのは$A_1$群であろう。この一群は組織的な楔形石器の生産・消費過程が特定地点で集中的に実施されたことを明示している。遠山天ノ作遺跡の場合、基底礫層から採集した小礫を素材とする特異な製作過程が復元されており、良好な石材に恵まれないこの地域の特性をよく具現しているようにみえるが、芋窪遺跡では比較的良質な石材をも含む多種多様な石材を対象として生産が行われているので、ある一時期に多量の楔形石器と両極剝片が必要とされたことを示すものと理解されよう。つまり、狩猟・採集戦略の一環として特定の器種が纏まって生産されたことが窺われ、その背景として、石器素材としては決して好適なものとはいえない礫層の小礫をすらその対象に選択せざるを得ぬ程度のtime stressが存在したらしいことも推察されよう。

次に、$A_2$・B群について観察すると、大林遺跡に典型的なように、遺跡内消費母岩の多くが両極技法によっている反面、それ以外に一般的剝片剝離による資料を多く共存している事例から、両極的手法と一般的剝片剝離手法とが一集団の保持する複合的な技術的体系を構成しているのみならず、両者が時期と場所を異にして反復的に物質化されている過程が復元されよう。ここにおいてもまた、楔形石器が特定の時期に多量に生産された可能性が指摘されることになり、これを狩猟・採集戦略の生態的適応過程の内部に位置づけるとすれば、その対象（環界）の周期的変化と石器群の構成が写像的に変容していく過程とも理解することが可能であろう。

従って、ここでは二通りの解釈が導かれることになる。一つは、石器群の異差性を短射程の時間軸において理解する立場である。この場合、C群に関しては、楔形石器に対する需要がない段階に形成された集中地点であるという位置づけが可能となり、A～C各群は時間的な推移関係に従って、

$$A_1 \rightarrow A_2 \cdot B \rightarrow C \rightarrow A_2 \cdot B \rightarrow A_1$$

という線条的な inter assemblage variation が理念的に想定されることになる。

第二の解釈としては、各群を機能的な異差性に還元するすることにおいては前と同一の立場であるが、放射型の inter assemblage variation を想定することである。すなわち、はじめにも触れたように、ビンフォードの collecting system においては residential camp を中心として、location、cache、field station、fieldcamp 等が放射状、あるいは螺旋上に形成されることが示されている。現実的にはこれら両者は対立的に存在するのではなく、システムとしての相互性を維持しながら変化していくにちがいないのだが、私たちにとって切実な問題は、これらの settlement の階層的異差性を巡って、如何なる inter assemblage variation が観察されるのかという点に収斂する。いずれにせよ、叙上の仮説に関しては、十分な資料が得られておらず、先行、あるいは後続する段階の石器群との十分な比較・検討を含めた、今後の研究に待つところが大きい。

## 第3節　第2文化層の意味するもの

3・1分布状況　これまで再三述べてきたように、白幡前遺跡においては第2文化層としたⅣ層からⅤ層にかけての石器群が、その検出地点数においても、また出土遺物数においても卓越しており、本遺跡の中心的な位置を占めるものであった。この傾向は、北側に陸続する井戸向遺跡、北海道遺跡、権現後遺跡においても同様であり、萱田地区の一般的傾向を示すものとも認められた（第68～71表）。

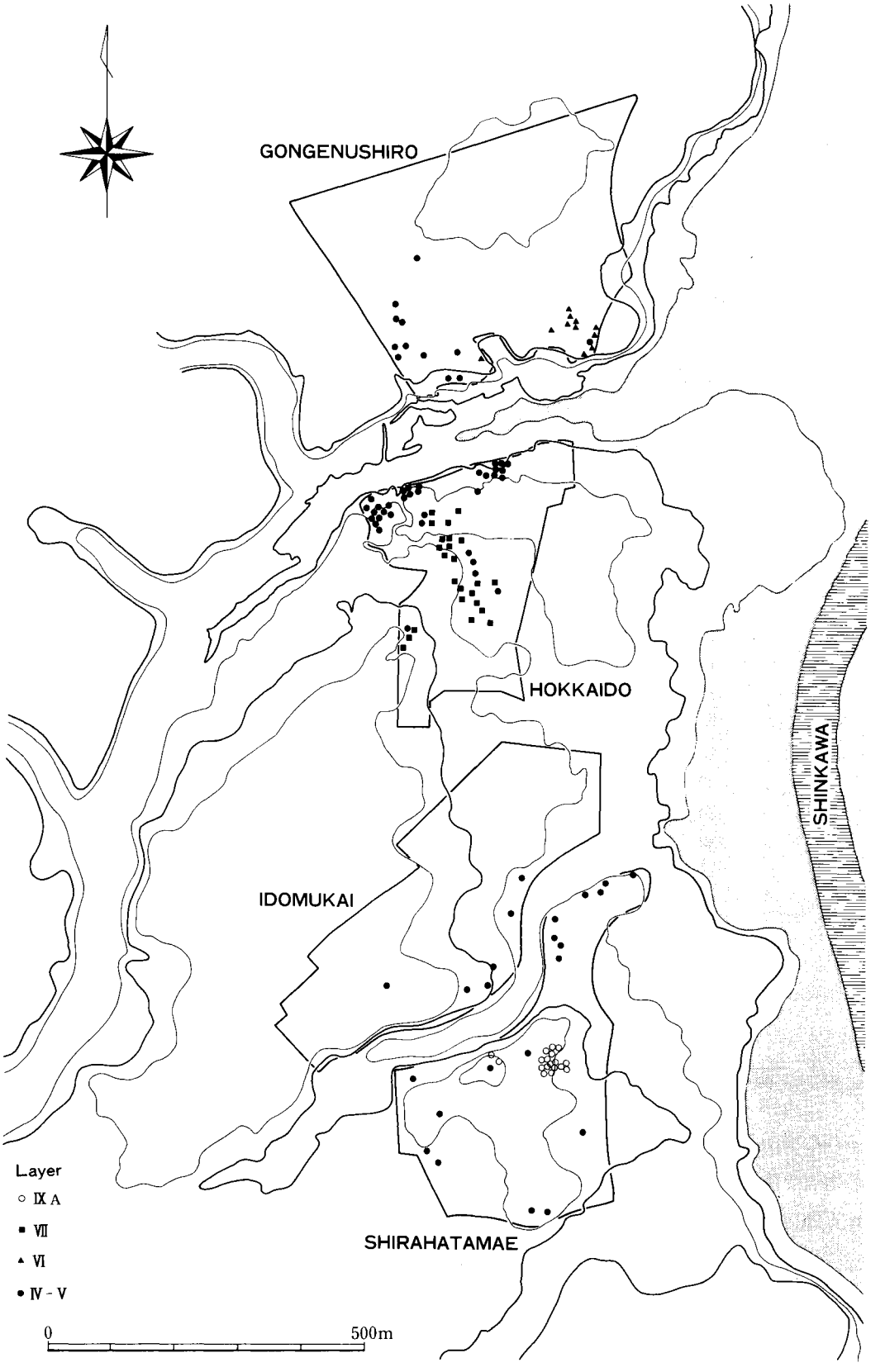
第122図に各遺跡の文化層単位の地点（ブロック）分布状況を示した。また、第67表に萱田地区各遺跡文化層の対応関係を示した。この分布図からは極めて注目すべき傾向性を読み取ることができる。この分布図には、Ⅸa層、Ⅶ層、Ⅵ層、Ⅳ・Ⅴ層に帰属する集中地点を記入してあるが、Ⅸa層では白幡前遺跡に、Ⅶ層では北海道遺跡に、Ⅵ層では権現後遺跡にそれぞれ顕著な集中地点が認められる。勿論、これ以外にも集中地点は検出されているが、それはここで摘出した諸遺跡に看取されるようなクラスター状の集中分布はしておらず、むしろ離散的な分布に従っている。すなわち、

(1)　クラスター状の集中分布は各時期に1箇所ずつ、地点を変えて出現している。

(2)　離散的集中地点が、その周辺部に点々と認められる場合がある。

という2つの大きな特徴が摘出される。しかし、クラスター状の分布といっても、それらが離散的分布の単なる集合である可能性もあるので、さらに詳細な検討が必要であるかもしれない。

たとえば、権現後遺跡第4文化層の場合は、地点を異にする礫群は別にして、各集中地点には同質の信州系黒曜石が多く分布しているので、それらが大体同一時期に形成された可能性は極めて高いであろう。この場合、極短期間内に多量のナイフ形石器が複数の集団によって製作




第122図　萱田地区先土器時代遺物集中地点の分布

**第63表　萱田地区各遺跡文化層の対応関係**

| | 権現後 | 北海道 | 井戸向 | 白幡前 |
|---|---|---|---|---|
| III層 | 第2文化層 | | III層 | 第1文化層 |
| IV・V層 | 第3文化層 | 第2文化層 | IV・V層 | 第2文化層 |
| VI層 | 第4文化層 | | VI層 | 第3文化層 |
| VII層 | | 第3文化層 | | |
| | | | VII・IX層 | |
| IX層上部 | 第5文化層 | | | 第4文化層 |
| | | | | 第5文化層 |
| IX層下部 | 第6文化層 | | | 第6文化層 |

**第64表　白幡前遺跡第2文化層一覧**

| 地　点 | 面積m² | 石器総数 | 石器母岩個体数 | 礫総数 | 礫母岩個体数 | クラスター数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 65 | 214 | 9 | 62 | 16 | 6 |
| 3 | 1 | 3 | 2 | — | — | — |
| 11 | 5 | 12 | 7 | 10 | 6 | — |
| 12 | 4 | 23 | 6 | 17 | 4 | — |
| 13 | 9 | 77 | 2 | 3 | 3 | — |
| 18 | 11 | 23 | 7 | 51 | 12 | — |
| 21 | 45 | 228 | 28 | 37 | 12 | 2 |
| 26 | 9 | 21 | 3 | — | — | — |
| 29 | 45 | 237 | >24 | 588 | 51 | 8 |
| 30 | 51 | 147 | 31 | 266 | 36 | 3 |
| 32 | 19 | 67 | 14 | 2 | 1 | — |
| 33 | 3 | 3 | 1 | 24 | 5 | — |
| 34 | 7 | 39 | 1 | — | — | — |
| 35 | 1 | 3 | 2 | — | — | — |
| 36 | 0 | 3 | 2 | — | — | — |
| 37 | 15 | 48 | 14 | 90 | 18 | 2 |
| 46 | 3 | 17 | 2 | 18 | 1 | — |
| 60 | 3 | 25 | 6 | 7 | 2 | — |

された場所である可能性が最も高いように見える。同様に、白幡前遺跡第4文化層でも、複数の地点で使用されている高原山産の黒曜石は肉眼的には全く同一の様相を呈しているので、各地点間に大きな時間差を指摘することは困難であるかもしれない。ただし、北海道遺跡の場合は、集中地点間の直接的関係を示唆するデータを欠いているので、論証は著しく困難である。しかしながら、その集中的な地点分布状況に何らかの意味を見出そうという立場にたち、また、石刃及び石刃ナイフの等質的保有状況を重視して、これらの集中地点の分布状況は、時間的間隙をもつ離散的な集中地点の単なる集中、あるいは、単一集団による機能を異にした作業空間

## 第65表　権現後遺跡第2文化層一覧

| 地　点（ブロック） | 面積m² | 石器総数 | 石器母岩個体数 | 礫総数 | 礫母岩個体数 | クラスター数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 10 | 10 | 4 | — | — | — |
| 12 | 24 | 25 | 8 | — | — | — |
| 13 | 5 | 26 | 2 | — | — | — |
| 14 | 36 | 295 | >6 | — | — | 2 |
| 15 | 36 | 680 | 33 | 65 | 9 | >4 |
| 16 | 27 | 151 | 10 | 2 | 2 | 2 |
| 17 | 21 | 38 | 9 | 9 | 5 | — |
| 18 | 3 | 25 | 3 | — | — | — |
| 20 | 7 | 218 | 5 | — | — | — |
| 21 | 3 | 10 | 2 | — | — | — |
| 22 | 8 | 24 | 3 | — | — | — |
| 27 | 47 | 47 | 2 | — | — | — |

## 第66表　北海道遺跡第2文化層一覧

| 地　点（ブロック） | 面積m² | 石器総数 | 石器母岩個体数 | 礫総数 | 礫母岩個体数 | クラスター数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1〜6 | 75 | 296 | 41 | 23 | 8 | 6 |
| 7 | 2 | 4 | 3 | — | — | — |
| 8 | 4 | 5 | 3 | — | — | — |
| 9 | 3 | 2 | 2 | 13 | 4 | — |
| 10 | 8 | 29 | 4 | — | — | — |
| 11〜16・18 | 75 | 310 | 55 | 29 | 12 | 10 |
| 17 | 4 | 1 | 1 | 23 | >3 | — |
| 19 | 20 | 51 | 18 | 20 | 6 | 2 |
| 20 | 25 | 46 | 8 | 1 | 1 | 2 |
| 21 | 36 | 49 | 12 | 16 | 6 | 2 |
| 22 | 10 | 10 | 4 | — | — | — |
| 23 | 25 | 44 | 10 | 1 | 1 | — |
| 24 | 4 | 11 | 5 | — | — | — |
| 25 | 10 | 20 | 10 | 15 | 6 | — |
| 26 | 29 | 21 | 7 | — | — | — |
| 27 | 5 | 6 | 4 | 1 | 1 | — |
| 28 | 10 | 8 | 4 | 3 | 1 | — |
| 29 | 16 | 6 | 2 | 6 | 1 | — |
| 38 | 13 | 20 | 10 | — | — | — |
| 39 | 8 | 11 | 8 | — | — | — |
| 43 | 16 | 32 | 13 | — | — | — |
| 45 | 2 | 4 | 3 | — | — | — |
| 51 | 1 | 6 | 3 | — | — | — |
| 55 | 5 | 12 | 1 | — | — | — |
| 62 | 11 | 27 | 10 | 12 | — | 2 |

## 第 67 表　井戸向遺跡IV・V層石器群一覧

| 地　点（ブロック） | 面積m² | 石器総数 | 石器母岩個体数 | 礫総数 | 礫母岩個体数 | クラスター数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 18 | 72 | 2 | — | — | — |
| 4 | 23 | 79 | 3 | — | — | — |
| 8 | 96 | 24 | 12 | — | — | 4 |
| 11 | 59 | 20 | 9 | 5 | 2 | — |
| 13 | 62 | 40 | 14 | 28 | 9 | 3 |
| 24・34 | 73 | 206 | 42 | 57 | 23 | 6 |
| 25 | 10 | 29 | 5 | 2 | 2 | — |

## 第68表　井戸向遺跡文化層一覧

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| III層 | 8 | 4 | 7 | 1 | | | | 133 | 277 | | | | 1 |
| IV・V層 | 8 | 1 | 16 | 4 | 7 | | 6 | 170 | 122 | 5 | | | 2 |
| VI層 | 4 | | 1 | | | | | 91 | 141 | 4 | | 1 | 2 |
| VII・IX層 | 3 | | 4 | | 14 | | | 74 | 70 | 2 | | | |

## 第69表　権現後遺跡文化層一覧

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第 1 文化層 | | 3 | | | | | | | | | | | |
| 第 2 文化層 | 2 | | | | | | | 7 | 71 | | | | |
| 第 3 文化層 | 45 | 6 | 16 | 1 | 3 | 3 | 22 | 352 | 1,077 | 28 | | | 7 |
| 第 4 文化層 | 38 | | 1 | | 4 | | 8 | 168 | 1,864 | 3 | | | 1 |
| 第 5 文化層 | 5 | | | | | 3 | 1 | 87 | 18 | 6 | | | |
| 第 6 文化層 | 2 | | 2 | 2 | 1 | | 11 | 101 | 173 | 1 | 2 | | 2 |

## 第70表　北海道遺跡文化層一覧

| | ナイフ | 石槍 | 削器 | 石錐 | 楔形石器 | 彫器 | 剝片R | 剝片 | 削片 | 石核 | 石斧 | 打割器 | 石槌・石砧 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第 1 文化層 | | | | | | | | | | | | | |
| 第 2 文化層 | 32 | 2 | 27 | 4 | 6 | | 15 | 656 | 231 | 45 | | | 5 |
| 第 3 文化層 | 29 | | 4 | | 20 | 1 | 14 | 691 | 372 | 12 | | | 7 |

の連綴的形成過程を想定するよりは、むしろ複数の集団による複数の地点形成が近接した時間内に継起的に行われたものと理解するのが妥当ではあるまいか。このように、未だ多くの問題点は残されているが、クラスター状の集中分布地点の形成は、複数の集団が比較的短期間内に、相次いで居住した地点を指示しているものと、暫定的にではあれ理解しておきたい。

ところで、Ⅳ・Ⅴ層段階の集中地点の分布状況はどうであろう。既に第1節において、白幡前遺跡第2文化層の遺物集中地点を大きく3つの類型に分かち、それぞれの階層性についても指摘したが、この階層性をもった分布状況は萱田地区の各遺跡で確認することができる。詳細は略するが、権現後遺跡第15ブロック、北海道遺跡第1～第6ブロック、同第11～16・18ブロック等はrank aの典型的な事例と見られる。このように、比較的集中度が高く、かつ多量の遺物を保有し、その占拠面積も広い集中地点が、離散的かつ小規模・小範囲な地点と併存する状況が顕著に認められるであろう。第123図に白幡前・井戸向・北海道・権現後各遺跡Ⅳ・Ⅴ層、権現後遺跡Ⅵ層、北海道遺跡Ⅶ層石器群の資料数と分布地点の面積を図示した。このうち、権現後遺跡と北海道遺跡の場合、さらに統合される可能性が高いが、Ⅳ・Ⅴ層石器群の諸例に内在する階層性をある程度読み取ることができる。

勿論、この状況を先行する段階と同様に把握することは可能であり、また、その可能性は高いと考えられるが、現在までの集中地点の検出密度の差異には無視しえぬものがあり、単純に量的な問題に置き換えることには多々問題を残している。

また、この問題とも関連して特に注意したいのは、礫群の存在である。言うまでもなく礫群の形成には多量の礫が必要であるが、至近に礫の産出地点がない本地域においても、盛んに礫群が形成されている。白幡前遺跡においては、特にrank aとした大規模な遺物集中地点と礫群とは密接な関係があり、S29地点では51個体588点、S30地点では36個体266点に達する礫が搬入されている。このことは単に文化要素として礫群の形成がすすめられたという皮相的な理解では不十分であることを暗示している。相模野台地や武蔵野台地と異なり、足下に礫の分布する河床を持たない本地域にあっては、相当の距離を重量のある礫を多く携えて移動しなければならない事情を考慮する時、それが集団の移動に際しては大きな足枷となることに注意しなければなるまい。この問題はcacheの形成によってある程度回避しうるかもしれないが、遺存する礫群、とりわけ多量の礫の集積地点の全てをcacheと理解することは困難であり、数点、あるいは数十点の礫の遺存する地点をこそcacheと見做さねばなるまい。例えば、白幡前遺跡S33地点、北海道遺跡第17ブロックなど礫を主体とし、その他の石器を殆ど含まない地点がこの候補に挙げられるかもしれない。若し、そうであるならば、礫群の一部については居住地点に固定化された装備と認識する必要を生じるであろう。

3・2石器群　この段階の石器群に関する技術型式学的研究に関しては多くの文献があるの

で、ここでは触れず、もう少し大局的な視点から石器群の状況を観察したい。

石器群の構造を理解するためには、トレンスの視点を参考にして、

a．石器群の組合せ

b．石器群の多様度

c．石器群の複合性

という基準に従った考え方が有効であるかもしれない。これを分かりやすく表現すれば、ある集団の保有する道具箱を想定し、

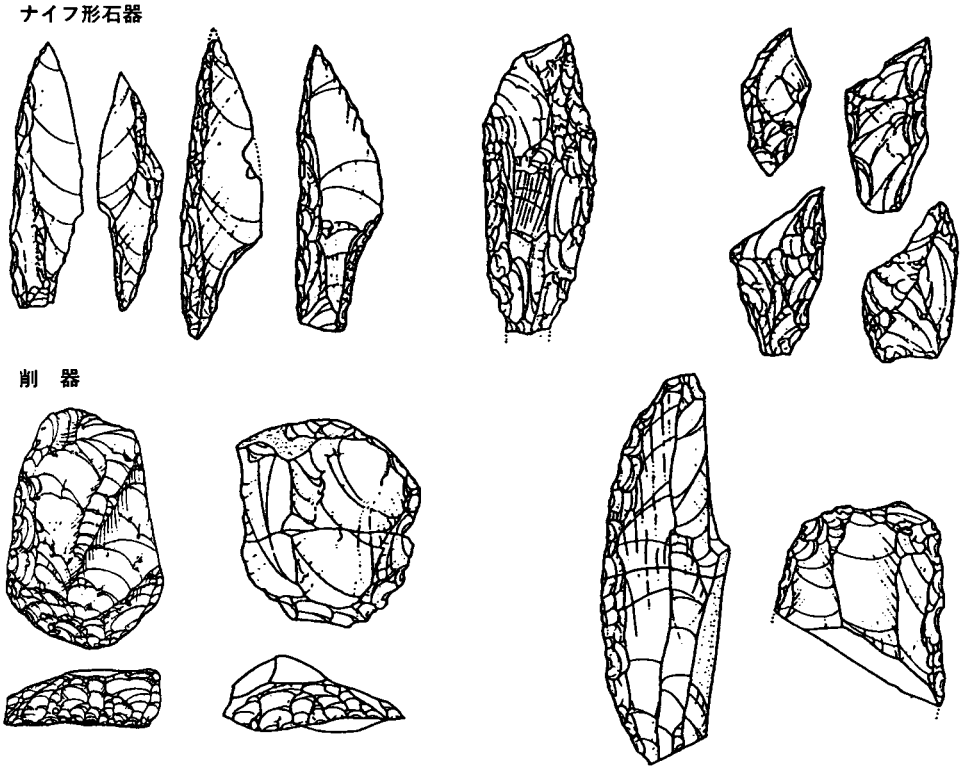
a．道具箱の中には何種類の石器があるのか

b．一種類の石器がいくつずつあるのか

c．ある道具、例えば槍を構成するために必要な道具はいくつあるのか

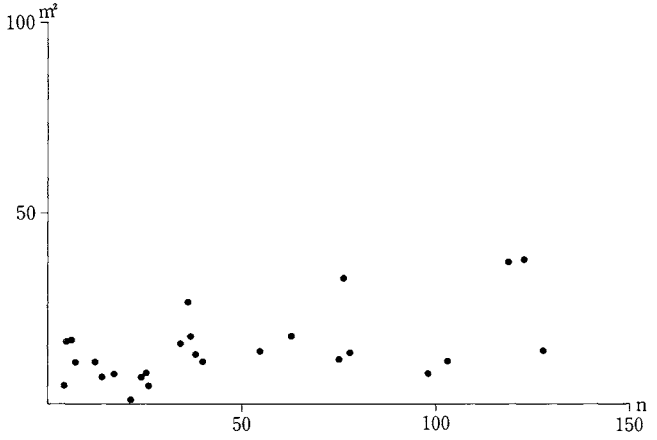
を調べることになる。

まず、石器群の組合せはどうであろう。第5表・第72～74表によると、先行する時期と比較して、大きな種類の変化はないように見える。しかし、もう少し石器群に含まれる各器種内部状況を観察してみると、一器種内部での細かな分化が進んでいることがわかる。例えば、ナイフ形石器では、尖頭器の仲間と台形石器の仲間とに大きく二分され、それぞれの内部で形態的

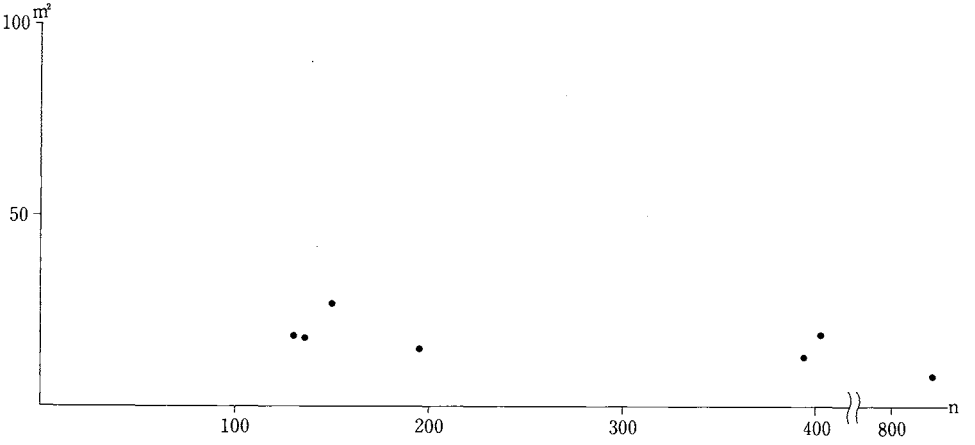



第123図　Ⅳ・Ⅴ層石器群における形態分化

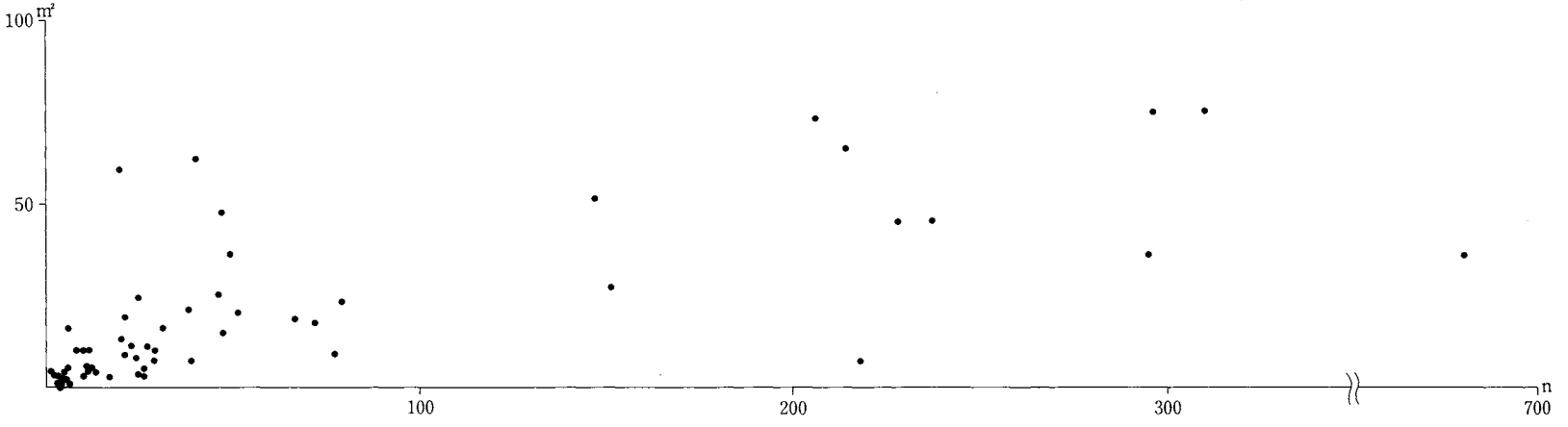
北海道遺跡第3文化層



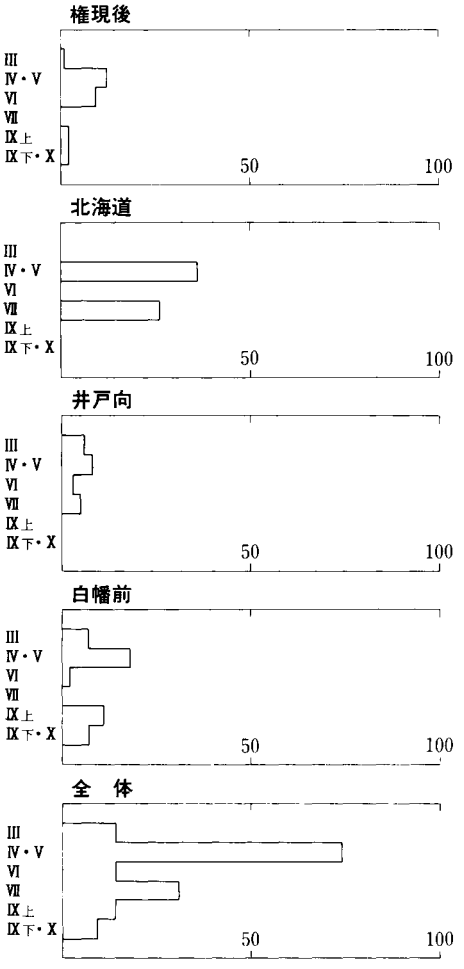

権現後遺跡第4文化層



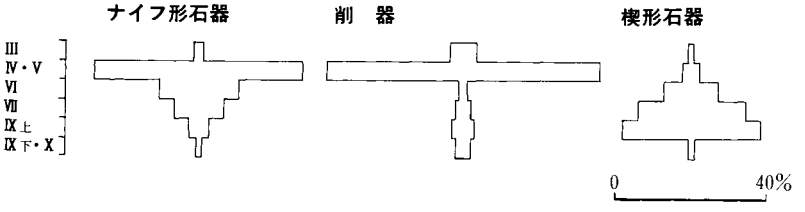

北海道・権現後・白幡前・井戸向遺跡Ⅳ・Ⅴ層石器群




第124図　北海道・権現後・白幡前・井戸向遺跡遺物集中地点の比較




第125図　各文化層石器群出土地点の量的変遷



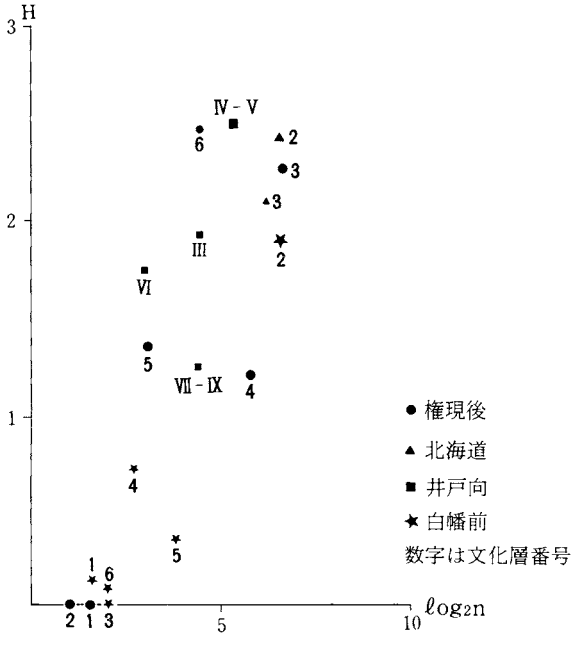

第126図　特徴器種の時間的変遷

分化がすすみ削器においても、側削器と端削器の分化が定着している（第125図）。細かく分類を進めれば、さらにいくつかの分化状況が指摘できるが、ここではとりあえず石器の組合せが複雑になったことを確認しておこう。

次に、石器群の多様度を観察する。第75表・第126図に萱田地区諸遺跡における文化層毎のマッカーサーの多様度示数の計算結果とH示数の分散図を示した。また、第127図に特徴器種の文

## 第 71 表　各遺跡石器群の文化層別多様度の比較

| | | $\log_2 n$ | H | E |
|---|---|---|---|---|
| 権現後遺跡 | 第 1 文化層 | 1.5851 | 0.0000 | 0.0000 |
| | 第 2 文化層 | 1.0000 | 0.0000 | 0.0000 |
| | 第 3 文化層 | 6.6872 | 2.2798 | 0.7599 |
| | 第 4 文化層 | 5.7010 | 1.2497 | 0.5382 |
| | 第 5 文化層 | 3.2482 | 1.3518 | 0.8528 |
| | 第 6 文化層 | 4.4599 | 2.2755 | 0.8150 |
| 北海道遺跡 | 第 2 文化層 | 6.5084 | 2.2386 | 0.7973 |
| | 第 3 文化層 | 6.2294 | 2.1185 | 0.8195 |
| 井戸向遺跡 | III層 | 4.3928 | 1.9333 | 0.8325 |
| | IV・V層 | 5.3581 | 2.5019 | 0.8911 |
| | VI層 | 3.0000 | 1.7502 | 0.8751 |
| | VII・IX層 | 4.3927 | 1.2517 | 0.7897 |
| 白幡前遺跡 | 第 1 文化層 | 1.5850 | 0.1384 | 0.1384 |
| | 第 2 文化層 | 6.5856 | 1.9023 | 0.8192 |
| | 第 3 文化層 | 2.0000 | 0.0000 | 0.0000 |
| | 第 4 文化層 | 3.8077 | 0.7345 | 0.4634 |
| | 第 5 文化層 | 3.5853 | 1.7580 | 0.8790 |
| | 第 6 文化層 | 1.0000 | 1.0000 | 1.0000 |




第127図　萱田地区石器群の多様度の比較

化層別出現頻度も併せて示した。H示数によると、資料数と示数Hとは正の相関関係にあり（相関係数r＝0.74）、資料数の増加に伴って多様度も増加する傾向が確認される。なお、今回は具体的データの提示は省略したが、Ⅳ・Ⅴ層段階の集中地点間の多様度示数に関してもこれと同様の相関関係を確認している。

考古学的 context における、廃棄資料の大きさ（sample size）と多様度との相関性に関しては一般に、

(1) 同一地点における近似した行動の反復は達の相関を結果すること

(2) 逆に、限定されたエリアでの石器のリサイクルの負の相関を生じること

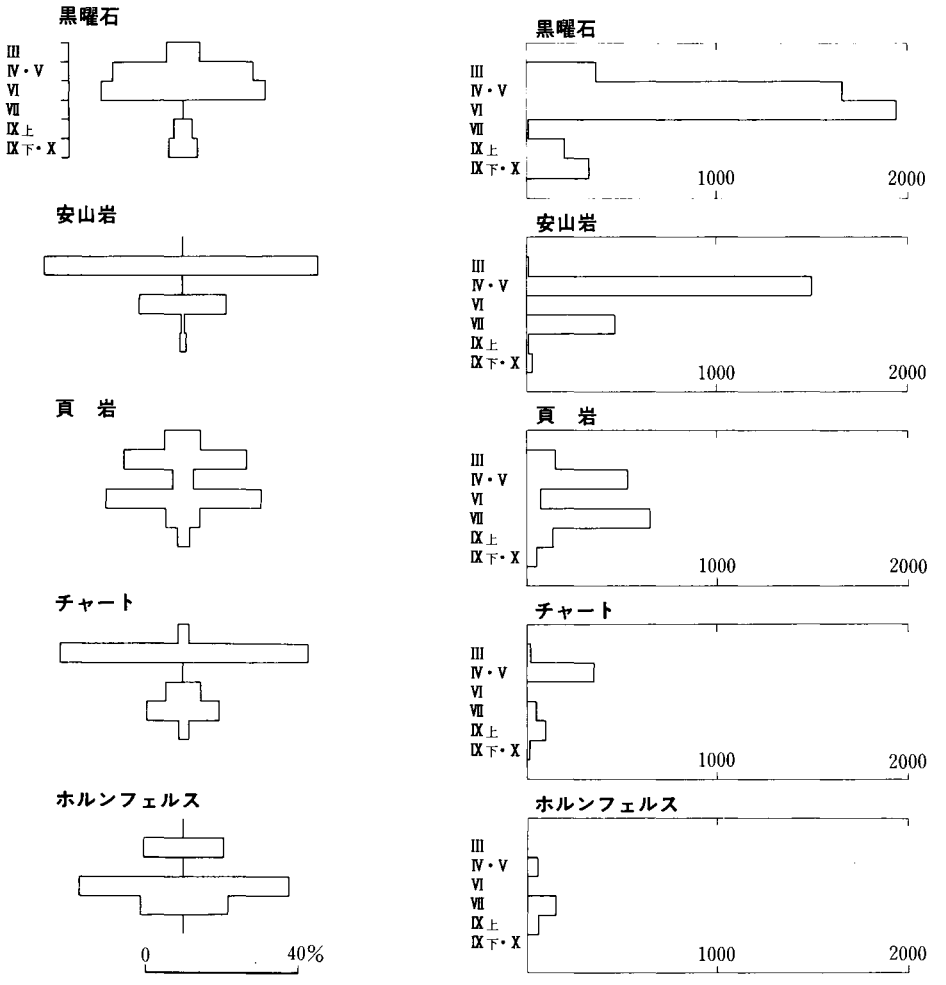
(3) 両者の線型的関係は、比較的類似した行為の反復と、founding set と doner set（Shiffer 1975）の累積的廃棄を反映する

ものと理解されている（Cammili 1983, Evert 1986, Shott 1989）。

Ⅳ・Ⅴ層石器群は各遺跡ともに資料数が他の文化層の石器群を圧倒しているので、その多様度も高い値を示している。しかし、この段階では、既に指摘した各器種内部での形態分化はコントロールされていないので、将来的には、分類手法の洗練化に基づく多様度の再評価が必要であるが、現状では分散図からも窺われるように、石器群の資料数と多様度との間には正の相関関係があるので、相対的に資料数の少ない集中地点、もしくは文化層ではその多様度は低い。一般的には、そのような地点は特殊な機能を荷担していたと解釈されるので、今後は、多様度と石器の組合せにも十分な注意が必要となる。また、逆に、資料数の豊富な地点に関しては、器種的な分化の顕在化にその特徴を読み取るだけではなく、諸種の装備が大きな偏在性を持たずに保有されていくことが重要なのであり、居住の反復・重複、廃棄の重層性等のバイアスを考慮したとしても、その種の地点の機能的一般性にこそ着目しなければなるまい。

このように、石器群多様度の一般性と特殊性という視点から第128図を見ると、前節で議論した楔形石器はひとまず措くとして、Ⅳ・Ⅴ層段階におけるナイフ形石器と削器の急激な増加は、石器群の構成が大きく変容したのみではなく、資料数の急激な増加、すなわち集中地点数の激しい増加傾向と階層的分化を反映するものと理解されねばならない。と同時に、これらの形態的分化によく窺われるように、石器群の構成は、その内在的要素である器種内部における明確な機能的階層性を保持するようになる。われわれは既に前項において、分布地点間の階層性について議論してきたが、ここで抽出しえた石器群の機能的階層性との相関的関係と、その意義に関しては、今後の十分な検討が必要である。

なお、第３の視点である複合性に関しては、前節で簡単に言及したが、現在の水準ではよく見えない機能的領域に及ぶ議論となるので、将来的課題としておかねばならないが、現行のタイポロジーに依拠した機能論は全く不毛であることに注目しなければなるまい。また、近年の欧米の学界では、複合性の概念は、optimal foraging modelの因子として言及されることが多




第128図　各文化層石器群使用石材の数量的変化（左相対比・右絶対数）

いが、生態的・社会的システムの変化に対応する技術という視点に、特に注意を換起しておきたい。とりわけ、本段階の石器群は、そこにおける器種的分化と多様度を対比の基準とする時、それが細石器石器群の対極に位置していることは重要であり、私たちはそこに生態適応の段階的態様と、その動態的変容過程をこそ透視しなければなるまい。

3・3石器石材　萱田地区各遺跡出土の石器石材の集計結果を第127図に示した。ここでは必ずしも全ての石材の種類を示してはいないが、小論で取り上げた石材以外は資料数が極めて限定されているので、長期的な変動を考察するためには不適切と判断して除外した。この図から読み取られる一般的傾向としては、

(1)　使用石材には時期的な変動が観察される。

(2)　使用石材には時期的に変動しながらも継続的に出現するものがある。

(3) この傾向は遺跡内・間に確認される。

という3点に集約される。このなかで特に重要な時期的な結節点については、

1a　ホルンフェルスは第2黒色帯上部に頻出する。

1b　VI層は黒曜石と珪質頁岩の二者が頻出する。しかも、極めて良質なものを選択的に使用している。

1c　IV・V層では各種の石材が用いられているが、これらは時期的に変動しながらも継続的に出現するものと捉えられる。また、黒色緻密質安山岩と黒曜石の使用頻度は特筆される。

等の諸点が抽出される。次に、各石材の原産地の分布状況を纏めておきたい。下総台地近傍の石材の使用は一般的でないので除外すると、大きく北関東系の石材（NK群）と、より以遠の石材（ST群）に分類される。

NK群　高原山産黒曜石・黒色緻密質安山岩・頁岩・チャート・ホルンフェルス　他

ST群　黒曜石（高原山産以外の全て）・珪質頁岩（チョコレート頁岩）

以上の観察結果を総合し、両群の出現状況を表示する。

| | NK群 | ST群 |
|---|---|---|
| III層 | — | — |
| IV・V層 | *C* | *C* |
| VI層 | *R* | *C* |
| VII層 | *C* | *R* |
| IX層 | — | — |

*C*：common　*R*：rare　—：n.d.

この表から、NK群とST群とが交互に多用されていた前段階と異なり、IV・V層の段階になると、各種の石材を距離の遠近を問わず多量に消費していることが読み取られる。

3・4考察　白幡前遺跡第2文化層を含めた萱田地区各遺跡のIV・V層石器群に関して基本的な観察を行ってきた。遺跡の分布状況からは、礫群を伴うことの多い大規模な集中地点と、多様な内容を示す中小の集中地点とが階層性をもちながら、しかも前段階に比較して格段に濃密な分布状況を形成していることが明確になった。特に、礫群の形成は居住地点の構成が大きく変容したことを示唆するものとして重要である。また、石器群の分析からは、器種的な分化と多様度の高度化が、同時に均衡を保って進展していることも明らかにされた。石器石材においては、比較的至近な low cost な原産地の石材が大量に消費されているのと同時に、纏まった量の黒曜石が遠隔地から搬入されていることが判明した。このように、IV・V層段階の石器

群には、それ以前の石器群には認められないような諸種の特徴が看取される。

settlement patternとinter assemblage variationに明瞭に看取されるこのような特徴は、前節で指摘したように、まず、集団を取り巻く環境への生態的適応過程の違いであると解釈される。また、この適応過程の変化は、集団の保有する様々な有機的システムの一環である以上、多様なシステムの変動と均衡を惹起するはずである。ここでは最も重要な因子の一つである自然環境の変化については触れられないが、集中地点の分布状況に関する長期的観察結果に従うならば、少なくとも本地域周辺におけるⅣ・Ⅴ層段階の人口の増加傾向は認めてもよいと考えられる。この場合、広範囲にわたる人口の絶対的増加と見るか、特定地域の人口密度の稠密化（この場合、周辺地域の過疎化が促進される）と理解するのかは、もう少し広い範囲にわたる調査が必要なので、ここでは結論は出さないでおくことにし、自然環境の具体的変化とともに現在準備している別な論文で詳述したい。

一方、使用石材の追跡調査によれば、本地域Ⅳ・Ⅴ層石器群の石器石材は既にⅥ層以前の段階に全て出揃っており、さらに、これらの石材採集が狩猟・採集戦略にembedされたものと理解するならば、量の寡多はあれ、同種石材の累積的出現状況は、本地域のcatchmentが時間的に大きな変動をもたなかったことを示唆している。仮に、この前提にたつならば、Ⅳ・Ⅴ層段階における人口の稠密化は、限定されたcatchment内における狩猟・採集戦略の集約化・活動形態の多様化と地域的社会組織の形成を促進したものと理解されよう。石器群に看取される変化は前者の、贈与交換に従う遠隔地石材、すなわち黒曜石の存在は後者の過程を示すものと評価される。ＡＴの前後における石器群の差異に関しては多くの指摘があるが、その差異は広域的な社会構造の変容に対応しているようにみえる。(文献は省略したが、現在準備している別稿に付することにしたい。)

# 第3部　弥生時代

# 第１章　弥生時代の概観

弥生時代に比定できる遺構は、竪穴住居跡17軒があり、すべて後期に属するものである。これまでに調査された萱田地区の弥生時代集落は、いずれも後期に属するものであり、坊山遺跡[1]を除いた各遺跡から少なからず弥生時代後期の遺構が発見されている。ただし、北海道遺跡では竪穴住居跡が１軒調査されただけである。権現後・ヲサル山・井戸向の各遺跡は弥生時代後期から古墳時代前期へ継続した集落が営まれている。また、白幡前遺跡から池谷津を隔てた川崎山遺跡[2]でも弥生時代後期の竪穴住居跡が検出されている。これらの遺跡の多くは、弥生時代後期から古墳時代前期ないし中期へと継続し、北海道遺跡でも古墳時代中期の竪穴住居跡が検出されている。集落の構成は萱田地区の北部に位置する権現後・ヲサル山遺跡において竪穴住居跡85軒、土壙２基が検出され、古墳時代前期についても竪穴住居跡54軒、方墳２基とかなりまとまった様相を呈している。これに対して北海道遺跡以南の遺跡ではそれほど多くの遺構は検出されず、集落の在り方に違いがあったことを物語っている。弥生時代後期の集落は新川から小支谷を若干遡った場所であり、これは各遺跡とも共通した占地形態である。なお、未調査ではあるが、北海道遺跡から連続する段丘低位面に立地する南海道遺跡、白幡前遺跡から連続する段丘低位面に立地する上の台遺跡において弥生時代の土器片が採集されており[3]、これらの遺跡との関係も興味が持たれる。

白幡前遺跡での様相は竪穴住居だけの構成で、遺構の分布状況から３群に分けて捉えることができる。しかしながら、古墳時代前期あるいは中期の遺構は存在せず、他の遺跡と比較して短期間の居住であったと理解できる。各群は便宜的に北から１・２・３群と呼称し、遺構・遺物の紹介は群ごとに行う。１群は段丘中位面に竪穴住居が１軒検出されただけであるが、同レベルの段丘面は調査区の東側へ続いており、この部分にも当然遺構の存在は予想できる。また、２群との距離は約100mを測るため２群と分割したものである。２群は４軒の竪穴住居跡が検出され、１・２群は基本的に寺谷津に面した台地上に占地している。３群は12軒の竪穴住居跡が検出され、池谷津を南側に臨んでいる。調査区東側は未調査であるが、この部分にも遺構の存在は予想され、１・２群の建物数を遙かにしのいでいる。しかし、３群を構成する竪穴住居跡が一時期の所産とは考えられず、建物を構築した範囲は２群とさほど変わらないと思われる。

---

1　現在整理作業進行中。

2　大賀　健　『萱田町川崎山遺跡』　1979　八千代市遺跡調査会

3　（財）千葉県文化財センター　『千葉県埋蔵文化財分布地図（１）』　1985

第129図　弥生時代遺構配置図

# 第２章　遺構と遺物

## 第１節　１群の遺構と遺物

### １　概　観

１群は白幡前遺跡の北端に位置し、標高約15mを測る段丘中位面に当たる。北側に寺谷津を臨み寺谷津が形成した沖積層面との比高は約４mである。検出した遺構は竪穴住居跡１軒であるが、調査区東側に同レベルの段丘面が続いており、この部分にも遺構の存在が予想される。

### ２　遺　構（第133図、第72表、図版26）

D169は直径約4.7mを測る略円形の竪穴住居跡で、住居のほぼ中央に炉が構築されている。住居内部には炉以外の施設はなく、柱穴も確認できなかった。炉は床面を僅かに窪めて使用しているが、火床もあまり著しく被熱した痕跡は認められない。床面はほぼ平坦に検出でき、確認面からの深さは約0.3mで、埋土はローム粒を多く含んでいる。遺物は130点ほどの土器片が出土したが、特に炉の北側に集中する傾向がある。遺物実測図に示した１・２・４はこの部分から出土した。

### ３　遺　物（第133図、第73表、図版29）

１～４は甕形土器である。このうち口縁部を残すのは１だけで、外面縦位、内面横位の刷毛目が施される。胴部は横位のヘラ削りで整える。２・３は口縁部、底部ともに欠損しており、２は胴部中位に刷毛状工具の刺突文を、３は胴部上半に粘土紐巻き上げ痕を意識的に残している。４～６は底部の破片で、４は甕形土器、５は壺形土器となる。

**第72表　弥生時代１群竪穴住居一覧**

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(㎡) | 主　軸 | 炉 | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 周溝 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D169 | 円　形 | 4.7×4.6 | 17.20 | — | 0.6×0.8 | なし | なし | なし | なし | |

**第73表　D169出土遺物一覧**

| No. | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎　土 | 色　調 | 縄　文 | 遺　物　番　号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | 18.5 | — | — | 赤色スコリア | 赤褐色 | | 3、26、27、63、65、67、68、70、113、115、130 |
| 2 | 甕 | — | — | — | 砂　粒 | 黒褐色 | | 4、6、7、9、11、59、105 |
| 3 | 甕 | — | — | — | 砂　粒 | 黒褐色 | | 90、109、123、126 |

| No. | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎　土 | 色　調 | 縄　文 | 遺　物　番　号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 甕 | — | 6.5 | — | 砂　粒 | 黒褐色 | | 5、6、19、25、58、60、66、101、102 |
| 5 | 壺 | — | 6.9 | — | 雲母粒 | 赤褐色 | | 125 |
| 6 | 甕 | — | 4.0 | — | 砂　粒 | 暗褐色 | | 107 |

## 第2節　2群の遺構と遺物

### 1　概　観（第130図）

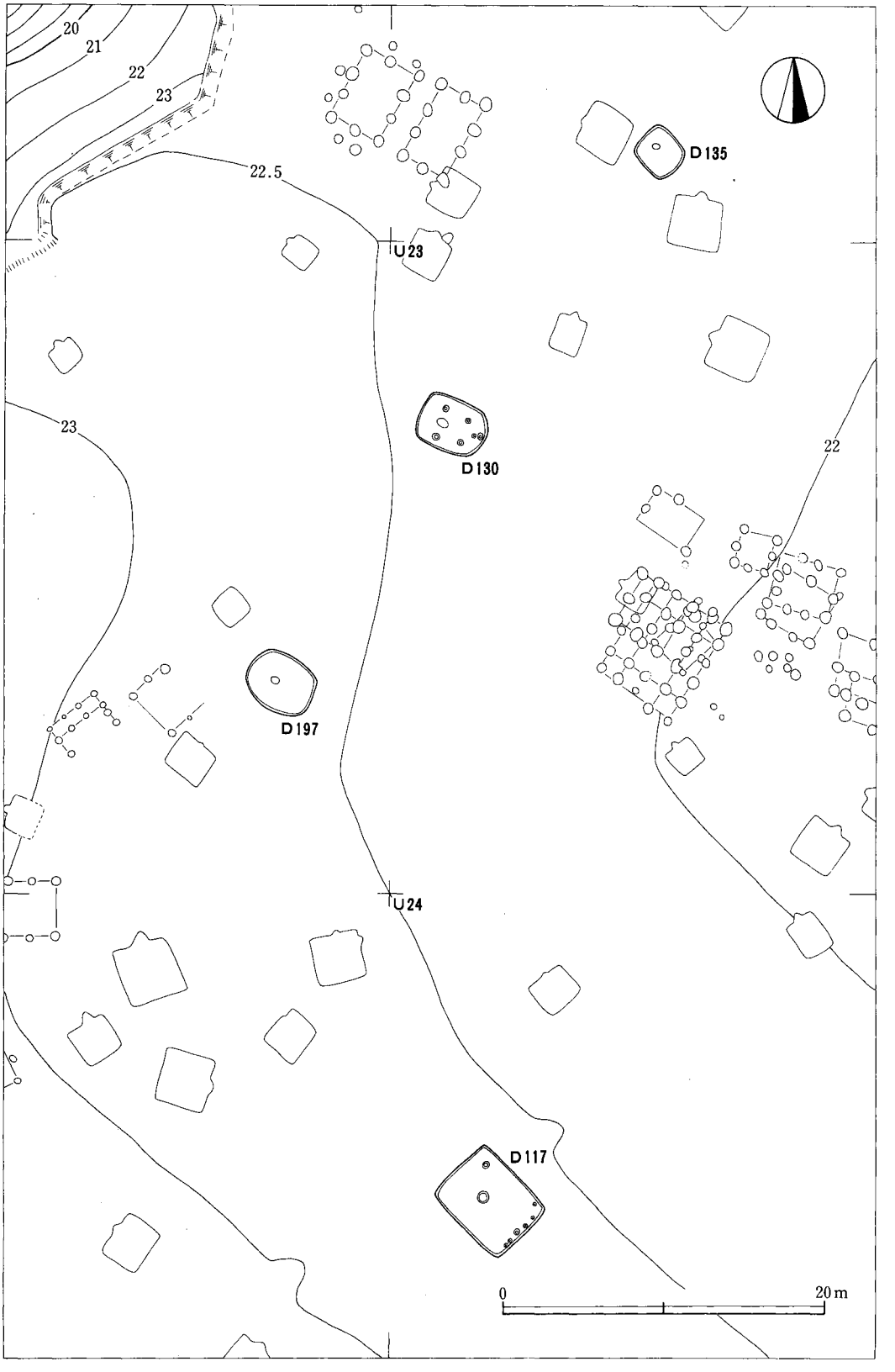
2群は白幡前遺跡のほぼ中央に位置し、西側に寺谷津を臨んでいる。寺谷津が形成した沖積層面との比高は約10mを測り、台地縁辺は急傾斜となっている。検出された遺構は竪穴住居跡4軒で、最北端のD135と最南端のD117の距離は約100mを測る。調査区東側にも台地は伸びているが、2群での遺構の分布状況から調査区外に該期の遺構が存在する可能性は低いと考える。

### 2　遺　構（第134～136図、第74表、図版25～27）

4軒の竪穴住居跡は南北100mの範囲にほとんど並んだような状態で構築されている。各住居間の距離はD197とD117との距離が40m近く離れるが、D135・D130・D197はそれぞれ20m程度の等間隔で構築されている。住居の規模・平面形態は井戸向遺跡で看取されたように、略方形で大形のものと略円形ないし隅円方形の小形のものに分けられる。

平面形態が略方形を呈する大形の住居に該当するのはD117である。D117は2群の南端に位置するもので、規模は8.5m×6.5mを測る。確認面からの深さは0.4m前後で埋土はローム粒・焼土粒を僅かに含んでいる。炉は住居対角線の交点よりも若干北西に寄った位置に設けられ、直径0.8m、床面からの深さ0.1mの規模を持つ。床面には7箇所にピットが検出できたが、P2～P7は南東壁際に並びP5が直径0.5mで最大で、他は0.2～0.3mのものである。掘り込みの深さはP1が0.7mを測るが、P2～P7は0.1～0.2m程度で、主柱穴に相当する内容を有していない。床面にはかなり良好な硬化面が遺存しており、炉とP1の間が面積的にも広く、住居内の一空間と認識できる。

平面形態が略円形ないし隅円方形を呈する小形の住居は残るD130・D135・D197である。この3軒は約20mの間隔で直線的に並んでおり、長軸方向もかなり近い方向を指している。住居の規模はD135がやや小さく3.8m×3.5m、D130・D197はともに5.6m×4.6mを測る。D197は後世の溝状遺構によって破壊されている部分も多いが、炉はD117同様住居中心より僅かに奥へ寄った位置に設けられている。柱穴はD130においてP1～P5の5箇所が検出できたが、D135・D197には柱穴に該当するピットは存在しない。D130の柱穴は床面での直径が約1m、床面からの深さは5箇所とも約0.6mを測る。なお、P3については若干斜めに掘り込まれ、P1・




第130図　弥生時代２群全体図

2・4・5の配置から主柱穴に当たらないかもしれない。床面は3軒とも住居中央に向かって僅かに低くなり、確認面からの深さはいずれも0.3m前後である。

## 3　遺　物（第144図、第75表、図版29）

遺物は全体的に少なく、D117では北コーナー近くの床面上から甕形土器が出土している。大形の甕で現存高は24.5cm、胴部径は約43cmを測る。胴部はL-R＋Lの付加条の縄文である。

**D130**　甕形土器2個体と叩き石を図示した。2・3は住居北コーナーの床面に近い位置から出土している。1・2は別個体で、口縁部は低い折り返し状を呈し、口唇部に縄文を押圧、折り返しの端部に刺突を施している。2は端部に結節を有するR-L＋Lの付加条の縄文を施している。なお、内面は最大径部から下位にススが付着している。

**D135**　甕形土器1点を図示した。底部を欠損し、口縁部は1/2程度が遺存している。住居平面図に示したとおり、埋土内に散乱していた。口縁部は二重の折り返し状を呈し、口唇部に縄文原体を使用したスリットを施す。縄文はR-L＋Rである。

**D197**　3点を図示したが、1・2はミニュチアの土器である。縄文は1がR-L＋R、3がL-R＋Lとなる。

**第74表　弥生時代2群竪穴住居一覧**

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(㎡) | 主　軸 | 炉 | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 周溝 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D117 | 略方形 | 8.5×6.5 | 50.60 | N−41°−W | 0.8×0.84 | なし | なし | 6 | なし | |
| D130 | 隅円方形 | 5.6×4.6 | 21.84 | N−64°−W | 1.1×0.9 | なし | 4 | 1 | なし | |
| D135 | 隅円方形 | 3.8×3.5 | 11.88 | N−45°−W | 0.5×0.5 | なし | なし | なし | なし | |
| D197 | 隅円方形 | 5.7×4.6 | 22.24 | N−53°−W | 0.4×不明 | なし | なし | 1 | なし | |

**第75表　弥生時代2群出土遺物一覧**

D117

| No. | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎　土 | 色　調 | 縄　文 | 遺　物　番　号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | — | 15.6 | — | 長石粒 | 黄橙色 | L { R / R＋L | 1、3、4、5、94 |

D130

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | 19.3 | — | — | 精　緻 | 黒褐色 | R { L / L＋R | 1 |
| 2 | 甕 | — | — | — | 雲母粒 | 黒褐色 | R { L / L＋L | 12 |
| 3 | 叩　石 | | | | | | | 11 |

D135

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | 14.9 | — | — | 砂　粒 | 黒褐色 | R { L / L＋R | 3、4、9、22 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ミニチュア | — | 4.0 | — | 砂　粒 | 黒褐色 | R { L / L＋R | 6 |
| 2 | ミニチュア | — | 2.8 | — | 砂　粒 | 黒褐色 | | 10 |
| 3 | 甕 | — | — | — | 長石粒 | 黒　色 | L { R / R＋L | 12 |

## 第3節　3群の遺構と遺物

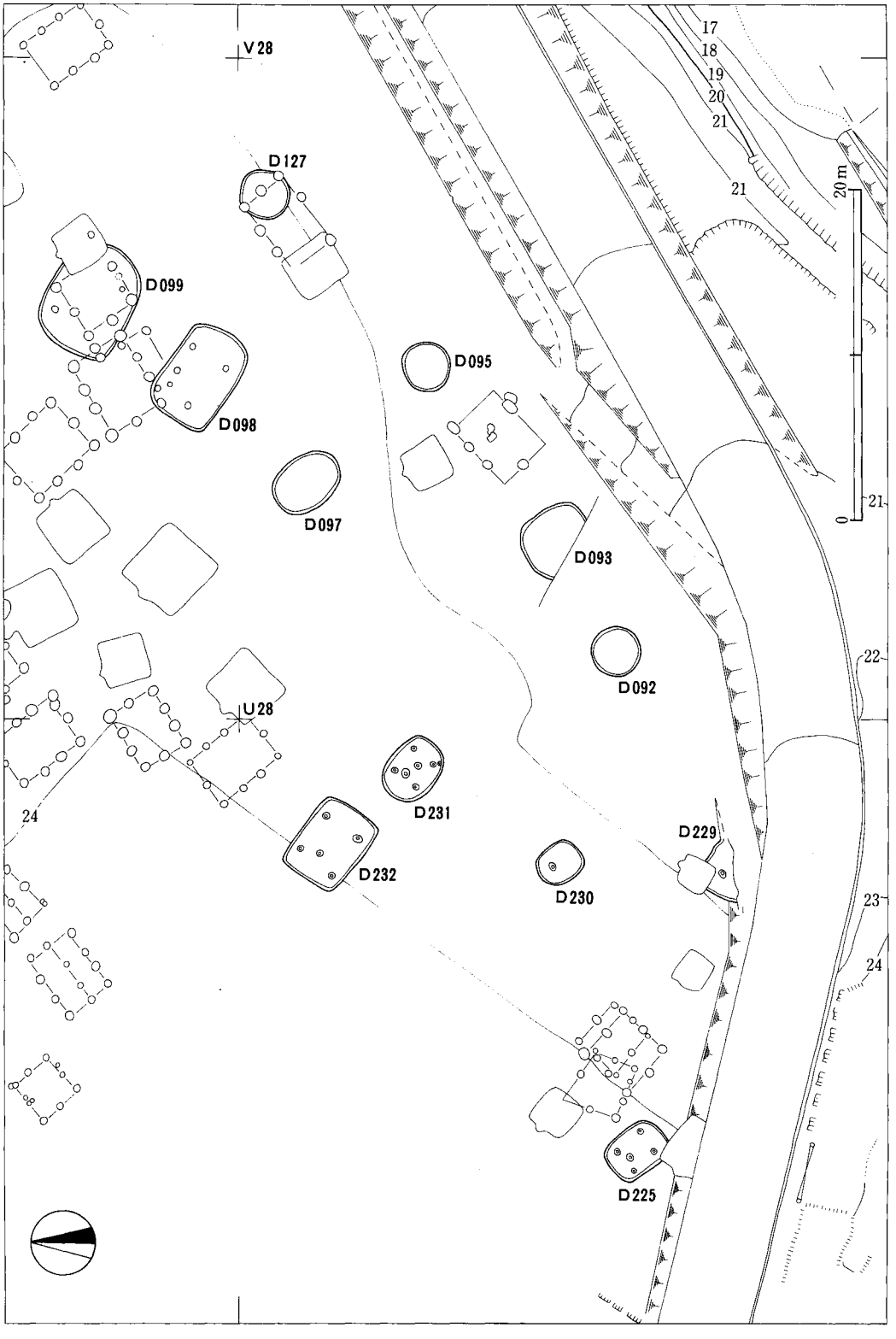
### 1　概　観（第131図）

3群は白幡前遺跡の南端に位置し、南側に池谷津を臨んでいる。池谷津が形成した沖積層面との比高は約10mを測り、台地縁辺は急傾斜となっている。検出された遺構は竪穴住居跡12軒で、調査区と池谷津の間の未調査部分も面積的には狭いものの、さらに数軒の竪穴住居跡の存在が予想される。また、調査区東側にも台地は伸びており、この部分にも竪穴住居跡の存在が予想できる。現段階での建物の広がりは必ずしも本来の姿を提示しているとは言えないが、南西端に検出したD220と北東端に検出したD225の間は約100mの距離を測る。D220とD225を結ぶ線は池谷津とほぼ平行するもので、このことから逆に池谷津に面した台地端部から台地内部へ向けた建物の広がりは最大でも50mを超えることはない。

### 2　遺　構（第137～143図、第76表、図版24～28）

12軒の竪穴住居跡は、平面形態として円形・隅円方形・略方形の3者に識別でき、住居の規模の面から大形・中形・小形に分別できる。床面積で具体的に示すと10m²前後・20m²前後・35m²以上というピークを示す。このピークと住居の平面形態との関係は比較的はっきりしており、床面積10m²前後の小形の住居のプランはほとんどが円形の平面形を呈し、また、床面積15～20m²程度の中形の住居のプランは隅円方形に限られる。大形の住居のプランは隅円方形ないし略方形となる。

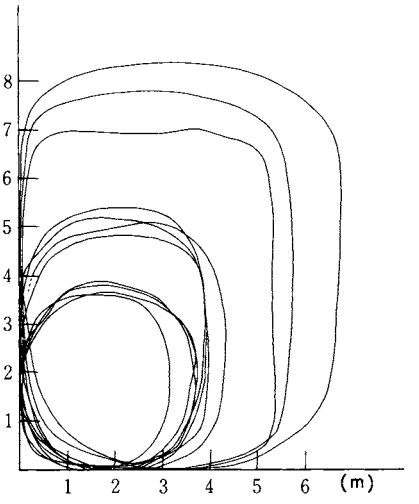
大形の住居はD098・D099・D232の3軒で、どちらかというと台地縁辺ではなく、やや内部に入った位置にある。3軒とも長軸方向をほぼ揃え、N-40°-W前後を指している。また、D098とD099は約4mの距離をおいて並んでいる。住居の規模はD099が最大で8.4m×6.6m、D098は7.8m×5.7m、D232は7.0m×5.3mとなる。D099は後世の掘立柱建物及び竪穴住居が重複し柱穴が不明であるが、D098・D232は規則正しく配置された4箇所の柱穴が検出できた。床面での直径は0.4m前後で、床面からの深さはD098・D232ともに約0.5mを測る。また、D099で検出されたP1・P2も直径約0.5m、床面からの深さ約0.5mを測り、柱穴としても充分な規模を持っている。炉は3軒とも住居中央より僅かに奥へ寄った位置に設けられ、規模はD098が直径1m、D099が1.4m×1.1m、D232が0.5m×0.4mを測る。床面は住居中央に向かって




第131図　弥生時代３群全体図

僅かに低くなるが、壁際との比高は0.1mを超えるものではない。また、D232では炉に対峙するｐ２とｐ３の間に良好な硬化面が存在する。なお、D098にｐ5を図示したが、このピットはD098に伴うものか断定しがたく、あるいはH027の柱穴かもしれない。

中形で隅円方形のプランを呈する住居はD093・D097・D225・D229・D231の５軒がある。このうちD093は後世の溝状遺構にかなりの部分を破壊され、本来の形状を残していない。また、D229は半分以上が調査範囲の外にあり規模が確定できないが、西壁の状況から中形で隅円方形のプランを呈するものと判断した。住居の規模は長軸が4.8～5.4m、短軸が3.9～4.0mとなる。住居の長軸方向は大形の住居とほぼ同じ方向で、N-30°-WからN-40°-Wを指している。柱穴はD093・D097には存在しないが、D225・D231では規則的に配置された４箇所を検出した。実測図に示したｐ１からｐ４が柱穴に該当する。柱穴の規模はD225が直径約0.4m、床面からの深さ0.2～0.3m、D231は直径約0.3m、床面からの深さ0.2～0.4mを測る。なお、D231には柱穴以外にもｐ５～ｐ７の３箇所のピットがあるが、埋土の状況から住居に直接伴わない可能性が高い。炉は４軒とも存在し、D097は住居中央に近い位置であるが、他の３軒は住居中央より若干奥に寄った位置に設けられている。炉の規模はD093が1.0m×0.7m、D097が0.8m×0.7m、D225が0.7m×0.6m、D231は0.8m×0.6mを測り、D225を除いて炉の長軸が住居の長軸と同じ向きとなる。炉自体は床面を僅かに窪めただけで火床部分もあまり著しく被熱した痕跡は認められない。床面はほぼ平坦でD097の炉の南東側、D231のｐ２・ｐ４の周辺に良好な硬化面を残している。



第132図　竪穴住居の規模

小形で円形のプランを呈する住居はD092・D095・D127・D230の４軒がある。このうち、D092は後世の攪乱を受けるが、かろうじて本来の形状を窺い知ることができる。住居の規模は直径3.3～3.8mでD230のプランは隅円方形に近くなる。柱穴は存在せず、D230のピットも住居に伴う可能性は低く、ピット内部から須恵器の破片が出土している。炉についてもD092は住居中央を攪乱され断定できないが、４軒とも基本的に設けられていない。

遺物の出土状況も、全体的に遺物の量がかなり少なく、図示できた遺物も少ない。ある程度復元できる遺物もあるが、埋土内に散乱した状態で出土している。

## 3　遺　物（第145・146図、第77表、図版30）

**D095**　甕形土器の破片を３点図示した。いずれもL-R＋Lの付加条の縄文を施文し、１は端部

に結節が見られる。

**D098**　歴史時代の遺物の混入が多く、石製品2点を図示しただけである。1は磨製石斧で基部を欠損している。刃部に近い両側面に敲打痕がある。2は浮子で穿孔が認められる。

**D099**　1～5は甕形土器の破片である。1は口縁部を残し、低い折り返し状の口縁部と口唇部に縄文を施文している。縄文はすべてL-R+Lの付加条となる。6は砂岩製の勾玉である。厚さは最大で0.5cmを測り、断面は略方形を呈する。7は砥石で石材は砂岩である。8は土製の紡錘具で側面にL撚りの縄文を施文している。

**D225**　破片を含めて4点の甕形土器を図示した。1は口縁部を欠損しており、床面に近い位置から出土しているが、住居内に広く散乱していた。結節を伴うL-R+Lの付加条の縄文を施文している。2は口縁部の破片で、二重に低い折り返し状を呈する。折り返しの端部は刺突を巡らせ、胴部に向けて櫛描きの波状文を施す。

**D230**　4点の甕形土器の破片を図示した。すべてL-R+Lの付加条の縄文を施文している。

**D231**　1～3は甕形土器である。1・3は口縁部を欠損する。2は低い折り返し状の口縁部を呈し、口唇部及び口縁部に縄文を施文する。折り返しの端部は縄文原体の刺突である。縄文はすべてL-R+Lの付加条である。4・5は鉢形土器で5はほぼ完形である。ともに低い折り返し状の口縁部を呈し、4は全面にL-R+Lの縄文を施文している。また、4の底部には布の圧痕がある。

**D102**　D102は歴史時代の遺構であるが、埋土中から弥生時代の遺物が僅かに出土しているので紹介しておく。1は片刃の磨製石斧で、石材は砂岩である。2は土製の紡錘具で表面及び側面に沈線の施文がある。

**第76表　弥生時代3群竪穴住居一覧**

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(㎡) | 主　軸 | 炉 | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 周溝 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D092 | 円　形 | 径3.7 | 10.64 | — | なし | なし | なし | なし | なし | |
| D093 | 隅円方形 | 不明×5.6 | — | N—37°—W | 1.0×0.6 | なし | なし | なし | なし | |
| D095 | 円　形 | 径3.7 | 11.56 | — | なし | なし | なし | なし | なし | |
| D097 | 隅円方形 | 5.4×3.9 | 18.12 | N—42°—W | 0.8×0.7 | なし | なし | なし | なし | |
| D098 | 隅円方形 | 7.8×5.7 | 39.84 | N—57°—W | 1.0×1.0 | なし | 4 | 1 | なし | |
| D099 | 隅円方形 | 8.4×6.6 | 50.00 | N—56°—W | 1.4×1.3 | なし | 2 | 1 | なし | D100・H050と重複。 |
| D127 | 円　形 | 径3.7 | 10.52 | — | なし | なし | なし | なし | なし | H025と重複。 |
| D225 | 隅円方形 | 4.8×4.0 | 16.28 | N—42°—W | 0.7×0.6 | なし | 4 | なし | なし | D226と重複。 |
| D229 | 隅円方形 | 4.0×不明 | — | N—51°—W | 0.6×0.6 | なし | 1 | なし | なし | D228と重複。 |
| D230 | 隅円方形 | 3.6×3.1 | 9.88 | N—32°—W | なし | なし | 1 | なし | なし | |
| D231 | 隅円方形 | 5.2×3.9 | 17.20 | N—44°—W | 0.8×0.6 | あり | 4 | 1 | なし | |
| D232 | 略 方 形 | 7.0×5.4 | 35.08 | N—54°—W | 0.5×0.4 | なし | 4 | なし | なし | |

## 第77表　弥生時代3群出土遺物一覧

D095

| No. | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎土 | 色調 | 縄文 | 遺物番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 暗赤褐色 | L { R / R+L | 20、38、47、48 |
| 2 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 明褐色 | L { R / R+L | 22 |
| 3 | 甕 | — | — | — | 長石粒 | 黒色 | L { R / R+L | 12、46 |

D097

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 黒褐色 | L { R / R+L | 61、62、68、71、72、73、74、87 |
| 2 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 黒褐色 | L { R / R+L | 64、65、66、67 |

D098

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 磨製石斧 | | | | | | | 171 |
| 2 | 浮子 | | | | | | | 173 |

D099

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 黒色 | L { R / R+L | 236、237、245 |
| 2 | 甕 | — | — | — | 長石粒 | 黒褐色 | L { R / R+L | 229 |
| 3 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 黒褐色 | L { R / R+L | 66 |
| 4 | 甕 | — | — | — | 雲母粒 | 黒褐色 | L { R / R+L | 69、183、186、192、243 |
| 5 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 黒褐色 | L { R / R+L | 180 |
| 6 | 勾玉 | | | | | | | 129 |
| 7 | 砥石 | | | | | | | 250 |
| 8 | 紡錘具 | | | | 砂粒 | 褐色 | L { R / R+L | 68 |

D225

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | — | 5.1 | — | 精緻 | 赤褐色 | L { R / R+R | 1、3、4、5、6、7、8、31、40、41、42、43、44、45、46、47、48、53、59、60 |
| 2 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 褐色 | | 21 |
| 3 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 黒褐色 | L { R / R+L | 2、15、16 |
| 4 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 黒褐色 | R { L / L+R | 24、25、30 |

D230

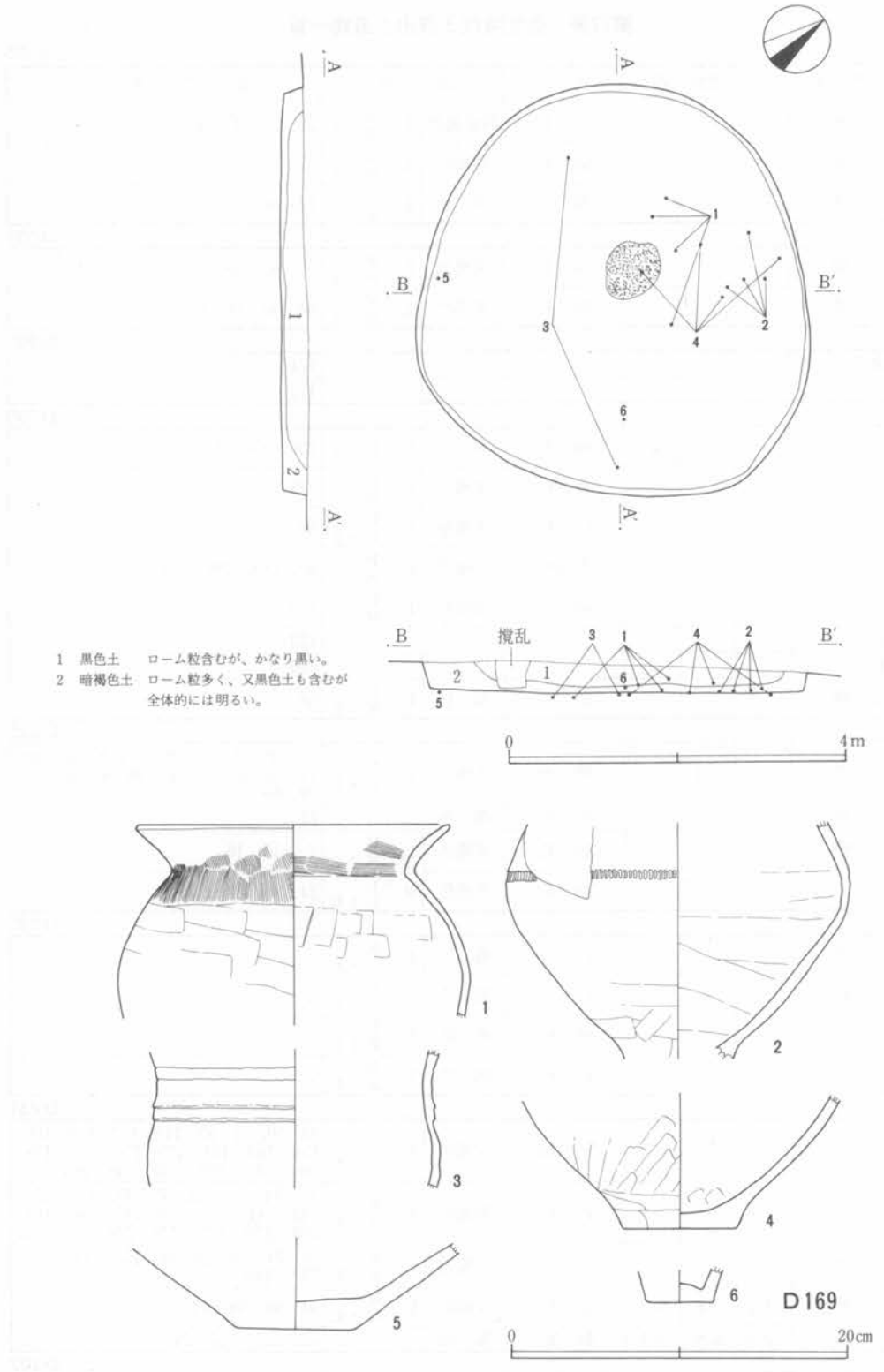
| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 褐色 | L { R / R+L | 5 |
| 2 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 褐色 | L { R / R+L | 1 |
| 3 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 褐色 | L { R / R+L | 4 |
| 4 | 甕 | — | — | — | 砂粒 | 褐色 | L { R / R+L | 2 |

D231

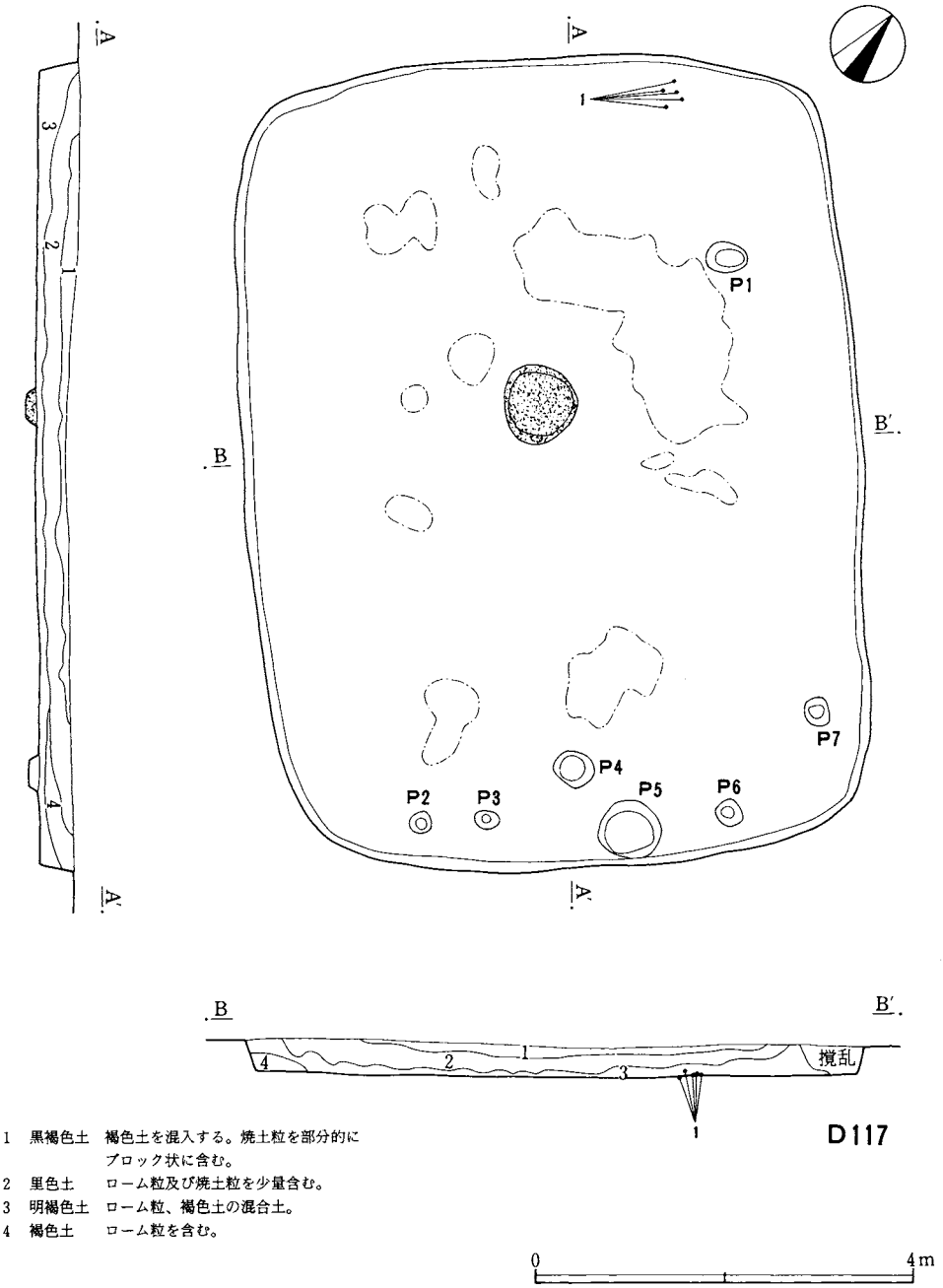
| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | — | 6.4 | — | 精緻 | 灰褐色 | L { R / R+L | 33、59、71、83、115、122、138、156、159、160、161、175、176、177、178、186、189、203、230、248、264 |
| 2 | 甕 | 13.8 | — | — | 砂粒 | 黒褐色 | L { R / R+L | 6、14、16、23、35、38、84、129、140、141、143、144、145、148、168、169、170、172、223、224、226、232 |
| 3 | 甕 | — | — | — | 石英粒 | 暗褐色 | L { R / R+L | 18、21、24、26、46、157、200、233、237、240 |
| 4 | 鉢 | 14.2 | 6.8 | 6.3 | 砂粒 | 赤褐色 | L { R / R+L | 94、96、98、113 |
| 5 | 鉢 | 12.4 | 6.8 | 5.4 | 砂粒 | 褐色 | | 72、125、127、217 |

D102

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 磨製石斧 | | | | | | | 852 |
| 2 | 紡錘具 | | | | 長石粒 | 黒褐色 | | 92 |




第133図　D169及び出土遺物実測図



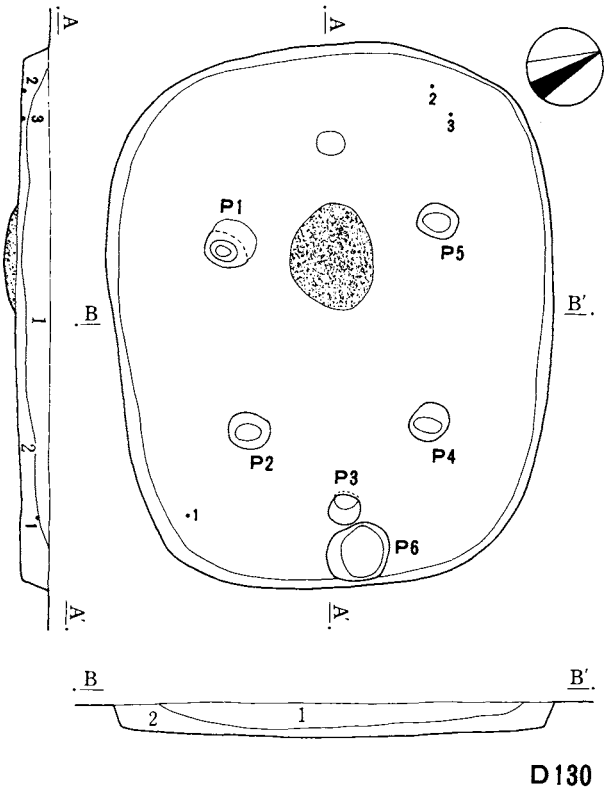

1　黒褐色土　褐色土を混入する。焼土粒を部分的にブロック状に含む。
2　里色土　ローム粒及び焼土粒を少量含む。
3　明褐色土　ローム粒、褐色土の混合土。
4　褐色土　ローム粒を含む。

D117　略方形の平面形を呈する大形の住居である。明確な柱穴はなく、南東壁際に6箇所のピットが並んでいる。床面は部分的に硬化面が遺存し、住居中央よりやや北西に寄った位置に炉がある。

第134図　D117実測図

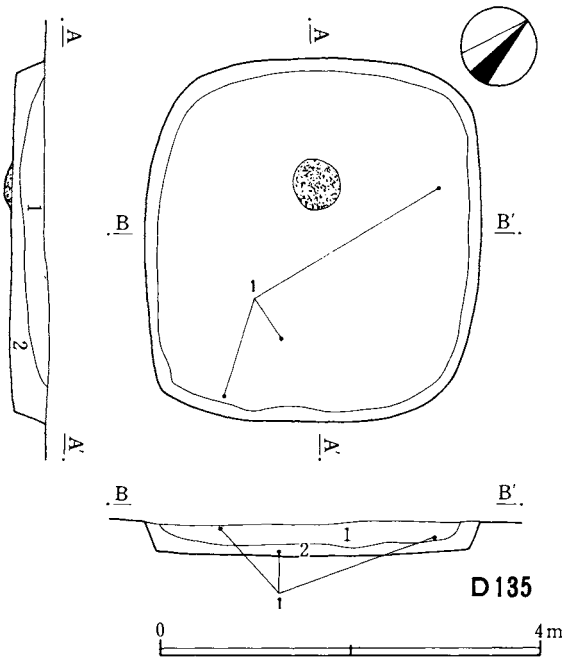
D130　隅円方形を呈する住居で、規模は5.7m×4.7mを測る。柱穴は規則的に四ヵ所に配置され、住居中央より若干西に寄った位置に炉がある。

1　黒色土　ローム粒及び焼土粒を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒及び焼土粒を含み、壁に近づくにしたがいローム粒が多く含まれる。

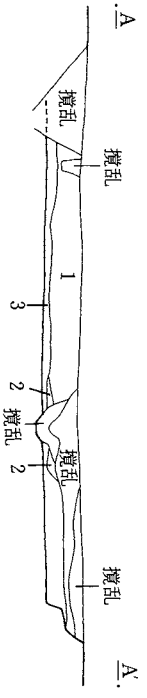


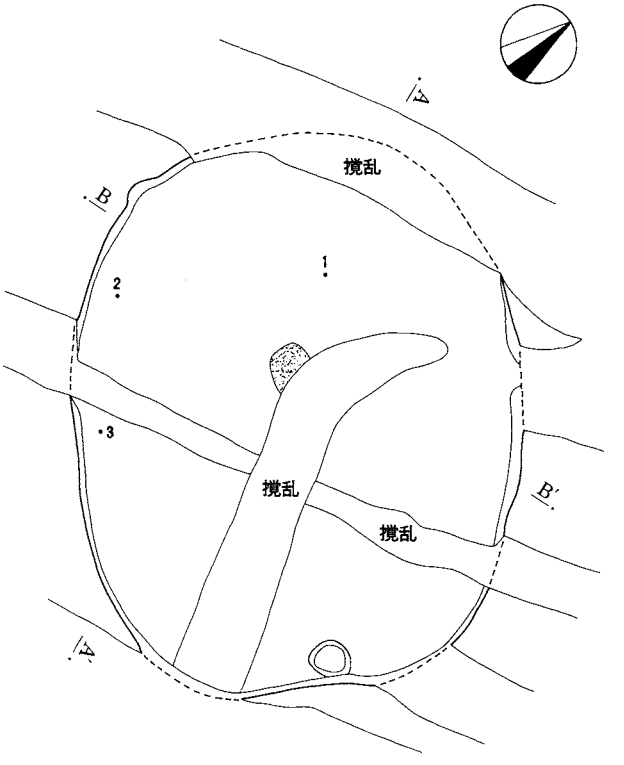

D135　隅円方形を呈する小形の住居で、規模は3.8m×3.8mを測る。炉は柱穴はなく、炉は北西壁に近い位置にある。

1　黒色土　ローム粒若干含む。黒色度がかなり強くまっ黒である。
2　暗茶褐色土　黒色土とロームが、ブロック状に混在した状態である。

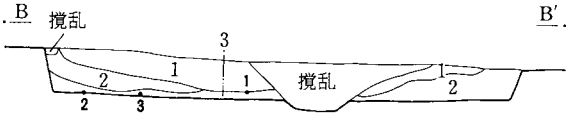



第135図　D130・D135実測図




1　黒色土　　褐色土を小ブロック状に含む、全体的にローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒を全体的に含む。
3　褐色土　　ローム粒、黒色土を含む。




D197

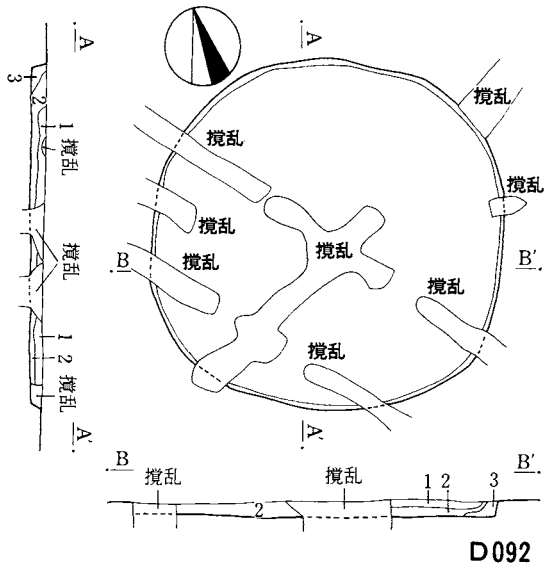
0　4m

D197　楕円形を呈する中形の住居である。規模は5.7m×4.6mを測り、明確な柱穴はない。
炉は住居中央より僅かに北西に寄った位置にある。

第136図　D197実測図

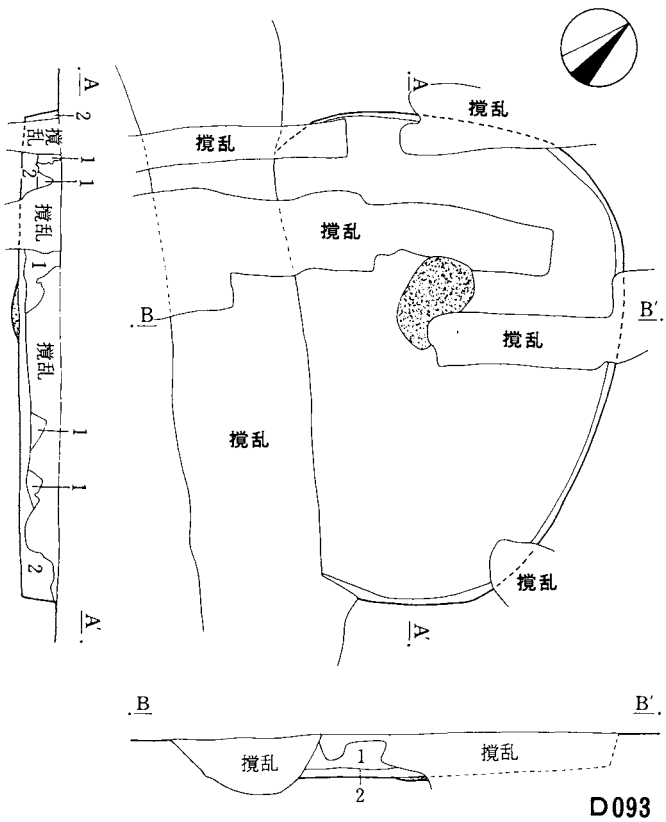
D092　円形を呈する小形の住居で、規模は直径3.7mを測る。部分的に撹乱を受け、炉は確認できなかった。柱穴は存在しない。

1　黒色土　ローム粒混入。
2　黒褐色土　ローム粒混入。
3　褐色土　ソフトローム混入多い。




D093　隅円方形を呈する中形の住居で、西壁を完全に破壊されている。柱穴は存在しないようで、炉は住居中央より若干北に寄った位置にある。

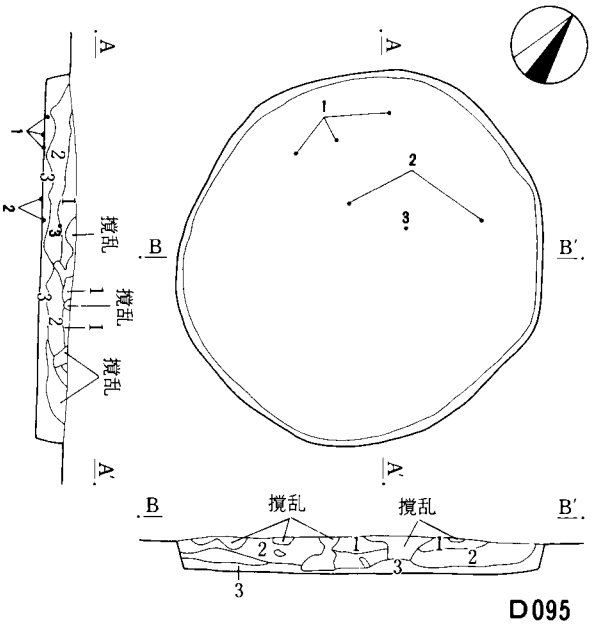
1　黒色土　1㎜程度のローム粒子を全体に少量含む。
2　黄褐色土　ソフトロームの混入多い。




第137図　D092・D093実測図

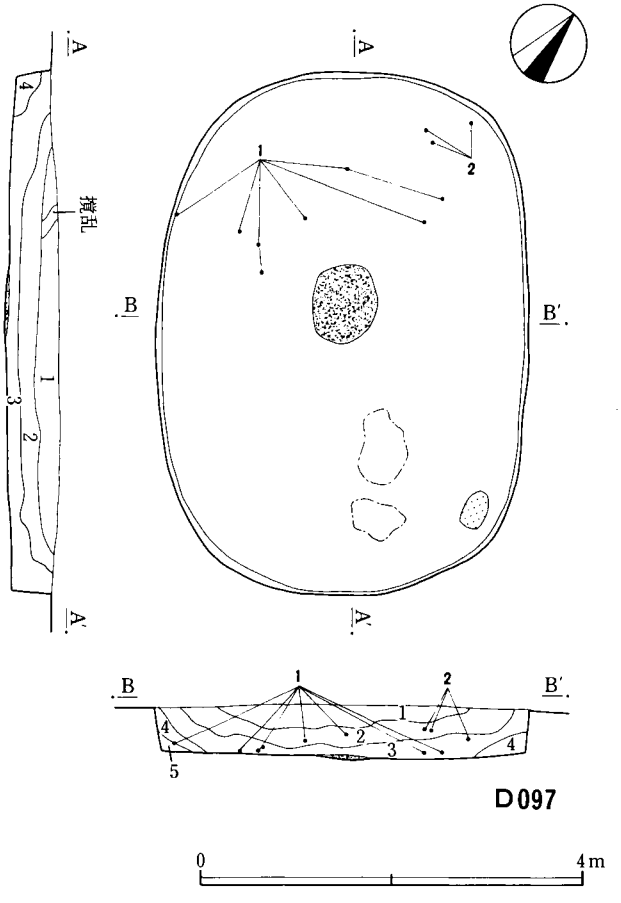
D095　円形を呈する小形の住居で、規模は直径3.7mを測る。柱穴・炉は存在しない。

1　暗褐色土　褐色土が多く混入、ローム粒含む。
2　黒色土　ローム微粒を全体に含む。
3　黄褐色土　ソフトロームの混入多い。

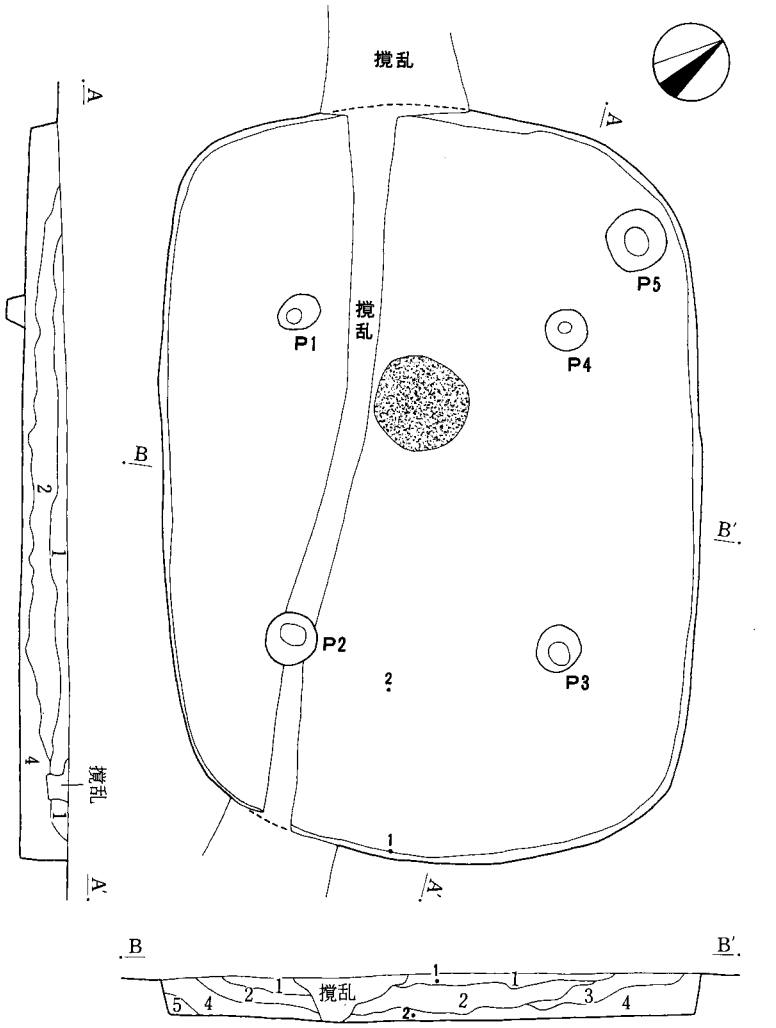



D097　隅円方形を呈する中形の住居で、規模は5.4m×3.9mを測る。柱穴はなく、炉は住居中央より僅かに北西に寄った位置にある。

1　暗褐色土　ローム粒子は、ほとんど含まれない。
2　黒色土　全体に径1㎜程度のローム粒子を含む。
3　黄褐色土　上部は2層の影響を多く受けており下位ほど、ローム分が増す。
4　褐色土　黒色土をほとんど含まず、ローム粒子も少ない、ややしまり良い。
5　黄褐色土　4層に似るが、1～2㎜のローム粒子及び径3㎝前後のロームブロック含む。ややしまり良い。




第138図　D095・D097実測図

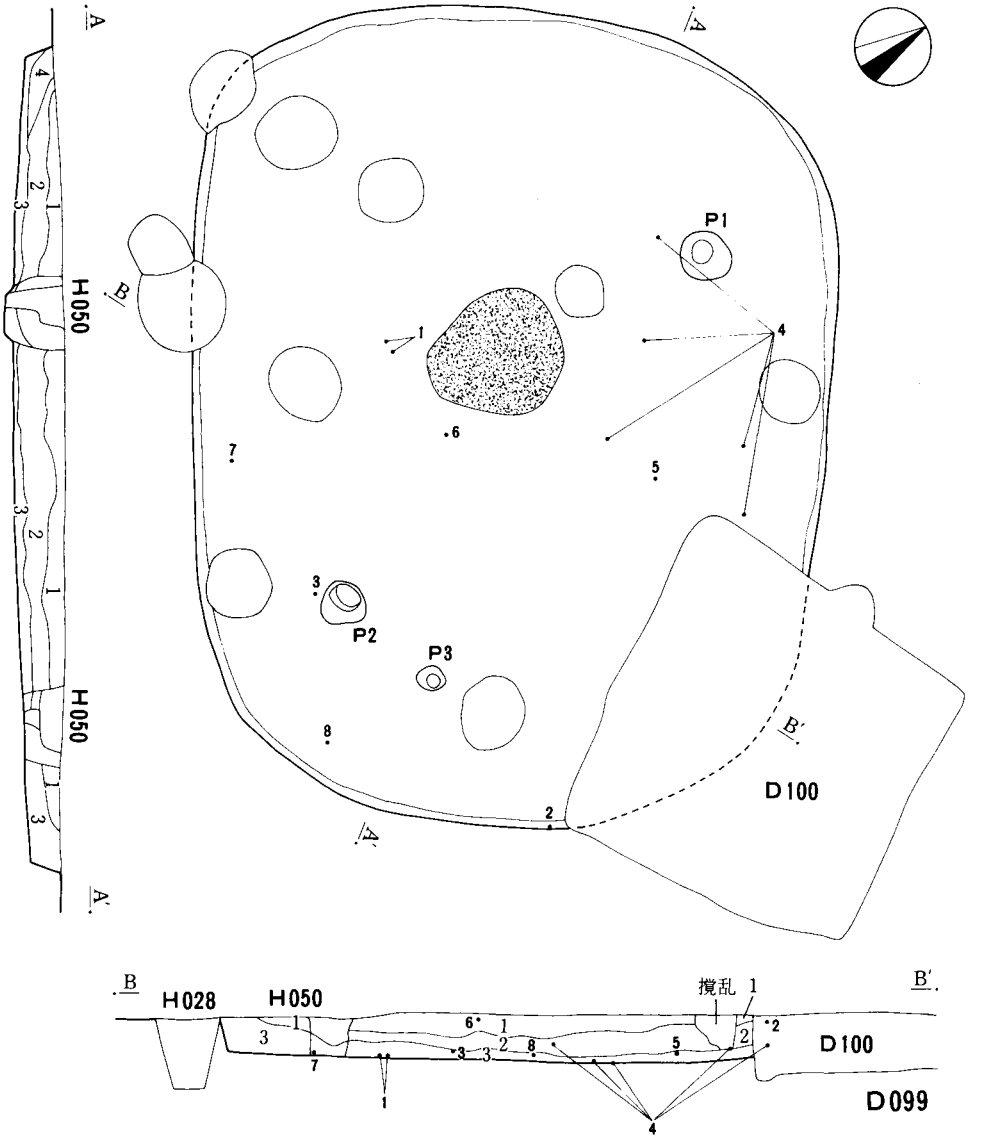



1　暗褐色土　褐色土を小ブロック状に含み、ローム粒・焼土粒を少量含む。
2　黒色土　ローム粒・焼土粒を少量含む
3　褐色土　ローム粒及び少量のロームブロックを含む。
4　暗褐色土　ローム粒・褐色土を含む。
5　暗褐色土　ローム粒・褐色土を含む。

0　4m

D098　隅円方形を呈する大形の住居で、規模は7.8m×5.7mを測る。柱穴は4ヵ所に配置され、床面での直径は40cm前後、床面からの深さは約50cmを測る。炉は住居中央より僅かに北西に寄った位置に設けられ、規模は直径1mを有する。

第139図　D098実測図




1　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を少量含む。
2　黒色土　ローム粒・焼土粒を含み下部はローム粒が多い。
3　暗褐色土　ローム粒主体、褐色土及び焼土粒を少量含む。
4　黒褐色土　ローム粒及び褐色土をブロック状に含む。

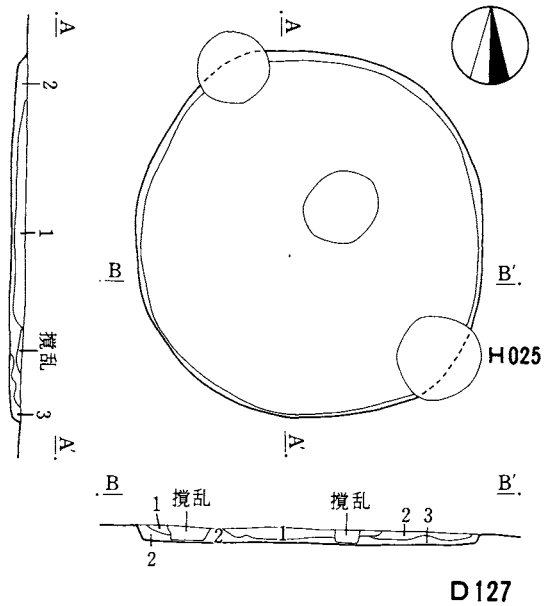
D099　隅円方形を呈する大形の住居で、規模は8.4m×6.6mを測る。歴史時代の竪穴住居跡並びに掘立柱建物跡によって部分的に破壊され、柱穴の位置は不明である。炉は住居中央より僅かに北西に寄った位置にある。

0　4m

第140図　D099実測図

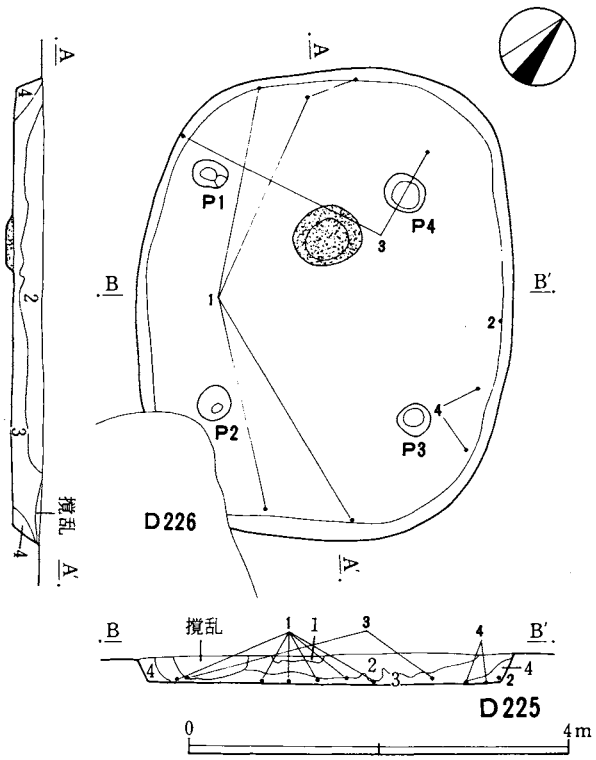
D127　円形を呈する小形の住居で、規模は直径3.7mを測る。柱穴・炉は存在しない。

1　黒色土　　ローム粒を少量含む。
2　褐色土　　ローム粒を含む。
3　明褐色土　ローム粒主体。




D225　隅円方形を呈する中形の住居で、規模は4.8m×4.0mを測る。柱穴は4ヵ所に配置され、炉は住居中央よりやや西に寄った位置にある。

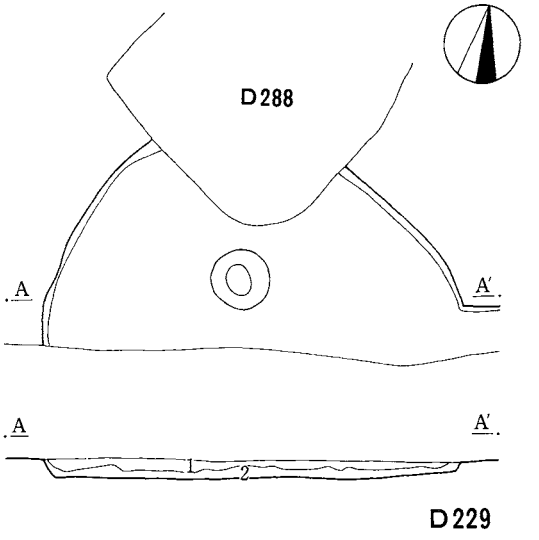
1　焼土
2　黒褐色土　焼土粒少し含む。
3　暗褐色土　ローム粒多く、焼土粒少し含む。
4　暗褐色土　ローム粒多く含む。




第141図　D127・D225実測図

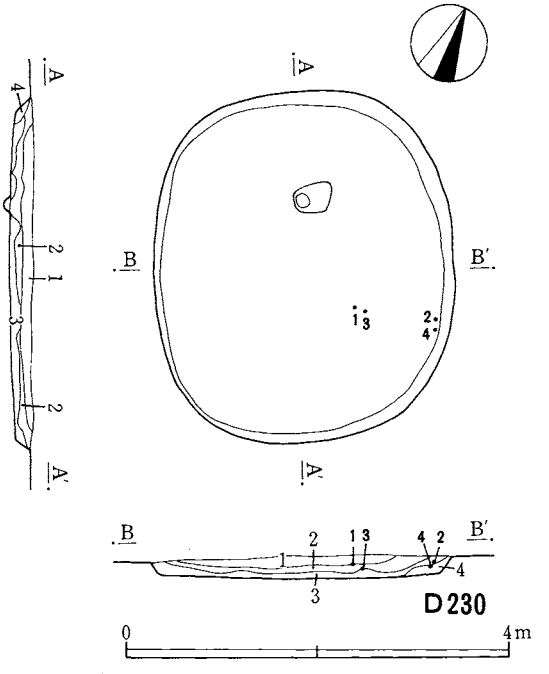
D229　隅円方形を呈する小形の住居で、全体の規模は不明である。住居中央にピットがあるが、焼土の堆積はみられない。

1　黒褐色土　ローム粒少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒多く含む。

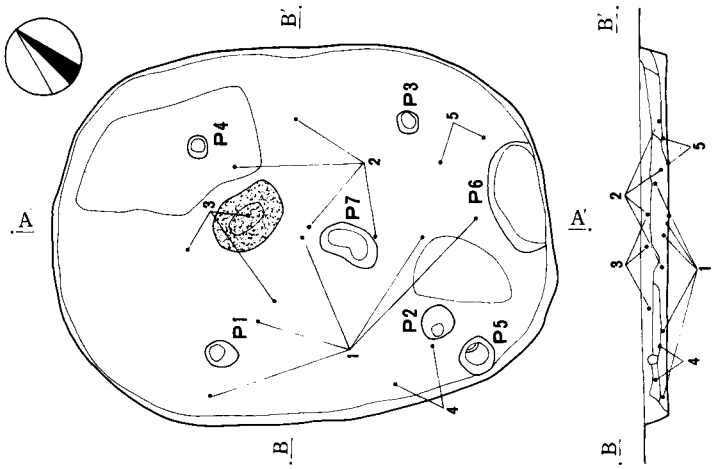


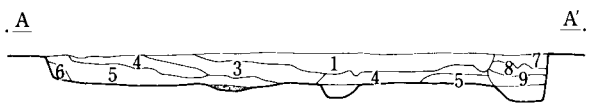

D230　隅円方形を呈する小形の住居で、規模は3.6m×3.1mを測る。住居中央よりやや北に寄った位置にピットがあるが、焼土の堆積はみられない。

1　黒褐色土
2　暗褐色土
3　暗褐色土　褐色土粒を混入。
4　暗褐色土　褐色土少々混入。




第142図　D229・D230実測図



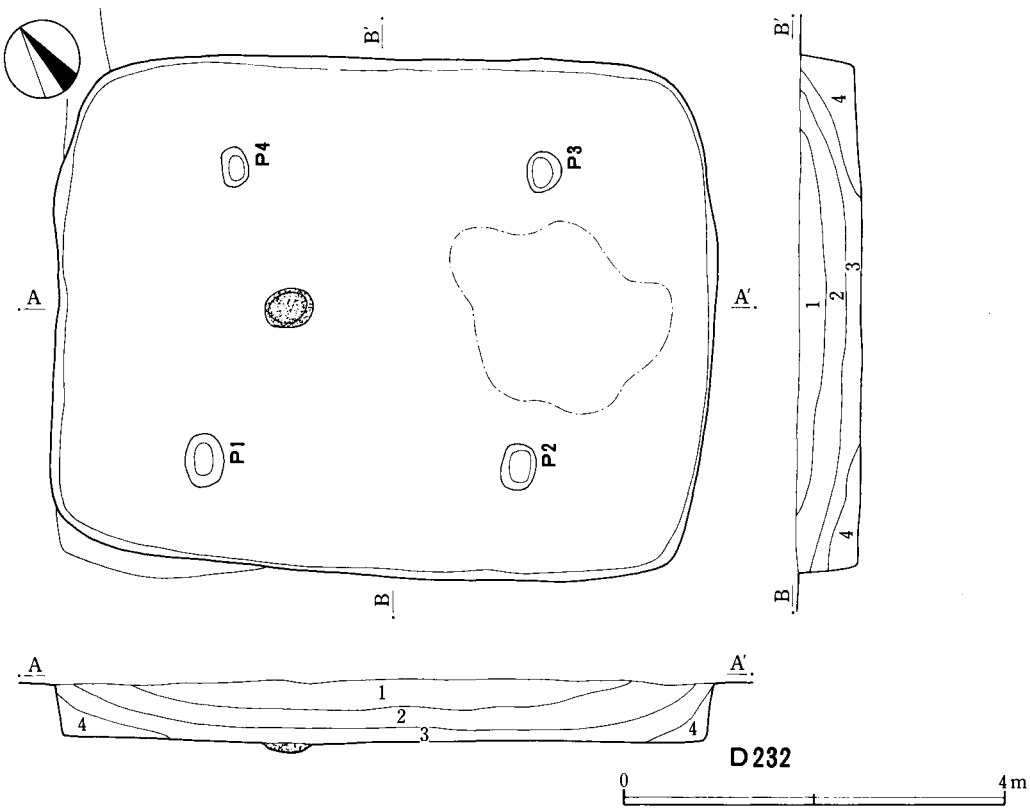

D231

**D231**

1 黒褐色土 ローム粒を多く含む。
2 暗褐色土 ロームブロック・ローム粒子多く含む。
3 黄褐色土 ロームブロック多く含む。
4 暗褐色土 ローム粒少し含む。
5 暗褐色土 ローム粒ごく少量含む。
6 暗褐色土 ローム粒多く含む。
7 黒褐色土
8 暗褐色土 ローム粒を多く含む。
9 暗褐色土 ローム粒少し含む。

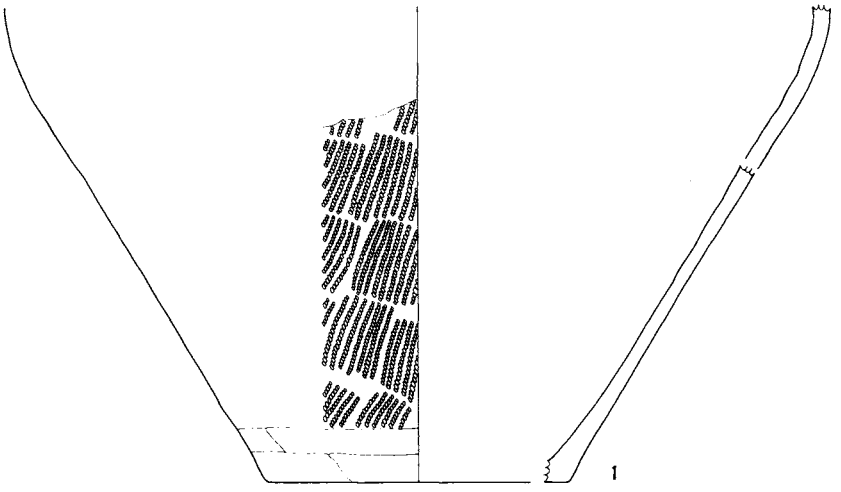
**D232**

1 暗褐色土 ローム粒・ロームブロック混入。
2 黒色土 ローム粒混入。
3 褐色土 ローム主体、黒色土含む。
4 明褐色土 ローム主体、ロームブロック多い。

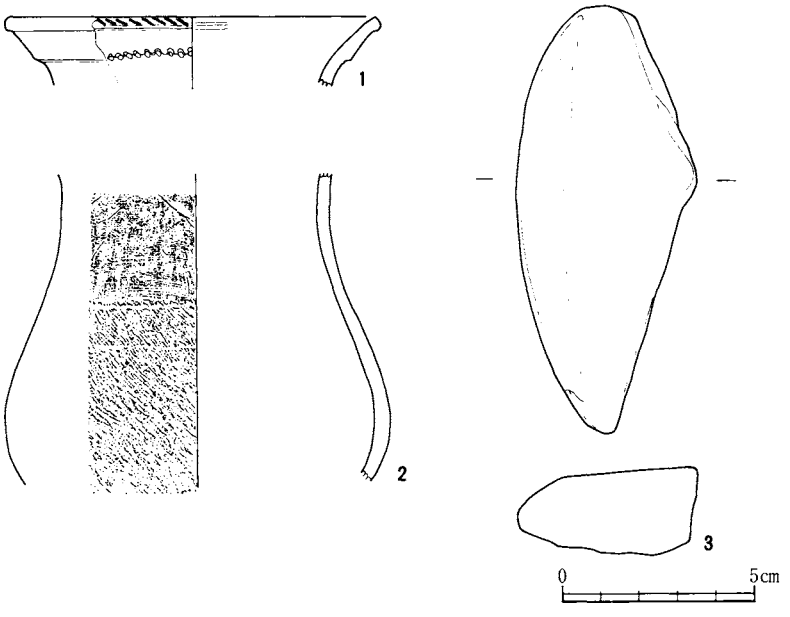



D232

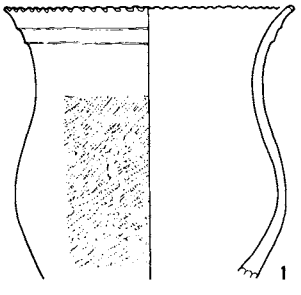
第143図　D231・D232実測図



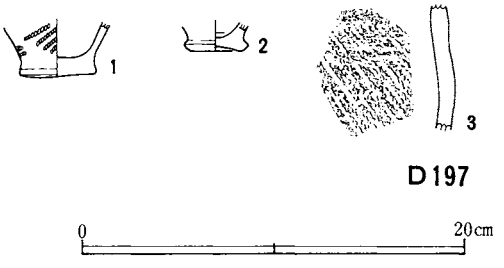

D117




D130

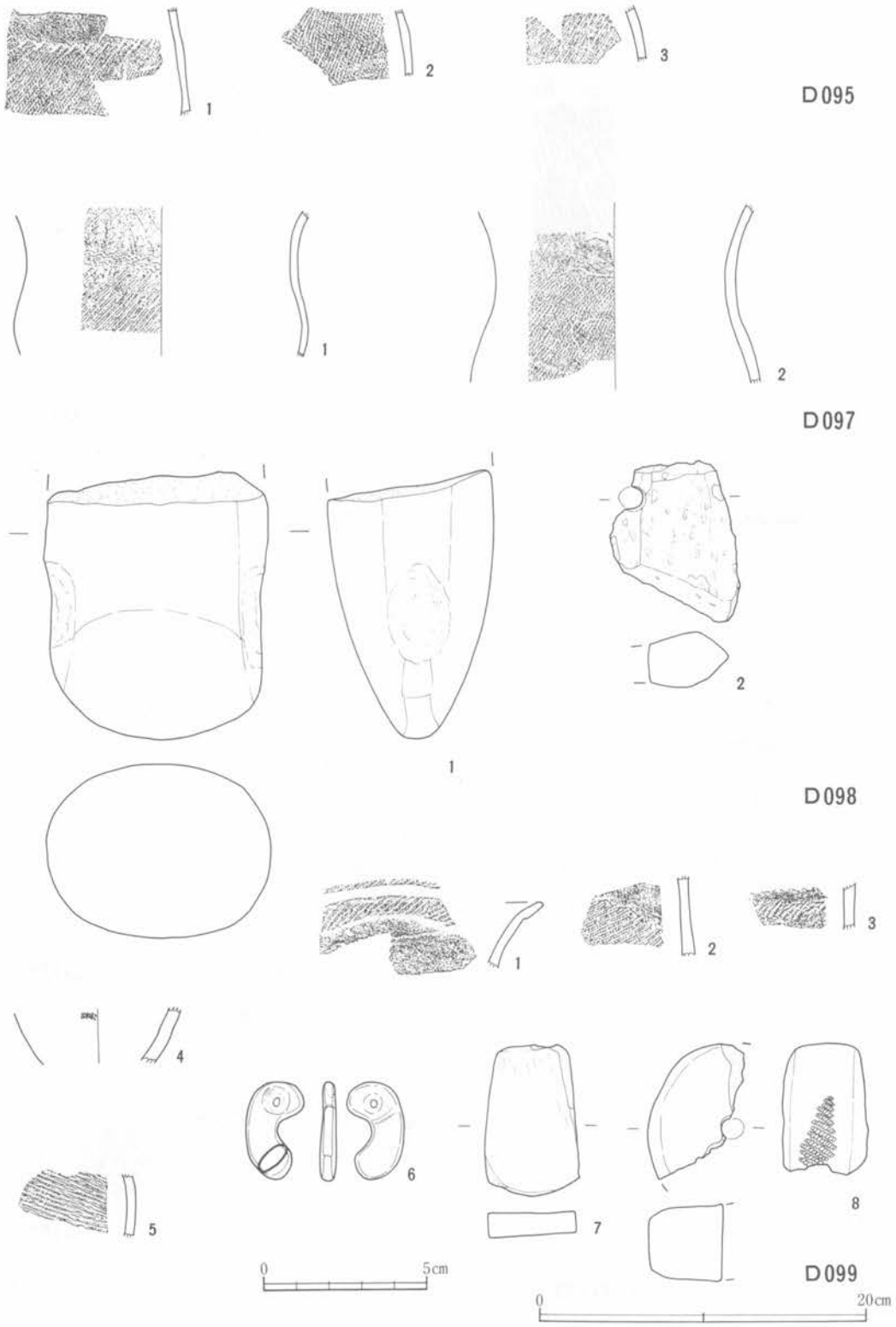



D135

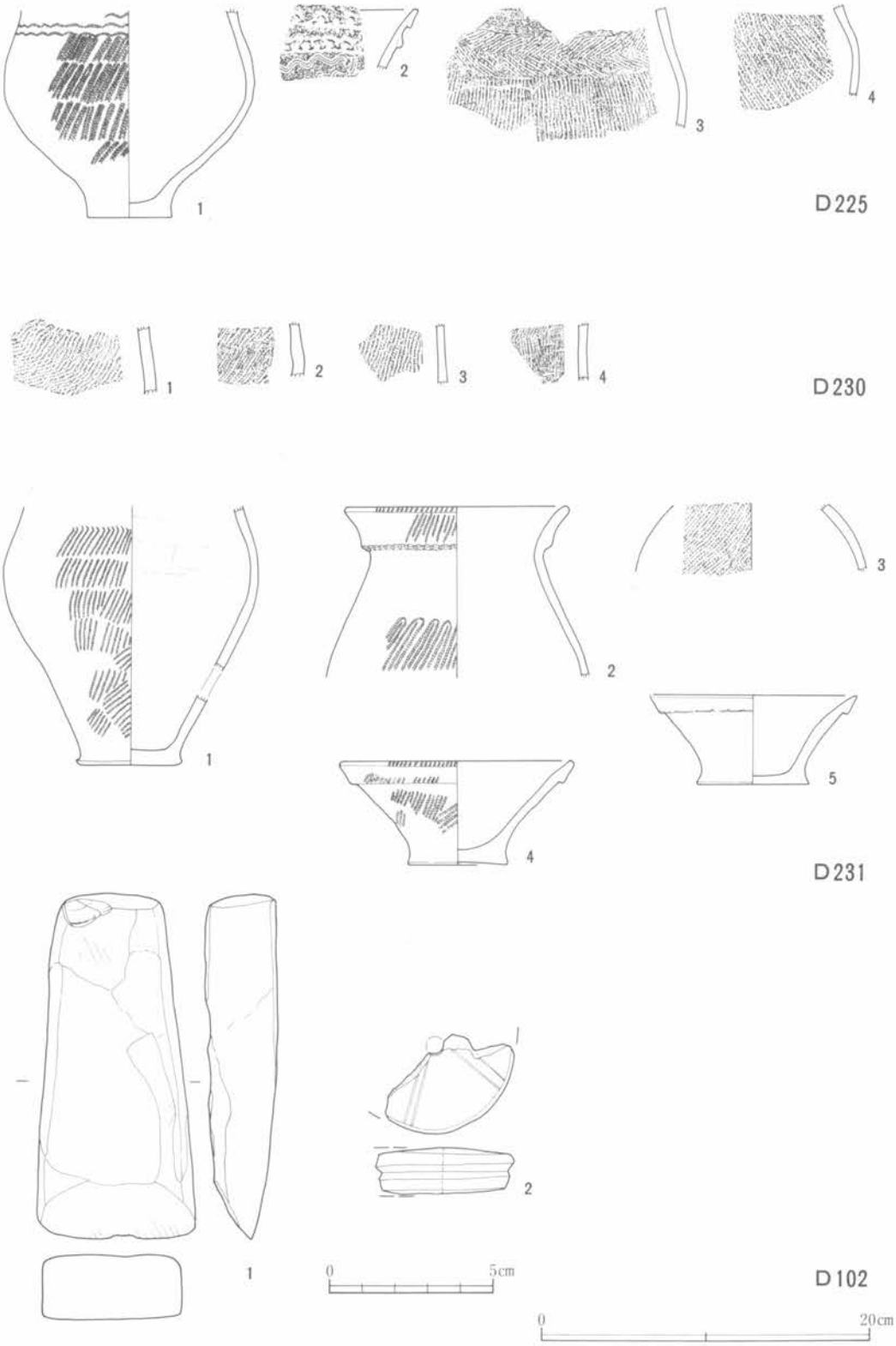



D197

第144図　弥生時代２群出土遺物実測図




第145図　弥生時代３群出土遺物実測図　1




第146図　弥生時代３群出土遺物実測図　２

# 第４部　古墳時代

# 第１章　古墳時代の概観

古墳時代に比定できる遺構は竪穴住居跡５軒があり、すべて後期に属するものである。萱田地区における古墳時代の集落は第３部第１章で若干触れたように、弥生時代後期から古墳時代前期あるいは中期へと継続した遺跡が多いが、白幡前遺跡では古墳時代前期・中期の遺構・遺物は検出されていない。古墳時代後期の集落は権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡・白幡前遺跡の４遺跡に営まれており、新川寄りの遺跡に限定される。検出した竪穴住居跡は権現後遺跡で２群10軒、北海道遺跡で３群７軒、井戸向遺跡で２群８軒、白幡前遺跡で３群５軒で、新川に沿った台地上に小規模な集落が散在するという状況が窺える。さらに加えれば、権現後遺跡と北海道遺跡は須久茂谷津に面した台地縁辺に互いに向かい合うような形で竪穴住居が分布し、井戸向遺跡と白幡前遺跡は寺谷津を挟んで同様な状況にある。井戸向遺跡と白幡前遺跡の占地形態は後述するように酷似しているが、北海道遺跡では須久茂谷津の沖積層面にかなり近い位置に住居を構築しているのに対し、権現後遺跡では段丘中位面の発達がないため須久茂谷津との比高が14mある台地縁辺に住居を構築している。また、井戸向遺跡の報文で指摘されているように、権現後遺跡・北海道遺跡では出土した土器の様相が鬼高期でも比較的古い段階から見られ、なおかつ先行する和泉期の集落が存在することから、これら２遺跡では古墳時代中期から連続して集落が営まれていた可能性が高い。この２遺跡では和泉期・鬼高期の両時期に石製模造品の工房跡が検出され、滑石製の製品をはじめ未製品、石片、原石が多数出土している。これに対して井戸向遺跡と白幡前遺跡は鬼高期も比較的新しい段階で集落が開始され、両者が時期的に一致しないことが判明している。

白幡前遺跡では５軒の竪穴住居跡が検出され、遺構の分布状況から３群に分けて捉えることができる。各群は便宜的に北から１群・２群・３群と呼称し、遺構・遺物の紹介は群ごとに行う。

１群は白幡前遺跡の北端の段丘中位面に当たり、２軒の住居跡が検出されている。井戸向遺跡１群と向き合う位置にあり、井戸向遺跡１群も段丘中位面に占地するという共通点がある。２群は１群の南約150mの段丘斜面に当たり、２軒の住居跡が検出されている。こちらは井戸向遺跡２群と向き合うもので、なおかつ井戸向遺跡２群も段丘斜面に位置している。なお、白幡前遺跡１・２群とも東側は未調査地区となり、それぞれ２軒をもって建物群が完結していたかどうか判断しかねる。３群は１・２群とはかなり離れたR24グリッドに位置し、１軒の住居跡が検出されている。北側に寺谷津を臨み、井戸向遺跡にはこれと対峙する建物群は存在しない。

第147図　古墳時代遺構配置図

# 第２章　遺構と遺物

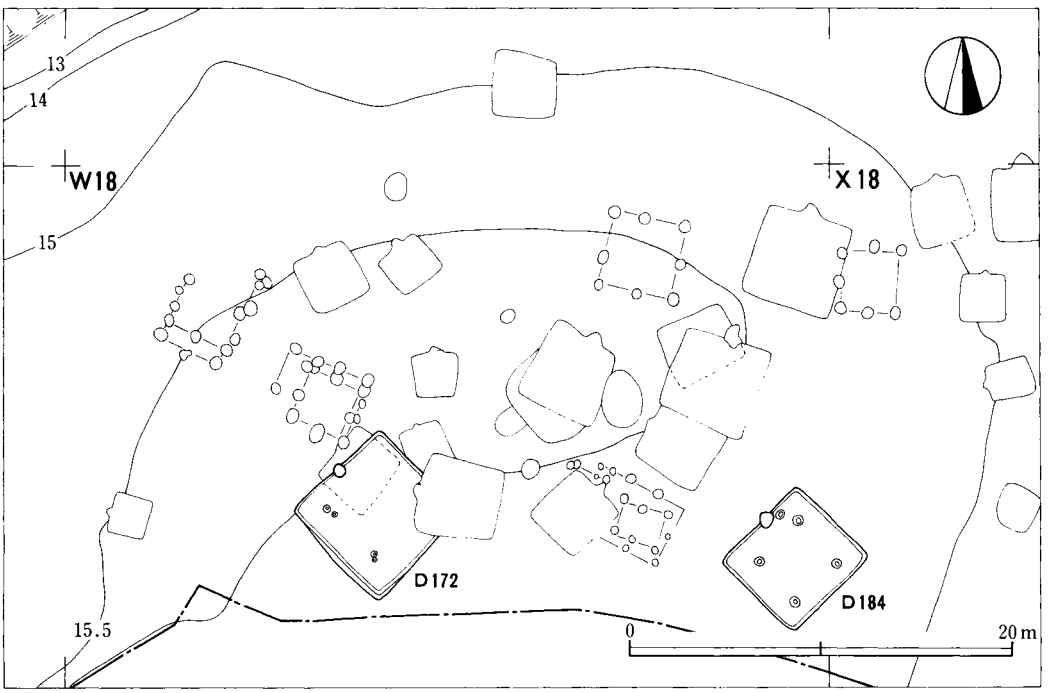
## 第１節　１群の遺構と遺物

### １　概　観（第148図）

１群は白幡前遺跡の北端に位置し、標高約15mを測る段丘中位面に当たる。北側に寺谷津を臨み寺谷津が形成した沖積層面との比高は約４ｍを測る。この地域は寺谷津の開口部に近く、地形は舌状を呈する台地の縁辺となる。検出された遺構は竪穴住居跡２軒であるが、D172は同じ位置での建て替えが認められる。調査区の東及び南側は未調査で、この部分にも遺構の存在は予想できるが、萱田地区内の他の遺跡の状況からあまり大きな建物群があったとは考えられない。

### ２　遺　構（第150・151図、第78表、図版31）

検出された遺構は竪穴住居跡D172-D・D184の２軒である。前述したようにD172-Dは南西及び南東壁に二重の立ち上がりがあり、同じ場所での建て替えが認められる。なお、外側の壁溝を持つ住居をD172-Eとする。住居の規模はD172-Dが7.5m×7.4m、D184が7.1m×7.1mと




第148図　古墳時代１群全体図

近似した数値で、比較的大形の住居である。D172-D・Eについては奈良・平安時代の竪穴住居跡に大きく破壊されるが、床面まで破壊されているのは東コーナーを中心とした一部にとどまる。住居の主軸方向はN-40°-Wで一致しており、等高線に直交する向きである。柱穴は住居対角線上に4本が設けられ、D172-D・Eは東コーナーが残されていないが、ｐ1・ｐ3・ｐ6とｐ2・ｐ4・ｐ5の2組の主柱穴が存在する。柱穴の位置から考えて、ｐ1・ｐ3・ｐ6がD172-Dに、ｐ2・ｐ4・ｐ5がD172-Eの柱穴と考えられる。柱穴の規模は、D172-D・Eが直径約0.4m、床面からの深さはD172-Dが約0.7m、D172-Eが約0.8mを測る。D184の柱穴は直径約0.8m、床面からの深さ0.9～1.0mを測り、ともにしっかりしたものである。壁溝はD172-Dには存在せず、D184はカマド下も含めて全周し、D172-Eも残された壁際に検出できた。また、D184ではカマド右側に深さ約0.8mの貯蔵穴が、カマドに対峙する南東壁際のｐ2とｐ3の間に出入り口ピットが設けられている。床面は両住居とも確認面からの深さが0.7m前後あり、遺存状況も良好であるが、D184ではカマド前面のｐ1とｐ4を含む広い範囲、ｐ2からｐ1へ向かう帯状の部分、出入り口ピットとｐ3の間の3箇所に良好な硬化面が残されている。

カマドは両住居とも北西壁の中央に設置され、D172-Dは同Aの床面下に僅かに遺存していただけで、本来の形状を保っているとは断言できない。D184のカマドは壁外へ約0.6mの煙道の張り出しがあり、火床より若干煙道部に寄った位置から遺物実測図36の甑が出土し、口縁部を住居内側へ向けた斜めの状態ではあったが、本来は正位で掛け口にはまっていたと思われる。また、カマドの両脇からｐ1にかけて甕・坏・高坏・蓋等が完形ないし完形に近い状態で出土し、使用していた土器がそのまま放置された状況を呈している。なお、埋土上層からは遺物実測図18・19に示した奈良・平安時代の坏が出土し、最終的な埋没が8世紀後半に至ったことを物語っている。

## 3　遺　物（第152～154図、第79・80表、図版34・35）

**D172**　D172は歴史時代の住居跡に破壊されていることもあり、遺物の量はあまり多くない。坏は須恵器模倣坏が主体的であり、形態にはバリエーションがある。その中で身の模倣は1点だけで、蓋の模倣が優位に立つ。内面はヘラ磨きを施したものが半数あり、横位・一方向・放射状がある。須恵器は蓋が1点図示できた。天井部の稜は見られず、口唇部も丸く納めている。甕は2個体あり、8は完形である。8は胴部から直に口縁部に至るもので、器面の調整は粗雑で胴部にヘラ削りは施されていない。

**D184**　遺構平面図にも示したように、カマド周辺から多くの遺物が出土している。坏はやはり須恵器模倣坏が主体的で、蓋の模倣が優位である。内面はヘラ磨きを施したものが多く、その方向は横位・放射状がある。なお、1は外面に赤彩を、2は内面に黒色処理を施している。須恵器坏は蓋1点、身2点が図示できた。蓋は天井部の稜が完全に省略化され、口唇部も丸く納

めている。身は口縁部の立ち上がりが短く内傾し、体部が比較的深い小振りの製品である。17～19は歴史時代の坏で、埋土の上層から出土した。住居埋没の終了が8世紀後半に及んでいたことを示す資料である。埋土は基本的には埋め戻しだが、埋土1層は埋め戻し土のくぼみに堆積した自然堆積土である。高坏は脚柱部が短いもので、坏部にはヘラ磨きが施されている。甕は法量的に大小の区分が可能である。23～27は大形の甕で、26は長胴化の傾向が見られるが、23～25は胴下半に最大径を有するものである。小形の甕はいずれも球形の胴部を呈し、内面にヘラ磨きを施すものもある。甑は36がカマド内から出土している。内面は口縁部を横、胴部を縦に磨いている。

### 第78表　古墳時代1群竪穴住居一覧

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D172D | 方　形 | 7.5×7.4 | 55.5 | N－40°－W | 北西中心 | なし | 3 | なし | なし | なし | | D172A・B・Cと重複。 |
| D172E | 方　形 | － | － | － | － | なし | 3 | なし | なし | あり | | D172A・B・Cと重複。 |
| D184 | 方　形 | 7.1×7.1 | 50.41 | N－41°－W | 北西中心 | あり | 4 | 2 | なし | 全周 | | |

### 第79表　D172出土遺物一覧

| No. | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎　土 | 色　調 | 調　整 | 遺　物　番　号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 坏 | 10.9 | － | － | 雲母粒 | 暗褐色 | 内面ヘラ磨き | 2811 |
| 2 | 坏 | 12.2 | － | 4.5 | 精　緻 | 明黄褐色 | | 1166、1198 |
| 3 | 坏 | 14.1 | － | － | 砂　粒 | 暗褐色 | 内面一方向ヘラ磨き | 1726 |
| 4 | 坏 | 15.1 | － | 3.8 | 砂　粒 | 黒褐色 | 内面放射状にヘラ磨き | 1253 |
| 5 | 坏 | 14.0 | － | 4.9 | 雲母粒 | 暗褐色 | | 562、2525 |
| 6 | 坏 | － | － | － | 砂　粒 | 暗褐色 | | 382 |
| 7 | 蓋 | 13.6 | － | － | 石英粒 | 青灰色 | ロクロ右回転 | 578、1157、1956、2401、2739 |
| 8 | 甕 | 17.3 | 7.3 | 14.6 | 長石粒 | 暗褐色 | 胴部外面ヘラ削りなし | 2435 |
| 9 | 甕 | 20.5 | － | － | 砂　粒 | 褐　色 | | 2701 |
| 10 | 甑 | 19.4 | 7.6 | 15.3 | 雲母粒 | 明褐色 | | 395 |
| 11 | 土　錘 | － | － | － | | | | 2627 |

### 第80表　D184出土遺物一覧

| No. | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎　土 | 色　調 | 調　整 | 遺　物　番　号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 坏 | 11.1 | － | 4.5 | 砂　粒 | 褐　色 | 外面赤彩 | 616 |
| 2 | 坏 | 11.9 | － | 5.1 | 精　緻 | 明褐色 | 内面黒色処理 | 530 |
| 3 | 坏 | 12.0 | － | － | 砂　粒 | 暗褐色 | 内面放射状にヘラ磨き | 77、515 |
| 4 | 坏 | 14.2 | － | 4.8 | 雲母粒 | 暗褐色 | | 552 |
| 5 | 坏 | 12.3 | － | 7.6 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 617 |
| 6 | 坏 | 12.6 | － | 4.8 | 砂　粒 | 黒褐色 | 内面横位ヘラ磨き | 91、213、543、622 |
| 7 | 坏 | 12.9 | － | 3.8 | 精　緻 | 褐　色 | 内面横位ヘラ磨き | 189、234、235、577、597 |
| 8 | 坏 | 13.4 | － | 4.8 | 砂　粒 | 暗褐色 | 内面放射状にヘラ磨き | 531、532 |
| 9 | 坏 | 13.8 | － | 3.5 | 精　緻 | 黒褐色 | | 533 |
| 10 | 坏 | 13.6 | － | 4.2 | 砂　粒 | 暗褐色 | 内面横位ヘラ磨き | 526、532 |

| No. | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎　土 | 色　調 | 調　　整 | 遺　物　番　号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 坏 | 13.2 | — | 4.7 | 砂　粒 | 黒　色 | 内面放射状にヘラ磨き | 307、529、609 |
| 12 | 坏 | 14.5 | — | 4.3 | 砂　粒 | 暗褐色 | 内面横位ヘラ磨き | 535 |
| 13 | 坏 | 13.7 | — | 4.2 | 砂　粒 | 暗褐色 | 内面横位ヘラ磨き | 522 |
| 14 | 蓋 | 14.6 | — | — | 長石粒 | 青灰色 | ロクロ右回転 | 99、614 |
| 15 | 坏 | 10.9 | — | 4.6 | 精　緻 | 灰　色 | ロクロ左回転 | 521 |
| 16 | 坏 | 10.7 | — | 4.5 | 精　緻 | 青灰色 | ロクロ右回転 | 520 |
| 17 | 坏 | 12.9 | 8.7 | 3.4 | 雲母粒 | 緑灰色 | | 195 |
| 18 | 坏 | 15.2 | 8.7 | 4.9 | 雲母粒・石英粒 | 灰　色 | | 11 |
| 19 | 坏 | 14.6 | 10.9 | 4.5 | 石英粒・雲母粒 | 灰　色 | | 84、131 |
| 20 | 高　坏 | 12.9 | 10.1 | 8.0 | 砂　粒 | 暗褐色 | 坏部横位ヘラ磨き | 536 |
| 21 | 高　坏 | 13.5 | 10.2 | 8.0 | 砂　粒 | 明褐色 | 坏部横位ヘラ磨き | 534 |
| 22 | ミニチュア | 3.8 | 3.7 | 1.9 | 砂　粒 | 暗褐色 | | |
| 23 | 甕 | 18.8 | 7.1 | 25.4 | 砂　粒 | 褐　色 | | 132、133、214、217、238、307、541、543、600、603 |
| 24 | 甕 | 18.1 | 6.8 | 27.1 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 525、621、626 |
| 25 | 甕 | 17.4 | — | — | 砂　粒 | 暗褐色 | | 526、528、625 |
| 26 | 甕 | 18.7 | — | — | 砂　粒 | 暗褐色 | | 435、540 |
| 27 | 甕 | 19.3 | — | — | 雲母粒 | 橙　色 | | 1、2 |
| 28 | 甕 | 13.2 | 6.2 | 17.5 | 雲母粒 | 橙　色 | | 523 |
| 29 | 甕 | 15.0 | 7.5 | 16.5 | 砂　粒 | 明褐色 | | 524、526、460 |
| 30 | 甕 | 14.4 | 7.7 | 13.2 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 142、339、537 |
| 31 | 甕 | 13.8 | — | — | 砂　粒 | 褐　色 | 内面黒色処理 | 34、168、171、300、328、329、330、335、336、364、366 |
| 32 | 甕 | 13.3 | 5.7 | 16.5 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 527 |
| 33 | 甕 | 17.1 | — | — | 砂　粒 | 赤褐色 | | 110、111、112、560 |
| 34 | 甕 | 16.1 | — | — | 砂　粒 | 褐　色 | | 22、29、37、357、368 |
| 35 | 甕 | — | 6.5 | — | 砂　粒 | 暗褐色 | | 11、49、50 |
| 36 | 甑 | 24.6 | 9.4 | 25.0 | 砂　粒 | 明褐色 | | 624 |
| 37 | 不　明 | | | | | | | 239 |

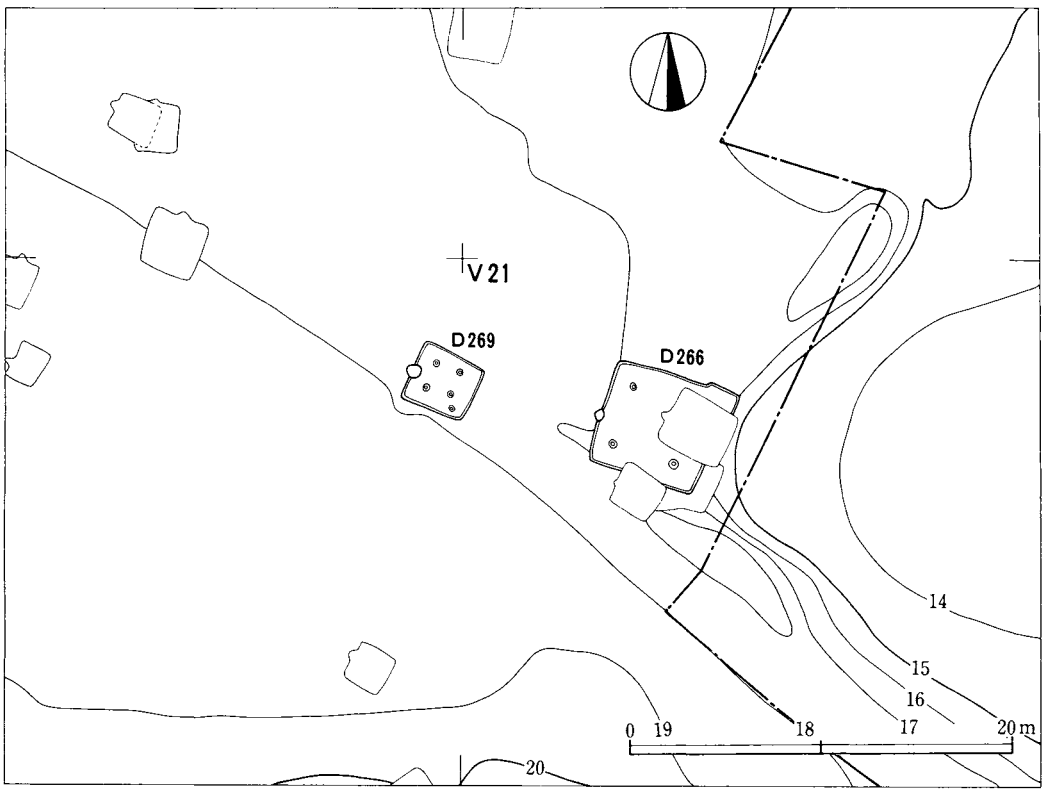
## 第2節　2群の遺構と遺物

### 1　概　観　（第149図）

2群は1群の南約150mに位置し、台地上面から段丘中位面にかかる斜面に当たる。西側に寺谷津を臨み、寺谷津が形成した沖積層面との比高は約6mを測る。検出した遺構は竪穴住居跡2軒であるが、東側は事業地外と隣接しており、この部分にも遺構の存在は予想できる。ただし、前節でも述べたように、周辺の状況から考えて、さほど多くの遺構は存在しなかった可能性が高い。

### 2　遺　構（第155・156図、第81表、図版32）

検出した遺構は竪穴住居跡D266・D269の2軒である。このうちD266は後世の竪穴住居跡D




第149図　古墳時代２群全体図

267・D268に南東壁から住居中央にかけて破壊されている。住居の規模はD266が7.8m×7.0m、D269が4.7m×4.2mを測り、D269は該期の住居としては小形である。住居の主軸方向はN-70°-W前後の方向を示し、寺谷津に対して直交し、１群の２軒の住居同様、カマドを谷に向かった壁に設置している。柱穴は住居対角線上に４箇所が配置され、D266は直径0.5～0.6m、床面からの深さ0.7m、D269は直径0.4m、床面からの深さ0.3mを測る。床面の遺存状況は両住居とも非常に悪く、D266はD267・D268の後世の住居による破壊も加わり、本来の床面が残存しているのはごく一部分に過ぎない。また、両住居とも段丘斜面に位置しているため、住居の埋没が終了する以前に斜面下位の床面が浸食を受けている。壁溝は両住居とも存在せず、D266はカマド前面からＰ１・Ｐ３の間にかけて、D269はＰ１を中心とした範囲に硬化面が残されていた。

カマドは両住居とも北西壁の中央に設置され、煙道は壁外へ0.4～0.5m張り出している。D266はカマド内に支脚が残され、遺物実測図に示した２個体の甕はカマドの両脇から出土した。また、D269はカマド内にほとんど土器を残さず、支脚・甕・甑はカマド左側から出土している。

## ３　遺　物（第157図、第82・83表、図版35・36）

**D266**　遺物実測図に示したものはカマド周辺から出土したものが多い。坏は土師器・須恵器そ

れぞれ1個体がある。土師器坏は須恵器模倣坏で、1群の2軒の住居からも同じ形態のものが出土している。須恵器坏は口縁部の立ち上がりがかなり内傾し、体部も比較的深い製品である。D266では須恵器の高坏が出土しており、当該期の高坏はこの1点しかない。坏部を欠損しており、脚部は短脚で透かしはない。甕はカマドの両脇から1個体ずつ出土している。5は胴部上半に横位のヘラ削りが施され、内面は縦位のヘラ磨きが施されている。6は所謂常総型の甕で、外面に縦位のヘラ磨きが施されている。

**D269** 出土遺物はかなり少なく、甕・甑・カマド支脚が図示できた。甕は胴部中位に最大径をもつもので、口縁部はあまり開いていない。甑は1群で出土した2個体の甑と大きく異なるものではない。

**第81表　古墳時代2群竪穴住居一覧**

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D266 | 方　形 | 7.8×7.0 | 54.60 | N−74°−W | 西中心 | なし | 3 | なし | なし | なし | | D267と重複。 |
| D269 | 方　形 | 4.7×4.2 | 19.74 | N−66°−W | 西中心 | あり | 4 | 2 | なし | なし | | |

**第82表　D266出土遺物一覧**

| No. | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎　土 | 色　調 | 調　整 | 遺　物　番　号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 坏 | 14.7 | — | 4.4 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 151 |
| 2 | 鉢 | 9.2 | 5.8 | 6.6 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 131、132、137 |
| 3 | 坏 | 10.2 | — | 4.0 | 長石粒 | 青灰色 | ロクロ右回転 | 162 |
| 4 | 高　坏 | — | 9.7 | — | 長石粒 | 灰　色 | | 68、74、101、133、144 |
| 5 | 甕 | 18.7 | 7.5 | 24.0 | 砂　粒 | 褐　色 | | 148 |
| 6 | 甕 | 24.0 | 10.0 | 32.3 | 雲母粒・石英粒 | 明褐色 | | 150 |
| 7 | 支　脚 | | | | | | | 164 |
| 8 | 砥　石 | | | | | | | 156 |

**第83表　D269出土遺物一覧**

| No. | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎　土 | 色　調 | 調　整 | 遺　物　番　号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 甕 | 16.1 | 5.7 | 26.0 | 砂　粒 | 褐　色 | | 13、17 |
| 2 | 甑 | 24.3 | 9.2 | 22.0 | 砂　粒 | 褐　色 | | 16 |
| 3 | 甕 | 10.1 | — | 9.2 | 砂　粒 | 黒褐色 | 内面縦位にヘラ磨き | 18 |
| 4 | 支　脚 | | | | | | | 12、14 |

## 第3節　3群の遺構と遺物

### 1　概　観

3群は白幡前遺跡の西端に位置し、寺谷津から小支谷が分岐する部分に臨んでいる。検出した遺構は竪穴住居跡1軒で、西側に若干未調査部分があるが面積的には狭いもので、最大でも

2～3軒の住居から構成されていたと考えられる。1・2群はあたかも井戸向遺跡と向き合うような様相が認められるが、井戸向遺跡では白幡前遺跡3群に対応する建物群は現在のところ確認できていない。

## 2　遺　構（第156図、第84表、図版32・33）

検出した遺構は竪穴住居跡D274の1軒である。時期的に古墳時代に含めるべきか疑問もあるが、歴史時代の集落とは隔絶された存在である。住居の規模は4.7m×4.5mを測り、2群D269とほぼ同等の規模を有する。柱穴は4箇所とも直径約0.7m、床面からの深さ0.6mを測る。また、カマド右側に径0.5m、深さ0.4mの貯蔵穴があり、貯蔵穴内には遺物実測図6の甕が逆位で埋められ、床面近くまで埋めた段階で遺物実測図1の鉢を横位に埋め込んでいる。壁溝は西壁にのみ設けられ、約10m離れた歴史時代の住居跡D271でも西壁だけ他と比較して深く構築されている。

カマドは北壁の中央に設置されており、炊き口はP1とP4のちょうど中間に当たる。煙道部は壁外へ0.4mほど張り出すが、煙道部の立ち上がりは垂直に近い角度である。

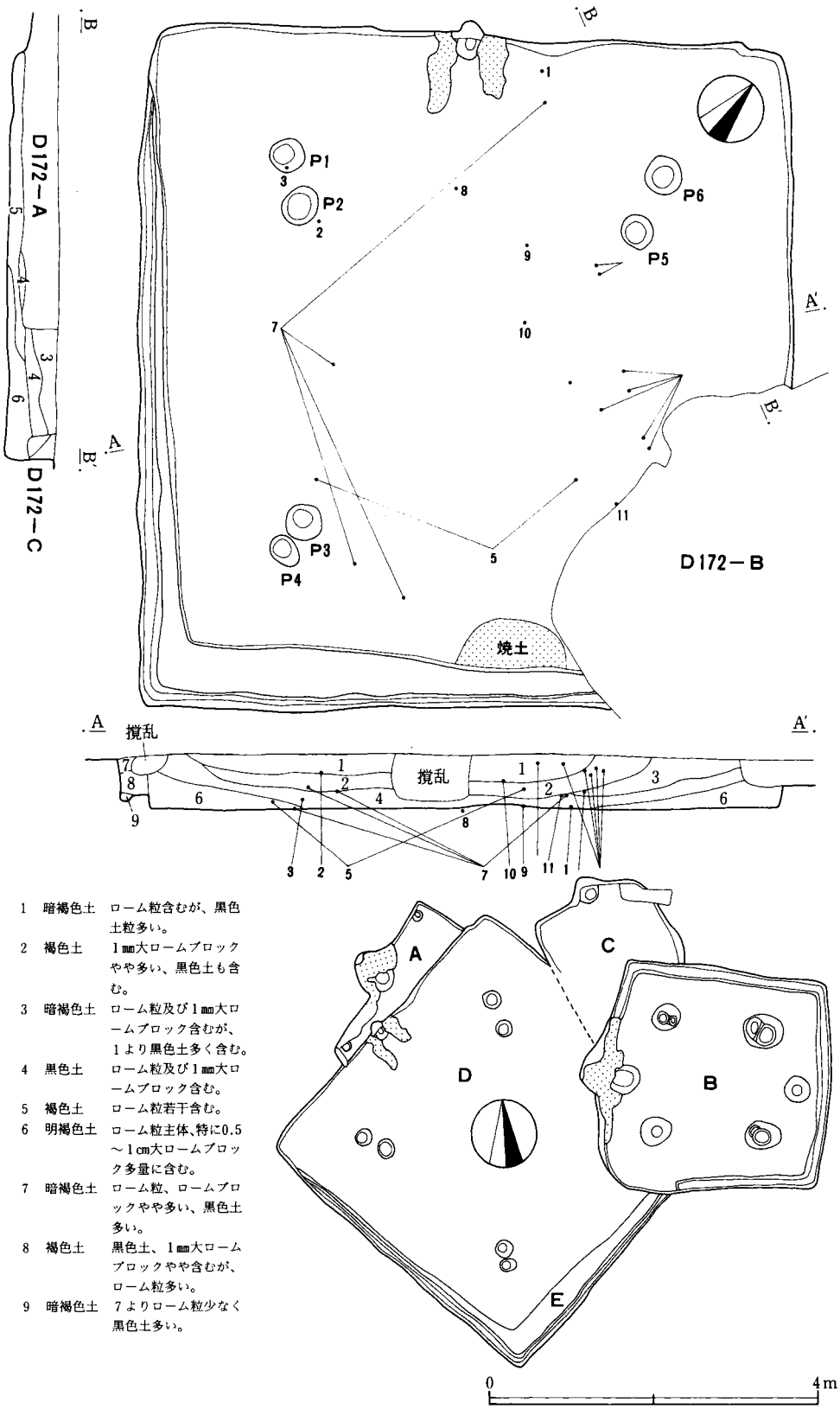
遺物は前述したようにカマド右脇の貯蔵穴から甕・鉢が出土しており、遺物実測図4の甕はカマド掛け口に立てられた状態で、遺物実測図5の甕はカマド左脇の床面上に横位に置かれた状態で出土した。このように図示した遺物のほとんどが、カマド周辺に放置あるいは埋置された状況を示し、白幡前遺跡の古墳時代後期の住居跡の一般的な廃絶傾向と言える。埋土の上層からは8世紀後半の土器がかなりの量出土しており、土層断面図1層はこの時期にいたって形成されたと考えられる。なお、3層以下には焼土を混入する土層も多く、P1・P2は7層中で既にその存在が確認できた。土層の堆積状況から西側からの埋め戻しが想定でき、少なくとも5層以下は住居廃絶に伴う埋め戻しの土層の可能性が高い。

## 3　遺　物（第158図、第85表、図版36）

坏は細片が僅かに出土しただけで、図示できるものはない。2の坏は埋土上層から出土したもので、歴史時代の遺物である。甕は3個体があり、すべて形態が異なる。カマド内から出土した4は長胴化したもので、新しい要素が認められるが、5の常総型の甕はD266出土の甕同様胴部にかなり張りがある。6は球形に近い胴部をもち、外面に僅かにヘラ磨きが観察できる。

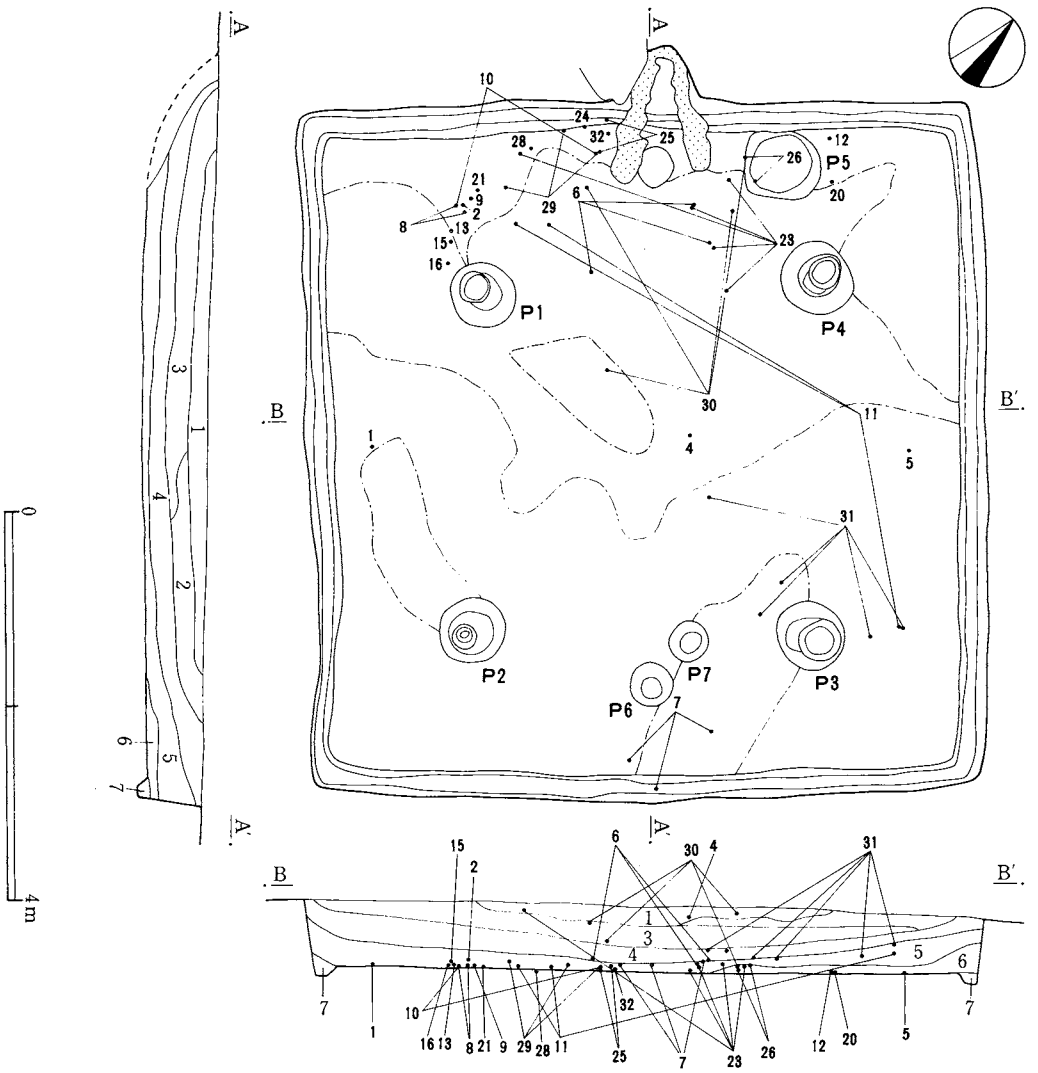
**第84表　古墳時代3群竪穴住居一覧**

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D274 | 方　形 | 4.7×4.5 | 21.15 | N－25°－W | 北西中心 | あり | 4 | 1 | なし | あり | | D275と重複。 |

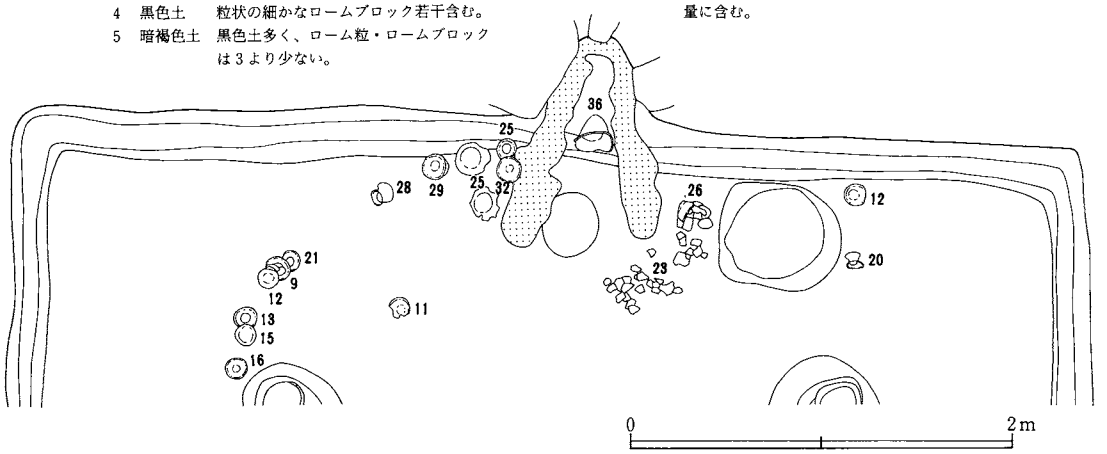



1　暗褐色土　ローム粒含むが、黒色土粒多い。
2　褐色土　1㎜大ロームブロックやや多い、黒色土も含む。
3　暗褐色土　ローム粒及び1㎜大ロームブロック含むが、1より黒色土多く含む。
4　黒色土　ローム粒及び1㎜大ロームブロック含む。
5　褐色土　ローム粒若干含む。
6　明褐色土　ローム粒主体、特に0.5～1㎝大ロームブロック多量に含む。
7　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックやや多い、黒色土多い。
8　褐色土　黒色土、1㎜大ロームブロックやや含むが、ローム粒多い。
9　暗褐色土　7よりローム粒少なく黒色土多い。

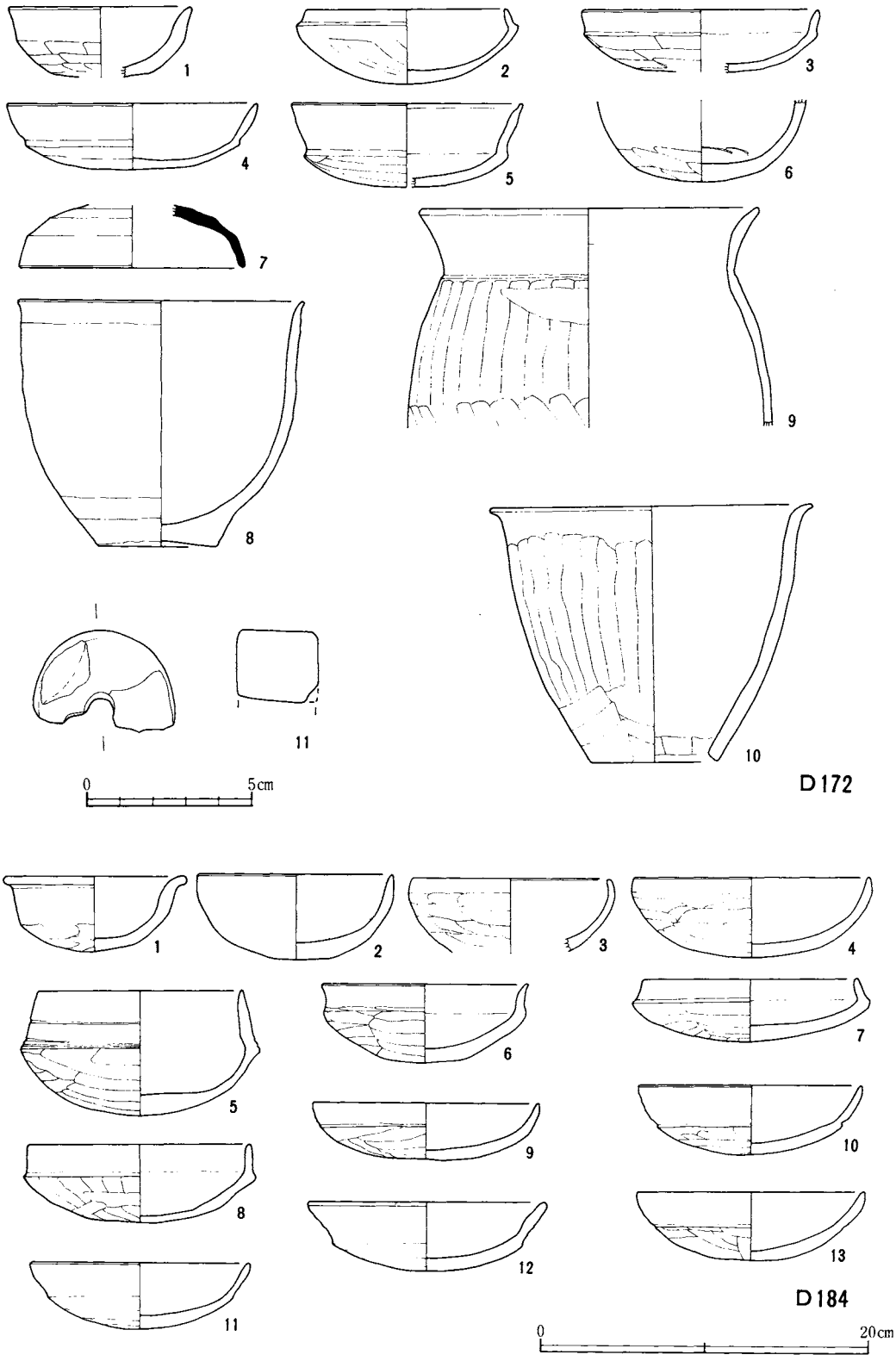
第150図　D172実測図



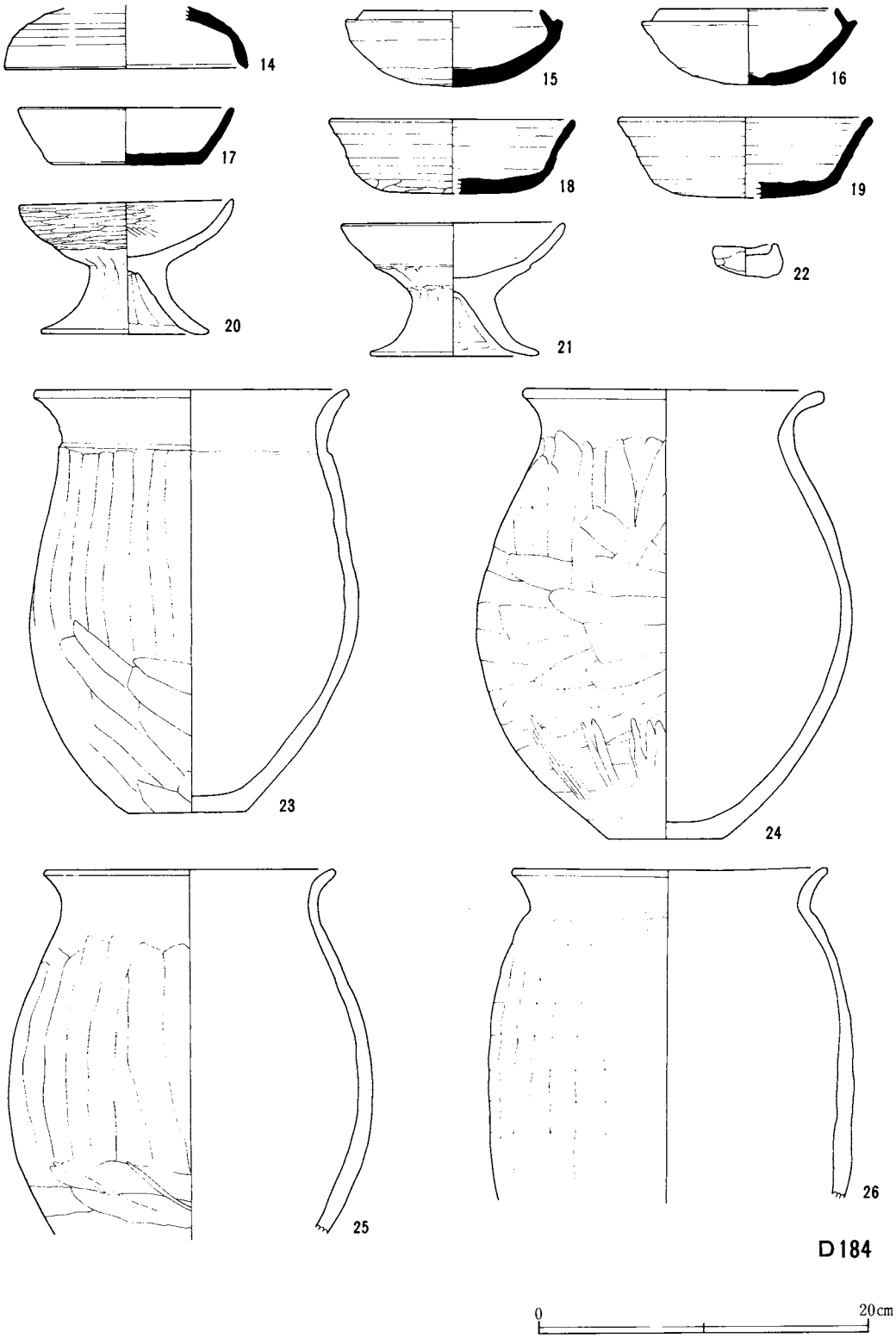

1　暗褐色土　黒色土多く、粒状の細かなロームブロック含む。
2　褐色土　ロームブロックやや多く、ローム粒も含む。
3　暗褐色土　2～3㎜大ロームブロックが多い。
4　黒色土　粒状の細かなロームブロック若干含む。
5　暗褐色土　黒色土多く、ローム粒・ロームブロックは3より少ない。
6　褐色土　ローム粒及び2～3㎜ロームブロックがかなり多い。
7　明褐色土　ロームブロックは少ないがローム粒は多量に含む。



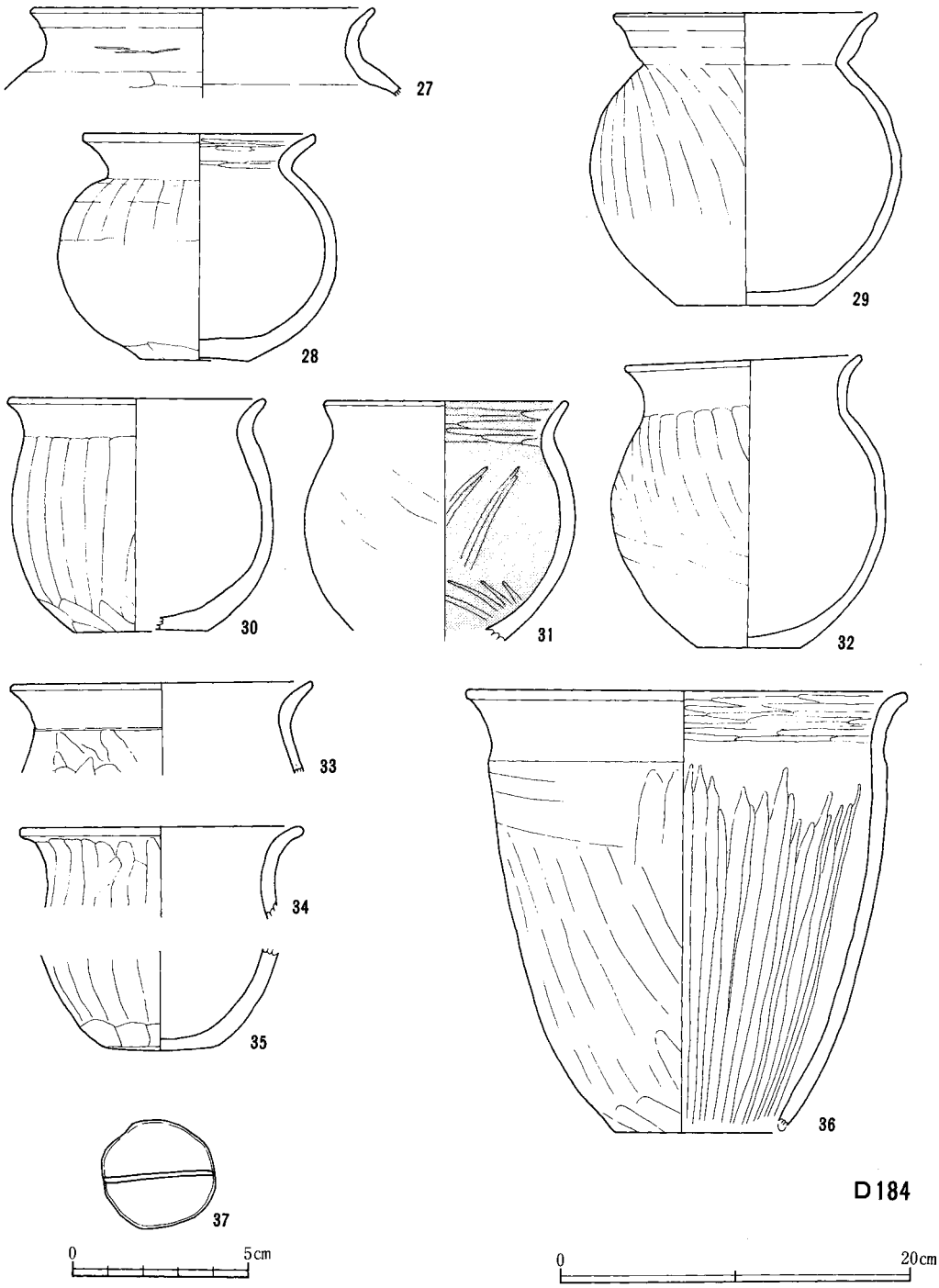

第151図　D184実測図



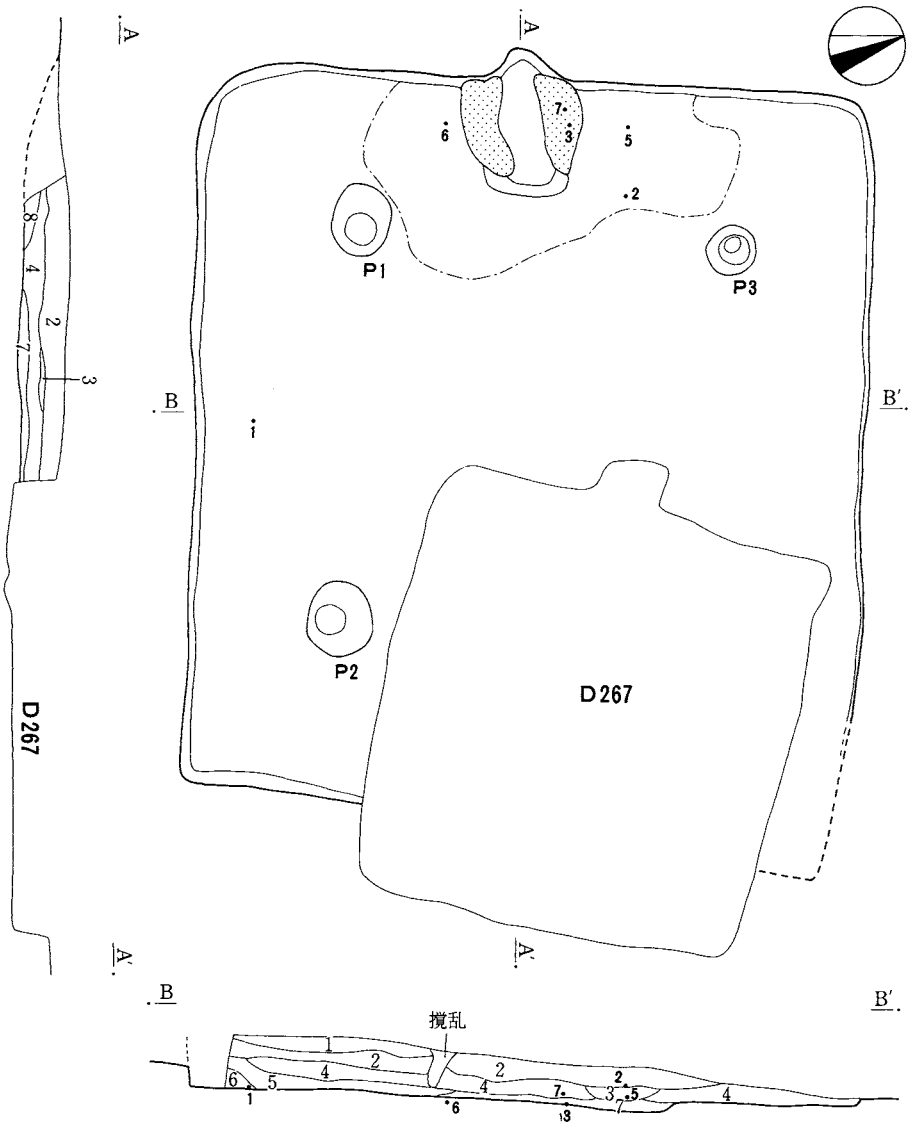

第152図　古墳時代１群出土遺物実測図 1




第153図　古墳時代１群出土遺物実測図　2



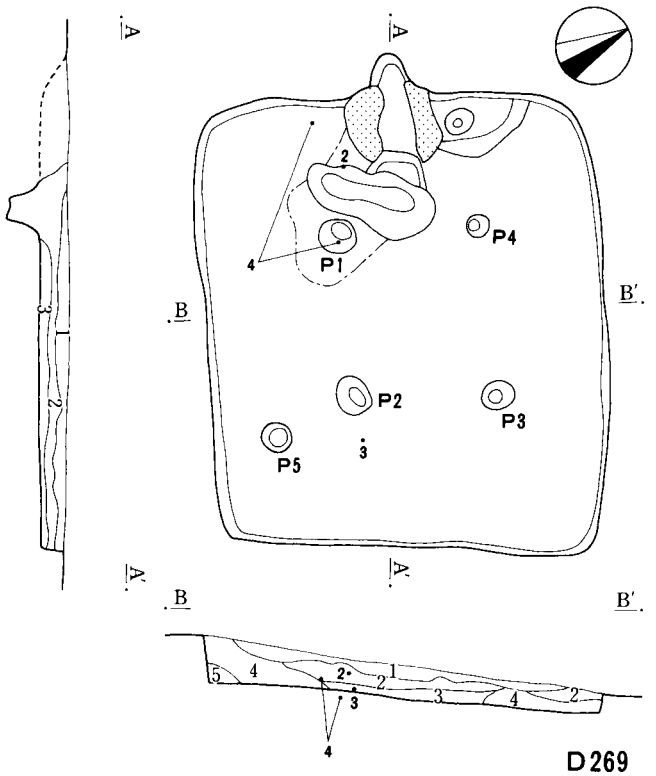

第154図　古墳時代１群出土遺物実測図　3



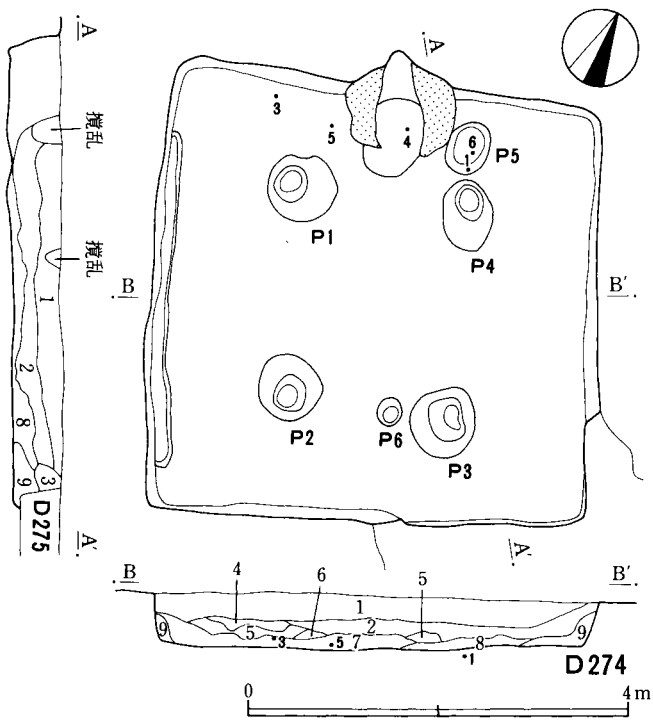

1　黒褐色土　焼土・粘土粒やや多く含む。
2　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少し含む。
3　焼土
4　黒色土
5　暗褐色土　ローム粒多く含む。
6　暗褐色土　ローム粒やや多く含む。
7　黒褐色土　ロームブロック混入。
8　黒褐色土　焼土粒・砂質粘土粒多く含む。

0　4m

第155図　D266実測図

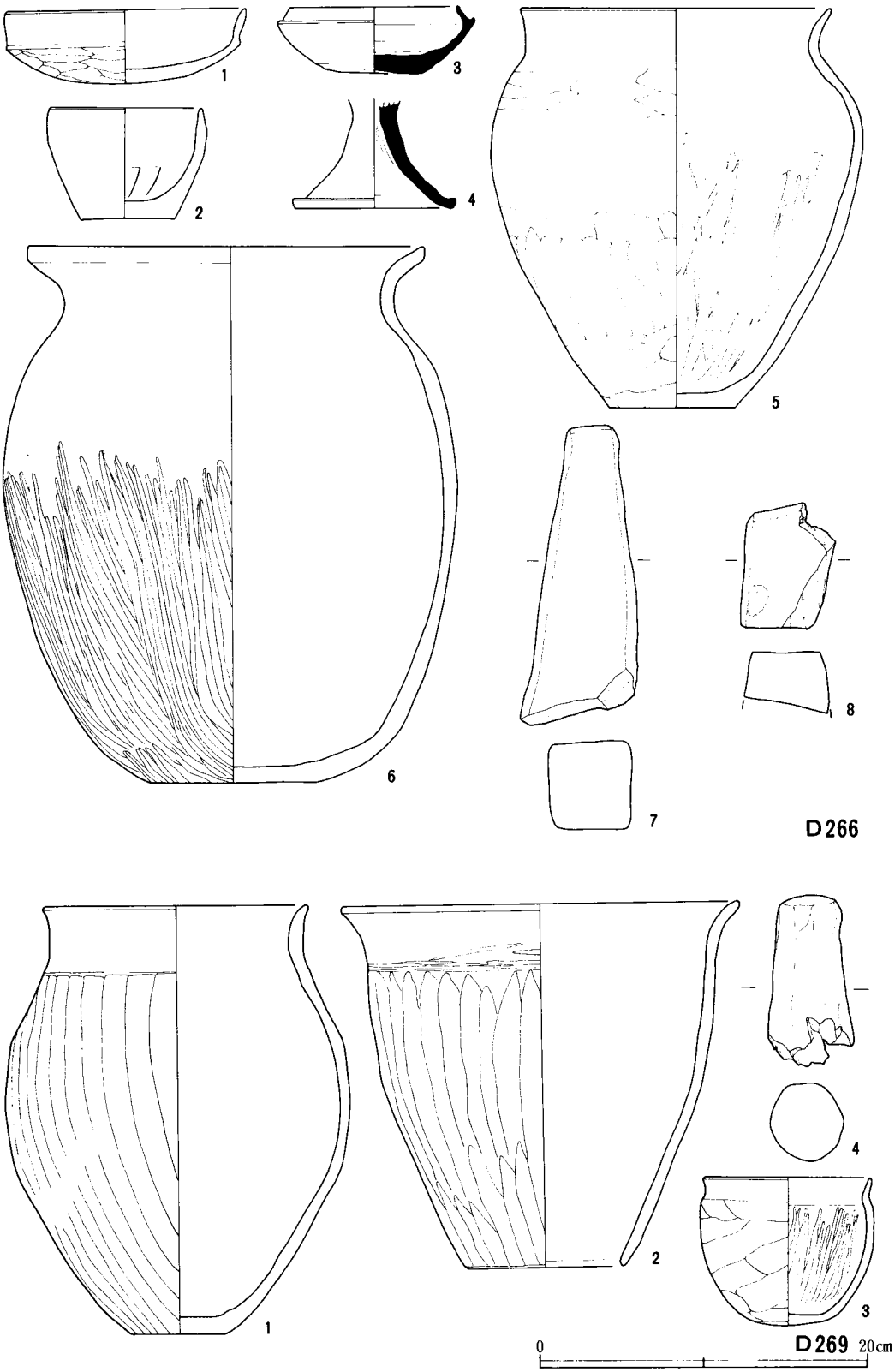



1　黒褐色土
2　黒褐色土　焼土粒多く含む。
3　暗褐色土　ロームブロック多く含む。
4　暗褐色土　ローム粒少し含む。
5　褐色土

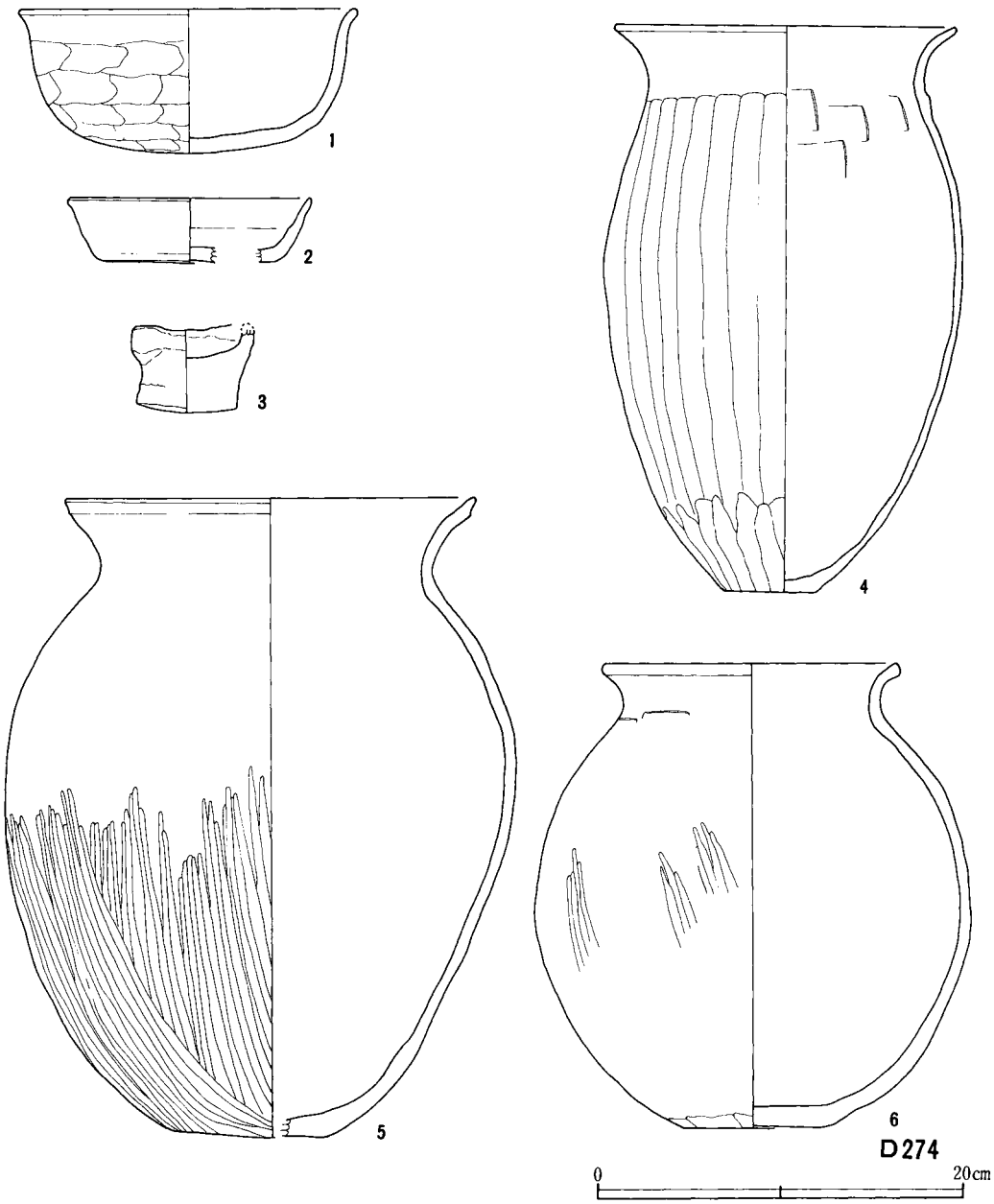



1　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を混入。
2　暗褐色土　ローム粒を少し混入する。
3　暗褐色土　焼土粒を混入する。
4　黒褐色土　焼土粒少し混入する。
5　黒褐色土　焼土をかなり多く混入する。
6　黒褐色土　粒子は細かい。
7　暗褐色土　ローム粒多く混入する。
8　暗褐色土　ローム粒かなり多く混入する。
9　暗褐色土　ソフトロームをシミ状に含む。

第156図　D269・D274実測図




第157図　古墳時代２群出土遺物実測図




第158図　古墳時代３群出土遺物実測図

**第85表　D274出土遺物一覧**

| No. | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 胎　土 | 色　調 | 調　　整 | 遺　物　番　号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 鉢 | 18.7 | — | 7.7 | 砂　粒 | 褐　色 | | 3 |
| 2 | 坏 | 13.4 | 9.7 | 3.5 | 雲母粒 | 褐　色 | | 4 |
| 3 | 坏 | 6.4 | 5.2 | 4.7 | 砂　粒 | 赤褐色 | 手捏ね | 1 |
| 4 | 甕 | 18.8 | 5.0 | 30.5 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 6 |
| 5 | 甕 | 22.5 | 8.5 | 34.4 | 雲母粒・石英粒 | 明褐色 | | 2 |
| 6 | 甕 | 16.3 | 8.0 | 25.0 | 精　緻 | 明褐色 | | 5 |

# 第５部　歴史時代

# 第１章　奈良・平安時代の概観

## 第１節　集落の概観

奈良・平安時代は白幡前遺跡においてそれまでにない規模の集落が形成され、これまでに検出された遺構は、竪穴住居跡279軒、掘立柱建物跡150棟をはじめ、これらの遺構に関係する土壙・溝状遺構等がある。既に報告された権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡でも該期の遺構・遺物は膨大な量が調査され、時期的に完全に一致するものではないが、全体として８世紀中葉から10世紀前半にわたるものである。各遺跡で検出された遺構数は、権現後遺跡で竪穴住居跡68軒、掘立柱建物跡17棟、方形周溝遺構２基、北海道遺跡で竪穴住居跡114軒、掘立柱建物跡10棟、井戸向遺跡で竪穴住居跡95軒、掘立柱建物跡44棟、井戸跡10基となる。このように遺構数の上から白幡前遺跡は萱田地区内の他の遺跡を圧倒している。

遺構の分布は調査区のほぼ全域にわたるが、調査区の東側の未調査部分にも台地は連続しており、より新川に近い地点での集落の状況は全く解明されていない。未調査部分に伸びる台地の面積は白幡前遺跡として調査した範囲とほぼ同じで、この部分にどの程度の遺構が存在するか興味が持たれるところである。南側は池谷津との間に若干の平坦面が残されているが、このうちの一部は八千代市都市計画街路３．４．１号線建設に先立って八千代市遺跡調査会が調査を実施している。この調査によって奈良・平安時代の竪穴住居跡５軒、掘立柱建物跡１棟が検出されたが、遺構の分布状況はやや散漫な状況を呈している。

建物群の設定は権現後遺跡のように視覚的に捉えやすい場合もあるが、井戸向遺跡を含めて集落の存続期間が比較的長期に及ぶ場合、その設定は一元的な内容で解決できない。白幡前遺跡では大きく３つの建物群として把握した。この群設定は、各群において視覚的に捉えられる建物群の様子、掘立柱建物の存在形態、遺構の変遷の様子、墨書土器の所有状況を基にした。ただし、隣接する群との線引きに全く問題が無かった訳ではなく、本来なら時期ごとに建物群の範囲に拡大、あるいは縮小が行なわれ、範囲の設定が画一的ではないのであるが、基本的に集落全体の変遷と照らし合わせ、建物群内において同様の変遷がたどれるように考慮した。三群に設定した建物群は、視覚的にさらにいくつかの小グループとして捉えられる場合があり、記述に際してはこの小グループも重要視したが、建物群を一様に小グループにまで分割することはしていない。集落全体をあまり著しく細分化することは望ましいこととは思えないが、小グループと認識したものは、群内においても建物の構築等に独自性が認められ、何らかの意味を含んだ単位であったようだ。

## 第2節　土器の器形分類（第159～161図）

萱田地区の奈良・平安時代の遺跡の報告は本書を残すだけとなっており、この地域における土器の様相は比較的明らかになっている。その中で、北海道遺跡・井戸向遺跡では出土土器についてかなり詳細な器形分類が行なわれ、参考となるところが大きい。白幡前遺跡の出土土器についても、これらの遺跡の成果を踏まえて分類を行った。出土土器には土師器・須恵器・施釉陶器があり、施釉陶器は灰釉陶器がほとんどを占める。土師器・須恵器の器種は坏・皿・甕・甑・鉢が主体となり、僅かに蓋・高坏・長頸瓶・盤が伴う。

**1　土師器**　土師器の生産は今以てどのような体制で行われていたか明らかではないが、萱田地区内の権現後遺跡から土器焼成坑の可能性が考えられる遺構が検出されている。また、白幡前遺跡でも所謂ロクロピットと称されるものに酷似した構造をもったピットが3軒の竪穴住居跡で検出された。最近土器焼成坑の調査例も増加しており、需給関係は比較的狭い地域で成立していた可能性が高い。土師器については坏・皿・甕・高台坏を分類の対象とし、量的に少ない高坏・盤・蓋・鉢は行っていない。また、ロクロ調整を行った供膳具はロクロ土師器と呼称し、ロクロ未使用の製品と区別している。以下、土師器の分類について簡単に説明を加えたい。

**坏**　土師器の坏はロクロ未使用のものとロクロ調整を行なったものの2者があり、ロクロ未使用の坏を単に坏と呼ぶ。坏は3種に分類した。

1類　体部は内彎気味に立ち上がり、丸底を呈するもので、器高はおおよそ4cm以下となる。口縁部はヨコナデで整え、体部同様外傾するものが多いが、直立ないし若干内傾するものもある。体部は横方向のヘラ削りで内面はヘラ磨きを施す。

2類　体部は内彎気味に立ち上がり、平底となるもので、器高は4cm以上となる。体部は横方向のヘラ削りを施すが、雑なヘラ磨きを加えている。

3類　体部は直線的に立ち上がり、口縁部は直立ないし若干内傾するもので、ヘラ磨きはほとんど施されていない。

**ロクロ土師器坏**　最も普遍的な器種で、かつ時期による変化が明瞭に認められる。

1類　所謂箱形の器形を呈するもので、体部の立ち上がり方によって細分を行った。

a種　体部が直線的に立ち上がるもので、体部の立ち上がりの角度は60°を超す。体部下端はヘラ削りが施されないものもあり、底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施す。胎土は精緻で微細な雲母粒を混入する。

b種　体部が内彎気味に立ち上がるもので、立ち上がりの角度は60°近い。ロクロ調整痕は比較的明瞭で、体部下端は回転ヘラ削りを施すものが多い。

c種　口縁部が僅かに外反するもので、立ち上がりの角度は60°前後である。体部下端は回転ヘラ削りを施すものが主体的で、底部の調整は静止のヘラ削りのものもある。

2類　やはり箱形の器形を呈するものであるが、1類と比較して若干体部が開くものである。1類同様3種に細分した。

a種　体部が直線的に開くもので、立ち上がりの角度は60°前後である。体部下端にヘラ削りを施すものは少ないが、体部下端は丸みをもって底部へ至る。

b種　体部が内彎気味に立ち上がるもので、立ち上がりの角度は55°前後である。体部下端はヘラ削りが施され、底部は全面回転ヘラ削りを行うものが多い。

c種　口縁部が僅かに外反するもので、立ち上がりの角度は55°前後である。体部下端は回転ヘラ削りで、底部は全面回転ヘラ削りを施すものが多い。

3類　箱形の器形を呈するものであるが、器高は3.5cm以下の身の浅いものである。

4類　箱形の器形を呈するもので、器高が4cm以上の身の深いものである。1類同様3種に細分した。

a種　体部が直線的に開くもので、立ち上がりの角度は55°前後である。体部下端はほぼ例外無く回転ヘラ削りが施され、底部も全面回転ヘラ削りを施すものが多い。

b種　体部が内彎気味に立ち上がるもので、立ち上がりの角度は60°近い。体部下端はヘラ削りを施さないものもあり、底部も切り離し後、無調整のものがある。

c種　口縁部が僅かに外反するもので、立ち上がりの角度は55°前後である。体部下端はほとんど回転ヘラ削りが施され、底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施す。

5類　5類以下は一般的な逆梯形の器形を呈するものである。5類は体部が直線的に開き、底径と口径の比が1：1.7前後のものである。体部下端はすべて回転ヘラ削りが施され、底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施すものが圧倒的に多い。

6類　体部が内彎気味に立ち上がるもので、体部下端はすべて静止ヘラ削りである。底部も回転糸切り後、周縁部に静止ヘラ削りを施す。

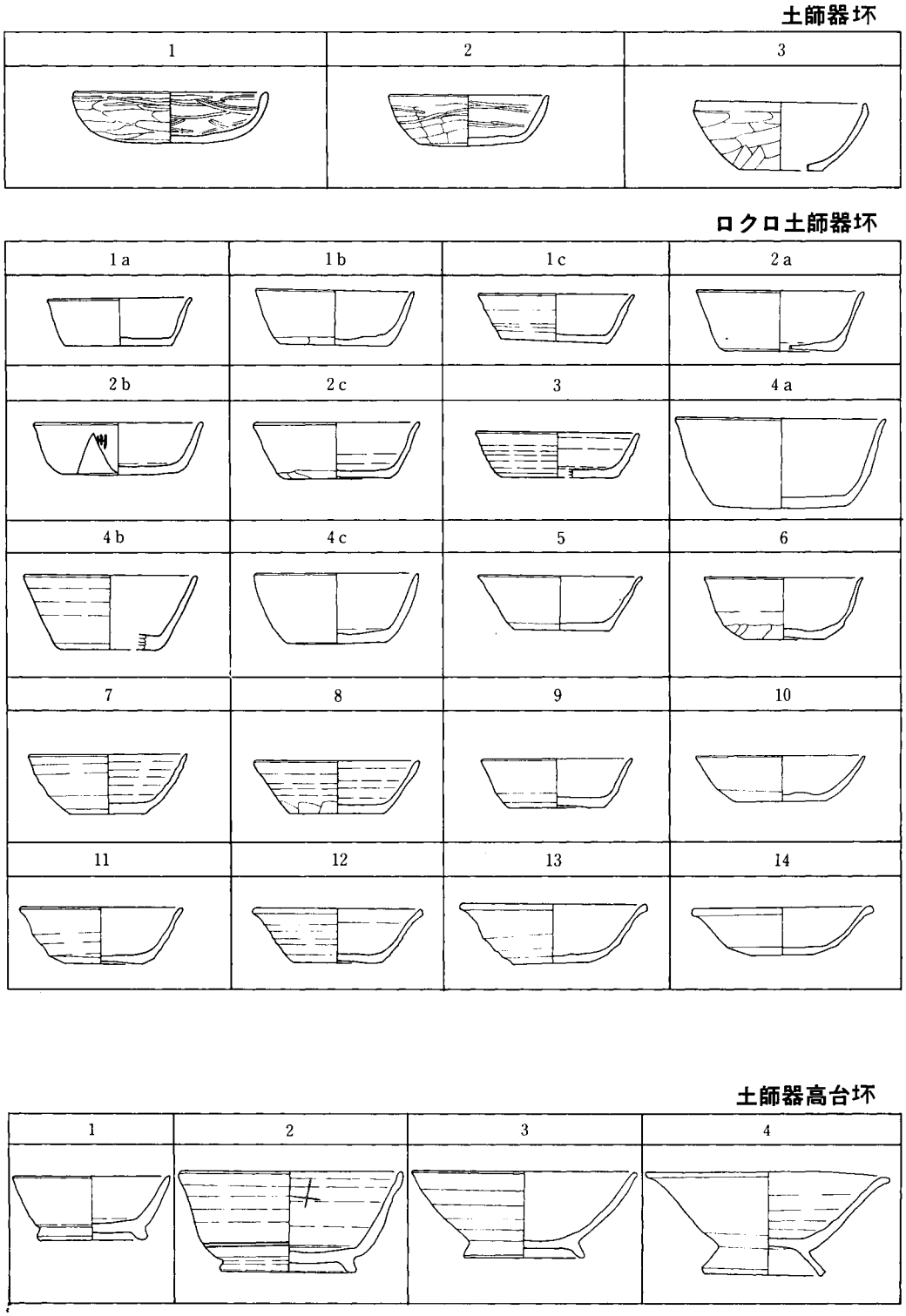
7類　やはり体部が内彎気味に立ち上がるが、体部下端及び底部は回転ヘラ削りとなる。

8類　体部は直線的に立ち上がり、体部下端及び底部は静止ヘラ削りである。

9類　口縁部が僅かに外反するもので、立ち上がりの角度は55°前後、底径と口径の比は1：1.7前後のものである。体部下端は回転ヘラ削りを施すものが多く、底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施すものが多い。

10類　体部が内彎気味に立ち上がり、立ち上がりの角度は50～53°となる。体部下端はすべて回転ヘラ削りが施され、底部は回転糸切り後、回転ヘラ削りを全面に施すものと周縁部に限るものとがほぼ同数ある。

11類　口縁部が僅かに外反するもので、立ち上がりの角度は50°前後、底径と口径の比は1：1.8前後となる。体部下端は回転ヘラ削りを施し、底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施すものが多い。




第159図　歴史時代土器の器形分類図　1

12類　口縁部が僅かに外反し、口径が13cm前後のものが多くなる。立ち上がりの角度は50°前後で、底径と口径の比は１：２前後となる。体部下端は回転ヘラ削りを施し、底部は回転糸切り後、全面回転ヘラ削りを施すものがやや多い。

13類　口縁部が大きく外反し、口径が14cmを超すものも見られる。立ち上がりの角度は48°前後で、底径と口径の比は１：2.2前後となる。体部下端は回転ヘラ削りが施され、底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施すものが圧倒的に多いが、無調整のものも見られる。

14類　口縁部が大きく外反し、口径は12cm以下のものが多くなり、非常に粗雑な製品がほとんどである。立ち上がりの角度は45°以下で、底径と口径の比はバラつきが多く、最大で１：３を超すものがある。

**ロクロ土師器皿**　皿は有高台のものと無高台のものがある。

1類　貼付け高台をもつもので、体部内面はヘラ磨きを施すものが多い。

2類　回転糸切り後、底部周縁にヨコナデを施して高台様に造り出したもので、体部内面はヘラ磨きを施すことが多い。

3類　3類以下は無高台の皿で、3類は体部が内彎気味に立ち上がるものである。

4類　口縁部が僅かに外反するものである。

5類　体部が直線的に立ち上がるものである。

6類　体部が大きく外反するものである。

**高台坏**　ロクロ調整の製品で、量的にあまり多いものではなく、高台坏が伴う時期も限られているが、器形の変化が比較的明瞭に捉えられるので分類の対象とした。

1類　口径13cm以下の小形の製品で、低い高台が付く。体部は若干内彎気味に立ち上がり、器高は4cm前後となる。なお、内面が黒色処理されたものがかなりある。

2類　口径15cm以上の大形の製品で、器高も7cm以上を測る。高台はやはり低く、口縁部が僅かに外反している。

3類　口径14cm前後を測り、体部は内彎気味に立ち上がる。高台はやや高さをもつが、あまり外方へ開かないものである。

4類　口径14cm前後を測り、口縁部が外反する所謂足高高台付き坏と称されるものである。

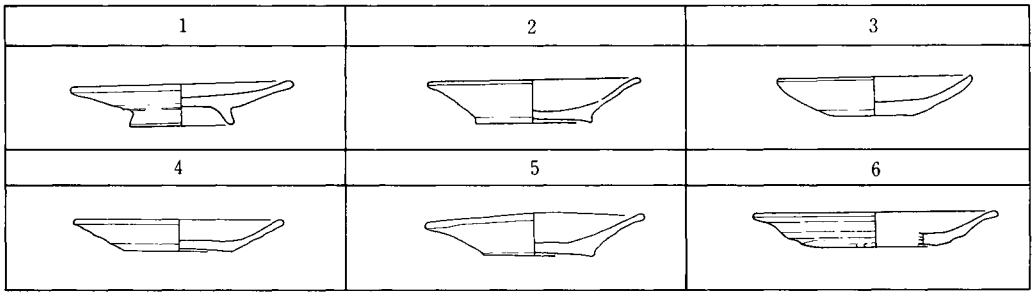
**甕**　坏とともに最も普遍的に見られる器種である。法量的に大形・小形に分けられ、各類とも前者をａ種、後者をｂ種とした。

1類　口縁部を受け口状に調整し、胴部下位に縦方向のヘラ磨きを施す常総型の甕である。

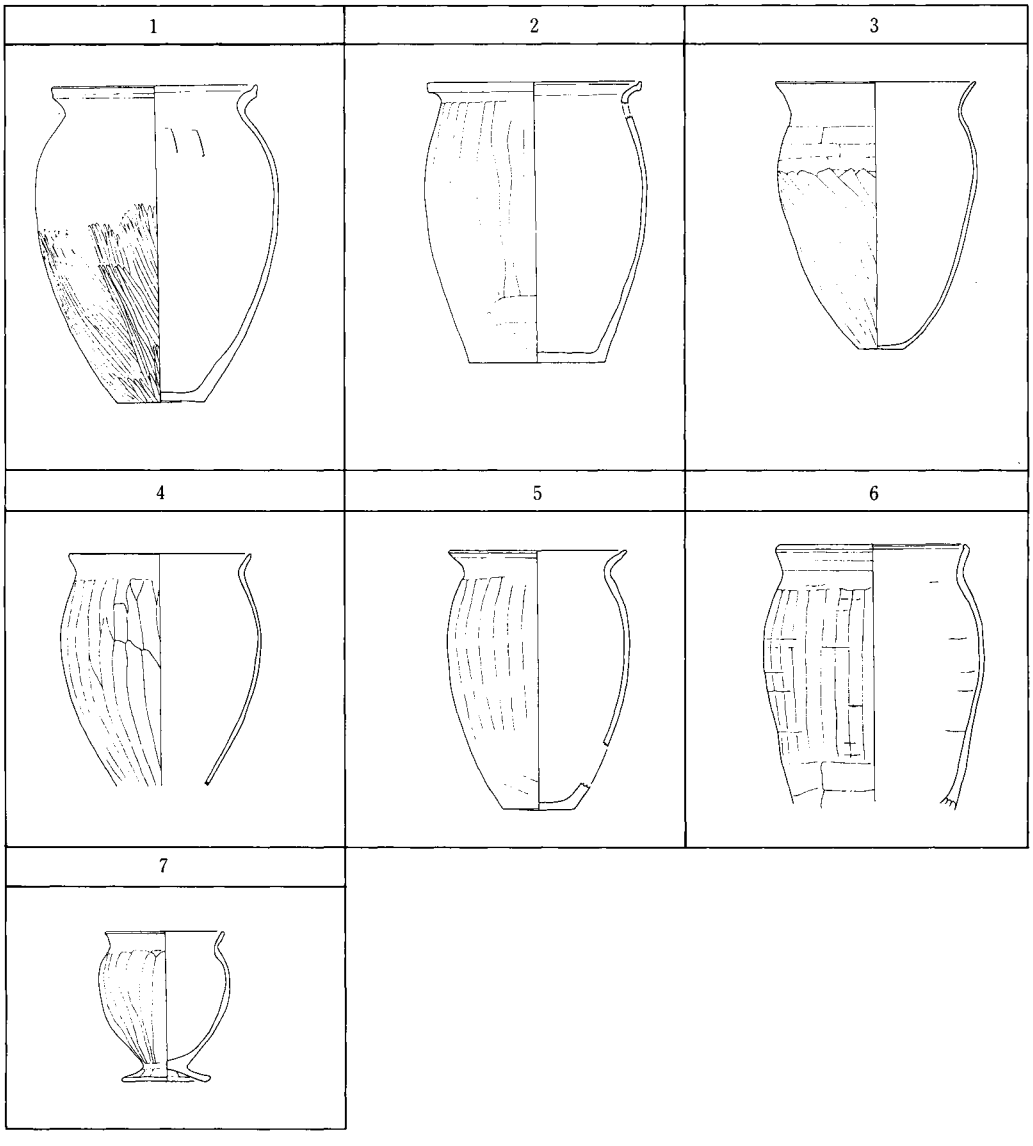
2類　口縁部を受け口状に調整し、胴部上半が縦位、下半が横位のヘラ削りを施す。

3類　非常に薄手の製品で、胴部上半が横位、下半が縦位のヘラ削りを施す武蔵型の甕である。

**ロクロ土師器皿**




**土師器甕**




第160図　歴史時代土器の器形分類図　2

4類　口唇部を丸く納めるものである。

5類　口縁部は受け口状を模したものであるが、内面にはほとんど痕跡が見られないものである。

6類　口唇部を内側へ折曲げたものである。

7類　台付きの甕である。

2　**須恵器**　須恵器は下総国内においても生産地が具体的に解明され始め、また、常陸等の国外からの搬入品も相当量確認されている。ここでは坏と甕について分類を行った。

坏　器形はもとより調整技法・胎土・色調も分類の要素となる。

1類　体部が直線的に立ち上がるもので、2種に細分した。

a種　ロクロ目が比較的明瞭で、焼成も良好な製品である。底径は8cmを超えるものが一般的で、大振りである。切り離しはすべてヘラ切りで、体部下端の調整は行わないもの、回転ヘラ削り、静止ヘラ削りともほぼ同数がある。底部は全面一方向にヘラ削りを行うものが卓越し、全面回転ヘラ削りのものも認められる。

b種　体部下端に丸みを持つもので、胎土には雲母粒や石英粒を混入することが多い。切り離しはすべてヘラ切りで、体部下端の調整は行わないものもあるが、静止ヘラ削りが多く、回転ヘラ削りを施すものは少ない。底部はa種と同様、全面一方向のヘラ削りを行うものが卓越し、全面回転ヘラ削りのものもある。

2類　土師器ロクロ坏の1類に近い器形の坏である。

a種　体部が直線的に立ち上がるもので、器高は4cm以下の製品である。切り離しはほとんどがヘラ切りで、体部下端の調整は回転ヘラ削りが圧倒的に多い。底部は全面一方向のヘラ削りを行うものと全面回転ヘラ削りを行うものがほぼ同数ある。

b種　器高が4cm前後、口径12cmの製品で、体部は直線的に立ち上がる。切り離しには回転糸切りもみられ、体部下端の調整は回転ヘラ削りが多い。底部は全面回転ヘラ削りが全面一方向ヘラ削りより優位に立つ。

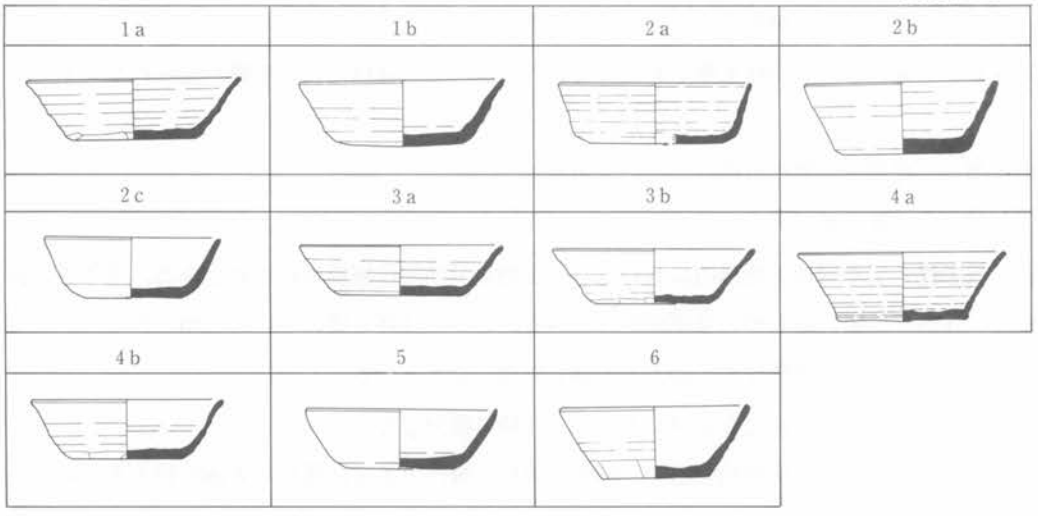
c種　体部下端に丸みを持つもので、胎土は比較的精緻である。切り離しは例外無く回転糸切りで、体部下端の調整を行わないものが多い。底部は全面回転ヘラ削りを行うものと周縁部に回転ヘラ削りを行うものがほぼ同数ある。

3類　体部は直線的に立ち上がるが、1類ほどにロクロ目は目立たないものである。また1類と比較して若干身が低く、器高は4cm以下となる。

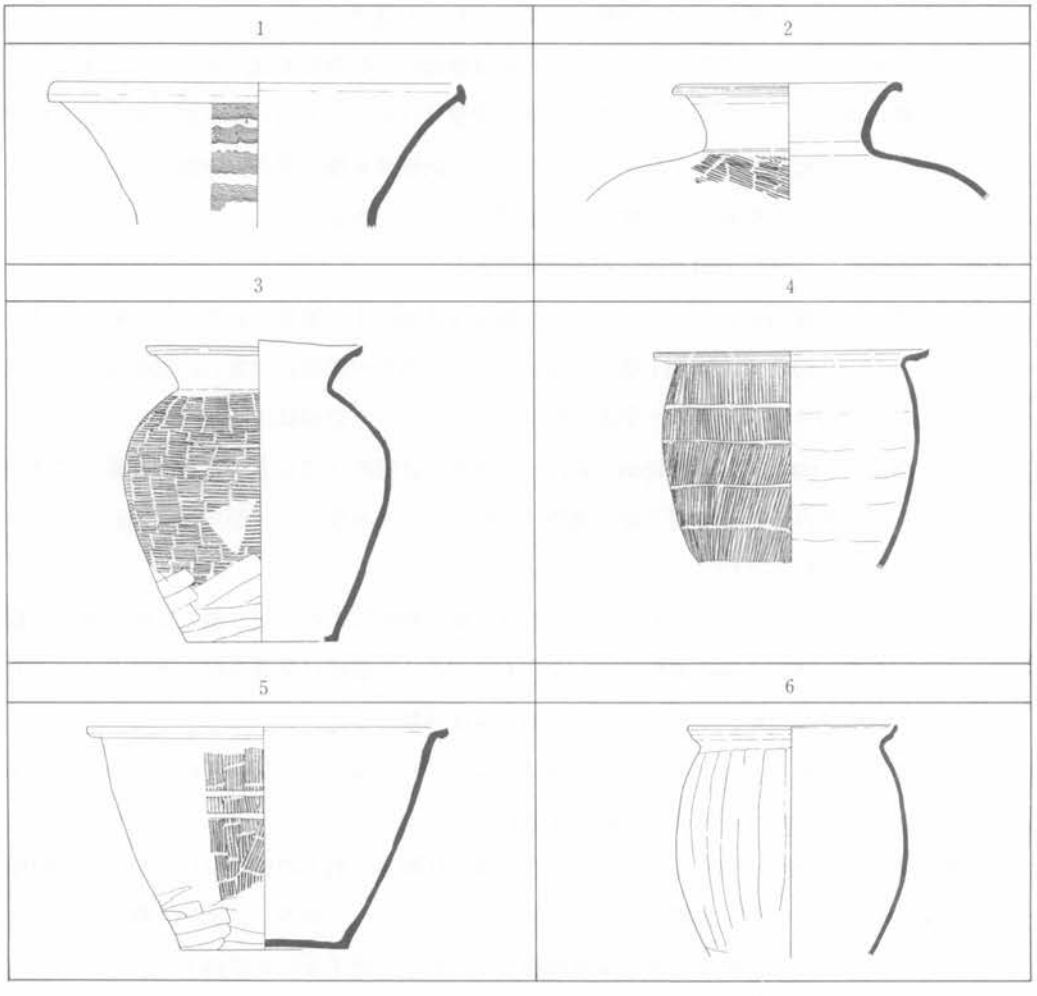
a種　体部が直線的に立ち上がるもので、1類と比較して胎土の砂粒が目立つ。1類同様すべてヘラ切りで、体部下端はヘラ削りを施さないものが多く、続いて静止ヘラ削りのものが多く見られる。底部は全面静止ヘラ削りを施すものが卓越する。

b種　口縁部が僅かに外反するもので、切り離しは回転糸切りのものもある。体部下端の

須恵器坏




須恵器甕




第161図　歴史時代土器の器形分類図 3

調整は、ヘラ削りを行わないものが僅かに多いが、回転ヘラ削り、静止ヘラ削りとも量的にあまり大きな差はない。

4類　体部が外反して立ち上がるものである。

a種　ロクロ目が比較的明瞭で、胎土に雲母粒を混入することが多い。切り離しはすべてヘラ切りで、体部下端の調整は静止ヘラ削りが優位に立つが、回転ヘラ削り、ヘラ削りを行わないものも少なくない。底部は全面一方向のヘラ削りを施すものがほとんどである。

b種　口縁部だけが大きく外反するもので、器形的には3類b種に近い。胎土は砂粒が目立ち、焼成は酸化焔となるものが多い。切り離しはヘラ切りが多く、体部下端の調整は静止ヘラ削りが卓越する。底部は全面一方向のヘラ削りを施すものが圧倒的に多い。

5類　体部が内彎気味に立ち上がるもので、量的に非常に少ない。体部下端の調整は回転ヘラ削りが多く、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施す。

6類　器高は5cmを超えるが、口径が小さいもので、小振りの製品である。

**甕**　須恵器の場合、例外無く叩きが行われ、焼成にかかわらず須恵器としての判別は可能である。しかし、一部の器形で遺存度により甑との識別が難しいものがあり、確認できる範囲内にとどめた。

1類　古墳時代の甕の系統を引くもので、大形の製品がほとんどである。口縁部は大きく開き、櫛描きの波状文を描くものが多い。口径は50cmを超え、全体形を知り得る製品は出土していない。

2類　口縁部に対して胴部が著しく大きく膨らむもので、やはり全体形を知り得る製品は出土していない。肩部には横位の平行叩きが行われている。

3類　広口の甕で、細部の相違はあるものの、一括した。胴部の叩きは縦位と横位のがあり、胴部下端はともに横方向のヘラ削りを施す。

4類　口縁部が短く、長胴を呈するものである。口縁部は受け口状となる。

5類　胴部が底部から直線的に開くもので、口縁部は受け口状となる。

6類　器形的には4類と同じであるが、胴部外面にヘラ削りを施す。

以上各器種の分類について簡単に説明したが、個々の問題点は別章にて述べることとする。

なお、本文中で使用した時期区分は次のとおりである。

0期　8世紀初頭から前半の時期で、萱田地区では、これまでに確認できていなかった時期である。

1期　8世紀中葉でロクロ土師器坏出現前の段階。北海道・井戸向I期に相当する。

2期　箱形を呈するロクロ土師器坏が出現する。8世紀後半に位置付けられ、北海道・井戸向II期に相当する。

3期　箱形を呈する坏が若干器形を崩すもので、井戸向遺跡では古・新とされている。新段階では内面黒色処理した高台坏の出現に代表される。9世紀初頭に位置付けられ、北海道・井戸向III期に相当する。

4a期　口径15cmを超す大振りのロクロ土師器坏が出現する。9世紀前半に位置付けられ、井戸向IVa期に相当する。

4b期　ロクロ土師器皿が出現する。9世紀前半に位置付けられ、井戸向IVb期に相当する。

5期　9世紀中葉に位置付けられ、北海道V・井戸向V期に相当する。

6期　9世紀後半に位置付けられ、井戸向VI期に相当する。

7期　9世紀末に位置付けられ、井戸向VII期に相当する。

8期　10世紀初頭に位置付けられ、北海道VIII期に相当する。

以上便宜的な時期設定をしたが、次に竪穴住居跡について類型化しておきたい。類型化をするに当たっては住居の規模も要因の一つに数えられるが、ここでは柱穴の配置に主眼をおいた。また、壁溝の有無は考慮に入れていない。

A型　住居対角線上に4箇所の柱穴をもつもの。

B型　住居対角線上に4箇所の柱穴を持ち、カマドと対峙する壁際に出入り口ピットをもつもの。

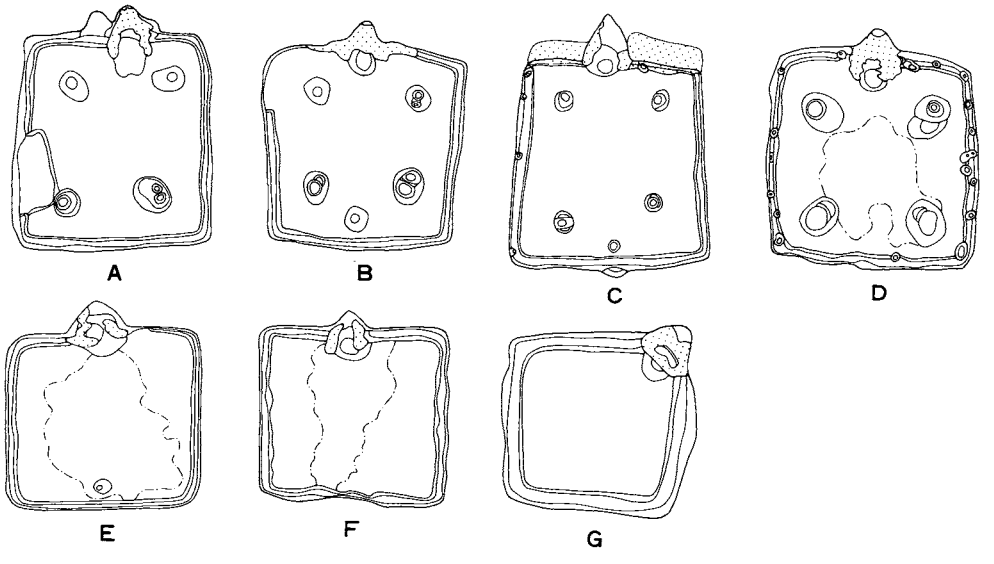
C型　カマドを設置した壁に粘土を張り付けたテラスをもつもの。

D型　基本的な4箇所の柱穴以外に壁柱穴をもつもの。

E型　基本的な柱穴はなく、カマドに対峙する壁に出入り口ピットをもつもの。

F型　柱穴、出入り口ピットとももたないもの。

G型　住居コーナーにカマドを設置するもの。



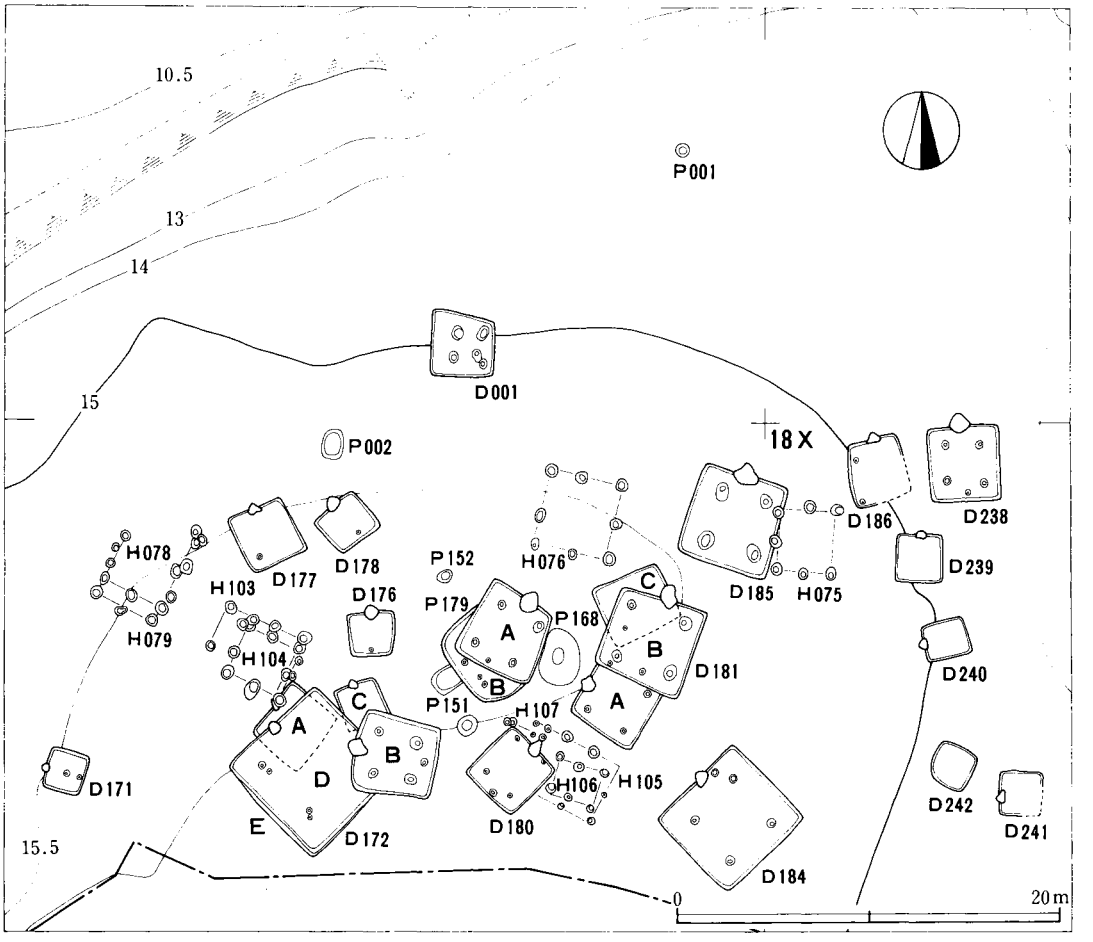

第162図　竪穴住居分類図

# 第２章　遺構と遺物

## 第１節　１群Ａグループの遺構と遺物

### １　概　観（第163図、図版37）

１群は白幡前遺跡の北端に位置し、グリッド番号の22ラインより北側の標高約15mを測る段丘中位面に当たる。１群は視覚的にWラインに沿って狭いながらも遺構の空白域が存在し、空白域東側のW18・W19グリッドの建物群も、その内部で独自の変遷をたどれることからＡ・Ｂの２グループを設定した。ここで言うグループは視覚的に建物が集まっている場合を示し、群の設定ほどの意味合いは持っていないのかも知れない。しかし、後述する２群のように、群設定をした内部において、数時期にわたって建物の方向を揃えた一角が認められるなど、僅かで




第163図　歴史時代１群Ａグループ全体図

はあるが独自性を窺うことができる。従って、無理がない限りグループとしての記述を行う。

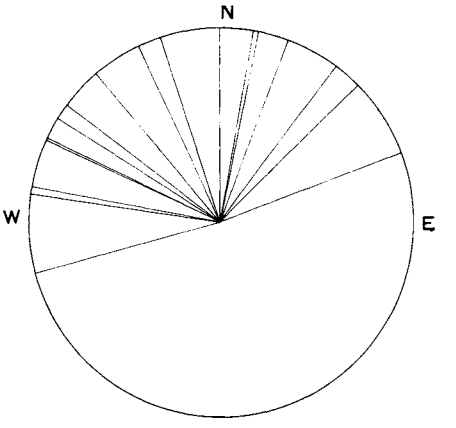
1群Aグループを構成するほとんどの建物は段丘中位面に立地し、北及び西側には寺谷津を臨んでいる。寺谷津が形成した沖積層面との比高は約7mを測り、段丘面は南に向かって徐々に高度を増している。検出した遺構は竪穴住居跡21軒、掘立柱建物跡9棟と土壙3基があり、面積的には狭いながら、白幡前遺跡においては遺構分布密度の高い地域である。1群の東側は未調査であるが、標高13～15mの段丘面がさらに広がっており、その東側に新川を臨んでいる。新川側の沖積層面との比高は5m程度で、地形的条件は調査範囲と極端に異なる要素はない。面積的には調査範囲の約4倍を有し、この部分にも相当数の遺構の存在が予想できる。

## 2　遺　構（第164図、第86・87・88表、PL. 1～15、図版37～41）

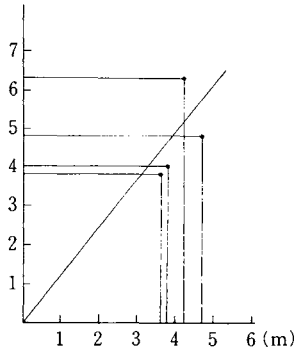
1群Aグループは古墳時代1群と位置が重複し、D172-A・B・Cは古墳時代後期の竪穴住居跡D172-D・Eを破壊している。しかし、奈良・平安時代の遺構は古墳時代後期から継続して営まれたものではなく、8世紀の中葉以降、即ち歴史時代1期にいたって新たに集落経営が開始されたものである。Aグループを構成する遺構は竪穴住居跡21軒、掘立柱建物跡9棟、土壙3基である。存続期間は8世紀後半から9世紀後半と考えられるが、歴史時代2期に属する竪穴住居は検出されていない。1群全体の傾向と比較すると開始時期については1群Bグループに0期の竪穴住居跡が存在するが、1期の開始というのは白幡前遺跡の一般的な在り方と言える。終焉時期は6期であり、1群Bグループより若干早い段階で終熄している。各期を構成する竪穴住居跡は2～3軒が基本的であり、最大でも6期の4軒である。

竪穴住居跡の規模、主軸方向は全体を通してあまり大きな規則性は見いだせず、基本的に寺谷津に面する壁にカマドを設置しているが、D179-A・D180・D181-Cのように等高線と平行する向きにカマドを設置するものもある。それぞれの主軸方向はN-69°-EからN-105°-Wを指し、大きなピークも見いだせない。建物の方向を時期別に見てもさほど規則性が窺えるわけではないが、概略として、北東方向に主軸をとるもの、北西方向に主軸をとるもの、主軸方向は別として、1箇所の壁がおおよそ北を指すものがある。また、傾向として、近い方向性を有する住居が比較的近い位置にあることが窺える。例えば、D185からD180にいたる4軒の住居は、ほぼ同じ主軸方向で並んでいる。このように微地形によって住居の主軸方向が決定されていたと考えられる。住居の規模はD185が最大で床面積は47.6m²を測り、最小はD240で床面積は約9m²となる。第164図に示したように、比較的明瞭なピークが現れる。時期ごとの床面積の変化もある程度の傾向を窺うことができ、1期はあまり確実ではないが、D171・D181Aは2期に先行する可能性が大きく、この2軒は一辺が3m強の小形の住居である。D171は住居中央にピットを持つが、基本的な形としてはカマドに対する壁際に出入り口ピットだけを設けたE型の住居である。3期はD185・D238とも一辺が5mを超すものである。柱穴は住居対角線上に4

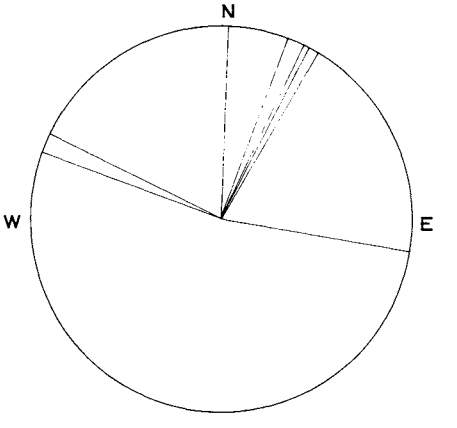
竪穴住居跡の規模




竪穴住居跡の主軸方向




掘立柱建物の規模




掘立柱建物の長軸方向

第164図　1群Aグループ建物比較

箇所を配置し、D185のものは直径1m、床面からの深さも約1mを測る。また、D238には出入り口ピットを伴い、1～4期は住居対角線上に4箇所の柱穴をもつ住居が主体的である。5期になり再び床面積は縮小し、15m²前後を平均とする。D001・D181Cは4箇所に柱穴を有し、D176・D178の2軒は出入り口ピットが伴うが、他の住居は柱穴ももっていないF型の住居となる。なお、3・4期に属するD179-A・D180・D185は壁柱穴を持つD型の住居である。住居内の施設で特に注目できるのは、D185で検出されたP5で所謂ロクロピットと呼ばれるものに酷似した構造をもっている。白幡前遺跡では土器生産が行われていた痕跡は発見されていないが、権現後遺跡では土器焼成坑の可能性がある遺構が検出されている。

カマドの設置場所は住居の主軸方向と同様、様々であるが、基本的に4方向にまとめることができる。西壁にカマドを設置するのはD171・D172-B・D240・D241の4軒で、D171・D

241は比較的古く位置付けられるが、D172-B・D240は5期の構築である。北西壁にカマドを設置するのはD172-A・C・D176・D177・D178・D181-Aの6軒で、古墳時代後期の2軒の竪穴住居跡にも一致する。これはAグループの中央より西側の住居に限られる。北壁にカマドを設置するのはD186・D238・D239の3軒でD001も北壁の可能性がある。D001は若干離れた位置にあるが、他の3軒はAグループ東端に隣接している。北東壁にカマドを設置するのはD179・D180・D181-B・C・D185の5軒でD181-Cを除いて4箇所の柱穴を持った住居である。位置的にはAグループ中央に当たる。このようにみてくると、カマドの設置場所は住居の構築時期とはあまり関係が認められず、むしろ個々の住居のグループ内の位置によって規制されているようである。

個々のカマドの状況は、D001・D186のように確認面が床面に近い住居ではカマドの遺存状態も悪く、煙道の張り出しもほとんど確認できないが、30〜40cmの張り出しを持つものが一般的で、D239は主軸方向からずれて1m近く張り出している。時期によりカマド構造に大きな変化は認められないが、比較的新しい時期に属するD172-A・D172-Cでは火床部が壁外へ移行している。

遺物はほとんどが廃棄によるもので、直接住居に伴うものは非常に少ない。住居廃絶に際して意識的に放置あるいは遺棄したと考えられる資料はD240・D241に見られる。D240ではカマド内に支脚と甕形土器を残している。支脚・甕とも正位の状態で支脚が下位に位置するが、甕の底部は欠損しており、欠損部の破片は住居内から出土していない。D241ではカマドの左側に甕4個体が放置されていた。このうち遺物実測図4・5の2個体の甕は壁に立て掛けられた状態で出土し、遺物実測図2は底部しか遺存していないが、1と共にカマド前面に近い位置に並べて置かれていた。また、D179・D185には埋土中に僅かに貝が廃棄され、D172では瓦塔の細片が出土している。

掘立柱建物跡は9棟があり、軸方向はN-20°-E前後ないしそれと直交するN-70°-W前後となる。規模が確定できない建物が多いが、2間×2間・3間×2間の側柱構造の建物が主体的で、桁行が確実に3間以上となる建物はない。桁行長はH105が6.3mを測り、桁行2間の建物ではH076が4.8mを測る。梁行長はH076が最大の4.7m、最小は1間のH106で2.4mとなる。柱間寸法は1.8〜2.4mであるが、完数尺によるものではなく、1棟の建物でも統一されていない。柱堀方は0.5〜1.2mの円形で、確認面から0.3〜0.8mの深さがある。H078・H079、H103・H104はそれぞれ同じ位置での建て替えであり、連続した使用を物語っている。時期を確定できる建物は少なく、出土遺物から見るとH076が5期以降の構築で、H078・H079・H104・H105も柱堀方から出土した僅かな土器片を見るかぎりH076に近い時期の構築の可能性が高い。竪穴住居跡との重複がある建物も竪穴住居跡との関係はあまり具体的でなく、D180→H107、H104→D172Aの前後関係が確認できているだけである。ここで明らかなのはH104とD172Aはかなり

近接した時期の構築であり、H104が先行しているということである。竪穴住居跡D172Aに先行する5期の竪穴住居はD172B・D176・D240があり、この3軒とH104は同時存在していた可能性が非常に高いと言える。また、D180→H107の前後関係からH107は5期以降に構築された可能性を指摘できる。即ち、掘立柱建物は竪穴住居と同様、一時期に2～3棟が竪穴住居と対になって存在した状況が窺える。

土壙は3基あり、P168が所謂井戸状の形態を呈している。P168はD179Aとほとんど接する位置にあり、同時存在していたとは考えられない。遺物実測図には両遺構ともロクロ土師器皿を掲載しているが、P168の皿は埋め戻しの最終段階のもので、P168はD179Aに先行するものとして間違いない。ただし、構築時期については判断する材料がなく、埋土から出土した遺物を見るかぎり9世紀前半代まで遡るものは含まれていない。なお、P168の底面からウマの遺存体が出土しており、遺存体については別項に記す。その他の土壙は小規模なもので、性格を特定することは難しいが、P002の埋土から布の残片が出土しており、土壙墓の可能性がある。

**第86表　歴史時代1群A竪穴住居一覧**

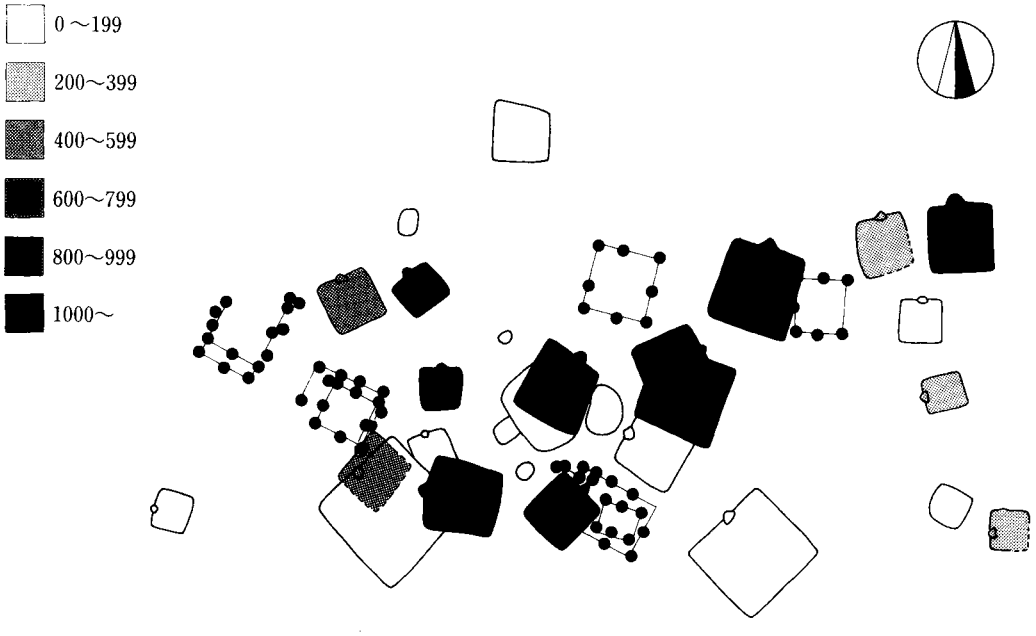
| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(㎡) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D001 | 方　形 | 4.2×4.1/3.3 | 15.54 | N－10°－E | － | なし | 4 | なし | なし | なし | 5 | |
| D171 | 方　形 | 3.1×3.0 | 9.61 | N－64°－W | 西中央 | なし | 1 | なし | 南壁寄り | 全周 | 1 | |
| D172A | 方　形 | 4.7×4.3 | 20.21 | N－53°－W | 北西中央 | なし | なし | 2 | なし | あり | 6 | |
| D172B | 方　形 | 4.9×4.5 | 22.05 | N－80°－W | 西中央 | なし | 4 | なし | 東壁寄り | 西コーナー除く全周 | 5 | |
| D172C | 方　形 | 3.0×不明 | － | N－26°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 5 | |
| D176 | 方　形 | 3.5×3.4 | 11.90 | N－0° | 北中央 | なし | なし | なし | 南壁中央 | 全周 | 5 | |
| D177 | 方　形 | 4.4×4.2 | 18.48 | N－18°－W | 北西中央 | なし | 1 | なし | なし | なし | 6 | |
| D178 | 方　形 | 3.6×3.4 | 12.24 | N－42°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | 南東壁中央 | あり | 6 | |
| D179A | 方　形 | 5.7×5.5 | 31.35 | N－38°－E | 北東中央 | なし | 4 | 6 | 南西壁中央 | 全周 | 4b | |
| D179B | 方　形 | 5.3×不明 | － | N－48°－E | － | なし | － | － | なし | なし | 4a | |
| D180 | 方　形 | 4.7×4.4 | 20.68 | N－45°－E | 北東中央 | なし | 4 | 5 | 南西壁中央 | 北コーナー除く全周 | 4b | |
| D181A | 方　形 | 5.0×不明 | － | N－57°－W | 北西中央 | なし | 4 | なし | 南東壁寄り | 全周 | 1 | |
| D181B | 方　形 | 6.1×6.1 | 37.21 | N－21°－E | 北東中央 | なし | 4 | 6 | 南西壁寄り | 全周 | 4a | |
| D181C | 方　形 | 5.2×5.1 | 26.52 | N－69°－E | 北東中央 | なし | 4 | なし | なし | あり | 6 | |
| D185 | 方　形 | 7.0×6.8 | 47.60 | N－11°－E | 北中央 | なし | 4 | 18 | なし | 全周 | 3 | 所謂ロクロピット有り。 |
| D186 | 方　形 | 4.8×3.6 | 17.28 | N－0° | 北中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 1 | |
| D238 | 方　形 | 5.5×5.1 | 28.05 | N－0° | 北中央 | なし | 4 | 2 | 南壁中央 | 全周 | 3 | |
| D239 | 方　形 | 3.3×3.2 | 10.56 | N－0° | 北中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | | |
| D240 | 方　形 | 3.1×2.9 | 8.99 | N－105°－W | 西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 5 | |
| D241 | 方　形 | 3.2×不明 | － | N－82°－W | 西中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 3 | |
| D242 | 方　形 | 3.2×3.1 | 9.92 | N－65°－W | － | なし | なし | なし | なし | あり | | |

## 第87表　歴史時代１群Ａ掘立柱建物一覧

| No | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H075 | 2×2 | 側柱 | 4.0 | 3.8 | 1.9～2.0 | 15.2 | 0.8～1.0 | 0.5 | N－2°－E | なし | | D185と重複。 |
| H076 | 2×2 | 側柱 | 4.8 | 4.7 | 2.0～2.4 | 22.56 | 0.7～0.9 | 0.5～0.6 | N－80°－W | なし | 6 | |
| H078 | 2以上×2 | 側柱 | 4.5以上 | 4.1 | 2.0 | － | 0.6～1.0 | 0.4～0.5 | N－27°－E | なし | | H079と同じ場所での建て替え。 |
| H079 | 3以上×2 | 側柱 | 6.0以上 | 4.3 | 2.1 | － | 0.6～1.0 | 0.3～0.5 | N－30°－E | なし | | |
| H103 | 3以上×1以上 | 側柱 | 5.3以上 | 2.8以上 | 1.8～2.8 | － | 0.6～1.0 | 0.4～0.8 | N－70°－E | なし | | H104と同じ場所での建て替え。D172Aと重複。 |
| H104 | 2×2 | 側柱 | 3.8 | 3.6 | 1.8 | 13.68 | 0.6～1.2 | 0.4～0.7 | N－64°－W | なし | 6以前 | |
| H105 | 3×2 | 側柱 | 6.3 | 4.2 | 2.1～2.3 | 26.46 | 0.5～0.8 | 0.3～0.5 | N－20°－E | なし | | H106・107と重複。D180と重複。 |
| H106 | 2以上×1 | 側柱 | 3.0以上 | 2.4 | 1.5 | － | 0.6～0.7 | 0.4～0.5 | N－20°－E | なし | | H105・107と重複。D180と重複。 |
| H107 | 1以上×1以上 | 側柱 | 2.2以上 | 1.2以上 | 1.2～2.2 | － | 0.7～0.9 | 0.5 | N－25°－E | なし | 6以降 | H105・106と重複。D180と重複。 |

## 第88表　歴史時代１群Ａ土壙一覧

| No | プラン | 規　模 | 深さ | 軸方向 | 機　能 | 時期 | 埋土の状況 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P001 | 円　形 | 直径1.0 | 0.4 | － | 不　明 | 7 | 上層で焼土粒を多く含む。 | 遺物は最上層から出土。 |
| P002 | 方　形 | 2.1×1.5 | 1.2 | N－3°－W | 土壙墓 | 7 | 全体に炭化物の混入が多い。 | |
| P151 | 方　形 | 不明×1.7 | 0.4 | N－62°－E | | | | D179と重複。 |
| P152 | 円　形 | 直径1.0 | 0.3 | － | | | | |
| P160 | 方　形 | 1.3×1.2 | 0.3 | N－46°－E | | | | |
| P168 | 円　形 | 直径3.6 | 2.3 | － | 井　戸 | | 僅かに貝が廃棄される。 | 底面から人骨、ウマの遺存体出土。 |




第165図　歴史時代１群Ａ遺物の出土量図

### 3　遺　物（第165図、第89～114表、PL.16～39、図版42～53）

竪穴住居跡から出土した遺物は、先にも触れたようにほとんどが廃棄されたもので、住居に

直接伴うことが確認できた遺物は皆無に近い。竪穴住居から出土した遺物総点数は約30,000点に及び、他の群と比較しても遺物量は格別に多い。破片総数1,000点以上を数える住居もD172B・D176・D178・D179A・D180・D181B・D181C・D185・D238の9軒があり、その内訳は3期2軒、4a期1軒、4b期2軒、5期2軒、6期2軒となる。1,000点以上の遺物を出土した住居は3期以降の各時期に存在し、特定の遺物廃棄の場としてこれらの住居が選択されたと考えられる。白幡前遺跡の竪穴住居跡の床面積1㎡当りの遺物出土点数の平均は約25点であるが、これらの住居は90～100点の遺物が出土している。なお、1群Aグループでの平均出土点数も他の群と比較してかなり多く、約56点となる。

**D001**　住居の遺存状態が悪く遺物も少ない。ロクロ土師器坏は体部が外反して立ち上がるもので、立ち上がりの角度は49°となる。体部外面に墨書が行なわれるが、釈文は不明である。他に土師器甕と須恵器坏を図示したが、いずれも底部の破片である。

**D171**　土師器坏はロクロ土師器坏を伴っておらず、埋土の上層からロクロ未使用の坏が出土している。須恵器坏は床面に近い位置から出土しているが、若干の散乱が認められる。底部はヘラ切り後、全面一定方向のヘラ削りを施している。甕はカマド周辺から出土したものある。

**D172**　古墳時代後期の竪穴住居跡も含めて5軒の住居が重複しているため、全体の遺物はかなり多い。遺物は基本的に出土位置を基に各住居に帰属させたが、古墳時代の住居跡D・Eの埋土から出土した遺物は最後に一括した。

**D172-A**　ロクロ土師器坏は体部の外傾の度合いが少ない1と口縁部が大きく外反する6がある。この中で、4・5はカマド内から出土しており、住居の廃絶に近い時期の所産と思われる。5の体部外面には「生」と墨書されている。ロクロ土師器皿は2点とも無高台で、8は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施している。9は回転糸切り無調整である。須恵器の坏は蓋を含めて土師器より古い様相を呈している。10は箱形に近いもので、体部の立ち上がりの角度も約60°となる。蓋は天井部が平坦で、器高も3cm以下に納まる偏平な製品である。土師器の甕は口縁部が受け口状を呈する小形の製品である。鉄製品は鉄鏃がある。

**D172-B**　A・B・Cの3軒の住居跡の中では最も遺物の量が多い。実測可能な個体はおおよそ埋土の上層から出土したものと、床面に近いレベルから出土したものがある。床面に近いレベルから出土したものも散逸した状況が窺え、基本的には住居廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。また、床面に近いレベルから出土した個体と埋土の上層から出土した個体に大きな違いは認められない。ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がるものと、口縁部が僅かに外反するものがある。また、12はあまり開かない低い高台が付く。ロクロ土師器皿は高台付きの製品が主体的で、ロクロ土師器坏と合わせて墨書・線刻された個体がかなり多い。釈文は「提生」・「生堤」・「生」・「入」・「冨」・「大」となる。土師器甕は大小がある。いずれも口縁部が受け口状を呈するもので、42は胴部のかなり上位まで横位のヘラ削りが施されている。須恵器甕・甑

は欠損部分が多い。

39は土師質で、表面は緻密なヘラ磨きが施されている。その形状から風字硯と考えられ、その他に須恵器坏の底部内面を利用した転用硯が1点ある。また、Dの埋土から須恵器の風字硯が出土している。鉄製品は刀子・鉄鏃がある。

**D172-C**　Cから出土した遺物は非常に少なく、時期決定は不可能である。1はロクロ土師器坏の底部で内外面に線刻されている。3はカマド内から出土したもので、カマド支脚として利用されていた。全面に火熱を受け脆弱となっているが、各面とも丁寧に整形されて整った直方体を呈している。本来支脚として製作されたものではないようだ。形状から石製の磚が考えられる。

このほかに古墳時代後期の住居跡D・Eの埋土から出土した遺物が若干ある。土師器甕は胴部上半に横位のヘラ削りを施す甕である。また、6は前述した風字硯で、硯面の摩滅は著しい。2は須恵器甕の破片を利用した転用硯である。

**D176**　ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するものが主体的で、体部の立ち上がりの角度は50～55°となる。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施すものがほとんどであるが、1は底部、体部下端とも静止のヘラ削りである。ロクロ土師器皿は有高台と無高台の2者があり、無高台のものは内面に黒色処理を施している。ロクロ土師器坏・ロクロ土師器皿とも墨書されたものが多く、釈文は「継」・「貞」・「生」・「大田」・「入」・「堤」・「㋐」となる。土師器甕は大小揃うが、小形の製品は口縁部を欠損している。大形の製品は口縁部を受け口状に調整するが、内面はあまり意識されなくなっている。須恵器は甕・甑がある。甑は底部だけの遺存で、5孔である。甕は口縁部を欠損しているが、胴部は張りがあり、2類となる。鉄製品は刀子がある。

**D177**　ロクロ土師器坏4点が図示できた。1～3はともに粗雑な調整の製品で、体部の立ち上がりの角度は45°前後となる。1・2は底部・体部下端とも静止のヘラ削りである。4は底部の破片で、内面に「継」と墨書されている。鉄製品は鎌がある。

**D178**　ロクロ土師器坏は口縁部の外反が強くなり、6は体部の調整が非常に粗雑である。体部の立ち上がりの角度は45°前後で、底径と口径の比は1：2を超える。2・3・6はカマド内から出土しており、2・6は完形ないし完形に近い状態で遺存していた。ロクロ土師器皿は既に見られなくなり、灰釉の椀が伴っている。土師器甕は大小揃っており、ともに口縁部を受け口状に調整している。須恵器は甕と甑があり、甕は胴部に張りがある。鉄製品は刀子・紡錘具がある。

**D179**　2軒の住居が重複しているが、Bに帰属する遺物は42の1点しかない。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するものも含まれているが、主体的なのは体部が直線的あるいは若干内彎気味に立ち上がるものである。立ち上がりの角度は50～55°で、60°近い製品もある。6・20は

カマド内から出土している。また、法量的に坏より大きい鉢があり、25は内面に黒色処理を施している。須恵器坏は高台坏を含め8点が図示できた。高台坏を除くと他は酸化焔焼成に近い焼成で、底部・体部下端とも静止のヘラ削りを施している。坏・ロクロ土師器皿類には墨書・線刻されたものが多く、釈文は「生」・「堤」・「提」・「大」となる。甕・甑は須恵器が圧倒的に多く、3類・4類がある。なお、40の土師器甑は円筒形の器形を呈し、刷毛調整の後にヘラ削りを施している。鉄製品は刀子・鎌・穂積具・鉸具がある。

D180　ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がるものと、口縁部が僅かに外反するものがある。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施し、体部下端は例外無く回転ヘラ削りを行う。なお、9・17・20は内面に黒色処理を施している。ロクロ土師器皿はすべて有高台で、内面にヘラ磨きを行っている。ロクロ土師器坏・ロクロ土師器皿ともに墨書・線刻されたものが多く、釈文は「生堤」・「入」・「継」・「㋕」・「寺」・「奉」となる。なお、5・30はカマド内から出土している。土師器甕は大小揃っており、大形の製品は1類と2類がある。小形の製品はすべて2b類である。鉄製品は刀子がある。

D181　A・B・Cの3軒の住居跡が重複しており、出土位置から住居への帰属を行った。

A　3軒の中で最も古く位置付けられる住居である。土師器の坏は伴っておらず、坏はすべて須恵器である。1～3は口縁部が僅かに外反するもので、1・2は底部全面に回転ヘラ削りを施している。甕は3類がある。須恵器の長頸瓶は肩部に稜を形成するものである。

B　Bはかなりの部分をCに破壊されているため、遺物の量は比較的少ない。また、位置的にBから出土した遺物は時期的にも幅があり、Bの廃絶時期を具体化することはできなかった。土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がり平底となるもので、体部は内外面とも横位のヘラ磨きを施している。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するもので、「堤」の墨書のある底部、8の灰釉陶器ともにCからの混入の可能性が高い。土師器甕は1類と3類がある。なお、14は須恵器甕の胴部を利用した転用硯である。

C　Cは3軒の住居跡の中で最も新しい構築である。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するものが主体的で、底部は回転糸切り、後全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。体部下端は例外無く回転ヘラ削りを施している。ロクロ土師器坏・ロクロ土師器皿には墨書・線刻されたものが多く、釈文は「生」・「有」・「堤」となる。甕は38が口縁部を欠損するが、31・32は受け口状に調整された口縁部を呈している。なお、本住居からは21・26・34の灰釉陶器、33の緑釉陶器が出土している。

D185　土師器坏は1～3類が揃っている。ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がる5類も含まれるが、主体となるのは1類c種である。底部は回転糸切り無調整の製品と全面回転ヘラ削りを施した製品がある。坏以外には盤・蓋がある。須恵器の坏は量的にかなり多く、土師器坏・ロクロ土師器坏を上回る。体部は直線的に立ち上がるものが多く、僅かに2類・6類が含

まれる。須恵器は他に高台坏・高坏・蓋がある。高坏は脚部の破片で四方に透かしがある。また、蓋は内面にかえりの痕跡を残すものである。坏類は墨書・線刻されたものが多く、釈文は「生」・「提生」となる。土師器甕は1類のほかに口唇部を丸く納める4類・5類がある。須恵器は2類・4類がある。なお、D185は埋土中に貝が廃棄されていた。ハマグリは殻長が3cm以下の小形のものである。鉄製品は刀子・鉄鏃・釘がある。

| | | |
|---|---|---|
| ハマグリ | *Meretrrix lusoria* | 6 |
| アサリ | *Ruditapes philippinarum* | 1 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | 22 |

**D186**　遺物の量は非常に少なく、土師器の坏類は図示できるものがない。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がり、底部はヘラ切り無調整である。

**D238**　ロクロ土師器坏は1類b種・5類がある。6～8は非常に小形の製品で、体部はロクロ調整、底部は回転糸切り無調整である。4・5は体部外面に墨書されている。須恵器坏は2・4類があ、11の底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施している。土師器甕は1類と3類がある。鉄製品は鉄鏃がある。

D240　カマド内からロクロ土師器坏1・土師器甕13が出土している。ロクロ土師器坏は僅かに口縁部が外反するものが主体的で、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施し、体部下端は例外無く回転ヘラ削りを行っている。なお、5・6は墨書されている。5は横位に「生」、6は2箇所に「入」となる。ロクロ土師器皿は3点とも有高台で、内面にヘラ磨きを施す。土師器甕は口縁部を受け口状に調整する2類で、すべて大形の製品である。鉄製品は鎌がある。

**D241**　坏類は実測可能なものがない。甕類はカマド左側に放置された状態で出土している。土師器甕は1類のほかに台付きの7類がある。須恵器甕は底部の破片で、底面に焼成前に「山」のヘラ描きがある。

**P001**　ロクロ土師器坏1点が図示できた。口縁部は大きく外反し、体部の立ち上がりの角度も48°となる。

**P002**　ロクロ土師器坏は口縁部が外反するものが主体的で、立ち上がりの角度は50°前後となる。4～7は体部外面・底部内外面に墨書され、釈文は「生」・「草」・「土垸」となる。

**P168**　土師器ロクロ坏は僅かに口縁部が外反し、立ち上がりの角度は48°前後となる。2～4は体部外面に「生」と墨書される。須恵器坏は器高が5cm近い6類で、底部・体部下端とも静止のヘラ削りである。なお、本土壙底面から出土したウマの遺存体については別項に記す。また、埋土中に廃棄された貝は以下のとおりである。ハマグリは殻長5cm前後のものがほとんどである。

| | | |
|---|---|---|
| ハマグリ | *Meretrrix lusoria* | 206 |

| | | |
|---|---|---|
| カガミガイ | *Dosinorbis* (*Phaoosoma*) *japonicus* | 2 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | 20 |

以上、各遺構の遺物を概観したが、次に時期の変遷を追ってみる。1期はD171・D181Aが該当し、ともに遺物量は少ない。D171ではロクロ土師器坏を伴っておらず、埋土の上層からロクロ未使用の坏が出土している。D181Aは須恵器坏が卓越し、また、長頸瓶は肩部に稜を形成するものがある。D181A出土の須恵器はいずれも口縁部が僅かに外反し、底部はヘラ切り後1・2に全面回転ヘラ削りを施している。土師器甕はD171で1類が、D181Aで3類が出土している。

2期の遺構は確認できず、3期はD185・D238の2軒が該当する。D241は時期決定の資料はないが、台付甕の存在から3～4期に位置づけられよう。D185では須恵器の坏が量的にかなり多く、土師器坏・ロクロ土師器坏を上回る。ロクロ土師器坏は1類C種が主体となるが、箱型の器形はかなり崩れている。遺物実測図9・10は体部下端に丸みをもち、白幡前遺跡では希少な存在である。D238のロクロ土師器坏はD185ほど崩れたものではなく、1類b種が主体となる。なお、灯明皿様の小形の坏が3点出土している。甕はD185が豊富で、土師器甕は1・2・3・4類を伴い、須恵器甕は2・3・5類があり、D185出土の50は内面の同心円文を残している。D185は出土遺物が多いこともあって、器形が豊富で、この他に土師器盤、須恵器坏蓋、高台坏、高坏、瓶子がある。坏蓋は内面のかえりが退化した様相を呈している。なお、3期に入り墨書土器がみられるようになり、「王」・「提王」がある。

4期はロクロ土師器皿の存在によってa・bの小期を設定してある。4a期はあまり具体的ではなく、D181B・D241が3期ないし4期に属する可能性があり、D179Bは4b期に属するD179Aに先行することから4a期として捉えた。4b期はD179A・D180が該当する。ロクロ土師器坏は体部が直線的あるいは若干内彎気味に立ち上がるもので、立ち上がりの角度は55°前後となる。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施し、体部下端は例外無く回転ヘラ削りを行っている。また、内面黒色処理した製品も目立ってくる。ロクロ土師器皿はすべて有高台で、内面にヘラ磨きを行っている。D179Aでは須恵器坏も多く出土し、D185から出土した製品と比較して若干口縁部が外反する。土師器甕はD180から多く出土し、1・2類が主体的で、2類の小形の製品も目立つ。須恵器甕はD179が多く、3・4類が主体となる。遺物実測図41は胴部横位の叩きである。なお、この時期には墨書土器の量もかなり増加している。

5期はD172B・D176・D240の3軒が該当し、D001も5期に含まれる可能性が高い。ロクロ土師器坏は口縁部が外反する10類が主体的で、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施す製品が多いが、底部、体部下端とも静止のヘラ削りの製品も僅かに含まれ

る。体部の立ち上がりの角度は50～55°となる。ロクロ土師器皿は有高台・無高台ともに見られるが、やはり有高台の製品が卓越し、内面にヘラ磨きを施すものが多い。土師器甕はほとんどが2類で、これまで主体的であった1・3類は伴わない。また、2類の甕もD176の出土土器に見るように底径の大きい製品が登場する。須恵器甕は基本的に3・4類が主体となる。なお、墨書土器の量は飛躍的に増加する。

6期はD172A・D177・D178・D181Cの4軒が該当する。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反し、底部は回転糸切り後、回転ヘラ削りを施す製品とともに回転糸切り無調整の製品も含まれる。体部の立ち上がりの角度は50°以下となる。ロクロ土師器皿は粗雑な調整の製品が多く、D172A・D181Cの出土例は無高台である。また、須恵器坏はほとんど見られない。土師器甕はほとんど2類である。墨書土器の量は減少し、灰釉陶器を伴う。灰釉陶器は皿・椀・耳皿がある。

金属製品は他の群と比較して多く、刀子・鉄鏃・穂積具・鎌・紡錘具・釘・やっとこ・銙帯がある。量的に多いのは刀子で、紡錘具も石製・土製の製品を含めて多い。銙帯はD179から鉸具が、D180から丸鞆が出土している。この他D179からやっとこが出土しているが、白幡前鉸跡では、この1例だけである。時期的に種類の偏りはないが、銙帯は2例とも4b期の所産である。

埋土に貝が廃棄された遺構はD185・P168の2箇所で、P168は土壙底面からウマの遺存体とともに僅かに人骨が出土している。廃棄された貝の量はともにあまり多くないが、D185ではシオフキを主体とし、殻長3cm以下の小形のハマグリ・アサリが僅かにみられた。P168では殻長5cm前後のハマグリを主体とし、シオフキと若干のカガミガイがみられた。

以上遺物を概観したが、墨書土器について簡単に触れておきたい。1群Aグループで見られた墨書は記号も含めて20種類を超す。本グループに墨書土器が出現するのは、ロクロ土師器坏が箱形の器形を若干崩し始めた3期の段階で、D185が該当する。その後墨書土器の量は急激に増加するが、集落の終焉時期に近いD177・D178では基本的に墨書土器を持たないようである。D185で見られる墨書は「提至」・「至」である。「至」は則天文字であるが、「至」の墨書が見られるのはD181・D185の2軒でD185が主体的である。しかし、用例を見ると他の住居で出土した「提生」と共通するものであり、「至」本来の意味合いを持たせていたか疑問もある。ただし、D185からは「生」・「提生」は出土しておらず、時期的にみれば、「提至」・「至」が「提生」・「生」に先行することは興味深い。また、「提」の字は手偏と土偏が用いられているが、D185出土の「提」は手偏である。「生」は非常に多く、白幡前遺跡各群に共通する文字である。字体は「生」と「<u>す</u>」があり「生」が古く位置付けられる。時期的には4期から6期にわたって書かれ、白幡前遺跡1群が中心となる文字である。しかし、ほぼ同時期に北海道遺跡・権現後遺跡にも見られ、権現後遺跡では白幡前遺跡1群Aを上回る点数が書かれている。「生堤」・「提生」は同義

であろうが、「生堤」は本グループだけにしか見られない。「生」・「提生」・「生堤」は「⿰生土」・「提⿰生土」に続いて出現し、「提生」・「生」は6期まで残り、また、「堤」1字の例もある。5期は最も多くの墨書が書かれる時期で、字種も多い。「㊉」・「冨」・「入」等各群に共通する文字が多くあるが、これら3文字は井戸向遺跡・北海道遺跡から客体として入ったものである。なお、D180の「寺」・「奉」は同一個体の底部内外面に分けて書かれている。

硯はD172から風字硯が出土しているほか、D181B・D172B・D181Cから須恵器甕の破片を利用した転用硯が出土している。

### 第89表　D001出土遺物一覧

| 番号 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎土 | 色調 | ロクロ | 遺物番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 6.0 | 4.5 | 60 | 砂粒 | 明褐色 | 右 | 24 | 墨書 |
| 2 | 須恵器坏 | — | 8.0 | — | 底部 | 砂粒 | 青灰色 | 右 | 85 | |
| 3 | 土師器甕 | — | 7.0 | — | 底部 | 砂粒 | 赤褐色 | | 16 | |

### 第90表　D171出土遺物一覧

| 番号 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎土 | 色調 | ロクロ | 遺物番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 13.5 | — | 3.6 | 完形 | 砂粒 | 暗褐色 | | 22 | |
| 2 | 須恵器坏 | 12.3 | 7.0 | 3.6 | 50 | 石英・雲母粒 | 灰色 | | 47、48、50、51、63 | |
| 3 | 土師器甕 | — | — | — | 40 | 石英粒 | 褐色 | | 41、45 | |

### 第91表　D172A出土遺物一覧

| 番号 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎土 | 色調 | ロクロ | 遺物番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.2 | 4.3 | 50 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 1317、1477、2270 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 6.8 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 左 | 2800、2830 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 16.6 | 9.6 | 5.5 | 30 | 雲母粒 | 橙色 | 右 | 511、624 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 15.9 | 8.0 | 4.8 | 40 | 雲母粒 | 褐色 | 左 | 2804 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.7 | 7.0 | 3.8 | 40 | 雲母粒 | 橙色 | 右 | 2807 | 墨書「生」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 15.5 | — | — | 40 | 雲母粒 | 暗褐色 | 左 | 1346、1426、2271、2315 | 黒色処理 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明黄褐色 | | 436 | 墨書「生」 |
| 8 | ロクロ土師器皿 | 13.7 | 7.9 | 3.1 | 70 | 雲母粒 | 明褐色 | | 2799 | 内面ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器皿 | 13.4 | 6.6 | 2.8 | 70 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 左 | 398、438、439、440、447 | |
| 10 | 須恵器坏 | 13.4 | 9.7 | 4.4 | 30 | 雲母・石英粒 | 灰色 | | 1606、1981、2037 | |
| 11 | 須恵器坏 | 12.0 | 7.2 | 3.8 | 30 | 雲母・石英粒 | 灰色 | | 2093、2130 | |
| 12 | 須恵器蓋 | 17.6 | — | 2.8 | 30 | 石英粒 | 青灰色 | | 100、109、172、1415 | |
| 13 | 土師器甕 | 11.2 | — | — | 口縁30 | 長石粒 | 赤褐色 | | 1695、1752、2455 | |

### 第92表　D172B出土遺物一覧

| 番号 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎土 | 色調 | ロクロ | 遺物番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 7.0 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 暗赤褐色 | 左 | 27 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.0 | 4.1 | 50 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 999 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.7 | 3.8 | 50 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 528 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 5.6 | 3.9 | 80 | 雲母粒 | 褐色 | 右 | 2209、2421、2429、2487 | 静止ヘラ削り |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 6.3 | 4.1 | 完形 | 雲母粒 | 赤褐色 | 左 | 2679 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.7 | 3.5 | 完形 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 2205 | 墨書「廿」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 11.0 | 5.4 | 3.8 | 80 | 雲母粒 | 橙色 | 右 | 2664 | 墨書「生」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.1 | 3.9 | 40 | 砂粒 | 褐色 | 左 | 621、2216 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 4.7 | 4.2 | 20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1300、2115 | 墨書「生堤」 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.6 | 3.9 | 70 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 2664 | 墨書「入」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 7.7 | 5.5 | 完形 | 雲母粒 | 黒 褐 色 | 右 | 710 | 黒色処理 |
| 12 | 土師器高台坏 | 16.8 | 8.7 | 6.5 | 60 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | 右 | 779、1677、2196、2669 | 内面ヘラ磨き |
| 13 | ロクロ土師器皿 | 13.1 | 5.5 | 3.7 | 80 | 長石粒 | 暗 褐 色 | | 1940、1967 | 線刻、内面ヘラ磨き |
| 14 | ロクロ土師器皿 | 12.8 | 6.9 | 2.9 | 90 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 272 | 墨書「提生」 |
| 15 | ロクロ土師器皿 | 13.1 | 6.5 | 2.6 | 60 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 2652 | 墨書「入」 |
| 16 | ロクロ土師器皿 | 14.4 | 6.3 | 3.3 | 30 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 1050、2104 | 内面ヘラ磨き |
| 17 | ロクロ土師器皿 | 13.3 | 6.3 | 2.8 | 60 | 長石粒 | 褐　色 | 右 | 1093、1103 | 内面ヘラ磨き |
| 18 | ロクロ土師器皿 | 13.7 | 5.2 | 2.0 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 352 | |
| 19 | ロクロ土師器皿 | 15.4 | 5.8 | 3.0 | 30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 2808 | 墨書「生ヵ」 |
| 20 | ロクロ土師器皿 | 13.8 | — | — | 50 | 長石粒 | 褐　色 | | 1200、1216 | 内面ヘラ磨き |
| 21 | ロクロ土師器坏 | — | 6.7 | — | 底部 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 30 | 墨書「生」 |
| 22 | ロクロ土師器坏 | — | 6.4 | — | 底部 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 1096 | 墨書「生」 |
| 23 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 1584 | 墨書「生堤」 |
| 24 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 2407 | 墨書「生堤」 |
| 25 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 926 | 墨書「生堤」 |
| 26 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | | 1509 | 墨書「生堤」 |
| 27 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 864 | 墨書「生堤」、線刻 |
| 28 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 1113 | 線刻、27と同一個体 |
| 29 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 919 | 墨書「堤生」 |
| 30 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 1679 | 墨書「提生」 |
| 31 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 48、291 | 墨書「提生」、黒色処理 |
| 32 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 1815 | 墨書「堤」 |
| 33 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 1585 | 墨書「堤」 |
| 34 | ロクロ土師器坏 | — | 7.2 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 689、1850 | 墨書「太」 |
| 35 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 長石粒 | 暗 褐 色 | | 2509 | 墨書「太」 |
| 36 | ロクロ土師器坏 | — | 6.8 | — | 底部50 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 1528 | 墨書「冨」 |
| 37 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 1815 | 墨書「廓ヵ」 |
| 38 | 灰釉陶器椀 | — | 6.9 | — | 底部50 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 749 | |
| 39 | 風字硯？ | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明黄褐色 | | 1749 | ヘラ磨き |
| 40 | 須恵器坏 | — | — | — | 破片 | 石英粒 | 青 灰 色 | 右 | 2748 | 転用硯 |
| 41 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁40 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 2779、2794、2809、2833、2834 | |
| 42 | 土師器甕 | 20.5 | — | — | 60 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 2671、2814 | |
| 43 | 土師器甕 | 11.9 | — | — | 口縁40 | 雲母粒 | 暗赤褐色 | | 2567、2612 | |
| 44 | 土師器甕 | 15.0 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 2169、2235、2236、2349、2351、2500 | |
| 45 | 須恵器甕 | 21.7 | — | — | 口縁20 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 2731 | |
| 46 | 須恵器甕 | 22.8 | — | — | 口縁40 | 長石粒 | 暗赤褐色 | | 732、751、1295、2662、2620、3463 | |
| 47 | 須恵器甕 | — | 13.0 | — | 底部50 | 石英粒 | 褐　色 | | 1212、1353、1370、1372、1457、1494 | |
| 48 | 須恵器甑 | 31.7 | — | — | 口縁40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 1027、1262、2520、2660、2678、2693 | |
| 49 | 須恵器甑 | — | 15.3 | — | 底部30 | 長石粒 | 明赤褐色 | | 850、1729、2383、2411、2635、2656 | 底部５孔 |
| 50 | 須恵器甑 | — | 15.6 | — | 底部20 | 長石粒 | 灰　色 | | 1029、2708、2777 | 底部５孔 |

## 第93表　D172C出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 長石粒 | 暗 褐 色 | | 2341 | 線刻 |
| 2 | 土師器カマド | — | — | — | 破片 | 長石粒 | 暗 褐 色 | | 2589、2673、2824、2830 | |
| 3 | 不明 | | | | 完形 | | | | 2822 | 石製品 |

## 第94表　D172不明出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 21.3 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 128、2071、2072、2137 | |
| 2 | 須恵器甕 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 92 | 転用硯 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 206 | 墨書「継」 |
| 4 | 砥石 | | | | | | | | 2671 | 粘板岩 |
| 5 | 砥石 | | | | | | | | 1274 | 凝灰岩 |
| 6 | 風字硯 | | | | 40 | 長石粒 | 褐　色 | | 170 | |

## 第95表　D176出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.4 | 3.7 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 347、396、432、435 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.7 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 669 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.7 | 3.6 | 40 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 670 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 6.9 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 663 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.6 | 3.6 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 671 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.3 | 3.6 | 60 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 141、154、427、460、662、676 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.6 | 3.5 | 40 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 255、666 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 6.1 | 3.5 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 641 | 墨書 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 14.5 | 7.7 | 4.1 | 50 | 雲母粒 | 黄 橙 色 | 右 | 258、621、672、676、677 | 内面ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 7.7 | 4.6 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 314、520、521、522、529、662 | 底部内面ヘラ磨き |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 15.1 | 7.3 | 4.4 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 400、438、450、662 | 内面ヘラ磨き |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 6.0 | 4.4 | 80 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 244、325、327、425、500、590、592 | 墨書「㋕」 |
| 13 | ロクロ土師器皿 | 13.0 | 7.1 | 2.6 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 28、662 | 内面ヘラ磨き |
| 14 | ロクロ土師器皿 | 13.3 | 6.7 | 2.4 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 632、634 | |
| 15 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 8.6 | 2.0 | 90 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 14、148、312、662 | 墨書「継」 |
| 16 | ロクロ土師器皿 | 12.6 | 5.2 | 2.5 | 40 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 9、334、335、662 | 黒色処理 |
| 17 | ロクロ土師器皿 | 12.6 | 6.2 | 3.1 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | | 631 | 黒色処理 |
| 18 | ロクロ土師器皿 | — | 5.9 | — | 底部 | 雲母粒 | 黒 褐 色 | | 524 | 墨書「大田」、黒色処理 |
| 19 | ロクロ土師器皿 | — | 5.4 | — | 底部 | 精　緻 | 明黄褐色 | 右 | 11 | 墨書「貞」 |
| 20 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 275、578 | 墨書 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 28、662 | 墨書「生」 |
| 22 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 415 | 墨書「継」 |
| 23 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 251 | 墨書「提」 |
| 24 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明黄褐色 | | 378 | 墨書「入」 |
| 25 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 167、348 | 墨書 |
| 26 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 灰 褐 色 | | 251 | 墨書、黒色処理 |
| 27 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 525 | 墨書「入」 |
| 28 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 677 | 墨書「貞」 |
| 29 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 662 | 線刻 |
| 30 | ロクロ土師器皿 | — | 6.7 | — | 底部 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 290 | 線刻「継」 |
| 31 | 土師器甕 | 20.7 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 24、25、134、135、149、176、304 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 32 | 土師器甕 | — | 9.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 247、320、362、562、673、677 | |
| 33 | 土師器甕 | 22.5 | 14.3 | 29.0 | 60 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 101、102、152、207、228、366、573 | 底部に布圧痕 |
| 34 | 土師器甕 | — | 5.2 | — | 口縁欠 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 668 | |
| 35 | 土師器甕 | — | 6.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 136、359、664 | |
| 36 | 須恵器甑 | — | 14.5 | — | 底部30 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 226、545、567、614、676 | 底部５孔 |
| 37 | 須恵器甕 | — | 17.1 | — | 口縁欠 | 精　緻 | 灰　色 | | 133、169、170、211、444、512、660 | |

## 第96表　D177出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 4.9 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 197、198、199、215、258 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.6 | 4.5 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 156 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 5.5 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 129、135、147、176 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破　片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 69 | 墨書「継」 |

## 第97表　D178出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 5.6 | 4.2 | 20 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 226、1072 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 5.9 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 1357、1367 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.4 | 4.0 | 80 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1356 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 6.3 | 3.6 | 20 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 924、1232、1322 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 5.9 | 4.2 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | | 1276 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 4.1 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 1367 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 7.1 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 69、396、1127、1243、1265 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 16.7 | 7.8 | 4.2 | 50 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 291、939、942、944、951、980、1040 | 内面ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | — | — | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 570、1210 | 黒色処理 |
| 10 | 灰釉陶器椀 | 17.8 | — | — | 口縁30 | 精　緻 | 灰　色 | | 585、1067、1209、1229、1366 | |
| 11 | 灰釉陶器椀 | — | 8.0 | — | 底部50 | 精　緻 | 灰 白 色 | 右 | 1368 | |
| 12 | 灰釉陶器椀 | — | 6.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 753 | |
| 13 | 灰釉陶器長頸瓶 | — | 9.1 | — | 底部 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 178 | |
| 14 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁60 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | | 942、1323、1324、1326、1365、1368 | |
| 15 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁60 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 165、546、687、1063、1292、1360 | |
| 16 | 土師器甕 | 13.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 107 | |
| 17 | 須恵器甕 | — | 17.1 | — | 底部40 | 砂　粒 | 灰　色 | | 139、340、378、463、582、754、1039 | |
| 18 | 須恵器甑 | — | 19.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 291、541、1046 | 底部５孔 |
| 19 | 砥石 | | | | | | | | 86 | 凝灰岩 |

## 第98表　D179出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.1 | 4.2 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 左 | 329 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.1 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1050、1070 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.0 | 4.1 | 70 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 988 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 7.1 | 3.7 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 左 | 1029、1056、1177、1237 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 5.5 | 3.7 | 50 | 砂　粒 | 橙　色 | 左 | 1007、1662 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.0 | 4.1 | 完形 | 精　緻 | 暗 褐 色 | 右 | 2262 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.6 | 4.1 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1825、1904 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 5.9 | 4.2 | 40 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 1119 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.6 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1562 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.4 | 3.7 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1560 | 墨書「太」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 5.4 | 4.1 | 20 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 767 | 墨書「提」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | 6.4 | — | 底部 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 791 | 墨書 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.4 | 4.1 | 20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 496、598、599、601、644 | 墨書「生」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.3 | 4.4 | 20 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1828 | 墨書「生」 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.6 | 4.2 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 2232、2272 | 墨書「生」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.0 | 4.2 | 20 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 127 | 墨書「生」 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.4 | 3.7 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 138 | 墨書「生」 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | — | — | 30 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 1040、1062 | 墨書「生」 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.4 | 3.7 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1804 | 墨書「生」 |
| 20 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 5.7 | 4.2 | 完形 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 2265 | 線刻「主」 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | 15.2 | 7.4 | 4.8 | 70 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1111、1117、1183、1473、1536、1539 | 墨書「生」、黒色処理 |
| 22 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 5.9 | 4.6 | 20 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 1871、1873、2059、2134 | 黒色処理 |
| 23 | ロクロ土師器皿 | 13.8 | 7.2 | 3.1 | 60 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 333 | 線刻「太」 |
| 24 | ロクロ土師器皿 | 12.6 | 6.2 | 2.3 | 90 | 砂　粒 | 褐　色 | 左 | 1008 | |
| 25 | 土師器鉢 | 22.8 | 9.5 | 7.7 | 完形 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 1374、1375、1528 | 黒色処理 |
| 26 | 須恵器坏 | 12.6 | 8.4 | 4.0 | 20 | 長石粒 | 黒　色 | 右 | 1292、1305、1927、2031 | 線刻 |
| 27 | 須恵器坏 | 12.2 | 6.5 | 4.0 | 90 | 長石粒 | 明褐色 | | 2135 | |
| 28 | 須恵器坏 | 12.6 | 7.0 | 3.9 | 30 | 長石粒 | 褐灰色 | | 2228 | |
| 29 | 須恵器坏 | 12.5 | 7.2 | 3.9 | 60 | 砂　粒 | 黒　色 | 右 | 1123 | |
| 30 | 須恵器坏 | 12.5 | 6.7 | 4.0 | 80 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 542、1199、1263 | |
| 31 | 須恵器坏 | 12.1 | 6.4 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 1372、1465、2127、2132、2207 | |
| 32 | 須恵器坏 | 13.6 | 8.0 | 3.7 | 90 | 砂　粒 | 青灰色 | | 1542、1709、1772、1829、1831 | |
| 33 | 須恵器高台坏 | 10.0 | 6.4 | 5.0 | 40 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 892 | |
| 34 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 934 | 墨書「堤」 |
| 35 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 1702 | 墨書「生」、黒色処理 |
| 36 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 1677 | 墨書「生」 |
| 37 | 須恵器坏 | — | — | — | 破片 | 長石粒 | 黒　色 | | 856 | 朱墨書「生」 |
| 38 | 土師器高坏 | — | — | — | 脚部 | 精　緻 | 橙　色 | | 1995、2043 | |
| 39 | 土師器甕 | 17.4 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 2270 | |
| 40 | 土師器甑 | — | 16.0 | — | 底部20 | 雲母粒 | 橙　色 | | 190、983、1143 | |
| 41 | 須恵器甕 | 22.7 | 16.0 | 31.0 | 完形 | 砂　粒 | 青灰色 | | 1443、1629、1799、1829、1881、2158 | |
| 42 | 須恵器甕 | 21.4 | — | — | 口縁30 | 長石粒 | 灰　色 | | 235 | |
| 43 | 須恵器甕 | 25.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰　色 | | 655、663、838、893、1342 | |
| 44 | 須恵器甕 | — | 16.9 | — | 底部30 | 砂　粒 | 灰　色 | | 78、812、1237、1421、1894 | |
| 45 | 須恵器甕 | 29.3 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 青灰色 | | 683、776、1617、2156 | |
| 46 | 須恵器甕 | — | 16.0 | — | 底部30 | 砂　粒 | 青灰色 | | 829、877、953、986、1001、1055 | |
| 47 | 須恵器長頸瓶 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 青灰色 | | 521、804、896、906、1033、1625 | |

## 第99表　D180出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.5 | 3.6 | 30 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 315、338、579 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 6.5 | 3.6 | 60 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 424、583、616、630、680 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.6 | 3.9 | 完形 | 雲母・石英粒 | 明褐色 | 右 | 628 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 6.8 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 784 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.8 | 3.7 | 完形 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 803 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 6.8 | 3.9 | 80 | 雲母・石英粒 | 明褐色 | 右 | 16、30、229、290 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.4 | 4.0 | 90 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 341、413、556、680 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.0 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 537 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 7.1 | 4.6 | 80 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 442、487、544 | 黒色処理 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 6.9 | 4.4 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 503 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 6.7 | 4.2 | 20 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 74、99、342、355、758 | 内面ヘラ磨き |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 6.5 | 4.1 | 90 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 499、807 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 7.2 | 4.8 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 425 | |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 15.3 | 6.4 | 4.6 | 90 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 165、166、169、180、250、254、666 | 内面ヘラ磨き |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 7.1 | 4.5 | 40 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 16、20、229、290 | |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.0 | 3.8 | 60 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 228、428、554、589、611、680 | |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 8.2 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 319、517、631、680、812 | 黒色処理 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.4 | 3.9 | 80 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 812 | 墨書「寺」・「奉」 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.4 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 624 | 墨書「入」 |
| 20 | ロクロ土師器坏 | 15.5 | 9.6 | 4.9 | 30 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 625、655、809 | 線刻、黒色処理 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.0 | 3.6 | 40 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 258、300 | 墨書「生堤」 |
| 22 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 6.9 | 4.6 | 完形 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 468 | 線刻「㋿」、ヘラ磨き |
| 23 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 6.2 | 3.2 | 30 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 47 | 内面ヘラ磨き |
| 24 | ロクロ土師器皿 | 13.4 | — | — | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 374、810 | 内面ヘラ磨き |
| 25 | ロクロ土師器皿 | 12.1 | — | — | 60 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 191、192、600 | 内面ヘラ磨き |
| 26 | ロクロ土師器皿 | 13.3 | — | — | 60 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 439 | 内面ヘラ磨き |
| 27 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 7.1 | 2.8 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 482、534、766、792 | 内面ヘラ磨き |
| 28 | ロクロ土師器皿 | 13.8 | 6.7 | 2.8 | 30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 490、533、577、613 | 内面ヘラ磨き |
| 29 | ロクロ土師器皿 | 14.4 | 6.8 | 2.7 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 275、332、812 | 内面ヘラ磨き |
| 30 | ロクロ土師器皿 | 13.0 | 6.5 | 3.0 | 完形 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 800 | 内面ヘラ磨き |
| 31 | 土師器鉢 | 21.7 | 10.6 | 7.0 | 70 | 精　緻 | 赤褐色 | 右 | 46、200、223、240、363、380、421 | 内面ヘラ磨き |
| 32 | ロクロ土師器皿 | 13.1 | 8.7 | 2.8 | 20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 987 | 線刻、内面ヘラ磨き |
| 33 | ロクロ土師器皿 | 12.6 | 7.2 | 2.6 | 10 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 343、644 | 線刻、内面ヘラ磨き |
| 34 | ロクロ土師器皿 | — | 7.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 584 | 墨書「継」、ヘラ磨き |
| 35 | ロクロ土師器坏 | — | 6.2 | — | 底部 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 256 | 墨書「継」 |
| 36 | ロクロ土師器皿 | — | 7.2 | — | 底部 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 516 | 墨書「継」 |
| 37 | ロクロ土師器坏 | — | 6.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 220 | 墨書「入」 |
| 38 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 327 | 墨書「生」 |
| 39 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 231 | 墨書「生」 |
| 40 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 161 | 墨書「生」 |
| 41 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 278 | 墨書「生」 |
| 42 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 497 | 墨書「生堤」 |
| 43 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 68 | 墨書「生堤」 |
| 44 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 橙　色 | | 810 | 墨書「堤」 |
| 45 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 470 | 墨書「上」 |
| 46 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 左 | 110 | 線刻 |
| 47 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 172 | 線刻 |
| 48 | 土師器甕 | 18.4 | — | — | 口縁20 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 467 | |
| 49 | 土師器甕 | 21.2 | — | — | 口縁30 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 414、488、637、810、811 | |
| 50 | 土師器甕 | 13.6 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 明褐色 | | 152、234、276 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 51 | 土師器甕 | 12.0 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 褐　色 | | 618 | |
| 52 | 土師器甕 | 17.1 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 橙　色 | | 164、771、772、785、801、808、812 | |
| 53 | 土師器甕 | 15.0 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 褐　色 | | 163、194 | |
| 54 | 土師器甕 | 11.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 718 | |
| 55 | 土師器甕 | — | 5.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 748 | |
| 56 | 須恵器甕 | — | 16.1 | — | 底部 | 石英粒 | 暗 褐 色 | | 747 | 線刻 |
| 57 | 須恵器瓶子 | — | 7.7 | — | 底部 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 580、D181-2249 | |
| 58 | 土師器甕 | — | 5.3 | — | 口縁欠 | 砂　粒 | 褐　色 | | 484、527、599、764、812 | |
| 59 | 須恵器甕 | — | 14.4 | — | 底部40 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 225、305、475、567、587、680、812 | |
| 60 | 土製品 | | | | | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 397 | |
| 61 | 砥石 | | | | | | | | 601 | 凝灰岩 |

## 第100表　D181A出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.8 | 7.2 | 4.1 | 40 | 石英粒 | 青 灰 色 | 左 | 253 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.4 | 4.1 | 70 | 石英粒 | 青 灰 色 | 左 | 4、30、71、254 | |
| 3 | 須恵器坏 | 14.3 | 8.4 | 4.0 | 50 | 雲母・石英粒 | 褐 灰 色 | | 246 | |
| 4 | 須恵器坏 | 12.8 | 8.8 | 3.2 | 完形 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 739、954、A55、A68 | |
| 5 | 土師器甕 | 20.7 | — | — | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 826、A259 | |
| 6 | 須恵器長頸瓶 | — | — | — | 50 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 742、956、963、A26、A59、A70 | |

## 第101表　D181B出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 12.1 | 7.3 | 3.8 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 1918、1946、2468 | 内外面ヘラ磨き |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 5.9 | 5.0 | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 左 | 23 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.8 | 4.1 | 完形 | 長石粒 | 暗 褐 色 | 右 | 8 | |
| 4 | ロクロ土師器皿 | 15.7 | 7.1 | 4.5 | 30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 1 | |
| 5 | 須恵器坏 | 13.8 | 8.6 | 4.0 | 70 | 石英粒 | 灰 褐 色 | | 252 | |
| 6 | 須恵器蓋 | 13.7 | — | — | 30 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 1827 | 転用硯 |
| 7 | ロクロ土師器皿 | — | 6.6 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 3186 | 墨書「堤」、ヘラ磨き |
| 8 | 灰釉陶器皿 | 14.1 | — | — | 20 | 精　緻 | 灰　色 | | 1650 | |
| 9 | 土師器甕 | — | 8.3 | — | 台部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 2873 | |
| 10 | 土師器甕 | 20.5 | — | — | 口縁50 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 3005、3517、3524 | |
| 11 | 土師器甕 | — | 8.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 2019 | |
| 12 | 須恵器長頸瓶 | — | 15.0 | — | 破片 | 石英粒 | 灰　色 | | 5、1595、1716、1772、2239 | |
| 13 | 土師器甕 | 23.0 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 2162、2245、3468、3485、3526 | |
| 14 | 須恵器甕 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 1892、2285 | 転用硯、朱墨痕 |

## 第102表　D181C出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.3 | 4.0 | 80 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 1577 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.4 | 3.8 | 30 | 石英粒 | 橙　色 | | 3528 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.0 | 4.0 | 40 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 2024、2406、2566、2677 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 5.5 | 4.0 | 90 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 1492 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 7.2 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 2018 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 5.0 | 4.5 | 40 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1502 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.6 | 3.9 | 80 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 868、935 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.6 | 4.4 | 60 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 左 | 2 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 7.3 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 3576 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.4 | 3.8 | 50 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | BC(2、3)、C(9) | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 5.9 | 4.9 | 40 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 2003 | |
| 12 | 土師器坏 | — | 5.3 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 1719 | ミニチュア |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 5.9 | 3.7 | 90 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 925、927 | |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.2 | 4.3 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 3192 | |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 17.2 | — | — | 40 | 長石粒 | 暗赤褐色 | 左 | 867、869、871 | |
| 16 | 土師器坏 | 3.4 | — | 1.8 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 1014 | ミニチュア |
| 17 | ロクロ土師器坏 | — | 7.2 | — | 底部 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 1038、1048 | 墨書「堤」、ヘラ磨き |
| 18 | ロクロ土師器皿 | — | 7.0 | — | 底部 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 2772 | 線刻「堤」 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | — | 5.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 3433 | 線刻 |
| 20 | ロクロ土師器皿 | 13.9 | 6.1 | 2.6 | 40 | 雲母・石英粒 | 赤 褐 色 | 左 | 1402、1438、2743 | |
| 21 | 灰釉陶器椀 | 14.0 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 291、1478、1692 | |
| 22 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 底部 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 3054 | 墨書「生」 |
| 23 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 1975 | 墨書「生」 |
| 24 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明黄褐色 | | 920 | 墨書「生」 |
| 25 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 670 | 墨書「王」 |
| 26 | 灰釉陶器皿 | 14.6 | 6.2 | 2.9 | 40 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 311、2433、2479、2489、2581、2735 | |
| 27 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 2935 | 墨書「王」 |
| 28 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 2736 | 墨書 |
| 29 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 2954 | 墨書「有」、ヘラ磨き |
| 30 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 1256 | 墨書、黒色処理 |
| 31 | 土師器甕 | 19.2 | — | — | 口縁70 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 1972、1974、2827、3190、3387 | |
| 32 | 土師器甕 | 16.8 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 褐　色 | | 2815、3063、3103、3228、3235、3260 | |
| 33 | 緑釉陶器椀 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 灰　色 | | 81 | 若干硬質 |
| 34 | 灰釉陶器耳皿 | — | 5.0 | — | 50 | 精　緻 | 灰　色 | | 1345、3351 | |
| 35 | 灰釉陶器長頸瓶 | 15.0 | — | — | 口縁部 | 石英粒 | 灰　色 | | 158、202、495、582、622、657、726 | |
| 36 | 土師器片口鉢 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 1679、2617、2723 | |
| 37 | 須恵器瓶子 | — | 10.4 | — | 底部50 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 1922、3457 | 転用硯か |
| 38 | 土師器甕 | — | 10.4 | — | 口縁欠 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 1009、1022、1268、2572、3187、3409 | |
| 39 | 須恵器甕 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 2933 | 転用硯、朱墨痕 |
| 40 | 砥石 | | | | | | | | 46 | 凝灰岩 |
| 41 | 土師器坏 | — | 5.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 3520 | ミニチュア、帰属不明 |
| 42 | ロクロ土師器坏 | — | 6.2 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 280 | 線刻、帰属不明 |
| 43 | 須恵器坏 | 12.9 | 6.2 | 3.9 | 完形 | 石英粒 | 黒 褐 色 | | 3536 | 帰属不明 |

## 第103表　D185出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 12.3 | 8.0 | — | 40 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 696、697、742、2959、3880、3903 | 内面ヘラ磨き |
| 2 | 土師器坏 | 11.5 | 6.3 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 150、1839、2045、2193 | |
| 3 | 土師器坏 | 11.6 | 6.4 | 5.1 | 60 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 3071、3104 | |
| 4 | 土師器坏 | 13.4 | 8.2 | 6.6 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 2292、2825、3529、3903 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 6.9 | 4.3 | 20 | 砂　粒 | 橙　色 | | 1203、1291 | 線刻 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 8.4 | 4.6 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 3373、3377、3888 | 墨書、線刻 |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 7.5 | 4.5 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 2968 | 墨書 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 8.1 | 4.1 | 60 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 591、604 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.7 | 4.4 | 完形 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 2869 | 墨書「𤣥」 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 8.7 | 3.4 | 40 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 2148、2883、2997、3024、3026、3880 | 墨書「𤣥ヵ」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 7.2 | 3.4 | 完形 | 長石粒 | 暗赤褐色 | 右 | 343、2064、2464、2796 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 7.5 | 3.6 | 30 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 3903 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 5.6 | 3.9 | 80 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 2558、3661 | 墨書「𤣥」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | 8.1 | — | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 409、556、817、835 | 墨書「𤣥」 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 3701 | 墨書「𤣥」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 3880 | 墨書「提」 |
| 17 | 土師器盤 | 13.8 | — | — | 20 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 805、3017 | |
| 18 | 土師器蓋 | 12.4 | — | — | 90 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 1791、2085、2200、3903 | |
| 19 | 土師器蓋 | 17.4 | — | — | 70 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 1576、2426、3144、3205、3244、3896 | |
| 20 | 土師器坏 | 6.3 | — | 2.9 | 60 | 砂　粒 | 明褐色 | | 709 | ミニチュア |
| 21 | 須恵器坏 | 14.1 | 7.8 | 4.6 | 70 | 石英粒 | 緑灰色 | | 1773、2126 | 線刻 |
| 22 | 須恵器坏 | 14.0 | 8.0 | 4.0 | 30 | 石英粒 | 青灰色 | | 226、520、1650、3880 | |
| 23 | 須恵器坏 | 14.5 | 8.7 | 4.3 | 40 | 石英・雲母粒 | 灰　色 | | 1016、1330、2299、2379、2888、3563 | |
| 24 | 須恵器坏 | 13.6 | 7.8 | 4.7 | 30 | 石英粒 | 青灰色 | | 315、3719、3823 | |
| 25 | 須恵器坏 | 13.4 | 7.7 | 4.3 | 60 | 石英粒 | 青灰色 | | 3716、3761 | |
| 26 | 須恵器坏 | 14.0 | 7.7 | 4.0 | 40 | 石英・雲母粒 | 青灰色 | | 1204、2312、2394 | 線刻 |
| 27 | 須恵器坏 | 13.7 | 8.3 | 4.2 | 40 | 雲母粒 | 灰　色 | | 2690、2710、3903 | |
| 28 | 須恵器坏 | 13.7 | 8.1 | 4.4 | 50 | 石英粒 | 青灰色 | | 544、3741 | |
| 29 | 須恵器坏 | 12.5 | 7.9 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 灰　色 | | 639、678 | |
| 30 | 須恵器坏 | 12.2 | 7.2 | 4.2 | 40 | 砂　粒 | 灰褐色 | 右 | 3139、3159 | |
| 31 | 須恵器坏 | 13.5 | 6.8 | 4.5 | 70 | 石英粒 | 青灰色 | | 3584、3587、3728 | |
| 32 | 須恵器坏 | 12.7 | 6.4 | 3.6 | 完形 | 砂　粒 | 灰白色 | 右 | 2559、3036、3115 | |
| 33 | 須恵器坏 | 12.5 | 7.0 | 3.9 | 80 | 砂　粒 | 灰白色 | 右 | 1332 | |
| 34 | 須恵器坏 | 14.4 | — | — | 50 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 2466、3474、3510、3511、3726 | |
| 35 | 須恵器坏 | 12.8 | 8.0 | 3.9 | 70 | 砂　粒 | 青灰色 | | 2047 | 墨書「提𤣥」 |
| 36 | 須恵器坏 | — | 7.4 | — | 口縁欠 | 石英粒 | 青灰色 | | 2805 | 墨書「提𤣥」 |
| 37 | 須恵器坏 | 10.5 | 6.6 | 4.3 | 60 | 石英粒 | 青灰色 | | 2170、3364、3709 | |
| 38 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.8 | 3.9 | 60 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 526、3612 | 墨書「𤣥」 |
| 39 | 須恵器坏 | 10.8 | 6.6 | 3.8 | 90 | 石英粒 | 青灰色 | | 2856、3110 | |
| 40 | 須恵器坏 | 13.0 | 8.4 | 3.7 | 40 | 砂　粒 | 灰　色 | | 1783、2081、2841、3880 | 墨書「提𤣥」 |
| 41 | 須恵器高台坏 | 13.8 | 8.5 | 5.9 | 20 | 精　緻 | 灰白色 | 右 | 1252、1484、2783、3778、3880 | |
| 42 | 須恵器蓋 | 16.4 | — | — | 90 | 長石粒 | 灰　色 | | 974、3209、3224 | |
| 43 | 須恵器高台坏 | — | 11.9 | — | 高台30 | 石英・雲母粒 | 灰　色 | 右 | 3612 | |
| 44 | 須恵器高坏 | — | 14.2 | — | 10 | 砂　粒 | 青灰色 | | 2863 | |
| 45 | 土師器甕 | 19.2 | — | — | 口縁50 | 長石粒 | 暗褐色 | | 1315、2215、2375、2917 | |
| 46 | 土師器甕 | 19.5 | — | — | 口縁60 | 長石粒 | 褐　色 | | 2384、2488、2823、2992、3903 | |
| 47 | 土師器甕 | 19.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 581、3589、3636 | |
| 48 | 土師器甕 | 23.1 | — | — | 口縁30 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 1550、2175、2177、2498 | |
| 49 | 土師器甕 | 16.0 | 7.0 | 17.0 | 50 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 1193、1202、1288、1393、1396、1502 | |
| 50 | 須恵器甕 | — | — | — | 20 | 長石粒 | 青灰色 | | 396、1190、2788、3388、3400、3633 | |
| 51 | 土師器甕 | 13.1 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 757、3750 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 52 | 土師器甕 | — | 6.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 773、973、1101 | |
| 53 | 須恵器甕 | 22.3 | — | — | 口縁40 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 734、3595 | |
| 54 | 須恵器長頸瓶 | — | — | — | 30 | 精　緻 | 灰　色 | | 738、984、2018、2671、3476、3747 | |
| 55 | 砥石 | | | | | | | | 557 | 凝灰岩 |
| 56 | 須恵器甕 | 30.9 | — | — | 口縁20 | 石英・雲母粒 | 灰　色 | | 2100、3603、3903 | |
| 57 | 紡錘具 | | | | | | | | 960 | 土師質 |
| 58 | 紡錘具 | | | | | | | | 345 | 須恵質 |

## 第104表　D186出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.5 | 7.5 | 3.7 | 70 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 91、239、279 | |
| 2 | 土師器甕 | 18.7 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 47、53、73 | |
| 3 | 砥石 | | | | | | | | 297 | 凝灰岩 |

## 第105表　D238出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.8 | 3.8 | 80 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 298、656、2571 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.7 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 272、273、308、309、660、757、1076 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 8.4 | 4.3 | 50 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 468、492、1480、2264 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 20 | 砂　粒 | 橙　色 | | 1180 | 墨書 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 橙　色 | | 2571 | 墨書 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 7.7 | 4.8 | 2.0 | 完形 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 2623 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 7.4 | 4.7 | 1.9 | 完形 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 2622 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 7.5 | 4.2 | 2.0 | 完形 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 1623 | |
| 9 | 土師器坏 | 1.9 | — | 1.8 | 完形 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 1937 | ミニチュア |
| 10 | 須恵器坏 | 12.5 | 7.0 | 4.1 | 40 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 1090、1095 | |
| 11 | 須恵器坏 | 13.4 | 6.9 | 3.7 | 60 | 砂　粒 | 灰 白 色 | 右 | 2396 | |
| 12 | 須恵器坏 | 12.9 | 8.0 | 4.7 | 80 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 163 | |
| 13 | 須恵器坏 | 13.1 | 8.0 | 4.2 | 完形 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 159、758、1447、2380、3454 | |
| 14 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 409、1025、1542、2609 | |
| 15 | 土師器甕 | — | 8.5 | — | 底部 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 1810、2430、2576、2708、2718 | 底部木葉痕 |
| 16 | 土製品 | | | | | | | | 532 | |
| 17 | 砥石 | | | | | | | | 741 | 砂岩 |
| 18 | 土師器甕 | 21.7 | 9.1 | 32.9 | 70 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 356、419、1057、1481、1593、1886 | 底部木葉痕 |
| 19 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 2716、2724 | |

## 第106表　D239出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 紡錘具 | | | | | | | | 10 | 粘板岩 |
| 2 | 砥石 | | | | | | | | 8 | 凝灰岩 |

## 第107表　D240出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 6.0 | 4.4 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 190、195、200、215 | 内面ヘラ磨き |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.9 | 3.9 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 80 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.1 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 170 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 6.8 | 4.3 | 完形 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 56、115、126、128、129 | 内面ヘラ磨き |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.2 | 4.4 | 60 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 51、60、61、117 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 7.5 | 4.1 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 167 | 墨書「入」 |
| 7 | ロクロ土師器皿 | 13.5 | 6.6 | 2.9 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 77、81、82、119 | 内面ヘラ磨き |
| 8 | ロクロ土師器皿 | 13.5 | 7.1 | 3.0 | 40 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 196 | 内面ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器皿 | 13.8 | 7.5 | 3.0 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 12、171 | 内面ヘラ磨き |
| 10 | 土師器甕 | 19.8 | — | — | 口縁60 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 75、85、183、189、202 | |
| 11 | 土師器甕 | 20.3 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 86、106、169 | |
| 12 | 土師器甕 | 20.3 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 64、84、91、144、159、191 | |
| 13 | 土師器甕 | 18.0 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 褐　色 | | 186、192、205 | |
| 14 | 須恵器瓶子 | — | 10.0 | — | 底部 | 精　緻 | セピア色 | | 88、169 | |

## 第108表　D241出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 12.6 | 9.3 | 16.0 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 68 | |
| 2 | 須恵器甕 | — | 16.3 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 67 | ヘラ描き |
| 3 | 紡錘具 | | | | | | | | 115 | |
| 4 | 土師器甕 | 21.2 | 7.5 | 33.2 | 完形 | 石英・雲母粒 | 暗 褐 色 | | 65 | |
| 5 | 土師器甕 | — | — | — | 60 | 石英粒 | 暗 褐 色 | | 39、66、69、113 | |

## 第109表　D242出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 灰釉陶器椀 | 12.7 | — | — | 口縁20 | 長石粒 | 灰　色 | | 43 | |

## 第110表　H076出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.1 | 4.3 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1 | |

## 第111表　P001出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 7.5 | 3.7 | 40 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 1、2 | |

## 第112表　P002出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 6.2 | 4.5 | 70 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.7 | 4.1 | 40 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 1 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 7.0 | 3.9 | 80 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 1 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 15.1 | 6.1 | 4.6 | 50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1 | 墨書「土垸」 |
| 5 | ロクロ土師器皿 | 14.9 | 6.8 | 3.1 | 80 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 1 | 墨書「生」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | 7.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 1 | 墨書「生」ヵ |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | 7.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | | 墨書「生、草」 |

## 第113表　P168出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.1 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 51 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 6.8 | 4.2 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 99、100 | 墨書「生」 |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.8 | 3.6 | 30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 68、127、152、164 | 墨書「生」 |
| 4 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 7.0 | 2.3 | 70 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 84、88、112、113、123 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 5 | 須恵器坏 | 13.2 | 6.3 | 4.6 | 60 | 石英粒 | 緑 灰 色 | | 76、97 | |

## 第114表　1群A出土文字資料一覧

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 生 | 3 | D181C | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 25 | |
| 2 | 生 | 3 | D181C | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 27 | |
| 3 | 生 | 3 | D185 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 13 | |
| 4 | 生 | 3 | D185 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 14 | |
| 5 | 生 | 3 | D185 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 15 | |
| 6 | 生 | 3 | D185 | 須恵器坏 | 体部外面右 | 38 | |
| 7 | 生 | 3 | D185 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 9 | |
| 8 | 生カ | 3 | D185 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 10 | |
| 9 | 生 | 3 ? | D181C | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 22 | |
| 10 | 生 | 3 ? | D181C | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 24 | |
| 11 | 生 | ? | D181C | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 23 | |
| 12 | 生 | 4a | D179 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 15 | |
| 13 | 生 | 4a | D179 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 16 | |
| 14 | 生 | 4a | D179 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 13 | |
| 15 | 生 | 4a | D179 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 14 | |
| 16 | 生 | 4a | D179 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 17 | |
| 17 | 生 | 4a | D179 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 19 | |
| 18 | 生 | 4a | D179 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 21 | 黒色処理 |
| 19 | 生 | 4a | D179 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 18 | |
| 20 | 生 | 4a | D179 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 35 | 黒色処理 |
| 21 | 生 | 4a | D179 | 須恵器坏 | 体部外面左 | 37 | 朱墨 |
| 22 | 生 | 4a | D179 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 36 | |
| 23 | 生 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 38 | |
| 24 | 生 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 39 | |
| 25 | 生 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 41 | |
| 26 | 生 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 40 | |
| 27 | 生 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 22 | |
| 28 | 生 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 21 | |
| 29 | 生 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 7 | |
| 30 | 生 | 5 | D176 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 21 | |
| 31 | 生 | 5 | D240 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 5 | |
| 32 | 生 | 5 | P168 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 2 | |
| 33 | 生 | 5 | P168 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 3 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34 | 生 | 6 | D172A | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 7 | |
| 35 | 生ヵ | 6 | D172A | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 5 | |
| 36 | 生 | 6 | P002 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 5 | |
| 37 | 生 | 6 | P002 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 7 | 体部外面上に「草」 |
| 38 | 提生 | 3 | D185 | 須恵器坏 | 体部外面左 | 35 | |
| 39 | 提生 | 3 | D185 | 須恵器坏 | 体部外面左 | 36 | |
| 40 | 提生 | 3 | D185 | 須恵器坏 | 体部外面左 | 40 | |
| 41 | 堤生 | 5 | D172B | ロクロ土師器皿 | 体部外面左 | 14 | |
| 42 | 堤生 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 29 | |
| 43 | 提生 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 30 | |
| 44 | 提生 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 31 | 黒色処理 |
| 45 | 生堤 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 21 | |
| 46 | 生堤 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 42 | |
| 47 | 生堤 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 43 | |
| 48 | 生堤 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 23 | |
| 49 | 生堤 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 27 | 内面に線刻あり |
| 50 | 生提 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 25 | |
| 51 | 生堤 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 24 | |
| 52 | 生提 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 9 | |
| 53 | 生堤 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 26 | |
| 54 | □提 | 5 | D176 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 23 | |
| 55 | 提 | 3 | D185 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 16 | |
| 56 | 提 | 4b | D179 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 11 | |
| 57 | 堤 | 4b | D179 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 34 | |
| 58 | 堤 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 44 | |
| 59 | 堤 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 32 | |
| 60 | 堤 | 6 | D181C | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 17 | |
| 61 | 堤 | 6 | D181B | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 7 | |
| 62 | 堤 | 6 | D181C | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 18 | 線刻 |
| 63 | 入 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 37 | |
| 64 | 入 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 19 | 64・65の2箇所 |
| 65 | 入 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 19 | |
| 66 | 入 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 10 | 66・67の2箇所 |
| 67 | 入 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | |
| 68 | 入 | 5 | D172B | ロクロ土師器皿 | 体部外面上 | 15 | |
| 69 | 入 | 5 | D176 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 27 | |
| 70 | 入 | 5 | D176 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 24 | |
| 71 | 入 | 5 | D240 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 6 | 71・72の2箇所 |
| 72 | 入 | 5 | D240 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 6 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 73 | 継 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 35 | |
| 74 | 継 | 4b | D180 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 34 | |
| 75 | 継 | 4b | D180 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 36 | |
| 76 | 継 | ? | D172 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 3 | |
| 77 | 継 | 5 | D176 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 15 | |
| 78 | 継ヵ | 5 | D176 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 22 | |
| 79 | 継 | 6 | D177 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 4 | |
| 80 | 継 | 5 | D176 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 30 | 80・81の2箇所 |
| 81 | 継 | 5 | D176 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 30 | 線刻 |
| 82 | 太 | 4b | D179A | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 10 | |
| 83 | 太 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 34 | 体部外面にも墨書あり |
| 84 | 太 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 35 | |
| 85 | 太 | 4b | D179A | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 23 | 線刻 |
| 86 | ㊊ | 5 | D176 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 12 | 86・87の2箇所 |
| 87 | ㊊ | 5 | D176 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 12 | |
| 88 | ㊊ | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 22 | 線刻 |
| 89 | 冨 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 36 | |
| 90 | 廿 | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 6 | |
| 91 | 廓ヵ | 5 | D172B | ロクロ土師器皿 | 体部外面左 | 37 | |
| 92 | 貞 | 5 | D176 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 19 | |
| 93 | 貞 | 5 | D176 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 28 | |
| 94 | 大田 | 5 | D176 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 18 | 黒色処理 |
| 95 | 寺 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 18 | 底部外面に「奉」 |
| 96 | 奉 | 4b | D180 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 18 | 底部内面に「寺」 |
| 97 | 有 | 6 | D181C | ロクロ土師器皿 | 体部外面上 | 29 | |
| 98 | 草 | 6 | P002 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 7 | 体部外面上に「生」 |
| 99 | 土垸(元・完) | 6 | P002 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 4 | 「垸」を分解する |
| 100 | □天□・□ | 5 | D172B | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 28 | 線刻、内面にも線刻 |
| 101 | 記号 | 3 | D185 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 7 | |
| 102 | 記号 | 3 | D238 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 5 | |
| 103 | 記号 | 3 | D238 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 4 | |
| 104 | 記号 | 4b | D179A | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 12 | |
| 105 | 不明 | 5 | D176 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 25 | |

## 第2節　1群Bグループの遺構と遺物

### 1　概　観（第166～168図、図版54）

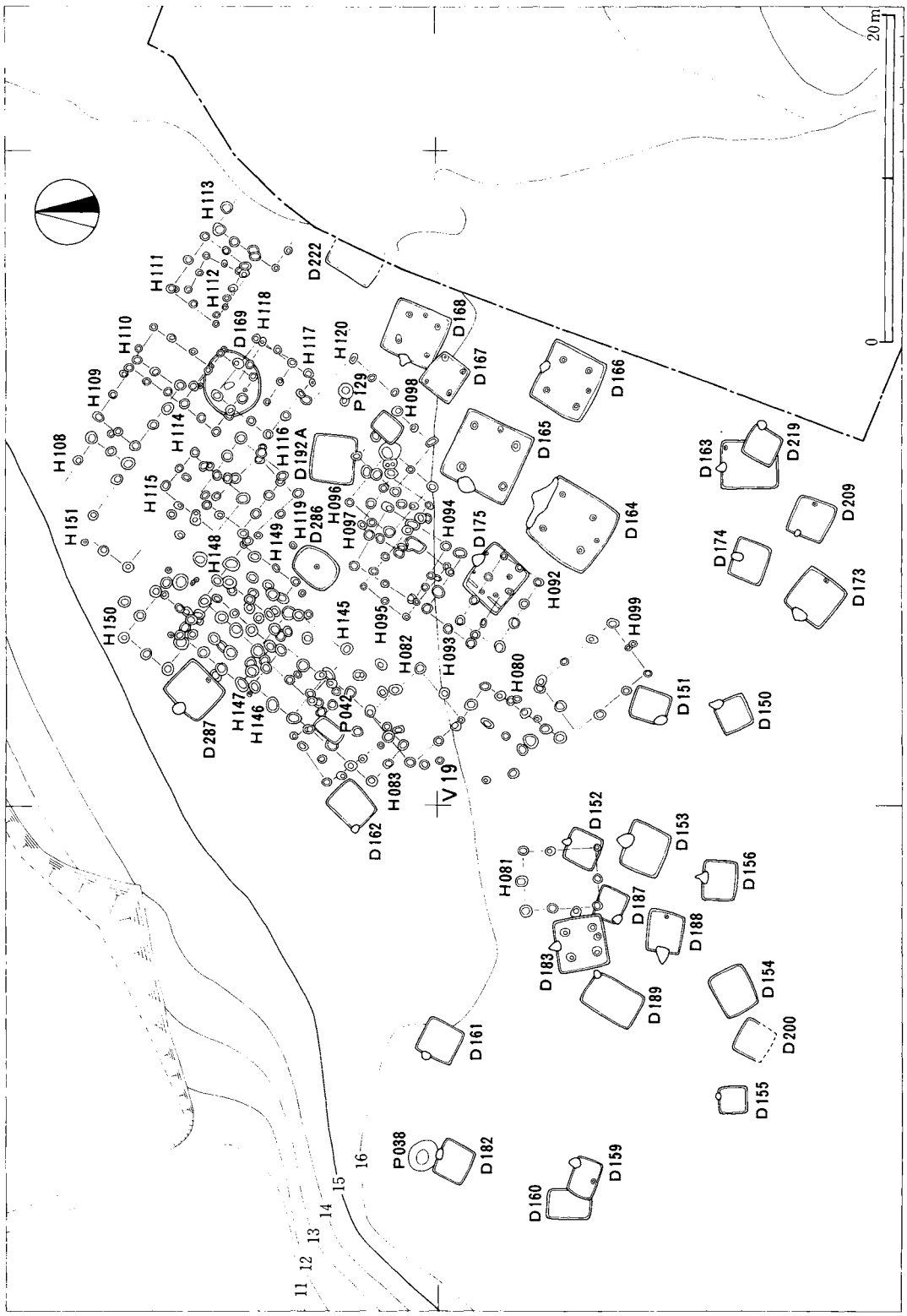
1群Bグループは1群Aグループの南西側に位置し、一部が古墳時代2群と重複している。西側に寺谷津を臨み、寺谷津の沖積層面との比高は10m弱であるが、台地縁辺は急崖となっている。標高は16～20mを測り、南へ向かって徐々に高度を増している。1群Aグループ同様、調査区東側に広く段丘面が広がっており、この部分の遺構の在り方によってBグループの捉え方も異なる可能性がある。1群Aグループとの分割は先に述べたとおりで、僅かではあるが遺構の空白域が存在し、それぞれの建物群において時期的に連続した変遷がたどれることによる。南側は2群Aグループと接しており、大きな遺構の空白域は存在しないが、地形的に段丘斜面によって区画されている。1群Bグループ自体あまりまとまりのある建物群ではなく、時期によって遺構の分布状況もかなり異なっている。また、1～3期の竪穴住居は1群Bグループとして捉えた範囲に広く分布するが、これらを一つのまとまりとして把握した場合、他のグループと同じレベルでの分割が行われたか疑問も残る。さらに、1群Bグループの建物群は3期以前と4期以降でそのあり方が大きく異なり、この両者を同じレベルで扱うべきでないのかもしれない。

1群Bグループを構成する遺構は竪穴住居跡56軒、掘立柱建物跡33棟、土壙5基である。1群Aグループと比較するとグループとして捉えた範囲が広く、竪穴住居跡は検出総数は多いものの、散漫な分布を示す。本グループ最大の特徴は北端に位置する掘立柱建物群の存在である。この一角にはBグループ内の掘立柱建物のうちH084を除く32棟が集中し、その範囲は2,000m²ほどである。このような掘立柱建物群は後述する3群にも存在し、その性格は興味が持たれるところである。

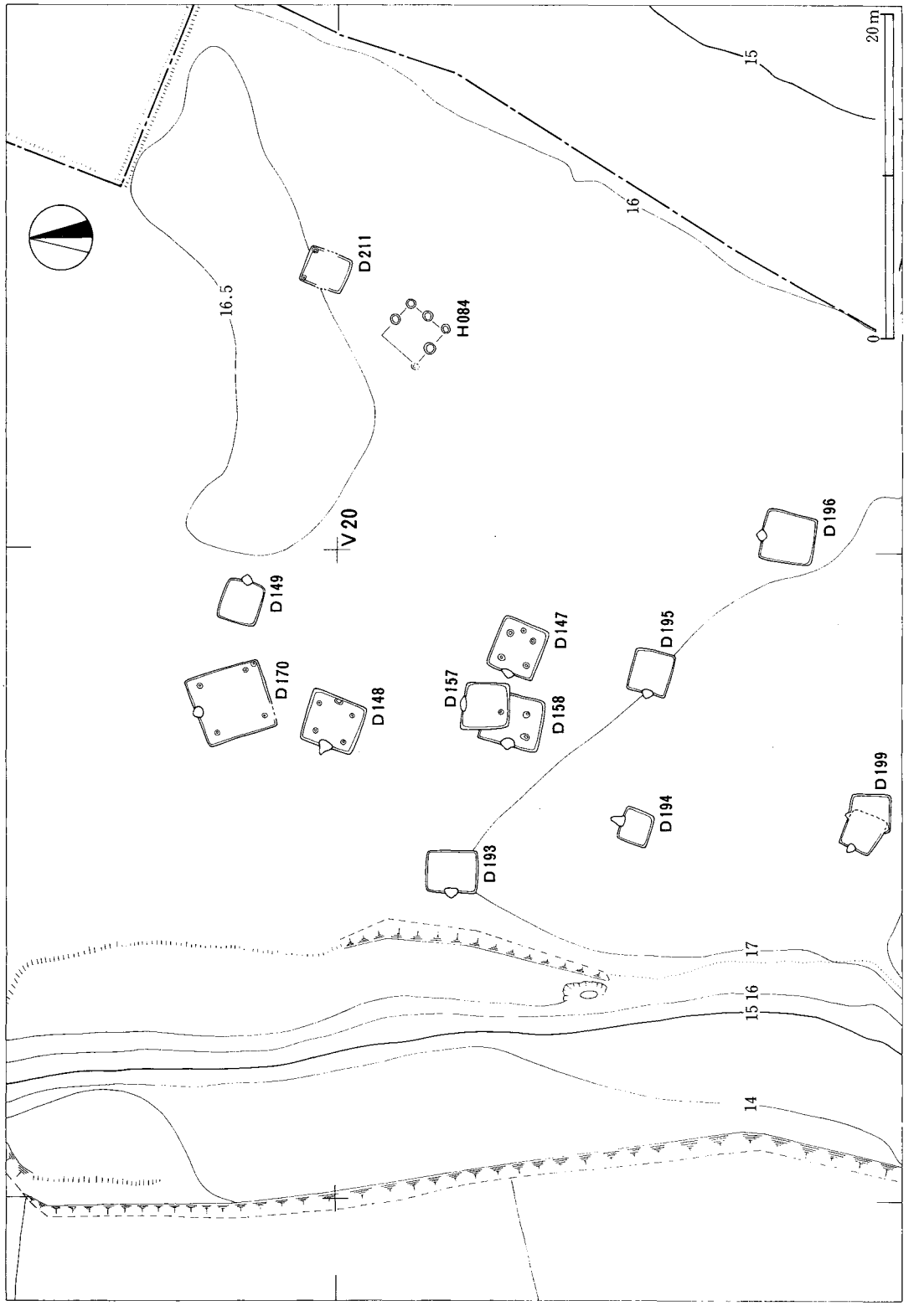
### 2　遺　構（第169図、第115～117表、PL.40～77、図版55～68）

1群Bグループは古墳時代2群と一部重複し、D265・D267・D268は古墳時代後期の竪穴住居跡D266を破壊している。しかし、1群Aグループ同様、奈良・平安時代の遺構は古墳時代後期から継続して営まれたものではない。但し、本グループでは萱田地区でこれまで検出できなかった8世紀前半の竪穴住居跡が存在し、この時期を0期と設定した。

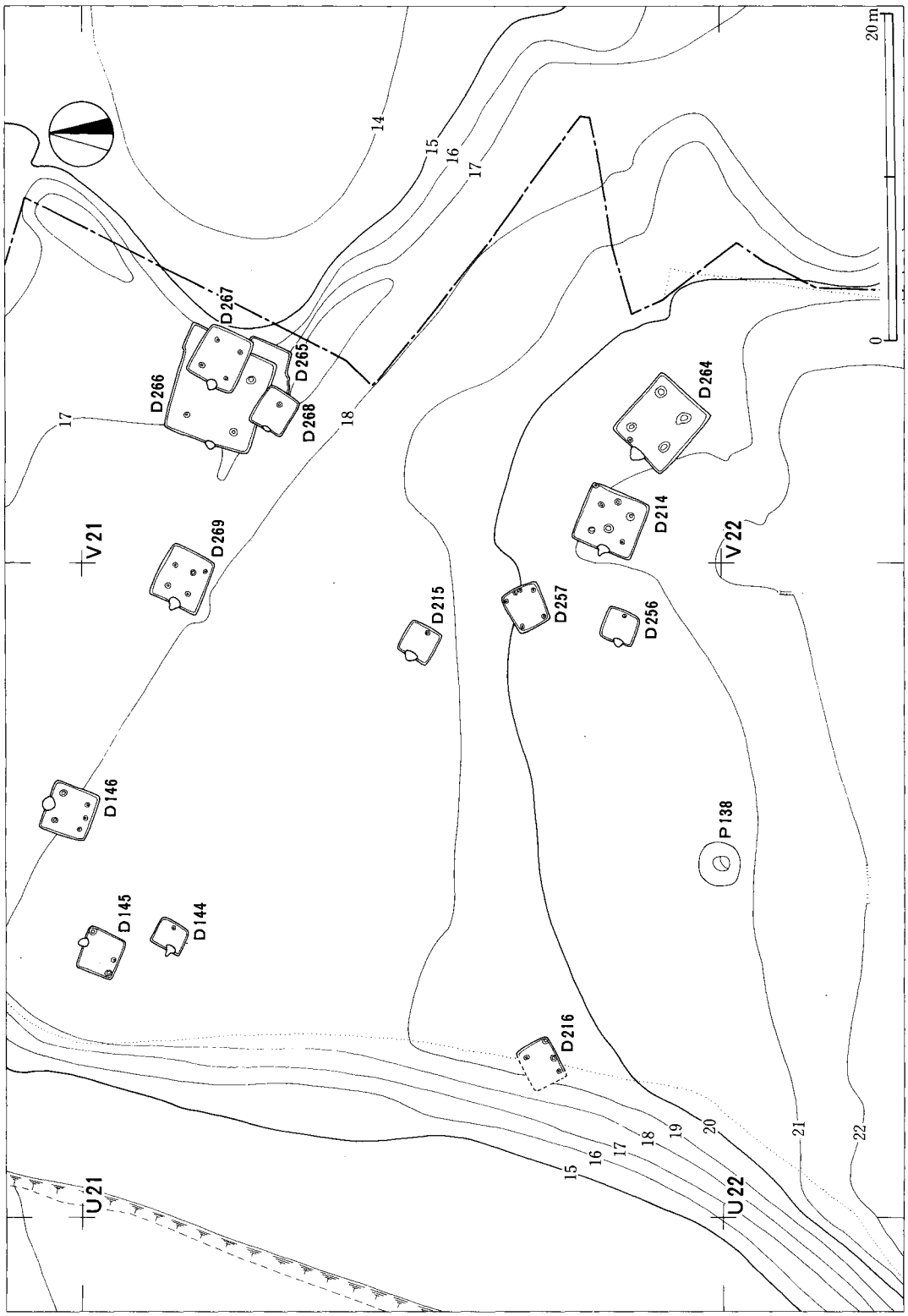
竪穴住居跡はグループとして設定した範囲が広いため、主軸方向には大きな振れがある。しかし、N-40°-W～N-70°-W前後、N-0°～N-20°-W前後、N-10°-E～N-50°-E前後と幅は広いながらピークが認められる。N-40°-W～N-70°-WとN-10°-E～N-50°-Eの2者は基本的には軸方向が直交するもので、住居の壁方向は同じものとして捉えられる。この2方向を指す住居はBグループ全域に分布し、Bグループ内の一般的な軸方向と言える。



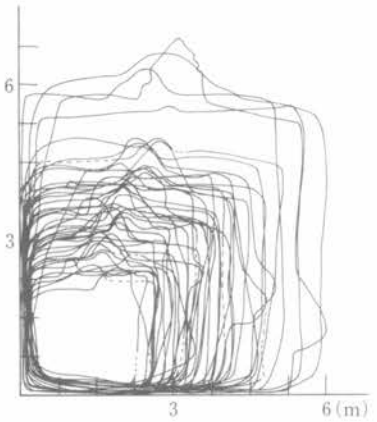

第166図　歴史時代１群Ｂグループ全体図 1



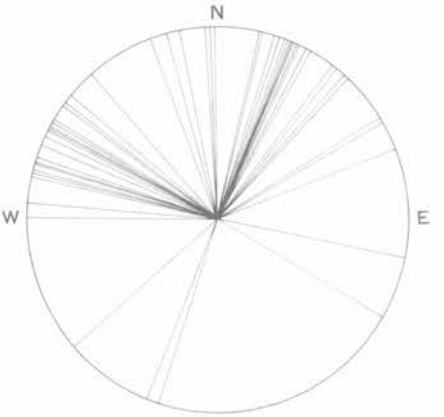

第167図　歴史時代１群Ｂグループ全体図　2



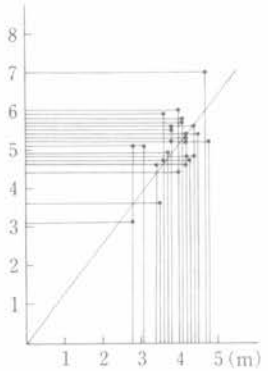

第168図　歴史時代１群Ｂグループ全体図 3



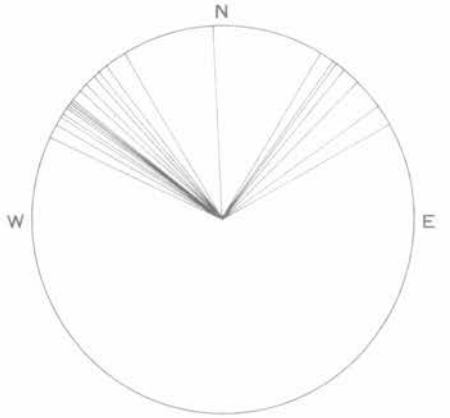

竪穴住居の規模




竪穴住居の主軸方向




掘立柱建物の規模




掘立柱建物の長軸方向

第169図　1群Bグループ建物比較

住居の規模はD155が最小で2.2m×2.4m、D165が最大で6.2m×6.4mを測る。床面積は10㎡前後が圧倒的に多く、30㎡を超えるものはD164・D165・D170・D264の4軒しかない。床面積が30㎡を超える住居のうちD170は0期に属する住居で、住居対角線上に4箇所の柱穴を配置している。また、D264は遺物が少なく明確な時期決定は問題があるが、出土した須恵器坏は8世紀代に納まるもので、1期に属する可能性が高い。D264は住居対角線上に4箇所の柱穴を配置し、カマド右側に貯蔵穴、カマドに対峙する壁際に出入り口ピットを設けている。1群Bグループでの1期の住居の床面積は10㎡前後に集中し、D264は特殊な例と言える。Bグループにおける1期の住居はV19グリッド付近に集中しており、D215・D264の2軒が離れて存在する。あるいはこの2軒は2群Aグループとして捉えたほうがよいのかもしれない。

各住居の形態は、柱穴が設けられないものが圧倒的に多く18軒を数え、それに続いて柱穴4箇所と出入り口ピットを持つB型、出入り口ピットだけを持つE型がある。また、住居コーナ

ーにカマドを設置するG型の住居が7軒あり、白幡前遺跡のG型の住居の過半数がこの地区に位置している。7軒の住居の内少なくとも2軒が1期の構築で、2期には認められないものの、3・4期に各1軒ずつ存在している。このほかにも、D159・D209のように著しくカマドが住居コーナーに近い位置に設置された住居がある。位置的には1期の住居が集中するV19グリッド付近に限られ、1～3期の住居が集中することと、G型の住居が集中することが無関係でないことを示唆している。住居の床面積はG型が平均8.4m²で、1期のE・F型の平均10.6m²を下回る数値を示す。

住居内の施設はD165に所謂ロクロピットと称される構造のピットが検出された。直径0.4m、床面からの深さ0.4mを測る堀方をもち、中心に直径0.1mの孔を残して周囲を埋め戻している。特に、床面にかかる部分では堅くしまった状態となっている。また、D164ではカマドを設置した壁及び壁外にカマド構築材に酷似した砂質粘土を貼り付け、テラス状の張り出しを形成している。粘土の厚さは0.1m前後で、壁外の張り出しは約0.5mを測る。このような構造を持つ住居は白幡前遺跡でD073があるだけで（D074は粘土の張り付けは認められなかったが、構造的に同じものである可能性が高い。）、萱田地区の他の遺跡では検出されていない。しかし、新川を挟んだ台地上に位置する村上込の内遺跡では5軒の住居に同様の構造が認められる。壁及び壁周辺の補強を目的としたものであろうが、その場合このテラス部分が空間としての住居内部に含まれていたのか、あるいは構造的に住居外に当たるのか未解明である。村上込の内遺跡の例も含めてすべての住居に壁溝があるが、テラス部分の壁下には壁溝が設けられないのが通例のようである。テラスの部分に壁を立ち上げた痕跡は無いが、貼り付けた粘土がかなり良好に遺存していること、カマドの火床の位置を考えれば、テラス部分は住居内部の空間として存在したとして間違いないだろう。

カマドは前述したように住居コーナーに設置する隅カマドの住居が7軒存在している。隅カマドの住居のカマド設置場所は様々で、南東コーナーに設置された例はないが、東・北東・北・北西・南西のコーナーに設置例がある。その他の住居は北東あるいは北西壁に設置され、カマドを寺谷津に向けるか、平行させるかのいずれかである。火床部が完全に壁外へ移行するのは6期に構築されたD287だけである。また、0期に属するD170は煙道部の張り出しは非常に小さく、煙道部はほぼ垂直に立ち上がっている。

遺物はほとんどが廃棄されたもので、住居に直接伴う遺物は非常に少ない。カマド内の遺物を中心に簡単に紹介しておく。

D146　カマド内から潰れた状態で甕2個体、両袖に接してロクロ土師器坏2個体が出土。

D155　煙道部に近い位置で支脚上に坏が伏せたられ状態で出土。

D170　カマド前面及び左脇からそれぞれ甕が出土。

D187　火床部上位に甕・甑が横位で出土。

D188　火床部に正位・横位に並んで甕２個体、ロクロ土師器坏１点出土。

D194　煙道部から正位で甕が出土。

これらの例のうちD170の甕の出土状況は古墳時代後期の住居に多く見られたように放置の状況が考えられる。具体的な考察は別章に譲るが、０期はそのまま１期へ継続するものではなく、古墳時代後期から継続したものであるようで、歴史時代の集落の本格的な経営開始時期は１期に求められる。そういう点で、D170の廃絶の状況が古墳時代後期の住居と共通しているのであろう。その他の５軒の様相は本来使用されていた状況を示しておらず、カマド廃絶時にこれらの遺物を廃棄あるいは埋置したものである。また、掘立柱建物群に隣接するD164・D165の２軒の竪穴住居跡からは破片総数10,000点前後の遺物が出土しており、実測可能であった個体もD164では50個体、D165では80個体を超える。この数は１軒の住居が消費した土器とは考えられない量で、周辺の住居から廃棄されたものと考えられる。周辺に位置する同時期の竪穴住居でも、これほど極端ではないが、やはり遺物の出土量はかなり多く、これらの土器を消費したと考えられる建物は隣接する掘立柱建物群が有力である。Ｂグループの掘立柱建物に住居としての機能が求められるのではないだろうか。

竪穴住居の埋没はほとんどが埋め戻しによるもので、その中に貝を廃棄した住居がある。埋土中に貝の廃棄が行われている住居はD152・D156・D165・D167・D168の５軒の竪穴住居跡とP129・P138の２基の土壙であり、いずれも本グループ内でも北寄りの遺構に限られる。遺存状態の問題もあるが、５軒もの住居に貝の廃棄が行われているのは白幡前遺跡においてこのグループだけである。廃棄された貝の量はあまり多いものではなく、平面的な範囲はいずれも0.2m四方前後である。廃棄の状況はD152が床面から約0.2m上位に当たるが、D156・D165は床面にかなり近いレベルにあり、D168ではP4の内部に詰まっていた。D168の状況は柱を抜き取った直後に柱穴内に貝を入れたもので、D156・D165も住居の廃絶とあまり隔たらない時期に貝を廃棄したと考えられる。

なお、本グループでは瓦塔の破片も竪穴住居跡・土壙から出土している。出土遺構はD154・D159・D164・D189・P038で表採品もあり、すべて同一個体である。

掘立柱建物跡は33棟が検出されたが、前述したようにH084を除く32棟が１箇所に集中している。軸方向は周辺の竪穴住居跡D164・D165・D287とほぼ同じ方向性を示し、N-30°-E前後、あるいはそれと直交するN-60°-W前後に集中する。建物はすべて側柱構造で、３間×２間が圧倒的に多く、規模の判明している建物だけで17棟を数える。続いて２間×２間が11棟、３間×３間が１棟、４間×２間が１棟となる。桁行長は６ｍを超えるものはH099だけで、平均は5.1ｍとなる。梁行長もほとんどが５ｍ以下に納まり、平均は4.0mとなる。他の群の掘立柱建物と比較して、若干桁行が長いが、平均値を大きく上回るものではない。柱間寸法は1.8～2.4mとなるが、規格性は認められず、１棟の建物においても柱間寸法に統一を見ない建物も多い。堀

方は0.5～1.1mの円形で、確認面からの深さは0.2～0.9mを測る。建物の配置は、建物群の北東端にH108～H113が東西棟で並び、その西側にH083～H150が直交して並んで〝L〟字形の配置をとっている。また、〝L〟字配置の内側にはH114・H117・H118、H115・H116・H119、H094～H098等の切り合いをもつ建物が位置する。しかし、西側のH083～H150の建物群はかなりの切り合いがあるものの、北東のH108～H113には切り合いがなく、同時存在した建物の確定が問題となる。出土遺物からほとんどの建物はロクロ土師器皿出現以降の構築であることが考えられるが、明確な時期を与えられる建物はなく、竪穴住居との重複からD152・D187→H081、H147→D287の関係が捉えられている。重複している建物の個々の関係はH112→H111、H114→H118、H115→H119、H146→H148→H145、H147→H145、H149→H148、H080→H082となる。ただ、北東端の建物列はH109とH110の重複や隣棟間隔から最低2時期、H094～H098もすべてが重複していることから最低4時期、H145→H150も最低6時期の変遷が考えられる。しかし、これらがどのような組み合わせで構築されていたか解明できず、恐らく周辺で竪穴住居が減少し始める4期から掘立柱建物の構築が開始されたと考えられる。建物の主軸方向についても同じ方向で構築された建物同士が重複する例が多く、建物の主軸方向からは同時性は論じられない。なお、H116は柱抜き取り後に非常に大形の須恵器甕の破片を堀方内に詰め込んでいる。

土壙は4基が検出された。このうちP038・P138は井戸状を呈する大形の土壙で、P138は埋土中に貝の廃棄が行われている。出土土器を見る限り両土壙とも3期の廃絶となる。なお、土壙周辺に3期の竪穴住居跡が集中している。このほかに貝の廃棄が行われた土壙はP129がある。

**第115表　1群B竪穴住居一覧**

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D144 | 方　形 | 2.7×2.5 | 6.75 | N－66°－W | 北西の西コーナー寄り | なし | なし | なし | あり | あり | 4b | |
| D145 | 方　形 | 3.6×3.0 | 10.80 | N－21°－E | 北東中央 | あり | なし | なし | あり | 全周 | 6 | |
| D146 | 方　形 | 4.1×3.8 | 15.58 | N－20°－E | 北東の北寄り | なし | 4 | 1 | あり | あり | 3 | |
| D147 | 方　形 | 4.2×4.2 | 17.64 | N－71°－W | 北西中央 | なし | 4 | 3 | あり | 全周 | 2 | |
| D148 | 方　形 | 4.6×4.0 | 18.40 | N－73°－W | 北西中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 1 | |
| D149 | 方　形 | 3.5×3.3 | 11.55 | N－102°－E | 東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 8 | |
| D150 | 方　形 | 3.0×2.8 | 8.40 | N－20°－W | 北コーナー | なし | なし | なし | なし | 全周 | 1 | |
| D151 | 方　形 | 3.6×2.6 | 9.36 | N－168°－W | 西コーナー | なし | なし | なし | なし | なし | 1 | |
| D152 | 方　形 | 2.9×2.8 | 8.12 | N－13°－E | 北中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 1 | |
| D153 | 方　形 | 3.8×3.8 | 14.44 | N－23°－E | 北東中央 | なし | 1 | なし | なし | 全周 | 1 | |
| D154 | 方　形 | 3.6×3.1 | 11.16 | N－69°－E | － | なし | なし | なし | なし | なし | 6 | |
| D155 | 方　形 | 2.4×2.2 | 5.28 | N－3°－W | 北コーナー | なし | なし | なし | なし | なし | 3 | |
| D156 | 方　形 | 3.2×2.8 | 8.96 | N－0° | 北中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 1 | |
| D157 | 方　形 | 3.9×3.4 | 13.26 | N－2°－W | 北中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 3 | D158と重複。 |
| D158 | 方　形 | 4.9×4.2 | 20.58 | N－77°－W | 北西中央 | なし | 4 | 6 | なし | なし | | |
| D159 | 方　形 | 3.3×2.5 | 8.25 | N－22°－E | 北東の北コーナー | なし | なし | なし | あり | なし | 3 | |

| No | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D160 | 方　形 | 2.6×2.4 | 6.24 | N－120°－E | 東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 1 | |
| D161 | 方　形 | 3.5×3.3 | 11.55 | N－62°－W | 北西の北寄り | なし | なし | なし | なし | あり | 3 | |
| D162 | 方　形 | 3.5×2.8 | 9.80 | N－130°－W | 西コーナー | なし | なし | なし | なし | なし | | |
| D163 | 方　形 | 4.5×4.0 | 18.00 | N－0° | 北中央 | あり | なし | なし | なし | なし | 7 | D219と重複。 |
| D164 | 方　形 | 5.9×5.4 | 31.86 | N－41°－E | 北東中央 | なし | 4 | 5 | あり | 全周 | 5 | |
| D165 | 方　形 | 6.4×6.2 | 39.68 | N－59°－W | 北西中央 | なし | 4 | 11 | あり | 全周 | 4b | 所謂ロクロピット有り。 |
| D166 | 方　形 | 5.3×4.9 | 25.97 | N－26°－E | 北東中央 | なし | 4 | なし | あり | あり | | |
| D167 | 方　形 | 3.5×2.6 | 9.10 | N－30°－E | － | なし | 4 | なし | なし | 北東壁除く全周 | | |
| D168 | 方　形 | 4.6×4.5 | 20.70 | N－26°－E<br>N－62°－W | 北中央<br>西中央 | なし | 4 | 3 | あり | 全周 | 4a | |
| D170 | 方　形 | 5.9×5.7 | 33.63 | N－15°－W | 北西中央 | なし | 3 | なし | なし | なし | 0 | |
| D173 | 方　形 | 4.0×3.8 | 15.20 | N－52°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 1 | |
| D174 | 方　形 | 3.2×2.9 | 9.28 | N－23°－E | 北東中央 | なし | なし | なし | あり | なし | 3 | |
| D175A | 方　形 | 3.8×3.5 | 13.30 | N－50°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 7 | |
| D175B | 方　形 | 4.6×4.3 | 19.78 | N－43°－E | 北東中央 | なし | 4 | 1 | あり | 全周 | 6 | 建て替え。 |
| D182 | 方　形 | 3.0×2.7 | 8.10 | N－28°－E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | | |
| D183 | 方　形 | 4.5×4.3 | 19.35 | N－11°－W | 西中央<br>北中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | 東壁中央に張り出し有り。 |
| D187 | 方　形 | 2.6×2.5 | 6.50 | N－158°－W | 西コーナー | なし | なし | なし | なし | 全周 | | |
| D188 | 方　形 | 3.3×3.2 | 10.56 | N－84°－W | 西中央 | なし | なし | 1 | あり | 全周 | 2 | |
| D189 | 方　形 | 4.8×3.0 | 14.40 | N－38°－E | 東コーナー | なし | なし | なし | なし | なし | 4 | |
| D192A | 方　形 | 3.9×3.6 | 14.04 | N－6°－E | － | なし | なし | なし | なし | なし | 5 | |
| D193 | 方　形 | 4.3×3.4 | 14.62 | N－85°－W | 西中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 2 | |
| D194 | 方　形 | 2.9×2.6 | 7.54 | N－18°－E | 北中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 4 | |
| D195 | 方　形 | 3.7×3.5 | 12.95 | N－75°－W | 西中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 0 | |
| D196 | 方　形 | 4.3×4.2 | 18.06 | N－14°－E | 北中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 3 | |
| D199A | 方　形 | 3.9×2.9 | 11.31 | N－76°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 3 | |
| D199B | 方　形 | 3.3×2.9 | 9.57 | N－0° | 北の西寄り | なし | なし | なし | なし | なし | 4a | |
| D200 | 方　形 | 2.9×不明 | － | N－30°－E | － | なし | なし | なし | なし | なし | | |
| D209 | 方　形 | 3.2×3.1 | 9.92 | N－73°－W | 西壁の北西コーナー寄り | なし | なし | なし | あり | 全周 | 1 | |
| D211 | 方　形 | 3.5×2.9 | 10.15 | N－22°－E | 北コーナー | なし | なし | なし | なし | 全周 | 5 | |
| D214 | 方　形 | 5.0×4.7 | 23.50 | N－67°－W | 北西中央 | なし | 4 | 2 | あり | 全周 | | |
| D215 | 方　形 | 2.7×2.7 | 7.29 | N－59°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | なし | 1 | |
| D216 | 方　形 | 3.0×2.9 | 8.70 | N－29°－W | － | なし | 3 | なし | あり | あり | 2 | |
| D219 | 方　形 | 2.9×2.5 | 7.25 | N－26°－E | 東コーナー | なし | なし | なし | なし | 全周 | 3 | |
| D222 | 方　形 | 4.1×不明 | － | N－37°－E | － | なし | なし | なし | なし | なし | | |
| D256 | 方　形 | 2.8×2.7 | 7.56 | N－75°－W | 西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D257 | 方　形 | 3.7×3.5 | 12.94 | N－58°－E | 東コーナー | なし | 4 | 3 | なし | あり | | |
| D264 | 方　形 | 6.1×5.8 | 35.38 | N－54°－W | 北西中央 | あり | 4 | なし | あり | 全周 | 1 | |
| D267 | 方　形 | 4.6×4.4 | 20.24 | N－62°－W | 西中央 | なし | 4 | なし | なし | なし | | |
| D268 | 方　形 | 3.7×3.1 | 11.47 | N－60°－W | 西中央 | なし | なし | なし | あり | なし | 4a | |
| D287 | 方　形 | 4.1×3.6 | 14.76 | N－49°－W | 北西中央 | なし | なし | 2 | あり | 全周 | 6 | |

## 第116表　1群B掘立柱建物一覧

| No | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H080 | 3×2 | 側柱 | 5.7 | 4.1 | 1.8～2.3 | 23.37 | 0.8～1.0 | 0.3～0.6 | N－32°－E | なし | | |
| H081 | 3×2 | 側柱 | 5.6 | 4.4 | 2.0～2.2 | 24.64 | 0.6～1.0 | 0.4～0.9 | N－2°－W | なし | | |
| H082 | 2×2 | 側柱 | 5.3 | 5.2 | 2.4～2.8 | 27.56 | 0.8～1.0 | 0.4～0.7 | N－41°－W | なし | | |

| No. | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H083 | 3×2 | 側柱 | 6.0 | 4.0 | 1.9～2.1 | 24.00 | 0.8 | 0.8～0.9 | N－45°－W | なし | | |
| H084 | 2×2 | 側柱 | 3.8 | 3.6 | 1.8 | —— | 0.8～1.0 | 0.4～0.5 | N－52°－W | なし | | |
| H092 | 3×2 | 側柱 | 5.9 | 3.6 | 1.8～2.1 | 21.24 | 0.7～1.0 | 0.7～0.9 | N－58°－W | なし | | |
| H093 | 3×2 | 側柱 | 5.4 | 4.2 | 1.9～2.1 | 22.68 | 0.8～1.0 | 0.4～0.6 | N－55°－W | なし | | |
| H094 | 2×2 | 側柱 | 5.2 | 4.8 | 2.3～2.7 | 24.96 | 0.6～1.0 | 0.4～0.5 | N－31°－W | なし | | |
| H095 | 4×2 | 側柱 | 5.2 | 4.2 | 1.3～2.1 | 21.84 | 0.6～0.9 | 0.3～0.4 | N－53°－W | なし | | |
| H096 | 2×2 | 側柱 | 4.8 | 4.2 | 1.8～2.6 | 20.16 | 0.6～1.0 | 0.3～0.6 | N－53°－W | なし | | |
| H097 | 3×2 | 側柱 | 4.9 | 3.7 | 1.6～2.0 | 18.13 | 0.8～1.0 | 0.3～0.6 | N－64°－W | なし | | |
| H098 | 2×2 | 側柱 | 4.7 | 3.6 | 1.8～2.3 | 16.92 | 0.6～0.8 | 0.6～0.8 | N－49°－W | なし | | |
| H099 | 3×2 | 側柱 | 7.0 | 4.7 | 2.0～3.0 | 32.90 | 0.8～1.0 | 0.3～0.6 | N－37°－W | なし | | |
| H108 | 1以上×2 | 側柱 | 3.0以上 | 3.3 | 1.7 | —— | 0.7～1.1 | 0.3～0.6 | N－60°－W | なし | | |
| H109 | 3×2 | 側柱 | 5.2 | 3.8 | 1.8 | 19.76 | 0.7～1.0 | 0.4～0.7 | N－54°－W | なし | | |
| H110 | 3×2 | 側柱 | 5.2 | 3.8 | 1.8 | 19.76 | 0.5～0.8 | 0.3～0.5 | N－36°－E | なし | | |
| H111 | 3×2 | 側柱 | 4.6 | 4.2 | 1.0～2.1 | 19.32 | 0.5～0.8 | 0.2～0.6 | N－57°－E | なし | | |
| H112 | 2×2 | 側柱 | 3.1 | 2.8 | 1.4～1.8 | 8.68 | 0.5～0.7 | 0.3～0.6 | N－60°－E | なし | | |
| H113 | 3×1以上 | 側柱 | 5.4 | 3.3以上 | 1.8 | —— | 0.6～1.0 | 0.2～0.7 | N－32°－E | なし | | |
| H114 | 3×2 | 側柱 | 5.1 | 3.1 | 1.5～1.7 | 15.81 | 0.7～0.8 | 0.3～0.7 | N－52°－W | なし | | |
| H115 | 2×2 | 側柱 | 3.9 | 3.6 | 1.8～2.1 | —— | 0.6～0.8 | 0.7 | N－45°－E | なし | | |
| H116 | 3×2 | 側柱 | 5.4 | 4.2 | 1.8～2.3 | 22.68 | 0.8～1.0 | 0.6 | N－53°－W | なし | | |
| H117 | 3×2 | 側柱 | 5.1 | 2.8 | 1.4～1.8 | 14.28 | 0.5～0.7 | 0.2～0.6 | N－54°－W | なし | | |
| H118 | 3×3 | 側柱 | 5.4 | 4.5 | 1.6～2.1 | 24.30 | 0.7～0.9 | 0.4～0.6 | N－53°－W | なし | | |
| H119 | 2×2 | 側柱 | 4.7 | 4.3 | 1.8～2.2 | 20.21 | 0.8 | 0.3～0.7 | N－45°－W | なし | | |
| H120 | 1以上×1以上 | 側柱 | 5.0以上 | 4.0以上 | 2.0～5.0 | —— | 0.6～0.8 | 0.4～0.5 | N－42°－W | なし | | |
| H145 | 2×2 | 側柱 | 4.8 | 4.4 | 2.2～2.5 | 21.12 | 0.8～1.0 | 0.5～0.8 | N－41°－E | なし | | |
| H146 | 2×2 | 側柱 | 3.6 | 3.5 | 1.8～2.0 | 12.60 | 0.8～1.0 | 0.4～0.7 | N－38°－E | なし | | |
| H147A | 3×2 | 側柱 | 5.6 | 3.8 | 1.8 | 21.28 | 0.8～1.0 | 0.6～0.7 | N－38°－E | なし | | |
| H147B | 3×2 | 側柱 | 5.8 | 4.1 | 1.9 | 23.78 | 0.8～1.0 | 0.6～0.7 | N－38°－E | なし | | |
| H148 | 3×2 | 側柱 | 5.5 | 3.8 | 1.8 | 20.90 | 0.8～1.1 | 0.5～0.8 | N－38°－E | なし | | |
| H149 | 3×2 | 側柱 | 4.6 | 3.4 | 1.6 | 15.64 | 0.8 | 0.3～0.7 | N－33°－E | なし | | |
| H150 | 2×2 | 側柱 | 4.4 | 4.0 | 2.0～2.2 | 17.60 | 0.7～0.8 | 0.4～0.7 | N－53°－W | なし | | |

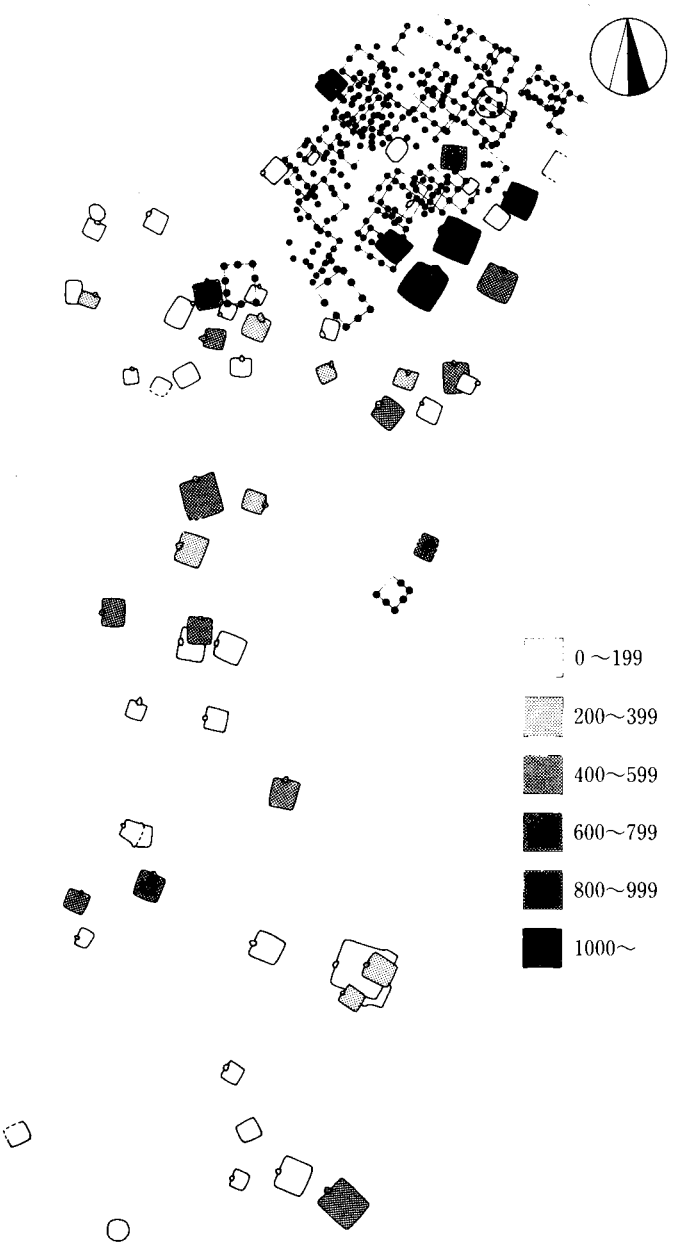
**第117表　1群B土壙一覧**

| No. | プラン | 規　模 | 深さ | 軸方向 | 機能 | 時期 | 埋土の状況 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P038 | 円　形 | 直径2.6 | 2.1 | —— | 井戸 | | | |
| P042 | 方　形 | 2.6×1.4 | 0.9 | N－40°－E | | | ローム粒・ロームブロック多く含む。 | 遺物は3層上面に集中する。 |
| P043 | 円　形 | 直径1.3 | 0.2 | —— | | | ローム粒多く含む。 | |
| P129 | 円　形 | 直径1.4 | 0.9 | —— | | | 下層に貝を廃棄。 | |
| P138 | 円　形 | 直径3.4 | 2.3 | —— | 井戸 | | 多量の貝が廃棄される。 | |
| P179 | 方　形 | 1.5×0.8 | 0.6 | N－72°－W | | | | |

## 3　遺　物（第170図、第118～173表、PL.78～123、図版69～91）

竪穴住居から出土した遺物は、やはり廃棄された遺物が中心で、D164・D165の2軒の竪穴住居跡は10,000点に昇る遺物が出土している。この2軒の竪穴住居跡は4b期ないし5期に属

し、掘立柱建物との関係で捉えるのが妥当である。カマドを中心とした遺物の出土状況は、先に6軒の住居について紹介したが、いずれもカマド使用時の状況がそのまま埋没したものではなく、カマド廃絶時にこれらの遺物を廃棄もしくは埋置した状況が窺える。1群Bグループ全体の遺物出土量は1㎡当り23点で、白幡前遺跡の平均的な量といえる。しかしながら、D164・D165の2軒を除外すると、遺物出土量はかなり少ないグループであることがわかる。傾向として、3期以前の竪穴住居跡はあまり多くの遺物を包含していない。



第170図　歴史時代1群B遺物の出土量図

**D144**　ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50°前後となる。既にロクロ土師器皿を伴っており、ロクロ土師器坏には墨書、ロクロ土師器皿には線刻されている。土師器甕は大形の1・2類がある。須恵器は甕と甑の底部が図示できた。甑は5孔の製品である。

**D145**　ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するもので、立ち上がりの角度は50°以下である。甕は大形の2類があるが、底部の破片は回転糸切り痕がある。8は石製の紡錘具である。

**D146**　カマド内から19・21の2個体の甕が、カマド前面から1・5の2個体の坏がそれぞれ出土している。ロクロ土師器坏は1c類が主体的で、箱形の器形を残している。立ち上がりの角度

は63°前後で、底部は静止ヘラ削りの製品と回転ヘラ削りの製品がある。なお、6・7・8・10は底部もしくは体部外面に「枚万」と墨書されている。須恵器坏は体部が外反気味の製品が多く、ほぼ共通して胎土に大粒の石英粒を混入している。12・14・15は線刻ないしヘラ描きされ、15は焼成前に「大生人」とヘラ描きされている。土師器甕は1・3・5類の大形と4類の小形がある。鉄製品は刀子・鉄鏃・釘がある。

**D147**　ロクロ土師器坏は箱形の器形を残し、須恵器坏は体部が直線的に立ち上がっている。

**D148**　ロクロ土師器坏は実測可能な個体が出土していない。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がる1類で、底径も1・2は9cmを超している。蓋は土師器・須恵器各1点あり、土師器の製品は内面にヘラ磨きを施している。甕は2・3類の大形がある。

**D149**　ロクロ土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がるものであるが、調整は粗雑で時期的に14類に並行するものである。土師器甕は器形分類に挙げなかったが、6類に近いものである。

D150　坏類は須恵器が卓越し1・6類がある。立ち上がりの角度は50〜55°で、底径はほとんど7cmを超えている。6の体部外面には墨書がある。土師器甕は4類の大小がある。

**D151**　出土遺物が少なく、須恵器坏1点が図示できた。体部は直線的に立ち上がり、体部外面に墨書される。鉄製品は刀子がある。

**D152**　坏類は須恵器が卓越する。土師器甕は4類の大小が揃い、7類の台付甕の破片も出土している。なお、小形甕の8はロクロ調整を行っている。本住居は床面に近いレベルに貝を廃棄している。量的には非常に少ないもので、マガキが50個体確認された。

**D153**　土師器鉢と甕を図示した。鉢はロクロ未使用の製品で、体部外面にヘラ削りを施している。底部には木葉痕がある。甕は2類である。

**D154**　住居の遺存状態が悪く、遺物の量も少ない。ロクロ土師器坏は口縁部が外反する小振りの製品で、立ち上がりの角度は45°前後である。2は体部外面に墨書がある。甑は5孔の製品である。なお、瓦塔の破片が出土している。

**D155**　遺物の量は少ないが、1・2はカマド内に2個体が逆位に重ねられていた。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、1の底部は回転糸切り後、全面一方向にヘラ削りを施す。2は内面黒色処理される。甕は5類である。

**D156**　坏類は須恵器が卓越し、底径はすべて7cmを超える1類である。底部はヘラ切り後全面静止ヘラ削りを施している。甕は7が完形に近いが、埋土中に散乱した状態で出土している。なお、床面に近いレベルに貝の廃棄が行われている。ハマグリは殻長5cm前後のものである。

| | | |
|---|---|---|
| ハマグリ | *Meretrix lisoria* | 11 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | 17 |

**D157**　ロクロ土師器坏は箱形の器形を残した1と須恵器坏1a類に近い2がある。1は底部は回転糸切り後、周縁部静止ヘラ削り、2は全面一方向のヘラ削りを行な酸化焔焼成である。な

お、墨書された破片があるが、釈文は不明である。甕は土師器３・５類、須恵器３類がある。10は石製の紡錘具である。鉄製品は鉄鏃がある。

**D158**　１は住居中央の床面に近いレベルから出土した。胴部上位に横方向のヘラ削りが施されるのが特徴的である。鉄製品は刀子がある。

**D159**　坏類は須恵器が多い。ロクロ土師器坏は箱形の器形が僅かに崩れだした２ａ類で、底部回転糸切り後、周縁部に静止ヘラ削りを施す。須恵器坏は２・３が底部回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施す。蓋は土師器の小振りの製品で、天井部に墨書されている。なお、瓦塔の破片が出土している。

**D160**　坏類だけが図示できた。土師器坏はロクロ土師器坏を伴っておらず、坏１類と口径８cm前後の小形の坏がある。２～４は３点とも完形で、口縁部内面にいずれも同じような状態で油煙が付着している。須恵器坏はいずれも底径が８cm前後の製品で、体部は直線的に立ち上がっている。カマドから出土した５は体部外面に墨書されている。

**D161**　ロクロ土師器坏は箱形の器形が若干崩れだし、立ち上がりの角度は62°前後となる。２は体部外面に墨書され、３は底部外面に線刻がある。須恵器坏は３ａ類で立ち上がりの角度は64°となる。甕は小形の製品で、胴部のヘラ削りをナデて消す。鉄製品は穂摘具がある。

**D162**　坏類は破片しかなく、３の蓋も20％程度の遺存である。１・２とも体部外面に墨書されている。

**D163**　ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するもので、全体的に調整は粗雑である。立ち上がりの角度は40～48°となるが、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。また、高台坏４類を伴っている。４・５・８の体部外面には「嶋」と墨書されている。土師器甕は口唇部が内側へ折り返される６類が主体となる。

**D164**　本グループではD165とともに非常に多くの遺物が出土している。しかし、遺物の多くは住居廃絶後に廃棄されたものであり、住居に直接伴う遺物はほとんどない。ロクロ土師器坏は口縁部が外反し、立ち上がりの角度が50～54°程度の製品が主体的で、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。ロクロ土師器皿は１・２・４類があり、内面にヘラ磨きを行う。坏・皿類には墨書・線刻されたものが多く、釈文は「生」・「継」・「草」・「財」となる。甕類は実測可能な個体が坏類ほど多くない。土師器甕は大小あり、１・２類がほとんどである。須恵器甕は口径が49.3cmを測る大形の製品が含まれ、その他３・４・６類がある。このほかに灰釉陶器の椀・段皿・小瓶が出土した。89は須恵器甕の破片を転用した硯である。鉄製品は刀子・鉄鏃・錐・燧金がある。

**D165**　D164同様非常に多くの遺物が出土した。やはりほとんどの遺物が住居廃絶後に廃棄されたものであるが、ロクロ土師器坏19・20がカマド内から出土している。ロクロ土師器坏は口縁部の外反が少ない９～11類が主体的で、立ち上がりの角度は55～60°程度の製品が多い。底部

は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。ロクロ土師器皿は少なく、1・2類がある。このほか盤・高台坏1類・高坏・ロクロ調整の鉢が出土しており、坏類は内面黒色処理されたものが4点ある。また、墨書・線刻されたものが多く、釈文は「生」・「継」・「大田」・「家」・「○」となる。須恵器坏は口縁部が僅かに外反する4b類が主体的で、底部・体部下端とも静止ヘラ削りを施している。甕類は須恵器が多く、土師器は2類の大形・小形・3類がある。須恵器は口径42.7cmを測る大形の1類を始め3・4類と甑がある。108～111はロクロ土師器坏の底部を利用した紡錘具である。鉄製品は刀子・鉄鏃・鎌・紡錘具が、青銅製品は鈴具・巡方がある。

**D167** 実測可能な遺物はない。なお、埋土中に貝が廃棄されている。ハマグリは殻長5cm前後のものがほとんどであるが、殻長7cm以上、殻長3cm以上で7cm未満、殻長3cm未満の大・中・小に分けた。

| | | | |
|---|---|---|---|
| ハマグリ | 大 | *Meretrix subornata* | 4 |
| | 中 | | 127 |
| | 小 | | 31 |
| アサリ | | *Ruditapes philippinarum* | 3 |
| シオフキ | | *Mactra veneriformis* | 130 |

**D168** ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するものが主体的で、立ち上がりの角度は57°前後となる。なお、15には高台が付くようである。墨書は少なく、蓋22をはじめ5点に認められる。土師器甕は2・4類があり、小形の製品が多い。なお、P4の柱を抜き取った跡に貝を詰め込んでいる。ハマグリは殻長5cm前後のものがほとんどである。鉄製品は刀子がある。

| | | |
|---|---|---|
| ハマグリ | *Meretrix subornata* | 79 |
| オキシジミ | *Cyolina sinensis* | 1 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | 32 |
| マテガイ | *Solon*（S）*strictus* | 2 |

**D170** カマド前面及び左脇から土師器甕5・6が、1～3の坏もカマドに対峙する壁際の床面から出土している。土師器坏は調整が非常に粗雑で、粘土紐巻き上げ後、僅かな調整を施しただけの製品である。4は混入品であるが、体部外面に「益□」と墨書されている。5の甕は胴部がかなり張り、6も極端な長胴で古墳時代的色彩を強く残している。鉄製品は刀子がある。

**D173** 坏類は須恵器が卓越し、底径が7cmを超える製品である。蓋はあまり高さがなく、天井部に「文」と墨書されている。

**D174** 13がカマド前面、4・11・14が住居北東隅から出土した。ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈する1a・1b類が主体的で、立ち上がりの角度は60～65°となる。底部外面・体部外面に墨書されたものが多く、釈文は「大井」・「牧万」・「器」・「○」となる。土師器甕は1・3類と4

類の小形の製品がある。鉄製品は刀子がある。

**D175**　A・B２軒の建て替えがあるが、遺物はすべてAの埋土から出土した。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反する13類がほとんどで、立ち上がりの角度は50～54°となる。底部内面・体部外面に墨書されたものが多く、釈文は「立」となる。ロクロ土師器皿は１類がなくなり、２・４類が見られる。甕は土師器２類、須恵器３類があり、30はほぼ完形である。なお、灰釉陶器の椀・皿が伴っている。鉄製品は鉄鏃・紡錘具がある。

**D183**　ロクロ土師器坏は箱形の器形が完全に崩れた９類と高台坏１類がある。高台坏は２点とも内面黒色処理されている。須恵器坏は１類のほか２ｂ類・３ｂ類がある。坏類は墨書されたものが多く、釈文は「○」・「益」・「大寺」・「山□」となる。土師器甕は１・４類がある。鉄製品は鉄鏃がある。

**D187**　図示した甕・甑はカマド内から出土した。甕は完形で、口縁部を丸く納める。甑は土師器で、１孔の製品である。

**D188**　９・10の甕がカマド内から出土している。状況は10が正位、９は横位であり、カマド廃棄に伴ってカマド内に納めたものと理解できる。ロクロ土師器坏は箱形の器形を保っており、１～３は底部ヘラ切り無調整である。

**D189**　ロクロ土師器坏は内彎気味に体部が立ち上がるもので、底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施している。

**D192**　D192として調査された遺構はA・Bがあるが、これらは重複するものではなく、Bは竪穴住居跡とは考えられないため、調査時にD192-Aとした遺構について紹介する。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部だけであるがロクロ土師器皿も伴っているようである。坏類は墨書されたものが多く、釈文は「生」・「継」・「冨」・「入」・「羊」・「成」となる。土師器甕は全体の器形が窺えるものはないが、13は内面に横位のヘラ磨きを施している。鉄製品は刀子・鎌が、青銅製品は巡方がある。

**D193**　ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈するもので、D188同様底部ヘラ切り無調整の製品が多い。３・４は体部外面に墨書される。土師器甕は４類が主体的で、また、底部１孔の把手の付いた甑が２個体出土している。なお、13は土製の陽物でカマド内に先端を上に直立していた。表面の状況は二次的な火熱を受けた痕跡がなく、直立してはいたが、支脚として使用されたものではなく、カマド廃棄に伴ってカマド内に立たせた可能性がある。

**D194**　３はカマド内から出土したが、火床部からではなく、煙道部に近い位置である。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施す。２の底部外面に墨書される。

**D195**　ロクロ土師器坏を伴わない住居である。２は相模型の坏に酷似するが、赤彩は施されず、むしろ黒色のシミがある。１は１類の坏で内外面赤彩される。

D196　土師器坏はロクロ未使用の坏を残しており、ロクロ土師器坏は箱型の器形が僅かに崩れている。高台坏は1類があり、11は内面に黒色処理が施される。底部外面・体部外面に墨書されたものが多く、釈文は「○」・「臣」となる。土師器甕は1・4類があり、また、底部3孔の把手の付いた甑が出土している。鉄製品は刀子がある。

D199　A・B2軒が重複しているが、Bから出土した遺物はない。土師器坏は平底の2類があり、内外面とも入念に磨いている。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するものも見られるが、基本的には箱形の器形が崩れたもので、底部静止ヘラ削りが多い。なお、6の底部外面に「牧万」と墨書されている。

D211　ロクロ土師器坏は口縁部が外反するものが主体的で、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。ロクロ土師器皿は体部下端から底部にかけて横ナデを施す2類で、内面にヘラ磨きを行う。体部外面・底部外面に「生」と墨書されたものが多い。土師器甕は2類の小形の製品である。15は石製の紡錘具である。

D215　1はロクロ土師器坏で、内外面とも入念なヘラ磨きを施している。2は須恵器広口壺で、肩が張り、高台の付いた製品である。

D216　ロクロ土師器坏は箱形の器形が僅かに崩れ、2点とも底部ヘラ切り無調整である。あるいは、須恵器かもしれない。鉄製品は穂摘具がある。

D219　ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がり、内外面にヘラ磨きを施している。内面黒色処理される。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がり、底部・体部下端とも静止のヘラ削りを行う。土師器甕は5類である。

D268　平底の土師器坏2類を伴っているが、ロクロ土師器坏は口縁部が外反している。2は体部外面・底部外面に「入」の墨書がある。甕は完形に近く、5類である。

D278　比較的多くの遺物が出土しているが、ほとんどが住居廃絶後に廃棄されたものである。傾向として甕類はカマドに近い位置から出土している。なお、ロクロ土師器坏6はカマド内から出土している。ロクロ土師器坏は完形ないし完形に近い状態で遺存していたものが多い。口縁部は大きく外反し、口径も14cmを超えるものが目立つ。調整は粗雑で、底部回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。底部内外面・体部外面に墨書されたものが多く、釈文は「生」・「立」・「庄」となる。ロクロ土師器皿は出土していない。土師器甕・甑とも口縁部が受け口状に調整されたもので、大形の28の底部に回転糸切り痕が残る。

P038　井戸状を呈する土壙で、多くの遺物が出土しているが、すべて埋め戻しの段階で廃棄されたものである。土師器坏は丸底で半円形の体部を呈する製品で、内面にヘラ磨きを施す。ロクロ土師器坏は箱形の器形が崩れ始めたもので、3・4は底部不定ヘラ削りとなる。体部外面に「○」の墨書がある。須恵器は坏・蓋・盤があり、坏は体部が若干内彎する5類である。このほかに、瓦塔の破片が出土しており、Bグループ出土の瓦塔を一括して後述する。時期的に

は4期には廃絶されていた遺構で、周辺の3期の竪穴住居と並行して機能していたと考えられる。

**P042**　方形の平面形を呈する土壙で、ロクロ土師器坏を中心に約1,400点の土器片が出土している。出土層位は3層上面に集中し、それ以下の3・4層には炭化材を含んでいる。位置的にはH083と重複するが、H083に先行する遺構である。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。なお、12は底部内面・体部外面に「立」と墨書されている。

**P129**　直径1m程度の土壙であるが、ロクロ土師器坏・ロクロ土師器皿を中心に約1,000点の遺物が出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。また、口径が18cm前後の法量的に大きい製品も含まれる。ロクロ土師器皿は2・5類があり、内面にヘラ磨きを行う。底部内外面・体部外面に「立」と墨書された製品が多い。なお、埋土6・7層に貝が廃棄されている。ハマグリは殻長5cm前後のものが主体である。

| | | |
|---|---|---|
| ウミニナ | *Batillaria multiformis* | 3 |
| アカニシ | *Rapana venosa* | 1 |
| ハマグリ | *Meretrix lusoria* | 118 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | 1 |
| ムラサキガイ | *Hiatula diphos* | 1 |

なお、貝層中から大型哺乳類の肢骨をはじめコイの遺存体が検出されている。

**P138**　井戸状の土壙で、約400点の土器片が出土している。これらは埋め戻しに伴って北側から貝と共に廃棄されたものである。土師器坏はすべて3類で、1は体部外面に「○」の墨書が、底部外面に「#」の線刻がある。ロクロ土師器坏は箱形の1a・1c類があり、4・5は底部ヘラ切りである。また、高台坏1・2類が伴っている。須恵器坏は箱形の2a類、体部が内彎気味に立ち上がる5類があり、11・20・21は底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを施している。墨書・線刻されたものが多く、釈文は「牧万」・「子猨嶋」・「○」となる。なお、前述したように北側から多量の貝が廃棄されており、その量は埋土全体の約1/3を占める。貝層は中心部で1mを超し、ほぼ純貝層と言えるものである。断面の観察から8層の分層が可能で、それぞれの層は廃棄の単位を示していると考えられる。貝のサンプリングは0.5m方眼で、一つのサンプルは原則として0.3mの厚さをもつ。ただし、一部厚さが0.2mのサンプルがある。従って一つのサンプルは0.15m³の量となり、貝層全体のサンプリングを行っている。

| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イボキサゴ | *Umbonium (Suchium) maniliferum* | 933 | 1008 | 131 | 42 | 143 | 703 | 2960 |
| ウミニナ | *Batillaria multiformis* | 234 | 270 | 224 | 810 | 72 | 1 | 1611 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| アカニシ | *Rapona venosa* | 1 | | | | | | 1 |
| ツメタガイ | *Neverita (Glossaulax) didgma* | 1 | 1 | | | | 4 | 6 |
| アラムシロ | *Hinig festiva* | | | | | | 13 | 13 |
| タニシ | | 7 | 5 | | | 103 | 4 | 119 |
| ハマグリ | *meretrix lusoria* | 2971 | 4904 | 3574 | 3966 | 3305 | 917 | 19637 |
| サルボウ | *Scapharca subcrenata* | 20 | 6 | 9 | 6 | 10 | 1 | 52 |
| マガキ | *Crassostrea gigas* | 3 | 12 | 32 | 8 | 12 | | 67 |
| アサリ | *Ruditapes philippinarum* | 75 | 54 | 57 | 298 | 875 | 7 | 1366 |
| オキシジミ | *Cyclina sinensis* | 8 | 22 | | 12 | 5 | | 47 |
| カガミガイ | *Phacosoma japonicum* | 8 | 115 | 20 | 269 | 6 | 2 | 420 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | 1320 | 1486 | 1307 | 3318 | 2829 | 50 | 10310 |
| マツカサガイ | *Inversidens japonensis* | 7 | 39 | 92 | 15 | 1391 | 78 | 1622 |
| バカガイ | *Mactra chinensis* | 15 | | | | | | 15 |

以上、各遺構の遺物を概観したが、時期の変遷を追ってみると、0期はD170・D195の2軒が該当し、ともに遺物量は少ない。D170ではカマド前面及び左脇から土師器甕5・6が、1～3の坏もカマドに対する壁際の床面から出土している。この2軒の住居を0期として一括したが、同時存在したものではなく、時期差が存在する。土師器坏はD195で土師器坏1類と相模型の坏に酷似した製品がみられる。しかし、赤彩は施されず、むしろ黒色のシミがある。D170から出土した坏は3点とも手づくねの粗雑な製品で、時期決定の材料とはなり得ない。但し、土師器甕は極端な長胴の5と、胴部に張りを持つ1類の甕がある。0期には墨書土器はみられず、D170から出土しているロクロ土師器坏の破片は混入品である。

1期は他の群に比べてかなり多くの住居が存在する。北海道遺跡・井戸向遺跡の調査成果から供膳形態において須恵器が卓越することが確認されている。須恵器は須恵器坏1類が主体的で、底径は7cmを超える製品がほとんどである。底部はヘラ切り後、全面静止ヘラ削りもしくは回転ヘラ削りである。土師器坏は量的に少ないが、1類が伴うようで、D160・D209で見られる。D160から出土した1はやや身が深いが、D209の1とともに内外面にヘラ磨きを施している。また、D160からほぼ法量が等しい小形の坏が3点出土している。3点とも完形で、口縁部内面に油煙が付着している。蓋も比較的多くみられ、口径15cm前後の製品が主体となる。天井部はあまり高くなく、若干偏平である。土師器甕は3類が主体となり、口唇部を丸く納める5類も見られる。小形の製品も多く、D152から出土した8はロクロ調整である。須恵器甕は良好な資料がないが、D150・D156・D215から出土した甕は胴部に張りがある。なお、D215の2は肩部に稜を有する高台付きの広口壺である。1期には僅かに墨書土器が存在し、須恵器坏・須恵器蓋に墨書されている。

2期は井戸向遺跡同様あまり良好な資料がない。ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈する1類があり、D188・D193の遺物から体部の立ち上がりの角度は65°以上になる製品が多い。底部はD188・D193・D216ではヘラ切りが主体的で回転糸切りの製品は非常に少ない。須恵器坏の量は1期と比較して少なく、1類の他にD216では2類が伴っている。土師器甕は1・3類の他に2類が見られるが、量的に多いのは1類である。また、D193では土師器甑が出土している。10・11とも把手の付く底部1孔の製品である。土師器甑は白幡前遺跡全体でも少ない器種で、把手の付く甑は3期としたD196からも出土している。D196から出土した甑は口縁部を欠損するが、D193の10・11は口縁部が僅かに内彎し、調整も丁寧である。この他D193では土製の陽物がカマド火床部から出土している。全長12.1cm、最大径4.25cmを測り、細部までよく表現されている。

3期は2期と比較して遺構数が多い。ロクロ未使用の土師器坏は少なく、D196・D199Aで図示できた。ともにやや身の深い2類で、体部内外面にヘラ磨きを施している。ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈するものの、口縁部が僅かに外反する2類が主体となる。底部は回転糸切り後に回転ヘラ削りを施す製品が多く、全体的に精緻な印象を受ける。また、3期には口径13cm以下の高台坏1類が出現する。本グループではD183・D196から出土しており、内面黒色処理することが一般的である。須恵器坏は量的にかなり多く伴っているが、形態にバラエティーがある。傾向として2・4類が主流であり、僅かに5類も含まれている。5類の坏は底部回転糸切り後に回転ヘラ削りを施している。土師器甕はやはり1類が多く、2・3類がこれに伴っている。3期は墨書土器の量も急激に増加するが、文字の種類はあまり多くない。D146を中心とした「牧万」・「枚万」が特徴的である。なお、D146の18の須恵器坏は底部外面に焼成前に「大生人」とヘラ描きされている。ちなみにこの製品は常陸産と考えられる。

4a期は遺構数は比較的多いものの、竪穴住居1軒当りの遺物量は続く4b期より遙かに少ない。ロクロ未使用の土師器坏は僅かに残り、D199B・D268から出土している。ともに平底の製品で、D199の1は内外面ともヘラ磨きを施している。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反する5類が主体的で、体部が内彎気味に立ち上がるものも見られる。底部はほとんどが回転糸切り後に回転ヘラ削りを施しているが、D199の5のように静止ヘラ削りのものも皆無ではない。また、D168の14のように口径が15cm近く、体部にヘラ磨きを施したものが新たに加わっている。なお、D168の15は高台が付く。須恵器坏は極端に減少し、3期に近いD159で3点図示できたが、他の遺構ではほとんど図示できるものがない。土師器甕はこれまで主流であった1・3類は少なくなる。1群Aグループでは土師器甕1類がかなり見られたが、本グループではほとんど見られなくなる。基本的には2・5類が多く、小形の製品も各住居から出土している。墨書土器はあまり多くないが、D168の22の天井部に書かれた文字を「立」ととるならば、これが「立」の初見となる。また、D268の2の「入」も北海道遺跡でこれに先行するものがあるが、

白幡前遺跡では初見資料である。

4 b期はD144・D165の2軒が確実である。遺構数は少ないが、D165からは破片総数約10,000点の遺物が出土している。遺物実測図に掲載した個体も100個体を超え、ロクロ土師器坏だけでもある程度器形が復元できる個体が40個体に達する。遺物の点数は白幡前遺跡全体の平均値の4倍に当たり、隣接する掘立柱建物からの遺物廃棄を示唆している。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反する9類や、体部が内彎気味に立ち上がる10類が主体的で、底部は回転糸切り後に回転ヘラ削りを施している。また、僅かにD144の3のように静止ヘラ削りの製品も見られる。D165の遺物を見ると口径15cm前後の大振りの製品が伴い、これらは内面黒色処理されている。ロクロ土師器皿は基本的には有高台の製品で、D165の43は底部回転糸切り後に周縁部にヨコナデを施した2類である。須恵器坏はD165から出土しているが、D144ではほとんど出土していない。D165が特定の廃棄場所となっていたことを考えると、D165から出土した須恵器坏をそのまま4 b期に伴うものと解釈することは危険かも知れない。D165から出土した須恵器坏は口縁部が僅かに外反する4 b類がほとんどで、底部・体部下端とも静止ヘラ削りを施している。D165からは坏の他にも蓋・高台坏・壺が出土している。土師器甕はD144・D165で1類が見られるが、主体となるのは2類である。また、D165では3類があり、遺物実測図96は3類の小形の製品である。須恵器甕はD165から甑も含めて多く出土している。墨書土器の量は急激に増加し、D165では遺物の量が多いこともあるが、34点の墨書が確認できた。主体となる文字は「継」・「○」である。

5期はD164から約10,000点の遺物が出土している。4 b期のD165と同様に廃棄の場所として選定された住居であるが、やはり掘立柱建物との関係は無視できない。ロクロ土師器坏は口縁部が外反し、体部の立ち上がりの角度は50〜54°前後となる。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。また、体部下端もほぼ例外なく回転ヘラ削りを行い、僅かに稜を形成する。なお、内面黒色処理をする製品は見られない。ロクロ土師器皿は有高台の1類も僅かに残るが、D164の状況を見る限り、底部周縁にヨコナデを行う2類・無高台の4類が主体となり、基本的には内面にヘラ磨きを行っている。供膳形態としては須恵器の坏はほとんど伴わず、灰釉の椀・段皿がD164から出土している。土師器甕はD164で1類が出土しているが、基本的には1類を伴わない。主体となるのは2類で、比較的小形の製品が多く出土している。なお、D192Aの13は口縁部を欠損するが、胴部内面に横位のヘラ磨きを施している。須恵器甕は1・3・4類があり、D165の84は胴部外面に縦位のヘラ削りを施した6類である。墨書土器はピークに達し、文字の種類もかなり多い。主体となるのは「生」・「継」である。

6期は竪穴住居の床面積が減少傾向にあるが、遺物の出土量は決して少なくない。本グループではD164・D165の特異な例があるが、この2軒には及ばないものの、白幡前遺跡全体の平均値を上回る遺物が出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反し、体部の立ち上が

りの角度は45～50°となる。D175Bの坏は50°を越えるものもある。全体に調整は粗雑で、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。また、D287では口径が14cmを超えるものが目立つ。ロクロ土師器皿はD175の出土遺物が図示できたが、他の住居では図示できるものがない。D175から出土したロクロ土師器皿はすべて無高台の製品で、2・4類が伴っている。須恵器坏は伴わず、D175では灰釉の椀・皿が出土している。土師器甕はほとんどが2類で、D145の6は底部の破片であるが、回転糸切り痕を残している。墨書土器は僅かに減少し、D145ではまったく出土していない。これに対して、D175・D287では「生」・「立」を主体とした墨書があるが、文字の種類は限られてくる。なお、D154から瓦塔の破片が出土している。

7期は竪穴住居数が激減し、7期として捉えたのはD163・D175Aの2軒である。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反し、調整は全体に粗雑である。また、体部の歪みが著しいのも特徴である。D163では高台坏4類を伴っている。須恵器はほとんど伴わず、甕も土師器で構成される。土師器甕は口唇部が内側へつまみ出され、従前の甕と比較して底径が大きい。墨書は非常に少ないが、D163では3個体に「嶋」の墨書が見られる。

以上土器を概観したが墨書土器、瓦塔について簡単に触れておきたい。墨書された文字は釈文が不明なものもあるが、20種類に上っている。点数として多いのは「生」・「立」・「継」・「○」である。「○」は白幡前遺跡においてかなり早い段階から書かれているもので、本グループでも例外でない。ほかに2群D・Eグループにも存在するが、主体となるのは本グループのようで、隣接する1群Aグループでは見られない。また、「牧万」・「枚万」も比較的早い3・4期に書かれ、本グループ独自の所有である。墨書が量的に多いのはやはり4b～6期で、ほとんどの文字は1群Aグループと共通するが、Aグループで多く見られた「提生」・「生堤」は非常に少ない。なお、「生」・「継」は白幡前遺跡で出土した大部分が1群A・B両グループのものである。3文字以上が書かれた例はP138から出土した「子猨嶋」がある。「子猨嶋」は2群AグループのD132で出土している。硯の出土は5期の墨書の量を考えるとかなり少なく、D164・D166から須恵器甕を転用した硯が2点出土しただけである。

瓦塔は前述したようにD154・D159・D164・D189・P038の埋土出土と表採したものがある。最も多くの破片が出土したのはD159とP038で、周辺から出土した破片も含めてすべて同一個体と考えられる。焼成は土師質で、ほとんどの破片が屋蓋部である。軸部はD159から出土したものがあるだけで、この破片が何層目に当たるかは不明である。高さは6.2cmを測り、壁体には柱・台輪の表現はなく、隅に持ち送りの部分が45°の角度で貼り付けられる。持ち送りの部分の表現が壁体の隅以外にも張り付ける余地はあるが、現存しない。全体の成型は粘土板の接合によるもので、内面横位、外面縦位のナデで整えられるが、内面の粗雑さは免れない。屋蓋部はすべて同一個体に帰属するもので、瓦は男瓦のみを表現している。瓦の幅は6㎜で、行基葺を

思わせる段が軒先から1～2cmの所にある。隅棟は断面半円形の隆帯で表現され、緩いカーブを描いている。壁体が乗る部分には断面方形の隆帯を巡らせ、中央に径6～7cmの孔が貫通している。孔の径から屋蓋部全体の大きさは25～30cm程度と推定できる。このことにより、すべての破片を復元線に沿って並べると同一層には納まらず、数層の屋蓋部の破片が含まれていることがわかる。軒の下面はヘラ削りによって調整され、垂木を方形に削り残して表現している。垂木の表現方法により、次の3種の区分が可能である。

1　垂木の輪郭をヘラで描いて削り残すもので、垂木の長さは3cm近くに達する。

2　垂木の輪郭は描かずに、軒先に近い部分を削り取るもので、垂木の長さは1cm以下となる。

3　垂木の表現がないもの。

このうち1の破片が最も多いが、隅の垂木の間隔に2タイプが存在し、それぞれ別の層と考えられる。即ち、屋蓋部は最低4枚があることが判明し、五重塔であったことがわかる。1を除いて遺存度が低く、全体の大きさの比較は問題があるが、2は1より大きいのは確実で、また、3は軒先・隅棟に赤彩が施されており、隅棟の向かって左側で赤彩が瓦にかかっていることから1より小さい可能性がある。そうすると塔としては2→1→3の重なりが指摘できるが、1の2層分の部材の関係は把握できない。また、現存する部材で最下層となる2が初重に乗るものかどうかは不明である。なお、2群Aグループで出土した瓦塔とは瓦・垂木の表現が酷似するが、同一個体に帰属するものではない。本グループで瓦塔の破片が出土した遺構は3期に集中し、8世紀末から9世紀初頭に廃棄されたと考えられる。なお、瓦塔が本来存在していた建物は不明である。

金属製品は刀子を比較的多く所有している。紡錘具は石製が卓越し、鉄製は1点である。銙帯具は鉸具1点・巡方は裏座だけのものを含めて3点が出土している。巡方はD165の29・D192の10の裏座が銅製、D165の26は鋲だけが銅製、表金具は2点とも鉄製である。特殊な製品としてはD192の1・2・4・5・8がある。1・2・4・5は〝コ〟字状の金具の先端が直角に曲がるもので、製品に対して直行して木質が付着している。山口直樹氏からかんぬき棒の差込み金具ではないかとの御教示を得た。また、8は方形の鉄板の中央に方形の孔があり、四隅に大形の鋲がある。表面は両面とも木質が付着している。同様の製品は千葉市高沢遺跡から出土している。

**第118表　D144出土遺物一覧**

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.8 | 4.6 | 完形 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 31 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 6.7 | 4.1 | 60 | 精　緻 | 赤褐色 | 右 | 52 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.1 | 4.0 | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 32、33 | 墨書 |
| 4 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 7.6 | 3.3 | 90 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 19、46 | 線刻、内面ヘラ磨き |
| 5 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 52 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 土師器甕 | 20.6 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 34、35、39、43、50 | |
| 7 | 土師器甕 | 17.5 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 52 | |
| 8 | 土師器甕 | 21.2 | — | — | 40 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 22、24、25、36、41、43、48、51 | |
| 9 | 須恵器甕 | — | 16.0 | — | 底部 | 長石・石英粒 | 赤 褐 色 | | 30 | |
| 10 | 須恵器甑 | — | 15.5 | — | 底部 | 長石粒 | 褐　色 | | 32 | 底部５孔 |
| 11 | 砥石 | | | | | | | | 18 | 凝灰岩 |

## 第119表　D145出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.6 | 4.1 | 70 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 39、144、U21-4 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 5.7 | 3.4 | 50 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 119 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | — | — | 50 | 砂　粒 | 橙　色 | | 16、227、287、U21-4-13 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | 6.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 53 | 線刻 |
| 5 | 土師器甕 | 18.2 | — | — | 口縁10 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 201 | |
| 6 | 土師器甕 | — | 11.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 203、230、321、325、331 | 底部回転糸切痕 |
| 7 | 土師器甕 | 19.7 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 288、317、327、332、336 | |
| 8 | 紡錘具 | | | | | | | | 32 | |

## 第120表　D146出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 7.0 | 3.7 | 90 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 519 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.0 | 3.5 | 80 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 479 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.0 | 7.3 | 4.0 | 60 | 砂　粒 | 褐　色 | | 140、349、440 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.1 | 7.6 | 3.5 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | | 169、370、387 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.4 | 3.5 | 70 | 雲母粒 | 褐　色 | | 500 | 線刻 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 10.1 | 7.3 | 3.4 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | | 118、249 | 墨書「枚万」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 10.4 | 7.3 | 3.4 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 477 | 墨書「枚万」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 197 | 墨書「□万」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 63 | 墨書 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 10.8 | 7.5 | 3.1 | 60 | 雲母粒 | 黄 褐 色 | 右 | 173、187、240、345 | 墨書「又万」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 橙　色 | | 345 | 墨書 |
| 12 | 須恵器坏 | — | — | — | 底部 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 100、122 | 線刻 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 15.3 | — | — | 40 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 22、252、364、489 | 内外面ヘラ磨き |
| 14 | 須恵器坏 | 13.9 | 7.6 | 4.1 | 90 | 石英粒 | 青 灰 色 | 左 | 475 | 線刻 |
| 15 | 須恵器坏 | 15.4 | 9.4 | 5.7 | 50 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 48、163、219、334、352、416、455 | ヘラ描き「大生人」 |
| 16 | 須恵器坏 | 13.8 | 8.0 | 4.5 | 70 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | 左 | 161、286 | |
| 17 | 須恵器坏 | 13.9 | 8.4 | 4.5 | 90 | 石英粒 | 青 灰 色 | 左 | 482 | |
| 18 | 須恵器坏 | 12.8 | 8.0 | 3.8 | 90 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 90、127、139 | |
| 19 | 土師器甕 | 21.1 | 9.9 | 33.1 | 60 | 雲母・石英粒 | 明 褐 色 | | 155、490、520、526、529 | |
| 20 | 土師器甕 | 21.5 | 5.2 | 28.8 | 60 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 322、339、487 | |
| 21 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 30 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 508、520、521、526、528 | |
| 22 | 土師器甕 | 14.5 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 527 | |
| 23 | 土師器甕 | 20.5 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 152、153、480 | |
| 24 | 砥石 | | | | | | | | 253 | 凝灰岩 |

## 第121表　D147出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 8.3 | 3.5 | 50 | 精　緻 | 橙　色 | | 40 | |
| 2 | 須恵器坏 | 14.6 | 8.5 | 3.9 | 70 | 雲母粒 | 灰　色 | | 76、79 | |
| 3 | 土師器甕 | 23.2 | — | — | 20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 18、62、69、73、104 | |

## 第122表　D148出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 15.5 | 9.5 | 4.2 | 30 | 雲母・石英粒 | 灰白色 | 右 | 29、139、140 | |
| 2 | 須恵器坏 | 14.5 | 9.2 | 3.8 | 40 | 精　緻 | 灰白色 | | 158 | |
| 3 | 須恵器坏 | 12.9 | 7.7 | 3.9 | 60 | 石英粒 | 灰　色 | 左 | 90、99、143、160 | 線刻「古」 |
| 4 | 土師器蓋 | 17.9 | — | — | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 6 | 内面ヘラ磨き |
| 5 | 須恵器蓋 | — | — | — | 20 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | 右 | 104 | |
| 6 | 須恵器長頸瓶 | — | — | — | 頸部 | 精　緻 | 灰白色 | | 24 | |
| 7 | 土師器甕 | 21.2 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 42、52、127、128、155、156、165 | |
| 8 | 土師器甕 | 21.0 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 褐　色 | | 225、226 | |
| 9 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | | 41、43、48 | |

## 第123表　D149出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 5.2 | 3.6 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 154 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 4.8 | 5.0 | 40 | 長石粒 | 黒褐色 | 右 | 41、42 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.9 | 3.5 | 6.0 | 完形 | 長石粒 | 褐　色 | | 206 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 44 | 墨書 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 158 | 墨書 |
| 6 | 須恵器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 84 | ヘラ描き |
| 7 | 土師器甕 | 21.9 | — | — | 口縁70 | 砂　粒 | 明褐色 | | 109、116、155、181、199、203 | |
| 8 | 土師器甕 | 22.3 | 11.2 | 26.2 | 80 | 砂　粒 | 明褐色 | | 47、54、79、100、121、145、187 | |

## 第124表　D150出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.0 | 3.9 | 70 | 石英粒 | 青灰色 | 左 | 66、105 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.6 | 7.2 | 3.9 | 70 | 石英粒 | 青灰色 | 左 | 12、13、21、113、153 | |
| 3 | 須恵器坏 | 13.1 | 8.0 | 3.5 | 30 | 石英粒 | 灰　色 | 左 | 26、75、93、102、146、148 | |
| 4 | 須恵器坏 | 13.7 | 8.2 | 3.9 | 20 | 雲母粒 | 灰　色 | | 4、27、108、156 | |
| 5 | 須恵器坏 | 11.8 | 7.0 | 4.4 | 50 | 石英粒 | 青灰色 | | 32、54、115 | |
| 6 | 須恵器坏 | 13.3 | 6.6 | 3.6 | 80 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 78 | 墨書 |
| 7 | 須恵器坏 | 13.6 | 7.4 | 4.4 | 70 | 石英粒 | 青灰色 | | 5、47 | |
| 8 | 須恵器蓋 | 16.1 | — | — | 20 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 130 | |
| 9 | 土師器甕 | 11.0 | 5.5 | 8.8 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 154 | |
| 10 | 土師器甕 | 18.2 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 褐　色 | | 59、68、71、72、137、138 | |
| 11 | 須恵器甕 | — | 16.1 | — | 底部 | 精　緻 | 青灰色 | | 34、155 | |

## 第125表　D151出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.8 | 8.0 | 3.5 | 完形 | 砂　粒 | 灰　色 | 左 | 29 | 墨書 |

## 第126表　D152出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 14.3 | 9.1 | 4.6 | 40 | 長石粒 | 灰　色 | 右 | 82、83、104 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.0 | 6.7 | 4.3 | 40 | 雲母粒 | 灰褐色 | | 94 | |
| 3 | 須恵器坏 | 13.6 | 9.5 | 3.9 | 30 | 長石粒 | 灰　色 | | 16、79、101 | |
| 4 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 45 | 墨書 |
| 5 | 土師器甕 | 28.5 | — | — | 口縁20 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 112 | |
| 6 | 土師器甕 | 15.7 | — | — | 口縁40 | 雲母・長石粒 | 赤褐色 | | 96 | |
| 7 | 土師器甕 | — | 9.6 | — | 台部 | 雲母・石英粒 | 赤褐色 | | 41、63 | |
| 8 | 土師器甕 | 7.1 | 5.7 | 9.9 | 30 | 長石粒 | 褐　色 | | 32 | |
| 9 | 土師器甕 | 14.6 | — | — | 50 | 長石粒 | 褐　色 | | 19、21、60、61 | |

## 第127表　D153出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 16.0 | 9.3 | 6.6 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 5、6 | 底部木葉痕 |
| 2 | 土師器甕 | 18.3 | 8.8 | 25.0 | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | | 7、8、9、10、11、12、37、43、48 | |

## 第128表　D154出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 4.7 | 3.3 | 60 | 雲母・長石粒 | 明褐色 | 右 | 83 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 4.4 | 3.7 | 70 | 砂　粒 | 明褐色 | | 83 | 墨書 |
| 3 | 須恵器甑 | — | 13.9 | — | 底部 | 雲母・石英粒 | 灰褐色 | | 79、103 | 底部5孔 |
| 4 | 瓦塔 | | | | 破片 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 5、V19-42-1 | 屋蓋部 |

## 第129表　D155出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 7.0 | 4.0 | 完形 | 長石粒 | 明褐色 | | 39 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.0 | — | — | 30 | 長石粒 | 暗赤褐色 | | 35 | 黒色処理 |
| 3 | 土師器甕 | 16.0 | — | — | 30 | 長石粒 | 暗褐色 | | 20、23、29、30、33、34、42 | |

## 第130表　D156出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.6 | 3.9 | 50 | 雲母・石英粒 | 灰褐色 | | 29 | |
| 2 | 須恵器坏 | 12.9 | 7.8 | 3.3 | 完形 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 34 | |
| 3 | 須恵器坏 | 13.6 | 7.8 | 4.6 | 80 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | 右 | 37 | |
| 4 | 須恵器坏 | 13.3 | 7.0 | 4.2 | 70 | 雲母粒 | 灰　色 | | 2、15、19、24、32、36 | |
| 5 | 須恵器坏 | 13.8 | 7.6 | 4.1 | 60 | 石英・雲母粒 | 灰褐色 | | 20 | |
| 6 | 土師器甕 | 18.0 | — | — | 口縁 | 長石粒 | 赤褐色 | | 9、10、11、12、21、27 | |
| 7 | 土師器甕 | 20.8 | 4.7 | 28.0 | 完形 | 長石粒 | 赤褐色 | | 38 | |
| 8 | 須恵器甕 | — | 18.3 | — | 底部30 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 7 | |

## 第131表　D157出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 10.8 | 7.0 | 3.6 | 30 | 雲母粒 | 明褐色 | | 288 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 8.2 | 4.5 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 左 | 89、90、91 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 125 | 墨書 |
| 4 | 土師器甕 | 12.7 | — | — | 口縁30 | 長石粒 | 褐　色 | | 45、226 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 土師器甕 | 21.3 | — | — | 底部欠 | 長石・雲母粒 | 明 褐 色 | | 29、53、211、267、287、289 | |
| 6 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 287 | |
| 7 | 土師器甕 | 20.8 | — | — | 口縁80 | 長石粒 | 暗赤褐色 | | 142、151、256、277、278 | |
| 8 | 須恵器甕 | — | — | — | 40 | 長石粒 | 灰　色 | | 108、114、115、117、118、119、120 | |
| 9 | 須恵器長頸瓶 | — | 9.8 | — | 頸部欠 | 精　緻 | セピア色 | | 42 | |
| 10 | 紡錘具 | | | | | | | | 210 | 凝灰岩 |

## 第132表　D158出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 22.8 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 褐　色 | | 14 | |

## 第133表　D159出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 8.0 | 4.4 | 完形 | 長石粒 | 明赤褐色 | 右 | 115、116 | |
| 2 | 須恵器坏 | 11.3 | 6.0 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 173 | |
| 3 | 須恵器坏 | 11.8 | 6.5 | 3.8 | 60 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 69 | |
| 4 | 須恵器坏 | 10.8 | 6.0 | 4.1 | 完形 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 173 | |
| 5 | 須恵器高坏 | 21.0 | — | — | 坏部 | 石英・雲母粒 | 灰　色 | 右 | 38、47、77、117 | 脚部三方透し |
| 6 | 土師器蓋 | 13.2 | — | — | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 1、3、17、48 | 墨書「山」 |
| 7 | 瓦塔 | | | | 破片 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 37 | 軸部 |
| 8 | 瓦塔 | | | | 破片 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 36 | 屋蓋部 |
| 9 | 瓦塔 | | | | 破片 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 64、D189-74 | D189と接合，屋蓋部 |
| 10 | 瓦塔 | | | | 破片 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 50、V19-42-1 | 屋蓋部 |

## 第134表　D160出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 14.6 | — | 4.9 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 25 | |
| 2 | 土師器坏 | 7.3 | 6.0 | 3.7 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 28 | 内面油煙付着 |
| 3 | 土師器坏 | 8.2 | 4.1 | 4.2 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 27 | 内面油煙付着 |
| 4 | 土師器坏 | 7.8 | 6.1 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 8 | 内面油煙付着 |
| 5 | 須恵器坏 | 13.6 | 8.0 | 4.3 | 完形 | 石英粒 | 灰　色 | 左 | 25 | 墨書「山」 |
| 6 | 須恵器坏 | 14.8 | 8.5 | 4.5 | 80 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | 左 | 11、15、25 | 内面油煙付着 |
| 7 | 須恵器坏 | 14.1 | 7.8 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 灰 白 色 | | 26 | |

## 第135表　D161出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 8.0 | 4.1 | 80 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 34、128 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 8.3 | 4.5 | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 52、59、60 | 墨書 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 8.4 | 3.6 | 60 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 22、41、64 | 線刻 |
| 4 | 須恵器坏 | 12.7 | 8.0 | 4.4 | 完形 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 90 | |
| 5 | 土師器甕 | 13.6 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 褐　色 | | 32、79 | |

## 第136表　D162出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 3 | 墨書「継」 |
| 2 | 須恵器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 灰　色 | | 14 | 墨書 |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 土師器蓋 | 18.0 | — | — | 20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 19、21、25 | |
| 4 | 土師器甕 | 18.6 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 53 | |

## 第137表　D163出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 5.0 | 3.9 | 40 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 41、44、62、82 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 4.8 | 3.7 | 40 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 左 | 134、198、201、206 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 4.6 | 3.5 | 20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 28 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 5.3 | 3.8 | 完形 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 左 | 248 | 墨書「嶋」 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 5.7 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 左 | 114、247 | 墨書「嶋」 |
| 6 | 土師器高台坏 | 12.9 | 8.2 | 5.4 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 67、154 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 4.9 | 4.1 | 50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | D219-40 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | D219-59 | 墨書「嶋」 |
| 9 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 62、149 | |
| 10 | 土師器甕 | 22.7 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 褐　色 | | 230、249 | |
| 11 | 土師器甕 | 17.0 | — | — | 底部欠 | 雲母粒 | 褐　色 | | 38、39、107、108、120、173 | |
| 12 | 土師器甕 | 19.5 | 10.4 | 16.5 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | | 175、249 | |
| 13 | 土師器甕 | — | 14.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 83、106、126、141、249 | D219-57と接合 |
| 14 | 土師器甕 | — | 8.7 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 12、13、165、166、231、249 | |
| 15 | 勾玉 | | | | | | | | 251 | 滑石 |

## 第138表　D164出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 7.7 | 4.2 | 40 | 雲母粒 | 黒 褐 色 | 右 | 1327 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 8.0 | 4.5 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 423 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 7.2 | 4.9 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 3419 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 7.0 | 3.7 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 4312 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 8.0 | 3.6 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 2153 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.2 | 4.2 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 434、436、452、541 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.2 | 4.1 | 40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 4310 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 6.8 | 4.1 | 40 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 1265、1266 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.6 | 3.8 | 50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1115、2679、2938 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.8 | 3.6 | 90 | 長石粒 | 赤 褐 色 | 右 | 3321 | 内面油煙付着 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 6.7 | 4.6 | 80 | 長石粒 | 暗 褐 色 | 右 | 4221 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 8.1 | 4.0 | 50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 4063、4064、4232 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 5.5 | 3.8 | 30 | 長石粒 | 明 褐 色 | 右 | 411、633、1152 | |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 5.8 | 4.4 | 20 | 長石粒 | 暗 褐 色 | 右 | 4054、4144、4291 | |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.3 | 4.4 | 完形 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1782 | |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 5.6 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 4226 | |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.7 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 4224 | |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 5.0 | 3.4 | 40 | 長石粒・砂粒 | 褐　色 | 右 | 35、39、3954、3955、4151、4186 | |
| 19 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.6 | 3.8 | 80 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 4018、4097、4103 | |
| 20 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.2 | 4.6 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1304、1615 | 墨書「生」 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.7 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 2300 | 墨書「立」ヵ |
| 22 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 6.8 | 3.7 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 2302 | 墨書「生」 |
| 23 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 8.0 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 2301 | 墨書「生」 |
| 24 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 7.5 | 3.7 | 20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 2758 | 墨書「生」 |
| 25 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 6.5 | 3.9 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 975 | 線刻 |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 26 | 土師器高台坏 | — | 9.4 | — | 20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 804、3430、3494、3905 | 黒色処理 |
| 27 | ロクロ土師器皿 | 14.2 | 8.5 | 2.6 | 40 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 1499 | 内面ヘラ磨き |
| 28 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 6.4 | 2.7 | 80 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 152、965 | 内面ヘラ磨き |
| 29 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 7.1 | 2.5 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 1636、2083 | 内面ヘラ磨き |
| 30 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 7.1 | 2.4 | 20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 4310 | 内面ヘラ磨き |
| 31 | ロクロ土師器皿 | 14.1 | 6.5 | 2.2 | 20 | 長石粒 | 明赤褐色 | 右 | 173、191、3611 | 内面ヘラ磨き |
| 32 | ロクロ土師器皿 | 13.0 | 7.5 | 2.5 | 完形 | 長石粒 | 明赤褐色 | 右 | 3420 | 内面ヘラ磨き |
| 33 | ロクロ土師器皿 | 14.1 | 6.5 | 2.5 | 70 | 長石粒 | 橙　色 | 右 | 3318 | 内面ヘラ磨き |
| 34 | ロクロ土師器皿 | 14.3 | 6.6 | 2.1 | 70 | 石英粒 | 黒 褐 色 | | 3366 | |
| 35 | ロクロ土師器皿 | 13.8 | 7.0 | 1.9 | 60 | 石英粒 | 橙　色 | 右 | 801、1471、1671 | |
| 36 | ロクロ土師器皿 | 14.2 | 6.4 | 3.1 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 4310 | |
| 37 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 7.8 | 2.1 | 30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 2014 | 内面ヘラ磨き |
| 38 | ロクロ土師器皿 | 14.3 | 7.8 | 2.0 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 4310 | 内面ヘラ磨き |
| 39 | ロクロ土師器皿 | 13.4 | 7.6 | 2.2 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 4310 | 内面ヘラ磨き |
| 40 | ロクロ土師器坏 | 15.3 | 8.8 | 3.0 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1340 | 墨書「生」 |
| 41 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | — | — | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 2754、3011 | 墨書「生」 |
| 42 | 灰釉陶器椀 | 16.8 | 8.6 | 5.3 | 50 | 精　緻 | 灰　色 | | 587、1501、1562、1690 | |
| 43 | 灰釉陶器椀 | 14.4 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 2388 | |
| 44 | 灰釉陶器椀 | 13.8 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 79、1458 | |
| 45 | 灰釉陶器椀 | 15.0 | — | — | 口縁30 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 3883、4309 | |
| 46 | 灰釉陶器段皿 | 18.5 | — | — | 30 | 精　緻 | 灰　色 | | 62、79、422、426、1053、1090 | |
| 47 | ロクロ土師器皿 | — | 7.0 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1582 | 墨書「主」 |
| 48 | ロクロ土師器皿 | — | 6.9 | — | 底部 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 2146 | 墨書「継」、ヘラ磨き |
| 49 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 282 | 墨書「継」 |
| 50 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 246 | 墨書「継」ヵ |
| 51 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 984 | 墨書 |
| 52 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 3016 | 墨書「立」ヵ |
| 53 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 3063 | 墨書「生」 |
| 54 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 425 | 墨書「生」 |
| 55 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 1282 | 墨書「生」 |
| 56 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 3574 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 57 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 4141 | 墨書「生」 |
| 58 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 4084 | 墨書「生」 |
| 59 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 2043 | 墨書「生」 |
| 60 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 271 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 61 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 4143 | 墨書「生」 |
| 62 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 343 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 63 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 1420 | 墨書「草」、ヘラ磨き |
| 64 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 2639 | 墨書「堤家」 |
| 65 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 4269 | 墨書「堤」、ヘラ磨き |
| 66 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明黄褐色 | | 1295、2124 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 67 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 1126 | 墨書、黒色処理 |
| 68 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 2518 | 墨書 |
| 69 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 4239 | 墨書 |
| 70 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 3143 | 墨書 |
| 71 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 3974 | 墨書 |
| 72 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 2477 | 墨書「財」 |
| 73 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 3143 | 線刻 |
| 74 | 須恵器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 183 | 線刻 |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 75 | ロクロ土師器皿 | — | 7.3 | — | 底部 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 764 | 線刻 |
| 76 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁20 | 長石・雲母粒 | 赤 褐 色 | | 1392、1672、1674、1900、4301、4309 | |
| 77 | 土師器甕 | 23.7 | — | — | 口縁30 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 153、3143、4246 | |
| 78 | 土師器甕 | 14.3 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 黒 褐 色 | | 2274、2275、2281、2650 | |
| 79 | 土師器甕 | 15.4 | — | — | 40 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 4310 | |
| 80 | 土師器甕 | 15.0 | 8.5 | 17.0 | 50 | 石英粒 | 赤 褐 色 | | 4309、4310、4311 | |
| 81 | 土師器甕 | 14.1 | — | — | 40 | 雲母粒 | 褐　色 | | 3003、3115 | |
| 82 | 土師器甕 | 11.3 | — | — | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | | 1029、4066 | |
| 83 | 須恵器甕 | 22.8 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 灰　色 | | 4303 | |
| 84 | 須恵器甕 | 21.3 | — | — | 50 | 砂　粒 | 灰　色 | | 153、227、246、293、305、434、449 | D175と接合 |
| 85 | 須恵器甑 | 23.8 | — | — | 口縁20 | 長石粒 | 黒 褐 色 | | 441、557、1362 | |
| 86 | 灰釉陶器水注 | — | 6.1 | — | 30 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 3386、3973、4055、4289 | |
| 87 | 不明 | | | | | | | | 877 | |
| 88 | 紡錘具 | | | | | | | | 528、602 | 滑石 |
| 89 | 須恵器甕 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 2879 | 転用硯 |
| 90 | 須恵器甕 | 49.3 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 59、415、564、1521、2505、2697 | |

## 第139表　D165出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.5 | 8.4 | 5.2 | 40 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1830 | 黒色処理 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 16.4 | 7.0 | 5.7 | 30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 1037、1157、1814、1954、2699 | 黒色処理 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.9 | 7.0 | 4.8 | 50 | 長石粒 | 暗 褐 色 | 右 | 600、740、1048、1459、1786、1999 | 黒色処理 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.5 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 611、759、1601 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 10.8 | 6.4 | 3.5 | 90 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 460、3550、3711 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.0 | 6.4 | 3.7 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 2419 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.4 | 3.8 | 40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 3016 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 7.2 | 3.6 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 3817 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.0 | 4.0 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1660 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.5 | 3.8 | 70 | 長石・雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1050、1790、2183、2191、2208、2275 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.1 | 4.3 | 90 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 821 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 7.2 | 3.4 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1976 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.4 | 4.1 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1594、3828 | |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 5.8 | 3.6 | 50 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 3231、3720、3727、3729 | |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.7 | 3.6 | 40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 2409、2445、2499 | |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.0 | 4.0 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1583 | |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.8 | 3.6 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 3494 | |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 5.8 | 4.4 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 560、565、566、570 | |
| 19 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 7.7 | 3.7 | 完形 | 石英粒 | 明 褐 色 | 右 | 3907 | |
| 20 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.5 | 3.8 | 50 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 3652 | |
| 21 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.0 | 4.1 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 1500、1512 | |
| 22 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.1 | 3.2 | 60 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 84、203、206 | |
| 23 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 5.4 | 4.8 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 3783 | |
| 24 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 6.7 | 3.6 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1991 | |
| 25 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.3 | 3.9 | 40 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 587、1351、2234 | |
| 26 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.6 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 1700 | |
| 27 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.0 | 3.5 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1458 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.2 | 3.6 | 60 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 1566、1665 | |
| 29 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 5.4 | 3.7 | 40 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 3888 | 墨書「○」 |
| 30 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.6 | 4.0 | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 3350、3351 | 墨書「○」 |
| 31 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 6.6 | 3.9 | 90 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1621 | 墨書「○」 |
| 32 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | — | — | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 1762、3851 | 墨書「○」 |
| 33 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.3 | 4.3 | 90 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1536、1679 | 墨書「○」 |
| 34 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 7.2 | 3.9 | 90 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 3922、3923 | 墨書 |
| 35 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 8.0 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1480 | 墨書「入」 |
| 36 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.4 | 3.7 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 760、1767 | 墨書「○」 |
| 37 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.0 | 4.1 | 40 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1227、1228、1229、3929 | 墨書「○」 |
| 38 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 9.6 | 4.3 | 20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 3436、3460 | 線刻 |
| 39 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 8.5 | 4.4 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 290、335、342、737 | 墨書「継」、ヘラ磨き |
| 40 | 土師器高台坏 | 11.1 | 7.5 | 4.6 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1607、2412、3171、3580 | 墨書「○」、ヘラ磨き |
| 41 | 土師器高坏 | — | — | — | 脚部 | 雲母粒 | 橙　色 | | 1543 | |
| 42 | ロクロ土師器皿 | 13.1 | 7.7 | 2.5 | 50 | 雲母・長石粒 | 橙　色 | 右 | 362、2632、2635 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 43 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 7.3 | 2.2 | 30 | 長石粒 | 明赤褐色 | 右 | 2633 | 内面ヘラ磨き |
| 44 | ロクロ土師器皿 | 13.8 | 6.0 | 2.9 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1085 | 内面ヘラ磨き |
| 45 | 土師器盤 | 14.8 | — | — | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 1760 | 黒色処理 |
| 46 | ロクロ土師器皿 | — | 6.1 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | | 707 | 墨書「大田」、ヘラ磨き |
| 47 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 862、3896 | 墨書「大井」 |
| 48 | ロクロ土師器坏 | — | 7.1 | — | 底部 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 424、2624、2635 | 墨書「継」 |
| 49 | ロクロ土師器坏 | — | 6.3 | — | 底部 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 2588 | 墨書「継」 |
| 50 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 2346 | 墨書「継」、ヘラ磨き |
| 51 | ロクロ土師器坏 | — | 6.0 | — | 底部 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 424、2624、2635 | 墨書「継」、線刻 |
| 52 | ロクロ土師器坏 | — | 6.2 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | | 117、2814 | 墨書「継」 |
| 53 | ロクロ土師器坏 | — | 5.8 | — | 底部 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1943、1944 | 墨書「継」 |
| 54 | ロクロ土師器坏 | — | 7.1 | — | 底部 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 1248、1327 | 墨書「継」 |
| 55 | ロクロ土師器坏 | — | 6.1 | — | 底部 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 2089、2104 | 墨書「継」 |
| 56 | ロクロ土師器皿 | — | 7.2 | — | 底部 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 2797 | 墨書「継」、ヘラ磨き |
| 57 | ロクロ土師器皿 | — | 7.7 | — | 底部 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 3932 | 墨書「継」、ヘラ磨き |
| 58 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 66 | 墨書「継」 |
| 59 | ロクロ土師器坏 | — | 7.3 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 875 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 60 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 2539 | 墨書「生」 |
| 61 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 3444 | 墨書「生」 |
| 62 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 1240 | 墨書「生」ヵ |
| 63 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 2939 | 墨書「○」 |
| 64 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 2237 | 墨書「○」 |
| 65 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 1407 | 墨書「○」 |
| 66 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 2499 | 墨書「家」 |
| 67 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 2923 | 墨書 |
| 68 | 土師器鉢 | 24.0 | 10.6 | 7.6 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 3884、3889、3897、3902、3903 | 内外面ヘラ磨き |
| 69 | 土師器鉢 | 22.6 | 12.4 | 8.0 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 238、279、284、305、355、361、373、 | 内面ヘラ磨き |
| 70 | 土師器鉢 | 22.5 | 11.3 | 7.3 | 50 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 995、1645、1648、1651、1658、1804 | 内面ヘラ磨き |
| 71 | 須恵器坏 | 12.6 | 5.8 | 4.3 | 40 | 雲母粒 | 灰　色 | 左 | 79、555、1270、3075 | |
| 72 | 須恵器坏 | 12.2 | 7.0 | 3.8 | 90 | 雲母粒 | 灰 褐 色 | 右 | 561、575、609、610、1829、3696 | |
| 73 | 須恵器坏 | 12.0 | 7.5 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 灰 褐 色 | 右 | 2953 | |
| 74 | 須恵器坏 | 12.7 | 7.8 | 3.5 | 60 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 1316、1743、2879、3288 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 75 | 須恵器坏 | 12.4 | 6.4 | 4.2 | 60 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 2817、3796 | |
| 76 | 須恵器坏 | 12.3 | 6.3 | 4.0 | 90 | 長石粒 | 黒褐色 | | 1920、3132、3557 | |
| 77 | 須恵器坏 | 11.7 | 5.1 | 4.1 | 40 | 長石粒 | 灰　色 | | 2232 | |
| 78 | 須恵器坏 | 13.4 | 6.8 | 4.1 | 30 | 雲母粒 | 黒褐色 | | 2542、2939 | |
| 79 | 須恵器坏 | 12.4 | 7.5 | 3.9 | 30 | 長石粒 | 灰　色 | | 3690 | |
| 80 | 須恵器坏 | 11.2 | 4.9 | 4.1 | 40 | 雲母粒 | 黒　色 | 右 | 2032、3083、3444、3671、3733、3868 | |
| 81 | 須恵器坏 | 15.8 | 7.5 | 6.1 | 30 | 石英粒 | 青灰色 | 右 | 3473、3475、3564、3622、3670 | |
| 82 | 須恵器蓋 | 17.5 | — | — | 40 | 石英粒 | 灰褐色 | 右 | 1413 | |
| 83 | 須恵器蓋 | 13.6 | — | — | 20 | 長石粒 | 青灰色 | 右 | 3610 | |
| 84 | 須恵器蓋 | 13.3 | — | — | 30 | 精　緻 | 灰　色 | | 2767、3096 | |
| 85 | 須恵器蓋 | 13.0 | — | — | 20 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 2617 | |
| 86 | 須恵器蓋 | 13.0 | — | — | 40 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 1916、3921、3924 | |
| 87 | 須恵器壺 | 9.3 | — | — | 口縁40 | 精　緻 | 青灰色 | | 3757 | |
| 88 | 須恵器高台坏 | — | 9.2 | — | 底部 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | 右 | 991 | |
| 89 | 須恵器瓶子 | — | 5.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 青灰色 | 左 | 3757 | |
| 90 | 須恵器盤 | — | 12.0 | — | 口縁欠 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 1302、1639、1640、1661、3094、3450 | 転用硯、線刻 |
| 91 | 土師器甕 | 22.1 | — | — | 口縁20 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 3027 | |
| 92 | 土師器甕 | 17.8 | — | — | 口縁30 | 砂粒・石英粒 | 暗赤褐色 | | 1705、1721、2369 | |
| 93 | 土師器甕 | 17.7 | — | — | 口縁20 | 長石粒 | 赤褐色 | | 2564 | |
| 94 | 土師器甕 | 21.0 | — | — | 口縁20 | 長石粒 | 暗褐色 | | 3091、1003、1089 | |
| 95 | 土師器甕 | 12.5 | — | — | 口縁40 | 雲母粒 | 暗褐色 | | 998 | |
| 96 | 土師器甕 | 11.4 | — | — | 50 | 長石・石英粒 | 褐　色 | | 3432、3687、8869 | |
| 97 | 土師器甕 | 14.4 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 暗赤褐色 | | 2286、2938 | |
| 98 | 土師器甕 | 10.1 | — | — | 口縁40 | 長石粒 | 暗褐色 | | 603、1049 | |
| 99 | 須恵器甕 | 42.7 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 灰　色 | | 3104、3469、3555、3573、3655、3879 | |
| 100 | 須恵器甕 | 22.2 | — | — | 底部欠 | 長石粒 | 黒褐色 | | 820、1039、1475、1477、1479、1553 | |
| 101 | 須恵器甕 | 24.5 | — | — | 口縁40 | 長石粒 | 黒　色 | | 621、1559、2686、3238、3870、3930 | |
| 102 | 須恵器甕 | — | 15.0 | — | 40 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 1042、1156、1300、1732、1809、2047 | |
| 103 | 須恵器甕 | 22.5 | — | — | 口縁50 | 長石粒 | 暗褐色 | | 1550、2804、2855、2861、2863、2865 | 104と同一個体 |
| 104 | 須恵器甕 | — | 14.0 | — | 底部 | 長石粒 | 暗褐色 | | 1486、1550、2663、2806、2854、2857 | |
| 105 | 須恵器甑 | 37.0 | 14.7 | 28.0 | 20 | 石英・長石粒 | 青灰色 | | 448、762、1036、1481、1489、1567 | |
| 106 | 須恵器甑 | 33.2 | 14.4 | 28.6 | 20 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 579、586、657、1383、1472、1555 | 底部5孔 |
| 107 | 須恵器甕 | 29.3 | — | — | 口縁10 | 精　緻 | 灰褐色 | | 263 | |
| 108 | 紡錘具 | | | | | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 754、2601 | ロクロ土師器坏底部利用 |
| 109 | 紡錘具 | | | | | | | 右 | 1465、3149、3733 | ロクロ土師器坏底部利用 |
| 110 | 紡錘具 | | | | | 雲母粒・精緻 | 橙　色 | | 3635、3698 | ロクロ土師器坏底部利用 |
| 111 | 紡錘具 | | | | | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 1714 | ロクロ土師器坏底部利用 |
| 112 | 砥石 | | | | | | | | 3504 | 凝灰岩 |
| 113 | 砥石 | | | | | | | | 3020 | 凝灰岩 |

## 第140表　D166出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 25.1 | — | — | 口縁60 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 24、113、172、173、174、175、191 | |
| 2 | 須恵器甕 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 灰　色 | | 82 | 転用硯 |

## 第141表　D168出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.4 | 4.1 | 90 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 573 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.6 | 4.1 | 完形 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 403 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.0 | 3.6 | 40 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 574 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.3 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 529 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.7 | 4.3 | 90 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 354、355 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 6.2 | 3.9 | 90 | 長石粒 | 橙　色 | 右 | 248、259 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.5 | 4.2 | 40 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 352、406 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.0 | 3.5 | 40 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 370、410、427 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.3 | 4.3 | 40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 13、166、571 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.8 | 4.0 | 80 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 371、502、571 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.7 | 4.3 | 50 | 長石粒 | 褐　色 | 右 | 411、542、563 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 7.7 | 3.8 | 50 | 長石粒 | 赤 褐 色 | 右 | 387、444 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 10.8 | 7.0 | 3.5 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 257、358 | 線刻 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 8.2 | 5.2 | 90 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 173、315、510、522、571 | 内面ヘラ磨き |
| 15 | 土師器高台坏 | 14.7 | 6.9 | — | 10 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 345、346、458 | 黒色処理 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 15 | 線刻、内面ヘラ磨き |
| 17 | ロクロ土師器坏 | — | 6.4 | — | 底部 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 118 | 墨書 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 571 | 墨書 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 571 | 墨書「○」 |
| 20 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 577 | 墨書「生」 |
| 21 | 土師器蓋 | 17.4 | — | — | 30 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 19、20、124 | 内外面ヘラ磨き |
| 22 | 土師器蓋 | 17.7 | — | 5.2 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 528 | 墨書「立」ヵ、黒色処理 |
| 23 | 土師器甕 | 14.8 | 4.0 | 17.0 | 80 | 長石粒 | 黒 褐 色 | | 57、58、193、249、251、255、256 | |
| 24 | 土師器甕 | 20.6 | — | — | 口縁70 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 464、470、471、497、512、530 | |
| 25 | 土師器甕 | 12.5 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 褐　色 | | 201 | |
| 26 | 土師器甕 | 12.7 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 赤 褐 色 | | 63 | |
| 27 | 土師器甕 | — | — | — | 底部 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 210 | 線刻 |
| 28 | 須恵器甑 | 26.0 | — | — | 口縁20 | 長石粒 | 黒 褐 色 | | 224、281、291 | 29と同一個体 |
| 29 | 須恵器甑 | — | 15.0 | — | 底部10 | 長石粒 | 黒 褐 色 | | 141、200、409 | 底部5孔 |
| 30 | 砥石 | | | | | | | | 439 | 凝灰岩 |

## 第142表　D170出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 11.2 | 4.0 | 4.9 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 254 | |
| 2 | 土師器坏 | 10.8 | 7.6 | 4.6 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 257 | |
| 3 | 土師器坏 | 8.8 | 3.3 | 4.6 | 完形 | 砂　粒 | 赤　色 | | 255 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 219 | 墨書「益」 |
| 5 | 土師器甕 | 20.5 | 6.9 | 35.2 | 完形 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 275 | |
| 6 | 土師器甕 | 21.4 | 8.5 | 32.5 | 60 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 93、134、140、160、270、274 | |
| 7 | 元祐通宝 | | | | | | | | 124 | |

## 第143表　D173出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.0 | 7.3 | 3.5 | 30 | 石英粒 | 青灰色 | | 39、154、253、258 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.3 | 8.0 | 3.9 | 30 | 石英・雲母粒 | 灰　色 | | 261 | |
| 3 | 須恵器蓋 | 14.6 | — | 3.5 | 40 | 雲母・石英粒 | 灰白色 | 右 | 144、202、259 | 墨書「文」、内面朱墨痕 |
| 4 | 土師器甕 | — | 7.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 256 | |
| 5 | 土師器甕 | 18.4 | — | — | 底部欠 | 長石粒 | 褐　色 | | 76、232、233、257 | |

## 第144表　D174出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 16.2 | 9.8 | 5.3 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 123 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 8.2 | 5.4 | 完形 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 127 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.9 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 113 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 9.5 | 2.8 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 130 | 墨書「○」 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.4 | 3.7 | 50 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 52 | 墨書「○」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 7.5 | 3.6 | 80 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 53、117、136 | 墨書「器」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 10.6 | 7.9 | 3.6 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | | 124 | 墨書「牧万」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 8.0 | 3.6 | 完形 | 精　緻 | 橙　色 | | 126 | 墨書「大井」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 8.0 | 3.3 | 完形 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 114 | 墨書「大井」 |
| 10 | 須恵器坏 | 13.0 | 8.0 | 4.2 | 60 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 54、122 | |
| 11 | 須恵器坏 | 12.0 | 7.3 | 3.9 | 完形 | 長石粒 | 暗褐色 | 右 | 129 | 線刻 |
| 12 | 土師器甕 | 20.6 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 赤褐色 | | 6、20、21、92、96、110、136 | |
| 13 | 土師器甕 | 12.0 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 褐　色 | | 108、133、137、139 | |
| 14 | 土師器甕 | 20.7 | — | — | 70 | 雲母・石英粒 | 明褐色 | | 26、29、30、31、36、61、62、63、64 | |
| 15 | 須恵器瓶子 | — | 8.8 | — | 頸部欠 | 長石粒 | 灰　色 | 右 | 134 | |

## 第145表　D175出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 6.3 | 3.8 | 完形 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 647 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.0 | 4.2 | 70 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 43、209、213 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 7.5 | 4.0 | 60 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 964 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 7.1 | 4.1 | 20 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 278、292、965 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.6 | 4.0 | 30 | 長石粒 | 褐　色 | 右 | 691、838、957、958 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 7.4 | 4.8 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 219 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 5.8 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 321 | 墨書「立」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 5.7 | 5.0 | 60 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 840 | 墨書「立」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 7.2 | 4.0 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 60、61、62 | 墨書「立」 |
| 10 | 土師器高台坏 | 16.8 | 8.9 | 6.5 | 30 | 長石粒 | 暗赤褐色 | 右 | 405、590、729、732 | 黒色処理 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.6 | 5.0 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 726 | 墨書「立」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 140 | 墨書 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 189 | 墨書「継」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 489 | 墨書「井」 |
| 15 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 底部 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 969 | 線刻 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 899 | 墨書「立」 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 707 | 墨書「立」 |
| 18 | ロクロ土師器皿 | 11.7 | 5.2 | 2.5 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 827 | |
| 19 | ロクロ土師器皿 | 14.1 | 6.6 | 2.6 | 30 | 長石粒 | 暗褐色 | 右 | 609、967 | |
| 20 | ロクロ土師器皿 | 14.1 | 7.0 | 3.0 | 30 | 長石粒 | 褐　色 | 右 | 347 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 21 | ロクロ土師器皿 | 13.9 | 7.5 | 2.9 | 30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 左 | 863 | |
| 22 | ロクロ土師器皿 | 12.8 | 5.8 | 2.2 | 30 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 494、907、968 | |
| 23 | ロクロ土師器皿 | 13.9 | 7.5 | 2.3 | 50 | 長石粒 | 橙　色 | 右 | 737 | |
| 24 | 灰釉陶器皿 | 11.1 | 5.0 | 2.0 | 20 | 精　緻 | 灰 白 色 | 右 | 395、598、698 | |
| 25 | 灰釉陶器椀 | — | 7.2 | — | 底部 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 642 | |
| 26 | 灰釉陶器椀 | — | 8.8 | — | 底部20 | 精　緻 | 灰　色 | | 224 | |
| 27 | 土師器甕 | 20.5 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 856 | |
| 28 | 土師器甕 | — | 8.3 | — | 底部 | 石英粒 | 暗 褐 色 | | 894 | |
| 29 | 土師器甕 | — | 8.4 | — | 底部60 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 385、926、929、950、951、968 | |
| 30 | 須恵器甕 | 21.4 | 13.5 | 32.8 | 完形 | 精　緻 | 灰　色 | | 158、479、515、517、554、710、726 | |
| 31 | 須恵器甑 | 30.0 | — | — | 40 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 318、400、597、600、606、759、864 | |
| 32 | 支脚 | | | | | | | | 59、174、462、608 | |
| 33 | 土師器カマド | — | — | — | 破片 | 長石粒 | 暗 褐 色 | | 99、112、442 | |

## 第146表　D183出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.9 | 4.4 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 243、278、567 | 墨書「大寺」 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.1 | 6.6 | 4.2 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 65、92、127、255、375 | 墨書「○」 |
| 3 | 土師器高台坏 | 11.8 | 8.3 | 4.8 | 完形 | 精　緻 | 赤 褐 色 | | 566 | 黒色処理 |
| 4 | 土師器高台坏 | 11.4 | 6.9 | 5.2 | 70 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 426、462 | 墨書「益」、黒色処理 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 橙　色 | | 511 | 墨書「益」ヵ |
| 6 | 須恵器坏 | 13.0 | 8.0 | 3.6 | 30 | 石英・雲母粒 | 灰　色 | 左 | 217、275、341 | |
| 7 | 須恵器坏 | 13.1 | 7.1 | 4.3 | 40 | 精　緻 | 灰 褐 色 | 右 | 143、349、376 | |
| 8 | 須恵器坏 | 12.9 | 6.4 | 3.9 | 90 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 304、305 | 墨書「○」 |
| 9 | 土師器蓋 | 15.5 | — | — | 20 | 砂　粒 | 褐　色 | 左 | 63 | 墨書 |
| 10 | 須恵器蓋 | 15.0 | — | — | 20 | 雲母粒 | 灰 褐 色 | 右 | 436 | 墨書「山□」 |
| 11 | 土師器甕 | 19.7 | — | — | 口縁30 | 石英・雲母粒 | 赤 褐 色 | | 298、378、409、423、530 | |
| 12 | 土師器甕 | 20.8 | — | — | 口縁40 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 80、243、270、473、497、574 | |
| 13 | 土師器甕 | 18.7 | 7.6 | 27.1 | 70 | 砂　粒 | 褐　色 | | 17、20、25、42、138、139、331、336 | |
| 14 | 土師器甕 | — | 7.7 | — | 30 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 35、40、43、393、444、499 | |
| 15 | 土師器甕 | — | 5.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 53、493、589 | |
| 16 | 須恵器瓶子 | — | 9.0 | — | 30 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 141、359、392、452、481、550、576 | |

## 第147表　D187出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 21.8 | 5.7 | 27.1 | 完形 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 6、7、22、27、28、29、31、32、35 | |
| 2 | 土師器甑 | — | 13.7 | — | 底部40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 33、74 | 底部1孔 |

## 第148表　D188出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 8.6 | 4.2 | 60 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 249 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 8.3 | 4.1 | 80 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 75、77、140、141 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 9.0 | 3.9 | 70 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 233 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 8.0 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 228 | |
| 5 | 須恵器坏 | 13.1 | 7.2 | 4.0 | 30 | 雲母粒 | 緑 灰 色 | | 212 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | 須恵器蓋 | 15.8 | — | — | 30 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 232、246 | |
| 7 | 土師器甕 | 22.8 | — | — | 口縁20 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 4、24、159 | |
| 8 | 土師器甕 | — | — | — | 胴部40 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 12、21、27、72、108、123、253 | |
| 9 | 土師器甕 | 16.4 | 7.9 | 19.8 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 248 | |
| 10 | 土師器甕 | 20.3 | 8.6 | 34.9 | 90 | 雲母・石英粒 | 明 褐 色 | | 247 | |

## 第149表　D189出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.4 | 3.5 | 90 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 65 | 内面油煙付着 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.1 | 4.1 | 60 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 2、20、38、40、71、95、99 | 墨書「○」 |
| 3 | 須恵器甕 | — | 15.4 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 34、59、66、69、93、94、98、102 | |

## 第150表　D192A出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 5.6 | 4.3 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 501、644 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.3 | 4.3 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 116、524、582 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.3 | 4.1 | 40 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 203 | 墨書「成」 |
| 4 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 底部 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 432 | 墨書「冨」 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 底部 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 126 | 墨書「生」 |
| 6 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 底部 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 62 | 墨書「継」 |
| 7 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 底部 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 597 | 墨書「継」 |
| 8 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 23 | 墨書「継」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 42 | 墨書「羊」 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 578 | 墨書 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 底部 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 12 | 墨書「×」、ヘラ磨き |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 348 | 墨書「入」 |
| 13 | 土師器甕 | — | 11.9 | — | 底部30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 25、112 | 内面ヘラ磨き |
| 14 | 須恵器甑 | 28.8 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 灰　色 | | 177、225 | |
| 15 | 須恵器甑 | 27.3 | — | — | 口縁20 | 長石粒 | 暗 褐 色 | | 202、214、292、345、347、349、436 | |

## 第151表　D193出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 8.5 | 3.7 | 50 | 砂　粒 | 橙　色 | | 181 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 9.0 | 4.2 | 40 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 24、40、46、90 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 8.0 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | | 195 | 墨書 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 8.3 | 3.8 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | | 27 | 墨書「○」 |
| 5 | 須恵器坏 | 12.6 | 7.7 | 4.9 | 完形 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 24、95、114、207 | |
| 6 | 土師器甕 | — | 10.4 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 129 | |
| 7 | 土師器甕 | 18.7 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 54、67、126、287 | |
| 8 | 土師器甕 | 21.5 | 7.7 | 25.4 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 283 | |
| 9 | 土師器甕 | 19.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 8、80、92、93、217、272、275、280 | |
| 10 | 土師器甑 | 27.2 | 11.9 | 23.0 | 20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 12、197、258 | 底部1孔 |
| 11 | 土師器甑 | 19.2 | 8.9 | 22.8 | 80 | 長石粒 | 橙　色 | | 56、63、64、115、116、124、131 | 底部1孔 |
| 12 | 須恵器長頸瓶 | 8.1 | — | — | 頸部 | 砂　粒 | 灰 白 色 | | 25 | |
| 13 | 陽物 | | | | 完形 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | | 284 | |

## 第152表　D194出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.2 | 3.6 | 40 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 7、16 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.7 | 4.1 | 70 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 2、5、6 | 墨書「入」 |
| 3 | 土師器甕 | 20.0 | 9.0 | 31.2 | 70 | 雲母・石英粒 | 明褐色 | | 13、16 | |

## 第153表　D195出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 14.7 | — | 3.8 | 60 | 精　緻 | 赤　色 | | 13 | 赤彩、ヘラ磨き |
| 2 | 土師器坏 | 15.3 | — | 3.8 | 50 | 精　緻 | 明褐色 | | 24 | |

## 第154表　D196出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 12.1 | 5.1 | 3.9 | 60 | 砂　粒 | 明褐色 | | 107、108、120、378 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 2 | 土師器坏 | 13.3 | 9.0 | 4.9 | 60 | 砂　粒 | 橙　色 | | 5、7、335 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 7.5 | 3.7 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 365、378 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 7.7 | 3.8 | 70 | 精　緻 | 明黄褐色 | 右 | 65、282、290、324、326、331 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.7 | 3.9 | 70 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 128、190、191 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.6 | 3.7 | 完形 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 255 | 墨書「○」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 7.6 | 3.2 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 364 | 墨書「○」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 7.8 | 4.1 | 90 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 234 | 墨書「臣」、「○」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 7.9 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 明褐色 | | 363 | 線刻 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 8.1 | 3.7 | 完形 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 117、259 | 墨書「○」 |
| 11 | 土師器高台坏 | 11.8 | 7.8 | 4.4 | 30 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 236 | 黒色処理 |
| 12 | 須恵器坏 | 12.7 | 8.6 | 4.3 | 50 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 119、278、356 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明褐色 | | 271 | 墨書 |
| 14 | 須恵器坏 | — | 7.2 | — | 底部 | 石英粒 | 青灰色 | | 47 | ヘラ描き |
| 15 | 土師器甕 | 19.5 | — | — | 口縁30 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 172、367、374、376、378 | |
| 16 | 土師器甕 | 21.2 | — | — | 40 | 砂　粒 | 明褐色 | | 111、175、286、297、366、378 | |
| 17 | 土師器甑 | — | 9.7 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 10、24、26、28、30、138、140、146 | 底部3孔、ヘラ磨き |
| 18 | 土師器甕 | — | 6.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 368、378、379 | |

## 第155表　D199出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 11.6 | 7.7 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 4 | 内外面ヘラ磨き |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 7.4 | 3.6 | 90 | 精　緻 | 暗褐色 | 右 | 134、135 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 7.6 | 4.4 | 50 | 精　緻 | 暗赤褐色 | 右 | 9、16、124、130 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 7.1 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 100 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 8.1 | 4.3 | 70 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 133 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | 7.7 | — | 底部 | 雲母粒 | 明褐色 | | 49 | 墨書「牧万」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 橙　色 | | 97 | 墨書 |
| 8 | 須恵器蓋 | 13.0 | — | — | 90 | 精　緻 | 青灰色 | 右 | 47、56、57 | |
| 9 | 土師器盤 | — | 10.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 92 | 内面ヘラ磨き |
| 10 | 土師器甕 | — | 7.1 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 69、70、71、72、73、74、75、117 | |

## 第156表　D209出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 14.2 | — | 3.0 | 40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 1 | 内外面ヘラ磨き |

## 第157表　D211出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 6.4 | 3.8 | 完形 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 297 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.4 | 3.6 | 50 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 353 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 6.6 | 4.1 | 70 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 1 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.1 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 161 | 墨書 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 5.9 | 4.1 | 90 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 229、290、355 | 墨書「立」ヵ |
| 6 | 土師器鉢 | 17.3 | 7.0 | 6.5 | 80 | 石英粒 | 暗 褐 色 | 右 | 223、224、249、319 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 6.7 | 3.9 | 70 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 110 | 線刻、内面ヘラ磨き |
| 8 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 7.6 | 2.4 | 60 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 28、78、232 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 211 | 墨書「生」 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 112、237、267 | 墨書「生」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 314 | 墨書「家」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 195 | 墨書「○」 |
| 13 | 灰釉陶器皿 | — | 8.4 | — | 底部 | 精　緻 | 灰 白 色 | 右 | 64 | |
| 14 | 土師器甕 | 14.1 | — | — | 口縁80 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | | 125、127 | |
| 15 | 紡錘具 | | | | | | | | 225 | 石製 |

## 第158表　D214出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.6 | 8.0 | 4.7 | 70 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 60 | ヘラ描き |

## 第159表　D215出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 8.5 | 6.8 | 20 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 9 | 内外面ヘラ磨き |
| 2 | 須恵器広口壺 | — | 12.4 | — | 40 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 13、22、23 | |
| 3 | 須恵器甕 | — | 13.8 | — | 30 | 石英粒 | 灰 白 色 | | 13、16、17、19、20、21 | |

## 第160表　D216出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 8.1 | 4.2 | 完形 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 63 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 9.3 | 3.8 | 30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 21 | |
| 3 | 須恵器坏 | 12.0 | 7.7 | 4.4 | 完形 | 砂　粒 | 灰 白 色 | | 22 | |

## 第161表　D219出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.0 | 5.1 | 40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 25、26 | 線刻、黒色処理 |
| 2 | 須恵器坏 | 13.6 | 7.9 | 4.5 | 40 | 石英粒 | 灰　色 | | 2、13、26、32 | |
| 3 | 土師器甕 | 19.8 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 7、8、21 | |

## 第162表　D256出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 8.9 | 3.9 | 60 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 23、30、33、80、83、84、85、89 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 須恵器坏 | 12.2 | 7.8 | 4.2 | 完形 | 砂　粒 | 灰　色 | | 78 | |

## 第163表　D264出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 14.0 | 8.4 | 3.8 | 50 | 雲母粒 | 青灰色 | 左 | 64、211 | |
| 2 | 須恵器坏 | 14.2 | 7.9 | 3.6 | 50 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 113、161、164 | |
| 3 | 土師器甕 | — | 12.3 | — | 底部 | 砂　粒 | 明褐色 | | 53、186 | |

## 第164表　D267出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 13.2 | 4.8 | 11.9 | 60 | 精　緻 | 褐　色 | | 11、32、33、44、55、57、70、94、106 | |
| 2 | 土師器甕 | — | 6.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 38、48、132、144、177、181、182 | |

## 第165表　D268出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 12.1 | 8.9 | 4.2 | 70 | 精　緻 | 明赤褐色 | | 17、20 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.4 | 4.1 | 60 | 精　緻 | 褐　色 | | 1 | 墨書「入」 |
| 3 | 土師器甕 | — | 6.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 91、96 | |
| 4 | 土師器甕 | 22.3 | 6.3 | 29.2 | 80 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 1、16、24、26、32、33、35、40、42 | |

## 第166表　D287出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.0 | 3.7 | 90 | 砂　粒 | 暗褐色 | 左 | 28、31 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.7 | 3.8 | 完形 | 砂　粒 | 赤褐色 | 左 | 30 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 6.2 | 4.1 | 80 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 33、36、37 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.9 | 3.8 | 完形 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 26 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.5 | 7.5 | 4.3 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 27 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 5.8 | 4.2 | 完形 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 59 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 6.0 | 4.0 | 70 | 砂　粒 | 暗褐色 | 左 | 2、9 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 18.3 | 7.5 | 4.5 | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 8、45、46、50、51 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 7.6 | 4.6 | 40 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 16、39、51 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | 7.5 | 4.2 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 51 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | 7.4 | 5.5 | 80 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 11、24、51 | 内面ヘラ磨き |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 15.3 | 8.2 | 5.0 | 90 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 25、51 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 7.2 | 4.6 | 90 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 21、51 | |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 7.0 | 4.4 | 60 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 4 | 墨書「立」 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 5.6 | 4.1 | 70 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 1、51 | 墨書 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 7.0 | 3.9 | 80 | 砂　粒 | 褐　色 | 左 | 51 | 墨書「生」 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 7.1 | 3.6 | 90 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 39、51 | 墨書「立」 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 6.7 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 29 | 墨書「庄」 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | — | 6.1 | — | 底部 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 左 | 30、51 | 墨書「立」 |
| 20 | ロクロ土師器坏 | 17.1 | 7.3 | 5.7 | 50 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 3 | 線刻 |
| 21 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 20 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 22 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 51 | 墨書「生」 |
| 23 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 橙　色 | | 51 | 墨書、内面ヘラ磨き |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 24 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 51 | 墨書 |
| 25 | 須恵器蓋 | 6.7 | — | 2.4 | 60 | 砂　粒 | 灰白色 | 右 | 34 | |
| 26 | 土師器甕 | 16.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 18、51、58 | |
| 27 | 土師器甕 | 18.7 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 51 | |
| 28 | 土師器甕 | 18.4 | 10.3 | 28.5 | 80 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 13、51、57 | ロクロ調整 |
| 29 | 土師器甑 | 25.3 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 明褐色 | | 5、56 | |
| 30 | 土師器甑 | 27.7 | — | — | 40 | 砂　粒 | 明褐色 | | 12、15、17、51 | |
| 31 | 紡錘具 | | | | | | | | 38 | 石製 |

## 第167表　H084出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器皿 | 15.1 | 7.8 | 2.6 | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | | 4、5 | 墨書「生」、ヘラ磨き |

## 第168表　P038出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 12.6 | — | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 62 | 内面ヘラ磨き |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 8.1 | 4.5 | 60 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 7 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 8.9 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 2 | 墨書「○」 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.7 | 4.0 | 30 | 雲母粒 | 明褐色 | | 17、31、36、40 | 墨書 |
| 5 | 須恵器坏 | 14.0 | 8.4 | 3.8 | 90 | 石英粒 | 青灰色 | | 24、31、50 | |
| 6 | 須恵器坏 | 13.8 | 8.3 | 3.6 | 90 | 精　緻 | 灰　色 | | 4、19、23、31 | |
| 7 | 須恵器坏 | 13.8 | 8.3 | 4.1 | 完形 | 長石粒 | 青灰色 | 右 | 22、27、28、31 | 内面油煙、朱墨痕あり |
| 8 | 土師器蓋 | 5.5 | — | 2.8 | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 31 | |
| 9 | 須恵器蓋 | 12.2 | — | — | 80 | 石英粒 | 青灰色 | | 11、15、16、18、31、35 | |
| 10 | 須恵器蓋 | 16.9 | — | — | 30 | 雲母粒 | 灰白色 | 右 | 29 | |
| 11 | 須恵器盤 | — | 13.7 | — | 50 | 雲母・石英粒 | 青灰色 | 右 | 10 | |
| 12 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 3、4、9 | |
| 13 | 土師器甕 | — | 7.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 8、31、37、38 | |
| 14 | 須恵器甕 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 灰褐色 | | 59 | 転用硯 |
| 15 | 瓦塔 | | | | 破片 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 31、47 | 屋蓋部 |
| 16 | 瓦塔 | | | | 破片 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 44 | 屋蓋部 |
| 17 | 瓦塔 | | | | 破片 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 48 | 屋蓋部 |

## 第169表　P042出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 6.5 | 4.5 | 完形 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 242 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 5.0 | 4.4 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | | 247 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 6.8 | 3.8 | 40 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 292、359 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 6.0 | 4.3 | 80 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 15、164 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.8 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 245 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 6.7 | 4.0 | 30 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 141、317 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 6.4 | 4.6 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 242、246 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 7.4 | 4.4 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 244 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 7.9 | 4.2 | 完形 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 104、193、241 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 8.0 | 4.3 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 249 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 7.4 | 4.5 | 完形 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 243 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 6.2 | 5.0 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 248 | 墨書「立」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 108 | 墨書「生」 |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 108 | 墨書 |

## 第170表　P043出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 7.7 | 4.3 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 15 | 墨書「生」、ヘラ磨き |

## 第171表　P129出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 6.4 | 3.6 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 3、8 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.6 | 4.2 | 60 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 8 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.6 | 4.2 | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 3 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 6.8 | 4.2 | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 2、3 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 6.3 | 3.6 | 60 | 長石粒 | 赤 褐 色 | 右 | 2、5、8 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 6.8 | 3.8 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | | 2、3、8、15 | 墨書「立」 |
| 7 | ロクロ土師器皿 | 14.1 | 8.0 | 2.5 | 完形 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 8 | 墨書「立」、ヘラ磨き |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 6.7 | 4.4 | 40 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 3 | 墨書「立」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.7 | 3.9 | 80 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 8 | 墨書「立」 |
| 10 | 土師器鉢 | 17.7 | 9.4 | 6.0 | 50 | 雲母・長石粒 | 褐　色 | 右 | 2、3 | |
| 11 | 土師器鉢 | 17.2 | 9.6 | 5.6 | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 2、3 | |
| 12 | 土師器鉢 | 18.5 | 10.0 | 6.0 | 40 | 雲母粒 | 褐　色 | | 3 | 内面ヘラ磨き |
| 13 | ロクロ土師器皿 | 14.2 | 5.8 | 2.3 | 30 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 3、8 | 内面ヘラ磨き |
| 14 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 7.8 | 3.2 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 2、5、8 | 内面ヘラ磨き |
| 15 | ロクロ土師器皿 | 15.0 | 6.7 | 2.3 | 30 | 砂　粒 | 黒　色 | 右 | 2 | |

## 第172表　P138出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 12.1 | 7.0 | 4.4 | 90 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 267 | 墨書「○」、線刻 |
| 2 | 土師器坏 | 13.2 | 7.1 | 4.2 | 80 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 176、185、186、190、195、317 | |
| 3 | 土師器坏 | 11.4 | 6.1 | 3.3 | 70 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 145、281 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 8.6 | 4.2 | 90 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 138、159、179、197、312 | 墨書「○」 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 8.0 | 4.7 | 完形 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 59 | 墨書「□万」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 8.2 | 4.2 | 80 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 92、151、226 | 墨書「子猨鳴」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 8.3 | 3.9 | 70 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 119 | 墨書「牧万」 |
| 8 | 須恵器坏 | 12.5 | 8.4 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 288 | |
| 9 | 土師器高台坏 | 12.8 | 9.2 | 5.6 | 80 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 154 | |
| 10 | 土師器高台坏 | 14.6 | 8.8 | 7.5 | 30 | 石英粒 | 明赤褐色 | 右 | 153 | |
| 11 | 須恵器坏 | 12.5 | 6.7 | 3.7 | 90 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 294、303、304 | |
| 12 | 須恵器坏 | 13.1 | 7.8 | 4.1 | 70 | 砂　粒 | 灰　色 | | 37、43、297 | |
| 13 | 須恵器坏 | 12.8 | 7.4 | 4.0 | 80 | 雲母粒 | 灰　色 | 右 | 45、147 | |
| 14 | 須恵器坏 | 12.2 | 7.3 | 4.3 | 完形 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 135 | 墨書 |
| 15 | 須恵器坏 | 13.6 | 7.8 | 4.1 | 完形 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 95 | 墨書「牧万」 |
| 16 | 須恵器坏 | 12.5 | 8.4 | 4.1 | 80 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 122、187 | ヘラ描き |
| 17 | 須恵器坏 | 12.1 | 8.3 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 122 | ヘラ描き |
| 18 | 須恵器長頸瓶 | — | 4.6 | — | 頸部欠 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 289 | |
| 19 | 須恵器長頸瓶 | 8.5 | — | — | 頸部 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 305 | |
| 20 | 須恵器坏 | 12.5 | 6.4 | 3.6 | 90 | 精　緻 | 灰　色 | | 300、306 | 線刻 |
| 21 | 須恵器坏 | 13.8 | 6.9 | 4.5 | 80 | 精　緻 | 灰 白 色 | 右 | 161 | 底部内面に朱墨痕、線刻 |
| 22 | 土師器甕 | 13.7 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 173、251 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23 | 土師器甕 | 10.6 | 8.2 | 13.4 | 40 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 148、197 | ロクロ調整 |
| 24 | 須恵器甕 | — | — | — | 30 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 287 | |

## 第173表　1群B出土文字資料一覧

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 生 | 4a | D168 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 20 | |
| 2 | 生 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 60 | |
| 3 | 生 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 61 | |
| 4 | 生 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 59 | |
| 5 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 60 | |
| 6 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 61 | |
| 7 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 20 | |
| 8 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 24 | |
| 9 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 53 | |
| 10 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 54 | |
| 11 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 55 | |
| 12 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 57 | |
| 13 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器皿 | 体部外面左 | 56 | |
| 14 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 40 | |
| 15 | 生 | 5 | D164 | ロクロ土師器皿 | 体部外面上 | 41 | |
| 16 | 生 | 5 | D211 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | |
| 17 | 生 | 5 | D211 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 9 | |
| 18 | 生 | 5 | D211 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 8 | |
| 19 | 生 | 6 | D287 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 16 | |
| 20 | 生 | 6 | D287 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 22 | |
| 21 | 生 | 6 | D287 | ロクロ土師器皿 | 体部外面上 | 21 | |
| 22 | 生 | | H084 | ロクロ土師器皿 | 体部外面上 | 1 | |
| 23 | 主ヵ | 5 | D164 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 47 | |
| 24 | 立ヵ | 4a | D168 | 土師器蓋 | 天井部左 | 22 | 黒色処理 |
| 25 | 立ヵ | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 21 | |
| 26 | 立ヵ | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 52 | |
| 27 | 立ヵ | 5 | D211 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 5 | |
| 28 | 立 | 6 | D175 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 7 | |
| 29 | 立 | 6 | D175 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 8 | |
| 30 | 立 | 6 | D175 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 16 | |
| 31 | 立 | 6 | D175 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 17 | |
| 32 | 立 | 6 | D175 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 11 | 32・33の2箇所 |
| 33 | 立 | 6 | D175 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 11 | |
| 34 | 立 | 6 | D175 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 9 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 35 | 立 | 6 | D287 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 14 | |
| 36 | 立 | 6 | D287 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 17 | |
| 37 | 立 | 6 | D287 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 19 | 37・38の2箇所 |
| 38 | 立 | 6 | D287 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 19 | |
| 39 | 立 | 6 | P042 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 12 | 39・40の2箇所 |
| 40 | 立 | 6 | P042 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 12 | |
| 41 | 立 | 6 | P129 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 6 | |
| 42 | 立 | 6 | P129 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 9 | 42・43の2箇所 |
| 43 | 立 | 6 | P129 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 9 | |
| 44 | 立ヵ | 6 | P129 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 8 | |
| 45 | 立 | 6 | P129 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 7 | 45・46の2箇所 |
| 46 | 立 | 6 | P129 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 7 | |
| 47 | 堤家ヵ | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 64 | |
| 48 | 家 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 66 | |
| 49 | 家ヵ | 5 | D211 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 11 | |
| 50 | 入 | 4a | D268 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 2 | 50・51の2箇所 |
| 51 | 入 | 4a | D268 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 2 | |
| 52 | 入 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 35 | |
| 53 | 入 | 4b | D194 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 2 | |
| 54 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 39 | |
| 55 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 50 | |
| 56 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 48 | |
| 57 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 49 | |
| 58 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 51 | 外面に線刻 |
| 59 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 52 | |
| 60 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 53 | |
| 61 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 54 | |
| 62 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 55 | |
| 63 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 58 | |
| 64 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 57 | |
| 65 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 56 | 65・66の2箇所 |
| 66 | 継 | 4b | D165 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 56 | |
| 67 | 継 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 49 | |
| 68 | 継 | 5 | D164 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 48 | |
| 69 | 継 | 5 | D192A | ロクロ土師器皿 | 体部外面上 | 8 | |
| 70 | 継 | 5 | D192A | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 6 | |
| 71 | 継 | 5 | D192A | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 7 | |
| 72 | 継 | 6 | D175 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 13 | |
| 73 | 冨 | 5 | D192A | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 4 | 73・74の2箇所 |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 74 | 冨 | 5 | D192A | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 4 | |
| 75 | 牧万 | 3 | D174 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 7 | |
| 76 | 牧万 | 3 | D199 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 6 | |
| 77 | 牧万 | 3 | P138 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 7 | |
| 78 | 牧万 | 3 | P138 | 須恵器坏 | 底部外面 | 15 | |
| 79 | □万 | 3 | P138 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 5 | |
| 80 | 枚万 | 3 | D146 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 7 | |
| 81 | 又万 | 3 | D146 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 10 | |
| 82 | 枚万 | 3 | D146 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 6 | |
| 83 | □万 | 3 | D146 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 8 | |
| 84 | 大井 | 3 | D174 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 8 | |
| 85 | 大井 | 3 | D174 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 9 | |
| 86 | 大井 | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 47 | |
| 87 | 大田 | 4b | D165 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 46 | |
| 88 | 井 | 6 | D175 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 14 | |
| 89 | 器 | 3 | D174 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 6 | |
| 90 | 臣 | 3 | D196 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 8 | 体部外面に「○」 |
| 91 | 文 | 1 | D173 | 須恵器蓋 | 天井部左 | 3 | 内面朱墨痕 |
| 92 | 草 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 63 | |
| 93 | 財 | 5 | D164 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 72 | |
| 94 | 羊 | 5 | D192A | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 9 | |
| 95 | 子猨嶋 | 3 | P138 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 96 | 益 | | D170 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 4 | |
| 97 | 益 | 3 | D183 | 土師器高台坏 | 体部外面下 | 4 | 黒色処理 |
| 98 | 大寺 | 3 | D183 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 1 | |
| 99 | 嶋 | 7 | D163 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 4 | |
| 100 | 嶋 | 7 | D163 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 5 | |
| 101 | 嶋 | 7 | D163 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 8 | |
| 102 | 成 | 5 | D192A | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 3 | |
| 103 | 庄 | 6 | D287 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 18 | 103・104の2箇所 |
| 104 | 庄 | 6 | D287 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 18 | |
| 105 | 山 | 1 | D160 | 須恵器坏 | 体部外面左 | 5 | |
| 106 | 大生人 | 3 | D146 | 須恵器坏 | 底部外面 | 15 | ヘラ描き |
| 107 | ○ | 1 | D151 | 須恵器坏 | 体部外面 | 1 | |
| 108 | ○ | 3 | D196 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 7 | |
| 109 | ○ | 3 | D196 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 8 | 底部外面に「臣」 |
| 110 | ○ | 3 | D161 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 2 | |
| 111 | ○ | 3 | D174 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 4 | |
| 112 | ○ | 3 | D174 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 5 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 113 | ○ | 3 | D183 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 2 | |
| 114 | ○ | 3 | D183 | 須恵器坏 | 体部外面 | 8 | |
| 115 | ○ | 4a | D168 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 19 | |
| 116 | ○ | 4a | D189 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 2 | |
| 117 | ○ | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 29 | |
| 118 | ○ | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 30 | |
| 119 | ○ | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 31 | |
| 120 | ○ | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 32 | |
| 121 | ○ | 4b | D165 | 土師器高台坏 | 底部外面 | 40 | |
| 122 | ○ | 4b | D165 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 64 | |
| 123 | ○ | 8 | D149 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 5 | |

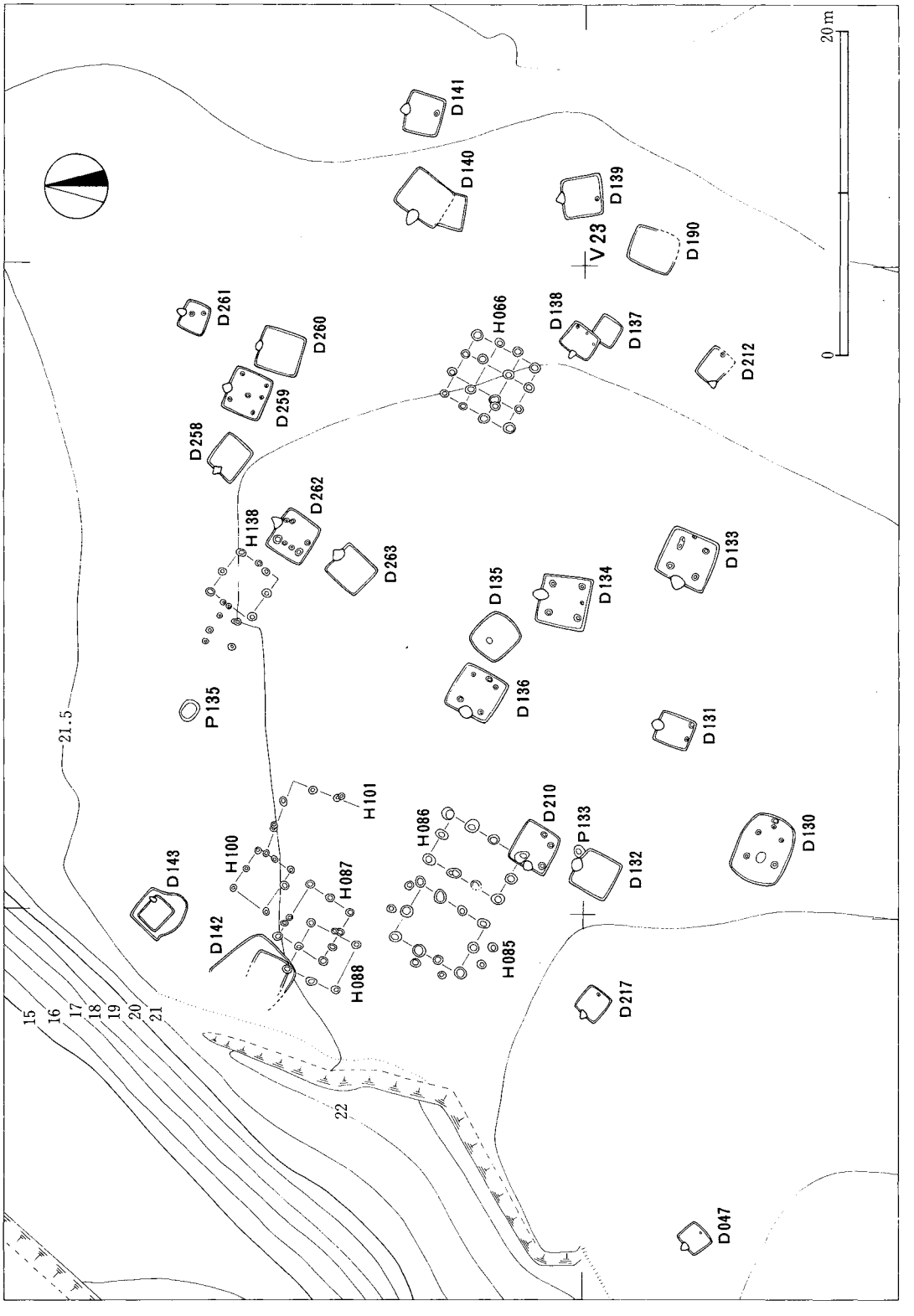
## 第3節　2群Aグループの遺構と遺物

### 1　概　観（第171・172図、図版92）

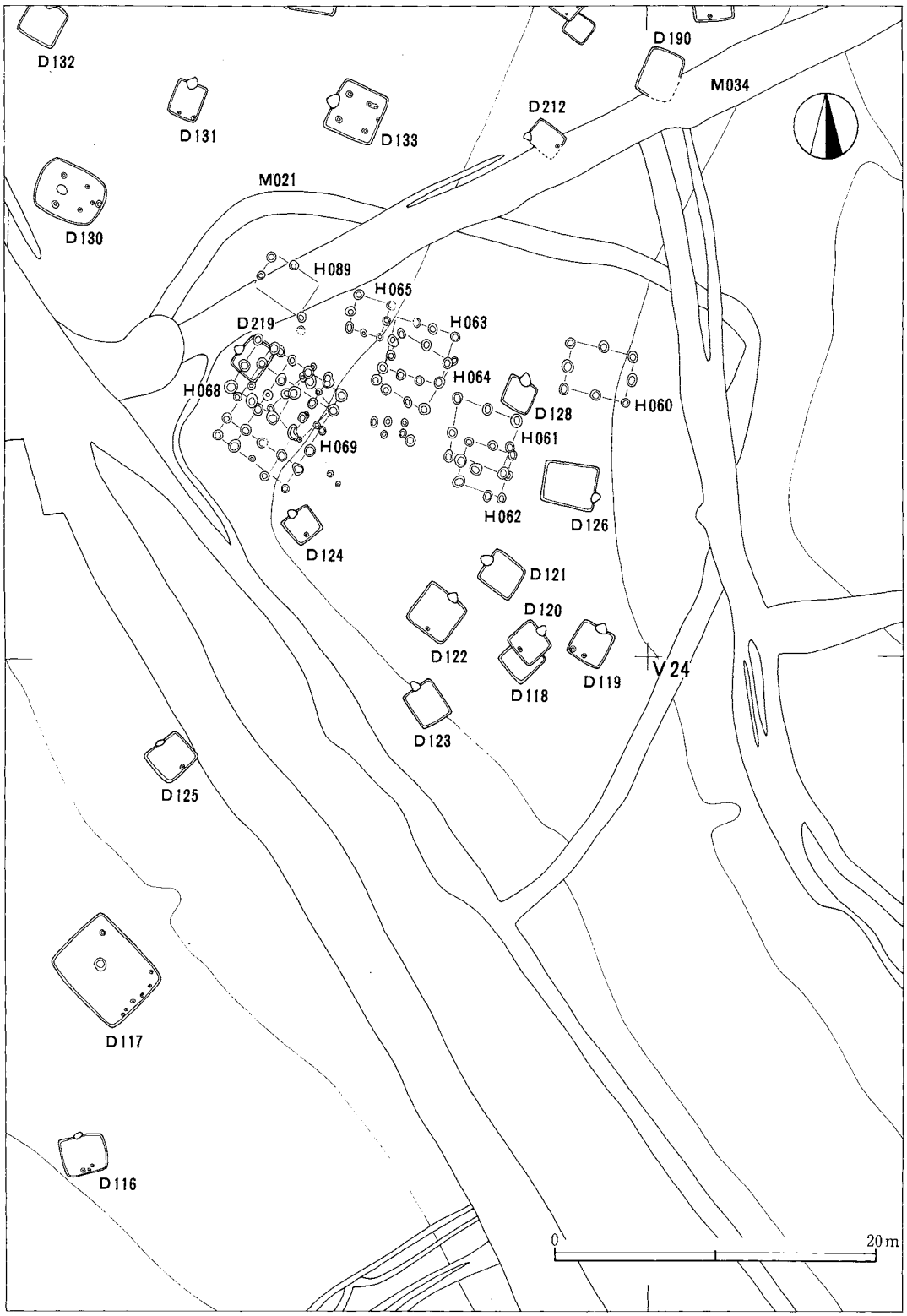
2群は1群Bグループの南側に続く建物群で、白幡前遺跡のかなりの部分が含まれる。1群Bグループとは前述したように段丘斜面によって分割され、3群とは建物の空白帯によって分割できる。この空白帯は幅約30mを測り、北東から南西方向へ建物群を分断している。白幡前遺跡において最大の遺構空白地帯であり、集落に対して何らかの機能を果たしていたと考えられる。調査の結果からはこの部分の機能を復元できる資料は得られなかったが、調査前には空白帯と全く重なる幅員4.5mの現道があり、古代においてもこの部分が通路として利用されていた可能性は否定できないと思う。ただし、調査からはこの部分に人々の通行の痕跡は検出できていない。

2群とした範囲の地形は西及び北側に寺谷津を臨み、2群から1群にかけて寺谷津は〝S〟字状にカーブしている。沖積層面との比高は約10mを測り、標高は20～25mとなる。1群と比較して広範囲に平坦面が展開している。検出した遺構は竪穴住居跡172軒、掘立柱建物跡69棟、土壙7基がある。しかし、これらの遺構はいくつかの異なる性格を持つ建物群が集合したものと考えられ、視覚的には竪穴住居跡の主軸方向や掘立柱建物の集中状況に端的に表れている。掘立柱建物跡の集合の状況と竪穴住居跡の主軸方向を中心にA～Fの6グループに細分して報告する。

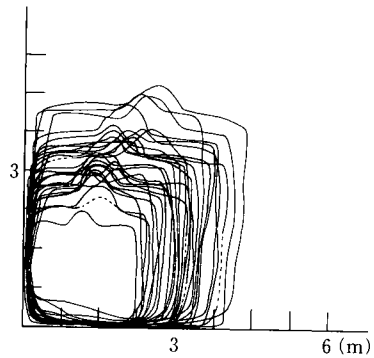
Aグループは2群の北端に位置し、22ラインから24ラインにかけての建物群である。Aグループの中央には四周を溝M021に囲まれた四面廂付きの掘立柱建物があり、このM021の周辺の建物をAグループと認定した。しかし、M021は遅くとも9世紀前半には機能しなくなっていた



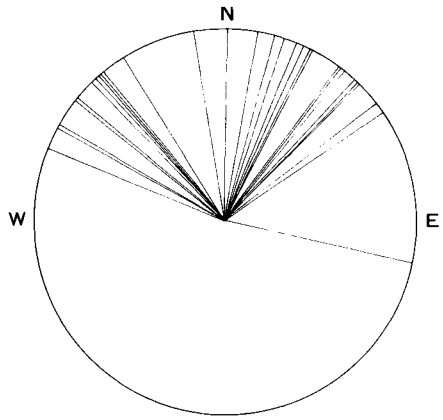

第171図　歴史時代２群Ａグループ全体図　1



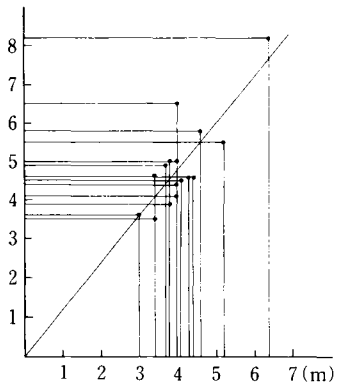

第172図　歴史時代２群Ａグループ全体図　2



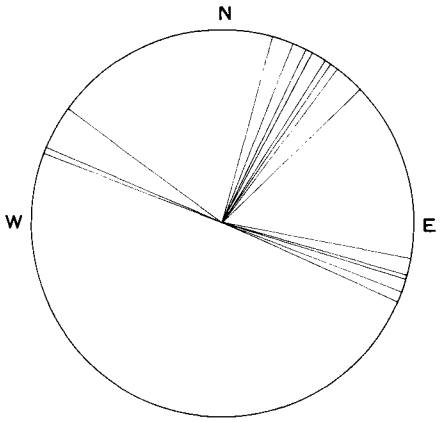

竪穴住居の規模




竪穴住居の主軸方向




掘立柱建物の規模




掘立柱建物の長軸方向

第173図　2群Aグループ建物比較

ことは確実であるが、その後もU22グリッドに掘立柱建物が僅かに構築されていることを考慮した。

BグループはAグループの南側に位置し、面積的には1群Bグループに匹敵する。2群Aグループとの分割には疑問も残るが、T23グリッド付近に若干掘立柱建物が集中することからAグループから分離した。隣接する2群C・Dグループ・3群とは僅かに遺構の空白域があり、これらの建物群と分割することは容易である。

Cグループは2群Bグループの西側に位置し、南側は2群D・E・Fグループに隣接している。一部で2群Bグループ・2群Fグループと分割しにくい地点があるが、基本的には隣接する建物群との間に遺構の空白域があり、R24グリッドに掘立柱建物が集中する。

Dグループは2群Bグループの南側に位置し、2群B・Eグループ・3群との間に遺構の空白域がある。建物は狭い範囲にまとまり、建物の主軸方向は隣接する2群Eグループと明らか

に異なっている。

Eグループも隣接する建物群との間に明瞭な遺構空白域がある。建物は狭い範囲にまとまり、全ての建物がほぼ同じ軸方向で構築されている。これ程までに軸方向を揃えた建物群は白幡前遺跡においてこのグループだけである。

Fグループは2群Eグループの西側に位置し、やはり隣接する建物群との間に遺構の空白域がある。建物は隣接する2群E・Dグループのように小さくまとまらず、比較的広い範囲を領有している。

細分した小グループはすべてが同じ集落変遷をたどるわけではなく、白幡前遺跡全体から見ればごく限られた時期だけに存在するグループもあり、集落全体の存続期間を通して居住が行われたグループは一つもない。しかし、竪穴住居跡や掘立柱建物跡の集中する状況から、建物の構築に当たってかなり強い規制があったと推定できる。特に2群Eグループの建物の分布状況は、ことごとく主軸方向を揃えており、建物の規制が一時的なものでなかった事を物語っている。墨書土器の所有状況は南北に大きく二分され、2群北側のA・Bグループでは墨書土器の量が極端に少ないのに対し、2群西側のC～Fグループでは墨書土器の量も豊富である。このことは、先に触れた建物構築の規制と深い関わりを有しており、規制の弱いAグループは墨書土器の量が少ない傾向にある。また、2群北側のA～Cグループが比較的早い段階から竪穴住居の減少傾向を示し、本遺跡で墨書土器が盛行する4～5期には無人に近い状態であったことも大きな要因であり、建物構築の規制とグループの中心となる時期は無関係ではないと考える。結果として2群北側のA～Cグループが9世紀後半以降白幡前遺跡を南北に大きく二分することになる。墨書土器の内容は3群と深い関わりをもっている。

なお、2群Aグループには四面廂付きの掘立柱建物があり、その周辺から瓦塔及び「佛」と墨書された土器が出土している。さらに、この建物を取り囲むように溝状遺構が巡っており、所謂村落内寺院として機能していたと考えられる。

## 2　遺　構（第173図、第174～176表、PL.124～144、図版93～101）

2群Aグループは2群とした範囲の北端に当たり、1群Bグループと段丘斜面で分割される。2群Bグループとの区分の根拠は薄弱であるが、掘立柱建物の状況を考慮した。検出した遺構は竪穴住居跡37軒、掘立柱建物跡19棟、土壙2基である。

竪穴住居は偏在もなく散漫に分布し、主軸方向はN-40°-W～N-60°-WとN-10°-W～N-60°-Eの幅の広い2極が認められる。基本的には主軸方向が寺谷津に平行する住居と直交する住居の2者であるが、D126の1軒だけが寺谷津と反対の東壁にカマドを設置している。主軸方向の振れ幅が大きいのは地形的な問題であろうが、同一時期の竪穴住居跡においても2方向の主軸方向が採られている。例えば、D122・D123は近接する住居であるが、約90°異なった主軸方向

である。このことは既に紹介した1群でも特異な例ではなく、かなり一般的な傾向である。37軒の竪穴住居の大部分は3～6期に属するもので、最低19軒がこの時期の構築と考えられる。1・2期の住居は少なく、また7期以降には竪穴住居は構築されていない。住居の規模は最小がD047の2.3m×2.0m、最大はD140-Aの4.9m×4.4mで、1群で見られたような一辺が5mを超す住居は存在しない。また、床面積には大きなピークはなく、面積による住居のグルーピングは不可能である。柱穴の配置はカマドと対峙する壁際に出入り口ピットを設けたE型が最も多く、続いて壁溝だけのF型がある。1群Bグループで多く存在した隅カマドの構造をもつG型はD212の1軒だけで、出土遺物は少ないが、やはり1～2期の構築の可能性が高い。また、4箇所の柱穴と出入り口ピットを設けたB型がD133・D134・D136・D210・D259・D260・D262の7軒あり、これらは基本的に3期後半から4期前半に限られる。白幡前遺跡全体の傾向として、B型の住居の構築は3～4期にピークがある。B型の住居はE・F型の住居と比較して床面積が若干広く、いずれも14m²を超えている。前述した1群においても3期から5期にかけて住居の大型化が認められ、2群Aグループも住居の規模は小さいながら同じ傾向にある。7軒のB型住居の柱穴の規模は一様ではないが、D133・D134・D262では直径0.5m、床面からの深さ0.4～0.6mを測る。これに対してD136・D259は直径が0.2～0.3mと小さく、床面からの深さはD136が約0.5m、D259は0.1～0.2mである。住居埋土の状況はほとんどが埋め戻しを行ったと推定でき、D136・D140は埋土中に貝が廃棄されている。但し、住居壁際に僅かに自然堆積したと考えられる土層が存在する住居があり、住居廃絶と埋め戻しの開始時期は必ずしも一致しない。

カマドは大部分の住居が北及び西壁に設置され、その割合はほぼ同数である。また、前述したようにD126が東壁に、D212は住居西コーナーに設置している。煙道部は壁外へ0.3～0.5mの張り出しを有し、三角形ないし円形の掘り込みがある。火床部が壁外へ設けられた住居はD047・D123・D126・D129・D138を挙げることができるが、本グループに関しては時期による変化として捉えることはできない。なお、D119ではカマド内に甕・ロクロ土師器坏を入れており、出土状況は逆位の坏2個体の上に甕を正位に置いている。

住居の遺物は、ほとんどが廃棄されたものである。カマド内からまとまって遺物が出土したのはD139、D263、D139で甕、D263で甕2個体と甑が出土している。直接住居に伴う可能性が指摘できるものはD259で、カマド周辺からロクロ土師器坏、高台坏が9点出土している。また、D258は住居東壁際からロクロ調整の小形の甕が出土し、人面の墨描と「丈部人足召代ヵ」の墨書がされていた。なお、本グループからは瓦塔の破片が多く出土しており、竪穴住居から出土したものも多い。瓦塔については後に詳述するが、竪穴住居ではD120・D124・D126・D128から出土している。このうち最も多くの点数が出土したのはD128で、隣接するD126とともに西側、即ちH069方向からの廃棄が想定できる。

掘立柱建物跡は19棟が検出された。しかし、１群Ｂグループで特徴的であったような建物群は構成せず、視覚的には散在している。大きく見て寺谷津に面した地区と溝状遺構M021に囲まれた地区に僅かな集中が認められる。ほとんどの建物は側柱構造であるが、H066は３間×３間の総柱構造、H069は身舎部分が３間×２間で四面に廂が付いた建物である。総柱構造の建物は白幡前遺跡全体でも非常に少なく、他に２群ＦグループのH140、３群にH142・H143があるだけである。H140は建物の全体規模が不明で、３群のH142は２間×２間、H143は３間×２間であるが、束柱の堀方は他の堀方と比較して規模が小さい。この点H066は３間×３間という規模を有し、束柱の堀方もかなりしっかりしている。H066は収納施設として妥当と考える。

２群Ａグループの建物の規模は桁行長の平均が4.9mで最大はH069の8.2m、梁行長は平均4.0mで最大はやはりH069の6.4mである。桁行長はほとんどの建物が５m以下で、梁行長も4.5m以下の建物が主体的で、桁行と梁行の長さの比があまりない建物が目立つ。最も多いのは２間×２間の建物で、規模が判明しているものだけで８棟を数え、１群で３間×２間の建物が主体的であったのと対照的である。３間×２間の建物は６棟を数え、それ以外には３間×３間・４間×２間・５間×４間の建物が１棟ずつある。建物の軸方向は周辺の竪穴住居跡と大きく異なるものではなく、N-60°-W前後とそれに直交するN-30°-E前後に集中する。堀方は基本的に円形で、規模は0.8m前後のものが多く、最大でも1.0mとなる。確認面からの深さは0.5～0.6mを測り、堀方としてはかなりしっかりしたものである。柱間寸法は1.8mとするものが多いが、あまり画一的ではなく、同一建物においてもまちまちな建物もある。掘立柱建物の構築時期は具体的に時期を示す遺物が得られておらず、H066に土師器坏を図示したが、図示できなかった遺物の中には調整が非常に粗雑なロクロ土師器坏14類と考えられる破片も含まれている。竪穴住居と重複する建物も存在するが、D142とH088、D210とH086の関係は把握できていない。また、D129とH067～H069はD129の床面の掘り込みが浅いため断言はできないが、D129が先行する可能性が高い。しかし、D129は須恵器坏の破片が１点出土しただけで、時期を決定できない。掘立柱建物同士の重複も何棟かあり、H087とH088の関係は明らかにできなかったが、H062→H061、H063→H064、H067→H068→H069の先後関係が明らかである。具体的な年代は根拠が薄弱であるが、H069は後述するように４期前半から後半には廃絶していた可能性が高く、２ないし３期の構築と考えられ、H069周辺の建物もH069とほぼ同時期の建物と考えられる。また、H089はM034に破壊されており、また、建物の軸方向からもH069と同時存在した可能性が高い。なお、H063・H064、H061・H062はそれぞれ同じ位置で重複した建物であるが、これをH067～H069の重複と同一視する根拠はない。H066は１棟だけ他の掘立柱建物から離れて位置するが、周辺の竪穴住居跡は３期後半以前の構築であり、H066を取り囲むように配置されている。H066についてもH069と同時期に存在したと考えられる。残る寺谷津に臨む建物は３期後半の建物群の中心からはずれた位置にあり、むしろD142・D143との関係を重視すべきかも知れない。

さて、H069は白幡前遺跡はもとより萱田地区において唯一の四面廂付きの建物である。周辺の竪穴住居・溝状遺構から瓦塔の破片が出土していることと考え合わせ、H069が所謂村落内寺院として機能していたことは確実と考えられる。H069の東側に構築された掘立柱建物も時期的な関係を証明できないが、村落内寺院の付属施設としての可能性は否定できない。また、M021は欠損部分も多いが、基本的には方形に巡る溝と考えられ、北辺での溝の方向がH069の軸方向にかなり近いこと、埋土から出土した遺物から考えてH069と同時に機能していたようだ。即ち、M021は村落内寺院の区画施設であったと思われる。瓦塔が多く出土した遺構はD126・D128・M034が挙げられ、D126・D128の2軒の竪穴住居は3期後半の構築である。これらの瓦塔がH069に納められていたことは間違いないところで、村落内寺院は2～3期の村落の経営開始にかなり近い段階で創建されたと考えられる。ただし、H069にはH067・H068の2棟の先行する掘立柱建物があり、かりにD129がそれらに先行するのであれば、H069が2期に構築されたとするのは無理があるかも知れない。このほかに、M021を破壊して構築されたM034からも多くの瓦塔の破片が出土している。M034は明らかにM021埋没後に掘削された溝で、埋土からは9世紀第3四半世紀までの遺物が出土している。M034から出土した瓦塔はD126・D128から出土したものとは別個体で、両者に時期的な新旧関係が存在するものと思われる。M034は白幡前遺跡内を東西に走り、その距離は約180mに及ぶ。M034と重複する竪穴住居はD044・D190・D198・D212があり、いずれも竪穴住居がM034に先行している。竪穴住居はD044を除いて遺物が少なく、明確な時期を決定できないが、いずれの住居も4期より新しくなることはないと思われる。竪穴住居とM034の新旧関係が問題となるが、M034と重複する竪穴住居を見るかぎり、D126・D128はM034に先行する可能性が窺える。そうすると、そこに廃棄された瓦塔についても同様な新旧関係があるのではないだろうか。H069の廃絶時期はM034の埋没より新しくなることは無いと考えられ、遅くとも4～5期には廃絶していたものと推測できる。瓦塔について次項で紹介するが、瓦塔の廃棄はある程度間をおいて行われている。なお、M034からは「寺坏」の墨書が、周辺の竪穴住居D124から「佛」の墨書が出土している。

**第174表　2群A竪穴住居一覧**

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D047 | 方　形 | 2.3×2.0 | 4.6 | N－45°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | なし | 5 | |
| D118 | 方　形 | 3.9×3.2 | 12.48 | N－55°－E | － | なし | なし | なし | なし | あり | | D120と重複。 |
| D119 | 方　形 | 3.2×3.2 | 10.24 | N－36°－E | 北東中央 | なし | なし | 1 | あり | なし | 4a | |
| D120 | 方　形 | 3.1×2.8 | 8.68 | N－51°－E | 北東中央 | なし | なし | 2 | あり | 全周 | 5 | |
| D121 | 方　形 | 3.5×3.1 | 10.85 | N－51°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | | |
| D122 | 方　形 | 4.0×3.6 | 14.40 | N－38°－E | 北東中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 1 | |
| D123 | 方　形 | 3.6×3.1 | 11.16 | N－33°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 1 | |
| D124 | 方　形 | 2.8×2.7 | 7.56 | N－41°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | なし | 3 | |
| D126 | 方　形 | 4.4×3.6 | 15.84 | N－101°－E | 東壁の南コーナー寄り | なし | なし | なし | なし | 全周 | 3 | |

| No | プラン | 南北×東西(m) | 面積(㎡) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D128 | 方　形 | 2.8×2.7 | 7.56 | N−26°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 3 | |
| D129 | 方　形 | 3.2×2.7 | 8.64 | N−46°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | なし | | H067・068と重複。 |
| D131 | 方　形 | 2.9×2.8 | 8.12 | N−23°−E | 北東中央 | あり | なし | なし | あり | 全周 | 4a | |
| D132 | 方　形 | 3.6×3.4 | 12.24 | N−25°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D133 | 方　形 | 4.5×4.5 | 20.25 | N−69°−W | 北西中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D134 | 方　形 | 4.2×4.1 | 17.22 | N−9°−E | 北中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D136 | 方　形 | 3.9×3.1 | 12.09 | N−45°−W | 北西中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D137 | 方　形 | 2.4×2.3 | 5.52 | N−42°−W | 北西の北コーナー寄り | なし | なし | なし | なし | あり | | D138と重複。 |
| D138 | 方　形 | 3.8×3.2 | 12.16 | N−62°−W | 北西中央 | なし | 2 | なし | あり | 全周 | | |
| D139 | 方　形 | 3.5×3.5 | 12.25 | N−10°−W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D140A | 方　形 | 4.9×4.4 | 21.56 | N−62°−W | 北西中央 | なし | なし | 1 | あり | あり | 1 | |
| D140B | 方　形 | 3.8×3.1 | 11.78 | N−0° | 北中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 1 | |
| D141 | 方　形 | 3.2×2.9 | 9.28 | N−17°−E | 北中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 2 | |
| D142A | 方　形 | 5.2×？ | − | N−45°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 6 | D142B・142Cと重複。 |
| D142B | 方　形 | 3.9×3.3 | 12.87 | N−31°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 6 | D142A・142Cと重複。 |
| D142C | 方　形 | 2.4×？ | − | N−16°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 6 | D142A・142Bと重複。 |
| D143A | 方　形 | 2.8×2.2 | 6.16 | N−48°−E | 北東の東寄り | なし | なし | なし | なし | 全周 | 5 | |
| D143B | 方　形 | 4.0×3.0 | 12.0 | N−46°−E | 北東の北コーナー寄り | なし | なし | なし | なし | あり | 6 | |
| D190 | 方　形 | 3.7×3.4 | 12.58 | N−21°−E | − | なし | なし | なし | なし | なし | | |
| D210 | 方　形 | 3.7×3.6 | 13.32 | N−61°−W | 北西中央 | あり | 4 | なし | あり | 全周 | 4a | |
| D212 | 方　形 | 2.7×2.3 | 6.21 | N−45°−W | 西コーナー | なし | なし | なし | あり | 全周 | 1 | |
| D217 | 方　形 | 2.5×2.5 | 6.25 | N−48°−W | 北西中央 | なし | 1 | なし | あり | 全周 | | |
| D258 | 方　形 | 2.9×2.7 | 7.83 | N−53°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 1 | |
| D259 | 方　形 | 3.9×3.4 | 13.26 | N−25°−E | 北東中央 | なし | 5 | 1 | あり | 全周 | 3 | |
| D260 | 方　形 | 3.6×3.3 | 11.88 | N−14°−E | 北中央 | なし | なし | 4 | あり | 全周 | | |
| D261 | 方　形 | 2.6×2.2 | 5.72 | N−26°−E | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 2 | |
| D262 | 方　形 | 4.0×3.5 | 14.0 | N−36°−E | 北東中央 | なし | 3 | 2 | あり | 全周 | 2 | |
| D263 | 方　形 | 3.5×3.4 | 11.9 | N−43°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |

## 第175表　2群A掘立柱建物一覧

| No | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H060 | 2×2 | 側柱 | 4.9 | 3.7 | 1.8〜2.5 | 18.13 | 0.8〜1.0 | 0.3〜0.6 | N−80°−W | なし | | |
| H061 | 2×2 | 側柱 | 4.6 | 4.3 | 2.2 | 19.78 | 0.8〜1.0 | 0.5〜0.6 | N−75°−W | なし | | |
| H062 | 2×2 | 側柱 | 3.9 | 3.8 | 1.8 | 14.82 | 0.8〜1.0 | 0.5〜0.7 | N−70°−W | なし | | |
| H063 | 3×2 | 側柱 | 5.0 | 4.0 | 1.8 | 20.0 | 0.7〜0.8 | 0.5〜0.6 | N−74°−W | なし | | |
| H064 | 3×2 | 側柱 | 4.6 | 4.4 | 1.0〜2.3 | 20.24 | 0.8〜1.0 | 0.4〜0.7 | N−67°−W | なし | | |
| H065 | 2以上×2 | 側柱 | 2.8以上 | 2.8 | 1.5 | — | 0.5〜0.8 | 0.2〜0.5 | N−60°−W | なし | | |
| H066 | 3×3 | 総柱 | 5.5 | 5.2 | 1.8 | 28.6 | 0.7〜0.9 | 0.4〜0.9 | N−25°−E | なし | | |
| H067 | 2×2 | 側柱 | 3.5 | 3.4 | 1.8 | 11.9 | 0.4〜0.6 | 0.4〜0.6 | N−45°−E | なし | | |
| H068 | 2×2 | 側柱 | 4.5 | 4.1 | 2.2 | 18.45 | 0.8〜1.0 | 0.5〜0.8 | N−28°−E | なし | | |
| H069 | 5×4 | 側柱 | 8.2 | 6.4 | 1.6 | 52.48 | 0.8〜1.0 | 0.4〜0.7 | N−34°−E | 四面 | | |
| H085 | 3×2 | 側柱 | 5.8 | 4.6 | 1.8〜2.3 | 26.68 | 0.8〜1.0 | 0.3〜0.5 | N−28°−E | なし | | |
| H086 | 3×2 | 側柱 | 6.5 | 4.0 | 1.8〜2.5 | 26.0 | 0.8〜1.0 | 0.6〜0.8 | N−21°−E | なし | | |
| H087 | 3×2 | 側柱 | 4.4 | 4.0 | 1.3〜2.2 | 17.6 | 0.7〜0.8 | 0.2〜0.3 | N−32°−E | なし | | |
| H088 | 2×2 | 側柱 | 4.1 | 4.0 | 2.0 | 16.4 | 0.6〜0.8 | 0.4〜0.6 | N−25°−E | なし | | |
| H089 | 2×2 | 側柱 | 4.1 | 4.0 | 1.8 | 16.4 | 0.7〜0.8 | 0.3〜0.5 | N−68°−W | なし | | |

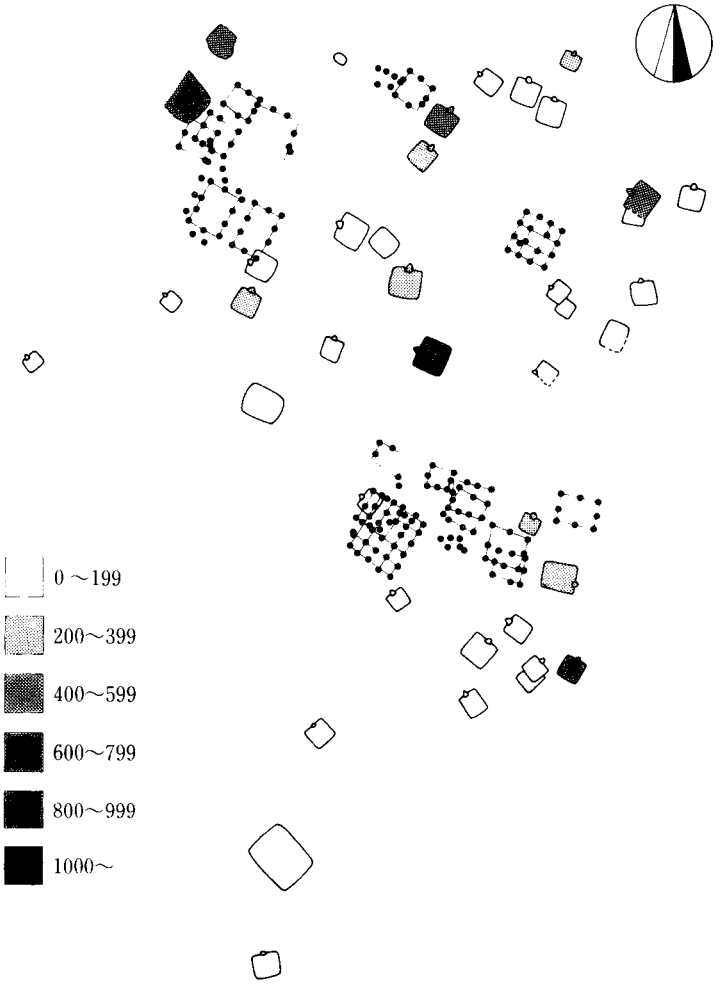
| No. | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H100 | 2×2 | 側柱 | 3.6 | 3.0 | 1.4～3.0 | 10.8 | 0.4～0.6 | 0.2～0.6 | N－56°－W | なし | | |
| H101 | 3以上×2以上 | 側柱 | 6.0以上 | 3.7以上 | 2.0 | —— | 0.6～0.7 | 0.3～0.6 | N－69°－W | なし | | |
| H138A | 3×2 | 側柱 | 5.0 | 3.8 | 1.8～2.1 | 19.0 | 0.3～0.4 | 0.3～0.6 | N－36°－E | なし | | |
| H138B | 4×2 | 側柱 | 4.6 | 3.4 | 1.2～1.6 | 15.64 | 0.3～0.4 | 0.3～0.6 | N－63°－W | なし | | |

**第176表　2群A土壙一覧**

| No. | プラン | 規　模 | 深さ | 軸方向 | 機能 | 時期 | 埋土の状況 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P133 | 円　形 | 直径4.0 | 1.8 | —— | | | ロームブロック多く含む。 | |
| P135 | 方　形 | 1.5×1.1 | 0.3 | N－64°－W | | | ローム粒・焼土粒含む。 | 遺物は上層に集中。 |
| P137 | 円　形 | 直径4.0 | 1.8 | —— | 井戸 | | ローム粒・ロームブロック多く含む。 | M021と重複。 |

## 3　遺　物（第174図、第177～211表、PL.145～169、図版102～112）

竪穴住居跡から出土した遺物は廃棄された遺物がほとんどで、直接住居に伴う遺物はほとんど無い。また、他の建物群と比較して遺物の量は少なく、際だって遺物の量が多い住居跡もない。しいて言うならばD133から約1,000点の遺物が出土しており、2群Aグループの3期後半における選択された廃棄の場と言える。カマドを中心とした遺物の出土状況は、先に4軒の住居を紹介したが、カマド内の遺物の状況は、いずれもカマド使用時の状態を残したものではなく、むしろカマド廃絶に伴って土器類を納めたと解釈できる。




第174図　歴史時代2群A遺物の出土量図

D047　ロクロ土師器坏は法量的にやや大きい2がカマド前面から出土している。器形としては箱形に近い3と口縁部が外反する1・2がある。須恵器坏は箱形に近い器形を呈し、時期的にばらつきがある。

D119　カマド内からロクロ土師器坏4と土師器甕16が出土した。甕は正位で掛け口に掛けられた状態であるが、甕の下にロクロ土師器坏が逆位に重ねられていた。ロクロ土師器坏は僅かに口縁部が外反するものが多く、立ち上がりの角度は55～60°前後である。また、6・7は内面黒色処理を施している。墨書は6・7・8・9・10・11にある。土師器甕は口唇部を断面方形に納めている。なお、瓦塔の屋蓋部の破片が出土している。鉄製品は刀子がある。

D120　ロクロ土師器坏は粗雑な調整の製品で、2点とも立ち上がりの角度は43°となる。1は底部は回転糸切り後、全面一方向ヘラ削りで、体部下端も静止のヘラ削りを行なう。土師器甕は小形の製品である。なお、瓦塔軸部の破片が1点出土した。鉄製品は斧がある。

D122　坏類は須恵器が卓越している。2・3は体部が僅かに外反するもので、底部はともにヘラ切りで、2が全面静止ヘラ削り、3は全面回転ヘラ削りを施す。1は体部が内彎気味に立ち上がるもので、底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施す。

D123　坏類はやはり須恵器が卓越するが、遺物の量は少ない。1は体部が直線的に立ち上がり、底部はヘラ切り後全面回転ヘラ削りを施す。蓋は口径15.1cmを測り、天井部を欠損するが比較的偏平な製品である。

D124　ロクロ土師器坏は箱形の器形が僅かに崩れだしたもので、立ち上がりの角度は65°前後である。底部はともに回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを施す。須恵器は蓋があり、口径10cm前後の小振りの製品である。このほか土師器の鉢があり、3もロクロ調整によるもので、鉄鉢を模したものである。坏類には墨書されたものが多く、3は体部外面に、5は天井部外面に「佛」とある。また、2は底部外面に「長」とある。なお、瓦塔屋蓋部の破片が出土した。

D126　須恵器甕13がカマド左脇の住居南東コーナーから出土している。ロクロ土師器坏は箱形の器形が若干崩れたもので、底部は回転糸切り後、回転ヘラ削りを施している。墨書されたものもあるが釈文は不明なものが多く、1は「安」、5は「□坏」である。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、底部は全面回転ヘラ削りが施されている。甕は口縁部と底部を欠損するが、3類と考えられる。瓶子は9が浄瓶、12は肩に稜を有する長頸瓶である。なお、瓦塔屋蓋部の破片と相輪部の水煙と考えられる破片が1点出土した。

D128　坏類は全体形を残すものがなく、時期決定の決め手にかけるが、土師器甕は大形の1・3類と小形の5類がある。3は高台坏1類で、内面黒色処理を施し、高台内側を転用硯として利用している。また、2も盤の底部内面を利用した転用硯である。9はかなり肩が張るもので、大形の平瓶である。なお、瓦塔の破片が多く出土しており、10～15の軸部のほか屋蓋部・斗栱・相輪・風鐸等がある。瓦塔については後述するが、軸部は初重と二層目以上の二つの部材があ

り、そのほかにも12〜15の破片がある。初重は方三間でもう一つの部材は壁体の隅と中央に斗栱の表現があり、方二間となる。初重は壁を白色、柱を赤色に塗り、もう一つの部材は赤彩によって柱・通肘木の表現を行っている。風鐸が伴うことは注目できる。

**D131**　ロクロ土師器坏・須恵器坏とも底部を欠損している。器形的には口縁部が僅かに外反するもので、土師器甕1類が伴っている。

**D132**　ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈し、立ち上がりの角度は65°前後である。底部は糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施すが、3は静止の糸切りである。土師器坏3類が伴っている。須恵器坏は口縁部が外反するもので、底部・体部下端とも静止ヘラ削りを行う。墨書されたものが多く、釈文は3が「子猨嶋」、4・5は「上」となり、5は朱墨である。

**D133**　坏類は須恵器が卓越する。土師器坏は平底の1類があり、内面にヘラ磨きを施す。なお、接合しないが、D134から同一個体の破片が出土している。ロクロ土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がるもので、底部は回転糸切り後に静止ヘラ削りを施している。また、4は体部内外面にヘラ磨きを行い赤彩している。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がるものが主体的で、底部はヘラ切り後、全面静止ヘラ削りを施している。なお、9は底部内面に朱墨痕が残る。土師器甕は1・3類がある。鉄製品は鉄鏃がある。

**D134**　須恵器坏は口縁部が外反するもので、底部及び体部下端に静止ヘラ削りを施している。土師器甕はいずれも小形の製品で口唇部を丸く納めている。

**D136**　ロクロ土師器坏は器高6.6cmを測る大形の製品で、底部は全面不定方向のヘラ削りを施している。土師器甕は大形の3類・小形の2類がある。4は須恵器甕の破片を利用した転用硯である。なお、埋土中にハマグリ・アサリ・シオフキが僅かに廃棄されていた。

**D138**　須恵器坏が1点図示できた。なお、重複するD137は図示できる遺物がない。須恵器坏は口縁部が外反し、底部・体部下端とも回転ヘラ削りを施している。体部外面には朱墨で「井□」と書かれている。

**D139**　ロクロ土師器坏は1を図示しただけである。底部の破片で、外面に墨書される。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、底部はヘラ切り後不定方向のヘラ削り、体部下端は回転ヘラ削りを施している。土師器甕は大形の3類と小形の4類があり、6はカマド内から出土した。3は平瓶の口縁部である。鉄製品は釘がある。

**D140**　A・B2軒重複し、B→Aの先後関係が確認されている。図示した遺物のうちBに帰属するものは4だけである。須恵器坏は器高3.5cmの身の浅い製品で、体部下端に回転ヘラ削りを施している。土師器甕は1類が主体的であるが、2は台付きの7類である。なお、Bの埋土に貝が廃棄されている。

| | | |
|---|---|---|
| イボキサゴ | *Umbonium* | 27 |
| ウミニナ | *Batillaria multiformis* | 20 |

| | | |
|---|---|---|
| タニシ | | 1 |
| ハマグリ | *Meretrix lusoria* | 1969 |
| サルボウ | *Soapharoa subcrnata* | 7 |
| マガキ | *Crassostrrea gigas* | 5 |
| アサリ | *Ruditapes philippinarum* | 164 |
| オキシジミ | *Cyclina sinensis* | 4 |
| カガミガイ | *Dosinorbis (Phacosoma) japonicus* | 3 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | 1503 |

**D141** 坏類は須恵器が卓越し、4を除いてカマド周辺から出土した。須恵器坏は体部が内彎気味に立ち上がるものが主体的で、1・3の底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを施している。

**D142** 壁及び壁溝の状況から3軒の竪穴住居が重複していると考えられるが、遺存状態が悪く、個々の住居の内容は明らかではない。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するものが主体的で、立ち上がりの角度は45〜50°である。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施し、体部下端もほぼ例外無く回転ヘラ削りを行う。なお、ロクロ土師器皿2類を伴っている。また、墨書されたものが多く、釈文は「継」・「生」となるが、不明なものが多い。24は土師器鉢で、鉄鉢を模したものである。13・23は灰釉陶器で23は段皿、13は椀である。なお、本住居からは「和同開珎」・「景徳元宝」・「大観通宝」の3枚の古銭が出土している。3枚とも床面に近いレベルから出土したが、「景徳元宝」の初鋳は1004年、「大観通宝」の初鋳は1107年の北宋銭で、「和同開珎」も含めて本住居にもたらされた経過に疑問が残る。鉄製品は鎌がある。

**D143** ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するものが主体的で、口唇部が肥厚するものが含まれている。底部は回転糸切り後に無調整のものは13だけで、他は回転ヘラ削りを施している。ロクロ土師器皿は底部回転糸切り無調整の製品である。墨書されたものは「継」・「叉」となる。土師器甕は大小の2類があるが、口唇部内面は受け口状に調整されていない。

**D210** ロクロ土師器坏は箱形の器形が若干崩れた身の浅い製品で、底部は回転糸切り後、周縁部に静止ヘラ削りを施す。須恵器坏は底部を欠損するが、体部は直線的に立ち上がり、体部下端に回転ヘラ削りを施している。

**D258** 坏類は須恵器が卓越するが、遺物の量は非常に少ない。須恵器坏は体部がほぼ直線的に立ち上がるもので、底部はヘラ切り後一方向のヘラ削り、体部下端も静止のヘラ削りを施す。2は体部外面に墨書され、釈文は「益」となる。また、「益」の下に書かれたものは本遺跡の例を見る限り「益」とともに書かれ、「益」と一体のものと思えるが、「益」に対する位置は左・右・下とまちまちである。なお、高台坏を伴っている。土師器甕は小形のロクロ調整の製品で、住居西コーナー近くの壁際から出土した。底部は回転糸切り無調整で、胴部下端に横位のヘラ

削りが施されている。胴部外面には人面及び人名が墨書されている。人面は顔全体が胴部に納まり、頭頂から顎まで4.3cmを測る。また、かなり長い口髭を生やしており、口髭の先端が底部近くに達している。顔は丁寧に丸い輪郭を描き、眉毛・目・鼻・口・耳とも揃っている。頭髪は中央から左右に分けられ、耳にはかかっていない。人名は人面と90°向きを変えた位置に口縁部から胴部下端に一列に書かれている。釈文は「丈部人足召代ヵ」で、最後の文字は肉眼では読みづらいが、「代」である可能性が高い。「召代」については本来「招代」と書き、「おぎしろ」と読ませ、北海道遺跡で見られた「形代」に通じる語である。

人面墨書は萱田地区でこれまでに権現後遺跡D189・北海道遺跡D048の2軒の竪穴住居から出土している。権現後遺跡D189から出土したものは、ロクロ土師器坏の体部外面に書かれたもので、同一器面に「村神郷丈部国依甘魚」の墨書がある。北海道遺跡D048から出土したものは、ロクロ土師器坏の体部外面から底部にかけて書かれたもので、内面に「承和五年二月十□」・「□□□代」の墨書がある。これらはいずれもロクロ土師器坏に描かれたものである点が本例と異なる。北海道遺跡からはこのほかにもD146から「丈部乙刀自女形代」の墨書があるロクロ土師器坏が出土しており、D048出土の「代」の前には人名が書かれていたと考えられる。このように人面と人名が同一器面に描かれるという共通点があり、人名はすべて「丈部」姓である。

なお、住居中央とカマド上面に貝が廃棄されている。

**D259**　ほとんどの遺物がカマド前面から住居東コーナーにかけた部分から出土した。ロクロ土師器坏は箱形の器形が若干崩れたもので、底部は回転糸切り後、2は一方向ヘラ削り、3は無調整である。体部下端は2に静止ヘラ削りを施すが、1・3はヘラ削りを行っていない。また、高台坏が非常に多く、7個体が出土した。器形的には1・2類であり、5・6を除いて内面黒色処理が施されている。墨書された製品が4点あり、6・7は体部外面に「赤山」、9は「益」、8は底部外面に「人足」とある。「人足」の墨書は先のD258から出土した人面墨書土器に書かれた人名「丈部人足・・」と同一人物を指す可能性が高い。

**D260**　遺物が少なく、実測可能な土器は土師器甕1点で、カマド内から出土した。口唇部は丸く納める製品だが、口縁部内面と胴部上半にヘラ磨きが施されている。胴部下半は縦位から横位のヘラ削りである。なお、住居南西コーナーを中心として貝が廃棄されている。

**D261**　遺物は住居中央とカマド内に集中しているが、カマド内の遺物はほとんど破片である。土師器坏は平底の2類で、体部外面にヘラ削り後、僅かにヘラ磨きが行われる。体部・底部外面に「へ」と墨書される。ロクロ土師器坏は箱形の器形の範疇に入るもので、2は底部ヘラ切り無調整である。3は体部外面に「提」と墨書される。須恵器坏は器高4.8cmを測る身の深い製品で、底部はヘラ切り後、一方向のヘラ削りを施している。甕は土師器1類と小形の2類、須恵器3類がある。

**D262**　須恵器甕6・土師器坏1がカマドを中心として出土した。土師器坏は口縁部の表現が目

立たないが、3類で、口唇部近くまでヘラ削りを施している。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反し、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを行う。このほかに高坏があり、須恵器の高坏を模倣したものだが、内面に黒色処理を施している。須恵器坏は箱形に近い器形を呈し、底部はヘラ切り後、一方向のヘラ削りを行う。須恵器甕は3類で、胴部は縦位の平行叩きをナデてかなりの部分を消している。

**D263**　カマド内から甕2個体と甑が出土した。ロクロ土師器坏は体部下端に若干丸みをもつもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを施している。なお、体部外面に「提赤山」と墨書されている。「赤山」という墨書は先のD259で多くみられ、「赤山」に「提」を冠した形で、「赤山」より「提」が若干大きく書かれている。このように考えれば、1群Aグループで見られた「⿰王正」と「提⿰王正」も同様に「⿰王正」に「提」を冠したものと推定できる。土師器甕は大形の2・3類があり、ともに底部を欠損するが、口縁部はほぼ全周する。甑は口縁部を欠損するが、胴部は下端に横位のヘラ削りを施すだけで、ほとんどの部分をナデている。

**P133**　ロクロ土師器坏と皿が図示できた。ロクロ土師器坏は底部を欠損するが、口縁部は僅かに外反している。皿は無高台の製品で、底部は全面回転ヘラ削りを施している。ともに、体部外面に「立」と墨書されている。

**M021**　ロクロ土師器坏を中心に図示した。ロクロ土師器坏はいずれも口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転糸切り後、回転ヘラ削り、体部下端も例外なく回転ヘラ削りを施している。出土した遺物にはあまり大きな時期差はなく、最も新しいものとしても12のロクロ土師器皿である。墨書された製品も多く、「継」・「大」・「器」・「廓」・「廿」・「生万」・「又」がある。13•14は須恵器で、13は底部外面に線刻がある。14は高坏で四方に透かしが入る。

**M034**　瓦塔が多く出土しているが、それ以外に図示できる遺物は非常に少ない。2の体部外面に「寺ヵ坏」と墨書されている。

以上各遺構を概観したが、次に時期の変遷を追ってみたい。1期はあまり具体的ではないが、供膳形態で須恵器が卓越する。D122・D123は遺物の量が少ないが、1期に該当すると考えられる。D258も須恵器坏が卓越し、また、須恵器高台坏等からも8世紀代に含めてもよさそうである。しかし、D259から出土した「人足」の墨書とD258の「丈部人足召代」が同一人物を指すとするならば、D259との間にあまり時期差をもたせるのも疑問である。D259は土師器高台坏1類が極めて多く、特異な器種構成であるが、やはり3期後半に位置づけられる。

3期に属する住居はかなり多く、10軒を数える。ロクロ未使用の土師器坏は量的に少なく、図示できたのは4点である。D132では土師器坏3類を伴っているが、基本的に1～3類がそれぞれ見られる。ロクロ土師器坏は箱型の器形が若干崩れたものが主体的であるが、D261で図示した2・3は体部が直線的に立ち上がっており、2期に含めてよい。3期には先にも触れたように、土師器高台坏1類が出現するが、明確な資料はD259にしかない。なお、高台坏1類は内

面黒色処理された製品もかなりある。土師器甕は1・3類が主体となり、小形の甕はほとんど2類である。なお、僅かに台付き甕も見られる。他の群と比較してこの時期の墨書が多く、2群Aグループの特徴と言える。墨書が多いことは、村落内寺院との関係を無視できず、D124の「佛」はその最たるものである。また、M034では「寺坏」が見られ、D126の5も「寺坏」の可能性がある。この他特徴的な文字はD132の「子猨嶋」、D259の「赤山」、D263の「提赤山」がある。「赤山」と「提赤山」については先述したとおりであるが、D261の「提」を含めて「提」は手偏である。1群Aグループでも指摘したように、「提」は本来手偏の「提」が書かれていたようで、本遺跡で墨書土器の量が急激に増加する9世紀第2四半世紀頃から土偏の「堤」へ変化したようだ。なお、H069周辺のD124・D126・D128から瓦塔の破片が出土している。

4a期は3期と比較して極端に遺構数が減少する。具体的にはD119・D131・D210の3軒である。2群Aグループではロクロ土師器皿を伴った住居はない。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反し、体部の立ち上がりの角度は55°前後となる。底部は回転糸切り後に回転ヘラ削りを施し、体部下端もほぼ例外なく回転ヘラ削りを行う。D119では法量がやや大きい6・7を内面黒色処理している。須恵器坏は少なく、本来の共伴関係は不明である。D119では箱型に近い2a類がある。土師器甕は1・3類が主体となるが、D119では図示できる個体がない。墨書は他の群と比較して3期に多かったことを考えれば、4期の内容は貧弱である。D119で6点の墨書が確認できたが、3期に見られたような意味を捉え易いものはない。11はあるいは「寺」かと思うが、13の瓦塔の破片を含めて混入したものであろう。

5期の状況はあまり具体的ではない。D047の遺物の中に5期に含めてもよい個体があるが、3・4期の遺物もかなり含まれている。D143は2軒が重複しており、最終的には6期に至っている。6期はD142・D143の2軒が確実で、D120も5ないし6期に含まれる。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反し、体部の立ち上がりの角度は50°前後となる。底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りの製品が多く、体部下端も例外なく回転ヘラ削りを施している。ロクロ土師器皿は少ないが、2類を伴っている。土師器甕は1・3類が姿を消し、D142・D143とも2類が主体となる。墨書は「継」・「生」がある。なお、D142の24は鉄鉢を模倣した土師器鉢である。また、D142では灰釉陶器椀・段皿が伴っている。この他D142から「和同開珎」・「景徳元宝」・「大観通宝」が出土している。

金属製品はかなり少なく、本グループの特徴の一つかもしれない。M021の1は銅製である。

以上遺物について簡単に紹介したが、墨書土器と瓦塔について簡単に触れておきたい。

瓦塔は前述したようにH069周辺の竪穴住居・溝の埋土から出土し、軸部は2個体分が検出された。両者は焼成に大きな違いがあり、屋蓋部も焼成状況から2者に分類することが可能である。また、瓦の表現にも違いがあり、このことからも分類が可能である。

**個体1**（PL.165～PL.168）　土師質の製品で、ほとんどの部材はD124・D126・D128から

出土した。軸部は初重のほかにもう2層分が検出されているが、屋蓋部はほとんど遺存していない。僅かに遺存する屋蓋部からみて塔と考えられる。初重は方3間で、開口部の両脇と壁体隅に隆帯による柱の表現がある。柱の断面は開口部の両脇が方形、隅のものは円形となる。基台は2段に構成され、開口部は閾状に高くなっている。開口部の上は冠木状に造り、基台部と共に扉の軸受けの孔がある。開口部上から斗栱までのあいだは欠損しており、台輪の表現の有無や柱の状態は分からないが、斗栱の下部に柱が貼り付けられていた痕跡がないことから、台輪の表現はなく、柱も開口部の上で無くなっていたものと思われる。また、柱の表現が終了すると想定できる部分と斗栱の下に横位の赤彩が施され、通肘木等の部分は赤彩によって表現されていたと考えられる。持ち送りは壁体上端に付き、柱の上と隅に位置する。隅のものは45°の角度で付けられる。なお、基台の段・柱・通肘木に赤彩を施し、基台の下段端部・壁を白色に塗っている。初重以外の部財はD128から出土したものがあり、持ち送りの表現から方2間であることがわかる。持ち送りは初重同様板状で、隅のものが45°の角度で付けられる。壁体はやはり白色に塗られていたようで、また、赤彩は持ち送りの先端および柱・通肘木・斗栱を表現している。初重とともに内面に粘土紐接合痕を僅かに残している。

屋蓋部は20点の破片があるだけで、全体の形状を窺うことはできない。瓦は男瓦だけを表現し、瓦の幅は約9㎜と広く、行基葺を思わせる段が軒先から約3㎝の所にある。遺存状態はよくないが、軒先に赤彩を施していたようで、25・42に僅かに観察できる。また、隅棟は断面円形の隆帯で表現され、44に赤彩が観察できる。垂木は方形の削り出しで表現され、ヘラによって輪郭を描いた後にヘラ削りを施すものが多く、垂木の表現に差異は認められない。屋根と軸部が乗る部分とは断面方形の隆帯で区画され、隆帯の幅・高さから3枚の屋蓋部の存在が窺える。

1　隆帯の幅が2㎝以上の部材で、26がこれに当たる。

2　隆帯の幅が1.3㎝、高さ1～1.5㎝の部材で、31・32がこれに当たる。

3　隆帯の幅は約1㎝、高さ0.8㎝の部材で、44がこれに当たる。

以上3種の部材が確認できるが、これらの部材と瓦との組み合わせは、残された破片が少ないため不明である。

このほかに相輪の破片が若干ある。18は受花で、断面三角の突帯を巡らせ、その部分に赤彩を施している。その他の部分は白色に塗っていた可能性が高い。15は九輪の一部・16は水煙・15は宝珠と考えられ、水煙は端部を赤色、他の部分を白色に、宝珠は白色に塗っている。

**個体2**（ＰＬ.162～ＰＬ.164）　土師質の製品で、ほとんどの破片がM034から出土している。軸部は初重のみがあり、方3間である。残された部材から考えて、開口部は四面にあったことが確実である。柱は開口部の両脇に断面方形の突帯で表現されるが、隅のものは省略されている。また、基壇上に礎石の表現があり、壁体で柱の表現がない隅の部分にも礎石の表現がある。

基壇は個体1同様に2段に表現され、扉の軸受けの孔が開口部の両脇にある。個体1では開口部の上を冠木状に造っていたが、個体2はこの部分が軸部を全周し、壁から約3cm突出している。千葉市谷津遺跡出土の製品に酷似している。手先の三斗は省略され、非常に抽象化された壁付きの三斗が表現されている。斗栱の下部には断面方形の突帯を巡らせ、台輪を表現していることが分かる。また、壁付きの三斗の上にも横架材状の突帯があり、通肘木にあたると考えられる。持ち送りの部分は完全に通肘木の上に位置し、尾垂木の突出はなく、隅のものは45°の角度で付けられる。内面は横方向のナデを施すが、かなりの部分で粘土紐接合痕を残している。なお、彩色は行っていない。

屋蓋部は男瓦だけを表現し、瓦の幅は約6mmである。行基葺を思わせる段が軒先から1.5～2cmの所にあり、これより小さい段が1～1.5cmごとに付けられる。垂木はかなりしっかりしたもので、輪郭をヘラで描いた後にヘラで削りだしている。比較的よく復元できた1を見ると、一辺に7～8本の垂木が表現されている。四隅は若干反りがつき、端部に孔を貫通させている。この孔は1とは別の層である8にも見られ、各層にあった可能性がある。ここに下げられたと考えられる風鐸はD128から出土しており、個体1に孔が存在しないことから、5は個体2に伴うものと判断した。48は確認調査で出土したもので、焼成の具合いから個体2の露盤と考えられる。

このほかの部材は水煙がある。水煙はかなり遺存の良いもので、各面に4箇所の孔と端部に6～7箇所のスリットを施し、本来の水煙を表現している。

なお、屋蓋部に入母屋造の部材があり、瓦の表現・焼成からは個体2と識別できない。個体2は堂とのセットであったことがわかる。11が入母屋造の屋根で、やはり行基葺を思わせる段が瓦にある。この段とは別に0.5～0.8mmの段が妻・棟両方にある。また、妻の部分は三角形に抜けている。

以上のように、本グループで出土した瓦塔は塔2個体と、屋蓋部の一部しかないが、金堂1個体がある。焼成・瓦の表現から個体2と金堂がセットであった可能性が高い。個体1と個体2は主体的に廃棄された場所がかなり明確に異なっており、この2個体に時期的な新旧関係があったものと思われる。前述したようにD126・D128がM034に先行する可能性があり、瓦塔についても個体1→個体2の順に廃棄されたと考えられる。白幡前遺跡と寺谷津を挟んだ井戸向遺跡では竪穴住居D007から菩薩形坐像が出土している。井戸向遺跡D007は白幡前遺跡の3～4期に相当し、ここで述べたH069と同時期の遺構である。

墨書土器は釈文が不明なものもあるが、文字の種類は20種類前後はあるものと思われる。本グループでは白幡前遺跡で墨書土器が盛行する4b期以降の竪穴住居が少なく、墨書の総点数は52点しかない。しかし、これらの文字は3～4a期に属するものが多く、白幡前遺跡の他のグループに見られない文字を含んでいる。まず、第一に取り上げなければならないのがD258か

ら出土した人面と人名を記載した甕である。人名は器面との関係で非常に読みにくい部分もあるが、すでに紹介したように「丈部人足召代」となる。最後の文字の「代」はヘラ削りと重なり「人」のように見えるが、「代」と読んで問題がないと思える。芝山町庄作遺跡25号住居跡から人面の墨書とともに「丈部真次召代国神奉」と墨書された坏が出土している。庄作例でも「召」は「招」ではなく注目できる。下総を中心とした人面墨書土器は16点ほどが知られ、うち5点が甕を用いている。さらにこのうちの3点は大形の甕を用い、小形の甕を用いたのは本例と茨城県石岡市鹿の子C遺跡168号住居跡出土の2点だけである。甕を用いた例は白幡前遺跡を除くと他の4点は茨城県石岡市に集中している。笹生衛氏が指摘しているように、甕を用いた人面墨書はより中央的色彩の強いものであり、石岡市の出土例は常陸国府との関係で捉えられようが、本例はその中において特異な例である。また、大竹憲治氏は下総から常陸にかけての人面墨書を丈部との関係で捉えられており、本例も「丈部」姓の人名が墨書されていることは注目できる。

このほかにD124から出土した「佛」、M034から出土した「寺坏」はH069を寺院として捉えるのに相応しい文字である。本グループ独自の文字はD259・D263から出土した「赤山」・「提赤山」がある。また、D261では「提」1文字の例があり、かなり早い段階から「提」が使われていたことが分かる。5期以降は竪穴住居の数が少なく、墨書の点数も少ないが、白幡前遺跡において全体的に見られる「継」・「生」が出土している。

**下総を中心とした人面墨書**

| 遺跡名 | 所在地 | 器形 | 併記された文字 |
|---|---|---|---|
| 権現後 | 八千代市萱田 | 坏 | 村神郷丈部国依甘魚 |
| 北海道 | 八千代市萱田 | 坏 | 承和五年二月□・□□□代 |
| 白幡前 | 八千代市萱田 | 甕 | 丈部人足召代 |
| 江原台 | 佐倉市江原台 | 坏 | |
| 境 | 君津郡袖ケ浦町 | 坏 | |
| 北の谷 | 石岡市北の谷 | 甕 | 富□□ |
| 前河 | 石岡市宮部前河 | 甕 | |
| 鹿の子C | 石岡市鹿の子 | 甕 | |
| 鹿の子C | 石岡市鹿の子 | 甕 | |
| 鹿の子C | 石岡市鹿の子 | ? | |
| 殿山 | 東茨城郡常澄村 | 皿 | |
| 廚台3 | 鹿島郡鹿島町 | 皿 | |
| 庄作 | 山武郡芝山町 | 坏 | 丈部真次召代国神奉 |

| 遺跡名 | 所　在　地 | 器形 | 併記された文字 |
|---|---|---|---|
| 庄　　作 | 山武郡芝山町 | 甕 | 罪ム国玉神奉 |
| 庄　　作 | 山武郡芝山町 | 坏 | |
| 庄　　作 | 山武郡芝山町 | 坏 | 手・国玉神奉 |

## 第177表　D047出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.2 | 3.3 | 30 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 13 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 16.8 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 灰褐色 | 右 | 16、17 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 8.7 | 3.7 | 30 | 精　緻 | 赤褐色 | 右 | 40 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | 5.8 | — | 底部 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 17 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | 6.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 12 | |
| 6 | 須恵器坏 | 13.3 | 7.6 | 4.5 | 完形 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 21 | |
| 7 | 土師器甕 | 18.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 25、35 | |

## 第178表　D118出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器甕 | 24.0 | — | — | 口縁20 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 11、21、22 | |

## 第179表　D119出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.3 | 4.4 | 50 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 192 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.2 | 4.0 | 50 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 25、29、120、180、330 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.4 | 4.3 | 20 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 298 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 8.3 | 4.5 | 完形 | 長石粒 | 赤褐色 | | 367 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.0 | 4.1 | 50 | 雲母粒 | 黄橙色 | 右 | 368 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 8.6 | 5.0 | 50 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 98、135、193、199 | 墨書、黒色処理 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 15.5 | 7.3 | 5.1 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 21、66、171 | 墨書「丁」、黒色処理 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 5.3 | 3.6 | 70 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 101 | 墨書 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.7 | 3.9 | 40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 141、244、332、341、344、349 | 墨書 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 43 | 墨書 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 131 | 墨書「寺」ヵ |
| 12 | 須恵器坏 | 11.6 | 6.5 | 4.2 | 70 | 長石粒 | 青灰色 | | 249、340、362 | |
| 13 | 瓦塔 | | | | 破片 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 144 | 屋蓋部 |
| 14 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 346、350、361 | |
| 15 | 土師器甕 | — | — | — | 胴部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 215、353、360、363 | |
| 16 | 土師器甕 | 22.6 | 8.5 | 32.0 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 354 | |

## 第180表　D120出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.5 | 3.2 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 20、21、23、25、27 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 5.2 | 3.2 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 11、12、43 | |
| 3 | 土師器甕 | 12.0 | — | — | 口縁70 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 39、42、64 | |
| 4 | 瓦塔 | | | | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 24 | 軸部 |

## 第181表　D122出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.0 | 7.0 | 3.5 | 50 | 精　緻 | 青灰色 | | 5、30、31、37、38、39、40、41、53 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.2 | 8.5 | 3.9 | 80 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 65、66 | |
| 3 | 須恵器坏 | 14.1 | 9.0 | 3.9 | 50 | 石英粒 | 灰　色 | | 8、64 | |

## 第182表　D123出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.1 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 灰白色 | 右 | 4 | |
| 2 | 須恵器蓋 | 15.1 | — | — | 20 | 砂　粒 | 灰白色 | 右 | 21 | |

## 第183表　D124出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 9.8 | 6.6 | 3.4 | 80 | 精　緻 | 明黄褐色 | 右 | 45 | 墨書 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.6 | 3.9 | 完形 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 71 | 墨書「長」 |
| 3 | 土師器鉢 | 12.7 | 5.1 | 7.5 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 68 | 墨書「佛」 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 黄橙色 | | 1 | 墨書、油煙付着 |
| 5 | 須恵器蓋 | 9.4 | — | 2.7 | 完形 | 長石・雲母粒 | 橙　色 | 右 | 69 | 墨書「佛」 |
| 6 | 須恵器蓋 | 10.8 | — | 2.1 | 50 | 長石粒 | 灰褐色 | 右 | 70 | |
| 7 | 土師器高坏ヵ | — | 16.2 | — | 脚部30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 49 | |
| 8 | 須恵器甕 | 20.9 | — | — | 口縁40 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 50、52 | |
| 9 | 瓦塔 | | | | 破片 | | | | 41、42 | 赤彩、屋蓋部 |
| 10 | 瓦塔 | | | | 破片 | | | | 14 | 屋蓋部 |
| 11 | 瓦塔 | | | | 破片 | | | | 17 | 屋蓋部 |

## 第184表　D126出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 8.1 | 4.1 | 70 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 53、164 | 墨書「安」 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 7.8 | 5.1 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 41、123 | 墨書 |
| 3 | 須恵器坏 | 14.0 | 8.6 | 4.8 | 80 | 雲母・石英粒 | 灰褐色 | 右 | 174 | ヘラ描き |
| 4 | 土師器高台坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 19 | 墨書 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 9 | 墨書「□坏」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 長石粒 | 暗赤褐色 | | 36 | 墨書「万」ヵ |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 68 | 墨書 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 24 | 墨書 |
| 9 | 灰釉陶器浄瓶 | 1.3 | — | — | 頸部 | 精　緻 | 灰白色 | | 157 | |
| 10 | 須恵器蓋 | — | — | — | 20 | 砂　粒 | 青灰色 | | 150 | 転用硯、朱墨痕 |
| 11 | 須恵器盤 | 18.4 | 11.4 | 3.9 | 70 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 158 | |
| 12 | 須恵器瓶子 | — | — | — | 20 | 精　緻 | 灰　色 | | 29、42 | |
| 13 | 須恵器甕 | — | — | — | 30 | 雲母・石英粒 | 灰白色 | | 1、7、92、99、100、110、143、163 | |
| 14 | 瓦塔 | | | | 破片 | | | | 99 | 屋蓋部 |
| 15 | 瓦塔 | | | | 破片 | | | | 74 | 屋蓋部 |
| 16 | 瓦塔 | | | | 破片 | | | | 87 | 屋蓋部 |
| 17 | 瓦塔 | | | | 破片 | | | | 76 | 相輪部 |
| 18 | 瓦塔 | | | | 破片 | | | | 26 | 屋蓋部 |
| 19 | 瓦塔 | | | | 破片 | | | | 59 | 屋蓋部 |
| 20 | 瓦塔 | | | | 破片 | | | | 164 | 屋蓋部 |

## 第185表　D128出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | — | 8.5 | — | 底部 | 長石粒 | 灰　色 | 右 | 235、236、245 | 墨痕 |
| 2 | 土師器盤 | — | — | — | 破片 | 長石粒 | 明赤褐色 | 右 | 92、129 | 転用硯 |
| 3 | 土師器高台坏 | — | 8.3 | — | 底部 | 長石粒 | 橙　色 | 左 | 244 | 転用硯、黒色処理 |
| 4 | 須恵器坏 | 15.4 | — | — | 40 | 長石・石英粒 | 青 灰 色 | | 69、99、104、108、126、159、199 | |
| 5 | 土師器甕 | — | 6.9 | — | 底部 | 長石粒 | 暗赤褐色 | 左 | 172 | ロクロ調整 |
| 6 | 土師器甕 | 18.2 | — | — | 口縁10 | 雲母粒 | 暗赤褐色 | | 152、224 | |
| 7 | 土師器甕 | 14.9 | — | — | 80 | 砂　粒 | 褐　色 | | 109、111、112、114、115、116、117 | |
| 8 | 土師器甕 | 19.5 | — | — | 50 | 石英粒 | 褐　色 | | 24、25、148、255、263、277 | |
| 9 | 須恵器平瓶 | — | — | — | 20 | 精　緻 | 灰　色 | | 130、181、202、273 | |
| 10 | 瓦塔 | | | | | | | | 60、63、65、66、67、78、79、185 | 初重軸部 |
| 11 | 瓦塔 | | | | | | | | 48、49、61、64、188、274 | 軸部 |
| 12 | 瓦塔 | | | | | | | | 239 | 軸部 |
| 13 | 瓦塔 | | | | | | | | 50、233 | 軸部 |
| 14 | 瓦塔 | | | | | | | | 132、229 | 軸部 |
| 15 | 瓦塔 | | | | | | | | 39 | 軸部 |
| 16 | 瓦塔 | | | | | | | | 70 | 軸部 |
| 17 | 瓦塔 | | | | | | | | 140 | 軸部 |
| 18 | 瓦塔 | | | | | | | | 13、34、52、59 | 屋蓋部 |
| 19 | 瓦塔 | | | | | | | | 80 | 屋蓋部 |
| 20 | 瓦塔 | | | | | | | | 68 | 屋蓋部 |
| 21 | 瓦塔 | | | | | | | | 83 | 屋蓋部 |

## 第186表　D131出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.1 | — | — | 20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 38 | |
| 2 | 須恵器坏 | 12.5 | 8.3 | 3.8 | 20 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 78 | |
| 3 | 土師器甕 | — | — | — | 80 | 石英粒 | 黒 褐 色 | | 30、31、33、51、55、56、57、58、61 | |
| 4 | 砥石 | | | | | | | | 27 | 砂岩 |

## 第187表　D132出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 12.8 | 6.3 | 5.0 | 30 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 146 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 8.1 | 3.5 | 40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 12、14、96、135 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.9 | 4.2 | 60 | 長石粒 | 暗 褐 色 | 右 | 15 | 墨書「子猨嶋」 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 8.6 | 4.0 | 完形 | 長石粒 | 橙　色 | 右 | 77 | 墨書「上」 |
| 5 | 須恵器坏 | 13.0 | 8.9 | 4.1 | 50 | 長石粒 | 黒　色 | | 3、81、82、84 | 朱墨書「上」 |
| 6 | 土師器甕 | 14.5 | — | — | 口縁30 | 長石粒 | 黒 褐 色 | | 43 | |
| 7 | 須恵器甕 | 17.1 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 灰　色 | | 28、29 | |

## 第188表　D133出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 14.4 | — | 4.3 | 20 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 37、114、528、826 | D134に同一個体あり |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 8.3 | 4.1 | 50 | 長石粒 | 明黄褐色 | 右 | 143、691 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.0 | 3.3 | 完形 | 長石粒 | 明赤褐色 | | 39、49、113、123、194、380、390 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | 10.1 | — | 50 | 砂　粒 | 赤　色 | | 443、800 | 赤彩、ヘラ磨き |
| 5 | 須恵器坏 | 14.4 | 8.2 | 3.8 | 40 | 石英粒 | 灰　色 | 右 | 59、60、279、293、424、458、588 | |
| 6 | 須恵器坏 | 15.0 | 9.2 | 4.0 | 50 | 石英粒 | 灰 褐 色 | | 881 | |
| 7 | 須恵器坏 | 13.5 | 8.0 | 3.3 | 完形 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | 右 | 843 | 線刻 |
| 8 | 須恵器坏 | 14.8 | 9.3 | 4.2 | 70 | 雲母粒 | 黒 褐 色 | | 875 | |
| 9 | 須恵器坏 | 12.5 | 7.9 | 3.6 | 40 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 139、697 | 内面朱墨痕 |
| 10 | 土師器甕 | 21.5 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 橙　色 | | 24、172、205、381、507、524、550 | |
| 11 | 須恵器甕 | 26.8 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 380、831 | |
| 12 | 土師器甕 | — | — | — | 胴部40 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 107、201、249、310、399、531、533 | |
| 13 | 土師器甕 | 23.0 | 4.6 | 29.0 | 50 | 砂　粒 | 橙　色 | | 619、847、877、888、891 | |

## 第189表　D134出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.7 | 8.1 | 3.9 | 30 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 20、39、84、118 | |
| 2 | 土師器甕 | 12.9 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 橙　色 | | 75、99、127 | |
| 3 | 土師器甕 | — | 8.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 133 | |
| 4 | 土師器甕 | 14.7 | 6.2 | 13.4 | 40 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 66、77 | |

## 第190表　D136出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 15.9 | 10.1 | 6.6 | 60 | 長石粒 | 明 褐 色 | | 106、109 | |
| 2 | 土師器甕 | 20.1 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 93、95、96 | |
| 3 | 土師器甕 | 12.3 | 6.3 | 13.0 | 50 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 99 | |
| 4 | 須恵器甕 | — | — | — | 破片 | | | | 50 | 転用硯 |

## 第191表　D138出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.1 | 8.8 | 4.1 | 90 | 長石粒 | 黒 褐 色 | 右 | 2、4 | 朱墨書「井□」 |

## 第192表　D139出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 70 | 墨書 |
| 2 | 須恵器坏 | 12.8 | 7.8 | 4.1 | 70 | 雲母粒 | 灰　色 | 左 | 60 | |
| 3 | 須恵器平瓶 | 7.2 | — | — | 口縁30 | 長石粒 | 灰 白 色 | | 25、66 | |
| 4 | 土師器甕 | 19.3 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 44、56、63、64、76、90 | |
| 5 | 土師器甕 | 10.4 | 7.2 | 9.0 | 70 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | 右 | 25、26、27 | ロクロ調整 |
| 6 | 土師器甕 | 12.3 | 5.8 | 13.3 | 完形 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 81 | |

## 第193表　D140出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 14.7 | 9.9 | 3.5 | 70 | 石英粒 | 灰　色 | 右 | 46、86、103、120、144、268 | |
| 2 | 土師器甕 | 11.8 | — | — | 20 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 66 | |
| 3 | 土師器甕 | 18.6 | — | — | 口縁30 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 174、204、206、216、217、244 | |
| 4 | 土師器甕 | — | 7.7 | — | 底部40 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 1、5、7、220、344 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 土師器甕 | — | 7.4 | — | 底部50 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 87、101、123、127、134、186 | |

## 第194表　D141出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.0 | 7.0 | 3.9 | 20 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 2、3、4 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.0 | 6.5 | 4.4 | 完形 | 雲母粒 | 灰白色 | 右 | 18 | |
| 3 | 須恵器坏 | 12.2 | 6.0 | 4.2 | 70 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 12、13、20、21 | |
| 4 | 須恵器坏 | 12.8 | 8.4 | 4.0 | 70 | 長石粒 | 灰　色 | 左 | 19 | |
| 5 | 土師器甕 | — | 8.0 | — | 底部50 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 10、11、15 | |

## 第195表　D142出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 5.7 | 4.0 | 40 | 雲母粒 | 黒褐色 | | 72、211、215、264 | 内面油煙付着 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.3 | 3.6 | 60 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 45、53 | 内面油煙付着 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 7.6 | 4.2 | 40 | 砂　粒 | 黄　色 | 右 | 144、146、147、148、280、281 | |
| 4 | 土師器坏 | 7.4 | — | 2.8 | 完形 | 雲母粒 | 赤褐色 | | 462 | 内面油煙付着 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 6.4 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 426 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 6.6 | 4.1 | 完形 | 長石粒 | 暗褐色 | 右 | 438 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.0 | 4.0 | 40 | 長石粒 | 暗褐色 | 右 | 147、151、281 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 6.0 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 311 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器皿 | — | 7.2 | — | 底部 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 202 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | — | 6.8 | — | 底部 | 長石粒 | 明褐色 | 右 | 487 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 11 | ロクロ土師器皿 | — | 7.1 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 509 | 墨書「継」、ヘラ磨き |
| 12 | ロクロ土師器皿 | — | 6.8 | — | 底部 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 440 | 内面ヘラ磨き |
| 13 | 灰釉陶器椀 | 13.1 | — | — | 10 | 精　緻 | 灰白色 | | 450 | |
| 14 | 須恵器坏 | 15.7 | — | — | 20 | 砂　粒 | 灰白色 | | 59、155 | 内面ヘラ磨き |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 橙　色 | | 449 | 墨書「継」、ヘラ磨き |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 247 | 墨書 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 69 | 墨書「生」 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明褐色 | | 344 | 内面墨書 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 194 | 墨書「生」ヵ |
| 20 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 278 | 墨書「生」 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 501 | 墨書「生」 |
| 22 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 7.4 | 2.5 | 50 | 雲母粒 | 黄　色 | 右 | 304、447、504 | 墨書 |
| 23 | 灰釉陶器段皿 | 15.4 | 6.5 | 1.8 | 20 | 精　緻 | 灰白色 | | 326、379、477 | |
| 24 | 土師器鉢 | 17.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 171、181、182 | |
| 25 | 土師器甕 | 25.0 | — | — | 口縁10 | 砂　粒 | 橙　色 | | 21 | |
| 26 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 510 | 転用硯 |
| 27 | 和同開珎 | | | | | | | | 4 | |
| 28 | 景徳元宝 | | | | | | | | 97 | |
| 29 | 大観通宝 | | | | | | | | 110 | |

## 第196表　D143出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 7.4 | 4.5 | 50 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 1、4、141,188、211 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 8.4 | 3.8 | 30 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 366 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 5.1 | 3.4 | 50 | 長石粒 | 明赤褐色 | 右 | 161、162、189 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 4.7 | 4.0 | 20 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 359 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.8 | 3.8 | 60 | 砂　粒 | 赤　色 | 右 | 365 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.4 | 3.8 | 30 | 長石粒 | 褐　色 | 右 | 264 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 7.2 | 3.9 | 80 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 15、37、293 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | — | — | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 左 | 134 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | — | — | 30 | 長石粒 | 暗褐色 | 右 | 145 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | — | — | 70 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 365 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | — | — | 20 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 231、253 | 内面油煙付着 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | 5.7 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 48、56、84 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.7 | 4.5 | 70 | 長石粒 | 褐　色 | 右 | 66、82、179、216、217 | 内面油煙付着 |
| 14 | 土師器坏 | 18.0 | — | — | 50 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 1、4、141、188、211 | |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 213 | 墨書「継」ヵ |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 364 | 墨書「継」 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | — | 8.4 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 215 | 墨書「又」 |
| 18 | ロクロ土師器皿 | 13.5 | 5.6 | 3.2 | 80 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 361 | |
| 19 | 土師器甕 | 18.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 363 | |
| 20 | 土師器甕 | 13.0 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 42、88 | |
| 21 | 土師器甕 | — | 7.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 360、365 | |
| 22 | 須恵器甕 | 19.4 | — | — | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 17、21 | |

## 第197表　D190出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 11.9 | — | — | 20 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 2、4 | |

## 第198表　D210出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 7.2 | 3.6 | 完形 | 長石粒 | 赤褐色 | 右 | 58 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.3 | — | — | 20 | 長石粒 | 青灰色 | 右 | 13、17、20 | ヘラ描き |
| 3 | 土師器甕 | — | 9.1 | — | 底部80 | 石英粒 | 暗褐色 | | 38、40 | |

## 第199表　D212出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.5 | 7.2 | 4.0 | 80 | 雲母・石英粒 | 黒　色 | | 4、9、10 | |
| 2 | 土師器甕 | 15.4 | — | — | 30 | 石英粒 | 褐　色 | | 14 | |

## 第200表　D258出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.8 | 7.0 | 4.0 | 70 | 石英粒 | 青灰色 | | 21、24 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.5 | 4.1 | 90 | 石英粒 | 青灰色 | | 10、17 | 墨書「益」 |
| 3 | 須恵器高台坏 | 14.1 | 9.3 | 6.6 | 90 | 石英粒 | 青灰色 | 右 | 11、14、19、20、26 | |
| 4 | 土師器甕 | 11.1 | 6.8 | 9.8 | 完形 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 18 | 人面墨書、ロクロ調整 |
| 5 | 須恵器甕 | — | 16.1 | — | 底部60 | 雲母粒 | 灰　色 | | 6 | |

## 第201表　D259出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 7.3 | 4.8 | 完形 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 6 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.0 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 9 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.2 | 3.8 | 完形 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 11 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | — | — | 90 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1 | 黒色処理 |
| 5 | 土師器高台坏 | 12.1 | 8.0 | 5.2 | 90 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 7 | |
| 6 | 土師器高台坏 | 12.1 | 7.8 | 5.4 | 完形 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 5 | 墨書「赤山」 |
| 7 | 土師器高台坏 | 11.3 | 7.4 | 4.7 | 完形 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 2 | 墨書「赤山」、黒色処理 |
| 8 | 土師器高台坏 | 11.8 | 7.8 | 4.4 | 90 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 8 | 墨書「人足」、黒色処理 |
| 9 | 土師器高台坏 | 15.1 | 9.2 | 7.9 | 完形 | 精　緻 | 暗赤褐色 | | 3 | 墨書「益」、黒色処理 |
| 10 | 土師器高台坏 | 14.1 | 8.5 | 6.2 | 完形 | 精　緻 | 暗 褐 色 | 右 | 4 | 黒色処理 |
| 11 | 土師器甕 | — | — | — | 胴部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 9 | |
| 12 | 須恵器瓶子 | — | 10.9 | — | 底部 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 12、14 | |

## 第202表　D260出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 19.2 | — | — | 40 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 20、90、92、103、114 | |
| 2 | 紡錘具 | | | | | | | | 5 | 滑石 |

## 第203表　D261出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 11.6 | 7.5 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 65、66 | 墨書、ヘラ磨き |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 8.6 | 4.1 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 7、79、98、170 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 10.9 | 6.2 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 29、53、157 | 墨書「提」 |
| 4 | 須恵器坏 | 10.7 | 7.3 | 4.8 | 完形 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 132、143、176 | |
| 5 | 土師器甕 | 15.2 | 6.8 | 14.2 | 80 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 29、35、37、60、80、86、94、99、104 | |
| 6 | 須恵器甕 | 15.8 | — | — | 底部欠 | 雲母粒 | 黒 褐 色 | | 42、44、46、68、69、71、73、76、81 | |
| 7 | 須恵器甕 | — | 14.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 77、78、112、113、114、115、116 | |
| 8 | 土師器甕 | 18.7 | 9.8 | 31.8 | 60 | 石英粒 | 暗 褐 色 | | 2、9、18、32、36、62、76、90、109 | |

## 第204表　D262出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 13.0 | 7.1 | 4.2 | 40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 300、301、302、305 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 7.3 | 3.8 | 80 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 234、235 | |
| 3 | 須恵器坏 | 12.1 | 8.0 | 4.0 | 90 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 270、275 | |
| 4 | 土師器高坏 | 16.4 | — | — | 坏部 | 長石粒 | 明 褐 色 | 右 | 42、93、139 | 黒色処理 |
| 5 | 土師器甕 | — | 6.8 | — | 底部 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 左 | 60、121、154、163、207 | ロクロ調整 |
| 6 | 須恵器甕 | 18.4 | 13.7 | 26.6 | 60 | 長石粒 | 褐　色 | | 273、274、276、277、278、279、280 | |

## 第205表　D263出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.6 | 4.0 | 完形 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 141 | 墨書「提赤山」 |
| 2 | 土師器甕 | 21.4 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 23、47、120、134、135、136、152 | |
| 3 | 土師器甕 | 18.9 | — | — | 口縁90 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 150、151、155、157、158、168、169 | |
| 4 | 土師器甑 | — | 13.2 | — | 底部 | 石英粒 | 褐　色 | | 143、145、161、172、174、176、182 | 底部1孔 |

## 第206表　H066出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.9 | 3.1 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | | 1 | |

## 第207表　P133出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | — | — | 20 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 1 | 墨書「立」 |
| 2 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 8.7 | 3.0 | 80 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 1 | 墨書「立」ヵ |

## 第208表　P135出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 6.1 | 3.2 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 122、165 | |

## 第209表　M021出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.2 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 335 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 5.9 | 4.4 | 30 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 237 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.0 | 3.9 | 90 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 327、330 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 7.1 | 3.9 | 80 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 303、304 | 墨書「廓」 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 4.3 | 6.5 | 60 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 34、35、57 | 墨書「廿」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 16.7 | 8.3 | 4.6 | 60 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 336 | 墨書「生万」、ヘラ磨き |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.5 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 334 | 墨書「太」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.2 | 4.2 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 316 | 墨書「又」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 14.9 | 8.1 | 4.3 | 70 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 194、196、197、202、203、210、217 | 墨書「継」、ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 7.3 | 3.9 | 70 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 198、200、201、203、206、207、211 | 墨書「継」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | 6.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 331 | 墨書「器」 |
| 12 | ロクロ土師器皿 | 14.5 | 7.0 | 2.9 | 60 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 209、210 | 墨書「継」、ヘラ磨き |
| 13 | 須恵器坏 | — | 8.4 | — | 底部 | 雲母粒 | 灰白色 | | 173 | 線刻 |
| 14 | 須恵器高坏 | — | 14.2 | — | 脚部 | 雲母・石英粒 | 灰白色 | | 327 | 四方透し |
| 15 | 土玉 | | | | | | | | 349 | |
| 16 | 土玉 | | | | | | | | 348 | |
| 17 | 天聖通宝 | | | | | | | | 175 | |

## 第210表　M034出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 7.2 | — | 2.9 | 完形 | 砂　粒 | 明褐色 | | 107、109 | 内面油煙付着 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 113、114 | 墨書「寺ヵ坏」 |

## 第211表　2群A出土文字資料一覧

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 生 | 5 | D142 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 8 | |
| 2 | 生ヵ | 5 | D142 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 17 | |
| 3 | 生ヵ | 5 | D142 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 21 | |
| 4 | 立 | 6 | P133 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 1 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 立ヵ | 6 | P133 | ロクロ土師器皿 | 体部外面上 | 2 | |
| 6 | 提 | 3 | D261 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 3 | |
| 7 | 提赤山 | 3 | D263 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 1 | |
| 8 | 赤山 | 3 | D259 | 土師器高台坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 9 | 赤山 | 3 | D259 | 土師器高台坏 | 体部外面右 | 7 | 黒色処理 |
| 10 | 継 | | M021 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 12 | 10・11の2箇所 |
| 11 | 継 | | M021 | ロクロ土師器皿 | 体部外面上 | 12 | |
| 12 | 継 | | M021 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 10 | |
| 13 | 継 | | M021 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 9 | |
| 14 | 継 | 5 | D142 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 11 | |
| 15 | 丈部人足召代 | 2～3 | D258 | 土師器甕 | 胴部外面上 | 4 | |
| 16 | 人面 | 2～3 | D258 | 土師器甕 | 胴部外面上 | 4 | |
| 17 | 益 | 3 | D259 | 土師器高台坏 | 体部外面下 | 9 | 17・18の2箇所 |
| 18 | 益 | 3 | D259 | 土師器高台坏 | 体部外面上 | 9 | 黒色処理 |
| 19 | 益 | 2～3 | D258 | 須恵器坏 | 体部外面左 | 2 | |
| 20 | 佛 | 3 | D124 | 土師器鉢 | 体部外面左 | 3 | |
| 21 | 佛 | 3 | D124 | 須恵器蓋 | 天井部外面左 | 5 | |
| 22 | 寺坏 | | M034 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 2 | |
| 23 | 寺ヵ坏 | 3 | D126 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 5 | |
| 24 | 寺ヵ | 4a | D119 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 11 | |
| 25 | 器 | | M021 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 11 | |
| 26 | 子猨嶋 | 3 | D132 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 3 | |
| 27 | 安 | 3 | D126 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 1 | |
| 28 | 人足 | 3 | D259 | 土師器高台坏 | 底部外面 | 8 | 黒色処理 |
| 29 | 生万 | | M021 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 30 | 廓 | | M021 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 4 | |
| 31 | 太 | | M021 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 7 | |
| 32 | 又 | | M021 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 8 | 32・33の2箇所 |
| 33 | 又 | | M021 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 8 | |
| 34 | 又 | 6 | D143 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 17 | |
| 35 | 長 | 3 | D124 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 2 | |
| 36 | 上 | 3 | D132 | 須恵器坏 | 体部外面右 | 5 | 朱墨 |
| 37 | 上 | 3 | D132 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 4 | |
| 38 | 井□ | | D138 | 須恵器坏 | 体部外面左 | 1 | 朱墨 |
| 39 | 廿 | | M021 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 5 | |
| 40 | 丁 | 4 | D119 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 7 | 黒色処理 |
| 41 | 不明 | 3 | D126 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 4 | |
| 42 | 万ヵ | 3 | D126 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 6 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 43 | 不明 | | M021 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | |
| 44 | 不明 | 4 | D119 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 10 | |
| 45 | 記号 | 3 | D261 | 土師器坏 | 底部外面 | 1 | 45・46の2箇所 |
| 46 | 記号 | 3 | D261 | 土師器坏 | 体部外面 | 1 | |
| 47 | 記号 | 4 | D119 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 8 | |
| 48 | 記号 | 4 | D119 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 6 | 黒色処理 |
| 49 | 記号 | 3 | D126 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 8 | |
| 50 | 記号 | 3 | D126 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 2 | |
| 51 | 不明 | 5 | D142 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 22 | |

## 第4節　2群Bグループの遺構と遺物

### 1　概　観（第175・176図）

2群Bグループは2群Aグループの南側に隣接し、弥生時代2群とほぼ重なる位置にある。先述したように2群Aグループとの分割に疑問も残る。分割した根拠となったのは掘立柱建物跡の分布状況であるが、分割の根拠が時期的に限定されてしまったようである。即ち、3期以前の段階で、両者を分割する根拠は非常に薄弱であると言わざるを得ない。しかし、4期以降では竪穴住居跡も含めて分布の中心が二分することが看取できる。地形的には北西側に寺谷津を臨み、南東側は3群と区画する遺構空白域に接している。なお、東側は調査範囲外になるが、2群Bグループ最東端のD115の位置等から、これ以上東側へ建物群が広がらない可能性が高い。台地は概ね平坦で、標高は約23mを測り、僅かに東へ向かって標高が低くなる。D115周辺での標高は約21mとなる。

検出された遺構は竪穴住居跡30軒、掘立柱建物跡7棟である。白幡前遺跡において竪穴住居が最も散逸している建物群であるが、本グループの寺谷津寄りに掘立柱建物が6棟まとまっている。また、2群Aグループ同様比較的早い時期に経営が開始されるが、5期以降の竪穴住居数の減少は結果として1群と2群を分断することとなる。

### 2　遺　構（第177図、第212・213表、PL.170～186、図版113～119）

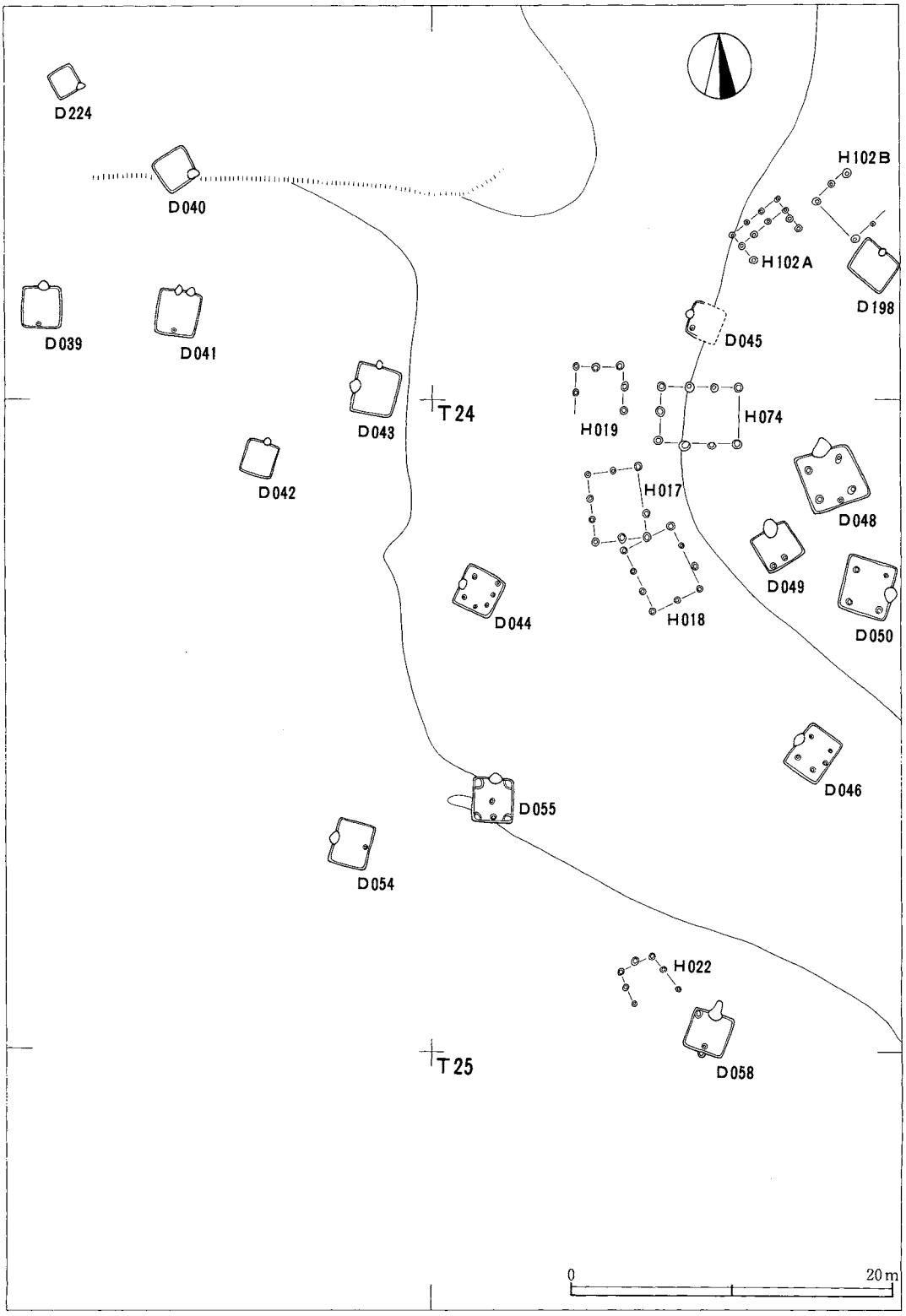
検出された遺構は竪穴住居跡30軒、掘立柱建物跡7棟である。他の建物群と比較して遺構の分布密度は低く、また、掘立柱建物の棟数も少ない。竪穴住居跡は偏在することなく一様に分布し、時期的な偏りもほとんどない。竪穴住居跡の規模・主軸方向は全体を通してあまり大きな規則性は見いだせない。主軸方向はN-77°-WからN-103°-Eまでの180°の開きがあり、特にピークもなく分散するが、基本的な方向として寺谷津に対して平行もしくは直交する二者からな

る。寺谷津に最も近いD224から最も離れたD112までの距離は約120mを測り、グループとして捉えた範囲がかなり広いことも主軸方向に大きな開きが出る原因である。局所的に観察した場合、近接した竪穴住居の主軸方向はほぼ平行するか直交し、主軸方向の開きは地形に即して西から東へと徐々に変化している。

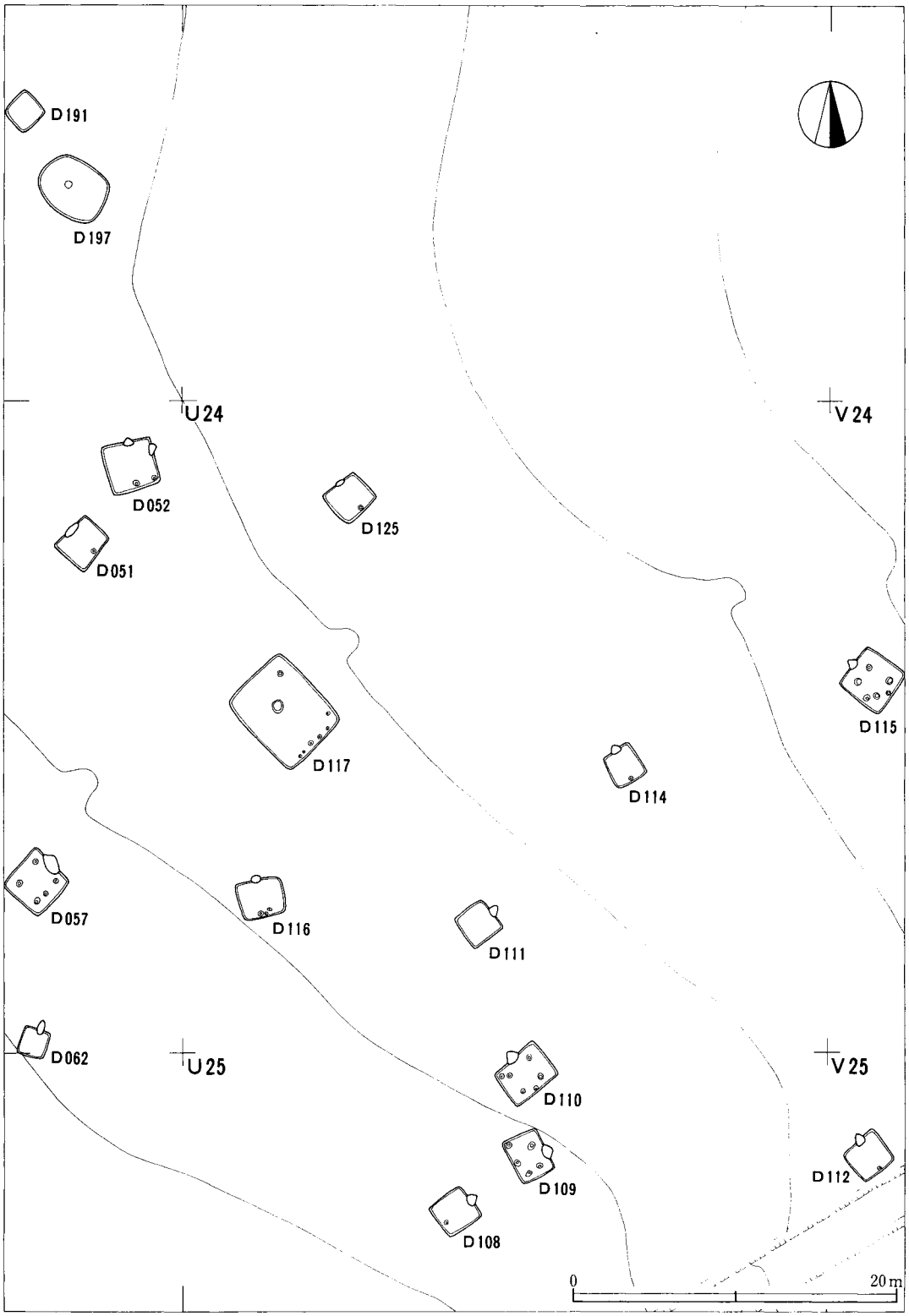
住居の規模は一辺が3～4mのものがほとんどで、床面積にすると10～15m²に集中する。最大規模の住居はD048で、5.3m×5.0mを測り、一辺の長さが5mを超すのはこの1軒だけである。住居の規模・主軸方向に時期的な偏りは認められないが、1群で看取された4期の床面積の拡大は認められず、床面積の平均値は横ばい状態ないし僅かな下降を示す。住居の構造はカマドに対峙する壁際に出入り口ピットを設けたE型が主体的で12軒を数え、各時期に採用されている。また、住居対角線上に4箇所の柱穴と、カマドに対峙する壁際に出入口ピットを配置するB型の住居が比較的早い1～3期に6軒ある。この中でも3期に3軒が集中し、1群での様相と一致する。白幡前遺跡全体としてもB型の住居は3期にピークがあり、他の時期ではあまり採用されていない。この他、住居コーナーにカマドを設置するG型の住居が2軒あり、1・3期の構築である。G型の住居であるD224とD040は2群Bグループの北西隅に位置し、この2軒は隣接する住居である。床面積はともに10m²以下と狭い。G型の住居は1群Bグループに多く構築されており、1群BグループにおけるG型の住居の構築時期と一致する。5期以降の住居はその数が極端に減少し、時期の判明しているD042・D045・D062は住居内に柱穴を持たないF型の構造となる。なお、D055は壁溝の四隅が住居内側へ張り出しており、明確な柱穴は存在しないが、住居コーナーに4本の柱が存在したものと考えられる。

住居内の特殊な施設はD048のp3に近い位置で、所謂ロクロピットに酷似した構造を呈するピットが検出されている。このピットは床面での直径0.3m、深さ0.4mを測り、ピット内部に直径0.1mの円形の孔を残し、周囲を黒色土・ロームブロック・白色粘土で固めている。この他、D042は住居東側半分の床面がベッド状に高くなっている。

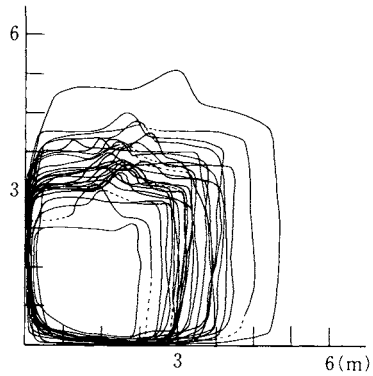
カマドは住居の主軸方向と同様で、寺谷津に直行する壁か平行する壁に設置されている。この中で、D041・D043・D052の3軒でカマドの改築によってカマドの位置が移動している。D041は新旧カマドが同一壁に並んで位置するのに対し、D043・D052は新旧カマドの位置が90°異なっている。旧カマドと最終的に使用されたカマドとの関係はD043が北壁から西壁へ、D052が東壁から北壁へとなる。なお、D041は北壁に新旧カマドが並んでいるが、西壁の中央より若干南へ寄った位置に、カマド様の構築がある。煙道部の張り出しはないが、床面を掘りくぼめた火床部があり、周囲にカマドの袖様に砂質粘土が積まれていた。火床部は被熱している。全体的に火床部は住居内に納まる住居が多いが、D062・D108は火床部が張り出し部へ移行している。煙道部は0.3～0.5mの張り出しを有し、特異な例として、D058は煙道部が幅0.3m、長さ1.4mを測る。張り出し部分は確認面から0.2m程度の深さを測り、カマド本体とは区別でき



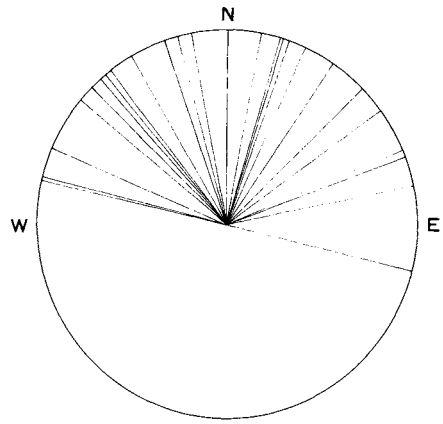

第175図　歴史時代２群Ｂグループ全体図　1



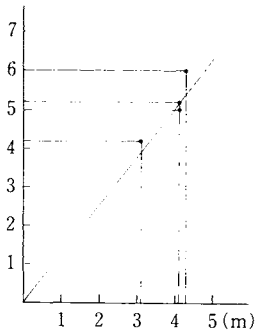

第176図　歴史時代２群Ｂグループ全体図　2



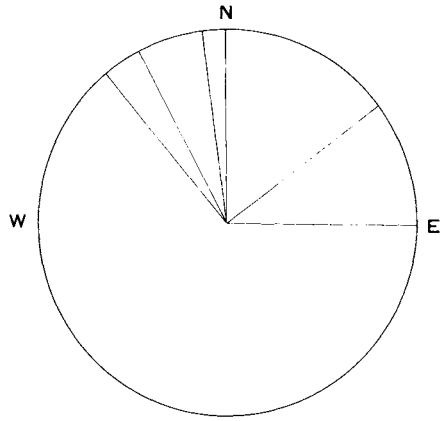

竪穴住居の規模




竪穴住居の主軸方向




掘立柱建物の規模




掘立柱建物の長軸方向

第177図　2群Bグループ建物比較

る。

カマド内からまとまって遺物が出土した住居はD045・D054・D062が挙げられる。D045では遺物実測図8の土師器甕と1・3のロクロ土師器坏が出土した。ロクロ土師器坏は2点とも火床部に逆位に伏せられていた。D054では遺物実測図12・15の土師器甕と2・6のロクロ土師器坏が出土している。甕は火床部前面から出土したものであるが、2点のロクロ土師器坏は支脚上に逆位に重ねられていた。D062は火床部から煙道部にかけて土師器甕5個体、ロクロ土師器坏8個体、ロクロ土師器皿1個体が無造作に詰め込まれていた。ほとんどの遺物はカマド底面から浮いた状態であり、これらの遺物をカマドを崩しながら煙道部から廃棄した状況が窺える。なお、D191にはカマドが設置されておらず、この遺構が居住を目的としたものとは考えられない。

掘立柱建物跡は7棟が検出された。H022は他の6棟から離れて、D058に隣接している。他

の6棟はD045・D048周辺に集中している。建物は3間×2間の側柱構造が主体的で、規模が確定できた建物の中に2間×2間の建物はない。規模が確定できた建物はH017・H018・H074の3棟で、桁行長は5～6m、梁行長は4.2m前後である。建物の長軸方向は一定ではないが、H022を除いた6棟はD048の少し北を中心として弧状に並んでいる。掘立柱建物跡からはほとんど遺物が出土しておらず、時期的な関係を証明できないが、意識的に弧状に配置した可能性は考えられる。建物の時期は具体的資料を欠くが、H022はD058に隣接し、また、周辺に竪穴住居が存在しないことから、H022はD058と同時期もしくはかなり近接した時期と考えられる。従って、H022については4期を前後する時期に比定したい。他の6棟は周辺に3期のD048・D198、5期のD045が位置する。掘立柱建物はそれぞれがかなり近接して構築されているが、H074とH102Aの間が唯一広く、その間にD045が構築されている。先に触れたように、掘立柱建物が意識的に弧状に配置されたとするならば、D045も同一弧上にあり、D045と掘立柱建物が同一時期である可能性が高まる。ただ、1群Bグループで掘立柱建物群に近接し、掘立柱建物と同一時期と考えられるD164・D165の2軒の竪穴住居跡からおびただしい量の遺物が出土しており、このような状況は後述する2群の各グループや3群でも見られる。2群Bグループの掘立柱建物の周辺でおびただしい量の遺物を出土した竪穴住居はないが、その中においてD048は群を抜いている。掘立柱建物の構築時期は可能性として3期・5期が考えられる。仮に5期とするならば、竪穴住居数の減少と呼応して掘立柱建物が構築されたこととなるが、可能性を指摘するにとどめる。

**第212表　2群B竪穴住居一覧**

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D039 | 方　形 | 3.3×3.3 | 10.89 | N－0° | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D040 | 方　形 | 2.9×2.9 | 8.41 | N－45°－E | 東コーナー | なし | なし | なし | なし | 全周 | 3 | |
| D041 | 方　形 | 3.9×3.6 | 14.04 | N－16°－E | 北中央 | なし | なし | 3 | あり | あり | 5 | カマドを作り替える。 |
| D042 | 方　形 | 3.8×3.8 | 14.44 | N－17°－E | 北中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 7 | |
| D043 | 方　形 | 3.7×3.6 | 13.32 | N－10°－E<br>N－77°－W | 北中央<br>西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 4a | 東中央壁に張り出し有り。 |
| D044 | 方　形 | 3.8×3.7 | 14.06 | N－67°－W | 北西中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 1 | |
| D045 | 方　形 | 2.7×不明 | — | N－76°－W | 西中央 | あり | なし | なし | なし | なし | 5 | |
| D046 | 方　形 | 4.2×3.4 | 14.28 | N－45°－W | 北西中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D048 | 方　形 | 5.3×5.0 | 26.50 | N－15°－W | 北中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | 所謂ロクロピット有り。 |
| D049 | 方　形 | 3.4×3.2 | 10.88 | N－30°－W | 北西中央 | なし | なし | 1 | あり | 全周 | 3 | |
| D050 | 方　形 | 4.7×4.3 | 20.21 | N－103°－E | 北東中央 | なし | 4 | 2 | なし | 全周 | | 2箇所にカマド。 |
| D051 | 方　形 | 3.4×3.2 | 10.88 | N－45°－W | 北西中央 | なし | なし | 1 | あり | 全周 | 1 | |
| D052 | 方　形 | 3.9×3.8 | 14.82 | N－11°－W<br>N－78°－E | 北中央 | なし | なし | 1 | あり | 全周 | 1 | |
| D054 | 方　形 | 3.4×3.3 | 11.22 | N－77°－W | 西中央 | なし | なし | なし | あり | なし | 4b | |
| D055 | 方　形 | 3.5×3.5 | 12.25 | N－0° | 北中央 | なし | なし | 1 | あり | 全周 | 4b | 南壁中央に張り出し有り。 |
| D057 | 方　形 | 4.2×4.0 | 16.80 | N－45°－E | 北東中央 | なし | 4 | 3 | — | 全周 | 3 | |
| D058 | 方　形 | 3.3×3.3 | 10.89 | N－19°－E | 北東中央 | あり | なし | なし | あり | 全周 | 4a | 南西壁中央に張り出し有り。 |
| D062 | 方　形 | 2.6×2.5 | 6.50 | N－24°－E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 5 | |

| No | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D108 | 方　形 | 3.3×3.1 | 10.23 | N−53°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 3 | |
| D109 | 方　形 | 3.8×3.3 | 12.54 | N−67°−E | 北東中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | 南西壁中央に張り出し有り。 |
| D110 | 方　形 | 4.3×3.5 | 15.05 | N−38°−W | 北西中央 | なし | 4 | 1 | あり | 全周 | 1 | |
| D111 | 方　形 | 3.3×3.0 | 9.90 | N−53°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 3 | |
| D112 | 方　形 | 3.2×3.2/2.9 | 9.76 | N−40°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D114 | 方　形 | 3.1×2.8 | 8.68 | N−32°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D115 | 方　形 | 4.2×4.1 | 17.22 | N−50°−W | 北西中央 | なし | 4 | 1 | あり | 全周 | 1 | |
| D116 | 方　形 | 3.9×3.5 | 13.65 | N−14°−W | 北中央 | なし | なし | 2 | あり | あり | 3 | |
| D125 | 方　形 | 3.2×3.1 | 9.92 | N−42°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D191 | 方　形 | 2.8×2.7 | 7.56 | N−45°−E | — | なし | なし | なし | なし | なし | | |
| D198 | 方　形 | 3.8×3.4 | 12.92 | N−34°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 3 | |
| D224 | 方　形 | 2.4×2.4 | 5.76 | N−69°−E | 東コーナー | なし | なし | 1 | なし | 全周 | 1 | |

**第213表　2群B掘立柱建物一覧**

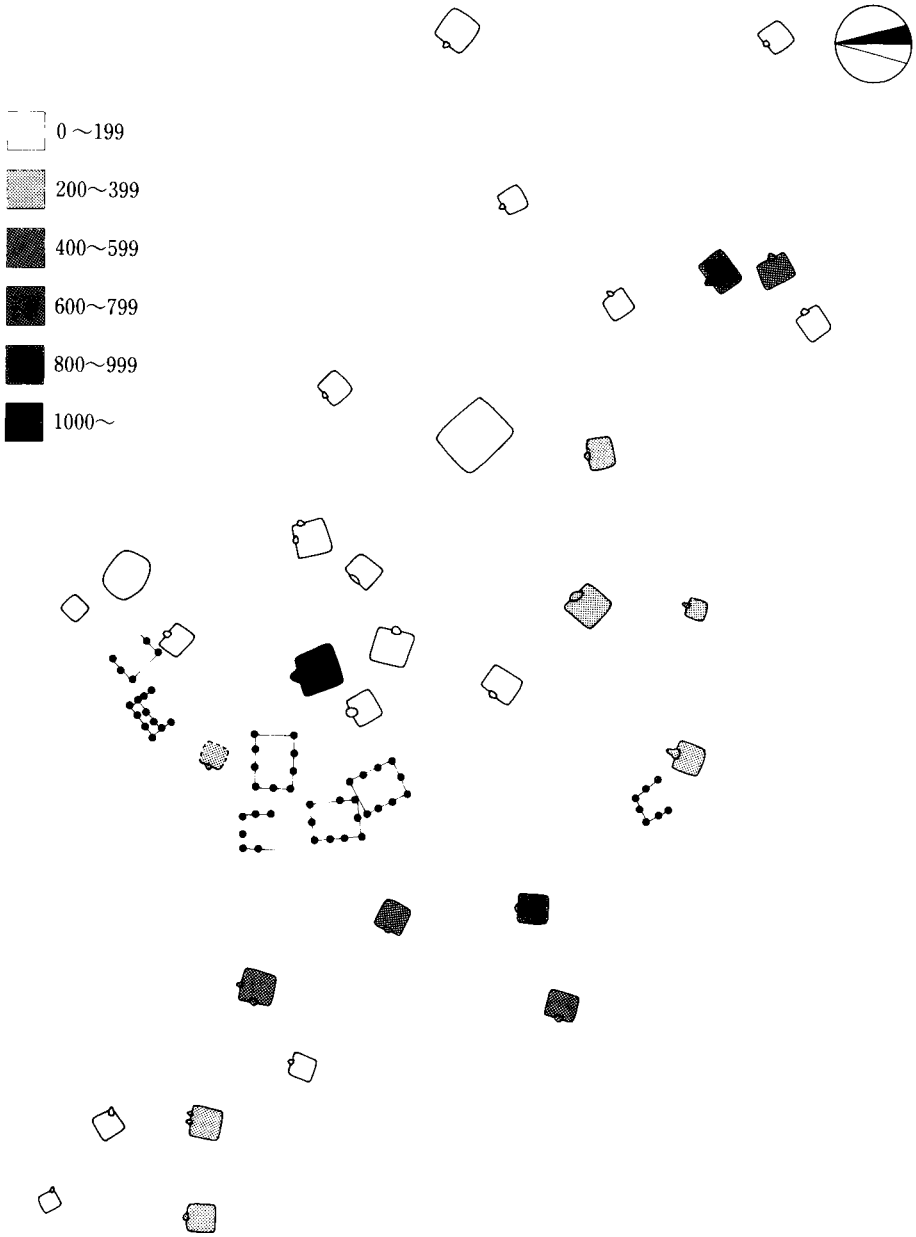
| No | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H017 | 3×2 | 側柱 | 5.0 | 4.1 | 1.6〜1.8 | 20.5 | 0.4〜0.6 | 0.3〜0.5 | N−8°−W | なし | | |
| H018 | 3×2 | 側柱 | 5.2 | 4.1 | 1.8〜2.0 | 21.32 | 0.4〜0.6 | 0.3〜0.5 | N−28°−W | なし | | |
| H019 | 2以上×2 | 側柱 | 3.5以上 | 3.6 | 1.6〜2.0 | —— | 0.5〜0.6 | 0.3〜0.4 | N−1°−W | なし | | |
| H022 | 2以上×2以上 | 側柱 | 2.8以上 | 2.7以上 | 1.3 | —— | 0.4 | 0.1〜0.4 | —— | なし | | |
| H074 | 3×2 | 側柱 | 6.0 | 4.3 | 1.8〜2.0 | 25.8 | 0.7〜0.8 | 0.5〜0.7 | N−90°−E | なし | | |
| H102A | 3×2以上 | 側柱 | 4.5 | 1.7以上 | 1.5〜1.7 | —— | 0.4〜0.5 | 0.2〜0.4 | N−53°−E | あり | | |
| H102B | 2×1 | 側柱 | 4.2 | 3.1 | 1.6〜4.2 | 13.02 | 0.4〜0.6 | 0.1〜0.7 | N−40°−W | なし | | |

## 3　遺　物（第178図、第214〜244表、PL.187〜203、図版120〜125）

竪穴住居から出土した遺物はほとんどが廃棄されたものである。カマド内の遺物の出土状況は前述したとおりである。住居に直接伴う可能性のあるものとしては、D042のカマド右側から住居北東コーナーにかけて灰釉陶器椀・土師器甕・須恵器甕が床面から出土している。但し、甕は2点とも破片であり、灰釉陶器椀も約1/2の遺存である。D224は図示した3点の遺物がカマド前面の床面から出土している。この3点はいずれも完形で、住居内に遺棄したものと解釈できる。なお、本グループでは際立って遺物の量が多い住居はなく、ほとんどの住居の遺物量は200点以下である。その中で目立つのはD048で、約1,200点の遺物が出土している。

**D039**　遺物の量はあまり多くないが、遺物実測図5の土師器甕がカマド右側から出土している。ロクロ土師器坏は箱形の器形がかなり崩れたもので、立ち上がりの角度は60°前後を指す。底部は僅かしか遺存していないが、いずれも回転ヘラ削りを施している。土師器甕は1類が主体となる。

**D040**　図示できる遺物はかなり少ない。ロクロ土師器坏は箱形の器形が若干崩れたもので、体部下端・底部ともに回転ヘラ削りが観察できる。須恵器坏は部分的な破片で、全体形は窺えない。




第178図　歴史時代２群Ｂ遺物の出土量図

**D041**　カマド内には遺物実測図13の須恵器甕の破片が重ねられている。また、西壁のカマド様の構築部から遺物実測図10・11の土師器甕が出土している。ロクロ土師器坏は立ち上がりの角度が50°前後の製品が主体的で、底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施している。鉢は２点が図示でき、６は体部外面に静止ヘラ削りを行う。内面は黒色処理を施している。土師器甕は２類が主体的で、３類を僅かに伴う。

D042　ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、1は底部全面に回転ヘラ削りを施している。土師器甕は口唇部が内側へ張り出す6類が主体的で、灰釉陶器椀を伴っている。鉄製品は刀子がある。

D043　ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がるものがほとんどで、立ち上がりの角度は55～57°を指す。底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを施している。なお、2・4は内面黒色処理されている。墨書されたものは3～6があり、釈文は「器」・「子」となる。須恵器坏も体部が直線的に立ち上がるものであるが、1類の範疇には含まれない。底部は8が全面回転ヘラ削り、7は静止ヘラ削りとなる。土師器甕は1・3・7類があり、12は3類の小形の製品である。鉄製品は刀子・鉄鏃がある。

D044　坏は須恵器が卓越し、図示した3点とも形態が異なる。2は体部が外反する4a類で、底部はヘラ切り無調整である。3は2類Cで、底部は全面回転ヘラ削りを行っている。4は高台坏である。土師器は鉢が図示できた。ロクロ未使用の製品で、体部は静止ヘラ削りを施している。内面にはウルシがかなり付着している。土師器甕は小形の製品が図示できた。5は完形で、胴部外面に粘土紐接合痕を残している。鉄製品は鉈がある。

D045　カマド内から遺物実測図1・3が逆位に重ねられた状態で出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、立ち上がりの角度は48°前後となる。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施している。4・5は体部外面に墨書されている。土師器甕は1類があり、片口の鉢を伴っている。

D046　坏は須恵器が卓越する。体部は直線的に立ち上がり、底部は静止ヘラ削りを施している。6はフラスコ形瓶子である。

D048　坏は須恵器が多い。ロクロ土師器坏は箱形の器形が若干崩れたもので、1は底部・体部下端とも静止ヘラ削りを施している。高台坏1類を伴っている。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がるものと口縁部が僅かに外反するものがある。底部は静止ヘラ削りが一般的であるが、7は全面回転ヘラ削りを施している。9は細片であるが、体部外面に「乙山」と墨書されている。土師器甕は1・3類がある。

D049　ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈し、立ち上がりの角度は59～64°を指す。底部は1・2ともに回転ヘラ切り無調整で、体部外面にヘラ削りは施されない。4は土師器高坏である。

D050　1は土師器甕で、口縁部が大きく外反している。鉄製品は刀子・穂積具がある。

D051　図示できたのは須恵器坏だけである。1・2とも口縁部が僅かに外反するもので、底部・体部下端とも回転ヘラ削りを施している。

D052　坏類は須恵器が卓越する。土師器坏は在地的でない1があり、体部から底部にかけてヘラ削りを施している。須恵器坏は口縁部が外反するもので、底部はヘラ切り無調整である。鉄製品は鎌がある。

**D054**　カマドを中心として住居南半分に遺物が集中している。2・6・15はカマド内から出土し、2・6は支脚上に逆位に重ねられていた。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するものが主体的で、立ち上がりの角度は53°前後を指す。底部は回転糸切り後に回転ヘラ削りを行い、体部下端は例外なく回転ヘラ削りを施している。墨書ないし線刻は「子」・「継」・「廓」がある。なお、高台付きの皿を伴っている。甕は1・2類がある。

**D055**　遺物は住居全体に散乱し、ロクロ土師器坏等も同一個体の破片がかなり散逸している。土師器坏は3類があるが、遺存度は低い。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、立ち上がりの角度は53°前後である。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁に回転ヘラ削りを施している。10・11・16・20は内面黒色処理を施している。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がる箱形に近い器形を呈している。坏類は墨書されたものが多く、釈文は「㋕」・「太」・「生」・「堤生ヵ」等となる。須恵器甕は4類がある。29は土師器ロクロ坏の底部を利用した紡錘具である。

**D057**　カマド左脇から遺物実測図9・10・14が出土している。ロクロ土師器坏は箱形に近い1と口縁部が大きく外反する2があるが、他の遺物からみて2は混入したものと考えられる。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がる製品が主体的で、箱形に近い6が伴う。墨書された製品は少ないが、10の高台内面に「草田」と墨書されている。「草田」は「かやた」と読ませ、非常に興味深い資料である。なお、墨書と重なって朱墨痕がある。土師器甕は小形の製品しか図示できなかった。3点とも口唇部を丸く納め、古い様相を残している。鉄製品は刀子がある。

**D058**　遺物実測図4・8はカマド内から出土した。ロクロ土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がるものが主体的で、立ち上がりの角度は50〜55°となる。底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを施す。1は内面黒色処理される。土師器甕は3類が多く、図示した4点ともよく似た製品である。なお、14は胴部外面及び口縁部内面に刷毛目がある。

**D062**　図示したほとんどの遺物がカマドから出土しているが、位置的には煙道部の奥に当たる。遺物実測図14の甕が煙道部の先端に逆位に入れられている。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するものがほとんどで、ロクロ土師器皿2類を伴っている。立ち上がりの角度は50°前後で、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。なお、6・7・8は内面にヘラ磨きを行っている。土師器甕は大小の2類がある。15は胴部下半に横位のヘラ削りを施し、口縁部が直立する。鉄製品は穂摘具がある。

**D108**　遺物は2点が図示できただけである。1はロクロ土師器坏で、底部は回転糸切り後、不定方向にヘラ削りを行う。内面は黒色処理される。

**D109**　ロクロ土師器坏は図示できるものがない。土師器甕は1・2・3類があり、大小揃っている。

**D110**　遺物実測図1・12はカマドを中心として出土している。須恵器坏は口縁部が僅かに外反

するもので、底部は全面静止ヘラ削りを施す。盤を伴っている。土師器甕は部分的な遺存で、1・3類がある。須恵器甕は口縁部を欠損するが、3類である。鉄製品は刀子がある。

**D111** 遺物はほとんどがカマドないしその周辺から出土している。ロクロ土師器坏は2点とも口径10cm前後の小形の製品で、体部は内彎気味に立ち上がっている。底部は回転糸切り後、静止ヘラ削りを施している。2は内面黒色処理されている。土師器甕は1・3・4類がある。

**D114** 1は土師器坏で、体部は内彎気味に立ち上がる。体部外面は横位のヘラ削りをナデて消している。2は高台が付くもので、体部内外面にヘラ磨きを行っている。3は石製の紡錘車で、矢羽状の線刻がある。

**D115** 遺物はカマド前面から北東壁にかけて出土した。1は土師器坏で、比較的身の浅い製品である。体部外面から底部は横位のヘラ削りを施し、内面はヘラ磨きを行う。2は須恵器坏で、体部は僅かに外反し、底部・体部下端とも静止ヘラ削りを施している。1・2は底部に線刻がある。鉄製品は刀子がある。

**D116** 視覚的に住居東半分から遺物が出土している。ロクロ土師器坏は箱形の器形が崩れたもので、1は底部は回転糸切り後、部分的に静止ヘラ削りを施している。体部外面に「益」と墨書されている。2は土師器蓋である。器高は5.5cmと高く、天井部に回転ヘラ削りを施す。須恵器坏は2点が図示でき、1は体部が内彎気味に立ち上がっている。底部は4がヘラ切り後、周縁部静止ヘラ削り、3は全面回転ヘラ削りを施す。土師器甕は1・3類がある。鉄製品は刀子がある。

**D125** 遺物は少なく、ほとんどが遺物実測図2の破片である。1は土師器坏で、体部外面は横位のヘラ削りをナデて消し、内面に赤彩を施している。2は土師器甕で3類である。なお、埋土中に僅かにシオフキを主体とした貝が廃棄されていた。

**D224** 図示した3点ともカマド前面から出土し、完形である。須恵器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は2が全面回転ヘラ削り、1は全面静止ヘラ削りを施している。土師器甕はカマド内から出土したもので、完形である。胴部はヘラ削りをナデて消している。

以上、各遺構を概観したが、次に時期の変遷を追ってみたい。1期は供膳形態において須恵器が卓越するが、一概に論じられない面も有している。本グループではD044・D051・D052・D115・D224で須恵器が卓越するが、器形的に須恵器坏1類は含まれていない。井戸向遺跡で指摘されているように、須恵器坏1類は1期のメルクマールと考えられ、これらの住居を1期に比定するには疑問がある。ただ、これら5軒の住居では破片を含めてロクロ土師器坏はまったく出土しておらず、2期以前に位置づけるのが妥当と考える。土師器甕は2類の小形の製品を図示したが、破片として3類が多くある。

2期はロクロ土師器1類の出現に特徴付けられるが、本グループでは該当する遺構はない。3期は14軒の竪穴住居が比定でき、多くは3期後半となる。土師器坏はD114で1点図示できた

だけで、2類である。ロクロ土師器坏は2類が主体となり、D108・D111の小形の製品は内面黒色処理されている。また、D048・D114では高台坏1類を伴っている。須恵器坏はD048・D057で多く、ややバラエティーに富んでいる。土師器甕は大形の製品はほとんど1・3類で、僅かに1類が多い。小形の製品は2類が主体となる。墨書土器は皆無に近く、D048で「乙山」、D057で「草田」、D116で「益」の3点だけである。

4a期は3期と比較して遺構数がかなり減少し、D043・D058の2軒が比定できるだけである。ロクロ土師器坏は体部がやや内彎気味に立ち上がる製品もしくは口縁部が僅かに外反する製品が主体となり、体部の立ち上がりの角度は55°前後となる。須恵器坏は少なく、D043で4b類・高台坏を伴うが、他の住居では見られない。土師器甕はほとんどが1・3類で、D043では3類の小形の製品もある。また、D043では7類の台付き甕が、D058では刷毛目を施した製品があり、注目できる。墨書土器はやはり少なく、D043で「器」・「子」が判読できる。

4b期は4a期に続きさらに遺構数が減少する。4b期に比定したのはD054・D055の2軒である。D055では土師器坏3類がある。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するものが主体となり、体部の立ち上がりの角度は50°前後となる。ロクロ土師器皿はD054で2点図示できた。共に高台が付く製品で、10は内彎気味に立ち上がっている。D055ではロクロ土師器皿を図示できなかった。土師器甕は1類が主体となり、3類は図示できるものがない。墨書土器は両住居とも多く、釈文は「継」・「廓」・「子」・「㋐」・「太」・「提生ヵ」・「生」となる。

5期はD041・D045・D062の3軒を比定した。ロクロ土師器坏は口縁部が外反し、体部の立ち上がりの角度は50°を若干下回る。また、D041の5やD045の3、D062の7・8のような法量が大きい製品が加わる。ロクロ土師器皿は良好な資料がないが、D062で底部周縁にヨコナデを施した2類が伴っている。土師器甕はD041・D045で1・3類が見られるが、量的にはむしろ2類が主体となる。墨書土器は少ない。

6期に該当する遺構はなく、7期はD042が比定できる。灰釉陶器椀を伴っており、また、土師器甕はすべて6類となる。

以上、各時期の概観をした。鉄製品は点数が少なく、刀子だけがほぼ各時期の住居から出土している。砥石、紡錘具は4期の住居に限られる。墨書土器は4b期の2軒の住居を除くと皆無に近い状況で、本グループでは転用硯を含めて硯は出土していない。本グループで特徴的な文字はD057の「草田」であるが、「草田」は白幡前遺跡全体でもこの1点しか出土していない。また、D048の「乙山」は、他に2群DグループのD070に1点あるだけである。

## 第214表　D039出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 8.0 | 3.4 | 20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 40 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 8.2 | 4.0 | 30 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 42 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | — | — | 20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 63、72 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.0 | 4.6 | 20 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 18 | |
| 5 | 土師器甕 | 21.3 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 30、31 | |
| 6 | 土師器甕 | 15.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 15、23、57、73 | |

## 第215表　D040出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.5 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 27 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.0 | — | — | 口縁30 | 精　緻 | 灰　色 | | 60 | |
| 3 | 須恵器坏 | — | 8.8 | — | 底部50 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 15、24 | |

## 第216表　D041出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.5 | 3.7 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 72、102、104 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.4 | 3.8 | 80 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 97 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 15.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 104 | 内面ヘラ磨き |
| 4 | ロクロ土師器皿 | — | 7.1 | — | 底部 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 101 | 墨書 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 17.9 | 8.0 | 5.9 | 60 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 40、68、69、70、71、73、74 | 内面ヘラ磨き |
| 6 | 土師器鉢 | 27.0 | 13.4 | 11.3 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 1、104 | 黒色処理 |
| 7 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 79、85 | |
| 8 | 土師器甕 | 22.5 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 105、106 | |
| 9 | 土師器甕 | — | 10.0 | — | 底部20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 105、112 | |
| 10 | 土師器甕 | 13.4 | 7.0 | 17.6 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 110、117 | |
| 11 | 土師器甕 | — | 5.7 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 100 | ロクロ調整 |
| 12 | 須恵器甕 | — | 10.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 41、105、107、116 | |
| 13 | 須恵器甕 | — | — | — | 胴部30 | 精　緻 | 暗 灰 色 | | 109 | |

## 第217表　D042出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 5.9 | 4.9 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 36 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | — | — | 20 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 38 | |
| 3 | 灰釉陶器椀 | 15.2 | 7.0 | 4.9 | 50 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 16 | |
| 4 | 土師器甕 | 20.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 23 | |
| 5 | 土師器甕 | 26.1 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 13 | |
| 6 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 13、37、38 | |
| 7 | 須恵器甕 | — | 12.4 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 15 | |

## 第218表　D043出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 6.4 | 3.7 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 400 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 16.3 | 7.8 | 5.5 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 397 | 黒色処理 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 15.1 | 7.4 | 5.3 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 432 | 墨書「器」、ヘラ磨き |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 15.9 | 8.2 | 4.9 | 完形 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 398 | 墨書「子」、黒色処理 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 252 | 墨書、内面ヘラ磨き |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 124 | 墨書「器」、黒色処理 |
| 7 | 須恵器坏 | 13.8 | 7.8 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 71、82、187、218、384 | |
| 8 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.6 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 144、148、227 | 線刻 |
| 9 | 須恵器高台坏 | — | 10.8 | — | 底部20 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 162 | |
| 10 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 87、92 | |
| 11 | 土師器甕 | 19.6 | — | — | 口縁 | 石英・雲母粒 | 明 褐 色 | | 15、133、399、402、435 | |
| 12 | 土師器甕 | 12.6 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 90 | |
| 13 | 土師器甕 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 90 | |
| 14 | 土師器甕 | — | — | — | 台部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 430、433 | |

## 第219表　D224出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.5 | 7.9 | 3.8 | 完形 | 石英粒 | 青 灰 色 | 右 | 52 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.6 | 8.5 | 4.3 | 完形 | 石英・雲母粒 | 灰 白 色 | | 50 | |
| 3 | 土師器甕 | 16.0 | 8.0 | 16.2 | 完形 | 石英・雲母粒 | 明 褐 色 | | 58、60 | |

## 第220表　D044出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 16.2 | 7.7 | 6.4 | 完形 | 精　緻 | 赤 褐 色 | | 144 | 内面油煙付着、ヘラ磨き |
| 2 | 須恵器坏 | 13.6 | 8.4 | 4.4 | 50 | 精　緻 | 灰　色 | | 88、92、94、154 | |
| 3 | 須恵器坏 | 11.8 | 7.0 | 3.9 | 30 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 59、60、61 | |
| 4 | 須恵器高台坏 | 13.8 | 9.4 | 5.2 | 30 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 49、106 | |
| 5 | 土師器鉢 | 11.7 | 6.4 | 8.9 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 34、67、69、128、129 | 底部木葉痕 |
| 6 | 土師器甕 | 11.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 120 | |
| 7 | 管玉 | 1.1 | | 2.7 | | | 濃 緑 色 | | 119 | |

## 第221表　D045出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.3 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 71、95 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 6.5 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 4、61、62、64 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 15.8 | 6.8 | 5.2 | 60 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 70、75 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 褐　色 | | 51、58 | 墨書「生」 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 47、48 | 墨書「生」ヵ、ヘラ磨き |
| 6 | 土師器鉢 | 21.2 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 67 | 片口 |
| 7 | 土師器甕 | 24.4 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 12、55 | |
| 8 | 土師器甕 | — | 7.8 | — | 口縁欠 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 72 | ロクロ調整 |
| 9 | 須恵器甕 | 22.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 1、7 | |
| 10 | 砥石 | | | | | | | | 36、37 | 凝灰岩 |
| 11 | 紡錘具 | | | | | | | | 69 | 滑石 |

## 第222表　D046出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 8.2 | 4.2 | 30 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 23、50、80 | |
| 2 | 須恵器坏 | 14.8 | 8.6 | 4.0 | 30 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 74 | |
| 3 | 須恵器坏 | 14.2 | 7.6 | 4.5 | 30 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 72 | |
| 4 | 須恵器坏 | 14.8 | 8.0 | 3.8 | 30 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 39、70 | |
| 5 | 須恵器坏 | — | 9.0 | — | 底部 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 73 | 線刻 |
| 6 | 須恵器瓶子 | 7.8 | — | — | 40 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 80 | |

## 第223表　D048出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 7.8 | 4.1 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 177 | |
| 2 | 土師器高台坏 | — | 8.0 | — | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 14、518、544 | 黒色処理 |
| 3 | 須恵器坏 | 13.4 | 7.4 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 11、189、276、403、486、487 | |
| 4 | 須恵器坏 | 12.8 | 7.0 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 318、549、600、611 | |
| 5 | 須恵器坏 | 13.4 | 8.0 | 4.1 | 30 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 46、47、498、 | |
| 6 | 須恵器坏 | 12.2 | 6.0 | 3.4 | 20 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 397 | |
| 7 | 須恵器坏 | 11.2 | 7.0 | 4.2 | 50 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 465、475 | |
| 8 | 須恵器坏 | 12.3 | 7.4 | 3.8 | 50 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 629、665、666、669 | 線刻 |
| 9 | 須恵器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 7 | 墨書「乙山」 |
| 10 | 土師器高坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 638 | |
| 11 | 土師器蓋 | — | — | — | 20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 291 | |
| 12 | 土師器甕 | 21.0 | — | — | 口縁60 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 632、660、695、697、702、703、710 | |
| 13 | 土師器甕 | 22.2 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 褐　色 | | 379、483 | |
| 14 | 土師器甕 | — | — | — | 胴部 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 510、607、627、689、691 | |
| 15 | 土師器甕 | 22.1 | 7.8 | 33.4 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 552、566、568、571、582、583 | 底部木葉痕 |
| 16 | 土師器甕 | 11.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 239、544 | |
| 17 | 土師器甕 | — | 9.8 | — | 台部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 196、402 | |
| 18 | 土師器甕 | — | 9.0 | — | 底部60 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 335、444、468、672、692 | 底部木葉痕 |
| 19 | 須恵器甑 | — | 14.2 | — | 底部20 | 砂　粒 | 灰　色 | | 343、352 | |

## 第224表　D049出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 8.0 | 4.2 | 完形 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 130 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.0 | 4.2 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 63、88、89、131 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 16.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 78、83 | |
| 4 | 土師器高坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 111 | |

## 第225表　D050出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 23.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 15、89 | |
| 2 | 砥石 | | | | | | | | 90 | 凝灰岩 |

## 第226表　D051出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 14.0 | 8.2 | 4.6 | 50 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 51 | |
| 2 | 須恵器坏 | 14.0 | 10.0 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 26、27 | |
| 3 | 須恵器坏 | — | 8.0 | — | 底部 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 41 | |

## 第227表　D052出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 16.0 | 6.0 | 3.6 | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 58、59、64、65、66 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.4 | 7.0 | 3.8 | 30 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 60、61 | |
| 3 | 須恵器坏 | — | 9.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 42 | |
| 4 | 須恵器高台坏 | — | 13.2 | — | 底部 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 3、48 | |
| 5 | 土師器甕 | — | 7.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 67、68 | |
| 6 | 土師器甕 | 21.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 56 | |

## 第228表　D054出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.6 | 4.1 | 60 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 81、155、189、190 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.8 | 4.3 | 70 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 234、273、277、280 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.1 | 3.2 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 204 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.2 | 3.6 | 50 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 38、40、41、55、172、173 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | — | — | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 5、233 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 15.5 | 7.4 | 4.4 | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 312 | 線刻「子」、ヘラ磨き |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 103 | 墨書「継」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 221 | 墨書「廓」 |
| 9 | 土師器甕 | — | 8.4 | — | 台部 | 砂　粒 | 橙　色 | | 311 | |
| 10 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 7.4 | 3.6 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 62 | 内面ヘラ磨き |
| 11 | ロクロ土師器皿 | — | 6.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 75 | 墨書「子」、ヘラ磨き |
| 12 | 土師器甕 | 18.4 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 159、238、258、269、271、278、298 | |
| 13 | 土師器甕 | 20.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 128、129 | |
| 14 | 土師器甕 | — | 8.8 | — | 底部 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | | 65、160、255 | |
| 15 | 土師器甕 | 17.0 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 244、256、288、289、291、310、314 | |

## 第229表　D055出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 12.4 | — | — | 20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 594 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.8 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 114、580 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.0 | 4.1 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 301、389、462、463、586 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.4 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 36、521、523 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.0 | 4.0 | 70 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 4、129、349、442 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.0 | 5.6 | 3.7 | 50 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 352 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 5.8 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 89、278、305 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.0 | 3.7 | 20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 536、390 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.4 | 4.2 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 37、38、39、40、42、43、59、80 | 内面油煙付着 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 15.1 | 7.0 | 5.0 | 50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 26、31、594 | 黒色処理 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 16.4 | — | — | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 594 | 黒色処理 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.6 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 314、318、368 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | — | — | 30 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 429、594 | 内面ヘラ磨き |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | — | — | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 510 | |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 15.4 | — | — | 口縁30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 54、98、234、454、532 | 墨書「㋐」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 6.4 | 4.8 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 303、382 | 墨書「太」、黒色処理 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 橙　色 | | 34 | 墨書「太」、ヘラ磨き |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.6 | 3.6 | 30 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 428 | 墨書「生」 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 512 | 墨書 |
| 20 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 橙　色 | | 221 | 墨書「提㊟」、黒色処理 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 394 | 墨書 |
| 22 | ロクロ土師器坏 | — | 5.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 154、457、469 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 23 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.8 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 399、465 | 線刻 |
| 24 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 6.0 | 4.2 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 209、372、475 | 線刻 |
| 25 | 須恵器坏 | 14.6 | 10.0 | 4.0 | 20 | 砂　粒 | 灰　色 | | 592 | |
| 26 | 土師器甕 | 17.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 433 | |
| 27 | 須恵器甕 | — | 12.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 554 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 28 | 須恵器甕 | 26.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 5、107、383、415、419 | |
| 29 | 紡錘具 | | | | | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 381 | ロクロ土師器坏底部利用 |
| 30 | 砥石 | | | | | | | | 290 | 凝灰岩 |
| 31 | 石片 | | | | | | | | 328 | 雲母片岩 |

## 第230表　D057出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 8.8 | 4.3 | 20 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 67、238 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 6.6 | 5.0 | 20 | 雲母粒 | 灰 褐 色 | 右 | 100 | 黒色処理 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 115、183 | |
| 4 | 須恵器坏 | 14.3 | 8.0 | 3.9 | 20 | 雲母粒 | 青 灰 色 | 右 | 69、88、96 | |
| 5 | 須恵器坏 | 14.3 | 7.6 | 4.2 | 50 | 砂　粒 | 灰　色 | | 51、55、123 | |
| 6 | 須恵器坏 | 11.2 | 7.4 | 3.8 | 20 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 78、102、193 | |
| 7 | 須恵器坏 | — | 7.0 | — | 底部 | 雲母粒 | 青 灰 色 | | 217、226 | 線刻 |
| 8 | 須恵器蓋 | 18.0 | — | — | 30 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 120、124 | |
| 9 | 土師器鉢 | 18.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 168 | |
| 10 | 須恵器盤 | 20.6 | 12.0 | 4.3 | 70 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 187 | 墨書「草田」、朱墨痕 |
| 11 | 土師器甕 | 10.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 52 | |
| 12 | 土師器甕 | 16.0 | 7.5 | 9.8 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | | 61、63、64、73、91、94、95、99、239 | |
| 13 | 土師器甑 | — | 11.4 | — | 底部30 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 6、143 | 底部5孔 |
| 14 | 須恵器甕 | 21.0 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 灰 褐 色 | | 35、166、186、187、196、203、213 | |
| 15 | 砥石 | | | | | | | | 211 | 凝灰岩 |

## 第231表　D058出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 16.2 | 8.6 | 4.8 | 70 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 206、207、211 | 黒色処理 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.0 | 4.3 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 19、127、136、209 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.2 | 3.9 | 30 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 56、139、140、144、145、150、158 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.2 | 4.0 | 60 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 234、241、243、245 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 5.6 | 4.0 | 80 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 208、227 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 7.2 | 3.7 | 60 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 210、247、248 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.6 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 162、184、185、203、245 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.3 | 4.4 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 230、245 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.0 | 3.2 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 44、100、245 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 15.8 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 82、174 | 内面ヘラ磨き |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 30 | 墨書 |
| 12 | 土師器鉢 | 16.6 | — | — | 口縁30 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 211、221 | |
| 13 | 土師器甕 | 20.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 225 | |
| 14 | 土師器甕 | 16.8 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 8、113、223、224 | 刷毛目 |
| 15 | 土師器甕 | 20.4 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 146、232、244 | |
| 16 | 土師器甕 | 21.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 71、117、159、195、222、233、248 | |
| 17 | 土師器甕 | — | 4.4 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 213、237、238、239、242、245 | |
| 18 | 紡錘具 | | | | | | | | 205 | 凝灰岩 |

## 第232表　D062出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.4 | 3.6 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 53 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.8 | 3.4 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 56 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.1 | 3.9 | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 70 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 7.2 | 4.4 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 30、61、77、87 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 7.2 | 3.4 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 45 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 16.0 | 8.2 | 3.8 | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 71、77、87 | 内面ヘラ磨き |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 17.6 | 9.2 | 5.3 | 30 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 78、80 | 内面ヘラ磨き |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 17.2 | 8.8 | 5.3 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 52 | 内面ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 35 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 10 | 土師器甕 | 12.0 | — | — | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 77 | |
| 11 | 土師器甕 | 15.2 | — | — | 口縁70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 43、51、65、66、73、87 | |
| 12 | ロクロ土師器皿 | 13.1 | 7.3 | 2.4 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 48 | |
| 13 | 土師器甕 | 12.8 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 46、50 | |
| 14 | 土師器甕 | 19.8 | — | — | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 1、24、40、60、62、63、64、67 | |
| 15 | 土師器甕 | 22.2 | — | — | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 83、84 | |

## 第233表　D108出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 10.6 | 5.4 | 4.0 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 24、27、28、52、53、55、60 | 黒色処理 |
| 2 | 土師器甕 | 19.5 | — | — | 口縁40 | 石英粒 | 褐　色 | | 51、57、58、59、62 | |

## 第234表　D109出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.7 | 8.8 | 3.6 | 30 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 26、88 | |
| 2 | 土師器甕 | 12.1 | — | — | 20 | 長石粒 | 暗赤褐色 | | 17、129、175 | |
| 3 | 土師器甕 | 9.9 | 4.1 | 10.0 | 完形 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 207 | |
| 4 | 土師器甕 | 13.8 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 褐　色 | | 24、38、89、203、204、205、211、214 | |
| 5 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 口縁30 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 32、68、69、98、99、109、142、199 | |
| 6 | 土師器甕 | 20.5 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 橙　色 | | 34、36、50、107、151、152、198、206 | |
| 7 | 土師器甕 | 23.8 | — | — | 30 | 石英粒 | 褐　色 | | 47、54、80、81、82、110、111、120 | |
| 8 | 土師器甕 | — | — | — | 胴部 | 長石粒 | 褐　色 | | 91、100、154、163、169、172、267 | |
| 9 | 土師器甕 | — | 7.5 | — | 底部 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 160、249、252、254、277、278、301 | |

## 第235表　D110出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.8 | 7.8 | 4.5 | 完形 | 長石粒 | 灰 白 色 | | 522 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.7 | 3.9 | 完形 | 石英粒 | 灰　色 | | 508 | |
| 3 | 須恵器坏 | 13.1 | 7.0 | 4.0 | 30 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 259、265、430、467 | |
| 4 | 須恵器盤 | 18.9 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 灰　色 | | 147、370 | |
| 5 | 須恵器盤 | — | 13.9 | — | 底部30 | 雲母粒 | 灰　色 | 右 | 52 | |
| 6 | 須恵器瓶子 | — | 9.5 | — | 底部60 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 349、505、506、507 | |
| 7 | 須恵器瓶子 | — | — | — | 底部30 | 石英粒 | 灰　色 | 右 | 381 | D108-9、29と接合 |
| 8 | 土師器甕 | 20.3 | — | — | 口縁30 | 雲母・長石粒 | 赤 褐 色 | | 102、103、195、431、448、516 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 土師器甕 | 23.7 | — | — | 口縁 | 石英粒 | 褐　色 | | 23、165、209、211、219、221、224 | |
| 10 | 土師器甕 | — | 8.1 | — | 底部 | 石英粒 | 暗 褐 色 | | 12、69、97、99、101、106、123、136 | 底部木葉痕 |
| 11 | 須恵器甕 | — | 16.6 | — | 底部50 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 29、31、33、109、164、213、313 | |
| 12 | 須恵器甕 | — | 20.6 | — | 底部 | 雲母・長石粒 | 灰 褐 色 | | 45、277、380、510、515、519、520 | |
| 13 | 砥石 | | | | | | | | 394 | 砂岩 |

## 第236表　D111出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 10.6 | 5.2 | 4.6 | 60 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 4、32、33、44、51 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 9.2 | 5.3 | 4.5 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 251 | 黒色処理 |
| 3 | 須恵器坏 | 13.6 | 7.5 | 4.0 | 50 | 石英粒 | 灰　色 | 左 | 9、14 | |
| 4 | 土師器甕 | 19.5 | — | — | 口縁20 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 37、43 | |
| 5 | 土師器甕 | 21.4 | — | — | 口縁50 | 雲母・長石粒 | 暗灰黄色 | | 24、40、45、46、47 | |
| 6 | 土師器甕 | 17.8 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 褐　色 | | 13、28 | |
| 7 | 土師器甕 | 20.8 | — | — | 底部欠 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 23、26、27、30 | |

## 第237表　D112出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 21.1 | 4.3 | 28.0 | 30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 5、13、19、21、22、25、26、28 | |

## 第238表　D114出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 11.6 | 7.8 | 4.4 | 完形 | 精　緻 | 明赤褐色 | | 50 | |
| 2 | 土師器高台坏 | 14.2 | — | — | 高台欠 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 51 | 内外面ヘラ磨き |
| 3 | 紡錘具 | | | | | | | | 69 | 石製 |

## 第239表　D115出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 14.2 | — | 3.4 | 70 | 砂　粒 | 褐　色 | | 73、77、101 | 線刻、ヘラ磨き |
| 2 | 須恵器坏 | 13.7 | 8.8 | 3.8 | 完形 | 石英粒 | 灰　色 | 右 | 76、78 | 線刻 |
| 3 | 須恵器蓋 | — | — | — | 30 | 雲母粒 | 灰　色 | 右 | 1 | |
| 4 | 土師器甕 | 12.0 | — | — | 口縁80 | 長石粒 | 暗赤褐色 | | 9、26、82、83 | |
| 5 | 土師器甕 | 23.4 | — | — | 口縁20 | 雲母・石英粒 | 明 褐 色 | | 68 | |

## 第240表　D116出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 6.6 | 4.4 | 60 | 砂　粒 | 黄 橙 色 | 右 | 41 | 墨書「益」 |
| 2 | 土師器蓋 | 12.5 | — | 5.5 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 126 | |
| 3 | 須恵器坏 | 13.9 | 7.3 | 4.2 | 50 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 45、174 | |
| 4 | 須恵器坏 | 13.4 | 8.5 | 4.6 | 40 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 34、52、54、68、92、133、159 | |
| 5 | 土師器甕 | 22.1 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 17、19、21、25、26、27、28、29、30 | |
| 6 | 土師器甕 | 22.2 | 6.7 | 30.8 | 50 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 173 | |
| 7 | 砥石 | | | | | | | | 75 | 凝灰岩 |
| 8 | 砥石 | | | | | | | | 76、77 | 凝灰岩 |

## 第241表　D125出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 14.5 | — | 3.5 | 20 | 精　緻 | 赤　色 | | 6、53 | |
| 2 | 土師器甕 | 24.8 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 8、16、17、18、19、21、24、25、26 | |
| 3 | 土玉 | | | | | | | | 36 | |

## 第242表　D191出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.8 | 8.0 | 3.8 | 20 | 砂　粒 | 灰　色 | | 6 | |

## 第243表　D198出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 9.1 | 4.8 | 70 | 長石粒 | 暗 褐 色 | | 5、35、37 | |

## 第244表　2群B出土文字資料一覧

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 生 | 4b | D055 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 18 | |
| 2 | 生ヵ | 5 | D045 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 4 | |
| 3 | 提生 | 4b | D055 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 20 | 黒色処理 |
| 4 | 継 | 4b | D054 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 7 | |
| 5 | 太 | 4b | D055 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 16 | 黒色処理 |
| 6 | 太 | 4b | D055 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 17 | |
| 7 | 廓 | 4b | D054 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 8 | |
| 8 | 乙山 | 3 | D048 | 須恵器坏 | 体部外面左 | 9 | |
| 9 | 草田 | 3 | D057 | 須恵器盤 | 底部外面 | 10 | |
| 10 | ㊋ | 4b | D055 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 15 | |
| 11 | 器 | 4a | D043 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 3 | |
| 12 | 器 | 4a | D043 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 6 | 黒色処理 |
| 13 | 益 | 3 | D116 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 1 | |
| 14 | 子 | 4a | D043 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 4 | 黒色処理 |
| 15 | 子 | 4b | D054 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 11 | |
| 16 | 不　明 | 4b | D055 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 19 | |

## 第5節　2群Cグループの遺構と遺物

### 1　概　観（第179・180図）

2群Cグループは歴史時代2群の西端に位置し、古墳時代3群と重なる。北側に寺谷津を臨み、西側は寺谷津の小支谷に臨んでいる。標高は約23mを測り、寺谷津の沖積層面との比高は約10mである。東側は歴史時代2群Bグループに接し、2群Bグループとの分割は部分的に不明瞭な点もあるが、僅かな遺構空白域を挟んでいる。南側は歴史時代2群E・Fグループと隣接し、それぞれ10～20mの遺構空白域がある。また、2群Eグループでは建物配置にかなり強い規制が窺えるが、本グループではあまり強い規制は看取できない。しかし、前述した2群Aグループや2群Bグループと比較すると、建物はまとまって分布し、密度も高い一群である。特に掘立柱建物は棟数は少ないながらも1箇所に集中して建てられている。検出できた遺構は竪穴住居跡43軒、掘立柱建物跡11棟、土壙2基である。特に、掘立柱建物は本グループの東寄りに集中する傾向がある。なお、本グループ北西隅に未調査部分があり、この部分に遺構が存在するのは確実であり、D282・D283・D284の3軒の竪穴住居もけっして隔絶した存在ではないと考えられる。

### 2　遺　構（第181図、第245～247表、PL.204～226、図版126～135）

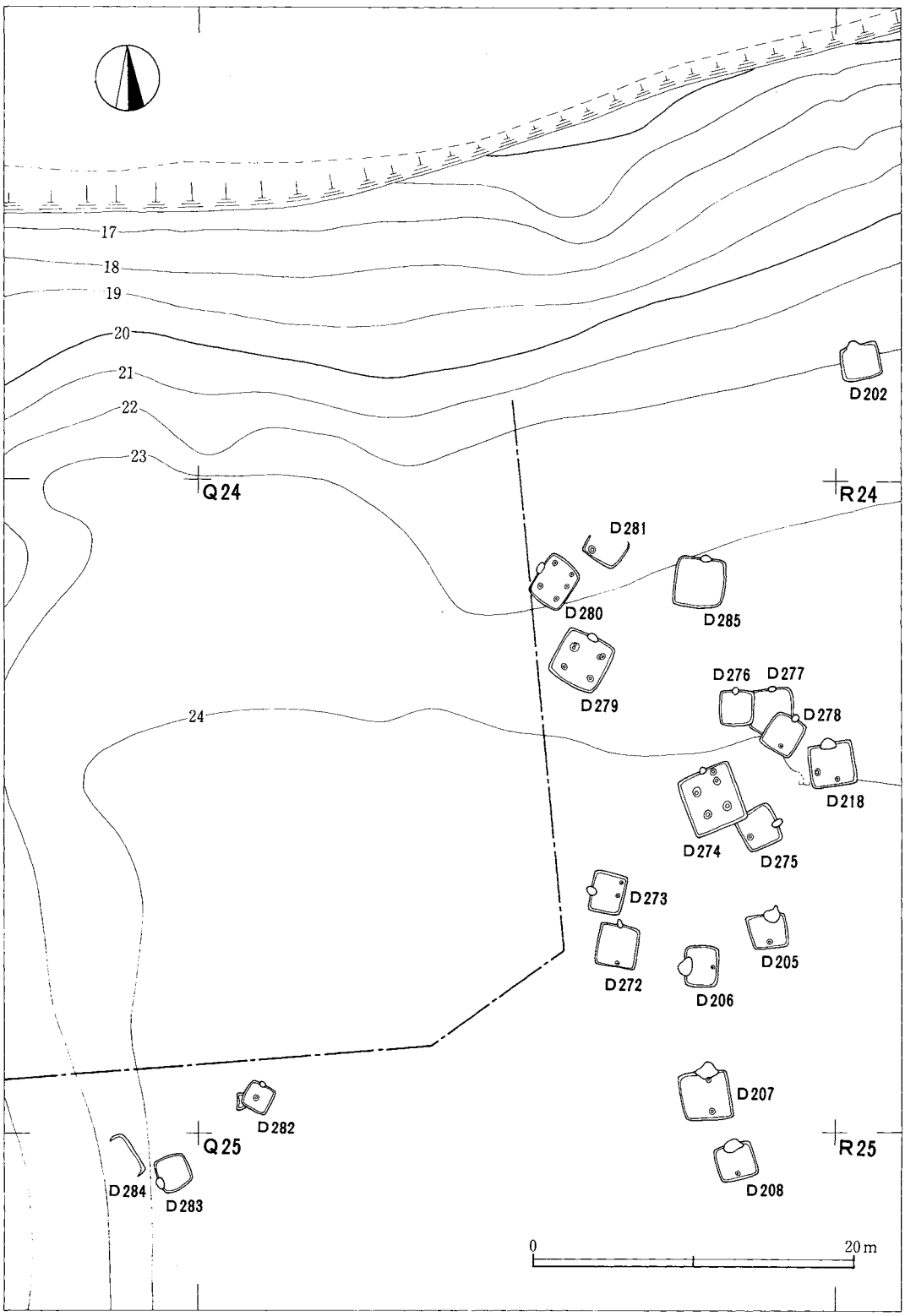
2群Cグループで検出された遺構は竪穴住居跡43軒、掘立柱建物跡11棟、土壙2基である。遺構の分布は先述したように、比較的まとまっていて、掘立柱建物が東寄りに集中する。西側は未調査部分があり、遺構が存在する可能性も残されているが、現在までに掘立柱建物は検出できていない。また、D282～D284が他の住居から離れて位置するが、未調査部分に竪穴住居が存在することは確実と考えられ、これらの住居も本グループに含めた。

竪穴住居跡は基本的にカマドを寺谷津に面する壁に設置するものと、それと直交する壁に設置するものがあるが、本グループでは寺谷津に面する壁にカマドを設置する住居が圧倒的に多い。D283は小支谷に向けてカマドを設置するが、これも含めて29軒が該当する。カマドを西壁に設置する住居は先のD283も含めて6軒、東壁に設置する住居が3軒である。住居の主軸方向、カマドの設置場所に時期的な偏りはなく、D022・D023やD029・D030のように隣接する同時期の住居でもカマドの設置壁が90°異なる場合もある。住居の規模は一辺が3～4mの住居がほとんどで、床面積にすると11～13m²に集中する。最大はD023の5.1m×4.7mで、最小はD021で、2.4m×2.2mである。竪穴住居の床面積の合計は各時期を通してあまり大きな変化はない。住居構造はE・F型が主体となり、各時期に採用されている。面積的に大きいのはやはりB・C・D型の住居で、B・D型は4b期以前に僅かに採用されている。D型としたのはD023だけであるが、典型的な壁柱穴はなく、住居対角線上の4本の柱穴に加えて、住居コーナーの壁溝

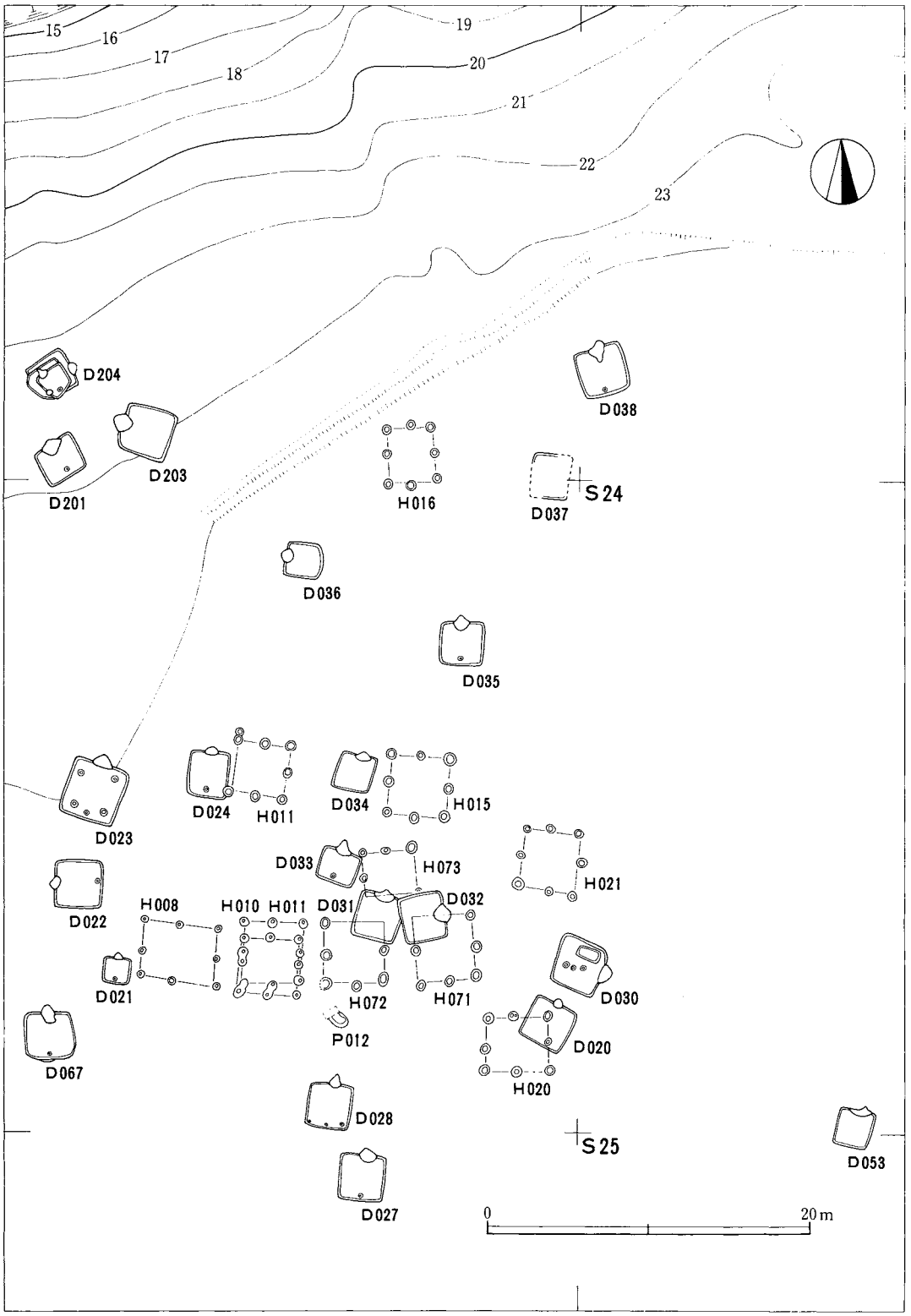
内に小さなピットを配置している。なお、D023の主柱穴は建て替えが行われている。D型住居に含めなかったが、D031は住居コーナーの壁溝内に小さなピットが配置されている。B型はD279・D280の2軒で、柱穴は共に直径0.3～0.4mのしっかりしたものである。なお、D279のカマド側のp1・p3は建て替えが行われている。C型の住居はD024の1軒だけである。白幡前遺跡ではC型の住居が3軒確認されており、他の2軒は1群BグループのD164、2群EグループのD073・D074がある。D164は住居対角線上に4箇所の柱穴を有するが、他の住居は柱穴をもたず、出入口施設だけがある住居である。C型の住居は時期的にも限定され、すべて5～6期の構築である。この他の住居内の施設はD030の内部に1.8m×1.1mの方形の施設がある。床面からの深さは0.3mを測り、底面に焼土が堆積している。調査時においてP015として調査されており、D030と何等かの関係を有すると考えられるが、同時に機能していたか疑問も残るとコメントされている。同様の施設はD031にも存在し、D031の例でも住居と軸方向を揃えるが、D031では焼土の堆積はみられない。D030では住居と方形の掘り込みが同時に埋没した状況が観察できる。

カマドは多くの住居が北壁に設置している。本グループでは住居コーナーにカマドを設置するG型の住居は存在しないが、D205・D283はかなりコーナーに近い位置にカマドを設置している。火床部が完全に壁外へ出ているのはD033だけであるが、D028は縦に並んで2箇所の火床部が確認できた。カマドを中心とした遺物の出土状況はD022で須恵器甕2個体が火床部底面からかなり浮いた位置に詰め込まれている。D023・D028ではロクロ土師器坏が逆位に重ねられている。D028は2箇所の火床部の中間に位置する。なお、D067には多量の貝が廃棄されていた。

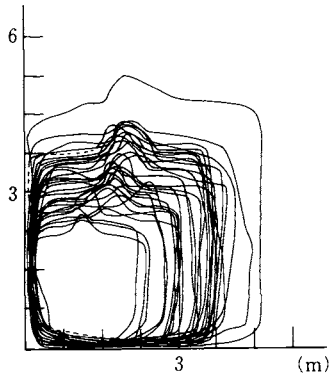
掘立柱建物跡は11棟が検出できた。H016が少し離れて位置するが、他の10棟は1箇所に集中し、H010・H011はほぼ同じ場所で重複している。H073は竪穴住居跡と重複し、規模を確定できないが、すべての建物が2間×2間の側柱構造で、本グループには3間×2間の建物は存在しない。建物は桁行長と梁行長にあまり差がなく、平面形は正方形に近い建物がほとんどである。桁行長・梁行長とも4～5mに納まり、最大でもH020の4.9mである。長軸方向は竪穴住居跡に近い方向を指し、略南北かそれと直交する方向である。柱間寸法は2.1m～2.4mとなる建物が多いが、完数尺で整った建物はない。堀方は直径0.8m前後の円形で、確認面から0.5m前後の深さがある。竪穴住居跡と重複する建物はH011・H020・H071・H072・H073の5棟があるが、竪穴住居跡の調査では、掘立柱建物跡との新旧関係は捉えられていない。H071・H072はD031・D032の埋土中で堀方を確認することが出来ず、また、竪穴住居床面にも堀方の痕跡は残されていない。H020はD029の床面で堀方を検出することが出来た。どの建物も遺物が非常に少ないが、ロクロ土師器皿の破片が含まれているのがH016だけで、H011・H015には内面黒色処理されたロクロ土師器坏が、H008・H009・H072には土師器甕1類の破片が含まれてい



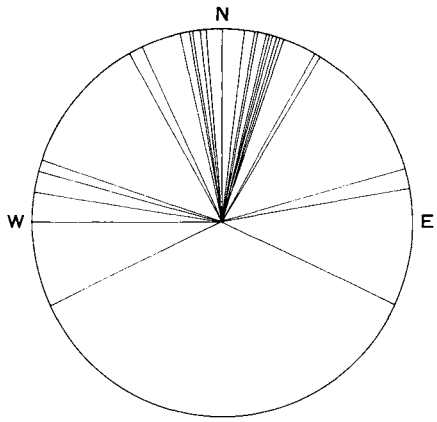

第179図　歴史時代２群Ｃグループ全体図 1



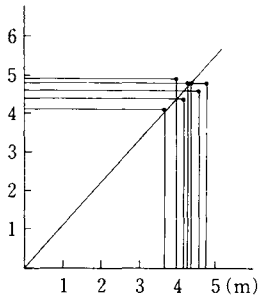

第180図　歴史時代２群Ｃグループ全体図　2



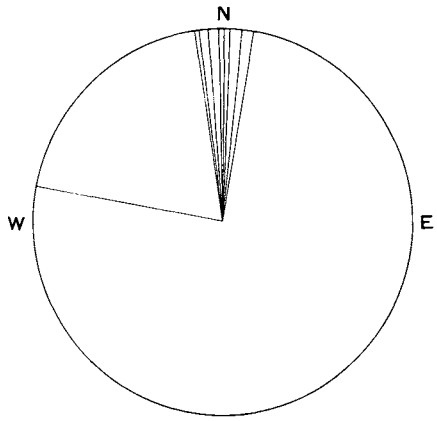

竪穴住居の規模




竪穴住居の主軸方向




掘立柱建物の規模




掘立柱建物の長軸方向

第181図　2群Cグループ建物比較

る。掘立柱建物は時期決定の材料を欠くが、離れて位置するH016の周辺の竪穴住居は2期から5期に属するものであり、H016も5期以前の構築が考えられる。他の10棟は集中して立てられ、掘立柱建物群の中に位置する竪穴住居跡は6・7期に属する。遺物量の多い竪穴住居はD023・D024・D031・D207があり、D031がH072と重複している。しかし、竪穴住居跡の遺物量から単純に掘立柱建物の時期を決定することはできない。もう一点、4b期以前の竪穴住居が掘立柱建物群と重複する位置にないことも指摘しておきたい。

土壙は2基を紹介する。P012はH072の南側に位置する土壙で、1.9m×1.1mの略長方形を呈している。埋土は確認面に近いレベルで焼土・炭化物を多く含み、短期間の埋め戻しが想定できる。P015はD030の床面で検出した土壙で、前述したようにD030と同時に埋没している。規模は1.8m×1.1mの方形を呈し、長軸方向もD030と揃えている。埋土は全体にロームブロックを多く含み、底面に近いレベルで焼土粒を多く含んでいる。遺物は埋土7～9層にかけて出

土している。

## 第245表　2群C竪穴住居一覧

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D021 | 方　形 | 2.4×2.2 | 5.28 | N－0° | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D022 | 方　形 | 4.0×3.8 | 15.20 | N－90°－W | 西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4b | |
| D023 | 方　形 | 5.1×4.7 | 23.97 | N－13°－E | 北中央 | なし | 4 | 6 | あり | 全周 | 4b | |
| D024 | 方　形 | 3.6×3.5 | 12.60 | N－7°－E | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4 | |
| D027 | 方　形 | 3.7×3.7 | 13.69 | N－4°－E | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 2 | |
| D028 | 方　形 | 3.7×3.6 | 13.32 | N－11°－E | 北中央 | なし | 2 | なし | あり | なし | 7 | |
| D029 | 方　形 | 3.9×3.3 | 12.87 | N－26°－E | 北東中央 | なし | 4 | なし | なし | 全周 | 7 | |
| D030 | 方　形 | 4.0×3.9 | 15.60 | N－115°－E | 東中央 | なし | なし | 4 | なし | 全周 | 7 | |
| D031 | 方　形 | 3.8×3.8 | 14.44 | N－17°－E | 北中央 | なし | なし | 5 | なし | 全周 | 6 | |
| D032 | 方　形 | 4.0×3.6 | 14.40 | N－80°－E | 東中央 | なし | なし | 1 | なし | 全周 | 5 | |
| D033 | 方　形 | 3.1×2.8 | 8.68 | N－18°－E | 北中央 | なし | なし | 2 | なし | あり | 7 | |
| D034 | 方　形 | 3.1×2.9 | 8.99 | N－19°－E | 北の北東コーナー寄り | なし | なし | なし | なし | 全周 | 7 | |
| D035 | 方　形 | 3.4×3.3 | 10.88 | N－0° | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | | |
| D036 | 方　形 | 3.1×2.9 | 8.99 | N－75°－W | 西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 4 | |
| D037 | 方　形 | 4.0×3.4 | 13.60 | N－80°－W | 不明 | なし | なし | なし | なし | あり | 5 | |
| D038 | 方　形 | 4.0×3.9 | 15.60 | N－13°－W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 3 | |
| D053 | 方　形 | 3.3×3.1 | 10.23 | N－18°－E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 4a | |
| D067 | 方　形 | 3.9×3.8 | 14.82 | N－0° | 北中央 | なし | 1 | 1 | あり | 全周 | 3 | 南壁中央に張り出し有り。 |
| D201 | 方　形 | 3.4×3.1 | 10.54 | N－30°－W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4a | 南東壁中央に張り出し有り。 |
| D202 | 方　形 | 3.2×2.6 | 5.80 | N－10°－W | 北西コーナー寄り | なし | なし | なし | なし | なし | 5 | |
| D203 | 方　形 | 4.1×4.0 | 16.40 | N－71°－W | 西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 4b | |
| D204A | 方　形 | 2.5×2.4 | 6.00 | N－43°－W | 北西の西寄り | なし | なし | なし | あり | あり | 7 | |
| D204B | 方　形 | 2.8×2.6 | 7.28 | N－127°－W | 南西の南寄り | なし | なし | なし | なし | なし | 7 | |
| D204C | 方　形 | 3.1×3.0 | 9.30 | N－52°－E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 7 | |
| D205 | 方　形 | 3.1×2.8 | 8.68 | N－6°－W | 北の東寄り | なし | なし | なし | あり | なし | 2 | |
| D206 | 方　形 | 3.2×2.5 | 8.00 | N－90°－W | 西中央 | あり | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D207A | 方　形 | 3.8×3.7 | 14.06 | N－6°－W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 6 | |
| D207B | 方　形 | 2.5×2.5 | 6.25 | N－0° | 北中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 7 | |
| D208 | 方　形 | 3.1×3.0 | 9.30 | N－5°－W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 6 | |
| D218 | 方　形 | 3.4×3.4 | 11.56 | N－9°－W | 北中央 | なし | なし | 1 | あり | 全周 | 4a | |
| D272 | 方　形 | 3.6×3.1 | 11.16 | N－0° | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 5 | |
| D273 | 方　形 | 3.2×2.9 | 9.28 | N－81°－W | 西中央 | なし | なし | 1 | あり | 全周 | 5 | |
| D275 | 方　形 | 3.6×3.3 | 11.88 | N－74°－E | 東中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 6 | |
| D276 | 方　形 | 3.0×2.8 | 8.40 | N－6°－W | 北中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 4b | |
| D277 | 方　形 | 3.3×3.2 | 10.56 | N－0° | 北中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 4b | |
| D278 | 方　形 | 2.9×2.9 | 8.41 | N－29°－E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 4b | |
| D279 | 方　形 | 4.5×4.0 | 18.00 | N－32°－E | 北東中央 | なし | 4 | 3 | あり | 全周 | 4b | |
| D280 | 方　形 | 4.1×不明 | － | N－71°－W | － | なし | 4 | なし | あり | あり | 2 | |
| D281 | 方　形 | 3.0×不明 | － | N－11°－E | 北中央 | あり | なし | なし | なし | なし | 7 | |
| D282 | 方　形 | 2.4×2.4 | 5.76 | N－15°－E | 北中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | | |
| D283 | 方　形 | 2.5×2.2 | 5.50 | N－115°－W | 西の南寄り | なし | なし | なし | なし | なし | 3 | |
| D284 | 方　形 | 3.6×？ | － | － | － | － | － | － | － | － | | |
| D285 | 方　形 | 4.1×3.9 | 15.99 | N－14°－E | 北中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 4a | |

第246表　2群C掘立柱建物一覧

| No. | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H008 | 2×2 | 側柱 | 4.8 | 4.4 | 2.0～2.4 | 21.12 | 0.7 | 0.4～0.6 | N－9°－E | なし | | |
| H009 | 2×2 | 側柱 | 4.8 | 4.8 | 2.3～2.5 | 23.04 | 0.8～1.0 | 0.4～0.5 | N－0° | なし | | |
| H010 | 2×2 | 側柱 | 4.4 | 4.2 | 2.2 | 18.48 | 0.8 | 0.4～0.6 | N－88°－W | なし | | |
| H011 | 2×2 | 側柱 | 4.2 | 4.0 | 1.9～2.1 | 16.80 | 0.7 | 0.2～0.7 | N－80°－W | なし | | |
| H015 | 2×2 | 側柱 | 4.6 | 4.4 | 2.3 | 21.16 | 0.7～0.9 | 0.4～0.8 | N－81°－W | なし | | |
| H016 | 2×2 | 側柱 | 4.1 | 3.7 | 1.6～2.0 | 15.17 | 0.6～0.7 | 0.3～0.4 | N－5°－W | なし | | |
| H020 | 2×2 | 側柱 | 4.9 | 4.0 | 1.8～2.5 | 19.60 | 0.8 | 0.5 | N－2°－E | なし | | D029と重複。 |
| H021 | 2×2 | 側柱 | 4.8 | 4.3 | 1.9～2.1 | 20.64 | 0.6～0.7 | 0.5～0.6 | N－5°－E | なし | | |
| H071 | 2×2 | 側柱 | 4.8 | 4.5 | 2.4 | 21.60 | 0.8 | 0.6～0.7 | N－9°－W | なし | | D032と重複。 |
| H072 | 2×2 | 側柱 | 4.8 | 4.4 | 2.2～2.4 | 21.12 | 0.7～0.8 | 0.4～0.6 | N－2°－W | なし | | D031と重複。 |
| H073 | 2以上×2 | 側柱 | 3.7以上 | 4.1 | 2.0 | —— | 0.6～0.8 | 0.3～0.5 | N－7°－W | なし | | D031・032・033と重複。 |

第247表　2群C土壙一覧

| No. | プラン | 規　模 | 深さ | 軸方向 | 機能 | 時期 | 埋土の状況 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P012 | 略方形 | 1.9×1.1 | 0.5 | N—40°—W | 不明 | | 上層は焼土粒・炭化粒を含む。 | |
| P015 | 方　形 | 1.8×1.1 | 0.9 | N—70°—W | | | 焼土粒を多く含む。 | D030と重複。遺物は下層に集中。 |

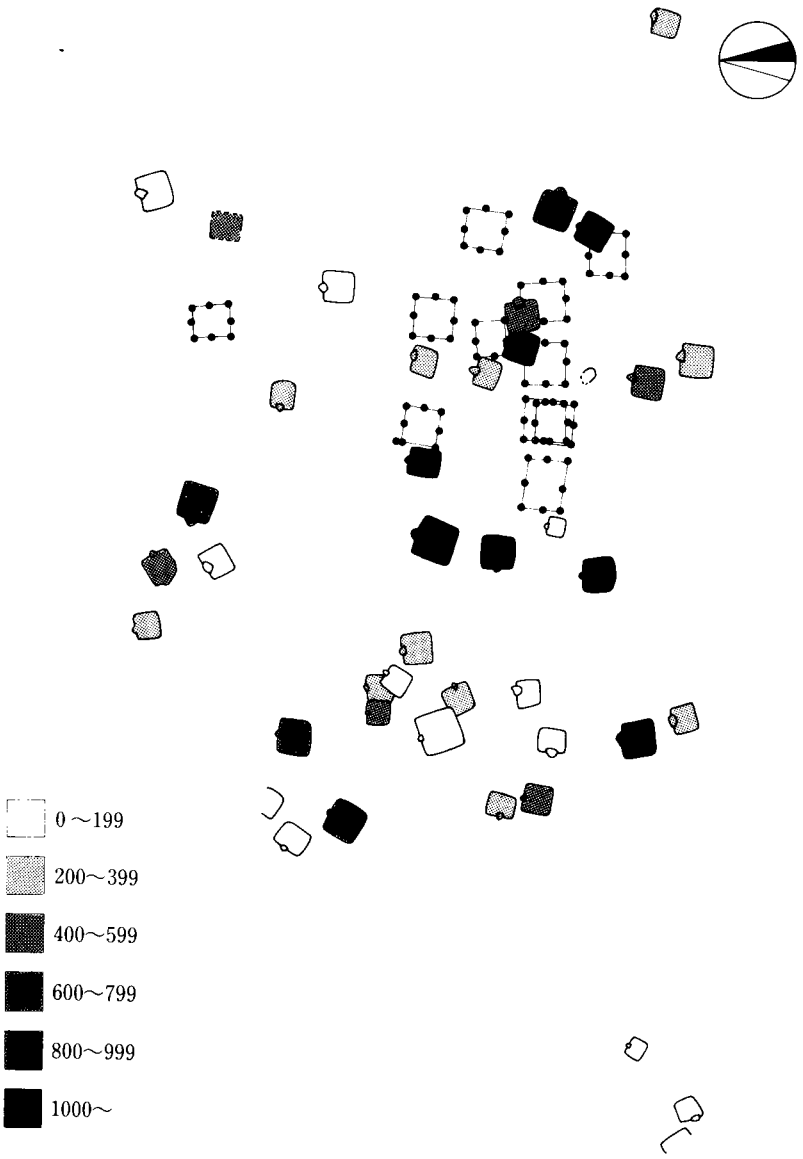
## 3　遺　物（第182図、第248～288表、PL.227～253、図版136～147）

竪穴住居跡から出土した遺物はほとんどが廃棄されたものである。このうち特に遺物が多い住居はD023・D024・D031・D207で、いずれも1,000点以上の遺物が出土している。D023は面積的に他の住居より広いが、それでも1㎡当り約54点の遺物が出土したことになる。

**D021**　出土点数は多くないが、カマド左側から遺物実測図2の土師器甕が出土している。ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈し、立ち上がりの角度は69°となる。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施している。

**D022**　遺物はカマド周辺からの出土頻度が高い。カマド内からは遺物実測図29・31の須恵器甕が出土し、カマド左側から南壁にかけて5・7・27が並んで出土した。ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がる2や口縁部が外反する1・3がある。底部は基本的に回転糸切り後に回転ヘラ削りを施すが、7は静止ヘラ削りである。皿は有高台の製品と共に無高台の製品が伴っている。坏・皿類には墨書されたものが多く、「太」・「井」・「田生」となる。土師器甕は2類が卓越し、小形の製品も多い。須恵器甕は3類である。鉄製品鋏がある。

**D023**　遺物の量は比較的多く、遺物実測図6・7・12・44はカマド内から、36はカマド右脇から出土している。カマド内の状況は、スサ入り粘土を柱状に固め、周囲に甕の破片を貼付けた支脚上にロクロ土師器坏を逆位に重ねている。ロクロ土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がる




第182図　歴史時代２群Ｃ遺物の出土量図

製品と口縁部が僅かに外反する製品があるが、体部の立ち上がりの角度は50～55°に納まる。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。また、ロクロ土師器皿を伴っており、高台が付く１類と無高台の４類がある。須恵器坏は33・34が高台が付いた製品で、33は底部内外面を、35は天井部内面を転用硯に利用している。坏・皿類には墨書されたものが多く、釈文は「太」・「家」・「麿」・「□坏」となる。土師器甕は２類が主体的である。須恵器甕は４類がある。鉄製品は刀子・鉄鏃・鎌がある。

**D024**　全体的な傾向として住居中央から南壁にかけて遺物の量が少ない。カマド内からは遺物

実測図24が出土した。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するものが主体的で、体部の立ち上がりの角度は50°前後となる。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施している。なお、ロクロ土師器皿を伴っている。墨書は「太」が多く、9・17・18は「太」を線刻している。この他には「満」がある。土師器甕は2類が主体的である。鉄製品は刀子がある。

**D027**　供膳形態は須恵器が卓越し、ロクロ土師器坏は図示できるものがない。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、2は器高3.5cmと身が浅い。底部は2が全面回転ヘラ削りを施し、3は底部・体部下端とも静止ヘラ削りを行う。なお、須恵器盤を伴っており、盤の底部内面に朱墨痕があり、転用硯として利用されている。土師器甕は3類と小形の1類がある。27は胴部上位にヘラ削り痕を残さず、下位に横位のヘラ削りが観察できる。

**D028**　1・3・7・10がカマド内から出土し、このうち1は支脚上に逆位に重ねられていたものである。ロクロ土師器坏は小形で粗雑な調整の製品である。底部は回転糸切り後、回転ヘラ削りを施している。土師器甕は口唇部が内側に折れ曲がる6類が卓越している。

**D029**　遺物の量は傾向として北東壁から南東壁に向けて減少する。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するものが主体的で、体部の立ち上がりの角度は45°前後に集中する。底部は回転糸切り後、回転ヘラ削りを施している。ロクロ土師器皿は少なく、無高台の11が図示できただけである。土師器甕は口唇部が内側に折れ曲がる6類が主体的で、16は土師器甑である。この他17の灰釉の手付き小瓶がある。

**D030**　ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するもので、体部の立ち上がりの角度も50°以下である。底部は回転糸切り後、回転ヘラ削りを施している。5は内面黒色処理されている。また、高台坏4類を伴っている。土師器甕は口唇部が内側に折れ曲がる6類が主体的である。鉄製品は刀子・鉄鏃がある。

**D031**　遺物は比較的多く、カマド内から遺物実測図1・16が出土した。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50°前後である。底部は回転糸切り後、ほぼ全面に回転ヘラ削りを施している。ロクロ土師器皿も伴っているが、図示できるものは少ない。無高台の皿が多く、底部は全面回転ヘラ削りを行うものが主体的であるが、11は静止ヘラ削りを施している。墨書は7が「万」、8は「堤」、10は「生」である。土師器甕はほとんどが2類で、小形の製品も含まれる。須恵器甕は4類と胴部にヘラ削りを施す6類がある。なお、灰釉陶器の椀を伴っている。鉄製品は刀子・鉄鏃がある。

**D032**　ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は51～56°となる。底部は回転糸切り後、周縁部に回転ヘラ削りを施している。また、ロクロ土師器皿を伴っている。坏・皿類には墨書されたものが多く、釈文は「圓」・「太」・「大家」・「廓」・「田生」となる。12は同一個体に2種の字体で「圓」を書いている。

**D033**　ロクロ土師器坏は小形で粗雑な調整の製品で、体部の立ち上がりの角度は40°前後となる。

底部は3が回転糸切り無調整で、1・2はヘラ削りを施している。6は墨書されるが、釈文は不明である。土師器甕は口唇部が内側へ折れ曲がる6類がある。なお7灰釉陶器である。鉄製品は鉄鏃がある。

**D034** 遺物はかなり少ないが、遺物実測図3・7がカマド内から出土した。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は1が回転糸切り無調整、2は底部を欠損するが、体部下端は静止ヘラ削りを施している。土師器甕は口唇部が内側に折れ曲がる6類で、口縁部もあまり外反しない。須恵器甕は4類がある。

**D035** 遺物は非常に少なく、須恵器坏2点と紡錘具・須恵器甕の破片が図示できただけである。3は石製の紡錘具である。

**D036** ロクロ土師器坏は2～4のような、身の浅い製品が多く、3は底部・体部下端とも静止ヘラ削りを行っている。また、体部が直線的に立ち上がる1や内彎気味に立ち上がる5があり、1は底部一方向にヘラ削りを施している。5は内面黒色処理され、「太」と墨書される。須恵器坏は1点が図示できた。体部は直線的に立ち上がり、器高は4.5cmを測る。体部下端は静止ヘラ削りである。土師器甕は1・2類が主体的で、2類の小形の製品も含まれる。

**D037** 大きく破壊されているにもかかわらず比較的多くの遺物が出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50°前後となる。底部は回転糸切り後、前面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施し、体部下端も回転ヘラ削りを行うものが多い。但し、体部下端に静止ヘラ削りを施したものも7・8等がある。また、ロクロ土師器皿を伴っており、底部周縁ヨコナデの2類と無高台の4類がある。坏・皿類には墨書されたものがあり、9・10は「入」である。土師器甕は2類が卓越している。

**D038** 遺物は非常に少ない。ロクロ土師器坏は1点が図示できただけで、箱形の器形を呈している。立ち上がりの角度は64°となり、底部は全面回転ヘラ削りを施している。須恵器坏は底部を欠損するが、箱形に近い器形と考えられる。土師器甕は口唇部を丸く納めるものが多く、4はロクロ調整の製品である。

**D053** カマド前面から北コーナーにかけて遺物が集中している。土師器坏は1が図示できた。口縁部はほぼ直立し、体部は横位のヘラ削りを施している。内面は横位のヘラ磨きを行う。ロクロ土師器坏はバラエティがある。6・7は体部が内彎気味に立ち上がり、口縁部が僅かに外反するもので、6類に該当する。底部・体部下端とも静止ヘラ削りを行うものが多い。3・5は口縁部が外反するもので、底部は回転糸切り後周縁部回転ヘラ削りを施す。2点とも内面黒色処理される。墨書されるものが4点あり、7・9は「廓」、6は「麿」、8は「太」となる。土師器甕は比較的胴の張った製品である。

**D067** 遺物は非常に多く出土している。土師器坏は1・3類がある。1は丸底の坏で、口縁部が僅かに外反する。体部は横位のヘラ削りを施している。2は口縁部がほぼ直立し、内面にヘ

ラ磨きを施している。ロクロ土師器坏は箱形ないし箱形に近い器形を呈し、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを行うものが一般的であるが、7は静止ヘラ削りである。11は体部が内彎気味に立ち上がるもので、口径15.0cmとやや大振りである。底部・体部下端とも静止ヘラ削りである。6とともに内面は黒色処理されている。また、高台坏1類を伴っている。14は内面黒色処理される。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がるものと、箱形の器形を呈するものがある。この中で、体部下端に若干丸みを持つ20・22は底部回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りの製品である。また、小振りの高台坏を伴っている。この他27の盤は底部内面を転用硯として利用している。坏類には墨書されたものが多く、11は「太」、6は「新家古」、23は「文」、26は「□□天□□」となる。特に〝天〟は則天文字と解釈でき、特異な例と言える。土師器甕は2・3・5類があるが、遺物の出土量を考えると図示できた点数が少ない。34・35は土師器甑である。須恵器甕は3・4類があるが、40は甑の可能性が高い。なお、41は須恵器甕の底部を利用した紡錘具である。鉄製品は刀子がある。

なお、住居内に多量の貝が廃棄されている。廃棄された貝は以下の通りである。

| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イボキサゴ | *Unbonium (Suchium) moniliferum* | 2 | 66 | 26 | 1 | 101 | 338 | 534 |
| ウミニナ | *Batillaria spp* | 2 | 7 | 4 | 1 | | | 14 |
| ツメタガイ | *Neverita (Glossaulax) didyma* | 1 | | | | | | 1 |
| アラムシロ | *Hinia festiuo* | 1 | | | | | | 1 |
| ハマグリ | *Meretrix lusoria* | 11 | 195 | 153 | 119 | 101 | 250 | 829 |
| サルボウ | *Scapharca subcrenata* | 2 | 1 | 1 | | | | 4 |
| マガキ | *Crassostrea gigas* | 2 | 1 | | | | | 3 |
| アサリ | *Ruditapes pholippinarym* | 9 | 7 | 9 | 6 | | | 31 |
| オキシジミ | *Cyclima sinensis* | 2 | 1 | | 1 | | | 4 |
| カガミガイ | *Phacosoma japoicum* | 2 | 1 | | | | | 3 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | 1 | 73 | 93 | 59 | 7 | 83 | 316 |
| マツカサガイ | *Inversidens japonesis* | 6 | 7 | 5 | | | | 18 |

**D201**　ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転糸切り後、全面回転ヘラ削りを施している。墨書されるものもあり、釈文は「入」・「廓」となる。3は「太」であろうか。土師器甕は口縁部と底部の破片が図示できた。

**D202**　床面が確認面から浅いため、残された遺物はすべて床面に近いレベルのものである。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部下端のヘラ削りが明瞭である。底部は1・3が

回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りであるが、2はヘラ切り後に回転ヘラ削りを施している。3は底部内面に線刻されている。なお、ロクロ土師器皿を伴っている。皿は無高台の製品で、底部回転糸切り後、全面回転ヘラ削り、内面にヘラ磨きを施す。6は長頸瓶である。鉄製品は鎌・紡錘具がある。

**D203**　ロクロ土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がるものと、口縁部が僅かに外反するものがある。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部回転ヘラ削りで、6だけが回転糸切り無調整である。なお、5・11・12・13は内面黒色処理されている。また、ロクロ土師器皿を伴っており、高台付きの1類が主体的である。坏・皿類には墨書されたものが多く、6～8が「麿」、9・10・12が「廓」、14が「家」、19が「圓」、11は「□酒真利」となる。土師器甕は小形の製品2点が図示できた。ともに口唇部を受け口状に調整している。

**D204**　遺物はすべてD204Cから出土した。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するもので、底部・体部下端とも回転ヘラ削りを施している。土師器甕は口唇部が内側に折れ曲がる3・6と、僅かに肥厚する4がある。4はほぼ完形に復元できたが、出土状況はかなり散乱しており、他の甕も同様である。

**D205**　ロクロ土師器坏は図示できるものがない。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、底部はヘラ切り後、全面一方向にヘラ削り、体部下端は静止ヘラ削りを施している。2は盤である。3は土師器甑で、底部1孔の製品である。胴部下半に横位のヘラ削りを施し、ナデて消している。4は長頸瓶で、肩の丸い製品である。

**D206**　供膳形態はは須恵器が卓越するが、器形的には箱形に近い器形を呈している。底部は体部下端とも2が全面回転ヘラ削り、1は全面不定方向にヘラ削りを行う。2は底部外面に朱墨・線刻で重ねて「太」と書いている。土師器甕は口縁部が僅かに受け口状を呈するもので、4・5はほぼ完形に復元できた。5は胴部内面に横位のヘラ磨きを行う。

**D207**　遺物はすべてD207Aから出土した。遺物実測図2・13・16はカマド内から出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するもので、端部が若干肥厚する。底部は回転糸切り後、全面回転ヘラ削りのものが多く、2・4は周縁部回転ヘラ削りである。なお、高台坏4類を伴っている。ロクロ土師器皿は少なく、無高台の11が図示できた。底部は回転糸切り無調整である。坏類には墨書されたものがあり、5は「井」、7は「生」となる。土師器甕は口唇部を受け口状に調整した2類で、甑も同様の調整を施している。なお、置きカマドはカマド内から出土しているが、袖を構築したカマド内で使用したものであろうか。住居中央の床面の被熱の痕跡も考慮したい。鉄製品は刀子・紡錘具がある。

**D208**　図示した遺物の多くがカマド内から出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。なお、内面にヘラ磨きを施すものが多く、図示したものでは5～10の6点が挙げられる。墨書は9が「満」、

10は「太」であろうか。土師器甕は口縁部を受け口状に調整した製品で、甑も同様な調整である。14は口縁部と底部を欠損するが、須恵器甕3類である。

**D218** 遺物実測図2はカマド内から出土した。ロクロ土師器坏は僅かに口縁部が外反するもので、底部は全面回転ヘラ削りである。底部外面に墨書され、釈文は「厨」である。土師器甕は3個体が図示できた。大形の製品は5だけで、ほぼ完形に復元できた。

**D272** 図示したほとんどの遺物がカマドから出土しているが、その状況は破片を詰め込んだものである。ロクロ土師器坏は図示できるものがないが、ロクロ土師器皿を伴っている。皿は無高台の4類で、底部は回転糸切り無調整である。ともに墨書され、1は「式」である。土師器甕は口縁部が僅かに受け口状を呈するものである。鉄製品は刀子がある。

**D273** 遺物は破片も含めカマド内から東壁にかけて帯状に出土している。図示した遺物はすべてカマドから出土したものである。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。3はやや異質で、器高6.9cmを測る身の深い製品である。底部は不定方向のヘラ削り後ヘラ磨きを行い、体部は内外面ともヘラ磨きを施している。甕類は狭い範囲であるが散乱している。4は口縁部を受け口状に調整し、胴部のヘラ削りをナデて消している。鉄製品は刀子がある。

**D275** 遺物は非常に少なく、遺物実測図3・4はカマドから出土した。2は無高台の皿で、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを施している。1は細片であるが墨書されている。土師器甕は2点とも小形の製品で、3は僅かに受け口状の口縁部を呈している。

**D276** 遺物はカマドを中心に出土しており、破片を詰め込んだ状態である。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転糸切り後、回転ヘラ削りを施している。土師器甕は6を除いてカマド内から出土しているが、若干散逸している。口縁部は受け口状を呈し、胴部上位に縦位、下位に横位のヘラ削りを施す。須恵器甕は胴部のタタキをヘラ削りで消している。

**D277** 遺物は少なく、遺物実測図4はカマド内から出土した。状況はやはり破片を詰め込んだもので、住居廃絶時にカマド内に廃棄されたものであろう。この他2点の須恵器坏が図示できた。底部は2が全面回転ヘラ削り、3は一方向ヘラ削りである。

**D278** 遺物は少なく、図示したものはカマド及びその周辺から出土したものである。ロクロ土師器坏は2点図示でき、2は直線的に立ち上がる体部を持つが、1は口縁部が僅かに外反している。底部は2が回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りであるが、1は全面一方向のヘラ削りである。また、1は内面黒色処理され、底部・体部内外面にヘラ磨きを施している。

**D279** 遺物実測図2・3・10・11がカマド内から出土した。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。なお、6・7は内面黒色処理されている。また、5～8は底部内面あるいは内外面に線刻され、

4は「神万」と墨書されている。須恵器坏は1点図示できた。底部は全面一方向ヘラ削りで、体部下端は静止ヘラ削りを行う。甕類は須恵器が2点図示できた。11は胴部タタキ調整であるが、ほとんど見えない。鉄製品は刀子がある。

**D280**　ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈し、底部は回転糸切り後、静止ヘラ削りを施している。須恵器坏も箱形の器形を呈し、底部は全面不定方向にヘラ削りを行う。なお、1・2は底部外面に「文」、3は「井□」と墨書され、5は体部外面に「太」と線刻されている。土師器甕は1点が図示できた。口縁部は受け口状を呈し、胴部は上位にヘラ削りが残るが、ほとんどをナデて消している。鉄製品は刀子がある。

**D281**　完形に近いロクロ土師器坏が南壁際から4点出土している。いずれも口縁部が大きく外反し、端部が肥厚する。底部は回転糸切り後、全面回転ヘラ削りを施している。5は細片であるが、「成」もしくは「盛」と墨書されている。

**D283**　遺物は2がカマド内から出土した。2は小形の甕で、口縁部は受け口状を呈する。胴部上半はヘラ削りをナデて消し、胴部下半に横位のヘラ削りを施している。

**D285**　遺物実測図10・11はカマド内から一部が出土しているが、同一個体の破片は住居内に広く散乱している。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するものが主体的で、やや様相の異なる5は確認面で出土したものである。また、内面黒色処理されている6・8は体部の開きが大きい。基本的には1～3・7を時期決定の材料と捉えてよい。これらの底部は回転糸切り後、全面回転ヘラ削りで、7だけが回転糸切り無調整となる。なお、7は体部外面3箇所に墨書され、釈文は「大」、8・9は内面に線刻されている。土師器甕は1・2・3類があり、10・11はかなり散乱した状況での出土である。

**P012**　ロクロ土師器坏と皿が各1点図示できた。坏は口縁部が大きく外反し、口唇部が肥厚する。底部は回転糸切り後、全面回転ヘラ削りで、体部下端にも回転ヘラ削りを施している。2は皿で、底部は回転糸切り無調整である。底部内面に墨書されている。

**P015**　ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反し、D030との間に時期差は認められない。底部は回転糸切り後に回転ヘラ削りを施す。体部の立ち上がりの角度は40°前半である。

以上、各遺構を概観したが、次に時期の変遷を追ってみた。2期はあまり良好な資料が無いが、D280が該当する。D027・D205等は供膳形態で須恵器が卓越し、2期以前と考える。ロクロ土師器坏は1類が主体的で、須恵器坏の量も比較的多い。土師器甕はほとんど1・3類で構成される。D280ではロクロ土師器坏の底部外面に「文」と墨書され、「文」の初見となる。5の須恵器坏に「太」と線刻されているが、この製品を2期と考えるのは疑問もある。2期に伴う製品とするならば、「太」の初見である。

3期はD021・D038・D067・D206が比定できる。土師器坏はD067で1・3類がある。ロクロ土師器坏は2類～4類が伴い、高台坏1類を伴っている。14は内面黒色処理されている。須

恵器坏も多く、2類が主体となる。また、D067では高台坏が伴っている。土師器甕は2類が多く、本来主体となる1・3類の製品で図示できるものがほとんどない。墨書土器の量は1群と比較して多く、「太」・「文」が主体となる。D067では「新家古」、「□□天□□□」がある。

4a期はD036・D053・D201・D218・D278・D285等が比定できる。土師器坏はD053で3類が図示できた。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するものが多く、体部の立ち上がりの角度は55°前後となる。土師器甕は1～3類が主体となる。墨書土器は多く、これまでの「太」に加えて「麿」・「廓」が書かれる。D218では「厨」がある。

4b期はD022・D023・D203・D279等が比定できる。ロクロ未使用の土師器坏は伴わないが、D022では小形の坏が2点出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反し、底部・体部下端とも回転ヘラ削りの製品が多い。しかし、D022・D023には静止ヘラ削りの製品が見られる。また、ロクロ土師器皿を伴い、高台が付いた1類と無高台の4類がある。土師器甕は2類が主体となり、1・3類はほとんど見られなくなる。須恵器甕は少ないが、D022で3類が、D023で4類がある。墨書土器の量は飛躍的に増加し、やはり「太」が主体となる。この他僅かに「麿」・「廓」・「家」・「満」がある。注目できる文字はD203で「□酒真利」、D279で「神万」、D023で「□坏」がある。「神万」は「万」を伸し、「神万呂」ということであろう。

5期はD032・D037・D202・D272等が比定できる。ロクロ土師器坏は口縁部が外反し、底部・体部下端とも基本的には回転ヘラ削りとなる。ただ、D037では静止ヘラ削りの製品が伴っている。ロクロ土師器皿は底部周縁にヨコナデを施す2類と、無高台の4・5類がある。土師器甕はすべて2類となる。墨書土器の量は著しく減少し、D037で「入」、D272で「式」がある。

6期はD031・D207A・D208等が比定できる。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反し、底部・体部下端ともほぼ例外なく回転ヘラ削りを施している。ロクロ土師器皿はほとんど無高台の製品である。なお、D031では灰釉陶器を伴っている。土師器甕はすべて2類で、甑も同様の調整である。墨書土器は少ない。

7期はD028・D029・D030・D033・D034・D204・D207B・D281等が比定でき、他のグループと比較して遺構数が多い。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反し、口唇部が肥厚するものが目立つ。ロクロ土師器皿はほとんど見られなくなり、D207では高台坏4類を伴っている。また、D029・D033では灰釉陶器が出土している。土師器甕は6類が主体となる。墨書土器は非常に少ない。

鉄製品は豊富で、刀子・鉄鏃が量的に多い。刀子は多くの住居から出土しており、ほぼ全時期に及ぶ。鎌は3点図示でき、これも他のグループと比較して多い。特殊な製品としてはD022から鋏が出土している。

硯はすべて転用硯で、須恵器盤の底部内面を利用したものが2点、須恵器蓋の天井部内面を利用したものが2点、須恵器高台坏の底部内外面を利用したものが1点ある。時期的には墨書

土器の量がピークとなる４ｂ期に集中する。

墨書土器は比較的早い２期で「文」・「井□」が書かれている。「文」は１群Ｂグループに１点あるが、２群Ｃグループから３群の５グループに特徴的な文字で、３期を前後する時期に書かれている。比較的多くみられた「太」は１群Ａ・２群Ｃ・２群Ｄ・２群Ｆの各グループに見られるが、２群Ｅ・３群では書かれていない。他のグループでの墨書部位はほとんど体部外面左であるが、２群Ｃグループでは体部内面を除く各部位に書かれている。「廓」・「圓」も２群Ｃグループから３群を中心とした文字である。２群Ｃグループ独自の文字も多く、２群Ｃグループでは比較的多く書かれている「磨」も他のグループでは見られない。この他「大家」・「田生」・「式」・「神万」・「□酒真利」・「満」・「新家古」・「□□天・・・」が本グループ独自の文字である。

**第248表　Ｄ021出土遺物一覧**

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 8.2 | 4.8 | 90 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 18、19 | |
| 2 | 土師器甕 | 16.9 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 明褐色 | | 9 | |
| 3 | 土師器甕 | — | 6.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 7、9、10、21、29 | |

**第249表　Ｄ022出土遺物一覧**

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.0 | 3.7 | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 31、62、134、136、163 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.0 | 3.9 | 70 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 238 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 9.6 | 4.5 | 60 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 112、113、122 | 内面ヘラ磨き |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.2 | 3.8 | 20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 89、201 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.2 | 4.0 | 50 | 砂　粒 | 灰褐色 | 右 | 16 | 墨書「太」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 7.0 | 3.7 | 70 | 雲母粒 | 灰褐色 | 右 | 4、214 | 墨書「太」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 6.9 | 4.4 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 14、17、130、142 | 墨書「田生」、黒色処理 |
| 8 | 土師器坏 | 6.6 | — | 2.5 | 完形 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 143 | 内面油煙付着 |
| 9 | 土師器坏 | 6.7 | — | 2.3 | 90 | 砂　粒 | 褐　色 | | 94 | 内面油煙付着 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 9 | 墨書「太」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | 6.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 123 | 墨書「太」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 122 | 墨書「太」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | 5.7 | — | 底部 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 101 | 墨書「太」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | 6.8 | — | 底部 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 138 | 墨書「太」カ |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 9 | 墨書 |
| 16 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 122 | 線刻、内面ヘラ磨き |
| 17 | ロクロ土師器皿 | 13.1 | 7.0 | 3.0 | 90 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 22、23、24、32、122、167 | 内面ヘラ磨き |
| 18 | ロクロ土師器皿 | 13.1 | 7.2 | 2.5 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 47、171、222 | 内面ヘラ磨き |
| 19 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 5.6 | 2.5 | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 5、122、191、259 | 内面ヘラ磨き |
| 20 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 5.7 | 2.2 | 30 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 76 | 内面ヘラ磨き |
| 21 | 土師器鉢 | 20.3 | 7.4 | 9.2 | 90 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 1、2、3、179 | 墨書「井」、黒色処理 |
| 22 | 須恵器蓋 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 青灰色 | | 100 | 転用硯 |
| 23 | 土師器甕 | 14.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 248 | |
| 24 | 土師器甕 | 11.2 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 灰褐色 | | 60 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 土師器甕 | 11.4 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 褐　色 | | 6 | |
| 26 | 土師器甕 | 14.2 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 131 | |
| 27 | 土師器甕 | 13.6 | — | — | 口縁70 | 砂　粒 | 灰褐色 | | 26、27、34、178、259 | |
| 28 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明褐色 | | 53 | |
| 29 | 須恵器甕 | 26.0 | — | — | 30 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 251、253、254、256、257、258、259 | |
| 30 | 須恵器甕 | — | 13.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 204 | |
| 31 | 須恵器甕 | — | 14.8 | — | 口縁欠 | 砂　粒 | 灰褐色 | | 245、246、247 | |

## 第250表　D023出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 6.4 | 4.2 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 429、971、974、1093 | 内面ヘラ磨き |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | 8.4 | 4.4 | 70 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 396、452、622、733、910、930、939 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 7.0 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 245、970、971、1200 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.4 | 3.9 | 20 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 356、990、1073、1197 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.1 | 4.5 | 30 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 774、913 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.3 | 4.4 | 90 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1032 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.0 | 4.1 | 完形 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 1342 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 7.4 | 4.0 | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 432、651、697、735 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 5.2 | 3.6 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 995、996、1345 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.5 | 3.9 | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 970、971 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.4 | 4.0 | 30 | 精　緻 | 赤褐色 | 右 | 915、1341 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.0 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 1340 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.6 | 4.0 | 80 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 355、371、372、475、505、665、666 | 墨書「太」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.6 | 3.5 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 90 | 墨書「太」 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.4 | 3.7 | 90 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1297 | 墨書「太」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 84、971 | 墨書「太」 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | — | — | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 1006、1171 | 墨書「太」、黒色処理 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | — | — | 口縁 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 353、1042、1043 | 墨書「家」 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.0 | 3.8 | 70 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 776 | 墨書「家」 |
| 20 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 542 | 墨書「太」 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 1345 | 墨書「太」 |
| 22 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 278 | 墨書「太」 |
| 23 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 1316 | 墨書「太」 |
| 24 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 105 | 墨書「太」 |
| 25 | ロクロ土師器坏 | 11.0 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 橙　色 | | 326 | 墨書「麿」 |
| 26 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 971 | 墨書「□坏」、黒色処理 |
| 27 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 26 | 墨書 |
| 28 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 6.8 | 3.8 | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 24 | 内面ヘラ磨き |
| 29 | ロクロ土師器皿 | 13.5 | 7.0 | 2.2 | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 152、235、479、1108 | 内面ヘラ磨き |
| 30 | ロクロ土師器皿 | 13.8 | 6.5 | 1.6 | 60 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 164、431、613、746、949、973 | 墨書「太」、ヘラ磨き |
| 31 | ロクロ土師器皿 | 14.6 | 5.5 | 2.3 | 完形 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 119、1322、1323 | |
| 32 | 須恵器坏 | 12.9 | 7.4 | 3.3 | 30 | 精　緻 | 青灰色 | 右 | 970 | |
| 33 | 須恵器高台坏 | — | 7.4 | — | 底部 | 精　緻 | 灰　色 | | 1313 | 転用硯 |
| 34 | 須恵器高台坏 | — | 11.2 | — | 底部50 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 1304 | |
| 35 | 須恵器蓋 | 15.4 | — | — | 30 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 163 | 転用硯 |
| 36 | 土師器甕 | 12.8 | 6.3 | 9.8 | 70 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 1334 | |
| 37 | 土師器甕 | 18.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 154、186、973、1023、1130 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 38 | 土師器甕 | 18.5 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 389、938、971 | |
| 39 | 土師器甕 | 12.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 409 | |
| 40 | 土師器甕 | 20.3 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 1022 | |
| 41 | 土師器甕 | 17.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 230、756、765 | |
| 42 | 土師器甕 | 12.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 336 | |
| 43 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 1338、1345 | |
| 44 | 土師器甕 | 19.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 454、749、971、1007、1028 | |
| 45 | 土師器甕 | 19.8 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 明褐色 | | 630、701、709、723、724、936、1011 | |
| 46 | 土師器甕 | 18.4 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 明褐色 | | 631、1222、1233、1238、1273、1298 | |
| 47 | 須恵器甕 | 28.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰　色 | | 692、1020、1301 | |
| 48 | 須恵器甕 | 40.6 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 褐　色 | | 901、902、1054、1260、1343、1344 | |

## 第251表　D024出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 7.2 | 4.0 | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 475、477、525、547 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.3 | 4.1 | 80 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 472 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 7.0 | 3.3 | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 422、465 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.6 | 3.6 | 30 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 550 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.6 | 3.6 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 95、245 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.2 | 3.9 | 20 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 43、64、324、549 | 内面ヘラ磨き |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.6 | 3.8 | 20 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 401 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.0 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 450 | 墨書「満」、ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.4 | 3.7 | 20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 237 | 墨書「太」 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 213 | 墨書「太」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明褐色 | | 141 | 墨書「太」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明褐色 | | 60 | 墨書「満」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 236 | 墨書「満」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明褐色 | | 19 | 墨書 |
| 15 | ロクロ土師器皿 | — | 7.5 | — | 底部 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 2 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | 7.2 | — | 底部20 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 80 | 線刻 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | — | 6.4 | — | 底部 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 239 | 線刻「太」 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | — | 7.4 | — | 底部 | 砂　粒 | 明褐色 | | 77、229 | 線刻「太」、ヘラ磨き |
| 19 | 須恵器坏 | 14.6 | 7.6 | 4.1 | 20 | 砂　粒 | 灰褐色 | 右 | 215、449 | |
| 20 | 灰釉陶器椀 | 16.4 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 灰　色 | | 180 | |
| 21 | ロクロ土師器皿 | 12.5 | 7.4 | 2.5 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 550 | 内面ヘラ磨き |
| 22 | 土師器蓋 | 14.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 241 | 黒色処理 |
| 23 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 480 | |
| 24 | 土師器甕 | 18.0 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 明褐色 | | 548、550 | |
| 25 | 土師器甕 | 13.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 498、537 | |
| 26 | 土師器甕 | 13.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明褐色 | | 492 | |
| 27 | 土師器甕 | 15.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 398 | |
| 28 | 土師器甕 | 13.8 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 373 | |
| 29 | 須恵器瓶子 | 10.6 | — | — | 口縁40 | 精　緻 | 暗褐色 | | 451 | |

## 第252表　D027出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.4 | 7.4 | 4.2 | 10 | 精　緻 | 青灰色 | 右 | 17 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.8 | 8.0 | 3.5 | 40 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 40、58、64 | |
| 3 | 須恵器坏 | 13.6 | 8.0 | 4.5 | 50 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 57、64 | |
| 4 | 須恵器盤 | 17.4 | 10.8 | 3.0 | 40 | 精　緻 | 青灰色 | 右 | 13 | 転用硯 |
| 5 | 土師器甕 | 21.6 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 明褐色 | | 28、29、31、50、62、64 | |
| 6 | 土師器甕 | 14.8 | — | — | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 4、8、47、62 | |

## 第253表　D028出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 5.0 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 131 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 5.7 | 3.8 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 118、119 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 5.1 | 3.1 | 40 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 119、128 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 5.9 | 4.1 | 20 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 119 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 5.6 | 5.0 | 20 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 10、110 | |
| 6 | 土師器甕 | 13.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 120、123 | |
| 7 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明褐色 | | 49、127 | |
| 8 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 8、12、26、45、124 | |
| 9 | 土師器甕 | — | 8.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 133 | |
| 10 | 土師器甕 | — | 8.8 | — | 口縁欠 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 118、130、134 | ロクロ調整 |
| 11 | 須恵器瓶子 | — | 14.3 | — | 底部30 | 精　緻 | 灰　色 | | 50 | |

## 第254表　D029出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.8 | 3.9 | 40 | 精　緻 | 赤褐色 | 右 | 503、668 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 5.8 | 3.5 | 40 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 173、647 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 5.6 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 529 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 5.8 | 3.4 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 292、461 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 6.1 | 4.0 | 40 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 69、71、136、168、565 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 5.5 | 4.0 | 50 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 403 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 5.6 | 4.9 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 73、601 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 6.0 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 686 | 内面ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 16.2 | 7.5 | 4.2 | 50 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 682 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 4.9 | 3.4 | 50 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 76、388 | |
| 11 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 6.6 | 2.9 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 466、486 | |
| 12 | 土師器甕 | 20.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明褐色 | | 480 | |
| 13 | 土師器甕 | 10.2 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 146、228、520、610 | |
| 14 | 土師器甕 | 14.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明褐色 | | 440、478 | |
| 15 | 土師器甕 | — | 11.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 42、244、399 | ロクロ調整 |
| 16 | 土師器甑 | 25.8 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 赤褐色 | | 107、150、267 | |
| 17 | 灰釉陶器手付小瓶 | — | 5.2 | — | 口縁欠 | 精　緻 | 灰　色 | | 194、209 | |

## 第255表　D030出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器皿 | 12.5 | 5.8 | 2.9 | 完形 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 560 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 6.4 | 3.8 | 30 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 542 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 5.5 | 3.7 | 完形 | 精　緻 | 赤褐色 | | 692 | 赤彩 |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 5.3 | 4.3 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 683 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 6.0 | 4.8 | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 321、627、654 | 黒色処理 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 15.2 | 7.0 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 484 | |
| 7 | 土師器高台坏 | 15.5 | 8.1 | 5.6 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 682 | 黒色処理 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | — | 8.3 | — | 底部 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 124 | 線刻 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | — | 6.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 546 | 線刻 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | — | 6.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 600 | 線刻 |
| 11 | 土師器甕 | 19.8 | — | — | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 67、68、127、131、132、283、327 | |
| 12 | 土師器甕 | 25.2 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 179、368 | |
| 13 | 土師器甕 | 16.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 314、477、603 | |
| 14 | 土師器甕 | 21.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 50、55、206、353 | |
| 15 | 土師器甕 | 9.4 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 46、395、455、456、509 | ロクロ調整 |
| 16 | 須恵器甕 | 29.0 | — | — | 20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 10、11、231、598 | |

## 第256表　D031出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 6.5 | 4.2 | 90 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 1314 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 6.0 | 3.7 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 1257、1293、1295 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 6.6 | 4.5 | 70 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 841、1146、1164、1167、1170、1319 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.3 | 4.5 | 50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 797 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 7.5 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 748、822、1315 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 16.1 | 7.0 | 5.8 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 159、433、887、1037、1226、1246 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 6.0 | 3.8 | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 709、775、856、857 | 墨書「万」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 667 | 墨書「堤」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 525 | 墨書 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 1073 | 墨書「生」 |
| 11 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 7.6 | 2.8 | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1176 | |
| 12 | ロクロ土師器皿 | 13.4 | 6.8 | 1.8 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 1299、1302 | |
| 13 | 灰釉陶器椀 | 16.2 | 7.8 | 4.2 | 30 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 200、1003、1094 | |
| 14 | 須恵器高台坏 | — | 7.4 | — | 底部 | 精　緻 | 灰　色 | | 119、286、1207 | 底部内面磨滅 |
| 15 | 灰釉陶器椀 | — | 6.7 | — | 底部 | 精　緻 | 灰　色 | | 352 | |
| 16 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 1323 | |
| 17 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 555、572、977 | |
| 18 | 土師器甕 | 19.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 176、814、1059、1067 | |
| 19 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 85、88、960 | |
| 20 | 土師器甕 | 15.2 | 6.6 | 14.9 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 415、606、658、663、690、1231 | ロクロ調整 |
| 21 | 土師器甕 | 15.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 65、171、1229 | |
| 22 | 須恵器甕 | 20.2 | — | — | 20 | 砂　粒 | 灰　色 | | 1287、1297、1305 | |

## 第257表　D032出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.5 | 3.7 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 320 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.4 | 4.1 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 20、51、253、265 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.6 | 3.1 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 38、321 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 8.2 | 4.5 | 30 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 38、324 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 6.7 | 4.6 | 50 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 63、94、326 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.5 | 4.4 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 19、266 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.0 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 160 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 7.7 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 128 | 墨書「廓」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 58、317 | 墨書「太」 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.9 | 4.5 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 89、117、132、193、323 | 墨書「太」、ヘラ磨き |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 7.3 | 4.4 | 70 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 230、312、313 | 墨書「大家」、ヘラ磨き |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.5 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 198 | 墨書「圓」、油煙付着 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.2 | 4.5 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 139 | 墨書「田生」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | 7.2 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 287 | 墨書 |
| 15 | 土師器鉢 | 25.2 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 118、122、126、176 | 内面ヘラ磨き |
| 16 | ロクロ土師器皿 | 13.7 | — | — | 50 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 87、133、199、325 | 内面ヘラ磨き |
| 17 | 土師器甕 | 21.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 285 | |

## 第258表　D033出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 4.4 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 234、235 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 5.4 | 3.7 | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 192、234、235 | 内面油煙付着 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 4.0 | 4.2 | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 233、234、235 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 136、195 | 内面油煙付着 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 5.2 | 3.8 | 20 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 225 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 65 | 墨書 |
| 7 | 灰釉陶器椀 | — | 8.2 | — | 底部 | 精　緻 | 灰　色 | | 77 | 転用硯？ |
| 8 | 土師器甕 | 13.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 211 | |

## 第259表　D034出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 5.7 | 4.3 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 48 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 15.8 | 8.2 | 5.3 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 48 | |
| 3 | 土師器甕 | 12.4 | — | — | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | | 48、52 | |
| 4 | 土師器甕 | 19.2 | — | — | 40 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 3、48 | |
| 5 | 須恵器甕 | 22.6 | 12.2 | 24.5 | 30 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 48 | |
| 6 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁70 | 砂　粒 | 褐　色 | | 48、51 | |
| 7 | 灰釉陶器瓶子 | — | 9.8 | — | 30 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 46、229、230、231、232 | |

## 第260表　D035出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 3、8、9 | |
| 2 | 須恵器坏 | — | 7.2 | — | 底部 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 11 | |

## 第261表　D036出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 8.0 | 4.0 | 30 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 101 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.6 | 3.3 | 30 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 81、108 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 7.5 | 3.1 | 50 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 139、189、204 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 8.0 | 3.4 | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 41、47、135、165 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 16.5 | 7.8 | 5.9 | 70 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 202 | 墨書「太」、黒色処理 |
| 6 | 須恵器坏 | 12.8 | 7.8 | 4.5 | 30 | 砂　粒 | 灰 白 色 | | 55 | |
| 7 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 口縁20 | 雲母・石英粒 | 明 褐 色 | | 207 | |
| 8 | 土師器甕 | 19.2 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 206、207 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 土師器甕 | — | 8.4 | — | 底部 | 石英粒 | 暗 褐 色 | | 5、16、17 | 底部木葉痕 |
| 10 | 土師器甕 | 13.4 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 60、69、153、176 | |

## 第262表　D037出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.0 | 3.4 | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 51、155 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.6 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 33、53、70、77、88 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 7.4 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 2、58、147 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.8 | 3.8 | 50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 8、37、64、102 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 7.0 | 4.2 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 79、123、129、132、162 | 内面ヘラ磨き |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 16.1 | 9.0 | 4.8 | 20 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 66、71、86、95、169 | 内面ヘラ磨き |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 6.0 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 156、167 | 底部内面ヘラ磨き |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 7.0 | 3.7 | 70 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 37、140、156、159、162 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.8 | 3.7 | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 90、102、103、104 | 墨書「入」ヵ |
| 10 | 土師器鉢 | 18.6 | 9.0 | 6.2 | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 72、99、100、147、160、162 | 墨書「入」、ヘラ磨き |
| 11 | ロクロ土師器皿 | 14.1 | 7.4 | 2.7 | 70 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 25、71、98、145、160、162 | 内面ヘラ磨き |
| 12 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 8.2 | 2.2 | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 17、36、67、122 | 内面ヘラ磨き |
| 13 | ロクロ土師器皿 | 13.7 | 4.6 | 2.0 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 133 | |
| 14 | ロクロ土師器皿 | 13.4 | 7.8 | 2.3 | 50 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 137 | 内面ヘラ磨き |
| 15 | ロクロ土師器皿 | 13.0 | 7.2 | 2.8 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 140 | |
| 16 | 土師器甕 | 24.3 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 45、48、96、97、129、152 | |
| 17 | 土師器甕 | 15.3 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 41 | |
| 18 | 土師器甕 | 11.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 69、109 | |

## 第263表　D038出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 8.4 | 4.3 | 70 | 精　緻 | 暗赤褐色 | 右 | 25 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 19 | |
| 3 | 土師器甕 | 13.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 26 | |
| 4 | 土師器甕 | 12.6 | — | — | 30 | 精　緻 | 赤 褐 色 | | 1 | ロクロ調整 |

## 第264表　D053出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 13.6 | 7.0 | 4.6 | 完形 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 16、17、21、24、51、129 | 内面ヘラ磨き |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.1 | 3.7 | 70 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 9、65、125、130 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 6.4 | 4.6 | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 39、91、93、95、98 | 黒色処理 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.6 | 3.7 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 8、10、15、17、20、25、52、53、66 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | 7.2 | 4.9 | 60 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 29、98、99、100、101、102、103、104 | 黒色処理 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.0 | 4.1 | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 10、12、14、18、25、51、55、81、82 | 墨書「麿」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.4 | 3.8 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 94 | 墨書「廓」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 74、92 | 墨書「大」、黒色処理 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 15.4 | — | — | 口縁50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 65、117、118、124、127 | 墨書「廓」、ヘラ磨き |
| 10 | 土師器甕 | 21.1 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 30、126 | |
| 11 | 土師器甕 | — | 5.6 | — | 底部50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 6、10、19、53、55、57 | |
| 12 | 須恵器甕 | — | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 灰　色 | | 138 | |

## 第265表　D067出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 11.9 | — | 3.1 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 278、444、471 | |
| 2 | 土師器坏 | 10.9 | 6.6 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 301、319 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 8.5 | 4.5 | 60 | 砂　粒 | 明褐色 | | 610 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 7.7 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 16、53、246、397 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 8.2 | 3.3 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 215 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.2 | 4.4 | 80 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 300、346、348、369 | 墨書「新家古」、黒色処理 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.1 | 5.0 | 30 | 精　緻 | 明褐色 | | 222、323 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.5 | 4.2 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 263、380、382 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.6 | 4.8 | 40 | 砂　粒 | 明褐色 | | 152、170 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.6 | 4.3 | 60 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 504、547、576 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 7.5 | 5.4 | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 57、111、112、113、114、621 | 墨書「太」、黒色処理 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | 7.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 493 | 墨書「生」ヵ |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 橙　色 | | 227 | 墨書 |
| 14 | 土師器高台坏 | 11.6 | 8.0 | 4.5 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 310 | 黒色処理 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 621 | 墨書「大」ヵ |
| 16 | 土師器高台坏 | — | 6.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 明褐色 | | 245 | 線刻 |
| 17 | 須恵器坏 | 14.2 | 8.5 | 4.5 | 30 | 雲母粒 | 灰褐色 | 右 | 281 | |
| 18 | 須恵器坏 | 12.6 | 7.5 | 3.9 | 50 | 砂　粒 | 灰　色 | | 329、621 | |
| 19 | 須恵器坏 | 13.0 | 9.6 | 4.1 | 30 | 砂　粒 | 灰褐色 | 右 | 254、267、498、500 | |
| 20 | 須恵器坏 | 12.6 | 7.8 | 4.5 | 60 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 239 | |
| 21 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.6 | 4.2 | 60 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 317、371 | 朱墨書 |
| 22 | 須恵器坏 | 13.0 | 7.8 | 5.0 | 30 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 599 | 墨書 |
| 23 | 須恵器坏 | 11.8 | 7.6 | 4.1 | 70 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 273、274、275、501、592、594、621 | 朱墨書「文」、線刻 |
| 24 | 須恵器坏 | 12.8 | 8.6 | 3.9 | 40 | 精　緻 | 暗灰色 | 右 | 509 | 線刻 |
| 25 | 須恵器高台坏 | — | 9.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 287 | 線刻 |
| 26 | 須恵器高台坏 | 12.0 | 8.8 | 4.6 | 90 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 15、21、40、49、295 | 墨書「□□大□□」 |
| 27 | 須恵器盤 | 17.6 | 12.2 | 3.2 | 60 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 20、318、358 | 転用硯、朱墨痕 |
| 28 | 土師器甕 | 20.6 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 298、299、330、331、343、344、345 | |
| 29 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 31、32、37、139、141、143、144、269 | |
| 30 | 土師器甕 | 16.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 236、328、621 | |
| 31 | 土師器甕 | 13.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 266、395、562 | |
| 32 | 土師器甕 | 11.4 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 149 | |
| 33 | 土師器甕 | 12.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 43、621 | |
| 34 | 土師器甑 | 26.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 462、464、499 | |
| 35 | 土師器甑 | 28.0 | 16.0 | 22.1 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 160、172、175、178、193、194、200 | |
| 36 | 須恵器甕 | 22.2 | — | — | 口縁 | 雲母粒 | 灰　色 | | 219、534、546、596 | |
| 37 | 須恵器甕 | 21.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 253 | |
| 38 | 須恵器甕 | — | 14.3 | — | 底部30 | 雲母粒 | 灰　色 | | 241 | |
| 39 | 須恵器甕 | — | — | — | 胴部30 | 雲母粒 | 灰　色 | | 490 | |
| 40 | 須恵器甕 | 29.5 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 52、393 | |
| 41 | 紡錘具 | | | | | | 灰　色 | | 69 | 須恵器甕底部利用 |

## 第266表　D201出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 5.7 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 63、74 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 7.3 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 83 | 墨書「入」 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.6 | 4.1 | 30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 13 | 墨書「太」ヵ |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 68 | 墨書「廓」 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 81 | 墨書「入」、内面ヘラ磨き |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 橙　色 | | 28 | 墨書「入」、内面ヘラ磨き |
| 7 | 土師器甕 | 13.6 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 17 | |
| 8 | 土師器甕 | — | 9.5 | — | 底部50 | 雲母粒 | 褐　色 | 左 | 21、22 | ロクロ調整 |

## 第267表　D202出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.6 | 3.8 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 30、33 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 5.6 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 55、60 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 7.5 | 4.2 | 50 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 44、46 | 線刻 |
| 4 | ロクロ土師器皿 | 14.6 | 7.4 | 2.9 | 80 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 33、60 | 内面ヘラ磨き |
| 5 | 土師器甕 | 18.1 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 59、60、61 | |
| 6 | 須恵器長頸瓶 | — | 11.1 | — | 口縁欠 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 36 | |

## 第268表　D203出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.3 | 3.5 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 529 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.0 | 3.7 | 90 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 259 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.1 | 3.6 | 80 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 620、650 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 7.0 | 3.9 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 630、651 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.9 | 7.0 | 4.9 | 20 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 31、147、177、260 | 黒色処理 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.9 | 3.9 | 90 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 253 | 墨書「麿」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.4 | 4.0 | 90 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 558、566 | 墨書「麿」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.0 | 3.8 | 20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 35、147、179 | 墨書「麿」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.0 | 4.4 | 40 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 353 | 墨書「廓」 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.6 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 607、622 | 墨書「麿」ヵ |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 15.1 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 103、340 | 墨書「□酒真利」、黒色 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 501 | 墨書「廓」、黒色処理 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 434 | 墨書、黒色処理 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 29、367 | 墨書「家」 |
| 15 | ロクロ土師器皿 | — | 6.1 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | | 51 | 墨書「太」 |
| 16 | ロクロ土師器皿 | — | 7.0 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | | 212 | 線刻、内面ヘラ磨き |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 5.9 | 3.9 | 60 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 583、634 | 線刻 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 333 | 線刻 |
| 19 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 8.4 | 2.9 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 511、580 | 墨書「圓」、線刻、磨き |
| 20 | 土師器甕 | 13.1 | — | — | 口縁30 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 418、521 | |
| 21 | 土師器甕 | 14.7 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 639 | |

## 第269表　D204出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 4.9 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 237、240、267 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 5.9 | 3.6 | 40 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 238、259、268 | |
| 3 | 土師器甕 | 22.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 80、119、182、246、272、274 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 土師器甕 | 13.4 | 9.8 | 16.5 | 70 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 71、98、100、301、309、318、401 | 線刻 |
| 5 | 土師器甕 | 18.1 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 147 | |
| 6 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁80 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 105、112、251、255、293、391、427 | |
| 7 | 土師器甕 | — | 10.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 43、77、83、110、128、193、225、324 | |
| 8 | 土師器甕 | — | 11.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 40、73、109、246、266、392、417 | |
| 9 | 砥石 | | | | | | | | 122 | 凝灰岩 |

## 第270表　D205出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.3 | 4.3 | 80 | 雲母粒 | 灰 白 色 | | 63 | |
| 2 | 須恵器盤 | — | 12.8 | — | 底部30 | 石英粒 | 青 灰 色 | 右 | 8、9、64 | |
| 3 | 土師器甑 | — | 9.6 | — | 底部30 | 長石粒 | 褐　色 | | 17、22、34 | |
| 4 | 須恵器長頸瓶 | — | 8.4 | — | 口縁欠 | 精　緻 | 灰　色 | | 36、38、43、56、57、58、62、66、67 | |

## 第271表　D206出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.4 | 8.7 | 3.8 | 50 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 15、20 | |
| 2 | 須恵器坏 | 12.8 | 8.0 | 4.3 | 80 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 30 | 朱墨・線刻「太」 |
| 3 | 土師器甕 | 23.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 14、21、68 | |
| 4 | 土師器甕 | 11.6 | 7.4 | 10.3 | 80 | 砂　粒 | 褐　色 | | 92 | 底部木葉痕 |
| 5 | 土師器甕 | 17.5 | 10.0 | 16.8 | 完形 | 雲母・石英粒 | 橙　色 | | 5、6、13、31、32、33、36、41、48 | |
| 6 | 須恵器甕 | 21.0 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 灰 褐 色 | | 51、58 | |

## 第272表　D207出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 8.4 | 3.8 | 40 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 70、404、459、831 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 6.9 | 3.7 | 60 | 長石粒 | 褐　色 | 左 | 1093、1116、1121、1136 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 6.3 | 4.0 | 80 | 雲母粒 | 褐　色 | 左 | 386、462、831、832、833 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 6.6 | 4.3 | 完形 | 長石粒 | 褐　色 | 右 | 773 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 6.5 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 76、381、454、902、911、939 | 墨書「井」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 6.0 | 3.5 | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 243、415、455、458、811 | 墨書 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 1150 | 墨書「生」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 6.3 | 4.1 | 80 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | 右 | 514、728、732 | 線刻 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.2 | 3.5 | 60 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1115 | 線刻 |
| 10 | 土師器高台坏 | 18.3 | 8.8 | 7.9 | 80 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1113、1121 | |
| 11 | ロクロ土師器皿 | 14.3 | 6.5 | 2.7 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | | 190、228、416、660 | |
| 12 | 土師器甕 | 12.8 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 1030、1036 | |
| 13 | 土師器甕 | 23.7 | — | — | 口縁40 | 雲母粒 | 褐　色 | | 350、570、906、1105、1112 | |
| 14 | 土師器甕 | 20.3 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 305、391、358、1121 | |
| 15 | 土師器甑 | 22.3 | — | — | 口縁60 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 722、724、762、763、765、1097、1107 | |
| 16 | 土師器カマド | 24.5 | 40.0 | 19.8 | 20 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 723、1122、1134、1151 | |

## 第273表　D208出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 7.6 | 3.9 | 60 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 左 | 128 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.0 | 3.8 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 132、134、136、139、143、153、154 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 8.5 | 3.8 | 60 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 左 | 127、143、147、154 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.7 | 3.8 | 70 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 42、71、117、139、141、143 | 内面油煙付着 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 6.8 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 113 | 内面ヘラ磨き |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 7.7 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 112 | 内面ヘラ磨き |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.3 | 4.3 | 90 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 112 | 内面ヘラ磨き |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 6.4 | 4.5 | 60 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 64、125、148、149、151 | 内面ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 7.2 | 4.5 | 90 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 114 | 墨書「満」、ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 7.7 | 4.2 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 112 | 墨書「太」、ヘラ磨き |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 7.2 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 113 | 線刻 |
| 12 | 土師器甕 | 18.2 | — | — | 口縁90 | 砂　粒 | 褐　色 | | 50、59、61、62、72、85、123、129 | |
| 13 | 土師器甑 | 22.8 | — | — | 口縁30 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 24、28、44、49、86、121、122 | |
| 14 | 須恵器甕 | — | — | — | 20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 39、60、87、88、137、144、151 | |

## 第274表　D218出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.0 | 4.3 | 20 | 長石粒 | 褐　色 | 右 | 99 | 墨書「厨」 |
| 2 | 須恵器坏 | 12.2 | — | — | 口縁40 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 108、109 | |
| 3 | 土師器甕 | — | 5.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 47 | |
| 4 | 土師器甕 | — | 5.4 | — | 口縁欠 | 石英粒 | 暗 褐 色 | | 104、114、115 | |
| 5 | 土師器甕 | 21.2 | 9.1 | 30.9 | 完形 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 30、103、105 | 底部木葉痕 |

## 第275表　D272出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器皿 | 14.2 | 6.2 | 2.2 | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 98 | 墨書「式」 |
| 2 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 7.6 | 2.3 | 20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 1 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 3 | 土師器甕 | 18.0 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 104、108 | |
| 4 | 土師器甕 | 18.8 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 褐　色 | | 5、12、48、55、75、82、83、89、95 | |
| 5 | 土師器甕 | 19.5 | — | — | 60 | 雲母粒 | 褐　色 | | 27、49、61、66、68、71、80、99、102 | |
| 6 | 須恵器甕 | — | 9.4 | — | 底部50 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 27、31、34、48、50 | |

## 第276表　D273出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 7.1 | 3.7 | 80 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 85 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 16.8 | 8.3 | 4.7 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 12、59 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.1 | 6.9 | 80 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 89 | 内外面ヘラ磨き |
| 4 | 土師器甕 | 18.3 | — | — | 口縁60 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | | 17、18、55、63、64、65、75、81、82 | |
| 5 | 土師器甕 | — | 8.9 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 6、7、9、47、56、61、70、71、109 | |
| 6 | 須恵器甕 | 17.4 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 5、67、100、107、111 | |

## 第277表　D275出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明黄褐色 | | 22 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 2 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 8.8 | 2.1 | 50 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 13 | |
| 3 | 土師器甕 | 10.2 | — | — | 口縁40 | 雲母粒 | 暗褐色 | | 34、41 | |
| 4 | 土師器甕 | — | 7.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 40 | |

## 第278表　D276出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.9 | 3.7 | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 92 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.3 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 7、14、227 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 8.0 | 4.0 | 70 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 135、200 | 内面ヘラ磨き |
| 4 | 土師器甕 | 18.2 | — | — | 口縁90 | 砂　粒 | 明褐色 | | 145、190、208、222、226、228 | |
| 5 | 土師器甕 | — | 9.7 | — | 底部50 | 雲母粒 | 褐　色 | | 196、199 | |
| 6 | 土師器甕 | — | 9.4 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 91 | |
| 7 | 土師器甕 | 19.7 | — | — | 口縁 | 雲母粒 | 褐　色 | | 29、44、77、80、114、146、152、162 | |
| 8 | 須恵器甕 | 19.4 | — | — | 口縁80 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 120、159、161、186、188、197、205 | |

## 第279表　D277出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 7.4 | 4.1 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 15 | 墨書 |
| 2 | 須恵器坏 | 12.7 | 8.5 | 4.4 | 60 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 14 | |
| 3 | 須恵器坏 | 13.6 | 7.7 | 4.3 | 50 | 砂　粒 | 灰　色 | | 14、15 | |
| 4 | 土師器甕 | 19.1 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 明褐色 | | 19、26、27、28、29、30、31、33、34 | |

## 第280表　D278出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 15.9 | 8.3 | 5.2 | 完形 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 13、34 | 黒色処理 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 7.2 | 4.4 | 70 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 11、20 | |
| 3 | 土師器甕 | — | 8.3 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 17、23 | |
| 4 | 須恵器長頸瓶 | — | — | — | 頸部 | 砂　粒 | 青灰色 | | 10 | |

## 第281表　D279出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.5 | 3.6 | 80 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 115、174 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.0 | 4.0 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 211、213、217、218 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 7.0 | 3.9 | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 103、192 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 赤褐色 | | 192 | 墨書「神万」 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.3 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 85、90 | 線刻 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 17.1 | 8.0 | 5.5 | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 3、23 | 線刻、黒色処理 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 8.0 | 4.9 | 50 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 217 | 線刻、黒色処理 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 6.9 | 3.6 | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 1 | 線刻 |
| 9 | 須恵器坏 | 11.8 | 6.1 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 20、63、118 | |
| 10 | 須恵器甕 | 22.5 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 116 | |
| 11 | 須恵器甕 | 24.4 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 褐　色 | | 117、192、205、214 | |

## 第282表　D280出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 8.7 | 3.5 | 完形 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 9 | 墨書「文」 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 9.0 | 3.5 | 70 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 35、41 | 墨書「文」 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 7.3 | 3.5 | 40 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 24 | 墨書「井□」 |
| 4 | 須恵器坏 | 10.6 | 7.0 | 4.4 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 39 | |
| 5 | 須恵器坏 | — | 7.2 | — | 底部 | 雲母・石英粒 | 青 灰 色 | | 4 | 線刻「太」 |
| 6 | 土師器甕 | 20.7 | — | — | 口縁30 | 雲母・石英粒 | 暗 褐 色 | | 41、42 | |

## 第283表　D281出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.7 | 3.7 | 80 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 5 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 4.3 | 3.7 | 70 | 砂　粒 | 橙　色 | 左 | 6 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 5.9 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1、2、10 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 5.2 | 3.5 | 60 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 4 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 10 | 墨書「盛」ヵ |

## 第284表　D283出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 11.7 | 7.8 | 3.1 | 30 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 1、2、3、4 | |
| 2 | 土師器甕 | 14.7 | 6.2 | 14.1 | 80 | 石英粒 | 褐　色 | | 3 | 底部木葉痕 |

## 第285表　D285出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.5 | 3.7 | 60 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 5、58、107、112、113 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 7.9 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 32、33、39、235 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.2 | 4.3 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 73、78、161、162、235 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.9 | 4.4 | 40 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 104、105 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 6.8 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 1、235 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 16.7 | 8.6 | 4.6 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 134、139、143、235 | 黒色処理 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.4 | 3.8 | 完形 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 85 | 墨書「大」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 6.3 | 4.3 | 60 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 8、44 | 線刻、黒色処理 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.9 | 3.5 | 60 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 116、235 | 線刻 |
| 10 | 土師器甕 | 20.7 | — | — | 口縁80 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 6、9、26、43、51、67、106、108、192 | |
| 11 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 口縁60 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 4、41、60、62、131 | |
| 12 | 土師器甕 | 12.6 | — | — | 口縁60 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 3、235 | |
| 13 | 土師器甕 | — | 8.1 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 55 | |
| 14 | 土師器甕 | 22.4 | 12.0 | 26.7 | 40 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 53 | ロクロ調整 |

## 第286表　P012出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 6.4 | 4.4 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 55 | |
| 2 | ロクロ土師器皿 | — | 8.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 82 | 墨書「圓」 |

## 第287表　P015出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 6.0 | 3.6 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 3、41 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 6.8 | 3.2 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 15、30、62、73 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 7.8 | 2.8 | 50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 134 | |
| 4 | 土師器甕 | 23.0 | — | — | 口縁40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 120、127 | |

## 第288表　2群C出土文字資料一覧

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 太 | 3 | D067 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 11 | 黒色処理 |
| 2 | 太 | 4a | D053 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 8 | 黒色処理 |
| 3 | 太ヵ | 4a | D201 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 3 | |
| 4 | 太 | 4b | D022 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 11 | |
| 5 | 太 | 4b | D022 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 6 | |
| 6 | 太 | 4b | D022 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 5 | |
| 7 | 太 | 4b | D022 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 12 | |
| 8 | 太 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 16 | |
| 9 | 太 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 14 | |
| 10 | 太 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 13 | |
| 11 | 太 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 21 | |
| 12 | 太 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 20 | |
| 13 | 太 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 22 | |
| 14 | 太 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 23 | |
| 15 | 太 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 15 | |
| 16 | 太 | 4b | D023 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 30 | |
| 17 | 太 | 5 | D024 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | |
| 18 | 太 | 5 | D024 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 11 | |
| 19 | 太 | 5 | D032 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 10 | |
| 20 | 太 | 5 | D032 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 9 | |
| 21 | 太 | 4b | D203 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 15 | |
| 22 | 太 | 6 | D208 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | |
| 23 | 太 | 5 | D024 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 17 | |
| 24 | 太 | 5 | D024 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 9 | 線刻 |
| 25 | 太 | 5 | D024 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 18 | 線刻 |
| 26 | 太 | 3 | D206 | 須恵器坏 | 底部外面 | 2 | 朱墨・線刻 |
| 27 | 麿 | 4a | D053 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 28 | 麿 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 25 | |
| 29 | 麿 | 4b | D203 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 8 | |
| 30 | 麿 | 4b | D203 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 31 | 麿 | 4b | D203 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 7 | |
| 32 | 麿 | 4b | D203 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 10 | |
| 33 | 廓 | 4a | D053 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 7 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 34 | 廓 | 4a | D053 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 9 | |
| 35 | 廓 | 4a | D201 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 4 | |
| 36 | 廓 | 5 | D032 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 8 | |
| 37 | 廓 | 4b | D203 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 9 | |
| 38 | 廓 | 4b | D203 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 12 | 黒色処理 |
| 39 | 家 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 19 | 39・40の2箇所 |
| 40 | 家 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 19 | |
| 41 | 家 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 18 | |
| 42 | 家 | 4b | D203 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 14 | |
| 43 | 大家 | 4b | D032 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 11 | |
| 44 | 文 | 2 | D280 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 2 | |
| 45 | 文 | 2 | D280 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 1 | |
| 46 | 文 | 3 | D067 | 須恵器坏 | 底部外面 | 23 | 朱墨，線刻あり |
| 47 | 満 | 5 | D024 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 12 | |
| 48 | 満 | 5 | D024 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 8 | |
| 49 | 満 | 5 | D024 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 13 | |
| 50 | 満 | 6 | D208 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 9 | |
| 51 | 圓 | 5 | D032 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 12 | 52と字体異なる |
| 52 | 圓 | 5 | D032 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 12 | |
| 53 | 圓 | 4b | D203 | ロクロ土師器皿 | 体部外面左 | 19 | 底部内面に線刻あり |
| 54 | 圓 | | P012 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 2 | |
| 55 | 入 | 4a | D201 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 2 | |
| 56 | 入 | 4a | D201 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 6 | |
| 57 | 入 | 4a | D201 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 5 | |
| 58 | 入 | 5 | D037 | ロクロ土師器鉢 | 体部外面上 | 10 | |
| 59 | 入 | 5 | D037 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 9 | |
| 60 | 大 | 4a | D285 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 7 | 60・61の2箇所 |
| 61 | 大 | 4a | D285 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 7 | |
| 62 | 大ヵ | 3 | D067 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 15 | |
| 63 | 井 | 4b | D022 | ロクロ土師器鉢 | 体部外面左 | 21 | 黒色処理 |
| 64 | 井 | 7 | D207 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 5 | |
| 65 | 井　□ | 2 | D280 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 3 | |
| 66 | 生ヵ | 3 | D067 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 12 | |
| 67 | 生 | 6 | D031 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | |
| 68 | 生 | 7 | D207 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 7 | |
| 69 | □□天□□ | 3 | D067 | 須恵器高台坏 | 体部外面 | 26 | |
| 70 | □酒真利 | 4b | D203 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 11 | 黒色処理 |
| 71 | 神万[呂] | 4b | D279 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 4 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 72 | □坏 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 26 | 黒色処理 |
| 73 | 新家古 | 3 | D067 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | 黒色処理 |
| 74 | 厨 | 4a | D218 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 1 | |
| 75 | 式 | 5 | D272 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 1 | |
| 76 | 堤 | 6 | D031 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 8 | |
| 77 | 万 | 6 | D031 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 7 | |
| 78 | 盛ヵ | 7 | D281 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 5 | |
| 79 | 田生 | 4b | D022 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 7 | 黒色処理 |
| 80 | 不明 | 4b | D023 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 27 | |
| 81 | 不明 | 6 | D031 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 9 | |
| 82 | 不明 | 3 | D067 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 13 | |
| 83 | 不明 | 4b | D203 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 13 | 黒色処理 |
| 84 | 記号 | 3 | D067 | 須恵器坏 | 体部外面 | 22 | |

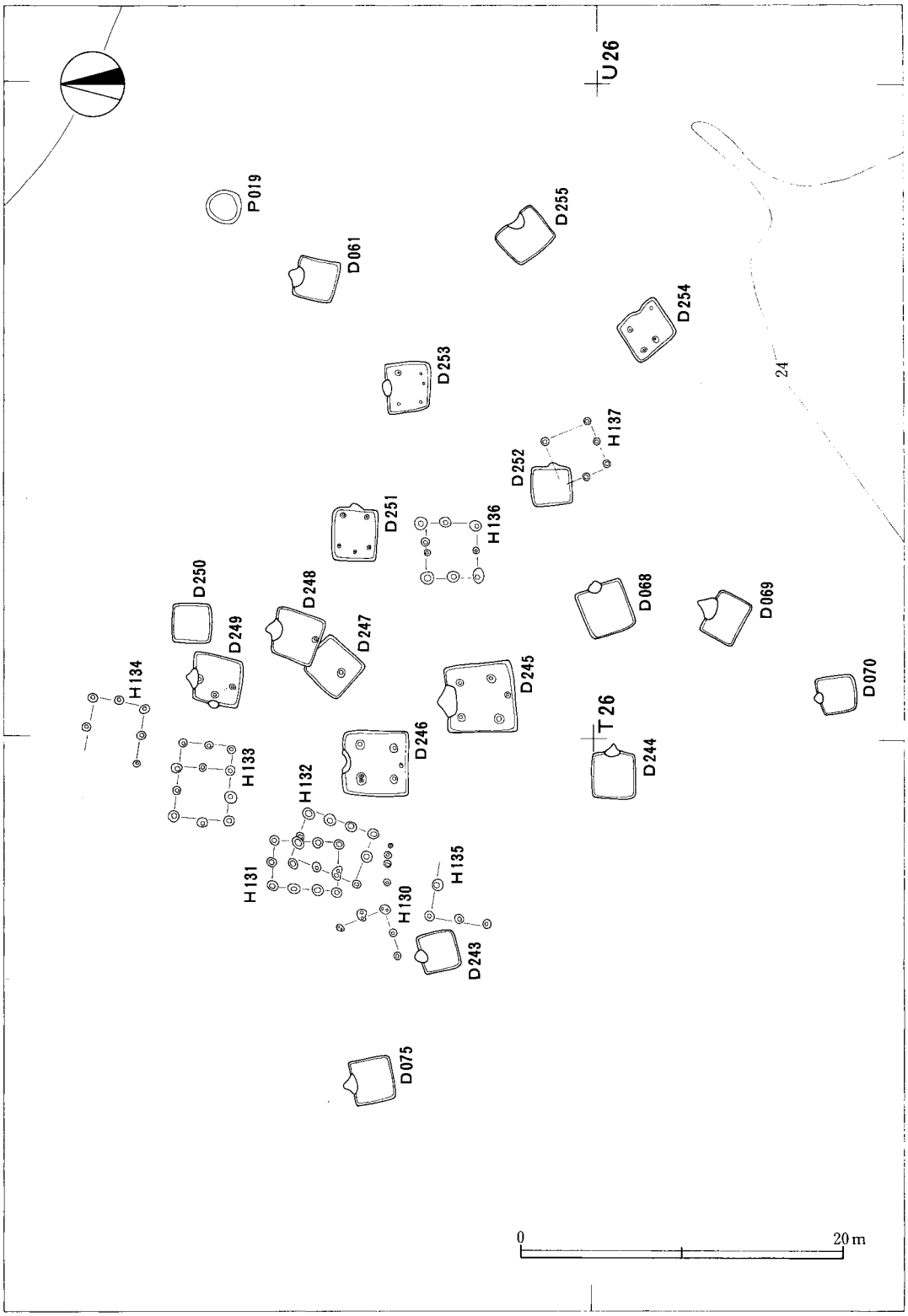
## 第6節　2群Dグループの遺構と遺物

### 1　概　観（第183図）

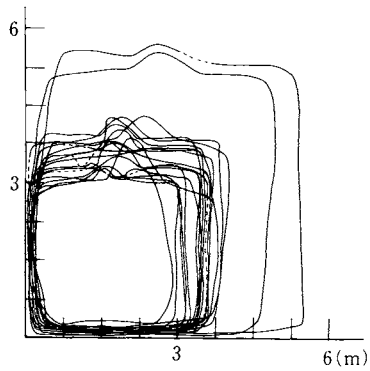
2群Dグループは歴史時代2群のほぼ中央に位置し、北東に2群Bグループ、南西に2群Eグループ、南東に3群が隣接する。それぞれの建物群とは遺構の空白域によって区画され、3群とは幅約50mの遺構空白域がある。また、2群E・Fグループと本グループは面積的に同じような範囲を有し、3グループが並列している。後述する2群Eグループは建物の構築に際して、かなり強い規制があったと理解できるが、単に建物群の内部の規制にとどまらず、建物群の配置にも規制があったと考えられる。2群Dグループは地形的に台地中央に位置し、本グループから直接寺谷津を臨むことはできない。標高は約23mで、白幡前遺跡では最高所に当たる。

### 2　遺　構（第184図、第289～291表、PL.254～265、図版148～153）

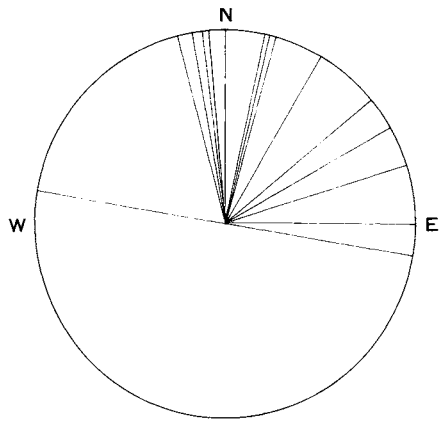
2群Dグループで検出された遺構は、竪穴住居跡18軒、掘立柱建物跡8棟、土壙1基である。遺構の分布は比較的まとまり、掘立柱建物も竪穴住居と混在する。竪穴住居は基本的に寺谷津側の壁にカマドを構築するものがほとんどであるが、主軸方向に大きなピークは認められない。但し、西壁にカマドを設置するのはD249だけである。しかし、D249は北壁と西壁の2箇所にカマドを構築しており、出入口ピットの位置から本来のカマドは北壁のものであったと理解できる。主軸方向はN-14°-WからN-90°-Eの範囲にあり、時期的な偏りは見られない。主軸方向がN-0°より西に傾く住居は本グループの中心より西側に位置し、逆に東に傾く住居は中心より東側に位置するという傾向がある。住居の規模は10～13m²前後に集中し、建物規模の面では各



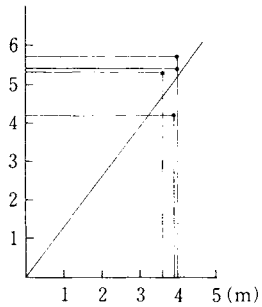

第183図　歴史時代２群Ｄグループ全体図



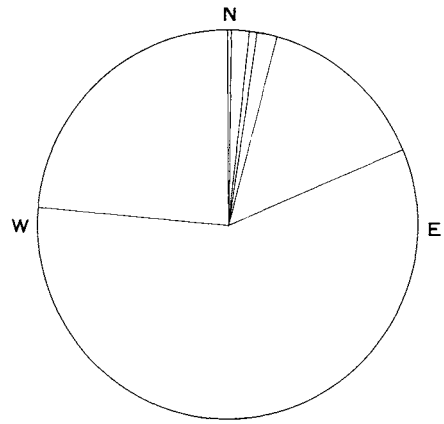

竪穴住居の規模




竪穴住居の主軸方向




掘立柱建物の規模




掘立柱建物の長軸方向

第184図　2群Dグループ建物比較

住居が近似した規模を有する一群と言える。この中で、D245・D246の2軒だけが群を抜いており、ともに30m²を上回る。また、この2軒は3期に比定でき、同時期の構築である。本グループは3期に竪穴住居の構築が開始され、6期まで継続し、2群Cグループ等と比較すると建物群としての存続期間は短い。3期は建物群の全域に竪穴住居が配置されるが、4期では北西寄り、5期は北寄り、6期は南東寄りに位置し、分布の中心は重ならない。各時期の竪穴住居は2～3軒を単位として配置されている。住居の構造はF型が主体となり、各時期に採用され、10軒を数える。E型は3軒と少なく、時期も4期に限られる。B型は5軒あり、3期がピークとなる。竪穴住居の平均面積のピークは3期にあり、4期から6期まで大きな変化はなく、平均面積の推移は2群Fグループと類似する。カマドは前述したように北壁ないし東壁に設置された住居がほとんどで、西壁に設置された住居はD249の1軒だけである。カマドを中心とした遺物の出土状況は、特筆できる住居がほとんど無いが、D069では煙道部に近い位置に土師器甕

を逆位に立てている。また、D249は北壁と西壁の2箇所にカマドが構築されているが、調査時において新旧関係は明らかにされていない。ただ、出入口ピットが南壁際中央にあることから、本来のカマドは北壁のものと考えられる。

掘立柱建物跡は8棟が検出された。規模が確定できない建物もあるが、基本的には2間×2間と3間×2間の側柱構造の建物となる。建物の長軸方向は竪穴住居跡とほぼ同じ方向を指す。2間×2間の建物はH136・H137で、規模は桁行長、梁行長とも4m前後となる。H130・H134・H135も2間×2間の可能性が高い。3間×2間の建物はH131・H132・H133の3棟で、梁行長は4m前後、桁行長は5～6mを測る。また、H133は東側の妻に廂が付く可能性が調査時に指摘されている。掘立柱建物と竪穴住居が重複するのはH137とD252があり、D252が先行する。D252は遺物が少なく、時期を決定できないが、ロクロ土師器坏の破片から4期より遡ることはない。従って、H137は4期以降の構築と考えられる。他の建物は出土遺物もなく、時期は決定できない。但し、H130～H135の周辺の竪穴住居は5期以前の構築であり、6期の竪穴住居とは若干距離をおいている。また、建物の軸方向も周辺の竪穴住居と近い方向で構築され、H130～H135は4～5期の構築の可能性が高い。

**第289表　2群D竪穴住居一覧**

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D061 | 方　形 | 3.5×3.3 | 11.55 | N－13°－E | 北中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 6 | |
| D068 | 方　形 | 4.0×3.6 | 14.40 | N－72°－E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 5 | |
| D069 | 方　形 | 3.7×3.3 | 12.21 | N－30°－E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 6 | |
| D070 | 方　形 | 3.2×2.9 | 9.28 | N－14°－W | 北中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 3 | |
| D075 | 方　形 | 3.5×3.3 | 11.20 | N－9°－W | 北中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 4a | |
| D243 | 方　形 | 3.4×3.1 | 10.54 | N－10°－W | 北中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 3 | |
| D244 | 方　形 | 3.7×3.7 | 13.69 | N－0°<br>N－90°－E | 北中央<br>東中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 5 | |
| D245 | 方　形 | 5.5×5.5 | 30.25 | N－0° | 北中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D246 | 方　形 | 6.0×5.5 | 33.0 | N－0° | 北中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D247 | 方　形 | 3.6×3.4 | 12.24 | N－41°－E | 北東中央 | なし | 1 | なし | あり | あり | 4a | |
| D248 | 方　形 | 3.9×3.8 | 14.82 | N－16°－E | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4b | |
| D249 | 方　形 | 4.1×3.9 | 15.99 | N－12°－E<br>N－80°－W | 北中央<br>西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4a | |
| D250 | 方　形 | 3.4×3.2 | 10.88 | N－90°－E | 東中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 5 | |
| D251 | 方　形 | 4.0×3.5 | 14.00 | N－100°－E | 東中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 5 | |
| D252 | 方　形 | 3.2×3.0 | 9.60 | N－7°－W | － | なし | なし | なし | なし | 全周 | | |
| D253 | 方　形 | 3.5×3.4 | 11.90 | N－5°－W | 北中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D254 | 方　形 | 4.0×3.7 | 14.80 | N－60°－E | 北東中央 | なし | 4 | 1 | あり | 全周 | 3 | |
| D255 | 方　形 | 3.6×3.6 | 12.96 | N－60°－E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 3 | |

## 第290表　2群D掘立柱建物一覧

| No. | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H130 | 2以上×2以上 | 側柱 | 3.9以上 | 3.6以上 | 1.8～2.1 | —— | 0.6～0.8 | 0.5～0.6 | —— | なし | | |
| H131 | 3×2 | 側柱 | 5.3 | 3.6 | 1.8～2.1 | 19.08 | 0.7～0.8 | 0.5～0.6 | N－1°－E | なし | | |
| H132 | 3×2 | 側柱 | 5.4 | 4.0 | 1.8～2.1 | 21.60 | 0.6～1.0 | 0.3～0.6 | N－15°－E | なし | | |
| H133 | 3×2 | 側柱 | 5.7 | 4.0 | 1.9 | 22.80 | 0.6～1.0 | 0.6～0.7 | N－85°－W | あり | | |
| H134 | 2以上×2 | 側柱 | 4.5以上 | 4.1 | 2.1～2.3 | —— | 0.6～0.8 | 0.3～0.6 | N－91°－W | なし | | |
| H135 | 2以上×1以上 | 側柱 | 4.5以上 | 2.3以上 | 2.3 | —— | 0.6～0.8 | 0.3～0.6 | N－6°－E | なし | | |
| H136 | 2×2 | 側柱 | 4.2 | 3.9 | 1.9～2.4 | 16.38 | 0.5～1.0 | 0.3～0.5 | N－0° | なし | | |
| H137 | 2以上×1以上 | 側柱 | 3.7 | 3.6 | 1.8 | 13.32 | 0.6～0.8 | 0.3～0.6 | N－66°－E | なし | | D252と重複。 |

## 第291表　2群D土壙一覧

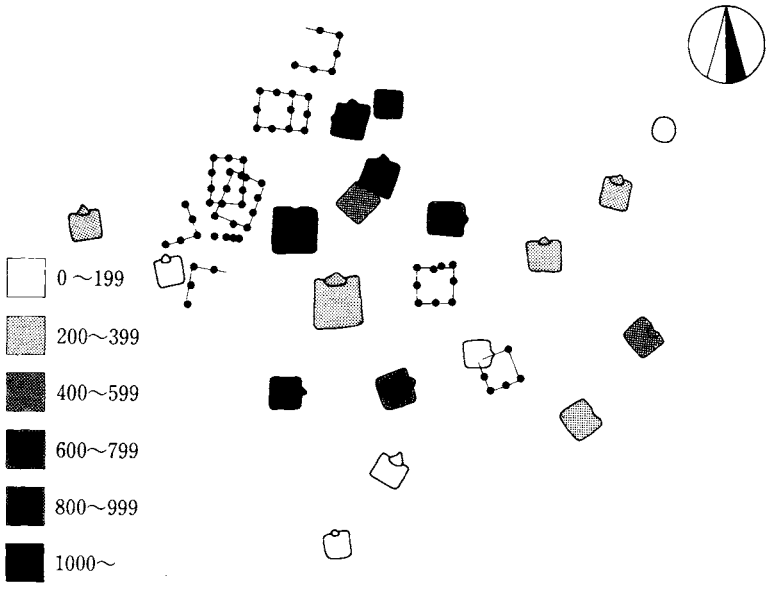
| No. | プラン | 規　模 | 深さ | 軸方向 | 機能 | 時期 | 埋土の状況 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P019 | 円　形 | 直径2.8 | 2.4 | —— | 井戸 | | ローム粒・ロームブロック多く含む。 | |

## 3　遺　物（第185図、第292～309表、PL.266～276、図版154～160）

竪穴住居から出土した遺物は、ほとんどが廃棄されたものである。なお、D255では甕類がカマドに近い位置の床面直上から出土している。本グループで特に遺物の量が多い住居跡はD244・D246・D249・D250で、住居の規模も大きいが、1,000点を超す遺物が出土している。これは1㎡当り48点の遺物が出土したことになり、ほぼ同じ規模のD245と比較してはるかに多い。ちなみにD245からは384点の遺物が出土している。

**D061**　ロクロ土師器

坏は口縁部が外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りの製品が多いが、1・4は底部・体部下端とも静止ヘラ削り、3は回転糸切り無調整である。なお、6は体部外面に「立」と墨書され、7は底部内面に線刻されている。土師器甕は口縁部が受け口状を呈する2類が主体的である。




第185図　歴史時代2群D遺物の出土量図

D068　遺物実測図9・12がカマドから出土している。図示できた個体はロクロ土師器坏が主体的で、甕などの大形の製品は出土点数も少ない。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50°前後である。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを行い、体部下端も回転ヘラ削りを施している。また、ロクロ土師器皿を伴っており、無高台の製品がある。坏・皿類には墨書されたものが多く、釈文は7が「廓」、6が「太」となる。なお、5は内面黒色処理されている。土師器甕は小形の17が図示できただけで、口縁部が受け口状を呈している。

D069　遺物は少なく、遺物実測図8がカマド煙道部に近い位置に逆位に立てられていた。口縁部は底面に接している。カマド内からはこの他にも1・2・3・7が出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りを行い、体部下端にも回転ヘラ削りを施している。4は土師器鉢で、口縁部が内彎する特徴的な器形である。内面はヘラ磨きを施している。土師器甕は口縁部が受け口状を呈する2類が主体的で、8は胴部上半を縦位に、下半に横位のヘラ削りを施している。

D070　遺物は少ない。7はカマド内から出土したが、口縁部の破片である。ロクロ土師器坏は1点図示できただけで、体部下端に丸みを持つ製品である。底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りで、口縁部に近い位置に横位に「乙山」と墨書されている。この他破片の3・4にも墨書されている。4は「魚」の可能性が高い。2は土師器高台坏2類で、口径17cmを測る大形の製品である。体部内面に線刻されている。須恵器坏も1点図示できただけである。体部はほぼ直線的に立ち上がるもので、底部・体部下端とも静止ヘラ削りを施している。

D075　遺物実測図2がカマドから出土している。ロクロ土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がるものと、口縁部が僅かに外反するものがある。底部はいずれも回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。墨書は3が底部外面・体部外面逆位に「又」、2は体部外面横位に「太」となる。土師器甕は1点図示でき、口縁部が受け口状を呈している。

D243　ロクロ土師器坏は箱形の器形が崩れたもので、底部・体部下端に静止ヘラ削りを施すものが卓越する。図示したもので底部に回転ヘラ削りを施したものは1・2の2点である。なお、5・6は底部外面に「文」と墨書されている。土師器甕は1点が図示できた。カマド前面を中心に若干散乱している。口縁部と底部が接合しないが、同一個体である。鉄製品は刀子がある。

D244　遺物実測図2・8がカマドから出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は2・3が回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削り、4が回転糸切り無調整、1は回転糸切り後、周縁部静止ヘラ削りである。また、墨書されたものがあり、釈文は3・7が「生」、6が「廓」、4は「太」となる。なお、1は内面黒色処理されている。ロクロ土師器皿は1点が図示でき、無高台の製品である。底部は回転糸切り無調整である。土師器甕は8・10がカマド及びカマド前面から出土し、ともに完形である。9を含め口縁部は受け口状を呈している。胴部

は縦位のヘラ削りで、底部近くに横位のヘラ削りを施す。鉄製品は鉄鏃がある。

**D245**　土師器甕3点が図示できた。2・3は1類で、3は6割程度復元できたが、出土状況は若干散乱したものである。

**D246**　遺物は約2,600点が出土したが、復元できたものは非常に少ない。カマド火床部に支脚が立てられていた。ロクロ土師器坏は箱形あるいは箱形が崩れた器形を呈している。底部は4が回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削り、3が全面回転ヘラ削り、2・5は全面一方向ヘラ削り、1・6は不定のヘラ削りである。体部下端にヘラ削りを施すのは3・4の2点で、ともに回転ヘラ削りである。須恵器坏は口縁部が僅かに外反するもので、8は底部一方向ヘラ削り、7は底部・体部下端とも回転ヘラ削りを施している。なお、5・6は底部外面に「文」、4は体部外面に「工」と墨書され、7は底部外面に朱墨されている。鉄製品は鉄鏃がある。

**D247**　ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りで、体部下端にも回転ヘラ削りを施している。須恵器坏も口縁部が僅かに外反し、底部・体部下端とも静止ヘラ削りである。3は須恵器甕の底部の破片で、底部外面にヘラ描きされている。鉄製品は刀子・棒状品がある。

**D248**　傾向として、住居中央より南から多く遺物が出土している。ロクロ土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がるものが主体的で、口縁部が僅かに外反するものもある。底部は全面回転ヘラ削りを施すものが卓越するが、3・9は回転糸切り無調整、1は全面静止ヘラ削りである。また、ロクロ土師器皿を伴っており、高台付きと無高台の製品がある。須恵器坏は2点が図示できた。体部は内彎気味に立ち上がり、底部はヘラ切り後周縁部静止ヘラ削り、体部下端も静止ヘラ削りを行う。坏類には墨書されたものが多く、12・13・14の体部外面横位に「廓」、11が「太」、10は同一器面に「富」・「豊」、16は底部内面に「圓」、15は「饒」となる。なお、13は内面黒色処理されている。25・26は土師器鉢である。底部は全面回転ヘラ削り、体部下端にも回転ヘラ削りを施している。内面はヘラ磨きを行う。土師器甕は口縁部が受け口状を呈する2類と、3類がある。いずれも埋土中に散乱していた。鉄製品は鉄鏃・穂摘具・棒状品がある。

**D249**　ロクロ土師器坏は箱形の器形が崩れもの、体部が内彎気味に立ち上がるもの、口縁部が外反するもの等バラエティに富んでいる。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施すものが主体的で、3は回転糸切り無調整、16は全面不定なヘラ削りで、16は体部下端も静止ヘラ削りである。なお、12・14・15・19・26は内面黒色処理され、13・23は内面にヘラ磨きを行う。また、4は口縁部内面に油煙が付着している。須恵器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は28が全面回転ヘラ削り、27・29が静止ヘラ削りとなる。坏類は墨書されたものが多く、釈文は16〜23が「廓」、24は「子」である。土師器甕は2点が図示できた。31は大形の製品で、口縁部が受け口状を呈している。胴部のヘラ削りは体部近くを除いてナデて消され、まばらに縦位のヘラ磨きが観察できる。30は小形の製品で、やはり口縁部が受け口状を

呈している。胴部は下半に横位のヘラ削りが施され、上半はヘラ削りをすべてナデて消している。鉄製品は刀子がある。

**D250**　ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。また、9は内面にヘラ磨きを施している。なお、ロクロ土師器皿を伴っており、高台の付く15が図示できた。底部は回転糸切り無調整である。内面はヘラ磨きを行っている。須恵器坏は1点が図示できた。体部下端にやや丸みを持ち、底部は回転糸切り無調整である。坏類は墨書されたものがあり、釈文は11・12が「廓」、13は「村」となる。16は土師器の鉢で、底部は回転糸切り後、全面ヘラ削りである。内面にヘラ磨きを施している。鉄製品は刀子・鎌・棒状品がある。

**D251**　ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は5・6・8が全面回転ヘラ削り、1・2が回転糸切り無調整である。6・8は内面にヘラ磨きが施されている。墨書されたものがあり、釈文は5～7が「廓」、4が「圓」となる。なお、土師器高台坏3類、ロクロ土師器皿1類を伴っている。土師器甕は口縁部が受け口状を呈するもので、胴部は上半に縦位、下半に横位のヘラ削りを施している。鉄製品は鎌がある。13は須恵器甕の底部を利用した紡錘具である。

**D253**　ロクロ土師器坏は箱形、あるいは箱形の器形が若干崩れたものである。底部の調整はまちまちで、4は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削り、7は回転糸切り無調整、3・6は全面不定方向のヘラ削り、2は静止糸切り後、周縁部静止ヘラ削り、1はヘラ切り後、周縁部静止ヘラ削り、5は全面一方向ヘラ削りとなる。須恵器坏は1点が図示できた。体部は直線的に立ち上がり、底部はヘラ切り後、全面一方向ヘラ削り、体部下端も静止ヘラ削りである。なお、底部内面に「×」の線刻がある。土師器甕は1・2・5類がある。鉄製品は刀子がある。

**D254**　遺物は非常に少なく、ロクロ土師器坏、土師器甕、砥石が1点ずつ図示できた。1は体部が直線的に立ち上がり、器高5.8cmと身が深い製品である。D255から出土した1も器形・法量が近い。底部は全面不定方向のヘラ削りで、体部にはヘラ削りが施されない。2は小形の甕で、胴部が球形に近い。胴部のかなり上位から斜位のヘラ削りが施されている。

**D255**　遺物はかなり少ないが、カマドの両脇から3個体の甕が出土した。ロクロ土師器坏は1点図示できただけである。体部は直線的に立ち上がり、器高5.7cmと身の深い製品である。底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。土師器甕は2点とも1類で、3は完形に近い。カマド左側でまとまって出土した。4は須恵器甕で、カマド右側から2と接して出土した。口縁部を欠損するが、胴部から底部にかけてほぼ遺存している。胴部は横位から斜位の平行叩きで、底部に近い位置に横位のヘラ削りを施している。胴部下半に外側から穿孔されている。

以上、各遺構を概観したが次に時期の変遷を追ってみたい。本グループでは2期以前の遺構はなく、3期に入って竪穴住居跡が構築され始める。3期はD070・D243・D245・D246・D253・D254・D255が比定できる。ロクロ土師器坏は箱型の器形が若干崩れた2類が主体的で、

底部・体部下端に静止ヘラ削りを施した製品がかなり目立つのが特徴で、他のグループではあまりみられない。須恵器坏は量的に多くないが、4b類が伴っている。土師器甕は1・2・3類があり、量的には1・3類が卓越する。墨書土器はD243・D246で「文」がある。

4a期はD075・D247・D249が比定できる。ロクロ土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がる製品が主体となり、体部の立ち上がりの角度は55°前後となる。他の器種は良好な例がなく、土師器甕も図示できた個体が少ない。D249では1類とは若干異なるが、胴部に縦位の粗雑なヘラ磨きを行った製品がある。墨書土器はかなり多く、D249ではほとんどが「廓」である。また、D075では「又」、「太」がある。

4b期はD248が比定できるだけで、遺構数は極端に少ない。ロクロ土師器坏は4a期とあまり大きな変化はなく、やはり体部が内彎気味に立ち上がる製品が主体となる。ロクロ土師器皿は高台が付く1類と無高台の4類がある。土師器甕は2・3類が図示できたが、量的には2類が多い。なお、ロクロ土師器坏と同様の調整をした鉢が伴っている。墨書土器は「廓」が多く、この他に「富」・「豊」・「太」・「饒」・「圓」があり、3群の内容に近い。

5期はD068・D244・D250・D251が比定でき、やはり遺構数は少ない。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反し、体部内面にヘラ磨きを施す製品が伴う。甕は図示できた個体数が少なく、2類が主体となるが、破片としては1類も僅かに含まれている。墨書土器は引続き「廓」が主体で、「圓」・「村」がある。

6期はD061・D069が比定できる。5期と比較して遺構数が減少している。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反し、体部の立ち上がりの角度は45～50°となる。ロクロ土師器皿は無高台の2・4類が伴っている。土師器甕は各住居とも図示できた個体が多く、ほとんど2類である。なお、D069から口縁部が内彎する鉄鉢を模した土師器鉢が出土している。なお、D069は若干新しい要素が認められるが、7期に比定できる住居ではない。

鉄製品は刀子が多く、5軒の住居から出土している。斧はP019から出土したもので、P019は他に遺物はない。墨書土器は全時期を通じて存在し、4～5期がピークとなる。内容としては「文」・「廓」・「饒」・「豊」・「圓」等3群を含めて本グループ周辺のグループと共通する文字が多い。ただ、「太」は2群E・3群からは出土していない。

**第292表　D061出土遺物一覧**

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 4.7 | 4.0 | 60 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 150、182、193 | 内面ヘラ磨き |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 6.1 | 4.4 | 60 | 精　緻 | 暗 褐 色 | | 9、10、11、61、111、116、124、125 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 7.0 | 4.8 | 30 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 180、193、194 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.2 | 4.1 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 189 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 6.6 | 3.6 | 30 | 雲母粒 | 黒 褐 色 | 右 | 20、23 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.4 | 4.3 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 64、71 | 墨書「立」 |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 6.4 | 4.5 | 50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 42、56、100、193、194 | 線刻 |
| 8 | 土師器甕 | 27.3 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 53、82、176、186 | |
| 9 | 土師器甕 | 20.4 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 38、46、94、138、144、153、170、194 | |
| 10 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 65、84、141、194 | |
| 11 | 土師器甕 | 18.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 3、4、6、26、105 | |
| 12 | 土師器甕 | 20.4 | — | — | 口縁60 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 36、49、50、97、153、164、183 | |
| 13 | 土師器甕 | — | 8.6 | — | 底部60 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 5、8、12、13、45、108、122 | ロクロ調整 |
| 14 | 須恵器甕 | — | 14.2 | — | 底部50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 47、96、150、155、170、171、192 | |
| 15 | 須恵器瓶子 | — | — | — | 胴部 | 精　緻 | 灰　色 | | 51、88、89、191 | |
| 16 | 紡錘具 | | | | | | | | 121 | 安山岩 |

## 第293表　D068出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.8 | 3.6 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 583 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 5.8 | 4.0 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 131、582 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 6.0 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 395、400、402、427 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 339、585 | 内面ヘラ磨き |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 15.2 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 574 | 黒色処理 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 5.8 | 4.7 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 121 | 墨書「太」、ヘラ磨き |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.8 | 4.4 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 68、224、353、450 | 墨書「廓」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 75 | 墨書 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | — | — | 20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 590 | 墨書「丁」、ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.0 | 3.8 | 20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 110、182 | 墨書 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.6 | 3.4 | 70 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 11 | 墨書「田」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 5.8 | 4.0 | 60 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 601 | 線刻 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | 8.4 | — | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 7 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | 6.8 | — | 底部 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 60 | 墨書 |
| 15 | ロクロ土師器皿 | 14.3 | 5.6 | 1.9 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 5、190 | |
| 16 | 土師器鉢 | 27.0 | — | — | 20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 94、270、345、356、452 | 内面ヘラ磨き |
| 17 | 土師器甕 | 12.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 216、413 | |

## 第294表　D069出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.0 | 3.9 | 70 | 砂　粒 | 褐　色 | | 7、39、97、98、103 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 7.0 | 3.8 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 49、55、74 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 6.6 | 4.7 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 74、94 | |
| 4 | 土師器鉢 | 17.6 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 橙　色 | | 14、39、43 | 内面ヘラ磨き |
| 5 | 土師器甕 | 21.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 18 | |
| 6 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 15、16、21 | |
| 7 | 須恵器甕 | 22.0 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 52、54 | |
| 8 | 土師器甕 | 19.5 | — | — | 底部欠 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | | 96 | |

## 第295表　D070出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.9 | 4.2 | 90 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 56 | 墨書「乙山」 |
| 2 | 土師器高台坏 | 16.9 | 10.4 | 7.7 | 90 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 13、14、36、38、39 | ヘラ描き、内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 37 | 墨書「魚」ヵ |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 40 | 墨書 |
| 5 | 須恵器坏 | 13.9 | 8.0 | 4.1 | 完形 | 雲母粒 | 灰　色 | 右 | 62 | |
| 6 | 須恵器盤 | 19.0 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 灰　色 | | 2 | |
| 7 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁40 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | | 59 | |
| 8 | 土師器蓋 | 13.5 | — | 3.0 | 60 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 6、35、50、63 | |

## 第296表　D075出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.4 | 3.5 | 20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 180 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.9 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 237 | 墨書「太」 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.5 | 4.3 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 109 | 墨書「又」 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 121 | 墨書 |
| 5 | 土師器甕 | 20.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 1、2、3、25、82、86、88 | |
| 6 | 須恵器甕 | — | 15.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 44、206、256 | ヘラ描き |

## 第297表　D243出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 8.2 | 3.8 | 完形 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 63 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 8.3 | 3.6 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 61 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 7.0 | 4.1 | 90 | 精　緻 | 褐　色 | | 9、11、54 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 8.3 | 3.7 | 50 | 精　緻 | 明赤褐色 | | 5、15、19、20、53、56 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.1 | 4.3 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 62 | 墨書「文」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.1 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 60 | 墨書「文」 |
| 7 | 紡錘具 | | | | | | | | 16、43 | 滑石 |
| 8 | 土師器甕 | 19.0 | 4.6 | — | 50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 2、6、23、36、45、50、52、66 | |

## 第298表　D244出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 4.7 | 4.5 | 70 | 長石粒 | 暗赤褐色 | | 59、86、127、192、206 | 黒色処理 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 15.2 | 7.0 | 4.8 | 50 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 724 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 8.0 | 3.9 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 234、534、688、703 | 墨書「生」 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.0 | 3.9 | 90 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 263、280、331、363、369、371 | 墨書「太」 |
| 5 | ロクロ土師器皿 | 13.9 | 6.4 | 2.6 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 720 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 69 | 墨書「廓」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 430 | 墨書「生」 |
| 8 | 土師器甕 | 20.5 | 10.7 | 30.4 | 完形 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 724 | |
| 9 | 土師器甕 | 23.4 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 581、651、653 | |
| 10 | 土師器甕 | 12.1 | 6.7 | 11.2 | 完形 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 722 | |
| 11 | 砥石 | | | | | | | | 578 | 凝灰岩 |

## 第299表　D245出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 14.4 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 褐　色 | | 162、164、202、215、253、267、275 | |
| 2 | 土師器甕 | 21.2 | — | — | 底部欠 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 384 | |
| 3 | 土師器甕 | 23.5 | 10.8 | 31.9 | 60 | 石英・雲母粒 | 明 褐 色 | | 198、199、203、258、326、381、384 | 底部木葉痕 |

## 第300表　D246出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 8.2 | 3.9 | 70 | 精　緻 | 橙　色 | | 272、505、802、904、1678 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 10.7 | 7.1 | 3.7 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | | 1166 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | 9.9 | 5.7 | 40 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 221、1008、1678 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.3 | 3.9 | 40 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 1484、1569、1678 | 墨書「工」 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 6.9 | 3.9 | 完形 | 精　緻 | 橙　色 | | 1676 | 墨書「文」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | 7.7 | — | 底部 | 精　緻 | 橙　色 | | 1616 | 墨書「文」 |
| 7 | 須恵器坏 | 12.2 | 7.8 | 4.1 | 40 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 1052 | 朱墨書 |
| 8 | 須恵器坏 | 12.7 | 8.0 | 4.1 | 50 | 砂　粒 | 青灰色 | | 45 | |
| 9 | 土師器甕 | 16.4 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 1219、1678 | |

## 第301表　D247出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.8 | 3.9 | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 84、168、211 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.1 | 7.6 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 4、256 | |
| 3 | 須恵器甕 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 灰褐色 | | 256 | ヘラ描き |

## 第302表　D248出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.4 | 4.6 | 90 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 580 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.4 | 4.3 | 70 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 519、573、582、635 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 5.8 | 4.1 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 635 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.1 | 6.9 | 4.0 | 80 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 635 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.0 | 3.9 | 50 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 177 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.5 | 3.9 | 30 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 524 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 6.5 | 4.1 | 40 | 長石粒 | 褐　色 | 右 | 520、521 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.0 | 4.0 | 50 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 363、635 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.5 | 4.1 | 完形 | 長石粒 | 褐　色 | 右 | 633 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.2 | 3.2 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 636 | 墨書「冨・豊」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.4 | 4.0 | 90 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 313、371 | 墨書「太」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 10.9 | 6.4 | 3.5 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 623 | 墨書「廓」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 7.3 | 4.1 | 40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 243、443、445、447 | 墨書「廓」、黒色処理 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 379、635 | 墨書「廓」 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 635 | 墨書「饒」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 6.7 | 4.1 | 70 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 173 | 墨書「圓」 |
| 17 | 須恵器坏 | 13.7 | 6.5 | 4.2 | 90 | 長石粒 | 灰　色 | | 636 | |
| 18 | 須恵器坏 | 13.3 | 7.9 | 4.1 | 50 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 635 | |
| 19 | ロクロ土師器皿 | 13.5 | 6.6 | 3.3 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 632 | 内面ヘラ磨き |
| 20 | ロクロ土師器皿 | 15.0 | 6.6 | 2.7 | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | | 377、455、635 | 内面ヘラ磨き |
| 21 | ロクロ土師器皿 | 14.9 | 7.9 | 2.8 | 60 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 225、550 | 内面ヘラ磨き |
| 22 | ロクロ土師器皿 | 14.5 | 6.2 | 3.1 | 70 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 222、224、238、378 | 内面ヘラ磨き |
| 23 | ロクロ土師器皿 | 14.8 | 7.9 | 2.0 | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 155 | |
| 24 | ロクロ土師器皿 | 12.5 | 4.5 | 2.3 | 70 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 184、635 | |
| 25 | 土師器鉢 | 23.0 | 11.3 | 8.6 | 50 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 507、624、635 | 内面ヘラ磨き |
| 26 | 土師器鉢 | 20.7 | 8.0 | 7.6 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 365、471、536、626 | 内面ヘラ磨き |
| 27 | 土師器甕 | 20.6 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 130、139、145、168、179、216、270 | |
| 28 | 土師器甕 | 18.8 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 544、547 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 29 | 土師器甕 | 16.3 | — | — | 口縁70 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 252、265、266 | |
| 30 | 須恵器甕 | 26.3 | — | — | 口縁30 | 長石粒 | 暗 褐 色 | | 347、636 | |
| 31 | 土師器甕 | 9.6 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 312、474 | |

## 第303表　D249出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 5.8 | 3.6 | 90 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 357、359、360、470、512、675 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.4 | 4.0 | 80 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 674、675 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 5.0 | 4.2 | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 186、560、561、612 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.5 | 4.4 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 151、252 | 内面油煙付着 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.1 | 3.9 | 40 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 293、295 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.7 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 669 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 5.9 | 4.4 | 90 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 234、251 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 6.3 | 4.3 | 40 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 58、226 | 黒色処理 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.3 | 4.0 | 90 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 425、574、674、675 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.1 | 3.8 | 90 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 15、80 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.7 | 4.1 | 90 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 200、253、428、582、601、652 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 7.8 | 5.1 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 675 | 黒色処理 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 15.2 | 7.3 | 5.5 | 70 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 542、543、578、674、675 | 内面ヘラ磨き |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 15.4 | 7.3 | 4.8 | 90 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 14、208、443、446 | 黒色処理 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 7.2 | 4.4 | 50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 537、547、551 | 黒色処理 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.5 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 667 | 墨書「廓」 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 11.1 | 5.7 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 668 | 墨書「廓」 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 11.1 | 5.5 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 150、205、275 | 墨書「廓」 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 8.3 | 5.7 | 40 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 208、211、213 | 墨書「廓」、黒色処理 |
| 20 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.8 | 3.8 | 50 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 332、381、511、675 | 墨書「廓」 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 5.8 | 3.9 | 70 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 214、675 | 墨書「廓」 |
| 22 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 5.3 | 4.0 | 完形 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 49、51、57 | 墨書「廓」 |
| 23 | ロクロ土師器坏 | 14.9 | 8.5 | 4.7 | 40 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 508、675 | 墨書「廓」、ヘラ磨き |
| 24 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 5.9 | 3.9 | 20 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 262、288、296 | 墨書「子」 |
| 25 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 7.7 | 3.8 | 80 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 634、637、675 | 墨書 |
| 26 | 土師器鉢 | 20.6 | 9.9 | 5.9 | 40 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 673 | 黒色処理 |
| 27 | 須恵器坏 | 12.9 | 6.9 | 4.6 | 80 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 674 | |
| 28 | 須恵器坏 | 12.9 | 7.8 | 3.9 | 90 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 670 | |
| 29 | 須恵器坏 | 13.8 | 7.8 | 4.4 | 90 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 675 | |
| 30 | 土師器甕 | 14.5 | 6.8 | 13.1 | 80 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 674、675 | 底部木葉痕 |
| 31 | 土師器甕 | 15.5 | — | — | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 111、674 | |
| 32 | 須恵器甑 | — | 15.7 | — | 底部30 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 350、351、492、573、630、635 | |

## 第304表　D250出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 7.4 | 3.9 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 229、254 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 8.0 | 3.6 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 388 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.7 | 4.6 | 40 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 72 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 5.9 | 3.9 | 90 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 243 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.7 | 3.8 | 完形 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 176、455 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 5.8 | 4.0 | 完形 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 473 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 7.9 | 4.0 | 60 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 303、360 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 5.8 | 4.0 | 50 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 255、426、433 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 5.8 | 4.4 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 119、130、131、381 | 内面ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 15.4 | 7.7 | 3.9 | 40 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 295 | 墨書「得」ヵ |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 7.1 | 3.7 | 90 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 456 | 墨書「廓」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 272 | 墨書「廓」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.3 | 3.8 | 60 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 132、143、203、222 | 墨書「村」 |
| 14 | 須恵器坏 | 11.7 | 4.9 | 3.5 | 完形 | 石英粒 | 青灰色 | 右 | 345、392、396、476 | |
| 15 | ロクロ土師器皿 | 14.8 | 7.6 | 3.1 | 80 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 201、331、476 | 内面ヘラ磨き |
| 16 | 土師器鉢 | 22.5 | 11.6 | 7.6 | 90 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 461、475 | 内面ヘラ磨き |
| 17 | 支脚 | | | | | 精　緻 | | | 430 | |

## 第305表　D251出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.3 | 3.5 | 70 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 53、72 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 7.6 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 305 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.6 | 4.2 | 完形 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 305 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 赤褐色 | | 243 | 墨書「圓」、ヘラ磨き |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.9 | 7.5 | 4.9 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 185、256、287、288、298、304 | 墨書「廓」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 8.3 | 4.2 | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 295 | 墨書「廓」、ヘラ磨き |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 褐　色 | | 304 | 墨書「廓」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.4 | 4.1 | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 273、304 | 線刻、内面ヘラ磨き |
| 9 | 土師器高台坏 | 16.6 | 8.3 | 6.7 | 80 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 304、305 | 内面ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器皿 | 13.3 | 6.2 | 2.2 | 90 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 304、305 | 内面ヘラ磨き |
| 11 | 土師器甕 | 12.9 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 196、197、304 | |
| 12 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 明褐色 | | 186、290、291、292、303、304 | |
| 13 | 紡錘具 | | | | | | | | 73 | 須恵器甕底部利用 |

## 第306表　D253出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 8.8 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 14、80 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 8.3 | 4.4 | 完形 | 石英粒 | 赤褐色 | | 26、74 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 8.2 | 4.3 | 50 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 2、9、68、87 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.1 | 7.7 | 3.2 | 完形 | 精　緻 | 明褐色 | | 79 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.5 | 3.9 | 60 | 砂　粒 | 明褐色 | | 43、82 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.0 | 3.7 | 完形 | 精　緻 | 褐　色 | | 73、86 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.9 | 4.0 | 90 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 75、78 | |
| 8 | 須恵器坏 | 12.2 | 6.8 | 4.4 | 90 | 石英粒 | 青灰色 | | 81、84、88 | 線刻「×」 |
| 9 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 口縁30 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 88 | |
| 10 | 土師器甕 | 12.2 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 85 | |
| 11 | 土師器甕 | 19.1 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 88 | |

## 第307表　D254出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 10.0 | 5.8 | 90 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 1 | |
| 2 | 土師器甕 | 11.2 | — | — | 70 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 2 | |
| 3 | 砥石 | | | | | | | | 2 | 凝灰岩 |

## 第308表　D255出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 9.0 | 5.7 | 90 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 2、8 | |
| 2 | 土師器甕 | 21.0 | — | — | 口縁20 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 7 | |
| 3 | 土師器甕 | 21.8 | 9.0 | 34.2 | 70 | 石英・雲母粒 | 明褐色 | | 4、6、7、8 | 底部木葉痕 |
| 4 | 須恵器甕 | — | 17.0 | — | 口縁欠 | 雲母・石英粒 | 灰　色 | | 1 | 胴部穿孔 |

## 第309表　2群D出土文字資料一覧

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 廓 | 4a | D249 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 23 | |
| 2 | 廓 | 4a | D249 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 16 | |
| 3 | 廓 | 4a | D249 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 21 | |
| 4 | 廓 | 4a | D249 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 22 | |
| 5 | 廓 | 4a | D249 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 19 | 黒色処理 |
| 6 | 廓 | 4a | D249 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 18 | |
| 7 | 廓 | 4a | D249 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 20 | |
| 8 | 廓 | 4a | D249 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 17 | |
| 9 | 廓 | 4b | D248 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 13 | 黒色処理 |
| 10 | 廓 | 4b | D248 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 14 | |
| 11 | 廓 | 4b | D248 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 12 | |
| 12 | 廓 | 5 | D251 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 13 | 廓 | 5 | D251 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 5 | |
| 14 | 廓 | 5 | D251 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 7 | |
| 15 | 廓 | 6 | D068 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 7 | |
| 16 | 廓 | 5 | D250 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 11 | |
| 17 | 廓 | 5 | D250 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 12 | |
| 18 | 廓 | 6 | D244 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 19 | 太 | 4a | D075 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 2 | |
| 20 | 太 | 4b | D248 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 11 | |
| 21 | 太 | 6 | D068 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 22 | 又 | 4a | D075 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 3 | 22・23の2箇所 |
| 23 | 又 | 4a | D075 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 3 | |
| 24 | 圓 | 5 | D251 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 4 | |
| 25 | 圓 | 4b | D248 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 16 | |
| 26 | 豊 | 4b | D248 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | 26・27・28の3箇所 |
| 27 | 豊 | 4b | D248 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | |
| 28 | 冨 | 4b | D248 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | |
| 29 | 饒 | 4b | D248 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 15 | |
| 30 | 文 | 3 | D243 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 6 | |
| 31 | 文 | 3 | D243 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 5 | |
| 32 | 文 | 3 | D246 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 5 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 文 | 3 | D246 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 6 | |
| 34 | 乙山 | 3 | D070 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 1 | |
| 35 | 生 | 6 | D244 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 7 | |
| 36 | 生 | 6 | D244 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 3 | |
| 37 | 立 | 6 | D061 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 6 | |
| 38 | 子 | 4a | D249 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 24 | |
| 39 | 丁ヵ | 6 | D068 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 9 | |
| 40 | 村 | 5 | D250 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 13 | |
| 41 | 得ヵ | 5 | D250 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | |
| 42 | 田ヵ | 6 | D068 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 11 | |
| 43 | 工 | 3 | D246 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 4 | |
| 44 | 魚ヵ | 3 | D070 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 3 | |
| 45 | 不明 | 3 | D070 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 4 | |
| 46 | 記号 | 4a | D249 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 25 | |

## 第7節　2群Eグループの遺構と遺物

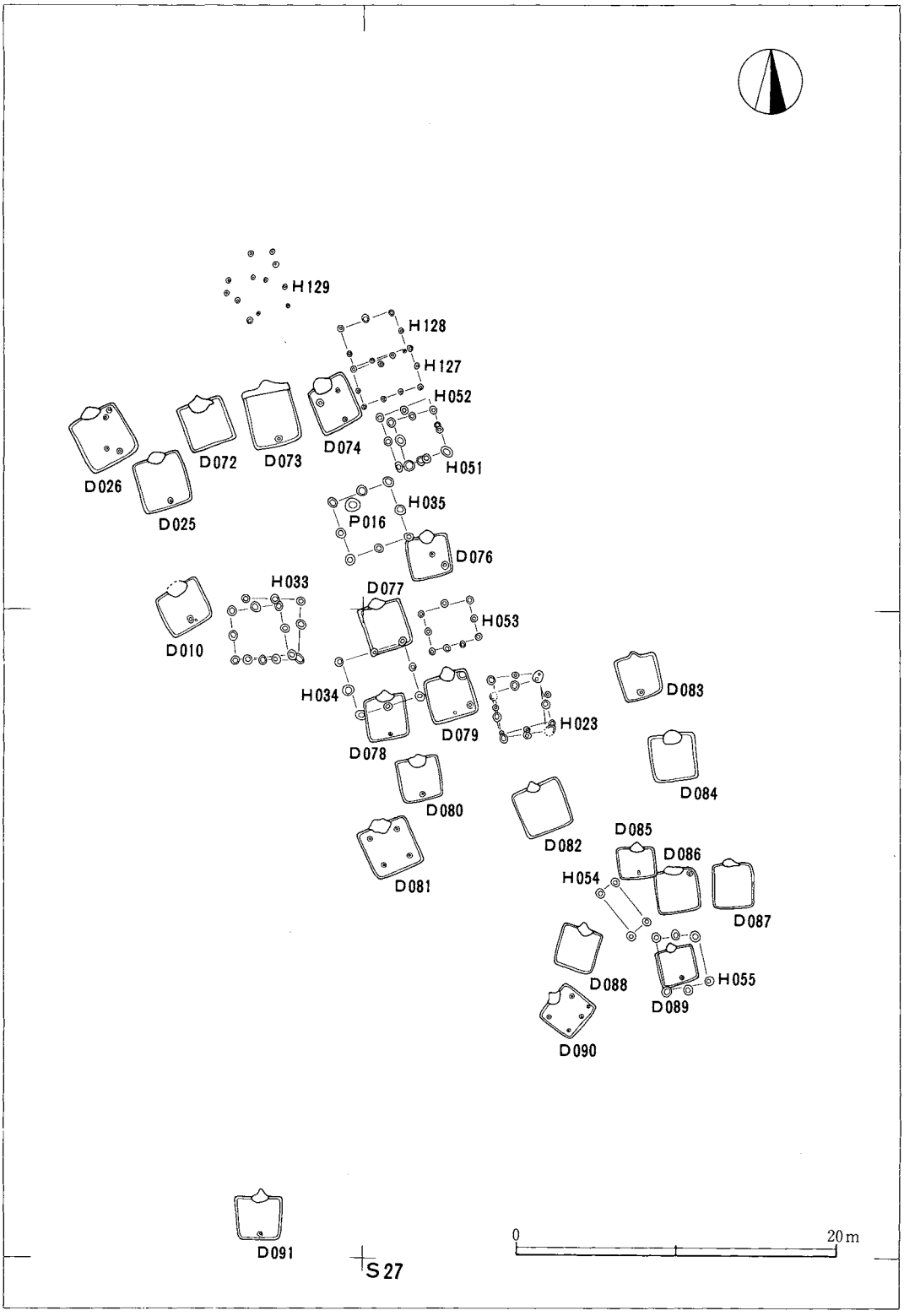
### 1　概　観（第186図、図版161）

2群Eグループは歴史時代2群のほぼ中央に位置し、2群Dグループと2群Fグループに両側を挟まれ、北側は2群Cグループと隣接している。また、南側は約60mの遺構空白域を挟んで3群と隣接している。台地は平坦で標高約23mを測り、寺谷津を直接臨むことはできない。遺構の分布範囲は略南北に長く、70m×30mの範囲に遺構が集中する。遺構は竪穴住居・掘立柱建物とも集中して建てられ、建物の軸方向もよく揃えられている。2群DグループからFグループは同じ様な規模の建物群が並んでおり、この中では最も整った建物配置を採っている。

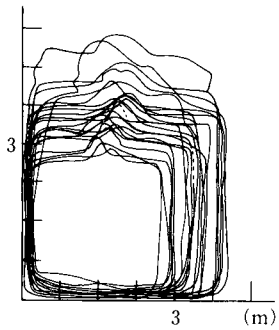
### 2　遺　構（第187図、第310～312表、PL.277～291、図版162～169）

2群Eグループで検出された遺構は、竪穴住居跡23軒、掘立柱建物跡13棟、土壙1基である。遺構の分布は比較的狭い範囲に集中し、遺構が分布する範囲は70m×30mで略南北に長い。竪穴住居跡・掘立柱建物跡とも建物の軸方向がよく揃えられ、他のグループと比較して整然と建物が配置されている。このことは、単に建物群の横幅が狭いということだけではなく、基本的に建物の軸方向を揃える姿勢が窺える。同様に2群DグループやFグループの建物の主軸方向の分布と比較しても、本グループはばらつきが少ないことが分かる。

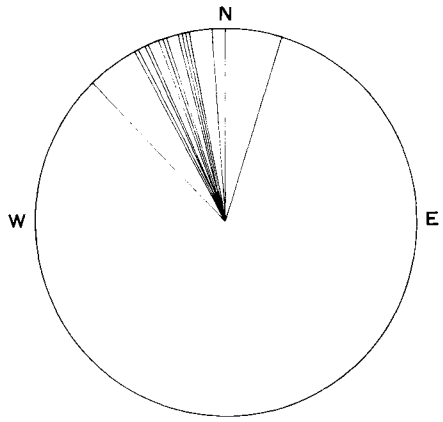
竪穴住居跡は寺谷津に向かう壁にカマドを設置し、その他の壁にカマドを設置する住居は1軒もない。建物の主軸方向はN-45°-WからN-17°-Eを指すが、ほとんどの住居はN-10°-Wから



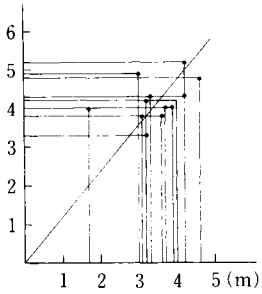

第186図　歴史時代２群Ｅグループ全体図



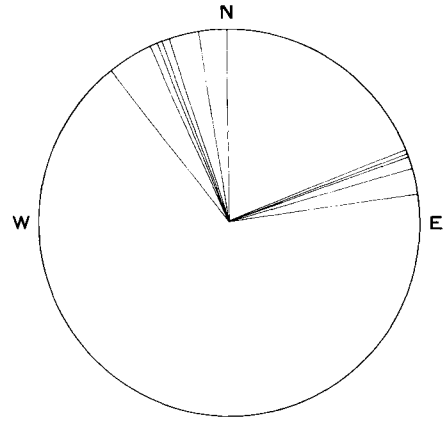

竪穴住居の規模




竪穴住居の主軸方向




掘立柱建物の規模




掘立柱建物の長軸方向

第187図　2群Eグループ建物比較

N-20°-Wの間に集中する。主軸方向に時期的な偏りは認められず、3期から6期まで大きな変化はない。ただ、D091が1軒だけ離れて位置し、最も近いD081とも約20m離れている。他の住居がいずれも近接していることを考えれば、D091のあり方は特殊と言える。D091は供膳形態で須恵器が卓越し、1期に比定できるが、他の住居は3期以降の構築であり、時期的にもD091だけが隔絶した存在である。住居の規模は一辺が4m以下の住居がほとんどで、長軸長が4mを超えるのはD026の1軒だけである。床面積も10～13m²に集中し、時期的な偏りもない。他のグループでは床面積の平均値のピークが3期から4期に認められるのが一般的であるが、本グループでは3期から6期に至るまで、床面積の平均値にほとんど変動がない。住居の形態はE・F型が主体となり、E型が11軒、F型が8軒を数え、E型は各時期に採用されている。住居対角線上に柱穴を有するA・B型の住居は少なく、2期D081・4b期D090の2軒だけである。また、カマドを構築した壁にテラスをもつC型の住居が2軒ある。D073は5期の構築、D

074は6期の構築で、白幡前遺跡の他のC型の住居と時期的に一致する。D074では粘土の貼付けは確認できなかったが、D073はカマド構築材がそのままテラス全面に貼付けられている。D073・D074とも柱穴はなく、D073は南壁際中央に出入口ピットが、D074は南壁中央に張り出しがある。また、両住居とも壁溝を巡らすが、共通してカマドを構築した北壁には存在しない。この他の特殊な例として、D083は3.4m×3.0mの方形の堀方があり、壁溝・出入口ピット・煙道部の張り出しが備わっているが、床面を構築した形跡はなく、カマドも構築されていない。また、カマドを使用した痕跡も認められない。恐らく、住居堀方を掘った段階で、住居の構築を中止したものと考えられる。また、同じ位置で改築した住居が2軒ある。D010はまったく重なる位置に2回の改築を行っている。それぞれの主軸方向はまったく同じで、カマドも同じ位置に構築している。D025は1回の改築が行われている。便宜的にA・Bとしたが、A→Bの新旧関係が確認できた。主軸方向は14°の開きがあり、住居の規模はBが小さい。カマドは攪乱を受けるが、同じ場所に構築しているようだ。

掘立柱建物は13棟が検出できた。建物の軸方向は竪穴住居とまったく重なり、N-10°-W～N-20°-W、あるいはそれに直交する方向である。建物は竪穴住居と混在し、時期的にも竪穴住居と並行する可能性が高い。建物は2間×2間の側柱構造の建物が主体となり、桁行長は4～5m、梁行長も4m前後に集中する。明確な3間×2間の建物はなく、H053・H127・H128はいずれも南側の棟が3間となるが、北側の棟は2間という不規則な建物である。しかし、3棟が揃って南側3間、北側2間というのも特徴的である。このうちH127・H128は軸方向を揃えて接しており、堀方の径が0.3～0.4mと、他の建物と比較してかなり小さい。また、H054は2間×1間の建物で、長軸を1間としている。長軸長は4.0mと長いが、短軸長は1.7mである。掘立柱建物跡同士が重複する例は、先のH127・H128が軸方向を揃えて接し、H023のA・B、H033のA・B、H051・H052はほぼ同じ場所で重複している。H051・H052は軸方向を揃えているが、H023のA・Bは20°、H033のA・Bは17°ずれている。なお、H023はAが先行し、H033はBが先行している。竪穴住居と重複する建物はH034・H055の2棟がある。H034はD077・D078の2軒の竪穴住居と重複し、両竪穴住居より新しい構築である。D077・D078はともに4a期の構築であり、H034は4a期以降の構築となる。H055はD089と重複するが、竪穴住居跡と重複する位置の堀方が確認できなかった。建物の軸方向はD089と揃えている。その他の建物の構築時期も具体的ではないが、掘立柱建物と竪穴住居が混在することから、掘立柱建物は竪穴住居跡と並行して構築されたものと考えられる。しかし、掘立柱建物の構築開始時期が3期となるか4期以降となるか不明である。

土壙はP016がある。P016は直径1.5mの円形の土壙で、確認面からの深さは0.4mで、底面は皿状を呈している。確認面から三彩陶器小壺が出土したが、そのほかに遺物はない。

## 第310表　2群E竪穴住居一覧

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D010 | 方　形 | 3.8×3.4 | 12.92 | N−24°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4a | 2回の建て替え。 |
| D025A | 方　形 | 4.2×4.1 | 17.22 | N−25°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 6 | 出入口ピットはA・B共通。 |
| D025B | 方　形 | 3.5×3.2 | 11.20 | N−11°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 6 | |
| D026 | 方　形 | 4.2×4.0 | 16.80 | N−28°−W | 北中央 | なし | なし | 3 | あり | 全周 | 4a | |
| D072 | 方　形 | 3.7×3.7 | 13.69 | N−19°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 3 | |
| D073 | 方　形 | 4.2×4.0 | 16.80 | N−12°−W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 5 | |
| D074 | 方　形 | 3.9×3.4 | 13.26 | N−45°−W | 北西中央 | あり | なし | なし | なし | 全周 | 6 | 南東壁中央に張り出しあり。 |
| D076 | 方　形 | 3.4×3.2 | 10.88 | N−12°−W | 北中央 | なし | なし | 1 | なし | 全周 | 3 | |
| D077 | 方　形 | 4.0×3.6 | 14.40 | N−21°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 4a | |
| D078 | 方　形 | 3.7×3.5 | 12.95 | N−12°−W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4a | 南壁中央に張り出しあり。 |
| D079 | 方　形 | 3.7×3.5 | 12.95 | N−14°−W | 北西中央 | あり | なし | なし | あり | 全周 | 4a | |
| D080 | 方　形 | 3.5×3.3 | 11.55 | N−13°−W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 3 | 南壁中央に張り出しあり。 |
| D081 | 方　形 | 4.2×4.1 | 17.22 | N−25°−W | 北西中央 | なし | 4 | 2 | なし | 全周 | 2 | |
| D082 | 方　形 | 4.0×3.6 | 14.40 | N−20°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 4a | |
| D083 | 方　形 | 3.4×3.0 | 10.20 | N−12°−W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4a | |
| D084 | 方　形 | 3.9×3.5 | 13.65 | N−12°−W | 北中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 4a | |
| D085 | 方　形 | 3.0×2.7 | 8.10 | N−4°−W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | なし | 3 | |
| D086 | 方　形 | 3.6×3.4 | 12.24 | N−18°−W | 北西中央 | なし | なし | 1 | なし | 全周 | 4a | |
| D087 | 方　形 | 3.5×3.4 | 11.90 | N−4°−W | 北中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 5 | |
| D088 | 方　形 | 3.3×3.2 | 10.56 | N−17°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 4b | |
| D089 | 方　形 | 3.0×2.7 | 8.10 | N−18°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 5 | |
| D090 | 方　形 | 3.5×3.1 | 10.85 | N−45°−W | 北西中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 4b | |
| D091 | 方　形 | 3.5×3.1 | 10.85 | N−0° | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 1 | |

## 第311表　2群E掘立柱建物一覧

| No. | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H023A | 2×2 | 側柱 | 4.0 | 3.7 | 1.8〜2.0 | 14.80 | 0.4〜0.8 | 0.4〜0.6 | N−9°−W | なし | | |
| H023B | 2×2 | 側柱 | 3.8 | 3.6 | 1.8 | 13.68 | 0.4〜0.8 | 0.4〜0.7 | N−20°−W | なし | | |
| H033A | 2×2 | 側柱 | 4.3 | 4.2 | 2.2 | 18.06 | 0.6〜0.8 | 0.4〜0.5 | N−0° | なし | | |
| H033B | 2×2 | 側柱 | 4.0 | 3.9 | 2.0 | 15.60 | 0.6〜0.8 | 0.3〜0.5 | N−83°−E | なし | | |
| H034 | 2×2 | 側柱 | 5.2 | 4.2 | 2.0〜2.6 | 21.84 | 0.8 | 0.6〜0.7 | N−74°−E | なし | | D077・078と重複。 |
| H035 | 2×2 | 側柱 | 4.8 | 4.6 | 2.1〜2.5 | 22.08 | 0.8 | 0.4〜0.5 | N−70°−E | なし | | |
| H051 | 2×2 | 側柱 | 3.3 | 3.2 | 1.6 | 10.56 | 0.6〜0.8 | 0.5〜0.6 | N−22°−W | なし | | |
| H052 | 2×2 | 側柱 | 4.2 | 4.0 | 2.1 | 17.22 | 0.7〜0.8 | 0.4 | N−24°−W | なし | | |
| H053 | 3×2 | 側柱 | 3.7 | 3.1 | 1.2〜1.8 | 11.47 | 0.4〜0.6 | 0.3〜0.8 | N−74°−E | なし | | |
| H054 | 1×1 | 側柱 | 4.0 | 1.7 | 1.8〜4.0 | 6.80 | 0.6〜0.7 | 0.3〜0.4 | N−37°−W | なし | | |
| H055 | 2×2？ | 側柱 | 4.2 | 3.2 | 1.7〜2.1 | 13.44 | 0.6〜0.8 | 0.4〜0.8 | N−18°−W | なし | | D089と重複。 |
| H127 | 3×2 | 側柱 | 4.9 | 3.0 | 1.2〜1.5 | 14.70 | 0.3〜0.4 | 0.3〜0.6 | N−70°−E | なし | | |
| H128 | 2×2 | 側柱 | 4.3 | 3.3 | 1.5〜2.1 | 14.19 | 0.3〜0.4 | 0.2〜0.4 | N−69°−E | なし | | |

## 第312表　2群E土壙一覧

| No. | プラン | 規　模 | 深さ | 軸方向 | 機能 | 時期 | 埋土の状況 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P016 | 円　形 | 直径1.5 | 0.4 | —— | | | ローム粒多く含む。 | 三彩小壺を埋納する。 |

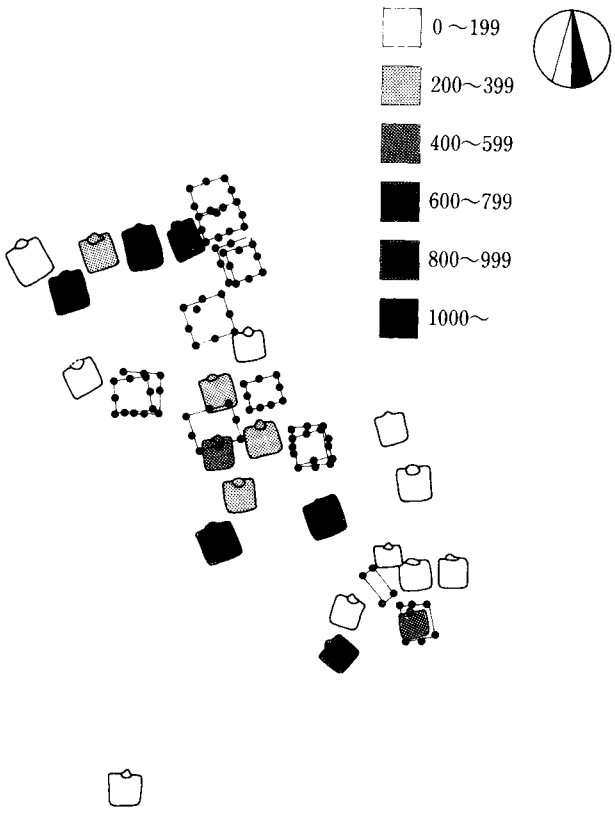
## 3　遺　物（第188図、第313～339表、PL.292～307、図版170～177）

竪穴住居から出土した遺物はほとんどが廃棄されたものである。特に遺物の量が多い住居跡はC型のD073・D074の2軒で、隣接した住居である。面積的には他の住居と変わらないものの、ともに1,700点以上の遺物が出土した。5・6期の竪穴住居は合計6軒があり、この6軒から出土した遺物は6,000点近い。ちなみに本グループで最も遺構数の多い4a期は9軒の住居があり、出土した遺物の合計は約2,300点である。掘立柱建物を居住施設と考えるならば、5・6期の遺物量を掘立柱建物に起因するものと考えることもできる。カマドを中心とした遺物の出土状況は、D089で土師器甕・須恵器甕・ロクロ土師器坏が火床部のやや奥まった位置に底面から若干浮いた状態で逆位に重ねられていた。

**D010**　遺物は少なく、図示したものも全体形を知り得るものはない。ロクロ土師器坏は口縁部の破片が図示でき、口縁部が僅かに外反している。時期決定の材料となるものはないが、盤・須恵器蓋を伴っており、参考となる。鉄製品は刀子がある。

**D025**　A・B2軒が重複し、遺物はすべてBに帰属する。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50°前後となる。底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りで、体部下端にも回転ヘラ削りを施している。また、高台坏4類・ロクロ土師器皿を伴っている。高台坏はやはり口縁部が外反する坏部を持ち、高台はあまり高くない。内面にヘラ磨きを行っている。ロクロ土師器皿は無高台のものと、底部周縁にヨコナデを行うものがある。底部は基本的に回転糸切り無調整であるが、15は静止ヘラ削りを施している。坏類は墨書されたものが多いが、釈文は不明である。土師器甕は口縁部を受け口状に調整する製品が主体的である。

**D026**　遺物は少ないが、5はカマド前面から出土した。土師器坏は図示した2個体とも2類で、体部は内彎気味に立ち上がっている。体部外面は横位のヘラ削りを施す




第188図　歴史時代2群E遺物の出土量図

が、内面とともにヘラ磨きを行っている。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部・体部下端に回転ヘラ削りを施している。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、底部はヘラ切り後、全面回転ヘラ削り、体部下端にも回転ヘラ削りを行う。土師器甕は1類である。鉄製品は刀子がある。

**D072** 遺物実測図10がカマド左脇から出土しているが、同一個体の破片はカマド右脇、南西壁際からも出土している。土師器坏は高台坏1類がある。ともに体部内外面にヘラ磨きを施し、2は底部外面に「文」と墨書されている。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がる1類で、底部は全面静止ヘラ削り、体部下端にも静止ヘラ削りを施している。土師器甕は口唇部を丸く納めるものである。この他須恵器小壺がある。

**D073** 遺物は比較的多く、約2,200点出土している。遺物実測図23•28はカマドから出土した。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50〜53°となる。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。また、ロクロ土師器皿を伴っており、高台が付く1類・底部周縁にヨコナデを施す2類、無高台の4類がある。坏類には墨書されたものが多く、釈文は「入」・「圓」となる。また、23は内外面に「太」と線刻されている。24は土師器鉢で、体部は横位のヘラ削り後、内外面にヘラ磨きを施している。土師器甕は口唇部を丸く納めるものと受け口状に調整するものがあり、28はほぼ完形である。この他には須恵器鉢がある。鉄製品は刀子・鎌・鉄鏃・紡錘具がある。

**D074** 遺物は多く出土し、約1,700点がある。遺物実測図1・4・11・14・19はカマドから出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するもので、底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部回転ヘラ削りである。例外として11は周縁部静止ヘラ削り、4・7・9・11は体部下端に静止ヘラ削りを施している。またロクロ土師器皿を伴っているが、量的には少ない。16は底部回転糸切り無調整である。なお、11は底部内面に「□万」と線刻され、12は体部外面に「羊」と墨書されている。土師器甕は口縁部が受け口状を呈するもので、1・3類はまったく見られない。なお、羽釜が出土している。鉄製品は刀子がある。29は石製の紡錘具で、側面に鋸歯状の線刻がある。

**D076** ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、1は底部回転糸切り無調整、2は全面回転ヘラ削りである。2は底部外面に「圓」と墨書されている。須恵器坏は全体形を残していない。3は底部外面を、4は天井部内面を転用硯として使用している。土師器甕は1・3類が伴っており、6も口縁部が受け口状を呈している。

**D077** 図示できなかったが煙道部の先端からロクロ土師器坏が出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。2は酸化炎焼成で、底部全面静止ヘラ削り、体部下端も静止ヘラ削りを施している。なお、4は内面に「×」の線刻が、3は底部外面に同じく「×」のヘラ描きがある。5は破片であるが、「○」

と墨書されている。土師器甕は小形の製品で、口縁部が受け口状を呈している。

**D078**　ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。須恵器坏は体部下端に若干丸みを持つもので、底部はヘラ切り後、周縁部静止ヘラ削りである。なお、破片であるが、7は底部外面に「文」と墨書されている。甕類は図示できるものが少ない。9・10は土師器甕で、口縁部が受け口状を呈している。鉄製品は鋸がある。

**D079**　遺物は比較的少ない。ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、1・2は立ち上がりの角度が56°前後である。底部は2が回転糸切り無調整、1は全面静止ヘラ削りである。須恵器坏は2点が図示できた。3は体部下端に丸みを持つもので、底部は回転糸切り後、周縁部静止ヘラ削り、4はヘラ切り後、僅かにヘラ削りを施している。7は須恵器甑である。

**D080**　遺物はカマド前面を中心として出土している。ロクロ土師器坏は2点が図示できた。1は体部下端にやや丸みを持つもので、底部は全面回転ヘラ削りで、「×」のヘラ描きがある。2は口縁部の破片で、墨書される。土師器甕は1類が主体的である。3は口唇部を丸く納めるもので、かなり薄手の製品である。6は須恵器甑で、底部5孔の製品である。鉄製品は鉄鏃がある。

**D081**　遺物は比較的多く出土したが、同一個体の破片もかなり散乱している。また、カマド内からも多くの遺物が出土しているが、その状況は破片を詰め込んだものである。カマド内から出土した遺物は4・14・15がある。土師器坏は2点が図示できた。ともに口縁部の調整があまりよくないが、3類に捉えられる。体部は横位のヘラ削りで、2は内面にヘラ磨きを施している。ロクロ土師器坏は箱形の製品が主体的で、立ち上がりの角度は60～64°となる。底部は基本的に回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りであるが、9は全面静止ヘラ削りである。5は底部外面に「文」と墨書される。須恵器坏は4点が図示できた。10は体部が内彎気味に立ち上がり、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。8・9・11は箱形に近い器形で、底部全面回転ヘラ削りである。8は体部外面に朱墨で「赤足」と書かれている。土師器甕は1類が主体的で、この他に2・3類がある。小形の製品は口唇部を丸く納めるものが多い。鉄製品は鉸具がある。

**D082**　比較的復元できたのは坏類よりも甕が多く、土師器甕はすべてカマド周辺から出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は52～55°となる。底部は全面回転ヘラ削りで、体部下端にも回転ヘラ削りを施している。なお、高台坏1類を伴っている。5は体部外面・底部外面に墨書され、7は体部外面に線刻がある。また、6は底部外面の僅かな窪みに墨を溜め、僅かに摩滅している。体部外面に墨が流れた痕跡がある。須恵器坏は口縁部が外反するもので、2点とも非常によく似た製品である。底部はヘラ切り後、全面静止ヘラ削りで、体部下端に静止ヘラ削りを施している。土師器甕は1類が主体的で、11～14

は完形に近く復元できた。また、須恵器甕の18も底部を欠損するが、ほぼ完形である。鉄製品は刀子がある。

**D083**　ロクロ土師器坏が1点図示できただけである。口縁部は僅かに外反し、底部は回転糸切り無調整である。

**D084**　遺物はかなり少ない。1・9はカマドから出土している。ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、底部・体部下端とも静止ヘラ削りである。また、高台坏1類を伴っており、内面黒色処理される。3～6は破片であるが、それぞれ墨書されている。3・4は「廓」である。須恵器坏は1点図示できた。底部・体部下端とも静止ヘラ削りである。9は須恵器甑である。鉄製品は鎌がある。

**D085**　遺物実測図5の土師器甕がカマド火床部のやや奥まった位置に逆位に置かれていた。ロクロ土師器坏は図示できるものがないが、高台坏1類を伴っている。1は口縁部を欠損し、体部内外面にヘラ磨きを施す。内面黒色処理されている。なお、底部外面に「文」と墨書されている。須恵器坏も1点が図示できた。体部は直線的に立ち上がり、底部・体部下端とも静止ヘラ削りである。土師器甕は大形の5がカマドから出土している。口唇部は受け口状を呈し、1類である。4は小形の甕で、口唇部を丸く納める。

**D086**　ロクロ土師器坏は底部の破片が図示できただけである。底部は回転糸切り後、ほぼ全面に回転ヘラ削りを施している。1は底部外面に「上」と墨書されている。2は須恵器坏で、体部は直線的に立ち上がっている。底部・体部下端とも静止ヘラ削りである。4は須恵器甕で、口縁部底部を欠損している。カマド左脇から出土した。

**D087**　ロクロ土師器坏は1点が図示できた。体部が直線的に立ち上がるもので、底部・体部下端とも静止ヘラ削りである。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、底部は全面静止ヘラ削りである。4は土師器甕で、口縁部・底部を欠損する。東壁近くの床面に近いレベルから出土した。5は土師器甑で、底部1孔の製品である。

**D088**　カマド右脇から遺物実測図3・6が出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、体部の立ち上がりの角度は56～58°である。底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。3は体部外面に「加」と墨書され、3・4は底部外面に「×」の線刻がある。6は須恵器甑で、底部5孔の製品である。5は甕であろう。

**D089**　カマド火床部のやや奥まった位置に遺物実測図2・9・10・12が重ねて置かれ、また、5・7もカマド内から出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は52～57°となる。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りで、体部下端にも回転ヘラ削りを施している。4は内面にヘラ磨きを行う。なお、ロクロ土師器皿を伴っている。6は底部回転糸切り無調整で、底部周縁にヨコナデを施して高台様に調整している。土師器甕は口唇部を丸く納める製品が主体的で、胴部縦位のヘラ削り、底部近くに横位

のヘラ削りを施す。須恵器甕は３・４類がある。鉄製品は鎌がある。

**D090**　住居北コーナーから23が出土している。その他の甕は同一個体の破片がかなり散乱している。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50～55°となる。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施すものが主体的であるが、３は全面不定なヘラ削りである。９は内面黒色処理され、８は内面にヘラ磨きを行う。なお、量的には少ないがロクロ土師器皿を伴っている。図示したものは高台が付くもので、内面にヘラ磨きを行う。坏類には墨書されるものが多く、釈文は15が「十」、16が「古」、12が「圓」、13･14は「廓」である。土師器甕は２点が図示できた。20は３類、19は５類である。須恵器甕は23が球形の胴部を持ち、１類である。内面は当て板痕をナデて消している。22は３類で、胴部は縦位の平行叩き、底部近くに横位のヘラ削りを施している。鉄製品は棒状品がある。

**D091**　遺物は非常に少ない。坏類は須恵器が卓越する。須恵器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部はヘラ切り後、全面一方向のヘラ削り、体部下端は回転ヘラ削りを施している。５は土師器甕で、１類の小形の製品である。口縁部は受け口状を呈し、胴部上半に僅かにヘラ磨きを施している。胴部下半は横位のヘラ削りである。

**H023B**　ロクロ土師器坏の破片を図示する。体部は直線的に立ち上がるもので、体部外面に「上挟ヵ」と墨書される。

**H033**　ロクロ土師器坏･皿が各１点図示できた。ロクロ土師器坏は口縁部が外反し、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。内面黒色処理されている。２はロクロ土師器皿で、口縁部を欠損する。底部は全面回転ヘラ削りで、内面はヘラ磨きを行う。底部内面に「圓」と墨書されている。

**H035**　ロクロ土師器坏１点が図示できた。体部は直線的に立ち上がり、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。

**P016**　三彩陶器小壺が出土した。口縁部から肩部にかけて約1/2を欠損するが、全体形は復元できる。口径4.1cm、高台径4.0cm、器高4.4cmを測り、最大径は胴部中位に近い位置にあり、7.0cmを測る。口縁部は短く直立し、高台は摩滅してほとんど残っていない。施釉は４単位で、上下に釉を掛け分けることなく、口縁部から底部に４方１段の構成となる。釉薬の遺存は悪いが、釉調は褐色釉が明るい褐色から黄褐色に近く、緑色釉は不鮮明である。透明釉は緑がかることはない。胎土は非常に精緻で、軟質である。胎色は灰白色から淡黄色を呈している。

白幡前遺跡から出土した多彩陶器は、この三彩小壺だけで、単彩の緑釉陶器が１群Ａグループの D181Cから出土している。三彩陶器はこれまでに、井戸向遺跡歴史時代４群の D116から出土した三彩小壺が報告されているだけで、本例が２例目となる。さらに平成元年度の調査で、井戸向遺跡歴史時代４群の D147から托･小壺の２個体の三彩陶器が出土し、萱田地区では合計４個体の三彩陶器が出土したことになる。釉の発色は井戸向遺跡の D116から出土した小壺、D

147から出土した托が極めてよく、それらと比較すると本例の釉調はすこぶる悪い。また、井戸向遺跡から出土した3個体の三彩陶器はいずれも竪穴住居から出土したのに対し、本例は単独で土壙に埋置したものである。P016はH035と位置が重なるが、周辺に3ないし4a期の竪穴住居が存在し、これらの住居との関係が考えられる。

以上、各遺構を概観したが、次に時期の変遷を追ってみたい。1期はD091の1軒が隔絶して存在する。供膳形態は須恵器が卓越し、遺物点数をみると全出土点数に対する須恵器坏の割合は49%に達する。須恵器坏は底径が8cm近い製品で、口縁部が僅かに外反している。土師器甕は常総型の1類が伴っている。

2期はD081の1軒を比定したが、ロクロ土師器坏4・5を見る限り、3期に入る可能性もある。ロクロ未使用の土師器坏は比較的身の深い3類で、調整は粗雑である。ロクロ土師器坏は箱型の器形を呈している。

3期はD072・D076・D080・D085等が比定できる。ロクロ土師器坏は箱型の器形がやや崩れたものが主体となる。また、高台坏1類を伴う。土師器甕は1・3類が主体となり、小形のものは口唇部を丸く納める。墨書土器は少なく、「文」・「圓」がある。

4a期はD026・D077・D078・D079・D082・D084等が比定できる。ロクロ未使用の土師器坏は少なく、D026で2点が図示できた。体部内外面に粗雑なヘラ磨きを行う2類である。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、体部の立ち上がりの角度は55°前後となる。また、土師器高台坏1類を伴っている。須恵器坏はバラエティーに富むが、1類はなく、4類が主体となる。土師器甕は1類が多く、3類は図示できるものが少ない。墨書土器はやはり少なく、「文」・「廓」がある。

4b期はあまり良好な資料がなく、遺構数自体も少ない。かろうじてD090が比定できる。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反し、内面黒色処理した製品が出現する。ロクロ土師器皿は良好な資料が無いが、D090では高台が付く1類がある。土師器甕は3類が多く、4・5類もみられる。墨書土器はD090で「圓」・「廓」・「十」・「古」がある。

5期はD073・D087・D089等が比定できる。ロクロ土師器坏は口縁部が外反し、体部の立ち上がりの角度は50°前半となる。ロクロ土師器皿は無高台の3・4類と底部周縁にヨコナデを行う2類がある。土師器甕は1・3類がほとんど見られなくなり、口唇部を丸く納める4類が多い。墨書土器はD073で多く、「圓」・「入」とともに「太」を線刻したものがある。

6期はD025・D074が比定できる。遺構数は少ないが、両住居とも多くの遺物が図示できた。ロクロ土師器坏は口縁部が外反し、体部の立ち上がりの角度は50°前後となる。また、D025では高台坏4類を伴っている。ロクロ土師器皿はほとんど無高台の製品である。土師器甕は口縁部が受け口状を呈する2類が主体となる。なお、D074では羽釜が出土している。墨書土器は少なく、「圓」・「羊」がある。

鉄製品は刀子が多く、4期以降の各時期の住居から出土している。紡錘具は鉄製が1点であるが、石製が3点ある。特殊な製品は2期D081から出土した鉸具、4a期D078から出土した鋸がある。鋸の出土例は少なく、本例は現存長13.4cm、幅1.5cmの小形のもので、木製の柄を装着するものである。

墨書土器の量は全体的に少ないグループで、文字の種類は2群Cグループから3群と共通する「圓」・「廓」が主体となる。本グループ独自の文字は「赤足」・「加」があるが、ともに1点しか出土していない。2群Cグループから3群は墨書土器の内容が酷似するが、これらのグループに共通する文字で、本グループで欠如する文字は「生」・「子」があり、また、「太」は線刻されたものはあるが、墨書されたものがない。

**第313表　D010出土遺物一覧**

| 番号 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎土 | 色調 | ロクロ | 遺物番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | — | — | 口縁20 | 砂粒 | 明褐色 | | 8 | 内面油煙付着 |
| 2 | 土師器盤 | 16.6 | — | — | 口縁20 | 砂粒 | 褐色 | 右 | 33 | |
| 3 | 土師器蓋 | 15.6 | — | — | 口縁20 | 精緻 | 褐色 | 右 | 33 | |

**第314表　D025出土遺物一覧**

| 番号 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎土 | 色調 | ロクロ | 遺物番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.5 | 4.1 | 30 | 砂粒 | 褐色 | 右 | 1、4、13、100、106 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 6.9 | 4.2 | 50 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 288 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.4 | 3.9 | 40 | 砂粒 | 明褐色 | | 96、131、151、152、261、263 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.2 | 3.8 | 完形 | 砂粒 | 明褐色 | | 100、156 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.0 | 3.8 | 20 | 精緻 | 明褐色 | 右 | 218、260 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 6.4 | 3.9 | 40 | 砂粒 | 暗褐色 | 右 | 285、287 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 8.0 | 3.5 | 20 | 砂粒 | 橙色 | 右 | 58、63 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 6.8 | 3.4 | 20 | 砂粒 | 明褐色 | 右 | 139、155 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.8 | 3.6 | 20 | 精緻 | 明褐色 | | 56、64、100 | 墨書 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | — | — | 20 | 精緻 | 橙色 | | 34、100 | 墨書 |
| 11 | 土師器高台坏 | 16.4 | 8.7 | 4.7 | 20 | 雲母粒 | 褐色 | 右 | 26、30、52、77、100、122 | 内面ヘラ磨き |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂粒 | 橙色 | | 100 | 墨書 |
| 13 | ロクロ土師器皿 | 14.4 | 6.4 | 2.8 | 30 | 雲母粒 | 褐色 | 右 | 157、231、337 | 内面ヘラ磨き |
| 14 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 7.4 | 2.9 | 20 | 雲母粒 | 橙色 | 右 | 197 | 線刻、ヘラ磨き |
| 15 | ロクロ土師器皿 | 16.4 | 8.0 | 2.2 | 20 | 砂粒 | 明褐色 | 右 | 147 | 内面ヘラ磨き |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精緻 | 明褐色 | | 100 | 墨書 |
| 17 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 7.4 | 2.7 | 30 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 154、257 | 内面ヘラ磨き |
| 18 | 土師器鉢 | 20.8 | — | — | 口縁20 | 砂粒 | 灰褐色 | | 332 | |
| 19 | ロクロ土師器坏 | — | 7.8 | — | 底部 | 砂粒 | 赤褐色 | 右 | 107、206、337、338 | |
| 20 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 口縁30 | 砂粒 | 明褐色 | | 45、160、181、224 | |
| 21 | 土師器甕 | 19.2 | — | — | 口縁30 | 砂粒 | 赤褐色 | | 24、100、130、268、278、321、337 | |
| 22 | 土師器甕 | 23.2 | — | — | 口縁20 | 砂粒 | 黒褐色 | | 45、160、181、224 | |
| 23 | 土師器甕 | 15.8 | — | — | 口縁20 | 砂粒 | 明褐色 | | 338 | |
| 24 | 土師器甕 | — | 9.6 | — | 底部 | 砂粒 | 暗褐色 | | 89、213、286 | ロクロ調整 |

## 第315表　D026出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 11.9 | 7.3 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 明褐色 | | 35 | 内面ヘラ磨き |
| 2 | 土師器坏 | 11.4 | — | — | 20 | 砂　粒 | 明褐色 | | 3 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 6.4 | 3.9 | 20 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 36 | |
| 4 | 須恵器坏 | 13.0 | 7.0 | 4.4 | 完形 | 雲母粒 | 灰　色 | 右 | 17 | |
| 5 | 土師器甕 | 22.8 | 8.3 | 33.2 | 30 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 19、23、27、36 | 底部木葉痕 |

## 第316表　D072出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器高台坏 | 10.6 | 8.2 | 4.5 | 60 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 163 | 線刻、ヘラ磨き |
| 2 | 土師器高台坏 | — | 5.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 84 | 墨書「文」、黒色処理 |
| 3 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.3 | 3.6 | 30 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 62、130 | |
| 4 | 須恵器坏 | 13.0 | 6.6 | 4.1 | 30 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 68 | |
| 5 | 須恵器蓋 | 18.4 | — | — | 20 | 雲母粒 | 灰　色 | 右 | 32 | |
| 6 | 須恵器小壺 | 8.0 | 8.4 | 5.6 | 30 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 33、83、136、146 | |
| 7 | 土師器甕 | 15.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明褐色 | | 80 | |
| 8 | 土師器甕 | 12.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 142 | |
| 9 | 土師器甕 | 22.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明褐色 | | 15 | |
| 10 | 土師器甕 | 12.6 | 7.2 | 13.6 | 60 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 96、109、121、147、149、157、162 | |

## 第317表　D073出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.0 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 298、665、925 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.8 | 3.7 | 30 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 356、372、567、869、1046 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.4 | 3.7 | 30 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 157、283、320、1544 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.5 | 3.3 | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1007、1325、1425、1438、1446、1504 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.9 | 3.9 | 20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1208 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.0 | 3.7 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 452、963 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.0 | 3.6 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 964、1619 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.0 | 3.8 | 20 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 873 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 7.0 | 4.5 | 30 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 424、473、1207、1270、1633 | 内面ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 8.0 | 3.7 | 60 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 1402、1439、1442、1444 | 墨書「入」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.8 | 4.4 | 60 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 1380、1397、1442、1444 | 線刻「入」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 501 | 墨書「圓」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 1400 | 墨書 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 787 | 墨書「圓」 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 1501 | 線刻「圓」、黒色処理 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 赤褐色 | | 952 | 線刻 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | — | 6.8 | — | 底部 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 1619 | 墨書「入」、線刻 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 7.8 | 4.2 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 563、643、725、798 | 線刻 |
| 19 | ロクロ土師器皿 | 13.0 | 7.0 | 2.6 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 527、937、1601 | |
| 20 | ロクロ土師器皿 | 13.8 | 7.6 | 2.1 | 30 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 495、1299、1374、1611 | |
| 21 | ロクロ土師器皿 | 13.3 | 5.8 | 2.3 | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 693、880 | |
| 22 | ロクロ土師器皿 | 13.4 | 6.7 | 2.5 | 完形 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 578、579 | 墨書「入」 |
| 23 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 6.8 | 2.6 | 70 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1746 | 線刻「太」 |
| 24 | 土師器鉢 | 24.2 | 12.6 | 12.7 | 30 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 360、923、1137、1331、1360、1483 | 内面ヘラ磨き |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 土師器甕 | 10.1 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | | 1275、1494 | |
| 26 | 土師器甕 | 18.8 | — | — | 60 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 1360、1368、1506、1511、1529、1729 | |
| 27 | 土師器甑 | 29.5 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 1036、1701、1742、1743 | |
| 28 | 土師器甕 | 15.0 | 6.0 | 17.5 | 70 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 1734、1750、1751、1753、1763 | ロクロ調整 |
| 29 | 須恵器鉢 | 22.1 | 12.2 | 13.0 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 355、1416、1444、1446、1721、1730 | 片口 |
| 30 | 紡錘具 | | | | | | | | 752 | 石製 |

## 第318表　D074出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 6.4 | 3.5 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 1361、1363、1375 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 6.8 | 4.0 | 完形 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 左 | 494、531、1007、1019、1020、1087 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | 7.6 | 4.4 | 50 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | 右 | 223、624、849、985 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 7.0 | 3.7 | 50 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 1344、1360、1375 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 6.6 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 867、1078 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 7.5 | 4.4 | 40 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 610、692、919 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.8 | 3.7 | 50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 190、794、801、802、858 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.6 | 6.6 | 4.2 | 80 | 石英粒 | 明黄褐色 | 右 | 1280 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | — | — | 20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 1309、1375 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 7.6 | 4.5 | 50 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 351、1144、1395 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.1 | 4.0 | 50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 左 | 1334、1343 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 700 | 墨書「羊」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 17.5 | 8.8 | 5.0 | 50 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | 右 | 1364、1365、1366、1367 | 線刻 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | 6.9 | 5.1 | 60 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 648、900、1349、1358 | 線刻、「□万」 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 8.4 | 4.4 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 973、1071、1199、1322 | 線刻 |
| 16 | ロクロ土師器皿 | 13.9 | 6.0 | 2.7 | 50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 1119 | |
| 17 | 土師器甕 | 19.3 | — | — | 底部欠 | 雲母粒 | 褐　色 | | 969、1081、1082、1141、1161、1305 | |
| 18 | 土師器甕 | 18.7 | — | — | 50 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 23、122、123、136、454、619、627 | |
| 19 | 土師器甕 | 18.3 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 1350 | |
| 20 | 土師器甕 | 19.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 151、866、1155、1336 | |
| 21 | 土師器甕 | 20.4 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 503、533、864 | |
| 22 | 土師器甕 | 17.8 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 明黄褐色 | | 704、1271 | |
| 23 | 土師器甕 | 18.0 | — | — | 口縁50 | 長石粒 | 赤 褐 色 | | 815、1340 | |
| 24 | 土師器甕 | 14.1 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 1339、1347 | |
| 25 | 土師器甕 | 14.2 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 407、823 | |
| 26 | 土師器甕 | 13.3 | — | — | 口縁80 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 118、707、809、840、846 | |
| 27 | 土師器羽釜 | 19.4 | — | — | 40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 317、324、578、655、756、1210、1215 | |
| 28 | 土師器甕 | — | 10.8 | — | 底部 | 雲母粒 | 暗赤褐色 | | 419、574、869、955、975、976、1192 | |
| 29 | 紡錘具 | | | | | | | | 1168 | 鋸歯状線刻 |

## 第319表　D076出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.6 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 128、132、135 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | — | 7.4 | — | 底部30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 6 | 墨書「圓」 |
| 3 | 須恵器高台坏 | — | 10.2 | — | 底部 | 精　緻 | 灰　色 | | 73 | 転用硯 |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 須恵器蓋 | — | — | — | 50 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 93、113 | 転用硯 |
| 5 | 土師器甕 | 15.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 30 | |
| 6 | 土師器甕 | 26.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 31、43、70、80、83、104、130 | |
| 7 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 18、91、105 | |

## 第320表　D077出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.6 | 4.3 | 50 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 92、97、121、165 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 10.9 | 6.4 | 5.0 | 30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 70 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.2 | 4.2 | 60 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 42、164 | ヘラ描き |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.2 | 3.3 | 70 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 68、79、84、85、162 | 線刻 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 73 | 墨書 |
| 6 | 土師器甕 | 16.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 123 | |

## 第321表　D078出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 10.4 | 5.8 | 3.8 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 62 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 7.4 | 4.1 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 147、171、233 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 7.0 | 4.2 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 110、376 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 6.0 | 4.2 | 90 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 423 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 6.4 | 3.2 | 20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 91 | |
| 6 | 須恵器坏 | 12.3 | 7.3 | 4.1 | 90 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 149 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 325 | 墨書「文」 |
| 8 | 土師器甕 | — | 10.8 | — | 台部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 311 | |
| 9 | 土師器甕 | 19.2 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 415、426 | |
| 10 | 土師器甕 | 15.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 256 | |
| 11 | 紡錘具 | | | | | 砂　粒 | 褐　色 | | 442 | 土製 |

## 第322表　D079出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 7.7 | 4.5 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 36、37、41、76、91 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 8.0 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 11、22 | |
| 3 | 須恵器坏 | 11.2 | 6.0 | 3.9 | 20 | 精　緻 | 灰　色 | | 210 | |
| 4 | 須恵器坏 | — | 6.8 | — | 底部 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 94 | 線刻 |
| 5 | 土師器甕 | — | 3.8 | — | 20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 57、69、116 | ミニチュア |
| 6 | 土師器甕 | 19.6 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 34、132 | |
| 7 | 須恵器甑 | — | 14.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 灰　色 | | 174、178、198、261 | |

## 第323表　D080出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 6.2 | 4.4 | 80 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 169 | ヘラ描き |
| 2 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 53 | 墨書「赤」ヵ |
| 3 | 土師器甕 | 21.4 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 30、195、209 | |
| 4 | 土師器甕 | — | 10.4 | — | 胴部30 | 石英粒 | 褐　色 | | 39、157、199、207、209 | |
| 5 | 土師器甕 | 20.6 | — | — | 口縁30 | 石英・雲母粒 | 赤 褐 色 | | 126、129、132 | |
| 6 | 須恵器甑 | — | 16.2 | — | 底部30 | 砂　粒 | 黒　色 | | 28、47、92、139 | 底部5孔 |

## 第324表　D081出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 14.0 | — | — | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 673 | |
| 2 | 土師器坏 | 12.0 | — | — | 30 | 精　緻 | 黒 褐 色 | | 22、297、564 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.0 | 8.2 | 4.3 | 30 | 精　緻 | 明赤褐色 | | 112、199 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.4 | 3.9 | 90 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 680 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.6 | 4.5 | 完形 | 精　緻 | 赤 褐 色 | | 604 | 墨書「文」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 赤 褐 色 | | 153 | 墨書「入」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 褐　色 | | 306 | 墨書「赤□」 |
| 8 | 須恵器坏 | 12.5 | 8.0 | 4.1 | 50 | 精　緻 | 暗 褐 色 | 右 | 85、116 | 朱墨書「赤足」 |
| 9 | 須恵器坏 | 11.5 | 7.2 | 3.8 | 30 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 680 | |
| 10 | 須恵器坏 | 13.0 | 6.8 | 3.6 | 20 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 151、322、503 | |
| 11 | 須恵器坏 | 12.0 | 7.7 | 4.4 | 70 | 精　緻 | 褐　色 | | 666 | |
| 12 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 115、168、186、275、321、551 | |
| 13 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 赤 褐 色 | | 677 | |
| 14 | 土師器甕 | 20.8 | — | — | 底部欠 | 石英・雲母粒 | 赤 褐 色 | | 639、641、671、711、712、721、728 | |
| 15 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁70 | 雲母・石英粒 | 明 褐 色 | | 323、426、432、443、568、582、639 | |
| 16 | 土師器甕 | 17.0 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 324、425 | |
| 17 | 土師器甕 | 21.0 | 4.1 | 28.0 | 完形 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 104、585、659、688、689、697、699 | |
| 18 | 土師器甕 | 12.2 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 171、181、331、366 | |
| 19 | 土師器甕 | 12.2 | 5.0 | 10.8 | 50 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 370、380、394、455、458、467、487 | |
| 20 | 須恵器甕 | — | 12.8 | — | 底部20 | 砂　粒 | 灰　色 | | 145、361、447、452、574 | |
| 21 | 須恵器甕 | 21.0 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 灰　色 | | 137、310、352、382、402、616 | |
| 22 | 土師器甕 | 8.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 196 | |
| 23 | 紡錘具 | | | | | | | | 536 | 土製 |

## 第325表　D082出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.3 | 4.6 | 完形 | 石英粒 | 明 褐 色 | 右 | 498 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 6.4 | 4.5 | 完形 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 91、496 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.6 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 342、492、504 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.1 | 4.4 | 60 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 280、333、501 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.5 | 4.1 | 完形 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 502 | 墨書 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.4 | 4.0 | 60 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 255、256、259、260、264、275 | 転用硯、墨痕 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 6.4 | 3.6 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 500 | 線刻 |
| 8 | 須恵器坏 | 12.9 | 6.9 | 4.4 | 完形 | 長石粒 | 黒　色 | 右 | 258、273、276、497 | |
| 9 | 土師器高台坏 | — | 9.8 | — | 底部30 | 雲母粒 | 暗赤褐色 | 右 | 113 | |
| 10 | 須恵器坏 | 12.6 | 6.9 | 3.9 | 完形 | 長石粒 | 黒　色 | 右 | 502 | |
| 11 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 50 | 石英・雲母粒 | 明 褐 色 | | 154、332、373、446、493、494、504 | |
| 12 | 土師器甕 | 19.5 | — | — | 底部欠 | 石英・雲母粒 | 明 褐 色 | | 199、492 | |
| 13 | 土師器甕 | 21.9 | — | — | 底部欠 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 456、492 | |
| 14 | 土師器甕 | 21.1 | — | — | 底部欠 | 石英粒 | 赤 褐 色 | | 231、239、241、247、270、311、320 | |
| 15 | 土師器甕 | 20.8 | — | — | 口縁20 | 石英・雲母粒 | 灰 褐 色 | | 85、164 | |
| 16 | 土師器甕 | 16.5 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 504、506 | |
| 17 | 須恵器甕 | 25.2 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 灰 褐 色 | | 207 | |
| 18 | 須恵器甕 | 22.6 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 495、499 | |

## 第326表　D083出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 5.9 | 3.9 | 30 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | | 31 | |

## 第327表　D084出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.2 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 75 | |
| 2 | 土師器高台坏 | 11.8 | — | — | 20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 28、30 | 黒色処理 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 52 | 墨書「廓」 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 15 | 墨書「廓」ヵ |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 18 | 墨書 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 50 | 墨書 |
| 7 | 須恵器坏 | 13.2 | 6.1 | 4.3 | 30 | 雲母粒 | 灰 褐 色 | 右 | 34 | |
| 8 | 土師器甕 | 14.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 48、60、68 | |
| 9 | 須恵器甑 | — | 14.0 | — | 底部30 | 砂　粒 | 灰　色 | | 65 | 底部5孔 |

## 第328表　D085出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器高台坏 | — | 7.6 | — | 底部 | 精　緻 | 赤 褐 色 | | 9 | 墨書「文」、黒色処理 |
| 2 | 須恵器坏 | 12.4 | 7.8 | 4.1 | 30 | 砂　粒 | 灰　色 | | 1 | |
| 3 | 須恵器瓶子 | — | 8.4 | — | 底部 | 精　緻 | 灰　色 | | 29 | |
| 4 | 土師器甕 | 10.8 | 5.6 | 10.9 | 70 | 精　緻 | 赤 褐 色 | | 48、52 | |
| 5 | 土師器甕 | 23.0 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 褐　色 | | 44、45、52、54 | |

## 第329表　D086出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | — | 6.2 | — | 底部 | 精　緻 | 暗赤褐色 | | 65 | 墨書「上」 |
| 2 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.6 | 3.9 | 30 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 14、50 | |
| 3 | 土師器甕 | 12.6 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 暗赤褐色 | | 54 | |
| 4 | 須恵器甕 | — | — | — | 胴部30 | 精　緻 | 灰　色 | | 41 | |

## 第330表　D087出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.2 | 3.6 | 70 | 精　緻 | 明赤褐色 | | 11、13、82、91、130、139 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.2 | 8.2 | 3.9 | 30 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 50、76、77、112 | |
| 3 | 須恵器瓶子 | — | — | — | 胴部30 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 89 | 転用硯 |
| 4 | 土師器甕 | — | — | — | 胴部 | 石英粒 | 暗 褐 色 | | 62、63、64、66、67、68、69、94、97 | |
| 5 | 土師器甑 | 31.0 | 15.0 | 23.0 | 20 | 精　緻 | 暗 褐 色 | | 95 | 底部1孔 |

## 第331表　D088出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 7.0 | 3.7 | 完形 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 63 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.6 | 3.9 | 完形 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 64 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.6 | 4.0 | 90 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 62 | 墨書「加」、線刻 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | 6.3 | — | 底部 | 精　緻 | 赤 褐 色 | | 36 | 線刻 |
| 5 | 須恵器甕 | 25.0 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 褐　色 | | 26 | |
| 6 | 須恵器甑 | 34.5 | 13.8 | 27.5 | 50 | 長石粒 | 暗赤褐色 | | 24、65 | 底部5孔 |

## 第332表　D089出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.0 | 4.2 | 60 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 158、299 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.8 | 4.6 | 完形 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 309 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.4 | 4.1 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 311 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.9 | 7.4 | 4.3 | 完形 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 398 | 内面ヘラ磨き |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.3 | 4.5 | 60 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 318 | |
| 6 | ロクロ土師器皿 | 13.4 | 6.2 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 277 | |
| 7 | 土師器甕 | 19.3 | — | — | 底部欠 | 雲母・石英粒 | 橙　色 | | 195、300、302、722 | |
| 8 | 土師器甕 | — | 8.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 77、79、128、129、185 | |
| 9 | 土師器甕 | 13.4 | 5.7 | 16.1 | 完形 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 121、252、315、316 | |
| 10 | 土師器甕 | — | 6.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 302、304、305、307、322 | |
| 11 | 須恵器甕 | — | — | — | 胴部 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 81、134、136、184、200、206 | |
| 12 | 須恵器甕 | 24.8 | 21.4 | 28.0 | 30 | 砂　粒 | 灰褐色 | | 60、112、113、175、176、302、310 | |

## 第333表　D090出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 5.8 | 4.9 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 127、213、337、405 | 内面ヘラ磨き |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.7 | 4.6 | 50 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 443、445、446 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.6 | 4.4 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 435 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.1 | 3.6 | 20 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 34 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 10.8 | 5.8 | 3.9 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 66、200、215、253 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.4 | 4.1 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 21、22、406 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 15.4 | 6.8 | 4.7 | 50 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 226、252 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 15.1 | 8.0 | 5.2 | 90 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 432 | 内面ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 7.4 | 5.1 | 50 | 石英粒 | 橙　色 | 右 | 437 | 黒色処理 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.8 | 3.4 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 436 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.8 | 3.7 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 11、139、256 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 150 | 墨書「圓」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 8 | 墨書「廓」ヵ |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 79 | 墨書「廓」ヵ |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.0 | 4.1 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 441 | 墨書「十」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 7.1 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 218 | 墨書「古」 |
| 17 | ロクロ土師器皿 | — | 6.7 | — | 底部 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 318 | 内面ヘラ磨き |
| 18 | ロクロ土師器皿 | — | 6.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 443 | 内面ヘラ磨き |
| 19 | 土師器甕 | 20.4 | — | — | 口縁50 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 5 | |
| 20 | 土師器甕 | 16.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 284、306、446 | |
| 21 | 須恵器甑 | — | 16.5 | — | 底部70 | 長石粒 | 暗褐色 | | 3、20、60、61、63、78、106、118 | |
| 22 | 須恵器甕 | — | 15.2 | — | 底部60 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 39、73、74、91、93、101、121、126 | |
| 23 | 須恵器甕 | — | — | — | 口縁欠 | 長石粒 | 灰　色 | | 51、447、448、450、454、455 | |
| 24 | 砥石 | | | | | | | | 159 | 凝灰岩 |

## 第334表　D091出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 14.0 | 7.9 | 4.5 | 80 | 石英・雲母粒 | 黒　色 | 左 | 11 | |
| 2 | 須恵器坏 | 12.8 | 6.7 | 3.8 | 完形 | 石英粒 | 黒　色 | 右 | 6 | |
| 3 | 須恵器坏 | 13.6 | 7.8 | 4.5 | 完形 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | 右 | 10、12 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 須恵器坏 | 13.8 | 7.9 | 3.9 | 70 | 雲母粒 | 灰白色 | 左 | 1、2、12、13 | |
| 5 | 土師器甕 | 14.7 | — | — | 底部欠 | 石英粒 | 赤褐色 | | 7、8、9 | |

## 第335表　H023B出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明褐色 | | 1 | 墨書「上挾」ヵ |

## 第336表　H033出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 7.1 | 4.1 | 30 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 11、12、13 | 黒色処理 |
| 2 | ロクロ土師器皿 | — | 7.0 | — | 底部 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 18、19 | 墨書「圓」 |

## 第337表　H035出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.1 | 3.9 | 50 | 長石粒 | 赤褐色 | 右 | 1 | |

## 第338表　P016出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 三彩陶器小壺 | 4.1 | 4.0 | 4.4 | 80 | 精　緻 | 白　色 | | 1 | |

## 第339表　2群E出土文字資料一覧

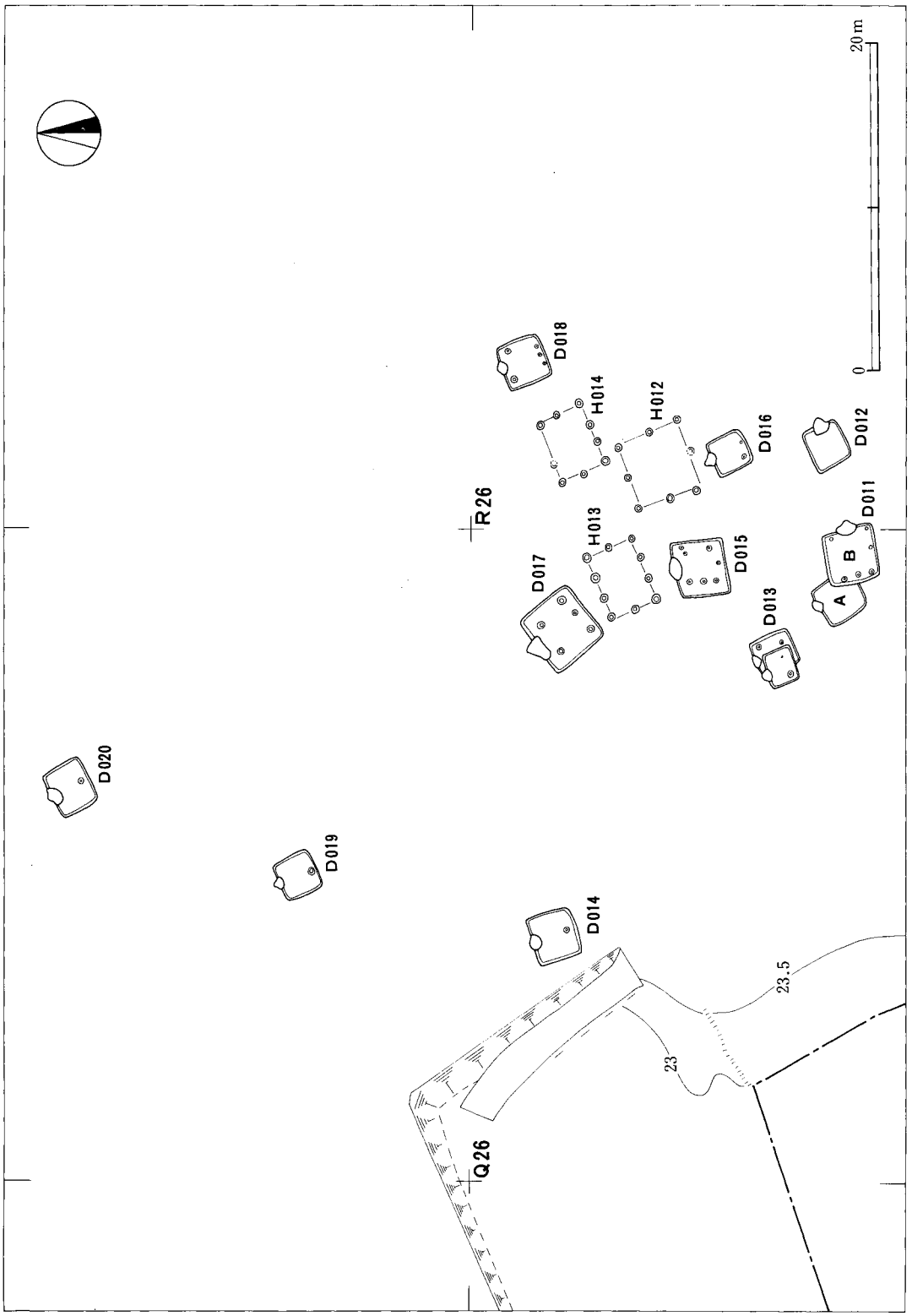
| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 文 | 3 | D072 | 土師器高台坏 | 底部外面 | 2 | 黒色処理 |
| 2 | 文 | 3 | D081 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 5 | |
| 3 | 文 | 3 | D085 | 土師器高台坏 | 底部外面 | 1 | 黒色処理 |
| 4 | 文 | 4a | D078 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 7 | |
| 5 | 圓 | 3 | D076 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 2 | |
| 6 | 圓 | 4b | D090 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 12 | |
| 7 | 圓 | 5 | D073 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 14 | |
| 8 | 圓 | 5 | D073 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 12 | |
| 9 | 圓 | | H033 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 2 | |
| 10 | 廓 | 4a | D084 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 3 | |
| 11 | 廓ヵ | 4b | D090 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 13 | |
| 12 | 廓ヵ | 4b | D090 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 14 | |
| 13 | 入 | 3 | D081 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 14 | 入 | 5 | D073 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 10 | |
| 15 | 入 | 5 | D073 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 17 | 底部内面に線刻あり |
| 16 | 入 | 5 | D073 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 11 | 線刻 |
| 17 | 太 | 5 | D073 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 23 | 線刻，17・18の2箇所 |
| 18 | 太 | 5 | D073 | ロクロ土師器皿 | 体部外面下 | 23 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 19 | 赤足 | 3 | D081 | 須恵器坏 | 体部外面左 | 8 | 朱墨 |
| 20 | 赤□ | 3 | D081 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 7 | |
| 21 | 赤ヵ | 3 | D080 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 2 | |
| 22 | 上 | 4a | D086 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 1 | |
| 23 | 上挾ヵ | | H023B | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 1 | |
| 24 | 羊 | 6 | D074 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 12 | |
| 25 | 加 | 4b | D088 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 3 | 底部外面に線刻あり |
| 26 | 古 | 4b | D090 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 16 | |
| 27 | 十 | 4b | D090 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 15 | |
| 28 | □万 | 6 | D074 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 14 | |
| 29 | 記号 | 4a | D082 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 5 | |
| 30 | 記号 | 4a | D077 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 5 | |

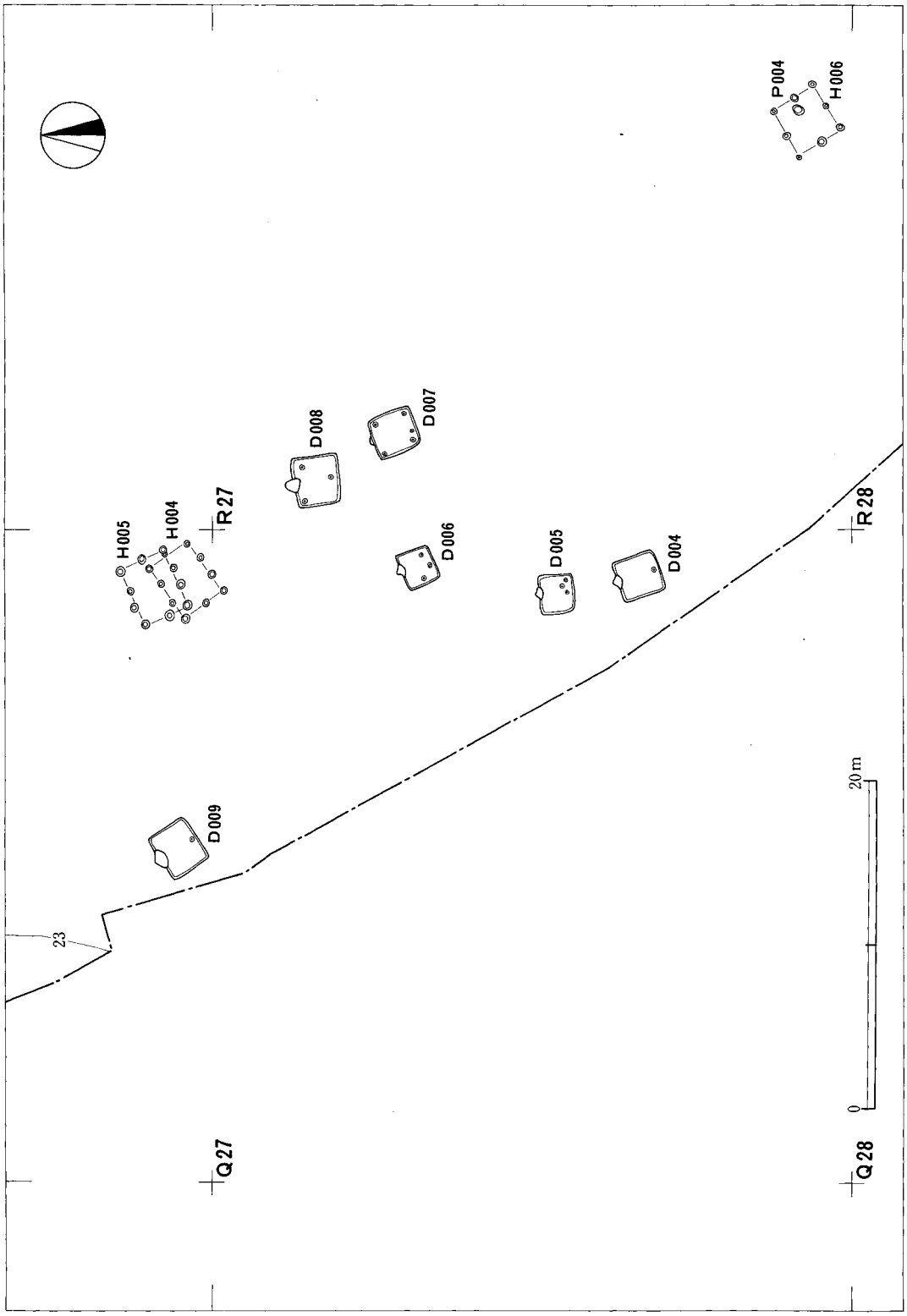
## 第8節　2群Fグループの遺構と遺物

### 1　概　観（第189～191図、図版178）

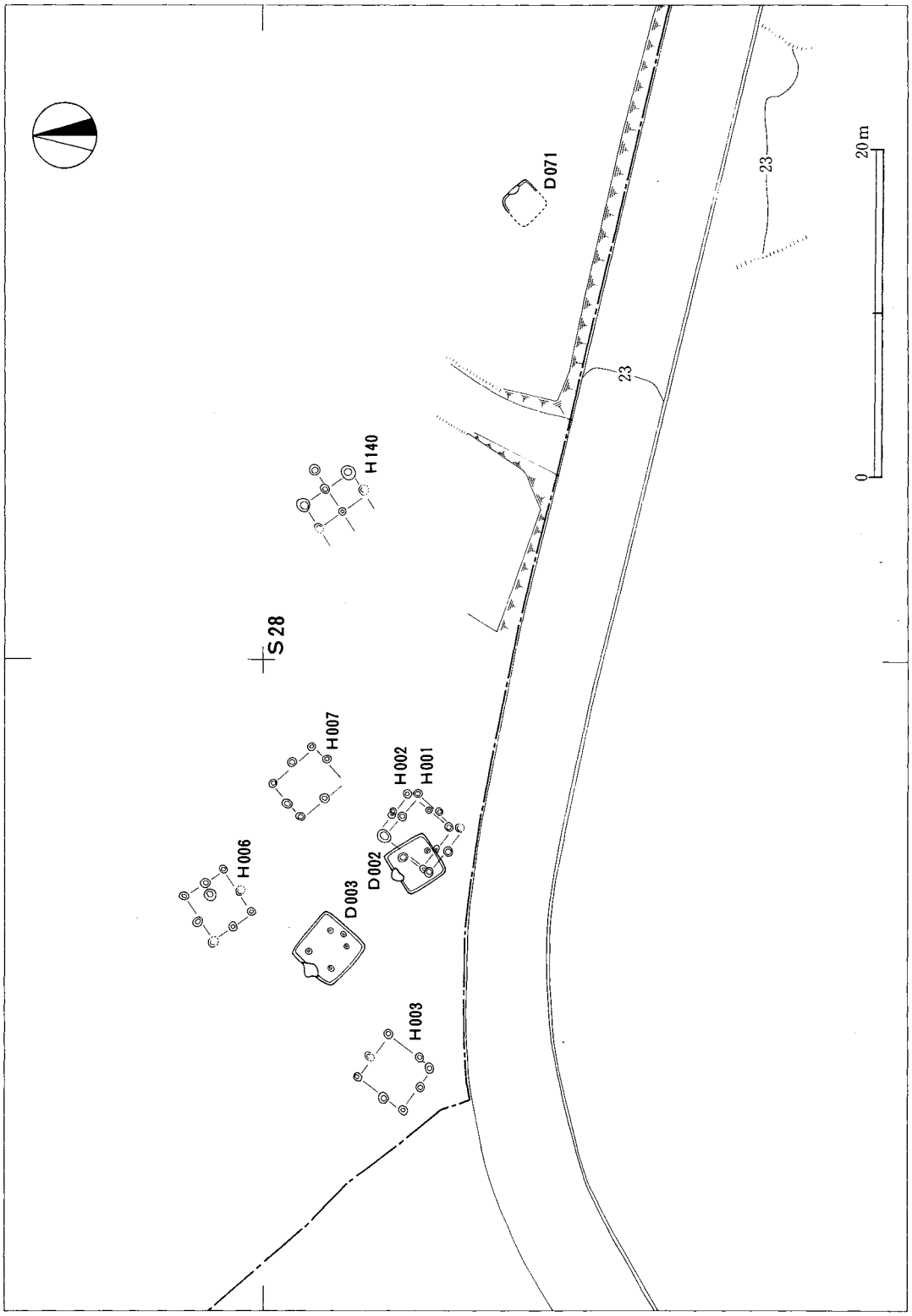
2群Fグループは歴史時代2群の西端に当たり、2群D・Eグループと並列している。北東側に2群Eグループが隣接し、2群Dグループから本グループにかけて建物群の北西端部をほぼ揃えているが、本グループでは2軒の竪穴住居跡がこれから張り出し、2群Cグループに近い位置にある。西側及び南側は調査範囲外になるが、この部分にもまだ若干の遺構が存在することは確実である。東側は約30mの遺構空白域を挟んで3群と隣接する。また、本グループの遺構分布状況は、本グループの北端部に近い位置に遺構が集中し、D027からD004までの建物が2群Eグループと並列する。しかし、D004から約30m離れてD002・D003や5棟の掘立柱建物があり、現状では南北に二つの核がある。南側に離れて位置するD002・D003は周辺に掘立柱建物も多く、調査区南側にさらに竪穴住居跡が展開するものと考えられる。3群の南側から池谷津の小支谷が西側に入るが、この小支谷の南側を八千代市遺跡調査会が池ノ台遺跡として調査を行っている。距離にしてD003から南へ約100m離れるが、この地点でも竪穴住居跡・掘立柱建物跡が検出されている。竪穴住居跡からは墨書土器も出土しており、釈文は「小堤」・「廿」・「継」等2群Fグループや3群と共通する文字がある。後述するが、「小堤」は2群Fグループに限られた文字であり、2群Fグループと池ノ台遺跡との関係が注目できる。2群Fグループは地形的には南側に池谷津を、西側に寺谷津の小支谷を臨み、台地の標高は約23mを測る。




第189図　歴史時代２群Ｆグループ全体図　1



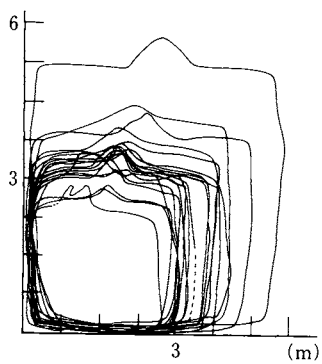

第190図　歴史時代２群Ｆグループ全体図　2



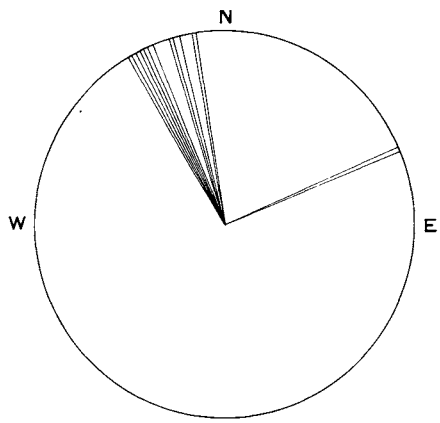

第191図　歴史時代２群Ｆグループ全体図　3

## 2　遺　構（第192図、第340～342表、PL.308～322、図版178～186）

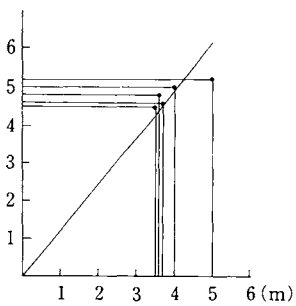
2群Fグループで検出された遺構は、竪穴住居跡21軒、掘立柱建物跡11棟、土壙1基である。遺構の分布は先述したように、2群Eグループと並列する部分と、少し南にはなれて位置する部分がある。掘立柱建物も基本的には竪穴住居と混在し、竪穴住居とセットとして掘立柱建物が構築されたことが窺える。竪穴住居の主軸方向はほとんどがN-10°-WからN-32°-Wの狭い範囲に集中し、カマドも北壁に設置する住居が圧倒的に多い。東壁にカマドを設置する住居は2軒あり、D011A・D012とも他の住居とほぼ90°向きを変えた住居である。これ以外の壁にカマドを設置する住居はない。ちなみに、池ノ台遺跡で検出された竪穴住居も基本的に北及び東壁にカマドを設置するが、その主軸方向は本グループの竪穴住居と比較して全体に西に傾いている。時期による住居の偏在は認められないが、各時期とも2ないし3軒の竪穴住居が一つの単位となって構築される。掘立柱建物は時期決定が困難であるが、掘立柱建物についても同様の



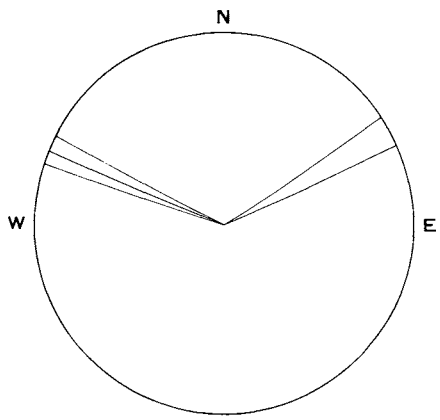
竪穴住居の規模



竪穴住居の主軸方向



掘立柱建物の規模



掘立柱建物の長軸方向

第192図　2群Fグループ建物比較

傾向があるようだ。住居の規模は一辺が概ね3～4mに納まり、5mを超すのはD017だけである。最小はD019Aで、2.5m×2.4mを測る。床面積は10～15m²に集中するが、10m²以下の住居も6軒ある。時期ごとの平均床面積は大きな変動はないが、しいて言うならば3期に低いピークがあり、2群Dグループと同様の推移をする。住居の構造はE型が主体となり、11軒を数え、各時期に採用されている。F型は他のグループと比較すると非常に少なく、D011B・D019Aの2軒である。これに対して、B型は多く7軒を数える。これは住居対角線上に整然と柱穴を配置した住居は少ないが、基本的に住居内部に4本の柱を有する構造と考えられる。時期的には3期から5期に及び、2期を除く各時期に採用されている。カマドはほとんどの住居が北壁に設置し、東壁に設置するのはD011A・D012の2軒である。この2軒は隣接する住居で、ほぼ同時期の構築である。火床部が壁外に位置する住居はなく、煙道部は0.3～0.5m程度で、三角形に張り出す。

掘立柱建物は11棟が検出された。建物の分布は数棟の建物が3箇所に集中して建てられている。一つはH012・H013・H014の3棟が建てられている部分で、3棟とも軸方向を揃えている。周辺に竪穴住居も多く、竪穴住居の構築時期は3期から5期に及ぶ。次に、H004・H005が重複して建てられている部分で、H004とH005は軸方向に10°の開きがある。竪穴住居とは混在しないが、周辺に竪穴住居がある。最後の1箇所は、H001・H002・H003・H006・H007・H140の6棟が建てられている部分で、H001・H002は同じ場所で重複している。竪穴住居と混在し、H001・H002は竪穴住居D002と重複している。建物はH140の規模が確定できなかったが、この建物だけが総柱構造となり、他はすべて側柱構造である。建物は2間×2間が6棟、3間×2間が4棟である。長軸方向は竪穴住居と比較して全体に僅かに西に傾き、N-60°-Wもしくは直交するN-30°-E前後の建物が多い。桁行長は4～5m、梁行長は3.5～5m前後で、建物の平面形は正方形に近い。柱間寸法は基本的には1.8～2.1mに納まるが、建物によってまちまちで、同一建物でも統一された寸法ではない。重複する建物はH001・H002、H004・H005があり、H001・H002はD002と重複している。H001・H002はH001が先行し、D002との関係は明かではないが、住居床面で柱堀方を検出している。なお、この部分には貼床等は施されていなかった。H004・H005はともに3間×2間の建物で、規模はH005が僅かに大きく、H004が先行している。掘立柱建物の時期を具体的にすることはできないが、H002から出土したロクロ土師器坏は口縁部が外反し、内面にヘラ磨きを行うもので、本グループ5期の竪穴住居から出土したロクロ土師器坏と共通する。また、H006からも高台が付くロクロ土師器皿が出土している。その他の建物から出土した遺物は細片がほとんどで、時期決定の材料にはならないが、H012・H013では口縁部がかなり外反するロクロ土師器坏の破片がある。掘立柱建物は5期の竪穴住居と並行して構築された可能性が強い。

土壙は1基が検出された。P004はH006と重なる位置にあり、直径1.0mの円形を呈している。

確認面からの深さは0.3mで、埋土は全体にローム粒の混入がある。埋土からロクロ土師器坏が出土した。

### 第340表　2群F竪穴住居一覧

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D002 | 方　形 | 3.7×3.2 | 11.84 | N−31°−W | 北西中央 | なし | なし | 1 | あり | 全周 | 2 | |
| D003 | 方　形 | 4.6×4.4 | 20.24 | N−50°−W | 北西中央 | なし | 4 | 1 | あり | 全周 | 4b | |
| D004 | 方　形 | 3.4×3.3 | 11.22 | N−18°−W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 1 | |
| D005 | 方　形 | 3.2×2.7 | 8.64 | N−11°−W | 北中央 | なし | なし | 2 | あり | あり | 4a | |
| D006 | 方　形 | 3.0×2.8 | 8.40 | N−17°−W | 北中央 | なし | なし | 3 | あり | 全周 | 3 | |
| D007 | 方　形 | 3.7×3.3 | 12.21 | N−27°−W<br>N−66°−E | 北西中央<br>北東中央 | なし | 4 | 1 | あり | あり | 4a | |
| D008 | 方　形 | 4.1×3.8 | 15.58 | N−15°−W | 北中央 | なし | 2 | なし | あり | あり | 4a | |
| D009 | 方　形 | 3.8×3.2 | 12.16 | N−28°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4b | |
| D011A | 方　形 | 4.2×4.1 | 17.22 | N−70°−E | 東中央 | なし | 4 | 1 | あり | 全周 | 4b | |
| D011B | 方　形 | 3.5×3.2 | 11.20 | N−23°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 3 | |
| D012 | 方　形 | 3.3×3.2 | 10.56 | N−65°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 5 | |
| D013A | 方　形 | 2.7×2.5 | 6.75 | N−25°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4a | |
| D013B | 方　形 | 3.4×3.2 | 10.88 | N−28°−W | 北西の北寄り | なし | 2 | なし | なし | 全周 | 3 | |
| D014 | 方　形 | 4.1×3.5 | 14.35 | N−23°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 5 | |
| D015 | 方　形 | 4.6×4.2 | 19.32 | N−10°−W | 北中央 | なし | 4 | 3 | あり | 全周 | 3 | |
| D016 | 方　形 | 3.1×3.1 | 9.61 | N−29°−W | 北西中央 | なし | なし | 2 | あり | 全周 | 4a | |
| D017 | 方　形 | 5.4×5.3 | 28.62 | N−32°−W | 北西中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D018 | 方　形 | 3.8×3.6 | 13.68 | N−17°−W | 北西中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 2 | |
| D019A | 方　形 | 2.5×2.4 | 6.00 | N−31°−W | 北西中央 | なし | 2 | なし | なし | 全周 | 5 | |
| D019B | 方　形 | 3.1×3.0 | 9.30 | N−31°−W | 北西中央 | なし | なし | 1 | なし | あり | 5 | |
| D020 | 方　形 | 4.0×3.1 | 12.40 | N−28°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4 | |

### 第341表　2群F掘立柱建物一覧

| No. | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H001 | 2×2 | 側柱 | 4.2 | 4.2 | 2.1 | 17.64 | 0.4〜1.0 | 0.5〜0.6 | N−37°−E | なし | | D002と重複。 |
| H002 | 2×2 | 側柱 | 4.0 | 4.0 | 2.0 | 16.0 | 0.6〜1.0 | 0.3〜0.7 | N−33°−E | なし | | D002と重複。 |
| H003 | 2×2 | 側柱 | 4.3 | 3.9 | 1.2〜1.5 | 16.77 | 0.6〜0.8 | 0.4〜0.6 | N−35°−E | なし | | |
| H004 | 3×2 | 側柱 | 4.5 | 3.5 | 1.5〜1.8 | 15.75 | 0.4〜0.6 | 0.6 | N−55°−E | なし | | |
| H005 | 3×2 | 側柱 | 4.6 | 3.7 | 1.4〜1.8 | 17.02 | 0.7〜0.8 | 0.5〜0.7 | N−65°−E | なし | | |
| H006 | 2×2 | 側柱 | 3.9 | 3.8 | 1.9 | 14.82 | 0.7〜0.8 | 0.4〜0.7 | N−55°−E | なし | | |
| H007 | 2×2 | 側柱 | 4.4 | 3.4 | 1.4〜2.4 | 14.96 | 0.7〜1.0 | 0.4〜0.5 | N−45°−E | なし | | |
| H012 | 2×2 | 側柱 | 5.2 | 5.0 | 2.4〜2.7 | 26.0 | 0.6 | 0.5〜0.8 | N−72°−W | なし | | |
| H013 | 3×2 | 側柱 | 5.0 | 4.0 | 1.6〜2.0 | 20.0 | 0.6〜0.8 | 0.3〜0.6 | N−68°−W | なし | | |
| H014 | 3×2 | 側柱 | 4.8 | 3.6 | 1.5〜3.1 | 17.28 | 0.6 | 0.4〜0.6 | N−63°−W | なし | | |
| H140 | 1以上×2 | 総柱 | 2.0以上 | 4.4 | 2.2 | —— | 0.5〜1.0 | 0.4〜0.6 | N−38°−W | なし | | |

### 第342表　2群F土壙一覧

| No. | プラン | 規　模 | 深さ | 軸方向 | 機能 | 時期 | 埋土の状況 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P004 | 円　形 | 直径1.0 | 0.3 | —— | 不明 | | 全体にローム粒の混入が多い。 | |

## 3　遺　物（第193図、第343～366表、PL.328～339、図版187～193）

竪穴住居から出土した遺物はほとんどが廃棄されたもので、同一個体の破片が住居内に散乱した例が多い。特に遺物が多い住居はD003・D011A・D017で、1,000点以上の遺物が出土している。特にD003は約4,400点を数え、4b期に比定できる。周辺にさらに同時期の竪穴住居が存在すると考えられ、掘立柱建物との関係も考えられる。また、D017でも約2,000点の遺物が出土している。D017は3期に比定できるが、この2軒は2群Fグループにおいて比較的規模の大きな住居である。

カマドを中心とした遺物の出土状況は、D003で底部を抜いた土師器甕を3個体はめ込んで逆位に煙道部に設置している。最上位の甕は遺構確認面で検出でき、最下位の甕の口縁部は天井部下面に位置する。甕は壁から若干離れて設置され、土器内面の器面も被熱した痕跡はほとんどない。甕の設置方法は、これらの甕を煙道として利用したかのごときであるが、実際の使用は土器の遺存状況から疑問である。なお、D004・D005は埋土に貝を廃棄している。

**D002**　遺物は比較的少ない。ロクロ未使用の土師器坏は底部を欠損するが、口縁部が直立する3類で、体部は

第193図　歴史時代2群F遺物の出土量図

横位のヘラ削りを施している。ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈し、3はカマド前面から出土した。底部はいずれも回転ヘラ削りで、2・4は体部下端にも回転ヘラ削りを施している。なお、5には墨書があり「廿」である。

**D003** 遺物は非常に多く、約4,400点がある。甕類も比較的多くの個体が復元できたが、これらは同一個体の破片がかなり散乱している。また、カマド煙道部に遺物実測図39・40・46の3個体の甕が連続してはめ込まれていた。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、体部の立ち上がりの角度は40°後半から50°前半に納まる。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部回転ヘラ削りで、体部下端にも例外なく回転ヘラ削りを施している。10は内面黒色処理されている。なお、ロクロ土師器皿を伴っており、量的にも多い。高台の付く1類と底部周縁にヨコナデを施す2類があり、2類は底部回転糸切りである。坏類には墨書されているものが多く、「廿」が非常に多い。この他には20が「圓」となる。土師器甕は1類が主体的で、2・4類もある。小形の製品は2類が卓越する。鉄製品は刀子・鉄鏃・鎌・釘がある。

**D004** 遺物は少なく、1・2はカマドから、5は住居中央の床面直上から出土した。1は土師器坏で、体部は内彎する。内面にヘラ磨きを施している。2は須恵器坏で、底部はヘラ切り無調整で、体部下端に静止ヘラ削りを施している。5は土師器甕で、器高は14.3cmと低い。口縁部は受け口状を呈し、胴部は縦位のヘラ削り、底部近くで横位のヘラ削りを施す。なお、廃棄された貝は以下の通りである。

| | | |
|---|---|---|
| イボキサゴ | *Unbonium (Suchium) moniliderum* | 39 |
| ウミニナ | *Batillaria spp* | 727 |
| ツメタガイ | *Neverita (Glossaulax) didyma* | 2 |
| ハマグリ | *Meretrix lusoria* | 1070 |
| サルボウ | *Scapharca subcrenata* | 23 |
| アサリ | *Ruditapes philippinarum* | 62 |
| オキシジミ | *Cyclina sinensis* | 8 |
| カガミガイ | *Phacosoma japonicum* | 73 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | 405 |
| バカガイ | *Mactra chinensis* | 1 |
| マイマイ種 | | 1 |

**D005** 遺物はかなり少なく、2点が図示できた。1はロクロ土師器坏、2は須恵器坏で、底部はともに全面回転ヘラ削りである。貝の廃棄はブロック状に5箇所あり、以下の通りである。

| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イボコイサゴ | *Umbonium (Suchium) meniliferum* | 167 | 49 | 18 | 1 | | 235 |
| ウミニナ | *Batillaria umltiformis* | 35 | | | | | 35 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ツメタガイ | *Neverita (Glossaulax) didyma* | 2 | | | | | 2 |
| キセルガイ | *Clausiliidae gen—* | 1 | | | | | 1 |
| ハマグリ | *Meretrix lusoria* | 689 | 339 | 7 | 5 | 113 | 1153 |
| サルボウ | *Scapharca subcrenata* | 5 | | | | | 5 |
| マガキ | *Crassostrrea gigas* | 1 | | | | | 1 |
| アサリ | *Ruditapes philippinarum* | 41 | 4 | | 48 | 93 | 186 |
| オキシジミ | *Cyclina sinensis* | 1 | | | | | 1 |
| カガミガイ | *Phacosoma japonicum* | 1 | 1 | | | | 2 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | 487 | 45 | | 2 | 131 | 665 |
| マツカサガイ | *Inversidens japonennsis* | 13 | | | | | 13 |
| バイ | *Babylomia japonica* | | 1 | | | | 1 |

**D006** 遺物はかなり少ない。1は土師器高台坏である。底部外面は墨痕があり、かなり摩滅しており、転用硯としてよい。なお、内面黒色処理されている。2は須恵器坏で、底部は回転ヘラ削りを施す。4は須恵器甕の破片を利用した転用硯である。

**D007** 遺物は比較的多いが、住居に直接伴うものはない。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、体部の立ち上がりの角度は55°前後である。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施すものがほとんどであるが、4は底部・体部下端とも静止ヘラ削りである。4・6・7・9は内面黒色処理されている。また、墨書されているものも多く、8・12・13は「小堤」、7は「善」、6は「丈」、9は「太」となる。須恵器坏は11が図示できた。底部は全面回転ヘラ削りである。土師器甕は口縁部が受け口状を呈する1・2類が主体的である。須恵器甕は3類で、胴部は縦位の平行叩き、底部近くで横位のヘラ削りを施す。15は須恵器甑である。鉄製品は鉄鏃がある。

**D008** ロクロ土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がり、口縁部が僅かに外反するものが主体的である。底部は回転糸切り後、全面もしくは周縁部に回転ヘラ削りを施している。なお、1は内面黒色処理されている。また、6・7は墨書があり、6は「□信」、7は横位なら「子」となる。須恵器坏は比較的多く、4点が図示できた。8は体部が直線的に立ち上がるが、9～11は内彎気味に立ち上がり、口縁部が外反している。底部は10・11が回転ヘラ削り、8は体部下端とも静止ヘラ削り、9は糸切り無調整である。土師器甕は口縁部が僅かに受け口状を呈し、14は1類、12・13は2類となる。鉄製品は刀子・鉄鏃・紡錘具がある。

**D009** ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、体部の立ち上がりの角度は55°前後である。底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。また、ロクロ土師器皿を伴っており、3は無高台の製品で、底部・体部下端とも静止ヘラ削りである。土師器甕は1点図示できた。

口唇部は断面方形を呈し、胴部は上半が縦位ヘラ削りをナデて消し、底部近くに横位のヘラ削りを施す。鉄製品は刀子・鎌がある。

**D011A**　7・24・29がカマドから出土している。また、土師器甕27は広い範囲に散乱している。ロクロ土師器坏は体部が内彎気味に立ち上がり、口縁部が僅かに外反するものが主体的で、体部の立ち上がりの角度は50～55°となる。底部は回転糸切り後、回転ヘラ削りもあるが、4～6・15～17は静止ヘラ削りである。なお、2・9・10・11・19は内面黒色処理されている。また、ロクロ土師器皿を伴っており、高台付きの1類が卓越する。坏類には墨書されているものも多く、19・23が「小堤」、17が「家」、12が「太」、14が「工」となる。土師器甕は1・2類があり、須恵器甕は部分的な破片しか図示できなかったが、30は胴部が大きく膨らんでいる。29は底部外面に「大」とヘラ描きされている。

**D011B**　D011Aに先行する住居で、図示できた遺物は甕などの大形の製品が多い。ロクロ土師器坏は良好な資料がないが、1は箱形に近い器形を呈している。5は細片だが墨書がある。5は内面黒色処理されている。須恵器坏は3・4が体部が直線的に立ち上がるもので、底部は3が全面静止ヘラ削りである。2は体部がやや立つもので、底部全面に回転ヘラ削りを施している。土師器甕は1・3類が主体的で、小形の製品は口唇部をほとんど丸く納めている。なお、銙帯が出土している。

**D012**　遺物は比較的多く、22・24がカマド火床部から出土した。また、カマド前面に2・4・6・7が重ねられていた。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50°前後である。底部は回転糸切り後に回転ヘラ削りを施し、体部下端も回転ヘラ削りを施している。14・22はともに口径20cmを越える製品で、調整はロクロ土師器坏と同様である。19・20・22は内面黒色処理されている。また、ロクロ土師器皿を伴っており、高台が付く1類が卓越する。内面はヘラ磨きを施し、25・27は内面黒色処理されている。なお、墨書されているものもあり、15・16は「小堤」、12は「千万」、13・17は「子」、19は線刻で「圓」である。土師器甕は2類が主体的で、大形の製品は少ない。須恵器甕は3・4類がある。鉄製品は鎌がある。38は石製の紡錘具で、意味不明の線刻がある。

**D013A**　南東壁際を中心として遺物が出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りで、4は体部外面に粘土紐接合痕を残している。5は体部外面に墨書が、2は底部外面に線刻がある。土師器甕は口縁部が僅かに受け口状を呈し、8は胴部が膨らまない。9は酸化炎焼成の甑である。

**D013B**　D013Aに先行する住居で、遺物は少なく、2・4・5がカマド周辺から、1が東壁際から出土した。ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈し、体部の立ち上がりの角度は1・2が64°となる。底部は1・2が回転糸切り後、回転ヘラ削りで、3は全面静止ヘラ削りである。なお、3の底部外面に「文」と墨書される。4・5はカマド右側から出土したもので、4は口縁部が

受け口状を呈する土師器甕である。5は底部5孔の須恵器甑である。

**D014**　ロクロ土師器坏は図示できるものが少ない。1は口縁部が外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。2は底部外面に「子」と墨書されている。3は灰釉陶器の小形の蓋で、内面は墨痕が有りかなり摩滅しており、転用硯として使用したものである。土師器甕はいずれも部分的な破片で、4は1類、5は小形の製品の底部である。須恵器は7・8が甑で、7は底部5孔の製品である。鉄製品は刀子がある。

**D015**　ロクロ土師器坏は体部下端に丸みを持った箱形を呈し、体部の立ち上がりの角度は60°前後である。底部は1がヘラ切り無調整、4が回転糸切り無調整、2・7は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。墨書されるものも若干あるが、釈文が不明なものが多く、5は「文」である。須恵器坏も箱形に近い器形を呈し、底部は8が回転糸切り無調整、9・10が全面回転ヘラ削りである。10は底部外面にヘラ描きがある。土師器甕は口縁部が受け口状を呈するもので、13は5類となる。鉄製品は穂摘具と環がある。

**D016**　遺物は少なく、4はカマドを中心として出土した。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は3が回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。2・3は墨書があり、3は「井」である。なお、3は内面黒色処理されている。土師器甕は1点が図示できた。口縁部を欠損するが、1類で、底部に木葉痕がある。鉄製品は刀子がある。

**D017**　遺物は傾向としてカマド周辺に集中している。19・23は同一個体の破片が広く散乱している。ロクロ土師器坏は体部下端に丸みを持つ箱形に近い器形を呈し、体部の立ち上がりの角度は65°前後である。底部はともに回転糸切り無調整で、体部下端に静止ヘラ削りを施す。2は口縁部内面に油煙が付着する。なお、高台坏1類が伴っており、底部外面に墨書されている。1・7は内面黒色処理されている。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がる製品と内彎気味に立ち上がる製品があり、底部は4・5・10が静止ヘラ削り、8・9が回転ヘラ削りである。盤は土師器・須恵器があり、土師器の11は全面に赤彩されている。また、底部外面に墨書がある。蓋は比較的多く、いずれもあまり器高の高くない製品である。土師器甕は1・3類が主体的であるが、19・23は口唇部を丸く納めている。須恵器甕は3・5類がある。24は底部1孔の甑である。鉄製品は刀子・鉄鏃がある。

**D018**　7・11はカマド周辺から出土している。ロクロ土師器坏は箱形を呈し、1の立ち上がりの角度は70°となる。底部は1が回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削り、2が回転糸切り後、周縁部静止ヘラ削り、3はヘラ切り後、周縁部回転ヘラ削りである。1は底部外面に「得足」と墨書される。須恵器坏は体部が直線的に立ち上がるものが主体的であるが、5は箱形に近い器形を呈している。底部は4が全面回転ヘラ削り、7が全面静止ヘラ削り、6はヘラ切り無調整である。8は高坏の脚部で、長脚1段の透かしが四方にある。土師器甕は9・12が1類、11は口唇部を丸く納めている。鉄製品は刀子・鉄鏃がある。

**D019B**　A→Bの先後関係が確実で、遺物はすべてBに帰属する。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は51～58°となる。底部は回転糸切り後、回転ヘラ削りである。なお、ロクロ土師器皿を伴っており、底部調整は回転ヘラ削りである。11は「万」と墨書される。土師器甕は口縁部が受け口状を呈するもので、胴部は縦位のヘラ削り、底部近くで横位のヘラ削りを施す。鉄製品は刀子がある。

**D020**　ロクロ土師器坏は口縁部が外反するものと体部が直線的に立ち上がるものがある。1は底部ヘラ切り無調整で、赤彩が施されている。2は口縁部が外反し、底部は全面回転ヘラ削りである。3は須恵器坏で、体部は直線的に立ち上がり、底部は全面回転ヘラ削りである。8は須恵器蓋で、天井部外面に「廿」と墨書されている。内面はかなり摩滅し、墨痕もある。須恵器甕6とともに転用硯である。小形の土師器甕5はロクロ調整の製品で、底部・体部下端に回転ヘラ削りを施している。

**H001**　ロクロ土師器坏1点が図示できた。体部は直線的に立ち上がり、底部は全面回転ヘラ削りである。体部内面はヘラ磨きを行っている。体部外面に墨書、底部内面に線刻で「羊」と書かれている。

**H006**　ロクロ土師器皿の破片が図示できた。高台が付く1類で、外方へ開くしっかりした高台が付く。内面はヘラ磨きを行う。

**P004**　ロクロ土師器坏が1点図示できた。口縁部が僅かに外反し、底部は全面回転ヘラ削りである。体部外面に墨書されている。

以上、各遺構を概観したが、次に時期の変遷を追ってみたい。2期以前はあまり良好な資料がなく、1期はD004が、2期はD002が比定できるだけである。D004は遺物が少ないが、供膳形態で須恵器が卓越し、土師器坏・甑とも古式な様相を残している。D002では急角度に立ち上がるロクロ土師器坏がある。

3期はD006・D011B・D013B・D015・D017等が比定でき、D018も2期から3期の構築である。ロクロ未使用の土師器坏は少なく、ロクロ土師器坏は箱型の器形を呈し、体部の立ち上がりの角度も60°以上となる。底部は基本的に回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りとなるが、D015ではヘラ切り未調整の製品も見られる。また、土師器高台坏1類を伴っている。D011B・D017では供膳形態において須恵器坏の割合が高い。井戸向遺跡では3期を新旧に分離できる可能性が指摘されているが、やはりD018とD015を同時期とするのは困難であろう。土師器甕は1・3類が主体となるが、口唇部を丸く納める4類も他のグループに比べて多い。墨書土器の量は少ないが、「廿」・「乙□」・「得足」等があり、D006・D017で転用硯が出土している。

4a期はD005・D007・D008・D013A・D016等が比定できる。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反し、底部は基本的に回転ヘラ削りであるが、D007・D008では静止ヘラ削りの製品も見られる。須恵器坏はD008で多く、4b類が主体となる。土師器甕は1類が多く、2類を伴

っている。墨書土器は多く、「小堤」・「太」・「善」・「丈」・「□信」・「井」等がある。「小堤」はこの時期が初見であり、「提生」に続いて1群Aグループで「生堤」が現れる時期とほぼ一致する。なお、D013の5は「堤生」と考えられ、1群Aグループ以外では非常に少ない存在である。

4b期は遺構数が少なく、D003・D009・D011A等が比定できる。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反し、底部は基本的に回転ヘラ削りであるが、D011Aでは静止ヘラ削りの製品も多い。ロクロ土師器皿を伴い、高台が付く1類が主体となる。土師器甕は1・3類が主体となるが、小形の製品は2類となる。墨書土器はやはり多く、「廿」・「圓」・「小堤」・「太」・「家」・「善」等がある。

5期はD012・D014・D019等が比定でき、遺構数は多い。ロクロ土師器坏は口縁部が外反し、体部下端に僅かに丸みをもつものが多い。ロクロ土師器皿は高台が付く1類と底部周縁にヨコナデを施す2類が主体となる。土師器甕は1類がほとんど見られなくなり、2類が主体となる。墨書土器は「小堤」・「廿」・「子」等がある。なお、本グループでは6期以降の竪穴住居は存在しない。

鉄製品は刀子が多く、各時期の住居から出土している。また、D011Bから巡方裏座が出土し、銅製である。転用硯は合計6点があり、3・5期の住居から出土するが、墨書土器の量が多い4期の住居からは出土していない。

**第343表　D002出土遺物一覧**

| 番号 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎土 | 色調 | ロクロ | 遺物番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 13.4 | — | — | 口縁30 | 砂粒 | 赤褐色 | | 8、36 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 10.0 | 7.2 | 3.9 | 30 | 精緻 | 橙色 | 右 | 36、42 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 8.6 | 3.5 | 完形 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 41 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 7.4 | 5.5 | 30 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 43 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | — | — | 口縁30 | 精緻 | 明褐色 | | 27 | 墨書「廿」 |
| 6 | 須恵器坏 | 11.6 | — | — | 口縁40 | 砂粒 | 青灰色 | | 25、40 | |
| 7 | 須恵器蓋 | 11.4 | — | — | 30 | 砂粒 | 灰色 | 右 | 9 | |
| 8 | 土師器甕 | — | 6.4 | — | 底部 | 砂粒 | 黒褐色 | | 1、33 | |

**第344表　D003出土遺物一覧**

| 番号 | 器種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎土 | 色調 | ロクロ | 遺物番号 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.2 | 4.0 | 30 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 7、175、253 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.8 | 3.3 | 30 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 7、21、100、173 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 5.8 | 3.5 | 30 | 雲母粒 | 褐色 | 右 | 150、225、559、858、902、1001、1044 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.0 | 3.8 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 225、421、809、1296、1445 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 6.0 | 3.6 | 完形 | 雲母粒 | 褐色 | 右 | 288、292、543、546、788、973 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.4 | 3.7 | 30 | 雲母粒 | 橙色 | 右 | 8 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.0 | 3.3 | 30 | 雲母粒 | 褐色 | 右 | 34、563、613、706 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.8 | 3.8 | 20 | 砂粒 | 褐色 | 右 | 616、1183 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 7.2 | 4.2 | 30 | 雲母粒 | 橙色 | 右 | 698、756、1095、1674 | 内面ヘラ磨き |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | ロクロ土師器坏 | 15.2 | 7.6 | 4.3 | 30 | 雲母粒 | 黒褐色 | 右 | 1、1262、1397 | 黒色処理 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 15.2 | 8.0 | 4.9 | 20 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 1、37、87、476 | 内面ヘラ磨き |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.5 | 3.7 | 80 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 630 | 墨書「廿」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 5.8 | 3.9 | 70 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 1451、1453、1455 | 墨書「廿」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.0 | 3.7 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 338、751 | 墨書「廿」 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.4 | 3.7 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 700、795、803 | 墨書「廿」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.8 | 3.7 | 70 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 1596、1682、1683 | 墨書「廿」 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.4 | 3.8 | 60 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 35、281、282、644、1101、1103 | 墨書「廿」 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.8 | 3.8 | 70 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1685 | 墨書「廿」 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 赤褐色 | | 430、798 | 墨書「廿」 |
| 20 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 6.3 | 4.1 | 70 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 40、186、344、377、551、560 | 墨書「圓」 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 褐　色 | | 1339、1603 | 墨書、黒色処理 |
| 22 | ロクロ土師器坏 | — | 6.8 | — | 底部40 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 279 | 墨書「廿」、黒色処理 |
| 23 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.6 | 4.3 | 60 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 556、677 | 線刻「廿」 |
| 24 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.2 | 3.9 | 80 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1586、1654、1710 | 線刻「廿」 |
| 25 | ロクロ土師器坏 | — | 8.0 | — | 底部40 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 35 | 線刻「廿」 |
| 26 | ロクロ土師器坏 | — | 7.0 | — | 底部 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1350 | 線刻 |
| 27 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 5.6 | 3.7 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 294、500、619 | 線刻「廿」 |
| 28 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.0 | 4.0 | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 98 | 線刻「廿」 |
| 29 | ロクロ土師器坏 | — | 6.8 | — | 底部 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 1350 | 線刻「廿」 |
| 30 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 1 | 線刻「廿」、ヘラ磨き |
| 31 | ロクロ土師器皿 | 14.2 | 6.4 | 3.4 | 70 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 5、177 | 内面ヘラ磨き |
| 32 | ロクロ土師器皿 | 13.4 | 6.8 | 2.5 | 40 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 14 | |
| 33 | ロクロ土師器皿 | 13.4 | 7.0 | 2.0 | 40 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 135、190 | 内面ヘラ磨き |
| 34 | ロクロ土師器皿 | 13.4 | 6.6 | 2.6 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 612 | 内面ヘラ磨き |
| 35 | ロクロ土師器皿 | 12.8 | 6.4 | 2.4 | 40 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 14 | 墨書「廿」、ヘラ磨き |
| 36 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 7.0 | 2.4 | 40 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 604 | 線刻、内面ヘラ磨き |
| 37 | 須恵器坏 | 15.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 黒　色 | | 270 | |
| 38 | 須恵器高坏 | — | — | — | 脚部 | 石英粒 | 灰　色 | | 1284 | |
| 39 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 底部欠 | 石英粒 | 褐　色 | | 1230、1248、1701、1702、1703、1710 | |
| 40 | 土師器甕 | 20.5 | — | — | 底部欠 | 石英・雲母粒 | 明褐色 | | 1701、1702、1704、1705、1706、1707 | |
| 41 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 底部欠 | 石英粒 | 暗褐色 | | 300、362、401、404、407、503、518 | |
| 42 | 土師器甕 | 20.8 | — | — | 底部欠 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 412、522、572、661、1214、1522 | |
| 43 | 土師器甕 | 20.8 | — | — | 口縁20 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 1389 | |
| 44 | 土師器甕 | — | 9.6 | — | 底部 | 雲母粒 | 暗褐色 | | 146、1013、1128 | |
| 45 | 土師器甕 | — | 7.4 | — | 底部 | 雲母粒 | 褐　色 | | 304 | |
| 46 | 土師器甕 | 21.4 | — | — | 底部欠 | 雲母粒 | 明褐色 | | 1706、1708 | |
| 47 | 土師器甕 | 19.6 | — | — | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | | 60、200、205、1034、1127、1422 | |
| 48 | 土師器甕 | 11.0 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 1656 | |
| 49 | 土師器甕 | 12.8 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 明褐色 | | 256、1315 | |
| 50 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 4 | |
| 51 | 土師器甕 | 17.8 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 褐　色 | | 1747 | |
| 52 | 須恵器甕 | 32.0 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 褐　色 | | 322、1239 | |
| 53 | 須恵器甕 | 50.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 青灰色 | | 180、387、389、391、548、1242 | |

## 第345表　D004出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 14.8 | 7.4 | 5.9 | 40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 16 | 内面ヘラ磨き |
| 2 | 須恵器坏 | 13.3 | 7.6 | 3.7 | 90 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 15 | |
| 3 | 須恵器蓋 | 12.2 | — | — | 30 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 13 | |
| 4 | 須恵器蓋 | — | — | — | 40 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 12 | |
| 5 | 土師器甕 | 23.2 | 10.0 | 14.3 | 90 | 砂　粒 | 褐　色 | | 11 | |

## 第346表　D005出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.7 | 4.1 | 90 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 5、6、7、16 | |
| 2 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.0 | 4.1 | 40 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 1、2、3 | |

## 第347表　D006出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器高台坏 | 11.6 | 8.0 | 4.6 | 70 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 2、3、4、5、10 | 転用硯、黒色処理 |
| 2 | 須恵器坏 | 12.7 | 8.5 | 4.0 | 完形 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 11 | ヘラ描き |
| 3 | 須恵器長頸瓶 | 8.2 | — | — | 頸部 | 砂　粒 | 灰　色 | | 9 | |
| 4 | 須恵器甕 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 灰　色 | | 6 | 転用硯 |

## 第348表　D007出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 10.8 | 6.0 | 3.4 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 174 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.7 | 3.5 | 完形 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 155 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 7.2 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 181 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.8 | 3.9 | 30 | 精　緻 | 黒 褐 色 | 右 | 68、70、178 | 黒色処理 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 16.0 | 7.4 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 13、14、94 | 内面ヘラ磨き |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 6.8 | 6.0 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 25、32、34、85 | 墨書「丈」、黒色処理 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 7.3 | 5.1 | 90 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 80 | 墨書「善」、黒色処理 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.5 | 3.8 | 完形 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 33 | 墨書「小堤」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 179 | 墨書「太」、黒色処理 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 85 | 墨書 |
| 11 | 須恵器坏 | 11.8 | 7.2 | 3.7 | 完形 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 171 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.0 | 4.1 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 59 | 墨書「小堤」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.0 | 4.2 | 80 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 183 | 墨書「小□」 |
| 14 | 土師器甕 | 18.1 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 50、51、54、102、106、116、144 | |
| 15 | 須恵器甑 | 36.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 灰　色 | | 46、181 | |
| 16 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 102 | |
| 17 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 164、178 | |
| 18 | 土師器甕 | 21.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 5、6、124 | |
| 19 | 土師器甕 | 19.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 83、88、95、96 | |
| 20 | 土師器甕 | 20.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 141、154、163 | |
| 21 | 須恵器甕 | 26.0 | 16.0 | 31.8 | 60 | 砂　粒 | 灰　色 | | 177 | |

## 第349表　D008出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 7.2 | 4.5 | 50 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 43、44、54、65、154、177、219、262 | 黒色処理 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | 7.6 | 5.6 | 30 | 精　緻 | 灰 褐 色 | 右 | 1、9、38、46、65、72、154 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.2 | 4.5 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 6、65、86、124 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.8 | 4.0 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 146 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.8 | 3.9 | 60 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 64、202 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 7.1 | 3.8 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 154、161 | 墨書「□信」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.5 | 3.8 | 80 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 160 | 墨書「子」ヵ |
| 8 | 須恵器坏 | 13.4 | 6.9 | 4.2 | 30 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 65、92、153、154、180、211、220 | |
| 9 | 須恵器坏 | 12.7 | 6.6 | 4.0 | 60 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 156、264 | |
| 10 | 須恵器坏 | 12.0 | 8.2 | 4.4 | 50 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 2、3、27、65、188、197、219 | |
| 11 | 須恵器坏 | 12.4 | 7.7 | 3.5 | 70 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 148、150 | |
| 12 | 土師器甕 | 21.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 64、154、158、204 | |
| 13 | 土師器甕 | 22.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 99、154、167、263 | |
| 14 | 土師器甕 | 19.6 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 119 | |
| 15 | 須恵器甕 | — | — | — | 胴部20 | 砂　粒 | 灰　色 | | 34、139、140、248 | |

## 第350表　D009出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.6 | 3.8 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 21、49 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 7.6 | 4.4 | 50 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 22、31、45、46、49、58 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器皿 | 13.8 | 5.5 | 2.5 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 54 | |
| 4 | 須恵器甕 | 26.2 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 灰 褐 色 | | 69 | |
| 5 | 土師器甕 | 17.7 | 12.5 | 19.7 | 80 | 砂　粒 | 褐　色 | | 41、49、56、57、59、68、71、94 | |

## 第351表　D011A出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.1 | 3.6 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 122、123、126、128、130、331 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 6.6 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 144、378 | 黒色処理 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 7.0 | 3.4 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 2、13、30、375 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.4 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 221、241 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.9 | 7.2 | 4.8 | 90 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 51、53、54、81、249、250 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.8 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 242、421 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 7.8 | 3.7 | 20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 25、242 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 7.0 | 3.9 | 20 | 砂　粒 | 橙　色 | | 4、7 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 16.8 | 8.8 | 4.9 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 68、119 | 黒色処理 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 7.4 | 4.3 | 20 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 349 | 黒色処理 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | 8.0 | 5.4 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 13、101、387 | 黒色処理 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.7 | 4.0 | 80 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 47、50、277、327 | 墨書「太」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 72 | 墨書「小」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 82 | 墨書「工」 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 10.2 | 4.7 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 234 | 墨書「善」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 11.1 | 6.3 | 3.4 | 90 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 143、147、150、153、356、358 | 墨書 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | 7.5 | 4.8 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 27、28、38 | 墨書「家」、ヘラ磨き |
| 18 | 土師器高台坏 | 14.6 | 8.6 | 6.2 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 20、33、327、366 | 内面ヘラ磨き |
| 19 | ロクロ土師器坏 | — | 9.0 | — | 底部50 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 224、242、313、333、336、339 | 墨書「小堤」、黒色処理 |
| 20 | 須恵器坏 | 13.0 | 8.6 | 3.9 | 20 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 271、350、351 | |
| 21 | ロクロ土師器皿 | 14.2 | 6.6 | 3.2 | 90 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 98、107、125、242 | 内面ヘラ磨き |
| 22 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | — | — | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 220、222、296 | 内面ヘラ磨き |
| 23 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 6.6 | 2.9 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 132、340、344、361 | 墨書「小堤」、ヘラ磨き |
| 24 | 土師器甕 | 15.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 417 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 25 | 土師器甕 | 15.0 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 131、346、401 | |
| 26 | 土師器甕 | — | 7.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 381、399、413、421 | 底部木葉痕 |
| 27 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 60 | 石英粒 | 褐　色 | | 31、38、57、80、89、92、94、95、96 | |
| 28 | 須恵器甑 | 37.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 70、78、341 | |
| 29 | 須恵器甕 | — | 14.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 灰　色 | | 420 | ヘラ描き「大」 |
| 30 | 須恵器甕 | 22.2 | — | — | 口縁70 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 59、67、93、142、180、334、388 | |

## 第352表　D011B出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 9.2 | 3.4 | 20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 91 | |
| 2 | 須恵器坏 | 12.4 | 8.1 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 36 | |
| 3 | 須恵器坏 | 13.4 | 7.8 | 4.5 | 50 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 4 | |
| 4 | 須恵器坏 | 15.6 | 7.8 | 4.2 | 20 | 石英粒 | 灰　色 | 右 | 7 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 橙　色 | | 44 | 墨書「子」、黒色処理 |
| 6 | 土師器甕 | 20.6 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 45、105 | |
| 7 | 土師器甕 | 20.6 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 明 褐 色 | | 40 | |
| 8 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 褐　色 | | 82、83、95 | |
| 9 | 土師器甕 | 21.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 6 | |
| 10 | 土師器甕 | 18.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 24、25、27、52、54 | |
| 11 | 土師器甕 | 10.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 2 | |
| 12 | 土師器甕 | 20.1 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 56、104 | |
| 13 | 土師器甕 | 11.8 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 88、100、104 | |
| 14 | 土師器甕 | 10.6 | — | — | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 80、104 | |

## 第353表　D012出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.2 | 4.0 | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 402、404 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.0 | 4.3 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 396 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 6.0 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 暗 褐 色 | 右 | 322 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 5.8 | 4.1 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 397 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.4 | 3.9 | 50 | 精　緻 | 暗 褐 色 | 右 | 8、23、38、172、180、228、290 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.6 | 3.7 | 完形 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 399 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.5 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 396、398 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.0 | 3.9 | 70 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 200 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 8.4 | 4.5 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 402 | 内面ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 16.4 | 8.5 | 4.5 | 20 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 117 | 内面ヘラ磨き |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 8.6 | 4.8 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 125、140、329、402 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 8.0 | 4.5 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 3、7、41、48、212、248、255、284 | 墨書「千万」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.2 | 3.7 | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 19、158、250、310 | 墨書「子」 |
| 14 | 土師器鉢 | 22.2 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 78、101 | 墨書「廿」、ヘラ磨き |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | 7.0 | — | 底部40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 146、310 | 墨書「小堤」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 44 | 墨書「小堤」 |
| 17 | ロクロ土師器皿 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 69 | 墨書「子」、ヘラ磨き |
| 18 | ロクロ土師器坏 | — | 6.6 | — | 底部 | 雲母粒 | 褐　色 | | 77 | 線刻 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 14 | 線刻「圓」、黒色処理 |
| 20 | 土師器高台坏 | 14.4 | 7.4 | 5.9 | 40 | 雲母粒 | 橙　色 | | 35、57、310 | 黒色処理 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.4 | 3.4 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 199、215 | 線刻 |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 22 | 土師器鉢 | 21.0 | 10.0 | 8.0 | 60 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 220、264、269、270、323、355 | 線刻、黒色処理 |
| 23 | ロクロ土師器皿 | 12.6 | 6.6 | 2.8 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 400 | 内面ヘラ磨き |
| 24 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 7.0 | 2.7 | 完形 | 精　緻 | 暗褐色 | 右 | 403 | 内面ヘラ磨き |
| 25 | ロクロ土師器皿 | 14.1 | 6.8 | 3.2 | 70 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 199、281、310 | 黒色処理 |
| 26 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 6.8 | 3.1 | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 9、16、251、258、310 | 内面ヘラ磨き |
| 27 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 6.8 | 3.0 | 50 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 137、336 | 線刻、黒色処理 |
| 28 | ロクロ土師器皿 | 12.3 | 6.0 | 2.5 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 204、299、364、388 | 内面ヘラ磨き |
| 29 | 土師器甕 | 16.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 黒褐色 |  | 162、240、356 |  |
| 30 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 褐　色 |  | 185、190、402 |  |
| 31 | 土師器甕 | 13.6 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 暗赤褐色 |  | 259 |  |
| 32 | 土師器甕 | 18.8 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤褐色 |  | 82、129、134、343 |  |
| 33 | 須恵器甕 | 30.6 | — | — | 口縁30 | 精　緻 | 暗赤褐色 |  | 20、159、195、310、337、402 |  |
| 34 | 須恵器甕 | — | 13.6 | — | 底部 | 砂　粒 | 青灰色 |  | 173、395、398 |  |
| 35 | 須恵器甕 | — | 18.6 | — | 30 | 精　緻 | 黒褐色 |  | 197、386 |  |
| 36 | 砥石 |  |  |  |  |  |  |  | 383 |  |
| 37 | 砥石 |  |  |  |  |  |  |  | 133 |  |
| 38 | 紡錘具 |  |  |  |  |  |  |  | 338 | 線刻 |

## 第354表　D013A出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 7.7 | 3.5 | 30 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 99 |  |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 7.4 | 4.2 | 70 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 62 |  |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.8 | 4.5 | 30 | 精　緻 | 赤褐色 |  | 1、15、45、48、65、86 |  |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.9 | 2.8 | 20 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 99 |  |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 |  | 45 | 墨書「堤生」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.0 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 36 | 線刻 |
| 7 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 |  | 43、94 |  |
| 8 | 土師器甕 | 29.0 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 暗褐色 |  | 3、6、8、15、44、45、47、49、50 |  |
| 9 | 土師器甑 | — | 13.4 | — | 底部 | 精　緻 | 暗褐色 |  | 2、67、83、98 | 底部5孔 |

## 第355表　D013B出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 7.7 | 3.8 | 90 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 1、2、3、4、13 |  |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 8.6 | 4.2 | 90 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 16 | 内面油煙付着 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.2 | 3.8 | 30 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 17、27、28 | 墨書「文」 |
| 4 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 褐　色 |  | 10、22 |  |
| 5 | 須恵器甑 | — | 13.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 灰　色 |  | 7、8、9、12、14、15、17、20、21 | 底部5孔 |

## 第356表　D014出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.7 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 43、45、61 |  |
| 2 | ロクロ土師器坏 | — | 8.0 | — | 底部 | 精　緻 | 明褐色 |  | 31 | 墨書「子」、ヘラ磨き |
| 3 | 須恵器蓋 | 11.2 | — | — | 70 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 34、69 | 転用硯 |
| 4 | 土師器甕 | 22.4 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 明褐色 |  | 5、8、10、17、30、44、52、65、67 |  |
| 5 | 土師器甕 | — | 6.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 赤褐色 |  | 37、40、58、63、64、67 |  |
| 6 | 須恵器甕 | 25.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰　色 |  | 7、67 |  |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 須恵器甑 | — | 13.4 | — | 底部20 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 34、67 | |
| 8 | 須恵器甑 | 30.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 67 | |

## 第357表　D015出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 10.3 | 7.0 | 4.9 | 70 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 21、179、271 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 7.1 | 3.6 | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | | 14、50、146 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 6.5 | 3.9 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 21、179、271 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 8.9 | 4.7 | 30 | 雲母粒 | 赤褐色 | | 304 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 暗褐色 | | 262 | 墨書「文」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 暗褐色 | | 1 | 墨書「廿」ヵ |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 5.8 | 4.2 | 70 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 19、20、164、220 | 墨書 |
| 8 | 須恵器坏 | 11.8 | 8.1 | 3.9 | 50 | 砂　粒 | 灰白色 | | 50 | |
| 9 | 須恵器坏 | 12.1 | 7.9 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 緑灰色 | 右 | 5、18、292、355 | |
| 10 | 須恵器坏 | 12.4 | 7.1 | 4.2 | 30 | 長石粒 | 青灰色 | 右 | 158、159、337 | |
| 11 | 土師器甕 | 12.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 292、325、341 | |
| 12 | 土師器甕 | 21.6 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 褐　色 | | 153、259、260、292 | |
| 13 | 土師器甕 | 21.1 | — | — | 70 | 石英粒 | 黒褐色 | | 177、181、185、187、188、206、207 | |

## 第358表　D016出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.4 | 3.4 | 20 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 28 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 1 | 墨書 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 16.8 | 8.4 | 5.0 | 40 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 17 | 墨書「井」、黒色処理 |
| 4 | 土師器甕 | — | 8.4 | — | 60 | 石英粒 | 暗褐色 | | 14、15、21、22、23、27、28 | |

## 第359表　D017出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 8.0 | 6.3 | 70 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 241、510、532、565 | 黒色処理 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.9 | 4.4 | 70 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 259 | 内面油煙付着 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 10.6 | 6.6 | 4.4 | 90 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 227 | |
| 4 | 須恵器坏 | 13.6 | 7.2 | 4.0 | 50 | 砂　粒 | 灰　色 | | 403、495 | |
| 5 | 須恵器坏 | 13.8 | 8.4 | 3.8 | 30 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 424、602 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 赤褐色 | | 615 | 墨書 |
| 7 | 土師器高台坏 | — | 9.4 | — | 底部40 | 砂　粒 | 明褐色 | | 485、615 | 墨書「乙□」、黒色処理 |
| 8 | 須恵器坏 | 12.6 | 7.0 | 3.8 | 30 | 精　緻 | 暗灰色 | 右 | 80、162 | |
| 9 | 須恵器坏 | 14.0 | 8.2 | 3.5 | 70 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 341、540、541、565 | |
| 10 | 須恵器坏 | 12.8 | 8.0 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 青灰色 | | 98、300 | |
| 11 | 土師器盤 | 15.8 | 9.8 | 3.5 | 50 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 438、605、615 | 墨書、赤彩 |
| 12 | 須恵器盤 | 19.6 | 12.6 | 3.8 | 40 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 74 | |
| 13 | 須恵器蓋 | 14.2 | — | 3.2 | 完形 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 369 | |
| 14 | 須恵器蓋 | 13.5 | — | 3.3 | 完形 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 609 | |
| 15 | 須恵器蓋 | 15.8 | — | — | 30 | 精　緻 | 青灰色 | | 33、36、225、345 | |
| 16 | 須恵器蓋 | — | — | — | 20 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 287、532 | 転用硯 |
| 17 | 土師器甕 | 13.4 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 褐　色 | | 43、162 | |
| 18 | 須恵器甕 | 18.0 | — | — | 口縁 | 精　緻 | 灰　色 | | 515 | |
| 19 | 土師器甕 | 21.6 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 明褐色 | | 79、91、92、134、162、318、345、407 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 土師器甕 | 23.4 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 579 | |
| 21 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 97、153、326、446、555 | |
| 22 | 須恵器甑 | 36.4 | — | — | 口縁20 | 石英・雲母粒 | 灰 白 色 | | 598 | |
| 23 | 土師器甕 | 20.4 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 褐　色 | | 37、40、343、345、353、358、359 | |
| 24 | 須恵器甑 | — | 14.0 | — | 底部 | 精　緻 | 灰 白 色 | | 296、393 | |

## 第360表　D018出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 10.4 | 7.2 | 4.5 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 69 | 墨書「得足」 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.6 | 4.0 | 70 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 62、71 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 8.6 | 3.4 | 70 | 精　緻 | 赤 褐 色 | 右 | 68 | |
| 4 | 須恵器坏 | 12.6 | 8.6 | 3.7 | 50 | 砂　粒 | 灰　色 | 右 | 70 | |
| 5 | 須恵器坏 | 11.6 | 7.6 | 4.6 | 30 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 106 | |
| 6 | 須恵器坏 | 12.2 | 7.5 | 3.9 | 90 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | 右 | 64 | |
| 7 | 須恵器坏 | 13.6 | 8.0 | 4.5 | 50 | 雲母粒 | 灰　色 | 右 | 96 | |
| 8 | 須恵器高坏 | — | 12.4 | — | 脚部 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 18 | |
| 9 | 土師器甕 | — | 8.8 | — | 底部 | 石英粒 | 暗 褐 色 | | 104 | 底部木葉痕 |
| 10 | 須恵器甕 | 22.4 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 灰　色 | | 54 | |
| 11 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 50 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 28、32、33、34、36、46、48、50、67 | |
| 12 | 土師器甕 | 21.2 | — | — | 口縁20 | 石英粒 | 褐　色 | | 52、89 | |

## 第361表　D019出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.0 | 4.3 | 50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 17、122、212、446 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 6.5 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 498 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 7.4 | 4.3 | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 26、109、382 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.4 | 4.0 | 20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 19、122 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 7.4 | 3.6 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 351、442 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.4 | 4.0 | 30 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 83、122、295、417、420 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.8 | 4.1 | 20 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 498 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | — | — | 20 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 94、350 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | — | — | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 284、319 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 49、58 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 499 | 墨書「万」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | 6.4 | — | 底部 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 426 | 墨書 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 12 | 線刻「入」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | 6.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 79 | 線刻 |
| 15 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 6.9 | 2.8 | 80 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 441 | |
| 16 | 土師器甕 | 17.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 164 | |
| 17 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 20、273、275、298、308、310、315 | |
| 18 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 469、498 | |
| 19 | 土師器甕 | 19.0 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 褐　色 | | 498 | |
| 20 | 土師器甕 | — | 11.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 498 | |

## 第362表　D020出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 9.2 | 4.1 | 70 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 1、23 | 赤彩 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.8 | 3.3 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 11、12、33 | |
| 3 | 須恵器坏 | 14.9 | 8.6 | 4.2 | 50 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 7、35 | |
| 4 | 須恵器長頸瓶 | 7.1 | — | — | 口縁 | 精　緻 | 暗褐色 | | 30 | |
| 5 | 土師器甕 | 12.6 | 7.2 | 9.5 | 80 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 31 | ロクロ調整 |
| 6 | 須恵器甕 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 灰　色 | | 3、13 | 転用硯 |
| 7 | 土師器甕 | 23.4 | — | — | 50 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 4、5、6、17、21、22、23、24、25 | |
| 8 | 須恵器蓋 | 15.4 | — | — | 40 | 砂　粒 | 灰　色 | | 18 | 墨書「廿」、転用硯 |

## 第363表　H001出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 7.3 | 4.4 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | | 7 | 墨書・線刻「羊」、磨き |

## 第364表　H006出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器皿 | — | 7.1 | — | 底部 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 1 | 内面ヘラ磨き |

## 第365表　P004出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.0 | 4.2 | 30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 1 | 墨書 |

## 第366表　2群F出土文字資料一覧

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 廿ヵ | 3 | D015 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 2 | 廿 | 4b | D003 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 12 | |
| 3 | 廿 | 4b | D003 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 13 | |
| 4 | 廿 | 4b | D003 | ロクロ土師器皿 | 体部外面上 | 35 | |
| 5 | 廿 | 4b | D003 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 18 | |
| 6 | 廿 | 4b | D003 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 15 | |
| 7 | 廿 | 4b | D003 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 16 | |
| 8 | 廿 | 4b | D003 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 14 | |
| 9 | 廿 | 4b | D003 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 17 | |
| 10 | 廿 | 4b | D003 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 22 | 黒色処理 |
| 11 | 廿 | 5 | D020 | 須恵器蓋 | 天井部外面 | 8 | |
| 12 | 小堤 | 4a | D007 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 8 | |
| 13 | 小堤 | 4a | D007 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 12 | |
| 14 | 小堤 | 4b | D011A | ロクロ土師器皿 | 体部外面左 | 23 | |
| 15 | 小堤 | 4b | D011A | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 19 | 黒色処理 |
| 16 | 小堤 | 5 | D012 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 16 | |
| 17 | 堤　生 | 4a | D013A | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 5 | |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 18 | 子ヵ | 4a | D008 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 7 | |
| 19 | 子 | 5 | D012 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 13 | |
| 20 | 子 | 5 | D012 | ロクロ土師器皿 | 体部外面上 | 17 | |
| 21 | 子 | 5 | D014 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 2 | |
| 22 | 太 | 4a | D007 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 9 | 黒色処理 |
| 23 | 太 | 4b | D011A | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 12 | |
| 24 | 文 | 3 | D013B | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 3 | |
| 25 | 文 | 3 | D015 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 5 | |
| 26 | 千万 | 5 | D012 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 12 | |
| 27 | 不明 | 3 | D015 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 7 | |
| 28 | 万 | 5 | D019 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 11 | |
| 29 | □信 | 4a | D008 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 6 | |
| 30 | 善 | 4a | D007 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 7 | 黒色処理 |
| 31 | 善 | 4b | D011A | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 15 | |
| 32 | 得足 | 3 | D018 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 1 | |
| 33 | 家 | 4b | D011A | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 17 | |
| 34 | 圓 | 4b | D003 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 20 | |
| 35 | 丈 | 4a | D007 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 6 | 黒色処理 |
| 36 | 井 | 4a | D016 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 3 | 黒色処理 |
| 37 | 乙□ | 3 | D017 | 土師器高台坏 | 底部外面 | 7 | 黒色処理 |
| 38 | 羊 | 5 | H001 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 1 | 底部内面に線刻あり |

## 第9節　3群の遺構と遺物

### 1　概　観（第194～196図、図版194）

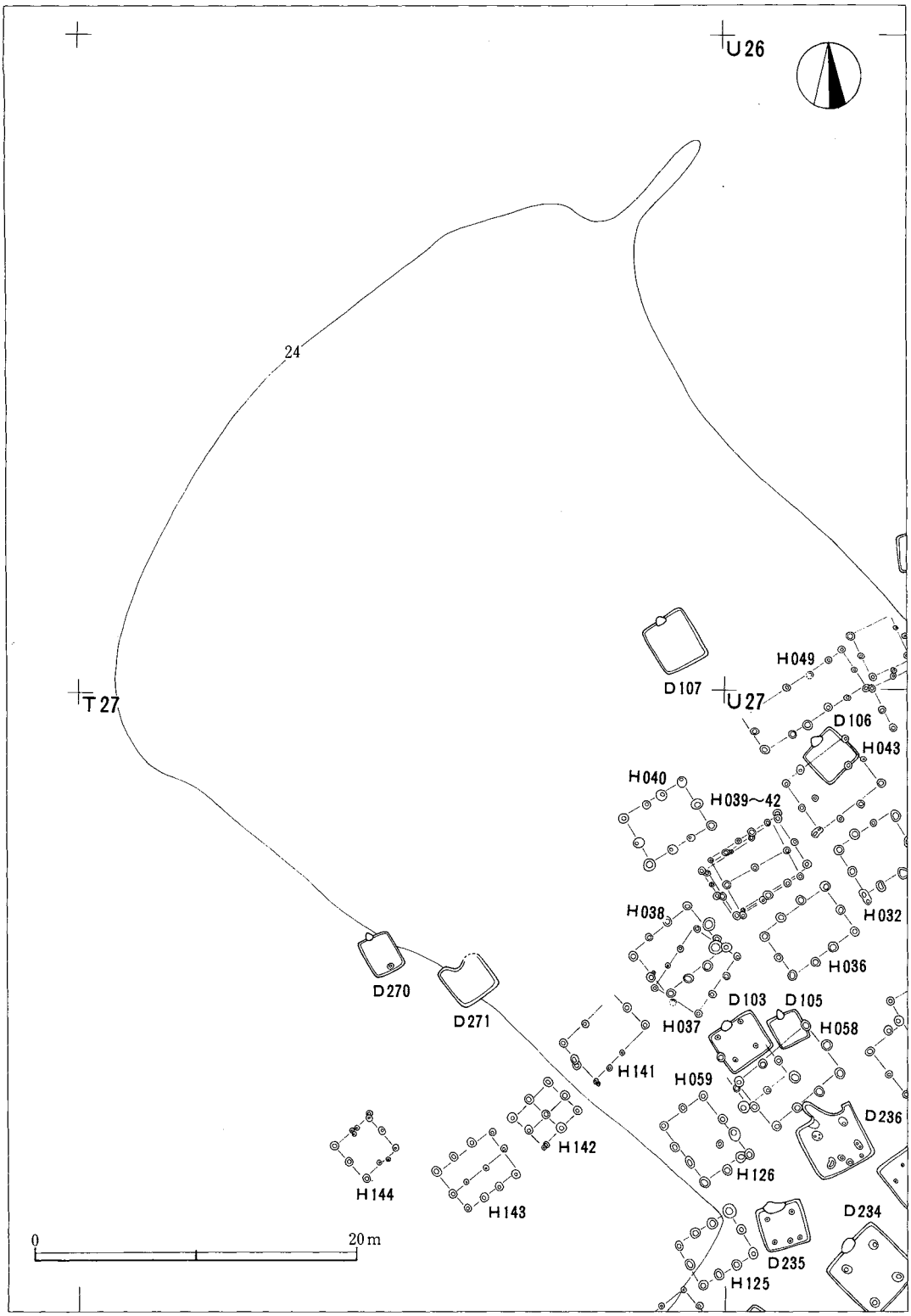
3群は歴史時代2群の南東に位置し、弥生時代3群と重なる位置にある。歴史時代2群とは幅約50mの帯状の遺構空白域を挟んで向い合い、2群B・D・E・Fグループと対面している。南側は池谷津に臨み、台地の標高は約23mで、池谷津の沖積層面との比高は約6mを測る。北東及び南西は調査範囲外になり、状況は不明であるが、北東部は3群の北東端部に位置するD065・D066周辺の遺構分布状況から、ほぼ3群の限界に近い範囲を調査したと考えられる。ただ、D063・D065の東側には遺構の存在は充分予想できる。南西は池谷津の小支谷に面するが、2群Fグループでも触れたように、この小支谷を挟んでさらに南側へ建物が展開することは確実である。遺構は密集しており、特に掘立柱建物は1群Bグループ同様竪穴住居軒数に匹敵する棟数があり、35棟が集中する。遺構の分布は掘立柱建物を中心に集中するが、3群の本体となる部分以外にD233・H125から南へ約25mの遺構空白域をおいて、竪穴住居跡4軒、掘立柱

建物跡4棟が存在する。南側の建物群はほとんど池谷津に面する位置にあり、あまり大きく展開するものではない。両者は建物の分布状況から別個の建物群として捉えることも可能であるが、ここでは3群の中に含めて考えた。

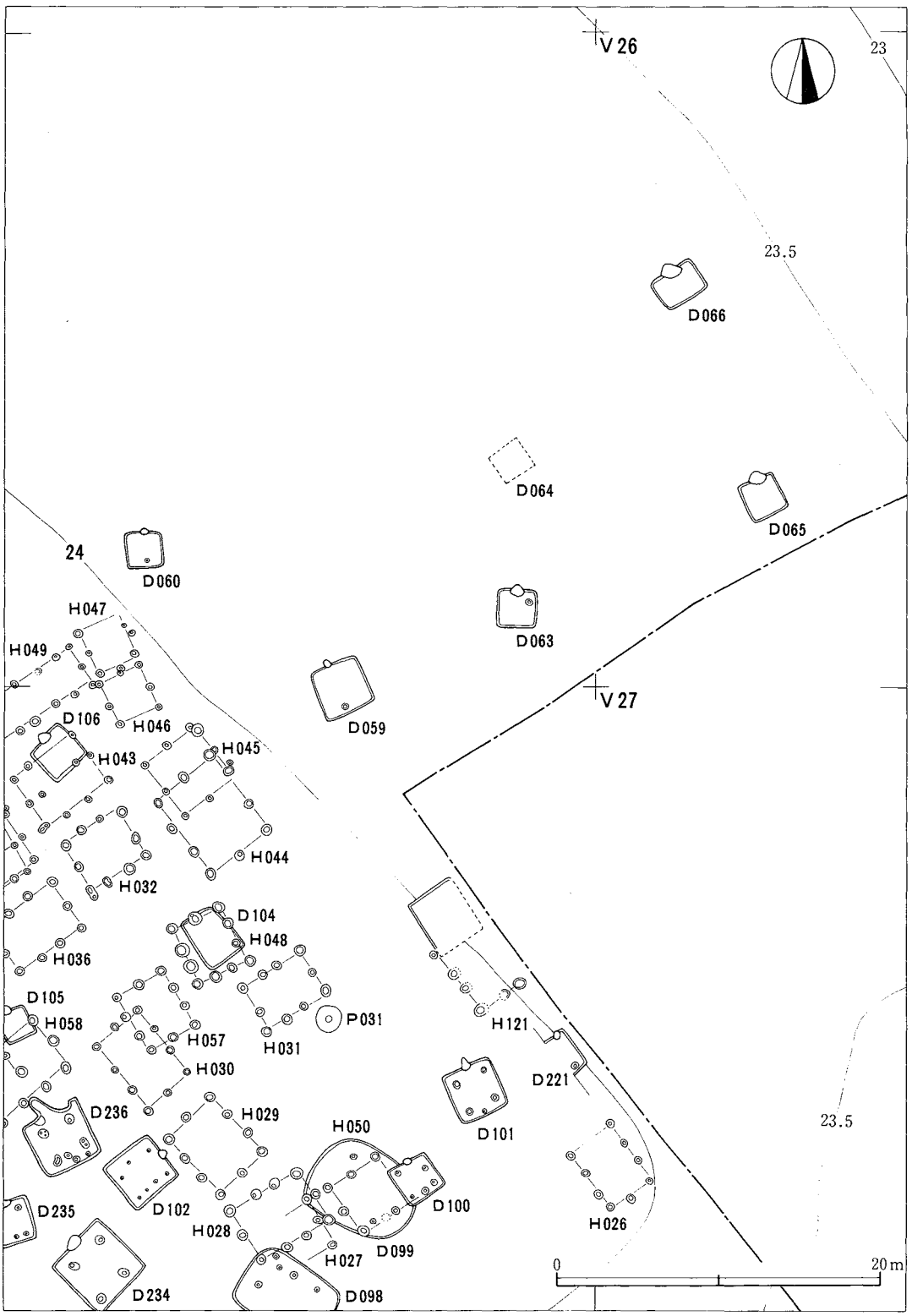
## 2　遺　構（第197図、第367～369表、PL.340～368、図版195～203）

3群で検出された遺構は竪穴住居跡30軒、掘立柱建物跡39棟、土壙1基である。数の上からは掘立柱建物が竪穴住居を上回っている。39棟の掘立柱建物のうち35棟はそれぞれ近接して位置し、掘立柱建物群を構成している。この数は1群Bグループの掘立柱建物群をも上回るものである。竪穴住居跡は30軒が検出でき、掘立柱建物と比較するとやや散漫な分布状況である。時期的に大きな分布の偏りはみられないが、傾向として、4a期以前の住居は掘立柱建物群の南側に位置し、掘立柱建物群の北側に散在する住居は4b期以降の構築である。また、各時期の住居は2～3軒の住居が一つの単位として構築されているようで、1期を除いた各時期で看取できる。竪穴住居の主軸方向はN-0°からN-61°-W、あるいはそれと直交する方向で、主軸方向に幅をもつが、N-20°-WからN-40°-Wに集中する。カマドは全ての住居が北向きの壁に設置し、特に北西壁に設置する住居がほとんどである。北東壁にカマドを設置する住居はD017・D102・D228の3軒で、D103は北西壁にカマドがあるが、北東壁にもカマドの痕跡がある。主軸方向の時期的な偏りはないが、南に離れて位置するD226・D227・D237はより西へ傾く。住居の規模は最大がD233で、5.3m×4.6m、最小はD227・D228で2.6m×2.5mを測る。住居の規模にピークは見られず、床面積の平均は約16m²となる。時期ごとの平均床面積の推移は3期に大きなピークがあり、その後徐々に減少していく。敢えて言うならば、1群A・2群Dグループに近い推移となるが、1群A・2群Dグループは4aから4b期にピークがある。各住居の構造はE・F型が主体となり、各9軒ずつある。時期別には4b期までは4箇所に柱穴をもつA・B型が比較的多く存在し、5・6期はすべてE・F型の住居となる。白幡前遺跡全体の傾向であるが、A・B型の住居のほとんどは4b期以前の構築である。カマドは前述したように、すべての住居が北向きの壁に構築している。その中でも北西壁に設置する住居が圧倒的に多い。特殊な構造のカマドはないが、D227はカマド本体に比べて煙道部が長く、壁から0.6m張り出している。カマドの改築によりカマドの位置が移動した住居はD103・D234がある。D103は最終的に使用されたカマドは北西壁中央にあるが、北東壁中央にもカマドの痕跡がある。北東壁中央を攪乱され、煙道部の状況は明らかではないが、壁は僅かに張り出しているようで、床面にも火床部の痕跡がある。しかし、現状ではカマドの構築時期の新旧関係を明らかにすることはできない。D234は北西壁にカマドを設置し、同じ北西壁に並んでカマドの痕跡がある。旧カマドは煙道部の張り出しを残すだけで、火床部の痕跡も残っていない。

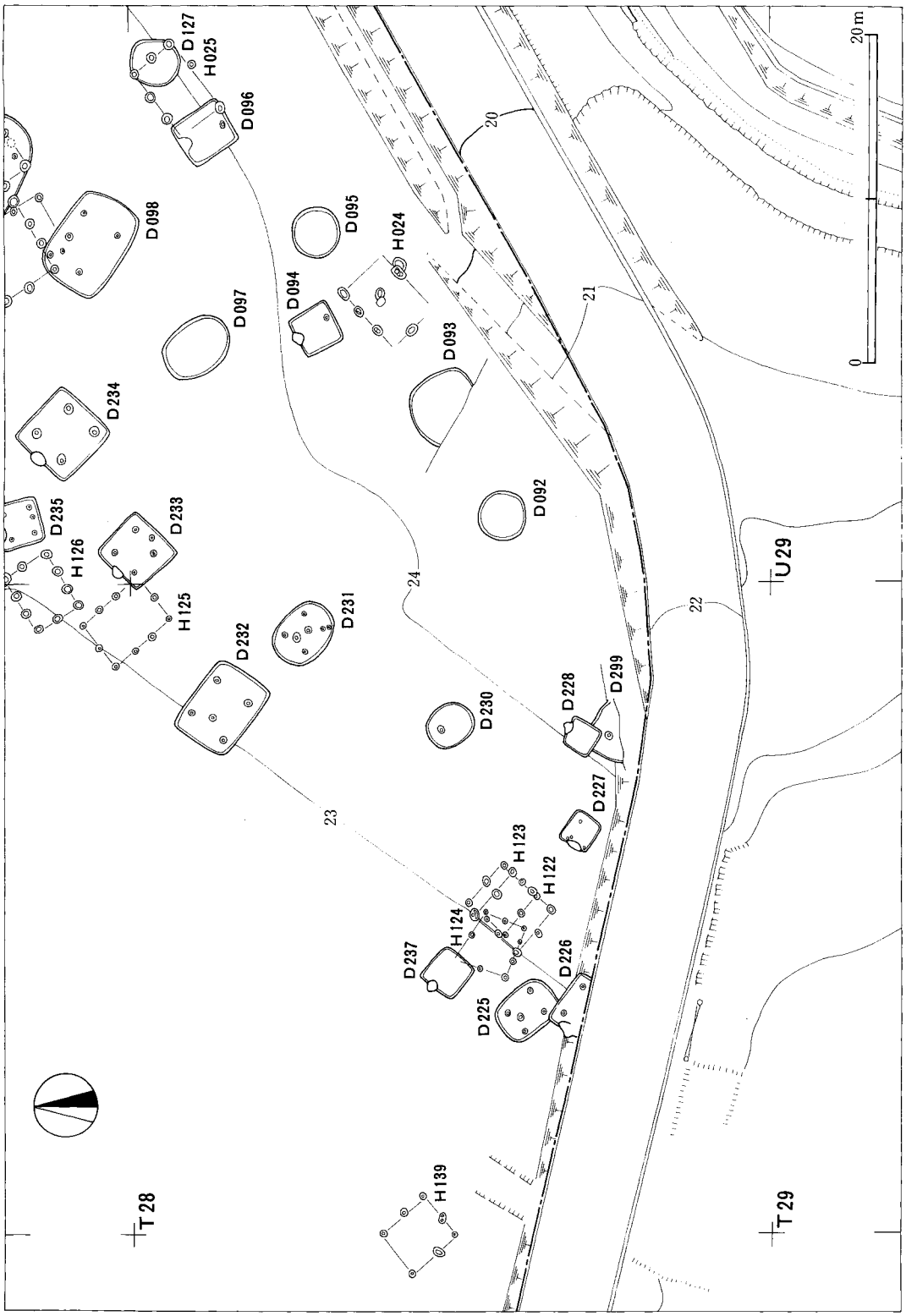
掘立柱建物は39棟が検出された。これは1群Bグループの掘立柱建物群を上回るもので、白



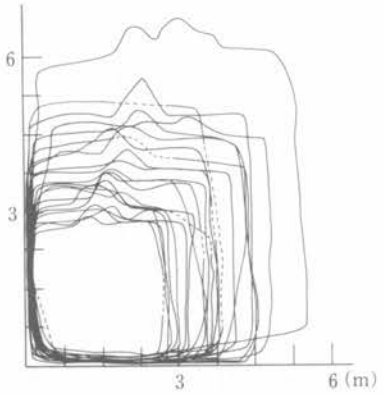

第194図　歴史時代３群全体図　1



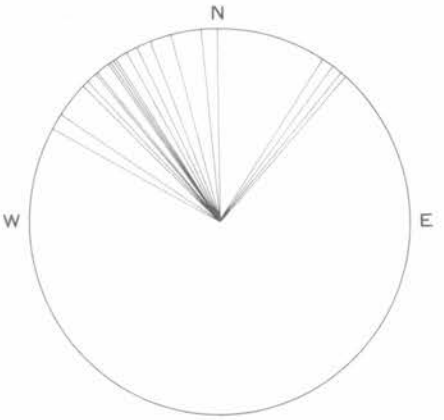

第195図　歴史時代３群全体図　2



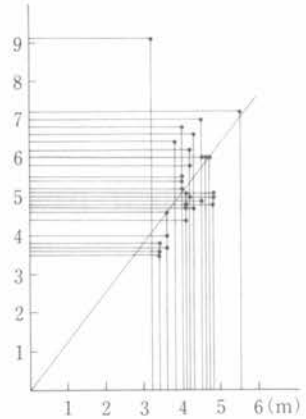

第196図　歴史時代３群全体図　3



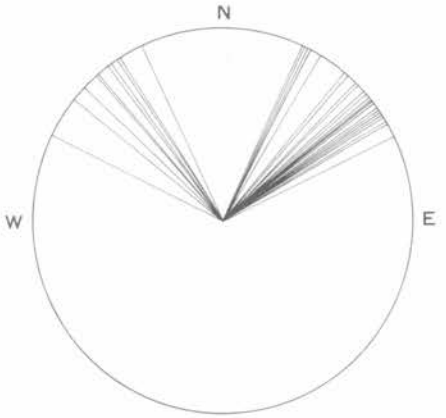

竪穴住居の規模




竪穴住居の主軸方向




掘立柱建物の規模




掘立柱建物の長軸方向

第197図　3群建物比較

幡前遺跡において最大の掘立柱建物群となる。建物の長軸方向は竪穴住居と同じ方向でN-24°-WからN-63°-Wとそれに直交するN-25°-EからN-65°-Eに納まる。竪穴住居では北西壁にカマドを設置する住居がほとんどであったように、掘立柱建物は長軸がN-0°より東に傾く建物が多く、25ないし26棟がある。これに対して、長軸方向がN-0°より西に傾く建物は13棟で、3割程度しかない。両者の分布状況は掘立柱建物群の北西端部に一列に並ぶH046からH144の16棟はすべて長軸方向がN-40°-EからN-60°-E前後を指す建物で、その南東側に雑然と配置される建物はむしろN-30°-W前後の建物が多い。建物群の北西端部に一列に並ぶ掘立柱建物を、建物群の奥と考えるか前面と考えるかという問題もあるが、1群Bグループでも同様の建物配置をとっており、少なくとも1群Bグループでは一列に並ぶ掘立柱建物は建物群の奥という意識があったのではないかと考えられる。建物は規模が確定できない建物も5棟あるが、3間×2間が主体となり23棟を数える。このうちH143は束柱と考えられる柱堀方がある。2間×2間の建物

は9棟と少なく、傾向として、建物群の中心部ではなく周囲に位置する。また、H142は総柱構造となる。この他にはH048が3間×3間、H049はあるいは2棟の重複かも知れないが、調査時の所見では5間×2間の長屋風の建物となる。桁行5間とするならば、桁行長は9.1mとなる。他の建物は桁行3間の建物で6m前後、2間の建物で4～5mを測る。柱間寸法は基本的には1.8m～2.1mであるが、まちまちで、同一建物においても不統一である。

掘立柱建物同士が重複する例はいくつかあり、H028→H027、H038→H037、H041→H039→H042、H045→H044、H059→H058、H122→H123の新旧関係が明らかである。H030・H057は位置的には重なるが、堀方の重複がないため、新旧関係は不明である。これらの建物のうち、H039・H041・H042は同じ位置で建て替えたもので、H039・H041は3間×2間、H042は2間×2間で、中心に束柱がある。竪穴住居跡と重複する建物も数棟あるが、弥生時代の竪穴住居跡と重複するH027・H028・H050を除くと、竪穴住居との関係はあまり明らかではない。竪穴住居との新旧関係が土層断面から捉えられた建物はH048・H058の2棟で、ともに竪穴住居が先行している。H048と重複するD104は時期不明であり、H058と重複するD105は3期の構築である。掘立柱建物から出土した遺物はきわめて少ないが、H123から無高台のロクロ土師器皿が出土している。特に遺物量の多い竪穴住居跡はD102・D103・D233・D234・D236の5軒で、3期から4b期までの住居である。ただ、この5軒は3群の竪穴住居の中で最大級の規模の住居であり、これらの遺物を直接掘立柱建物と結び付けるのは危険である。また、時期毎の竪穴住居の軒数は3期が若干少ないものの、4a・4b期とピークに達するが、5・6期の軒数は極端に減少している。竪穴住居の極端な減少が掘立柱建物の出現に関係している可能性も否定できない。ただ、D234・D236の2軒の竪穴住居から枢の鍵と考えられる鉄製品が出土している。枢戸を竪穴住居の戸に推定するよりは、むしろ掘立柱建物の戸として考えた方が妥当であり、この2点の鍵が掘立柱建物の戸と深い関わりを有していたことが窺える。D234・D236は3期から4a期の竪穴住居跡であり、この時期に掘立柱建物が存在したことは確実であろう。また、枢を必要とする建物は日常の居住施設とは考え難く、収納施設としての機能が適切である。即ち、3群に構築された掘立柱建物の中に、倉庫として機能した建物が存在したこととなる。総柱構造のH142は注目できる。

土壙は1基が検出された。P031はH031の東側に位置する井戸状の土壙で、直径2.1mの円形を呈している。確認面からの深さは1.1mで、埋土はロームブロックを多く含んでいる。

## 第367表　3群竪穴住居一覧

| No. | プラン | 南北×東西(m) | 面積(m²) | 主　軸 | カマド | 貯蔵穴 | 主柱穴 | 副柱穴 | 出入口ピット | 周　溝 | 所属時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D059A | 方　形 | 4.5×4.2 | 18.90 | N−25°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | なし | 5 | 出入口ピットはA・B共通。 |
| D059B | 方　形 | 4.2×4.0 | 16.80 | N−25°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | | |
| D060 | 方　形 | 3.2×2.9 | 9.28 | N−5°−W | 北中央 | なし | なし | なし | あり | あり | 5 | |
| D063 | 方　形 | 3.0×2.9 | 8.70 | N−0° | 北中央 | なし | なし | 1 | なし | 全周 | 4b | |
| D064 | − | − | − | − | − | − | − | − | − | − | | カマド・床面の一部が残存。 |
| D065 | 方　形 | 3.1×3.1 | 9.61 | N−21°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 4b | |
| D066 | 方　形 | 3.3×2.9 | 9.57 | N−40°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 6 | |
| D071 | 方　形 | 3.0×不明 | − | N−33°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | | |
| D094 | 方　形 | 3.6×3.5 | 12.60 | N−39°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4a | |
| D096 | 方　形 | 3.9×3.8 | 14.82 | N−33°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 4b | |
| D100 | 方　形 | 3.3×3.3 | 10.89 | N−34°−W | 北西中央 | なし | 4 | なし | あり | あり | 4a | |
| D101 | 方　形 | 4.5×4.5 | 20.25 | N−25°−W | 北西中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 3 | 南東壁中央に張り出し有り。 |
| D102 | 方　形 | 4.7×4.5 | 21.15 | N−50°−E | 北東中央 | なし | 6 | 3 | なし | あり | 4b | |
| D103 | 方　形 | 4.2×4.0 | 16.80 | N−33°−W<br>N−42°−E | 北西中央<br>北東中央 | なし | 4 | なし | なし | なし | 4b | |
| D104 | 方　形 | 5.3×3.9 | 20.67 | N−40°−W | − | なし | なし | なし | なし | あり | | |
| D105 | 方　形 | 2.9×2.7 | 7.83 | N−25°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 3 | |
| D106 | 方　形 | 3.5×3.5 | 12.25 | N−42°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | あり | 6 | |
| D107 | 方　形 | 4.2×3.8 | 15.96 | N−29°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | なし | 4b | |
| D221 | 方　形 | 3.4×不明 | − | N−35°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | あり | | |
| D226 | 方　形 | 4.3×不明 | − | N−57°−W | 北西中央 | なし | 2 | なし | なし | 全周 | 4a | |
| D227 | 方　形 | 2.6×2.5 | 6.50 | N−61°−W | 北西中央 | なし | なし | 4 | なし | なし | 4a | |
| D228 | 方　形 | 2.6×2.5 | 6.50 | N−37°−E | 北東中央 | なし | なし | なし | なし | なし | | |
| D233 | 方　形 | 5.3×4.6 | 24.38 | N−46°−W | 北西中央 | なし | 4 | 1 | あり | 全周 | 4b | |
| D234A | 方　形 | 6.2×5.6 | 34.72 | N−46°−W | 北西中央 | なし | 4 | なし | なし | 全周 | 3 | |
| D234B | 方　形 | 7.0×6.9 | 48.30 | N−46°−W | 北西中央 | なし | 4 | なし | なし | − | 3 | |
| D235 | 方　形 | 3.8×3.7 | 14.06 | N−14°−W | 北中央 | なし | 4 | なし | あり | 全周 | 1 | |
| D236 | 方　形 | 5.0×4.9 | 24.50 | N−19°−W | 北西中央 | なし | 4 | 2 | あり | 全周 | 4a | 建て替えか？ |
| D237 | 方　形 | 3.2×3.1 | 9.92 | N−45°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | | |
| D270 | 方　形 | 3.2×2.9 | 9.28 | N−33°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | あり | 全周 | 5 | |
| D271 | 方　形 | 3.8×3.4 | 12.92 | N−40°−W | 北西中央 | なし | なし | なし | なし | 全周 | 5 | |

## 第368表　3群掘立柱建物一覧

| No. | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H024 | 3×2 | 側柱 | 5.9 | 4.2 | 2.0 | —— | 0.8〜1.0 | 0.3〜0.5 | N−45°−E | なし | | |
| H025 | 3×2 | 側柱 | 6.4 | 3.8 | 1.8 | 24.32 | 0.8 | 0.4〜0.7 | N−51°−E | なし | | D096・127と重複。 |
| H026 | 3×2 | 側柱 | 5.4 | 4.0 | 1.8〜2.0 | 21.60 | 0.6〜0.8 | 0.4〜0.6 | N−36°−W | なし | | |
| H027 | 2以上×？ | 側柱 | 4.1以上 | ? | 2.1 | —— | 0.6〜0.8 | 0.8〜0.9 | N−35°−W | なし | | |
| H028 | 3×2 | 側柱 | 6.0 | 4.5 | 1.6〜2.4 | 27.0 | 0.8 | 0.6 | N−58°−E | なし | | |
| H029 | 3×2 | 側柱 | 6.0 | 4.7 | 1.8〜2.1 | 28.2 | 0.6〜0.8 | 0.6〜0.8 | N−47°−W | なし | | |
| H030 | 3×2 | 側柱 | 6.2 | 4.2 | 2.1〜2.4 | 26.04 | 0.6 | 0.6〜0.8 | N−40°−W | なし | | |
| H031 | 3×2 | 側柱 | 5.0 | 4.8 | 1.6〜2.0 | 24.0 | 0.7〜0.8 | 0.3〜0.6 | N−56°−E | なし | | |
| H032 | 3×2 | 側柱 | 4.8 | 4.1 | 1.5〜2.1 | 19.68 | 0.7〜1.0 | 0.6〜0.9 | N−61°−E | なし | | |
| H036 | 3×2 | 側柱 | 5.8 | 4.2 | 2.0 | 24.36 | 0.7〜1.0 | 0.5〜0.9 | N−51°−E | なし | | |
| H037 | 3×2 | 側柱 | 4.9 | 4.0 | 1.8〜2.0 | 19.60 | 0.6 | 0.2 | N−32°−E | なし | | |
| H038 | 3×2 | 側柱 | 5.8 | 4.2 | 1.8〜2.1 | 24.36 | 0.8 | 0.6〜0.8 | N−48°−E | なし | | |
| H039 | 3×2 | 側柱 | 7.0 | 4.5 | 2.2 | 31.50 | 0.6〜0.7 | 0.7〜0.8 | N−49°−E | なし | | |
| H040 | 3×2 | 側柱 | 5.2 | 4.0 | 1.8〜2.0 | 20.80 | 0.7〜0.8 | 0.4〜0.6 | N−60°−E | なし | | |

| No. | 規　模 | 構造 | 桁行長 | 梁行長 | 柱間寸法 | 面積 | 堀方径 | 堀方深さ | 主　軸 | 廂 | 時期 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| H041 | 3×2 | 側柱 | 6.6 | 4.3 | 2.0～2.4 | 28.38 | 0.6 | 0.4～0.6 | N－52°－E | なし | | |
| H042 | 2×2 | 側柱 | 5.1 | 4.8 | 2.3 | 24.48 | 0.4～0.6 | 0.2～0.7 | N－55°－E | なし | | |
| H043 | 3×2 | 側柱 | 6.0 | 4.6 | 2.1 | 27.60 | 0.6 | 0.4～0.6 | N－54°－E | なし | | |
| H044 | 3×2 | 側柱 | 7.2 | 5.5 | 2.4～2.8 | 39.60 | 0.8～1.0 | 0.4～0.6 | N－40°－W | なし | | |
| H045 | 2×2 | 側柱 | 4.9 | 4.5 | 2.2～2.5 | 22.05 | 0.6 | 0.6～0.8 | N－40°－W | なし | | |
| H046 | 2×2 | 側柱 | 3.6 | 3.4 | 1.8 | 12.24 | 0.6 | 0.4～0.6 | N－65°－E | なし | | |
| H047 | 2以上×1以上 | 側柱 | 3.5以上 | 3.3以上 | 1.7～3.3 | —— | 0.6～0.8 | 0.2～0.6 | N－25°－E | なし | | |
| H048 | 3×3 | 側柱 | 4.8 | 4.8 | 1.5 | 23.04 | 0.8～1.0 | 0.4～0.6 | N－24°－W | なし | | |
| H049 | 5×2 | 側柱 | 9.1 | 3.2 | 1.4～1.8 | 29.12 | 0.4～0.8 | 0.2～0.6 | N－57°－E | なし | | |
| H050 | 2×2 | 側柱 | 4.7 | 4.3 | 2.1～2.5 | 20.21 | 0.6～0.8 | 0.6 | N－55°－E | なし | | D099・100と重複。 |
| H056 | 3×2 | 側柱 | 5.5 | 4.0 | 1.8～2.0 | 22.0 | 0.7～0.8 | 0.7～0.9 | N－40°－W | なし | | |
| H057 | 3×2 | 側柱 | 5.0 | 4.2 | 1.7～2.1 | 21.0 | 0.8 | 0.5～0.8 | N－32°－W | なし | | |
| H058 | 3×2 | 側柱 | 6.8 | 4.4 | 2.3 | 29.92 | 0.8 | 0.6～0.9 | N－51°－E | なし | | |
| H059 | 2以上×1以上 | 側柱 | 4.3以上 | 1.6以上 | 1.6～2.2 | —— | 0.7～0.8 | 0.3～0.7 | N－60°－E | なし | | |
| H121 | 2以上×2以上 | 側柱 | 3.7以上 | 3.3以上 | 1.6～1.8 | —— | 0.8 | 0.6 | N－33°－W | なし | | |
| H122 | 2×2 | 側柱 | 4.4 | 4.1 | 2.1 | 18.04 | 0.7～0.8 | 0.3～0.9 | N－42°－E | なし | | |
| H123 | 2×2 | 側柱 | 3.7 | 3.6 | 1.9 | 13.32 | 0.5～0.6 | 0.5～0.7 | N－39°－E | なし | | |
| H124 | 3×2 | 側柱 | 4.0 | 3.6 | 1.5～1.8 | 14.40 | 0.4 | 0.4～0.5 | N－63°－W | なし | | |
| H125 | 3×2 | 側柱 | 5.5 | 4.0 | 1.8～2.0 | 22.0 | 0.4 | 0.2～0.4 | N－41°－W | なし | | D233と重複。 |
| H126 | 3×2 | 側柱 | 4.6 | 3.6 | 1.6～1.8 | 16.56 | 0.7～0.8 | 0.4～0.6 | N－60°－E | なし | | |
| H139 | 2×2 | 側柱 | 4.7 | 4.1 | 2.2 | 19.27 | 0.4～0.6 | 0.2～0.4 | N－42°－W | なし | | |
| H141 | 不明 | — | —— | —— | —— | —— | —— | —— | —— | — | | |
| H142 | 2×2 | 総柱 | 3.8 | 3.4 | 1.6～2.0 | 12.92 | 0.7～1.0 | 0.5～0.7 | N－46°－E | なし | | |
| H143 | 3×2 | 総柱 | 5.1 | 4.1 | 1.7～2.1 | 20.91 | 0.6～0.8 | 0.4～0.6 | N－58°－E | なし | | |
| H144 | 2×2 | 側柱 | 3.5 | 3.4 | 1.6～1.8 | 11.90 | 0.6～0.8 | 0.5～0.7 | N－49°－E | なし | | |

**第369表　3群土壙一覧**

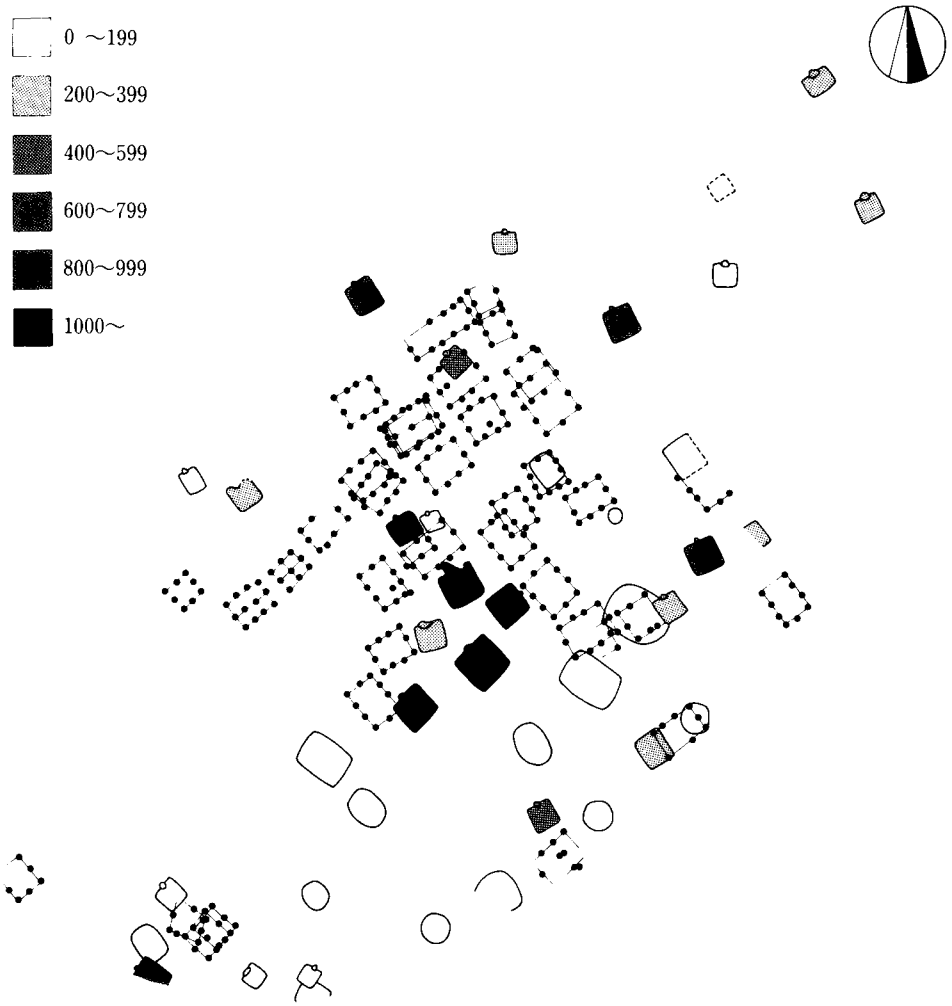
| No. | プラン | 規　模 | 深さ | 軸方向 | 機能 | 時期 | 埋土の状況 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| P031 | 円　形 | 直径2.1 | 1.1 | —— | | | ロームブロック多く含む。 | |

## 3　遺　物（第198図、第370～403表、PL.369～389、図版204～214）

竪穴住居から出土した遺物はほとんどが廃棄されたもので、直接住居に伴う遺物は少ない。カマドを中心とした遺物の出土状況は、D233でロクロ土師器坏・皿等がカマド廃絶後に詰め込まれた状態で出土した。以下、各遺構を概観する。

**D059**　ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は45～50°となる。底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。墨書されているものも僅かにあり、10は「継」、9は「生」、8は「上」となる。なお、ロクロ土師器皿を伴っており、11は低い高台が付く。底部は回転糸切り無調整である。土師器甕は口縁部が受け口状を呈する製品が主体的である。鉄製品は刀子・紡錘具がある。

**D060**　遺物は少ないが、1・2・4・5・6がカマドから出土している。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50°前後である。底部は回転糸切り後、ほぼ




第198図　歴史時代３群遺物の出土量図

全面に回転ヘラ削りを施すが、２は体部下端と併せて静止ヘラ削りである。また、５は底部外面に「×」と線刻されている。なお、ロクロ土師器皿を伴っており、６は底部は回転糸切り無調整である。

**D063**　ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、１の底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。４・５には墨書されているが、釈文は不明である。土師器甕は小形の製品が１点図示できた。口縁部は僅かに受け口状を呈し、胴部のかなり上位まで横位のヘラ削りを施している。石製紡錘具がある。

**D064**　住居の遺存状態は非常に悪いが、土師器甕が図示できた。１・２とも口縁部は受け口状を呈している。１は小形の製品で、胴部上半はヘラ削りを消している。胴部中位以下に横位のヘラ削りを施す。ともに１類である。

D065　遺物は余り多くなく、南東壁際を中心に出土した。ロクロ土師器坏は体部が直線的に立ち上がるもので、底部は回転糸切り後、ほぼ全面回転ヘラ削りで、体部下端にも回転ヘラ削りを施している。4・5は墨書される。土師器甕はいずれも口縁部が受け口状を呈している。9は1類で胴部中位以下にヘラ磨きを行うが、胴部上半には縦位の、中位以下には横位のヘラ削りが残されている。

D066　図示した遺物はカマドを中心として出土している。但し、大形の土師器甕等は同一個体の破片がかなり散乱している。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。6は底部内外面に「立」と墨書され、5は底部内面に「×」と線刻されている。土師器甕は口縁部が受け口状を呈し、比較的底部のしっかりしたものである。胴部は縦位のヘラ削りで、底部近くに横位のヘラ削りを施す。

D094　図示した遺物は破片が散乱して出土している。ロクロ土師器坏は体部が内彎するものと、口縁部が僅かに外反するものがある。底部は2・3が回転ヘラ削りで、1は不定なヘラ削りである。墨書されるものがあり、8は「又」、5は「饒」、6は「立」となる。4は土師器鉢で、内面黒色処理される。体部外面に「冨」と墨書されている。

D096　ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。また、7は内面黒色処理が、4・5は内面にヘラ磨きが施されている。墨書されたものは5が「廓」、4が「古」、6が「賀□□」となる。須恵器坏も口縁部が僅かに外反するもので、底部はいずれも静止ヘラ削りである。土師器甕は図示できるものが少なく、10は口縁部が僅かに受け口状を呈するもので、胴部に縦位のヘラ削りを施す。12は須恵器甑で、底部5孔の製品である。胴部は縦位の平行叩き、底部近くに横位のヘラ削りを施す。

D100　遺物は少ない。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、1は内面黒色処理されている。墨書されているものもあるが、釈文不明なものが多く、3が「文」となる。須恵器坏は5が底部全面回転ヘラ削りである。

D101　ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転ヘラ削りである。14は法量的に大きく体部にヘラ磨きを施し、内面黒色処理されている。4は「守」と墨書されている。須恵器坏も口縁部が僅かに外反するもので、6・9・12は底部は回転ヘラ削り、7・8・10・11は一方向ヘラ削りで、8・11は体部下端も静止ヘラ削りである。土師器甕は1・3類が主体的で、18は3類の小形の製品である。なお、19は土師器甑で、口唇部を丸く納めている。鉄製品は鉄鏃がある。

D102　遺物はかなり多く出土し、破片総数は約1,500点に上る。図示できたものは坏類が多く、傾向として甕類はあまり復元できなかった。カマド内からも比較的多くの遺物が出土した。なお、図示した遺物のほとんどが、埋土の中位から出土したものである。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50～55°となる。底部は13・15を除いて回転ヘ

ラ削りで、13・15は体部下端も静止ヘラ削りである。なお、16・17は内面黒色処理され、18・19・24は内面にヘラ磨きを行っている。また、ロクロ土師器皿を伴っており、25・26は高台が付く。須恵器坏は49・50の2点が図示でき、50は高台が付く比較的大振りな製品である。坏類は墨書されているものが多く、釈文は「饒」・「廓」・「豊」・「生」となる。甕類は図示できるものが少ないが、61は頸部径29cmを測る大形の製品である。鉄製品は刀子・鉄鏃がある。

**D103**　須恵器甕27・須恵器甑28は同一個体の破片が広く散乱している。ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50～55°となる。底部は回転ヘラ削りの製品が主体的であるが、3は全面回転ヘラ削り後、一定方向に再度ヘラ削りを施している。なお、16は内面が黒色処理され、5は内面ヘラ磨き、6は外面に赤彩されている。また、ロクロ土師器皿を伴っており、18・20・21には高台が付き、19・22・23は底部周縁にヨコナデを施している。21は内面黒色処理される。坏類には墨書されているものが多く、釈文は「村」・「圓」・「入」となる。土師器甕は口縁部が僅かに受け口状を呈するもので、26は器面の遺存状態がかなり良い。須恵器は甕・甑があり、甕は3類である。甑は図上復元であるが、胴部は縦位の平行叩きで、底部5孔の製品である。

**D104**　須恵器坏が1点図示できた。体部は直線的に立ち上がり、底部は全面回転ヘラ削りである。

**D105**　ロクロ土師器坏は箱形に近い器形を呈し、底部は2が全面回転ヘラ削り、1は回転糸切り後、周縁部静止ヘラ削りである。

**D106**　ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反するもので、体部の立ち上がりの角度は50°前後となる。底部は回転ヘラ削りの製品が主体的であるが、3・6は一定方向のヘラ削りである。8は内面にヘラ磨きを行っている。14は土製のカマドで、これと対応するように11の羽釜がある。14はカマド内から出土し、11はカマド前面から出土した。庇は付け庇で、調整は粗雑である。炊き口部に若干火熱を受けた痕跡があるが、内面は堅緻である。受け口は羽釜の胴部径から22～23cm前後と推定される。鉄製品は刀子がある。

**D107**　カマド内から4・11が出土した。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、体部の立ち上がりの角度は55°前後となる。底部はすべて回転ヘラ削りで、6は内面黒色処理される。なお、3は底部内面に「子」と墨書される。須恵器坏も口縁部が外反するもので、底部はいずれも不定なヘラ削りである。土師器甕は1・2・3類がある。鉄製品は穂積具がある。

**D221**　図示できたのは土師器甕と砥石である。土師器甕は3類の小形の製品である。

**D226**　遺物は比較的多く、2はカマドから出土した。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は回転ヘラ削りである。3・4は墨書され、4は「廿」となる。なお、5は内面黒色処理される。土師器甕は1・2・3類がある。9は須恵器坏の底部を利用した紡錘具である。鉄製品は棒状品がある。

**D227**　ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部は静止ヘラ削りの製品が主体的で、2～4が回転ヘラ削りである。5は底部外面に「大田」、6は体部外面に「古」と墨書されている。土師器甕は2点が図示できた。11は1類の底部で、底部に木葉痕がある。12は小形な須恵器甑で、底部5孔の製品である。胴部は横位の平行叩きで、底部近くに横位のヘラ削りを施す。13・14は長頸瓶で、ともに胴部の余り膨らまない肩の丸い製品である。鉄製品は刀子・穂積具がある。

カマドを覆いかぶせるように貝が廃棄されている。廃棄された貝は0.1mメッシュでサンプリングを行っている。

| | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| イボキサゴ | *Umbonium (Suchium) meniliferum* | | | | 6 | 9 | 15 |
| ウミニナ | *Batillaria umltiformis* | | 5 | 10 | 13 | | 28 |
| タニシ | | | | | 2 | | 2 |
| ハマグリ | *Meretrix lusoria* | 5 | 331 | 567 | 370 | 98 | 1371 |
| サルボウ | *Scapharca subcrenata* | | | 1 | | | 1 |
| マガキ | *Crassostrea gigas* | | | | 4 | | 4 |
| アサリ | *Ruditapes philippinarum* | | 15 | 10 | 13 | 2 | 40 |
| オキシジミ | *Cyclina sinensis* | | | 1 | 2 | | 3 |
| カガミガイ | *Phacosoma japonicum* | | 14 | 4 | | 9 | 27 |
| シオフキ | *Mactra veneriformis* | | 87 | 135 | 126 | 35 | 383 |
| マテガイ | *Solon (S) strictus* | 1 | 1 | 1 | | | 3 |
| マツカサガイ | *Inversidens japonensis* | | | | | 1 | 1 |

**D233**　傾向として住居中央から南東壁にかけて多く出土している。また、カマドからも多くの遺物が出土し、4・5・6・8・9・18・20・22がある。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するものが主体的であるが、底部・体部下端に静止ヘラ削りを施す6類を伴っている。また、ロクロ土師器皿を伴っており、9は内面にヘラ磨きを行っている。坏類には墨書されるものが多く、釈文は「廓」・「饒」・「豊」となる。土師器甕は小形の製品が図示できた。17～19は口縁部が受け口状を呈し、いずれも口径が12cm前後の製品である。鉄製品は刀子・紡錘具がある。

**D234**　遺物は非常に多く、破片総数7,600点を数える。しかしながら、直接住居に伴う遺物はほとんどなく、27・47がカマドから出土している他は廃棄されたものである。土師器坏は1点図示できた。平底の底部を有する2類で、体部は横位のヘラ削りを施している。38はやはりロクロ未使用の製品で、丸底の鉢である。ロクロ土師器坏は箱形の器形を呈し、底部は回転ヘラ削りの製品がほとんどであるが、10は静止ヘラ削りである。2は高台坏1類であるが、高台は

摩滅している。37は盤で内面黒色処理される。須恵器坏は箱形に近い器形も含まれる。底部は24・27〜29・31が回転ヘラ削りである。須恵器はこの他に23・34の高台坏、39の高坏、35・36の蓋がある。35の蓋は天井部に丸みを持った製品である。坏類には墨書されているものもあり、「饒」が主体となる。土師器甕は1・2類がある。須恵器甕は4・5類がある。鉄製品は刀子・穂積具・棒状品・紡錘具・鎖・銙帯がある。

**D235**　土師器坏は丸底の1類で、体部外面は横位のヘラ削り、内面はヘラ磨きを施している。2は土師器鉢で、やはりロクロ未使用の製品である。体部外面は横位のヘラ削り、内面に僅かにヘラ磨きを施す。底部は木葉痕が残る。土師器甕は2点とも完形で、口唇部を丸く納めている。4は胴部全面縦位のヘラ削りである。

**D236**　遺物は非常に多く、破片総数2,500点を数える。17・20がカマド左脇から出土した。土師器坏は平底で口縁部が直立する3類があり、2点とも完形である。体部は横位のヘラ削りで、2は内面にヘラ磨きを施している。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反するもので、底部はすべて回転ヘラ削りである。10・11は墨書されるが、釈文不明である。なお、9・15は内面黒色処理され、体部外面にもヘラ磨きが施されている。須恵器坏は2点が図示できた。13は身込みの部分を強く押え、底部回転ヘラ削り、12は底部全面ヘラ削りである。土師器甕は1・3類が卓越し、20は完形である。鉄製品は鉄鏃・穂摘具・棒状品がある。

**D237**　遺物は非常に少なく、土師器坏1点を図示しただけである。底部は平底で、体部に横位のヘラ削りを施している。

**D270**　ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は回転ヘラ削りである。2は底部外面に「卯原」と墨書されている。3はロクロ土師器皿で、底部周縁にヨコナデを施す。内面はヘラ磨きされる。4は須恵器長頸瓶で、底径4.6cmの小形の製品である。

**D271**　ロクロ土師器坏は口縁部が外反するもので、底部は回転ヘラ削りである。3・4は底部外面に墨書され、3は「小堤」、4は釈文不明である。なお、1は内面黒色処理される。6は土師器甕5類、5は須恵器甕4類である。

**H025**　須恵器坏が1点図示できた。口縁部が僅かに外反するもので、底部はヘラ切り後、全面一方向のヘラ削り、体部下端も静止ヘラ削りを施している。

**H028**　須恵器坏が1点図示できた。口縁部は僅かに外反し、底部は回転ヘラ削りである。

**H048**　須恵器坏が1点図示できた。体部は内彎気味に立ち上がり、底部は回転糸切り後、周縁部回転ヘラ削りである。

**H059**　須恵器坏が1点図示できた。体部は内彎気味に立ち上がり、底部は全面回転ヘラ削りである。

**H123**　ロクロ土師器皿が1点図示できた。無高台の製品で、底部は回転糸切り無調整である。体部外面に「左」と墨書される。

**P031**　土師器坏が1点図示できた。ロクロ未使用の丸底の製品で、口縁部は直立する。体部外面は横位のヘラ削りで、内面にヘラ磨きを施す。

以上、各遺構を概観したが、次に時期の変遷を追ってみたい。本群は2群Fグループと同様に竪穴住居の構築開始時期は比較的遅い。D235は破片も含めてロクロ土師器坏はまったく伴っておらず、1期以前の構築と考えられる。土師器坏は身の浅いもので、口縁部が直立する。図示できなかった破片は鬼高的な坏も残っている。土師器甕は口縁部が大きく外反し、端部を丸く納めるもので、やはり古式な様相を残している。本群では2期に比定できる遺構はなく、D235だけが単独で存在する。

3期はD101・D105・D234等が比定できる。ロクロ未使用の土師器坏は少なく、D234で1点図示できた。身が深い平底の製品で、2類よりは3類に近い。ロクロ土師器坏は箱型の器形がやや崩れ、体部の立ち上がりの角度は60°前後となる。底部は基本的に回転ヘラ削りであるが、D105では静止ヘラ削りの製品がある。また、D101の5やD234の8・12のような口径が15cmを超えるものがある。また、D234では高台坏1類が伴っている。D101ではロクロ調整の鉢が出土してが、3期に伴うものだろうか。須恵器坏はD101・D234で多く、4b類が主体となる。底部は全面回転ヘラ削りか、全面一方向ヘラ削りの2者がある。また、D101では盤が、D234では高台坏・高坏・蓋がある。土師器甕は1・3類が主体となる。小形の甕は2類が多く、D101では口唇部を丸く納める底部1孔の甑が出土している。墨書土器はD234で多く出土しているが、17は高台が付く皿で、直接伴うものではない。17は底部内面に「饒」の墨書があるが、他の「饒」も含めて混入品と考えられる。「饒」を除くと墨書土器の量は少なく、D101で「守」が、D234で「文」・「入」がある。

4a期はD094・D100・D226・D227・D236等が比定できる。土師器坏は少なく、D236で身の深い平底の製品がある。ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反し、底部は回転ヘラ削りである。また、内面黒色処理した製品や内面にヘラ磨きを施したものが出現する。これらは他の坏と比較して法量が少し大きく、体部もやや開いて立ち上がる。なお、D094・D226にはロクロ調整の鉢がある。須恵器坏は少ないが、4b・6類がある。土師器甕は1・3類が主体となる。墨書土器はあまり増加せず、「富」・「饒」・「又」・「廓」・「大田」・「立」がある。

4b期はD065・D096・D102・D103・D107・D233等が比定できる。ロクロ未使用の坏は見られず、ロクロ土師器坏は口縁部が僅かに外反する製品が主体となる。また、体部下端に丸みをもち、静止ヘラ削りの製品が目立ち、D233では4個体が図示できた。このタイプの坏を出土する竪穴住居はは2群と3群を隔絶する遺構空白域の周辺のグループに限られ、1群から2群Bグループまでの各グループではまったく出土していない。ロクロ土師器皿は高台が付く1類と底部周縁にヨコナデを施す2類が主体となる。土師器甕は1・3類に加えて2類がかなり多くなる。墨書土器は非常に多く、「廓」・「饒」・「豊」等3群を代表する文字が一斉に書かれる。

この他「圓」・「入」・「村」・「古」・「賀□□」がある。

5期はD059・D060・D270・D271等が比定できる。ロクロ土師器坏は口縁部が外反し、底部はほとんど回転ヘラ削りである。ロクロ土師器皿は底部周縁ヨコナデの2類が多い。土師器甕は良好な資料が無いが、1・3類は姿を消している。墨書土器は4b期と比較して非常に少なく、4b期で3群を代表した「廓」・「饒」・「豊」はまったく書かれない。「生」・「継」・「上」・「小堤」があるが、本群独自の文字はD270で「卯原」が1点あるだけである。

6期はD066・D106が比定できるだけで、遺構数も少ない。ロクロ土師器坏は口縁部が大きく外反し、D106では調整も粗雑である。ロクロ土師器皿は少なく図示できるものはない。土師器甕は口縁部が受け口状を呈する2類であるが、底部はしっかりとし、底部に回転糸切り痕を残すものもある。墨書土器は少なく、D066で「立」が1点図示できただけである。

鉄製品は比較的多く、刀子・穂積具・紡錘具が目立つ。特に紡錘具は石製・土製のものを含めると9点が出土している。時期的な偏りはあまり認められないが、早い段階の住居に多い傾向がある。なお、D234では鎖が出土している。また、各遺構の概観で触れたが、D234・D236から枢の鍵と考えられる鉄製品が出土している。掘立柱建物の構築時期を考える上で貴重な資料となる。

墨書土器はほとんどが4b期に集中し、書かれた文字も「饒」・「豊」・「冨」等、同じ様な意味の文字が書かれている。特に「饒」・「豊」は3群を中心として書かれた文字で、1時期にかなりの量が書かれている。「廓」は3群以外にも2群C・D・Eグループから出土し、量的には2群Dグループに続いて3群が多い。2群Dグループの場合、3群と比較して「廓」が書かれた時期に幅がある。当初、「廓」は3群の掘立柱建物群を指すものと考えていたが、2群Dグループは掘立柱建物も少なく、一概に断定できない。

**第370表　D059出土遺物一覧**

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.4 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 359 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 7.4 | 4.3 | 60 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 10、13、64 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 7.6 | 4.1 | 70 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 141、162、324、382、467 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.8 | 3.3 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 361、420 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.4 | 3.1 | 30 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 432 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 15.2 | 9.4 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 100、101 | 内面ヘラ磨き |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 217 | 墨書「生」ヵ |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 8.2 | 3.7 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | | 114、153、207 | 墨書「上」、ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明褐色 | | 78 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 明褐色 | | 148、268 | 墨書「継」 |
| 11 | ロクロ土師器皿 | 13.9 | 7.5 | 2.6 | 完形 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 450 | |
| 12 | 土師器鉢 | 18.2 | 8.6 | 6.1 | 30 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 280、337、338 | |
| 13 | 土師器甕 | 15.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰褐色 | | 469 | |
| 14 | 土師器甕 | 12.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 171 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 15 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 468、469 | |
| 16 | 土師器甕 | 22.0 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 180、181、302、367 | |
| 17 | 土師器甕 | 11.8 | 6.8 | 14.0 | 50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 57、133、137、139、165、192、239 | |
| 18 | 須恵器甕 | — | 14.8 | — | 底部50 | 精　緻 | 灰　色 | | 162、173、175、275、342、345、349 | |

## 第371表　D060出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 5.5 | 4.8 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 106 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 8.2 | 4.8 | 90 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 104、110 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 8.0 | 3.9 | 30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 91 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 105 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 6.8 | 4.1 | 60 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 107 | 線刻「×」 |
| 6 | ロクロ土師器皿 | 14.6 | 7.0 | 2.5 | 70 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 104、105 | |
| 7 | 土師器甕 | 15.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 5、63 | |
| 8 | 土師器甑 | — | 13.2 | — | 底部20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 17、19、32、50、51、53、62、75、77 | |
| 9 | 須恵器甑 | — | 13.2 | — | 底部20 | 砂　粒 | 灰 白 色 | | 92 | |

## 第372表　D063出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.8 | 3.9 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 66、96、97、98、99、100 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 77、142 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 82 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 9 | 墨書 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | 7.0 | — | 底部20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 63 | 墨書 |
| 6 | 須恵器坏 | 12.0 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰　色 | | 143 | |
| 7 | 土師器甕 | 13.9 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 136 | |
| 8 | 紡錘具 | | | | | | | | 74 | 石製 |

## 第373表　D064出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 16.2 | — | — | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 2、4、12、14 | |
| 2 | 土師器甕 | 20.2 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 9、13 | |

## 第374表　D065出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 6.2 | 4.5 | 20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 146 | 黒色処理 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.2 | 8.0 | 5.2 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 67 | 黒色処理 |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 7.4 | 4.3 | 30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 32、33、37、84、107、113、132 | 黒色処理 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.8 | 3.8 | 70 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 122、123、124、131、134 | 墨書 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | 7.0 | — | 底部30 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 86、108 | 墨書 |
| 6 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 褐　色 | | 47 | |
| 7 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 93、171 | |
| 8 | 土師器甕 | — | 6.4 | — | 底部 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 182、183 | |
| 9 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 70、128、177、184、185 | |

## 第375表　D066出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 7.4 | 4.2 | 70 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 196 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.2 | 4.3 | 完形 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 198 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.7 | 5.5 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 187 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 14.5 | 8.1 | 4.4 | 40 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 180 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 15.2 | 7.8 | 4.5 | 完形 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 186 | 線刻「×」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 5.5 | 4.2 | 90 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 188 | 墨書「立」 |
| 7 | 土師器甕 | 18.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 184 | |
| 8 | 土師器甕 | 18.4 | — | — | 50 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 17、18、21、22、36、48、139、180 | |
| 9 | 土師器甕 | 18.4 | 10.4 | 28.3 | 70 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 10、15、16、18、32、39、40、41、61 | |
| 10 | 土師器甕 | — | 10.6 | — | 底部30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 77、79、112 | ロクロ調整 |
| 11 | 須恵器甕 | 20.6 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰　色 | | 185 | |

## 第376表　D094出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.4 | 7.2 | 4.1 | 完形 | 長石粒 | 黒　色 | 右 | 75、131、134、286、294、328、329 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.9 | 4.1 | 80 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 83、85、187、249 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.6 | 3.9 | 90 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 113、136 | |
| 4 | 土師器鉢 | 21.4 | — | — | 70 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 左 | 12、14、16、69、74、117、260 | 墨書「冨」、黒色処理 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | | 19 | 墨書「饒」、ヘラ磨き |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 145 | 墨書「立」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 229 | 墨書「継」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | — | 6.0 | — | 底部 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 216 | 墨書「又」 |
| 9 | 土師器甕 | 14.6 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 227、254、262、293、305 | |
| 10 | 土師器甕 | — | 4.8 | — | 底部 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 72、198、215、333、340 | |

## 第377表　D096出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.9 | 3.9 | 完形 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 240 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.4 | 3.9 | 50 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 144 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.5 | 6.9 | 4.2 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 60、111、115、130、197、262、274 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 15.5 | 7.8 | 4.6 | 40 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 30、199、212 | 墨書「古」、黒色処理 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 7.5 | 5.2 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 左 | 39、220、259 | 墨書「廓」、黒色処理 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 5.6 | 3.8 | 50 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 275 | 墨書「賀□□」 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 16.2 | 7.7 | 5.2 | 60 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 116、343 | 黒色処理 |
| 8 | 須恵器坏 | 13.5 | 7.1 | 4.4 | 完形 | 砂　粒 | 青 灰 色 | 右 | 242 | |
| 9 | 須恵器坏 | 12.6 | 7.2 | 4.3 | 完形 | 砂　粒 | 黒　色 | | 241、243、244 | |
| 10 | 土師器甕 | 17.0 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 5、51、75、81、89、193、211、245 | |
| 11 | 須恵器水注 | 4.1 | — | — | 頸部 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 143 | |
| 12 | 須恵器甑 | 32.8 | 17.2 | — | 30 | 砂　粒 | 黒　色 | | 55、58、124、142、158、191、206 | |

## 第378表　D100出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.9 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 70、202 | 黒色処理 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 10.9 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 褐　色 | | 122、171 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 76 | 墨書「文」 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 褐　色 | | 53 | 墨書「廓」 |
| 5 | 須恵器坏 | 11.4 | 7.3 | 4.3 | 完形 | 長石粒 | 灰 褐 色 | 右 | 74、75、77、143、175、184 | |
| 6 | 須恵器甕 | — | 16.3 | — | 底部 | 長石粒 | 黒　色 | | 151 | |
| 7 | 紡錘具 | | | | | 石英粒 | 灰　色 | | 59 | 須恵器甕胴部利用 |

## 第379表　D101出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.6 | 4.1 | 60 | 雲母粒 | 赤 褐 色 | 右 | 187、567 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.2 | 4.0 | 80 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 125、148、153、223、226、264、332 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.9 | 4.4 | 30 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 451 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | 6.1 | — | 底部 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 567 | 墨書「守」 |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 15.1 | 9.9 | 5.5 | 50 | 石英粒 | 赤 褐 色 | 右 | 544 | |
| 6 | 須恵器坏 | 13.1 | 7.9 | 4.6 | 50 | 長石粒 | 緑 灰 色 | 左 | 18、330、440、498、529 | |
| 7 | 須恵器坏 | 13.5 | 7.8 | 4.1 | 40 | 長石粒 | 黒 褐 色 | 右 | 221 | |
| 8 | 須恵器坏 | 13.8 | 7.0 | 4.6 | 70 | 石英粒 | 青 灰 色 | | 453、454、455、456、509、566、574 | |
| 9 | 須恵器坏 | 12.9 | 8.0 | 3.7 | 30 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | 右 | 69 | |
| 10 | 須恵器坏 | 13.1 | 7.4 | 4.1 | 70 | 長石粒 | 緑 灰 色 | 左 | 18、330、440、498、529 | |
| 11 | 須恵器坏 | 11.4 | 6.3 | 4.8 | 20 | 砂　粒 | 灰 白 色 | | 481 | |
| 12 | 須恵器坏 | 13.8 | 9.3 | 3.6 | 30 | 長石粒 | 黒 褐 色 | 右 | 95、128、242 | |
| 13 | 須恵器盤 | 16.2 | 9.1 | 4.2 | 完形 | 石英・雲母粒 | 緑 灰 色 | 右 | 528 | |
| 14 | 土師器鉢 | 19.7 | 8.3 | 6.9 | 50 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 74、106、180、181、190、203、256 | 黒色処理 |
| 15 | 土師器甕 | 18.7 | — | — | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | | 7、10、13、14、15、16、76、170 | |
| 16 | 土師器甕 | 19.4 | — | — | 口縁30 | 石英・雲母粒 | 橙　色 | | 244、291、415 | |
| 17 | 土師器甕 | 14.6 | 7.1 | — | 70 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 305、531、534、535、543、548、553 | |
| 18 | 土師器甕 | 11.7 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 520、540 | |
| 19 | 土師器甑 | 20.5 | 6.8 | 21.9 | 20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 319、320、444、522 | 底部1孔 |
| 20 | 須恵器甕 | 23.1 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 緑 灰 色 | | 43、107、140 | |
| 21 | 双孔円盤 | | | | | | | | 449 | 滑石 |
| 22 | 剣形品 | | | | | | | | 番号なし | 滑石 |
| 23 | 剣形品 | | | | | | | | 450 | 滑石 |

## 第380表　D102出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 5.5 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 701、880、1148、1240、1248 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.9 | 4.3 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 496、550、926、1026 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 6.9 | 3.8 | 完形 | 長石粒 | 明 褐 色 | 右 | 1162、1294、1295、1307 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 5.2 | 3.7 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 1235 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.7 | 3.7 | 完形 | 長石粒 | 橙　色 | 右 | 1303、1309、1310 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.5 | 4.1 | 30 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 65、316、942 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 5.9 | 4.1 | 完形 | 長石粒 | 明赤褐色 | 右 | 881、883、1102、1130、1234、1244 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 5.3 | 4.0 | 完形 | 長石粒 | 橙　色 | 右 | 1230 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 5.8 | 4.2 | 70 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 769、1231 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.5 | 3.8 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 374、379、1192 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.1 | 4.0 | 30 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 507、613、962 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 11.8 | 6.4 | 3.7 | 30 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 339、362 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 5.7 | 4.6 | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 533、643、644、682、684、693、861 | |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.5 | 4.0 | 30 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 933、1073、1075 | |
| 15 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 5.0 | 3.7 | 40 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 1124 | |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 14.5 | 8.0 | 3.9 | 80 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 815、863、922、1056、1176 | 黒色処理 |
| 17 | ロクロ土師器坏 | 14.5 | 5.5 | 4.6 | 20 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 336、858、898 | 黒色処理 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 6.5 | 4.7 | 30 | 砂　粒 | 灰褐色 | 右 | 1273、1287、1289 | 内面ヘラ磨き |
| 19 | ロクロ土師器坏 | 17.3 | 7.9 | 6.1 | 30 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 73、187、510、561 | 線刻「十」、ヘラ磨き |
| 20 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.1 | 4.4 | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 812、821、860、865、900、904 | 墨書「豊・饒」 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | 7.8 | 4.6 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 1146 | 墨書「生」、ヘラ磨き |
| 22 | ロクロ土師器坏 | 14.5 | 7.2 | 4.6 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 1232 | 墨書「廓」、ヘラ磨き |
| 23 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.0 | 4.0 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1246 | 墨書「廓」 |
| 24 | ロクロ土師器坏 | 14.6 | — | — | 口縁30 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 1194、1208、1226 | 墨書「饒」、ヘラ磨き |
| 25 | ロクロ土師器皿 | 14.8 | 6.7 | 2.7 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 417、545、547 | 墨書「廓」、ヘラ磨き |
| 26 | ロクロ土師器皿 | 13.9 | 6.9 | 3.6 | 40 | 砂　粒 | 明黄褐色 | | 1129 | 線刻「×」、ヘラ磨き |
| 27 | ロクロ土師器皿 | 13.9 | 6.7 | 3.0 | 40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 958、959、994 | 線刻「×」、ヘラ磨き |
| 28 | ロクロ土師器皿 | 14.4 | 6.9 | 2.7 | 80 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 1708 | |
| 29 | ロクロ土師器皿 | 13.7 | 6.4 | 2.8 | 50 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 146、970 | 内面ヘラ磨き |
| 30 | ロクロ土師器坏 | — | 6.7 | — | 底部 | 砂　粒 | 明褐色 | | 445 | 墨書「廓」 |
| 31 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 866 | 墨書「廓」 |
| 32 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 919 | 墨書「廓」カ |
| 33 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 293 | 墨書「廓」カ |
| 34 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 500 | 墨書「廓」 |
| 35 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 157 | 墨書「廓」 |
| 36 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 260 | 墨書「饒」カ |
| 37 | ロクロ土師器坏 | — | 7.0 | — | 底部 | 雲母粒 | 赤褐色 | 右 | 1112、1209 | 墨書「饒」、ヘラ磨き |
| 38 | ロクロ土師器坏 | — | 6.0 | — | 底部 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 446 | 墨書「饒」 |
| 39 | ロクロ土師器坏 | — | 6.0 | — | 底部 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 893、1135 | 墨書「饒」 |
| 40 | ロクロ土師器皿 | — | 6.0 | — | 底部 | 精　緻 | 明褐色 | | 946 | 墨書「饒」、ヘラ磨き |
| 41 | ロクロ土師器坏 | — | 7.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 明褐色 | | 1322 | 墨書「饒」 |
| 42 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 1023 | 墨書「豊」、ヘラ磨き |
| 43 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 565 | 墨書「豊」、ヘラ磨き |
| 44 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 赤褐色 | | 785 | 墨書「豊」 |
| 45 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 400 | 墨書「豊」、ヘラ磨き |
| 46 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 赤褐色 | | 938 | 墨書「豊」 |
| 47 | ロクロ土師器坏 | — | 7.6 | — | 底部 | 雲母粒 | 明褐色 | | 279 | 墨書 |
| 48 | ロクロ土師器坏 | — | 6.2 | — | 底部 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 972 | 墨書「継」カ |
| 49 | 須恵器坏 | 13.0 | 6.3 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 灰　色 | | 451、559、1233 | |
| 50 | 須恵器高台坏 | 15.9 | 10.8 | 6.2 | 30 | 長石粒 | 緑灰色 | 右 | 31、122、124、264 | |
| 51 | 土師器鉢 | 22.2 | 8.1 | 7.9 | 40 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 50、193、307、741 | 黒色処理 |
| 52 | 須恵器蓋 | 12.9 | — | — | 20 | 砂　粒 | 青灰色 | | 546、967 | 転用硯 |
| 53 | 土師器甕 | 14.5 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 黒褐色 | | 1312 | |
| 54 | 土師器甕 | 19.3 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 928、1253、1305、1311 | |
| 55 | 土師器甕 | 20.8 | — | — | 30 | 石英・雲母粒 | 赤褐色 | | 1237、1242 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 56 | 須恵器甕 | — | 18.2 | — | 底部30 | 長石粒 | 黒 褐 色 | | 395、589、718、841、842、1043、1053 | |
| 57 | 須恵器瓶子 | 9.8 | — | — | 口縁30 | 精　緻 | 灰　色 | | 742 | |
| 58 | 須恵器甑 | 28.0 | 15.3 | — | 30 | 砂　粒 | 灰　色 | | 178、418、425、953 | |
| 59 | 須恵器甕 | — | 13.6 | — | 底部 | 長石粒 | 褐　色 | | 389、660、733、799、867、1031 | |
| 60 | 須恵器瓶子 | — | 10.0 | — | 口縁欠 | 砂　粒 | 灰　色 | | 1236 | |
| 61 | 須恵器甕 | — | — | — | 10 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 492、771、780、929、1270、1293 | |
| 62 | 砥石 | | | | | | | | 1018 | 砂岩 |

## 第381表　D103出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 7.0 | 3.7 | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 左 | 249、424 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 7.2 | 3.9 | 30 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 594、708 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 6.2 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 664 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 7.0 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 417、673 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 6.8 | 4.2 | 完形 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 667 | 内面ヘラ磨き |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.2 | 3.7 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 671 | 赤彩 |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.6 | 3.8 | 完形 | 石英粒 | 橙　色 | 右 | 668 | 墨書「圓」 |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 6.5 | 3.5 | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 644、721 | 墨書「入」 |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 14.4 | — | — | 30 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 466、665 | 墨書「村」、ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 441 | 墨書「村」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 193 | 墨書 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 442 | 墨書 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 193 | 墨書「器」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 306 | 墨書 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 明 褐 色 | | 277、532 | 墨書「圓」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | 14.1 | 8.0 | 4.1 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 14、199、347 | ヘラ描き、黒色処理 |
| 17 | 須恵器坏 | 13.1 | 6.4 | 3.9 | 完形 | 長石粒 | 灰　色 | | 666 | |
| 18 | ロクロ土師器皿 | 14.0 | 6.9 | 2.7 | 完形 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 327、337、390、724、733、736、739 | 内面ヘラ磨き |
| 19 | ロクロ土師器皿 | 13.2 | 6.5 | 2.1 | 30 | 長石粒 | 明赤褐色 | 右 | 179、192、565 | 内面ヘラ磨き |
| 20 | ロクロ土師器皿 | 12.5 | 7.1 | 2.7 | 60 | 長石粒 | 橙　色 | 右 | 75、366 | 内面ヘラ磨き |
| 21 | ロクロ土師器皿 | 12.9 | 6.9 | 3.1 | 完形 | 石英・雲母粒 | 橙　色 | | 669 | 黒色処理 |
| 22 | ロクロ土師器皿 | 14.5 | 6.7 | 1.9 | 40 | 長石粒 | 明赤褐色 | 右 | 620 | 内面ヘラ磨き |
| 23 | ロクロ土師器皿 | 13.6 | 7.6 | 2.8 | 完形 | 長石粒 | 橙　色 | 右 | 305、356、403、654 | 墨書「粹」、ヘラ磨き |
| 24 | 土師器甕 | 17.5 | — | — | 口縁 | 雲母粒 | 灰 褐 色 | | 269、432、482、600 | |
| 25 | 土師器甕 | — | 8.0 | — | 底部 | 石英粒 | 明赤褐色 | | 735、742 | |
| 26 | 土師器甕 | 23.5 | — | — | 口縁60 | 雲母粒 | 橙　色 | | 59、393、604、633、679、682、690 | |
| 27 | 須恵器甕 | — | 15.3 | — | 40 | 長石粒 | 暗赤褐色 | | 56、428、531、699、705、707、709 | |
| 28 | 須恵器甑 | 27.3 | 14.7 | 26.0 | 20 | 砂　粒 | 明 褐 色 | | 92、110、183、328、409、427、488 | 底部５孔 |

## 第382表　D104出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.8 | 7.5 | 3.4 | 30 | 石英・雲母粒 | 灰　色 | 右 | 33 | |

## 第383表　D105出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 8.0 | 4.0 | 50 | 精　緻 | 褐　色 | | 61、66 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 6.7 | 4.5 | 80 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 25 | |
| 3 | 土師器甕 | 19.7 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 28 | |

## 第384表　D106出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.8 | 5.9 | 4.5 | 80 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 128、129 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 14.0 | 7.3 | 4.2 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 1 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.8 | 3.6 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 2 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.9 | 4.3 | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 123 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 7.1 | 3.4 | 完形 | 砂　粒 | 橙　色 | 右 | 122 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 13.3 | 5.9 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 42、44 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.9 | 7.0 | 4.4 | 20 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 129 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 15.0 | 6.7 | 5.2 | 完形 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 6、75 | 内面ヘラ磨き |
| 9 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 底部 | 精　緻 | 暗褐色 | | 79 | 墨書 |
| 10 | 土師器甕 | — | 11.1 | — | 底部30 | 雲母粒 | 褐　色 | | 80、103、105、129 | |
| 11 | 土師器羽釜 | 22.4 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 明褐色 | | 34、38、62、63、64 | |
| 12 | 土師器甕 | — | 11.3 | — | 底部 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 7、9、10、28 | ロクロ調整 |
| 13 | 砥石 | | | | | | | | 78 | |
| 14 | 土師器カマド | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 124、125、126、128、129 | |

## 第385表　D107出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 6.3 | 4.1 | 完形 | 雲母粒 | 褐　色 | 右 | 163、254、265、266、268 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.1 | 4.4 | 完形 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 253 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.4 | 5.8 | 4.1 | 50 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 8、15、28、146 | 墨書「子」 |
| 4 | 須恵器坏 | 13.7 | 7.8 | 4.2 | 完形 | 長石粒 | 黒褐色 | | 260 | |
| 5 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.2 | 3.8 | 50 | 石英粒 | 黒　色 | | 15、33、153、176、179、181 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | — | 9.9 | — | 30 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 26、149 | 黒色処理 |
| 7 | 土師器甕 | 14.4 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 暗赤褐色 | | 87、263 | |
| 8 | 土師器甕 | 18.3 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 赤褐色 | | 29 | |
| 9 | 土師器甕 | 19.2 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 黒褐色 | | 262、263、267 | |
| 10 | 土師器甕 | 20.9 | — | — | 70 | 雲母・石英粒 | 黒褐色 | | 187、249、250 | |
| 11 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 底部欠 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 261 | |
| 12 | 須恵器甕 | 31.5 | — | — | 口縁20 | 砂　粒 | 灰褐色 | | 53、65、69、98、193、197、202 | |

## 第386表　D221出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器甕 | 13.6 | — | — | 口縁 | 雲母粒 | 赤褐色 | | 49、99、106、107、113、114、121 | |
| 2 | 砥石 | | | | | | | | 93 | 凝灰岩 |

## 第387表　D226出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺物番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.2 | 3.9 | 60 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 259、479 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 6.0 | 4.0 | 90 | 精　緻 | 明赤褐色 | 右 | 40、311、417、480、489、491、508 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 7.1 | 3.9 | 40 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 297、300 | 墨書「古」ヵ |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.6 | 6.8 | 4.5 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 219、249 | 墨書「廿」 |
| 5 | 土師器鉢 | 21.3 | — | — | 50 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 229、236、287、289、374 | 黒色処理 |
| 6 | 土師器甕 | 20.0 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 橙　色 | | 39、371、408 | |
| 7 | 土師器甕 | 20.1 | — | — | 口縁30 | 雲母・石英粒 | 褐　色 | | 323 | |
| 8 | 土師器甕 | — | 4.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 102、135、137、483 | |
| 9 | 紡錘具 | | | | | 石英粒 | 青 灰 色 | | 487 | 須恵器坏底部利用 |

## 第388表　D227出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.2 | 3.5 | 完形 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 113 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.9 | 4.3 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 2、53、56、57、58、63、64、66、69 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 6.9 | 3.3 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 13、41、80、88 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 7.8 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 明黄褐色 | 右 | 112 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 7.7 | 3.3 | 完形 | 雲母粒 | 明黄褐色 | 右 | 110 | 墨書「大田」 |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 7.2 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | | 1、107、109、115 | 墨書「古」 |
| 7 | 須恵器坏 | 12.4 | 7.0 | 4.7 | 40 | 砂　粒 | 青 灰 色 | | 23 | |
| 8 | 須恵器高台坏 | — | 10.6 | — | 底部50 | 石英粒 | 灰　色 | | 36 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 15.6 | 8.9 | 5.8 | 完形 | 精　緻 | 暗赤褐色 | 右 | 114 | 内面ヘラ磨き |
| 10 | 土師器甕 | 15.6 | — | — | 口縁50 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 39、49 | |
| 11 | 土師器甕 | — | 7.3 | — | 底部 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 57、60、67、70、71、91、121、122 | |
| 12 | 須恵器甑 | 16.6 | 9.5 | 12.5 | 30 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 25、44、96 | |
| 13 | 須恵器瓶子 | — | 8.2 | — | 20 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 17、20、35、45、47 | |
| 14 | 須恵器瓶子 | — | 8.6 | — | 30 | 精　緻 | 灰　色 | 右 | 1、26、33、42、46、105 | |

## 第389表　D233出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 13.2 | 6.1 | 4.5 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | 右 | 644、670 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.7 | 6.4 | 4.2 | 完形 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 545 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.8 | 4.2 | 30 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 547 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 4.9 | 3.5 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 645 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 5.6 | 3.8 | 90 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 654 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 6.4 | 3.6 | 30 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 587、628、642 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.0 | 4.5 | 50 | 雲母粒 | 褐　色 | | 286、544 | |
| 8 | ロクロ土師器皿 | 13.7 | 7.1 | 2.0 | 70 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | 右 | 632 | |
| 9 | ロクロ土師器皿 | 14.1 | 7.1 | 3.2 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | | 165、643 | 内面ヘラ磨き |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 5.9 | 4.0 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 542 | 墨書「饒」 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | 5.7 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 302、338、339、341、498、529 | 墨書「饒」 |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 14.3 | 6.8 | 5.0 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 64 | 墨書「豊」 |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 褐　色 | | 140 | 墨書「廓」 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 206 | 墨書「廓」、黒色処理 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 橙　色 | | 195 | 墨書「豊」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明 褐 色 | | 163 | 墨書「饒」 |
| 17 | 土師器甕 | 11.8 | — | — | 口縁40 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 337 | |
| 18 | 土師器甕 | 13.3 | — | — | 口縁 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 546、552、553、595、620、656 | |
| 19 | 土師器甕 | 12.4 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 39、246 | |
| 20 | 土師器甕 | — | 5.5 | — | 底部 | 砂　粒 | 褐　色 | | 594、596 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 21 | 須恵器甕 | — | 14.8 | — | 底部20 | 砂　粒 | 青灰色 | | 236、577 | |
| 22 | 須恵器瓶子 | — | 9.2 | — | 底部30 | 精　緻 | 灰白色 | | 639、640、660 | |

## 第390表　D234出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 11.4 | 7.1 | 4.1 | 60 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 1993、2381 | |
| 2 | 土師器高台坏 | 10.5 | 6.9 | 4.4 | 50 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 4559、4648、4649 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 8.1 | 4.0 | 60 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 102、1355、2270、3217 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 12.3 | 8.6 | 3.9 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 3605、3678、3696、3985 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 8.8 | 4.1 | 40 | 雲母粒 | 明赤褐色 | | 351、1650、1700、2311、2328、2584 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.5 | 7.5 | 4.5 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 860、2774、2794、3030、3313、3511 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 11.5 | 6.2 | 4.2 | 80 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 2609 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 7.5 | 5.2 | 30 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 4716 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 11.6 | 8.2 | 3.4 | 80 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 2328 | |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.1 | 8.5 | 4.1 | 80 | 砂　粒 | 褐　色 | | 1602、1995、2119、2625、3652 | |
| 11 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 7.5 | 3.6 | 70 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 1211、2577、2630、2672、3294、3743 | |
| 12 | ロクロ土師器坏 | 14.8 | 9.3 | 5.4 | 70 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 2255、2260、2312、2620、2892 | |
| 13 | ロクロ土師器坏 | — | 5.3 | — | 底部 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 475、510 | 墨書 |
| 14 | ロクロ土師器坏 | 11.9 | 6.6 | 3.2 | 40 | 雲母粒 | 暗褐色 | 右 | 323、327 | 墨書「入」 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 12 | 墨書「文」 |
| 16 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 219 | 墨書「饒」 |
| 17 | 土師器高台坏 | — | 7.2 | — | 底部 | 砂　粒 | 明赤褐色 | 右 | 4185 | 墨書「饒」 |
| 18 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 砂　粒 | 明褐色 | | 1 | 墨書「饒」 |
| 19 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 赤褐色 | | 2727 | 墨書 |
| 20 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 橙　色 | | 3398 | 墨書 |
| 21 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 雲母粒 | 明褐色 | | 4763 | 墨書、黒色処理 |
| 22 | ロクロ土師器坏 | 11.2 | 8.5 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 3617 | 線刻「×」 |
| 23 | 須恵器高台坏 | — | 9.3 | — | 底部50 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 3807 | 線刻「×」 |
| 24 | 須恵器坏 | 12.6 | 8.6 | 3.4 | 40 | 砂　粒 | 灰褐色 | 右 | 5539、5540、5592 | |
| 25 | 須恵器坏 | 13.1 | 8.7 | 4.3 | 50 | 石英粒 | 青灰色 | | 3292、3788、3820、4025、4708 | |
| 26 | 須恵器坏 | 13.0 | 6.9 | 4.0 | 40 | 石英粒 | 青灰色 | | 3164、3231 | |
| 27 | 須恵器坏 | 11.7 | 7.5 | 3.8 | 60 | 砂　粒 | 灰褐色 | 右 | 2569 | |
| 28 | 須恵器坏 | 12.2 | 7.8 | 4.4 | 30 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 2239、2616、4506 | |
| 29 | 須恵器坏 | 13.4 | 8.4 | 4.1 | 60 | 砂　粒 | 暗褐色 | 右 | 95、1190、1487、2579、2615、3963 | |
| 30 | 須恵器坏 | 13.1 | 8.6 | 4.1 | 40 | 砂　粒 | 黒褐色 | | 719、1302、1871、2427、3117、3178 | |
| 31 | 須恵器坏 | 12.3 | 7.0 | 4.1 | 90 | 砂　粒 | 黒　色 | 右 | 5646 | |
| 32 | 須恵器坏 | 13.5 | 9.4 | 3.6 | 30 | 砂　粒 | 青灰色 | | 1633 | |
| 33 | 須恵器高台坏 | 10.5 | 6.2 | 4.4 | 60 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 4388、4582 | |
| 34 | 須恵器高台坏 | 16.5 | 10.9 | 4.7 | 40 | 精　緻 | 灰白色 | 右 | 1299、1311、1365、1398、1400、4371 | |
| 35 | 須恵器蓋 | 16.2 | — | 4.4 | 90 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 1768、2267、2290、2301、2310、2581 | |
| 36 | 須恵器蓋 | 12.3 | — | 3.3 | 60 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 2971、3536、4028 | ヘラ描き「×」 |
| 37 | 土師器盤 | 16.6 | 10.1 | 3.8 | 30 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 3104、3404、3412、3417、3704、3815 | 黒色処理 |
| 38 | 土師器鉢 | 17.3 | — | 9.0 | 完形 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 117 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 39 | 須恵器高坏 | 15.6 | 11.5 | 12.4 | 完形 | 砂　粒 | 青灰色 | | 299、1632、2241、2511、3324、3344 | |
| 40 | 土師器甕 | 13.9 | — | — | 口縁30 | 精　緻 | 褐　色 | | 760、3812、5564 | |
| 41 | 土師器甕 | 15.4 | — | — | 口縁40 | 精　緻 | 明赤褐色 | | 583、1090 | |
| 42 | 土師器甕 | 12.2 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 3871、4771 | |
| 43 | 土師器甕 | 10.8 | — | — | 口縁30 | 砂　粒 | 褐　色 | | 2867 | |
| 44 | 土師器甕 | 21.0 | — | — | 口縁30 | 石英・雲母粒 | 赤褐色 | | 4460、5275 | |
| 45 | 須恵器瓶子 | — | 12.8 | — | 底部40 | 砂　粒 | 青灰色 | 右 | 382、2075、2383、2582、2586、3368 | |
| 46 | 土師器甕 | — | — | — | 胴部 | 石英粒 | 赤褐色 | | 112、1811、1816、1819、3131、3470 | |
| 47 | 須恵器甕 | 37.7 | — | — | 口縁20 | 雲母粒 | 褐　色 | | 1977、1981、3226、4820、5000、5093 | |
| 48 | 須恵器甕 | 37.5 | 18.0 | 23.7 | 完形 | 石英・雲母粒 | 青灰色 | | 3322、4711、4713、4714、5647、5648 | |

## 第391表　D235出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 16.9 | — | — | 30 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 50、57、60 | 内面ヘラ磨き |
| 2 | 土師器鉢 | 19.2 | 7.3 | 7.8 | 40 | 砂　粒 | 明褐色 | | 7、21、33、76、80、102 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | 土師器甕 | 14.0 | 6.5 | 11.3 | 完形 | 砂　粒 | 赤褐色 | | 56、62、114、115、129 | |
| 4 | 土師器甕 | 16.5 | 8.8 | 18.9 | 完形 | 砂　粒 | 褐　色 | | 116 | 底部木葉痕 |

## 第392表　D236出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 11.6 | 7.2 | 3.9 | 完形 | 砂　粒 | 暗褐色 | | 1551 | |
| 2 | 土師器坏 | 12.1 | 7.1 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 明褐色 | | 1552 | 内面ヘラ磨き |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 5.7 | 3.7 | 80 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 166、566、640、1207、1209 | |
| 4 | ロクロ土師器坏 | 11.3 | 5.9 | 3.9 | 40 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 965、1048、1052、1053、1388 | |
| 5 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.9 | 3.9 | 50 | 砂　粒 | 褐　色 | 右 | 1010、1012、1068 | |
| 6 | ロクロ土師器坏 | 12.8 | 6.5 | 4.5 | 完形 | 砂　粒 | 赤褐色 | 右 | 328、634、830、1005、1117、1193 | |
| 7 | ロクロ土師器坏 | 13.0 | 6.0 | 4.9 | 40 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 498、766、906、1130、1451、1483 | |
| 8 | ロクロ土師器坏 | 12.4 | 6.4 | 4.4 | 60 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 1、902、926、987、1063、1065、1073 | |
| 9 | ロクロ土師器坏 | 16.2 | 8.5 | 5.4 | 40 | 雲母粒 | 明褐色 | 右 | 130、539、542、1098、1383、1408 | 黒色処理 |
| 10 | ロクロ土師器坏 | 12.0 | 8.1 | 4.0 | 60 | 砂　粒 | 明褐色 | 右 | 23、94、374、477、549、632、1119 | 墨書 |
| 11 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 橙　色 | | 111 | 墨書 |
| 12 | 須恵器坏 | 12.3 | 7.0 | 4.1 | 完形 | 砂　粒 | 黒褐色 | 右 | 412、1191 | |
| 13 | 須恵器坏 | 13.2 | 7.5 | 4.1 | 40 | 石英粒 | 青灰色 | 左 | 421、1210、1337 | |
| 14 | ロクロ土師器坏 | — | — | — | 破片 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 1398 | 線刻 |
| 15 | ロクロ土師器坏 | — | 7.0 | — | 底部 | 精　緻 | 明褐色 | 右 | 1418、1445、1447 | 線刻、黒色処理 |
| 16 | 土師器甕 | 19.5 | — | — | 口縁30 | 石英・雲母粒 | 明褐色 | | 247、1174 | |
| 17 | 土師器甕 | 21.6 | — | — | 口縁30 | 石英粒 | 褐　色 | | 1575、1579、1582 | |
| 18 | 土師器甕 | 21.8 | — | — | 口縁50 | 砂　粒 | 明赤褐色 | | 534、1149 | |
| 19 | 土師器甕 | 21.3 | — | — | 口縁30 | 石英・雲母粒 | 褐　色 | | 1、888、890、892、893、895、1029 | |
| 20 | 土師器甕 | 21.4 | 9.5 | 31.4 | 完形 | 雲母・石英粒 | 暗褐色 | | 1523、1524、1525、1526、1527、1528 | |
| 21 | 須恵器甕 | — | 14.5 | — | 底部 | 石英粒 | 青灰色 | | 660、864、1170、1391、1464 | |
| 22 | 須恵器甕 | — | 14.9 | — | 底部 | 石英粒 | 灰褐色 | | 1542 | |

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23 | 紡錘具 | | | | | | | | 964 | 土製 |
| 24 | 紡錘具 | | | | | | | | 1438 | 凝灰岩 |

## 第393表　D237出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 13.0 | 9.0 | 3.0 | 50 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | | 27、45、46、48、49 | |

## 第394表　D270出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 15.2 | 7.7 | 4.8 | 30 | 砂　粒 | 明 褐 色 | 右 | 30 | |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 13.1 | 7.0 | 3.8 | 90 | 雲母粒 | 明赤褐色 | 右 | 4 | 墨書「卯原」 |
| 3 | ロクロ土師器皿 | 14.3 | 7.5 | 2.6 | 完形 | 精　緻 | 明 褐 色 | 右 | 11 | 内面ヘラ磨き |
| 4 | 須恵器瓶子 | — | 4.6 | — | 頸部欠 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 16、27 | |

## 第395表　D271出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器坏 | 15.7 | 7.6 | 5.1 | 完形 | 精　緻 | 明黄褐色 | 右 | 5、10、34、35、37、38、108、147 | 黒色処理 |
| 2 | ロクロ土師器坏 | 12.2 | 6.4 | 3.9 | 80 | 砂　粒 | 暗 褐 色 | 右 | 5、28、31、32、74、135 | |
| 3 | ロクロ土師器坏 | 11.7 | 6.2 | 3.9 | 完形 | 雲母粒 | 橙　色 | 右 | 94、182、183 | 墨書「小堤」 |
| 4 | ロクロ土師器坏 | — | 7.6 | — | 底部 | 精　緻 | 褐　色 | 右 | 1、8、25、57 | 墨書、内面ヘラ磨き |
| 5 | 須恵器甕 | 24.0 | 13.3 | 23.2 | 30 | 砂　粒 | 灰 褐 色 | | 56、58、59、65、66、67、68、134 | |
| 6 | 土師器甕 | 22.9 | — | — | 口縁70 | 砂　粒 | 褐　色 | | 41、42、43、48、122、129、150、218 | |

## 第396表　H025出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.5 | 7.6 | 4.4 | 完形 | 砂　粒 | 黒 褐 色 | | 1 | |

## 第397表　H028出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 12.4 | 7.5 | 3.0 | 30 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 2 | |

## 第398表　H038出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器甕 | 29.3 | — | — | 口縁20 | 精　緻 | 青 灰 色 | | 6 | |

## 第399表　H048出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 11.9 | 6.2 | 3.5 | 20 | 精　緻 | 青 灰 色 | 右 | 3 | |

## 第400表　H059出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 須恵器坏 | 13.3 | 8.3 | 3.9 | 30 | 長石粒 | 暗 褐 色 | 右 | 4、5 | |

## 第401表　H123出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロクロ土師器皿 | 15.0 | 5.0 | 1.8 | 90 | 精　緻 | 橙　色 | 右 | 2 | 墨書「左」 |

## 第402表　P031出土遺物一覧

| 番号 | 器　種 | 口径 | 底径 | 器高 | 遺存度 | 胎　土 | 色　調 | ロクロ | 遺　物　番　号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 土師器坏 | 12.6 | — | 4.0 | 50 | 砂　粒 | 赤 褐 色 | | 6、12、24、37、39、60 | 内面ヘラ磨き |

## 第403表　3群出土文字資料一覧

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 饒 | 3 | D234 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 16 | |
| 2 | 饒 | 3 | D234 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 17 | |
| 3 | 饒 | 3 | D234 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 18 | |
| 4 | 饒 | 4a | D094 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 5 | |
| 5 | 饒 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 39 | |
| 6 | 饒 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 37 | |
| 7 | 饒 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 38 | |
| 8 | 饒 | 4b | D102 | ロクロ土師器皿 | 底部内面 | 40 | |
| 9 | 饒 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 41 | |
| 10 | 饒 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 24 | |
| 11 | 饒ヵ | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 36 | |
| 12 | 饒 | 4b | D233 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 10 | |
| 13 | 饒 | 4b | D233 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 11 | |
| 14 | 饒 | 4b | D233 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 16 | |
| 15 | 豊 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 42 | |
| 16 | 豊 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 43 | |
| 17 | 豊 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 45 | |
| 18 | 豊 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 44 | |
| 19 | 豊 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 20 | 底部外面に「饒」 |
| 20 | 豊 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | | |
| 21 | 豊 | 4b | D233 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 12 | |
| 22 | 豊 | 4b | D233 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 15 | |
| 23 | 廓 | 4b | D096 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 5 | 黒色処理 |
| 24 | 廓 | 4a | D100 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 4 | |
| 25 | 廓 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 30 | |
| 26 | 廓 | 4b | D102 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 25 | |
| 27 | 廓 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | 22 | |
| 28 | 廓 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 31 | |
| 29 | 廓 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 23 | |
| 30 | 廓 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 32 | |
| 31 | 廓ヵ | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 34 | |
| 32 | 廓ヵ | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 20 | 底部内面に「豊」 |

| 番号 | 釈　文 | 時期 | 遺　構 | 器　　形 | 墨書部位 | 挿図番号 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 33 | 廓ヵ | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 35 | |
| 34 | 不明 | 4b | D103 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 12 | |
| 35 | 廓 | 4b | D233 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 13 | |
| 36 | 廓 | 4b | D233 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 14 | 黒色処理 |
| 37 | 文 | 3 | D234 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 15 | |
| 38 | 文 | 4a | D100 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 3 | |
| 39 | 子 | 4b | D107 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 3 | |
| 40 | 村 | 4b | D103 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 9 | |
| 41 | 村 | 4b | D103 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 10 | |
| 42 | 守 | 3 | D101 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 4 | 42・43の2箇所 |
| 43 | 守 | 3 | D101 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 4 | |
| 44 | 圓 | 4b | D103 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 7 | |
| 45 | 圓 | 4b | D103 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 15 | |
| 46 | 冨 | 4a | D094 | 土師器鉢 | 体部外面上 | 4 | 黒色処理 |
| 47 | 賀□□ | 4b | D096 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 6 | |
| 48 | 大田 | 4a | D227 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 5 | |
| 49 | 粹 | 4b | D103 | ロクロ土師器皿 | 底部外面 | 23 | |
| 50 | 卯原 | 5 | D270 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 2 | |
| 51 | 小堤 | 5 | D271 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 3 | |
| 52 | 生 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 21 | |
| 53 | 生 | 5 | D059 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 9 | |
| 54 | 生ヵ | 5 | D059 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 7 | |
| 55 | 立 | 6 | D066 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 6 | 55・56の2箇所 |
| 56 | 立 | 6 | D066 | ロクロ土師器坏 | 底部内面 | 6 | |
| 57 | 継 | 5 | D059 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 10 | |
| 58 | 継ヵ | 4a | D094 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 7 | |
| 59 | 継ヵ | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 48 | |
| 60 | 入 | 3 | D234 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 14 | |
| 61 | 入 | 4b | D103 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 8 | |
| 62 | 左 | | H123 | ロクロ土師器皿 | 体部外面左 | 1 | |
| 63 | 器 | 4b | D103 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 13 | |
| 64 | 又 | 4a | D094 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 8 | |
| 65 | 古 | 4a | D227 | ロクロ土師器坏 | 体部外面左 | 6 | |
| 66 | 古ヵ | 4b | D096 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 4 | 黒色処理 |
| 67 | 古ヵ | 4a | D226 | ロクロ土師器坏 | 体部外面右 | 3 | |
| 68 | 廿 | 4b | D102 | ロクロ土師器坏 | 体部外面下 | | |
| 69 | 廿 | 4a | D226 | ロクロ土師器坏 | 体部外面上 | 4 | |
| 70 | 上 | 5 | D059 | ロクロ土師器坏 | 底部外面 | 8 | |
| 71 | 不明 | 4b | D103 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 11 | |
| 72 | 記号 | 4b | D065 | ロクロ土師器坏 | 体部外面 | 4 | |

# 第３章　古代集落としての白幡前遺跡

## 第１節　集落の構成と時期的変遷（第199図、付図２）

白幡前遺跡で検出された奈良・平安時代の建物は竪穴住居279軒、掘立柱建物150棟を数える。これらの建物は概ね８世紀前半の一時期と、８世紀中葉から10世紀初頭に及ぶもので、遺構数では萱田地区の他の遺跡を圧倒している。これまでに報告された萱田地区の遺跡の状況は、権現後遺跡で竪穴住居65軒、掘立柱建物17棟、北海道遺跡で竪穴住居114軒、掘立柱建物10棟、井戸向遺跡で竪穴住居95軒、掘立柱建物44棟となる。これら４遺跡は須久茂谷津・寺谷津という大きな支谷によって地形的に分断される。北海道・井戸向両遺跡は同一台地上に位置するが、北海道遺跡は須久茂谷津側に、井戸向遺跡は寺谷津側に居住域をもつ。即ち、各遺跡とも須久茂谷津・寺谷津あるいは池谷津という支谷に面して居住域がある。現在我々は４箇所の遺跡として把握している集落は、基本的には一つの集団として考えるべきであるが、集団の構成要素は水利・耕地・山野等を共有する一農業共同体として存在したと考えられる。新川を挟んだ台地上には奈良・平安時代の集落遺跡が多く存在し、これらも同様の性格をもついくつかの共同体から構成されていたと思われる。天野努氏はこれらの遺跡を総合して村上郷を形成していたとしている。

萱田地区の４遺跡では遺跡内をさらにいくつかの建物群に分割することが可能である。これらの建物群は一時期に数軒の竪穴住居と時として掘立柱建物から構成され、極めて強い結合意識が存在したようだ。個々の建物群は恐らく血縁関係を中心に構成され、家父長制的な集団と理解できる。即ち、個々の建物群はそれぞれ独立した存在であるが、建物群としての自立は不可能で、より大きな共同体の一員として編成されたものである。

以下、簡単に各遺跡の状況を紹介する。なお、時期区分は「第４部　第１章奈良・平安時代の概観」で述べたとおりであるが、基本的には遺構内に廃棄された遺物を基準としており、当然の事ながら同一遺構から出土する遺物にも時間的な幅が認められる。また、一時期の時間的な幅も決して小さいものではなく、同一時期の遺構がすべて同時存在したことにはなりえない。

**権現後遺跡**　建物は視覚的に４群に分割できる。

| | 竪穴住居 | 掘立柱建物 |
|---|---|---|
| Ⅰ群 | 23 | 7 |
| Ⅱ群 | 10 | 5 |
| Ⅲ群 | 11 | 3 |
| Ⅳ群 | 21 | 2 |

権現後遺跡は他の3遺跡と比較して集落の存続期間が短く、3期に至ってはじめてIV群に竪穴住居の構築が開始される。4a期には全ての群に竪穴が構築されるが、5期にはIV群が消滅し、III群も4b期と比較して極端に遺構数が減少している。この中で、I群だけが竪穴住居数のピークに達する。しかし、6期に比定できる竪穴住居はなく、5期を最後として竪穴住居の構築は終焉を迎える。竪穴軒数の変化は全体として比較的スムーズである。掘立柱建物は各群に構築されるが、棟数としては決して多いものではない。I群では竪穴住居と分布域が若干異なるが、竪穴住居の構築期間がかなり限定されるため、掘立柱建物も同時存在したと考えてよい。

**北海道遺跡**　報告書では8群の建物群が設定されている。しかし、II・VI群は竪穴住居1軒という内容である。

| | 竪穴住居 | 掘立柱建物 |
|---|---|---|
| I群 | 8 | 0 |
| II群 | 1 | 0 |
| III群 | 56 | 1 |
| IV群 | 13 | 9 |
| V群 | 6 | 0 |
| VI群 | 1 | 0 |
| VII群 | 21 | 0 |
| VIII群 | 8 | 0 |

竪穴住居の構築はIII・VII・VIII群で1期に開始され、IV・V群も3期に開始される。終焉時期はまちまちであるが、IV・V・VII群には5期以降の竪穴住居は存在しない。この他の群も5期以降は極端に竪穴軒数が少なくなる。最終的にはIII群に8期の竪穴住居が存在するが、III群内において8期まで継続した居住は認められない。各群の竪穴軒数のピークは僅かずつのずれがあり、概略として1・2期にピークに達するVII・VIII群と、3期から4期にピークに達する3・4・5群の二極が看取できる。掘立柱建物はIV群で9棟が検出できたが、他の群では皆無に等しい。IV群は3期から4b期にかけて竪穴住居が構築され、掘立柱建物もほぼ並行する時期の構築と考えられる。

**井戸向遺跡**　視覚的に4群に分割できる。基本的には微地形によって画されている。

| | 竪穴住居 | 掘立柱建物 |
|---|---|---|
| I群 | 36 | 28 |
| II群 | 12 | 0 |
| III群 | 8 | 12 |
| IV群 | 41 | 4 |

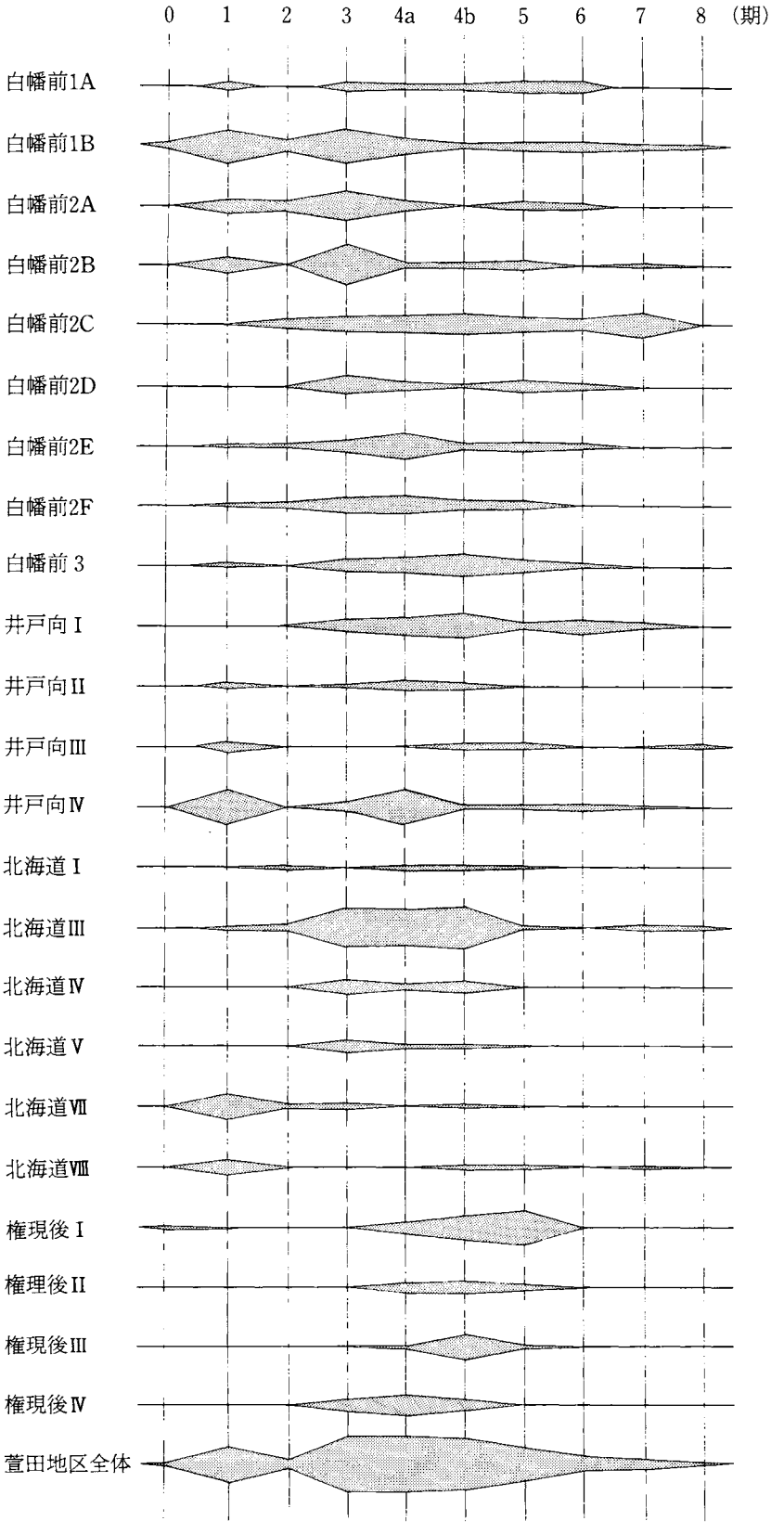
竪穴住居の構築はⅠ群を除いて1期に一斉に開始される。Ⅰ群は3期に入って竪穴住居が構築され始めるが、1期に竪穴住居の構築が開始された他の群はそろって2期が空白となり、3期に継続しない。各群とも3期から4b期にかけて竪穴軒数がピークに達し、萱田地区全体の推移と近い変化を示す。5期以降急激に竪穴軒数が減少し、Ⅱ群では既に竪穴住居が構築されていない。最終的には8期に比定できる竪穴住居が3群に1軒ある。掘立柱建物はⅠ・Ⅲ群が卓越し、Ⅱ・Ⅳ群では皆無に近い状況である。Ⅲ群では1期の竪穴住居も存在するが、やはり4b期以降の竪穴住居と掘立柱建物が同時期と考えられる。Ⅰ群は竪穴住居の分布の中心が時期毎に移動しており、3～4a期と4b期以降では比較的明瞭に画することが出来る。掘立柱建物は両分布域の中間に位置し、視覚的に群を形成している。時期決定の材料はなく、堀方から出土した遺物も3期から6期に及び、一時期に限定することが出来ない可能性がある。

**白幡前遺跡**　視覚的に9群に分割した。

| | 竪穴住居 | 掘立柱建物 |
|---|---|---|
| 1群A | 21 | 9 |
| 1群B | 56 | 32 |
| 2群A | 37 | 19 |
| 2群B | 30 | 7 |
| 2群C | 43 | 11 |
| 2群D | 18 | 8 |
| 2群E | 23 | 13 |
| 2群F | 21 | 11 |
| 3群 | 30 | 39 |

竪穴住居の構築は2群C・Dを除いて1期に一斉に開始される。1群Bには1期に先行する竪穴住居が2軒存在するが、これらは1期に継続するものではない。ここでは0期として扱った。萱田地区では0期の竪穴住居はほとんどなく、権現後遺跡Ⅰ群のD163も近い時期と考えられる。1期の竪穴住居の出現の様相は1群A・2群A・2群Bのように2～3軒の竪穴住居があたかもセットとして存在したごとき様相を呈するものと、2群E・2群F・3群ののように単独で存在するもの、1群Bのように1箇所に集中して存在するものがある。ここでは1群Bが特殊な例となり、個々の竪穴住居も他の建物群と比較して規模が小さく、隅カマドの住居が多いのも特徴である。

1期に竪穴住居が存在しない2群Cは2期に、2群Dは3期に構築が開始される。2期以降基本的に各建物群とも2ないし3軒の竪穴住居が比較的近接して構築される。竪穴軒数のピークは類型化が可能で、3期以前にピークに達する1群B・2群A・B。3期から4a期にかけてピークに達する2群D・E・F。4a期から4b期にかけてピークに達する2群C・3群で




第199図　竪穴住居消長図

ある。但し、2群Cは4b期以降に極端な竪穴数の減少はなく、7期に最大のピークを迎える。7期に大きなピークを迎える建物群は萱田地区全体でも他に見られない。

掘立柱建物は各建物群に存在し、特に1群B・3群は他を凌駕している。また、2群Aには四面廂付きの建物があり、村落内寺院と考えられる。また、3群では竪穴住居から枢の鍵と考えられる鉄製品が出土しており、倉庫が存在したようだ。掘立柱建物の構築時期は具体的ではないが、多くの建物群では4b期以降に構築され、1群B・3群を除いた建物群では竪穴住居と掘立柱建物がセットとして機能したことも想像できる。

以上、各遺跡の状況を簡単に紹介したが、全体的な傾向として、集落の経営開始は1期に求められ、最終的には8期まで竪穴住居が存在する。その中で、ピークとなるのは3期から4b期にかけてであり、この期間に竪穴軒数がピークを迎える建物群が多い。白幡前遺跡で竪穴軒数がピークを迎える時期が類型化できることを指摘したが、萱田地区全体を通してみた場合、やはり同様の類型化が可能である。類型化した結果以下の傾向が指摘できる。

まず、1期に経営が開始され、3期以前に竪穴軒数がピークに達する建物群は白幡前遺跡1群B・2群A・B・北海道遺跡VII群・VIII群が挙げられるが、視覚的に竪穴住居が散在する。特に白幡前遺跡2群A・Bは顕著であり、白幡前遺跡1群Bも掘立柱建物が集中する一部分を除くと同様の傾向にある。また、井戸向遺跡IV群は1期と4a期に竪穴軒数のピークがあるが、竪穴住居は散在している。白幡前遺跡1群Bを除くと、掘立柱建物は少ない。

次に、竪穴住居が集中し、比較的整然と建てられる建物群は白幡前遺跡2群Dから3群・井戸向遺跡I群・北海道遺跡IV群等があり、共通して掘立柱建物が集中して構築されている。これらはすべて3期に経営が開始される建物群で、竪穴軒数のピークは4a期から4b期にある。北海道遺跡III群も竪穴軒数の推移が類似し、竪穴住居も多く構築されるが、掘立柱建物は非常に少ない。

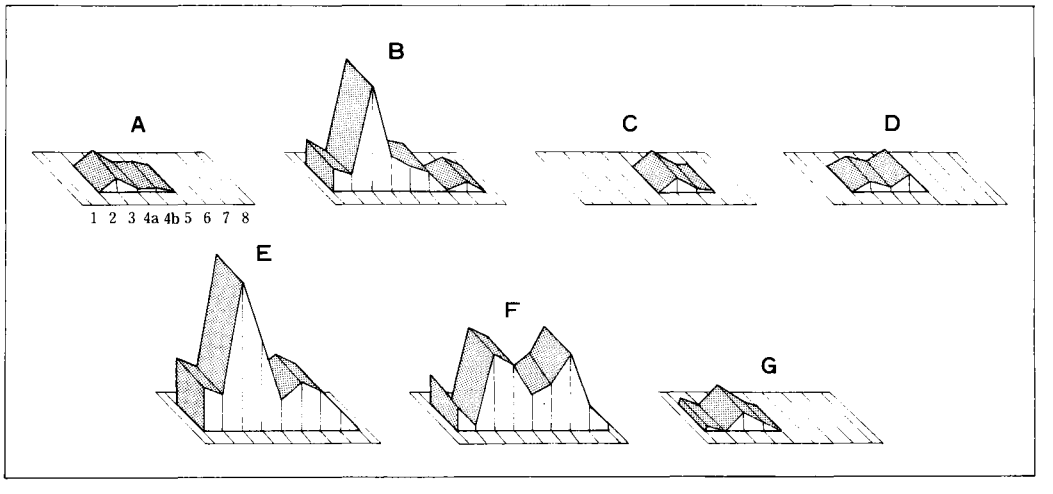
萱田地区全体の竪穴軒数の推移は1期に集落の経営が開始され、3期から4b期にピークに達する。2期に竪穴数が減少しているが、該期の竪穴住居は北海道遺跡・白幡前遺跡に僅かに見られるだけで、井戸向遺跡では2期が空白となってしまう。2期の設定に問題があるとは思えないが、今後に残された課題と言えよう。3期から4b期にかけて竪穴軒数は漸減するが、極端な減少はなくほぼ横ばいの状態と言える。5期以降竪穴軒数はほぼ同率で減少し終焉を迎える。ここで興味深いのは、3期以降個々の建物群に着目すると竪穴軒数の変動はかなり著しいにも拘らず、全体数は横ばい状態からスムーズな減少となる。建物群の設定はあくまでも視覚的に捉えられた竪穴住居ないし掘立柱建物の状況であり、設定した建物群が本来どのような規制を受けていたか解決されていない。また、個々の建物群同士の関係についてもいまだ結論を導き出すだけの論拠がない。一建物群は血縁関係をもった家族あるいは家父長制的集団としての可能性は高いと思えるが、全ての建物群の関係が1対1の関係であったか疑問も残る。個々

の建物群だけを取り上げて見た場合、全時期に継続した居住を復元することは出来ないが、複数の建物群をつなげて考えた場合、連続した居住の痕跡を見いだすことができるのではないだろうか。

## 第2節　竪穴住居の構造と時期的変遷（第200図）

竪穴住居は「第4部　第1章　奈良・平安時代の概観」でA～Gの7種に分類した。この分類は柱穴の配置を基本としたもので、本来の上屋構造や内部施設を直接反映しているとは言い難い。しかし、住居構造の大略は大きく外れたものではないと考えれる。全時期を通して構築された住居は対角線上に4箇所の柱穴とカマドに対峙する壁際に出入口ピットをもつB型・床面で柱穴は検出できないが、出入口ピットだけがあるE型・床面でまったくピットが検出できないF型の3種である。B・E型はともに3期をピークとし、白幡前遺跡全体の竪穴軒数の推移とほぼ同じ様な増減がみられ、竪穴住居としては一般的な形態であったことを示している。F型はE型と出入口ピットの有無により区分したが、4b期から6期にかけて軒数が増加し、E型とは明らかに異なった推移を示す。竪穴軒数全体が減少傾向にある中での増加は、F型が4b期以降の竪穴住居で中心的な構造となったことを裏付ける。

時期的に限定されるものは、対角線上に4箇所の柱穴だけがあるA型・住居コーナーにカマドを設置するG型が3期をピークとし、壁柱穴をもつD型が3期から4b期に、カマドを設置する壁にテラスを設けるC型が5期をピークとする。A型とB型は出入口ピットの有無により分離したが、ピークとなる時期は重なり、基本的な違いはなかったと考えられる。住居コーナーにカマドを設置するG型は1群Bに7軒が集中し、時期的にも3期を前後する時期に限定さ




第200図　竪穴住居種別・時期別消長図

れる。床面積はA型からD型が20m²を超えるのに対し、E型からG型は10m²強となる。1群Bは3期に属する竪穴住居が比較的多く、白幡前遺跡の集落経営が本格化する段階である。B型の住居は3期にピークがあるが、E型の住居もまたこの時期にピークを迎え、比較的早い時期に床面積が20m²を超える住居と共に床面積が10m²前後の住居が構築されていた。

## 第3節　掘立柱建物の検討

白幡前遺跡で検出された掘立柱建物は総数150棟を数え、萱田地区の他の遺跡をはるかに凌いでいる。掘立柱建物は数の多少はあるものの各建物群に存在し、特殊な建物という認識はない。ただ、2群Aに構築されたH069は四面廂付きの建物で、既に紹介したように村落内寺院としての性格が考えられる。また、H069はM021という溝状遺構と密接な関係にあったと考えられ、M021は村落内寺院を区画する溝と推定できる。M021は部分的に後世の溝に破壊されるが、M021に囲まれた範囲は東西約46m、南北は最大で約46mを測る。H069はM021に区画された範囲の北西隅に位置し、恐らく南東側を正面としていたと思われる。M021に区画された中にはH069以外にも竪穴住居10軒、掘立柱建物9棟があり、この内の何棟かはH069と同時存在した可能性がある。区画内の竪穴住居D126・D128及びM021を破壊するM034から瓦塔の破片が多く出土している。これらの瓦塔がH069に伴うことは確実であるが、瓦塔は新旧2セットが存在したことが明かとなっている。本文では個体1と個体2として分類したが、M034から出土した個体2がより新しい。また、個体2は塔と堂のセットであったことも判明している。

さて、個体1が主体的に廃棄された竪穴住居はD128でそのほかにD124・D126からも破片が出土している。D124・D126の出土遺物をみると、ロクロ土師器坏は箱型の器形は崩れだしているものの、3期の範疇を出るものではない。また、D128では良好な遺物がないが、高台坏1類の破片が見られる。いずれにしても個体1から個体2への交換が9世紀初頭を前後する時期に行われたのは確実である。個体2はすべてM034に廃棄されている。M034はM021より明らかに新しい溝で、明確な時期を与えることは出来ないが、どんなに遅くとも9世紀中葉には個体2も廃棄されていたようだ。瓦塔の廃棄とH069の存続期間を同一視することは危険だが、一つの可能性として考えてもよいと思う。従って村落内寺院としたH069は8世紀末から9世紀前半ないし中葉にかけて機能していたと考えられる。

村落内寺院周辺の竪穴住居は1期に構築が開始され、3期にピークを迎えている。3期以降急激に軒数が減少し、ほとんど無人に近い状況となる。類似した竪穴軒数の推移を示す建物群は1群A・2群Bが挙げられ、いずれも2群Aに隣接する建物群である。白幡前遺跡ではこれら3箇所の建物群が最も早く経営が開始され、同時に井戸向遺跡Ⅳ群・北海道遺跡Ⅶ、Ⅷ群の経営が開始される。白幡前遺跡の2群Cから3群をはじめとする萱田地区の多くの建物群はこ

れにやや遅れて出現し、もう1段階遅れて権現後遺跡の建物群の経営が開始される。遅れて出現する建物群は、先行する建物群から再編成された可能性もあるが、後述する墨書土器の所有状況などから、新たな人口の流入の可能性は比定できない。

2群A以外の建物群における掘立柱建物の状況は1群A・3群に多くの掘立柱建物が構築されるが、他の建物群では概ね10棟前後が構築されている。建物の規模は2間×2間・3間×2間が主体となり、白幡前遺跡全体では両者がほぼ同数確認されている。しかし、2群Cや2群Eでは2間×2間の建物が主体となり、3群では3間×2間が卓越する。掘立柱建物の構築時期について、個々の建物について明らかにすることはできなかったが、建物群内の傾向を既に説明した。各建物群とも4b期から5期にかけて掘立柱建物の構築が開始されるようであるが、3群での枢の鍵の出土から、3群では3期から4a期には掘立柱建物の構築が開始されていたと考えられる。恐らく、他の建物群においてもこの時期に掘立柱建物が構築されていた可能性は高いであろう。

建物群内における掘立柱建物のあり方は、1群B・3群が狭い範囲に集中して建てられいる。これに対して、1群Aや2群Eではあたかも竪穴住居とセットとなるような配置をとっており、掘立柱建物の性格も一様でなかったことを物語っている。先の竪穴軒数の推移では、掘立柱建物をまったく考慮していないが、掘立柱建物の構築が仮に時期的に偏在するとなれば、考え直す必要もあろう。

| | 1×1 | 1×2 | 2×2 | 3×2 | 3×3 | 4×2 | 5×2 | 5×4 | 不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 A | | | 3 | 1 | | | | | 5 | 9 |
| 1 B | | | 11 | 17 | 1 | 1 | | | 3 | 33 |
| 2 A | | | 8 | 6 | 1 | 1 | | 1 | 2 | 19 |
| 2 B | | 1 | | 3 | | | | | 3 | 7 |
| 2 C | | | 10 | | | | | | 1 | 11 |
| 2 D | | | 1 | 3 | | | | | 4 | 8 |
| 2 E | 1 | | 10 | 2 | | | | | | 13 |
| 2 F | | | 6 | 4 | | | | | 1 | 11 |
| 3 | | | 9 | 23 | 1 | | 1 | | 5 | 39 |
| 合 計 | 1 | 1 | 58 | 59 | 3 | 2 | 1 | 1 | 24 | 150 |

## 第4節　墨書土器の検討

### 1　文字の種類と集落構成

萱田地区の奈良・平安時代の遺構からは墨書土器も数多く出土している。墨書土器のもつ性格は未だ未解明の部分も多く、書かれた文字の内容も様々である。ここでは、線刻あるいはヘラ描きの文字資料も含め、文字と建物群の関係、時期による文字の変化について分析する。

萱田地区の4遺跡で確認できた文字資料は意匠がわかる記号も含め146種に及ぶ。総数は約1,000点に昇るが、この数は文字ないし記号として判読できたものの点数であり、部分的な破片や遺存状態が悪いために判読できなかった資料を加えると、その数は約1,300点に及ぶ。このうち白幡前遺跡では文字あるいは記号として判読できたものが562点で、判読不可能なものを含めると700点を超す。墨書土器の点数としては非常に多いもので、一般の集落遺跡としてはこの数は膨大と言っても過言ではない。

これらの文字資料はある一つの建物群に限って見られるもの、複数の建物群で見られるもの、複数の遺跡の建物群でみられるものまで分布範囲も様々である。萱田地区全体で1点しか出土していない文字も70例あり、文字資料全体の半数近い文字がごく限られた点数しか墨書されなかったことになる。1点のみの文字は以下のとおりである。

白幡前遺跡1群A　有・土垸
白幡前遺跡1群B　堤家・大寺・臣・庄・財・大生人（ヘラ描き）
白幡前遺跡2群A　丈部人足召代・人足・提赤山・長・安・生万
白幡前遺跡2群B　草田
白幡前遺跡2群C　神万・□酒真利・新家古・□□天□・厨・式
白幡前遺跡2群D　田・得・魚・太
白幡前遺跡2群E　上挟ヵ
白幡前遺跡2群F　□信・乙□・丈・得足・千□
白幡前遺跡3群　賀□□・守・左・卯原・粹
井戸向遺跡I群　卆・真・盛此家加・□マ吉道・力
井戸向遺跡II群　信曾・□替・厭
井戸向遺跡IV群　中・ヤ
井戸向遺跡　男・疾疾・禾原・土
北海道遺跡III群　凡・凡足・勝光寺・磯・村上□・丈部乙刀自女形代・井大
北海道遺跡IV群　経・隆・承和五年二月十
北海道遺跡V群　天

北海道遺跡VII群　尼
権現後遺跡Ⅰ群　大伴部・尾・神・時・清
権現後遺跡II群　村上郷丈部国依甘魚
権現後遺跡III群　福
権現後遺跡IV群　天人・宣□

次に、複数点が出土しているものの、出土した建物群が単独の群に限られる文字も11種類がある。点数は2～3点の例が多いが、「牧万」と「枚万」を同一のものとみれば9点、「⿰土王」が8点出土し、一つの文字の点数としては決して少ないものではない。単独の建物群で出土した文字は以下のとおりである。

| | | |
|---|---|---|
| 「⿰土王」 | 白幡前遺跡1群A | 8点 |
| 「提⿰土王」 | 白幡前遺跡1群A | 3点 |
| 「牧万・枚万」 | 白幡前遺跡1群B | 9点 |
| 「嶋」 | 白幡前遺跡1群B | 3点 |
| 「赤山」 | 白幡前遺跡2群A | 2点 |
| 「麿」 | 白幡前遺跡2群C | 5点 |
| 「満」 | 白幡前遺跡2群C | 4点 |
| 「赤足」 | 白幡前遺跡2群E | 2点 |
| 「思」 | 井戸向遺跡III群 | 2点 |
| 「木」 | 北海道遺跡III群 | 3点 |
| 「罡」 | 権現後遺跡IV群 | 3点 |

これらの文字は時期的な幅が短く、1時期ないし2時期を限界とする。さらにこの内の「⿰土王」・「提⿰土王」・「牧万」・「赤山」・「赤足」は3期に限られた文字である。また、出土点数が少ない「赤山」や「赤足」等は先の出土点数が1点だけの文字と区別する必要はないと思うが、「⿰土王」・「牧万・枚万」のようにある程度の点数が出土している文字は、建物群の独自性と解釈できる。

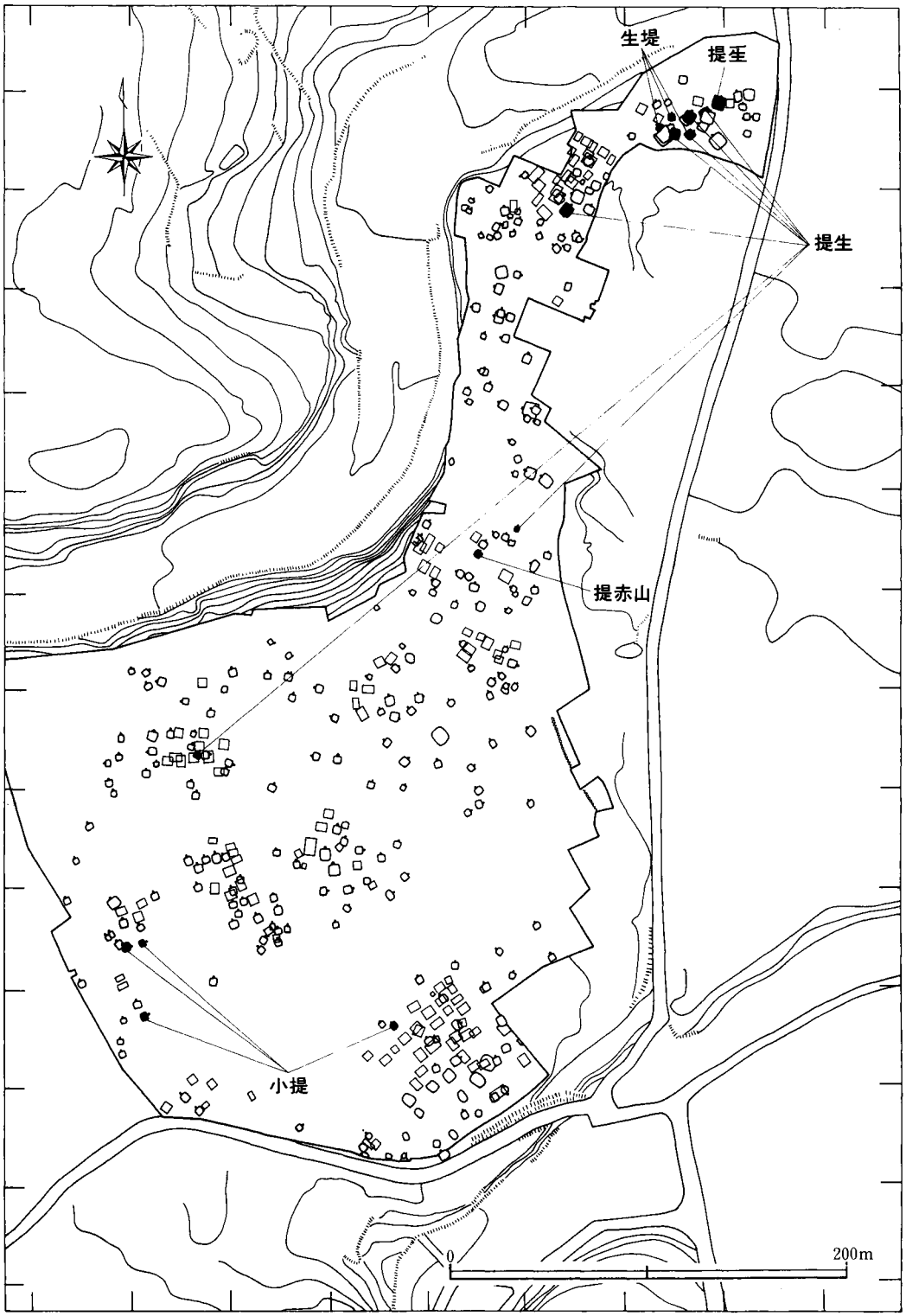
これ以外の文字は複数点が複数の建物群から出土している。出土範囲は一遺跡内に納まる場合と、他の遺跡の建物群に及ぶ例があるが、量的にある一つの建物群が主体となり、そこからいくつかの建物群へ広がったと解釈できる。時期的には限られた一時期にみられるものと、連続する数時期にわたってみられるものがあり、数時期にわたって書かれた文字は量的に主体となる建物群が初見となることが多い。但し、ある特定の文字が複数の建物群へ広がることについては、文字の移動・書き手の移動・墨書された個体の移動が考えられる。具体的に個々の事例を判断することは出来ないが、注意したい点である。また、これらの文字の中には量的に主体となる建物群はあるものの、それ以外の建物群でもかなりの数が出土しているものがある。

代表的な文字として「入」・「継」・「富」・「㋕」・「生」等があり、「入」は白幡前1群A他7群、「継」は白幡前1群B他8群、「富」は井戸向I群他11群、「㋕」は北海道III群他9群、「生」は権現後II群他14群から出土している。それぞれ量的に中心となる建物群はあるが、「入」は白幡前1群Aと井戸向III群で同数が確認され、白幡前2群Eでもそれに次ぐ6点が出土している。「生」は権現後の各群で多くみられるが、白幡前1群A・1群Bでもそれに匹敵する量が出土している。時期的には「入」・「生」が3期から、「継」・「富」・「㋕」が4a期から書き始められ、一様に6期まで継続する。3期が初見となる「入」・「生」は、当初小さく端正に書かれていたものが、4a期から4b期にかけて非常に大胆な書体に変化している。第205図に挙げた「生」の書体は典型的であり、権現後では書体1はまったく出土していない。このような字体の変化は「入」・「生」に限ったことではなく、4a期ないし4b期を境に文字の大きさが全体に大きくなり、流利な字体が多くなる。このことは墨書土器のもつ社会的意義の変化とともに、筆記具としての筆の変化も想像できる。

墨書土器は1期からみられるが、本格的に墨書されだすのは3期からとなる。第405表は白幡前遺跡出土の文字について時期幅を示したが、時期は他の3遺跡の資料を含んでいる。この表からも分かるように、3期が初見となる文字が圧倒的に多く36種に及ぶ。しかしながら、この内の半数以上が4a期以降に継続せず、さらに全体の3割強が1点しか出土していない文字である。しかし、「生」・「入」・「圓」・「豊」・「大田」・「盛」など萱田地区の主要な文字、とりわけ複数の建物群で墨書された文字もここで登場している。4a期が初見となる文字も3期に続いて多く25種を数える。「太」・「継」・「㋕」などの主要な文字が登場し、多くの文字が4b期以降に継続する。また、全体的に出土点数の多い文字がここに含まれる。4b期以降に初見となる文字も32種あるが、量的に3・4a期から継続して書かれている文字には及ばず、限られた建物群だけに見られる文字や1点だけの出土の文字が非常に多い。このことは第1章で触れた竪穴軒数の推移と密接な関係があるものと思え、3～4a期にかけて萱田地区の集落の最盛期であったといえる。

それでは白幡前遺跡の墨書土器について、各建物群ごとに主体となる文字を中心に紹介したい。

**1群A**　墨書土器の量は比較的多く、22種総数96点を数える。竪穴住居1軒当りの墨書点数が最も多い建物群で、他を完全に圧倒している。時期的には4b期から5期にピークに達し、この2時期に比定できる墨書土器が占める割合は全体の70%を超す。1群Aを分布の中心とする文字は「𢀜」・「提𢀜」・「提生」・「生堤」・「入」・「生」・「貞」・「𠂤」がある。「𢀜」・「提𢀜」・「提生」・「生堤」は第2節で詳述するが、本群を代表する文字としてよく、「𢀜」・「提𢀜」→「提生」→「生堤」の順に登場する。「𢀜」・「提𢀜」は1群A以外の建物群で見られないが、「提生」・「生堤」は他のいくつかの建物群で出土している。




第201図　墨書土器分布図　1

「入」は白幡前2群E・井戸向III群でも多く出土し、点数的には1群Aとほぼ同数がある。しかし、時期的には北海道III群・白幡前3群が早く、本群で「入」が書かれ出すのは4b期になってからである。やはり4a期から4b期を境に大きく書かれるようになる。

「ゆ」は点数的にはあまり多くないが、権現後II・III群と共通するもので、興味深い。権現後遺跡独自の文字も存在するが、権現後遺跡を中心として広がった文字はない。

「生」は萱田地区の大部分の建物群で出土しており、量的に中心となる建物群は白幡前1A・白幡前1B・権現後II群がある。点数としては権現後II群が多いが、白幡前1A→権現後II→白幡前1Bと時期的に主体となる建物群が変わっている。この他量的には少ないものの「富」・「㋝」がある。この2文字は白幡前遺跡全体でも少なく、「富」は井戸向I群、「㋝」は北海道III群を中心としてかなり広く分布している。

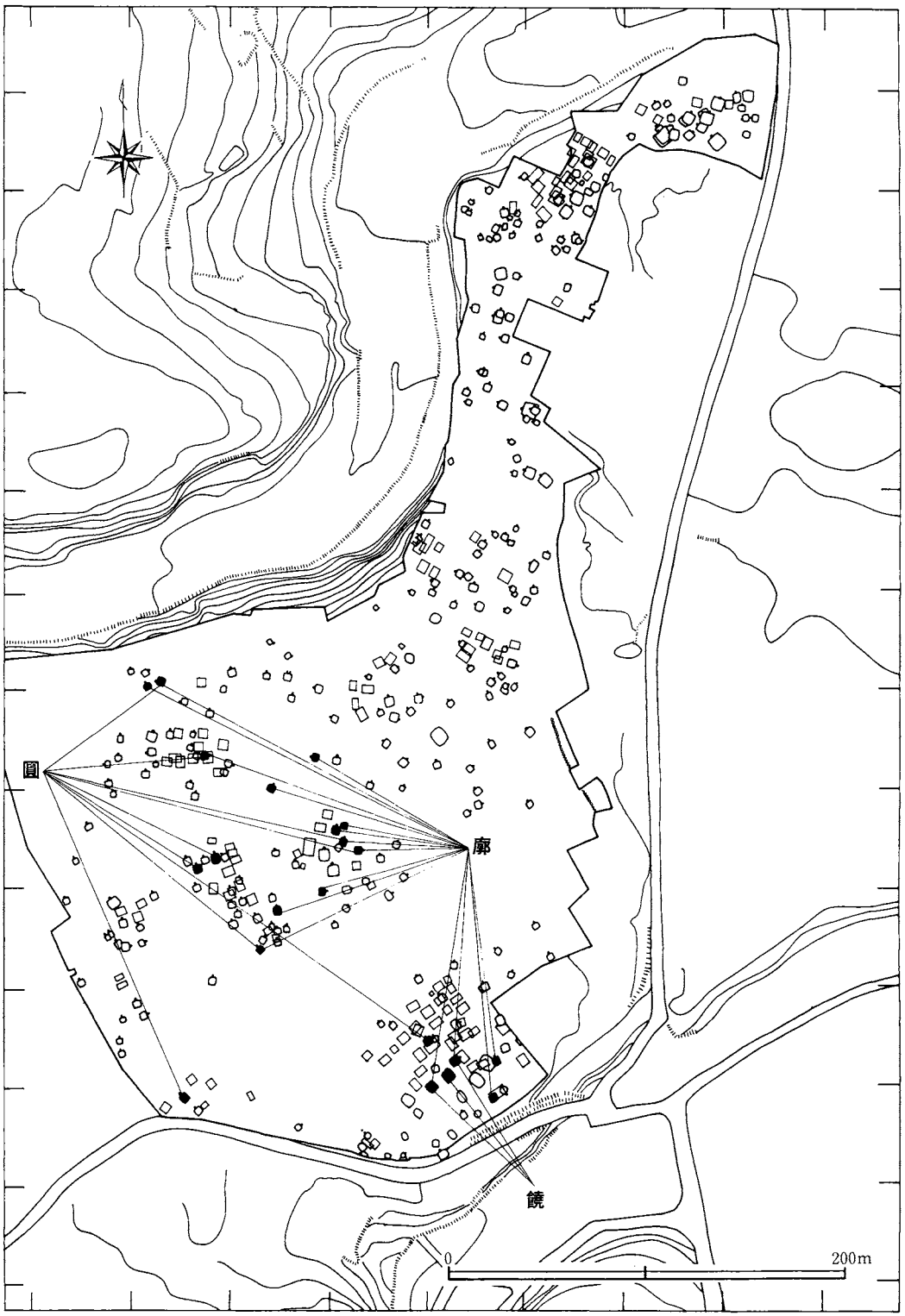
**1群B**　墨書土器は30種155点を数え、全体量は多いものの竪穴住居も多い。1群Bを中心とする文字は「継」・「立」・「生」・「牧万」・「枚万」・「益」・「大井」・「嶋」・「○」等があり、本建物群に限られる文字も多い。時期的には3期から7期にわたり、5期にピークに達する。また、3期も比較的高率で、「牧万」・「益」・「大井」が見れるが、4a期以降に継続するものはなく、4a期の墨書点数は非常に少ない。竪穴軒数は3期をピークに減少に転じるが、墨書土器の内容を見る限り、4a期を境に建物群のあり方が二分できる。4b期以降に掘立柱建物群が出現することと無関係ではあるまい。なお、7期に「嶋」が見られるが、7期が初見となる文字はこの1例だけである。

「生」は前述したように萱田地区の大部分の建物群で出土しており、1群Bでは5期を中心として墨書されている。同様に広い範囲で見られる文字は「継」・「立」があり、「継」は萱田地区の4遺跡すべてで少ないながらも出土している。「立」は白幡前遺跡に限られるが、5箇所の建物群で出土している。「立」が盛行するのは5・6期である。

**2群A**　墨書土器は25種45点で、全体量と共に種類当たりの点数も少ない。時期的には3・6期にピークがあり、2群A内において複数時期に継続する文字はない。2群Aを中心として広がる文字はないが、人面墨書・「丈部人足召代ヵ」・「人足」をはじめ、村落内寺院との関係が窺える「佛」・「寺坏」等注目すべき墨書がある。

**2群B**　墨書土器は12種24点と少なく、白幡前遺跡において最低である。時期的には3期から5期に及び、4b期にピークに達する。本建物群を中心に広がる文字はないが、「草田」の墨書は注目できる。

2群C　墨書土器は24種95点あり、4b期をピークとする。本群を中心に広がる文字は「太」・「麿」・「満」・「家」があり、2群Dを中心とする「廓」、2群Eを中心とする「圓」も多く出土している。「太」は白幡前遺跡のほとんどの建物群から出土しているが、1群Bと3群で見られない。時期的に若干異なるが、1群Bでは「立」が書かれる。「麿」・「満」は2群C以外ではみ




第202図　墨書土器分布図　2

られず、時期的にも４ａ・４ｂ期に限られる。「神万」は人名か。

**２群Ｄ**　墨書土器は19種49点があり、時期的には３期から６期に及ぶ。５期がピークとなるが、３・４ａ期との間に大きな開きはない。ただ、３期に見られる「文」は４ａ期以降に継続せず、４ａ期以降「廓」が多く書かれる。本群を中心に広がる文字は「文」・「廓」があり、２群と３群を画する遺構空白域周辺の建物群で出土している。「廓」は３群でも多く見られるが、時期的には本群が早い。本群ではすべて異体字の「序」であるが、３群では「廓」がある。なお、時期的には重ならないが、「文」と「圓」の見られる建物群は完全に一致する。

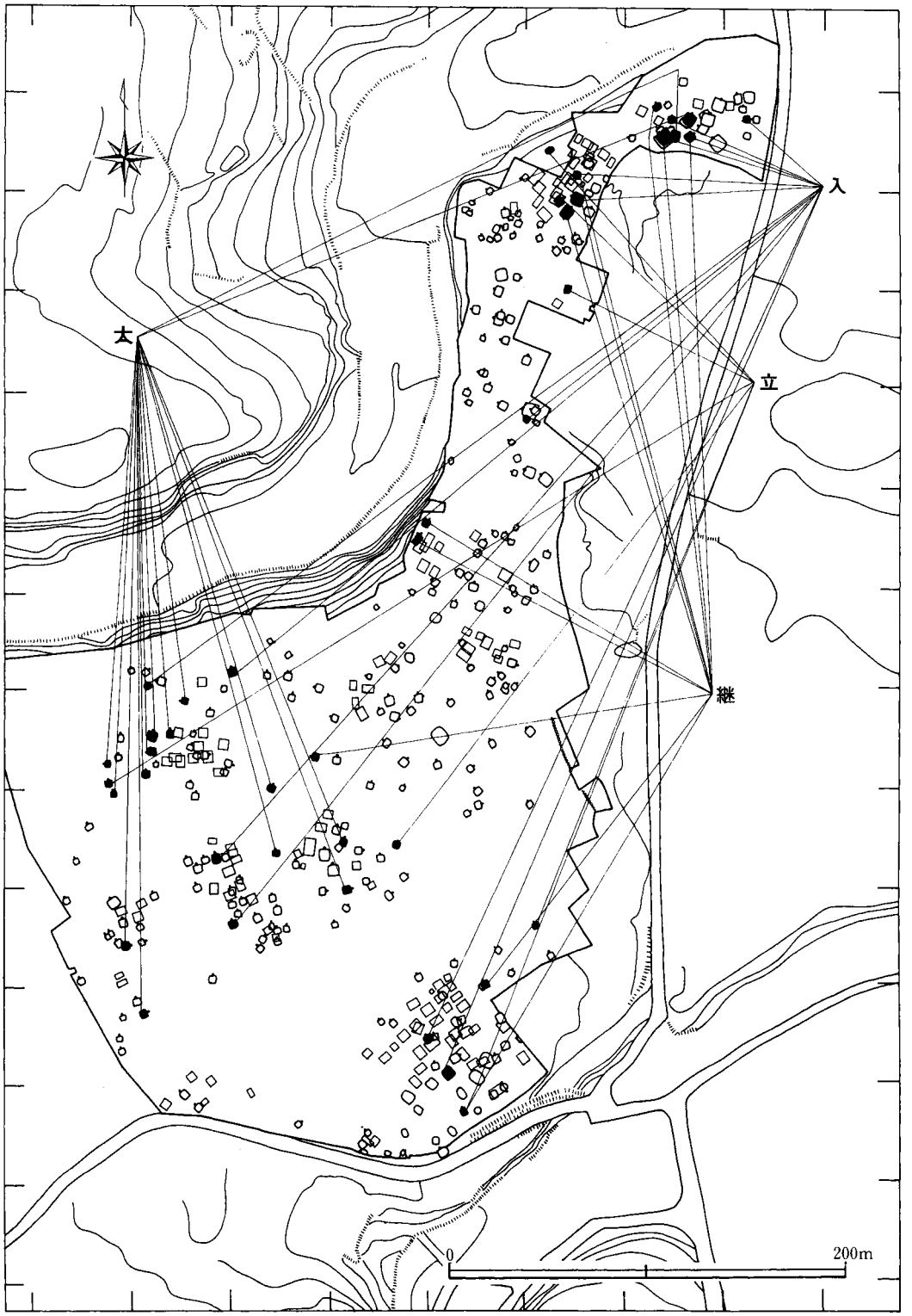
**２群Ｅ**　建物が比較的整然と配置されていることに反して墨書土器は16種36点しかない。量的に「圓」が多いが、破片がほとんどである。「圓」の字体も「圓」・「囗」があり、「囗」が圧倒的に多い。２群ＣのＤ032では同一個体の体部外面・底部外面に「圓」・「囗」が書かれている。なお、Ｈ023Ｂの堀方から出土した破片は「上挟」であろうか。

**２群Ｆ**　墨書土器は17種54点がある。量的に多い文字は「廿」・「小堤」・「子」があるが、あまり他の建物群へ広がらない。また、「小堤」は３軒の竪穴住居から出土しているが、「廿」はそのほとんどがＤ003から出土したものである。「小堤」は「提生」・「生堤」とほぼ同時期に書かれているが、分布範囲は大きく異なっている。「小堤」は３群で１点、２群Ｆから南へ約100ｍ離れた八千代市池ノ台遺跡で１点出土している。

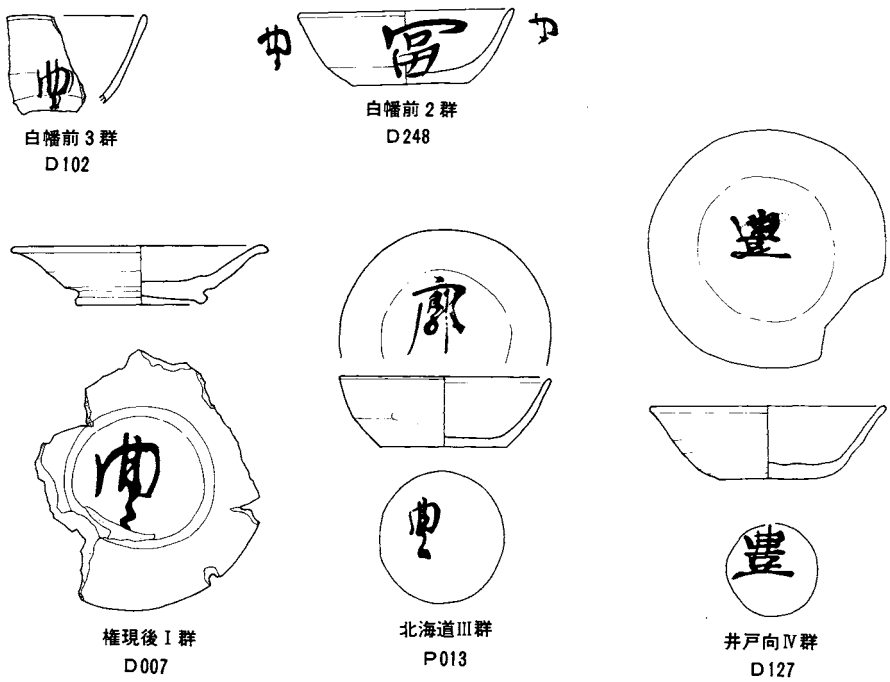
**３群**　墨書土器は25種83点があり、ほとんどが４ｂ期に比定できる。本群を中心に広がる文字は「饒」・「豊」があり、「廓」も２群Ｄに続いて多い。「豊」は井戸向・北海道・権現後の各遺跡で少ないながら出土しており、北海道遺跡Ｐ103出土のロクロ土師器坏は底部内外面に「豊」・「廓」の２文字が書かれ、権現後Ｉ群も「豊」と遺構が異なるが「饒」が１点あり、白幡前３群との関係が考えられる。ただ、井戸向遺跡から出土した「豊」は筆が違うように思える。「豊」以外の文字は他の建物群へあまり広がらない。

各建物群を中心として広がる文字について紹介したが、簡単に要約しておきたい。まず、建物群毎に主体となる文字があり、その内のいくつかは他の建物群へも広がっている。このように面的に広がりをもつ文字の中には、主体となる建物群が時期毎に移動することがある。特徴的なのは「生」であるが、建物群内の他の文字を見る限り共通性はなく、文字の移動が建物群の経営母体全体の移動と考えるのも疑問である。しかし、建物群として捉えた集団全体ではないにしろ、「生」を主体的に墨書した一部の人間の移動はほぼ確実であり、この移動が建物群を越えて（現在我々が一つの遺跡として捉えている範囲を越えて）行われていることは非常に興味深い。このことは第１節で触れた建物群の竪穴軒数の推移の矛盾を解決している。但し、３群で挙げた「豊」は井戸向遺跡を除いて個体の移動の可能性がある。

大きな広がりをもつ文字は「生」・「入」・「継」・「富」・「㋐」等を挙げることが出来るが、「富」・「㋐」は白幡前遺跡以外に分布の中心があり、白幡前遺跡では少ない存在である。これ以外の




第203図　墨書土器分布図 3




第204図　墨書「豊」実測図

「生」・「入」・「継」は白幡前１群A・１群Bを中心に広がっている。換言するならば、１群A・１群Bを主体とする文字には大きな広がりをもつ「生」・「入」・「継」がある。２群C・２群D・２群Eにはそれぞれ「太」・「廓」・「文」・「圓」が主体的文字としてあり、これらは白幡前遺跡内の多くの建物群に広がるが、他の遺跡へはあまり広がらない。２群A・２群Bでは量的に多い文字はあるものの、これらの文字は他の建物群へほとんど広がらない。

このように個々の文字について主たる建物群と従となる建物群が存在するが、両者がどの様な関係であったかは明かではない。建物群を経営する集団の全体移動は考えられないが、集団の内の一部の人間の移動は確実で、第１章で触れた竪穴軒数の推移と比較すると、集団の再構成が行われていた可能性もあながち否定できないと思う。

## 2　墨書部位について

次に、白幡前遺跡出土の墨書土器から主要な文字を取り上げ、その墨書部位について分類してみる。

**生**　「生」は白幡前遺跡で68点が出土し、そのほとんどが１群A・Bに集中している。また逆に白幡前遺跡の多くの建物群で出土しており、まったく見られないのは２群E・Fだけである。「生」は先に述べたように４ａ期から４ｂ期を境にして字体が変化しており、墨書部位については字体を考慮した。数値は百分率表示で、上段は各字体を100とした場合、下段は全体を100

第205図 「生」の字体と「立」

| (%) | 底部外面 | 底部内面 | 体部外上 | 体部外下 | 体部外左 | 体部外右 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生 | | 39.3(14.3) | 21.4( 7.8) | | 28.6(10.4) | 10.7( 3.9) |
| 寸 | 4.1( 2.6) | 10.2( 6.5) | 79.6(50.6) | | 4.1( 2.6) | 2.0( 1.3) |

とした場合である。「生」は底部内面が高率であるのに対し、「寸」は体部外面上が高率となる。また、「寸」の主体的墨書部位と他の部位の差は「生」の同差と比較にならないほど明瞭な開きがある。ちなみに1群A・B以外の建物群から出土した字体はほとんどが「寸」で、「生」は1群A・Bに限られると言っても過言でない。なお、1群Aに「生」に似た「⿰生」・「提⿰生」がある。「提」に関係する文字の墨書部位は後述するが、「提⿰生」と同義と考えられる墨書に「提生」・「生堤」・「小堤」がある。ここで「⿰生」→「提⿰生」、「生」→「提生」・「生堤」という関係が考えられるが、「⿰生」・「提⿰生」・「提生」・「生堤」はいずれも体部外面左を主体的な墨書部位としており、「生」とは一致しない。「⿰生」一字の例をみてもすべて体部外面の左右に書かれている。なお、第205図には一部に紛らわしいものがあるので、「立」も併記した。

**提**　「提」を含む墨書は非常に多様で、「提」一字についても手へんの「提」と土へんの「堤」が存在する。また、「提」・「堤」を含む墨書は「提⿰生」・「提生」・「生堤」・「小堤」・「提赤山」と「提」一字だけを墨書した例がある。「提赤山」は1点しか出土していないが、「提⿰生」3点、「提生」6点、「生堤」11点、「小堤」9点、「提」一字の例も9点出土している。「提」・「堤」の違いは、基本的に「提⿰生」・「提生」というように頭に「提」がくるものは手へんの「提」が、「生堤」・「小堤」のように下に「堤」がくる場合に土へんの「堤」が用いられている。時期的に「提」→「堤」の関係が指摘でき、本来は「提」を書いていたものである。また、「提赤山」に見るように、「提」+「赤山」という関係が明らかで、「提⿰生」についても同様の関係が想定できる。なお、「提生」は井戸向遺跡II・III群に、「生堤」は井戸向遺跡III・IV群・権現後遺跡II群で僅かにみられる。

墨書部位は「小堤」・「堤」を除くとほとんどが体部外面左となり、若干体部外面右がある。これに対して「小堤」は底部外面が圧倒的に多く、「提⿰生」・「提生」・「生堤」と「小堤」は一線

| 点数 | 底部外面 | 底部内面 | 体部外上 | 体部外下 | 体部外左 | 体部外右 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 提⿰王生 | | | | | 3 | |
| 提生 | | | | | 6 | |
| 生堤 | | | | | 8 | 3 |
| 小堤 | 7 | | | | 1 | 1 |
| 提・堤 | 2 | | 3 | | 4 | |

を画することが出来る。また、分布範囲についても「提⿰王生」・「提生」・「生堤」が1群Aを中心とする文字であるのに対し、「小堤」は2群Fを中心とし、分布範囲からも両者を区別することが出来る。初見となる時期は「提⿰王生」が3期、「堤生」が4a期、「生堤」・「小堤」が4b期となる。

**継**　「継」は1群Bを中心に見られる文字で、白幡前遺跡では5箇所の建物群で出土している。このほか井戸向I群、北海道III群、権現後I・II群で出土している。初見は4b期で、6期まで継続して書かれる。字体の変化はあまりないが、糸へんが崩される傾向にある。

| 点数 | 底部外面 | 底部内面 | 体部外上 | 体部外下 | 体部外左 | 体部外右 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 坏 | | 11 | 12 | 1 | | |
| 皿 | 7 | 4 | 1 | | | |

墨書部位は底部内外面と体部外面の上下となるが、体部外面の左右、即ち横位に書かれた例は1点もない。器形的には坏が底部内面と体部外面上がほぼ同数で、ほとんどがこの部分に墨書されているのに対し、皿は底部外面が多く、体部外面上という例は非常に少ない。これは器形的制約によるもので、墨書された文字が通常の状態で、ある程度見える位置になければならなかったことが窺える。墨書土器全体の墨書部位についても皿は底部外面に書かれた例が多く、付け加えるならば、坏は体部外面左が最多で、体部外面上が続く。体部外面右という例は坏・皿ともにごく僅かである。横位に墨書する際に左手で対象物を持つと、親指を内面に掛けるのが自然であり、底部を持つと対象物が不安定になり易い。

**入**　「入」は白幡前1群A・2群E・井戸向III群を中心に見られる文字で、8箇所の建物群で出土している。初見は3期で6期まで継続する。白幡前では3期に比定できる資料はなく、3群D234は3期の竪穴住居であるが、「入」が墨書された坏の器形に問題がある。3期の資料としては北海道III群D106を挙げることができる。「生」同様に4a期から4b期を境として文字が大きく書かれる傾向にある。

墨書部位は体部外面の相対する2箇所に書かれる例が3点見られ、体部外面上・体部外面下として数えた中に部分的な破片もあり、2箇所に書かれた例がもう少し増える可能性もある。

| 底部外面 | 底部内面 | 体部外上 | 体部外下 | 体部外上下 | 体部外左 | 体部外右 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2 | 5 | 10 | 3 | 1 | 1 |

**太**　「太」は2群Cを中心に見られる文字で、白幡前遺跡でまったく出土していないのは1群Bと3群だけである。

| 底部外面 | 底部内面 | 体部外上 | 体部外下 | 体部外左 | 体部外右 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 9 | 3 | 2 | 21 | 6 |

墨書部位は様々であるが、その中で体部外面左が卓越する。

**圓**　「圓」は2群Eを中心に見れる文字で、2群と3群を区画する遺構空白域に面する建物群から出土している。字体は「圓」と「囗」があるが、「囗」が圧倒的に多く、「圓」は全体で2点しかない。ただ、2群CD032出土のロクロ土師器坏は体部外面と底部外面に「圓」・「囗」の両方を書いている。

| 底部外面 | 底部内面 | 体部外上 | 体部外下 | 体部外左 | 体部外右 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 1 | 5 | 1 | 4 | |

墨書部位は様々で、体部外面上・体部外面左が多い。「圓」は2点とも底部外面で、「囗」とは区別できる。

**廓**　「廓」は白幡前2群D・3群を中心に見られる文字で、4a期から6期に及ぶ。当初「廓」を3群の掘立柱建物群と関連するものと考えていたが、時期的には3群より2群Dが早く、掘立柱建物群とは直接関係ないものと思われる。字体は「廓」と「序」があり、「序」が圧倒的に多い。「廓」は白幡前3群にあり、北海道3群の「廓」は白幡前遺跡からの個体の移動の可能性が高い。「廓」と「序」の時期的な関係はほとんど無いものと思う。

| 底部外面 | 底部内面 | 体部外上 | 体部外下 | 体部外左 | 体部外右 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 1 | | 1 | 32 | 4 |

墨書部位は体部外面左が圧倒的に多く、体部外面上がまったく見られない。

**饒**　「饒」は基本的に3群に限定される文字であるが、2群D・権現後I群から各1点ずつ出土している。この2点は白幡前3群から個体が移動した可能性が高い。3群との共通点は、白幡前2群Dで「廓」が、権現後I群では1点であるが「豊」が出土している。

| 底部外面 | 底部内面 | 体部外上 | 体部外下 | 体部外左 | 体部外右 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 12 | 5 | | 1 | |

墨書部位は底部内面が卓越し、体部外面上が続く。3群D102の出土例を見ると、底部内面に墨書された個体の体部外面にも墨書があり、37は「饒」と考えられる。残る個体も体部外面の墨書が「饒」である可能性は高く、「饒」は底部内面と体部外面上の2箇所に墨書されることが基本であったようだ。

以上、主要な文字を例として墨書部位について紹介した。このように文字によって主体的に墨書される部位が、ある程度限定されていることが明らかである。墨書土器全体の傾向としては体部外面下と体部外面右が低率で、土器本来の向きとともに墨書する際の持ち方によるものである。他の部位はさほど大きな開きはないが、体部外面上と体部外面左が多く採用されている。下表は全体を100としたものである。

| 底部外面 | 底部内面 | 体部外上 | 体部外下 | 体部外左 | 体部外右 |
|---|---|---|---|---|---|
| 18.4 | 16.0 | 26.3 | 6.1 | 26.0 | 7.2 |

底部に限ってみれば内外面に大きな差はなく、体部外面に限ってみれば上と左に大きな差はない。次に、時期別の墨書部位を見てみたい。時期としては墨書土器の点数が比較的多い3期から6期を対象とし、各時期の合計を100とした。

| | 底部外面 | 底部内面 | 体部外上 | 体部外下 | 体部外左 | 体部外右 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 | 46.3 | 0 | 4.5 | 1.5 | 29.8 | 17.9 |
| 4 a | 21.7 | 3.3 | 11.7 | 10.0 | 41.6 | 11.7 |
| 4 b | 12.7 | 26.0 | 20.2 | 2.9 | 33.0 | 5.2 |
| 5 | 13.8 | 12.9 | 35.3 | 8.6 | 24.2 | 5.2 |
| 6 | 17.2 | 27.6 | 50.0 | 5.2 | 0 | 0 |

全体を通じてやはり体部外面下と体部外面右は少ない傾向にあるが、時期により主体となる墨書部位が異なる点は注目できる。例えば、底部内面の墨書は、3期・4a期とほとんど見られないのに対し、4b期以降安定して見られるようになる。このことは、その時期に書かれる文字の種類とも密接に関係するもので、「生」以外の文字は時期により主体となる墨書部位が大きく変わることがないことからも分かる。4b期を初見とする文字には「継」・「饒」等、底部内面に多く墨書される文字があり、見逃すことが出来ない。即ち、時期による墨書部位の量的変化は、その時期の主体となる文字の変化を反映した結果と考えられる。

## 3 小 結

墨書土器について個々の建物群で主体となる文字と他の建物群との関係、墨書部位を検討してきた。冒頭でも述べたように、白幡前遺跡から出土した墨書土器は一般の集落遺跡としては

膨大な量であり、これらの資料の検討が集落遺跡における墨書土器の意義を考える上でも、また集落構造を解明する上でも極めて有用である。

白幡前遺跡では2群Aに位置するD258から人面と共に「丈部人足召代」と墨書されたロクロ調整の小形の甕が出土し、古代集落における祭祀形態の一面を明らかにしている。萱田地区では権現後遺跡D189から「村神郷丈部国依甘魚」が、北海道遺跡D146から「丈部乙刀自女形代」、同D048から「承和五年二月十□」・「□□□代」が出土しており、各遺跡で同様の祭祀が行われていたと考えられる。

また、「寺」・「大寺」・「寺坏」・「佛」等仏教的な墨書も見られ、白幡前遺跡では村落内寺院が存在し、井戸向遺跡では小形の仏像が出土している。白幡前1群Aから出土した「王」や「□□天□」等の則天文字と考えられる文字の存在も仏教的な側面と無関係とは考えられない。平成元年度の調査で井戸向遺跡IV群から三彩陶器の托が出土したが、これなども切り離して考えるわけにはいかないだろう。

## 第404表　萱田地区出土文字資料一覧

| 遺跡名 | 白幡前 | | | | | | | | | 井戸向 | | | | 北海道 | | | | | | | 権現後 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建物群 | 1A | 1B | 2A | 2B | 2C | 2D | 2E | 2F | 3 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | 8 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 入 | 7 | 4 | | | 4 | | 6 | | 2 | 3 | | 7 | | | | 2 | | | | | | | | |
| 生 | 31 | 31 | 3 | 1 | 1 | 1 | | | 3 | 7 | | 2 | 1 | | | 2 | | | | | 17 | 42 | 12 | 9 |
| 生堤 | 11 | | | | | | | | | | | 3 | 1 | | | | | | | | | 1 | | |
| 至 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 堤 | 6 | 1 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | |
| 堤至 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 堤生 | 4 | | | 1 | | | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 宀 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| 貞 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土垸 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 有 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ○ | | 31 | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| 継 | 8 | 19 | 7 | 1 | | | | | 2 | 1 | | | | | | 1 | | | | | 2 | 1 | | |
| 立 | | 15 | 1 | | 1 | 1 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 牧万 | | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 益 | | 3 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 嶋 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大井 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 山 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 1 |
| 堤家 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大寺 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 臣 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 庄 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 財 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大生人 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 佛 | | | 2 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| つ | | | 2 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 寺坏 | | | 2 | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 上 | 1 | | 2 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 又 | | | 2 | | | 1 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 赤山 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 提赤山 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 文部人足 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 人足 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生万 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 安 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 器 | | 1 | 1 | 2 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | |
| 草田 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 乙山 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 太 | 3 | | 1 | 2 | 31 | 2 | 1 | 2 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| 磨 | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 満 | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 家 | | 2 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 田生 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 式 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 神万 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 遺跡名 | 白幡前 | | | | | | | | | 井戸向 | | | | 北海道 | | | | | | | 権現後 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建物群 | 1A | 1B | 2A | 2B | 2C | 2D | 2E | 2F | 3 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | 8 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 酒真利 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 新家古 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| □□天□ | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 厨 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 廓 | | | 1 | 1 | 6 | 18 | 4 | | 12 | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 文 | | | | | 3 | 4 | 4 | 2 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 田 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 得 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 魚 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 太 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 圓 | | | | | 3 | 2 | 7 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 赤足 | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上挟 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 廿 | 1 | | 1 | | | | | 17 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小堤 | | | | | | | | 8 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 子 | | | | 3 | | | | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 善 | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| □信 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 乙□ | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 丈 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 得足 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 千□ | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 饒 | | | | | | 1 | | | 17 | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| 豊 | | | | | | 1 | | | 8 | 1 | | | 1 | | | 1 | | | | | 1 | 1 | | |
| 村 | | | | | | 1 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 古 | | 1 | | | | | 1 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 卯原 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 左 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 守 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 賀□□ | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 粺. | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 富 | 1 | 1 | | | | 1 | | | 1 | 32 | 5 | | 1 | 2 | | 8 | 8 | 1 | | 1 | | | | |
| 仁 | | | | | | | | | | 6 | | | | | | 1 | 2 | | | | | | | |
| 盛 | | | | | 1 | | | | | 2 | | | | | | 2 | 1 | | | | | | | |
| 卆 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 真 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 盛此家加 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| □マ吉道 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 力 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 信曾 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| □替 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 厭 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 思 | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | |
| 中 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 部 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| 大田 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | 2 | | | | | | | | |
| 男 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 疾疾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 禾原 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 遺跡名 | 白幡前 | | | | | | | | | 井戸向 | | | | 北海道 | | | | | | | 権現後 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 建物群 | 1A | 1B | 2A | 2B | 2C | 2D | 2E | 2F | 3 | 1 | 2 | 3 | 4 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 7 | 8 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 土 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ㊀ | 2 | | | 1 | | | | | | 4 | 2 | | 3 | 2 | 1 | 9 | 2 | | 2 | | | | | |
| 大 | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | 5 | | | | | 4 | 2 | 1 | |
| へ | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 5 | 3 | | | | 1 | | | |
| 木 | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | |
| 成 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | 3 | | | | | | | | 1 |
| 丁 | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | |
| 凡 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 凡足 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 勝光寺 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 磯 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 村上□ | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 丈部乙刀 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 井大 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | |
| 新 | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | 6 | | | | | | | |
| 経 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| 隆 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| 承和五年 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | |
| 天 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 尼 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 南 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 1 | 1 |
| 下 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 大伴部 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| 尾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| 神 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| 時 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| 清 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| 村上郷丈 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 匡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | |
| 福 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 天人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 十 | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 宣□ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| ↑ | 1 | 1 | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 万 | | | | | 1 | | | 1 | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | |
| 朝日 | | | | | | | | | | | | | 2 | | | 2 | | | | | | | | |
| 寺 | 1 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 羊 | | 1 | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工 | | | | | | 1 | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 罡 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| 子猨嶋 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 井□ | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 草 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 主 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 奉 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 加 | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 井 | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 大家 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

## 第405表　白幡前遺跡出土文字資料時期別消長表

| | 1 | 2 | 3 | 4a | 4b | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ○ | — | | — | | — | — | | | |
| 山 | — | | — | | — | | | | |
| 文 | — | — | — | — | | | | | |
| 生 | | | — | — | — | — | — | | |
| 入 | | | — | — | — | — | — | | |
| 圓 | | | — | — | — | — | — | | |
| 豊 | | | — | — | — | — | — | | |
| 万 | | | — | — | | — | — | | |
| 堤 | | | — | | — | | — | | |
| 盛 | | | — | | — | | — | | |
| 田 | | | — | — | — | — | | | |
| へ | | | — | — | — | — | | | |
| 上 | | | — | | — | — | | | |
| 器 | | | — | — | | — | | | |
| 工 | | | — | — | | — | | | |
| 大 | | | — | — | — | | | | |
| 佛 | | | — | | — | | | | |
| 𠂉 | | | — | — | | | | | |
| 至 | | | — | | | | | | |
| 至 | | | — | | | | | | |
| 万 | | | — | | | | | | |
| 益 | | | — | | | | | | |
| 井 | | | — | | | | | | |
| 寺 | | | — | | | | | | |
| 臣 | | | — | | | | | | |
| 人 | | | — | | | | | | |
| 生 | | | — | | | | | | |
| 山 | | | — | | | | | | |
| 赤 | | | — | | | | | | |
| 山 | | | — | | | | | | |
| 足 | | | — | | | | | | |
| 長 | | | — | | | | | | |
| 安 | | | — | | | | | | |
| 山 | | | — | | | | | | |
| 家 | | | — | | | | | | |
| 古 | | | — | | | | | | |
| 天 | | | — | | | | | | |
| □ | | | — | | | | | | |
| 魚 | | | — | | | | | | |
| 足 | | | — | | | | | | |
| □ | | | — | | | | | | |
| 足 | | | — | | | | | | |
| 嶋 | | | — | | | | | | |
| 猨 | | | | — | — | — | — | | |
| 太 | | | | — | — | — | — | | |
| 生 | | | | — | — | — | — | | |
| 継 | | | | — | — | — | — | | |
| 廓 | | | | — | — | — | — | | |
| 富 | | | | — | — | — | — | | |
| ㊀ | | | | — | — | — | — | | |
| 成 | | | | — | — | — | — | | |
| 大 | | | | | | | | | |
| 堤 | | | | | | | | | |
| 牧 | | | | | | | | | |
| 大 | | | | | | | | | |
| 大 | | | | | | | | | |
| 大 | | | | | | | | | |
| 赤 | | | | | | | | | |
| 提 | | | | | | | | | |
| 人 | | | | | | | | | |
| 乙 | | | | | | | | | |
| 新 | | | | | | | | | |
| □ | | | | | | | | | |
| □ | | | | | | | | | |
| 赤 | | | | | | | | | |
| 乙 | | | | | | | | | |
| 得 | | | | | | | | | |
| 子 | | | | | | | | | |
| 提 | | | | | | | | | |

| | 1 | 2 | 3 | 4a | 4b | 5 | 6 | 7 | 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 立 | | | | — | | | — | | |
| 又 | | | | — | | | — | | |
| 丁 | | | | — | | | — | | |
| 井 | | | | — | | | — | | |
| っ | | | | — | — | — | | | |
| 廿 | | | | — | — | — | | | |
| 堤 | | | | — | — | — | | | |
| 子 | | | | — | — | — | | | |
| 饒 | | | | — | — | — | | | |
| 小 加 | | | | — | | — | | | |
| 坏 | | | | — | — | | | | |
| 寺 暦 | | | | — | — | | | | |
| 善 | | | | — | — | | | | |
| 奉 | | | | — | — | | | | |
| 田 | | | | — | | | | | |
| 草 厨 | | | | — | | | | | |
| 信 | | | | — | | | | | |
| □ 丈 | | | | — | | | | | |
| 家 | | | | | — | — | — | | |
| 村 | | | | | — | | — | | |
| 堤 | | | | | — | — | | | |
| 生 古 | | | | | — | — | | | |
| 寺 | | | | | — | — | | | |
| 万 | | | | | — | | | | |
| 神 利 | | | | | — | | | | |
| 真 | | | | | — | | | | |
| 酒 守 | | | | | — | | | | |
| □ | | | | | — | | | | |
| 賀 稗 | | | | | — | | | | |
| 万 | | | | | — | | | | |
| 千 満 | | | | | | — | — | | |
| 生 | | | | | | — | — | | |
| 田 十 | | | | | | — | — | | |
| 羊 | | | | | | — | — | | |
| 草 | | | | | | — | — | | |
| 主 | | | | | | — | — | | |
| 家 | | | | | | — | | | |
| 堤 財 | | | | | | — | | | |
| 式 | | | | | | — | | | |
| 原 | | | | | | — | | | |
| 卯 左 | | | | | | — | | | |
| 貞 | | | | | | | — | | |
| 庄 | | | | | | | — | | |
| 万 | | | | | | | — | | |
| 生 田 | | | | | | | — | | |
| 得 | | | | | | | — | | |
| 太 | | | | | | | — | | |
| 家 | | | | | | | — | | |
| 大 | | | | | | | — | | |
| 土 | | | | | | | — | | |
| 有 | | | | | | | — | — | |
| 嶋 | | | | | | | | | |

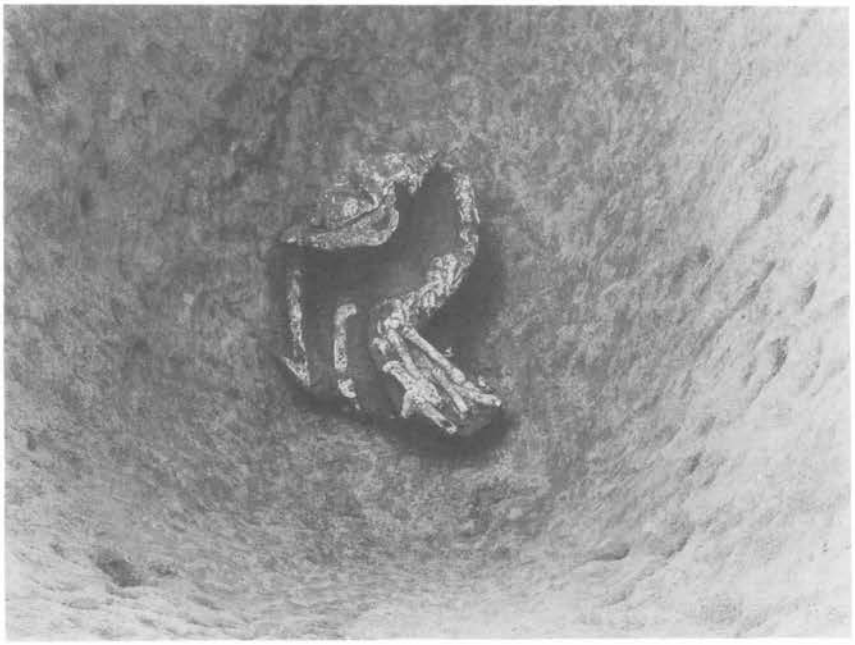
# 第４章　白幡前遺跡出土の動物遺存体

松井　章
奈良国立文化財研究所
埋蔵文化財センター

## 第１節　出土遺物の概要

土坑Ｐ-168からはウマとヒトが、集落内の溝M-21からはウマが出土している。土坑Ｐ-168の発掘時の写真では、底部付近にウマの頭骨と頸椎、そして前肢がつながって出土していることが判別できる(写真図版)。保存条件に恵まれないために、大部分の骨質部は取り上げることが出来なかった。手元に送付されてきた資料には、ウマの歯や骨と、それにヒト大腿骨が含まれていた。ウマの歯は、比較的簡単に個体識別ができ、その結果、土坑内からは最低２頭のウマが埋存したと算定できる。なお、ヒトは大腿骨左右それぞれ１点が同定できた。その大腿骨は、外観から、同一人物のものと考えられることから、最小個体数１人と算定できる。M-21からもウマの歯が２頭分出土している。

以下、遺構ごとにそれぞれの所見を述べる。



Ｐ-168動物遺存体出土状況

## 第２節　土坑Ｐ168出土の動物遺存体

第１号ウマ（第206図）

上顎臼歯列（左６本、右４本）、上顎切歯（３本）、下顎切歯（３本）と歯槽部の残った左右下顎骨などがある。この遺跡から出土した４個体のうちで最も残りがよい。写真に見える土坑の底に横たわっていたウマはこの個体であったろう。切歯は永久歯に生え変わったばかりで、咬合面のエナメル質はほとんど摩耗が見られない。第２、第３前臼歯もまだ生え変わったばかりで、咬合面にはほとんど摩耗がみられない。その後ろには第３乳臼歯が残り、その下では、歯槽の中から第４前臼歯が生え変わろうと成長を続けている。第１、第２後臼歯はすでに咬頭部のエナメル質が摩耗し、エナメル襞を形成している。第３後臼歯はまだ生え出しておらず、歯槽内で成長を続けていたようで、咬合部には全く摩耗が見られない。下顎臼歯列も同様の成長段階である。

ウマの乳歯から永久歯への生え変わりは、他の動物種と同様に年齢によって一定のプロセスをたどる。ウマの歯は生後、2.5才から３才で第１、第２乳臼歯が脱落し、それぞれ、永久歯の第２、第３前臼歯に生え変わる。永久歯は生後半年くらいから第１後臼歯が生えはじめ、14カ月ごろには完了しているという。また、第３乳臼歯は、3.5才から４才の間に脱落し、第４前臼歯に生え変わる。このような条件から、このウマは、第３乳臼歯が存在し、しかも脱落寸前の状態であるので、推定年齢を生後、3.5才頃を中心とした前後１年と考えても矛盾はないだろう。性別について、切歯から前臼歯までが出土しているが、オスの指標である犬歯が見られないことから、このウマはメスであった可能性が強い。

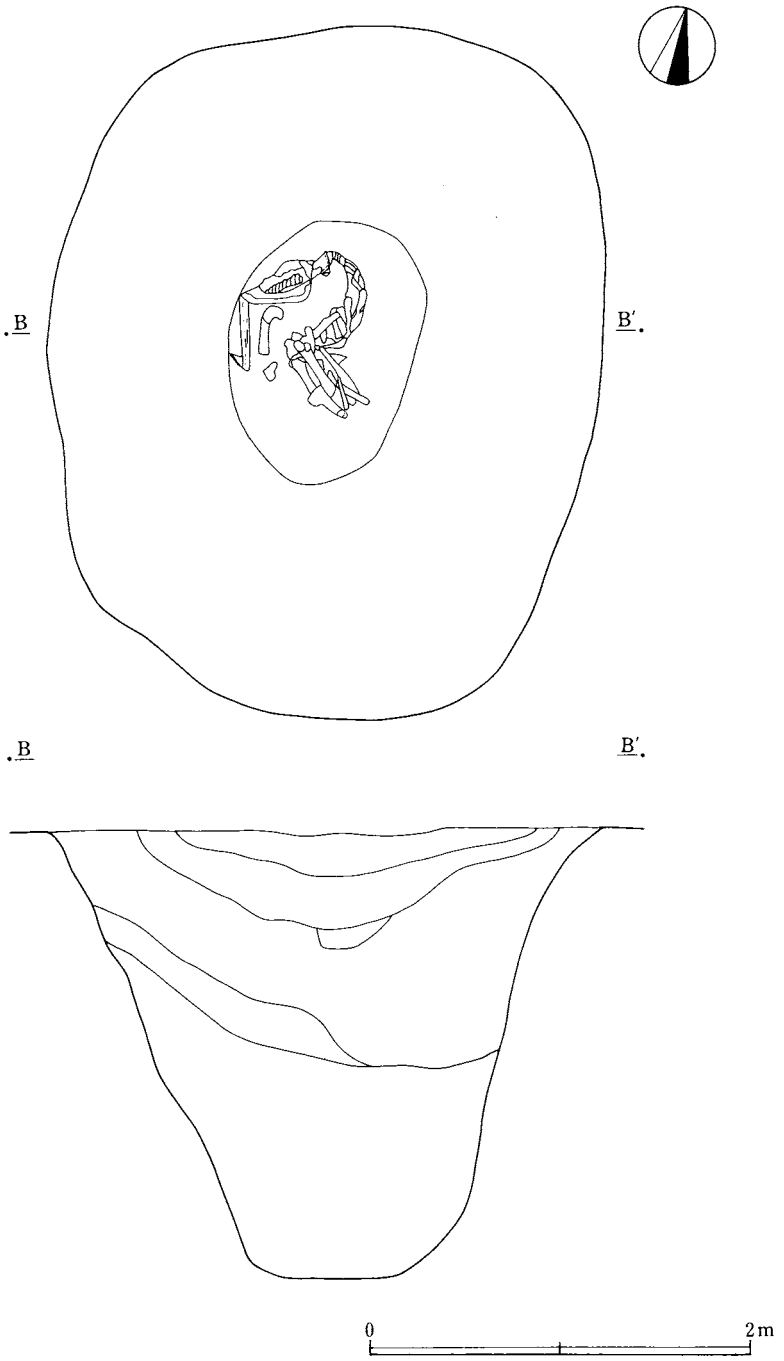
この個体は臼歯が生え揃っていないので、体高推定に有効な臼歯列長の計測が行えなかった。

第２号ウマ（写真）

左上顎臼歯列、左下顎臼歯列と顎骨の左側だけしか採集されていない。それぞれの臼歯の側面のエナメル質にみられる着色状態から、土坑内では歯槽内にあったことが推定できる。上下顎骨は、他の大部分の骨質部と同様に破片となり、原形を復元できる状態では採集されていない。この第２号ウマは、それぞれ臼歯の高さからみて（写真図版２参照）、この遺跡から出土したウマの中で最も年齢が高く、10才前後と推定される。欠損している右側の歯は、復元できなかったエナメル質破片に含まれているだろう。性別については不明である。臼歯列長は、砂の上での復元で、咬合部で148ミリを測り、やはり小型馬の部類に属する。

四肢骨の破片（写真図版３・４）

発掘写真によると、土坑の底部には、ウマの頭部から、椎骨、前肢までが横たわっていたこ




第206図　P168ウマの遺存体出土状況

とがわかり、第1号ウマがこの写真に相当すると考えられる。手元に送付されてきた四肢骨もその特徴から同一個体のものと思われ、この写真の個体のものである可能性が強い。幾つか成長段階を示す部位を紹介すると、以下のようである。まず、上腕骨の近位端の骨端部の化骨化

が完了せず、骨幹部と骨端部とが分離して出土している。また頸椎の椎間板も骨から分離している。中足骨では、遠位端も化骨化が終了している。

以上のような所見から、四肢骨の化骨化の年齢を推定しても、歯の場合での推定年齢、3.5才ころと一致するのである。四肢骨の破片として、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、脛骨、距骨、踵骨、中足骨（左右）、その他に、頭蓋骨の破片、例えば後頭骨などがある。

ヒト（Homo sapience）

大腿骨が左右、各1点出土している。大転子の骨頭部が化骨化を終了していることと、骨の大きさから成人であることがわかるが、性別の判定は出来ない。骨の表面には草の根の圧痕などで荒れており、傷跡などの痕跡を確認することが出来なかった。この他の部位も、同定不能の多くの破片の中に存在するかも知れないが、確認することは出来なかった。大腿骨が左右だけ単独で入れられていたとは考えにくく、やはり、全身がこの土坑内に存在したと考えた方が自然であろう。

## 第3節　溝M021出土の動物遺存体

溝M-21からは、ウマが最小個体数で2頭分出土している。四肢骨は見られない。

第3号ウマ

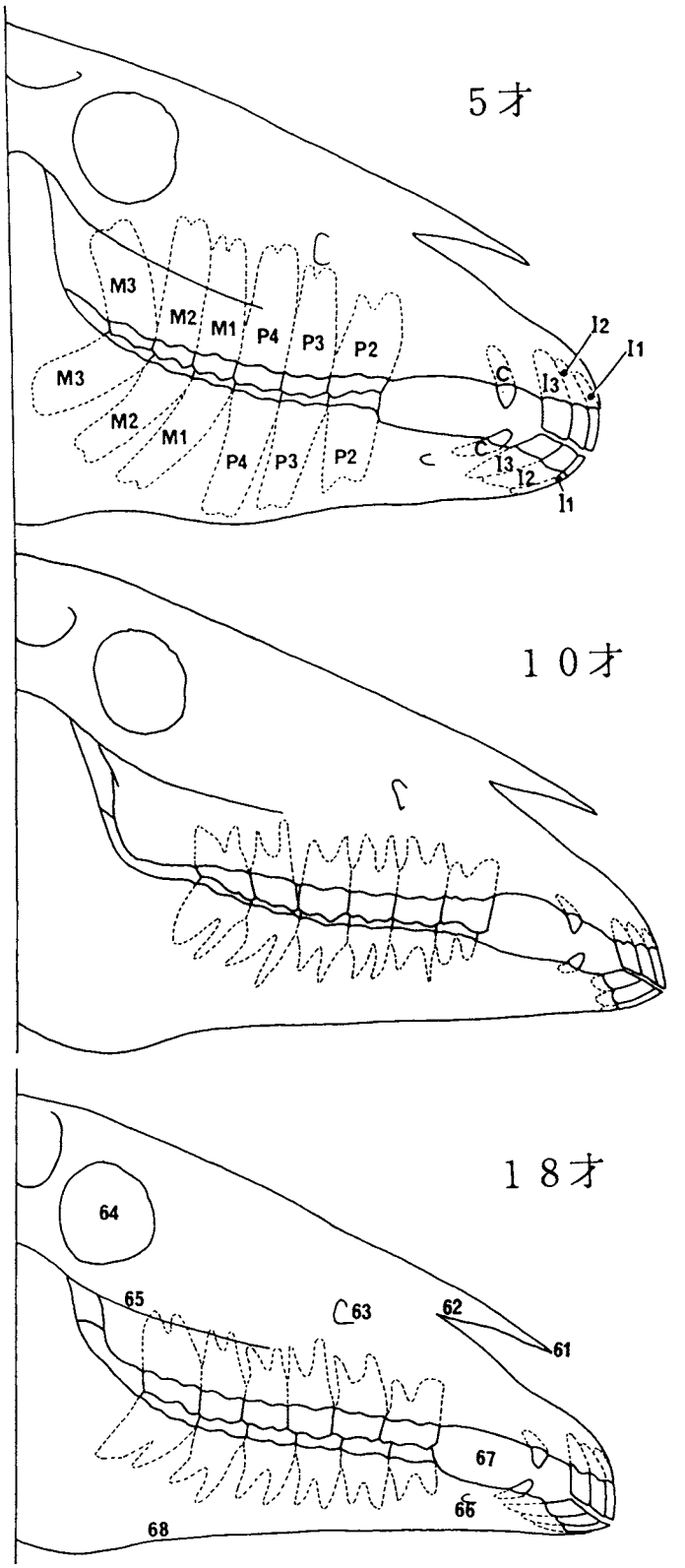
左右それぞれの上顎臼歯と、上顎切歯のうち右側第2、第3、左第1、第2切歯がある。すべて、永久歯に生え変わっている。ウマの年齢を知るために最も一般的に使われているのは、切歯の咬合面の加齢変化である（図2）。切歯の咬耗の進行状態の観察では、中央のセメント質のくぼみが見られるが、この個体では、10才ころから出現する歯髄腔（Dental Star）はまだ見られない段階であるので、5才以上で10才未満のものであろう。犬歯が見られないことから、メスの可能性が強いが、切歯も左右、それぞれ1本ずつ消失しており、犬歯も2本とも消失した可能性が否定できない。

臼歯の成長についても、切歯での年齢推定に、矛盾はなく、付図と比較して、5才段階と10才段階のちょうど中間の状態に位置する。この臼歯を砂に埋めて固定し、臼歯列長を推定復元したところ、約145ミリが得られたが、これは手持ちの与那国ウマの大きさに相当し、たいへん小さな部類に属する。このウマのものと思われる下顎臼歯も採集されているけれども、エナメル質のみになり、土圧でこわれ、復元できない状態である。

第4号ウマ（写真5）

左右それぞれの上顎第1、第2、第3乳臼歯で、その後ろには永久歯の第1、第2後臼歯が

並ぶ。第1、第2後臼歯の咬合面の摩耗は見られず、生える前の段階であることがわかる。したがって、このウマの年齢は、乳歯が3本揃っていて、第1後臼歯が生える前の段階であると見なすことが出来る。ウマの後臼歯が生えてくるのは、かなりの個体差があり、生後7カ月から14カ月であるが、この第4号ウマは、おおよそ、1才未満の幼馬であったことがわかる。




第207図　ウマの臼歯の年齢変化（Silver 1963より）

## 第4節　考　　察

土坑P-168の大きさは、上面で3×3.5メートル、深さは遺構検出面から2.5メートルである。また、底面は平らで、1×1.5メートルの長円形をしている（図遺構断面図と平面図参照）。出土した4個体のウマのうち、第2号、ならびに第3号ウマの臼歯列全長などから、ウマの形質は在来小型馬に近いと考えられる。また、第1号ウマの中足骨の長さは247ミリで、やはり小型馬の範疇に入る。現代の日本の在来馬は、トカラ列島、与那国、宮古、対馬などに分布する小型馬と、木曽ウマなどの中型馬の2系統が存在したと考えられている（林田　1974）。そして、小型馬は、起伏の多い地形で農耕、運搬などに有用で、中型馬は、騎乗用に有用であると言われている。もし、日本の在来馬を小型、中型に分け、系統を異なるものとすることが有効であるとすれば、本遺跡から出土したウマは小型馬に含められ、大変興味深い。古代、および中世のウマは、現代の木曽ウマと同じくらいの、中型馬が多かったと考えられてきた。実際、筆者の携わった8世紀の平城京、大阪府城山遺跡などの資料などでも中型馬ばかりであった（松井1984、87）。この遺跡と同じ平安時代の関東地方においても、神奈川県茅ヶ崎市西方A遺跡から出土したウマは、中型馬の範疇に含められるものであった(松井　1988)。したがって単純に関東地方では小型馬が多く、畿内では中型馬が多いということも言えない。この千葉県での小型馬の資料が、今後どのような時代的、地理的広がりを示すのか興味深いところである。

同定できた種類および、部位は以上に述べただけであるが、その他にも多くの骨片が採集されており、土坑の大きさから考えても、それぞれウマ、ヒトの全身が存在した可能性が強いだろう。この土坑は、発掘時の所見によると、掘られてから比較的短時間で埋められたということであるので、死体の始末のために掘られ、埋め戻されたものであろう。土坑の断面図からは、ウマ2頭、人間1人を投棄、または埋葬した後、時間の経過と共に有機質が腐敗して生じた凹みに、第1層、第2層が堆積したと見なされよう。この土坑の断面に見られる貝層は、最初に覆土がくぼんだときに、貝を捨てたものであろう。貝を食料として死者に供えた可能性も否定できないけれども、明確な証拠がないので、投棄としておく。

この土坑は平安時代、9世紀のものである。少なくとも2頭の若いウマや、1人の人間がまとめて捨てられる（埋葬される）のは、事故または疫病と考えるよりも、なんらかの戦乱に伴う犠牲者と見てよいだろう。中・近世の戦乱の多かった時代ならいざしらず、この地方にも、なんらかの抗争が存在し、犠牲者はウマとともにこの大きな土坑に埋められたのであろう。供献と考えられる遺物は出土しておらず、死亡の後にすみやかに埋められたものと考えられる。

（注）　人骨の同定については、京都大学理学部人類学教室、片山一道氏の教示を受けた。

[参考文献]

林田　重幸　1974　「日本在来馬の源流」『日本古代文化の探求　－馬』　森浩一編　社会思想社　pp.215-262。

松井　章　1984　「右京八条一坊十一坪出土の動物遺存体」　『平城京右京八条一坊十一坪発掘調査報告書』　奈良国立文化財研究所　pp.54-56。

松井　章　1987　「城山遺跡出土の動物遺存体」　『城山（その２）近畿自動車道天理～吹田線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書』　大阪文化財センター　pp.227-232。

松井　章　1988　「西方Ａ遺跡出土の動物遺存体の概要」　『神奈川県茅ヶ崎市下寺尾西方Ａ遺跡』　茅ヶ崎市教育委員会　pp.126-134。

Silver, I.A.　1963　'The Aging of Domestic Animals 'In Brothwell and Higgs eds. "Science in Archaeology" Basic Books, Inc. New York. pp.250-268.

Goody, Peter C.　1976　"Horse Anatomy" Aallen, London. Macgregor-Nirrus, P. and Starkey, J.eds　1979　"The Book of then Horse" Exter Books, New York.

## 白幡前遺跡出土動物遺存体図版

図版 1

a；1号ウマ　上顎切歯　右$I^1$、左$I^2$、$I^3$

b；1号ウマ　上顎切歯　右$I_1$、$I_2$、$I_3$

c；1号ウマ　上顎臼歯　右$PM^4$、$M^1$、$M^2$、$M^3$

d；1号ウマ　上顎臼歯　左$PM^2$、$PM^3$、$PM^4$、$M^1$、$M^2$、$M^3$

e；1号ウマ　下顎臼歯　右$PM_2$、$PM_3$、$m_3$、$PM_4$、$M_1$、$M_2$、$M_3$

f；1号ウマ　下顎臼歯　左$PM_2$、$PM_3$、$m_3$、$PM_4$、$M_1$、$M_2$、$M_3$

図版 2

a；2号ウマ　上顎臼歯　左$PM^3$、$PM^4$、$M^1$、$M^2$、$M^3$

b；2号ウマ　下顎臼歯　左$PM_3$、$PM_4$、$M_1$、$M_2$、$M_3$

c；3号ウマ　上顎臼歯　右$PM^2$、$PM^3$、$PM^4$、$M^1$、$M^2$、$M^3$

d；3号ウマ　上顎臼歯　左$PM^2$、$PM^3$、$PM^4$、$M^1$、$M^2$、$M^3$

図版 3

a；ヒ　ト　大腿骨　右

b；ヒ　ト　大腿骨　左

c；ヒ　ト　大腿骨　左

d；ウ　マ　踵　骨　左

e；ウ　マ　尺　骨　右

f；ウ　マ　中手または中足骨

g；ウ　マ　中足骨

h；ウ　マ　中足骨

i；ウ　マ　中足骨

図版 4

a；ウ　マ　上腕骨　右

b；ウ　マ　橈　骨　右

c；ウ　マ　脛　骨　右

d；ウ　マ　距　骨

e；ウ　マ　椎　骨

f；ウ　マ　大腿骨　右

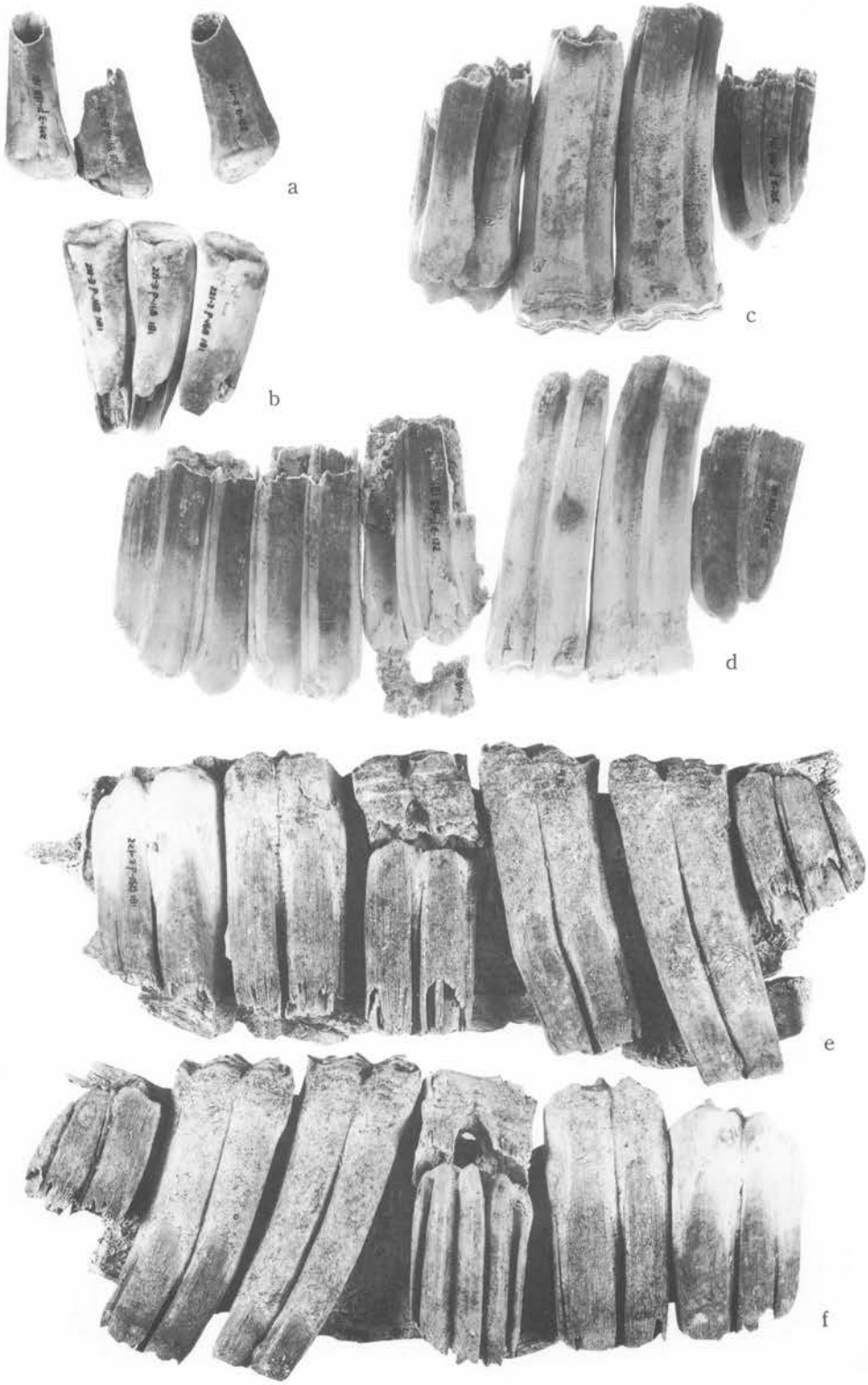
g；ウ　マ　中手または中足骨

図版 5

a；第4号ウマ　上顎臼歯列　右（外側）$m^1$、$m^2$、$m^3$、$M^1$、$M^2$（左から）

b；第4号ウマ　上顎臼歯列　右（内側）$m^1$、$m^2$、$m^3$、$M^1$、$M^2$（左から）

図版 1



図版 2

a

b

c

d

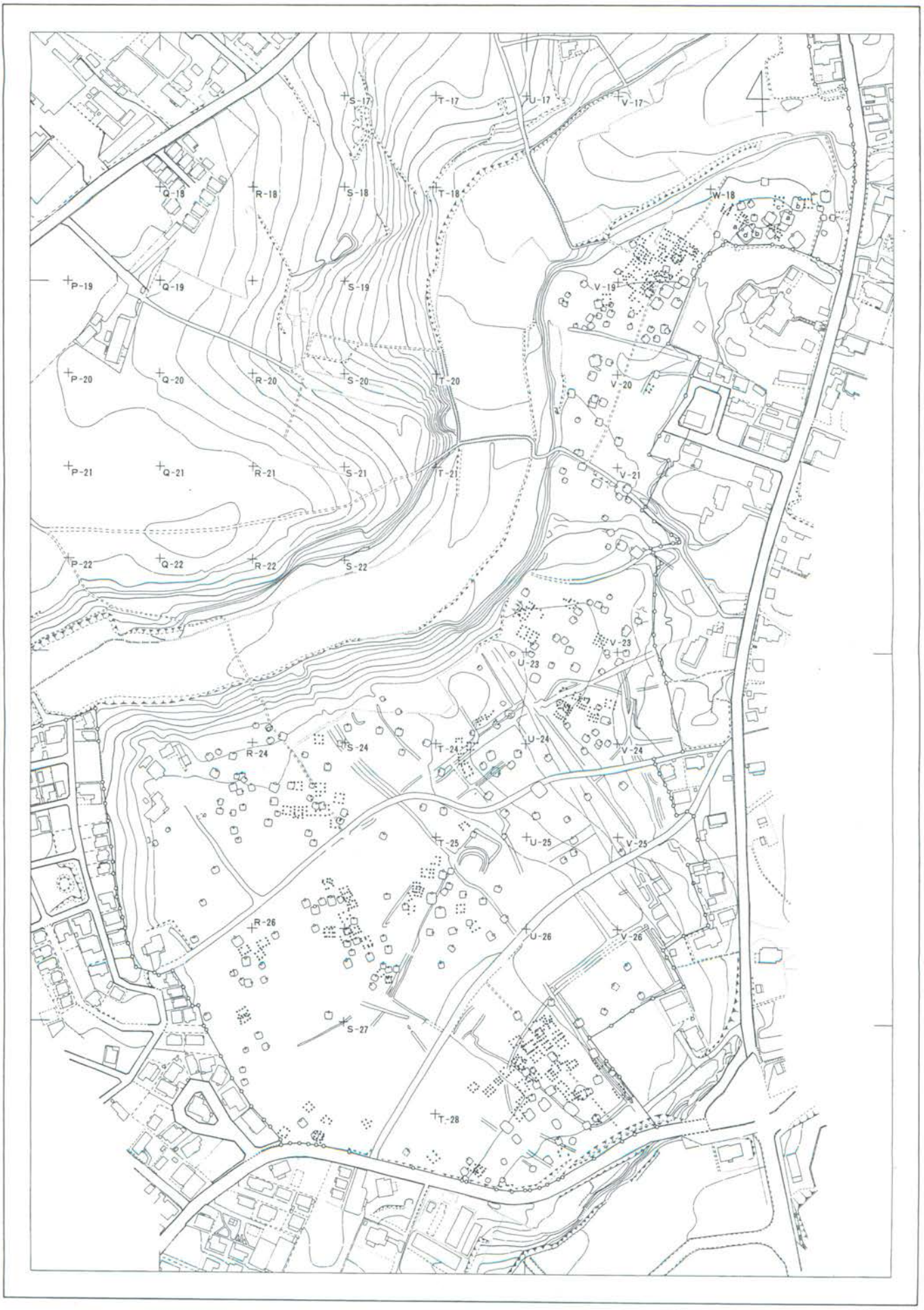
図版 3

図版 4

図版 5

a

b




付図1　白幡前遺跡遺構配置図

0　100m

付図2　奈良・平安時代集落の構成

千葉県文化財センター調査報告第188集

# 八千代市白幡前遺跡

—萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ—

平成3年3月25日　印刷
平成3年3月30日　発行

発　行　住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
東京都新宿区新宿4丁目3番17号

編　集　財団法人 千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡無番地

印　刷　株式会社 弘文社
千葉県市川市市川南2丁目7番2号

千葉県文化財センター調査報告第188集

# 八千代市白幡前遺跡

## —萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ—

## 図　面　編

1991

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
財団法人　千葉県文化財センター

# 八千代市白幡前遺跡

—萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ—

## 図　面　編

1991

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部

財団法人　千葉県文化財センター

# 歴史時代図面編目次


ＰＬ．1　Ｄ001・Ｄ171実測図
ＰＬ．2　Ｄ172Ａ実測図
ＰＬ．3　Ｄ172Ｂ・Ｄ172Ｃ実測図
ＰＬ．4　Ｄ176・Ｄ177実測図
ＰＬ．5　Ｄ178・Ｄ179Ａ・Ｂ実測図
ＰＬ．6　Ｄ180・Ｄ181Ａ実測図
ＰＬ．7　Ｄ181Ｂ・Ｄ181Ｃ実測図
ＰＬ．8　Ｄ185実測図
ＰＬ．9　Ｄ186・Ｄ238実測図
ＰＬ．10　Ｄ239・Ｄ240実測図
ＰＬ．11　Ｄ241・Ｄ242実測図
ＰＬ．12　Ｈ075・Ｈ076実測図
ＰＬ．13　Ｈ078・Ｈ079・Ｈ103・Ｈ104実測図
ＰＬ．14　Ｈ105・Ｈ106・Ｈ107実測図
ＰＬ．15　Ｐ001・Ｐ002・Ｐ168実測図
ＰＬ．16　歴史時代１群Ａ遺物実測図１
ＰＬ．17　歴史時代１群Ａ遺物実測図２
ＰＬ．18　歴史時代１群Ａ遺物実測図３
ＰＬ．19　歴史時代１群Ａ遺物実測図４
ＰＬ．20　歴史時代１群Ａ遺物実測図５
ＰＬ．21　歴史時代１群Ａ遺物実測図６
ＰＬ．22　歴史時代１群Ａ遺物実測図７
ＰＬ．23　歴史時代１群Ａ遺物実測図８
ＰＬ．24　歴史時代１群Ａ遺物実測図９
ＰＬ．25　歴史時代１群Ａ遺物実測図10
ＰＬ．26　歴史時代１群Ａ遺物実測図11
ＰＬ．27　歴史時代１群Ａ遺物実測図12
ＰＬ．28　歴史時代１群Ａ遺物実測図13
ＰＬ．29　歴史時代１群Ａ遺物実測図14
ＰＬ．30　歴史時代１群Ａ遺物実測図15
ＰＬ．31　歴史時代１群Ａ遺物実測図16
ＰＬ．32　歴史時代１群Ａ遺物実測図17
ＰＬ．33　歴史時代１群Ａ遺物実測図18
ＰＬ．34　歴史時代１群Ａ遺物実測図19
ＰＬ．35　歴史時代１群Ａ遺物実測図20
ＰＬ．36　歴史時代１群Ａ鉄製品実測図１
ＰＬ．37　歴史時代１群Ａ鉄製品実測図２
ＰＬ．38　歴史時代１群Ａ文字資料抜萃１
ＰＬ．39　歴史時代１群Ａ文字資料抜萃２
ＰＬ．40　Ｄ144・Ｄ145実測図
ＰＬ．41　Ｄ146・Ｄ147実測図
ＰＬ．42　Ｄ148・Ｄ149実測図
ＰＬ．43　Ｄ150・Ｄ151実測図
ＰＬ．44　Ｄ152・Ｄ153実測図
ＰＬ．45　Ｄ154・Ｄ155実測図
ＰＬ．46　Ｄ156・Ｄ157実測図
ＰＬ．47　Ｄ158・Ｄ159実測図
ＰＬ．48　Ｄ160・Ｄ161実測図
ＰＬ．49　Ｄ162・Ｄ163実測図
ＰＬ．50　Ｄ164実測図
ＰＬ．51　Ｄ165実測図
ＰＬ．52　Ｄ166・Ｄ167実測図
ＰＬ．53　Ｄ168・Ｄ170実測図
ＰＬ．54　Ｄ173・Ｄ174実測図
ＰＬ．55　Ｄ175Ａ・Ｂ・Ｄ182実測図
ＰＬ．56　Ｄ183・Ｄ187実測図
ＰＬ．57　Ｄ188・Ｄ189実測図
ＰＬ．58　Ｄ192・Ｄ193実測図
ＰＬ．59　Ｄ194・Ｄ195実測図
ＰＬ．60　Ｄ196・Ｄ199実測図
ＰＬ．61　Ｄ200・Ｄ209・Ｄ211実測図
ＰＬ．62　Ｄ214・Ｄ215・Ｄ216実測図
ＰＬ．63　Ｄ219・Ｄ222・Ｄ256・Ｄ257実測図
ＰＬ．64　Ｄ264・Ｄ267実測図
ＰＬ．65　Ｄ268・Ｄ287実測図
ＰＬ．66　Ｈ081・Ｈ084実測図
ＰＬ．67　Ｈ080・Ｈ082・Ｈ083実測図
ＰＬ．68　Ｈ092・Ｈ093・Ｈ099実測図
ＰＬ．69　Ｈ094～Ｈ098実測図
ＰＬ．70　Ｈ108・Ｈ109・Ｈ110実測図
ＰＬ．71　Ｈ111・Ｈ112・Ｈ113実測図
ＰＬ．72　Ｈ114・Ｈ117・Ｈ118実測図
ＰＬ．73　Ｈ115・Ｈ116・Ｈ119・Ｈ120実測図
ＰＬ．74　Ｈ145～Ｈ150実測図

ＰＬ.75　Ｈ145～Ｈ150土層断面図
ＰＬ.76　Ｐ038・Ｐ042実測図
ＰＬ.77　Ｐ043・Ｐ129・Ｐ138実測図
ＰＬ.78　歴史時代１群Ｂ遺物実測図１
ＰＬ.79　歴史時代１群Ｂ遺物実測図２
ＰＬ.80　歴史時代１群Ｂ遺物実測図３
ＰＬ.81　歴史時代１群Ｂ遺物実測図４
ＰＬ.82　歴史時代１群Ｂ遺物実測図５
ＰＬ.83　歴史時代１群Ｂ遺物実測図６
ＰＬ.84　歴史時代１群Ｂ遺物実測図７
ＰＬ.85　歴史時代１群Ｂ遺物実測図８
ＰＬ.86　歴史時代１群Ｂ遺物実測図９
ＰＬ.87　歴史時代１群Ｂ遺物実測図10
ＰＬ.88　歴史時代１群Ｂ遺物実測図11
ＰＬ.89　歴史時代１群Ｂ遺物実測図12
ＰＬ.90　歴史時代１群Ｂ遺物実測図13
ＰＬ.91　歴史時代１群Ｂ遺物実測図14
ＰＬ.92　歴史時代１群Ｂ遺物実測図15
ＰＬ.93　歴史時代１群Ｂ遺物実測図16
ＰＬ.94　歴史時代１群Ｂ遺物実測図17
ＰＬ.95　歴史時代１群Ｂ遺物実測図18
ＰＬ.96　歴史時代１群Ｂ遺物実測図19
ＰＬ.97　歴史時代１群Ｂ遺物実測図20
ＰＬ.98　歴史時代１群Ｂ遺物実測図21
ＰＬ.99　歴史時代１群Ｂ遺物実測図22
ＰＬ.100　歴史時代１群Ｂ遺物実測図23
ＰＬ.101　歴史時代１群Ｂ遺物実測図24
ＰＬ.102　歴史時代１群Ｂ遺物実測図25
ＰＬ.103　歴史時代１群Ｂ遺物実測図26
ＰＬ.104　歴史時代１群Ｂ遺物実測図27
ＰＬ.105　歴史時代１群Ｂ遺物実測図28
ＰＬ.106　歴史時代１群Ｂ遺物実測図29
ＰＬ.107　歴史時代１群Ｂ遺物実測図30
ＰＬ.108　歴史時代１群Ｂ遺物実測図31
ＰＬ.109　歴史時代１群Ｂ遺物実測図32
ＰＬ.110　歴史時代１群Ｂ遺物実測図33
ＰＬ.111　歴史時代１群Ｂ遺物実測図34
ＰＬ.112　歴史時代１群Ｂ遺物実測図35
ＰＬ.113　歴史時代１群Ｂ遺物実測図36
ＰＬ.114　歴史時代１群Ｂ遺物実測図37
ＰＬ.115　歴史時代１群Ｂ鉄製品実測図１
ＰＬ.116　歴史時代１群Ｂ鉄製品実測図２
ＰＬ.117　歴史時代１群Ｂ鉄製品実測図３
ＰＬ.118　歴史時代１群Ｂ鉄製品実測図４
ＰＬ.119　瓦塔実測図１
ＰＬ.120　瓦塔実測図２
ＰＬ.121　瓦塔実測図及び瓦塔出土位置図
ＰＬ.122　歴史時代１群Ｂ文字資料抜萃１
ＰＬ.123　歴史時代１群Ｂ文字資料抜萃２
ＰＬ.124　Ｄ047・Ｄ118・Ｄ119実測図
ＰＬ.125　Ｄ120・Ｄ121実測図
ＰＬ.126　Ｄ122・Ｄ123実測図
ＰＬ.127　Ｄ124・Ｄ126実測図
ＰＬ.128　Ｄ128・Ｄ129実測図
ＰＬ.129　Ｄ131・Ｄ132実測図
ＰＬ.130　Ｄ133・Ｄ134実測図
ＰＬ.131　Ｄ136・Ｄ137・Ｄ138実測図
ＰＬ.132　Ｄ139・Ｄ140Ａ・Ｂ実測図
ＰＬ.133　Ｄ141・Ｄ142実測図
ＰＬ.134　Ｄ143・Ｄ190・Ｄ210実測図
ＰＬ.135　Ｄ212・Ｄ217・Ｄ258実測図
ＰＬ.136　Ｄ259・Ｄ260・Ｄ261実測図
ＰＬ.137　Ｄ262・Ｄ263実測図
ＰＬ.138　Ｈ060・Ｈ061・Ｈ062実測図
ＰＬ.139　Ｈ063・Ｈ064・Ｈ065・Ｈ066実測図
ＰＬ.140　Ｈ067・Ｈ068・Ｈ069実測図
ＰＬ.141　Ｈ085・Ｈ086実測図
ＰＬ.142　Ｈ087・Ｈ088・Ｈ089・Ｈ100実測図
ＰＬ.143　Ｈ101・Ｈ138Ａ・Ｂ実測図
ＰＬ.144　Ｐ133・Ｐ135実測図
ＰＬ.145　歴史時代２群Ａ遺物実測図１
ＰＬ.146　歴史時代２群Ａ遺物実測図２
ＰＬ.147　歴史時代２群Ａ遺物実測図３
ＰＬ.148　歴史時代２群Ａ遺物実測図４
ＰＬ.149　歴史時代２群Ａ遺物実測図５
ＰＬ.150　歴史時代２群Ａ遺物実測図６
ＰＬ.151　歴史時代２群Ａ遺物実測図７
ＰＬ.152　歴史時代２群Ａ遺物実測図８

ＰＬ.153　歴史時代２群Ａ遺物実測図９
ＰＬ.154　歴史時代２群Ａ遺物実測図10
ＰＬ.155　歴史時代２群Ａ遺物実測図11
ＰＬ.156　歴史時代２群Ａ遺物実測図12
ＰＬ.157　歴史時代２群Ａ遺物実測図13
ＰＬ.158　歴史時代２群Ａ遺物実測図14
ＰＬ.159　歴史時代２群Ａ遺物実測図15
ＰＬ.160　歴史時代２群Ａ遺物実測図16・鉄製品実測図
ＰＬ.161　瓦塔出土位置図
ＰＬ.162　瓦塔実測図１
ＰＬ.163　瓦塔実測図２
ＰＬ.164　瓦塔実測図３
ＰＬ.165　瓦塔実測図４
ＰＬ.166　瓦塔実測図５
ＰＬ.167　瓦塔実測図６
ＰＬ.168　瓦塔実測図７
ＰＬ.169　歴史時代２群Ａ文字資料抜萃
ＰＬ.170　Ｄ039・Ｄ040実測図
ＰＬ.171　Ｄ041・Ｄ042実測図
ＰＬ.172　Ｄ043・Ｄ224実測図
ＰＬ.173　Ｄ044・Ｄ045実測図
ＰＬ.174　Ｄ046・Ｄ048実測図
ＰＬ.175　Ｄ049・Ｄ050実測図
ＰＬ.176　Ｄ051・Ｄ052実測図
ＰＬ.177　Ｄ054・Ｄ055実測図
ＰＬ.178　Ｄ057・Ｄ058実測図
ＰＬ.179　Ｄ062・Ｄ108実測図
ＰＬ.180　Ｄ109・Ｄ110実測図
ＰＬ.181　Ｄ111・Ｄ112・Ｄ114実測図
ＰＬ.182　Ｄ115・Ｄ116実測図
ＰＬ.183　Ｄ125・Ｄ191・Ｄ198実測図
ＰＬ.184　Ｈ017・Ｈ018実測図
ＰＬ.185　Ｈ019・Ｈ022・Ｈ074実測図
ＰＬ.186　Ｈ102Ａ・Ｂ実測図
ＰＬ.187　歴史時代２群Ｂ遺物実測図１
ＰＬ.188　歴史時代２群Ｂ遺物実測図２
ＰＬ.189　歴史時代２群Ｂ遺物実測図３
ＰＬ.190　歴史時代２群Ｂ遺物実測図４
ＰＬ.191　歴史時代２群Ｂ遺物実測図５
ＰＬ.192　歴史時代２群Ｂ遺物実測図６
ＰＬ.193　歴史時代２群Ｂ遺物実測図７
ＰＬ.194　歴史時代２群Ｂ遺物実測図８
ＰＬ.195　歴史時代２群Ｂ遺物実測図９
ＰＬ.196　歴史時代２群Ｂ遺物実測図10
ＰＬ.197　歴史時代２群Ｂ遺物実測図11
ＰＬ.198　歴史時代２群Ｂ遺物実測図12
ＰＬ.199　歴史時代２群Ｂ遺物実測図13
ＰＬ.200　歴史時代２群Ｂ遺物実測図14
ＰＬ.201　歴史時代２群Ｂ遺物実測図15
ＰＬ.202　歴史時代２群Ｂ遺物実測図16・鉄製品実測図
ＰＬ.203　歴史時代２群Ｂ文字資料抜萃
ＰＬ.204　Ｄ021・Ｄ022実測図
ＰＬ.205　Ｄ023・Ｄ024実測図
ＰＬ.206　Ｄ027・Ｄ028実測図
ＰＬ.207　Ｄ029・Ｄ030実測図
ＰＬ.208　Ｄ031・Ｄ032実測図
ＰＬ.209　Ｄ033・Ｄ034・Ｄ035実測図
ＰＬ.210　Ｄ036・Ｄ037実測図
ＰＬ.211　Ｄ038・Ｄ053実測図
ＰＬ.212　Ｄ067・Ｄ201実測図
ＰＬ.213　Ｄ202・Ｄ203・Ｄ204実測図
ＰＬ.214　Ｄ205・Ｄ206実測図
ＰＬ.215　Ｄ207・Ｄ208実測図
ＰＬ.216　Ｄ218・Ｄ272実測図
ＰＬ.217　Ｄ273・Ｄ275実測図
ＰＬ.218　Ｄ276・Ｄ277・Ｄ278実測図
ＰＬ.219　Ｄ279・Ｄ280実測図
ＰＬ.220　Ｄ281・Ｄ282・Ｄ283・Ｄ284実測図
ＰＬ.221　Ｄ285・Ｈ008実測図
ＰＬ.222　Ｈ009・Ｈ010・Ｈ011実測図
ＰＬ.223　Ｈ015・Ｈ016・Ｈ020実測図
ＰＬ.224　Ｈ021・Ｈ071実測図
ＰＬ.225　Ｈ072・Ｈ073実測図
ＰＬ.226　Ｐ012・Ｐ015実測図
ＰＬ.227　歴史時代２群Ｃ遺物実測図１
ＰＬ.228　歴史時代２群Ｃ遺物実測図２

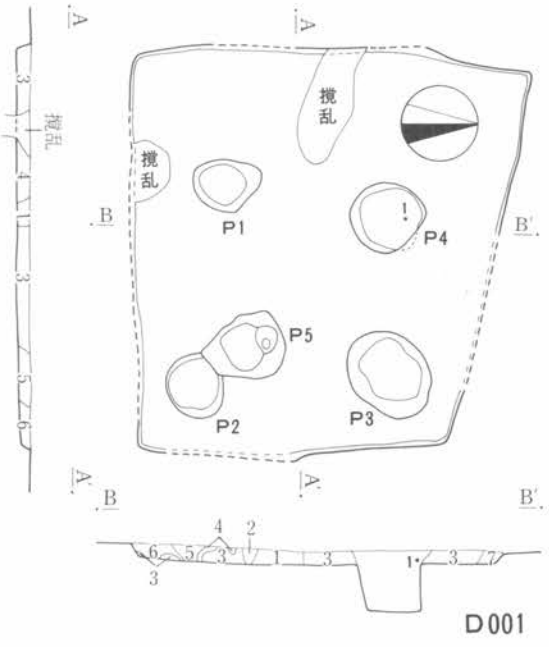
PL.229　歴史時代2群C遺物実測図3
PL.230　歴史時代2群C遺物実測図4
PL.231　歴史時代2群C遺物実測図5
PL.232　歴史時代2群C遺物実測図6
PL.233　歴史時代2群C遺物実測図7
PL.234　歴史時代2群C遺物実測図8
PL.235　歴史時代2群C遺物実測図9
PL.236　歴史時代2群C遺物実測図10
PL.237　歴史時代2群C遺物実測図11
PL.238　歴史時代2群C遺物実測図12
PL.239　歴史時代2群C遺物実測図13
PL.240　歴史時代2群C遺物実測図14
PL.241　歴史時代2群C遺物実測図15
PL.242　歴史時代2群C遺物実測図16
PL.243　歴史時代2群C遺物実測図17
PL.244　歴史時代2群C遺物実測図18
PL.245　歴史時代2群C遺物実測図19
PL.246　歴史時代2群C遺物実測図20
PL.247　歴史時代2群C遺物実測図21
PL.248　歴史時代2群C遺物実測図22
PL.249　歴史時代2群C遺物実測図23
PL.250　歴史時代2群C鉄製品実測図1
PL.251　歴史時代2群C鉄製品実測図2
PL.252　歴史時代2群C文字資料抜萃1
PL.253　歴史時代2群C文字資料抜萃2
PL.254　D061・D068実測図
PL.255　D069・D070実測図
PL.256　D075・D243実測図
PL.257　D244・D245実測図
PL.258　D246・D247実測図
PL.259　D248・D249実測図
PL.260　D250・D251実測図
PL.261　D252・D253実測図
PL.262　D254・D255実測図
PL.263　H130・H131・H132実測図
PL.264　H133・H134・H135実測図
PL.265　H136・H137・P019実測図
PL.266　歴史時代2群D遺物実測図1
PL.267　歴史時代2群D遺物実測図2
PL.268　歴史時代2群D遺物実測図3
PL.269　歴史時代2群D遺物実測図4
PL.270　歴史時代2群D遺物実測図5
PL.271　歴史時代2群D遺物実測図6
PL.272　歴史時代2群D遺物実測図7
PL.273　歴史時代2群D遺物実測図8
PL.274　歴史時代2群D遺物実測図9
PL.275　歴史時代2群D鉄製品実測図
PL.276　歴史時代2群D文字資料抜萃
PL.277　D010・D025実測図
PL.278　D026・D072実測図
PL.279　D073・D074実測図
PL.280　D076・D077実測図
PL.281　D078・D079実測図
PL.282　D080・D081実測図
PL.283　D082・D083実測図
PL.284　D084・D085実測図
PL.285　D086・D087実測図
PL.286　D088・D089実測図
PL.287　D090・D091実測図
PL.288　H023A・B・H033A・B実測図
PL.289　H034・H035実測図
PL.290　H051～H054実測図
PL.291　H055・H127・H128・P016実測図
PL.292　歴史時代2群E遺物実測図1
PL.293　歴史時代2群E遺物実測図2
PL.294　歴史時代2群E遺物実測図3
PL.295　歴史時代2群E遺物実測図4
PL.296　歴史時代2群E遺物実測図5
PL.297　歴史時代2群E遺物実測図6
PL.298　歴史時代2群E遺物実測図7
PL.299　歴史時代2群E遺物実測図8
PL.300　歴史時代2群E遺物実測図9
PL.301　歴史時代2群E遺物実測図10
PL.302　歴史時代2群E遺物実測図11
PL.303　歴史時代2群E遺物実測図12
PL.304　歴史時代2群E遺物実測図13
PL.305　歴史時代2群E遺物実測図14
PL.306　歴史時代2群E鉄製品実測図

ＰＬ.307　歴史時代２群Ｅ文字資料抜萃
ＰＬ.308　Ｄ002・Ｄ003実測図
ＰＬ.309　Ｄ004・Ｄ005実測図
ＰＬ.310　Ｄ006・Ｄ007実測図
ＰＬ.311　Ｄ008・Ｄ009実測図
ＰＬ.312　Ｄ011Ａ・Ｄ011Ｂ実測図
ＰＬ.313　Ｄ012・Ｄ013Ａ・Ｄ013Ｂ実測図
ＰＬ.314　Ｄ014・Ｄ015実測図
ＰＬ.315　Ｄ016・Ｄ017実測図
ＰＬ.316　Ｄ018・Ｄ019Ａ実測図
ＰＬ.317　Ｄ019Ｂ・Ｄ020実測図
ＰＬ.318　Ｈ001・Ｈ002・Ｈ003実測図
ＰＬ.319　Ｈ004・Ｈ005・Ｈ006実測図
ＰＬ.320　Ｈ007・Ｈ012実測図
ＰＬ.321　Ｈ013・Ｈ014実測図
ＰＬ.322　Ｈ140・Ｐ004実測図
ＰＬ.323　歴史時代２群Ｆ遺物実測図１
ＰＬ.324　歴史時代２群Ｆ遺物実測図２
ＰＬ.325　歴史時代２群Ｆ遺物実測図３
ＰＬ.326　歴史時代２群Ｆ遺物実測図４
ＰＬ.327　歴史時代２群Ｆ遺物実測図５
ＰＬ.328　歴史時代２群Ｆ遺物実測図６
ＰＬ.329　歴史時代２群Ｆ遺物実測図７
ＰＬ.330　歴史時代２群Ｆ遺物実測図８
ＰＬ.331　歴史時代２群Ｆ遺物実測図９
ＰＬ.332　歴史時代２群Ｆ遺物実測図10
ＰＬ.333　歴史時代２群Ｆ遺物実測図11
ＰＬ.334　歴史時代２群Ｆ遺物実測図12
ＰＬ.335　歴史時代２群Ｆ遺物実測図13
ＰＬ.336　歴史時代２群Ｆ遺物実測図14
ＰＬ.337　歴史時代２群Ｆ遺物実測図15
ＰＬ.338　歴史時代２群Ｆ鉄製品実測図１
ＰＬ.339　歴史時代２群Ｆ鉄製品実測図２・文字資料抜萃
ＰＬ.340　Ｄ059・Ｄ060実測図
ＰＬ.341　Ｄ063・Ｄ064・Ｄ065実測図
ＰＬ.342　Ｄ066・Ｄ071・Ｄ094実測図
ＰＬ.343　Ｄ096・Ｄ100実測図
ＰＬ.344　Ｄ101・Ｄ102実測図
ＰＬ.345　Ｄ103・Ｄ104実測図
ＰＬ.346　Ｄ105・Ｄ106実測図
ＰＬ,347　Ｄ107・Ｄ221実測図
ＰＬ.348　Ｄ226・Ｄ227実測図
ＰＬ.349　Ｄ233実測図
ＰＬ.350　Ｄ234実測図
ＰＬ.351　Ｄ235・Ｄ236実測図
ＰＬ.352　Ｄ228・Ｄ237実測図
ＰＬ.353　Ｄ270・Ｄ271実測図
ＰＬ.354　Ｈ024・Ｈ025実測図
ＰＬ.355　Ｈ026・Ｈ027・Ｈ028実測図
ＰＬ.356　Ｈ029・Ｈ030実測図
ＰＬ.357　Ｈ031・Ｈ032実測図
ＰＬ.358　Ｈ036・Ｈ037・Ｈ038実測図
ＰＬ.359　Ｈ039・Ｈ040・Ｈ041・Ｈ042実測図
ＰＬ.360　Ｈ043・Ｈ044・Ｈ045実測図
ＰＬ.361　Ｈ046・Ｈ047・Ｈ048実測図
ＰＬ.362　Ｈ049・Ｈ050実測図
ＰＬ.363　Ｈ056・Ｈ057実測図
ＰＬ.364　Ｈ058・Ｈ059・Ｈ121実測図
ＰＬ.365　Ｈ122・Ｈ123・Ｈ124・Ｈ125実測図
ＰＬ.366　Ｈ126・Ｈ139実測図
ＰＬ.367　Ｈ141・Ｈ142実測図
ＰＬ.368　Ｈ143・Ｈ144・Ｐ031実測図
ＰＬ.369　歴史時代３群遺物実測図１
ＰＬ.370　歴史時代３群遺物実測図２
ＰＬ.371　歴史時代３群遺物実測図３
ＰＬ.372　歴史時代３群遺物実測図４
ＰＬ.373　歴史時代３群遺物実測図５
ＰＬ.374　歴史時代３群遺物実測図６
ＰＬ.375　歴史時代３群遺物実測図７
ＰＬ.376　歴史時代３群遺物実測図８
ＰＬ.377　歴史時代３群遺物実測図９
ＰＬ.378　歴史時代３群遺物実測図10
ＰＬ.379　歴史時代３群遺物実測図11
ＰＬ.380　歴史時代３群遺物実測図12
ＰＬ.381　歴史時代３群遺物実測図13
ＰＬ.382　歴史時代３群遺物実測図14
ＰＬ.383　歴史時代３群遺物実測図15

ＰＬ.384　歴史時代３群遺物実測図16
ＰＬ.385　歴史時代３群遺物実測図17
ＰＬ.386　歴史時代３群鉄製品実測図１
ＰＬ.387　歴史時代３群鉄製品実測図２
ＰＬ.388　歴史時代３群文字資料抜萃１
ＰＬ.389　歴史時代３群文字資料抜萃２

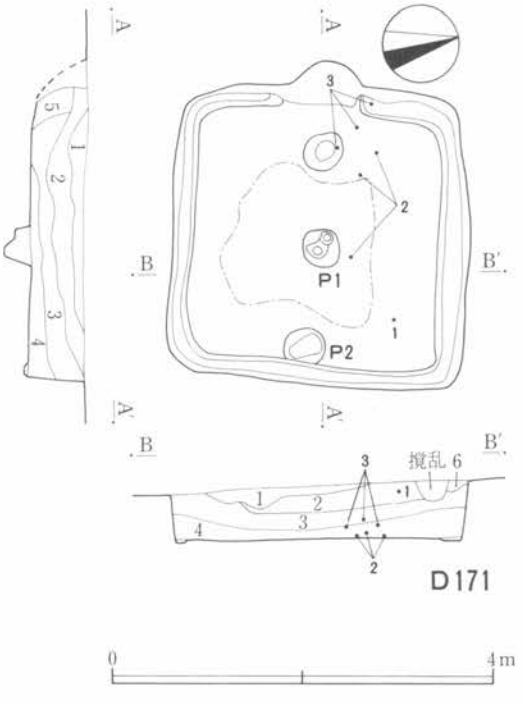
D001　主軸方向はN−10°−Eを指し、西壁中央にカマドが設置されたと考えられるが、その痕跡も確認できなかった。柱穴は住居対角線上に4箇所が配置され、床面での直径0.3〜0.4m、深さ0.3〜0.5mを測る。

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色土 | ローム粒を少量含む。 |
| 2 | 黒褐色土 | 粘性なし、焼土を少量含む。 |
| 3 | 暗褐色粘質土 | 粘性あり、ロームブロックを含む。 |
| 4 | 黒褐色土 | 粘性あり、焼土・ローム粒を含む。 |
| 5 | 暗褐色土 | 落ち込みの埋土、粘性なく、パサパサしている、ローム粒を含む。 |
| 6 | 褐色土 | 粘性あり、ローム粒を含む。 |
| 7 | 黒褐色土 | 粘性なし、しまりなし、含有物特になし。 |

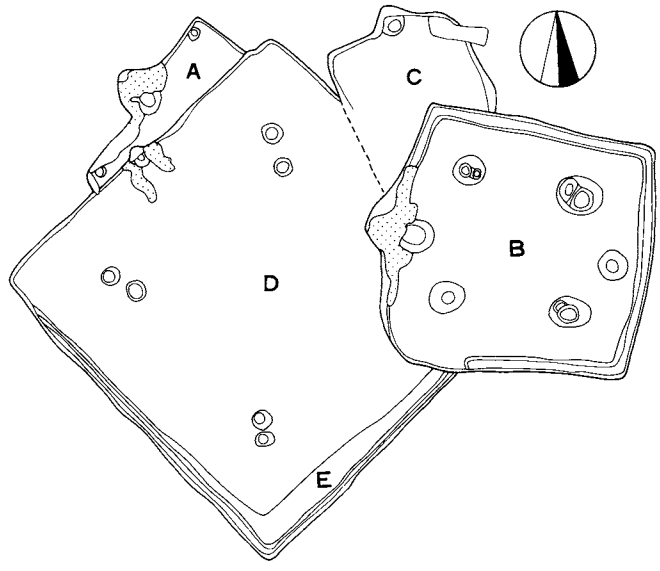



D171　カマドは西壁中央に設置されているが、袖材はまったく遺存しておらず、住居廃絶に際してカマドを破壊した可能性がある。

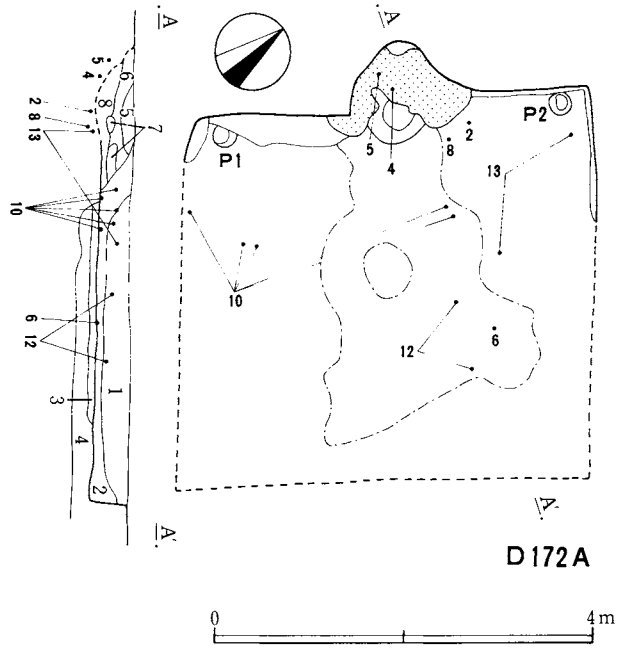
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 褐色土 | 黒色土やや多く、ロームブロック若干含む。 |
| 2 | 黒色土 | ローム粒含む。 |
| 3 | 褐色土 | ローム粒含むが、2よりやや少ない、黒色土若干含む。 |
| 4 | 暗褐色土 | ローム粒多く含む、黒色土も多い。 |
| 5 | 褐色土 | ローム粒及び、ロームブロックやや多い、炭化物・白色砂質土含む。 |
| 6 | 赤色土 | 黒色土含むが、焼土粒が主体的。 |




PL. 1　D001・D171実測図



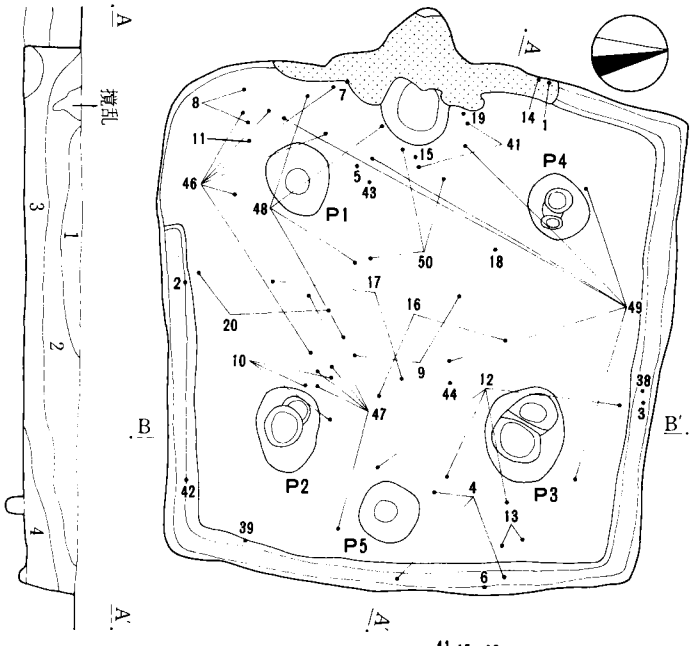

1　褐色土　ローム粒若干含む。
2　暗褐色土　黒色土若干含む。
3　明褐色土　貼床部。ローム主体で、0.5～2cm大のロームブロック多い、非常に固くしまっている。
4　D172D埋土
5　褐色土　ローム粒含む。
6　暗褐色土　ローム・黒色土含み、また白色砂質土をブロック状に含む。
7　焼土
8　白色粘土　焼土化



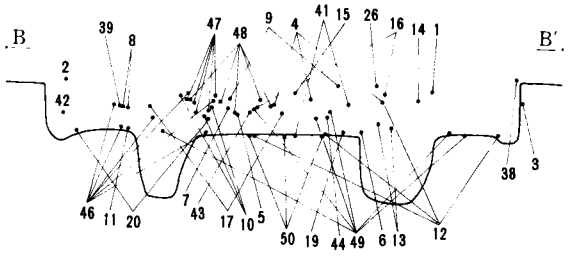

D172－A　D172Dと重複するもので、D172Dの埋土中に床面を構築している。172Dと重複する部分は壁を検出することが出来なかったが、土層断面から規模の復元は可能であった。柱穴はカマドの左右のコーナーに1箇所づつあり、P1・P2とも直径0.2mを測る。床面は南東壁中央からカマドへ向けて幅約1.5mの硬化面が遺存しているが、住居中央は直径0.5mの円形に抜けている。

PL. 2　D172A実測図

D172B　Dと重複し、この2軒よりも新しい構築である。柱穴は住居対角線上に4箇所が配置され、P2～P4は柱の立て直しを行っている。

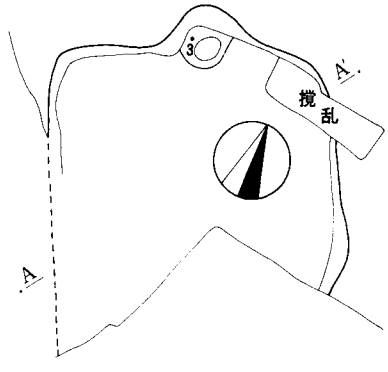



1　暗褐色土　ローム粒若干含むが、黒色土粒も多く混入。
2　褐色土　ローム粒やや多く、黒色土粒若干含む。
3　暗褐色土　黒色土粒は少なくローム粒やや多い、5㎜大の焼土ブロック・炭化物若干含む。
4　黒色土　ローム粒含む。

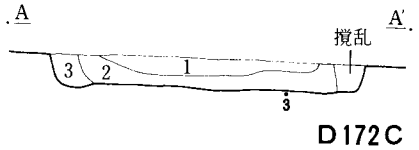



D172B

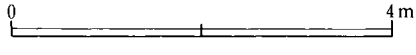
D172C　南壁はD172Bに破壊され、規模は確定できない。壁溝、柱穴は設けられていない。カマドは構築材がすべて失われていた。




1　暗褐色土　黒色土多く、ローム粒も若干含む。
2　褐色土　ローム粒含む。
3　暗褐色土　ローム粒やや多く含む。



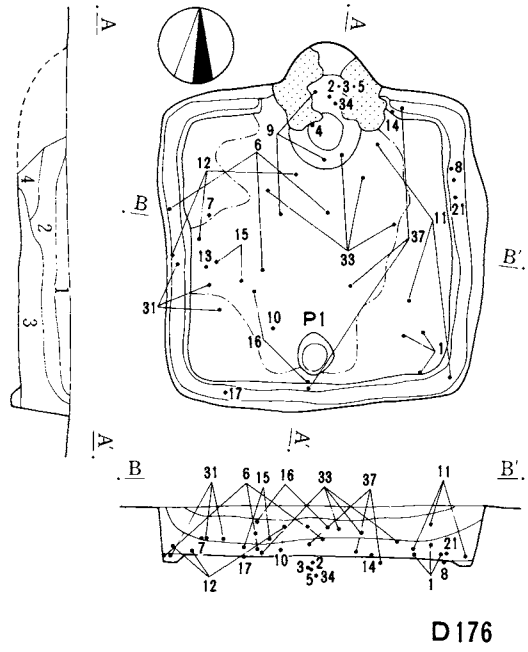

D172C




PL. 3　D172B・D172C実測図

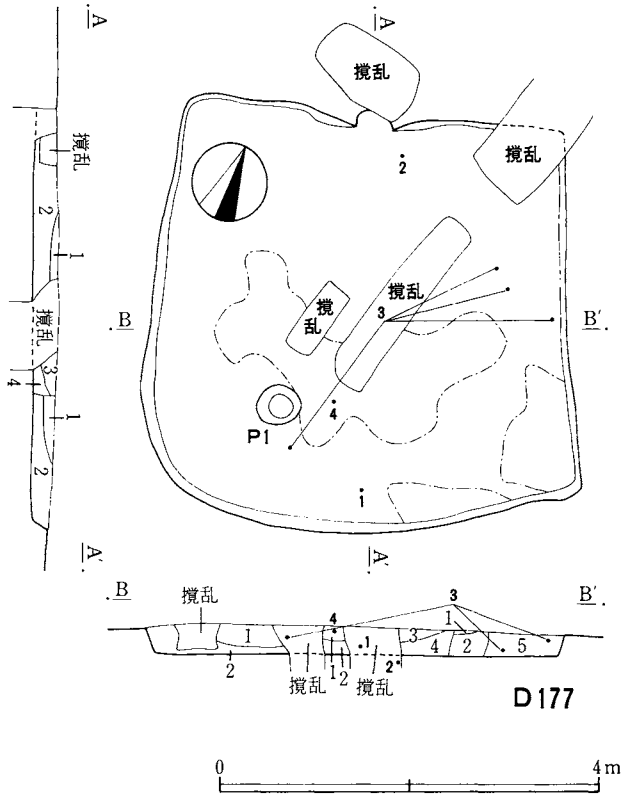
D176　床面に柱穴は認められず、カマドと対峙する南壁中央際に出入口ピットがある。また、P1からカマドにかけた広い範囲に良好な硬化面が遺存している。

1　黒色土　ローム粒若干含む。
2　暗褐色土　ローム粒やや多く、又細かいロームブロックも多く含む。
3　黒色土　ローム粒は少ないが、0.1～0.5mm大のロームブロック含む。
4　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック含む、白色砂質土多く、カマドの流れ込みがある。



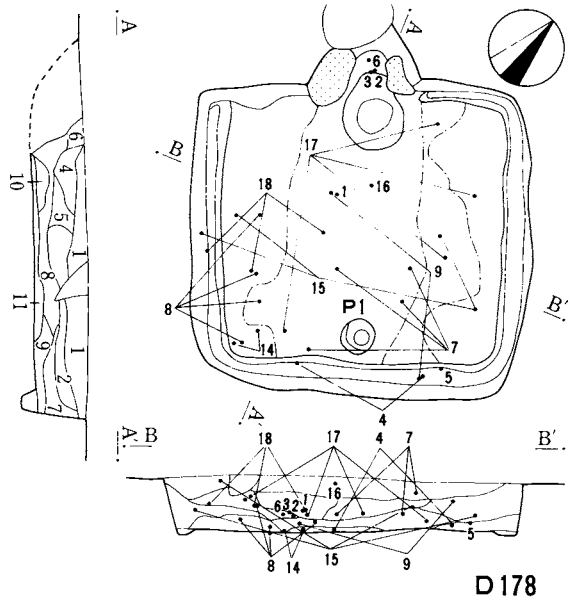

D177　北壁中央にカマドが構築されていた可能性が高い。住居南東コーナーからP1にかけて良好な硬化面が遺存している。

1　暗褐色土　黒色土及び若干のローム粒含む。
2　褐色土　ローム粒やや多い、又1mm大のロームブロック含む。
3　黒色土　ローム粒含む。
4　褐色土　ローム粒、細かいロームブロック含む。
5　暗褐色土　黒色土・ローム粒含み、又焼土粒もやや多く含む。

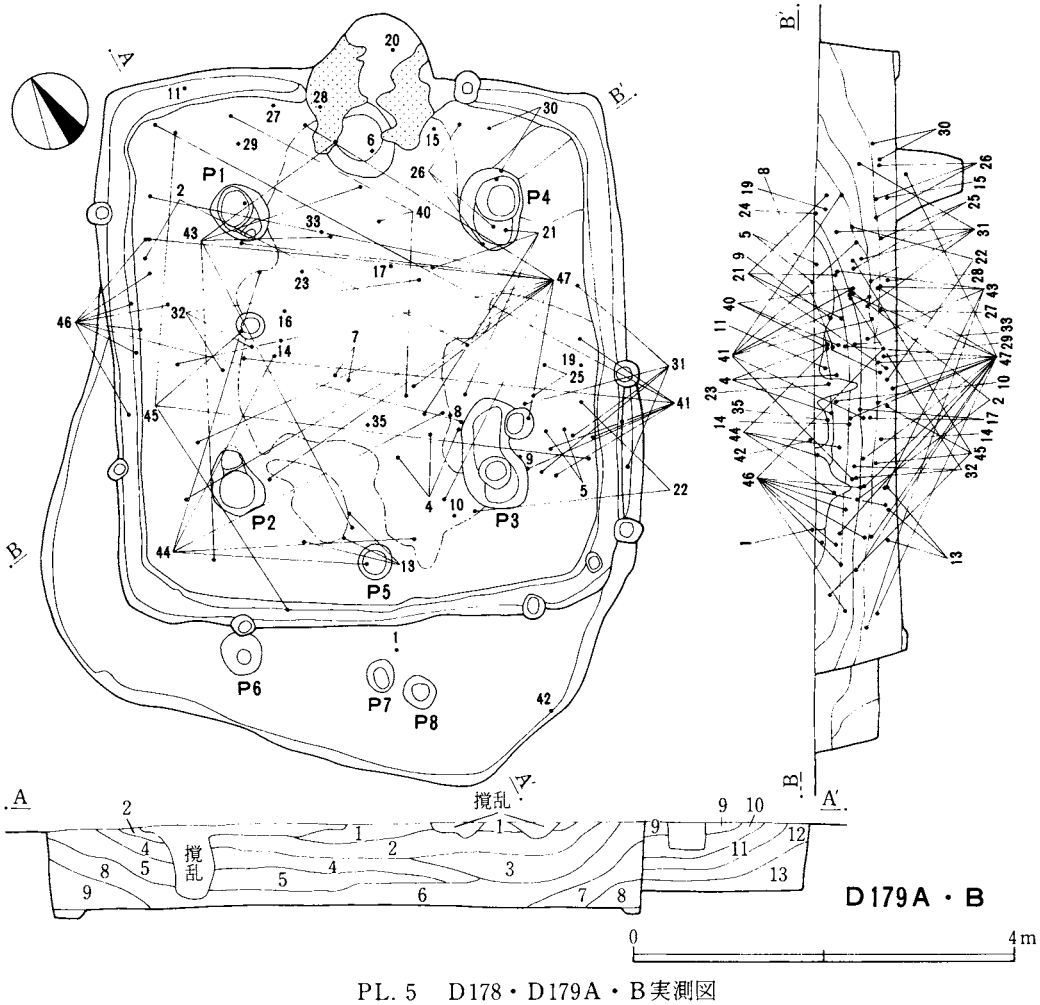



PL. 4　D176・D177実測図

1　褐色土　2mm前後のローム粒子及び焼土粒子を多く含む、しまり弱く緻密でない、炭化粒を含む。
2　黒褐色土　ローム粒子及び焼土粒・炭化粒を含む。1層に比べ焼土の量が多い。
3　褐色土　炭化粒・焼土はあまり多くない。5～10mmのローム粒を多く含む。
4　褐色土　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒とも含むが、あまり多くない。緻密な層。
5　黄褐色土　しまりたいへん良い、ロームブロックの間に褐色土を含む。
6　褐色土　ローム及びローム粒を多く含んだ褐色土中に、少量の焼土及び炭化粒を含む。
7　濃褐色土　2層よりややローム分が多い、しまり良い。
8　淡褐色土　2層に山砂を含む。
9　褐色土　焼土・炭化粒・ローム粒含む。
10　褐色土　焼土はほとんど含まれない。ローム粒を全体的に含む。
11　褐色土　10mm前後のロームブロックを少量、及びローム粒、炭化粒、焼土粒を含む。




D178



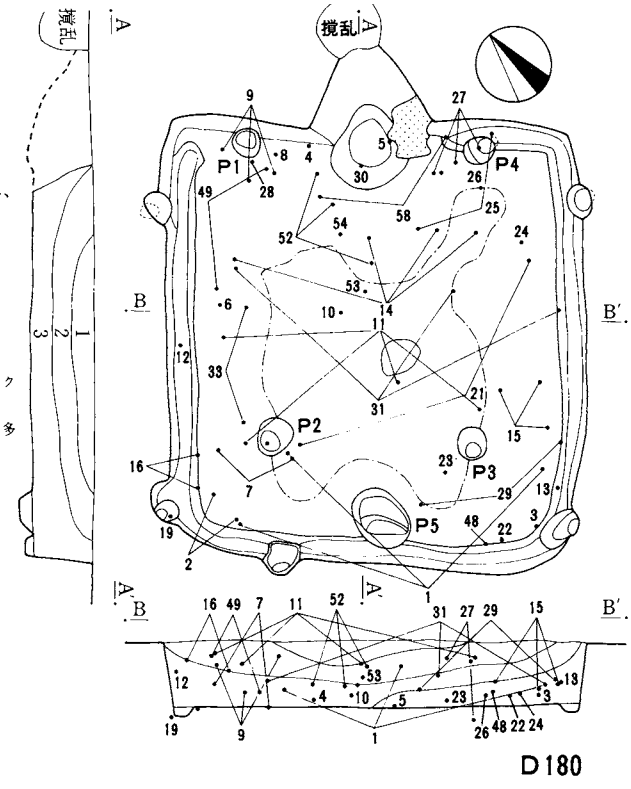

D179A・B

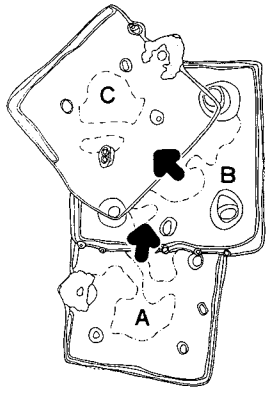
0　4m

PL. 5　D178・D179A・B実測図

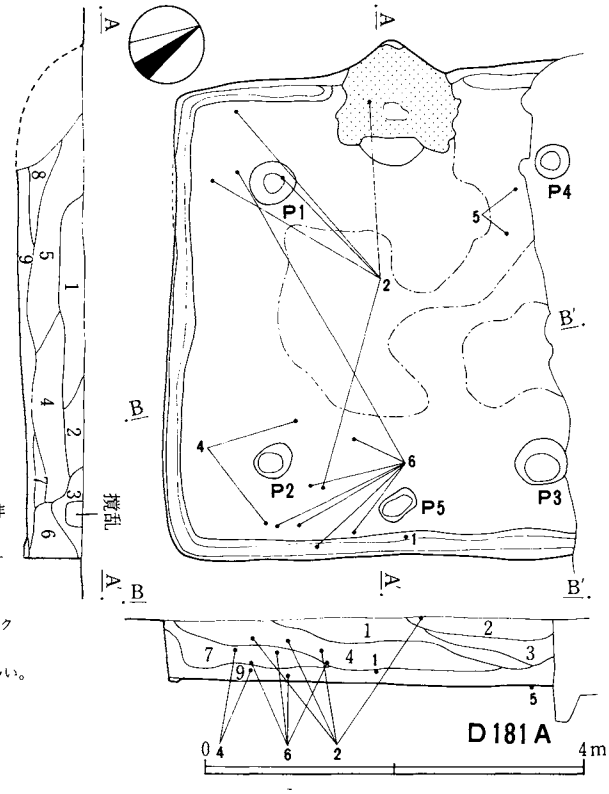
D180　柱穴はP1～P4が主柱穴と認められ、P1・P4は北東壁にかかっている。また、各壁に壁柱穴が設けられている。

1　黒色土　ローム粒若干含む。
2　暗褐色土　ローム粒多く含む。
3　黒色土　ローム粒及び若干のロームブロック含む。
4　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒をやや多く含む。



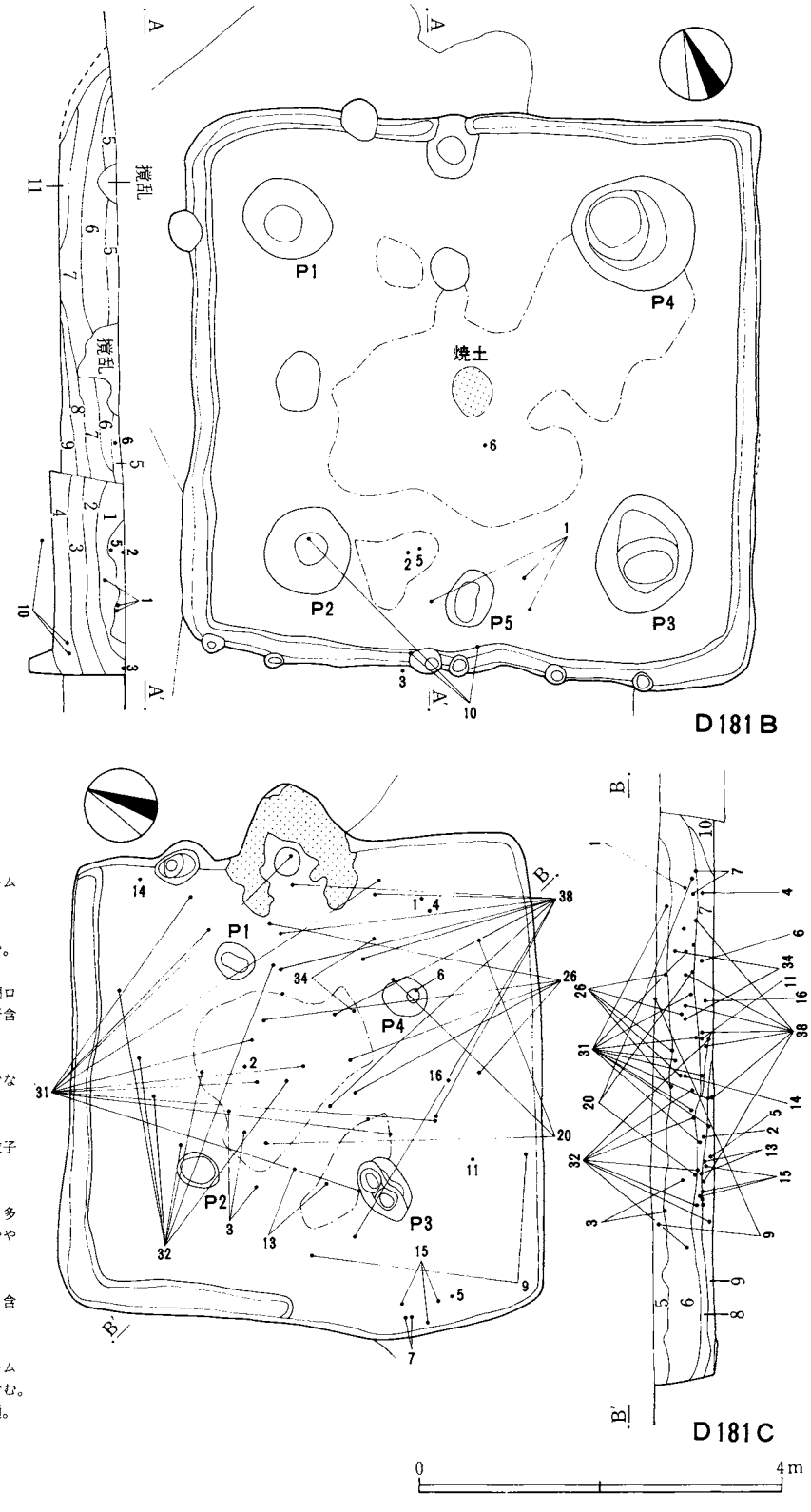




1　褐色土　ローム粒多い。
2　明褐色土　黒色土をやや多く含む。
3　明褐色土　ローム粒、1～2cm大のロームブロック非常に多い。
4　暗褐色土　ローム粒多いが、その他1～2cm大のロームブロックも含む。
5　明褐色土　ローム粒が非常に多い。
6　黒褐色土　黒色土多く、0.1～1cm大のロームブロック多量に含む。
7　暗褐色土　0.1～1cm大のロームブロックが非常に多い。
8　黒褐色土　1～2cm大のロームブロックが目立つ。
9　黒褐色土　0.1～0.5cm大のローム粒を多量に含む。



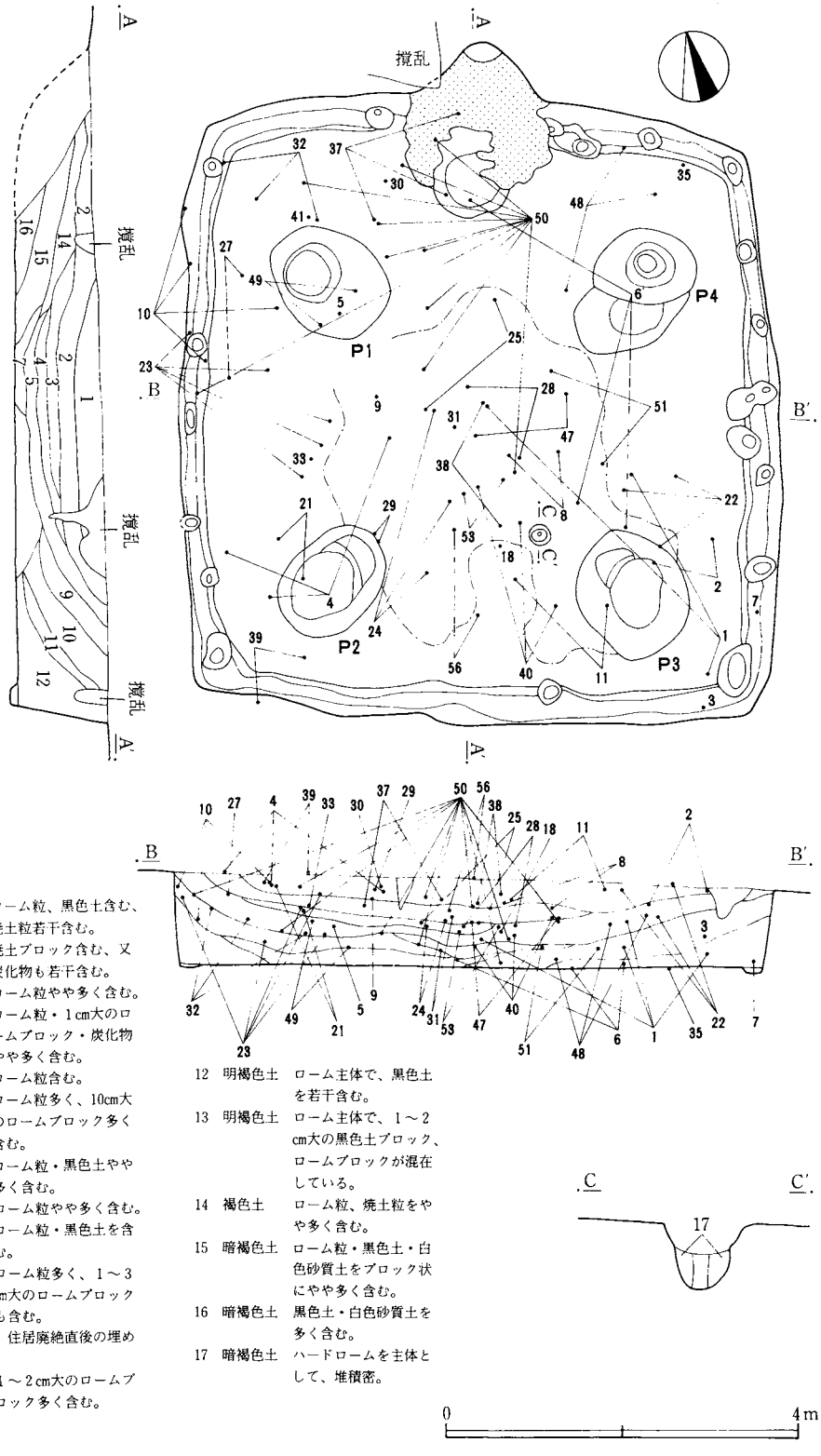

PL. 6　D180・D181A実測図

D181B Cと重複した住居である。ともに柱穴は住居対角線上に4箇所があり、Bの柱穴は直径が1m近い。




1 暗褐色土
ローム粒含む。
2 褐色土
ローム粒含む。
3 黒色土
ローム粒含む。
4 褐色土
1～2cm大のロームブロック含む。
5 黒色土
ローム粒若干含む。
6 褐色土
ローム粒多い、細ロームブロック若干含む。
7 暗褐色土
6よりローム粒少なく黒色土多い。
8 黒色土
ローム粒・焼土粒子やや多く含む。
9 暗褐色土
黒色土は、7より多いがローム粒もやや多い。
10 褐色土
ローム粒やや多く含む。
11 黒色土
ローム粒・細ロームブロック・焼土含む。
土層説明はB、C共通。

PL. 7　D181B・D181C実測図



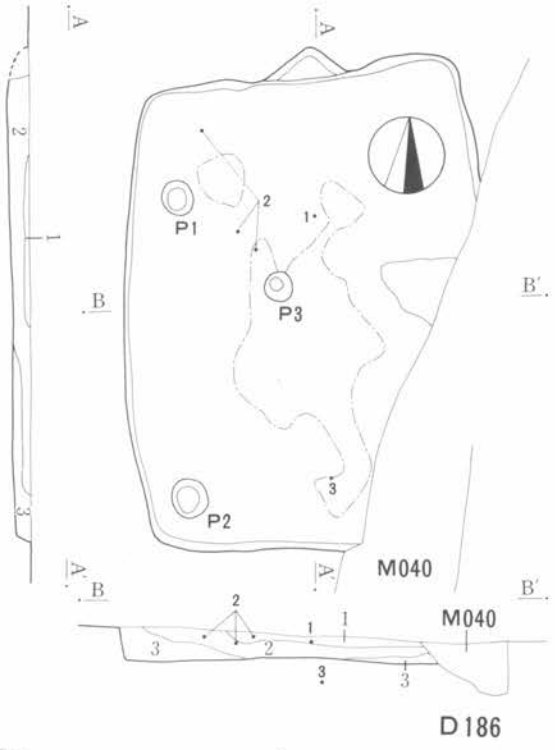

1　暗褐色土　ローム粒、黒色土含む、焼土粒若干含む。
2　黒色土　焼土ブロック含む、又炭化物も若干含む。
3　褐色土　ローム粒やや多く含む。
4　黒色土　ローム粒・1cm大のロームブロック・炭化物やや多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒含む。
6　明褐色土　ローム粒多く、10cm大のロームブロック多く含む。
7　暗褐色土　ローム粒・黒色土やや多く含む。
8　褐色土　ローム粒やや多く含む。
9　暗褐色土　ローム粒・黒色土を含む。
10　明褐色土　ローム粒多く、1～3cm大のロームブロックも含む。

以下13層まで、住居廃絶直後の埋め戻し。

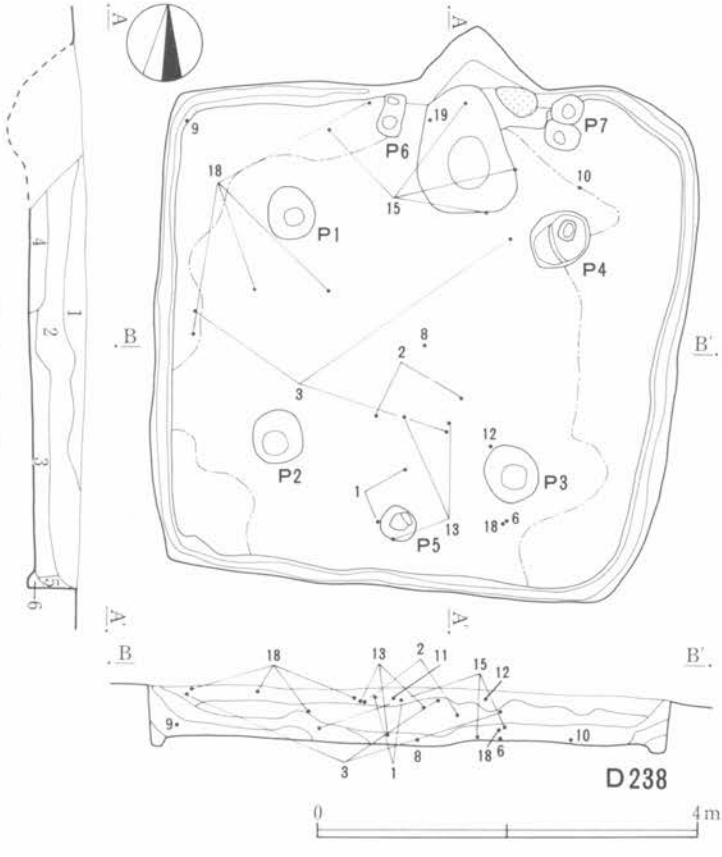
11　黒色土　1～2cm大のロームブロック多く含む。
12　明褐色土　ローム主体で、黒色土を若干含む。
13　明褐色土　ローム主体で、1～2cm大の黒色土ブロック、ロームブロックが混在している。
14　褐色土　ローム粒、焼土粒をやや多く含む。
15　暗褐色土　ローム粒・黒色土・白色砂質土をブロック状にやや多く含む。
16　暗褐色土　黒色土・白色砂質土を多く含む。
17　暗褐色土　ハードロームを主体として、堆積密。

PL. 8　D185実測図

1　黒色土　ローム粒若干含む。
2　暗褐色土　細かなローム粒多く含む。
3　暗褐色土　黒色土を多く含む。



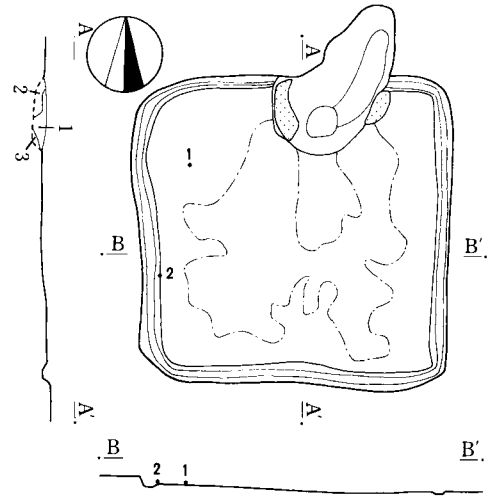

1　暗褐色土　ローム粒・焼土粒少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒やや多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒・焼土粒・ロームブロック多く含む。
4　暗褐色土　ローム粒・焼土粒・粘土ブロック多く含む。
5　褐色土
6　黒褐色土



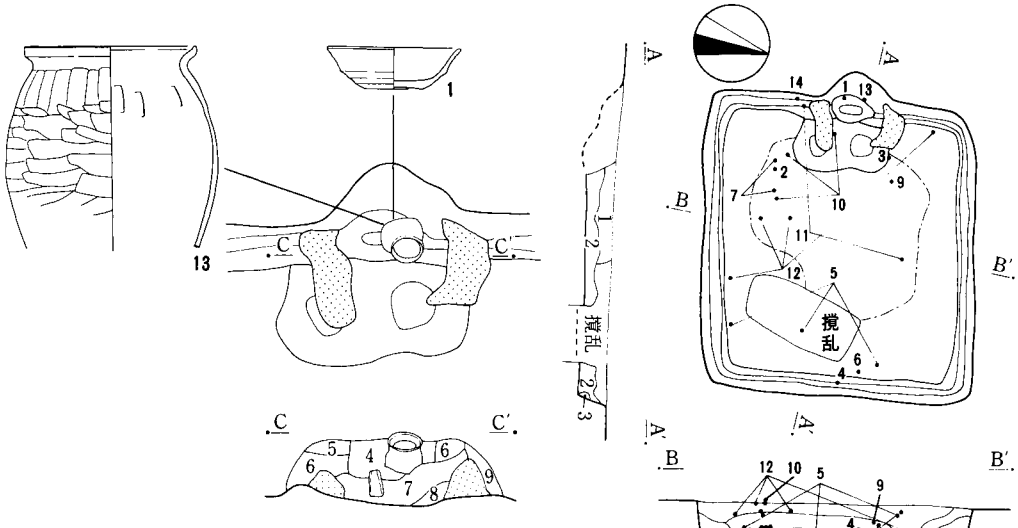

PL. 9　D186・D238実測図

確認面でほとんど床面が露出しており、埋土の状況は不明である。床面はカマド前面を除いてかなり広い範囲に硬化面が遺存している。

1　焼土
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒少し含む。
3　褐色土




D239

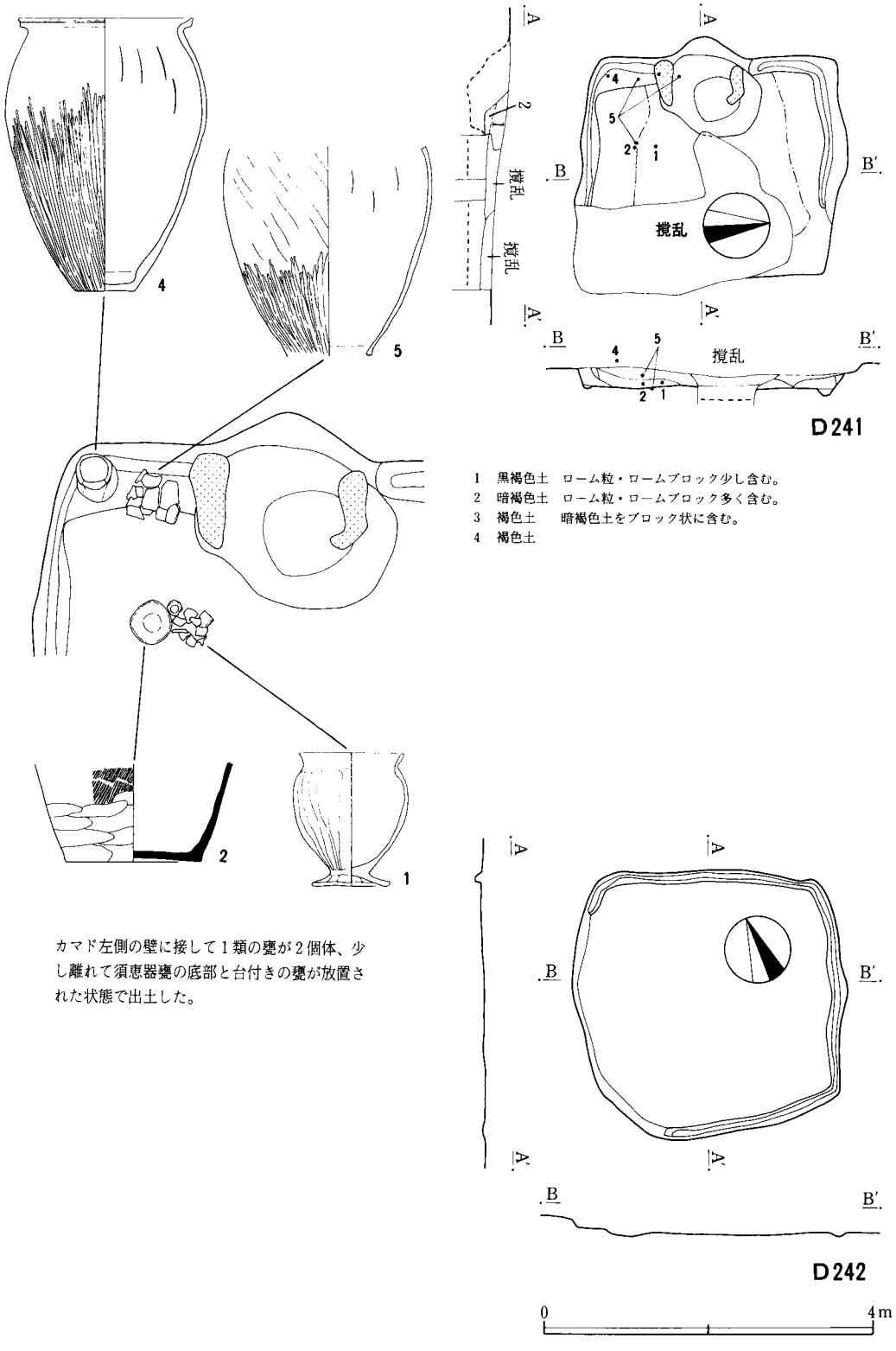



D240

1　黒褐色土
2　黒褐色土　ローム粒混入。
3　明褐色土　ロームブロック多量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒・焼土粒・黄白色粘土粒少し含む。
5　暗褐色土　焼土ブロック・ローム粒少し含む。
6　暗褐色土　焼土粒多く含む。
7　暗褐色土　焼土ブロック・炭化粒多く含む。
8　褐色土　粘土ブロック・焼土粒やや多く含む。
9　暗褐色土　炭化粒・焼土粒少し含む。

0　4m

PL.10　D239・D240実測図

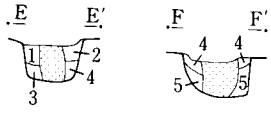


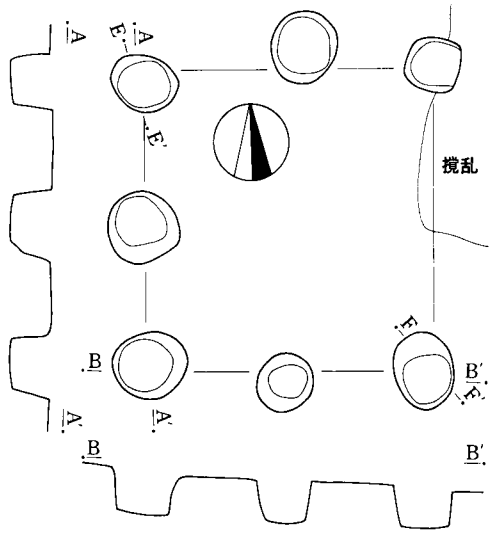

カマド左側の壁に接して1類の甕が2個体、少し離れて須恵器甕の底部と台付きの甕が放置された状態で出土した。

PL.11 D241・D242実測図

D185と重複する建物で、2間×2間の南北棟の側柱構造である。長軸方向はN－2°－Eを指し、桁行長4.0m、梁行長3.8mを測る。柱間寸法は1.9～2.0mで統一されていない。

1　明褐色土　ローム粒主体。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック含む。
3　褐色土　ローム粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒・やや大きいローム粒含む。
5　明褐色土　ローム粒・暗褐色土の混合土。

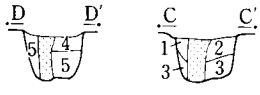


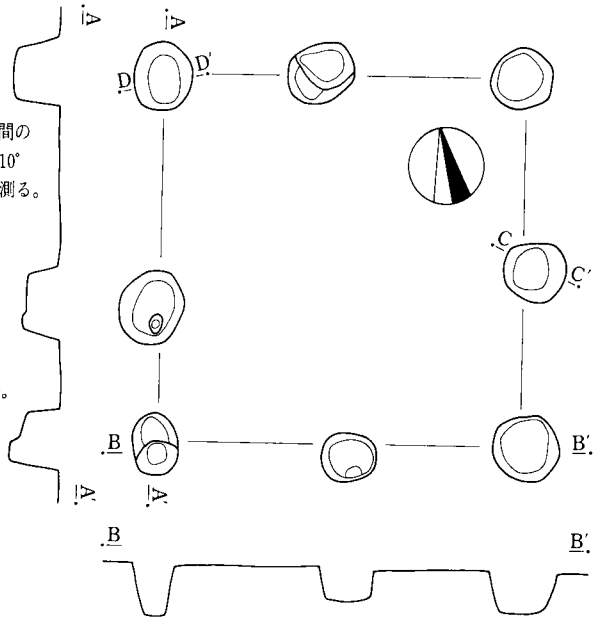




H075

D181の北側に位置する建物で、2間×2間の南北棟の側柱構造である。長軸方向はN－10°－Wを指し、桁行長4.8m、梁行長4.7mを測る。柱間寸法は統一されていない。

1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　黒褐色土　ローム粒を含む。
3　明褐色土　ローム粒主体。
4　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック含む。
5　暗褐色土　ローム粒を含む。

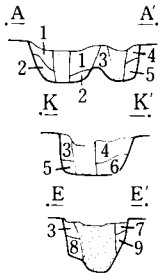



H076

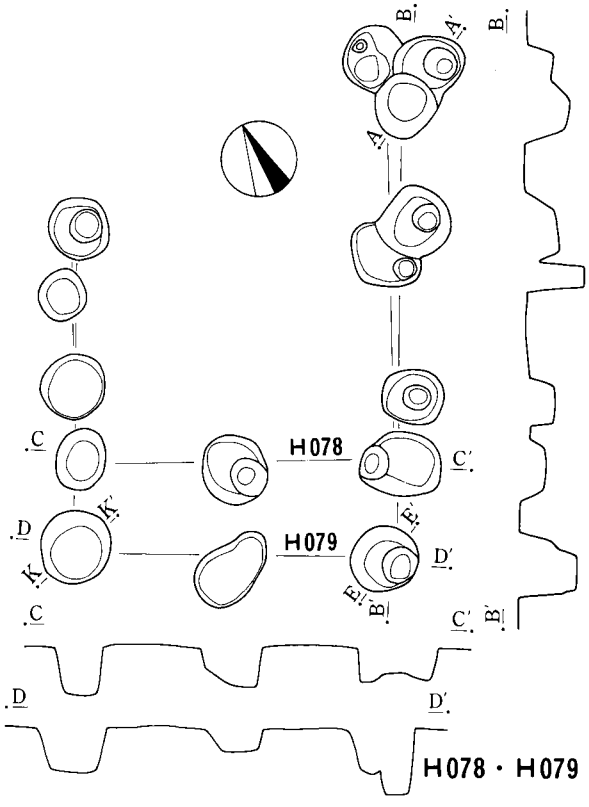
0　5m

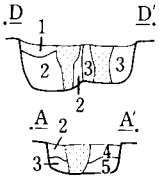
PL.12　H075・H076実測図




H078とH079が重複し、同じ位置での建て替えと考えられる。先後関係はH078→H079となる。桁行は3間分が確認でき、恐らく3間×2間の側柱構造と思われる。長軸方向はN－30°－Eを指す。

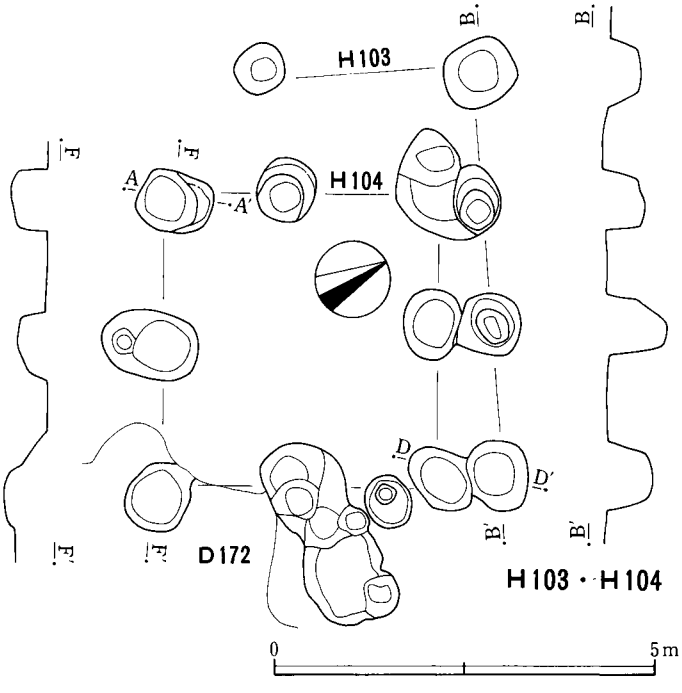
1　明褐色土　ローム粒・褐色土主体、ロームブロックを含む。
2　褐色土　ローム粒を含む。
3　暗褐色土　ローム粒を含む。
4　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
5　暗褐色土　ローム粒・黒色土を含む。
6　黒褐色土　ローム粒を含む。
7　黒褐色土　ローム粒を含む。
8　明褐色土　ローム粒主体。
9　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。



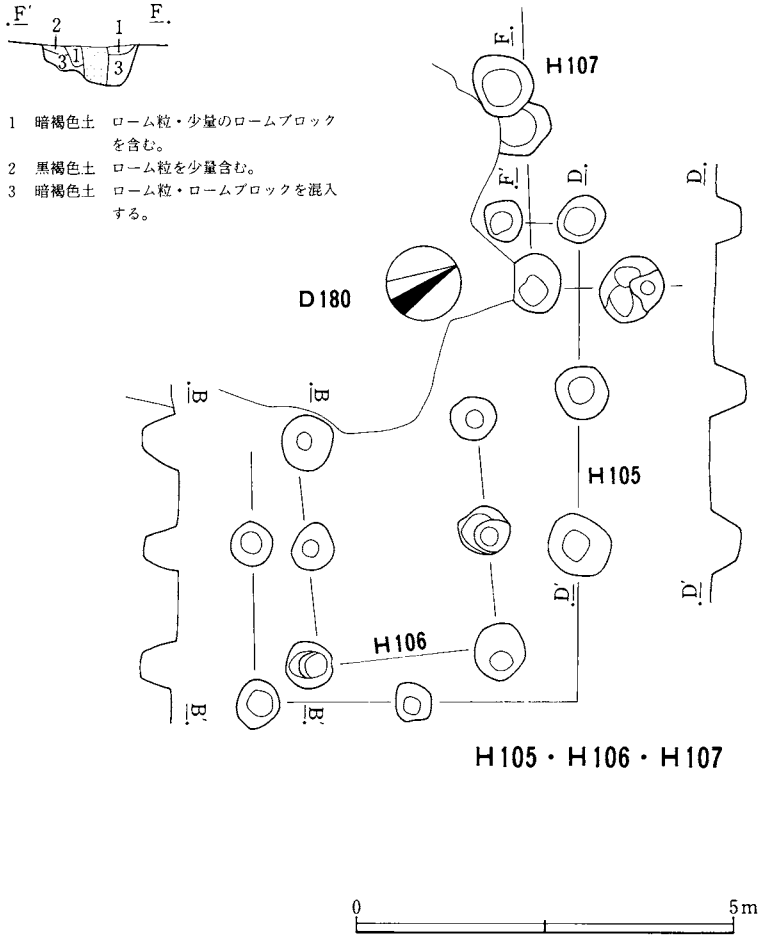




H103とH104が重複している。H104は2間×2間の東西棟の側柱構造である。桁行長3.8m、梁行長3.6mを測る。柱間寸法は1.8mで統一される。

1　明褐色土　ロームが主体で、黒色土若干含む。
2　黒色土　1～3cm大のロームブロック多い。
3　暗褐色土　ローム粒・細ロームブロック含む。又黒色土も含む。
4　褐色土　0.5～1cm大及び5cm大のロームブロックを含む。
5　暗褐色土　ローム粒・細ロームブロック・黒色土含む。



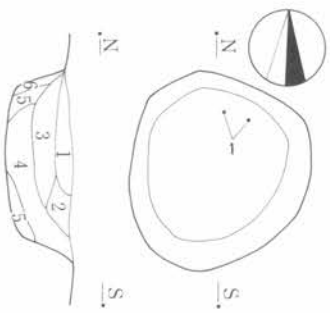

PL.13　H078・H079・H103・H104実測図




H105・H106・H107

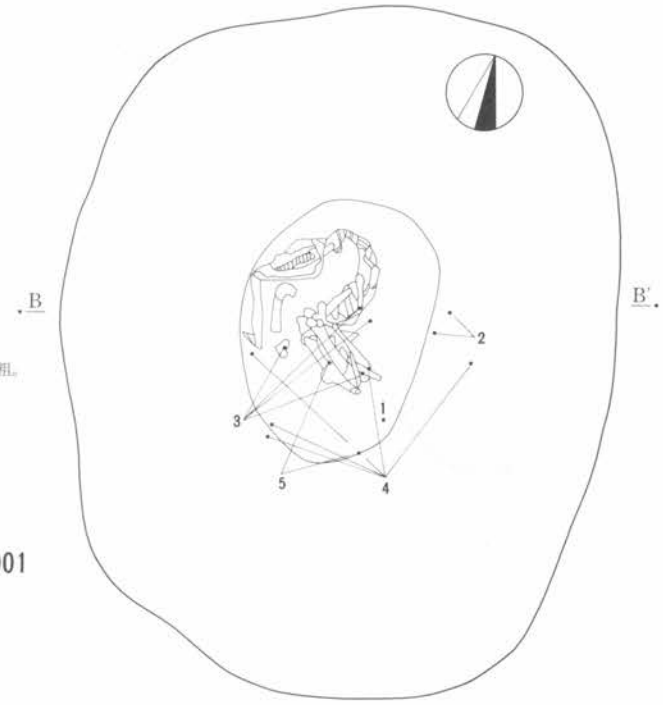
D180にH105・H106・H107が重複している。H105は3間×2間の東西棟の側柱構造で、長軸方向はN－20°－Eを指す。H106は全体の規模は不明だが、恐らく2間×1間の東西棟の側柱構造と考えられる。桁行長3.0m、梁行長2.4mを測る。H107は堀方が3箇所確認できただけで、全体の規模は不明である。

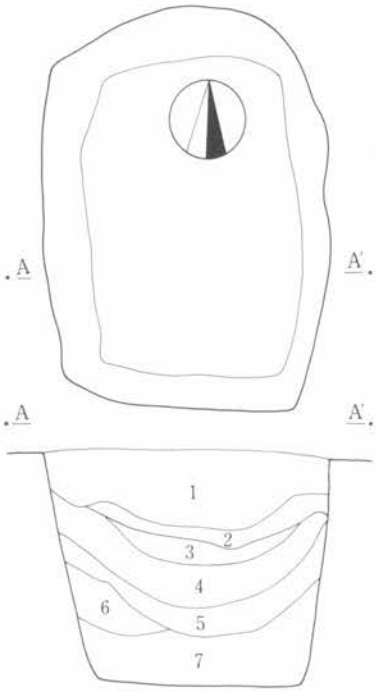
PL.14　H105・H106・H107実測図




1　赤褐色土　焼土粒を大量に含み、堆積粗。
2　褐色土　堆積粗。
3　褐色土　ローム粒を含む。
4　褐色土　ローム粒を含む。堆積粗。
5　暗褐色土　僅かに粘性あり。
6　暗黄褐色土　粘性あり。

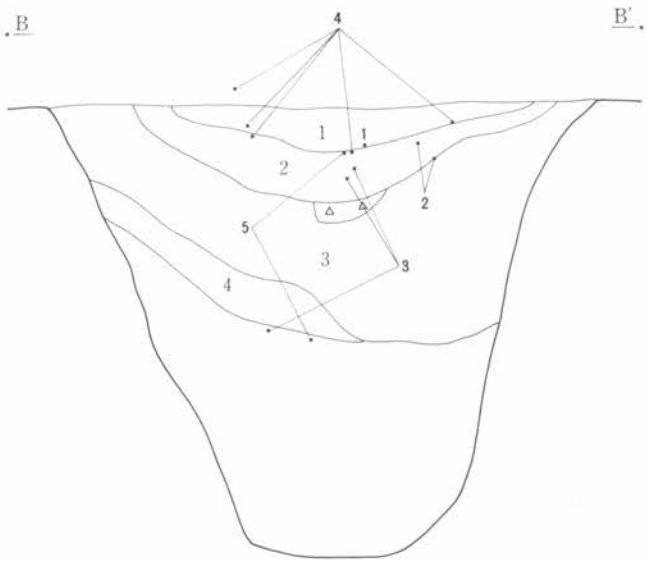
P001




1　褐色土　炭化粒混入。
2　暗褐色土　炭化粒混入。
3　褐色土　炭化粒混入。
4　褐色土　炭化粒混入。
5　暗褐色土　炭化粒混入。
6　褐色土　炭化粒混入。
7　褐色土　炭化粒混入。

P002

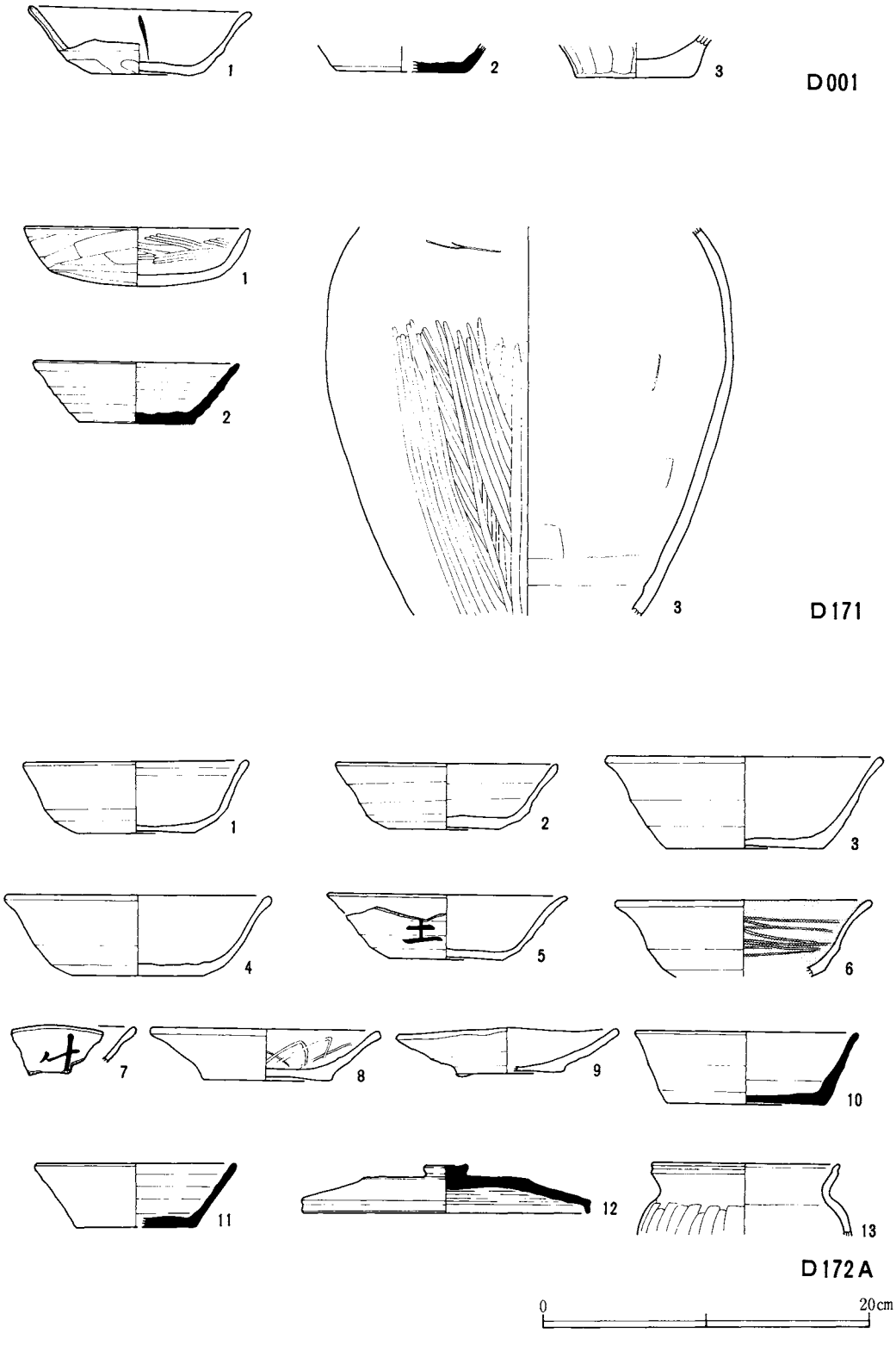



1　明褐色土　ローム粒・ロームブロックを主体とする。
2　暗褐色土　焼土粒を含み、下部に炭化粒を多く含む。
3　褐色土　ローム粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒・黒色土粒を含む。

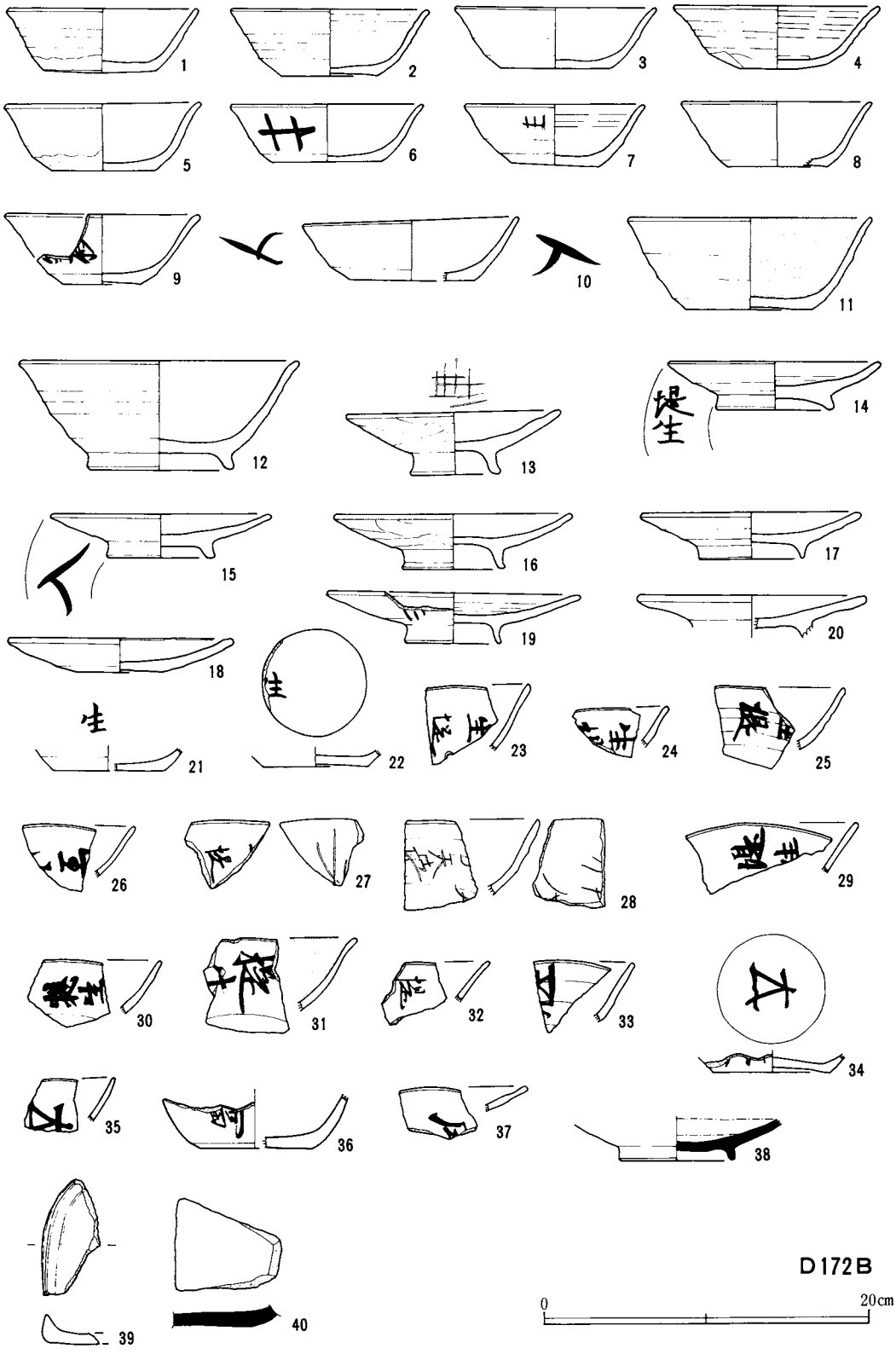
P168

0　2m

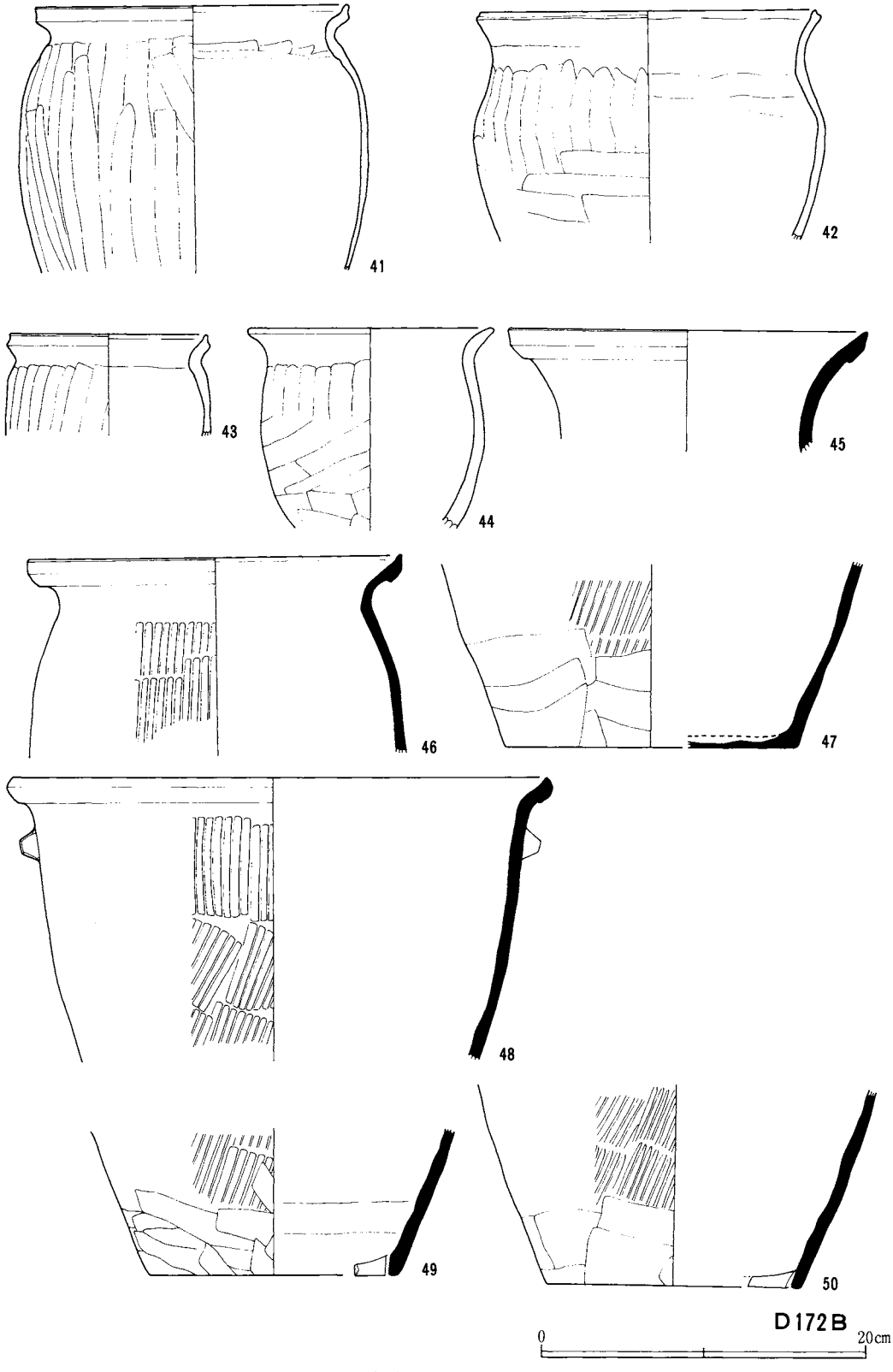
PL.15　P001・P002・P168実測図



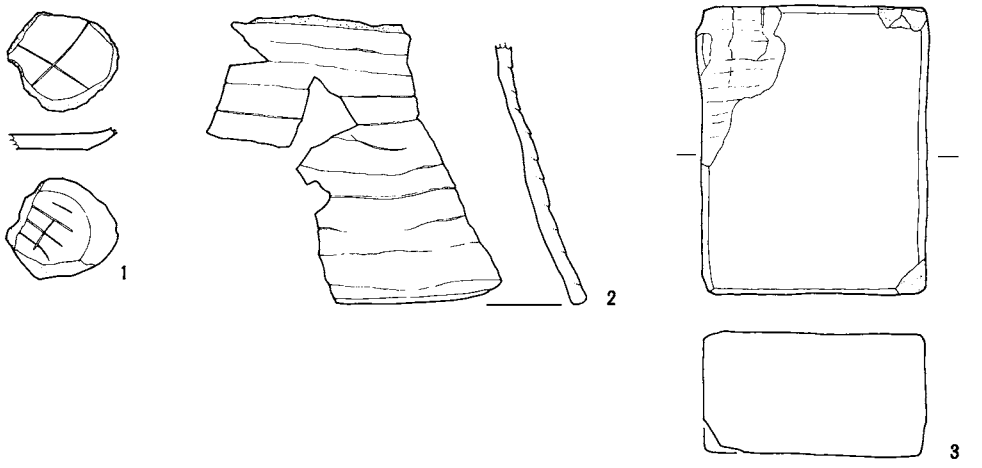

PL.16　歴史時代1群A遺物実測図　1



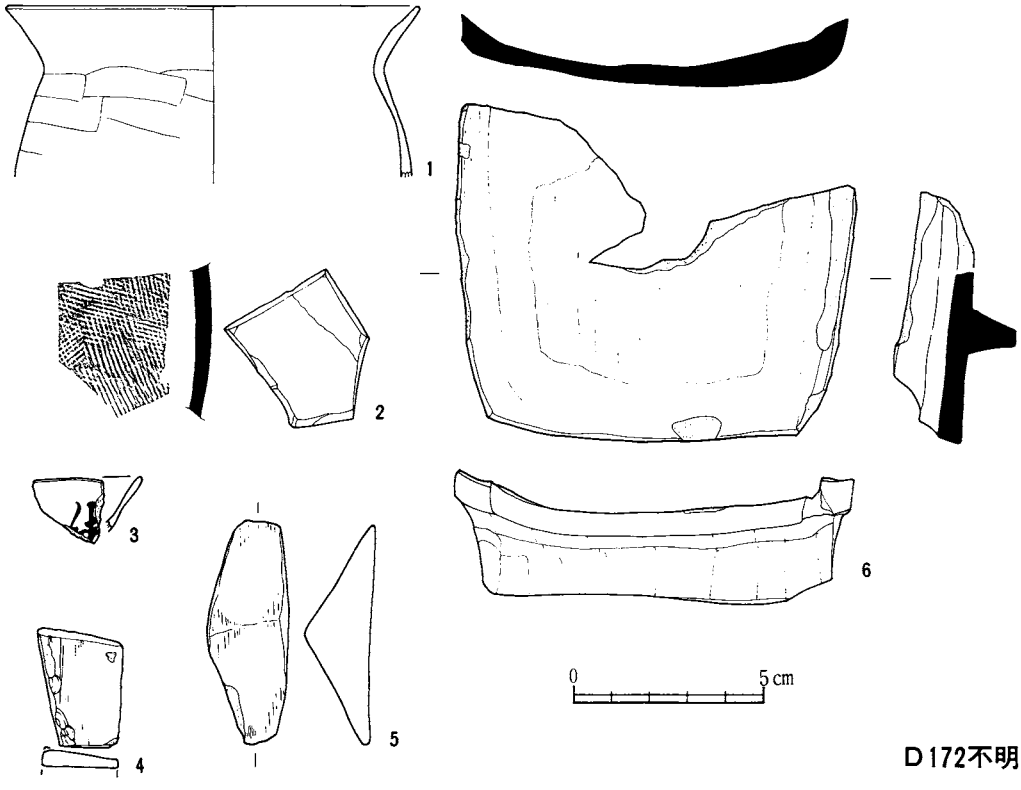

PL.17　歴史時代1群A遺物実測図　2




PL.18　歴史時代1群A遺物実測図 3



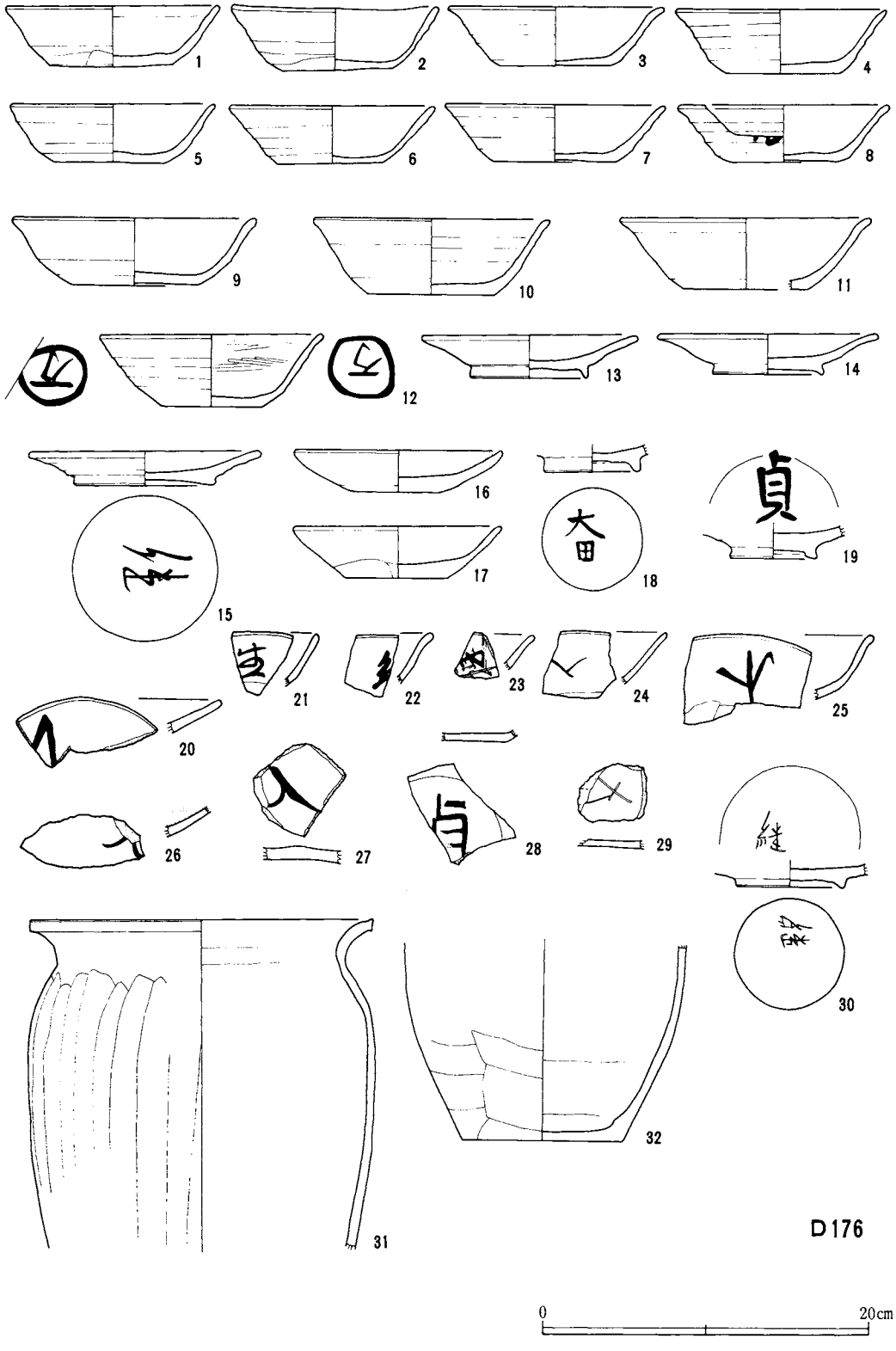

D172C



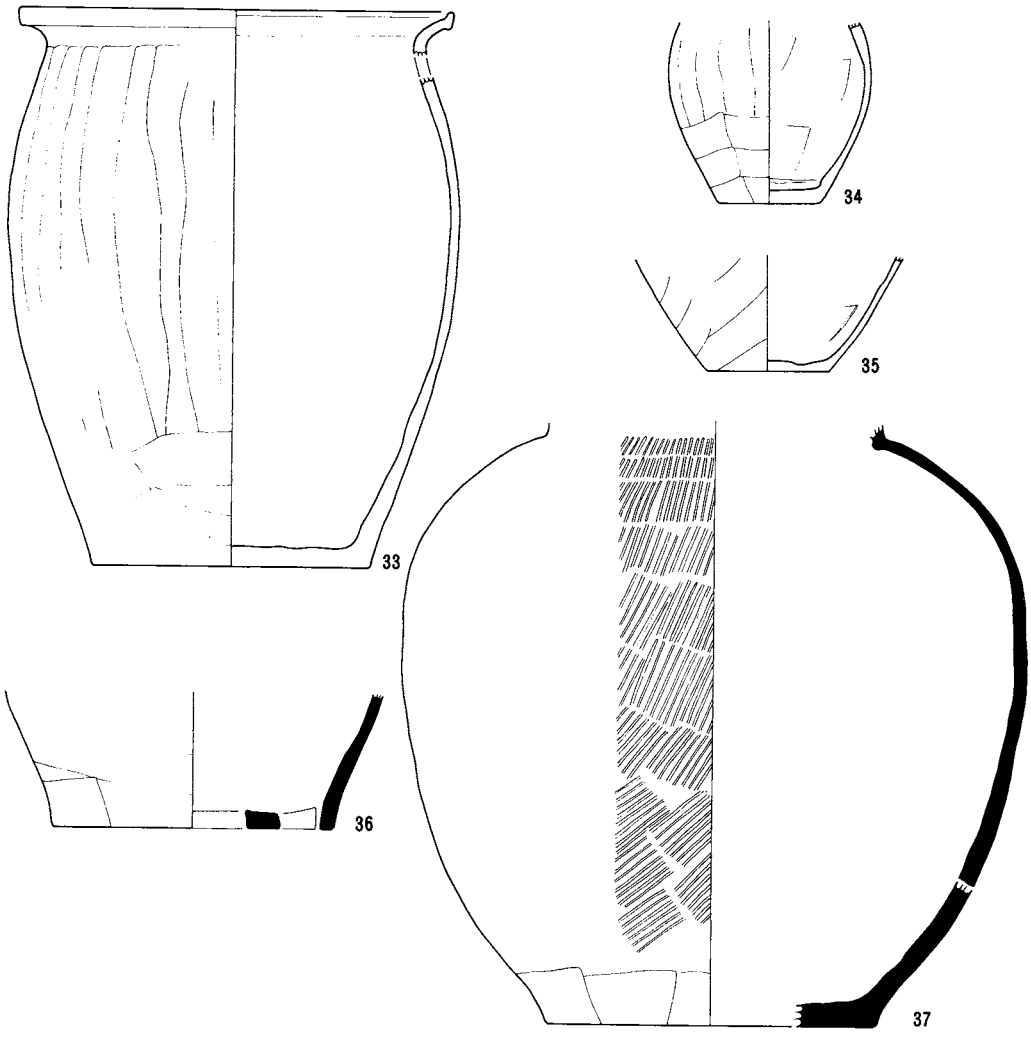

D172不明

0 20cm

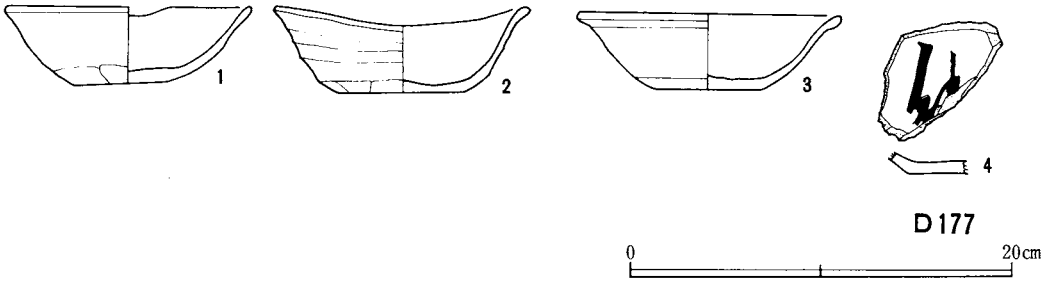
PL.19　歴史時代1群A遺物実測図　4




PL.20　歴史時代1群A遺物実測図　5

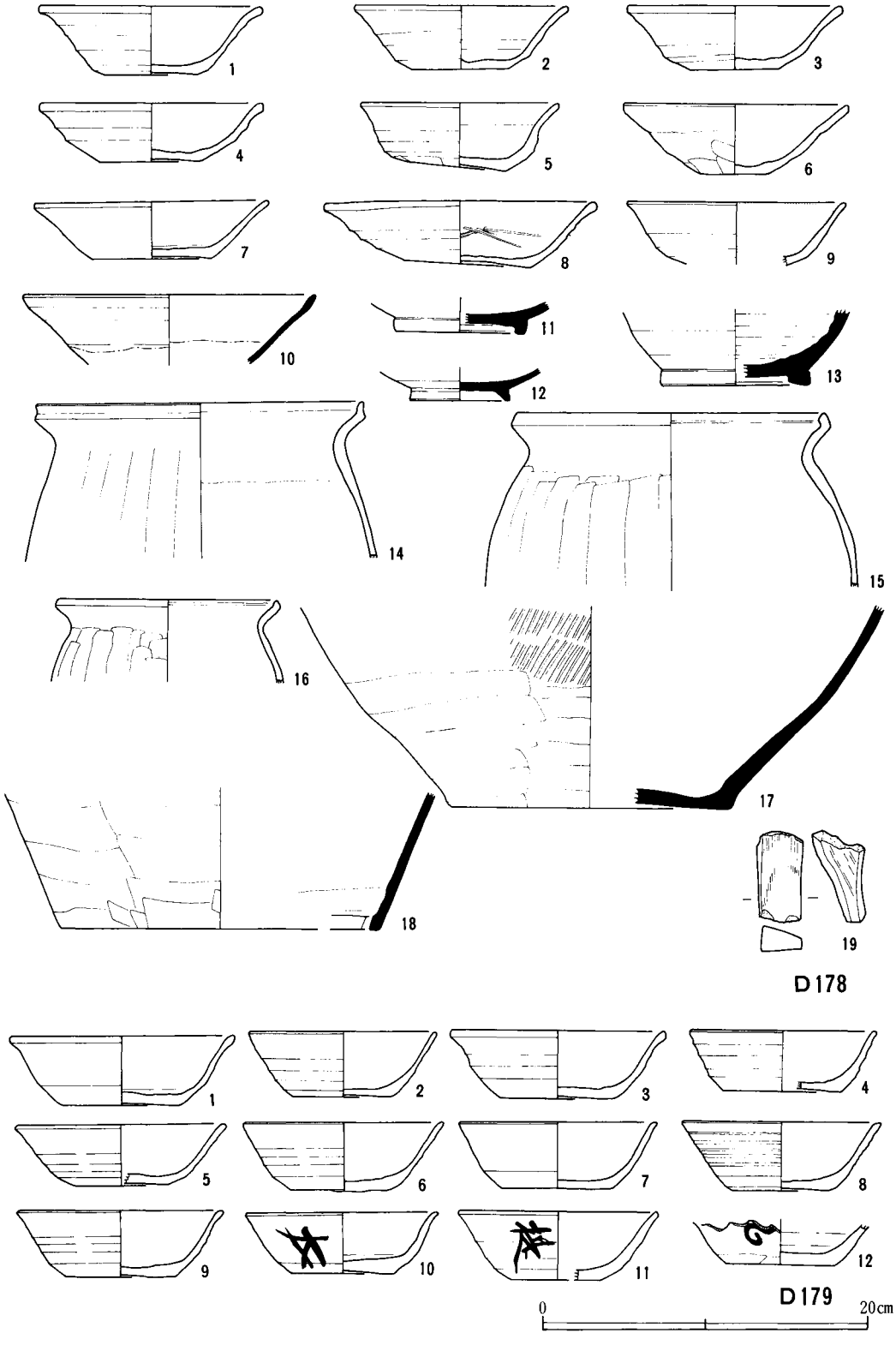



D176

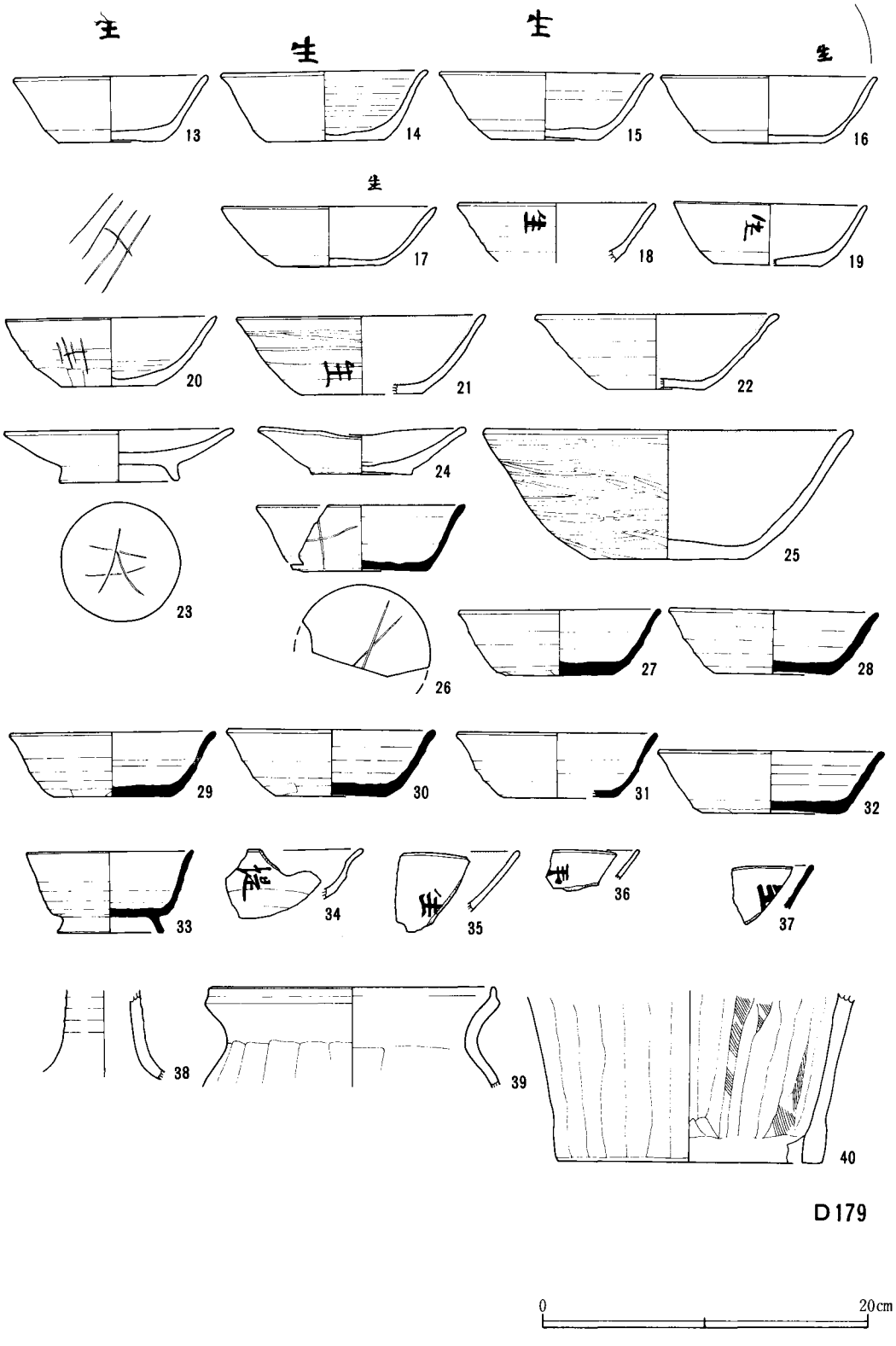



D177

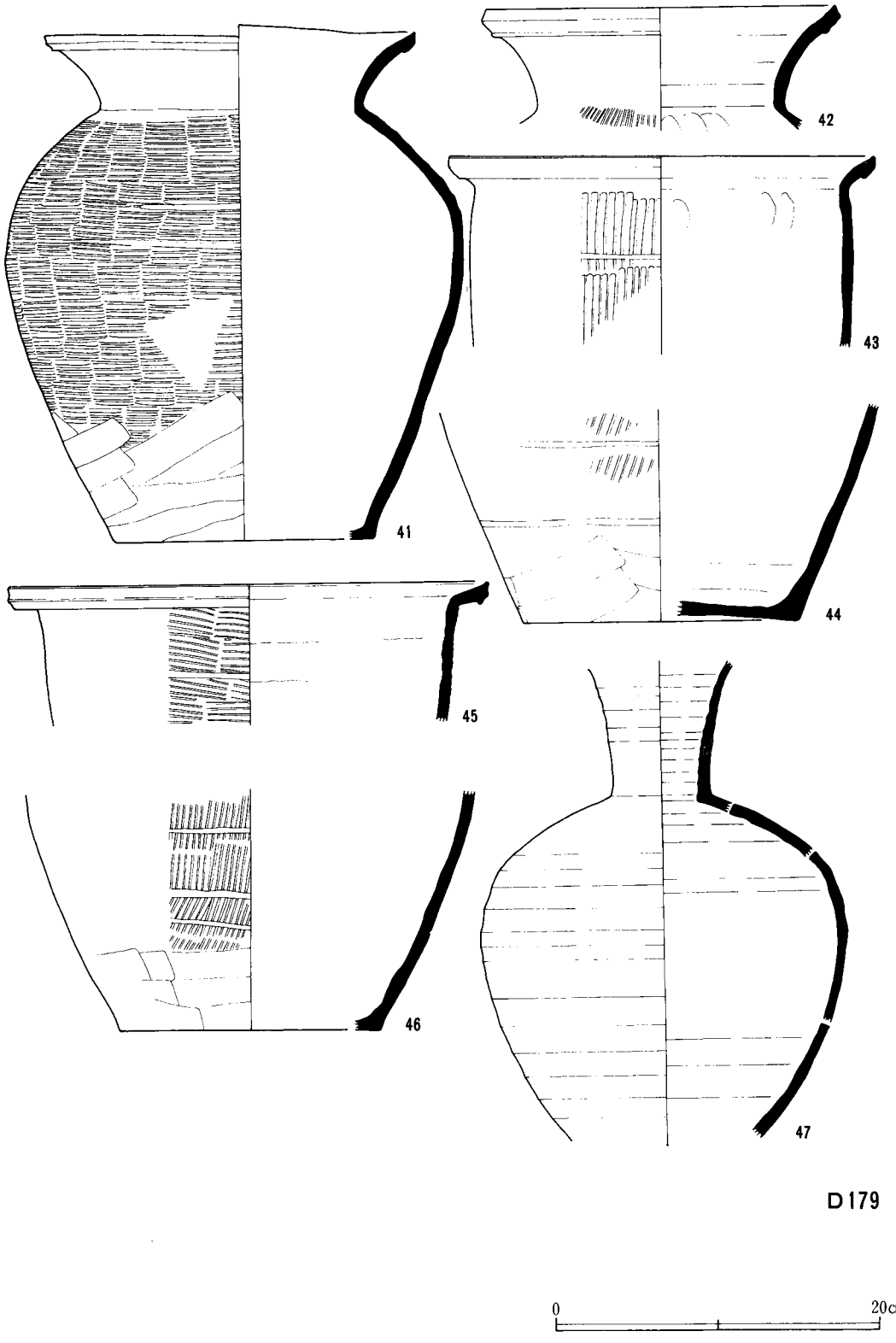
PL.21　歴史時代1群A遺物実測図　6



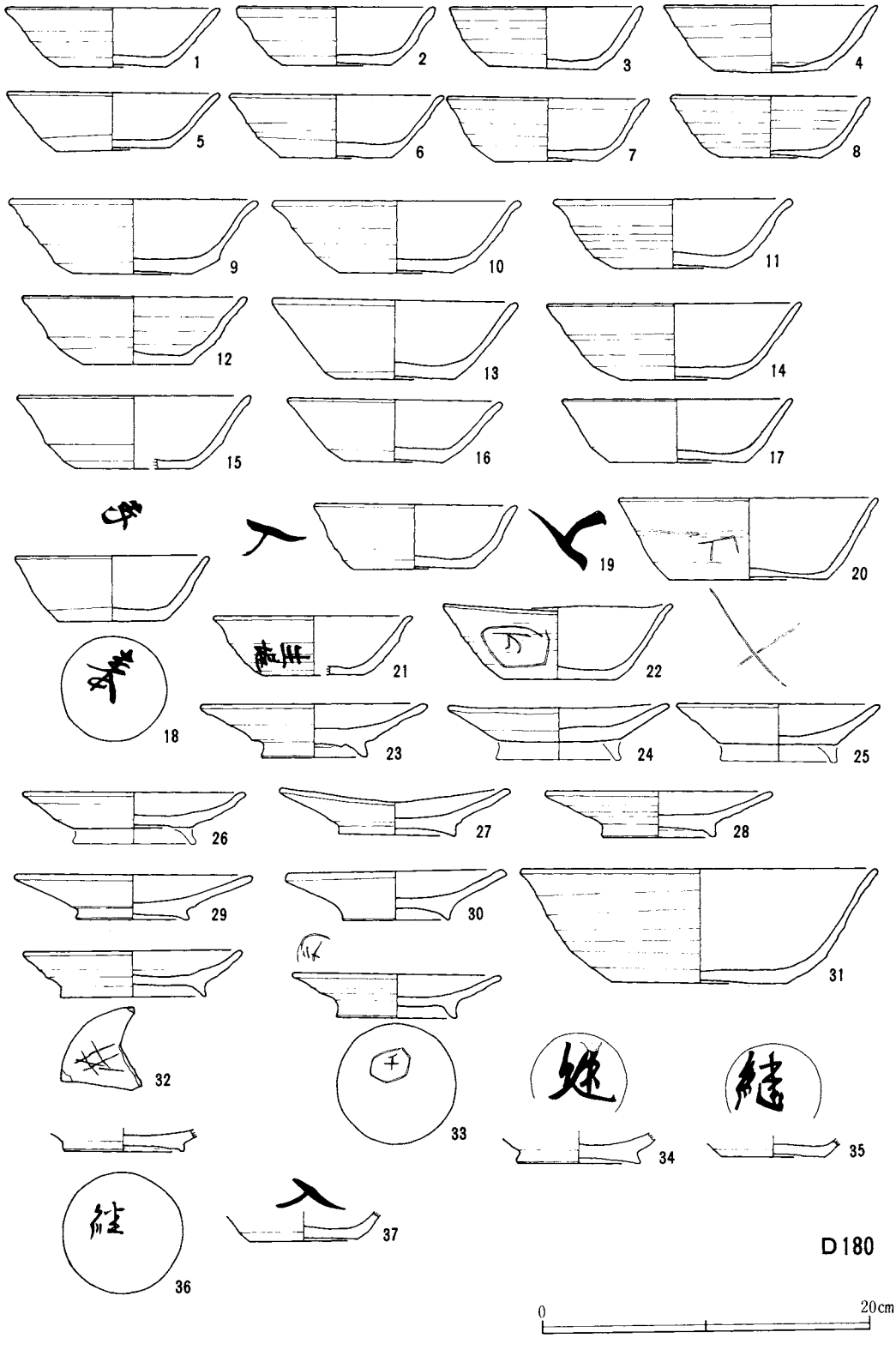

PL.22　歴史時代1群A遺物実測図　7



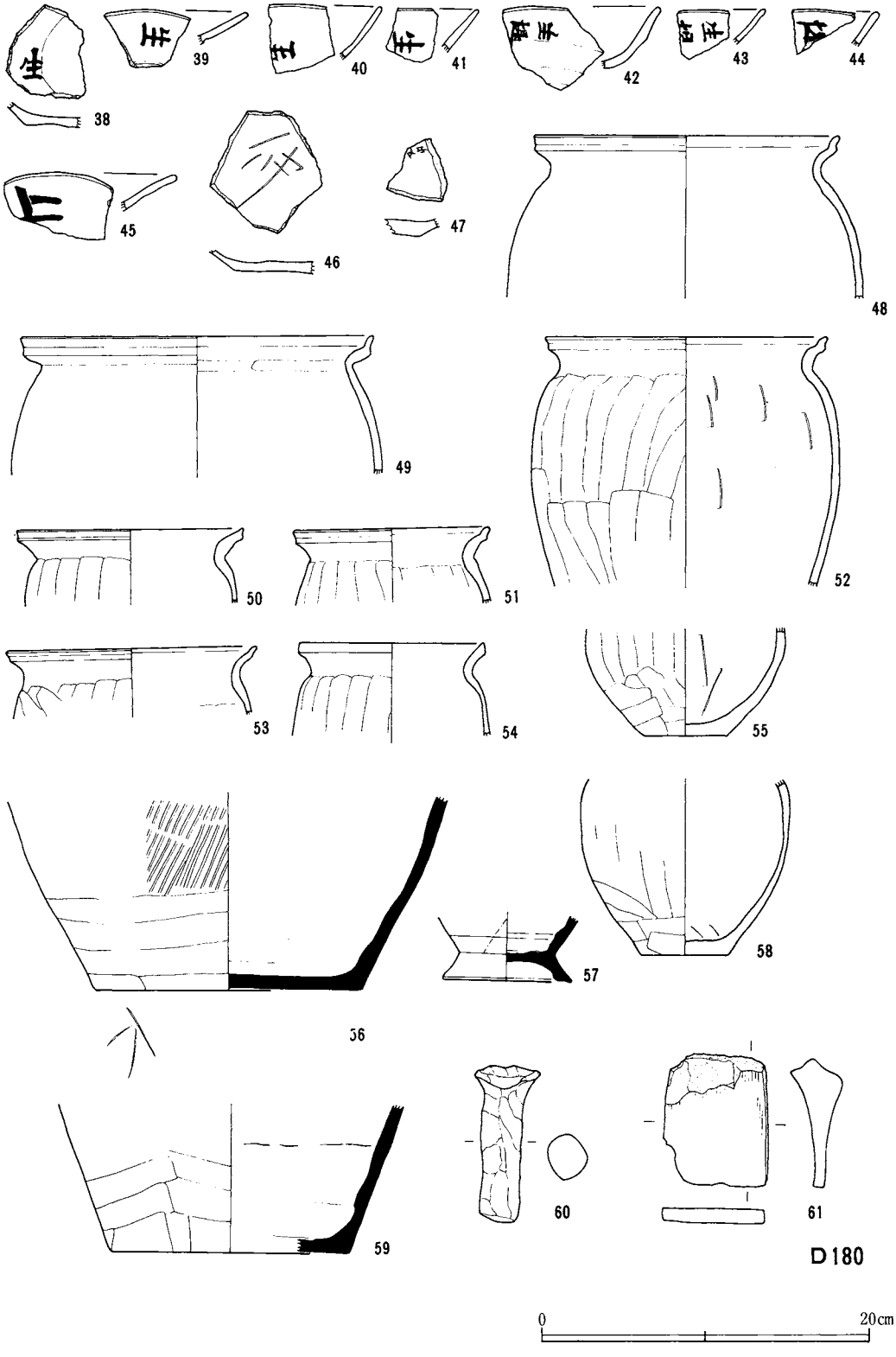

PL.23　歴史時代1群A遺物実測図　8



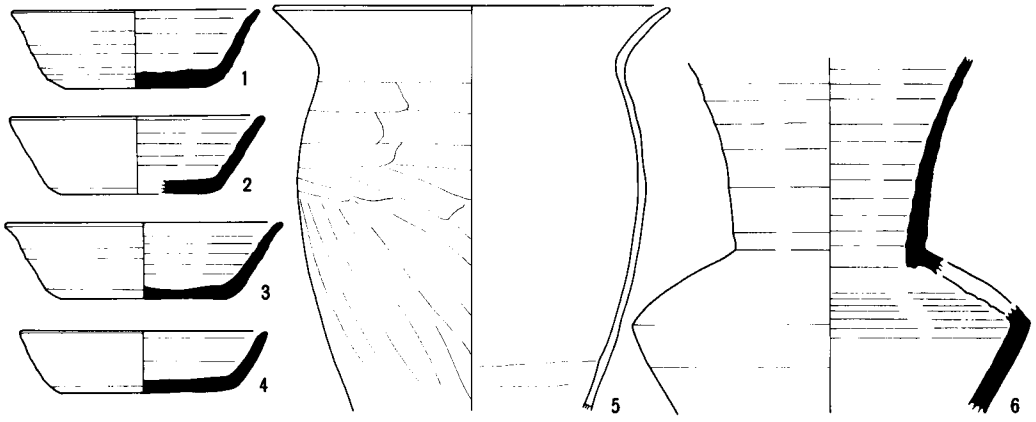

PL.24　歴史時代1群A遺物実測図　9



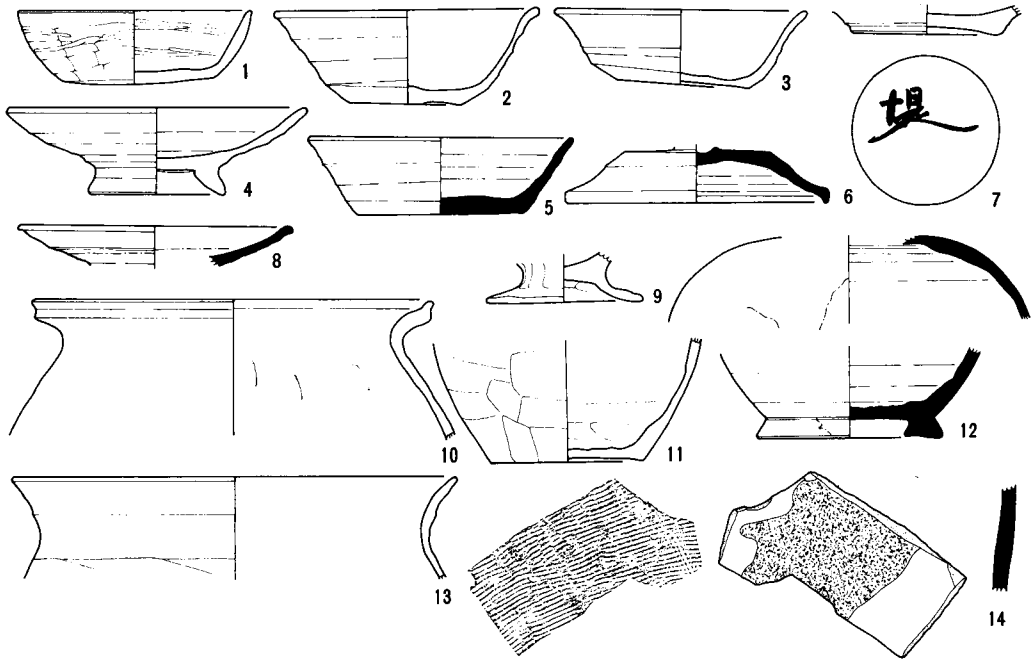

PL.25　歴史時代1群A遺物実測図10



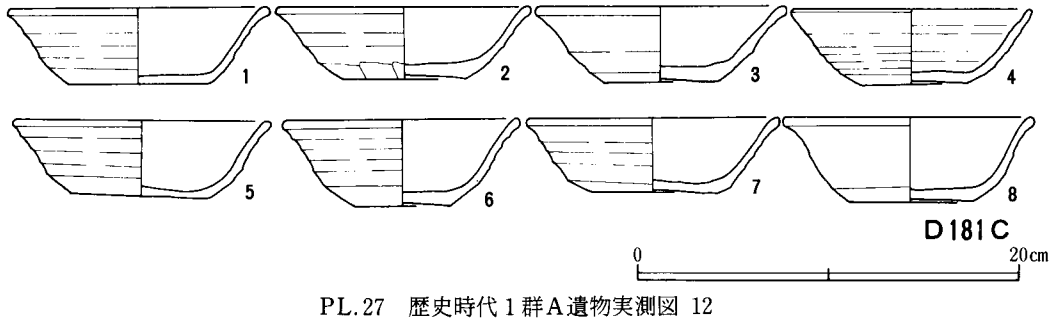

PL.26　歴史時代1群A遺物実測図 11




D181A

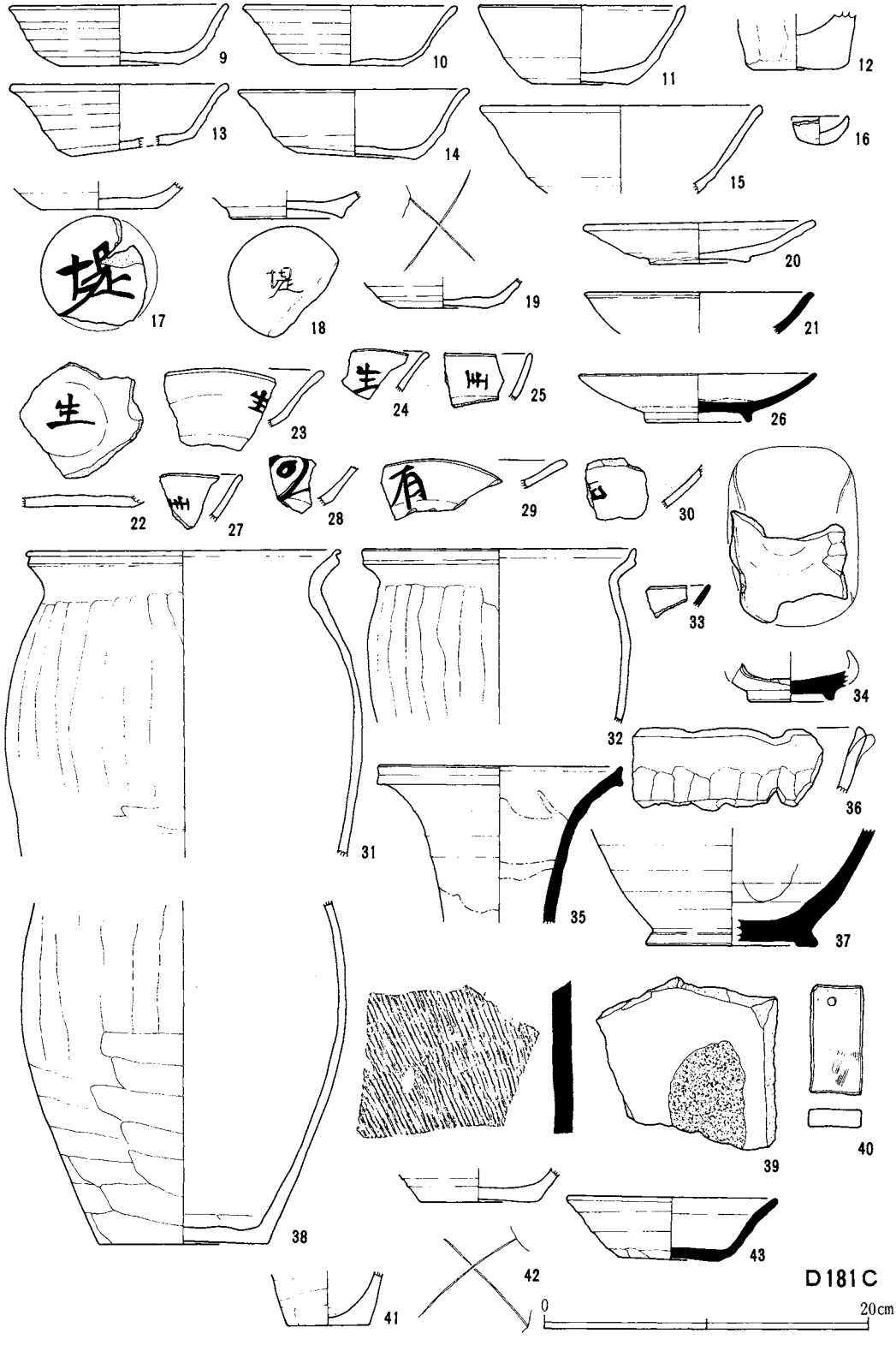



D181B

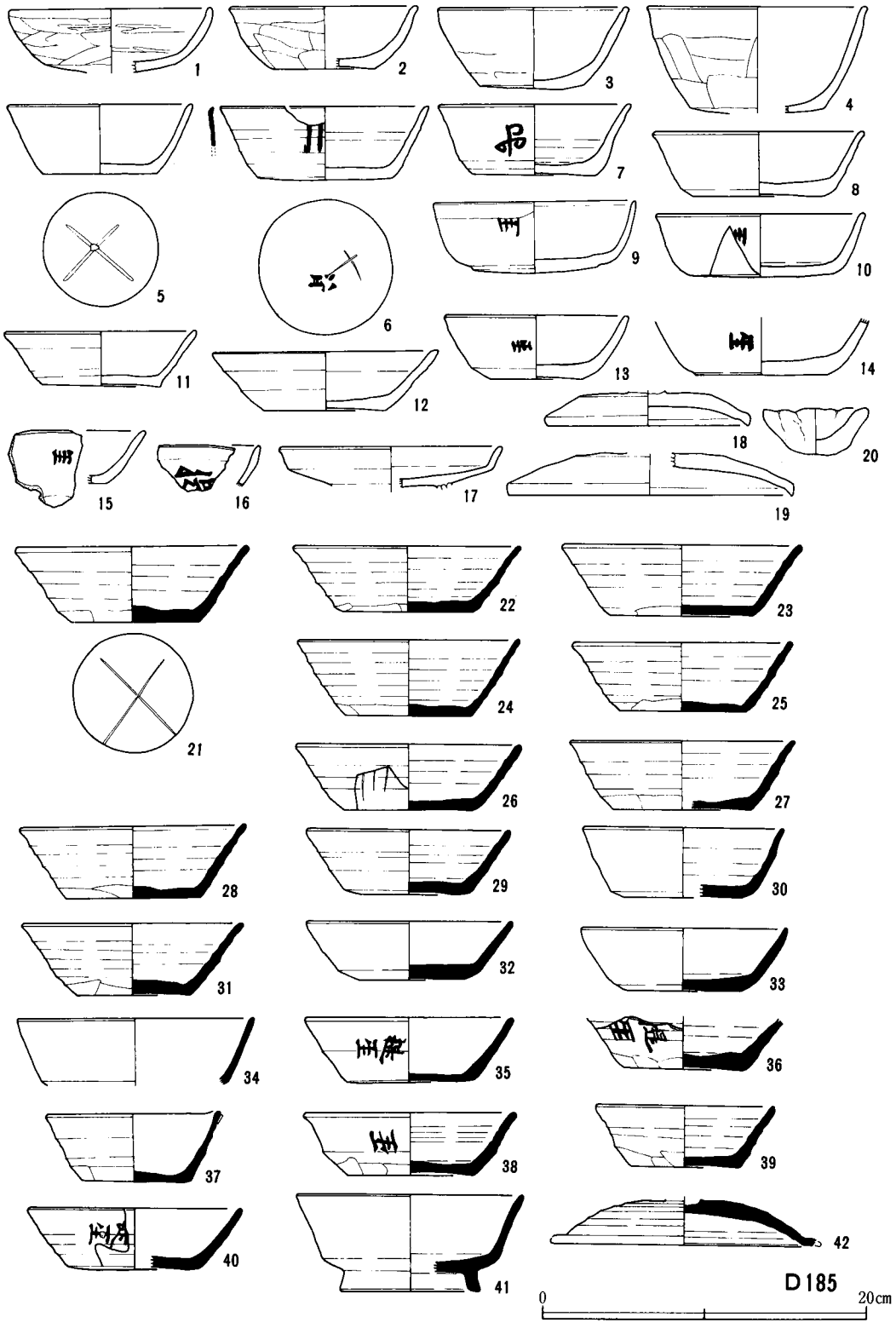



D181C

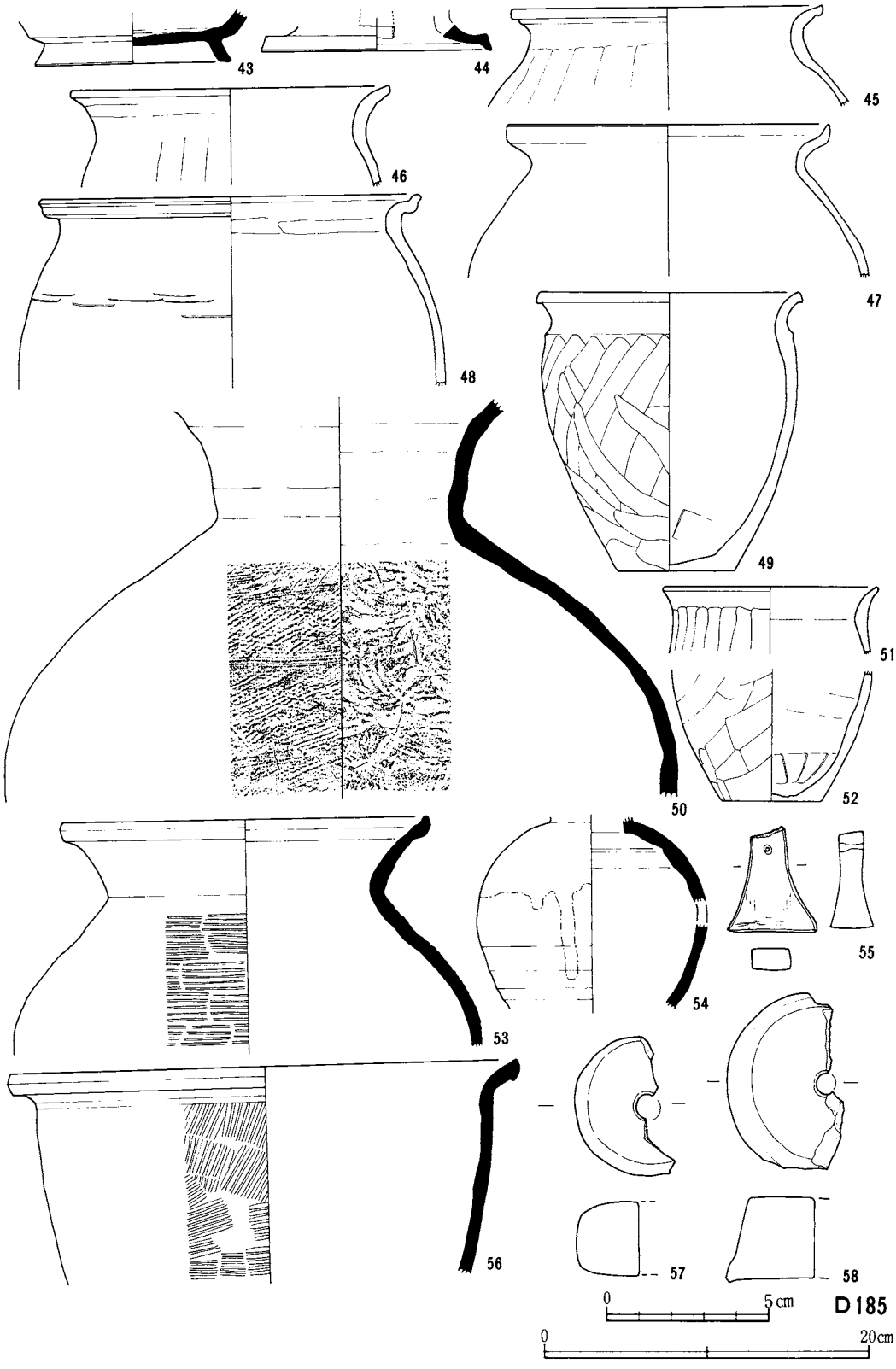
PL.27　歴史時代1群A遺物実測図 12



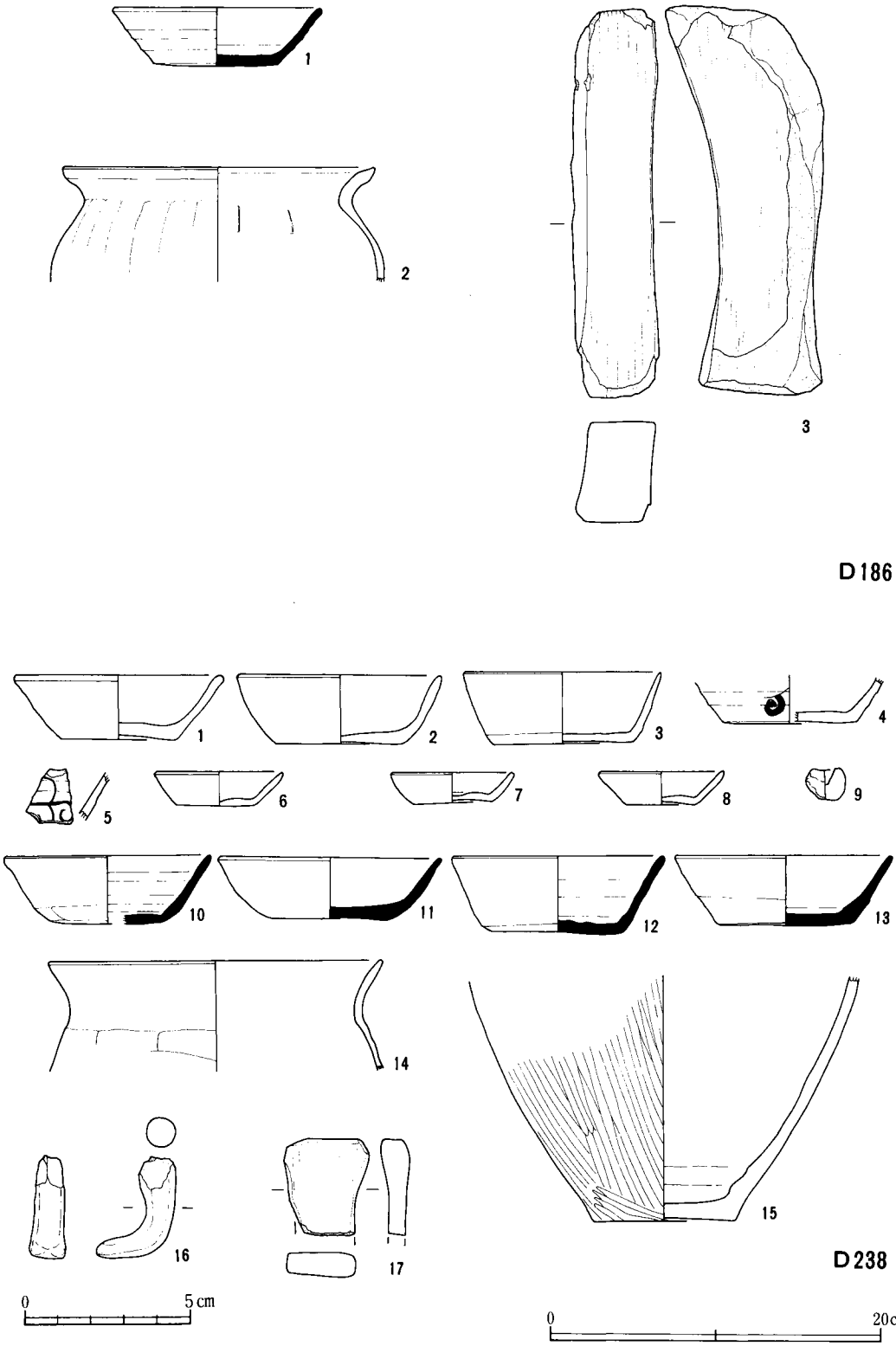

PL.28　歴史時代1群A遺物実測図 13



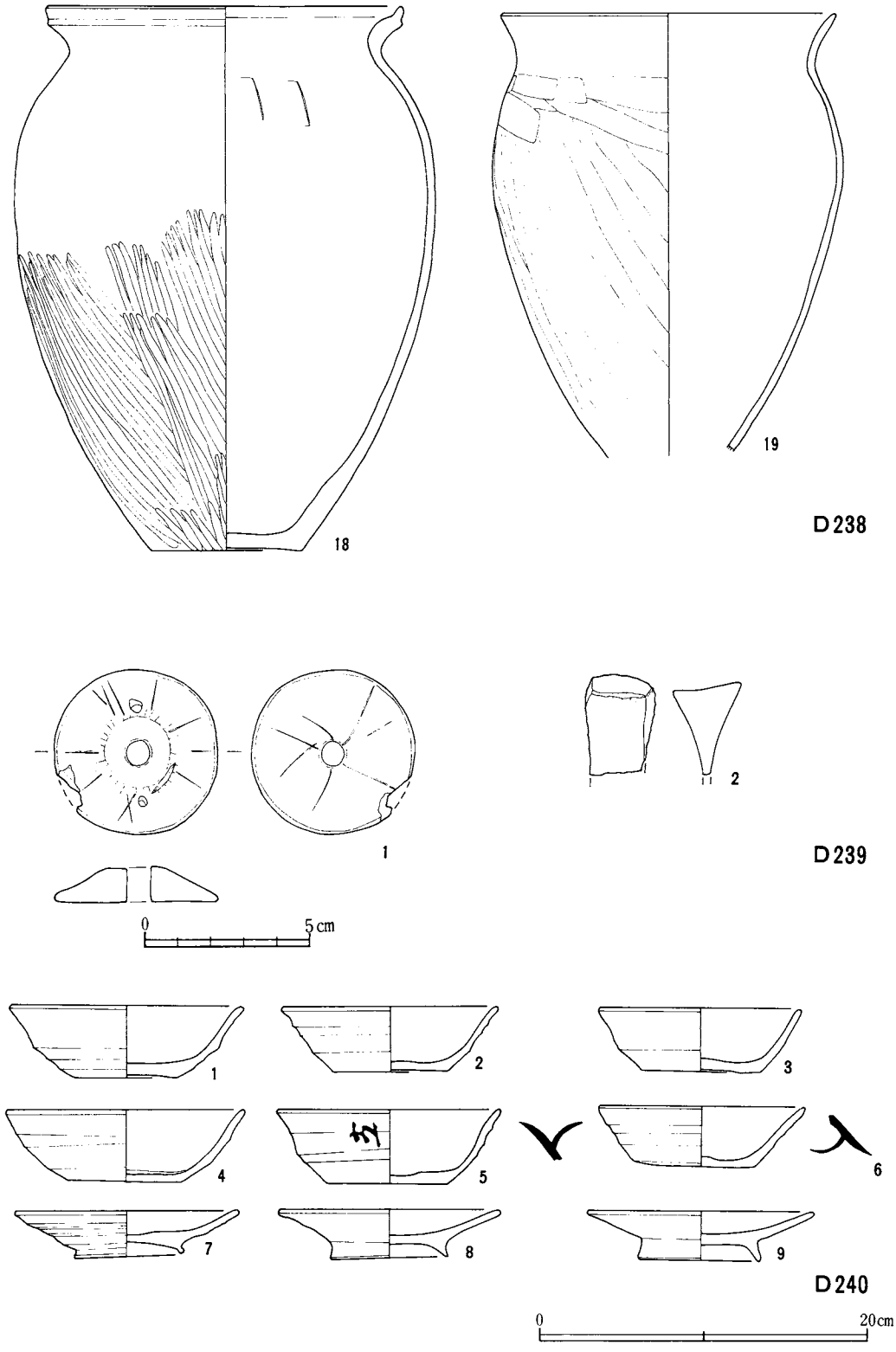

PL.29　歴史時代1群A遺物実測図 14



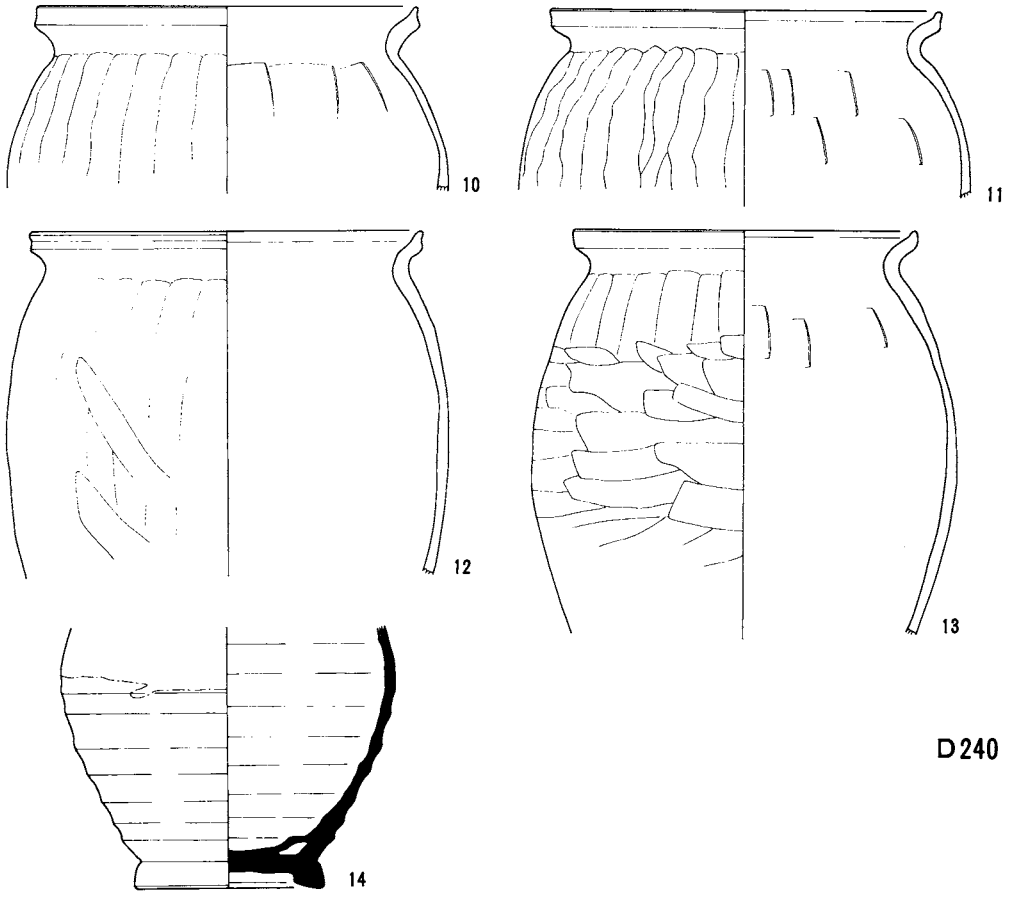

PL.30　歴史時代1群A遺物実測図 15

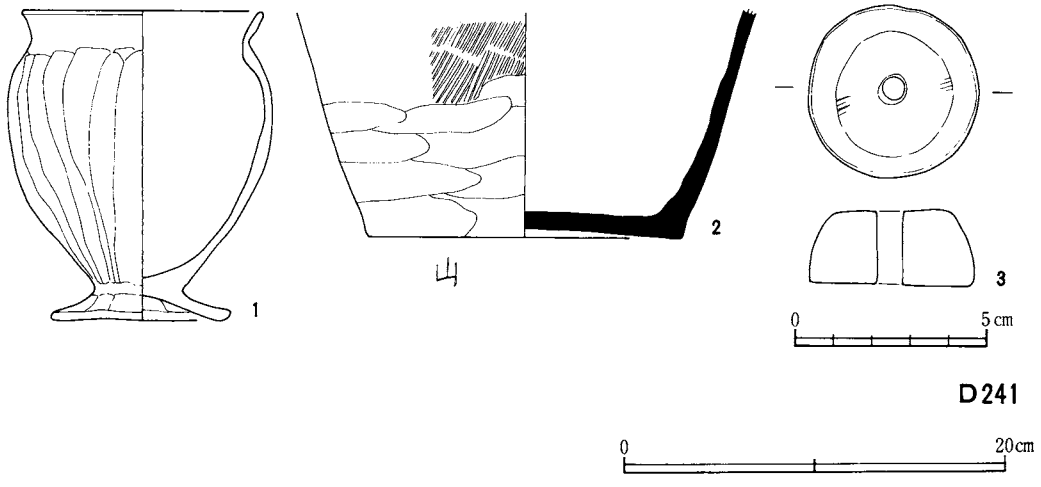



PL.31　歴史時代1群A遺物実測図 16

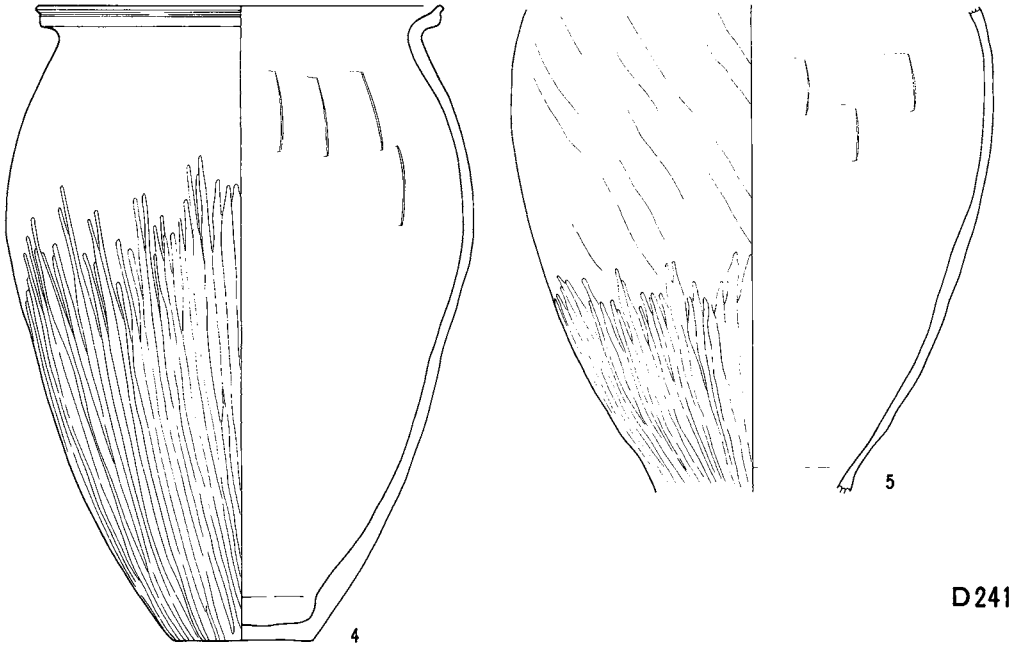



PL.32　歴史時代1群A遺物実測図 17

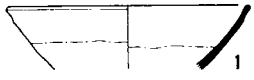


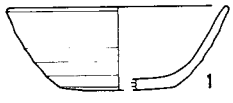

PL.33　歴史時代1群A遺物実測図 18



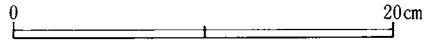

D241



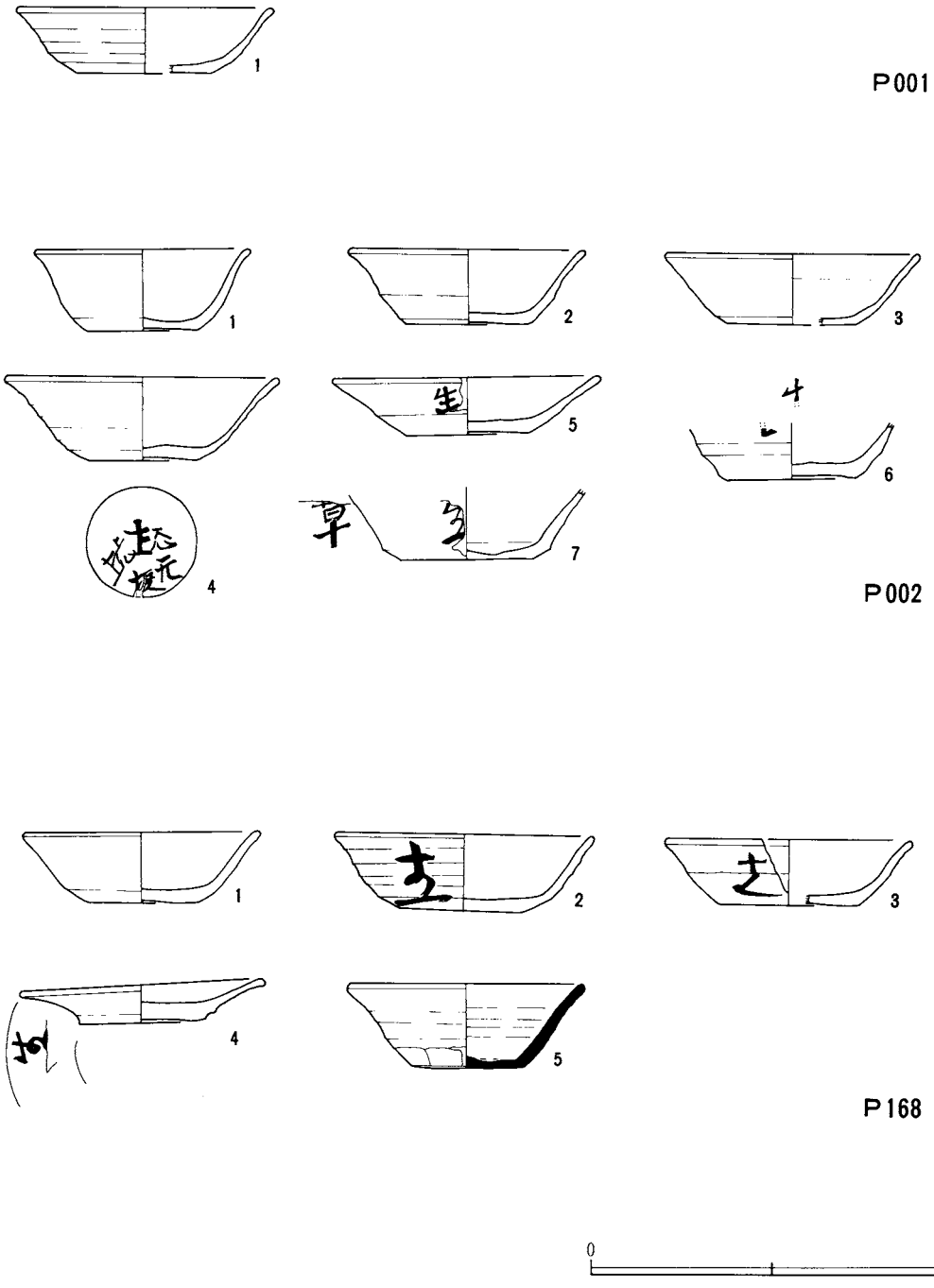

D242



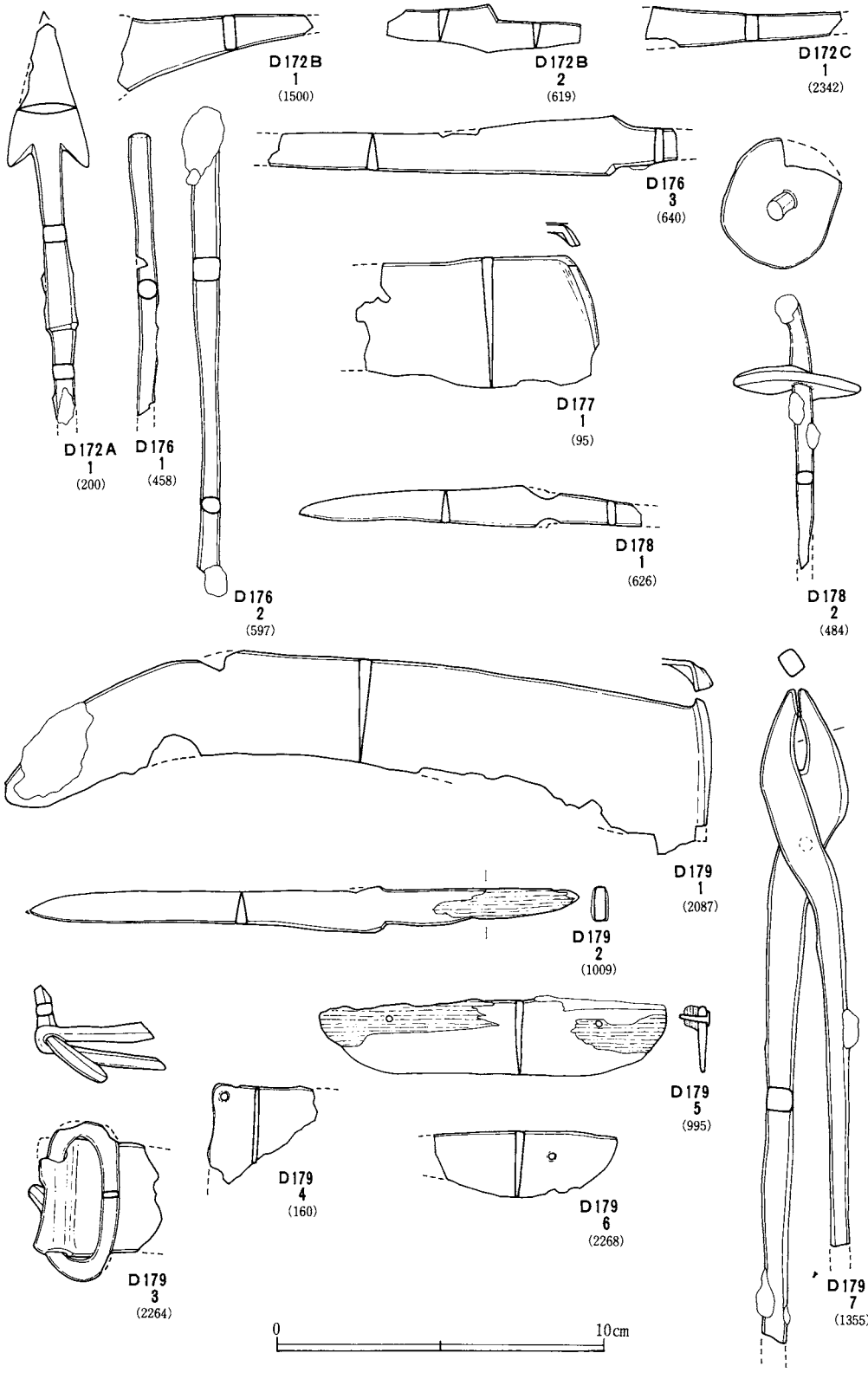

H076



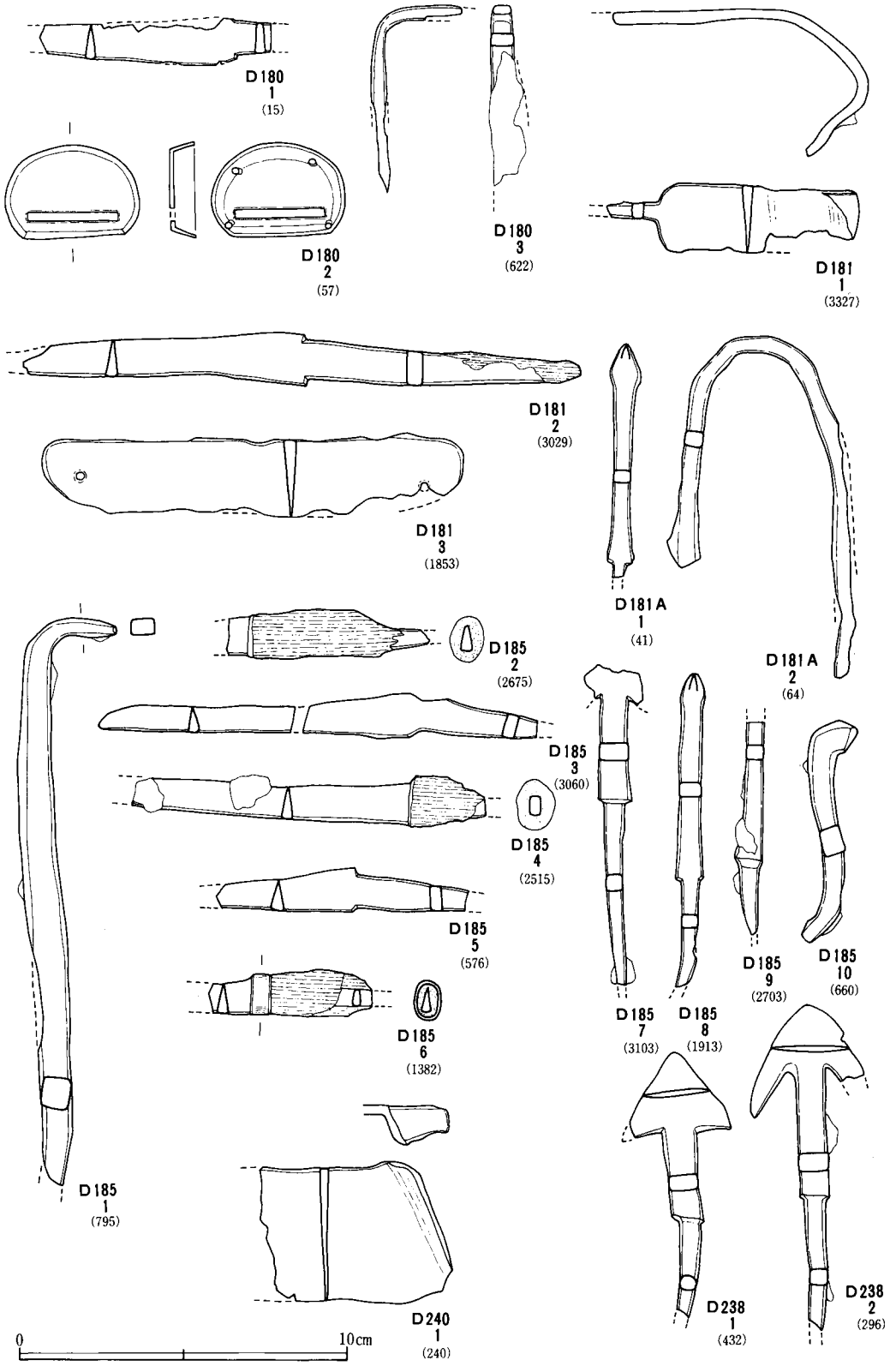

PL.34　歴史時代1群A遺物実測図 19




PL.35　歴史時代1群A遺物実測図 20




PL.36　歴史時代1群A鉄製品実測図　1



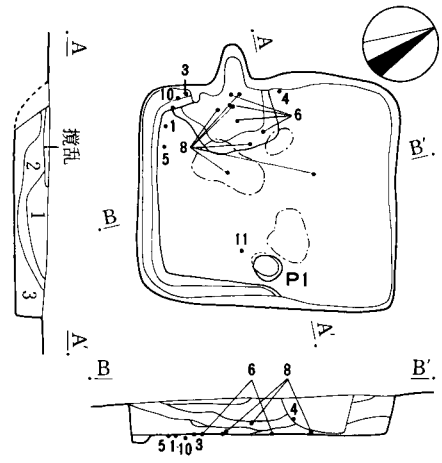

PL.37　歴史時代1群A鉄製品実測図　2

PL.38　歴史時代1群A文字資料抜萃　1

PL.39　歴史時代1群A文字資料抜萃　2

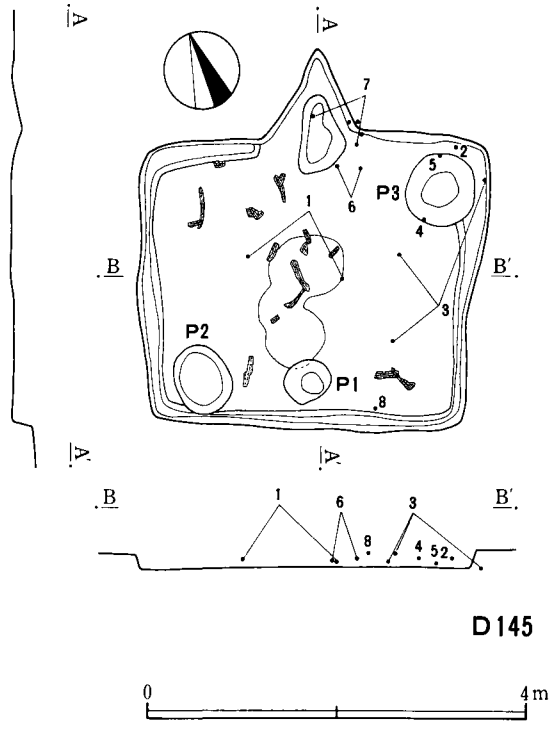
D144　D145に隣接する住居で、柱穴はなく、カマドに対峙する南東壁中央に出入口ピットがある。壁溝は南西壁に検出できた。床面はカマド前面及びＰ１の周辺に硬化面が遺存している。

1　褐色土　ローム粒を多く含む。
2　黒褐色土　ローム粒を少し含む。ごくわずかの焼土粒を含む。
3　褐色土　ローム粒を含む。
4　黄褐色土　少量の炭化粒を含む。



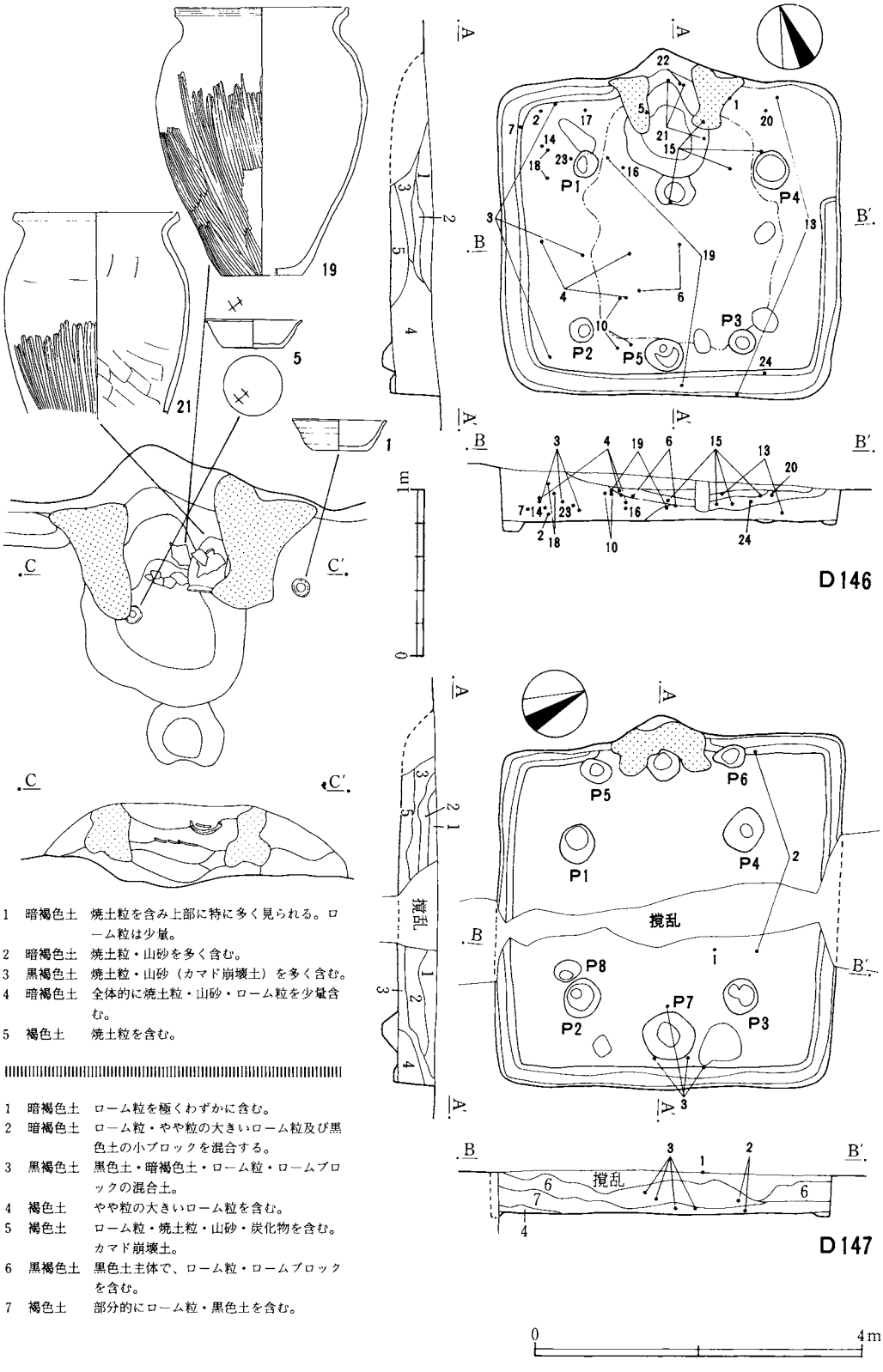

D144

D145　柱穴と考えられるピットはなく、カマドに対峙する南西壁際中央に出入口ピットがある。また、住居東コーナーと西コーナーにそれぞれ直径0.8ｍを測るピットがある。カマド右側のピットは貯蔵穴としての機能が考えられ、埋土は焼土粒・ロームブロックを多量に含む土層である。




D145

PL.40　D144・D145実測図



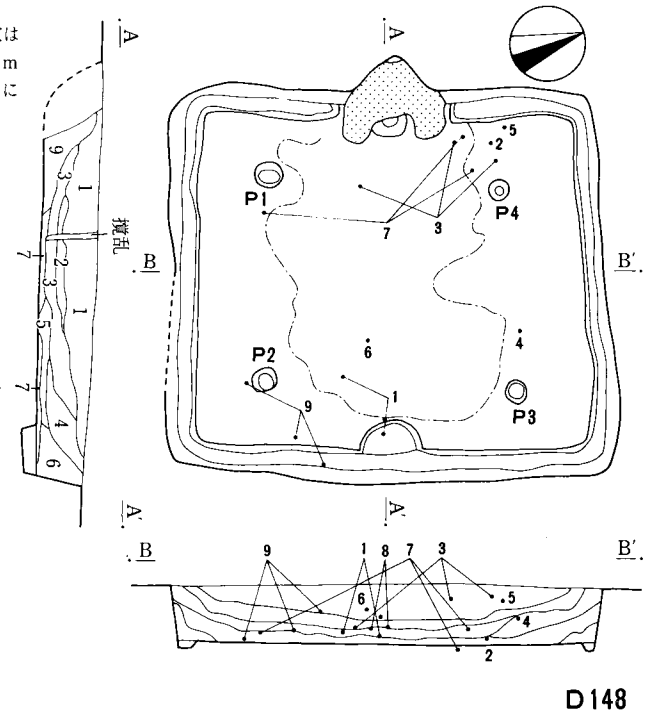

1　暗褐色土　焼土粒を含み上部に特に多く見られる。ローム粒は少量。
2　暗褐色土　焼土粒・山砂を多く含む。
3　黒褐色土　焼土粒・山砂（カマド崩壊土）を多く含む。
4　暗褐色土　全体的に焼土粒・山砂・ローム粒を少量含む。
5　褐色土　焼土粒を含む。

1　暗褐色土　ローム粒を極くわずかに含む。
2　暗褐色土　ローム粒・やや粒の大きいローム粒及び黒色土の小ブロックを混合する。
3　黒褐色土　黒色土・暗褐色土・ローム粒・ロームブロックの混合土。
4　褐色土　やや粒の大きいローム粒を含む。
5　褐色土　ローム粒・焼土粒・山砂・炭化物を含む。カマド崩壊土。
6　黒褐色土　黒色土主体で、ローム粒・ロームブロックを含む。
7　褐色土　部分的にローム粒・黒色土を含む。

PL.41　D146・D147実測図

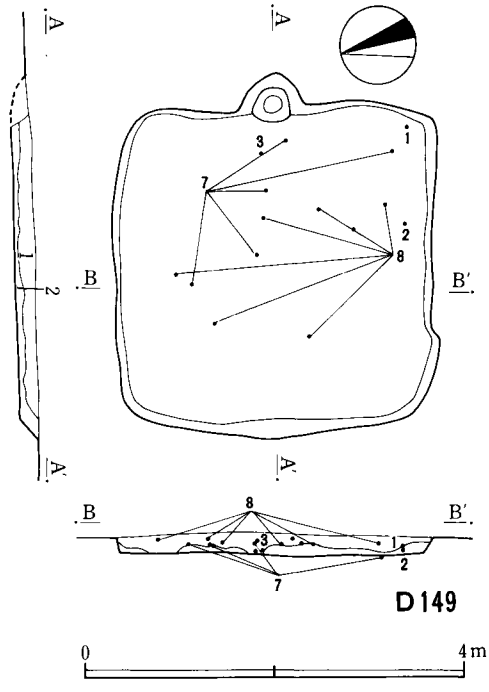
D148　D170の南側に位置する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P1は直径0.3m床面から0.5mの深さを測る。また、カマドに対峙する東壁中央に出入口ピットがある。

1　暗褐色土　ローム粒を全体的に少量含む。
2　褐色土　暗褐色土と褐色土の混合土。ローム粒を含む。
3　黒褐色土　ローム粒及び少量の炭化物を含む。
4　褐色土　ローム粒及び黒色土を小ブロック状に含む。
5　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
6　暗褐色土　ローム粒・黒色土をブロック状に混合する。
7　明褐色土　ローム粒主体・焼土粒を含む。
8　明褐色土　ローム粒・褐色土の混合土。
9　褐色土　山砂・焼土粒・炭化粒を含む。カマド崩壊土。




D149　D170に隣接する住居で、柱穴・壁溝ともなく、カマドは寺谷津とは反対側の東壁中央に設置されている。遺存状態は悪く、袖材はまったく残されていない。

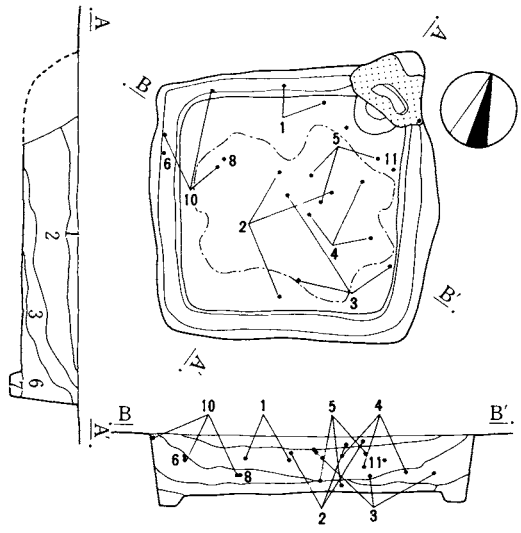
1　暗褐色土　褐色土をブロック状に含み、極くわずかに焼土粒を含む。
2　明褐色土　ローム粒・褐色土の混合土。




PL.42　D148・D149実測図

D150　カマドは住居北コーナーに設置され、1群Bグループではこのような隅カマドの住居が目立つ。

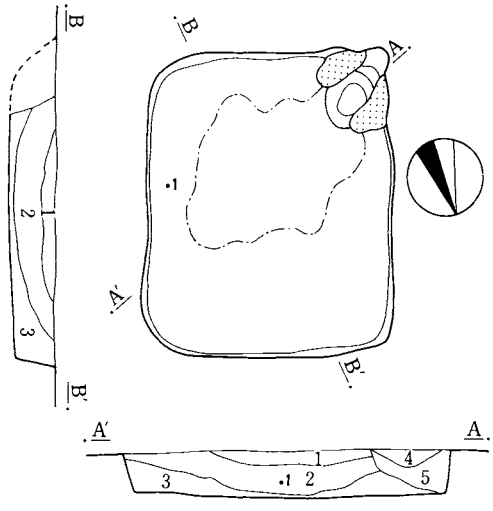
1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を多く含む。
2　明褐色土　褐色土中に多量の砂質土及びロームブロック・焼土粒・少量の黒色土を含む。
3　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。少量の炭化粒、焼土粒も含まれる。
4　褐色土　ローム粒及び少量の焼土粒を含む。
5　黒色土　ローム粒子を含む。
6　黒褐色土　ロームブロックをまばらに含む。
7　黄褐色土　ロームブロックの間に少量の黒褐色土を含む。




D150

D151　D150の北側に位置する住居で、柱穴・壁溝はなく、カマド前面から住居中央にかけて硬化面が遺存している。カマドは住居南西コーナーに設置される。

1　暗褐色土　黒色土やや多く、ローム粒も含む。
2　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックとブロック状黒色土が混在する。
3　明褐色土　黒色土はやや少なく、ローム粒多い。
4　暗褐色土　ローム粒少ない。
5　黒褐色土　黒色土がかなり多量に含まれており、ロームブロックはやや少ない。



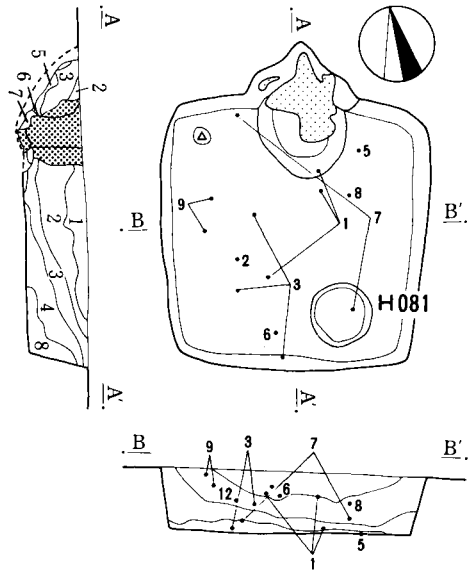

D151

0　4m

PL.43　D150・D151実測図

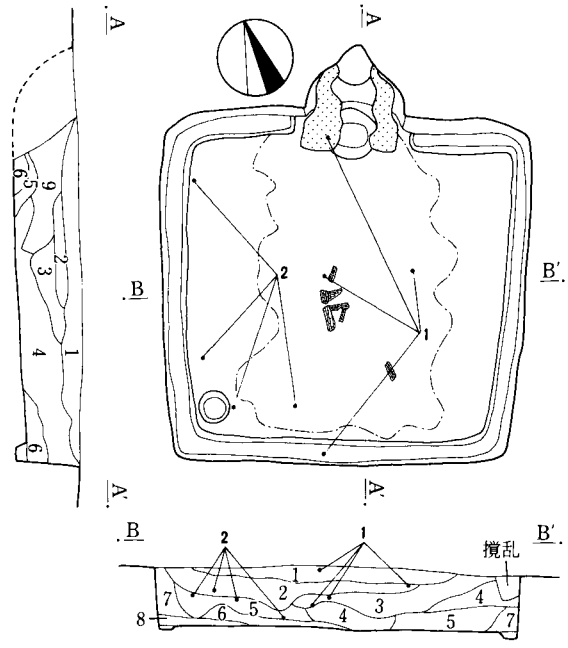
D152　H081と重複する住居で、カマド前面はH081によって破壊される。床面に近いレベルに貝が廃棄されている。マガキが50個体確認された。

1　褐色土　ローム粒子を全体に含む。
2　黄褐色土　2～3㎜のロームブロックを多く含む。ローム粒子の多い層。少量の炭化粒が含まれる。
3　里褐色土　全体にローム粒子が含まれ、焼土粒・炭化粒をも含む。しまり良し。
4　黄褐色土　ロームブロック及び粒状の黒色土を含む。ローム粒子の多い層。
5　白色砂質土
6　焼土
7　淡赤褐色土　ごく少量焼土含む。
8　黒褐色土　褐色土中に粒状の黒色土及びローム粒子を含む。
トーンの部分はH081




D153　D152の南側に位置する住居で、住居南西コーナーにピット1箇所がある。直径0.2m、床面から0.1mの深さを測る。なお、住居中央から僅かに炭化材が出土した。

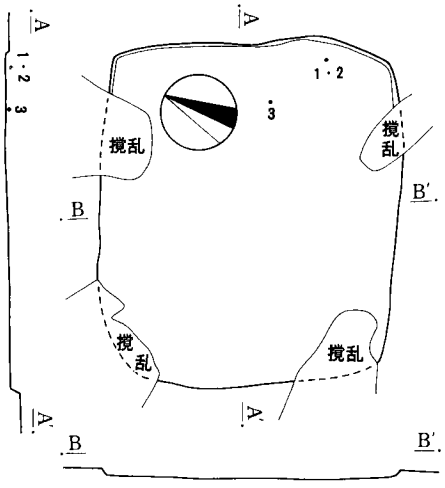
1　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を極く少量含む。
2　黒褐色土　黒色土・暗褐色土・ローム粒の混合土。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
4　明褐色土　ローム粒・褐色土・ロームブロック・黒色土の混合土。
5　明褐色土　ローム粒・褐色土主体、少量ロームブロック・黒色土を含む。
6　褐色土　やや粒の大きいローム粒を含む。
7　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック・山砂を含む。
8　明褐色土　ローム粒主体。
9　明褐色土　ローム粒・褐色土主体、ロームブロック・焼土・山砂（カマド崩壊土）を多量に含む。



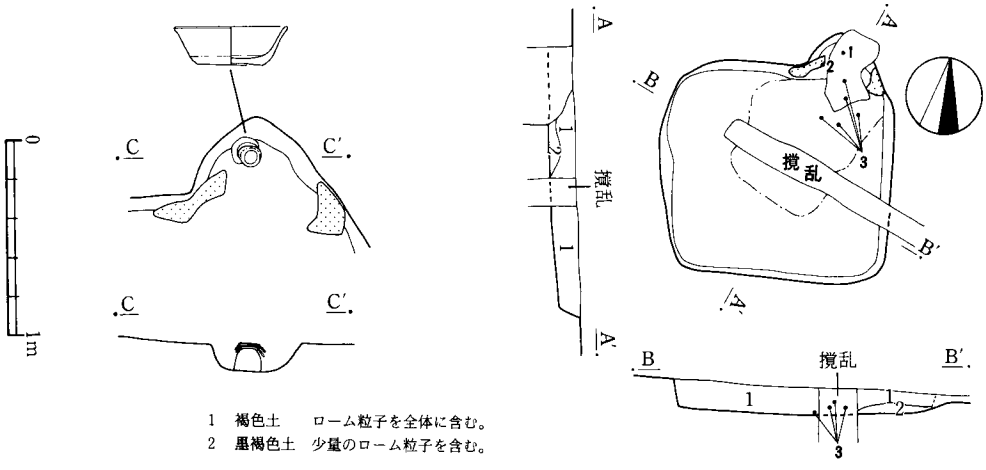

0　4m

PL.44　D152・D153実測図

D154　D200に隣接する住居で、柱穴・壁溝はなく、カマドも検出できなかった。




D154




1　褐色土　　ローム粒子を全体に含む。
2　黒褐色土　少量のローム粒子を含む。

D155

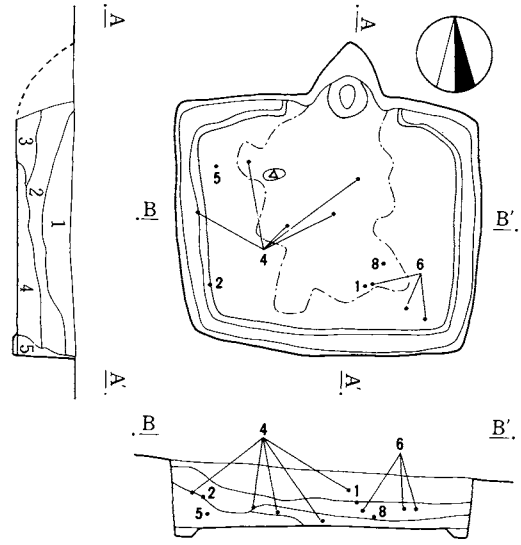
D155　D200の西側に位置する住居で、柱穴・壁溝はなく、カマドは北壁の北東コーナーに接する位置に設置されている。遺存状況はよくないが、カマド廃絶時に坏を納めている。

0　4m

PL.45　D154・D155実測図

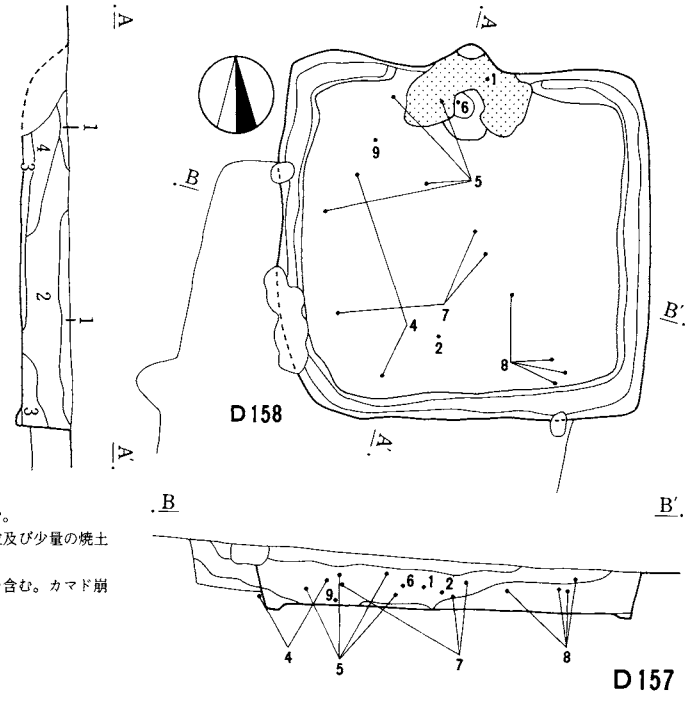
D156　D153の南側に位置する住居で、床面は南壁際からカマドへかけて良好な硬化面が遺存している。床面に近いレベルにハマグリ・シオフキを主体とした貝の廃棄が行なわれている。

1　黒褐色土　褐色土を小ブロックに含み、全体的にローム粒・ロームブロックを含む。
2　暗褐色土　全体的にローム粒及び少量のロームブロック・黒色土を含む。
3　褐色土　やや粒の大きいローム粒を含む。
4　明褐色土　ローム粒・褐色土・ロームブロック主体、黒色土を含む。
5　明褐色土　ローム粒・褐色土主体。




D157　D158と重複する住居で、D158→D157の先後関係が確認できた。カマドは北壁中央に設置され、袖部に合わせて地山を掘り残している。

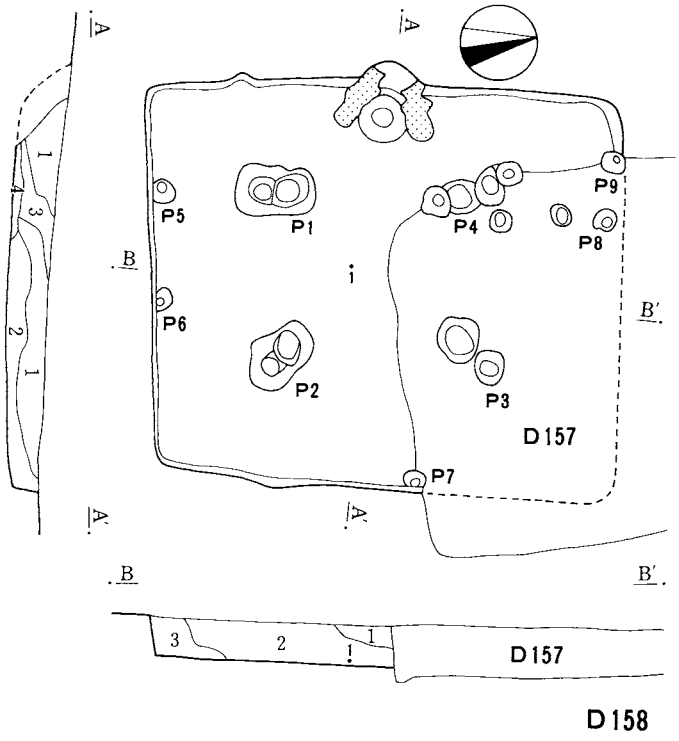
1　黒褐色土　ローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
3　褐色土　やや粒の大きいローム粒及び少量の焼土粒を含む。
4　褐色土　山砂・焼土粒・炭化粒を含む。カマド崩壊土。




PL.46　D156・D157実測図

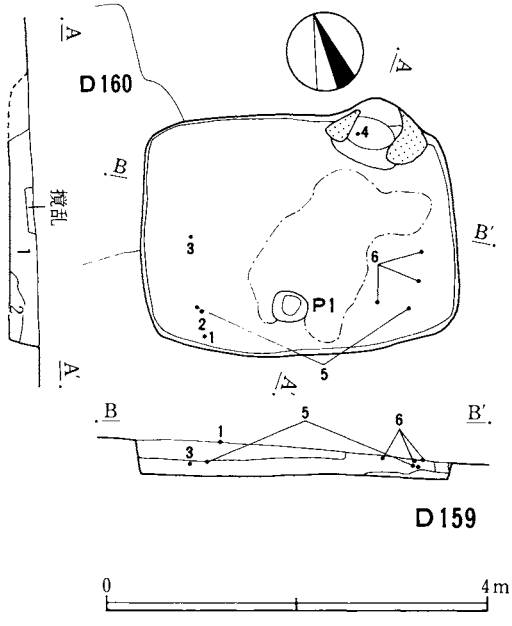
D158　柱穴は住居対角線上に4箇所あり、それぞれの柱に立て替えが行われている。直径は0.4m前後で、床面から0.2～0.3mの深さを測る。壁溝はないが、壁に接して5箇所のピットがある。

1　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒・黒色土を含む。
2　暗褐色土　褐色土・黒色土・ローム粒・ロームブロックの混合土。
3　明褐色土　ローム粒・褐色土の混合土。
4　暗褐色土　黒色土・山砂を含む。カマド崩壊土。




D159　D160と重複する住居で、カマドに対峙する南壁際中央に出入口ピットがある。出入口ピットからカマド前面にかけて良好な硬化面が遺存している。

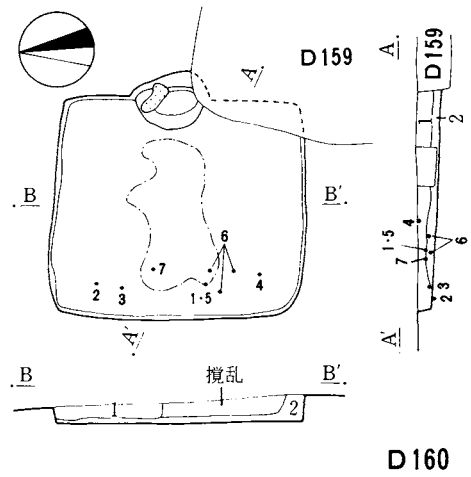
1　暗褐色土　ごく少量の炭化粒を含む。
2　黄褐色土　ロームのかたまりが多く混入、少量の炭化粒も含む。




PL.47　D158・D159実測図

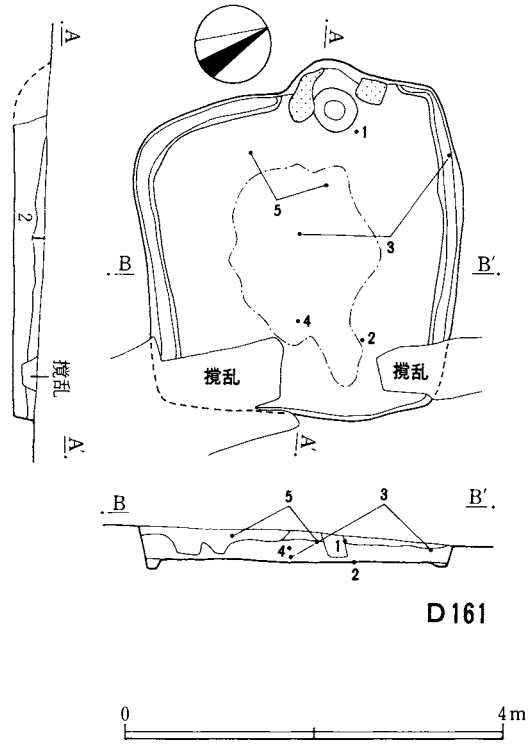
D160　柱穴・壁溝はなく、住居中央に硬化面が遺存している。カマドは東壁中央に設置され、袖材はほとんど残されていない。

1　褐色土　焼土粒及び炭化粒が全体に含まれる。
2　明褐色土　ところどころにロームブロック含む。




D161　D182の東側に位置する住居で、柱穴はなく、東壁に撹乱を受けるが、他の壁には壁溝がある。床面は東壁からカマド前面にかけて硬化面が遺存している。カマドは西壁のやや北寄りに設置され、火床部の内法は0.4m、煙道部の張り出しは0.3mを測る。

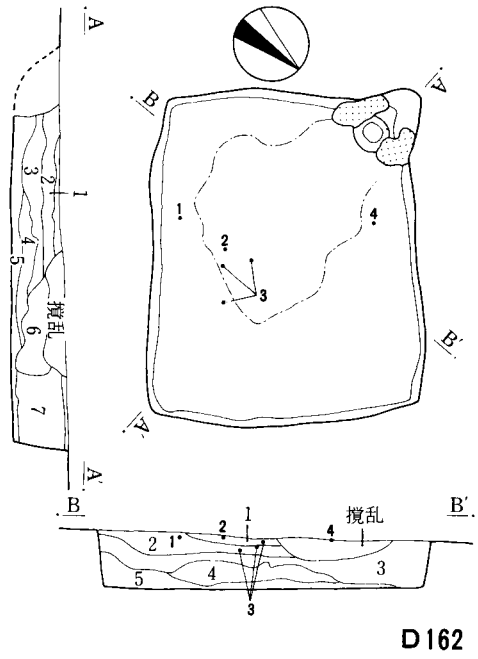
1　褐色土　ローム粒を含む。
2　暗褐色土　全体に焼土粒・ローム粒をまばらに含む。



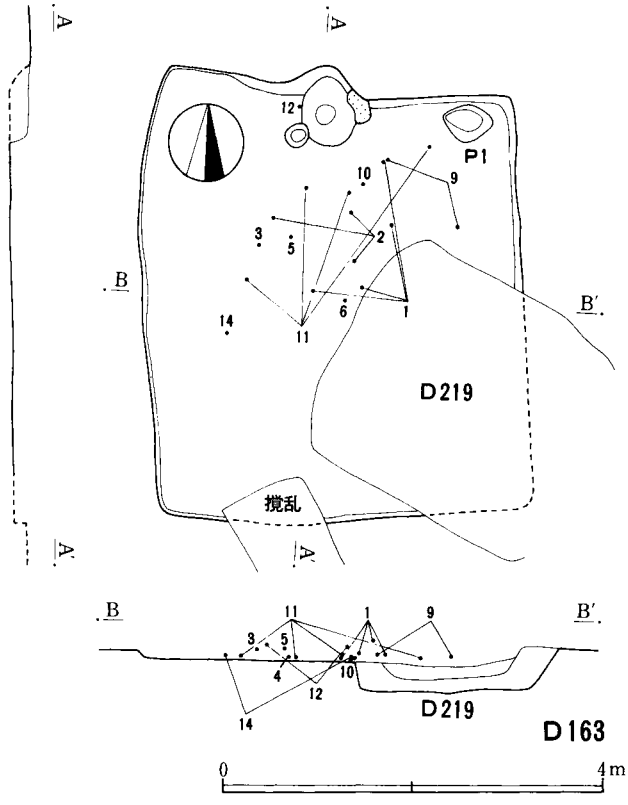

PL.48　D160・D161実測図

D162　H083の西側に位置する住居で、カマド前面から住居中央にかけて硬化面が遺存している。カマドは住居西コーナーに設置され煙道部をコーナーから張り出させている。

1　褐色土　1㎜前後のローム粒子を全体的に含む。ごく少量の山砂をところどころに含む。
2　褐色土　全体に1㎜程度のローム粒子を含む。
3　黒褐色土　1～2㎜のローム粒子を含む。
4　黄褐色土　1～2㎜のローム粒子及び1㎝前後のロームブロックを多く含む。
5　黄色土　ロームの中に褐色土が少量混入。
6　黒褐色土　1～5㎜のローム粒子を全体に含む。
7　褐色土　1～2㎜のローム粒子をまんべんなく含む。

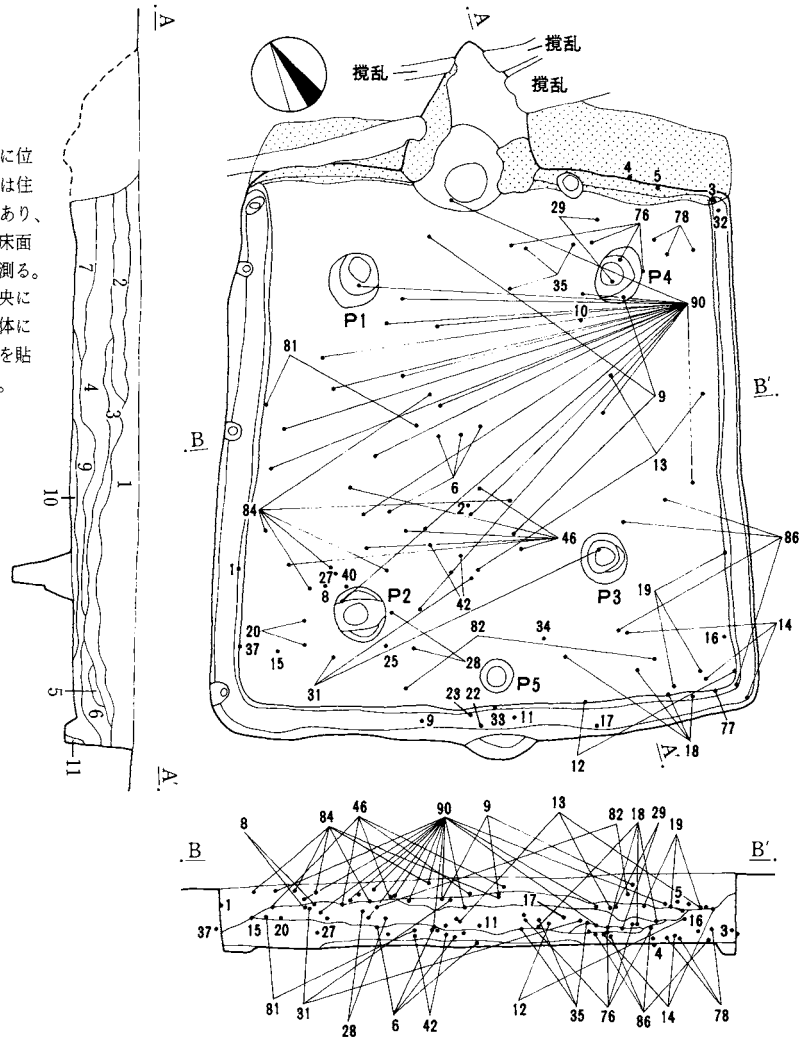



D163　D219と重複する住居で、D219→D163の先後関係が確認できた。柱穴・壁溝はないが、住居北東コーナーにピットがある。カマドは北壁中央に設置され、袖材はほとんど残っていない。煙道部は壁外へ0.2m張り出している。




PL.49　D162・D163実測図

D164　D165の南側に位置する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P1は直径0.5m、床面から0.5mの深さを測る。カマドは北東壁の中央に設置され、北東壁全体に袖材同様の砂質粘土を貼付けたテラスがある。

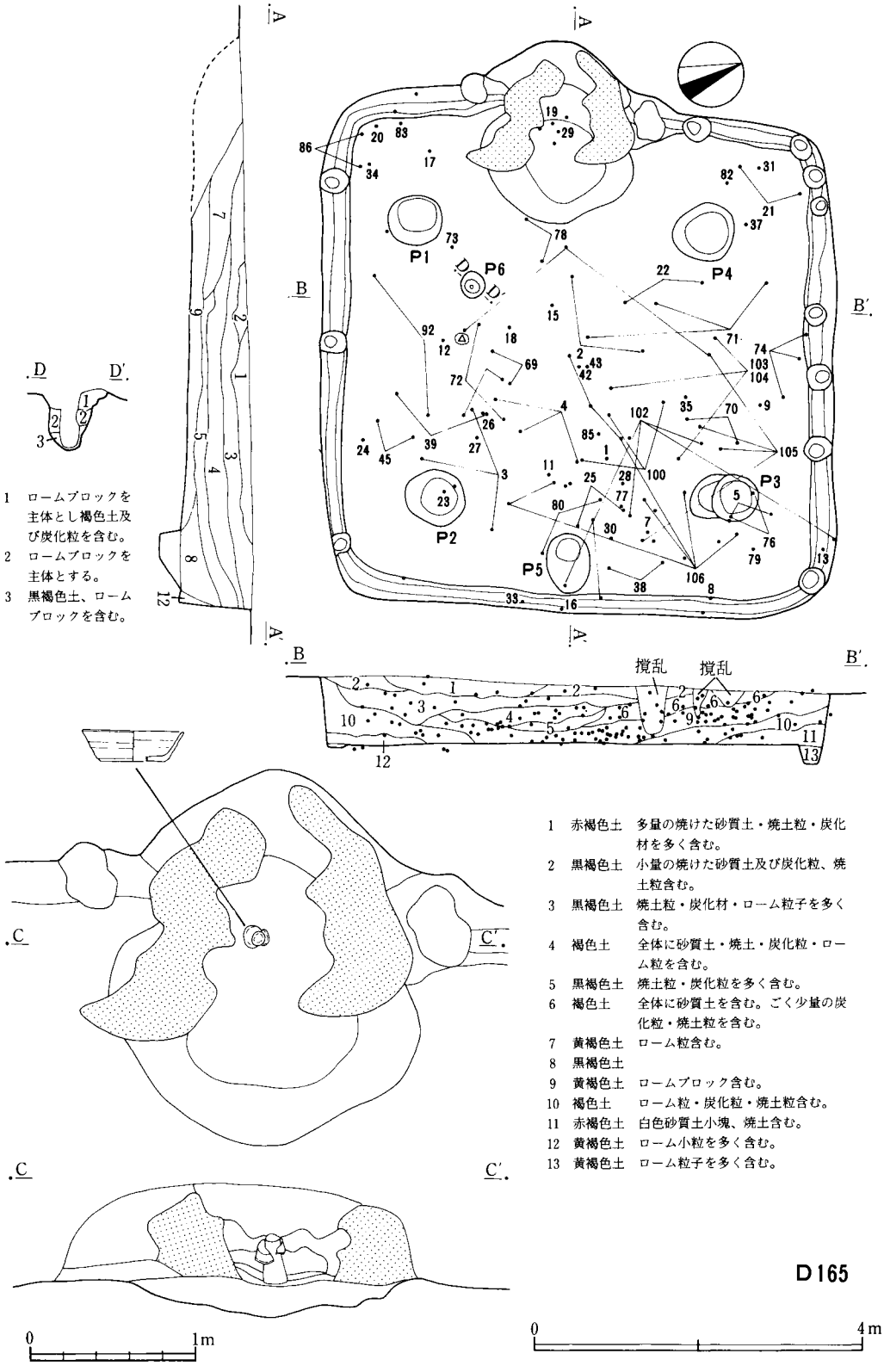



1　明褐色土　5㎜程度のローム粒及び炭化粒、焼土粒を含む。
2　灰褐色土　炭化粒・焼土粒を多く含む、砂質土の多い層。ローム少ない。
3　黒褐色土　焼土及び炭化粒が、淡褐色土中に多く含まれる。
4　黄褐色土　ローム分の多い褐色土中に、3～4㎜のロームブロックが多く含まれる。炭化粒及び焼土粒も少量含まれる。
5　砂質土
6　黒褐色土　炭化粒と焼土の細粒を少量含む。
7　灰褐色土　焼土粒・山砂が多く含まれている。
8　黒褐色土　焼土及び炭化粒を含み、しまりは良い。ローム分は少ない。
9　褐色土　やや大きめの炭化粒及び焼土、ローム細粒を全体に含む。
10　褐色土　ロームブロック・焼土を多く含む。
11　砂質土
12　灰褐色土　砂質粘土が全体的に混入。しまりやや弱い、少量の焼土粒も含む。
13　灰色砂質土しまり良し。

**D164**

0　4m

PL.50　D164実測図




1 ロームブロックを主体とし褐色土及び炭化粒を含む。
2 ロームブロックを主体とする。
3 黒褐色土、ロームブロックを含む。

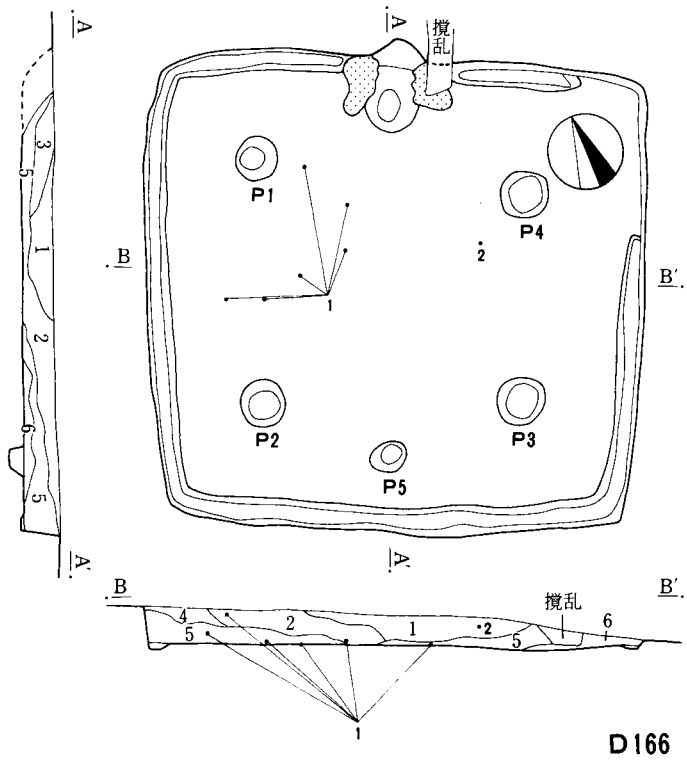
1 赤褐色土 多量の焼けた砂質土・焼土粒・炭化材を多く含む。
2 黒褐色土 小量の焼けた砂質土及び炭化粒、焼土粒含む。
3 黒褐色土 焼土粒・炭化材・ローム粒子を多く含む。
4 褐色土 全体に砂質土・焼土・炭化粒・ローム粒を含む。
5 黒褐色土 焼土粒・炭化粒を多く含む。
6 褐色土 全体に砂質土を含む。ごく少量の炭化粒・焼土粒を含む。
7 黄褐色土 ローム粒含む。
8 黒褐色土
9 黄褐色土 ロームブロック含む。
10 褐色土 ローム粒・炭化粒・焼土粒含む。
11 赤褐色土 白色砂質土小塊、焼土含む。
12 黄褐色土 ローム小粒を多く含む。
13 黄褐色土 ローム粒子を多く含む。

D165

PL.51 D165実測図

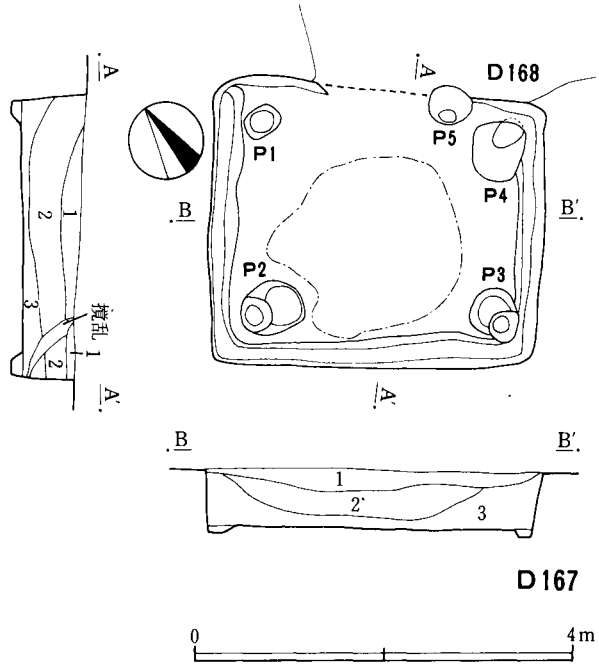
D166　D165の東側に位置する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所があり、P1は直径0.4m、床面から0.6mの深さを測る。

1　褐色土　ロームブロックを含む。ごく少量の焼土を含む。
2　黄褐色土　ローム粒及びロームブロックを全体に含む。
3　褐色土　ローム粒子が多く含まれ、山砂及び焼土を含む。
4　褐色土　ローム粒を全体に含む。
5　黒褐色土　ローム粒及び焼土粒をそれぞれ少量含む。
6　褐色土　ローム粒を含む。

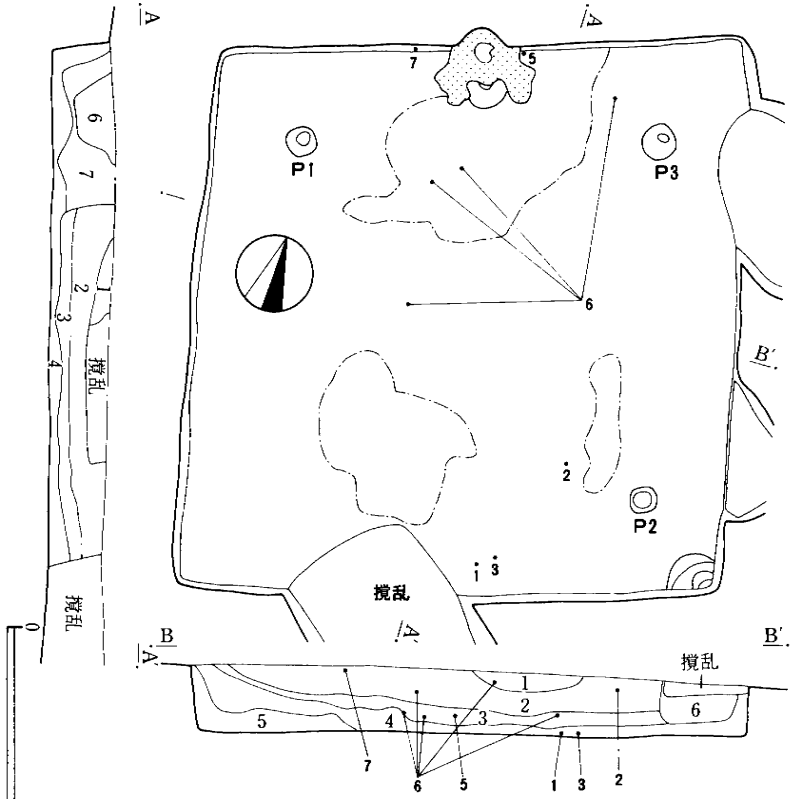



D167　D168と接する住居で、柱穴は住居コーナーに4箇所あり、P2・P3は2段に掘り込まれている。埋土中にはハマグリ・シオフキ・アサリが廃棄されている。

1　里色土　ローム粒を含む。
2　明褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
3　暗褐色土　黒色土・ロームブロックをやや多く含む。

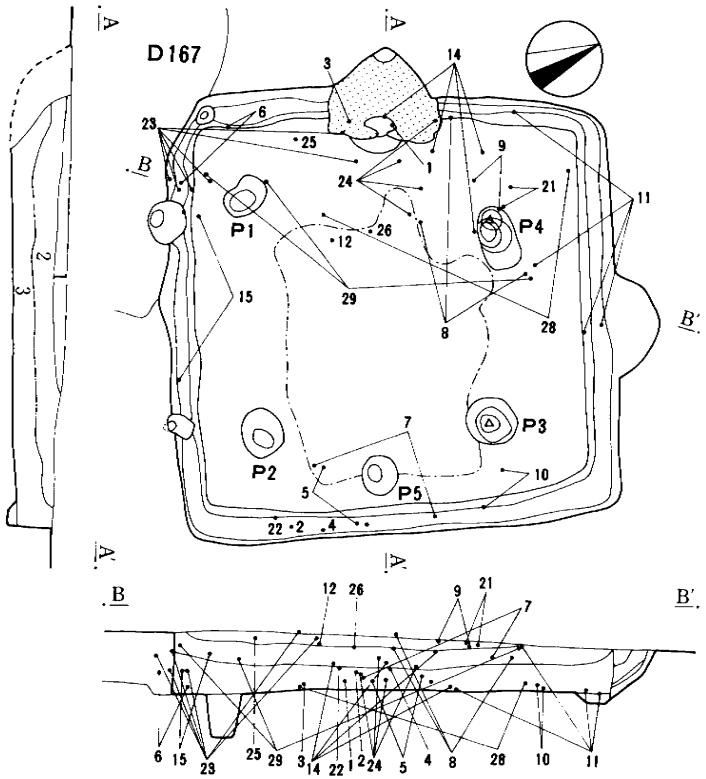



PL.52　D166・D167実測図




1　暗褐色土　ローム粒を極くわずかに含む。
2　暗褐色土　褐色土を全体的に含み、ローム粒を含む。
3　黒褐色土　やや粒の大きいローム粒及び少量の炭化粒を含む。
4　明褐色土　ローム粒と褐色土の混合土。
5　明褐色土　やや粒の大きいローム粒・褐色土・黒色土・ロームブロックの混合土。
6　褐色土　ローム粒及び少量の焼土粒を含む。
7　黒色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化物を含む。土坑の覆土。

D170



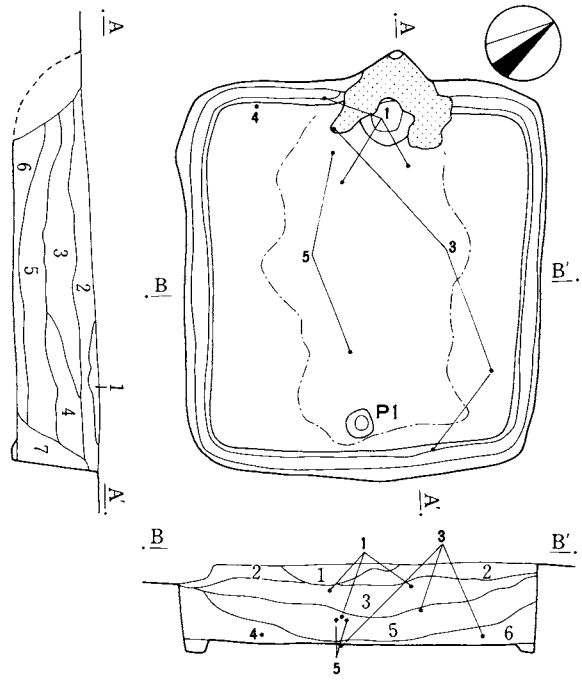

1　黒色土　ローム粒含む。
2　褐色土　ローム粒及び細ロームブロック若干含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・黒土粒若干含む。
4　黒色土　ローム粒含む。

D168

PL.53　D168・D170実測図

D173　D209の西側に位置する住居で、柱穴は床面上で確認できなかったが、床面を剝した段階で、住居対角線上に4箇所の窪みが検出できた。

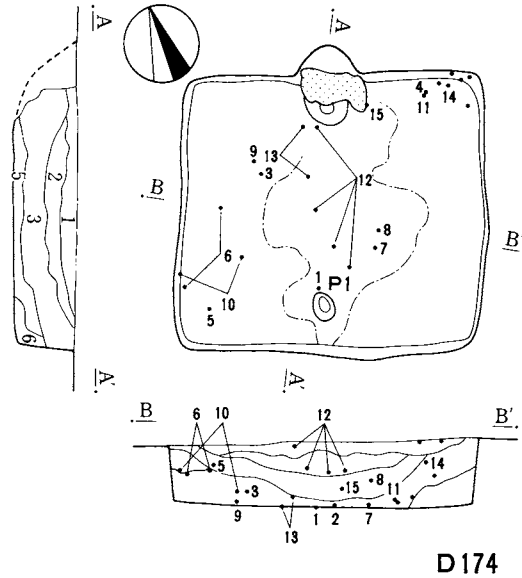
1　褐色土　ロームをわずかに含む。ごく浅い溝の覆土。
2　黒褐色土　ごくわずかローム粒子を含む。
3　黒褐色土　ローム粒子の量が1層よりやや多い。ごくわずかの焼土粒も含む。
4　褐色土　焼土粒の量が3層より多い。
5　褐色土　1㎜前後のローム粒及び5㎜程度のロームを多く含みしまり良い。焼土粒も少量含まれる。
6　褐色土　少量のローム粒を含む。
7　黄褐色土　ローム中に斑状に褐色土が混入。




D173

D174　D173の北側に位置する住居で、柱穴・壁溝はないが、カマドに対峙する南壁際中央に出入口ピットがある。床面はP1からカマドにかけて良好な硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　1㎜程度のローム粒子が全体に含まれる。
2　褐色土　1㎜程度のローム粒子が主であるが5㎜前後のものも少量含まれる。
3　黄褐色土　1㎜前後のものから20㎜程度のものまで大小のローム粒子、ブロックが多量に含まれる。ところどころに斑状に黒色土が混入する。
4　褐色土　少量のローム粒子と焼土粒を含む。
5　褐色土　1～5㎜程度のローム粒子が含まれる。
6　黒褐色土　黒色土中にロームブロックが多量に混入する。



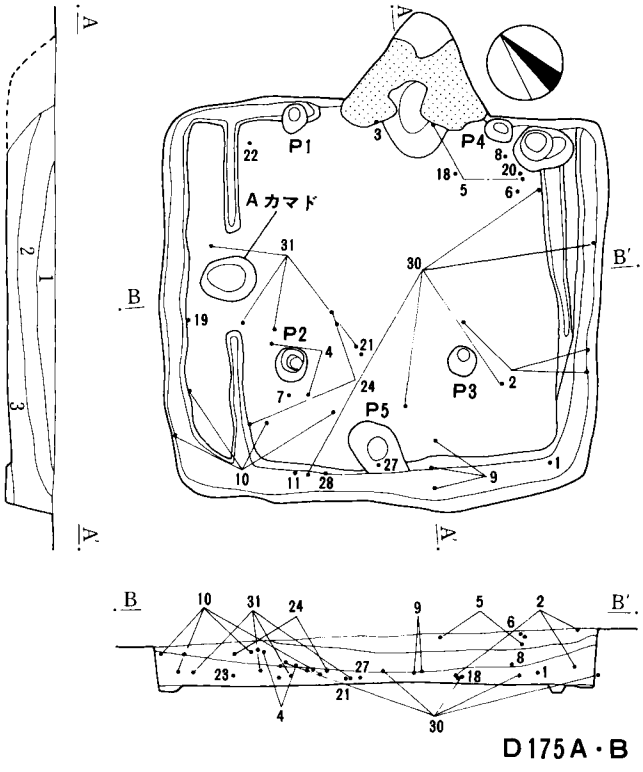

D174

0　4m

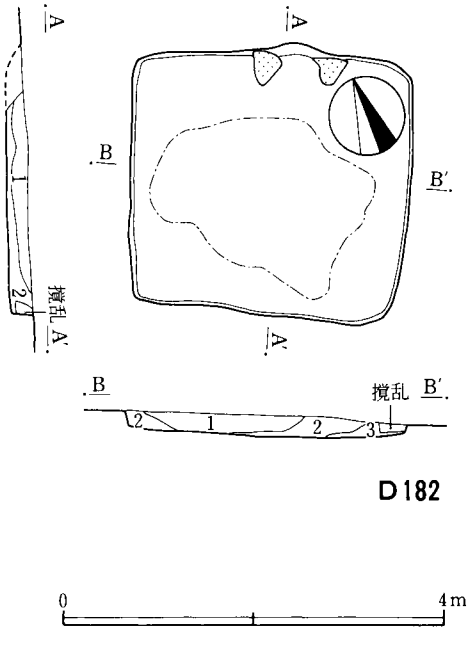
PL.54　D173・D174実測図

D175　H092・H093と重複する住居で、A・B2軒の建て替えがある。B→Aの先後関係が確認できた。D175－Bの柱穴は北東壁にかかって位置するP1・P4と住居対角線上に位置するP2・P3の4箇所がある。

1　黒色土　ローム粒をやや多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒やや多く黒色土も含む、又白色粘土ブロック・炭化物も含む。
3　暗褐色土　細ロームブロック若干含む。



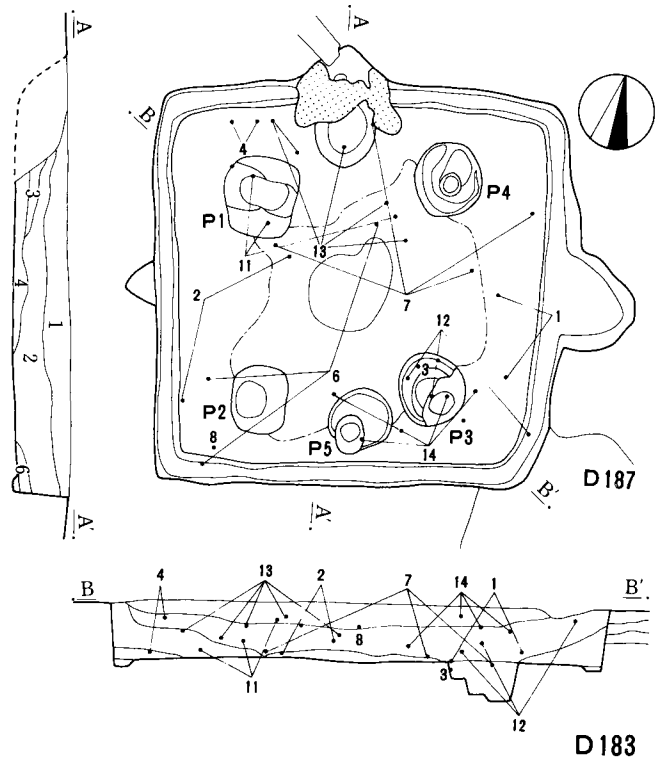

1　黒色土　しまりやや弱し。ところどころ山砂や、ロームブロックを少量含む。
2　褐色土　ロームブロックをまばらに含む。
3　黒褐色土　ローム小ブロックを含む。

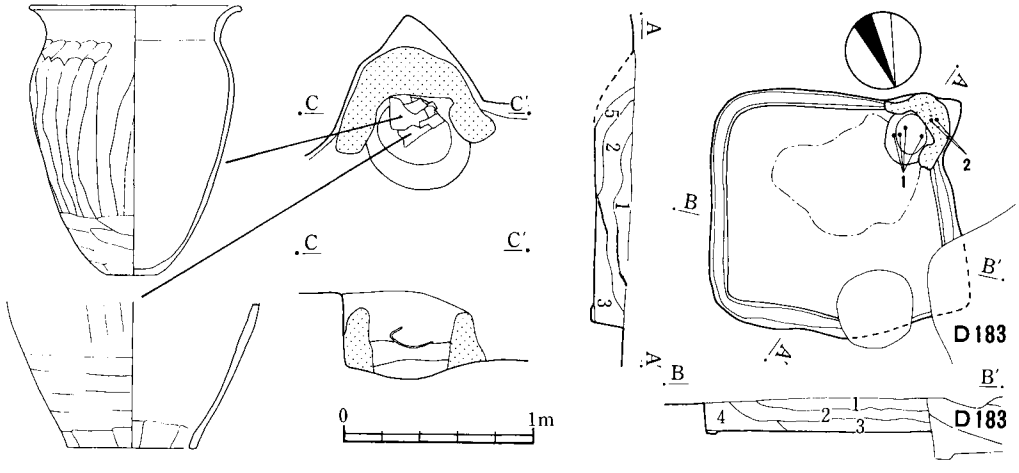



PL.55　D175A・B・D182実測図

D183　D187と重複する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P3・P4は2段に掘り込まれている。P2の直径は0.5m、床面から0.3mの深さを測る。

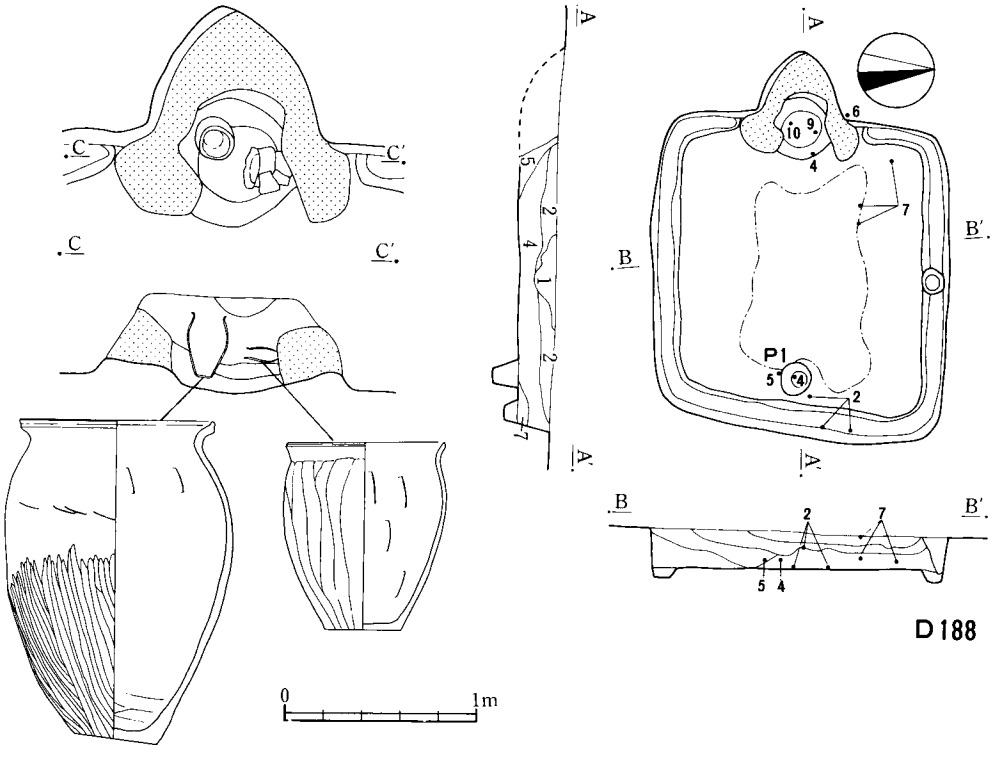
1　暗褐色土　少量のローム粒を含む。
2　褐色土　ローム小粒子及び焼土・炭化粒・山砂などを全体に含む。
3　褐色土　山砂を多く含む。
4　黄色土　ロームブロックの間に、2層が少量混入。
5　褐色土　焼土粒及び山砂を全体に含む。
6　黒褐色土　ごく少量のローム粒子を含む。



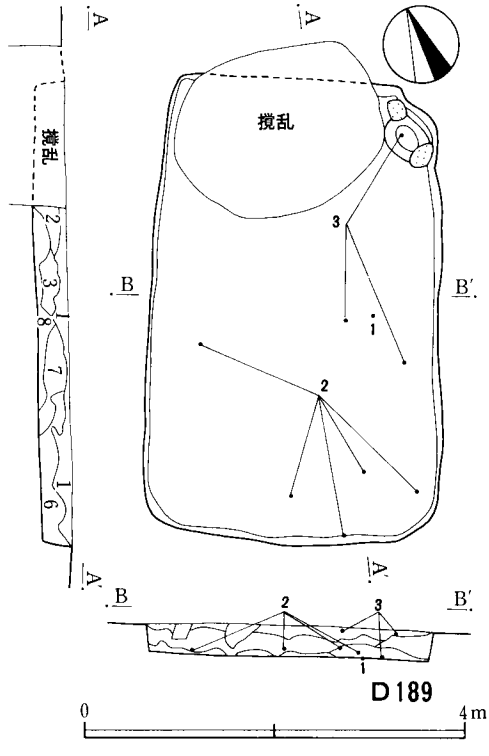

1　褐色土　全体にローム小粒子を含む。
2　黒褐色土　ところどころにロームブロックを含む。
3　褐色土　ローム粒を全体に含む。
4　黄褐色土　ごく少量のローム粒を含む。
5　褐色土　少量の炭化粒及び焼土粒を含む。

PL.56　D183・D187実測図




1　赤褐色土　焼土及び多量の炭化粒を含む。撹乱の可能性あり。
2　褐色土　ごく少量の焼土粒を全体に含む。
3　褐色土　焼土粒・ローム小粒を少々含む。
4　褐色土　全体に山砂・焼土粒を含む。
5　灰褐色土　砂質土を主体とする。
6　黄褐色土　砂質土及びロームを含む。
7　褐色土　焼土粒は含まれず、ローム小粒を多く含む。

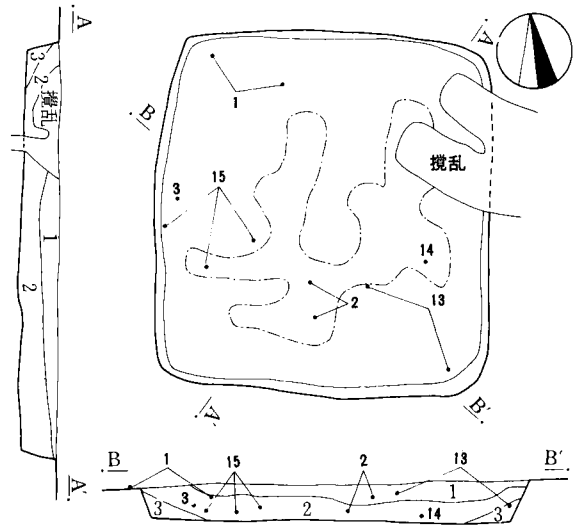
1　褐色土　1～2㎜のローム粒子を含む。
2　黒色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
3　黒褐色土　ロームが全体に含まれる。炭化材小片を含む。
4　黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子が多量に含まれる。
5　黒色土　ローム粒を全体にまんべんなく含む。
6　黄褐色土　黄褐色土中にローム粒がたいへん多く含まれる。
7　褐色土　全体に1㎜以下のローム粒をまんべんなく含む。




PL.57　D188・D189実測図

D192　調査時にはA・B 2基の遺構を調査しているが、Bは竪穴住居ではない。床面は住居中央に硬化面が遺存している。カマドは検出できなかった。

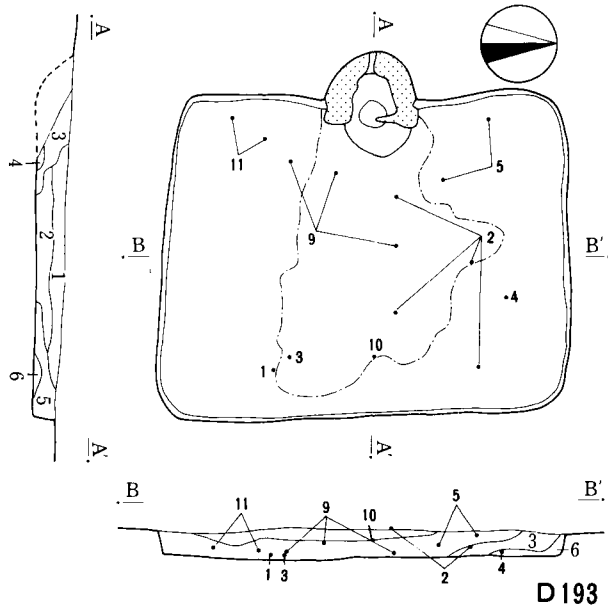
1　暗褐色土　ローム粒含む。
2　黒色土　ローム粒及び細ロームブロック含む。
3　褐色土　黒色土を含むが、ローム粒がやや多く明るい。




D192

D193　土製の陽物はカマド内に直立していた。表面の状況は二次的な火熱を受けた痕跡がなく、直立してはいたが支脚として使用されたものではなく、カマド廃棄に伴ってカマド内に立たせた可能性がある。

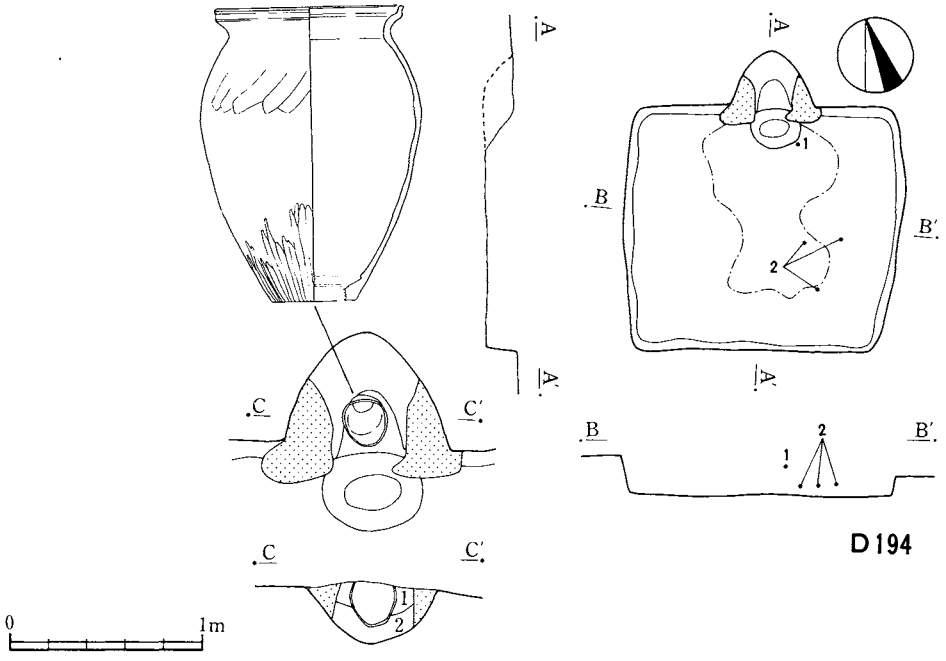
1　暗褐色土　ローム粒をわずかに含む。
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
3　暗褐色土　白色の山砂を多量に含む。焼土も含む。カマド崩壊土。
4　暗褐色土　焼土粒・炭化物を多量に含む。
5　黒褐色土　褐色土の小ブロック・ローム粒・焼土粒を含む。
6　褐色土　ローム粒を多量に含む。




D193

0　4m

PL.58　D192・D193実測図

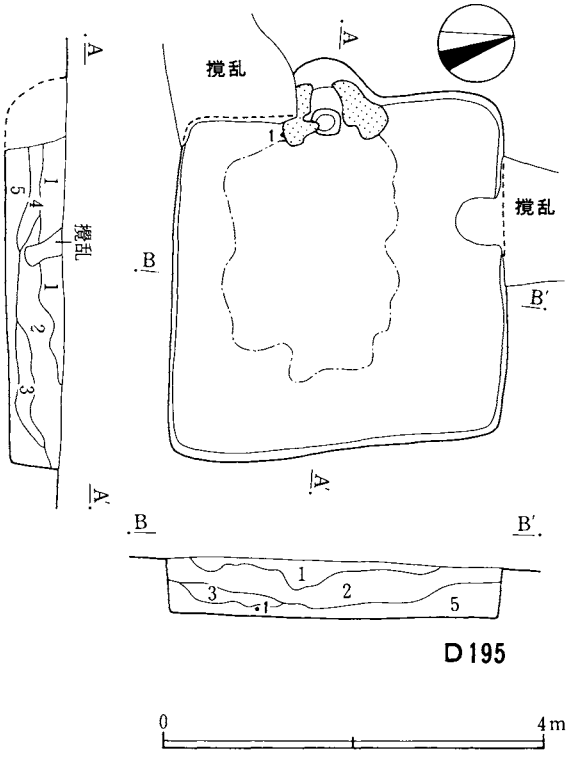



D194　3はカマド内から出土したが、火床部からではなく、煙道部に近い位置である。

1　黒色土　ローム粒含む。
2　褐色土　ローム粒やや多く、又全体的に焼土粒含む。

D195　D147の南側に位置する住居で、柱穴・壁溝はなく、床面は住居中央からカマド前面にかけて硬化面が遺存している。

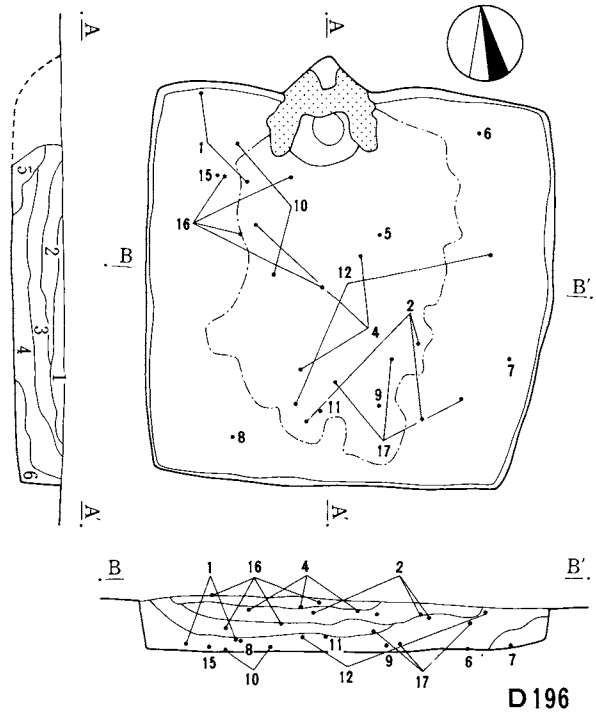
1　黒色土　ローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　全体的にやや粒の大きいローム粒を含む。
3　黒褐色土　黒色土と褐色土の混合土、ローム粒を含む。
4　暗褐色土　焼土粒・山砂を含む。
5　明褐色土　ローム粒・褐色土主体、少量のローム粒を含む。




PL.59　D194・D195実測図

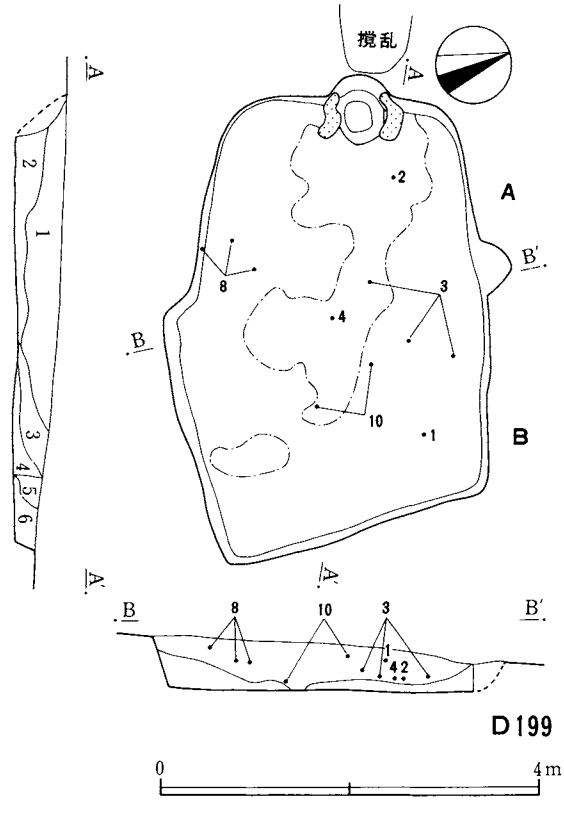
D196　D195の東側に位置する住居で、柱穴・壁溝はなく、床面は南壁中央からカマドへかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ローム粒をほとんど含まない。
2　黒褐色土　焼土粒を少量含む、褐色土を小ブロック状に含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒・黒色土を小ブロック状に含む。
5　褐色土　山砂・焼土含む。
6　暗褐色土　ローム粒を少量含む。

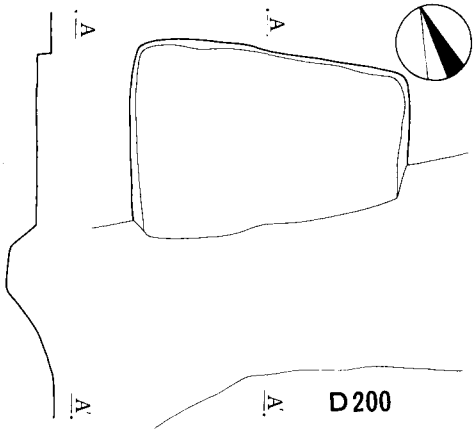



D199　A・B2軒が重複しており、A→Bの先後関係が確認できた。D199－Aは東壁を具体的に検出することが出来なかったが、土層断面から3.9m×2.9mの規模が推定できる。

1　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒・焼土粒・山砂を含む。
2　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒・焼土粒・山砂を多く含む。
3　黒褐色土　ローム粒をブロック状に含む。
4　明褐色土　褐色土・ローム粒主体、黒色土を含む。
5　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒を含む。
6　褐色土　ローム粒及び暗褐色土を含む。

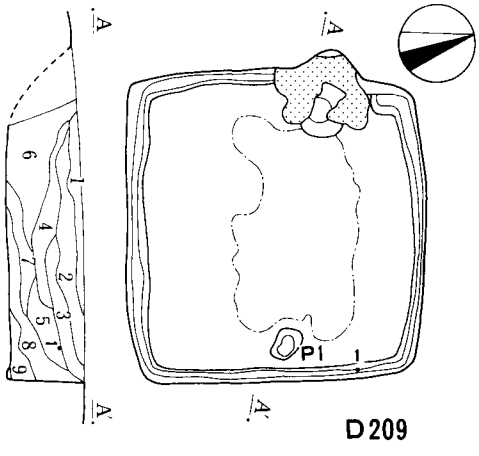



PL.60　D196・D199実測図

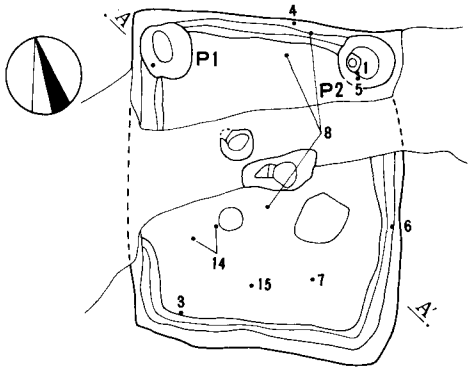



D209　D174の南側に位置する住居で、埋土は全体にローム粒・ロームブロックを多く含んでいる。柱穴はないが、カマドに対峙する東壁中央に出入口ピットがある。

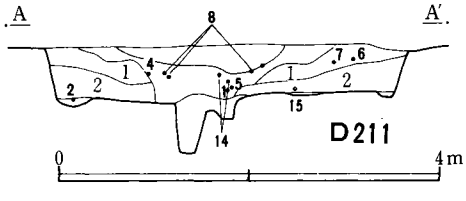
1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　明褐色土　ローム粒・ロームブロック主体、黒色土を混入する。
3　暗褐色土　黒色土・ロームブロックを含む。
4　褐色土　ローム粒・少量の黒色土を含む。
5　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒を含む。
6　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒・ロームブロック・黒色土・山砂を含む。
7　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
8　明褐色土　褐色土を主とし、ローム粒・ロームブロックを含む。
9　明褐色土　褐色土とローム粒の混合土。




D211　H084の北側に位置する住居で、住居北東・北西の両コーナーに直径0.5mのピットがある。

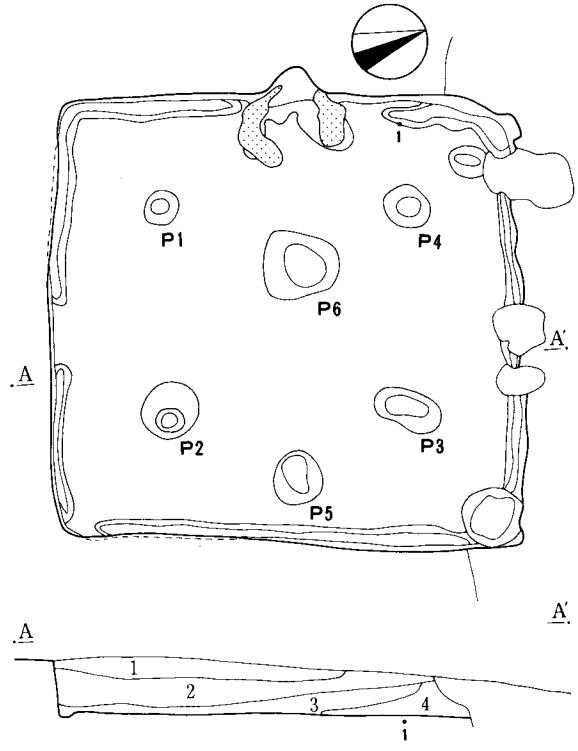



1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　黒色土　ローム粒を含む。
3　褐色土　ローム粒を多く含む。
4　黒褐色土　黒色土及びローム粒を多く含む。
5　黒色土　ローム粒を若干含む。




PL. 61　D200・D209・D211実測図

D214　D264の西側に位置する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所あり、また、住居中央にも直径0.8mのピットがある。P4は直径0.4m床面から0.5mの深さを測る。カマドは北西壁中央に設置され、袖の形状に合わせて地山を掘り残している。




1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
3　黒褐色土　ロームブロックを含む。
4　黄褐色土　ローム粒の量が多い。

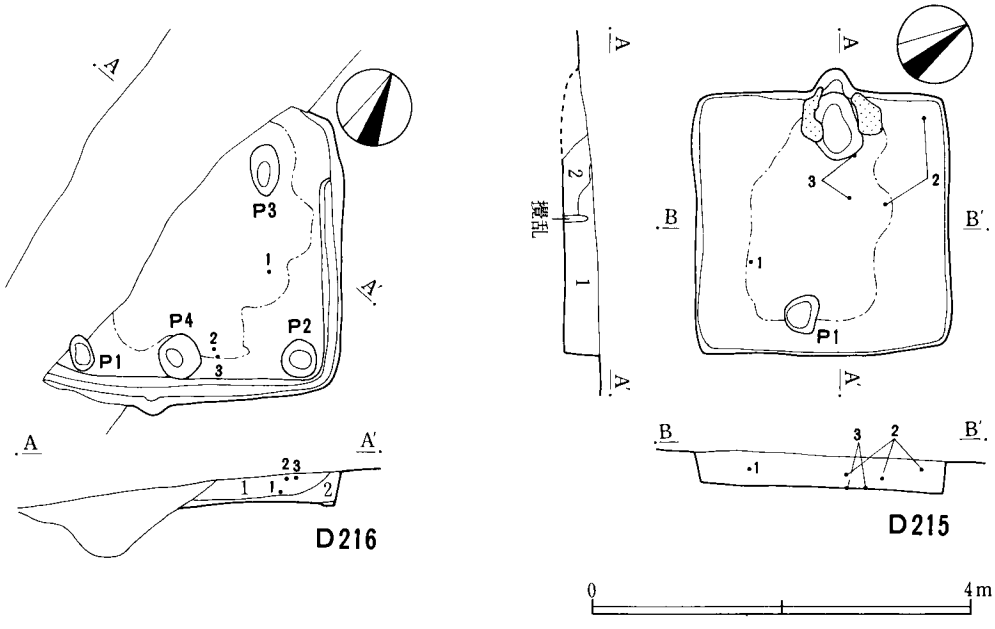
D214

1　黒褐色土　わずかにローム粒を含む。
2　黒褐色土　若干砂質

D215

1　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
2　黄褐色土　ローム量多く含む。

D216




D216

D215

PL.62　D214・D215・D216実測図

1　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
2　黒色土　　ローム粒を含む。

**D219**

1　暗褐色土　黒色土・ローム粒を含む。
2　明褐色土　ロームが主体で黒色土を若干含む。
3　黒色土　　ローム粒を含む。

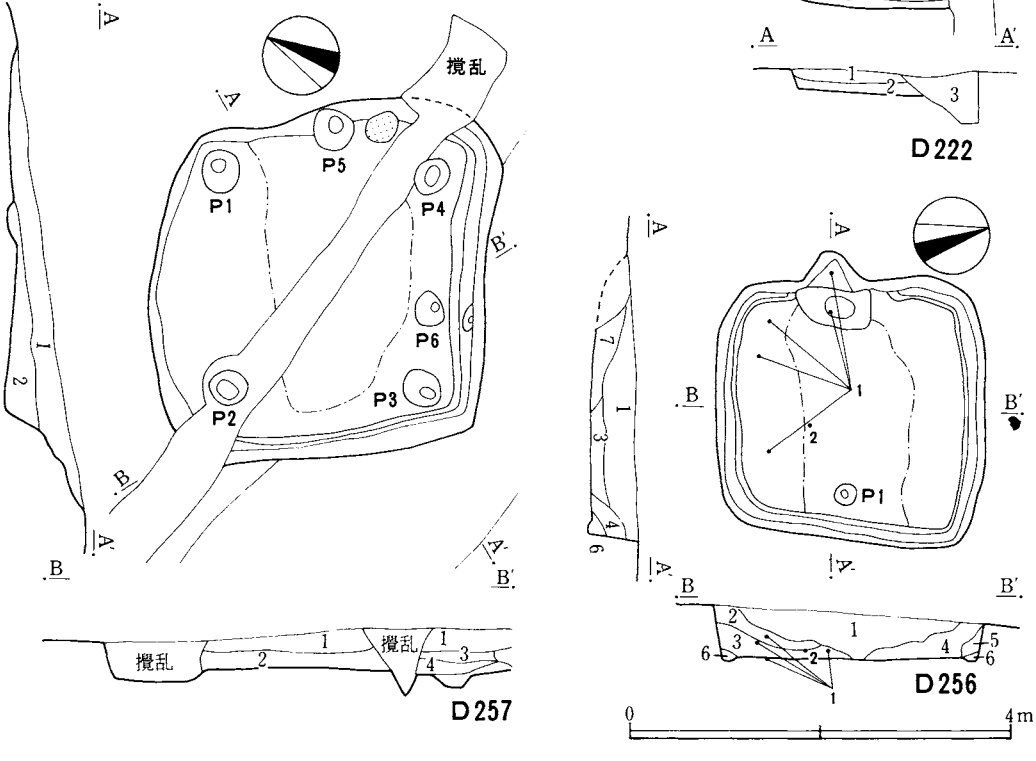
**D222**

1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
4　褐色土　　ローム粒を多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒を少し含む。
6　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
7　暗褐色土　灰白色砂質土・炭化粒・焼土粒を多く含む。

**D256**

1　黒褐色土　ローム粒少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多く含む。
3　明褐色土　ロームブロックを主体とする。
4　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒多く含む。

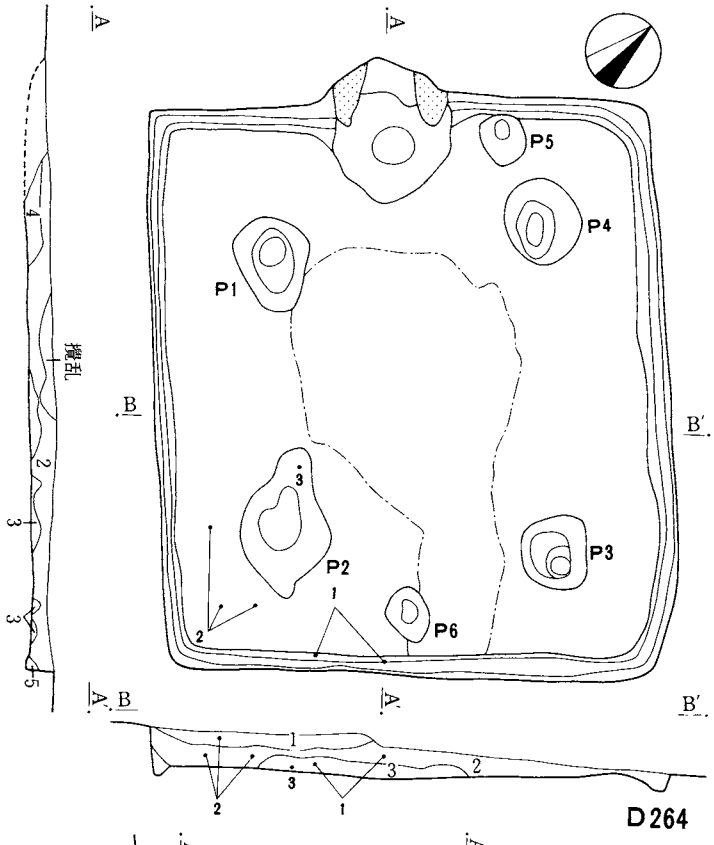
**D257**




PL.63　D219・D222・D256・D257実測図

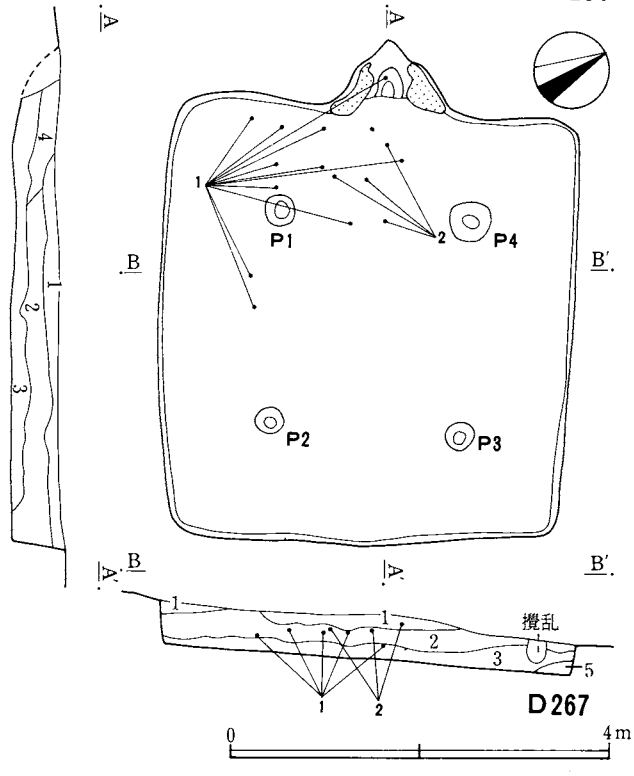
D264　D214の東側に位置する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P4は直径0.8m、床面から0.6mの深さを測る。

1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒少し含む。
2　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少し含む。
3　黒褐色土　ローム粒多く含む。
4　暗褐色土　かなり砂質、ローム少し含む。
5　褐色土




D267　古墳時代後期のD266と重複する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P4は直径0.3m、床面から0.3mの深さを測る。

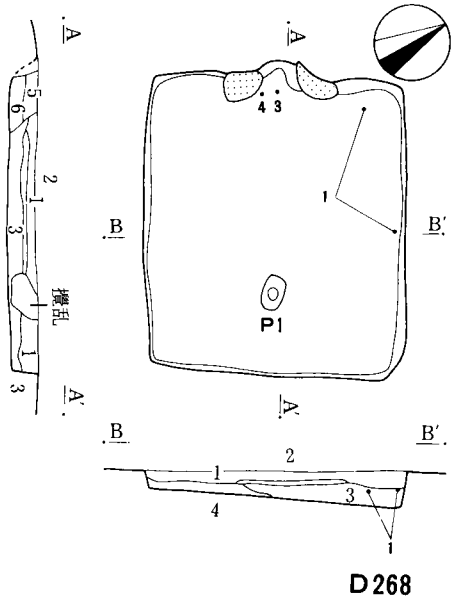
1　暗褐色土　ローム粒少し含む。
2　黒褐色土　ローム粒少し含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。
4　黄灰色土　カマド崩壊土。
5　暗褐色土　ロームブロック少し含む。




PL.64　D264・D267実測図

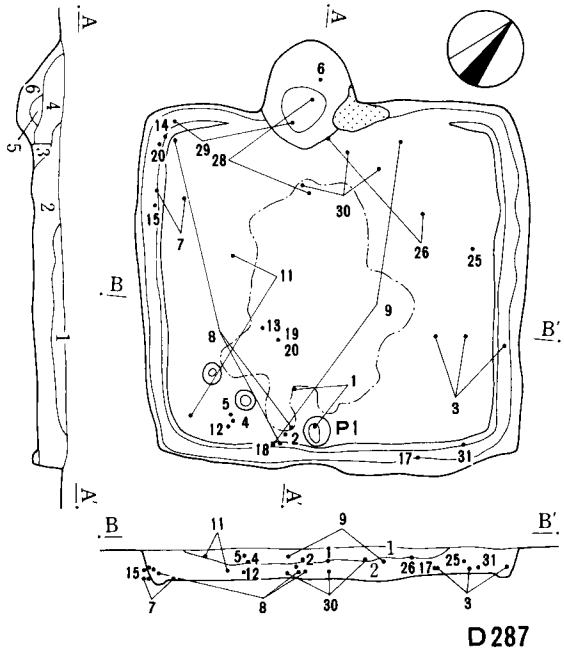
D268　D266と重複する住居で、柱穴・壁溝はなく、カマドに対峙する南東壁中央から0.8m離れてピットがある。

1　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
4　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
5　暗褐色土　焼土粒をやや多く含む。
6　暗褐色土　焼土・砂質粘土をやや多く含む。



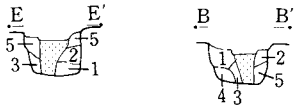

D287　H147の西側に位置する住居で、埋土は全体に焼土粒・炭化粒を含んでいる。柱穴はなく、カマドに対峙する南東壁際中央に出入口ピットがある。

1　暗褐色土　ローム粒・焼土粒多く混入。
2　暗褐色土　焼土粒・炭化粒多く混入。
3　暗褐色土　カマド構築材若干混入。
4　暗褐色土　焼土多く混入。
5　赤褐色土　灰を多く混入。
6　暗褐色土　ローム粒混入。

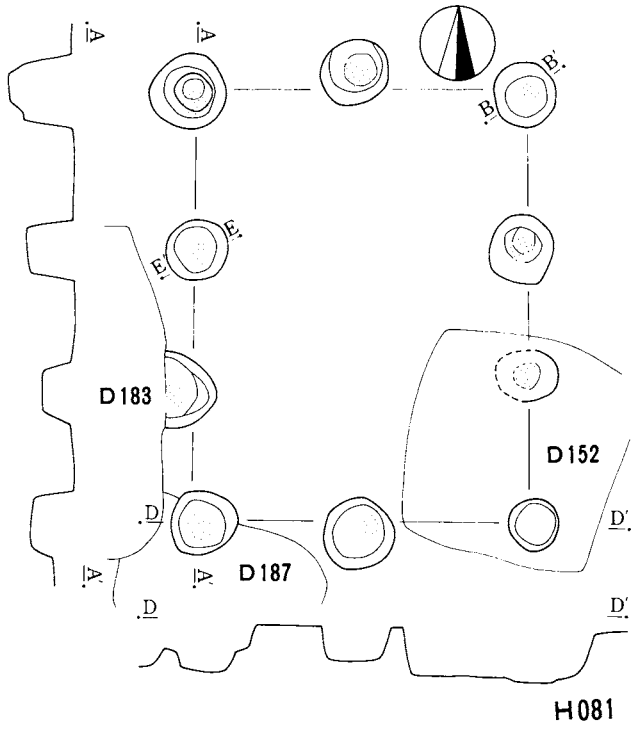



0　4m

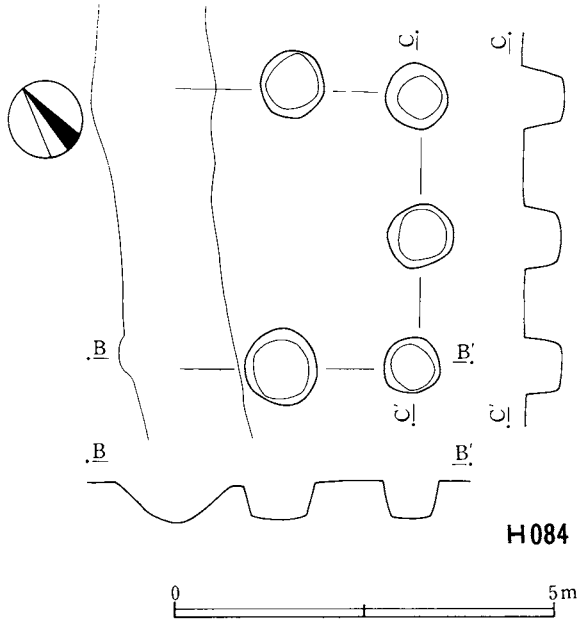
PL.65　D268・D287実測図




1　明褐色土　ローム粒・褐色土主体で、黒色土含む。
2　褐色土　ローム粒と暗褐色土の混合土。
3　明褐色土　ローム粒主体。
4　暗褐色土　ローム粒をわずかに含む。
5　暗褐色土　ローム粒・黒色土を含む。

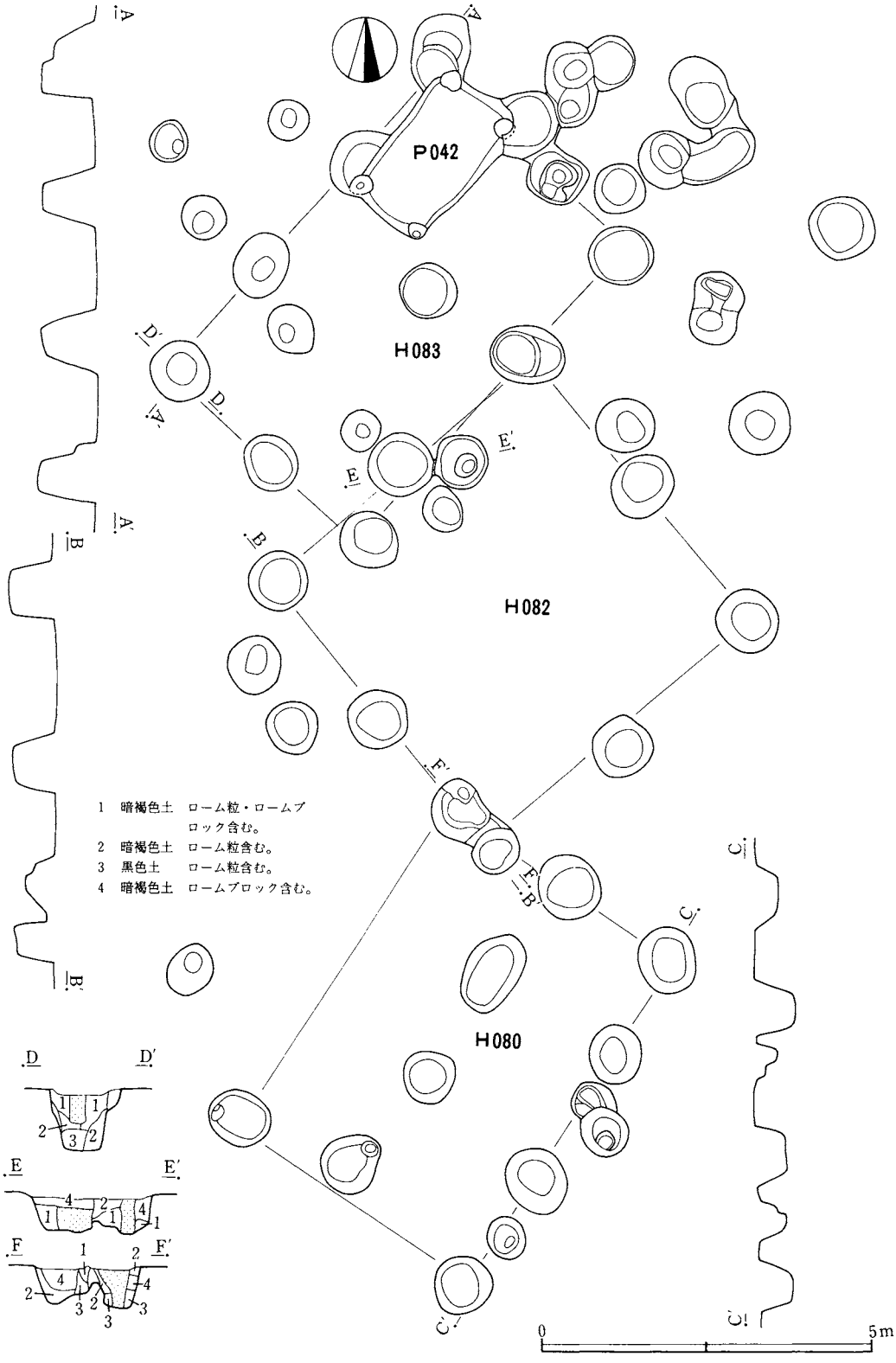



H081　D152・D187と重複する建物で、3間×2間の南北棟の側柱構造である。長軸方向はN－2°－Wを指し、桁行長5.6m、梁行長4.4mを測る。

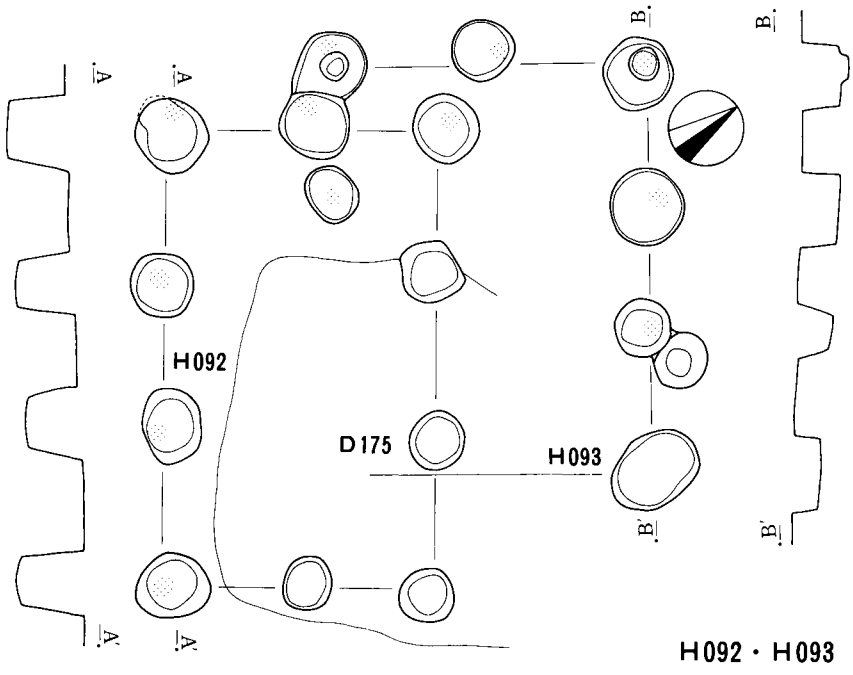



H084　D211の南側に位置する建物で、西側を溝状遺構に破壊されている。2間×2間の側柱構造で、長軸方向はN－52°－Wを指す。

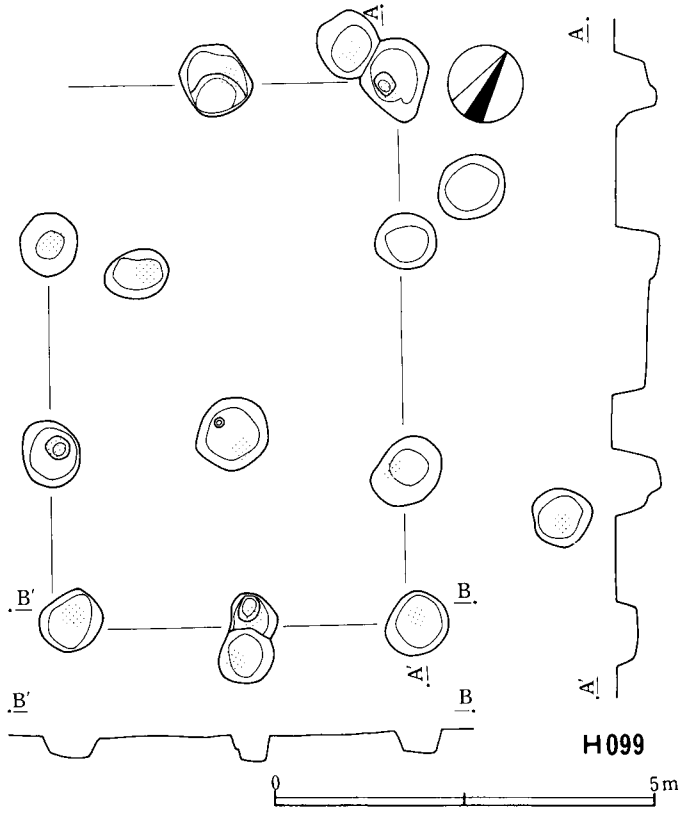
PL.66　H081・H084実測図



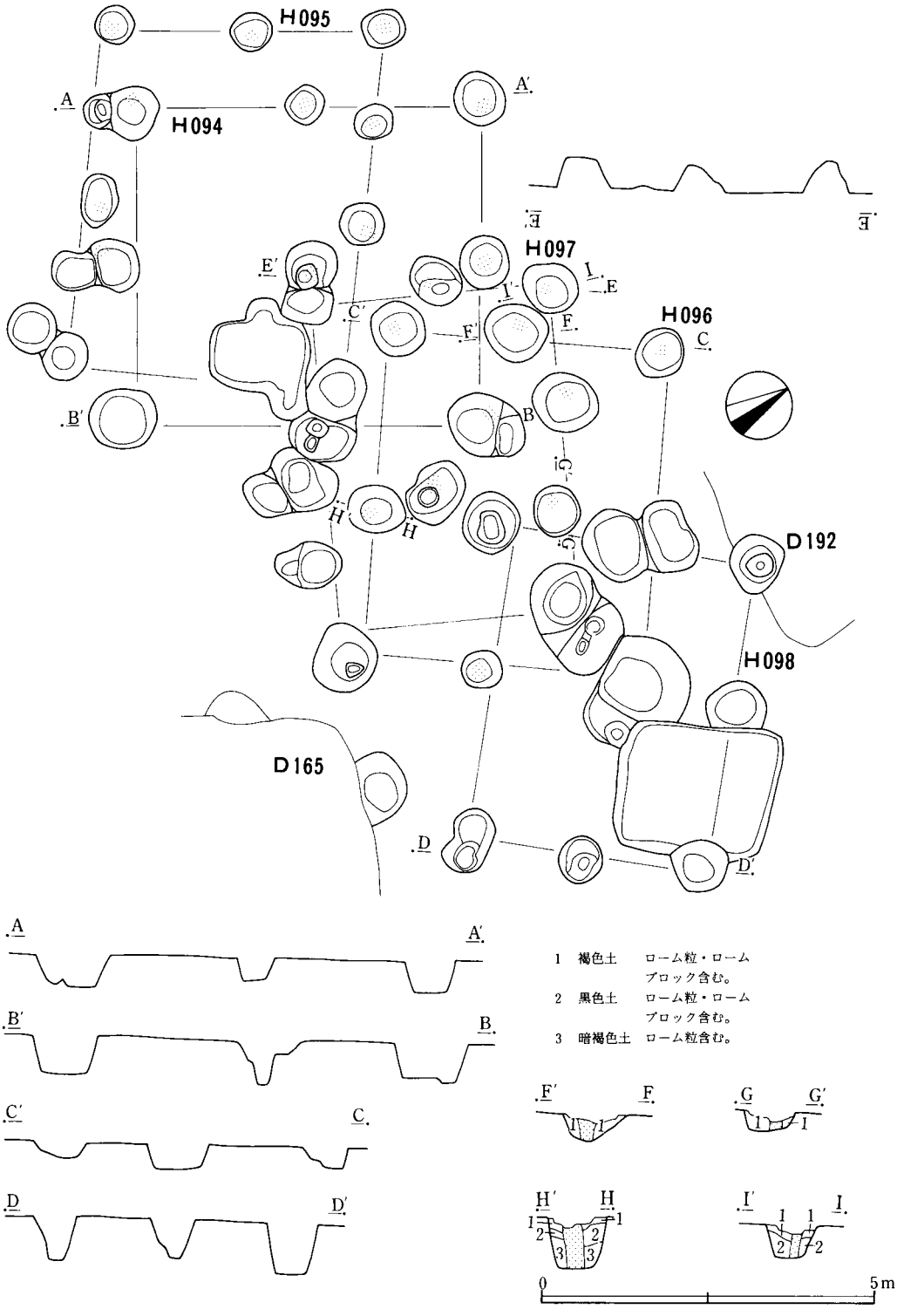

PL.67 H080・H082・H083実測図




H099　D151の北側に位置する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－37°－Wを指し、桁行長7.0m、梁行長4.7mを測る。



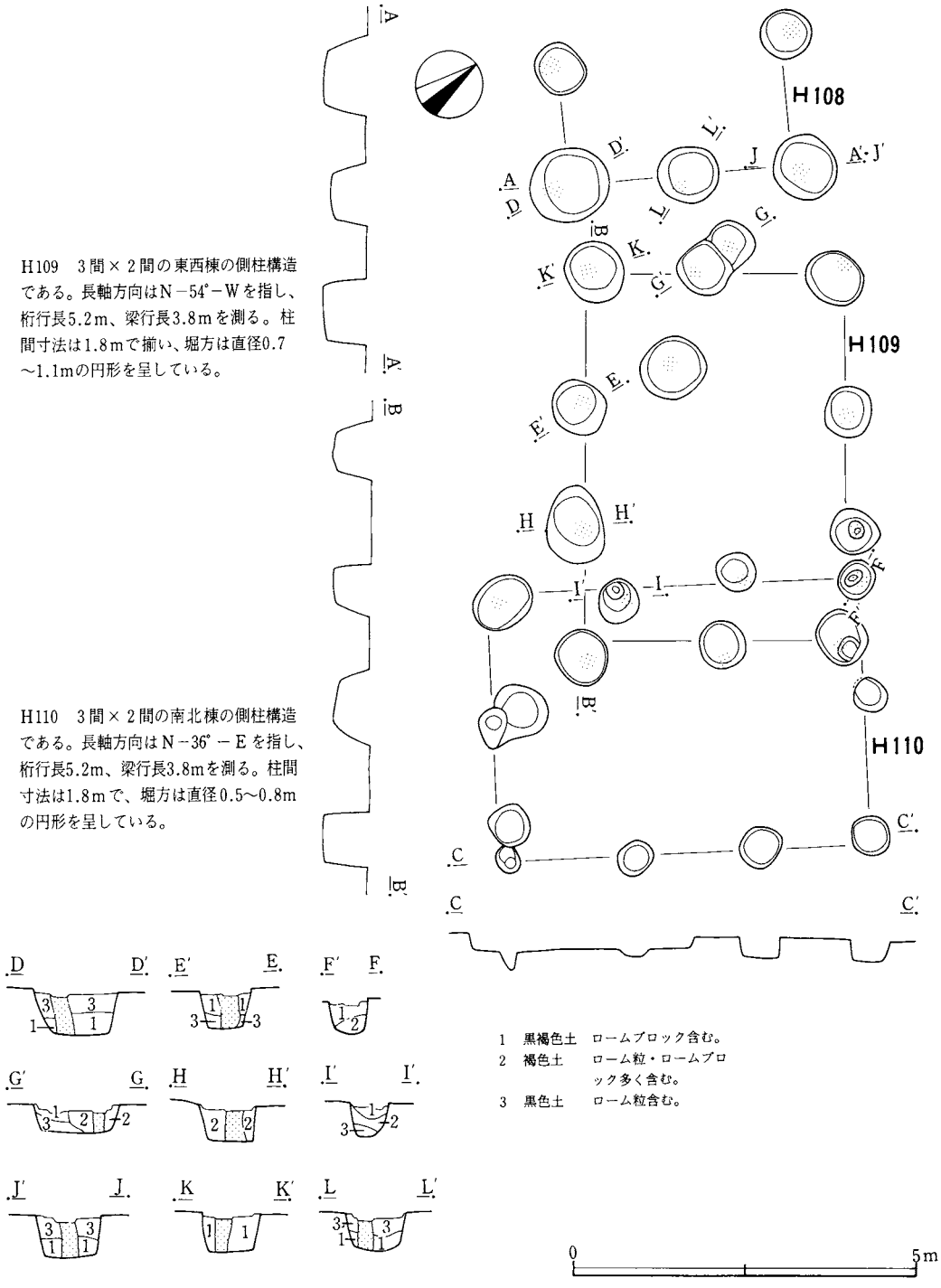

PL68　PL.68　H092・H093・H099実測図



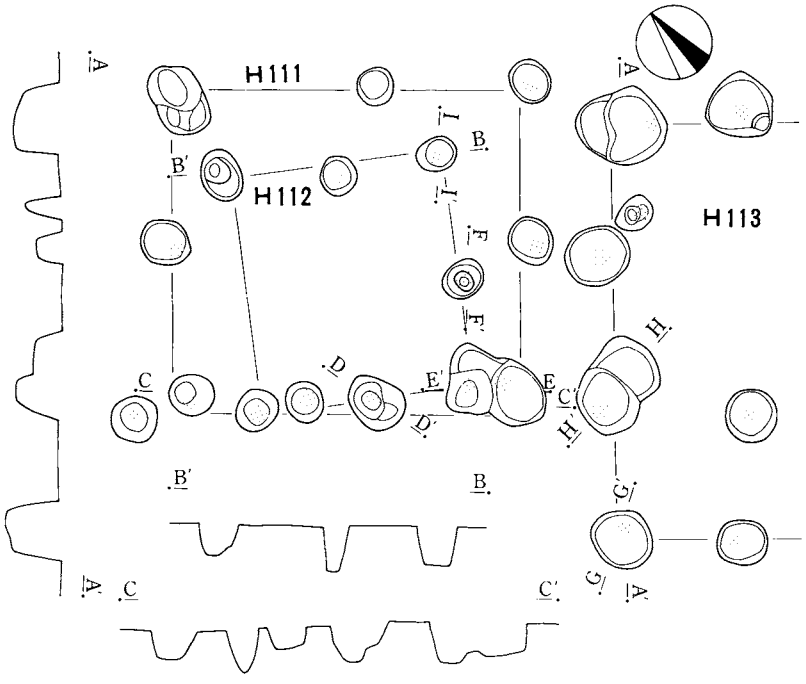

PL.69 H094～H098実測図

H109　3間×2間の東西棟の側柱構造である。長軸方向はN－54°－Wを指し、桁行長5.2m、梁行長3.8mを測る。柱間寸法は1.8mで揃い、堀方は直径0.7～1.1mの円形を呈している。

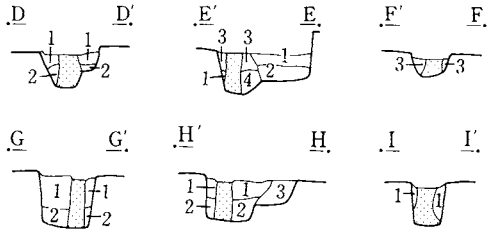
H110　3間×2間の南北棟の側柱構造である。長軸方向はN－36°－Eを指し、桁行長5.2m、梁行長3.8mを測る。柱間寸法は1.8mで、堀方は直径0.5～0.8mの円形を呈している。




PL.70　H108・H109・H110実測図




1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック含む。
2　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック含む。
3　黒色土　ローム粒含む。

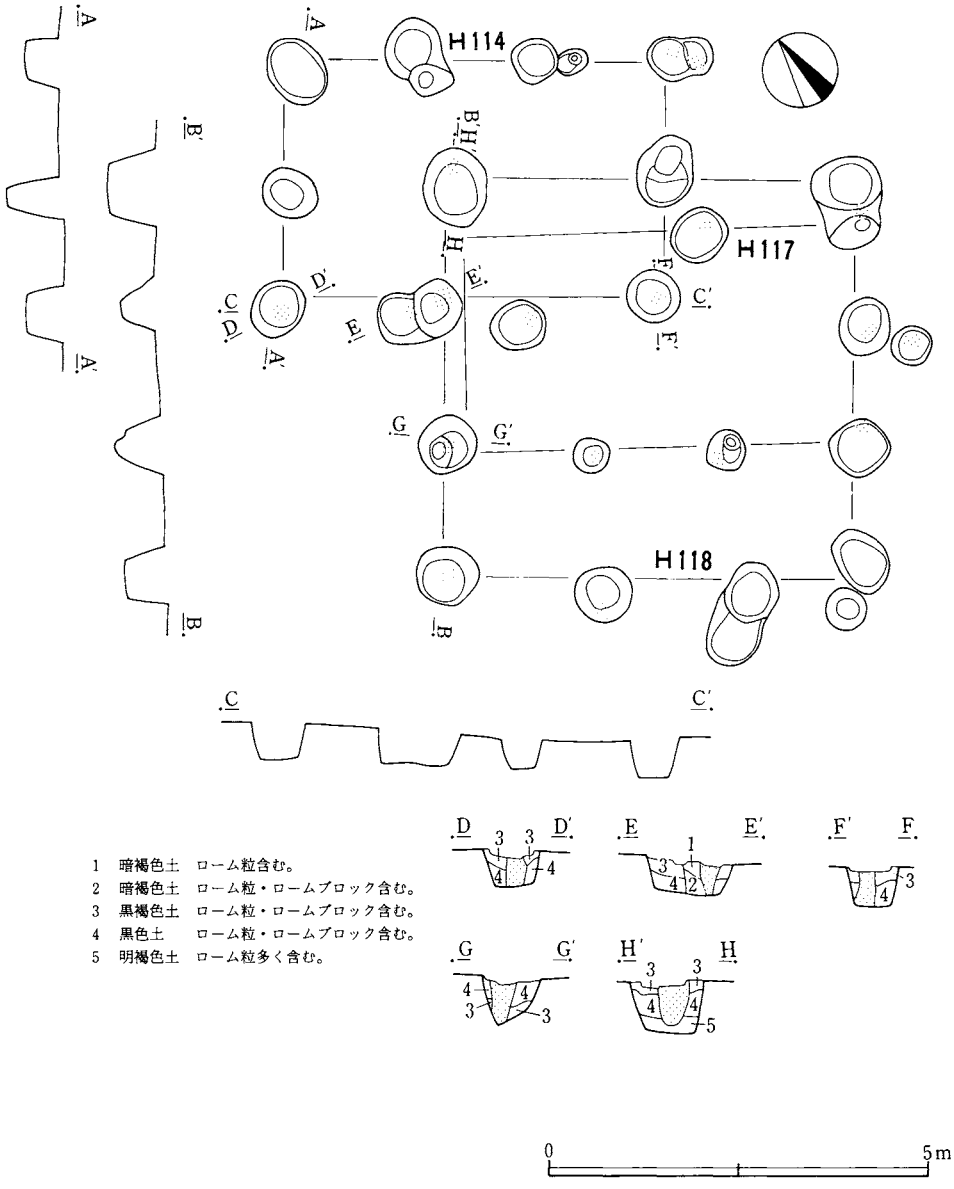



H111　2間×2間の東西棟の側柱構造である。また、H112と重複しており、南側桁筋の柱が不明確である。南側の桁筋は3間の可能性もあり、いずれにしても北側とは非対称な柱配置となる。

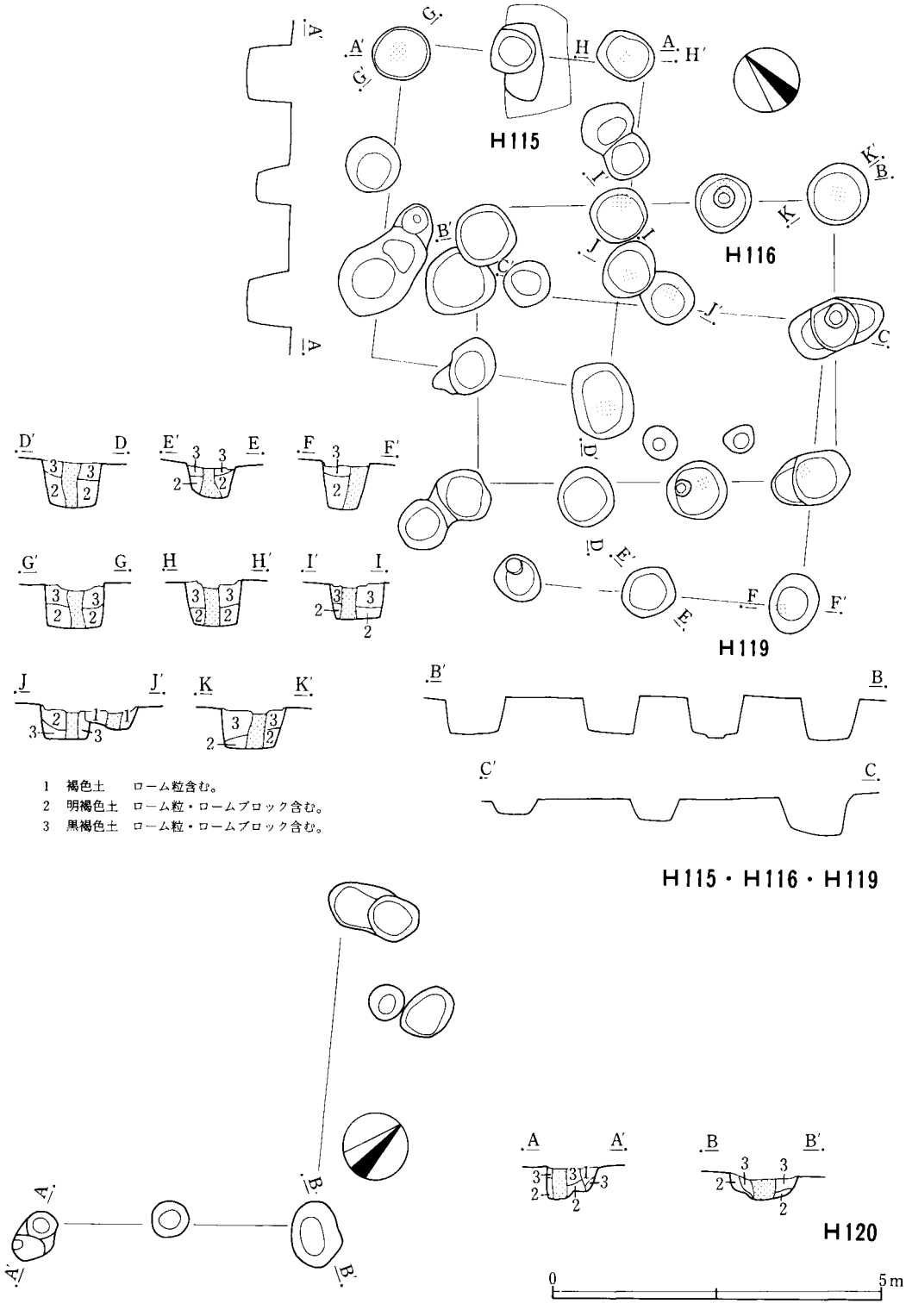
H112　2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－60°－Eを指し、桁行長3.1m、梁行長2.8mを測る。

0　5m

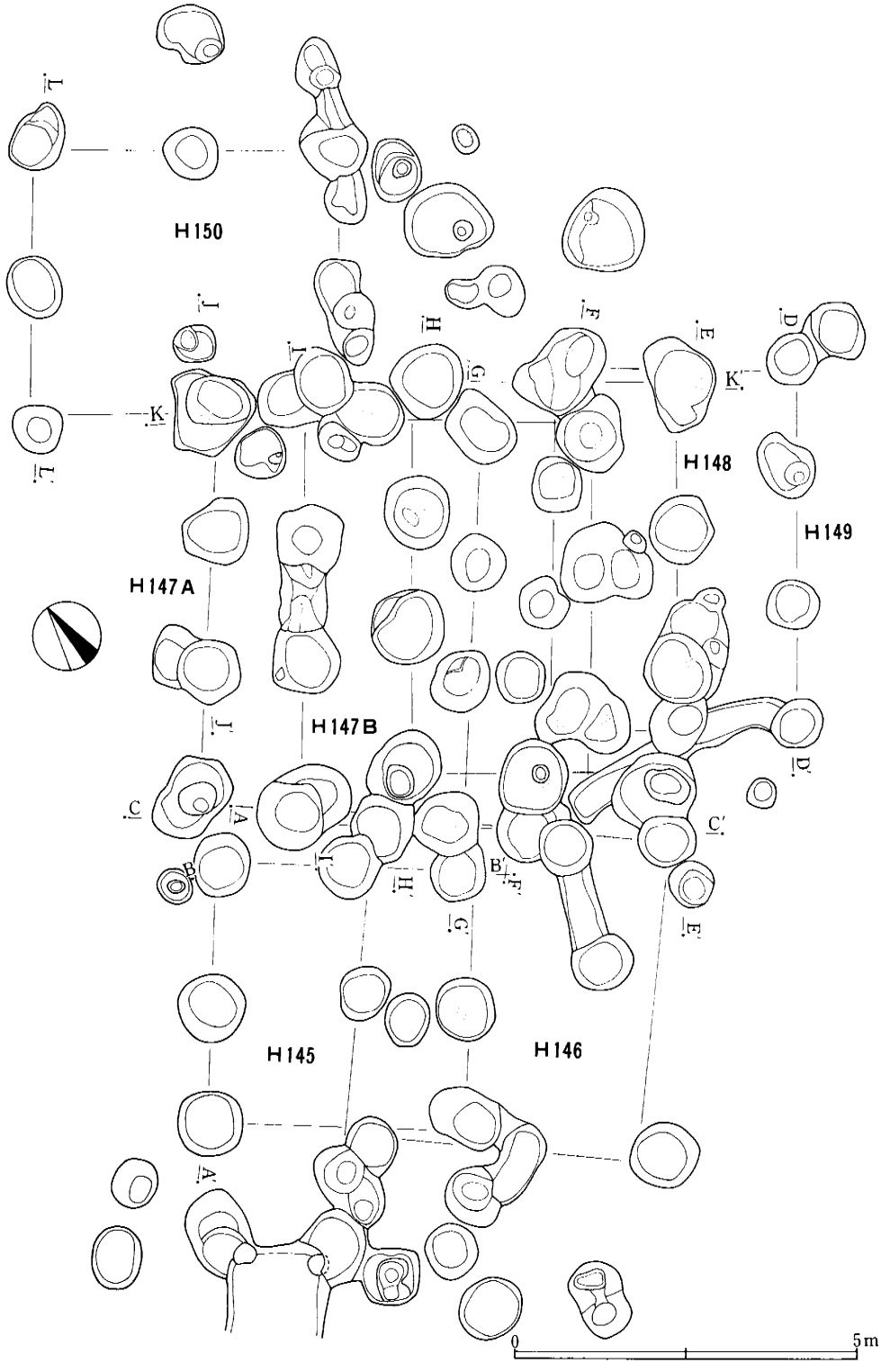
PL.71　H111・H112・H113実測図



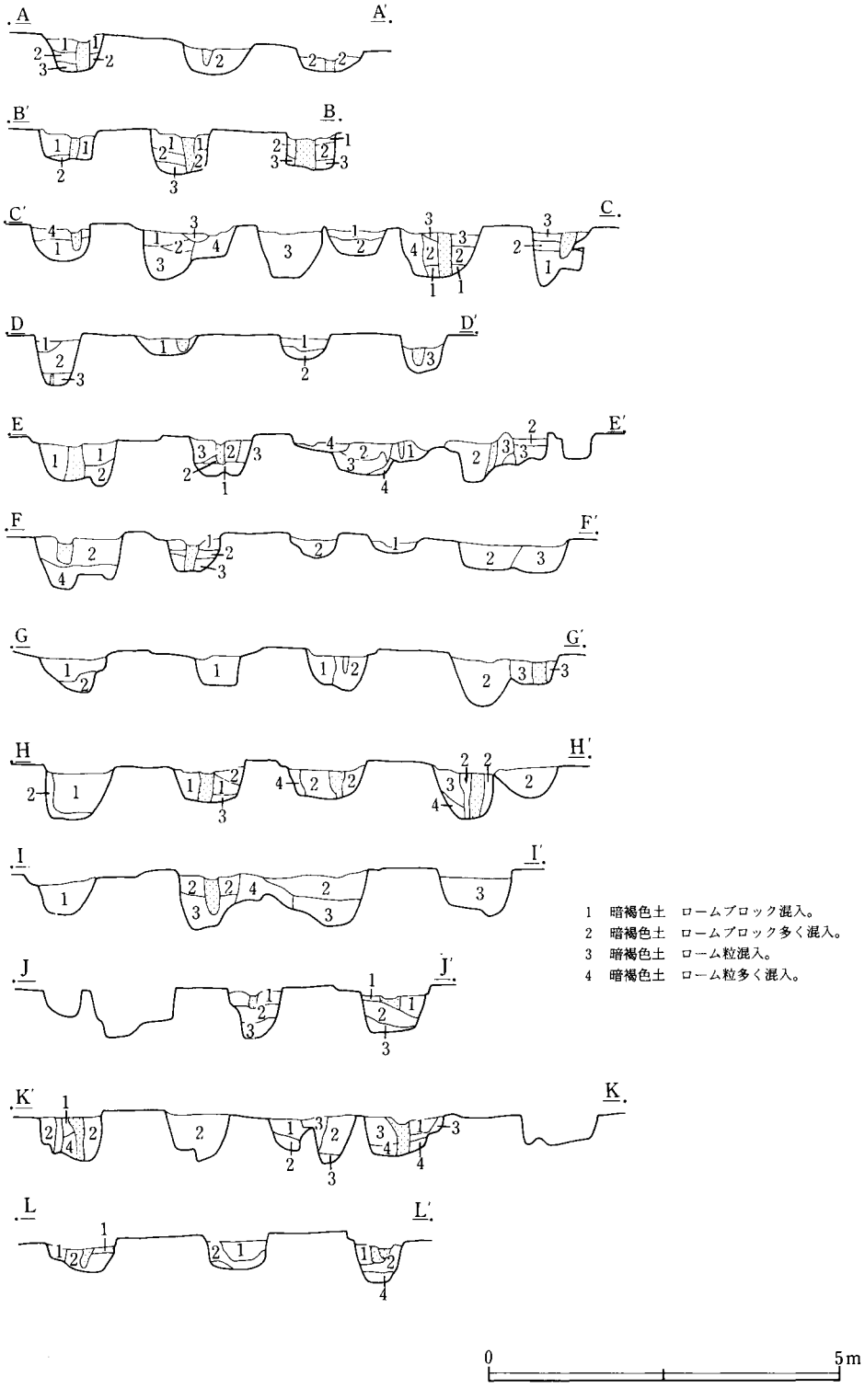

PL.72 H114・H117・H118実測図



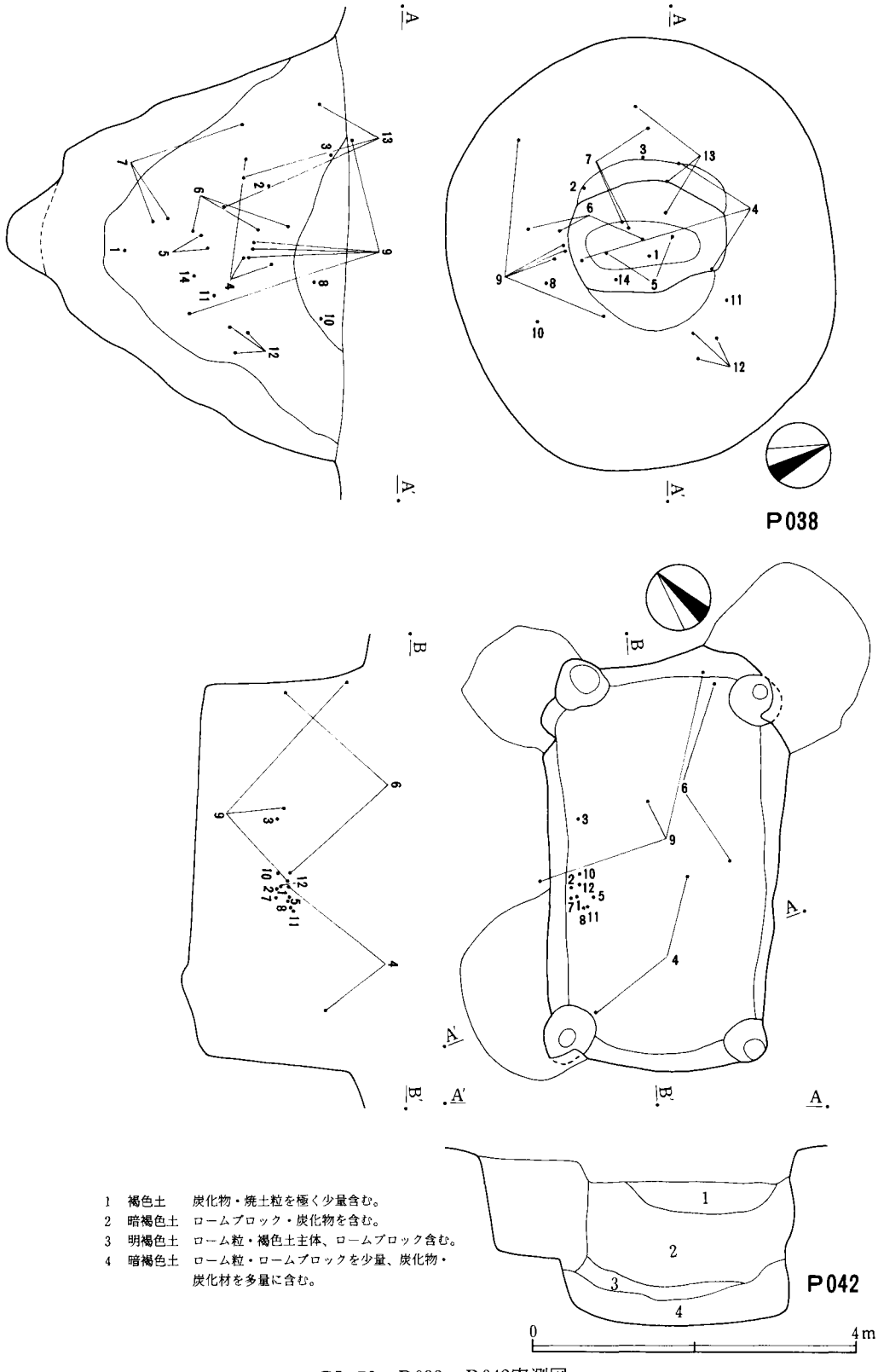

PL.73 H115・H116・H119・H120実測図




PL.74　H145～H150実測図

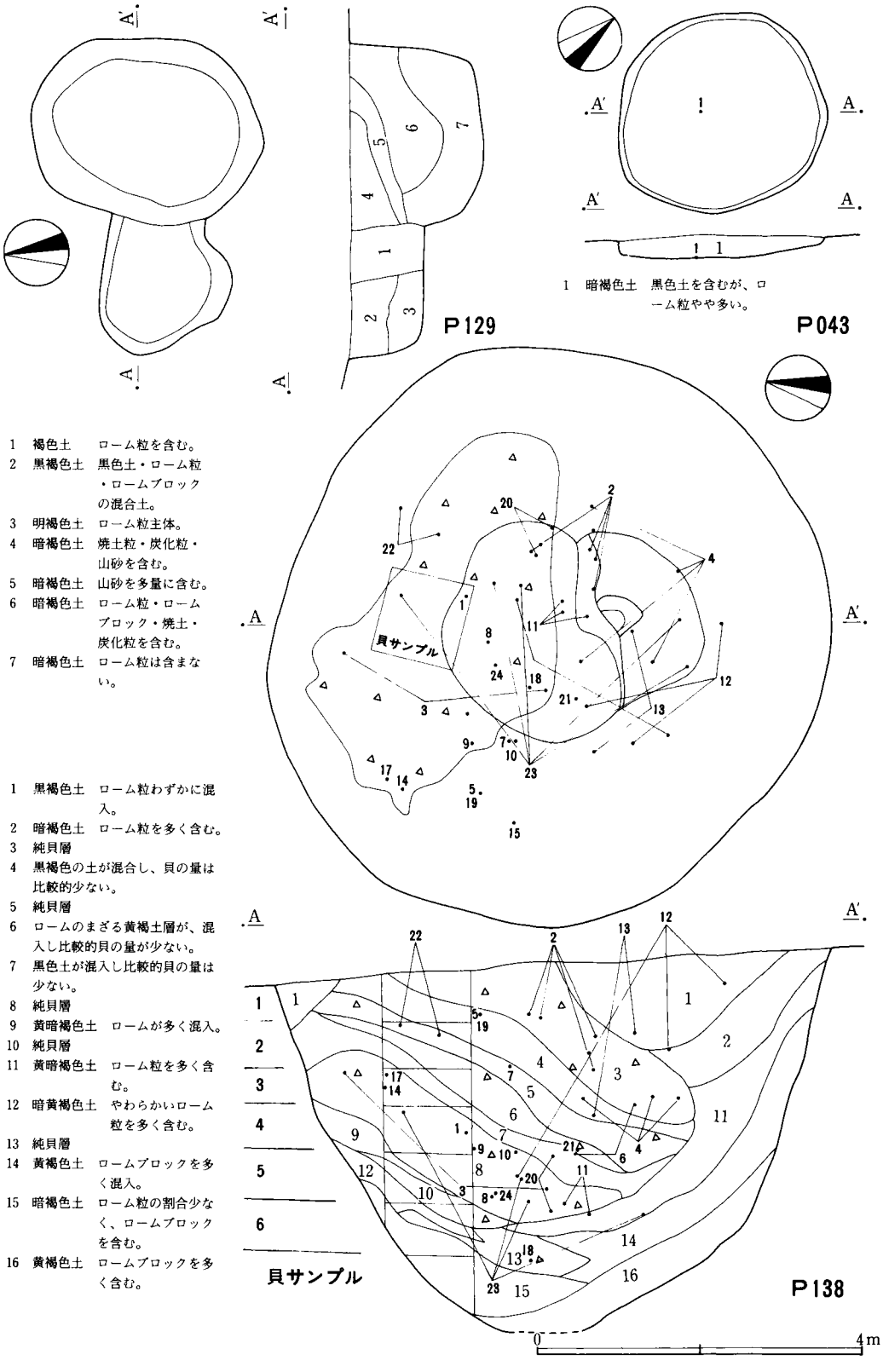



PL.75　H145～H150土層断面図

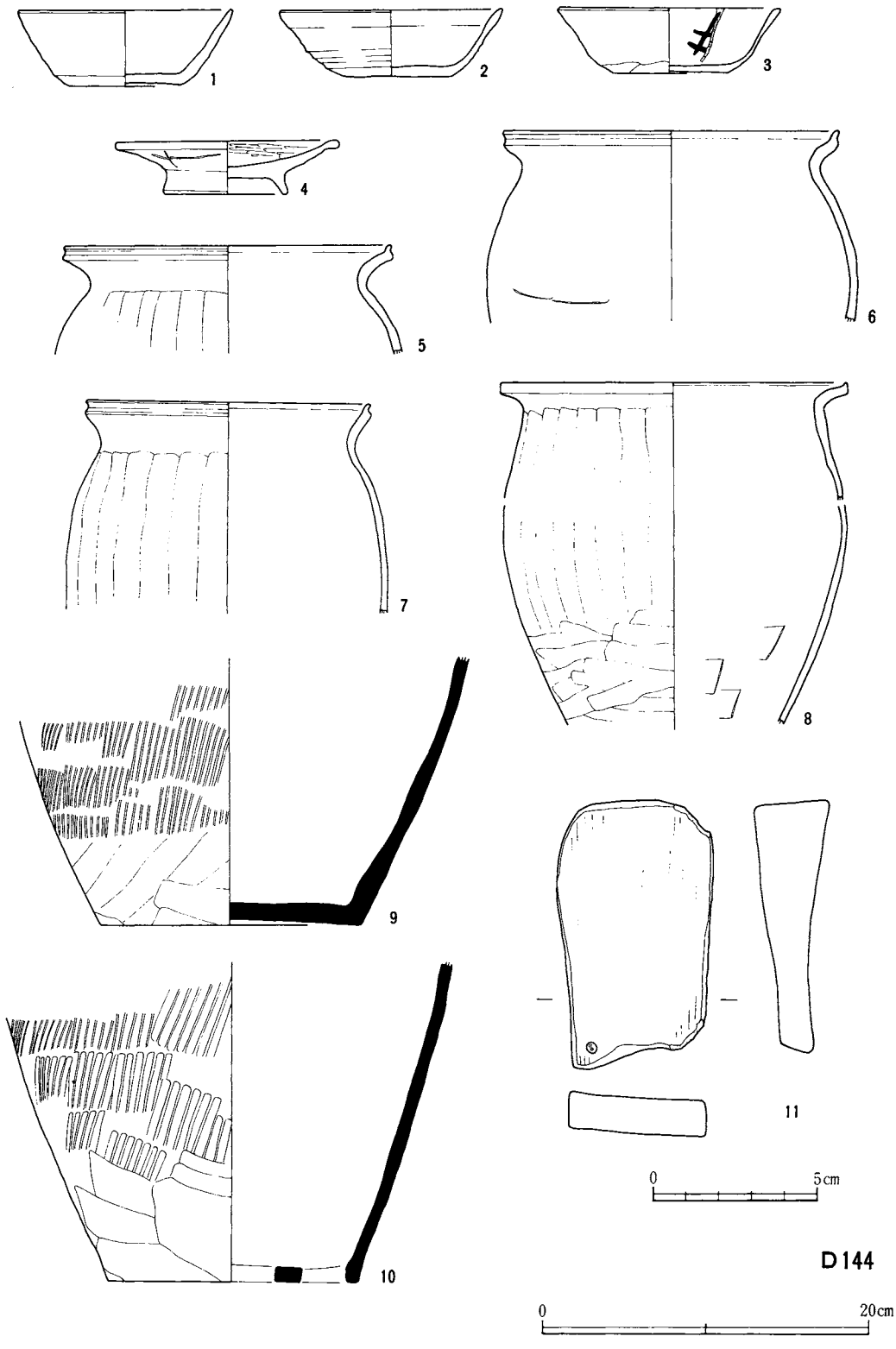



1　褐色土　炭化物・焼土粒を極く少量含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・炭化物を含む。
3　明褐色土　ローム粒・褐色土主体、ロームブロック含む。
4　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを少量、炭化物・炭化材を多量に含む。

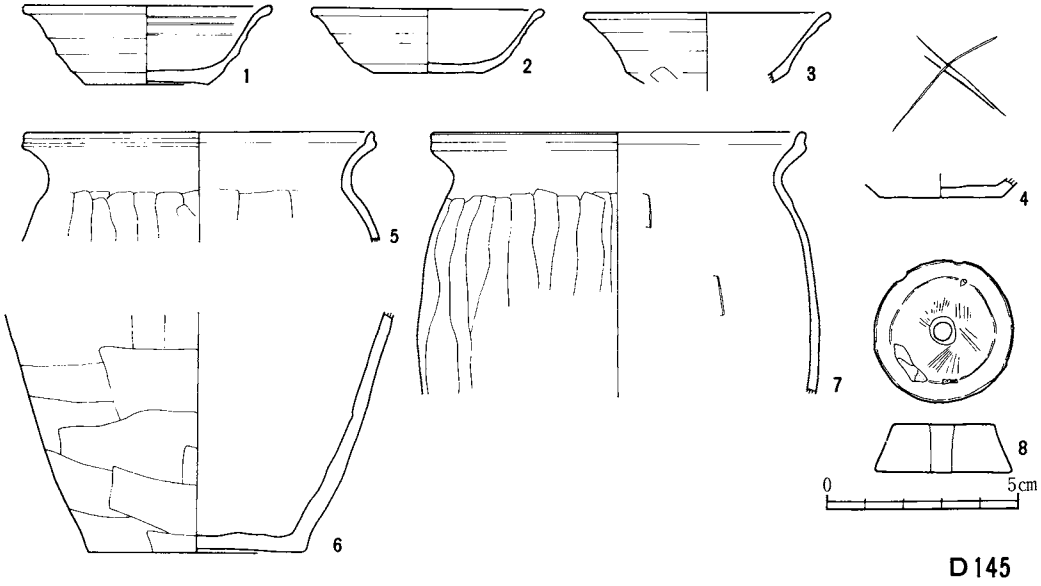
PL.76　P038・P042実測図

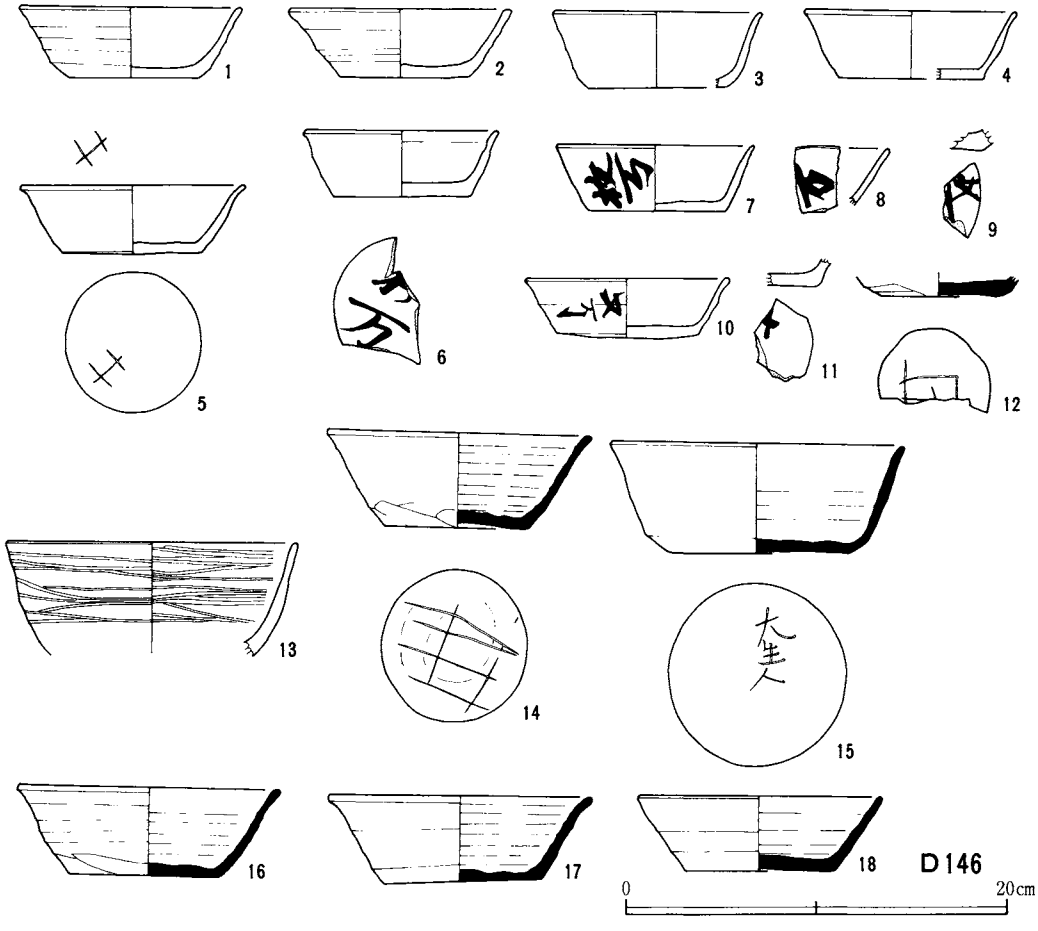



PL.77 P043・P129・P138実測図

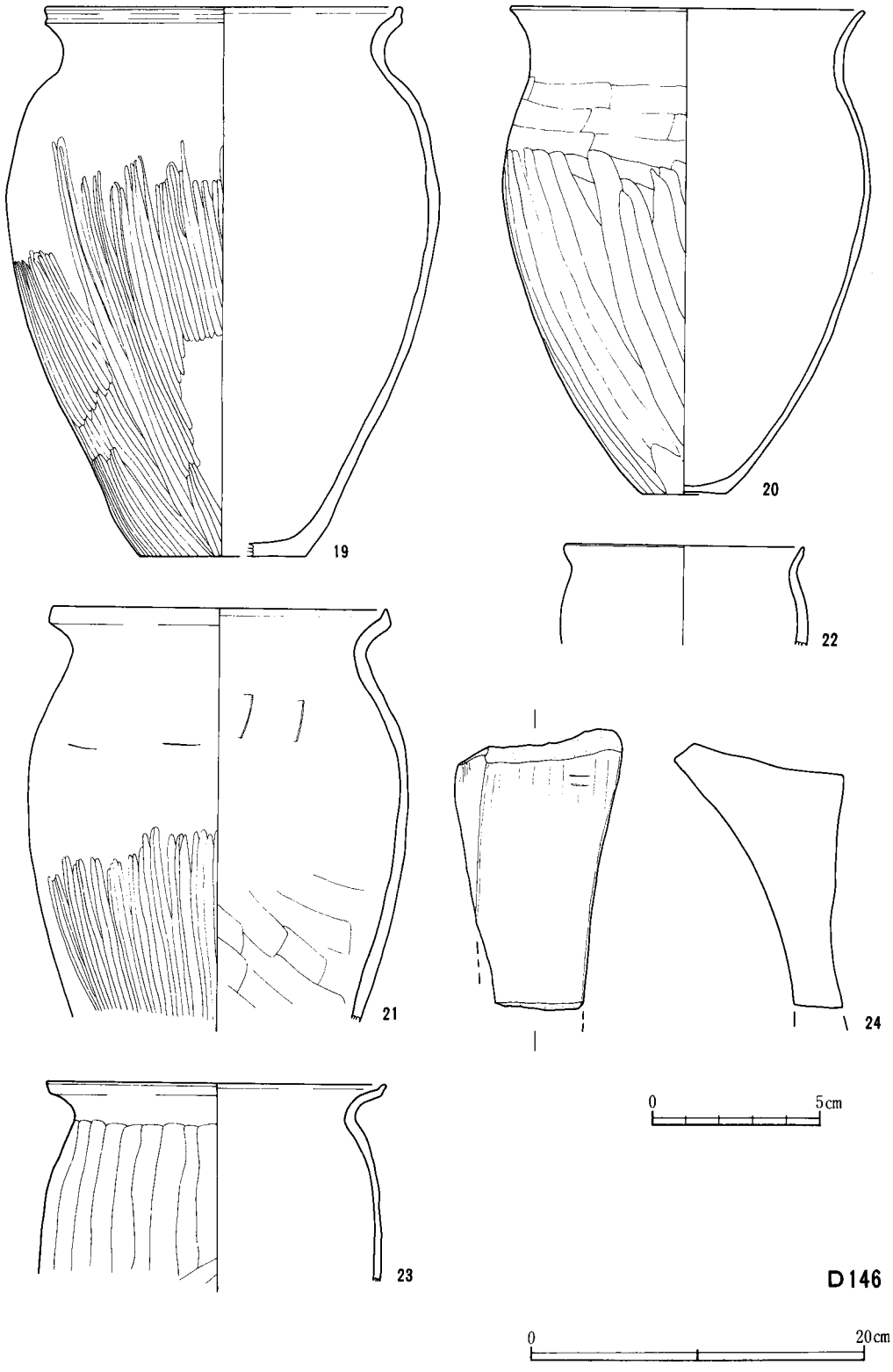



PL.78　歴史時代1群B遺物実測図　1

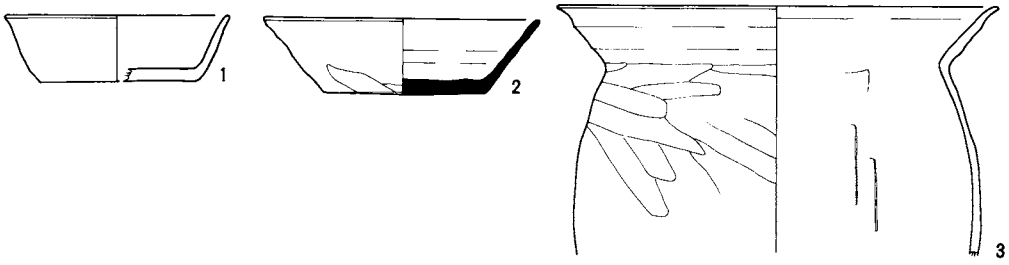


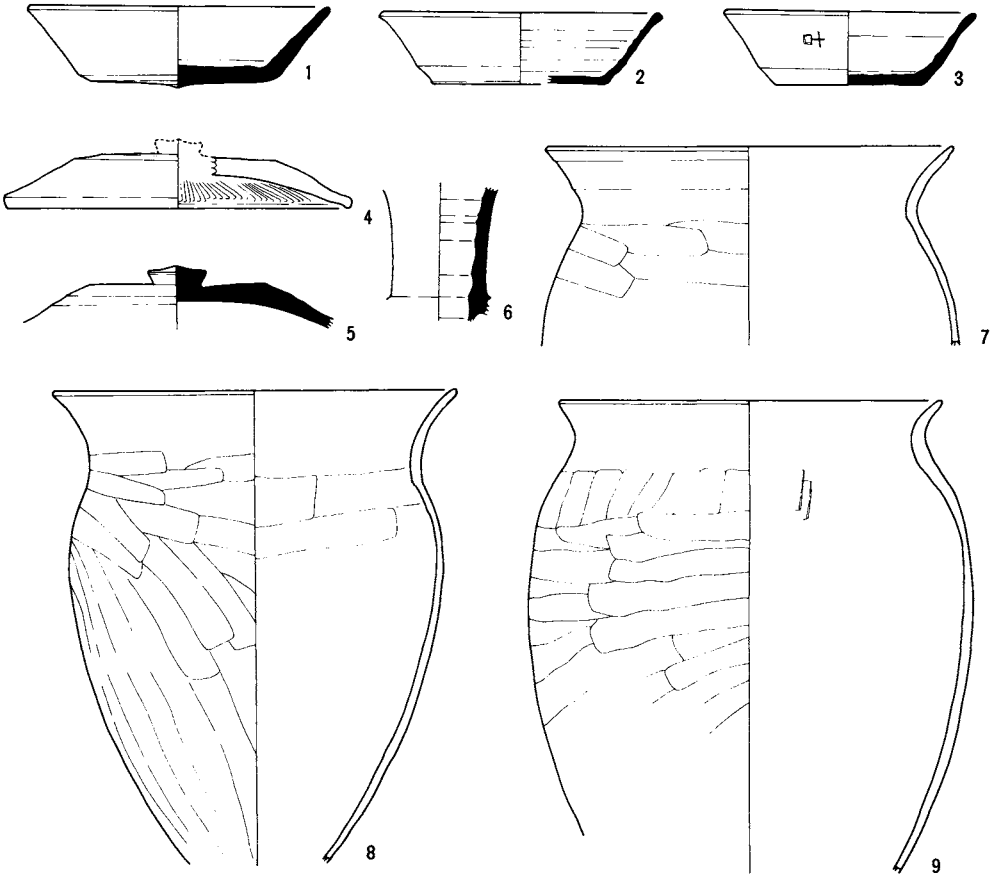

PL.79　歴史時代1群B遺物実測図　2




PL.80　歴史時代1群B遺物実測図　3



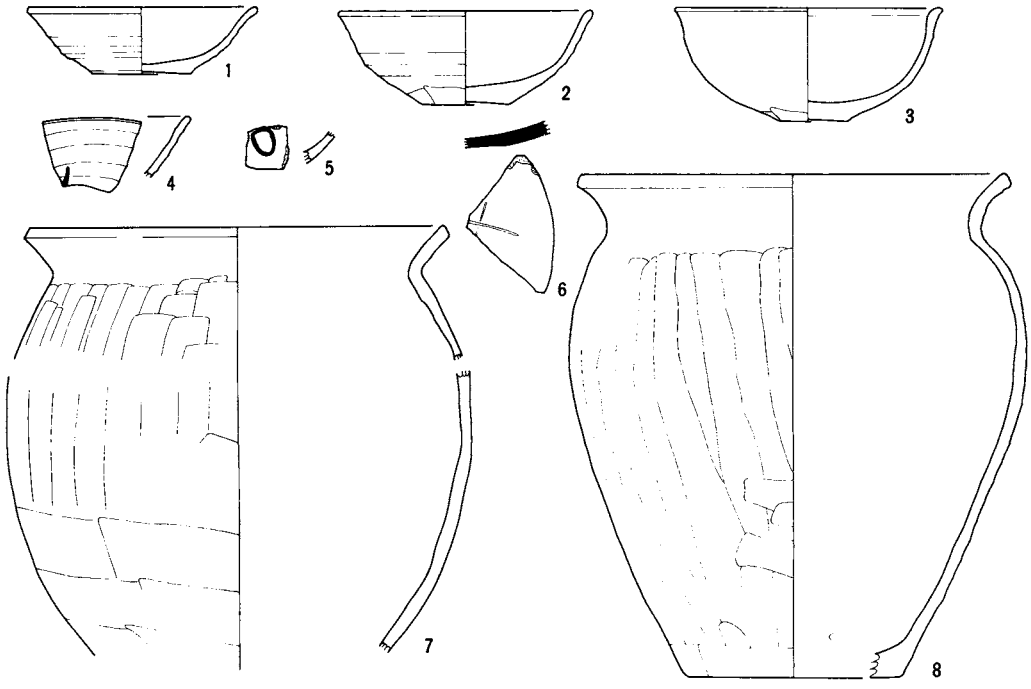

D147



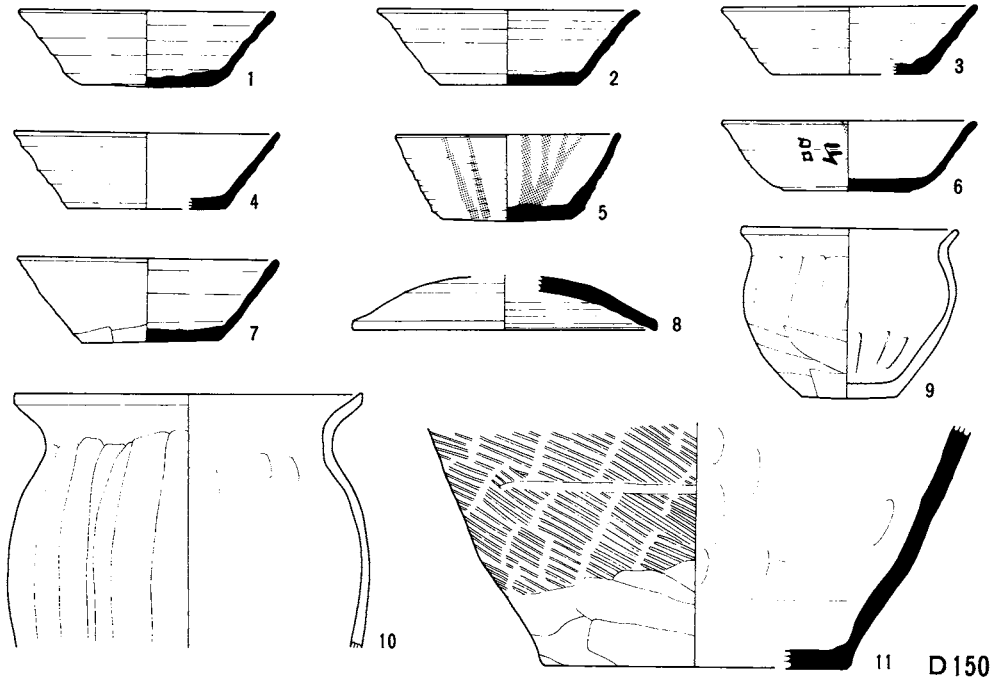

D148

0 20cm

PL.81　歴史時代1群B遺物実測図　4



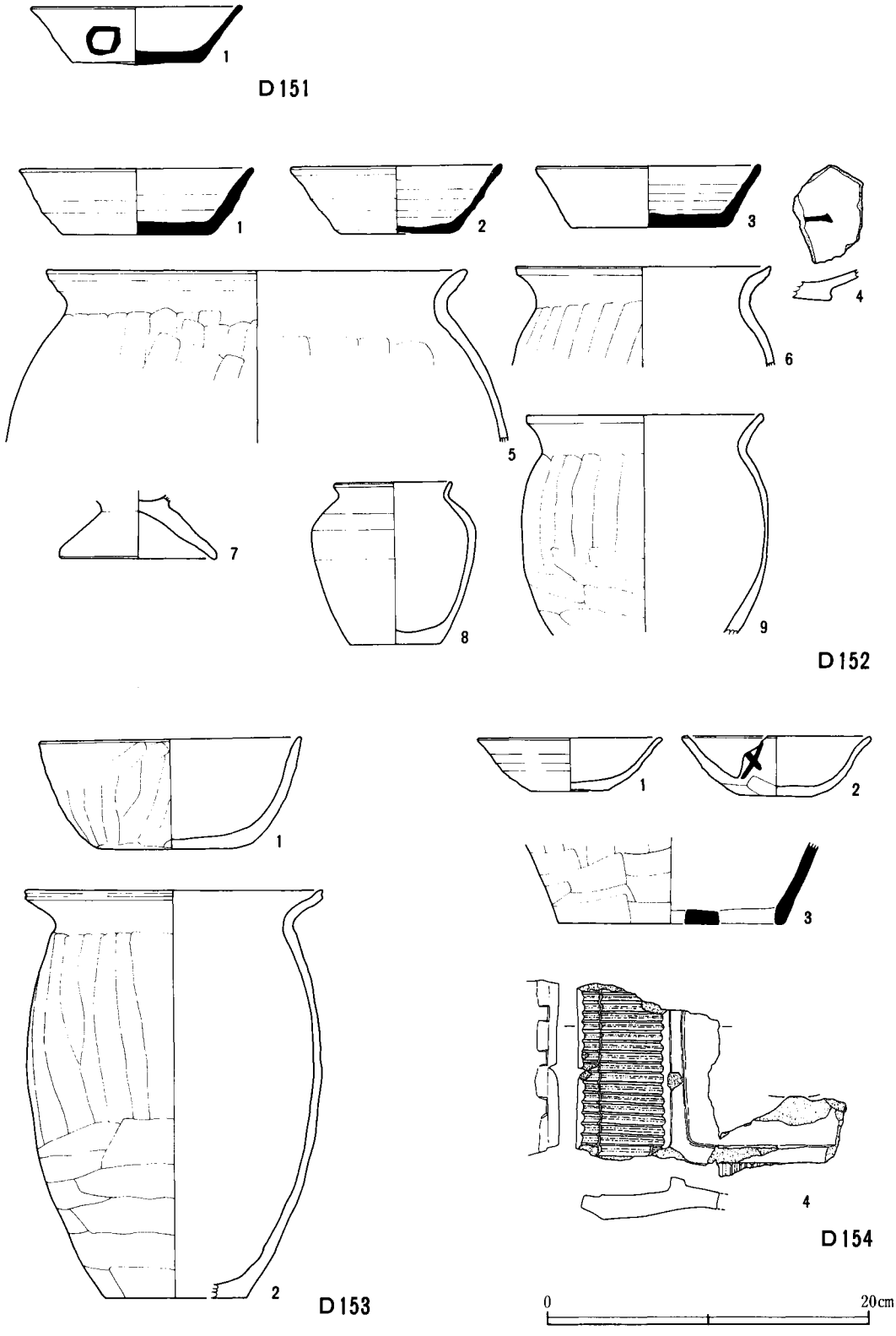

D149



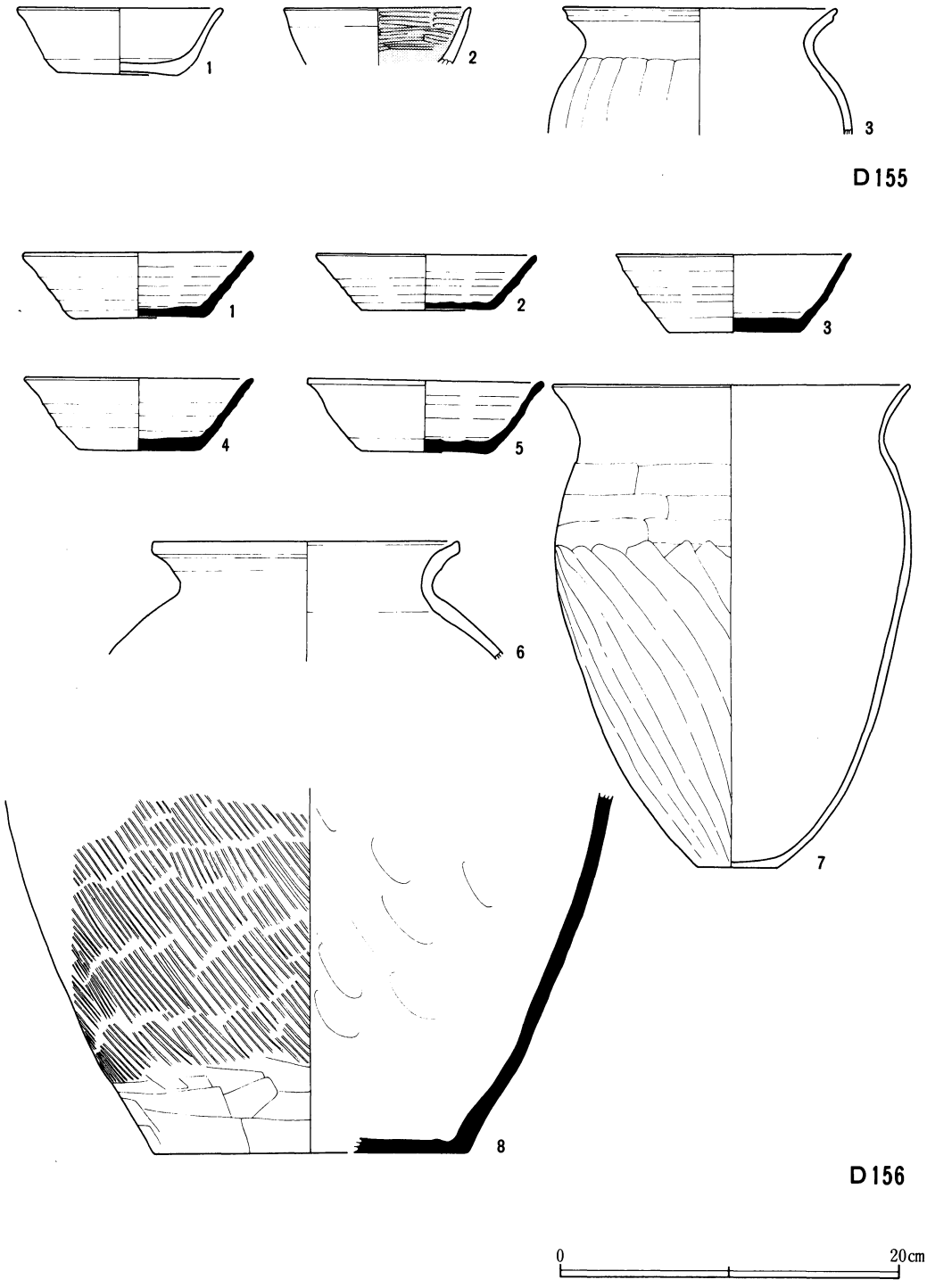

D150

0 20cm

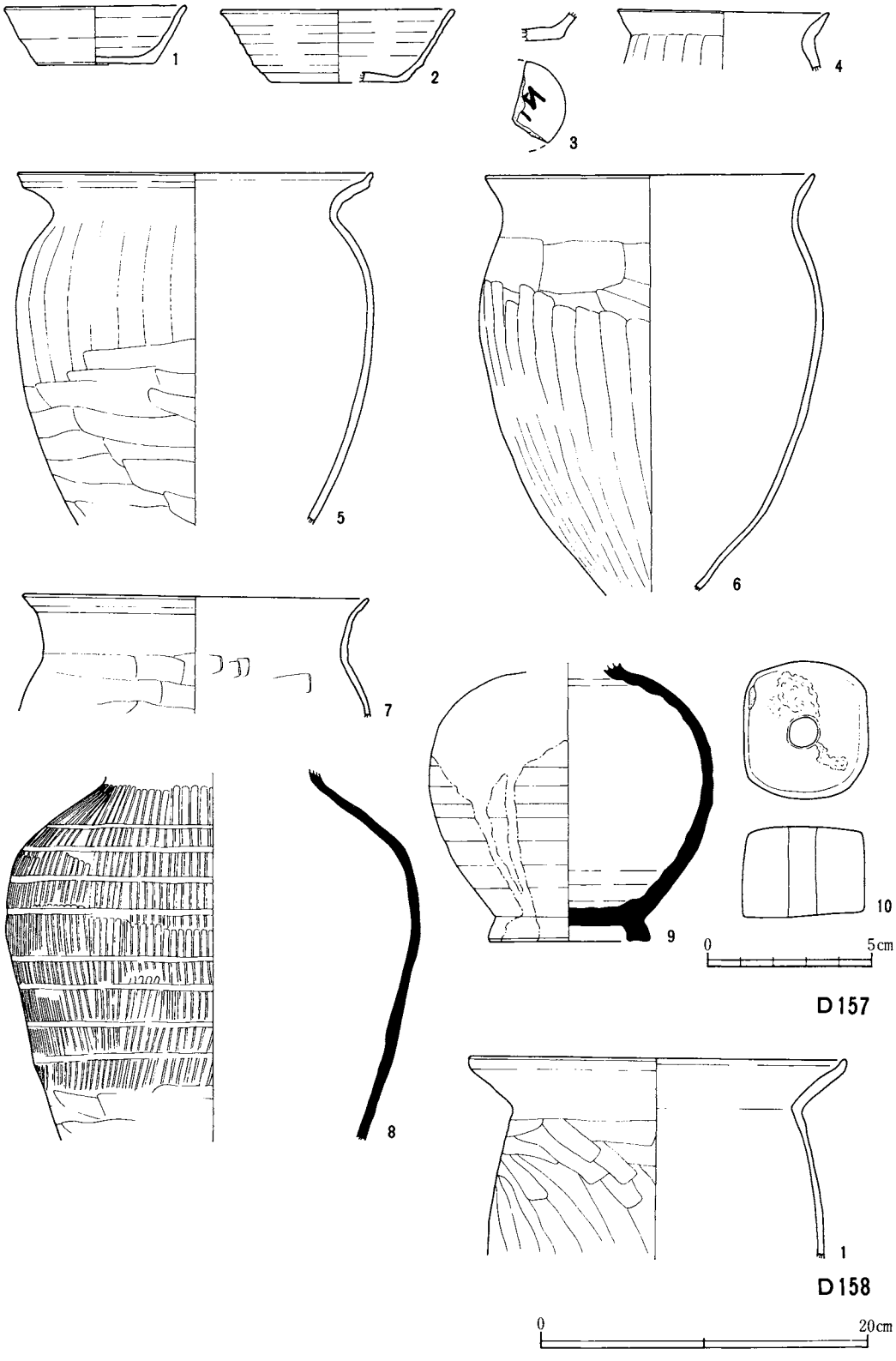
PL.82　歴史時代1群B遺物実測図　5



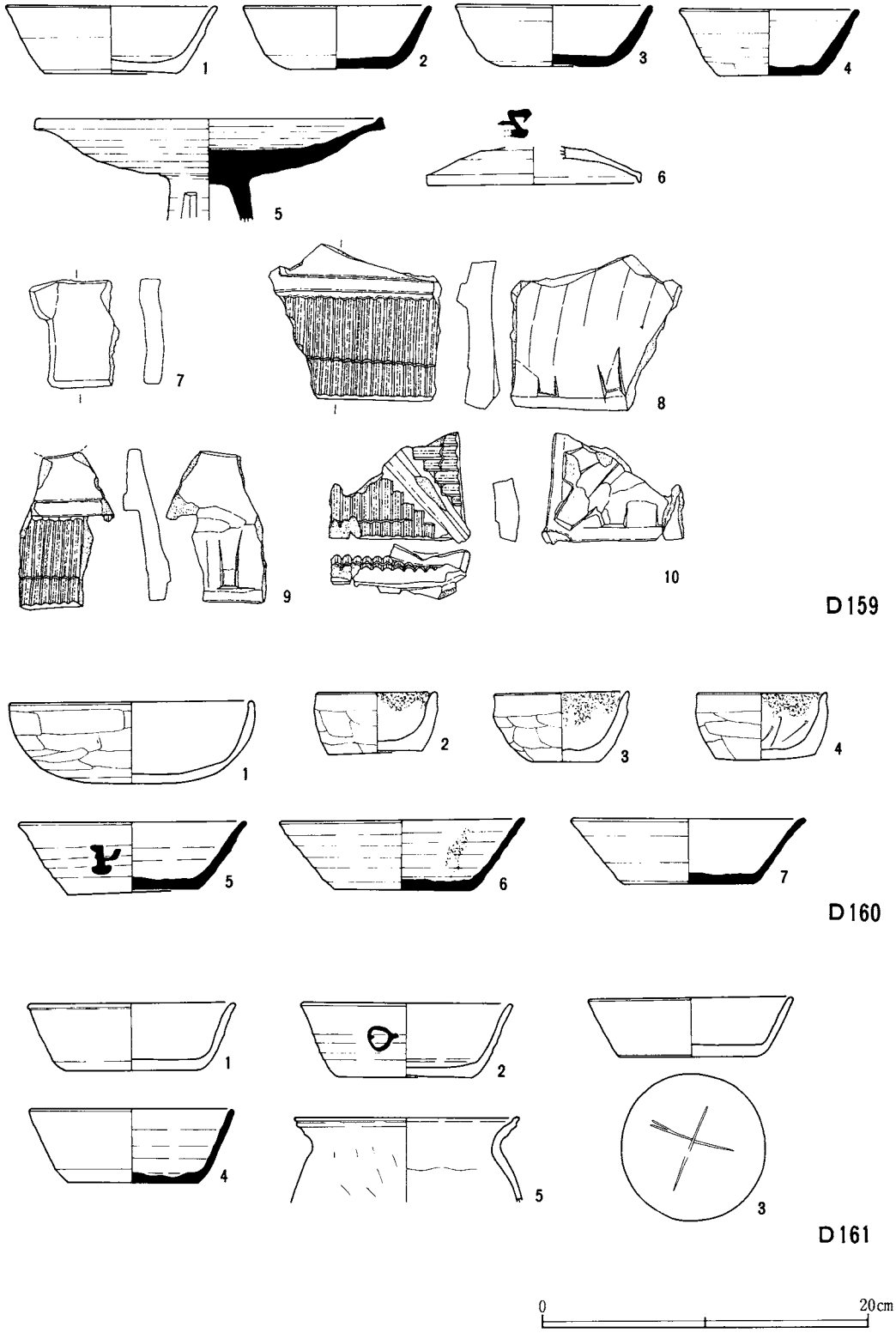

PL.83　歴史時代1群B遺物実測図　6



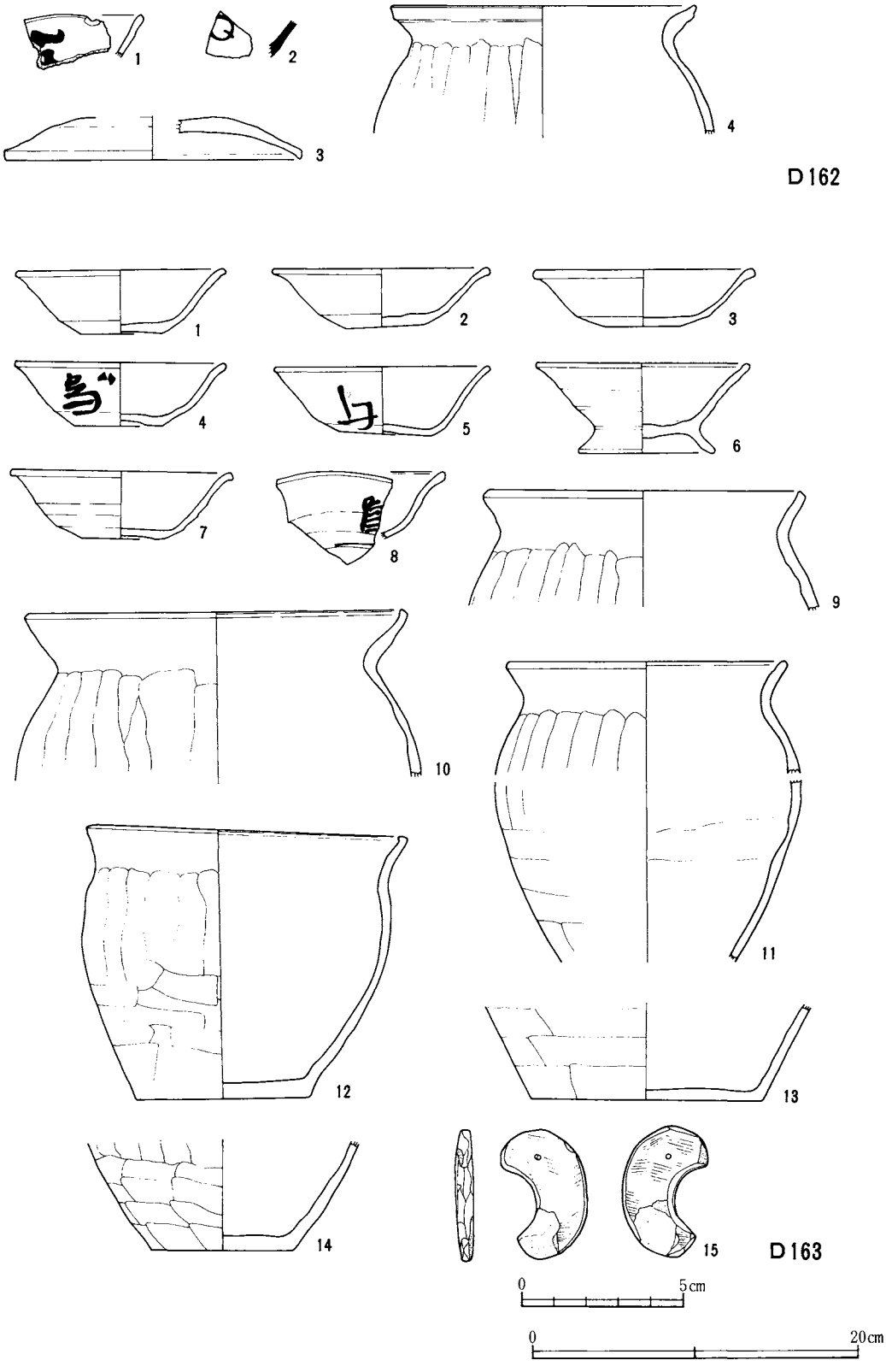

PL.84　歴史時代1群B遺物実測図　7



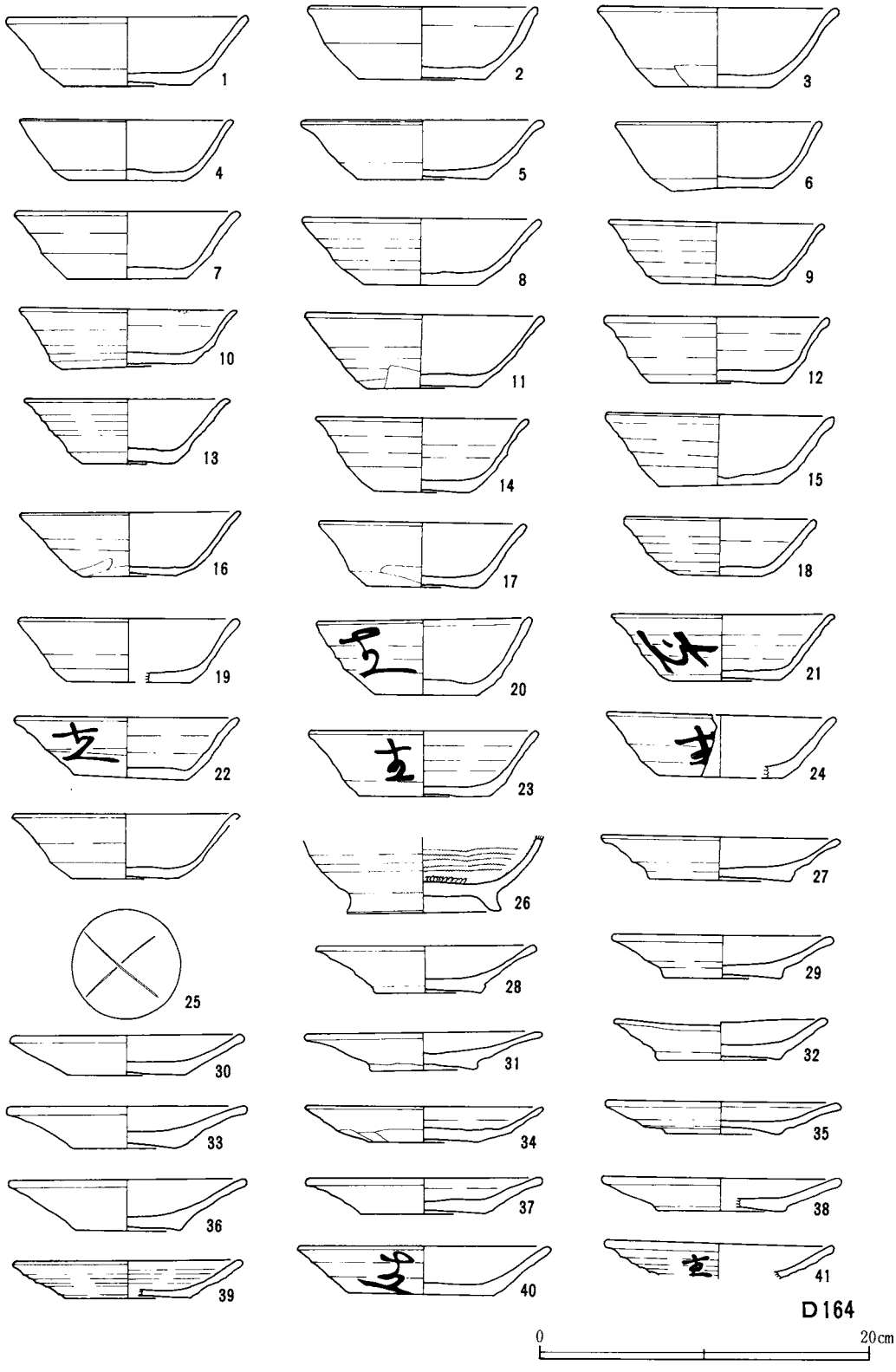

PL.85　歴史時代1群B遺物実測図　8



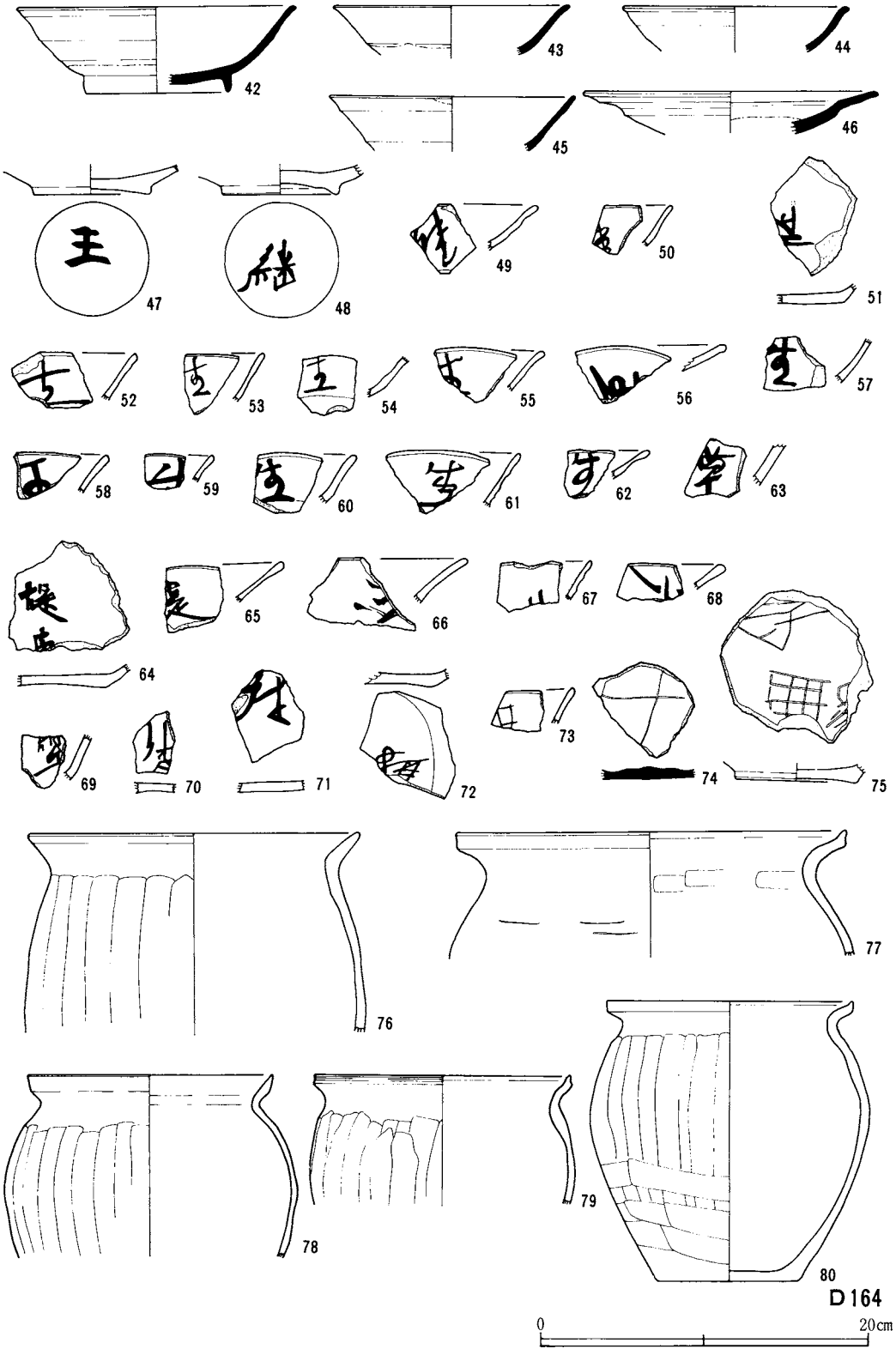

PL.86　歴史時代1群B遺物実測図 9



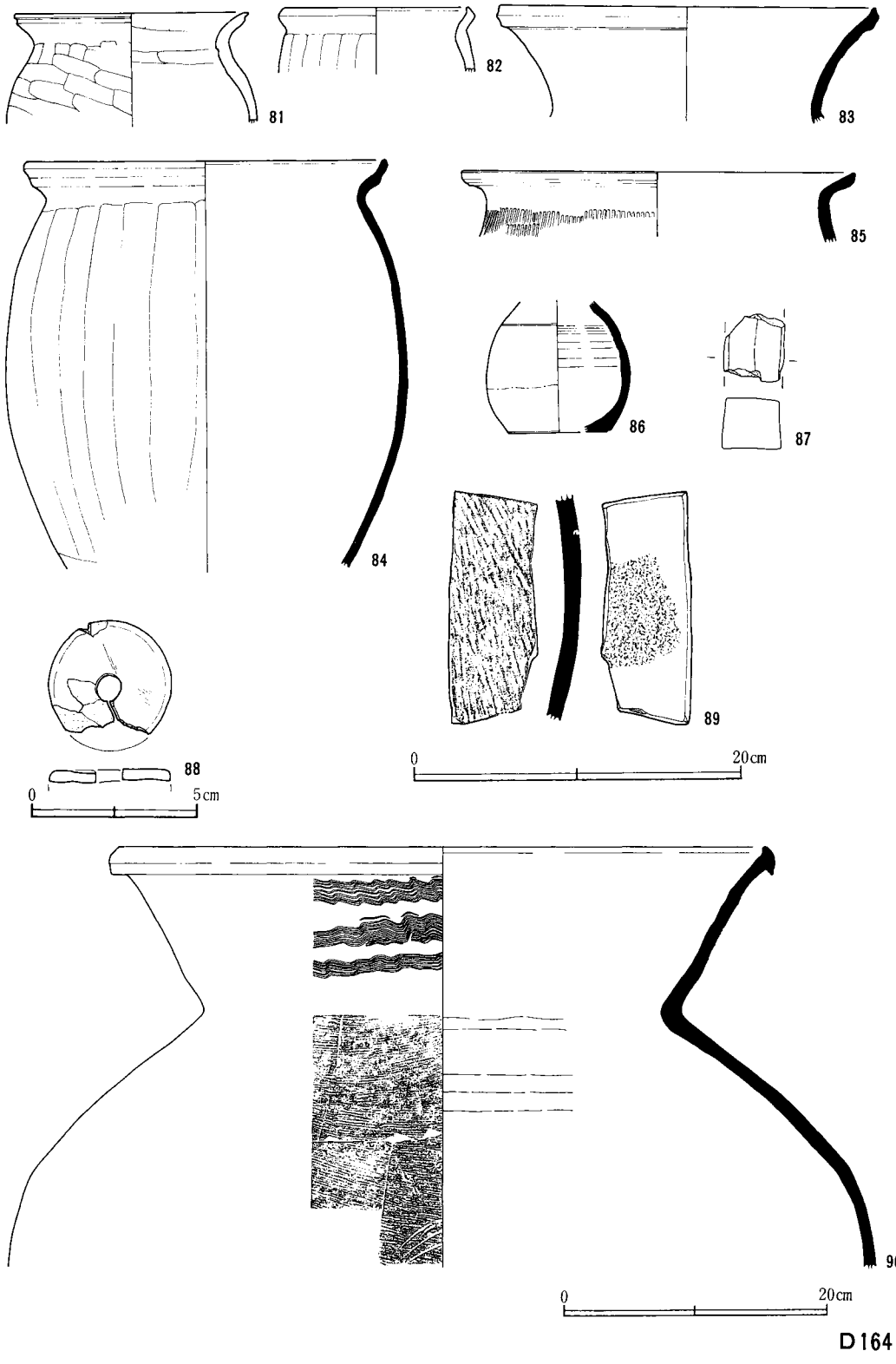

PL.87　歴史時代1群B遺物実測図 10



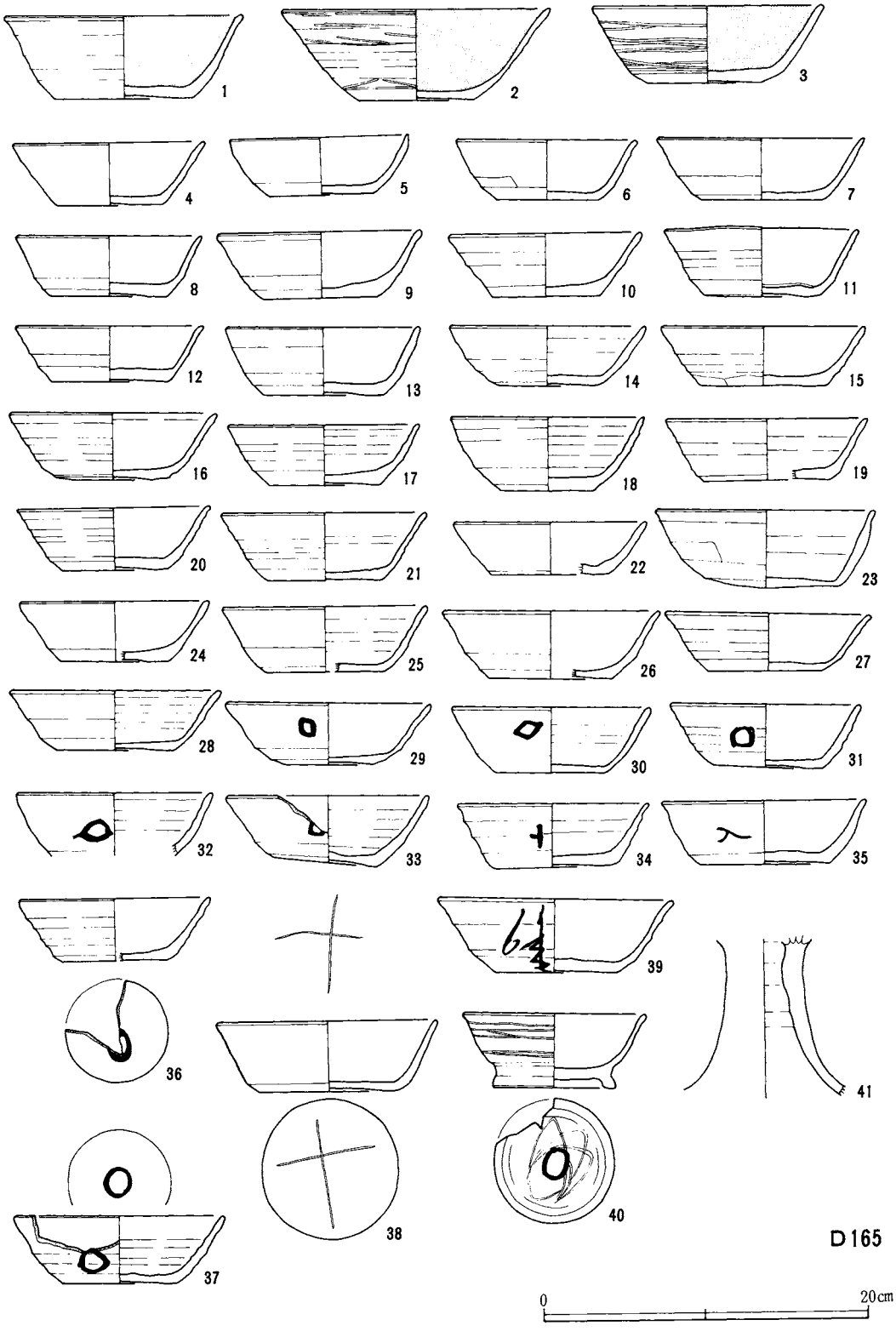

PL.88　歴史時代1群B遺物実測図 11



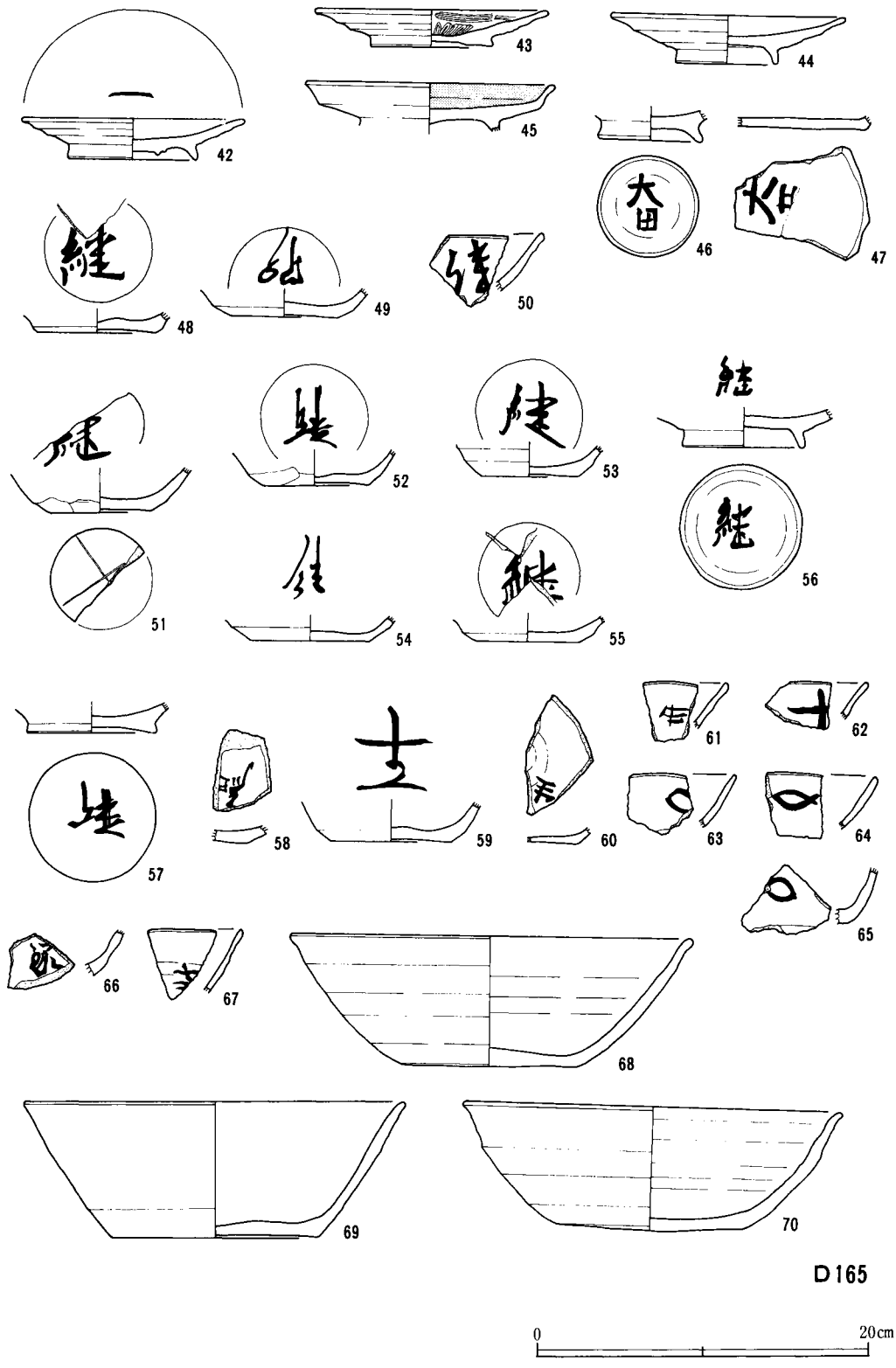

PL.89　歴史時代1群B遺物実測図 12



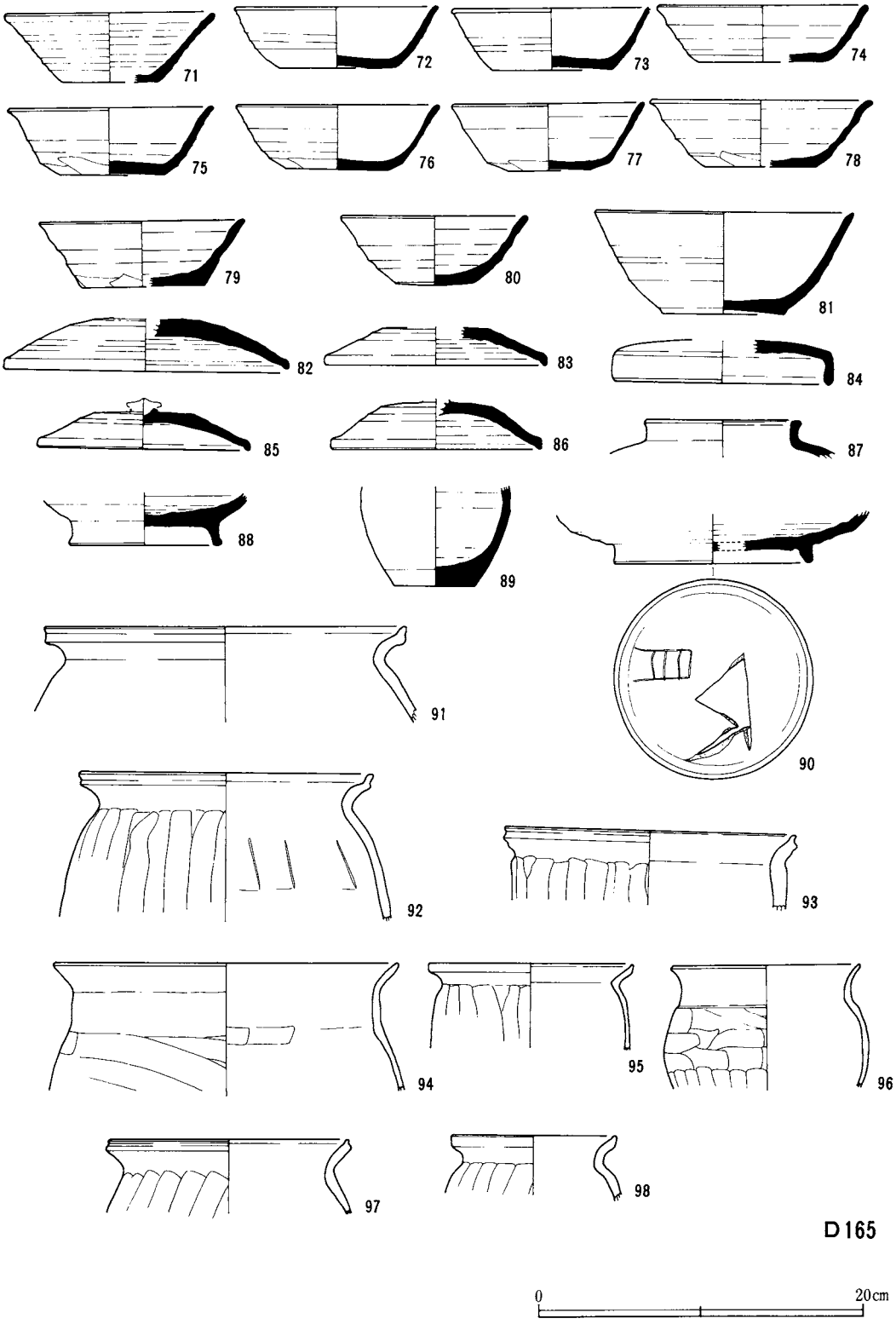

PL.90　歴史時代1群B遺物実測図 13



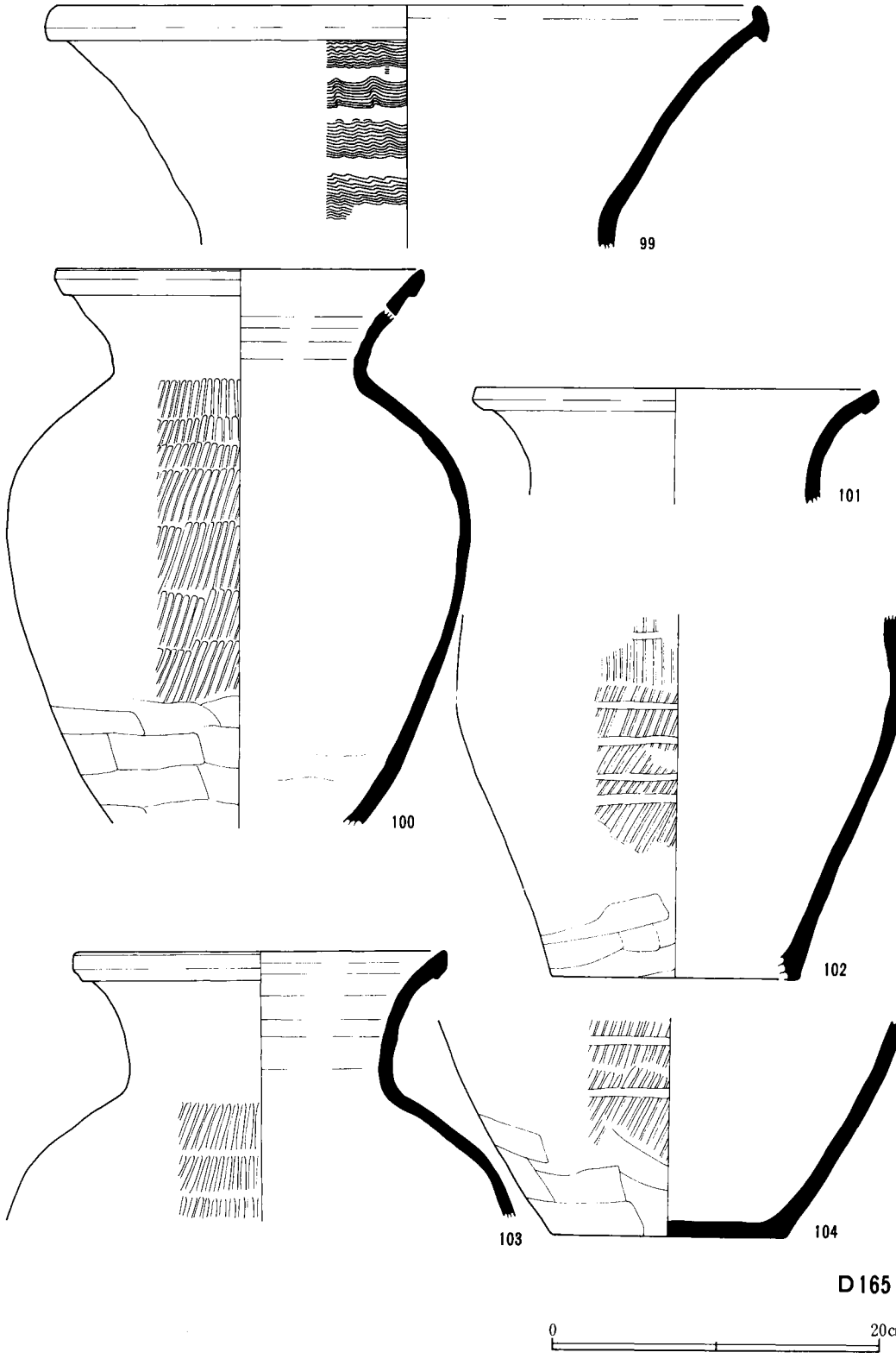

PL.91　歴史時代1群B遺物実測図 14



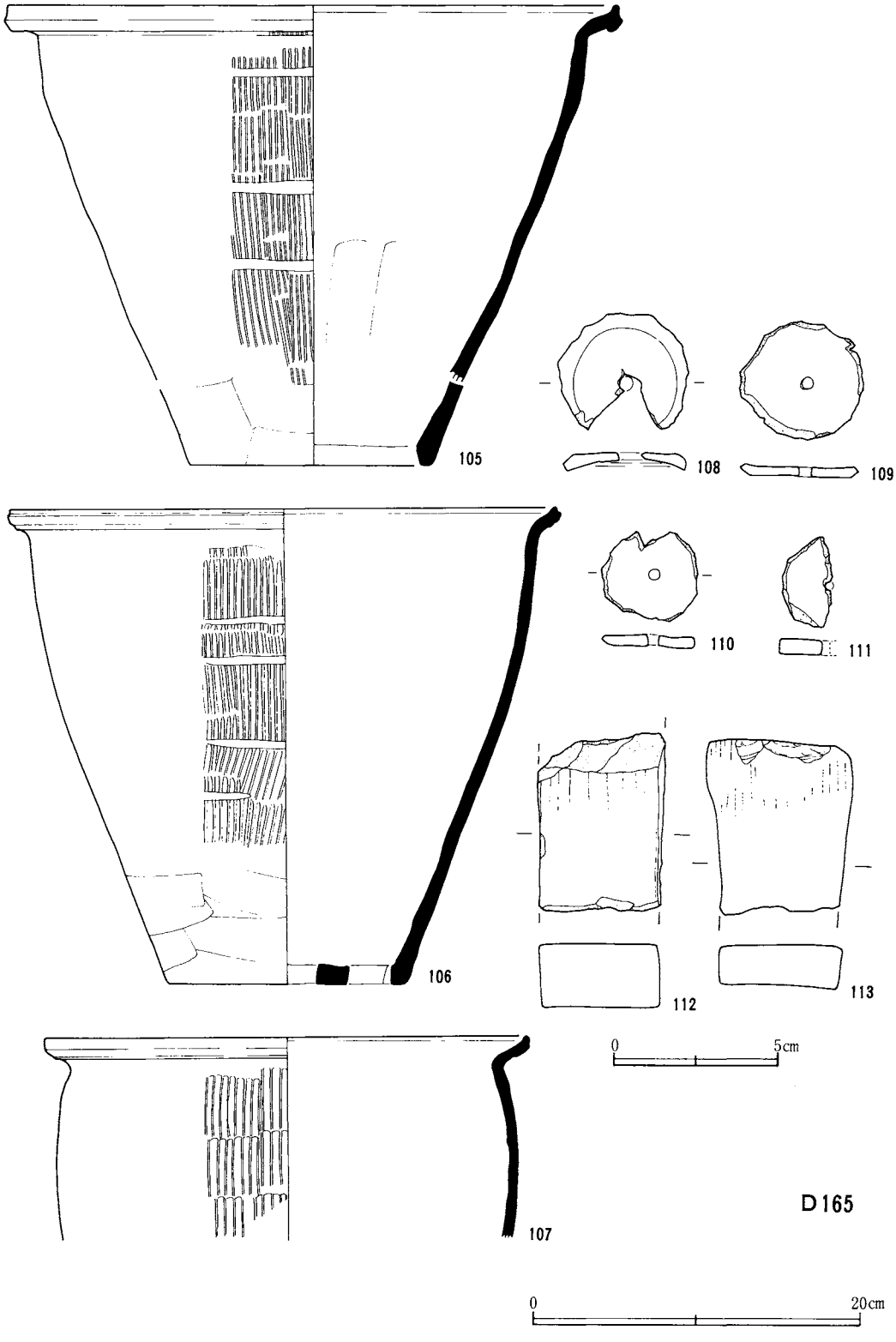

PL.92　歴史時代1群B遺物実測図 15



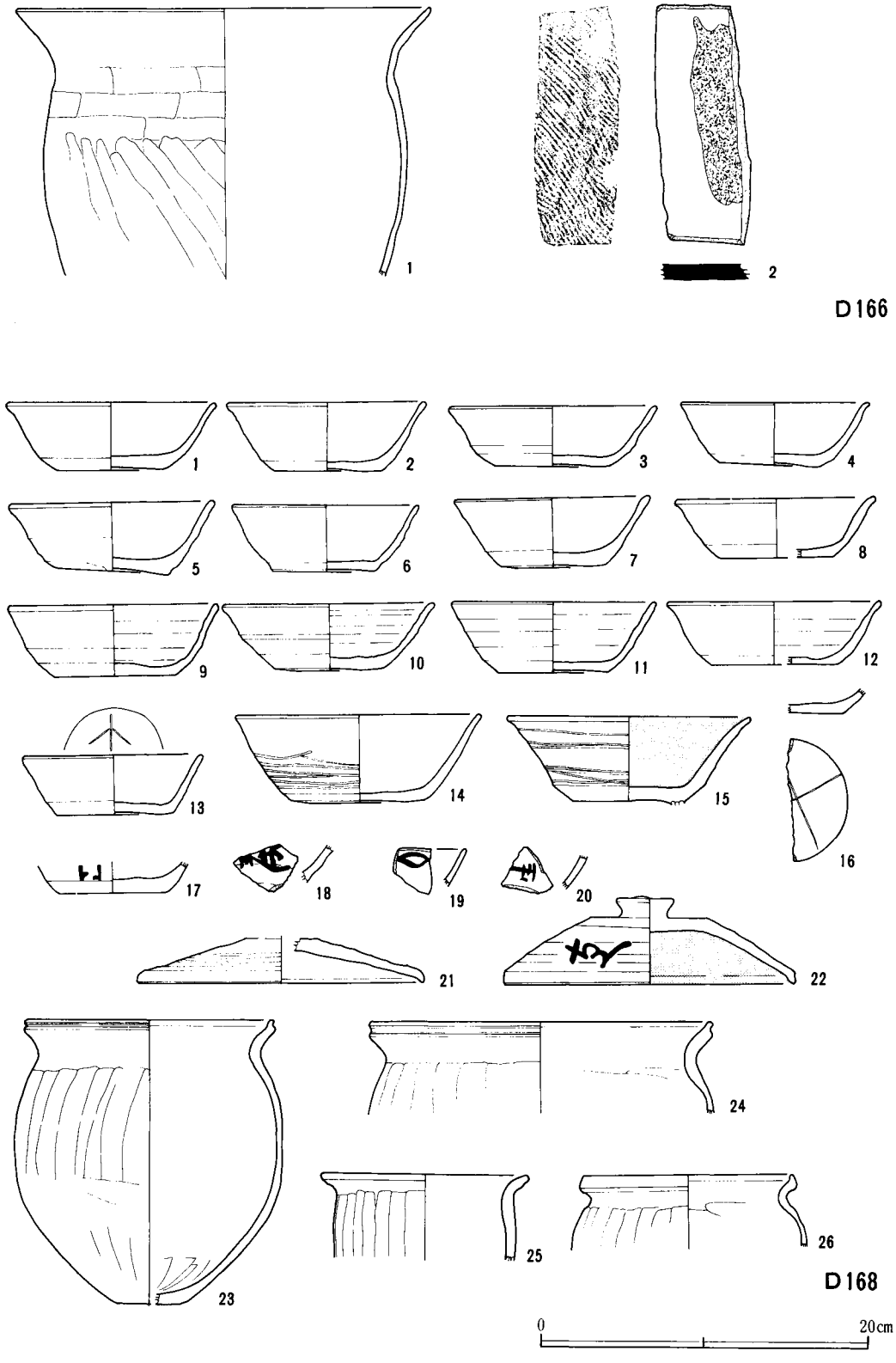

PL.93　歴史時代1群B遺物実測図 16



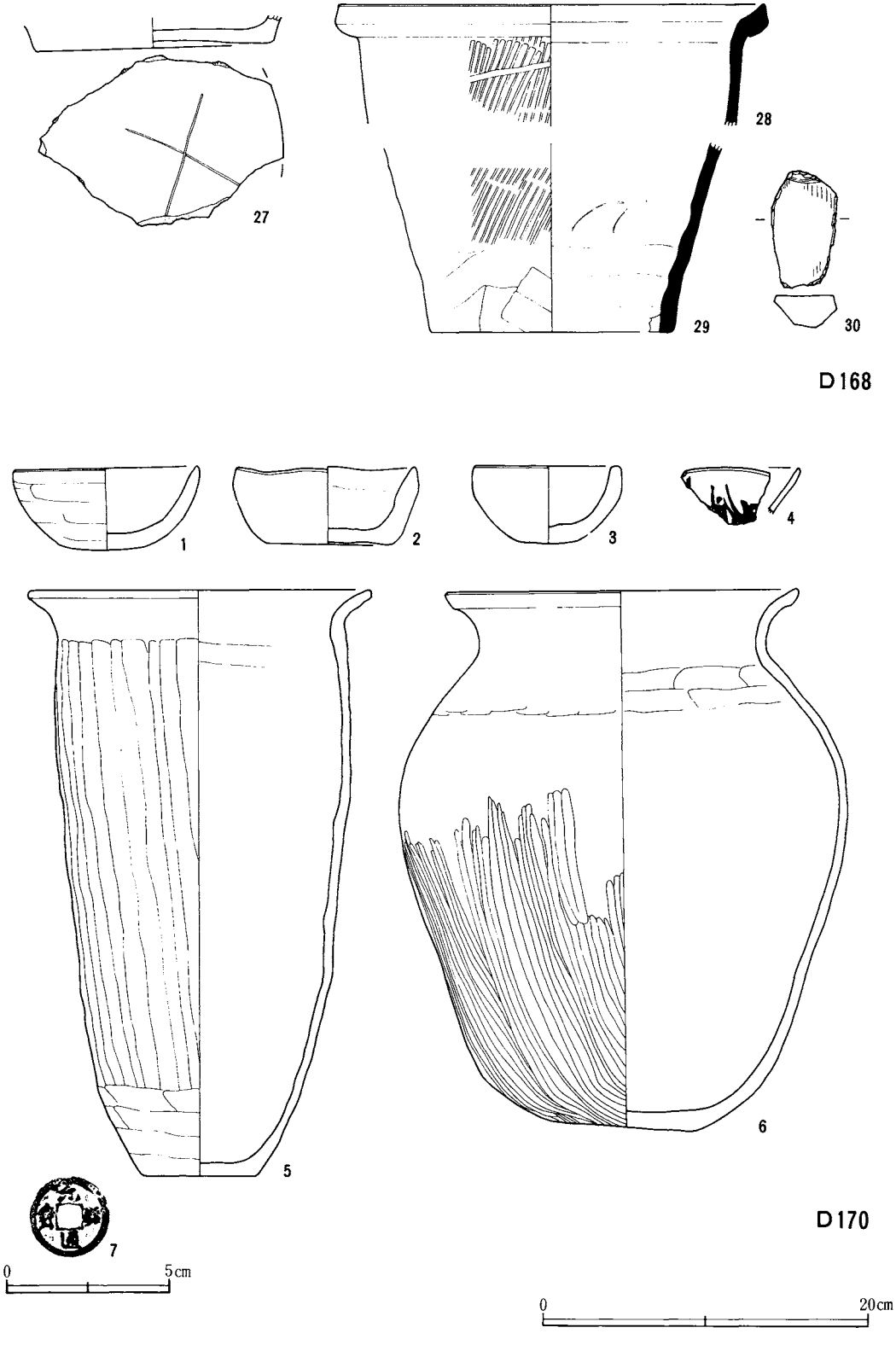

PL.94　歴史時代1群B遺物実測図 17



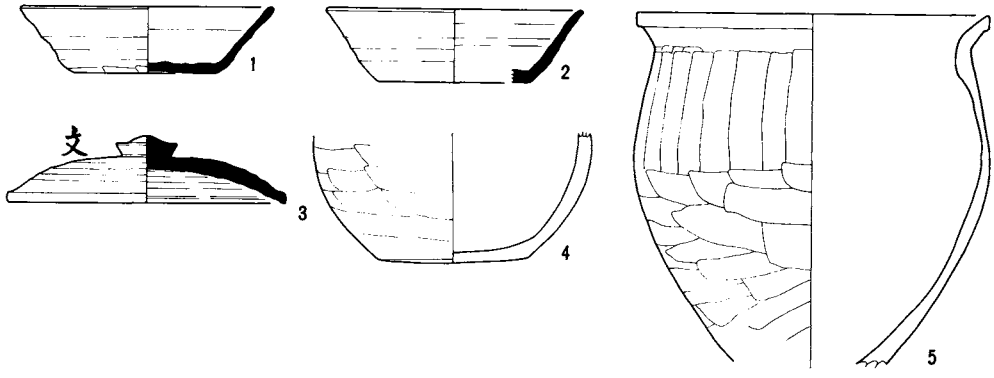

PL.95　歴史時代1群B遺物実測図 18



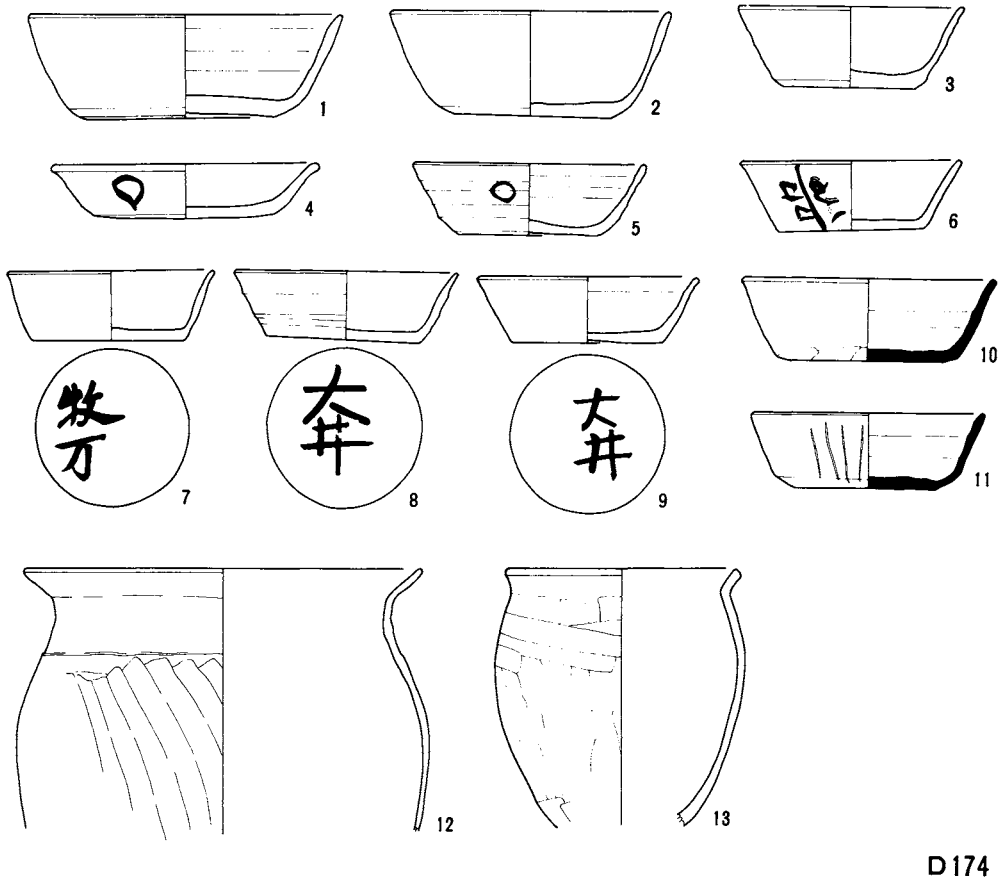

PL.96　歴史時代1群B遺物実測図 19




PL.97　歴史時代1群B遺物実測図 20



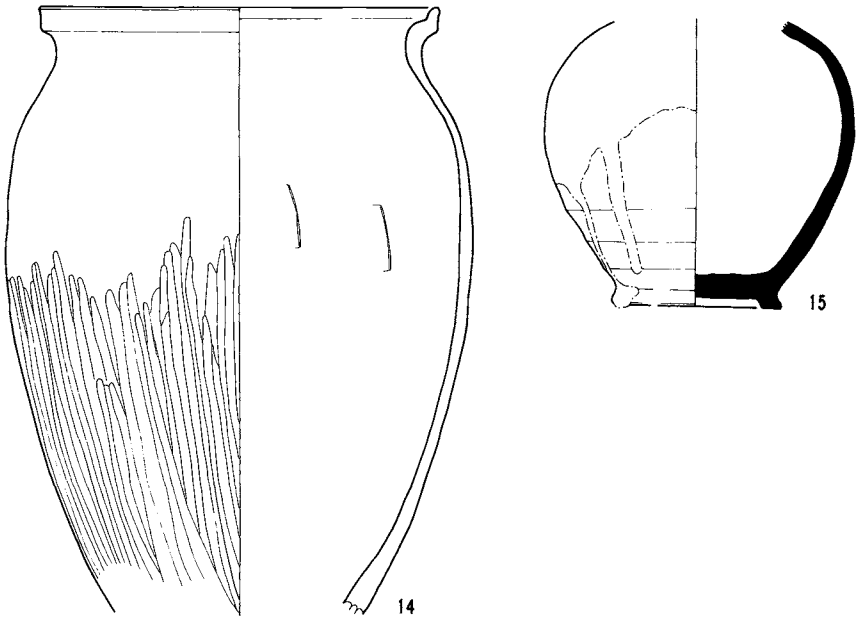

D173

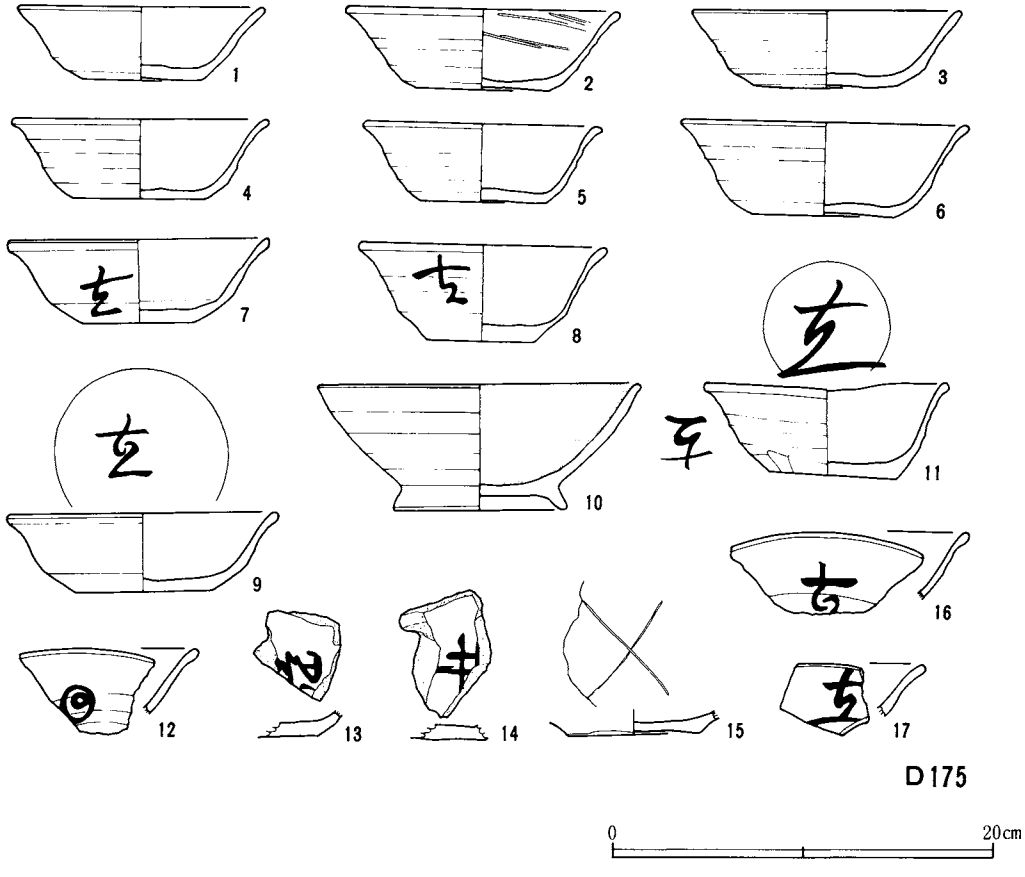



D174

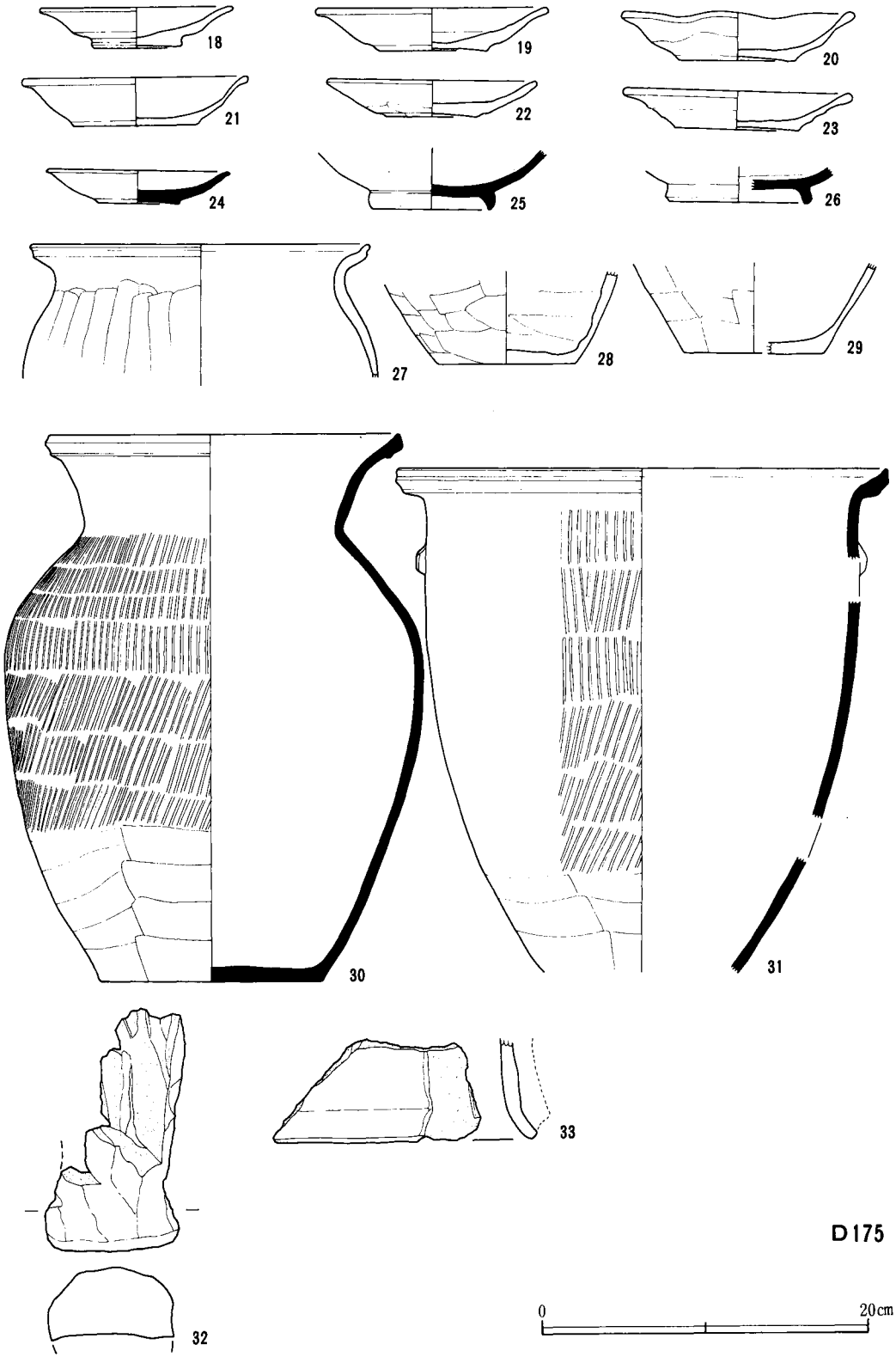
0 20cm

PL.98　歴史時代1群B遺物実測図 21

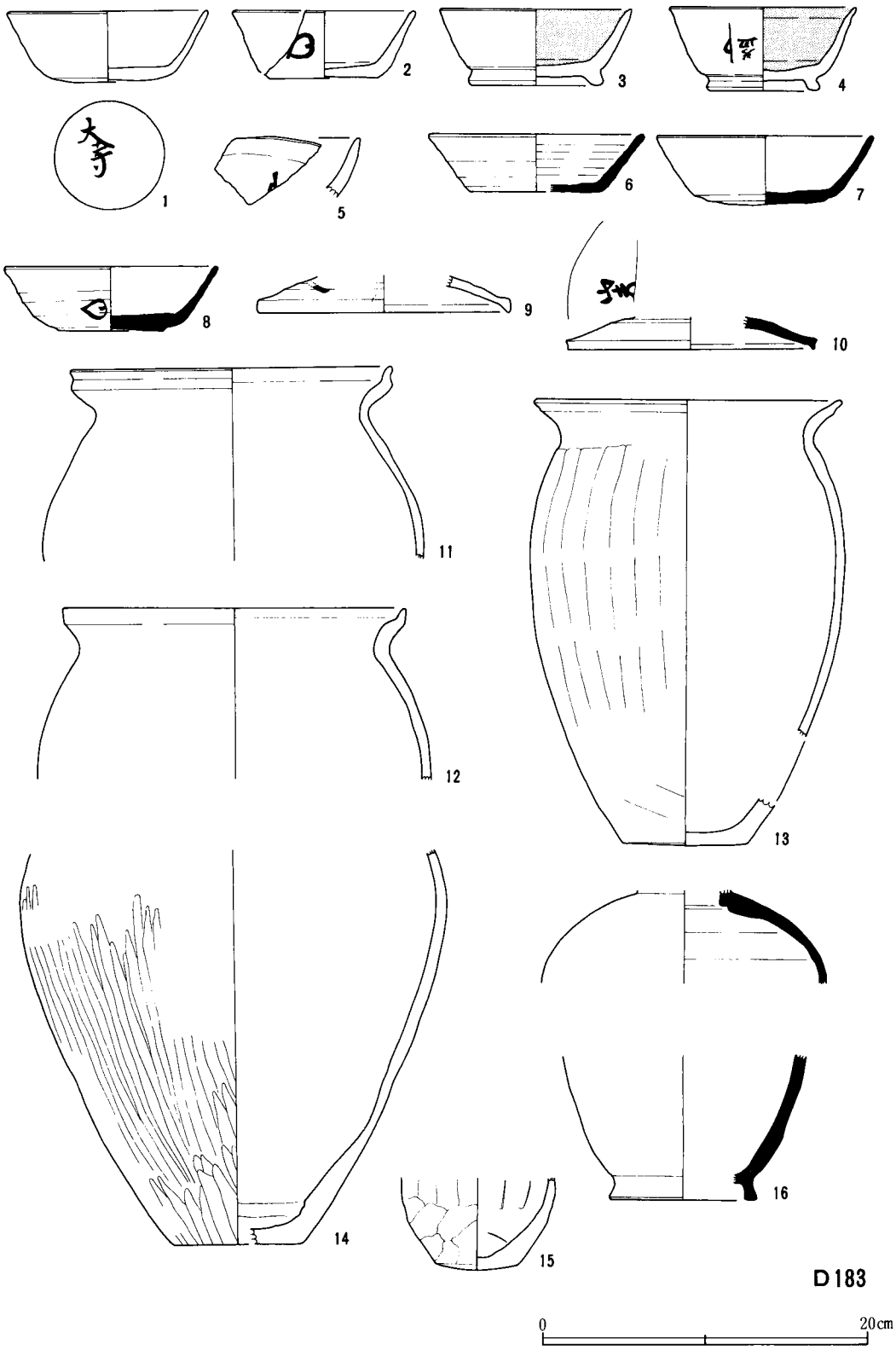


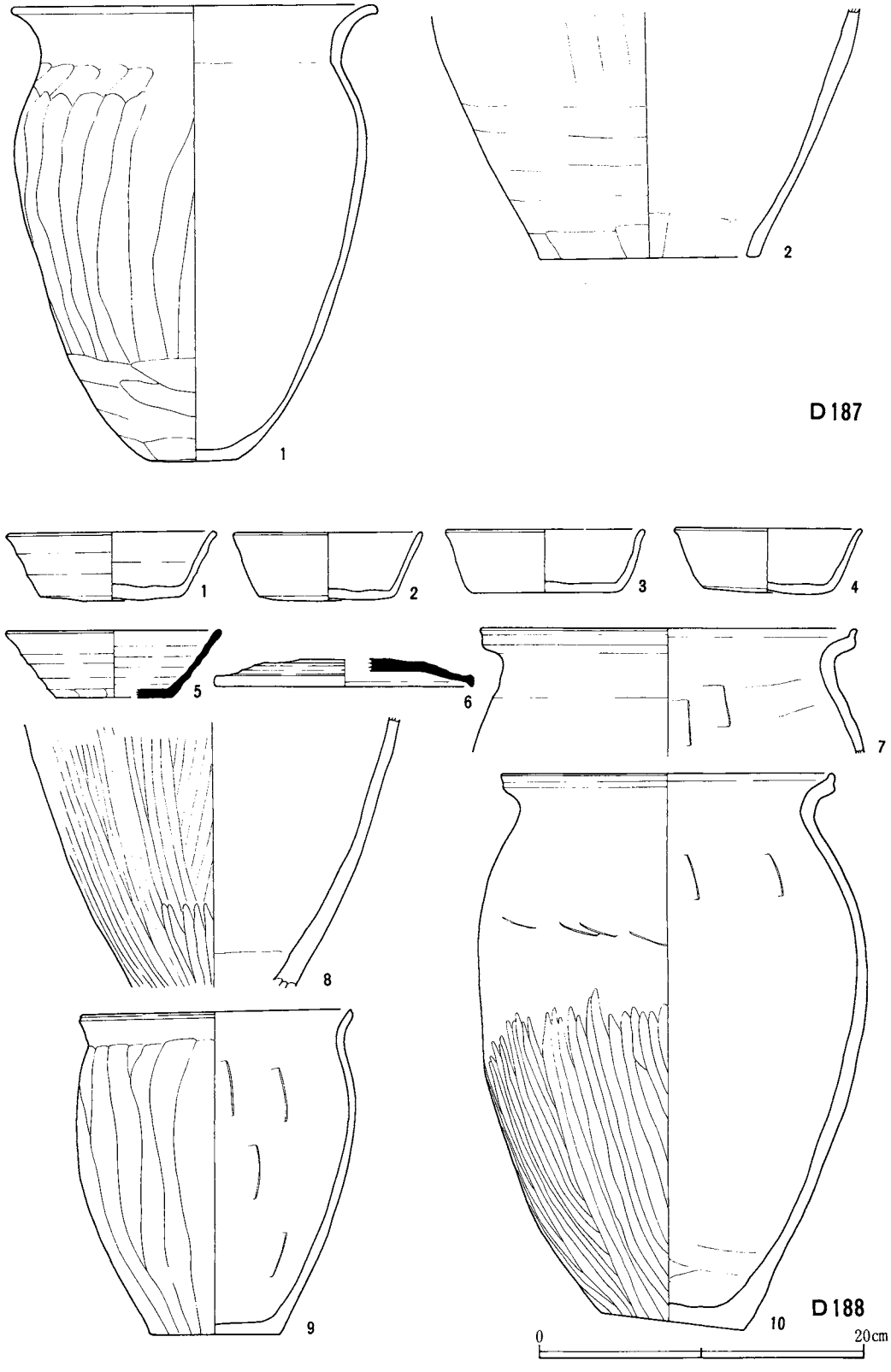

PL.99　歴史時代1群B遺物実測図 22



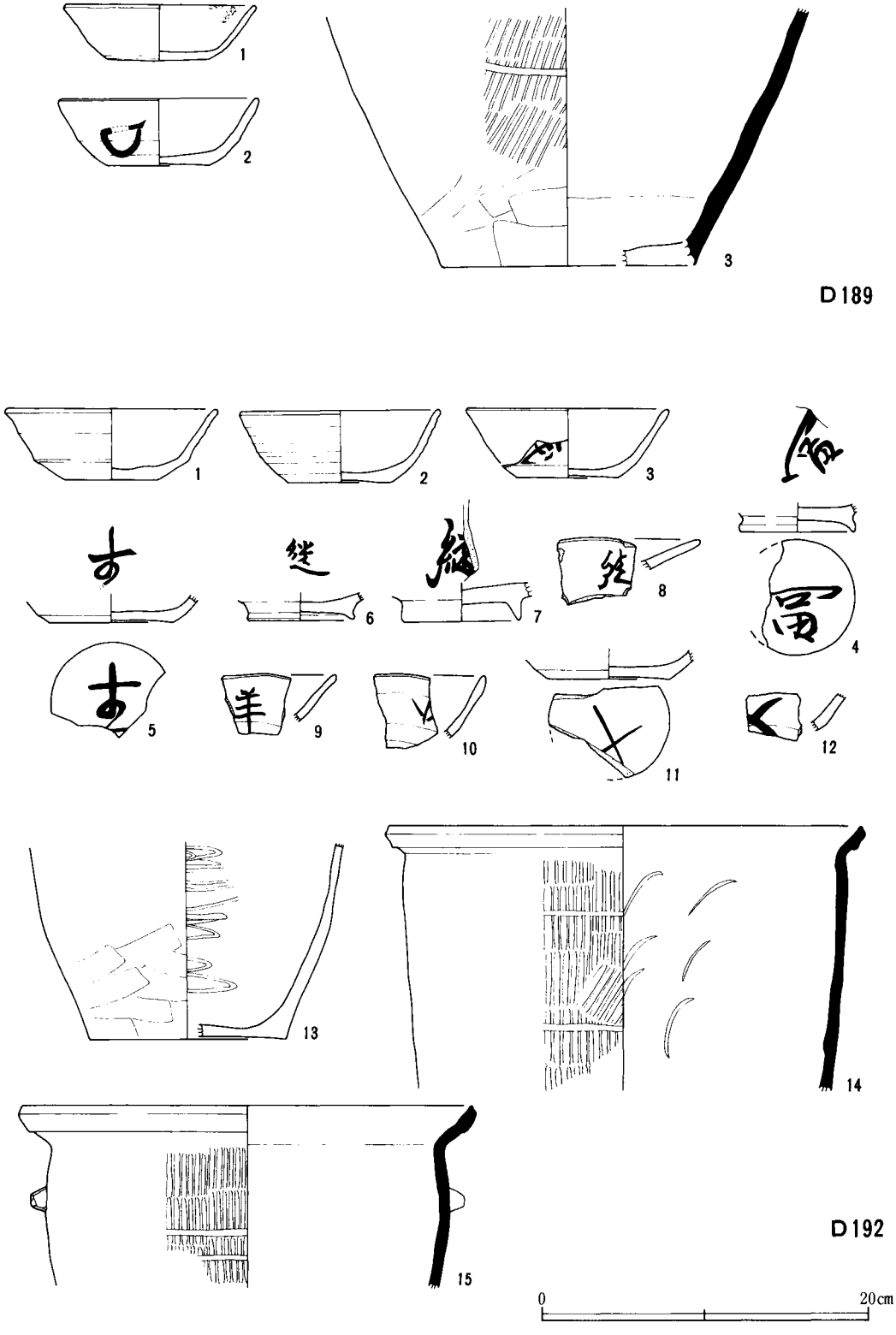

PL.100　歴史時代1群B遺物実測図 23



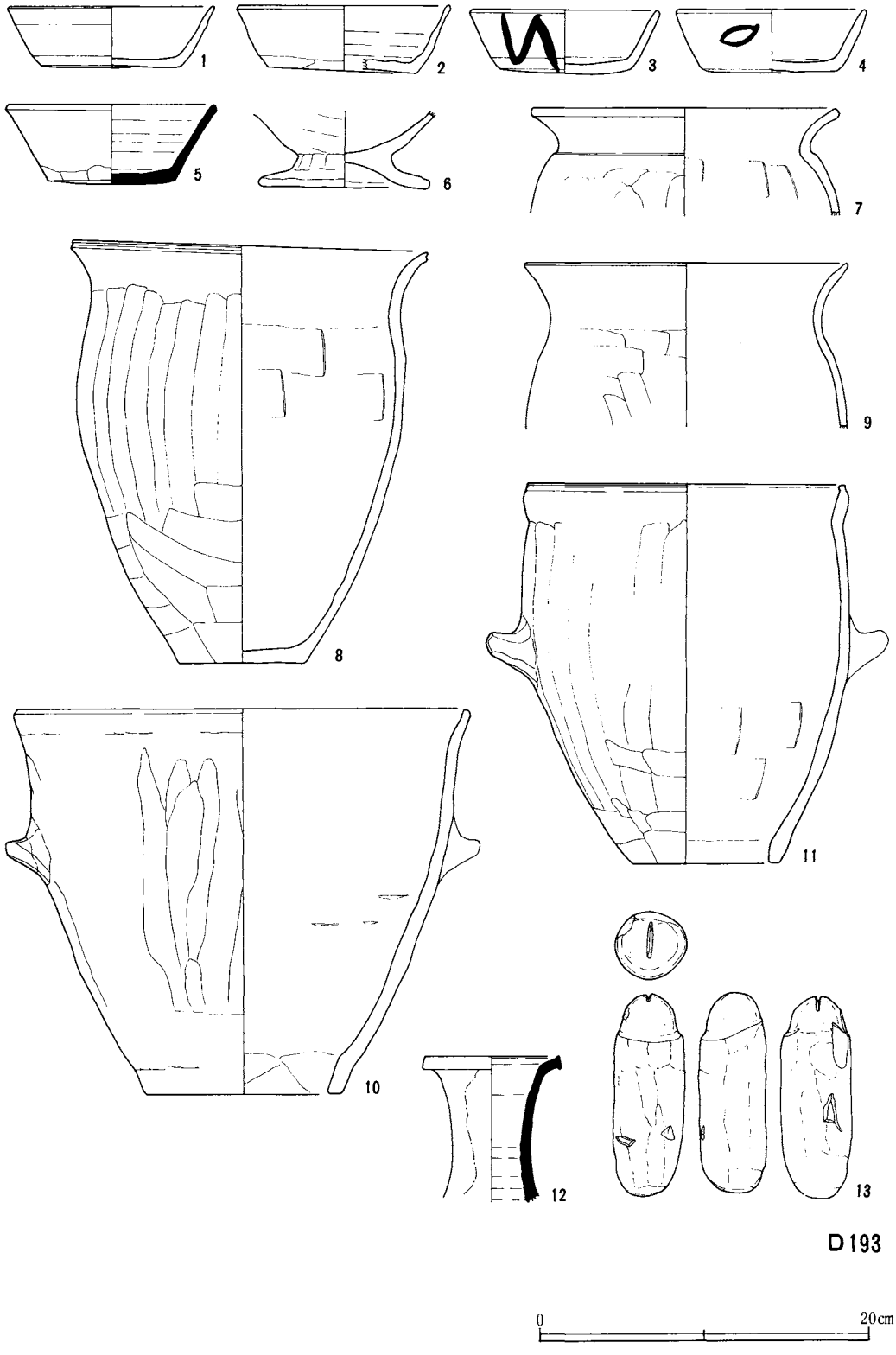

PL.101　歴史時代1群B遺物実測図 24



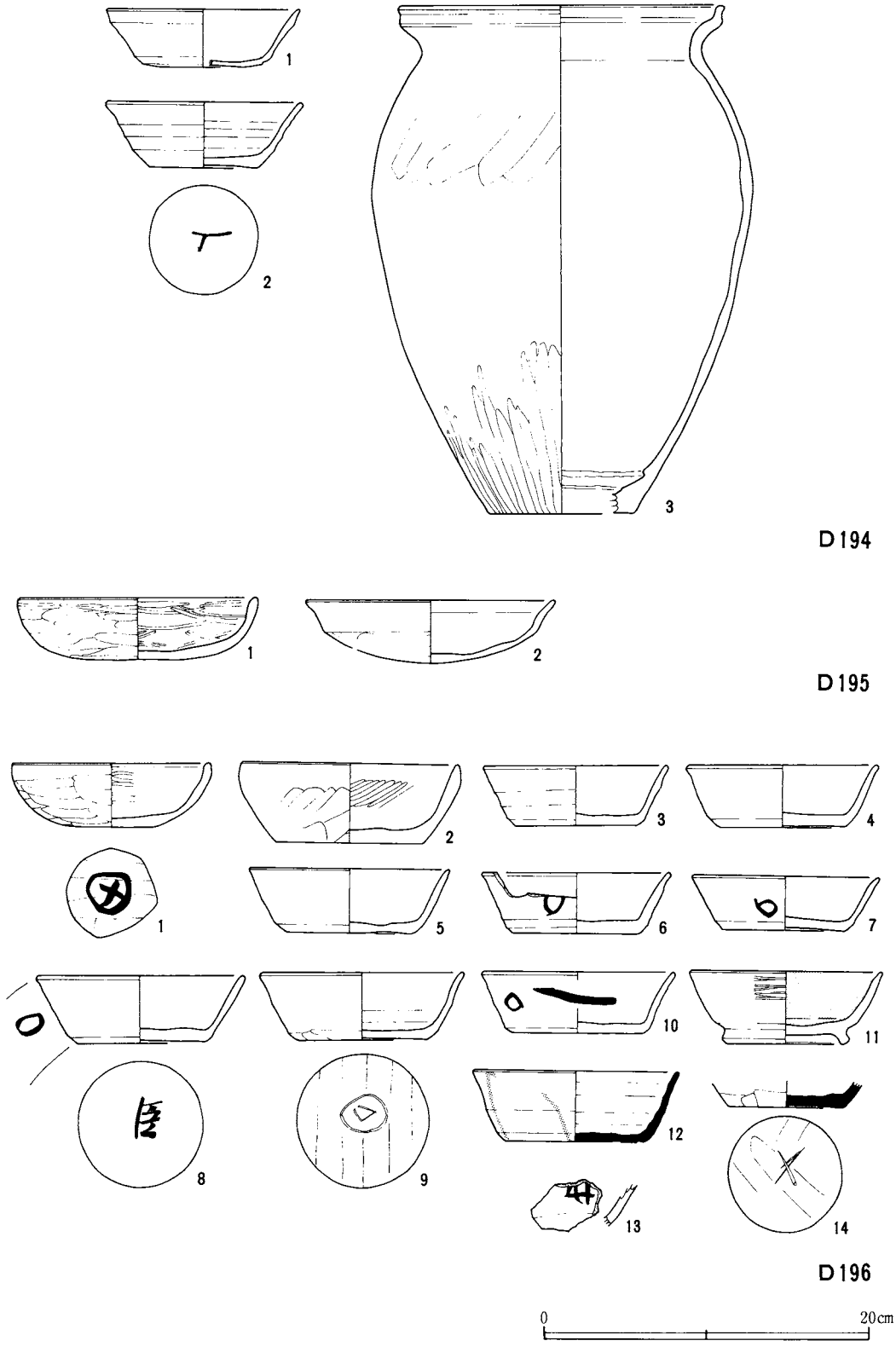

PL.102　歴史時代1群B遺物実測図 25



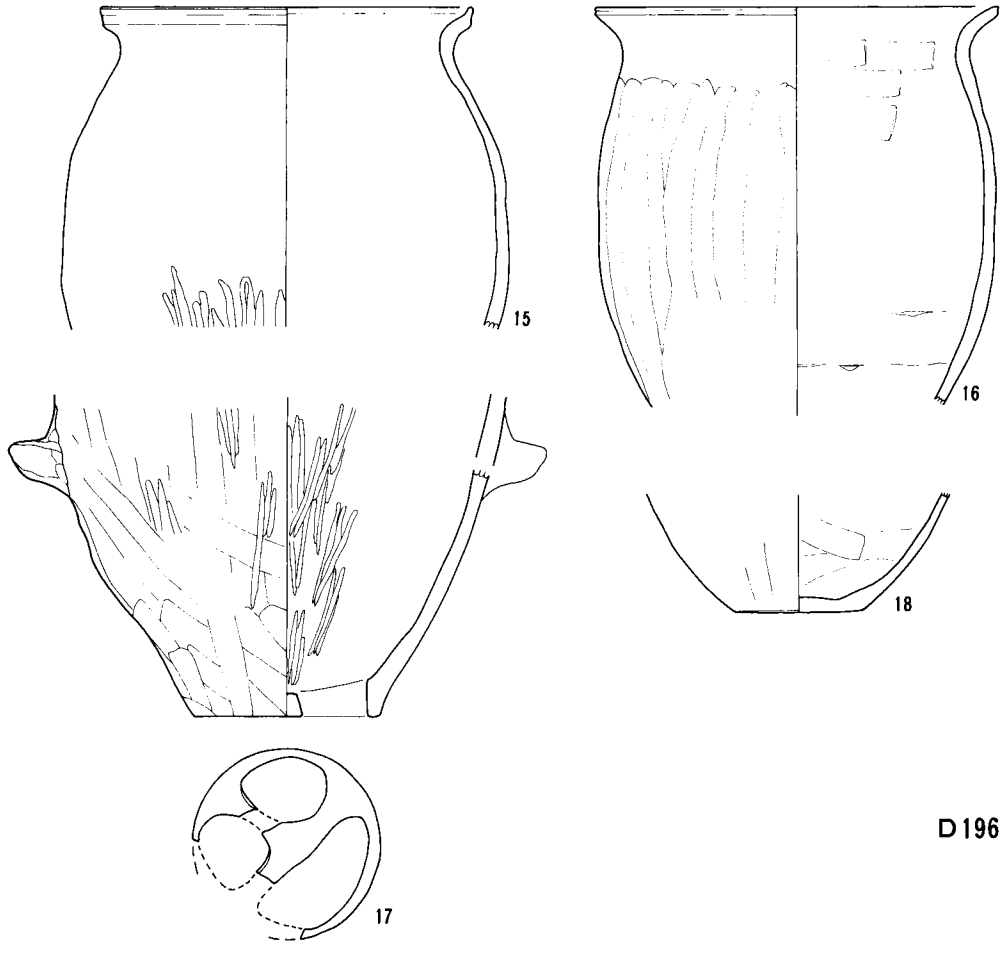

PL.103　歴史時代1群B遺物実測図 26

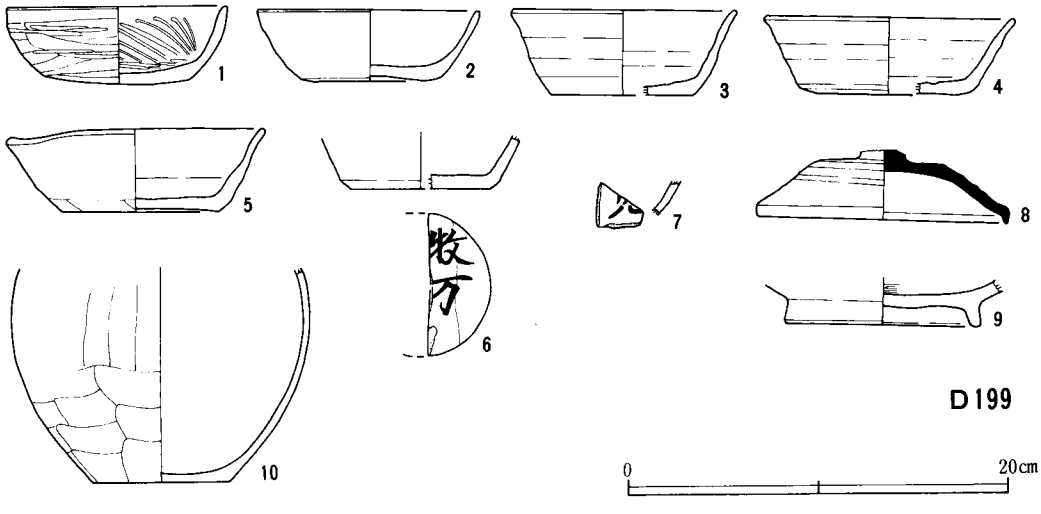



PL.104　歴史時代1群B遺物実測図 27

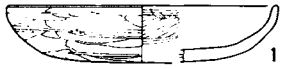



PL.105　歴史時代1群B遺物実測図 28

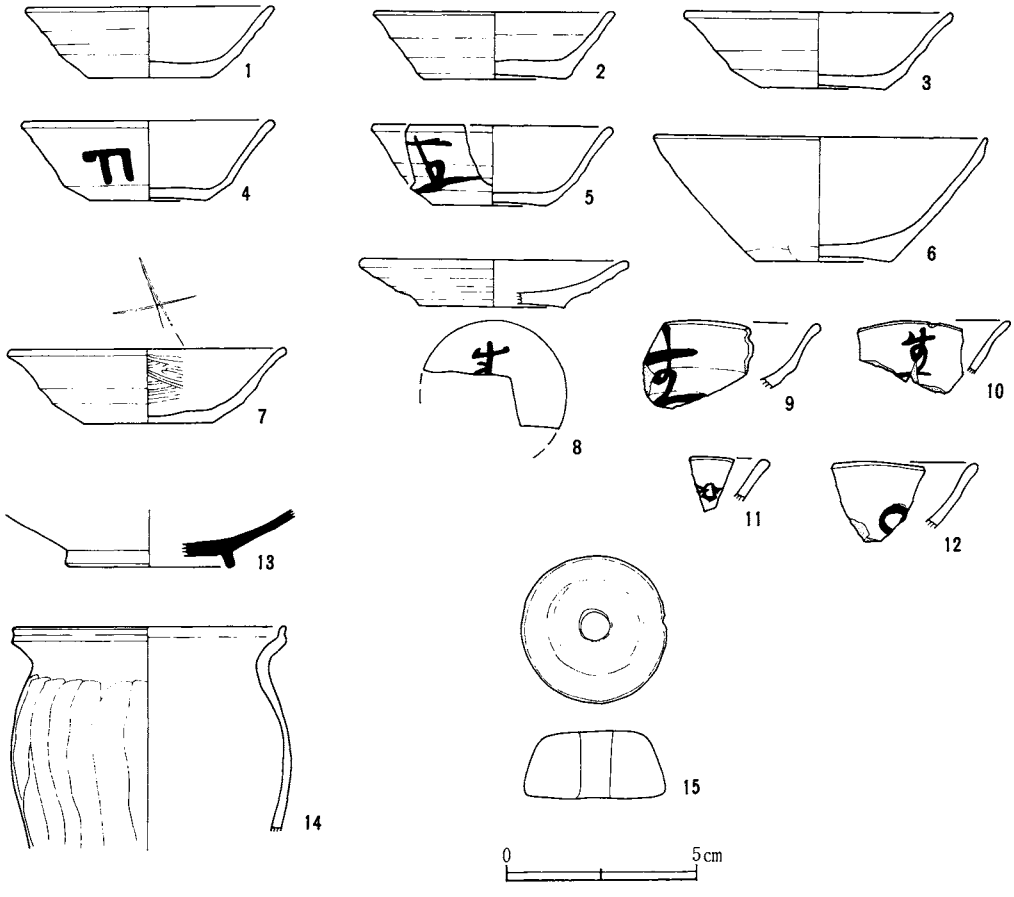


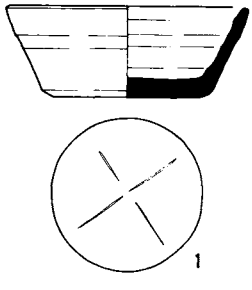

PL.106　歴史時代1群B遺物実測図　29



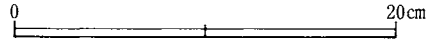

D209



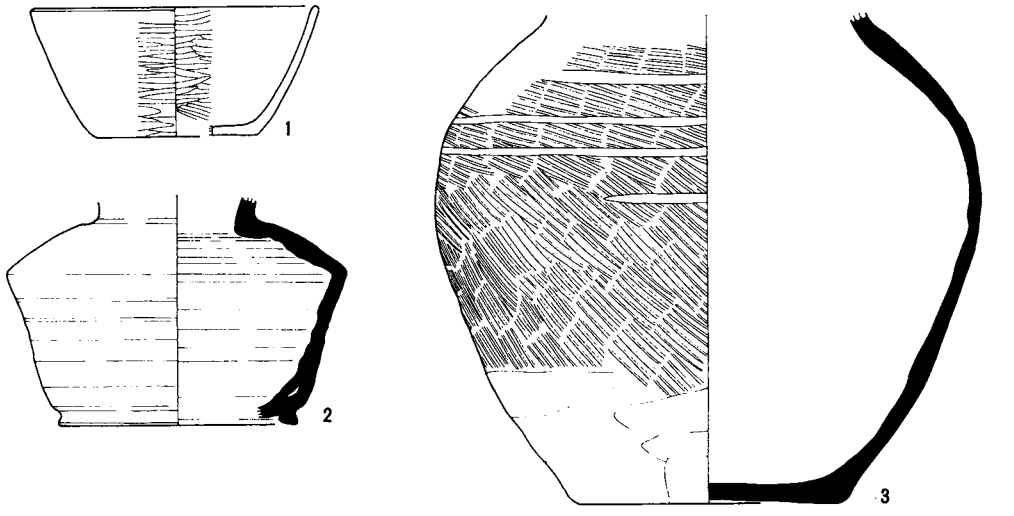

D211



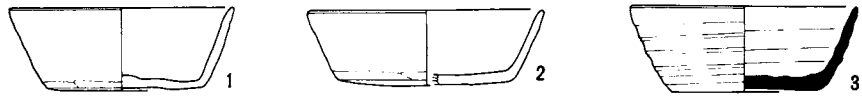

D214



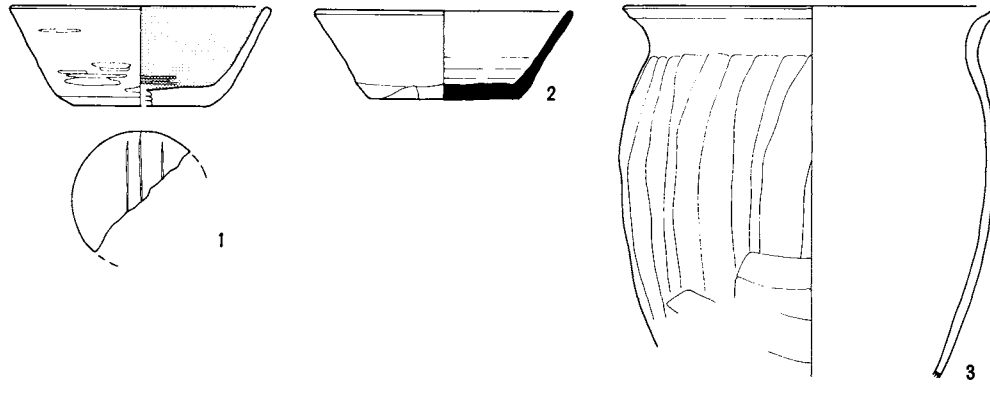

PL.107　歴史時代1群B遺物実測図 30



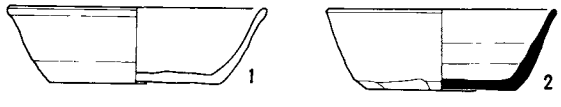

D215



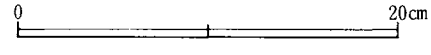

D216



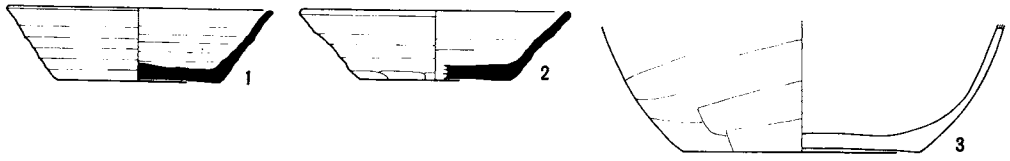

D219



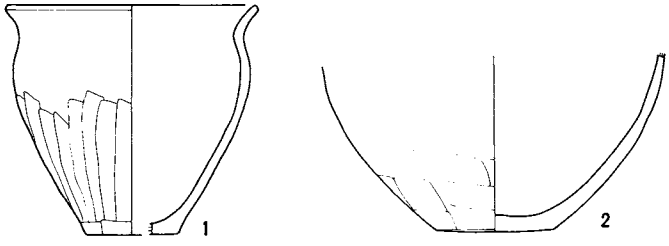

D256



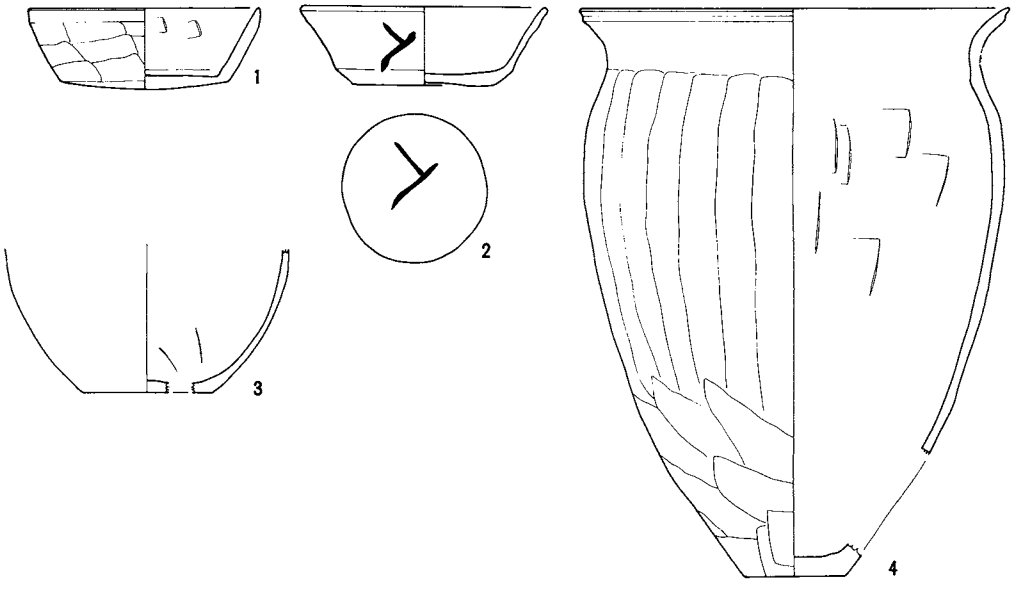

PL.108　歴史時代1群B遺物実測図 31



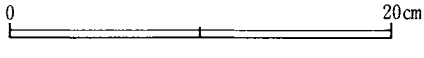

D264



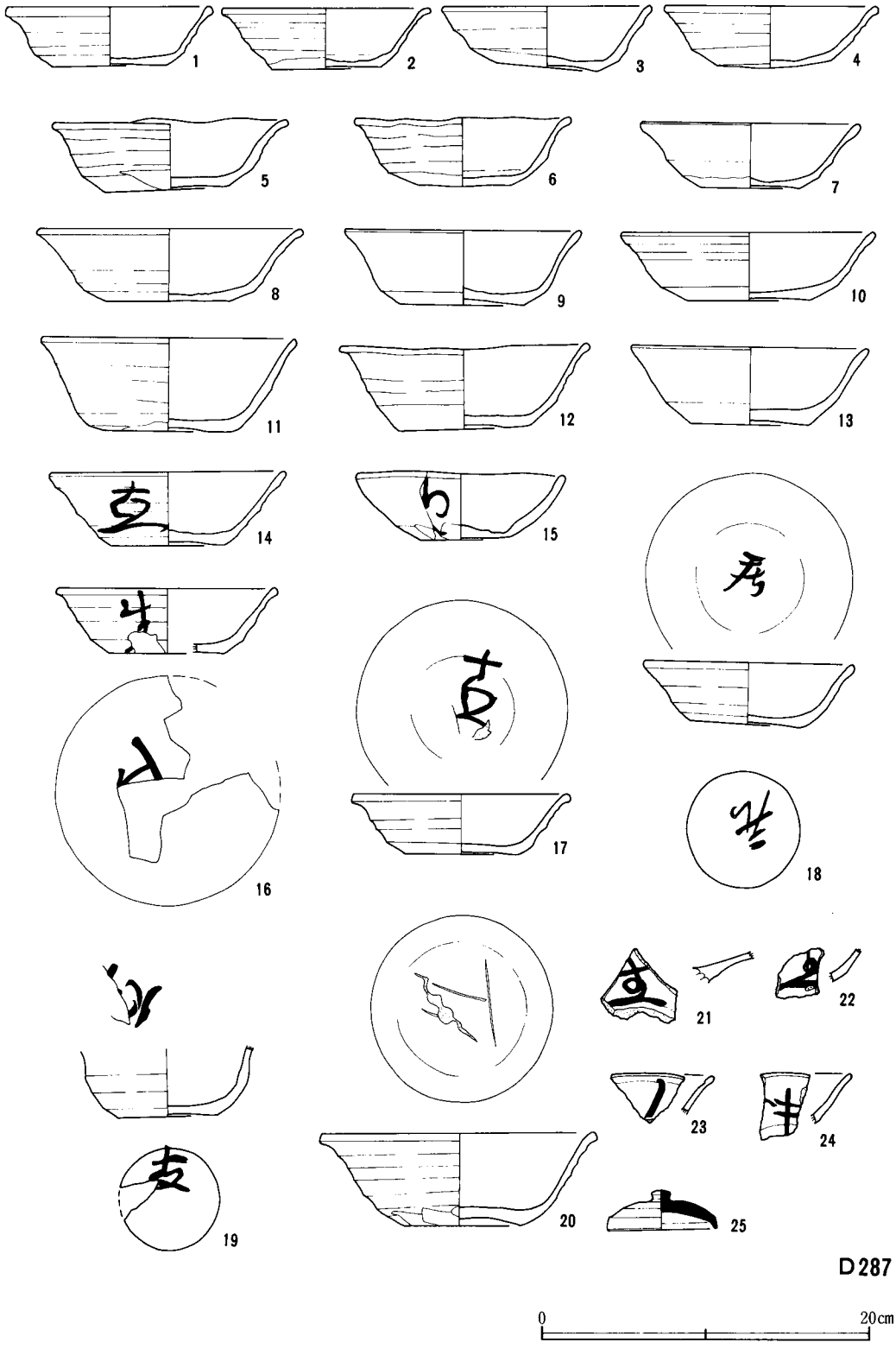

D267



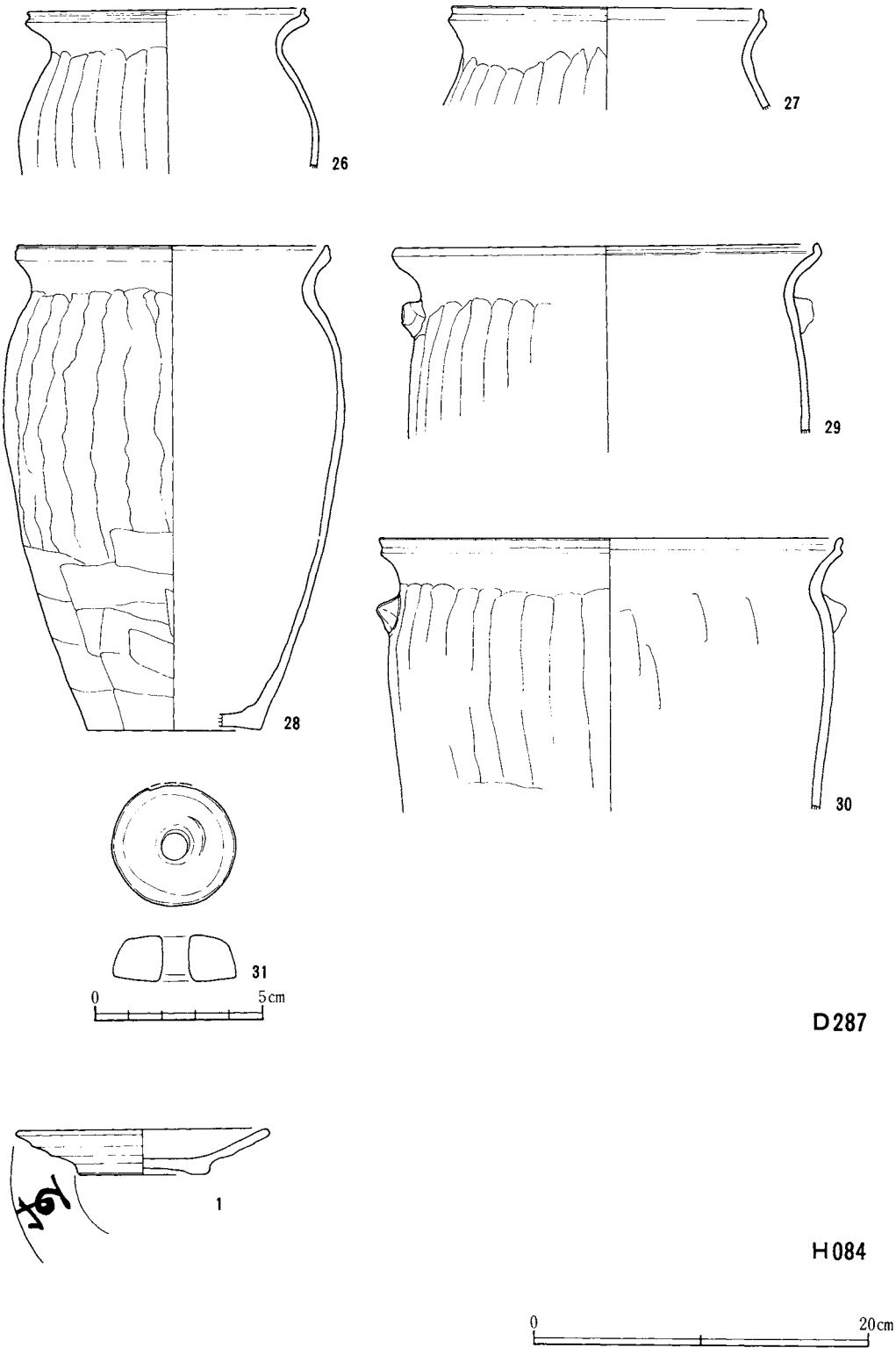

D268



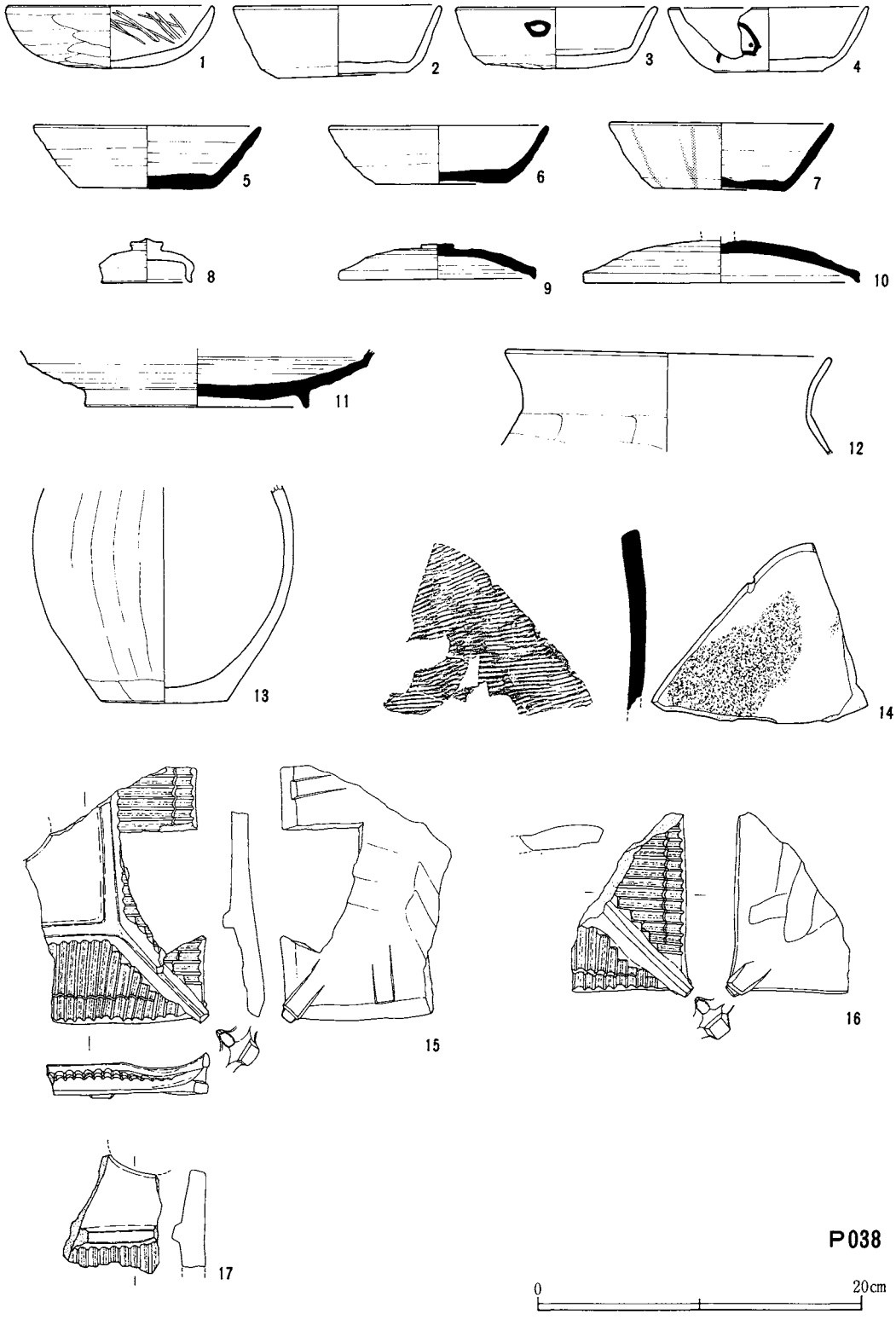

PL.109　歴史時代1群B遺物実測図 32



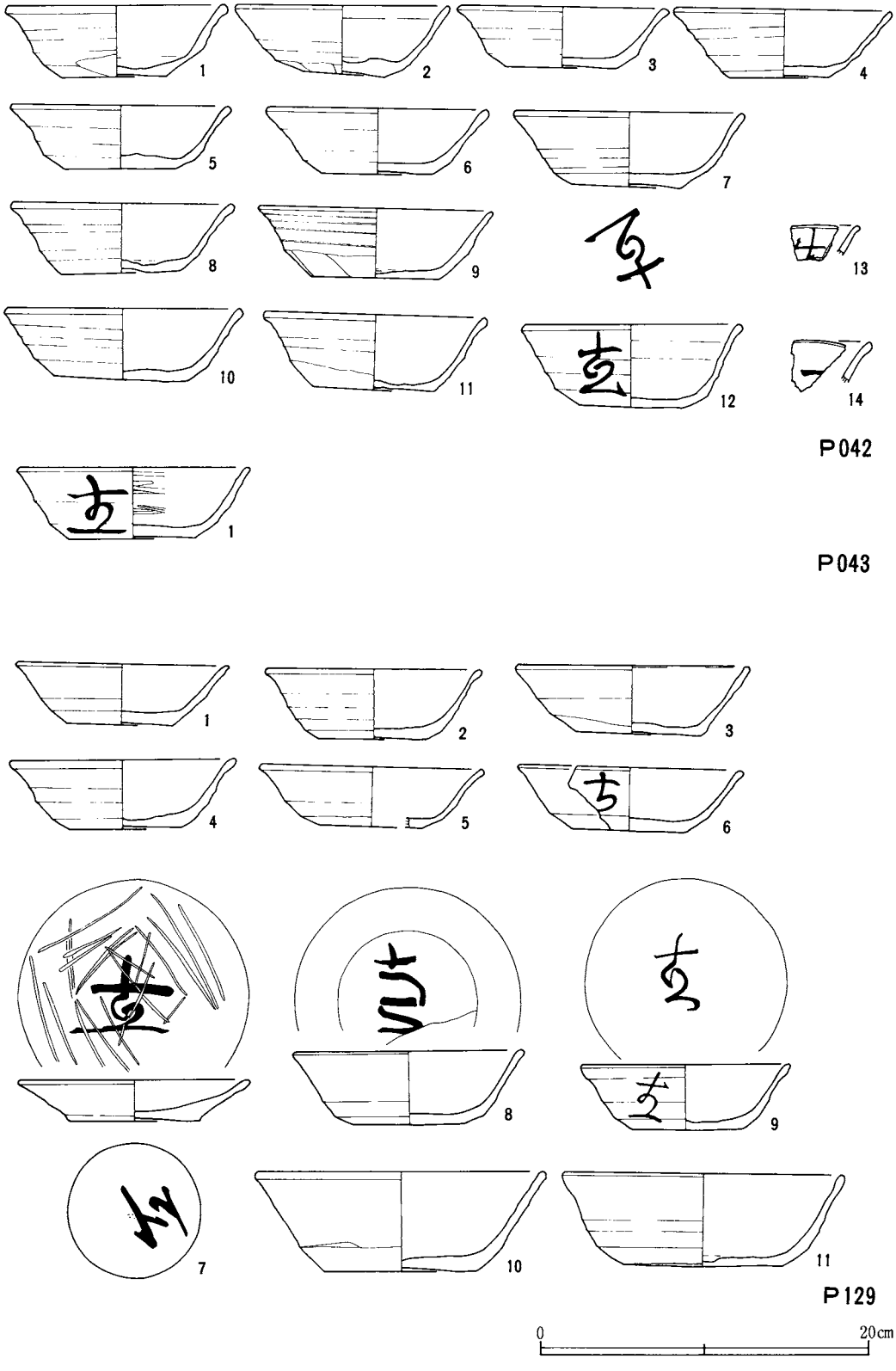

PL.110　歴史時代1群B遺物実測図 33



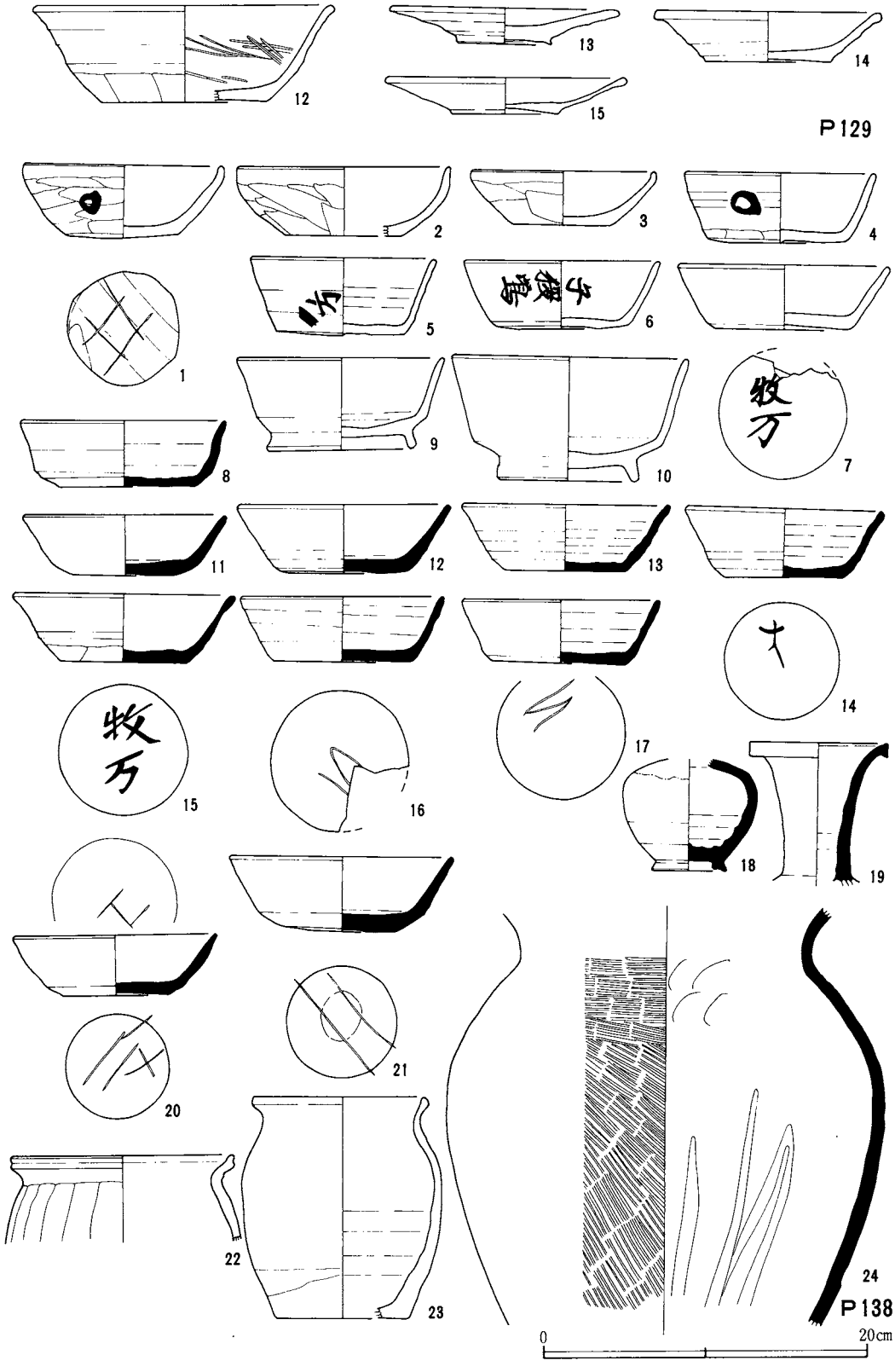

PL.111　歴史時代1群B遺物実測図 34



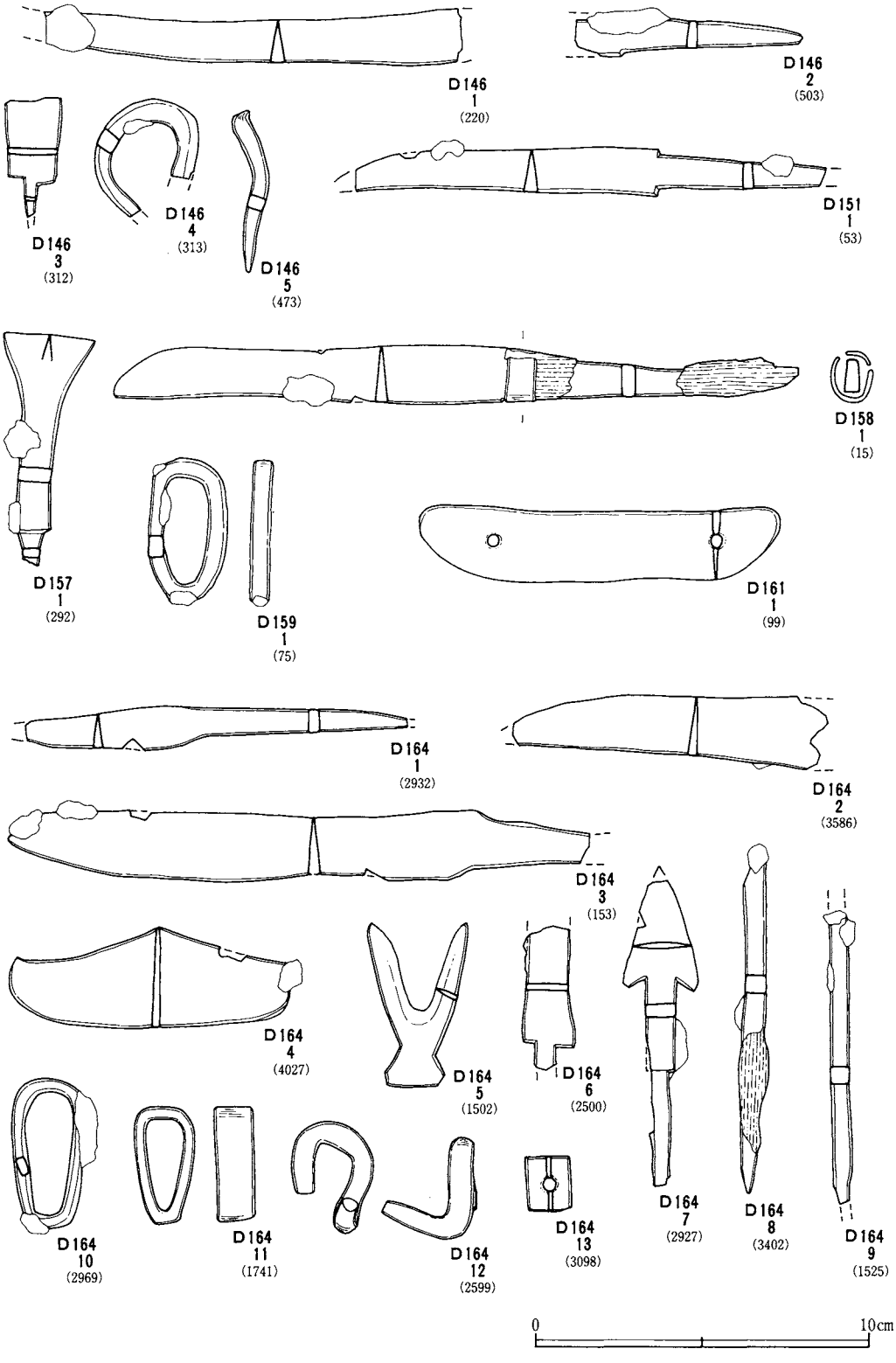

PL.112　歴史時代1群B遺物実測図 35



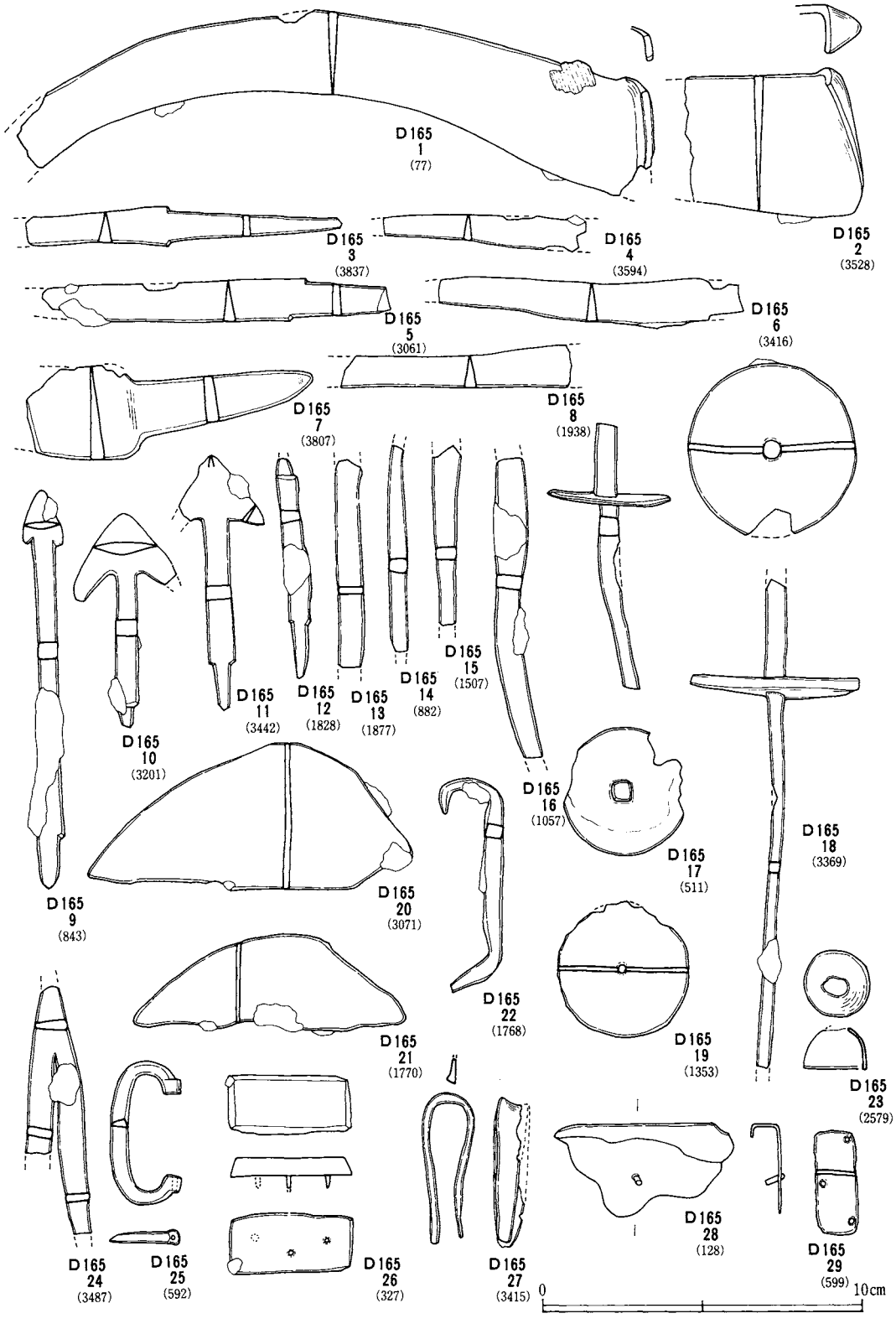

PL.113　歴史時代1群B遺物実測図 36



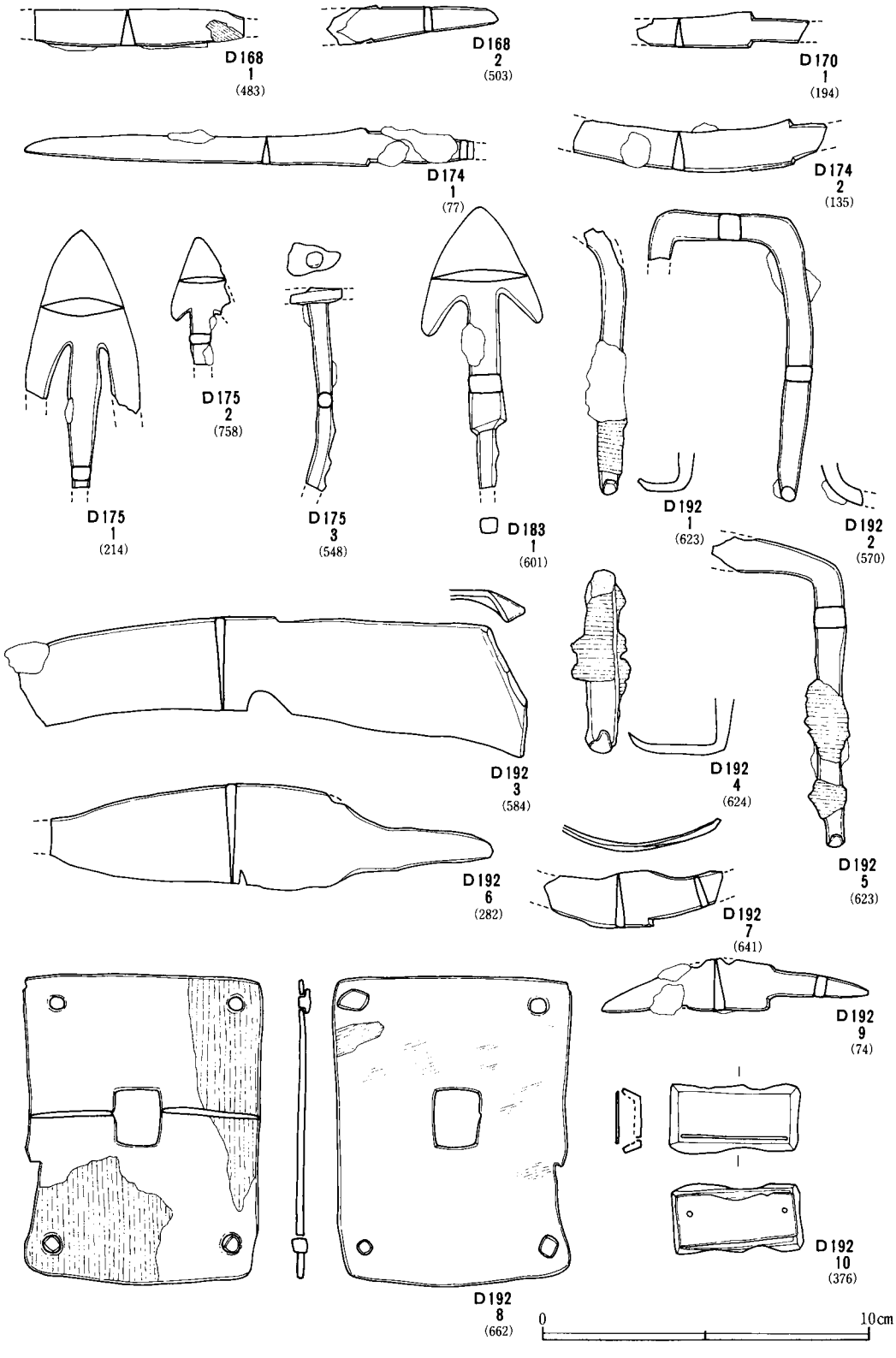

PL.114　歴史時代1群B遺物実測図 37



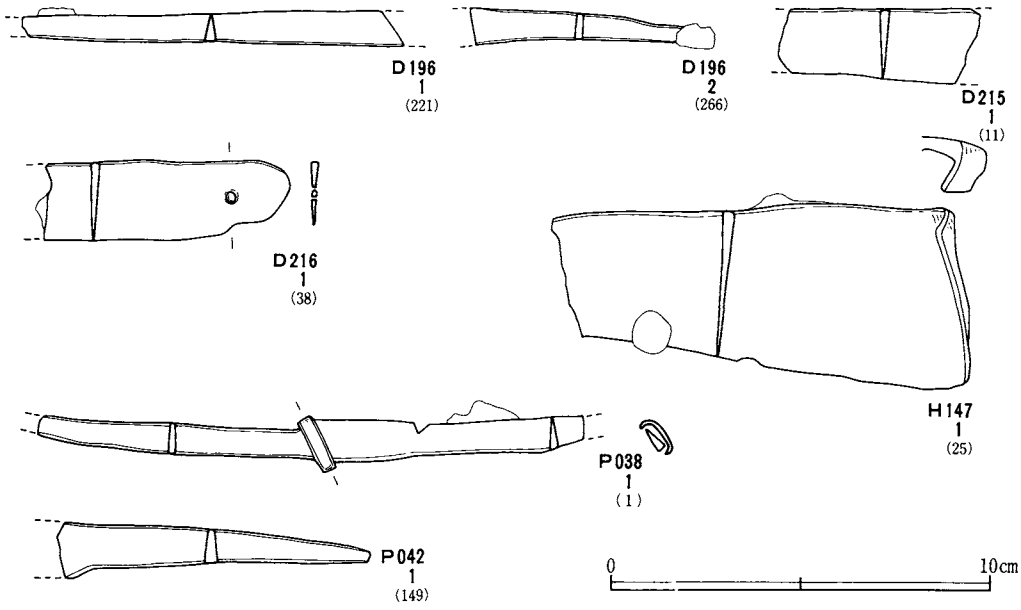

PL.115　歴史時代1群B鉄製品実測図　1



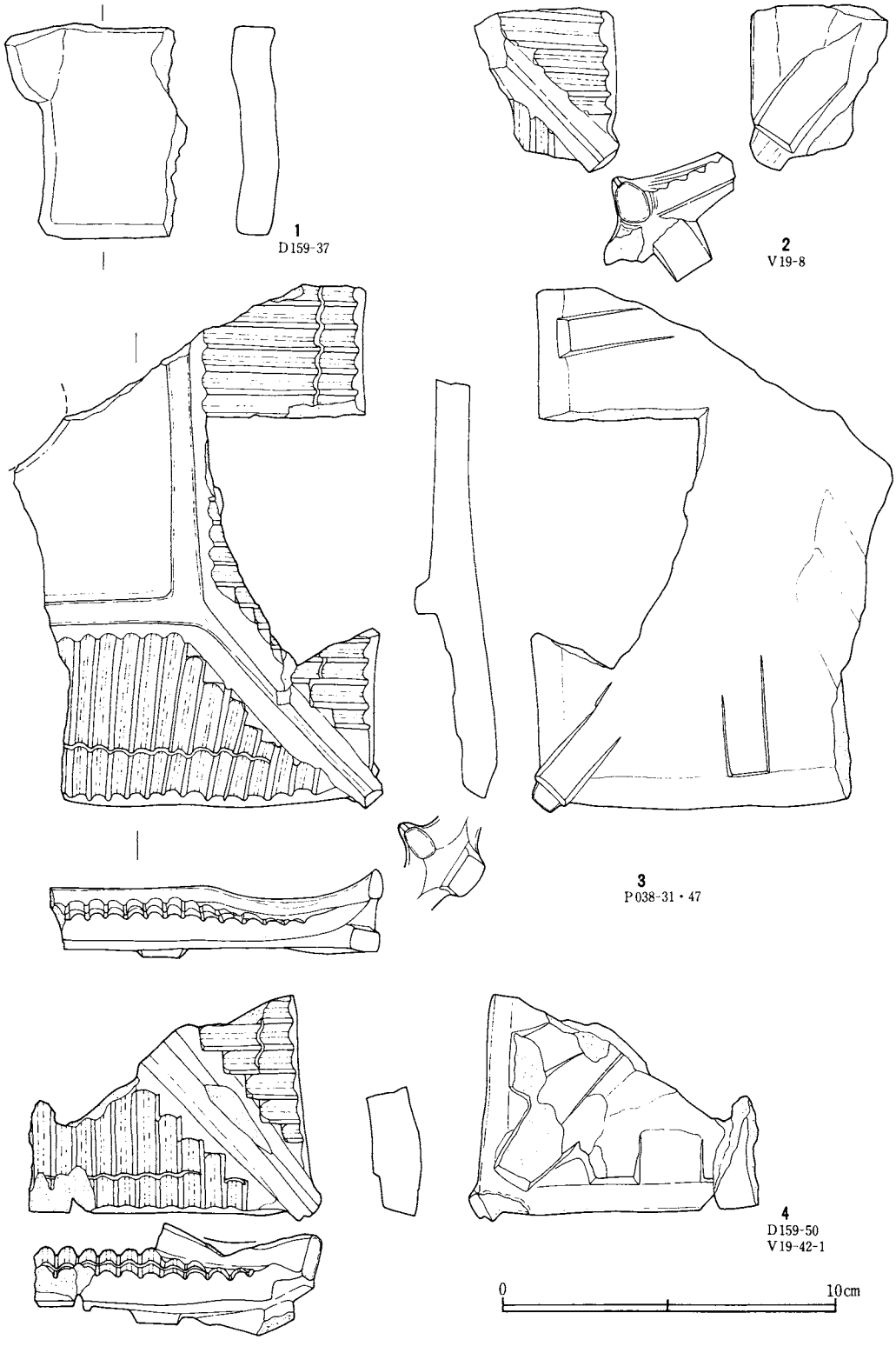

PL.116　歴史時代1群B鉄製品実測図 2



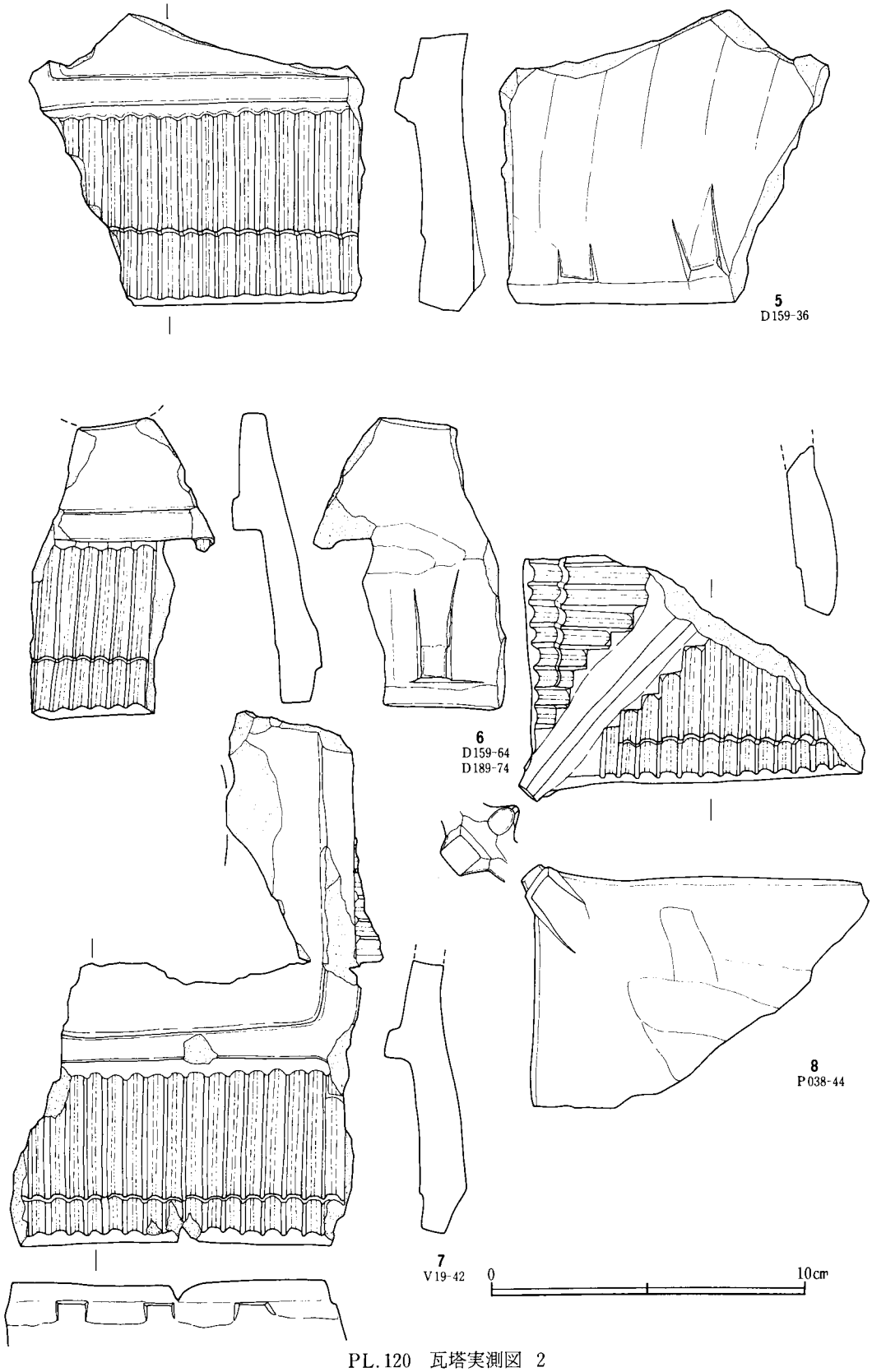

PL.117　歴史時代1群B鉄製品実測図 3



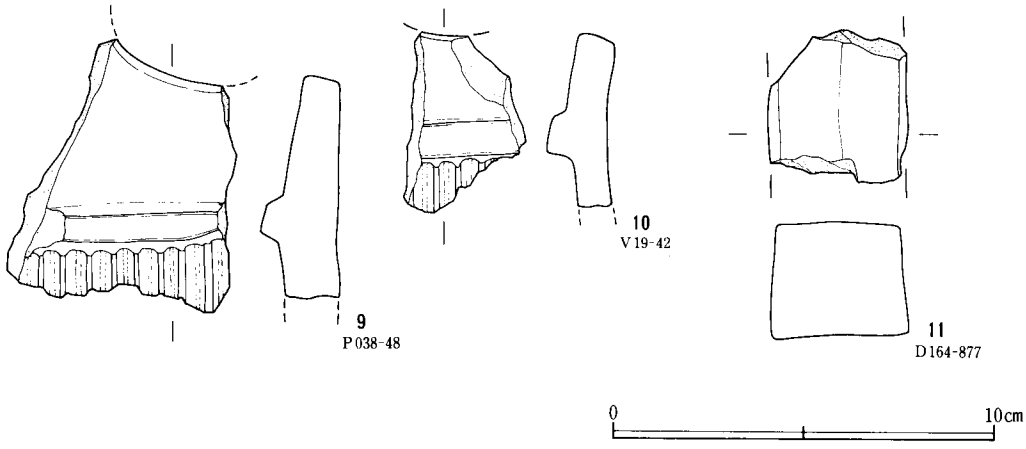

PL.118　歴史時代1群B鉄製品実測図 4

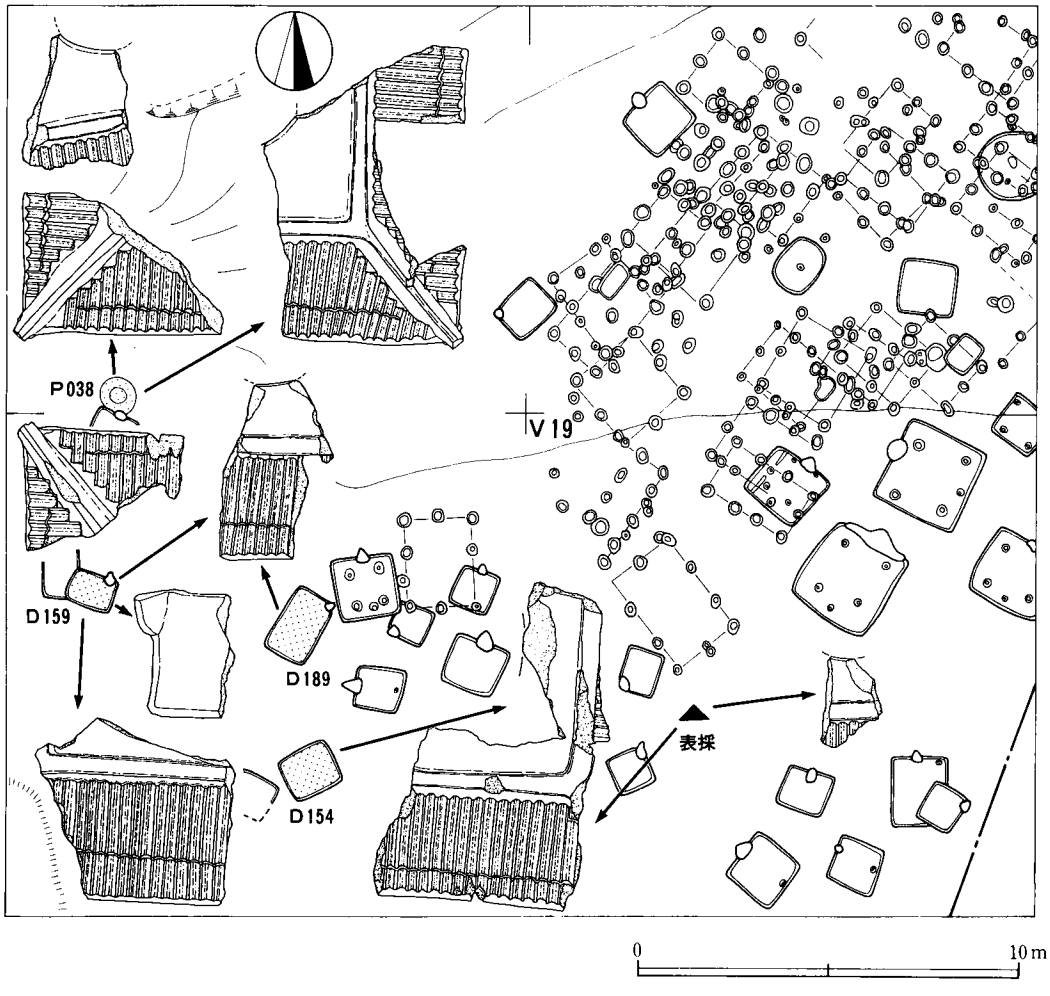



PL.119　瓦塔実測図 1



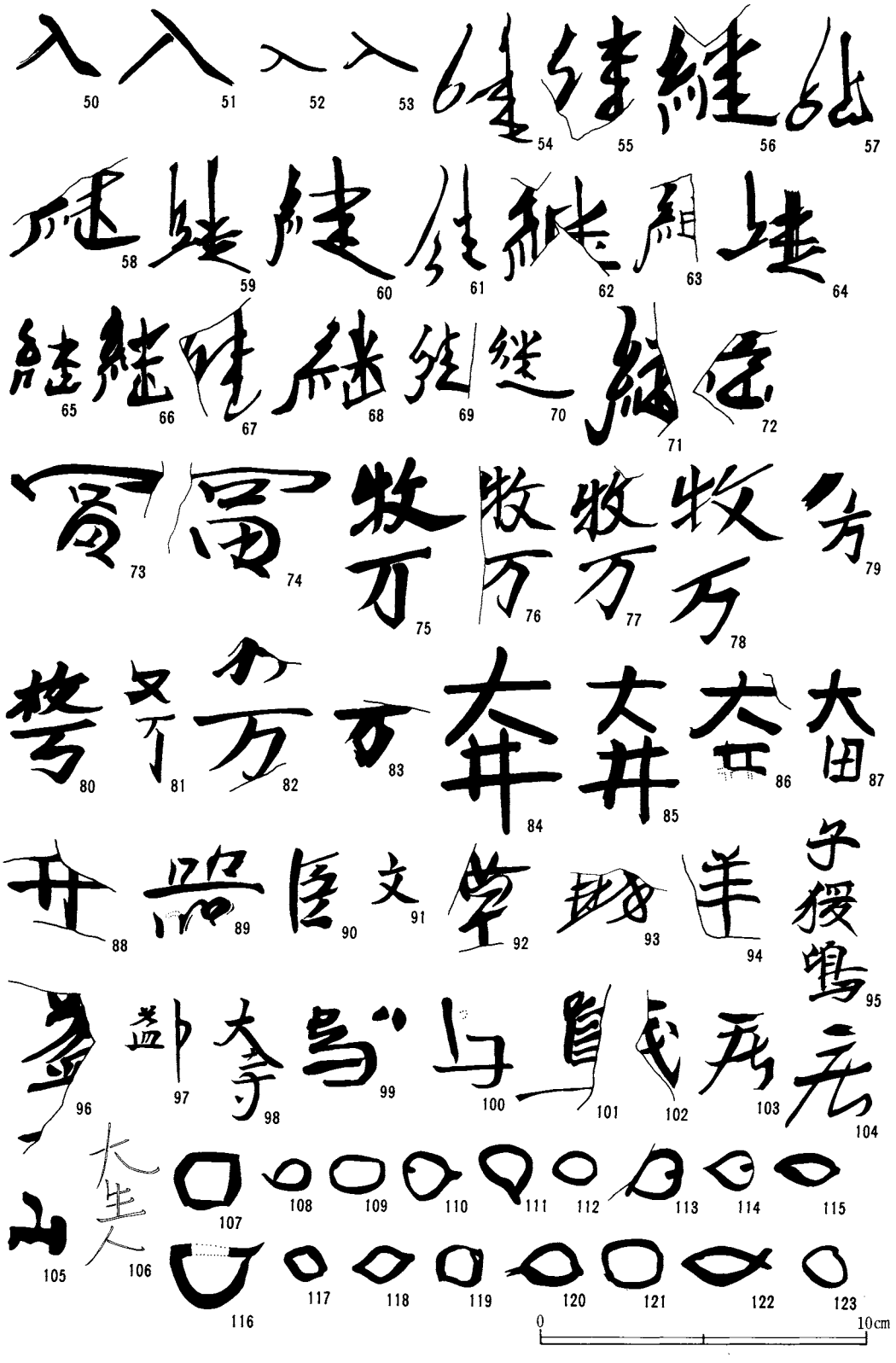

PL.120　瓦塔実測図 2




PL.121　瓦塔実測図及び瓦塔出土位置図

PL.122　歴史時代1群B文字資料抜萃　1




PL.123　歴史時代1群B文字資料抜萃　2

1　黒色土　上面はかなり攪乱を受ける。
2　黄褐色土　ローム粒を多く含む。
3　赤褐色土　焼土粒含む。若干砂質。

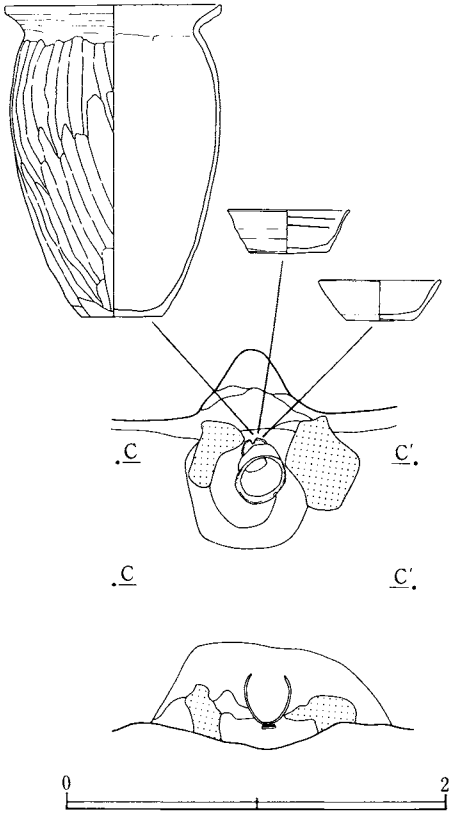
## D047

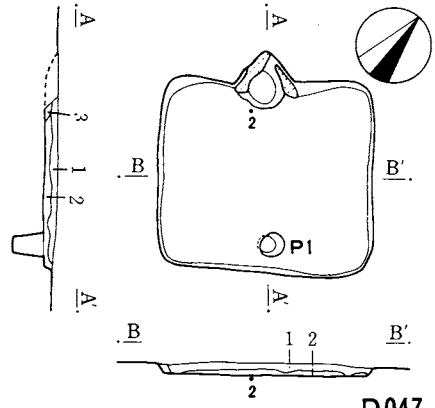
1　黒褐色土　ローム粒を多量に含む。
2　黄黒色土　10～15㎜のロームブロックを全体に多量に含む。
3　黒褐色土　ローム粒が全体に含まれる。
4　黄褐色土　部分的に焼土及び大小の焼土粒子を含む。

## D118

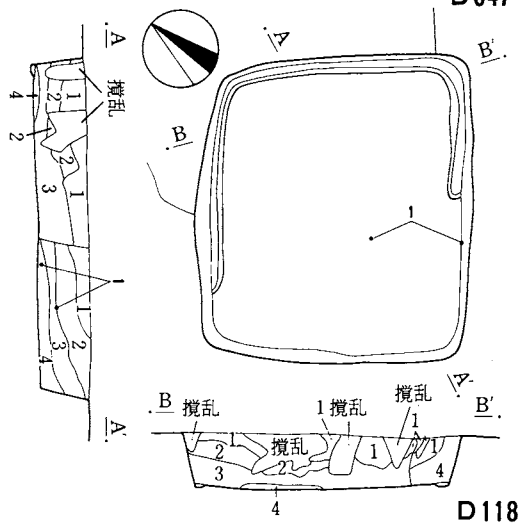
1　褐色土　耕作による攪乱がある。
2　黒褐色土　ロームブロック・炭化粒が全体に含まれる。
3　黒褐色土　ローム粒・炭化粒をやや多く含む。
4　黄褐色土　褐色土中に2～3㎜のローム粒子を全体にたいへん多く含む。
5　黄黒色土　ローム粒を多く含む。

## D119

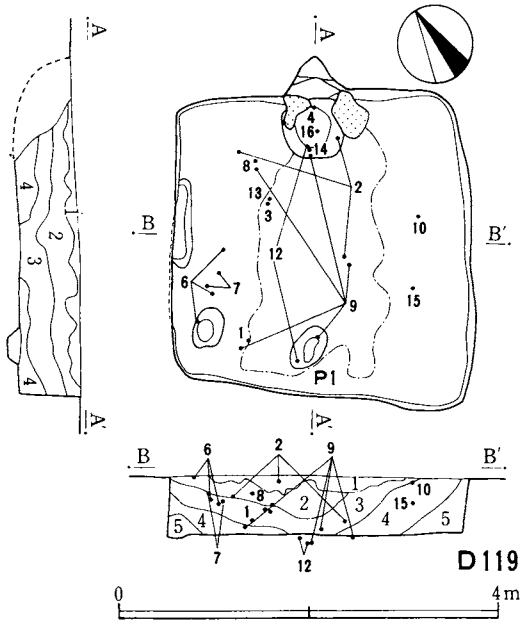



D047




D118

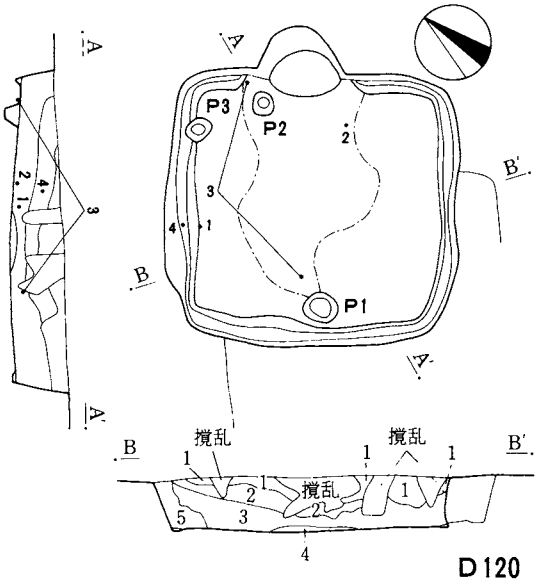



D119

PL.124　D047・D118・D119実測図

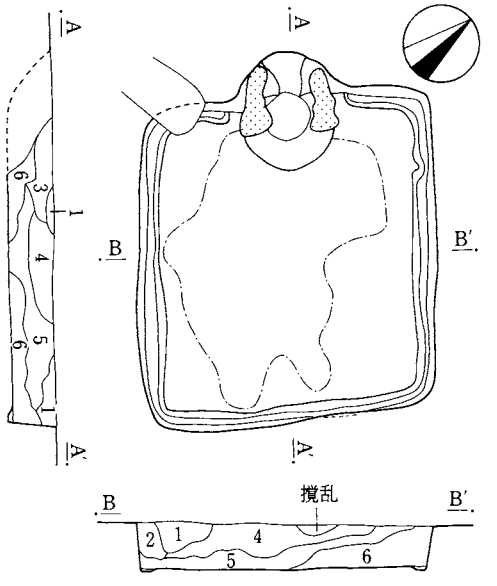
D120　規模は3.1m×2.8mを測り、主軸方向はN－51°－Eを指す。柱穴はないが、カマドに対峙する南西壁際中央に出入口ピットがある。また、カマド左脇と北西壁際にも直径0.2mのピットがある。

1　黒色土　ソフトロームがところどころに混入する。
2　褐色土　ローム粒子を含む。
3　黒褐色土　全体にローム粒子を含む。
4　黄褐色土　黄褐色土中に径20㎜のロームブロックを多く含む。




D121　D120の北側に位置する住居で、規模は3.5m×3.1mを測り、主軸方向はN－51°－Wを指す。確認面からの深さは0.5mで、埋土はローム粒・ロームブロックを含んでいる。

1　暗褐色土　暗褐色土主体、ローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　ローム粒が少ない。
3　黒褐色土　黒色土を主体とするが、ローム粒・ロームブロックも含む。
4　暗褐色土　暗褐色土主体、ローム粒及びロームブロックを含む。
5　黒褐色土　黒褐色土・暗褐色土主体、ローム粒及びロームブロックを含む。
6　褐色土　褐色土・ローム粒の混合土。ロームブロックを多量含む。

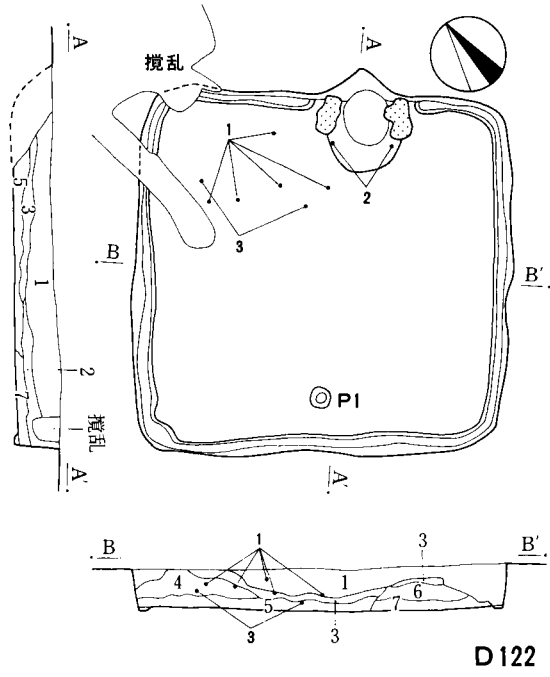



0　4m

PL.125　D120・D121実測図

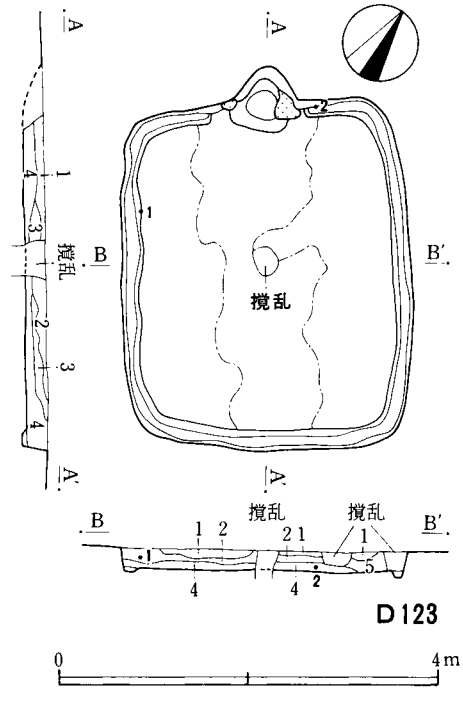
D122　D121の西側に位置する住居で、規模は4.0m×3.6mを測り、埋土はロームブロックを多く含んでいる。柱穴はないが、カマドに対峙する南西壁際中央に出入口ピットがある。

1　黒色土　全体にローム粒を多く含む。
2　黒褐色土　1㎜前後のローム粒子を全体に含む。
3　赤褐色土　焼土粒・炭化材が多く含まれる。
4　黄褐色土　褐色土中に大小のロームブロックを多く含む。
5　褐色土　褐色土中にローム粒子・ロームブロックを含む。
6　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。
7　褐色土　褐色土中にロームブロックを含む。




D123　D122の南側に位置する住居で、規模は3.6m×3.1mを測り、主軸方向はN－33°－Wを示す。床面はカマドに対峙する南東壁際中央からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

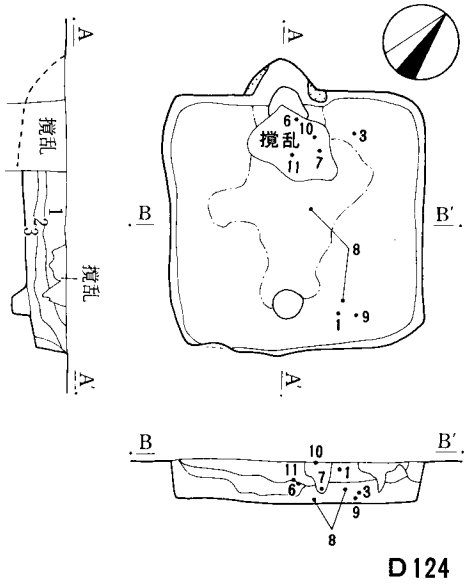
1　黒褐色土　1㎜程度のローム粒子をまばらに含む。
2　褐色土　1㎜程度のローム粒子を全体に含む。
3　黄黒色土　ロームブロックを含む。
4　褐色土　ローム分が多い、粒子は少なめである。
5　黄褐色土　ローム粒子を含む。




PL.126　D122・D123実測図

D124　H069の東側に位置する住居で、規模は2.8m×2.7mを測り、カマドに対峙する南東壁際中央に出入口ピットがある。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

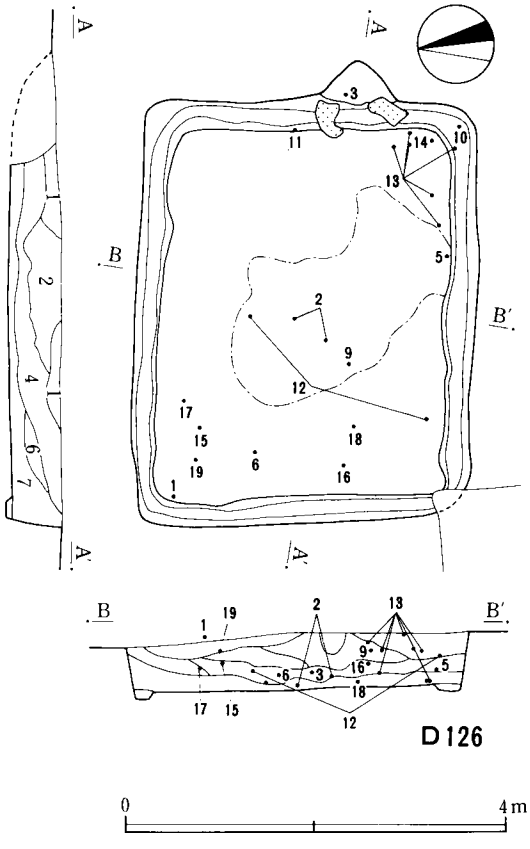
1　灰褐色土　ロームを含む。
2　黒色土
3　灰褐色土　ローム粒を含む。




D124

D126　H062の東側に位置する住居で、主軸方向はN－101°－Eを指す。柱穴はなく、壁溝はカマド部分を含めて巡っている。床面は南壁際から住居中央にかけて硬化面が遺存している。カマドは東壁中央より若干南へ寄った位置に設置される。

1　黒褐色土　ローム粒を含む。
2　黄褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
3　黒褐色土　ローム粒を含む。
4　黒色土　ローム粒を含む。
5　黒褐色土　ローム粒を含む。
6　黒色土　ローム粒を含む。
7　黄黒色土　ローム粒を含む。



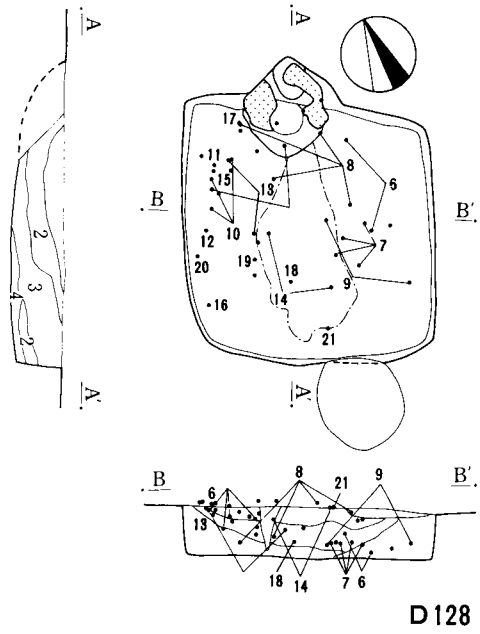

D126

PL.127　D124・D126実測図

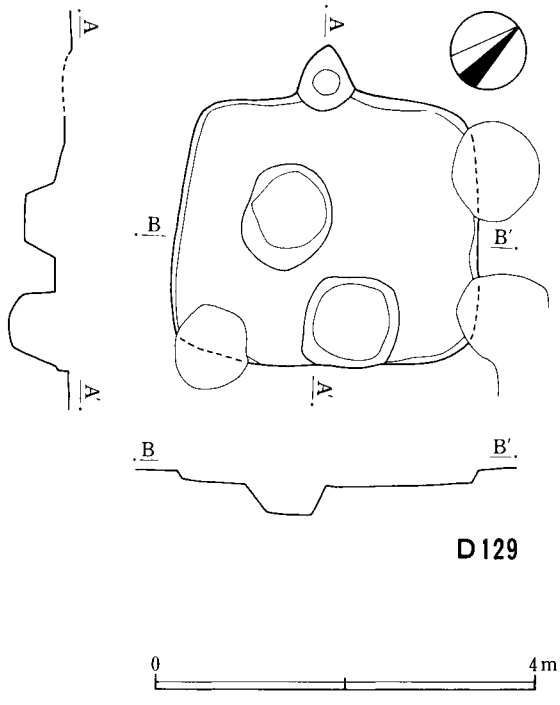
D128　H061の北側に位置する住居で、規模は2.8m×2.7mを測り、柱穴・壁溝はなく、カマドに対峙する南西壁際中央からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

なお、瓦塔の破片が多く出土しており、10・11の軸部のほか屋蓋部・斗栱・相輪・風鐸等がある。

1　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒を含む。
2　黒褐色土　褐色土をブロック状に含み、やや粒の大きいローム粒・炭化物を含む。
3　暗褐色土　褐色土をブロック状に含み、やや粒の大きいローム粒を含む。
4　褐色土　やや粒の大きいローム粒・黒色土を含む。



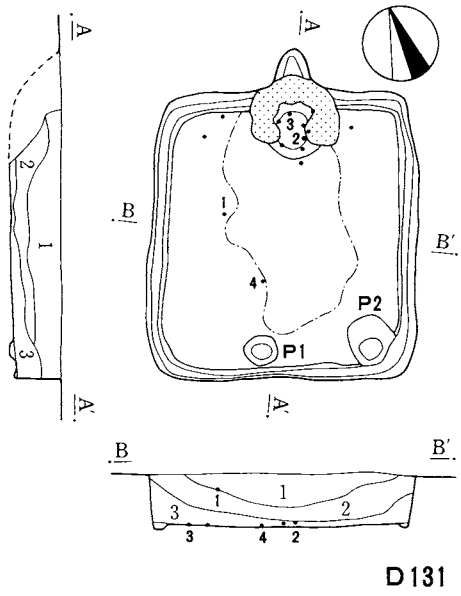

D129　H068と重複する住居で、規模は3.2m×2.7mを測り、確認面からの深さが非常に浅く埋土は十分に観察が行えなかった。住居全体がH068によって大きく破壊されている。カマドは北西壁中央に設置され、袖材はまったく残されていない。煙道部は壁外へ0.6m張り出している。




PL.128　D128・D129実測図

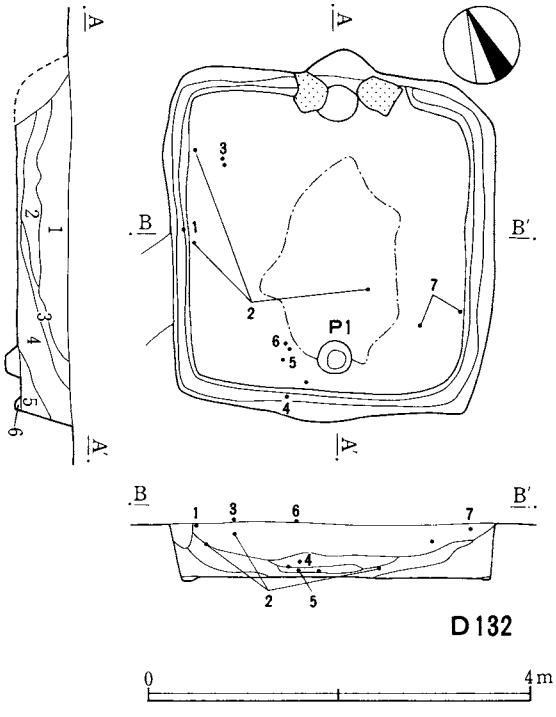
D131　D133の西側に位置する住居で、規模は2.9m×2.8mを測り、柱穴はないが、カマドに対峙する南西壁際中央に出入口ピットが、南東コーナーに直径0.5mのピットがある。床面はＰ１からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
2　黄褐色土　全体にローム粒を含み、20mm以上のロームブロックも多い。
3　黄褐色土　20mm前後のロームブロックを含む。



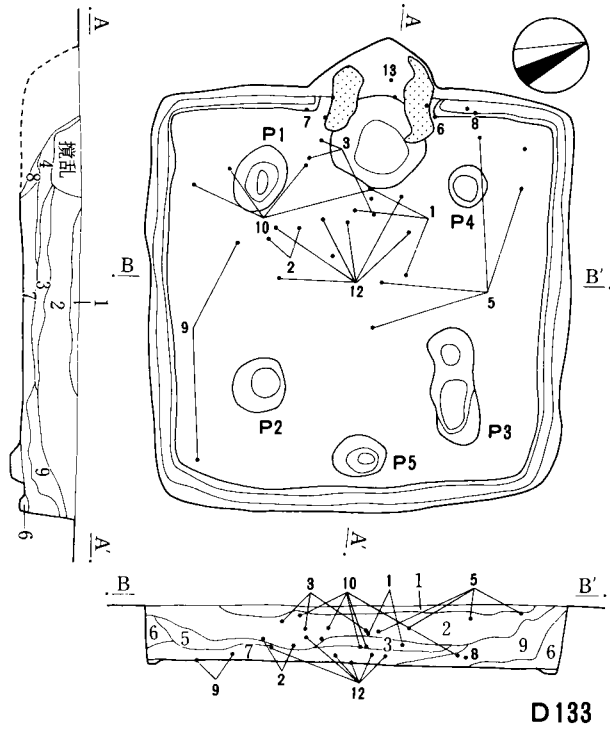

D132　D210の南側に位置する住居で、柱穴はなく、カマドに対峙する南西壁際中央に出入口ピットがある。カマドは北東壁中央に設置されるが、西壁中央にもカマドの痕跡がある。北東壁のカマドは遺存状態が悪く、煙道部の張り出しも小さい。

1　褐色土　全体にローム粒を含む。
2　褐色土　白色砂質土を多量に含む。
3　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を全体に含む。
4　赤褐色土　褐色土に焼土粒を全体に多く含む。
5　黒褐色土　ローム粒を含む。
6　黒褐色土　ロームブロックを含む。



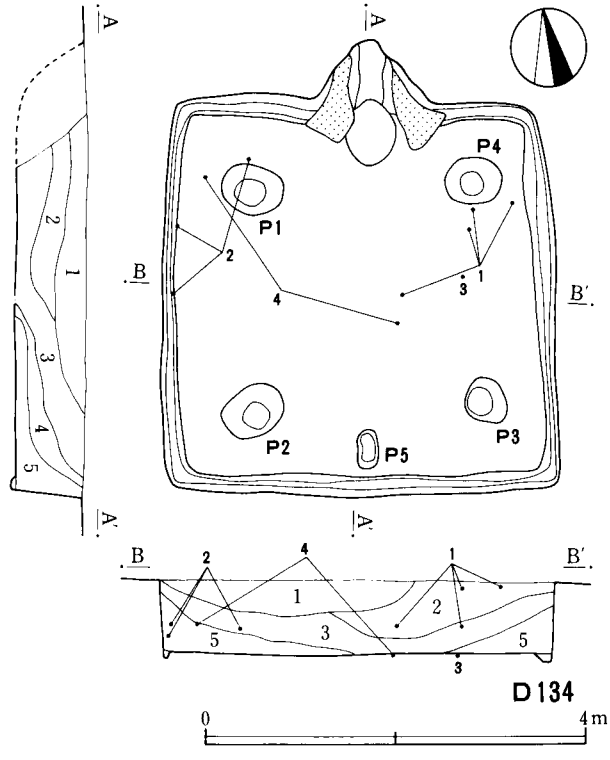

PL.129　D131・D132実測図

1　暗褐色土　ローム粒をほとんど含まない。
2　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒及び少量の焼土粒を含む。
3　暗褐色土　全体に焼土粒を多量に含み、ローム粒・炭化物を含む。
4　暗褐色土　黒色土をブロック状に含み、炭化物を多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒をほとんど含まず、褐色土をブロック状に含む。
6　褐色土　ローム粒・褐色土の混合土。
7　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を含む、褐色土をブロック状に含む。
8　褐色土　ローム粒・焼土粒・山砂（多量）を含む、カマド崩壊土。
9　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を少量含む。




D134　D133の北側に位置する住居で、柱穴は住居対角線状に4箇所あり、P1は直径0.7m、床面から0.4mの深さを測る。また、カマドに対峙する南壁際中央に出入口ピットがある。

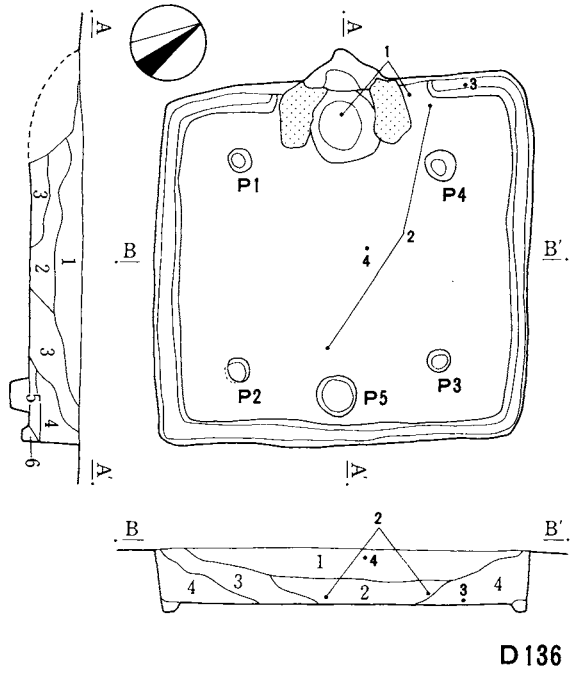
1黒褐色土　1～5mm大のロームブロック・ローム粒を多く含む。
2　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
3　黒色土　ロームブロック・ローム粒・ブロック状黒色土の混在層。
4　黒褐色土　ロームブロックを非常に多く含む。
5　明褐色土　細かいロームブロック・ローム粒を多く含む。




PL.130　D133・D134実測図

D136　D134の北西側に位置する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P 4は直径0.3m、床面から0.4mの深さを測る。また、カマドに対峙する南東壁際中央に出入口ピットがある。

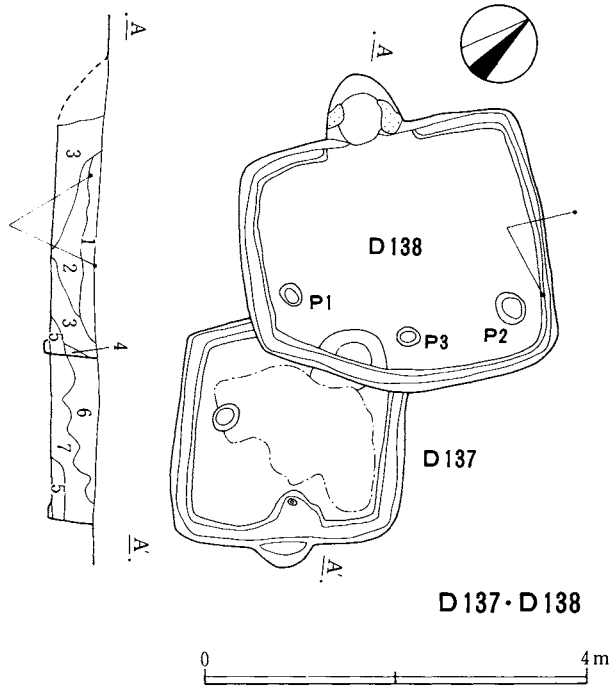
1　褐色土　ローム粒及び焼土粒を全体に多く含む。
2　灰褐色土　ローム粒及びロームブロックを含む。
3　黒褐色土　ロームブロック及びローム粒を全体に含む。
4　黄褐色土　ローム粒が多量に混入。
5　黒褐色土　ローム粒を僅かに含む。
6　黄褐色土　黒色土中に大小のロームが混入。




D137　D138と重複する住居で、D138に先行する。柱穴はないが、南東壁及び南西壁際中央に出入口ピットがあり、南東壁はその部分が僅かに張り出している。カマドは北西壁の北コーナー寄りに設置され、D138の構築によりほとんど破壊されている。

D138　カマドは北西壁中央に設置され、火床部は完全に壁外に位置する。

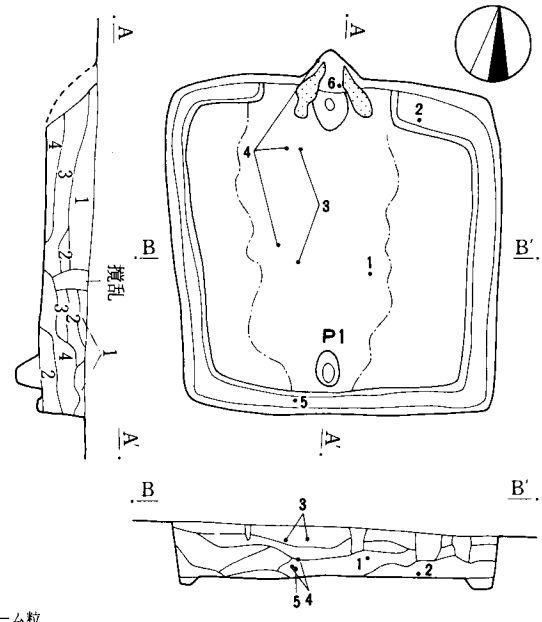
1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
2　黒褐色土　黒色土・褐色土・ローム粒・ロームブロックの混合土。
3　褐色土　黒色土をブロック状に含み、ローム粒・ロームブロックを含む。
4　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
5　褐色土　ローム粒を含む。
6　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
7　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。




PL.131　D136・D137・D138実測図

1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　褐色土　ローム粒及び少量の焼土粒を含む。
3　暗褐色土　黒色土・褐色土・ローム粒の混合土、少量のロームブロック含む。
4　明褐色土　ローム粒主体、暗褐色土を含む。
5　明褐色土　ローム粒主体。
6　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。

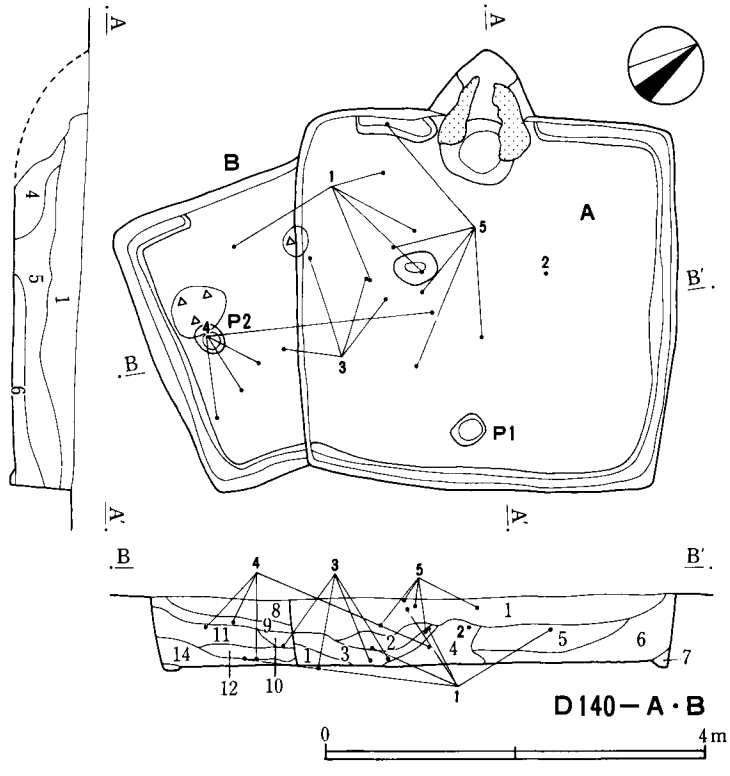
D139




D139

1　暗褐色土
ローム粒・焼土粒を含む。
2　黒褐色土
やや粒の大きいローム粒・焼土粒を含む。
3　暗褐色土
ローム粒・ロームブロック及び少量の焼土粒を含む、又、黒色土をブロック状に含む。
4　暗褐色土
ローム粒・ロームブロック・焼土粒・山砂を多量に含む。
5　褐色土
ローム粒・ロームブロック・焼土粒を含む。
6　黒褐色土
やや粒の大きいローム粒、少量のロームブロック・焼土粒を含む。
7　褐色土
ローム粒を含む。
8　暗褐色土
ローム粒及び褐色土をブロック状に含む。
9　暗褐色土
やや粒の大きいローム粒・少量の焼土粒を含む。
10　明褐色土
褐色土を主とし、やや粒の大きいローム粒・ロームブロック・少量の黒色土ブロックの混合土。
11　黒褐色土
ローム粒・ロームブロック・焼土粒を含む。
12　黒褐色土
黒色土・ローム粒・ロームブロック・暗褐色土の混合土。
13　褐色土
やや粒の大きいローム粒を含む。
14　褐色土
やや粒の大きいローム粒・ロームブロック・少量の焼土粒を含む。

D140－A・B

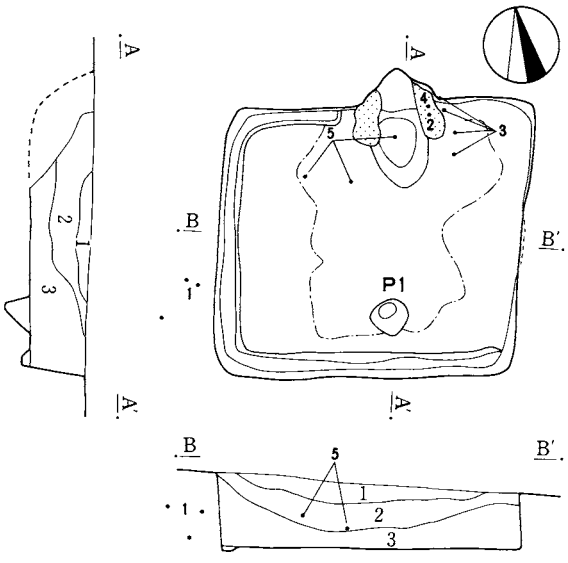



D140－A・B

PL.132　D139・D140－A・B実測図

D141　D140の東側に位置する住居で、柱穴はないが、カマドに対峙する南壁際中央に出入口ピットがある。床面はＰ１からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

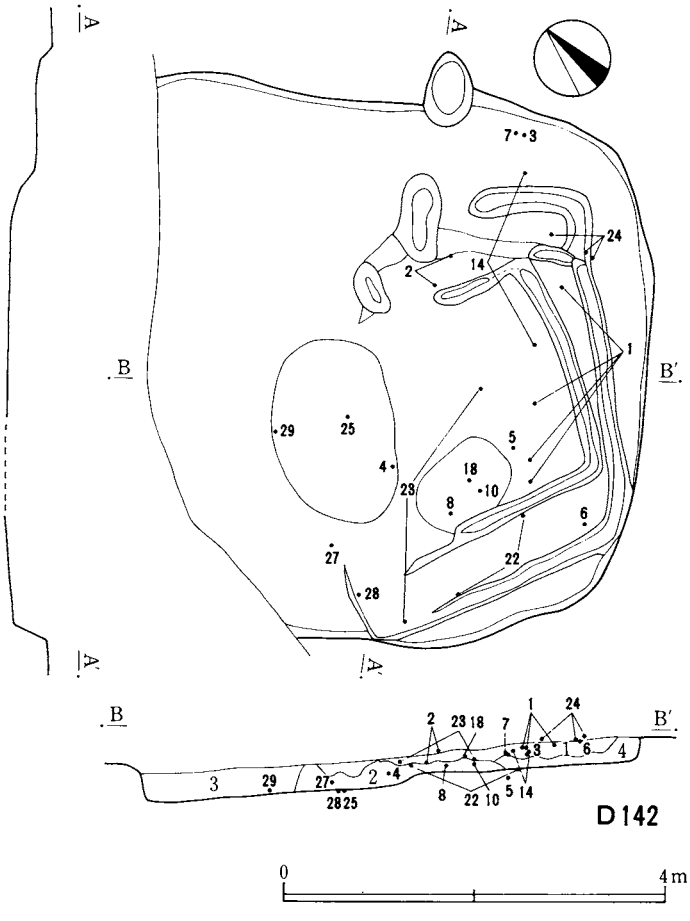
1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
2　褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
3　黄褐色土　褐色土中にローム粒・ロームブロックを多く含む。




D141

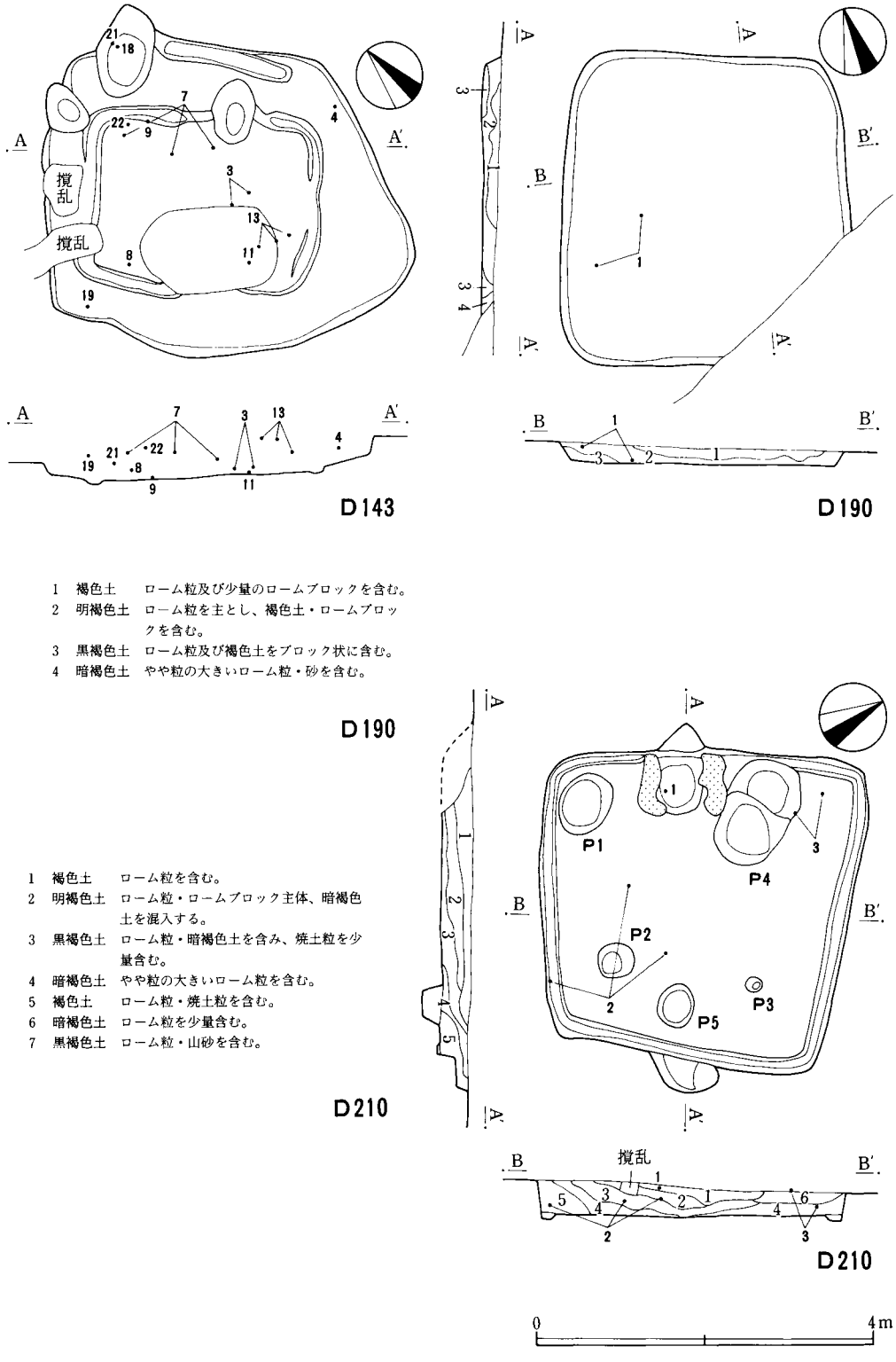
D142　D143の南側に位置する住居で、３軒が重複している。外側から便宜的にＡ・Ｂ・Ｃとしたが、時期的な関係は不明である。

1　暗褐色土　ローム粒及び少量のロームブロックを含む。
2　明褐色土　ローム粒・大粒のローム粒主体、炭化物を少量含む。
3　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
4　褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。




D142

PL.133　D141・D142実測図



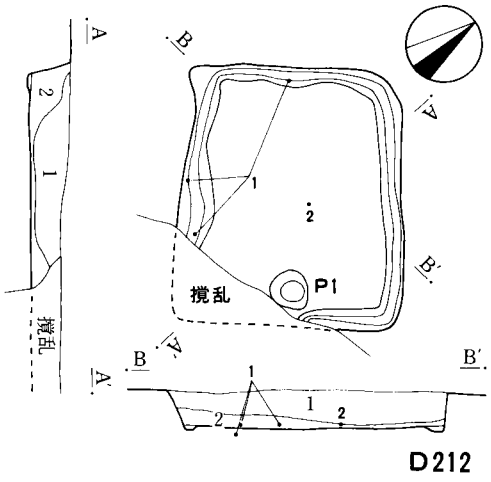

1　褐色土　ローム粒及び少量のロームブロックを含む。
2　明褐色土　ローム粒を主とし、褐色土・ロームブロックを含む。
3　黒褐色土　ローム粒及び褐色土をブロック状に含む。
4　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒・砂を含む。

1　褐色土　ローム粒を含む。
2　明褐色土　ローム粒・ロームブロック主体、暗褐色土を混入する。
3　黒褐色土　ローム粒・暗褐色土を含み、焼土粒を少量含む。
4　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒を含む。
5　褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
6　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
7　黒褐色土　ローム粒・山砂を含む。

PL.134　D143・D190・D210実測図

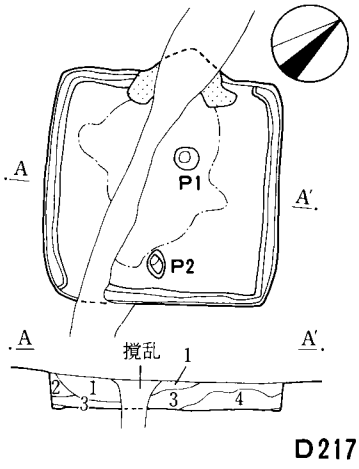
D212　D133の東側に位置する住居で、柱穴はないが、南東壁際中央に出入口ピットがある。

1　黒褐色土　全体にローム粒を多量に含み、更にロームブロックを多く含む。
2　褐色土　ローム粒を全体に含む。



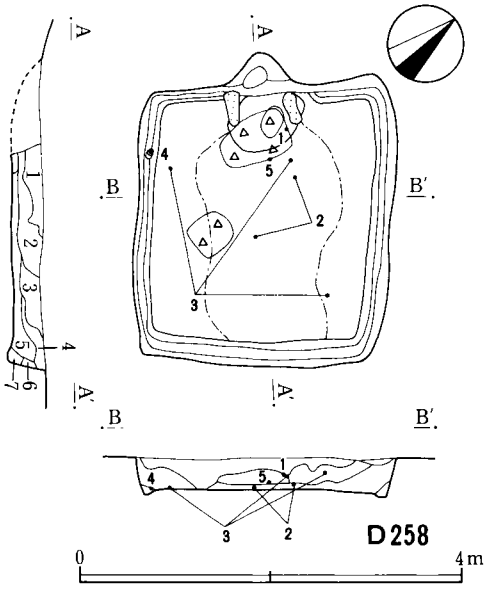

D217　D132の西側に位置する住居で、規模は2.5×2.5mを測る。柱穴はないが、カマドに対峙する南東壁際中央に出入口ピットがあり、住居中央にも直径0.2mのピットがある。

1　暗褐色土　やや大粒のローム粒を全体に含む。
2　褐色土　やや大粒のローム粒と暗褐色土の混合土。
3　黒褐色土　やや大粒のローム粒・ロームブロックを含む。
4　明褐色土　褐色土・ローム粒・ロームブロックを主体とする。




D258　D259の西側に位置する住居で、床面は南東壁からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。なお、4は人面墨書された土師器甕である。

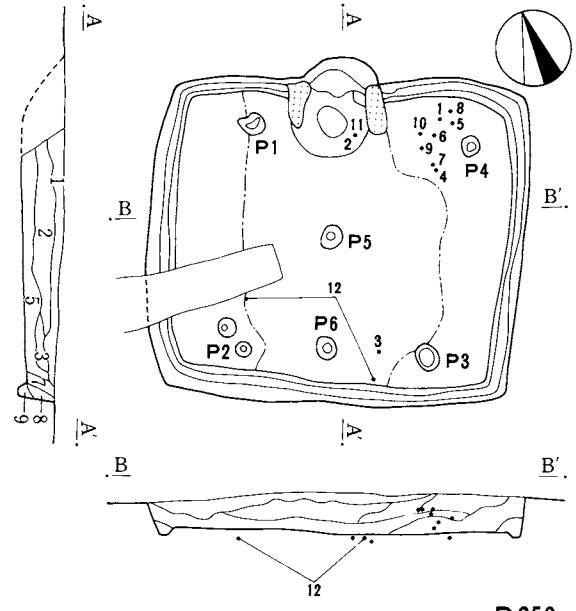
1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを少し含む。
2　褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
3　黒褐色土　ローム粒を少し含む。
4　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
6　暗褐色土　ロームブロックを主体とする。
7　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
8　黒褐色土　炭化粒を多く含む。
9　褐色土　ロームブロックを多く含む。




PL.135　D212・D217・D258実測図

1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。
3　褐色土　暗褐色土をブロック状に含む。
4　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。
6　褐色土　ロームブロック少し含む、暗褐色土をブロッブロック状に含む。
7　暗褐色土　ローム粒少し含む。
8　褐色土　ローム粒少し含む。
9　褐色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。

D259

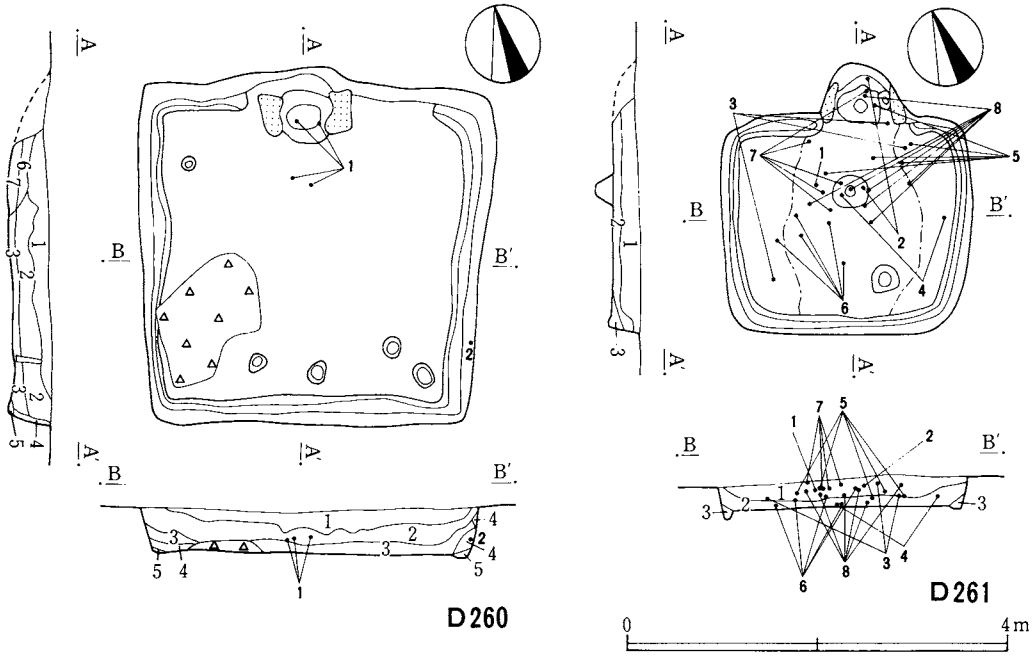



1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒少し含む。
4　褐色土　ローム粒少し含む。
5　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。
6　暗褐色土　灰白色砂質土を多く含む。
7　黒褐色土

D260

1　暗褐色土　ローム粒やや多く含む、ロームブロック少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。
3　褐色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。

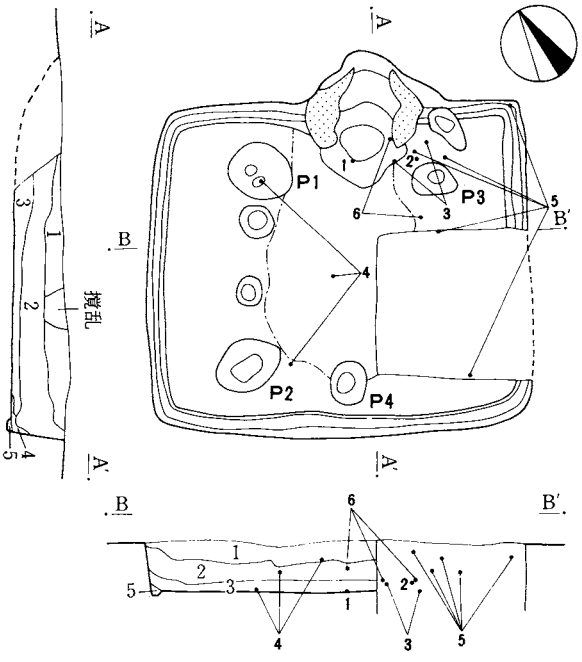
D261




PL.136　D259・D260・D261実測図

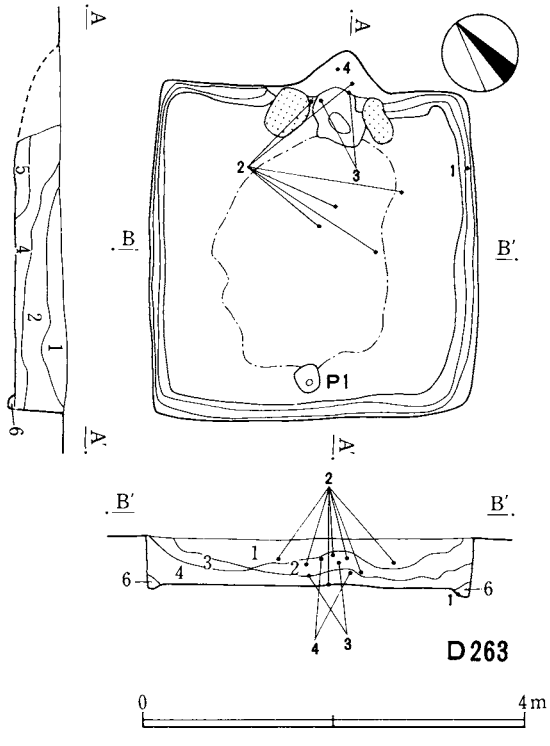
D262　H138の東側に位置する住居で、柱穴は南東コーナーを欠損するが、基本的には住居対角線上に4箇所が配置されたものである。P1は直径0.7m、床面0.5mの深さを測る。まな、P1とP2のあいだに直径0.4m、床面から0.2mの深さを測るピットが2箇所ある。

1　黒褐色土　ローム粒少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
4　褐色土　ロームブロックを主体とする。
5　褐色土



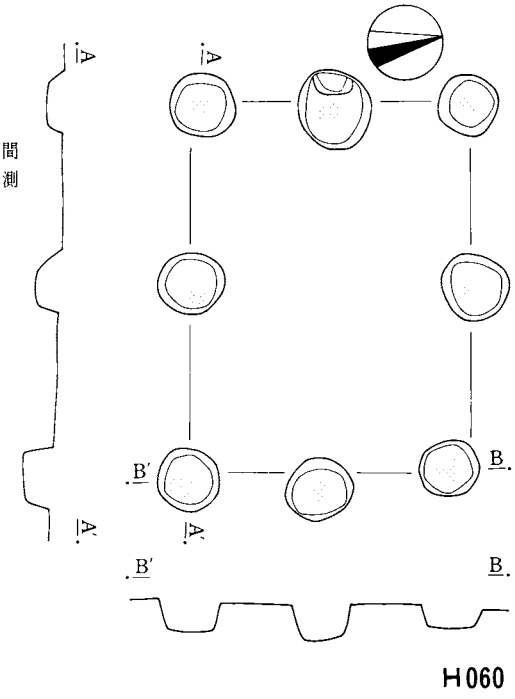

D263　D262の南側に位置する住居で、規模は3.5m×3.4mを測る。柱穴はなく、カマドに対峙する南西壁際中央に出入口ピットがある。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

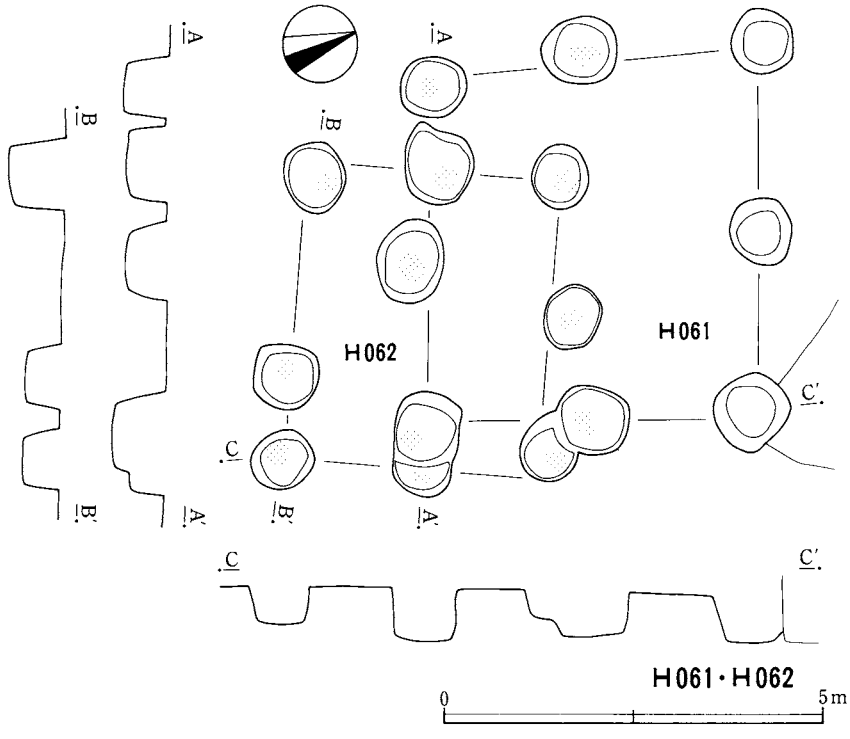
1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒多く含む、ロームブロック・灰色砂質土ブロック・焼土粒・木炭粒少し含む。
3　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック・灰色砂質土・ブロック少し含む。
4　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。
5　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック少し含む。
6　褐色土



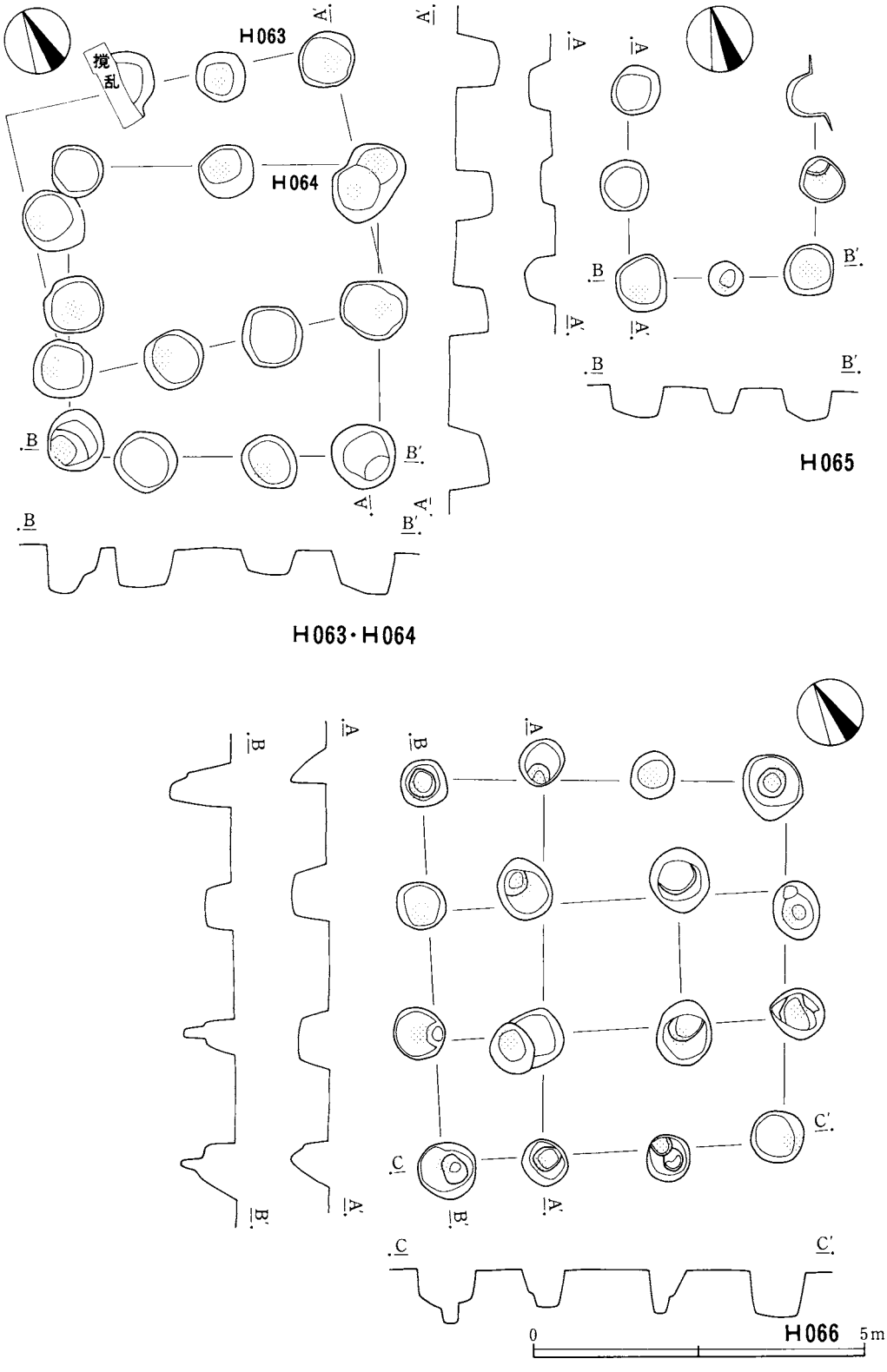

PL.137　D262・D263実測図

H060　D126の北側に位置する建物で、2間×2間の側柱構造である。桁行長4.9m、梁行長3.7mを測る。柱間寸法は1.8～2.5mで、桁筋がやや広い。

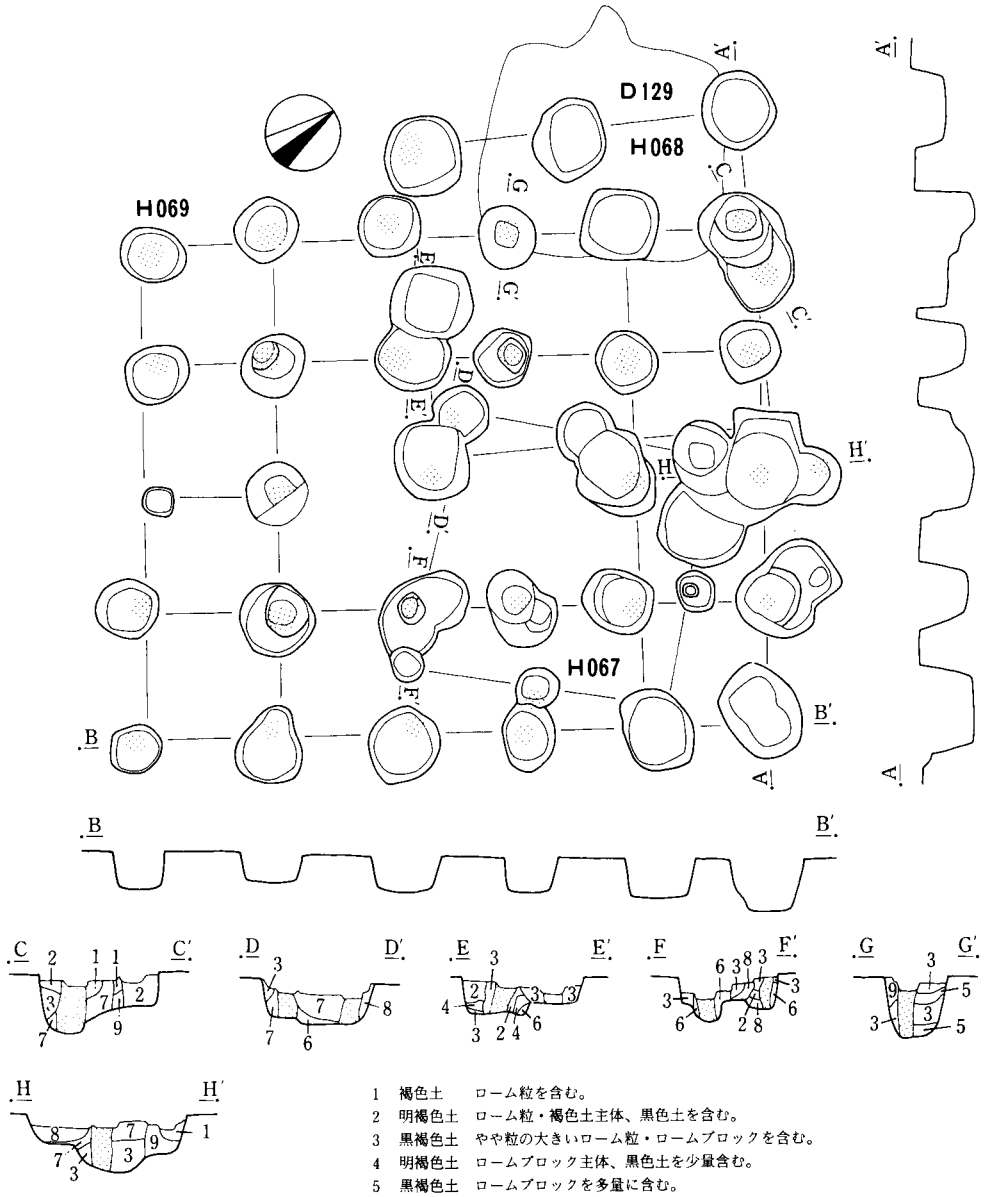



PL.138　H060・H061・H062実測図



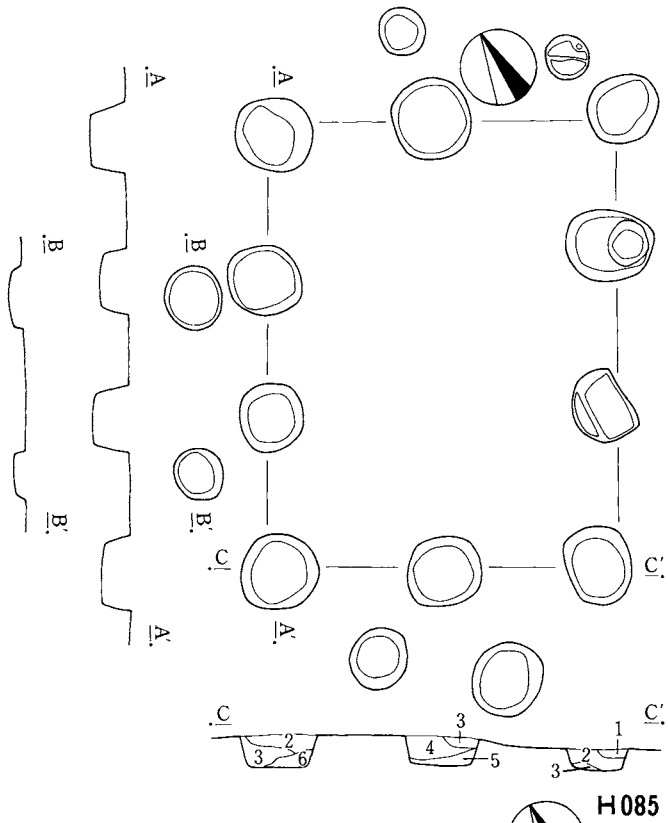

PL.139　H063・H064・H065・H066実測図




PL.140 H067・H068・H069実測図

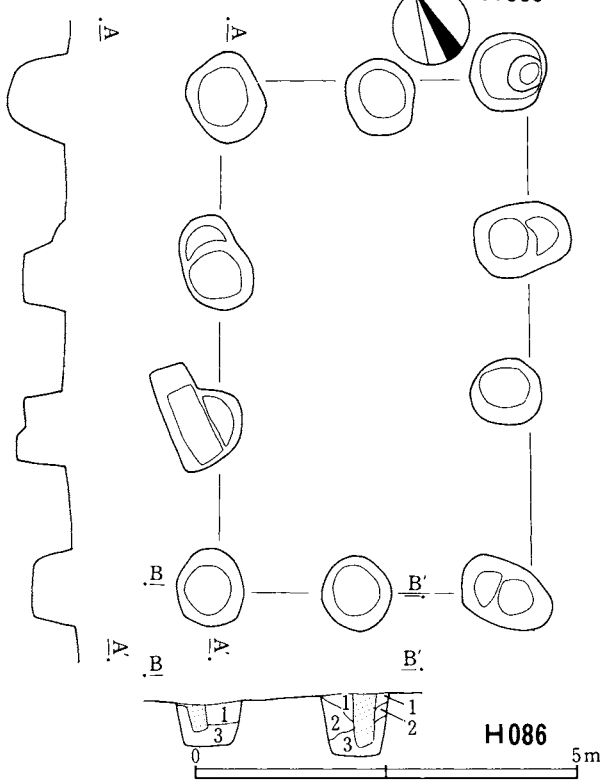
H085　H086と柱筋を揃えて並ぶ建物で、3間×2間の側柱構造である。柱間寸法は1.8～2.3mで、堀方は直径0.8～1.0mの円形を呈している。なお、東棟を除いた各面に2箇所ずつのピットがある。

1　黄褐色土　ローム粒子主体、少量の黒色土・白色砂質土を含む。
2　黄黒色土　ローム粒子及びローム小ブロックを多量に含む。
3　黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子の間に少量の黒色土を含む。
4　黄色土　ロームブロックの間に少量の黒色土を含む。
5　黒色土　少量の小ブロックを含む。
6　黄黒色土　ローム粒子を全体に含む。



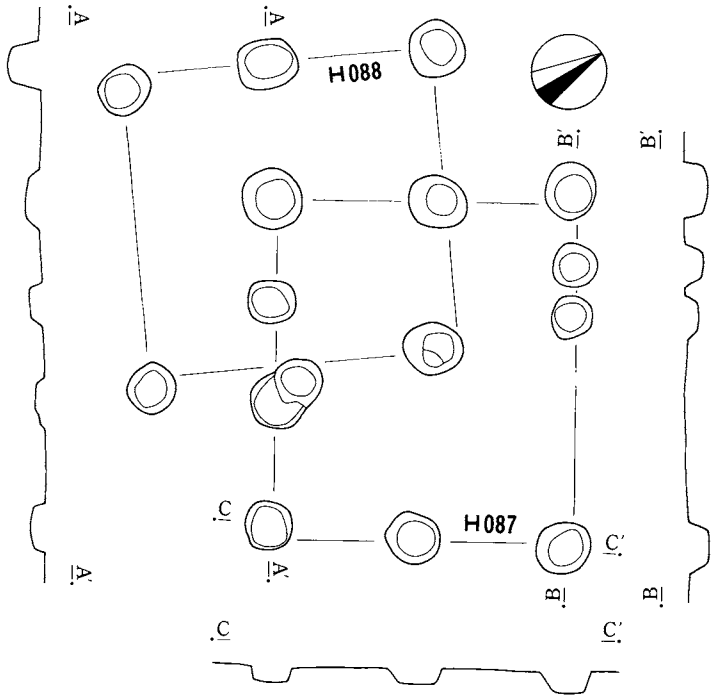

H086　H085に隣接し、D210と重複している。3間×2間の側柱構造で、長軸方向はN－21°－Eを指す。規模は桁行長6.5m、梁行長4.0mを測る。柱間寸法は1.8～2.5mを測り、不統一である。堀方は直径0.8～1.0mの円形で、確認面から0.6～0.8mの深さを測る。

1　黄褐色土　黒色土中にローム粒を多く含む。
2　黒色土　ロームブロックを全体に含む。
3　黄褐色土　黄黒色土中にロームブロックを含む。




PL.141　H085・H086実測図

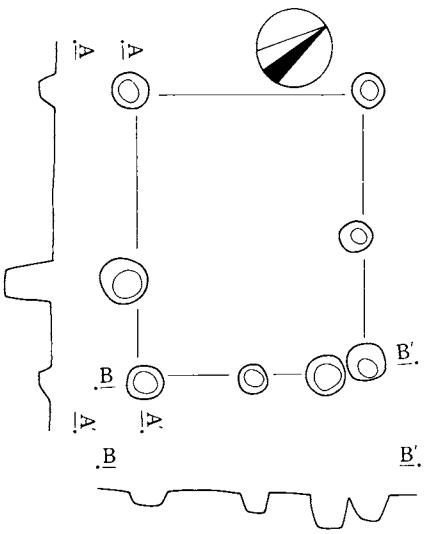
H087　D142に隣接し、H088と重複している。基本的には3間×2間の側柱構造であるが、北棟で1箇所堀方が確認できなかった。H088は2間×2間の側柱構造であるが、南側の柱筋は堀方が確認できなかった。あるいは、1間×2間の可能性も否定できない。



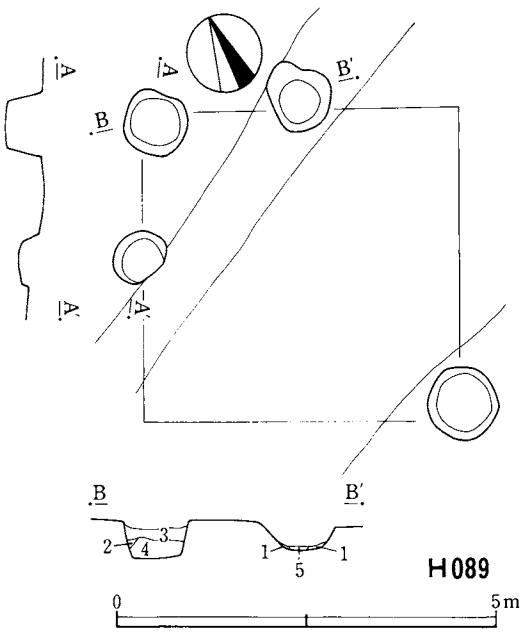

H087・088

1　暗褐色土　ローム粒及びロームブロックを含む。
2　黄褐色土　黒色土が少量混入。
3　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。
4　褐色土　ローム小ブロック及び黒色土を全体に含む。
5　黒色土　ごく少量のローム粒を含む。

H089



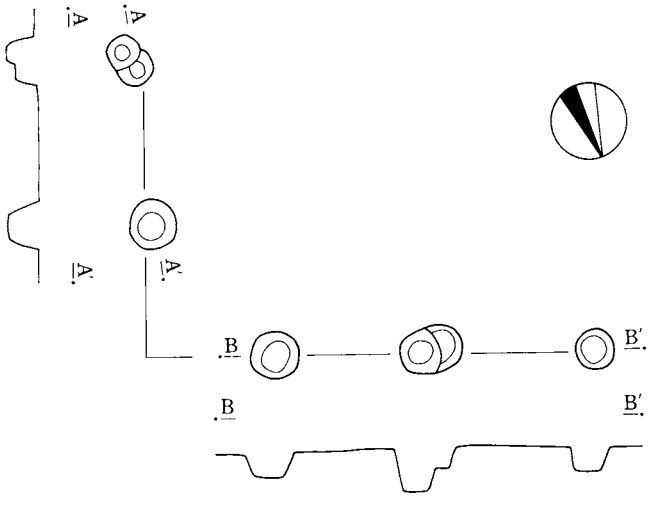

H100



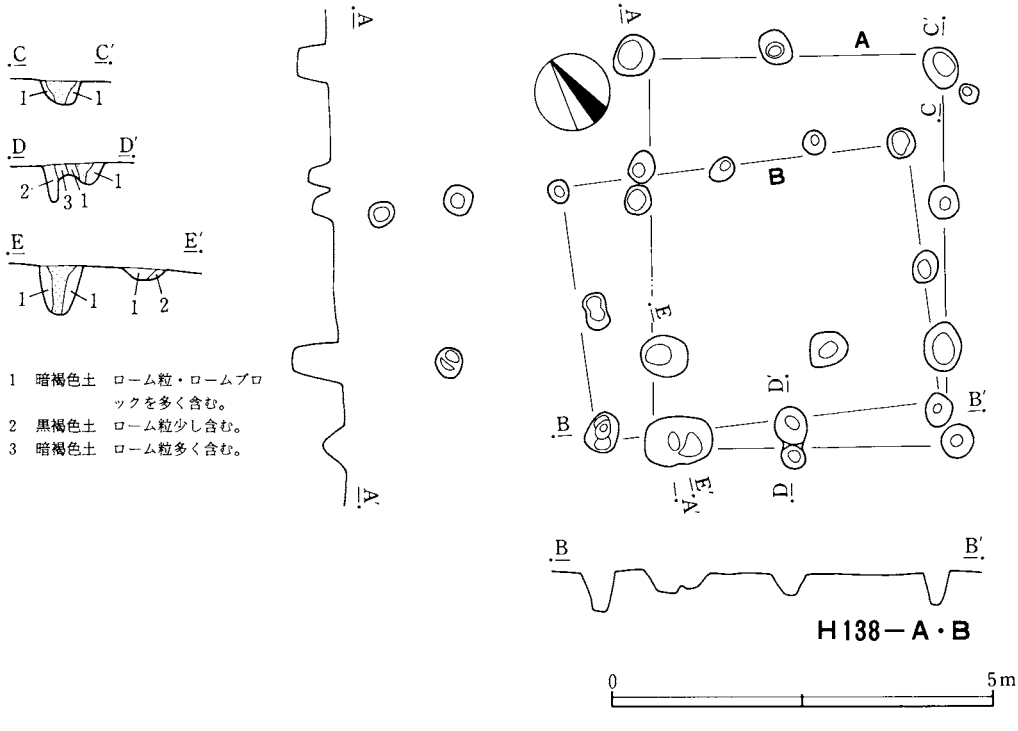

H089

PL.142　H087・H088・H089・H100実測図

H101　H100の東側に位置し、5箇所の柱堀方が検出された。規模としては3間×2間以上で、現存部分は桁行長6.0m、梁行長3.7mを測る。堀方は直径0.6～0.7mの円形を呈し、確認面から0.3～0.6mの深さを測る。




H101



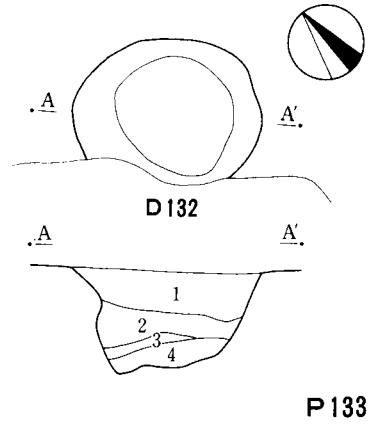

1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
2　黒褐色土　ローム粒少し含む。
3　暗褐色土　ローム粒多く含む。

H138－A・B

PL.143　H101・H138－A・B実測図

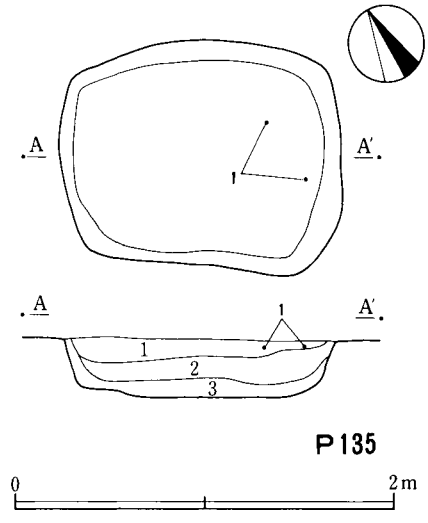
1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを混入する。
2　明褐色土　ローム粒・ロームブロック主体、暗褐色土を含む。
3　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
4　明褐色土　ローム粒・ロームブロック主体。

P133　D132と重複する土壙で、直径1.0mの円形を呈している。確認面からの深さは0.5mで、埋土はロームブロックを多く含んでいる。遺物はロクロ土師器坏と皿が図示できた。ともに、体部外面に「生」と墨書される。

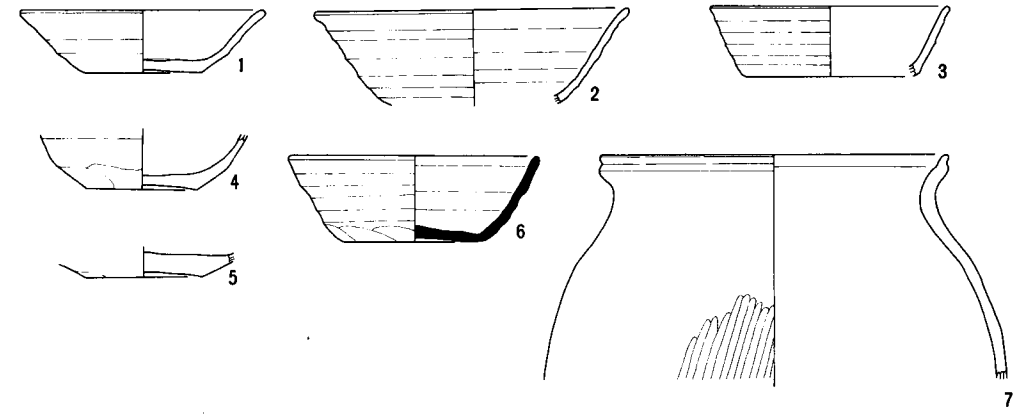



1　黒褐色土　やや粒の大きいローム粒を含む。
2　暗褐色土　やや粒の大きいローム粒及び焼土粒を含む。
3　暗褐色土　ローム粒・褐色土を含む。

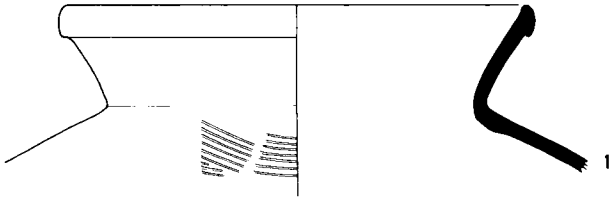
P135　H138の西側に位置する土壙で、1.5m×1.1mの方形を呈している。確認面からの深さは0.3mで、埋土はローム粒・焼土粒を含んでいる。遺物はロクロ土師器坏1点が図示できた。



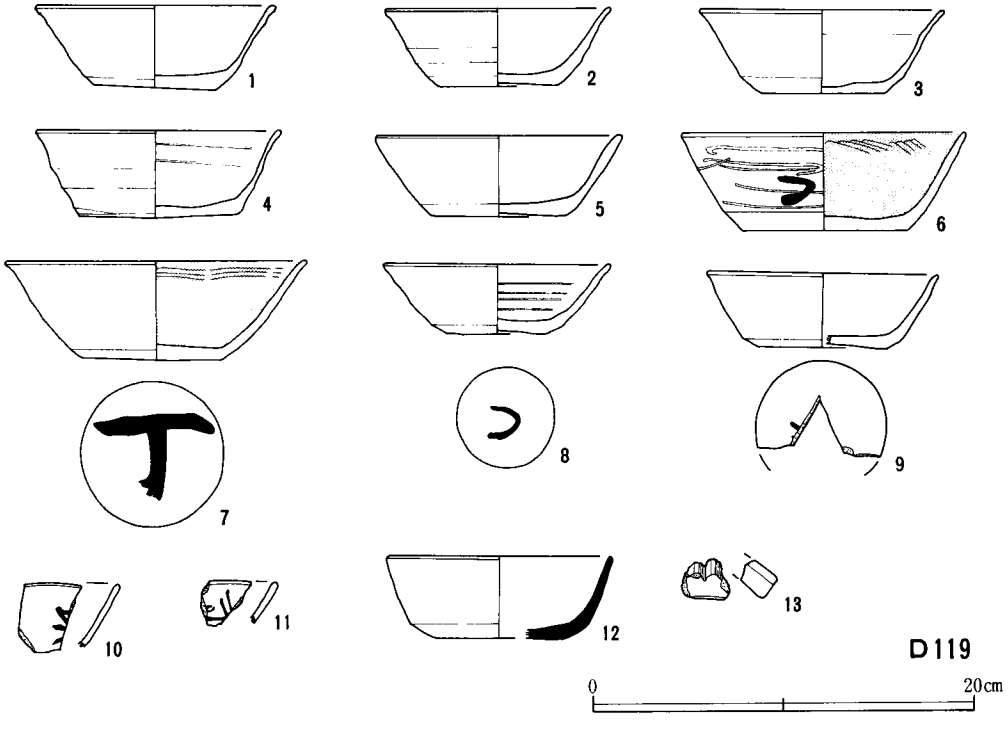

PL.144　P133・P135実測図




D047

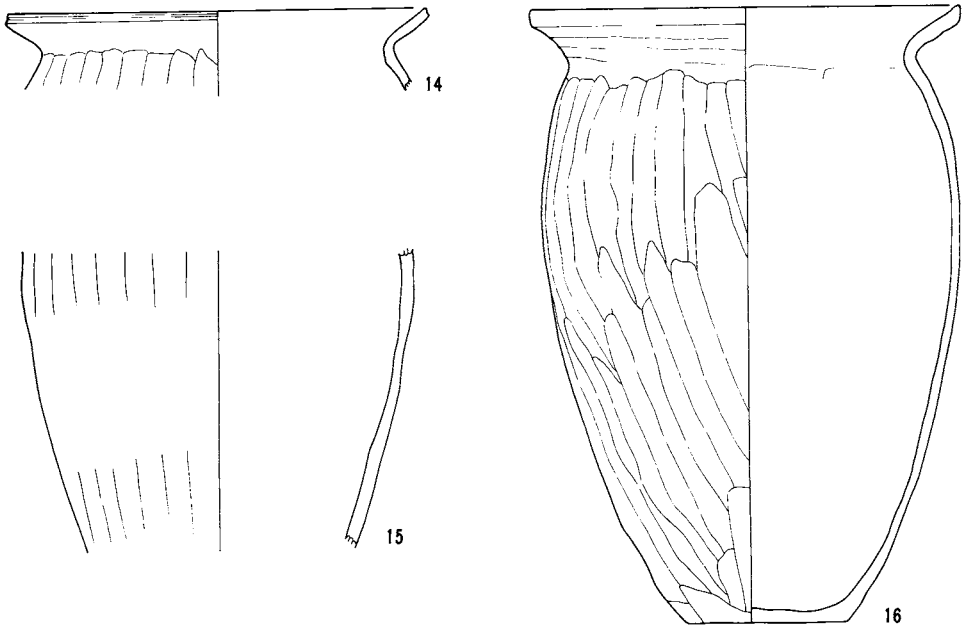



D118

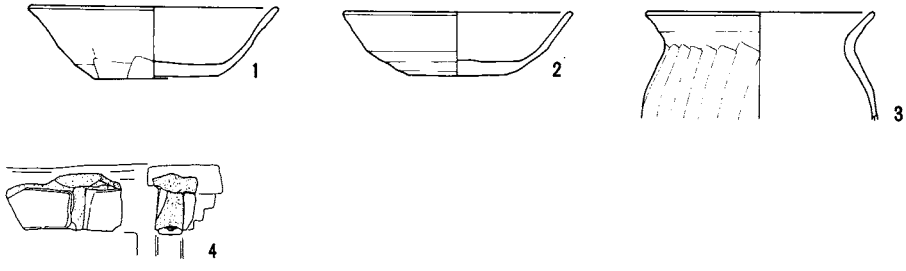



D119

PL.145　歴史時代2群A遺物実測図　1




D119



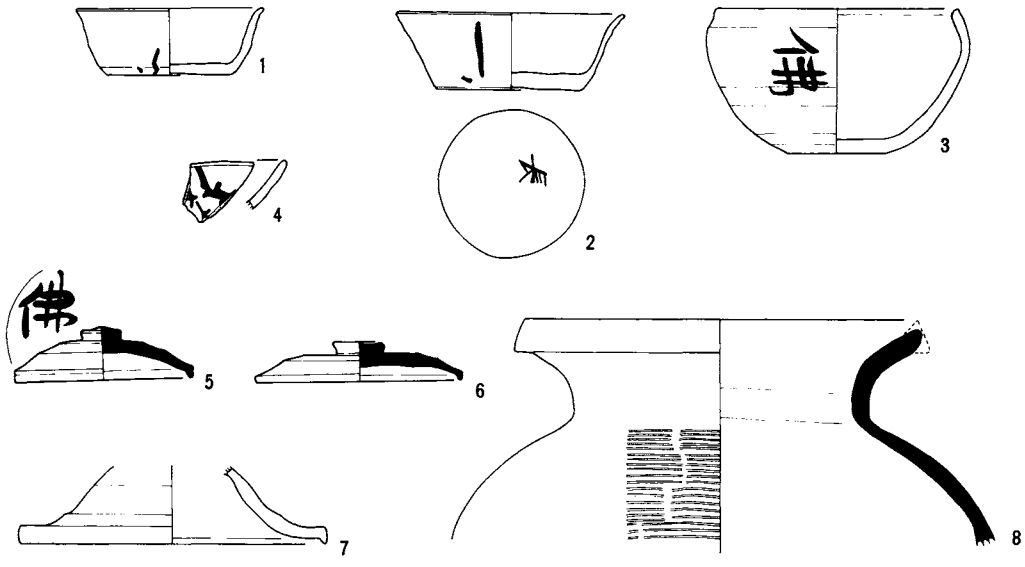

D120

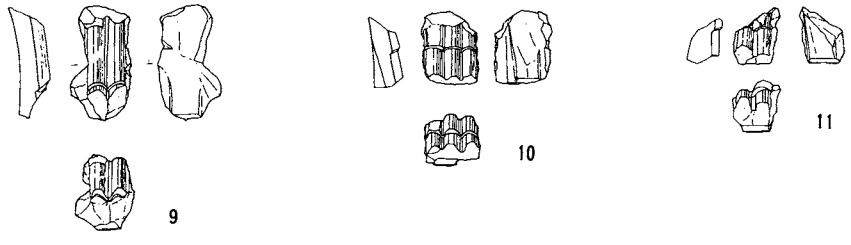
D122

0 20cm

PL.146　歴史時代2群A遺物実測図　2

D123

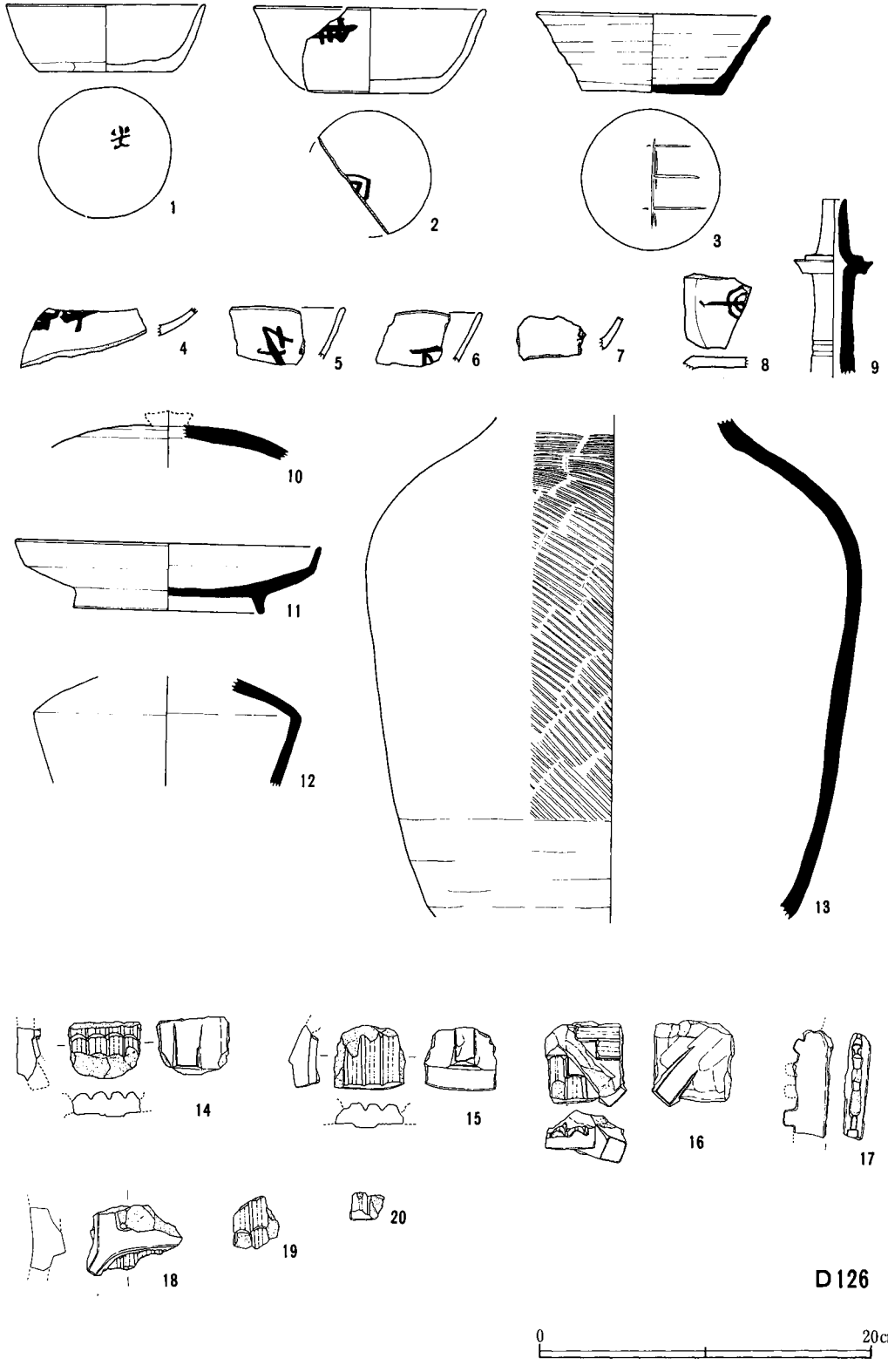


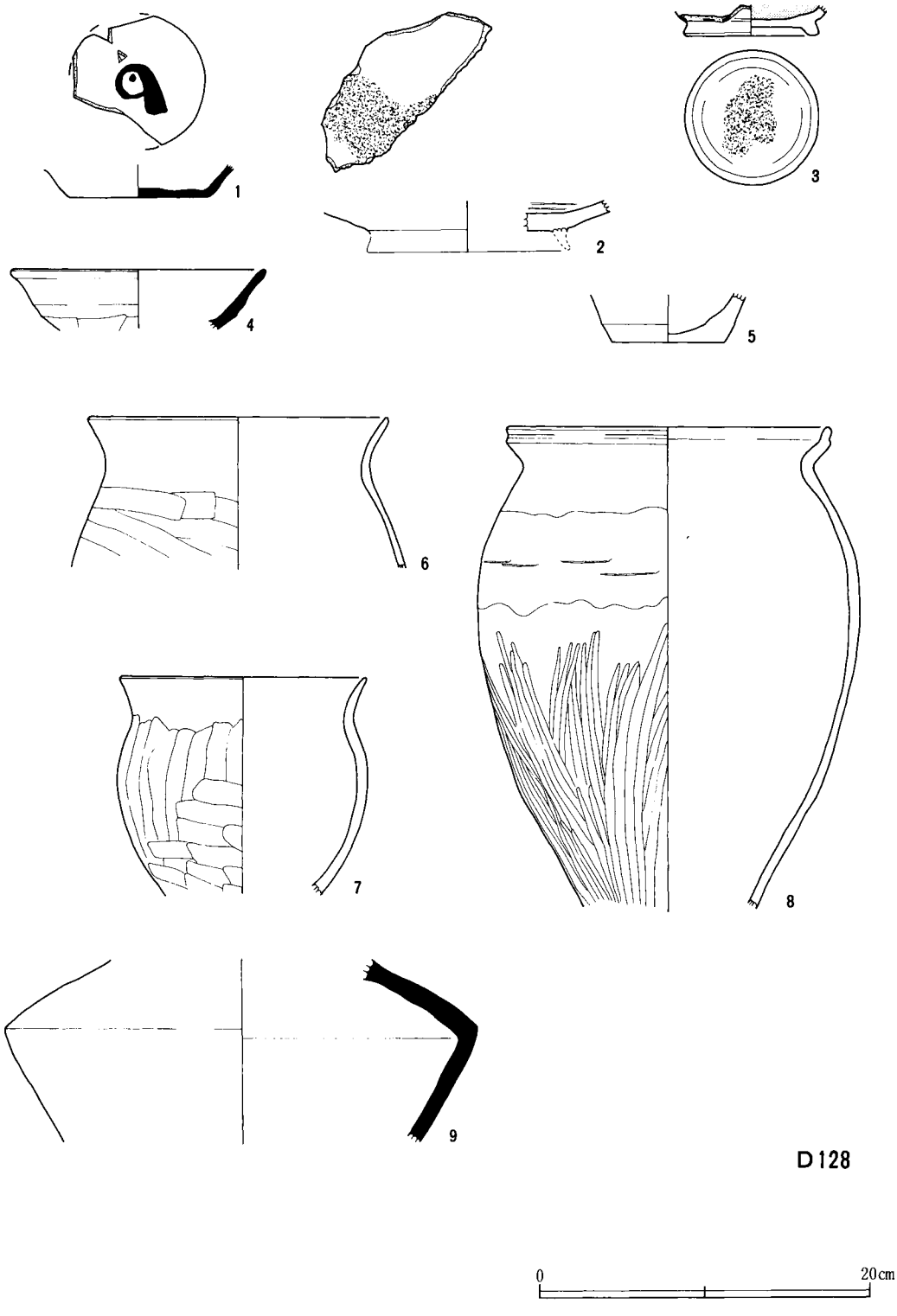

D124

0 20cm

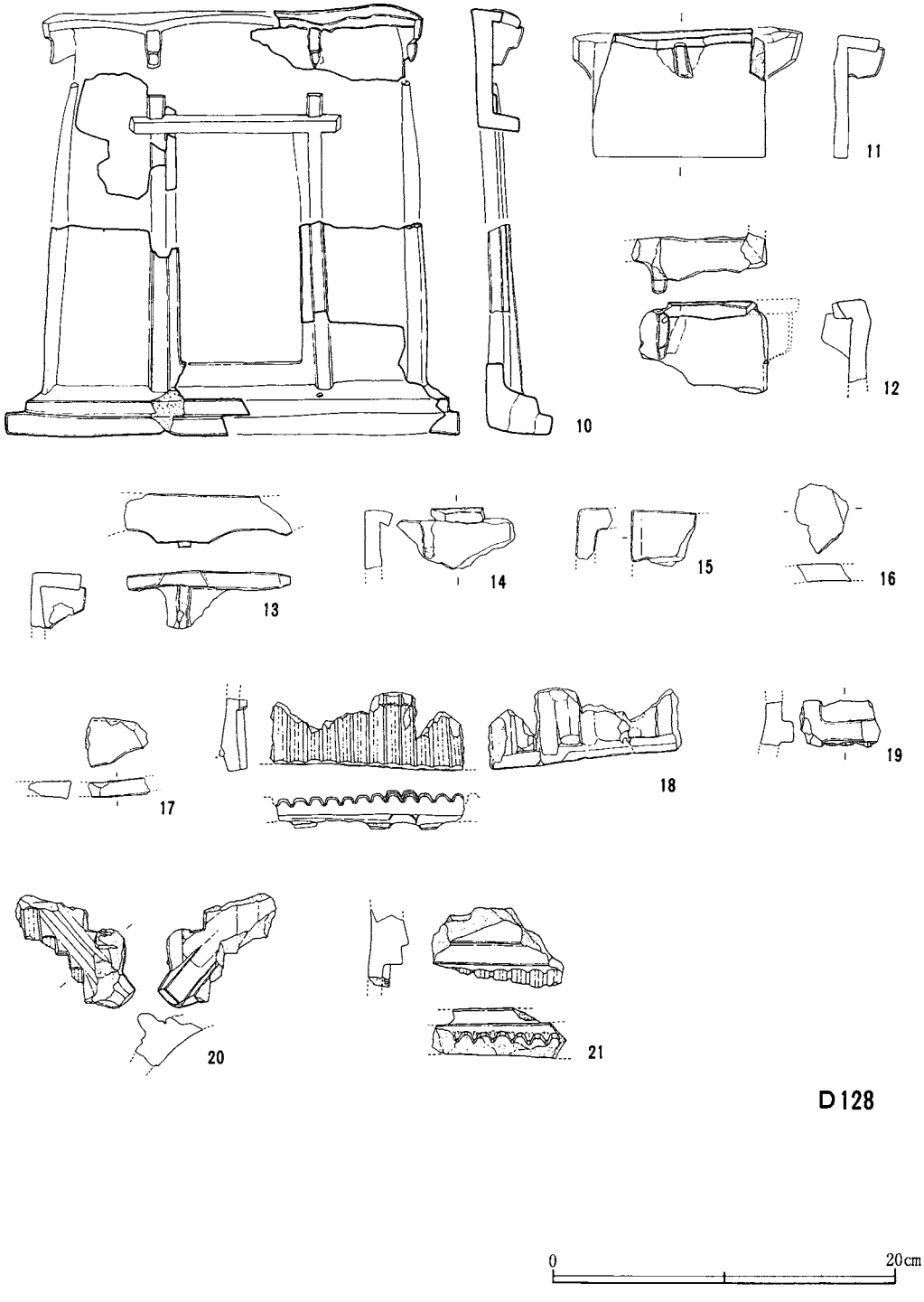
PL.147　歴史時代2群A遺物実測図 3



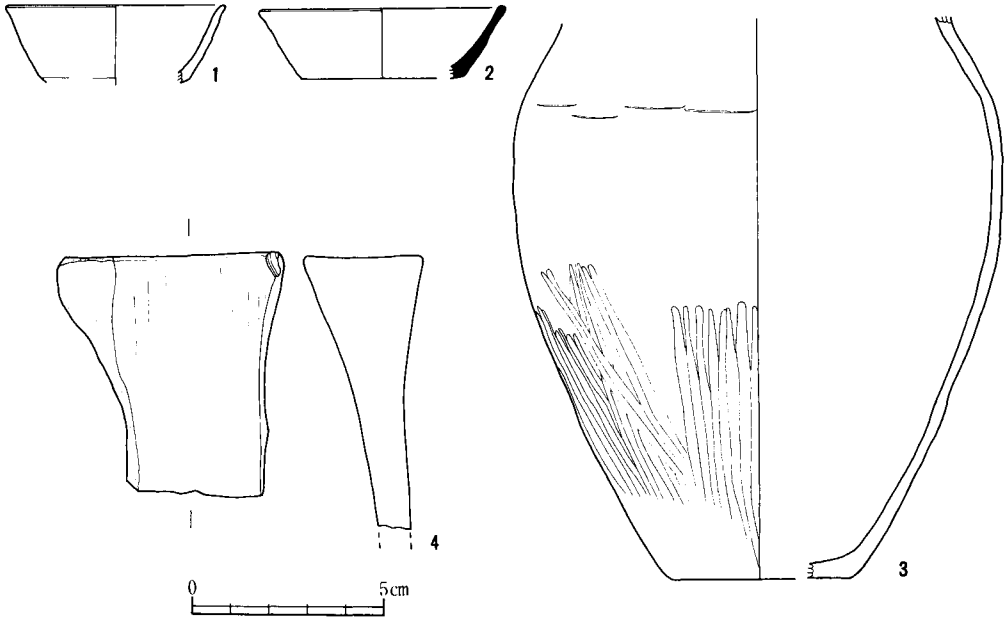

PL.148　歴史時代2群A遺物実測図　4



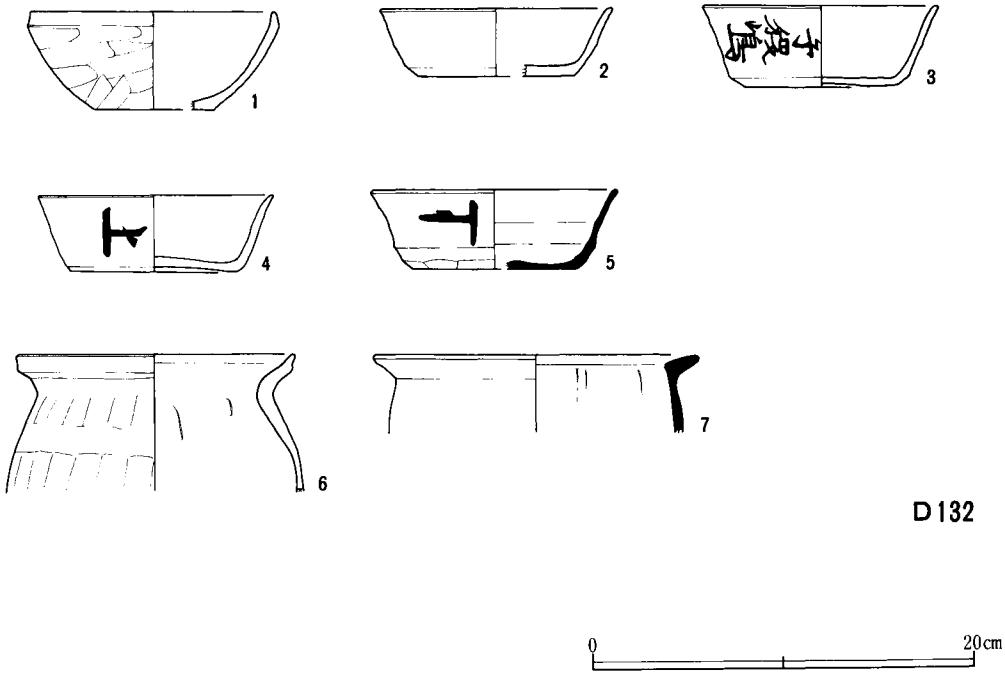

PL.149　歴史時代2群A遺物実測図　5




PL.150　歴史時代2群A遺物実測図　6

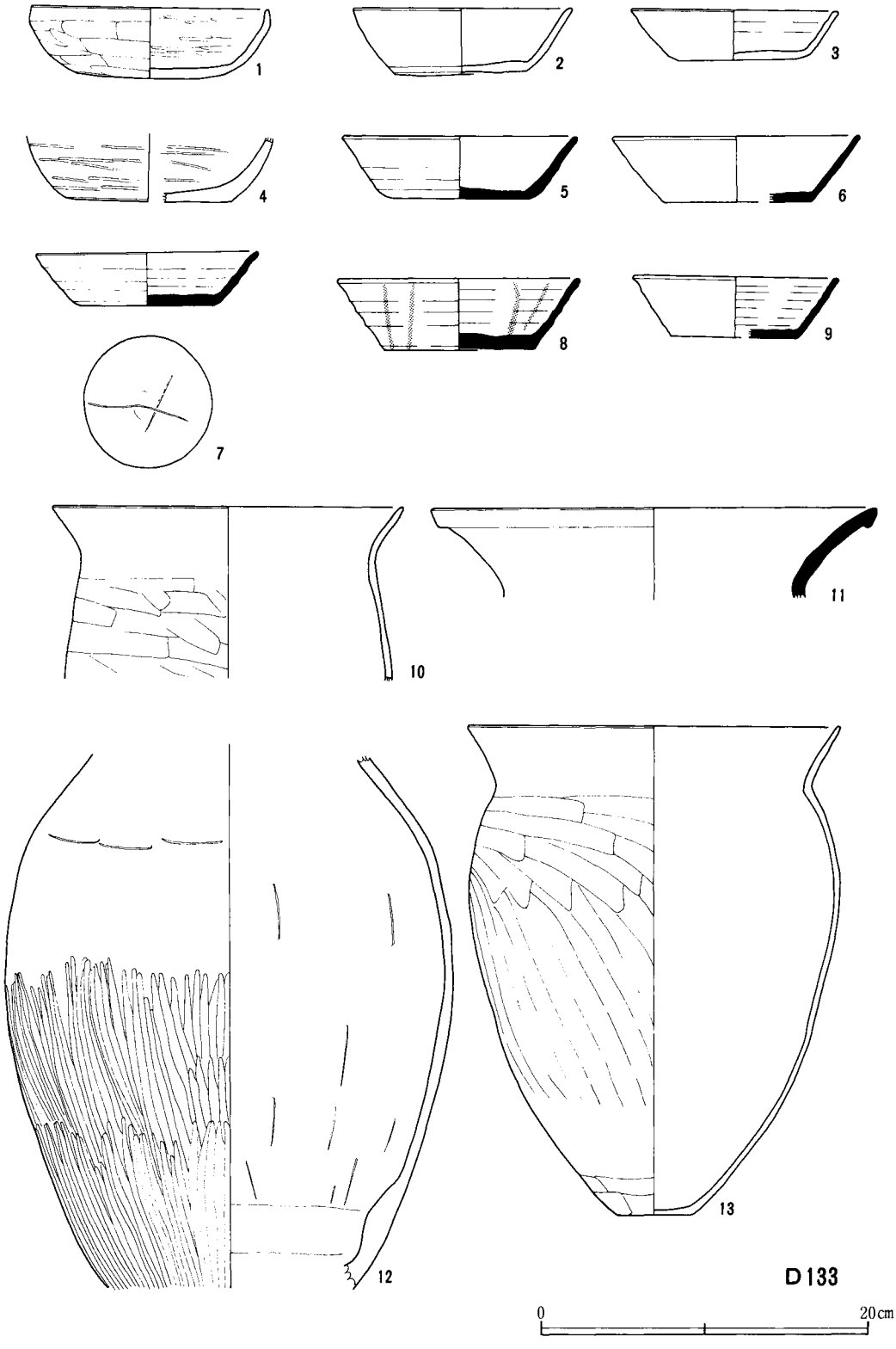



D131

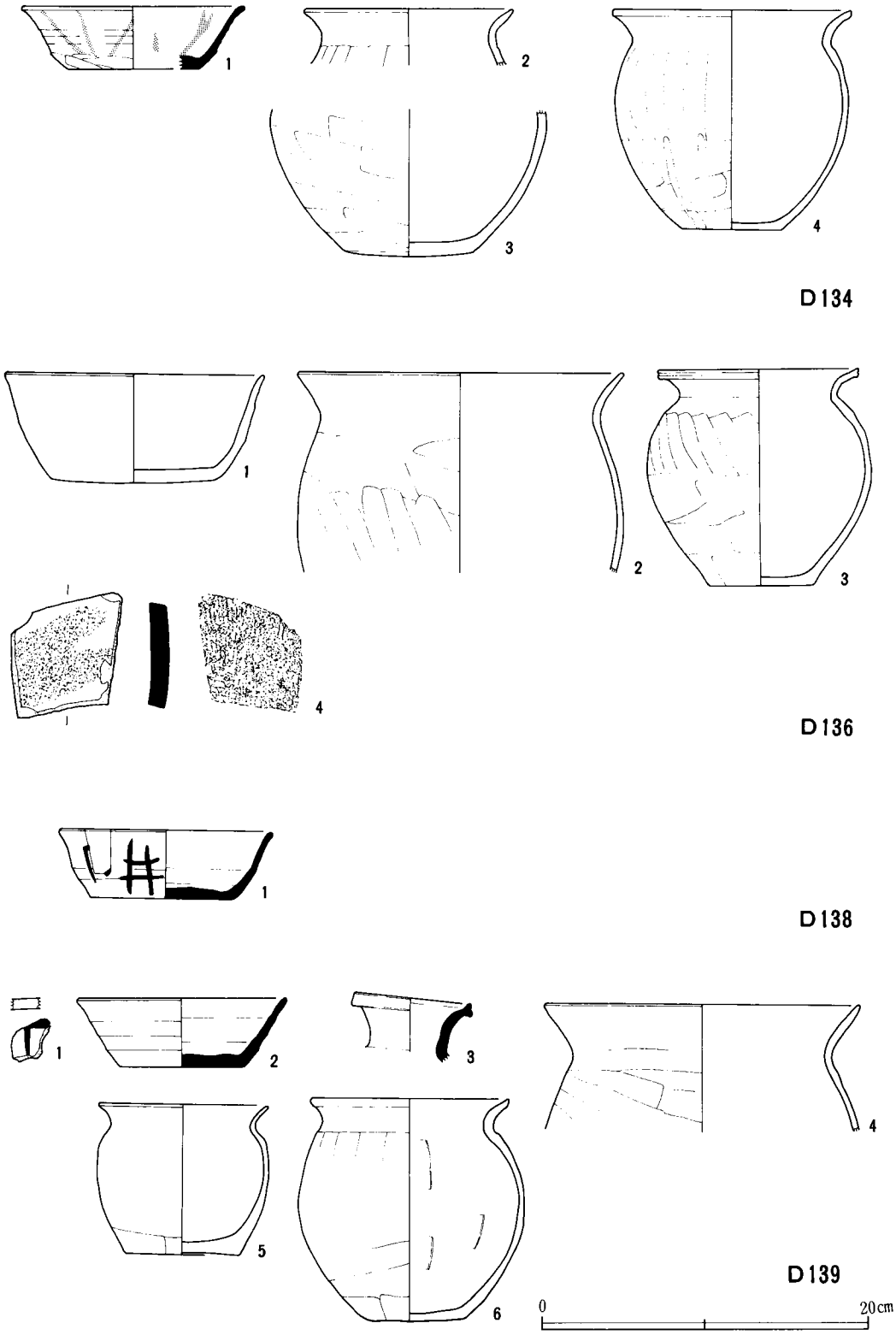



D132

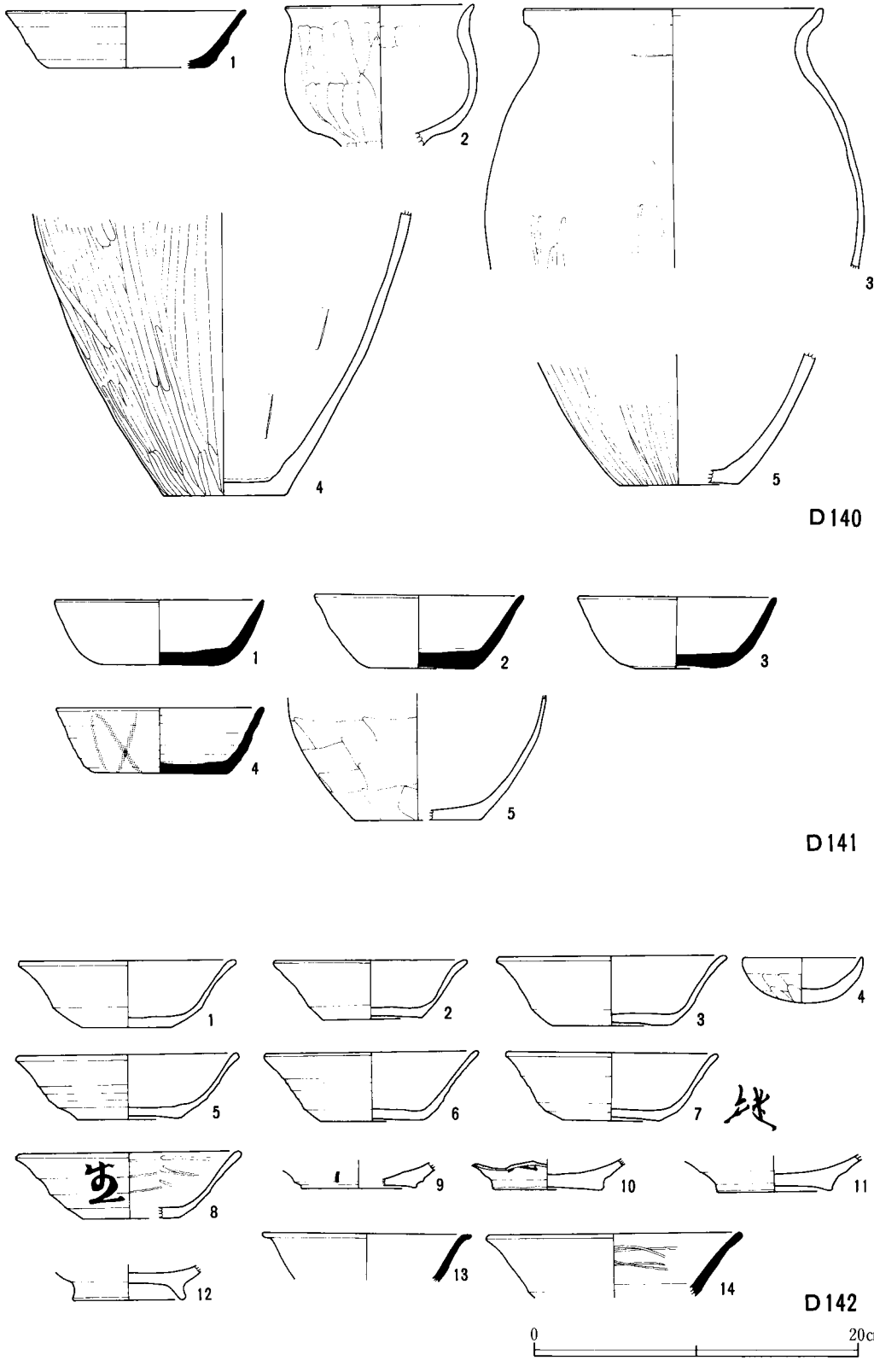
PL.151　歴史時代2群A遺物実測図　7



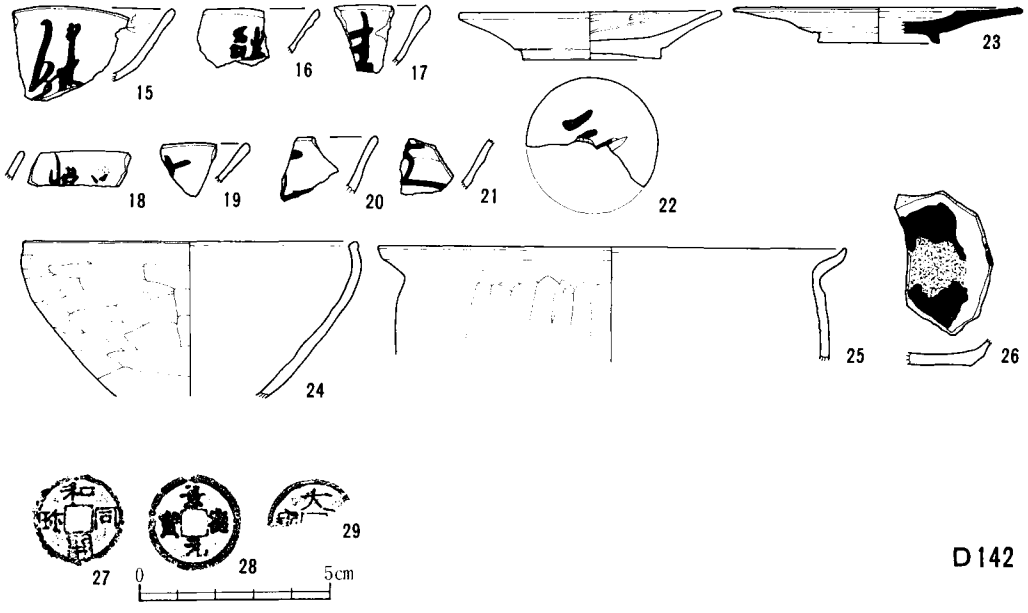

PL.152　歴史時代2群A遺物実測図　8

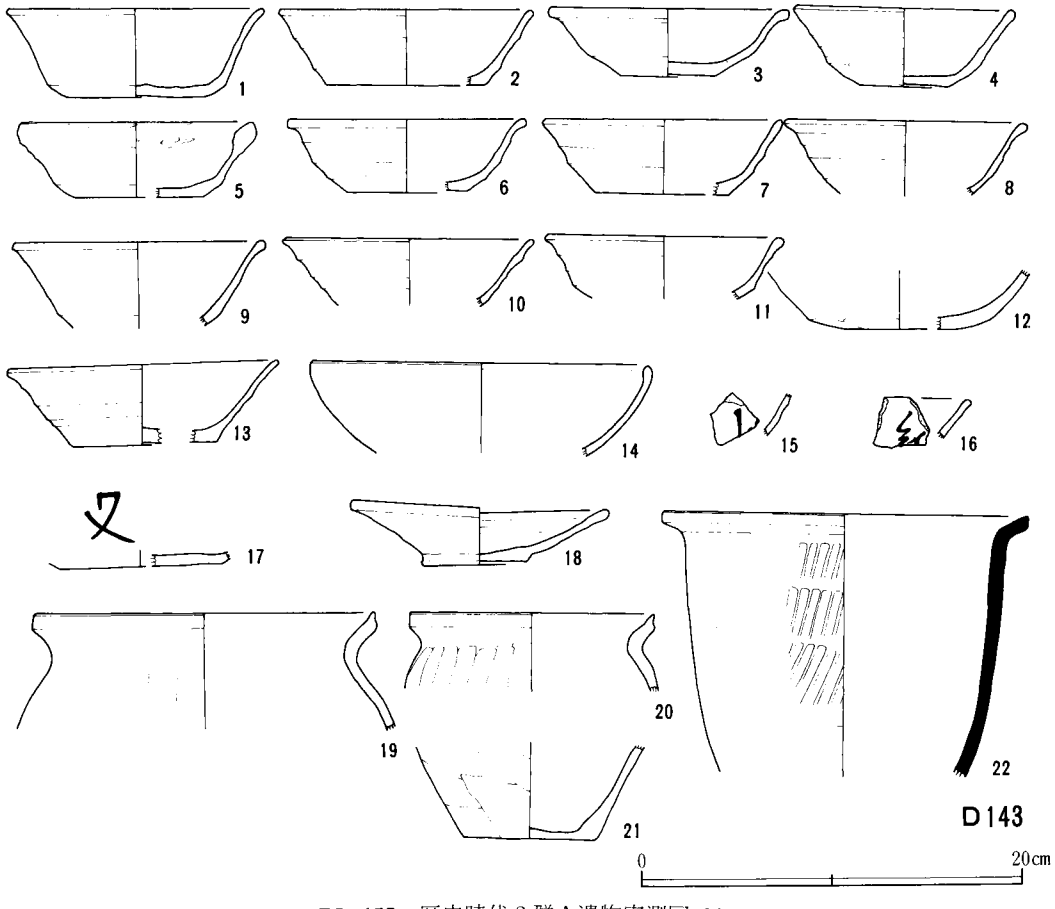



PL.153　歴史時代2群A遺物実測図　9

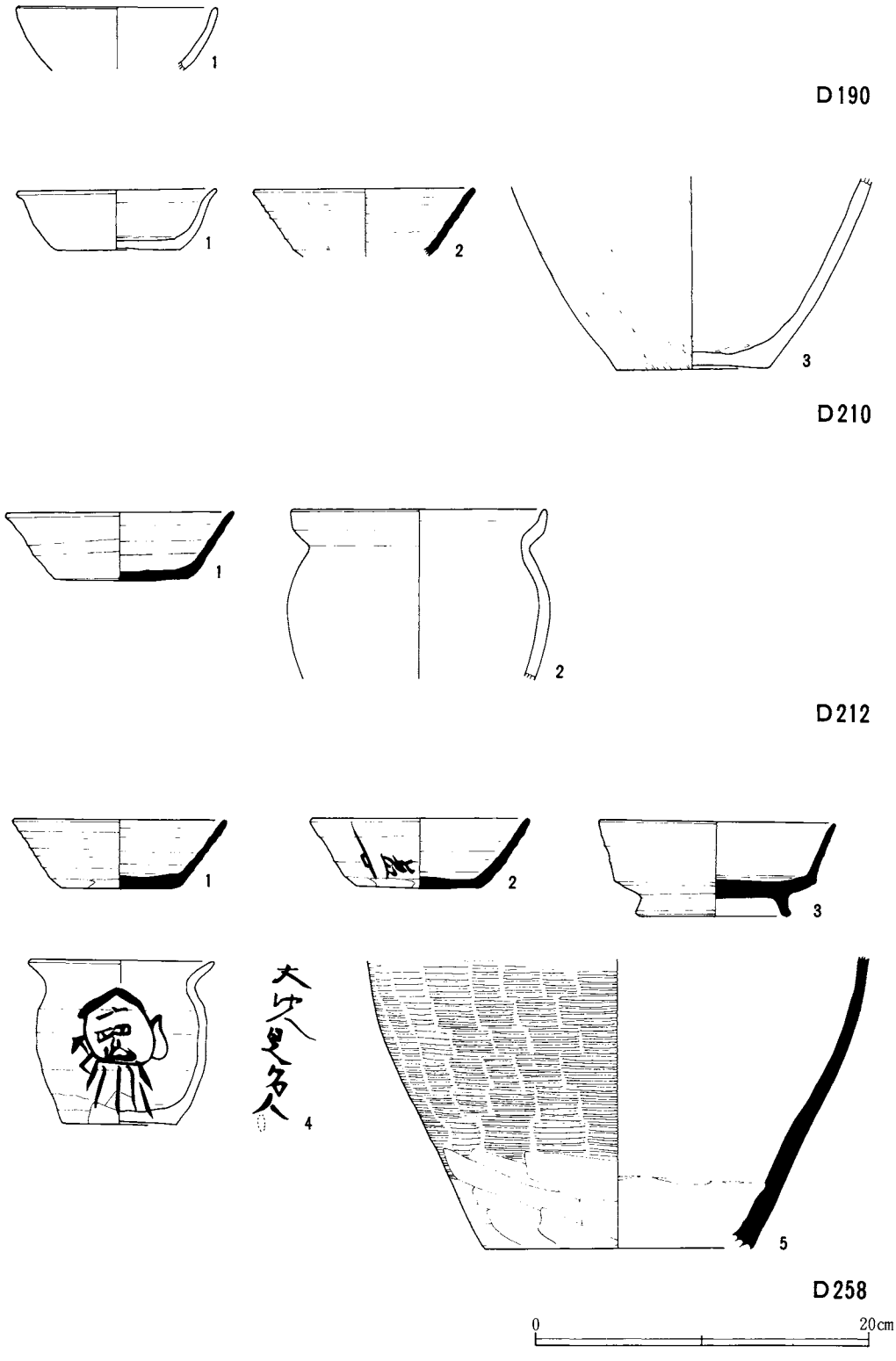



PL.154　歴史時代2群A遺物実測図 10

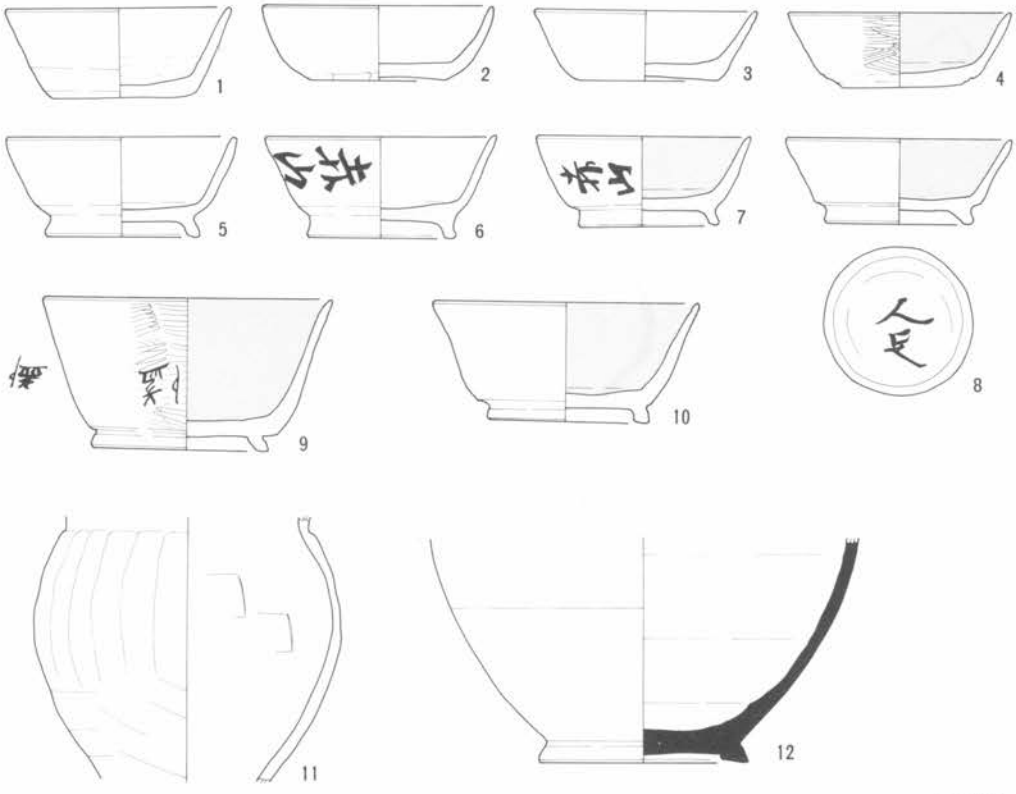


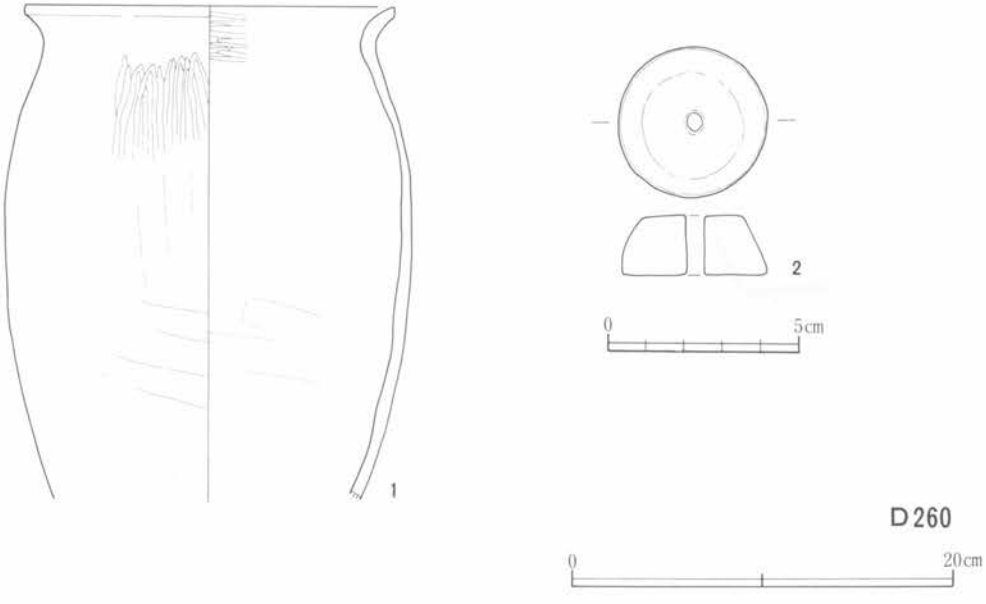

PL.155　歴史時代2群A遺物実測図 11




PL.156　歴史時代2群A遺物実測図 12

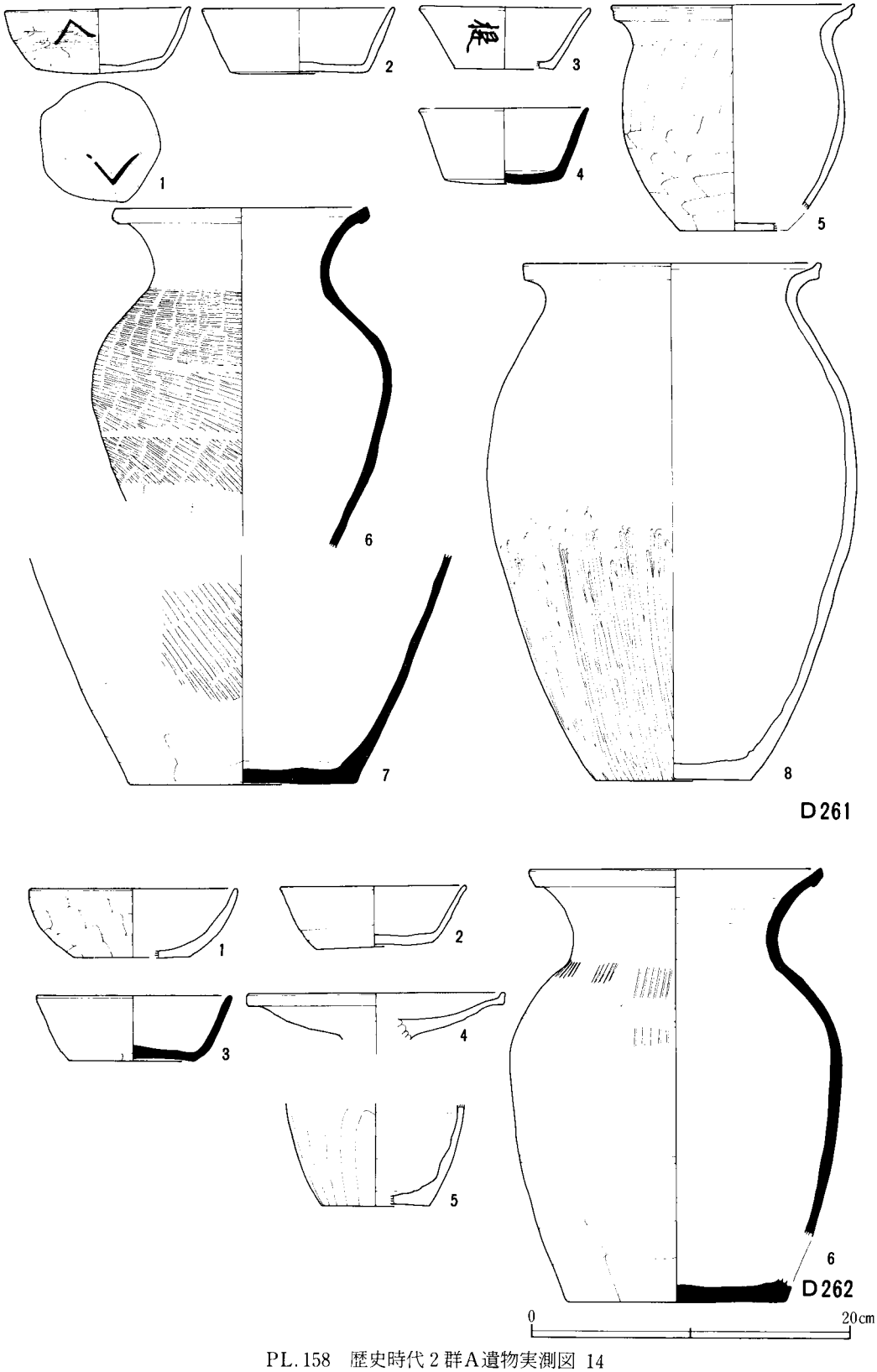



D259

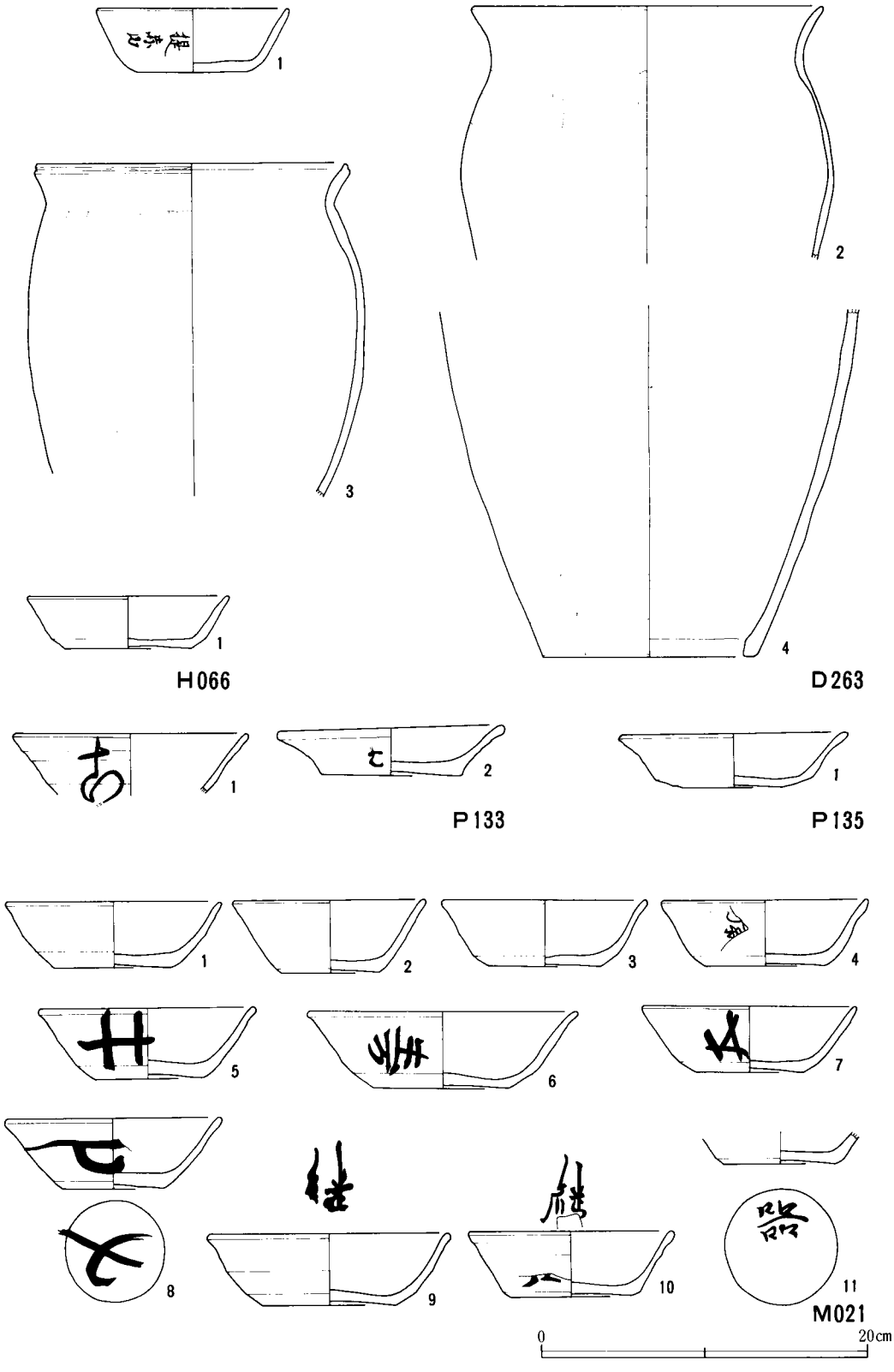



D260

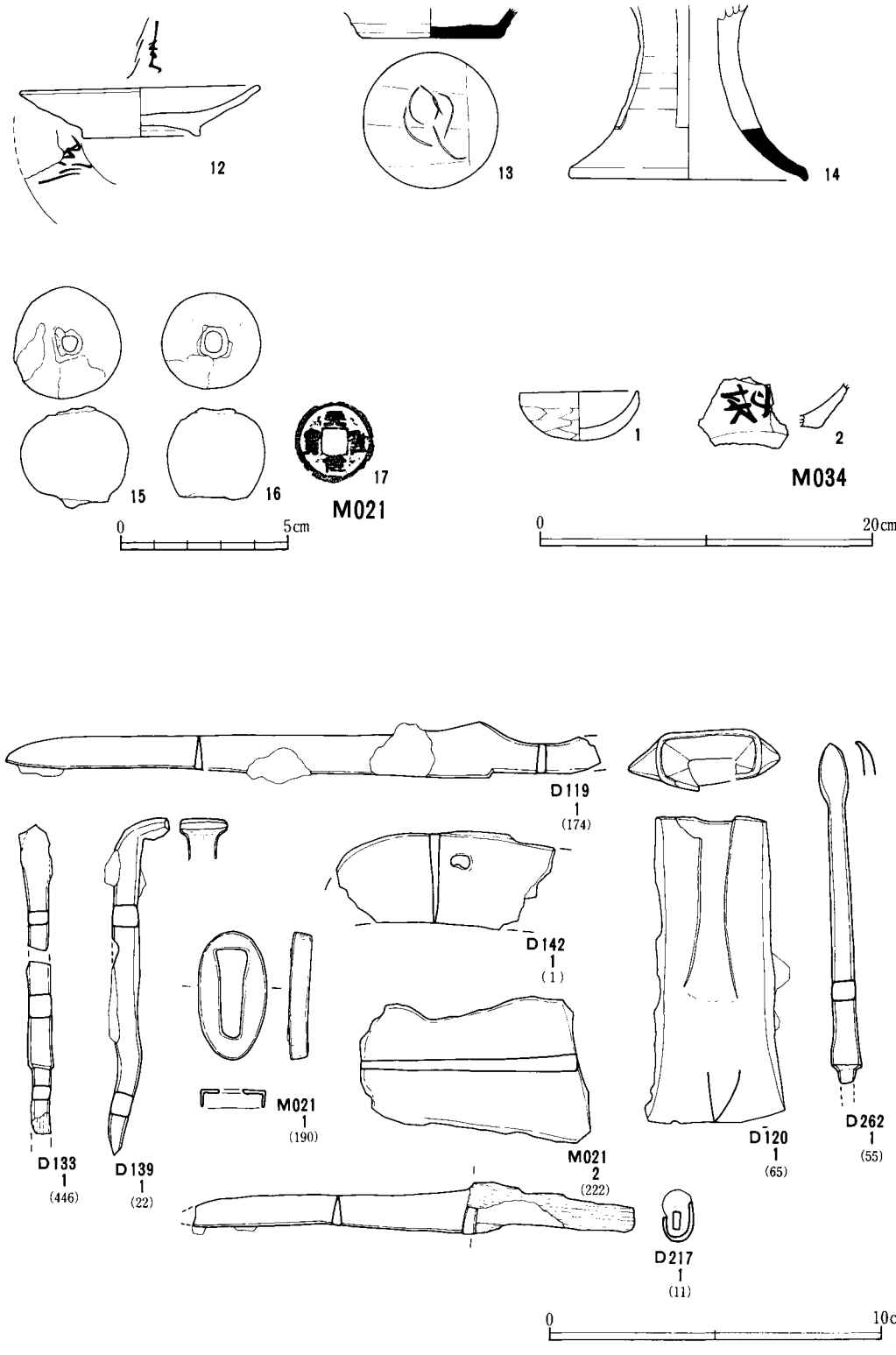
PL. 157　歴史時代2群A遺物実測図 13



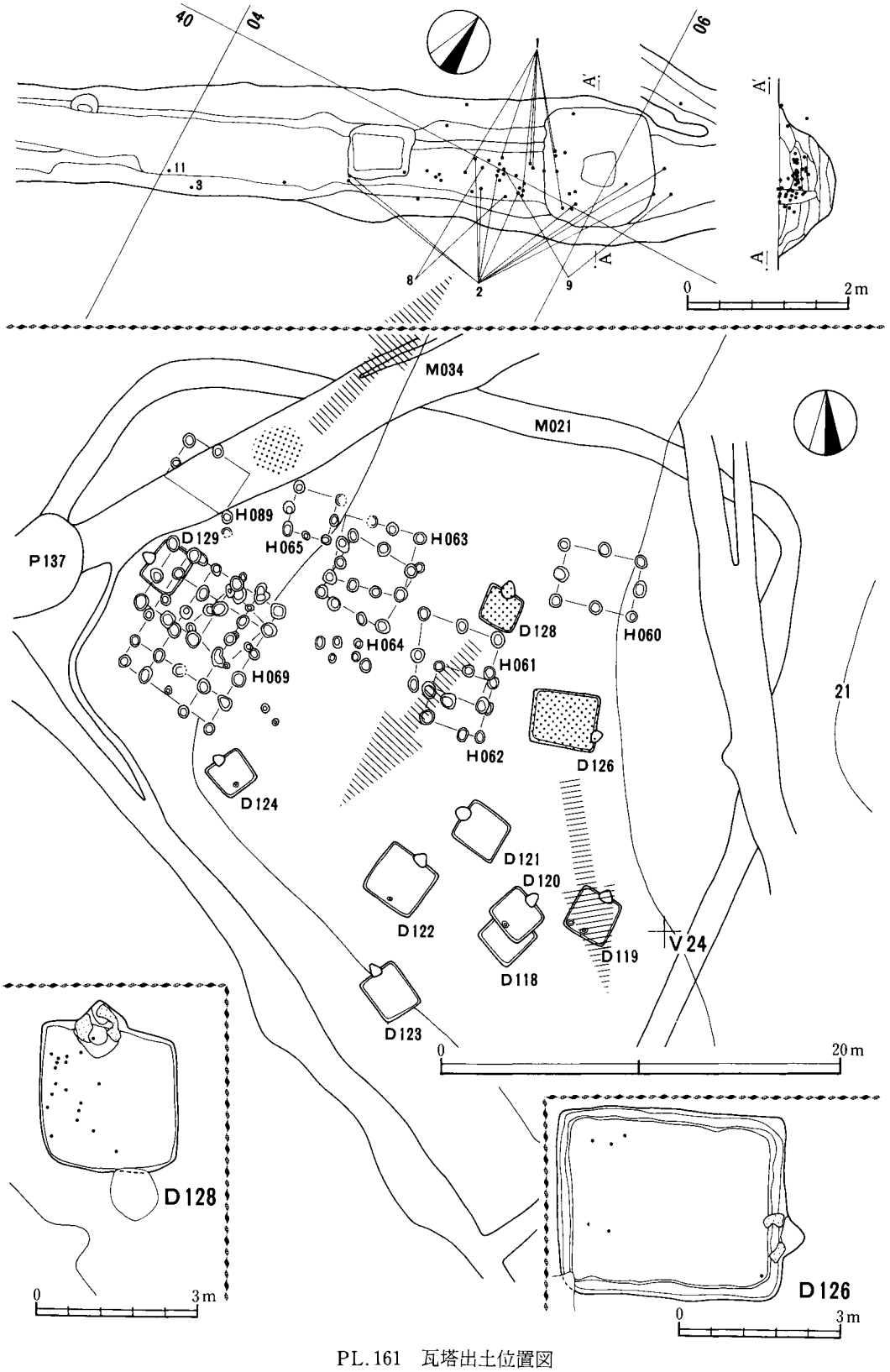

PL.158　歴史時代2群A遺物実測図 14



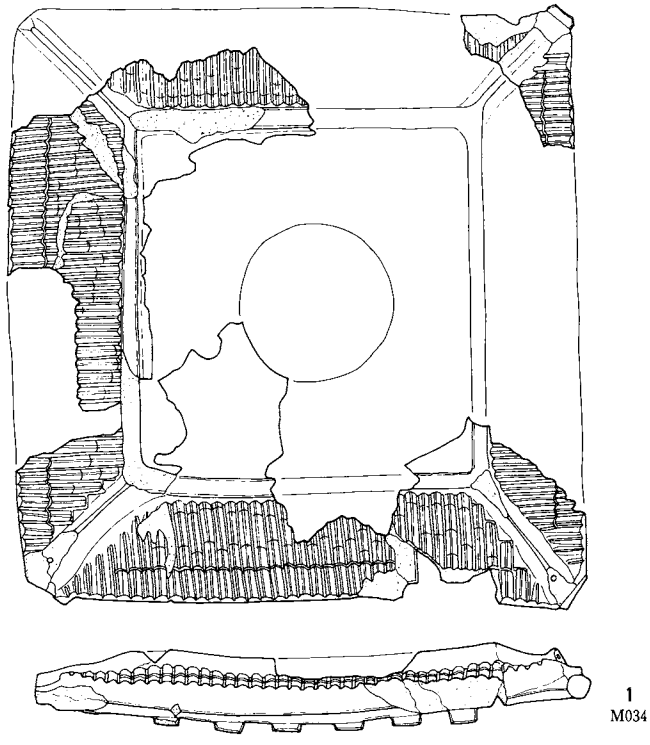

PL.159　歴史時代2群A遺物実測図 15



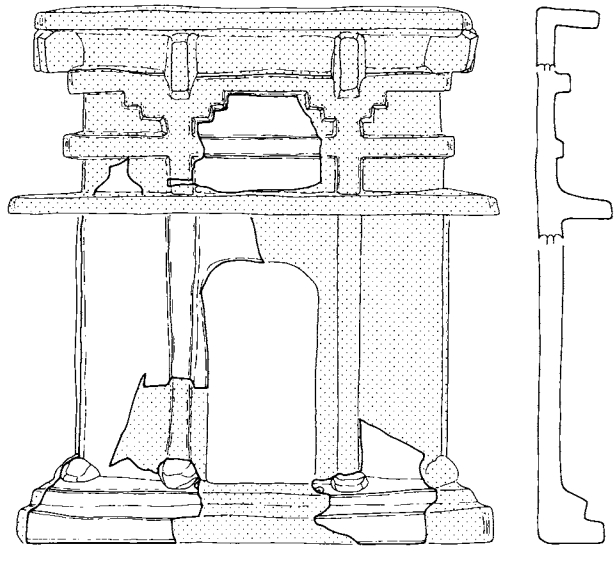

PL.160　歴史時代2群A遺物実測図 16・鉄製品実測図




PL.161　瓦塔出土位置図



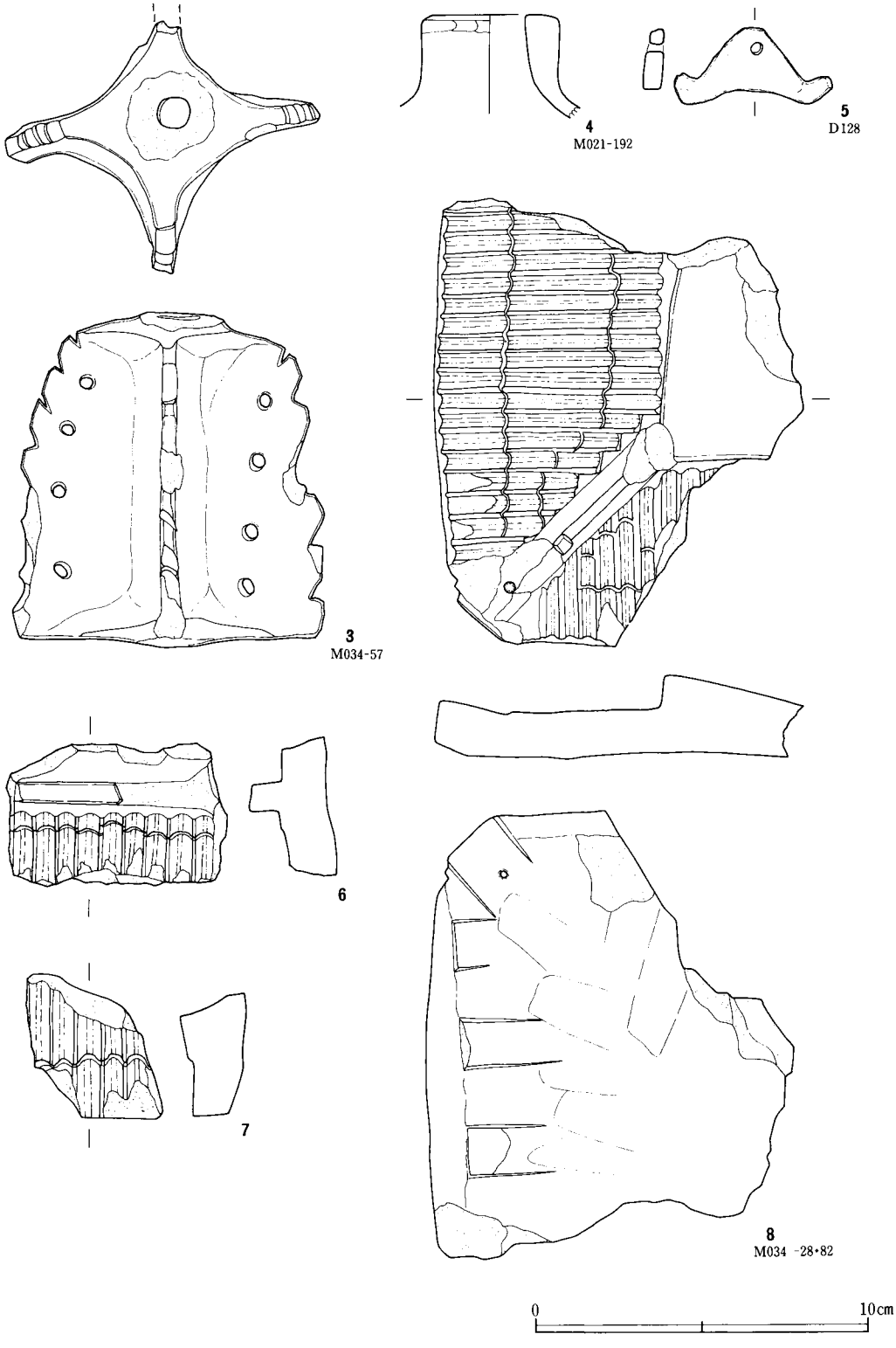
1
M034



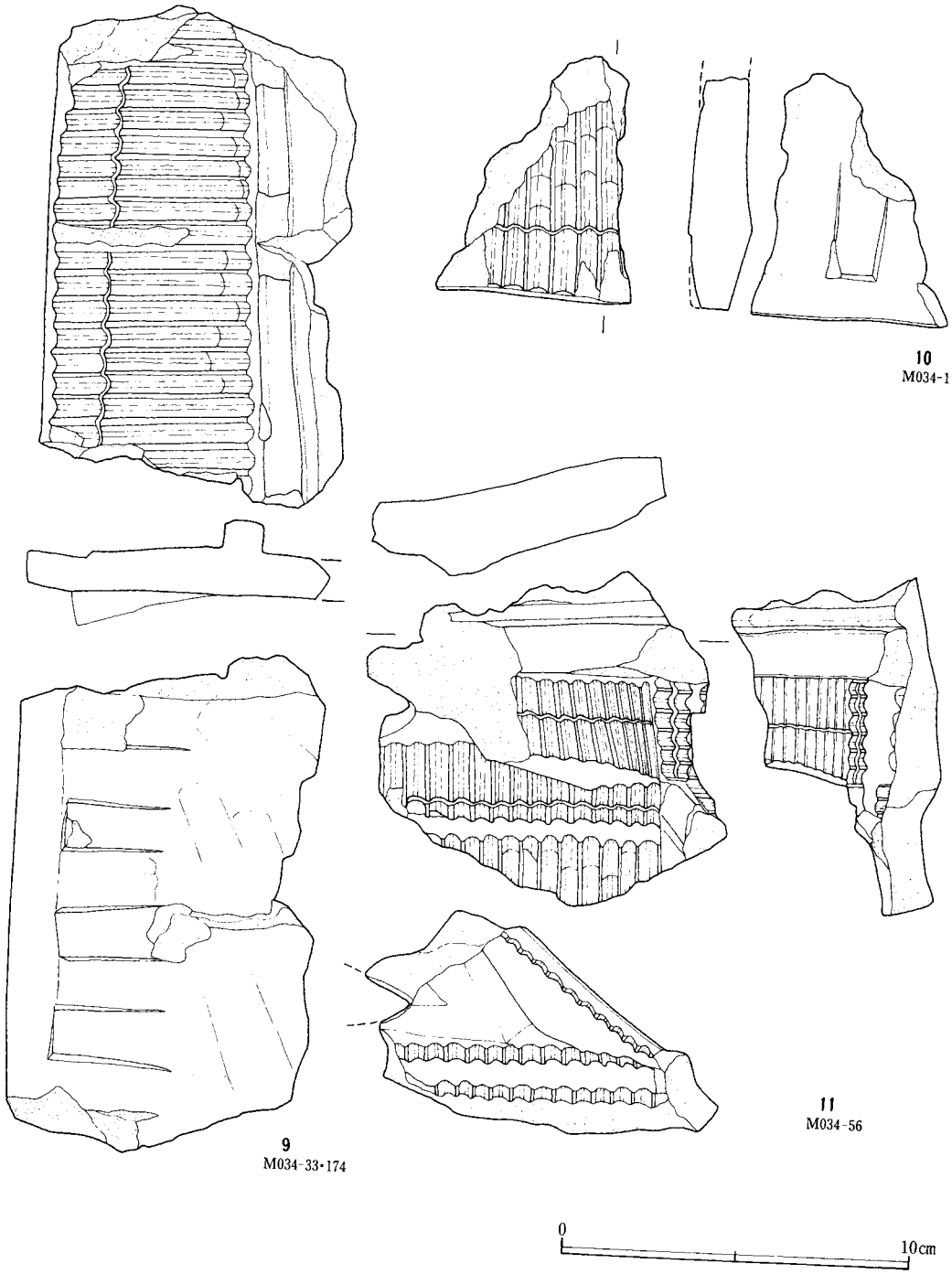
2
M034

0 20cm

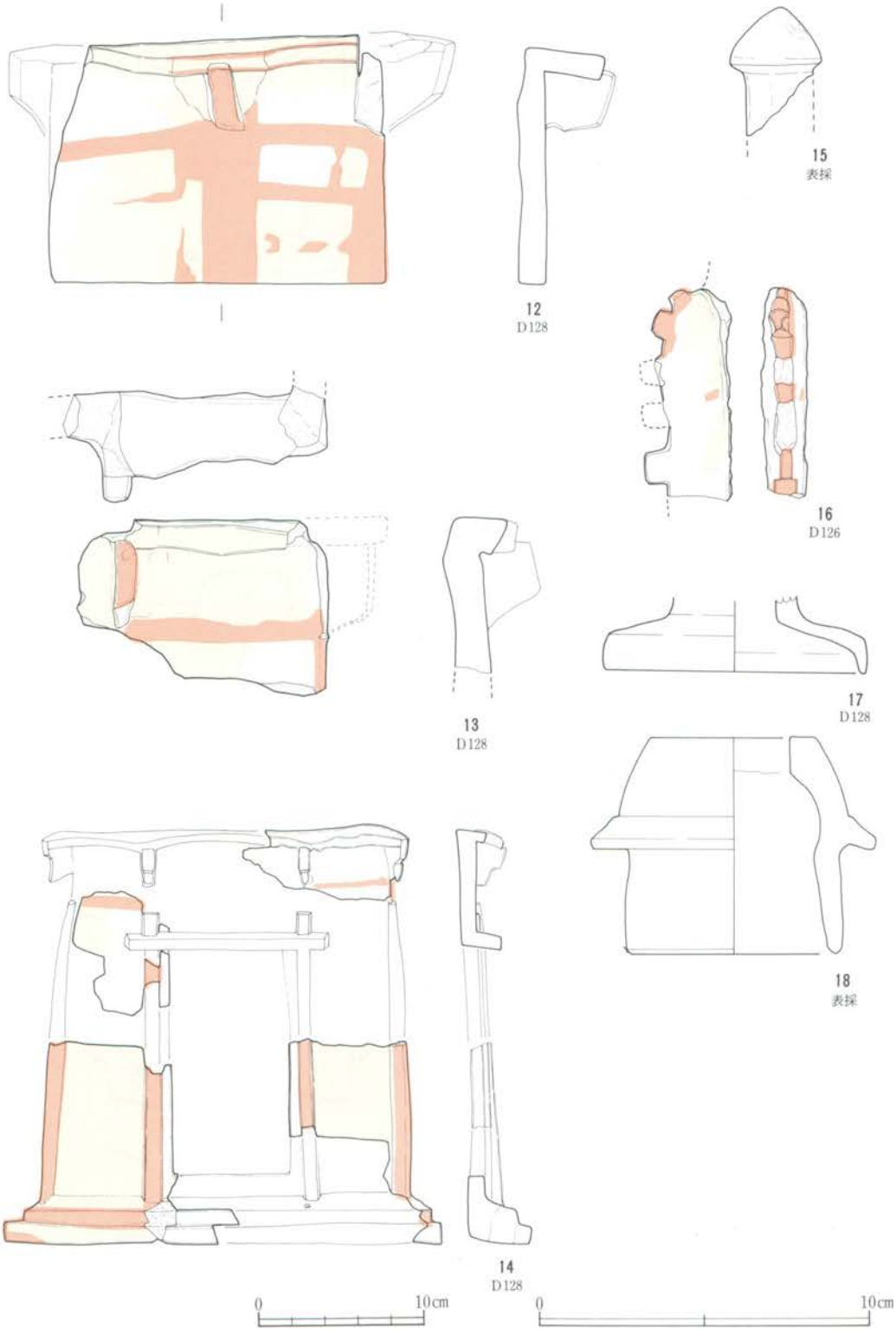
PL.162　瓦塔実測図 1



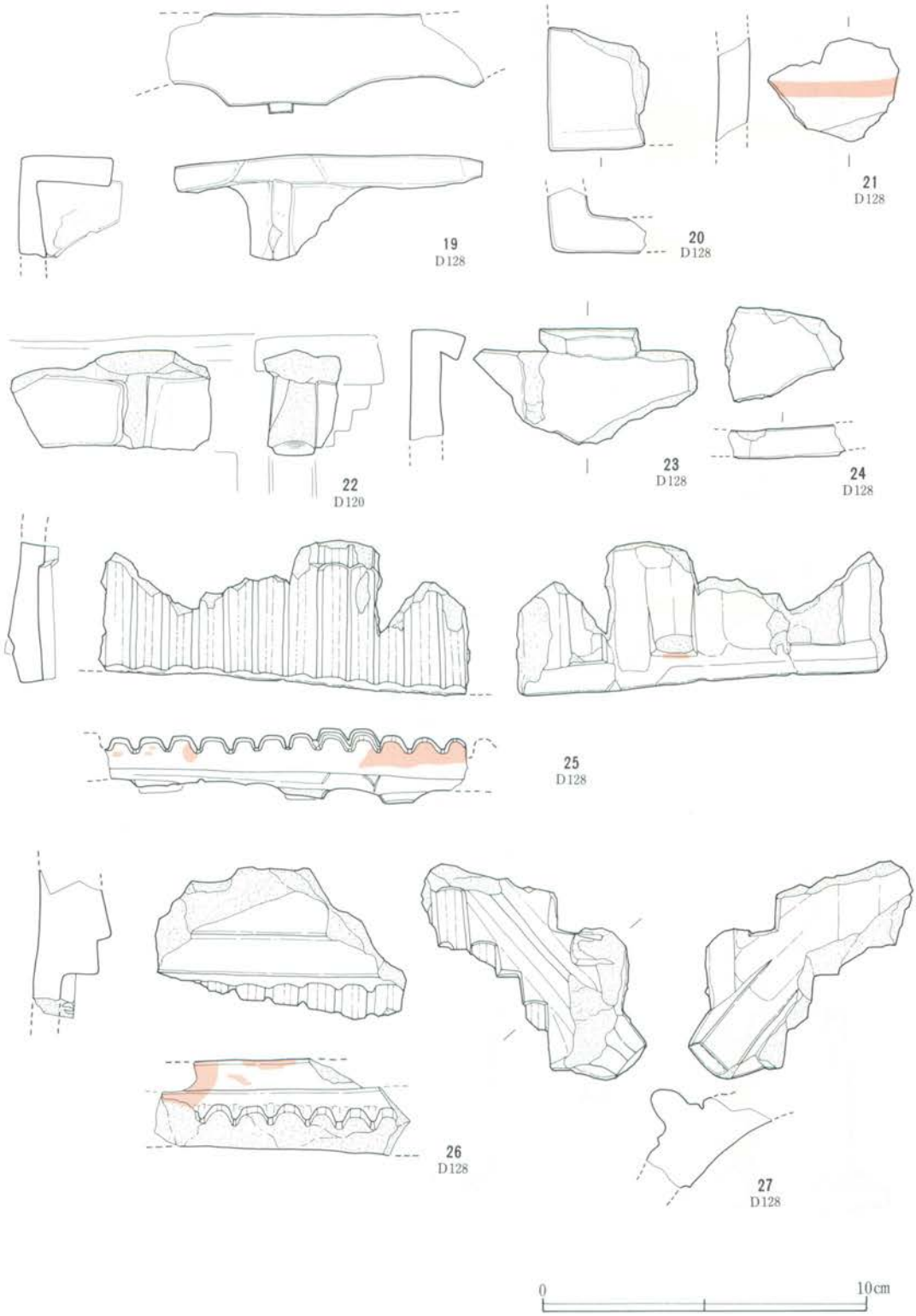

PL.163　瓦塔実測図 2



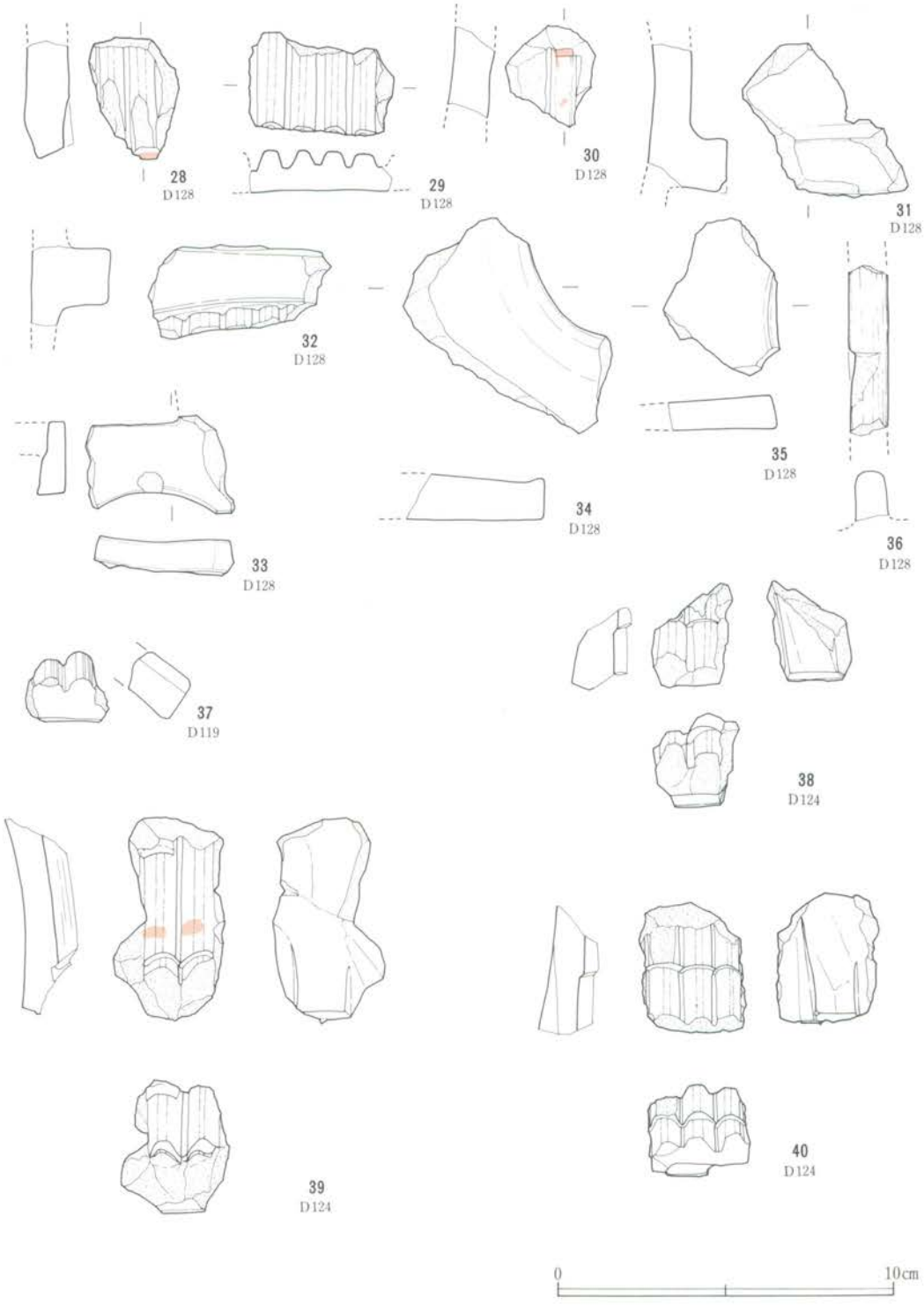

PL. 164　瓦塔実測図 3



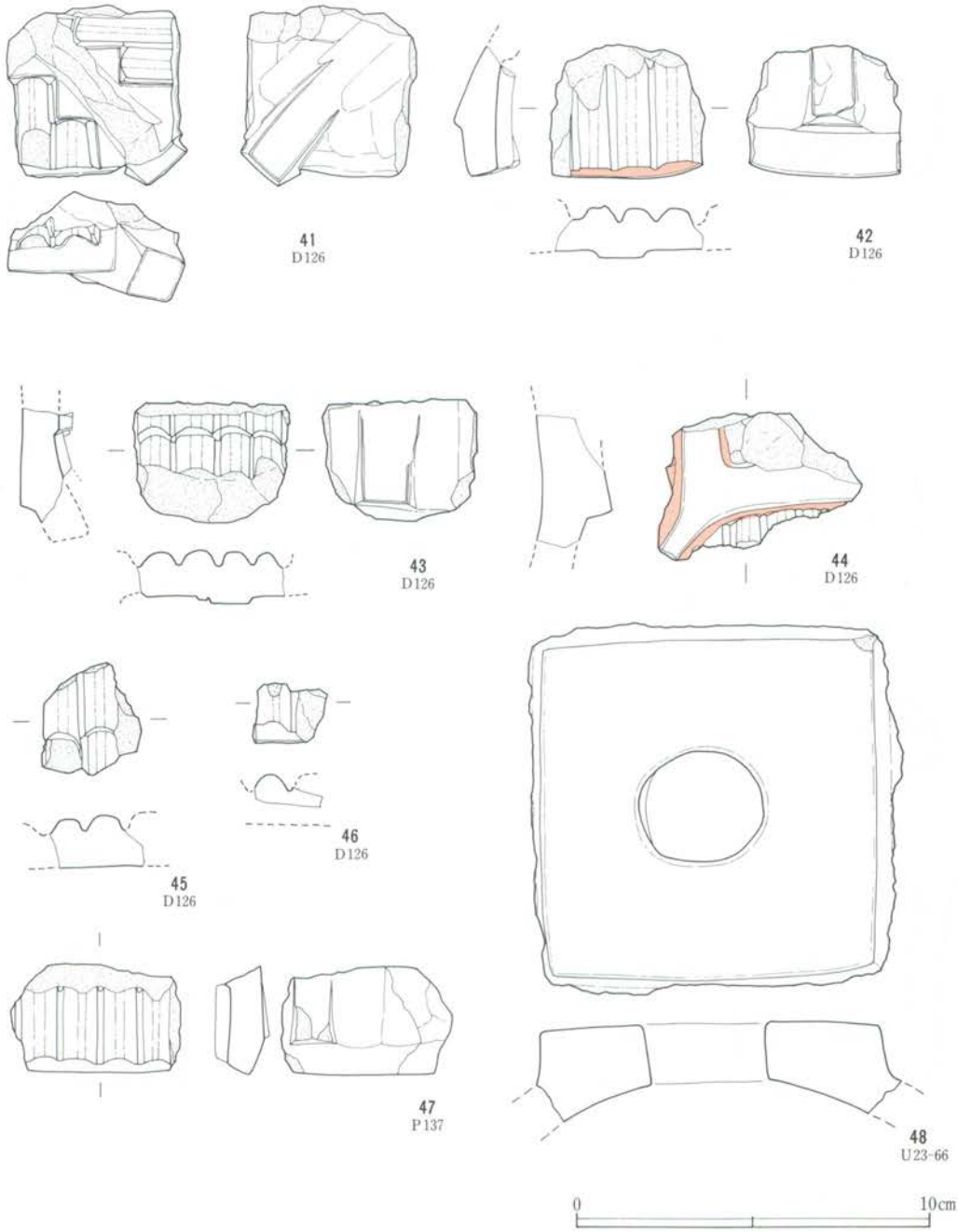

PL.165　瓦塔実測図 4




PL.166　瓦塔実測図 5




PL.167　瓦塔実測図 6

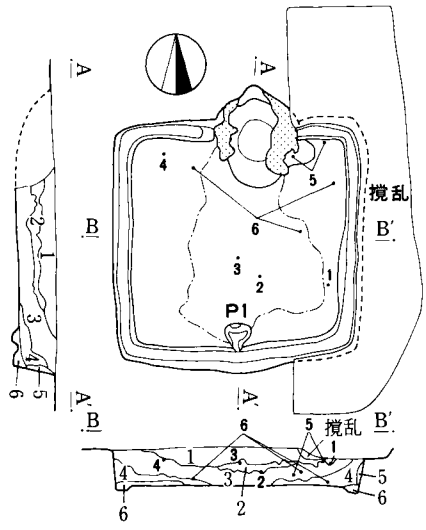



PL.168　瓦塔実測図 7

PL. 169　歴史時代2群A文字資料抜萃

D039　D041の西側に位置する住居で、規模は3.3m×3.3mを測る。カマドに対峙する南壁際中央に出入口ピットがある。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

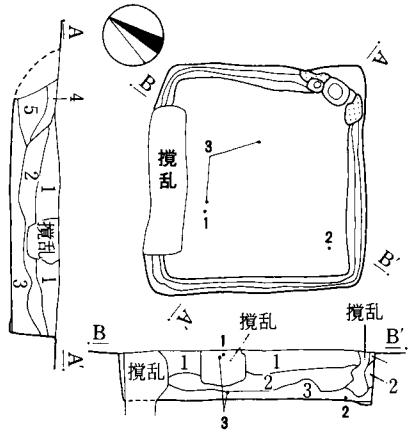
1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を全体にかなり多く含んでいる。
2　褐色土　ローム粒及び砂質土を多く含む。
3　褐色土　ローム粒を多く含む。
4　黒褐色土　ソフトロームを僅かに含む。
5　黄褐色土　ソフトロームを主体とする。
6　黄褐色土　ロームブロックを主体とする。




D039

D040　D041の北側に位置する住居で、規模は2.9m×2.9mを測る。カマドは東コーナーに設置され、僅かに袖材が残されている。煙道部の張り出しはほとんどない。

1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック含む。
2　黒色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。
3　褐色土　ロームブロックを多く含む。
4　褐色土　ロームブロックを多く含む。
5　褐色土　ローム粒・ロームブロック・灰白色砂質土を多く含む。



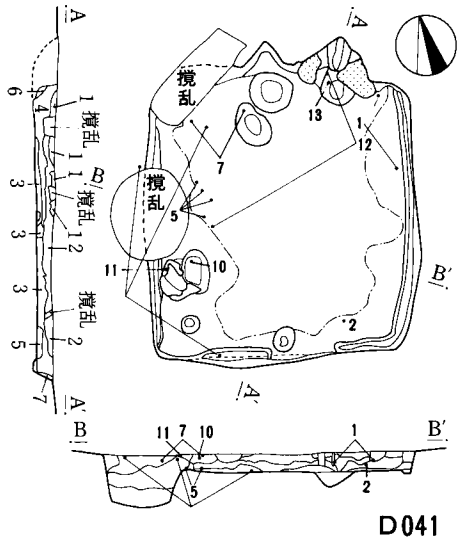

D040

0　4m

PL.170　D039・D040実測図

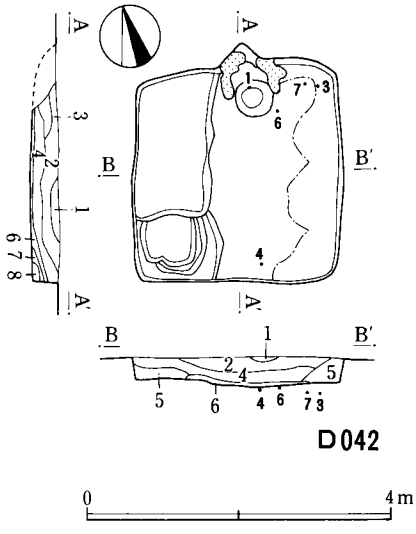
D041　D039の東側に位置する住居で、埋土はローム粒と共に焼土粒・炭化材が目だつ。床面直上には焼土・炭化材が堆積しているが、炭化材はかなり細かく散乱しており、住居廃絶後に廃棄した可能性がある。

1　黒褐色土　堆積密。
2　黄褐色土　ローム粒及びロームブロックを含む。
3　黒褐色土　全体に炭化材及び焼土が目立つ。
4　黒褐色土　ローム粒と少量の炭化材を含む。
5　黄色土　ソフトロームを多く含む。
6　赤褐色土　山砂と焼土を多く含む。
7　褐色土　ローム分を含む。




D042　D041の南東に位置する住居で、柱穴・壁溝はないが、南西コーナーに直径0.8m、床面から0.1mの深さのピットがある。また、このピットから西壁に沿って北壁まで、幅1.0mで床面が0.1m高くなっている。

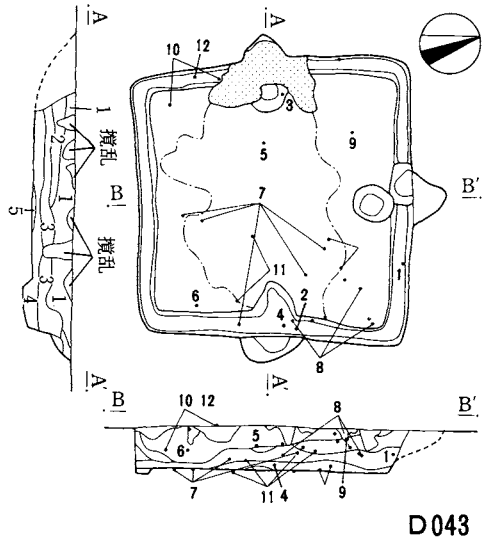
1　黒色土　ローム粒を若干含む。
2　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
3　暗褐色土　白色砂質土を多く含み、又焼土粒子も若干含む。
4　褐色土　ローム粒を多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒を少し含む。
6　黒色土　炭化粒を多く含む。
7　明褐色土　ローム主体で、若干の黒色土含む。
8　黒褐色土　黒色土とロームが混在している。




PL.171　D041・D042実測図

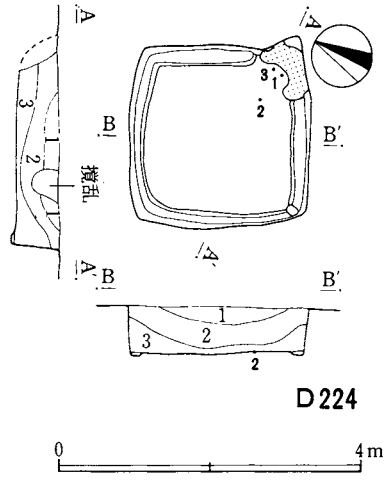
D043　床面にかなり近いレヴェルに焼土並びに炭化材が散乱し、火災住居の可能性が高い。北壁のカマド痕跡は袖材はまったく残されておらず、煙道部の状況や出入口ピットの位置から一概に旧カマドとして認識するのには問題がある。

1　黒褐色土　褐色土をブロック状に含み、ローム粒を含む。
2　暗褐色土　褐色土をブロック状に含み、山砂を含む。
3　黒褐色土　ローム粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒を含み、焼土・炭化材を多量に含む。
5　黒色土
6　黒褐色土　褐色土を含む。




D224　D040の北西に位置する住居で、規模は2.4m×2.4mを測る。柱穴はなく、壁溝はカマド部分を除いて巡っている。カマドは東コーナーに設置され、袖材が僅かに残されている。

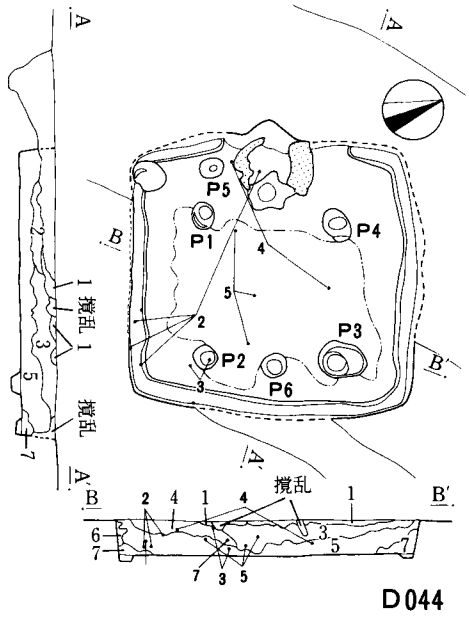
1　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
2　黒色土　ローム粒をブロック状に多量に含む。
3　暗褐色土　ローム粒を多く含む。



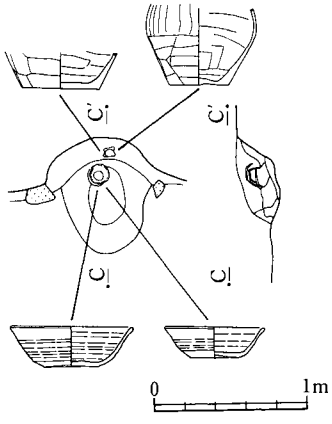

PL.172　D043・D224実測図

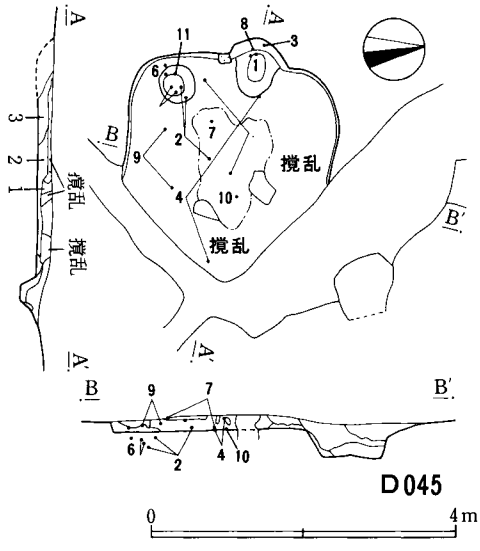
D044　H018の西側に位置する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P1は直径0.3m、床面から0.5mの深ちを測る。また、P1とP2の間に1箇所、カマド左側に2箇所のピットがある。

1　褐色土　ローム粒及び焼土粒を少し含む。
2　褐色土　砂質土を含む。
3　褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
4　黒褐色土　焼土粒を少し含む。
5　黒褐色土　ロームブロックを多く含む。
6　黄色土　ロームを主体とする。
7　黄褐色土　ロームブロックを主体とする。



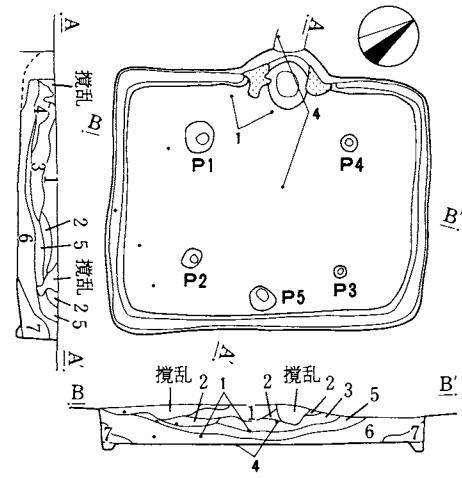

1　黒褐色土
2　黄褐色土　ローム粒を含む。
3　褐色土　砂質土を含む。
4　黄褐色土　ローム粒を多く含む。



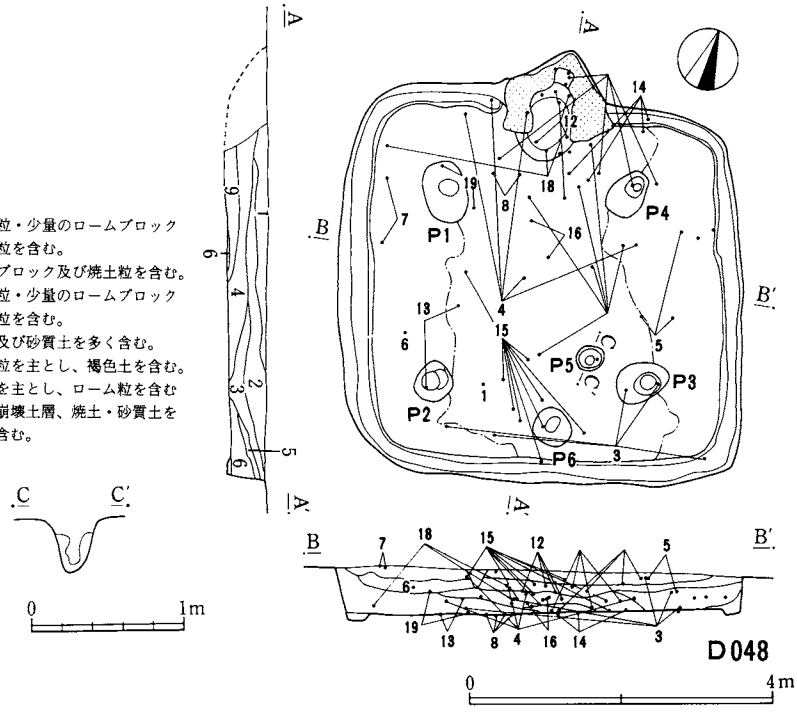

PL.173　D044・D045実測図

1　黒色土　ロームブロックを多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。
3　明褐色土　ローム粒・ロームブロック・白色粘土ブロックを含む。
4　明褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化材を含む。
5　黒色土　ローム粒・ロームブロック少し含む。
6　褐色土　ローム粒・ロームブロック多く含む。
7　黒色土　ローム粒・ロームブロック含む。




D046

1　黒色土　ローム粒・少量のロームブロック・焼土粒を含む。
2　明褐色土　ロームブロック及び焼土粒を含む。
3　黒褐色土　ローム粒・少量のロームブロック・焼土粒を含む。
4　明褐色土　焼土粒及び砂質土を多く含む。
5　明褐色土　ローム粒を主とし、褐色土を含む。
6　黒褐色土　黒色土を主とし、ローム粒を含む
7　褐色土　カマド崩壊土層、焼土・砂質土を多量に含む。

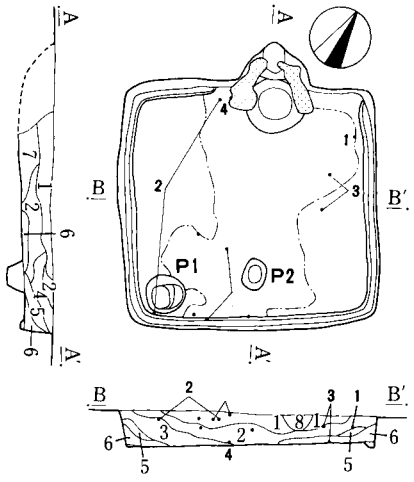



D048

PL.174　D046・D048実測図

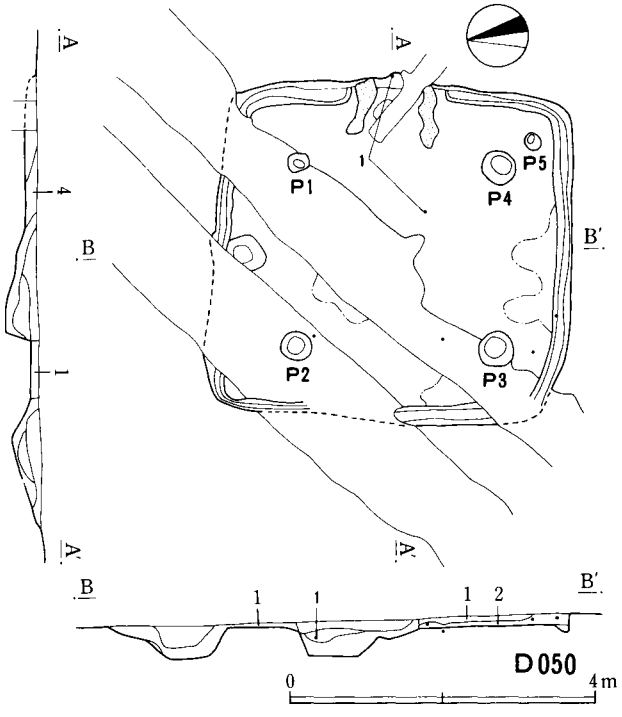
D049　D048の西側に位置する住居で、住居南コーナーに直径0.5mのピットがある。また、南東壁際中央に出入口ピットがある。

1　暗褐色土　黒色土を部分的にブロック状に含む。小さなロームブロック・焼土粒を少量含む。
2　黒褐色土　ローム粒及びロームブロック・黒色土・褐色土が混在する。焼土粒を含む。
3　明褐色土　ローム粒を多量に含む。
4　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
5　暗褐色土　ローム粒を含む。
6　明褐色土　ローム粒を多く含み、床面付近に焼土が多く見られる。
7　明褐色土　カマド崩壊土。
8　暗褐色土　ローム粒を少量含む。




D050　柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P4は直径0.4m、床面から0.6mの深さを測る。また、南東コーナーに近い位置に直径0.2mのピットがある。カマドは東壁中央に設置されるが、北壁中央にもカマドの痕跡がある。北壁のカマドはほとんど痕跡を残すだけであるが、東壁のカマドは袖材も残されている。

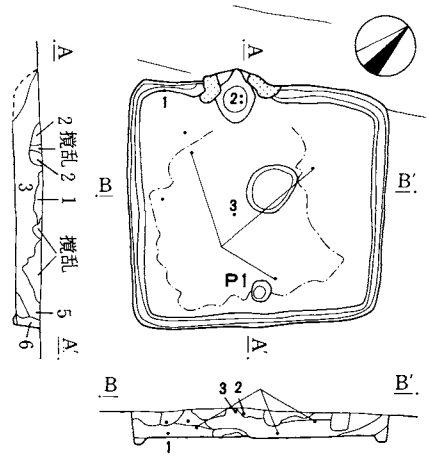
1　暗褐色土　ローム粒及び若干の黒色土粒を含む。
2　黒色土　ロームブロックを含む。
3　明褐色土　ローム粒を多く含む。
4　黒色土　白色砂質土ブロックを多く含む。




PL.175　D049・D050実測図

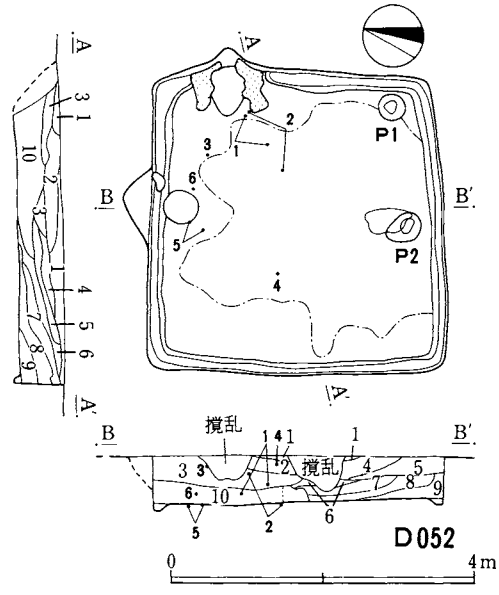
D051　埋土はローム粒・焼土粒を多く含んでいる。柱穴はなく、住居中央に直径0.6mの浅いピットがある。また、南東壁際中央に出入口ピットがある。

1　黒褐色土　ローム粒を少し含む。
2　暗褐色土　砂質土・焼土粒を多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒及び焼土粒を全体的に含み、部分的に焼土ブロックを含む。
4　暗褐色土　ローム粒を含む。
5　黒褐色土　ローム粒を含む。
6　明褐色土　ロームを主体とする。

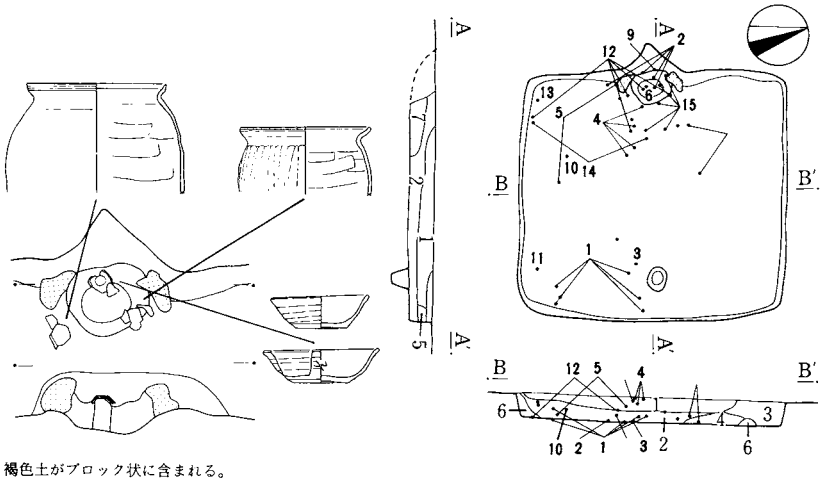



D052　南壁際中央に出入口ピットがある。出入口ピットは他の住居と比較して著しく浅いもので、ピット上面に焼土・白色粘土を主体とした土層が硬化して堆積していた。カマドは北壁中央と東壁の北東コーナー寄りの2箇所にある。

1　暗褐色土　細かなロームブロックを若干含む。
2　明褐色土　ローム粒を多く含む。
3　黒色土　赤褐色土ブロック・ロームブロックを若干含む。
4　褐色土　ロームブロックを多く含む。
5　黒色土　ロームブロックを多く含む。
6　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
7　黒色土　ロームブロックを含む。
8　明褐色土　ロームブロックを含む。
9　明褐色土　ロームブロックを少し含む。
10　黒褐色土　ロームブロックを多量に含む。

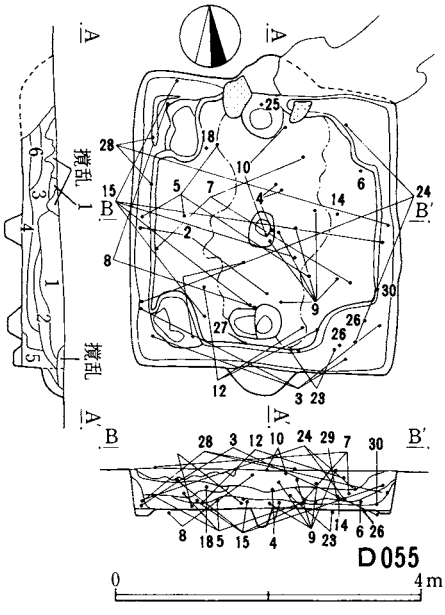



PL.176　D051・D052実測図




1　黒褐色土　褐色土がブロック状に含まれる。
2　暗褐色土　褐色土がブロック状に含まれ、ローム粒を含む。
3　暗褐色土　ローム粒をわずかに含む。
4　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
5　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒をわずかに含む。
6　明褐色土　ローム粒を主体とする。

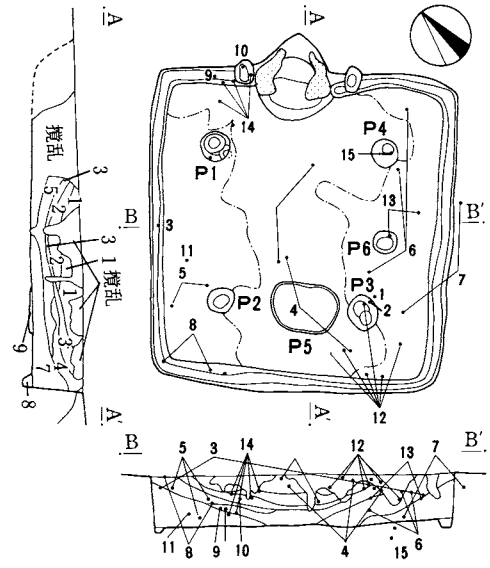
D055　構造的に柱穴と呼べるものはないが、住居各コーナーが浅くくぼみ、コーナーに4本の柱を立てていたことがわかる。また、住居中央に直径0.3mのピットがある。なお、南壁際中央に出入口ピットがあり、この部分の壁が0.3m張り出している。




1　黒褐色土　褐色土をブロック状に含み、ローム粒を全体に含む。
2　暗褐色土　褐色土・ローム粒・黒色土が均一に含まれる。
3　暗褐色土　2層に比べローム粒が少ない。
4　黒褐色土　ローム粒を含む。
5　暗褐色土　ローム粒・褐色土・黒色土の混合土。
6　褐色土　カマド崩壊土。

PL.177　D054・D055実測図

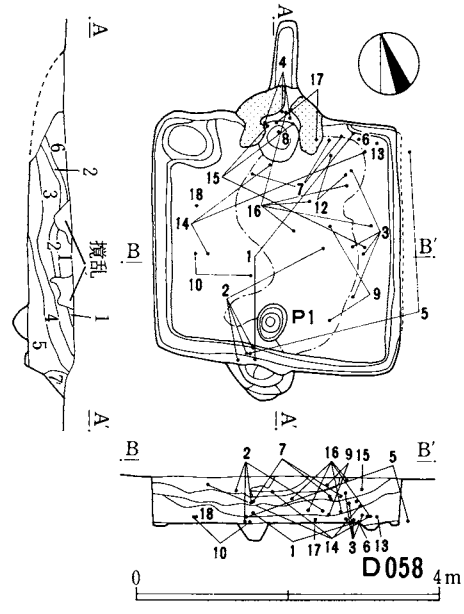
1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを若干含む。
2　褐色土　ローム粒及びローム粒を多く含む。
3　黒色土　ロームブロック・ローム粒を多く含む。
4　褐色土　ロームブロックを少し含む。
5　黒色土　ロームブロック・ローム粒を僅かに含む。
6　褐色土　ロームブロック及びローム粒を非常に多く含む。
7　暗褐色土　ローム粒はかなり少なく、ロームブロックをやや含む。
8　明褐色土　黒色土粒をやや多く含む。
9　黒色土　細かなロームブロックをやや含む。




D057

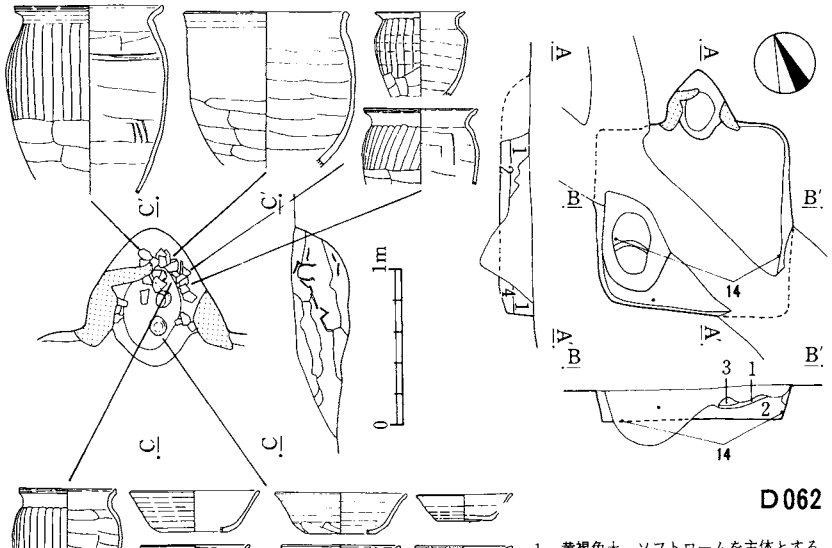
D058　H022の南側に位置する住居で、柱穴はなく、北コーナーに直径0.7mのピットがある。また、南西壁際中央に出入口ピットがあり、その部分の壁が僅かに張り出している。カマドは北東壁中央に設置され、煙道部は幅0.3m、長さ1.3mの溝状となる。

1　黒色土　ローム粒若干含む。褐色土粒をブロック状に若干含む。
2　褐色土　ローム粒を若干含み、黒色土粒をブロック状に若干含む。
3　黒色土　細かいロームブロックをやや多く含む。
4　褐色土　ローム粒がやや多い。又細ロームブロックを多く含む。
5　暗褐色土　ロームブロックは少なく、ローム粒・黒色土粒が多い。
6　褐色土　黒色土粒をブロック状に若干含む。
7　明褐色土　ローム粒を主体とする。

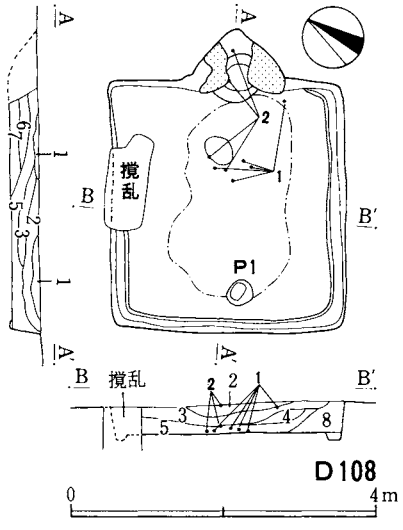



D058

PL.178　D057・D058実測図




1　黄褐色土　ソフトロームを主体とする。
2　黒褐色土　ローム粒と焼土粒を主体とする。
3　黒褐色土　ローム粒を多く含む。
4　黄褐色土　ソフトロームを主体とする。

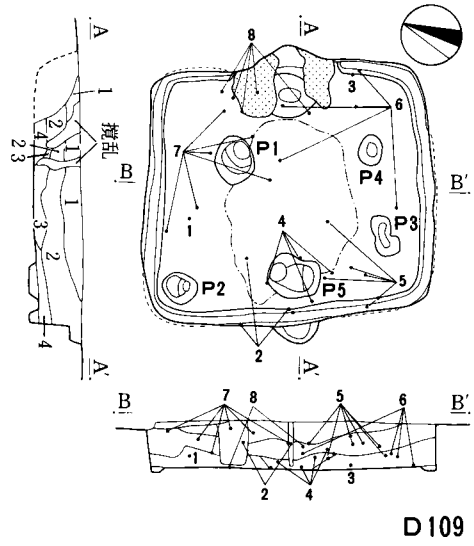



1　黄褐色土　全体にローム分が多い。
2　褐色土　ロームブロックを全体に含む。
3　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。ごく少量の焼土粒を含む。
4　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。
5　褐色土　ローム粒を多く含む。
6　褐色土　砂質土が全体に混入。
7　黒褐色土　砂質土をブロック状に含む。
8　黄褐色土　ロームを多く含む。

PL.179　D062・D108実測図

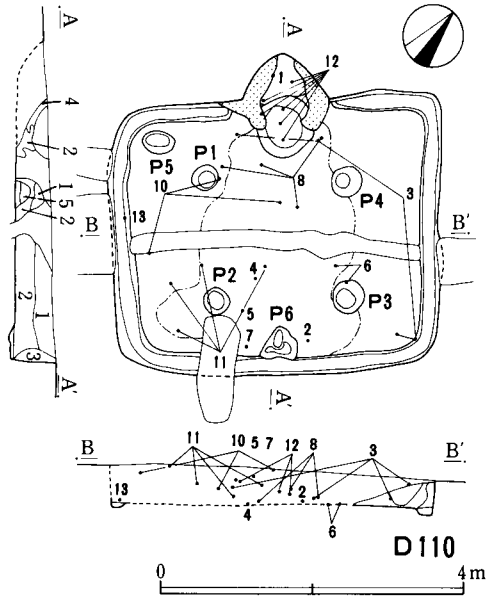
D109　D110の南側に位置する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所あるが、P2が西コーナーに接している。また、P1・P2は2段に掘り込まれている。P1は直径0.6m、床面から0.3mの深さを測る。

1　黒褐色土　ローム粒を全体に含む。
2　黄褐色土　ローム粒を全体に含む。
3　黒色土　黒色土と暗褐色土が斑状に混じる。
4　黒褐色土　ローム粒を含む。
5　黄褐色土　ロームを斑状に含む。

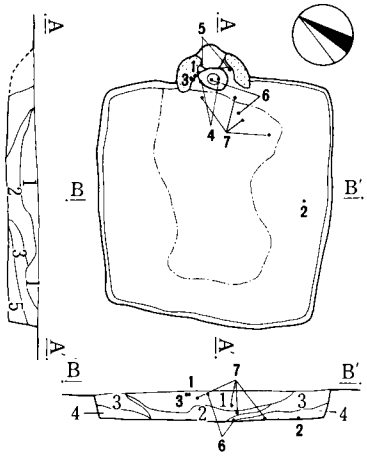



D110　D109の北側に位置する住居で、柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P3は直径0.4m、床面から0.5mの深さを測る。また、西コーナーに接して直径0.4mのピットがある。なお、南東壁際中央に出入口ピットがある。

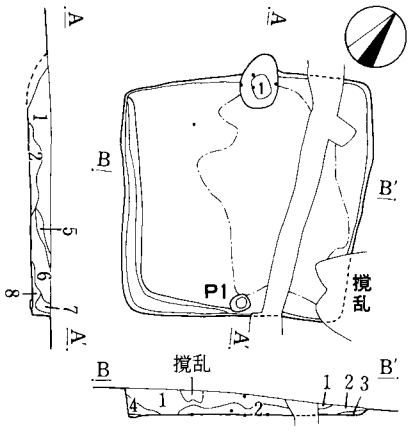
1　黒褐色土　焼土及びローム粒子を全体に含む。
2　褐色土　焼土・ローム粒を含む。
3　黄色土　ソフトロームを主体とする。
4　黒色土　堆積密。
5　灰褐色土　山砂が混入している。




PL.180　D109・D110実測図



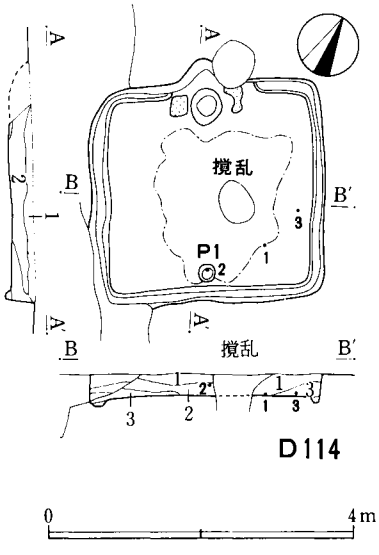

D111




D112

1　黒色土　ロームブロック及びローム粒を多量に含む。
2　黄褐色土　ローム粒・ロームブロックを主体とする。
3　褐色土　褐色土とローム粒の混合層。
4　黒色土　ロームブロックを含む。
5　褐色土　ロームブロックを多く含む。
6　黒色土　ローム粒を含む。

D111




D112

1　黒褐色土　ローム粒を全体に含む。
2　黒褐色土　ロームブロック・山砂のかたまりを含む。
3　黄色土　ロームブロックの間に少量の黒色土を含む。
4　黒色土　ローム分が少量含まれる。
5　黒色土　ローム粒を全体に含む。
6　黒褐色土　ローム粒を含む。
7　黒色土　ローム分が多い。
8　黄褐色土　ロームにごく少量の黒色土が混入。

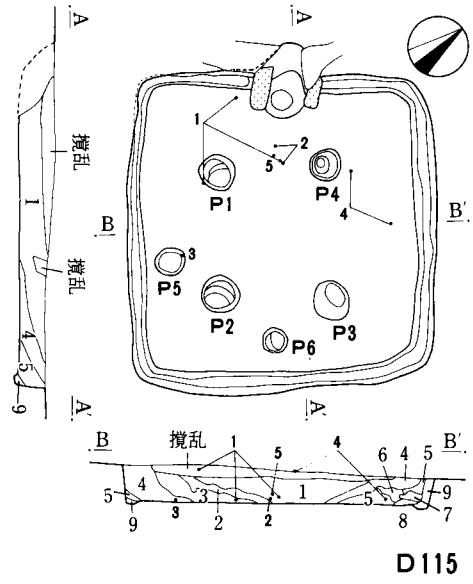
1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　黒褐色土　ローム粒を含む。
3　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。

D114

PL.181　D111・D112・D114実測図

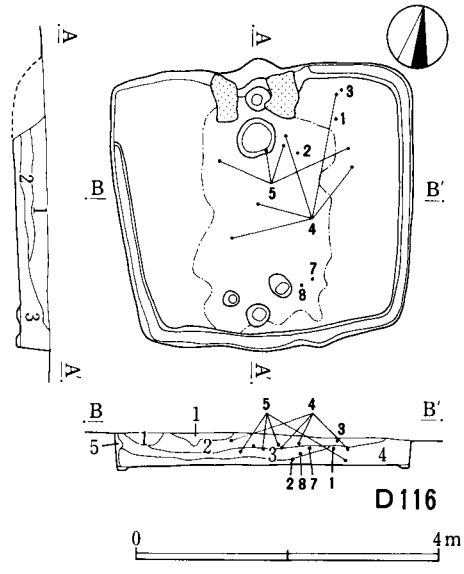
D115　柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P3を除いて2段に掘り込まれている。P1は直径0.5m、床面から0.4mの深さを測る。また、P1とP2のあいだの南西壁際に直径0.4mのピットがある。なお、南東壁際中央に出入口ピットがある。

1　黄褐色土　ロームブロック・焼土粒を多く含む。
2　黄色土　ロームブロックを主体とする。
3　黒褐色土　ロームブロックを多く含む。
4　褐色土　ロームブロックを多く含む。
5　黒褐色土　ローム粒を全体に含む。
6　黄褐色土　ごくわずかにローム粒を含む。
7　黄色土　ロームブロックを主体とする。
8　黄褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
9　黄褐色土　ローム粒を多く含む。




D116　D198の東に位置する住居で、柱穴はなく、南壁際中央に3箇所のピットがある。床面はピットからカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

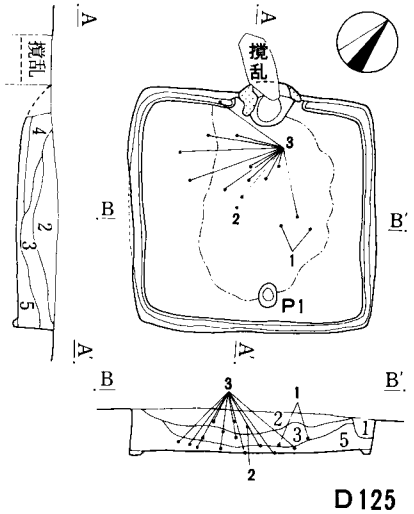
1　黒色土　ローム粒を全体に含む。
2　黒褐色土　ローム粒を全体に含む。ごく少量の焼土粒も含む。
3　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を多く含む。
4　黒色土　ローム粒・焼土粒を少し含む。
5　黄色土　ソフトロームを主体とする。



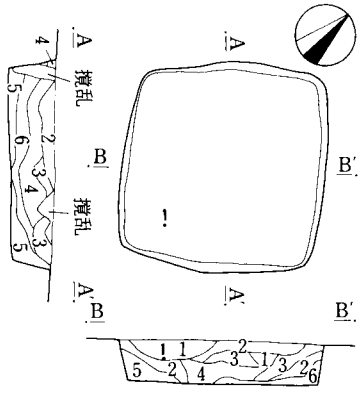

PL.182　D115・D116実測図

D125　規模は3.2m×3.1mを測り、柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　黒色土
2　黒色土　ごくわずかにローム粒を含む。
3　黒褐色土　ローム粒を含む。
4　灰褐色土　白色砂質土を全体に含む。焼土粒を少量含む。
5　黄褐色土　ロームブロックを含む。

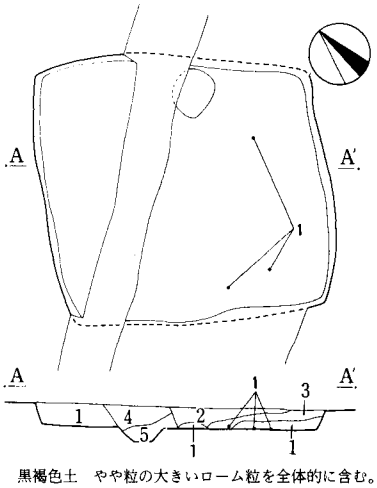



D125




1　黒褐色土　黒色土・ローム粒・褐色土の混合土。焼土粒を含む。
2　黒色土　ローム粒を含む。
3　暗褐色土　ローム粒を多量に含む。
4　褐色土　黒色土・ローム粒を多量に含む。
5　明褐色土　ローム粒・褐色土主体。
6　暗褐色土　ローム粒を含む。

D191



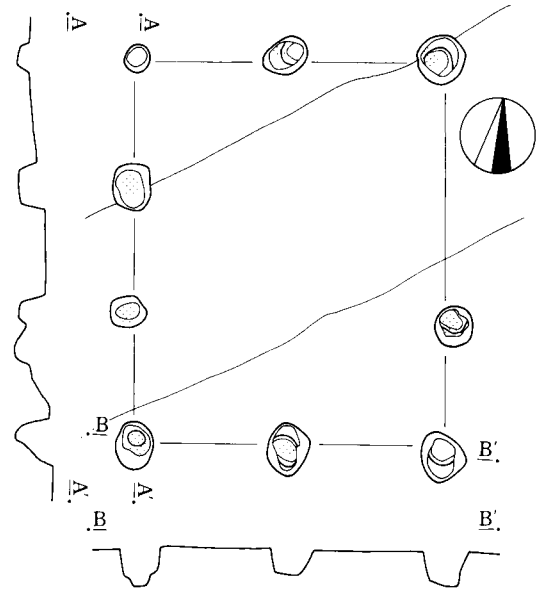

1　黒褐色土　やや粒の大きいローム粒を全体的に含む。
2　暗褐色土　ローム粒をほとんど含まない。
3　褐色土　ローム粒をほとんど含まない。
4　暗褐色土　黒色土を小ブロック状に含む。
5　褐色土　ローム粒を少量含む。

D198

0　4m

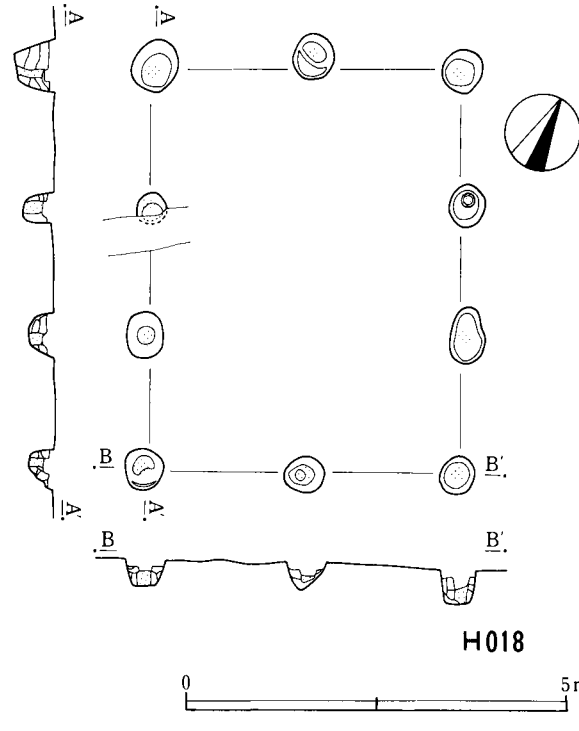
PL.183　D125・D191・D198実測図

H017　H018に隣接する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－8°－Wを指し、桁行長5.0m、梁行長4.1mを測る。柱間寸法は1.6～1.8mで、溝状遺構にかかる部分で堀方が検出できなかった部分がある。堀方は直径0.4～0.6mの円形で、確認面から0.3～0.5mの深さを測る。



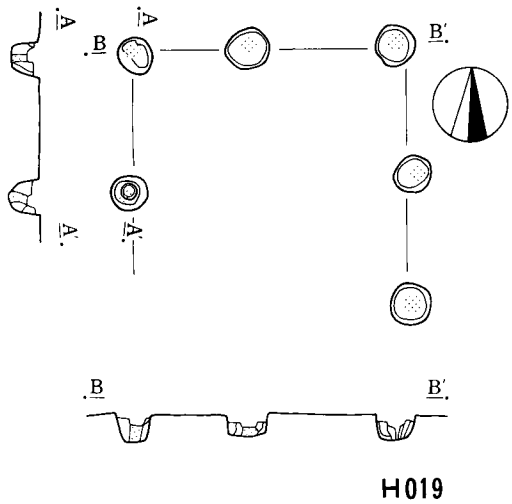

H017

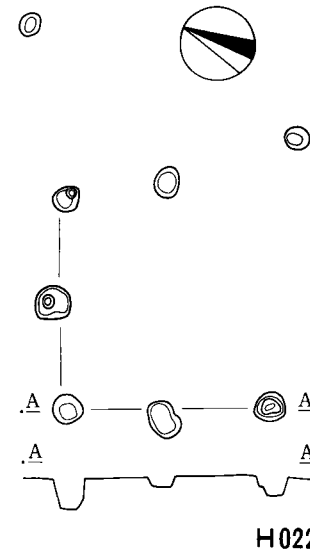
H018　H017に隣接する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－28°－Wを指し、桁行長5.2m、梁行長4.1mを測る。柱間寸法は1.8～2.0mで、妻側が若干広い。堀方は直徒0.4～0.6mの円形で、確認面から0.3～0.5mの深さを測る。埋土は全体にローム粒を含んでいる。




H018

PL.184　H017・H018実測図

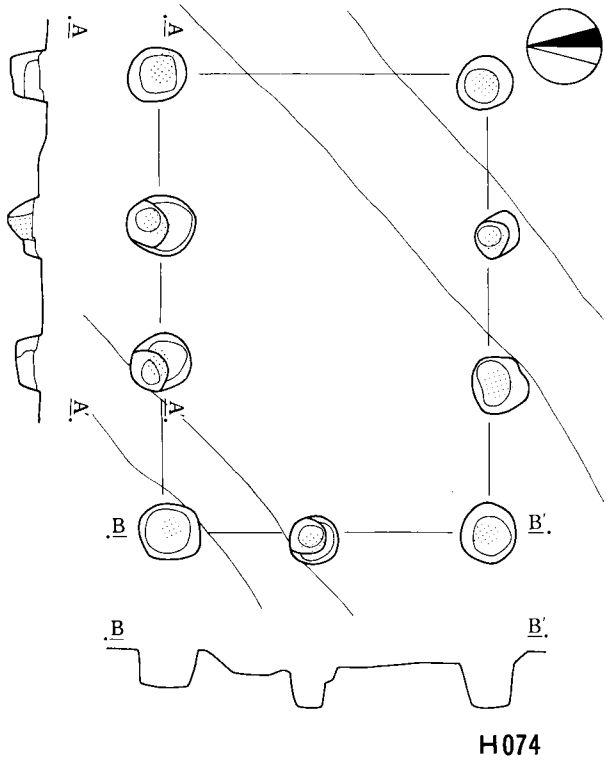


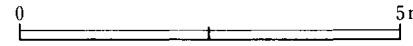




H019　H074の東に位置する建物で、桁行は2間分が確認できた。本来は3間×2間の側柱構造であったと考えられる。柱間寸法は1.6～2.0mで不統一である。

H022　D058に隣接する建物で、現状では2間×2間分が確認できている。しかし、北東と南西の柱筋が平行とならず、北東側の柱筋には疑問が残る。

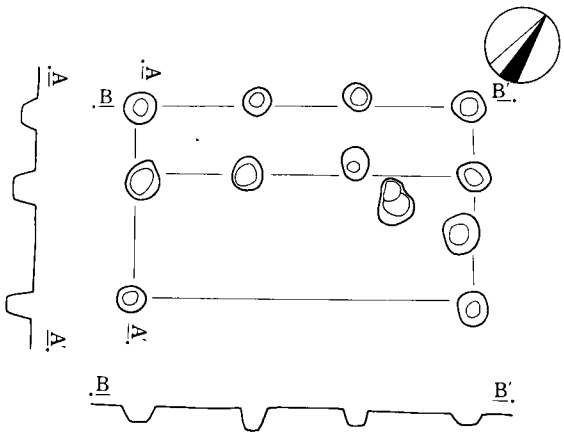
H074　H019と柱筋を揃えて並ぶ建物で、3間×2間の側柱構造である。桁行長6.0m、梁行長4.3mを測り、柱間寸法は1.8～2.0mである。



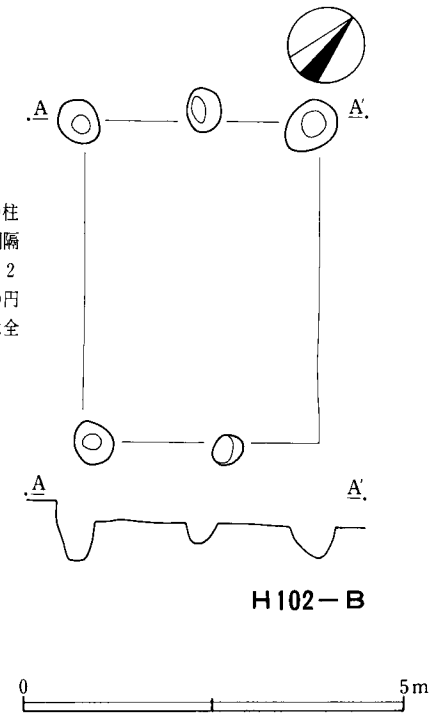

PL.185　H019・H022・H074実測図

H102A　H102Bに隣接する建物で、桁行3間が確実である。梁行は不明だが、現存部分の柱間寸法は0.9mと狭く、北側の棟に廂が付く。長軸方向はN－52°－Eを指し、桁行長4.5mを測る。柱間寸法は1.5～1.7mで不統一である。堀方は直径0.4～0.5mの円形で、確認面から0.2～0.4mの深さを測る。埋土は全体にローム粒を含んでいる。



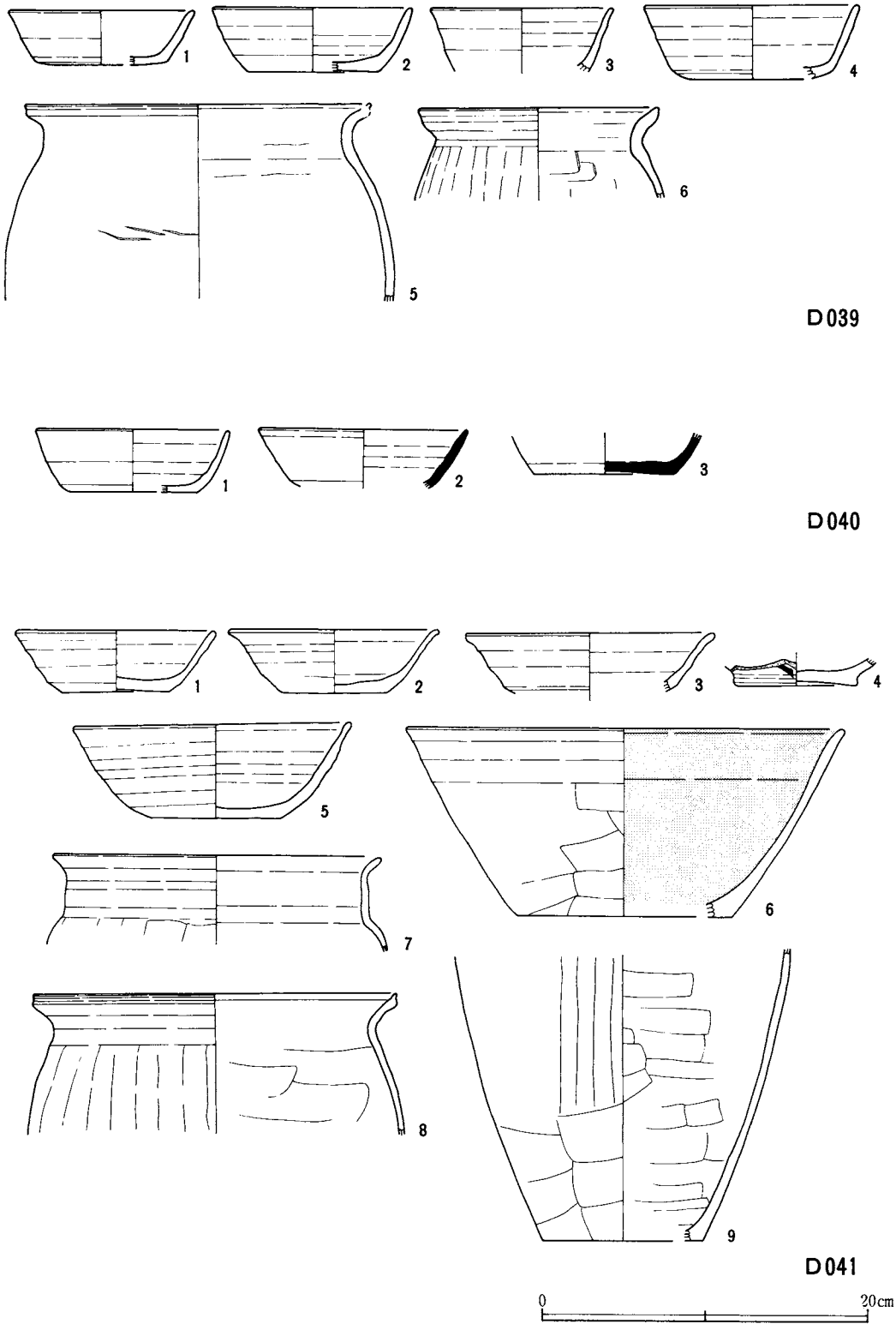

H102－A

H102B　全体の規模は不明で、3箇所と2箇所の柱堀方が平行して位置している。この2列の柱筋の間隔は4.2mで、堀方は検出されていないが、この間も2間であったと考えられる。堀方は直径0.4～0.6mの円形で、確認面から0.1～0.7mの深さを測る。埋土は全体にローム粒を含んでいる。

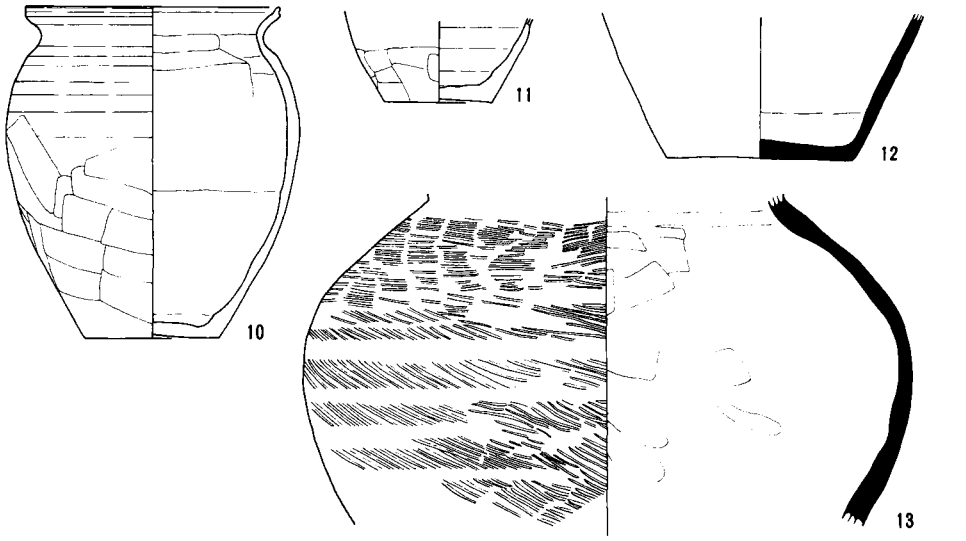



H102－B

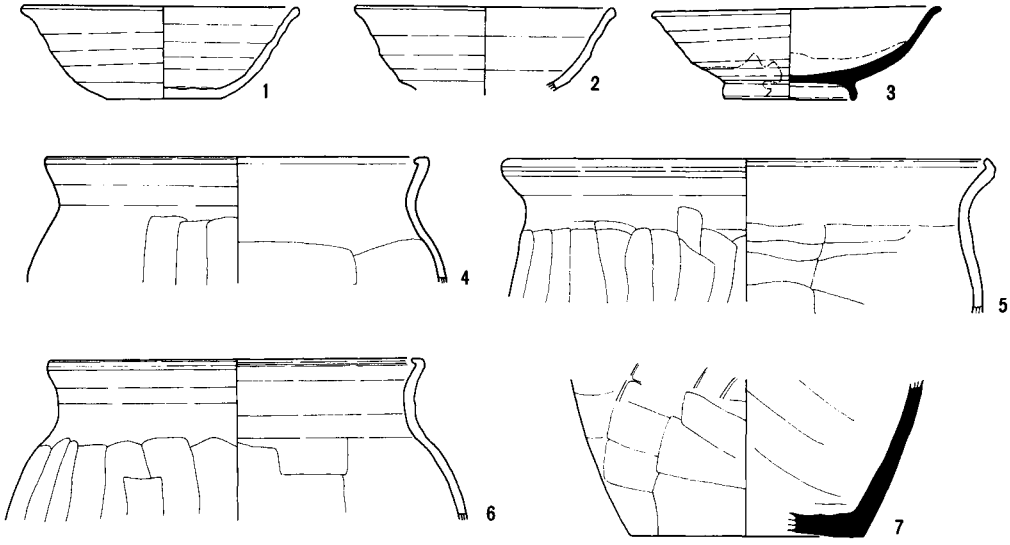
PL.186　H102A・B実測図




PL.187　歴史時代2群B遺物実測図 1



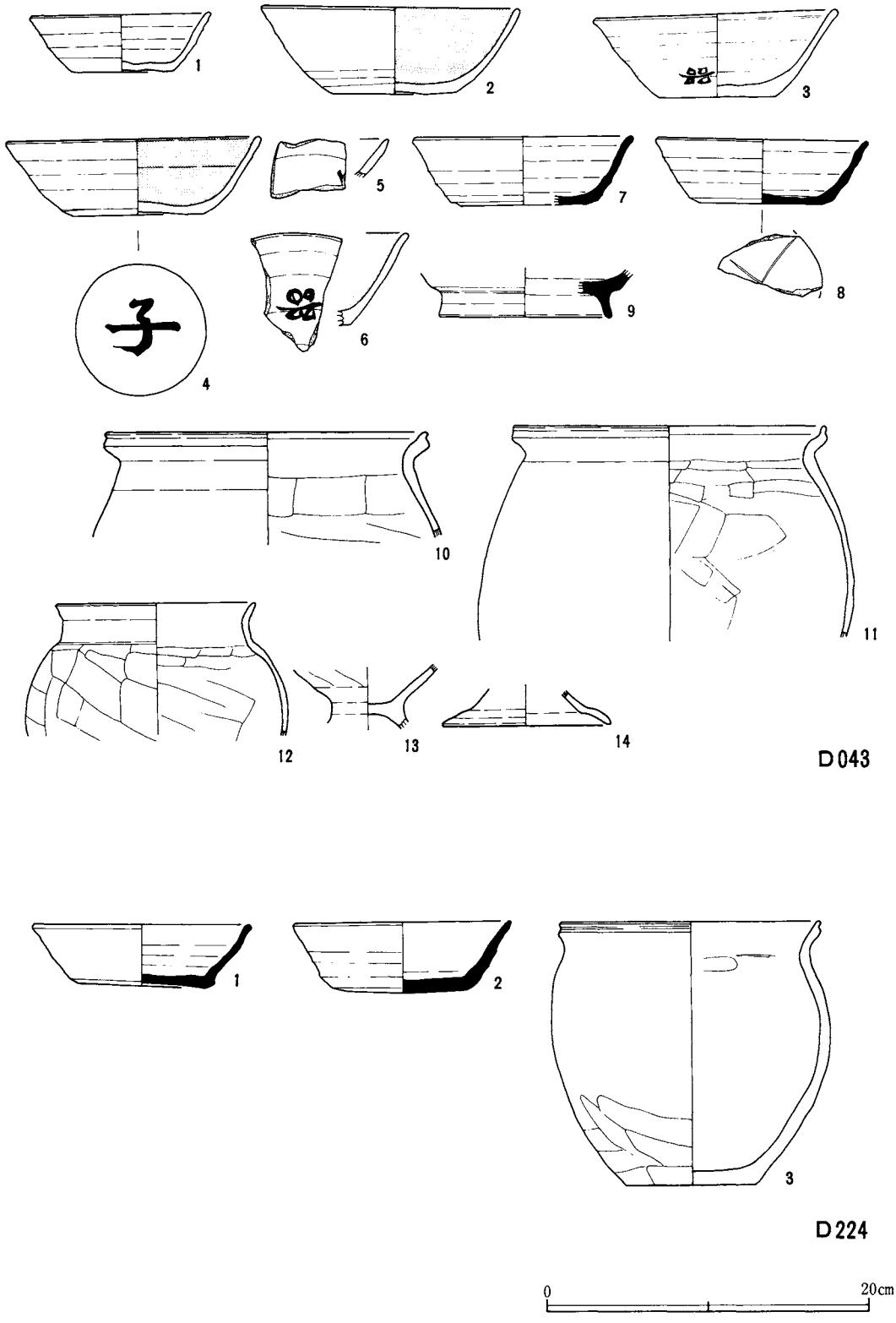

D041



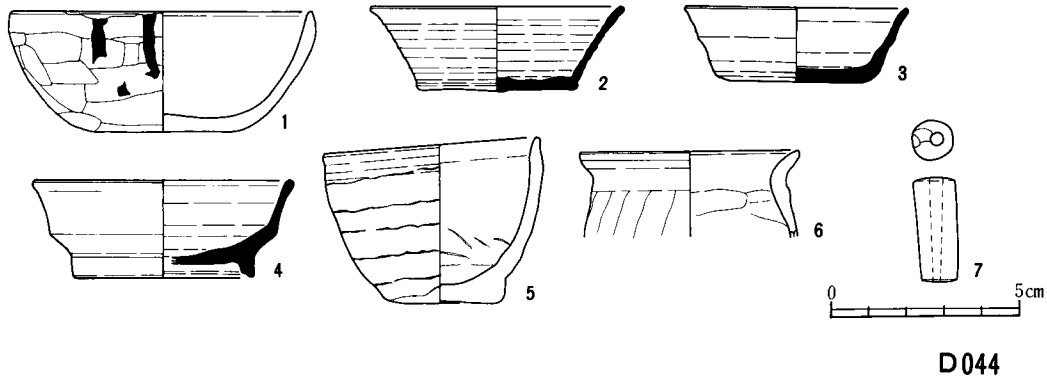

D042

0 20cm

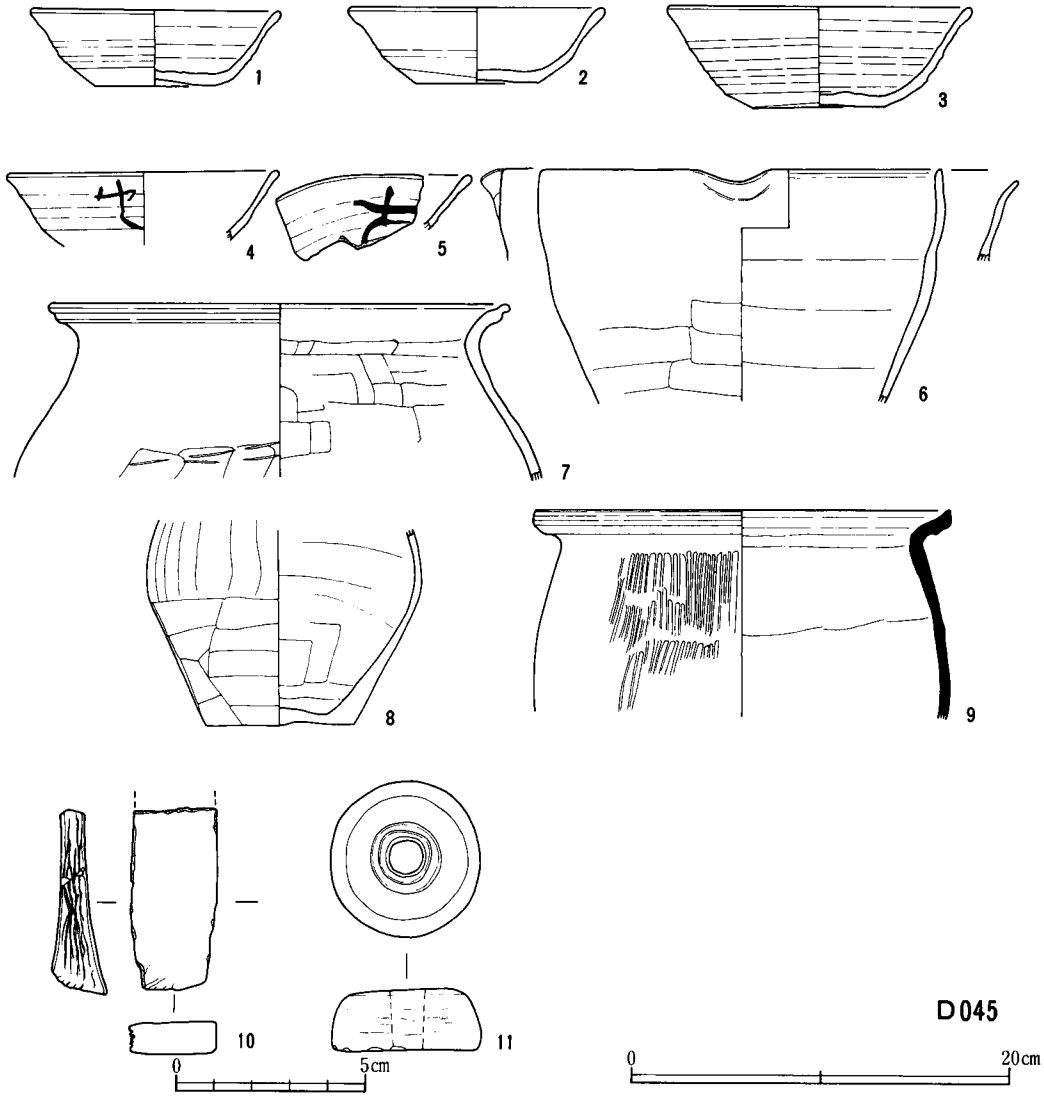
PL.188　歴史時代2群B遺物実測図　2




PL.189　歴史時代2群B遺物実測図　3

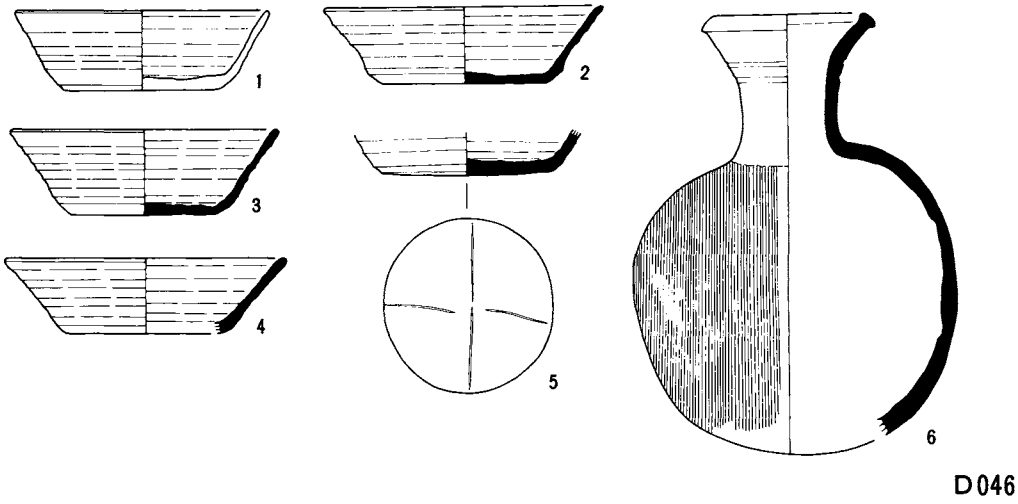


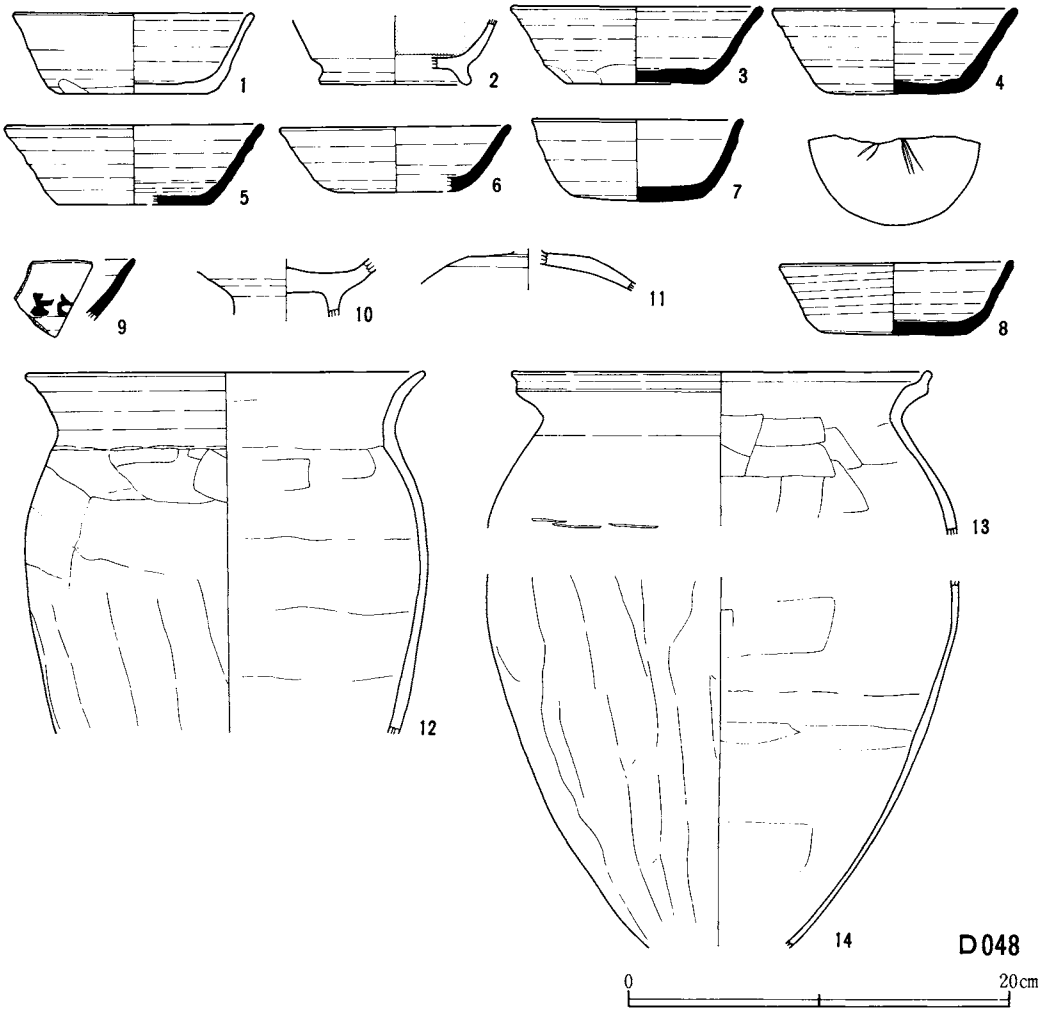

D044



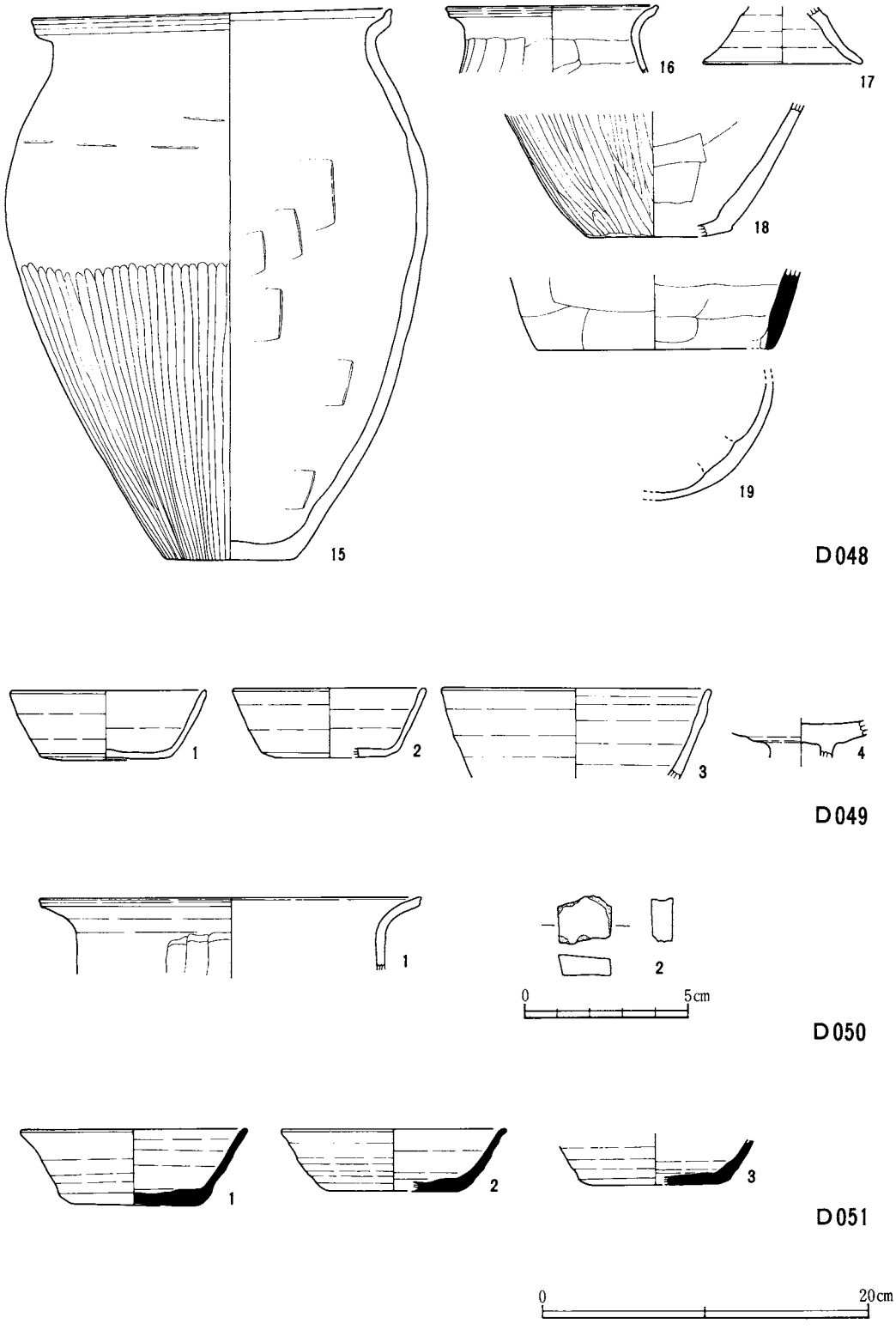

D045

PL.190　歴史時代2群B遺物実測図　4

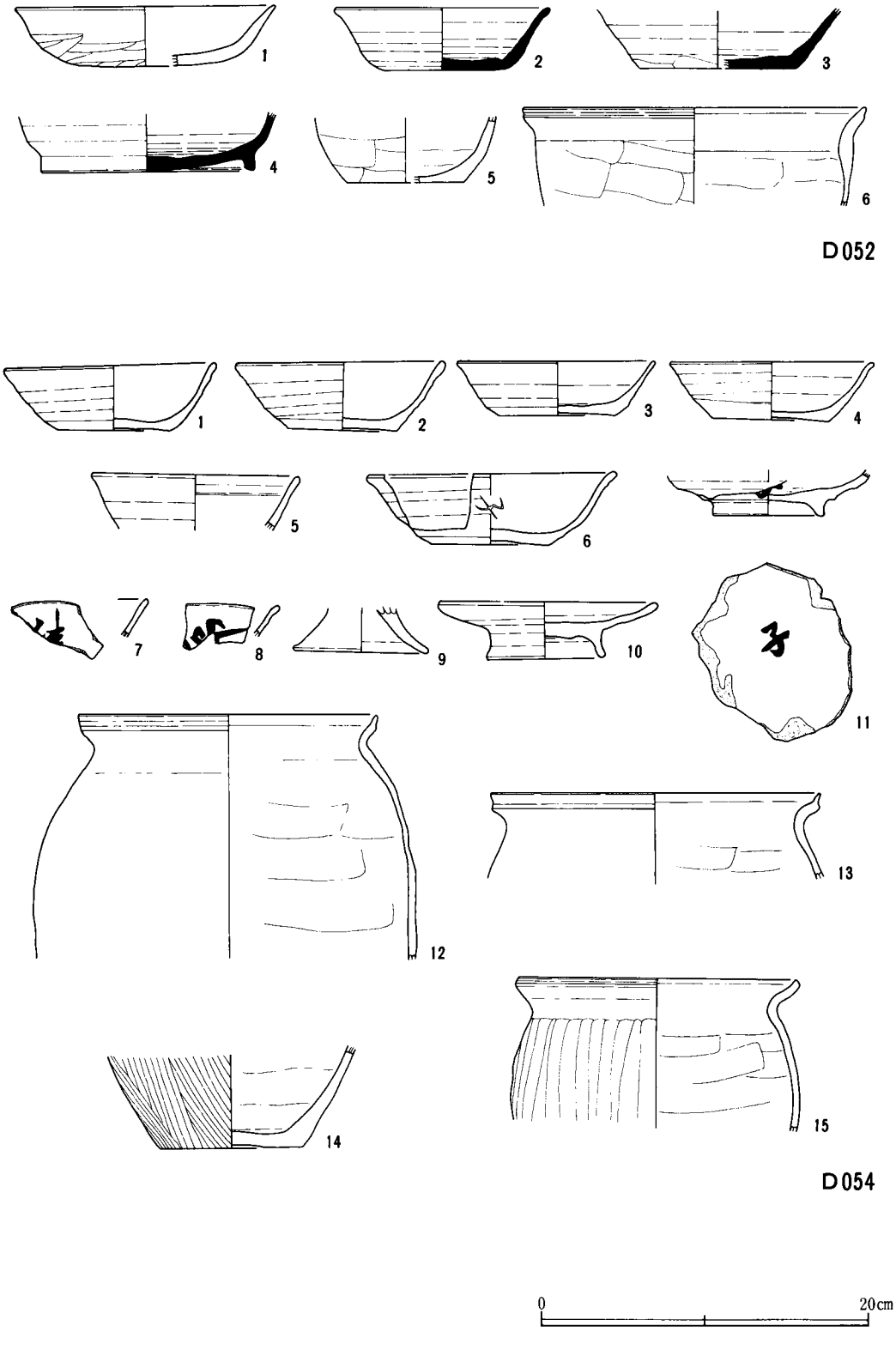


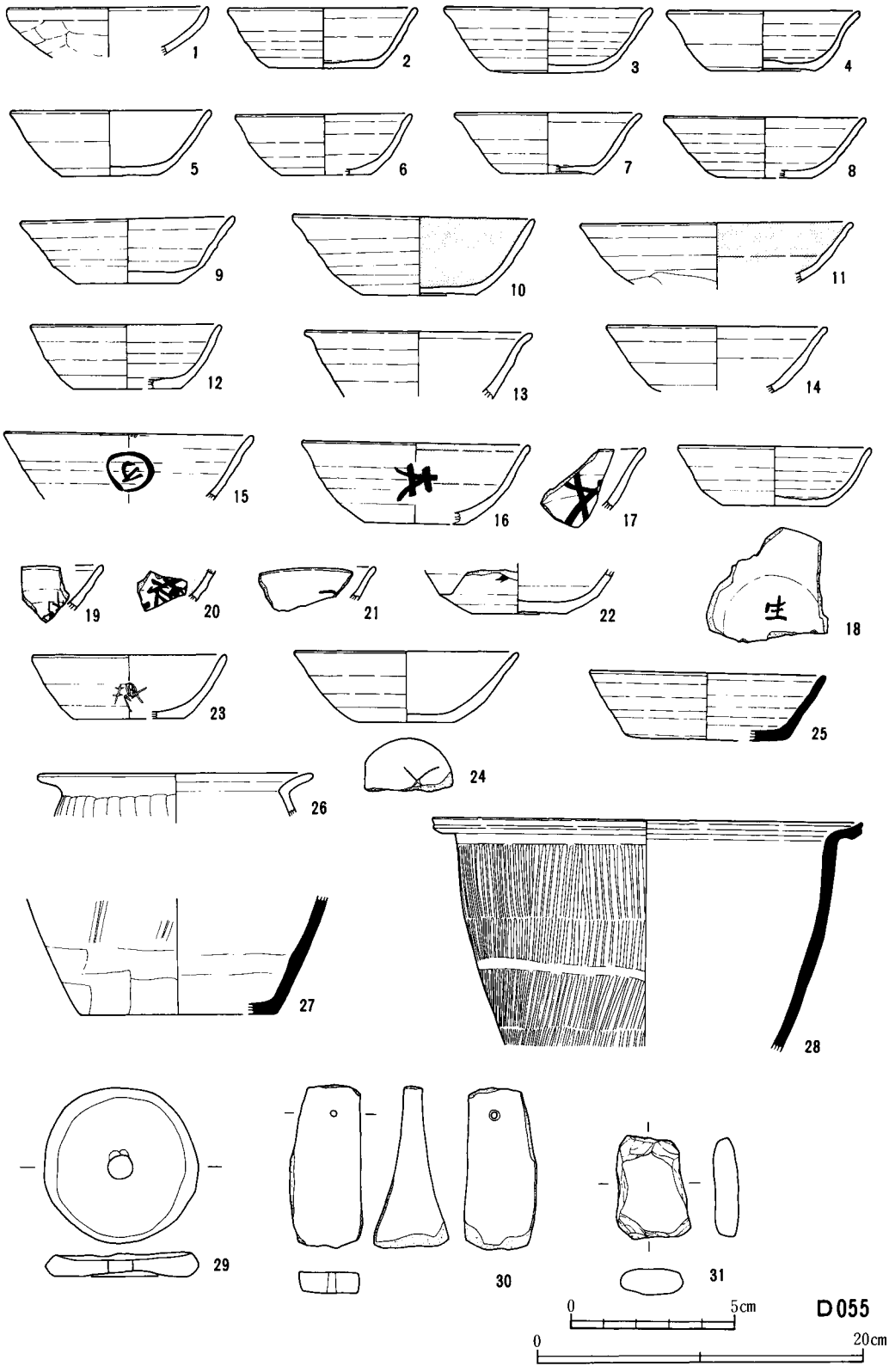

PL. 191　歴史時代2群B遺物実測図　5



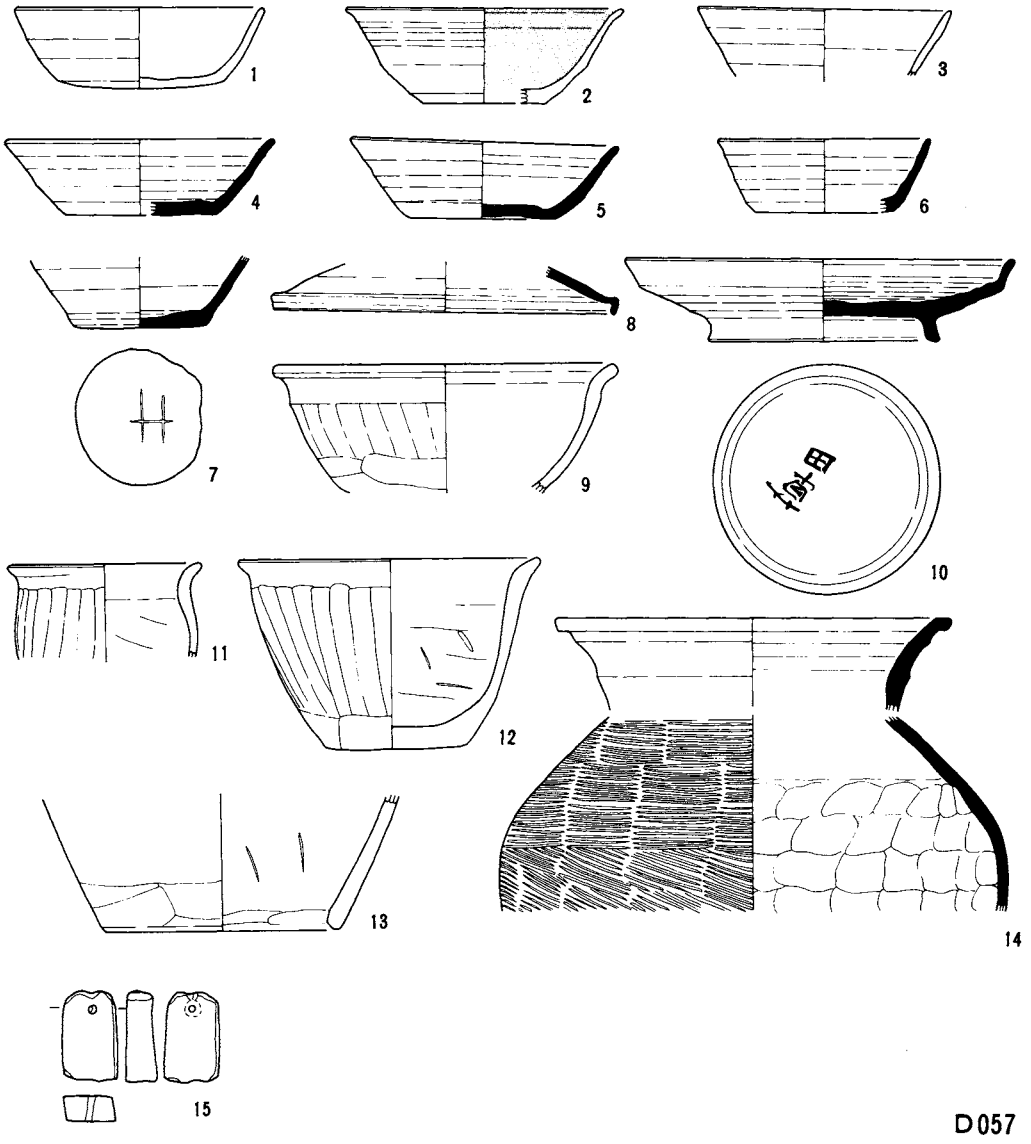

PL.192　歴史時代2群B遺物実測図 6



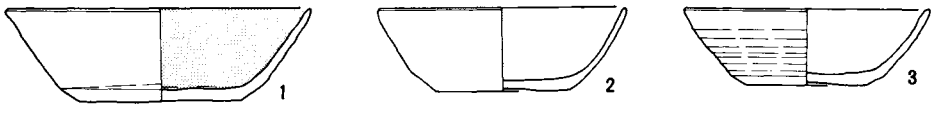

PL.193　歴史時代2群B遺物実測図　7




PL.194　歴史時代2群B遺物実測図　8



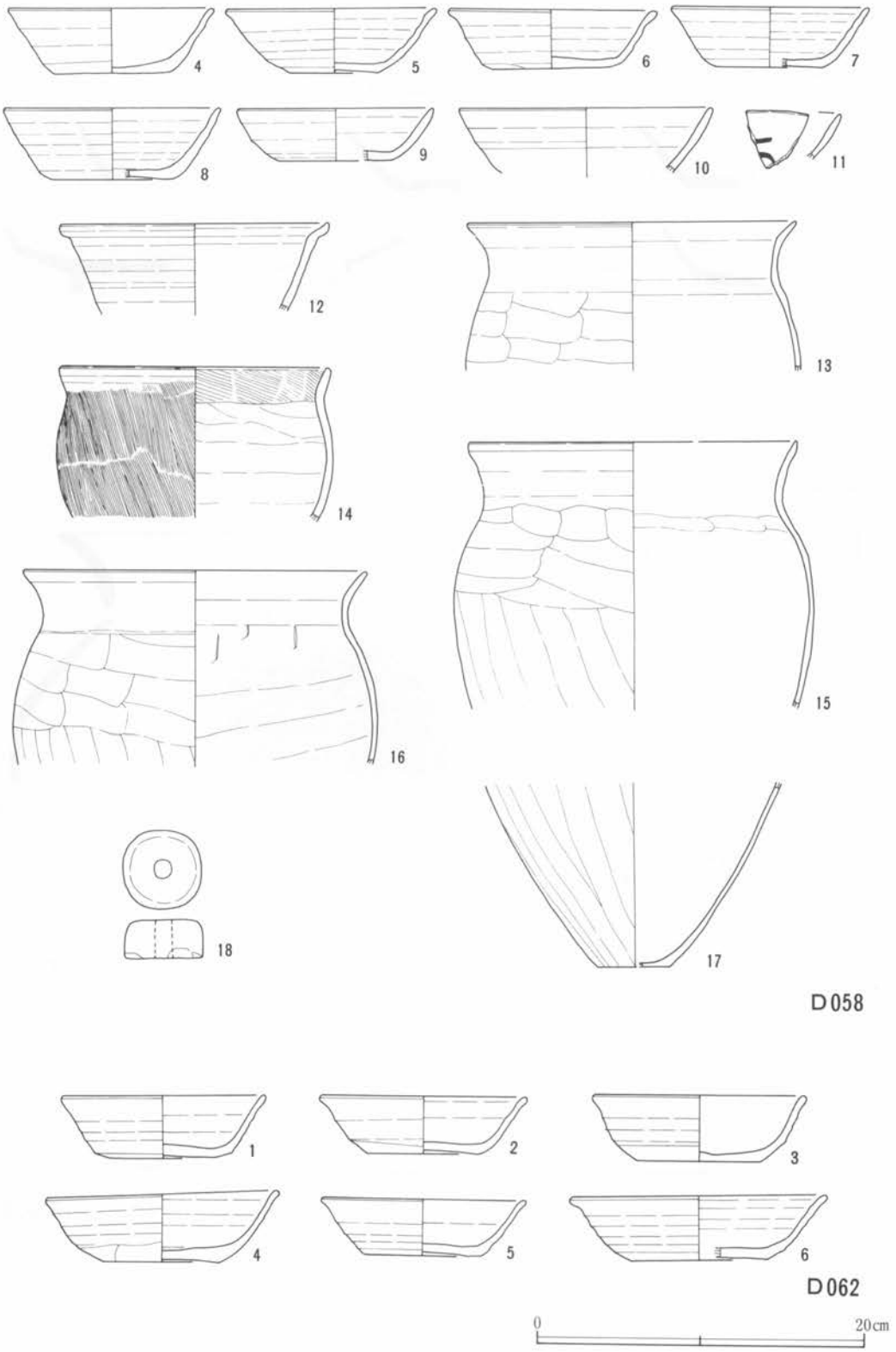

D057



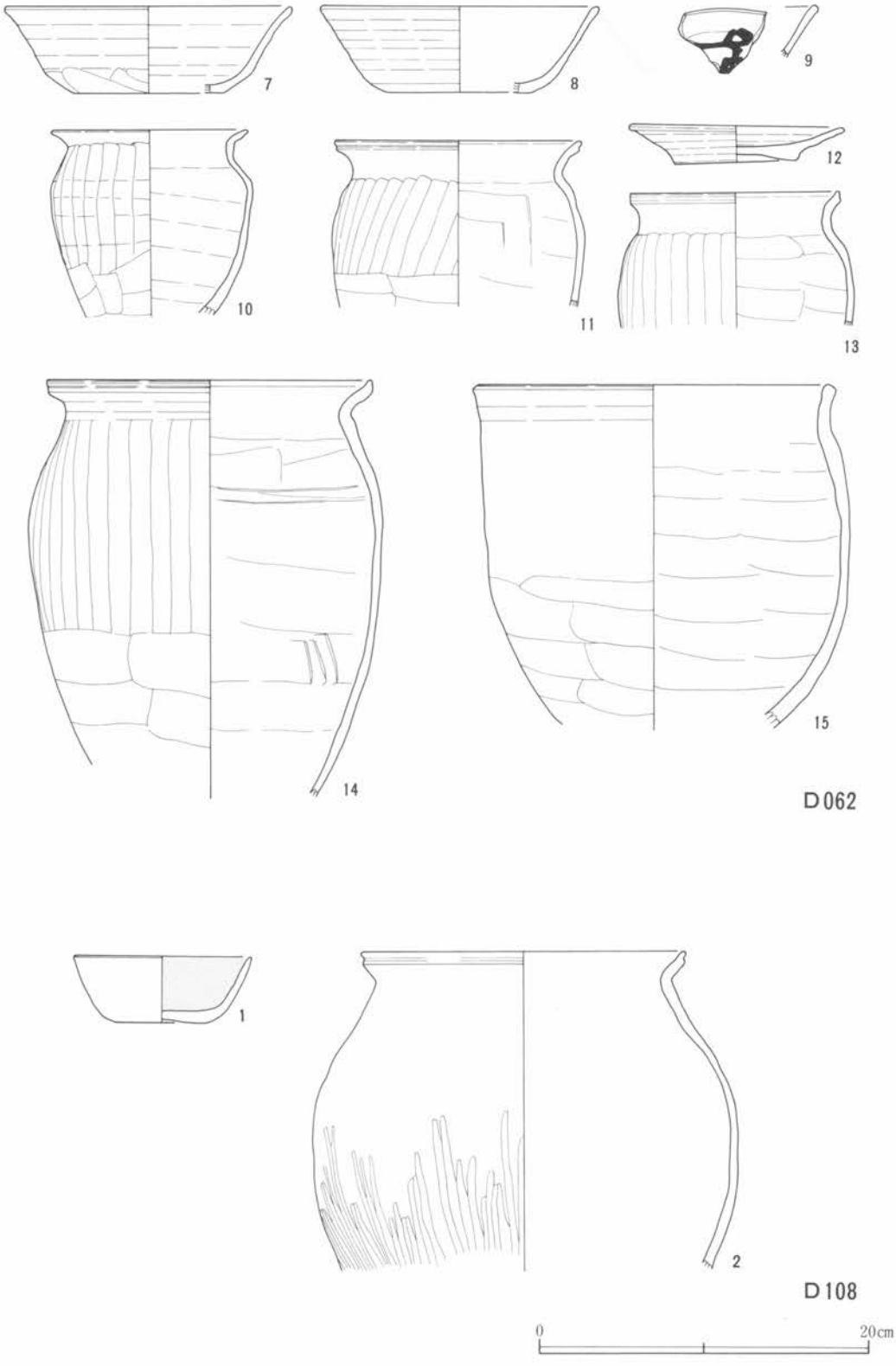

D058

0 20cm

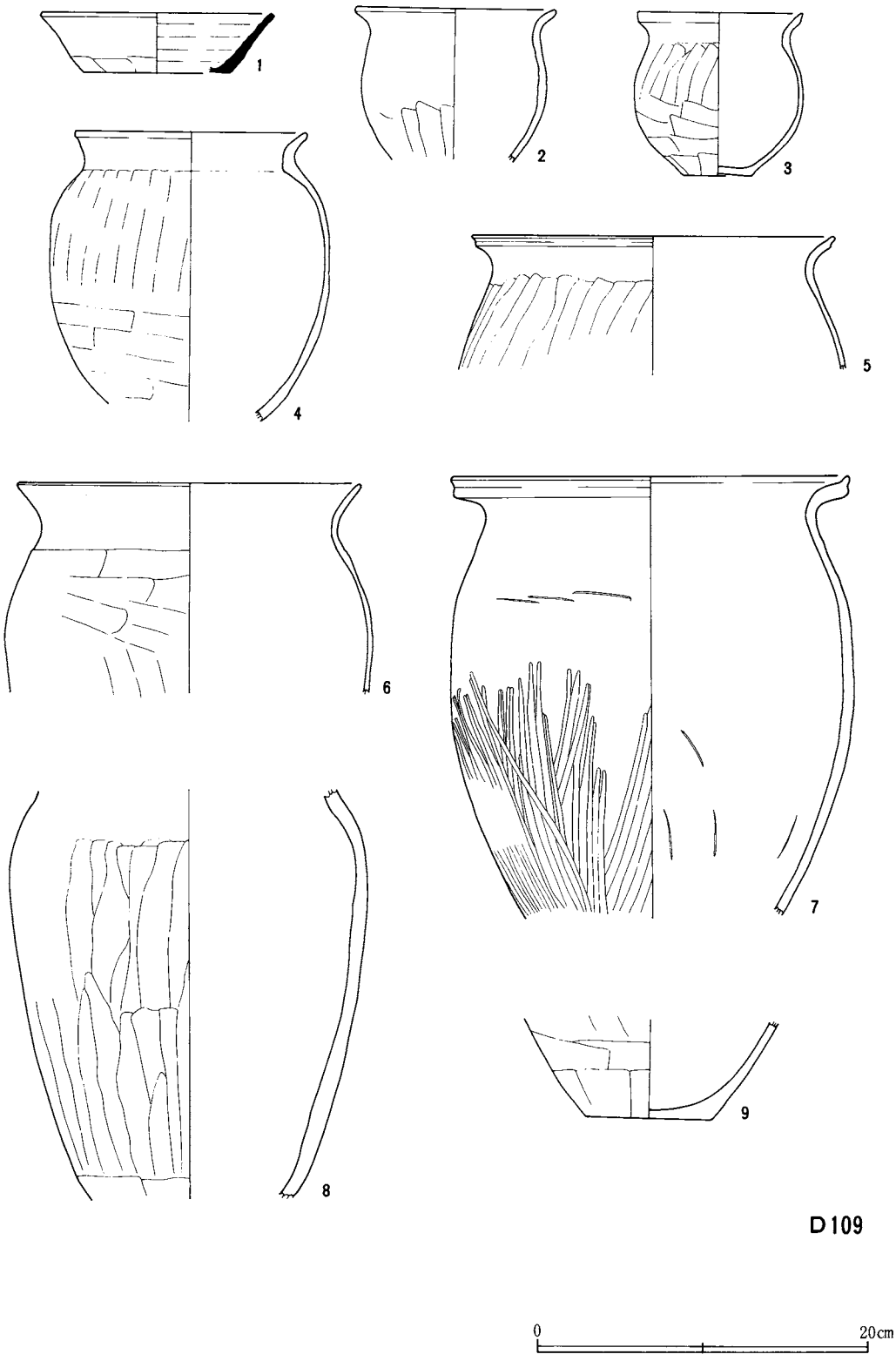
PL.195　歴史時代2群B遺物実測図　9



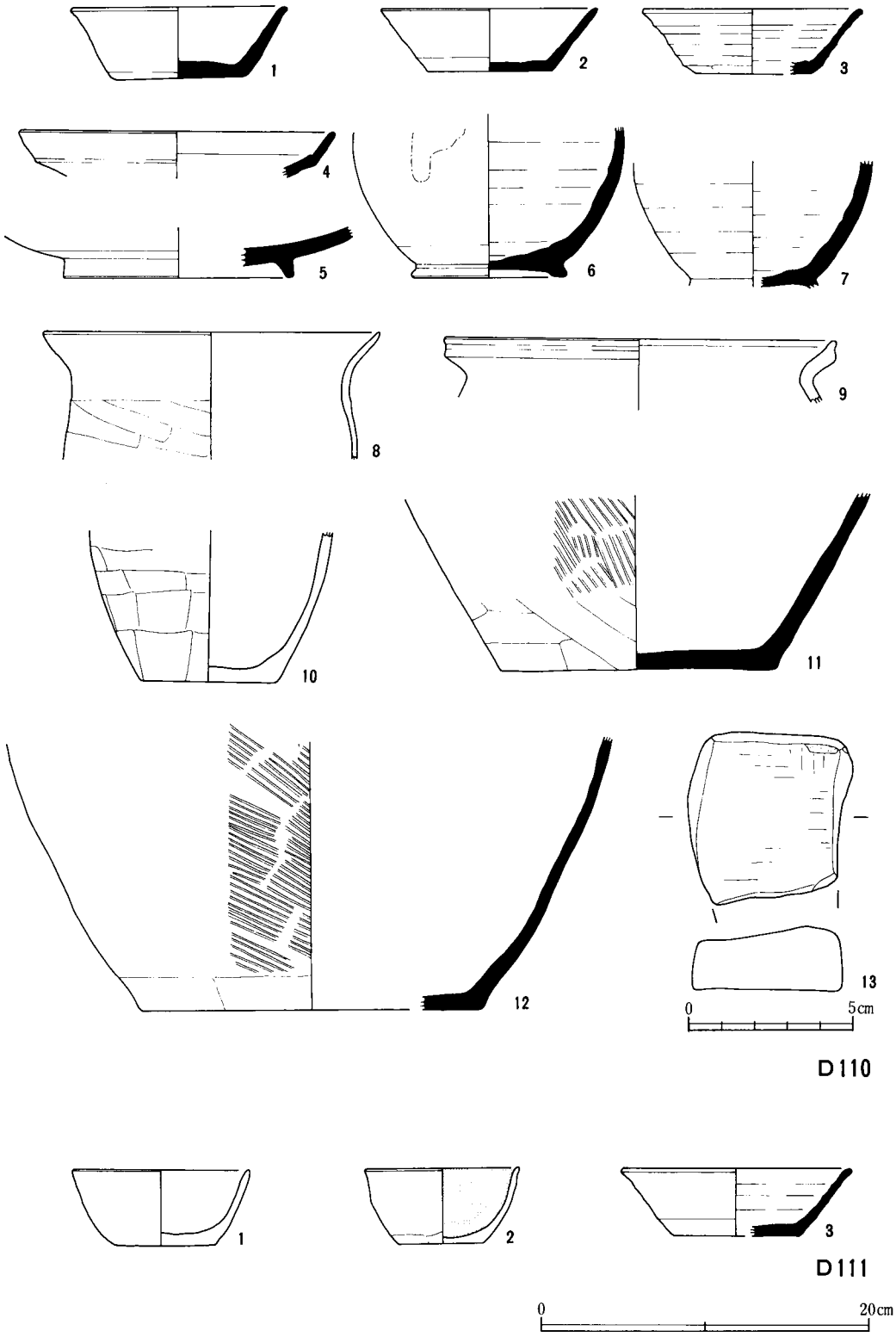

PL.196　歴史時代2群B遺物実測図 10



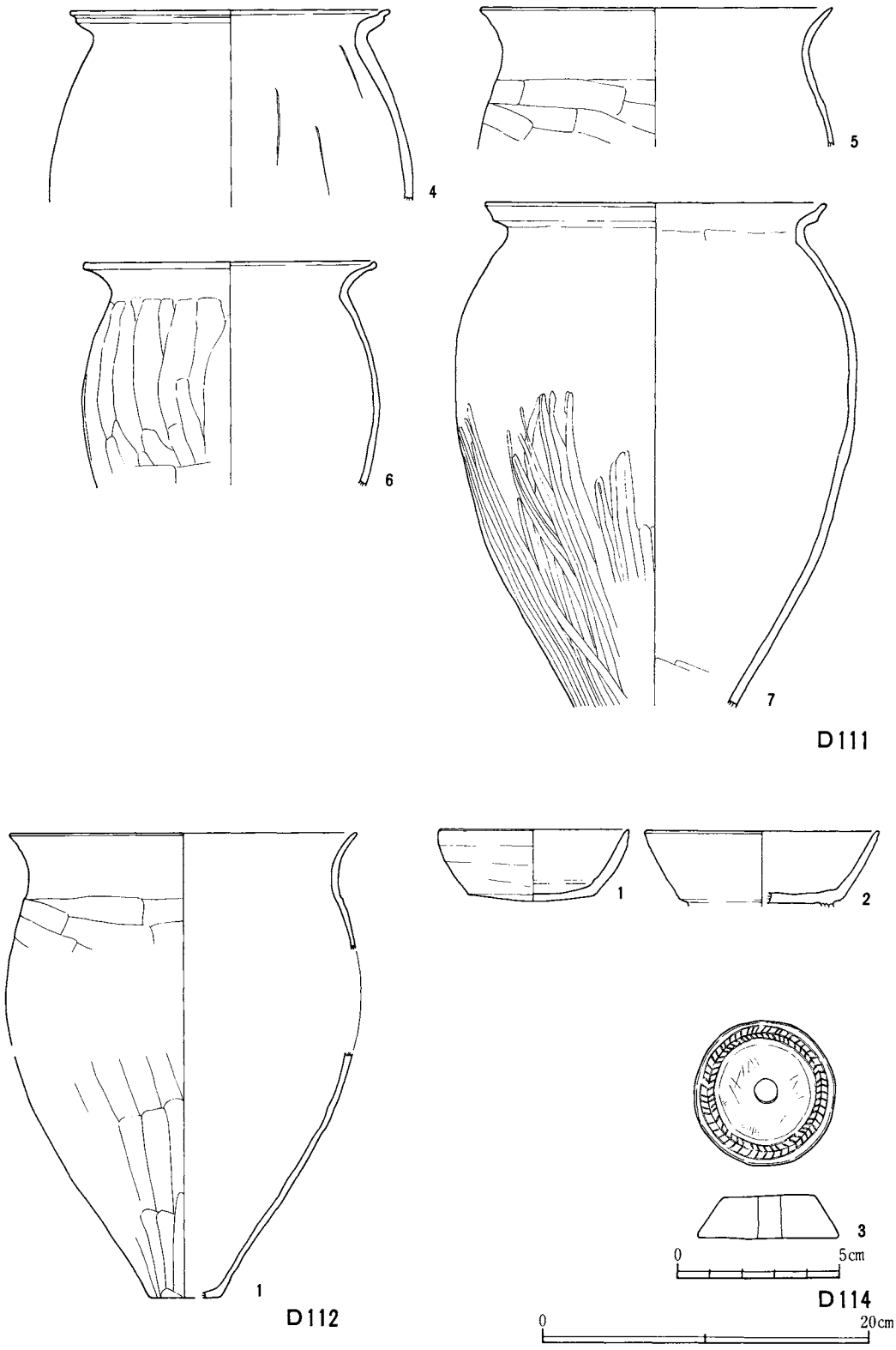

PL. 197　歴史時代2群B遺物実測図 11



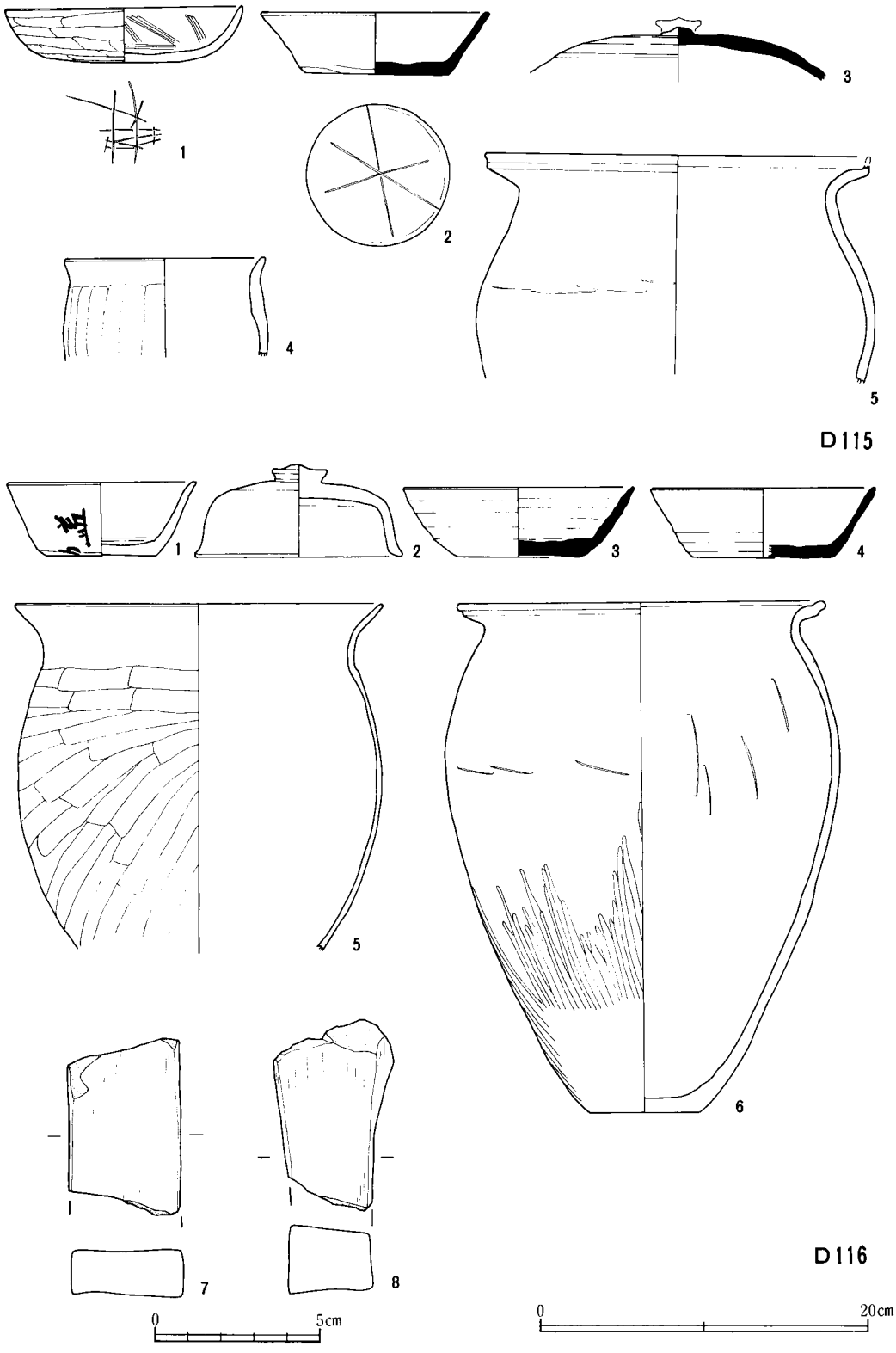

PL.198　歴史時代2群B遺物実測図 12



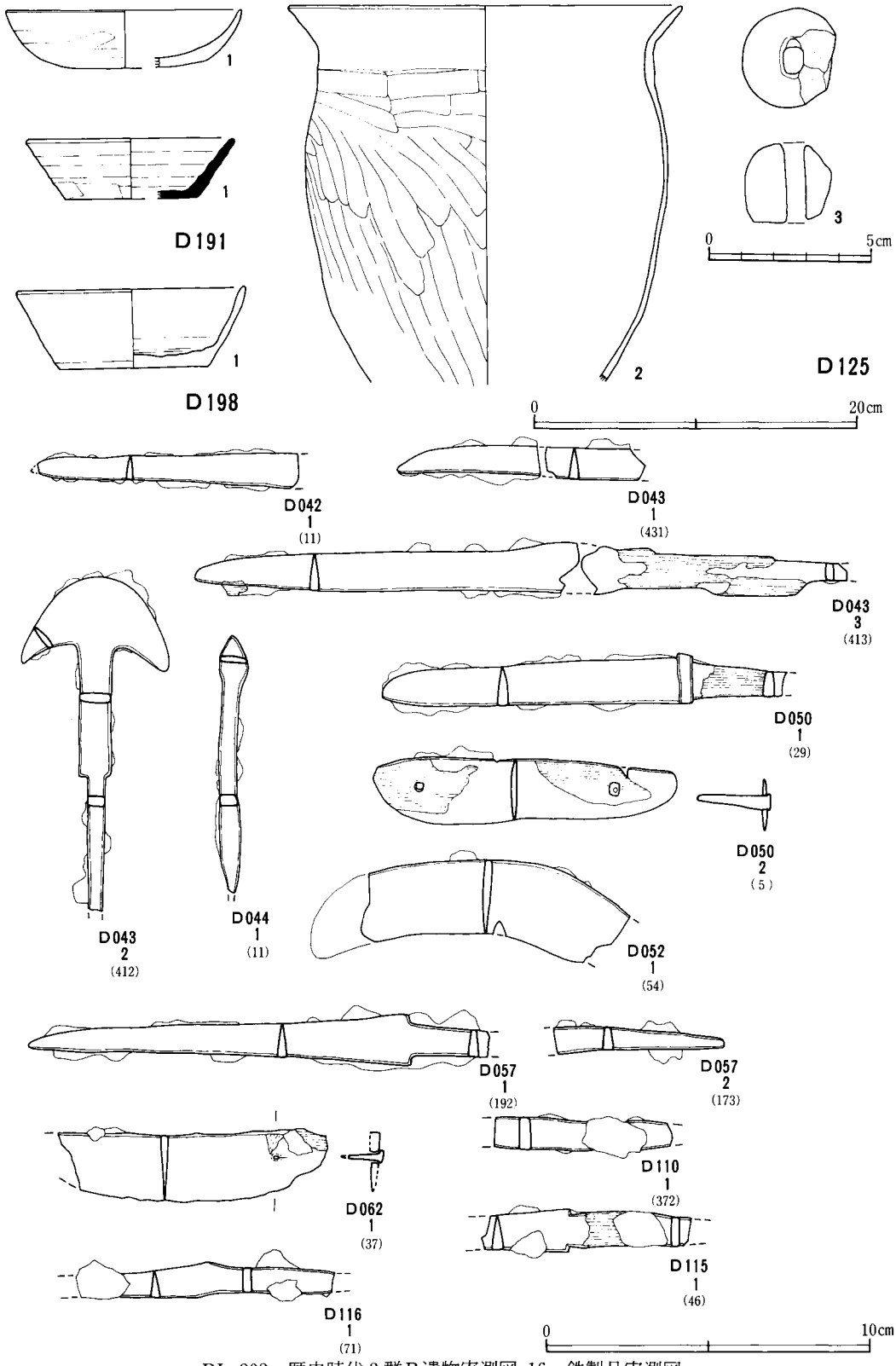

PL. 199　歴史時代2群B遺物実測図 13



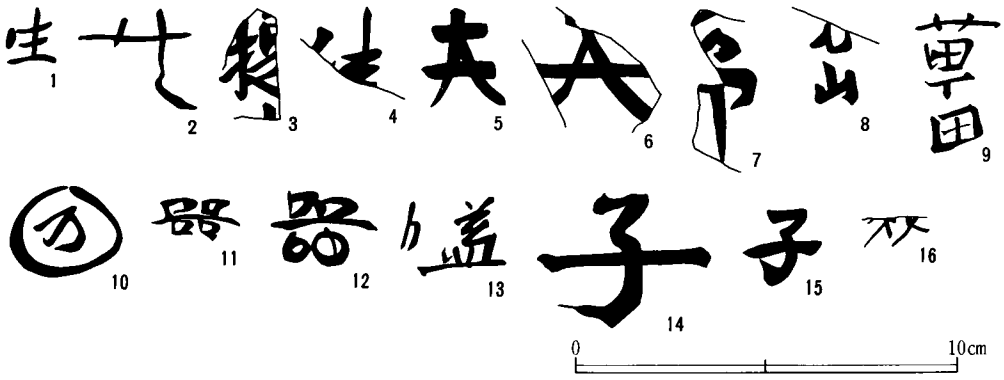

PL.200　歴史時代2群B遺物実測図 14




PL.201　歴史時代2群B遺物実測図 15

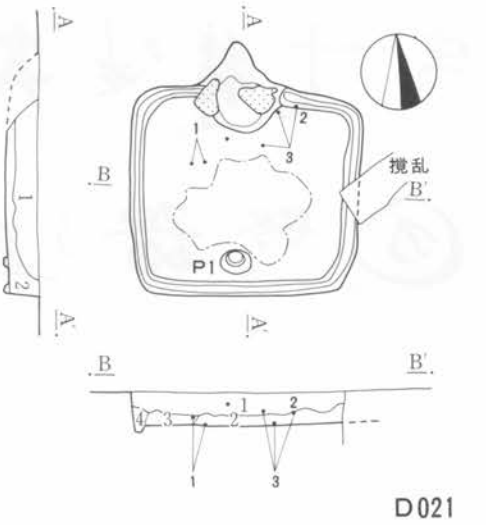


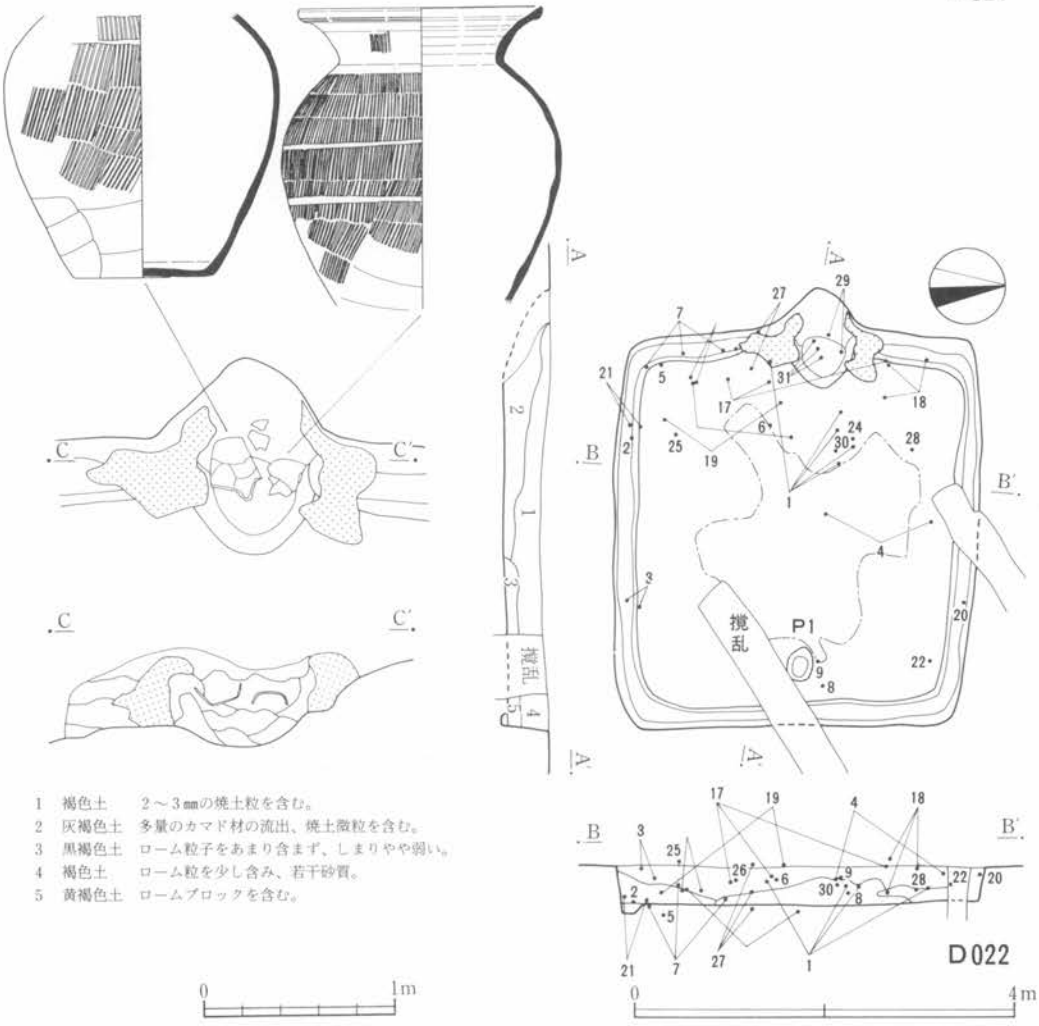

PL. 202　歴史時代2群B遺物実測図 16・鉄製品実測図




PL.203　歴史時代2群B文字資料抜萃

1　褐色土　ロームブロックを含む。
2　黒褐色土　ロームブロックをところどころに含む。
3　黄褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
4　黄色土　ソフトロームを主体とする。

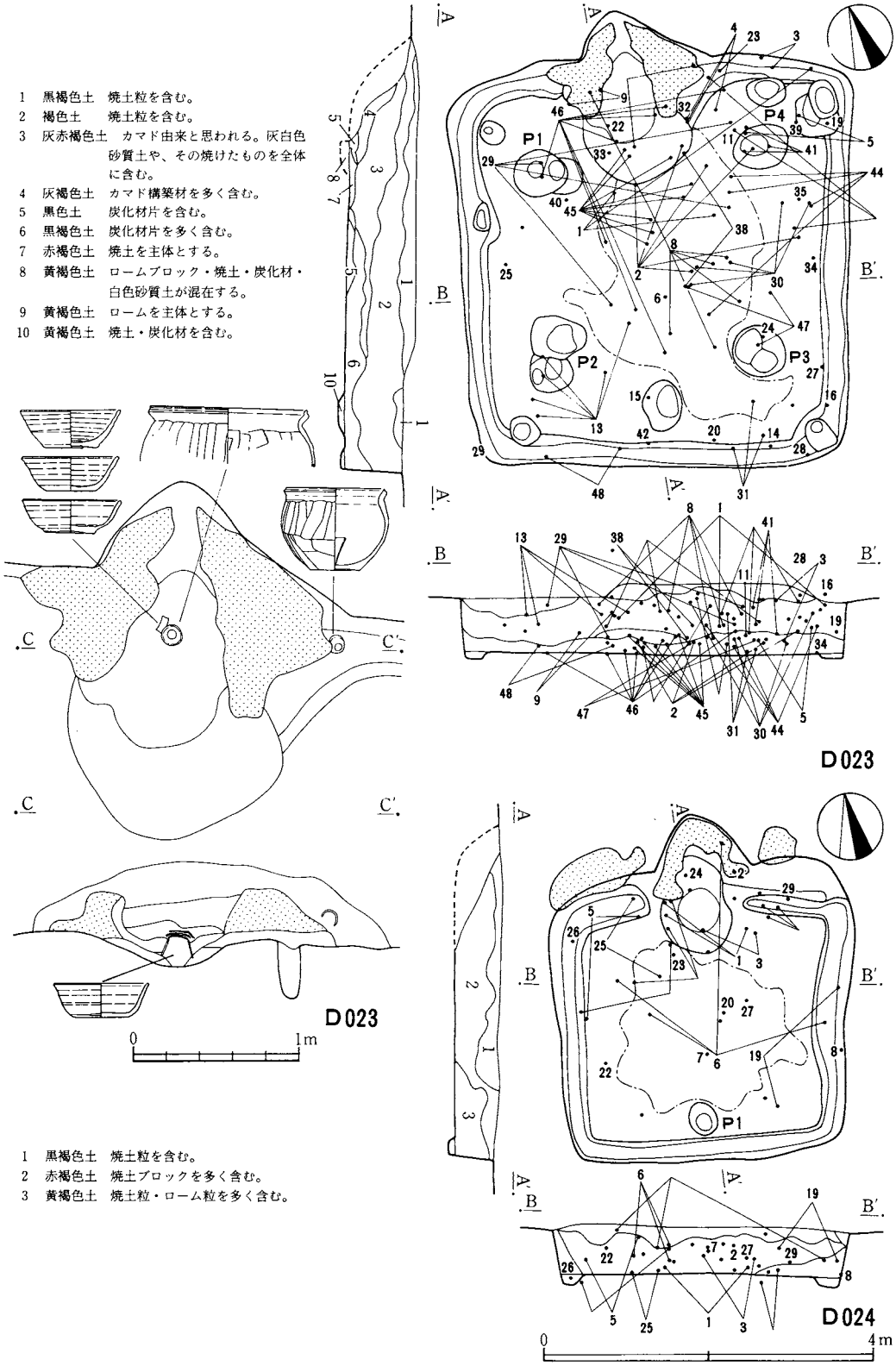



1　褐色土　2～3㎜の焼土粒を含む。
2　灰褐色土　多量のカマド材の流出、焼土微粒を含む。
3　黒褐色土　ローム粒子をあまり含まず、しまりやや弱い。
4　褐色土　ローム粒を少し含み、若干砂質。
5　黄褐色土　ロームブロックを含む。

PL.204　D021・D022実測図

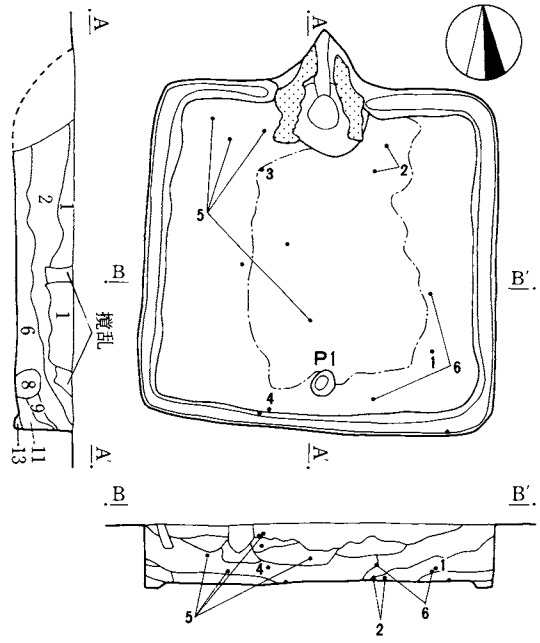
1　黒褐色土　焼土粒を含む。
2　褐色土　焼土粒を含む。
3　灰赤褐色土　カマド由来と思われる。灰白色砂質土や、その焼けたものを全体に含む。
4　灰褐色土　カマド構築材を多く含む。
5　黒色土　炭化材片を含む。
6　黒褐色土　炭化材片を多く含む。
7　赤褐色土　焼土を主体とする。
8　黄褐色土　ロームブロック・焼土・炭化材・白色砂質土が混在する。
9　黄褐色土　ロームを主体とする。
10　黄褐色土　焼土・炭化材を含む。

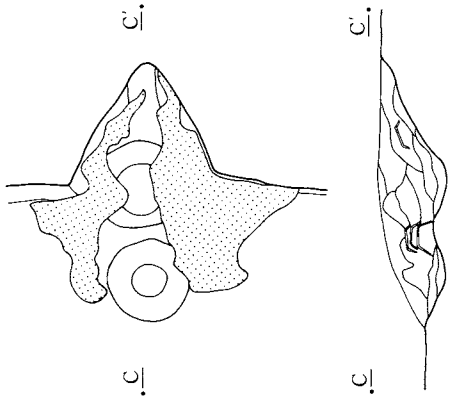



1　黒褐色土　焼土粒を含む。
2　赤褐色土　焼土ブロックを多く含む。
3　黄褐色土　焼土粒・ローム粒を多く含む。

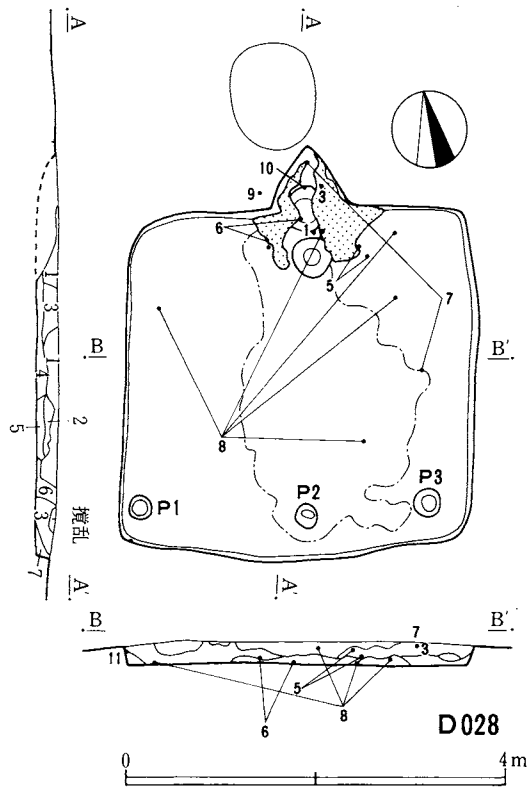
PL.205　D023・D024実測図

1　黒褐色土　ロームブロックを少し含む。
2　黄褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
3　黄褐色土　ロームを含む。
4　褐色土
5　黒色土　ローム粒を少し含む。
6　黒褐色土　ロームブロック・焼土粒を含む。
7　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
8　黒褐色土
9　褐色土　ローム粒・黒色土粒を含む。
10　黒褐色土　ローム粒を主体とし、焼土粒を含む。
11　黒褐色土　焼土粒を含む。
12　黒褐色土　ソフトロームを少し含む。
13　黄褐色土　ロームブロックを主体とする。



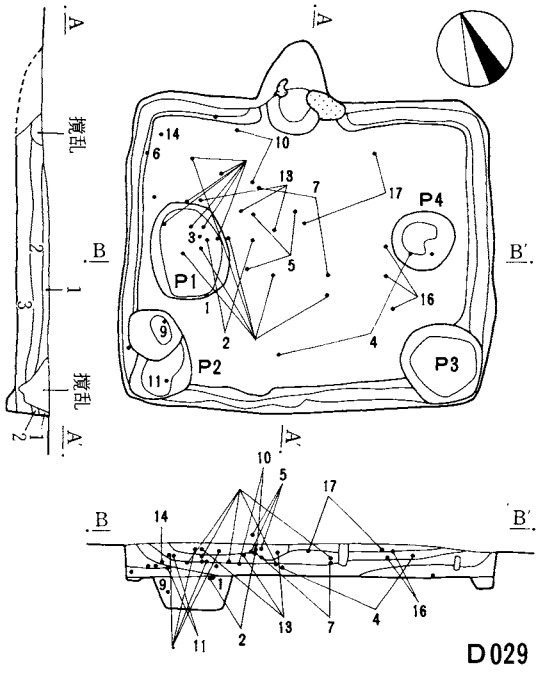

1　黒褐色土　褐色土をブロック状に混入し、極くわずかにローム粒を含む。
2　明褐色土　ローム粒及び褐色土の混合土。炭化粒を部分的に含む。
3　暗褐色土　褐色土をブロック状に混合し、下部には若干焼土を含む。
4　暗褐色土　褐色土・ローム粒を含み、全体的に炭化粒を含む。
5　暗褐色土　炭化粒及び炭化物が多く含まれる。
6　暗褐色土　やや大粒のローム粒を含み、全体的に粒子が粗い。下部には炭化粒が少量見られる。
7　明褐色土　ローム粒を主とし、褐色土との混合土。
8　暗褐色土　ローム粒を極くわずかに含む。



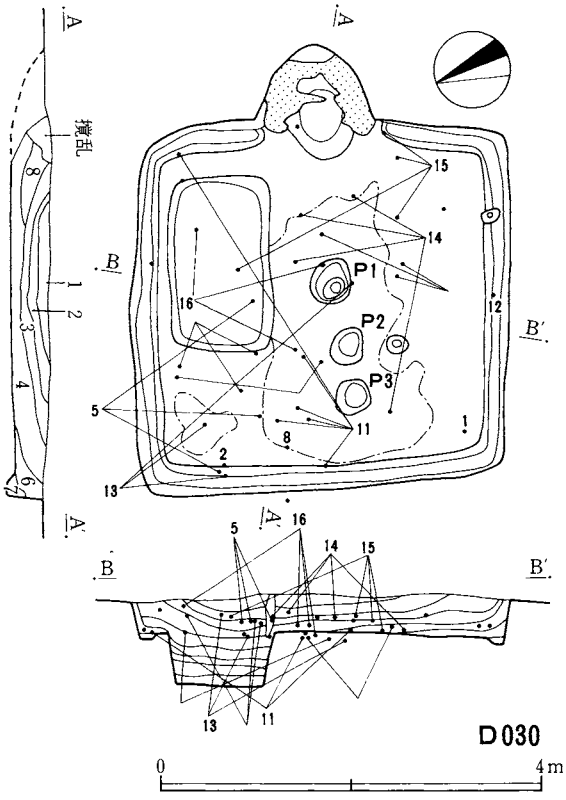

PL.206　D027・D028実測図

D029　P4は床面から0.1mの深さで、底面に火熱を受けた痕跡が認められた。埋土には多くの焼土が含まれ、床面に近いレヴェルでも焼土及び炭化材が僅かに認められた。

1　黒色土　ローム粒をブロック状に含む。
2　暗褐色土　ローム粒が目立つ、若干焼土粒子も含む。
3　黒褐色土　焼土粒子を多く含み、部分的に集中した所もある。又炭化材も含むがそれほど多くない。
4　褐色土　ローム粒を少し含む。
5　明褐色土　ローム粒を主体とする。



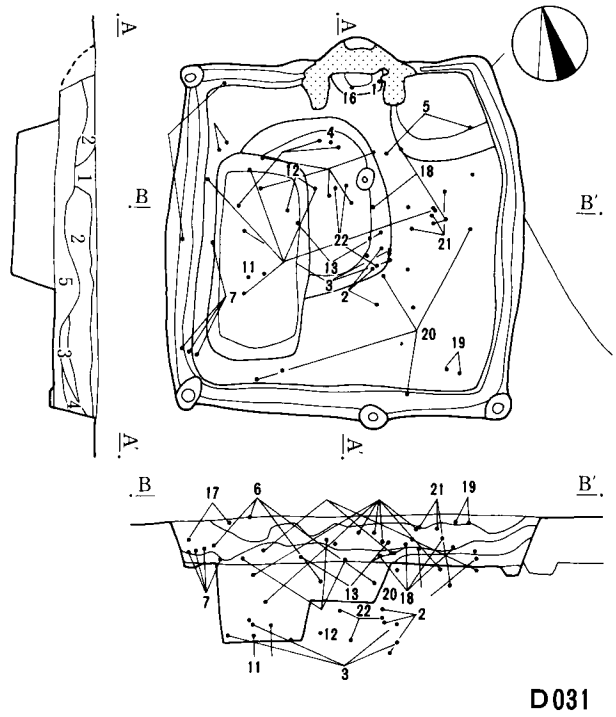

1　黒色土　ローム粒を若干含む。
2　黒褐色土　ローム粒を多く含み、焼土粒・焼土ブロックも含む。
3　暗褐色土　ローム粒を含む割合が多くなるが、黒色土もブロック状に含む。
4　褐色土　ローム粒をブロック状に多く含み、又黒色土も含む。
5　暗褐色土　ローム粒を若干含み、炭化物をかなり含む。
6　褐色土　ロームブロックを含む。
7　明褐色土　ローム粒を多く含む。
8　黒色土　ロームも若干含むが、黒色土粒と、白色砂質土が混在する。




PL.207　D029・D030実測図

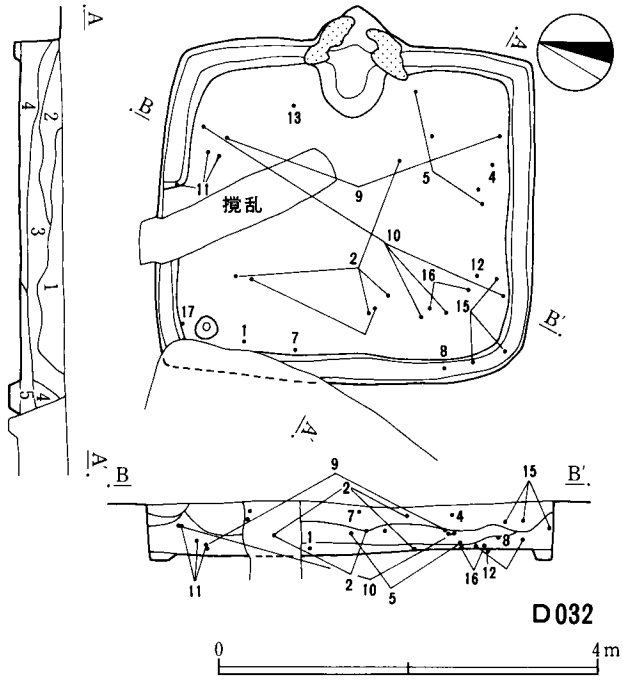
D031　柱穴は北東コーナーを除いたコーナーの壁溝内に3カ所あり、直径はいずれも0.2m前後である。また、南壁中央の壁溝内にも同様のピットがある。西壁に沿った堀込みは2.1×1.0mの方形を呈し、床面から0.4mの深さを測る。

1　黒褐色土　ローム粒を少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒及びロームブロックを少し含む。
3　暗褐色土　2に類似するが、黒色土が多く暗色を呈する。
4　黒褐色土　ローム粒及び少量のロームブロックを含む。
5　明褐色土　ローム粒・ロームブロックを含み、部分的に黒色土が混じる。
6　暗褐色土　ローム粒を含み、床面に近い部分には炭化材片を含む。
7　明褐色土　ローム粒と褐色土の混合土。焼土も少量含む。

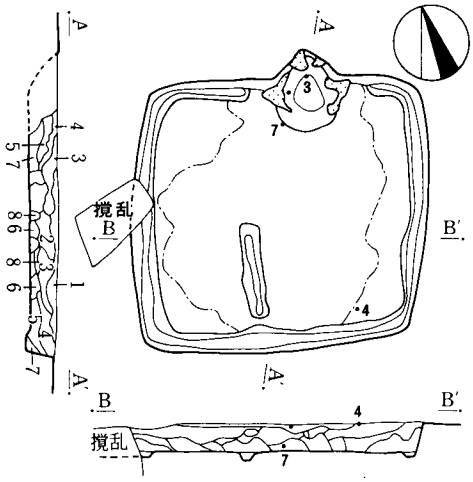



D032　規模は4.0m×3.6mを測り、主軸方向はN－80°－Eを指す。柱穴はなく、北西コーナーに直径0.3mのピットがある。カマドは東壁中央に設置され、煙道部の奥まで袖材を貼込んでいる。

1　黒褐色土　ローム粒を少し含む。
2　黒褐色土　ローム粒及び少量のロームブロックを含む。
3　暗褐色土　ローム粒及びロームブロックを含む。
4　明褐色土　ローム粒と褐色土の混合土。焼土も少量含む。
5　黒褐色土　ローム粒を少し含む。

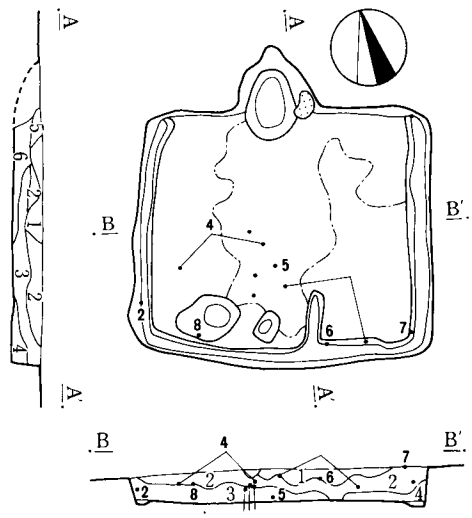



PL.208　D031・D032実測図




1　黒褐色土　少量のローム含む。
2　黄褐色土　ローム分が多いが、混合物はほとんどない。
3　黄褐色土　少量の炭化物を含む。
4　褐色土　ローム粒を多く含む。
5　褐色土　ローム粒を多く含む。
6　黒褐色土　ローム粒・炭化粒を多く含む。
7　黄褐色土　汚れたロームの中に少量の黒褐色土が混入。
8　黄褐色土　ロームブロックの間に褐色土を含む。

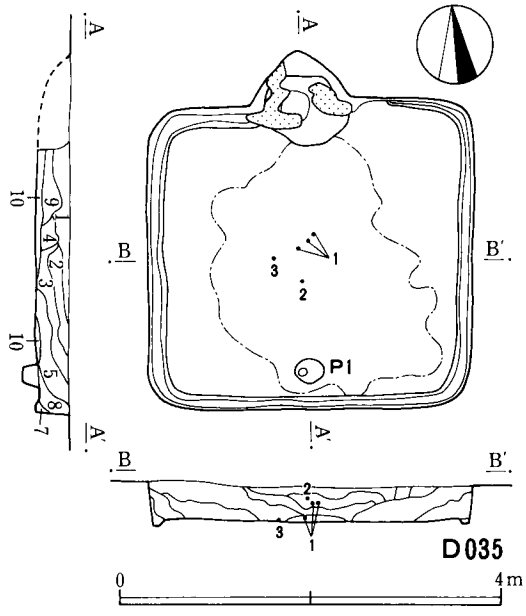
**D034**




1　黒褐色土　褐色土を小ブロック状に含む。
2　暗褐色土　褐色土・黒色土・ローム粒の混合土。
3　明褐色土　褐色土・ローム粒の混合土。
4　暗褐色土　ローム粒及び焼土粒を含む。
5　暗褐色土　カマド上部を覆う土層、山砂・焼土を全体的に含む。
6　暗褐色土　カマド崩壊土。

**D033**

1　黒褐色土　細かいロームブロックを含む。
2　黒褐色土　少量の焼土を含む。
3　褐色土　ロームブロックを少し含む。
4　黒褐色土　ローム粒を含む。
5　黄褐色土　ロームブロックをところどころに含む。
6　黄褐色土
7　黄褐色土　ロームブロックの間に褐色土を含む。
8　黒褐色土　少量のローム粒を含む。
9　黄褐色土　若干砂質で、ローム粒を含む。
10　褐色土　ロームを主体とする。

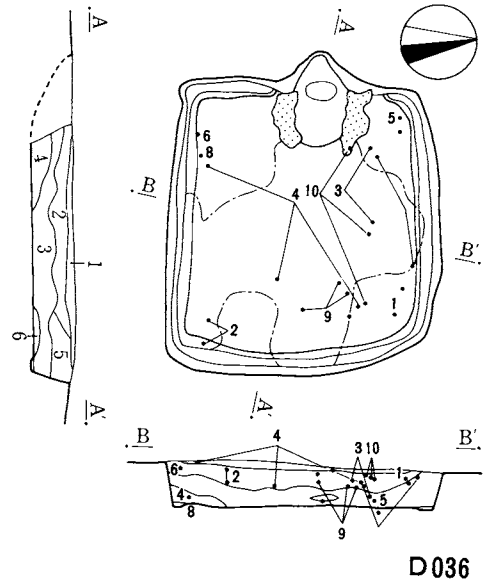



**D035**

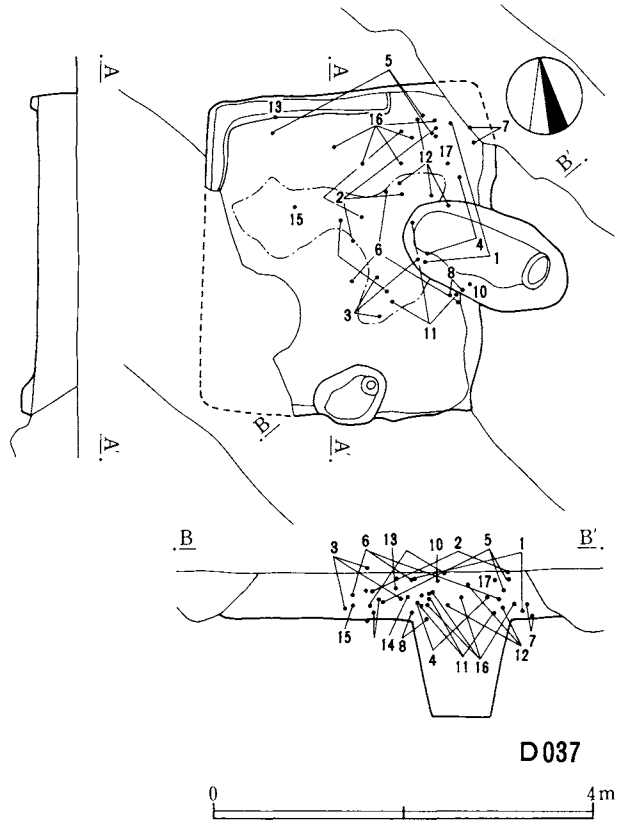
PL.209　D033・D034・D035実測図

D036 H016の南西に位置する住居で、規模は3.1m×2.9mを測る。柱穴はなく、床面は住居コーナーを除いた広い範囲に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　褐色土・ローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒・焼土粒を少量含む。
3　暗褐色土　褐色土・ローム粒・ロームブロックの混合土。
4　暗褐色土　黒色土がやや多く暗色土を呈し、山砂を含む。
5　暗褐色土　ローム粒を多く含み、やや明色を呈する。
6　明褐色土　ローム粒を主とする。



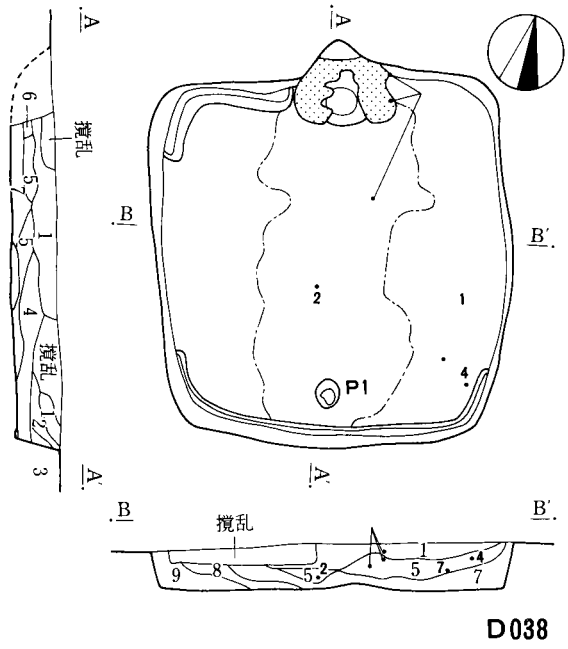

D037　D038の南側に位置する住居で、溝状遺構によって大きく破壊されている。規模は4.0m×3.4mを測り、床面も遺存している部分は少ないが、東西方向に帯状の硬化面が遺存している。カマドは検出できなかった。




PL.210　D036・D037実測図

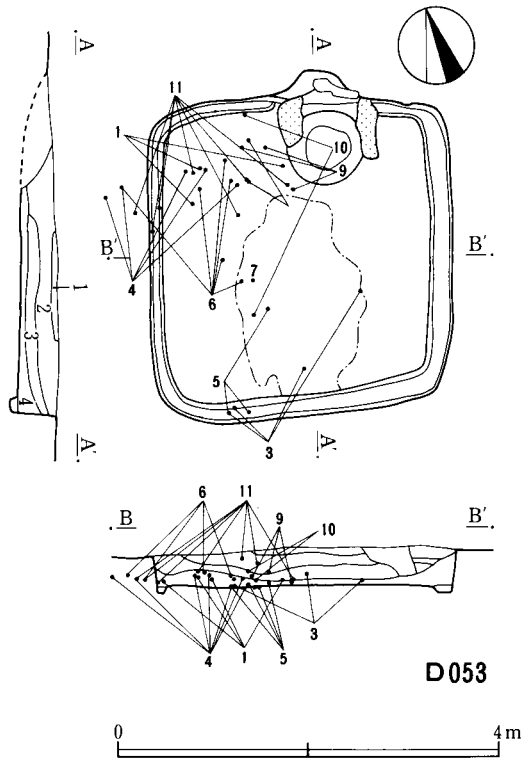
D038　柱穴はなく、南壁中央に出入口ピットがある。床面はＰ１からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ローム粒を含む。
2　暗褐色土　ローム粒・褐色土を極くわずかに含む。
3　明褐色土　ローム崩壊土層。
4　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
5　明褐色土　ローム粒・ロームブロック・褐色土の混合土。
6　カマド崩壊土。
7　暗褐色土　ローム粒を含む。部分的にロームブロックを含む。
8　明褐色土　ローム粒・ロームブロックを主とし、褐色土を含む。
9　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。

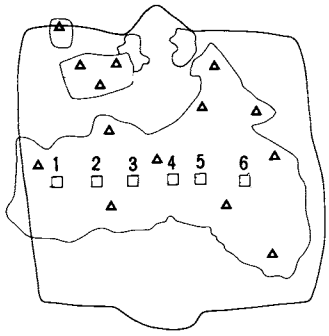


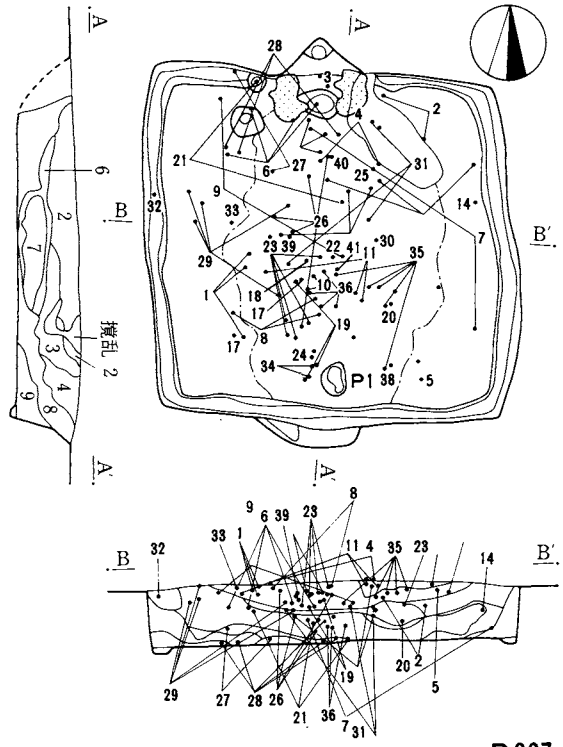

D053　他の建物とは若干離れて位置している。規模は3.3m×3.1mを測り、柱穴はなく、床面は南西壁中央からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。カマドは北東壁中央に設置され、煙道部の張り出しはほとんどない。

1　黒色土　ローム粒をやや多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒・黒色土粒をそれぞれブロック状に含む。
3　黒色土　ローム粒をブロック状に若干含む。
4　明褐色土　ローム粒を多く含む。




PL.211　D038・D053実測図

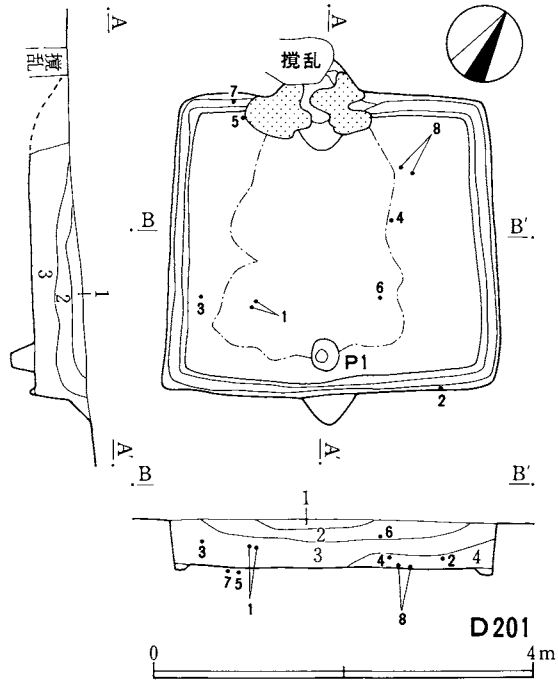



1　黒褐色土　ローム粒を少し含む。
2　暗褐色土　褐色土・ローム粒を含む。
3　褐色土　ローム粒を多量に含む。
4　暗褐色土　褐色土をブロック状に含む。ローム粒を混入する。
5　暗褐色土　焼土粒をわずかに含む。
6　黒褐色土
7　貝　層　小形のハマグリを主体とする。
8　褐色土　ローム粒を多く含む。
9　明褐色土　ローム粒及び褐色土の混合土。
10　黒褐色土　ローム粒及びロームブロックを含む。

D067　確認面からの深さは0.6mで、住居内に大量の貝が廃棄されていた。貝の廃棄は主に東側から行われ、住居廃絶後、かなり早い段階で貝の廃棄が開始されている。南壁中央に出入口のピットがあり、その部分の壁が僅かに張り出している。P1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

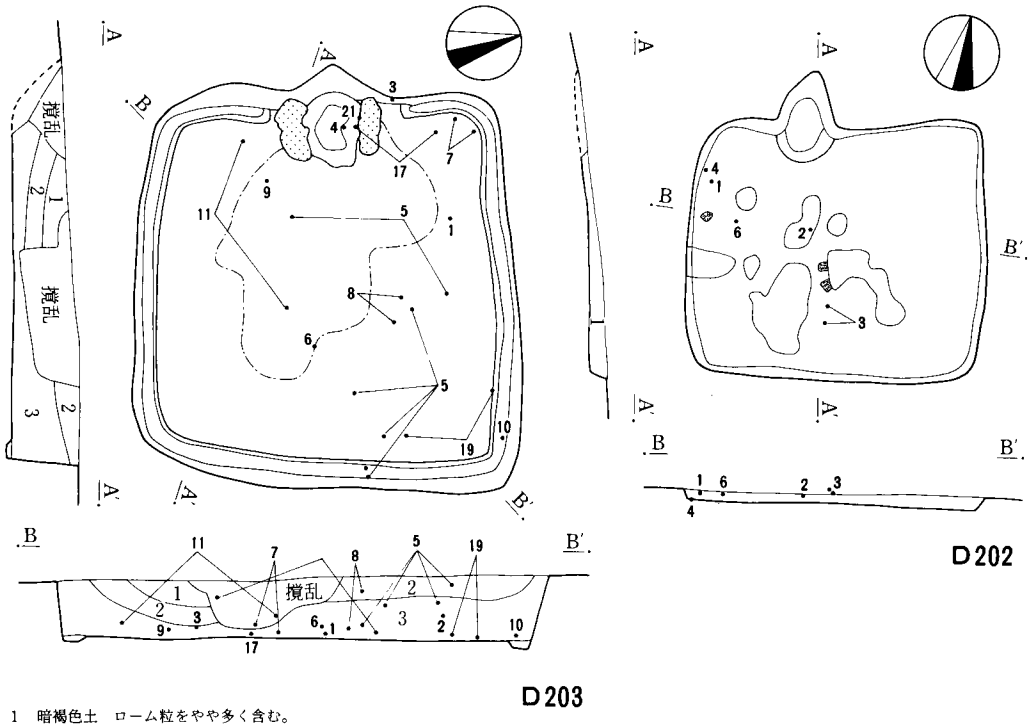
D067




1　黒色土　ローム粒を少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
3　褐色土　ローム粒を多量に含む。
4　明褐色土　ローム主体だが、黒色土もブロック状に含む。

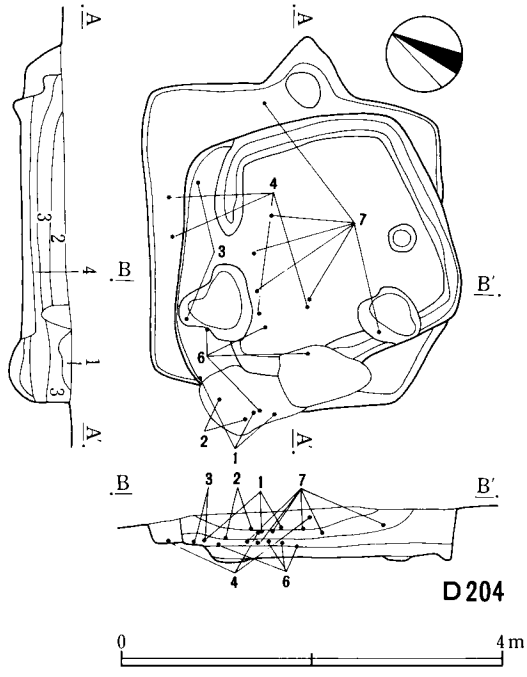
D201

PL.212　D067・D201実測図




1　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
2　黒色土　　ローム粒を含む。
3　明褐色土　ローム粒をかなり多量に含む。

D204　A・B・Cの3軒が重複している。便宜的に内側からA・B・Cとし、A→B→Cの先後関係が確認できた。Aの埋土はBの貼床部分だけである。柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。Bはの埋土はない。Cの床面は住居中央の貼床部分に硬化面が遺存している。

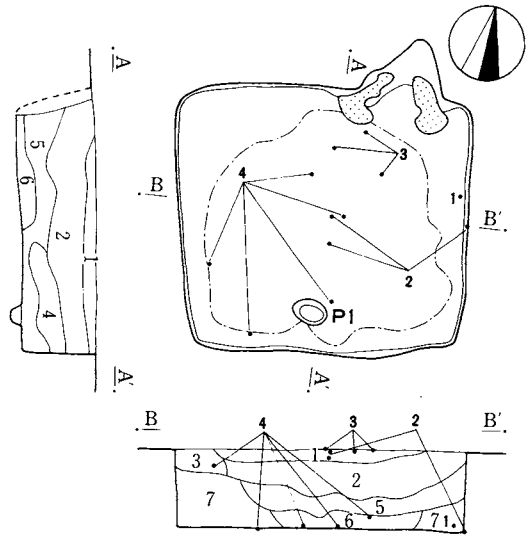



1　暗褐色土　黒色土を少量含む。
2　黒色土　　褐色土をブロック状に含む。
3　褐色土　　暗褐色土をブロック状に含み、焼土粒・炭化粒を少量含む。
4　暗褐色土　暗褐色土・ローム粒を含む。

PL.213　D202・D203・D204実測図

D205　規模は3.1m×2.8mを測り、柱穴・壁溝はなく、南壁際中央に出入口ピットがある。床面は壁際を除いた広い範囲に硬化面が遺存している。カマドは北壁の東寄りに設置され、火床部はほとんど壁外に位置する。

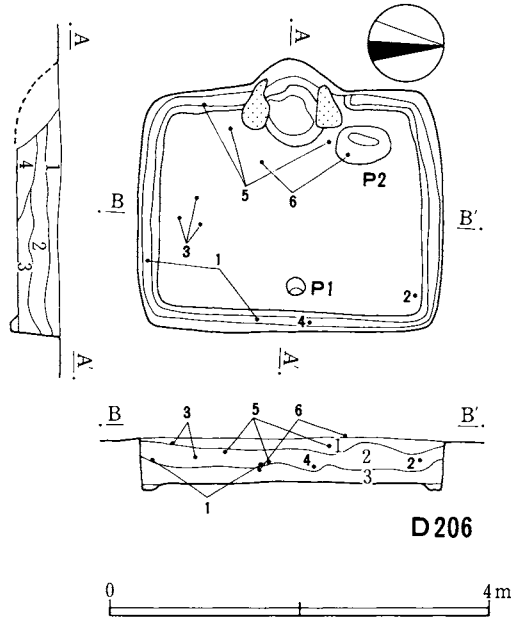
1　黒褐色土　ローム粒を僅かに含む。
2　明褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
3　褐色土　ローム粒を多く含む。
4　黄暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
5　黄褐色土　ロームブロックをかなり多く含む。
6　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。
7　褐色土　ロームブロック・ローム粒を多く含む。




D205

D206　D272の東側に位置する住居で、規模は3.2m×2.5mを測り、主軸方向はN－90°－Wを指す。柱穴はなく、カマドに対峙する東壁際中央に出入口ピットがある。また、カマド右脇に0.5m×0.4mの貯蔵穴がある。

1　黒褐色土　ローム粒少なく、僅かにロームブロックを含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
4　明褐色土　カマド崩壊土を多く含む。

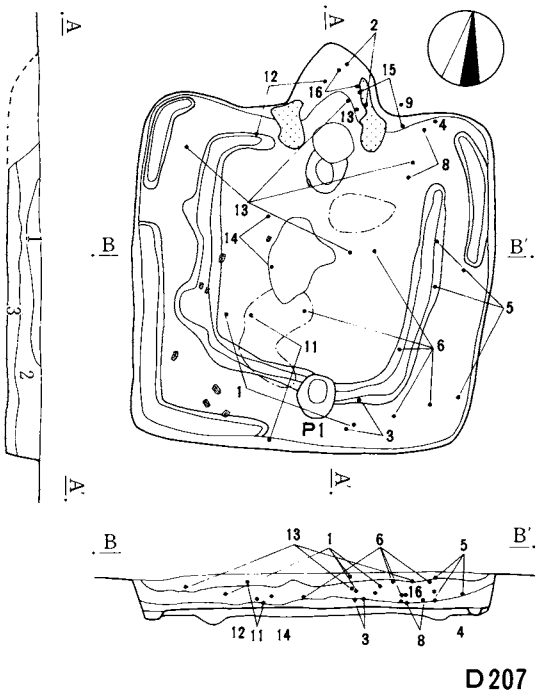



D206

PL.214　D205・D206実測図

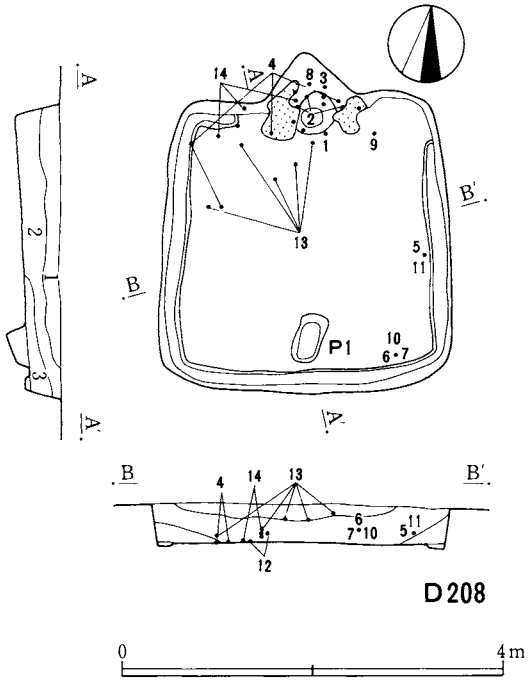
D207　A・B2軒の建て替えがある。B→Aの先後関係が確認できた。Aの床面は住居中央に僅かに硬化面が遺存している。また、住居中央に被熱した痕跡があり、カマドは別の機能を果たした炉として認識できる。Bの埋土はAの床面下にローム粒を含んだ土層が薄く残される。

1　黒褐色土
2　暗褐色土　ローム粒を含む。
3　ローム粒・カマド崩壊土を多く含む。




D208　D207の南側に位置する住居で、規模は3.1m×3.0mを測り、主軸方向はN－5°－Wを指す。柱穴はなく、カマドに対峙する南壁際中央に出入口ピットがある。

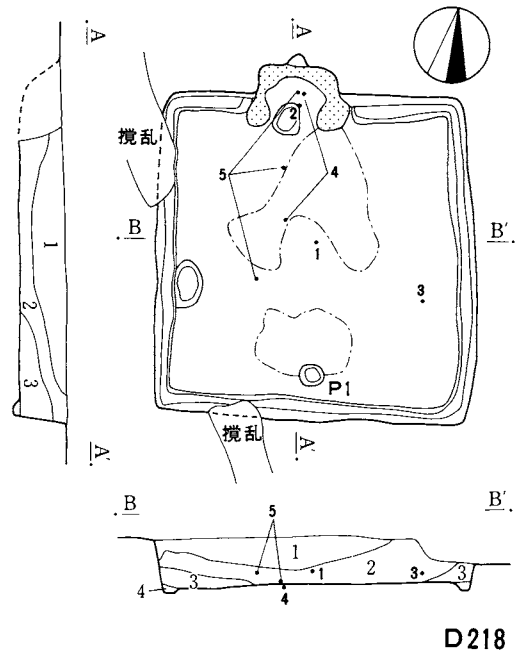
1　黒褐色土　ローム粒少なく、僅かに点在しているのが見える。
2　黄褐色土　カマド近くは僅かに砂質で、総じてローム粒多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒少し含む。




PL.215　D207・D208実測図

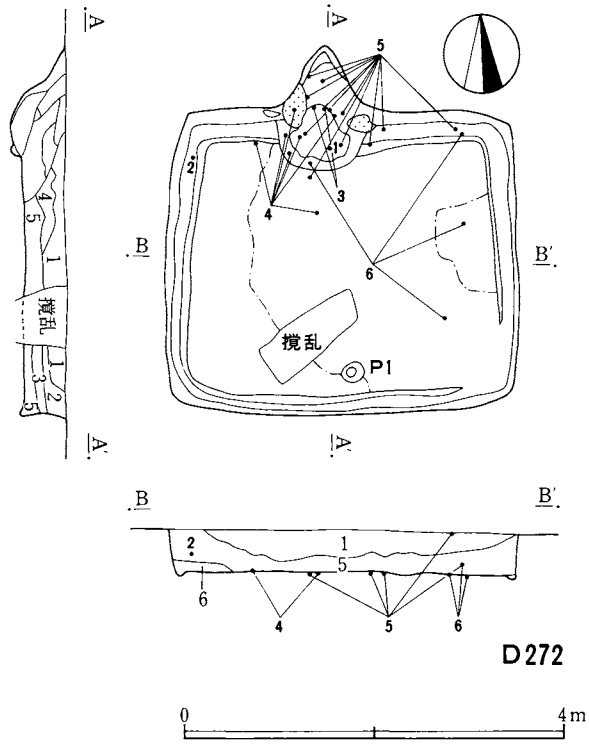
D218　D278の東側に位置する住居で、規模は3.4m×3.4mを測る。柱穴はなく、南壁際中央に出入口ピットがある。床面はＰ１の周辺とカマド前面に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ロームブロック・焼土粒を僅かに含む。
2　暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
3　暗褐色土　ロームブロックを含む。
4　黄褐色土　ロームを主体とする。

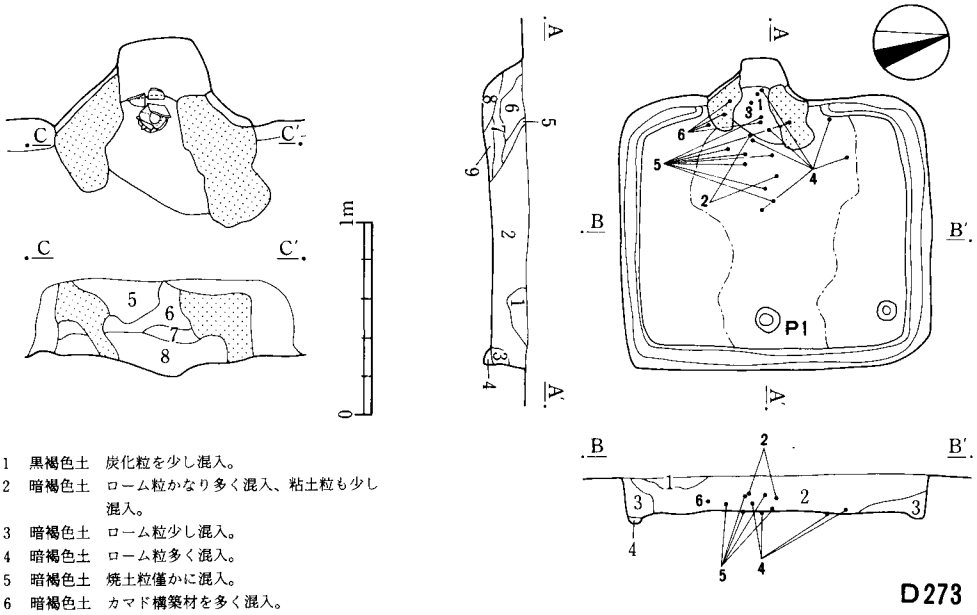



D272　D206の西側に位置する住居で、規模は3.6m×3.1mを測り、主軸方向はN－0°を指す。柱穴はなく、カマドに対峙する南壁際中央に出入口ピットがある。床面は住居東半分の広い範囲に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ローム粒僅かに混入。
2　暗褐色土　ローム粒多く混入。
3　黒褐色土　ローム粒少し混入。
4　暗褐色土　やや砂質、ローム粒・焼土粒混入。
5　暗褐色土　ローム粒多く混入。
6　暗褐色土　ローム粒僅かに混入。

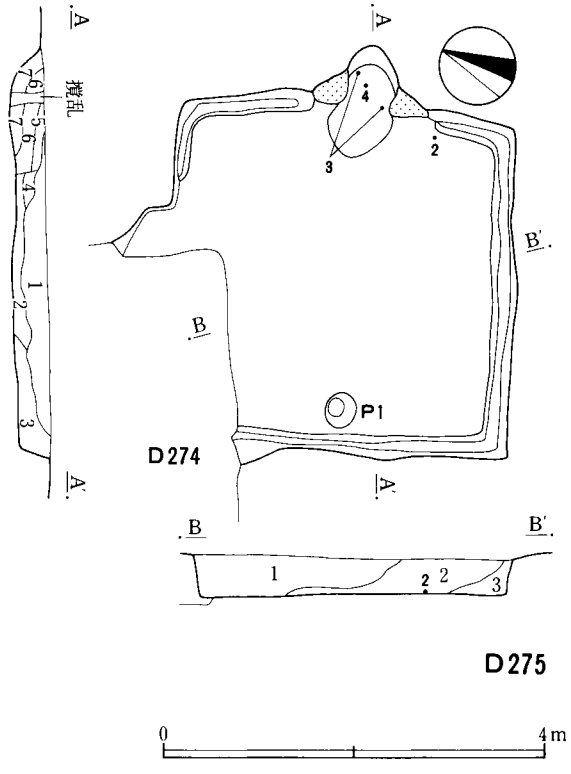



PL.216　D218・D272実測図



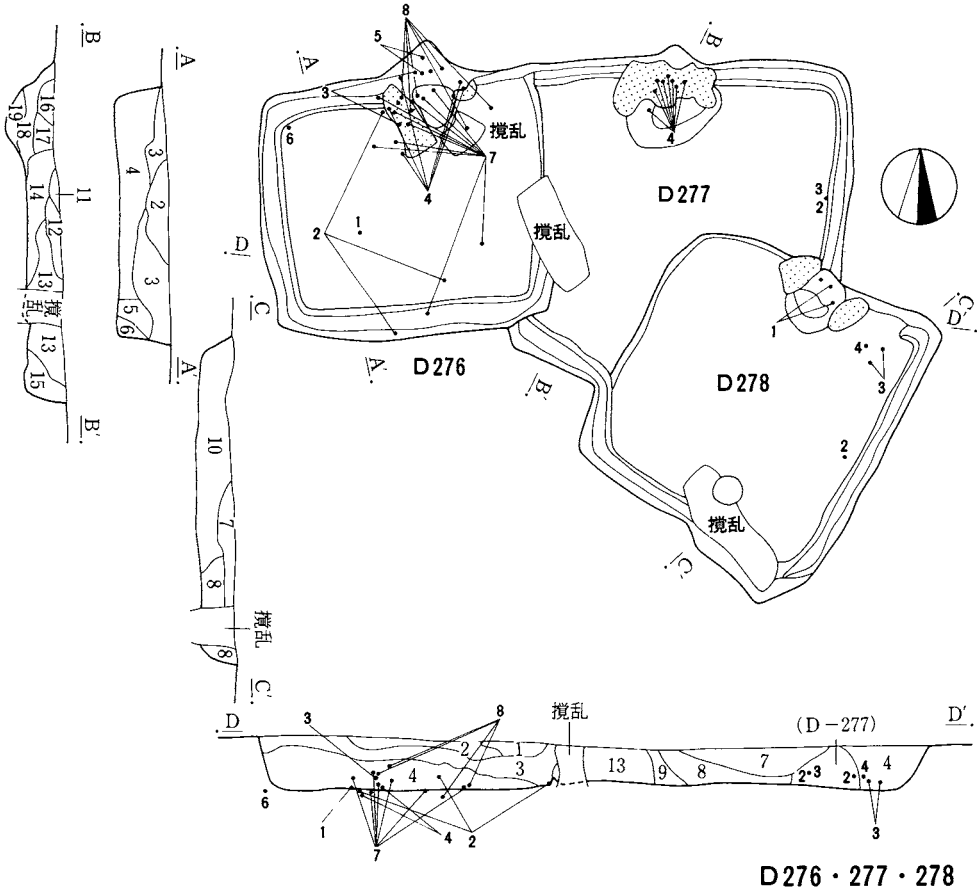

1　黒褐色土　炭化粒を少し混入。
2　暗褐色土　ローム粒かなり多く混入、粘土粒も少し混入。
3　暗褐色土　ローム粒少し混入。
4　暗褐色土　ローム粒多く混入。
5　暗褐色土　焼土粒僅かに混入。
6　暗褐色土　カマド構築材を多く混入。
7　暗褐色土　焼土粒多く混入。
8　焼土層
9　黒褐色土　焼土粒僅かに混入。

D275　古墳時代後期の住居跡D274と重複する住居で、規模は3.6m×3.3mを測り、柱穴はなく、カマドに対峙するに壁際中央に出入口ピットがある。




1　暗褐色土　焼土粒・ローム粒混入。
2　暗褐色土　ローム粒多く混入。
3　黒褐色土　ローム粒僅かに混入。
4　明褐色土　カマド構築材の白色の砂質粘土を主体とする。
5　天井部崩落土
6　黒褐色土　焼土粒混入する。
7　暗褐色土　焼土粒多く混入。

PL.217　D273・D275実測図




1　暗褐色土　ローム粒多く混入。
2　黒褐色土　ローム粒少し混入。
3　暗褐色土　ロームブロック少し混入。
4　暗褐色土　ローム粒多く混入、ロームブロック僅かに混入。
5　暗褐色土　ローム粒かなり多く混入。
6　暗褐色土　ローム粒多く混入。

D276

11　黒褐色土　焼土粒少し混入。
12　暗褐色土　焼土粒多く混入。
13　暗褐色土　ローム粒多く混入。
14　暗褐色土　カマド構築材僅かに流出。
15　暗褐色土　ローム粒多く混入。
16　天井部
17　暗褐色土　焼土粒少し混入。
18　暗褐色土　焼土粒多く混入、カマド構築材混入。
19　焼　土

D277

7　暗褐色土　ロームブロック僅かに混入。
8　暗褐色土　ローム粒少し混入。
9　黒褐色土　ローム粒少し混入。
10　明褐色土　ローム粒多く混入。

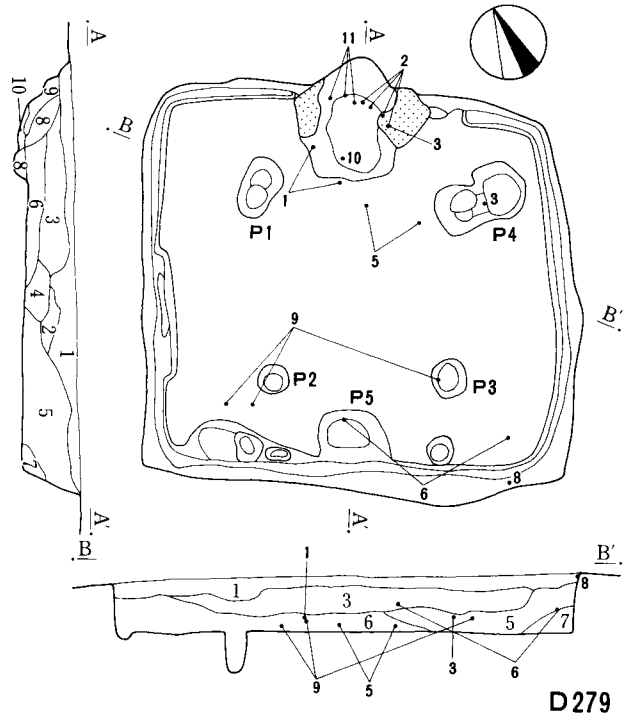
D278

0　4m

PL.218　D276・D277・D278実測図

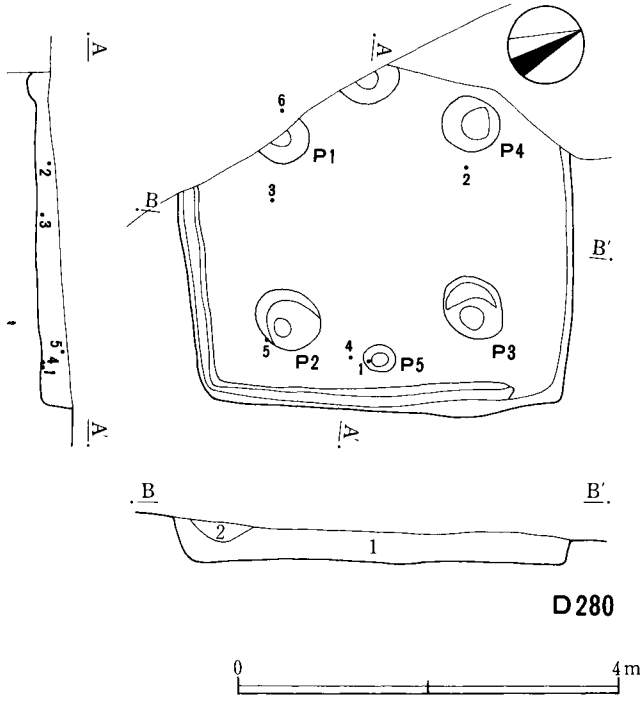
D279　柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P1・P4は柱の建て替えがある。P3は直径0.3m、床面から0.4mの深さを測る。

1　黒褐色土　焼土・ローム粒混入。
2　暗褐色土　ローム粒多く混入。
3　暗褐色土　焼土粒混入。
4　暗褐色土　焼土粒・ローム粒混入。
5　暗褐色土　ローム粒多く混入。
6　暗褐色土　若干砂質。
7　暗褐色土　ローム粒かなり多く混入。
8　暗褐色土　若干砂質。
9　焼土粒主体。
10　焼土。




D280　柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P2・P3は2段に掘り込まれている。P2は直径0.6m、床面から0.3mの深さを測る。また、カマドに対峙する南東壁際中央に出入口ピットがある。

1　暗褐色土　ローム粒多く混入。
2　暗褐色土　ローム粒かなり多く混入。




PL.219　D279・D280実測図

1　暗褐色土　ローム粒多く混入。
2　焼土
3　住居覆土

**D021**

1　暗褐色土　焼土粒・ローム粒僅かに混入。
2　暗褐色土　ローム粒多く混入。
3　暗褐色土　ローム粒かなり多く混入。
4　暗褐色土　ローム粒少し混入。
5　暗褐色土　焼土粒多く混入。

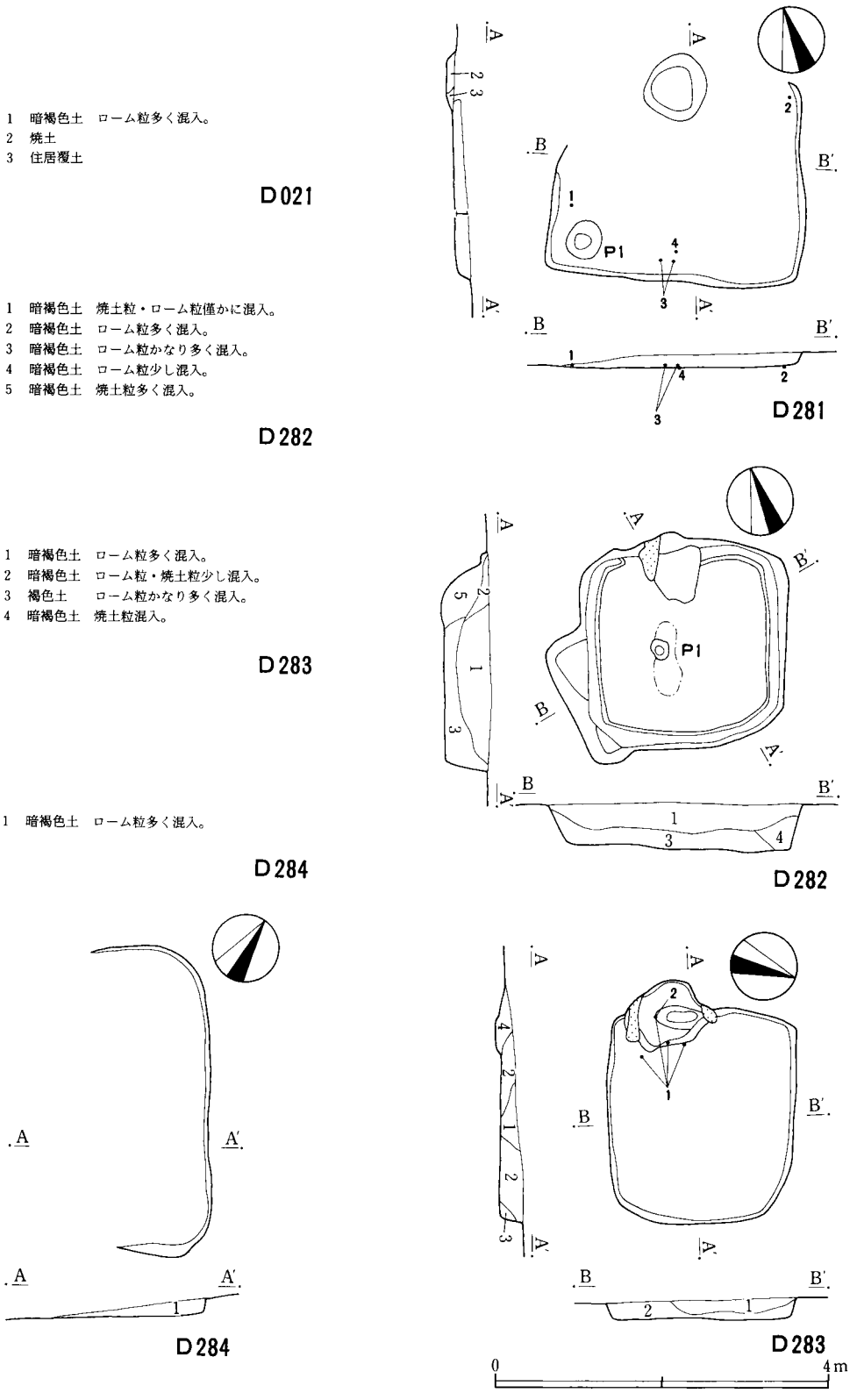
**D282**

1　暗褐色土　ローム粒多く混入。
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒少し混入。
3　褐色土　　ローム粒かなり多く混入。
4　暗褐色土　焼土粒混入。

**D283**

1　暗褐色土　ローム粒多く混入。

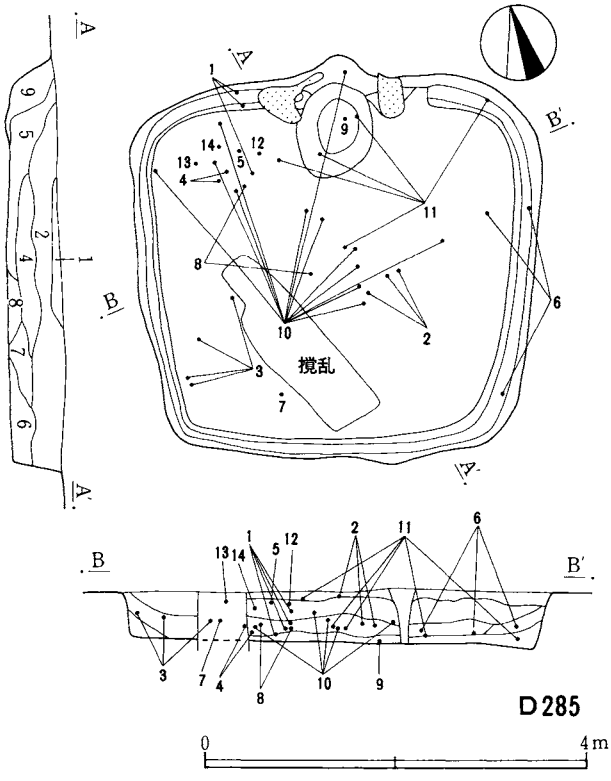
**D284**



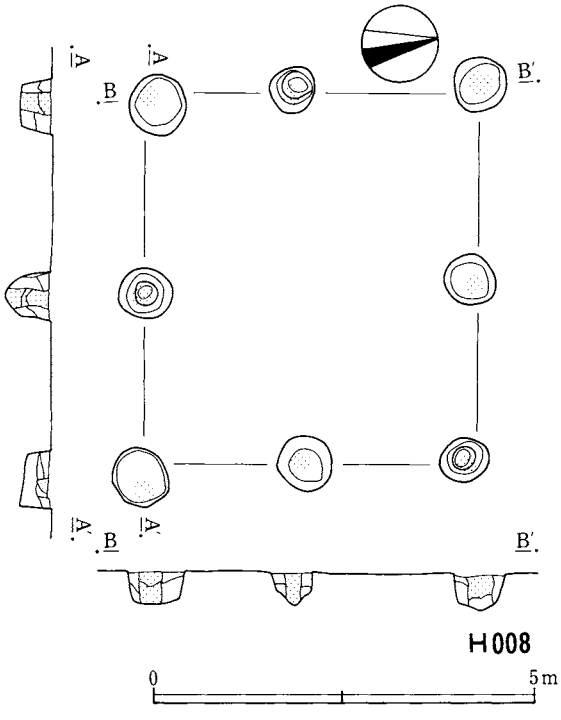

PL.220　D281・D282・D283・D284実測図

D285　D280の東側に位置する住居で、規模は4.1m×3.9mを測り、柱穴はない。カマドは北壁中央に設置され、袖材が僅かに残されている。

1　黒色土
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒少し混入。
3　暗褐色土　焼土粒多く混入。
4　暗褐色土　若干砂質、焼土粒混入。
5　暗褐色土　ローム粒混入。
6　暗褐色土　焼土粒多く混入。
7　暗褐色土　ローム粒多く混入、焼土粒少し混入。
8　カマド構築材・白色の粘質砂層、焼土粒少し混入。
9　焼土粒多く混入。若干砂質。

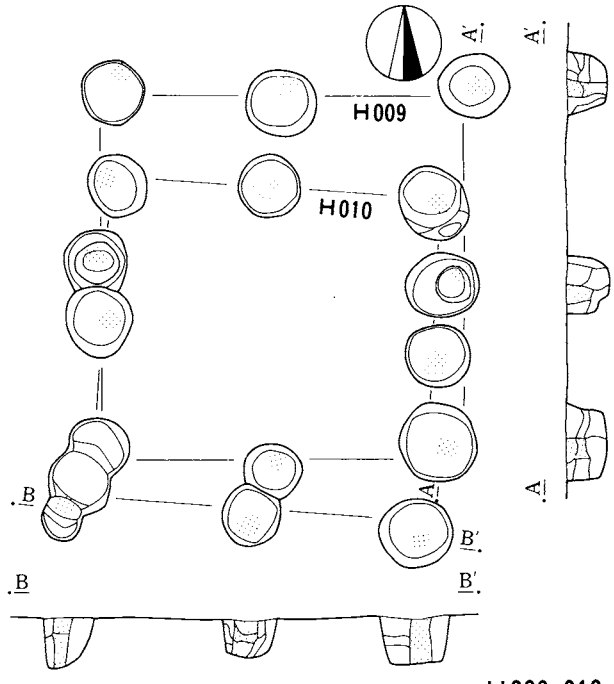



H008　H010に隣接する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－9°－Eを指し桁行長4.8m、梁行長4.4mを測る。柱間寸法は2.0～2.4mで、妻側が狭い。堀方は直径0.7mの円形で、確認面からの深さ0.4～0.6mを測る。

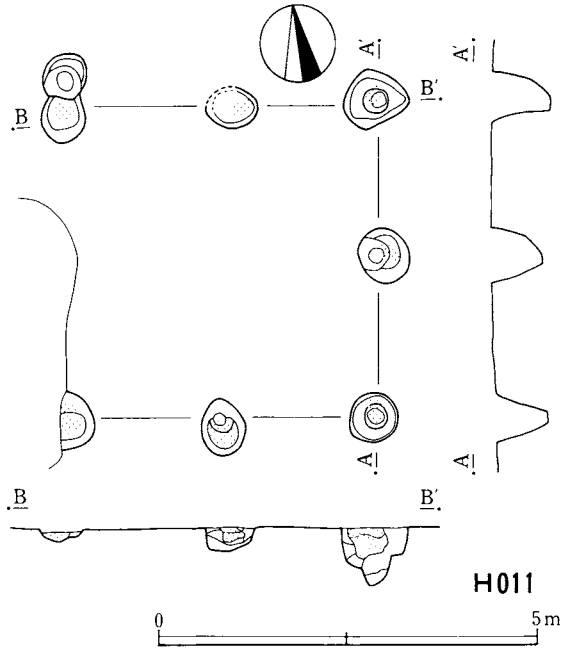



PL.221　D285・H008実測図

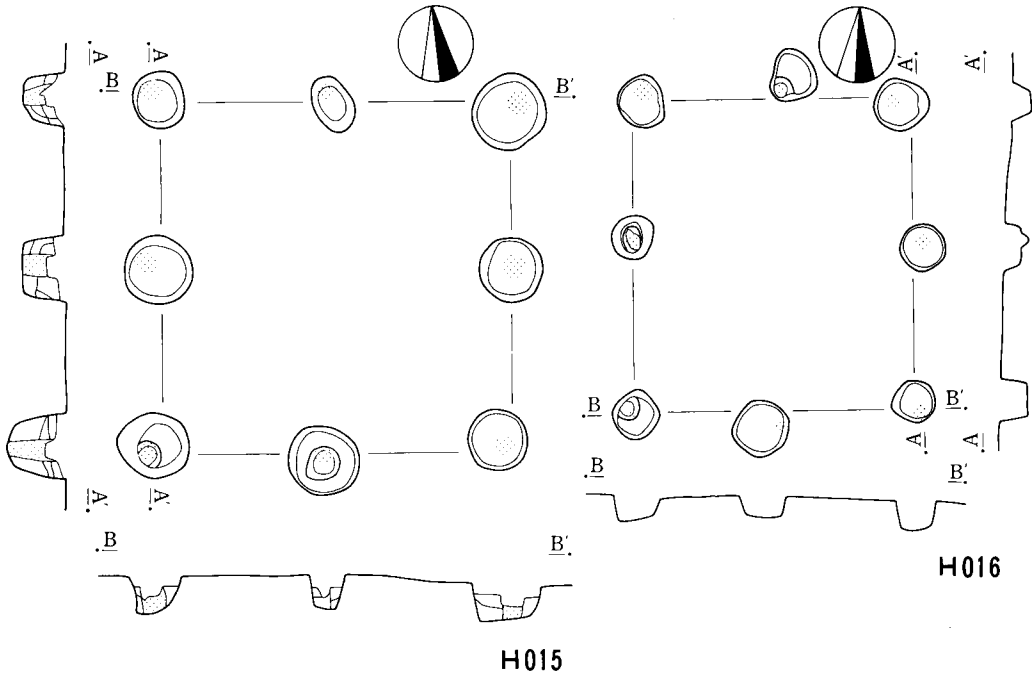
H009　H010と重複する建物で、H009→H010の先後関係が確認できた。建物は2間×2間の側柱構造で、長軸方向はN－0°を指す。桁行長4.8m、梁行長4.8mを測り、柱間寸法は2.3～2.5mで、堀方は直径0.8～1.0mの円形を呈している。




H011　D024に隣接する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－80°－Wを指し桁行長4.2m、梁行長4.0mを測る。柱間寸法は1.9～2.1mで、堀方は直径0.7mの円形を呈している。埋土は全体にロームブロックを含んでいる。



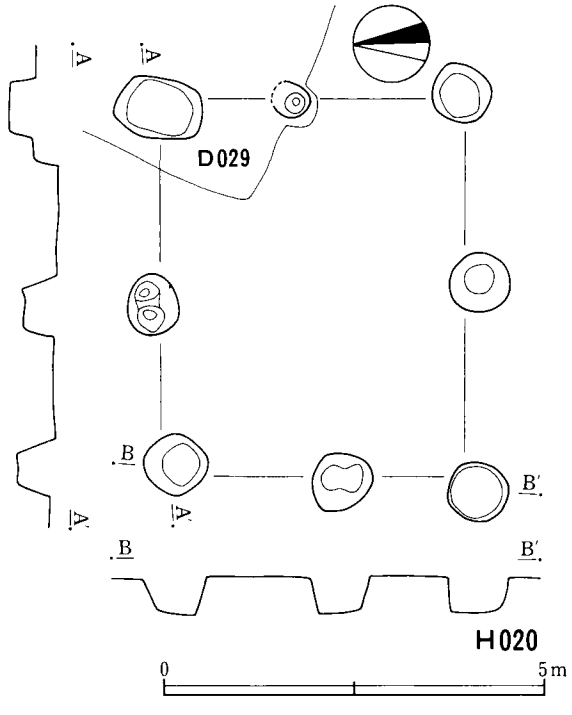

PL.222　H009・H010・H011実測図




H015　2間×2間の側柱構造で、桁行長4.6m、梁行長4.4mを測る。柱間寸法は2.3mで統一され、堀方は直径0.7～0.9mの円形を呈している。

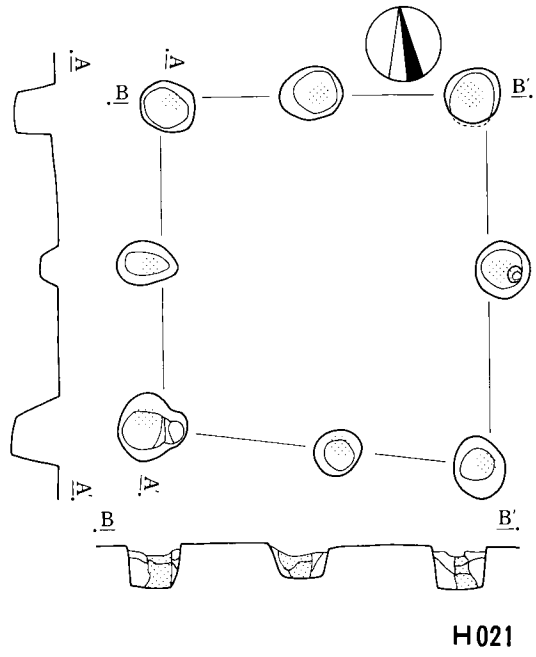
H016　2間×2間の側柱構造で、桁行長4.1m、梁行長3.7mを測る。柱間寸法は1.6～2.0mで、堀方は直径0.6～0.8mの円形を呈している。

H020　2間×2間の側柱構造で、桁行長4.9m、梁行長4.0mを測り、柱間寸法は1.8～2.5mである。

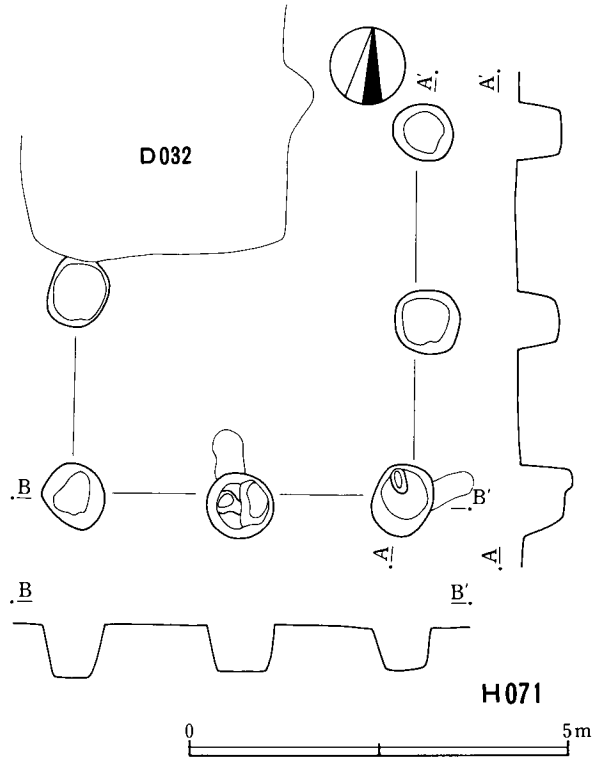



PL.223　H015・H016・H020実測図

H021　D030の北側に位置する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－5°－Eを指し、桁行長4.8m、梁行年4.3mを測る。柱間寸法は1.9～2.1mで、堀方は直径0.6～0.7mの円形を呈している。確認面からの深さは0.5～0.6mで、埋土はローム粒を含んでいる。

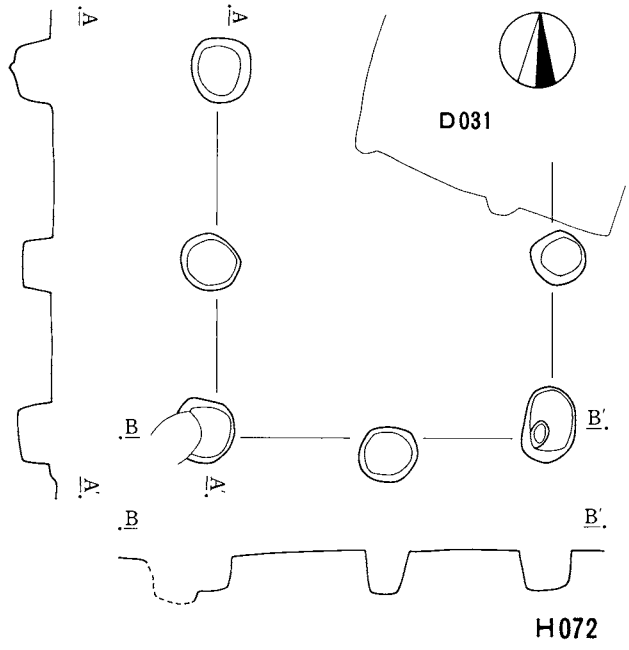



H071　D032と重複する建物で、D032 と重複する部分では堀方が検出できなかったが、2間×2間の側柱構造と考えられる。長軸方向はN－9°－Wを指し、桁行長4.8m、梁行長4.5mを測り、柱間寸法は2.4mで統一される。堀方は直径0.8mの円形を呈し、確認面からの深さは0.6～0.7mで、埋土はローム粒・ロームブロックを多く含んでいる。

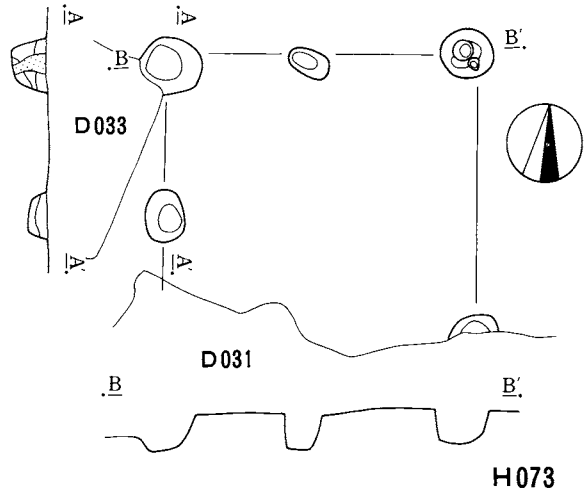



PL.224　H021・H071実測図

H072　D031と重複する建物で、H071と柱筋をほぼ揃えて並んでいる。建物は2間×2間の側柱構造で、長軸方向はN－2°－Wを指す。桁行長4.8m、梁行長4.4mを測り、柱間寸法は2.2～2.4mである。堀方は直径0.7～0.8mの円形で、確認面からの深さは0.4～0.6mである。埋土はローム粒を含んでいる。

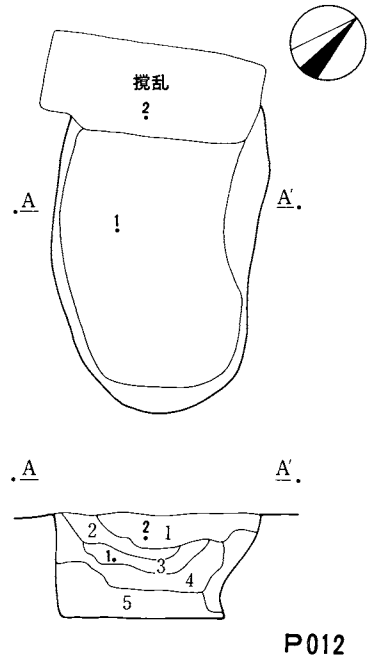



H073　H071・H072の北側に位置する建物で、D031～D033と重複している。竪穴住居と重複する部分では堀方が検出できなかったが、周辺の建物から2間×2間の側柱構造の可能性が高い。長軸方向はN－7°－Wを指し、桁行長は現存で3.7m、梁行長4.1mを測る。柱間寸法は2.0mで、堀方は直径0.6～0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.3～0.5mで、埋土はローム粒を含んでいる。

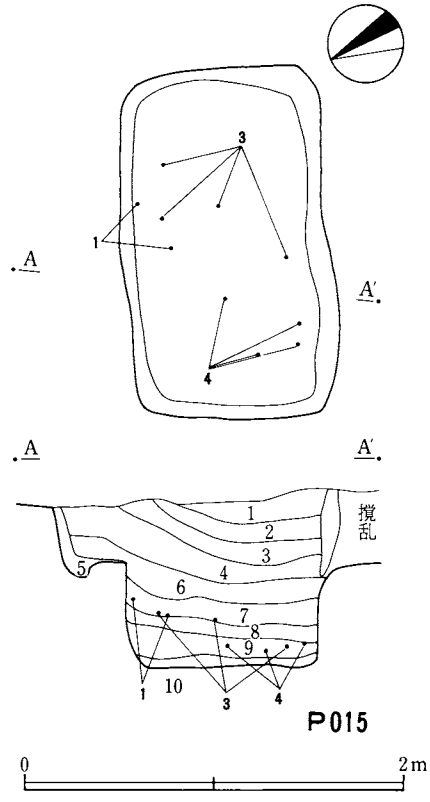


PL.225　H072・H073実測図

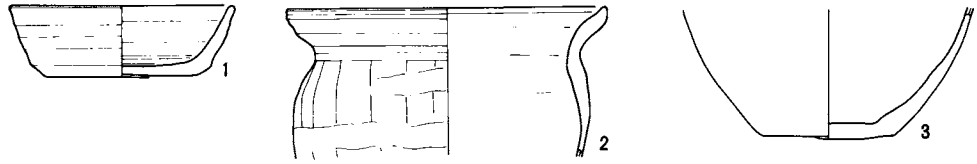
1　黒褐色土　褐色土を小ブロック状に含む。焼土・炭化物も少量含む。
2　暗褐色土　山砂・焼土を多量に含む。
3　暗褐色土　炭化物を多量に含む。
4　暗褐色土　褐色土を小ブロック状に含む。
5　褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
6　明褐色土　ローム粒・褐色土の混合土。



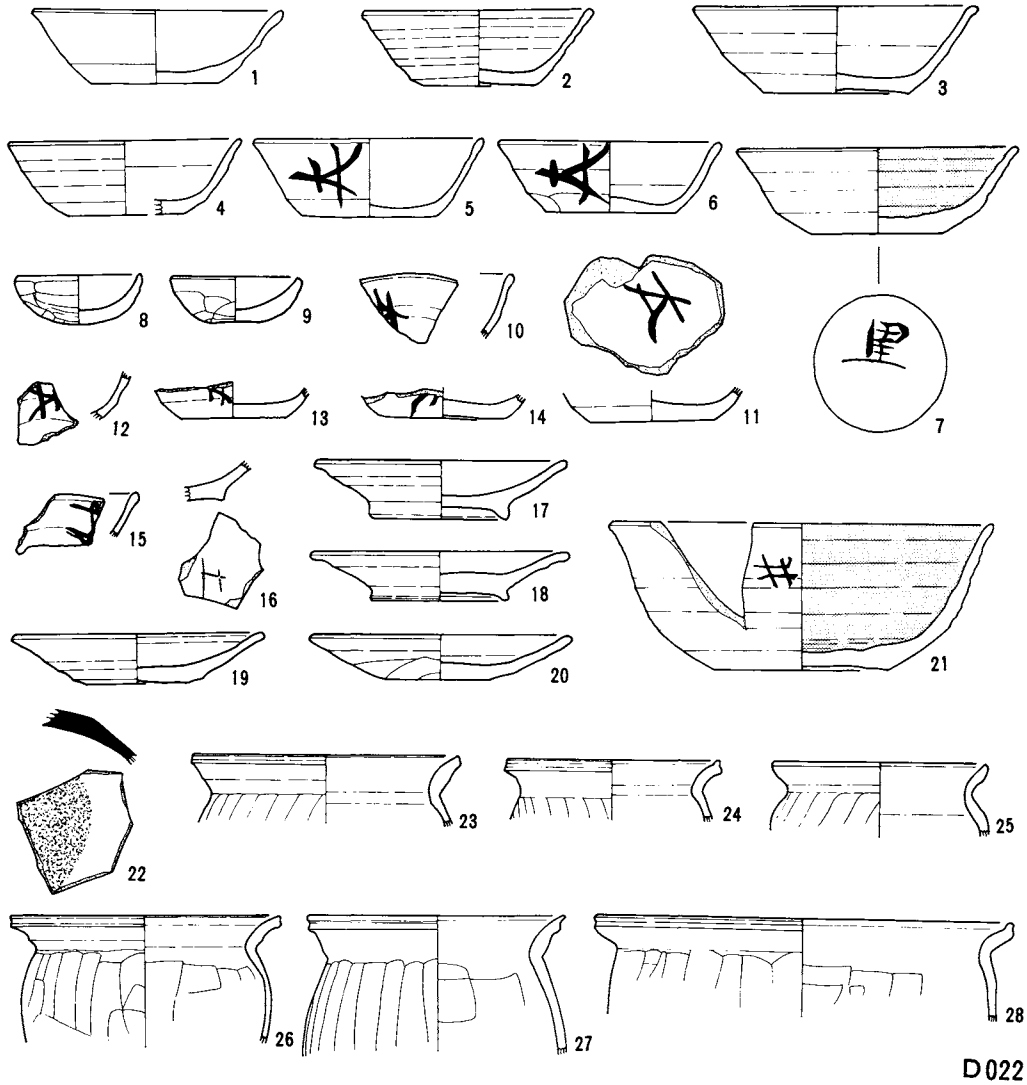

1　黒色土　ローム粒を若干含む。
2　黒褐色土　ローム粒を多く含み、焼土粒・焼土ブロックを含む。
3　暗褐色土　ローム粒を含む割合が多くなるが、黒色土もブロック状に含む。
4　褐色土　ローム粒をブロック状に多く含み、又黒色土も含む。
5　褐色土　ロームブロックを含む。
6　褐色土　ローム粒を含む。
7　黒褐色土　炭化物を若干含み、焼土粒子・焼土ブロックも含む。
8　明褐色土　焼土粒・炭化物を若干含むが、ロームが主体で、白色砂質土も若干含む。
9　暗褐色土　焼土粒をかなり多く含み、若干の炭化物も含む。
10　明褐色土　ローム主体だが、黒色土粒もやや多い。




PL.226　P012・P015実測図

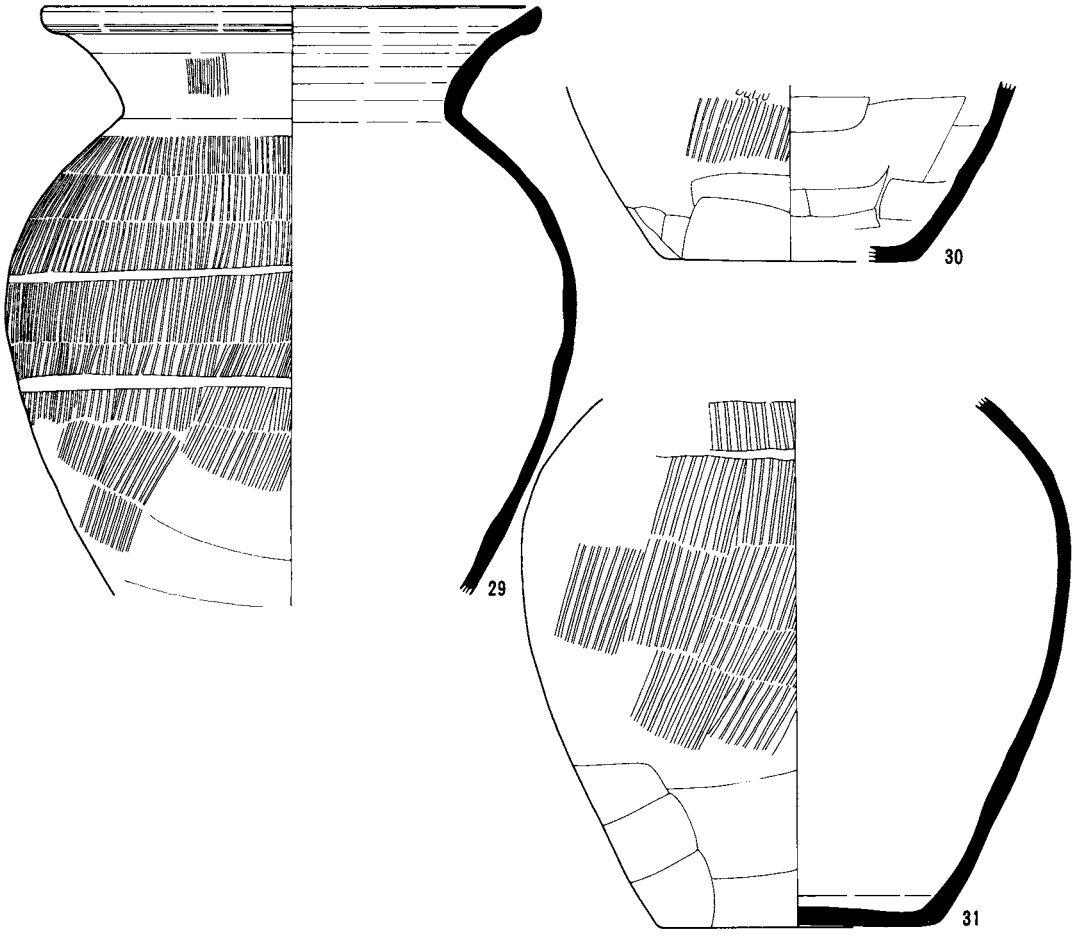



D021

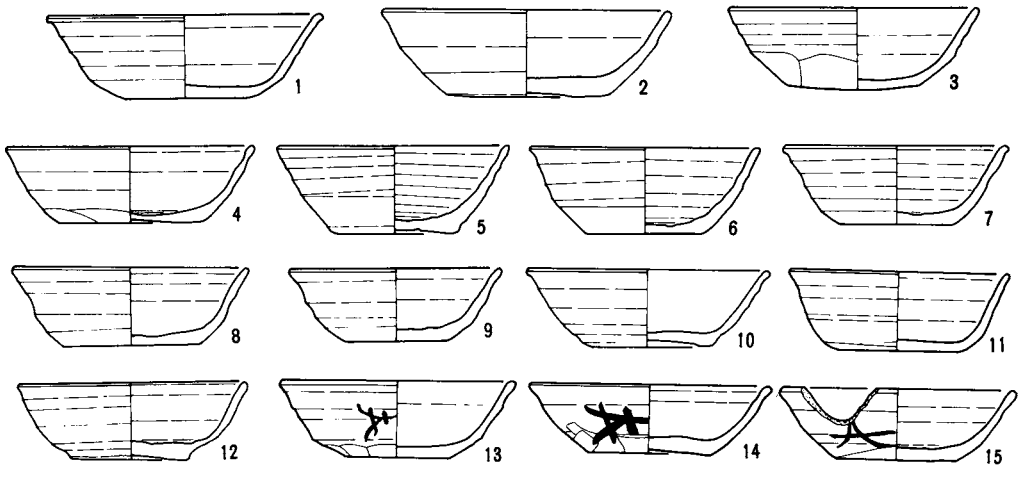



D022

PL.227　歴史時代2群C遺物実測図 1



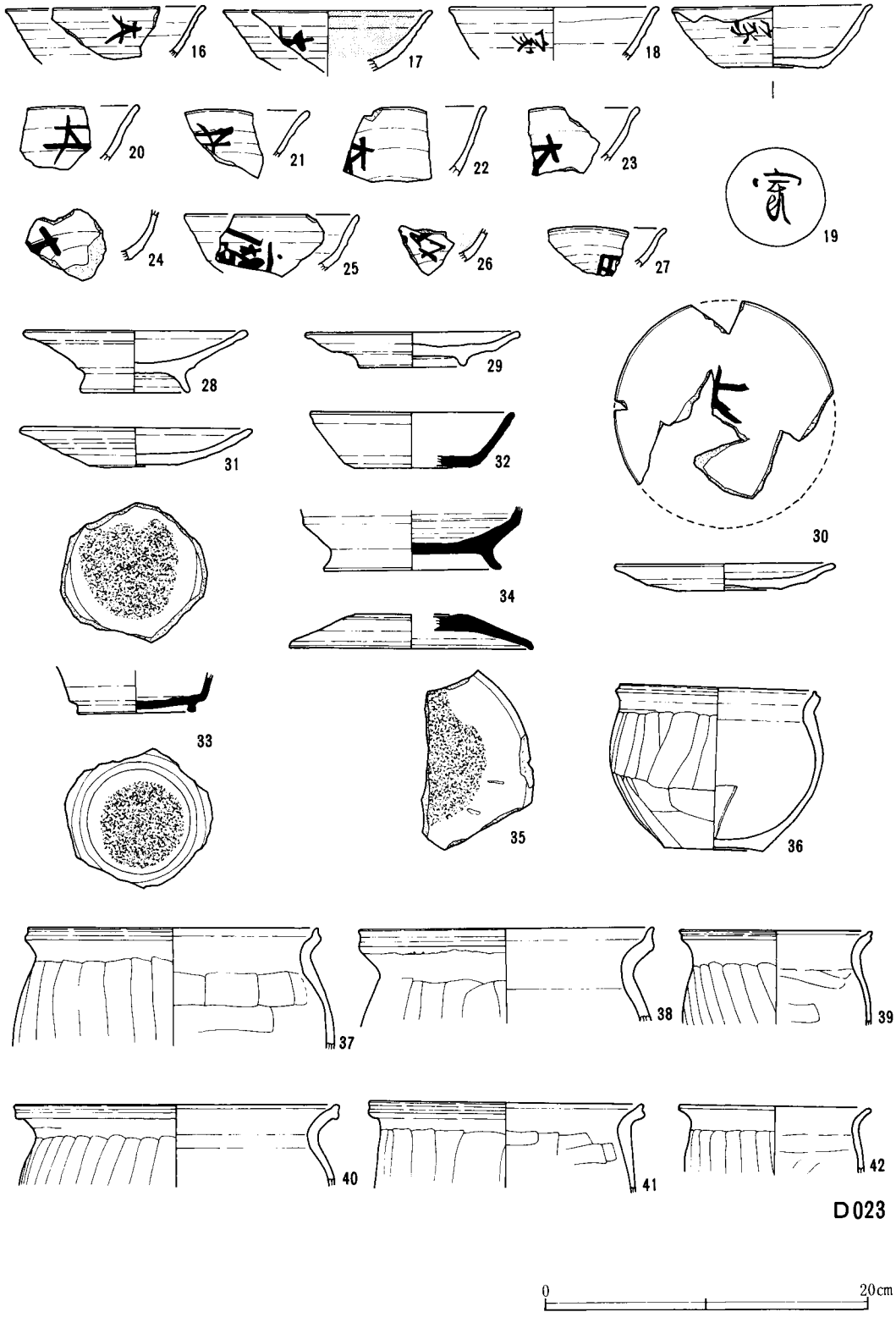

D022



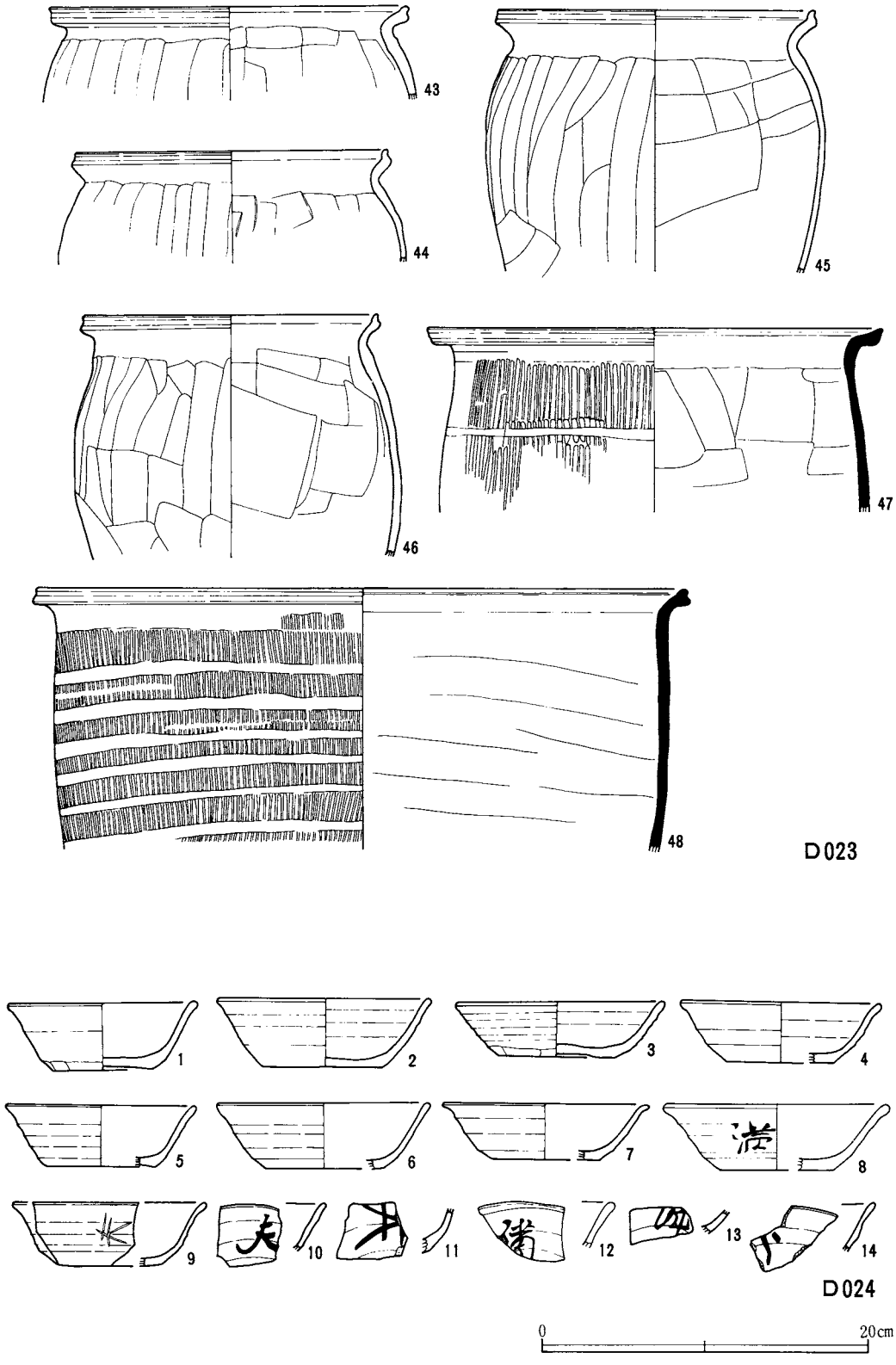

D023

0 20cm

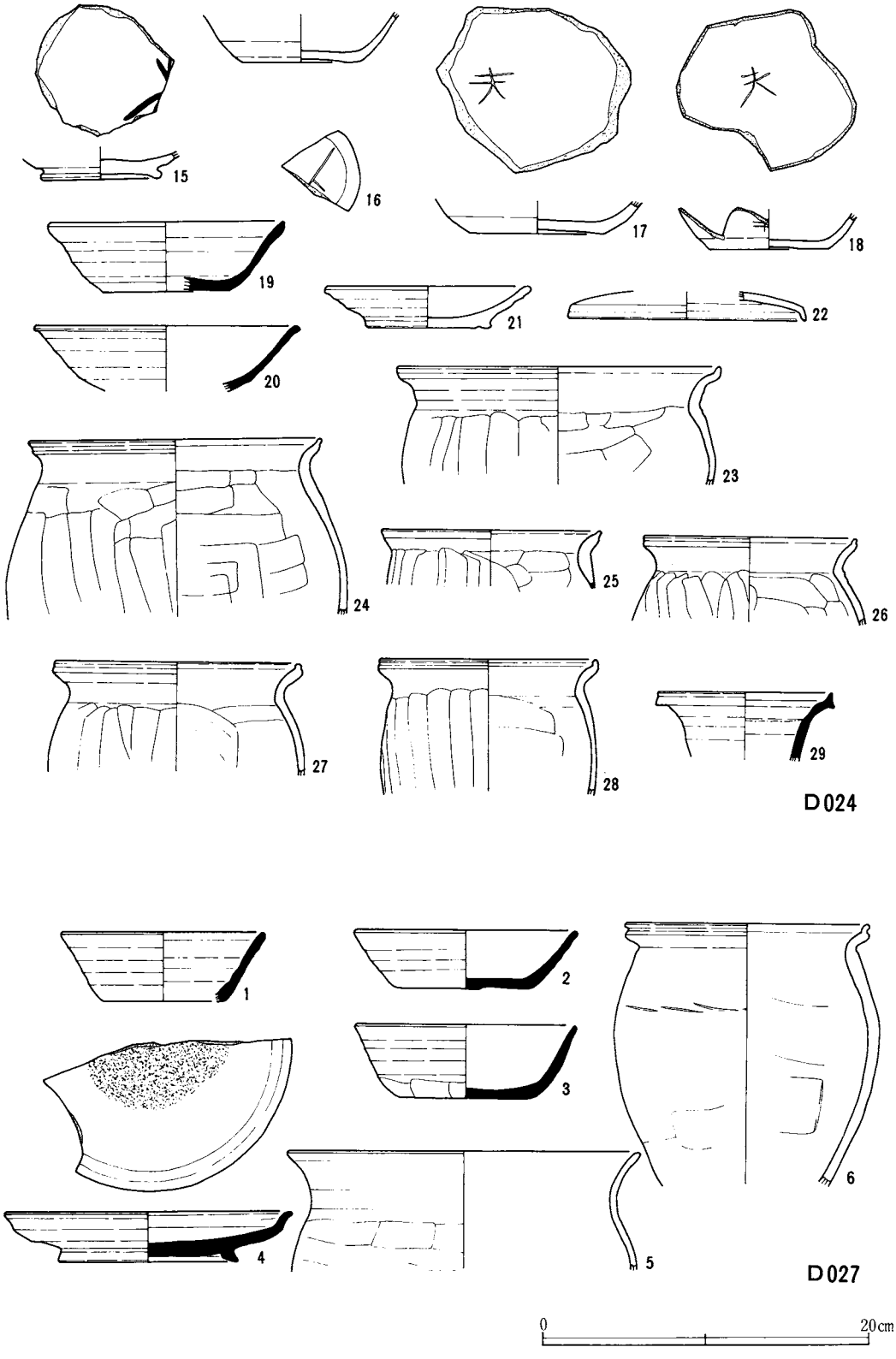
PL.228　歴史時代2群C遺物実測図　2



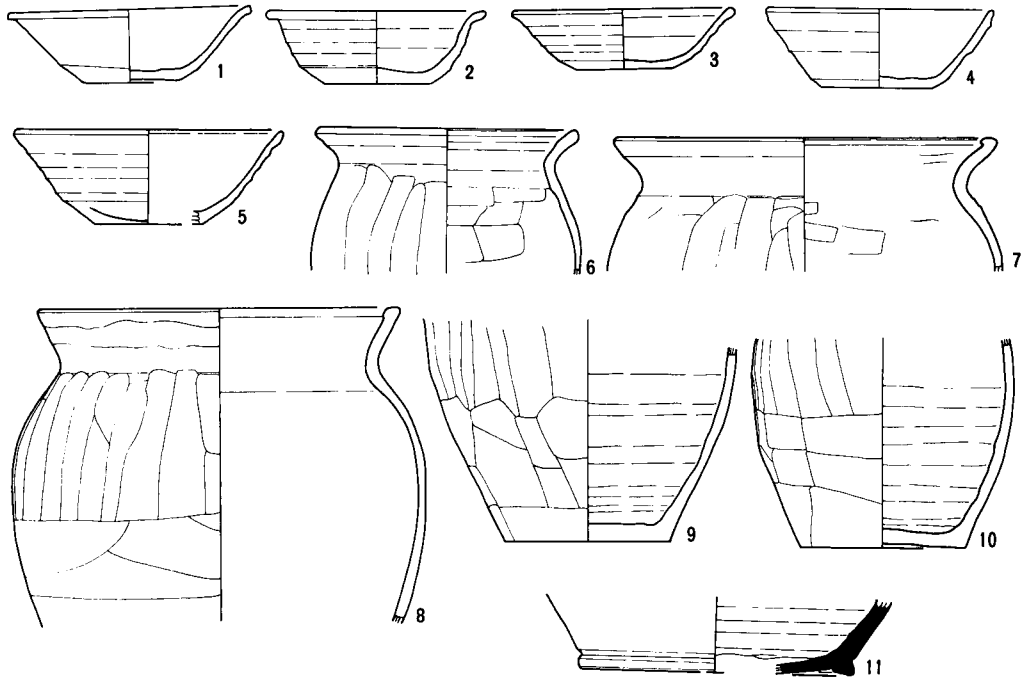

PL.229　歴史時代2群C遺物実測図　3



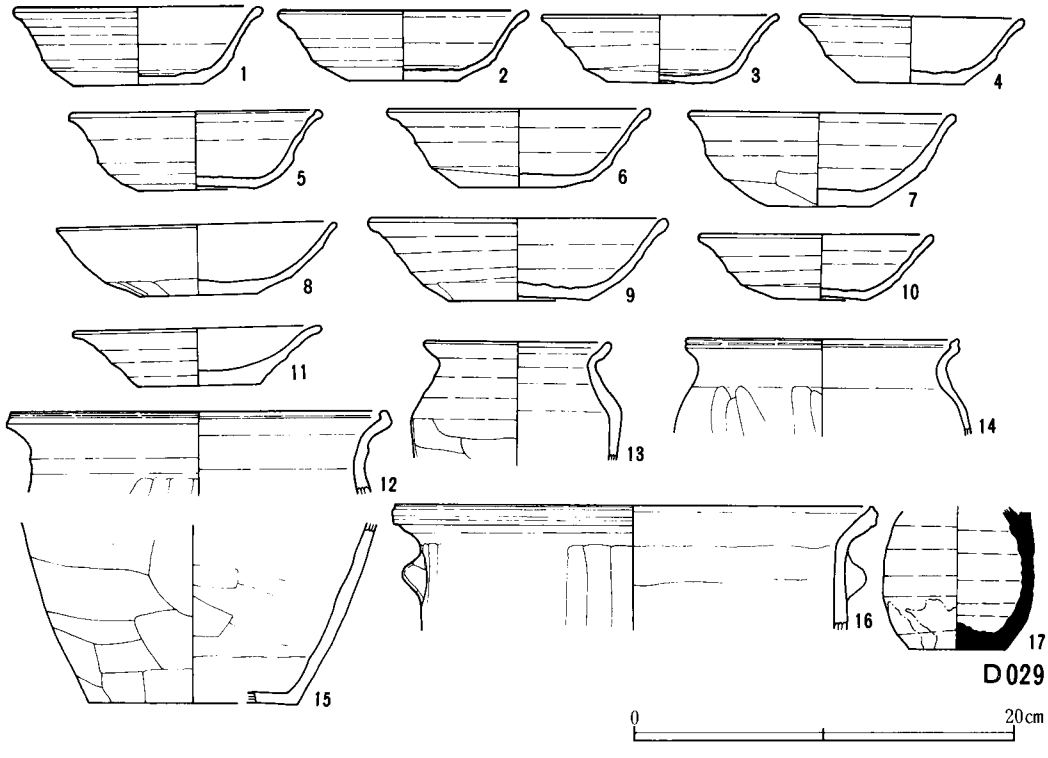

PL.230　歴史時代2群C遺物実測図　4




PL.231　歴史時代2群C遺物実測図 5

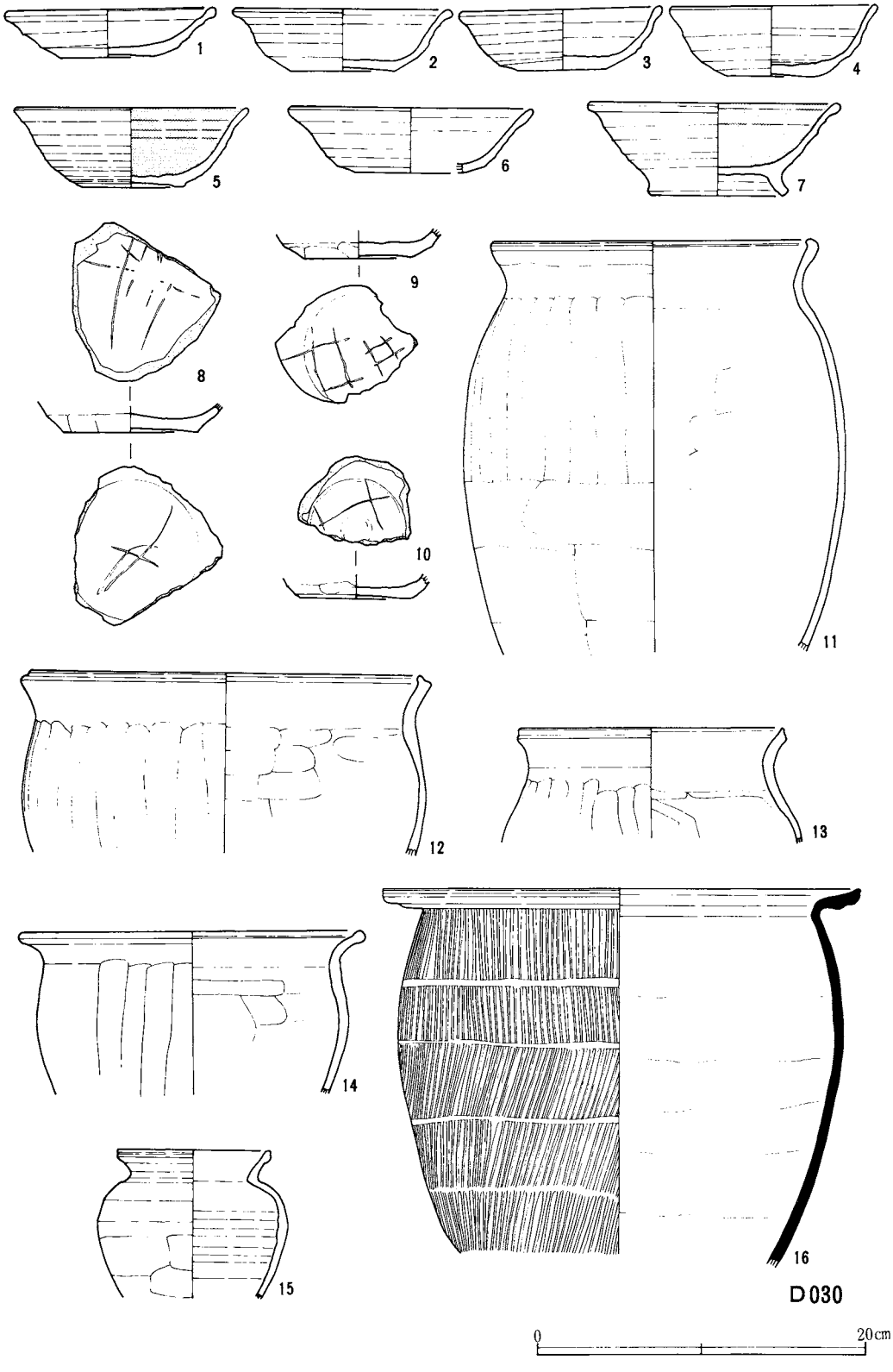



D028

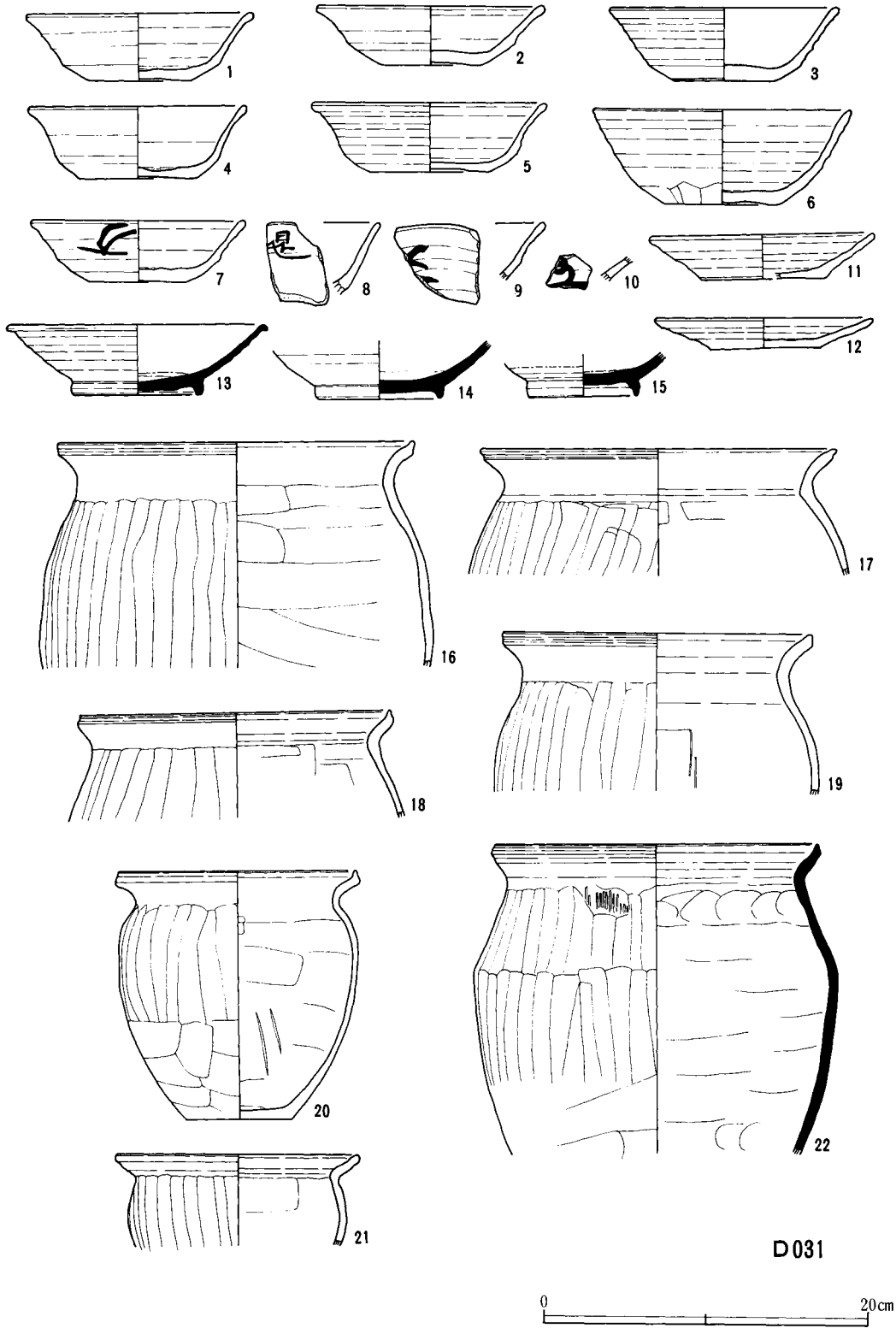



D029

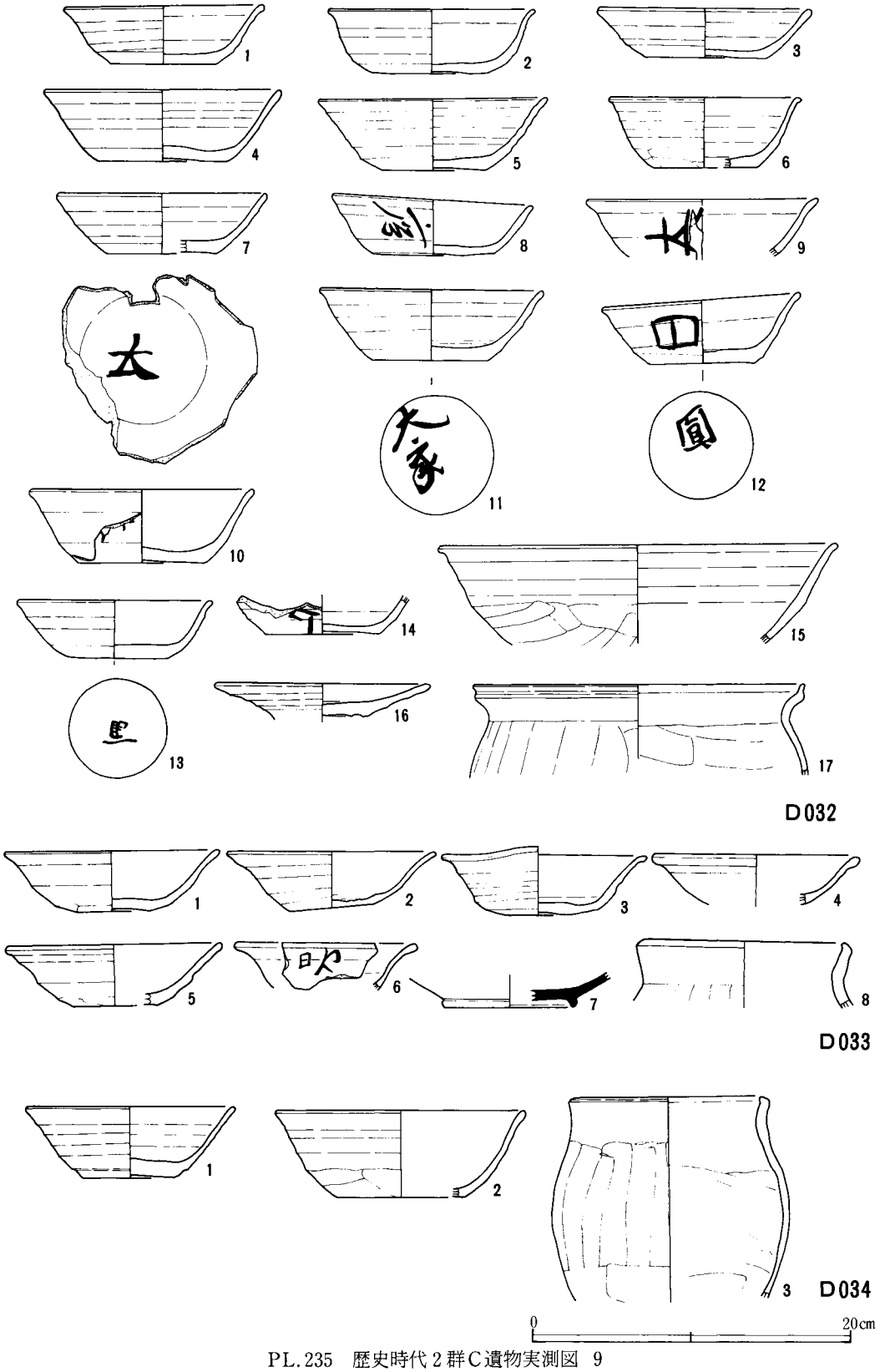
PL.232　歴史時代2群C遺物実測図　6



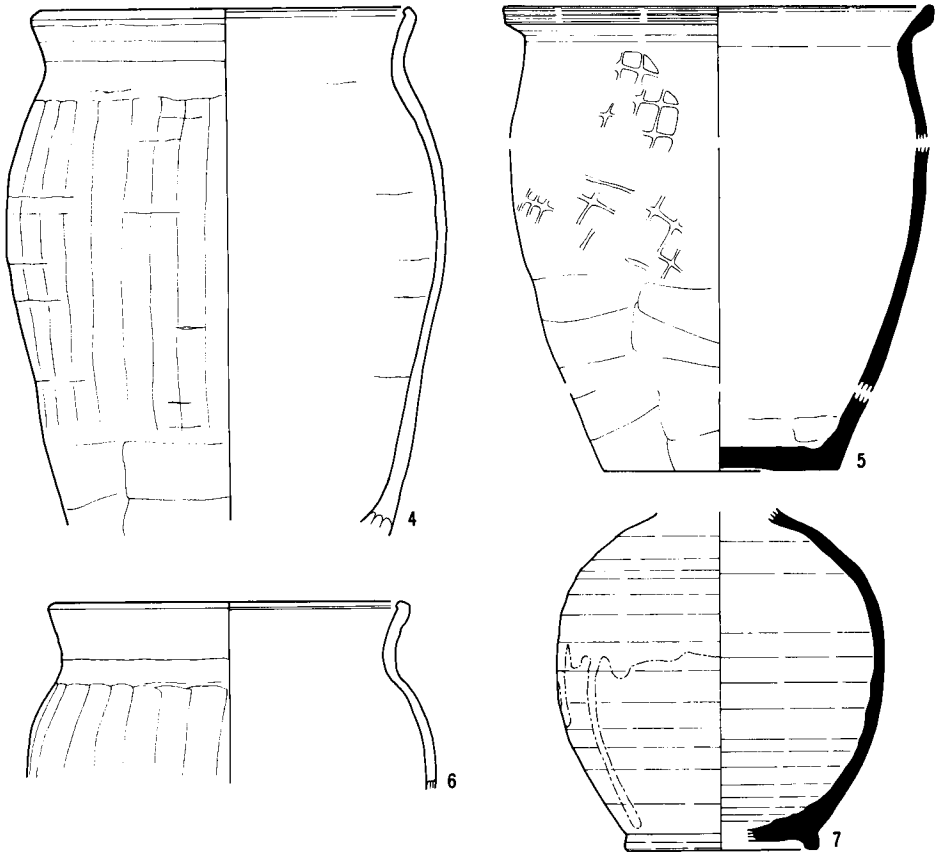

PL.233　歴史時代２群Ｃ遺物実測図　7




PL. 234　歴史時代2群C遺物実測図 8

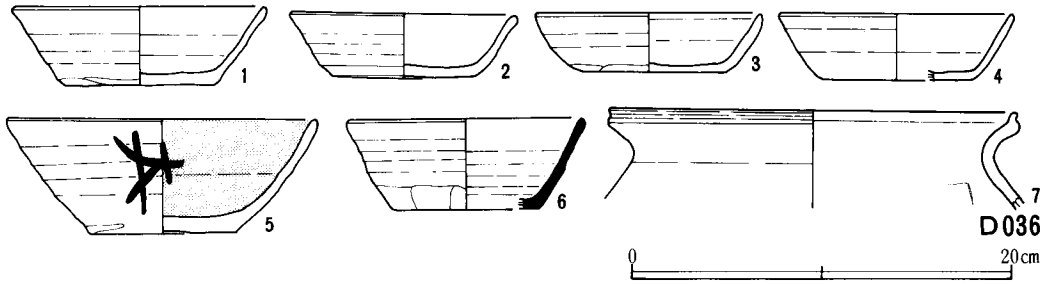



PL.235　歴史時代２群Ｃ遺物実測図　9



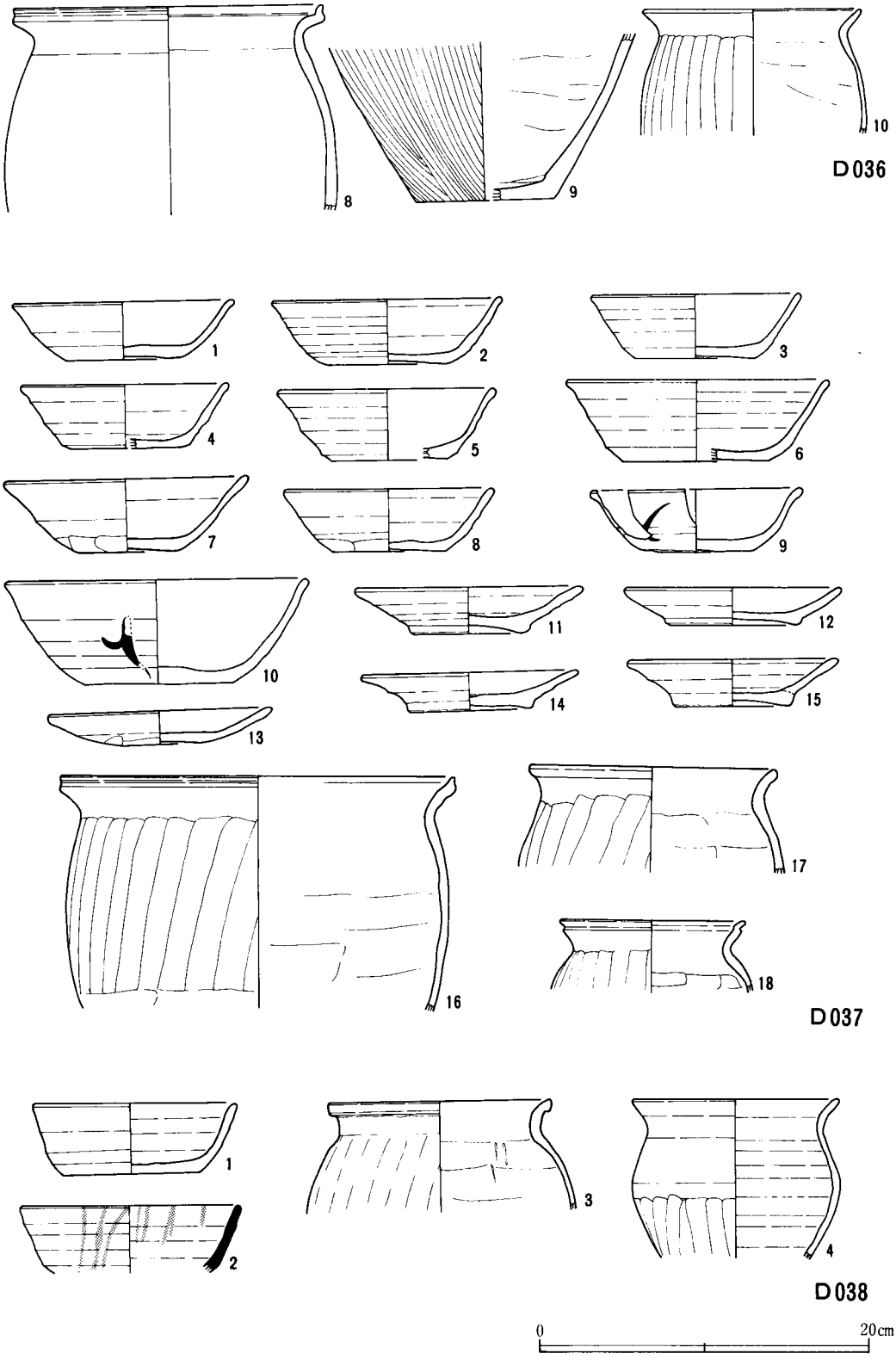

D034

D035

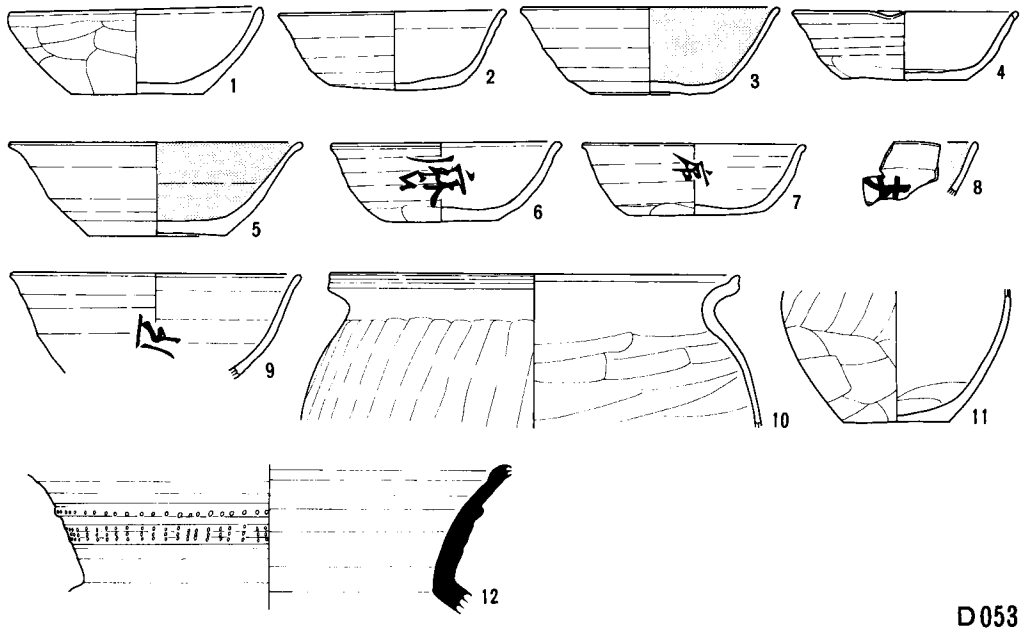


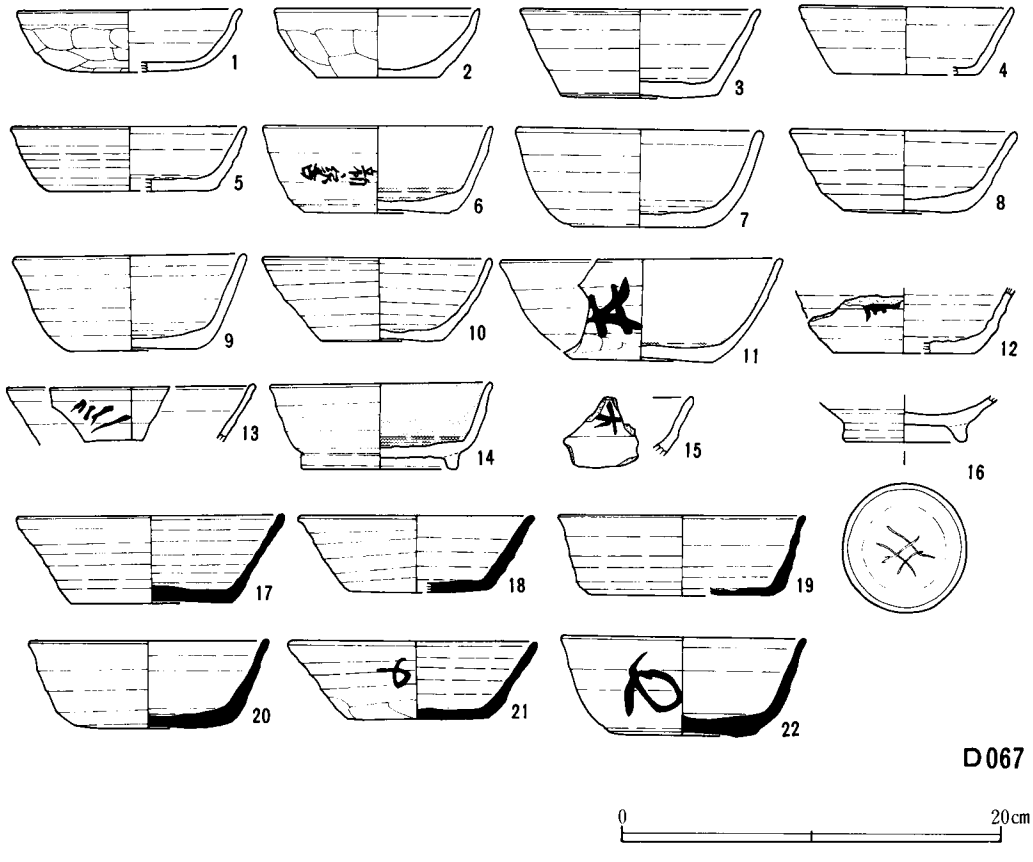

D036

PL.236　歴史時代2群C遺物実測図 10



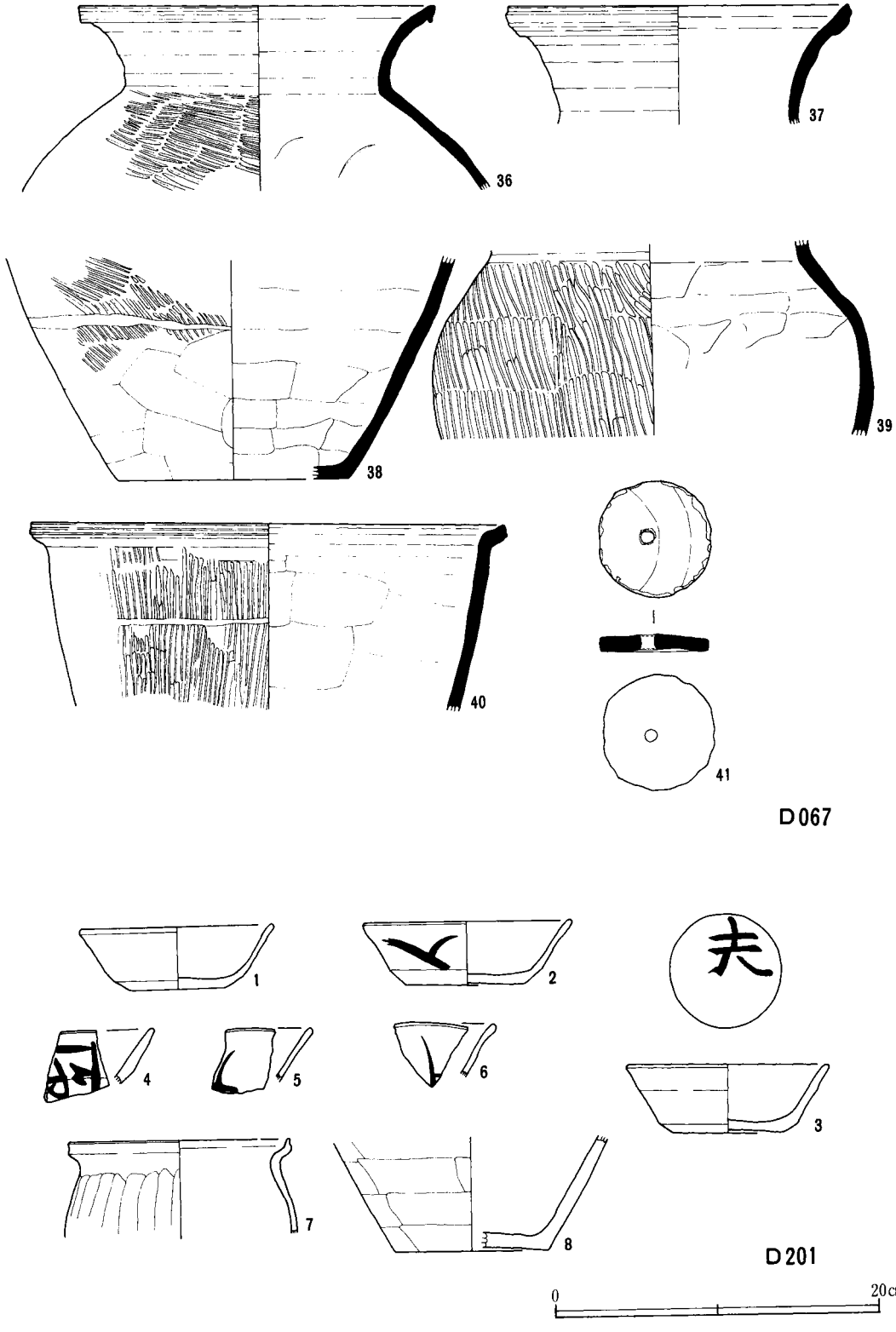

PL.237　歴史時代2群C遺物実測図 11



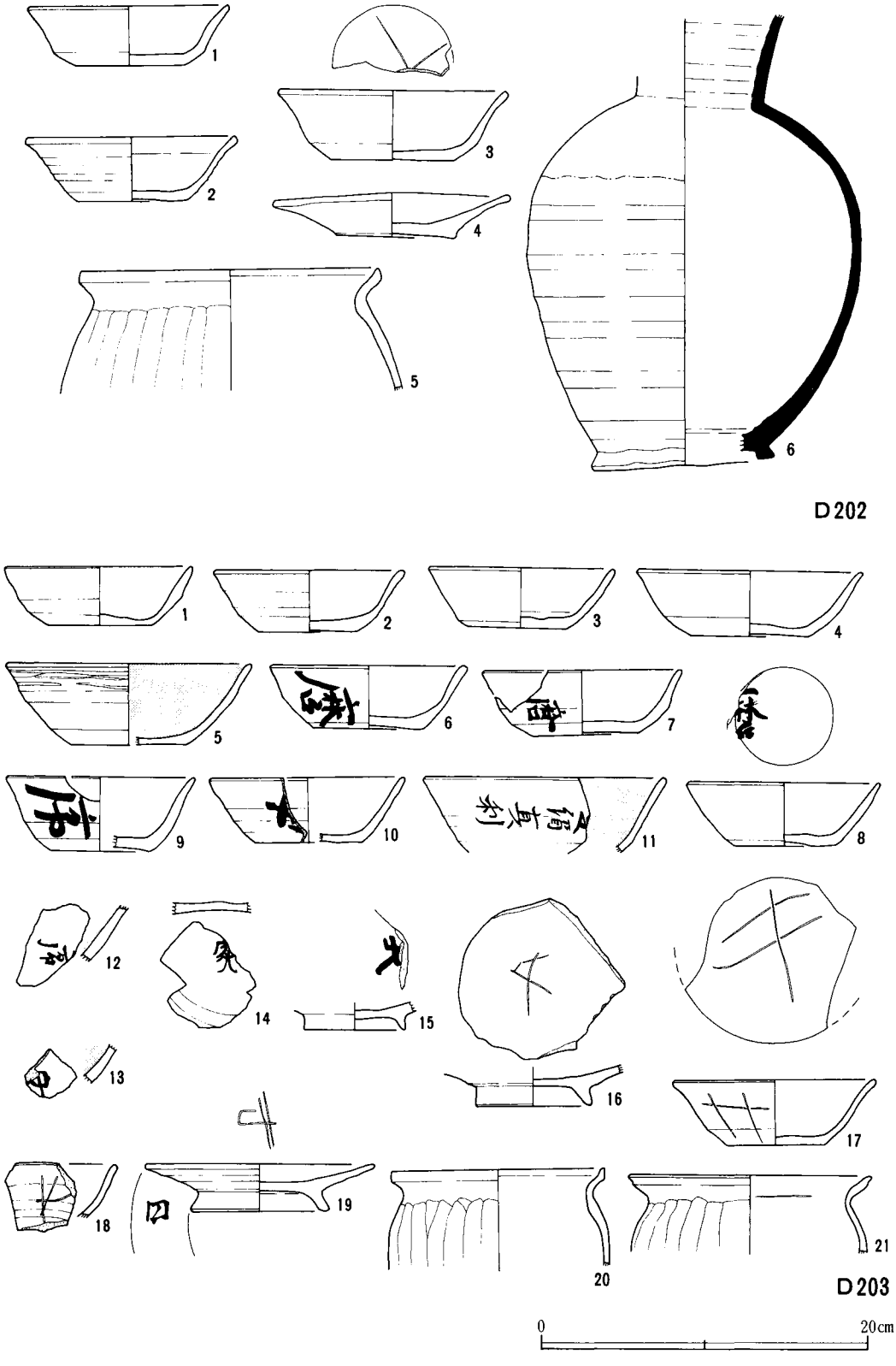




PL.238　歴史時代2群C遺物実測図 12

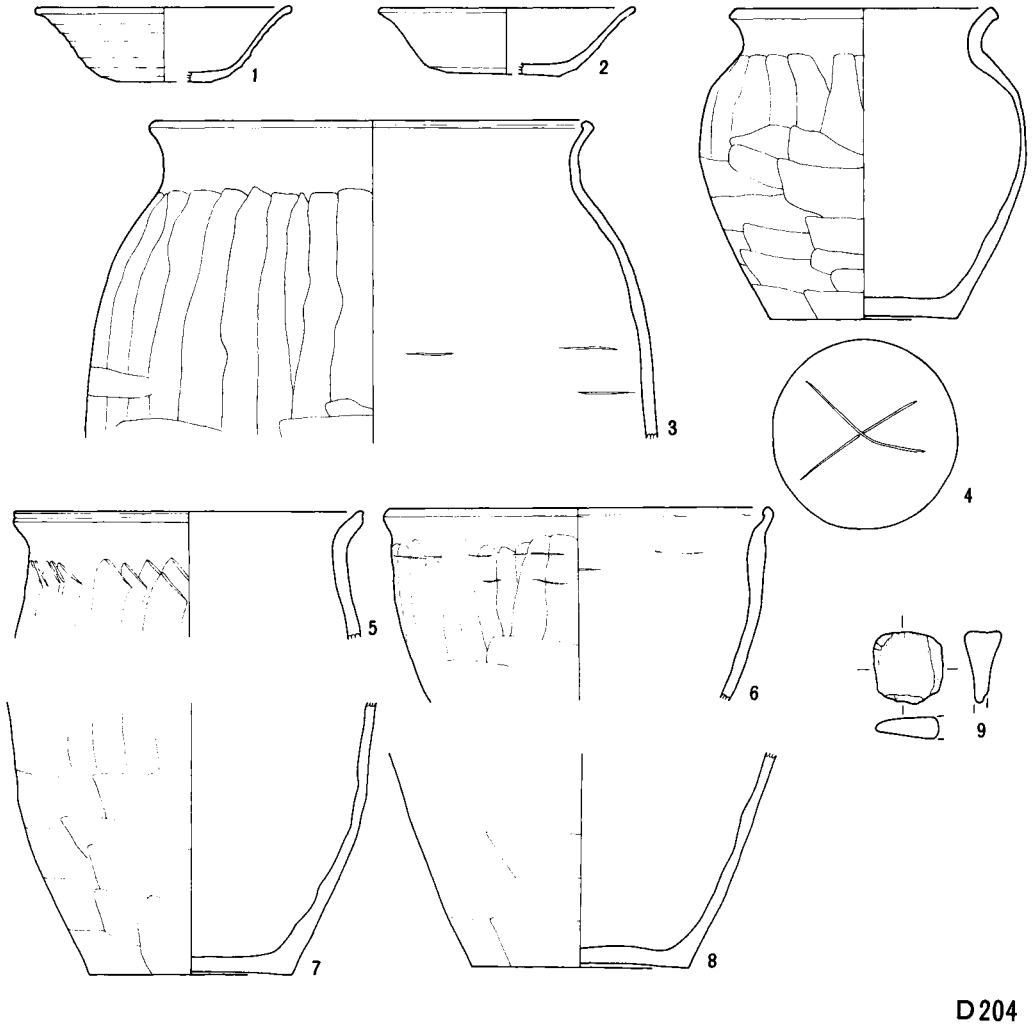
PL.239　歴史時代2群C遺物実測図 13

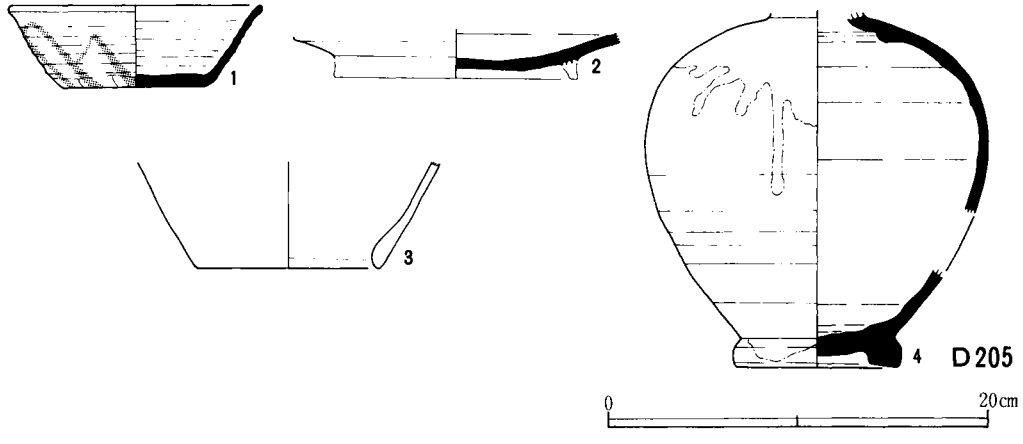



PL.240　歴史時代2群C遺物実測図 14

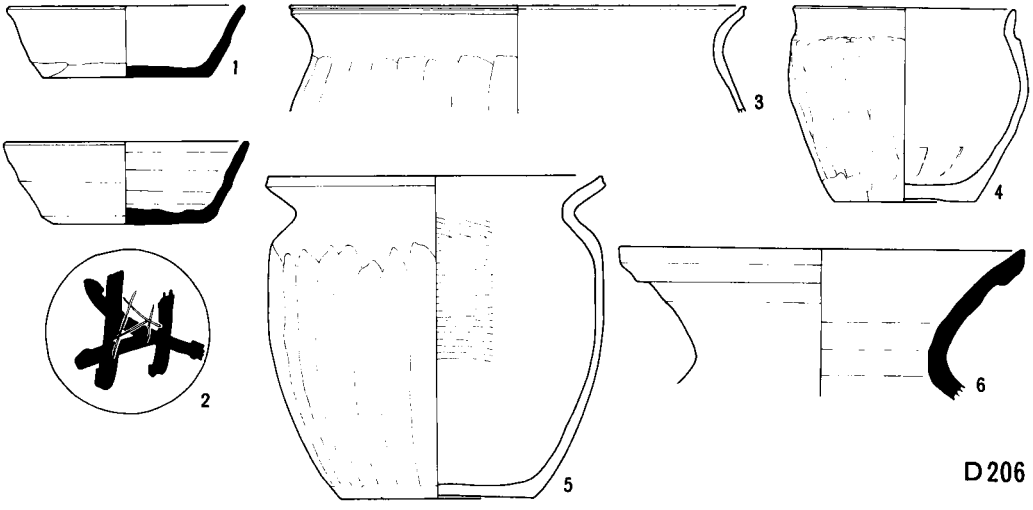


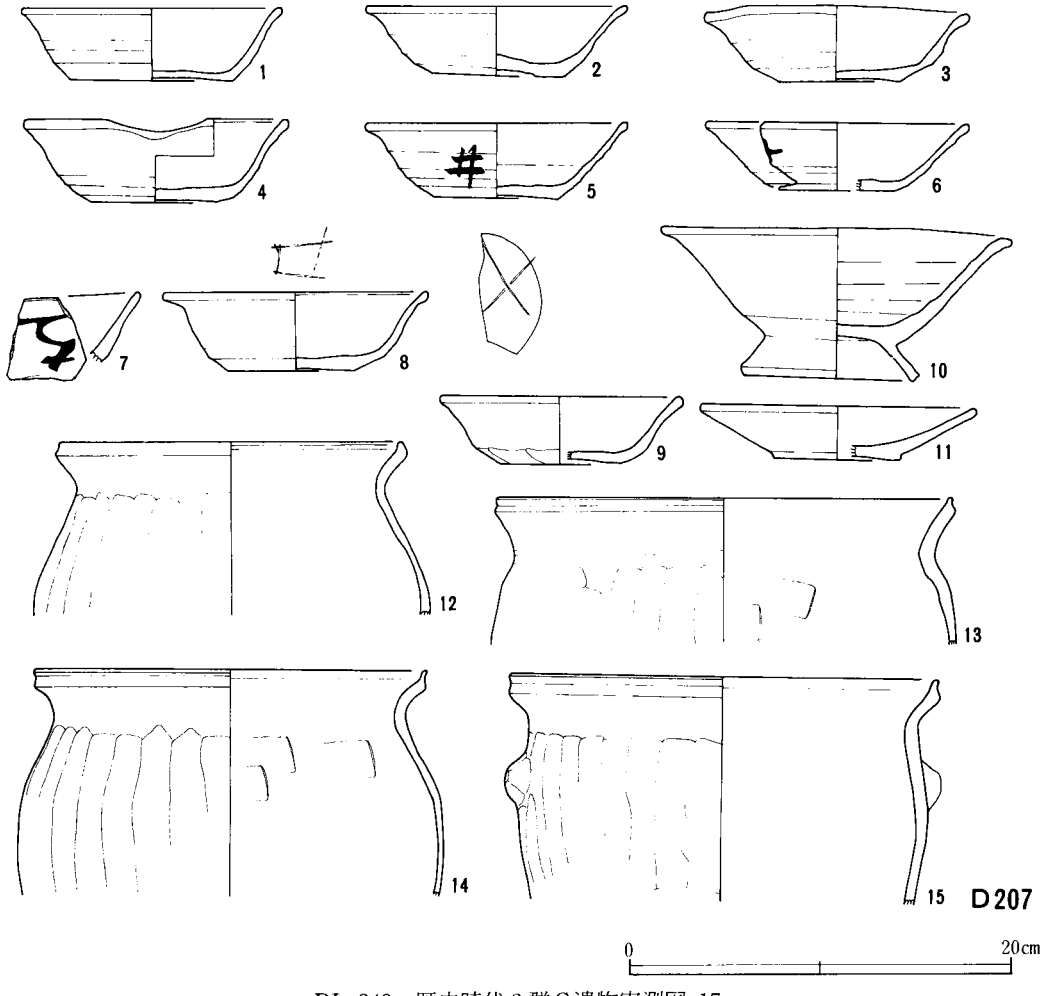

PL.241　歴史時代2群C遺物実測図 15



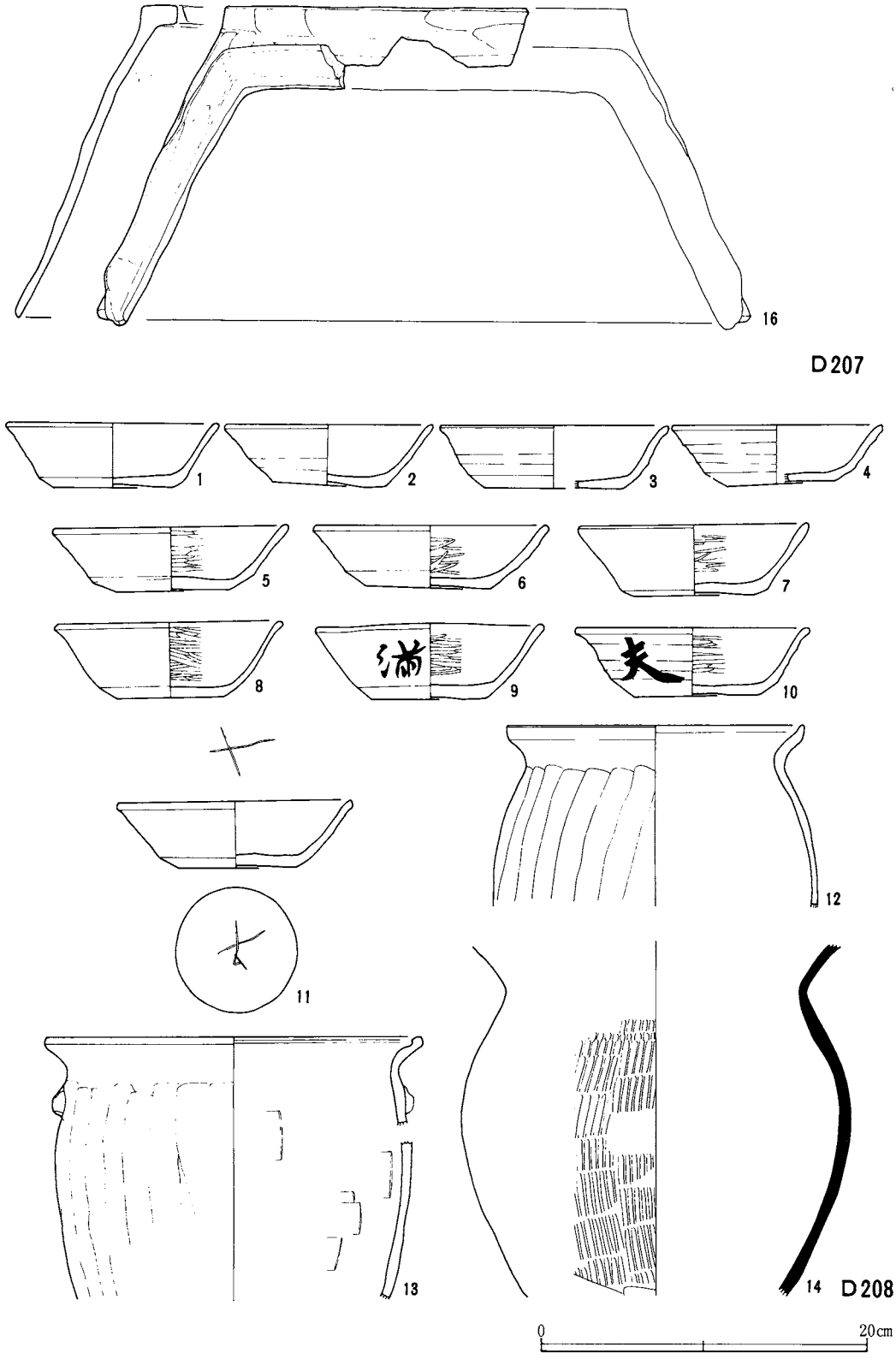




PL.242　歴史時代2群C遺物実測図 16

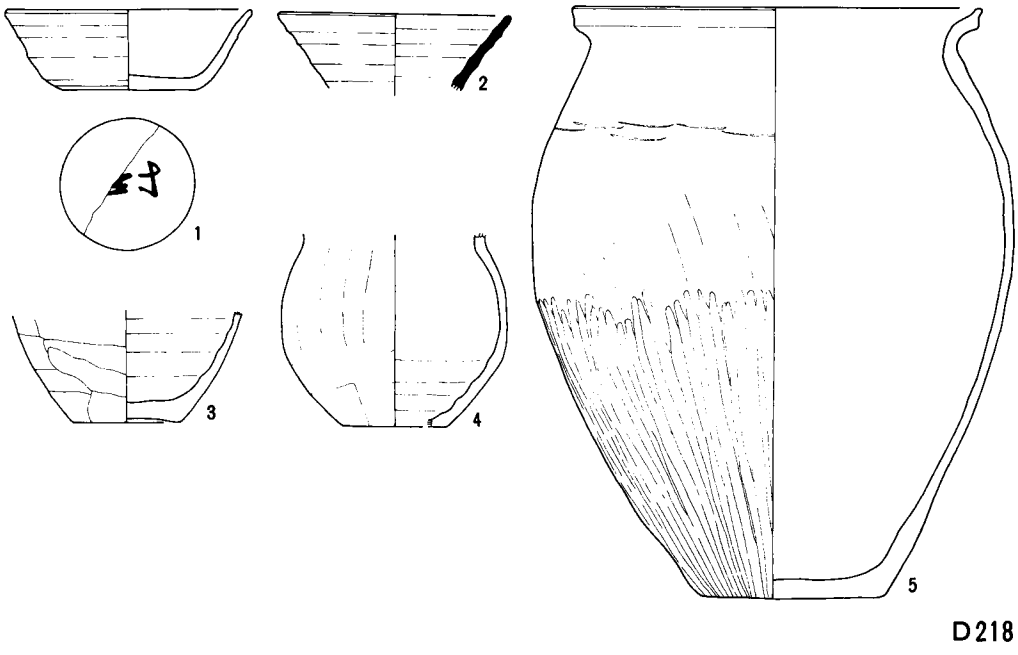


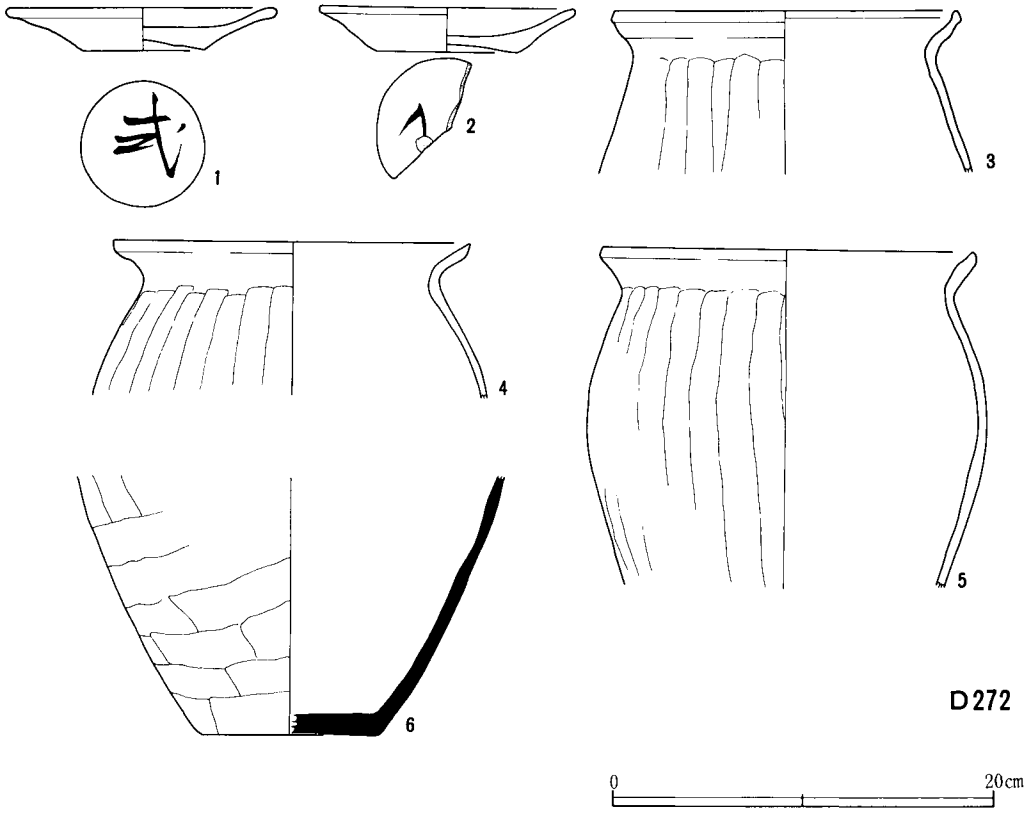




PL.243　歴史時代2群C遺物実測図 17

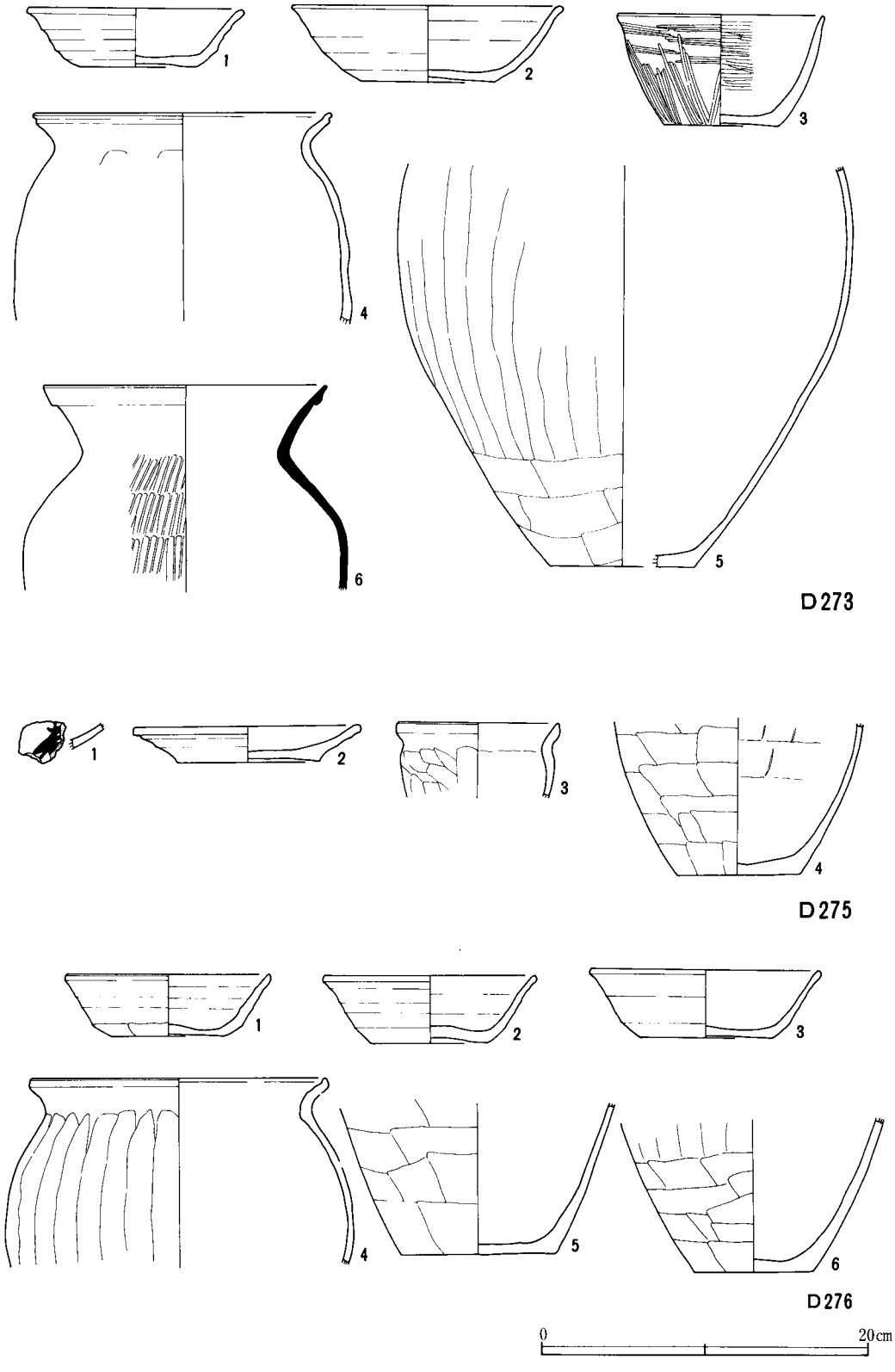



PL.244　歴史時代2群C遺物実測図 18

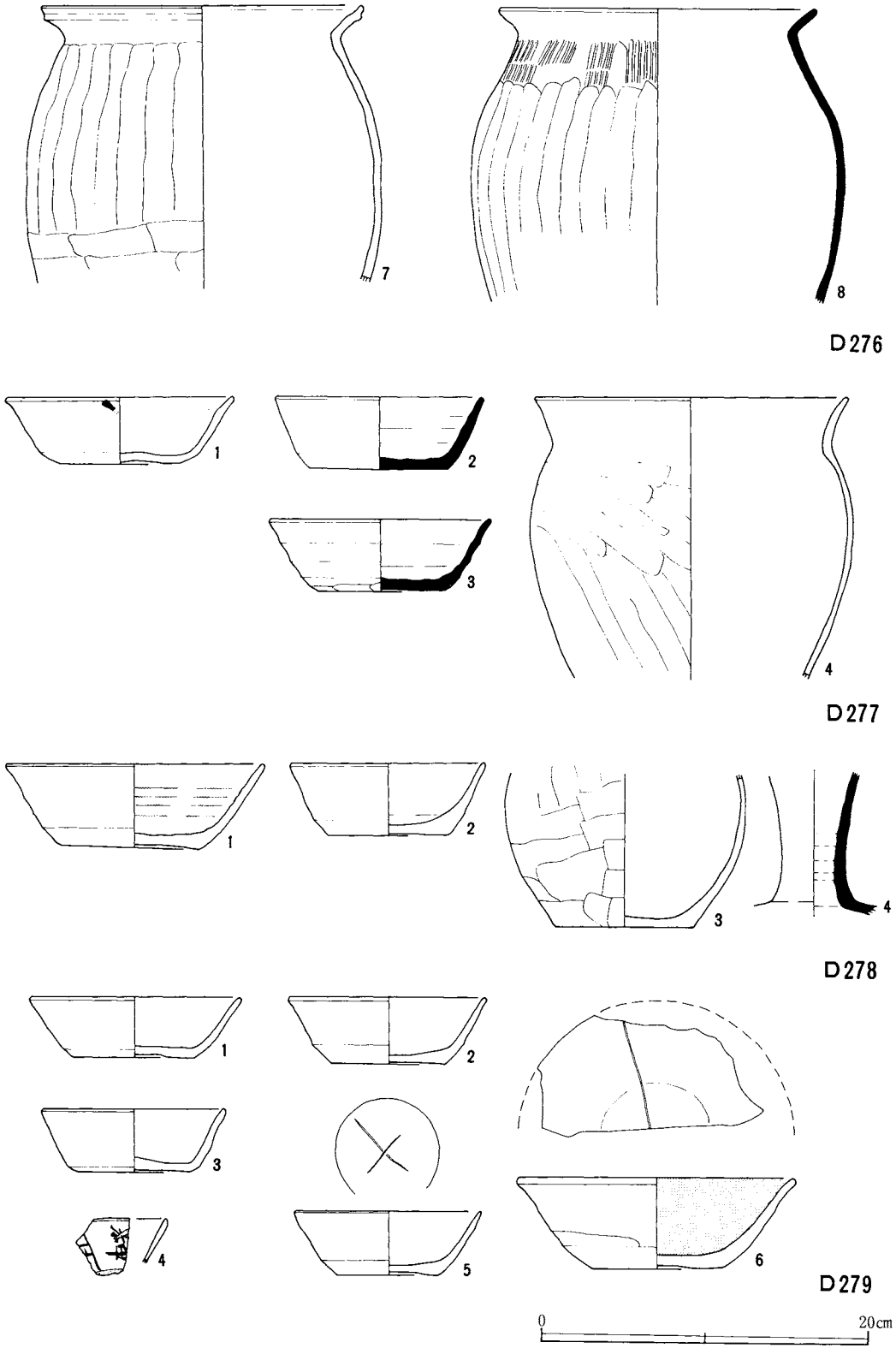


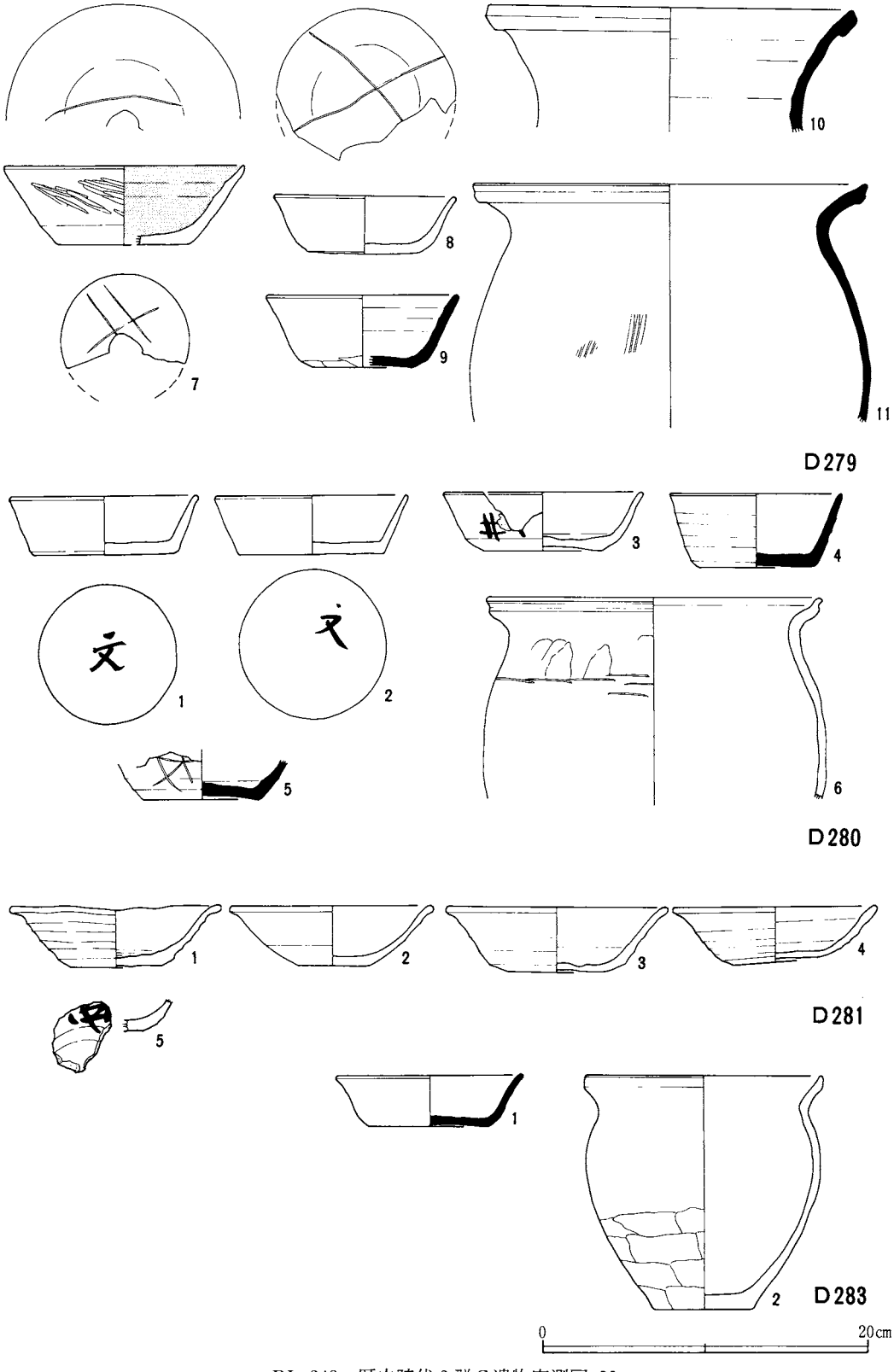

PL.245　歴史時代2群C遺物実測図 19



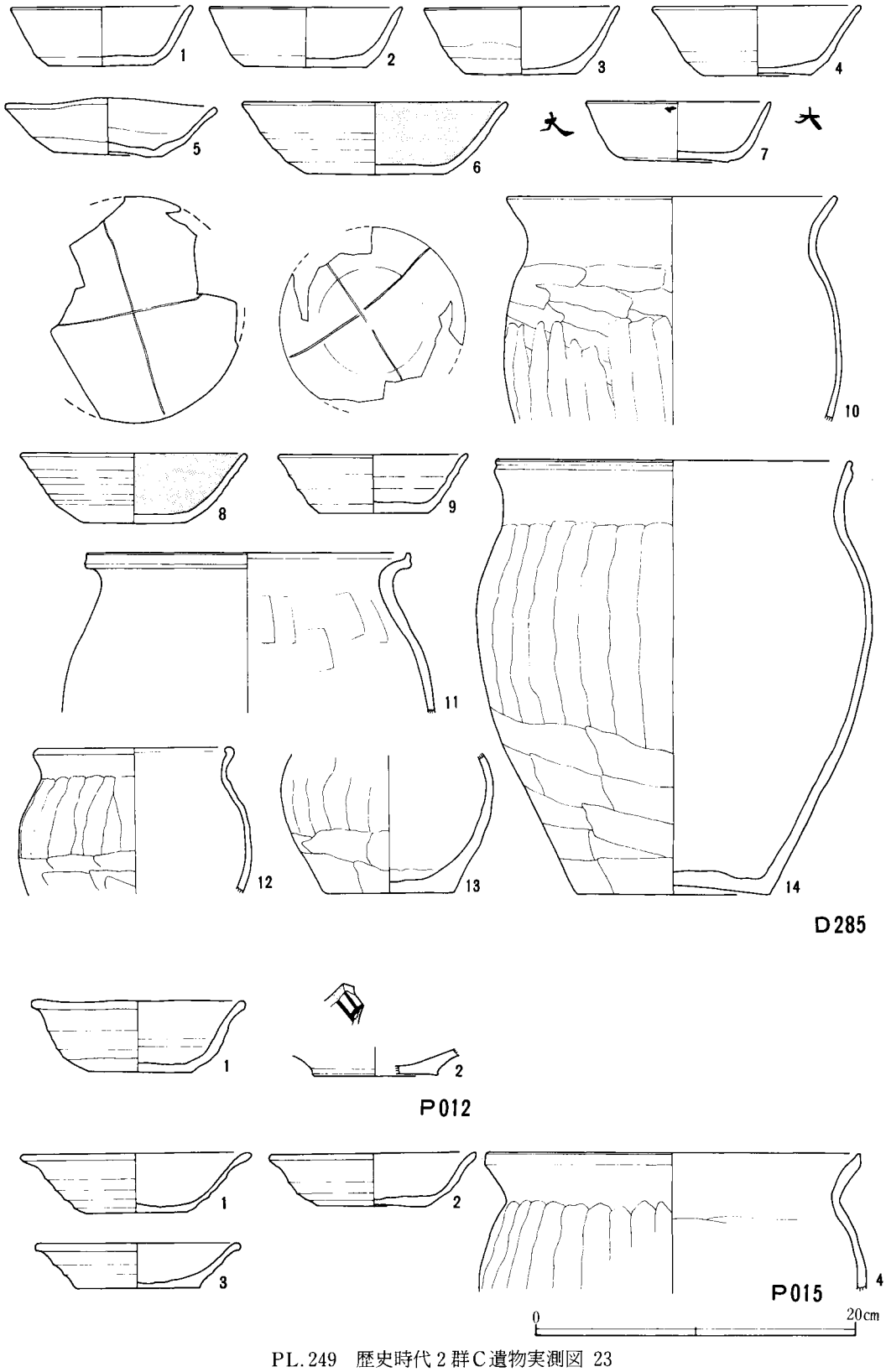

PL. 246　歴史時代2群C遺物実測図 20



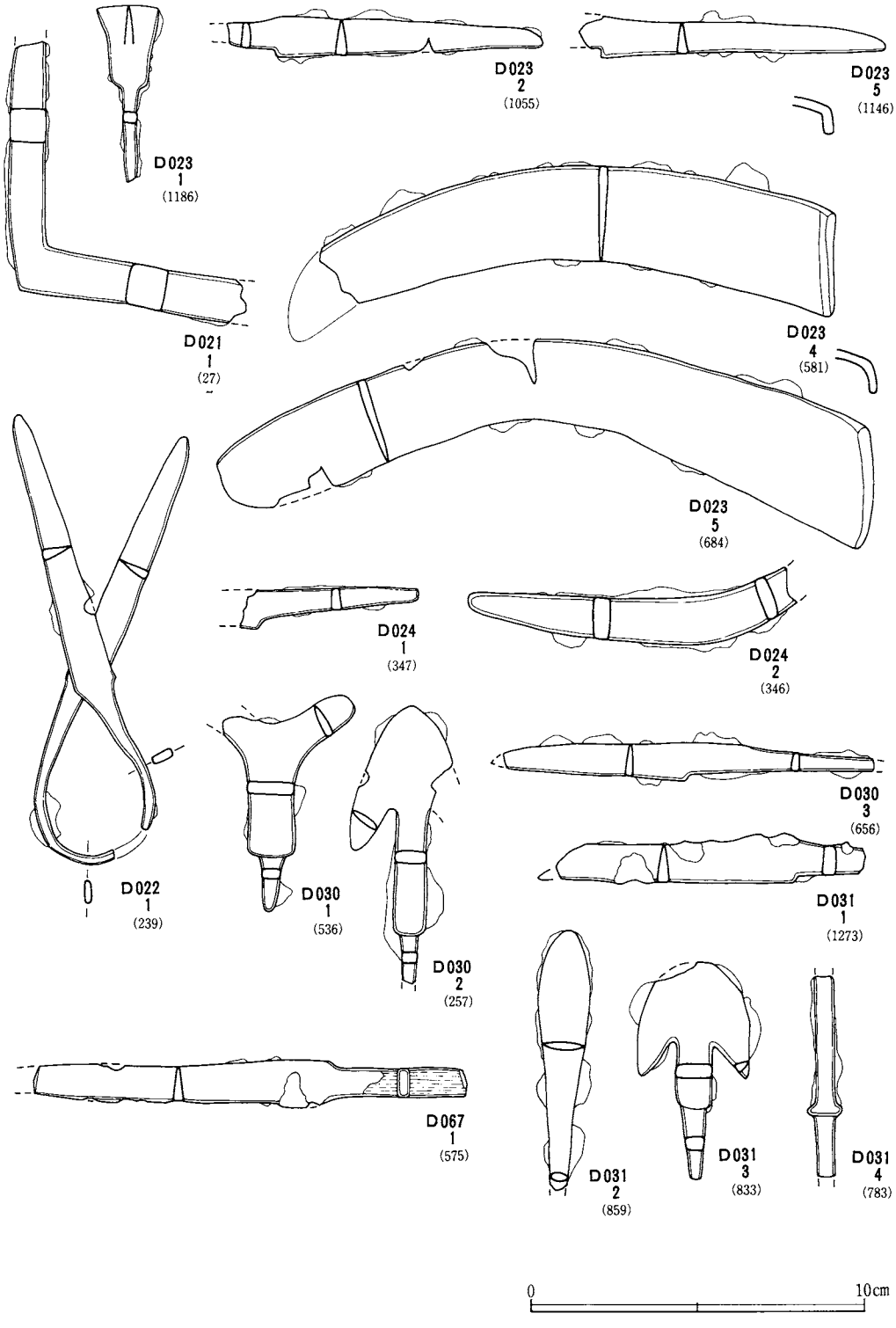

PL.247　歴史時代2群C遺物実測図 21



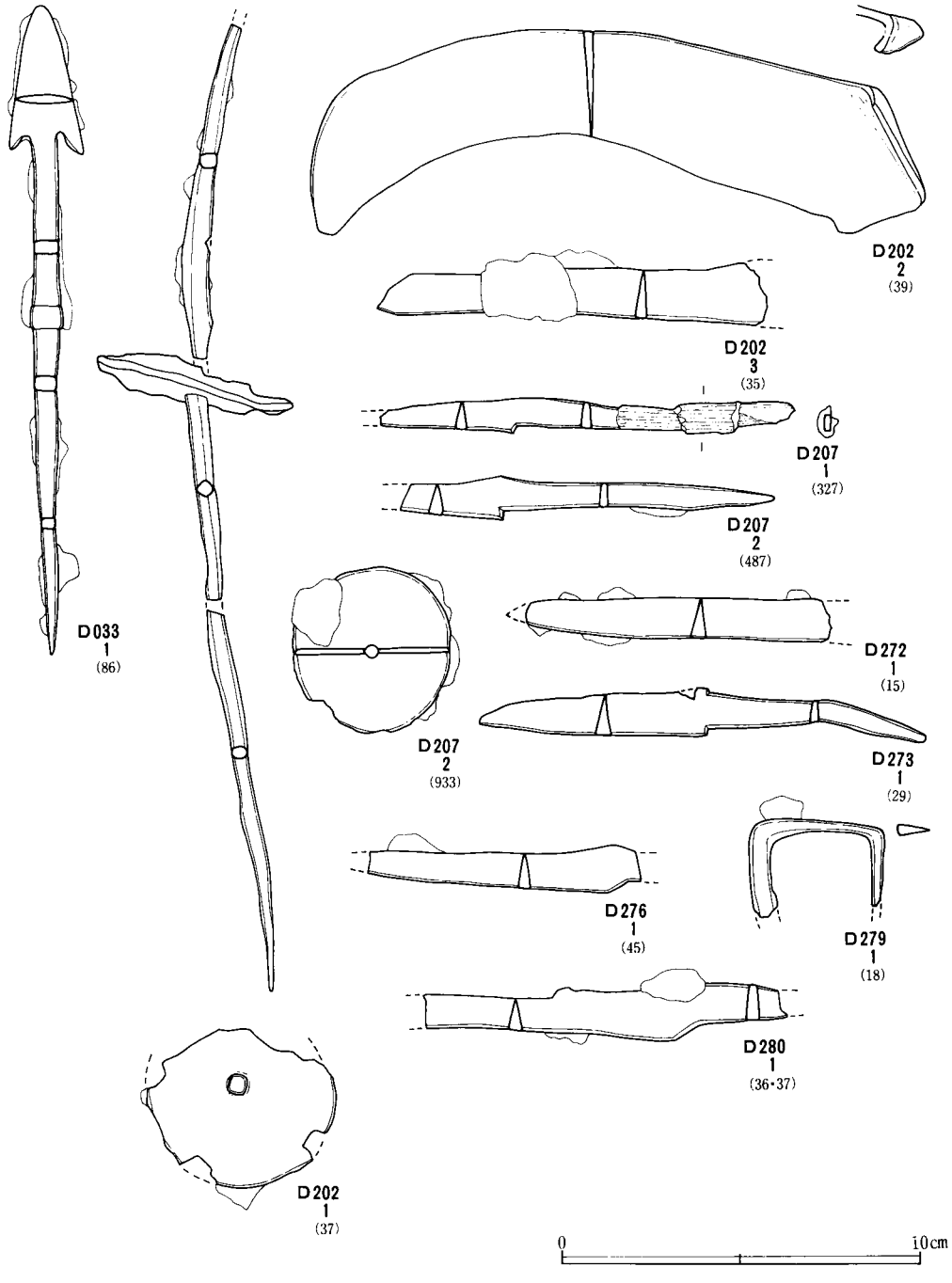

PL.248　歴史時代2群C遺物実測図 22




PL. 249　歴史時代２群Ｃ遺物実測図 23

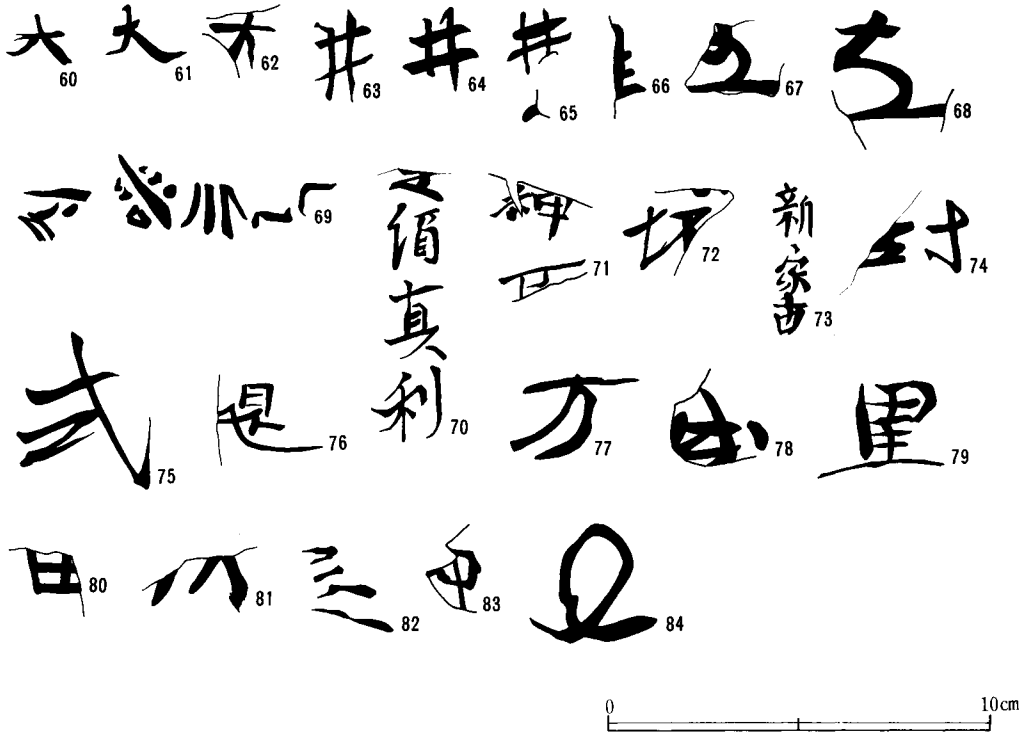



PL.250　歴史時代2群C鉄製品実測図　1




PL.251　歴史時代2群C鉄製品実測図 2

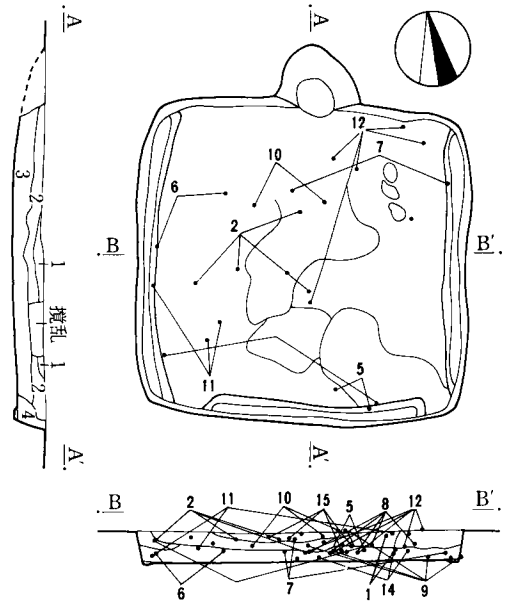
PL.252　歴史時代2群C文字資料抜萃　1




PL.253　歴史時代2群C文字資料抜萃　2

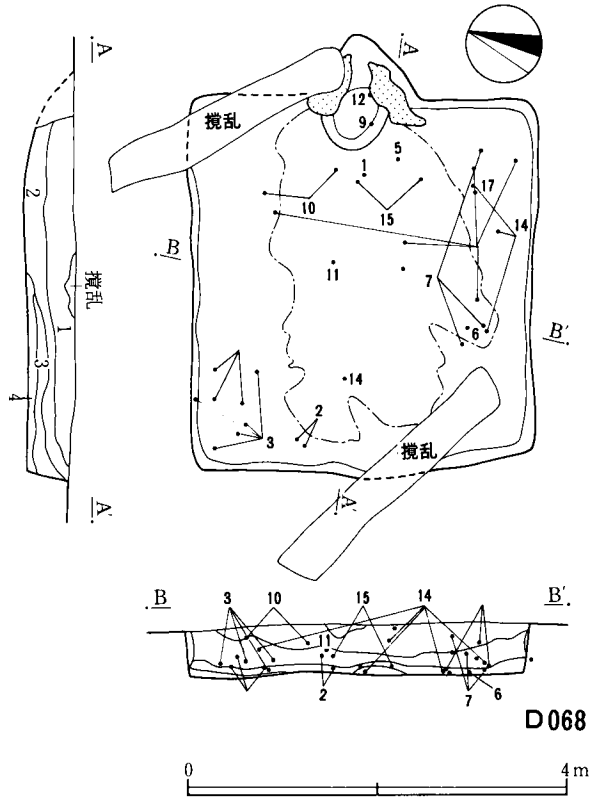
D061　D253の北東に位置する住居で、規模は3.5m×3.3mを測り、主軸方向はN－13°－Eを指す。柱穴はなく、床面は住居中央に部分的に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
2　暗褐色土　ローム粒及び焼土・炭化粒を少量含む。
3　褐色土　焼土粒及び炭化粒・ローム粒を含む。
4　明褐色土　ローム粒と褐色土の混合土。

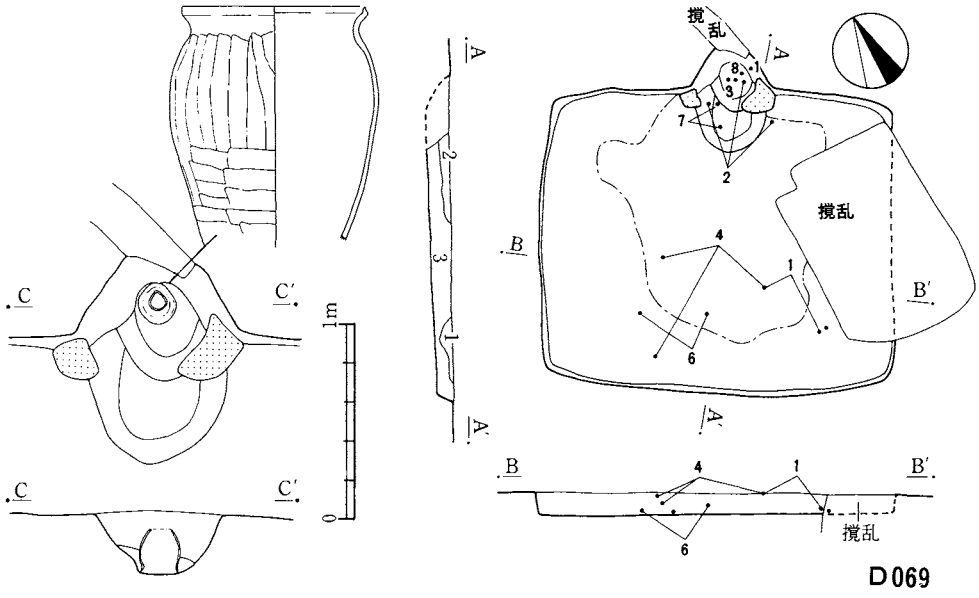



D068　D069の北側に位置する住居で、規模は4.0m×3.6mを測り、主軸方向はN－72°－Eを指す。柱穴・壁溝はなく、東西壁際からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　黒色土を主体とし、褐色土をブロック状に含む。
2　暗褐色土　褐色土・黒色土の混合土、全体的にやや大粒のローム粒を含む。
3　暗褐色土　黒色土を主体とし、褐色土を混合する。全体的にローム粒を含む。
4　明褐色土　ローム粒を主体とし、褐色土を含む。




PL.254　D061・D068実測図

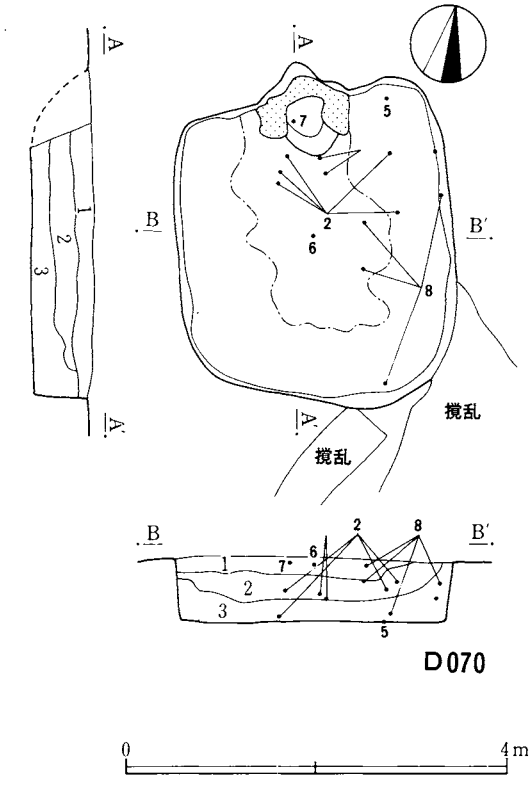



D069

1　褐色土　褐色土を主体とし、ローム粒をブロック状に含む。
2　黒褐色土　黒色土を主体とし、褐色土・ローム粒をブロック状に含む。
3　暗褐色土　暗褐色土を主体とし、褐色土・ローム粒をブロック状に含む。

D069

D070　D069の南西に位置する住居で、規模は3.2m×2.9mを測り、主軸方向はN－14°－Wを指す。柱穴・壁溝はなく、住居中央からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。



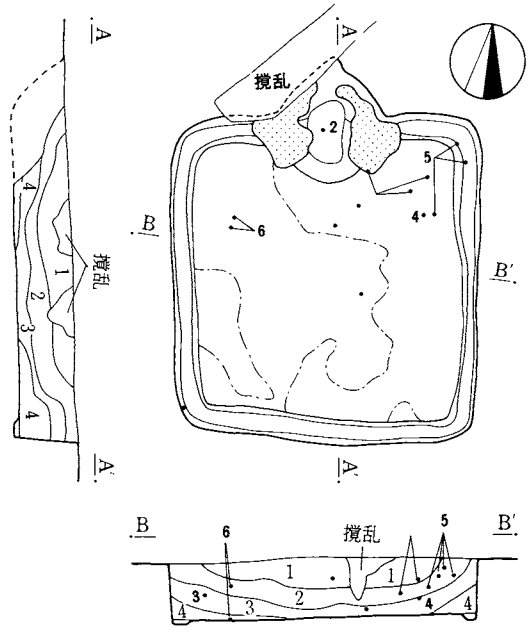

1　黒色土　黒色土を主体とし、ローム粒を含む。
2　明褐色土　ローム粒主体でロームブロック・褐色土が混入する。
3　褐色土　褐色土主体でローム粒・ロームブロックを混入する。

D070

PL.255　D069・D070実測図

D075　埋土はローム粒・ロームブロックを含み、床面近くで、焼土粒、炭化粒を多く含んでいる。床面は南壁際からカマド左にかけて硬化面が遺存している。また、僅かに炭化材が堆積している。

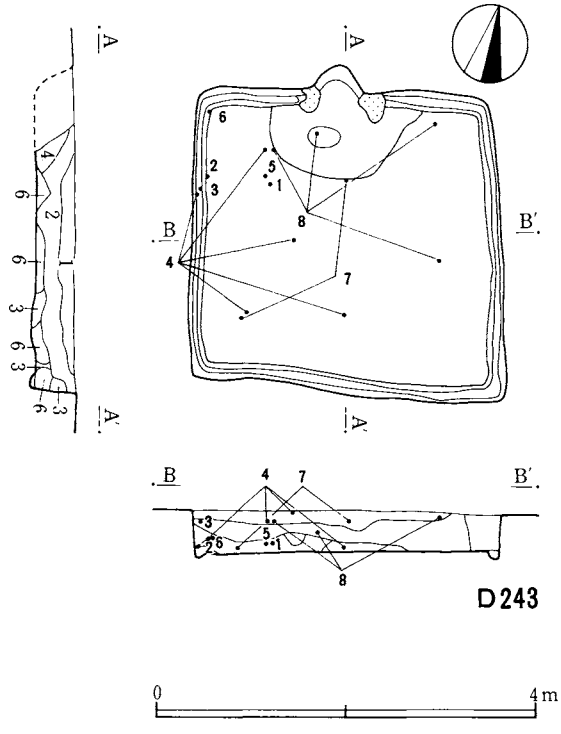
1　暗褐色土　暗褐色土を主体とし、ローム粒・ロームブロックを少し含む。
2　黒褐色土　黒色土と暗褐色土との混合土、ローム粒・ロームブロックを少し含み部分的に山砂を含む。
3　褐色土　褐色土を主体とし、暗褐色土が、ブロック状に含まれる。
4　暗褐色土　暗褐色土を主体とし、ローム粒・ロームブロック・焼土粒を含む。




D075

D243　H135の西側に位置する住居で、規模は3.4m×3.1mを測り、主軸方向はN－10°－Wを指す。柱穴はなく、カマドは北壁中央に設置され、袖材が僅かに残されている。

1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化物を多く含む。
3　暗褐色土　炭化粒を多く含む。
4　暗褐色土　ローム粒・炭化粒を多く含む。
5　褐色土　ロームブロックを多く含む。
6　炭化材を主体とする。

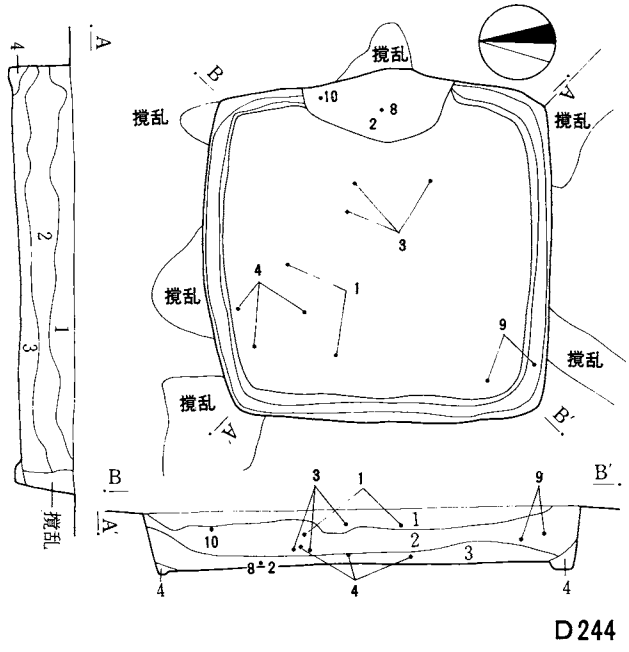



D243

PL.256　D075・D243実測図

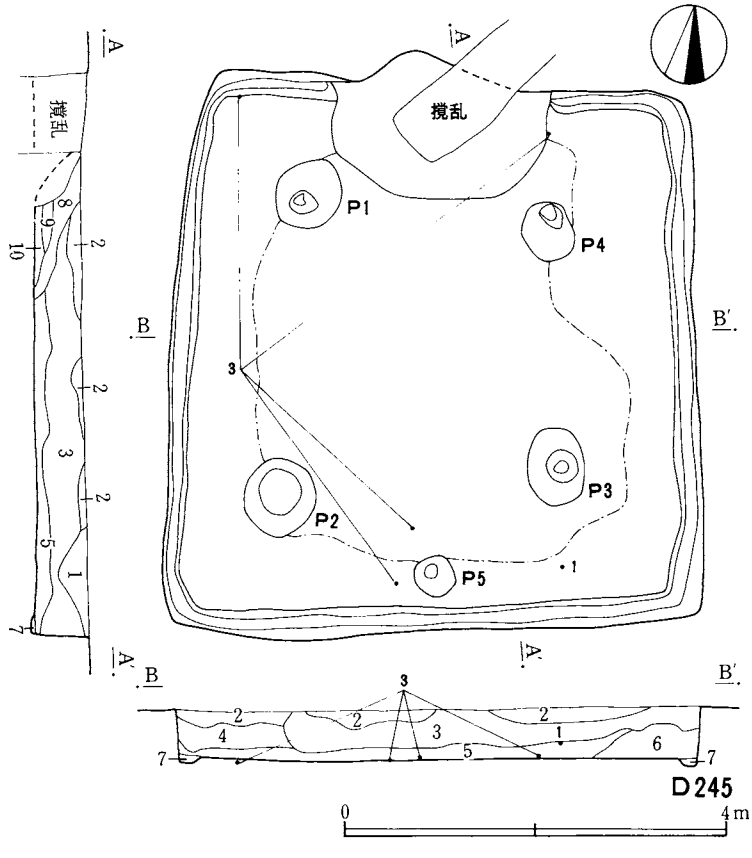
D244　D068の西側に位置する住居で、規模は3.7m×3.7mを測り、主軸方向はN－90°－Eを指す。柱穴・出入口ピットはない。

1　黒褐色土　ローム粒を少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒を少し含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土を多く含む。
4　褐色土




D245　柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P3は直径0.7m、床面からの深さは0.4mを測る。床面は柱穴に囲まれた範囲に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土
　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。
2　暗褐色土
　ローム粒・焼土粒を少し含む。
3　暗褐色土
　ロームブロック・ローム粒をやや多く含む。
4　暗褐色土
　ローム粒を少し含む。
5　暗褐色土
　ローム粒・ロームブロック・焼土粒を少し含む。
6　暗褐色土
　ローム粒・焼土粒を少し含む。
7　褐色土
8　暗褐色土
　ロームブロックをやや多く含む。
9　灰褐色砂質粘土。
10　黒褐色土
　炭化粒を多く含む。

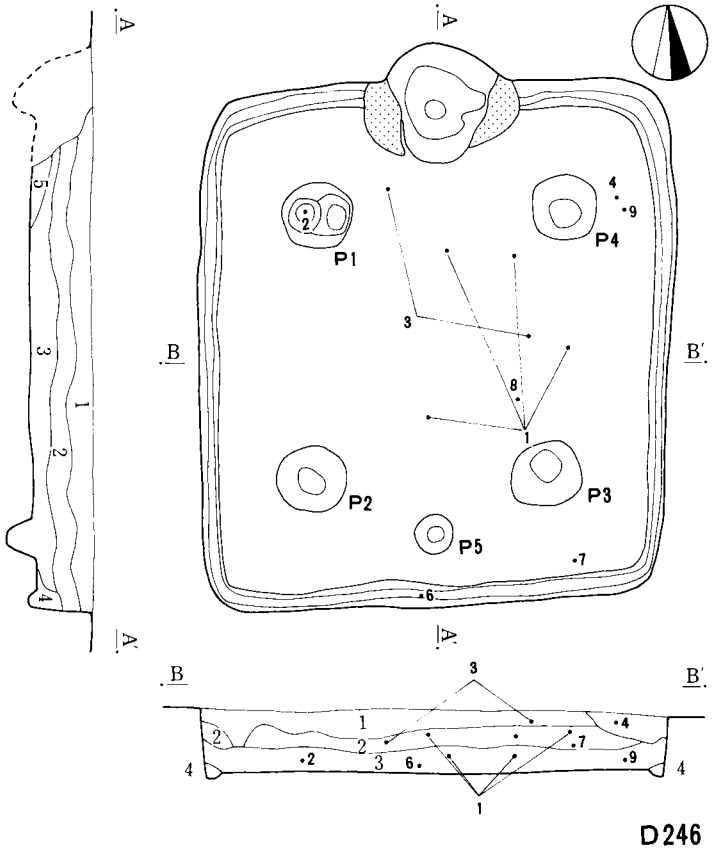



PL.257　D244・D245実測図

D246　埋土はローム粒・ロームブロックを含み、下層で焼土粒・炭化粒を増す。柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P1だけが柱を抜き取っている。

1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック・

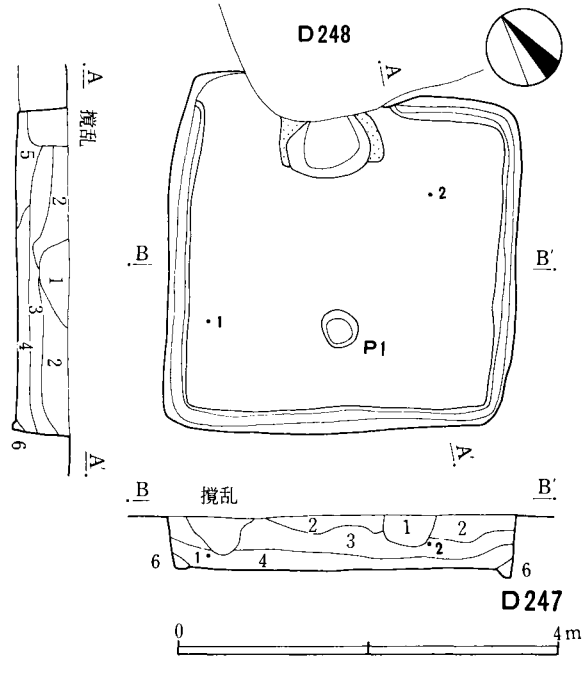
1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒・木炭粒を少し含む。
2　黒褐色土　ローム粒を多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒・木炭粒を少し含む。
4　褐色土
5　暗褐色土　白色砂質土を多量に含む。




D246

D247　D248と重複する住居で、D248に先行している。規模は3.6m×3.4mを測り、主軸方向はN－41°－Eを指す。柱穴はなく、南西壁中央からやや離れた位置にピットがある。

1　黒褐色土
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを少し含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒を少し含む。
4　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多く含む。焼土粒を少し含む。
5　暗褐色土　白色砂質土を多く含む。
6　褐色土

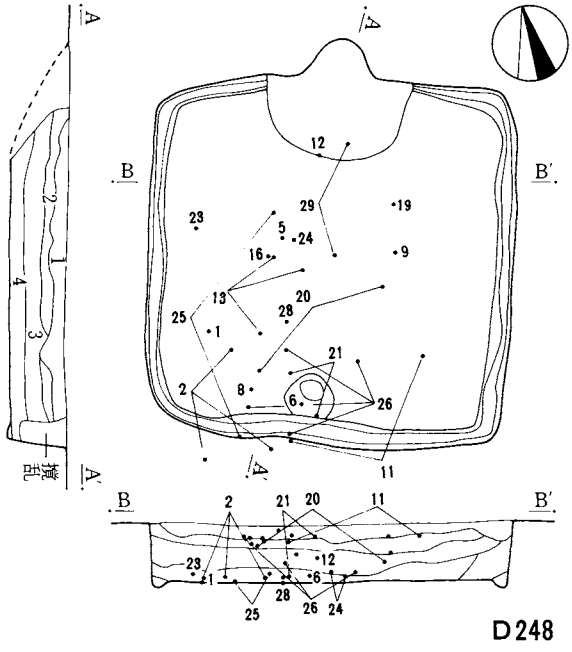



D247

PL.258　D246・D247実測図

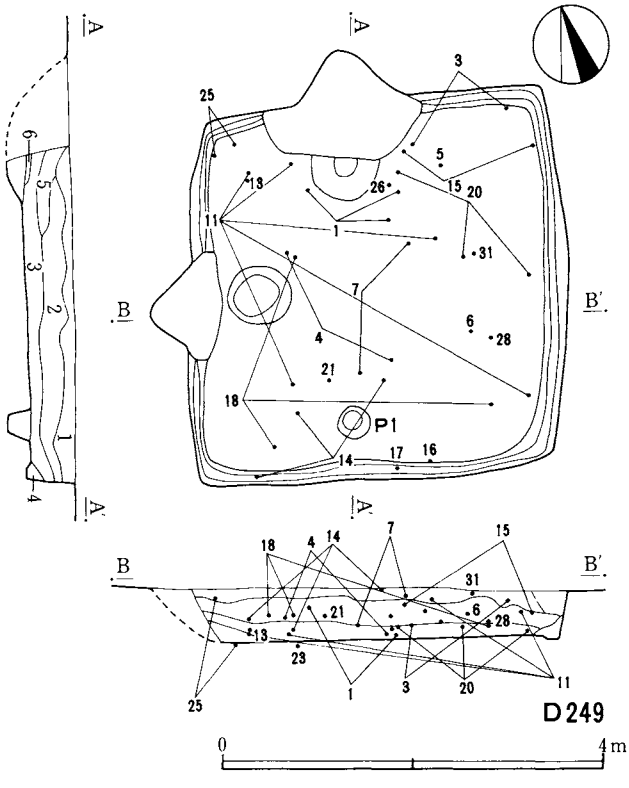
D248　規模は3.9m×3.8mを測り、主軸方向はN－16°－Eを指す。埋土は全体に焼土粒・炭化粒を含んでいる。柱穴はなく、南壁際中央に出入口ピットがある。

1　黒褐色土　焼土粒・木炭粒・ロームブロックを少し含む。
2　暗褐色土　焼土・白色砂質土を多く含む。
3　暗褐色土　焼土粒・木炭粒・ロームブロック・ローム粒を少し含む。
4　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒を少し含む。
6　褐色土




D249　規模は4.1m×3.9mを測り、主軸方向はN－12°－Eを指す。柱穴はなく、南壁際中央に出入口ピットがある。カマドは北壁中央に設置されるが、西壁中央にもカマドの痕跡がある。

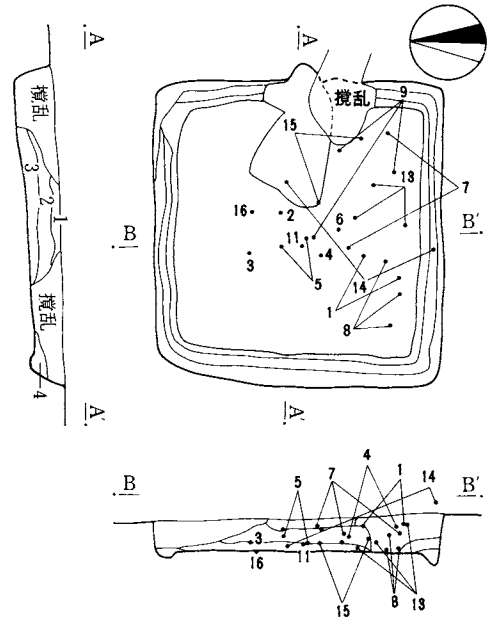
1　暗褐色土　ローム粒・炭化粒・焼土粒を少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒・炭化粒をやや多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
4　褐色土
5　暗褐色土　灰白砂質粘土をやや多く含む。
6　黒褐色土　灰色砂質粘土を少し含む。




PL.259　D248・D249実測図

D250　D249の東側に位置する住居で、規模は3.4m×3.2mを測り、主軸方向はN－90°－Eを指す。柱穴はなく、カマドは東壁中央に設置されるが、部分的に撹乱を受けている。

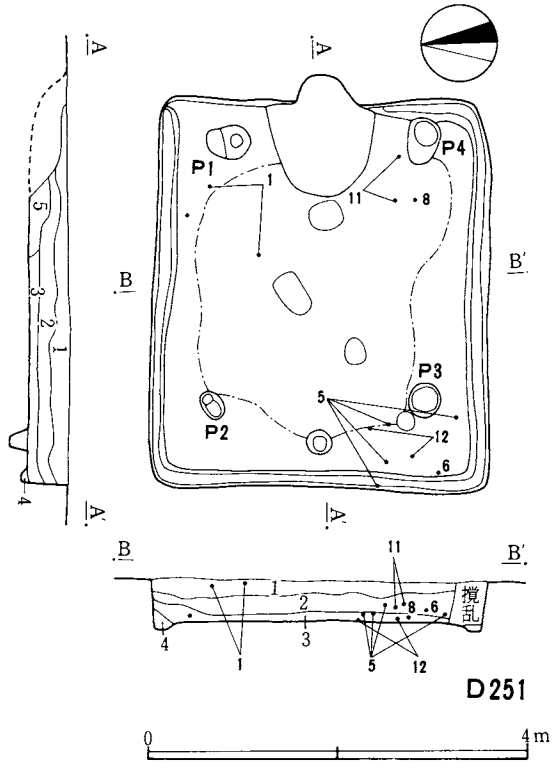
1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化粒をやや多く含む。
2　暗褐色土　焼土粒を多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
4　褐色土




D250

D251　規模は4.0m×3.5mを測り、主軸方向はN－100°－Eを指す。柱穴は東・西壁に近い位置に4箇所あり、P1・P4が2段に掘り込まれている。P3は直径0.3m、床面から0.4mの深さを測る。また、西壁際中央に出入口ピットがある。床面は柱穴に囲まれた広い範囲に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒・炭化粒を少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを少し含む。
3　暗褐色土　ローム粒・炭化物を多く含む。
4　褐色土
5　暗褐色土　白色砂質粘土を多く含む。

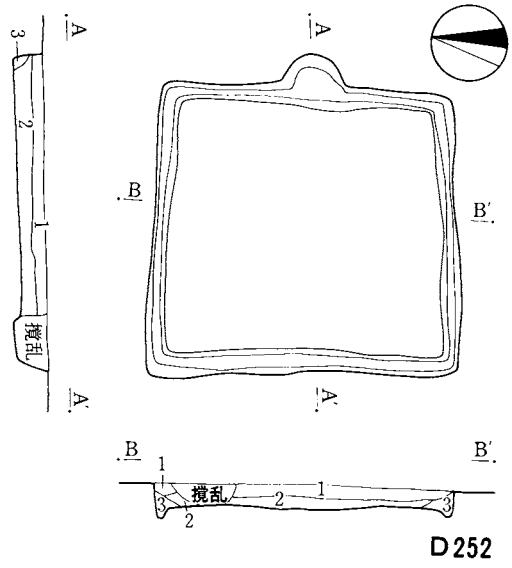



D251

PL.260　D250・D251実測図

D252　H137と重複する住居で、H137に先行している。規模は3.2m×3.0mを測り、主軸方向はN－7°－Wを指す。東壁中央の張り出しはH137に破壊された部分で、カマドは存在しない。

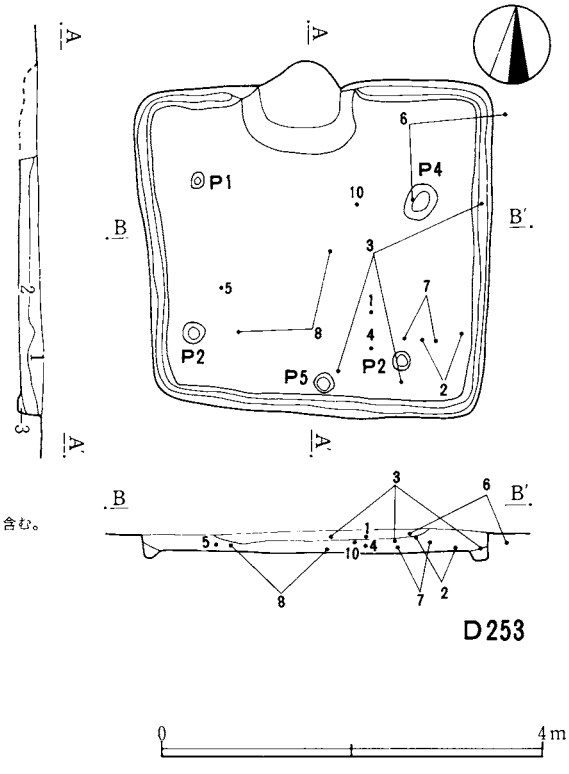
1　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒を少し含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒を多く含む。
3　黒褐色土




D252

D253　D251の南東に位置する住居で、規模は3.5m×3.4mを測る。柱穴は住居対角線上に4箇所あり、直径はP1が最小で0.2m、最大はP4で0.3mである。床面からの深さは0.1～0.2mである。また、南壁中央に出入口ピットがある。

1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロック・焼土粒を少し含む。
3　褐色土



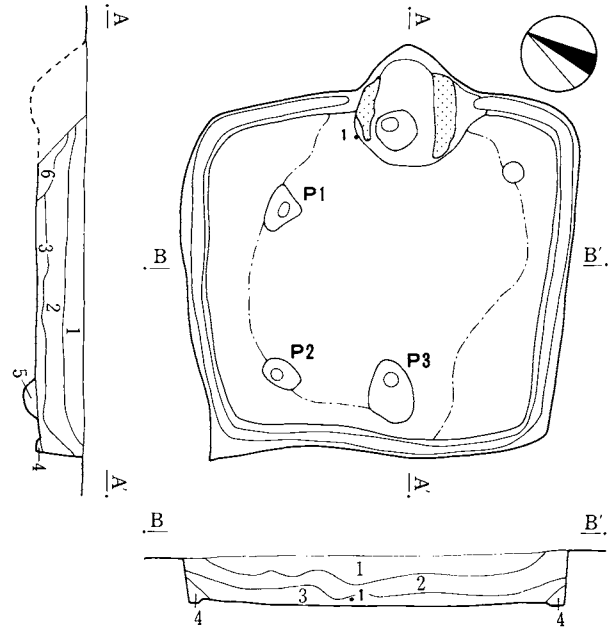

D253




PL.261　D252・D253実測図

D254　埋土はロームブロック・焼土粒・炭化粒を含んでいる。柱穴は基本的に4箇所と考えられ、北・西・東のコーナー近くに3箇所が検出できた。P2は直径0.3m、床面から0.2mの深さがある。また、南西壁際中央に出入口ピットがある。

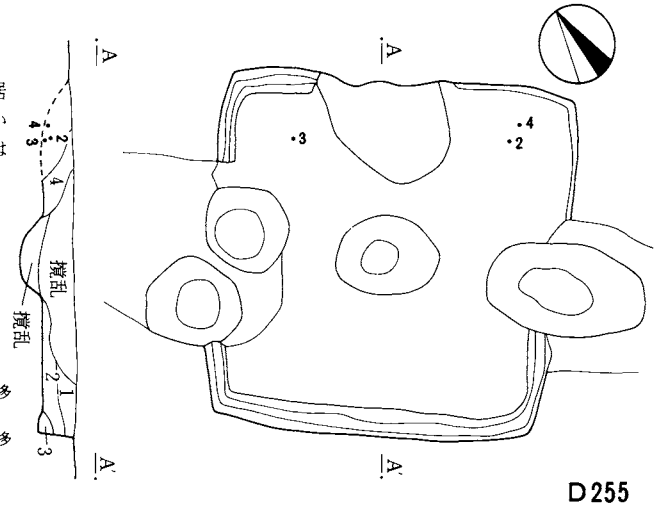
1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を少し含む。
2　黒褐色土　ロームブロック・焼土粒・炭化粒をやや多く含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・焼土粒・炭化粒をやや多く含む。
4　褐色土
5　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
6　暗褐色土　黄白色砂質粘土を多く含む。
6　暗褐色土　黄白色砂質粘土を多く含む。



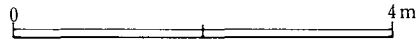

D254

D255　D254の北東に位置する住居で、住居中央を溝状遺構によって大きく破壊されている。規模は3.6m×3.6mを測り、主軸方向はN－60°－Eを指す。

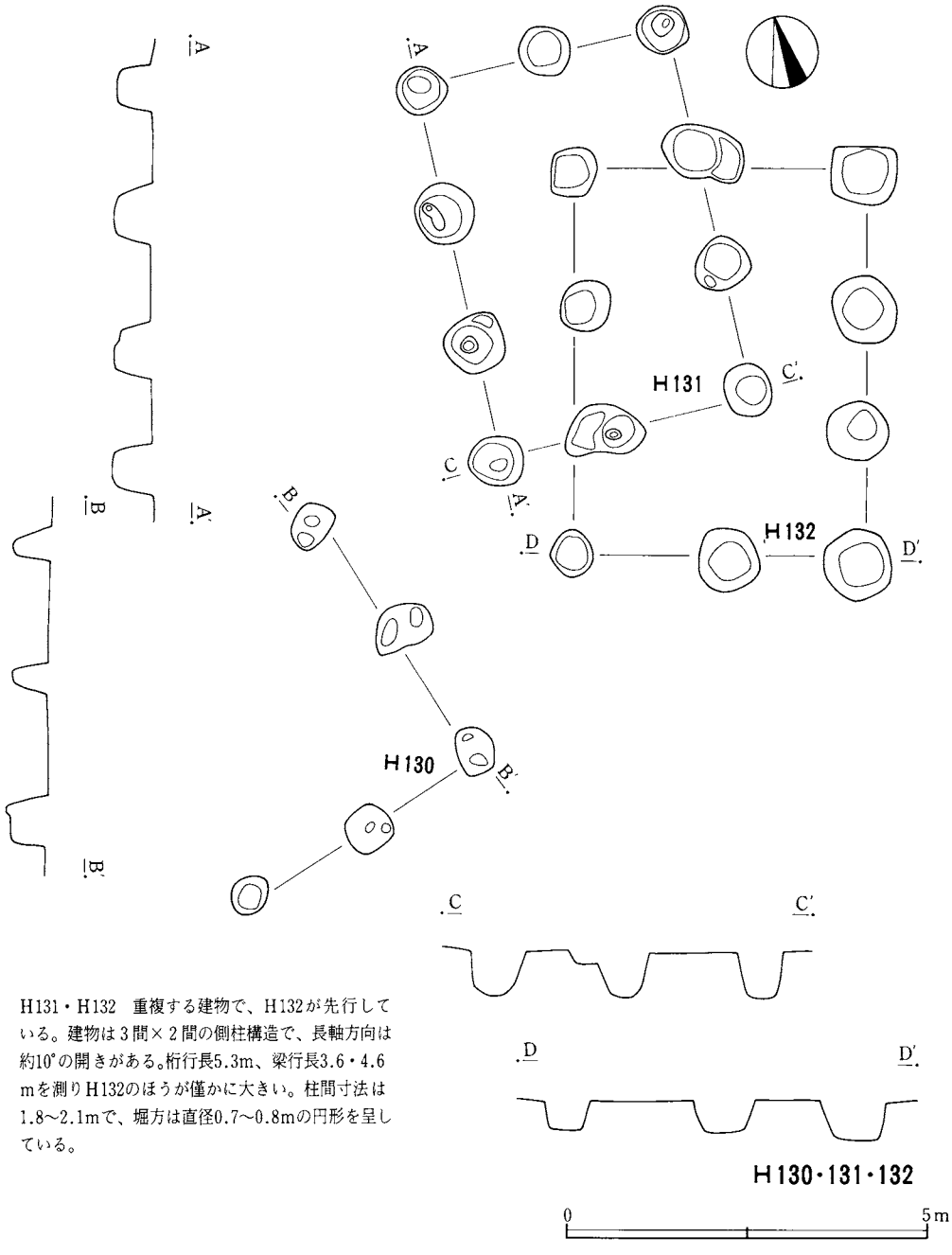
1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。
3　褐色土
4　暗褐色土　白色砂質土を多く含む。




D255




PL.262　D254・D255実測図



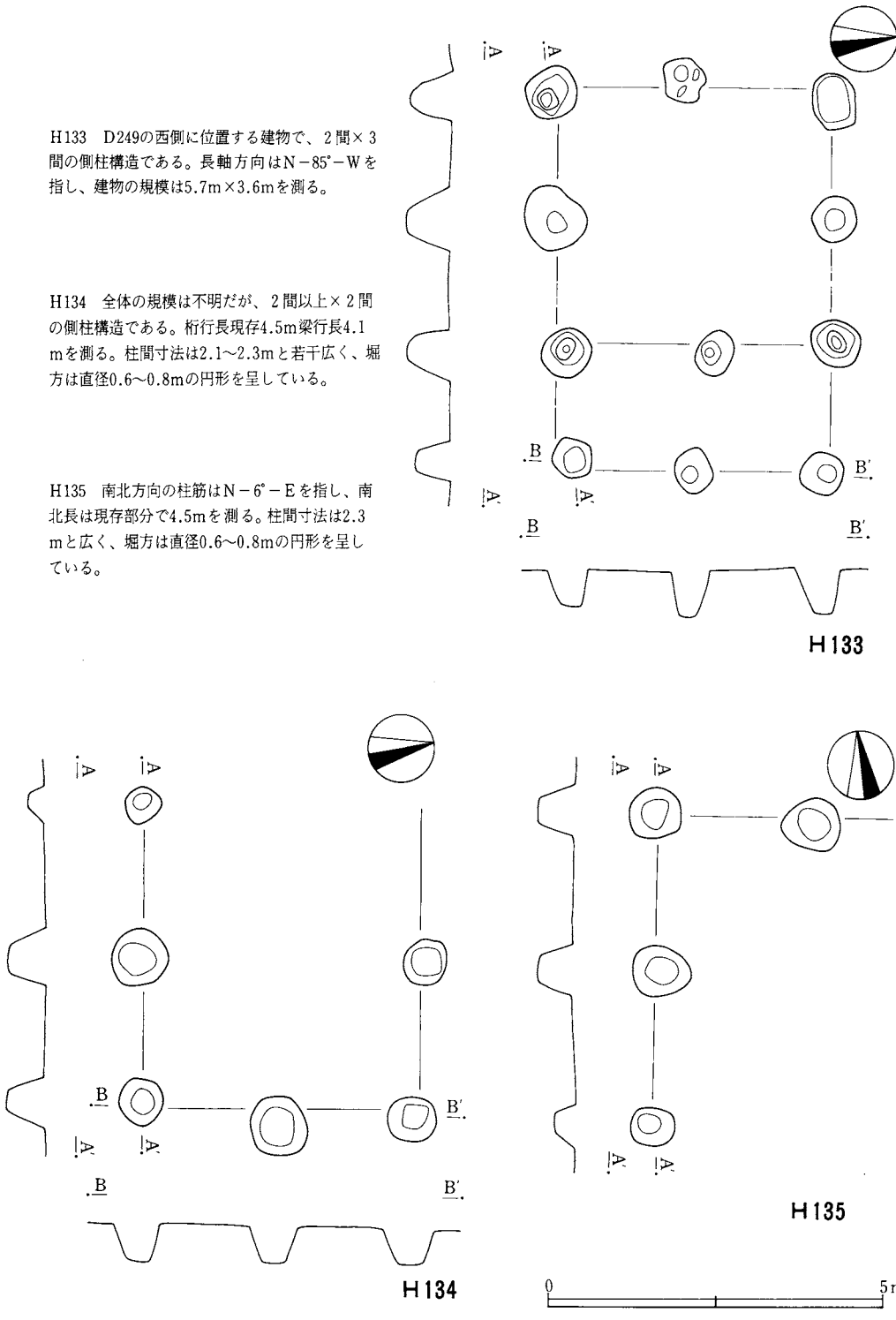

H131・H132　重複する建物で、H132が先行している。建物は3間×2間の側柱構造で、長軸方向は約10°の開きがある。桁行長5.3m、梁行長3.6・4.6mを測りH132のほうが僅かに大きい。柱間寸法は1.8～2.1mで、堀方は直径0.7～0.8mの円形を呈している。

PL.263　H130・H131・H132実測図

H133　D249の西側に位置する建物で、2間×3間の側柱構造である。長軸方向はN－85°－Wを指し、建物の規模は5.7m×3.6mを測る。

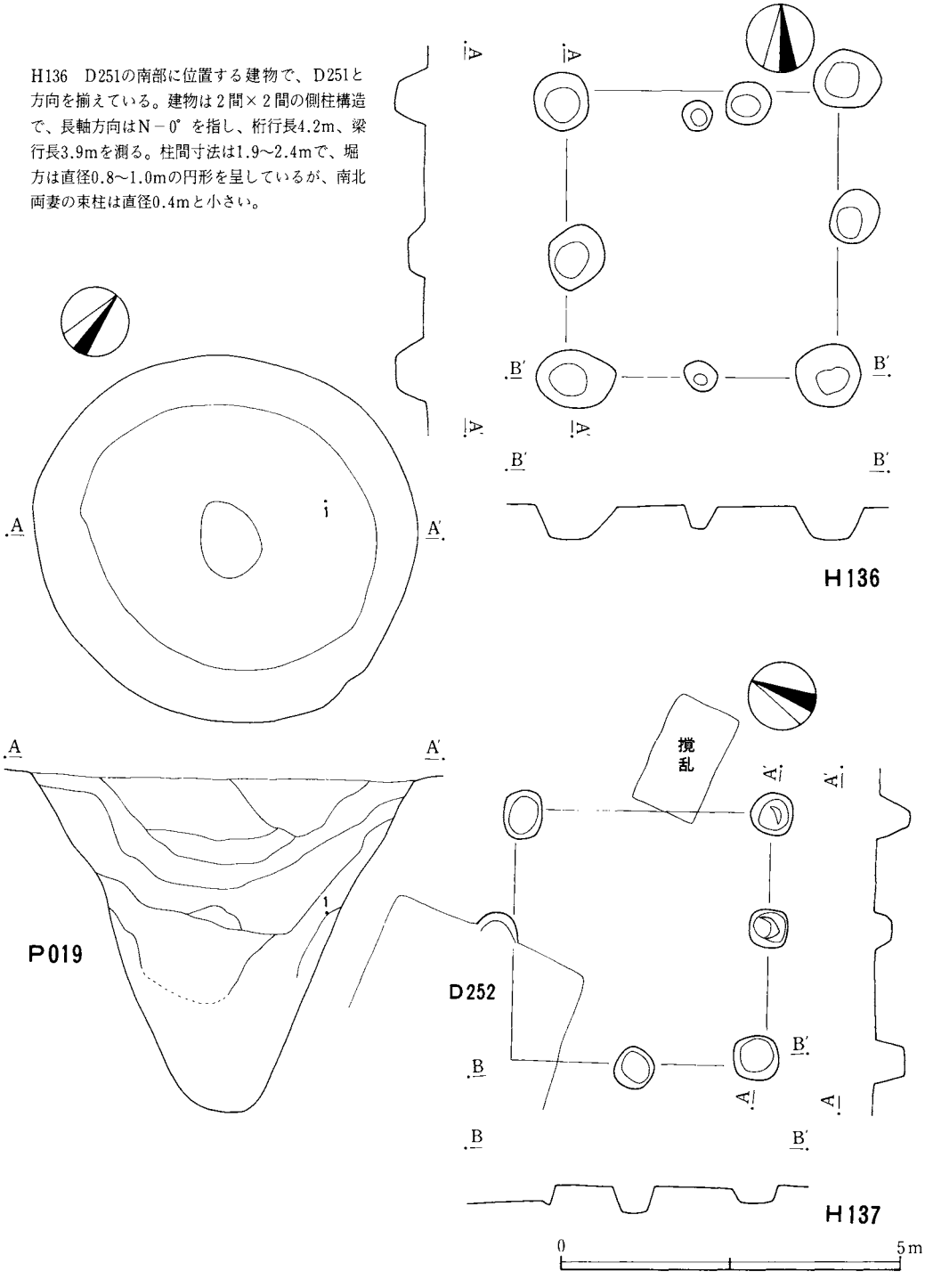
H134　全体の規模は不明だが、2間以上×2間の側柱構造である。桁行長現存4.5m梁行長4.1mを測る。柱間寸法は2.1～2.3mと若干広く、堀方は直径0.6～0.8mの円形を呈している。

H135　南北方向の柱筋はN－6°－Eを指し、南北長は現存部分で4.5mを測る。柱間寸法は2.3mと広く、堀方は直径0.6～0.8mの円形を呈している。

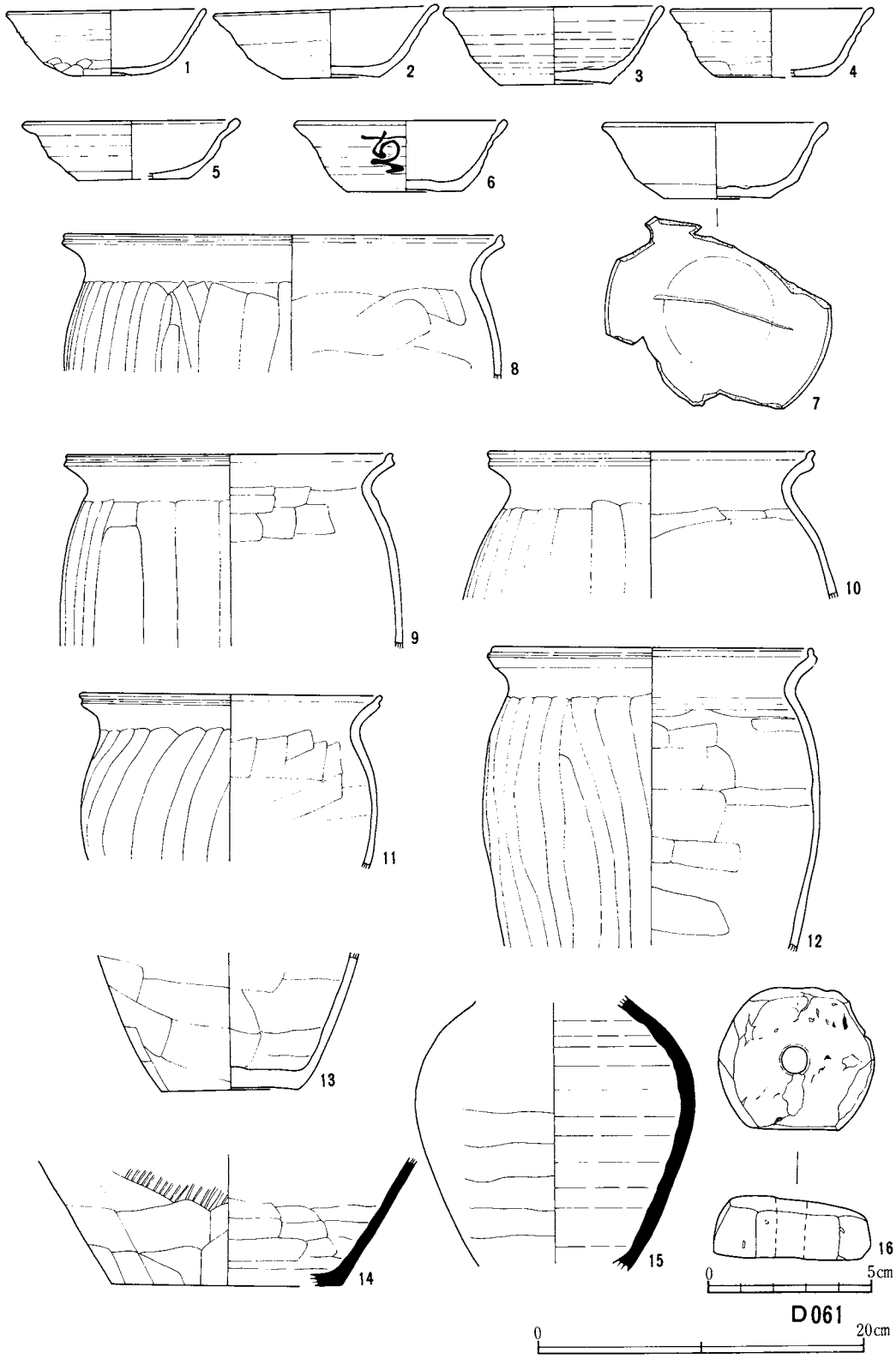



PL.264　H133・H134・H135実測図

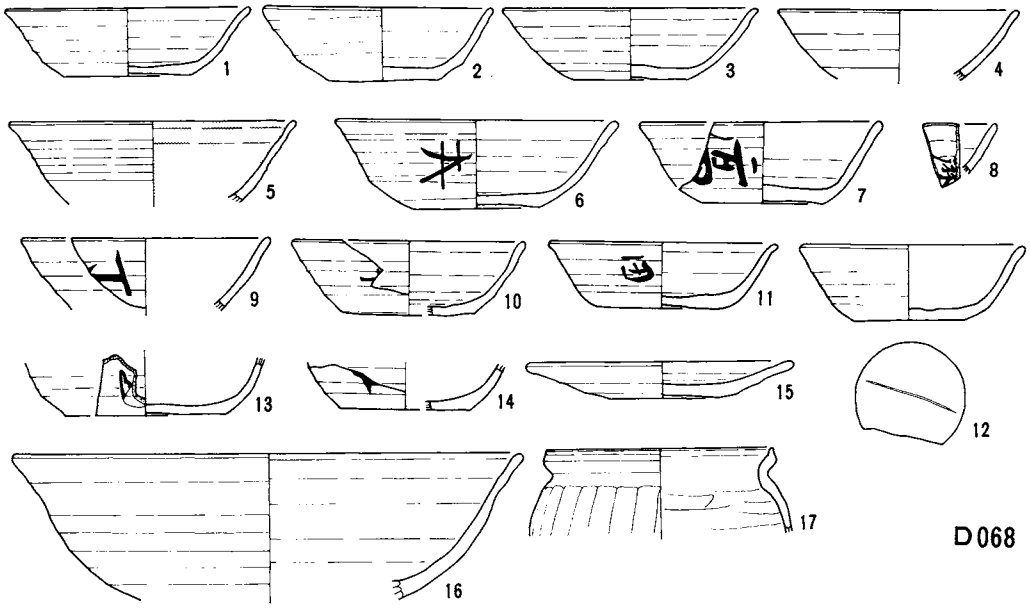
H136　D251の南部に位置する建物で、D251と方向を揃えている。建物は2間×2間の側柱構造で、長軸方向はN－0°を指し、桁行長4.2m、梁行長3.9mを測る。柱間寸法は1.9～2.4mで、堀方は直径0.8～1.0mの円形を呈しているが、南北両妻の束柱は直径0.4mと小さい。

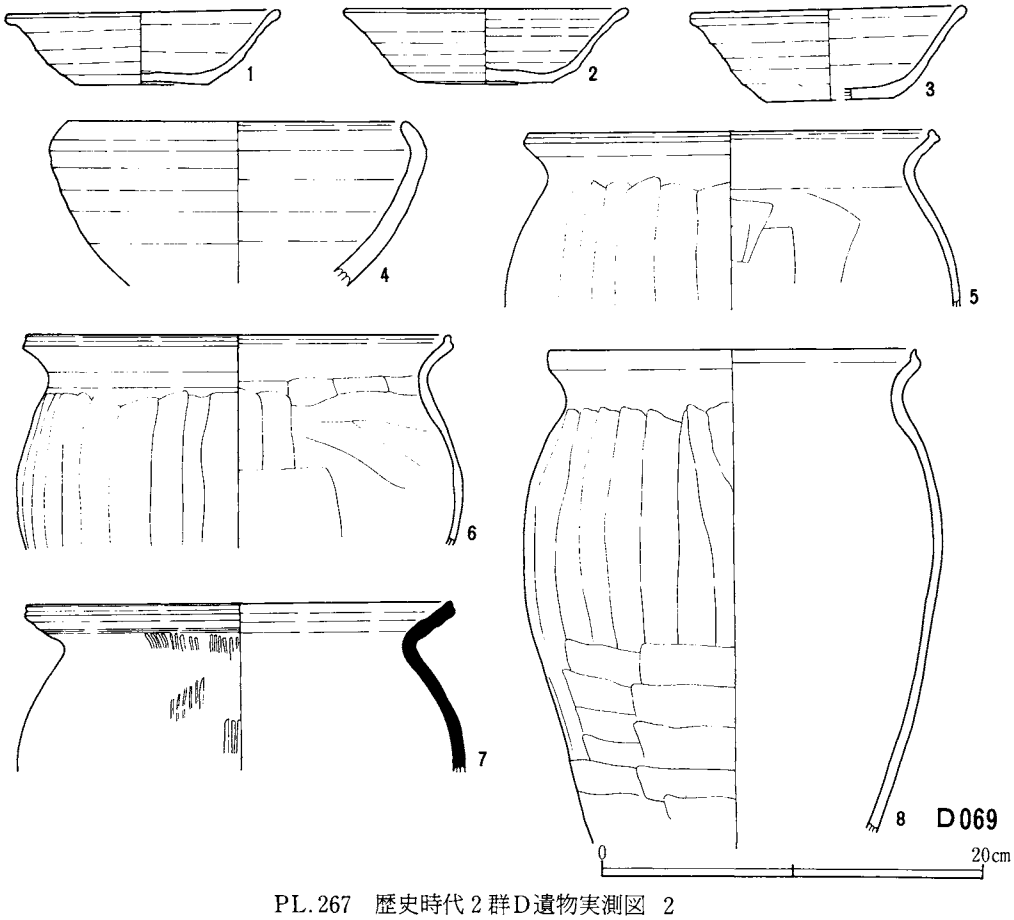



PL.265　H136・H137・P019実測図

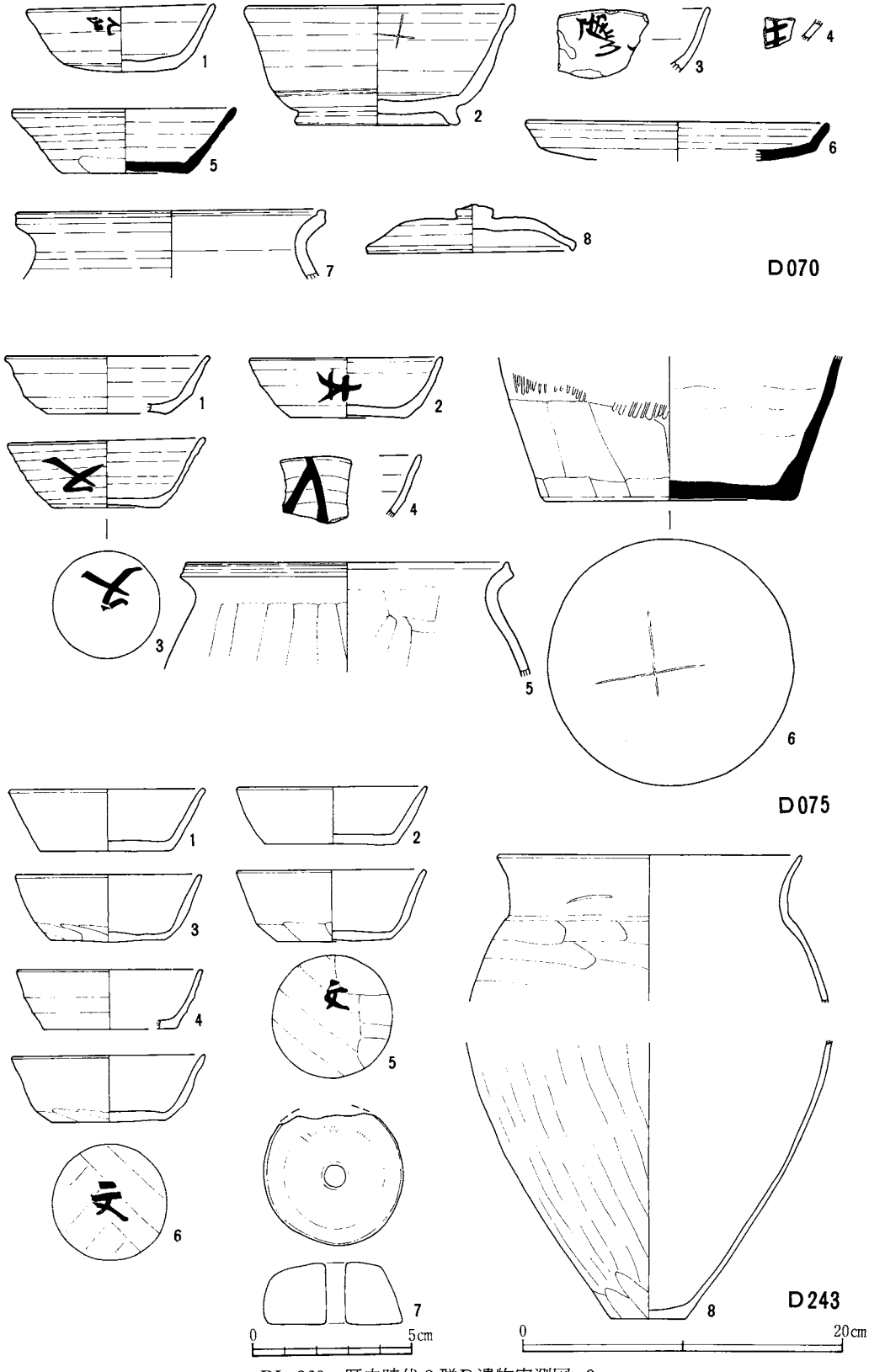



PL.266　歴史時代2群D遺物実測図　1

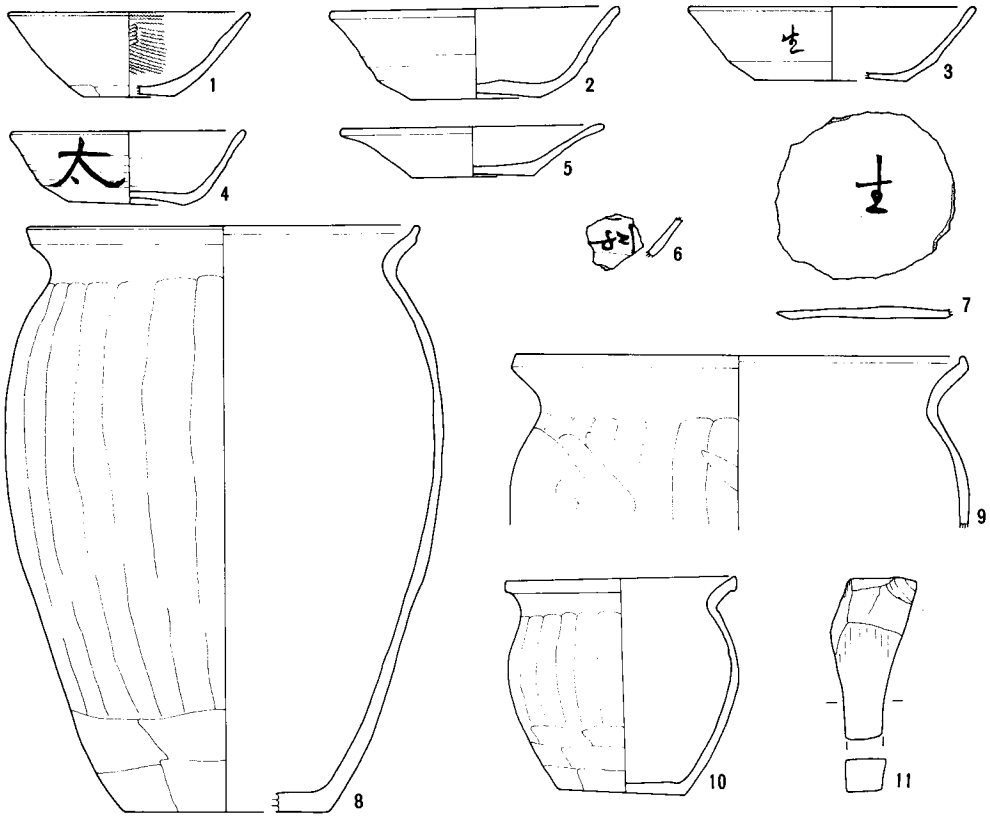


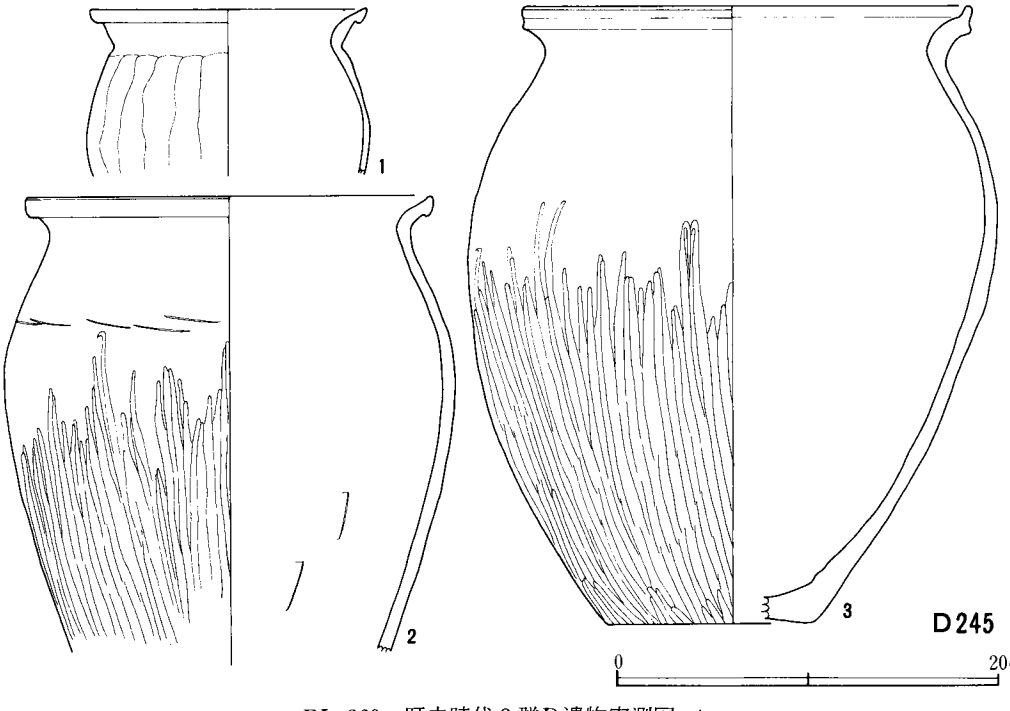

PL.267　歴史時代2群D遺物実測図　2




PL.268　歴史時代2群D遺物実測図　3

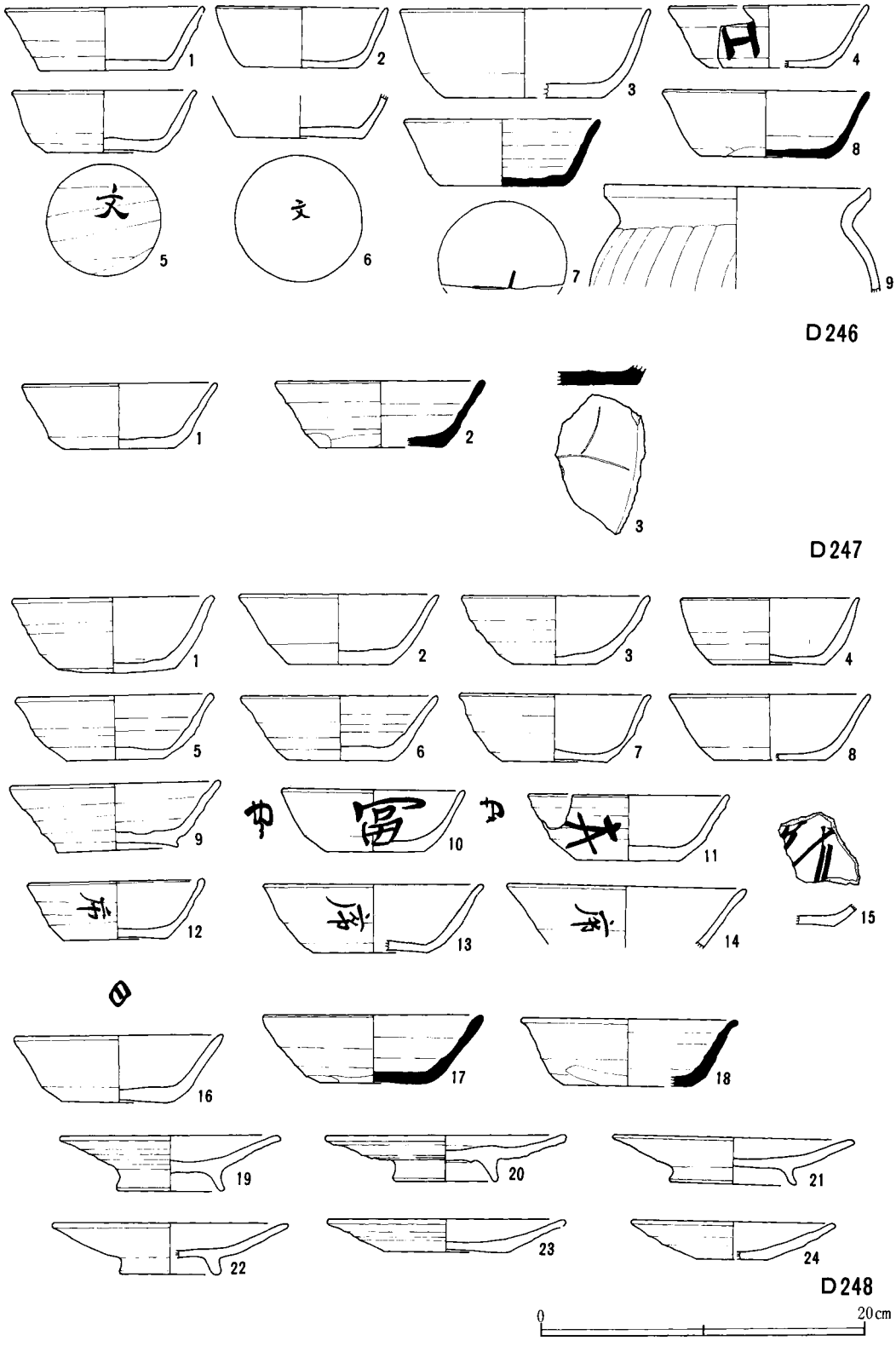



D244

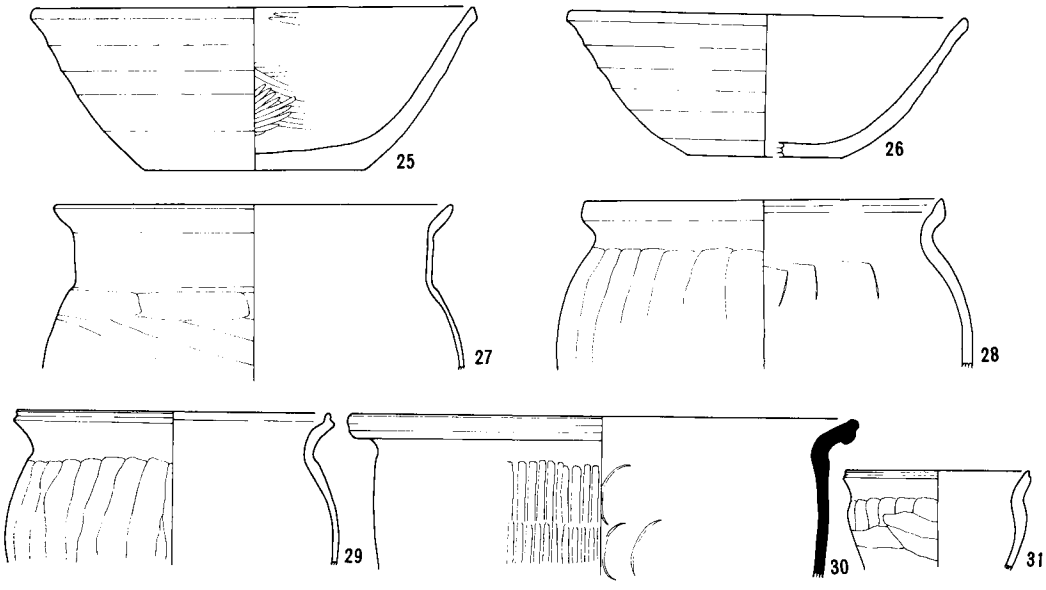



D245

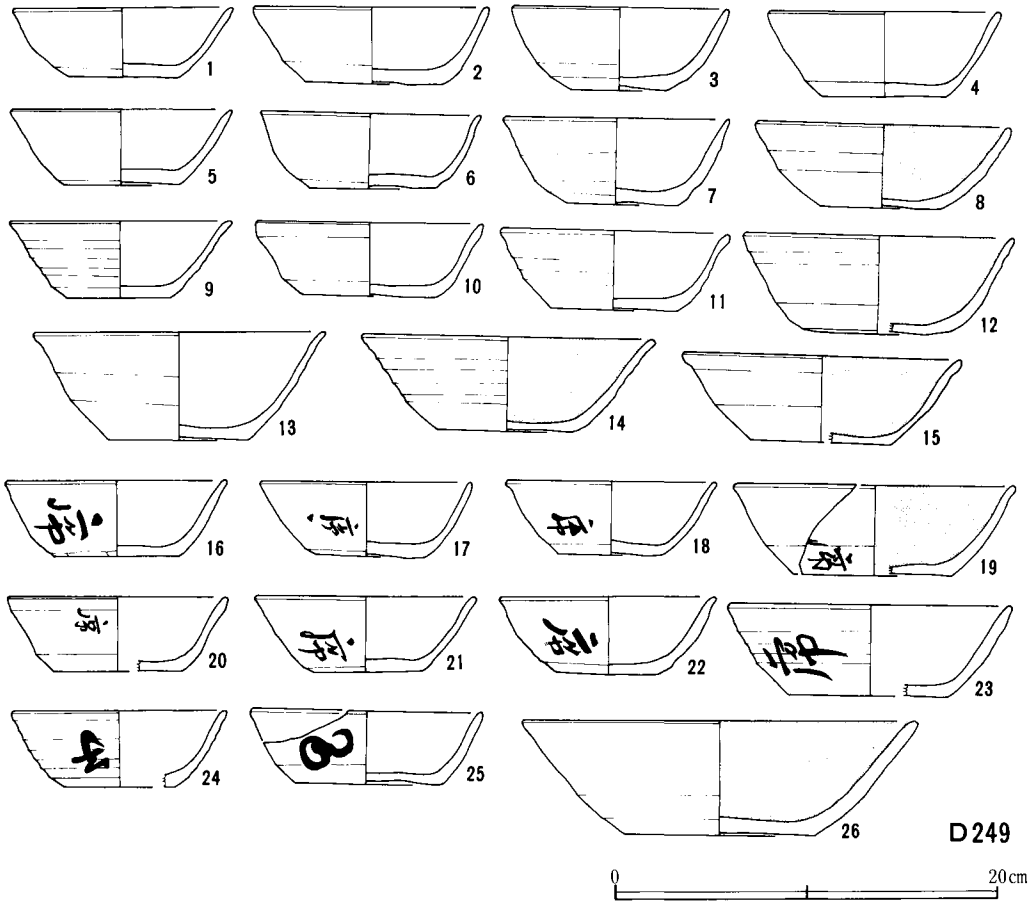
PL.269　歴史時代2群D遺物実測図　4




PL.270　歴史時代2群D遺物実測図　5

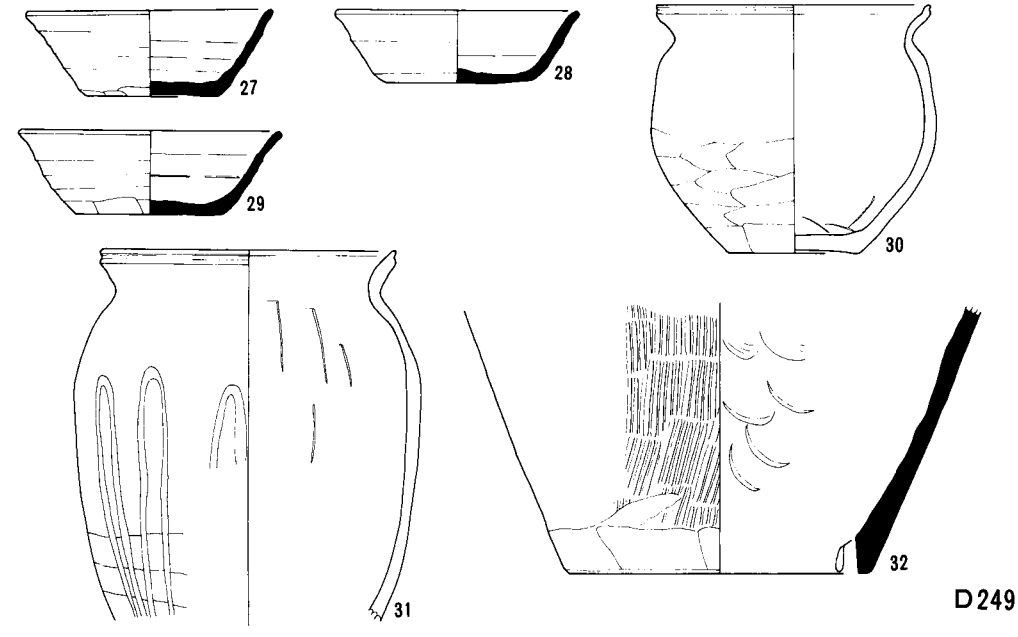


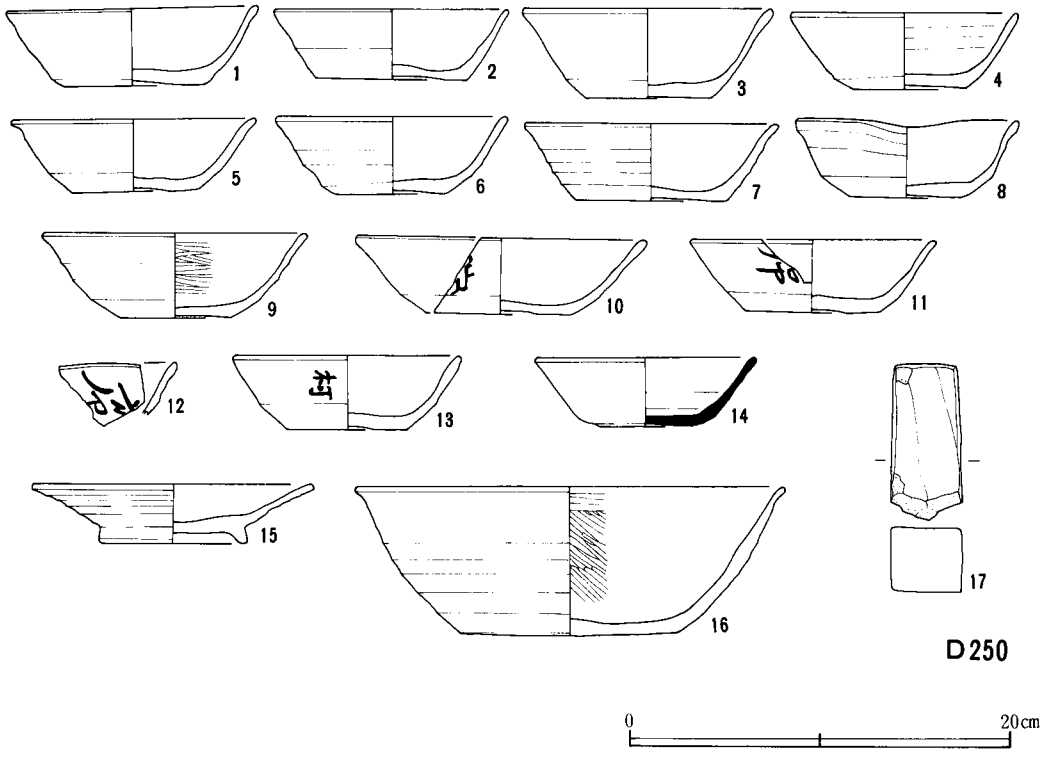

D248



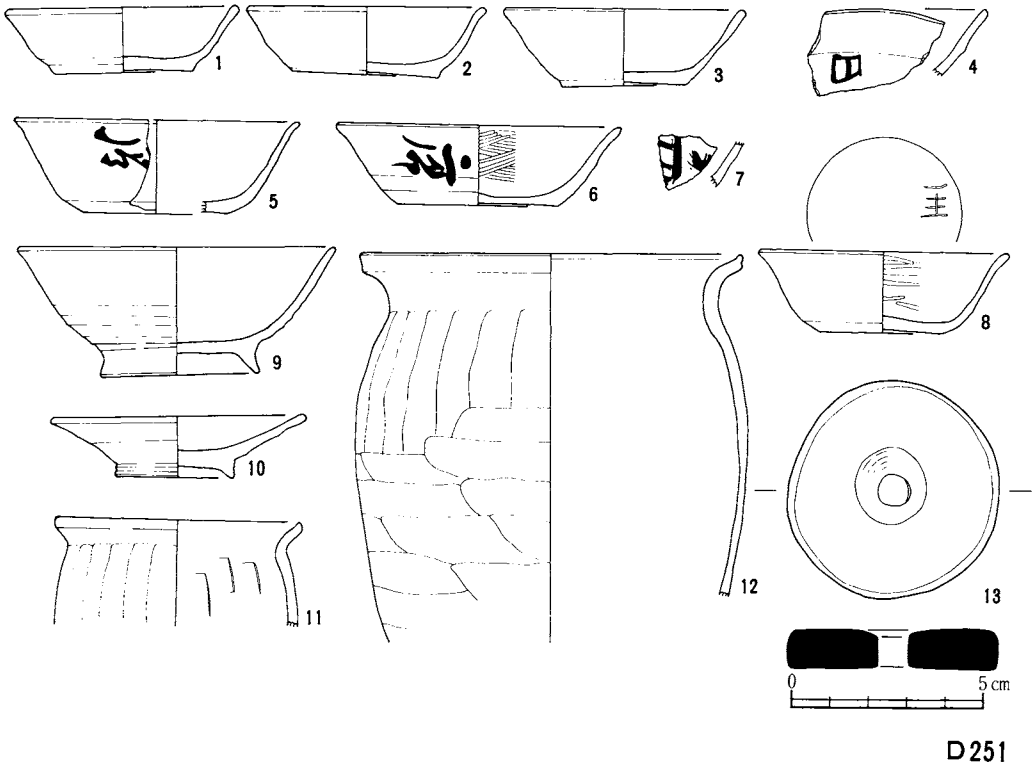

D249

PL.271　歴史時代2群D遺物実測図　6

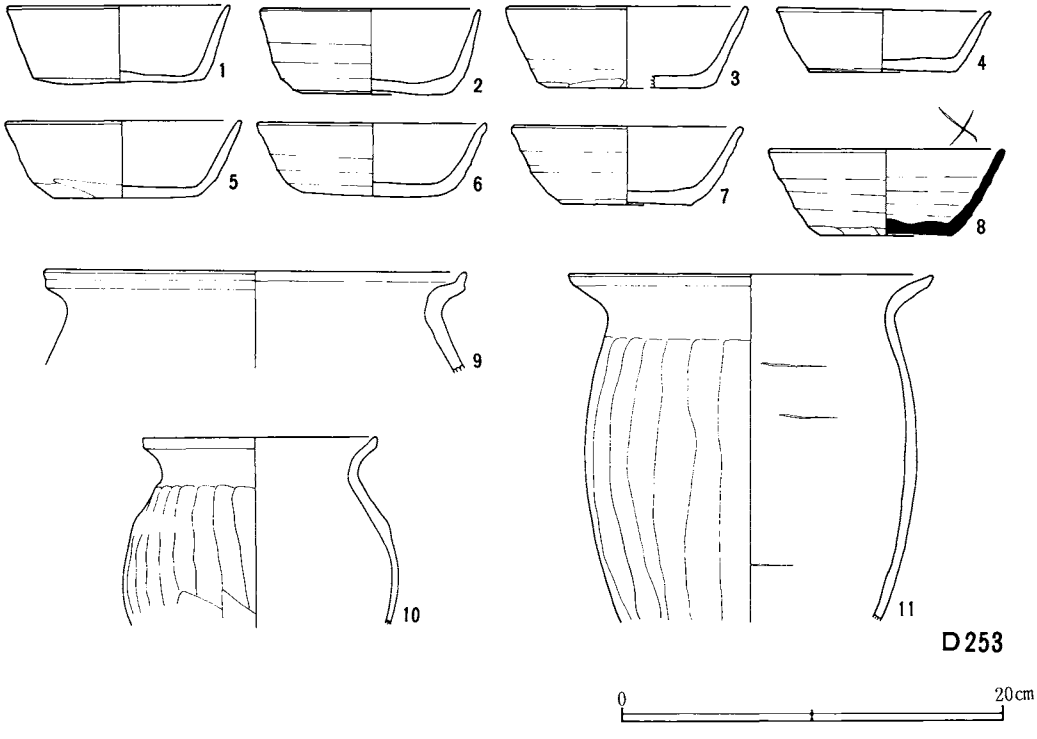



PL.272　歴史時代2群D遺物実測図　7

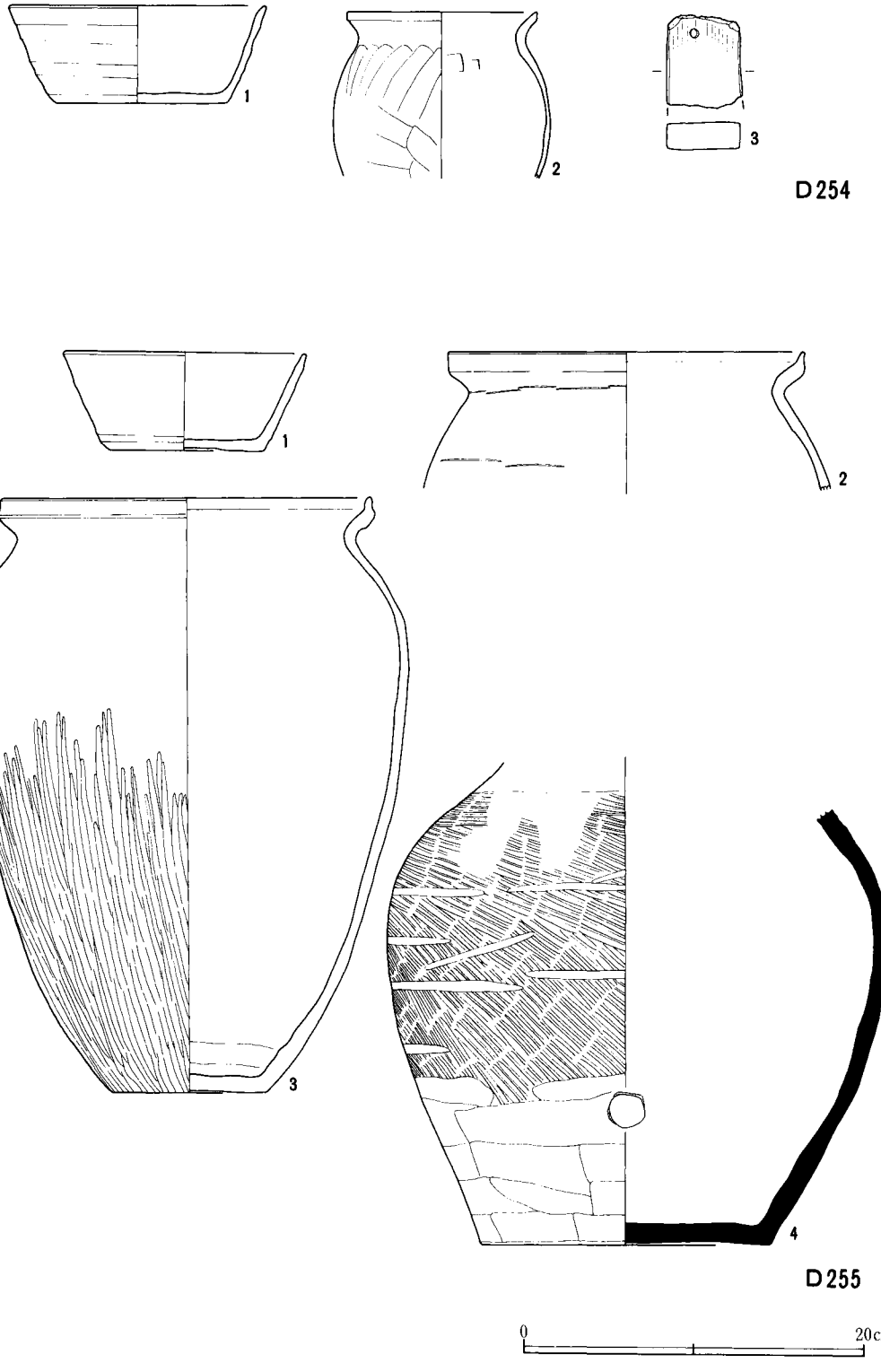



D251

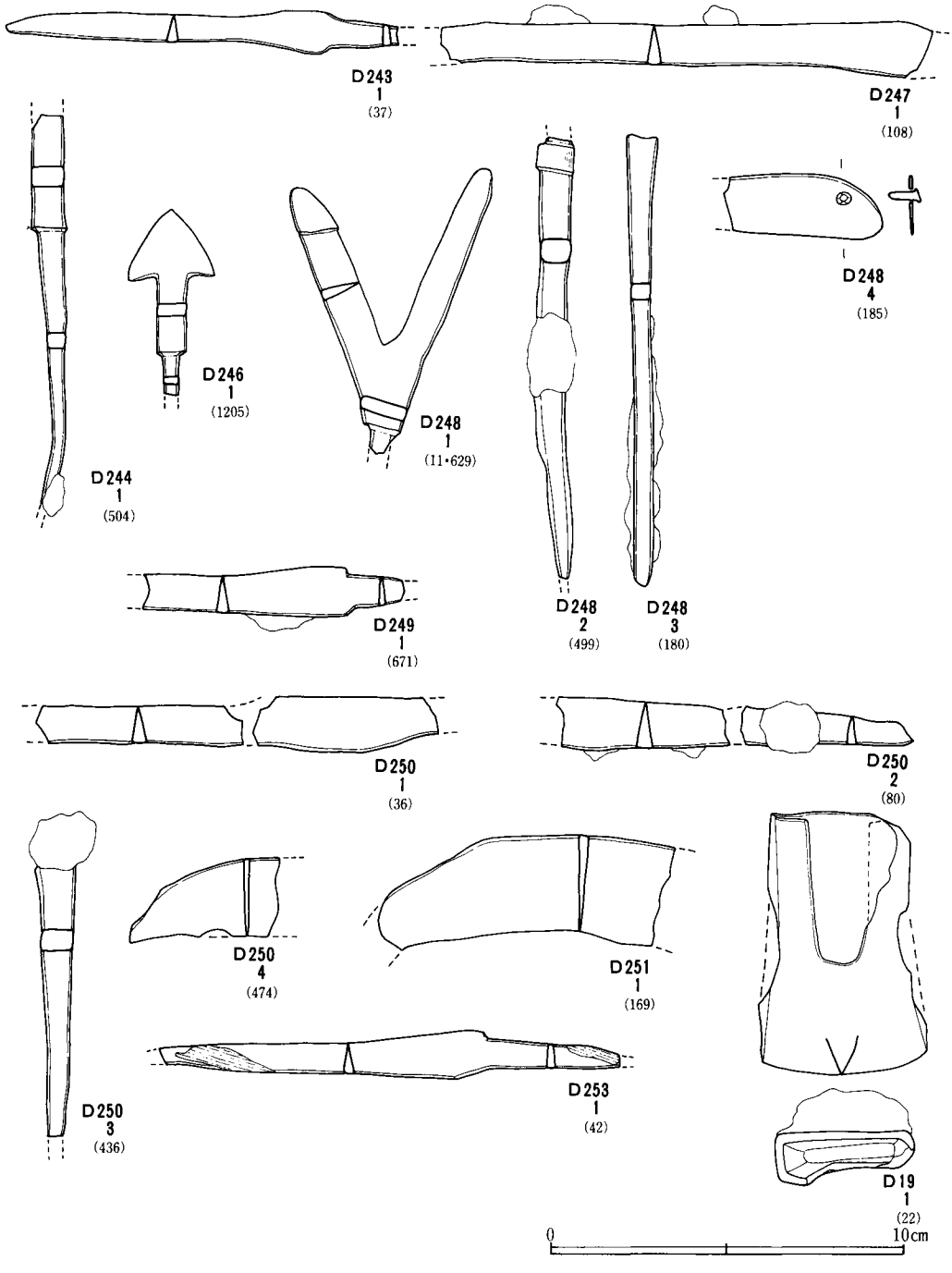



D253

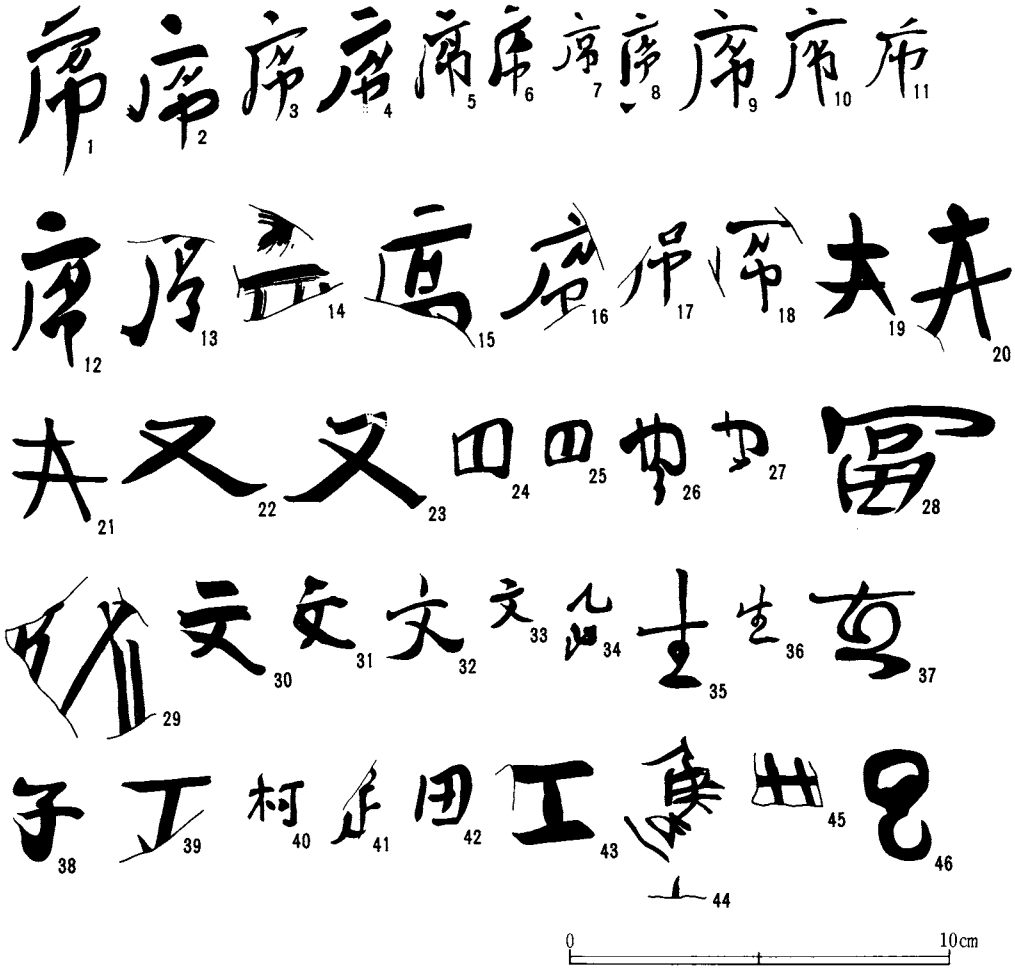
PL.273　歴史時代2群D遺物実測図　8



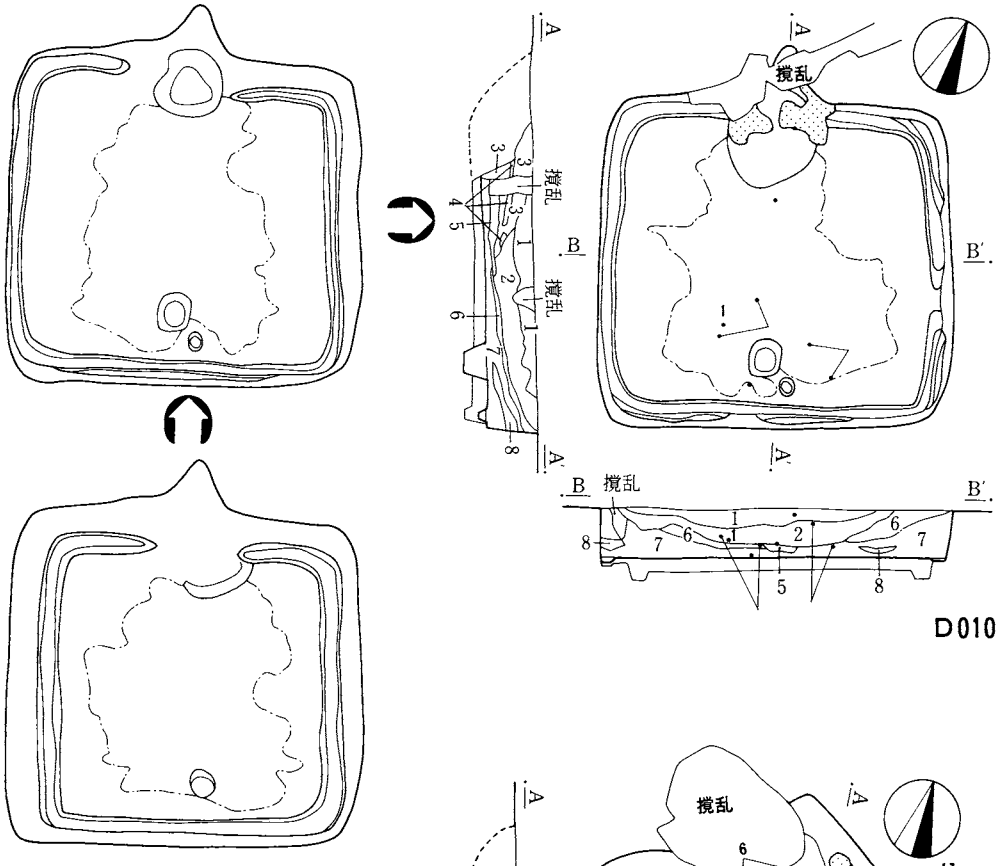

PL.274　歴史時代2群D遺物実測図 9



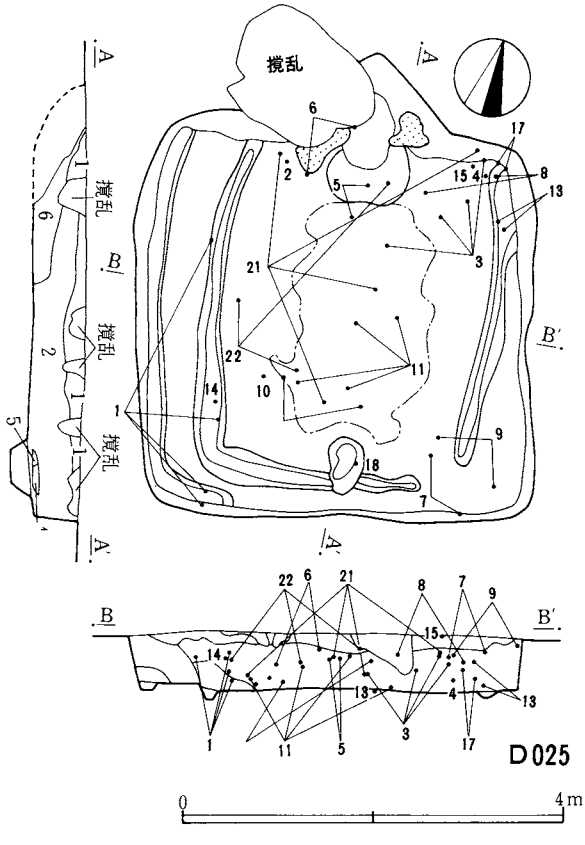

PL.275　歴史時代2群D鉄製品実測図




PL.276　歴史時代2群D文字資料抜萃




1　黒褐色土　わずかにローム粒・焼土を含む。
2　暗褐色土　わずかにローム粒・焼土・カマド材を含む。
3　暗灰褐色土　2層中にカマド構築材の砂質粘土を含む。
4　灰褐色土　密に砂質粘土を含む。
5　灰褐色土　かなり密に砂質粘土を含む。
6　黒褐色土　ローム粒多く含む。
7　暗褐色土　ロームと黒色土の混合土層。焼土を若干含む。
8　暗褐色土　焼土を多く含む。

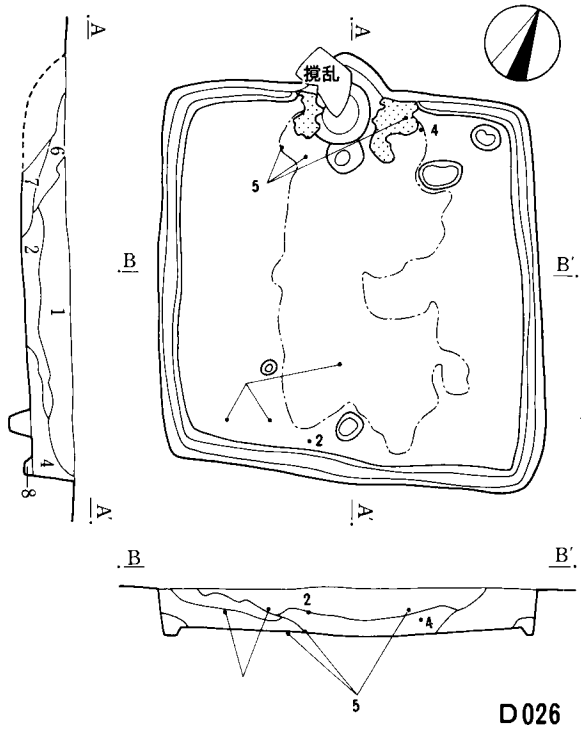



1　黒褐色土　ローム・焼土をわずかに含む。
2　暗褐色土　ローム・焼土粒をかなり多く含む。
3　暗褐色土　焼土を若干含む。
4　灰黒褐色土　黒褐色土と砂質粘土の混合した層。
5　暗赤褐色土　ロームまじりの黒色土に、焼土を多量に含む。
6　暗灰褐色土　ロームまじりの黒色土に、かなり多量の砂質粘土を含む。
7　暗黄褐色土　ローム粒と黒色土の混合土。わずかにロームブロックを含む。
8　黒褐色土　わずかにローム粒を含む。

PL.277　D010・D025実測図

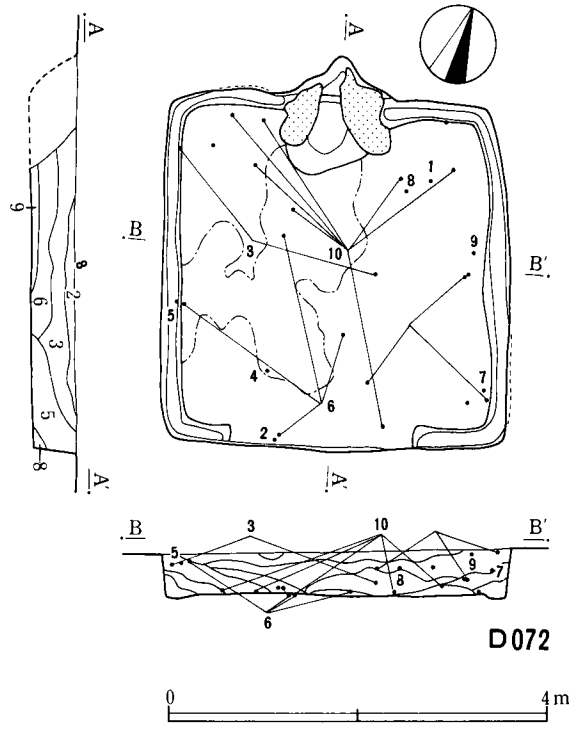
D026　D025の北西に位置する住居で、規模は4.2m×4.0mを測り、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面はＰ１からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ローム粒を多く含む。
2　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
3　黄褐色土　ローム粒を主体とし、黒色土を含む。
4　暗黄褐色土　ローム粒と黒色土の混合土。
5　褐色土　　4層より黒色土が多く色調が暗い。
6　暗灰褐色土　砂質粘土を含む。
7　灰褐色土　6層より多量の砂質粘土を含む。
8　黄褐色土　ローム粒を主体とし黒褐色土を含む。



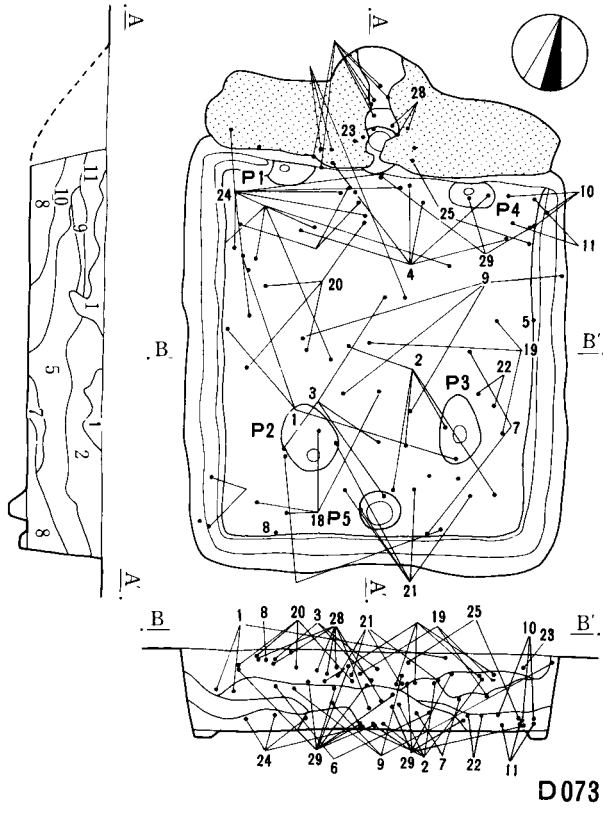

D072　D073の西側に位置する住居で、規模は3.7m×3.7mを測る。柱穴はなく、床面は南西壁中央からカマド前面にかけて〝L〟字状に硬化面が遺存している。

1　黒色土　　黒色土を主体とし、褐色土をわずかに含む。
2　暗褐色土　ローム粒を含む。
3　暗褐色土　ローム粒・山砂・少量の焼土粒を含む。
4　黒褐色土　ローム粒を含む。下部には焼土が含まれる。
5　暗褐色土　焼土粒をブロック状に含む。
6　暗褐色土　暗褐色土・ローム粒・ロームブロック・山砂の混合土。
7　暗褐色土　ローム粒・焼土粒をやや多く含む。
8　褐色土　　褐色土とローム粒の混合土。
9　黒褐色土　山砂・焼土粒を含む。

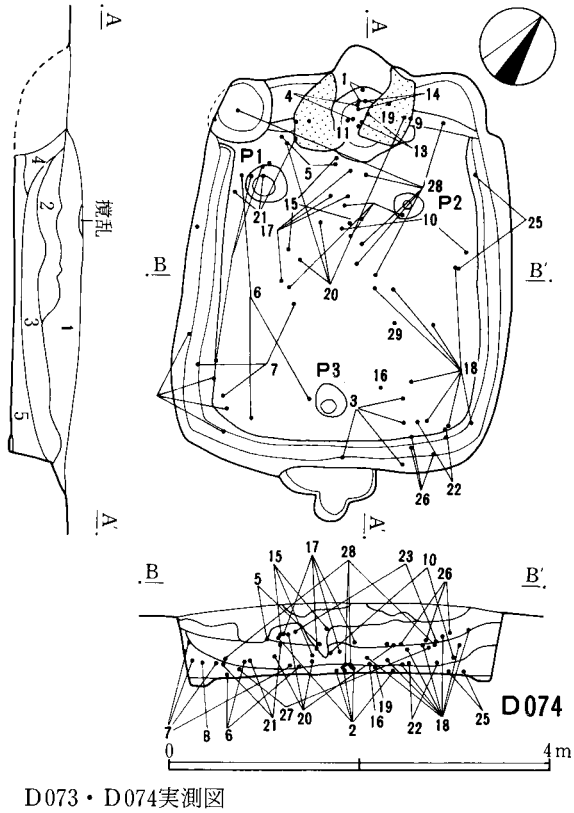



PL.278　D026・D072実測図

1　黒色土　褐色土を少量含む。
2　暗褐色土　暗褐色土・褐色土の混合土。ローム粒・焼土粒を含む。
3　褐色土　山砂・ローム粒・焼土粒を含む。
4　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を含み、少量の炭化物を含む。
5　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物を含む。
6　暗褐色土　焼土粒・ローム粒を含む。
7　明褐色土　明褐色土・褐色土混合土・炭化物を含む。
8　暗褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化材・炭化物を多く含む。
9　黒褐色土　焼土粒・ローム粒を含む。
10　褐色土　炭化物・炭化材を含む。
11　褐色土　山砂を多量に含み、カマド等の流出土と思われる。




D073・D074　柱穴は床面上で確認できず、床を除去した結果、2箇所の柱穴が検出できた。また、南壁際中央に出入口ピットがある。北壁は特異な状況を呈し、壁に沿って幅0.5mのテラスが設けられている。このテラスにはカマド構築材に似た土層を、D074では黒色土を主体とした土層を敷き詰めている。

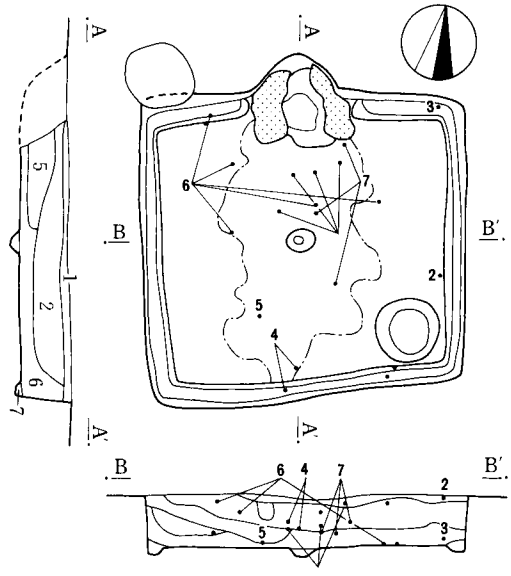



1　黒色土　わずかにローム粒を含む。
2　暗褐色土　しみ状にローム粒が集中する。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
4　暗褐色土　暗褐色土・ローム粒・褐色土・山砂の混合土。
5　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。

PL.279　D073・D074実測図

D076　H035の南東に位置する住居で、柱穴はないが、住居中央に直径0.3mの浅いピットがあり、底面は堅緻である。また、南東コーナーに直径0.7mのピットがある。床面は南壁際からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

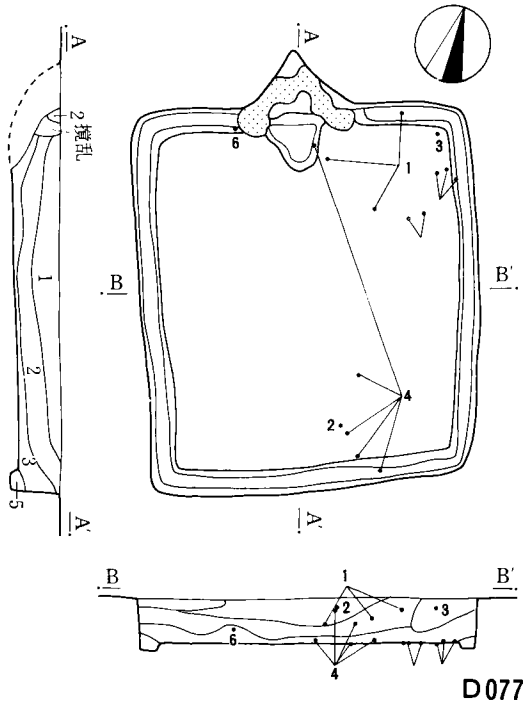
1　暗褐色土　ローム粒を若干含む。
2　褐色土　ロームブロック・ローム粒を多量に含む。
3　黒色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
4　褐色土　ロームブロック・ローム粒を多く含む。
5　褐色土　白色砂質土がかなり多量に含まれる。
6　暗褐色土　ローム粒をブロック状に多く含む。
7　褐色土　ローム粒を多く含む。




D076

D077　D076の南西に位置する住居で、H034と重複している。規模は4.0m×3.6mを測り、主軸方向はN－21°－Wを指す。埋土はローム粒・ロームブロックを含んでいる。柱穴はなく、カマドは北西壁中央に設置され、煙道部の奥まで袖材を貼込んでいる。煙道部は壁外へ0.6m張り出している。

1　黒色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
2　明褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを少し含む。
4　褐色土　ローム粒を多く含む。
5　灰白色土　白色粘土を主体とし、黒色土・ローム粒を含む。



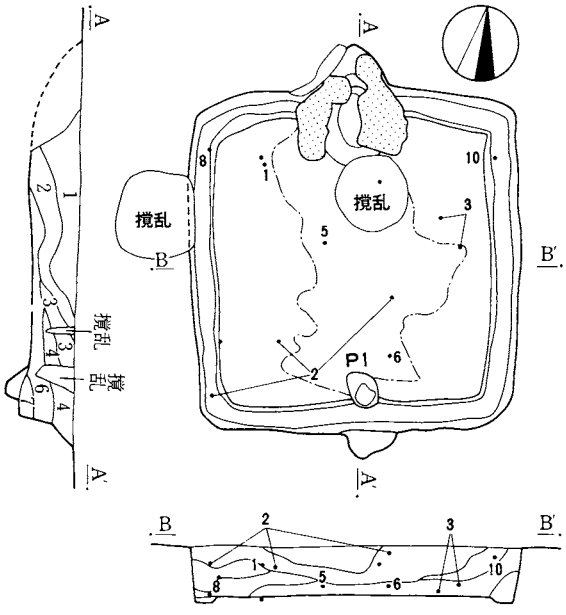

D077

0　4m

PL.280　D076・D077実測図

D078　D079の西側に位置する住居で、規模は3.7m×3.5mを測る。柱穴はなく、南壁際中央に出入口ピットがあり、この部分の壁が僅かに張り出している。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

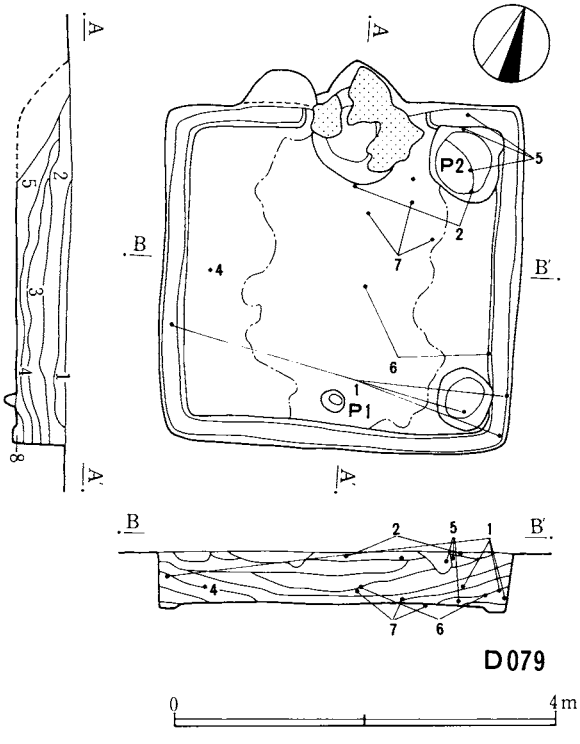
1　暗褐色土　ロームブロックを含む。
2　褐色土　ロームブロック・ローム粒・炭化物を含む。
3　明褐色土　ロームブロックをやや多く含む。
4　黒色土　ロームブロックを若干含む。
5　褐色土　ロームブロック・ローム粒を多く含む。
6　暗褐色土　ロームブロックを若干含む。
7　明褐色土　ローム粒を多く含む。




D078

D079　D078の東側に位置する住居で、柱穴はないが、北東・南東の各コーナーに直径0.5～0.7mのピットが2箇所ある。P2の埋土はカマド構築材の崩壊土が主体的である。また、南東壁際中央に出入口ピットがある。

1　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒を若干含む。
2　褐色土　ロームブロックを多く含む。
3　黒色土　ロームブロック・ローム粒をやや多く含む。
4　褐色土　ロームブロックをやや多く含む。
5　黒色土　白色砂質土・ロームブロックを含む。
6　褐色土　ロームブロック・ローム粒を多く含む。
7　黒色土　ロームブロック・ローム粒を僅かに含む。
8　褐色土　ローム粒を多く含む。

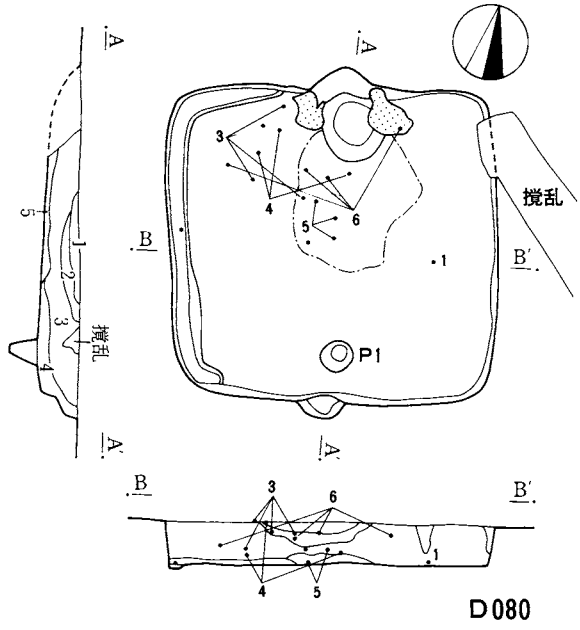



D079

PL.281　D078・D079実測図

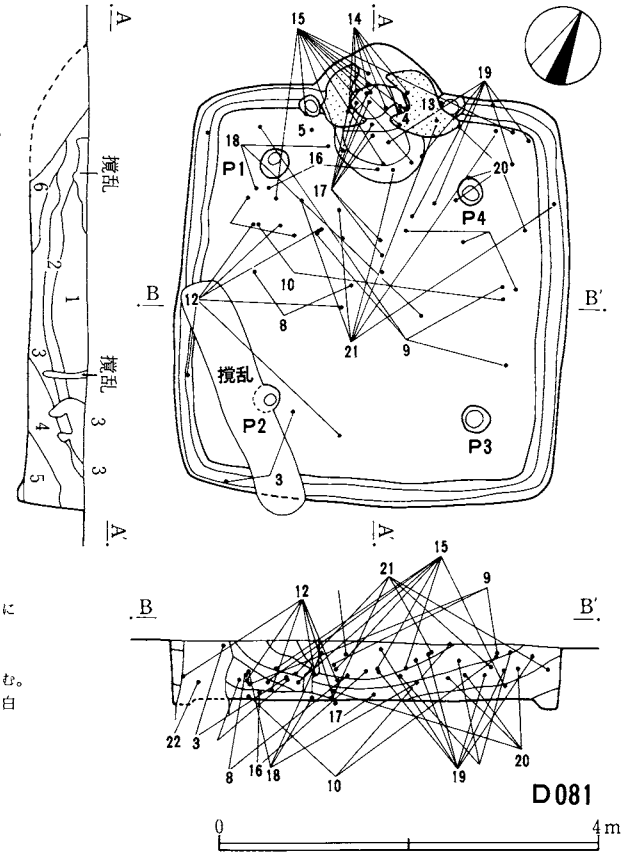
D080　D078の南側に位置する住居で、規模は3.5m×3.3mを測る。柱穴はなく、南壁際中央に出入口ピットがあり、その部分の壁が僅かに張り出している。床面は住居中央からカマド前面にかけて僅かに硬化面が遺存している。

1　黒色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
2　褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
3　褐色土　ロームブロック・ローム粒・炭化物を含む。
4　暗褐色土　黒色土をブロック状に、又ローム粒も含む。
5　暗褐色土　灰白色土を多く含む。




D081　D080の南西に位置する住居で、規模は4.2m×4.1mを測る。柱穴は住居対角線上に4箇所あり、P1は直径0.3m、深さ0.6mである。床面は住居東コーナーを除くほぼ全面に、良好な硬化面が遺存している。

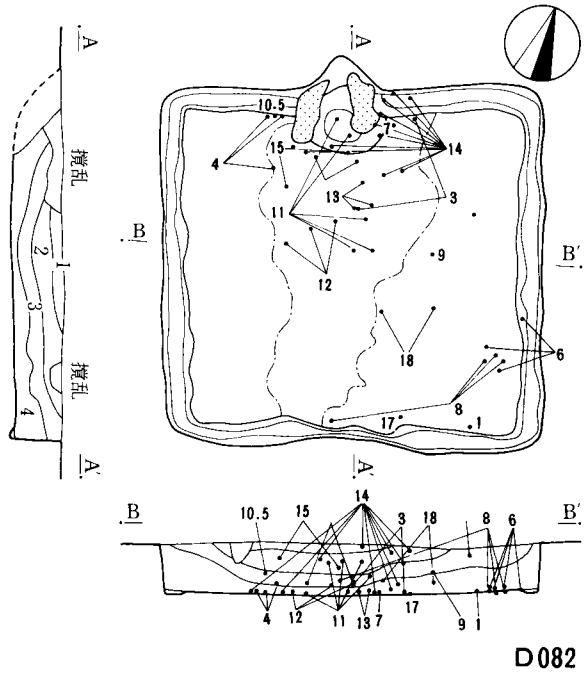
1　褐色土　ロームブロックを多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒・黒色土粒を多く含む。
3　黒色土　ローム粒・ロームブロックをわずかに含む。
4　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
5　黒色土　褐色土ブロック・ローム粒を若干含む。
6　褐色土　褐色土ブロック・ロームブロック・白色粘土を含む。




PL.282　D080・D081実測図

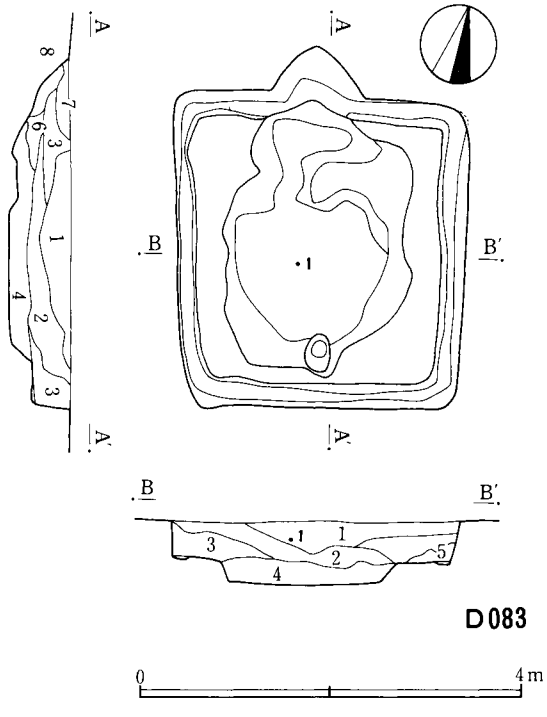
D082　H023の南側に位置する住居で、規模は4.0m×3.6mを測り、主軸方向はN－20°－Wを指す。柱穴はなく、床面は南東壁中央からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　黒色土　　ローム粒を若干含む。
2　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
3　黒色土　ローム粒を多く含む。
4　明褐色土　ローム粒を非常に多く含む。




D083　D084の北側に位置する住居で、柱穴はなく、南壁際中央に出入口ピットがある。床面は土層断面図4層上面の可能性もあるが、基本的には構築されなかったと解釈すべきで、カマドも使用あるいは構築された痕跡が無い。遺物の出土も極めて少ないことを考え合わせると、本住居は構築途中で構築を中止した可能性が高い。

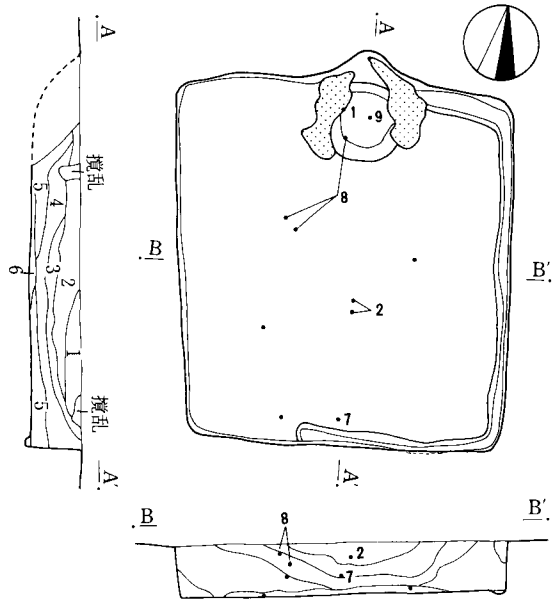
1　暗褐色土　暗褐色土・褐色土・ローム粒の混合土。ロームブロックを全体的に含む。
2　黒褐色土　褐色土をブロック状に含み、ロームブロックを少量含む。
3　暗褐色土　暗褐色土及び黒色土の混合土。全体的にローム粒及びロームブロックを含む。
4　明褐色土　ロームブロックを含む。
5　暗褐色土　全体的にローム粒を含む。
6　褐色土　　全体的にローム粒を多く含む。
7　黒褐色土　わずかに褐色土をブロック状に含む。
8　黒褐色土　ローム粒を含む。




PL.283　D082・D083実測図

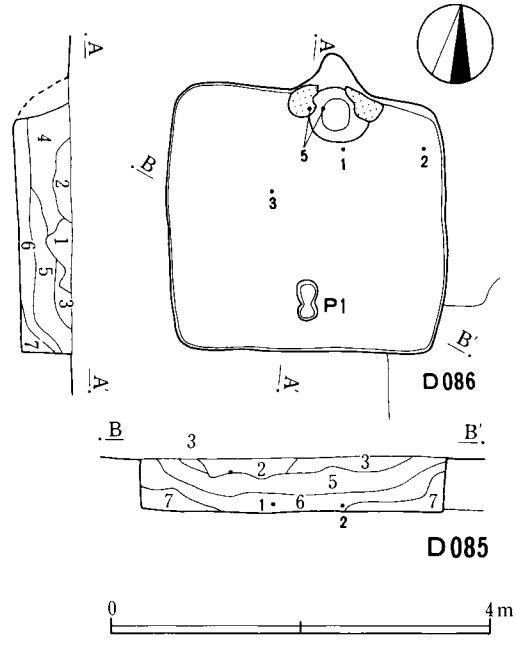
D084　D083の南側に位置する住居で、規模は3.9m×3.5mを測り、主軸方向はN－12°－Wを指す。確認面からの深さは0.5mで、埋土は全体にローム粒を含んでいる。

1　明褐色土　ローム粒を主体とし、黒色土をわずかに含む。
2　黒色土　ローム粒を含む。
3　明褐色土　ローム粒を多く含む。
4　黒色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
5　明褐色土　ロームブロックを多く含む。
6　黒色土　ローム粒を若干含む。
7　黒色土　ロームブロックを含む。



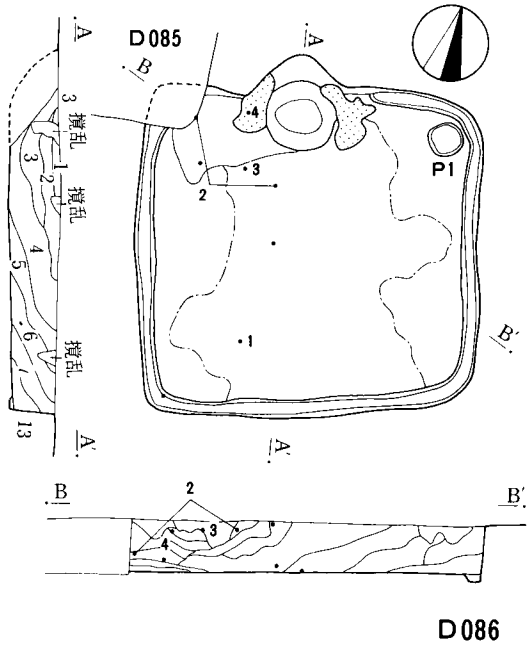

D085　D086と僅かに重複する住居で、D086が先行している。規模は3.0m×2.7mを測り、主軸方向はN－4°－Wを指す。確認面からの深さは0.6mで、埋土はローム粒・ロームブロックを含んでいる。柱穴・壁溝はなく、カマドに対峙する南壁際中央に出入口ピットがある。

1　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
2　黒色土　ローム粒をやや多く含む。
3　褐色土　ローム粒・黒色土をブロック状に含む。
4　黒色土　ロームブロックを多く含む。
5　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
6　黒褐色土　ロームブロックを多く含む。
7　黒色土　ローム粒を多く含む。




PL.284　D084・085実測図

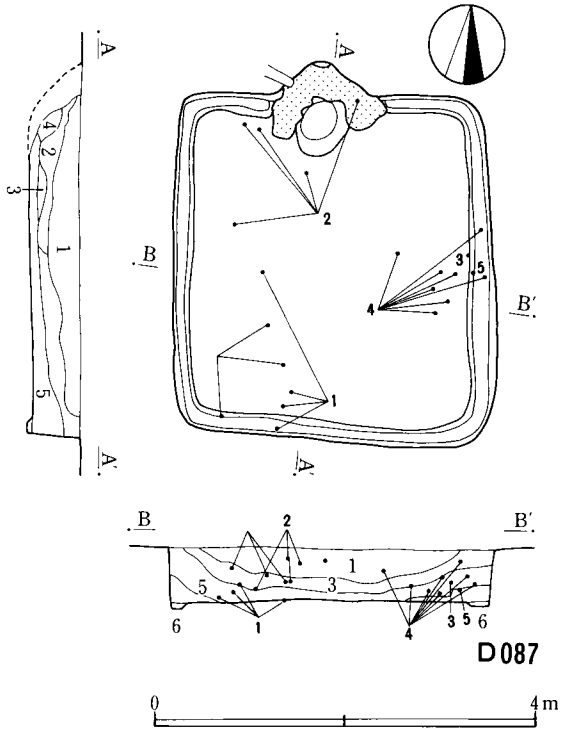
1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
2　褐色土　ローム粒・黒色土をブロック状に含む。
3　褐色土　赤褐色土粒・ローム粒を若干含む。
4　褐色土　ロームブロック・焼土粒を多く含む。
5　暗褐色土　ロームブロックを含む。
6　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
7　黒褐色土　ロームブロックを多く含む。
8　黒色土　ローム粒を多く含む。
9　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
10　黒色土　ローム粒をやや多く含む。
11　黒色土　ロームブロックを多く含む。
12　明褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
13　黒色土　ロームブロックを若干含む。
14　赤褐色土　焼土をかなり多量に含む。
15　明褐色土　焼土粒・ローム粒・ロームブロックを含む。




D086

D087　D086の東側に隣接する住居で、規模は3.5m×3.4mを測り、主軸方向はN－4°－Wを指す。柱穴はない。カマドは北壁中央に設置され、煙道部の奥まで袖材を貼込んでいる。煙道部は壁外へ0.4m張り出している。

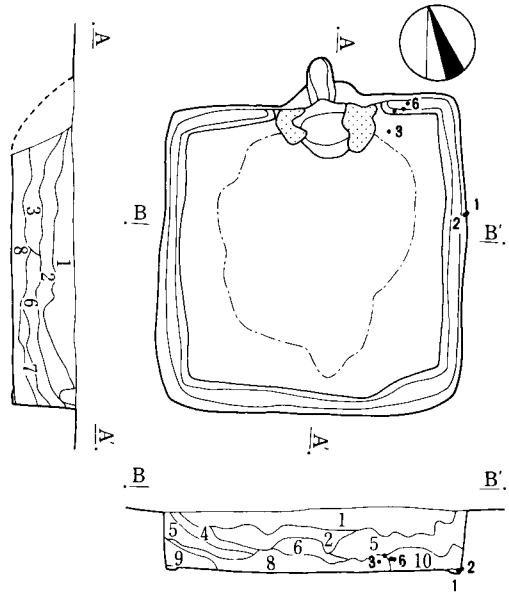
1　黒色土　ローム粒を多く含む。
2　暗褐色土　白色砂質土を多く含む。
3　褐色土　ローム粒を多く含む
4　黒色土　ロームブロック・焼土粒を含む。
5　暗褐色土　ロームブロックを僅かに含む。
6　暗褐色土　ローム粒を少し含む。



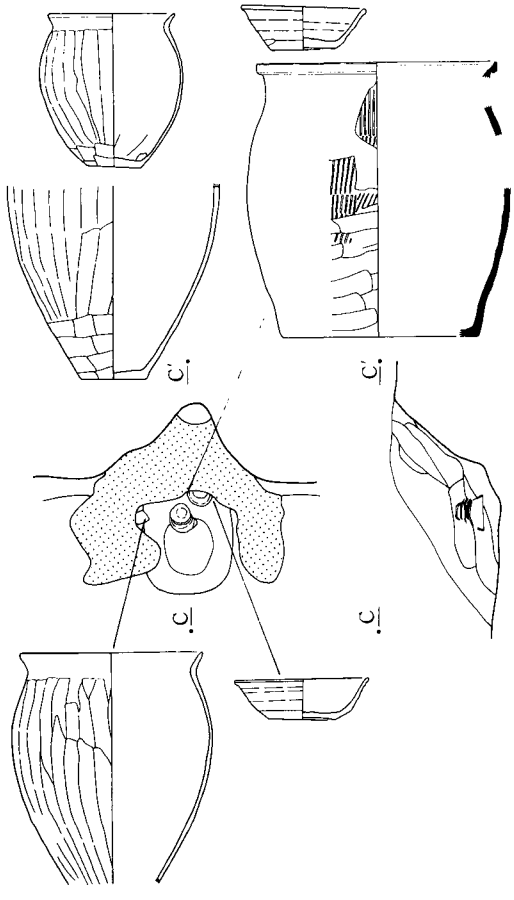

D087

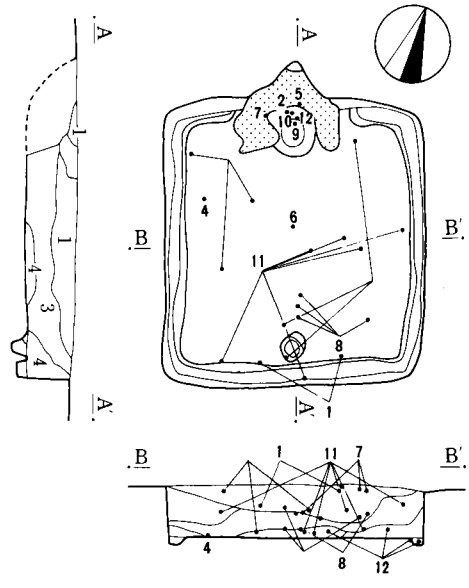
PL.285　D086・D087実測図

1　褐色土　ロームブロックを含む。
2　黄褐色土　ローム粒を主体とする。
3　褐色土
4　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。
5　黄色土　ロームブロックを主体とする。
6　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。
7　黒色土　ローム粒を含む。
8　褐色土　ロームブロックを含む。
9　黄色土　ロームブロックを主体とする。
10　褐色土　ローム粒を含む。




D088




1　黒褐色土　ロームブロック・焼土粒を含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
3　褐色土　ロームブロック・焼土粒を含む。
4　黒褐色土　ロームブロックを含む。
5　褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。

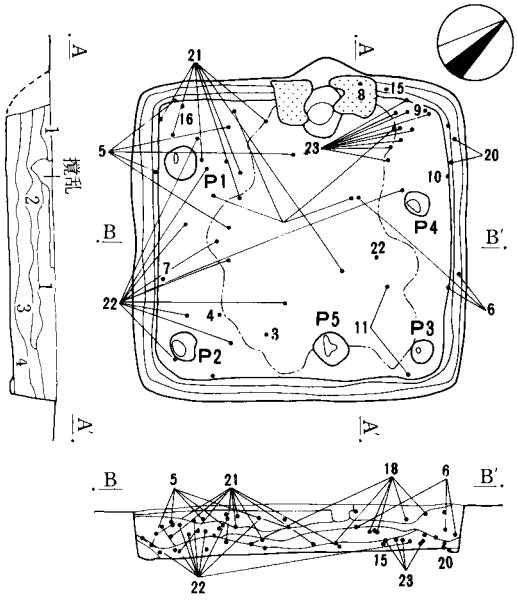
D089

0　4m

PL.286　D088・D089実測図

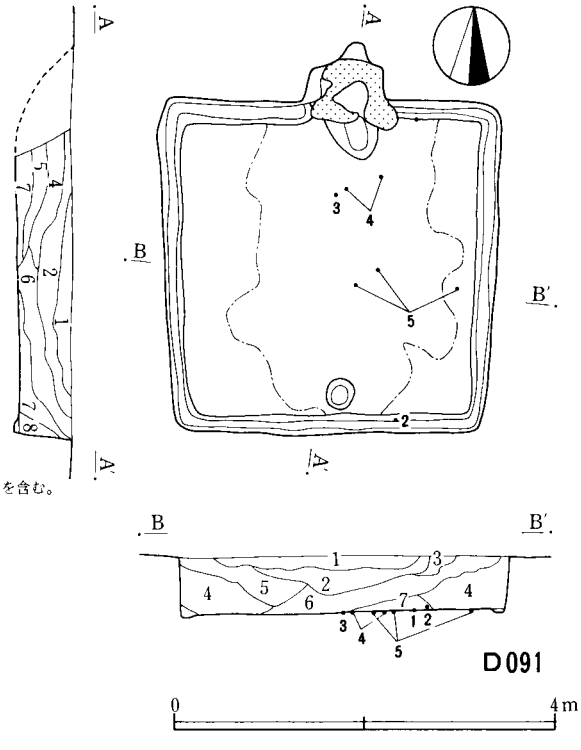
D090　D088の南側に位置する住居で、規模は3.5m×3.1mを測る。柱穴は住居各コーナー周辺に4箇所あり、いずれも直径0.3m、深さ0.3mを測る。また、南東壁際のやや北寄りに出入口ピットがある。床面はP5からカマド前面にかけて硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ロームブロック・焼土粒を含む。
2　褐色土　ローム粒を含む、若干砂質。
3　黒褐色土　焼土粒を含む。
4　褐色土　ソフトロームを含む。
5　黄褐色土　ソフトロームを含む。



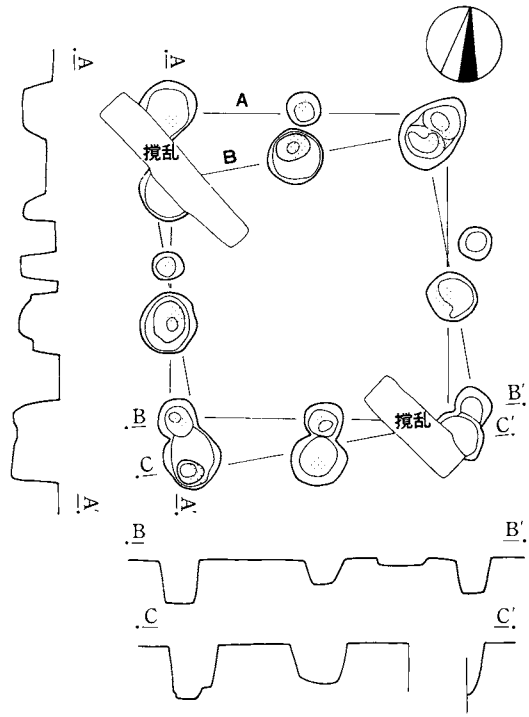

D091　2群Eグループの建物群からは若干離れて位置する住居で、規模は3.5m×3.1mを測り、主軸方向はN－0°を指す。柱穴はなく、南壁際中央に出入口ピットがある。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロック含む。
2　明褐色土　ローム粒を主体とし、ロームブロックを含む。
3　暗褐色土　暗褐色土・ローム粒を主体とする。
4　暗褐色土　ロームブロックを含む。
5　暗褐色土　ロームブロックを含む。
6　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
7　褐色土　ロームブロックを含む。
8　黒褐色土　ロームブロックを含む。



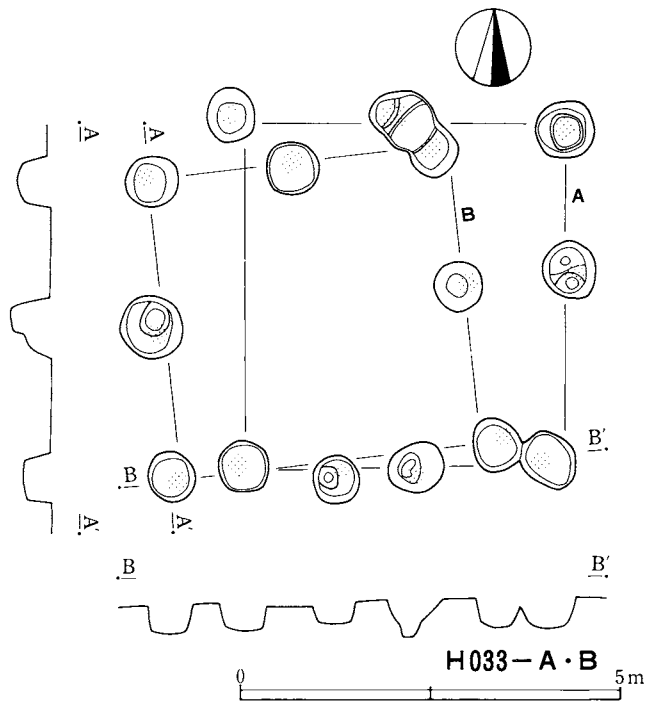

PL.287　D090・091実測図

H023　D079の東側に位置する建物で、A・B２棟が重複している。H023Aが先行し、２間×２間の側柱構造である。長軸方向はAがN－9°－W、BがN－20°－Wを指し、桁行長A4.0m・B3.8m、梁行長A3.7m・B3.8mを測る。柱間寸法は1.8～2.0mで、堀方は直径0.4～0.8mの円形を呈し、隅の堀方がやや大きい。確認面からの深さは0.4～0.6mで、埋土はローム粒・ロームブロックを含んでいる。




H023－A・B

H033　D010の西側に位置する建物で、A・B２棟が重複している。H033Bが先行し、２間×２間の側柱構造である。長軸方向はAがN－0°、BがN－83°－Eを指し、長軸長はA4.3m、B4.0m、梁行長A4.2m、B3.9mを測る。柱間寸法は2.0～2.2mで、堀方は直径0.6～0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.4～0.6mで、埋土は全体にローム粒を含んでいる。

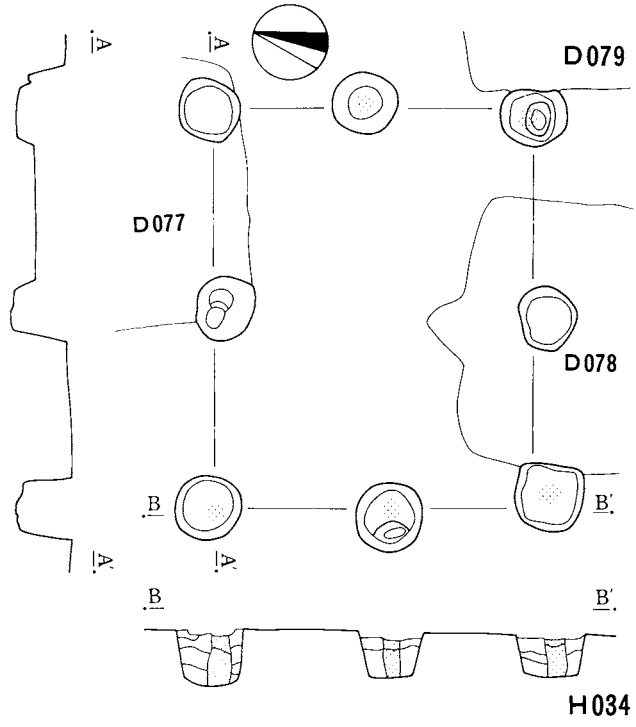



H033－A・B

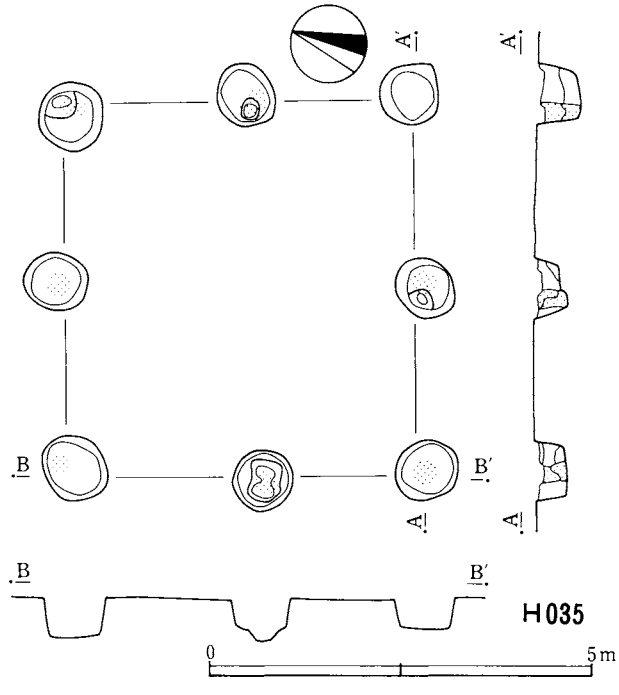
0　5m

PL.288　H023－A・B　H033－A・B実測図

H034　D077・D078と重複する建物で、両住居より新しい構築である。建物は2間×2間の側柱構造で、長軸方向はN－74°－Eを指し、桁行長5.2m、梁行長4.2mを測る。柱間寸法は桁行が2.5～2.6mと広く、梁行も2.0mとなる。堀方は直径0.8mの円形を呈し、確認面からの深さは0.6～0.7mで、埋土はローム粒・ロームブロックを多く含んでいる。



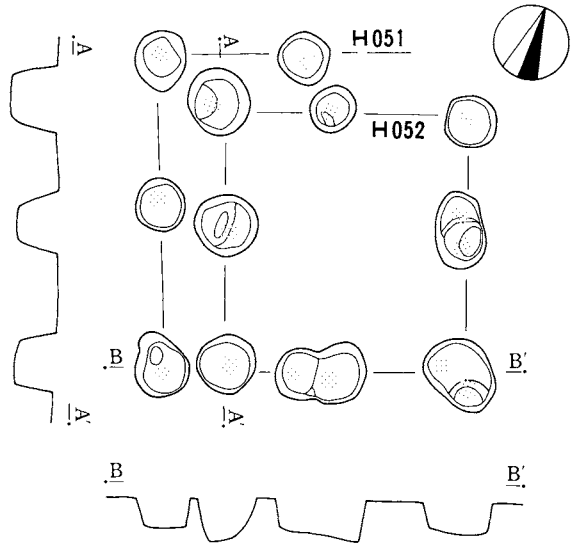

H035　D076の北西に隣接する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－70°－Eを指し、桁行長4.8m、梁行長4.6mを測る。柱間寸法は2.1～2.5mと比較的広く、堀方は直径0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.4～0.5mで、埋土は全体にローム粒を多く含んでいる。



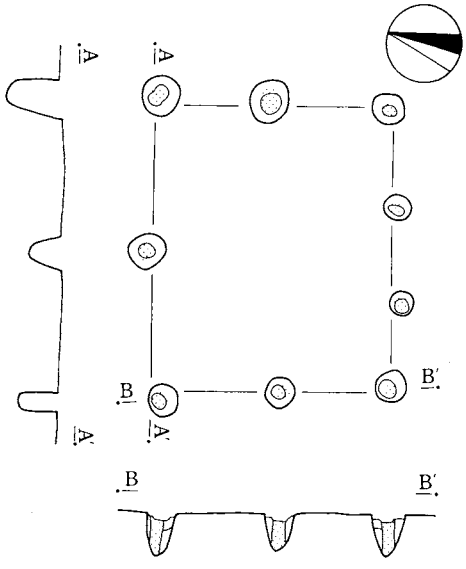

PL.289　H034・H035実測図

H051　H052と重複する建物で、H052が先行している。建物は2間×2間の側柱構造で、長軸方向はN－22°－Wを指す。柱間寸法は1.6mと狭く、堀方は直径0.6～0.8mの円形を呈している。

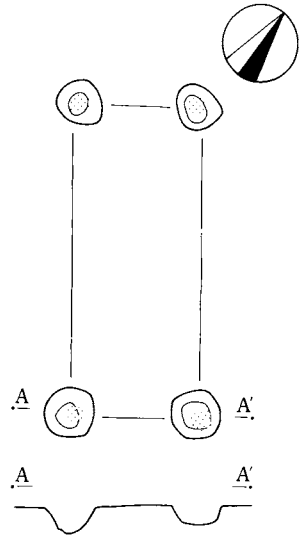
H053　D077の東側に位置する建物で、基本的には2間×2間の側柱構造であるが、南棟筋が3間となる。長軸方向はN－74°－Eを指し、桁行長3.7m、梁行長3.1mを測る。柱間寸法は南棟筋を除いて1.8mで、南棟筋だけが1.2mと狭い。堀方は直径0.4～0.6mの円形を呈している。




H051・052




H053




H054

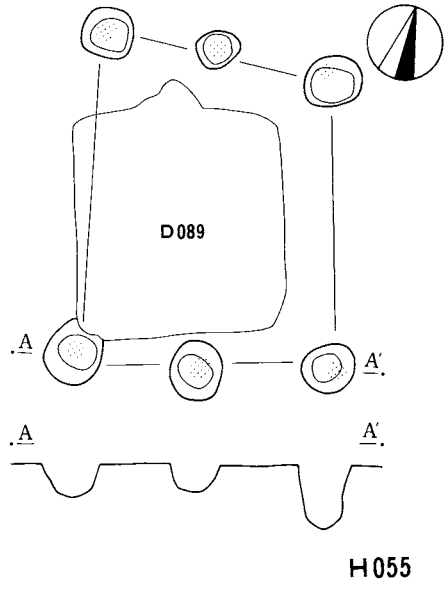
0　5m

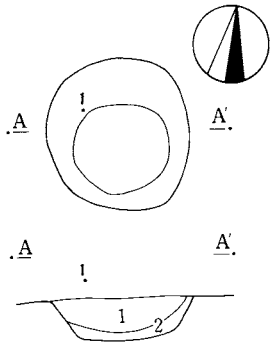
PL.290　H051～H054実測図

H127　H052の北側に柱筋を揃えて隣接する建物で、2間×2間の側柱構造であるが、北側棟は3間となる。長軸方向はN－70°－Eを指し、桁行長4.9m、梁行長3.0mを測る。堀方は直径0.3～0.4mと小さい。

H128　H127の北側に軸方向を揃えて隣接する建物で、2間×2間の側柱構造であるが、H127同様南側が3間となる。長軸方向はN－69°－Eを指し、桁行長4.3m、梁行長3.3mを測る。柱間寸法は桁筋で2.1mとなる。堀方は直径0.3～0.4mと小さく、確認面からの深さも0.2～0.4mと浅い。

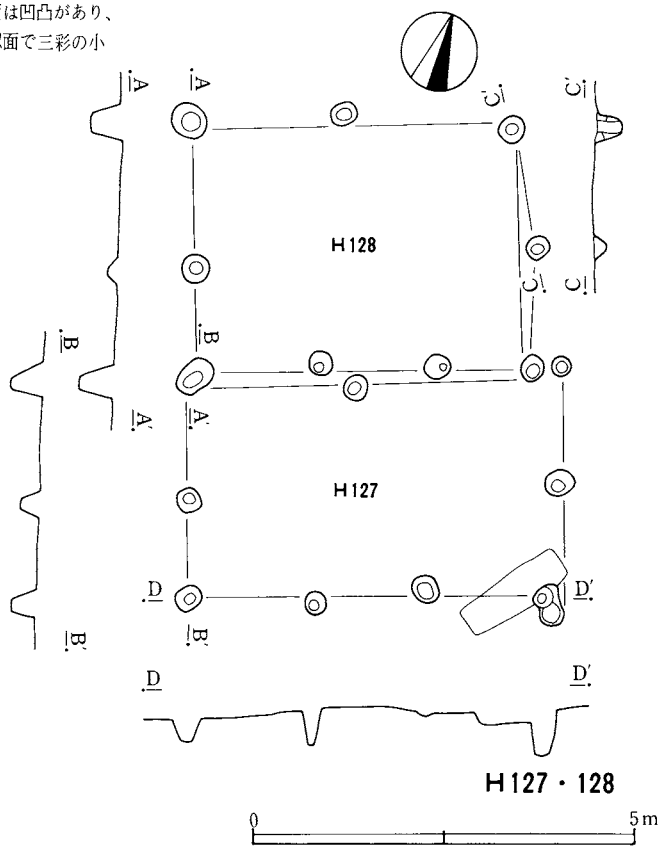
P016　H035の内側に位置する土壙で、直径1.5mの円形を呈している。確認面からの深さは0.4mで、埋土はローム粒を多く含んでいる。底面は凹凸があり、壁の立ち上がりも不明瞭である。確認面で三彩の小壺が出土した。



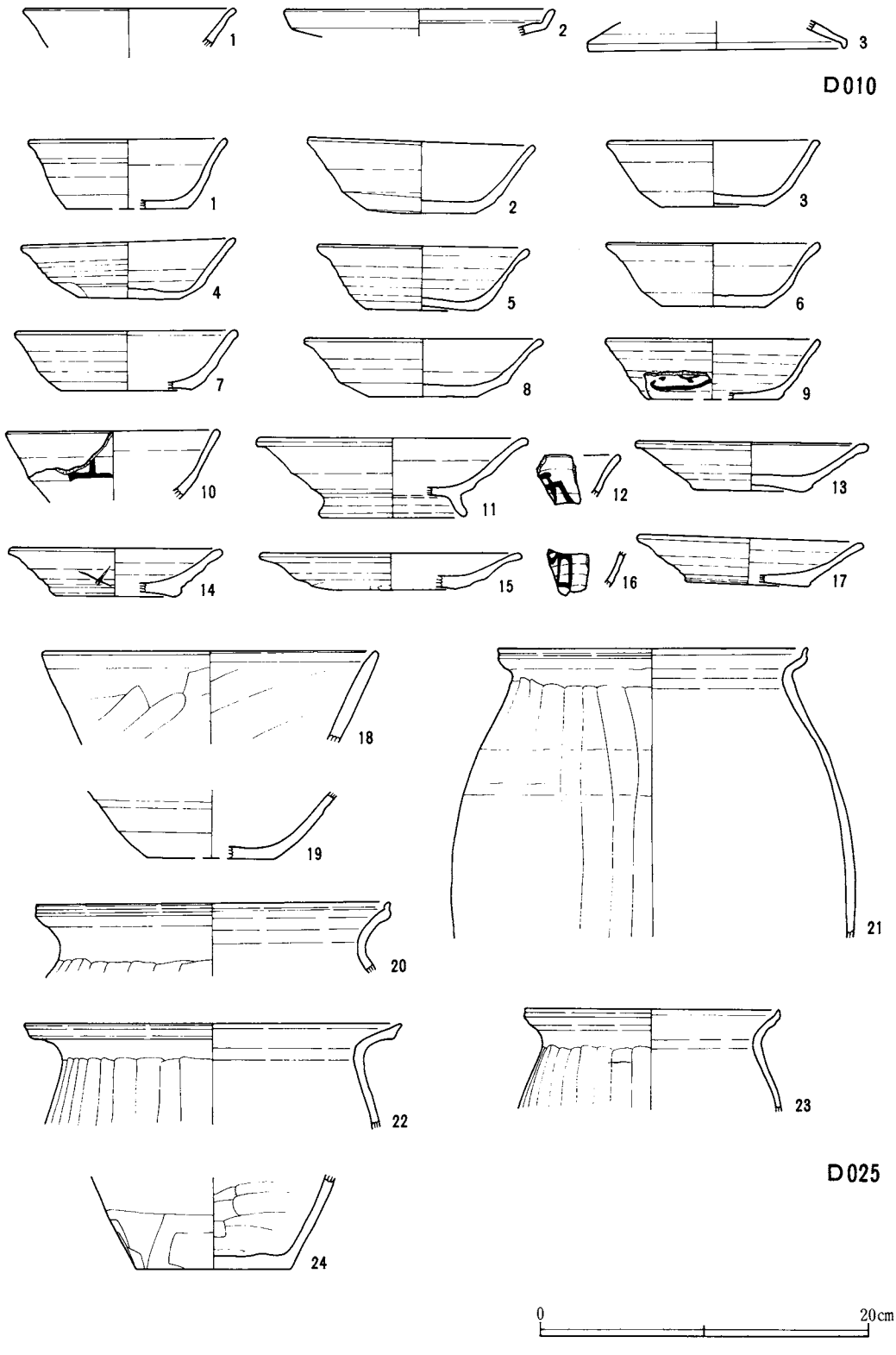




1　暗褐色土　ローム粒をブロック状に若干含む。
2　明褐色土　ローム粒を多く含む。

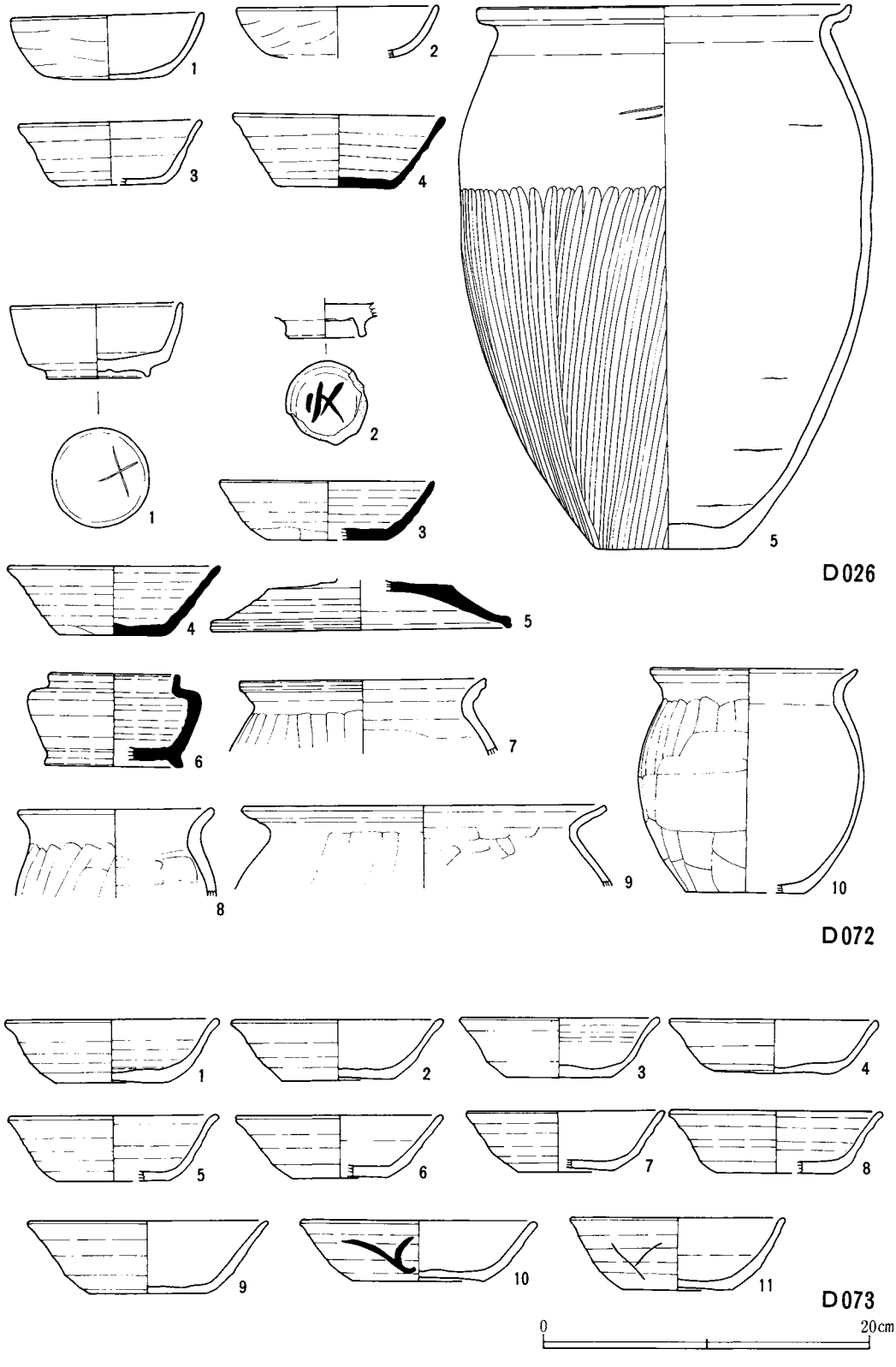
P016



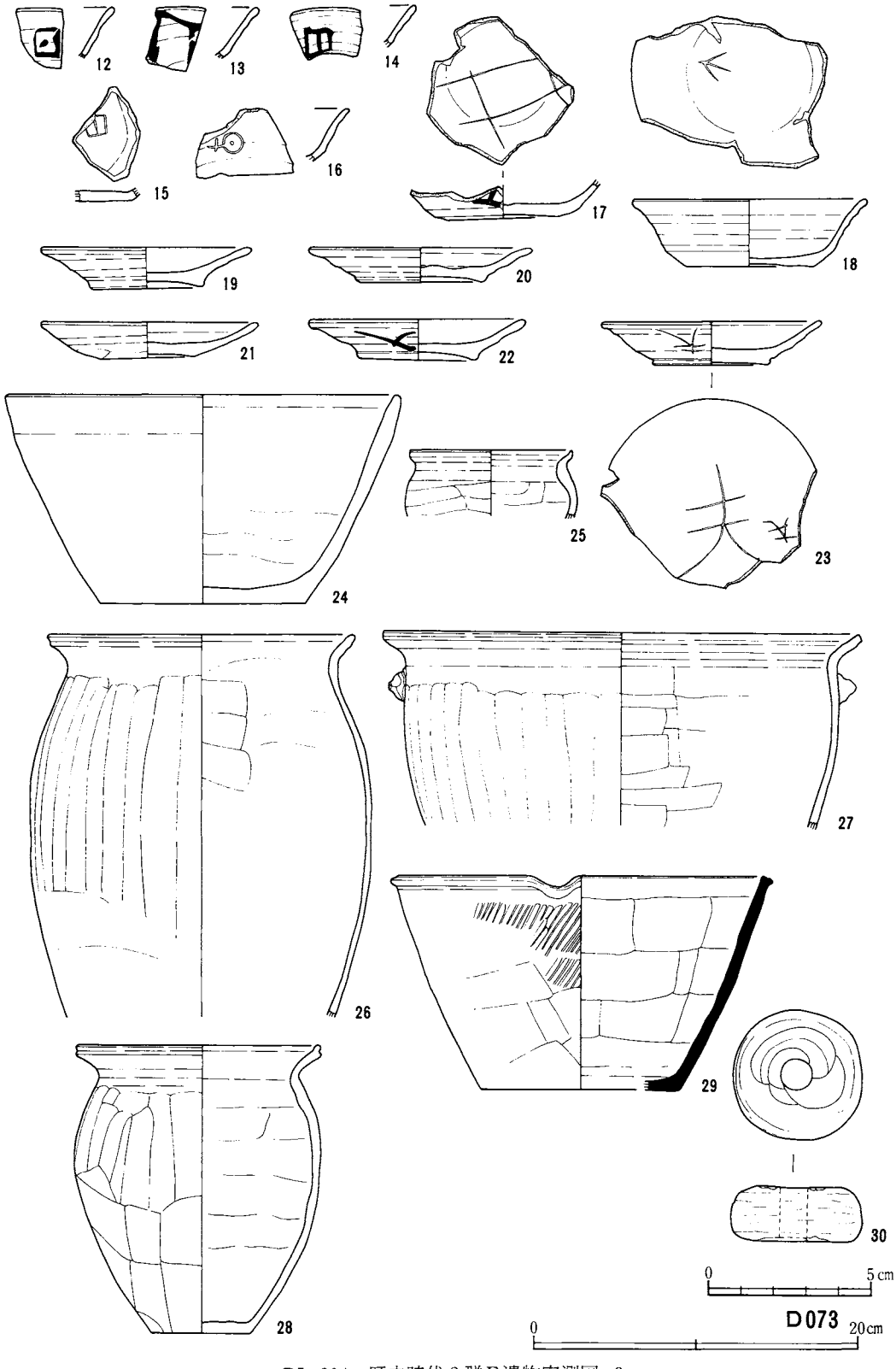

PL.291　H055・H127・H128・P016実測図



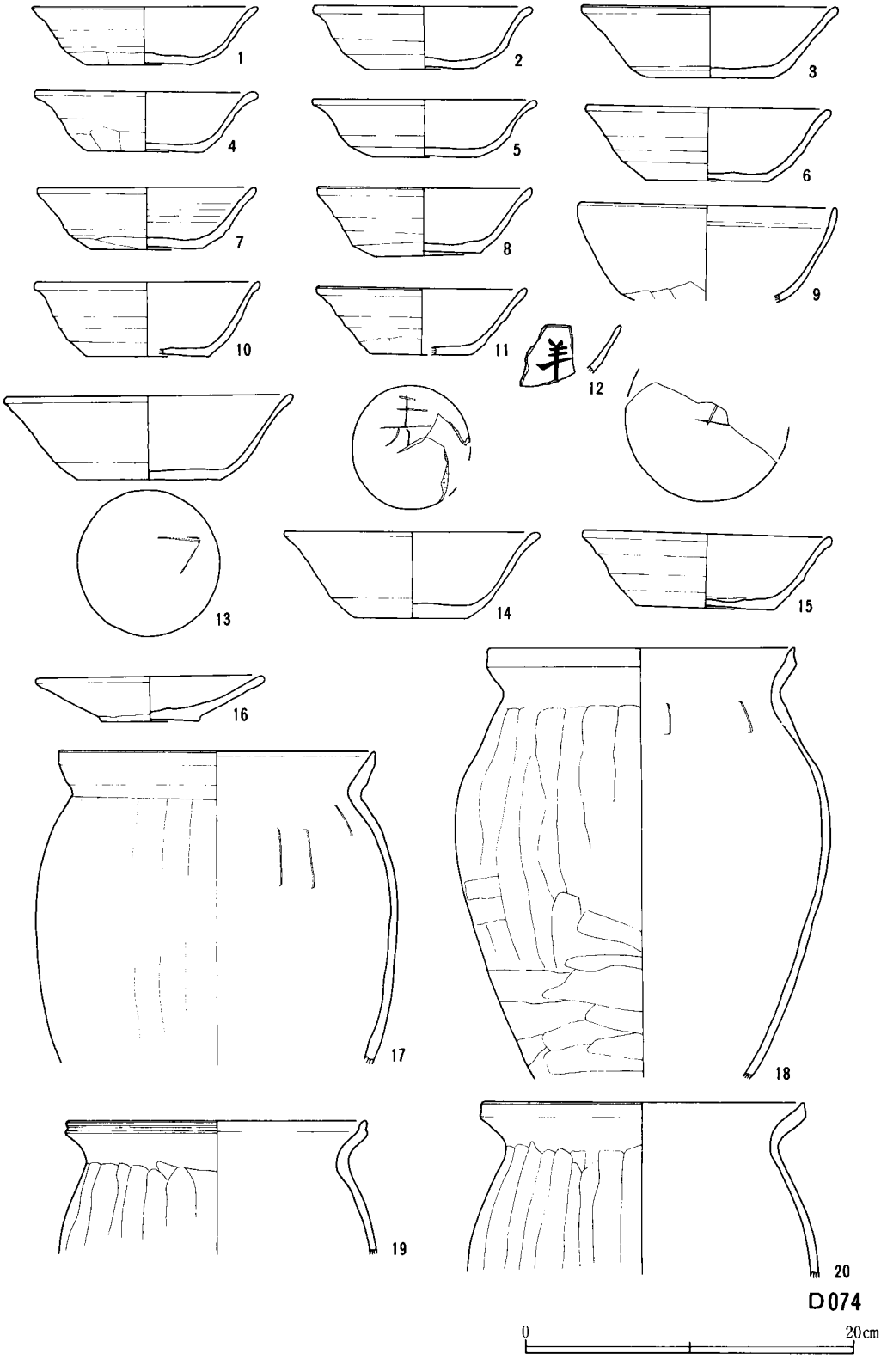

PL.292　歴史時代2群E遺物実測図　1



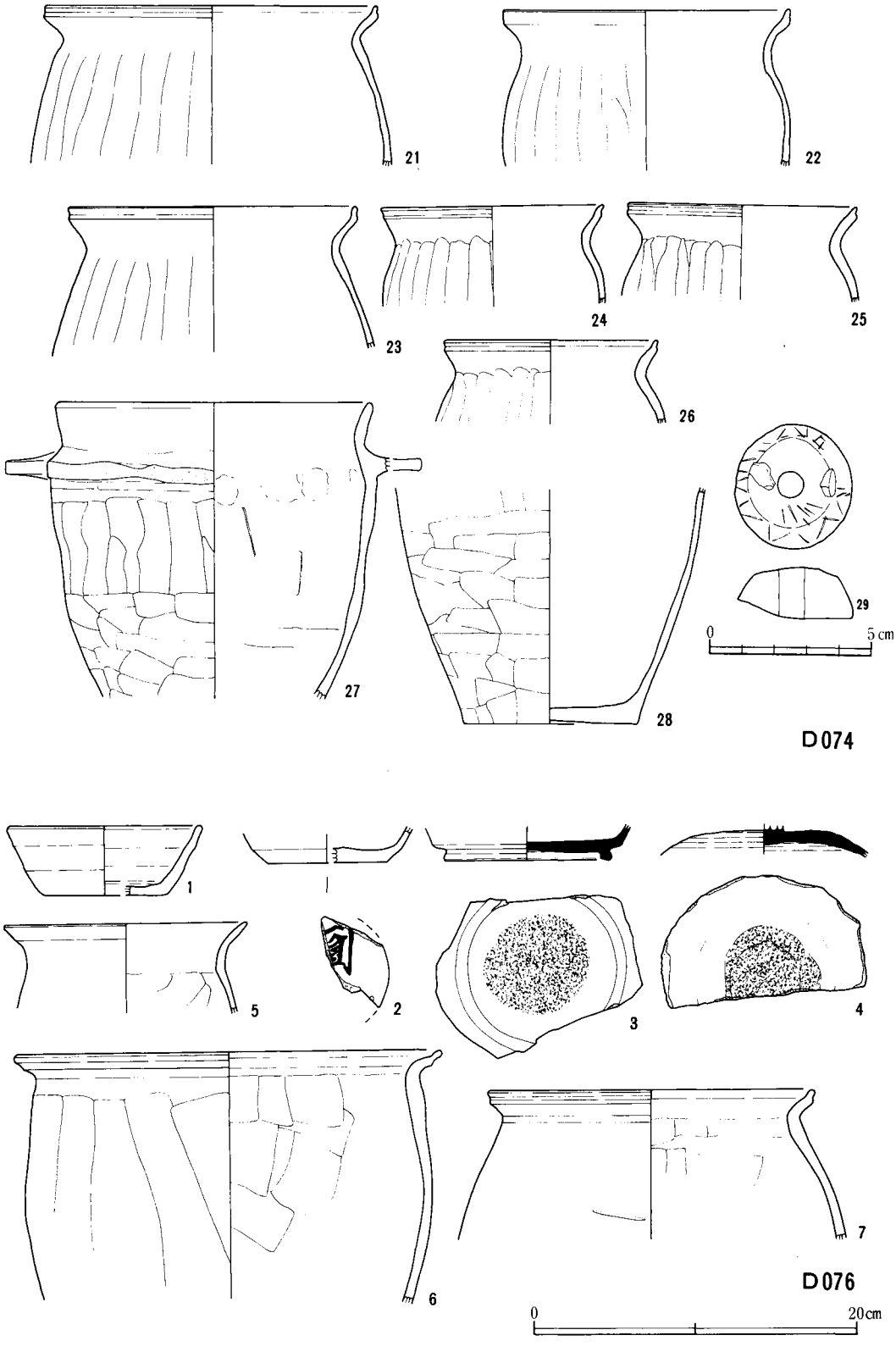

PL.293　歴史時代2群E遺物実測図　2



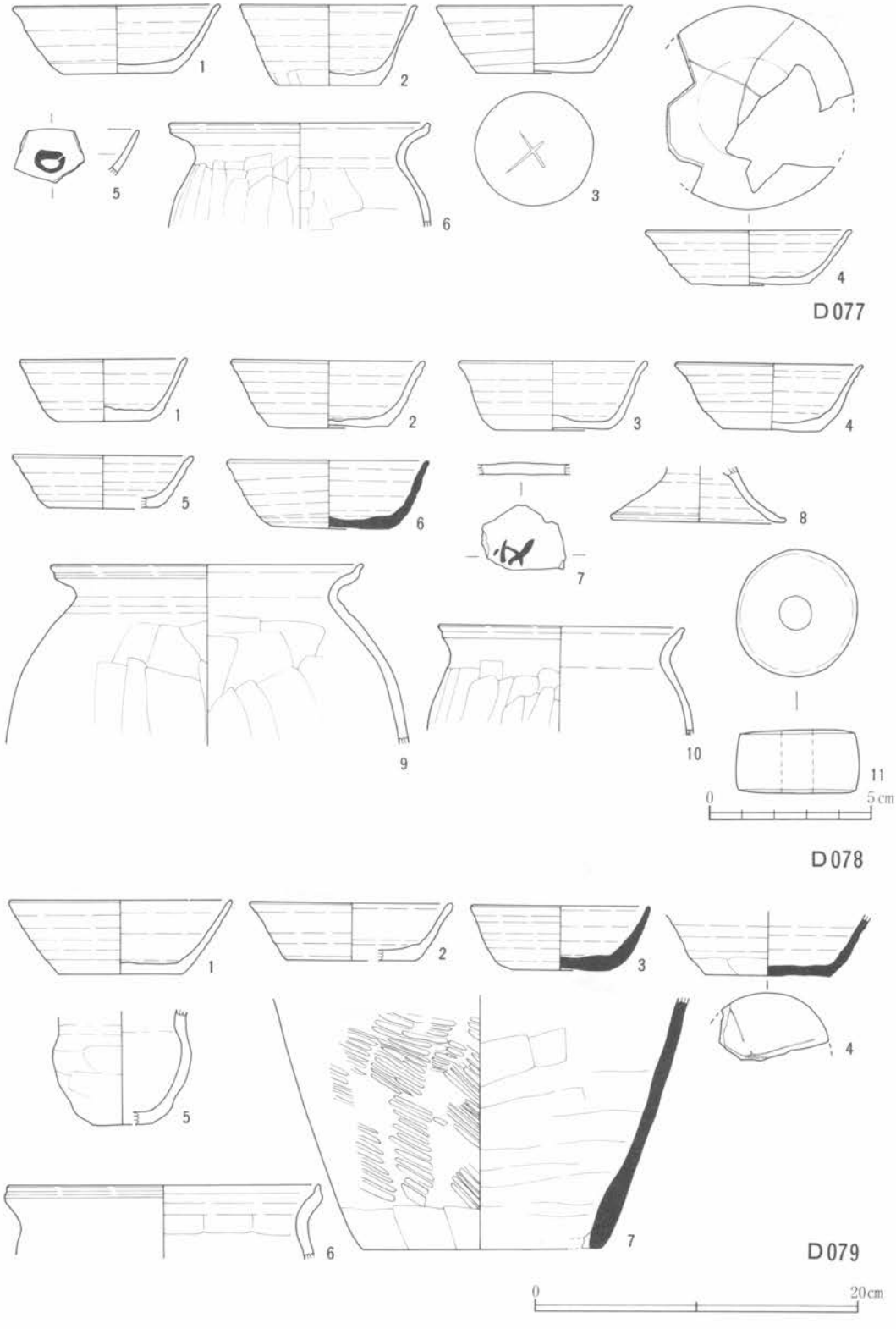

PL.294　歴史時代2群E遺物実測図　3



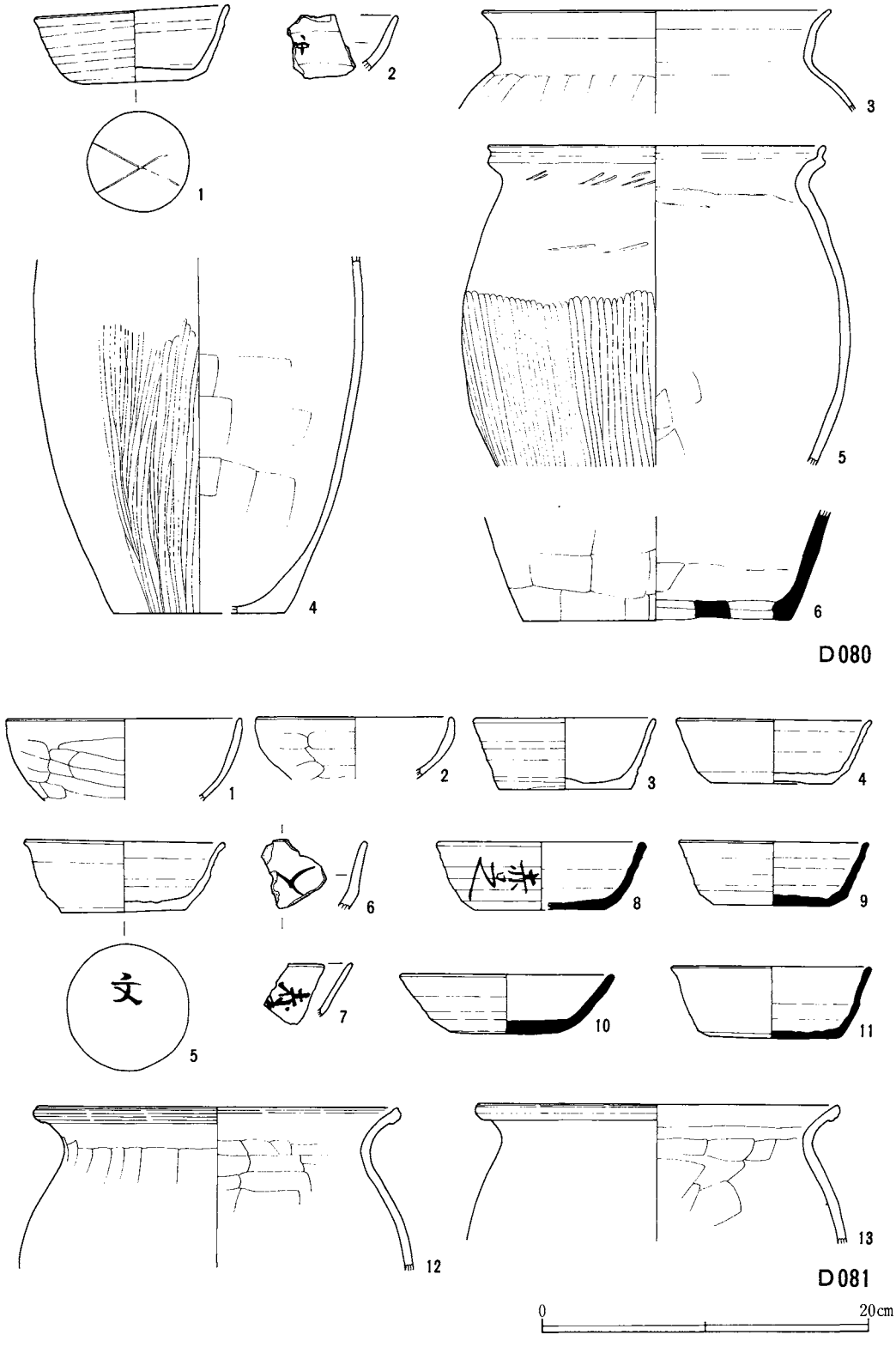

PL.295　歴史時代2群E遺物実測図　4



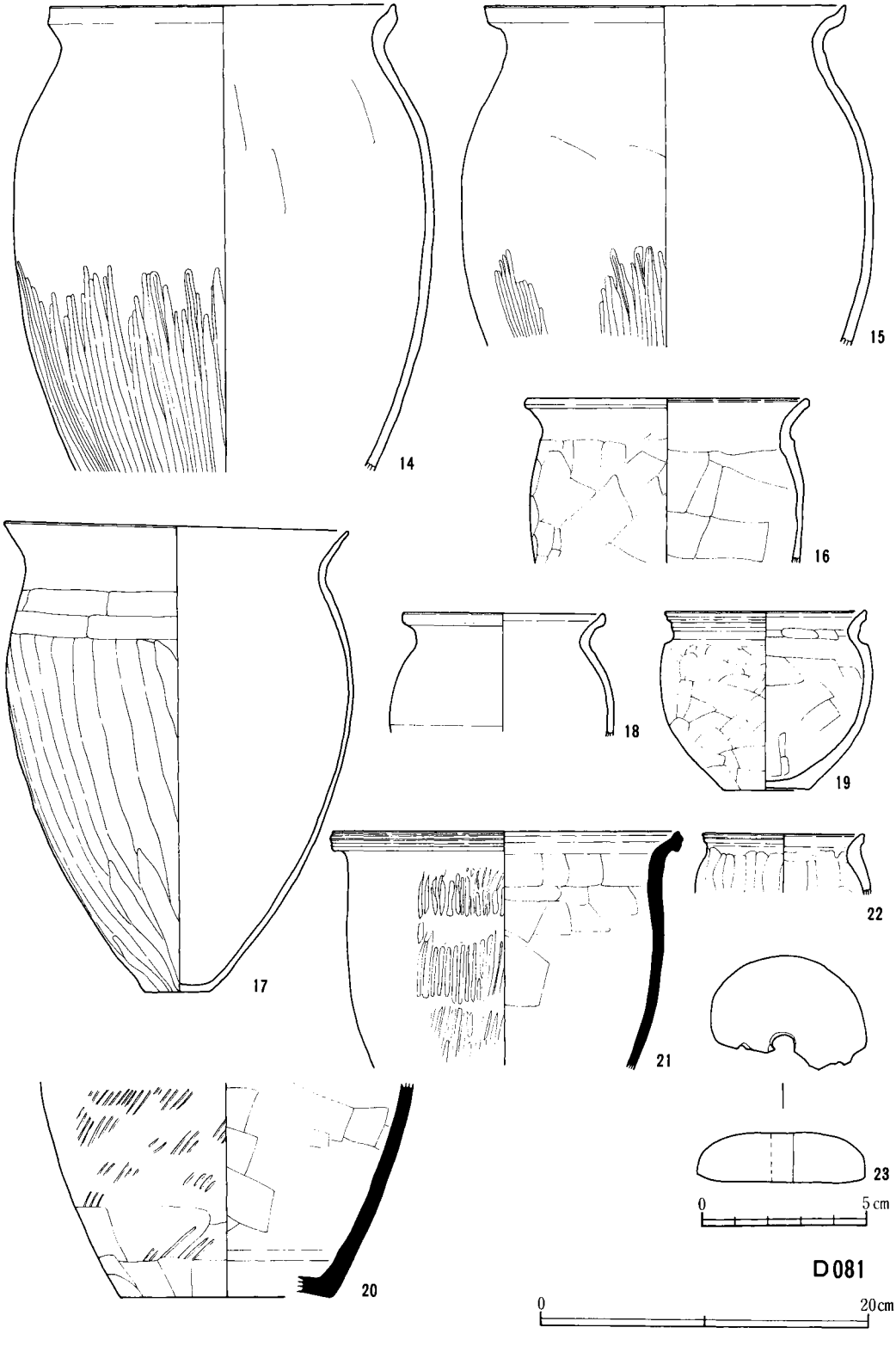

PL.296　歴史時代2群E遺物実測図　5



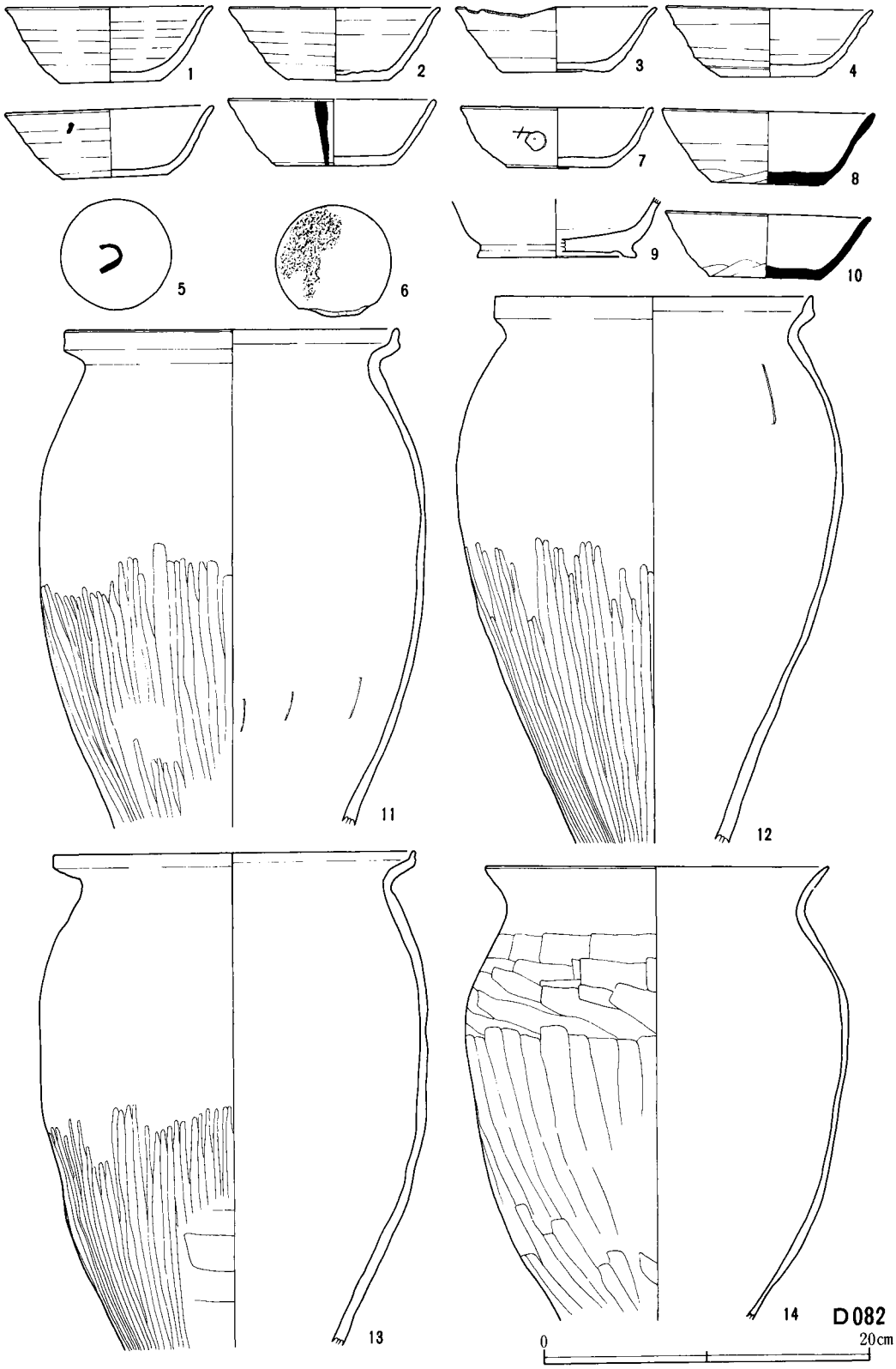

PL.297　歴史時代2群E遺物実測図 6



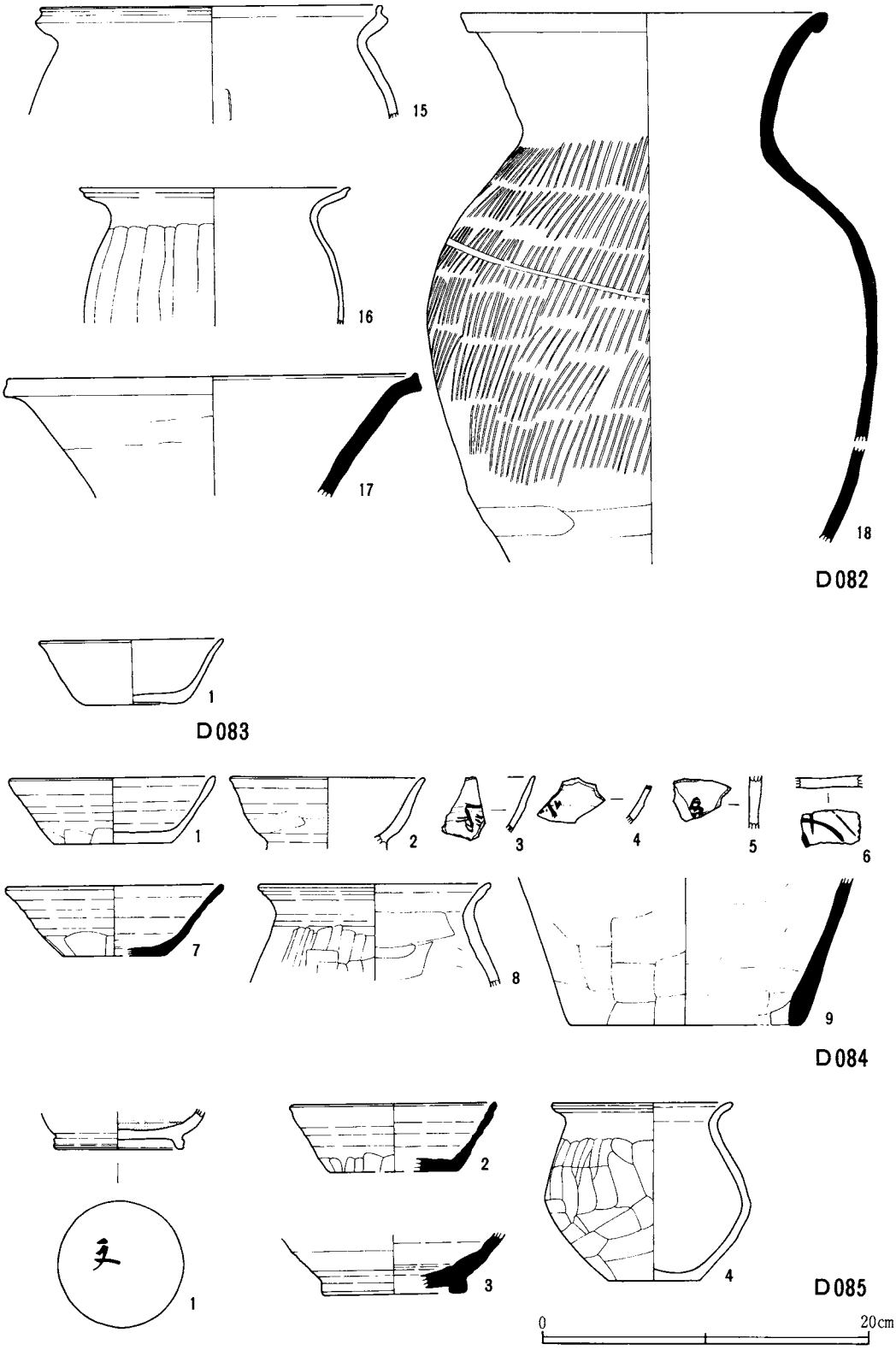

PL.298　歴史時代2群E遺物実測図　7



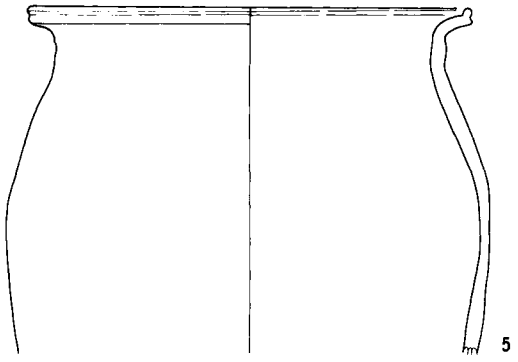

PL.299　歴史時代2群E遺物実測図　8



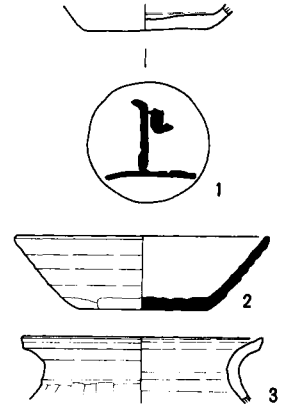

PL.300　歴史時代2群E遺物実測図　9

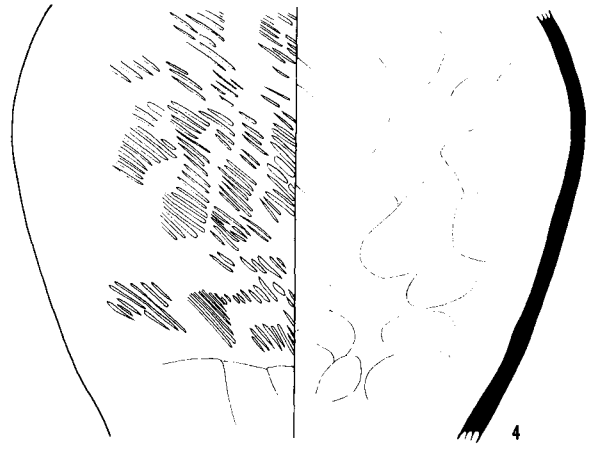



PL.301　歴史時代2群E遺物実測図 10

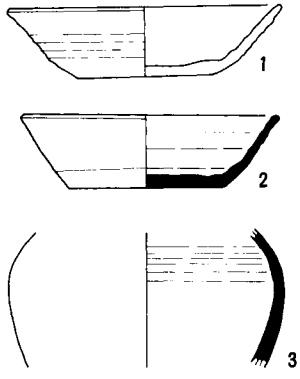


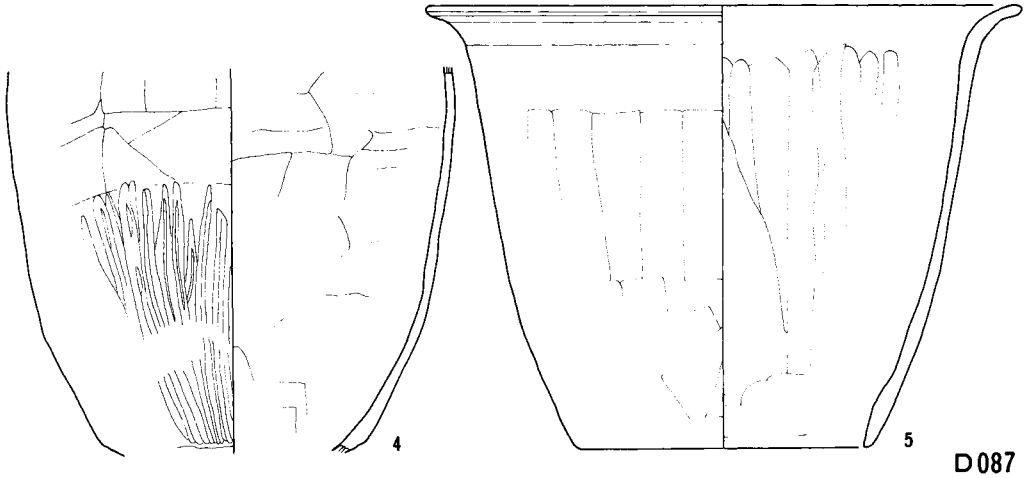

D085




D086

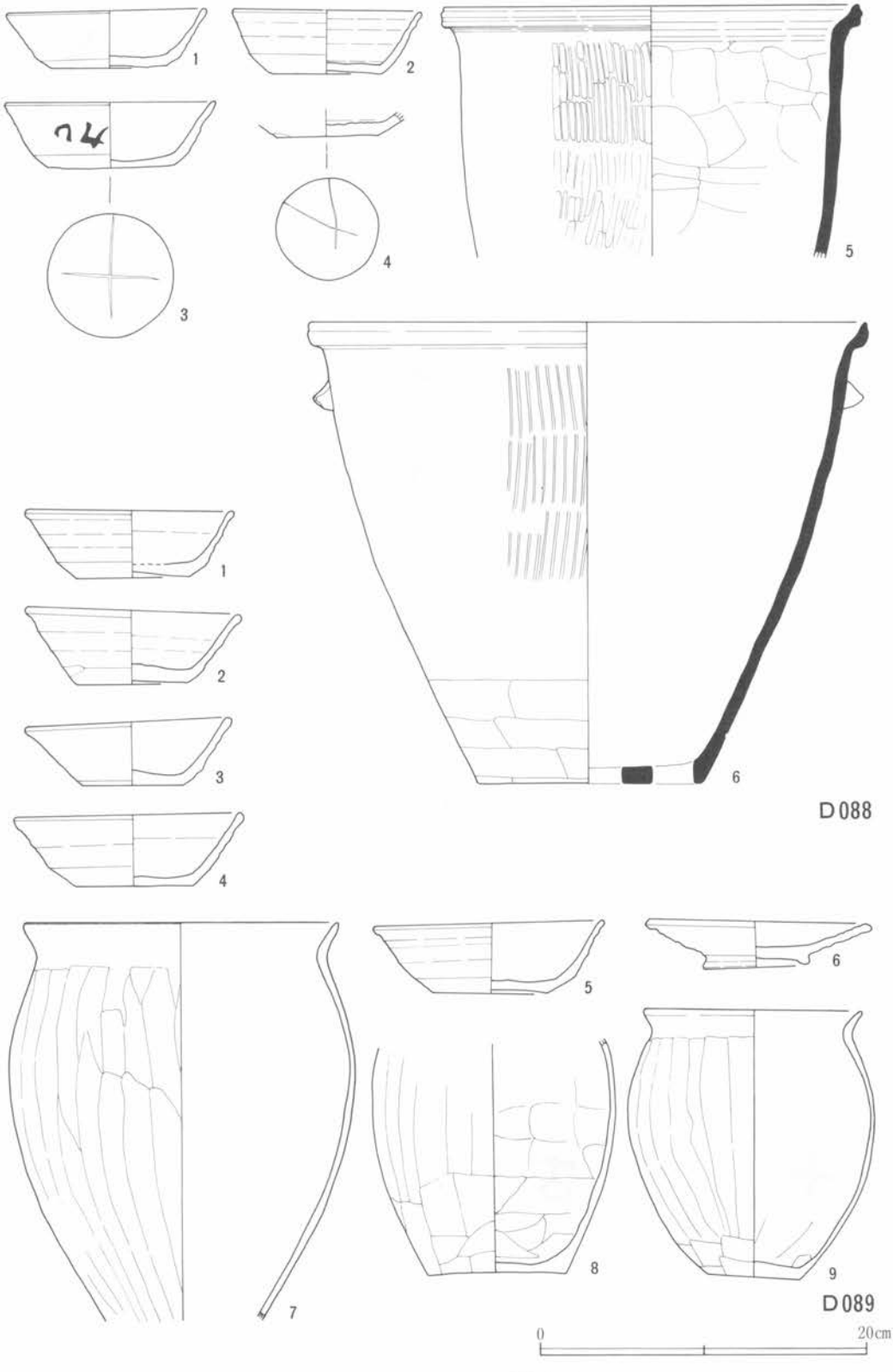


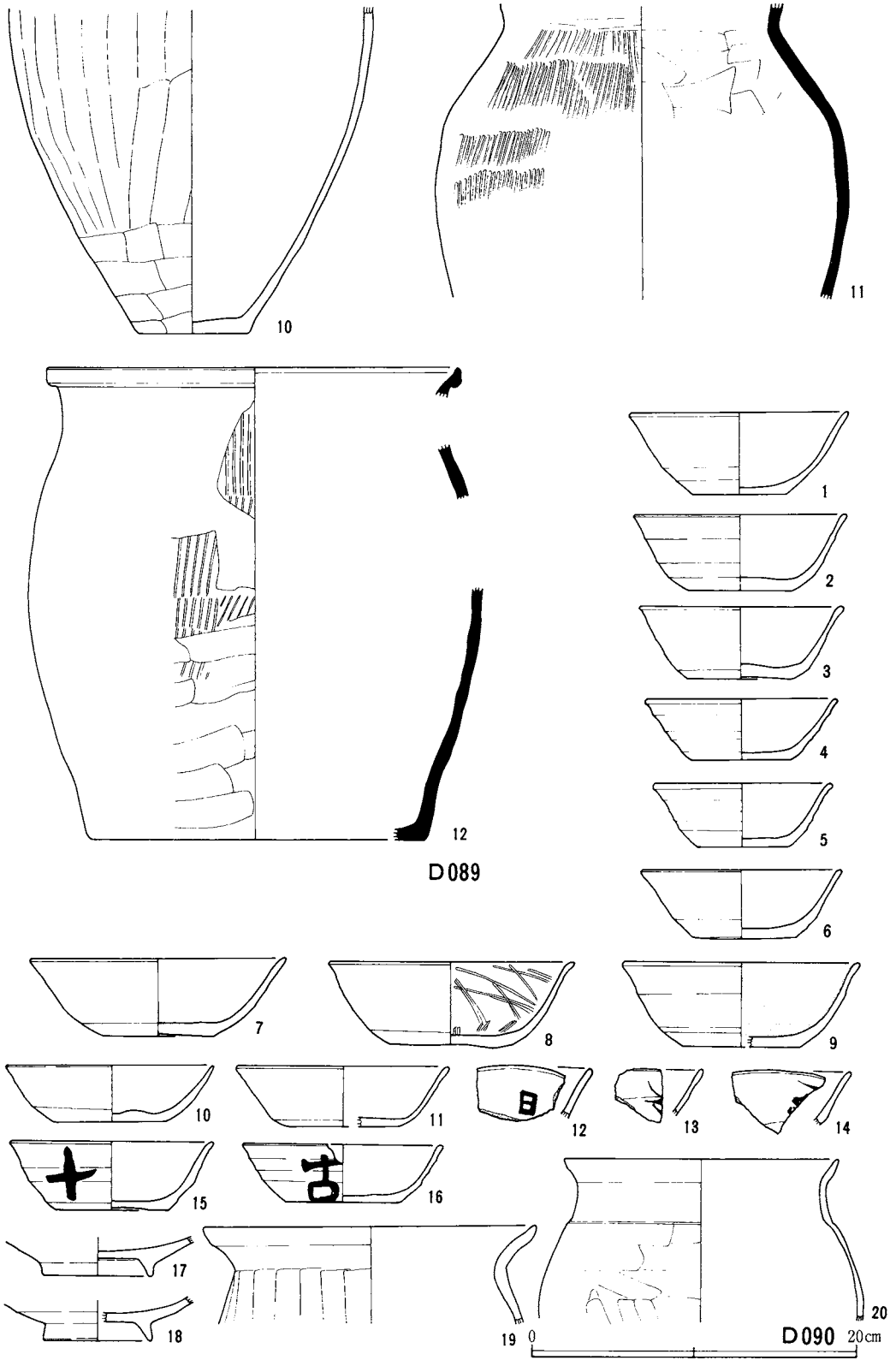

D087

0 20cm

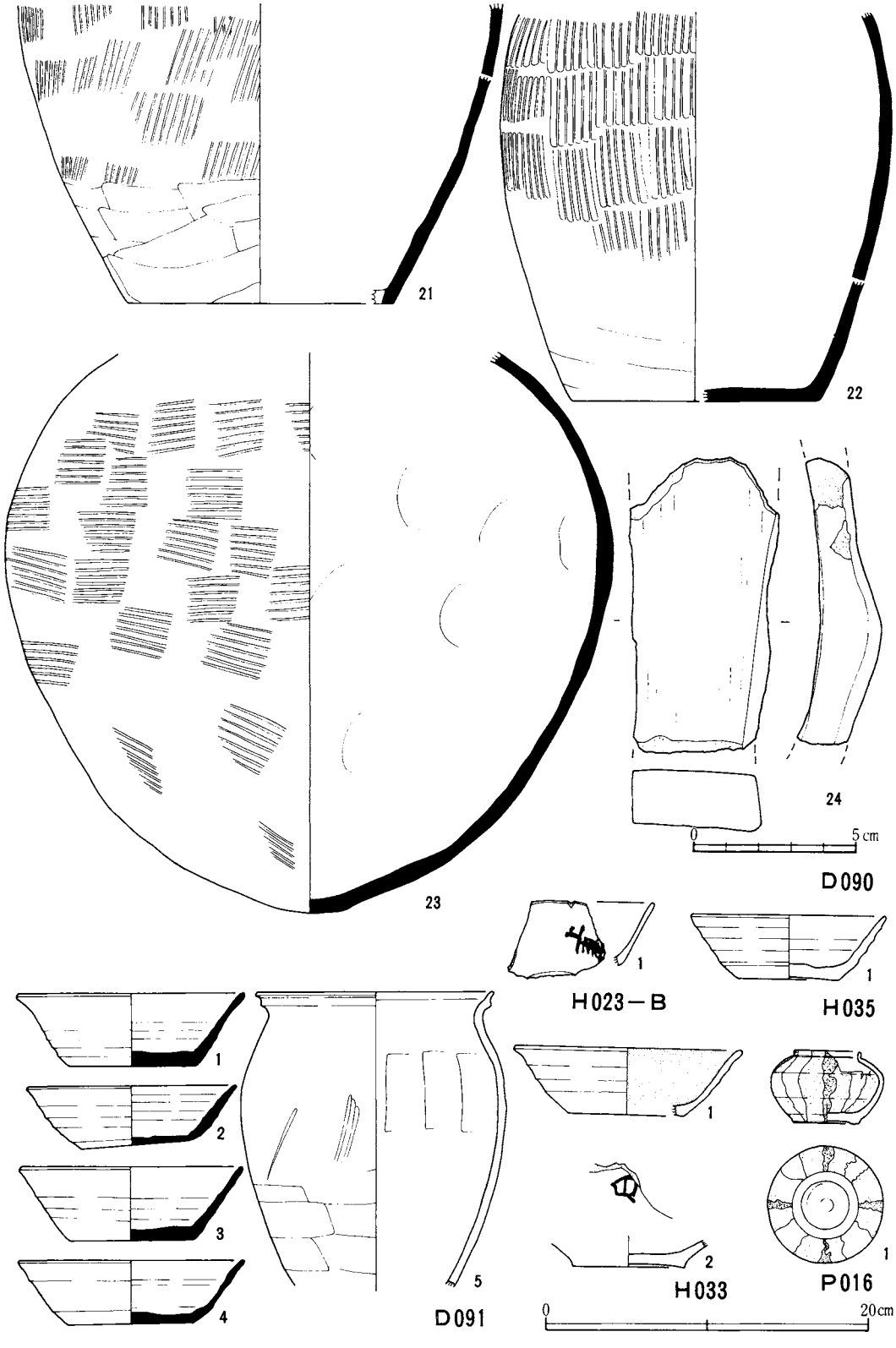
PL.302　歴史時代2群E遺物実測図 11



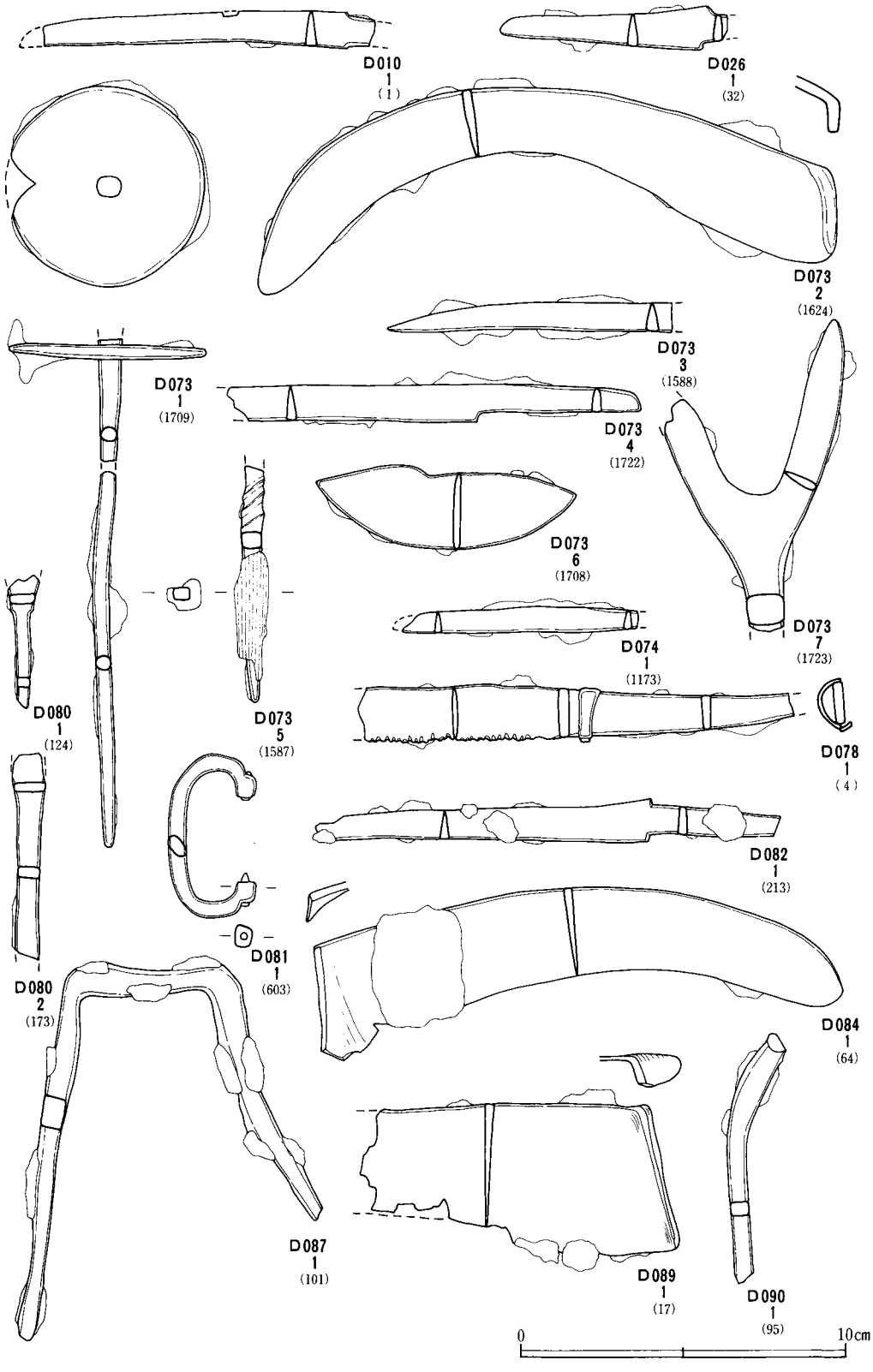

PL.303　歴史時代2群E遺物実測図 12



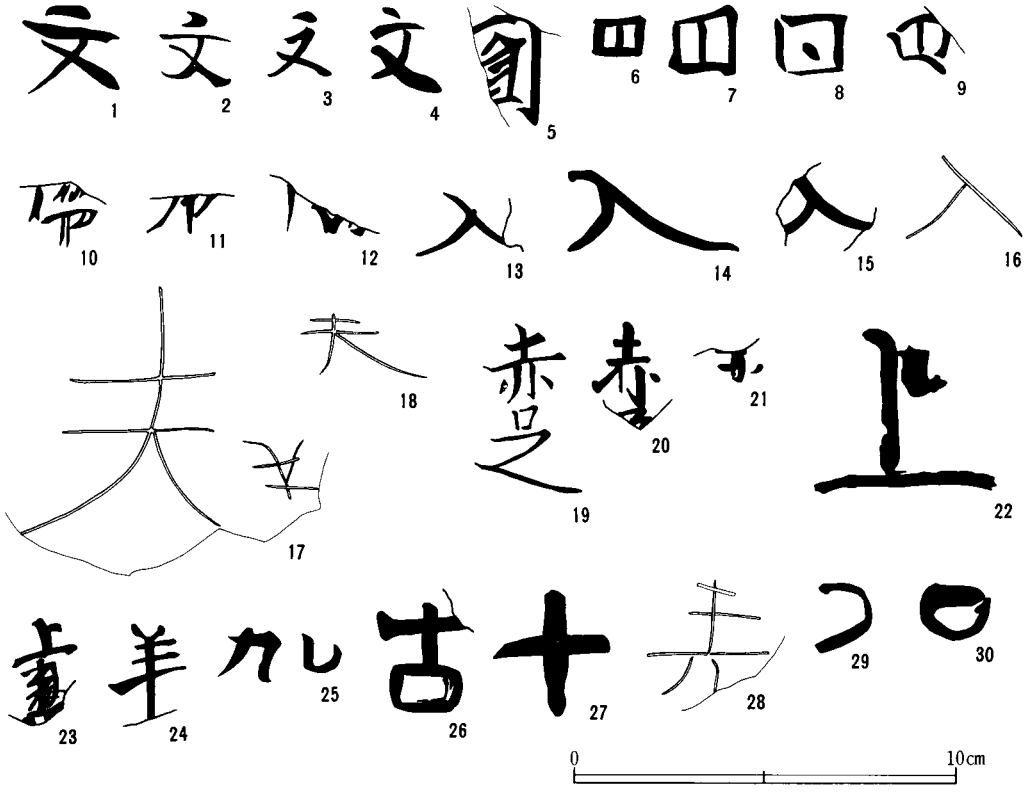

PL.304　歴史時代2群E遺物実測図 13



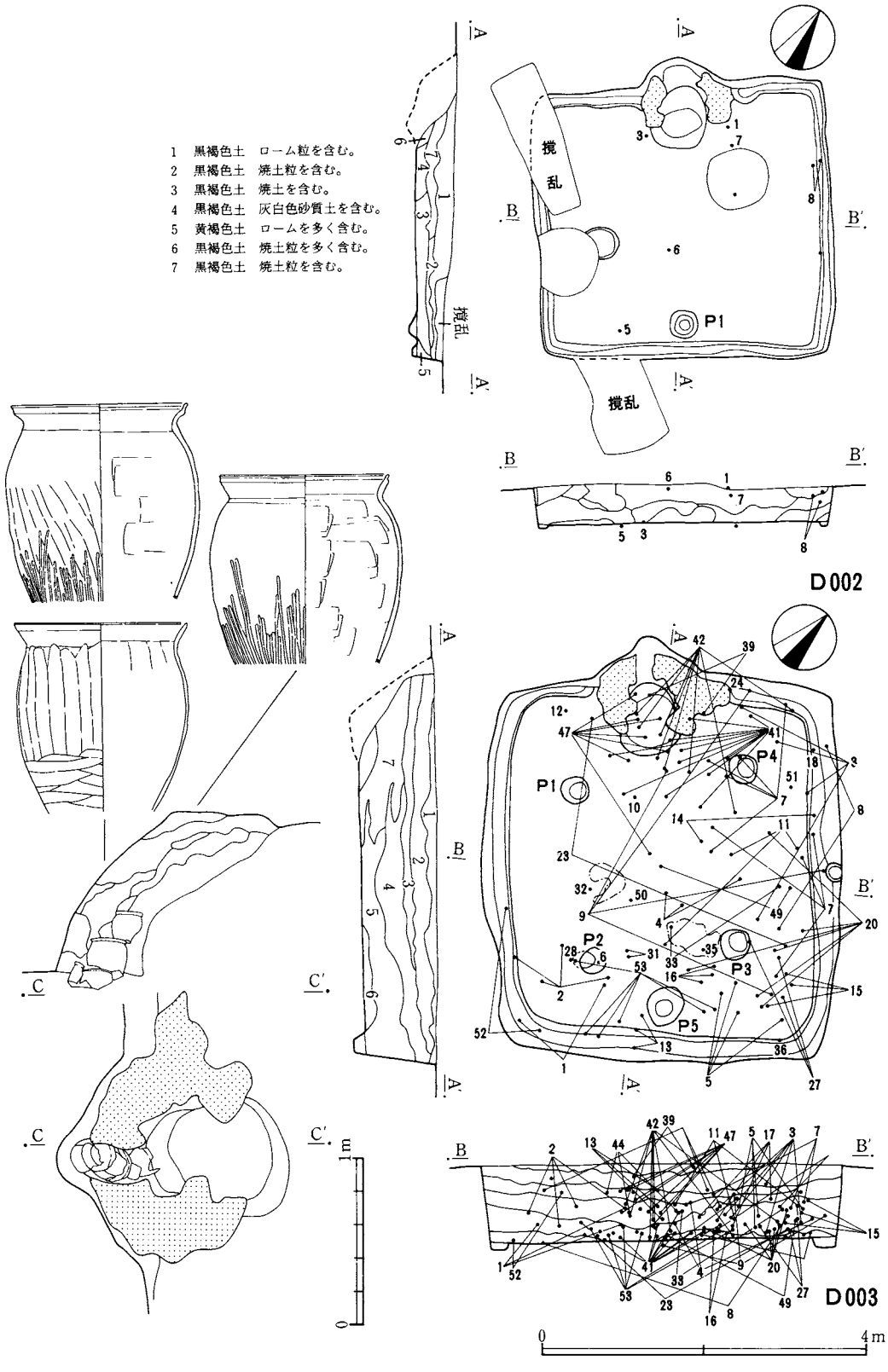

PL.305　歴史時代2群E遺物実測図 14




PL.306　歴史時代2群E出土鉄製品実測図



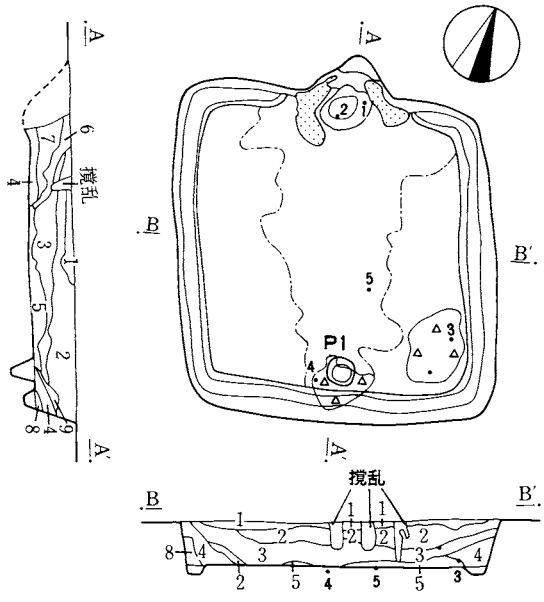

PL.307　歴史時代2群E文字資料抜萃




PL.308 D002・D003実測図

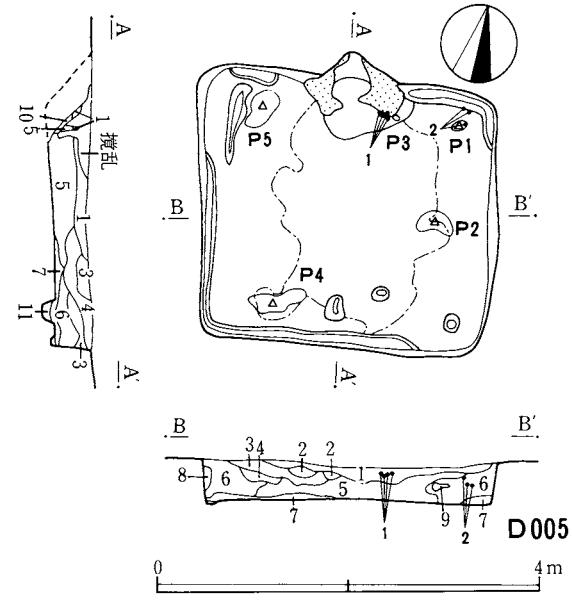
D004　柱穴はなく、南壁際中央に出入口ピットがある。床面はＰ１からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。また、南壁際に貝が廃棄されている。

1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　暗黄褐色土　ローム粒を含む。
3　黒褐色土　部分的にローム粒を含む。
4　暗褐色土
5　暗黄褐色土　ローム粒を多く含む。
6　暗褐色土
7　暗褐色土　カマド材を含む。若干砂質。
8　黄褐色土　黒色土とローム粒の混合。
9　混貝土　ハマグリ・シオフキを主体とする。



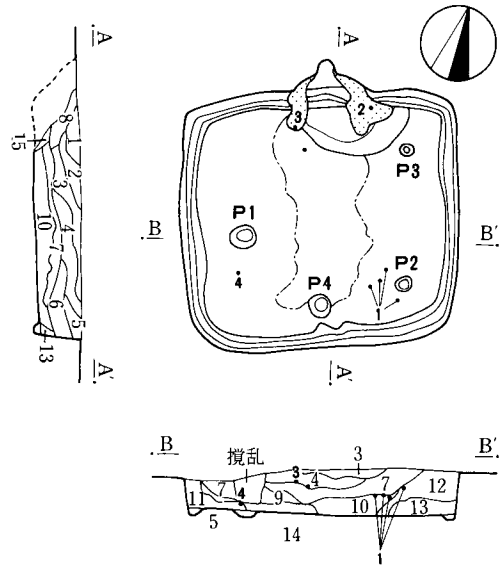

D005　柱穴はないが、南壁に沿って２箇所のピットがある。また、南壁際中央に出入口ピットがある。床面は南壁からカマド前面にかけて硬化面が遺存している。また、床面及び床面に近いレヴルに貝が廃棄されている。

1　暗褐色土　ローム粒と若干の焼土を含む。
2　暗黄褐色土　ローム粒とわずかなロームブロックを含む。
3　暗褐色土　ローム粒を含む。
4　黒褐色土　ローム粒を若干含む。
5　暗黄褐色土　ローム粒と若干のロームブロックを含む。
6　暗褐色土　ローム粒を含む。
7　暗黄褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
8　黄褐色土　ソフトロームを主体とする。
9　混貝土　ウミニナ・ハマグリを主体とする。
10　暗褐色砂質土　ローム粒・焼土を含む。
11　黄褐色土　ローム粒を主体とする。




PL.309　D004・D005実測図

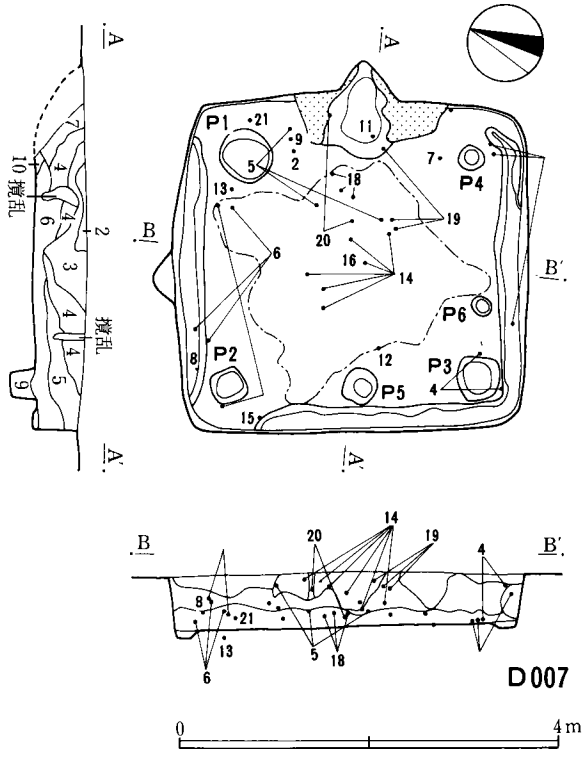
1　黒褐色土　ローム粒と焼土を含む。
2　暗褐色土
3　黒褐色土　ローム粒を含む。
4　暗褐色土　かなりのローム粒を含む。
5　黒褐色土　ローム粒を含む。
6　暗黄褐色土　ローム粒をかなり含む。
7　黒褐色土　ハードロームを含む。
8　暗褐色土　ローム粒を主体に、カマド材・黒色土を含む。
9　暗褐色土　ローム粒を含む。
10　暗褐色土　ロームブロックを若干含む。
11　暗褐色土　黒色土とローム粒の混合土。
12　暗黄褐色土　ローム粒子を主体に黒色土を含む。
13　黒褐色土
14　暗黄褐色土　ローム粒と黒色土の混合土。
15　灰褐色砂質土　カマド材を主体に黒色土・ローム粒を若干含む。




D006

D007　柱穴は住居各コーナーに4箇所あり、南西壁際中央に出入口ピットがある。床面は住居中央に比較的広い範囲に硬化面が遺存している。カマドは北東壁中央に設置されるが、北西壁中央にもカマドの痕跡がある。北西壁のカマドは火床部が僅かに残されるだけである。

1　褐色土
2　赤褐色土
3　黒色土　ローム粒を含む。
4　黒褐色土　ローム粒を多く含む。
5　黄褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
6　黒褐色土　焼土及びロームブロックを含む。
7　黒褐色土　灰白色砂質土を含む。
8　黄褐色土　ロームを主体とする。
9　黄褐色土
10　灰赤褐色土　焼土を含む。

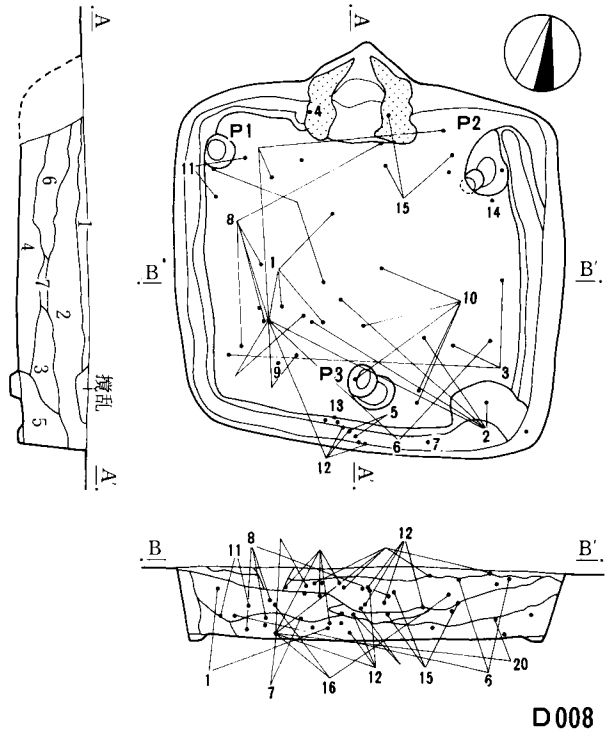



D007

PL.310　D006・D007実測図

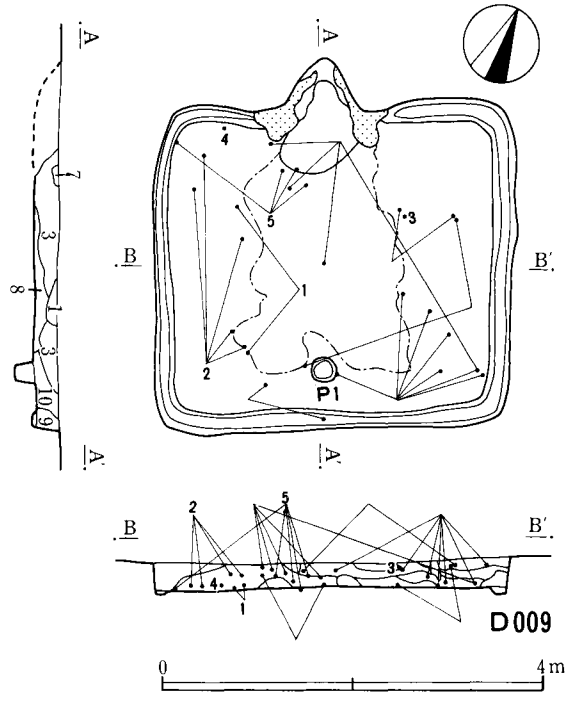
D008　柱穴は明確ではないが、北東・北西コーナーにピットが2箇所ある。また、南東コーナーの壁溝も円形に膨らんでいる。なお、南壁際中央に出入口ピットがある。

1　褐色土
2　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
3　褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
4　黒褐色土　ローム粒を少し含む。
6　褐色土　灰白色砂質土・焼土粒を含む。
7　褐色土　灰白色砂質粘土粒を含む。




D009　埋土はローム粒・焼土粒を含み、床面に近いレヴルに炭化材が散乱している。柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

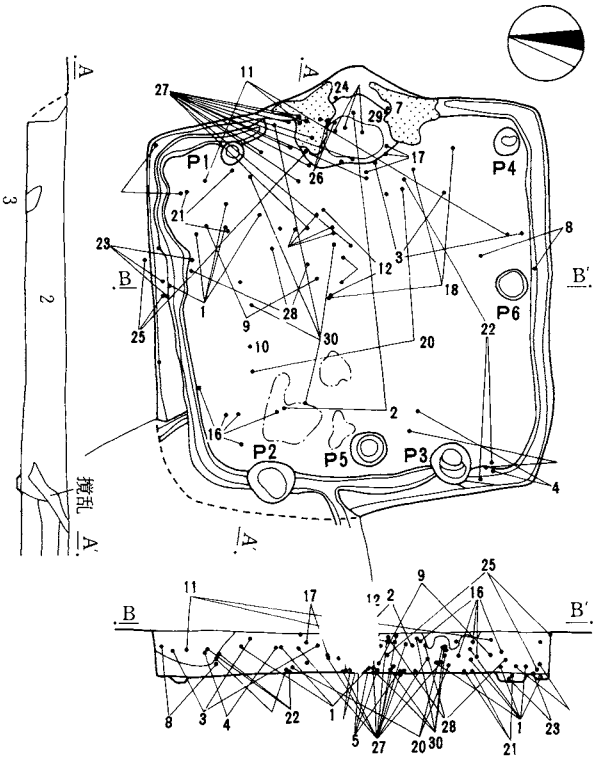
1　黒褐色土　ローム粒を含む。
2　暗赤褐色土　黒色土・焼土・ロームの混合。
3　暗褐色土　ローム粒をかなり含み、若干の焼土粒・炭化粒を含む。
4　黒褐色土　ローム粒を含む。
5　黄灰色砂質粘土　砂質粘土ブロックを含む。
6　暗褐色土　ローム粒と焼土を含む。
7　暗灰褐色土　カマド材・焼土に黒色土・ローム粒を混入する。
8　暗褐色土　ローム・焼土・炭化粒を混入し、若干砂質。
9　暗黄褐色土　ロームに黒色土を混じる。
10　黒褐色土
11　赤褐色土　焼土を主体とし、炭化材を混入する。




PL.311　D008・D009実測図

D011A　柱穴は東壁・西壁に接して4箇所あり、床面から0.5m前後の深さがある。また、西壁際中央に出入口ピットがある。床面は出入口ピット周辺に僅かに硬化面が遺存している。カマドは東壁中央に設置されるが、北壁中央に接する床面に火熱を受けた痕跡があり、北壁にもカマドが設けられていた可能性がある。

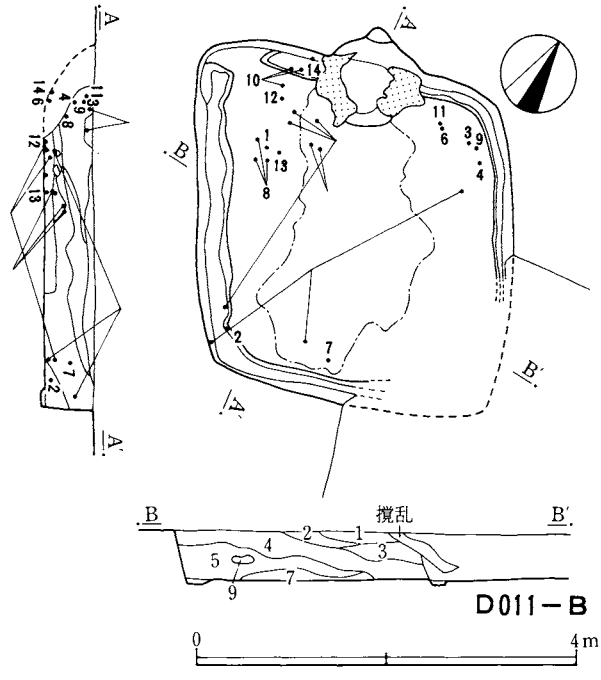
1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒をかなり多く含む。
3　暗灰褐色土　かなり砂質で、カマド崩壊土である。




D011－A

D011B　D011Aに先行する住居で、規模は3.5m×3.2mを測り、主軸方向はN－23°－Wを指す。柱穴・出入口ピットはなく、床面は南東壁中央からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

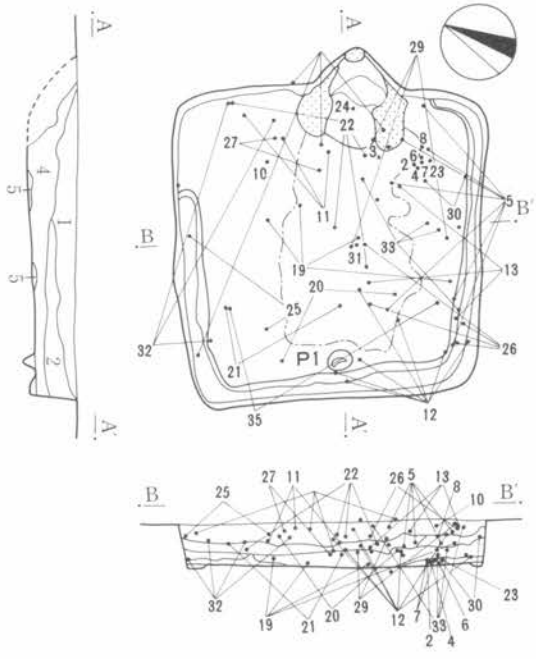
1　暗褐色土　ローム粒を含む。
2　暗黄褐色土　ロームブロックを若干含む。
3　暗褐色土　ロームブロックをかなり含む。
4　黒褐色土　ローム粒を含む。
5　暗黄褐色土　ローム粒と黒色土の混合土。
6　黒褐色土　ローム粒を含む。
7　暗黄褐色土
8　灰褐色土　若干砂質、焼土・炭化粒を含む。
9　黄白色土　カマド材のブロックを含む。

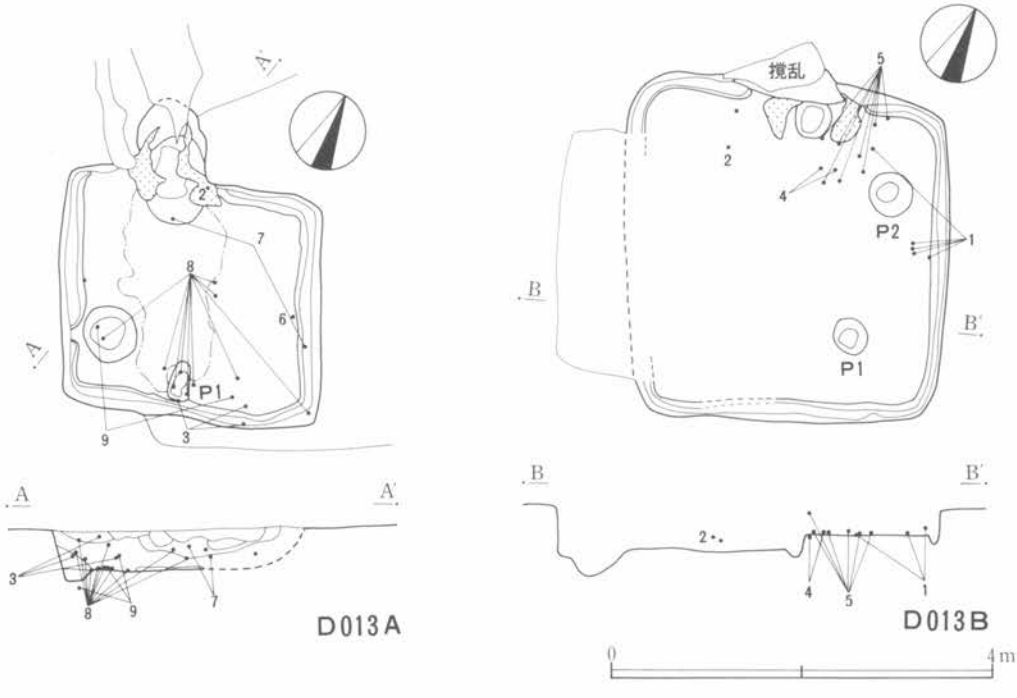



D011－B

PL.312　D011A・D011B実測図

1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。
2　褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化粒を多く含む。
3　褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化粒を含む。砂質。
4　赤褐色土　炭化材を多量に含む。
5　暗黄褐色土　ローム・黒色土の混合土。

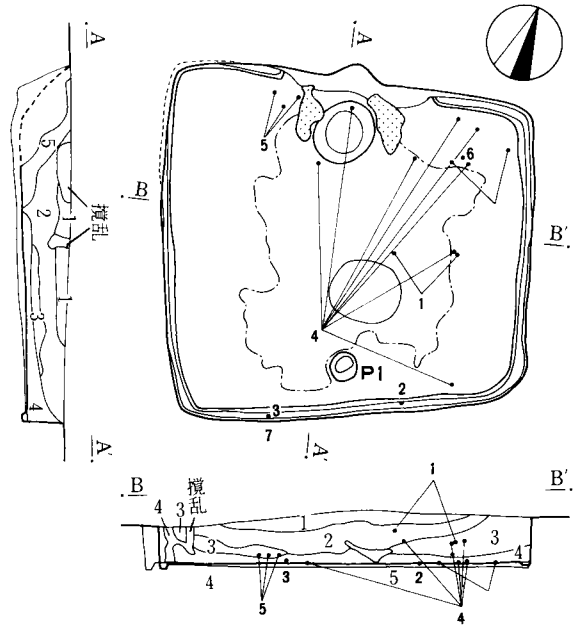



PL.313　D012・D013A・D013B実測図

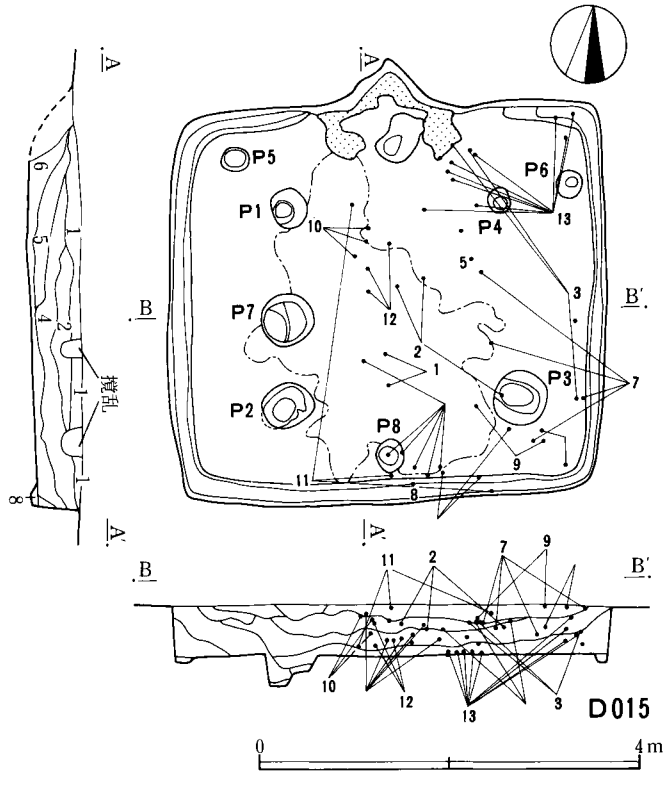
D014　D017の西側に位置する住居で、柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面は南東壁からカマド前面にかけて硬化面が遺存している。また、床面を除去したところ、下位からもう1面の床面が検出でき、建て替えを行ったものと思われる。

1　暗黄褐色土　ローム粒を多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
3　暗黄褐色土　ローム粒を多く含む。
4　暗褐色土　ローム粒を含む。
5　黄灰色砂質土　カマド材を含む。



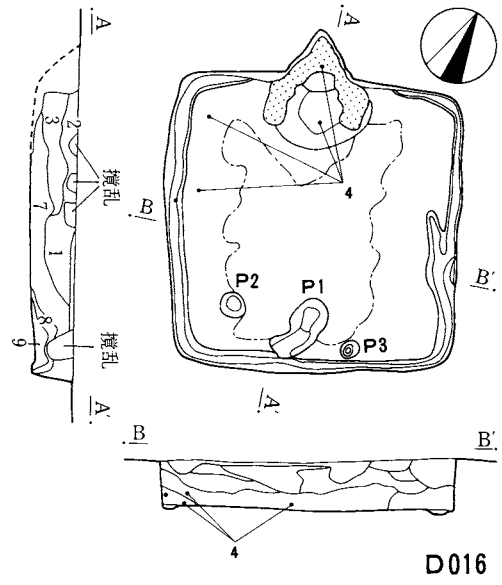

D015　柱穴は住居対角線上に4箇所あり、南壁に沿ったP2・P3が大きい。P1は直径0.3m、深さ0.5m、P3は直径0.5m、深さ0.5mを測る。また、南壁際中央に出入口ピットがある。

1　黒褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
2　赤褐色土
3　焼土
4　褐色土　ロームブロックをやや多めに含む。
5　灰褐色土　灰白色砂質土をかなり含む。
6　黒褐色土　ロームブロックをごく少量含む。
7　褐色土
8　黄褐色土　ロームを多量に含む。



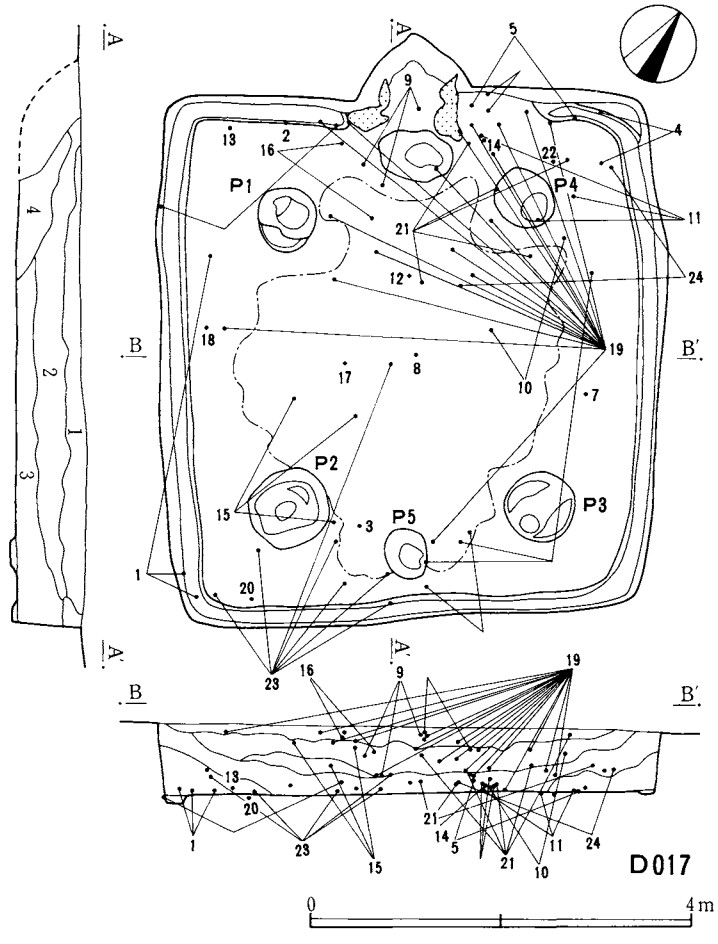

PL.314　D014・D015実測図

1　黄褐色土　ローム粒を多く含む。
2　褐色土　灰白色土を含む。
3　灰褐色土　灰白色砂質土・ロームブロックを含む。
4　黒褐色土　ローム粒を含む。
5　黄褐色土　ロームを主体とし、黒褐色土を含む。
6　褐色土　ローム粒を含む。
7　黒色土　ロームブロックを含む。
8　黄褐色土　ローム粒を含む。
9　黒色土　ローム粒を少し含む。
10　黒褐色土　ローム粒を少し含む。




D017　柱穴は住居対角線上に4箇所あり、直径は0.5～0.8m、床面から0.6mの深さを測り、P4だけが0.3mと浅い。また、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面は柱穴に囲まれた広い範囲に硬化面が遺存している。

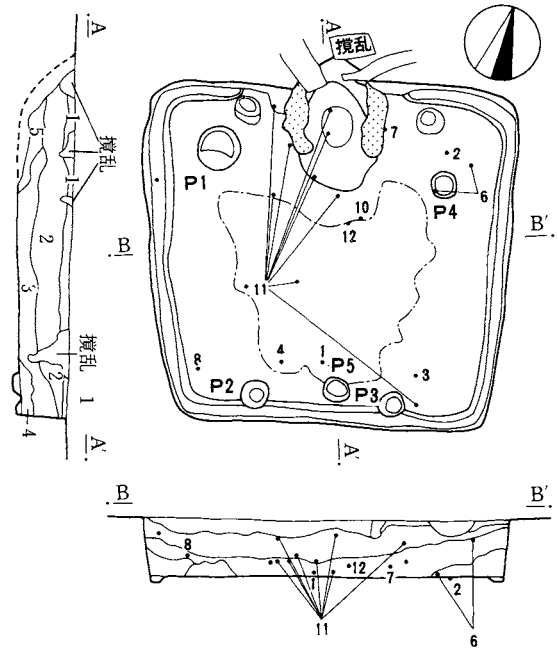
1　褐色土　ローム粒を少し含む。
2　黄褐色土　ロームブロックを多量に含む。
3　黒褐色土　ローム粒を全体に含む。
4　黒褐色土　灰白色砂質土を含む。
5　褐色土
6　褐色土　焼土粒を含む。
7　黄褐色土　ロームを多く含む。




PL.315　D016・D017実測図

D018　柱穴は基本的に4箇所で、北壁に接してさらに2箇所の柱穴がある。直径はP1が0.4mでやや大きいが、他は0.2～0.3mで、深さはP2・P3が0.4mを測る。また、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面は主柱穴に囲まれた範囲に硬化面が遺存している。

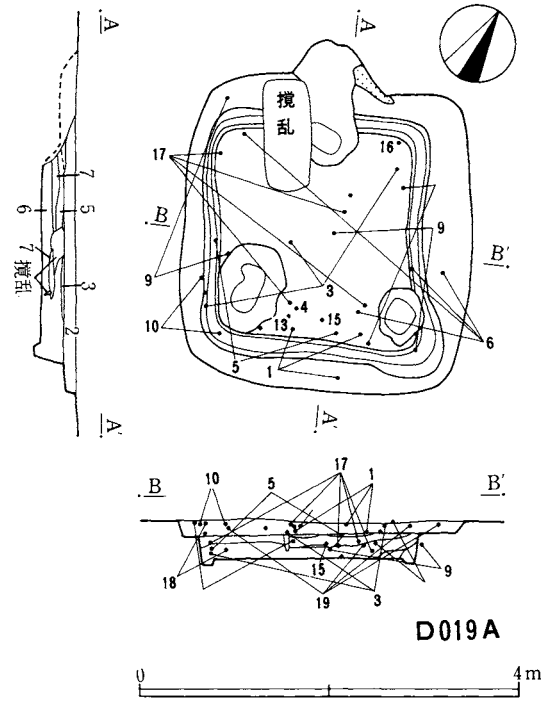
1　黒褐色土　ローム粒を含む。
2　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。
3　黒褐色土　ロームブロックを僅かに含む。
4　褐色土　ロームを含む。
5　褐色土　灰白色土を多く含む。




D018

D019A　D014の北側に位置する住居で、位置・方向の変更なく建て替えが行われ、A→Bの先後関係が確実である。明確な柱穴はないが、東・南コーナーがかなり広く窪んでいる。

1　暗褐色土　ローム粒と黒色土の混合土。
2　暗黄褐色砂質土　ローム粒と黒色土の混合土。
3　暗褐色土　ローム粒と黒色土の混合土。
4　暗黄褐色土　ロームを多く含む。
5　暗黄褐色土　若干のカマド材を含む。
6　暗褐色土　ロームブロックを若干含む。
7　暗灰褐色土　カマド材と黒色土・ロームの混合土。

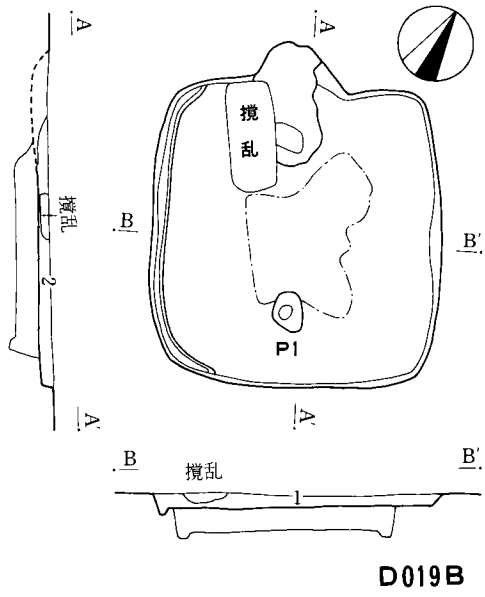



D019A

PL.316　D018・D019A実測図

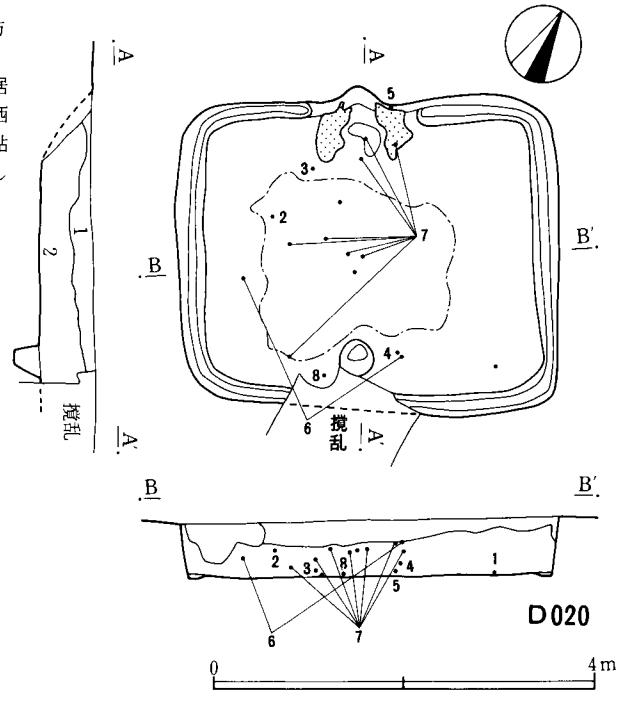
D019B　D019Aを一旦埋め戻した後に構築した住居で、規模は3.1m×3.0mを測り、主軸文向はN－31°－Wを指す。柱穴はなく、南東壁中央に出入口ピットがある。床面は住居中央に僅かに硬化面が遺存している。カマドはD019Aのカマドを若干改修して使用し、袖材が僅かに残されている。

1　暗褐色土　ロームと黒色土の混合土。
2　暗黄褐色砂質土　ローム粒と黒色土の混合土。




D020　規模は4.0m×3.1mを測り、主軸方向はN－28°－Wを指す。柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面は住居中央に硬化面が遺存している。カマドは北西壁中央に設置され、煙道部の奥まで袖材を貼込んでいる。煙道部は壁外へ0.2m張り出している。

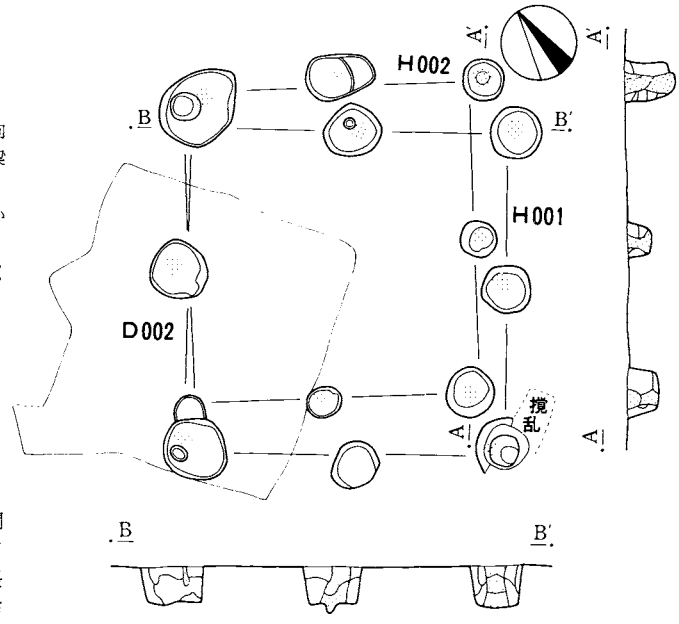
1　褐色土　ロームを混入する。
2　黄褐色土　ローム粒を含む。




PL.317　D019B・D020実測図

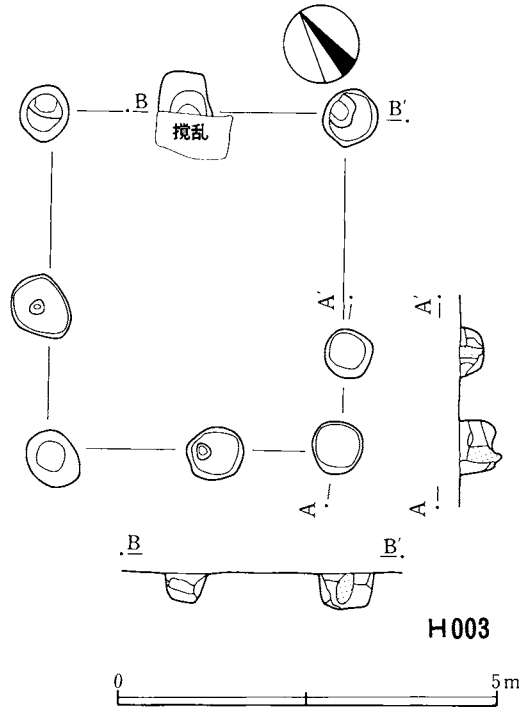
H001　D002・H002と重複する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－37°－Eを指し、桁行長4.2m、梁行長4.2mを測る。柱間寸法は2.1mで、堀方は直径0.4～1.0mの円形を呈している。確認面からの深さは0.5～0.6mで、埋土はローム粒・ロームブロックを多く含んでいる。

H002　H001を建て替えたもので、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－38°－Eを指し、桁行長4.0m、梁行長4.0mを測る。柱間寸法は2.0mで、堀方は直径0.6～1.0mの円形を呈している。



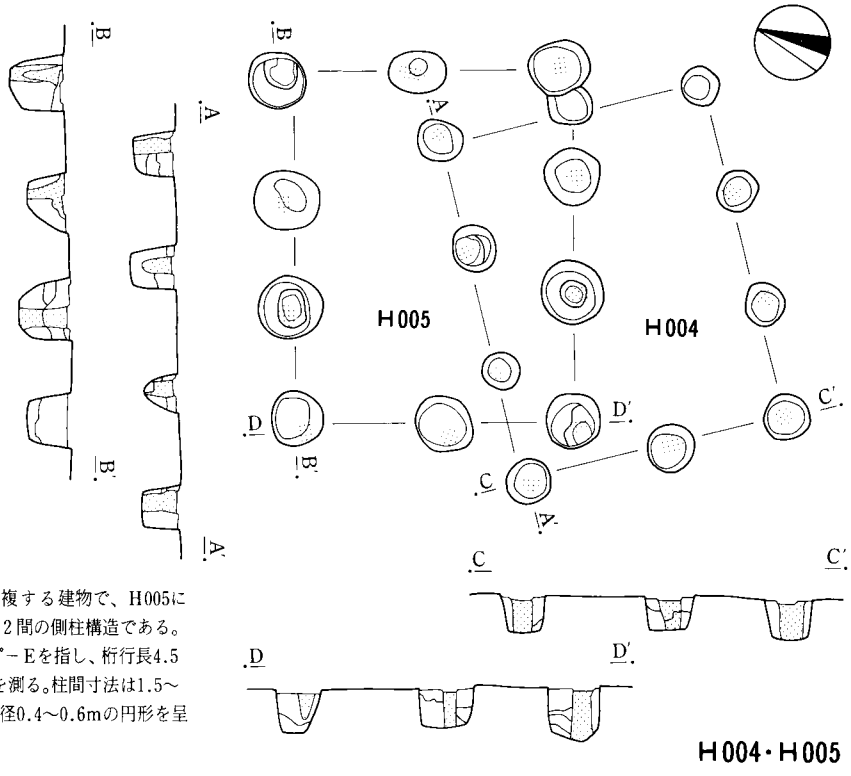

H001・H002

H003　D003の南西に位置する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－35°－Eを指し、桁行長4.3m、梁行長3.9mを測る。柱間寸法は極めて不統一で、1.3～2.5mとなる。堀方は直径0.6～0.8 mの円形を呈している。




H003

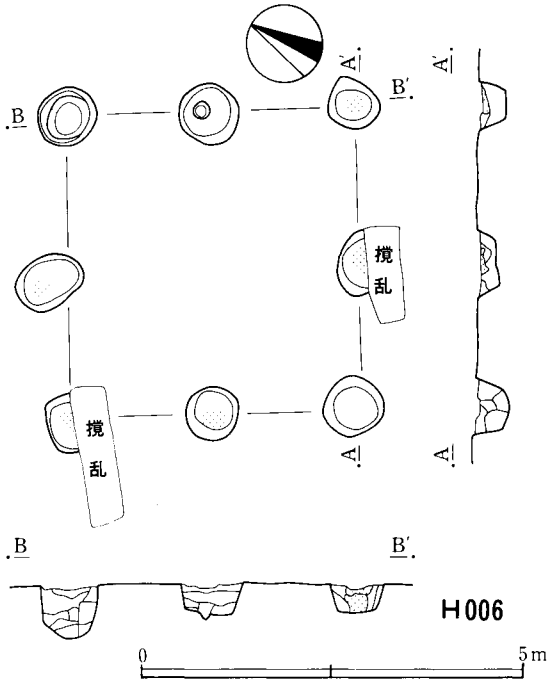
PL.318　H001・H002・H003実測図




H004　H005と重複する建物で、H005に先行する。3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－55°－Eを指し、桁行長4.5m、梁行長3.5mを測る。柱間寸法は1.5～1.8mで、堀方は直径0.4～0.6mの円形を呈している。

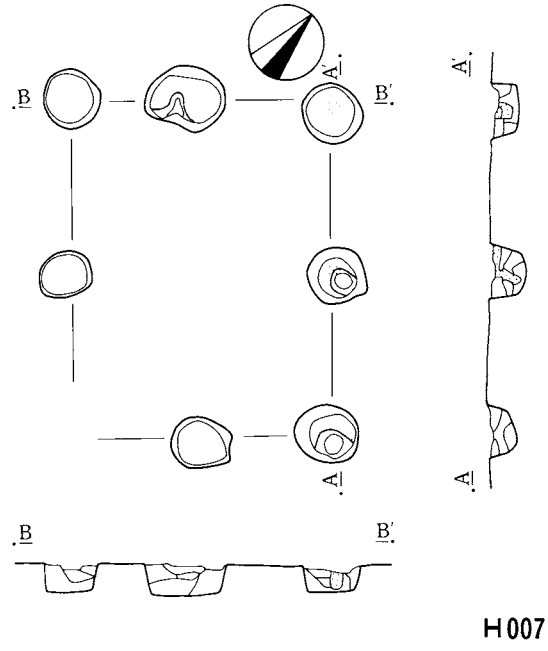
H005　H004と重複する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－65°－Eを指し、桁行長4.6m、梁行長3.7mを測る。柱間寸法は1.4～1.8mで、南北棟の柱位置が向き合わない。

H006　D003の北側に位置する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－55°－E を指し、桁行長3.9m、梁行長3.8mを測る。柱間寸法は1.9mで、堀方は直径0.7～0.8mの円形を呈している。

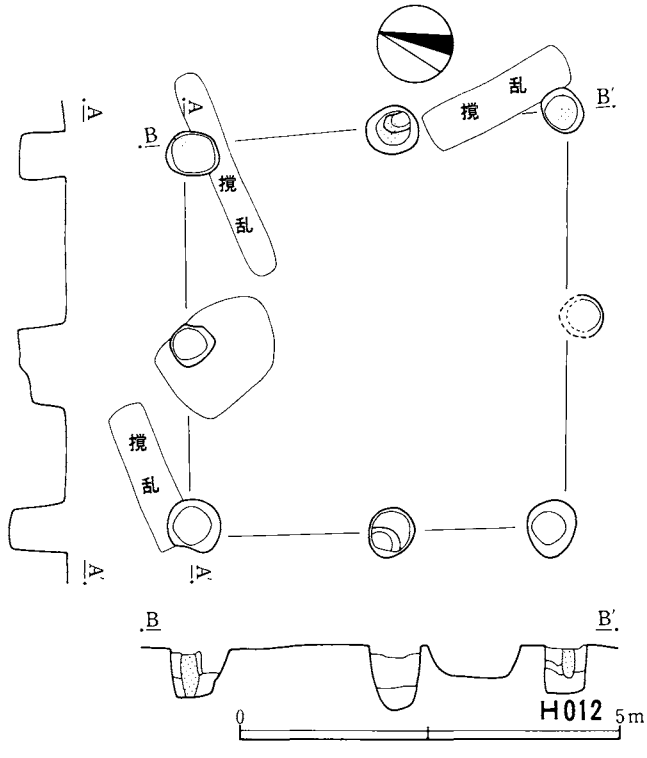



PL.319　H004 ・H005・H006実測図

H007　H002の北東に位置する建物で、2間×2間の側柱構造で南隅の柱を欠損している。長軸方向はN－45°－Eを指し、桁行長3.4m梁行長3.4mを測る。柱間寸法は1.4～2.4mと不統一で、堀方は直径0.7～1.0mの円形を呈している。埋土はローム粒・ロームブロックを多く含んでいる。

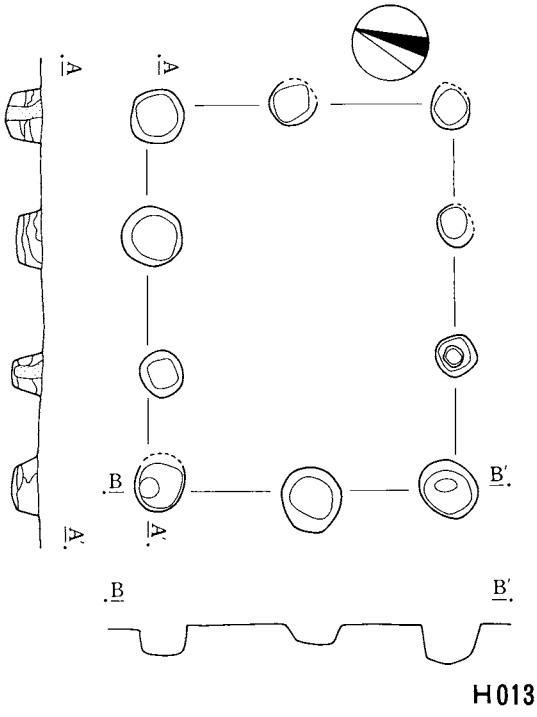



H012　D016の北側に位置する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－72°－Wを指し、桁行長5.2m、梁行長5.0mを測る。柱間寸法は2.4～2.7mと広く、柱穴は直径0.6mの円形を呈している。確認面からの深さは0.5～0.8mで、埋土はローム粒・ロームブロックを含んでいる。

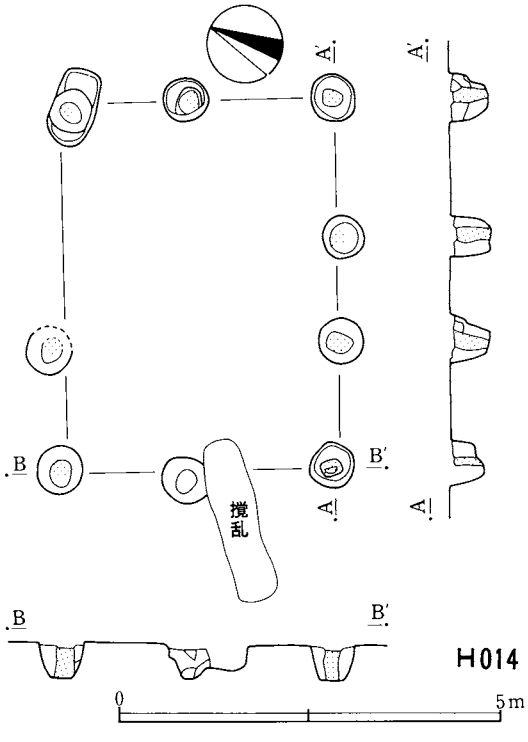



PL.320　H007・H012実測図

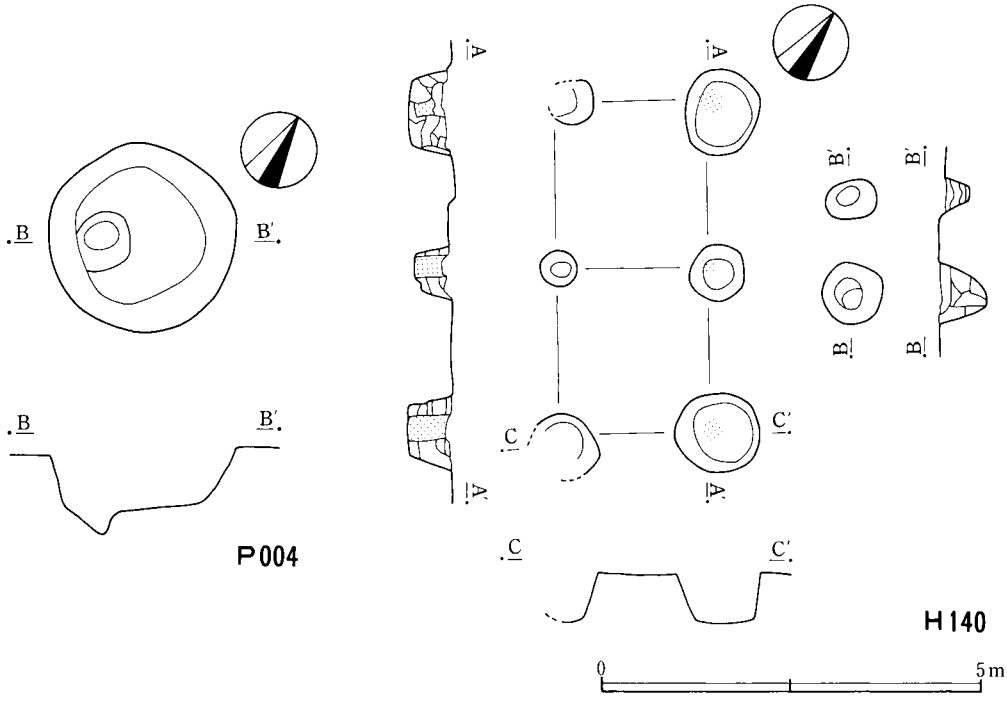
H013　D015の北側に位置する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－68°－Wを指し、桁行長4.0mを測る。柱間寸法は1.6～2.0mで、妻側が狭い。柱穴は直径0.6～0.8mの円形を呈している。



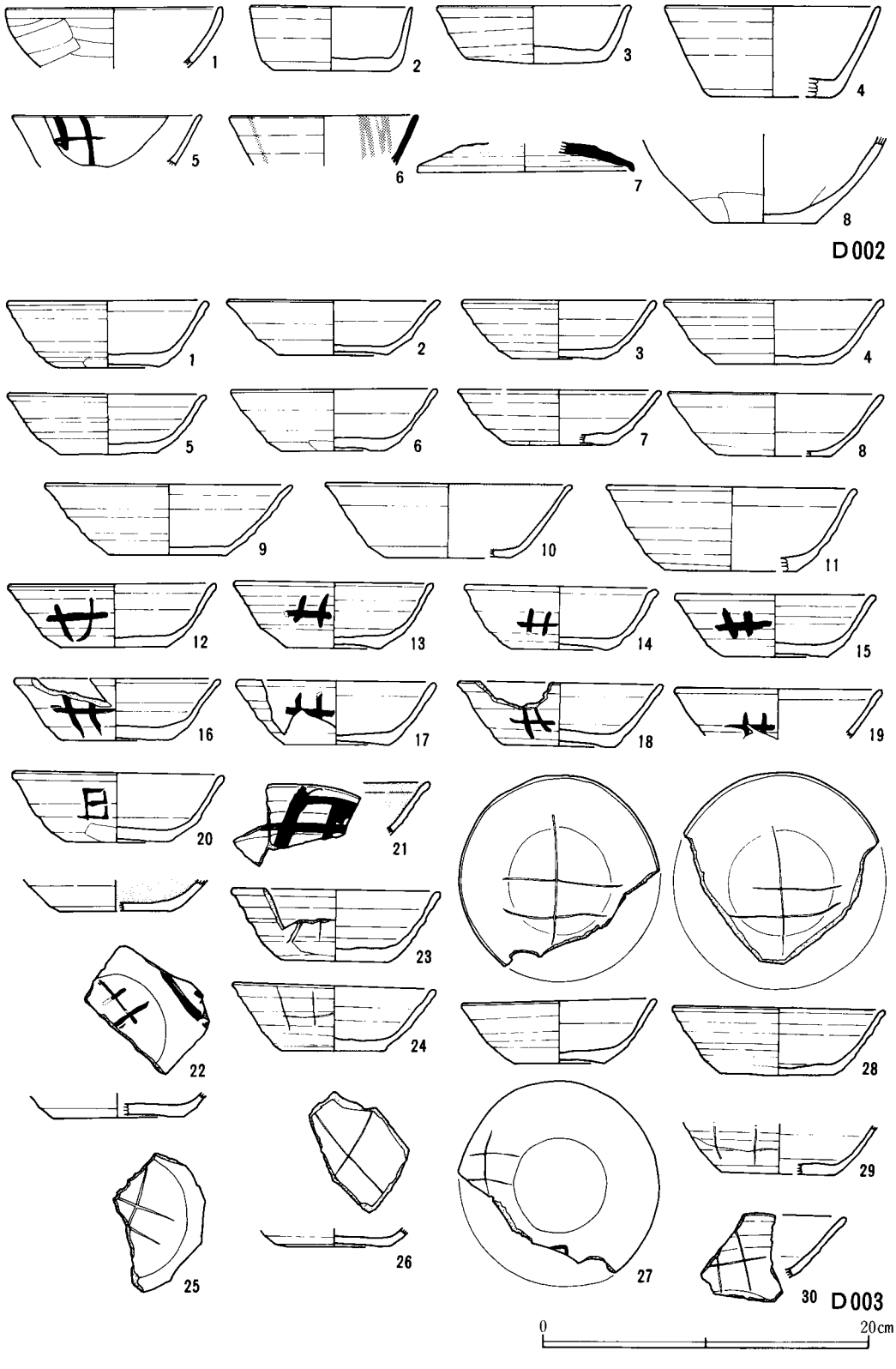

H014　H012の北側に位置する建物で、3間×2間の側柱構造で、一部柱穴を欠損している。長軸方向はN－63°－Wを指し、桁行長4.8m、梁行長3.6mを測る。柱間寸法は1.5～2.0mで、堀方は直径0.6mの円形を呈している。確認面からの深さは0.4～0.6mで、埋土はローム粒を多く含んでいる。



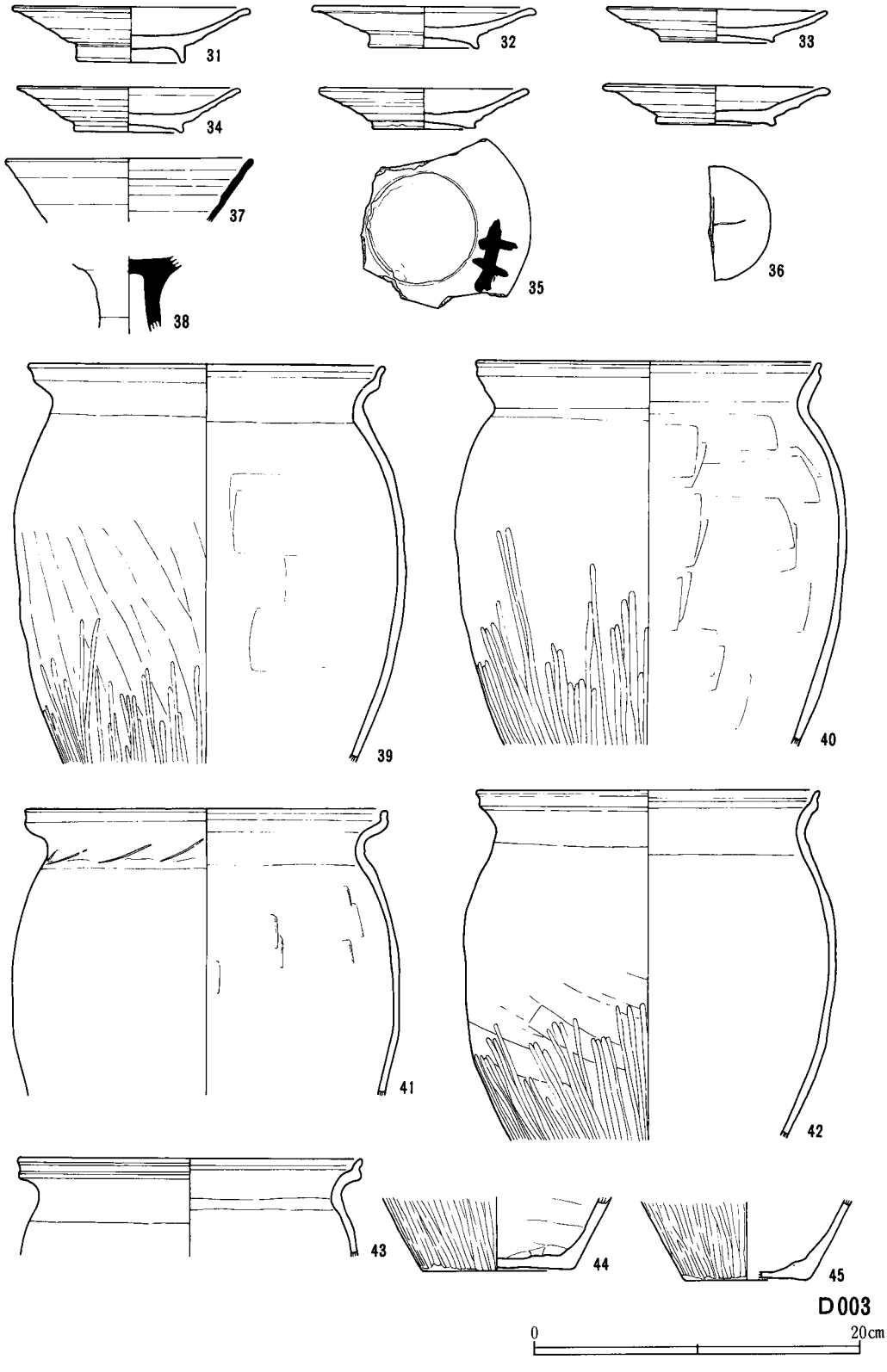

PL.321　H013・H014実測図



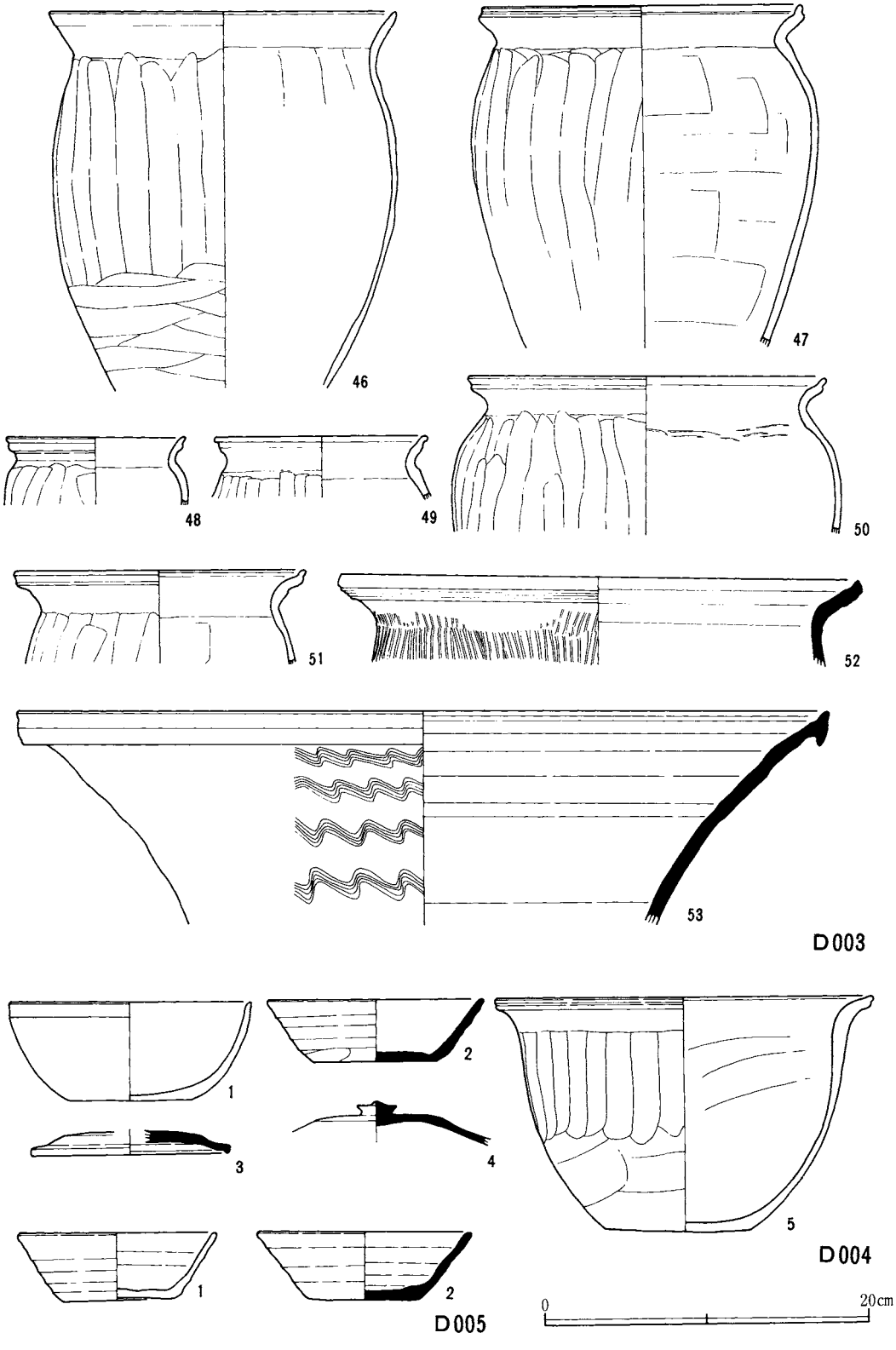

PL.322　H140・P004実測図



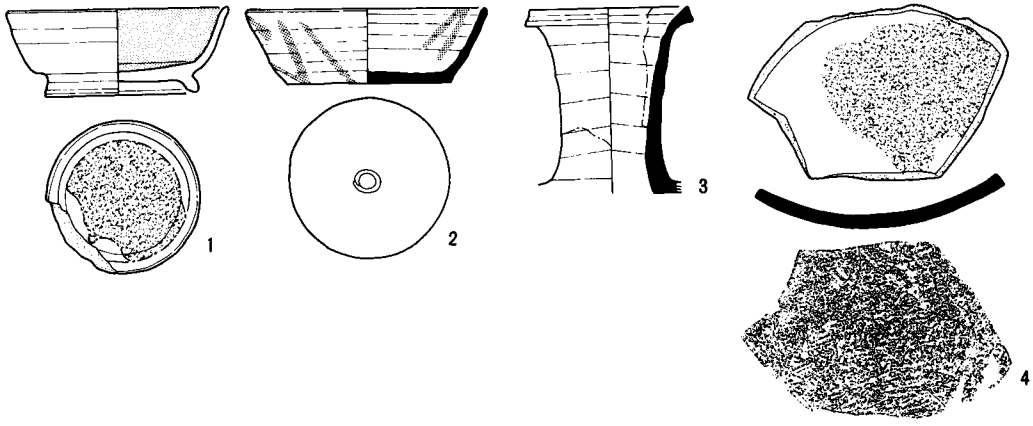

PL.323　歴史時代2群F遺物実測図　1

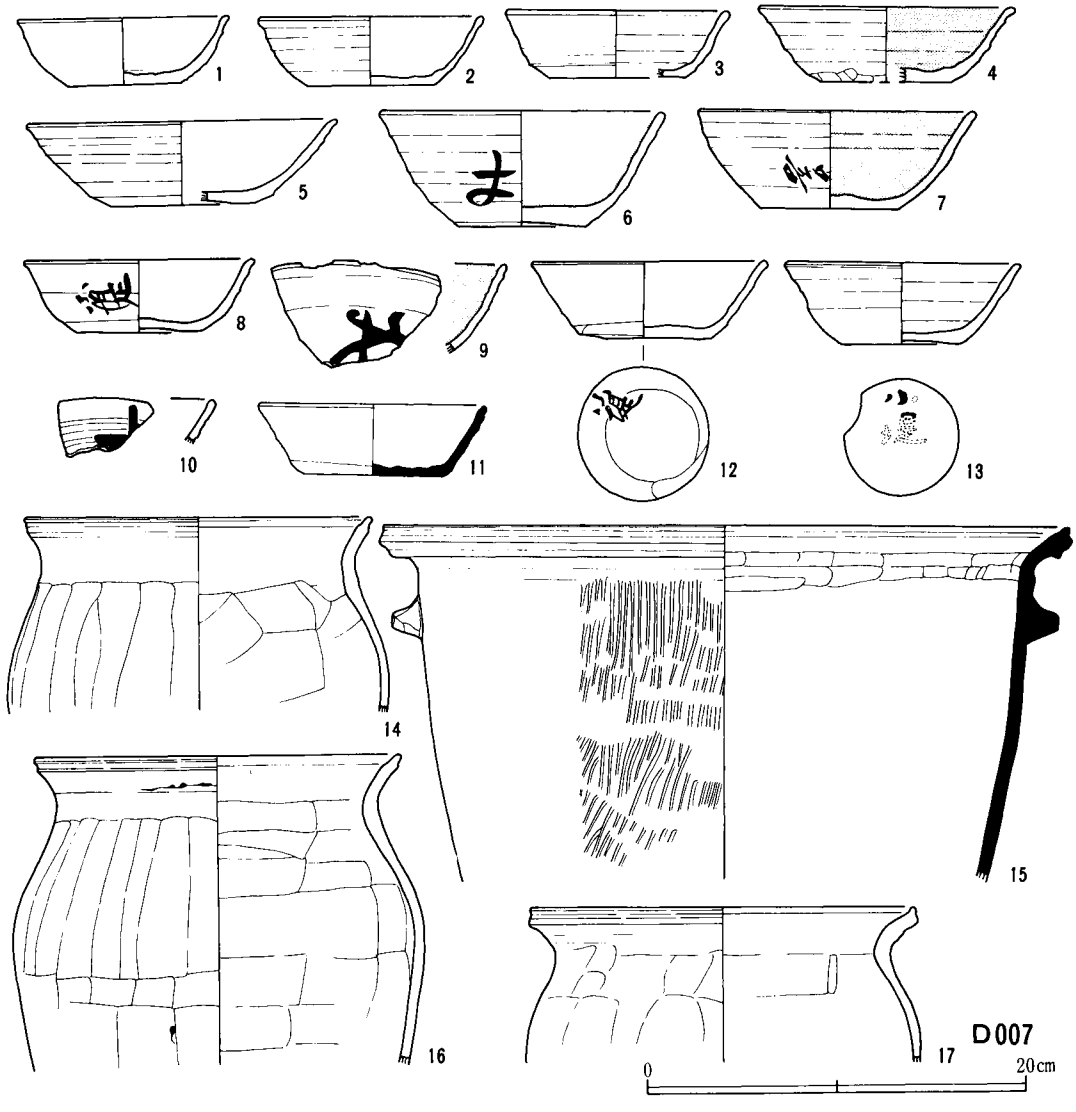



PL.324　歴史時代2群F遺物実測図　2

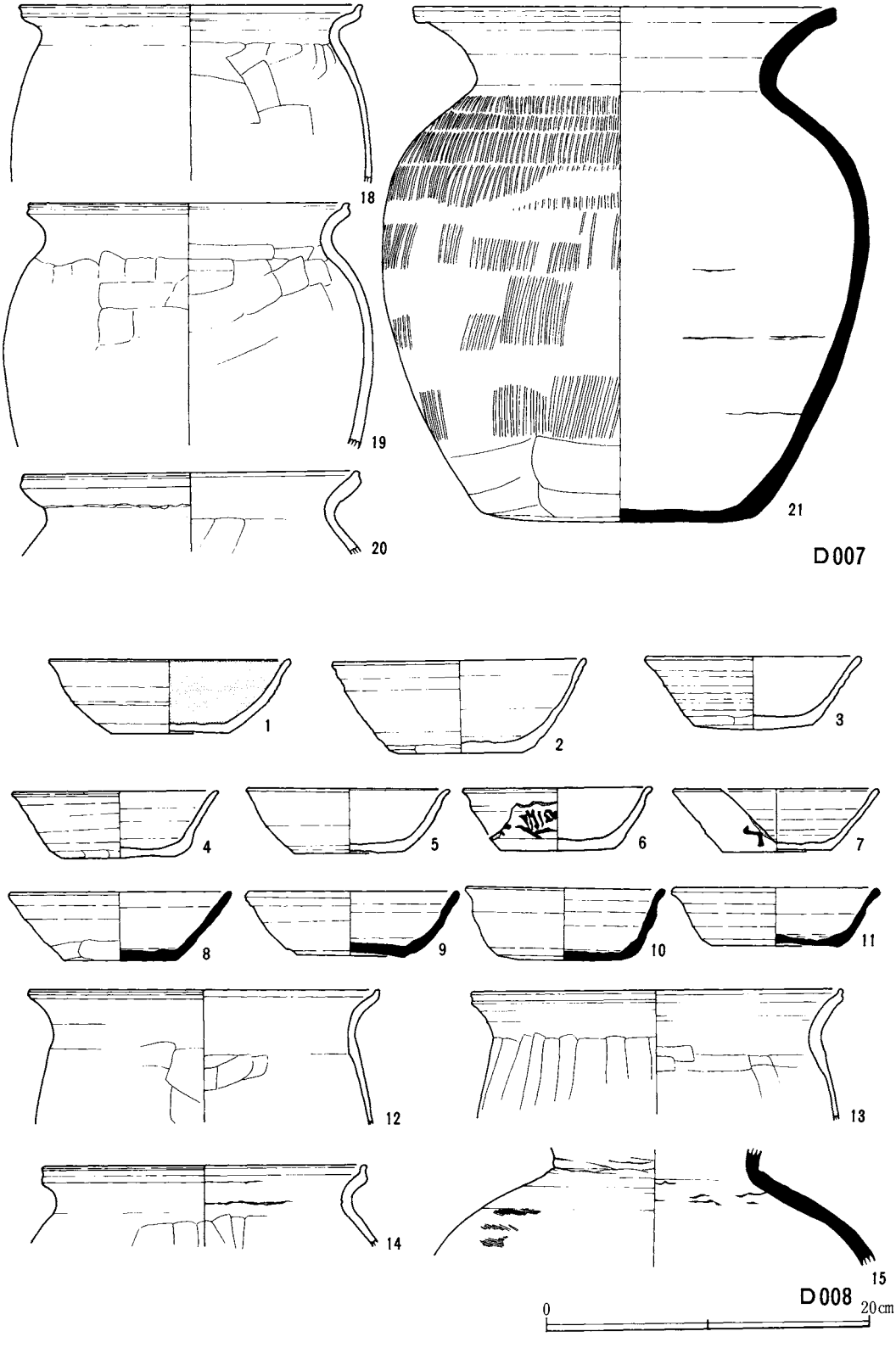



PL.325　歴史時代2群F遺物実測図　3

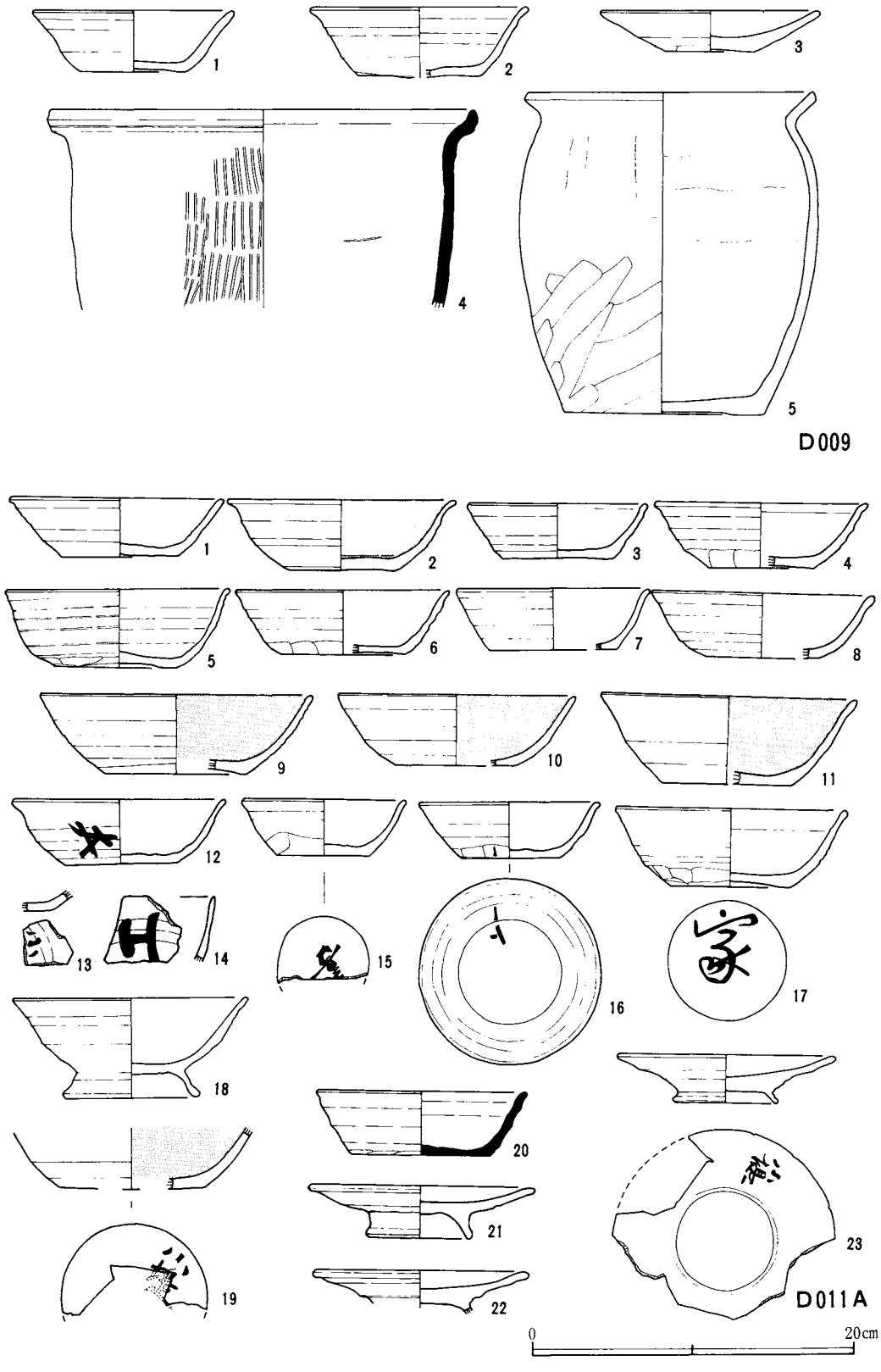


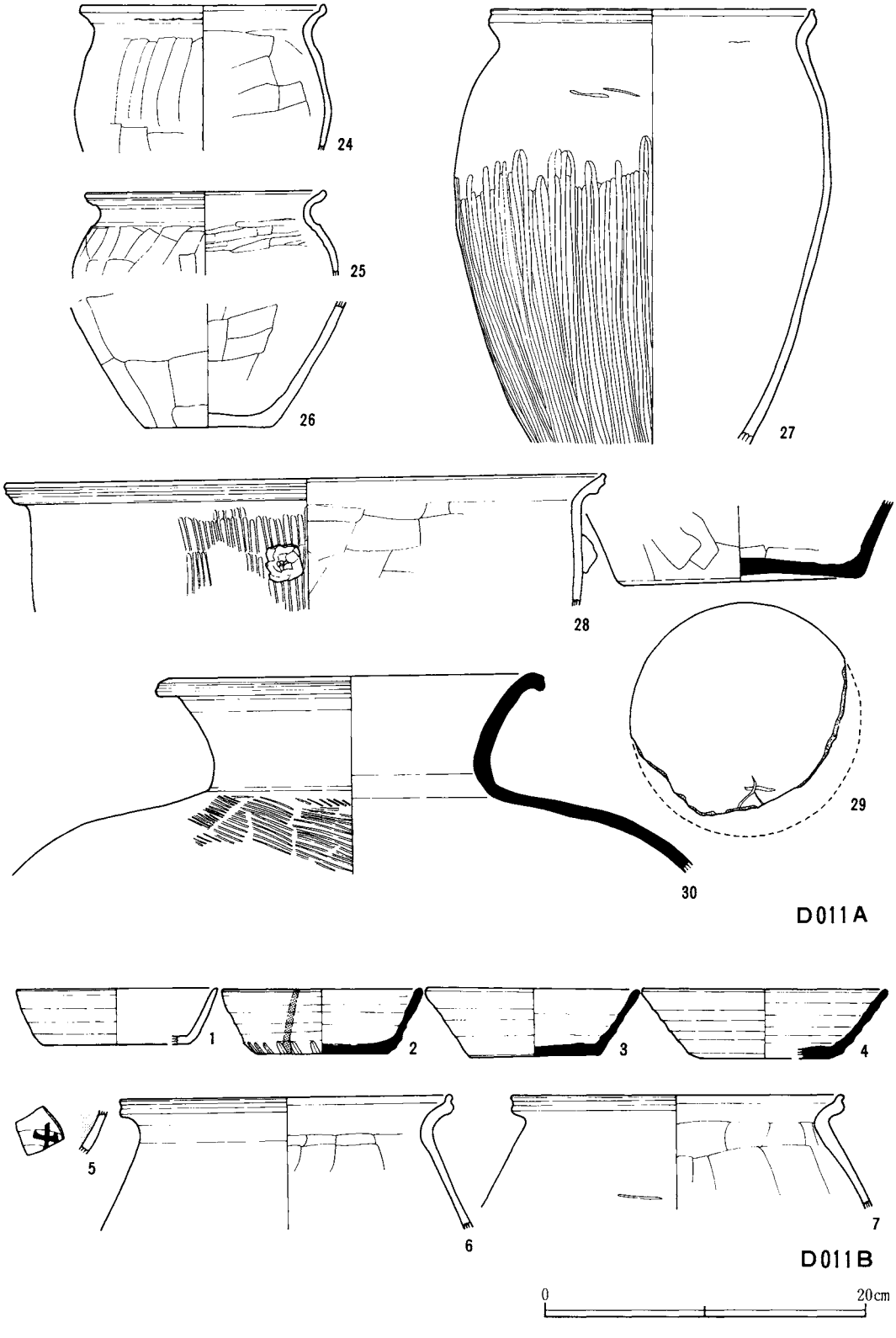

PL.326　歴史時代2群F遺物実測図　4



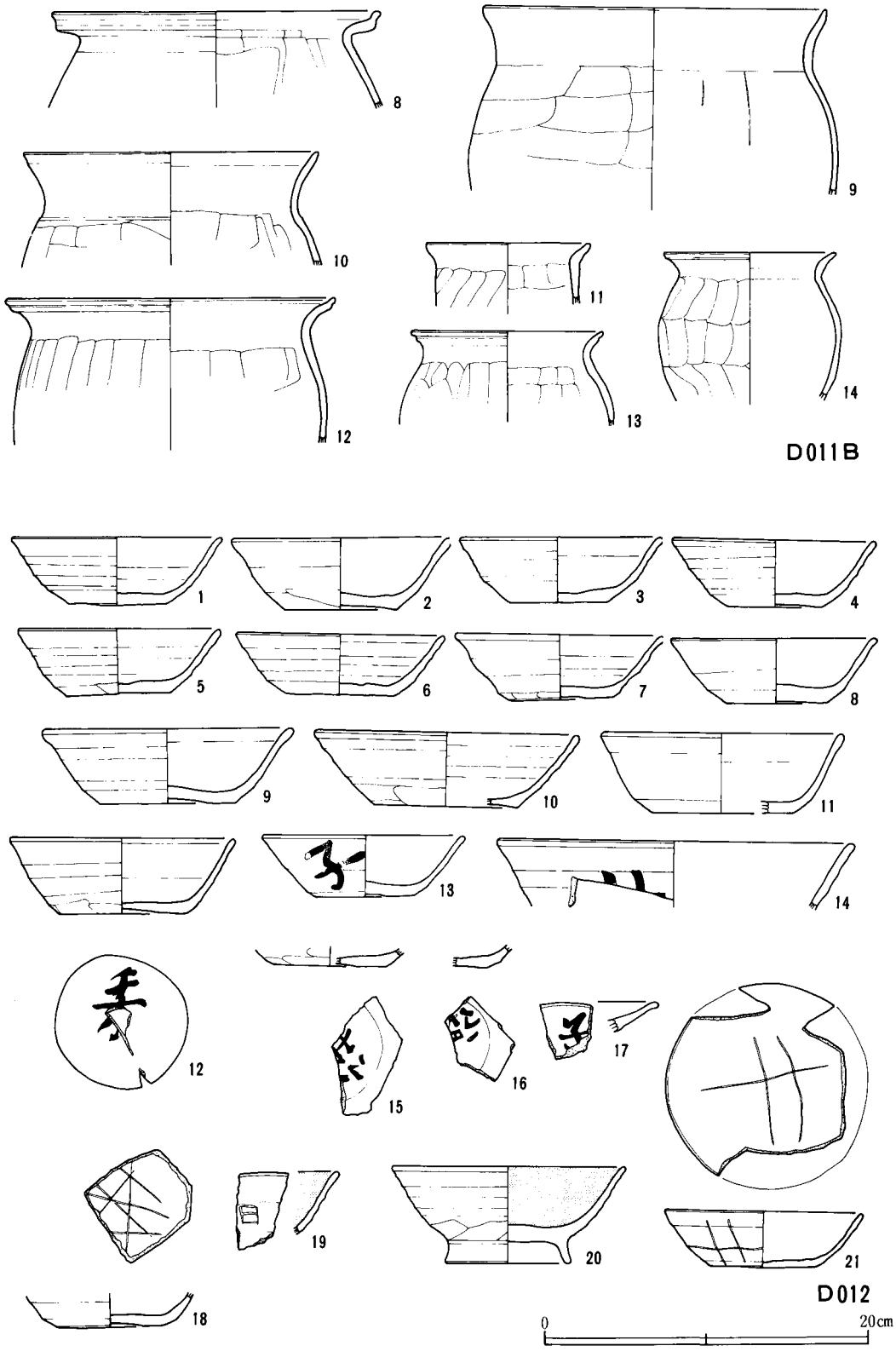

PL.327　歴史時代2群F遺物実測図　5



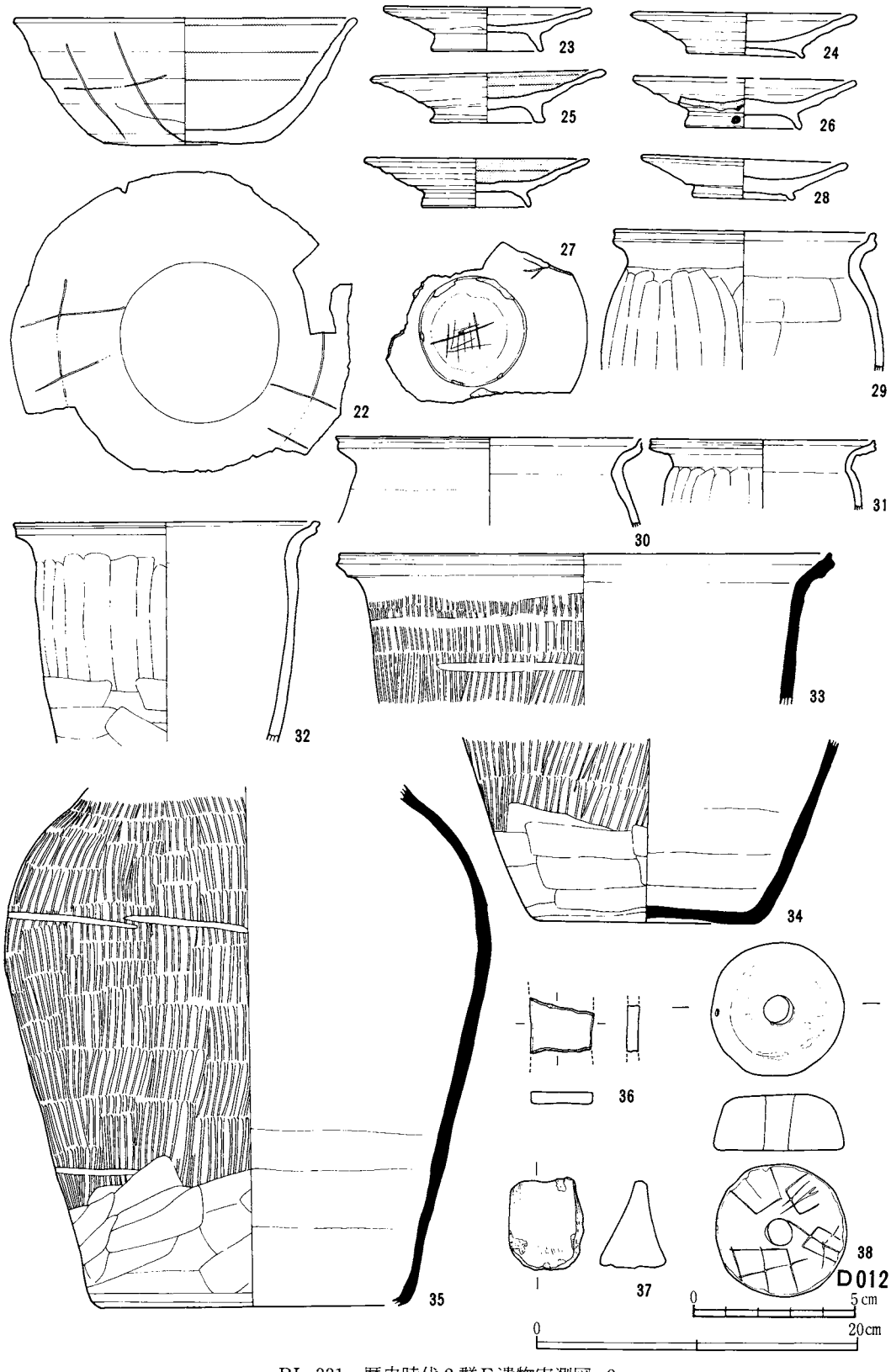

PL.328　歴史時代2群F遺物実測図　6



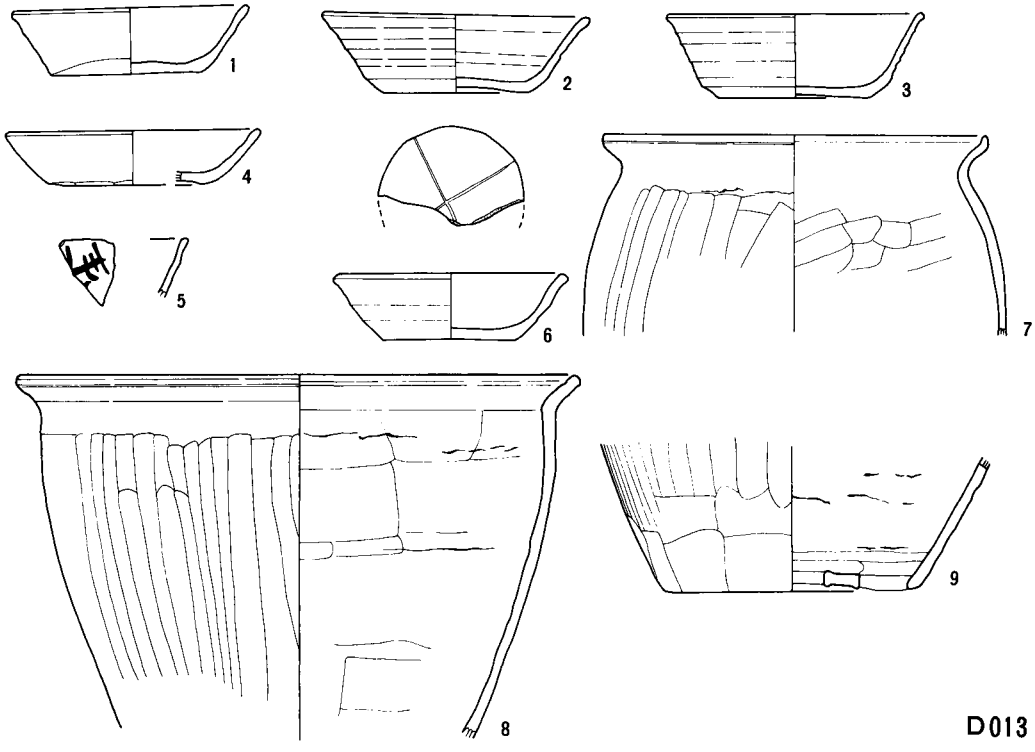

PL.329　歴史時代2群F遺物実測図 7

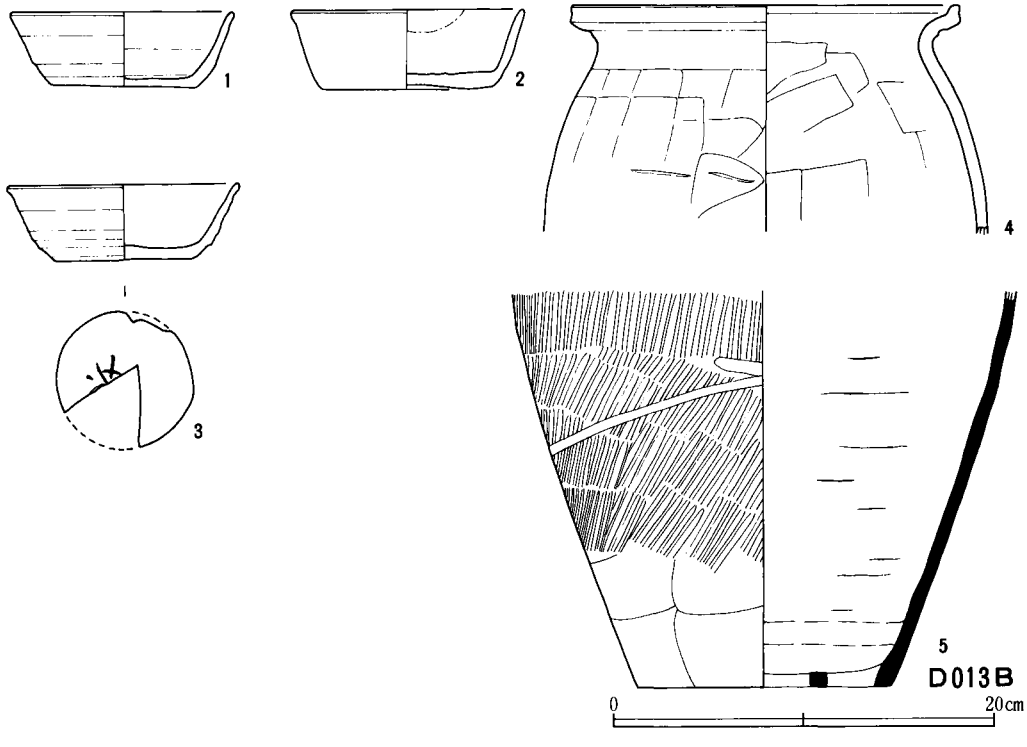



PL.330　歴史時代2群F遺物実測図　8

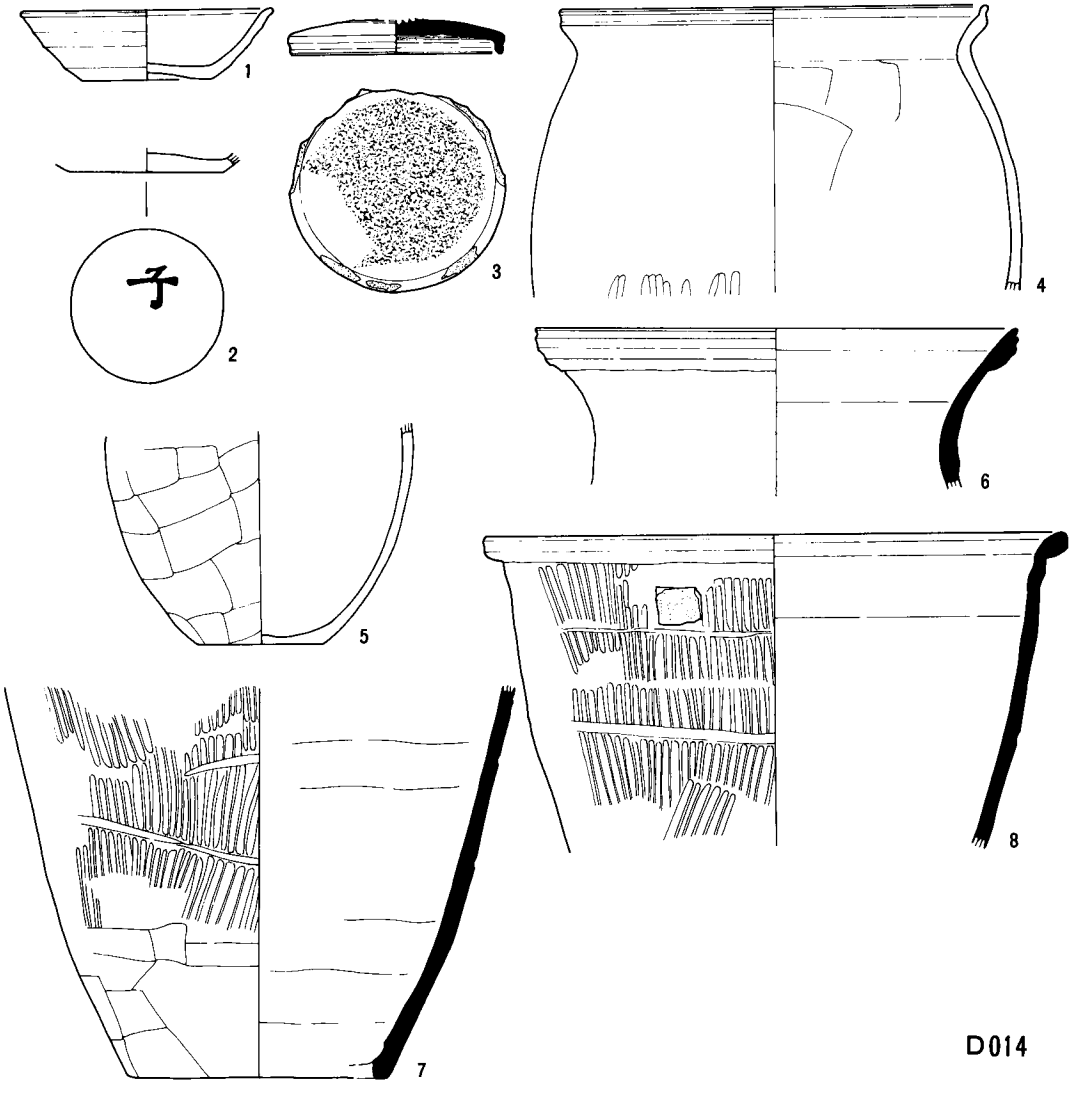


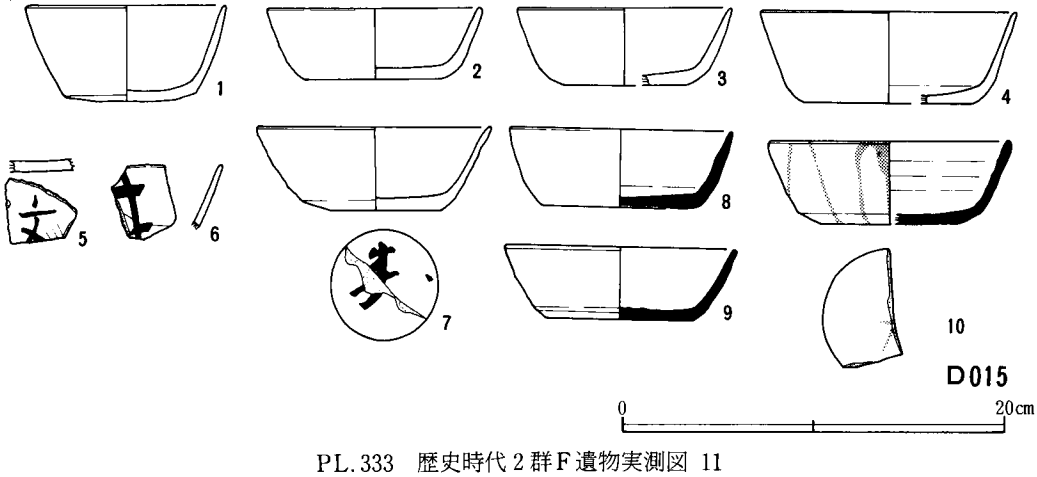

PL.331　歴史時代2群F遺物実測図　9



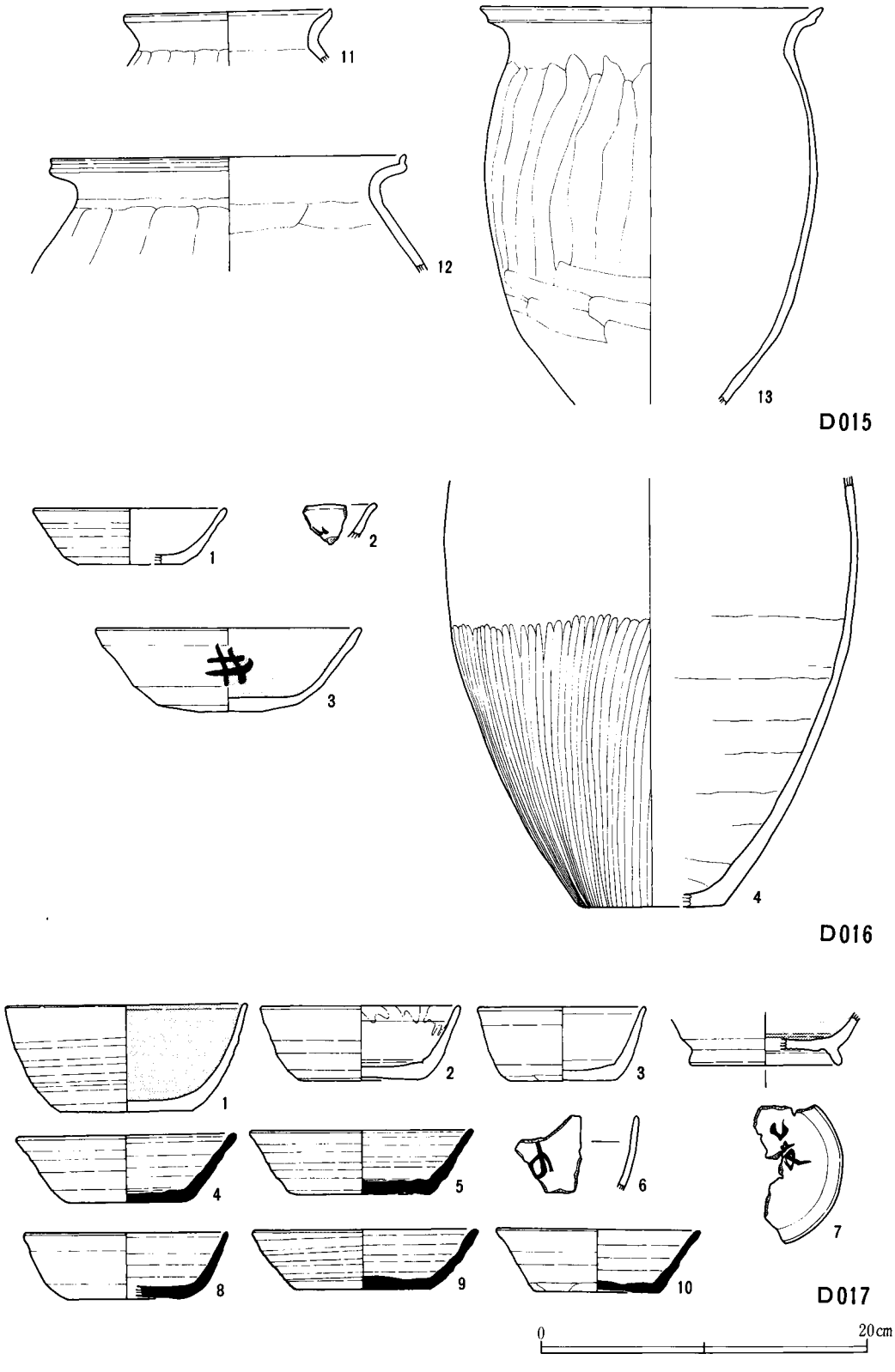




PL.332　歴史時代2群F遺物実測図 10

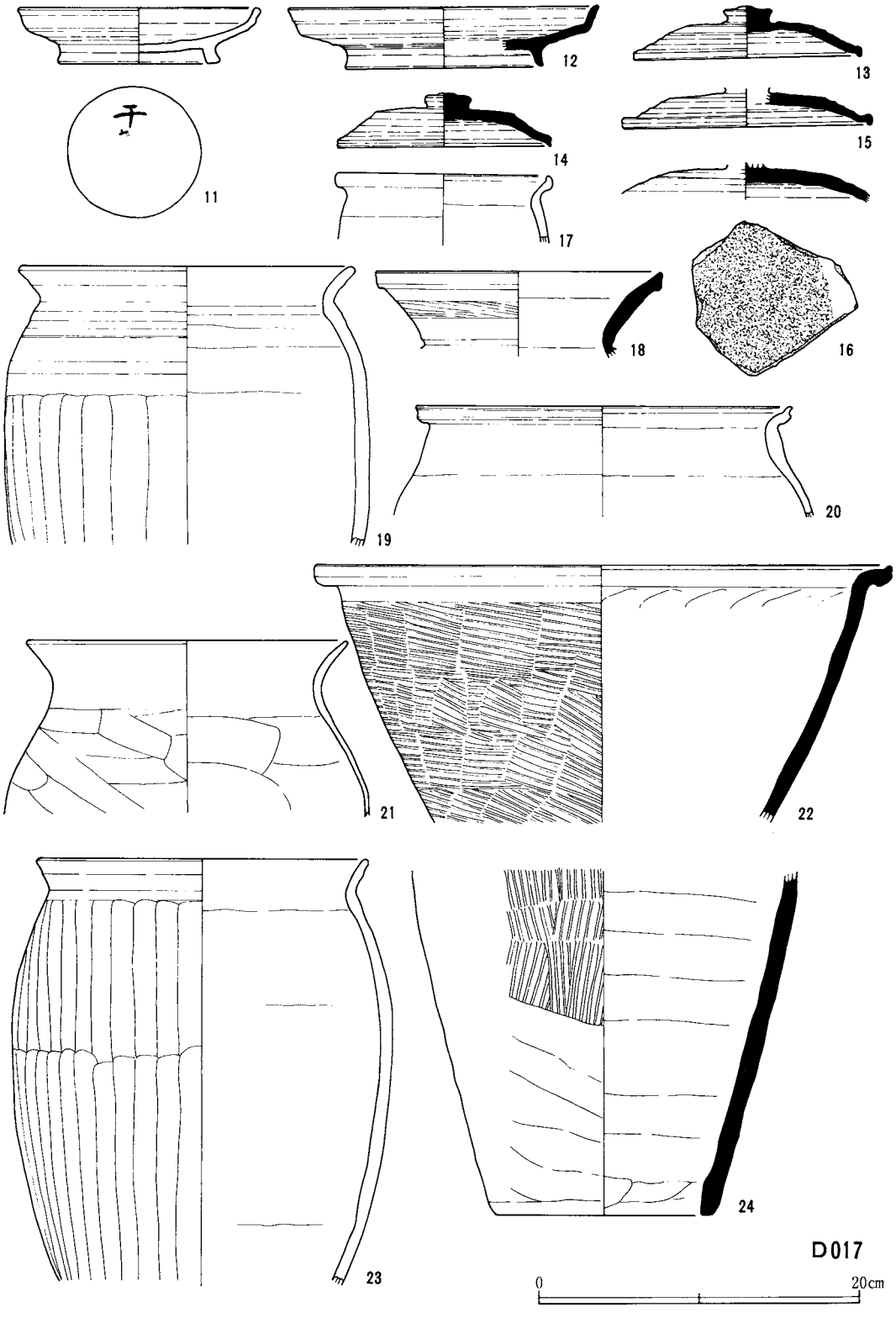


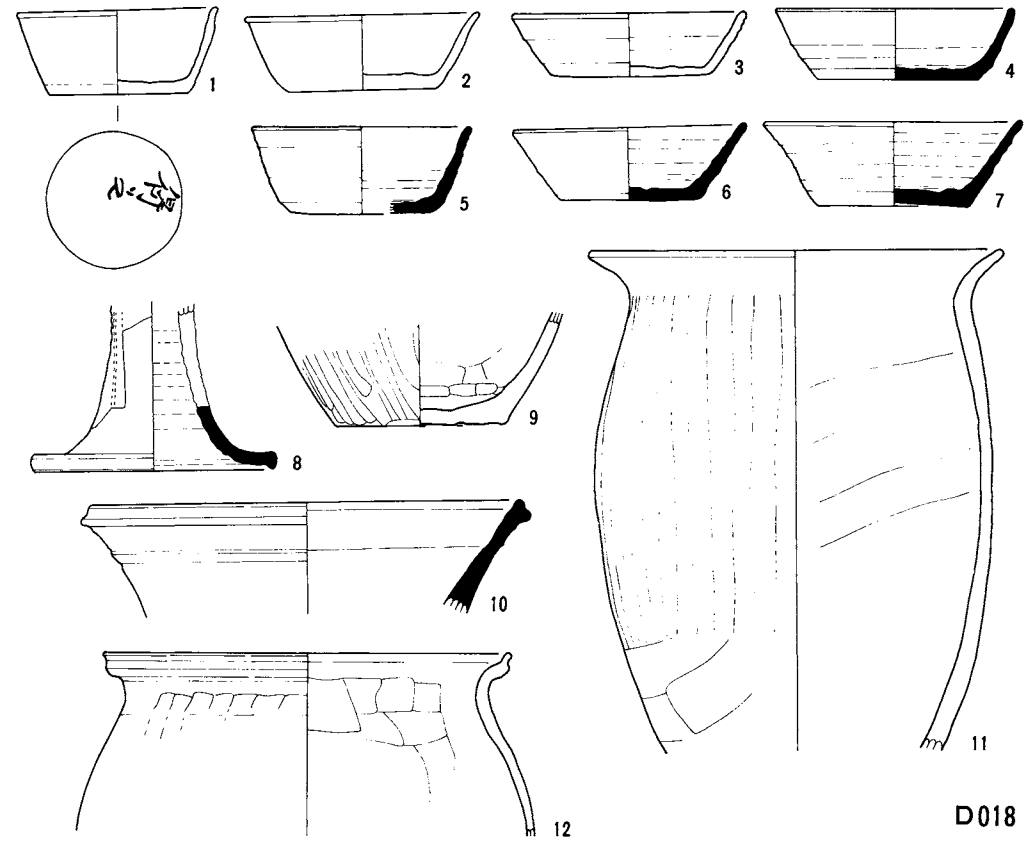

PL.333　歴史時代2群F遺物実測図 11

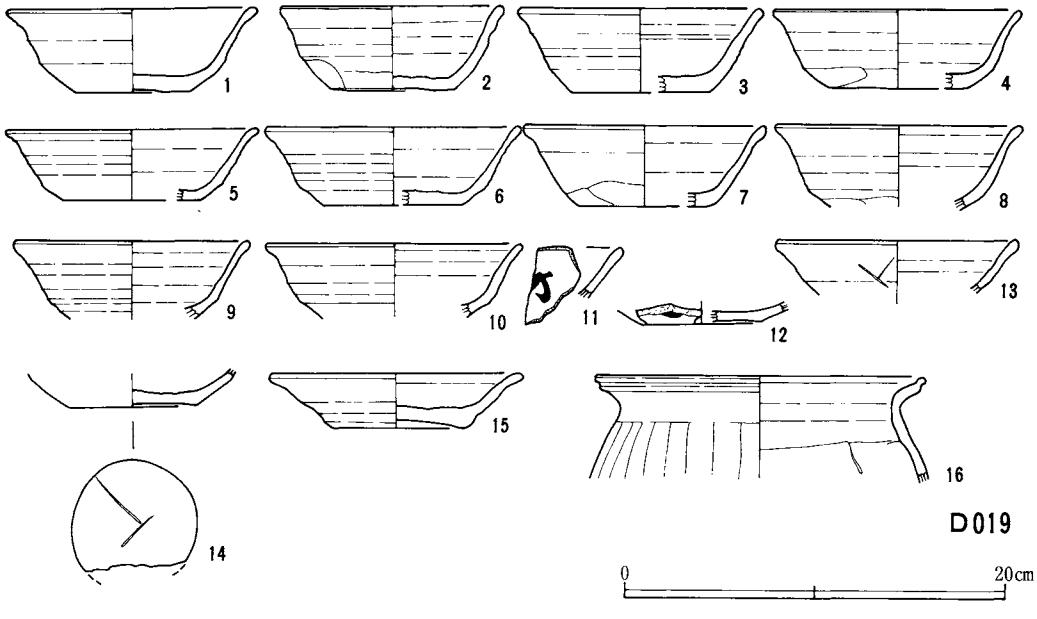



PL.334　歴史時代2群F遺物実測図 12

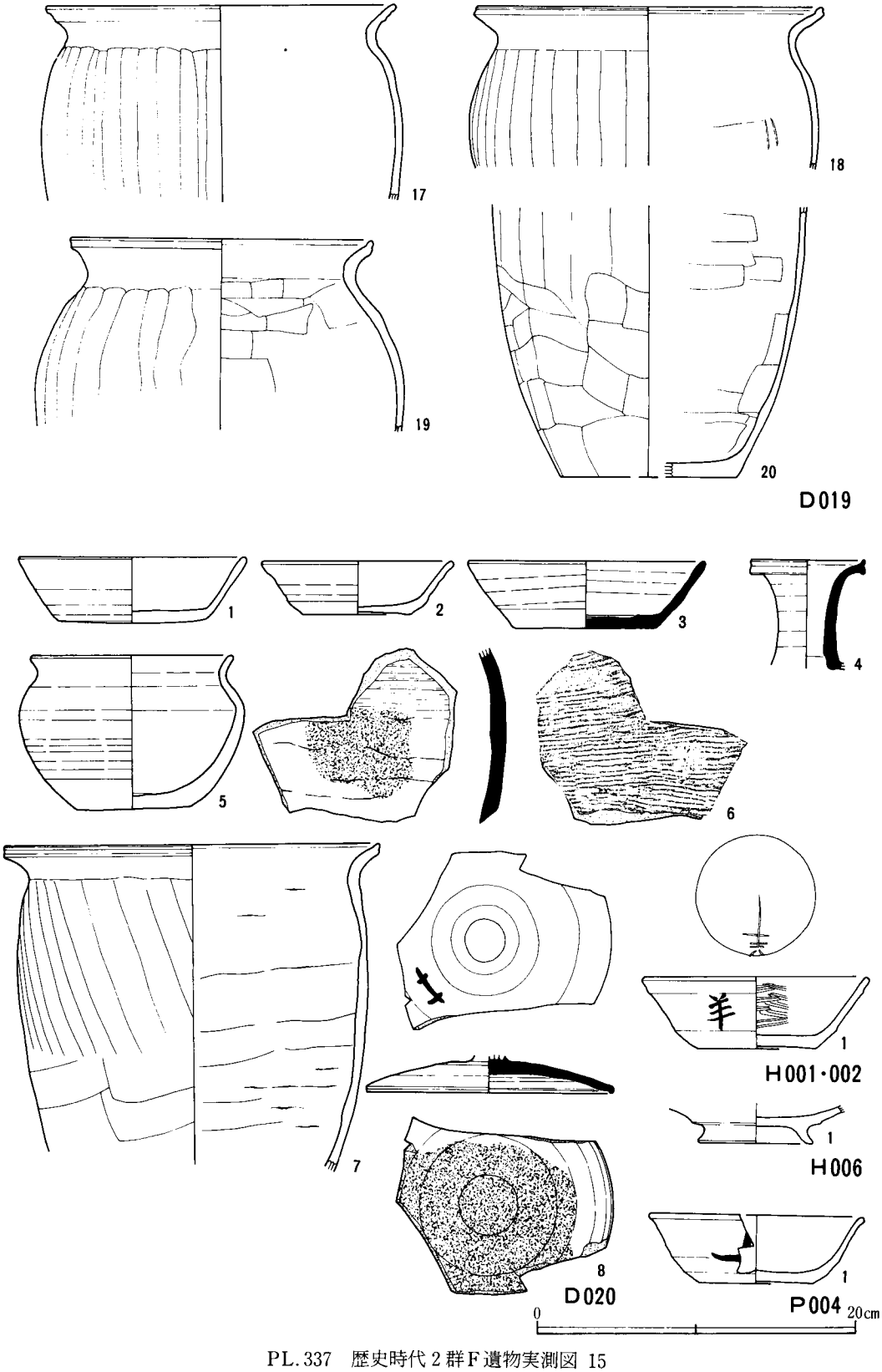



PL.335　歴史時代2群F遺物実測図 13

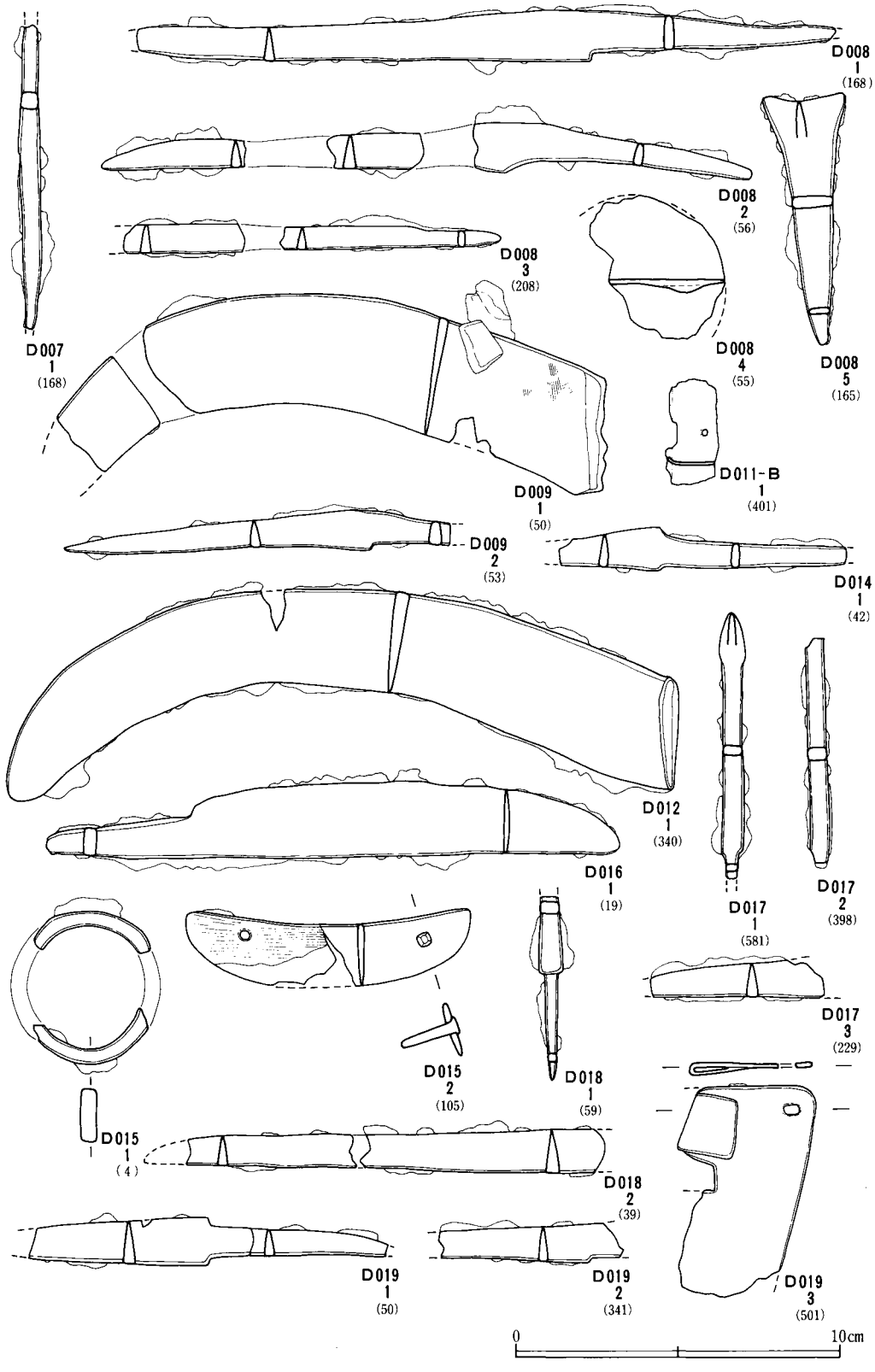



PL.336　歴史時代2群F遺物実測図 14




PL.337　歴史時代2群F遺物実測図 15

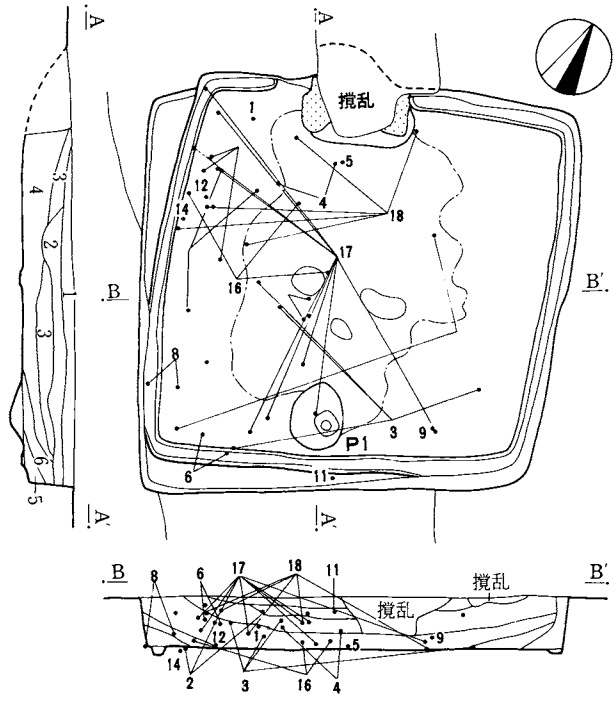



PL.338　歴史時代2群F鉄製品実測図　1

PL.339　歴史時代2群F出土鉄製品実測図　2・文字資料抜萃

D059　A・Bの2軒が重複している。規模・主軸方向はほぼ同じで、建て替えられる。規模は4.5×4.2mを測り、柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

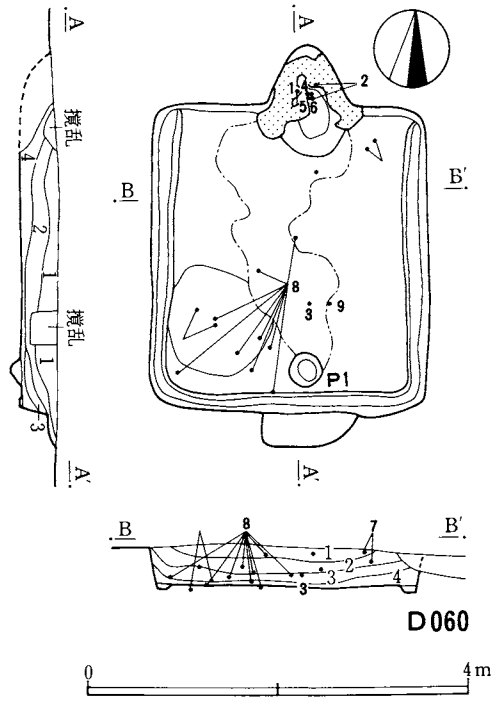
1　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
2　褐色土　ロームブロック・焼土を少し含む。
3　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒を含む。
4　黄褐色土　褐色土とロームの混合土。




D059

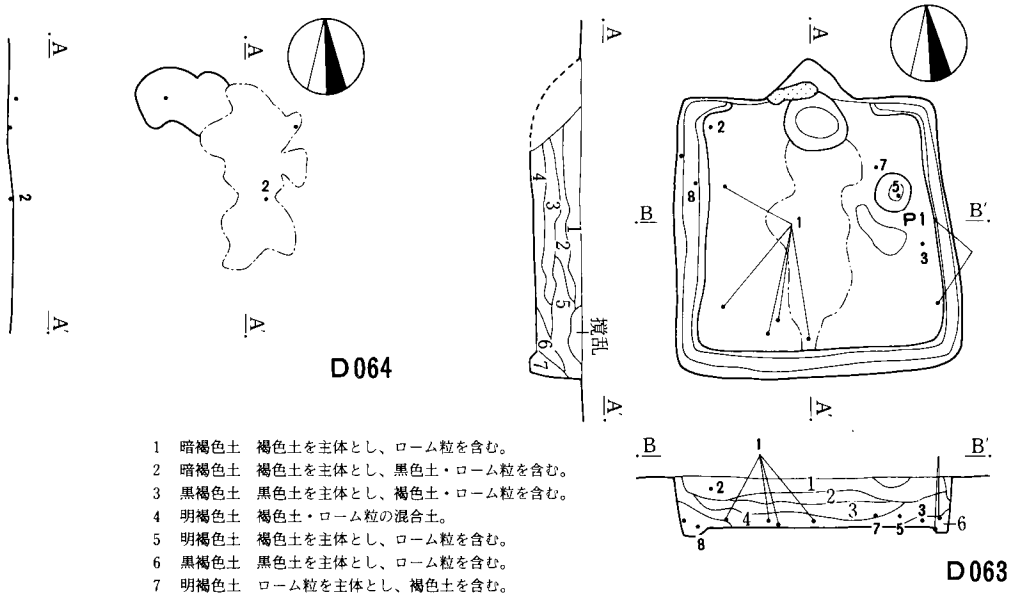
D060　H047の北側に位置する住居で、規模は3.2m×2.9mを測り、主軸方向はN－5°－Wを指す。柱穴はなく、南壁際中央に出入口ピットがあり、その部分の壁が僅かに張り出している。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　褐色土をブロック状に含み、焼土粒を含む。
2　明褐色土　ローム粒・ロームブロックを主体とする。
3　黒褐色土　ローム粒を含み、極くわずかに焼土粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒・少量の焼土粒・炭化粒を含む。
5　褐色土　ローム粒を含む。
6　暗褐色土　ローム粒を少量含む。



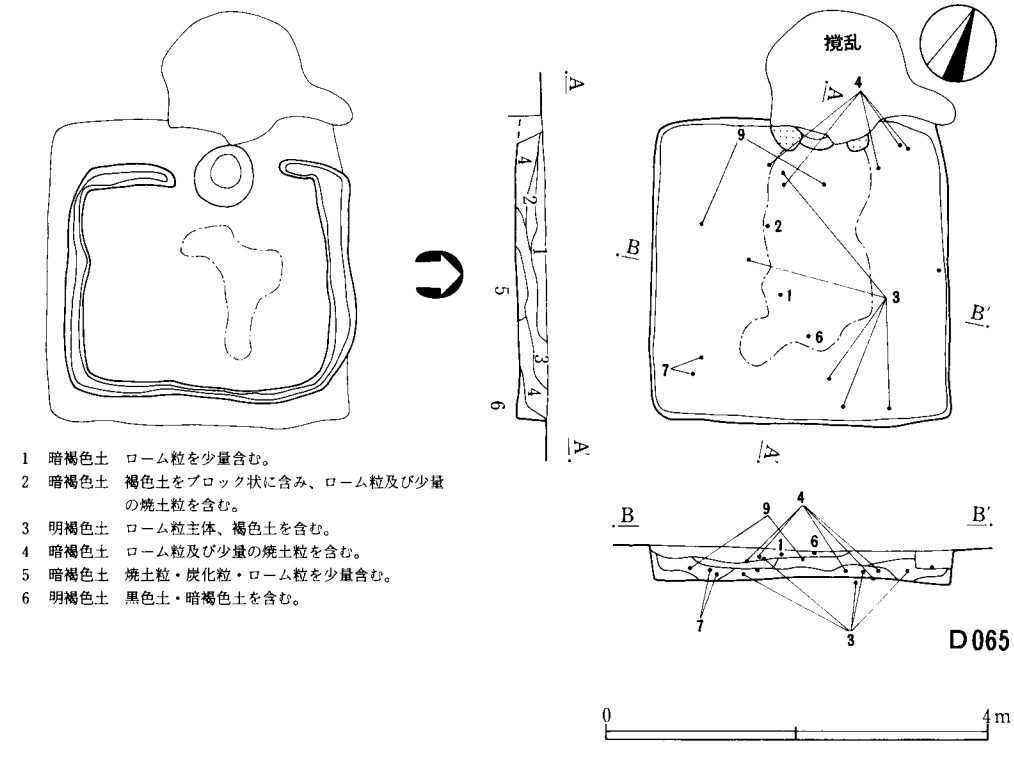

D060

PL.340　D059・D060実測図



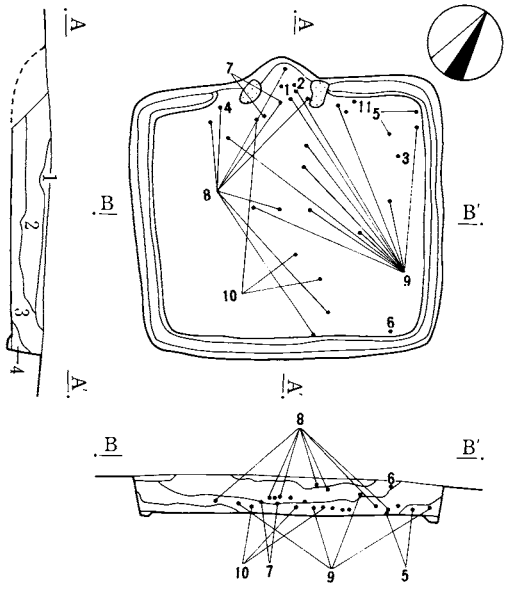

1　暗褐色土　褐色土を主体とし、ローム粒を含む。
2　暗褐色土　褐色土を主体とし、黒色土・ローム粒を含む。
3　黒褐色土　黒色土を主体とし、褐色土・ローム粒を含む。
4　明褐色土　褐色土・ローム粒の混合土。
5　明褐色土　褐色土を主体とし、ローム粒を含む。
6　黒褐色土　黒色土を主体とし、ローム粒を含む。
7　明褐色土　ローム粒を主体とし、褐色土を含む。

D063

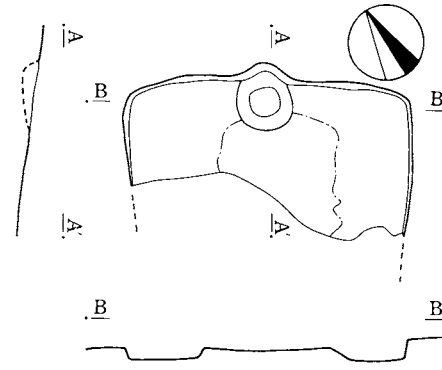



1　暗褐色土　ローム粒を少量含む。
2　暗褐色土　褐色土をブロック状に含み、ローム粒及び少量の焼土粒を含む。
3　明褐色土　ローム粒主体、褐色土を含む。
4　暗褐色土　ローム粒及び少量の焼土粒を含む。
5　暗褐色土　焼土粒・炭化粒・ローム粒を少量含む。
6　明褐色土　黒色土・暗褐色土を含む。

PL.341　D063・D064・D065実測図




D066

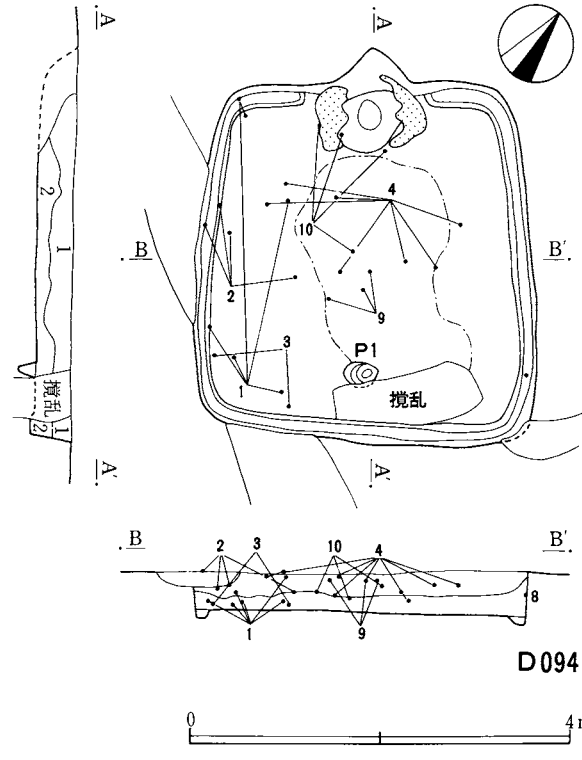



D071

1　暗褐色土　褐色土がブロック状に混入する。
2　黒色土　　わずかに褐色土が混入する。
3　黒褐色土　褐色土が混入し、部分的にローム粒を含む。
4　明褐色土　ローム粒主体、褐色土を含む。

D094　H024の東側に位置する住居で、規模は3.6m×3.5mを測り、主軸方向はN－39°－Wを指す。柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　褐色土　　焼土粒を全体に含む。
2　明褐色土　焼土粒を全体に含む。

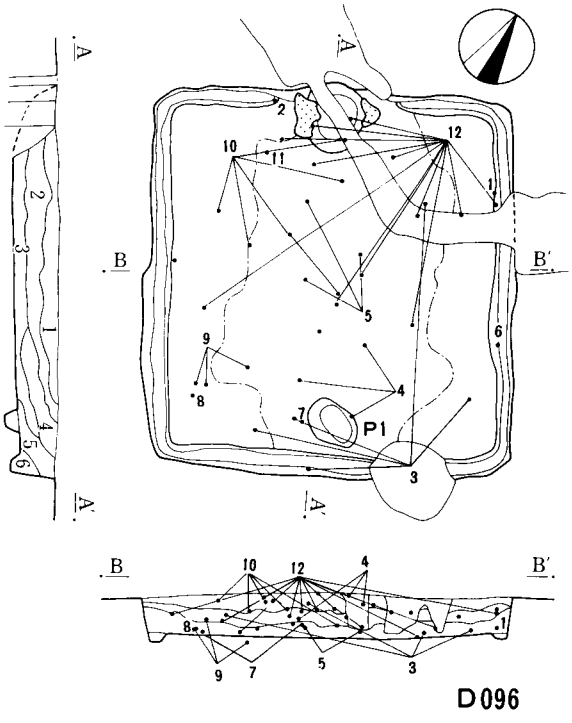



D094

PL.342　D066・D071・D094実測図

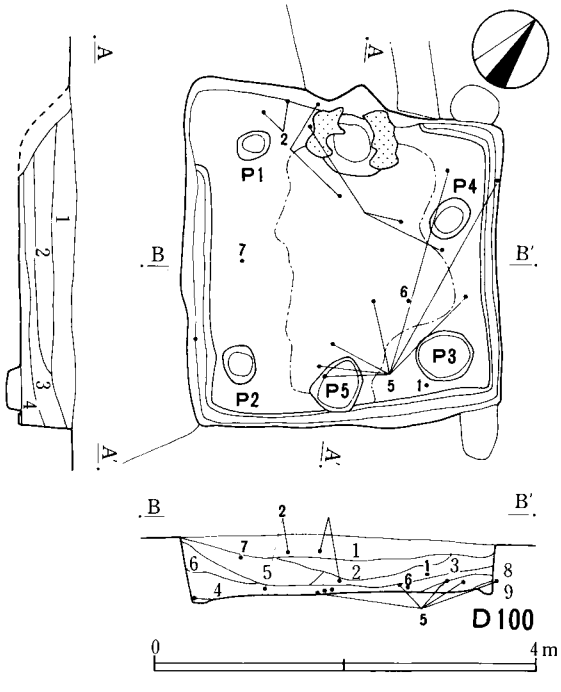
D096　H025と重複する住居で、D096が先行している。規模は3.9m×3.8mを測り、主軸方向はN－33°－Wを指す。柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面はＰ１からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　褐色土　焼土粒を含む。
2　黄褐色土　ローム粒を含む。
3　褐色土　ローム粒を含む。
4　黒褐色土　焼土粒を含む。
5　赤褐色土　焼土粒を含む。
6　褐色土　ロームを少し含む。




D100　柱穴はやや不正な位置に４箇所あり、直径はＰ３が最大0.6m、床面からの深さはいずれも0.2m前後と浅いものである。また、規模が大きいが、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面はＰ５からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

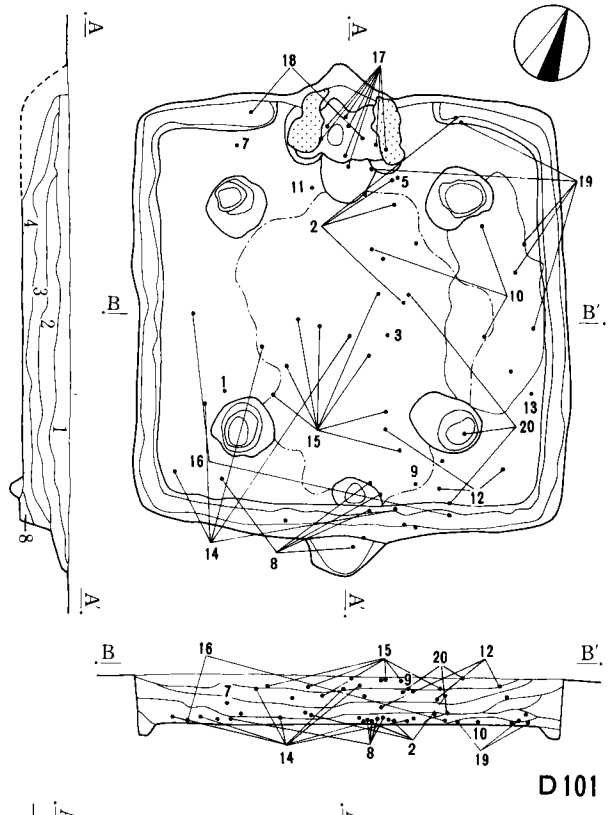
1　褐色土　ローム粒を含む。
2　黒褐色土　ローム粒を全体に含む。
3　明褐色土　ロームブロック・ローム粒を多く含む。
4　褐色土　ローム粒を少し含む。
5　褐色土　ロームブロックを含む。
6　黒褐色土　ローム粒を含む。
7　黄褐色土　ロームブロックを主体とし、黒色土を含む。
8　黄褐色土　ロームブロックを含む。
9　黒褐色土




PL.343　D096・D100実測図

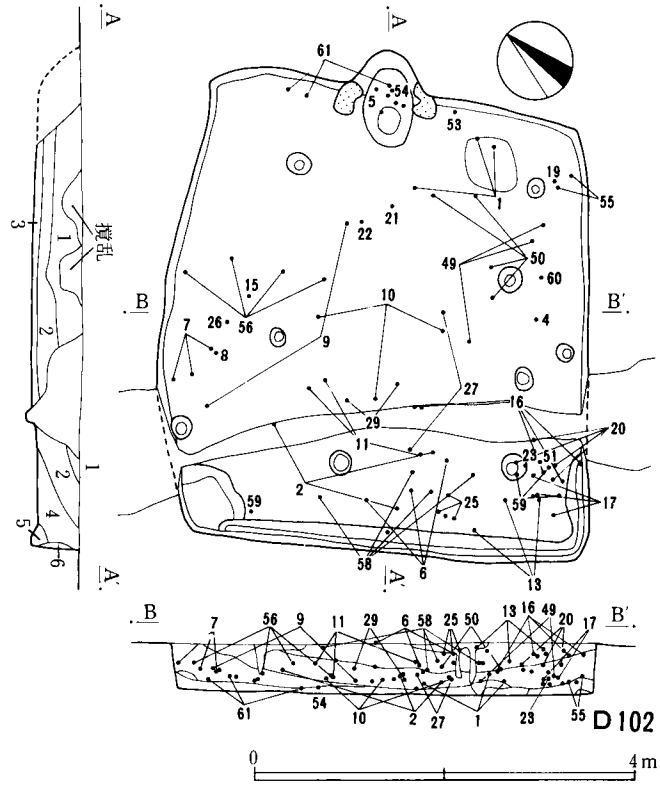
D101　柱穴は住居対角線上に4箇所あり、直径はいずれも0.6m前後、床面からの深さは0.8m前後である。また、南東壁際中央に出入口ピットがあり、その部分の壁が僅かに張り出している。

1　褐色土　ローム粒を全体に含む。
2　明褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
3　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
4　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。
5　黒色土　焼土・ローム粒を含む。
6　褐色土　ローム粒を含む。
7　赤褐色土　焼土が多く含まれる。ローム粒・ロームブロックを少し含む。
8　黄褐色土　ロームブロックの間に、黒色土が含まれる。
9　褐色土　ローム粒を含む。




D102　柱穴は明確ではないが、合計9箇所のピットがあり、直径はそれぞれ0.2m前後、床面からも0.2m前後の深さである。

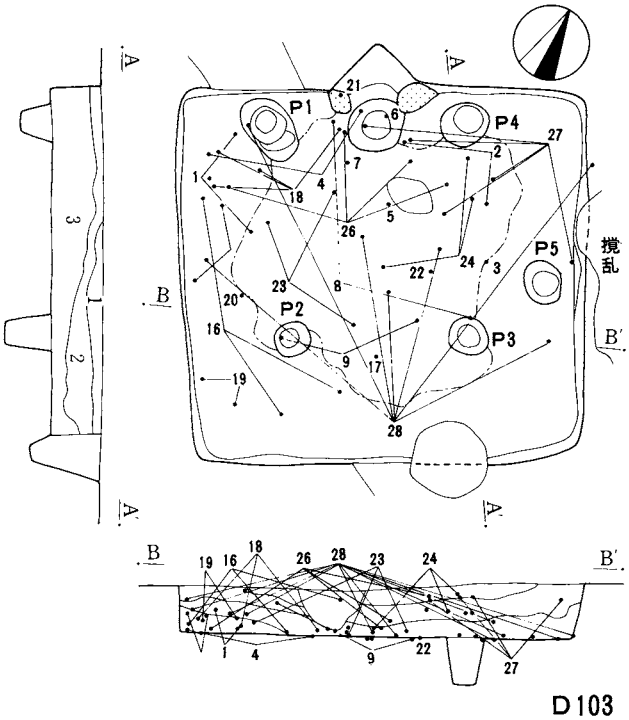
1　褐色土　ローム粒を含む。
2　褐色土　ローム粒・焼土粒を多く含む。
3　黄褐色土　ロームブロックを多く含む。
4　褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
5　黄褐色土　ソフトロームを主体とする。
6　黄色土　ロームブロックを主体とする。
7　黒褐色土　ローム粒を含む。
8　黒褐色土　ローム粒を多く含む。




PL.344　D101・D102実測図

D103　柱穴は4箇所あり、直径は0.4～0.5mで、床面からの深さはP1・P4が0.3m、P2・P3が0.5mを測る。カマドは北西壁中央に設置されるが、北東壁中央にもカマド痕跡がある。北東壁のカマド痕跡は火床部の掘込みと煙道部が僅かに張り出すだけで、本グループの他の住居跡の例からみても単に旧カマドとするには問題がある。

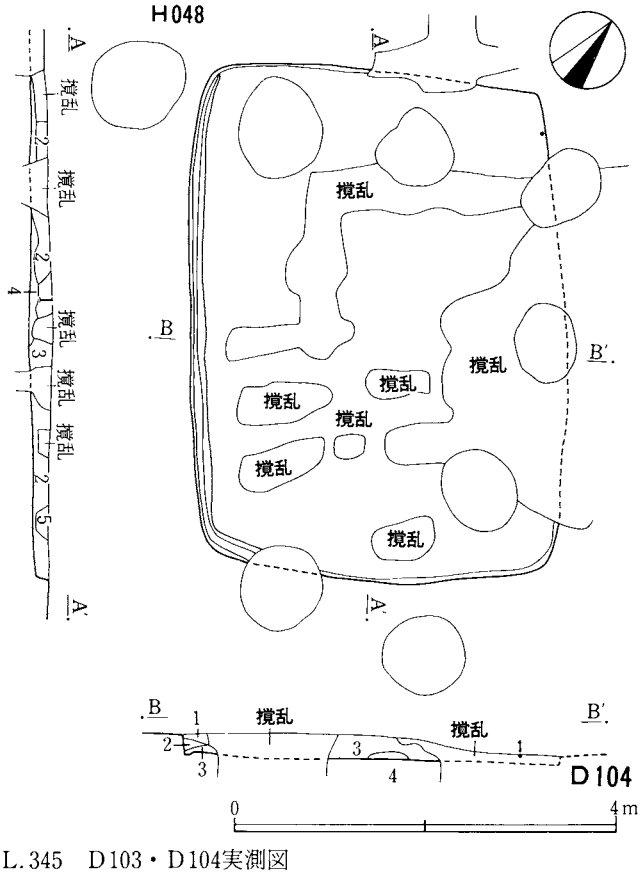
1　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
2　黒色土　ローム粒を若干含む。
3　褐色土　ローム粒を多く含む。
4　暗褐色土　ロームブロックを含む。




D103

D104　H148と重複する住居で、D104が先行している。規模は5.3m×3.9mを測り、主軸方向はN－40°－Wを指す。確認面からの深さは0.1mで、床面に達する撹乱を多く受けている。柱穴はなく、壁溝は南西壁に検出できた。カマドは検出できなかった。

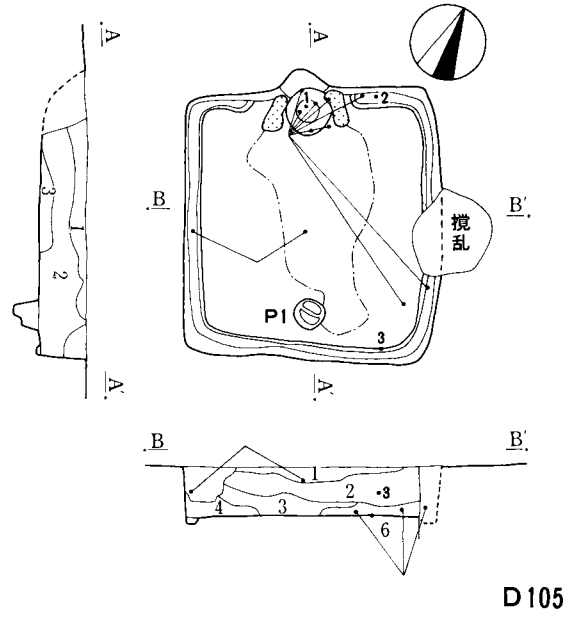
1　暗褐色土　褐色土を含む。
2　暗褐色土　褐色土を多量に含み、ローム粒・焼土粒をわずかに含む。
3　黒褐色土　褐色土をブロック状に含む。ローム粒を含む。
4　褐色土　ローム粒・焼土粒・山砂を含む。
5　褐色土　ローム粒を含む。




PL.345　D103・D104実測図

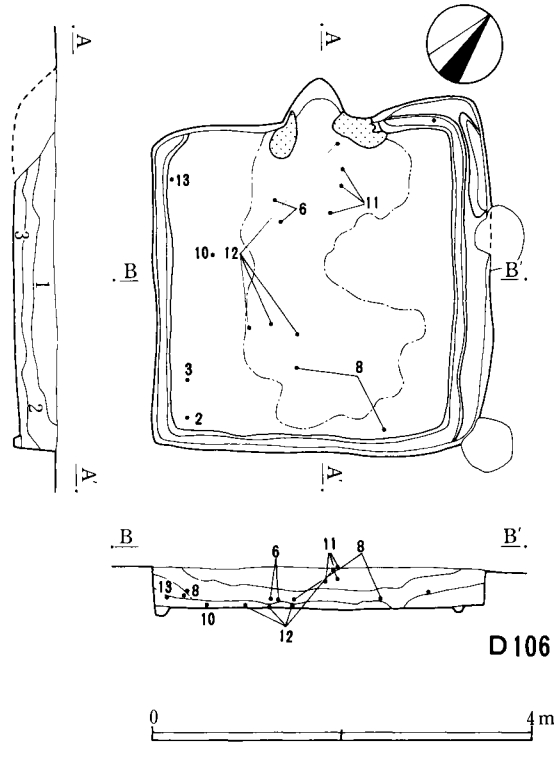
D105　D103に隣接する住居で、H058と重複している。規模は2.9m×2.7mを測り、主軸方向はN－25°－Wを指す。柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。床面はP1からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
2　褐色土　ローム粒・ロームブロック・褐色土の混合土、焼土粒を少量含む。
3　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
4　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
5　黒褐色土　ローム粒を少量含む。




D106　H043と重複する住居で、規模は3.5m×3.5mを測り、主軸方向はN－42°－Wを指す。柱穴はなく、床面は南東壁際からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

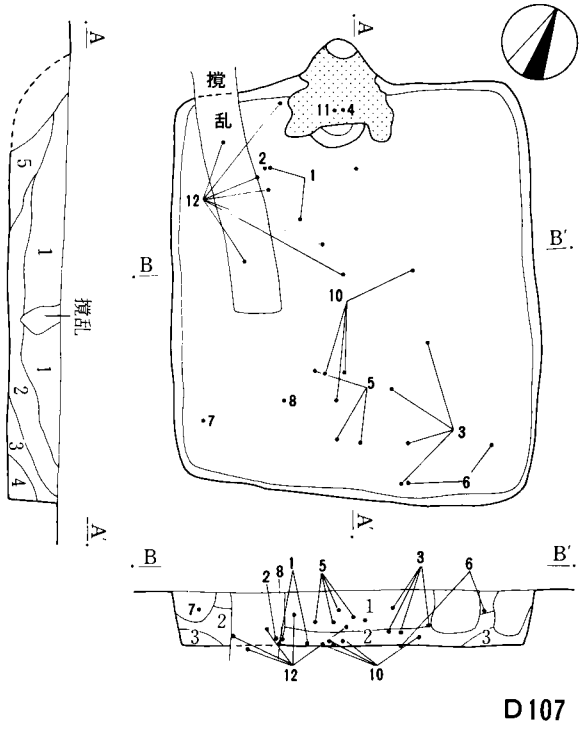
1　黒褐色土　ローム粒を少量含み、下部には褐色土を含む。
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物を含む。
3　褐色土　ローム粒・焼土粒を含む。
4　暗褐色土　ローム粒・焼土粒・炭化物を含む。




PL.346　D105・D106実測図

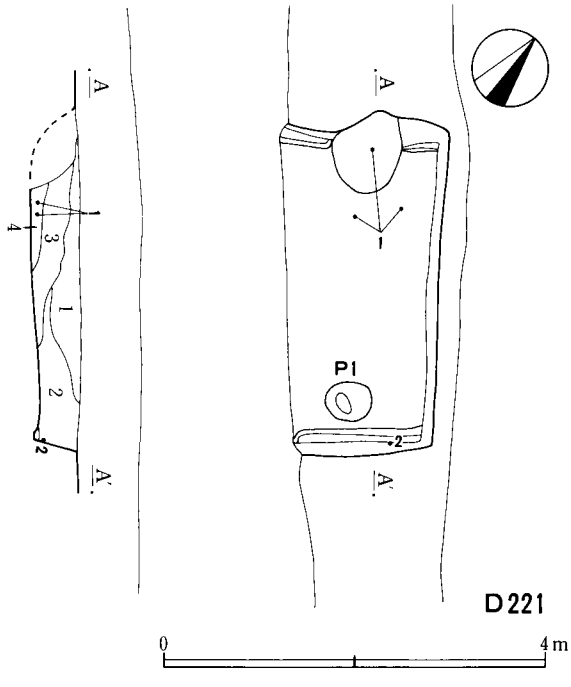
D107　H049の北側に位置する住居で、規模は4.2m×3.8mを測り、主軸方向はN－29°－Wを指す。柱穴・壁溝はなく、カマドは北西壁中央に設置されている。煙道部は壁外へ0.5m張り出している。

1　黒褐色土　褐色土をブロック状に含む。
2　暗褐色土　ローム粒を含み、わずかに焼土粒を含む。
3　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
4　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
5　褐色土　山砂・焼土含む。




D221　D101の東側に位置する住居で、西側を溝状遺構に破壊されている。北東壁長は3.4mを測り、主軸方向はN－35°－Wを指す。柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。マドは北西壁に設置され、僅かに袖材が残されている。煙道部は壁外へ0.2m張り出している。

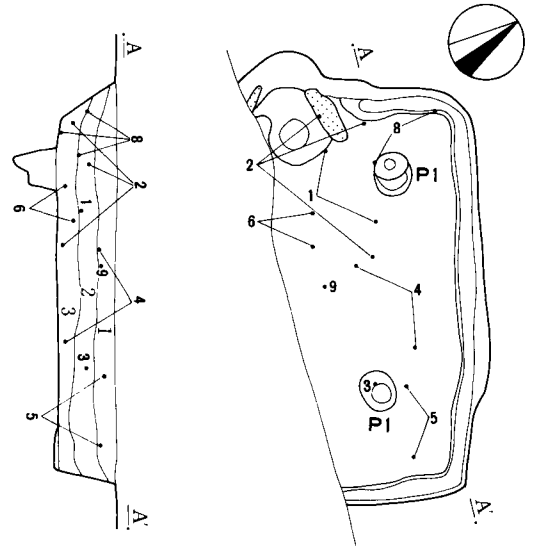
1　黒褐色土　ローム粒をわずかに含む。
2　暗褐色土　焼土粒をわずかに含む。
3　暗褐色土　ローム粒を少し含む。
4　暗黄褐色土　白色粘土を少し含む。

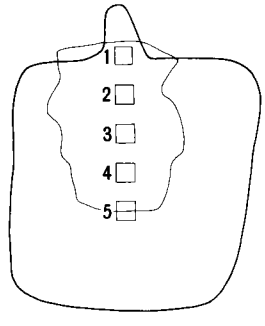



PL.347　D107・D221実測図

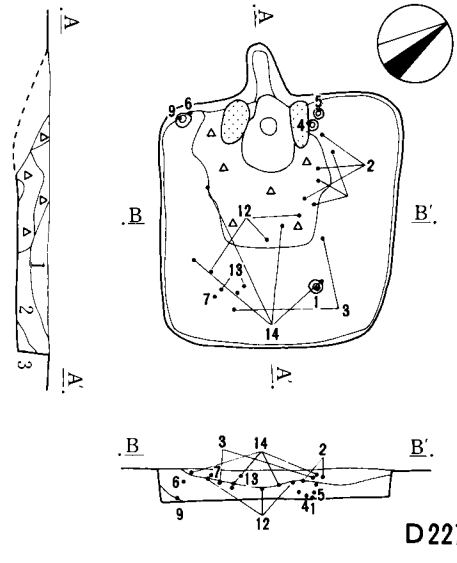
D226　南西側は道路により削平され、北東壁長は4.3mを測り、主軸方向はN－57°－Wを指す。柱穴は現存部分に2箇所あり、本来は住居対角線上に4箇所あったものと考えられる。直径はいずれも0.4m前後で、P1は2段に掘り込まれている。床面からの深さは0.5mを測る。

1　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒をやや多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックやや多く含む。



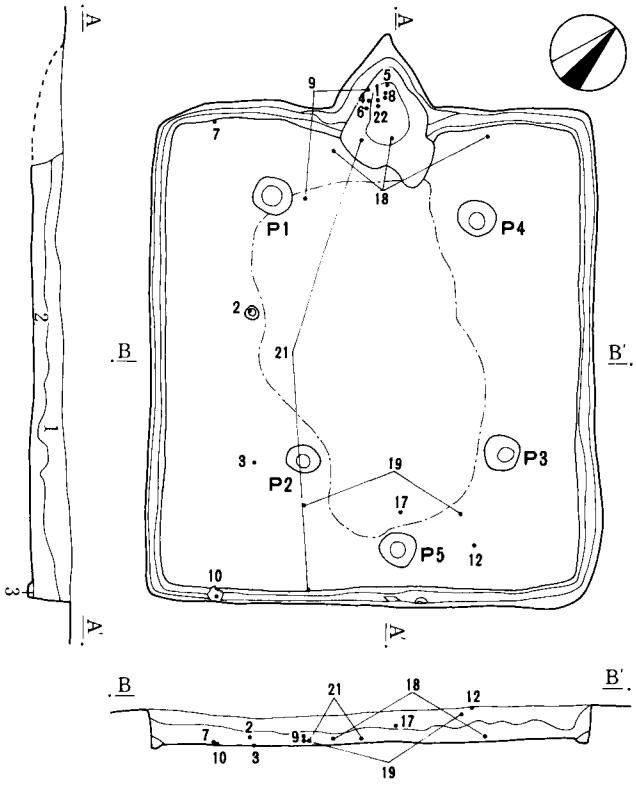

1　暗褐色土　ローム粒を多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒・焼土粒を少し含む
3　褐色土　ローム粒を多く含む。

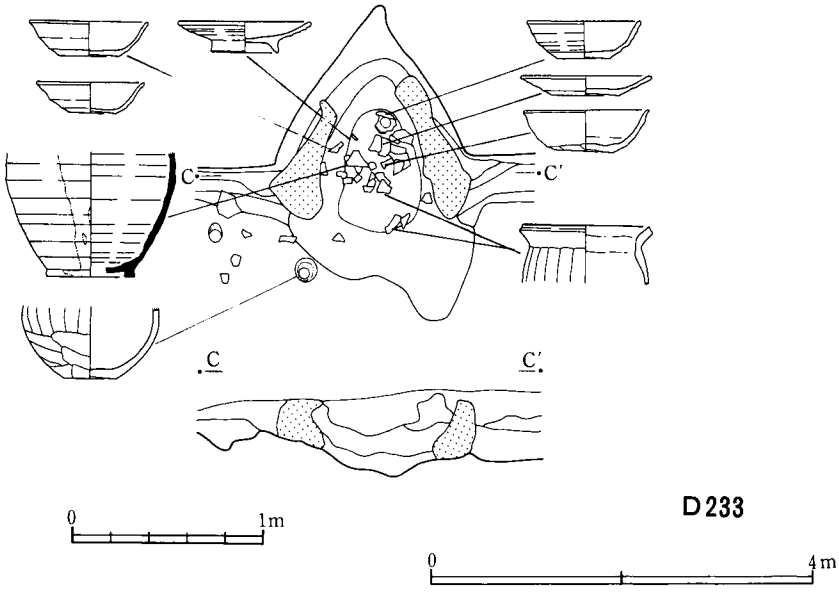


PL.348　D226・D227実測図

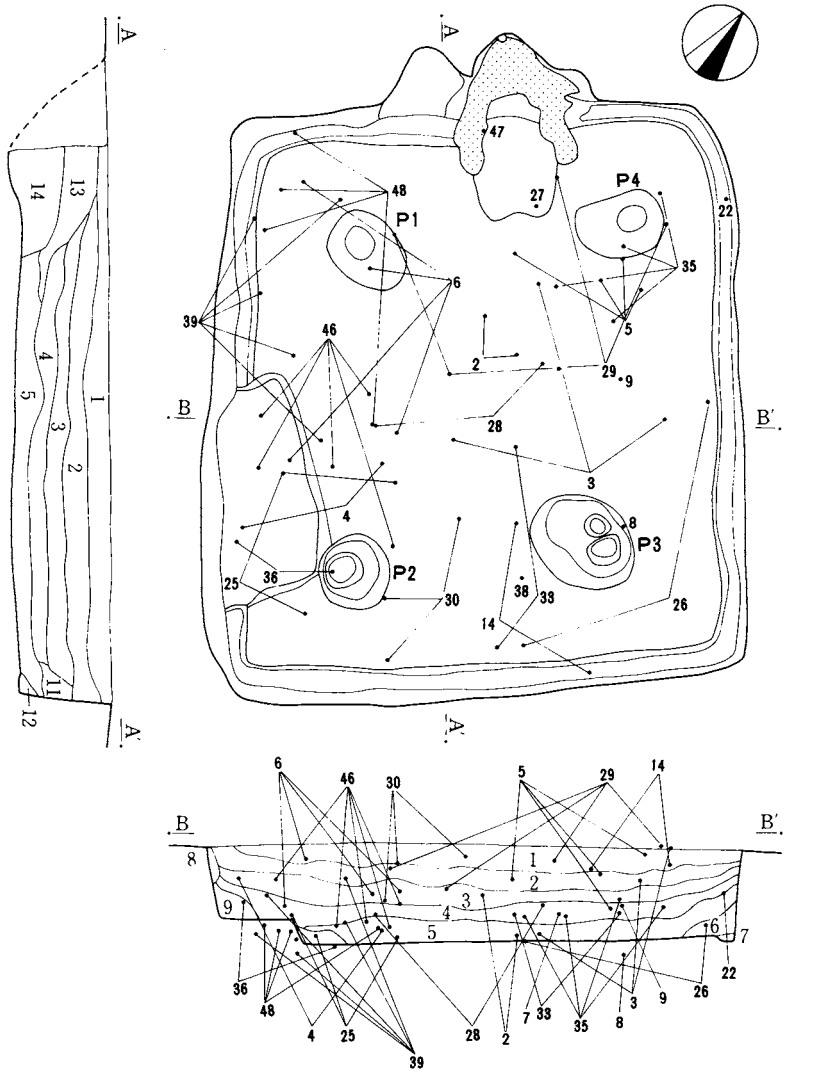
D233　H125と重複する住居で、規模は5.3m×4.6mを測り、主軸方向はN－46°－Wを指す。柱穴は住居対角線上に4箇所あり、直径はいずれも0.4mで、床面からの深さも0.3mである。また、南東壁中央に出入口ピットがある。床面は主柱穴に囲まれた範囲に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ロームブロック粒を少し含む。
2　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒を多く含む。
3　褐色土




PL.349　D233実測図

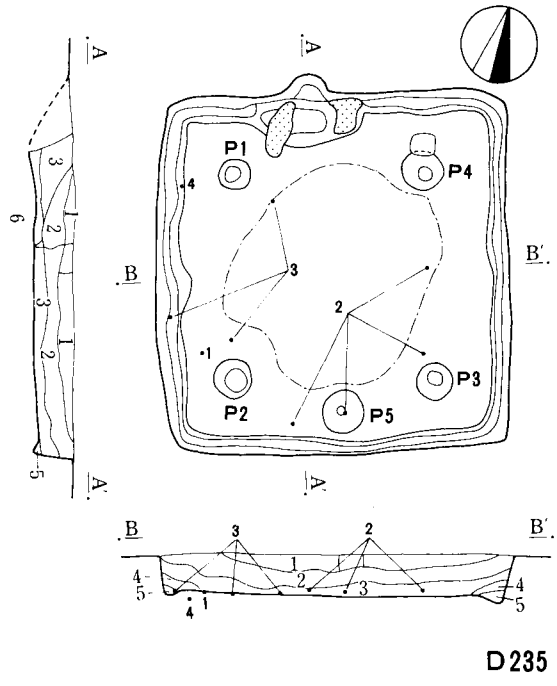



1　黒褐色土　ローム粒・ロームブロックを少し含む。
2　黒褐色土　焼土粒・木炭粒をやや多く含む。
3　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。
4　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを多く含む。
5　暗褐色土　ロームブロックを多く含む。
6　暗褐色土
7　褐色土
8　褐色土　黄褐色粘土をブロック状に含む。
9　暗褐色土　ローム粒を少し含む。
10　明褐色土　ロームブロックを主体とする。
11　褐色土　ロームブロックを多く含む。
12　褐色土
13　暗褐色土　白色砂質粘土をブロック状に含む。
14　暗褐色土　ローム粒・粘土粒を少し含む。

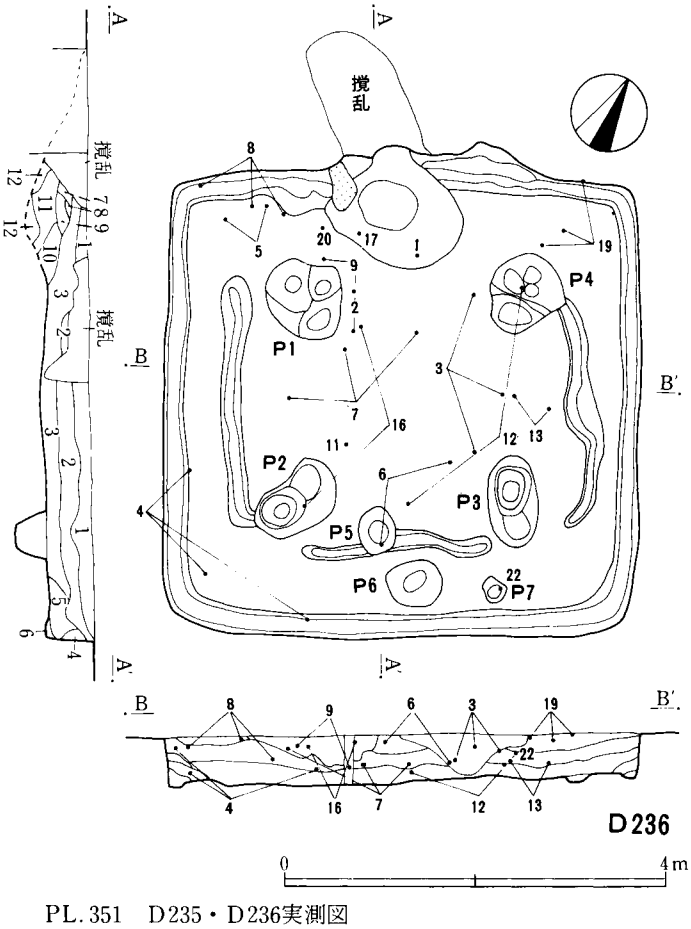
D234

0　4m

PL.350　D234実測図




1　暗褐色土　焼土粒・ローム粒を少し含む。
2　黒褐色土　焼土粒・ローム粒を少し含む。
3　暗褐色土　焼土粒・ローム粒を少し含む。
4　暗褐色土　ロームブロック・焼土粒をやや多く含む。
5　褐色土　ロームブロックを多く含む。
6　灰褐色砂質粘土

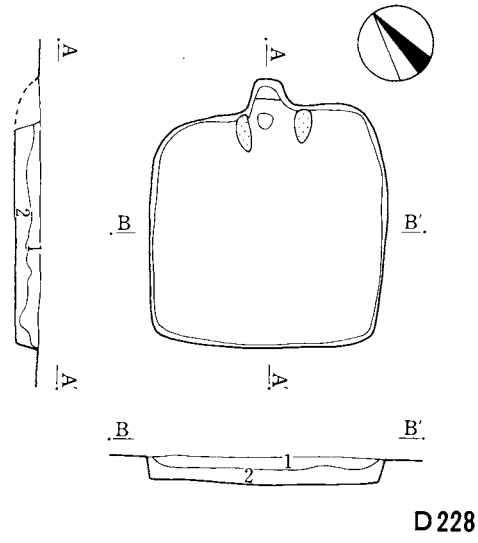



1　暗褐色土　焼土粒・ロームブロックを少し含む。
2　暗赤褐色土　焼土・炭を多く含む。
3　暗褐色土　焼土・炭・ロームブロック・ローム粒を多く含む。
4　褐色土
5　暗褐色土　ローム粒を少し含む。
6　褐色土　焼土・炭化粒を多く含む。
7　黒褐色土　焼土・灰褐色砂質粘土を含む。
8　灰褐色砂質粘土　焼土を多く含む。
9　灰褐色砂質粘土　焼土粒を少し含む。
10　暗褐色土　焼土・ロームブロックを少し含む。
11　灰褐色砂質粘土
12　暗褐色土　ローム粒・焼土・ロームブロックを多く含む。

PL.351　D235・D236実測図

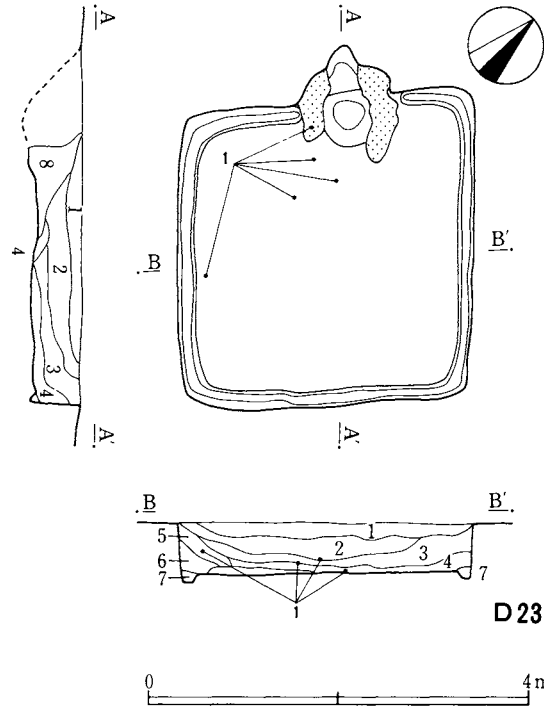
D228　弥生時代の竪穴住居跡D229と重複する住居で、規模は2.6m×2.5mを測り、主軸方向はN－37°－Eを指す。柱穴・壁溝はなく、カマドは北東壁中央に設置される。袖材は僅かに残され、煙道部は壁外へ0.3m張り出している。

1　暗褐色土　ローム粒を少し含む。
2　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。




D237　H124に隣接する住居で、規模は3.2m×3.1mを測り、主軸方向はN－45°－Wを指す。柱穴・出入口ピットはなく、壁溝は全周する。カマドは北西壁中央に設置され、煙道部の奥まで袖材を貼込んでいる。

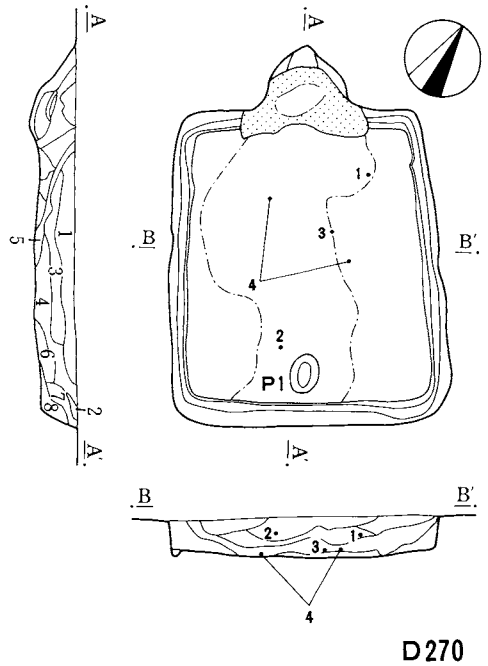
1　暗褐色土　ロームブロックをやや多く含む。
2　黒褐色土　ロームブロックを少量含む。
3　暗褐色土　ロームブロックをやや多く含む、ローム粒子・褐色土粒を多く含む。
4　暗褐色土　ロームブロックをやや多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックをやや多く含む。
6　暗褐色土　ローム粒を少し含む。
7　暗褐色土　褐色土を多く含む。
8　黒褐色土　灰・焼土粒・黄白色粘土ブロックを多く含む。




PL.352　D228・D237実測図

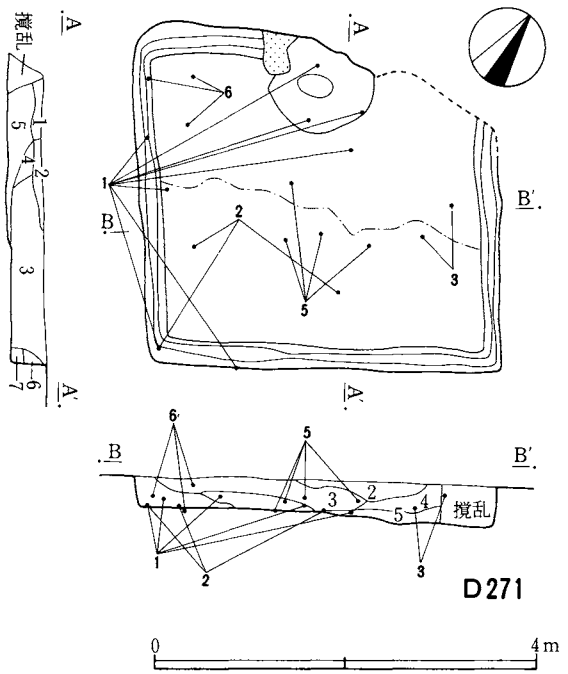
D270　D271の西側に位置する住居で、規模は3.2m×2.9mを測り、主軸方向はN－33°－Wを指す。柱穴はなく、南東壁際中央に出入口ピットがある。壁溝は全周し、床面はＰ１からカマド前面にかけて帯状に硬化面が遺存している。

1　黒褐色土　ローム粒少し混入。
2　黒色土
3　暗褐色土　ローム粒多く混入。
4　暗褐色土　ローム粒少し含む。
5　暗褐色土　焼土粒多く混入。
6　褐色土　カマド構築材多く混入。
7　褐色土　カマド構築材混入。
8　暗褐色土　ローム粒多く混入。

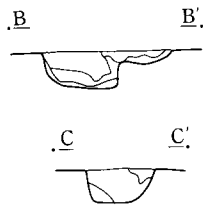


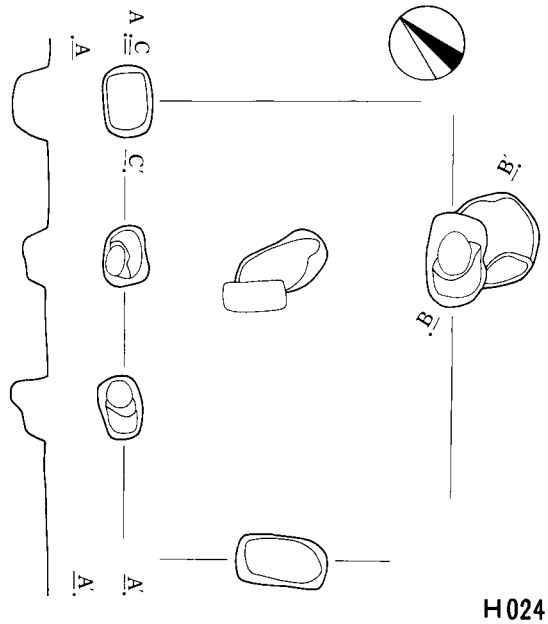

D271　D270の東側に位置する住居で、規模は3.8m×3.4mを測り、主軸方向はN－40°－Wを指す。柱穴はなく、壁溝が全周する。床面は南東壁に沿って幅1.2mの硬化面が遺存している。カマドは北西壁中央に設置され、袖材が僅かに残されている。

1　暗褐色土　ローム粒・砂粒多く含む。
2　暗褐色土　ローム粒多く混入、焼土粒少し含む。
3　暗褐色土　ローム粒少し混入、褐色土をブロック状に含む。
4　暗褐色土　ローム粒・炭化粒・多く含む。
5　暗褐色土　ローム粒・焼土粒多く含む。
6　暗褐色土　ソフトローム少し含む。
7　暗褐色土　焼土粒多く含む。

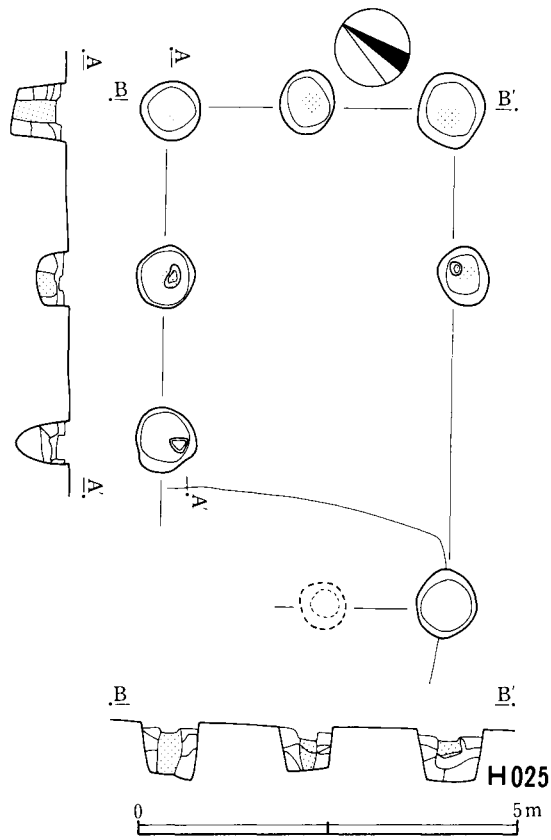



PL.353　D270・D271実測図




H024　D094の南側に位置する建物で、欠如する柱穴が多いが、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－45°－Eを指し、桁行長5.9m、梁行長4.2mを測る。柱間寸法は2.0mで、堀方は直径0.8～1.0mの楕円形を呈している。確認面からの深さは0.3～0.5mで、埋土はローム粒を多く含んでいる。



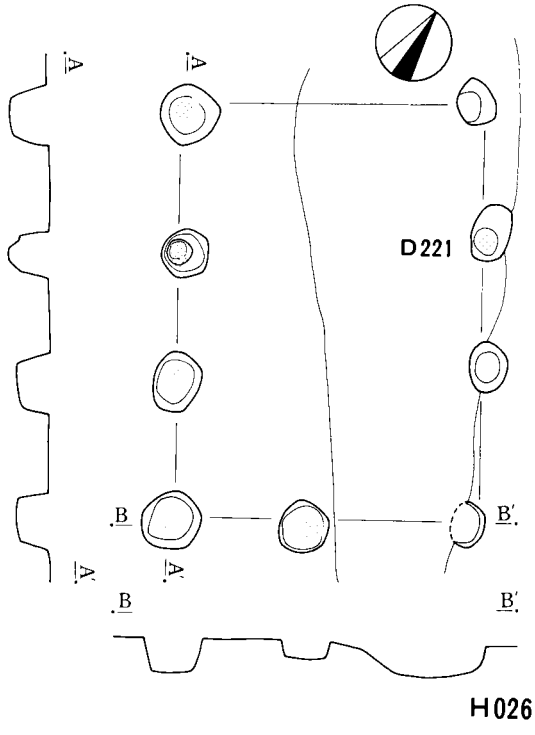

H025　D096と重複する建物で、3間×2間の側柱構造と考えられる。長軸方向はN－51°－Eを指し、桁行長6.4m、梁行長3.8mを測る。柱間寸法は1.8mで、堀方は直径0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.4～0.7mで、埋土はローム粒・ロームブロックを多く含んでいる。

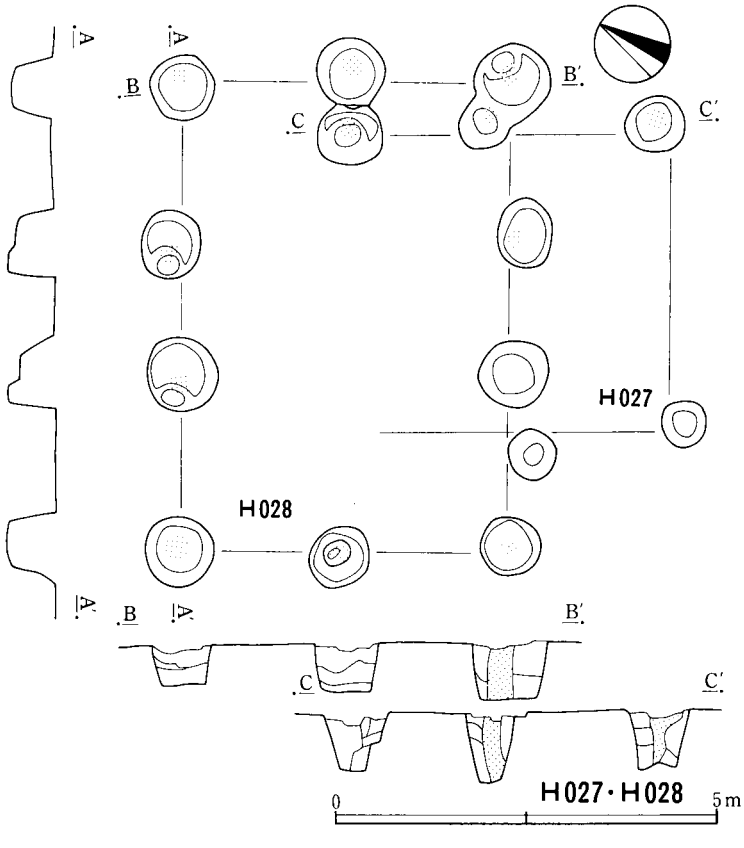
PL.354　H024・H025実測図

H026　D101の南西に位置する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－36°－Wを指し、桁行長5.4m、梁行長4.0mを測る。柱間寸法は1.8～2.0mで、堀方は直径0.6～0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.4～0.6mで、埋土はローム粒を主体とする。

H027　H028と重複する建物で、H028と軸方向を揃えている。柱穴は5箇所が確認でき、桁行2間以上、桁行長4.1m以上の側柱構造である。長軸方向はN－35°－Wを指し、堀方は直径0.6～0.8mの円形を呈している。

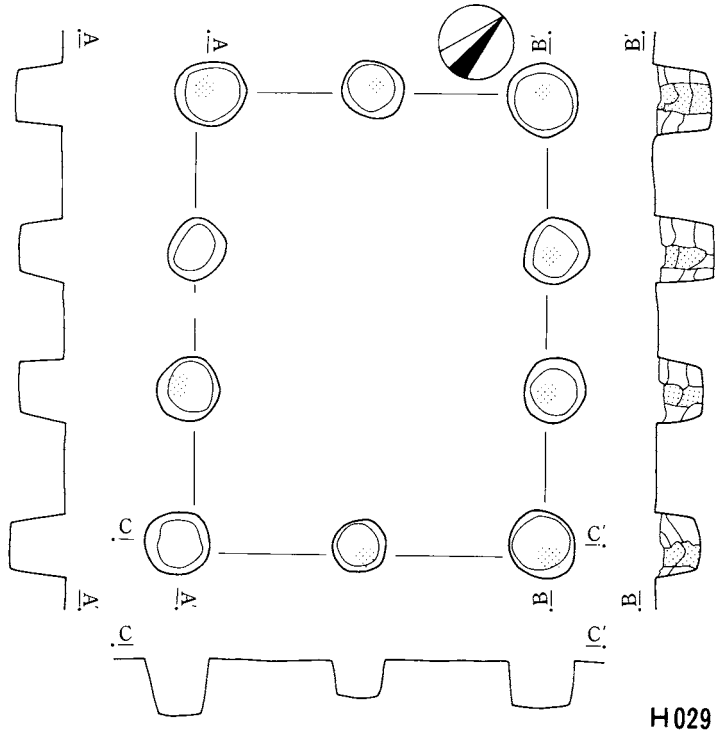
H028　H027と重複する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－32°－Wを指し、桁行長6.0m、梁行長4.5mを測る。柱間寸法は1.6～2.4mで、堀方は直径0.8mの円形を呈している。



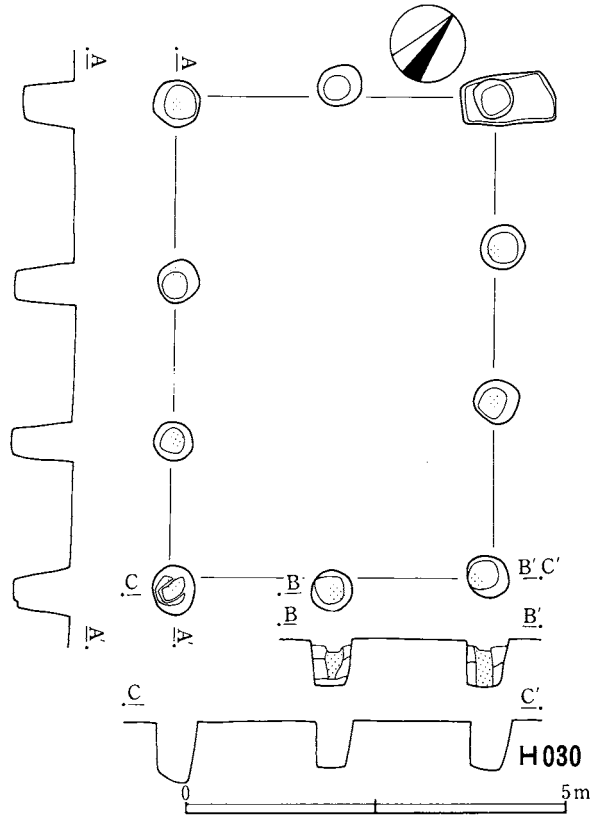




PL.355　H026・H027・H028実測図

H029　H028の北西に位置する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－47°－Wを指し、桁行長6.0m、梁行長4.7mを測る。柱間寸法は1.8～2.1mで、堀方は直径0.6～0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.6～0.8mで、埋土はロームブロックを多く含んでいる。

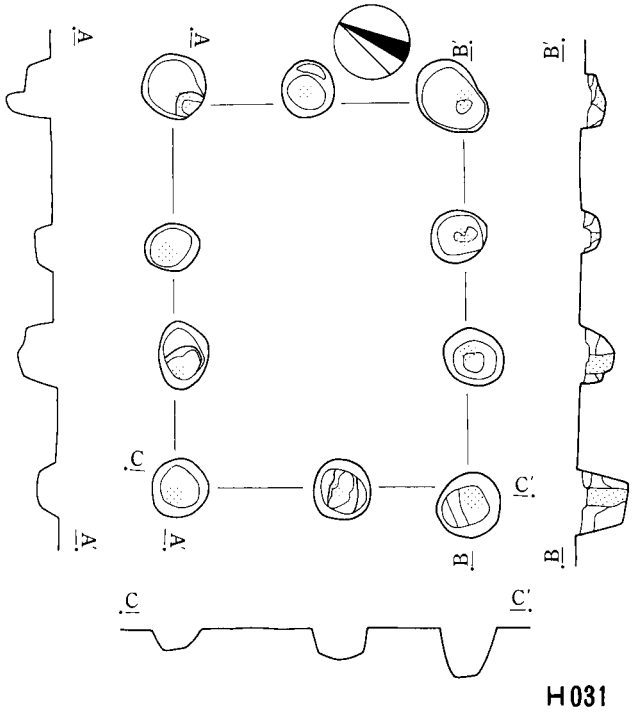



H030　H029の北西に柱筋を揃えて位置する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－40°－Wを指し、桁行長6.2m、梁行長4.2mを測る。柱間寸法は2.1～2.4mで、堀方は直径0.6mの円形を呈している。確認面からの深さは0.6～0.8mで、埋土はローム粒を主体とする。

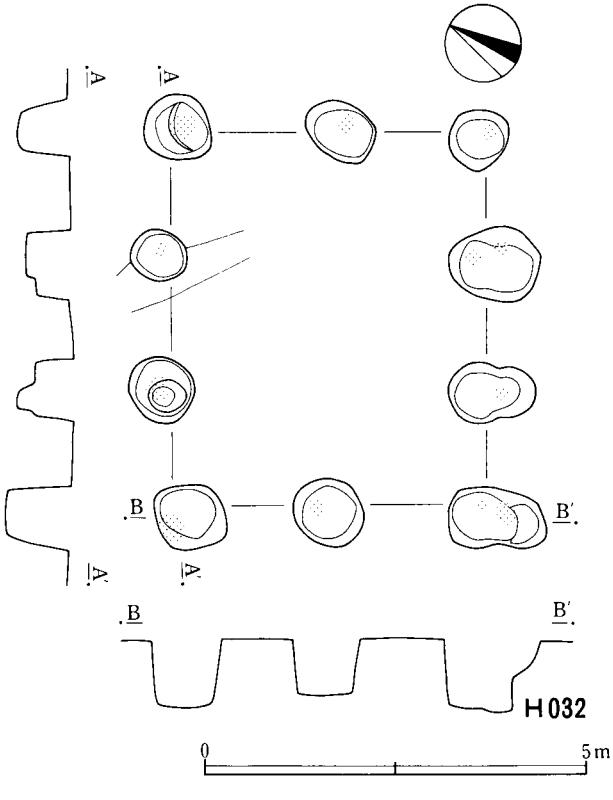



PL.356　H029・H030実測図

H031　H048の南側に位置する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－56°－Eを指し桁行長5.0m、梁行長4.8mを測る。柱間寸法は1.6～2.0mで、堀方直径0.7～0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.3～0.6mで、埋土はローム粒・ロームブロックを含んでいる。




H032　H043の南東に隣接する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－61°－Eを指し、桁行長4.8m、梁行長4.1mを測る。柱間寸法は1.5～2.1mで、堀方は直径0.7～1.0mの円形を呈している。確認面からの深さは0.6～0.9mで、埋土はローム粒・ロームブロックを多く含んでいる。

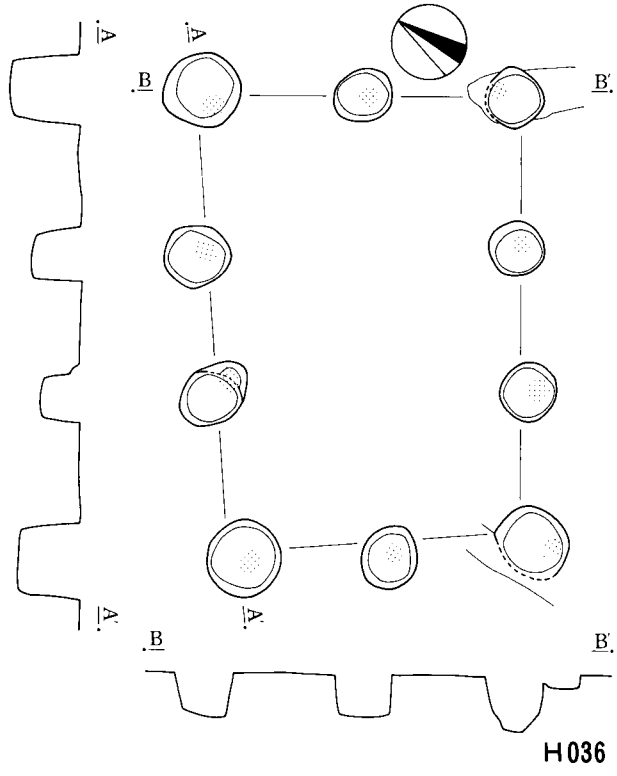


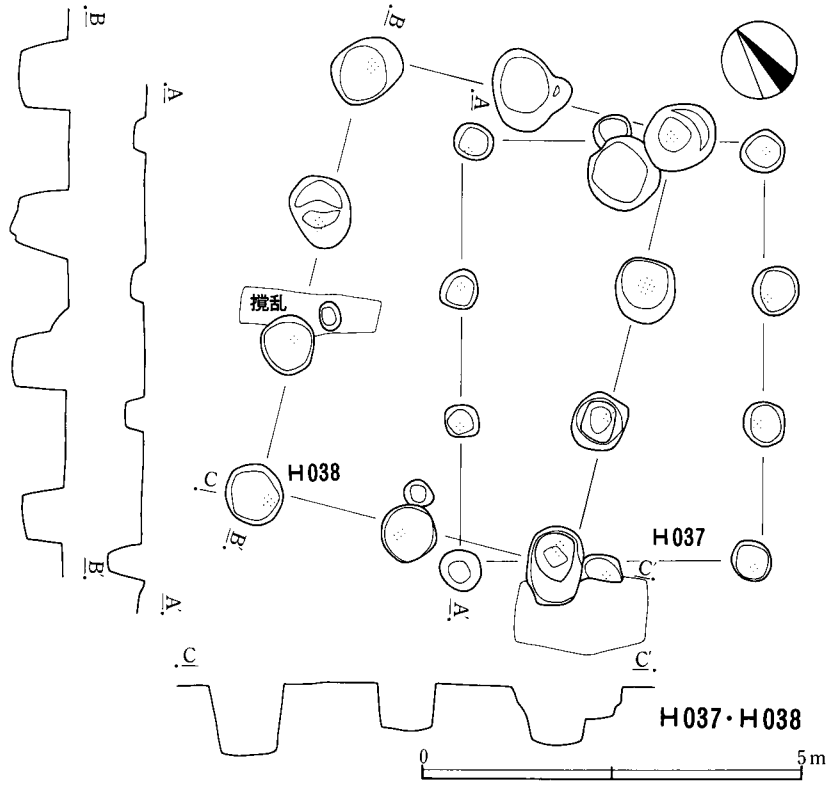

PL.357　H031・H032実測図

H036　H039の南東に隣接する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－51°－Eを指し、桁行長5.8m、梁行長4.2mを測る。柱間寸法は2.0mで、堀方は直径0.7～1.0mの円形を呈している。

H037　H038と重複する建物で、H038が先行する。建物は3間×2間の側柱構造で、長軸方向はN－32°－Eを指し、桁行長4.9m、梁行長4.0mを測る。柱間寸法は1.8～2.0mで、堀方は直径0.6mの円形を呈している。

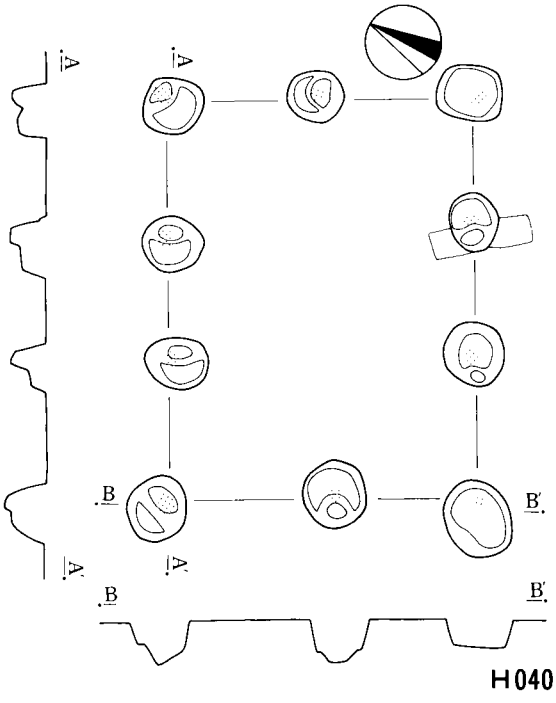
H038　H037と重複する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－48°－Eを指し、桁行長5.8m、梁行長4.2mを測る。柱間寸法は1.8～2.1mで、堀方は直径0.8mの円形を呈している。



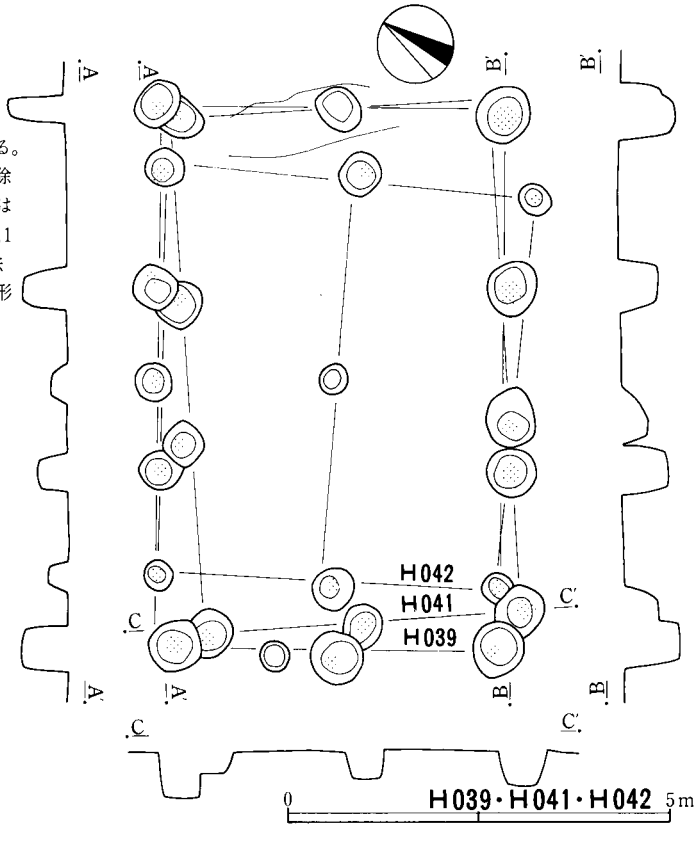




PL.358　H036・H037・H038実測図

H040　H039の北西に位置する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－60°－Eを指し、桁行長5.2m、梁行長4.0mを測る。柱間寸法は1.8～2.0mで、堀方は直径0.7～0.8mの円形を呈し、2段に掘り込まれている。確認面からの深さは0.4～0.6mで、埋土は全体にローム粒を含んでいる。




H039・H041・H042と2回の建て替えがある。H041→H039→H042となる。建物はH042を除いて3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－49°－EからN－55°－Eを指し、桁行長5.1～7.0m，梁行長4.3～4.8mを測る。柱間寸法は2.0～2.4mで、堀方は直径0.4～0.7mの円形を呈している。

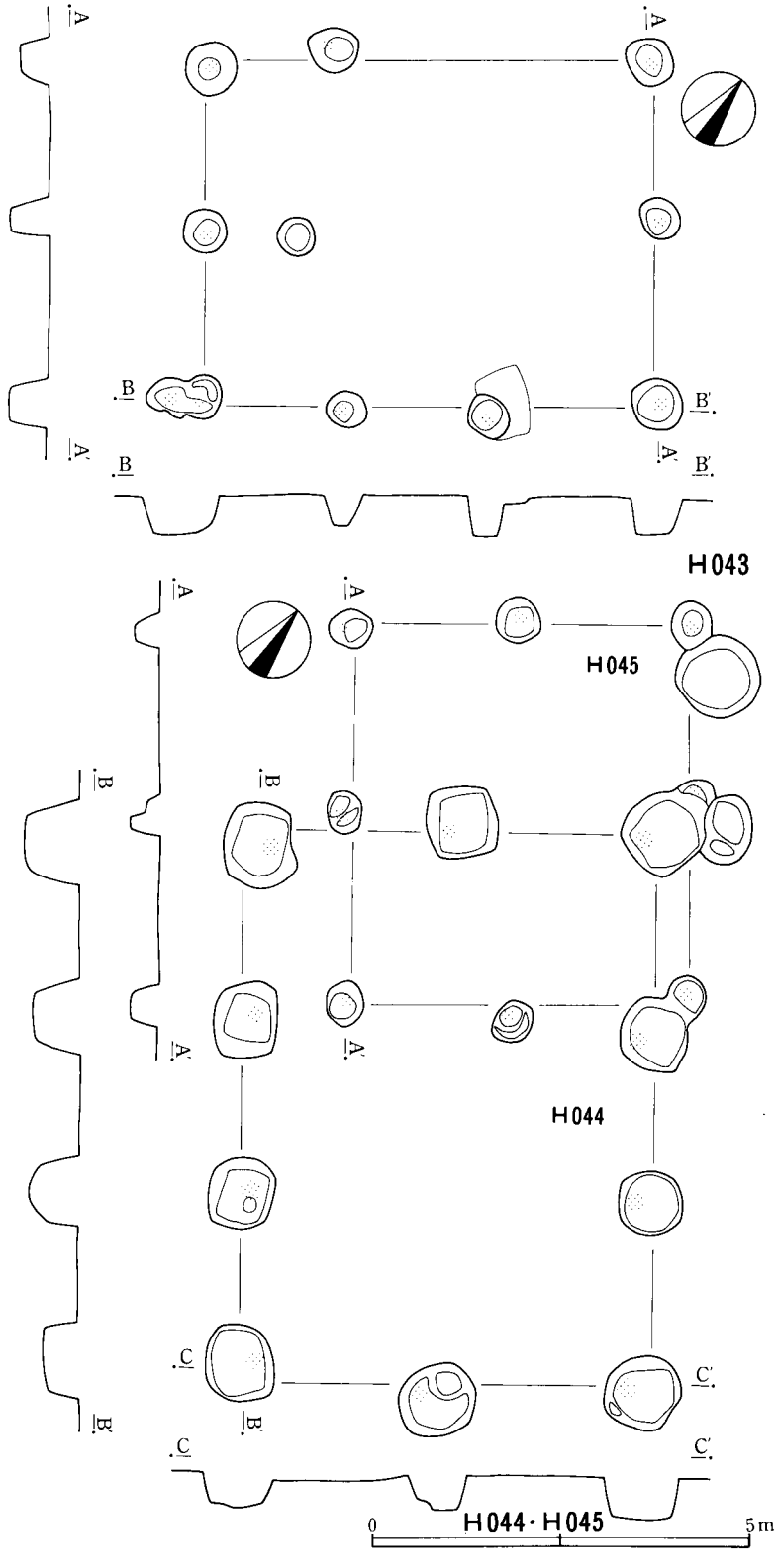



PL.359　H039・H040・H041・H042実測図

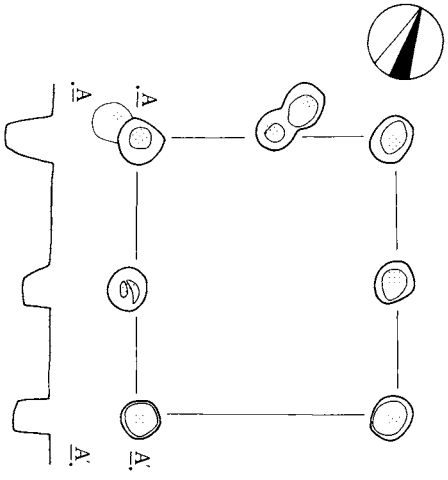
H043　D106と重複する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－54°－Eを指し、桁行長6.0m、梁行長4.6mを測る。柱間寸法は2.1mで、堀方は直径0.6mの円形を呈している。

H044　H045と重複する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－40°－Wを指し、桁行長7.2m、梁行長5.5mを測る。柱間寸法は2.2～2.8mで、堀方は直径0.8～1.0mの略方形を呈している。

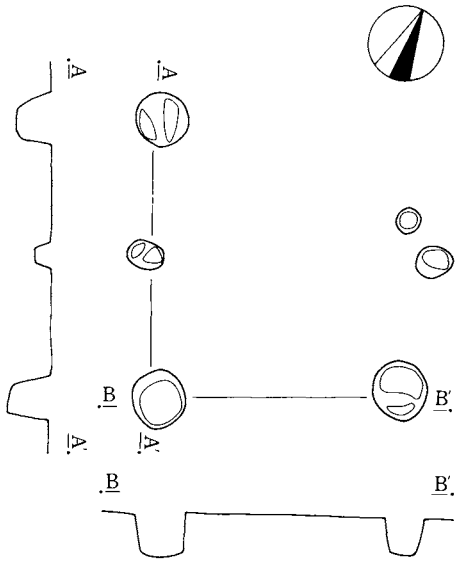
H045　H044と重複する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－40°－Wを指し、桁行長4.9m、梁行長4.5mを測る。柱間寸法は2.2～2.5mで、堀方は直径0.6mの円形を呈している。




PL.360　H043・H044・H045実測図

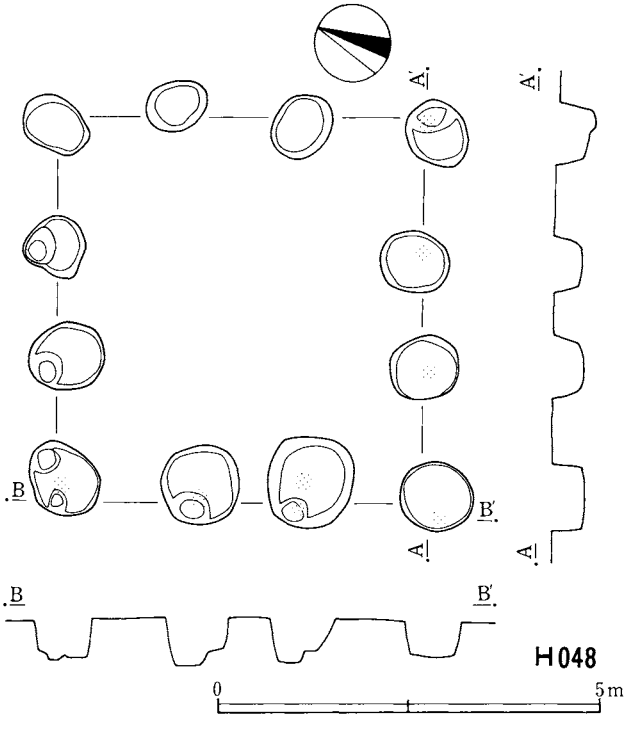



H046



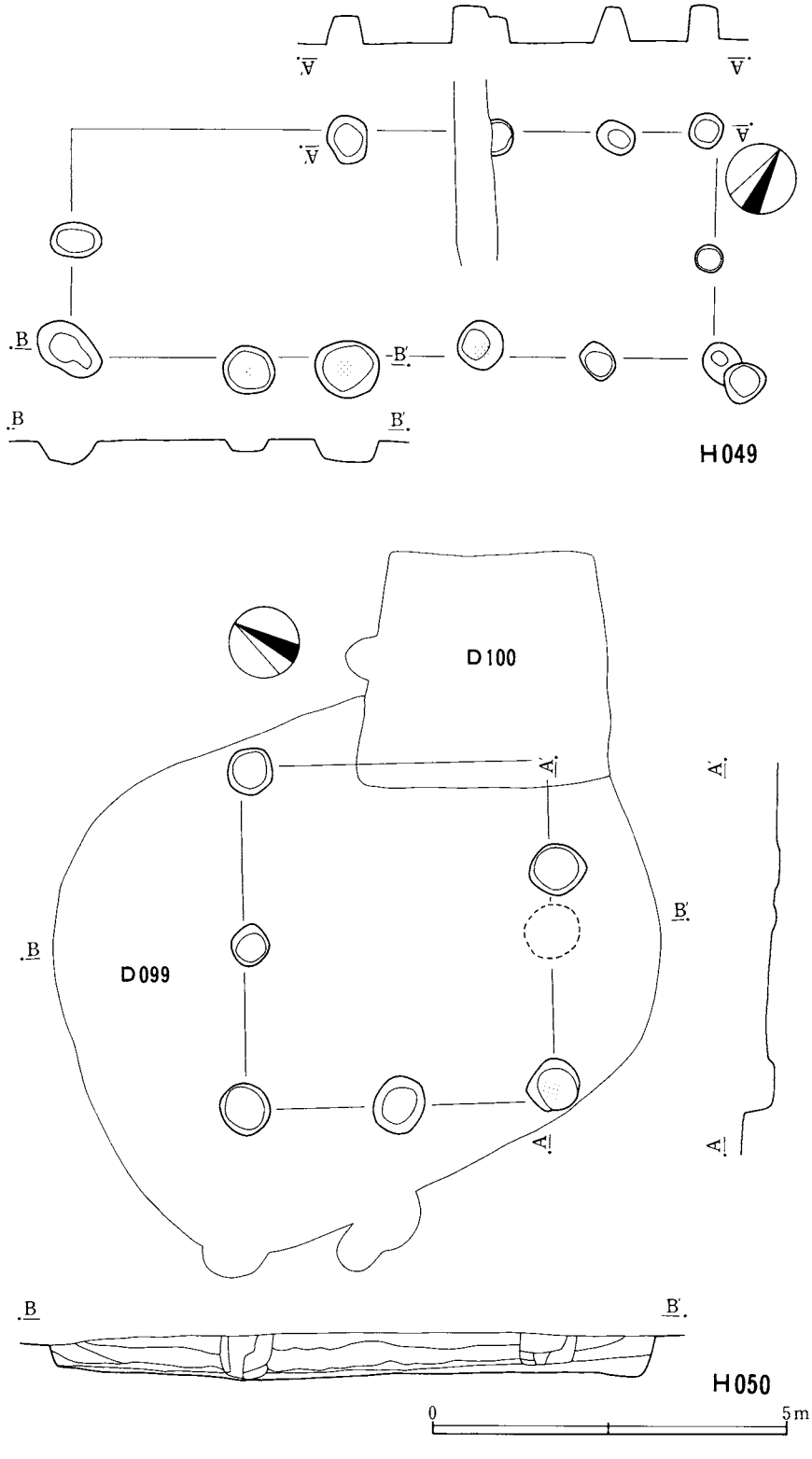

H047

H048　D104と重複する建物で、3間×3間の側柱構造である。軸方向はN－24°－Wを指し、桁行長4.8m、梁行長4.8mの正方形である。柱間寸法は1.5mで、堀方は直径0.8～1.0mの円形を呈している。確認面からの深さは0.4～0.6mで、北西隅を中心として6箇所の堀方が2段に掘込まれている。埋土は砂質土・ローム粒を多く含んでいる。



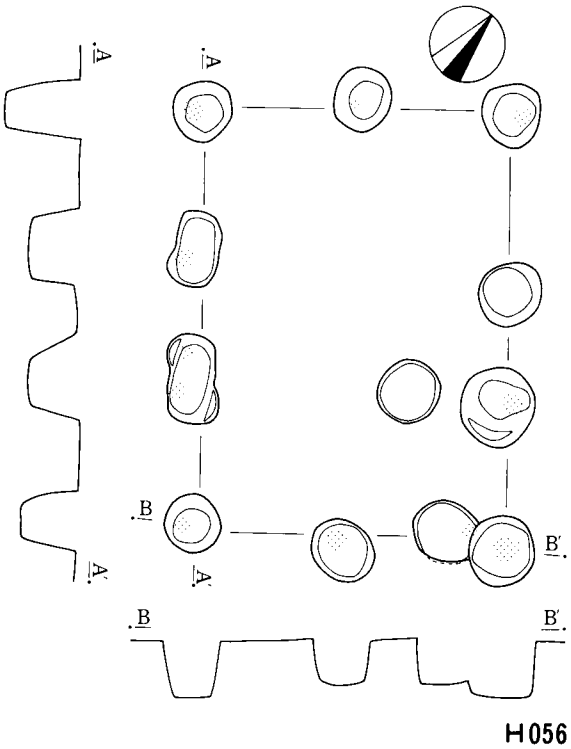

H048

PL.361　H046・H047・H048実測図

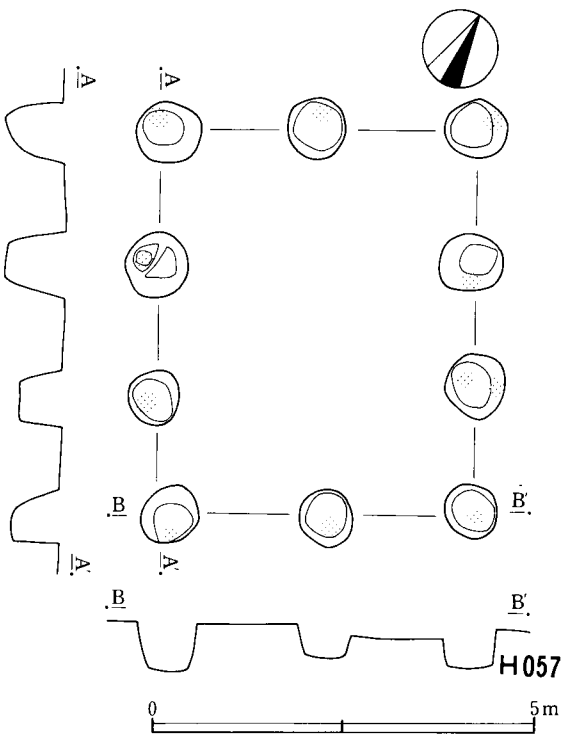



PL.362　H049・H050実測図

H056　H058の南西に位置する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－40°－Wを指し、桁行長5.5m、梁行長4.0mを測る。柱間寸法は1.8～2.0mで、堀方は直径0.7～0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.7～0.9mで、埋土はローム粒・ロームブロックを含んでいる。



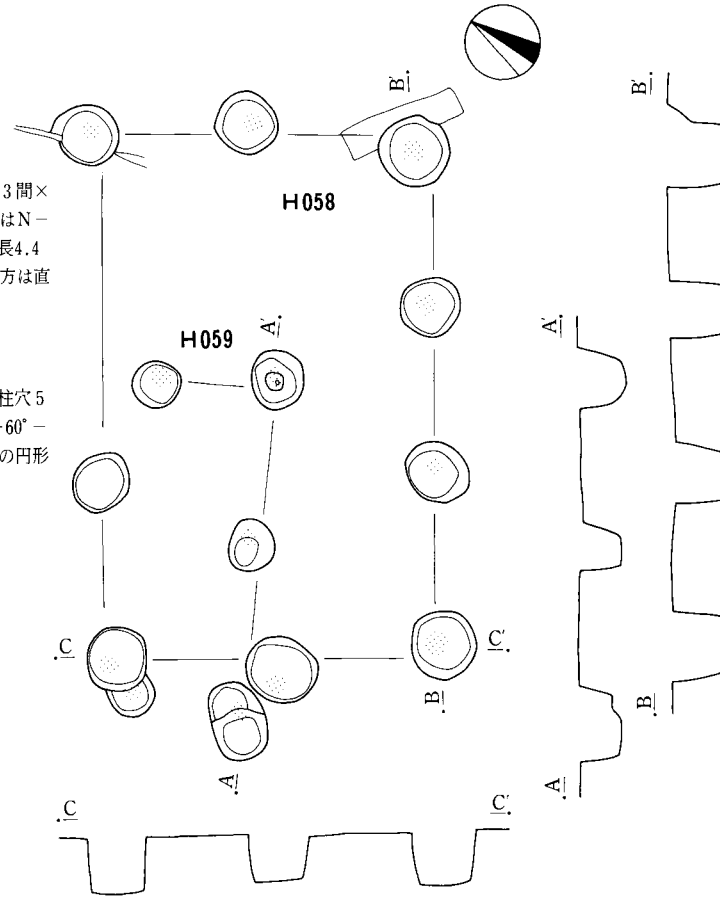

H057　H030と重複する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－32°－Wを指し、桁行長5.0m、梁行長4.2mを測る。柱間寸法は1.7～2.1mで、堀方は直径0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.5～0.8mで、埋土はローム粒・ロームブロックを多く含んでいる。




PL.363　H056・H057実測図

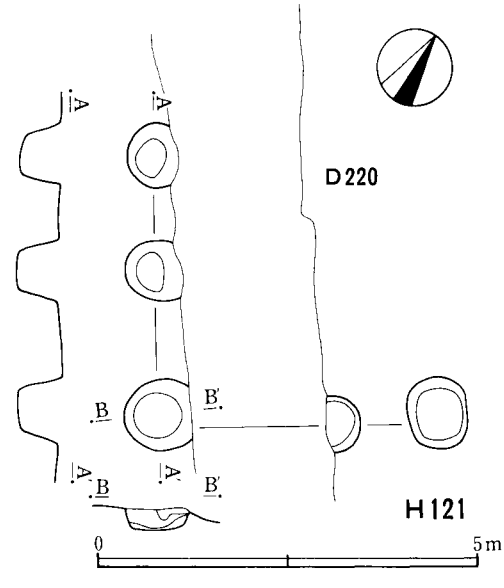
H058　H059と重複する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－51°－Eを指し、桁行長6.8m、梁行長4.4mを測る。柱間寸法は2.3mで、堀方は直径0.8mの円形を呈している。

H059　H058に先行する建物で、柱穴5箇所が確認できた。軸方向はN－60°－Eを指し、堀方は直径0.7～0.8mの円形を呈している。

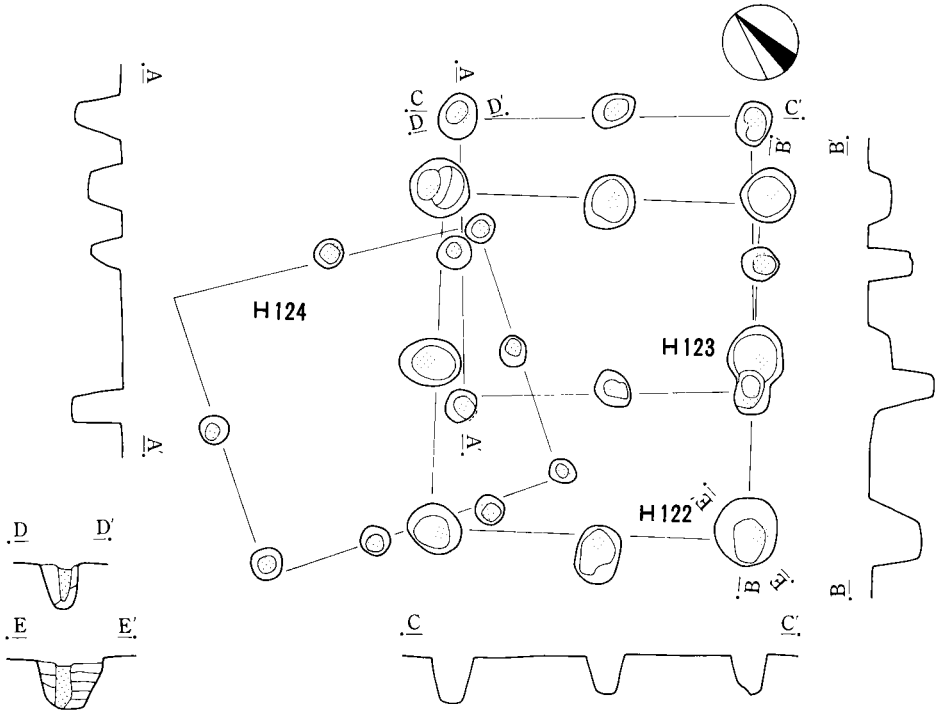



H058・H059

H121　D221の北西に位置する建物で、溝状遺構によって大きく破壊されている。柱穴は6箇所が確認でき、軸方向はN－33°－Wを指す。柱間寸法は1.6～1.8mで、堀方は直径0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.6mで、埋土はローム粒を主体とする。

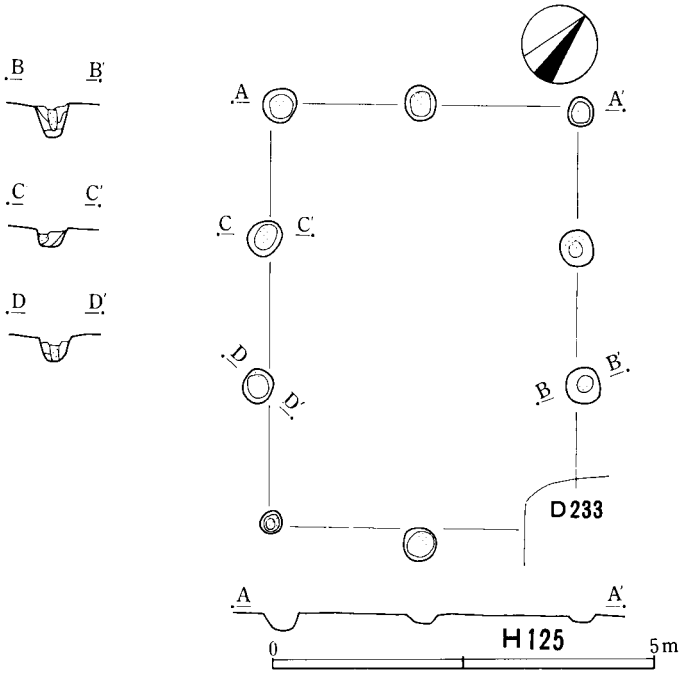



PL.364　H058・H059・H121実測図



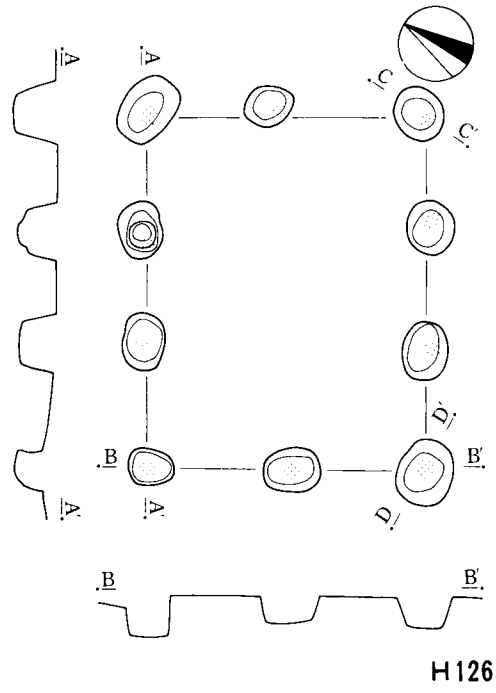

H122・H123・H124

H125　D233と重複する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－41°－Wを指し、桁行長5.5m、梁行長4.0mを測る。柱間寸法は1.8～2.0mで、堀方は直径0.4mの円形を呈している。確認面からの深さは0.2～0.4mで、埋土はロームブロックを含んでいる。

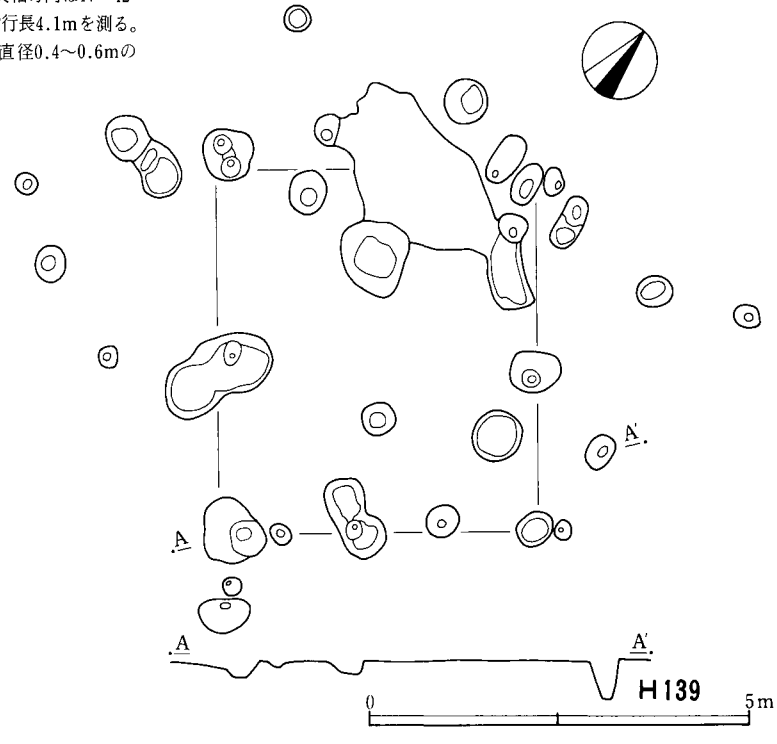



PL.365　H122・H123・H124・H125実測図

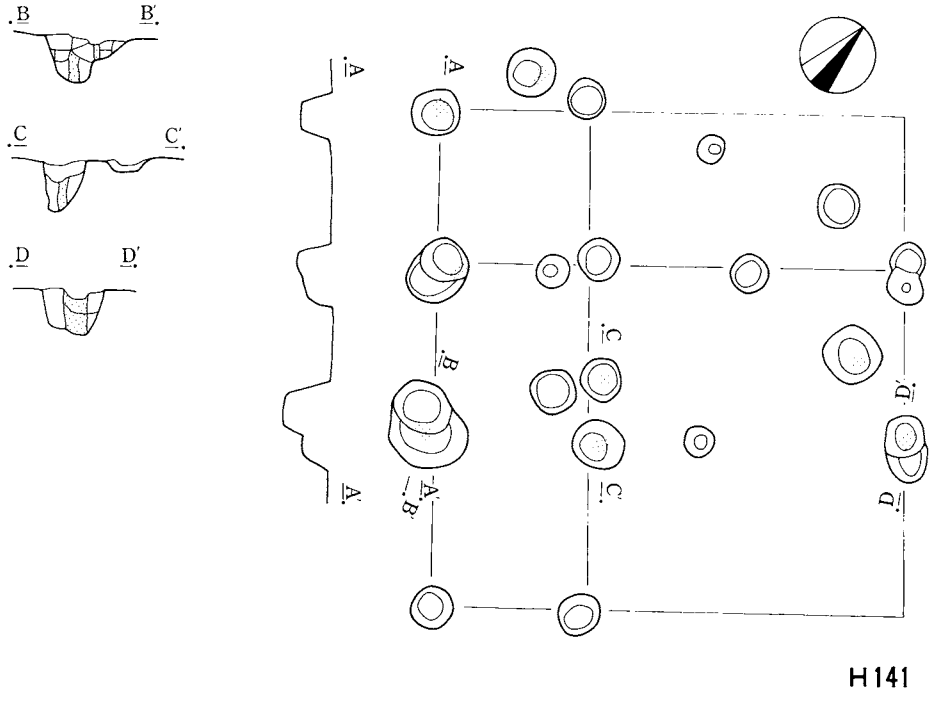
H126　D235に隣接する建物で、3間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－60°－Eを指し、桁行長長4.6m、梁行長3.6mを測る。柱間寸法は1.6～1.8mで、堀方は直径0.7～0.8mの円形を呈している。確認面からの深さは0.4～0.6mで、埋土はロームブロックを含んでいる。



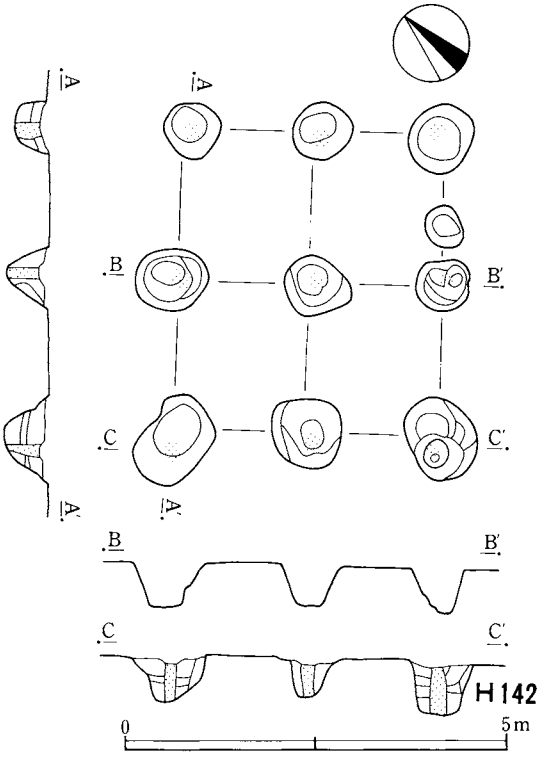

H139　D226の北西に位置する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－42°－Wを指し桁行長4.7m、梁行長4.1mを測る。柱間寸法は2.2mで、堀方は直径0.4～0.6mの円形を呈している。




PL.366　H126・H139実測図




H142　H141の南西に位置する建物で、2間×2間の総柱構造である。長軸方向はN－46°－Eを指し、桁行長3.8m、梁行長3.4mを測る。柱間寸法は1.6～2.0mで、堀方直径0.7～1.0mの円形を呈している。確認面からの深さは0.5～0.7mで、埋土はローム粒を多く含んでいる。

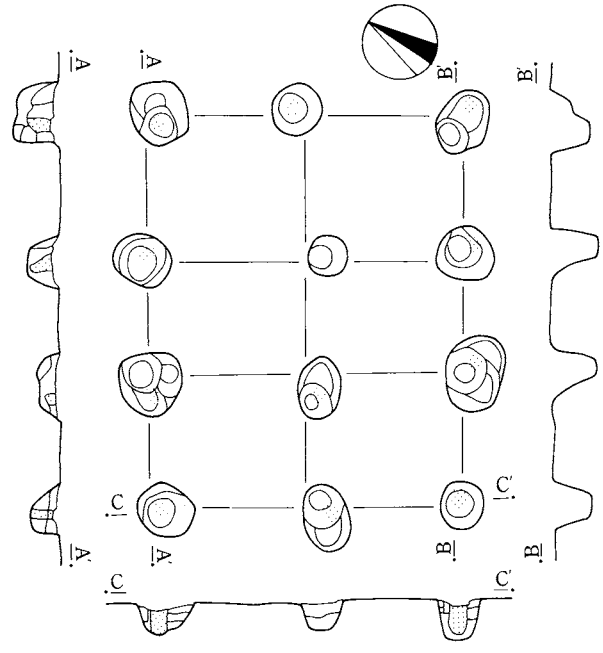



PL.367　H141・H142実測図

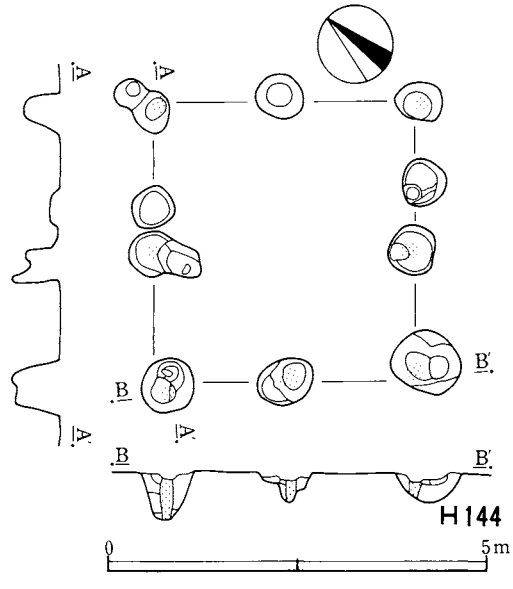
H143　H142の南西に位置する建物で、3間×2間の総柱構造である。長軸方向はN－58°－Eを指し桁行長5.1m、梁行長4.1mを測る。柱間寸法は1.7～2.1mで、堀方は直径0.7～1.0mの円形を呈している。

H144　H143の西側に位置する建物で、2間×2間の側柱構造である。長軸方向はN－49°－Eを指し、桁行長3.5m、梁行長3.4mを測る。柱間寸法は1.6～1.8mで、堀方は直径0.6～0.8mの円形を呈している。

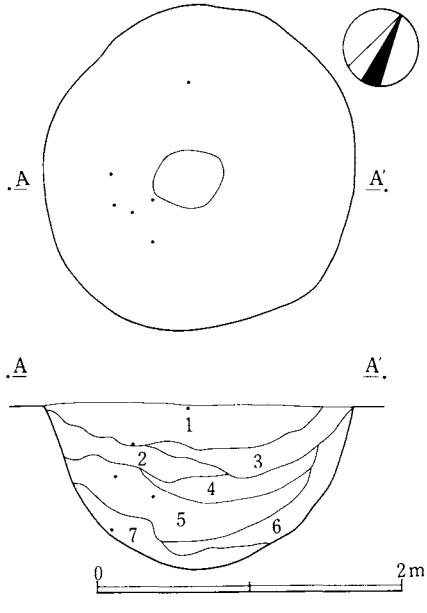
P031　H031の東側に位置する井戸状の土壙で、直径2.1mの円形を呈している。確認面からの深さは1.1mで、埋土はロームブロックを多く含んでいる。




H143



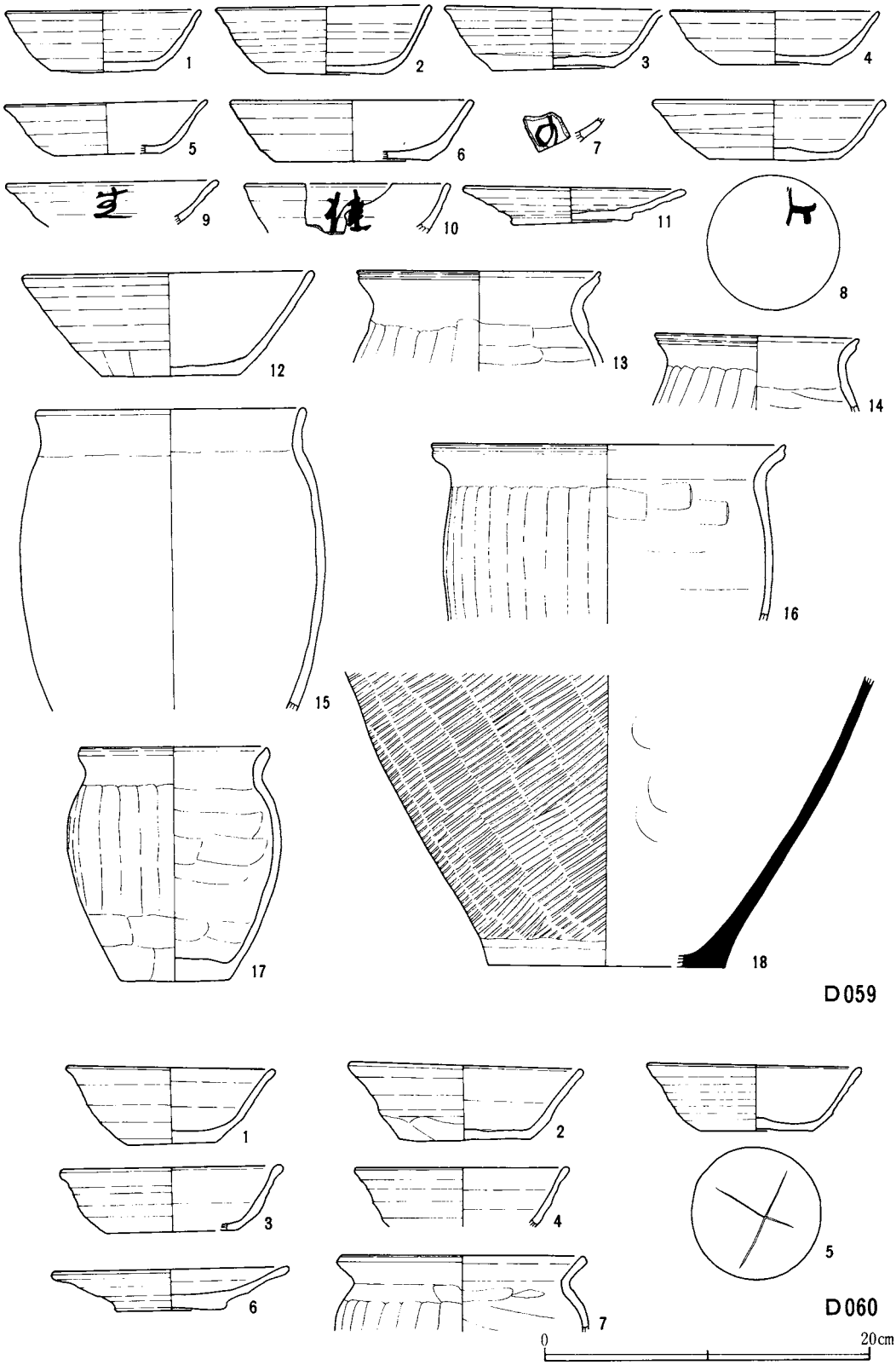

H144



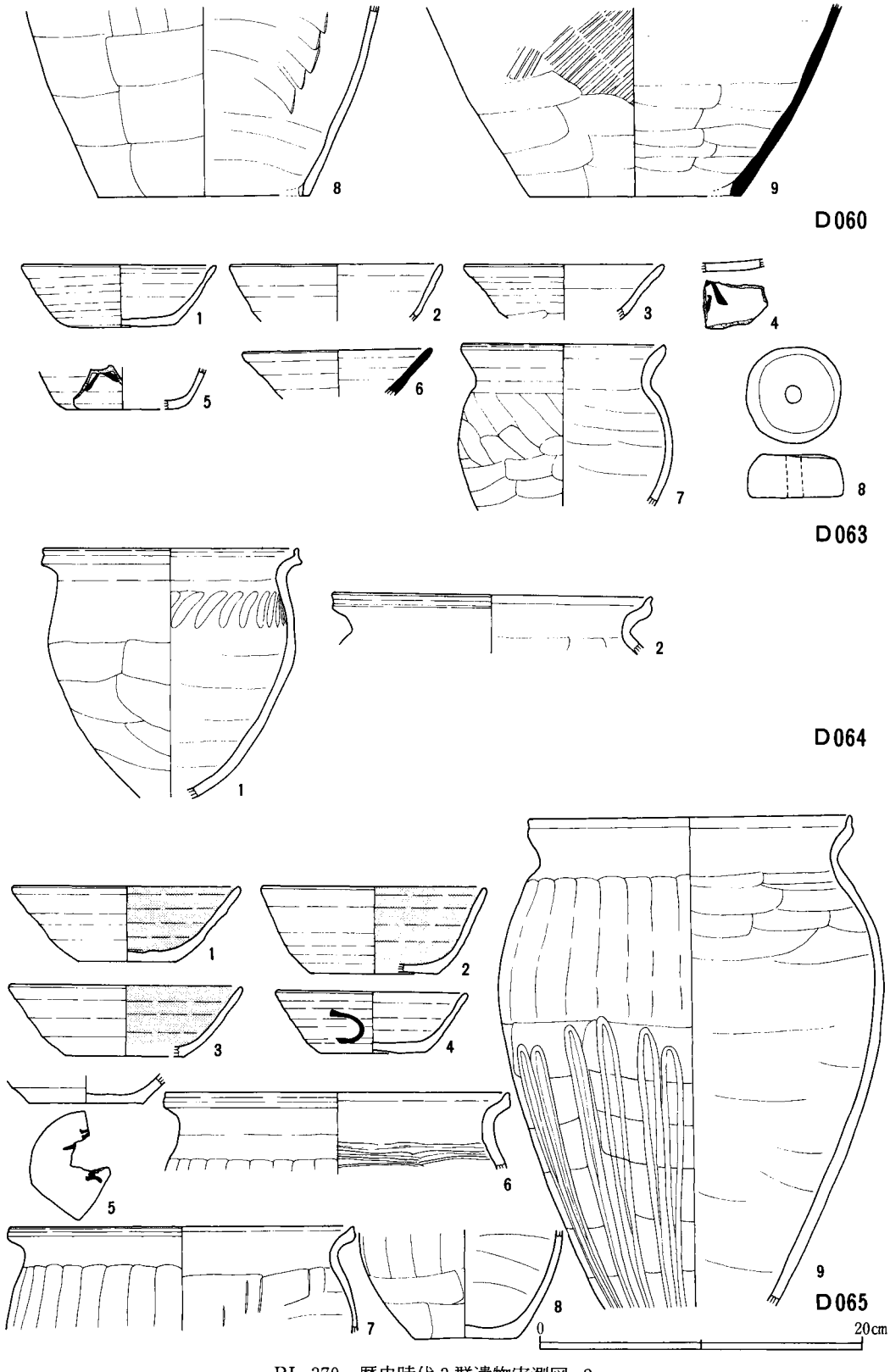

1　黒褐色土　やや大粒のローム粒を含む。
2　黒褐色土　ロームブロックを含む。
3　暗褐色土　ロームブロック・黒色土を少し含む。
4　暗褐色土　ロームブロックを含む。
5　暗褐色土　ローム粒・ロームブロックを含む。
6　暗褐色土　ローム粒を少し含む。
7　暗褐色土　ローム粒をほとんど含まない。

P031

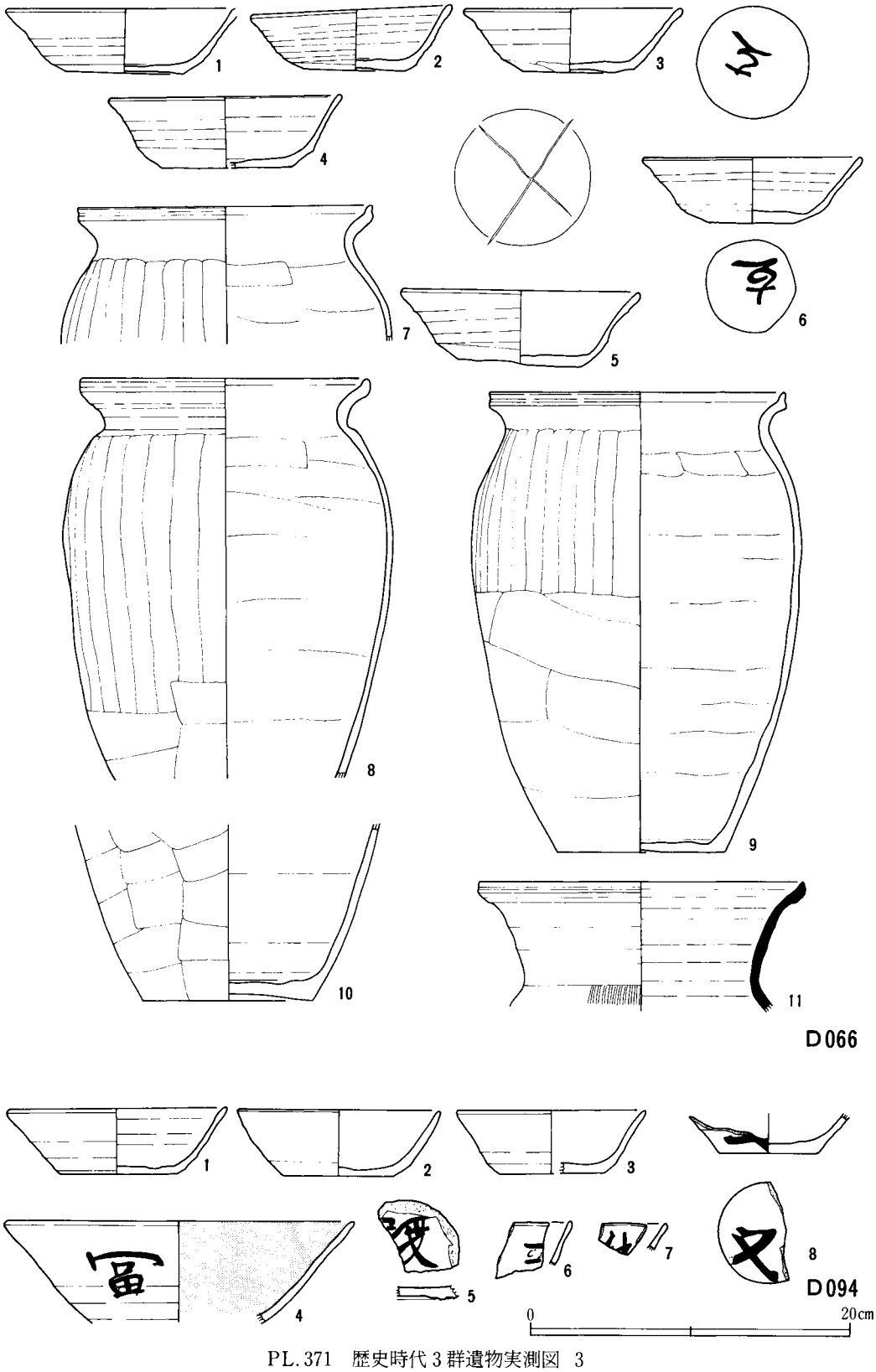
PL.368　H143・H144・P031実測図



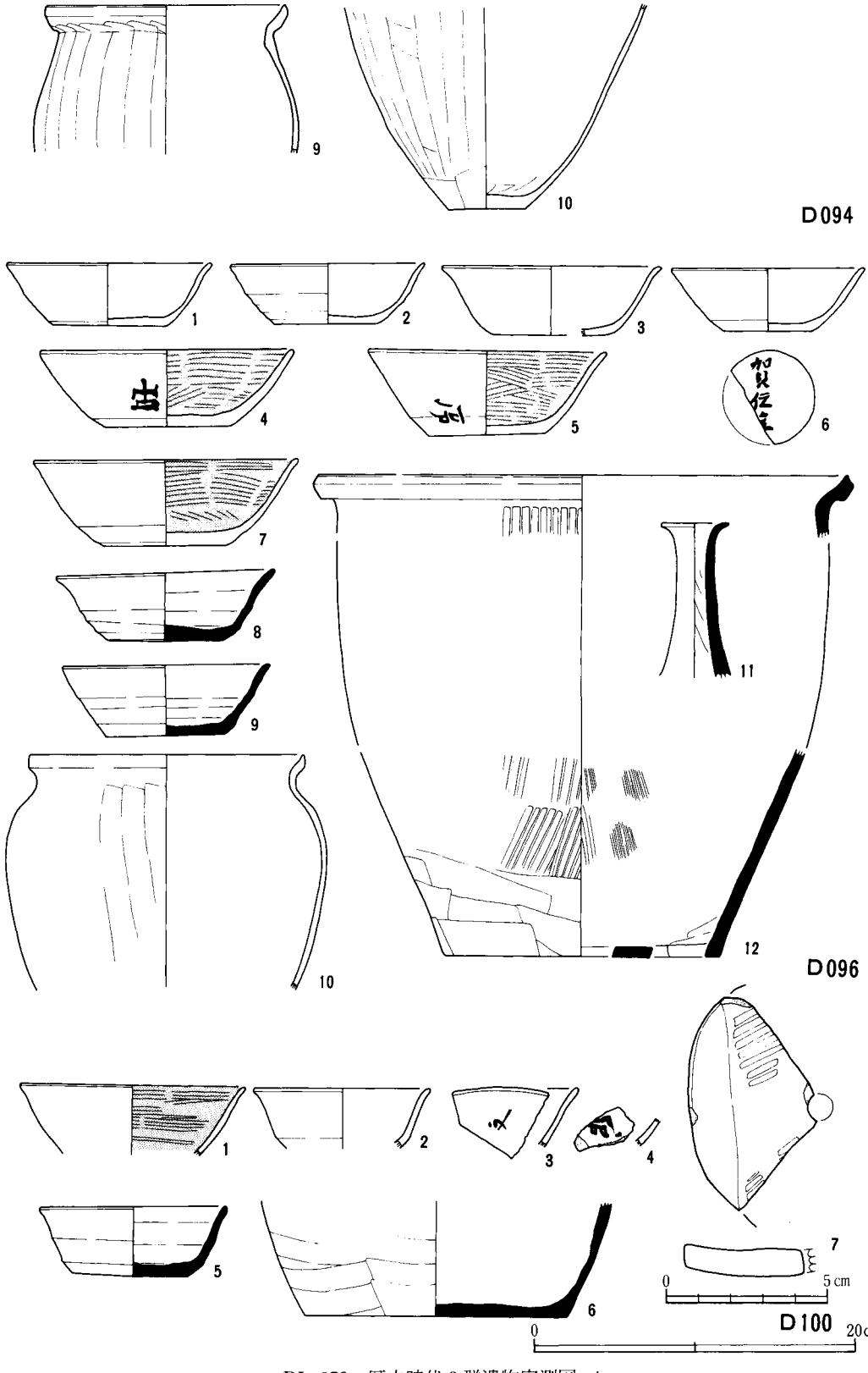

PL.369　歴史時代3群遺物実測図　1



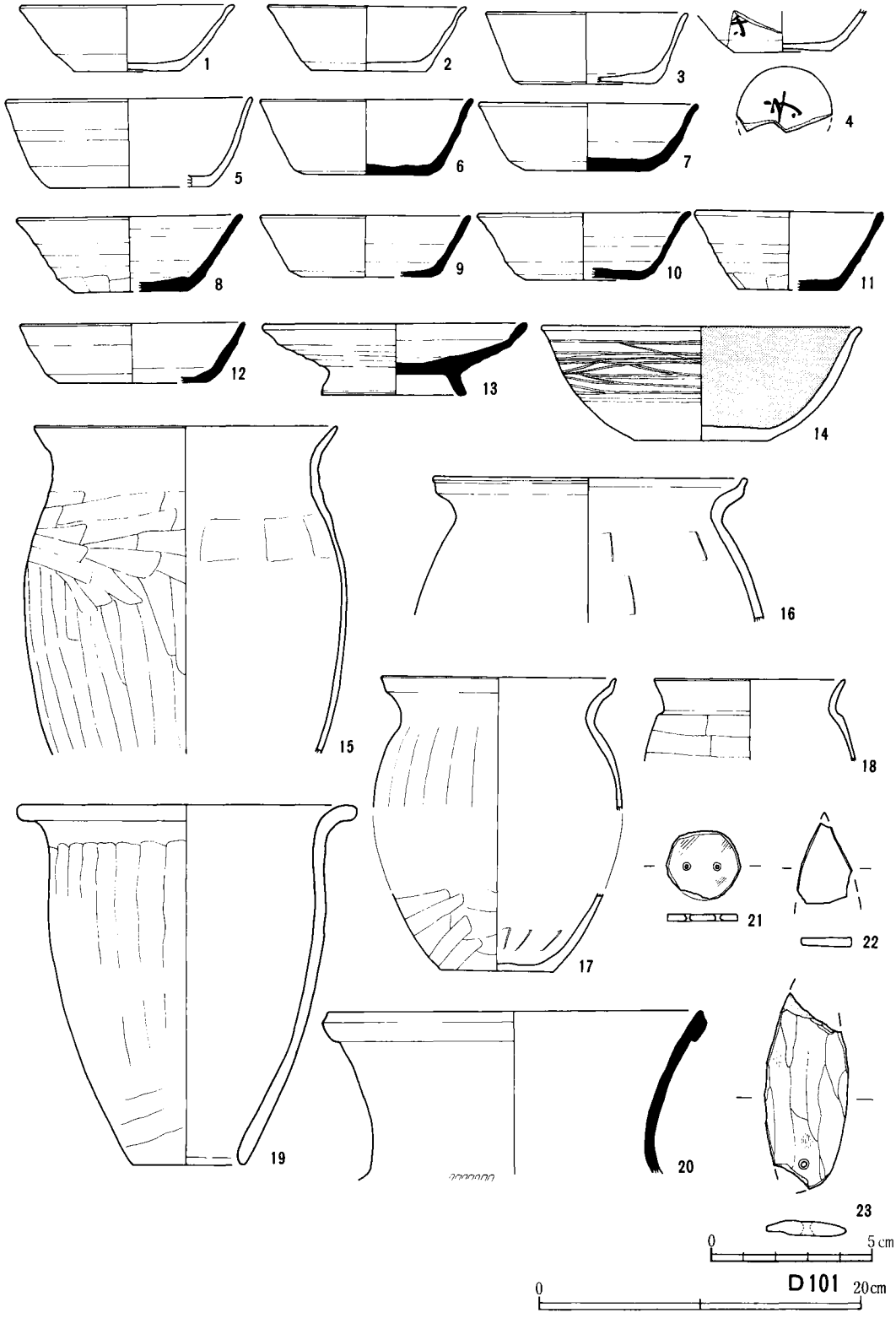

PL.370　歴史時代3群遺物実測図　2



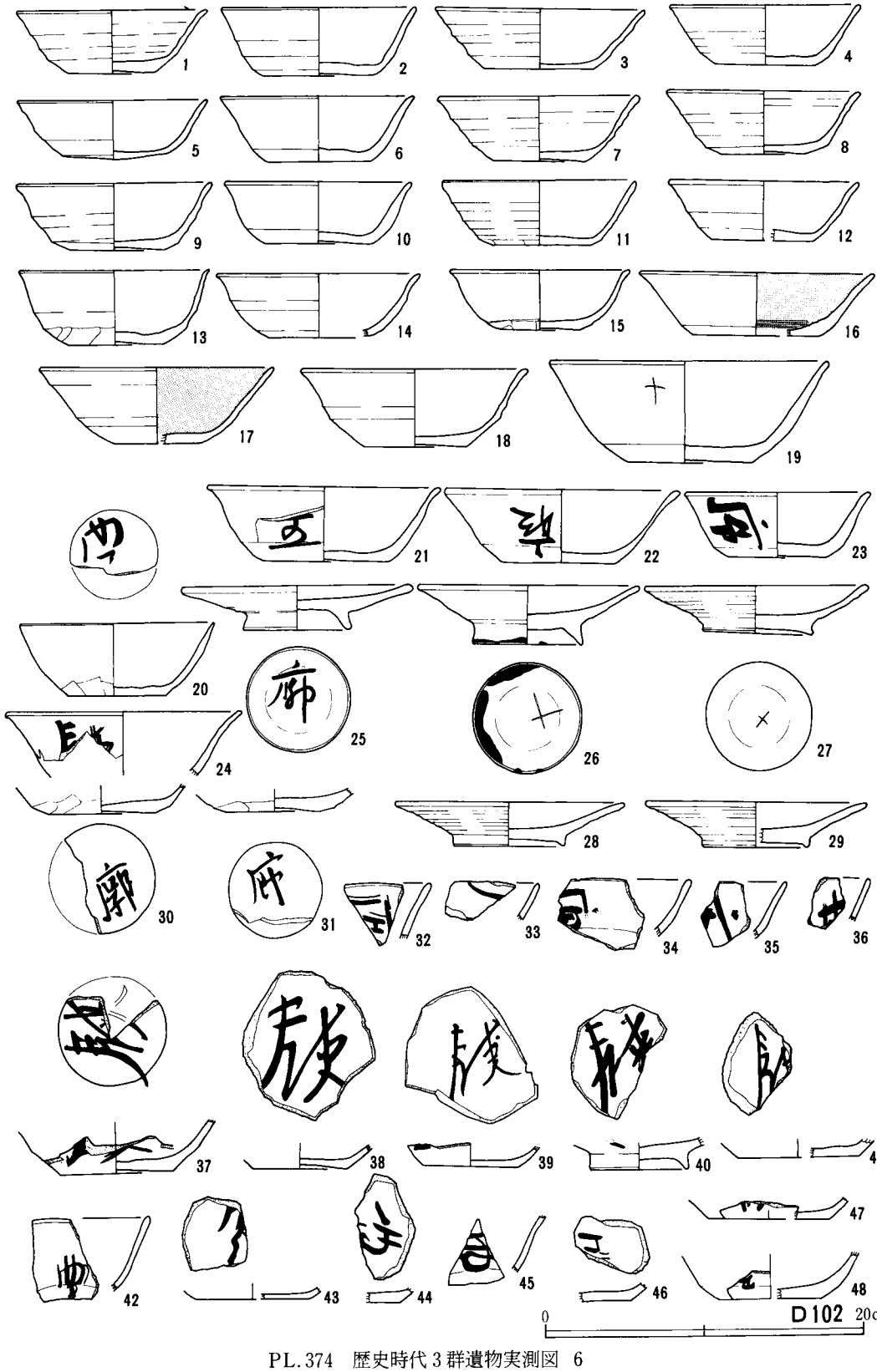

PL.371　歴史時代3群遺物実測図　3



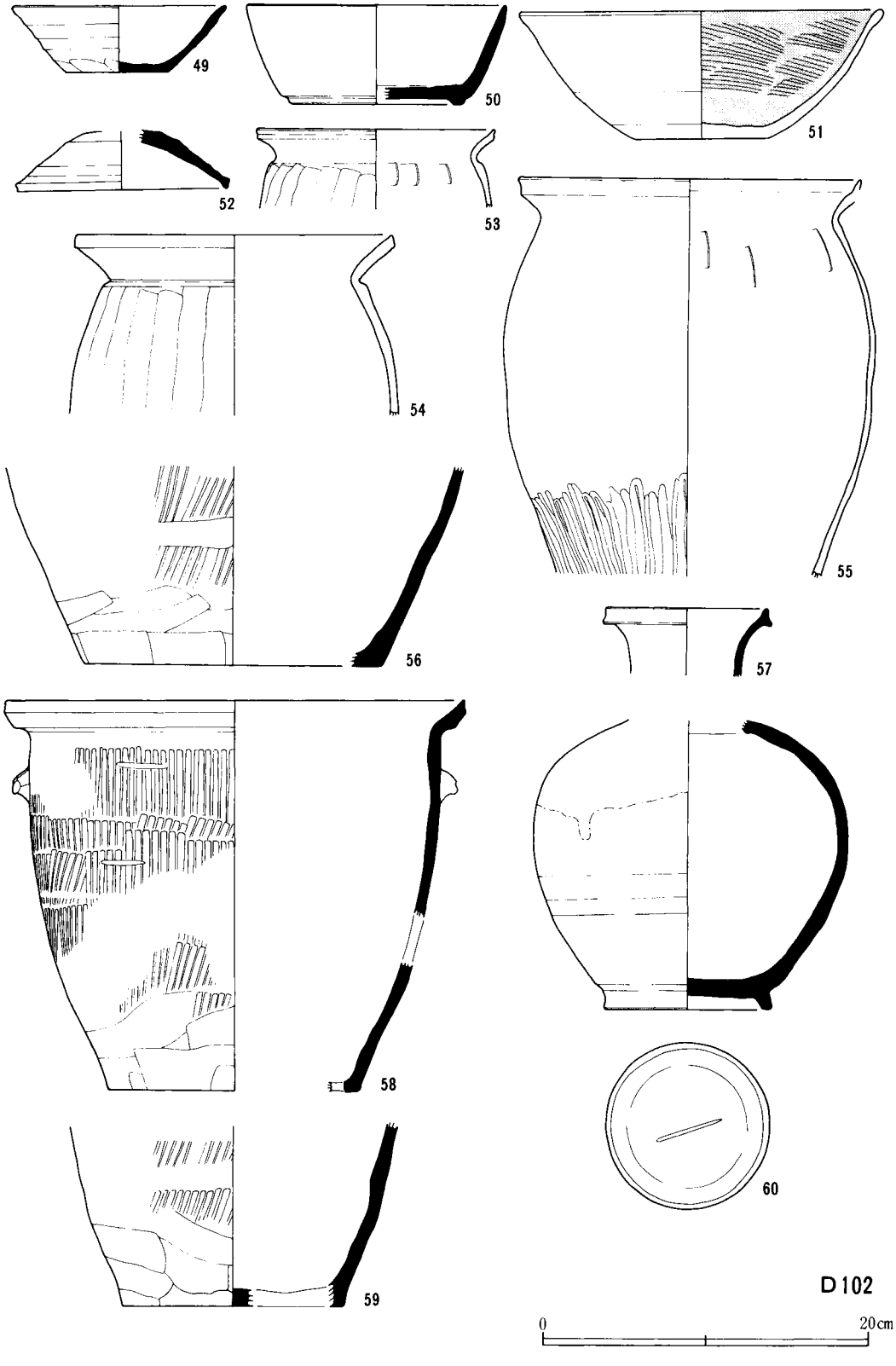

PL.372　歴史時代3群遺物実測図　4



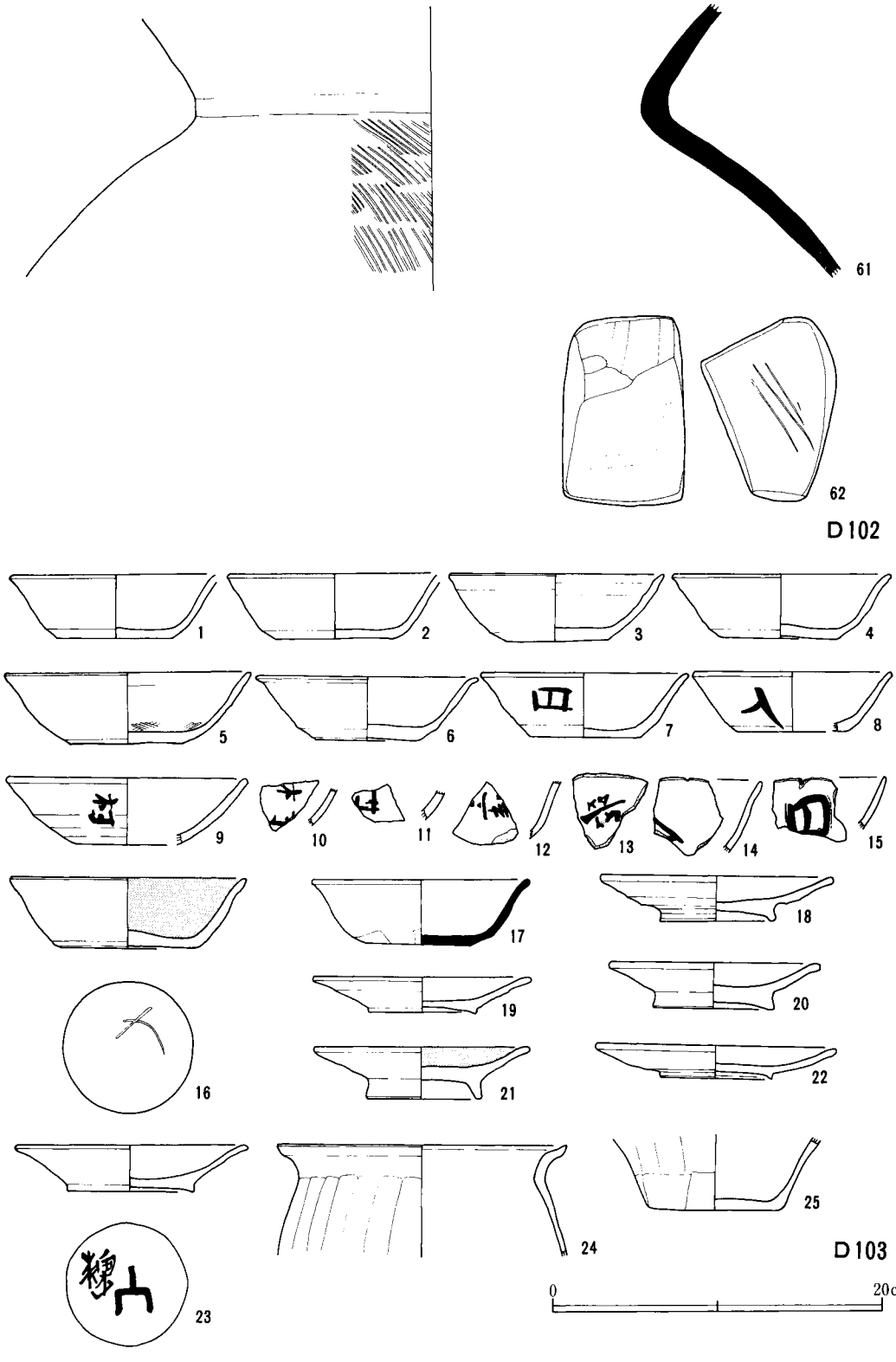

PL.373　歴史時代3群遺物実測図 5



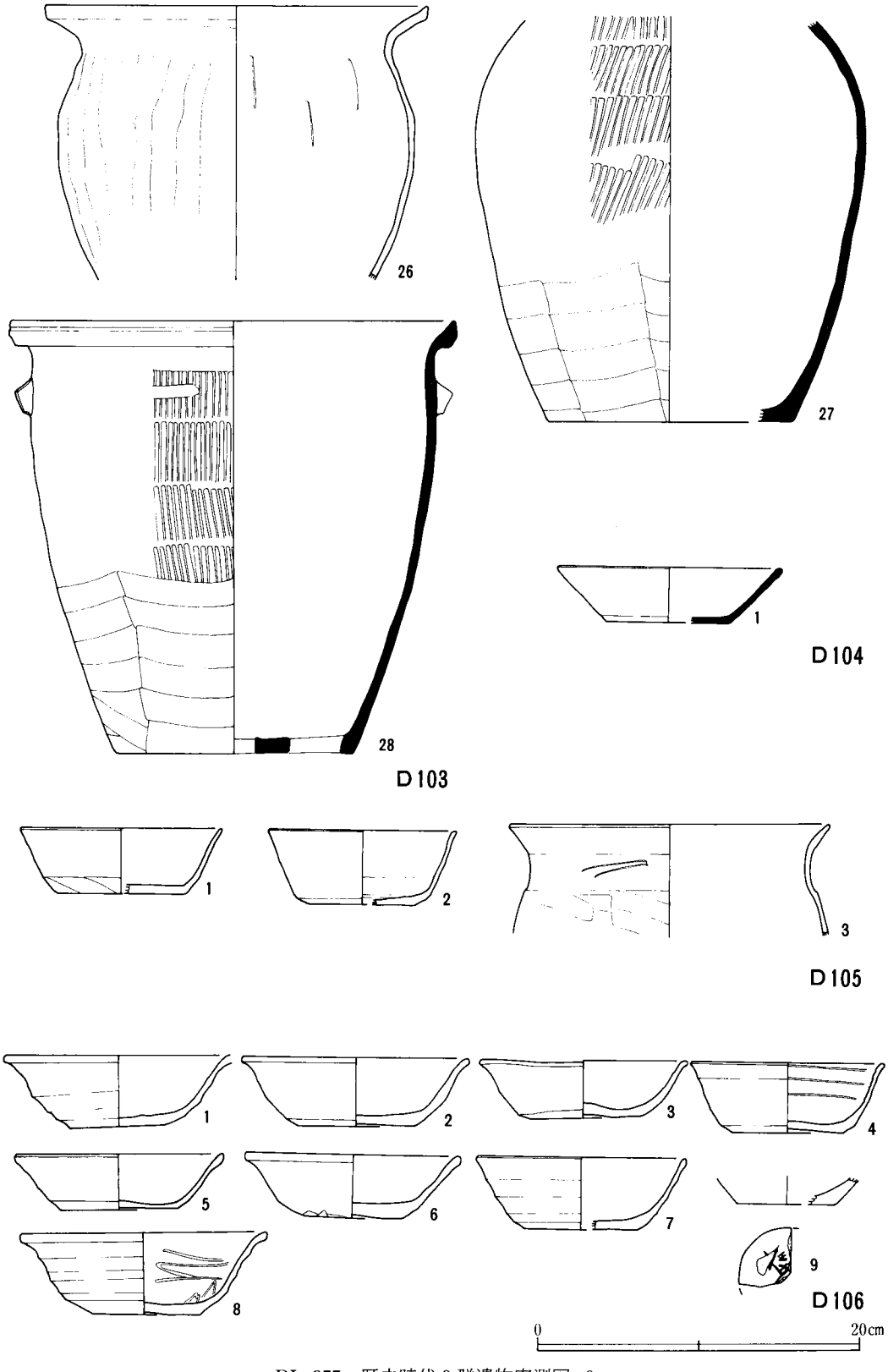

PL.374　歴史時代3群遺物実測図　6



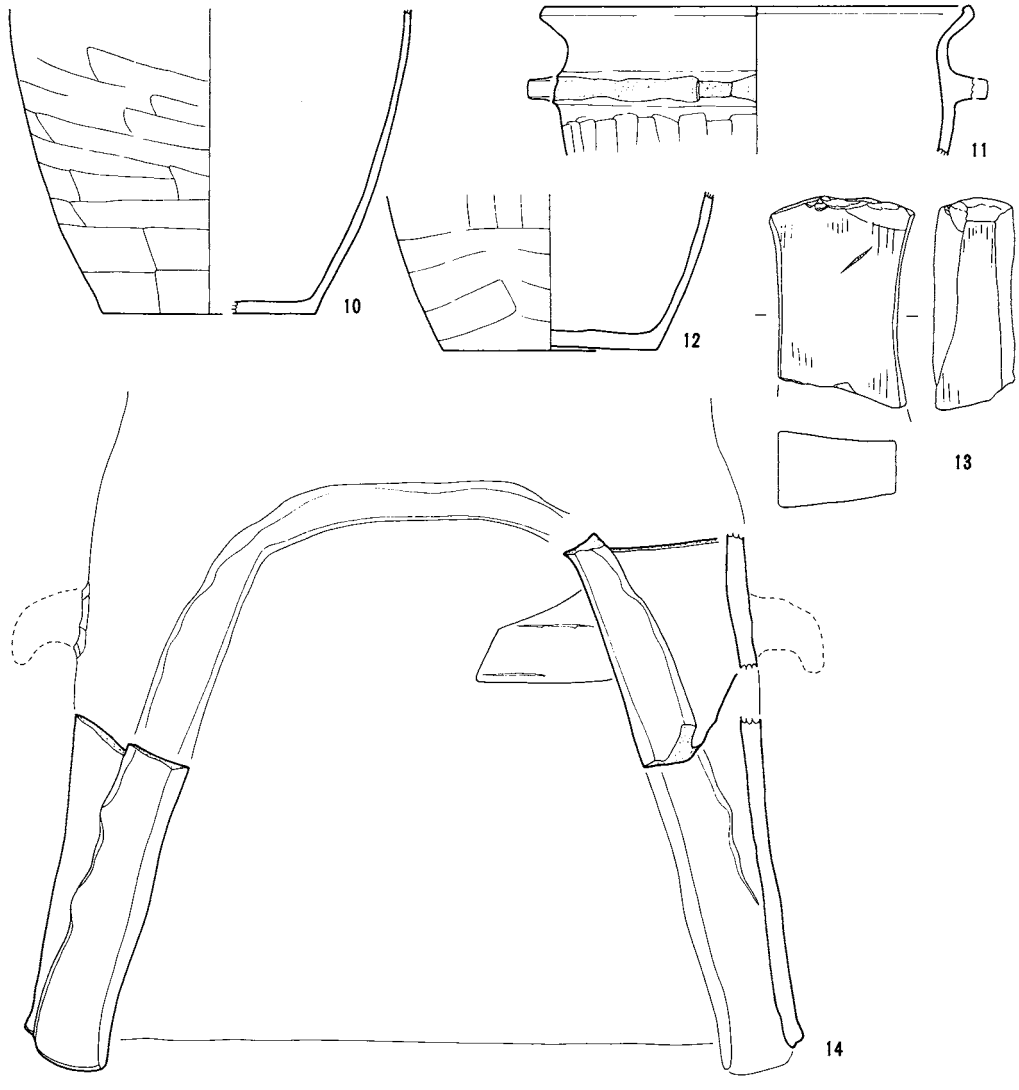

PL.375　歴史時代3群遺物実測図　7

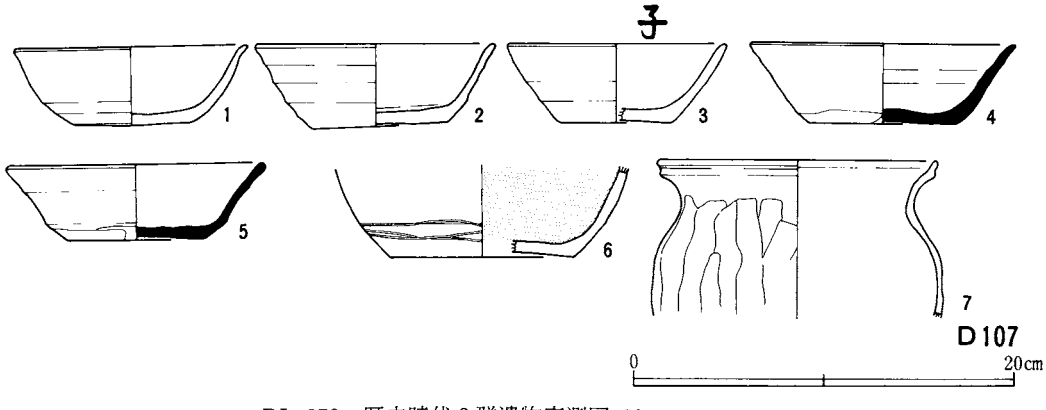



PL.376　歴史時代3群遺物実測図　8

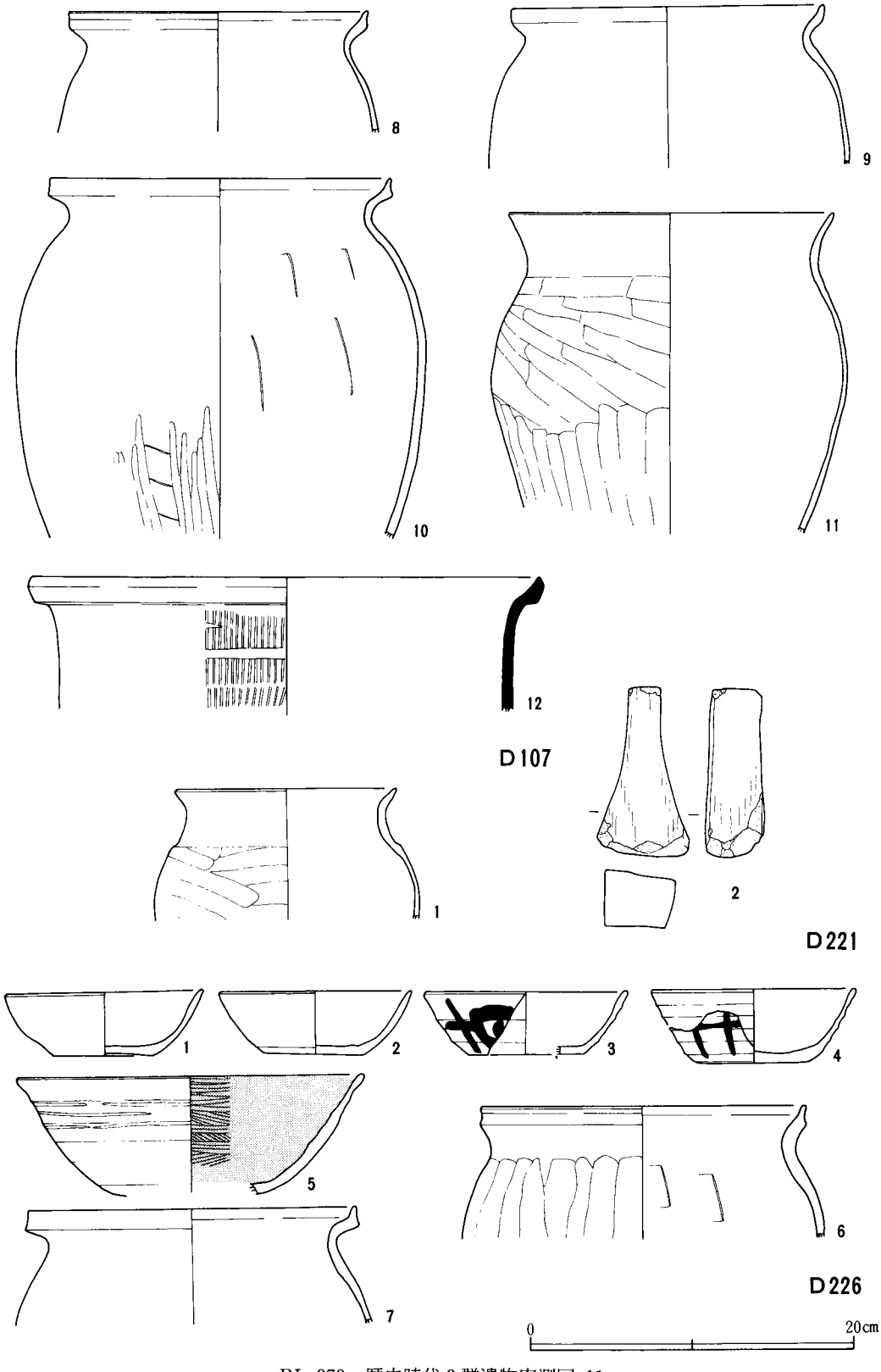



PL. 377　歴史時代 3 群遺物実測図　9

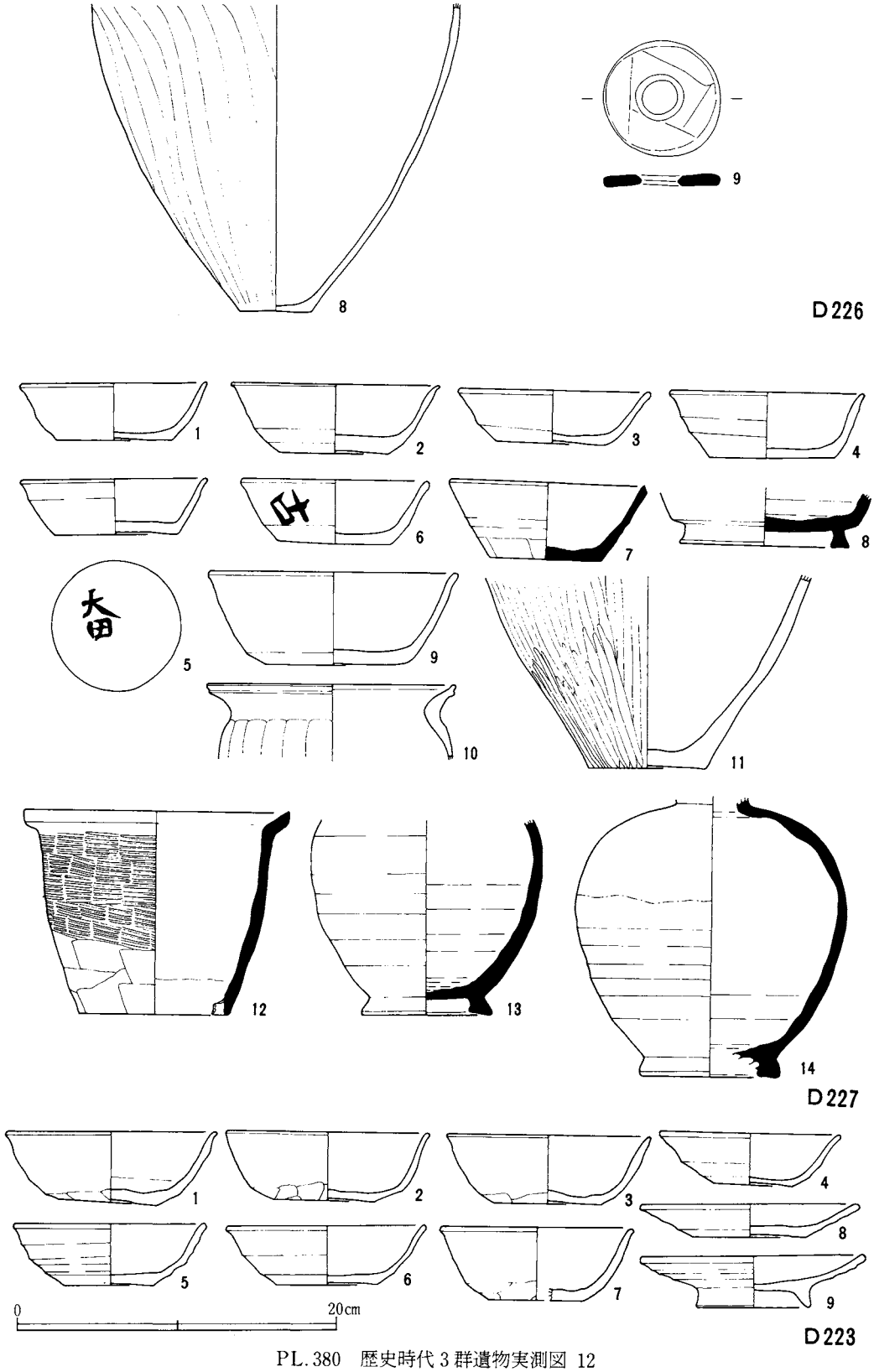


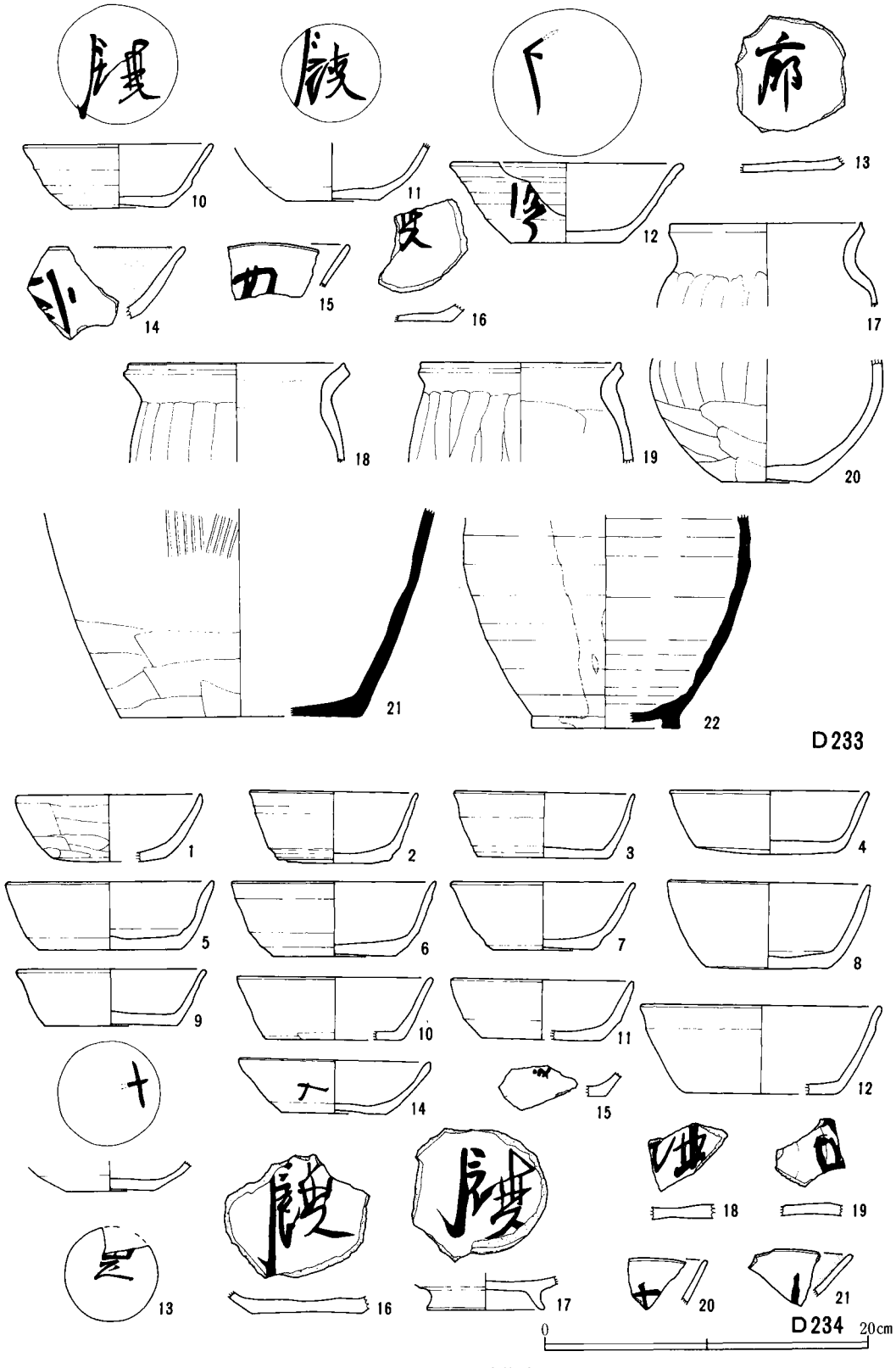

PL. 378　歴史時代 3 群遺物実測図 10



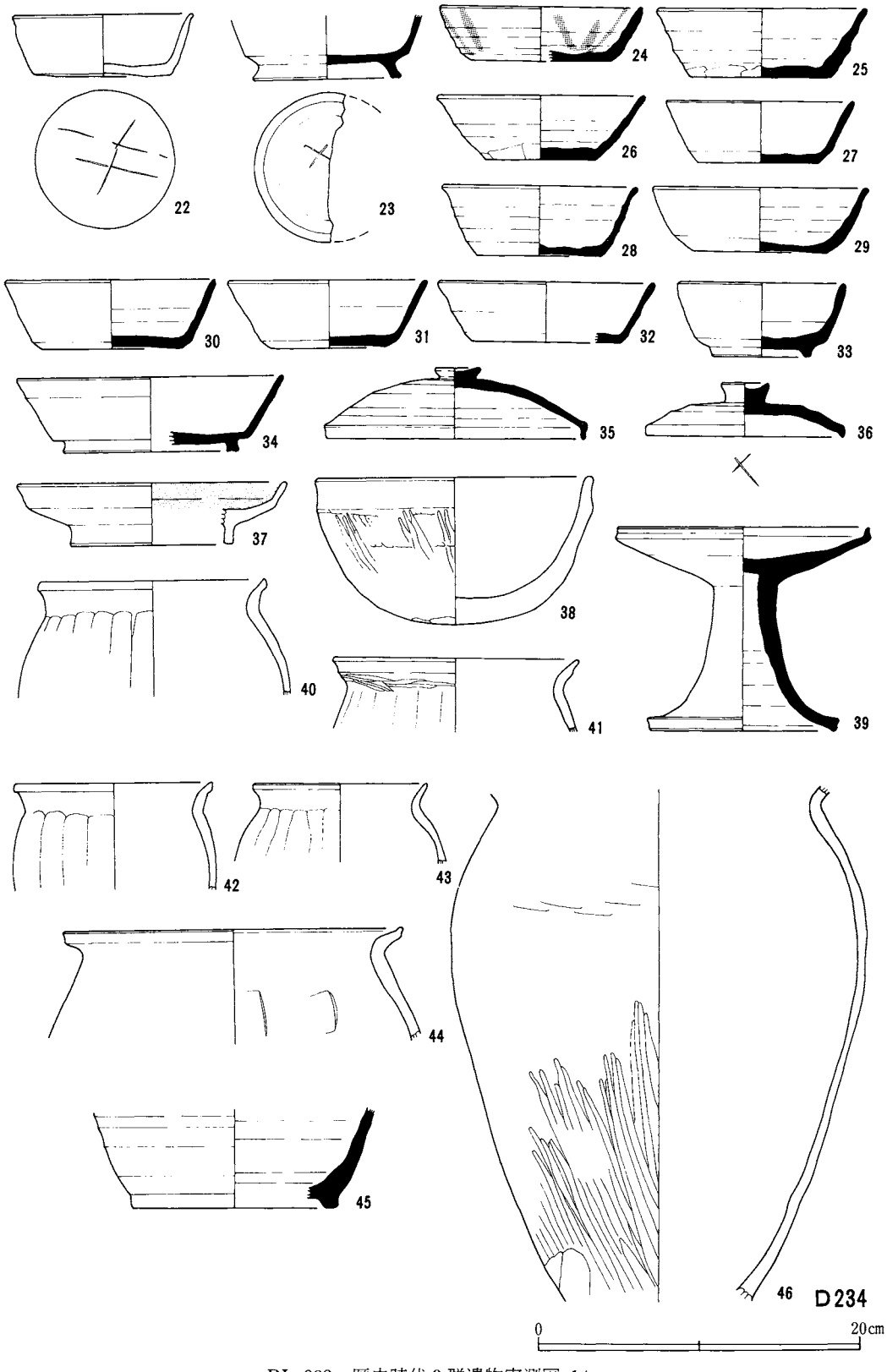

PL.379　歴史時代3群遺物実測図 11



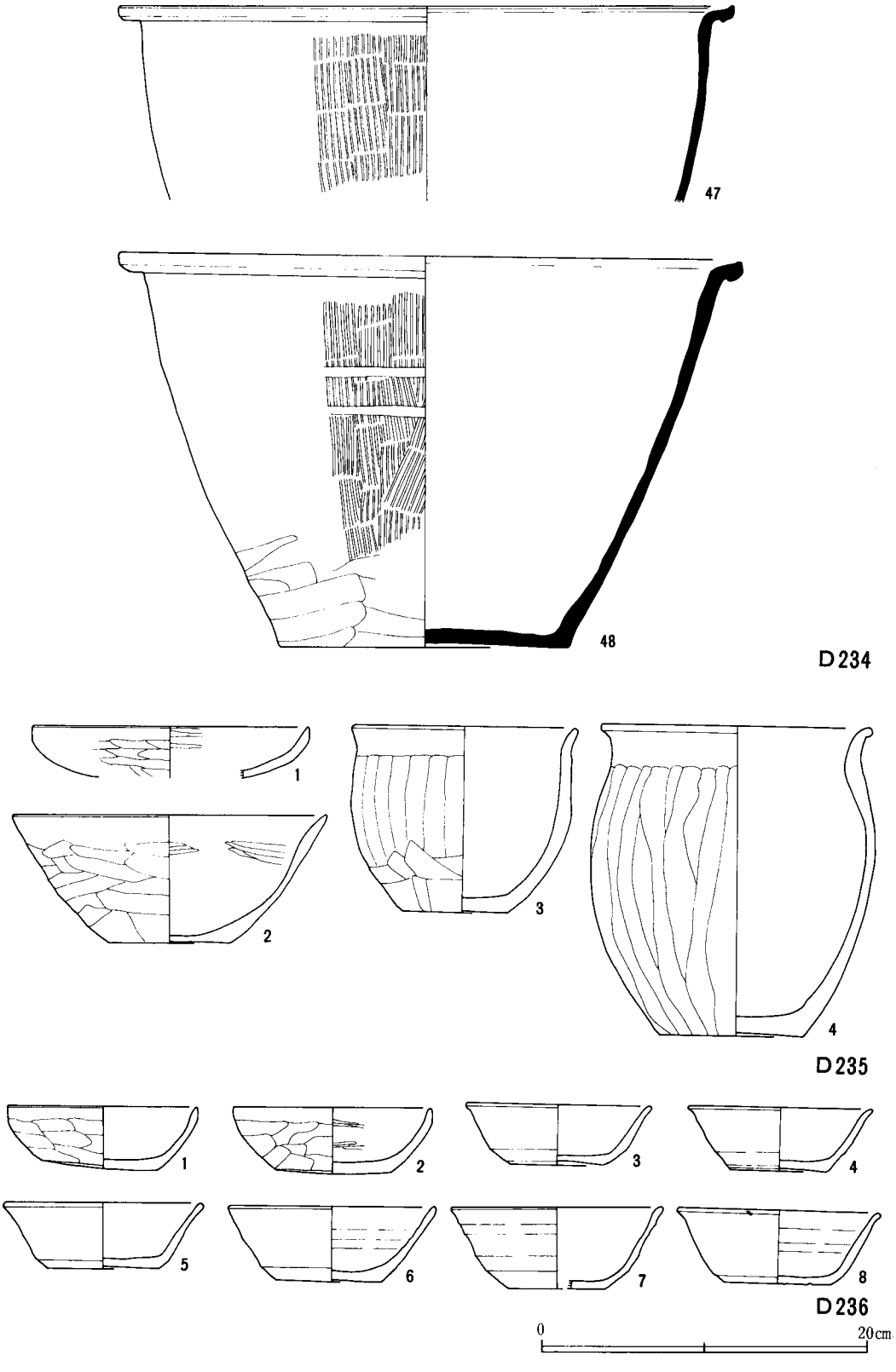

PL. 380　歴史時代 3 群遺物実測図 12



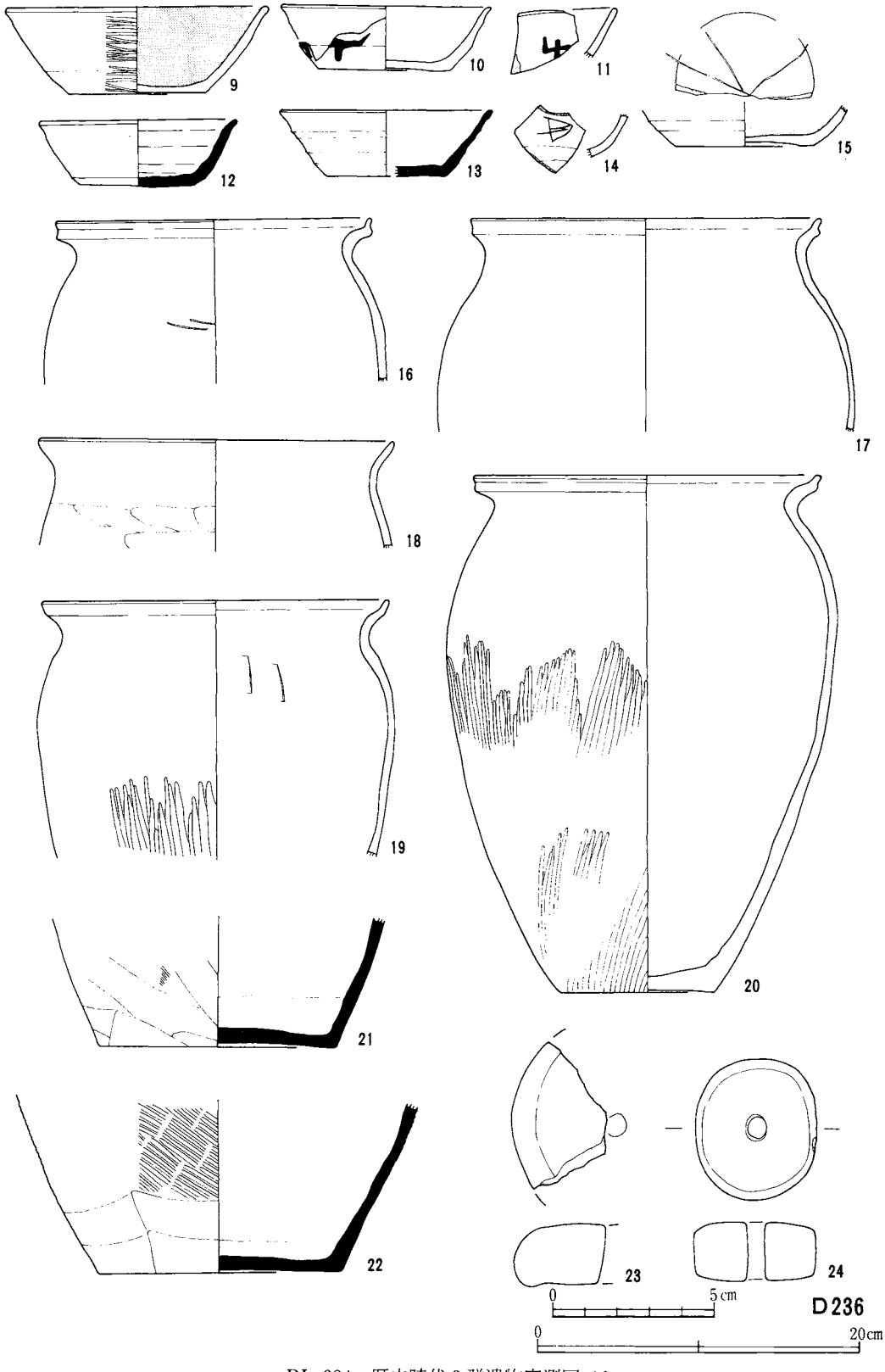

PL.381　歴史時代3群遺物実測図 13



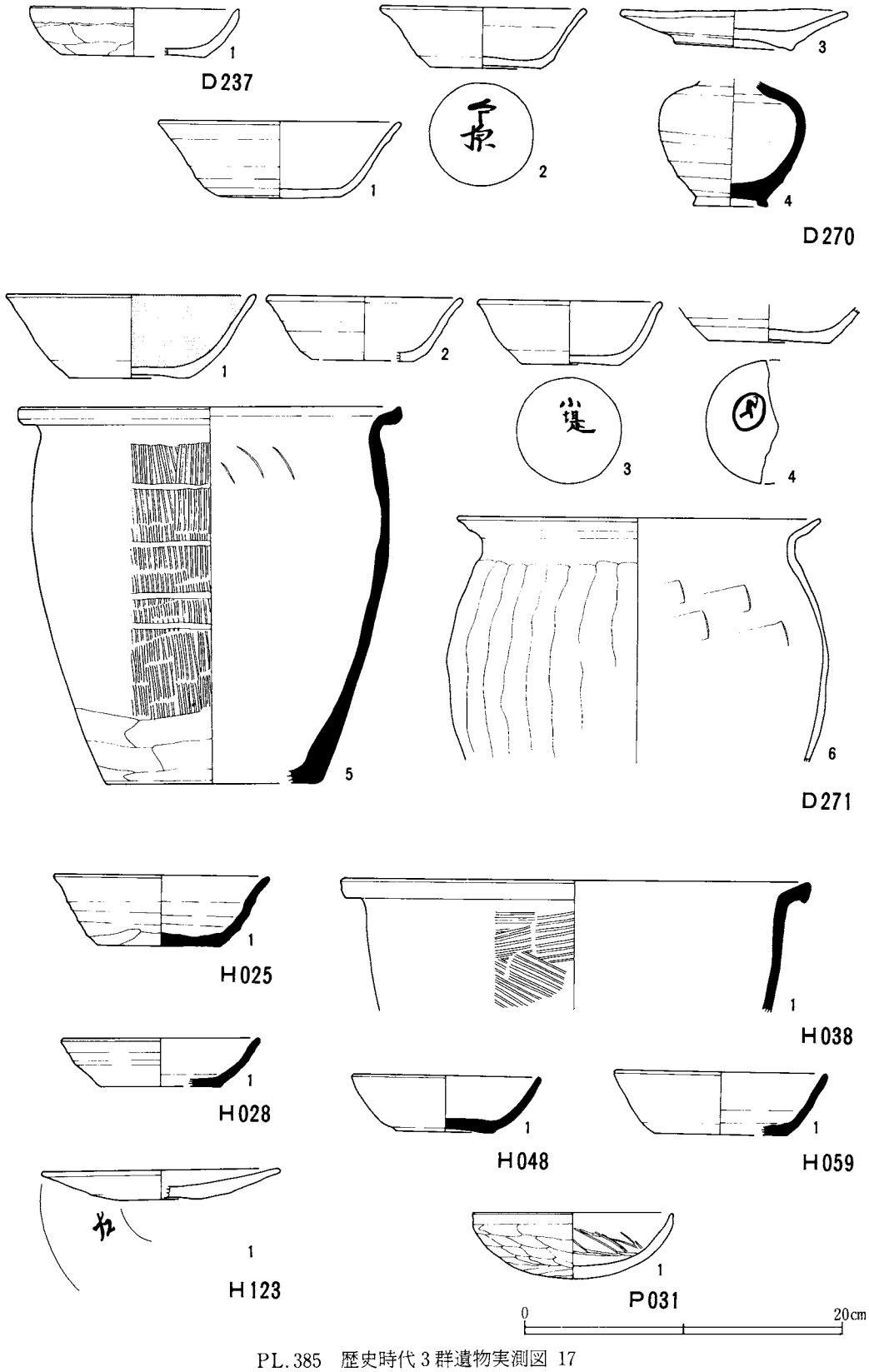

PL.382　歴史時代3群遺物実測図 14



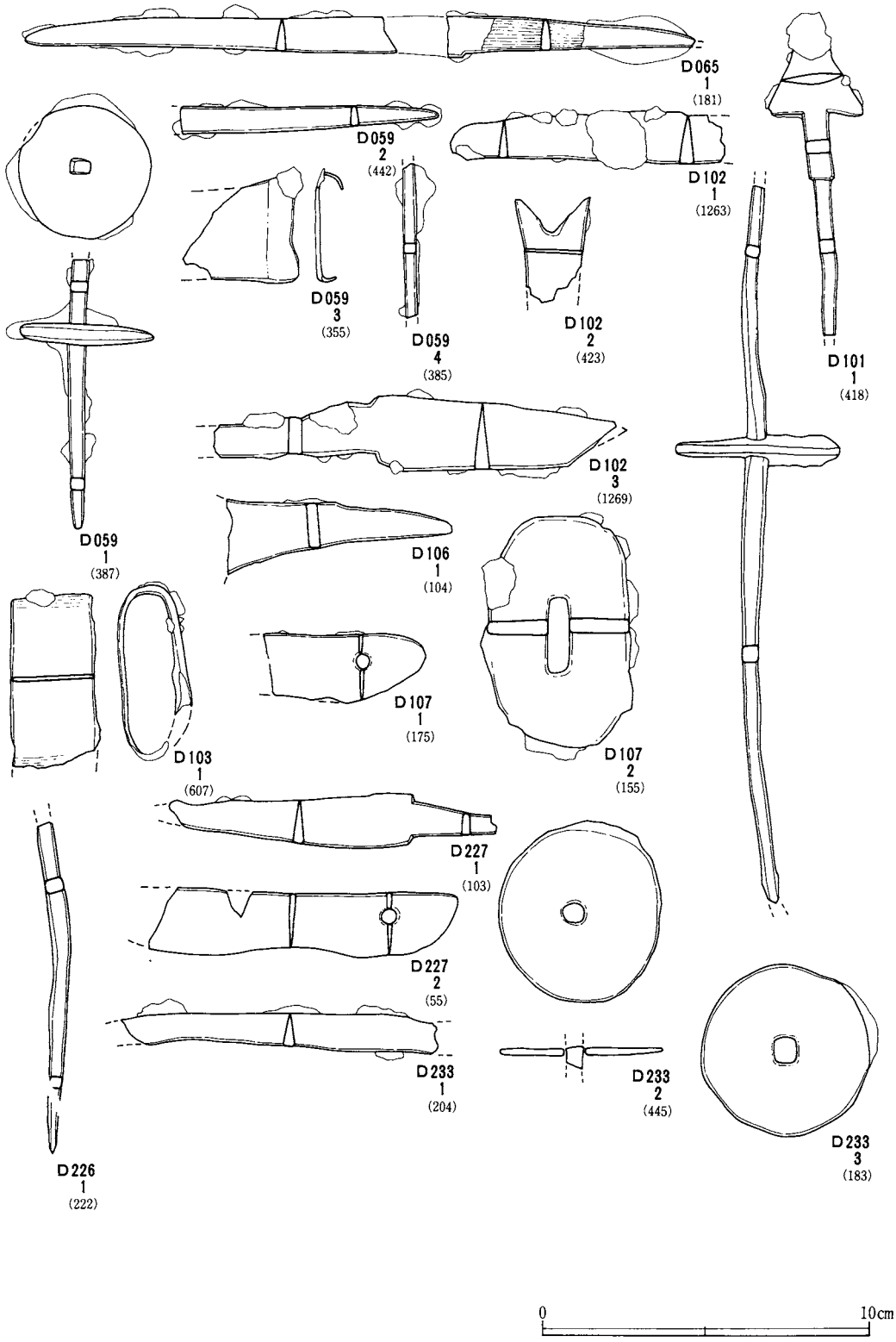

PL.383　歴史時代3群遺物実測図 15



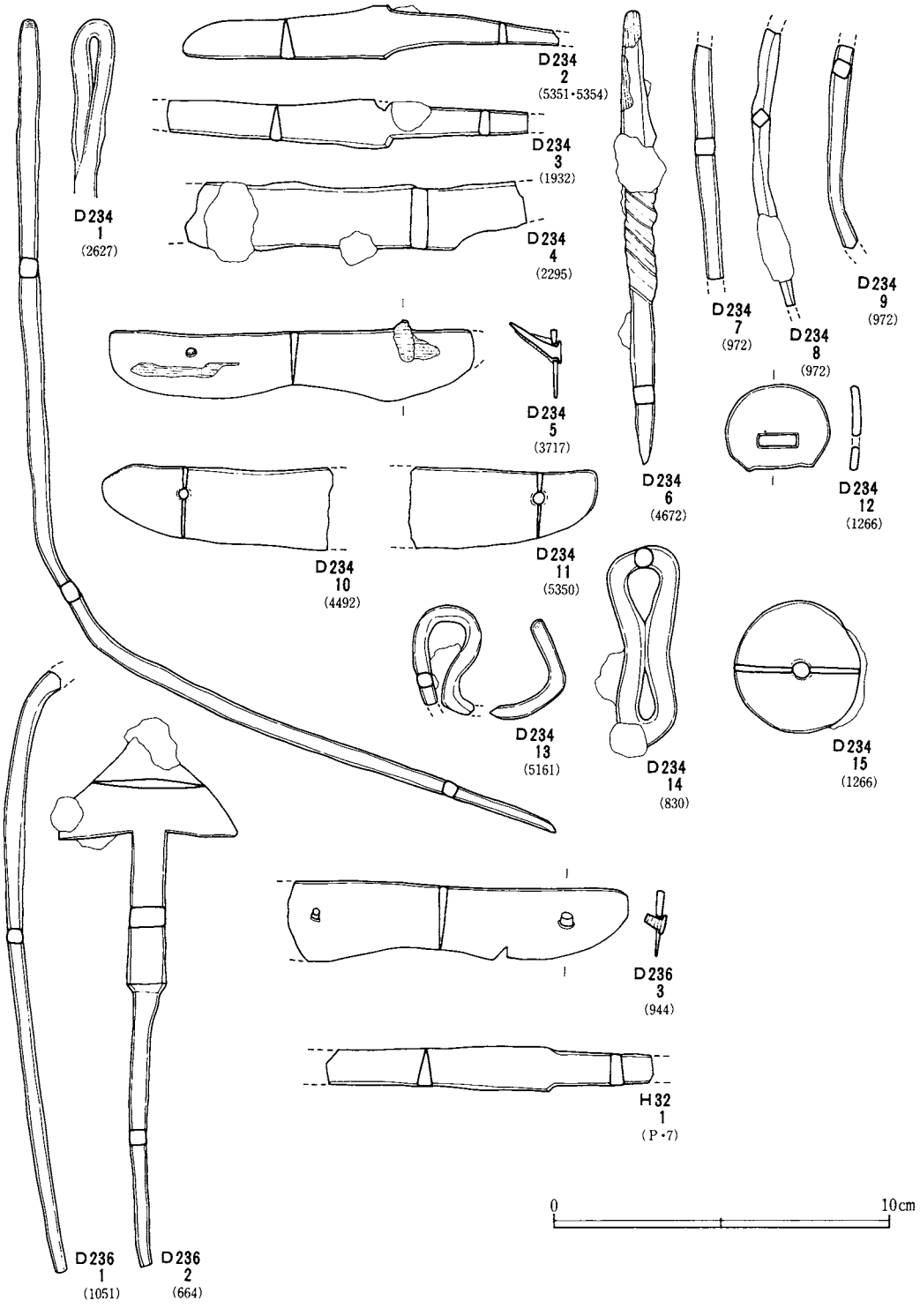

PL.384　歴史時代3群遺物実測図 16




PL.385　歴史時代3群遺物実測図 17

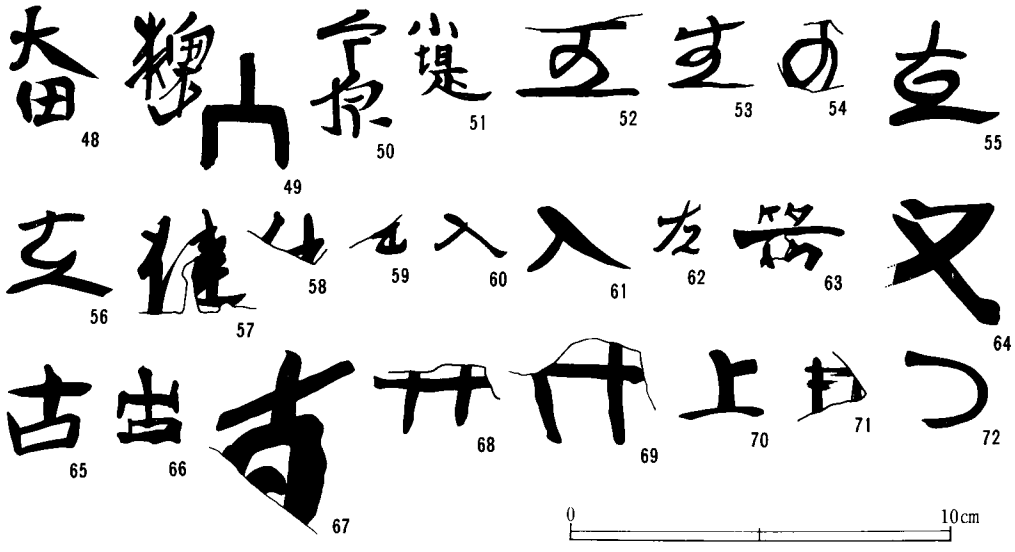



PL.386　歴史時代3群鉄製品実測図　1




PL. 387　歴史時代 3 群鉄製品実測図　2

PL.388　歴史時代３群文字資料抜萃　1




PL.389　歴史時代３群文字資料抜萃　2

千葉県文化財センター調査報告第188集

# 八千代市白幡前遺跡

—萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ—

## 図　版　編

1991

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
財団法人　千葉県文化財センター

# 八千代市白幡前遺跡

—萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅴ—

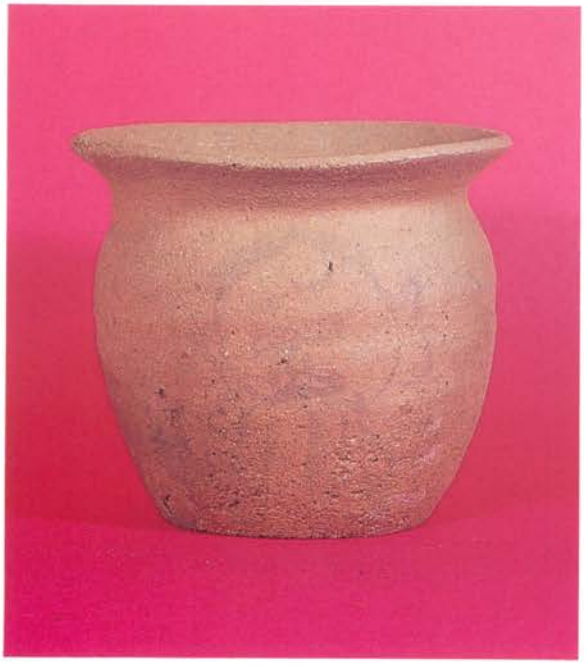
## 図　版　編

1991

住宅・都市整備公団 首都圏都市開発本部
財団法人　千葉県文化財センター

1．白幡前遺跡全景

村落内寺院と周辺の遺構



人面墨書土器

奈良三彩陶器

# 図版目次


巻頭1　1．白幡前遺跡全景
巻頭2　1．歴史時代2群Aグループ全景
　　2．人面墨書土器
　　3．奈良三彩

―― 遺　跡　全　景 ――

図版1　1．白幡前遺跡全景
図版2　1．白幡前遺跡北側部分
図版3　1．白幡前遺跡南側部分

―― 先　土　器　時　代 ――

図版4　1．S22地点遺物分布状況
　　2．S22地点出土遺物
　　3．S 5地点出土遺物
　　4．S27地点出土遺物
　　5．S28地点出土遺物
　　6．S31地点出土遺物
図版5　1．S 2地点遺物分布状況
　　2．S 2地点炉跡（P011）
　　3．S 2地点炉跡断面
図版6　1．S 2地点出土遺物
　　2．S 3地点出土遺物
　　3．S11地点遺物分布状況
図版7　1．S12地点遺物分布状況
　　2．S13地点遺物分布状況
　　3．S13地点出土遺物
図版8　1．S18地点遺物分布状況
　　2．S18地点出土遺物
　　3．S21地点遺物分布状況
　　4．S21地点出土遺物
図版9　1．S21地点出土遺物
　　2．S26地点遺物分布状況
図版10　1．S26地点出土遺物
　　2．S29地点遺物分布状況
　　3．S29地点出土遺物
図版11　1．S29地点出土遺物
図版12　1．S29地点出土遺物
　　2．S30地点遺物分布状況
　　3．S30地点出土遺物
図版13　1．S30地点出土遺物
図版14　1．S32地点遺物分布状況
　　2．S32地点出土遺物
　　3．S33地点遺物分布状況
　　4．S34地点遺物分布状況
図版15　1．S34地点出土遺物
　　2．S37地点遺物分布状況
　　3．S37地点出土遺物
図版16　1．S46地点遺物分布状況
　　2．S60地点遺物分布状況
　　3．S60地点出土遺物
図版17　1．S47地点遺物分布状況
　　2．S47地点出土遺物
　　3．S16地点出土遺物
　　4．S25地点遺物分布状況
図版18　1．S25地点出土遺物
　　2．S38地点遺物分布状況
　　3．S38地点出土遺物
図版19　1．S39地点遺物分布状況
　　2．S39地点出土遺物
　　3．S40地点遺物分布状況
図版20　1．S40地点出土遺物
　　2．S41地点遺物分布状況
　　3．S41地点出土遺物
図版21　1．S42地点遺物分布状況
　　2．S42地点出土遺物
　　3．S43地点遺物分布状況
　　4．S20地点遺物分布状況
図版22　1．S20地点出土遺物
　　2．S23地点遺物分布状況
　　3．S23地点出土遺物
図版23　1．S49地点遺物分布状況
　　2．S49地点出土遺物
　　3．S52地点遺物分布状況
　　4．S 2地点出土遺物

―― 弥　生　時　代 ――

図版24　1．D092全景

2．D093全景
3．D095全景
図版25　1．D097全景
2．D098・D099全景
3．D117全景
図版26　1．D130全景
2．D135全景
3．D169全景
図版27　1．D197全景
2．D225全景
3．D229全景
図版28　1．D230全景
2．D231全景
3．D232全景
図版29　1．弥生時代1・2群出土土器
図版30　1．弥生時代3群出土遺物
―――― 古　墳　時　代 ――――
図版31　1．D172全景
2．D184全景
3．D184遺物出土状況
図版32　1．D266全景
2．D269全景
3．D274全景
図版33　1．D274遺物出土状況
2．D274遺物出土状況
3．D274遺物出土状況
図版34　1．古墳時代1群出土土器
図版35　1．古墳時代1・2群出土土器
図版36　1．古墳時代2・3群出土土器
―――― 歴　史　時　代 ――――
図版37　1．歴史時代1群Aグループ全景
2．D171全景
3．D172全景
図版38　1．D176全景
2．D178全景
3．D179全景
図版39　1．D180全景
2．D181全景
3．D185全景
図版40　1．D238全景
2．D240全景
3．D240遺物出土状況
図版41　1．H078・H079全景
2．P168全景
3．P168動物遺存体
図版42　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版43　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版44　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版45　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版46　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版47　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版48　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版49　1．歴史時代1群Aグループ出土土器
図版50　1．歴史時代1群Aグループ出土鉄製品
図版51　1．歴史時代1群Aグループ出土鉄・銅製品
図版52　1．歴史時代1群Aグループ出土文字資料
図版53　1．歴史時代1群Aグループ出土文字資料
図版54　1．歴史時代1群Bグループ全景
図版55　1．D144全景
2．D146全景
3．D147全景
図版56　1．D148全景
2．D150全景
3．D157全景
図版57　1．D153全景
2．D156全景
3．D157・D158全景
図版58　1．D159遺物出土状況
2．D161全景
3．D162全景
図版59　1．D164全景
2．D165全景
3．D166全景
図版60　1．D167・D168全景
2．D170全景

3．D173全景
図版61　1．D174全景
2．D174遺物出土状況
3．D183・D187全景
図版62　1．D188全景
2．D188遺物出土状況
3．D194全景
図版63　1．D195全景
2．D196全景
3．D209全景
図版64　1．D214全景
2．D256全景
3．D264全景
図版65　1．H080全景
2．H082・H083全景
3．H092・H093全景
図版66　1．H094～H098全景
2．H099全景
3．H108～H110全景
図版67　1．H115・H116・H119全景
2．H145～H150全景
3．P038全景
図版68　1．P138全景
2．P138貝層検出状況
3．P138貝層断面
図版69　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版70　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版71　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版72　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版73　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版74　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版75　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版76　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版77　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版78　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版79　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版80　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版81　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版82　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版83　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版84　1．歴史時代1群Bグループ出土土器
図版85　1．歴史時代1群Bグループ出土紡錘具・土製品・砥石・瓦塔
図版86　1．歴史時代1群Bグループ出土鉄製品
図版87　1．歴史時代1群Bグループ出土鉄・銅製品
図版88　1．歴史時代1群Bグループ出土鉄製品
図版89　1．歴史時代1群Bグループ出土文字資料
図版90　1．歴史時代1群Bグループ出土文字資料
図版91　1．歴史時代1群Bグループ出土文字資料
図版92　1．歴史時代2群Aグループ全景
図版93　1．D118全景
2．D119全景
3．D119遺物出土状況
図版94　1．D121全景
2．D124全景
3．D124遺物出土状況
図版95　1．D126全景
2．D131全景
3．D132全景
図版96　1．D134全景
2．D136全景
3．D137・D138全景
図版97　1．D139全景
2．D140全景
3．D141全景
図版98　1．D210全景
2．D217全景
3．D258全景
図版99　1．D259全景
2．D259遺物出土状況
3．D260全景
図版100　1．H061～H065全景
2．H061～H065全景
3．H066全景

図版101 1．H067～H069全景
2．H085全景
3．H086全景
図版102 1．歴史時代2群Aグループ出土土器
図版103 1．歴史時代2群Aグループ出土土器
図版104 1．歴史時代2群Aグループ出土土器
図版105 1．歴史時代2群Aグループ出土土器
図版106 1．歴史時代2群Aグループ出土土器
図版107 1．歴史時代2群Aグループ出土土器
図版108 1．歴史時代2群Aグループ出土瓦塔
図版109 1．歴史時代2群Aグループ出土瓦塔
図版110 1．歴史時代2群Aグループ出土瓦塔・鉄製品・和同開珎
図版111 1．歴史時代2群Aグループ出土文字資料
図版112 1．歴史時代2群Aグループ出土文字資料
図版113 1．D039全景
2．D040全景
3．D043全景
図版114 1．D044全景
2．D046全景
3．D048全景
図版115 1．D049全景
2．D050全景
3．D051全景
図版116 1．D054全景
2．D055全景
3．D057全景
図版117 1．D058全景
2．D108全景
3．D110全景
図版118 1．D115全景
2．D125全景
3．H017全景
図版119 1．H018全景
2．H019全景
3．H074全景
図版120 1．歴史時代2群Bグループ出土土器
図版121 1．歴史時代2群Bグループ出土土器
図版122 1．歴史時代2群Bグループ出土土器
図版123 1．歴史時代2群Bグループ出土土器
図版124 1．歴史時代2群Bグループ出土土器
図版125 1．歴史時代2群Bグループ出土土器・紡錘具・鉄製品・文字資料
図版126 1．D021全景
2．D022全景
3．D023全景
図版127 1．D024全景
2．D027全景
3．D028遺物出土状況
図版128 1．D030全景
2．D031全景
3．D034全景
図版129 1．D035全景
2．D036全景
3．D067全景
図版130 1．D067貝層堆積状況
2．D203全景
3．D204全景
図版131 1．D205全景
2．D206全景
3．D208全景
図版132 1．D273全景
2．D275全景
3．D276全景
図版133 1．D277・D278全景
2．D279全景
3．D280全景
図版134 1．D285全景
2．H008～H010全景
3．H011全景
図版135 1．H015全景
2．H020全景
3．H021全景
図版136 1．歴史時代2群Cグループ出土土器
図版137 1．歴史時代2群Cグループ出土土器
図版138 1．歴史時代2群Cグループ出土土器

図版139 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版140 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版141 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版142 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版143 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器
図版144 1．歴史時代２群Ｃグループ出土土器・鉄製品
図版145 1．歴史時代２群Ｃグループ出土鉄製品
図版146 1．歴史時代２群Ｃグループ出土文字資料
図版147 1．歴史時代２群Ｃグループ出土文字資料
図版148 1．Ｄ061全景
2．Ｄ068全景
3．Ｄ070全景
図版149 1．Ｄ075全景
2．Ｄ243全景
3．Ｄ245全景
図版150 1．Ｄ246全景
2．Ｄ247全景
3．Ｄ248全景
図版151 1．Ｄ249全景
2．Ｄ251全景
3．Ｄ252全景
図版152 1．Ｄ253全景
2．Ｄ254全景
3．Ｈ131・Ｈ132全景
図版153 1．Ｈ133・Ｈ134全景
2．Ｈ137全景
3．Ｐ019全景
図版154 1．歴史時代２群Ｄグループ出土土器
図版155 1．歴史時代２群Ｄグループ出土土器
図版156 1．歴史時代２群Ｄグループ出土土器
図版157 1．歴史時代２群Ｄグループ出土土器
図版158 1．歴史時代２群Ｄグループ出土土器
図版159 1．歴史時代２群Ｄグループ出土鉄製品
図版160 1．歴史時代２群Ｄグループ出土文字資料
図版161 1．歴史時代２群Ｅグループ全景
図版162 1．Ｄ010全景
2．Ｄ025全景
3．Ｄ026全景
図版163 1．Ｄ072全景
2．Ｄ074全景
3．Ｄ076全景
図版164 1．Ｄ078全景
2．Ｄ079全景
3．Ｄ080全景
図版165 1．Ｄ081全景
2．Ｄ082全景
3．Ｄ083全景
図版166 1．Ｄ084全景
2．Ｄ085全景
3．Ｄ086全景
図版167 1．Ｄ087全景
2．Ｄ088全景
3．Ｄ089全景
図版168 1．Ｄ090全景
2．Ｄ091全景
3．Ｈ023全景
図版169 1．Ｈ033全景
2．Ｈ035全景
3．Ｈ051・Ｈ052全景
図版170 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器
図版171 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器
図版172 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器
図版173 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器
図版174 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器
図版175 1．歴史時代２群Ｅグループ出土土器・紡錘具
図版176 1．歴史時代２群Ｅグループ出土鉄・銅製品
図版177 1．歴史時代２群Ｅグループ出土文字資料
図版178 1．歴史時代２群Ｆグループ全景
2．Ｄ002全景
図版179 1．Ｄ003全景
2．Ｄ003遺物出土状況

3．D004全景
図版180 1．D005全景
2．D007全景
3．D008全景
図版181 1．D009全景
2．D011A・B全景
3．D012全景
図版182 1．D012遺物出土状況
2．D013全景
3．D015全景
図版183 1．D016全景
2．D017全景
3．D017遺物出土状況
図版184 1．D018全景
2．D020全景
3．H001・H002全景
図版185 1．H003全景
2．H004・H005全景
3．H006全景
図版186 1．H013全景
2．H014全景
3．P004全景
図版187 1．歴史時代2群Fグループ出土土器
図版188 1．歴史時代2群Fグループ出土土器
図版189 1．歴史時代2群Fグループ出土土器
図版190 1．歴史時代2群Fグループ出土土器
図版191 1．歴史時代2群Fグループ出土土器
図版192 1．歴史時代2群Fグループ出土鉄製品
図版193 1．歴史時代2群Fグループ出土文字資料
図版194 1．歴史時代3群全景
図版195 1．D059全景
2．D060全景
3．D063全景
図版196 1．D066全景
2．D101全景
3．D102全景
図版197 1．D103全景
2．D105全景
3．D227全景
図版198 1．D233全景
2．D234全景
3．D235全景
図版199 1．D236全景
2．D270全景
3．H028全景
図版200 1．H029全景
2．H030全景
3．H031全景
図版201 1．H032全景
2．H037・H038全景
3．H040全景
図版202 1．H043全景
2．H126全景
3．H142全景
図版203 1．H143全景
2．H144全景
3．P031全景
図版204 1．歴史時代3群出土土器
図版205 1．歴史時代3群出土土器
図版206 1．歴史時代3群出土土器
図版207 1．歴史時代3群出土土器
図版208 1．歴史時代3群出土土器
図版209 1．歴史時代3群出土土器
図版210 1．歴史時代3群出土土器
図版211 1．歴史時代3群出土紡錘具・鉄製品
図版212 1．歴史時代3群出土鉄製品
図版213 1．歴史時代3群出土文字資料
図版214 1．歴史時代3群出土文字資料

白幡前遺跡全景

白幡前遺跡:北側部分

白幡前遺跡南側部分

1．S22地点遺物分布状況

1

1　　2

2．S22地点出土遺物

1

3．S 5 地点出土遺物

1

2

4．S27地点出土遺物

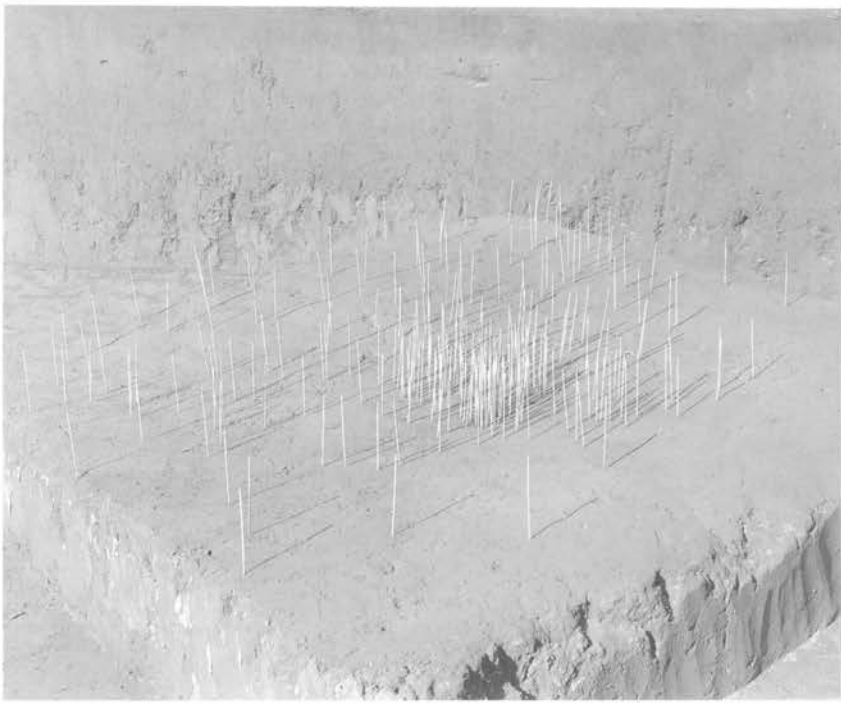
2

1

6．S31地点出土遺物

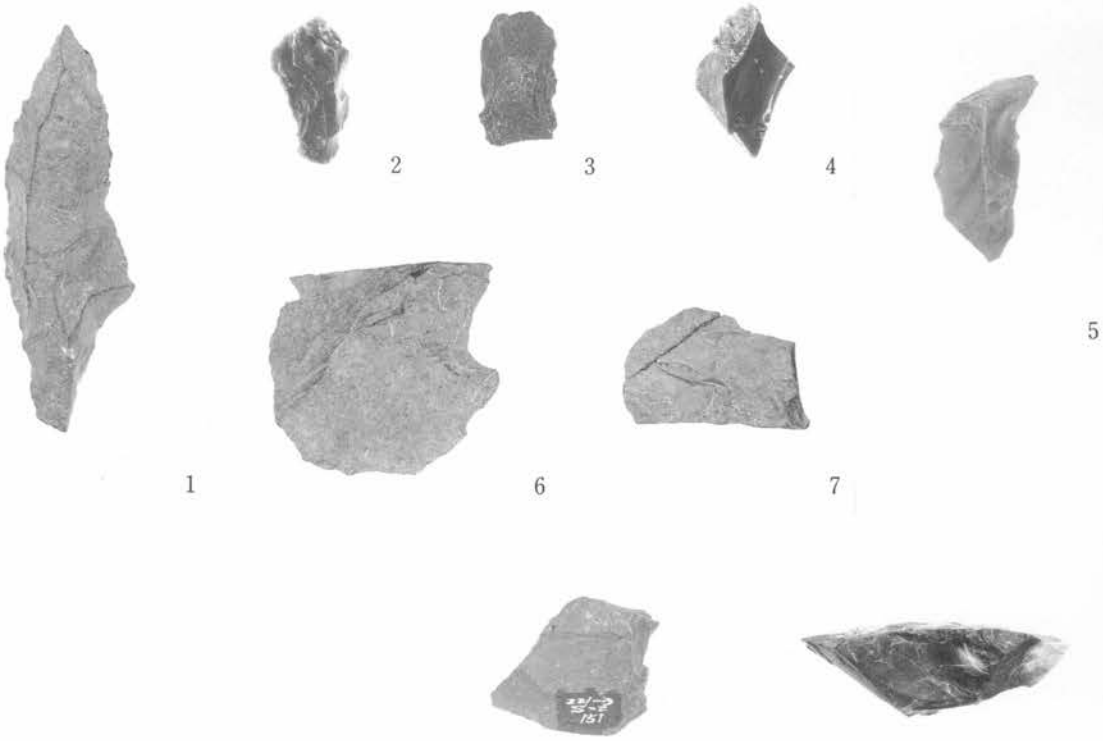
5．S28地点出土遺物

1．Ｓ２地点遺物分布状況



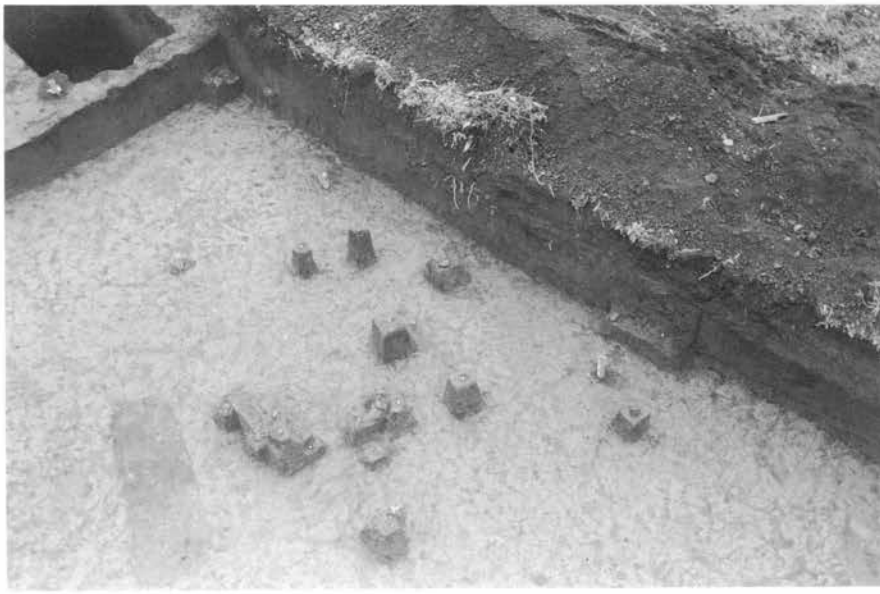
2．Ｓ２地点炉跡（Ｐ011）

3．Ｓ２地点炉跡断面



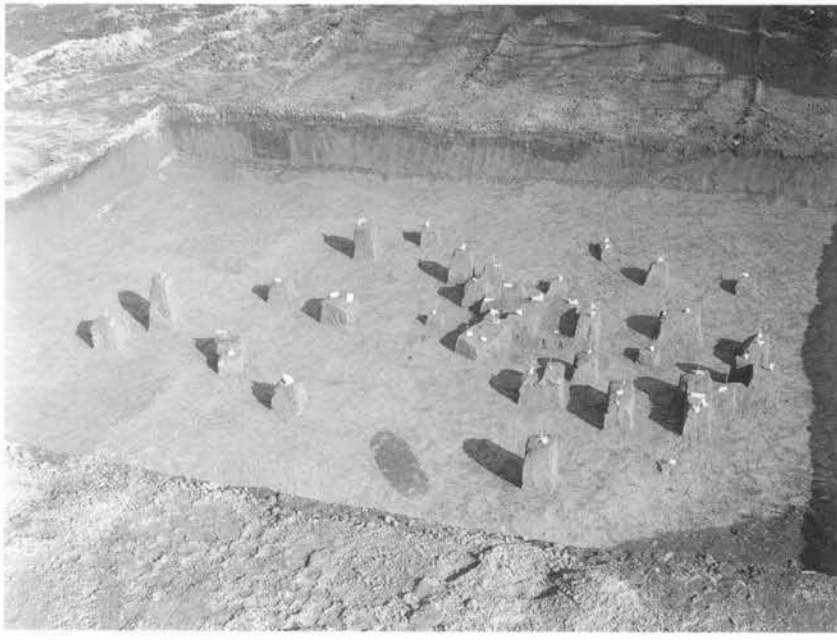

1．Ｓ２地点出土遺物

2．Ｓ３地点出土遺物

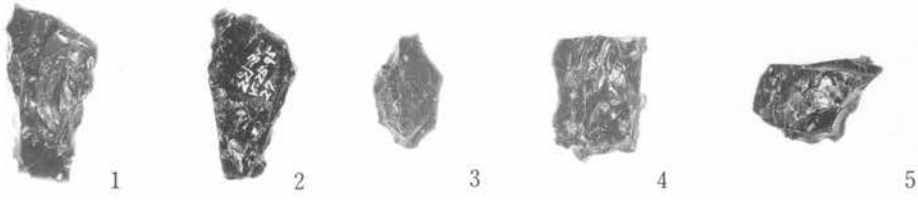


3．Ｓ11地点遺物分布状況

1．S12地点遺物分布状況



2．S13地点遺物分布状況



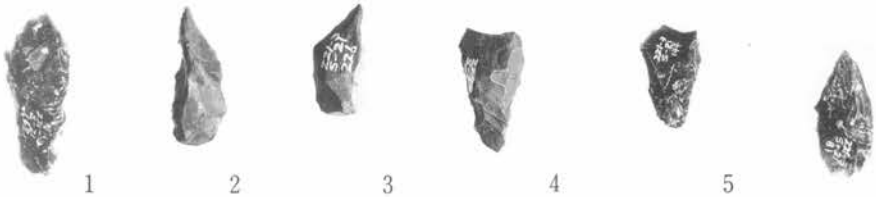

3．S13地点出土遺物

1．S18地点遺物分布状況

1　2　3

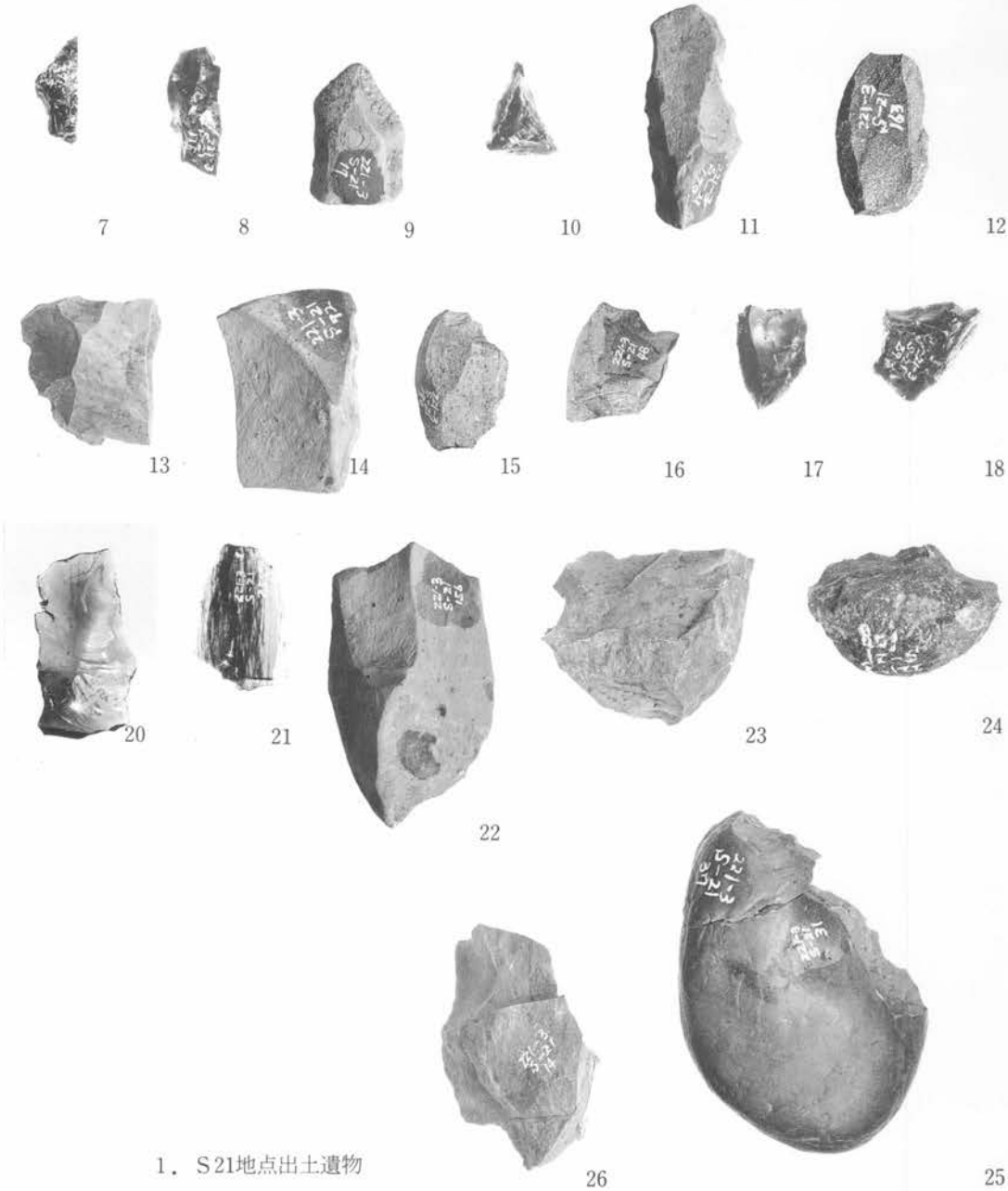
2．S18地点出土遺物

3．S21地点遺物分布状況



1　2　3　4　5　6

4．S21地点出土遺物




1．S21地点出土遺物

2．S26地点遺物分布状況

1

2

3

4

1．S26地点出土遺物

2．S29地点遺物分布状況

1a

S29
182

1

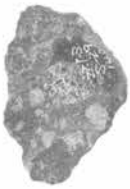
2a

3

3．S29地点出土遺物

4

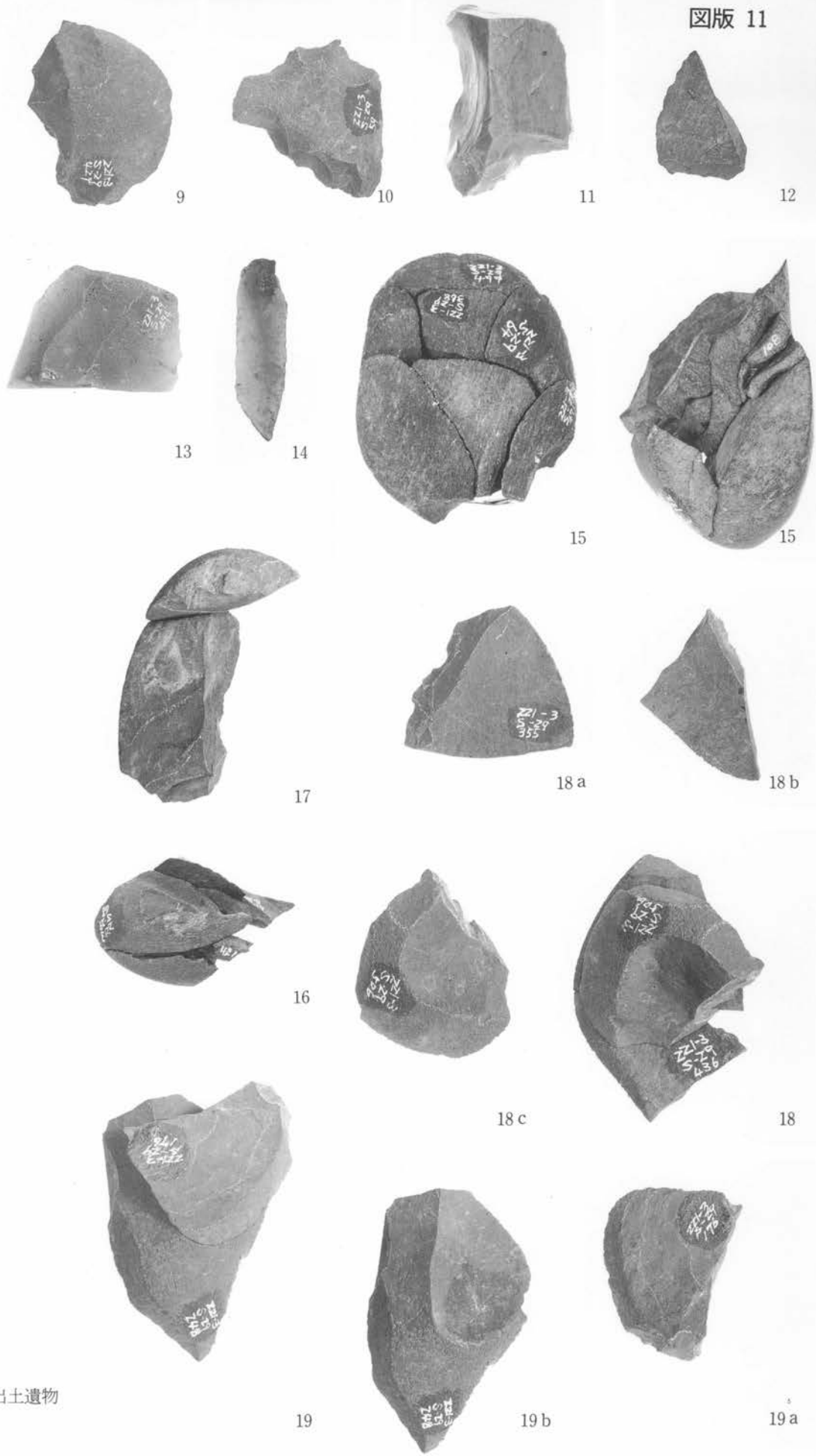
5



6

7

8




1．S29地点出土遺物

20

21

22

23

24

25

1．S29地点出土遺物

2．S30地点遺物分布状況

1

2

17

3

6


7

4

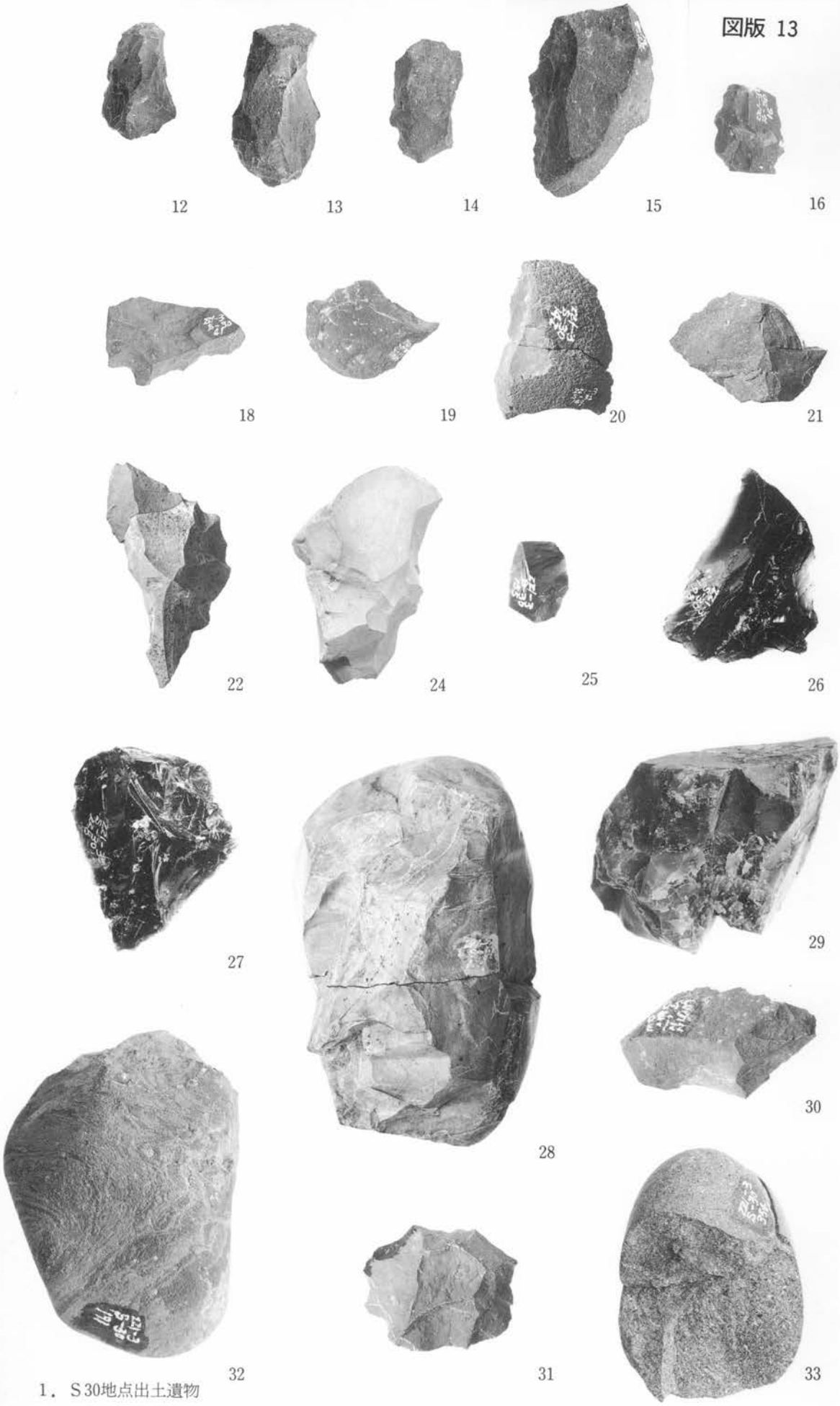
8

9

10

11

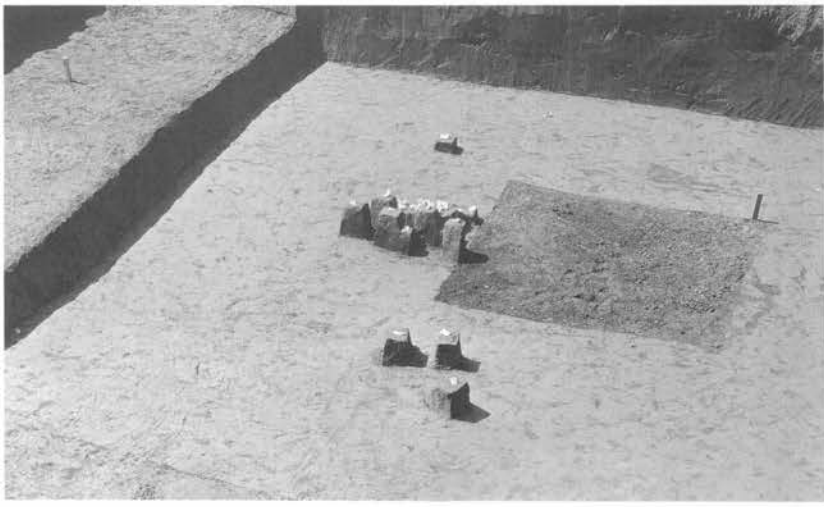
3．S30地点出土遺物




1．S30地点出土遺物

1．S32地点遺物分布状況

2．S32地点出土遺物

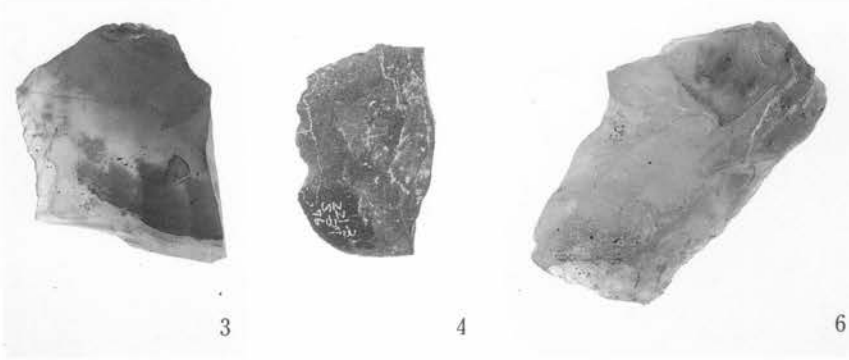


3．S33地点遺物分布状況

4．S34地点遺物分布状況

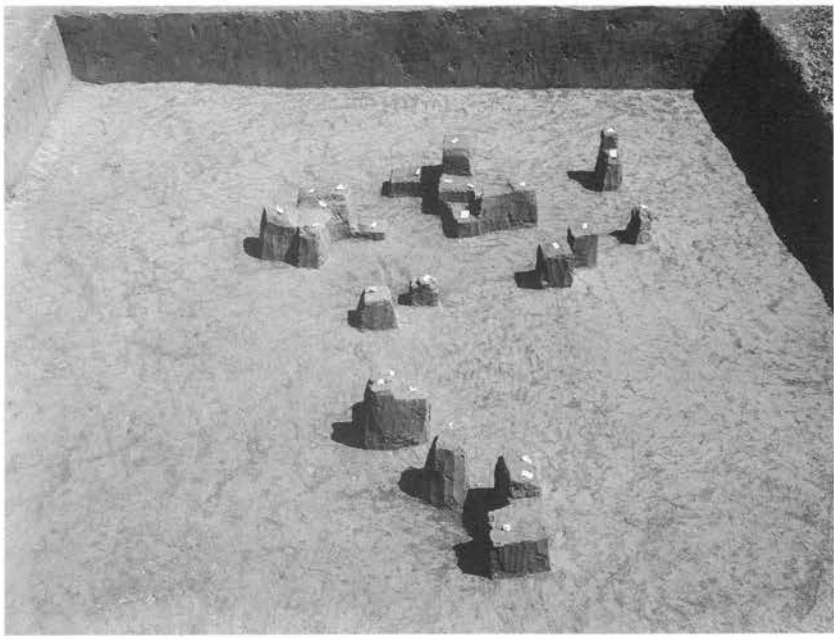
1．S34地点出土遺物

2．S37地点遺物分布状況

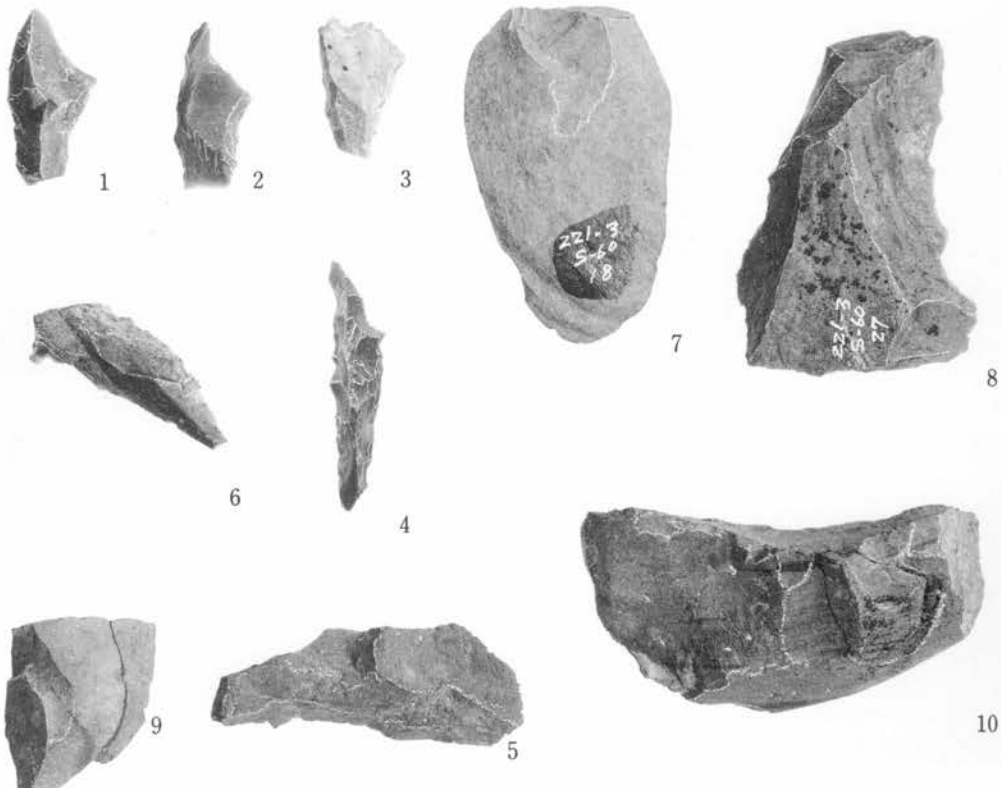


3．S37地点出土遺物

1．S46地点遺物分布状況



2．S60地点遺物分布状況




3．S60地点出土遺物

1．S47地点遺物分布状況

1　2　3

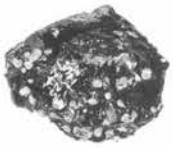
2．S47地点出土遺物

1

3．S16地点出土遺物

4．S25地点遺物分布状況

1a


1b

2c

2

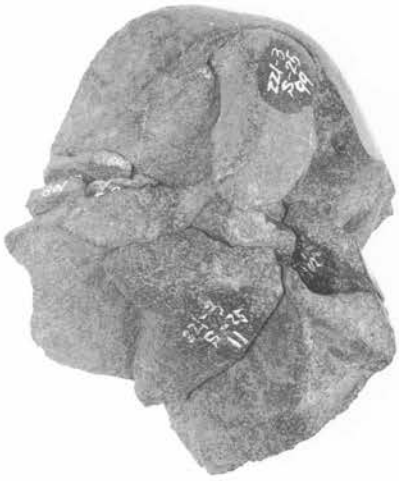
3

4

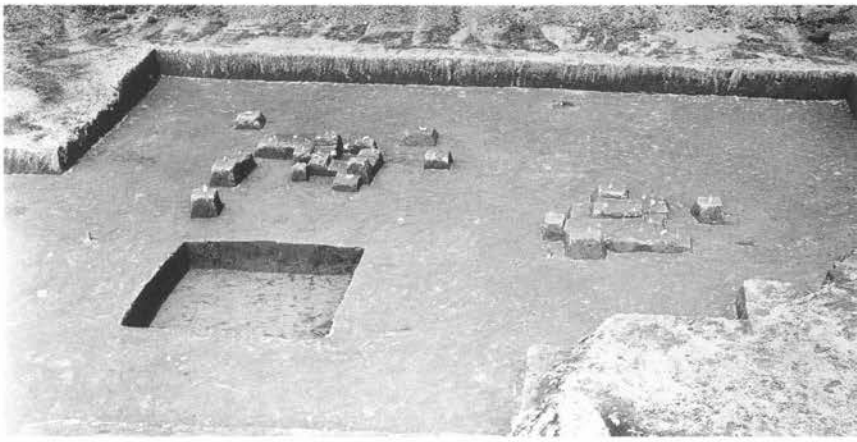
5

7

8.


9

1．S25地点出土遺物



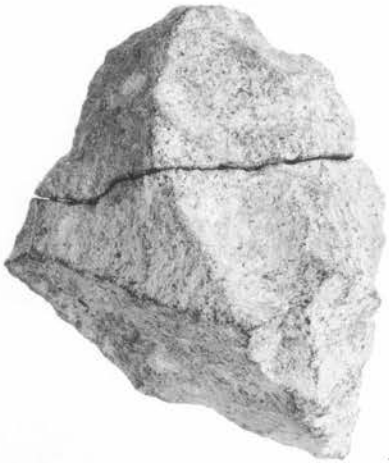
2．S38地点遺物分布状況

1

2

3．S38地点出土遺物

1．S39地点遺物分布状況



1

2

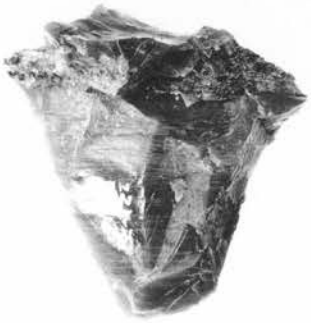
1

3

2．S39地点出土遺物

3．S40地点遺物分布状況

1


2

3

4

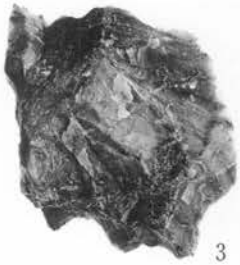
5

1．S40地点出土遺物

2．S41地点遺物分布状況

1

2


3

3．S41地点出土遺物

5

6

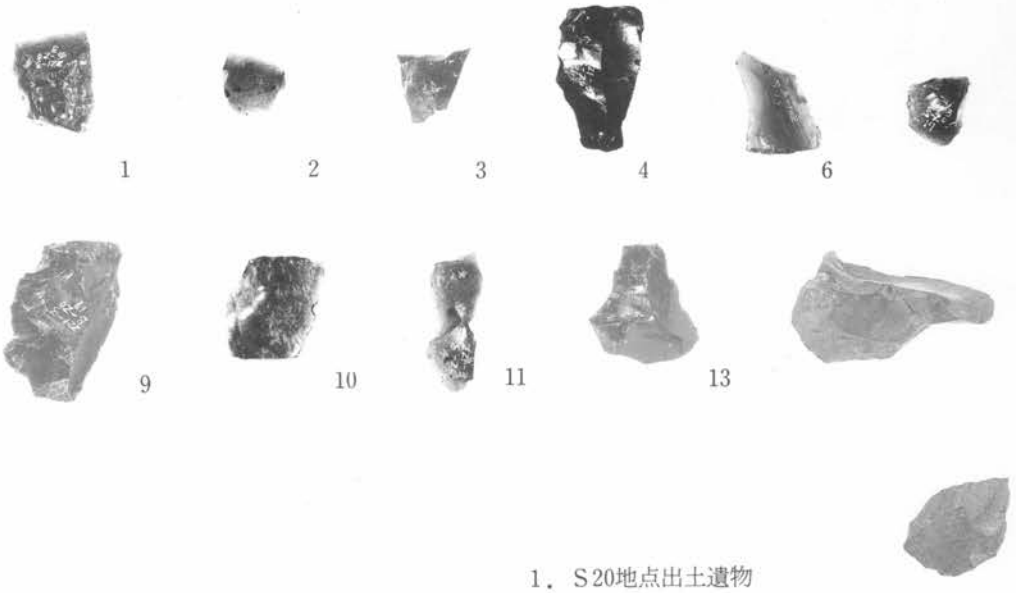
7

1．S42地点遺物分布状況

2．S42地点出土遺物

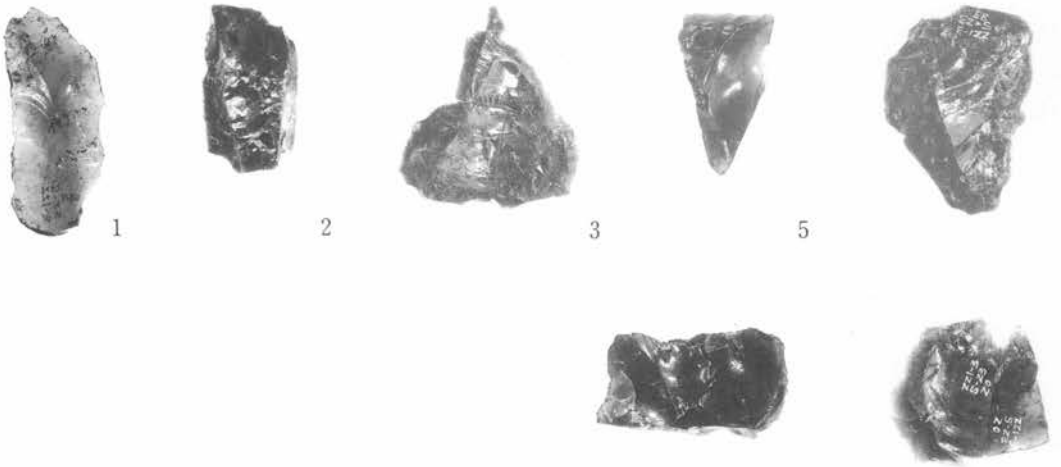
3．S43地点遺物分布状況

4．S20地点遺物分布状況




1．S20地点出土遺物

2．S23地点遺物分布状況




3．S23地点出土遺物

1．S49地点遺物分布状況

1

2．S49地点出土遺物

2

3．S52地点遺物分布状況

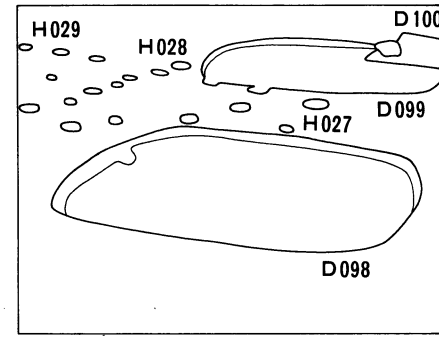
1

4．S 2 地点出土遺物

1．D092全景

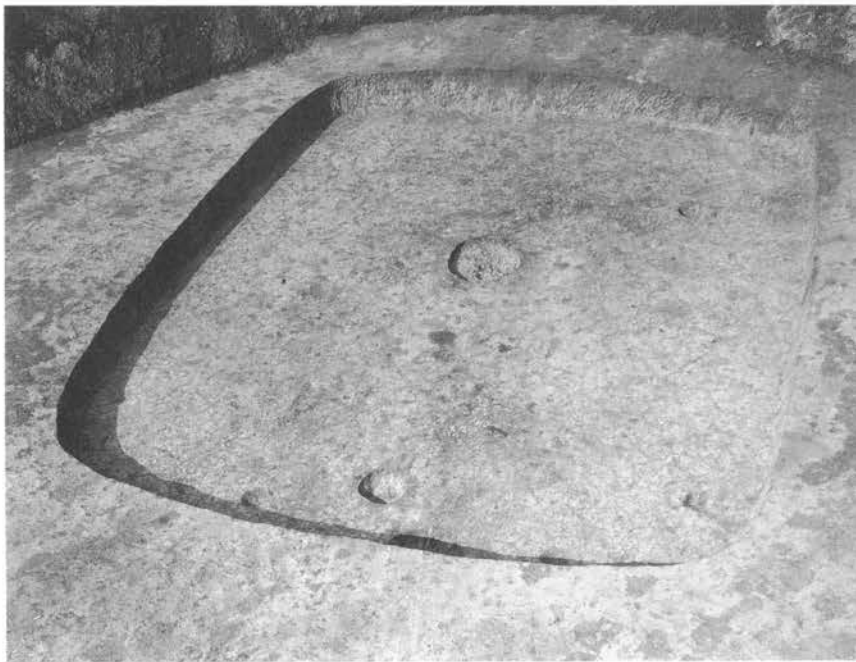
2．D093全景

3．D095全景


H029
H028
D100
D099
H027
D098

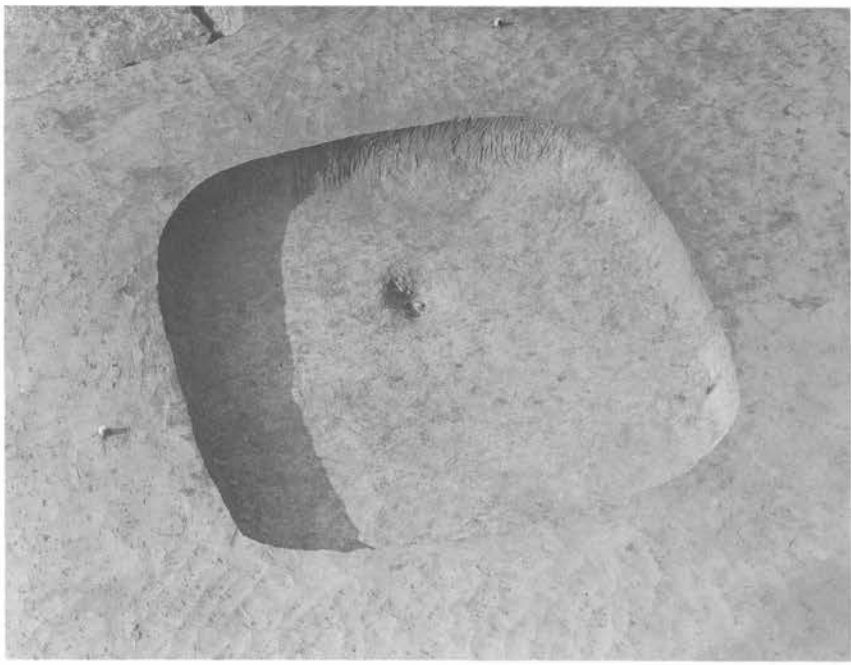
1．D097全景

2．D098・D099全景

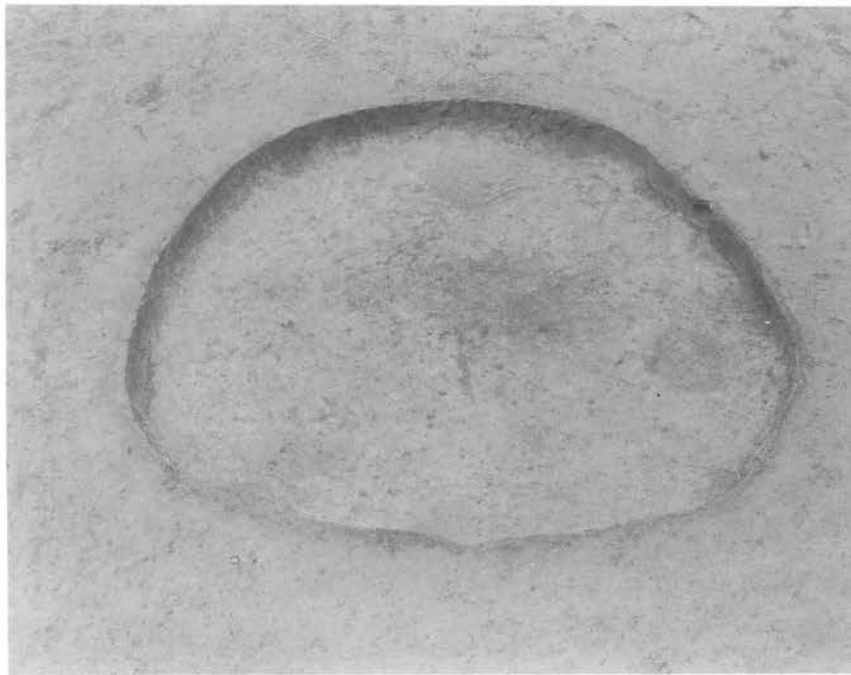


3．D117全景

1．D130全景

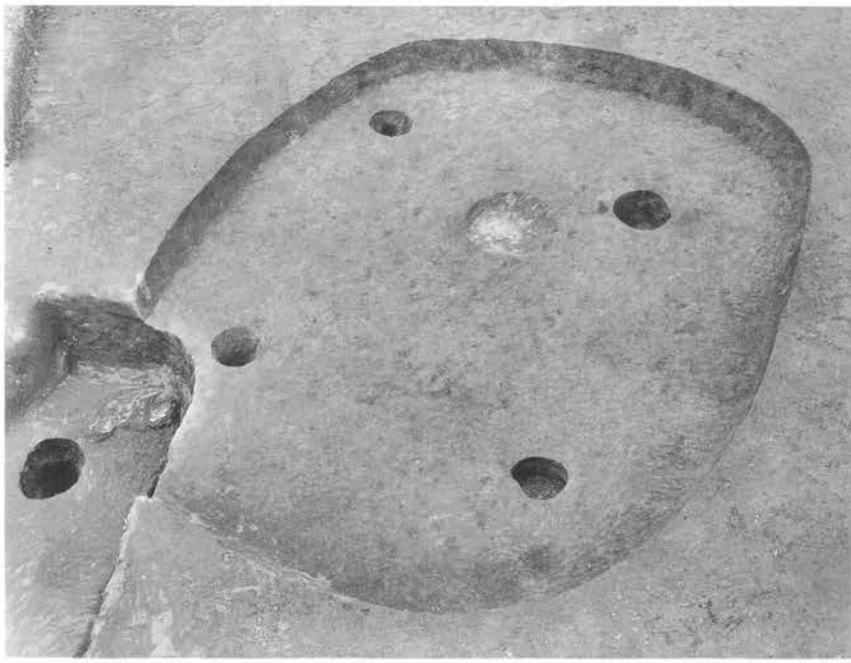


2．D135全景



3．D169全景

1．D197全景



2．D225全景

3．D229全景

1．D230全景

2．D231全景

3．D232全景

弥生時代1・2群

1

2

3

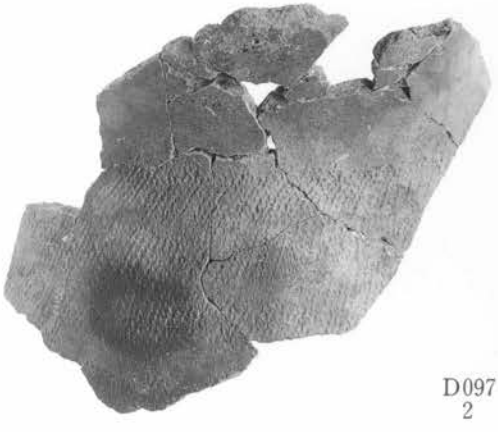
D169

D117
1

D130
2

D097
1

D135
1



D097
2

D225
1

D231
1

D231
2

D231
4

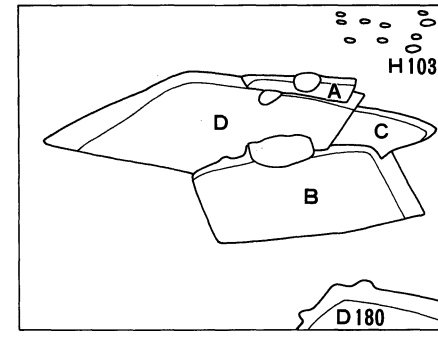
D231
5

D009
8

D098
1

D102
1

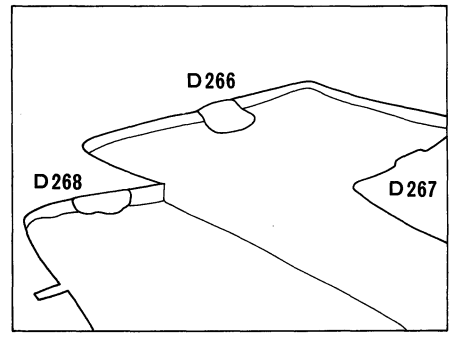
D099
6


H103
A
D
C
B
D180

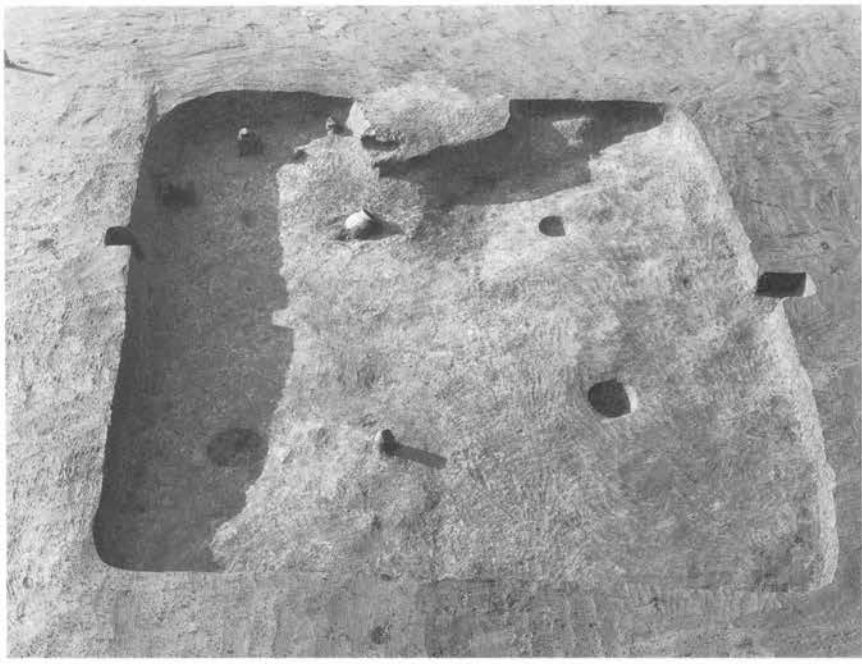
1．D172全景

2．D184全景

3．D184遺物出土状況

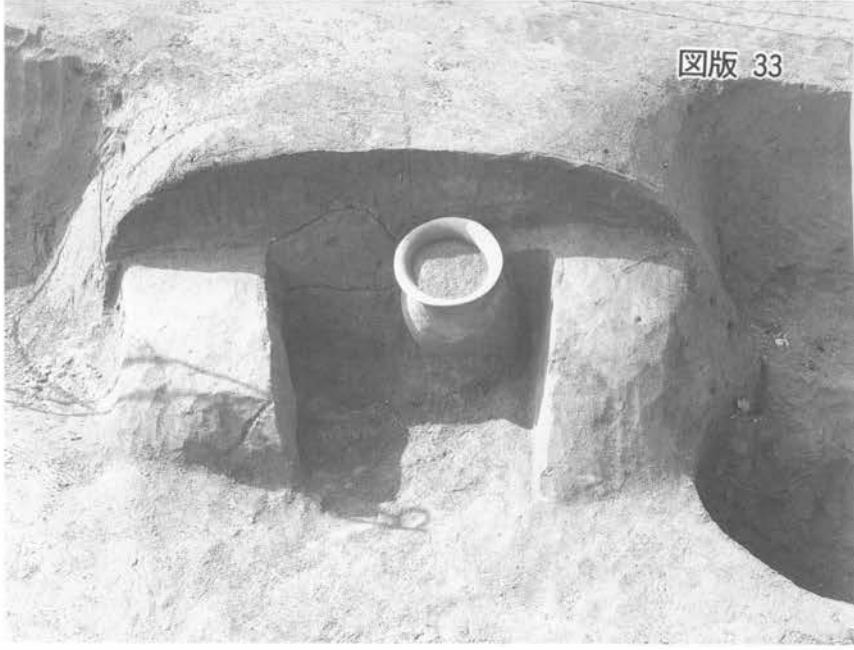

D266
D268
D267

1．D266全景

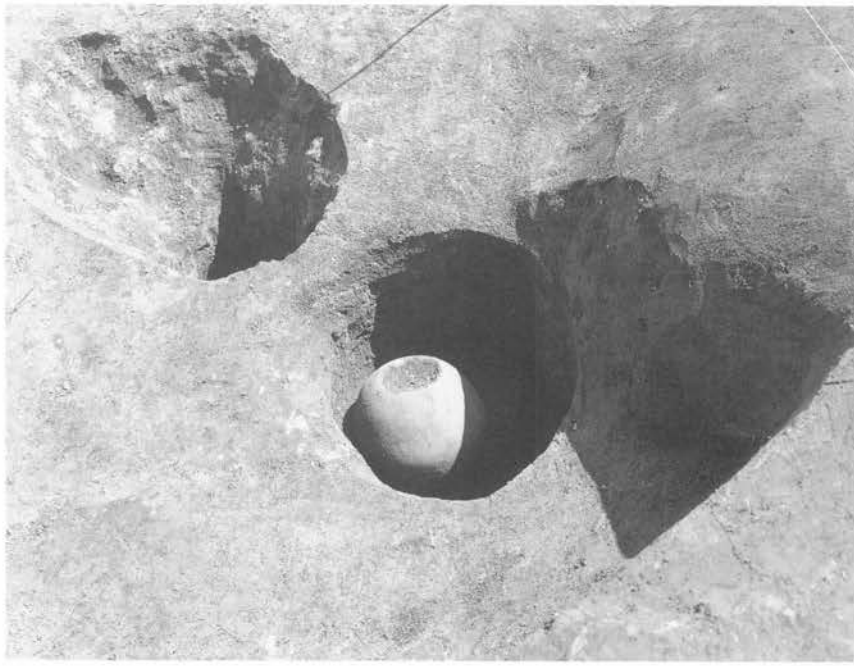


2．D269全景

3．D274全景



1．D274遺物出土状況



2．D274遺物出土状況

3．D274遺物出土状況

古墳時代1群

D172
8

D184
5

D184
8

D184
2

D184
9

D184
7

D184
11

D184
12

D184
16

D184
15

D184
24

D184
20

D184
23

D184
28

D184
30

D184
32

D184
36

D266
5

D266
1

D266
3

D266
2

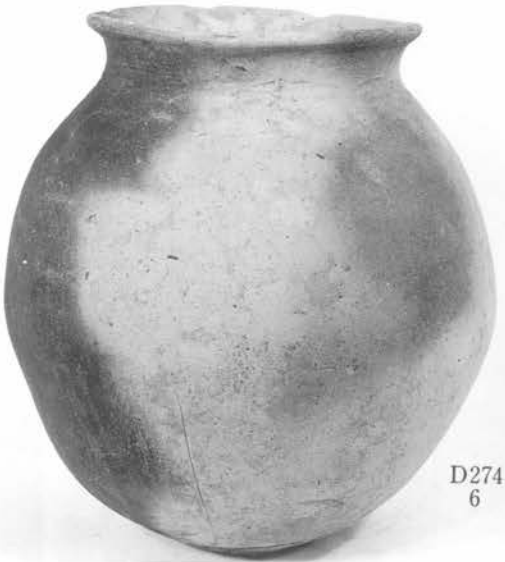
D266
6

D274
1

D269
1

D274
4

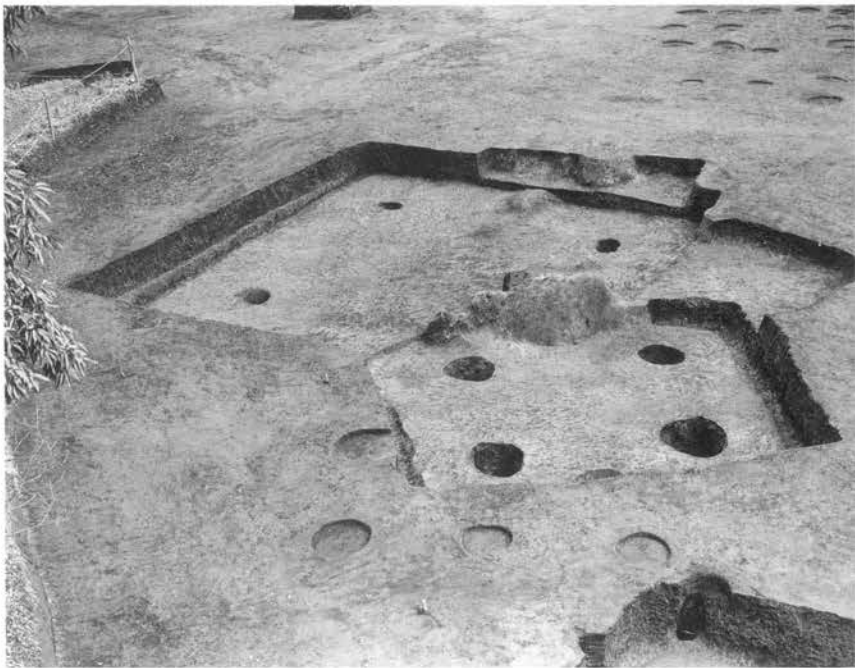
D274
5



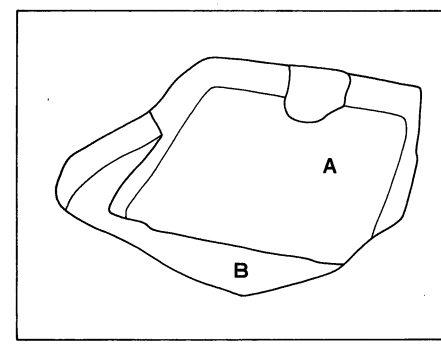
D274
6

1．歴史時代１群Ａグループ全景

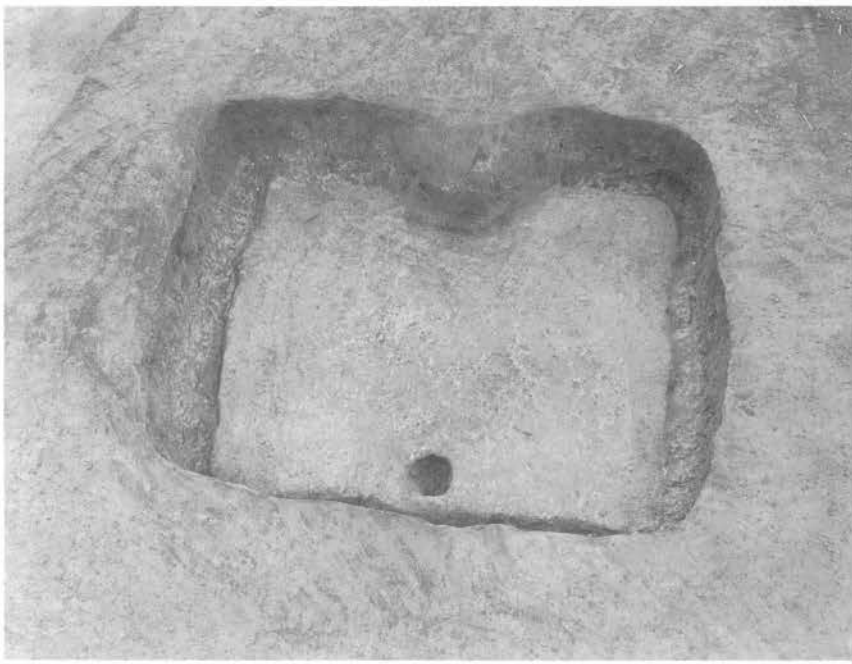
2．D171全景



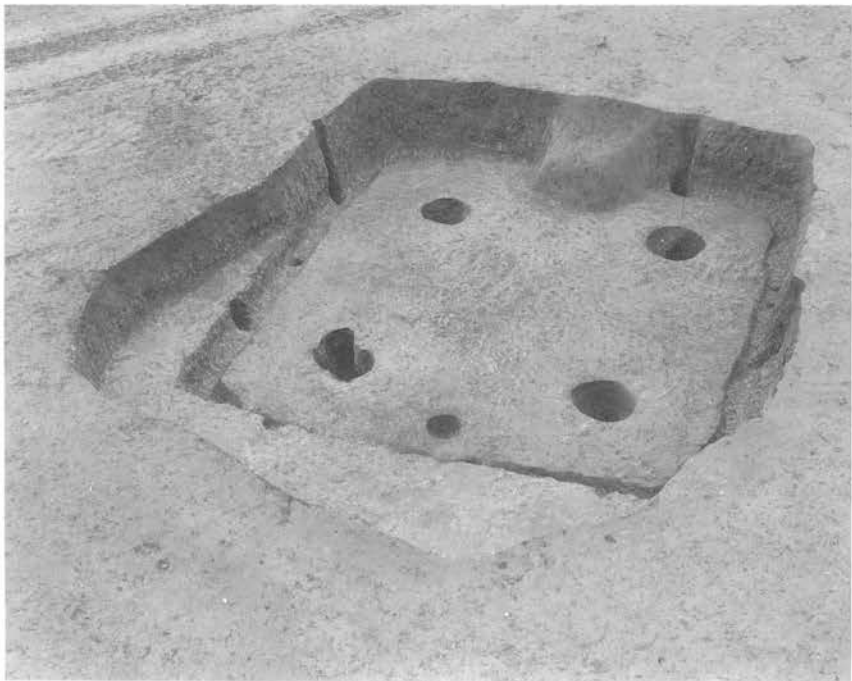
3．D172全景


A
B

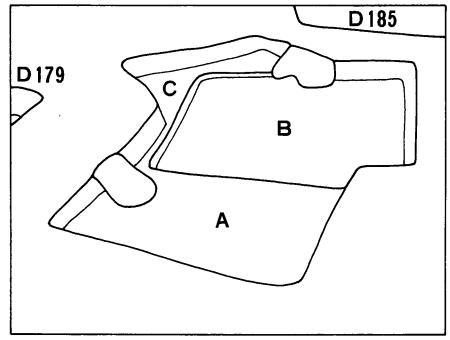
1．D176全景



2．D178全景



3．D179全景


D 185
D 179
C
B
A

1．D180全景

2．D181全景

3．D185全景

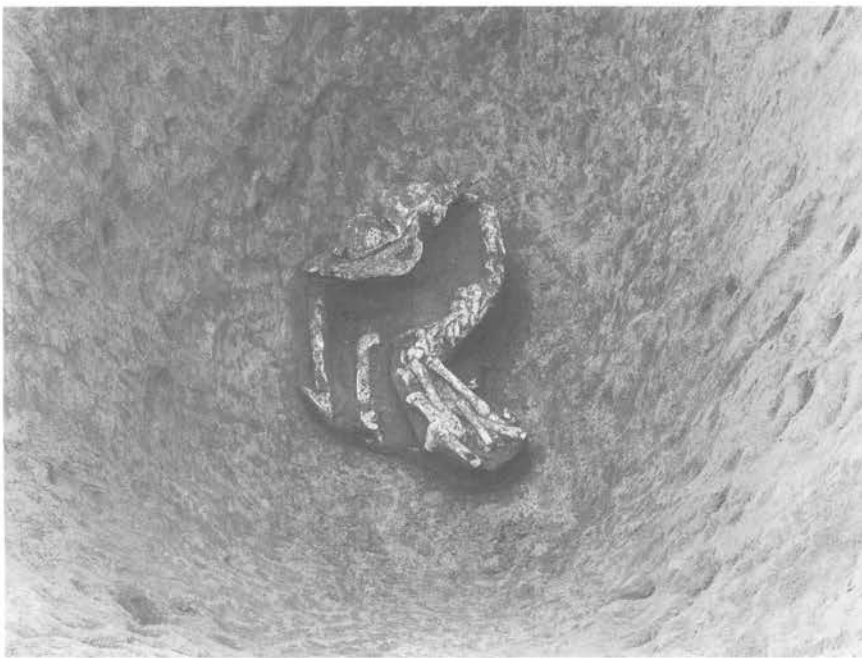
1．D238全景

2．D240全景

3．D240遺物出土状況

1．H078・H079全景

2．P168全景



3．P168動物遺存体

D001
1

D171
1

D171
2

D172A
2

D172A
8

D172B
1

D172B
2

D172B
5

D172B
4

D172B
11

D172B
6

D172B
44

D172B
14

歴史時代1群A

D172不明
6

D172C
6

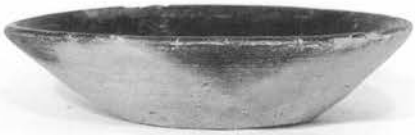
D176
1

D176
2

D176
7

D176
9

D176
33



D176
17

D176
14

D176
15

D177
2

D178
5

D179
3

D179
10

D179
23

D179
28

D179
33

D179
30

D178
2

D179
2

D179
9

D179
25

D179
29

D179
41

D180
2

D180
3

D180
4

D180
5

D180
6

D180
7

D180
8

D180
9

D180
10

D180
12

D180
15

D180
19

D180
24

D180
22

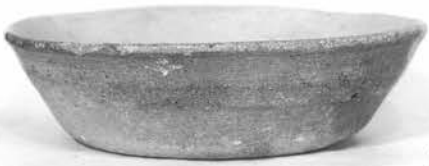
D180
27

D180
25

D180
30

D180
52

D181A
2



D181A
3

D181A
6

D181B
1

D181B
3

D181B
2

D181C
5

D181C
4

D181C
8

D181C
7

D181C
10

D181C
13

D181C
14

D181C
20

D181
43

D185
1

D185
3

D185
7

D185
11

D185
21

D185
28

D185
33

D185
35

D185
37

D185
31

D185
39

D185
49

D186
1

D238
2

D238
11

6 8 7

D238

D238
12

D238
13

D238
18

D238
19

歴史時代1群A

D240
3

D240
4

D240
6

D240
7

D240
9

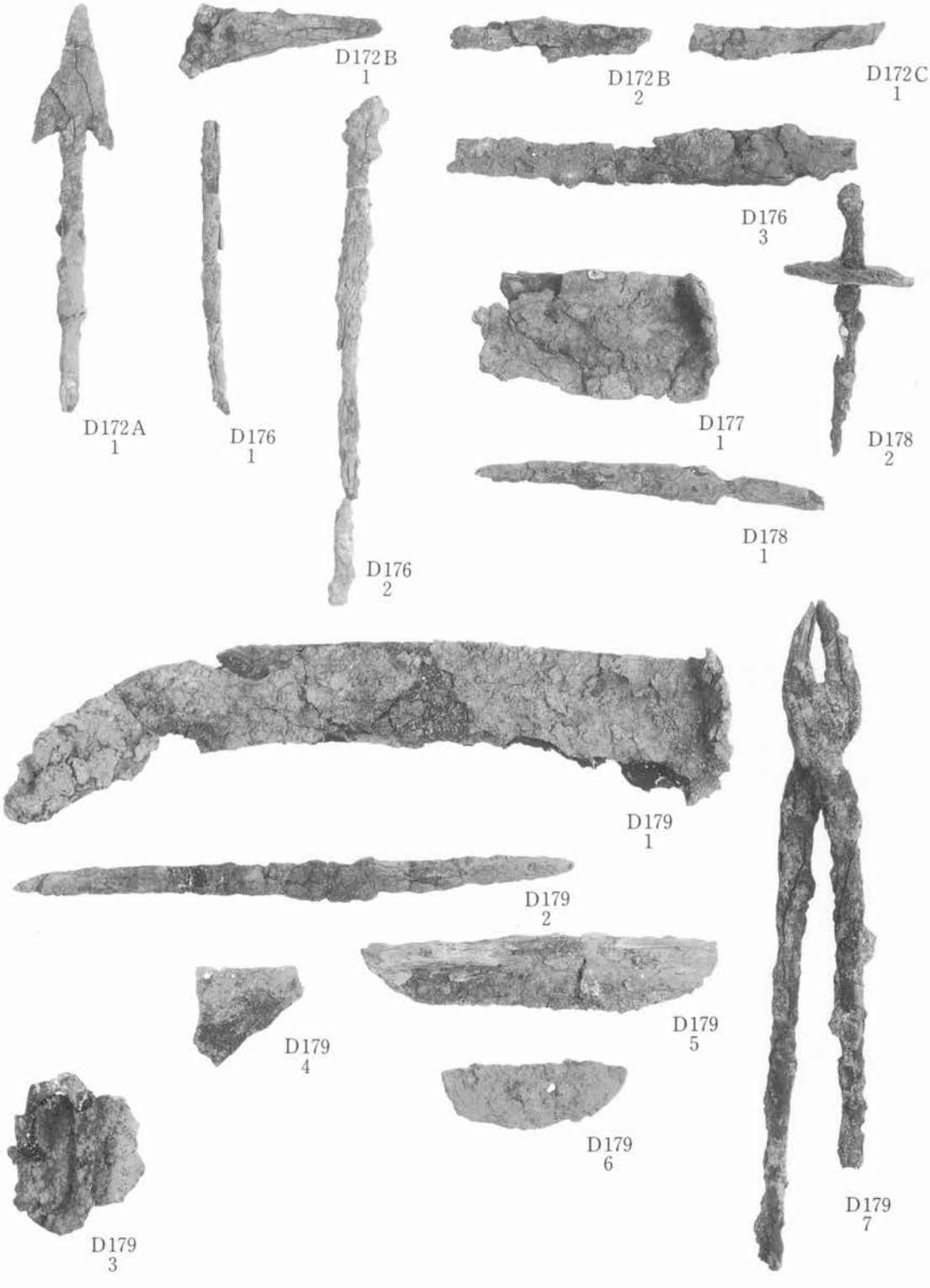
D240
13

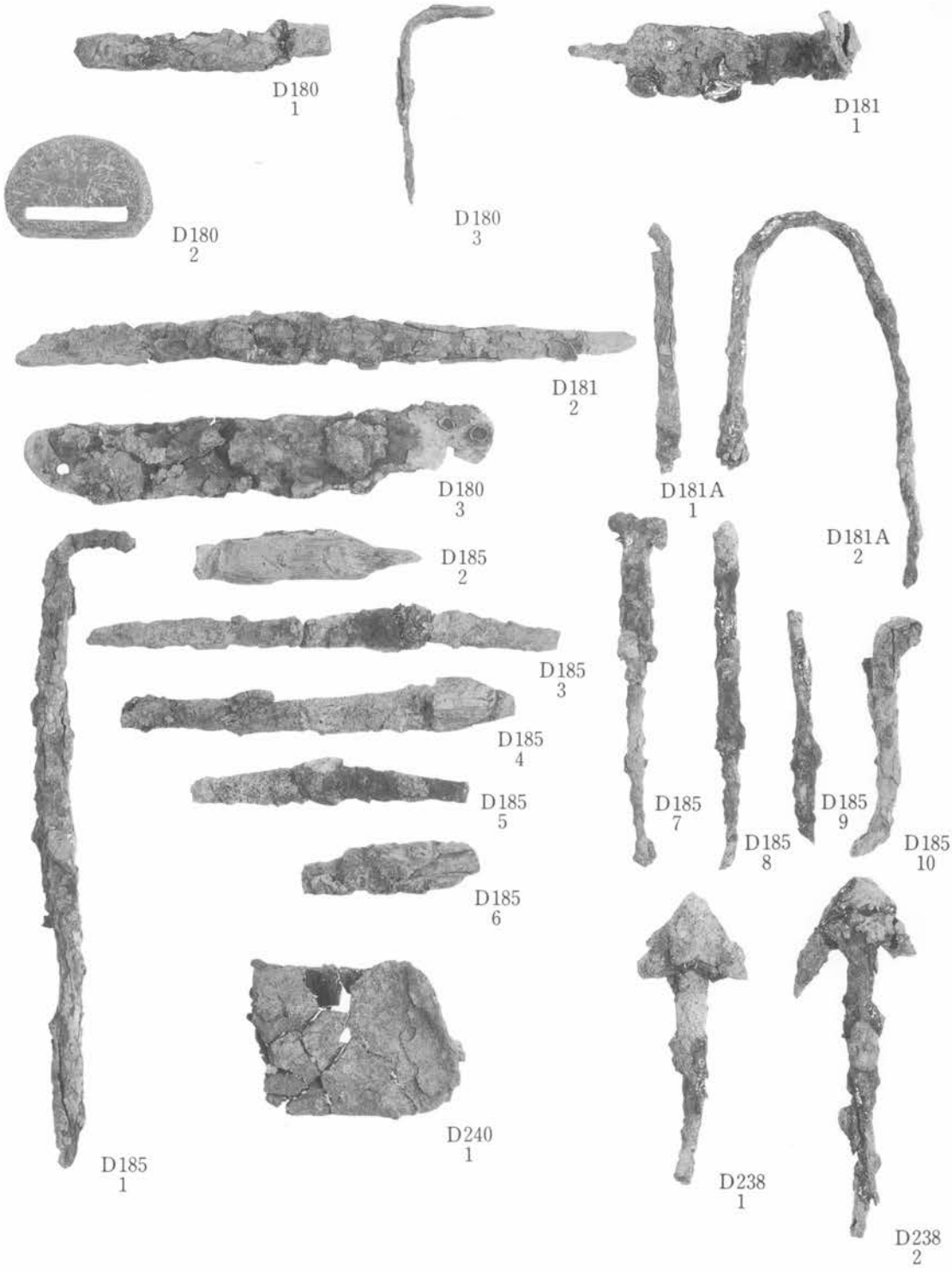
D241
1

D241
4

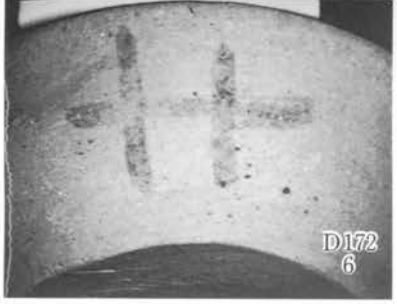
P168
5

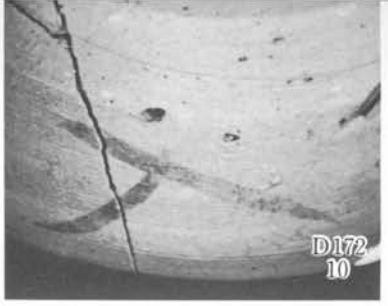
P168
2


D172B
1
D172B
2
D172C
1
D176
3
D172A
1
D176
1
D176
2
D177
1
D178
2
D178
1
D179
1
D179
2
D179
4
D179
5
D179
6
D179
3
D179
7

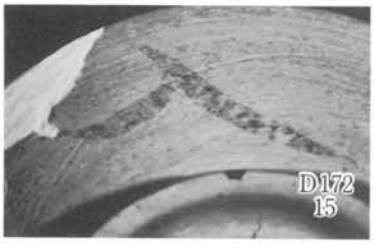

D180
1
D180
2
D180
3
D181
1
D181
2
D180
3
D181A
1
D181A
2
D185
2
D185
3
D185
4
D185
5
D185
6
D185
1
D240
1
D185
7
D185
8
D185
9
D185
10
D238
1
D238
2

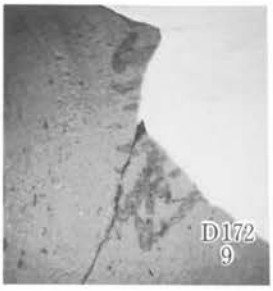
図版 52


D172 6


D172 10

D172 10

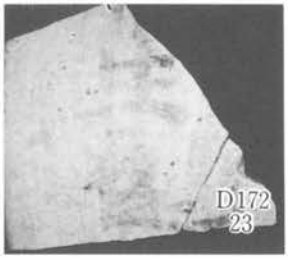

D172 15


D172 9

D172 21

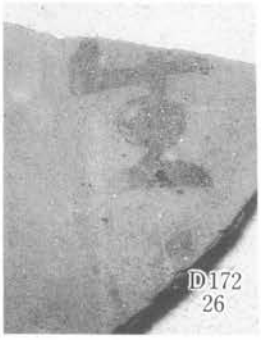
D172 22

D172 14


D172 23

D172 24

D172 25

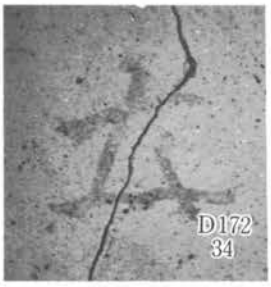

D172 26

D172 32

D172 30

D172 35

D172 29

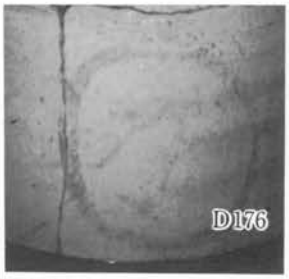

D172 34

D176 19

D172 36

D172 28

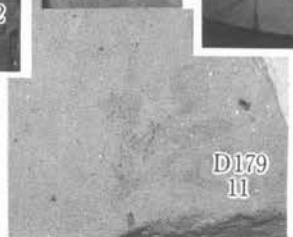
D179


D176

D176 21

D176 15

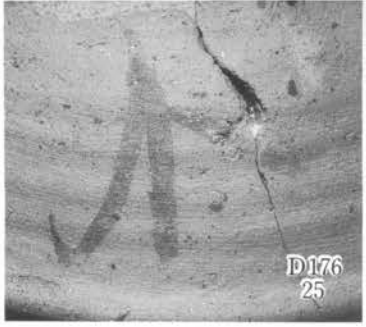
D176 18


D179 11

D179

D179

歴史時代1群A

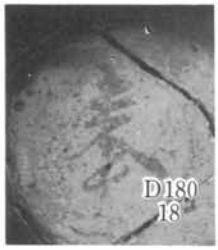

D176
25

D179
34

D180
18

D180
21

D180
19


D180
18

D180
19

D181B
7

D180
35

D180
36

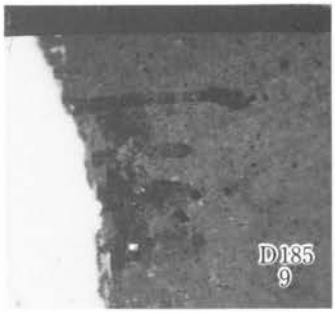
D180
21

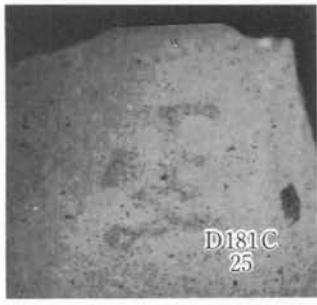
D180
34

D181C
17

D180
38

D181C
25


D185
9

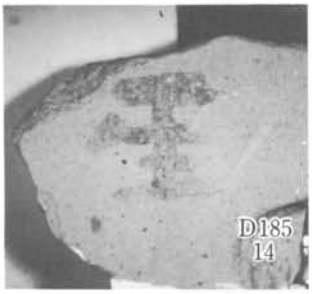

D181C
25

D180
39

D181C
27

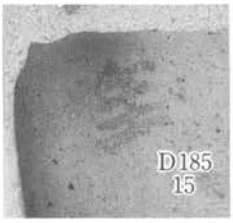
D181C
22

D240
6


D185
14

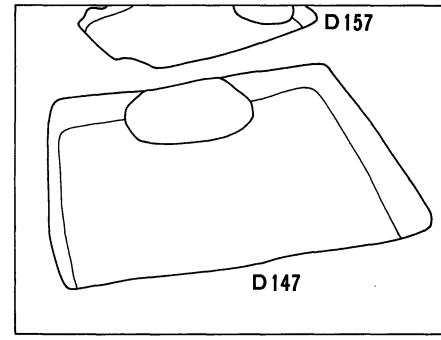
D185
16

P002
4


D185
15

D240
6

歴史時代1群Bグループ全景

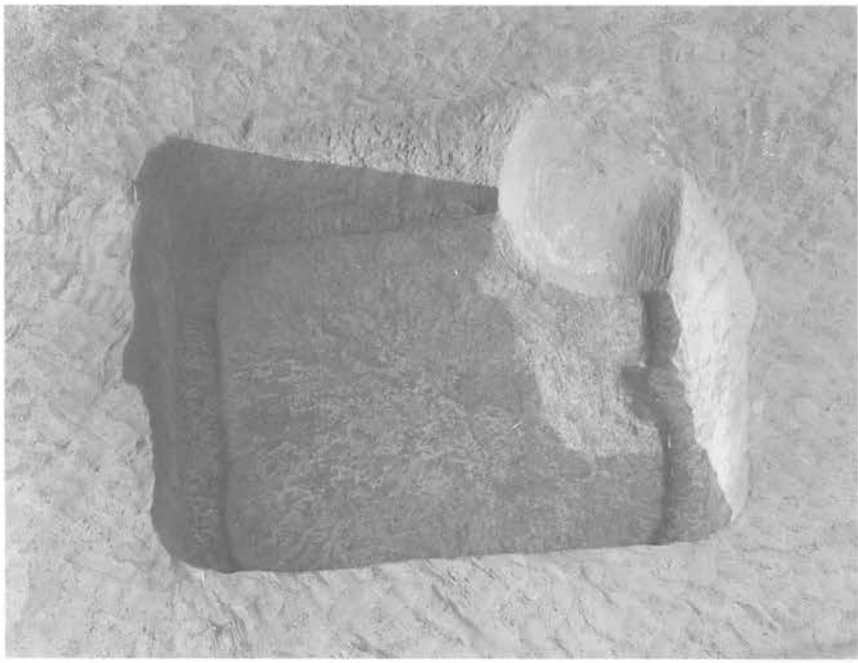

D157
D147

1．D144全景

2．D146全景

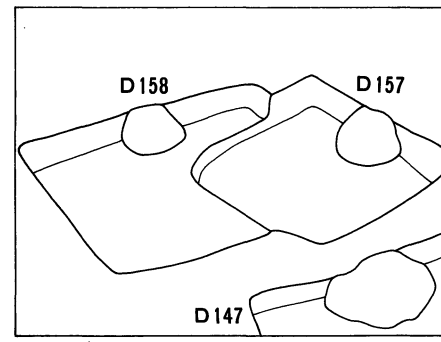
3．D147全景

1．D148全景

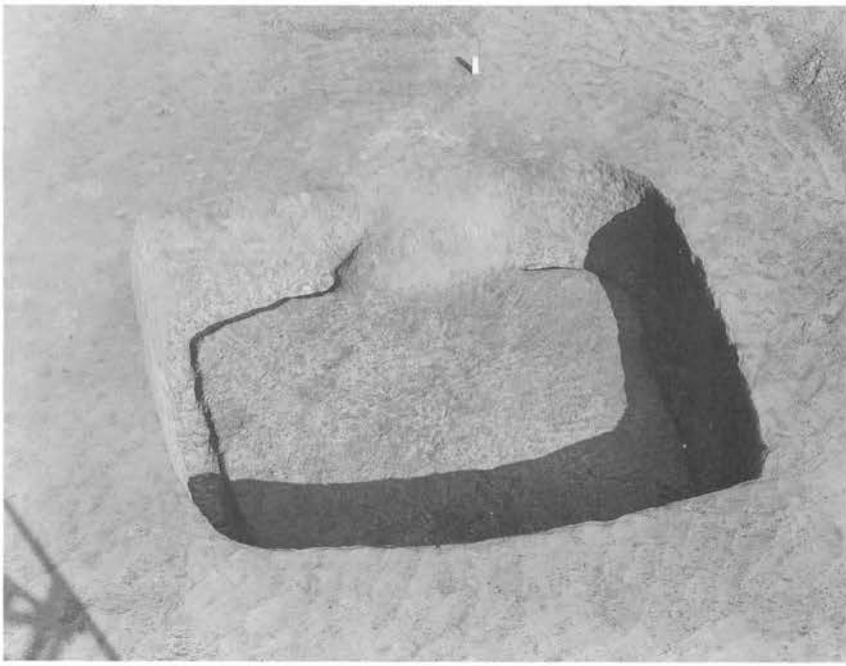


2．D150全景

3．D157全景


D158
D157
D147

1．D153全景

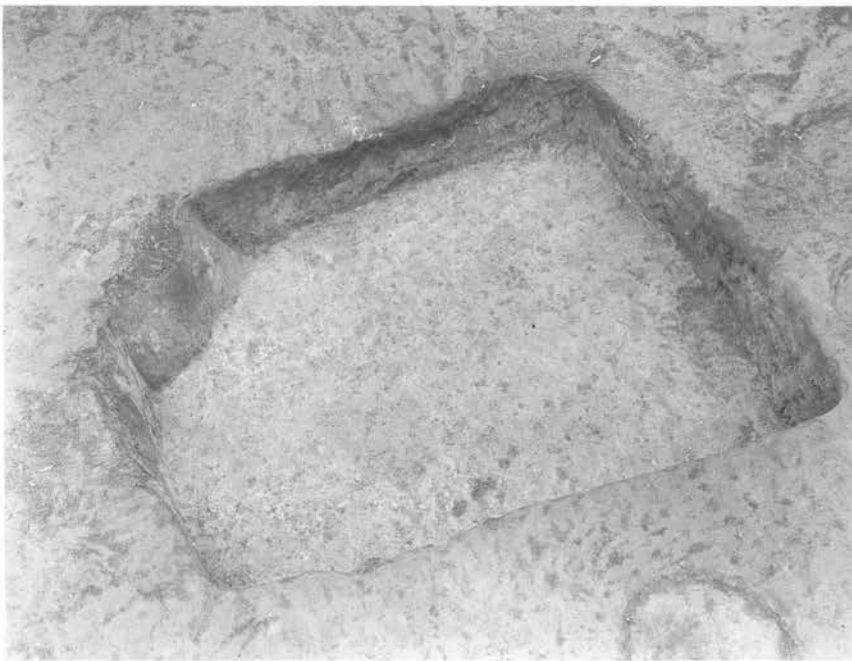


2．D156全景

3．D157・D158全景

1．D159遺物出土状況

2．D161全景

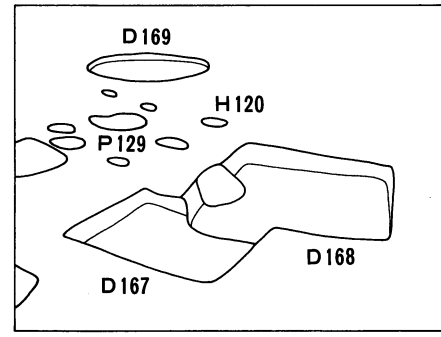


3．D162全景

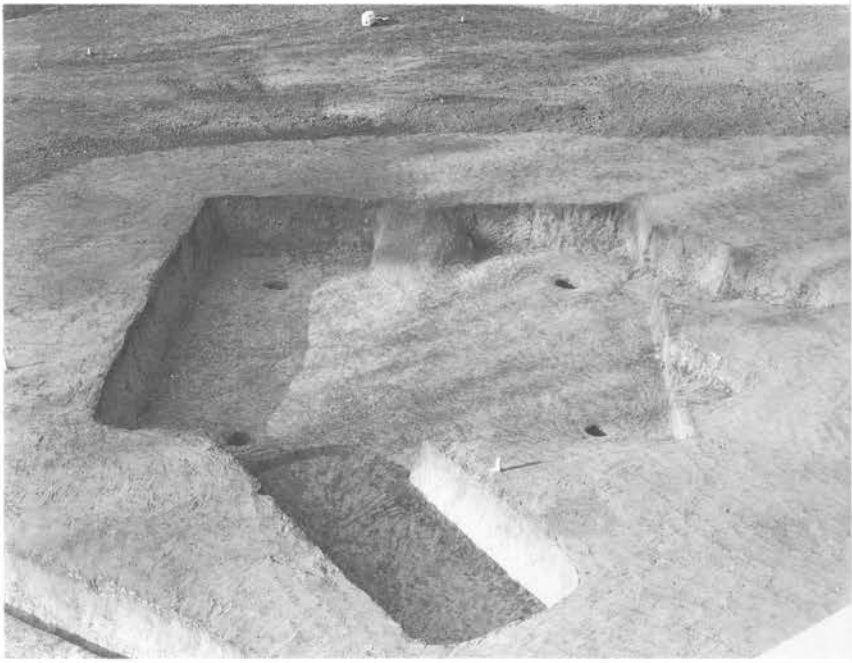
1．D164全景

2．D165全景

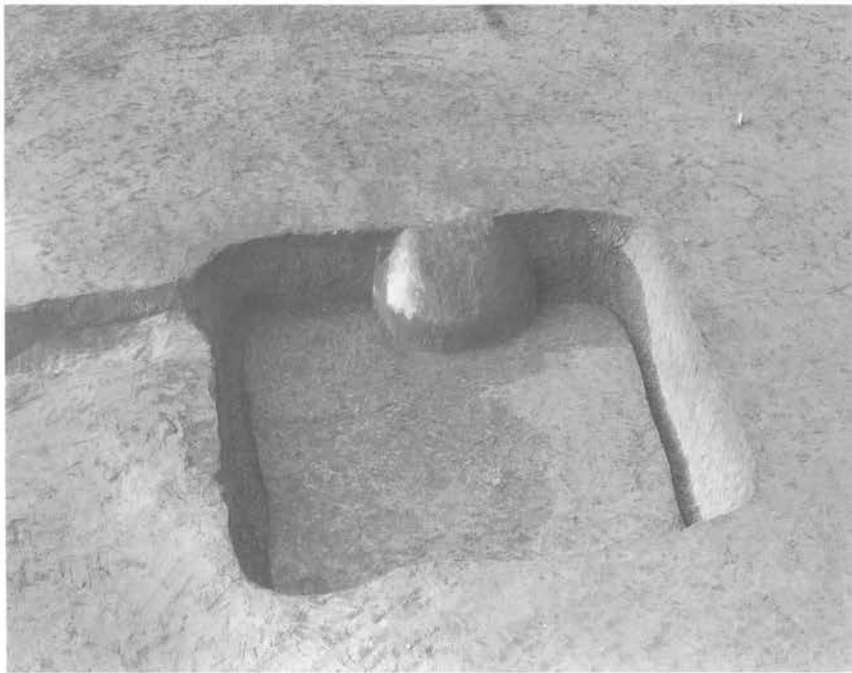
3．D166全景


D169
H120
P129
D168
D167

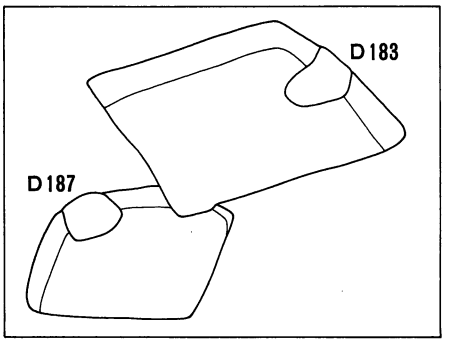
1．D167・D168全景



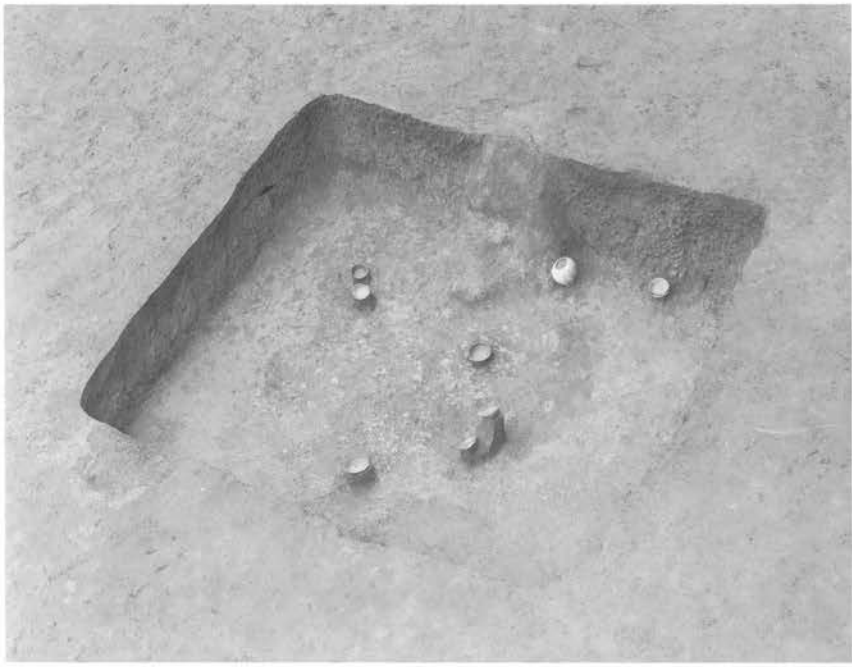
2．D170全景



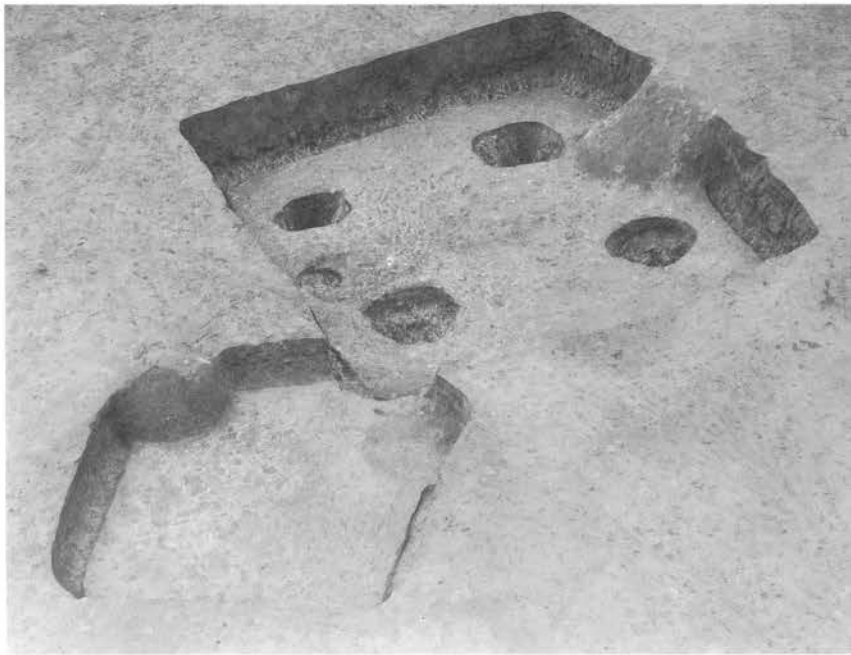
3．D173全景


D 183
D 187

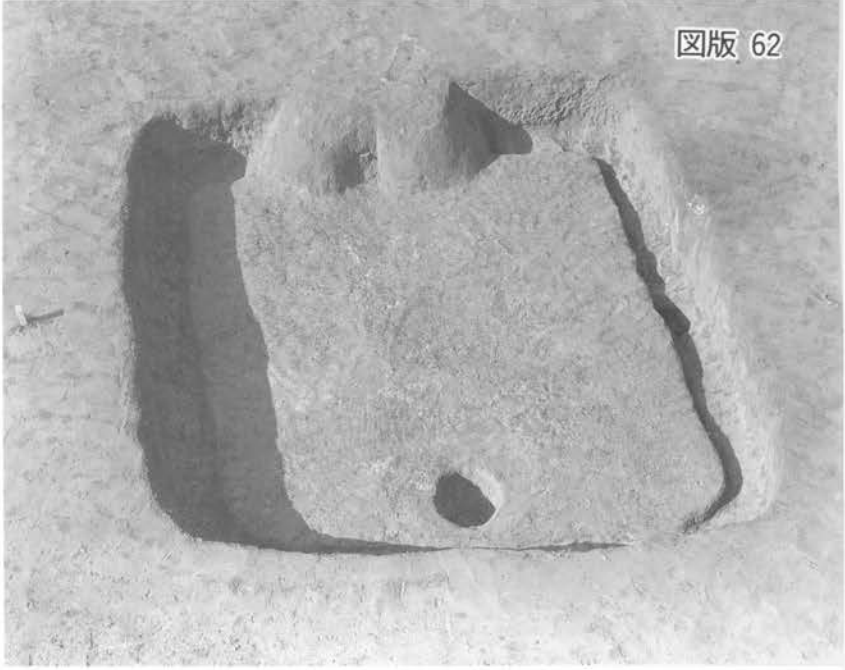
1．D174全景



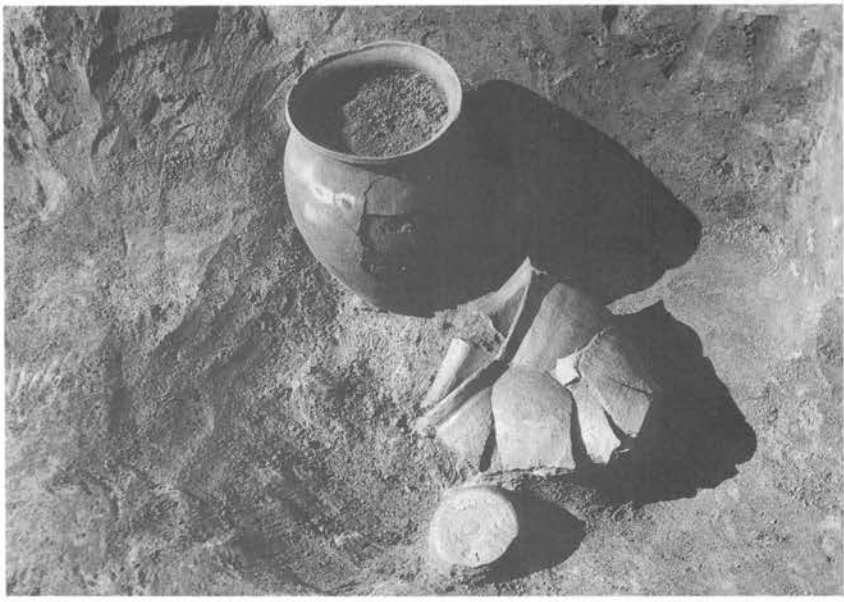
2．D174遺物出土状況



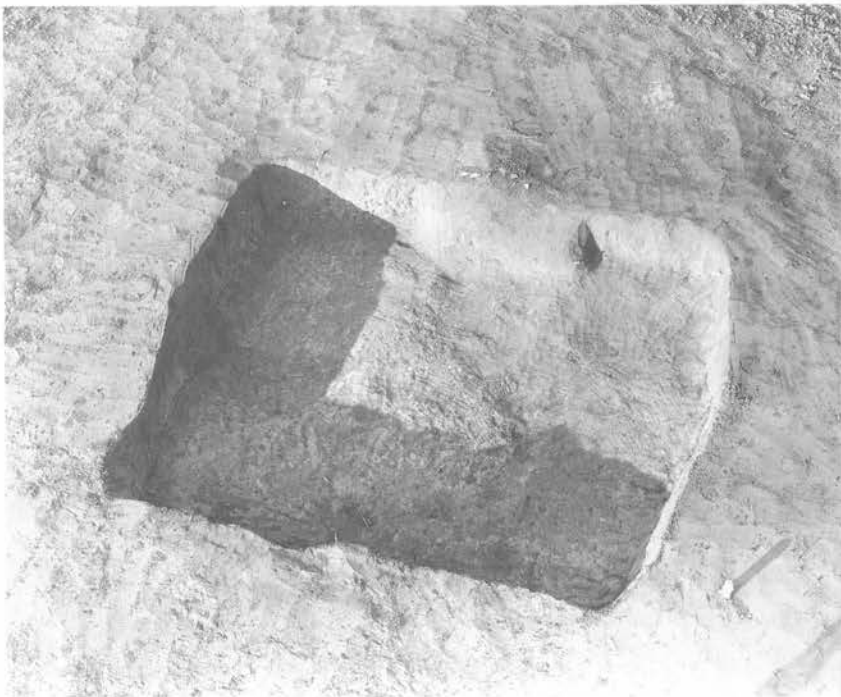
3．D183・D187全景



1．D188全景

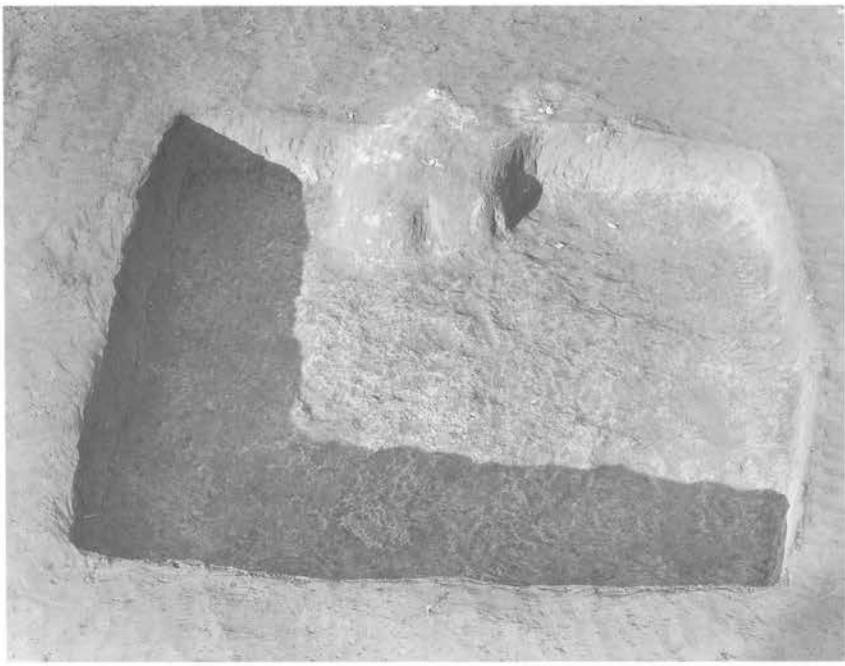


2．D188遺物出土状況



3．D194全景

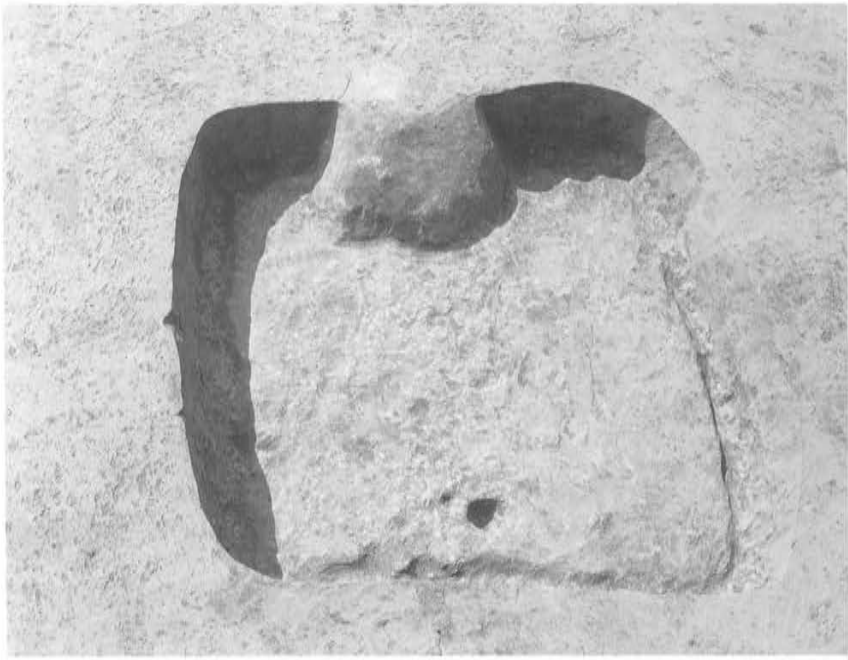
1．D195全景



2．D196全景

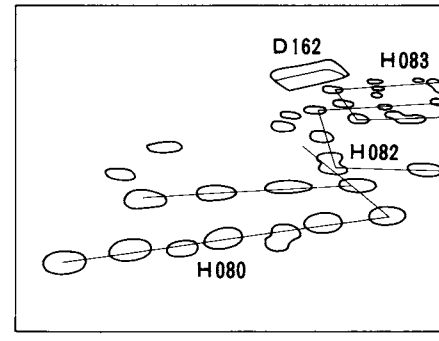
3．D209全景

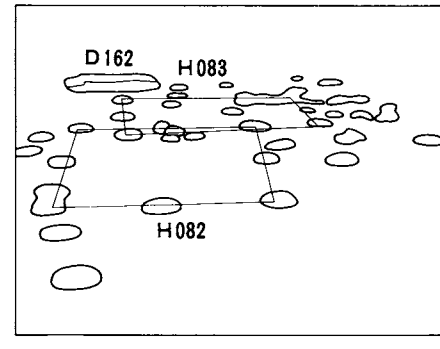
1．D214全景

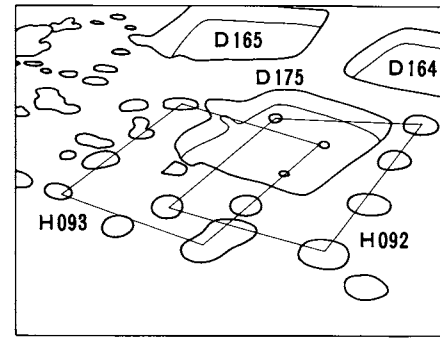


2．D256全景

3．D264全景


D162
H083
H082
H080

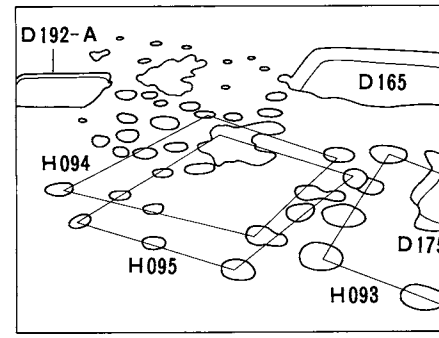

D162
H083
H082

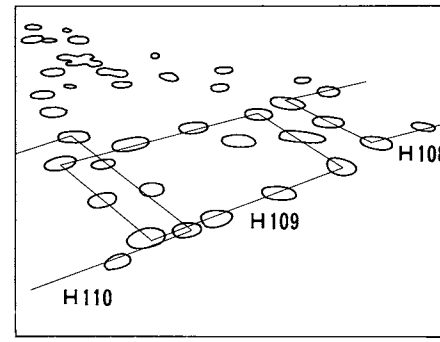

D165
D175
D164
H093
H092

1．H080全景

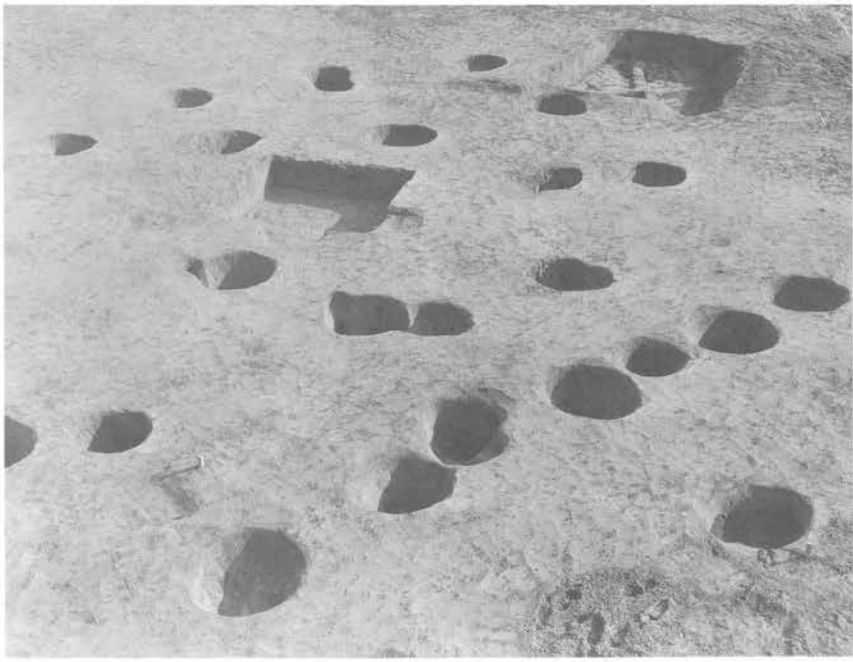
2．H082・H083全景

3．H092・H093全景

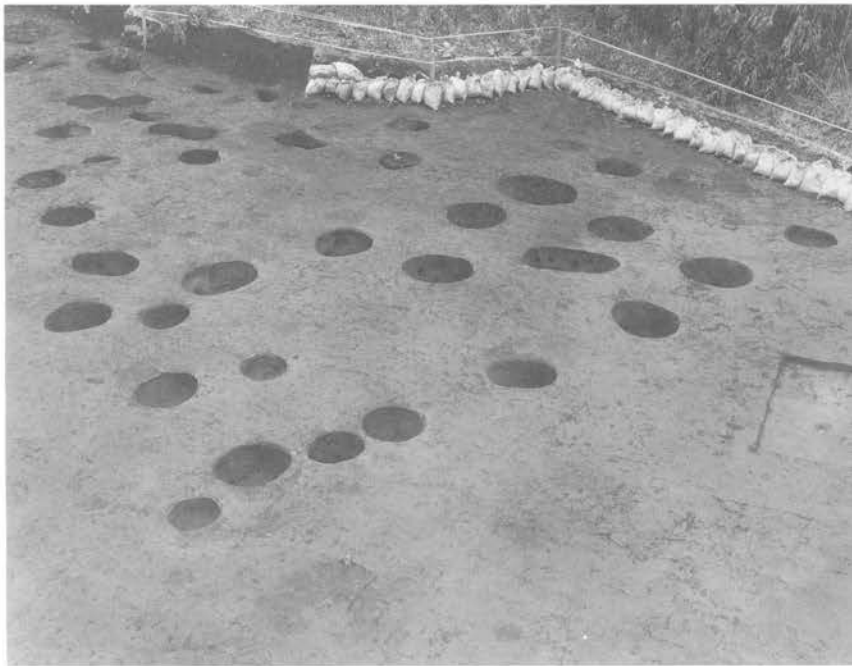

D192-A
D165
H094
D175
H095
H093


H108
H109
H110

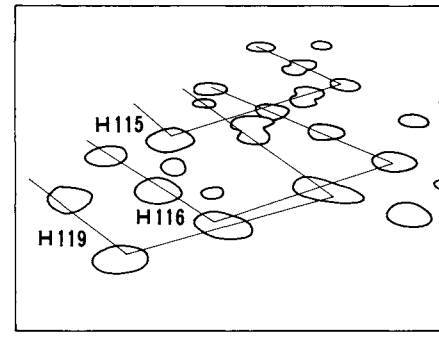
1．H094～H098全景

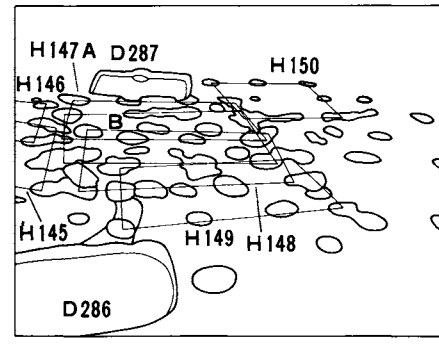


2．H099全景



3．H108～H110全景


H115
H116
H119

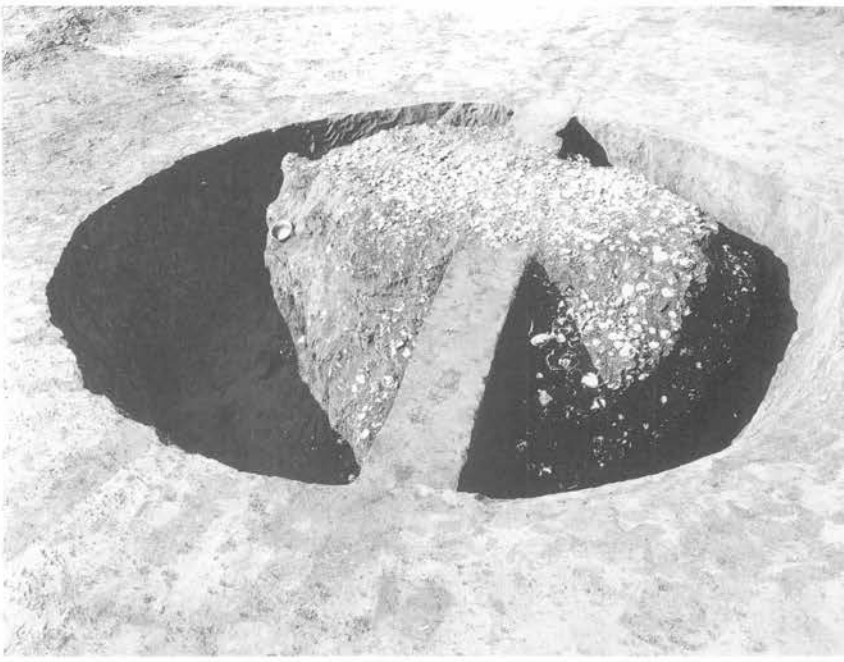

H147A
D287
H150
H146
B
H145
H149
H148
D286

1．H115・H116・H119全景

2．H145～H150全景

3．P038全景

1．P138全景



2．P138貝層検出状況

3．P138貝層断面

歴史時代1群B

D144
1

D144
4

D145
2

D146
2

D146
5

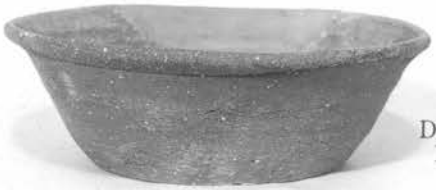
D146
20

D146
7

D146
14

D146
19

D146
16



D146
17

D146
23

D147
1

D147
2

D148
9

D149
1

D149
2

D149
3

D149
8

D150
9

D150
7

D150
1

D152
2

D153
2

D154
1

D155
1

D156
1

D156
3

D156
5

D156
7

D157
6

歴史時代1群B

D157
9

D158
1

D159
1

D159
2

D159
3

D159
4

D160
1

D160
7

D160
5

3 4 2 D160

D161
1

D161
4

D163
1

D163
4

D163
6

D163
11

D163
5

D163
12

D164
9

D164
10

D164
11

D164
12

D164
16

D164
17

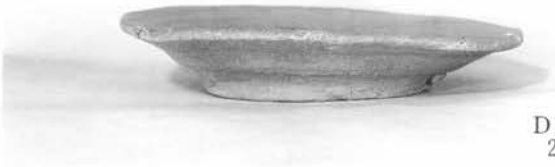
D164
19

D164
21

歴史時代1群B

D164
22

D164
23



D164
27

D164
28

D164
34

D164
36

D164
42

D164
80

D164
84

D165
5

D165
12

D165
6

歴史時代1群B

D165
18

D165
19

D165
20

D165
23

D165
26

D165
31

D165
33

D165
34

D165
35

D165
69

D165
70

D165
73

D165
72

D165
75

D165
100

D168
2

D168
4

D168
12

D168
10

D168
14

D170
5

D168
13

D170
2

D170
1

D170
3

D170
6

D173
5

D174
2

D174
1

D174
4

D174
7

D174
8

D174
10

D174
11

歴史時代1群B

D174
13

D174
14

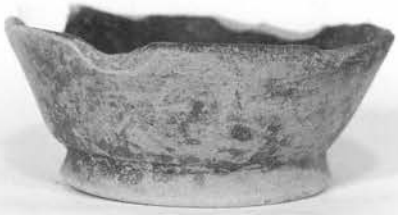
D174
15

D175
2

D175
22

D175
3

D175
30



D183
3

歴史時代1群B

D183
13

D187
10

D188
2

D188
4

D188
9

D188
10

D189
1

D193
3

D193
4

D193
5

D193
8

D193
11

D194
3

D195
1

D195
2

D196
3

D196
7

D196
8

D196
9

D196
10

D199
1

D199
3

D199
8

D211
1

D211
2

D211
3

D211
4

D216
1

D211
14

D216
3

D219
7

D219
3

D256
2

D268
4

D287
1

D287
4

D287
5

D287
6

D287
28

D287
11

D287
20

P038
2

P038
3

P038
6

P038
9

P042
2

P042
4

P042
5

P042
7

P042
10

P042
9

P129
3

P042
11

P129
1

P042
12

歴史時代1群B

P129
4

P129
5

P129
10

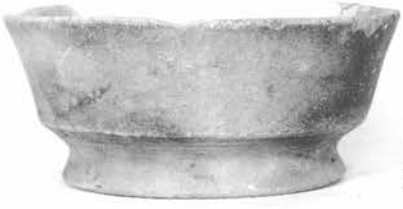
P129
12

P138
3

P138
5

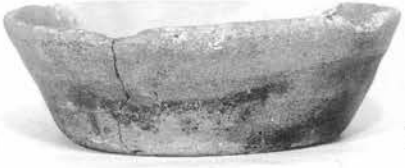
P138
6

P138
8


P138
9

P138
14

P138
13


P138
16

P138
15

P138
17

D145
8

D157
10

D211
15

D287
31

D193
13

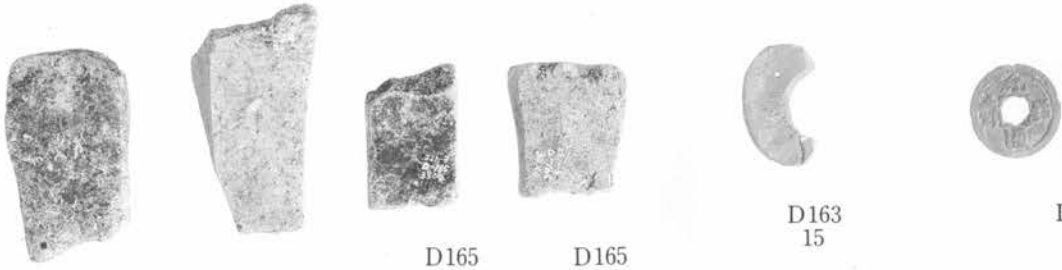
105

109

110

111

D165



D144
11

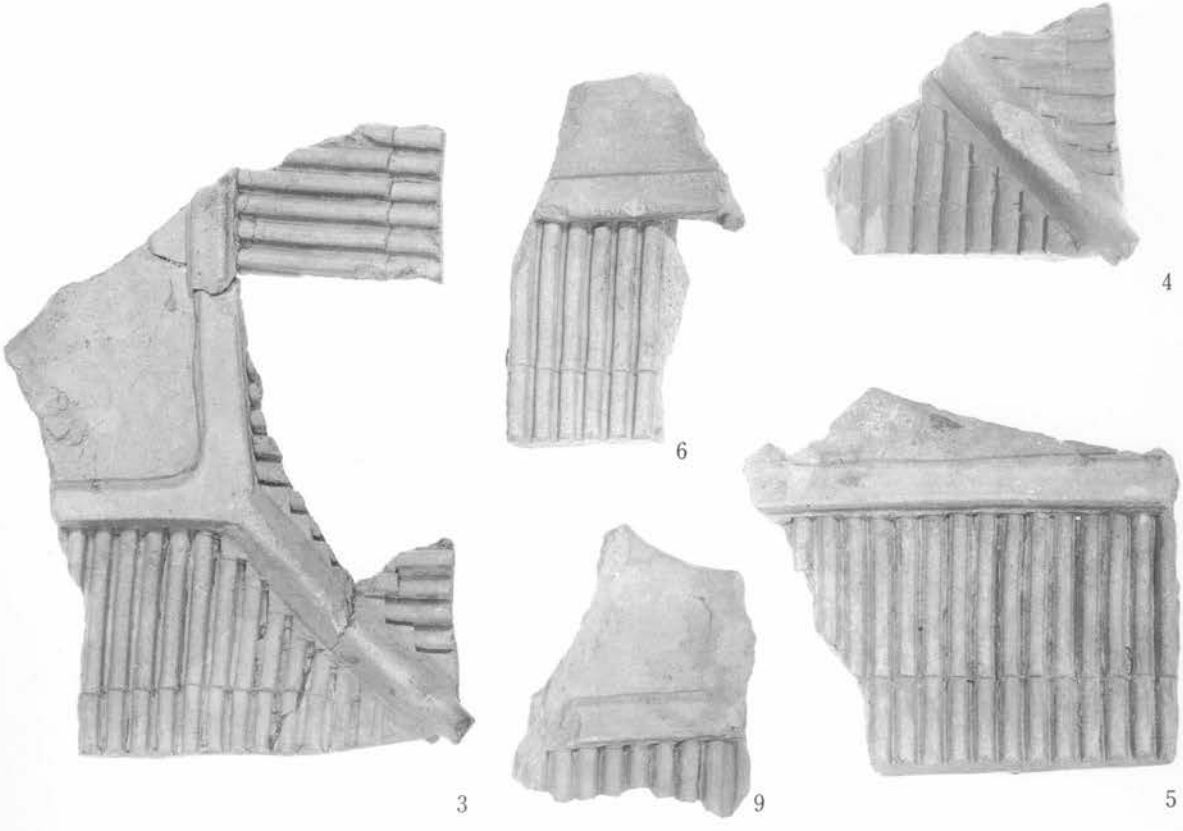
D146
24

D165
112

D165
113

D163
15

D170
7



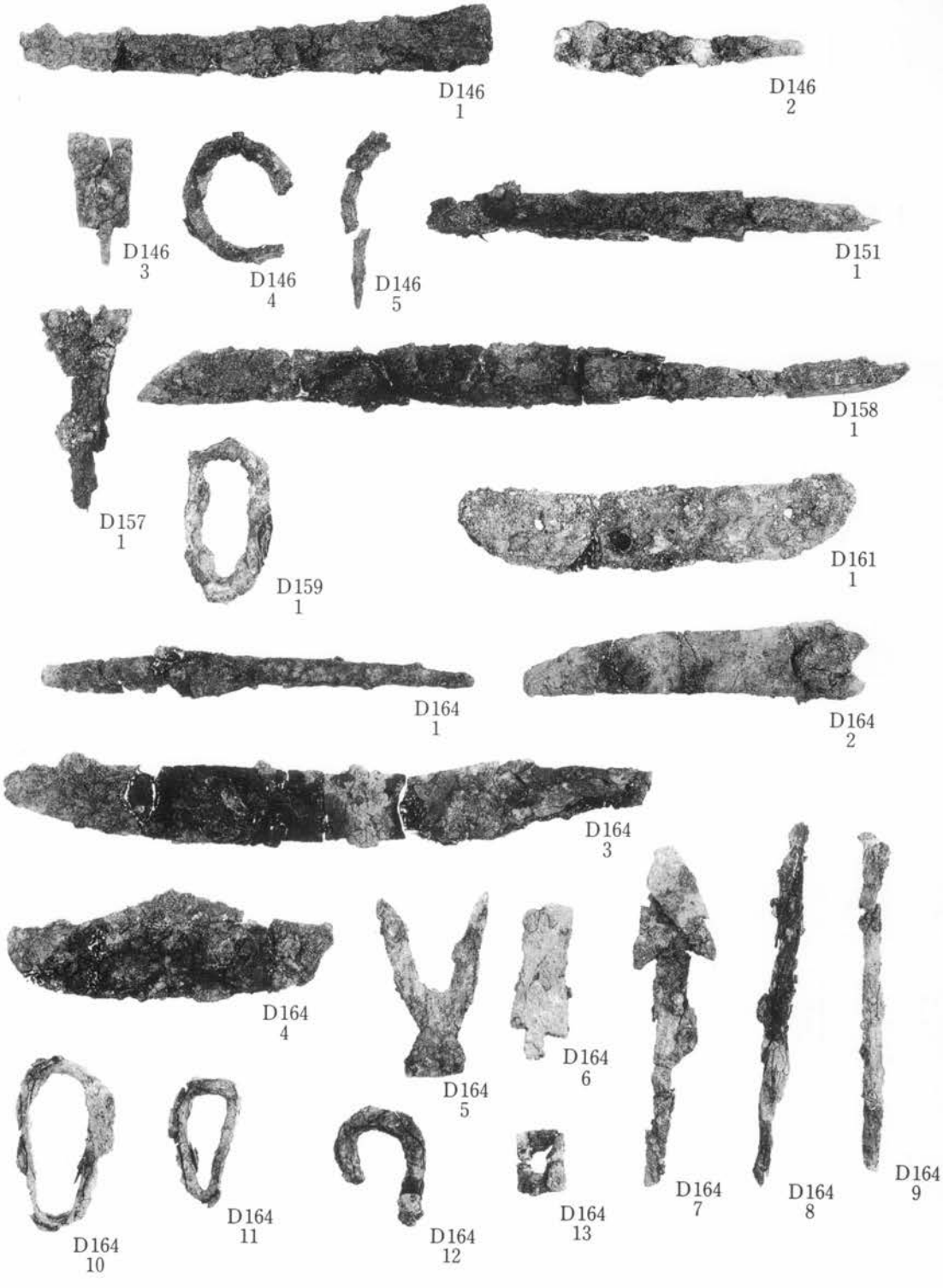
3

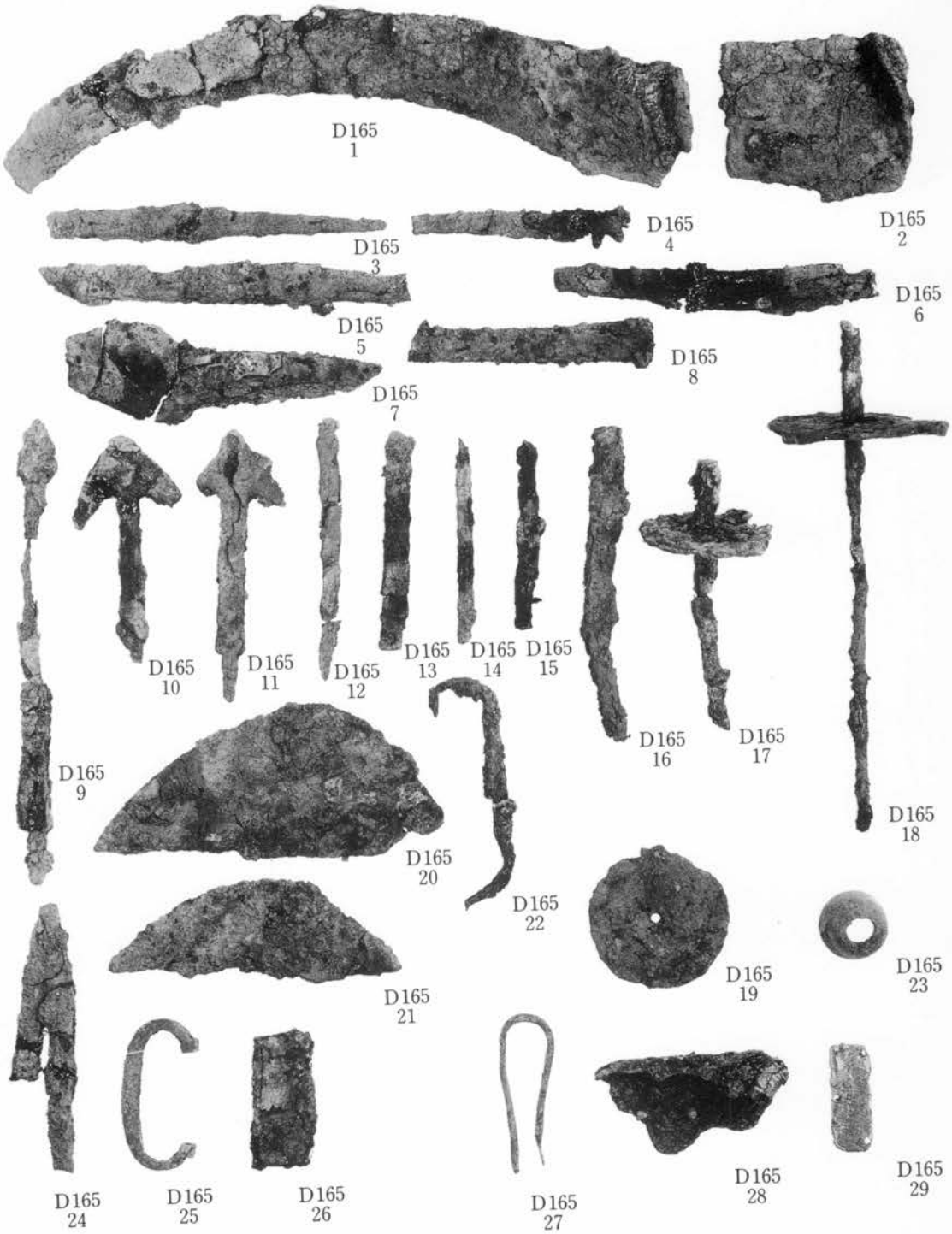
6

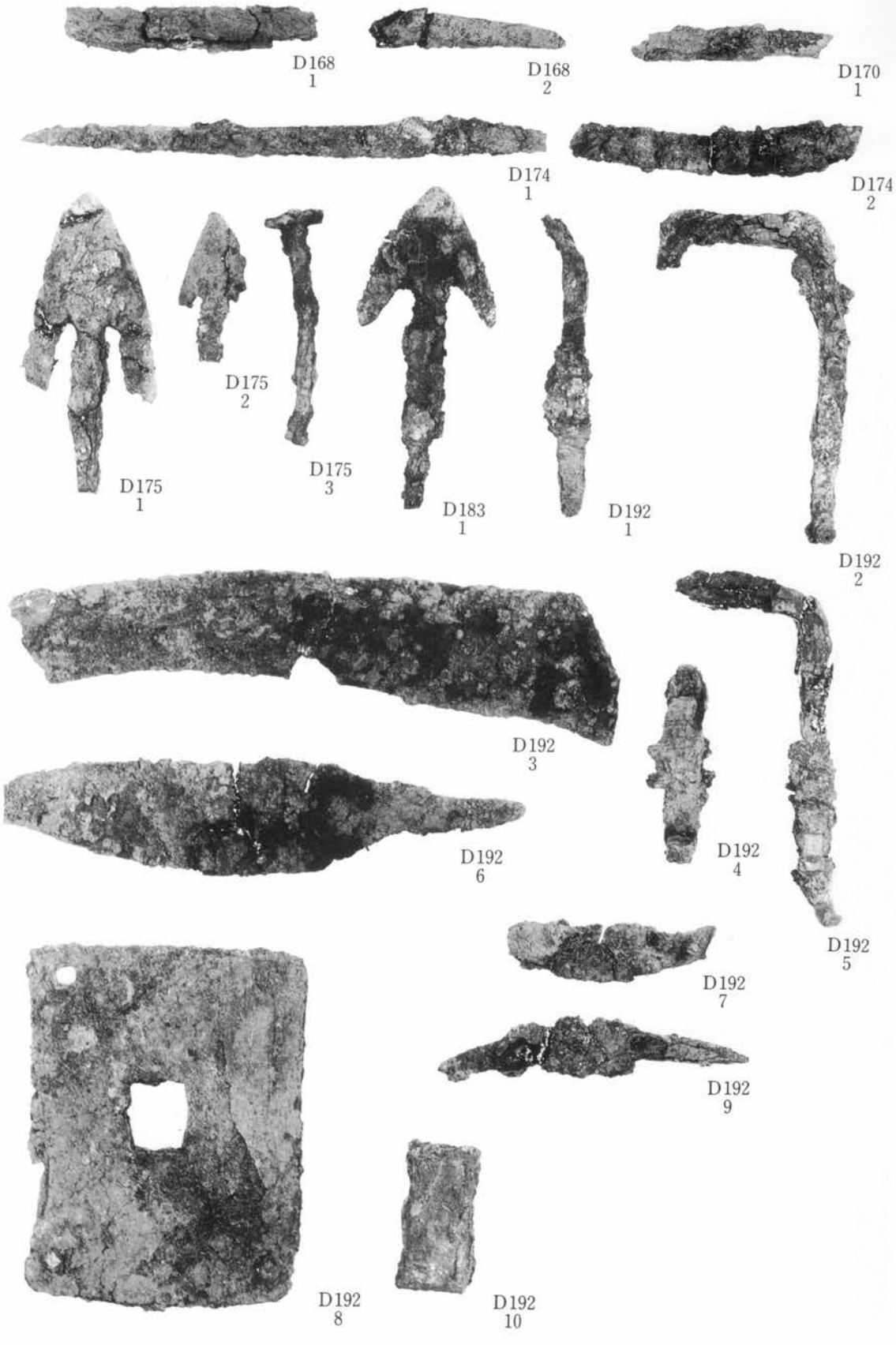
4

9

5


D146
1
D146
2
D146
3
D146
4
D146
5
D151
1
D158
1
D157
1
D159
1
D161
1
D164
1
D164
2
D164
3
D164
4
D164
5
D164
6
D164
7
D164
8
D164
9
D164
10
D164
11
D164
12
D164
13

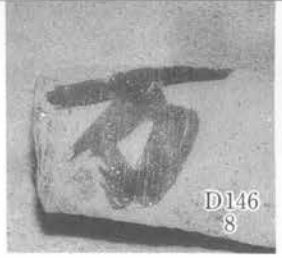

D165 1
D165 2
D165 3
D165 4
D165 5
D165 6
D165 7
D165 8
D165 9
D165 10
D165 11
D165 12
D165 13
D165 14
D165 15
D165 16
D165 17
D165 18
D165 19
D165 20
D165 21
D165 22
D165 23
D165 24
D165 25
D165 26
D165 27
D165 28
D165 29

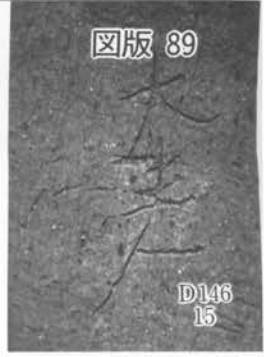

D168
1
D168
2
D170
1
D174
1
D174
2
D175
2
D175
1
D175
3
D183
1
D192
1
D192
2
D192
3
D192
6
D192
4
D192
5
D192
7
D192
9
D192
8
D192
10

歴史時代1群B

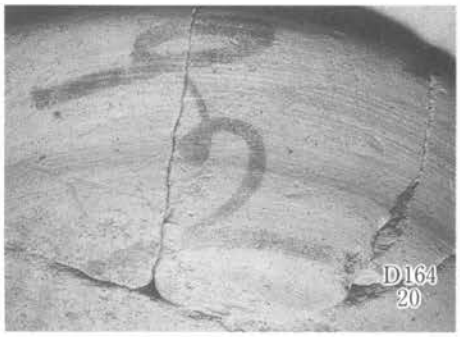
D146 6

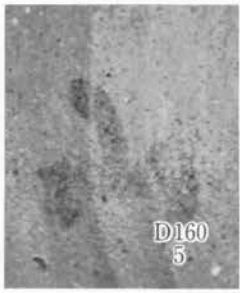
D146 7


D146 8

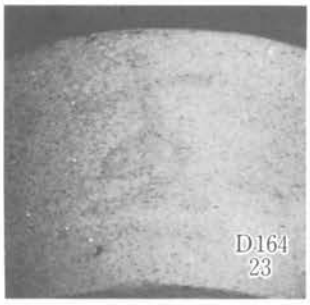

D146 15

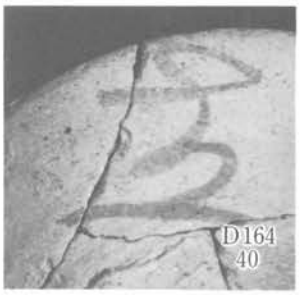
D163 4

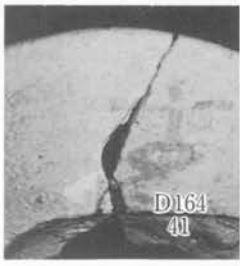

D164 20


D160 5

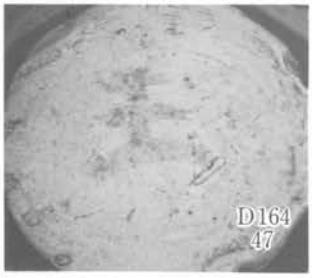
D163 8


D164 23


D164 40

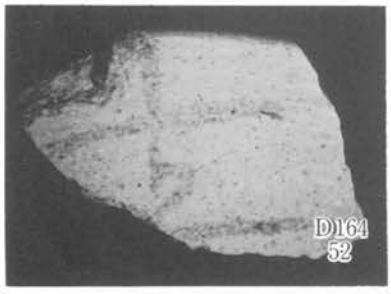

D164 41

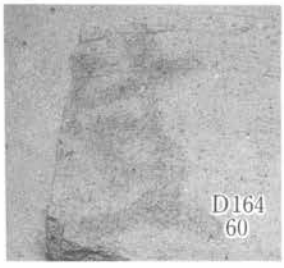
D164 22


D164 47

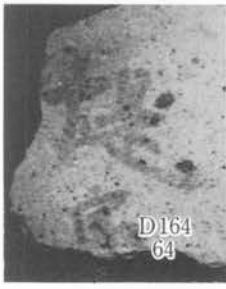
D164 63

D164 53


D164 52


D164 60

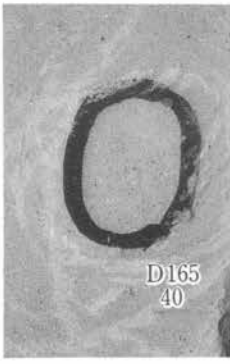
D164 57


D164 64

D164 72

D164 75

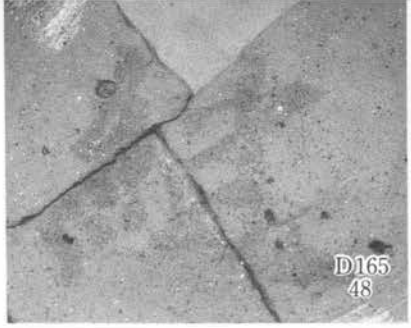
D165 39


D165 40

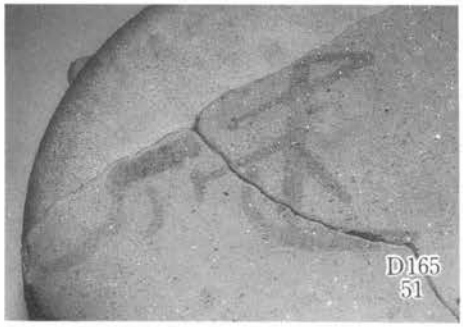
図版 90

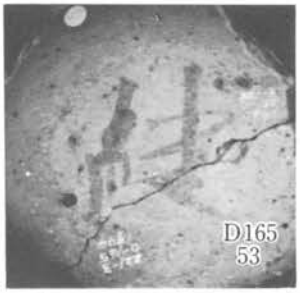
D165 46

D165 47

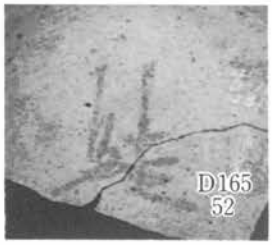

D165 48

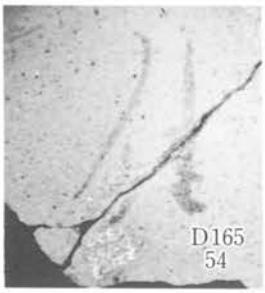
D165 49


D165 51

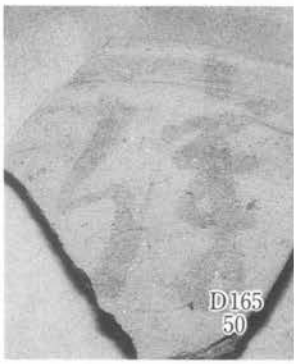

D165 53

D165 55

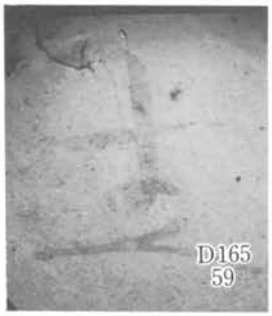

D165 52

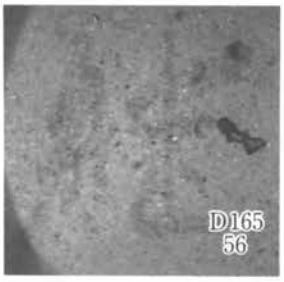

D165 54

D165 57


D165 50

D165 61


D165 59


D165 56

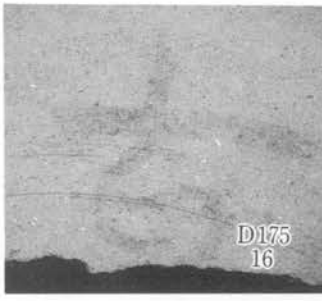
D174 6

D165 66

D168 22

D170 4

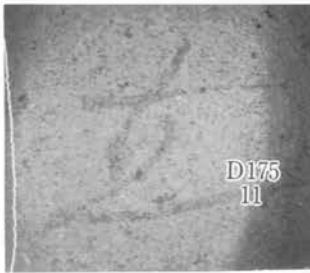
D174 7


D175 16

D174 8

D174 9

D175 17


D175 11

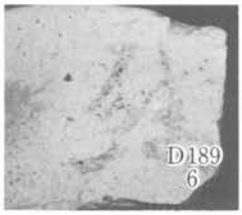
D183 1

D183 4

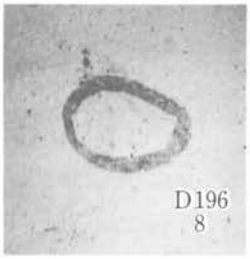
D189 2

D189 4

D189 3


D189 6

D189 9


D196 8

D194 2

D211 11

D199 6

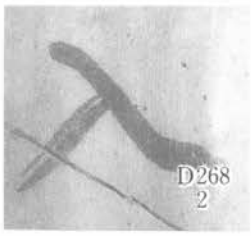
D196 1

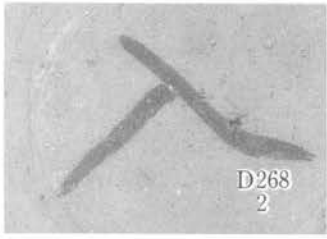
D196 8

D211 8

D211 10

D287 17


D268 2


D268 2

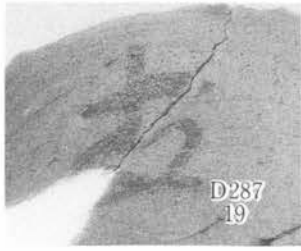
D287 18

D287 18

D211 5

P129 9

D287 14


D287 19

P042 12

H084 1

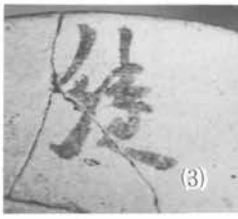
P138 7

P138 6

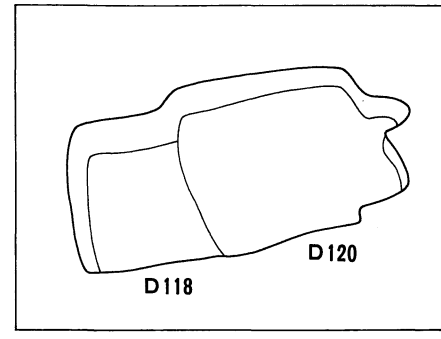
D287 21

P129 8

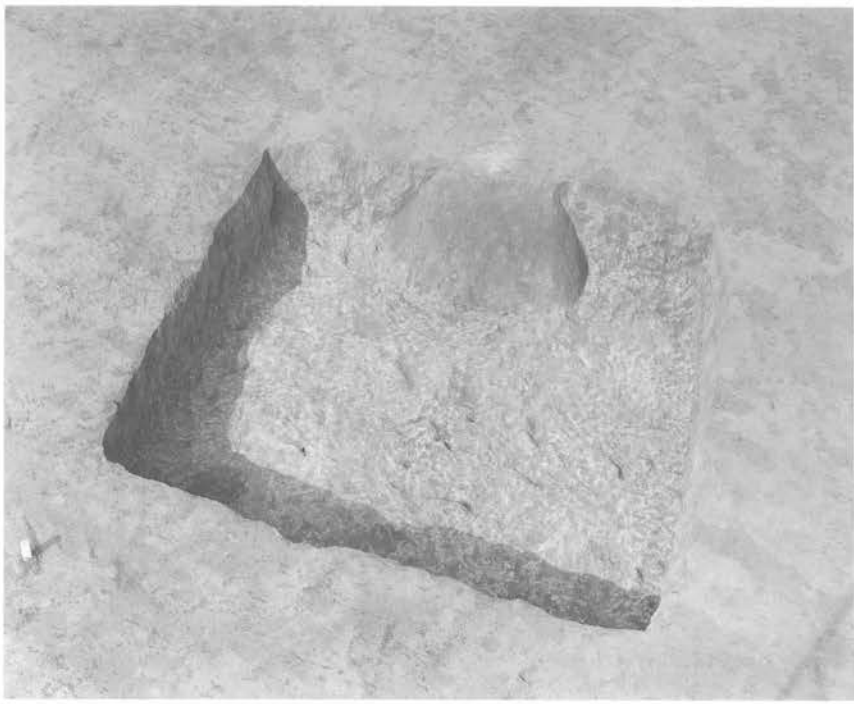
P042 12


(3)

歴史時代2群Aグループ全景


D120
D118

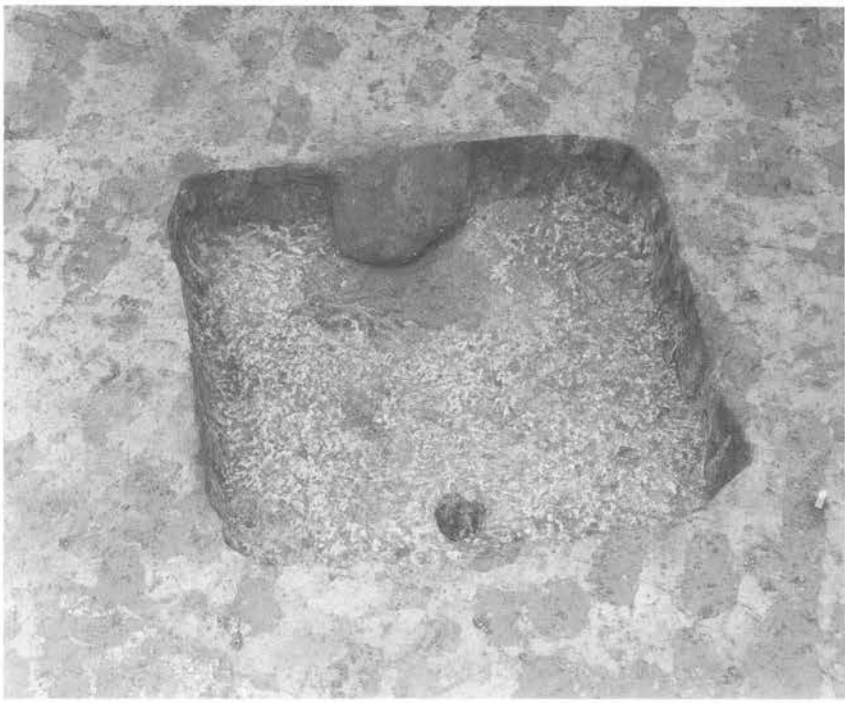
1．D118全景



2．D119全景

3．D119遺物出土状況

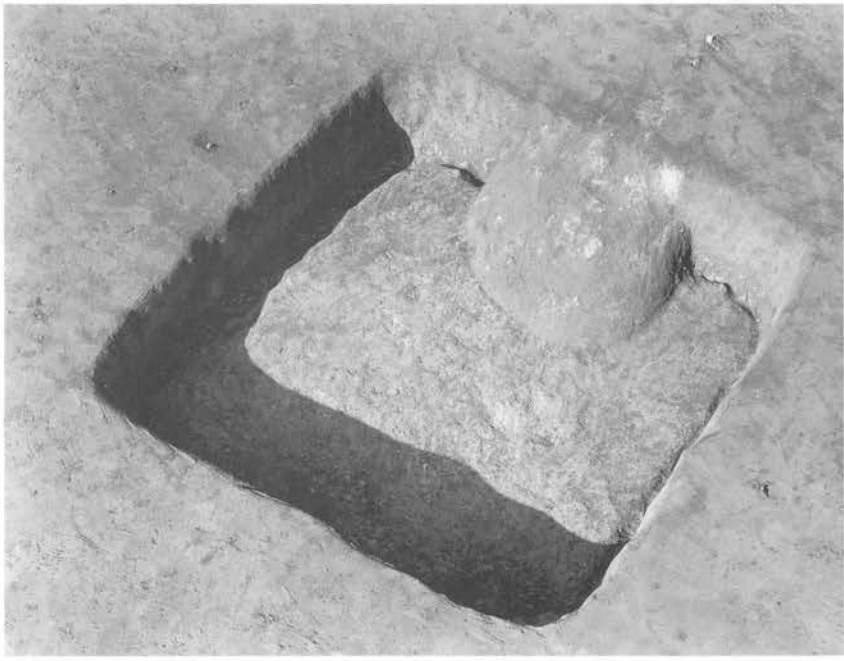
1．D121全景



2．D124全景

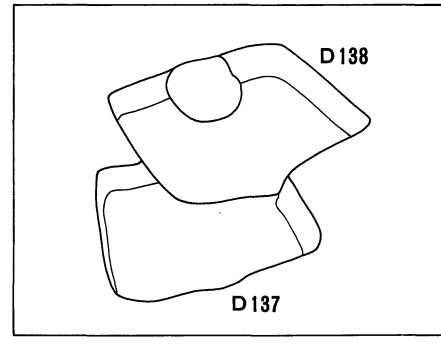
3．D124遺物出土状況

1．D126全景

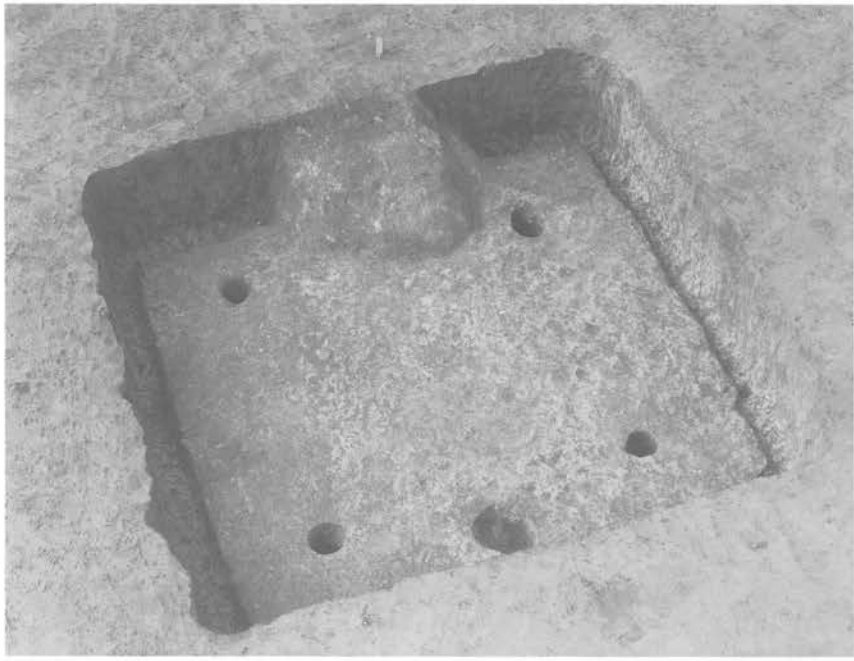


2．D131全景

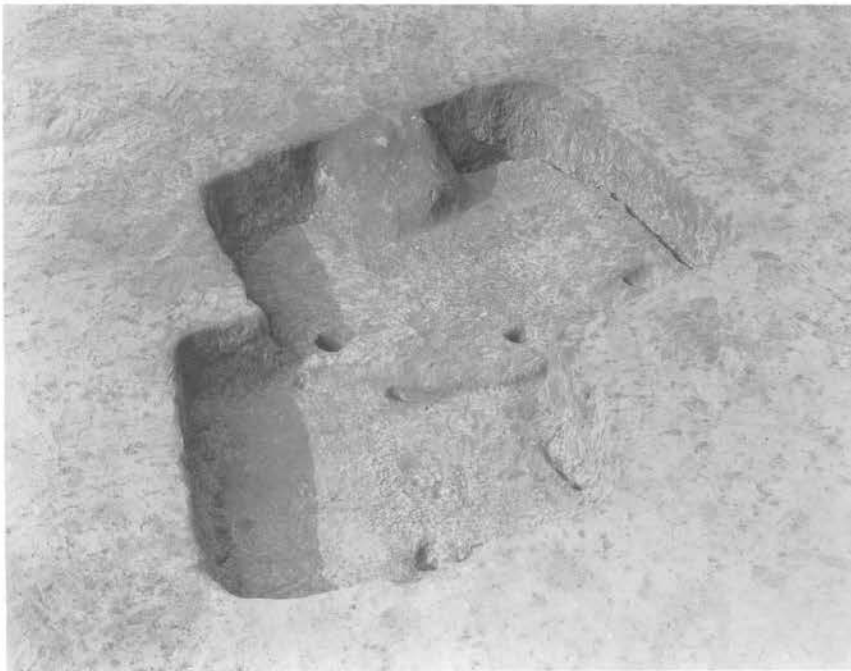
3．D132全景


D138
D137

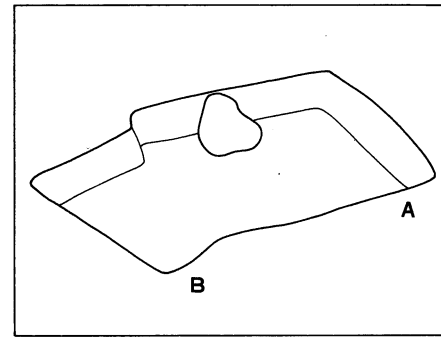
1．D134全景



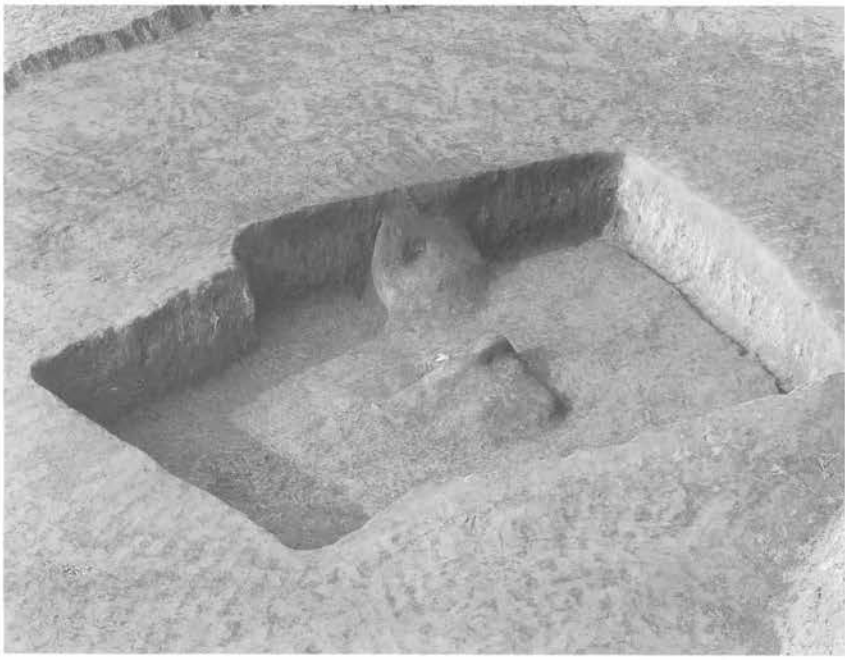
2．D136全景



3．D137・D138全景


A
B

1．D139全景

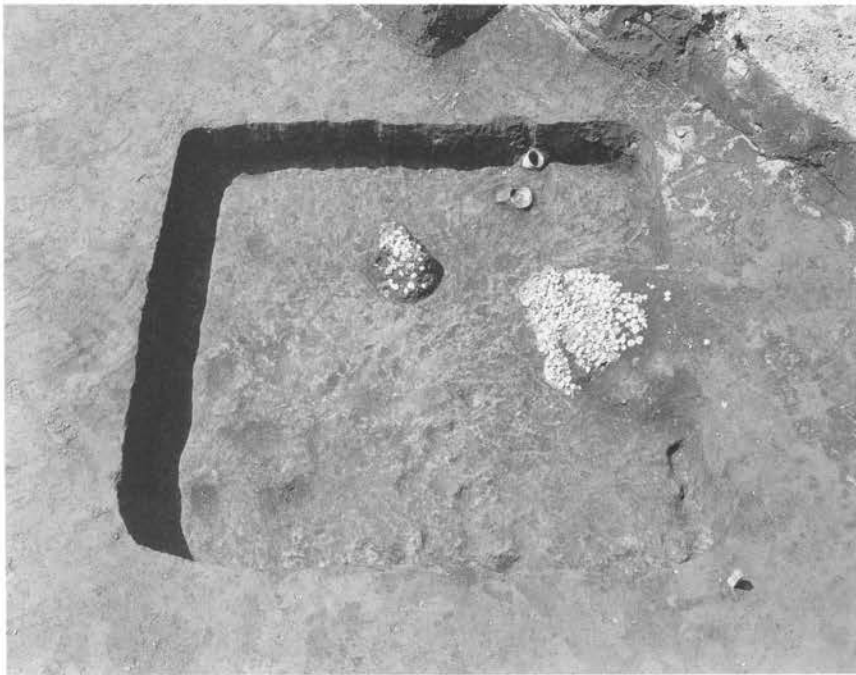


2．D140全景

3．D141全景

1．D210全景

2．D217全景

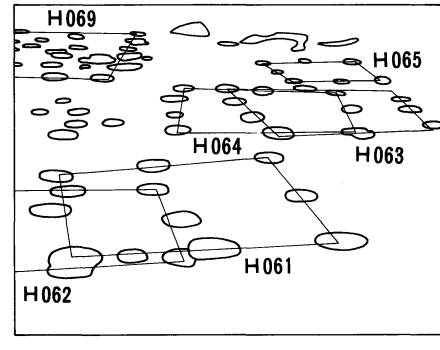


3．D258全景

1．D259全景

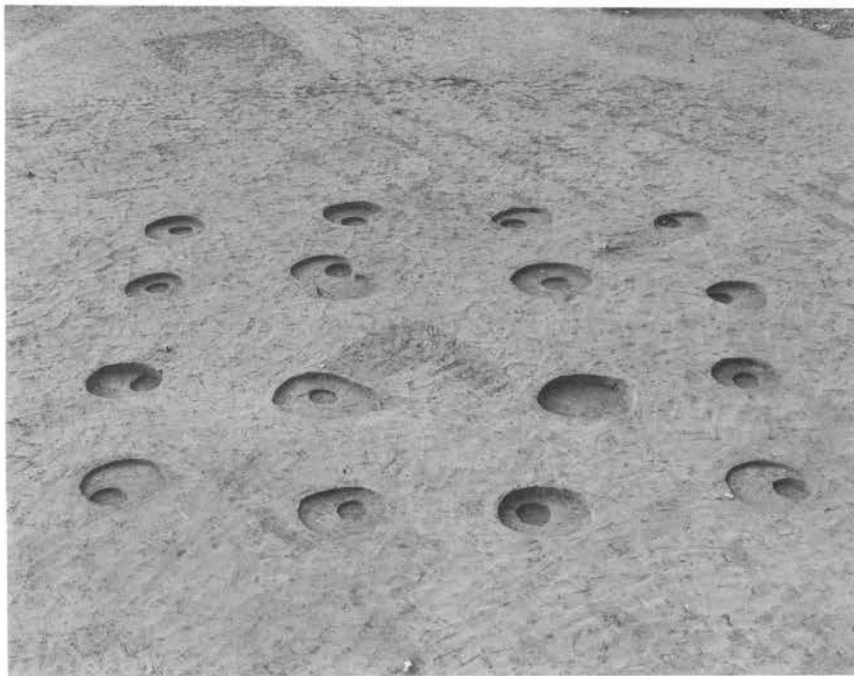
2．D259遺物出土状況

3．D260全景

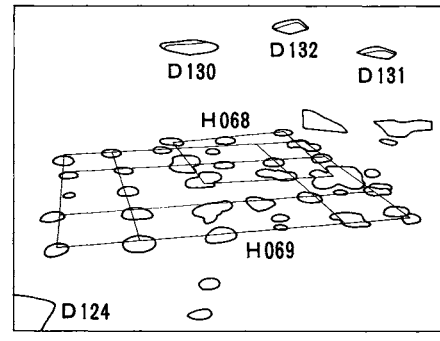

H069
H065
H064
H063
H061
H062

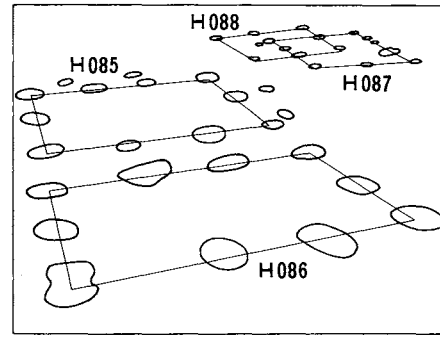
1．H061～H065全景

2．H061～H065全景



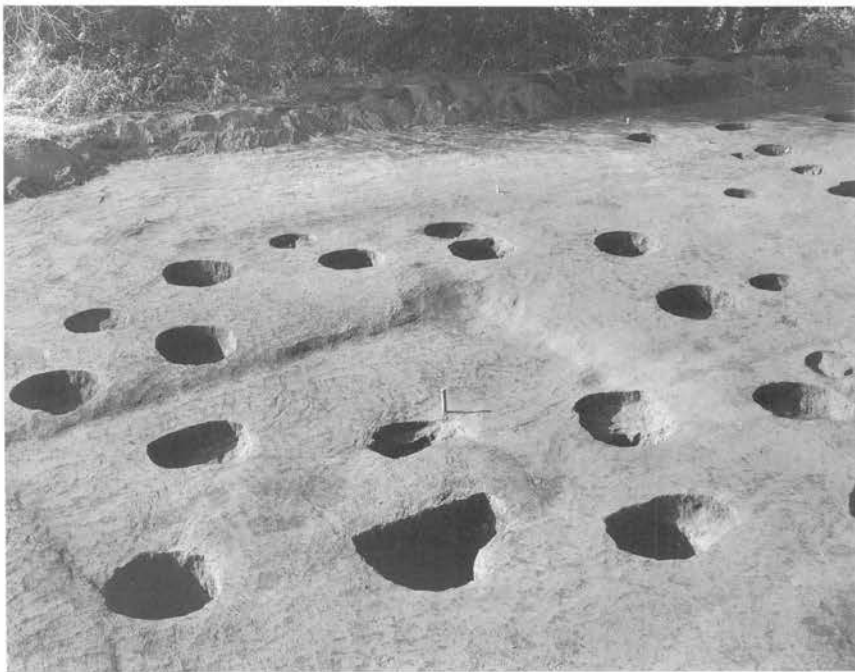
3．H066全景


D130
D132
D131
H068
H069
D124


H088
H085
H087
H086

1．H067～H069全景

2．H085全景



3．H086全景

D047
6

D119
4

D120
1

D122
2

D124
3

D124
6

D126
11

D119
16

D120
2

D124
2

D124
5

D126
4

D128
4

D133
8

D128
8

D128
7

D132
3

D133
2

D133
3

D133
7

D132
4

D133
13

D133
1

D134
4

D136
1

D136
3

D138
1

D139
5

D139
6

D141
2

D141
3

D141
4

D142
3

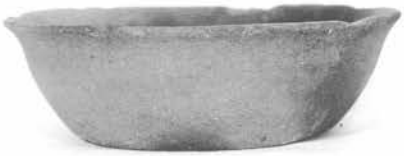
D142
2

D142
4

D142
6

D143
7

D143
13



D210
1

D212
1

D258
2

D258
3

D258
4

D259
1

D259
2

D259
4

D259
5

D259
6

D259
7

D259
9

D261
4

D259
10

D261
5

D261
1

D261
6

D261
8

D262
3

D263
1

D262
6

D263
3

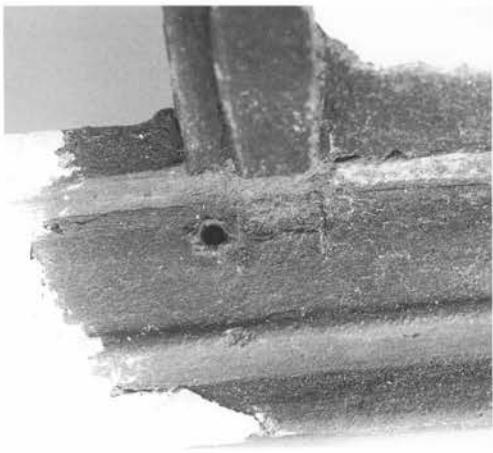
M021
3

M034
1

M021
1

歴史時代2群A

D128
10



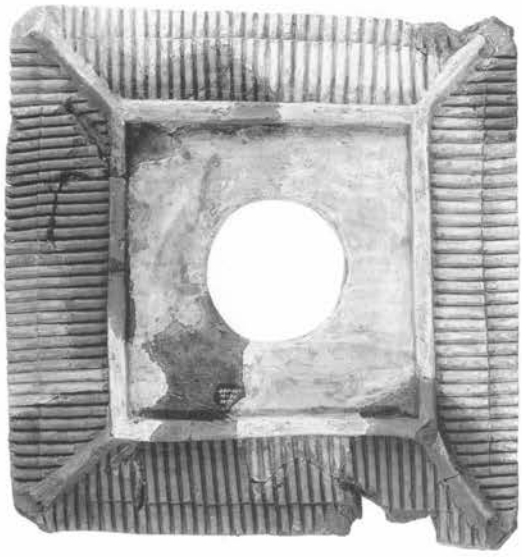
軸受孔

M034
2

斗栱の表現

上　軸受孔
左　礎石の表現

歴史時代2群A



M034
1

D128
11

U23-66
48

4

7

M034
3

5

5

歴史時代2群A

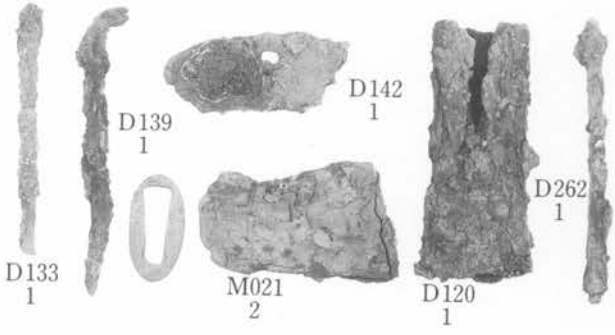
M034
11

M034
8

M034
9

D119
1

D260
2



D133
1

D139
1

D142
1

M021
2

D120
1

D262
1

D142
27

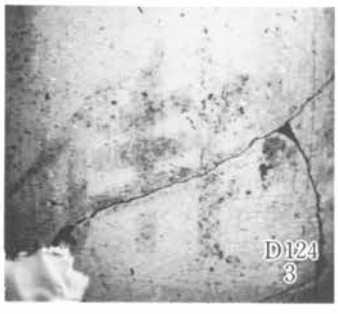
歴史時代2群A

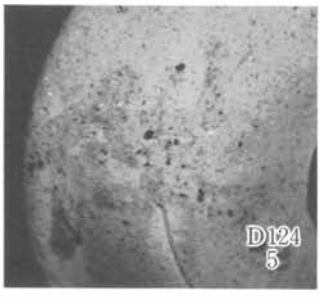
D119
6

D119
7

D119
8

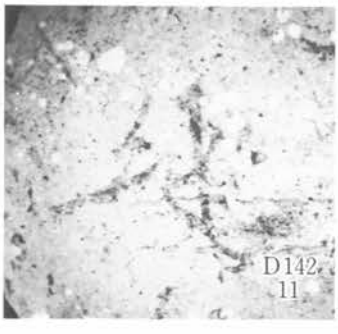
D119
11


D124
3


D124
5

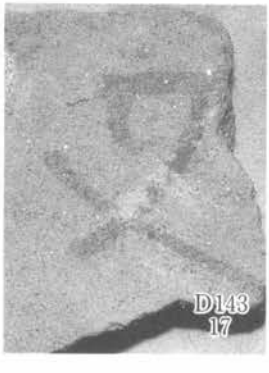
D126
5

D132
3


D142
11

D142
17

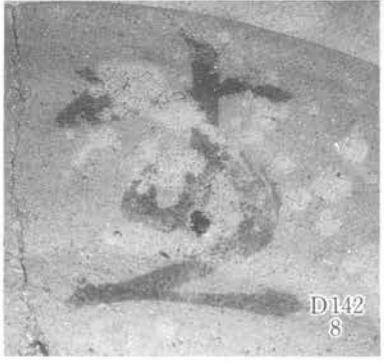
D142
15


D143
17

D258
4

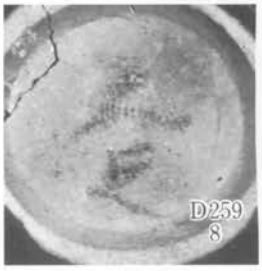
D258
4

歴史時代2群A


D142 8

D259 6

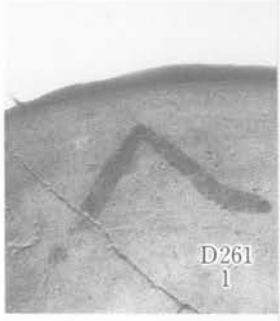
D259 7


D259 8

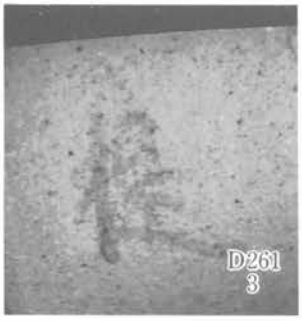
D259 9

D263 1

P135 1


D261 1

D259 9

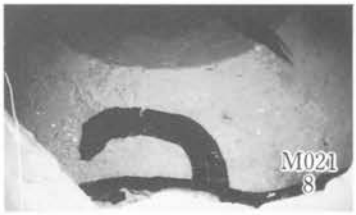

D261 3

M021 8

M021 11

M021 6

M021 7


M021 8

M021 12

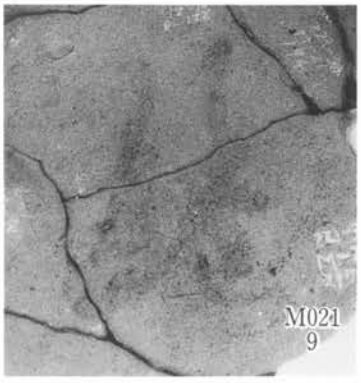
M021 4

M021 10

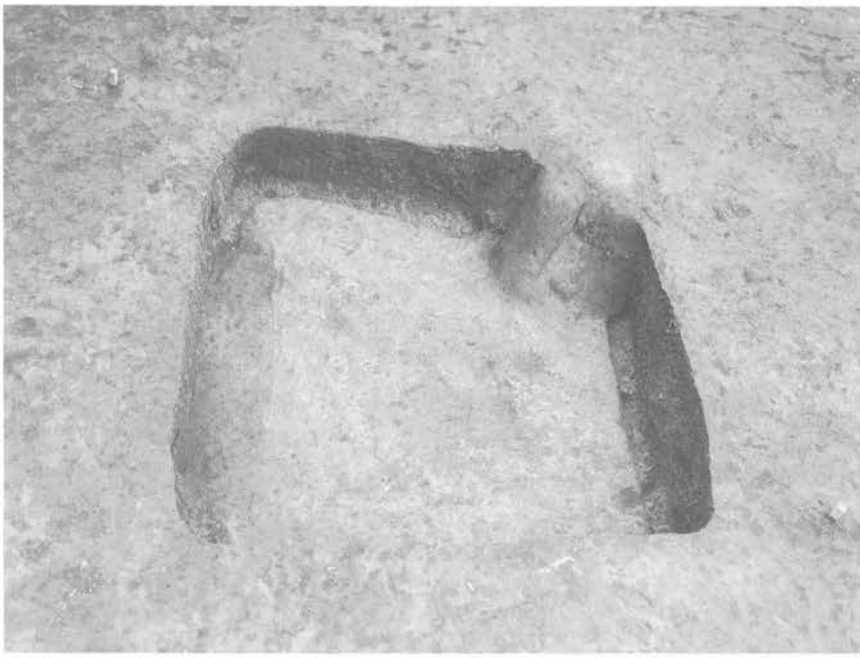
M021 12

M034 2

M021 13


M021 9

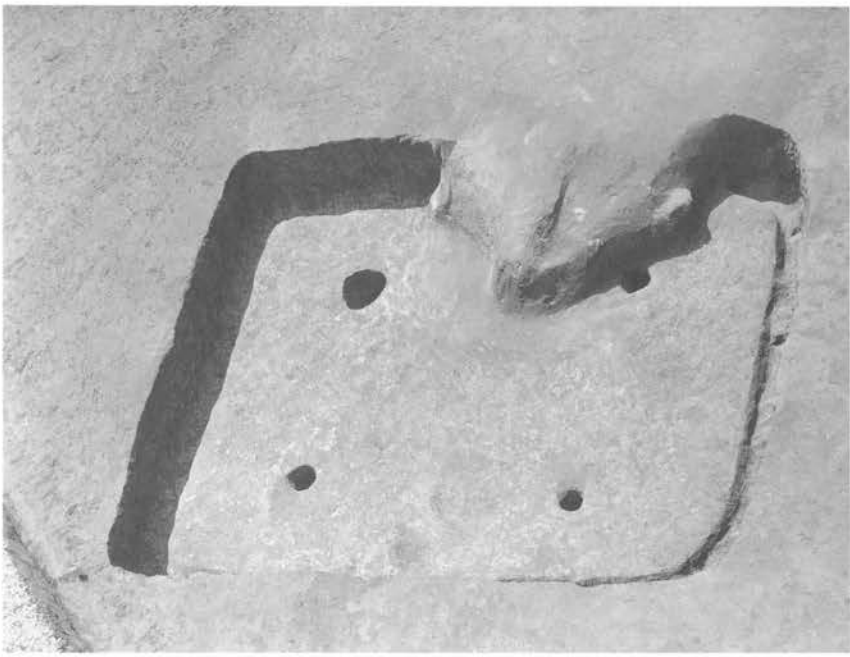
1．D039全景



2．D040全景

3．D043全景

1．D044全景

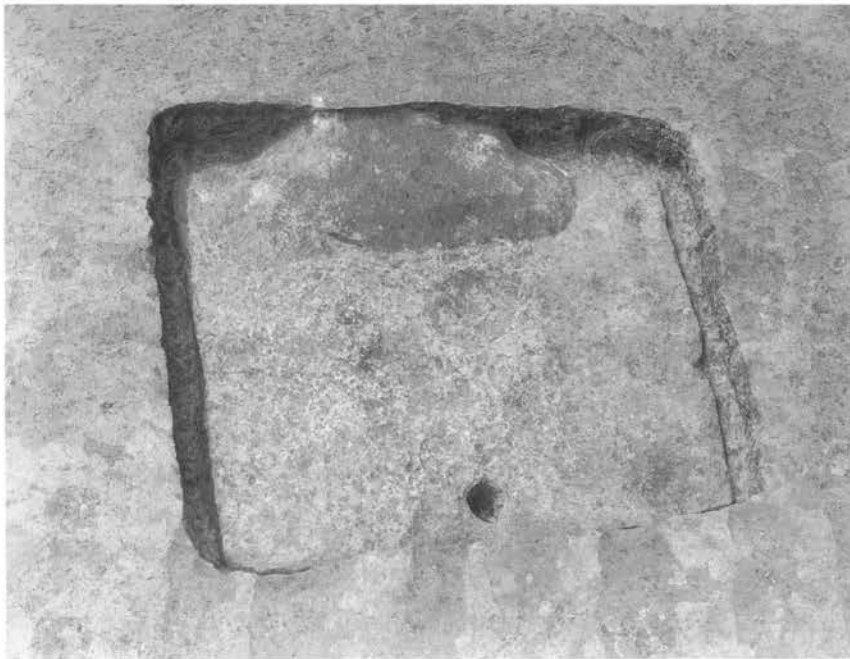


2．D046全景

3．D048全景

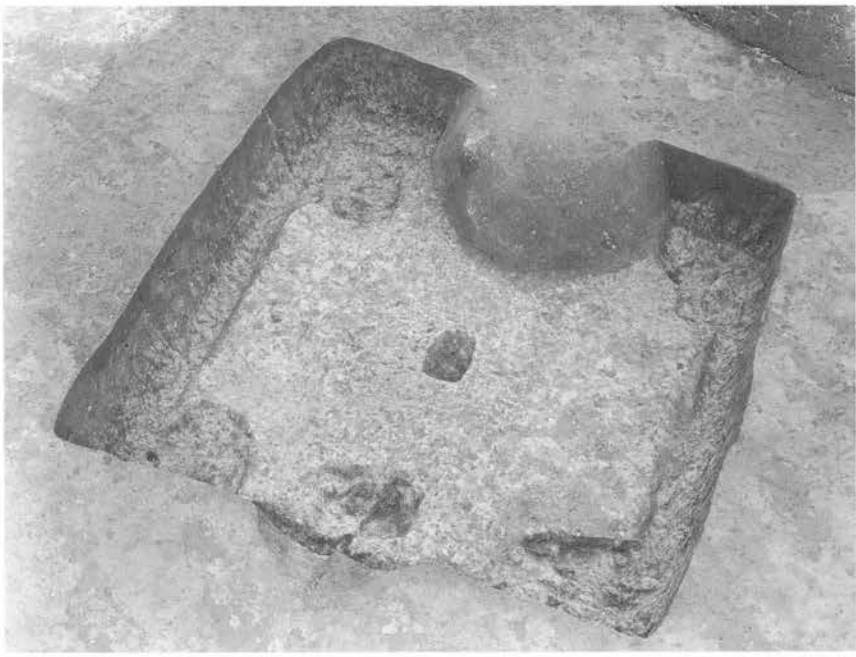
1．D049全景

2．D050全景



3．D051全景

1．D054全景

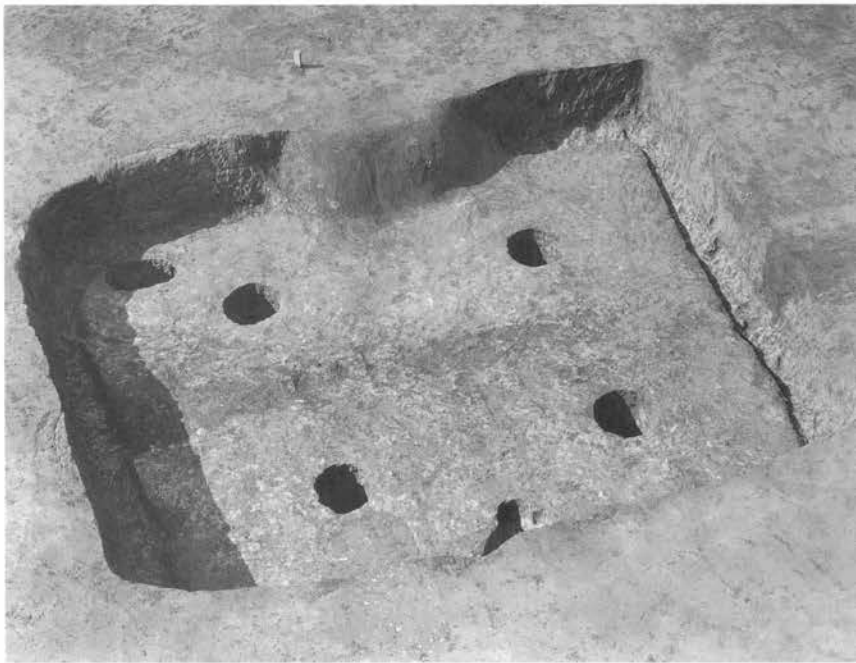


2．D055全景

3．D057全景

1．D058全景

2．D108全景



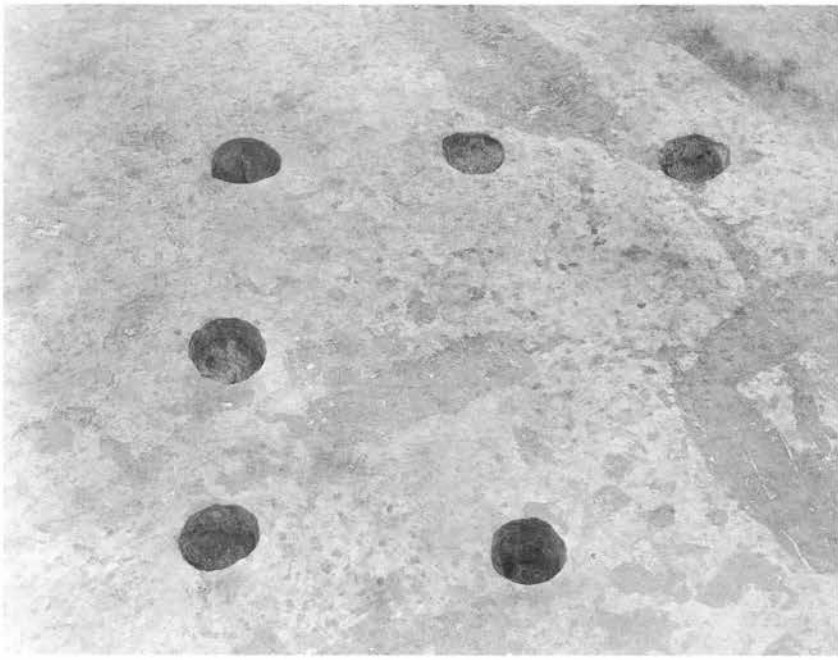
3．D110全景

1．D115全景

2．D125全景

3．H017全景

1．H018全景



2．H019全景

3．H074全景

D041
1

D041
5

D042
1

D042
3

D043
2

D043
3

D043
4

D043
11

D044
1

D045
1

D044
6

D045
3

D046
2

D046
3

D046
6

D048
7

D048
12

D048
15

D049
1

D054
2

D051
1

D054
6

D054
12

D055
9

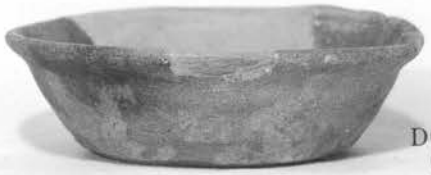
D057
10

D055
10

D058
1

D057
12

D058
4



D058
6

D058
5

D062
10

D058
8

D062
2

D062
11

D062
14

D062
15

D108
2

D109
3

D109
4

D110
1

D110
2

D111
3

D111
2

D111
7

D114
1

D115
1

D115
2

D116
1

D116
2

D116
4

D116
5

D116
9

D125
2

D224
1

D224
2

D224
3

D055
29

D058
18

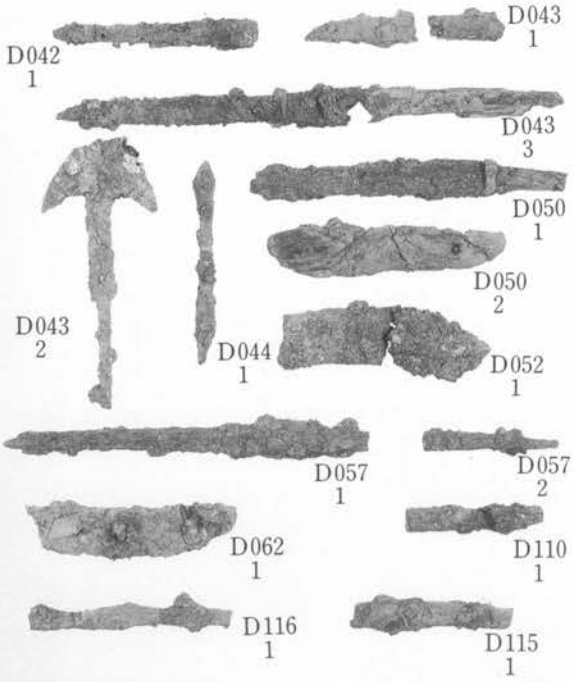
D045
11

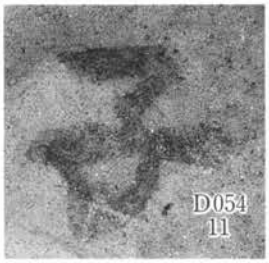
D114
3

D043
4

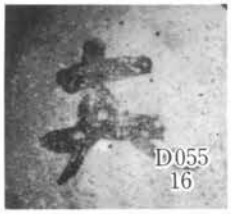
D043
6

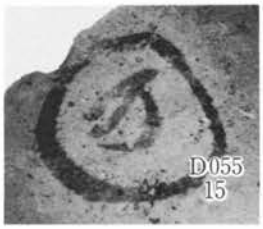
D048
9





D054
11

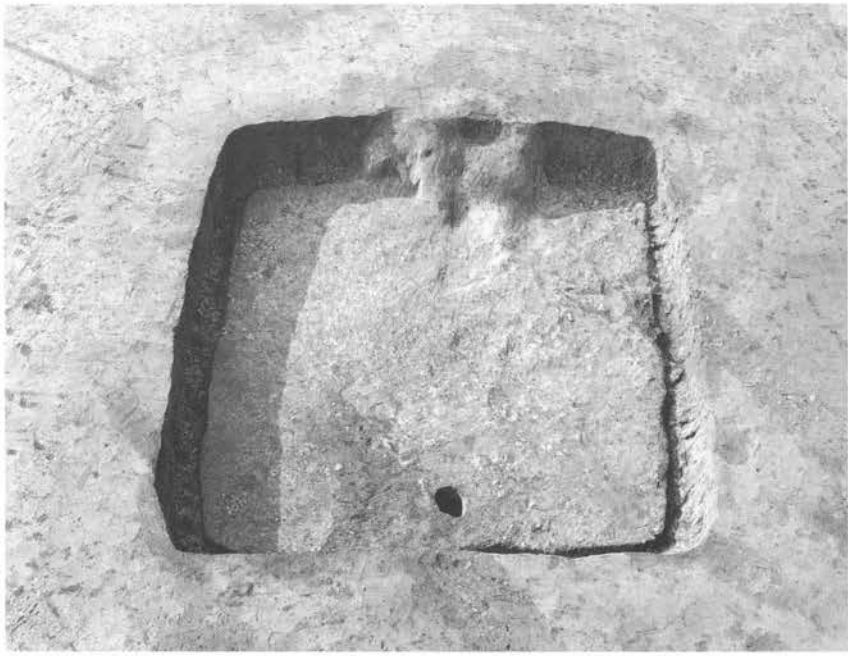
D043
3


D055
16

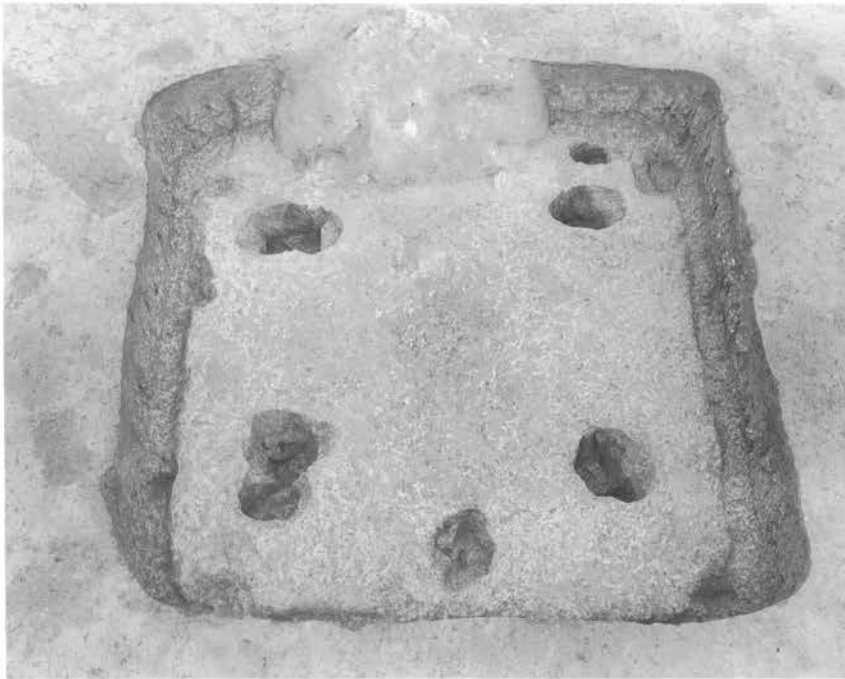

D055
15

D055
18

1．D021全景



2．D022全景



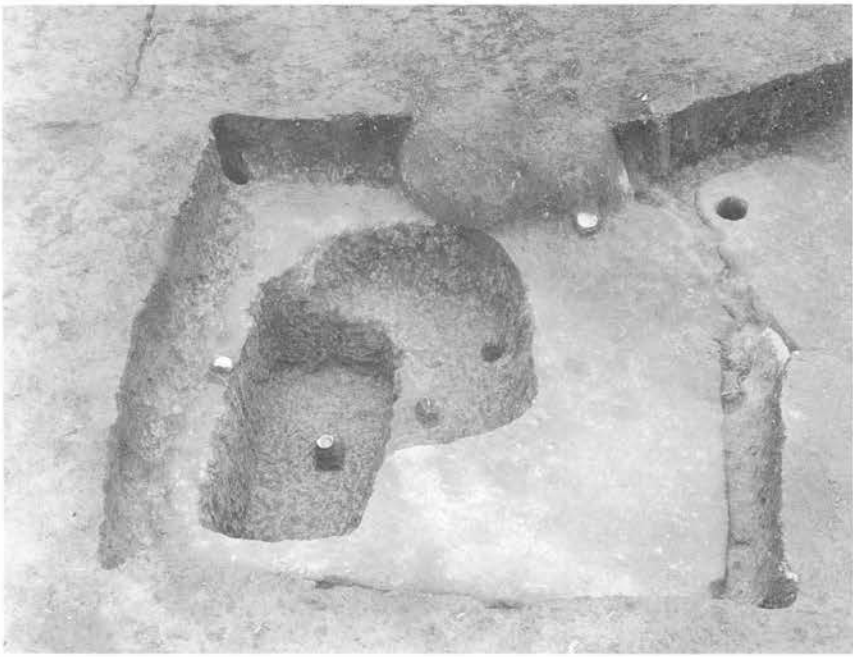
3．D023全景

1．D024全景

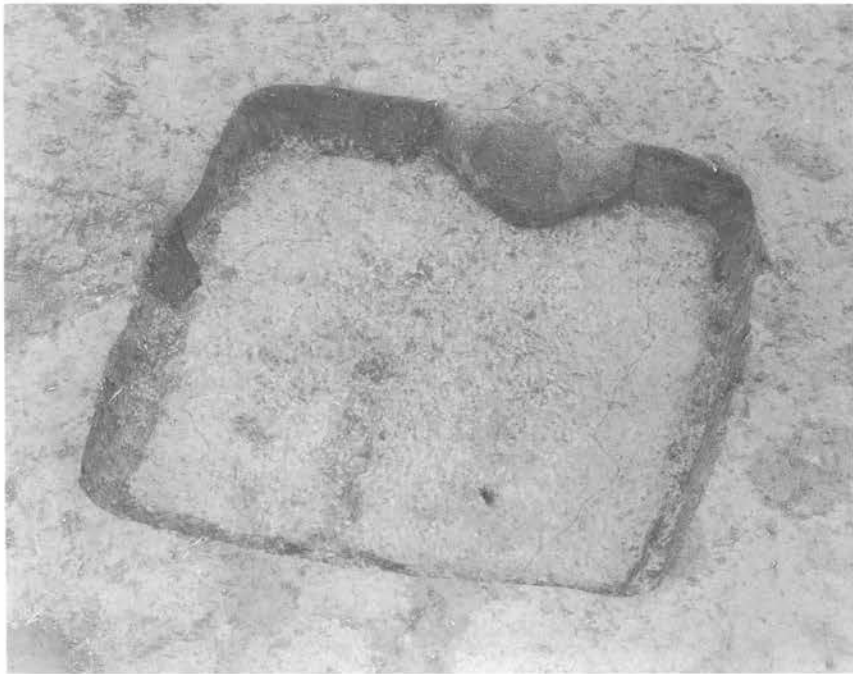
2．D027全景

3．D028遺物出土状況

1．D030全景

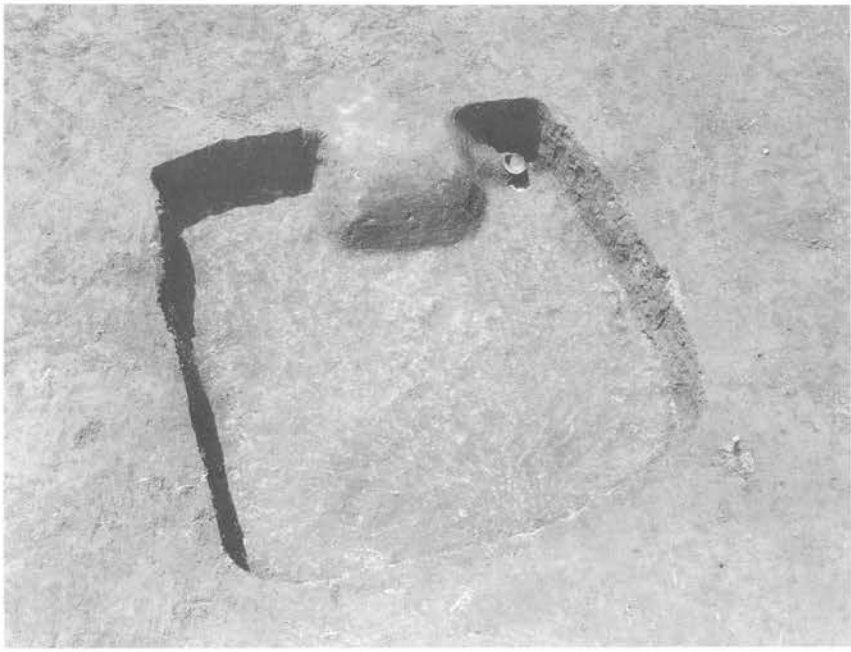


2．D031全景

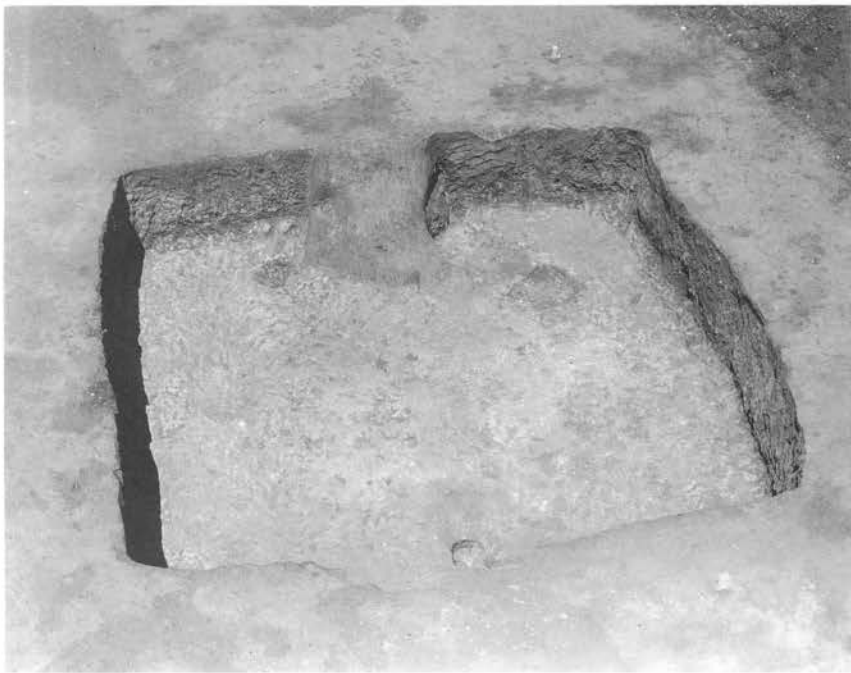


3．D034全景

1．D035全景



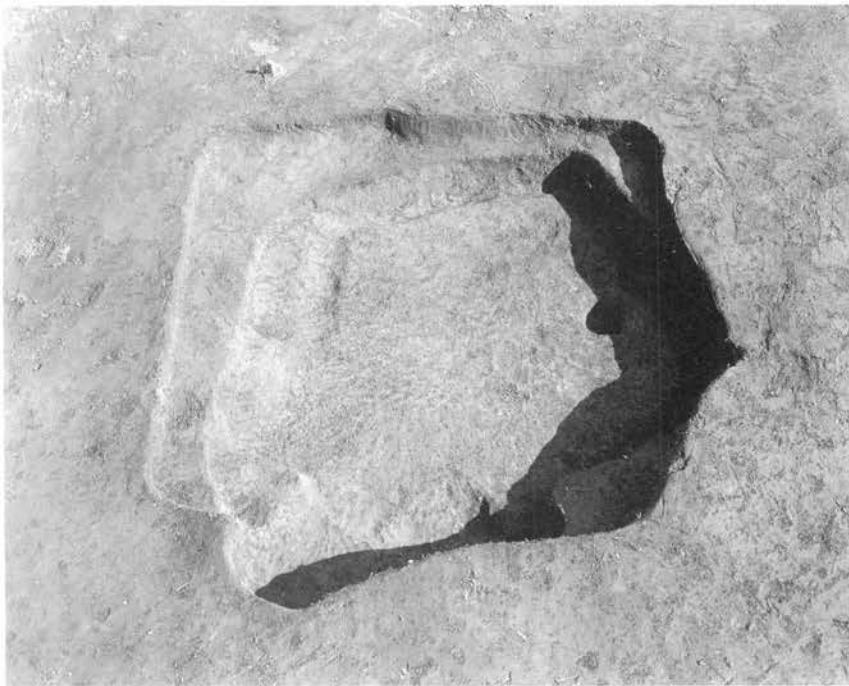
2．D036全景



3．D067全景

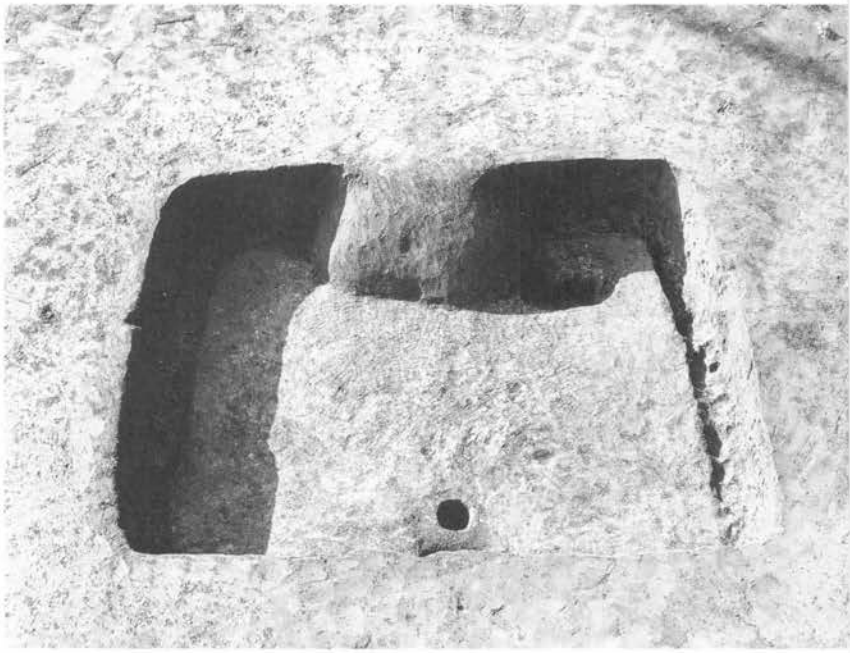
1．D067貝層堆積状況

2．D203全景

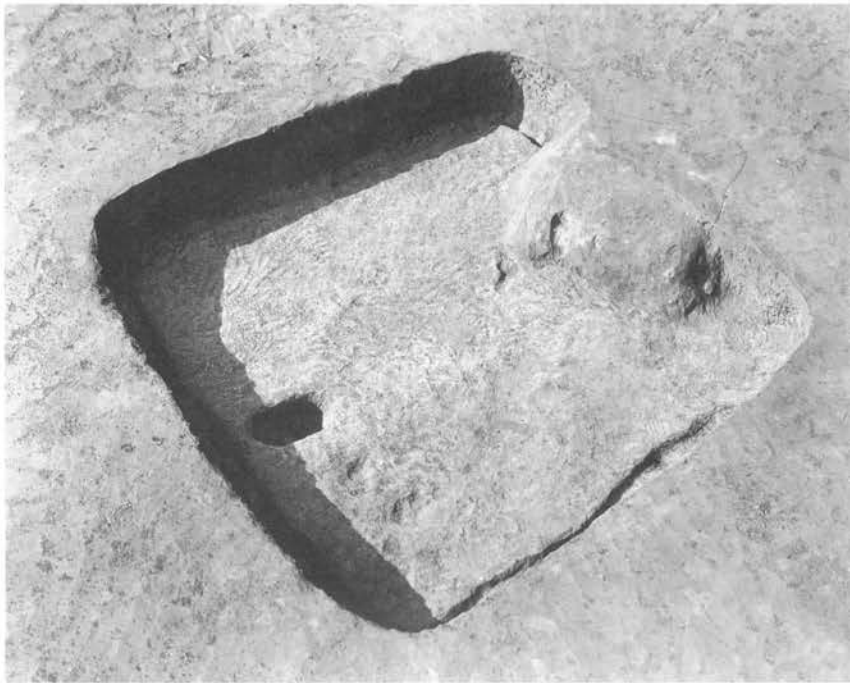


3．D204全景

1．D205全景



2．D206全景

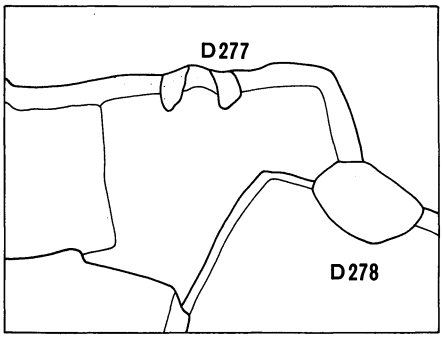


3．D208全景

1．D273全景

2．D275全景

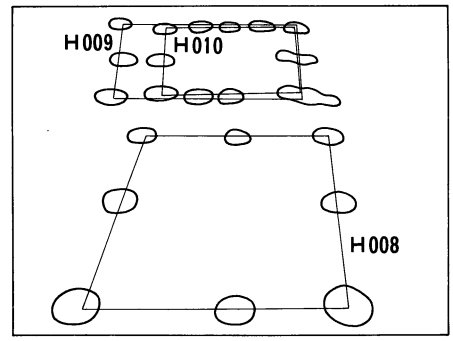
3．D276全景


D277
D278

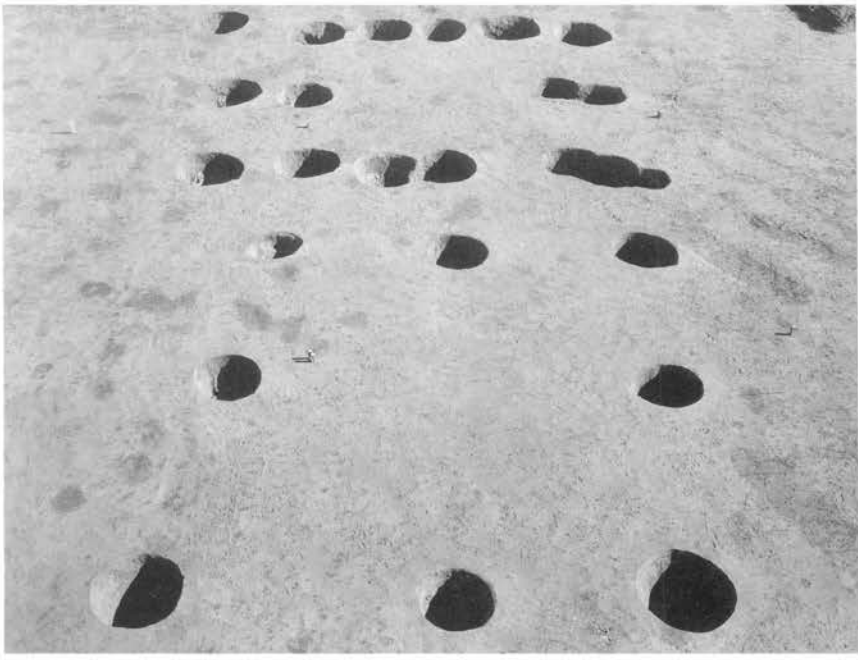
1．D277・D278全景

2．D279全景

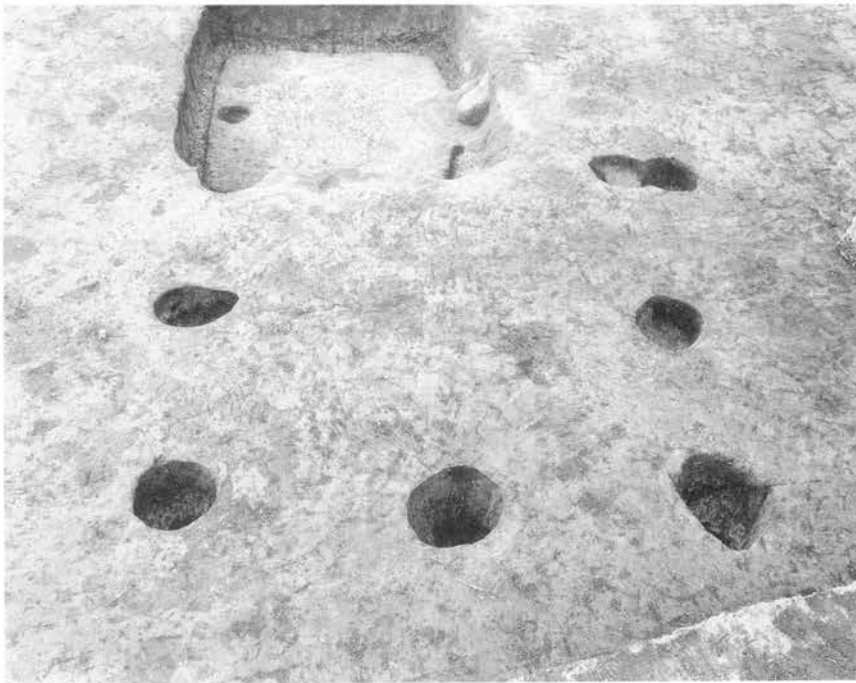
3．D280全景


H009
H010
H008

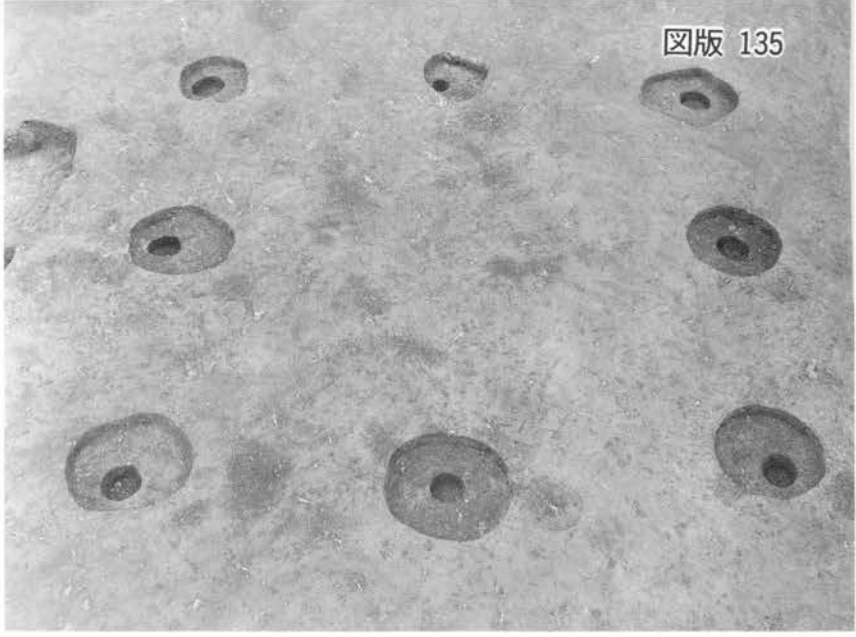
1．D285全景



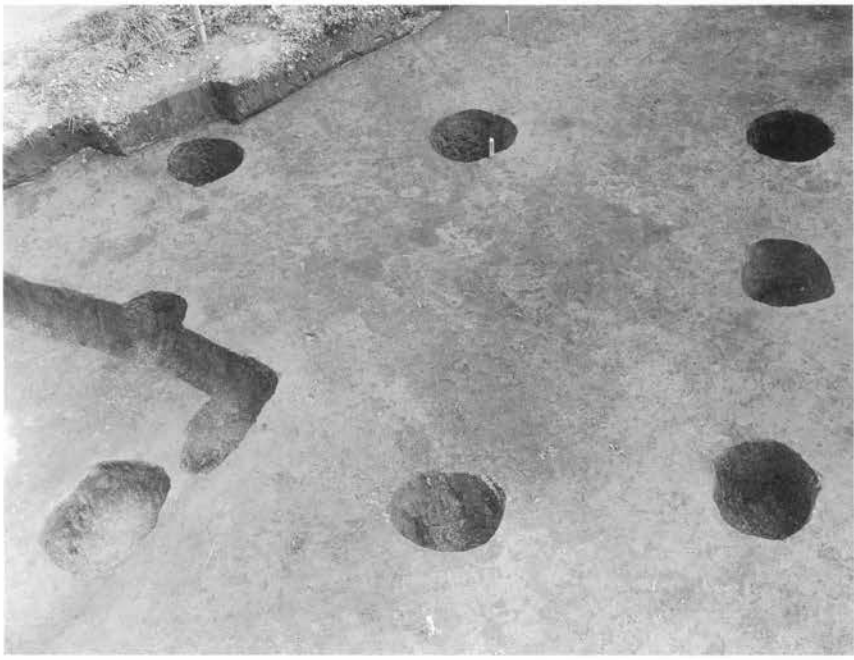
2．H008～H010全景



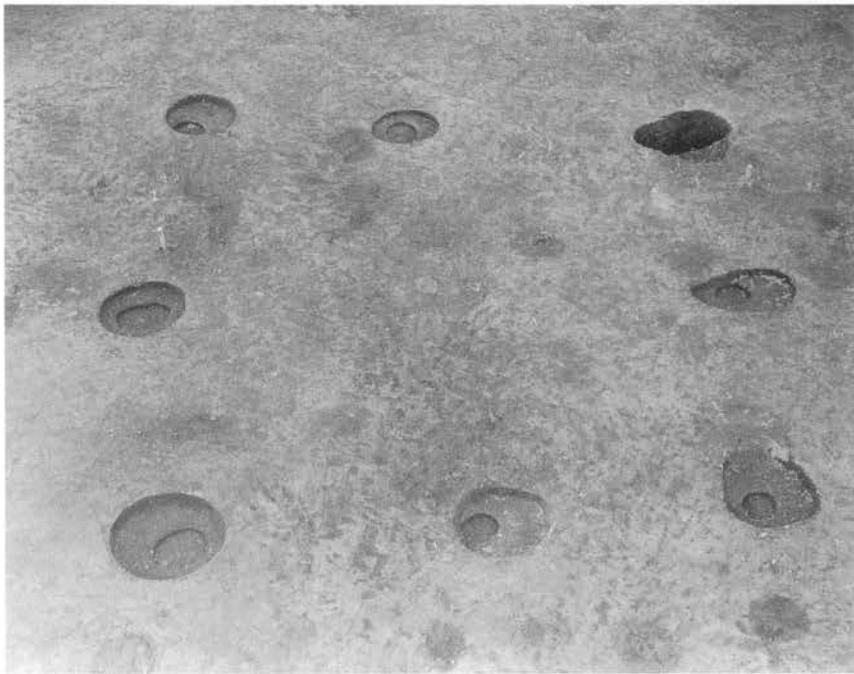
3．H011全景



1．H015全景



2．H020全景



3．H021全景

D021
1

D022
2

D022
6

D022
8

D022
9

D022
17

D022
20

D022
21

D023
2

D023
6

D023
12

D023
14

D023
15

D023
36

D023
31

D023
45

D023
46

D024
2

D028
1

D028
2

D029
3

D029
10

D029
9

D029
17

D030
1

D030
3

D030
7

D030
11

D031
1

D032
1

D032
8

D032
5

D033
2

D032
12

D034
1

D033
3

D037
3

D036
3

D037
8

D037
11

D037
13

D038
1

D053
1

D053
4

D053
7

D067
3

D067
6

D067
14

D067
18

D067
20

D067
21

D067
24

D067
27

D067
28

D067
29

D202
1

D201
2

D202
4

D202
6

D203
1

D203
2

D203
6

D203
7

D204
4

D205
1

D206
1

D206
4

D206
2

D207
1

D206
5

D207
3

D207
4

D207
10

D207
8

D208
1

D208
3

D208
5

D208
6

D208
7

D208
9

D208
10

D208
11

D218
5

D273
4

D275
2

D273
3

D276
2

D277
2

D278
1

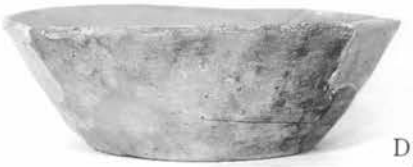
D279
7

D280
1

D281
1

D285
1

D276
7



D278
2

D279
8

D280
4

D283
2

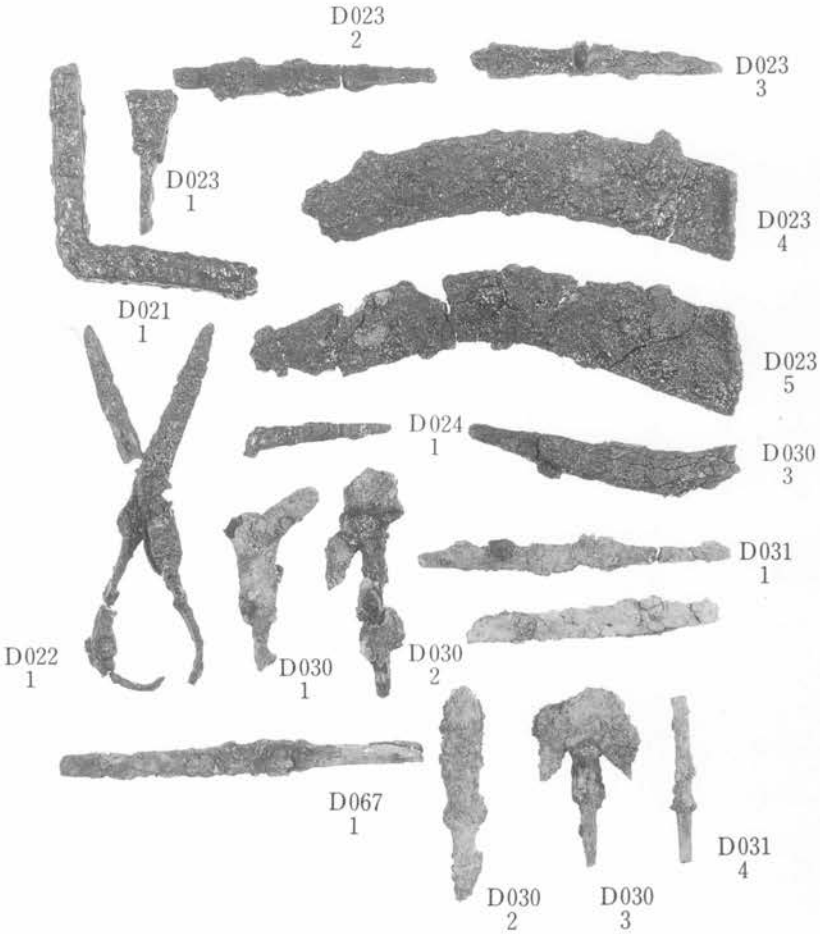
D285
3

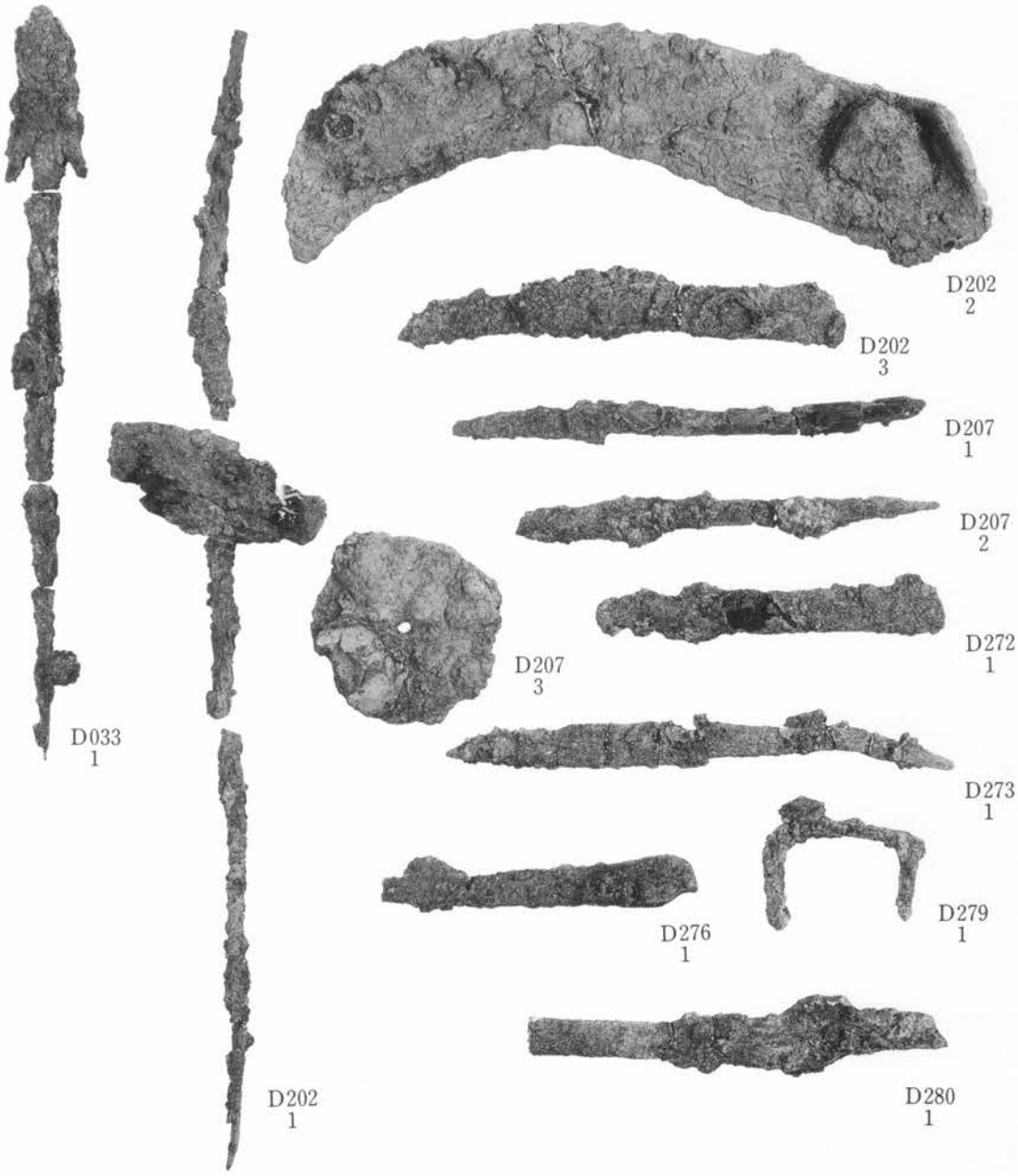
D285
5

D285
7

D285
10

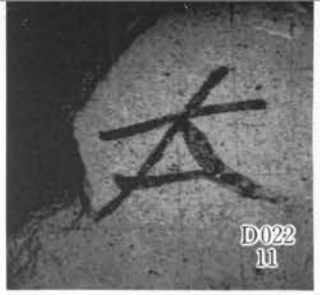
P012
1




D202
2
D202
3
D207
1
D207
2
D272
1
D207
3
D033
1
D273
1
D279
1
D276
1
D280
1
D202
1

D022 6

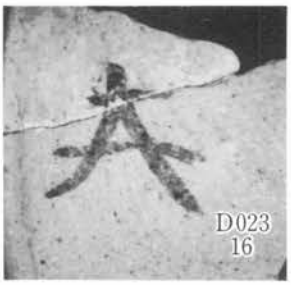
D022 7


D022 11

D022 21

D023 13

D023 14


D023 16

D023 20

D023 21

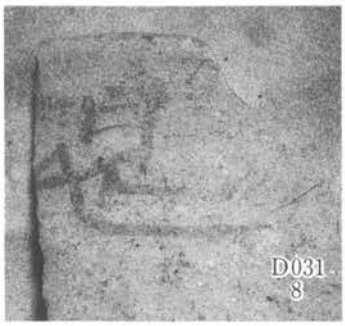
D023 25

D023 26

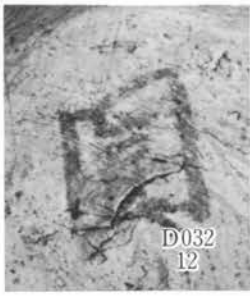
D024 8

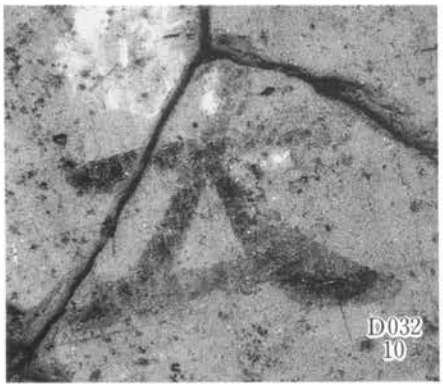
D031 7

D032 8

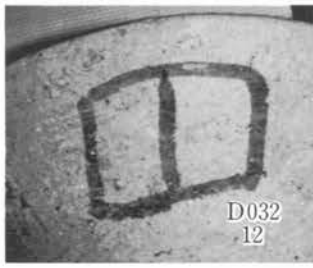

D031 8

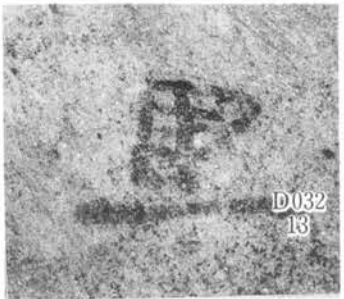
D024 12


D032 12

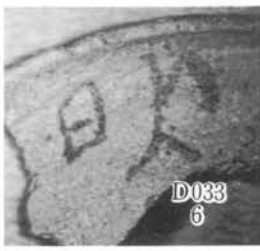

D032 10

D032 11


D032 12

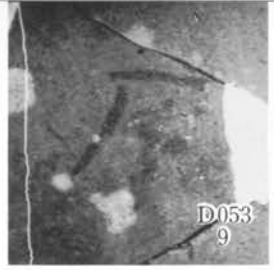

D032 13

D036 5

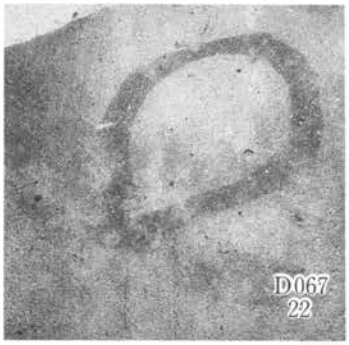

D033 6

D053 6

D053 7

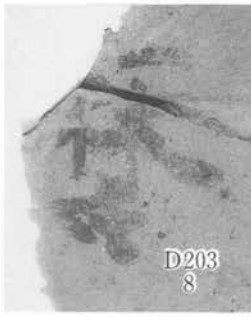

D053 9

D067 6

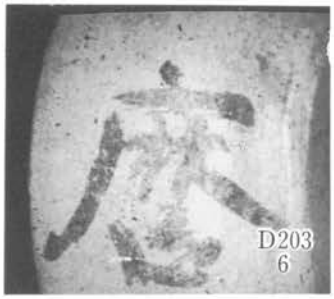

D067 22

D067 11

D203 7

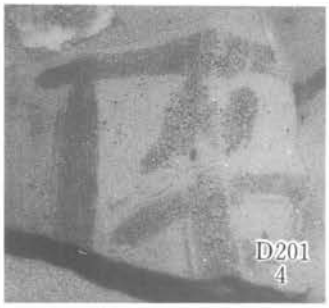

D203 8

D203 19


D203 6

D203 12

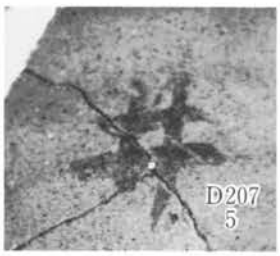
D203 11


D201 4

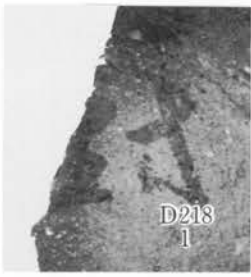
D203 9

D208 9

D203 14

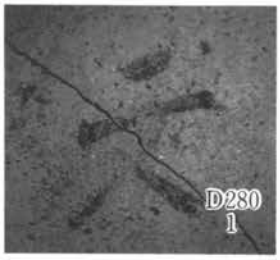

D207 5

D208 10


D218 1

D272 1

D279 4

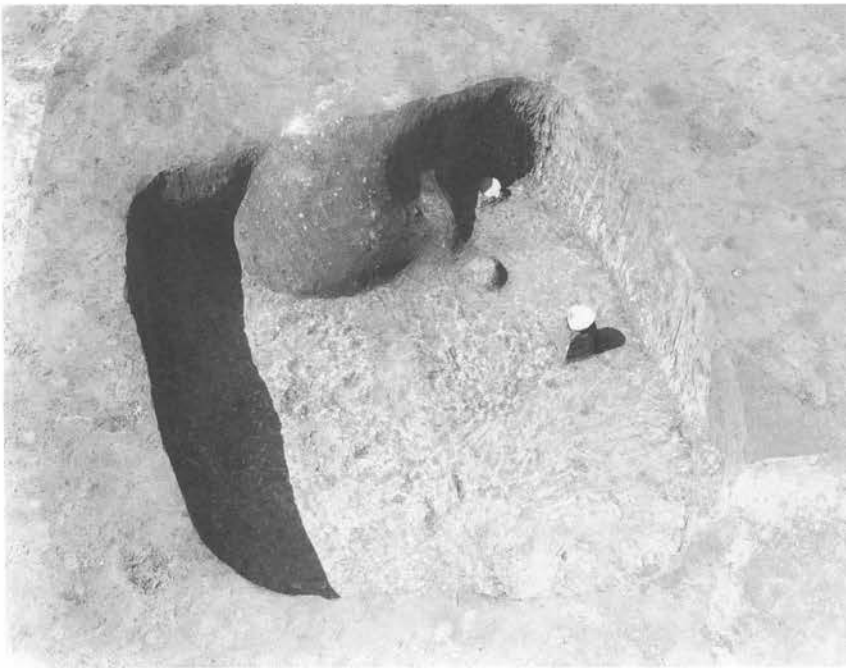

D280 1

D285 7

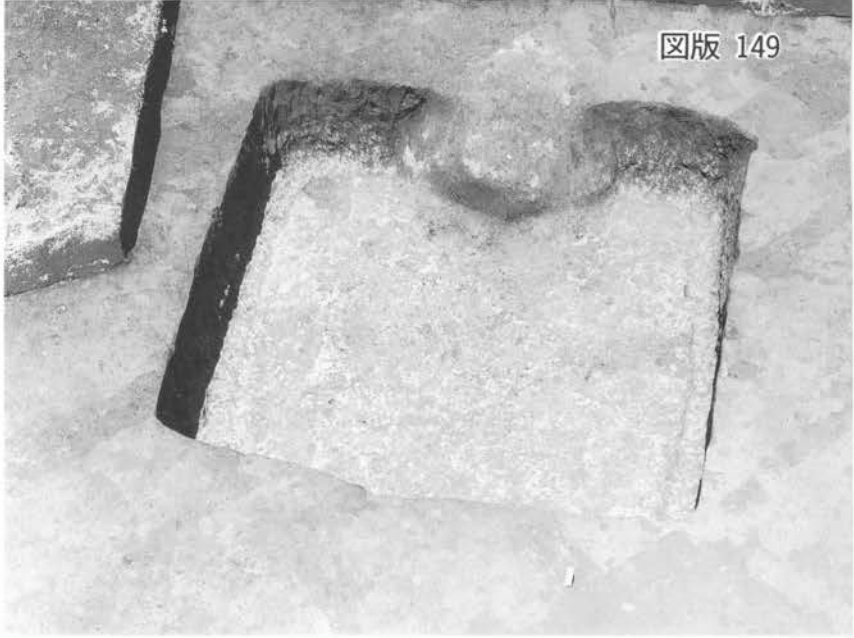
D285 7

1．D061全景

2．D068全景

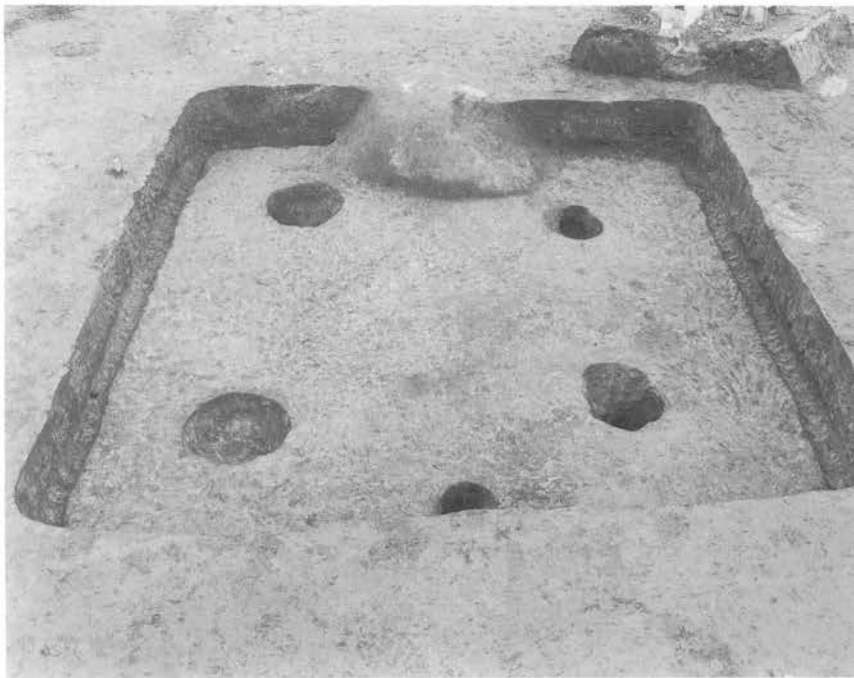


3．D070全景

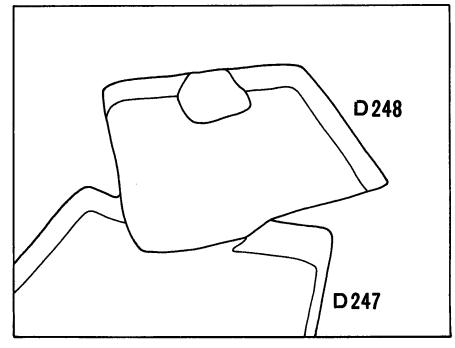


1．D075全景

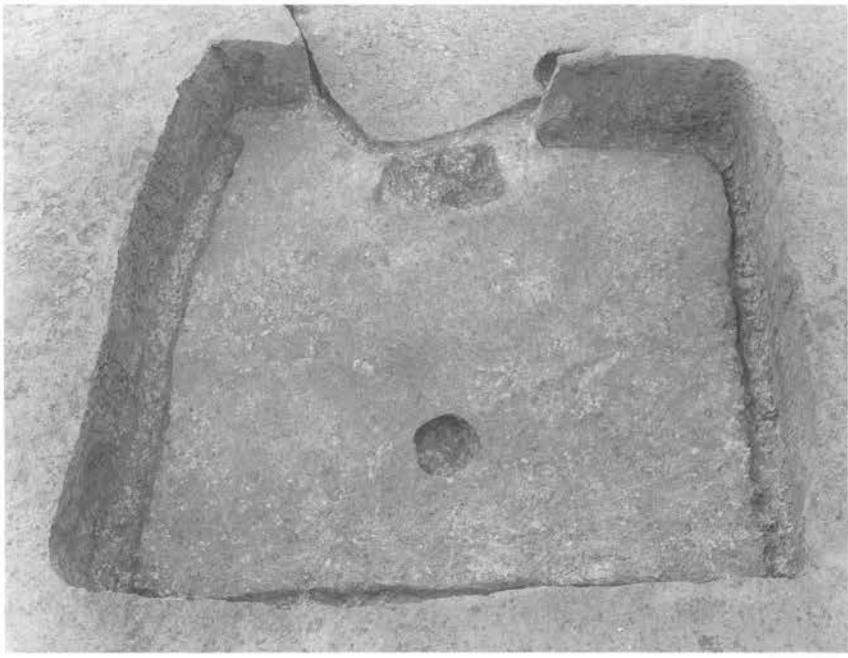
2．D243全景



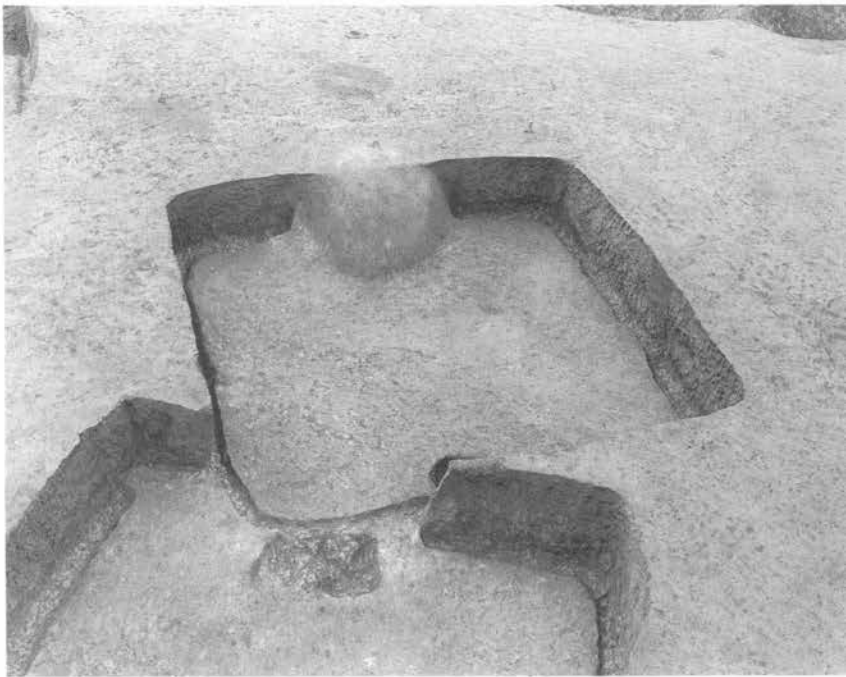
3．D245全景


D248
D247

1．D246全景

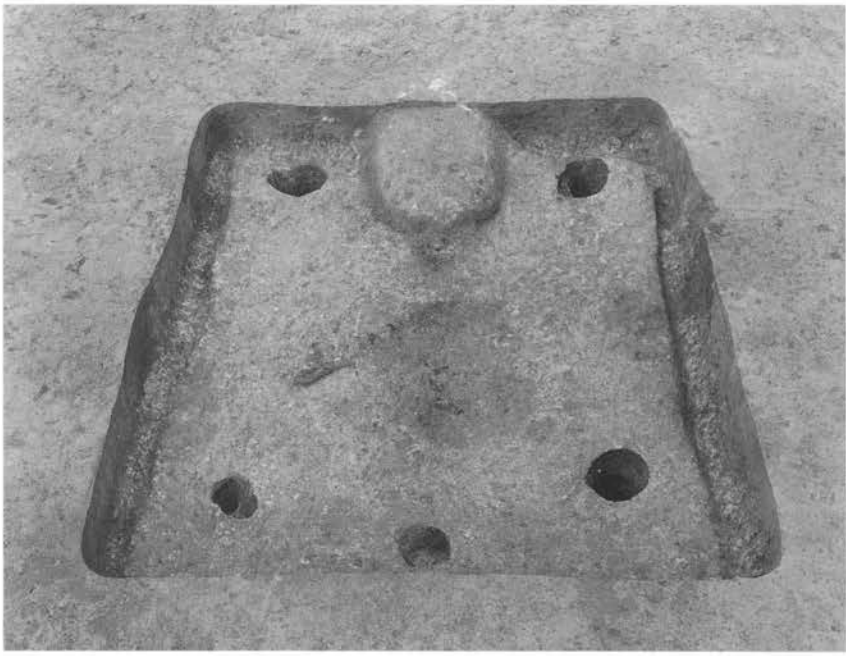


2．D247全景

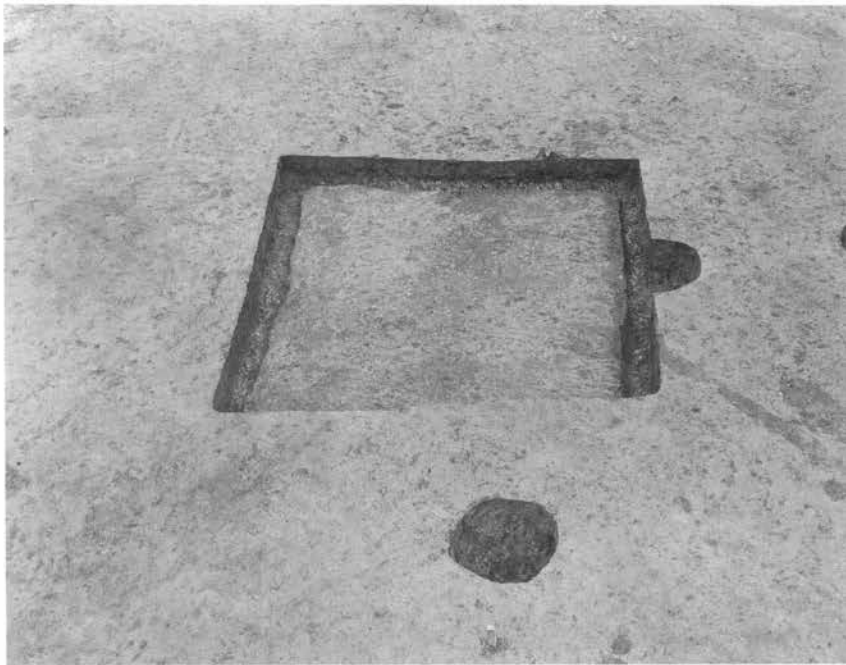


3．D248全景

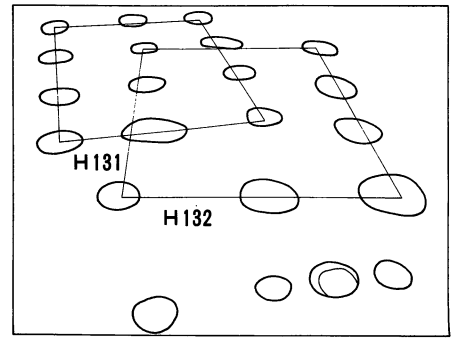
1．D249全景



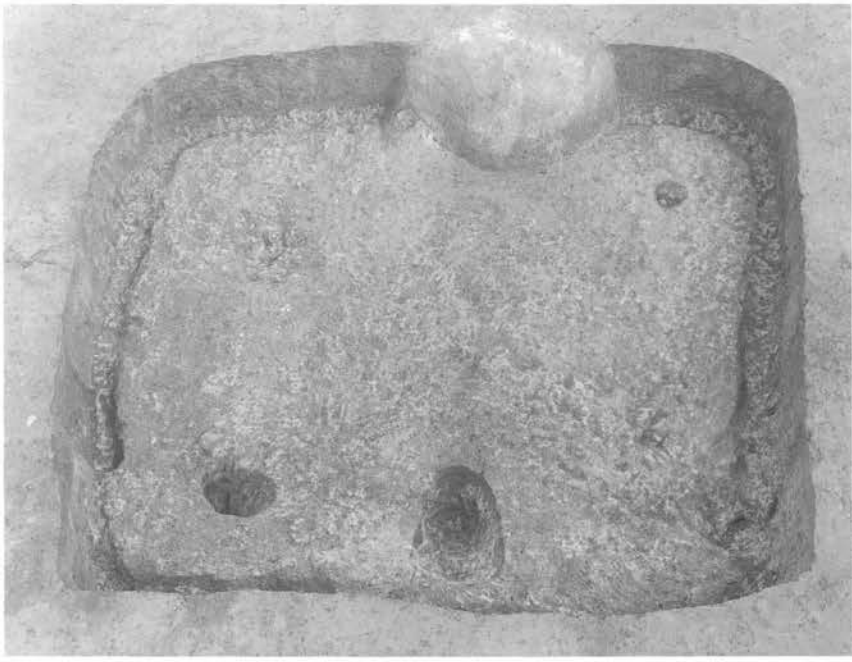
2．D251全景



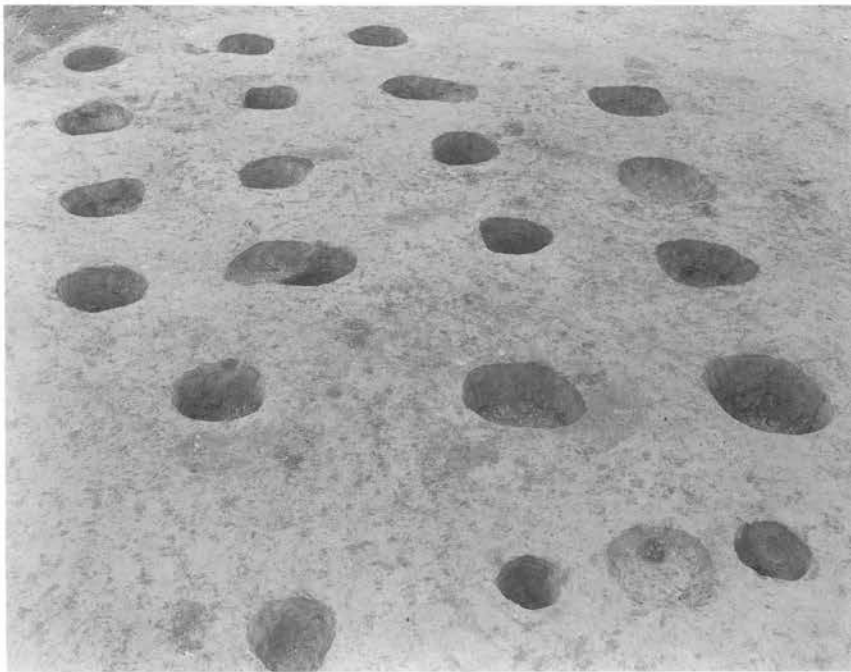
3．D252全景


H131
H132

1．D253全景

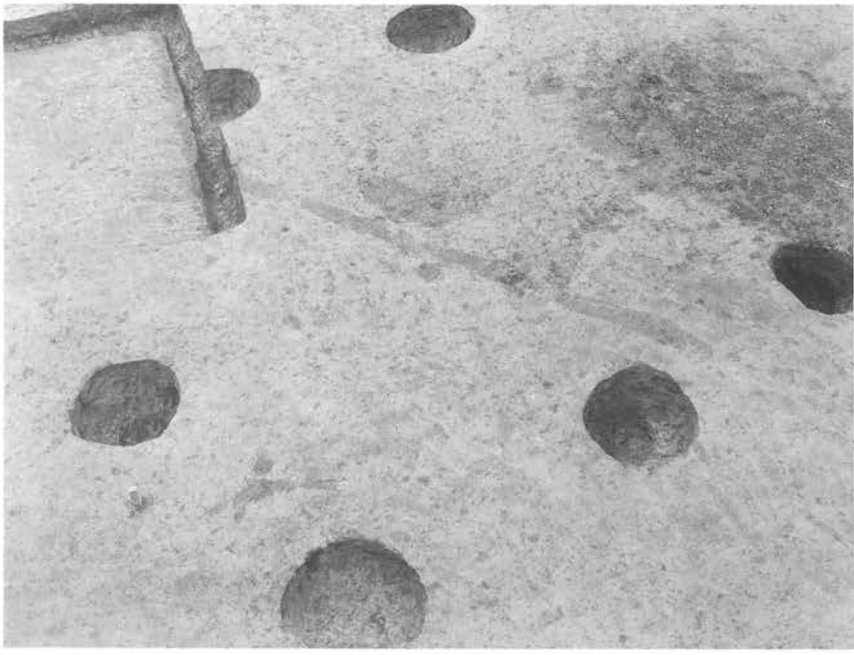


2．D254全景

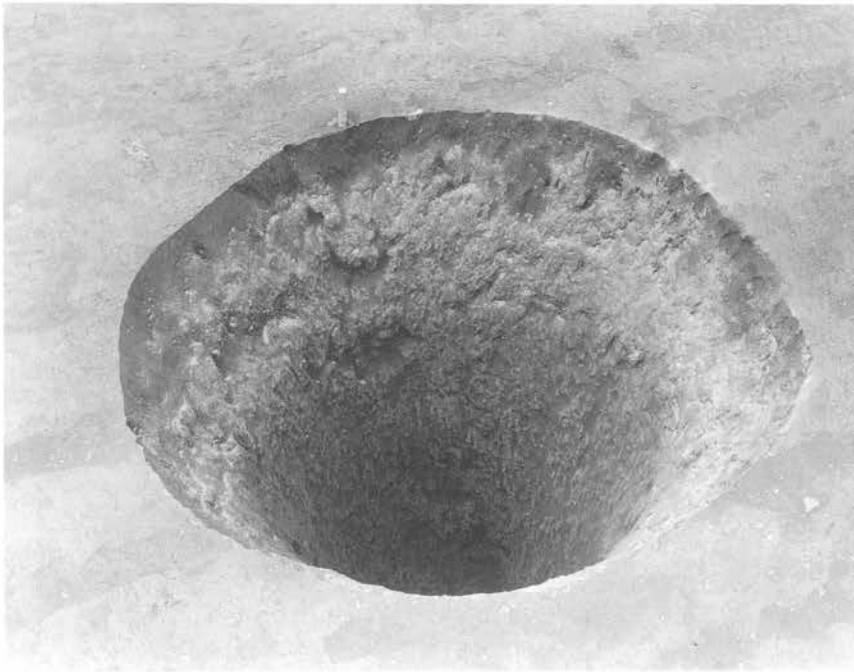


3．H131・H132全景

1．H133・H134全景



2．H137全景



3．P019全景

D061
1

D061
3

D061
6

D061
12

D068
2

D068
12

D068
6

D068
15

D069
1

D070
1

D069
8

D070
5

D070
2

D070
8

D075
2

D075
3

D243
2

D243
3

D243
5

D243
6

D244
4

D244
10

D244
8

D245
3

D246
1

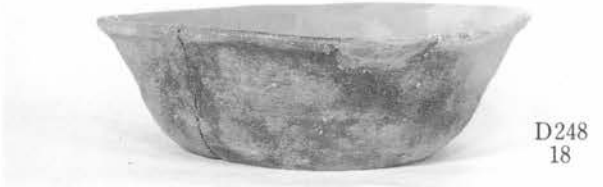
D246
5

D248
1

D248
9

D248
12

D248
17


D248
18

D248
20

D248
24

D249
6

D249
7

D249
9

D249
10

D249
12

D249
13

D249
14

D249
16

D249
17

D249
18

D249
27

D249
29

D249
30

D250
4

D250
5

D250
6

D250
16

D250
15

D253
1

D251
9

D253
6

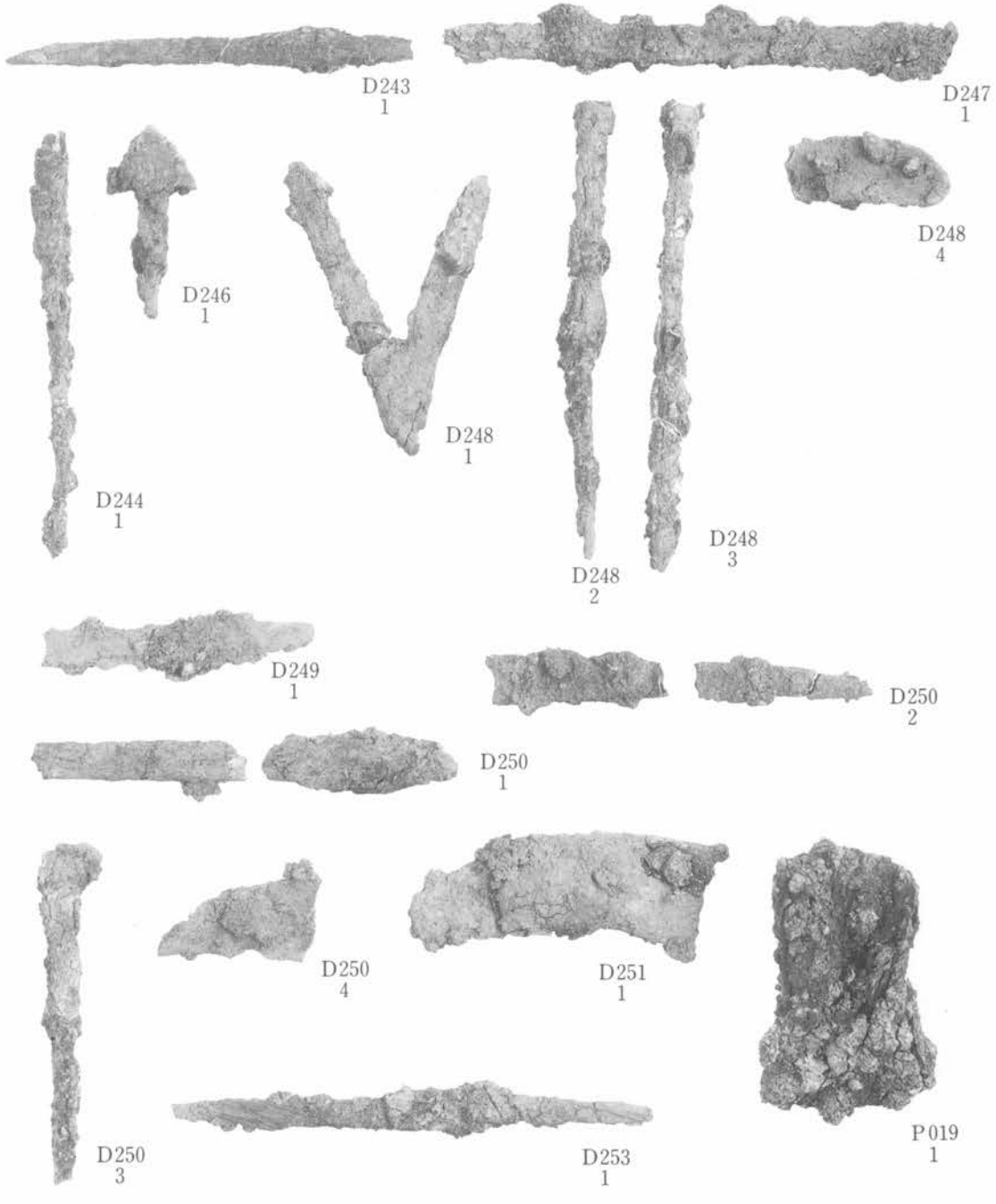
D253
3

D254
1

D253
8

D255
4

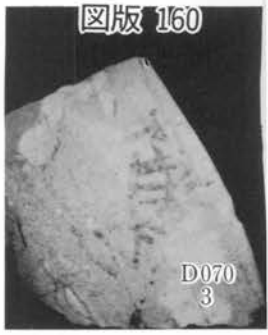
D255
3


D243
1
D247
1
D248
4
D246
1
D248
1
D244
1
D248
3
D248
2
D249
1
D250
2
D250
1
D250
4
D251
1
P019
1
D250
3
D253
1

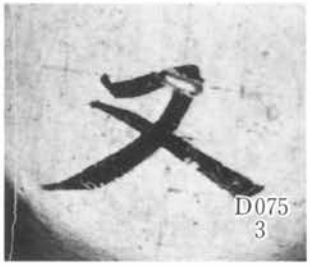
D061 6

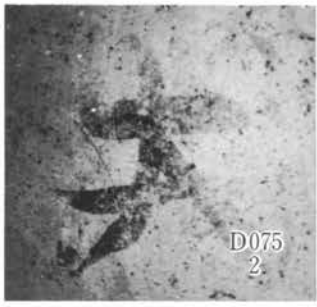
D068 7

D070 1


D070 3

D075 3


D075 3


D075 2

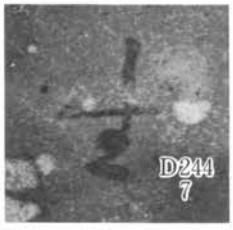
D243 5

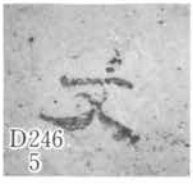
D243 6

D244 4

D244 3

D244 6


D244 7

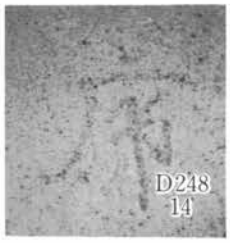

D246 5

D248 10

D248 10

D248 12

D248 13


D248 14

D249 16

D249 17

D250 12

D249 20

D249 18

D249 19

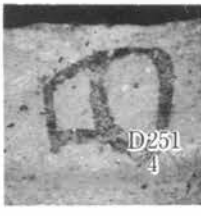
D249 21

D250 13

D250 11

D251 6

D249 23


D251 4

歴史時代2群Eグループ全景

1．D010全景

2．D025全景

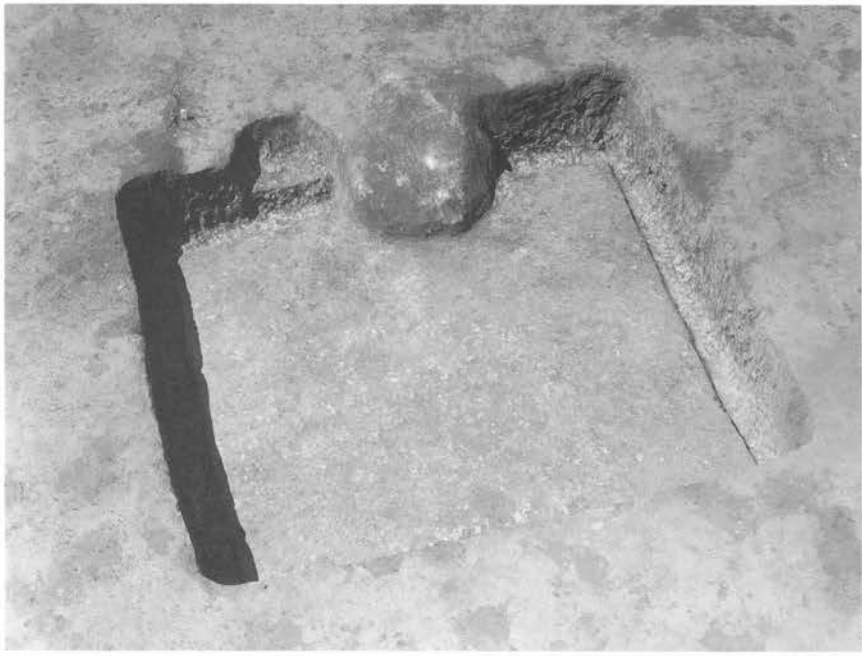
3．D026全景

1．D072全景

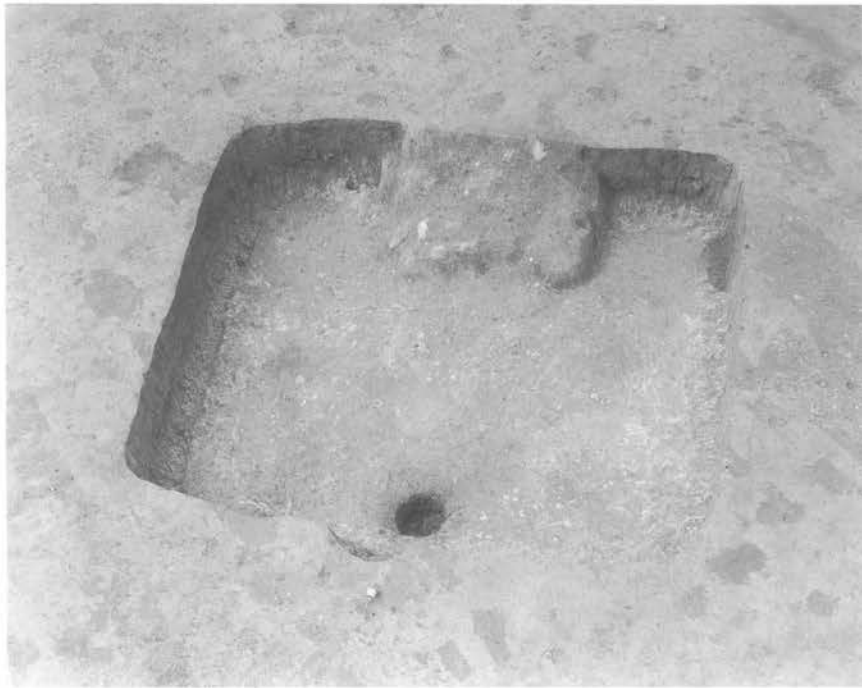
2．D074全景

3．D076全景

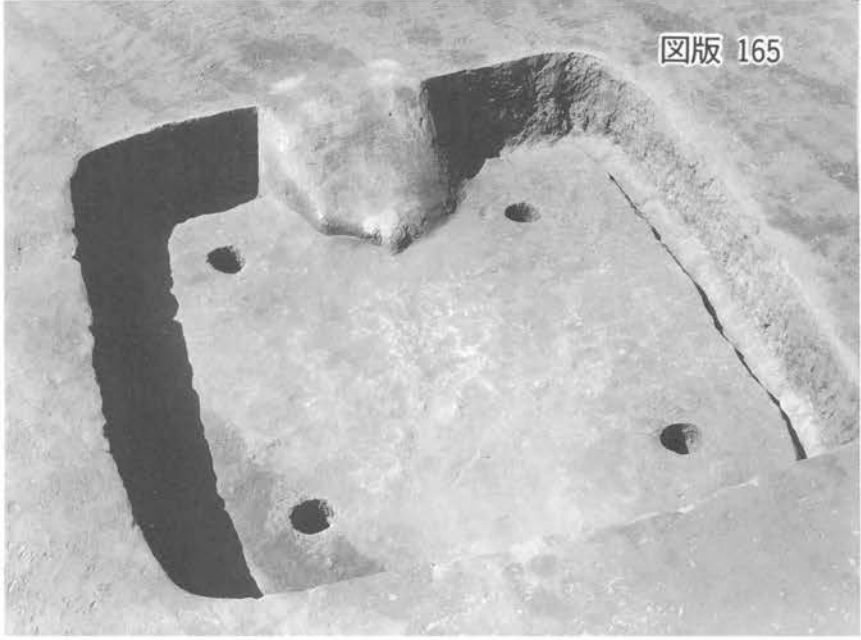
1．D078全景



2．D079全景



3．D080全景



1．D081全景

2．D082全景

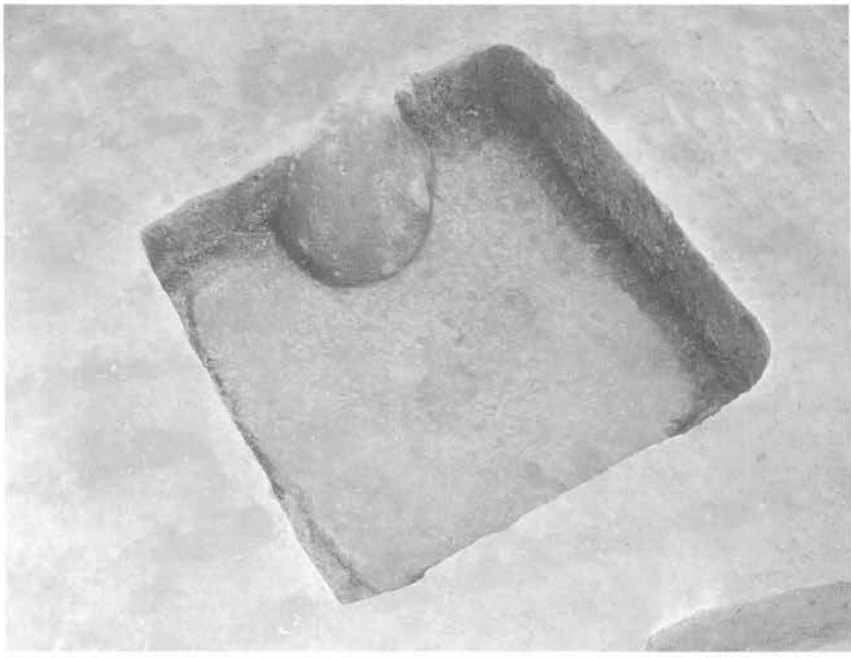
3．D083全景

1．D084全景

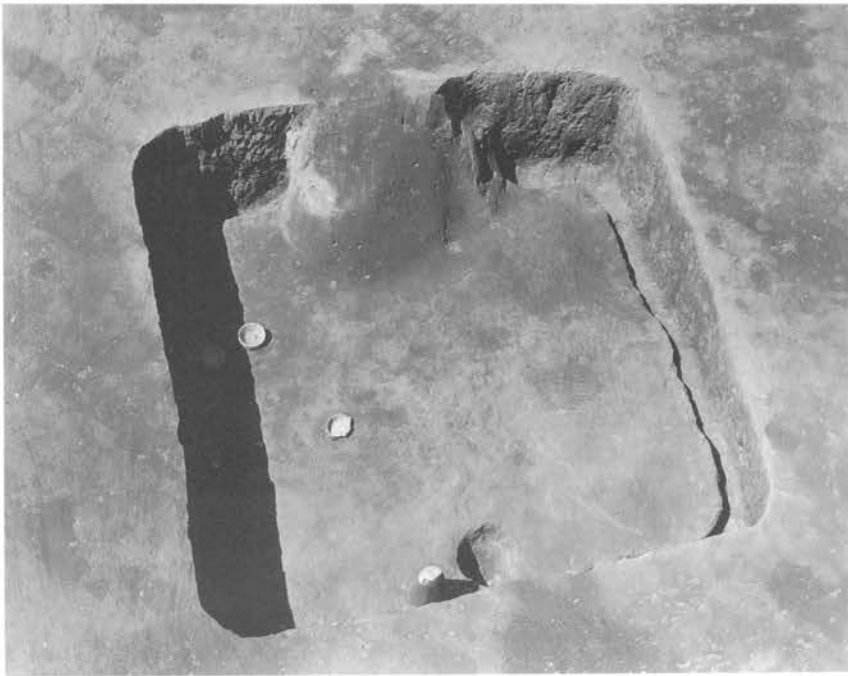
2．D085全景

3．D086全景

1．D087全景

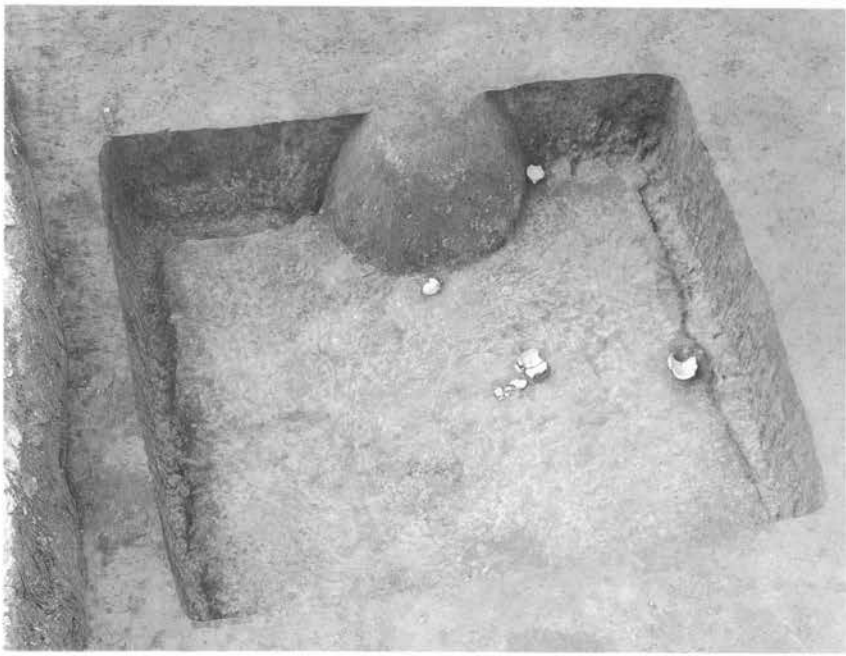


2．D088全景

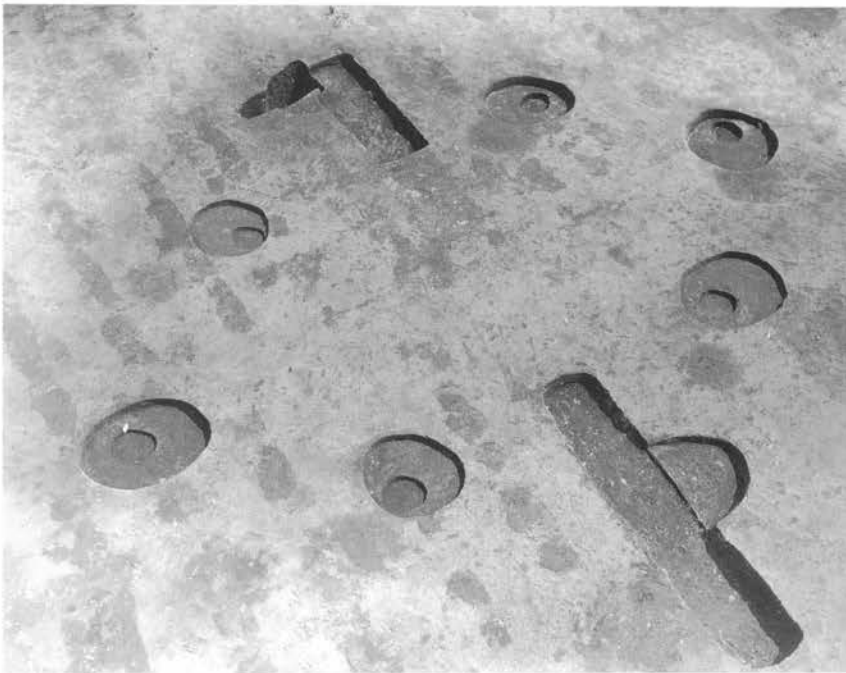


3．D089全景

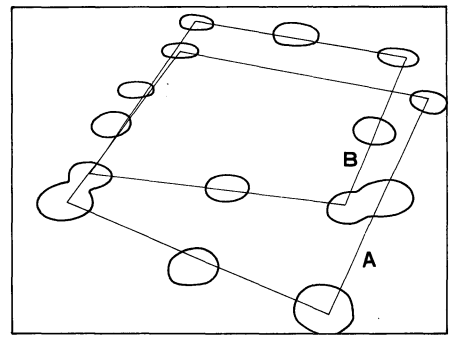
1．D090全景



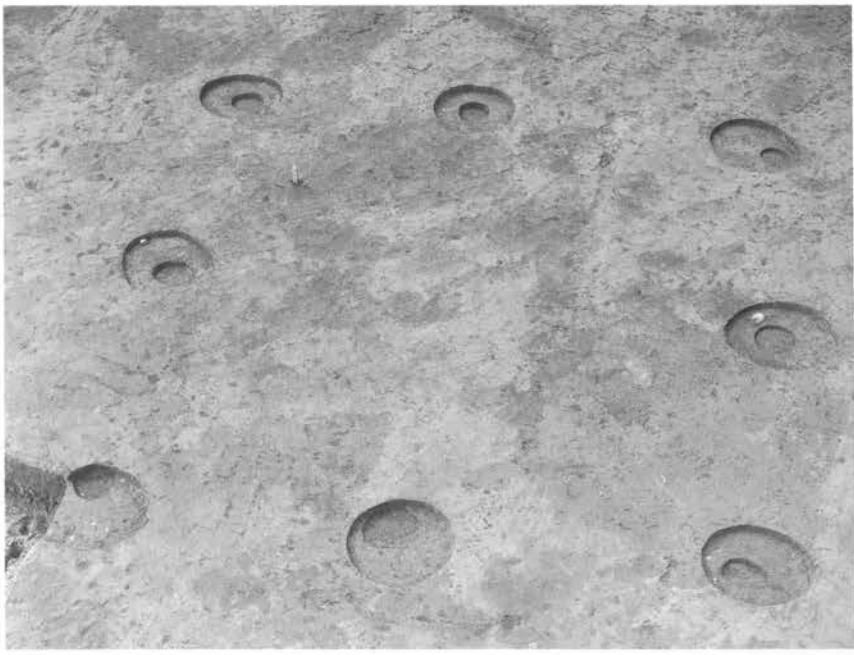
2．D091全景



3．H023全景


B
A

1．H033全景



2．H035全景

3．H051・H052全景

D025
2

D025
4

D026
1

D026
4

D072
6

D072
10

D073
11

D073
23

D073
22

D073
26

D073
28

D073
29

D074
1

D074
2

D074
14

D074
17

D074
18

D074
27

D077
1

D077
3

D078
1

D078
4

D078
6

D079
4

D080
1

D080
5

D081
4

D081
5

D081
11

D081
15

D081
17

D081
19

D082
1

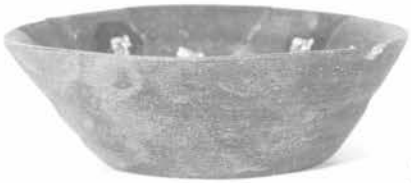
D082
2

D082
4

D082
5

D082
6

D082
7



D082
8

D082
10

D082
12

D082
13

D082
18

D084
7

D085
4

D088
2

D088
3

D089
1

D089
6

D089
3

D089
4

D089
7

D089
9

D090
3

D090
6

D090
7

D090
8

D090
10

D091
2

D091
5

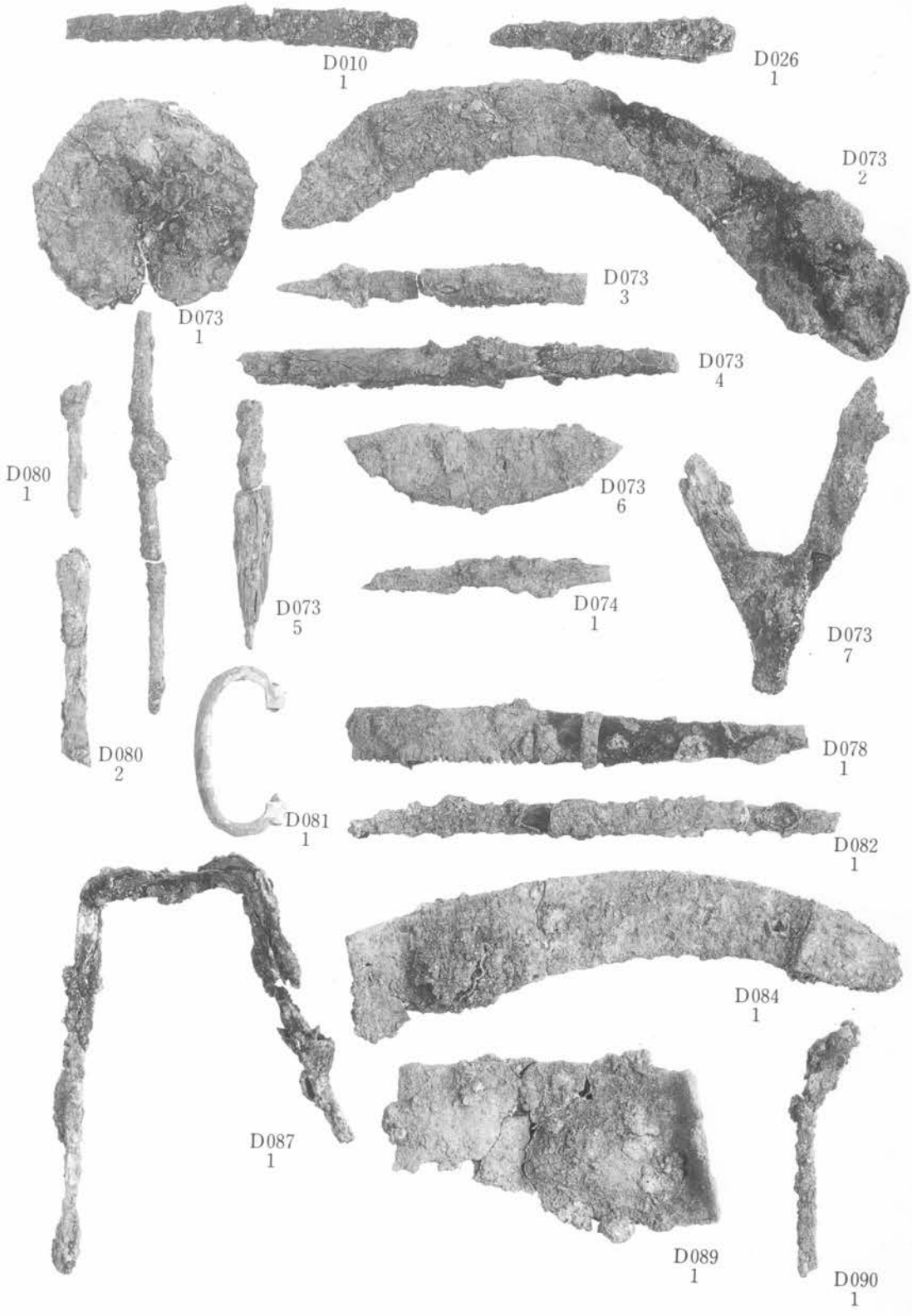
P016
1

D073
30

D074
29

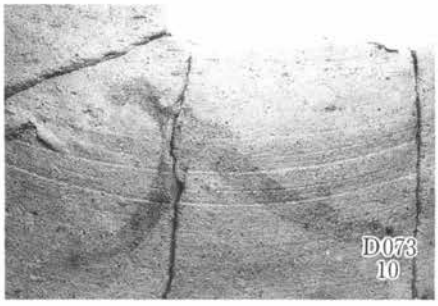
D078
11

D081
23


D010
1
D026
1
D073
2
D073
1
D073
3
D073
4
D080
1
D073
6
D073
5
D074
1
D073
7
D080
2
D078
1
D081
1
D082
1
D084
1
D087
1
D089
1
D090
1

歴史時代2群E

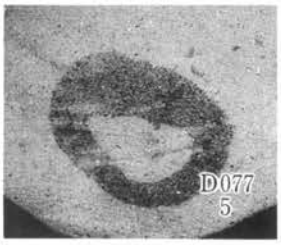
D072
2

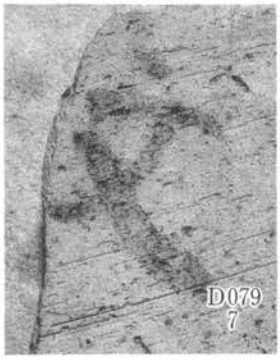

D073
10

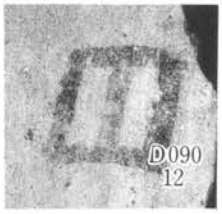
D073
14

D073
23

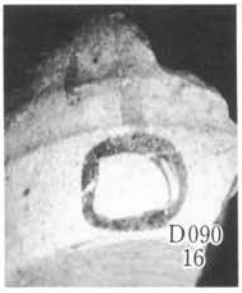
D076
2


D077
5


D079
7


D090
12

D090
15

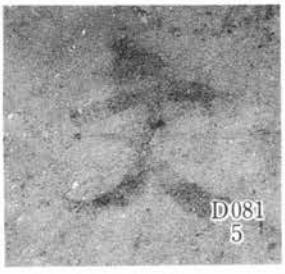

D090
16

D086
1

D085
1

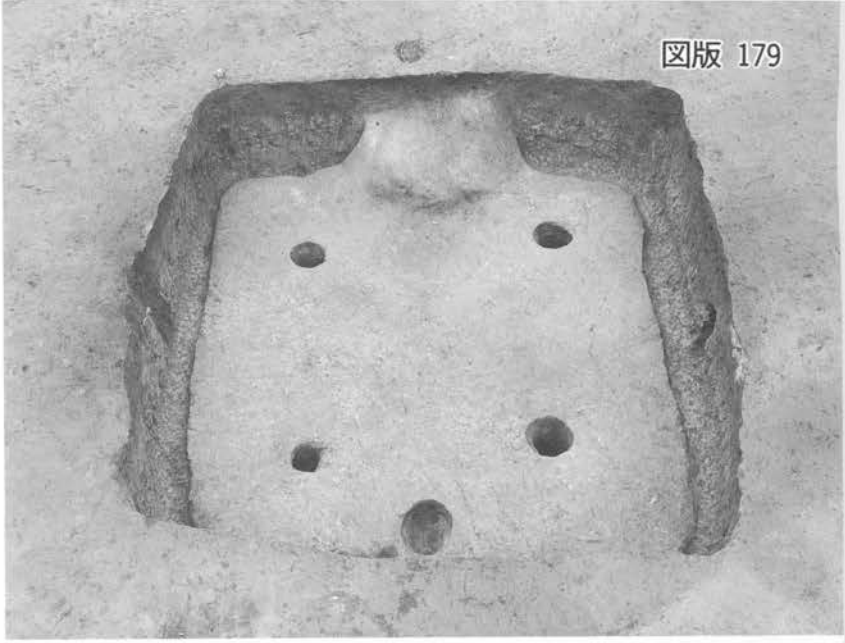
D088
3

H023B
1


D081
5

1．歴史時代２群Ｆグループ全景

2．D002全景

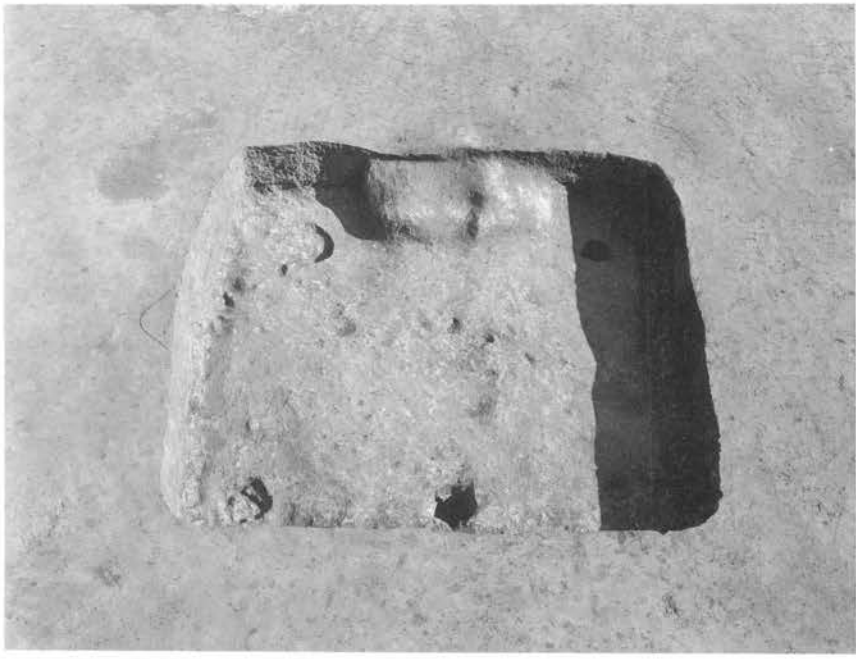


1．D003全景

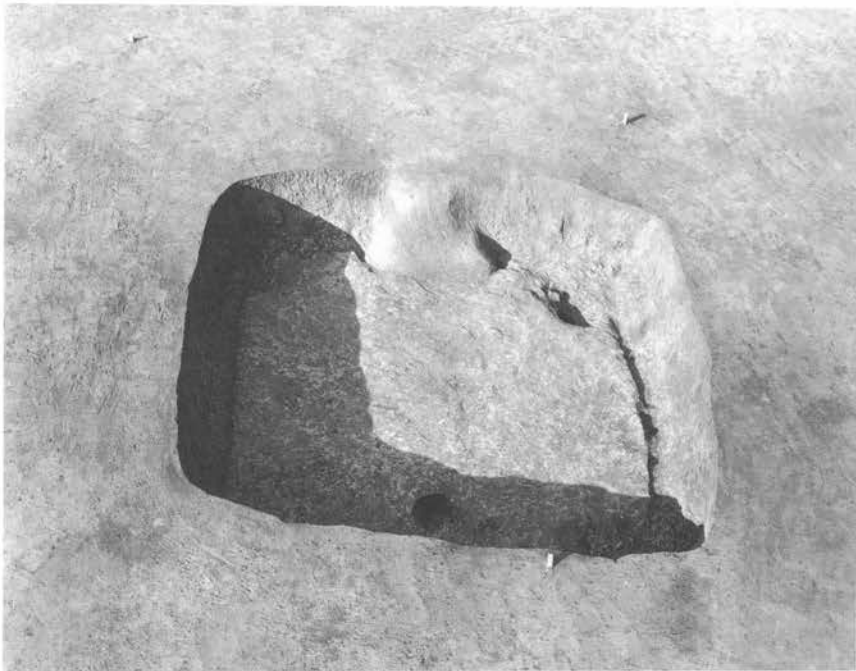
2．D003遺物出土状況

3．D004全景

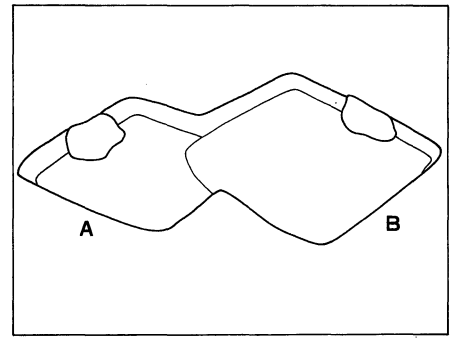
1．D005全景

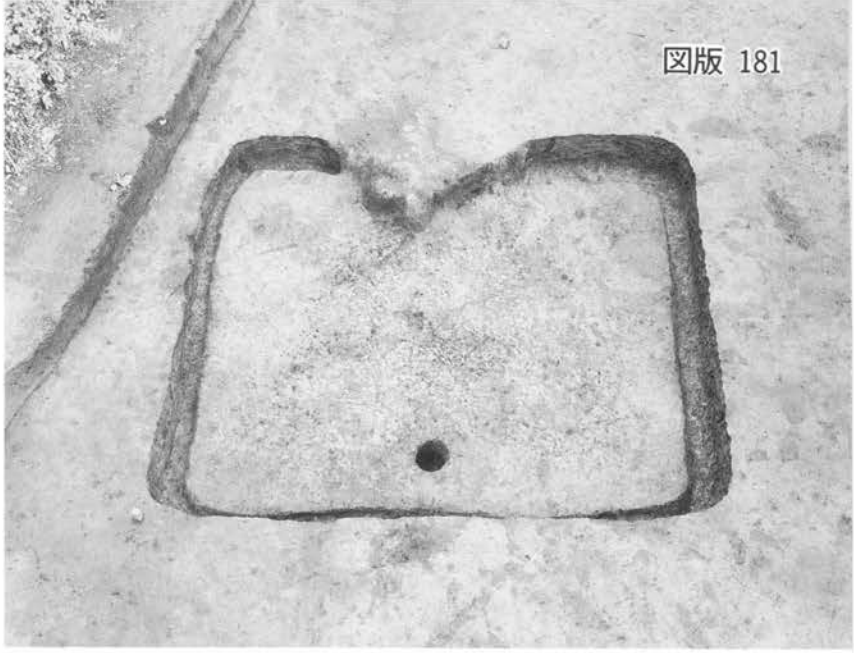


2．D007全景

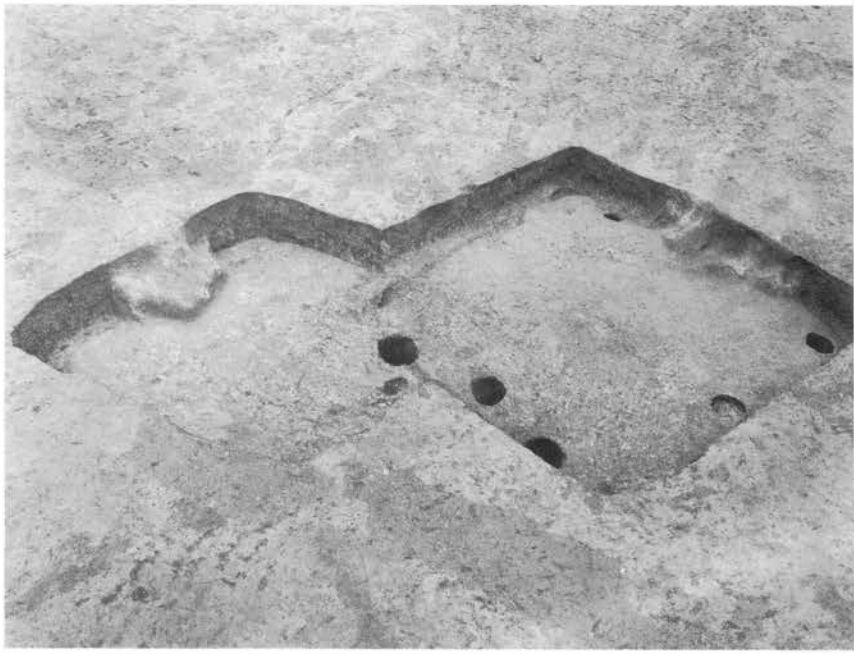


3．D008全景


A
B

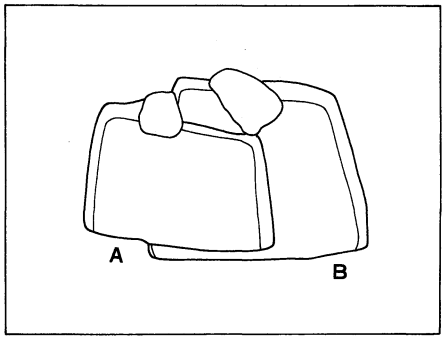


1．D009全景

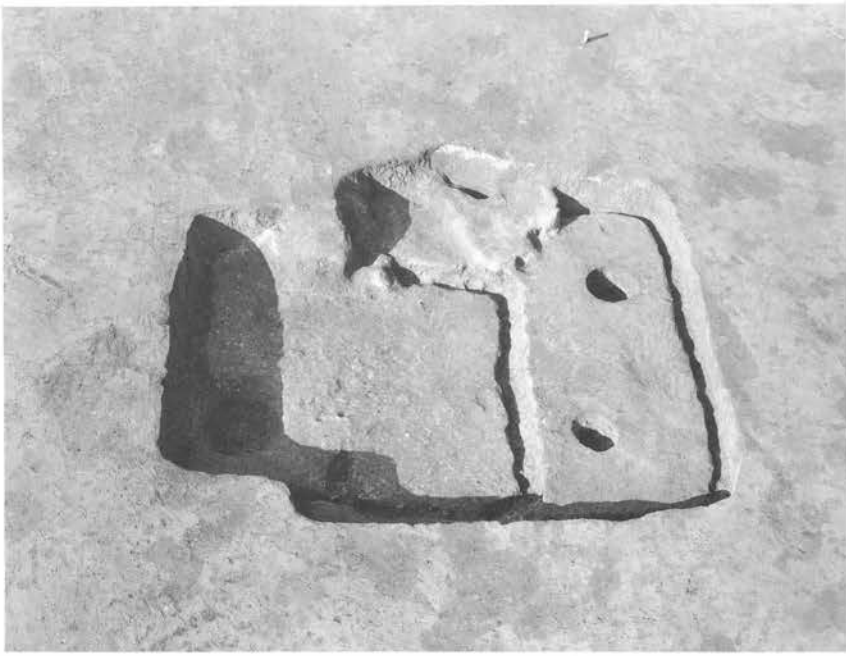


2．D011A・B全景

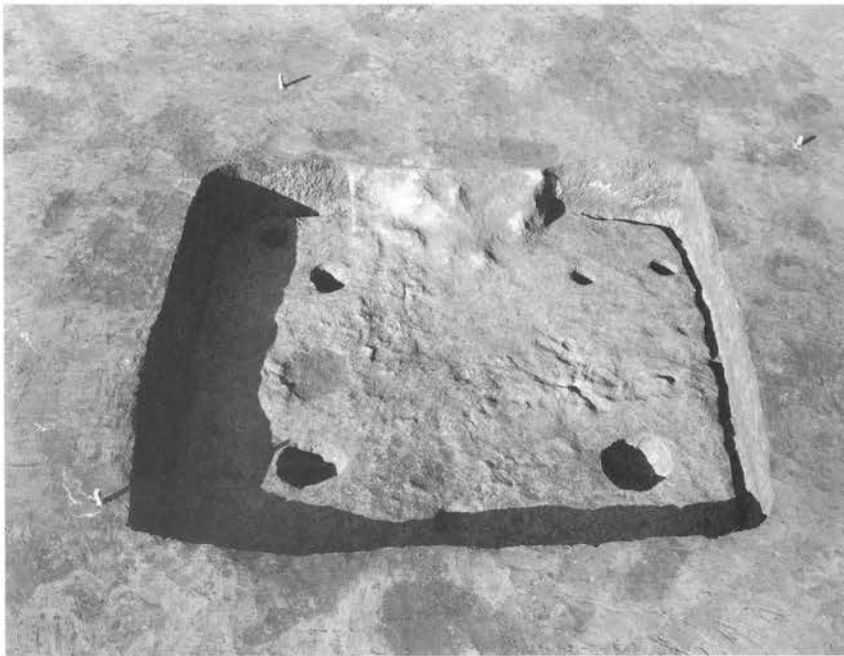
3．D012全景


A
B

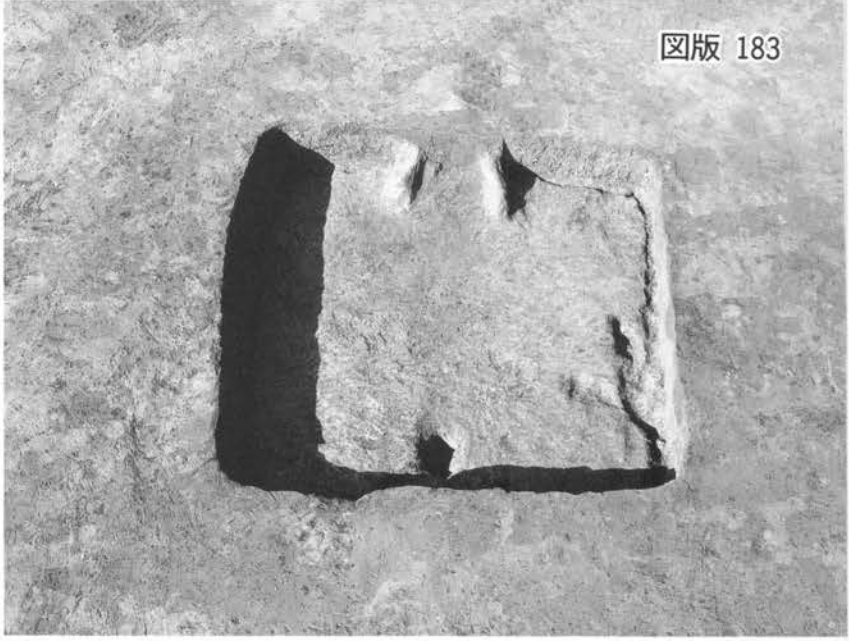
1．D012遺物出土状況



2．D013全景

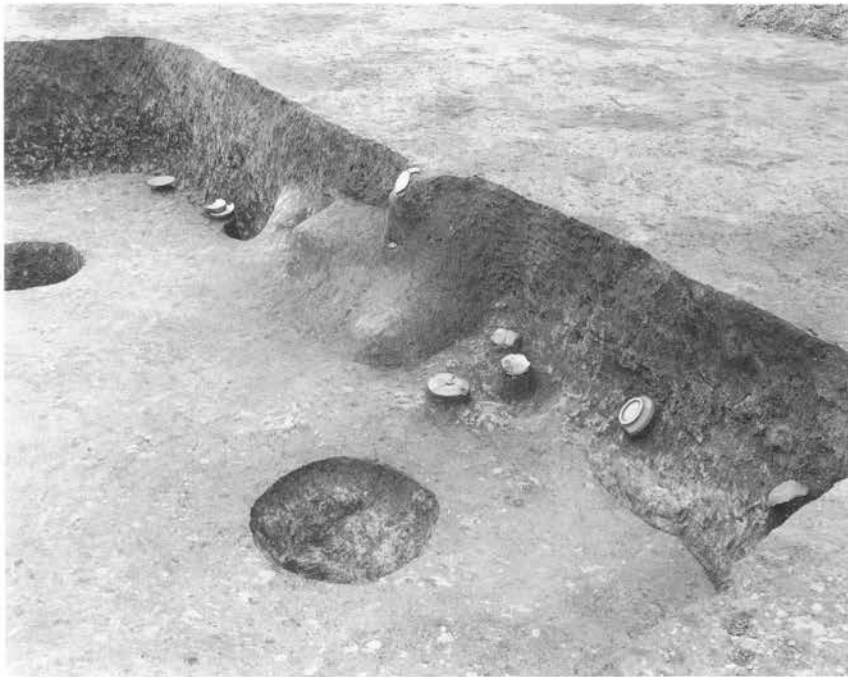


3．D015全景

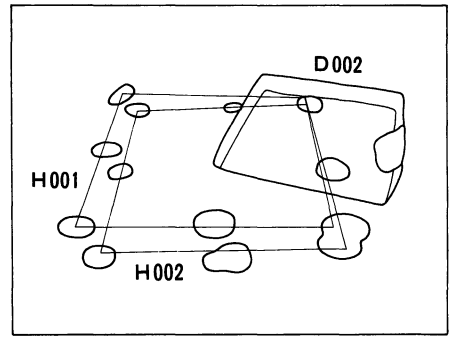


1．D016全景

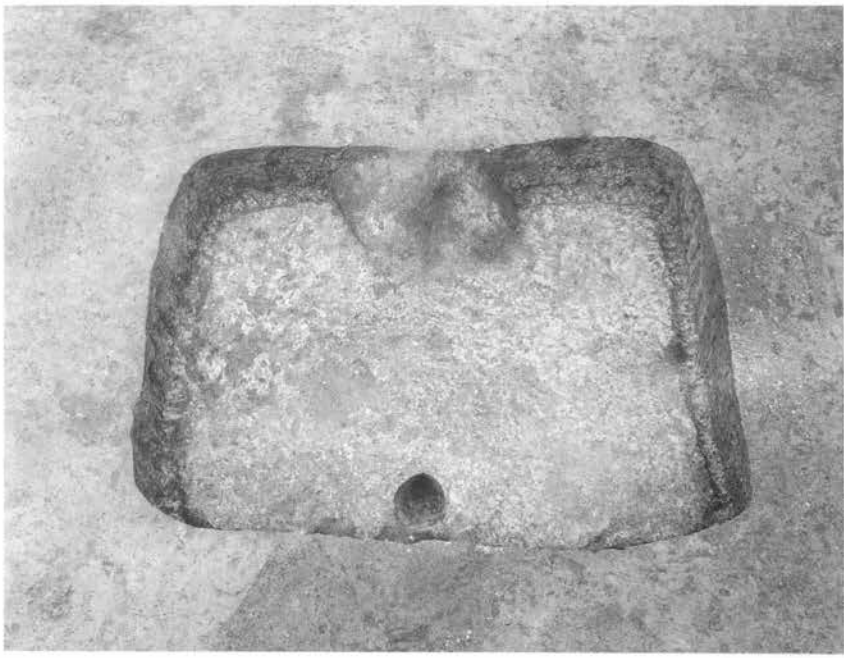
2．D017全景



3．D017遺物出土状況

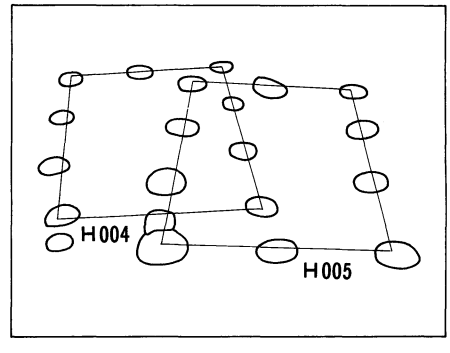

D002
H001
H002

1．D018全景

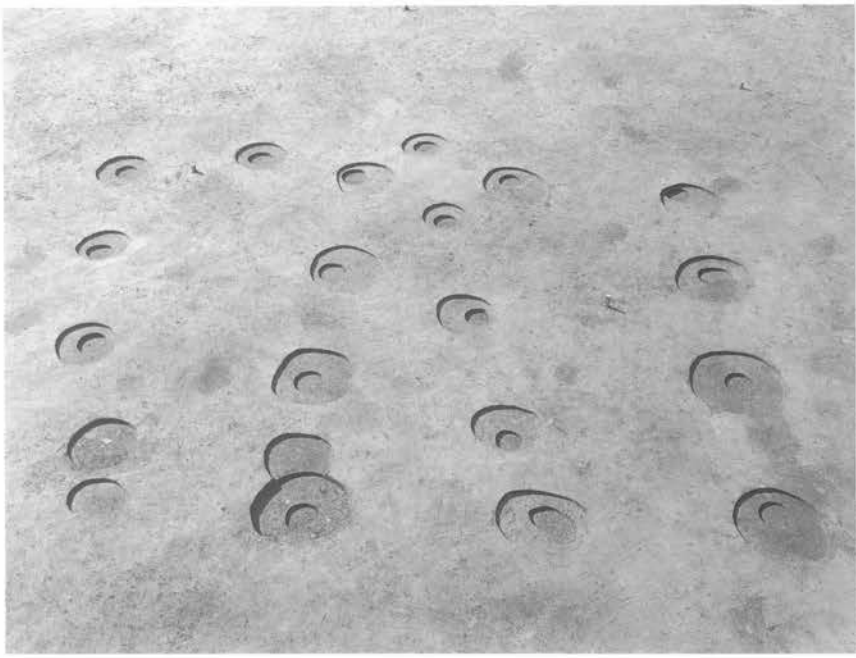


2．D020全景

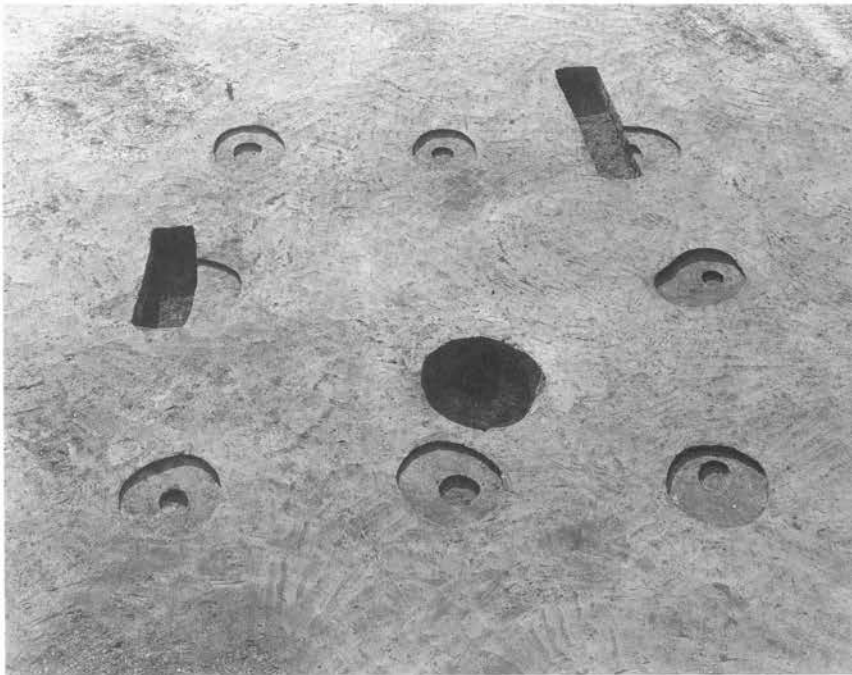
3．H001・H002全景


H004
H005

1．H003全景

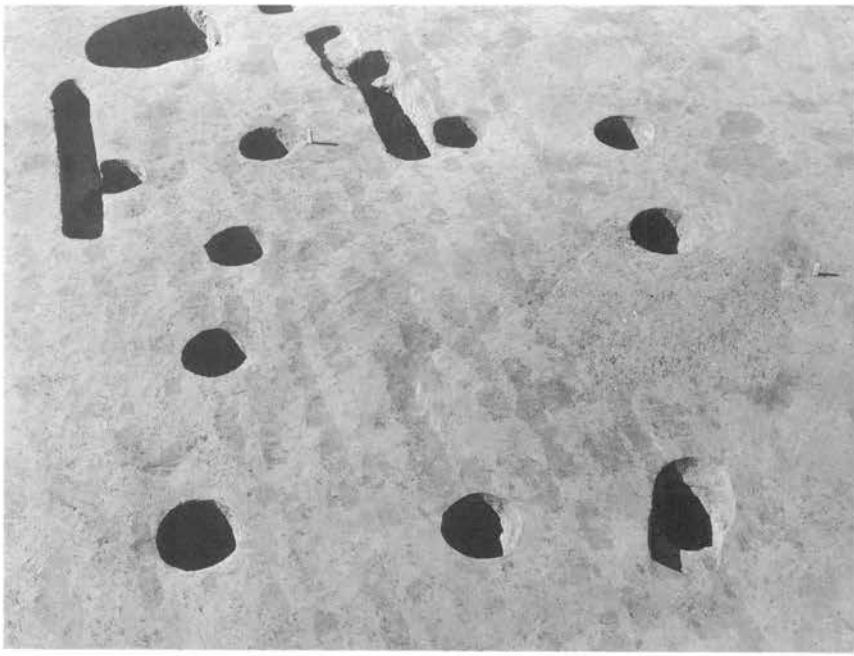


2．H004・H005全景

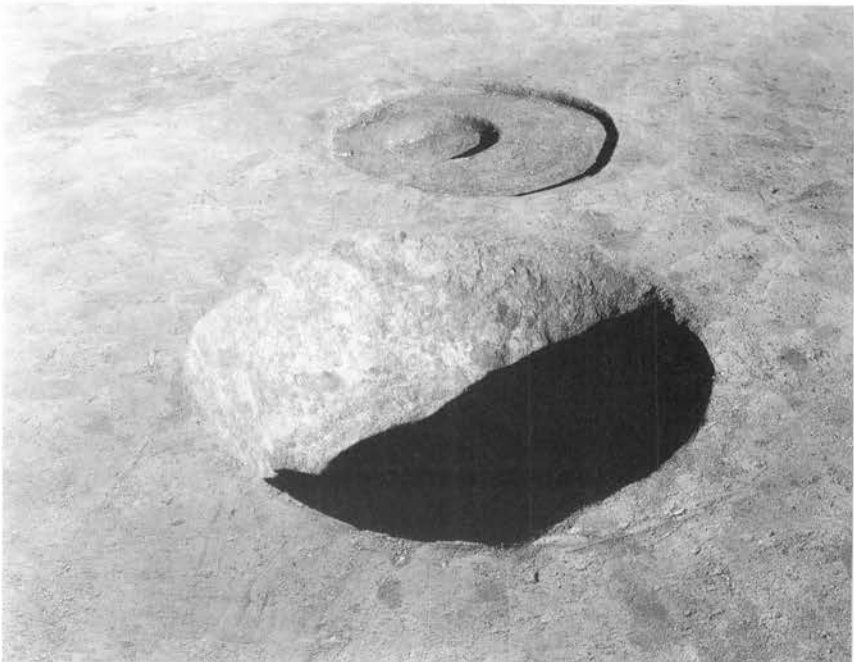


3．H006全景

1．H013全景



2．H014全景



3．P004全景

D003
5

D003
13

D003
24

D003
27

D003
39

D003
40

D003
42

D003
46

D004
1

D004
5

D005
1

D005
2

D006
1

D006
2

D007
7

D007
8

D007
11

D007
21

D008
4

D008
5

D008
7

D008
9

D009
2

D009
5

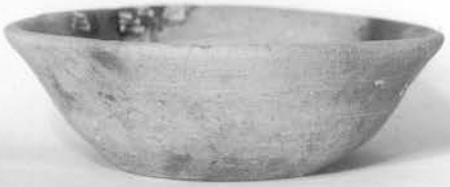
D011A
2

D011A
27

D011A
5

D011B
2

D012
3


D012
2

D012
4

D012
6

D012
7

D012
23

D012
24

D013B
1

D013B
2

D015
1

D015
2

D015
13

D017
1

D017
2

D017
3

D017
13

D017
14

D018
1

D017
23

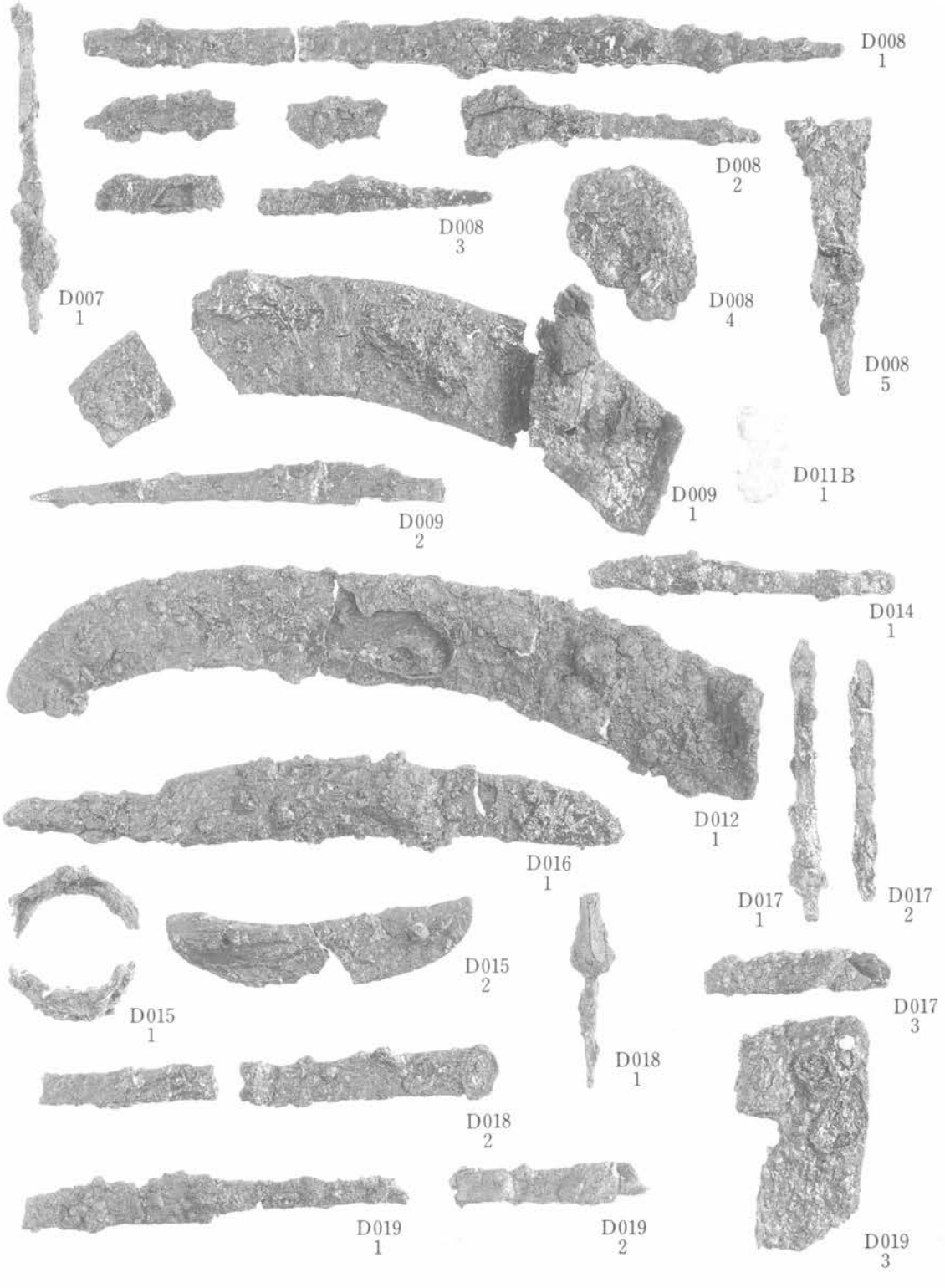
D018
3

D020
1

D018
11

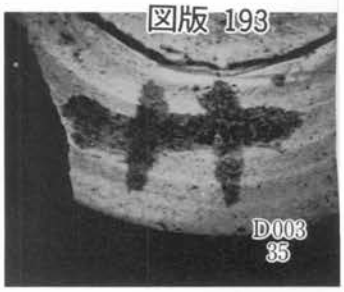
D020
5

D023
3


D008
1
D008
2
D008
3
D007
1
D008
4
D008
5
D011B
1
D009
1
D009
2
D014
1
D012
1
D016
1
D017
1
D017
2
D015
2
D015
1
D017
3
D018
1
D018
2
D019
1
D019
2
D019
3

D003 18

D003 15


D003 35

D007 6

D007 7

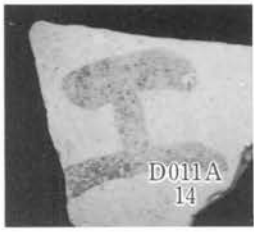
D007 8

D007 9

D007 12

D008 6

D011A 12


D011A 14

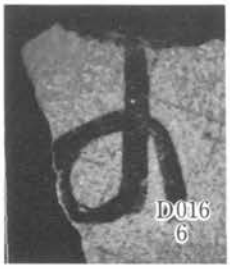
D013 5

D011A 23

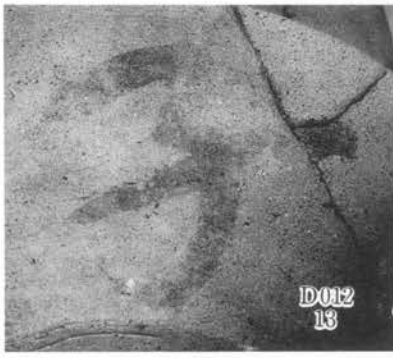
D011A 17

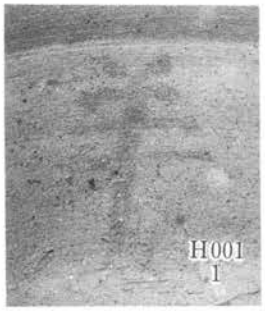
D011A 15

D016 3


D016 6

D015 5


D012 13


H001 1

D016 7

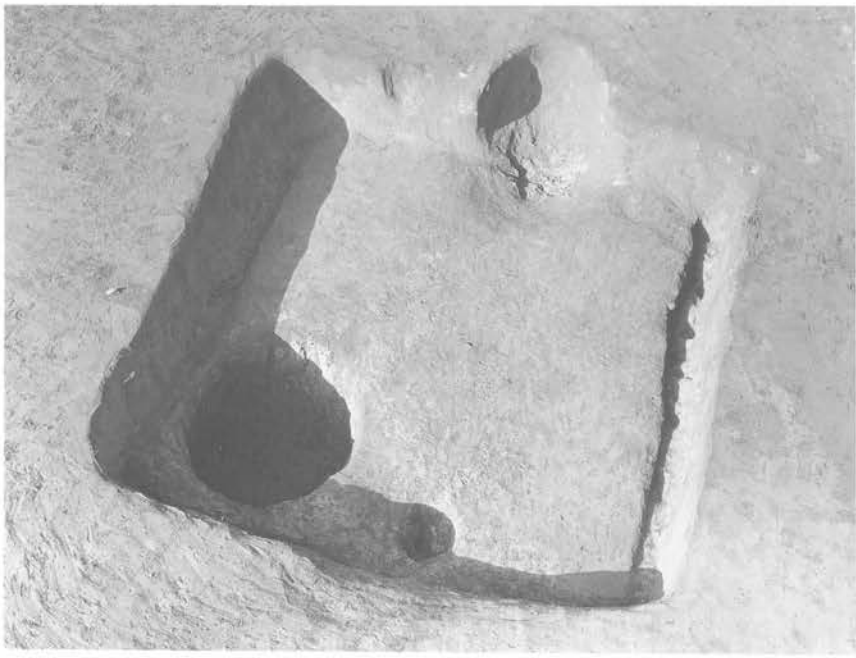
D014 2

D012 12

D018 1

歴史時代3群全景

1．D059全景

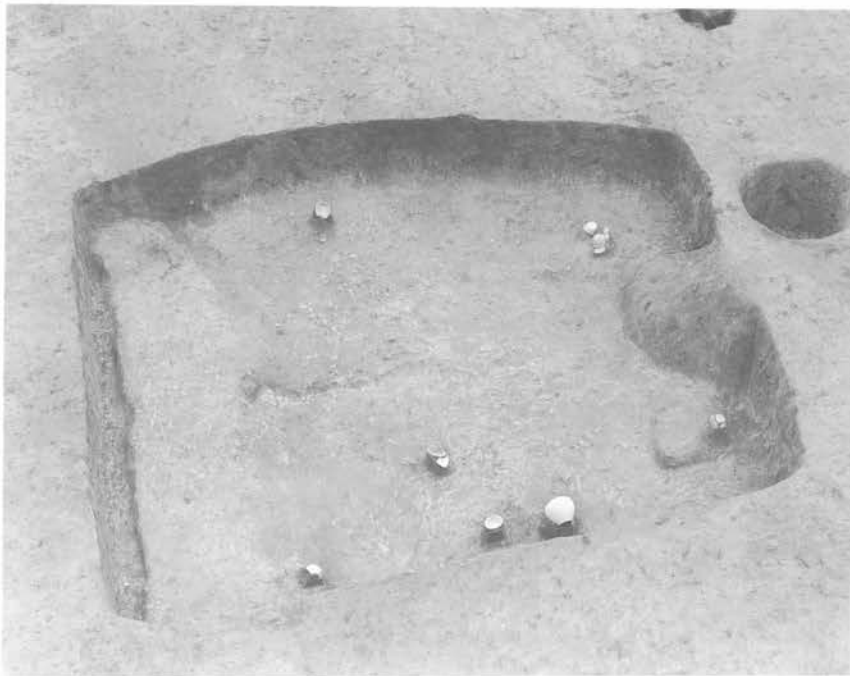


2．D060全景

3．D063全景

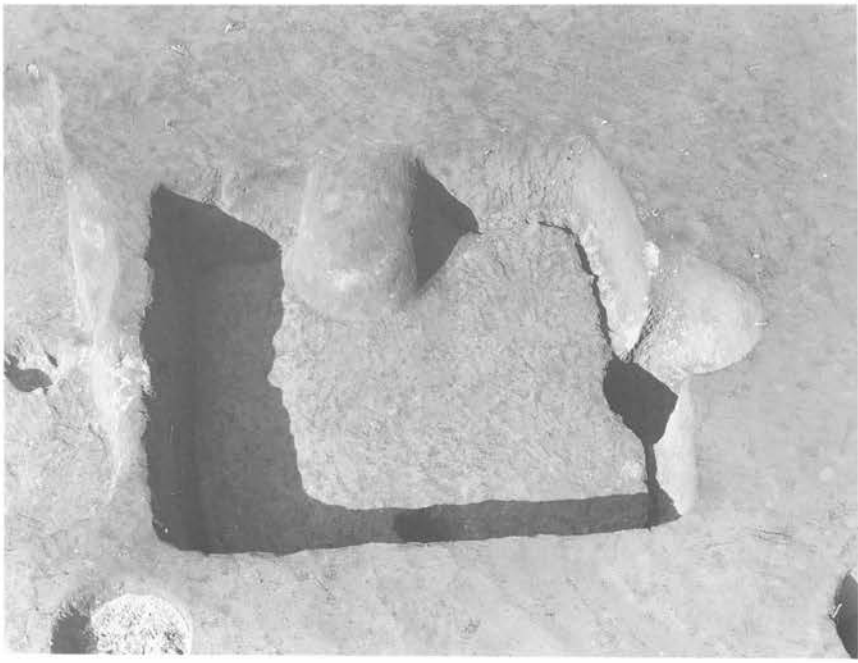
1．D066全景

2．D101全景



3．D102全景

1．D103全景



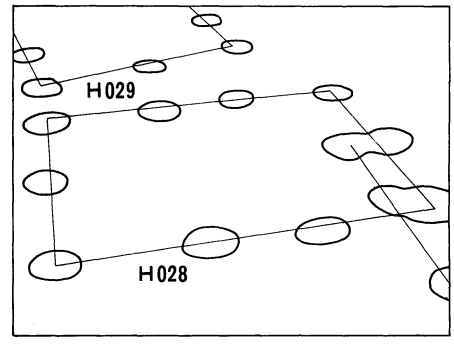
2．D105全景

3．D227全景

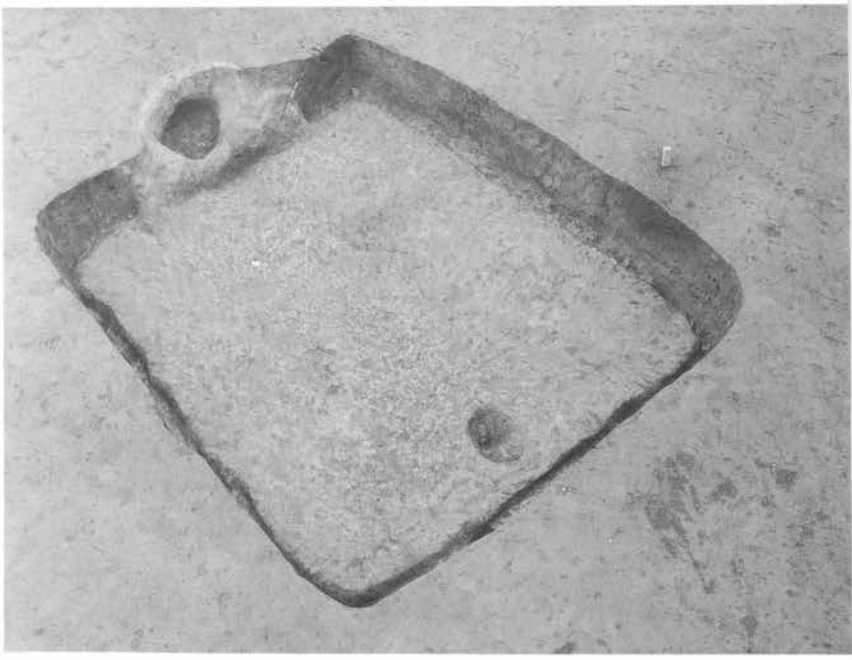
1．D233全景

2．D234全景

3．D235全景

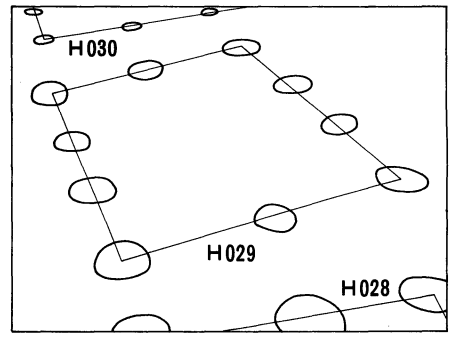

H029
H028

1．D236全景



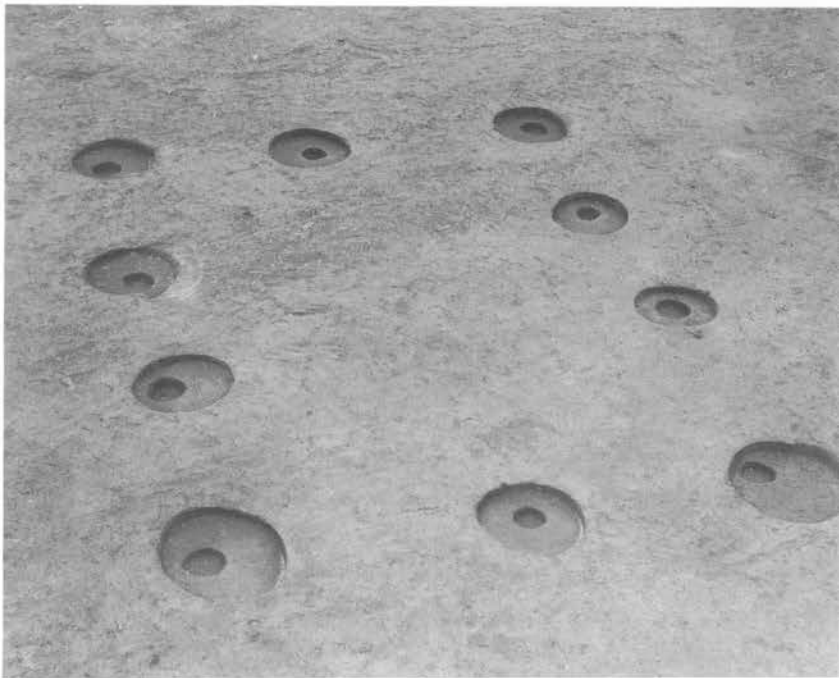
2．D270全景

3．H028全景

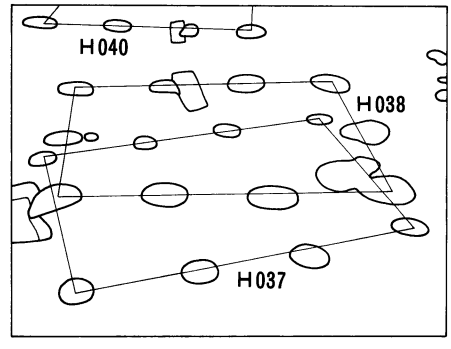

H030
H029
H028

1．H029全景

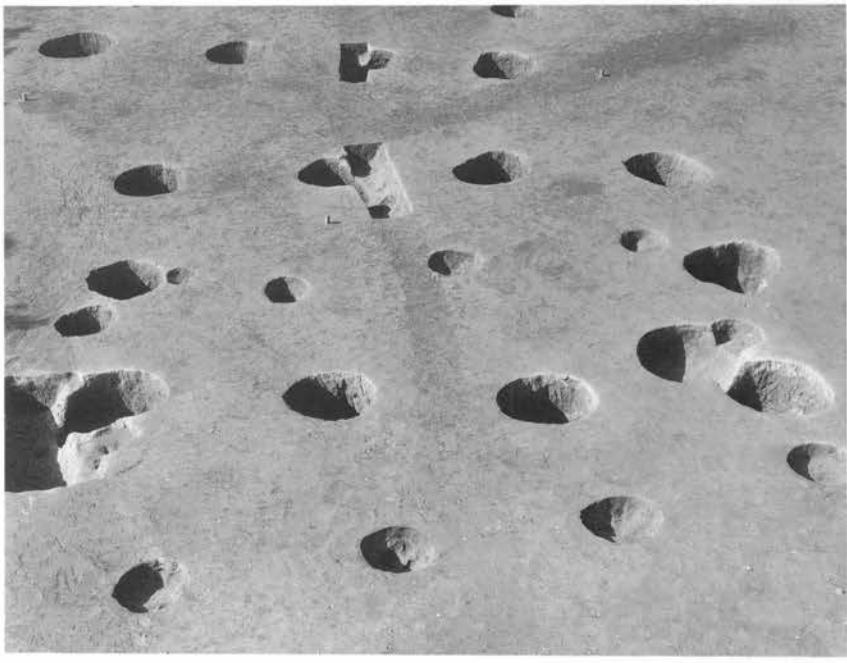
2．H030全景



3．H031全景

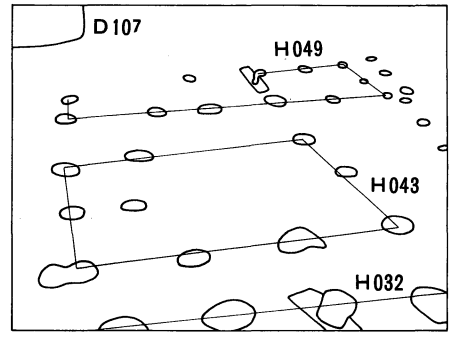

H040
H038
H037

1．H032全景



2．H037・H038全景

3．H040全景


D107
H049
H043
H032

1．H043全景

2．H126全景

3．H142全景

1．H143全景

2．H144全景

3．P031全景

D060
1

D060
2

D060
5

D063
7

D064
1

D065
9

D066
1

D066
2

D066
3

D066
4

D066
5

D066
8

D066
9

D094
1

D094
2

D096
1

D096
5

D096
8

D096
9

D100
5

D101
1

D102
1

D102
5

D102
7

D102
8

D102
9

D102
16

D102
22

D102
28

D102
49

D102
60

D103
3

D103
7

D103
4

D103
17

D103
21

D103
26

D105
1

D106
1

D106
2

D106
8

D106
6

D107
4

D107
2

D107
5

D107
11

D227
1

D227
3

D227
4

D227
5

D227
6

D227
9

D227
12

D233
2

D233
5

D233
4

D233
8

D233
7

D233
10

D234
3

D234
7

D234
11

D234
22

D234
27

D234
29

D234
30

D234
31

D234
35

D234
38

D234
39

D234
48

D235
3

D235
4

D236
1

D236
2

D236
3

D236
12

D236
20

D270
2

D270
4

D271
1

D271
2

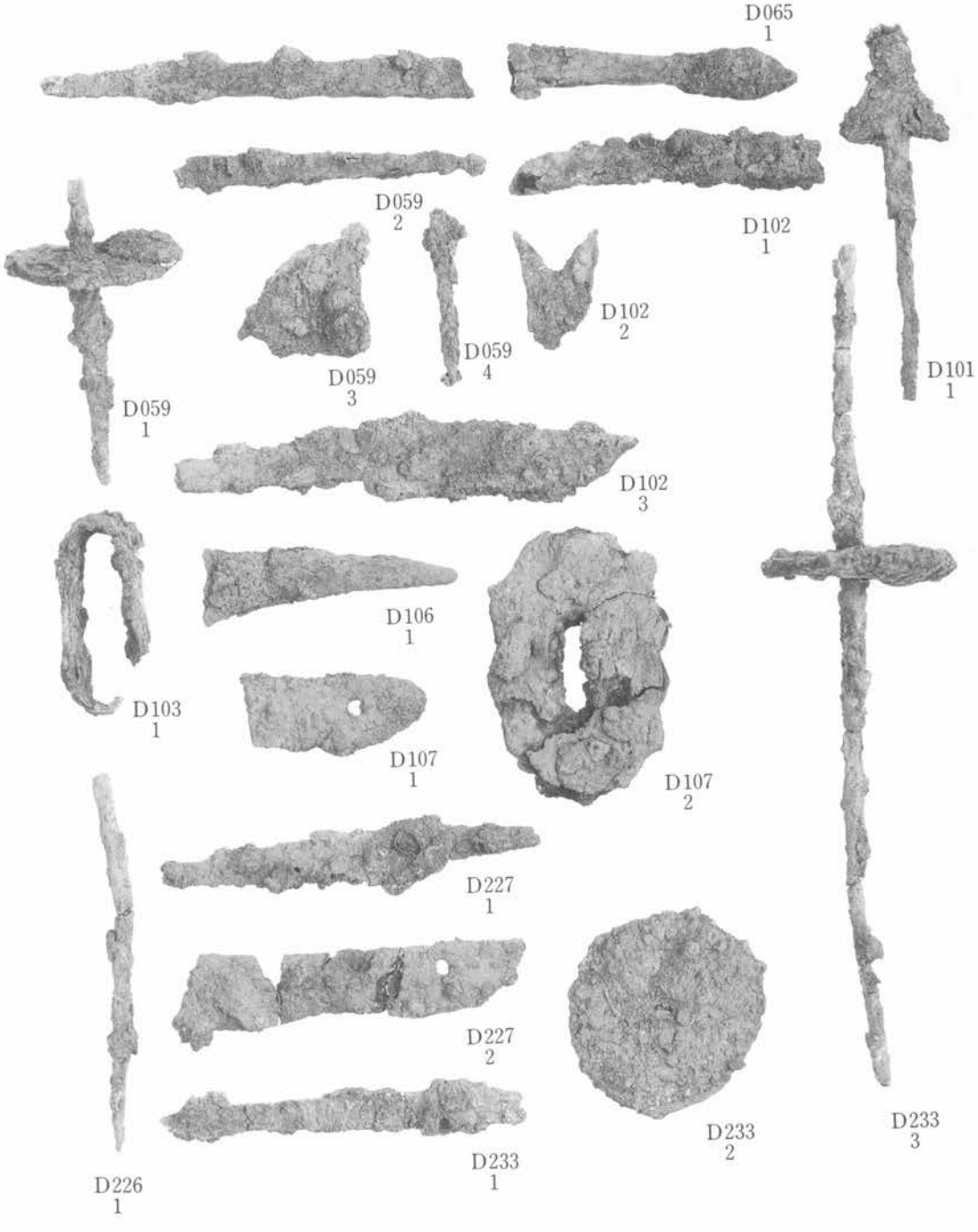
D063
8

D226
9

D236
24

D101
23

D101
21



D065
1

D059
2

D102
1

D059
1

D059
3

D059
4

D102
2

D101
1

D102
3

D106
1

D103
1

D107
1

D107
2

D227
1

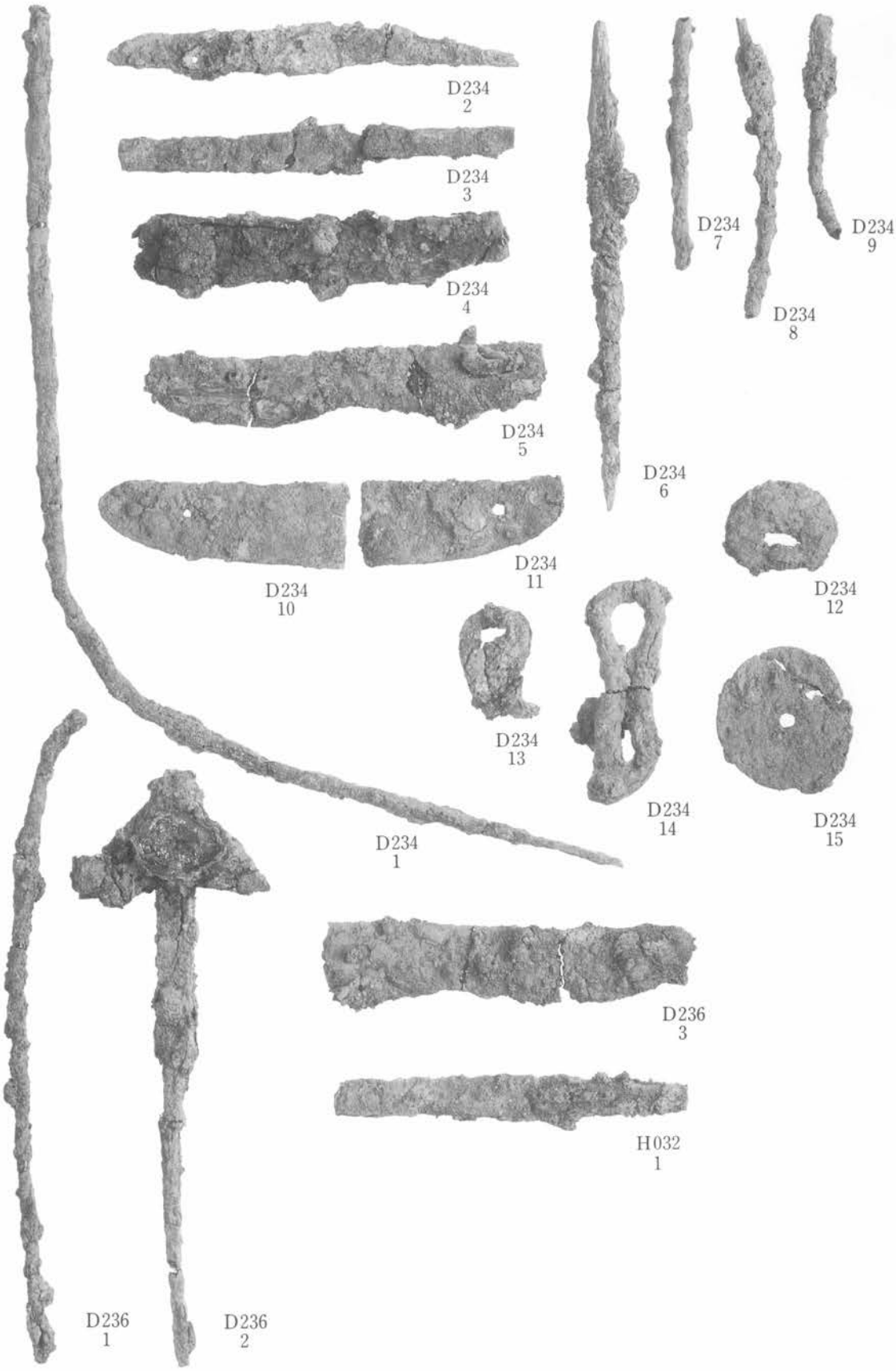
D227
2

D233
1

D233
2

D233
3

D226
1

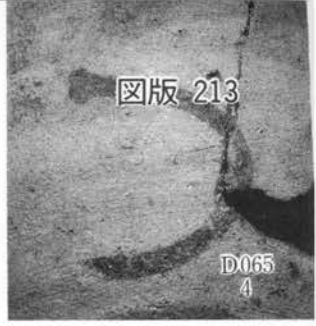

D234
2
D234
3
D234
4
D234
5
D234
6
D234
7
D234
8
D234
9
D234
10
D234
11
D234
12
D234
13
D234
14
D234
15
D234
1
D236
3
H032
1
D236
1
D236
2

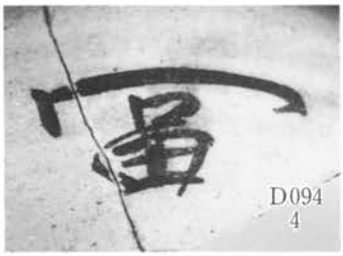
図版 213

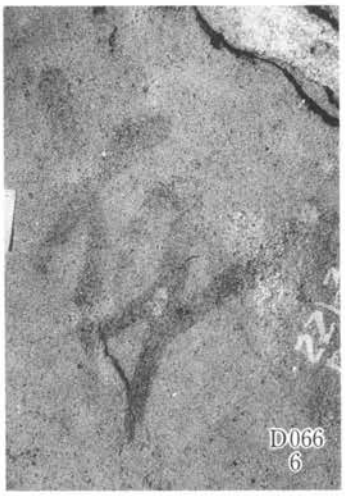
D059 8

D059 9

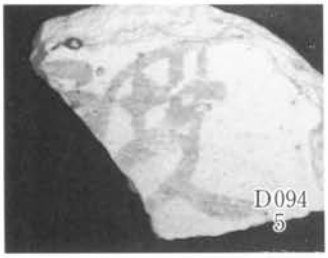
D059 10


D065 4

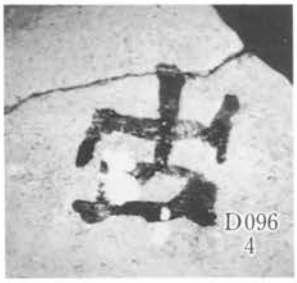

D094 4


D066 6

D066 6

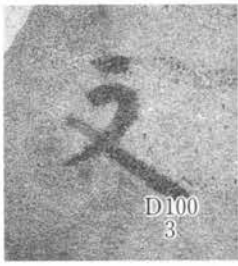

D094 5

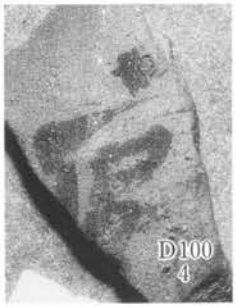
D094 8


D096 4

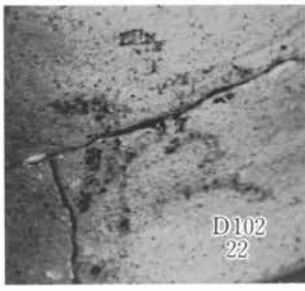
D096 5

D096 6


D100 3


D100 4

D101 4


D102 22

D102 23

D101 4

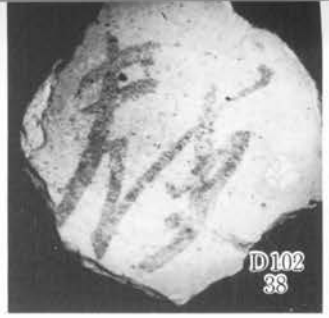
D102 25

D102 30

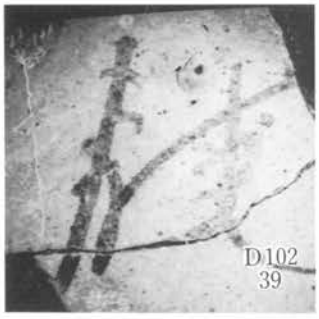
D102 24

D102 37

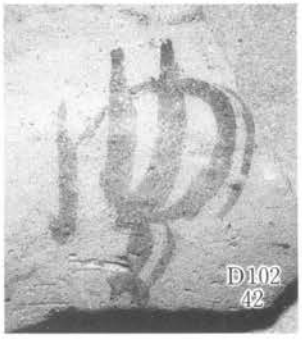
D102 31


D102 38

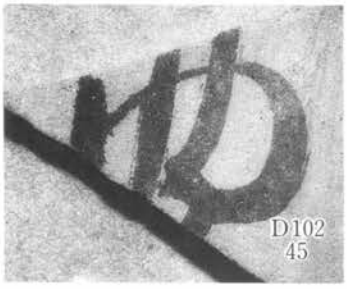
D102 41


D102 39

D102 40

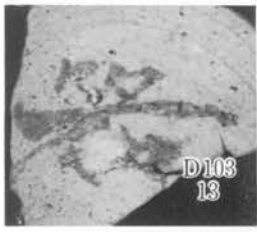

D102 42

D102 43

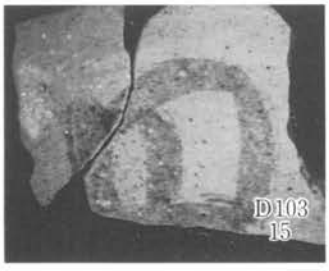

D102 45

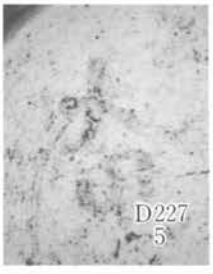
D103 8

D103 7

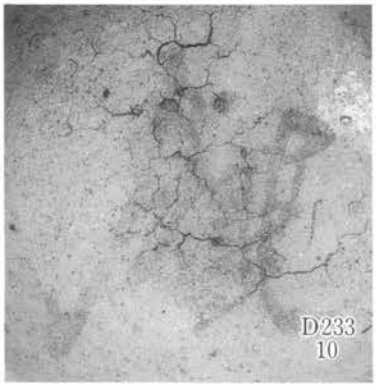

D103 13

D103 9


D103 15


D227 5

D227 6


D233 10

D103 23

D238 13

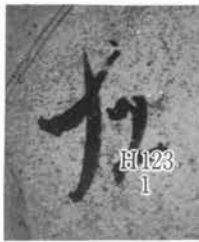
D270 2

D270 3

D234 17

D234 16

D233 12


H123 1